MEIJI UNIVERSITY

2026年度
文学部シラバス

明治大学

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)
1	Culture and Society〔M〕	文化人類学A〔M〕
1	Discussion and Debate Ⅰ	Discussion and Debate A
2	Discussion and Debate Ⅱ	Discussion and Debate B
2	DTP	DTP
3	Emerging Humanity〔M〕	文化人類学B〔M〕
4	Essay Writing Ⅰ	Essay Writing A
4	Essay Writing Ⅱ	Essay Writing B
5	Ethnographic Fieldwork〔M〕	海外授業シミュレーションB〔M〕
5	Japanese Society〔M〕	日本文化発信A〔M〕
6	Public Speaking Ⅰ	Public Speaking A
7	Public Speaking Ⅱ	Public Speaking B
9	Social Science Research Methods〔M〕	海外授業シミュレーションA〔M〕
9	アジア国際関係史	東アジア国際関係史A
10	アジア史概論A	アジア史概論A
10	アジア史概論B	アジア史概論B
11	アジアの地域と思想	アジアの地域と思想
11	アジア文化史A	アジア文化史A
12	アジア文化史B	アジア文化史B
12	アフリカ文化論	アフリカ文化論
13	アラビア語で学ぶ文化と社会A	ー
13	アラビア語で学ぶ文化と社会B	ー
14	イスラム史(前近代)	イスラム史A
14	イスラム史(近現代)	イスラム史B
15	一から学ぶ教養講座(ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｱ学)	ー
15	一から学ぶ教養講座(自然環境と人類史)	ー
16	異文化理解Ⅰ(英米)〔M〕	異文化理解Ⅰ(英米)〔M〕
16	異文化理解Ⅰ(ドイツ)	異文化理解Ⅰ(ドイツ)
17	異文化理解Ⅰ(フランス)	異文化理解Ⅰ(フランス)
17	異文化理解Ⅱ(ドイツ)	異文化理解Ⅱ(ドイツ)
18	異文化理解Ⅱ(フランス)	異文化理解Ⅱ(フランス)
18	意味論入門I	意味論A
19	意味論入門II	意味論B
19	移民・難民の社会学	マイノリティ論
20	ウェルネスライフ特論	ウェルネスライフ特論Ⅰ
20	映画論研究	映画論B
21	映画論の基礎	映画論A
21	英近代文学講読	英文学講読A
22	英現代文学講読	英文学講読B
22	英語演習Ⅰ	英語演習A
25	英語演習Ⅱ	英語演習B
27	英語学演習(2年)II	英米文学演習(2年)B
28	英語学演習(2年)Ⅰ	英米文学演習(2年)A
29	英語学演習(3年)Ⅰ	英米文学演習(3年)A
31	英語学演習(3年)Ⅱ	英米文学演習(3年)B
32	英語学概論Ⅰ	英語学概論A
33	英語学概論Ⅱ	英語学概論B
33	英語圏の歴史A	英語圏の歴史A
34	英語圏の歴史B	英語圏の歴史B
34	英語圏文学入門	英米文学基礎研究B
35	英語圏文化入門	英米文学基礎研究A
35	英語史	英語史A
36	英散文読解	英文学講読D
36	英詩読解	英文学講読C
37	映像・メディア芸術研究	映像論B
37	映像・メディア芸術の基礎	映像論A
38	英文学史Ⅰ	英文学史A
38	英文学史Ⅱ	英文学史B
39	英文学と階級	英作家作品研究A
39	英文学と芸術	英作家作品研究B
40	英文学と個人	ー
40	英文学とコミュニケーション	英米劇作家作品研究A
41	英文学とジェンダー	英作家作品研究A
41	英文学と人種	英作家作品研究B
42	英文学と歴史	ー
42	英文化研究	英米文化研究A
43	英米文学演習(2年)II	英米文学演習(2年)B
45	英米文学演習(2年)Ⅰ	英米文学演習(2年)A
47	英米文学演習(3年)Ⅰ	英米文学演習(3年)A
51	英米文学演習(3年)Ⅱ	英米文学演習(3年)B
55	エジプトの考古学A	エジプトの考古学A
55	エジプトの考古学B	エジプトの考古学B
56	演技論研究	演技論B
56	演技論の基礎	演技論A
57	演芸論	舞台芸術研究ⅢB
57	演劇学演習(2年)A	演劇学演習(2年)A
59	演劇学演習(2年)B	演劇学演習(2年)B
61	演劇学演習(3年)A	演劇学演習(3年)A
63	演劇学演習(3年)B	演劇学演習(3年)B
65	演劇学入門	演劇概論A
66	演劇文化論	演劇概論B
66	演習Ⅰ(アジア史)A	演習Ⅰ(アジア史)A
68	演習Ⅰ(アジア史)B	演習Ⅰ(アジア史)B
70	演習Ⅰ(考古学)A	演習Ⅰ(考古学)A
73	演習Ⅰ(考古学)B	演習Ⅰ(考古学)B
75	演習Ⅰ(西洋史)A	演習Ⅰ(西洋史)A
78	演習Ⅰ(西洋史)B	演習Ⅰ(西洋史)B
81	演習Ⅰ(地理学)A	演習Ⅰ(地理学)A
83	演習Ⅰ(地理学)B	演習Ⅰ(地理学)B
86	演習Ⅰ(日本史)A	演習Ⅰ(日本史)A
90	演習Ⅰ(日本史)B	演習Ⅰ(日本史)B
95	オリエントの考古学A	オリエントの考古学A
95	オリエントの考古学B	オリエントの考古学B
96	音韻・形態論Ⅰ	音韻・形態論A
96	音韻・形態論Ⅱ	音韻・形態論B
97	音楽史A	音楽史A
97	音楽史B	音楽史B
98	音声学入門Ⅰ	音声学A
98	音声学入門 II	音声学B
99	海外現地研修A	海外現地研修A
99	海外現地研修B	海外現地研修B
101	外国地誌	外国地誌
101	外国文芸受容史	外国文芸受容史
102	カウンセリング概論	心理学概論B
102	カウンセリング論(心理学的支援法)	心理学的支援法Ⅰ
103	学習・言語心理学	学習・言語心理学
103	環境科学の世界	ー
104	環境社会学	環境社会学
104	環境の哲学	環境の哲学
105	環境歴史学	環境歴史学
105	関係行政論	関係行政論
106	感情・人格心理学	感情・人格心理学
106	漢文A	漢文A
107	漢文B	漢文B
107	戯曲作品論	戯曲作品研究B
108	戯曲を読む	戯曲作品研究A
108	気候学Ⅰ	気候学Ⅰ
109	気候学Ⅱ	気候学Ⅱ
109	基礎演習(アジア史)A	基礎演習(アジア史)A
111	基礎演習(アジア史)B	基礎演習(アジア史)B
112	基礎演習(英米文学)A	基礎演習(英米文学)A
115	基礎演習(英米文学)B	基礎演習(英米文学)B
117	基礎演習(演劇学)A	基礎演習(演劇学)A
119	基礎演習(演劇学)B	基礎演習(演劇学)B
121	基礎演習(考古学)A	基礎演習(考古学)A
122	基礎演習(考古学)B	基礎演習(考古学)B
123	基礎演習(西洋史)A	基礎演習(西洋史)A

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)
125	基礎演習(西洋史)B	基礎演習(西洋史)B
127	基礎演習(地理学)A	基礎演習(地理学)A
129	基礎演習(地理学)B	基礎演習(地理学)B
131	基礎演習(哲学)A	基礎演習(哲学)A
132	基礎演習(哲学)B	基礎演習(哲学)B
133	基礎演習(ドイツ文学)A	基礎演習(ドイツ語圏文化)A
134	基礎演習(ドイツ文学)B	基礎演習(ドイツ語圏文化)B
135	基礎演習(日本史)A	基礎演習(日本史)A
139	基礎演習(日本史)B	基礎演習(日本史)B
142	基礎演習(日本文学)A	基礎演習(日本文学)A
148	基礎演習(日本文学)B	基礎演習(日本文学)B
153	基礎演習(フランス文学)A	基礎演習(フランス文学)A
154	基礎演習(フランス文学)B	基礎演習(フランス文学)B
155	基礎演習(文芸メディア)A	基礎演習(文芸メディア)A
157	基礎演習(文芸メディア)B	基礎演習(文芸メディア)B
159	基礎フランス語講読A	基礎フランス語講読A
161	基礎フランス語講読B	基礎フランス語講読B
162	キャリア・デザイン	キャリア・デザイン
163	旧石器時代の考古学A	旧石器時代の考古学A
163	旧石器時代の考古学B	旧石器時代の考古学B
164	教育・学校心理学	教育・学校心理学
164	教育学A	教育学A
165	教育学B	教育学B
165	教職のための英文法	英語史B
166	キリスト教史	キリスト教史
166	近代英小説読解	英文学講読C
167	近代米小説読解	米文学講読C
167	グループカウンセリング技法(心理学的支援法)	心理学的支援法Ⅱ
168	経済史	経済史A
168	経済地理学Ⅰ	経済地理学Ⅰ
169	経済地理学Ⅱ	経済地理学Ⅱ
169	芸術学研究	芸術学B
170	芸術学の基礎	芸術学A
170	芸術と哲学	芸術と哲学
171	芸能と文芸	パフォーマンス研究
171	劇場文化論	劇場論A
172	健康・医療心理学	健康・医療心理学
172	言語学A	言語学A
173	言語学B	言語学B
173	言語学とその歴史	言語学とその歴史
174	言語人類学〔M〕	ー
174	原書講読A	原書講読A
176	原書講読B	原書講読B
178	現代英小説読解	英文学講読D
179	現代社会学演習A	現代社会学演習A
181	現代社会学演習B	現代社会学演習B
184	現代社会学実習A	現代社会学実習A
186	現代社会学実習B	現代社会学実習B
189	現代社会論	現代社会論
189	現代日本演劇論	同時代日本演劇A
190	現代舞台芸術論	同時代日本演劇B
190	現代米小説読解	米文学講読D
191	考古学概論ⅠA	考古学概論ⅠA
191	考古学概論ⅠB	考古学概論ⅠB
192	考古学概論ⅡA	考古学概論ⅡA
192	考古学概論ⅡB	考古学概論ⅡB
193	考古学研究法ⅠA	考古学研究法ⅠA
194	考古学研究法ⅠB	考古学研究法ⅠB
195	考古学研究法ⅡA	考古学研究法ⅡA
196	考古学研究法ⅡB	考古学研究法ⅡB
197	考古学実習ⅠA	考古学実習ⅠA
197	考古学実習ⅠB	考古学実習ⅠB
198	考古学実習ⅡA	考古学実習ⅡA
198	考古学実習ⅡB	考古学実習ⅡB
199	考古学特説A	考古学特説A
199	考古学特説B	考古学特説B
200	公認心理師の職責	公認心理師の職責
200	国語学ⅠA	国語学ⅠA
201	国語学ⅠB	国語学ⅠB
201	国語学ⅡA	国語学ⅡA
202	国語学ⅡB	国語学ⅡB
202	国語学各説ⅠA	国語学各説ⅠA
203	国語学各説ⅠB	国語学各説ⅠB
203	国語学各説ⅡA	国語学各説ⅡA
204	国語学各説ⅡB	国語学各説ⅡB
204	国際関係史	国際関係論
205	国際交流史	経済史B
205	国際社会学	社会的共生論
206	心と身体の哲学	心と身体の哲学
206	こころの科学	こころの科学B
207	古代・中世の科学思想史	科学思想史A
207	古代・中世の西洋思想史	西洋思想史A
208	古代史と考古学A	古代史と考古学A
208	古代史と考古学B	古代史と考古学B
209	古典ギリシア語講読	古典ギリシア語Ⅱ B
209	古典ギリシア語初級	古典ギリシア語Ⅰ B
210	古典ギリシア語中級	古典ギリシア語ⅡA
210	古典ギリシア語入門	古典ギリシア語ⅠA
211	古墳時代の考古学A	古墳時代の考古学A
211	古墳時代の考古学B	古墳時代の考古学B
212	コミュニケーションの哲学	コミュニケーションの哲学
212	コミュニティ心理学(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学Ⅱ
213	語用論	語用論A
213	近現代の科学思想史	科学思想史B
214	近現代の西洋思想史	西洋思想史B
214	近現代の東洋思想史	東洋思想史B
215	作家作品研究ⅠA	作家作品研究ⅠA
215	作家作品研究ⅠB	作家作品研究ⅠB
216	作家作品研究ⅡA	作家作品研究ⅡA
216	作家作品研究ⅡB	作家作品研究ⅡB
217	サブカルチャー研究〔M〕	サブカルチャー研究〔M〕
217	産業・組織心理学	産業・組織心理学
218	シアター・マネージメント研究	劇場運営論B
218	シアター・マネージメントの基礎	劇場運営論A
219	詩歌研究	詩歌研究A
219	ジェンダー史	社会史B
220	ジェンダーの哲学	ジェンダーの哲学
220	ジェンダー論	ジェンダー論
221	史学概論(アジア史)	史学概論B(アジア史)
221	史学概論(西洋史)	史学概論B(西洋史)
222	史学概論(日本史)	史学概論B(日本史)
222	史学概論(歴史学)	史学概論A
223	自己成長の心理学	心理学特論
223	自己の社会学	アイデンティティ論
224	自己発見の心理学	こころの科学A
224	時事ドイツ語A	ドイツ語演習ⅢA
225	時事ドイツ語B	ドイツ語演習ⅢB
225	死生学	ターミナルケア
226	自然科学的ものの考え方	自然科学的ものの考え方
226	自然科学と考古学A	自然科学と考古学A
227	自然科学と考古学B	自然科学と考古学B
227	自然地理学概論A	自然地理学概論A
228	自然地理学概論B	自然地理学概論B
228	自然地理学特説Ⅰ	自然地理学特説Ⅰ
229	自然地理学特説Ⅱ	自然地理学特説Ⅱ
229	司法・犯罪心理学	司法・犯罪心理学

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)
230	ジャーナリズム研究	ジャーナリズム研究
230	社会運動論	社会運動論
231	社会言語学	社会言語学
231	社会史	社会史A
232	社会心理学(社会・集団・家族心理学)	社会・集団・家族心理学Ⅰ
232	社会地理学Ⅰ	社会地理学Ⅰ
233	社会地理学Ⅱ	社会地理学Ⅱ
233	宗教学Ⅰ	宗教学A
234	宗教学Ⅱ	宗教学B
234	出版印刷研究	出版印刷研究
235	障害学	障害学
235	障害者・障害児心理学	障害者・障害児心理学
236	上級英語ⅠA	上級英語ⅠA
237	上級英語ⅠB	上級英語ⅠB
238	上級英語ⅡA	上級英語ⅡA
238	上級英語ⅡB	上級英語ⅡB
239	上級英文解釈Ⅰ	上級英文解釈A
240	上級英文解釈Ⅱ	上級英文解釈B
241	上級フランス語会話A	上級フランス語会話A
242	上級フランス語会話B	上級フランス語会話B
243	上級フランス語講読A	上級フランス語講読A
243	上級フランス語講読B	上級フランス語講読B
244	上級フランス語作文A	上級フランス語作文A
244	上級フランス語作文B	上級フランス語作文B
245	小説研究	小説研究A
245	情報社会論	情報社会論
246	縄文時代の考古学A	縄文時代の考古学A
246	縄文時代の考古学B	縄文時代の考古学B
247	初級ドイツ語圏文学講読A	ドイツ文学講読A
247	初級ドイツ語圏文学講読B	ドイツ文学講読B
248	初級ドイツ語講読A	基礎ドイツ語会話A
249	初級ドイツ語講読B	ー
250	初級ドイツ語コミュニケーションA	ドイツ語作文・会話ⅠA
250	初級ドイツ語コミュニケーションB	ドイツ語作文・会話ⅠB
251	書道A	書道A
251	書道B	書道B
252	ジョブ・トライアル	ジョブ・インターンシップ
252	史料演習(アジア史)A	史料演習(アジア史)A
254	史料演習(アジア史)B	史料演習(アジア史)B
255	史料演習(西洋史)A	史料演習(西洋史)A
258	史料演習(西洋史)B	史料演習(西洋史)B
260	史料演習(日本史)A	史料演習(日本史)A
265	史料演習(日本史)B	史料演習(日本史)B
269	神経・生理心理学	神経・生理心理学
270	深層心理学	深層心理学
270	身体とセクシュアリティの社会学	身体と社会
271	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病
271	人文地理学概論A	人文地理学概論A
272	人文地理学概論B	人文地理学概論B
272	人文地理学特説Ⅰ	人文地理学特説Ⅰ
273	人文地理学特説Ⅱ	人文地理学特説Ⅱ
273	心理演習	心理演習
274	心理学概論	心理学概論A
274	心理学実験	心理学実験A
275	心理学特論	心理学特論
275	心理言語学	心理言語学
276	心理実習	心理実習
276	心理社会研究基礎演習ⅠA	心理社会研究基礎演習ⅠA
279	心理社会研究基礎演習ⅠB	心理社会研究基礎演習ⅠB
282	心理社会研究基礎演習ⅡA	心理社会研究基礎演習ⅡA
285	心理社会研究基礎演習ⅡB	心理社会研究基礎演習ⅡB
288	心理社会研究入門A	心理社会研究入門A
289	心理社会研究入門C	心理社会研究入門C

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)
289	心理社会調査研究法A(心理学統計法)	心理社会調査研究法A(心理学統計法)
290	心理社会調査研究法B(心理学研究法)	心理社会調査研究法B(心理学研究法)
290	心理社会研究入門B	心理社会研究入門B
291	心理的アセスメント	心理的アセスメント
291	人類学概論〔M〕	文化人類学B〔M〕
292	人類学入門〔M〕	文化人類学A〔M〕
292	スペイン語で学ぶ文化と社会IA	中級スペイン語ⅡA
293	スペイン語で学ぶ文化と社会IB	中級スペイン語ⅡB
293	スペイン語レベルアップA	中級スペイン語ⅠA
294	スペイン語レベルアップB	中級スペイン語ⅠB
294	スポーツ文化論Ⅱ	スポーツ文化論Ⅱ
295	スラヴ語圏の歴史	スラヴ語圏の歴史
295	政治と哲学	政治と哲学
296	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療
296	生態学A	生態学A
297	生態学B	生態学B
297	生命の政治社会学	生命の政治社会学
298	西洋演劇史ⅡA	西洋演劇史ⅡA
298	西洋演劇史ⅠA	西洋演劇史ⅠA
299	西洋演劇史ⅠB	西洋演劇史ⅠB
299	西洋演劇史ⅡB	西洋演劇史ⅡB
300	西洋演劇史ⅢA	西洋演劇史ⅢA
300	西洋演劇史ⅢB	西洋演劇史ⅢB
301	西洋史概論A	西洋史概論A
301	西洋史概論B	西洋史概論B
302	西洋思想の基本概念	西洋思想研究A
302	西洋思想の古典を読む	西洋思想研究B
303	西洋史探究ⅠA	西洋古代史A
303	西洋史探究ⅠB	西洋古代史B
304	西洋史探究ⅡA	西洋中世史A
304	西洋史探究ⅡB	西洋中世史B
305	西洋史探究ⅢA	西洋近代史ⅠA
305	西洋史探究ⅢB	西洋近代史ⅠB
306	西洋史探究ⅣA	西洋近代史ⅡA
306	西洋史探究ⅣB	西洋近代史ⅡB
307	西洋史探究ⅥA	西洋現代史ⅡA
307	西洋史探究ⅥB	西洋現代史ⅡB
308	西洋美術史A	西洋美術史A
308	西洋美術史B	西洋美術史B
309	西洋歴史社会論A	西洋史特説ⅡA
309	西洋歴史社会論B	西洋史特説ⅡB
310	世界の言語	世界の言語
310	世界の宗教	世界の宗教
311	前近代研究方法論	ー
311	前近代の東洋思想史	東洋思想史A
312	全体主義の超域的人間学	社会的逸脱論
312	ソーシャルワーク論	ソーシャルワーク論
313	測量学Ⅰ	測量学Ⅰ
313	測量学Ⅱ	測量学Ⅱ
314	卒業論文・卒業制作Ⅰ(文学科)	卒業論文・卒業制作Ⅰ
317	卒業論文・卒業制作Ⅱ(文学科)	卒業論文・卒業制作Ⅱ
320	卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	卒業論文Ⅰ
335	卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	卒業論文Ⅰ
343	卒業論文Ⅰ(文学科)	卒業論文Ⅰ
361	卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	卒業論文Ⅱ
376	卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	卒業論文Ⅱ
384	卒業論文Ⅱ(文学科)	卒業論文Ⅱ
402	地域統計学Ⅰ	地域統計学Ⅰ
403	地域統計学Ⅱ	地域統計学Ⅱ
403	知覚・認知心理学	知覚・認知心理学
404	地球環境A	地球環境A
404	地球環境B	地球環境B
405	地形学Ⅰ	地形学Ⅰ

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)
405	地形学Ⅱ	地形学Ⅱ
406	地誌学概論A	地誌学概論A
406	地誌学概論B	地誌学概論B
407	地図学Ⅰ	地図学Ⅰ
407	地図学Ⅱ	地図学Ⅱ
408	中級意味論	語用論B
408	中級音声学I	英語学研究A
409	中級音声学II	英語学研究B
409	中級ドイツ語講読A	ー
410	中級ドイツ語講読B	ー
410	中級ドイツ語コミュニケーションA	ドイツ語作文・会話ⅡA
411	中級ドイツ語コミュニケーションB	ドイツ語作文・会話ⅡB
412	中級統語論I	英語学研究A
412	中級統語論II	英語学研究B
413	中級フランス語講読A	中級フランス語講読A
414	中級フランス語講読B	中級フランス語講読B
416	中国語で学ぶ文化と社会IA	中級中国語ⅡA
416	中国語で学ぶ文化と社会IB	中級中国語ⅡB
417	中国語レベルアップA	中級中国語ⅠA
417	中国語レベルアップB	中級中国語ⅠB
418	中国の考古学A	中国の考古学A
418	中国の考古学B	中国の考古学B
419	中国文学研究ⅠA	中国文学研究ⅠA
419	中国文学研究ⅠB	中国文学研究ⅠB
420	中国文学研究ⅡA	中国文学研究ⅡA
420	中国文学研究ⅡB	中国文学研究ⅡB
421	中国文学講読ⅠA	中国文学講読ⅠA
421	中国文学講読ⅡB	中国文学講読ⅡB
422	朝鮮語で学ぶ文化と社会IA	中級朝鮮語ⅡA
422	朝鮮語で学ぶ文化と社会IB	中級朝鮮語ⅡB
423	朝鮮語レベルアップA	中級朝鮮語ⅠA
423	朝鮮語レベルアップB	中級朝鮮語ⅠB
424	朝鮮史(近世近現代)	朝鮮史B
424	朝鮮史(古代中世)	朝鮮史A
425	朝鮮の考古学A	朝鮮の考古学A
425	朝鮮の考古学B	朝鮮の考古学B
426	地理学研究法A	地理学研究法A
428	地理学研究法B	地理学研究法B
430	地理学実習Ⅰ	地理学実習Ⅰ
430	地理学実習Ⅱ	地理学実習Ⅱ
431	地理学実習Ⅲ	地理学実習Ⅲ
431	地理学実習Ⅳ	地理学実習Ⅳ
432	テクスト研究A	テクスト研究A
433	テクスト研究B	テクスト研究B
435	テクスト講読A	テクスト講読A
436	テクスト講読B	テクスト講読B
437	哲学演習(2年)Ⅰ	哲学演習(2年)A
438	哲学演習(2年)Ⅱ	哲学演習(2年)B
439	哲学演習(3年)Ⅰ	哲学演習(3年)A
441	哲学演習(3年)Ⅱ	哲学演習(3年)B
444	哲学外書講読	哲学特論B
444	哲学概論Ⅰ	哲学概論A
445	哲学概論Ⅱ	哲学概論B
445	哲学交流論	哲学交流論
446	哲学プラクティスⅠ	哲学プラクティスⅠA
447	哲学プラクティスⅡ	哲学プラクティスⅠB
448	哲学プラクティス研究Ⅰ	哲学プラクティスⅡA
448	哲学プラクティス研究 II	哲学プラクティスⅡB
449	哲学文献講読	哲学特論A
449	伝承文学研究	詩歌研究B
450	ドイツ言語学研究A	ドイツ語学特殊研究A
450	ドイツ言語学研究B	ドイツ語学特殊研究B
451	ドイツ現代文化論A	ドイツ社会誌研究A
451	ドイツ現代文化論B	ドイツ社会誌研究B
452	ドイツ語演習ⅠA	ドイツ語演習ⅠA
453	ドイツ語演習ⅠB	ドイツ語演習ⅠB
454	ドイツ語演習ⅡA	ドイツ語演習ⅡA
455	ドイツ語演習ⅡB	ドイツ語演習ⅡB
456	ドイツ語学概論A	ドイツ語学概論A
456	ドイツ語学概論B	ドイツ語学概論B
457	ドイツ語圏芸術研究A	ドイツ作家作品研究A
457	ドイツ語圏芸術研究B	ドイツ作家作品研究B
458	ドイツ語圏の歴史	ドイツ語圏の歴史
458	ドイツ語圏文学講読A	ドイツ文学講読C
459	ドイツ語圏文学講読B	ドイツ文学講読D
460	ドイツ語で学ぶ文化と社会IA	中級ドイツ語ⅡA
461	ドイツ語で学ぶ文化と社会IB	中級ドイツ語ⅡB
461	ドイツ語表現法A	ドイツ語表現法A
462	ドイツ語表現法B	ドイツ語表現法B
462	ドイツ語文献講読A	ー
463	ドイツ語文献講読B	ー
463	ドイツ語レベルアップA	中級ドイツ語ⅠA
464	ドイツ語レベルアップB	中級ドイツ語ⅠB
464	ドイツ思想研究A	ドイツ文化研究A
465	ドイツ思想研究B	ドイツ文化研究B
465	ドイツ文化演習A	ドイツ文化演習A
466	ドイツ文化演習B	ドイツ文化演習B
467	ドイツ文学演習A	ドイツ文学演習A
468	ドイツ文学演習B	ドイツ文学演習B
469	ドイツ文学史Ⅰ	ドイツ文学史A
470	ドイツ文学史Ⅱ	ドイツ文学史B
470	ドイツ文学テーマ研究A	ドイツ文学特殊研究A
471	ドイツ文学テーマ研究B	ドイツ文学特殊研究B
471	ドイツ文化研究入門	ー
472	統計学	統計学
472	統語論入門 II	統語論B
473	統語論入門Ⅰ	統語論A
473	東洋思想の基本概念	東洋思想研究A
474	東洋思想の古典を読む	東洋思想研究B
474	東洋の宗教	東洋の宗教
475	都市地理学Ⅰ	都市地理学Ⅰ
475	都市地理学Ⅱ	都市地理学Ⅱ
476	都市とコミュニティの社会学	コミュニティデザイン論
476	ドラマトゥルギー分析	戯曲論B
477	ドラマトゥルギー論	戯曲論A
477	日韓比較文学	日韓比較文学
478	日本演劇史ⅠA	日本演劇史ⅠA
478	日本演劇史ⅠB	日本演劇史ⅠB
479	日本演劇史ⅡA	日本演劇史ⅡA
479	日本演劇史ⅡB	日本演劇史ⅡB
480	日本演劇史ⅢA	日本演劇史ⅢA
480	日本演劇史ⅢB	日本演劇史ⅢB
481	日本近現代史料学	日本史料学Ⅳ
481	日本近世史	日本近世史
482	日本近世史料学	日本史料学Ⅲ
482	日本近代史	日本近代史
483	日本劇作家研究	日本近代戯曲研究B
483	日本劇作家論	日本近代戯曲研究A
484	日本現代史(戦後)	日本現代史Ⅱ
484	日本現代史(戦前)	日本現代史Ⅰ
485	日本語音声学	日本語音声学
485	日本語教育学演習A	日本語教育学演習A
486	日本語教育学演習B	日本語教育学演習B
486	日本語教育学概論	ー
487	日本語教授法Ⅰ	日本語教授法Ⅰ
487	日本語教授法Ⅱ	日本語教授法Ⅱ

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)
488	日本語史	日本語史
488	日本古代史	日本古代史
489	日本古代史料学	日本史料学Ⅰ
489	日本史映像資料研究	日本史映像資料研究
490	日本史概論A	日本史概論A
490	日本史概論B	日本史概論B
491	日本史図像資料研究	日本史図像資料研究
491	日本思想史Ⅰ	日本思想史A
492	日本思想史Ⅱ	日本思想史B
492	日本史特説(政治と宗教)A	日本史特説ⅡA
493	日本史特説(政治と宗教)B	日本史特説ⅡB
493	日本史特説(政治と文化)A	日本史特説ⅠA
494	日本史特説(政治と文化)B	日本史特説ⅠB
494	日本地誌	日本地誌
495	日本中世史	日本中世史
495	日本中世史料学	日本史料学Ⅱ
496	日本美術史Ⅰ	日本美術史A
496	日本美術史Ⅱ	日本美術史B
497	日本文学演習(2年)A	日本文学演習(2年)A
502	日本文学演習(2年)B	日本文学演習(2年)B
507	日本文学演習(3年)A	日本文学演習(3年)A
512	日本文学演習(3年)B	日本文学演習(3年)B
517	日本文学講義ⅠA	日本文学講義ⅠA
519	日本文学講義ⅠB	日本文学講義ⅠB
521	日本文学講義ⅡA	日本文学講義ⅡA
523	日本文学講義ⅡB	日本文学講義ⅡB
525	日本文学講読ⅠA	日本文学講読ⅠA
526	日本文学講読ⅠB	日本文学講読ⅠB
528	日本文学講読ⅡA	日本文学講読ⅡA
529	日本文学講読ⅡB	日本文学講読ⅡB
531	日本文学史	日本文学史
531	日本文化史Ⅰ	日本文化史A
532	日本文化史Ⅱ	日本文化史B
532	日本文芸思潮史A	日本文芸思潮史A
533	日本文芸思潮史B	日本文芸思潮史B
533	人間と情報	人間と情報Ⅰ
534	ノンフィクション研究	小説研究B
534	発達心理学	発達心理学
535	東アジア近現代史概説	東アジア近現代史A
535	東アジア近現代史探究	東アジア近現代史B
536	東アジア近世史概説	東アジア近世史A
536	東アジア近世史探究	東アジア近世史B
537	東アジア古代史概説	東アジア古代史A
537	東アジア古代史探究	東アジア古代史B
538	東アジア中世史概説	東アジア中世史A
538	東アジア中世史探究	東アジア中世史B
539	批評理論	批評理論
539	表現・創作Ⅰ	表現・創作ⅠA
541	表現・創作Ⅱ	表現・創作ⅠB
543	表現・創作研究A	表現・創作ⅡA
544	表現・創作研究B	表現・創作ⅡB
544	表現と倫理	表現と倫理
545	評論研究	評論研究
545	福祉心理学	福祉心理学
546	舞台演出の研究	演出論B
546	舞台演出の理論	演出論A
547	舞台空間論	劇場論B
547	舞台芸術研究Ⅰ(舞踊と身体表現)	舞台芸術研究ⅠA
548	舞台芸術研究Ⅱ(ダンス・パフォーマンス論)	舞台芸術研究ⅠB
548	舞台芸術研究Ⅲ(演劇と音楽)	舞台芸術研究ⅡA
549	舞台芸術研究Ⅳ(音楽劇の諸相)	舞台芸術研究ⅡB
549	舞踊学研究	舞踊学B
550	舞踊学の基礎	舞踊学A
550	フランス語学演習(3・4年)A	フランス語学演習A
551	フランス語学演習(3・4年)B	フランス語学演習B
551	フランス語学概論A	フランス語学概論A
552	フランス語学概論B	フランス語学概論B
552	フランス語学研究A	フランス語学研究A
553	フランス語学研究B	フランス語学研究B
553	フランス語圏の歴史	フランス語圏の歴史
554	フランス語圏表象文化A	フランス語圏表象文化
554	フランス語圏表象文化B	ー
555	フランス語コミュニケーションⅠA	フランス語コミュニケーションⅠA
556	フランス語コミュニケーションⅠB	フランス語コミュニケーションⅠB
558	フランス語コミュニケーションⅡA	フランス語コミュニケーションⅡA
559	フランス語コミュニケーションⅡB	フランス語コミュニケーションⅡB
561	フランス語コミュニケーションⅢA	フランス語コミュニケーションⅢA
562	フランス語コミュニケーションⅢB	フランス語コミュニケーションⅢB
563	フランス語コミュニケーションⅣA	フランス語コミュニケーションⅣA
564	フランス語コミュニケーションⅣB	フランス語コミュニケーションⅣB
565	フランス語レベルアップA	ー
565	フランス語レベルアップB	ー
566	フランス文学演習(2年)A	フランス文学演習(2年)A
567	フランス文学演習(2年)B	フランス文学演習(2年)B
568	フランス文学演習(3・4年)A	フランス文学演習(3・4年)A
570	フランス文学演習(3・4年)B	フランス文学演習(3・4年)B
572	フランス文学史A	フランス文学史A
572	フランス文学史B	フランス文学史B
573	フランス文化研究A	フランス文化研究A
573	フランス文化研究B	フランス文化研究B
574	文学概論A	文学概論A
574	文学概論B	文学概論B
575	文学と哲学	文学と哲学
575	文化財科学A	文化財科学A
576	文化財科学B	文化財科学B
576	文化地理学Ⅰ	文化地理学Ⅰ
577	文化地理学Ⅱ	文化地理学Ⅱ
577	文芸研究	文芸メディア概論B
578	文芸メディア演習(2年)Ⅰ	文芸メディア演習(2年)A
580	文芸メディア演習(2年)Ⅱ	文芸メディア演習(2年)B
583	文芸メディア演習(3・4年)Ⅰ	文芸メディア演習(3・4年)A
586	文芸メディア演習(3・4年)Ⅱ	文芸メディア演習(3・4年)B
589	文芸メディア概論	文芸メディア概論A
589	文献講読(アジア史)A	文献講読A(アジア史)
591	文献講読(アジア史)B	文献講読B(アジア史)
593	文献講読(日本史)A	文献講読A(日本史)
597	文献講読(日本史)B	文献講読B(日本史)
601	米近代文学講読	米文学講読A
602	米現代文学講読	米文学講読B
602	米散文読解	米文学講読D
603	米詩読解	米文学講読C
603	米文学史Ⅰ	米文学史A
604	米文学史Ⅱ	米文学史B
604	米文学と階級	米作家作品研究A
605	米文学と芸術	米作家作品研究B
605	米文学と個人	ー
606	米文学とコミュニケーション	英米劇作家作品研究B
606	米文学とジェンダー	米作家作品研究A
607	米文学と人種	米作家作品研究B
607	米文学と歴史	ー
608	米文化研究	英米文化研究B
608	編集・企画	編集・企画
609	放送メディア論	放送論
609	翻訳・翻案研究	翻訳研究
610	南アジア史A	南アジア史A
610	南アジア史B	南アジア史B

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)
611	ミュージカル論	舞台芸術研究ⅢA
611	民俗学Ⅰ	民俗学A
612	民俗学Ⅱ	民俗学B
612	メディア研究	メディア研究
613	メディア史	メディア史
613	メディア文化論	現代文化論
614	弥生時代の考古学A	弥生時代の考古学A
614	弥生時代の考古学B	弥生時代の考古学B
615	ライフコースと人間	ライフサイクルと人間Ⅱ
615	ラテンアメリカ文化論	ラテンアメリカ文化論
616	ラテン語初級	ラテン語ⅠB
616	ラテン語中級講読A	ラテン語ⅡA
617	ラテン語中級講読B	ラテン語ⅡB
617	ラテン語入門	ラテン語ⅠA
618	留学入門講座〔M〕	留学準備講座A〔M〕
618	臨床心理援助技法	心理学実験B
619	臨床心理学演習A	臨床心理学演習A
622	臨床心理学演習B	臨床心理学演習B
626	臨床心理学概論	臨床心理学概論Ⅰ
626	臨床心理学特論	臨床心理学概論Ⅱ
627	臨床哲学	臨床哲学
627	倫理学外書講読	倫理学特論B
628	倫理学概論Ⅰ	倫理学概論A
628	倫理学概論Ⅱ	倫理学概論B
629	倫理学文献講読	倫理学特論A
629	歴史時代の考古学A	歴史時代の考古学A
630	歴史時代の考古学B	歴史時代の考古学B
630	歴史と哲学	歴史と哲学
631	ロシア語で学ぶ文化と社会IA	中級ロシア語ⅡA
631	ロシア語で学ぶ文化と社会IB	中級ロシア語ⅡB
632	ロシア語レベルアップA	中級ロシア語ⅠA
632	ロシア語レベルアップB	中級ロシア語ⅠB
633	ロシア文学史A	ロシア文学史A
633	ロシア文学史B	ロシア文学史B
634	論理学概論Ⅰ	論理学概論A
634	論理学概論Ⅱ	論理学概論B
635	ー	ライフサイクルと人間Ⅰ

外国語科目(英語)

637	Academic English A(Adv.)	ー
640	Academic English A(Basic)	English Academic Writing A(Basic)
644	Academic English A(Inter.)	ー
648	Academic English B(Adv.)	ー
651	Academic English B(Basic)	English Academic Writing B(Basic)
656	Academic English B(Inter.)	ー
660	English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)
665	English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)
670	English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)
675	English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)
680	English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)
685	English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)
691	English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)
694	English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)
700	English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)
705	English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)
709	English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)
714	English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)
720	English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)
723	English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)
729	English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)
734	English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)
738	English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)
743	English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)

ページ	科目名(2024年度以降入学者対象)	科目名(2023年度以前入学者対象)

外国語科目(英語以外)

753	スペイン語ⅠA	スペイン語ⅠA
756	スペイン語ⅠB	スペイン語ⅠB
759	スペイン語ⅡA	スペイン語ⅡA
761	スペイン語ⅡB	スペイン語ⅡB
763	スペイン語ⅢA	スペイン語ⅢA
765	スペイン語ⅢB	スペイン語ⅢB
768	スペイン語ⅣA	スペイン語ⅣA
769	スペイン語ⅣB	スペイン語ⅣB
771	中国語ⅠA	中国語ⅠA
775	中国語ⅠB	中国語ⅠB
780	中国語ⅡA	中国語ⅡA
784	中国語ⅡB	中国語ⅡB
789	中国語ⅢA	中国語ⅢA
794	中国語ⅢB	中国語ⅢB
800	中国語ⅣA	中国語ⅣA
803	中国語ⅣB	中国語ⅣB
806	朝鮮語ⅠA	朝鮮語ⅠA
808	朝鮮語ⅠB	朝鮮語ⅠB
810	朝鮮語ⅡA	朝鮮語ⅡA
812	朝鮮語ⅡB	朝鮮語ⅡB
814	朝鮮語ⅢA	朝鮮語ⅢA
816	朝鮮語ⅢB	朝鮮語ⅢB
818	朝鮮語ⅣA	朝鮮語ⅣA
819	朝鮮語ⅣB	朝鮮語ⅣB
821	ドイツ語ⅠA	ドイツ語ⅠA
826	ドイツ語ⅠB	ドイツ語ⅠB
831	ドイツ語ⅡA	ドイツ語ⅡA
834	ドイツ語ⅡB	ドイツ語ⅡB
837	ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢA
841	ドイツ語ⅢB	ドイツ語ⅢB
845	ドイツ語ⅣA	ドイツ語ⅣA
847	ドイツ語ⅣB	ドイツ語ⅣB
849	フランス語ⅠA	フランス語ⅠA
853	フランス語ⅠB	フランス語ⅠB
858	フランス語ⅡA	フランス語ⅡA
861	フランス語ⅡB	フランス語ⅡB
865	フランス語ⅢA	フランス語ⅢA
870	フランス語ⅢB	フランス語ⅢB
875	フランス語ⅣA	フランス語ⅣA
878	フランス語ⅣB	フランス語ⅣB
881	ロシア語ⅠA	ロシア語ⅠA
882	ロシア語ⅠB	ロシア語ⅠB
883	ロシア語ⅡA	ロシア語ⅡA
884	ロシア語ⅡB	ロシア語ⅡB
885	ロシア語ⅢA	ロシア語ⅢA
886	ロシア語ⅢB	ロシア語ⅢB
887	ロシア語ⅣA	ロシア語ⅣA
887	ロシア語ⅣB	ロシア語ⅣB
887	ロシア語ⅣB	ロシア語ⅣB

ウェルネス科目

889	ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA
904	ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB
919	ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論
929	生涯スポーツ(和泉)	生涯スポーツⅠ
937	生涯スポーツ(駿河台)	生涯スポーツⅡ
941	生涯スポーツ(冬季集中)	生涯スポーツⅣ
942	生涯スポーツ論Ⅰ	生涯スポーツ論Ⅰ

科目ナンバー：(AL)ANT116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Culture and Society〔M〕	**文化人類学A〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
In this introductory course, you will learn the basic concepts and ideas of cultural anthropology. Anthropology involves the systematic, comparative study of groups of people from all over the world and the knowledge those groups have that defines their cultures. We will draw on what we learn about other cultures to learn something about our own culture(s) and about ourselves.

授業内容
Week 1: Introduction
Week 2: What is anthropology?
Week 3: Culture – Anthropological approaches 1
Week 4: Culture – Anthropological approaches 2
Week 5: Race, Ethnicity, Class 1
Week 6: Race, Ethnicity, Class 2
Week 7: Methods in Anthropology 1
Week 8: Methods in Anthropology 2
Week 9: Language and Communication 1
Week 10: Language and Communication 2
Week 11: Agriculture, Exchange, Economy 1
Week 12: Agriculture, Exchange, Economy 2
Week 13: Subsistence System
Week 14: Review

履修上の注意
There are no prerequisites to enroll in this course.

準備学習(予習・復習等)の内容
The course will include lectures and discussions. Attendance is a minimal requirement. Participation is measured by attendance and by asking and answering questions on a timely basis. You are expected to read the suggested materials and to be able to ask and answer questions about them in class discussions.
This course uses an online system, Oh-o! Meiji. You can access Oh-o! Meiji at:[url]https://oh-o2.meiji.ac.jp/[/url]. You will need your Meiji University username and password to log in.

教科書
Nina Brown, Thomas McIlwraith, Laura Tubelle de González(2020) Perspectives: An Open Introduction to Cultural Anthropology, 2nd Edition, American Anthropological Association

参考書
Other readings will be posted on Oh-o! Meiji.

課題に対するフィードバックの方法
There will be weekly office hours.

成績評価の方法
Evaluation will be based on participation (20%), quizzes (20%), a mid-term exam (30%), and a final exam (30%).

その他
* This class will be in HyFlex format. You can physically be in the classroom or attend this class via Zoom from anywhere around the world. For the in-class/live streaming will be in the 2nd period of Tuesdays in Izumi. Please check the Oh-o! Meiji for the physical classroom location.

科目ナンバー：(AL)LAN212E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Discussion and Debate Ⅰ	**Discussion and Debate A**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
This course seeks to improve students' ability to construct arguments, engage in critical discussion, and give presentations in English. Students will be required to work together in groups, to present different kinds of information and ideas to the class and to answer questions and discuss topics spontaneously.

授業内容

1. Introduction to Discussion and Debate
2. Debate 1: Are smaller countries better than larger ones?
3. Debate 2: Is appearance important?
4. Debate 3: Should you be able to choose the gender of your child?
5. Debate 4: Is the world getting better?
6. Individual presentations 1: Is clutter bad for you? 1
7. Individual presentations 1: Is clutter bad for you? 2
8. Debate 5: Is marriage out of date?
9. Debate 6: Is public shaming a bad thing?
10. Debate 7: Is higher education failing?
11. Individual presentations 2: Is having children a right, a privilege or an obligation? 1
12. Individual presentations 2: Is having children a right, a privilege or an obligation? 2
13. Group presentation project 1: The world in 2049 1
14. Group presentation project 1: The world in 2049 2

履修上の注意

This course will test both students' written and oral English and their ability to work in groups and think creatively. Students should be prepared to speak in English in class.
On most weeks, students will be given a discussion question, with some supporting reading in English and asked to engage critically with both the reading materials and the discussion it stimulates. On others, students will be required to give both individual and group presentations. They will also be required to evaluate presentations and to reflect on how they can improve their own presentation skills.

準備学習(予習・復習等)の内容
Students will also be required to read class materials and prepare written responses to them in their own time. They will also prepare PowerPoint materials and scripts for presentations outside class time.

教科書
A course textbook will be provided that provides all required reading at minimum print cost.

参考書
All additional reading materials will be provided.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

50 per cent presentations; 50 per cent homework assignments.

その他
Classes are conducted entirely in English.

科目ナンバー:(AL)LAN212E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Discussion and Debate Ⅱ	**Discussion and Debate B**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

This course seeks to improve students' ability to construct arguments, engage in critical discussion, and give presentations in English. Students will be required to work together in groups, to present different kinds of information and ideas to the class and to answer questions and discuss topics spontaneously.

授業内容

1. Returning to Discussion and Debate: Presentation guidelines
2. Debate 8: Is the West in decline?
3. Debate 9: Is universal basic income a good idea?
4. Individual presentations 3: Is Japan cool?
5. Debate 10: Are Animals Moral Creatures?
6. Niccolo Machiavelli, The Prince.
7. Debate 11: What ethical guidelines should we have for AI?
8. Debate 12: Is democracy the best way for societies to make decisions?
9. Debate 13: Are NFTs artworks?
10. Debate 14: Should human beings colonize Mars?
11. Debate 15: Is gambling good for you?
12. Debate 16: Is it good to be famous?
13. Group presentation project 2: The future of English

履修上の注意

This course will test both students' written and oral English and their ability to work in groups and think creatively. Students should be prepared to speak in English in class.
On most weeks, students will be given a discussion question, with some supporting reading in English and asked to engage critically with both the reading materials and the discussion it stimulates. On others, students will be required to give both individual and group presentations. They will also be required to evaluate presentations and to reflect on how they can improve their own presentation skills.

準備学習(予習・復習等)の内容

Students will also be required to read class materials and prepare written responses to them in their own time. They will also prepare PowerPoint materials and scripts for presentations outside class time.

教科書

No textbook required: all reading will be provided.

参考書

A course textbook will be provided that provides all required reading at minimum print cost.

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

50 per cent presentations; 50 per cent homework assignments.

その他

Classes are conducted entirely in English.

科目ナンバー:(AL)LIT391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
DTP	**DTP**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

メディア教室(駿河台キャンパス 12 号館)のパソコン機器を使用して, 雑誌・書籍などの誌面デザイン(DTP)の基礎を扱います。
雑誌・書籍など多くの印刷物のコンピューターによる制作は, かつては大手印刷会社の高性能マシンと専用ソフトウェアの独擅場だったのですが, 近年のハード, ソフト両面の飛躍的な進歩によって, 今日ではパソコンでほとんど同等の制作ができるようになりました。この, パソコンによる雑誌・書籍制作を Desktop Publishing(DTP)といいます。本授業では代表的な DTP ソフト「Adobe InDesign CC」を中心に, 雑誌・書籍などのデザインの基本を学びます。

授業内容

DTP とは何かを概説した後に, 以下を具体的に学びながら, 雑誌・書籍の誌面デザインをする。操作方法だけではなく, 基本的な「考え方」も重視します。
(A)Adobe InDesign CCによる文字組みの基礎
(B)Adobe Photoshop CCによる画像の扱いの基礎
(C)文字と画像を組み合わせたレイアウト
第1回:DTP とはなにか
第2回:雑誌・本の「ページ」とはどのようなものか
第3回:文字組み1 ― 版面
第4回:文字組み2 ― ラフ・デザイン
第5回:文字組み3 ― フォント, 文字の各種設定。
第6回:文字組み4 ― ルビ, 圏点, 異体字。タイトル, 小見出し。
第7回:前回までのレビュー
第8回:画像1 ― 写真の扱いの基礎。
第9回:画像2 ― 写真の修正・加工。
第 10 回:画像3 ― 写真の装飾。
第 11 回:誌面のまとめ1 ― 画像の組み込み。
第 12 回:誌面のまとめ2 ― 画像と文字を合わせて加工する。
第 13 回:発展的動作 ― レイヤーの使い方, 表の作成など。
第 14 回:期末課題の講評

履修上の注意

機器・ソフトウェアの数に限りがあるため, この科目は通常の履修届けより早くに DTP 履修希望票の提出が必要です。くわしくは告知・掲示を参照してください。受講希望者数が定員を上回った場合には抽選をおこないます。
講義と実習を組み合わせて行います。授業の流れに即して出題する「小課題」および「期末課題」を課します。授業の理解に不可欠なものなので, 必ず取り組んで提出してください。この授業では, 出版といういとなみが築いてきた基本の「考え方」をふまえたうえで, DTP ソフトウェアの基本操作に習熟することを目指しています。その意味で, 操作の説明以外の授業部分も重要です。欠席, 遅刻のないようにこころがけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの該当部分に授業前に目をとおし, 授業で配布された追加資料と合わせてじゅうぶんに理解し, 実習室等で動作を確認し, 身につけること。

教科書

授業でのプリントを用います。

参考書

『今すぐ使えるかんたん InDesign やさしい入門』まきのゆみ(技術評論社),『超時短 Photoshop「写真の色補正」速攻アップ!』藤島健(技術評論社)などがあります。DTP を含んで本・雑誌つくり全体の基礎については,『エディトリアル技術教本(改訂新版)』板谷成雄(オーム社)。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での作業…30%, 課題(小課題2～3回程度＋期末課題)…70%
期末課題は必須。提出がない場合は、単位を認めません。

その他

書籍・雑誌についてのより広い知識を必要とする諸君は, 春学期の「出版印刷研究」, 秋学期の「編集・企画」とあわせて受講することを勧めます。

科目ナンバー：(AL)LIT391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
DTP	DTP	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

メディア教室(駿河台キャンパス 12 号館)のパソコン機器を使用して，雑誌・書籍などの誌面デザイン(DTP)の基礎を扱います。

雑誌・書籍など多くの印刷物のコンピューターによる制作は，かつては大手印刷会社の高性能マシンと専用ソフトウェアの独擅場だったのですが，近年のハード，ソフト両面の飛躍的な進歩によって，今日ではパソコンでほとんど同等の制作ができるようになりました。この，パソコンによる雑誌・書籍制作を Desktop Publishing(DTP)といいます。本授業では代表的な DTP ソフト「Adobe InDesign CC」を中心に，雑誌・書籍などのデザインの基本を学びます。

授業内容

DTP とは何かを概説した後に，以下を具体的に学びながら，雑誌・書籍の誌面デザインをする。操作方法だけではなく，基本的な「考え方」も重視します。

(A)Adobe InDesign CCによる文字組みの基礎
(B)Adobe Photoshop CCによる画像の扱いの基礎
(C)文字と画像を組み合わせたレイアウト
第1回：DTP とはなにか
第2回：雑誌・本の「ページ」とはどのようなものか
第3回：文字組み1 ― 版面
第4回：文字組み2 ― ラフ・デザイン
第5回：文字組み3 ― フォント，文字の各種設定。
第6回：文字組み4 ― ルビ，圏点，異体字。タイトル，小見出し。
第7回：前回までのレビュー
第8回：画像1 ― 写真の扱いの基礎。
第9回：画像2 ― 写真の修正・加工。
第 10 回：画像3 ― 写真の装飾。
第 11 回：誌面のまとめ1 ― 画像の組み込み。
第 12 回：誌面のまとめ2 ― 画像と文字を合わせて加工する。
第 13 回：発展的動作 ― レイヤーの使い方，表の作成など。
第 14 回：期末課題の講評

履修上の注意

機器・ソフトウェアの数に限りがあるため，この科目は通常の履修届けより早くに DTP 履修希望票の提出が必要です。くわしくは告知・掲示を参照してください。受講希望者数が定員を上回った場合には抽選をおこないます。

講義と実習を組み合わせて行います。授業の流れに即して出題する「小課題」および「期末課題」を課します。授業の理解に不可欠なものなので，必ず取り組んで提出してください。この授業では，出版といういとなみが築いてきた基本の「考え方」をふまえたうえで，DTP ソフトウェアの基本操作に習熟することを目指しています。その意味で，操作の説明以外の授業部分も重要です。欠席，遅刻のないようにこころがけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの該当部分に授業前に目をとおし，授業で配布された追加資料と合わせてじゅうぶんに理解し，実習室等で動作を確認し，身につけること。

教科書

授業でのプリントを用います。

参考書

『今すぐ使えるかんたん InDesign やさしい入門』まきのゆみ(技術評論社)，『超時短 Photoshop「写真の色補正」速攻アップ！』藤島健(技術評論社)などがあります。DTP を含んで本・雑誌つくり全体の基礎については，『エディトリアル技術教本(改訂新版)』板谷成雄(オーム社)。

課題に対するフィードバックの方法

適宜、授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での作業…30%，課題(小課題2～3回程度＋期末課題)…70%
期末課題は必須。提出がない場合は、単位を認めません。

その他

書籍・雑誌についてのより広い知識を必要とする諸君は，春学期の「出版印刷研究」，秋学期の「編集・企画」とあわせて受講することを勧めます。

科目ナンバー：(AL)ANT116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Emerging Humanity〔M〕	文化人類学B〔M〕	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

In this introductory course, you will learn the basic concepts and ideas of anthropology. Anthropology involves the systematic, comparative study of groups of people from all over the world and the knowledge those groups have that defines their cultures. We will draw on what we learn about other cultures to learn something about our own culture(s) and about ourselves.

授業内容

Week 1: Introduction
Week 2: What is anthropology?
Week 3: The First Humans 1
Week 4: The First Humans 2
Week 5: Out of Africa: Homo Erectus
Week 6: The Hunters
Week 7: Postglacial Foragers
Week 8: The Origins of Agriculture
Week 9: North America
Week 10: Ancient Mesoamerica
Week 11: Asia and Africa
Week 12: Oceania
Week 13: Anthropology in Public Administration
Week 14: Review

履修上の注意

There are no prerequisites to enroll in this course.

準備学習(予習・復習等)の内容

The course will include lectures and discussions. Attendance is a minimal requirement. Participation is measured by attendance and by asking and answering questions on a timely basis. You are expected to read the suggested materials and to be able to ask and answer questions about them in class discussions.
This course uses an online system, Oh-o! Meiji. You can access Oh-o! Meiji at:[url]https://oh-o2.meiji.ac.jp/[/url]. You will need your Meiji University username and password to log in.

教科書

Nina Brown, Thomas McIlwraith, Laura Tubelle de González(2020) Perspectives: An Open Introduction to Cultural Anthropology, 2nd Edition, American Anthropological Association

参考書

Other readings will be posted on Oh-o! Meiji.

課題に対するフィードバックの方法

There will be weekly office hours.

成績評価の方法

Evaluation will be based on participation (20%), quizzes (20%), a mid-term exam (30%), and a final exam (30%).

その他

* This class will be in HyFlex format. You can physically be in the classroom or attend this class via Zoom from anywhere around the world. For the in-class/live streaming will be in the 2nd period of Tuesdays in Izumi. Please check the Oh-o! Meiji for the physical classroom location.

科目ナンバー:(AL)LAN312E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Essay Writing Ⅰ	**Essay Writing A**	
担 当 者	開講期	開講地区
オボグネ, マリリン	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
This course is designed to reinforce essay composition skills and introduce students to practice writing for academic purposes. The primary aim of this course is to give equal or greater emphasis on macro-level composition skills such as essay structure, paragraph structure, coherence, unity; and micro-level skills such as sentence structure, grammar, vocabulary, spelling and mechanics. Students will learn the structure for developing paragraphs and short essays. This class will encourage critical thinking skills enabling students to write down their opinions supported by reasons and examples on important topics in the world today.

授業内容
Week 1. Introductions, goals and expectations
Week 2. Getting ready to write (the elements of good writing)
Week 3. Writing activity 1 (practicing writing pre-writing using clustering, brainstorming and listing)
Week 4. Understanding the parts of a paragraph (organization, unity and support)
Week 5. Writing activity 2 (pre-writing, outlining and writing a final paragraph)
Week 6. Practicing paragraph revision and checking grammar
Week 7. Revising and editing using correct punctuation and capitalization
Week 8. Writing activity 3 (correcting mistakes and writing a paragraph using correct signal words)
Week 9. Writing essays using the basic plan of a five-paragraph essay
Week 10. Writing Essays using the writing process and organization
Week 11. Writing activity 4 (essay writing about the pressures of being a student)
Week 12. Thesis statements for process essays and writing process paragraphs
Week 13. Analyzing a process essay using the essay plan: process
Week 14. Final writing project and self-evaluation on the progress made with writing this term

履修上の注意
Students must earn a score of 60% or more and be in attendance for 2/3 of classes in order to pass.

準備学習(予習・復習等)の内容
Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (4th ed.)
著者:Karen Blanchard and Christine Root
Pearson Longman
ISBN: 978-0-1343-9933-1

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法
The writing assignments and major writing essays will be returned to students with written feedback and comments for improvement.

成績評価の方法
Grades will be based on the following:
10% Class participation
30% Homework
40% Writing class activities (four major writing essays)
20% Final writing project

その他

科目ナンバー:(AL)LAN312E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Essay Writing Ⅱ	**Essay Writing B**	
担 当 者	開講期	開講地区
オボグネ, マリリン	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
This course is designed to reinforce essay composition skills and introduce students to practice writing for academic purposes. The primary aim of this course is to give equal or greater emphasis on macro-level composition skills such as essay structure, paragraph structure, coherence, unity; and micro-level skills such as sentence structure, grammar, vocabulary, spelling and mechanics. Students will learn the structure for developing paragraphs and short essays. This class will encourage critical thinking skills enabling students to write down their opinions supported by reasons and examples on important topics in the world today.

授業内容
Week 1. Introductions, goals and expectations
Week 2. Division and classification essay –sentence patterns for thesis statement
Week 3. Writing activity 1 (essay writing about classifying something)
Week 4. Cause and effect essay – sentence patterns for topic and thesis statement
Week 5. Writing activity 2 (essay writing about cause and effect)
Week 6. Comparison and contrast essay – useful phrases and sentence patterns
Week 7. Writing activity 3 (essay writing about comparison and contrast)
Week 8. Problem Solution essay – using a step-by-step plan
Week 9. Writing activity 4 (essay writing about problem and solution essay)
Week 10. Writing summaries – summarizing an article and analyzing a one paragraph summary
Week 11. Writing activity 5 (using the writing process to write a one paragraph summary of an article)
Week 12. Expressing opinions – phrases that introduce opinions and expressing opinions
Week 13. Writing undergraduate and graduate school application essay
Week 14. Final writing project and self-evaluation on the progress made with writing this term

履修上の注意
Students must earn a score of 60% or more and be in attendance for 2/3 of classes in order to pass.

準備学習(予習・復習等)の内容
The class sessions will include a variety of tasks and activity types designed to develop academic writing skills. Class activities will include lecture, a combination of instructor- and student-led discussions, reading strategy practice, writing strategy practice, peer response sessions and revision, grammar and vocabulary check-ins, assigned readings and in-class composition. Students are expected to complete weekly reading and writing assignments.

教科書
Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (4th ed.)
著者:Karen Blanchard and Christine Root
Pearson Longman
ISBN: 978-0-1343-9933-1

参考書

課題に対するフィードバックの方法
The writing assignments and major writing essays will be returned to students with written feedback and comments for improvement.

成績評価の方法
Grades will be based on the following:
10% Class participation
30% Homework
40% Writing class activities (four major writing essays)
20% Final writing project

その他

科目ナンバー：(AL)ABR916J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Ethnographic Fieldwork〔M〕	**海外授業シミュレーション B〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
This is a collaborative survey class in which students with various cultural backgrounds work together in groups in order to learn the local communities around the university by conducting ethnographic fieldwork around the neighborhood. You will conduct ethnographic field projects in groups for the semester, and write and present your findings.

授業内容
Week 1 Introduction
Week 2 Ethnographic writing
Week 3 Self-reflectivity
Week 4 Izumi neighborhood 2
Week 5 Field study day 3
Week 6 Discussion / Presentation 3
Week 7 Field study day 4
Week 8 Discussion / Presentation 4
Week 9 Interview ethics
Week 10 Cultural transplantation
Week 11 Izumi revisited
Week 12 Class presentations 3
Week 13 Class presentations 4
Week 14 Final Discussion

履修上の注意
Students are required to give four presentations throughout a semester. The presentation scripts will be due the week following the presentation.

準備学習(予習・復習等)の内容
The course will include lectures, discussions, and fieldwork. Attendance is a minimal requirement. Participation is measured by attendance and by asking and answering questions on a timely basis. You are expected to read the suggested materials and to be able to ask and answer questions about them in class discussions.
This course uses an online system, Oh-o! Meiji. You can access Oh-o! Meiji at:[url]https://oh-o2.meiji.ac.jp/[/url]. You will need your Meiji University username and password to log in.

教科書
Readings will be posted on Oh-o! Meiji.

参考書

課題に対するフィードバックの方法
There will be weekly office hours.

成績評価の方法
Evaluation will be based on in-class participation (20%), discussion (30%), fieldwork (20%), and presentations (30%).

その他
* This class will be an in-class format with some HyFlex contents (no recording). It will be held in the 4th period of Tuesdays in Izumi. Please check the Oh-o! Meiji for the physical classroom location.

科目ナンバー：(AL)ABR916M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Japanese Society〔M〕	**日本文化発信 A〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
The aim of this course is for students to locate Japanese culture in contemporary international relations. Through lectures, readings, and class discussion, students will acquire knowledge about how international communities perceive, appropriate, and consume Japan while we also examine how the Japanese government or the Japanese general public expects others to understand their culture.

授業内容
Week 1 Introduction
Week 2 Seeing Japan from abroad
Week 3 Cool Japan: Government's efforts 1
Week 4 Evangelizing Japan: Government's efforts 2
Week 5 Contextualizing Japan
Week 6 Exporting Japan
Week 7 Localizing Japan
Week 8 Appropriating Japan
Week 9 Encontextualizing Japan
Week 10 Re-embedding Japan
Week 11 Eating Japan 1
Week 12 Eating Japan 2
Week 13 Reevaluating Japan
Week 14 Final Discussion

履修上の注意
There are no prerequisites to enroll in this course.

準備学習(予習・復習等)の内容
The course will include lectures and discussions. Attendance is a minimal requirement. Participation is measured by attendance and by asking and answering questions on a timely basis. You are expected to read the suggested materials and to be able to ask and answer questions about them in class discussions.
This course uses an online system, Oh-o! Meiji. You can access Oh-o! Meiji at: https://oh-o2.meiji.ac.jp/. You will need your Meiji University username and password to log in.

教科書
Readings will be posted on Oh-o! Meiji.

参考書

課題に対するフィードバックの方法
There will be weekly office hours.

成績評価の方法
Evaluation will be based on in-class participation (50%) and quizzes (50%).

その他
* This class will be in HyFlex format. You can physically be in the classroom or attend this class via Zoom from anywhere around the world. For the in-class/live streaming will be in the 3rd period of Tuesdays in Izumi. Please check the Oh-o! Meiji for the physical classroom location.

科目ナンバー:(AL)LAN112E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Public Speaking Ⅰ	**Public Speaking A**	
担 当 者	開講期	開講地区
フジシマ, セシリア	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

The purpose of the course is to develop skills to present ideas in public. The base of the class is developing a learning community where students get to know their classmates and work together to improve.
Students will learn how to organize their thoughts on paper and present themselves in a more confident manner and will learn to be creative in how they present their ideas and thoughts to the class.
Students will watch examples of presentations as a way to develop presentation skills and expand their intercultural perspectives.

授業内容

Class schedule:
60 minutes: Students to present short speeches based on TED Talks in small groups and in front of the class
40 minutes: Textbook contents, speech structure, pronunciation, intonation, and vocabulary building.
The course contents may be modified to better meet the needs of the students, in consultation with the class members.
Week 1: Getting to know you, class objectives
Week 2: A person to admire - reading
Week 3: A person to admire - writing
Week 4: A person to admire - practicing
Week 5: A person to admire - presenting
Week 6: A great vacation idea - reading
Week 7: A great vacation idea - writing
Week 8: A great vacation idea - practicing
Week 9: A great vacation idea - presenting
Week 10: Young people today - reading
Week 11: Young people today - writing
Week 12: Young people today - practicing
Week 13: Young people today - presenting
Week 14: Wrapping up

履修上の注意

A positive attitude to working in groups and coming to class prepared.

準備学習(予習・復習等)の内容

Homework will be assigned on a weekly basis.
It is necessary to complete the homework to be able to participate fully in the following class.
Group tasks will require communicating with classmates outside of classtime.

教科書

Present Yourself II - Viewpoints (Second Edition) Cambridge
Take care that it's the BLUE
ISBN-13: 978-1107435780
[url=https://www.cambridge.org/jp/cambridgeenglish/catalog/english-academic-purposes/present-yourself/present-yourself-level-2-experiences-2

参考書

TED Talks

課題に対するフィードバックの方法

Students will video their own presentations and write reflections as a step to noticing their strengths, points to improve and progress.
These will be supplemented with teacher feedback on a rubric in Google Classroom.

成績評価の方法

Preparation and reflections: 30 %
Presentations 70%

その他

This is a pro-active class and all students are expected to participate actively regardless of their English language level.
Homework will be assigned on a weekly basis.
It is necessary to complete the homework to be able to participate fully in the following class.

科目ナンバー:(AL)LAN112E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Public Speaking Ⅰ	**Public Speaking A**	
担 当 者	開講期	開講地区
ランバッカー	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、国際共通語として広く用いられている英語によるスピーチ能力の向上を目的とする。実社会を想定したトピックや資料を用い、段階的なスピーチ課題に取り組むことで、実践的なスピーチ経験を積む。
学生は、発音や音声表現に加え、姿勢、アイコンタクト、ジェスチャーなどの非言語的要素を含む効果的なコミュニケーション技術を習得するとともに、論理的構成力と明瞭な情報伝達能力の向上を目指す。また、聴衆を意識したスピーチの構成や視覚資料の効果的な活用方法についても学ぶ。
授業では、ディスカッションや相互評価を取り入れ、学生同士および教員からの建設的なフィードバックを通して継続的な技能向上を図る。コース終了時には、自信を持って人前でスピーチを行い、学術的および専門的な場面で活用可能なスピーチ能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第 1 回:イントロダクション・オリエンテーション
第 2 回:姿勢とアイコンタクト／発音(明瞭な発声)
第 3 回:ジェスチャー／発音(ピッチとイントネーション)
第 4 回:スピーチ 1(個人・ショート)(1)／Voice Inflection
第 5 回:スピーチ 1(個人・ショート)(2)／Effective Visuals
第 6 回:スピーチ 2 準備(個人)／Explaining Visuals
第 7 回:スピーチ 2(個人)／The Introduction
第 8 回:スピーチ 2(個人)(1)／The Body
第 9 回:スピーチ 2(個人)(2)／The Conclusion
第 10 回:グループスピーチ準備／発音強化
第 11 回:グループスピーチ準備
第 12 回:グループスピーチ準備
第 13 回:スピーチ 3(グループ)(1)
第 14 回:スピーチ 3(グループ)(2)
＊授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

学習意欲を持ち、積極的に授業へ参加する姿勢が求められる。授業への参加状況は評価の対象となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は毎週、指定された課題に取り組むとともに、授業内容の予習・復習を行うことが求められる。

教科書

教科書: Speaking of Speech (Premium Edition), National Geographic Learning

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は適切に評価し、速やかにフィードバックを行う。

成績評価の方法

(1)宿題(テキスト課題):20%
(2)スピーチ(3 回):70%
(3)ボキャブラリーテスト:10%
授業への参加状況も評価の対象となる。
5 回以上欠席した場合、原則として単位取得は認められない。
不正行為(剽窃・カンニング等)は認められない。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN112E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Public Speaking Ⅰ	Public Speaking A	
担 当 者	開講期	開講地区
ランバッカー	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、国際共通語として広く用いられている英語によるスピーチ能力の向上を目的とする。実社会を想定したトピックや資料を用い、段階的なスピーチ課題に取り組むことで、実践的なスピーチ経験を積む。
学生は、発音や音声表現に加え、姿勢、アイコンタクト、ジェスチャーなどの非言語的要素を含む効果的なコミュニケーション技術を習得するとともに、論理的構成力と明瞭な情報伝達能力の向上を目指す。また、聴衆を意識したスピーチの構成や視覚資料の効果的な活用方法についても学ぶ。
授業では、ディスカッションや相互評価を取り入れ、学生同士および教員からの建設的なフィードバックを通して継続的な技能向上を図る。コース終了時には、自信を持って人前でスピーチを行い、学術的および専門的な場面で活用可能なスピーチ能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第 1 回:イントロダクション・オリエンテーション
第 2 回:姿勢とアイコンタクト／発音(明瞭な発声)
第 3 回:ジェスチャー／発音(ピッチとイントネーション)
第 4 回:スピーチ 1(個人・ショート)(1)／Voice Inflection
第 5 回:スピーチ 1(個人・ショート)(2)／Effective Visuals
第 6 回:スピーチ 2 準備(個人)／Explaining Visuals
第 7 回:スピーチ 2(個人)／The Introduction
第 8 回:スピーチ 2(個人)(1)／The Body
第 9 回:スピーチ 2(個人)(2)／The Conclusion
第 10 回:グループスピーチ準備／発音強化
第 11 回:グループスピーチ準備
第 12 回:グループスピーチ準備
第 13 回:スピーチ 3(グループ)(1)
第 14 回:スピーチ 3(グループ)(2)
＊授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

学習意欲を持ち、積極的に授業へ参加する姿勢が求められる。授業への参加状況は評価の対象となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は毎週、指定された課題に取り組むとともに、授業内容の予習・復習を行うことが求められる。

教科書

教科書: Speaking of Speech (Premium Edition), National Geographic Learning

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は適切に評価し、速やかにフィードバックを行う。

成績評価の方法

(1)宿題(テキスト課題):20%
(2)スピーチ(3 回):70%
(3)ボキャブラリーテスト:10%
授業への参加状況も評価の対象となる。
5 回以上欠席した場合、原則として単位取得は認められない。
不正行為(剽窃・カンニング等)は認められない。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN112E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Public Speaking Ⅱ	Public Speaking B	
担 当 者	開講期	開講地区
フジシマ, セシリア	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

The purpose of the course is to develop skills to present ideas in public. The base of the class is developing a learning community where students get to know their classmates and work together to improve.
Students will learn how to organize their thoughts on paper and present themselves in a more confident manner and will learn to be creative in how they present their ideas and thoughts to the class.
Students will watch examples of presentations as a way to develop presentation skills and expand their intercultural perspectives.

授業内容

Class schedule:
60 minutes: Students to present short speeches based on TED Talks in small groups and in front of the class
40 minutes: Textbook contents, speech structure, pronunciation, intonation, and vocabulary building.
The course contents may be modified to better meet the needs of the students, in consultation with the class members.
Week 1: Introduction, class objectives,
Week 2: Let me explain - reading
Week 3: Let me explain - writing
Week 4: Let me explain - practicing
Week 5 Let me explain - presenting
Week 6: In my opinion - reading
Week 7: In my opinion - writing
Week 8: In my opinion - practicing
Week 9: In my opinion - presenting
Week 10: In the news - reading
Week 11: In the news - writing
Week 12: In the news - practicing
Week 13: In the news - presenting
Week 14: Wrapping up

履修上の注意

A positive attitude to working in groups and coming to class prepared.

準備学習(予習・復習等)の内容

Homework will be assigned on a weekly basis.
It is necessary to complete the homework to be able to participate fully in the following class.
Group tasks will require communicating with classmates outside of classtime.

教科書

Present Yourself II - Viewpoints (Second Edition) Cambridge
Take care that it's the BLUE
ISBN-13: 978-1107435780
[url=https://www.cambridge.org/jp/cambridgeenglish/catalog/english-academic-purposes/present-yourself/present-yourself-level-2-experiences-2

参考書

TED Talks

課題に対するフィードバックの方法

Students will video their own presentations and write reflections as a step to noticing their strengths, points to improve and progress.
These will be supplemented with teacher feedback on a rubric in Google Classroom.

成績評価の方法

Preparation and reflections: 30 %
Presentations 70%

その他

This is a pro-active class and all students are expected to participate actively regardless of their English language level.
Homework will be assigned on a weekly basis.
It is necessary to complete the homework to be able to participate fully in the following class.

科目ナンバー:(AL)LAN112E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Public Speaking Ⅱ	Public Speaking B	
担 当 者	開講期	開講地区
ランバッカー	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、英語によるスピーチ能力をさらに発展させ、学術的および専門的な場面において活用可能な発信力の習得を目的とする。基礎的なスピーチ技術を踏まえ、調査、情報収集、内容の整理、論理的構成、視覚資料の作成、発表技術に至るまで、より高度な技能を体系的に学ぶ。

学生は、聴衆を意識した説得力のあるスピーチの構築方法を理解し、明瞭な発話と効果的な非言語コミュニケーションを用いて情報を的確に伝える力を養う。本授業では、一貫性のある構成、論理的な議論の展開、そして学術的文脈にふさわしい発表方法に重点を置く。

さらに、スピーチと関連づけたショートレポートの作成を通して、引用方法や参考文献の示し方など学術的文章作成の基礎も身につける。段階的な課題と相互評価、教員からのフィードバックを通して技能の継続的な向上を図り、コース終了時には、大学での学習や将来的な専門的環境において活用できる実践的なコミュニケーション能力を備えることを目標とする。

授業内容

第 1 回:イントロダクション・オリエンテーション
第 2 回:スピーチ 1(テーマ選定)
第 3 回:スピーチ 1 準備(構成と組み立て)
第 4 回:スピーチ 1
第 5 回:スピーチ 1(フィードバック)
第 6 回:中間発表に向けた準備
第 7 回:中間発表
第 8 回:ショートレポート導入(テーマ選定)
第 9 回:スピーチ 2・レポート(導入部の作成)
第 10 回:スピーチ 2・レポート(本論の構築)
第 11 回:スピーチ 2・レポート(結論の作成)
第 12 回:スピーチ 2・レポート(引用と参考文献)
第 13 回:期末発表準備/レポート指導
第 14 回:期末発表・レポート提出
*授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

学習意欲を持ち、積極的に授業へ参加する姿勢が求められる。授業への参加状況は評価の対象となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は毎週、指定された課題に取り組むとともに、授業内容の予習・復習を行うことが求められる。

教科書

教科書:Speaking of Speech (Premium Edition)(National Geographic Learning)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は適切に評価し、速やかにフィードバックを行う。

成績評価の方法

(1)宿題:15%
(2)中間スピーチ:25%
(3)期末スピーチ:25%
(4)最終レポート:25%
(5)ボキャブラリーテスト:10%
授業への参加状況も評価の対象となる。
5 回以上欠席した場合、原則として単位取得は認められない。
不正行為(剽窃・カンニング等)は認められない

その他

科目ナンバー:(AL)LAN112E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Public Speaking Ⅱ	Public Speaking B	
担 当 者	開講期	開講地区
ランバッカー	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、英語によるスピーチ能力をさらに発展させ、学術的および専門的な場面において活用可能な発信力の習得を目的とする。基礎的なスピーチ技術を踏まえ、調査、情報収集、内容の整理、論理的構成、視覚資料の作成、発表技術に至るまで、より高度な技能を体系的に学ぶ。

学生は、聴衆を意識した説得力のあるスピーチの構築方法を理解し、明瞭な発話と効果的な非言語コミュニケーションを用いて情報を的確に伝える力を養う。本授業では、一貫性のある構成、論理的な議論の展開、そして学術的文脈にふさわしい発表方法に重点を置く。

さらに、スピーチと関連づけたショートレポートの作成を通して、引用方法や参考文献の示し方など学術的文章作成の基礎も身につける。段階的な課題と相互評価、教員からのフィードバックを通して技能の継続的な向上を図り、コース終了時には、大学での学習や将来的な専門的環境において活用できる実践的なコミュニケーション能力を備えることを目標とする。

授業内容

第 1 回:イントロダクション・オリエンテーション
第 2 回:スピーチ 1(テーマ選定)
第 3 回:スピーチ 1 準備(構成と組み立て)
第 4 回:スピーチ 1
第 5 回:スピーチ 1(フィードバック)
第 6 回:中間発表に向けた準備
第 7 回:中間発表
第 8 回:ショートレポート導入(テーマ選定)
第 9 回:スピーチ 2・レポート(導入部の作成)
第 10 回:スピーチ 2・レポート(本論の構築)
第 11 回:スピーチ 2・レポート(結論の作成)
第 12 回:スピーチ 2・レポート(引用と参考文献)
第 13 回:期末発表準備/レポート指導
第 14 回:期末発表・レポート提出
*授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

学習意欲を持ち、積極的に授業へ参加する姿勢が求められる。授業への参加状況は評価の対象となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

学生は毎週、指定された課題に取り組むとともに、授業内容の予習・復習を行うことが求められる。

教科書

教科書:Speaking of Speech (Premium Edition)(National Geographic Learning)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は適切に評価し、速やかにフィードバックを行う。

成績評価の方法

(1)宿題:15%
(2)中間スピーチ:25%
(3)期末スピーチ:25%
(4)最終レポート:25%
(5)ボキャブラリーテスト:10%
授業への参加状況も評価の対象となる。
5 回以上欠席した場合、原則として単位取得は認められない。
不正行為(剽窃・カンニング等)は認められない。

その他

科目ナンバー：(AL)ABR916J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Social Science Research Methods〔M〕	**海外授業シミュレーション A〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
This is a collaborative survey class in which students with various cultural backgrounds work together in groups in order to learn the local communities around the campus by conducting ethnographic fieldwork around the neighborhood. You will conduct ethnographic field projects in groups for the semester, and write and present your findings.

授業内容
Week 1 Introduction
Week 2 Ethnographic method and writing
Week 3 Ethics and engagement
Week 4 Izumi neighborhood 1
Week 5 Field study day 1
Week 6 Discussion / Presentation 1
Week 7 Field study day 2
Week 8 Discussion / Presentation 2
Week 9 Mapping / Cartography
Week 10 Globalization
Week 11 Culture(s)
Week 12 Class presentations 1
Week 13 Class presentations 2
Week 14 Final Discussion

履修上の注意
Students are required to give four presentations throughout a semester. The presentation scripts will be due the week following the presentation.

準備学習(予習・復習等)の内容
The course will include lectures, discussions, and fieldwork. Attendance is a minimal requirement. Participation is measured by attendance and by asking and answering questions on a timely basis. You are expected to read the suggested materials and to be able to ask and answer questions about them in class discussions.
This course uses an online system, Oh-o! Meiji. You can access Oh-o! Meiji at:[url]https://oh-o2.meiji.ac.jp/[/url]. You will need your Meiji University username and password to log in.

教科書
Readings will be posted on Oh-o! Meiji.

参考書
Other readings will also be posted on Oh-o! Meiji.

課題に対するフィードバックの方法
There will be weekly office hours.

成績評価の方法
Evaluation will be based on in-class participation (20%), discussion (30%), fieldwork (20%), and presentations (30%).

その他
* This class will be an in-class format with some HyFlex contents (no recording). It will be held in the 4th period of Tuesdays in Izumi. Please check the Oh-o! Meiji for the physical classroom location.

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アジア国際関係史	**東アジア国際関係史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
増田 えりか	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
【授業の概要】東南アジアの国際関係史を、特にタイを中心とした事例を通して考察する。東南アジア諸地域が周辺諸国や他地域とどのような関係を結び、国際関係の中に位置づけられてきたのかを、歴史的変遷に沿って検討する。
【到達目標】東南アジア、とくにタイを中心とした国際関係史の基本的な枠組みを理解し、現代の東南アジアについて、歴史的背景を踏まえて説明・考察できるようになる。

授業内容
第 1 回 イントロダクション
第 2 回 東南アジアの地理、自然環境
第 3 回 先史時代から 10 世紀前後まで
第 4 回 10-15 世紀頃の東南アジア
第 5 回 交易の時代(15-17 世紀)①
第 6 回 交易の時代(15-17 世紀)②
第 7 回 東南アジアの近世と華人の時代(18 世紀―19 世紀前半)
第 8 回 植民地支配の成立と東南アジア
第 9 回 植民地支配の揺らぎと東南アジア
第 10 回 第二次世界大戦と東南アジア①
第 11 回 第二次世界大戦と東南アジア②
第 12 回 冷戦期の東南アジア
第 13 回 ポスト冷戦期の東南アジア
第 14 回 現代の東南アジアと国際関係

履修上の注意
本講義は、東南アジア史 A・B(2025 年度)で扱った内容を前提とする部分もありますが、履修していなくても理解できるように進めます。

準備学習(予習・復習等)の内容
事前に配布した資料に目を通しておく。普段から東南アジアを含む国際関係のニュースを検索し読んだり、ニュース映像等を視聴したりする。面白いと思う記事やニュースがあったらメモを取っておく。授業中に取ったノートをよく読みなおし、学んだ内容を深く理解する。

教科書
特に指定しません。

参考書
『東南アジア史 10 講』古田元夫著 岩波書店 2021 年

課題に対するフィードバックの方法
次回授業の初めに、前回提出のレビューシートについて講師がフィードバックを行い、受講者は自分と他の受講者の意見を比較しながらさらに知見を深めます。質問は、講義の前後に随時受け付けます。

成績評価の方法
毎回の授業の終わりに、学んだ内容を振り返るレビューシートを記入します。レビューシートの内容(授業内容の理解度、理解した内容についての意見や感想を自分の言葉で記述できているか等)を 40%、期末レポートを 60%として評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アジア史概論A	**アジア史概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
会田 大輔	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

現在、中国は国際的に大きな存在感を持っており、今後、その影響力はますます大きくなっていくと思われる。そこで本講義では、アジア史の中でも日本と密接な関係を持っている中国を中心に東アジアの歴史を概観する。その際、中国と日本の歴史的関係についても紹介していく。対象とする時代は初期王朝から唐代までとする。本講義では、中国を中心とする東アジア史の基礎的知識を習得することを目指す。

授業内容

第1回:初期王朝(殷・周)
第2回:春秋戦国
第3回:秦―皇帝の誕生
第4回:前漢―海内一統への道
第5回:匈奴―遊牧国家の登場
第6回:後漢―儒教国家の完成
第7回:三国・西晋―正統性をめぐる争い
第8回:南北朝―民族対立から融合へ(1)
第9回:南北朝―民族対立から融合へ(2)
第 10 回:隋―中華の再統一
第 11 回:唐前半―長安の春(1)
第 12 回:唐前半―長安の春(2)
第 13 回:唐後半―安史の乱と変革の兆し(1)
第 14 回:唐後半―安史の乱と変革の兆し(2)

履修上の注意

授業に関係のない私語は厳禁。板書を多用するので、毎回ノートをしっかりとること。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布したプリントやノートを見直すこと。

教科書

授業中に適宜プリントを配布する。

参考書

中国史の概説書には、堀敏一『中国通史』(講談社学術文庫、2000 年)、愛宕元・冨谷至編『新版 中国の歴史』上・下(昭和堂、2009 年)、岸本美緒『中国の歴史』(ちくま学芸文庫、2015 年)、津田資久・井ノ口哲也編著『教養の中国史』(ミネルヴァ書房、2018 年)、佐川英治・杉山清彦・小野寺史郎『中国と東部ユーラシアの歴史』(放送大学教育振興会、2020 年)などがある。そのほか、各時代の参考書については、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験 100%。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アジア史概論B	**アジア史概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高田 幸男	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

現在の日本を含む東アジア情勢は、どのような経緯を経て形成されてきたのだろうか。本講義では、宋以降の中国を中心とする東アジア世界の歴史を概観して、現代東アジアが抱える諸問題の歴史的背景を探り、現代東アジアに対する歴史的視野を養うとともに未来を展望する。

授業内容

東アジア世界は、10~18 世紀に陸海の貿易により他地域との結びつきを深めつつ繁栄するが、19 世紀にはいるとヨーロッパ列強によって東アジアの「伝統」的秩序が解体されていく。その一方で 19 世紀後半以降、日本や中国などで近代国家の建設が試みられ、曲折を経て、20 世紀後半に次々と高度経済成長の時代に突入する。

講義では、近代以前の東アジア世界を概観したのち、その中心であった中国の近代国家への再編過程を追う。その際、大陸中国の動向だけでなく、香港や台湾も視野に入れ、それぞれの地域の可能性を展望する。中国以外の東アジア諸地域については、時間の関係で系統立って見ることはできないが、とくに日本の東アジアにおけるあり方に重点を置く。

(1)宋の華夷秩序と新たな南北時代 10~13 世紀
(2)モンゴル帝国から明へ 13~15 世紀
(3)明の華夷秩序とその変容 14~17 世紀
(4)清朝の「二つの顔」 17~19 世紀
(5)東アジア国際秩序の解体 19 世紀
(6)地方の時代 1860~1920 年代
(7)民族運動と革命政党 1890~1930 年代
(8)自立への模索 1920~30 年代
(9)抗日戦争と中国の戦時体制 1930~40 年代
(10)戦時体制から社会主義へ 1940~50 年代
(11)文化大革命への道とその破綻 1950~70 年代
(12)改革開放と天安門事件 1970~1990 年代
(13)多様化する社会 2000 年以降
(14)まとめ―現代東アジアの課題

以上は、大まかな流れであり、変更の可能性がある。また、随時、映像資料等を使用する。

履修上の注意

講義では、教科書の内容をなぞるのではなく、教科書の内容を踏まえて、ポイントを詳述する。そのため、教科書と Oh-o!Meiji にアップする配布プリントの当該箇所を事前によく読んでおくこと。

毎回出席票を配布し出欠を確認するとともに、最後に毎回の講義のポイントについて小テストをおこない、次の回の最初の約 20 分で小テストの結果や質問に対するフィードバックをおこなう。講義や教科書の不明点・疑問点や感想を積極的に書いてほしい。授業時間内の質問・問題提起も歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にテキストを読み、Oh-o!Meiji にアップするプリントに目を通しておくこと。あまりに基本的な質問については講義でいちいち回答しない。東アジア世界の 10 世紀以降、現代に至る軌跡と、そこにおける日本の位置づけなどを理解することが重要であり、固有名詞などを暗記する必要はない。

教科書

久保亨・高田幸男ほか『現代中国の歴史 第2版―両岸三地 100 年のあゆみ』(東京大学出版会)。さらに、次回授業に関する配布プリントを、事前に Oh-o!Meiji にアップする。

参考書

近代以前に関しては、上田信『中国の歴史 09 海と帝国』(講談社、 文庫版は講談社学術文庫 2659)。その他、毎回のテーマに関連する文献は、事前に Oh-o!Meiji にアップする配布プリントに提示するので、予習・復習に役立ててほしい。

課題に対するフィードバックの方法

講義内、および Oh-o!Meiji を利用して回答・発信する。

成績評価の方法

成績は、期末試験の成績を基礎に、毎回の小テストを加点して評価する(期末試験の成績 60%、小テスト 40%)。期末試験は、教科書、プリントアウトした配布プリント、ノートのみ持ち込み可とするが、授業内容をよく理解しないと解答できない論述問題を出す。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS221J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アジアの地域と思想	**アジアの地域と思想**	
担 当 者	開講期	開講地区
小松原 ゆり	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業概要

イント□仏教の伝統を引き継いで□発展したチベ□ット仏教は，チベ□ットのみならず□周辺諸国に拡か□り，モンコ□ルや満洲の「王権」に大きな影響を与えました。なかでも 17 世紀後半から 18 世紀にかけて，内陸アジア・東アジアの歴史は，チベット仏教ゲルク派の指導者ダライ・ラマを鍵に展開します。チベ□ット仏教か□内陸アジア・東アジアの「王権」に作用した役割に注目しなか□ら，チベ□ット・モンコ□ル・中国の歴史的関係を考察していきましょう。

授業の到達目標

チベットの歴史・文化と周辺諸国への影響を理解すると同時に，現代チベットに関する諸問題の背景について認識を持つ。

授業内容

第1回 a:本講義の概要と目的 b: チベットの地理・風土・歴史について
第2回 チベット開国神話と仏教
第3回 モンコ□ルとチベ□ット仏教:クヒ□ライとパ゛クパ゛の関係
第4回 輪廻転生制度とダライラマの誕生
第5回 タ□ライラマ政権の発足とポ゛タラ宮の建立
第6回 清とチベット仏教(1):清初の皇帝たち
第7回 ジューンガル対清の争いとチベ□ット仏教(1)
第8回 ジューンガル対清の争いとチベ□ット仏教(2)
第9回 タ□ライラマの即位を巡るチベ□ット・モンゴル・清関係(1)
第 10 回 タ□ライラマの即位を巡るチベ□ット・モンコ□ル・清関係(2)
第 11 回 カルムィクの西遷と東遷 :ロシアと清朝
第 12 回 清とチベ□ット仏教(2):乾隆帝と金瓶掣籤制の導入
第 13 回 現代社会とチベ□ット仏教:二人のパ゛ンチェンラマ問題
第 14 回 a:授業のまとめ b:テスト
※授業の進行具合によって内容が変更・前後する可能性があります。

履修上の注意

講義中の私語，スマホ，パソコン，タブレットなどの使用は禁止。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:参考書に目を通しておくと授業への理解が深まります。
復習:レシ□ユメやノートを見返して，疑問点や興味を持った点をまとめておきましょう。毎回参考文献を紹介するので，疑問に思った点は積極的に調べてみてください。わからない点は，リアクションペ゛ーパ゛ーに書いたり，授業後に遠慮なく質問しましょう。

教科書

授業毎にプリントを配布します。パワーポイントや映像史料も用いながら，視覚的に歴史を学んでいきます。

参考書

石濱裕美子編著『チベットを知るための 50 章』(明石書店，2004 年)，沖本克己編『新アジア仏教史 09　須弥山の仏教世界』(佼成出版社，2010 年)，W.D.シャカッパ著『チベット政治史』(亜細亜大学アジア研究所，1992 年)，ダライ・ラマ『チベットわが祖国』(中公文庫 BIBLIO20 世紀，2001 年)，宮脇淳子『モンゴルの歴史:遊牧民の誕生からモンゴル国まで』(刀水書店，2002 年)など。その他各回に関する参考文献は適時授業内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに質問や意見などを書いてもらい，次回の講義の冒頭で紹介する予定です。

成績評価の方法

テスト: 60%，平常点: 40%(出席点，リアクションペーパーなどの積極性，授業態度等を含む)による。毎回出席を取ります。積極的な授業への参加を求めます。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS321J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アジア文化史A	**アジア文化史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 直美	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〔概要〕

本授業では、中国古代(戦国末～後漢・魏晋南北朝初頭/前3世紀～後3世紀)における家族と、家族をめぐる諸制度や家族倫理について講義する。

家族とは人が生まれて初めて接する社会集団(人のまとまり)であり、あらゆる地域や時代に普遍的に存在する社会の基礎単位である。これまでの歴史学や社会学、文化人類学などの諸研究から、背景となる社会規範、政治制度や法律などによって、家族は多様なあり方をしめすことがわかっている。また、家族は決して外からの規制を受け入れるだけでなく、様々な工夫によって社会に働きかけ、自らの生活を向上させる能動的存在でもある。こうした家族を取り巻く社会環境や、家族による社会への働きかけは、当然ながら時代や地域によって全く異なる。したがって、現代の私たちにとっての家族の「常識」は、中国古代においても当然であるとは限らない。

中国古代の人々にとって家族のあるべき姿はどのようなものであったか、国や社会は家族に何を期待したのか。この授業を通じて、中国古代における家族と社会との接点について学び、家族を成り立たせる文化と、彼らの選択する家族戦略には多様性があったことを理解してほしい。

〔到達目標〕

1. どうして中国古代の家族についての研究が可能であるのか、史料の元になる戸籍調査のはじまりと方法を学ぶ。
2. 戸籍調査の記録からわかる人口構成や家族形態などの特色を知る。
3. 家族の形、婚姻や財産分割のあり方など、家族にまつわる法律や社会規範の特徴を日本やヨーロッパの家族と比較しながら説明できるようになる。

授業内容

授業スケジュールは以下の通り。
ただし、受講者の理解度や関心によって、スケジュールを変更する場合もある。

1. 家族史を学ぶこと
2. 中国古代における戸籍調査のはじまりと方法
3. 中国古代における年齢調査
4. 里耶秦簡戸籍様簡にみる秦の家族と世帯
5. 家族・世帯の多様性と流動性(1)―岳麓秦簡の裁判文書からみた奉公人―
6. 家族・世帯の多様性と流動性(2)―里耶秦簡にみる働く子供たち
7. 走馬楼呉簡にみる郷里社会の人口構造
8. 走馬楼呉簡にみる結婚と年齢―伝統的結婚観―
9. 走馬楼呉簡にみる再婚と年齢―郷里社会の実態―
10. 走馬楼呉簡にみる女性の再婚―文献史料との比較―
11. 中国古代における贅壻と後父(1)―父はどうして去ったのか？―
12. 中国古代における贅壻と後父(2)―贅壻・後父への法的規制―
13. 中国古代における贅壻と後父(3)―父系制の強化過程―
14. a.まとめ・b.試験

履修上の注意

1. 授業資料はクラスウェブから配付する。授業当日、教室ではプリントを配付しないので、あらかじめ自分でダウンロードや印刷をしておくこと。
2. 出欠確認のためにクラスウェブを使用するので、スマートフォンやパソコンを持参のこと。ない場合は紙の出席票を渡すので心配はない。
3. 授業に関係のない私語やスマートフォン・パソコン使用をしてはならない。著しい場合はその回の受講を認めないことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

1. アジア史概論を履修している場合は、授業内容に関わる時代について復習しておく。履修していない場合は、冨谷至・森田憲司編『概説 中国歴史【上】古代―中世』(昭和堂、2016 年)の先秦～魏晋南北朝を読んでおく。
2. クラスウェブから配付した資料には事前に目を通しておくこと。資料に全ての授業内容が掲載されているわけではないので、自分で適宜ノートをとり、授業後に見直すこと。
3. 次の授業までに計算したり、考えたりという簡単な宿題を出すことがある。宿題の解答にはクラスウェブのアンケート機能などを使用することがある。

教科書

なし

参考書

福井憲彦『歴史学入門』(岩波テキストブックス、岩波書店、2006 年)8・9
桑原隲蔵(宮崎市定校訂)『中国の孝道』(講談社学術文庫 162、講談社、1977 年)
中根千枝『社会人類学―アジア諸社会の考察―』(講談社学術文庫 1540、講談社、2002 年)
石岡浩・川村康・七野敏光・中村正人『史料からみる中国法史』(法律文化社、2012 年)

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じてクラスウェブのコメント機能を使用する。

成績評価の方法

1. 方法:期末試験(論述形式)70%・授業アンケート(クラスウェブ)30%。
2. 基準:本学の成績評価基準による。
3. 出席回数が第2回から第 13 回の間に 8 回以下の場合には単位認定の対象としない。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS321J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アジア文化史B	アジア文化史B	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 航	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文化とは、ある国や地域における固有性をみせながらも、その外からの影響と連鎖しながら形成されていくものである。この授業ではアジアのなかの中国に注目し、その近現代のメディア文化の形成過程を考えていく。近代化から第二次世界大戦終結までの激動のなかで、中国のメディア文化はどのような固有性と連鎖をみせていたのだろうか。こうした歴史を丁寧にみるなかで、現在を考えるための歴史的な視点をもてるようにする。

授業内容

1. アジアの文化をどう考えるか(導入)
2. 中国メディアの起源と開港
3. 変法運動と「公共圏」的空間
4. 辛亥革命をめぐる言論空間
5. 新文化運動の思潮とメディアの実験
6. 番外編:近代中国における日系メディア
7. 中間まとめ①(質疑と解説)
8. 新聞学という新たな「知」
9. 漫画という図像メディア
10. 版画という図像メディア
11. 流行歌とナショナリズム
12. 番外編:メディアと大衆、戦争
13. 中間まとめ②(質疑と解説)
14. 試験と全体のまとめ

履修上の注意

1)中国近現代の通史的な内容もある程度おさえるが、やはり文化的な側面の話が中心となる。19 世紀から第二次世界大戦終結までの通史(政治経済の基本的な流れ)を自分で参考文献にあたって確認して受講することが望ましい。
2)紙媒体の新聞やニュース、ドキュメンタリー番組、映画などで、東アジアの現在についての知識を得ておくとよい。
坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波新書、岩波書店、2016。
●参考書
・坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波新書、岩波書店、2016。
・久保亨、高田幸男、井上久士、土田哲夫『現代中国の歴史(第 2 版)』東京大学出版会、2019 年。
・中村元哉、森川裕貫、関智英、家永真幸『概説中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。
・光田剛編『現代中国入門』(ちくま新書)筑摩書房、2017 年。
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学――アジア・アフリカへの問い 158』ミネルヴァ書房、2022 年。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:事前に配布する資料を読んでおく。
復習:授業内容のポイントをノートに整理しておく
なお、最後の試験では自筆のノートのみを持ち込み可能とする。

教科書

購入必須の教科書を設定しないが、以下の本は本授業の対象となる時代の中国におけるメディア文化を詳しく取り上げている重要な参考文献である。詳しく学びたい場合は、入手して学習するとよい。
坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波新書、岩波書店、2016。

参考書

・吉見俊哉『メディア文化論(改訂版)』有斐閣、2012 年(改訂版)
・スティ・ヤーヴァード『メディア化理論入門――政治から遊びまで』勁草書房、2023 年。
・久保亨、高田幸男、井上久士、土田哲夫『現代中国の歴史(第 2 版)』東京大学出版会、2019 年。
・中村元哉、森川裕貫、関智英、家永真幸『概説中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。
・光田剛編『現代中国入門』(ちくま新書)筑摩書房、2017 年。
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学――アジア・アフリカへの問い 158』ミネルヴァ書房、2022 年。
その他

課題に対するフィードバックの方法

コメントカードの内容について、スライドや配布資料で共有し授業の最初にコメントする。

成績評価の方法

平常点(コメントカード、小レポート)50%
期末試験 50%

その他

・授業では発言して意見をいう、自分で参考文献を引用して独創的なコメントを書くなど、積極的な参加を特に評価します。
・日々の生活のなかで「メディア」を意識し、知や情報に主体的にかかわる方法を身につけてほしい。授業のコメントカードは、授業に主体的にかかわるためであるので、積極的にとりくんでほしい。
・なお、進度や受講者のレベルや受講環境などによって内容を変更する場合もある。部活動などいかなる理由であれ、提示した成績評価の方法以外には、追試・レポートなどによる特別措置は設けない。

科目ナンバー：(AL)ARS141J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アフリカ文化論	アフリカ文化論	
担 当 者	開講期	開講地区
溝辺 泰雄	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アフリカ大陸の面積は 3,000 万平方キロもあり、その大きさは中国の約 3 倍、インドの約 10 倍に相当します。広大な大陸に国連加盟国の 4 分の 1 以上となる 55 の国が存在し、世界人口の 6 分の 1 以上を占める 12 億以上の人々が暮らしています。言語の数も 1000 を超えるとされ、風土も熱帯雨林から砂漠、さらに温暖な地中海性気候まで、全く一様ではありません。本講義の目的は、こうした極めて多面的なアフリカ世界における、文化の諸側面を理解することにあります。
上記の目的のためにこの講義では、文化形成の基盤となる多様な地理について把握した上で、歴史から生業、言語、思想、ジェンダーなどをテーマに、種々の事例を踏まえてアフリカで展開する過去から現在にいたる文化の動態を把捉します。この講義を通して、アフリカ文化の多様性・多層性・多重性を理解し、そこに内在する差異と共通点について深く洞察していただきたいと思います。

授業内容

授業内容※講義内容は状況に応じて変更する場合があります。
1 アフリカの地理の多様性
2 アフリカ史概観:アフリカ交易史:古代王国から奴隷貿易、植民地支配
4 アフリカ史概観:アフリカ現代史、アフリカ史の中の女性たち
3 アフリカの文化と生業(1)狩猟採集社会、漁労社会
5 アフリカの文化と生業(2)牧畜社会
6 アフリカの文化と生業(3)農耕社会
7 アフリカの言語(1):言語分布、言語状況
8 アフリカの言語(2):文学、思想
9 アフリカの現代文化(1):アフリカの都市生活
10 アフリカの現代文化(2):展示されるアフリカ
11 アフリカの文化とジェンダー(1):概念
12 アフリカの文化とジェンダー(2):事例研究
13 アフリカのジェンダーと開発:「有害な慣習」
14 アフリカ潜在力という思想:アフリカから現代世界をみる

履修上の注意

1) 講義に関する詳細は初回講義時に説明します。履修を検討されている方は必ずご参加していただくようお願いします。
2) この講義は Oh-o! Meiji クラスウェブを使って連絡をしますので、受講を検討されている方は事前に「仮登録」機能でクラスページに登録しておくようお願いします。
※なお、この講義が扱う「アフリカ」とは「サハラ以南アフリカ」のことを指します。北アフリカ諸国(エジプト・リビア・アルジェリア・モロッコ・チュニジアなど)はこの講義では取り上げませんので注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義の理解を深めるため、配布される講義資料を予習復習に利用するとともに、参考文献を一読することが望ましいです。講義内容に関する質問は、講義中もしくは講義終了後に Oh-o! Meiji クラスウェブで受け付けます。

教科書

特に定めません。

参考書

宮本正興, 松田素二編(2018)『新書アフリカ史(改訂新版)』講談社
松田素二編(2023)『アフリカを学ぶ人のために』世界思想社
その他の文献については講義時に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各回のコメントペーパーには、クラスウェブを介して、評価点をお伝えします。質問・コメント・要望へのフィードバックは、必要に応じて次回の講義で行います。また、他の受講生の皆さんのコメントも全てクラスウェブ上に共有します(名前や個人情報は掲載しませんのでご安心ください)。

成績評価の方法

講義参加度に基づく評価に基づき、S(90 点以上)・A(80～89 点)・B(70～79 点)・C(60～69 点)・F(59 点以下)の 5 段階で評価します。なお、この講義では期末試験も期末レポートも実施しません。
※講義参加度は講義中の発言と講義後の講義レビュー(コメントペーパー)の内容により判定します。
※リアクションペーパーでは、授業内容の理解度、具体性、受講者自身の意見や問いの有無を重視します。生成 AI によって自動生成されたと判断される文章については、内容確認や再提出を求めることがあります。
※成績評価基準

その他

1) この講義の使用言語は以下の通りです。充分に確認の上、履修を検討して下さい。
・担当者による説明:日本語
・配布資料:主に日本語(一部英語)
・映像・音声資料:主に日本語(一部英語及びアフリカ諸語)
2) 配布資料(ハンドアウト)はクラスウェブを介して配布されます。受講生の皆さんは各講義毎に資料をダウンロードもしくはプリントアウトすることが必要となり、それにかかる費用は自己負担となります。あらかじめこの点を充分に認識した上で、履修を検討してください。

科目ナンバー：(AL)LAN391N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アラビア語で学ぶ文化と社会 A	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
狩野 希望	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、アラビア語の基礎文法を学び終えた学生を対象に、中級レベルのアラビア語文献の講読を行う授業です。
ニュース記事等の現代アラビア語の文章や、イスラーム思想に関する古典アラビア語の文献講読を通じて、アラブ・イスラーム文化を学ぶとともに、母音記号のないアラビア語の文章を自ら読めるような読解力を身に付けることを目標とします。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
第３回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
第４回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
第５回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
第６回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
第７回 講読(中級レベルの現代アラビア語文献を中心に)
第８回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第９回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第10回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第11回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第12回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第13回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第14回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)・半期の授業のまとめ

履修上の注意

授業は、履修者による輪読形式で行います。毎回、授業の予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では、文章に母音記号を振り、和訳をし、音読の練習をしてください。また、文献の著者や文献中に登場する専門用語等についても積極的に調べてください。

教科書

プリント教材を授業内で配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点評価(出席の状況、予習の程度、授業への参加度)

その他

履修者の習熟度等により、授業で扱う文献や授業内容を調整することがあります。

科目ナンバー：(AL)LAN391N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
アラビア語で学ぶ文化と社会 B	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
狩野 希望	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、アラビア語の基礎文法を学び終えた学生を対象に、中級レベルのアラビア語文献の講読を行う授業です。
イスラーム思想に関する古典アラビア語の文献講読を通じて、アラブ・イスラーム文化を学ぶとともに、母音記号のないアラビア語の文章を自ら読めるような読解力を身に付けることを目標とします。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第３回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第４回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第５回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第６回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第７回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第８回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第９回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第10回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第11回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第12回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第13回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)
第14回 講読(中級レベルの思想系古典アラビア語文献を中心に)・半期の授業のまとめ

履修上の注意

授業は、履修者による輪読形式で行います。毎回、授業の予習をしてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では、文章に母音記号を振り、和訳をし、音読の練習をしてください。また、文献の著者や文献中に登場する専門用語等についても調べてください。

教科書

プリント教材を授業内で配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点評価(出席の状況、予習の程度、授業への参加度)

その他

履修者の習熟度等により、授業で扱う文献や授業内容を調整することがあります。

科目ナンバー：(AL)HIS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
イスラム史(前近代)	**イスラム史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

イスラムに関する基礎知識、研究方法などの基本的事項を確認し、とくにイスラムに関する従来の偏見を是正することに重点を置く。続いて、西アジアにおける 16 世紀末までのイスラム王朝の統治機構、社会構造、文化などをオスマン朝史の事例を中心に理解する。

授業内容

1 イスラムに関する基礎知識
2 イスラム史の研究方法と文献目録の紹介
3 イスラムの成立と発展
4 イスラム文明のヨーロッパへの移転
5 イスラム世界とキリスト教世界との共存の事例
6 遊牧という生活様式、トルコ族の西アジアへの移住
7 オスマン朝の成立とバルカン半島への進出
8 オスマン帝国の成立：コンスタンティノープル征服の世界史的意義
9 オスマン帝国の統治理念・機構：前近代イスラム王朝の一事例として
10 イスラム文化の諸相(1)アラビア文字を書く(課題学習)
11 オスマン帝国の地方統治：ティマール制
12 16 世紀のアナトリア(小アジア)およびバルカンにおける都市と農村の成立と発展
13 イスラム文化の諸相(2)遊牧文化
14 春学期講義まとめ：春学期試験

履修上の注意

本講義は聞きなれない人名、地名、制度名などが頻繁にでてくるので、本講義の最初に提示する教科書・参考書を読んで、イスラムになじんでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で配布したレジュメおよび教科書・参考書を読み、自筆のノートに整理する。

教科書

小杉泰・江川ひかり編『ワードマップ イスラーム―社会生活・思想・歴史』(新曜社、2006 年)および授業において配布するレジュメを教科書として用いる。

参考書

・小笠原弘幸『オスマン帝国』中公新書、 2018 年
・永田雄三(編)『新版世界各国史9 西アジア史2 イラン・トルコ』山川出版社、 2002 年
・永田雄三編『山川セレクション トルコ史』山川出版社、2023 年
・永田雄三『トルコの歴史』(上)刀水書房、2023 年
・永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』中央公論社(世界の歴史 15)、1998 年
・林 佳世子『オスマン帝国の時代』山川出版社(世界史リブレット 19)、1997 年
・林 佳世子『オスマン帝国 500 年の平和』講談社(興亡の世界史 10)、2008 年

課題に対するフィードバックの方法

・随時、授業でコメントする。
・各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

平常点(40%)(授業の感想・質問、半期に 2 回程度の小課題等)
春学期試験(60%)

その他

・授業形態は対面が基本だが、課題学習を実施することもある。
・具体的日程については「シラバスの補足」で事前に詳細を明らかにする。
・授業内容の録音、録画、写真撮影は厳禁です。

科目ナンバー：(AL)HIS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
イスラム史(近現代)	**イスラム史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

近代以前のオスマン朝の統治機構・社会制度が 17・18 世紀を通じて変容する過程を扱った後、19 世紀以降の西洋列強による政治的・経済的進出、国内における中央集権化を目的とした諸改革、民族主義思想の流入など、内外の影響を受けてオスマン朝が従来保持してきた普遍性を失い、帝国内部において民族・宗教紛争が生まれる過程を考察する。

授業内容

1 16 世紀末オスマン朝における古典的政治・社会体制の変容
2 徴税請負制の普及とチフトリキ(大農場)の成立
3 地方名士(アーヤーン)層の勃興と地域社会の形成
4 オスマン帝国における改革(1)18 世紀における改革
5 オスマン帝国における改革(2)「近代化」改革
6 オスマン朝における土地法と土地問題
7 19 世紀アナトリアにおける遊牧民の定住化(課題学習)
8 19 世紀バルカン諸民族の覚醒と「民族問題」の発生：ボスニアの事例
9 西洋文化の受容：近代演劇の受容と伝統演劇
10 パレスティナ問題(1)定義と歴史的背景
11 パレスティナ問題(2)オスマン帝国支配下のパレスティナ、第一次世界大戦、オスマン帝国の崩壊
12 パレスティナ問題(3)英国委任統治期、第二次世界大戦、中東戦争
13 「イスラム復興」の意味
14 秋学期講義まとめ：秋学期試験

履修上の注意

本講義は聞きなれない人名、地名、制度名などが頻繁にでてくるので、本講義の最初に提示する参考書を読んで、イスラムになじんでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で配布したレジュメおよび教科書・参考書を読み、自筆のノートに整理する。

教科書

小杉泰・江川ひかり編『ワードマップ イスラーム―社会生活・思想・歴史』(新曜社，2006 年)。同時に授業において配布するレジュメが教科書の役割をはたす。

参考書

・新井政美『トルコ近現代史―イスラム国家から国民国家へ』みすず書房、 2001 年
・小笠原弘幸『オスマン帝国』中公新書、 2018 年
・永田雄三・加賀谷寛・勝藤猛『中東現代史Ⅰ トルコ・イラン・アフガニスタン』山川出版社(世界現代史 11) 、1982 年
・永田雄三(編)『新版世界各国史9 西アジア史2 イラン・トルコ』山川出版社、2002 年
・永田雄三編『山川セレクション トルコ史』山川出版社、2023 年
・永田雄三『トルコの歴史』(下) 刀水書房、2023 年
・永田雄三・江川ひかり『世紀末イスタンブルの

課題に対するフィードバックの方法

・随時、授業でコメントする。
・各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

平常点(40%)(視聴覚資料を用いた場合等に感想を書いてもらう)
期末試験(60%)

その他

・授業形態は対面が基本だが、課題学習を実施することもある。
・具体的日程については「シラバスの補足」で事前に詳細を明らかにする。
・授業内容の録音、録画、写真撮影は厳禁です。

科目ナンバー：(AL)IND111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ーから学ぶ教養講座(ｲﾝﾀｰﾒﾃﾞｨｱ学)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文学部での学びは専門領域に関わらず必ず何らかの「テクスト」を対象とします。この場合の「テクスト」とは必ずしも文字、言語に限定されません。このクラスでは文学作品も「テクスト」映画やダンス、絵画、博物館、教育現場でのコミュニケーションなども一つの「テクスト」として扱います。文字言語の中にもインターメディア性が存在することは翻訳というメディア変換を通じて考えることができます。様々な「テクスト」を構成している文字言語をはじめとするその他の構成要素(映像・図像・音像などの媒体ー「メディア」と呼ぶことにします)がどのように相関性を持ち、一つの「テクスト」を作り上げているか、そしてそれがどのような効果を持って読まれ、見・観られ、聴かれるか、ということを14回のオムニバス授業を通じて考えていきます。インターネット以前の時代に比べると、現代は文字言語だけでなく複数のメディアからなる「テクスト」に囲まれた世界です。複数のメディアから構成された「テクスト」を読み解く技術(リテラシー)がより求められているといえます。つまりインターメディア的リテラシーです。このクラスではインターメディア的に様々な「テクスト」を読むための導入を学びます。これらの「テクスト」を理解し、理解したことを最終的に自分の言葉で明確に(ほとんどの場合は文字言語を通じて)表現できるようになるためには学際的に関連理論を紹介する必要がありますが、この授業ではできるだけ理論の実践・応用を伴った内容とともに理解してもらいたいと思います。そのためにも当該分野で活躍するアーティストや専門家による講義を多めに組み込んでいます。この授業が、履修者の皆さん一人一人が現代の複雑で日々変化する様々な「テクスト」について今一度考え、それらの「テクスト」を主体的かつ創造的に読み解く技術を身につけてもらうことが最も重要な到達目標契機です。

授業内容

Week-1
文学部教授 ・科目コーディネータ 大山 るみこ オリエンテーション(インターメディア学とは)
Week-2
文学部教授 山田 亨 文化人類学視点からみたインターメディア学
Week-3
学習院大学文学部教授 上岡伸雄 翻訳(英ー日)におけるインターメディア
Week-4
翻訳家 竹森ジニー 翻訳(日ー英)におけるインターメディア『コンビニ人間』の英訳を通じて
Week-5
イラストレーター 本田亮 絵本とインターメディア 絵を「書き」文字を「書く」
Week-6
文学部教授 井上由佳 博物館学とインターメディア
Week-7
英国ロイヤルバレエプリンシパル 平野亮一 サラ・ラム ★ 総合芸術「インターメディアテクスト」としてバレエを観る
Week-8
元 TV 東京プロデューサー 替山 茂樹 ドキュメンタリーとインターメディア(映像は「嘘」をつくか)
Week-9
映画監督 森 達也 ★ 映画「テクスト」とインターメディア
Week-10
演出家・シェイクスピア俳優 ベン・クリスタル ★ シェイクスピア劇をインターメディア的に論じる
Week-11
映画監督 エイドリアン・フランシス『ペーパーシティ』歴史表象とインターメディア
Week-12
エディンバラ大学 上級講師 ファビアン・アリベール=ナルス 文学をインターメディア的に考察する
Week-13
国際基督教大学 講師 水倉 亮 英語教育とインターメディア(理論と応用)
Week-14
文学部教授 大山 るみこ まとめ・秋学期末試験

履修上の注意

1)毎週(原則)異なる講師による、内容も様々な授業内容であるため、欠席した場合はリアクションペーパーの点数を失ってしまうため十分注意してください。
2)オンデマンド授業の回は必ず1週間内に視聴してリアクションペーパーを提出してください。
3)英語による講義の週には、必要に応じて要点等を日本語でまとめたものを提供しますが、全訳は提供しません。
4)授業内容についての補足事項、関連参考文献リストがある場合は、クラスウェブにアップするので、このクラスのクラスウェブは毎週必ずチェックしてください。
5)毎週のリアクションペーパーもクラスウェブから提出してもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に提示・紹介された参考文献には必ず目を通してみること。扱う内容が学際的、複数の専門分野に関連しているが、授業で扱った内容が実際に教室の外、身の回りの「テクスト」の解釈にどのように関連しているかを考えることはとても重要です。

教科書

特に使用しない。

参考書

毎回の授業で紹介される参考文献、インターネットサイト等を参照のこと。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブ上で提出してもらうものについてはクラスウェブのコメント・評価欄で行います。

成績評価の方法

毎回の授業後に課されるショートレポート 50%
期末試験(論述問題) 50%

その他

科目ナンバー：(AL)ANT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ーから学ぶ教養講座(自然環境と人類史)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
藤山 龍造	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本列島に暮らした人類は，自然との共生を通じて，数万年の歴史を紡いできました。海の恵みを受け，山の息吹を感じながら生活を築いてきた彼らの姿は，自然と人類の複雑な織り成しを物語っています。農耕社会の確立に先立って，彼らは自然から資源を得ることで，周囲の環境に大きな影響を受けつつも，ときには自然に影響を与えてきました。

この講義では，先史時代における人類の暮らしや社会を探り，それを取り巻く環境と資源について，歴史学と考古学，さらには環境史を含めた総合的な視点から学びます。明治大学黒耀石研究センターのメンバーを中心に，これらの問題を探求し，人類社会の未来への針路を得ることを目指します。

講義の内容には，人類の進化，現生人類(ホモ・サピエンス)の登場と世界拡散，日本列島への流入と展開，さらには人類のもっとも偉大な発明のひとつに数えられる土器の登場，氷期から間氷期にかけての激しい環境変動と植物利用，さらには石材資源の開発に至るまで，最新の研究が含まれます。これによって，人類と環境，資源についての新たな視座を提供します。

なお，本講義は文字通り幅広く教養を深めることを目標としているため，史学地理学科の学生だけではなく，文学部全体あるいは他学部を含めた幅広い学生の受講を期待しています。

授業内容

第 1 回(4 月 14 日) 自然環境と人類史をひもとく(総論)(担当:藤山, 池谷, 堤, 能城, 谷畑)
第 2 回(4 月 21 日) ホモ・サピエンスの旅路:世界拡散と日本列島への流入(担当:堤)
第 3 回(4 月 28 日) 骨のカタチから見えてくる世界(担当:谷畑)
第 4 回(5 月 12 日) 四足歩行から二足歩行へ(担当:谷畑)
第 5 回(5 月 19 日) 日本列島における人類史のはじまりをたどる(担当:堤)
第 6 回(5 月 26 日) 旧石器時代の遊動社会をさぐる(担当:池谷)
第 7 回(6 月 2 日) 自然の変化とともに:縄文時代のはじまりをさぐる(担当:藤山)
第 8 回(6 月 9 日) 人類はなぜ土器を生み出したのか(担当:藤山)
第 9 回(6 月 16 日) 過去の景観を復元する:最終氷期から後氷期の環境変化と古植生(担当:能城)
第 10 回(6 月 23 日) 先史時代の森林や植物をいかに復元するのか(担当:能城)
第 11 回(6 月 30 日) 植物栽培の起源をさぐる(担当:能城)
第 12 回(7 月 7 日) 自然のなかで生きる:縄文時代の植物資源の管理と利用(担当:能城)
第 13 回(7 月 14 日) 石とともに歩んだ人々:先史時代の石材資源(担当:池谷)
第 14 回(7 月 21 日) 環境と資源の未来を探る(総括)(担当:藤山, 池谷, 堤)

履修上の注意

講義資料を紙媒体で配布することは予定していない。講義前日までに Oh-o! Meiji システム上に電子媒体をアップロードするため，各自で事前にダウンロードし，講義に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

前日までに配信する講義資料をあらかじめ熟読したうえで講義に出席すること。また，必要に応じて講義中に参考文献を提示するため，提示された文献に適宜目を通し，理解を深めることが求められる。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の小レポートや期末レポートを受けて，受講生の関心や疑問にリプライするかたちで担当者が鼎談を実施する(第 14 回)。そのため，6 月下旬を目途にレポート課題を提示し，7 月中旬に提出期限を設ける予定である。詳細は Oh-o Meiji システム上で通知する。

成績評価の方法

期末レポートを中心に成績評価するが(90%)，これ以外に不定期で講義中に小レポートを課すことがある(10%)。

その他

必要な連絡事項は随時 Oh-o! Meiji システムを通じて告知するため，定期的に確認すること。

科目ナンバー:(AL)LIT326M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
異文化理解Ⅰ(英米)〔M〕	**異文化理解Ⅰ(英米)〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

By reviewing ethnographic literature, we will explore how social scientists analyze globalization. Students are expected to critically analyze how a culture is intertwined with and dependent on other cultures. Using Anglophone regions and cultures as our foci, students will learn the effective ways to communicate in English and the knowledge to teach language and communication courses in middle and high school curriculum. Through readings, lectures, and class discussion students will acquire knowledge to analyze intercultural relations.

授業内容

Week 1: Globalization Today
Week 2: Dimensions of Globalization
Week 3: Distance and Time : Peer Discussion Week
Week 4: Abstract nature of Culture
Week 5: Nationalism
Week 6: Acceleration and Change : Peer Discussion Week
Week 7: Modernity
Week 8: Standardization
Week 9: Human Rights and Identity Politics : Peer Discussion Week
Week 10: Network Society
Week 11: Translation
Week 12: Sports : Peer Discussion Week
Week 13: Food and Society
Week 14: Final Discussion

履修上の注意

There are no prerequisites to enroll in this course.

準備学習(予習・復習等)の内容

The course will include lectures and discussions. Attendance is a minimal requirement. Participation is measured by attendance and by asking and answering questions on a timely basis. You are expected to read the suggested materials and to be able to ask and answer questions about them in class discussions.
This course uses an online system, Oh-o! Meiji. You can access Oh-o! Meiji at:[url]https://oh-o2.meiji.ac.jp/[/url]. You will need your Meiji University username and password to log in.

教科書

Eriksen, Thomas Hylland 2014 Globalization : The Key Concepts. Bloomsbury.
* The digital version is available on amazon.co.jp

参考書

Other readings will be posted on Oh-o! Meiji.

課題に対するフィードバックの方法

There will be weekly office hours.

成績評価の方法

Evaluation will be based on in-class participation (20%), discussion (30%), and quizzes (50%).

その他

* This class will be in HyFlex format. You can physically be in the classroom or attend this class via Zoom from anywhere around the world. For the in-class/live streaming starts at 13:00on WED in Surugadai. Please check the Oh-o! Meiji for the physical classroom location.
*この授業は「対面・オンライン併用授業」です。対面でも Zoom を介してどこからでも履修ができます。対面・ライブ配信は水曜日の 13 時です。教室は Oh-o! Meiji を確認してください。

科目ナンバー:(AL)ARS322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
異文化理解Ⅰ(ドイツ)	**異文化理解Ⅰ(ドイツ)**	
担 当 者	開講期	開講地区
ゲスナー, ゲジーネ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Der Unterricht die der Verbesserung und Vertiefung des im ersten Studienjahr erworben Wissesns.

授業内容

Anhand von Themen des Alltags wird des vorhandene Deutsch benutzt und dadurch erweitert.

履修上の注意

Wichtig ist regelmäßig und aktiv am Unterricht teilzunehmen

準備学習(予習・復習等)の内容

Es steht Grammatik und Wortschatz im Mittelpunkt

教科書

die in der alltäglichen Kommunikation verwendet werden können.

参考書

Szenen 2 heute aktuell

課題に対するフィードバックの方法

Sanshusha

成績評価の方法

その他

Sie können den Lehrer jederzeit kontaktieren und befragen.

科目ナンバー:(AL)ARS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
異文化理解Ⅰ(フランス)	**異文化理解Ⅰ(フランス)**	
担 当 者	開講期	開講地区
陣野 俊史	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

フランス文化を紹介しつつ、問われているフランスの社会問題をまず、呈示します。そのうえで、それらの社会問題について、具体的に私たちがどのように考えることができるのか、考えたいと思います。したがって、授業の「概要」は、まず問題の在りかを知ること。そのうえで、どのような議論がなされているか、さらに知ること。そのうえで日本の側からアプローチすること、です。そのさいに、キーワードとなるのは、フランスと海外県の問題、アフリカ諸国との関係性だと思っています。もう一つ付け加えておけば、講義担当者は、サッカーとヒップホップに深い関心を寄せているので(春学期はとくにサッカー)、そうした話がやや多くなる可能性はあります。

授業内容

第一回 フランスの社会問題概説
第二回 移民とフランス社会(総論)
第三回 ニューカレドニアは、どうして独立しなかったのか
第四回 フランスとアルジェリア(1) ジダンとアラブとカビリア
第五回 フランスとアルジェリア(2) カメル・ダーウドの小説から考える
第六回 リリアン・テュラムとカリブ海、エメ・セゼールまで
第七回 フランスとモロッコ~レイラ・スリマニの小説
第八回 コンゴ~映画『女を修理する男』をめぐって
第九回 フランスの「ライシテ」をめぐって
第十回 郊外との格差、フランスの教育「映画」について
第十一回 フランス・サッカー代表の光と影
第十二回 DV 防止に決定的な決め手はあるのか
第十三回 フランスの同性婚をめぐって
第十四回 言及しなかった社会問題

履修上の注意

アフリカに限らず、フランス語圏の諸国とフランスとの関係について、知る限りのことを話すので、学生諸君は、耳にした中で特に自分の関心が持てるものに限定して、講義のあと、さらに知識を深めていってほしいと思う。参考文献やネット情報は、十分に気を配ること。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に定めないが、授業で指定したものについては、よく読んでおくこと。事後の、講義の後の学習が重要。

教科書

特に定めない。必要なものは講義で指示する。

参考書

教科書に同じ。特に定めないが、講義で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された解答に対しては、Oh-o Meiji を通じて最善と思われる模範的解答を提示したうえで、添削する。

成績評価の方法

授業への積極的な参加……60パーセント、期末のレポート……40パーセント

その他

特にありません。

科目ナンバー:(AL)ARS322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
異文化理解Ⅱ(ドイツ)	**異文化理解Ⅱ(ドイツ)**	
担 当 者	開講期	開講地区
ゲスナー, ゲジーネ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Kulturelle Erscheinungen werden besprochen und wo möglich verglichen.

授業内容

Im Mittelpunkt stehen Feste in den deutschsprachigen Ländern und ihre Auswirkung auf die heutige Kultur.

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

Thematisch werden z.B. Karneval

教科書

Ostern und Weihnachten behandelt.

参考書

Kopien

課題に対するフィードバックの方法

Wörterbuch

成績評価の方法

Sie können den Lehrer jederzeit kontaktieren.

その他

Teilnahme am Unterricht (20%) und eine kleine Präsentation (80%).

科目ナンバー：(AL)ARS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
異文化理解Ⅱ(フランス)	**異文化理解Ⅱ(フランス)**	
担 当 者	開講期	開講地区
陣野 俊史	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

秋学期は、音楽をベースに議論します。音楽といっても、クラシック音楽やジャズは扱いません。ほとんどはフランス語圏の国々(フランスを含む)のラップがメインです。ラップは、実に多くの国々で、民族や民衆の思いを代弁する機能を果たしています。そのことに無知であることは(ラップに対する好悪とは別に)どうでもいいことであるとは思えません。この三十年の動きを総覧しつつ、彼らが何をうたっているかを伝えたいと思っています。とりわけフランスはこの10年、ラップ＝移民系の若者の音楽という図式を完全に乗り越えました。ただラップのみでは授業が成立しないので、必要に応じて、テクノや、そのほか必ず知っておくべきフランスのミュージシャンの話をもします。それから今年度は、フランスの郊外を描いた「映画」の話も多く盛り込もうと思っています。『憎しみ』以後の、映像表現について。

授業内容

第一回 フレンチラップとは何か(1) オールドスクールから
第二回 フレンチラップとは何か(2) 第二世代の抬頭
第三回 フレンチラップとは何か(3) サルコジの時代
第四回 フレンチ・ラップの現在形(1) 移民たちの表象～オレルサンとビッグフロ&オリ
第五回 フレンチ・ラップの現在形(2) ギムスの活動
第六回 フレンチ・ラップの現在形(3) ラップにおける黒人表象の問題～カゼーからマイケル・ジャクソン
第七回 移民を描いた映画100本
第八回 カソヴィッツ『憎しみ』(41995)
第九回 セリーヌ・シアマ『ガールフッド』
第十回 フレンチ・テクノについて(1) ダフト・パンクとミシェル・ゴンドリー
第十一回 フレンチ・テクノについて(2) 日本のアニメまでの距離感
第十二回 ネットフリック版『ディヴァイン』
第十三回 アフリカのラップ～アフロ・ラップの現在形(北アフリカから西アフリカへ)
第十四回 まとめと振り返り～ラップ・フランセにはどんな未来があるのか

履修上の注意

基本的に音楽が好きならば、そこを突破口にフランス社会について考えていくことはできると思うけれども、音楽が嫌いな人にはとてもつまらない授業かと思う。そういう人には履修は勧めない。あと、フランスの郊外を描いた映画は、議論の素材として適切だと判断するが、できるだけ日本語字幕のある映画を選んでいる。

準備学習(予習・復習等)の内容

特にフランス語が堪能である必要はない。ただ、フランス語の音楽を、フランス語だからという理由で拒まないで欲しい。基本的に講義担当者が日本語に訳す。そのうえで、考えるべき問題があると思うので、そのあたりまでついてくるつもりで履修や準備をお願いします。あと、リンクは貼っておくので、家でも必ずもう一回聴いて、「復習」するようにお願いします。

教科書

特に定めない。プリントを配布。

参考書

特に定めない。授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された解答に対しては、Oh-o Meiji を通じて最善と思われる模範的解答を提示したうえで、添削する。

成績評価の方法

授業への積極的な参加……60パーセント、期末のレポート……40パーセント

その他

科目ナンバー：(AL)LIN241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
意味論入門Ⅰ	**意味論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
岩崎 永一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(授業の概要)
意味論・語用論の基礎をバランスよく学びます。まず、真理条件的意味論の考え方や哲学的背景の基礎を確認します。その後、個別のトピックを通じて意味論の分析手法・言語事実の分析手法を学びます。特に、実際の文例を丹念に見ることを重視します。授業の構成はパワーポイントを使用した講義と履修者による例文の考察の二つが中心ですが、英文や和文の文献の黙読とその纏めや分析の提出等を行うときもあります。理論的背景としては、春学期はどちらかと言えば、意味論が語用論から独立であるという立場を取る意味理論を多く扱うことになります。
(到達目標)
受講者の皆さんが3，4年時に進むための基礎知識(真理条件的意味論や非指示的な意味論)を拡充することと言葉の意味の研究の面白さを知ること、そして考察力や洞察力の基礎を養うことを目標にします。特に、履修者の皆さんに言語直感をフルに働かせて頂き、文の意味の多様性を捉えて頂きます。このことを通じて、言語事実をどのように分析するかという力(言語分析力・洞察力)を向上させることができると思います。これは将来、言語学の研究を行う上で極めて重要な力となります。

授業内容

1年次の「英語学概論 A・B」での学習内容を踏まえ，意味の分析方法と意味理論の基礎知識を拡充します。講義の内容はそのときの状況に応じてペース・進度を若干、変更する場合があります。
第1回 意味論入門・研究姿勢について(生成文法における意味論とは何か、Chomsky の意味論観、プラトニズムの意味論観、等)
第2回 真理値・真理条件と意味(1)
第3回 真理値・真理条件と意味(2)
第4回 コピュラ文の意味および変項名詞句(西山 2003 他)(1)
第5回 コピュラ文の意味および変項名詞句(西山 2003 他)(2)
第6回 Donnellan (1966)の帰属的用法
第7回 ライプニッツの法則 / 代入推論
第8回 指示的不透明性と指示的透明性
第9回 真理条件的意味論(指示的意味論)の問題点 / グライスの理論 / 関連性理論
第 10 回 自由変項と束縛変項
第 11 回 指標主義と文脈主義
第 12 回 集合論と意味論
第 13 回 意味論と統語論の関係
第 14 回 言語能力のモジュール性と意味論

履修上の注意

履修上の注意としては、単に座って、パワーポイントの内容を書き写して記憶するだけでは単位取得には結びつかない授業ということです。自ら自分の頭を使って考え、その結果として、言語分析の方法や直観力・洞察力を高めて頂くことが授業の目的です。言語分析が楽しいと思って頂けることが一番の狙いです。なお、授業中の携帯電話の使用は一切禁止です。携帯電話でパワーポイントの内容を取るようなことも一切禁止です。授業中に関連する文献の示唆を行いますので、それらを各自で読んで頂きます。

準備学習(予習・復習等)の内容

下記の参考書やその他の論文(授業中に示唆)を必ず読んで理解を深めてください。また、履修者それぞれの関心に応じて、講義をきっかけにして図書館を散策したり、電子ジャーナルを検索したりして、多くの関係文献に当たり知的好奇心を高めることが望ましいと思われます。

教科書

特定の教科書は指定しません。

参考書

下記の今井・西山(2012)を出来るだけ入手されることを強く勧めます。
今井邦彦, 西山佑司. 2012.『ことばの意味とはなんだろう: 意味論と語用論の役割』東京: 岩波書店
青山拓央. 2012.『分析哲学講義』東京: 筑摩書房.
阿部潤. 2018.『生成意味論入門』(開拓社叢書 31) 東京: 開拓社.
Cummins, Chris & Patrick Griffiths. 2017. An Introduction to English Semantics and Pragmatics.

課題に対するフィードバックの方法

○授業中に例文等について、学生さんにお聞きし、それに対して、ソクラテス的問答法により、真理に近づくお手伝いを致します。
○Oh!Meiji の掲示板で授業の内容(発展的内容含む)についての質問に回答します。

成績評価の方法

授業への参加度(20%)，期末試験(80%)

その他

○出席が3分の2以上を満たさない場合、単位認定されません。また、遅刻は状況に応じて合算して欠席1回分に数えることがあります。
○パワーポイントの内容は、特に、図解等も含め、見やすいものになるように今年度もさらに工夫致します。

科目ナンバー：(AL)LIN241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
意味論入門 II	**意味論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
岩崎 永一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

前半で認知言語学についてその方法論的基盤・哲学的基盤や実際の言語分析を学びます。そのことを通じて、「意味」とは何か、という問題についてより本質的に掘り下げた理解を目指します。さらに、後半では春学期の意味論 A で学んだ普遍文法と整合性を持つ(であろう)意味理論に戻り、言語事実を広く分析していきます。この2つの理論的立場の両方を学ぶことで、各履修者が将来、どちらの立場に立つにせよ、広く言語学を展望できるようになります。前半は特定の教科書を用い、後半は春学期「意味論 A」の内容を復習しつつ、さらに個別のトピックについて発展させる内容です。前半と後半ともに、授業の構成は意味論 A と同じで、パワーポイントを使用した講義、例文提示と履修者による考察を中心に行われますが、資料の黙読とその纏めや分析の提出等も行われることがあります。

(到達目標)

受講者の皆さんが3, 4年時に進むための基礎知識(認知言語学や非指示的な意味論)を拡充することと言葉の意味の研究の面白さを知ること、そして考察力や洞察力の基礎を養うことを目標にします。特に、履修者の皆さんに言語直感をフルに働かせて頂き、文の意味の多様性を捉えて頂きます。このことを通じて、言語事実をどのように分析するかという力(言語分析力・洞察力)を向上させることができると思います。これは将来、言語学の研究を行う上で極めて重要な力となります。

授業内容

1年次の「英語学概論 A・B」や2年春学期の「意味論 A」での学習内容を踏まえ, 言語の「意味」について深くじっくりと考える力を養成します。また、言語分析方法と意味理論の知識を発展させます。

(1)意味に対する様々なアプローチ
(2)教科書第1章「認知言語学とは」
(3)教科書第2章「視点と言葉の意味」
(4)教科書第3章「カテゴリー化と日常言語」
(5)教科書第4章「イメージと言語表現」
(6)教科書第5章「言葉とレトリック」
(7)教科書第6章「用法基盤としての認知言語学」
(8)教科書第7章「文法現象へのアプローチ」
(9)認知言語学のまとめと復習
(10)言語哲学と意味論・語用論(Chomsky の意味論観とプラトニズムの意味論観)
(11)存在文の意味(1)
(12)存在文の意味(2)、所有文(1)
(13)所有文(2)
(14) 意味論と統語論の関係の再吟味と総まとめ

[上記のシラバスの(2)～(8)は下記の教科書に拠っています。]

講義の内容はそのときの状況に応じてペース・進度を変更する場合があります。特に、教科書第 1 章～第 7 章の箇所は順序の入れ替わりや別の補充的トピックも扱う場合もあります。上記は秋学期全体として見た場合、認知言語学の基礎はしっかりとカバーするという意味で柔軟に捉えてください。

履修上の注意

履修上の注意としては、単に座って、パワーポイントの内容を書き写して記憶するだけでは単位取得には結びつかない授業ということです。自ら自分の頭を使って考え、その結果として、言語分析の方法や直観力・洞察力を高めて頂くことが授業の目的です。言語分析が楽しいと思って頂けることが一番の狙いです。なお、授業中の携帯電話の使用は一切禁止です。携帯電話でパワーポイントの内容を取るようなことも一切禁止です。授業中に関連する文献の示唆を行いますので、それらを各自で読んで頂きます。

準備学習(予習・復習等)の内容

下記の参考書やその他の論文(授業中に示唆)を必ず読んで理解を深めてください。また、履修者それぞれの関心に応じて、講義をきっかけにして図書館を散策したり、電子ジャーナルを検索したりして、多くの関係文献に当たり知的好奇心を高めることが望ましいと思われます。

教科書

李在鎬. 2010.『認知言語学への誘い―意味と文法の世界―』東京: 開拓社

参考書

Lee, David. 2001.Cognitive Linguistics. An Introduction. Cambridge: Cambridge University Press. [デイヴィット・リー[著], 宮浦国江[訳] 2006.『実例で学ぶ認知言語学』東京: 大修館書店]
池上嘉彦(編著). 1996.『英語の意味』東京: 大修館書店. (特に、辻幸夫「意味の習得」pp.135-156.)
Iwasaki, Eiichi. 2017.The Syntax a

課題に対するフィードバックの方法

○授業中に例文等について、学生さんにお聞きし、それに対して、ソクラテス的問答法により、真理に近づくお手伝いを致します。
○Oh!Meiji の掲示板で授業の内容(発展的内容含む)についての質問に回答します。

成績評価の方法

授業への参加度(20%), 期末試験(80%)

その他

○出席が3分の2以上を満たさない場合、単位認定されません。また、遅刻は状況に応じて合算して欠席1回分に数えることがあります。
○パワーポイントの内容は、特に、図解等も含め、見やすいものになるように今年度もさらに工夫致します。

科目ナンバー：(AL)SOC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
移民・難民の社会学	**マイノリティ論**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会におけるマジョリティとマイノリティとの関係性は、近代社会の成立とともに構築されてきた。本授業では、こうしたマジョリティ／マイノリティ関係の構築過程をもとにして、主として少数民族、移民問題の理解を深める。まずはエスニシティや民族概念を、それと関連する概念である人種概念と比較検討しながら説明する。また国際人口移動がどのように生じるのか、その歴史的・構造的側面の理解を深める。さらに、日本社会における移民マイノリティ集団に注目するとともに、さまざまな属性を有するマイノリティ集団への差別・抑圧問題がどのように生じているのかを概括的に明らかにする。

授業内容

1. ガイダンス
2. ナショナリズム
3. エスニシティ
4. 移民映画と解説
5. エスニック・ビジネス
6. 国際人口移動
7. アジール
8. 移民映画と解説
9. 日本の移民問題： 多文化教育
10. 日本の移民問題： 労働移民
11. 日本の移民問題： ハーフ
12. 移民映画と解説
13. 反ユダヤ主義
14. まとめ

なお上記はあくまで予定で変更の可能性もある。

履修上の注意

履修にあたって、前提となる知識の有無は問わないが、民族問題や移民・難民問題、排外主義問題などの国際社会学的テーマに関心を持っている人の受講が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で提示した資料をよく理解することはもちろんのこと、授業中に取り上げた基本文献を熟読し、予習・復習を怠らないようにしてほしい。

教科書

特定の教科書は定めない。授業用の資料をオーメイジを通じて配布する予定である。

参考書

下記以外の参考文献は、授業中に適宜紹介する。
宮島喬・佐藤成基編、2014 年『国際社会学』有斐閣。関根政美、1994 年『エスニシティの政治社会学』名古屋大学出版会。
昔農英明、2014 年『移民国家ドイツ」の難民庇護政策』慶應義塾大学出版会。S・カースルズ・M・J・ミラー、2011 年『国際移民の時代 第4版』名古屋大学出版会。

課題に対するフィードバックの方法

課題を設定した次回の授業内でコメントを行う。

成績評価の方法

授業内に行う、レポートの提出(計2回)にて評価を行う予定である。詳しくは授業内で説明する。

その他

科目ナンバー：(AL)HES232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ特論	**ウェルネスライフ特論 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

ウェルネスとは，充実した人生を送るために毎日の生活を見直し，改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては，健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は，ウェルネスライフを実践，推進していくための知識を獲得し，それに対してグループワークやディスカッションを行うことで理解を深めていく。

＜到達目標＞

1. ウェルネスライフを実践，推進していくための知識を獲得し，自分自身で健康管理ができる。
2. グループワークやディスカッションを通して，積極的に意見を交わし個々人の自己啓発に取り組むことができる。

授業内容

本授業では，2週ごとに1つのテーマを取り扱う。各テーマに対して，1週目は講義を中心に，2週目はグループワークとディスカッションを中心に進めていく。

・第1週目：授業概要の説明，ウェルネスの基本概念の確認
・第2～3週目：ウェルネスライフの実践・推進とは（運動と食事を中心に）
・第4～5週目：ウェルネスライフの実践・推進と「行動変容の理論・モデル」
・第6～7週目：ウェルネスライフの実践・推進と「メンタルヘルス、ストレス・マネジメント」
・第8～9週目：ウェルネスライフの実践・推進と「アサーション」
・第 10～11 週目：ウェルネスライフの実践・推進と「健康情報の選択」
・第 12～13 週目：ウェルネスライフの実践・推進と「ヘルスリテラシー」
・第 14 週目：ウェルネスライフの実践・推進のまとめ，期末試験

※ウェルネスについて、知識としてただ学ぶのではなく、
「自分の人生にどう活かすか（実践と推進）」という視点で深めていきます。
※授業内容やテーマは必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

・ウェルネスライフ論の講義内容を復習しておくこと。
（ウェルネスとはどのようなことなのか考えてみておくこと。）
・現在の自分，これからの自分の健康・身体に関心をもって授業に取り組むこと。
・授業で学び，理解した内容を実生活にいかすよう心掛けること。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業中に配付する資料に目を通し，概要を理解するように努めること。また，学習内容を整理し，まとめ，不明な部分があれば次の授業で質問すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題（小レポート等）に対しては、次の時間に講評する。
プレゼンテーションに対しては、発表後のフィードバックや、次回講義の冒頭に全体の講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
授業の取り組み姿勢（40 点），クラスメイトとの関わり方（30 点），期末試験（30 点）から総合評価する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)ART211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
映画論研究	**映画論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小河原 あや	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義は、映画生誕期、前衛映画、ドキュメンタリー映画、第二次大戦後のイタリア映画（ネオレアリズモ）とフランス映画（ヌーヴェルヴァーグ）、近年の映画を取り上げる。これらは非-商業的な物語映画であり、映画を分析する際の一つの規範となる「古典的ハリウッド映画」以外の、独自の映画表現を開拓した映画である。これらの作品の映像を具体的に例示しながら、映画史を概観するとともに、表現特性とその理論的背景について考察していく。最終的に、様々な映画の表現特性を理解し、映画表現の可能性、さらには現在の映像文化について考察できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回：導入：映画における現実性と虚構性、現代性
第2回：初期映画における現実性と虚構性
第3回：「映画＝真実」（ヴェルトフ、フラハティ）
第4回：イタリアのネオレアリズモ（デ・シーカを中心に）
第5回：イタリアのネオレアリズモ（ロッセリーニ）
第6回：イタリアのネオレアリズモ（その現実性と虚構性、現代性）
第7回：シネマ・ヴェリテ（ルーシュ）
第8回：ヌーヴェルヴァーグ（1959 年前後の諸作品）
第9回：ヌーヴェルヴァーグ（初期のゴダール）
第 10 回：ヌーヴェルヴァーグ（その後のゴダール）
第 11 回：ヌーヴェルヴァーグ（ロメール）
第 12 回：ヌーヴェルヴァーグ（ロメールの現実性と虚構性、現代性）
第 13 回：近年の映画の傾向
第 14 回：まとめと授業内レポート執筆

履修上の注意

準備学習（予習・復習等）の内容

予習は、重要な作品を可能な限り鑑賞しておくこと。復習は、授業内容を振り返り、不明点や具体的な映像について気付いた点があれば授業で質問すること。

教科書

特に定めない。

参考書

『新版 ハリウッド映画史講義 夢の工場から夢の王国へ』北野圭介（平凡社新書、2017 年）
『ハリウッド映画史講義 翳りの歴史のために』蓮實重彦（ちくま学芸文庫、2017 年）
『映画映像史 ムーヴィング・イメージの軌跡』出口丈人（小学館、2004 年）
『フィルム・アート 映画芸術入門』デイヴィッド・ボードウェル／クリスティン・トンプソン（名古屋大学出版会、2007 年）

課題に対するフィードバックの方法

コメントペーパーで寄せられた質問や意見への返答をパワーポイントに記し、適宜解説する。

成績評価の方法

授業内で執筆する学期末レポート（70%）、授業内で不定期に提出するコメントペーパー（30%）

その他

科目ナンバー：(AL)ART211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
映画論の基礎	**映画論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小河原 あや	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義は、現在も映像文化一般に影響力を持つ「古典的ハリウッド映画」(概ね 1910 年代後半から 50 年代にハリウッドで作られた商業的な物語映画)を取り上げ、生産体制、物語構造、空間演出、音声演出、記号性、ジャンル、社会的背景、倫理観、臨界点と崩壊について、具体的に諸作品の映像を示しながら考察する。最終的に、映画史の一つの中心であり今なお映像文化に影響力を持つ「古典的ハリウッド映画」の特性と歴史を理解することと、それに基づいて映画独自の表現領域とその可能性について考察出来ることを到達目標とする。

授業内容

第1回:導入:古典的ハリウッド映画の概要と生産体制
第2回:古典的ハリウッド映画の物語構造
第3回:古典的ハリウッド映画の記号性
第4回:古典的ハリウッド映画の空間演出
第5回:初期映画から古典的ハリウッド映画へ
第6回:サイレントからトーキーへ
第7回:古典的ハリウッド映画の倫理観
第8回:古典的ハリウッド映画のジャンル性
第9回:古典的ハリウッド映画と社会的背景
第 10 回:古典的ハリウッド映画の変遷
第 11 回:古典的ハリウッド映画の臨界点:ヒッチコックにおける主客の視点
第 12 回:古典的ハリウッド映画の臨界点:ヒッチコックにおける真偽の問題
第 13 回:古典的ハリウッド映画の崩壊
第 14 回:まとめと授業内レポート執筆

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は、重要な作品を可能な限り鑑賞しておくこと。復習は、授業内容を振り返り、不明点や具体的な映像について気付いた点があれば授業で質問すること。

教科書

特に定めない。

参考書

『新版 ハリウッド映画史講義 夢の工場から夢の王国へ』北野圭介(平凡社新書、 2017 年)
『ハリウッド映画史講義 翳りの歴史のために』蓮實重彦(ちくま学芸文庫、2017 年)
『映画映像史 ムーヴィング・イメージの軌跡』出口丈人(小学館、2004 年)
『フィルム・アート 映画芸術入門』デイヴィッド・ボードウェル／クリスティン・ トンプソン(名古屋大学出版会、2007 年)

課題に対するフィードバックの方法

コメントペーパーで寄せられた質問や意見への返答をパワーポイントに記し、適宜講義で解説する。

成績評価の方法

最終授業で執筆するレポート(70%)、不定期に授業内で提出するコメントペーパー(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT222M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英近代文学講読	**英文学講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語で文学作品を読む目的は、作品において使用されている様々な英語表現を学びつつ、描かれている国や地域の文化について理解することにある。

この授業では代表的な文学者として、D. H. ロレンス(1885-1930)の短篇小説を読み、この作家のおおまかな輪郭をとらえたいと思います。また、数多く出ている翻訳を参考にしつつ、受講者各自が正確に英文を読み解く力を養うことも授業の目的となります。

授業内容

文学作品を読み, 自分の問題として考えることもこの授業の主眼のひとつなので,「参考書」に挙げた翻訳をあらかじめ読むことによって, 受講者は作品のストーリーと要点あるいは疑問点をおさえてから, 授業に参加してください。

そのうえで原文の精読を行います。英語として難解な箇所について丁寧に辞書をひき, 綿密に考えて正確な意味をとっていきます。

適宜映像資料等を紹介し, 作品の理解に欠くことのできない時代背景を解説します。

春学期は, 第一次世界大戦終結までの期間に書かれた作品を読んでいきます。ロレンスの生い立ちが窺われるとともに, 作家としてひとり立ちしたことを示す作品, "Daughter of the Vicar"「牧師の娘たち」から始める予定です。毎週テキスト精読を行いつつ、イギリスの近代を考えるうえで不可欠な以下のテーマについて解説をします。

第1週:上記の授業内容に関する質疑応答。
第2週:19 世紀イギリス社会の基本知識。
第3週:ガヴァネス問題。課題の説明。
第4週:課題の講評。
第5週:リスペクタビリティと階級問題。
第6週:救貧法と貧困者への社会意識。
第7週:死亡率。
第8週:性役割についての社会通念。
第9週:ダーウィニズムと疑似科学。
第 10 週:春学期レポート課題の説明。
第 11 週:「家庭の天使」の内在化。
第 12 週:清潔観念と中流階級。
第 13 週:軍隊と売春。
第 14 週:結婚予告と婚姻法。

履修上の注意

難易度の高い英文を読みます。文学を読もうという意欲のある学生のみ履修してください。
必ず第一週から出席してください。
基本的には、秋学期開講の「英現代文学講読」(「英文学講読B」)と合わせて受講するようにしてください。
なお、読書課題・レポートが出されます。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講者は予習段階で丁寧に辞書をひき, 不明点をはっきりさせて授業に参加してください。自分なりの訳・解釈を用意しておくことが求められます。教室で初めて読んで考えることは、他の参加者の時間も無駄にします。
また, その週に読む部分の要点と疑問点を授業前に提出することで出席とみなします。
常習的に予習していない者、辞書を持参しない者は出席を認めない場合があります。

教科書

プリントを配布します。開講時に指示します。

参考書

『新版ロレンス短編集』(上田和夫訳, 新潮文庫)
『ロレンス短篇集』(河野一郎訳, 岩波文庫)
『乾し草小屋の恋ロレンス短篇集』(西村孝次訳, 福武文庫)

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

授業への準備および参加態度・質問内容(50%)、レポート(25%)、定期試験(25%)などを勘案して行います。
また、予習をしていない場合には大幅な減点の対象になります。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT222M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英現代文学講読	**英文学講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語で文学作品を読む目的は、作品において使用されている様々な英語表現を学びつつ、描かれている国や地域の文化について理解することにある。

この授業では代表的な文学者として、D. H. ロレンス(1885-1930)の短篇小説を読み、この作家のおおまかな輪郭をとらえたいと思います。また、数多く出ている翻訳を参考にしつつ、受講者各自が正確に英文を読み解く力を養うことも授業の目的となります。

授業内容

文学作品を読み, 自分の問題として考えることもこの授業の主眼のひとつなので,「参考書」に挙げた翻訳をあらかじめ読むことによって, 受講者は作品のストーリーと要点あるいは疑問点をおさえてから, 授業に参加してください。

そのうえで原文の精読を行います。英語として難解な箇所について丁寧に辞書をひき, 綿密に考えて正確な意味をとっていきます。

適宜映像資料等を紹介し, 作品の理解に欠くことのできない時代背景を解説します。

秋学期は, 第一次世界大戦終結からロレンスの死までに書かれた作品を読みます。第一次世界大戦がロレンスに与えた影響を考察しながら, Lady Chatterley's Lover にいたる, 作家の思索の深まりを探っていきます。戦争に突き進んで行くイギリス社会と個人を描いた"England, My England"「イギリスよ, わがイギリスよ」から始める予定です。毎週精読を行いつつ、現代イギリスを考えるうえで不可欠な以下のテーマについて解説を行います。

第1週:上記の授業内容に関する質疑応答。
第2週:第一次世界大戦の基礎知識。課題講評。
第3週:開戦時の熱狂。女性の社会進出。
第4週:戦場の現実。
第5週:ロレンスと戦時下のイギリス社会。
第6週:戦場における「人殺し」の心理。
第7週:和訳課題の講評。
第8週:群集心理。
第9週:大衆と民主主義。
第 10 週:専制政治の問題。
第 11 週:秋学期課題の説明。
第 12 週:戦後の女性たち。
第 13 週:ヨーロッパの裸体運動。
第 14 週:性の解放とその問題。

履修上の注意

難易度の高い英文を読みます。文学を読もうという意欲のある学生のみ履修してください。

授業を履修したい学生は、必ず第一週から出席してください。

基本的には、春学期開講の「英近代文学講読」(「英文学講読A」)と合わせて受講するようにしてください。

なお、読書課題・レポートが出されます。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講者は予習段階で丁寧に辞書をひき, 不明点をはっきりさせて授業に参加してください。自分なりの訳・解釈を用意しておくことが求められます。教室で初めて読んで考えることは、他の参加者の時間も無駄にします。

また, その週に読む部分の要点と疑問点を授業前に提出することで出席とみなします。

常習的に予習していない者、辞書を持参しない者は出席を認めない場合があります。

教科書

プリントを配布する。開講時に指示する。

参考書

『新版ロレンス短編集』(上田和夫訳, 新潮文庫)
『ロレンス短篇集』(河野一郎訳, 岩波文庫)
『乾し草小屋の恋ロレンス短篇集』(西村孝次訳, 福武文庫)
『ロレンス短篇集』(井上義夫編訳, ちくま文庫)

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

.授業への準備および参加態度・質問内容(50%), レポート(25%), 定期試験(25%)などを勘案して行います。

また, 予習をしていない場合には, 大幅な減点の対象になります。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習 I	**英語演習 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

この授業では、英語を聞き取る能力の養成を主眼としながら、同時に諸技能の総合的な向上をも目指します。

聞き取る能力を高めるためには、音声を聞き分けたり、発音の仕組みを理解することに加えて、語彙や文法、構文などの側面にもあわせて習熟していく必要があります。そこで、聞き取りの練習を中心としながら、英語という言語を多面的に学ぶことをも視野に入れます。

教材は、時事問題、学術、芸術、日常の言語活動などに加えて、各種の検定試験の問題例など、さまざまな分野からとりあげる予定です。

【到達目標】

前期授業では、聞き取りの基礎に習熟することを当面の目標とします。

授業内容

第1回 授業への導入
第2回 聞き取りの練習／基礎の確認:1
第3回 聞き取りの練習／基礎の確認:2
第4回 聞き取りの練習／基礎の確認:3
第5回 聞き取りの練習／基礎の確認:4
第6回 聞き取りの練習／基礎の確認:5
第7回 聞き取りの練習／基礎の確認:6
第8回 聞き取りの練習／基礎の確認:7
第9回 聞き取りの練習／基礎の確認:8
第 10 回 聞き取りの練習／基礎の確認:9
第 11 回 聞き取りの練習／基礎の確認:10
第 12 回 聞き取りの練習／基礎の確認:11
第 13 回 聞き取りの練習／基礎の確認:12
第 14 回 期末試験
※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

授業外での自主的な学習が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種メディアに接してみること。

教科書

プリント類を配布します。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて応答し、議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

平常点・参加度(50%)、期末試験または期末レポート(50%)。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習 I	**英語演習 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、「英文読解＋リスニング」の形式で、いわゆる言語の 4 技能のうち、特にリスニング能力の向上を目指す。そのための基本的な語彙力向上も、英文読解を通して同時に目指していく。春学期は、政治家や社会活動家、起業家などの英語によるスピーチを教材として使用する予定です。春学期の到達目標は、英文読解・リスニング能力の「基礎から応用へ」とします。

授業内容

第1回 当講義の概要・使用教材とリスニング学習の進め方の解説
第2回 英語スピーチの聞き取りと読解・その1
第3回 英語スピーチの聞き取りと読解・その2
第4回 英語スピーチの聞き取りと読解・その3
第5回 英語スピーチの聞き取りと読解・その4
第6回 英語スピーチの聞き取りと読解・その5
第7回 英語スピーチの聞き取りと読解・その6
第8回 英語スピーチの聞き取りと読解・その7
第9回 英語スピーチの聞き取りと読解・その8
第10回 英語スピーチの聞き取りと読解・その9
第11回 英語スピーチの聞き取りと読解・その10
第12回 英語スピーチの聞き取りと読解・その11
第13回 英語スピーチの聞き取りと読解・その12
第14回 a)講義(春学期のまとめ) b)学期末試験

履修上の注意

英和(英英)辞典は必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。
携帯電話やノートパソコン等、インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当者の許可がない限り、いかなる目的であっても禁止します。その他、細かい注意点に関しては、初回の講義時にプリントを配布して説明します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容に関しては、復習が中心になります。次週までに前週の教科書を復習し、不明な点は授業担当者に質問するように心がけること。

教科書

プリントを配布します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題については、次週以降、優秀作を取り上げて、授業中に講評することがあります。
基本的に、平常点を算出するために、成績を出し終わるまで返却は行いませんが、訂正指導など、必要に応じて一時的に課題を返却して、提出者と面談を行う場合があります。

成績評価の方法

平常点(授業内小テスト、課題提出物の成績)30%、学期末試験70%で100点満点に換算し、60点以上が合格となる。ただし、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合、学期末試験の受験資格はなく、不合格となる。

その他

教室は「公共空間」であると認識し、私的な振る舞いは慎むこと。と同時に、教室では「間違い」を恐れずに、自分の頭を「働かせる」こと。
授業に関する要望があれば、学期末実施の「授業改善アンケート」に書くよりも、学期中に授業担当教員に直接言うようにしてください。可能な範囲で対処します。

科目ナンバー：(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習 I	**英語演習 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

映画(会話表現を中心に)：入門編
【授業の概要】
皆さんはこれまで「国際化社会を生きる上で英語は不可欠だ」と繰り返し聞かされてきたのではないでしょうか。しかし、本当に必要なのは、今日の世界が直面する諸問題について自分の意見を持ち、それを英語で表現する力です。
この授業は映画を教材とし、とくにリスニングを重視しながら英語力の向上を図るとともに、身につけた英語力を「活用する」ことを目指します。また、映画が扱うテーマについてディスカッションを行う中で、さまざまな社会問題についても考えていきましょう。
【到達目標】
1）さまざまな声質や訛りに触れ、柔軟なリスニング力を身につける。
2）方言、社会方言、スラングを含め、幅広い語彙や英語表現を習得する。
3）社会問題について考え、自分の意見を英語で表現する力をのばす。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 Unit 1:『スリー・ビルボード』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出
第３回 Unit 1: ペア＆グループワーク、ディスカッション
第４回 Unit 2:『ムーンライト』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出
第５回 Unit 2: ペア＆グループワーク、ディスカッション
第６回 Unit 3:『ドリーム』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出
第７回 Unit 3: ペア＆グループワーク、ディスカッション
第８回 Unit 4:『それでも夜は明ける』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出
第９回 Unit 4: ペア＆グループワーク、ディスカッション
第１０回 Unit 5:『ブルックリン』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出
第１１回 Unit 5: ペア＆グループワーク、ディスカッション
第１２回 Unit 6:『グラン・トリノ』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出
第１３回 Unit 6: ペア＆グループワーク、ディスカッション
第１４回 まとめ
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

必ず辞書を持ってきてください。紙の辞書でも電子辞書でも使いやすいものでかまいません。

準備学習(予習・復習等)の内容

各 Unit の【Write & Speak】欄に掲載されている語彙について英英辞典で調べておいてください。文化的な意味合いや微妙なニュアンスを理解するには英英辞典が役立ちます。
授業終了後は、新しく学んだ語彙や英語表現を確認し、自分でも使えるようにしましょう。

教科書

『Our Society, Our Diversity, Our Movies』、 Joseph Tabolt & Koji Morinaga(金星堂)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。
また、期末レポートについては Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

成績評価の方法

期末レポート 50%
授業内課題 25%
ペア＆グループワーク 25%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習Ⅰ	**英語演習 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

なぜ英語が聞き取れないのか、その疑問に自分で答えられるようになることを目指します。英語発音の特徴を知ることだけでなく、基礎的な文法力や語彙力もリスニングに重要な役割を果たします。授業を通し、自ら聞き落としの原因は何なのか、突き止められるようになりましょう。

教材として TOEIC の練習問題を用いて、きれいに録音された英語のリスニングに取組みます。ディクテーションやシャドーイング練習を通じて、早いスピードの英語の音を捉えることができるようになります。耳からの英語のインプットに慣れ、また、授業終了後も自立した英語学習を促すことも目的の一つです。

授業内容

毎回、授業初めに小テスト(単語テスト)を行います。その後、英語発音の特徴や効果的なリスニング方法の解説を、教材を使ったリスニング・シャドーイング・内容理解などを通じて行ないます。

第1回 リスニングの基礎、英語の音とは？
第2回 教科書 TOEIC Unit 1 Daily life , 2 Restaurant
第3回 教科書 TOEIC Unit 3 Party, 4 Airport
第4回 教科書 TOEIC Unit 5 Hotel, 6 Traffic
第5回 教科書 TOEIC Unit 7 Tour and Event, 8 Shopping
第6回 教科書 TOEIC Unit 9 Service, 10 Health
第7回 教科書 TOEIC Unit 11Finance and Banking, 12 Housing
第8回 教科書 TOEIC Unit 13 Media, 14 Business
第9回 教科書 TOEIC Unit 15 Reception Desk, シャドーイング強化 1
第 10 回 教科書 TOEIC Unit 16 Office Work, シャドーイング強化 2
第 11 回 教科書 TOEIC Unit 17 Employment & Personnel, シャドーイング強化 3
第 12 回 教科書 TOEIC Unit 18 Office Announcement, シャドーイング強化 4
第 13 回 ここまでの達成度確認
第 14 回 a 試験、b まとめ、解説

履修上の注意

理由のない欠席が3分の1を超える場合、単位認定はできません。同じく、理由のない遅刻は減点対象、 50 分以上の遅刻は欠席扱いです。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業への積極的参加、毎週の単語テストや予習復習のための自宅学習が重要です。教科書の中には授業時に初めて行うタスクもあるので、予習範囲と復習範囲は毎回指示します。

教科書

『SHOOT UP TO THE TOEIC® TEST LISTENING－解法のコツを極める TOEIC®テストリスニング演習』
塚田幸光 著(金星堂)ISBN: 978-4-7647-4208-6

参考書

学習英和辞典(『ウィズダム英和辞典』『ジーニアス英和辞典』など)、もしくは学習英英辞典(Longman Dictionary of Contemporary English など)を持参すること。紙の辞書・電子辞書・アプリ・オンライン辞書などメディアにはこだわりませんが、用法や例文を確認できるものでないと学習には使えないので注意してください。

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明します。

成績評価の方法

平常点(小テスト・発言・授業への貢献度など)50%、期末試験 50%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習Ⅰ	**英語演習 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、映画を用いて英語に特徴的な音の連結、脱落、同化等の音声変化に注目することにより、ナチュラルスピードの英語が聞き取れるようになる実践的なリスニングの訓練を行います。英語のリスニング能力を高めるために、リスニング難易度としては中級レベルの映画を用います。

以上のリスニング演習により、中級レベルにおいて、使用される語彙、文法等の理解力の養成、ナチュラルスピードの英語音声を正確に聞き取る力をつけることを目標とします

英文読解については入門編として、映画のあらすじを説明するエッセイの語彙を学び、大意を把握することで英文読解の基本的な力をつけていきます。その他映画の内容を活用した英文法の問題、身近な話題による異文化についての問題等にも取り組みます。

以上の読解演習により、中級レベルにおいて標準的な英文エッセイを読みこなすことの可能な英語力の養成を目指します。

授業内容

各チャプターで取り上げられている映画のあらすじについての読解の他、内容についての正誤問題、語彙、並べ替えによる英作文の問題、文法、異文化理解の演習問題等を解いていきます。

第1回 a：イントロダクション
b: Chapter 1 Kramer vs. Kramer (1) Daddy's French Toast / 時制(1)
第2回 : Chapter 1 Kramer vs. Kramer (2) Recipe for French Toast / 時制(2)
第3回 : Chapter 2 The Devil Wears Prada (1) New Yorkers' Street Food / 比較(1)
第4回 : Chapter 2 The Devil Wears Prada (2) Major League Baseball Teams and their Home Cities / 比較(2)
第5回 : Chapter 3 Super Size Me (1) Fast Food and Obesity / 動名詞(1)
第6回 : Chapter 3 Super Size Me (2) Count the Calories! / 動名詞(2)
第7回 : Chapter 6 Notting Hill (1) The Last Brownie / 仮定法(1)
第8回 : Chapter 6 Notting Hill (2) Recipe for Chocolate Brownies / 仮定法(2)
第9回 : Chapter 7 No Reservations (1) A Recipe for Happiness / 接続詞(1)
第 10 回 : Chapter 7 No Reservations (2) ハーブの効用 / 接続詞(2)
第 11 回 : Chapter 10 Charlie and the Chocolate Factory (1) The Sweetest Treat / 疑問詞(1)/ グループワーク(1)
第 12 回 : Chapter 10 Charlie and the Chocolate Factory (2) British Authors and their Works / 疑問詞(2)/ グループワーク(2)
第 13 回 : リスニング演習 / グループワーク講評
第 14 回 a : まとめ
b : 試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にテキストの授業予定箇所を読み、分からない語(句)について辞書等で調べ、問題を解いておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Fiona Wall Minami,A Flavor of English: Cinema and Cuisine『映画で味わう食文化』 Fiona Wall Minami、松井真帆、本山ふじ子(朝日出版社)
リスニングについては、プリント教材を配布します。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

課題（20%)、小テスト（10%)、授業への貢献度（20%）、学期末試験（50%）によって総合的に評価します。

その他

講義が聞き取りやすいように、場合によりマイクを使用します。

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習Ⅱ	**英語演習 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

この授業では、英語を聞き取る能力の養成を主眼としながら、同時に諸技能の総合的な向上をも目指します。

聞き取る能力を高めるためには、音声を聞き分けたり、発音の仕組みを理解することに加えて、語彙や文法、構文などの側面にもあわせて習熟していく必要があります。そこで、聞き取りの練習を中心としながら、英語という言語を多面的に学ぶことをも視野に入れます。

教材は、時事問題、学術、芸術、日常の言語活動などに加えて、各種の検定試験の問題例など、さまざまな分野からとりあげる予定です。

【到達目標】

後期授業では、聞き取りの基礎を踏まえたうえでの発展的な学習を当面の目標とします。

授業内容

第1回 授業への導入
第2回 聞き取りの練習／分析と考察:1
第3回 聞き取りの練習／分析と考察:2
第4回 聞き取りの練習／分析と考察:3
第5回 聞き取りの練習／分析と考察:4
第6回 聞き取りの練習／分析と考察:5
第7回 聞き取りの練習／分析と考察:6
第8回 聞き取りの練習／分析と考察:7
第9回 聞き取りの練習／分析と考察:8
第 10 回 聞き取りの練習／分析と考察:9
第 11 回 聞き取りの練習／分析と考察:10
第 12 回 聞き取りの練習／分析と考察:11
第 13 回 聞き取りの練習／分析と考察:12
第 14 回 期末試験
※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

授業外での自主的な学習が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種メディアに接してみること。

教科書

プリント類を配布します。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて応答し、議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

平常点・参加度(50%)、期末試験または期末レポート(50%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習Ⅱ	**英語演習 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、「英文読解+リスニング」の形式で、いわゆる言語の 4 技能のうち、特にリスニング能力の向上を目指す。そのための基本的な語彙力向上も、英文読解を通して同時に目指していく。秋学期は、文学作品(小説の朗読音声や、小説家のインタヴューなど)を教材として使用する予定です。秋学期の到達目標は、英文読解・リスニング能力の「応用から発展へ」とします。

授業内容

第1回 当講義の概要・使用教材とリスニング学習の進め方の解説
第2回 文学作品の聞き取りと解釈・その1
第3回 文学作品の聞き取りと解釈・その2
第4回 文学作品の聞き取りと解釈・その3
第5回 文学作品の聞き取りと解釈・その4
第6回 文学作品の聞き取りと解釈・その5
第7回 文学作品の聞き取りと解釈・その6
第8回 文学作品の聞き取りと解釈・その7
第9回 文学作品の聞き取りと解釈・その8
第10回 文学作品の聞き取りと解釈・その9
第11回 文学作品の聞き取りと解釈・その10
第12回 文学作品の聞き取りと解釈・その11
第13回 文学作品の聞き取りと解釈・その12
第14回 a)講義(秋学期のまとめ) b)学期末試験

履修上の注意

英和(英英)辞典は必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。
携帯電話やノートパソコン等、インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当者の許可がない限り、いかなる目的であっても禁止します。その他、細かい注意点に関しては、初回の講義時にプリントを配布して説明します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容に関しては、復習が中心になります。次週までに前週の教科書を復習し、不明な点は授業担当者に質問するように心がけること。

教科書

プリントを配布します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題については、次週以降、優秀作を取り上げて、授業中に講評することがあります。
基本的に、平常点を算出するために、成績を出し終わるまで返却は行いませんが、訂正指導など、必要に応じて一時的に課題を返却して、提出者と面談を行う場合があります。

成績評価の方法

平常点(授業内小テスト、課題提出没の成績)30%、学期末試験70%で100点満点に換算し、60点以上が合格となる。ただし、欠席回数が授業回数の3分の1を超えた場合、学期末試験の受験資格はなく、不合格となる。

その他

教室は「公共空間」であると認識し、私的な振る舞いは慎むこと。と同時に、教室では「間違い」を恐れずに、自分の頭を「働かせる」こと。

授業に関する要望があれば、学期末実施の「授業改善アンケート」に書くよりも、学期中に授業担当教員に直接言うようにしてください。可能な範囲で対処します。

科目ナンバー：(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習Ⅱ	**英語演習 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

映画(会話表現を中心に)：応用編

【授業の概要】

皆さんはこれまで「国際化社会を生きる上で英語は不可欠だ」と繰り返し聞かされてきたのではないでしょうか。しかし、本当に必要なのは、今日の世界が直面する諸問題について自分の意見を持ち、それを英語で表現する力です。

この授業は映画を教材とし、とくにリスニングを重視しながら英語力の向上を図るとともに、身につけた英語力を「活用する」ことを目指します。また、映画が扱うテーマについてディスカッションを行う中で、さまざまな社会問題についても考えていきましょう。

【到達目標】

1）さまざまな声質や訛りに触れ、柔軟なリスニング力を身につける。

2）方言、社会方言、スラングを含め、幅広い語彙や英語表現を習得する。

3）社会問題について考え、自分の意見を英語で表現する力をのばす。

授業内容

第１回 イントロダクション

第２回 Unit 7:『扉を叩く人』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出

第３回 Unit 7: ペア&グループワーク、ディスカッション

第４回 Unit 8:『マダム・イン・ニューヨーク』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出

第５回 Unit 8: ペア&グループワーク、ディスカッション

第６回 Unit 9:『ロスト・イン・トランスレーション』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出

第７回 Unit 9: ペア&グループワーク、ディスカッション

第８回 Unit 10:『わたしは、ダニエル・ブレイク』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出

第９回 Unit 10:ペア&グループワーク、ディスカッション

第10回 Unit 11:『博士と彼女のセオリー』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出

第11回 Unit 11: ペア&グループワーク、ディスカッション

第12回 Unit 12:『ダラス・バイヤーズクラブ』の抜粋を観る。スクリプトを読み、会話表現を抽出

第13回 Unit 12: ペア&グループワーク、ディスカッション

第14回 まとめ

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

必ず辞書を持ってきてください。紙の辞書でも電子辞書でも使いやすいものでかまいません。

準備学習(予習・復習等)の内容

各 Unit の【Write & Speak】欄に掲載されている語彙について英英辞典で調べておいてください。文化的な意味合いや微妙なニュアンスを理解するには英英辞典が役立ちます。

授業終了後は、新しく学んだ語彙や英語表現を確認し、自分でも使えるようにしましょう。

教科書

『Our Society, Our Diversity, Our Movies』、Joseph Tabolt & Koji Morinaga(金星堂)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。

また、期末レポートについては Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

成績評価の方法

期末レポート 50%

授業内課題 25%

ペア&グループワーク 25%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習Ⅱ	**英語演習 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

なぜ英語が聞き取れないのか、その疑問に自分で答えられるようになることを目指します。英語発音の特徴を知ることだけでなく、基礎的な文法力や語彙力もリスニングに重要な役割を果たします。授業を通し、自ら聞き落としの原因は何なのか、突き止められるようになりましょう。

教材として米放送局 VOA の非母国語話者向けのニュースを用いて、英語のリスニングに取組みます。キャスターの話す英語は速くはありませんが、母語話者の発音の特徴を知るには絶好の教材です。ディクテーションやシャドーイング練習を通じて、ニュースの内容を語順通りに理解していくことができるようになります。耳からの英語のインプットに慣れ、また授業終了後も自立した英語学習を促すことも目的の一つです。

授業内容

毎回、授業初めに小テスト(単語テスト)を行います。その後、英語発音の特徴や効果的なリスニング方法の解説を、教材を使ったリスニング・シャドーイング・内容理解などを通じて行ないます

第1回 メディア英語リスニングとは？

第2回 教科書 Unit 1 Is Your Plan Sustainable?

第3回 教科書 Unit 2 Oceans to Hold More Plastic than Fish by 2050

第4回 教科書 Unit 3 Is Your Plan Sustainable?

第5回 教科書 Unit 4 Saving Wild Areas May Have Unexpected Results

第6回 教科書 Unit 5 Freedom House: Internet Continues to Become Less Free

第7回 教科書 Unit 6 New Drones Could Improve Weather Predictions

第8回 教科書 Unit 7 Artificial Intelligence: Helpful and Dangerous

第9回 教科書 Unit 8 Will Robots Replace Humans in Food Industry?、シャドーイング強化1

第10回 教科書 Unit 9 Cell Phone Use among Friends? How Rude!、シャドーイング強化2

第11回 教科書 Unit 10 Social Media Is Keeping Young Adults Awake、シャドーイング強化3

第12回 教科書 Unit 11 How Well Is English Spoken Worldwide?、最新英語ニュース1

第13回 教科書 Unit 12 Scientists Find New Step in Brain Development、最新英語ニュース2

第14回 a 試験、b まとめ、解説

履修上の注意

理由のない欠席が3分の1を超える場合、単位認定はできません。同じく、理由のない遅刻は減点対象、 50 分以上の遅刻は欠席扱いです。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業への積極的参加、毎週の単語テストや予習復習のための自宅学習が重要です。教科書の中には授業時に初めて行うタスクもあるので、予習範囲と復習範囲は毎回指示します。

教科書

『VOA ラーニングイングリッシュで世界を読む Enhance your English Skills with Shadowing―VOA Learning English』倉本充子 編著/ 西田晴美 編著/ 釣井千恵 編著/ Timothy F. Hawthorne 編著 三修社

ISBN 978-4-384-33476-0 C1082

参考書

学習英和辞典(『ウィズダム英和辞典』『ジーニアス英和辞典』など)、もしくは学習英英辞典(Longman Dictionary of Contemporary English など)を持参すること。紙の辞書・電子辞書・アプリ・オンライン辞書などメディアにはこだわりませんが、用法や例文を確認できるものでないと学習には使えないので、授業開始時に具体的に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明します。

成績評価の方法

平常点(小テスト・発言・授業への貢献度など)50%、期末試験 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN212M

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語演習Ⅱ	**英語演習 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、映画を用いて英語に特徴的な音の連結、脱落、同化等の音声変化に注目することにより、リスニング難易度の高いナチュラルスピードの英語が聞き取れるようになる実践的なリスニングの訓練を行います。難易度としては上級レベルとなる映画を用います。

以上のリスニング演習により、基本的な語彙、文法に加えて難易度の高い英語表現についての理解力を養成し、ナチュラルスピードの英語を正確に聞き取る力をつけることを目標とします。

英文読解については応用編として、映画を多様性の面から批評するアカデミックな英文を、語彙、文法、文の構造等に注意しながら正確に読み解いていきます。その他英文の内容についての正誤問題、要約問題、論点を議論する問題等にも取り組みます。

以上の読解演習により、高度な英語運用能力と論理的思考力を必要とする英文読解力の養成を目指します。

授業内容

各チャプターで取り上げられている映画についての批評の英文を読解する他、内容についての正誤問題、語彙、要約等の演習問題を解いていきます。

第1回 ：イントロダクション
第2回 ：Chapter 01 : Progressive Era Protagonists; Cold War and Mentors (1)『ピノキオ』、『ダンボ』、『バンビ』
第3回 ：Chapter 02 : Progressive Era Protagonists; Cold War and Mentors (2)『ピノキオ』劇中歌
第4回 ：Chapter 03 : Honor Through Heterosexuality『ムーラン』あらすじ
第5回 ：Chapter 04 : Reflecting on the Self『ムーラン』
第6回 ：Chapter 05 : Making a Man『ムーラン』劇中歌
第7回 ：Chapter 09 : "Carnivores! Oy!" : Disney and the Jewish Question　Walt Disney and Michael Eisner
第8回 ：Chapter 10 : Mean Ladies: Transgendered Villains in Disney Films (1)『ポカホンタス』
第9回 ：Chapter 11 : Mean Ladies: Transgendered Villains in Disney Films (2)『眠れる森の美女』
第 10 回 ：Chapter 12 : Mean Ladies: Transgendered Villains in Disney Films (3)『シンデレラ』
第 11 回 ：Chapter 13 : Mean Ladies: Transgendered Villains in Disney Films (4)『リトル・マーメイド』/ グループワーク(1)
第 12 回 ：Chapter 14 : Mean Ladies: Transgendered Villains in Disney Films (5)『アラジン』/ グループワーク(2)
第 13 回 ：Chapter 15 : Mean Ladies: Transgendered Villains in Disney Films (6) ディズニー映画のヒーロー、ヒロイン、悪役たち
第 14 回 a：まとめ
　　b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にテキストの授業予定箇所を読み、分からない語(句)について辞書等で調べ、問題を解いておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Disney Films and Secret Messages Race, Ethnicity, Gender and Sexuality『ディズニーアニメと多様化する社会』 國友万裕 安田優 他 (英宝社)
リスニングについてはプリント教材を配布します。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

課題 (20%)、小テスト (10%)、授業への貢献度 (20%) 、学期末試験 (50%) によって総合的に評価します。

その他

講義が聞き取りやすいように、場合によりマイクを使用します。

科目ナンバー：(AL)IND212J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(2年) II	**英米文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ことばの意味とは何か、さまざまな角度から説明できるようになることを目指します。英語で書かれた文献を読んで、語の意味はどのように捉えることができるのかを考察します。語彙意味論や語用論の取り扱う分野を英語で読むことにより、アカデミック・リーディングに慣れることも目標の一つです。

授業内容

語彙意味論や語用論の入門的内容の英文を読みます。担当者を決めてあらかじめ日本語を提出してもらい、授業時に内容の解説と共に、クラス全体で英文を深く理解して行きます。また毎回、重要な概念を復習する小テストも行います。

第1回 語彙意味論の基礎と復習
第2回 Set Phrases 1
第3回 Set Phrases 2
第4回 Set Phrases 3
第 5 回 Set Phrases 4
第 6 回 Components of Meaning 1
第 7 回 Components of Meaning 2
第 8 回 Components of Meaning 3
第 9 回 Pragmatics 1
第 10 回 Pragmatics 2
第 11 回 Pragmatics 3
第 12 回 Pragmatics 4
第 13 回 今学期の達成度確認
第 14 回 a 試験、b まとめ、解説

履修上の注意

理由のない欠席が 1/3 以上になると単位認定できないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

英文を読み、さらに専門的な内容を理解するには、次の週に読むべき個所は必ず予習が必要です。知らない単語を引いたり、専門用語のリストを作ったりしましょう。あらかじめパラグラフごとに担当者を決めて、日本語訳を提出してもらうので、担当者は特にしっかりと準備をすること。

教科書

池上嘉彦 編 (1996)『英語の意味』(テイクオフ英語学シリーズ 3)大修館書店 ISBN: 978-4469141375

参考書

学習英和辞典(『ウィズダム英和辞典』『ジーニアス英和辞典』など)、もしくは学習英英辞典(Longman Dictionary of Contemporary English など)
井上亜依 著『英語のフレーズ研究への誘い』開拓社.
岸本秀樹・于一楽 著(2022)『ベーシック語彙意味論』ひつじ書房.
瀬田幸人・保坂靖人・外池滋生・中島平三(編) (2010)『[入門] ことばの世界』大修館書店.
中野弘三 服部義弘 小野隆啓 西原哲雄 (編著) (2015)『最新英語学・言語学用語辞典』開拓社.
ラインハ

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明します。

成績評価の方法

平常点(小テスト・提出物・授業参加度など)50%、試験 50%

その他

科目ナンバー:(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(2年) II	**英米文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
私たちが日常何気なく使っていることばには、様々なことばの現象が見られます。それらの現象を紐解いていくことで、言葉の規則性や法則性が見えてきます。そして、ことば(「語」)がどのように作られているのかが明らかになっていきます。言語現象を理論的に見る目を養うことが授業の目標です。

授業内容
春学期に引き続き、私たちが日常使っていることばに見られる様々な現象について考えていきます。そしてそこに隠れている規則性や法則性について、理論的にどのように説明されているのかを考察していきます。その法則や規則の中には日本語だけではなく、英語や他の言語にも共通するものがあるかもしれません。この授業では、言語に見られる原理や法則から、ことばについて探っていきます。
また、英語話者も不思議に思う英語についての疑問に、回答者が答えている問答集の一部を使用し、英語の用法などについて考えいきます。

履修上の注意
特にありませんが、言語に興味があり真摯に取り組む学生の履修を歓迎します。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業の予習・復習として、授業のテーマとなった現象について考えてきて下さい。
また、プリントを配布された場合は、プリントをよく読んで予習してきて下さい。

教科書
『ネーミングの言語学』窪薗晴夫(開拓社)

参考書
『数字とことばの不思議な話』窪薗晴夫(岩波ジュニア新書)
"Whys &Therefores," William Rutherford, Equinox

課題に対するフィードバックの方法
授業で出された課題については、次週の授業で解説します。

成績評価の方法
定期試験 70%、課題の提出と授業への貢献度 30%
授業数の 3 分の 2 以上出席して下さい。

その他
授業の内容に関する質問や相談したいことなどがありましたら、授業時や課題の提出時に聞いて下さい。

科目ナンバー:(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(2年) I	**英米文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
ことばの意味とは何か, さまざまな角度から説明できるようになることを目指します。英語で書かれた文献を読んで, 語の意味はどのように捉えることができるのかを考察します。意味論(特に語彙意味論)の取り扱う分野を英語で読むことにより, アカデミック・リーディングに慣れることも目標の一つです。

授業内容
語彙意味論の入門的内容の英文を読みます。担当者を決めてあらかじめ日本語を提出してもらい、授業時に内容の解説と共に、クラス全体で英文を深く理解して行きます。また毎回、重要な概念を復習する小テストも行います。
第1回 ことばの意味とは何か, アカデミック・リーディングについて
第2回 Word-formation 1
第3回 Word-formation 2
第4回 Word-formation 3
第 5 回 Multiple Meaning 1
第 6 回 Multiple Meaning 2
第 7 回 Multiple Meaning 3
第 8 回 Multiple Meaning 4
第 9 回 Meaningful Relations 1
第 10 回 Meaningful Relations 2
第 11 回 Meaningful Relations 3
第 12 回 Meaningful Relations 4
第 13 回 今学期の達成度確認
第 14 回 a 試験、b まとめ、解説

履修上の注意
理由のない欠席が 1/3 以上になると単位認定できないので注意すること。同じく、理由のない遅刻は減点対象、 50 分以上の遅刻は欠席扱いです。

準備学習(予習・復習等)の内容
英文を読み、さらに専門的な内容を理解するには、次の週に読むべき個所は必ず予習が必要です。知らない単語を引いたり、専門用語のリストを作ったりしましょう。あらかじめパラグラフごとに担当者を決めて、日本語訳を提出してもらうので、担当者は特にしっかりと準備をすること。

教科書
池上嘉彦 編 (1996)『英語の意味』(テイクオフ英語学シリーズ 3)大修館書店.

参考書
学習英和辞典(『ウィズダム英和辞典』『ジーニアス英和辞典』など)、もしくは学習英英辞典(Longman Dictionary of Contemporary English など)
岸本秀樹・于一楽 著(2022)『ベーシック語彙意味論』ひつじ書房.
瀬田幸人・保坂靖人・外池滋生・中島平三(編) (2010)『[入門] ことばの世界』大修館書店.
中野弘三 服部義弘 小野隆啓 西原哲雄 (編著) (2015)『最新英語学・言語学用語辞典』開拓社.
ラインハート・ハートマン, グレゴリー・ジェームズ著 ; 浅

課題に対するフィードバックの方法
授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明します。

成績評価の方法
平常点(小テスト・提出物・授業参加度など)50%、試験 50%

その他

科目ナンバー:(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(2年)Ⅰ	**英米文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

私たちが日常何気なく使っていることばには、様々なことばの現象が見られます。それらの現象を紐解いていくことで、言葉の規則性や法則性が見えてきます。そして、ことば(「語」)がどのように作られているのかが明らかになっていきます。言語現象を理論的に見る目を養うことが授業の目標です。

授業内容

私たちが日常使っていることばには様々な現象が見られます。それらの現象について考えていきながら、そこにどのような規則性や法則性が隠れているのかを発見していきます。そして、それらの現象がどのように説明されているのかを理論的に考えていきます。その法則の中には日本語だけではなく、英語や他の言語にも共通するものがあるかもしれません。この授業では、言語に見られる原理や法則について考察し、ことばについて探っていきます。

履修上の注意

特にありませんが、言語に興味があり真摯に取り組む学生の履修を歓迎します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習・復習として、授業のテーマとなった現象について考えてきて下さい。

教科書

『ネーミングの言語学』窪薗晴夫(開拓社)

参考書

『数字とことばの不思議な話』窪薗晴夫(岩波ジュニア新書)

課題に対するフィードバックの方法

授業で出された課題については、次週の授業で解説します。

成績評価の方法

定期試験 70%、課題の提出と授業への貢献度 30%
授業数の 3 分の 2 以上出席して下さい。

その他

授業の内容に関する質問や相談したいことなどがありましたら、授業時や課題の提出時に聞いて下さい。

科目ナンバー:(AL)IND312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(3年)Ⅰ	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このクラスでは、英語の統語(文法)及び意味について扱います。英語の統語・意味に関しての現象はどのように分析・説明出来るのかということについて、統語論・意味論の基本的な考え方を少しずつ身に付けながら見ていきます。そして、卒業論文の主題へと結びつくようにします。

授業内容

1. Introduction
2. Review of Basic Syntactic Notions
3. Generative Grammar
4. Parts of Speech, Constituency, Trees and Rules
5. Structural Relations
6. Binding Theory
7. Extending X-bar Theory
8. Constraining X-bar Theory : The Lexicon
9. Auxiliaries and Functional Categories
10. Head-to-Head Movement (1)
11. Head-to-Head Movement (2), Expanded VPs
12. NP/DP Movement (1)
13. NP/DP Movement (2), Wh-Movement (1)
14. Wh-Movement (2), A Unified Theory of Movement

履修上の注意

「中級統語論Ⅰ, Ⅱ」(内容:2 年次統語論入門Ⅰ, Ⅱの続き)を同時に履修すると理解が深まりますので、履修することをお薦めします。
さらに、「中級音声学Ⅰ, Ⅱ」、「コーパス言語学」、「テキスト分析」、「音韻論」、「形態論」、「心理言語学」、「社会言語学」、「語用論」、「中級意味論」、「教師のための英文法」、「自然言語の生成モデル」、「言語使用とディスコース」など英語学科目を幅広く履修することをお薦めします。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では、始めの数回を除いて、受講生が2～3 人のグループとなり、輪番制でテキストの内容をまとめ、それをクラスで発表し質疑応答を行うという形式で進めていきます。さらに、練習問題及び小レポートを宿題として課します。練習問題は、教科書の内容についての課題で、2－3人のグループで答案を一つにまとめて提出することとします。小レポートは教科書の内容を基にして、その問題点やさらに発展できる点などについての課題です。レポートの内容について他の受講生と話し合うことは奨励しますが、レポートを書く際には各自で書くこととします。

教科書

Carnie, Andrew (2013)Syntax : A Generative Introduction (3rd Edition), Blackwell.

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji で返却し授業で解説する

成績評価の方法

クラスでの発表 30%、宿題 30%、小レポート 30%、平常点 10%

その他

科目ナンバー:(AL)IND312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語で書かれたテキストを読みながら、英語音声学に関する知識を深めていきます。また、実際に発音された英語の音声を聞いて音声記述を行うなど、4年次に卒業論文を執筆する際に必要になる技術習得のための練習を行います。

授業内容

イギリス英語の発音を中心に取り扱っている Carley, Mees and Collins (2025) Practical Phonetics and Phonology : A Resource Book for Students を読み、英語音声学に関する基礎知識の復習をしながら、2年次までに学習した標準アメリカ英語と本書で扱われる標準イギリス英語の発音上のちがいについて学びます。これを通じて、様々な英語変種の発音、英語(あるいはそれ以外の言語)の学習者の発音、英語以外の言語の発音などについて考えるための基礎知識を身に付けます。た、短い英文テキストを精密な音声表記で表したり、音声を聞きながら音声記述をする練習を行います。春学期の最後には、各自興味のある英語の変種について調べ、レポートにまとめてもらいます。

履修上の注意

2年次までに学んだ英語音声学や英語学の知識を前提として授業を進めます。
予習前提で授業を進めます。自分の担当以外のセクションも必ず予習をし、質疑応答や議論に参加できるように準備をしてください。
「中級音声学 I, II」を同時に履修してください。
「中級統語論 I, II」(石井先生)、「音韻・形態論 I, II」、「心理言語学」、「社会言語学」、情報コミュニケーション学部の「談話コミュニケーション I, II」(担当:坂本先生、内容:I: 統語論入門, II: 語用論)などの英語学科目を履修することをお薦めします。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当以外の範囲であっても、必ず予習をして参加すること。わからないことがあれば、単語の意味を調べるにとどまらず、積極的に引用文献にあたって調べること。

教科書

Carley, Mees and Collins. (2025) Practical Phonetics and Phonology: A Resource Book for Students. Routledge.

参考書

初回授業時に発音辞典、参考文献、ウェブページのリストを配布します。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての解説やフィードバックは、授業内で全体に向けて行う。個別に確認や質問がある場合は、授業前後の時間やメールで受け付ける。

成績評価の方法

平常点(担当箇所の発表および授業内の発言)25%、宿題 25%、レポート 50%

その他

科目ナンバー:(AL)IND312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

私たちが日常何気なく使っていることばには、様々なことばの現象が見られます。それらの現象を紐解いていくことで、言葉の規則性や法則性が見えてきます。そして、ことば(「語」)がどのように作られているのかが明らかになっていきます。言語現象を理論的に見る目を養うことが授業の目標です。

授業内容

私たちが日常使っていることばには様々な現象が見られます。それらの現象について考えていきながら、そこにどのような規則性や法則性が隠れているのかを発見していきます。そして、それらの現象がどのように説明されているのかを理論的に考えていきます。その法則の中には日本語だけではなく、英語や他の言語にも共通するものがあるかもしれません。この授業では、言語に見られる原理や法則について考察し、ことばについて探っていきます。

履修上の注意

特にありませんが、言語に興味があり真摯に取り組む学生の履修を歓迎します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習・復習として、授業のテーマとなった現象について考えてきて下さい。

教科書

『ネーミングの言語学』窪薗晴夫(開拓社)

参考書

『数字とことばの不思議な話』窪薗晴夫(岩波ジュニア新書)

課題に対するフィードバックの方法

授業で出された課題については、次週の授業で解説します。

成績評価の方法

定期試験 70%、課題の提出と授業への貢献度 30%
授業数の 3 分の 2 以上出席して下さい。

その他

授業の内容に関する質問や相談したいことなどがありましたら、授業時や課題の提出時に聞いて下さい。

科目ナンバー：(AL)IND312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このクラスでは、英米文学演習(3年)Aで扱った、英語の統語・意味に関しての現象の分析・説明及び統語論・意味論の基本的な考え方に基づき、さらに英語についての理解をより深められるように、英語と日本語との統語・意味の面での比較も扱います。そして、卒業論文の主題へと結びつくようにします。

授業内容

1. Syntactic Constituency, Phrase Structures, Phrase Structure Rules in Japanese
2. The Notion of Head, Subcategorization, Structural Relations in Japanese
3. Japanese Yes-No Questions
4. WH-Movement and Scrambling Phenomenon in Japanese
5. Configurationality, Evidence for the Movement Analysis
6. Some Restrictions on Scrambling and Null Anaphora in Japanese
7. Reflexives "Zibun-Zisin", The Notion of Subject, and Passives in Japanese
8. Japanese Causatives
9. Relative Clauses and Unaccusativity in Japanese
10. The Light Verb Construction in Japanese
11. Deixis
12. Tense and Aspect
13. Lexical Aspect
14. Unaccusativity

履修上の注意

「中級統語論Ⅰ, Ⅱ」(内容：2 年次統語論入門Ⅰ, Ⅱの続き)を同時に履修すると理解が深まりますので、履修することをお薦めします。
さらに、「中級音声学Ⅰ, Ⅱ」、「コーパス言語学」、「テキスト分析」、「音韻論」、「形態論」、「心理言語学」、「社会言語学」、「語用論」、「中級意味論」、「教師のための英文法」、「自然言語の生成モデル」、「言語使用とディスコース」など英語学科目を幅広く履修することをお薦めします。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業は、受講生が2～3 人のグループとなり、輪番制でテキストの内容をまとめ、それをクラスで発表し質疑応答を行うという形式で進めていきます。さらに、練習問題及び小レポートを宿題として課します。練習問題は、教科書の内容についての課題で、2－3人のグループで答案を一つにまとめて提出することとします。小レポートは教科書の内容を基にして、その問題点やさらに発展できる点などについての課題です。レポートの内容について他の受講生と話し合うことは奨励しますが、レポートを書く際には各自で書くこととします。
学期末の課題として5枚程度のレポートを各自提出することとします。このレポートでは、受講生が各自で言語学に関するトピックを探し、そのトピックについてテキストや文献での分析をまとめその問題点を指摘するものとします。自分なりの新たな提案をするとボーナス点が与えられます。

教科書

Kuno, Susumu (1973)The Structure of the Japanese Language, MIT Press.
Tsujimura, Natsuko (2007)An Introduction to Japanese Linguistics (2nd Edition), Blackwell.

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji で返却し授業で解説する

成績評価の方法

クラスでの発表 20%、宿題 20%、小レポート 20%、平常点 10%、学年度末レポート 30%

その他

科目ナンバー：(AL)IND312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語で書かれたテキストを読みながら、音声学に関する知識を深めていきます。春学期に執筆したレポートについて発表し、参加者同士で問題点を指摘するなど、議論を通じて卒業論文執筆のための準備を行います。また、春学期に引き続き音声記述の練習を行います。

授業内容

春学期に引き続き、Carley, Mees and Collins (2025) を読み、英語の変種について学びます。それに加えて、卒業論文執筆に向けての演習を行います。具体的には、グループごとに1つの英語変種を取り上げ、春学期末のレポートでまとめた先行研究に基づいて、オンラインや DVD などを利用して音声を集め、それらを実際に分析し、結果をまとめてもらいます(グループ課題)。秋学期の後半は、卒業論文執筆に向けて各自興味のあるテーマを設定し、先行研究を調べて発表してもらいます(個別課題)。

履修上の注意

2年次までに学んだ英語音声学や英語学の知識を前提として授業を進めます。
予習前提で授業を進めます。担当以外の範囲も予習をし、質疑応答や議論に参加できるように準備をしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当以外の範囲であっても、必ず予習をして参加すること。わからないことがあれば、単語の意味を調べるにとどまらず、積極的に他の文献を当たって調べること。

教科書

Carley, Mees and Collins (2025) Practical Phonetics and Phonology : A Resource Book for Students, 5th ed. Routledge.

参考書

初回授業時に発音辞典、参考文献、ウェブページのリストを配布します。

課題に対するフィードバックの方法

課題についての解説やフィードバックは、授業内で全体に向けて行う。個別に確認や質問がある場合は、授業前後の時間やメールで受け付ける。

成績評価の方法

平常点(授業中の発言など)20%
グループ課題(発表およびレポート)40%
個別課題(発表およびレポート)40%

その他

卒業論文で扱う言語は英語でなくても構いませんが、発音と関連のあるテーマを設定する必要があります。4年次の卒業論文につながるようなテーマでレポートを執筆することをおすすめします。

科目ナンバー：(AL)IND312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

私たちが日常何気なく使っていることばには、様々なことばの現象が見られます。それらの現象を紐解いていくことで、言葉の規則性や法則性が見えてきます。そして、ことば(「語」)がどのように作られているのかが明らかになっていきます。言語現象を理論的に見る目を養うことが授業の目標です。

授業内容

春学期に引き続き、私たちが日常使っていることばに見られる様々な現象について考えていきます。そしてそこに隠れている規則性や法則性について、理論的にどのように説明されているのかを考察していきます。その法則や規則の中には日本語だけではなく、英語や他の言語にも共通するものがあるかもしれません。この授業では、言語に見られる原理や法則から、ことばについて探っていきます。

履修上の注意

特にありませんが、言語に興味があり真摯に取り組む学生の履修を歓迎します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習・復習として、授業のテーマとなった現象について考えてきて下さい。

教科書

『ネーミングの言語学』窪薗晴夫(開拓社)

参考書

『数字とことばの不思議な話』窪薗晴夫(岩波ジュニア新書)

課題に対するフィードバックの方法

授業で出された課題については、次週の授業で解説します。

成績評価の方法

定期試験 70%、課題の提出と授業への貢献度 30%
授業数の 3 分の 2 以上出席して下さい。

その他

授業の内容に関する質問や相談したいことなどがありましたら、授業時や課題の提出時に聞いて下さい。

科目ナンバー：(AL)LIT121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学概論Ⅰ	**英語学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語学とは、英語を対象とした言語学の分野です。そして、言語学とは、人間言語を科学的アプローチにより客観的に分析する学問分野です。この授業では、英語の様々な現象に基づいて、英語学の基本的概念や分析方法を概観し、2年次以降英語学を学ぶための基礎を築くことを目的とします。

より具体的には、英語学・言語学とはどのような学問分野なのかから始めて、音声学・音韻論・形態論・統語論に関する基本的概念を、具体的言語現象の分析を通じて徐々に身に付けていきます。

授業内容

1. Why Study English Linguistics? (1): What is English linguistics?, Components of Grammar
2. Why Study English Linguistics? (2): Knowledge of Language
3. The Sounds of English : Phonetics(音声学)(1): Phonetics, Voiced and Voicelsss Consonants
4. The Sounds of English : Phonetics(音声学)(2): Place of Articulation, Manner of Articulation
5. The Sounds of English : Phonetics(音声学)(3): Vowels, Diphthongs
6. The Sound Patterns of Language : Phonology(音韻論)(1): Phonemes, Allophones, Minimal Pairs
7. The Sound Patterns of Language : Phonology(音韻論)(2): Phonotactics, Syllables, Coarticulation Effects
8. The Sound Patterns of Language : Phonology(音韻論)(3): Phonological Problems
9. How Words Are Made : Morphology(形態論)(1): Dividing Words into Parts, Compounding
10. How Words Are Made : Morphology(形態論)(2): Derivation, Conversion, Inflection
11. How Words Are Made : Morphology(形態論)(3): Minor Word Formation Processes, Morphological Problems
12. How English Phrases Are Formed : Syntax(統語論)I (1): What is Syntax?
13. How English Phrases Are Formed : Syntax(統語論)I (2): Complements, Adjuncts
14. How English Phrases Are Formed : Syntax(統語論)I (3): Cross-Categorial Parallelism, Tree Diagram

履修上の注意

この授業は、2年次以降英語学を学ぶための基礎となります。秋学期開講の「英語学概論 II」を合わせて履修すると、英語学に関する理解が深まりますので、秋学期開講の「英語学概論 II」も続けて履修することをお薦めします。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の指定箇所は、授業に来る前に各自で読んで下さい。授業では、その部分の解説とそれに関連する練習問題を行います。さらに、各単元を終了後、授業で行った練習問題と同型式からなる宿題を課します。

教科書

影山太郎、ブレント・デ・シェン、日比谷潤子、ドナ・タツキ (2004)First Steps in English Linguistics (2nd Edition)(「英語言語学の第一歩」), くろしお出版.

参考書

George, Yule (2020)The Study of Language (7th Edition), Cambridge University Press.
ジョージ・ユール(著)今井邦彦・中島平三(訳)(1987)「現代言語学 20 章―ことばの科学―」, 大修館書店.(第1版の翻訳本)

課題に対するフィードバックの方法

次回授業で返却し解説する

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、宿題 20%、期末試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語学概論Ⅱ	**英語学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語学とは、英語を対象とした言語学の分野です。そして、言語学とは、人間言語を科学的アプローチにより客観的に分析する学問分野です。この授業では、英語の様々な現象に基づいて、英語学の基本的概念や分析方法を概観し、2年次以降英語学を学ぶための基礎を築くことを目的とします。

より具体的には、「英語学概論 I」の続きとなり、統語論・意味論に関する基本的概念を、具体的言語現象の分析を通じて徐々に身に付けていき、語用論・社会言語学・心理言語学などの分野も概観します。

授業内容

1. How English Sentences Are Formed : Syntax(統語論)I (4): Tree Diagram
2. How English Sentences Are Formed : Syntax(統語論)II (1): Auxiliary Verbs, Tense
3. How English Sentences Are Formed : Syntax(統語論)II (2): Complex Sentences, Element C, Movement
4. How Words Mean : Semantics(意味論)I (1): Kinds of Meaning, Synonyms and Antonyms
5. How Words Mean : Semantics(意味論)I (2): Polysemy, Semantic Network
6. How Words Mean : Semantics(意味論)I (3): Meanings as a Set of Properties, Metaphor and Metonymy
7. How Sentences Mean : Semantics(意味論)II (1): Semantic Roles, Argument Structure
8. How Sentences Mean : Semantics(意味論)II (2): Constructional Meaning
9. How Sentences Mean : Semantics(意味論)II (3): Word Order and Information, What do Pronouns Refer to?
10. How to Communicate with Other People : Pragmatics(語用論)(1): What is Pragmatics?, Politeness
11. How to Communicate with Other People : Pragmatics(語用論)(2): Speech Acts, Conversational Implicature
12. How to Communicate with Other People : Pragmatics(語用論)(3): The Co-operative Principle
13. How English Is Acquired : Psycholinguistics(心理言語学)
14. English in Society : Sociolinguistics(社会言語学):

履修上の注意

この授業は、「英語学概論 I」の続きとなり、「英語学概論 I」と「英語学概論 II」両方履修することによって、2年次以降英語学を学ぶための基礎となります。2年次以降も英語学の授業を履修することを考えている方は、本授業を履修するようにして下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の指定箇所は、授業に来る前に各自で読んで下さい。授業では、その部分の解説とそれに関連する練習問題を行います。さらに、各単元を終了後、授業で行った練習問題と同型式からなる宿題を課します。

教科書

影山太郎、ブレント・デ・シェン、日比谷潤子、ドナ・タツキ (2004)First Steps in English Linguistics (2nd Edition)(「英語言語学の第一歩」), くろしお出版.

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

次回授業で返却し解説する

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、宿題 20%、期末試験 70%

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)HIS241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語圏の歴史A	**英語圏の歴史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鰐淵 秀一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

帝国と奴隷制から見るアメリカの歴史

本講義は、植民地時代から 19 世紀末までのアメリカ史を「帝国」と「奴隷制」をキーワードに概観する。16-17 世紀のヨーロッパ諸帝国による北米大陸への進出から、アメリカ合衆国が西半球の帝国として台頭する 19 世紀まで、近世から近代にかけての北米大陸は、(先住民帝国も含めた)複数の帝国が群雄割拠する世界であった。さらに、そこでは南北戦争勃発に至るまで奴隷制が経済制度としても社会制度としても極めて重要な役割を果たしていた。その結果、近代のアメリカでは、人種、労働、ジェンダー規範、文化などの点でヨーロッパともアジアとも異なる独自の個性をもった社会が成立した。

以上のような近代アメリカの歴史的特徴を検討することで、今日のアメリカ合衆国の成り立ちを理解することを目的とする。

授業内容

1 a イントロダクション
2 旧世界と新世界の交錯
3 帝国の競合
4 先住民とイギリス人
5 奴隷制社会の成立
6 大西洋帝国の完成
7 a 中間試験; b 解説
8 アメリカ革命
9 共和国の建設
10 アメリカ帝国の胎動
11 綿花の帝国
12 南北戦争と奴隷制
13 アメリカ的人種体制の確立
14 a 期末試験; b 解説

※担当者の校務・出張等の都合により、オンデマンド型配信で講義を行う可能性がある。その場合、事前に連絡を行う。

履修上の注意

単位取得のためには、中間試験・期末試験の受験に加えて、毎週のレスポンスペーパーの提出が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

開講時に指示する。

教科書

教科書は指定しない。各週の授業中に紹介する参考文献を手に取ってほしい。

参考書

・遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023 年
・アラン・テイラー、橋川健竜訳『先住民 vs.帝国 興亡のアメリカ史―北米大陸をめぐるグローバル・ヒストリー』ミネルヴァ書房、2020 年
・ヘザー・アンドレア・ウィリアムズ、月沢李歌子訳『14 歳から考えたいアメリカの奴隷制度』すばる舎、2022 年

課題に対するフィードバックの方法

・レスポンス・ペーパーへの授業中のコメント
・中間・期末試験についての講評

成績評価の方法

平常点 30%、中間試験 30%、期末試験 40%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語圏の歴史B	**英語圏の歴史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 知	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

授業内容

以下の通り講義を進める予定ですが，進行具合によって若干の変更を加えることもあります。

第1回 授業内容の紹介 16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。

第2回 16 世紀のイギリス1 バラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。

第3回 16 世紀のイギリス2 16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。

第4回 イギリス帝国の形成1 15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。

第5回 イギリス帝国の形成2 17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。

第6回 イギリス帝国の形成3 17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。

第7回 イギリス商業革命1 イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。

第8回 イギリス商業革命2 イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。

第9回 イギリス生活革命 イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。

第 10 回 砂糖と西インド諸島 イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。

第 11 回 大西洋黒人奴隷貿易 イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。

第 12 回 13 植民地の独立 13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。

第 13 回 産業革命と帝国 産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。

第 14 回 まとめ 第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

履修上の注意

西洋やイギリスの歴史に興味のある方はもちろん、これまで歴史にあまりなじみがなかったという方も受講を歓迎します。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義で紹介した問題について参考文献等で調べてください。講義前に前回の講義ノート、参考文献を見返し、まとめておいてください。

教科書

特に使用しません。

参考書

適宜、プリントを配布し、参考文献を紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

講義でコメントします。

成績評価の方法

講義の区切りに講義内容のまとめや感想を書いていただきます。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします(平常点 20%、学期末の試験 80%)。

その他

オフィスアワーは最初の講義でお知らせします。

科目ナンバー：(AL)LIT221E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語圏文学入門	**英米文学基礎研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

This course provides an introduction to the study of English literature. We look at a diverse range of writings from the British Isles and beyond, including novels, short stories, poems and even graphic novels and films. Students will learn to analyze texts, debate them critically and write about them at length in English. As well as improving their ability to express themselves clearly and fluently in English both orally and in writing, students will gain skills in communication, problem solving and giving presentations. Discussion and writing will be in English.

本授業は、英文学研究の入門編となる内容です。小説、短編小説、詩、さらにはグラフィック・ノベルや映画等、イギリス諸島内外の幅広い作品を扱います。学生は、テキストの分析、批判的な議論、さらにはテキストについて英語で詳細に記述することを学びます。口頭および書面の両方で英語で明確かつ流暢に自分の考えを表現する能力を向上させることに加え、学生はコミュニケーション、問題解決、プレゼンテーションのスキルを習得します。ディスカッションとライティングは英語で行われます。

For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: https://www.alexwatson.info/teaching

詳細については、講師のウェブサイト https://www.alexwatson.info/teaching を参照してください。

授業内容

This course provides an introduction to the study of English literature. We look at a diverse range of writings from the British Isles and beyond, including novels, short stories, poems and even graphic novels and films. Students will learn to analyze texts, debate them critically and write about them at length in English. As well as improving their ability to express themselves clearly and fluently in English both orally and in writing, students will gain skills in communication, problem solving and giving presentations. Discussion and writing will be in English.

本授業は、英文学研究の入門編となる内容です。小説、短編小説、詩、さらにはグラフィック・ノベルや映画等、イギリス諸島内外の幅広い作品を扱います。学生は、テキストの分析、批判的な議論、さらにはテキストについて英語で詳細に記述することを学びます。口頭および書面の両方で英語で明確かつ流暢に自分の考えを表現する能力を向上させることに加え、学生はコミュニケーション、問題解決、プレゼンテーションのスキルを習得します。ディスカッションとライティングは英語で行われます。

For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: https://www.alexwatson.info/teaching

詳細については、講師のウェブサイト https://www.alexwatson.info/teaching を参照してください。

履修上の注意

Students will be expected to contribute to class discussion and complete regular homeworks. Students are also strongly advised to purchase and bring to class the correct editions of set texts as we will be discussing them together in class and need to refer to them.

学生はクラスディスカッションに貢献し、定期的な宿題を完了することが求められます。また、クラスでともに議論しながら参照する必要があるため、正しい版のセットテキストを購入してクラスに持参することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

Students must complete regular homeworks and seminar reading.

学生は定期的な宿題とゼミの読書を完了する必要があります。

Students must have attained at least intermediate skills in English. They must also be willing to speak, read and write in English.

学生は少なくとも英語で中級のスキルを習得している必要があります。また、英語で話し、読み、書くことをいとわない必要があります。

教科書

William Golding, Lord of the Flies (London: Penguin, 2006) ISBN-10: 0399533370, ISBN-13: 978-0399533372, 1205 Yen.

参考書

Japanese translations of the books are available. Students do not have to buy them but they may find them useful.

授業で扱う書籍については、日本語版が販売されています。日本語版を購入する必要はありませんが、理解の一助になるかもしれません。

ウィリアム・ゴールディング著、黒原敏行訳『蠅の王』、早川書房、2017 年 ISBN-10 : 4151200908 ISBN-13 : 978-415120

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

30% homeworks; 70% final tests.

その他

科目ナンバー：(AL)LIT221E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語圏文化入門	**英米文学基礎研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

This course provides an introduction to the study of English literature. We look at a diverse range of writings from the British Isles and beyond, including novels, short stories, poems and even graphic novels and films. Students will learn to analyze texts, debate them critically and write about them at length in English. As well as improving their ability to express themselves clearly and fluently in English both orally and in writing, students will gain skills in communication, problem solving and giving presentations. Discussion and writing will be in English.

本授業は、英文学研究の入門編となる内容です。小説、短編小説、詩、さらにはグラフィック・ノベルや映画等、イギリス諸島内外の幅広い作品を扱います。学生は、テキストの分析、批判的な議論、さらにはテキストについて英語で詳細に記述することを学びます。口頭および書面の両方で、英語で明確かつ流暢に自分の考えを表現する能力を向上させることに加え、学生はコミュニケーション、問題解決、プレゼンテーションのスキルを習得します。ディスカッションとライティングは英語で行われます。

For more details, please see the webpage explaining this course on my website available at: https://www.alexwatson.info/teaching

詳細については、講師のウェブサイト https://www.alexwatson.info/teaching を参照してください。

授業内容

1. レイモンドブリッグズ, エセルとアーネスト ふたりの物語（Raymond Briggs, Ethel and Ernest）1
2. エセルとアーネスト ふたりの物語 2
3. エセルとアーネスト ふたりの物語 3
4. エセルとアーネスト ふたりの物語 4
5. マアク・ハッドン,『夜中に犬に起こった奇妙な事件』1
6. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 2
7. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 3
8. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 4
9. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 5
10. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 6
11. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 7
12. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 8
13. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 9
14. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 10
15. 夜中に犬に起こった奇妙な事件 11

履修上の注意

Students will be expected to contribute to class discussion and complete regular homeworks. Students are also strongly advised to purchase and bring to class the correct editions of set texts as we will be discussing them together in class and need to refer to them.

学生はクラスディスカッションに貢献し、定期的な宿題を完了することが求められます。また、クラスでともに議論しながら参照する必要があるため、正しい版のセットテキストを購入してクラスに持参することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

Students must complete regular homeworks and seminar reading.

学生は定期的な宿題とゼミの読書を完了する必要があります。

Students must have attained at least intermediate skills in English. They must also be willing to speak, read and write in English.

学生は少なくとも英語で中級のスキルを習得している必要があります。また、英語で話し、読み、書くことをいとわない必要があります。

教科書

Mark Haddon, The Curious Incident of the Dog in the Night-Time (2003) ISBN-10 : 0099470438, ISBN-13 : 978-0099470434, 1016 Yen.

Raymond Briggs, Ethel and Ernest (London: Jonathan Cape, 2007) ISBN-10: 1911214608, ISBN-13: 978-191121460, 1535 Yen.

参考書

Japanese translations of the books are available. Students do not have to buy them but they may find them useful.

授業で扱う書籍については、日本語版が販売されています。日本語版を購入する必要はありませんが、理解の一助になるかもしれません。

レイモンド・ブリッグズ著、北川しずえ訳『エセルとアーネスト ふたりの物語』、パベルプレス、2019 年 ISBN-13 : 978-4894491779 IS

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

30% essays; 70% end of term test.

その他

科目ナンバー：(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英語史	**英語史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 幸一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語の歴史を、社会的な出来事の歴史、言語内の歴史の両面について、英語以前から中期英語の終わりまで概説します。とくに、現代英語で「不規則」や「例外」などと片付けられている現象について詳しく解説しますが、もちろん、中等教育で英語を教える時に、この授業の内容を話す必要はありません。しかしながら、教員としては分かっていた方がよいことにふれたいと思います。

授業内容

01 100 分で語る英語史・ゴート語からティンダル、ジェームズ王訳までの英訳聖書を比較する
02 外的歴史：英語以前・ローマの植民地として
03 英語以前・アングロサクソン民族の到来、ヴァイキングの襲来
04 ウエストサクソン方言、1066 年、古(期)英語から中期英語
05 フランス語の衰退と英語の復活、中期英語の方言、英訳聖書
06 標準化、キャクストンと印刷術
07 内的歴史：古英語の発音、綴り字、文字
08 古英語の語彙、造語法、借用語
09 中期英語の発音、綴り字、語彙
10 母音大推移(1)
11 ルーン文字、古英語詩、地名、古ノルド語・フランス語・ラテン語借用語
12 古英語の造語法、修辞法、文法性
13 中世期の多言語状態
14 母音大推移(2)、まとめ

履修上の注意

特にありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前に配布テクストは読んでおいてください。

教科書

このクラスウェブ上にアップロードします。

参考書

家入葉子『ベーシック英語史』ひつじ書房。
寺澤芳雄編『英語語源辞典』研究社。
中島文雄『英語発達史』岩波全書。
渡部昇一『講談・英語の歴史』PHP 新書。
Albert C.Baugh & Thomas Cable, A History of the English Language, 4th ed, Routledge.

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブに記載します。

成績評価の方法

授業への貢献度 40%、レポート 60%。

その他

ドイツ文学、フランス文学、史学地理、その他の学科の諸君も大いに歓迎します。フランス語、ドイツ語、歴史的事項がたっぷり出てきますので。

科目ナンバー:(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英散文読解	**英文学講読D**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文学作品を英語で読む際に「英文の意味は一応訳すことができるし、全体のストーリーは理解できるのだが、なんとなくしっくりしない」と感じたことはありませんか。その「なんとなくしっくりしない部分」それはその文学作品が書かれた文化的・社会的文脈における様々な「ルール」になじみが薄いことにその一因があるといえるでしょう。このクラスはイギリス文化の諸相に焦点を当てた評論を読みながら、その内容に関連した文学作品、映画、絵画、新聞、雑誌、広告などの媒体を導入しながら多角的にイギリス文化への理解を深めていくことが目的です。取り扱うコリン・ジョイス氏の英文は比較的平易なものですが、その奥に潜むイギリス的価値観やアイロニー要素などもしっかりと読み取ってもらいたいと思います。このクラスを通じてイギリスという国をより身近に感じ、英国についてのさらなる研究の糸口になることを期待します。

授業内容

Week-1 Orientation
Week-2 A Fortunate Accident
Week-3 Britain's Best Ride
Week-4 The Meaning of Bond
Week-5 THe Changing Hight Street
Week-6 Mild and Cloudy with a Chance of Rain
Week-7 Expressive Expressions
Week-8 A Woman of Some Importance
Week-9 Shakespeare Lives On
Week-10 British Food: Better Than Awful
Week-11 A Complicated Country
Week-12 A Quite Fab Four
Week-13 The "Invention" of Sport
Week-14 Changing Classes

履修上の注意

履修者のみなさんの意見、問題提起などがクラスの充実度を左右します。活発なクラス参加を期待します。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定教科ほ以外に適宜ハンドアウトを配布します。毎週指定された章は必ず精読した上で、質問・コメントを準備してから授業に臨んでください。

教科書

Colin Joyce and Yasushi Mano. Realise Britain. Kinseido, 2014.

参考書

Fox, Kate.Watching the English : The Hidden Rules of English Behaviour. 2nd ed. Hodder, 2014.
Christopher, David P.British Culture : An Introduction.3rd edition. Routledge, 2015.
D'oriscoll, James.Britain for Learners of English. OUP,

課題に対するフィードバックの方法

コメント・ポイントを記入したリアクションペーパーは授業中に返却します。

成績評価の方法

Weekly Written Assignment 50%
Term-end Paper 50%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英詩読解	**英文学講読C**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英詩を読む訓練をします。比較的読みやすくてあまり長くない詩を教材に選びます。時代的に遡行しているのは、学生にとってなじみのある英語から入ってもらうためです。教師は、適宜詩人や時代的背景などについて解説を加えますが、実際の詩の吟味は、1)音読訓練、2)学生による訳(厳密な訳でなくても構いません)と解説、3)教師からのコメントと質疑応答――という、昔ながらの「日本の英文科」における講読スタイルをとります。簡単な英詩を読み、詩の技法や鑑賞点を把握できるようになる能力の獲得が到達目標です。

授業内容

【第 1 回】イントロダクション
【第 2 回】第二次世界大戦後英詩 1
【第 3 回】第二次世界大戦後英詩 2
【第 4 回】モダニズム(解説のみ)、W. H. Auden
【第 5 回】第一次大戦詩
【第 6 回】ヴィクトリア朝詩 1
【第 7 回】ヴィクトリア朝詩 2
【第 8 回】ロマン派第 2 世代
【第 9 回】ロマン派第 1 世代
【第 10 回】Blake
【第 11 回】新古典主義詩(解説のみ)、形而上詩 1 Andrew Marvell
【第 12 回】形而上詩 2 John Donne
【第 13 回】William Shakespeare
【第 14 回】総括

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

もちろん、教員からの解説や、事前説明、そして語学上の支援はありますが、毎回、予習しておいてもらわないと成り立たない授業です。英語を読む力は必ず上がるはずです。

教科書

配布します。

参考書

適宜配布します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中のパフォーマンス 60%、期末の課題評価 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
映像・メディア芸術研究	**映像論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大傍 正規	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

映画とその関連資料の収集・保存・復元・公開というフィルムアーカイブ活動の視点から日本映画史を捉え直す。映画と関連資料を網羅的に収集し、散逸や劣化等から防ぐために、安全な環境で保護し、長期保管と活用を行う国立映画アーカイブが果たしている役割について、収集・保存・復元・公開等の具体例を示しながら概説するとともに、モノとしてのフィルムやノンフィルム・マテリアル(映画関連資料)をベースに日本映画史について講義する。前期に開講する「映像論 A」を踏まえつつ、日本におけるフィルムアーカイブ活動の歴史について知識を深め、映画保存に必要な意思決定や技術的要件について理解することを到達目標とする。

授業内容

第 1 回:ガイダンス:フィルムアーカイブ活動の歴史―『フィルム 私たちの記憶装置』(2021)を見る
第 2 回:国立映画アーカイブのコレクション形成
第 3 回:『浮草』(1959)のデジタル復元―アグファカラーの色再現
第 4 回:ナイトレート・ピクチャーショーとは何か―可燃性フィルムの上映と火災の歴史
第 5 回:『狂つた一頁』青染色版(1926) の発見と復元
第 6 回:上映企画の作り方と現存最古のアニメーション映画『なまくら刀』(1917)
第 7 回:国立映画アーカイブの配信サイト
第 8 回:小型映画のアーカイビング―オルタナティブな映画の世界
第 9 回:国立映画アーカイブ所蔵・初期アイヌ関連フィルム―複数バージョンの同定と理解の試み
第 10 回:発掘された映画たち―映画フィルムの発掘から上映まで
第 11 回:海外のフィルムアーカイブ活動―国際フィルムアーカイブ連盟(FIAF)加盟機関の紹介
第 12 回:返還映画コレクション―接収された日本映画の返還をめぐって
第 13 回:公共フィルムアーカイブの活動―神戸、川崎、京都、広島、福岡
第 14 回:映画フィルムの同定研究―最新の動向

履修上の注意

前期に開講する「映像論 A」と併せて履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

国立映画アーカイブが刊行する『NFAJ ニューズレター』およびその継続前誌である「NFC ニューズレター」(1995 年～2018 年刊行)に掲載された連載「フィルムアーカイブの諸問題」のオンラインアーカイブ(https://www.nfaj.go.jp/onlineservice/variouschallenges/)を活用し、事前・事後学習を行う。

教科書

特に指定しない

参考書

岡田秀則『映画という《物体 X》フィルム・アーカイブの眼で見た映画』(立東舎、2016 年)
石原香絵『日本におけるフィルムアーカイブ活動史』(美学出版、2018 年)
パオロ・ケルキ・ウザイ 著、石原香絵 訳『無声映画入門:カラー、音楽、活弁、そして復元』(フィルムアート社、2023 年)
高良和秀 編著、ゆめの(漫画)『映画技術入門』(明幸堂、2024 年)

課題に対するフィードバックの方法

アンケート(リアクションペーパー)の全体講評を行う。

成績評価の方法

定期試験は実施しない。授業への貢献度を 60%とし、毎回出席しアンケート(リアクションペーパー)へ講義の感想を提出することを原則とする。またレポートを 40%とし、講義の理解度を確認するとともに、アーカイブの考え方を各自の研究や活動に活かすため方法を考えることを期待する。

その他

国立映画アーカイブに足を運び、講義内容を踏まえて上映会や展覧会を楽しんで頂きたい。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
映像・メディア芸術の基礎	**映像論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大傍 正規	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

映画とその関連資料の収集・保存・復元・公開というフィルムアーカイブ活動の視点から日本映画史を捉え直す。映画と関連資料を網羅的に収集し、散逸や劣化等から防ぐために、安全な環境で保護し、長期保管と活用を行う国立映画アーカイブが果たしている役割について、収集・保存・復元・公開等の具体例を示しながら概説するとともに、モノとしてのフィルムやノンフィルム・マテリアル(映画関連資料)をベースに日本映画史について講義する。最終的に、デジタル時代における映画アーカイブの使命と役割について理解することを到達目標とする。

授業内容

第 1 回:イントロダクション―国立映画アーカイブとは
第 2 回:映画フィルムの種類と基本構造
第 3 回:再タイミング版・作成プロジェクトについて―『時をかける少女』(1983)と『セーラー服と機関銃』(1981)を事例として(1)
第 4 回:再タイミング版・作成プロジェクトについて―『時をかける少女』(1983)と『セーラー服と機関銃』(1981)を事例として(2)
第 5 回:無声映画のデジタル復元―『忠次旅日記』(1927)(1)
第 6 回:無声映画のデジタル復元―『忠次旅日記』(1927)(2)
第 7 回:最古の長編記録映画『日本南極探検』(1930)の複数バージョン―映像テクストと歴史的コンテクストの同定プロセス 1
第 8 回:最古の長編記録映画『日本南極探検』(1930)の複数バージョン―映像テクストと歴史的コンテクストの同定プロセス 2
第 9 回:最古の長編記録映画『日本南極探検』(1930)の複数バージョン―映像テクストと歴史的コンテクストの同定プロセス 3
第 10 回:最古の長編記録映画『日本南極探検』(1930)の複数バージョン―映像テクストと歴史的コンテクストの同定プロセス 4
第 11 回:デジタル・ジレンマ 1
第 12 回:デジタル・ジレンマ 2―『サイド・バイ・サイド フィルムからデジタルシネマへ』(2012)
第 13 回:映画文献、映画史料を読む
第 14 回:映画の音声復元

履修上の注意

後期に開講する「映像論 B」と併せて履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

国立映画アーカイブが刊行する『NFAJ ニューズレター』およびその継続前誌である「NFC ニューズレター」(1995 年～2018 年刊行)に掲載された連載「フィルムアーカイブの諸問題」のオンラインアーカイブ(https://www.nfaj.go.jp/onlineservice/variouschallenges/)を活用し、事前・事後学習を行う。

教科書

特に定めない。

参考書

岡田秀則『映画という《物体 X》フィルム・アーカイブの眼で見た映画』(立東舎、2016 年)
石原香絵『日本におけるフィルムアーカイブ活動史』(美学出版、2018 年)
パオロ・ケルキ・ウザイ 著、石原香絵 訳『無声映画入門:カラー、音楽、活弁、そして復元』(フィルムアート社、2023 年)
高良和秀 編著、ゆめの(漫画)『映画技術入門』(明幸堂、2024 年)

課題に対するフィードバックの方法

アンケート(リアクションペーパー)の全体講評を行う。

成績評価の方法

定期試験は実施しない。授業への貢献度を 60%とし、毎回出席しアンケート(リアクションペーパー)へ講義の感想を提出することを原則とする。またレポートを 40%とし、講義の理解度を確認するとともに、アーカイブの考え方を各自の研究や活動に活かすため方法を考えることを期待する。

その他

国立映画アーカイブに足を運び、講義内容を踏まえて上映会や展覧会を楽しんで頂きたい。

科目ナンバー:(AL)LIT121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学史Ⅰ	**英文学史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業では、英国の代表的な作家や作品を概観し、英文学に関する知識を身につけ、理解を深めることを目標にしています。歴史や文化など作品の背景にも興味をもち、より広い視点から作品を読み解く楽しさも知ってもらいたいと思っています。
授業で取り上げることのできる作家や作品はかぎられていますが、視聴覚資料なども利用しながら、生き生きとした文学(芸術)体験の場を設けたいと考えています。

授業内容
重点的に取り上げる作家は、教科書の「Ⅱ イギリス文学作品ガイド」から選びました。
以下はあくまで予定なので、変更することもあります。
1)イントロダクション:初回アンケート／教科書ならびに授業の進め方について
2)第1章「古英語・中英語時代のイギリス:変遷する言語地図」
3)第2章「古英語・中英語の文学:規範の中での創造」(1)ジェフリー・チョーサー
4)第2章「古英語・中英語の文学:規範の中での創造」(2)トマス・マロリー
5)第3章「16 世紀のイギリス:近代国家の誕生とエリザベス朝の繁栄」
6)第4章「16 世紀の文学:イギリス・ルネサンス」(1)ウィリアム・シェイクスピア
7)第4章「16 世紀の文学:イギリス・ルネサンス」(2)映画『ヴェニスの商人』紹介
8)ルネサンス補足
9)第5章「17 世紀のイギリス:市民革命と王政復古に揺れる時代」
10)第6章「17 世紀の文学:内政混乱期の文学」ジョン・ミルトン
11)第7章「18 世紀のイギリス:近代社会の形成」
12)疫病と文学について
13)第8章「18 世紀の文学:小説が生まれた時代」ダニエル・デフォー
14)まとめ／定期試験

履修上の注意
できるだけ英文学史Ⅱとあわせて履修してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
紹介された文学作品のうち、興味をもったものがあれば、ぜひ、図書館や本屋などで現物にあたってみてください。
また、教科書の作品ガイドを利用して、できるだけ多くの作品に挑戦してみてください。

教科書
浦野郁、奥村沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) ￥2,500(税別)

参考書
必要に応じて、授業内で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法
各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法
1. 平常点 40%:
授業後にリアクションペーパーを書いてもらうこともあります。その提出状況や内容によって判断します。
2. 期末試験 60%
(注意)原則として、欠席は4回まで。それを超えると、期末試験の受験資格を失います。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学史Ⅱ	**英文学史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業では、英国の代表的な作家や作品を概観し、英文学に関する知識を身につけ、理解を深めることを目標にしています。歴史や文化など作品の背景にも興味をもち、より広い視点から作品を読み解く楽しさも知ってもらいたいと思っています。
授業で取り上げることのできる作家や作品はかぎられていますが、視聴覚資料なども利用しながら、生き生きとした文学(芸術)体験の場を設けたいと考えています。

授業内容
重点的に取り上げる作家(作品)は、教科書「Ⅱ イギリス文学作品ガイド」から選択する予定ですが、変更することもあります。
1)イントロダクション:初回アンケート／教科書ならびに授業の進め方について
2)第8章「18 世紀の文学:小説が生まれた時代」ロレンス・スターンなど
3)グランドツアーについて／第9章「19 世紀のイギリス:大英帝国の時代」
4)第 10 章「19 世紀の文学:ロマン主義とヴィクトリア朝の文学」(1)ロマン派詩人たち、メアリー・シェリーなど
5)第 10 章「19 世紀の文学:ロマン主義とヴィクトリア朝の文学」(2)ブロンテ姉妹、チャールズ・ディケンズなど
6)第 10 章「19 世紀の文学:ロマン主義とヴィクトリア朝の文学」(3)オスカー・ワイルド、ジョゼフ・コンラッドなど
7)視聴覚資料(映画紹介:ディケンズ、または、ブロンテ原作の作品を取り上げる予定)
8)第 11 章 20 世紀前半のイギリス:二つの大戦に揺れる時代
9)第 12 章 20 世紀前半の文学:モダニズムの時代(1)E・M・フォースター、ヴァージニア・ウルフなど
10)第 12 章 20 世紀前半の文学:モダニズムの時代(2)ジョージ・オーウェル／戦争詩人／ディストピア小説
11)視聴覚資料(映画またはドキュメンタリーの紹介)
12)第 13 章 20 世紀後半～現代のイギリス:冷戦, 多文化主義から:EU離脱へ
13)第 14 章 20 世紀後半～現代の文学:多様化する文学(1)グリアム・グリーン、ウィリアム・ゴールディング、カズオ・イシグロなど
14)まとめ／定期試験

履修上の注意
できるだけ英文学史Ⅰとあわせて履修してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
紹介された文学作品のうち、興味をもったものがあれば、ぜひ、図書館や本屋などで現物にあたってみてください。
また、教科書の作品ガイドを利用して、できるだけ多くの作品に挑戦してみてください。

教科書
浦野郁、奥村沙矢香 編著『よくわかるイギリス文学史』(ミネルヴァ書房) ￥2,500(税別)

参考書
必要に応じて、授業内で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法
各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法
1. 平常点 40%
授業後にリアクションペーパーを書いてもらうこともあります。その提出状況や内容によって判断します。
2. 期末試験 60%
(注意)原則として、欠席は4回まで。それを超えると、期末試験の受験資格を失います。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学と階級	**英作家作品研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小泉 勇人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、16 世紀の戯曲から 20 世紀の映画までを横断し、イギリス文学・文化における「階級(class)」の表象を研究します。とりわけ、言葉遣いや発音、振る舞いといった日常的な要素が、いかにして階級差を可視化し、また再生産してきたのかに注目します。

ウィリアム・シェイクスピアやバーナード・ショーの戯曲、ディケンズの小説、さらには現代映画を取り上げながら、登場人物たちがどのように社会的地位を与えられ、あるいは奪われていくのかを具体的な場面分析を通じて読み解いていきます。そこから浮かび上がるのは、階級が単なる経済的区分ではなく、言語や文化、身体のレベルで内面化される社会的構造であるという点です。

本授業を通じて、学生は英文学作品の精読方法を身につけるとともに、「階級」という概念を批判的に捉える視点を獲得し、文学と社会の関係について自らの言葉で論じる力を養うことを目標とします。

授業内容

本授業では、イギリス文学作品の原文テクストを読みながら、階級という主題について講義形式で解説を行います。教員による解説を通じて、作品の背景となる歴史的・社会的文脈を理解しつつ、具体的な場面や表現を精読していきます。また、文学テクストに加えて、映画などの映像資料も参照し、同じ主題が異なるメディアにおいてどのように表象されているのかを比較します。

授業の理解を確認し、知識の定着と思考の深化を図るため、学期中に複数回の小テスト(論述形式)を実施します。これらを通じて、受講生が授業内容を自分の言葉で整理し、英文学作品を社会的文脈の中で批判的に読む力を養うことを目指します。進行計画(案)は次のとおりです。

01. オリエンテーション(階級、内なる差異)、20 世紀の戯曲『ピグマリオン』(1913)その 1
02. 20 世紀の戯曲『ピグマリオン』(1913)その 2
03. 小試験、質疑応答
04. 19 世紀の小説『大いなる遺産』(1861)その 1
05. 19 世紀の小説『大いなる遺産』(1861)その 2
06. 小試験、質疑応答
07. 20 世紀の映画『プラス』(1996)
08. 20 世紀の映画『フル・モンティ』(1997)
09. 小試験、質疑応答
10. 16 世紀の戯曲『リア王』(1605-1606)その 1
11. 16 世紀の戯曲『リア王』(1605-1606)その 2
12. 小試験、質疑応答
13. 階級と言葉、20～21 世紀の映画『ロック、ストック&トゥー・スモーキング・バレルズ』(1998)、『英国王のスピーチ』(2010)、『キングスマン』(2014)、
14. 小試験、質疑応答

履修上の注意

履修を希望する学生は、必ず第 1 週から出席してください。初回授業では、キー概念、作家・作品に関する基礎的な情報に加え、授業の進め方や評価方法などについて説明・共有します。また、秋学期開講の「英作家作品研究 B」とあわせて履修することを勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回で取り上げる文学作品や映画について、事前に該当箇所を読んだり鑑賞したりしておくことが望ましい。授業後は、配布資料や扱ったテクストを再度確認し、小テストに備えて内容の整理と復習を行うこと。作品を自分の力で読み、考える経験そのものが、本授業における最も重要な準備学習となる。

教科書

特定の教科書は使用せず、授業内で配布するハンドアウトを用いる。

参考書

必要に応じて、授業内で教員より適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

学期中に実施する小テスト(論述形式)を通じて、受講生の理解度や思考の深まりを確認し、授業内で講評および補足説明を行います。また、定期的にレヴューシートを回収し、受講生からの質問や意見をもとに、次回以降の授業で補足や質疑応答を行います。

成績評価の方法

学期中に実施する複数回の小テスト(論述形式)の成績を中心に、受講状況を踏まえて総合的に評価を行います。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学と芸術	**英作家作品研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業ではアーツ・アンド・クラフツ運動(デザイン)、ラファエル前派(絵画)、そして英国バレエの系譜(舞踊)に注目していきます。

これら英国を発祥とする芸術(芸術家)が、それぞれどのように英文学作品(作者)と関わっているのかを探っていく―それは英国における「Literary Arts である文学」と、「言語をもたない(時に言語(文字)自体を作品とする)芸術」との関係性について思考をめぐらすという壮大なテーマへと繋がる可能性を秘めている、非常に意義深い時間であるといえるでしょう。

また、それぞれの芸術家たちや作品を自身と関係のない存在とせず、彼らの人生や作品に積極的に触れることで、各受講者が、その他のジャンル(もちろん文学を含めた)＜芸術＞とは、自分にとってどのような存在か、考えるきっかけとなればと望みます。

各パートにおいて具体的な資料と関連作品を取り上げ読解し、視聴覚資料の鑑賞も行いながら、受講者の理解を深めていきます。

授業内容

第1回 イントロダクション ー芸術と人生　ある芸術家の場合ー
第2回 【Arts and Crafts Movement】1 (アーツ・アンド・クラフツ運動とは ーその理念)
第3回 2 (William Morris の人生)
第4回 3 (William Morris 作品と読解)
第5回 ーReviewー
第6回 【Pre-Raphaelite Brotherhood】1 (ラファエル前派とは ー若き芸術家たち)
第7回 2 (Dante Gabriel Rossetti ほか 作品と読解)
第8回 ーReviewー
第9回 【British Ballet】1 (英国バレエの系譜(1) ーバレエ・リュスから)
第 10 回 2 (英国バレエの系譜(2) ー物語バレエ、そして現在まで)
第 11 回 3 (英文学のバレエ化 (ex.1) Alice in Wonderland の場合)
第 12 回 4 (英文学のバレエ化 (ex.2)The Picture of Dorian Gray の場合)
第 13 回 ーReviewー
第 14 回 Final Presentation (Final Reaction Paper に関する簡潔な発表)と期末レポートの提出
*上記はあくまで予定であり、変更の可能性あり。各授業の指示をよく確認のこと。

履修上の注意

授業中の私語、事前に配布された資料・テキストの不携帯などがないように。大学生としての良識を問います。

また、授業に辞書を持ち合わせていないということは、英語で書かれたテキストを読解するという内容の本授業において消極的態度を自らさらすことと同義であり、平常点(授業参加のポイント)を自ら減点していくことなのだと、念頭においてください。

テキスト読解においては、少し手ごわい作業と感じることもあるかもしれませんが、随時サポートする資料を配布します。ぜひ積極的な姿勢で臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前に配布されたテキスト、資料に関しては、各自必ず目を通しておくこと。
・指示のあった部分に関しては、辞書を用いてしっかりとテキストを予習して授業に臨むこと。
その際、英語から日本語への単なる置き換えではなく、そこに描かれている情景や筆者の思考を理解し、英文から汲み取れたことを自らの言葉で表現するという意識を忘れずに取り組んで欲しい。
・授業後は、リアクションペーパーの提出に際し、毎回の授業を自らの視点で振り返ることを忘れずに行うこと。
質問、疑問点が生じた場合はリアクションペーパーにて、あるいは授業後に直接質問してください。

教科書

こちらで準備したハンドアウト、資料などを使用します。

参考書

必要に応じて、授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

・授業終了後に提出してもらうリアクションペーパーについては、全体講評を次週の授業冒頭で行う。
・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加、毎回のリアクションペーパーの提出、随時出題される課題の提出など平常点(50%)
Final Presentation の参加、期末レポートの提出 *詳細は授業にて説明(50%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学と個人	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

当授業では、「英文学と歴史」(春学期開講)において紹介した人物を主に取り上げます。特に、作家コンラッドがコンゴで出会い、一時は深い親交を結んだロジャー・ケイスメントという人物に注目し、彼がどのように植民地主義と格闘したのかを考察します。彼は「サー」の称号までもらった外交官でしたが、第一次世界大戦中にアイルランドで起こったイースター蜂起に関わり、ただひとり、ロンドンで絞首刑となりました(他の仲間はダブリンで銃殺されました)。彼の伝記を書こうと試み、果たせなかったのが「アラビアのロレンス」です。このように、コンラッド、ケイスメント、ロレンスという 3 人の人物の結びつきを意識することで、「英文学史」を新しい視点から見つめ直したいと思います。

授業内容

以下はあくまで予定なので、変更する場合もあります。
(1)初回アンケート／授業内容の確認／注意事項の説明など
(2)コンラッドとコンゴ：ケイスメントとの出会い
(3)ケイスメントについて：伝記的事実の確認／「イースター蜂起」とは何か。
(4～6)「アイルランド問題」について解説／映画紹介・一部上映：『麦の穂をゆらす風』『マイケル・コリンズ』など
(7～9)Rebecca Solnit によるケイスメントに関するエッセイ紹介・読解
(10～13)T・E・ロレンスとケイスメント：書かれなかった伝記／映画『ロレンス1918』紹介
(14)秋学期のまとめ／期末試験

履修上の注意

1. 配布された資料は、試験で必要になりますので、なくさないように。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを書いて提出してもらいます。
3. 長時間にわたる、あるいは慢性的な「居眠り」に関しては、出席とはみなしません。
4. 15 分以上遅れての入室は、原則として認めません。

準備学習(予習・復習等)の内容

1. 受講生は、しっかり準備をして授業にのぞんでください。配布・提示された資料は、事前に目を通しておくこと。
2. 多くの書籍や映画を紹介するので、興味をもった作品があれば、ぜひ読んで(見て)みましょう。授業では一部しか上映できなかった映画も、できれば最後まで視聴しておいてください。

教科書

プリントを配布、または、Oh-o! Meiji にデータで提示します。

参考書

授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点(授業への参加姿勢、リアクションペーパー／レポートの内容)：40%
2. 期末試験(論述問題)：60%
(注)欠席は 4 回まで。それを超えると、期末試験の受験資格を失います。

その他

春学期に開講される「英文学と歴史」において、当授業で紹介する作家や人物(ジョゼフ・コンラッド、ロジャー・ケイスメント、T・E・ロレンス)の時代背景などを詳しく取り上げるので、連続して受講すると、より分かりやすくなると思います

科目ナンバー：(AL)LIT322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学とコミュニケーション	**英米劇作家作品研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演劇は、想像力を必要とするコミュニケーションの形です。この授業では「境界の不安」をキーワードに、演劇的想像力を探ることで、演劇というコミュニケーションのあり方を考察します。中心となる作家はシェイクスピアです。

授業内容

【第 1 回】イントロダクション：The Encounter における忘却
【第 2 回】ハムレットの悩み
【第 3 回】反演劇論：想像力
【第 4 回】反演劇論：12 世紀ルネッサンス
【第 5 回】反演劇論：虚構構築物
【第 6 回】反演劇論：四体液説
【第 7 回】反演劇論：疾病と演劇 1(黒死病)
【第 8 回】反演劇論：疾病と演劇 2(梅毒)
【第 9 回】反演劇論：異性装と homoeroticism
【第 10 回】反演劇論：『お気に召すまま』における異性装
【第 11 回】時代と受容論：蜷川シェイクスピアの「反古典」
【第 12 回】時代と受容論：戦争と演劇
【第 13 回】コミュニケーションと演劇
【第 14 回】総括・テスト

履修上の注意

皆さんからの発言を募り、そこでの発言は評価に反映されます。

準備学習(予習・復習等)の内容

『お気に召すまま』は読んでおいてください。

教科書

特にありません。

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での反応・発言(50%)と課題(50%)により、成績判定します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学とジェンダー	**英作家作品研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

19 世紀ヴィクトリア時代から 20 世紀にかけて、女性像は激しく移り変わっていった―その変遷を、当時の文学ほか資料とともに確認していきます。それは同時に、当時の男性像(マスキュリニティ・男性の同性愛のイメージなど)に目を向けていくことに繋がります。

本授業では、何があったのかという史実をただ認識するのではなく、各テーマに関連した作品(抜粋)を具体的に読解することを通し、各受講者が自身の想像力を使いながら、社会風景、女性像・男性像の理解を深めていくことを重視します。

授業内容

第1回 イントロダクション ーヴィクトリア時代の女性像・男性像の変遷 概略ー
第2回 【家庭の天使】＜伝統的な結婚＞（Jane Austen, Pride and Prejudice より） 1
第3回
2
第4回 女性の職業 ＜ガヴァネス＞ （Charlotte Bronte, Jane Eyre より） 1
第5回
2
第6回 【新しい女】とは 1 （女性参政権運動 関連資料など読解）
第7回 2 （Florence Nightingale の理念と作品）
第8回 19 世紀末【ファム・ファタル】の表象 （Oscar Wilde, "Salome" "The Sophinx Without a Secret"より）
1
第9回
2
第 10 回
3
第 11 回 ＜マスキュリニティ＞と＜同性愛＞ 1（関連資料の読解）
第 12 回 2（Oscar Wilde の同性愛裁判）
第 13 回 3（Oscar Wilde, The Picture of Dorian Gray より）
第 14 回 Final Presentation（Final Reaction Paper に関する簡潔な発表)と期末レポートの提出
*上記はあくまで予定であり、変更の可能性あり。各授業の指示をよく確認のこと。

履修上の注意

授業中の私語、事前に配布された資料・テキストの不携帯などがないように。大学生としての良識を問います。
また、授業に辞書を持ち合わせていないということは、英語で書かれたテキストを読解するという内容の本授業において消極的態度を自らさらすことと同義であり、平常点(授業参加のポイント)を自ら減点していくことなのだと、念頭においてください。
テキスト読解においては、少し手ごわい作業と感じることもあるかもしれませんが、随時サポートする資料を配布します。ぜひ積極的な姿勢で臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前に配布されたテキスト、資料に関しては、各自必ず目を通しておくこと。
・指示のあった部分に関しては、辞書を用いてしっかりとテキストを予習して授業に臨むこと。
その際、英語から日本語への単なる置き換えではなく、そこに描かれている情景や筆者の思考を理解し、英文から汲み取れたことを自らの言葉で表現するという意識を忘れずに取り組んで欲しい。
・授業後は、リアクションペーパーの提出に際し、毎回の授業を自らの視点で振り返ることを忘れずに行うこと。
質問、疑問点が生じた場合はリアクションペーパーにて、あるいは授業後に直接質問してください。

教科書

こちらで準備したハンドアウト、資料などを使用します。

参考書

必要に応じて、授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

・授業終了後に提出してもらうリアクションペーパーについては、全体講評を次週の授業冒頭で行う。
・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業参加、毎回のリアクションペーパーの提出、随時出題される課題の提出など平常点(55%)
Final Presentation の参加、期末レポートの提出 *詳細は授業にて説明(45%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学と人種	**英作家作品研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小泉 勇人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、16 世紀の戯曲から 19 世紀の小説、探偵小説に至るまでを横断し、イギリス文学・文化における「人種(race)」の表象を研究します。とりわけ、「異なる存在」として他者がいかに描かれ、恐怖や欲望、排除や同化の対象として語られてきたのかに注目します。

『フランケンシュタイン』や『ドラキュラ』、シェイクスピアの戯曲、さらには「シャーロック・ホームズ」シリーズなどを取り上げながら、怪物、異邦人、異教徒、植民地的他者といった存在が、どのような言語や物語装置によって構築されているのかを具体的な場面分析を通じて読み解いていきます。そこから浮かび上がるのは、人種が生物学的事実というよりも、歴史的・文化的に形成されてきた想像力の産物であるという点です。

本授業を通じて、学生は英文学作品の精読方法を身につけるとともに、「人種」という概念を批判的に捉える視点を獲得し、文学と差異の表象、さらには現代社会における他者理解の問題について、自らの言葉で論じる力を養うことを目標とします。

授業内容

本授業では、イギリス文学作品の原文テクストを読みながら、「人種」や「他者性」という主題について講義形式で解説を行います。教員による解説を通じて、作品の背景となる歴史的・社会的文脈を理解しつつ、具体的な場面や表現を精読していきます。

また、文学テクストに加えて、映像資料なども参照し、同じ主題が異なる時代やジャンルにおいてどのように表象されているのかを比較的に検討します。授業の理解を確認し、知識の定着と思考の深化を図るため、学期中に複数回の小テスト(論述形式)を実施します。これらを通じて、受講生が授業内容を自分の言葉で整理し、人種表象を批判的に読み解く力を養うことを目指します。進行計画(案)は次のとおりです。

01. オリエンテーション(人種、外なる差異)、19 世紀の小説『フランケンシュタイン』(1818, 1831)その 1
02. 19 世紀の小説『フランケンシュタイン』(1818, 1831)その 2
03. 小試験、質疑応答
04. 19 世紀の小説『ドラキュラ』(1897)その 1
05. 19 世紀の小説『ドラキュラ』(1897)その 2
06. 小試験、質疑応答
07. 16 世紀の芝居『ヴェニスの商人』(1596-1598)その 1
08. 16 世紀の芝居『ヴェニスの商人』(1596-1598)その 2、『テンペスト』(1610-1611)
09. 小試験、質疑応答
10. 16 世紀の芝居『オセロー』(1604)その 1
11. 16 世紀の芝居『オセロー』(1604)その 2
12. 小試験、質疑応答
13. 探偵小説の人種 「シャーロック・ホームズ」シリーズ(1887-1927)
14. 小試験、質疑応答

履修上の注意

履修を希望する学生は、必ず第 1 週から出席してください。初回授業では、キー概念、作家・作品に関する基礎的な情報に加え、授業の進め方や評価方法などについて説明・共有します。また、春学期開講の「英作家作品研究 A」とあわせて履修することを勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回で取り上げる文学作品や映画について、事前に該当箇所を読んだり鑑賞したりしておくことが望ましい。授業後は、配布資料や扱ったテクストを再度確認し、小テストに備えて内容の整理と復習を行うこと。作品を自分の力で読み、考える経験そのものが、本授業における最も重要な準備学習となる。

教科書

特定の教科書は使用せず、授業内で配布するハンドアウトを用いる。

参考書

必要に応じて、授業内で教員より適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

学期中に実施する小テスト(論述形式)を通じて、受講生の理解度や思考の深まりを確認し、授業内で講評および補足説明を行います。また、定期的にレヴューシートを回収し、受講生からの質問や意見をもとに、次回以降の授業で補足や質疑応答を行います。

成績評価の方法

学期中に実施する複数回の小テスト(論述形式)の成績を中心に、受講状況を踏まえて総合的に評価を行います。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文学と歴史	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

当授業では、19世紀以降の英文学の作品を読むうえで知っておくべき歴史的出来事を取り上げます。いわゆる帝国主義・植民地主義に焦点を合わせ、コンゴにおける収奪の歴史や第一次世界大戦を振り返りながら、それらを背景に生み出された作品を読み解くのが目的です。授業名に「歴史」という語が含まれていますが、歴史研究が主体ではありません。歴史的事件に遭遇した人間がそれを「伝える」ためにどのような表現を試みたのか、そこにはどんな困難や葛藤、試行錯誤があったのか、これらを考察することに主眼を置いています。

たとえば、自らのコンゴ体験を踏まえて執筆されたコンラッドの『闇の奥』、第一次世界大戦に従軍した兵士が書いた詩、同じ戦争に参加しながら、まったく異なる扱いをされてきた「アラビアのロレンス」こと T・E・ロレンスの戦争体験記などを通して、歴史と文学の関わりを丁寧に紐解いていく予定です。

授業内容

以下はあくまで予定なので、変更する場合もあります。

(1)初回アンケート／授業内容の確認／注意事項の説明など
(2)コンゴについて：「ゴム」の歴史
(3)ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』について：作家紹介、時代背景の解説
(4～6)『闇の奥』一部読解
(7・8)第一次世界大戦について：基本的事実の確認(大量殺戮兵器の登場／塹壕戦／シェルショック／良心的兵役拒否／〈世界〉大戦の意味について)
(9)「戦争」の表象①：西部戦線における戦争詩人たち：Siegfried Sassoon, Wilfred Owen などの紹介・読解
(10)「戦争」の表象②：「アラビアのロレンス」について
(11～13)第一次世界大戦を舞台にした映画について：『彼らは生きていた』『素晴らしき戦争』『突撃』『トレンチ』などを紹介・一部上映・解説
(14)春学期のまとめ／期末試験

履修上の注意

1. 配布された資料は、試験で必要になりますので、なくさないように。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを書いて提出してもらいます。
3. 長時間にわたる、あるいは慢性的な「居眠り」に関しては、出席とはみなしません。
4. 15 分以上遅れての入室は、原則として認めません。

準備学習(予習・復習等)の内容

1. 受講生は、しっかり準備をして授業にのぞんでください。配布・提示された資料は、事前に目を通しておくこと。
2. 多くの書籍や映画を紹介するので、興味をもった作品があれば、ぜひ読んで(見て)みましょう。授業では一部しか上映できなかった映画も、できれば最後まで視聴しておいてください。

教科書

プリントを配布、または、Oh-o! Meiji にデータで提示します。

参考書

授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点(授業への参加姿勢、リアクションペーパー／レポートの内容)：40%
2. 期末試験(論述問題)：60%

(注)欠席は 4 回まで。それを超えると、期末試験の受験資格を失います。

その他

秋学期に開講される「英文学と個人」において、当授業で紹介した作家や人物(ジョゼフ・コンラッド、ロジャー・ケイスメント、T・ E・ ロレンスなど)について詳しく取り上げる予定ですので、連続して受講すると、より分かりやすくなると思います。

科目ナンバー：(AL)LIT322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英文化研究	**英米文化研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、第一次世界大戦以降の「戦争」を題材とした映画を取り上げ、歴史的背景を紐解きながら、それらの作品が「歴史」をどのように描き出しているのかを考察します。イギリスに限らず、広い視野で「戦争」を見通すことで、過去から現在へと問題意識を拡大してもらいたいと思います。

特に、ナチス・ドイツの高官ラインハルト・ハイドリヒ(1904-1942)を描いた映画に焦点を合わせる予定です。彼の暗殺を題材にした映画は多く、古い順にいくつか挙げると、『死刑執行人もまた死す』(1943)、『ヒットラーの狂人』(1943)、『暁の七人』(1975)、『ハイドリヒを撃て』(2016)、『ナチス第三の男』(2017)などがあります。この事件はなぜ(特に英語圏で)繰り返し描かれるのか、戦争(ナチズム／ファシズム／抵抗運動)がどのように表象されているか、各作品の間で登場人物の造形にどのような違いがあるのかなど、いくつかのテーマを授業で取り上げたいと思います。また、ハイドリヒが招集し議長を務めた「ヴァンゼー会議」(議題はユダヤ人の「最終的解決」について)も、二度映画化されています。

半期中、これらの作品をすべて上映することは不可能ですが、いくつかを集中的に視聴し、皆さんと一緒に考えたいと思います。

授業内容

以下はあくまで予定なので、変更する場合もあります。

(1)初回アンケート／授業内容の確認／注意事項の説明など
(2)戦争映画の紹介：第一次世界大戦
(3・4)番外編：「戦間期」の文化(文学)
(5・6)戦争映画の紹介：『謀議』、『白バラの祈り』、『シャトー・ブリアンからの手紙』など
(7)〈ハイドリヒ〉とは誰か：〈エンスラポイド作戦〉について
(8～11)映画視聴：作品は授業内で決定
(12・13)発表：視聴後の感想・考察・分析など／解説
(14)秋学期のまとめ／期末試験

履修上の注意

1. 配布された資料は、試験で必要になりますので、なくさないように。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを書いて提出してもらいます。
3. 長時間にわたる、あるいは慢性的な「居眠り」に関しては、出席とはみなしません。
4. 15 分以上遅れての入室は、原則として認めません。

準備学習(予習・復習等)の内容

多くの書籍や映画を紹介するので、興味をもった作品があれば、ぜひ読んで(見て)みましょう。授業で一部しか上映できなかった映画も、できれば最後まで視聴しておいてください。

教科書

プリントを配布、または、Oh-o! Meiji にデータで提示します。

参考書

授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点(授業への参加姿勢、リアクションペーパー／レポートの内容)：40%
2. 期末試験(論述問題)：60%

(注)欠席は 4 回まで。それを超えると、期末試験の受験資格を失います。

その他

科目ナンバー：(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) II	**英米文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
西尾 洋子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

William Shakespeare の喜劇『ヴェニスの商人』The Merchant of Venice をとりあげる。初めてシェイクスピアの原文に接する受講生にも無理のないよう，簡潔な註にしたがって丁寧に読み進め，詩的，劇的な効果を存分に味わいたい。芝居の台詞としての英語の音の響きも大切にしたいので，過去の上演舞台や映画を視聴しながら，全体像を把握しつつ進める。英語の語感を深く豊かに養うことを目指す。秋には実際の劇場での最新舞台鑑賞や朗読劇も採り入れ、よりアクティヴな読みを展開する予定。

シェイクスピアの中でもとりわけ人気の高いこの作品は，法をテーマに据え、民族，経済，恋愛，策略，正義など，現代に通じる問題を鋭く問いかける。戯曲なので「読む」という行為にとどまらず，Listening，Speaking を通して立体的に作品を体感する機会を設ける。また，批評や関連作品の一場面を抜き出して鑑賞したり読み比べたりする時間も持ちたい。

授業内容

第1回：課題の受取，後期計画確認
第2回～4回：Act3
第5回：Act3 のまとめ
第6回～8回：Act4
第9回：Act4 のまとめ
第 10 回～12 回：Act5
第 13 回：Act5 のまとめ
第 14 回：後期の総括

必然的に授業外で各自が通読してくることが求められる。精読のために取り上げる英文はその都度，教科書の中から選択，もしくは講師側でプリントして配布する。必ず丹念に辞書を引いて読むこと。台詞としての英語のリズムやイントネーションにも配慮しながら，音読も実践していく。余地があれば新旧の批評も読みたい。
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

出席重視。劇作品をテンポよく味わうためにも予習は必須です。辞書必携。前期も併せて履修が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

英文テクストを事前に精読してくること。授業が一層味わい深くなります。語句調べは勿論のこと、音読も十分に。

教科書

William Shakespeare,Cambridge School Shakespeare :The Merchant of Venice (Cambridge University Press) New Edition

参考書

授業時に詳しく紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

主に授業時、教室にて直接、返却、講評、解説を行う。

成績評価の方法

学期末課題(50%)と日常点(50%)を総合評価。

その他

学年末には「シェイクスピアを原文で読めた！」という充実感と達成感を味わって下さい。
＊当科目は「事前登録」対象科目であり，履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は，新年度配布の履修関連資料で確認すること。

科目ナンバー：(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) II	**英米文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

やる気の出ない人、やる気が空回りしている人。シェイクスピアの作品にも、こういう人は出てきます。『ヘンリー四世・第１部』のハル王子は、悪友のフォルスタッフとつるんでばかりで、王の後継者としてのやる気をなかなか見せません。また『ハムレット』の主人公も、父王の仇討ちになかなか踏み切ろうとしません。両人ともに、「意識高い系」とは呼べない人物です。それにもかかわらず、この二人には、近代的自我の萌芽のようなものが見てとれると考える人もいます。それでは、どこが「近代的」なのでしょうか？ この問を考えていきます。

この授業の履修目標は、大学にふさわしいアカデミックな議論ができるようにするということです。自分から問題点を提起し、そこからレファレンスをとりながら自分で問題の解決方法を探る。それを学友と議論することで、自分のペーパーへと結実させる。このような技術を、先に挙げた問を軸に身に付けてもらいたいと思います。

授業内容

【第１回】イントロダクション
【第２回】シェイクスピア『ヘンリー四世・第１部』
【第３回】シェイクスピア『ヘンリー四世・第１部』
【第４回】シェイクスピア『ヘンリー四世・第１部』
【第５回】グループ発表
【第６回】グループ発表
【第７回】シェイクスピア『ハムレット』
【第８回】シェイクスピア『ハムレット』
【第９回】シェイクスピア『ハムレット』
【第 10 回】グループ発表
【第 11 回】グループ発表
【第 12 回】グループ発表
【第 13 回】総括議論１
【第 14 回】総括議論２

履修上の注意

授業はリラックスした券囲気で進みますが，皆さんの議論と発表が充実してなんぼです。私は議論の整理とお手伝いとして，できるだけテーマを明確に共有できるように心がけます。しかし用意のない発表や発言・質問を受けて一から解説をするということはしません。とは言っても，わかりにくい所はちゃんと説明しますから，ご安心を。翻訳は活用してくれてかまいませんが、原文が英語の作品の場合には、具体的な箇所を論じてもらう際に原文を参照してもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

何よりもテクストを読んでくることが予習です。秋学期の授業はじめまでに『ヘンリー四世・第１部』、『ハムレット』は読んでおいてください。訳本で結構。

教科書

『ヘンリー四世・第１部』、『ハムレット』(どの訳本でも結構)。英語の版は以下をおすすめします。
Shakespeare W, Craik K. The First Part of King Henry IV. 2nd ed. Weil J, Weil H, eds. Cambridge University Press; 2007.
Shakespeare W, Hirschfeld H. Hamlet: Prince of Denmark. 3rd ed. Edwards P

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

グループ発表を含む授業パフォーマンス 50%、2000 字程度のペーパー50%

その他

科目ナンバー：(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) II	**英米文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、春学期に引き続いて、アメリカの小説、ノンフィクションなどを英語で丁寧に読んでいきます。日本語でも英語でも小説やノンフィクションなどを読むときには、「感動した！」「面白かった」「この類の話は好き！」「あまりツボに入らなかった」などいろいろな印象を受けることが今までの読書経験であったことと思います。作品を読んで感想を持つことはとっても大事なことです。しかし、これから先は「感動した！」「面白かった！」「この類の話は好き！」「あまりツボに入らなかった」などの感想を超えて、批評やバックグラウンドを踏まえた作品理解をしたり、他人の解釈や意見を聞いて、小説や作品についての理解を深めて関心を高めていき、自分の意見を述べていくことを目標としていきます。

授業内容

この授業では、春学期同様に受講者の学生が必ずレポーターとなります。そして、担当作品(あるいは作品の担当箇所)に関して、レポーターの学生が発表し、そして、教員がコメントをしていきます。
秋学期のテーマは、抑圧されている人間について、またその解放へつながる方法は何なのかを考えていきたいと思います。この方向で進めていく予定ですが、

第１回 オリエンテーション
第２回 Charotte Perkins Gilman, " The Yellow Wallpaper "
第３回 Charotte Perkins Gilman, " The Yellow Wallpaper "
第４回 Charlotte Perkins Gilman " The Yellow Wallpaper "
第５回 John Steinbeck The Pasture of Heaven " Chapter 5 Hilda と Helen の物語
第６回 John Steinbeck The Pastures of Heaven Chapter 5 Hilda と Helen の物語
第７回 John Steinbeck The Pastures of Heaven " Chapter 5 Hilda と Helen の物語
第８回 John Steinbeck "Johnny Bear"
第９回 John Steinbeck " Johnny Bear "
第 10 回 John Steinbeck " Johnny Bear "
第 11 回 Non-fiction
第 12 回 Non-fiction
第 13 回 Non-fiction
第 14 回 a. 秋学期の総括
b. 秋学期試験

履修上の注意

・各受講生が学期中に１回はレポーターになってもらう。レポーターを１回も担当しない場合、あるいは発表日当日に欠席をした場合は評価に非常に
不利になるので、気をつけること。
・テキストを読んでこないと、何の話をしているのかがわからなくなるので、必ずテキストを読んできて授業に参加すること。
・授業時のディスカッションにも、積極的に参加してください。意見が違っていることは当たり前なので、ためらわずに自分の意見を発表してください。
・遅刻や欠席は評価が不利になりますので、気をつけること。授業回数の３分の1の回数(4 回)に達した場合には、単位を認定することができませ
ん。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストは必ず読んでくること
発表者は必ずパワーポイントを作成して準備すること。
リアクションペーパーを毎回書くことになるので、辞書をひいて丁寧に作品を読んできてください。
また、参考文献などを積極的に読んでください。

教科書

ハンドアウトを配布します。
その他必要に応じて、資料を配布します。

参考書

中山喜代市『ジョン・スタインベック』清水書院
『ジョン・スタインベック事典』雄松堂書店
村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルドブック』
ケイト・ショパン『目覚め』宮北恵子、吉岡恵子訳 南雲堂
ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』集英社文庫
その他随時紹介します

課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパーの内容を翌週の授業で全員に共有します。
またコメントをつけて個人に返却します。

成績評価の方法

学期末試験 40% 中間レポート 30% 授業貢献(リアクション・ペーパー、課題の提出、授業参加)30%で 60%以上の学生を合格とします。
欠席と遅刻は減点対象となります。遅刻は２回で欠席１回と数えます。欠席が授業回数の３分の1の回数(4 回)に達した場合には単位を認定できません。
提出物の期限は必ず気をつけること。

その他

科目ナンバー：(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) II	**英米文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれた小説作品をじっくり読み、議論を通じて自分の考えをまとめることが大きな目的となります。各自がポイントとなりうる着眼点を用意し、どんな切り口が可能か、どんな切り口が面白いかを考えましょう。そのまとめとして、学期末には最終レポートを執筆していただきます。

授業内容

毎回、受講生それぞれの観点から発表していただきます。
01. イントロダクション
02. ZZ Packer の短篇(1)
03. ZZ Packer の短篇(2)
04. ZZ Packer の短篇(3)
05. ZZ Packer の短篇(4)
06. ZZ Packer の短篇(5)
07. ZZ Packer の短篇(6)
08. ZZ Packer の短篇(7)
09. ZZ Packer の短篇(8)
10. ZZ Packer の短篇(9)
11. ZZ Packer の短篇(10)
12. ZZ Packer の短篇(11)
13. ZZ Packer の短篇(12)
14. ZZ Packer の短篇(13)

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員が課題範囲を読み、単語・熟語を調べるのはもちろん、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

前提として、受講生全員が作品をじっくり読み、自分なりの考えを持った上で参加してください。その上で、担当者はあらすじや注釈、問いと考察をまとめた資料を作成してください。

教科書

使用しません。資料を配付します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはシステム上で回答します。

成績評価の方法

授業参加点(議論への参加、提出物など)50%
最終レポート 50%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー:(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) I	**英米文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
西尾 洋子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

William Shakespeare の喜劇『ヴェニスの商人』The Merchant of Venice をとりあげる。初めてシェイクスピアの原文に接する受講生にも無理のないよう, 簡潔な註にしたがって丁寧に読み進め, 詩的, 劇的な効果を存分に味わいたい。芝居の台詞としての英語の音の響きも大切にしたいので, 実際の上演舞台や映画を DVD で視聴しながら, 全体像を把握しつつ進める。英語の語感を深く豊かに養うことを目指す。

シェイクスピアの中でもとりわけ人気の高いこの作品は, 法をテーマに据え、民族, 経済, 恋愛, 策略, 正義など, 現代にも通じる問題を鋭く問いかける。戯曲なので「読む」という行為にとどまらず, Listening, Speaking を通して立体的に作品を体感する機会を設ける。また, 関連した他のシェイクスピア作品の一部も, 鑑賞したり読み比べたりする予定。

授業内容

第1回:講義の概要と計画説明
第2回・3回:イントロダクション(作品の全体像)
第4回~6回:Act1
第7回:Act1 のまとめ
第8回~10 回:Act2
第 11 回:Act2 のまとめ
第 12 回・13 回:Act3
第 14 回:前期の総括, 課題指示

必然的に授業外で各自が通読してくることが求められる。精読のために取り上げる英文はその都度, 教科書の中から選択, もしくは講師側でプリントして配布する。必ず丹念に辞書を引いて読むこと。台詞としての英語のリズムやイントネーションにも配慮しながら, 音読も実践していく。余地があれば新旧の批評も読みたい。
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

出席重視。劇作品をテンポよく味わうためにも予習は必須です。辞書必携。

準備学習(予習・復習等)の内容

英文のテクストを自分なりに精読予習しましょう。授業が一層味わい深くなります。語句調べは勿論のこと、音読も十分に。

教科書

William Shakespeare,Cambridge School Shakespeare : The Merchant of Venice(Cambridge University Press) New Edition

参考書

授業時に詳しく紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

主に授業時、教室にて直接、返却、講評、解説を行う。

成績評価の方法

学期末課題(50%)と日常点(50%)を総合評価。

その他

シェイクスピアの傑作喜劇『ヴェニスの商人』を通して, 格調高い英文に触れ, 劇世界の魅力を探究して下さい。スリリングで様々な発見に満ちた時間を作って行きましょう。
＊当科目は「事前登録」対象科目であり, 履修希望者多数の場合は抽選を行う。詳細は, 新年度配布の履修関連資料で確認すること。

科目ナンバー:(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) I	**英米文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

今から 2500 年近く前に書かれた『オイディプス王』の主人公は、よく「運命(アナンケー)」の犠牲者であると言われます。この作品がなぜ理想的な《悲劇》であるかについて、アリストテレスは『詩学』において論じています。一方今から 400 年ちょっと前に書かれたシェイクスピアの『マクベス』も悲劇とされますが、一見、自分ではどうしようもない力によって動かされているようにみえながらも、主人公マクベスが有する悲劇性はオイディプスのそれとは違うようです。それでは、どう違うのでしょうか？ この問を考えていきます。

この授業の履修目標は、大学にふさわしいアカデミックな議論ができるようにするということです。自分から問題点を提起し、そこからレファレンスをとりながら自分で問題の解決方法を探る。それを学友と議論することで、自分のペーパーへと結実させる。このような技術を、先に挙げた問を軸に身に付けてもらいたいと思います。

授業内容

【第 1 回】イントロダクション
【第 2 回】ソフォクレス『オイディプス王』
【第 3 回】ソフォクレス『オイディプス王』
【第 4 回】アリストテレス『詩学』
【第 5 回】アリストテレス『詩学』
【第 6 回】シェイクスピア『マクベス』
【第 7 回】シェイクスピア『マクベス』
【第 8 回】シェイクスピア『マクベス』
【第 9 回】シェイクスピア『マクベス』
【第 10 回】グループ発表
【第 11 回】グループ発表
【第 12 回】グループ発表
【第 13 回】グループ発表
【第 14 回】総括

履修上の注意

授業はリラックスした券囲気で進みますが, 皆さんの議論と発表が充実してなんぼです。私は議論の整理とお手伝いとして, できるだけテーマを明確に共有できるように心がけます。しかし用意のない発表や発言・質問を受けて一から解説をするということはしません。とは言っても, わかりにくい所はちゃんと説明しますから, ご安心を。翻訳は活用してくれてかまいませんが、原文が英語の作品の場合には、具体的な箇所を論じてもらう際に原文を参照してもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

何よりもテクストを読んでくることが重要です。『オイディプス王』、『詩学・詩論』(岩波文庫)、『マクベス』(どの訳本でも良い)は、該当回が始まる前に日本語で読んでおいてください。。

教科書

『オイディプス王』(岩波文庫)、『詩学・詩論』(岩波文庫)、『マクベス』(どの訳本でも良い)。英語の版は以下をおすすめします。
Shakespeare W. Macbeth. 2nd ed. Braunmuller AR, ed. Cambridge University Press; 2008.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

グループ発表を含む授業パフォーマンス 50%、2000 字程度のペーパー50%

その他

科目ナンバー:(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) I	**英米文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、1920 年代以降のアメリカの小説、ノンフィクションなどを英語で丁寧に読んでいきます。日本語でも英語でも小説やノンフィクションなどを読むときには、「感動した！」「面白かった」「この類の話は好き！」「あまりツボに入らなかった」などいろいろな印象を受けることが今までの読書経験であったことと思います。作品を読んで感想を持つことはとても大事なことです。しかし、これから先は「感動した！」「面白かった！」「この類の話は好き！」「あまりツボに入らなかった」などの感想を超えて、批評やバックグラウンドを踏まえた作品理解をしたり、他人の解釈や意見を聞いて、小説や作品の理解を深めて関心を高めていくことのみならず自分の意見を表現することを目標としていきます。

授業内容

この授業では、受講者の学生が必ずレポーターとなります。そして、担当作品(あるいは作品の担当箇所)に関して、レポーターの学生が発表し、そして、教員がコメントをしていきます。
春学期のテーマは過去に支配されてしまう人物、人間と過去の記憶にとって考えていきたいと思います。この予定でいきますが、場合によっては作品が変更になる場合もあります。
第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 自分にとって心に残る作品をひとつ取り上げて、Presentation をする。
第 3 回 短編を取り上げて、グループワークを行う。
第 4 回 John Steinbeck ”The Great Mountains”
第 5 回 John Steinbeck ”The Great Mountains ”
第 6 回 John Steinbeck ”The Great Mountains ”
第 7 回 John Steinbeck ”The Leader of the People ”
第 8 回 John Steinbeck ”The Leader of the People”
第 9 回 John Steinbeck ”The Leader of the People ”
第 10 回 John Steinbeck ”The Harness”
第 11 回 John Steinbeck ”The Harness”
第 12 回 F. S. Fitzgerald ”Babylon Revisited”
第 13 回 F. S. Fitzgerald ”Babylon Revisited”
第 14 回 a. 春学期の総括
b. 春学期試験

履修上の注意

・各受講生が学期中に 1 回はレポーターになって発表をします。レポーターを 1 回も担当しない場合、あるいは発表日当日に欠席をした場合は評価に非常に不利になるので、気をつけること。
・テキストを読んでこないと、何の話をしているのかわからないし、時間の無駄となります。ゆえに、必ずテキストを読んできて授業に参加すること。
・授業時のディスカッションにも、積極的に参加してください。他の学生と意見が違っていることは当たり前なので、ためらわずに自分の意見を発表してください。
・遅刻や欠席は評価が不利になりますので、気をつけること。授業回数の 3 分の1の回数(4 回)に達した場合には、単位を認定することができませ
ん。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱う作品は発表者もそうでない学生もテキストは必ず読んでくること
発表者は必ずパワーポイントを作成して準備すること。
リアクションペーパーを毎回書くことになるので、辞書をひいて丁寧に作品を読んできてください。
また、参考文献などを積極的に読んでください。

教科書

ハンドアウトを配布します。
(授業時に紙で配布するか、Oh-o meiji 上で配布予定)
その他必要に応じて、資料を配布します。

参考書

中山喜代市『ジョン・スタインベック』清水書院
『ジョン・スタインベック事典』雄松堂出版
村上春樹『ザ・スコット・フィッツジェラルドブック』中央公論新社
フィッツジェラルド『グレート・ギャツビー』野崎孝訳 新潮文庫
(The Great Gatsby に関しては、多くの訳があるので好きなバージョンで構いません)
その他随時紹介していきます

課題に対するフィードバックの方法

リアクション・ペーパーの内容を翌週の授業で全員に共有します。
またコメントをつけて個人に返却します。

成績評価の方法

学期末試験 40% 中間レポート 30% 授業貢献(リアクション・ペーパー、課題の提出、授業参加)30%で 60%以上の学生を合格とします。
欠席と遅刻は減点対象となります。遅刻は 2 回で欠席 1 回と数えます。欠席が授業回数の 3 分の1の回数(4 回)に達した場合には単位を認定できません。
提出物の期限は必ず気をつけること。

その他

科目ナンバー:(AL)IND212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(2年) I	**英米文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれた小説作品をじっくり読み、議論を通じて自分の考えをまとめることが大きな目的となります。各自がポイントとなりうる着眼点を用意し、どんな切り口が可能か、どんな切り口が面白いかを考えましょう。そのまとめとして、学期末には最終レポートを執筆していただきます。

授業内容

毎回、受講生それぞれの観点から発表していただきます。
01. イントロダクション
02. Joyce Carol Oates の短篇(1)
03. Joyce Carol Oates の短篇(2)
04. Joyce Carol Oates の短篇(3)
05. Joyce Carol Oates の短篇(4)
06. Joyce Carol Oates の短篇(5)
07. Joyce Carol Oates の短篇(6)
08. Joyce Carol Oates の短篇(7)
09. Joyce Carol Oates の短篇(8)
10. Joyce Carol Oates の短篇(9)
11. Joyce Carol Oates の短篇(10)
12. Joyce Carol Oates の短篇(11)
13. Joyce Carol Oates の短篇(12)
14. Joyce Carol Oates の短篇(13)

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員が課題範囲を読み、単語・熟語を調べるのはもちろん、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

前提として、受講生全員が作品をじっくり読み、自分なりの考えを持った上で参加してください。その上で、担当者はあらすじや注釈、問いと考察をまとめた資料を作成してください。

教科書

使用しません。資料を配付します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはシステム上で回答します。

成績評価の方法

授業参加点(議論への参加、提出物など)50%
最終レポート 50%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

British Culture Through British Media 1:
This course explores Post-War British culture and social history via a selection of the most unique and fascinating films and television shows made in Britain over the last century or more. Particular attention will be paid to the relationship between the films and their changing social and political context, including shifting ideas about race, gender and sexuality. The first term will begin with a recent film, before looking at silent films, documentaries, and dramas that tell powerful stories about British society. The second term will consider more recent works that explore British culture from the 1990s onwards.
本講義では、過去およそ一世紀にわたり英国で制作された、最も独自性に富み魅力的な映画やテレビ番組を通して、戦後イギリスの文化と社会史を探究します。
特に、作品とその時代ごとの社会的・政治的背景との関係、そして人種・ジェンダー・セクシュアリティに関する考え方の変化に注目します。
前期では、まず近年の作品を取り上げ、その後、サイレント映画、ドキュメンタリー、ドラマなど、イギリス社会について力強い物語を語る作品を扱います。
後期では、1990 年代以降のイギリス文化を描いた比較的新しい作品を検討します。

授業内容

1. Introduction
2. Exit Through the Gift Shop (2010) 1
3. Exit Through the Gift Shop (2010) 2
4. Exit Through the Gift Shop (2010) 3
5. Elgar (1962) 1
6. Elgar (1946) 2
7. Silent films 1 (selection)
8. Silent films 2 (selection)
9. The Naked Civil Servant (1969) 1
10. The Naked Civil Servant (1969) 2
11. Cathy Come Home (1966) 1
12. Cathy Come Home (1970) 2
13. Blacks Britannica (1978) 1
14. Blacks Britannica (1978) 2
15. Blacks Britannica (1978) 3
16. Conclusion

履修上の注意

Students will be expected to contribute to class discussion and complete regular homeworks. Students are also strongly advised to purchase and bring to class the correct editions of set texts as we will be discussing them together in class and need to refer to them.
学生はクラステ☒ィスカッションに貢献し、定期的な宿題を完了することか☒求められ ます。また、クラスて☒ともに議論しなか☒ら参照する必要か☒あるため、正しい版のセ ットテキストを購入してクラスに持参することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

Students must complete regular homework and seminar reading.
学生は定期的な宿題および☒リーテ☒ィング☒を完了する必要か☒あります。
Students must have attained at least intermediate skills in English. They must also be willing to speak, read and write in English.
学生は少なくとも英語て☒中級のスキルを習得している必要か☒あります。また、英語 て☒話し、読み、書くことをいとわない必要か☒あります。

教科書

A course textbook will be provided.
コーステキストを提供する。

参考書

Justine Ashby. British National Cinema. London: Routledge, 1997.
Dougill, J. E. and Risa Kotera, British Culture in Popular Movies (Tokyo: Eichosa, 2003).
Raymond Durgnant, A Mirror for England: British Movies from Austerity to Affluence (London: British

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% weekly homeworks; 60% essays. 週こ☒との宿題 40%。エッセイ 60%。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「アメリカ文学における “sympathy”(共感)の行方」を主題に、ロマン主義からモダニズム(19 世紀半ばから 20 世紀前半)のアメリカ文学作品を探索していきます。
アメリカの国家的アイデンティティが形成され、アメリカ独自の文学が登場したアメリカン・ルネサンスの詩人ホイットマン(Walt Whitman)は、「わたしは共感を証明する者」(“I am he attesting sympathy” [“Song of Myself” section 22])と歌い、他者の苦しみに「共感」する自己を表現しました。他者への「共感」を夢見るのは文学の宿命ですが、それを実現可能なものとして描くかどうかに、個々の作家の特徴や時代性が表れます。ホイットマンが描いた自己と他者が融合するような親密な関係を、同時代のメルヴィル(Herman Melville)も『白鯨』のイシュメイルとクィークェグを通して描きますが、メルヴィルは「バートルビー」では最後まで理解し合えない人間の哀しさを語ります。ディキンスン(Emily Dickinson)の詩の「わたし」は、他者を自己とは異質なものとして距離を置いて観察しますが、そこには詩人の冷徹な観察眼だけでなく他者性の尊重が表れています。自己(self)と他者(Other)の差異を乗り越えて「共感」しようとするとき、他者を簡単に自己と「同じ」だと主張するのは、相手の固有の特性＝他者性を軽視した抑圧的な包摂になる危険があります。20 世紀以降の作家や哲学者は同一性に警鐘を鳴らし、他者性を慎重に描き出すようになりました。しかし、自己と他者は「違う」ので「分からない」という認識に留まることには、「共感」への希望が見出せません。トウェイン(Mark Twain)の傑作『ハックルベリー・フィンの冒険』で少年ハックが南部共同体の黒人差別から脱却してジムを救う決意に至るのは、人種の垣根を越えた「共感」を抱くようになったからでしょう。
デモクラシー理念と人種・ジェンダー・エスニシティの差異軸の構造という矛盾を孕みながら超大国に向かう 19-20 世紀初頭のアメリカの文学には、自己と他者の間の「共感」の(不)可能性が多様に表現されています。この主題を通して、アメリカの問題だけでなく、繋がっているようで孤独な現代人のあなたの自己と他者の関係について考えてみましょう。

授業内容

(1) 探索するアメリカ文学作品
19 世紀半ばのアメリカン・ルネサンスから 20 世紀初頭までを中心に、詩、散文ともに広く読みます。扱う作家は、ホイットマン、メルヴィル、ポー(Edgar Allan Poe)、ホーソーン(Nathaniel Hawthorne)、ディキンスン、トウェイン、ウォートン(Edith Wharton)、リー(Li-Young Lee)などを予定しています。
(2) 卒業論文に向けた研究論文執筆の訓練
英語のテクストを精読し、分析する力、自分の主題を見つけて自分の意見を表現する言語能力、主題についてリサーチをする技術を、始めは発表を通して訓練します。大きな課題として、学期末のレポート(3200～4000 字)を完成させましょう。
(3) 授業予定
《春学期》
1.イントロダクション 2~3. Edgar Allan Poe 4～5. Walt Whitman 6～9. Herman Melville 10～12. Nathaniel Hawthorne 13～14.春学期末レポート提出ならびに発表
《秋学期》
1.イントロダクション 2～3. Emily Dickinson 4～7. Mark Twain 8～10. Edith Wharton 11. Li-Young Lee 12～14. 秋学期末レポート提出ならびに発表
＊授業予定は、履修者の習熟度や関心に応じて多少変更します。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められます。発表担当者(複数)は配布資料(作者・時代背景・作品の翻訳と分析・批評について調べたこと。また自分の意見)を作成します。担当者以外も作品を精読して授業に臨み、積極的に議論に参加しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修上の注意を参照してください。

教科書

ポー、ホイットマン、ディキンスン、リーの詩作品はクラスウェブを通してオンラインテクストや PDF 教材を配布します。小説は翻訳を参考にしながら、原文について議論をしますが、原書の版は自由です。扱う(予定の)小説作品の翻訳書は、メルヴィル『白鯨』、ホーソーン『緋文字』、トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』、ウォートン『無垢の時代』などです。

参考書

諏訪部浩一・梶原照子 他 共著『アメリカ文学入門[新版]』(三修社, 2025)

課題に対するフィードバックの方法

口頭発表に関しては、発表の仕方や配布資料の改善点を授業中に指導します。学期末レポートのプロポーザル、第一原稿、最終原稿は添削して返却します。

成績評価の方法

学期末レポート 50%、発表・議論への参加・その他の課題 50%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が成績評価の前提です。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業のテーマ】 シラバスでこのようなことを書くのも気が引けるのですが、まずは「大学での文学教育とはどうあるべきか」というやたらと大きな問いを投げかけましょう。私の個人的立場は、ルーベン・ブラワーが 1950 年代にハーバード大の授業で言ったと伝えられていることに大いに共鳴します。それによればこうなります。「学生は、実際にテクストで生起している言葉の特定的用法によって裏付けえることしか書いてはならない。言いかえれば、まずテクストを精読するところからはじめなければならない。一足飛びに人間経験とか歴史といった一般的文脈に話を持っていってはならない。もっとつつましく、あるいは謙虚に、トーン、フレーズ、文彩の特異的用法に出会ったときのとまどいからはじめなければならない。それは、至極当然のとまどいなのだ――もし君がこれらの用法に気付くだけの注意力がある読者であるならば。そしてもし君が、文学上の知識として教えこまれ通用しそうな出来合いの思想で、自分の無理解を覆いかくそうとしないだけの誠実な読者であるならば。」

他方、1980 年代くらいから英米ではマルクス、フロイト、記号論、そしてポストモダン思想などなどの「理論」に依拠した文学研究手法が盛んになります。現代でもこれらの思想群は、大学での人文学教育の必読リストに挙げられています。同時に、最近ではその弊害も指摘されるようになりました。しかし、これらの「理論」が現在でも「文学を学ぶ大学生なら、かじっていなくてはならないこと」として英米で扱われているのは事実です。学部生レベルでそうなのです。

結局は「精読も理論もどっちも大事だよ」としかいえないことだとおもいます。しかし、だからといって日本の多くの大学の学部レベルでの英米文学ゼミにおいて、この精読と理論という両輪を実践的に学ぶことを謳うことは忌避されてきたのではないかと思うのです。「精読」を謳うと「どうせ訳読でしょ」と学生は嫌がります。「理論」を謳うと「難しすぎて無理！」となります。

それでも私は両方やってみたいと思っています。理論がもたらす新しいものの見方。それが可能にする新たな読みの可能性。もちろん授業で読む「理論」を金科玉条のようにかかげるつもりはありません――批判可能性についても指摘します。しかし何よりも学部生のときから、精読と理論がもたらす効用を感じてほしいのです。

ではどうすればよいか。春学期は「理論」っぽいテクストを精読します。訳読一辺倒ではけっしてありません。基本的に問題を出して、それについて考えるという形です。

まず John Berger,Ways of Seeing (1972) を読みます。分かりやすい英語ながら、内容が深い。特に第三章は、西洋ヌード絵画の歴史をジェンダーの側面から考えるものですが、ジェンダー論を展開するためには必須の内容が含まれています。皆さんにはこちら側が用意した問いに答えてもらうことにしましょう。もちろん、発表と議論の機会は常に設けます。

Ways of Seeing を読むだけで時間切れにならなければ、儲けものです。訳本でも結構なので、秋学期にやる『お気に召すまま』を読みましょう。

【到達目標】1)文学作品に向かうにあたっての理論への理解を構築する、2)卒論執筆のための最低限の英語力を養う、3)理論書、参考書の見つけ方、使い方に触れる、4)発表・議論において、自分の理解と見方を表現する能力を醸成する、5)論文執筆のための手順を経験する。

授業内容

第1回:導入―「理論 (theory)」とは
第2回:Ways of Seeing(1972)
第3回:Ways of Seeing(1972)
第4回:Ways of Seeing(1972)
第5回:Ways of Seeing (1972)
第6回:Ways of Seeing(1972)
第7回:Ways of Seeing(1972)
第8回:Ways of Seeing(1972)
第9回:Ways of Seeing(1972)
第 10 回:Ways of Seeing(1972)
第 11 回:Ways of Seeing(1972)
第 12 回:Ways of Seeing(1972)
第 13 回:ペーパーに向けての議論
第 14 回:ペーパーに向けて、学生からの問に教師が答えます。
教材の理解だけではなく、論文執筆に向けての発想の手法をディスカッションを通じて習得してもらい、卒論執筆に備えるつもりです。

履修上の注意

授業はリラックスした雰囲気で進みますが、予習は必須です。皆さんの議論と発表が充実してなんぼです。私は議論の整理とお手伝いとして，できるだけテーマを明確に共有できるように心がけます。しかし用意のない発表や発言・質問を受けて一から解説をするということはしません。とは言っても，わかりにくい所はちゃんと説明しますから，ご安心を。

教師の問いかけに答えやすいよう、クエスチョン・シートは用意しておきます。翻訳は活用してくれてかまいませんが、原文が英語の作品の場合には、演習の場で具体的な箇所を論じてもらう際に原文を参照してもらいます。

この授業は BYOD をおすすめします(教室ではタブレットでも)。ただし、紙と筆記用具も必ず持ってきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中評価は、予習しているかどうかが鍵となります。進みそうな箇所は、かならず毎回説明できるようにしておいてください。

教科書

John Berger,Ways of Seeing(Pearson;, 2000 [1972]). ネットでお買い求めください。電子書籍も可。

参考書

必要に応じて指示、配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業中ならびに Oh-o! Meiji 上でのコメント付き返却

成績評価の方法

約 600 字の段落×8(=4800 字)のペーパー課題を1本出してもらいます。評価は授業中評価(教師からの問いかけに対する答え、討論への貢献)50%，課題 50%が目安です。

その他

4年生とも意見を交換できるような機会を設けようと思っています。できれば合宿も(夏)。なお、演習科目は必修科目です。言うまでもありませんが、出欠は必ずとります。

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、アメリカ文学の中でもSF・ホラー・ファンタジーなどといった小説を読み、分析する方法を考えます。かつて、このような種類の小説は「主流文学」とは異なる「ジャンル小説」にすぎないとして、一段低く評価されることもありました。しかし実際のところ、両者の境界はあいまいであるだけでなく、ジャンル小説から影響を受けた主流文学なども、近ごろでは珍しくありません。いわゆる「純文学」から純然たる空想の世界まで、多種多様な物語が渾然一体となって共生している――これもまた、アメリカ文学の風景のひとつだろうと思います。

授業の目標は、①英文テクストを精読しながら、②ふんだんに観察・分析を施し、③考えたことを適切な文章にまとめることです。これらの能力は卒業論文の執筆に必要なだけでなく、卒業してからも役に立つスキルですので、がんばって身につけましょう。

授業内容

春学期には短篇小説や関連する批評などを扱います。
01. イントロダクション
02. Ursula K. Le Guin (1)
03. 関連文献
04. Samuel R. Delany
05. 関連文献
06. H. P. Lovecraft
07. 関連文献
08. Shirley Jackson
09. 関連文献
10. James Tiptree, Jr.
11. 関連文献
12. Ursula K. Le Guin (2)
13. 関連文献
14. まとめ

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員が課題範囲を読み、単語・熟語を調べるのはもちろん、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備しましょう。なお、扱う作家・作品は変更される可能性もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者は、テクストを読み込んだ上で資料を作成してください。発表があたっていないときには、テクストを丹念に予習してきてください。いずれにせよ、授業での議論にきちんと参加するためには、相当な時間を予習に充てていただく必要があるでしょう。

予習について。わからない語句について辞書で確認するのはもちろん、内容的な不明点についても自分なりに考えてくることが必要です。予習の段階では完全に答えが出ないかもしれませんが、その場合でもあらかじめ疑問点をまとめておきましょう。

教科書

使用しません。資料を配付します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはシステム上で回答します。

成績評価の方法

授業参加点(発表・コメント・課題など)50%
最終レポート 50%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このゼミでは、主に二十世紀の英文学(第一次・第二次世界大戦前後の英文学)に焦点を合わせ、それらの作品を通して、いま私たちはどのような時代に生きているのか、考察を深めていきます。

手始めとして、〈読書〉体験について改めて考えてみたいと思います。一般的に、読書とは作者との対話だと言われますが、フランスのある作家は、作者というよりも(自分との対話)にほかならないと考えました。一冊の書物を紐解き、新しい世界に出会う読者は、見知らぬ土地を訪れる旅人にたとえることができるかもかもしれません。作家(芸術家)は「世界に対して私たちを無関心のままにさせておくような醜さと無関心のヴェール」を少しだけ持ち上げ、ひとつの世界を示してくれますが、その先は読者に任されます。ヴェールの向こうをどんな風に眺めたら良いのか、どの辺りに眼を凝らしたら良いのか、そういったことまでは、作家は教えてくれません。

そして、読み終えた本を閉じた瞬間、旅先から日常に戻るように、読者は己の世界に帰還します。ここから自分とのコミュニケーションが始まると言えるでしょう。この読書体験をどのように受け 止め、どんな言葉で語ったら良いでしょうか。皆さんの場合、最終的に卒業論文を執筆するために、「読書感想文」ではなく「文学研究」とは何かをまず理解しなければならないでしょう。素晴らしい作品と出会い、衝撃を受けるというのは幸せな体験ですが、その感動をどう表現するかが重要です。感じたことや思ったことをそのまま書けば、ただの「独り言」になりかねません。なので、そこからもう一歩進んで、自身の感覚や感情に問いかけてみること、つまり、〈自分との対話〉が必要になります。

当ゼミでは、物事を自分の頭で考え、自分の言葉で表現するとはどういうことなのか、自分の言葉をどのように探したらよいのか――これらの問題について、皆さんと一緒にじっくり考えたいと思います。参加者の関心領域やクラスでの議論の方向に応じて、視聴覚資料も利用しながら、さまざまな文学作品に触れる予定ですので、リラックスして取り組んでください。

授業内容

ジョージ・オーウェルと E・M・フォースターのエッセイを中心に進めていく予定です。
担当者による部分的訳読・気づいたことや疑問点などの発表、クラス内での議論を行います。リアクションペーパーを提出してもらうこともあります。
＊以下はあくまで予定ですので、変更する場合もあります。
(1)授業内容の説明／参考文献の紹介／初回アンケート
(2～6)George Orwell, "Politics and the English Language" 読解:
・オーウェル紹介／各自の感想・疑問点の確認
・オーウェルとスペイン内戦
・1930 年代のイギリスについて
・映画『大地と自由』(Land and Freedom, 1995)紹介・上映:スクリプトなどの資料配布
・参考:ユーゴ紛争、パレスチナ問題などについて
(7～13)E. M. Forster, "What I Believe" 読解:
・フォースター紹介／各自の感想・疑問点の確認
・「ケンブリッジ・ファイヴ」(5人のダブルエージェント)紹介
・G・グリーン『ヒューマン・ファクター』(G. Greene, Human Factor)紹介
・映画『アナザー・カントリー』(Another Country, 1984)紹介・上映:スクリプトなどの資料配布
・パブリックスクールと第一次世界大戦の関係
・第一次世界大戦期の戦争詩人について

(14)春学期のまとめ／レポートについて説明

履修上の注意

1. 辞書を持参すること。基本的に、携帯電話の使用は認めません。
※辞書がない場合は、あらかじめ申し出てください。
2. 長時間にわたる、あるいは慢性的な「居眠り」に関しては、出席とはみなしません。
3. 15 分以上遅れての入室は、原則として認めません。

準備学習(予習・復習等)の内容

まずは日本語でかまわないので、以下の作品に目を通しておくと良いでしょう。
・ジョージ・オーウェル:
『動物農場』(岩波文庫、2009 年／ちくま文庫、2013 年(翻訳:1984 年)／ハヤカワ epi 文庫、2017 年／角川文庫、2025 年)

『一九八四年』(ハヤカワ epi 文庫、2009 年／角川文庫、2021 年)

『オーウェル評論集』(岩波文庫、1982 年／［新装版］平凡社ライブラリー ①～④、2009 年) ※ともに品切れ。岩波版は電子書籍あり。

・E・M・フォースター:
『フォースター評論集』(岩波文庫)
『眺めのいい部屋』(ちくま文庫)

教科書

プリントを配布、または、Oh-o! Meiji にデータをアップします。

参考書

必要に応じて、授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点 50%:
担当発表・授業内での発言・授業後のリアクションペーパーの内容等から判断します。
2. 期末レポート 50%
※注意:原則として、欠席は4回まで。それを超えると、期末レポートの提出資格を失います。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アメリカ文学、および、それに関連するテクストを分析・考察します。20 世紀アメリカ文学、とくに「南部文学」「モダニズム文学」「失われた世代」といった枠に属する文学者がどのように／なぜ小説を書いたのか、その方法と内実を明らかにしつつ、人間の思考と言動を深く考察します。文学テクストを丹念に読み解きながら、人物の心の襞に分け入り、その振る舞いに表象される時代と文化を濃やかに批評する力を養っていきます。

授業の共通テーマとしては、近代と伝統、そのはざまを生きる人間の営みを想定します。父と子・母と子・祖父母と孫との間での葛藤と乗りこえ、新しい恋愛のかたちと新しい夫婦のあり方、人種・ジェンダー・階級の差異を越境しうる親密性などを分析します。この時期の文学作品の多くは映画化されているので、視覚表象への翻案を検証し、文学テクストの放つ現代的主題もとらえようと思います。

文学テクストを精緻に読みこみ、過去の解釈と対話しつつ、自らの思考を粘り強く言葉で紡ぐとき、過去から現在、現在から未来へと開かれた円環運動のなかで、他者と世界への深い理解とともに、現代を生きぬく方途を把捉できるはずです。授業とレポートをとおして、4年次の卒業論文に結実するテーマをみなで考えながら、論文執筆の方法論も学んでいきます。

授業内容

春学期は、まず「失われた世代」の時代精神をつかまえるために、スコット・フィッツジェラルド、ないしは、アーネスト・ヘミングウェイの作品を読み、同時に、ウディ・アレン監督の映画『ミッドナイト・イン・パリ』もとりあげます。第一次大戦後のアメリカ人(文学者・芸術家)がなぜヨーロッパに渡り、そこで何を模索し表現しようとしたのか、異国体験をへて、アメリカや人間のあり方について何が見えてきたのか、考えていきます。文学テクストの奥深い描出、視覚芸術のあざやかな表象、両者をリンク・共振させながら、「失われた世代」の文学をとらえ、小説が描く人間と文化の本質を明らかにします。

初回の授業で発表担当者とコメンテイターを割り当てます。担当者は協力して、あらすじ・語注・考察・設問をまとめたレジュメを作成し、授業で発表します。発表に引き続き、コメンテイターが応答し、教員の説明を交え、クラス全体でディスカッションをします。授業後、受講者全員リアクションペーパーの提出が求められます。学期末にレポートを提出します。

1) シラバス確認、作者、作品の「冒頭」
2) 失われた世代の小説
3) 失われた世代の小説
4) 失われた世代の小説
5) 失われた世代の小説
6) 失われた世代の小説
7) 失われた世代の小説
8) 失われた世代の小説
9) 失われた世代の小説
10) 失われた世代の小説
課題図書レポートの提出
11) 失われた世代の小説
12) 失われた世代の小説
13) 失われた世代の小説
14) まとめ、学期末レポートについて

履修上の注意

テクストと対話しながら自らの考えを練り上げることが大切です。学期はじめは、長篇小説の冒頭や短篇小説を精読します。学期前半から後半は、該当シーンをみなでディスカッションし、自らの思考や分析を相対化し深めていきます。話すよりも書くことを好む学生は、リアクションペーパーに自らの考えを積極的にしるしてほしいと思います。演習は、柔軟な自己表現の場であり、他者から/他者とともに学ぶ共振の場ととらえてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講者全員、課題範囲を読み、単語・熟語調べや和訳だけでなく、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるよう準備することが大切です。授業後は、範囲を再読し考察を深め、次週につなげてください。

教科書

洋書を生協で購入してください。適宜、プリントを配布します。

参考書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房、2021 年
『ロスト・ジェネレーション―異郷からの帰還』マルカム・カウリー著、みすず書房、2008 年。

課題に対するフィードバックの方法

提出したリアクション・ペーパーのなかから、興味深い考えや視点を次回の授業冒頭で紹介し、理解を深めます。

成績評価の方法

授業への貢献度・討論・提出物(30%)、発表・コメント(30%)、レポート(40%)。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

British Culture Through Multimodal Texts

みなさんは英国についてどのようなイメージを持っているでしょうか。このクラスは British Culture, British Cultural Identities についての知見を深めることを第1の目標とします。みなさんが British Culture という言葉を聞いて頭に浮かぶイメージはどこから来ているのでしょうか。「文化研究」とは共通理解がありそうでない曖昧な領域ですが、このクラスでは英国という国、国民性をさまざまな「テクスト」媒体を通じて考えていきます。このクラスでの「テクスト」は文字テクストに限定されません。文学テクストの他にメディアテクスト(報道・広告)、芸術作品(絵画・音楽)など文字・図像・映像・音像といった複数の「モード」が介在するマルチ・モーダルテクストです。

第2の目標は、上記の「テクスト」の読解実践を通じて得られた知見をもとに自分の考えを自分の言葉で的確にアウトプットすることです。「話すアウトプット」としては、クラスでの発言やディスカッション、プレゼンテーション、「書くアウトプット」として学術論文の執筆プロセスをクラスでカバー、段階を踏んだ学術論文作成の実践を行います。各学期1本ずつ(春学期は英語論文必修、秋学期は英語または日本語論文)作成の実践を通じて、2年次までに習得した学術論文の基礎をもう一度確認、4年次の卒業論文執筆への橋渡しとなることを希望します。

授業内容

＜春学期＞

みなさんがすでに持っている英国のイメージについて確認することからスタートし、British Culture を学ぶ上で必要となる基本的情報を得ることが春学期の主な目標です。ただし、情報を一方的に詰め込むのではなく、隔週のテーマに沿った具体的な「テクスト」を読みながらディスカッションを中心に授業を進めていきます。テーマによっては日・英比較文化的視点も取り入れます。春学期は、学術論文作成の基礎(特に主題設定や参考文献検索、引用の方法など)を今一度確認し、英国文化に関連した論題について 1,500 語程度の英語論文を期末までに1本完成させます。

Week-1 オリエンテーション「英国」のイメージについて
Week-2 英語と英語圏―言語と階級
Week-3 英国の地理・地域性
Week-4 英国文学概観-1
Week-5 英国文学概観-2
Week-6 英国の宗教・国民性(アイデンティティー)
Week-7 Mid-term Presentation
Week-8 英国の音楽・美術
Week-9 英国の映像文化とメディア-1
Week-10 英国の映像文化とメディア-2
Week-11 英国の教育と社会階層-1
Week-12 英国の教育と社会階層-2
Week-13 英国(英語)と日本(日本語)―比較文化・言語的視点から
Week-14 まとめ・期末課題論文ピアフィードバック

履修上の注意

このクラスは講義科目ではありません。従って、みなさんの積極的な授業参加が絶対条件となります。人前での発言が苦手という人も多いかと思いますが、自分の考えを的確に相手に伝えるスキルを身につける練習の場として毎回の授業に臨んでください。授業で扱うテクストに対しては、フィードバック・質問を提出してもらいます。このクラスでは、評価をするのは教員だけではありません。特に学術論文執筆過程においては、ピア・フィードバックも可能な限り行います。文学部の学生さんにとって「勉強」の機会は教室の外にも沢山あります。授業で扱うことのできるテクスト量は限られているため、書籍に限定せず、映画、絵画展、博物館、観劇、TV 番組、新聞、雑誌、インターネット記事、SNS と様々な「マルチ・モーダルテクスト」についてのコメントを Reading Log に記録してもらいます。「面白かった」「つまらなかった」などの「ひとことコメント」ではなく、なるべく具体的に自分のアイディアを言語化(図式・イラストも歓迎)する練習です。Reading Log は定期的(1ヶ月に1回程度)に授業に持参、チェックします。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で扱うテクストの内容は最低限把握した状態で授業に臨むこと。原則、授業時間を使って英文テクストの英文和訳作業はしません。(ただし、翻訳論に絡める場合は別)

教科書

下楠 昌哉, 岩田 美喜『イギリス文化入門＜新版＞』三修社 2023.
迫 桂・徳永聡子『英語論文の書き方―入門』慶應義塾大学出版会 2012.

参考書

Fox, Kate. Watching the English: The hidden rules of English behaviour. Hodder, 2004.
Mayer, Erin. The Culture Map. Public Affairs, 2014.
O' Driscoll, James. Britain for learners of English. Oxford University Press, 2017.
Storry, Mike

課題に対するフィードバックの方法

ピアフィードバックを経て、最終的な評価を返却します。

成績評価の方法

春学期・秋学期ともに 期末課題論文 50%;プレゼンテーション20%;リアクションペーパー20%;
読書記録ノート(Reading Log)10%

その他

毎回の授業の一部を英語で行います。普段は英語を話す機会がない人もこの機会を利用してください。自分の考えをなるべく妥協せずに英語で表現できることが目標です。

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年) I	**英米文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期はニューヨークやシカゴといった都市が舞台となる作品を取り上げ、都市(特定の時代・空間によって切り取られる領域)がどのように表象され、作品にどのような影響を与えるのかを考えます。都市の歴史や文化などについてもリサーチします。秋学期は特にゴシック文学に分類される作品を読み、作品の「ゴシック」的要素について考えます。キャラクターの描写やプロットの展開、スタイルなどの観点から「ゴシック」的要素がどこにあるのか、そして恐怖の感覚はどのようにもたらされるのか、などクラス内で疑問点を共有しながら進めていきます。作品分析のため、批評理論も紹介していきます。

授業の目標は、作品を深く味わうという主観的な経験を、クラス内のディスカッションを通して客観的に共有されうる形式、つまりレポートとしてまとめることにあります。そのために、①予習、授業、復習を通して各参加者がそれぞれ疑問や考えをもつこと、②リサーチによって発展的にアイデアを広げること、③そして最後には一つの議論としてレポートにまとめる、という一連のプロセスを方法論として確立していきます。気になる点を見つける、まとめる、答えをだす、そしてそれらを記録するという作業は、授業のためだけではなく、今後の人生でも必要となるスキルです。リサーチの段階で参考文献や先行研究を見つけるという作業に関しては授業内でも実践を交えて説明します。

授業内容

春学期はセオドア・ドライサーやスティーヴン・クレイン、アルフレッド・ケイジンなど複数の作家をとりあげ、作品に見られる「歩く」描写に焦点を合わせます。秋学期は American Gothic Tales (1996)から作品を選び、読んでいきます。作品の良さがどこにあるのか、「キャラクター」「プロット」「スタイル」の三つに分解して分析します。文学作品に加え、文学批評に関わる短いエッセイや記事も毎回読みます(英語／日本語)。言語の働きについて、翻訳について、映像へのアダプテーションについてなど様々な角度から思考を深める機会を持ちます。各学期の後半にはレポートの題材探しを授業内で行います。各自が興味のあるトピックについて考えを共有し、またレポートの構成についても確認します。

中心となる発表者とコメンテーターを毎回それぞれ一名決めます。発表者は用意したハンドアウトを読み上げた後、コメンテーターがコメントおよび議論となる点をクラスに提示します。その後、発表者以外の参加者からの発言を聞きます。エッセイおよび記事についても、内容を簡単にまとめる発表者を毎回一名決めます。

履修上の注意

自分がどこに着目したか、単語レベル、キャラクターレベル、プロットレベル等で必ず毎週授業までに考えをまとめておくこと。

なお、現代的な観点から見てふさわしくない表現や、暴力的な表現が扱う文学作品で用いられることもある。

「良くない」表現かもしれないが、文学批評をする以上、それらの表現が当時持っていた意味や、あえて作品中で使用されている意味を考える必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では不明な点や気になった点をまとめておき、授業を通してそれらが明確になったかどうか復習で確認する。担当者は「あらすじ」、「重要な語彙」、「疑問点と考察」の 3 点を中心にハンドアウトを作成する。

当然のことながら、自分の読みとは異なる読みを他の履修生は提示すると思われる。予習の段階で、他にどのような読みが可能であるか、客観的に考える練習をしてみると良い。

教科書

授業内で配布します。

参考書

村上春樹・小川高義による日本語訳『超短編小説 70』(文藝春秋、1994 年)
『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容を翌週取り上げ、コメントする。

成績評価の方法

出席・授業内コメント 25%、授業内発表 35%、学期末レポート(4,000 字前後)40%

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

British Culture Through British Media 2:
This course explores Post-War British culture and social history via a selection of the most unique and fascinating films and television shows made in Britain over the last century or more. Particular attention will be paid to the relationship between the films and their changing social and political context, including shifting ideas about race, gender and sexuality. The first term will begin with a recent film, before looking at silent films, documentaries, and dramas that tell powerful stories about British society. The second term will consider more recent works that explore British culture from the 1990s onwards.
本講義では、過去およそ一世紀にわたり英国で制作された、最も独自性に富み魅力的な映画やテレビ番組を通して、戦後イギリスの文化と社会史を探究します。
特に、作品とその時代ごとの社会的・政治的背景との関係、そして人種・ジェンダー・セクシュアリティに関する考え方の変化に注目します。
前期では、まず近年の作品を取り上げ、その後、サイレント映画、ドキュメンタリー、ドラマなど、イギリス社会について力強い物語を語る作品を扱います。後期では、1990 年代以降のイギリス文化を描いた比較的新しい作品を検討します。

授業内容

1. The Crying Game (1992) 1
2. The Crying Game (1992) 2
3. This is England (2006) 1
4. This is England (2006) 2
5. Tinker, Tailor, Soldier, Spy (2012) 1
6. Tinker, Tailor, Soldier, Spy (2012) 2
7. McQueen (2018) 1
8. McQueen (2018) 2
9. Small Axe (2020) (selection) 1
10. Small Axe (2020) (selection) 2
11. Small Axe (2020) (selection) 3
12. Grenfell: Uncovered (2025) 1
13. Grenfell: Uncovered (2025) 2
14. Music videos
15. Conclusion

履修上の注意

履修上の注意:
Students will be expected to contribute to class discussion and complete regular homeworks. Students are also strongly advised to purchase and bring to class the correct editions of set texts as we will be discussing them together in class and need to refer to them.
学生はクラステ☒ィスカッションに貢献し、定期的な宿題を完了することか☒求められ ます。また、クラスて☒ともに議論しなか☒ら参照する必要か☒あるため、正しい版のセ ットテキストを購入してクラスに持参することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

Students must have attained at least intermediate skills in English. They must also be willing to speak, read and write in English.
学生は少なくとも英語て☒中級のスキルを習得している必要か☒あります。また、英語 て☒話し、読み、書くことをいとわない必要か☒あります。

教科書

A course textbook will be provided.
コーステキストを提供する。

参考書

Justine Ashby. British National Cinema. London: Routledge, 1997.
Peter Clarke, Hope and Glory, Britain 1900-1990 (London: Penguin, 1996).
Dougill, J. E. and Risa Kotera, British Culture in Popular Movies (Tokyo: Eichosa, 2003).
Raymond Durgnant, A Mirror

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

40% weekly homeworks; 60% essays. 週こ☒との宿題 40%。エッセイ 60%

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「アメリカ文学における “sympathy”(共感)の行方」を主題に、ロマン主義からモダニズム(19 世紀半ばから 20 世紀前半)のアメリカ文学作品を探索していきます。
アメリカの国家的アイデンティティが形成され、アメリカ独自の文学が登場したアメリカン・ルネサンスの詩人ホイットマン(Walt Whitman)は、「わたしは共感を証明する者」(“I am he attesting sympathy” [“Song of Myself” section 22])と歌い、他者の苦しみに「共感」する自己を表現しました。他者への「共感」を夢見るのは文学の宿命ですが、それを実現可能なものとして描くかどうかに、個々の作家の特徴や時代性が表れます。ホイットマンが描いた自己と他者が融合するような親密な関係を、同時代のメルヴィル(Herman Melville)も『白鯨』のイシュメイルとクィークェグを通して描きますが、メルヴィルは「バートルビー」では最後まで理解し合えない人間の哀しさを語ります。ディキンスン(Emily Dickinson)の詩の「わたし」は、他者を自己とは異質なものとして距離を置いて観察しますが、そこには詩人の冷徹な観察眼だけでなく他者性の尊重が表れています。自己(self)と他者(Other)の差異を乗り越えて「共感」しようとするとき、他者を簡単に自己と「同じ」だと主張するのは、相手の固有の特性＝他者性を軽視した抑圧的な包摂になる危険があります。20 世紀以降の作家や哲学者は同一性に警鐘を鳴らし、他者性を慎重に描き出すようになりました。しかし、自己と他者は「違う」ので「分からない」という認識に留まることには、「共感」への希望が見出せません。トウェイン(Mark Twain)の傑作『ハックルベリー・フィンの冒険』で少年ハックが南部共同体の黒人差別から脱却してジムを救う決意に至るのは、人種の垣根を越えた「共感」を抱くようになったからでしょう。
デモクラシー理念と人種・ジェンダー・エスニシティの差異軸の構造という矛盾を孕みながら超大国に向かう 19-20 世紀初頭のアメリカの文学には、自己と他者の間の「共感」の(不)可能性が多様に表現されています。この主題を通して、アメリカの問題だけでなく、繋がっているようで孤独な現代人のあなたの自己と他者の関係について考えてみましょう。

授業内容

(1) 探索するアメリカ文学作品
19 世紀半ばのアメリカン・ルネサンスから 20 世紀初頭までを中心に、詩、散文ともに広く読みます。扱う作家は、ホイットマン、メルヴィル、ポー(Edgar Allan Poe)、ホーソーン(Nathaniel Hawthorne)、ディキンスン、トウェイン、ウォートン(Edith Wharton)、リー(Li-Young Lee)などを予定しています。
(2) 卒業論文に向けた研究論文執筆の訓練
英語のテクストを精読し、分析する力、自分の主題を見つけて自分の意見を表現する言語能力、主題についてリサーチをする技術を、始めは発表を通して訓練します。大きな課題として、学期末のレポート(3200～4000 字)を完成させましょう。
(3) 授業予定
《春学期》
1.イントロダクション 2～3. Edgar Allan Poe 4～5. Walt Whitman 6～9. Herman Melville 10～12. Nathaniel Hawthorne 13～14.春学期末レポート提出ならびに発表
《秋学期》
1.イントロダクション 2～3. Emily Dickinson 4～7. Mark Twain 8～10. Edith Wharton 11. Li-Young Lee 12～14. 秋学期末レポート提出ならびに発表
＊授業予定は、履修者の習熟度や関心に応じて多少変更します。

履修上の注意

授業は担当者の発表を中心に進められます。発表担当者(複数)は配布資料(作者・時代背景・作品の翻訳と分析・批評について調べたこと。また自分の意見)を作成します。担当者以外も作品を精読して授業に臨み、積極的に議論に参加しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修上の注意を参照してください。

教科書

ポー、ホイットマン、ディキンスン、リーの詩作品はクラスウェブを通してオンラインテクストや PDF 教材を配布します。小説は翻訳を参考にしながら、原文について議論をしますが、原書の版は自由です。扱う(予定の)小説作品の翻訳書は、メルヴィル『白鯨』、ホーソーン『緋文字』、トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』、ウォートン『無垢の時代』などです。

参考書

諏訪部浩一・梶原照子 他 共著『アメリカ文学入門[新版]』(三修社, 2025)

課題に対するフィードバックの方法

口頭発表に関しては、発表の仕方や配布資料の改善点を授業中に指導します。学期末レポートのプロポーザル、第一原稿、最終原稿は添削して返却します。

成績評価の方法

学期末レポート 50%、発表・議論への参加・その他の課題 50%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が成績評価の前提です。

その他

科目ナンバー:(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業のテーマ】 前述の春学期シラバスのこの項目で書いたことの続きです。秋学期は、文学作品の精読です。註の使い方、辞書の引き方なども試してもらいます。

読むのはシェイクスピアです。その際に「シェイクスピアはほんとうに古典？」という問いを立てていきます。

「古典」とはどういう作品を指すのでしょうか？ 西洋古典というと古代ギリシャ・ローマの作品が主ですが、時期的には今から 2500 年前から 1000 年間までカバーしてしまいます。日本の『源氏物語』は 1000 年以上前。それに比べるとシェイクスピアは 400 年少し前に活躍していますから、新しい方です。中世以後、本格的な近代前という意味で「初期近代」と呼ばれる時代、英語史では大概現代英語の区分に入ってしまいます。シェイクスピアに時代的に一番近い日本の有名劇作家といえば近松門左衛門でしょうが、彼はシェイクスピアより半世紀くらい遅れて活躍しています。

それではなぜ私たちは古典を読むのでしょう？ いや、古典と言わずとも、なぜ私たちは昔の作品を読むのでしょう？ 何が楽しいのか、何が分かるのか。これは、特にシェイクスピアという現代でも上演される作家の作品の場合、無視できない問いです。答は簡単です。私たちはそこに私たちの時代を投影するんです。そして、ここは違うけど、ここは変わらないなと感じることを通じて、私たちの時代、そして私たち自身に関する問いを形成していくんです。ですから、この問いに対する答えは、時代ごとに、場所ごとに、そして個人ごとに異ならざるを得ないんです。

ですから、このゼミで立てる問いは「なぜ古典を読むのか？」ではありません。「あなたはどのように古典を読むのか？」です。この問いをシェイクスピアのいくつかの作品を通して、皆さんと、しかし究極的には個人で、考えていこうというのがこの授業のテーマです。

授業内容

春学期は、私からの導入の後に、実際にシェイクスピアの英語に触れましょう。シェイクスピアのソネットを何本か声を出して読み、その意味を理解するための手順を体験してもらいます。それから As You Like It(お気に召すまま)を数カ所精読し、当時のパストラル論、異性装をめぐる反演劇論などにふれながら(これはこちらから紹介します)、春学期でかじった「理論」を文学批評の実践につなげる練習をしたいと思います。

第1回:導入――古典を読むとは？(野田の場合)
第2回:ソネット
第3回:ソネット
第4回:ソネット
第5回:ソネット
第6回:ソネット
第7回:ペーパーに向けての議論
第8回:As You Like It(異性装)
第9回:As You Like It
第 10 回:As You Like It(パストラル)
第 11 回:As You Like It
第 12 回:As You Like It(反演劇論)
第 13 回:As You Like It
第 14 回:ペーパーに向けての議論(演劇的想像力のあり方)
私からのイントロ、グループ・ディスカッション、グループ発表というのがそれぞれのクールにおける流れです。作品の理解だけではなく、論文執筆に向けての発想の手法をディスカッションを通じて習得してもらい、卒論執筆に備えるつもりです。

履修上の注意

授業はリラックスした雰囲気で進みますが，皆さんの議論と発表が充実してなんぼです。私は議論の整理とお手伝いとして，できるだけテーマを明確に共有できるように心がけます。しかし用意のない発表や発言・質問を受けて一から解説をするということはしません。とは言っても，わかりにくい所はちゃんと説明しますから，ご安心を。 翻訳は活用してくれてかまいませんが、原文が英語の作品の場合には、演習の場で具体的な箇所を論じてもらう際に原文を参照してもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

訳本でも結構ですので、授業が始まる前に読んでおいてください。予習は準備、準備は段取り、仕事は段取り九分です。

教科書

事前に指示します。今まで使っていたエディションが現在入手困難なため。その他、必要に応じて配布します。

参考書

必要に応じて指示、配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業中ならびに Oh-o! Meiji 上でのコメント付き返却

成績評価の方法

約 600 字の段落×8(=4800 字)のレポートを1～2本出してもらいます。評価はレポート 50%，発表 30%，討論への貢献 20%が目安です。

その他

科目ナンバー:(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、アメリカ文学の中でもSF・ホラー・ファンタジーなどといった小説を読み、分析する方法を考えます。かつて、このような種類の小説は「主流文学」とは異なる「ジャンル小説」にすぎないとして、一段低く評価されることもありました。しかし実際のところ、両者の境界はあいまいであるだけでなく、ジャンル小説から影響を受けた主流文学なども、近ごろでは珍しくありません。いわゆる「純文学」から純然たる空想の世界まで、多種多様な物語が渾然一体となって共生している――これもまた、アメリカ文学の風景のひとつだろうと思います。

授業の目標は、①英文テクストを精読しながら、②ふんだんに観察・分析を施し、③考えたことを適切な文章にまとめることです。これらの能力は卒業論文の執筆に必要なだけでなく、卒業してからも役に立つスキルですので、がんばって身につけましょう。

授業内容

秋学期には中篇小説ないしは短めの長篇小説をじっくり読む予定です。
01. イントロダクション
02–13. Lisa Tuttle
14. まとめ

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員が課題範囲を読み、単語・熟語を調べるのはもちろん、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者は、テクストを読み込んだ上で資料を作成してください。発表があたっていないときには、テクストを丹念に予習してきてください。いずれにせよ、授業での議論にきちんと参加するためには、相当な時間を予習に充てていただく必要があるでしょう。

予習について。わからない語句について辞書で確認するのはもちろん、内容的な不明点についても自分なりに考えてくることが必要です。予習の段階では完全に答えが出ないかもしれませんが、その場合でもあらかじめ疑問点をまとめておきましょう。

教科書

Lisa Tuttle, My Death (New York Review Books, 2023) ISBN: 978-1681377728
かならずこの版を入手してください。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはシステム上で回答します。

成績評価の方法

授業参加点(発表・コメント・課題など)50%
最終レポート 50%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このゼミでは、主に二十世紀の英文学(第一次・第二次世界大戦前後の英文学)に焦点を合わせ、それらの作品を通して、いま私たちはどのような時代に生きているのか、考察を深めていきます。

手始めとして、〈読書〉体験について改めて考えてみたいと思います。一般的に、読書とは作者との対話だと言われますが、フランスのある作家は、作者というよりも〈自分との対話〉にほかならないと考えました。一冊の書物を紐解き、新しい世界に出会う読者は、見知らぬ土地を訪れる旅人にたとえることができるかもかもしれません。作家(芸術家)は「世界に対して私たちを無関心のままにさせておくような醜さと無関心のヴェール」を少しだけ持ち上げ、ひとつの世界を示してくれますが、その先は読者に任されます。ヴェールの向こうをどんな風に眺めたら良いのか、どの辺りに眼を凝らしたら良いのか、そういったことまでは、作家は教えてくれません。

そして、読み終えた本を閉じた瞬間、旅先から日常に戻るように、読者は己の世界に帰還します。ここから自分とのコミュニケーションが始まると言えるでしょう。この読書体験をどのように受け 止め、どんな言葉で語ったら良いでしょうか。皆さんの場合、最終的に卒業論文を執筆するために、「読書感想文」ではなく「文学研究」とは何かをまず理解しなければならないでしょう。素晴らしい作品と出会い、衝撃を受けるというのは幸せな体験ですが、その感動をどう表現するかが重要です。感じたことや思ったことをそのまま書けば、ただの「独り言」になりかねません。なので、そこからもう一歩進んで、自身の感覚や感情に問いかけてみること、つまり、〈自分との対話〉が必要になります。

当ゼミでは、物事を自分の頭で考え、自分の言葉で表現するとはどういうことなのか、自分の言葉をどのように探したらよいのか——これらの問題について、皆さんと一緒にじっくり考えたいと思います。参加者の関心領域やクラスでの議論の方向に応じて、視聴覚資料も利用しながら、さまざまな文学作品に触れる予定ですので、リラックスして取り組んでください。

授業内容

秋学期は、E・M・フォースターの短編小説「永遠の命」、長篇小説『インドへの道』を中心に進めます。後者は映画も視聴予定です。どちらの作品も異文化との出会いや衝突を描いており、エドワード・サイードの『オリエンタリズム』を再考しながら、現在このような作品を読む意義を皆さんと考えたいと思います。コンラッドの『闇の奥』も取り上げる予定です。
春学期同様、担当者による部分的訳読・気づいたことや疑問点などの発表、クラス内での議論を行い、リアクションペーパーを提出してもらうこともあります。
＊以下はあくまで予定ですので、変更する場合もあります。
(1)授業内容の説明／参考文献の紹介／初回アンケート
(2)「オリエンタリズム」とは何か：サイードの論説紹介／サイードによる「アラビアのロレンス」批判／フォースターとロレンスの関係
(3～6)E. M. Forster, “The Life to Come” 読解
(7～12)E. M. Forster, A Passage to India 一部読解／映画紹介
(13)パレスチナ文学(ガッサン・カナファーニ)紹介
(14)秋学期のまとめ・試験

履修上の注意

1. 辞書を持参すること。基本的に、携帯電話の使用は認めません。
※辞書がない場合は、あらかじめ申し出てください。
2. 長時間にわたる、あるいは慢性的な「居眠り」に関しては、出席とはみなしません。
3. 15 分以上遅れての入室は、原則として認めません。

準備学習(予習・復習等)の内容

まずは日本語でかまわないので、以下の作品に目を通しておくと良いでしょう。
・E. M. フォースター:
『インドへの道』(河出文庫、2022 年／ちくま文庫、1994 年)※ちくま文庫版は品切れ
『E. M. フォースター著作集 第 6 巻「短篇集Ⅱ 永遠の命」』(みすず書房、1995 年)※品切れ
・ジョゼフ・コンラッド:
『闇の奥』(岩波文庫、1958 年／三交社、2006 年／光文社古典新訳文庫、2009 年／新潮文庫、2022 年)※三交社版は品切れ。

教科書

プリントを配布、または、データを Oh-o! Meiji にアップします。

参考書

必要に応じて、授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点 50%:
担当発表・授業内での発言・授業後のリアクションペーパーの内容等から判断します。
2. 期末レポート 50%
※注意：原則として、欠席は4回まで。それを超えると、期末レポートの提出資格を失います。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

20 世紀アメリカ文学、とくに「南部文学」「モダニズム文学」「失われた世代」といった枠に属する文学者がどのように／なぜ小説を書いたのか、その方法と内実を明らかにしつつ、人間の思考と言動を深く考察します。文学テクストを丹念に読み解きながら、人物の心の襞に分け入り、その振る舞いに表象される時代と文化を濃やかに批評する力を養っていきます。

授業の共通テーマとしては、近代と伝統、そのはざまを生きる人間の営みを想定します。父と子・母と子・祖父母と孫との間での葛藤と乗りこえ、新しい恋愛のかたちと新しい夫婦のあり方、人種・ジェンダー・階級の差異を越境しうる親密性などを分析します。この時期の文学作品の多くは映画化されているので、視覚表象への翻案を検証し、文学テクストの放つ現代的主題もとらえようと思います。

文学テクストを精緻に読みこみ、過去の解釈と対話しつつ、自らの思考を粘り強く言葉で紡ぐとき、過去から現在、現在から未来へと開かれた円環運動のなかで、他者と世界への深い理解とともに、現代を生きぬく方途を把捉できるはずです。授業とレポートをとおして、4年次の卒業論文に結実するテーマをみなで考えながら、論文執筆の方法論も学んでいきます。

授業内容

秋学期は、南部作家ウィリアム・フォークナーの作品を精読します。フォークナーは意識の流れや内的独白という革新的な文学手法ももちいて『響きと怒り』という傑作を書き上げ、『八月の光』や『アブサロム、アブサロム！』などの大作も上梓します。「失われた世代」の精神性をひきつぎながらも、アメリカ南部という特殊な文化的土壌に身をおき、人間の深層心理と故郷の社会的歴史的問題―人種、ジェンダー、階級―について書きつづけた作家です。フォークナーを読みながら、土地(故郷)と人間の関係性、個人と家族(共同体)の関係性、近代以降の男女のありようなど、さまざまな現代的なテーマを考察していきます。授業の終盤で、アメリカ南部文学を翻案した映画、または、南部を舞台にした映画も分析する予定です。

初回の授業で発表担当者とコメンテイターを割り当てます。担当者は協力して、あらすじ・語注・考察・設問をまとめたレジュメを作成し、授業で発表します。発表に引き続き、コメンテイターが応答し、教員の説明を交え、クラス全体でディスカッションをします。授業後、受講者全員リアクションペーパーの提出が求められます。学期末にレポートを提出します。

1) シラバス確認、作者、作品の「冒頭」
2) アメリカ南部モダニズム小説
3) アメリカ南部モダニズム小説
4) アメリカ南部モダニズム小説
5) アメリカ南部モダニズム小説
6) アメリカ南部モダニズム小説
7) アメリカ南部モダニズム小説
8) アメリカ南部モダニズム小説
9) アメリカ南部モダニズム小説
10) アメリカ南部モダニズム小説
課題図書レポートの提出
11) アメリカ南部モダニズム小説
12) アメリカ南部モダニズム小説
13) アメリカ南部モダニズム小説
14) まとめ、学期末レポートについて

履修上の注意

テクストと対話しながら自らの考えを練り上げることが大切です。学期はじめは、長篇小説の冒頭や短篇小説を精読します。学期前半から後半は、該当シーンをみなでディスカッションし、自らの思考や分析を相対化し深めていきます。話すよりも書くことを好む学生は、リアクションペーパーに自らの考えを積極的にしるしてほしいと思います。演習は、柔軟な自己表現の場であり、他者から/他者とともに学ぶ共振の場ととらえてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講者全員、課題範囲を読み、単語・熟語調べや和訳だけでなく、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるよう準備することが大切です。授業後は、範囲を再読し考察を深め、次週につなげてください。

教科書

洋書は初回の授業で確認します。適宜、プリントを配布します。

参考書

『フォークナー短編集』龍口直太郎訳、新潮文庫。
『フォークナー――アメリカ文学、現代の神話』大橋健三郎著、中公新書。
『フォークナー』フォークナー協会編集室、松柏社。
『フォークナー事典』日本ウィリアム・フォークナー協会、松柏社。
『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房。

課題に対するフィードバックの方法

提出したリアクションペーパーのなかから、興味深い考えや視点を授業冒頭で紹介し、理解を深めます。

成績評価の方法

授業への貢献度・討論・提出物(30%)、発表・コメント(30%)、レポート(40%)。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要・到達目標] British Culture Through Multimodal Texts
みなさんは英国についてどのようなイメージを持っているでしょうか。このクラスは British Culture, British Cultural Identities についての知見を深めることを第1の目標とします。みなさんが British Culture という言葉を聞いて頭に浮かぶイメージはどこから来ているのでしょうか。「文化研究」とは共通理解がありそうでない曖昧な領域ですが、このクラスでは英国という国、国民性をさまざまな「テクスト」媒体を通じて考えていきます。このクラスでの「テクスト」は文字テクストに限定されません。文学テクストの他にメディアテクスト(報道・広告)、芸術作品(絵画・音楽)など文字・図像・映像・音像といった複数の「モード」が介在するマルチ・モーダルテクストです。
第2の目標は、上記の「テクスト」の読解実践を通じて得られた知見をもとに自分の考えを自分の言葉で的確にアウトプットすることです。「話すアウトプット」としては、クラスでの発言やディスカッション、プレゼンテーション、「書くアウトプット」として学術論文の執筆プロセスをクラスでカバー、段階を踏んだ学術論文作成の実践を行います。各学期1本ずつ(春学期は英語論文必修、秋学期は英語または日本語論文)作成の実践を通じて、2年次までに習得した学術論文の基礎をもう一度確認、4年次の卒業論文執筆への橋渡しとなることを希望します。

授業内容

＜秋学期＞
春学期にカバーした英国文化についての知識をベースに、秋学期は様々なジャンルのテクスト媒体を「精読」することによって British Culture についての知見を深めていきます。各々のテクスト解釈・考察・分析に援用できる理論の基礎も簡単に紹介します。具体的には文学テクストを言語学的に読み解く文体論的アプローチ、文学テクストを翻訳(論)から考察、文学作品をベースにした映画についての考察(アダプテーション研究、カルチュラルスタディーズ)、絵画、風刺画、絵本、グラフィックノベルズ(図像学、記号学)などを扱います。秋学期は(卒業論文も視野に入れて)各自設定した主題に沿って 1,500 語程度の英語論文もしくは 5,000 字程度の日本語論文(英語教職課程の履修生は英語論文必須)を完成します。春学期同様、授業時間の一部を使って論文執筆プロセスをチェックしていきます。
Week-1 春学期の復習・オリエンテーション
Week-2 言語と階級-1(関連文学作品及びエッセイ)
Week-3 言語と階級-2(『Secrets and Lies』および関連文学作品・エッセイ)
Week-4 英国の地域性-1(『Trainspotting』及び文学テクスト)
Week-5 英国の地域性-2 (『North and South』『I, Daniel Blake』)
Week-6 英国の芸術(物語絵・風刺画を「読む」)関連文学作品・エッセイ
Week-7 Mid-term Presentation
Week-8 英国の芸術(『Billy Elliot』『This is England』)
Week-9 英国の映像文化とメディア-1(メディアテクスト・広告)
Week-10 英国の映像文化とメディア-2(報道記事・ドキュメンタリー映画)
Week-11 英国の教育と社会階層-1(『Matilda』『The History Boys』)
Week-12 英国の教育と社会階層-2(関連文学作品)
Week-13 英国と日本(文学テクストと翻訳)
Week-14 まとめ・期末課題論文ピアフィードバック

履修上の注意

このクラスは講義科目ではありません。従って、みなさんの積極的な授業参加が絶対条件となります。人前での発言が苦手という人も多いかと思いますが、自分の考えを的確に相手に伝えるスキルを身につける練習の場として毎回の授業に臨んでください。授業で扱うテクストに対しては、フィードバック・質問を提出してもらいます。このクラスでは、評価をするのは教員だけではありません。特に学術論文執筆過程においては、ピア・フィードバックも可能な限り行います。文学部の学生さんにとって「勉強」の機会は教室の外にも沢山あります。授業で扱うことのできるテクスト量は限られているため、書籍に限定せず、映画、絵画展、博物館、観劇、TV 番組、新聞、雑誌、インターネット記事、SNS と様々な「マルチ・モーダルテクスト」についてのコメントを Reading Log に記録してもらいます。「面白かった」「つまらなかった」などの「ひとことコメント」ではなく、なるべく具体的に自分のアイディアを言語化(図式・イラストも歓迎)する練習です。Reading Log は定期的(1ヶ月に1回程度)に授業に持参、チェックします。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回扱う内容について一通り必ず読んでくること。

教科書

下楠 昌哉, 岩田 美喜『イギリス文化入門＜新版＞』三修社 2023.
迫 桂・徳永聡子『英語論文の書き方―入門』慶應義塾大学出版会 2012.

参考書

Fox, Kate. Watching the English: The hidden rules of English behaviour. Hodder, 2004.
Mayer, Erin. The Culture Map. Public Affairs, 2014.
O' Driscoll, James. Britain for learners of English. Oxford University Press, 2017.
Storry, Mike

課題に対するフィードバックの方法

ピアフィードバックを経て、最終的に教員が採点します。

成績評価の方法

[成績評価の方法]
春学期・秋学期ともに 期末課題論文 50%;プレゼンテーション20%;リアクションペーパー20%;
読書記録ノート(Reading Log)10%

その他

毎回の授業の一部を英語で行います。普段は英語を話す機会がない人もこの機会を利用してください。自分の考えをなるべく妥協せずに英語で表現できることが目標です。

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
英米文学演習(3年)Ⅱ	**英米文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期はニューヨークやシカゴといった都市が舞台となる作品を取り上げ、都市(特定の時代・空間によって切り取られる領域)がどのように表象され、作品にどのような影響を与えるのかを考えます。都市の歴史や文化などについてもリサーチします。秋学期は特にゴシック文学に分類される作品を読み、作品の「ゴシック」的要素について考えます。キャラクターの描写やプロットの展開、スタイルなどの観点から「ゴシック」的要素がどこにあるのか、そして恐怖の感覚はどのようにもたらされるのか、などクラス内で疑問点を共有しながら進めていきます。作品分析のため、批評理論も紹介していきます。
授業の目標は、作品を深く味わうという主観的な経験を、クラス内のディスカッションを通して客観的に共有されうる形式、つまりレポートとしてまとめることにあります。そのために、①予習、授業、復習を通して各参加者がそれぞれ疑問や考えをもつこと、②リサーチによって発展的にアイデアを広げること、③そして最後には一つの議論としてレポートにまとめる、という一連のプロセスを方法論として確立していきます。気になる点を見つける、まとめる、答えをだす、そしてそれらを記録するという作業は、授業のためだけではなく、今後の人生でも必要となるスキルです。リサーチの段階で参考文献や先行研究を見つけるという作業に関しては授業内でも実践を交えて説明します。

授業内容

春学期はセオドア・ドライサーやスティーヴン・クレイン、アルフレッド・ケイジンなど複数の作家をとりあげ、作品に見られる「歩く」描写に焦点を合わせます。秋学期は American Gothic Tales (1996)から作品を選び、読んでいきます。作品の良さがどこにあるのか、「キャラクター」「プロット」「スタイル」の三つに分解して分析します。文学作品に加え、文学批評に関わる短いエッセイや記事も毎回読みます(英語／日本語)。言語の働きについて、翻訳について、映像へのアダプテーションについてなど様々な角度から思考を深める機会を持ちます。各学期の後半にはレポートの題材探しを授業内で行います。各自が興味のあるトピックについて考えを共有し、またレポートの構成についても確認します。
中心となる発表者とコメンテーターを毎回それぞれ一名決めます。発表者は用意したハンドアウトを読み上げた後、コメンテーターがコメントおよび議論となる点をクラスに提示します。その後、発表者以外の参加者からの発言を聞きます。エッセイおよび記事についても、内容を簡単にまとめる発表者を毎回一名決めます。

履修上の注意

自分がどこに着目したか、単語レベル、キャラクターレベル、プロットレベル等で必ず毎週授業までに考えをまとめておくこと。
なお、現代的な観点から見てふさわしくない表現や、暴力的な表現が扱う文学作品で用いられることもある。
「良くない」表現かもしれないが、文学批評をする以上、それらの表現が当時持っていた意味や、あえて作品中で使用されている意味を考える必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では不明な点や気になった点をまとめておき、授業を通してそれらが明確になったかどうか復習で確認する。担当者は「あらすじ」、「重要な語彙」、「疑問点と考察」の 3 点を中心にハンドアウトを作成する。
当然のことながら、自分の読みとは異なる読みを他の履修生は提示すると思われる。予習の段階で、他にどのような読みが可能であるか、客観的に考える練習をしてみると良い。

教科書

授業内で配布します。

参考書

村上春樹・小川高義による日本語訳『超短編小説 70』(文藝春秋、1994 年)
『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容を翌週取り上げ、コメントする。

成績評価の方法

出席・授業内コメント 25%、授業内発表 35%、学期末レポート(4,000 字前後)40%

その他

科目ナンバー：(AL)PAC331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
エジプトの考古学A	**エジプトの考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
花坂 哲	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ナイル河流域で花開いた古代エジプト文明を彩るピラミッドや神殿などの巨石建造物、あるいは多神教の神々やミイラなどは、世界中の人びとを魅了し続けており、世界各地の博物館には古代エジプトの壮麗な装飾品や彫像が展示されている。

本科目は、3000年におよぶ古代エジプト文明の成立から繁栄を極めた新王国時代前半までの歴史と文化を概観する。その際、東地中海世界におけるエジプトの視点に立ち、メソポタミアやエーゲ海などの周辺地域との関係に目を配りながら講義を進める。

古代エジプト史の専門知識を獲得するだけでなく、グローバル化する現代社会で生活していくうえで不可欠な、異文化の理解と、多様性を受容する能力を身につけることを目標とする。また、講義の内容を端緒とし、自らの専門や興味に引き付けて問題を提起し、それを解決する能力を涵養することを目指す。

授業内容

春学期開講の本科目は、先史時代から新王国時代前半までのエジプトの歴史文化を取り上げ、年代に沿った通史と、その時代に深く関わる個別テーマを織り交ぜながら講義を進める(秋学期に新王国時代後半から帝政ローマ期までを扱う)。担当教員の発掘調査の成果や最新の学説などを紹介しながら、パワーポイントを用いた対面での講義形式で進める。

各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業冒頭で質問等に答えるなど、フィードバックを行う。

1. イントロダクション：人種・民族と自然環境
2. エジプト学の成立：暦と編年
3. 文明の起源：先王朝時代～初期王朝時代
4. 統一王朝の成立と王権観
5. ピラミッドの時代：古王国時代(1)
6. 労働者とパン・ビール：古代エジプトの食事情
7. 太陽信仰とオシリス神信仰：古王国時代(2)
8. 神々と神殿
9. 混沌と再生：第 1 中間期～中王国時代
10. 文字の世界
11. 栄華の時代へ：ヒクソスと新王国時代第 18 王朝
12. アマルナ革命とツタンカーメン
13. 前 2 千年紀のギリシア：ミノア・ミケーネ文明
14. 東地中海世界の交流

履修上の注意

特に考古学に関する専門知識は不要であり、専門外の学生の履修も歓迎する。ただし、通史として理解するためには、秋学期に開講する「古代エジプト考古学 B」を受講することが望ましい。

また、フィードバックで質問への回答量が多くなった場合、当初の予定通りに授業を進めることができず、週をまたいで授業を続けることになる。その場合、シラバスで示した授業回と内容がずれる点は承知いただきたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業前に PPT の PDF を配布するので、不明な固有名詞や地名などを調べておくこと。
また、各回の授業で紹介する参考文献・論文等を読んでおくこと。

教科書

特に指定しない。各回に PDF 資料を Oh-o! Meiji 経由で配布する。

参考書

各回の授業で、その回の内容に関わる参考文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのコメントや質問は、次回の講義冒頭で回答する。課題レポートの講評は、希望者に対して Oh-o! Meiji システム等を利用して行う。

成績評価の方法

学期末の課題レポート 70%、平常点(リアクションペーパーの内容や授業への参加態度等)30%を基本とし、総合的に評価する。特別な理由なく、欠席回数が 6 回以上あった場合は、レポートを提出しても受理しない(＝成績評価を付けない)。

なお、就職活動や実習、対外試合等での欠席は考慮するので申し出ること(ただし、回数の上限は設ける)。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
エジプトの考古学B	**エジプトの考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
花坂 哲	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ナイル河流域で花開いた古代エジプト文明を彩るピラミッドや神殿などの巨石建造物、あるいは多神教の神々やミイラなどは、世界中の人びとを魅了し続けており、世界各地の博物館には古代エジプトの壮麗な装飾品や彫像が展示されている。

本科目は、3000年におよぶ古代エジプト文明の栄華を極めた新王国時代からグレコ・ローマン時代までの歴史と文化を概観する。その際、東地中海世界におけるエジプトの視点に立ち、メソポタミアやエーゲ海などの周辺地域との関係に目を配りながら講義を進める。

古代エジプト史の専門知識を獲得するだけでなく、グローバル化する現代社会で生活していくうえで不可欠な、異文化の理解と、多様性を受容する能力を身につけることを目標とする。また、講義の内容を端緒とし、自らの専門や興味に引き付けて問題を提起し、それを解決する能力を涵養することを目指す。

授業内容

秋学期開講の本科目は、新王国時代後半から帝政ローマ期までのエジプトの歴史文化を取り上げ、年代に沿った通史と、その時代に深く関わる個別テーマを織り交ぜながら講義を進める(春学期に先史時代から新王国時代前半までを扱う)。担当教員の発掘調査の成果や最新の学説などを紹介しながら、パワーポイントを用いた対面での講義形式で進める。各回の最後にリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業冒頭で質問等に答えるなど、フィードバックを行う。

1. イントロダクション：古代エジプト文明の基本事項
2. 翳り始めた帝国：新王国時代第 19 王朝
3. 海の民と前 1200 年の崩壊
4. 帝国の終焉：新王国時代第 20 王朝～第 3 中間期
5. エジプト美術の原則
6. 来世観とミイラ作り：永遠の生命の獲得
7. 前 1 千年紀のメソポタミア：帝国の誕生
8. エジプトは折れた葦か：末期王朝時代
9. 前 1 千年紀のギリシア：「暗黒時代」からの脱却
10. ペルシア戦争とアレクサンドロス大王
11. ヘレニズム世界：プトレマイオス朝期のエジプト
12. 動物祭祀と民間信仰
13. アコリス遺跡に残る古代ローマの痕跡：パクス・ロマーナ期のエジプト
14. 文化財は誰のものか：文化財返還問題

履修上の注意

特に考古学に関する専門知識は不要であり、専門外の学生の履修も歓迎する。ただし、通史として理解するためには、春学期に開講する「古代エジプト考古学 A」を受講することが望ましい。

また、フィードバックで質問への回答量が多くなった場合、当初の予定通りに授業を進めることができず、週をまたいで授業を続けることになる。その場合、シラバスで示した授業回と内容がずれる点は承知いただきたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業前に PPT の PDF を配布するので、不明な固有名詞や地名などを調べておくこと。
また、各回の授業で紹介する参考文献・論文等を読んでおくこと。

教科書

特に指定しない。各回に PDF 資料を Oh-o! Meiji 経由で配布する。

参考書

各回の授業で、その回の内容に関わる参考文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのコメントや質問は、次回の講義冒頭で回答する。課題レポートの講評は、希望者に対して Oh-o! Meiji システム等を利用して行う。

成績評価の方法

学期末の課題レポート 70%、平常点(リアクションペーパーの内容や授業への参加態度等)30%を基本とし、総合的に評価する。特別な理由なく、欠席回数が 6 回以上あった場合は、レポートを提出しても受理しない(＝成績評価を付けない)。

なお、就職活動や実習、対外試合等での欠席は考慮するので申し出ること(ただし、回数の上限は設ける)。

その他

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演技論研究	**演技論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内田 健介	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ロシアの俳優コンスタンチン・スタニスラフスキーが開発した俳優育成法スタニスラフスキー・システムの歴史的な変遷と方法論の分析を通じて、演劇における演技という行為を演じる側からの視点で学んでいく。そして、システムが日本や世界でいかに広まっていったのかを知ることで、演劇史を見つめ直す新たな視点を得ることを目指す。 また、システムの方法論を通じて、舞台上で自分以外の人間を演じる行為について考えることで、自らの心と体、自分という存在を見つめ直す契機ともしたい。

授業内容

1. a. イントロダクション b. スタニスラフスキー・システムとスタニスラフスキーのシステム 2. スタニスラフスキーとシステムの歴史① 3. スタニスラフスキーとシステムの歴史② システムへの批判 4. スタニスラフスキーとシステムの歴史③ スタニスラフスキーの弟子たち 5. 日本におけるスタニスラフスキー・システムの受容の歴史① 6. 日本におけるスタニスラフスキー・システムの受容の歴史② 7. a. 中間試験 b. これまでの振り返りと試験の解説 8. システムの方法論①:緊張とリラックス、想像力と感情の記憶 9. システムの方法論②:声と発話、身体的動作、視線と注意の輪 10. システムの方法論③:戯曲分析と内容理解 11. アメリカにおけるスタニスラフスキー・システムの受容の歴史① 12. アメリカにおけるスタニスラフスキー・システムの受容の歴史② 13. ロシアにおけるスタニスラフスキー・システムの現在 14. a. 試験 b. 全体の振り返りと試験の解説

履修上の注意

履修にあたって演劇や演技の経験の有無は問わない。講義の中でスタニスラフスキー・システムの方法を実際に自分たちで体験してもらう場合がある。心理的および身体的に負担がかかるものは避けるが、参加に不安がある場合には遠慮なく申し出てほしい。なお自由参加とし、参加の強制はしない。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示のあった文献や文章については事前に目を通し、疑問点などを考えておくこと。またディスカッションを行う場合、資料は事前に授業で、または LMS システム(Oh-o! Meiji システム等)を通じて配布する。講義で指示のあった場合はあらかじめ目を通しておくこと。また、講義後は扱った資料を振り返り、歴史的事実について確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

スタニスラフスキー『俳優の仕事』(未来社) ベネディティ『スタニスラフスキー伝』(晶文社) アリソン・ホッジ『二十世紀俳優トレーニング』(而立書房)

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーについては質問者を匿名化したうえで次回の講義の最初に回答する。もしその時間に対応できないものについては LMS システム(Oh-o! Meiji システム等)などを通じて回答を行う。

成績評価の方法

平常点(リアクションペーパーとディスカッションによる評価 30%)+中間テスト(30%)+期末テスト(40%)

その他

春季の演技論基礎と合わせて受講することを推奨するが、単独で受講しても構わない。

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演技論の基礎	**演技論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
内田 健介	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「演技」という要素が演劇においてどのように語られ、歴史的に定義付けをされてきたのか、文献読解と各理論の比較を通じて歴史的に学んでいく。ただし、「演技とは何か」という問いに絶対的な答えはなく、演技論は時代ごとに社会環境の影響を受け変化している。そのため演技論を学ぶことは演劇の歴史を再確認するだけでなく、その時代の思想や人間観を学ぶことにもつながるだろう。また、演技を「理論的に考える対象」として分析する力を養うことで、演劇に限らず、幅広い分野に接続可能な基礎的視座を提供することを目指す。

授業内容

1. a. イントロダクション b. 演劇における演技の位置を考える 2. 日常の演技と演劇における演技 3. 現代の演劇論における演技の扱いについて 4. 演技論の歴史① 演技論の萌芽:リッコボーニ親子、ディドロ 5. 演技論の歴史② 演技と俳優の心理をめぐる議論と対立 6. 演技論の歴史③ 演技する身体をめぐる問題:アルトー、グロトフスキー 7. a. 中間試験 b. 前半の振り返りと試験の解説 8. 演技は演劇以外でいかに表象されてきたか 9. 演技論の歴史④ ギリシャ・ローマ時代の演技論 10. 演技論の歴史⑤ 20 世紀、多様化する演技:演技から非演技へ 11. 演技論の歴史⑥ リアリズム演劇の誕生と演技 12. 演技論の歴史⑦ 演技を指示する演出家の登場 13. 演技論の歴史⑧ 演技の教育方法と俳優養成機関の発展 14. a. 期末試験 b. 全体の振り返りと試験の解説

履修上の注意

講義の中で演劇作品の映像を視聴する場合、性的な表現や暴力的な表現が用いられる作品の際には事前に警告を行う。視聴に不安がある場合や見たくない場合には配慮するので、遠慮なく申し出てほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示のあった文献や文章については事前に目を通し、疑問点などを考えておくこと。またディスカッションを行う場合、資料は事前に授業で、または LMS システム(Oh-o! Meiji システム等)を通じて配布する。講義で指示のあった場合はあらかじめ目を通しておくこと。また、講義後は扱った資料を振り返り、歴史的事実について確認しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』(月曜社) 毛利三彌『演劇の詩学』(相田書房) クリスティアン・ビエ『演劇学の教科書』(国書刊行会) エリカ・フィッシャー=リヒテ『演劇学へのいざない』(国書刊行会) 河竹登志夫『演劇概論』(東京大学出版会)

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーについては質問者を匿名化したうえで次回の講義の最初に回答する。もしその時間に対応できないものについては LMS システム(Oh-o! Meiji システム等)などを通じて回答を行う。

成績評価の方法

平常点(リアクションペーパーとディスカッションによる評価 30%)+中間テスト(30%)+期末テスト(40%)

その他

演劇や演技の経験の有無は問わない。秋季の演技論研究と合わせて受講することを推奨するが、単独で受講しても構わない。

科目ナンバー：(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演芸論	**舞台芸術研究ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
和田 尚久	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

こんにち「演芸」という語句から学生諸君が想起するのは寄席や演芸場で上演される落語や漫才、講談、浪曲などの諸芸であるかと思われる。
その語義でも間違いではないが、本来の意味はもう少し広く、明治～昭和期にかけては、歌舞伎や舞踊、レビューなども含めたパフォーミングアーツ全般を指す語句であった。
本講義では、「演芸」本来の意味にたちかえり、寄席演芸はもとより、古典劇や映画、アニメーションさらにはテレビやインターネットなどで発信される諸芸も視野に入れ、広くパフォーミングアーツについて考えたい。
なかでも議論の中心となるのは「笑い」に関する芸能である。
「笑い」は、ある時代の精神をもっともよく写し取る「社会の鏡」である。
どのような事象を「笑う」のか、だれが「笑い」を導くか、どのような方法で「笑い」をもたらすかは、その時代の社会制度や文明のありかたによって刻々変化する。
「笑い」の劇は、同時代を象徴するモチーフをすぐさまキャッチし、対象を的確に処理しなくてはならないので、必然として時代の先端に位置することになる。
この授業では現代における「笑い」の劇が、時代の影響をうけつつ、どのように変化してきたかを考える。扱う素材は舞台芸術に限らず、映像作品や音響作品を含むものとする。
全14回の授業のうち、主に前半は「笑いの劇」を成立させる前提条件について考える。
そのために、喜劇の母体である「悲劇」についても触れる。
また同一のモチーフが時代によってどのように変奏され、語り直しされてきたかについて扱う。
後半は主として現代の「笑いの劇」について扱い、そこから「いま現在」はどのような時代なのかについて考える。

授業内容

第1回　物語の中に流れる「時間」について考える。
第2回　「悲劇」とはなにか？ 運命の中に生きる人間。
第3回　「悲劇」と「喜劇」の対比。両者を区分するものはなにか。
第4回　モチーフと語り直し。日本の古典劇に見る方法。
第5回　モチーフと語り直し。宮崎駿作品を例にとる。
第6回　なぜ「恐怖(ホラー)」は「コメディ」と親和性が高いか。
第7回　社会制度と「笑い」の発生する領域について。カントの「緊張と緩和」理論を参照して。
第8回　「笑い」は社会制度を照射する。イッセー尾形ほかを参照する。
第9回　落語の笑い。東京落語を聴く。
第10回　落語の笑い。上方落語を聴く。
第11回　「演者」と「作品」が分離するとき。その条件はなにか。
第12回　「女性芸人」とはいかなる存在か。その歴史的変遷。
第13回　男性が演じる女性(女方)の意味。女性が演じる男性の意味。その非対称性。
第14回　「女性芸人」とはいかなる存在か。他分野(ダンス、写真など)のアート水準と比較する。

履修上の注意

定まった「正解」のない課題について講義する。
講義は「問い」にたいして「答え」を提示する場ではなく、ひとつの考え方を提示する場である。
そのため、受講者にも積極的な意思表示を求めたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習すべき事は特にない。
授業内で扱う作品テキストは、ほとんどの場合、抜粋にならざるをえないので、受講後に改めて全編を視聴するなど各自補完してほしい。

教科書

なし

参考書

『落語の聴き方楽しみかた』松本尚久著(ちくまプリマー新書)。
講師が以前にしるした新書で講義内容と重なる部分が多い。
授業理解の手助けになるテキストではあるが、現在、新刊本はほとんど出回らず、amazon の中古販売などでしか入手できない。
従って、無理をせず、可能であれば参照してほしい。

課題に対するフィードバックの方法

期末テスト実施後に、Oh-o! Meiji システム内で解説テキストを公開。
また、授業内で実施するリアクションペーパーに寄せられた質問、意見については次回以降の講義内で返答する。

成績評価の方法

期末のペーパーテストで評価する。
テストには授業で配布した資料や各自のノート、参考書持ち込み可。
スマホ、パソコンは持ち込み不可。
出題内容は講義内容を踏まえたもの。

その他

科目ナンバー：(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)A	**演劇学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中野 正昭	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ミュージカルをはじめとする欧米の舞台芸術／娯楽の展開、その日本での受容と進化について学び、日本の近現代演劇史の独自性と課題について考察する。
本演習の概要は、各自が演劇について抱えている疑問や興味を問題課題として設定し、資料調査・検証・分析・考察といった作業を通じて解決する能力を身につけることである。
ただし、演習は“個人の口頭発表”と“集団のディスカッション”を繰り返しながら理解を深める授業である。そこで本演習では次のことを全員の問題意識とし、その理解の深化を目標として共有したいと思う。
今日の演劇において〈芸術〉か〈娯楽〉かという単純な二項対立はもはや成り立たない場合が多い。本来これは演劇が潜在的に持つ要素の一つなのだが、歴史的には 19 世紀頃から顕著となってきた。また芸術であれ、娯楽であれ、演劇が成立するには観客、興行、地域性などその時代の社会的条件を無視することはできない。本演習では、履修生各自が自身の発表テーマについて〈演劇の芸術性／演劇の娯楽性〉の両者を隔てることなく、その往復に基づく多元的な視点を獲得すること、自ら問題課題を設定し、演劇を演劇学、美学、文学、芸術学だけでなく社会学、経済学、歴史学、映画学、文化史論等の隣接分野の研究方法を考慮しながら理解を深めることを目標とする。

授業内容

個人またはグループの研究テーマを設定し、報告(口頭発表)とディスカッションを重ねながら進める。
ディスカッションを活発なものにするために、発表者は文献調査、レジュメ作成等の発表準備を行う他に、他の履修生に事前に読んでおくべき資料・参考文献を指定する。また学期末に発表者はディスカッションした内容を踏まえて発表内容をレポート(論文形式)にまとめて提出する。
1) 演習全体のテーマに関する問題意識の説明・共有(講義)
2)～3) 文献調査・考察の方法、〈演劇の芸術性／演劇の娯楽性〉のレクチャー(講義)
4)～13) 学生報告(課題テーマにもとづく口頭発表)
14)全体の講評

履修上の注意

演習は個人作業だけでなく共同作業である。従って、自分の発表に関係なく毎授業に出席することが望ましい。
具体的には次のことを心に留めて欲しい
①発表者は、発表を自分の興味や疑問を解決する貴重な場と考えて、全力で問題提起と考察を行うこと
②発表のディスカッションが盛りあがるかどうか(肯定的なものだけでなく、質問、批判、否定も含め)も、発表が充実した証拠であるということ
③自分が発表する時以外は、他の発表者の意見を聞き、意見を述べることが、自分の関心を拡げることになること、
④発表者に様々な質問をすること、意見をすることが、発表者の理解を深める手助けとなること
以上のことを念頭に置いて、授業に参加することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習)
次回の発表テーマについて、発表者が指示した映像作品・資料等を事前に閲覧しておくこと。
準備学習(復習)
自分の発表かどうかに関係なく、発表を通して得られた演劇学的課題について、各自で文献等を調べ、理解を深め、自分なりの考えを導き出すこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。発表に必要な資料・参考文献については、各発表者のテーマに応じて紹介します。

参考書

特定の教科書は使用しない。発表に必要な資料・参考文献については、各発表者のテーマに応じて紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

演習なので各自の発表内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容とレポート(60%)＋ディスカッションへの参加(40%)から総合的に評価する。
出席は学生の義務なので加点にはしないが、欠席は減点対象とする。

その他

演習は基本的に対面で行うが、コロナの感染状況によってはオンラインで行うことがある。
指導教官の専門は「日本近現代演劇」「比較演劇(日本と欧米・東アジア)」「大衆文化論」である。

科目ナンバー：(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)A	**演劇学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
東條 愛	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

20 世紀前半(1900 年代～30 年代)に海外へ渡った演劇人を取り上げ、その活動を検討する。彼らが活動した時代・場所の文化的状況を探り、その「時代」と「場所」から舞台芸術の歴史を考察していく。
この授業を通して、日本と世界の演劇状況を同時に捉えると共に、舞踊、音楽、映画、美術などの諸芸術分野、社会的背景にも目を向け、広い視野で演劇を考えていくことを目的とする。
また、文献データベースの利用法や発表資料の作り方などの基礎を身につけ、自分の研究成果を発表するだけでなく、他者との討論によってその考察をより深める力を身につけていく。

授業内容

「時代」と「場所」から舞台芸術の歴史を考察するというテーマに基づき、「20 世紀前半に日本から海外へ渡った演劇人」という研究対象について、担当を決め調査・発表を行う。
各種資料を利用した研究対象へのアプローチ方法や研究成果の発表方法を学び実践していく。
学期末には、発表時の討論の内容をふまえ、各自の発表内容をレポートにまとめ提出する。
1: 授業のテーマについての説明
2: 資料収集から発表、レポート作成についてのガイダンス
3-4: 研究対象についての講義と発表の割り振り
5-6: 研究対象に関する映像資料鑑賞
7-13: 発表と討論
14: 春学期全体の振り返り

履修上の注意

演習は、あくまで履修者が主役となる授業である。
自分の発表に真剣に取り組むことはもちろん、他の人の発表から積極的に学ぶ姿勢が求められる。
また、授業内に説明する資料作成のガイダンスにそって、発表時にはかならず配布用資料を作成すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分の発表以外についても予め文献等を参照し、積極的にディスカッションに参加できるよう準備すること。
自分の発表では、ディスカッションによって出てきた課題や、回答できなかったことについて、発表後に確認をし期末のレポートにまとめること。

教科書

特に定めない。

参考書

必要に応じ紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各自の研究発表時に、発表内容ならびにディスカッション内容についての講評を行う。

成績評価の方法

授業への参加度(40%)と発表内容・ディスカッションへの参加・レポート(60%)から総合的に評価する。

その他

研究発表にあたっての資料作成方法や、レポート作成方法について、学べる機会が少ないという意見も見られたため、簡単な概要だけでなく、より具体的な作成方法について講義を設けることとする。

科目ナンバー：(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)A	**演劇学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
松本 祐子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

古今東西の戯曲などを読み、戯曲の読解、演劇プランの組み立て、その戯曲の持つ歴史的意義などを講義する。演劇作品を創作する際の最重要の設計図ともいえる戯曲を、如何に多角的に読み解くかを学ぶことは、演劇を理解する上で必須のことと考える。そこでこの講義では、実際的な戯曲の読解の方法を理解することを目標の一つとする。また戦前戦中戦後の日本の演劇の状況を理解することによって、現代の演劇活動の源泉を理解する。
春学期は秋元松代の『かさぶた式部考』ロベール・トマの「罠」、堀川恵子の「戦禍に生きた演劇人たち」、それに付随してシライケイタの「獅子の見た夢」、三好十郎の『獅子』を読み解いていく。
戯曲の読解力を高め、実際的な演技、演出の方法論を構築できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション－演劇学演習で何を学ぶのか、取り上げる作家を紹介しながら、その作家の特色などを学ぶ。
第 2 回 秋元松代の『かさぶた式部考』を読み、昭和の女性作家の立ち位置、その存在意義などを学ぶ
第 3 回 社会と個人の関係性を演劇作品で如何に描くかを『かさぶた式部考』もとに考えていく
第 4 回 秋元松代作品の特色である方言を多用をもとに、戯曲の中の言語について考える
第 5 回 秋元松代の他作品について、そのエンターテイメント性も考える。
第 6 回 ロベール・トマ「罠」を読み、台詞とト書きの読解の方法論を学ぶ。
第 7 回 戯曲を具現化していく方法論を美術プランなどのスタッフワークをもとに「罠」を使用して学ぶ。
第 8 回 演劇創作に必要な、読解した内容を如何に具体的な表現にしていくかの方法論を「罠」を使用して学ぶ。
第 9 回 2回～4 回の授業で学習したことを踏まえて、エンターテインメント性の強い戯曲の具現化の方法について学ぶ。
第 10 回「戦禍に生きた演劇人」」をもとに戦前戦後の演劇界の動向と、表現の自由について学ぶ。
第 11 回 「戦禍に生きた演劇人」をもとに新劇運動と表現の自由の歴史を学ぶ。
第 12 回 「戦禍に生きた演劇人」「獅子の見た夢」「獅子」をもとにノンフィクションからフィクションの作品を作る方法を考察する。
第 13 回 「戦禍に生きた演劇人」をもとに、フィクションの作品を創作する方法を考え、学ぶ。
第 14 回 それぞれが考える表現作品について発表する。

履修上の注意

授業で使用する戯曲及び書籍は、その作品がテーマになっている授業前には読んでおくことが必須である。また、具体的な理解を促すために、授業の内容によって、歴史を調べる、人物を調べる、美術プランを考えるなど、それぞれのテーマに沿って、一作品につき一つは課題を出す予定である。課題の提出は単位取得のためには必要とご理解いただきたい。また、戯曲を声に出して読む、自分の考えを発表するなど、能動的な態度の授業参加が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用する戯曲及び書籍は、その作品がテーマになっている授業前には必ず読んでおくこと。
授業の内容によって、その都度、歴史を調べる、劇作家を調べる、演出プランを考えるなど、調べ物をし、発表することが要求される。

教科書

購入して欲しいもの…計2作品
「戦禍に生きた演劇人たち」(講談社文庫) 堀川恵子
配布するもの…計3作品
「罠」ロベール・トマ、「獅子」三好十郎、「獅子の見た夢」シライケイタ

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

授業内で発表していただくことが必須なので、それに対して口頭でフィードバックをします。

成績評価の方法

授業での学習態度、貢献度 50%、授業のためのリサーチや課題発表 50%

その他

科目ナンバー:(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)A	**演劇学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

演習(A)では、演劇学の基礎的な知識を身につける。
歴史上の様々なジャンルの演劇について、分析し研究する方法について学ぶ。
たとえば演劇には、文学的な戯曲のみならず、劇場という空間、俳優の身体による表現、音楽や動作によるリズムやテンポ、演出による新解釈、装置や美術による視覚的効果など、様々な要素を複合的に組み合わされている。
そうした要素をどう読み解くのか、教科書となる文献をもとに考えていく。

授業内容

受講生の関心にしたがってそれぞれにテーマを選定し，各自が文献調査を行い，その成果を口頭発表する。そこでの質疑応答，討論を通してテーマについての理解を深め，研究分析方法を精査し，レポートの形にまとめる。
春学期
1）授業の進め方・発表方法の解説
2)～4）講義:文献調査の基礎・分析方法の検討
5)～13）口頭発表・討論
14）総括

履修上の注意

口頭発表では，発表者のみならず参加者も各テーマに関心を持ち，積極的に討論に参加することが重要。
色々なジャンルの演劇(舞台芸術)を，実際に鑑賞する姿勢も持ってほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する文献内容について理解を深め、論点について検証するには、
書かれている事を読むだけでなく、関連資料についても調査する必要がある。
発表者はそうした調査を踏まえて、レジュメを作成し、発表に望むこと。

教科書

『演劇学のキーワーズ』ぺりかん社 2007 年
『西洋演劇論アンソロジー』月曜社 2019 年
『ドラマとしてのミュージカル』彩流社 2015 年

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加の姿勢と口頭発表への取り組み 60%，発表内容・レポート提出 40%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)B	**演劇学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中野 正昭	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、ミュージカルをはじめとする欧米の舞台芸術／娯楽の展開、その日本での受容と進化について学び、日本の近現代演劇史の独自性と課題について考察する。

授業内容

個人またはグループの研究テーマを設定し、報告(口頭発表)とディスカッションを重ねながら進める。
口頭発表は、春学期の報告から一歩進んで、研究発表となるものを目指す。
ディスカッションを活発なものにするために、発表者は文献調査、レジュメ作成等の発表準備を行う他に、他の履修生に事前に読んでおくべき資料・参考文献を指定する。また学期末に発表者はディスカッションした内容を踏まえて発表内容をレポート(論文形式)にまとめて提出する。
1)～13） 学生の研究発表(課題テーマにもとづく口頭発表)
14)全体の講評

履修上の注意

演習は個人作業だけでなく共同作業である。従って、自分の発表に関係なく毎授業に出席することが望ましい。
具体的には次のことを心に留めて欲しい
①発表者は、発表を自分の興味や疑問を解決する貴重な場と考えて、全力で問題提起と考察を行うこと
②発表のディスカッションが盛りあがるかどうか(肯定的なものだけでなく、質問、批判、否定も含め)も、発表が充実した証拠であるということ
③自分が発表する時以外は、他の発表者の意見を聞き、意見を述べることが、自分の関心を拡げることになること、
④発表者に様々な質問をすること、意見をすることが、発表者の理解を深める手助けとなること
以上のことを念頭に置いて、授業に参加することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習)
次回の発表テーマについて、発表者が指示した映像作品・資料等を事前に閲覧しておくこと。
準備学習(復習)
自分の発表かどうかに関係なく、発表を通して得られた演劇学的課題について、各自で文献等を調べ、理解を深め、自分なりの考えを導き出すこと。

教科書

特定の教科書は使用しない。発表に必要な資料・参考文献については、各発表者のテーマに応じて紹介します。

参考書

特定の教科書は使用しない。発表に必要な資料・参考文献については、各発表者のテーマに応じて紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

演習なので各自の発表内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

発表内容とレポート(60%)＋ディスカッションへの参加(40%)から総合的に評価する。
出席は学生の義務なので加点にはしないが、欠席は減点対象とする。

その他

演習は基本的に対面で行うが、コロナの感染状況によってはオンラインで行うことがある。
指導教官の専門は「日本近現代演劇」「比較演劇(日本と欧米・東アジア)」「大衆文化論」である。

科目ナンバー:(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)B	**演劇学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
東條 愛	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業を通して、日本と世界の演劇状況を同時に捉えると共に、舞踊、音楽、映画、美術などの諸芸術分野や社会的状況にも目を向け、広い視野で演劇を考えていくことを目的とする。
春学期での発表内容(20 世紀初頭に海外に渡った日本の演劇人)について、より掘り下げて考察していく他、新たな研究テーマについても柔軟に取り上げていく。
また、文献データベースの利用法や発表資料の作り方などの基礎を身につけ、自分の研究成果を発表するだけでなく、他者との討論によってその考察をより深める力を身につけていく。

授業内容
春学期での発表内容の成果をふまえ、各自、より掘り下げて考察すべき研究対象を決定する。
発表、討論を行い、学期末にはその内容をレポートにまとめ提出する。
1: 研究対象の決定
2,3: 研究対象に関連した映像資料鑑賞
4-13: 発表と討論
14: 秋学期のまとめ

履修上の注意
演習は、あくまで履修者が主役となる授業である。
自分の発表に真剣に取り組むことはもちろん、他の人の発表から積極的に学ぶ姿勢が求められる。
また、発表時には配布用のレジュメ等の資料を必ず準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
自分の発表以外についても予め文献等を参照し、積極的に討論に参加できるよう準備すること。
自分の発表では、ディスカッションによって出てきた課題や、回答できなかったことについて、発表後に確認をし学期末のレポートにまとめる。

教科書
特に定めない。

参考書
必要に応じ紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
各自の発表時に、発表内容ならびにディスカッション内容についての講評を行う。

成績評価の方法
授業への参加度(40%)と発表内容・ディスカッションへの参加・レポート(60%)から総合的に評価する。

その他
研究発表にあたっての資料作成方法や、レポート作成方法について、学べる機会が少ないという意見も見られたため、簡単な概要だけでなく、より具体的な作成方法について講義を設けることとする。

科目ナンバー:(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)B	**演劇学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
松本 祐子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
古今東西の戯曲を読み、戯曲の読解、演劇プランの組み立て、その戯曲の持つ歴史的意義などを講義する。演劇作品を創作する際の最重要の設計図ともいえる戯曲を、如何に多角的に読み解くかを学ぶことは、演劇を理解する上で必須のことと考える。そこでこの講義では、実際的な戯曲の読解の方法を理解することを目標の一つとする。
秋学期ではチェーホフの「三人姉妹」、シェイクスピアの「マクベス」、イプセンの「民衆の敵」…以上の作品を読み解いていく。戯曲の読解力を高め、実際的な演技、演出の方法論を構築できるようになることを到達目標とする。

授業内容
第1回　チェーホフの「三人姉妹」を読み解く。チェーホフが現代演劇に与えた多大なる影響を学ぶ。
第2回 チェーホフについて学ぶ。時代が戯曲に与える影響など、社会情勢など時代の変遷が如何に演劇に影響を与えるかなども学ぶ。
第3回 戯曲を具現化していく方法論を、美術、照明、音響効果、衣装など様々な角度から「三人姉妹」を使用して学ぶ。
第4回 チェーホフの台詞の面白さ、複雑さを中心に、それがいかに表現されてきたかを学ぶ。
第5回 「三人姉妹」を実際に表現してみるための登場人物の解釈などを行う。
第6回 シェイクスピアについて「マクベス」を中心に学ぶ。戯曲を読解し、部分的に英文も読み、台詞の音楽性などを理解する。
第7回 古今東西の「マクベス」の上演歴、「マクベス」から派生した芸術作品などについて学び、作品の現代性について考察する。
第8回 「マクベス」を如何に現代に向けて演出していくかを様々な角度から考察し学ぶ。
第9回 「マクベス」から派生した芸術作品をどう評価するか、その評価方法などを学ぶ。
第 10 回 イプセンについて「民衆の敵」を中心に学ぶ。戯曲を読解し、作品の問題意識について理解する。
第 11 回 「民衆の敵」について、それぞれのキャラクターを理解するという角度から再度、戯曲を読解する。
第 12 回 非常に今日的な「民衆の敵」と言う作品を現代人に訴えかけることの出来る演出方法はいかなるものなのかを考察する。
第 13 回 前回に続き、古典作品と現代を以下につなげていくかを学ぶ。
第 14回 これまでの学習をふまえて「民衆の敵」を立体化する方法を学ぶ。
一年間の授業をふりかえり、戯曲を読解すること、戯曲を立体化するとはどういうことなのかを確認する。

履修上の注意
授業で使用する戯曲及び書籍は、その作品がテーマになっている授業前には読んでおくことが必須である。また、具体的な理解を促すために、授業の内容によって、歴史を調べる、人物を調べる、美術プランを考えるなどの課題を提出してもらう必要がある。この授業の目標は能動的な学びなので、この課題提出は必須項目となる。また、戯曲を声に出して読む、課題を発表するなど能動的な態度での授業参加が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で使用する戯曲及び書籍は、その作品がテーマになっている授業前には必ず読んでおくこと。
授業の内容によって、その都度、歴史を調べる、劇作家を調べる、演出プランを考えるなど、調べ物をし、発表することが要求される。

教科書
購入して欲しいもの…「新訳 マクベス」(角川文庫)シェイクスピア 河合祥一郎訳
マクベスに関しては既にほかの人の翻訳を持っている場合は購入しなくても大丈夫です
配布するもの…計2作品
「三人姉妹」チェーホフ 安達紀子訳
「民衆の敵」イプセン

参考書
なし

課題に対するフィードバックの方法
課題は授業内で発表してもらいますので、フィードバックも口頭で授業内でお伝えします。

成績評価の方法
授業での学習態度、貢献度 50%、授業のためのリサーチや課題発表 50%

その他

科目ナンバー:(AL)ART232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(2年)B	**演劇学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇に関わる様々な要素(戯曲・演出・演技・舞台美術・衣装・照明・音響・制作など)を幅広く見渡しながら、歴史上の様々なジャンルの演劇(舞台芸術)について深く考察・分析する方法を探求する。
演習(A)で学んだことを基礎にしながら、各自の関心あるテーマを取り上げ、考察・分析を深めたことについて口頭発表する。

授業内容

受講生の関心にしたがってそれぞれにテーマを選定し, 各自が文献調査を行い, その成果を口頭発表する。そこでの質疑応答, 討論を通してテーマについての理解を深め, 研究分析方法を精査し, レポートの形にまとめる。
1)～2) 研究発表の準備、イントロダクション
3)～13) 口頭発表・討論
14)総括

履修上の注意

口頭発表では, 発表者のみならず参加者も各テーマに関心を持ち, 積極的に討論に参加することが重要。色々なジャンルの演劇(舞台芸術)を, 実際に鑑賞する姿勢も持ってほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の選択した研究テーマについて、先行研究に目を配りながら、理解を深めていく。
発表者はそれらの調査を踏まえてレジュメを作成し、発表に望むこと。

教科書

各自の研究テーマに沿って選択すること。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加の姿勢と口頭発表への取り組み 60%, 発表内容・レポート提出 40%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)A	**演劇学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

主に西洋演劇を対象に、受講者が関心のあるテーマを選択した後、論文や記事あるいは書評などを読み、文献表を作成する。その後、それらの文献表に基づいた発表を行なう。テーマの設定は、人名(スタニスラフスキー、ブレヒト、アルトー etc.)でも項目(不条理演劇、イタリア未来派、環境演劇 etc.)でも演劇にまつわる諸要素(音、照明、舞台美術、衣装、演技 etc.)でも良い。対象に関する言説を自らまとめていくことで、対象に関係する情報・体系を把握するプロセスを身につける(図書館に収蔵されているかどうかを確認し、収蔵されていないものは購入希望図書として申し込みまで行なってみましょう)。
演劇を中心とした学問史をとらえ、その延長線上に自らを置くことが論じるという作業の第一歩です。次年度の卒業論文執筆に向けて、基礎的な作法を身に付けましょう。受講人数によって、個別発表あるいはグループ発表の形をとります。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2-3 回 資料の集め方、発表の仕方などの案内。テーマの決定。
第 4-13 回 口頭発表
第 14 回 総括

履修上の注意

積極的に授業に参加しましょう。状況によっては、ゲストを招いて特別授業や課外授業を課す場合もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当グループ／発表者は、発表内容をまとめたテキストを準備すること。
テキストの形式はその都度指示するが、基本的には「論文」としての提出が求められます。
発表担当でない場合も、対象に関して各自学習しておくこと。

教科書

なし

参考書

山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』月曜社、2019 年
など
その他の参考書に関しては、授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点 100%
出席率、担当時の発表、授業内での発言等で判断する。

その他

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)A	**演劇学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢内 賢二	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文の執筆を意識しつつ、学術論文における形式の決まりや考え方の基本を修得することを目指す。
前半はテーマと仮説の設定、論旨の構成、資料の扱い方、実証・論証の方法、表記・書式等について講義を行う。
後半は受講者各自の関心や問題意識に即して複数回の口頭発表を課す。
的確明瞭で論理的な記述・表現による論文の執筆計画作成を通じて、学術的意義のある議論や主張を提示できる能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 テーマと仮説の設定
第３回 資料調査の方法(1)一次資料
第４回 資料調査の方法(2)先行研究
第５回 論文の構成方法(1)
第６回 論文の構成方法(2)
第７回 論文の構成方法(3)
第８回 論文の表記・書式
第９回 口頭発表(1)
第10回 口頭発表(2)
第11回 口頭発表(3)
第12回 口頭発表(4)
第13回 口頭発表(5)
第14回 講評・まとめ

履修上の注意

必ず「演劇学演習(3年)B」と合わせて履修すること。
第２回に発表の担当日程等を決定するので履修希望者は必ず出席すること。
他の受講者の発表に対しても積極的に発言し議論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料や参考書による予習・復習を行い、不明点は可能な範囲で調べること。
他の受講者の発表に対するコメント等も聞き流さずノートを取るなどして復習を行うこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK出版)、阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』(光文社)など、論文執筆の入門書を一冊通読することを勧める。

課題に対するフィードバックの方法

課題・質問に対する講評・回答を翌週の授業または Oh-o! Meiji で行う。

成績評価の方法

授業での報告・発表 70%、授業への参加度 30%。

その他

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)A	**演劇学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演劇芸術を構成する要素は諸々あるが，ここでは「上演」に注目することで，「戯曲」ではなく「劇場」という場に成立する演劇芸術のダイナミズムを検討していく。

授業内容

「上演」をめぐる諸要素を，受講生の関心にしたがって選出し，それぞれについて発表と討論を重ねていく。ひとつの題材について，受講生各自で文献調査を行い，その成果を口頭発表する。深く掘り下げた論考を期待したいので，発表の機会は年間最低二回，多い場合は数回に及ぶ。発表者はそれをレポートの形でまとめる。
この授業での題材となるポイントを挙げておく。
・人物 (例)演出家、美術家、俳優など、劇作家ではなく「上演」を支えた人物を掘り下げる。
・劇場 具体的に一つの時代や特定の劇場を取り上げ、その劇場の空間的魅力を探る。※ただし、題材としては魅力的だが資料は少ないので注意すること。
・表現モード (例)写実主義、象徴主義、不条理劇、異文化交流演劇など。
・演劇状況をめぐる課題 (例)芸術支援政策、演劇教育など。
・時代と演劇的精神史 (例)世紀末演劇、政治の時代の演劇
春学期
〔第1週〕授業の趣旨の説明
〔第2週〕文献の調べ方
〔第3週～第 13 週〕春学期発表
〔第 14 週〕春学期まとめ

履修上の注意

演劇の調査は書籍だけで完結するものではないので，積極的に劇場に足を運んで欲しい。また，受講生数にもよるが課外の見学会を実施する予定。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の発表に向けての入念な予習を求める。資料を十分に精査し、その上で自分の発表をまとめること。
一夜漬けの発表は認めない。
また、発表に関しては、受講生同士で意見を交換し合うため、そこで出た反応を受けて、秋学期の発表に向けての改めての準備をすること。

教科書

指定しない

参考書

各自の発表内容に応じて必要な文献が異なるため、発表内容に応じて必要な文献を探す手順を指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回参加者同士と教員からのコメントを発表者に提示していく。

成績評価の方法

春学期は授業への参加の取り組みを重視する。平常授業時における参加の度合い(コメントや話し合いの姿勢)、発表への取り組みの度合いを点数化する。

その他

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)A	**演劇学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演習(A)では、演劇学の専門的な知識を身につける。
歴史上の様々なジャンルの演劇について、分析し研究する方法について学ぶ。
欧米の研究者による演劇学の理論的な文献は、読み慣れないと難しいものもあるが、
それらを読みこなし、演劇学の論点がどのように展開され論じられてきたのか、理解を深める。

授業内容

受講生の関心にしたがってそれぞれにテーマを選定し，各自が文献調査を行い，その成果を口頭発表する。そこでの質疑応答，討論を通してテーマについての理解を深め，研究分析方法を精査し，レポートの形にまとめる。
春学期
1）授業の進め方・発表方法の解説
2)～4）講義:文献調査の基礎・分析方法の検討
5)～13）口頭発表・討論
14）総括

履修上の注意

口頭発表では，発表者のみならず参加者も各テーマに関心を持ち，積極的に討論に参加することが重要。
色々なジャンルの演劇(舞台芸術)を，実際に鑑賞する姿勢も持ってほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当する文献内容について理解を深め、論点について検証するには、
書かれている事を読むだけでなく、関連資料についても調査する必要がある。
発表者はそうした調査を踏まえて、レジュメを作成し、発表に望むこと。

教科書

過去の扱った書籍の例
『演劇学の教科書』国書刊行会 2009 年
『演劇学へのいざない』国書刊行会 2013 年
『ポストドラマ演劇』同学社 2002 年

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各発表について、同日のディスカッションおよびコメントにて対応する。

成績評価の方法

授業参加の姿勢と口頭発表への取り組み 60%，発表内容・レポート提出 40%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)B	**演劇学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

主に西洋演劇を対象に、受講者が関心のあるテーマを選択した後、論文や記事あるいは書評などを読み、文献表を作成する。その後、それらの文献表に基づいた発表を行なう。テーマの設定は、人名(スタニスラフスキー、ブレヒト、アルトー etc.)でも項目(不条理演劇、イタリア未来派、環境演劇 etc.)でも演劇にまつわる諸要素(音、照明、舞台美術、衣装、演技 etc.)でも良い。対象に関する言説を自らまとめていくことで、対象に関係する情報・体系を把握するプロセスを身につける(図書館に収蔵されているかどうかを確認し、収蔵されていないものは購入希望図書として申し込みまで行なってみましょう)。

演劇を中心とした学問史をとらえ、その延長線上に自らを置くことが論じるという作業の第一歩です。次年度の卒業論文執筆に向けて、基礎的な作法を身に付けましょう。受講人数によって、個別発表あるいはグループ発表の形をとります。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2-3 回 資料の集め方、発表の仕方などの再確認。各自テーマの決定。
第 4-13 回 口頭発表
第 14 回 総括

履修上の注意

積極的に授業に参加しましょう。状況によっては、ゲストを招いて特別授業や課外授業を課す場合もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当グループ／発表者は、発表内容をまとめたテキストを準備すること。
テキストの形式はその都度指示するが、基本的には「論文」としての提出が求められます。
発表担当でない場合も、対象に関して各自学習しておくこと。

教科書

なし

参考書

山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』月曜社、2019 年
など
その他の参考書に関しては、授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点 100%
出席率、担当時の発表、授業内での発言等で判断する。

その他

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)B	**演劇学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢内 賢二	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文の執筆を意識しつつ、学術論文における形式の決まりや考え方の基本を修得することを目指す。
前半は講義の後、学術論文の講読を通じて問題設定のしかたや構成・形式等について学ぶ。
後半は受講者各自の関心や問題意識に即して複数回の口頭発表を課す。
的確明瞭で論理的な記述・表現による論文の執筆計画作成を通じて、学術的意義のある議論や主張を提示できる能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 論文のテーマ設定と構成
第 3 回 先行研究と資料調査
第 4 回 論文講読(1)
第 5 回 論文講読(2)
第 6 回 論文講読(3)
第 7 回 口頭発表(1)
第 8 回 口頭発表(2)
第 9 回 口頭発表(3)
第 10 回 講評
第 11 回 口頭発表(4)
第 12 回 口頭発表(5)
第 13 回 口頭発表(6)
第 14 回 講評・まとめ

履修上の注意

必ず「演劇学演習(3年)A」と合わせて履修すること。
第 1 回に発表の担当日程等を決定するので履修希望者は必ず出席すること。
他の受講者の発表に対しても積極的に発言し議論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料や参考書による予習・復習を行い、不明点は可能な範囲で調べること。
他の受講者の発表に対するコメント等も聞き流さずノートを取るなどして復習を行うこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK出版)、阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』(光文社)など、論文執筆の入門書を一冊通読することを勧める。

課題に対するフィードバックの方法

課題・質問に対する講評・回答を翌週の授業または Oh-o! Meiji で行う。

成績評価の方法

授業での報告・発表 70%、授業への参加度 30%。

その他

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)B	**演劇学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演劇芸術を構成する要素は諸々あるが, ここでは「上演」に注目することで, 「戯曲」ではなく「劇場」という場に成立する演劇芸術のダイナミズムを検討していく。
また、秋学期は、具体的な卒業論文制作のテーマ・研究方向を探ることを目標とする。

授業内容

「上演」をめぐる諸要素を, 受講生の関心にしたがって選出し, それぞれについて発表と討論を重ねていく。ひとつの題材について, 受講生各自で文献調査を行い, その成果を口頭発表する。深く掘り下げた論考を期待したいので, 発表の機会は最低二回, 多い場合は数回に及ぶ。発表者はそれをレポートの形でまとめる。
この授業での題材となるポイントを挙げておく。
・人物 (例)演出家、美術家、俳優など、劇作家ではなく「上演」を支えた人物を掘り下げる。
・劇場 具体的に一つの時代や特定の劇場を取り上げ、その劇場の空間的魅力を探る。※ただし、題材としては魅力的だが資料は少ないので注意すること。
・表現モード (例)写実主義、象徴主義、不条理劇、異文化交流演劇など。
・演劇状況をめぐる課題 (例)芸術支援政策、演劇教育など。
・時代と演劇的精神史 (例)世紀末演劇、政治の時代の演劇
秋学期
〔第1週〕授業の趣旨の説明
〔第2～第 13 週〕秋学期発表
〔第 14 週〕秋学期まとめ
※原則として発表内容は春学期と同一テーマとし、春学期の内容を発展させた発表を行うこととする。

履修上の注意

演劇の調査は書籍だけで完結するものではないので, 積極的に劇場に足を運んで欲しい。春学期に準じる課外の見学会を実施する予定。

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期と同様、しっかり文献に当たる時間を確保した上での発表準備を心がけること。
また、秋学期は発表した内容をレポートにまとめることが求められるので、発表終了後にその反省点をしっかりとあぶりだすことを求める。

教科書

指定しない

参考書

授業としては特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回参加者同士と教員からのコメントを発表者に提示していく。

成績評価の方法

平常点(発表・プレゼンへの取り組み)50 パーセント、期末レポート 50 パーセント。

その他

発表がうまくいかなくてもレポートで十分挽回できるので、発表の反省点についてしっかりと自分なりにまとめた上でレポートに臨むこと

科目ナンバー:(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学演習(3年)B	**演劇学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演劇に関わる様々な要素(戯曲・演出・演技・舞台美術・衣装・照明・音響・制作など)を幅広く見渡しながら、歴史上の様々なジャンルの演劇(舞台芸術)について深く考察・分析する方法を探求する。
演習(A)で学んだことを基礎にしながら、各自の関心あるテーマを取り上げ、考察・分析を深めたことについて口頭発表する。

授業内容

受講生の関心にしたがってそれぞれにテーマを選定し, 各自が文献調査を行い, その成果を口頭発表する。そこでの質疑応答, 討論を通してテーマについての理解を深め, 研究分析方法を精査し, レポートの形にまとめる。
1)～2) 研究発表の準備、イントロダクション
3)～13) 口頭発表・討論
14)総括

履修上の注意

口頭発表では, 発表者のみならず参加者も各テーマに関心を持ち, 積極的に討論に参加することが重要。色々なジャンルの演劇(舞台芸術)を, 実際に鑑賞する姿勢も持ってほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各自の選択した研究テーマについて、先行研究に目を配りながら、理解を深めていく。
発表者はそれらの調査を踏まえてレジュメを作成し、発表に望むこと。

教科書

各自の研究テーマに沿って選択すること。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各発表について、同日のディスカッションおよびコメントにて対応する。

成績評価の方法

授業参加の姿勢と口頭発表への取り組み 60%, 発表内容・レポート提出 40%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)ART131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇学入門	**演劇概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇や舞台芸術については、特に日本では歴史もその内容についても学ぶ機会があまりないかもしれません。また、劇場へ足を運んで舞台を見るという文化もまた、その多くが都市部に集中していることや、観劇チケットの価格が高い、なにを見ていいのか分からない、などなど様々な要因から、敷居が高いと感じる人も少なくないようです。
けれども、演劇や舞台芸術について考えるということは、文学や絵画や音楽といった複数の芸術との関係性を知るだけでなく、多様な人々の対立や苦悩や葛藤が描き出されていたり、また社会の中でなんらかの役割を演じている人々の営みが写し取られていたりと、多層的な問題を扱うことでもあります。
この講義では、演劇とはなにか、という大きな問題意識を背景としながら、その多様性を広く見渡しつつ、その文化的な役割を探っていければと思います。

授業内容

1)授業の進め方
2)演劇とはなにか−演劇の定義の変遷、学問的な広がり
3)ギリシャ悲劇のドラマと現代における上演
4)ドラマツルギー(1)「古典主義的発想」「緊縮的構造」による劇作法
5)ドラマツルギー(2)「反古典主義的」劇作法
6)ドラマツルギー(3) 西洋近代劇の成立から
7)ドラマツルギー(4) 20 世紀の劇作法とは
8)シアトリカリティ(1)演技における抽象化・類型化の表現
9)シアトリカリティ(2)舞台の言葉――1960～80 年代の身体とことば
10)シアトリカリティ(3)演技と類型化
11)舞台芸術の諸相(1)オペラ・バレエ・パントマイム
12)舞台芸術の諸相(2)酒場と演劇
13)舞台芸術の諸相(3)休暇と演劇
14)まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回配布する資料において歴史上の基本的な事項や参考資料を紹介していく。
理解を深める上では、そうした関連書籍を読み進めていくことが必要。

教科書

特に指定なし

参考書

適宜、講義の中で取り上げる。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体講評を翌週の授業にて行う。

成績評価の方法

授業参加の態度 50%, レポート 20%, 試験 30%で評価。

その他

科目ナンバー：(AL)ART131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演劇文化論	**演劇概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇や舞台芸術については、特に日本では歴史もその内容についても学ぶ機会があまりないかもしれません。また、劇場へ足を運んで舞台を見るという文化もまた、その多くが都市部に集中していることや、観劇チケットの価格が高い、なにを見ていいのか分からない、などなど様々な要因から、敷居が高いと感じる人も少なくないようです。
けれども、演劇や舞台芸術について考えるということは、文学や絵画や音楽といった複数の芸術との関係性を知るだけでなく、多様な人々の対立や苦悩や葛藤が描き出されていたり、また社会の中でなんらかの役割を演じている人々の営みが写し取られていたりと、多層的な問題を扱うことでもあります。
この講義では、演劇とはなにか、という大きな問題意識を背景としながら、その多様性を広く見渡しつつ、その文化的な役割を探っていければと思います。

授業内容

1)授業の進め方
2)演劇とはなにか−演劇の定義の変遷、学問的な広がり
3)ギリシャ悲劇のドラマと現代における上演
4)ドラマツルギー(1)「古典主義的発想」「緊縮的構造」による劇作法
5)ドラマツルギー(2)「反古典主義的」劇作法
6)ドラマツルギー(3) 西洋近代劇の成立から
7)ドラマツルギー(4) 20 世紀の劇作法とは
8)シアトリカリティ(1)演技における抽象化・類型化の表現
9)シアトリカリティ(2)舞台の言葉――1960～80 年代の身体とことば
10)シアトリカリティ(3)演技と類型化
11)舞台芸術の諸相(1)オペラ・バレエ・パントマイム
12)舞台芸術の諸相(2)酒場と演劇
13)舞台芸術の諸相(3)休暇と演劇
14)まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回配布する資料において歴史上の基本的な事項や参考資料を紹介していく。
理解を深める上では、そうした関連書籍を読み進めていくことが必要。

教科書

特に指定なし

参考書

適宜、講義の中で取り上げる。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体講評を翌週の授業にて行う。

成績評価の方法

授業参加の態度 50%, レポート 20%, 試験 30%で評価。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)A	**演習Ⅰ(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高田 幸男	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業の概要 東アジア近現代史研究に関する演習。卒業論文作成へ向けて、中国近現代史に関連する史料を講読し、論文の読解力・分析力を高めるとともに、卒業論文へ向けて各自のテーマを探し、その先行研究を集め、まとめる。
到達目標 自身の問題意識を明確にして卒論のおおまかなテーマを決める。そしてテーマに関する知識を取得し、関連する論文・研究書を収集して研究史上の課題を把握するとともに、基本的史料を集める。

授業内容

まず近現代史研究とはどういう学問か、研究テーマの探し方、文献収集のしかたを学んだのち、図書館ツアーで文献捜索を実習し、各自、卒業論文仮テーマに関する先行研究文献リストを作成し、仮テーマに関する研究史と研究課題をまとめる。
ついで、中国語の論文をテキストとして講読をおこない、読解力を高めるだけでなく、分析のしかた、研究課題の設定についても学ぶ。講読内容は分析してレポートにまとめる。
また、必要に応じ、アジア史に関するドキュメンタリー番組などを視聴したり、アジア史と関連が深い事件なども取り上げ、歴史学の現代社会における役割も考えることにしたい。
(1)アジア近現代史研究の歴史、最新の研究方法
(2)アジア近現代史研究のための実践的図書館ツアー
(3)卒論仮テーマに関する先行研究文献リストの作成、先行研究文献リストの検討
(4)中国語文献の紹介、講読(1)
(5)中国語文献の講読(2)
(6)中国語文献の講読(3)
(7)中国語文献の講読(4)
(8)中国語文献の講読(5)
(9)中国近現代映像史料の視聴
(10)中国近現代映像史料の考察
(11)中国語文献の講読(6)
(12)中国語文献の講読(7)
(13)各自の卒論先行研究発表・レポートの作成
(14)発表・レポートの講評
以上は、大まかな流れであり、受講者の多寡により変更の可能性がある。

履修上の注意

卒論作成の初歩的作業は、自身のテーマと無関係の内容でも、発想や着眼点など互いに参考になるので、質疑・議論に積極的に参加すること。
中国語論文の講読は、中国語で音読ののち日本語に訳す。全員予習していることを前提に、無作為に指名するので、受講者は丹念に予習をしておくこと。単に語学として訳すだけでなく、固有名詞等を調べ、何が描かれているか把握しておくこと。中国語未習者には配慮するが、現代中国文を読めることはメリットも大きいので、既習者と組むなどして挑戦してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒論作成に必要な作業については、教科書をよく読み確認しておくこと。論文の講読に際しては、単に単語を調べるだけでなく、論証に使用している史料やその使い方などを確認すること。

教科書

研究方法の教科書としては飯島渉・田中比呂志編『中国近現代史研究のスタンダード』(研文出版)を使用する。講読のテキストはプリントを配布する。

参考書

辞書は、『中日大辞典』(大修館書店)が近現代の語彙も多く便利である。近現代の歴史文献については山腰敏寛編『中国歴史公文書読解辞典』(汲古書院)がある。その他の参考書は、随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

成績は、平常点(授業態度・講読報告内容を含む)とレポートによって評価する(平常点 80%、レポート 20%)。出席過少の者(2割以上欠席した者。遅刻は 0.5 回欠席と計算)には別にレポートを課す。課せられたレポートを未提出の者は成績評価の対象としない。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)A	**演習Ⅰ(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

主として漢文以外の史料を用いておこなわれる西アジアなどの研究領域を学ぼうとする学生を対象とする。各自の研究テーマに関する文献目録を作成し，これに基づいて研究発表をする。ただし、この分野は日本語による先行研究が少ないので、外国語文献(主として英語)を利用することが多くなるとともに研究テーマの設定が制約される場合がある。

授業内容

1 イントロダクション：初回の授業で、漠然とではあれ、卒論で研究したい地域・テーマについて受講生各自に話してもらい、ゼミ選択を確定する。
2 基本的な工具(辞典・事典・文献目録・研究ガイドなど)を紹介する。
3 図書館において文献検索の実習をおこなう。
4 基本的な工具類に実際にあたって、興味をもったテーマに関する基本事項を調べる作業を試みる。
5～13 口頭発表：毎回2名ずつおこなう。各自、受講生の人数分のレジュメを準備する。
14 まとめ、期末レポート提出
夏季休暇中の課題：アジア史に関する基本文献を提示するので、これを 10 冊(論文も含む)読んで、1冊について A4 一枚の「要約」および「批評・感想」を作成し、秋学期の初回の授業時に提出する(締切厳守)。
また、秋学期の口頭発表に備えて、各自の研究テーマに関係する文献(学術論文レベル)を収集・読破する。

履修上の注意

・イスラム史(前近代)・(近現代)を履修していること。
・西アジア・南アジア・東南アジア地域は、和文文献のないもしくは先行研究が少ない研究分野なので、適宜アドヴァイスをおこなうが、英文文献の収集・講読が不可欠となる。本授業の受講者の関心は、例年広範囲に及ぶので、個別指導を中心に授業を進める。このため，授業は研究発表とそれに基づく討論が中心となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で指定された文献を講読し、ノートにまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

小杉泰・江川ひかり編『ワードマップ イスラーム―社会生活・思想・歴史』新曜社、2006 年.
永田雄三・江川ひかり『世紀末イスタンブルの演劇空間―都市社会史の視点から』白帝社、2015 年.
その他、各自の研究テーマにそった参考文献を随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

随時、授業で全体に関わる問題点をコメントするとともに、各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

・演習授業なので、発表内容および出席と議論における積極性を重視する。(50%)
・各発表者の発表への質問し、意見・感想を書いてもらう。(50%)

その他

・授業形態は、対面を基本とする。何らかの事情で変更がある場合には、事前に「シラバスの補足」で詳細を明らかにする。
・出席重視。受講生の遅刻、無断欠席は厳禁。
欠席する場合には事前にメールで連絡すること。
・各自，毎回のゼミで質問する心構えで発表を聞くこと。
・提出物の期限は厳守とする。
・外国語文献を最低一冊は読む。
・発表者は、レジュメを Word あるいは PDF で作成し、発表前日の正午までに教員へメールで送信すること。
・授業内容の録音、録画、写真撮影は厳禁です。
・卒論作成に関しては随時アドヴァイスをおこなうので、相談してほしい。

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)A	**演習Ⅰ(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、中国前近代(主に夏・殷・周～唐代まで)をテーマに卒業論文を執筆しようとする学生を対象として、卒業論文作成に向けた準備を行う。そのために、テーマの具体化・先行研究の収集と批評・史料収集と読解を実際に実施してもらうとともに、受講者による卒業論文準備報告を実施することを通じて、卒業論文の執筆にとりかかる基礎力を養う。

授業内容

第一回 授業内容についての説明と受講者による関心のある地域・時代・テーマの報告
第二回～第三回 卒論へ向けた準備について
第四回～第十三回 各自の研究テーマによる報告
一人 45 分(報告 25 分・質疑 20 分)を目安に、受講者による報告を実施する。 基本的に、
1.卒業論文で扱いたいテーマとその意義について
2.そのテーマについての先行研究の紹介とその批評
3.そのテーマを考察する上で用いる史料の紹介
を軸に、レジュメ(配布資料)を用意した上で報告する。他の受講者は、その報告に対して質疑の形で批評を実施する。このほか、受講者各自のテーマに沿って、先行研究の収集と読解・批評を課す。その成果は、小レポート(1000 字程度)として第6回・9回・12 回の講義開始時点で提出してもらう。報告がない回は、出土史料を中心とした史料講読を実施する。
第十四回 レポート提出
各自の卒論テーマに沿って小レポートも生かしつつ、そのテーマの「研究史」をまとめてレポート(4000 字程度)として提出してもらう。

履修上の注意

演習形式であるので出席と報告・批評の着実な実施が重視される。正当な理由を提示できない欠席や予習不足を繰り返す者には単位を認定しない。課外活動やアルバイト、就職活動などは正当な理由にはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：基礎演習などでの知識を元に、受講者自身が先行研究を収集して読解するとともに、必要な史料も集める。
復習：報告実施時や小レポートでの指摘を元に、改善点を見つけ出して直し、卒論の原稿を少しずつ作っていく。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

『史学雑誌 回顧と展望』(毎年5号)・・・最新号からさかのぼって自己のテーマと関係する先行研究を探す
『中国史研究入門』(名古屋大学出版会)・・・テーマの概要や史料等の調査に用いる
いずれも図書館でみられるので、積極的に利用するようにしてもらいたい。

課題に対するフィードバックの方法

レポートなどは必要に応じて改善意見などを書き込んだうえで返却する。

成績評価の方法

担当報告・他者の報告への批評・小レポートの提出状況・出席状況を基準とした平常の学習状況(70%)と期末レポート(30%)を基礎として総合して判定する。

その他

変更が生じる場合などもあるため、大学からの通知・Oh-o!Meiji は毎日確認してもらいたい。

科目ナンバー:(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)A	**演習Ⅰ(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アジア史研究の方法を実践的に学ぶ。地域としては東アジア、東南アジア、中央ユーラシア、時代としては中世～近現代に関心を持つ学生を対象とする。研究を進めていくうえで基礎となる研究論著の読解、史料読解(主に漢文)に必要な知識、技能を習得する。さらに自ら研究テーマを設定し、そのテーマについて他者に分かりやすく伝え、また論文にまとめる能力も身につけたい。研究を行うための文献収集とその整理についても実践を通じて学んでいきたい。

授業内容

受講者と相談のうえ、研究論著を講読する。日本語文献と中国語文献を講読し、内容のみならず研究の方法、先行研究の状況についても俯瞰する。研究史料は第2～7講でとりあげた研究論著と関係の深い史料をとりあげ、史料講読を通じて研究論著の検証という作業も体験する。

1 授業の進め方と講読資料について説明
2 研究論著の講読(日本語)1
3 研究論著の講読(日本語)2
4 研究論著の講読(日本語)3
5 研究論著の講読(中国語)1
6 研究論著の講読(中国語)2
7 研究論著の講読(中国語)3
8 研究史料の講読 1
9 研究史料の講読 2
10 研究史料の講読 3
11 研究史料の講読 4
12 研究史料の講読 5
13 研究史料の講読 6
14 講読のまとめと夏休み期間の課題について説明

履修上の注意

3 回以上欠席した場合、評価の対象とみなさない。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読資料の予習をして授業に臨むこと。史料読解の成果を期末レポートとして提出してもらう。

教科書

使用しないが、漢和辞典(角川新字源もしくは全訳漢字海)および一般的な中国語辞典(中日大辞典を推奨)が必要となる。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点 50% 期末レポート 50%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)B	**演習Ⅰ(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高田 幸男	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業の概要 東アジア近現代史研究に関する演習。卒業論文作成へ向けて、中国近現代史に関連する史料を講読し、史料の読解力・分析力を高めるとともに、卒業論文へ向けて各自のテーマを探し、その先行研究を集め、まとめる。
到達目標 演習ＩＡでおおまかに決めたテーマについて、さらに先行研究を収集してテーマを絞り込み、重要な史料をから読み始め、並行して論文の構成も検討し、卒論テーマを確定し、草稿に着手する。

授業内容

まず、夏休み中の進展状況について各自発表し、ついで中国語文献をテキストとして講読をおこない、読解力を高めるだけでなく、分析のしかたも学ぶ。講読内容は分析して発表する。併行して各自、卒論の構想を練るとともに、史料の収集・分析を進め、卒論予備報告をおこない、レポートにまとめる。

また、必要に応じて、アジア史に関するドキュメンタリー番組などを視聴したり、アジア史と関連が深い事件なども取り上げ、歴史学の現代社会における役割も考えることにしたい。

(1)夏休み中の進展状況の発表(1)
(2)夏休み中の進展状況の発表(2)
(3)中国語史料の解説
(4)中国語史料の講読(1)
(5)中国語史料の講読(2)
(6)中国語史料の講読(3)
(7)中国近現代映像史料の視聴と討論
(8)中国語史料の講読(4)
(9)中国語史料の講読(5)
(10)中国語史料の講読(6)
(11)中国語史料講読の分析・まとめ
(12)各自の卒論進展状況の発表(1)
(13)各自の卒論進展状況の発表(2)・卒論予備レポートの作成
(14)レポートの講評
以上は、大まかな流れであり、受講者の多寡などにより変更の可能性がある。

履修上の注意

卒論作成の初歩的作業は、自身のテーマと無関係の内容でも、発想や着眼点など互いに参考になるので、質疑・議論に積極的に参加すること。

中国語史料の講読は、中国語で音読ののち日本語に訳す。全員予習していることを前提に、無作為に指名するので、受講者は丹念に予習をしておくこと。単に語学として訳すだけでなく、固有名詞等を調べ、何が描かれているか把握しておくこと。中国語未習者には配慮するが、現代中国文を読めることはメリットも大きいので、既習者と組むなどして挑戦してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

まず、夏休み中に、卒論テーマについてよく検討しておき、初回から進展状況を発表できるよう、まとめておくこと。

卒論作成に必要な作業については、教科書をよく読み確認しておくこと。文献の講読に際しては、単に単語を調べるだけでなく、固有名詞などできるだけ調べて、当時の状況を考察すること。

教科書

研究方法の教科書としては飯島渉・田中比呂志編『中国近現代史研究のスタンダード』(研文出版)を使用する。講読のテキストはプリントを配布する。

参考書

辞書は、『中日大辞典』(大修館書店)が近現代の語彙も多く便利である。近現代の歴史文献については山腰敏寛編『中国歴史公文書読解辞典』(汲古書院)がある。その他の参考書は、随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

成績は、平常点(授業態度、講読状況、卒論予備報告など)と卒論予備レポートによって評価する(平常点 80%、レポート 20%)。卒論予備レポートは卒論の草稿として作成し、8,000 字の執筆を目指す(努力目標)。出席過少の者(2割以上欠席した者。遅刻は 0.5 回欠席と計算)には別にレポートを課す。課せられたレポートを未提出の者は成績評価の対象としない。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)B	**演習Ⅰ(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期の成果に基づき、秋学期は，卒業論文に向けての指導をおこなう。卒業論文に向けた下準備となる予備論文(8000 字)の執筆完成が到達目標となる。

授業内容

1 春学期に作成・収集した文献目録に基づき、夏期休暇中に 10 冊の文献を講読し、それらに関する要約と批評・感想とを初回に提出する。
2～4 アジア史関連の学術論文の輪読。
5～13 各自の研究テーマに関する発表。
14 今年度のまとめと、卒論に向けての準備作業の確認。
・卒業論文に向けた予備論文(8000 字)を、1月末日ごろを期限とし提出する。
提出期限厳守とする。

履修上の注意

・イスラム史(前近代)・(近現代)を履修していること。
・卒論作成に向けて、テーマの設定，文献の収集・講読，論文作成の手順などを個別に指導し、かつ研究発表を中心に授業を進めるため，発表の内容および出席と積極的な取り組みを重視する。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で指定された文献を講読し、ノートにまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

小杉泰・江川ひかり編『ワードマップ イスラーム―社会生活・思想・歴史』新曜社，2006 年.
永田雄三・江川ひかり『世紀末イスタンブルの演劇空間―都市社会史の視点から』白帝社，2015 年.
その他、各自の研究テーマにそった参考文献を適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

随時、授業で全体に関わる問題点をコメントするとともに、各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

・演習授業なので、発表内容および出席と議論における積極性を重視すると同時に、各発表者の発表への質問し、意見・感想を書いてもらう。(50%)
・夏季課題および期末予備論文(50%)

その他

・授業形態は、対面を基本とする。何らかの事情で変更がある場合には、事前に「シラバスの補足」で詳細を明らかにする。
・出席重視。受講生の遅刻、無断欠席は厳禁。
欠席する場合には事前にメールで連絡すること。
・各自，毎回のゼミで質問する心構えで発表を聞くこと。
・提出物の期限は厳守とする。
・外国語文献を最低一冊は読む。
・発表者は、レジュメを Word あるいは PDF で作成し、発表前日の正午までに教員へメールで送信すること。
・授業内容の録音、録画、写真撮影は厳禁です。
・卒論作成に関しては随時アドヴァイスをおこなうので、相談してほしい。

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)B	**演習Ⅰ(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、中国前近代(主に夏・殷・周～唐代まで)をテーマに卒業論文を執筆しようとする学生を対象として、卒業論文作成に向けた準備を行う。そのために、具体化したテーマに関する先行研究(外国語文献も含む)収集と批評・史料収集と読解を実際に実施してもらうとともに、受講者による卒業論文準備報告を実施し、卒業論文冒頭部の作成に着手してもらう。

授業内容

第一回 授業内容についての説明と受講者による関心のある地域・時代・テーマの報告
第二回～第十三回 各自の研究テーマによる報告・史料講読
一人 45 分(報告 25 分・質疑 20 分)を目安に、受講者による報告を実施する。 基本的に、
1.卒業論文で扱いたいテーマとその意義について
2.そのテーマについての先行研究の紹介とその批評
3.そのテーマを考察する上で用いる史料の紹介
4.自分で史料から検討した結果の途中経過(ある程度結果がでていればその報告)
を軸に、レジュメ(配布資料)を用意した上で報告する。他の受講者は、その報告に対して質疑の形で批評を実施する。報告がない回は、出土史料を中心とした史料講読を実施する。このほか、受講者各自のテーマに沿って、先行研究の収集と読解・批評を課す。その成果は、小レポート(1000 字程度)として第6回・9回・12 回の講義開始時点で提出してもらう。
第十四回 レポート提出
各自の卒論テーマに沿って、卒業論文として執筆し始めたものをレポートとして提出してもらう。具体的には、
1.卒業論文のタイトル(仮題で可)
2.「はじめに」(そのテーマがどのように研究されてどのように言われているか、それについて自分はどのように考え、どのように研究していこうとするのか、その学術的意義は何か)
3.「研究史」(代表的な先行研究の見解を示し、批評して、不足している部分を指摘する)
を中心とする部分を作成してもらい、さらには可能な限り実際の研究まで含めて、できたところまでを提出してもらう。

履修上の注意

演習形式であるので出席と報告・批評の着実な実施が重視される。正当な理由を提示できない欠席や予習不足を繰り返す者には単位を認定しない。課外活動やアルバイト、就職活動などは正当な理由とはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：基礎演習などでの知識を元に、受講者自身が先行研究を収集して読解するとともに、必要な史料も集める。
復習：報告実施時の指摘を元に、改善点を見つけ出し、卒論の原稿を作るとともに、すでに書き上げた所の改善もはかる。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

『史学雑誌 回顧と展望』(毎年5号)・・・最新号からさかのぼって自己のテーマと関係する先行研究を探す
『中国史研究入門』(名古屋大学出版会)・・・史料等の調査に用いる
いずれも図書館でみられるので、積極的に利用するようにしてもらいたい。

課題に対するフィードバックの方法

レポートなどは必要に応じて改善意見などを付して返却する。

成績評価の方法

担当報告・他者の報告への批評・小レポート・出席状況を基準とした平常の学習状況(70%)と期末レポート(30%)を基礎として総合して判定する。期末レポートとしては、卒論下書きとして利用できる、8000 字程度のものを作成してもらう予定である。

その他

変更が生ずる場合があるので、大学からの通知や Oh-o!Meiji は毎日確認してもらいたい。

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(アジア史)B	**演習Ⅰ(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アジア史研究の方法を実践的に学ぶ。地域としては東アジア、東南アジア、中央ユーラシア、時代としては中世～近現代に関心を持つ学生を対象とする。研究を進めていくうえで基礎となる研究論著の読解、史料読解(主に漢文)に必要な知識、技能を習得する。さらに自ら研究テーマを設定し、そのテーマについて他者に分かりやすく伝え、また論文にまとめる能力も身につけたい。研究を行うための文献収集とその整理についても実践を通じて学んでいきたい。

授業内容

『史学雑誌』回顧と展望などを利用して、関心がある分野の研究動向についてまとめ、議論する(第2～3回)。夏休み課題などを踏まえ、研究発表を行う(第4～8回)。研究文献もしくは史料を毎回一つとりあげ紹介、発表する(第 10～13 回)。並行して個々の研究発表をもとにした期末レポート(9,000 字以上)の執筆にとりくむ。

1 夏休み課題の提出、ゼミ発表の順番を決定
2 日本の研究動向整理 1
3 日本の研究動向整理 2
4 研究発表 1
5 研究発表 2
6 研究発表 3
7 研究発表 4
8 研究発表 5
9 研究文献・史料の講読 1
10 研究文献・史料の講読 2
11 研究文献・史料の講読 3
12 研究文献・史料の講読 4
13 研究文献・史料の講読 5
14 講読のまとめ、卒論に向けた準備について説明

履修上の注意

3 回以上欠席した場合、評価の対象とみなさない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の論文・史料収集、グループディスカッションの準備を必ず行うこと。論文・史料は夏休み中に収集しておくことを強く勧める。研究発表はパワーポイントを用いて行うことが望ましい。

教科書

使用しない。

参考書

以下の入門書を必要に応じて参照し、関心のあるテーマの研究状況を把握しておくこと。
『論点・東洋史学 アジア・アフリカへの問い 158』(吉澤誠一郎監修, ミネルヴァ書房)
『中国歴史研究入門』(砺波護, 杉山正明, 岸本美緒編, 名古屋大学出版会)
『近代中国研究入門』(岡本 隆司, 吉澤 誠一郎編, 東京大学出版会)
『海域アジア史研究入門』(桃木至朗編, 岩波書店)
『アジア経済史研究入門』(水島司, 加藤博, 久保亨, 島田竜登編, 名古屋大学出版会)
『中央ユーラシア史研究入門』(小松久男, 荒川正晴, 岡洋樹編, 山川出

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点 30% 期末レポート 70%

その他

科目ナンバー：(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)A	**演習Ⅰ(考古学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部 芳郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。

春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。

各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表を担当する班は、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しない班のメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

参考書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法

わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)A	**演習Ⅰ(考古学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 憲一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。

春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。

各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 13 日までに公開する。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表を担当するメンバーは、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しないメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 13 日までに公開する。

参考書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 13 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法

わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)A	**演習Ⅰ(考古学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
藤山 龍造	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。

春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。

各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 13 日までに公開する。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表を担当するメンバーは、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しないメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 13 日までに公開する。

参考書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 13 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法

わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)A	**演習Ⅰ(考古学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容
阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。
春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。
各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

履修上の注意
自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容
発表を担当する班は、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しない班のメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書
毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

参考書
毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法
わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法
発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他
なお、校外授業を行う場合がある。参加は必須であり、所要経費は自己負担である。

科目ナンバー：(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)A	**演習Ⅰ(考古学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容
阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。
春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。
各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

履修上の注意
自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容
発表を担当する班は、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しない班のメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書
毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

参考書
毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法
わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法
発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)B	**演習Ⅰ(考古学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部 芳郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。

春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。

各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表を担当する班は、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しない班のメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

参考書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法

わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)B	**演習Ⅰ(考古学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 憲一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

秋学期は、個々の学生が毎週自分の選んだ研究テーマの内容を発表する。発表者は A4 判3～4枚のレジメを準備する。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。秋学期末には、各自が選んだテーマの「研究史と問題の所在」という課題で 400 字詰め原稿用紙 25 枚前後のレポートを提出する。このレポートが卒論執筆に活用できるよう、真剣に取り組む。なお、春学期末または秋学期初めに 10 枚前後のレポートが課せられる場合もある。

なお、発表の順番など細かいスケジュールは 10 月上旬までに Oh-o!Meiji システムにアップロード予定である。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の事前準備に十分時間と労力をかけること。また、クラスメートの発表にコメントできるよう、幅広く勉強するよう、心がけること。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表に、コメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 30%、積極的な議論への参加 20%、レポート 50%に基づく。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)B	**演習Ⅰ(考古学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
藤山 龍造	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容
秋学期は、個々の学生が毎週自分の選んだ研究テーマの内容を発表する。発表者は A4 判3～4枚のレジメを準備する。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。秋学期末には、各自が選んだテーマの「研究史と問題の所在」という課題で 400 字詰め原稿用紙 25 枚前後のレポートを提出する。このレポートが卒論執筆に活用できるよう、真剣に取り組む。なお、春学期末または秋学期初めに 10 枚前後のレポートが課せられる場合もある。
なお、発表の順番など細かいスケジュールは 10 月上旬までに Oh-o!Meiji システムにアップロード予定である。

履修上の注意
自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容
発表の事前準備に十分時間と労力をかけること。また、クラスメートの発表にコメントできるよう、幅広く勉強するよう、心がけること。

教科書
毎週数多くの文献を取り上げる。

参考書
特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の発表に、コメントする。

成績評価の方法
発表の際のレジメ 30%、積極的な議論への参加 20%、レポート 50%に基づく。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)B	**演習Ⅰ(考古学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容
秋学期は、個々の学生が毎週自分の選んだ研究テーマの内容を発表する。発表者は A4 判3～4枚のレジメを準備する。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。秋学期末には、各自が選んだテーマの「研究史と問題の所在」という課題で 400 字詰め原稿用紙 25 枚前後のレポートを提出する。このレポートが卒論執筆に活用できるよう、真剣に取り組む。なお、春学期末または秋学期初めに 10 枚前後のレポートが課せられる場合もある。
なお、発表の順番など細かいスケジュールは 10 月上旬までに Oh-o!Meiji システムにアップロード予定である。

履修上の注意
自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容
発表の事前準備に十分時間と労力をかけること。また、クラスメートの発表にコメントできるよう、幅広く勉強するよう、心がけること。

教科書
毎週数多くの文献を取り上げる。

参考書
特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の発表にコメントし、課題点を指摘する。

成績評価の方法
発表の際のレジメ 30%、積極的な議論への参加 20%、レポート 50%に基づく。

その他
なお、校外授業を行う場合がある。参加は必須であり、所要経費は自己負担である。

科目ナンバー:(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(考古学)B	**演習Ⅰ(考古学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

秋学期は、個々の学生が毎週自分の選んだ研究テーマの内容を発表する。発表者は A4 判3～4枚のレジメを準備する。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。秋学期末には、各自が選んだテーマの「研究史と問題の所在」という課題で 400 字詰め原稿用紙 25 枚前後のレポートを提出する。このレポートが卒論執筆に活用できるよう、真剣に取り組む。なお、春学期末または秋学期初めに 10 枚前後のレポートが課せられる場合もある。
なお、発表の順番など細かいスケジュールは 10 月上旬までに Oh-o!Meiji システムにアップロード予定である。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の事前準備に十分時間と労力をかけること。また、クラスメートの発表にコメントできるよう、幅広く勉強するよう、心がけること。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表に、コメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 30%、積極的な議論への参加 20%、レポート 50%に基づく。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)A	**演習Ⅰ(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
水野 博子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

近現代ヨーロッパの歴史を検討するうえで必要な基礎力の習得を目標とする演習(ゼミナール)です。主要な文献の内容を受講生に発表してもらい、それについてのディスカッションを通して知識の定着を図ります。また、歴史学を学ぶさいにクリアーすべき手続き方法や史料整理の仕方、レジュメの作り方及び発表の仕方についても学習します。

授業内容

歴史学を学ぶ上で基礎となる理論的、実証的研究についての知識を習得するとともに、歴史学に必要な手続き方法(文献・史料の整理法、史料批判、レジュメの作り方、発表の仕方など)を学びます。実際に扱う文献のテーマは近現代ヨーロッパ史の基礎をなす国民、国民主義、人種、エスニシティ等の問題に関するものです。おおむね次のような流れで授業を進めていく予定です。
【春学期】
第1回 春学期授業への導入:授業で扱う文献及び歴史学研究における史料と文献の整理法について
第2回～第13回 文献講読およびディスカッション
第14回 前期授業のまとめ及び夏季休暇中の課題について
※このほか、各自のテーマに関する欧文文献の発表を 1 学期に一回、ブロック形式のゼミなどで行う予定である。また、合宿も年に 1～2 回実施する予定であるが、詳細はゼミ生と相談する。

履修上の注意

文献講読では、受講生全員がテキストに関するレジュメを毎回作成し、その内容について、ディスカッション及び報告をしてもらいます。受講生の主体的な参加が前提の授業であるとともに、事前の予習が不可欠です。なお、授業への毎回の出席は必須であり、欠席に対してはその分の課題を与えます。

準備学習(予習・復習等)の内容

扱うテキストの事前の勉強が必須です(全員が毎回レジュメを作成)。また、授業後の復習(要点の整理、まとめ方の確認、次への課題の気づき)も必須です。グループワークによる課題学習も必要となります。

教科書

扱う文献については、授業時間中に指定しますが、日本語だけではなく英語やその他の言語の文章も取り上げることがありますので、外国語の高い読解力、運用能力が求められます。

参考書

水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム―戦争とナチズムの記憶をめぐって』ミネルヴァ書房、2020 年 3月。
水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界―近現代史の時空から』山川出版社、2023 年。
小澤卓也・田中聡・水野博子編『教養のための現代史入門』(ミネルヴァ書房、2015 年)。
大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門――歴史のラビリンスへの招待――』(昭和堂、2013 年)。
アンダーソン、ベネディクト『定本 想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』(白石隆・白石

課題に対するフィードバックの方法

毎回の議論及びペーパー等へのコメントを通して行います。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表準備 25%、発表 25%、ディスカッション及び課題提出物 50%)

その他

どの学問領域でもそうですが、こと西洋史学は日本語だけで学ぶことはできません。広くヨーロッパ近現代史に関する限り、地域や言語、方法論は問いませんが、英語のほかに、各自関心のある地域の外国語(第二外国語)を1年生のうちからしっかりと学習するようにしておきましょう。
授業は対面方式で行う予定です。ただし、新型コロナウィルス感染状況次第では、オンラインによる授業形式になることもありえますので、掲示やアナウンスに注意してください。

科目ナンバー:(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)A	**演習Ⅰ(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
青谷 秀紀	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中世ヨーロッパについて学ぼうとする学生を対象とし、文献の講読と個別報告を通じて卒業論文執筆に必要な知識や技能を習得することが目標となる。具体的には、文献・史料の検索や収集を行い、それらの読解に基づき研究動向を把握したうえで、現代的な関心に基づいた魅力的な卒業論文テーマの設定を目指すこととなる。

授業内容

おもに中世史研究上の重要なトピックについて邦語・英語文献を読み、様々なテーマに関する基本的知識や先行研究の流れを把握するよう試みる。
第1回～第3回 春学期授業内容の説明、参考書・辞典類の紹介、図書館ツアーなど
第4回～第 13 回 文献講読およびディスカッション
第 14 回 春学期のまとめおよび夏休み中の課題の設定

履修上の注意

特別な事情がない限り遅刻・欠席は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

文献についてディスカッションを行う際には、全員に積極的な参加が求められる。

教科書

課題文献については、授業でコピーを配布する。

参考書

必要に応じて授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で適宜コメントする。

成績評価の方法

報告・レポート(70%)と平常点(30%)で評価を行う。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)A	**演習Ⅰ(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷口 良生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、主として西ヨーロッパ近現代史を対象に、研究文献や史料の読解と議論、そして受講生の研究発表と全体での議論を中心に進めていく。
西ヨーロッパ近現代史を研究するにあたって必要となる基礎的な手法や知識を身につけ、また研究文献を批判的に読解することができるようになることが目標である。それらを通じて、卒業論文の根幹をなす問題意識を深く考え、先行研究や史料の調査・読解を通じて卒業論文を執筆する準備を行うことが最終的な到達目標となる。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:受講生の自己紹介(関心のあるテーマ含む)、授業の進め方
第 2 回 卒業論文とそれに向けた研究についてのガイダンス
第 3 回 先行研究および史料に関する調査実習
第 4 回～第 6 回 課題文献に関する報告とディスカッション
第 7 回～第 13 回 研究報告とディスカッション
第 14 回 授業のまとめと期末レポートについて
＊授業内容はおおむねこのとおりであるが、スケジュールについては受講者数によって調整する可能性がある。

履修上の注意

特別な事情を除いて遅刻・欠席は認められない。やむを得ない事情で欠席する場合は、担当教員に事前に連絡すること。自身の報告については、入念な準備と適切な報告が求められるが、それだけではなく、ほかの受講生の報告についても、主体的・積極的にディスカッションに参加してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

自身の報告については、入念に調査・準備を行うこと(レジュメやパワーポイントのスライドなどプレゼンテーションの用意をして臨むこと)。また、課題文献については、ディスカッションに積極的に参加できるように、必ず事前に読んでおくこと。さらに、授業後も文献の内容について、ディスカッションの内容を踏まえて復習しておくことが望まれる。

教科書

課題文献については、受講生のテーマ等を考慮して決定する。

参考書

授業内で適宜示していくが、全体に関するものとして以下をあげる。
柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『フランス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
村岡健次、木畑洋一編『イギリス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
北原敦編『イタリア史(世界各国史)』新版(山川出版社)。
立石博高編『スペイン・ポルトガル史(世界各国史)』(山川出版社)。
谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史:国民国家形成の彼方に』(ミネルヴァ書房)。
木畑洋一、秋田茂編『近代イギリスの歴史:16 世紀から現代まで』(ミネルヴァ

課題に対するフィードバックの方法

それぞれの研究報告については、ゼミ内で今後の方向性を示すが、授業時間外でもメールや面談などを受けつけるので、研究で迷ったときには有効に活用してほしい。

成績評価の方法

報告・レポート(70%)と授業への貢献度(30%)をもとに総合的に評価する。

その他

秋学期に 3 年生と 4 年生合同での合宿を行う場合がある。

科目ナンバー:(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習 I (西洋史)A	**演習 I (西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

履修者の関心に応じながら、ロシアと近隣地域(ウクライナ・中央アジア等)の歴史、文化、政治や、他地域(ヨーロッパ・東アジア等)との関係を題材とした文献講読を行う。担当者を決めて文献の内容についての発表を行い、上記のテーマについての基礎知識を獲得しながらレジュメの作り方、プレゼンテーションや議論の方法について学ぶ。文献は履修者との相談で決定する。

授業内容

第1回～第2回 イントロダクション、担当者の決定、各履修者が関心をもつテーマの発表 第3回～第 13回 各履修者の関心に応じた文献の読解とその内容についての報告 第14回 学期のまとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習で各報告に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(授業への貢献)と担当回の報告や課題の内容を総合的に評価する(100%)。

その他

履修者の人数や調査の進捗状況に応じ、各回の計画は変更もありうる。

科目ナンバー:(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習 I (西洋史)A	**演習 I (西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鰐淵 秀一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習は、英語圏(イギリス大西洋史・アメリカ史)を中心とする近現代史を専門的に研究するための基礎的な手法や知識を身につけ、卒業論文を書くための問題意識を深めることを目的とする。英語文献の精読を通じて資史料の読解力を養成するとともに、史料や先行研究の調査や整理を含めた論文作成のスキルを身につけることが目標である。

授業内容

春学期は英語文献の読み方や文献・史料の調査の方法を中心に進める。秋学期は英語文献の購読を継続するとともに、卒論に向けたゼミ論文の作成を行う。いずれもゼミ生による発表や報告が主体となる。

1 イントロダクション:自己紹介、演習の進め方、課題について
2 史料調査の方法と実習
3～10 文献講読
11～13 研究報告(個人発表)
14 授業のまとめと期末レポート提出について

履修上の注意

演習ではクラスへの積極的な参加が重視される。特別な理由を除いて欠席は認められない。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。また、無断欠席、報告・発表の放棄、レポートの未提出、いずれの場合も単位の取得は認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習ではグループ・個別を問わず講読・報告・発表の準備をしっかり行うことが不可欠である。英文テキストの読解に際しては、事前にわからなかった単語や固有名詞を調べてくる。研究報告については、文献調査、レジュメ・パワーポイントの作成の準備をしっかり行って授業に臨むことが要求される。

教科書

初回授業時に参加者と相談の上で決定する。

参考書

研究入門・研究動向については、以下の文献を参照すること。
・金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年
・油井大三郎・有賀夏紀・紀平英作編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009 年
・『史学雑誌―回顧と展望』「アメリカ」(毎年 5 月号)
・小田悠生「アメリカ史研究におけるデジタル情報資源の現在」『立教アメリカン・スタディーズ』第 40 号、2018 年、33-56 頁(ダウンロード可)
・Eric Foner and Lisa McGirr, eds. American History Now

課題に対するフィードバックの方法

・授業時の発言に対するコメント
・報告に対するコメント
・レポートの添削

成績評価の方法

文献講読のパフォーマンス 30%、研究報告のプレゼンテーション 30%、レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)B	**演習Ⅰ(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
水野 博子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
この演習は、西欧、中欧、東欧からバルカン半島に至るまで、広い意味でのヨーロッパを検討対象とし、重要な外国語文献の精読と受講者の発表を組み合わせることで、近現代史研究に必要な理論的枠組みと実証的な方法論の習得を目標とする。

授業内容
この演習は、西欧、中欧、東欧からバルカン半島に至るまで、広い意味でのヨーロッパを検討対象とし、主としてヨーロッパ近現代史に関する外国語文献の講読と受講生個人の研究発表とを組み合わせて進行する予定である。
・文献講読について(1)
外国語文献を中心に精読形式で毎回皆で克明に読み下してもらう。ただし、あらかじめ準備してきた日本語訳を読み上げるのではなく、原典テキストを見ながら日本語にするという同時通訳方式を採用する。これにより、正確かつスピーディに外国語文献を読む能力を訓練する。毎回授業の最後にまとめとして受講生全体でディスカッションする。
文献講読のテーマは福祉、人種、ナショナリズム、移民、国民、記憶などの予定であるが、言語によってはドイツ語圏の歴史に関する基礎文献を扱う場合もある。
・受講生個人の研究発表について(補講日などを使って 1 日ブロックゼミにて実施するか合宿形式で行う予定)
各自関心のあるテーマに関連する文献についてプレゼンテーションしてもらい、4年次の卒業論文執筆に向けて準備を進めてもらう。また、文献リストの作成、先行研究の成果に関する調査及び批判的考察、論証方法を学び、自己のテーマについての学期末の発表またはレポート執筆を必須課題とする。最終的には卒業論文の序文となるようなレポート作成を目指す。
実際の授業進行については、第1回目の授業で受講生と相談するが、おおむね次のようなスケジュールで授業を進めていく予定である。
【秋学期】
第1回 授業の進め方、テーマに関する勉強の方法について
第2～12 回 テキスト講読およびディスカッション
第 13～14 回 テーマ発表およびまとめ(夏季休暇中のレポート課題について等)

履修上の注意
文献講読ではしっかりした予習が求められる(全員が毎回のレジュメを作ってくること)。また、個々人のテーマ発表では、担当者が毎回レジュメを作成し、プレゼンテーションしてもらう。それと同時に発表者以外の受講生にも、司会進行、コメンテータ、書記などの役割を分担してもらうことがあるので、受講生の主体的な参加が前提の授業である。なお、授業への毎回の出席は必須であり、欠席に対してはその分の課題を与える。

準備学習(予習・復習等)の内容
しっかりした準備が求められます。
欧文文献の講読について
○単語の確認―訳語が文脈に合わせて検討されたかどうか
○文法事項の確認―きちんとした文章把握ができているか
研究調査について
○文献調査がしっかりできているか―文献リストの作成を行うこと
○発表のためのレジュメを作成すること―物語ではなく歴史の論理を考えること―毎回全員必須
○剽窃などをしないよう、注のためのメモを作成すること

教科書
初回授業で配布します(必ず出席すること)。
Hroch, Miroslav ,"National Movements in the Habsburg and Ottoman Empires," in : John Breuilly (ed.),The Oxford Handbook of the History of Nationalism, Oxford University Press, Oxford, 2013, pp. 175-198.
Zimmer, Oliver, "Nation

参考書
エリック・ホブズボーム『ナショナリズムの歴史と現在』(浜林 正夫他訳)、大月書店、2001 年。
ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』(白石隆・白石さや訳)、書籍工房早山、2007 年(増補版 NTT 出版、1997 年)。
アーネスト ゲルナー ,『民族とナショナリズム』(加藤 節監訳)、岩波書店、2000 年。
マーク・マゾワー『暗黒の大陸―ヨーロッパの 20 世紀』(中田瑞穂・網谷龍介訳)、未来社、2015 年。
水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム―戦争

課題に対するフィードバックの方法
毎回の議論及びペーパー等へのコメントを通して行います。

成績評価の方法
成績は、授業への貢献度 (60%)、レポート等の提出物及び発表資料 (40%)で総合的に判断します。

その他
広くヨーロッパ近現代史に関する限り、地域や言語、方法論は問わないが、英語のほかに、各自関心のある地域の外国語(第二外国語)をさらにブラッシュアップさせて、原典史料にチャレンジできるくらいの運用能力を鍛えてもらいたい。
授業改善アンケートの結果に基づき、取り上げる課題を自らの身近な問題と関わらせて理解することを促すため、グループワークや、(よい機会があれば)歴史に関わるドキュメンタリー映画等の上映作品をゼミ単位で鑑賞するなどして、 学生同士で議論できる場を設けるように努める。
授業は対面方式で行う予定である。ただし、新型コロナウィルス感染状況次第では、オンラインによる授業形式になることもありうる。
各自のテーマに関する欧文文献の発表を 1 学期に一回、ブロック形式のゼミなどで行う予定である。また、合宿も年に 1～2 回実施する予定であるが、詳細はゼミ生と相談する。

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)B	**演習Ⅰ(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
青谷 秀紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
中世ヨーロッパについて学ぼうとする学生を対象とし、文献の講読と個別報告を通じて卒業論文執筆に必要な知識や技能を習得することが目標となる。具体的には、文献・史料の検索や収集を行い、それらの読解に基づき研究動向を把握したうえで、現代的な関心に基づいた魅力的な卒業論文テーマの設定を目指すこととなる。

授業内容
文献の講読を行った後、各自が夏休み中の研究に基づいて個別報告を行う。さらに、その報告の成果と反省点を生かしたうえで、卒業論文の準備作業としてレポートを提出する。また、10 月か 11 月には4年生との合同合宿を予定している。
第1回 授業内容の説明
第2回～第4回 文献講読およびディスカッション
第5回～第 13 回 個別報告
第 14 回 秋学期のまとめおよび卒論に向けての課題設定

履修上の注意
特別な事情がない限り遅刻・欠席は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容
文献についてディスカッションを行う際には、全員に積極的な参加が求められる。また、他のゼミ生の報告に対しても積極的に発言をすることが求められる。

教科書
課題文献については、授業でコピーを配布する。

参考書
必要に応じて授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
授業内で適宜コメントする。

成績評価の方法
報告・レポート(70%)と平常点(30%)で評価を行う。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)B	**演習Ⅰ(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷口 良生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、主として西ヨーロッパ近現代史を対象に、研究文献や史料の読解と議論、そして受講生の研究発表と全体での議論を中心に進めていく。
西ヨーロッパ近現代史を研究するにあたって必要となる基礎的な手法や知識を身につけ、また研究文献を批判的に読解することができるようになることが目標である。それらを通じて、卒業論文の根幹をなす問題意識を深く考え、先行研究や史料の調査・読解を通じて卒業論文を執筆する準備を行うことが最終的な到達目標となる。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:秋学期の授業の進め方
第 2 回～第 6 回 課題文献に関する報告とディスカッション(一部個別面談を行う可能性あり)
第 7 回～第 13 回 研究報告とディスカッション
第 14 回 授業のまとめと期末レポートについて
＊授業内容はおおむねこのとおりであるが、スケジュールについては受講者数によって調整する可能性がある。

履修上の注意

特別な事情を除いて遅刻・欠席は認められない。やむを得ない事情で欠席する場合は、担当教員に事前に連絡すること。自身の報告については、入念な準備と適切な報告が求められるが、それだけではなく、ほかの受講生の報告についても、主体的・積極的にディスカッションに参加してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

自身の報告については、入念に調査・準備を行うこと(レジュメやパワーポイントのスライドなどプレゼンテーションの用意をして臨むこと)。また、課題文献については、ディスカッションに積極的に参加できるように、必ず事前に読んでおくこと。さらに、授業後も文献の内容について、ディスカッションの内容を踏まえて復習しておくことが望まれる。

教科書

課題文献については、受講生のテーマ等を考慮して決定する。

参考書

授業内で適宜示していくが、全体に関するものとして以下をあげる。
柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『フランス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
村岡健次、木畑洋一編『イギリス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
北原敦編『イタリア史(世界各国史)』新版(山川出版社)。
立石博高編『スペイン・ポルトガル史(世界各国史)』(山川出版社)。
谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史:国民国家形成の彼方に』(ミネルヴァ書房)。
木畑洋一、秋田茂編『近代イギリスの歴史:16 世紀から現代まで』(ミネルヴァ

課題に対するフィードバックの方法

それぞれの研究報告については、ゼミ内で今後の方向性を示すが、授業時間外でもメールや面談などを受けつけるので、研究で迷ったときには有効に活用してほしい。

成績評価の方法

報告・レポート(70%)と授業への貢献度(30%)をもとに総合的に評価する。

その他

秋学期に 3 年生と 4 年生合同での合宿を行う場合がある。

科目ナンバー:(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)B	**演習Ⅰ(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

履修者の関心に応じながら、ロシアと近隣地域(ウクライナ・中央アジア等)の歴史、文化、政治や、他地域(ヨーロッパ・東アジア等)との関係を題材とした文献講読を行う。担当者を決めて文献の内容についての発表を行い、上記のテーマについての基礎知識を獲得しながらレジュメの作り方、プレゼンテーションや議論の方法について学ぶ。文献は履修者との相談で決定する。

授業内容

第1回～第2回 イントロダクション、担当者の決定、各履修者が関心をもつテーマの発表 第3回～第 13回 各履修者の関心に応じた文献の読解とその内容についての報告 第14回 学期のまとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習で各報告に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(授業への貢献)と担当回の報告や課題の内容を総合的に評価する(100%)。

その他

履修者の人数や調査の進捗状況に応じ、各回の計画は変更もありうる。

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)B	**演習Ⅰ(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
古山 夕城	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文の作成を目指すために3年生次に西洋古代史に関する必要な基礎的素養と専門分野の知識を身につけ，オリジナリティのある主題設定のために問題意識を練り上げることを目標にする。

とりわけ，文献収集と資料分析の実践的訓練に重点を置き，それに加えて方法論に関する近年の研究書をテキストにした講読を行うが、学生諸君による発表を中心とした授業となることは間違いない。

授業内容

秋学期には，各人の関心あるテーマに沿って個人報告を行ない，その合間に古代史の方法論に関する洋書文献の講読を進めていく予定。

スケジュールは以下の通り。

1. イントロダクション(B)：夏季休暇中の研究成果の確認
2～5. 個人報告(通年三回目)
7～11. テキスト講読(英文テキスト)：前近代史研究の方法論
10～13. 個人報告(通年四回目)
14. 秋学期総括：春期休暇中の課題設定

なお、11月上旬に4年生と合同の研究発表合宿の実施も検討している(詳細は、授業開始時に説明する)。

※4年生で演習ⅡＢとして履修する場合は、事前に相談すること。

履修上の注意

授業はあくまでも成果の発表の場であるので，授業外・教室外での勉強と学習を徹底的に行なってほしい。

とくに自分の専門テーマに関する学術論文と洋書の読解を各自で進め、その理解と批判的吸収の実践を授業で報告してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

洋書文献のテキスト講読に際しては、事前の下調べを怠らないように。

教科書

講読に使用するテキストは，秋学期開始時にクラスウェブに掲載する。

参考書

オンライン検索だけに頼らず、明大図書館や，他大学や国会図書館に足を運び十分に利用して，自分に必要な参考文献と関連史料を収集すること。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題については、添削指導の他に、授業内の発表報告で各自の取り組みに関する問題点を指摘する。

成績評価の方法

課題への取り組み状況(50%)と発表での問題提起の在り方(50%)によって，成績を評価する。試験は行なわない予定。ただし，出席率が 60%に満たない場合は，単位取得不可とする。

その他

昨年においては，単位取得率は 100%の見込みです。この授業で自分の卒論の目標と課題を明確にして，それをクリアするための方法と知識を身につけてほしい。

なお、このシラバスは、前年 12 月作成時の予定・計画であり、実際の授業がすべてこのとおりに行なわれることを保証するものではありません。

9月中旬に具体的な授業プランをクラスウェブに掲載し、授業開始時あるいは途中において、状況に応じてその一部を変更することもあります。その場合には、授業プラン修正版の掲載や「シラバスの補足」などでお知らせします。

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(西洋史)B	**演習Ⅰ(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鰐淵 秀一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習は、英語圏(イギリス大西洋史・アメリカ史)を中心とする近現代史を専門的に研究するための基礎的な手法や知識を身につけ、卒業論文を書くための問題意識を深めることを目的とする。英語文献の精読を通じて資史料の読解力を養成するとともに、史料や先行研究の調査や整理を含めた論文作成のスキルを身につけることが目標である。

授業内容

春学期は英語文献の読み方や文献・史料の調査の方法を中心に進める。秋学期は英語文献の購読を継続するとともに、卒論に向けたゼミ論文の作成を行う。いずれもゼミ生による発表や報告が主体となる。

1 秋学期イントロダクション：ゼミ論文に向けて
2～9 文献講読
10～13 研究報告(個別発表)
14 授業のまとめと学年末レポート提出について

※必要に応じて Zoom を用いたオンライン形式で行うことがある。その場合、事前に連絡を行う。

履修上の注意

演習ではクラスへの積極的な参加が重視される。特別な理由を除いて欠席は認められない。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。また、無断欠席、報告・発表の放棄、レポートの未提出、いずれの場合も単位の取得は認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習ではグループ・個別を問わず講読・報告・発表の準備をしっかり行うことが不可欠である。英文テキストの読解に際しては、事前にわからなかった単語や固有名詞を調べてくる。研究報告については、文献調査、レジュメ・パワーポイントの作成の準備をしっかり行って授業に臨むことが要求される。

教科書

初回授業時に参加者と相談の上で決定する。

参考書

研究入門・研究動向については、以下の文献を参照すること。

・金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年
・油井大三郎・有賀夏紀・紀平英作編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009 年
・『史学雑誌一回顧と展望』「アメリカ」(毎年5月号)
・小田悠生「アメリカ史研究におけるデジタル情報資源の現在」『立教アメリカン・スタディーズ』第 40 号、2018 年、33-56 頁(ダウンロード可)
・Eric Foner and Lisa McGirr, eds. American History Now

課題に対するフィードバックの方法

・授業時の発言に対するコメント
・報告に対するコメント
・レポートの添削

成績評価の方法

文献講読のパフォーマンス 30%、研究報告のプレゼンテーション 30%、レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)A	**演習Ⅰ(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

広く文化地理学に関わる問題を検討していく。春学期は，まず「文化」というものが何を指すのか，それと地理学がどう連関するのか，そして「文化なるもの」と「地理なるもの」がどのような契機で相互に作用し合っているかについて，文献を読みながら具体的に事例から学びつつ，夏期の現地調査の準備を行う。

授業内容

＜春学期＞
1 授業内容の説明，日程調整
2～4 基礎文献の紹介(1回目)
5～7 夏期現地調査のテーマおよび調査地選定
8～10 調査地関連ないしは調査テーマ関連の文献紹介(2回目)
11～14 夏期現地調査の事前準備

履修上の注意

演習は皆出席を基本とし，授業への参加態度も極めて重視する。大幅な遅刻は欠席と見なすので要注意。
各発表に対してコメントや質問を常に行うよう心がけること。
つまり，発表をすること，発表を聞くこと，質問をすること，これら全般への関与の具合を総合判断する。
欠席は至当な理由があれば3回まで認めるが，それ以上は進度に支障が生じるので認められない。
2泊3日の夏期現地調査には必ず出席すること。欠席した場合は秋学期の作業が何もできないことになるので単位を与えることはできない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回各自に与えられる課題をこなして，次回のゼミに臨むこと。
他人に頼ることのないよう，必ず各自で行うこと。
また必要があれば授業の前後にゼミ院同士で相談しておくこと。
授業時に相談時間はないことに留意すること。

教科書

『ジオ・パル NEO(第2版)』，野間晴雄ほか編，2017 年(海青社)

参考書

適宜指示する

課題に対するフィードバックの方法

毎回の作業とそれに対する講評は必ず行われる。

成績評価の方法

平常点(40%)+レポート・プレゼン内容(40%)+α(20%)による。
α はクラスでの積極的な姿勢を指す。
平常点とは毎回の課題達成度を積算したものをいう。
「履修の注意点」を参照のこと。特別な理由のない欠席は減点対象となるので注意すること。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)A	**演習Ⅰ(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この演習では、専門書の講読と調査準備の二つを行う。まずは現在起きている社会的・文化的な変化について考えるための文献を読み、議論する。次に、夏休みの調査のための準備を行う。一つのテーマについて3、4の課題設定を行い、グループに分かれて調査を行う。必要な文献調査を行い、夏季休暇中の調査のための準備をすませることを到達目標とする。

授業内容

1. 自己紹介・調査日程の確定・発表担当
2. 現代の社会・文化を地理学的にどう読むか
3. 文献発表1(授業1回につき二人発表)
4. 文献発表2
5. 文献発表3
6. 文献発表4
7. 文献発表5
8. 調査地の選定
9. 文献サーヴェイを通じた調査内容の確定
10. 訪問策の確定・アポイントを取る
11. グループごとの事前発表1 先行研究の整理
12. グループごとの事前発表2 リサーチ・クエスチョンの確定
13. グループごとの事前発表3 基礎データの収集・加工
14. 春学期のまとめ・調査の詳細確認と秋学期の方針決定

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

文献発表については、関連の研究書を読むこと。調査準備は発表機会に関わらず進めることが必要になる。

教科書

前田拓也ほか 2025『構造的差別のリアリティ』晃洋書房
モスコウィッツ 2025『都市殺し』明石書店
出版状況によって変更する可能性もあるので、授業開始時に用意する必要はありません。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

春学期は授業内の発表が主であるので、授業内でコメントする。

成績評価の方法

平常点(40%)と課題(60%)で評価する。授業にいなければ意味がないので、3回以上欠席した場合、評価の対象としない。(15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。)

その他

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)A	**演習Ⅰ(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

広い意味において「経済」とは、すなわち人々がどのように生活を成立させているかという問題である。本演習においては、経済地理学に関連する事象に関して、自分たちでテーマを設定し、調査を企画・実施し、結果を分析・考察し、報告書を作成する。春学期においては、文献解読を進めつつ、夏期の現地調査の準備を行う。

授業内容

第 1 回 授業内容の説明・日程調整
第 2-6 回 文献報告
第 7-8 回 テーマ・調査地選定
第 9-14 回 調査にむけた資料・文献分析

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

前半は文献の徹底的な読み込みが中心となり、後半になると調査準備が加わる。毎回各自に与えられる課題を完了させて、実習に臨むこと。

教科書

『地理学で卒業論文を書こう』小野映介・前田洋介(古今書院)2024 年

参考書

『経済地理学への招待』伊藤達也・小田宏信・加藤幸治(編著)(ミネルヴァ書房)2020 年
そのほか授業中適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内にコメントするほか、学生の希望に応じて個人面談を行う。

成績評価の方法

提出課題・発表(50%)＋ 授業参加・貢献度(50%)
各発表に対してコメントや質問を常に行うよう心がけること。成績評価においては、個々の発表や提出物の内容だけでなく、お互いの発表を聞くこと、質問をすること、これら全般への関与の具合を総合判断する。
演習は皆出席を基本とし、授業への参加態度も極めて重視する。大幅な遅刻は欠席と見なすので要注意。正当な理由がない場合、毎回欠席は減点の対象となり、3 回以上欠席した場合は、評価の対象としない。
夏期現地調査には必ず出席すること。欠席した場合は秋学期の作業が何

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に
[url=https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html]学生相談室[/url]を利用することを勧めます。(連絡先:03-3296-4217(駿河台);03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)A	**演習Ⅰ(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演習に参加する個々のメンバーが抱く自然観・環境観を出発点に、特定の「地域」に展開る自然景観や現実および潜在的な環境問題に多角的なアプローチから取り組む能力の開発を目標とする。その際、既存の膨大な情報からエッセンスを抽出するだけでなく、自らの「頭脳と眼と足」を使って新しい情報を作りだすことを具体的な目的とする。共通の学問的基盤は「(自然)地理学」とし、各メンバーの興味に合った「道具」としての気候学、植生学、水文学などを、少なくとも一つの「得意技」として身につけることを日常の学習内容としたい。

授業内容

個々のメンバーの学問的立場を正確に表明するプレゼンテーションと、実力を養成する場である「地理学実習 III」の共同研究の立案・準備を行う。夏休みの後半には正味4日の現地共同調査を行い、「演習 B」の前半でそのとりまとめを共同作業として行う。
1)演習の運営方針の説明、メンバー自己紹介、日程調整
2)「私が学びたいこと(個人プレゼンその1)」
3)「私が学びたいこと(個人プレゼンその2)」
4)共通の教材としての文献を配布し「輪読」分担を決める
5)文献輪読(1回目)
6)文献輪読(2回目)
7)共同研究地域の検討
8)「共同研究における私の貢献(個人プレゼンその1)」
9)「共同研究における私の貢献(個人プレゼンその2)」
10)「共同研究における私の貢献(個人プレゼンその3)」
11)共同研究事前調査報告(グループ・プレゼンその1)
12)共同研究事前調査報告(グループ・プレゼンその2)
13)共同研究事前調査報告(グループ・プレゼンその3)
14)野外調査実習の準備

履修上の注意

地理学における地域調査研究を企画し全員で実行するため、調査テーマと調査地域によっては1週間程度の地理学実習になる。この実習に出席しない者は演習での学習活動に事実上参加できないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業のおよそ半分が夏の共同研究に関する内容となるが、授業時間以外の調整が必要となるので企画実施してもらいたい。なお、個別の口頭発表(プレゼンテーション)の内容は、演習で他の履修者や担当教員から得たコメントへの対応を加味して、原則として次の週までにレポートにまとめて担当教員に提出する。

教科書

使用しない。

参考書

履修者の専門性に対応して紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

原則として水曜と金曜にオフィスアワーを設定するので、事前に電子メール等で時間を問い合わせること。

成績評価の方法

口頭発表(レジュメおよび事後レポートを含む)60%、教室での討論などの授業貢献度 40%の割合で評価するが、これには夏の共同調査実習の準備を含むものとする。夏の実習が中心課題となるので、これに参加すること(実習に出席しレポートを提出して合格すること)を成績評価の前提条件とする。また、教室授業の欠席は1回につき 10 点の減点とし，理由によらず4回以上欠席した場合の成績は F とする。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)A	**演習Ⅰ(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

自然地理学のうち特に地形学・地生態学に関連する内容について，履修者が主体的に研究テーマを設定し，調査の立案・実施，データ分析(野外調査・室内分析)，報告までをおこない，地理学研究の方法を習得する。特に春学期の演習では，自分の興味・関心に沿って既往研究をレビューし，調査内容の学術的意義や調査方法の妥当性を検討した上で，現地調査を企画する。野外調査のみならず，必要に応じて GIS(地理情報システム)解析や空中写真判読などの室内作業も取り入れて，複数のデータから研究対象地域の自然を多角的に捉えられるような研究を企画立案することを目標とする。

授業内容

第１回 イントロダクション・自己紹介(自然地理学のうち関心のある分野について)
第２回 調査テーマの決定(個人発表)・輪読教材の決定
第３回 文献輪読 1(個人発表)
第４回 文献輪読 2(個人発表)
第５回 文献輪読 3(個人発表)
第６回 調査地決定，グループ決定
第７回 調査地の情報収集と紹介(個人発表)
第８回 調査内容の方針発表(グループ発表)
第９回 調査内容に関する文献レビュー1(グループ発表)
第 10 回 調査内容に関する文献レビュー2(グループ発表)
第 11 回 調査内容に関する文献レビュー2(グループ発表)
第 12 回 調査方法の方針発表(グループ発表)
第 13 回 現地調査の準備・練習１
第 14 回 現地調査の準備・練習２

履修上の注意

夏休み後半に実施する４日間程度の野外実習への参加が必須である。また，現地調査の事前練習として，日帰りの野外実習を複数回実施する可能性がある。作業の進捗状況によっては，サブゼミなど追加で議論の場を設けることもある。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究・調査の企画立案を主体的におこなうことを重視する演習のため，それらの準備のために授業時間以外でもかなりの時間の確保が必要となる。

教科書

輪読用の教科書は授業内で連絡する。
小野映介・前田洋介『地理学で卒業論文を書こう』(古今書院)

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業での発表 50%，授業への参加・貢献度(議論への参加，課題へ取り組む姿勢など)50%。課せられた個人発表・グループ発表の全てに取り組むことで，評価の対象となる。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)B	**演習Ⅰ(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

広く文化地理学に関わる問題を検討していく。春学期に引き続き秋学期は夏期調査の報告書を作成し，その後，卒業論文に向けて各自の関心を絞っていく。

授業内容

＜秋学期＞
1～6 夏期調査の成果報告(各班2回ずつ)
7～11 報告書作成作業(レポート推敲作業)，並行して報告会の準備
12～14 卒論テーマ関連の文献紹介

履修上の注意

演習は皆出席を基本とし，授業への参加態度も極めて重視する。遅刻は厳に慎むこと。大幅な遅刻は欠席扱いとする。発表をすることのみならず，発表を聞くこと，質問をすること，これら全般への関与の具合を総合判断する。
欠席については正当な理由があれば3回まで認める。それ以上は進度に支障が生じるため認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回生じる課題を必ずこなしてからゼミに出席すること。
ゼミ生で相談すべきこと，また行わねばならない共同作業については，ゼミの時間の前後に行うこと。
授業時にその時間は設けないので，このことによく留意すること。

教科書

『ジオ・パル NEO(第2版)』，野間晴雄ほか編，2017 年(海青社)

参考書

適宜指示する

課題に対するフィードバックの方法

毎回の作業とそれに対する講評。

成績評価の方法

平常点(40%)+レポート・プレゼン内容(40%)+α(20%)による。
α はクラスでの積極的な姿勢を指す。
平常点とは，毎回の課題達成度を積算したものをいう。
「履修上の注意」を参照のこと。特別の理由のない欠席は減点対象となるので注意すること。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)B	**演習Ⅰ(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
夏季休暇中に行った調査について、12 月の発表に向けた準備及び追加調査を行うとともに、分担して報告書の執筆を行う。また来年執筆予定の卒業論文の準備を始める。

授業内容
1. 調査結果報告と課題の洗い出し・グループ調査の方針決定
2. 報告書の作成1 調査結果をまとめる
3. 報告書の作成2 調査結果を図表で示す
4. 報告書の作成3 全体像をシェアする
5. 報告書の作成4 報告書の全体像を整理する
6. 報告書の作成5 報告書の中間完成
7. 卒論のために1 テーマを考える
8. 卒論のために2 文献サーヴェイ
9. 卒論のために3 リサーチ・クエスチョンを作る
10. 報告会準備1
11. 報告会準備2
12. 最終的な報告書の完成(報告会での批判を受けて)
13. 卒論のために4 仮目次を作る
14. 秋学期のまとめ・卒論執筆日程など

履修上の注意
特になし

準備学習(予習・復習等)の内容
12 月の発表に向けて、しっかりと準備を進めること。報告書の執筆がなおざりになりがちなので、そこまでが授業の範囲であることをしっかり意識すること。

教科書
特になし。

参考書
授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法
12 月の報告会と報告書作成の際に個別にコメントする。

成績評価の方法
平常点(40%)と課題(60%)で評価する。授業にいなければ意味がないので、3回以上欠席した場合、評価の対象としない。(15 分以上の遅刻は欠席扱いとする。)

その他

科目ナンバー:(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)B	**演習Ⅰ(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
広い意味において「経済」とは、すなわち人々がどのように生活を成立させているかという問題である。本演習においては、経済地理学に関連する事象に関して、自分たちでテーマを設定し、調査を企画・実施し、結果を分析・考察し、報告書を作成する。秋学期においては、夏期調査をもとに分担して結果を分析し、駿台地理談話会(12 月中旬)に向けた発表の準備と報告書作成の作業を進める。その後、卒業論文に向けて準備を進める。

授業内容
第 1-6 回 現地調査報告
第 7-11 回 報告書作成作業・報告会の準備
第 12-14 回 卒論テーマ関連の文献紹介

履修上の注意
特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容
報告書の作成に向けて、毎回各自に与えられる課題を完了させて、実習に臨むこと。ゼミ生同士で行わねばならない共同作業については、ゼミの時間前後に行うこと。

教科書
(春学期と同じ)
『地理学で卒業論文を書こう』小野映介・前田洋介(古今書院)2024 年

参考書
『経済地理学への招待』伊藤達也・小田宏信・加藤幸治(編著)(ミネルヴァ書房)2020 年
そのほか、授業中適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
授業時間内にコメントするほか、学生の希望に応じて個人面談を行う。

成績評価の方法
提出課題・発表(50%)+ 授業参加・貢献度(50%)
各発表に対してコメントや質問を常に行うよう心がけること。成績評価においては、個々の発表や提出物の内容だけでなく、お互いの発表を聞くこと、質問をすること、これら全般への関与の具合を総合判断する。
演習は皆出席を基本とし、授業への参加態度も極めて重視する。大幅な遅刻は欠席と見なすので要注意。正当な理由がない場合、毎回欠席は減点の対象となり、3 回以上欠席した場合は、評価の対象としない。

その他
学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に
[url=https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html]学生相談室[/url]を利用することを勧めます。(連絡先:03-3296-4217(駿河台);03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)B	**演習Ⅰ(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演習に参加する個々のメンバーが抱く自然観・環境観を出発点に、特定の「地域」に展開る自然景観や現実および潜在的な環境問題に多角的なアプローチから取り組む能力の開発を目標とする。その際、既存の膨大な情報からエッセンスを抽出するだけでなく、自らの「頭脳と眼と足」を使って新しい情報を作りだすことを具体的な目的とする。共通の学問的基盤は「(自然)地理学」とし、各メンバーの興味に合った「道具」としての気候学、植生学、水文学などを、少なくとも一つの「得意技」として身につけることを日常の学習内容としたい。

授業内容

前半は夏休みに実施した現地共同調査のとりまとめを共同作業として行う。後半は、卒業論文の研究を想定した「個人テーマ」によるプレゼンテーションを行い、学期末までに「卒業研究予備論文」としてレポートを作成する。また、夏の共同研究の成果は、12 月に開催する公開報告会で発表し、質疑応答を経て修正したのち年度末に「演習報告書」として印刷発行する。

1)共同研究の現地調査速報, 日程調整
2)現地調査詳細報告(その1)
3)現地調査詳細報告(その2)
4)現地調査詳細報告(その3)
5)公開報告会プレゼン方針の討議
6)第1回「演習報告書」編集会議(執筆分担等の確定)
7)個人テーマの事前学習指導とプレゼンの条件提示
8)公開報告会プレゼンの準備
9)公開報告会プレゼンの予行演習
10)第2回「演習報告書」編集会議
11)個人テーマ報告(その1)
12)個人テーマ報告(その2)
13)個人テーマ報告(その3)
14)卒論を展望に入れた自然地理学調査の全般的指導

履修上の注意

1年間かけて地域調査研究を企画し全員で実行するため、この実習に出席しない者は演習に事実上参加できないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業のおよそ半分が夏の共同研究に関する内容(含む研究発表会の準備)となるが、授業時間以外の調整が必要となるので企画実施してもらいたい。なお、個別の口頭発表(プレゼンテーション)の内容は、演習で他の履修者や担当教員から得たコメントへの対応を加味して、原則として次の週までにレポートにまとめて担当教員に提出する。

教科書

使用しない。

参考書

履修者の専門性に対応して紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

原則として水曜と金曜にオフィスアワーを設定するので、事前に電子メール等で時間を問い合わせること。

成績評価の方法

口頭発表(レジュメおよび事後レポートを含む)60%、教室での討論などの授業貢献度 40%の割合で評価するが、これには 12 月の研究報告会の準備を含むものとする。夏の実習が中心課題となるので、これに参加していること(実習に出席しレポートを提出して合格すること)を成績評価の前提条件とする。また、教室授業の欠席は1回につき 10 点の減点とし, 理由によらず4回以上欠席した場合の成績はＦとする。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(地理学)B	**演習Ⅰ(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

自然地理学のうち特に地形学・地生態学に関連する内容について, 履修者が主体的に研究テーマを設定し, 調査の立案・実施, データ分析(野外調査・室内分析), 報告までをおこない, 地理学研究の方法を習得する。特に秋学期の演習では, 取得したデータの分析・表現方法を学ぶとともに, データに基づく議論の展開, 複数のデータから多角的に自然を捉える地理学的なものの見方ができることを目標とする。さらに, 一連の調査研究の振り返りを踏まえて, 次年度の卒業研究に向けて準備を始める。

授業内容

第 1 回 イントロダクション, 調査データの整理
第 2 回 調査報告 1(レジュメ作成・発表)
第 3 回 調査報告 2(レジュメ作成・発表)
第 4 回 調査報告 3(レジュメ作成・発表)
第 5 回 報告会の方針決定・報告書分担決定(＋進捗状況報告)
第 6 回 報告書作成 1:「目次」「方法」を授業内で報告・ その後、執筆
第 7 回 報告書作成 2:「結果」「考察」を授業内で報告・ その後、執筆
第 8 回 報告書作成 3:「はじめに(研究目的を含む)」を授業内で報告・ その後、執筆
第 9 回 報告会準備
第 10 回 報告会練習
第 11 回 研究調査の振り返り
第 12 回 報告書作成 4(報告会での指摘を受けての見直し)
卒業研究に向けたガイダンス
第 13 回 卒業研究のテーマ決定に向けた発表 1
第 14 回 卒業研究のテーマ決定に向けた発表 2

履修上の注意

作業の進捗状況によっては, サブゼミなど追加で議論の場を設けることもある。

準備学習(予習・復習等)の内容

データ解析, 発表準備, 報告書の作成作業は全て授業時間外でおこなうため, かなりの時間の確保が必要となる。十分に準備して授業に臨むこと。

教科書

小野映介・前田洋介『地理学で卒業論文を書こう』(古今書院)

参考書

授業内で適宜紹介する

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

授業内での発表・報告書の完成度 50%, 授業への参加・貢献度(議論への参加, 課題へ取り組む姿勢など)50%。課せられた全ての課題に取り組むことで, 評価の対象となる。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 友一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

六国史の最初に当たる『日本書紀』巻二十九の天武天皇十四年(685)正月以降を講読していく。
正史(国が編纂させた正式な歴史書)であるが史料批判が重要な『日本書紀』を読み解く。
史料自体の問題意識と内容上の論点と研究史の蓄積に配慮する報告を実践する。
文面だけではなく，背後にある律令を理解し，発掘調査事例などから実態にも目を向け，
それぞれが飛鳥時代像を構築できるように努める。

授業内容

授業は，各担当者の報告と質疑応答を中心に進める。
参加者はあらかじめ日本古典文学大系『日本書紀』を読み，報告担当者の報告内容と視点について議論できる準備をしておく。
報告担当者は，『日本書紀』の記事を正確に釈読し，各語句に註を付し，事例・用例・関連史料を網羅したレジュメを準備すること。
論点となる事項については各種史料に加え，先行研究もなるべく網羅して見解をまとめること。
(1)イントロダクション。演習形式と進め方について，また論文や史料の引き方など。
(2)史料の配布と『日本書紀』の解題(テキストの説明)。報告順の決定。
(3)手本として天武二年正月～三月条を報告。
(4)～(13)報告順に従い演習発表及び補足報告を行なう。
(14)まとめ。補足報告。レポート課題提示。

履修上の注意

欠席は事前連絡することが望ましい。
報告に当たってる際の無断欠席は成績以前の問題ですので，
最低限のマナーを守っていただくことを求めます。
レジュメについても，おおよそ体裁を揃えていただくようにしてもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

漢文史料のため，漢和辞典などを日常的に利用し，漢文の文法に通じるよう努めること。
報告者は報告内容プラス質疑応答もあるので，幅広く勉強しておくこと，また報告担当者でない者も積極的に質問を発し，
参加者全員で議論し，理解を深めていくように努める。
既出の事項については，担当報告者以外も理解できるように，出席時の真摯な学問への姿勢を求める。
また日常的な日本史への関心や基礎知識の再確認を怠らないこと。

教科書

日本古典文学大系『日本書紀』上・下(岩波書店)。
テキストのコピーは授業時に配布する。

参考書

池田温編『日本古代史を学ぶための漢文入門』(吉川弘文館，2006)
熊谷公男『日本の歴史 03 大王から天皇へ』(講談社、2001)
吉村武彦『集英社版 日本の歴史③古代王権の展開』(集英社、1991)
吉村武彦編『古代史の基礎知識』(角川書店，2005)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史　社会・史料編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史　政治・外交編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史　1・2・3』(吉川弘文館，2022)
その

課題に対するフィードバックの方法

その都度多角的に対応する。

成績評価の方法

平常点 40%　報告・レポート 60%
報告と各期末の補足報告もしくはレポートはセットとし，いずれも最低限行う。
内容については最低限の水準をクリアするように、補足報告も求める。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 一樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本中世の武家文書を系統的に精読し、その対象となるフィールドにも関心を向けながら、中世文書を主たる史料とした歴史研究の基本的な知識と方法を修得します。あわせて、みずからの研究テーマを見つけ出し、先行研究の蓄積をふまえながら、卒業論文の作成に結びつけていく演習です。

授業内容

本年度の主たる講読史料には、信濃国志久見郷・中野郷(現在の長野県栄村および中野市周辺)にかかわる市河文書を用います。
市河文書は、じつは中野氏の鎌倉中期までを中心とした文書群と市河氏の鎌倉後期からの文書群から構成されています。中野氏と市河氏は北信濃に本拠をもつ国御家人で、とくに市河氏は 16 世紀まで現地の領主であり続けました。したがって、市河文書は平安時代末期から戦国時代にいたる原本を数多く含み、鎌倉・京都といった中央政界の動向とも切り結ぶ地域史研究や、鎌倉・室町幕府の裁判制度の研究、さらには文書原本の詳細な観察にもとづく古文書学研究などの良質な分析素材となっています。
授業では、古文書の文字情報等を翻刻した史料集と原本の写真(ウェブ上のデジタル画像)を併用しながら、文書 1 点ごとに報告と質疑を軸に読解を進めますが、文書原本の見学やフィールドワークの機会も積極的に設けることとします。
(1)市河文書の性格と伝来先の紹介に加えて、中世文書を精読していくための基礎的な知識、参考資料や辞典類の使い方の説明。
(2)レジュメを使った報告の具体例提示と毎回の報告担当者の決定
(3)～(13)市河文書の読解と検討(12 世紀末から)
(14)成果と課題の集約

履修上の注意

演習は報告者が周到に準備したレジュメとそれにもとづく報告を土台に、履修する学生に教員も加わって自由かつ双方向に議論を行い、新たな学知を見い出していく創造的な授業です。このため、毎回の報告者を中心とした受講学生の意欲的な参加態度がもとめられます。とくに、報告者の報告をふまえて、積極的にディスカッションに臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者は、担当する文書の読み下し、史料集の翻刻に関する確認、意訳、史料用語や地名などの説明について、先行研究にも目配りしながら、しっかりと整理してレジュメを準備してください。地図などの利用も不可欠です。また、報告者以外の受講学生も、毎回取り上げられる史料について、報告準備と同様なレベルで予習を行ってください。

教科書

主たるテキスト(史料集)は、竹内理三編『鎌倉遺文』をコピーして配布し、文書原本のデジタル画像と対照して適宜、『鎌倉遺文』の釈文(文書の文字列を翻刻したもの)を修正しながら講読します。

参考書

参考文献については、授業の進展に応じて適宜、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、次回の授業内または Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

出席状況、授業での報告や発言の内容、自分の問題関心にもとづく研究テーマの発掘を中心とした小レポートによって総合的に評価します。
授業点(報告レジュメ、報告・質疑応答の内容)：70%
小レポート：30%

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朗	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本現代史、とりわけ 15 年戦争期(満州事変～アジア太平洋戦争)における政治と軍事の関係、対外膨張戦略、思想統制・教育のあり方、植民地・占領地支配の実態、戦争責任問題などについて検討する。テキスト所収の論文や史料の検討を通して日本現代史に関する知見を深め、また、同時に日本現代史研究のさまざまな課題・論点を把握するとともに史料批判能力を高め、自らが将来、卒業論文を作成する際の課題設定の仕方、史料の取り扱い方などについて学ぶことを目標とする。

具体的には、テキストにもとづき春学期は天皇・大本営といった上から見た戦争を、秋学期は兵士・戦場といった下から見た戦争について検証する。

授業内容

(01)研究と読書、ゼミでの報告の仕方
(02)小論文・レポートの書き方
(03)『増補 昭和天皇の戦争』第1章 大元帥としての天皇
(04)第1章 大元帥としての天皇
(05)第2章 政治・軍事・儀式
(06)第2章 政治・軍事・儀式
(07)第3章 満州事変期
(08)第3章 満州事変期
(09)第4章 日中戦争期
(10)第4章 日中戦争期
(11)第5章 南進と開戦
(12)第5章 南進と開戦
(13)第6章 戦争指導と敗戦
(14)第6章 戦争指導と敗戦／まとめ

履修上の注意

参加者は、報告に際して、必ず分担論文のレジュメ(内容の正確な要約)を作成し論文の重要箇所や関連する重要な史料についてみずから調査して補足説明をするとともに、疑問点や論点を提示すること。定刻に始めるので遅刻しないようにしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習として必ず教科書を熟読し、自分の疑問点・論点、補足説明を提示できるようにしておくこと。

教科書

【春学期】山田朗『増補 天皇の戦争：「昭和天皇実録」に残されたこと・消されたこと』(岩波現代文庫、2023 年)春学期第 1 回に配付
【秋学期】【秋学期】山田朗『兵士たちの戦場』(岩波現代文庫、2025 年)春学期第 14 回に配付

参考書

吉田裕『続・日本軍兵士』(中公新書、2025 年)
林博史『沖縄戦：なぜ 20 万人が犠牲になったのか』(集英社、2025 年)
宇田川幸大・内海愛子・金ヨンロン・芝健介『体験者「ゼロ」時代の戦争責任論』(岩波書店、2025 年)

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

成績は、参加状況(発言内容)、ゼミでの報告内容、レポートによって評価する(平常点 20%・報告 40%・レポート 40%)。レポートは採点のうえ、すべて返却する。ゼミでの報告・レポートなどの点数は、採点後、個別に開示する。

その他

状況が許せば、研究報告からなるゼミ合宿を夏期休暇中に実施する。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本近世史で卒業論文を執筆するために必要な史料読解と研究史把握について学び、卒業論文へ向けて具体的な準備をする演習である。春学期は、史料読解の能力を高め、自分の研究に関する先行研究を整理すること、卒業論文のテーマ設定を明確にし、使用史料の選定に努めることを目標とする。秋学期は、卒業論文の仮論題を示し、史料を用いた実証的な研究報告を行う。

授業内容

授業は、史料講読と卒業論文へ向けての研究報告によって進める。史料講読では、史料の音読と大意の把握に努める。研究報告では、個々の関心に基づく研究史整理の報告と、史料に基づいた実証的な報告を行う。

春学期から卒業論文で使用する史料を探すことが求められる。

丁寧な報告が求められる。

(1)授業の進め方などの説明
(2)先行研究の探し方、史料および史料集の探し方について
(3)先行研究の検討、史料の音読の復習
(4)研究報告順の検討、史料講読 1
(5)史料講読 2
(6)研究報告 1
(7)史料講読 3
(8)研究報告 2
(9)史料講読 4
(10)研究報告 3
(11)史料講読 5
(12)研究報告 4
(13)卒業論文構想報告
(14)まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。報告・議論の蓄積によって研究への理解は深まるので、受講者全員の積極的な参加を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料講読の報告では、史料の音読ができるように注意を払うこと、報告にあたっていない受講者も授業で取り上げられる史料にはあらかじめ目を通しておくこと。研究報告では、史料に基づいた実証的な報告を行うこと、自分のテーマに関する史料の所在についても注意を払うこと。

学期中、常に卒業論文で使用する史料を探すように努めること。

教科書

授業で活字史料を配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。
佐藤孝之ほか著『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』(天野出版工房、2023 年)
「特集／はじめて学ぶ日本近世史」(『歴史評論』813 号、2018 年)
上野大輔ほか編『日本近世史入門』(勉誠社、2024 年)
歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
児玉幸多編『くずし字用例辞典』(東京堂出版)
児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

授業の最終回で検討する。

成績評価の方法

報告内容 70%、議論への貢献度 30%などによって評価する。

その他

学期中に学内で原史料(古文書)に触れる予定である。
くずし字の読解と古文書調査に関心がある者は相談のこと。
受講生の人数により内容を多少変更する場合がある。
節度ある態度を求める。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
落合 弘樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

明治維新の歴史は、史実が確定したかのように見えるが、さまざまな事象の背後には、研究者の解釈が分かれ、未解明な部分もある。

春学期は宮地正人『自由民権創成史〈上〉公論世界の成立』を輪読し、明治初期における在野の政治運動について状況を把握していきたい。

授業内容

テキストの講読をすすめる。テキストで示された論点を、引用された史料を検証しながら再検討していく。

1 授業計画およびゼミ運営について
2 図書館ゼミツアー(文献検索の実習)
3～13 テキスト輪読
　第1部：民選議院設立建白と公論世界の成立
　公論世界の成立と新聞・雑誌 言論弾圧との闘いと代言人たち
「楠公・権助論争」と福沢諭吉
　教部省政策の破綻―天皇支配の正統性をいかに証明するのか
　地方官会議と全国各地域の主体的活動
　第2部：士族民権と平民民権
　士族と豪農商の共闘―阿波自助社活動
　士族民権の論理
　　平民民権の頂点 庄内ワッパ騒動
　　竹橋事件と兵士民権 報徳運動と民権運動
14 まとめ

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成すること。また、全員が事前にテキストを精読していることを前提とするので、自分の担当部分以外もよく読んでおくこと。報告は決められた日時に責任をもって行うこと。演習科目は討論で成り立つ。積極的なモチベーションの発揮を期待したい。なお、日本史料学Ⅲ、日本史料学Ⅳを履修することが望ましい。なお、テキストの舞台となった土地でのゼミ合宿を通じ、史実を実体験していきたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

輪読の担当者以外も、全員がテキストを精読すること。適宜、感想など発言を求める。

教科書

宮地正人『自由民権創成史〈上〉有司専制 VS 西南戦争』(岩波書店、2024 年、4,000 円)

参考書

適宜、授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容 50%、発言回数など授業への貢献度 30%、レポート 20%で総合評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習は、近世初期(織豊政権期～徳川初期)の政治・宗教・対外関係史について、史料にもとづいて考察する力を養うことを目的とする。国内秩序の再編と対外関係の変動が重なったこの時期の特質を、具体的史料から検討する。

近世史料の読解を通して史実を把握するだけでなく、史料の性格や限界を意識しながら、そこからどのような問題が設定できるのかを考えることを重視する。

本演習では、卒業論文作成に必要となる
① 史料の読解力
② 史料から問いを立てる力
③ 史料に基づいて自分の考えを述べる力
を段階的に身につけることを目標とする。

春学期は、京都の公家・神官である吉田兼見の日記『兼見卿記』を輪読し、織豊期京都における政治・社会・文化・宗教の実態を読み解く。史料の記述を正確に理解するとともに、その背景や記録者の立場を踏まえて史料を読む姿勢を養う。

秋学期は、『永青文庫叢書　細川家文書』に収録された島原・天草一揆関係史料を取り上げ、熊本藩側の史料からキリシタン一揆の実態と幕藩制国家形成との関係について考察する。史料の内容を整理するだけでなく、どのような点が歴史的に重要であるかを意識しながら議論を行う。

授業では、担当者による史料の読解・整理に加え、史料から何が読み取れるのか、どのような問いが立てられるのかについて、参加者全員で検討する。

本演習を通じて、史料読解力、問題設定能力、調査・考察力を養い、卒業論文作成に必要な基礎的研究能力の修得を目指す。

授業内容

本演習は、報告者を定め、史料を輪読する形式で進める。

報告者は、指定された史料について、釈文の作成、現代語訳、史料内容の整理を行う。

報告後は、参加者全員で史料の内容を確認したうえで、そこからどのような論点が導かれるかについて検討・議論を行う。

史料の解釈や論点の設定については、報告者一人に任せるのではなく、ゼミ全体で考えることを重視する。

最後に教員が議論を整理し、史料の位置づけや考察の方向性について講評を行う。

【春学期】
第1回　授業計画およびゼミ運営について
第2回　図書館ガイダンス・文献検索実習
第3回～14回『兼見卿記』輪読
【秋学期】
第1回　授業計画およびゼミ運営について
第2～13回『細川家文書』輪読
第14回　まとめ・卒業論文に向けて

履修上の注意

本演習は発表および討論を中心とするため、積極的な参加を求める。

出席および事前準備を前提とし、無断欠席や準備不足は成績評価に影響することがあるので十分注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前、必ずテキストを一読し、報告者との議論に備えること。

授業後はテキストをもう一度読み直し、理解を定着させること。

教科書

春学期：『新訂増補 兼見卿記 1』(八木書店、2014 年)
秋学期：『細川家文書 島原・天草一揆編』(吉川弘文館、2020 年)
※テキストは必要に応じて配布する。

参考書

井上智勝『吉田神道の四百年―神と葵の近世史―』(講談社、2013 年)
大橋幸泰『検証 島原天草一揆』(吉川弘文館、2008 年)
清水有子『近世日本の形成とキリシタン』(吉川弘文館、2024 年)
その他、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにはすべてコメントを付して返却する(オーメイジ上でやり取りする)。

成績評価の方法

平常点 60%(報告内容 30%、議論への参加度 30%)、期末レポート 40%。

その他

必要に応じてフィールドワークを実施する場合がある。また、任意参加でゼミ合宿を行うことがある。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本近代史のうち、おもに都市史の領域を対象とする演習である。19 世紀～20 世紀初頭にかけての日本(植民地を含む)の都市の発達と、政治・社会文化面における変容とのかかわりについて探究する。

今年度春学期は「開港都市」に関する文献の輪読をおこなう。なかでも、横浜についての近年の研究成果(後掲の教科書)を手がかりとする。横浜はいかに開港されていったのかを、江戸東京や神戸といった他都市とのつながりにも目配りしつつ、政治・経済・海防など多角的な視点でとらえなおすことを目指す。

なお、この輪読に並行して、関連する歴史資料や先行研究についてもあわせて調査・分析することで、当該期の日本の都市に関する基本的な認識や見方を養うとともに、卒業論文の作成に向けたテーマ設定の仕方、研究方法などについても学習することを目指す。

授業内容

(1)春学期授業の進め方についての説明
(2)中央図書館ゼミツアー(文献検索の実習など)
(3)「幕末期横浜に関わる研究動向」
(4)「御用留からみる横浜周辺村落の社会情勢」
(5)「横浜開港前夜　武州金沢藩の海防」
(6)「開港前後における幕府艦船導入の展開」
(7)「山下居留地の形成過程」
(8)「開港場内外における「茶業」」
(9)「蚕種貿易の展開と島村勧業会社」
(10)「「将軍の港」としての兵庫・神戸」
(11)「幕末政治と長崎奉行所の治安対策」
(12)「神奈川沖の海難事故について」
(13)「外国人からみた開港地問題と横浜居留地」
(14)まとめ

履修上の注意

報告者はかならずレジュメを作成し、担当するテキストの正確な要約にくわえて、関連史料および文献などについてもみずから調査し、疑問点や論点を提示すること(これらの方法については初回の講義で説明をおこなう)。定刻に始めるので遅刻しないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者のみならず他のメンバーも事前にテキストをよく読み、自分の担当以外についても理解を深め、報告後の質疑・討論に積極的に参加することを望む。

教科書

横浜開港資料館ほか編『幕末の開港都市・横浜――国際貿易港のルーツを探る』戎光祥出版、2024 年。

参考書

授業のなかで随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業中、ないし Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

成績は、ゼミにおける報告内容と授業への貢献度(質疑・討論への参加状況など)、学期末の課題によって総合的に評価する(報告 40%・授業への貢献度 40%・期末課題 20%)。

その他

仮に履修希望者が適正人数を超えた場合には、2 年次の履修科目などに応じてゼミ移動を依頼することがある。
履修人数の多寡等により、授業内容を一部変更することがある。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 直人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

明治から昭和戦前期の文化史を、主なテーマとするゼミナールです。「自分が本当に興味のあるトピックは、日本史学専攻の卒業論文では扱えないのかな。日本史学専攻っぽいテーマに変えないといけないのかな」と悩んでいる方々のお手伝いも出来ればと思っています。歴史研究とは、(1)史料と(2)先行研究とを読み込みながら、自分の言葉で歴史を叙述していくことであると思われます。誰かが叙述したものである以上、史料も先行研究も、真に客観的・中立的なものではありえません。だからこそ私たちは、史料批判や先行研究批判によって、それらの限界・弱点を知り、並べ方や組み合わせ方を工夫する必要があるのです。春学期は、(1)史料の限界・弱点に迫る方法論を学習してまいりましょう。

【到達目標】

ある資史料から何が明らかとなり、何が明らかにならないのかということを理解し、資史料の選び方・並べ方・組み合わせ方を、自分なりの視点で工夫出来るようになることが、春学期の到達目標です。

授業内容

グループワークやデータベースの使用などを通して、〈史料から分かること／分からないこと〉を学んでいきます。第 10 回～第 13 回では、授業で学んだ内容をもとに、卒業論文テーマ(仮)に関する簡単な口頭報告をしていただきます。春学期の発表回数は 1 回。

第 1 回　歴史学のご近所さんたち：曖昧化する境界線
第 2 回　素朴実証主義を「学び捨てる」：歴史の問題は言語の問題？
第 3 回　史料批判という手続き：「窓」・「壁」・「ゆがんだガラス」
第 4 回　公文書から分からないこと
第 5 回　書簡から分からないこと
第 6 回　書籍・雑誌・新聞から分からないこと
第 7 回　写真・映像、「必ずしも真ならず」？
第 8 回　オーラル・ヒストリー／エゴ・ドキュメント万歳！……とはならない理由
第 9 回　偽文書が史料になるとき
第 10 回　卒業論文テーマ(仮)に関する口頭報告〈1 回目〉
第 11 回　卒業論文テーマ(仮)に関する口頭報告〈2 回目〉
第 12 回　卒業論文テーマ(仮)に関する口頭報告〈3 回目〉
第 13 回　卒業論文テーマ(仮)に関する口頭報告〈4 回目〉
第 14 回　春学期のまとめ
※ 明治大学中央図書館、国立国会図書館ほかの見学ツアーを実施する場合があります。
※ 参加任意の巡検ほかを実施する場合があります。

履修上の注意

明治大学の日本史学専攻は、各時代を専門とする先生方が揃っている稀有な学習環境であると思います。とりわけ近現代史については、テーマや方法論に応じて、自分に合った指導教員を探せるという極めて贅沢な環境にあります。担当教員とのミスマッチを防ぐために、恐らく私のゼミだとあまり満足感を得られないのではないかという方々の傾向をお示ししておきます。〈相性診断〉にご活用下さい。

(A)教員が話したことやテクストの内容を、〈正しい〉情報として信じたいタイプの方。
(B)〈結論〉の出ない宙ぶらりん状態を、上手く楽しめない方。
(C)無難な(≒イイコちゃんな)卒業論文テーマを選ぼうと思っている方。
(D)コスパやタイパを過度に重んじる(≒1 周回ってコスパやタイパが良くない)方。
(E)他人を「論破」しようとする(≒議論があまり上手ではない)方。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習としては、「Oh-o! Meiji」システムを通して、参考資料を配布する場合がありますので、熟読してきて下さい(30 分)。

事後学習としては、配布レジュメを参考に、考えたこと、疑問に思ったことなどをまとめ、「Oh-o! Meiji」システムで提出して下さい(30 分。ただし、紙媒体での提出にかえる場合があります)。また、紹介したデータベース等で、積極的に〈遊んで〉みて下さい(30 分)。

教科書

教科書は指定しません。適宜レジュメを配布いたします。

参考書

指定の参考書はありません。毎回の授業内容に関連して、適宜紹介いたします。

課題に対するフィードバックの方法

各回のコメントシートについては、次の回の授業冒頭で紹介・解説する予定です。

成績評価の方法

・口頭報告：50%
・各回のコメントシート(小課題を含む場合がある)：50%
※ なお、悪質な研究不正が見付かった場合は、100 点減点といたしますので、当該科目の成績評価全体が負の数となり、単位は認定されません。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)A	**演習Ⅰ(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本現代史のうち、おもに戦後の地域史や社会史をテーマとした演習です。春学期は、卒業論文のテーマ設定に向けた研究報告を行ないます。また、併行して文献・史料の輪読にも取り組みます。卒業論文では、自分のテーマに関わる多様な文献や史料を、その性格や背景を考慮しつつ整理し、自らの歴史叙述に取り込んでいく必要があります。そのような卒論執筆に備え、春学期では、安岡健一『戦後史 1945-2025』(2025 年)を読み、さらにゼミでの討議を通じて文献・史料を読み思考する力を深めてゆきます。

【取り上げる文献】

・安岡健一『戦後史 1945-2025』(中公新書・2881、2025 年)

日本の戦後 80 年にわたる政治・経済・社会を幅広くカバーした入門書を使って、戦後史の理解を深めます。本書は、①東アジアとの関係、②都市と農村、③家族とジェンダーといった点に注目しているもので、現在の社会が抱えるさまざまな課題がどのように形づくられてきたのかを考えてゆきます。

授業内容

授業では、第 1 に卒業論文のテーマ設定に向けた研究報告をし、それぞれが関心を持つ分野や研究したいテーマについて発表します。第 2 に、テキストの輪読を通じて、日本現代史のなかの人々の生活、社会や経済の構造、政治・思想・文化の動向、日本や地域をめぐる歴史認識などの諸問題を議論します。

第 1 回:授業の内容と進め方について
第 2 回:先行研究の探し方について
第 3 回:卒業論文に向けた研究報告①
第 4 回:卒業論文に向けた研究報告②
第 5 回:卒業論文に向けた研究報告③
第 6 回:卒業論文に向けた研究報告④
第 7 回:卒業論文に向けた研究報告⑤
第 8 回:安岡健一『戦後史』の輪読①
第 9 回:安岡健一『戦後史』の輪読②
第 10 回:安岡健一『戦後史』の輪読③
第 11 回:安岡健一『戦後史』の輪読④
第 12 回:安岡健一『戦後史』の輪読⑤
第 13 回:安岡健一『戦後史』の輪読⑥
第 14 回:まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成して、テキストの要約、参考文献の調査、疑問点や論点の提示など丁寧な報告を求めます。報告者は無断欠席をしないこと。受講者はテキストに目を通し、討論に積極的に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者は研究報告の準備には時間をかけ、卒業論文の準備に向けた取り組みを心がけて下さい。すべての受講生はテキストを精読し、討論の準備をして下さい。

教科書

輪読テキストである、安岡健一『戦後史 1945-2025』(中公新書・2881、2025 年)については購入を推奨します。

参考書

荒川章二『日本の歴史 16 豊かさへの渇望』(小学館、2009 年)
中村政則『戦後史』(岩波新書・新赤版 955、2005 年)
歴史学研究会編『日本同時代史』全 5 巻(青木書店、1990-91 年)
歴史学研究会・日本史研究会編『日本史講座 10 戦後日本論』(東京大学出版会、2005 年)

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行ないます。

成績評価の方法

報告内容(40%)、授業への貢献度(30%)、レポート(30%)によって総合的に評価します。

その他

受講生の人数により内容を多少変更する場合があります。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 友一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

六国史の四番目『続日本後紀』を講読する。巻4仁明天皇の承和4年(837)正月より始める。
嵯峨・淳和天皇代を受け仁明天皇代は，藤原氏による他氏排斥の嚆矢ともされる承和の変に向かう時期であり，
平安時代前期の政治情勢と律令制の変容した体制を理解する。
歴史的事象の把握も当然ながら，注釈書のない史料の読解を通して，卒業論文執筆に向けた史料の読解力を養成したい。

授業内容

授業は，各担当者の報告と質疑応答を中心に進める。
参加者はあらかじめ新訂増補国史大系『続日本後紀』を読み，報告担当者の報告内容と視点について議論できる準備をしておく。
報告担当者は，『続日本後紀』の記事を正確に釈読し，各語句に註を付し，事例・用例・関連史料を網羅したレジュメを準備すること。
論点となる事項については各種史料に加え，先行研究もなるべく網羅して見解をまとめること。
(1)史料の配布と『続日本後紀』の解題(テキストの説明)。報告順の決定。
(2)手本として『続日本後紀』序文を報告。
(3)～(13)報告順に従い演習発表及び補足報告を行なう。
(14)まとめ。補足報告。レポート課題提示。

履修上の注意

欠席は事前連絡することが望ましい。
報告に当たってる際の無断欠席は成績以前の問題ですので，
最低限のマナーを守っていただくことを求めます。
レジュメについても，おおよそ体裁を揃えていただくようにしてもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

漢文史料のため，漢和辞典などを日常的に利用し，漢文の文法に通じるよう努めること。
報告者は報告内容プラス質疑応答もあるので，幅広く勉強しておくこと。
また報告担当者でない者も積極的に質問を発し，参加者全員で議論し，理解を深めていくように努める。
既出の事項については，担当報告者以外も理解できるように，出席時の真摯な学問への姿勢を求める。
また日常的な日本史への関心や基礎知識の再確認を怠らないこと。

教科書

テキストのコピーを配布する。

参考書

池田温編『日本古代史を学ぶための漢文入門』(吉川弘文館，2006)
坂上康俊『日本の歴史 05 律令国家の転換と「日本」』(講談社，2001)
瀧浪貞子『日本の歴史5 平安建都』(集英社，1991)
吉村武彦編『古代史の基礎知識』(角川書店，2005)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 社会・史料編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 政治・外交編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史 1・2・3』(吉川弘文館，2022)
その他

課題に対するフィードバックの方法

その都度多角的に対応する。

成績評価の方法

平常点 40% 報告・レポート 60%
報告と各期末の補足報告もしくはレポートはセットとし，いずれも最低限行う。
内容については最低限の水準をクリアするように、補足報告も求める。

その他

欠席は事前連絡すること。連絡などは，Oh-o！Meiji クラス・ウェブなどを活用する。また、報告担当者の欠席は厳禁とする。
飲食や，報告に当たっている際の無断欠席は成績以前の問題なので，最低限のマナーを守っていただくことを求める。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 一樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本中世の武家文書を系統的に精読し、その対象となるフィールドにも関心を向けながら、中世文書を主たる史料とした歴史研究の基本的な知識と方法を修得します。あわせて、みずからの研究テーマを見つけ出し、先行研究の蓄積をふまえながら、卒業論文の作成に結びつけていく演習です。

授業内容

本年度の主たる講読史料には、信濃国志久見郷・中野郷(現在の長野県栄村および中野市周辺)にかかわる市河文書を用います。

市河文書は、じつは中野氏の鎌倉中期までを中心とした文書群と市河氏の鎌倉後期からの文書群から構成されています。中野氏と市河氏は北信濃に本拠をもつ国御家人で、とくに市河氏は 16 世紀まで現地の領主であり続けました。したがって、市河文書は平安時代末期から戦国時代にいたる原本を数多く含み、鎌倉・京都といった中央政界の動向とも切り結ぶ地域史研究や、鎌倉・室町幕府の裁判制度の研究、さらには文書原本の詳細な観察にもとづく古文書学研究などの良質な分析素材となっています。

授業では、古文書の文字情報等を翻刻した史料集と原本の写真(ウェブ上のデジタル画像)を併用しながら、文書 1 点ごとに報告と質疑を軸に読解を進めますが、文書原本の見学やフィールドワークの機会も積極的に設けることとします。

(1)春学期に講読した文書の検討内容のまとめ、史料を読むための基礎知識の確認
(2)～(13)市河文書の読解と検討(春学期に続いて)
(14)春学期・秋学期を通じて講読した文書群全体に関する成果と課題の集約

履修上の注意

演習は報告者が周到に準備したレジュメとそれにもとづく報告を土台に、履修する学生に教員も加わって自由かつ双方向に議論を行い、新たな学知を見い出していく創造的な授業です。このため、毎回の報告者を中心とした受講学生の意欲的な参加態度がもとめられます。とくに、報告者の報告をふまえて、積極的にディスカッションに臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者は、担当する文書の読み下し、史料集の翻刻に関する確認、意訳、史料用語や地名などの説明について、先行研究にも目配りしながら、しっかりと整理してレジュメを準備してください。地図などの利用も不可欠です。また、報告者以外の受講学生も、毎回取り上げられる史料について、報告準備と同様なレベルで予習を行ってください。

教科書

主たるテキスト(史料集)は、竹内理三編『鎌倉遺文』をコピーして配布し、文書原本のデジタル画像と対照して適宜、『鎌倉遺文』の釈文(文書の文字列を翻刻したもの)を修正しながら講読します。

参考書

参考文献については、授業の進展に応じて適宜、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、次回の授業内または Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

出席状況、授業での報告や発言の内容、年度末のレポートによって総合的に評価します。
授業点(報告レジュメ、報告・質疑応答の内容)：70%
レポート：30%

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朗	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本現代史、とりわけ 15 年戦争期(満州事変～アジア太平洋戦争)における政治と軍事の関係、対外膨張戦略、思想統制・教育のあり方、植民地・占領地支配の実態、戦争責任問題などについて検討する。テキスト所収の論文や史料の検討を通して日本現代史に関する知見を深め、また、同時に日本現代史研究のさまざまな課題・論点を把握するとともに史料批判能力を高め、自らが将来、卒業論文を作成する際の課題設定の仕方、史料の取り扱い方などについて学ぶことを目標とする。

具体的には、テキストにもとづき春学期は天皇・大本営といった上から見た戦争を、秋学期は兵士・戦場といった下から見た戦争について検証する。

授業内容

(01)『兵士たちの戦場』はじめに 第1章 侵攻と殺戮 1
(02)第1章 侵攻と殺戮 2
(03)第1章 侵攻と殺戮 3
(04)第2章 勝利と代償 1
(05)第2章 勝利と代償 2
(06)第3章 蹉跌と消耗 1･2
(07)第3章 蹉跌と消耗 3･4
(08)第4章 退却と飢餓 1･2
(09)第4章 退却と飢餓 3
(10)第5章 崩壊と自滅 1･2
(11)第5章 崩壊と自滅 3
(12)第5章 「玉砕」と生還 1･2
(13)第6章 「玉砕」と生還 3
(14)第6章 「玉砕」と生還 4、おわりに／まとめ

履修上の注意

参加者は、報告に際して、必ず分担論文のレジュメ(内容の正確な要約)を作成し論文の重要箇所や関連する重要な史料についてみずから調査して補足説明をするとともに、疑問点や論点を提示すること。定刻に始めるので遅刻しないようにしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習として必ず教科書を熟読し、自分の疑問点・論点、補足説明を提示できるようにしておくこと。

教科書

【春学期】山田朗『増補 天皇の戦争：「昭和天皇実録」に残されたこと・消されたこと』(岩波現代文庫、2023 年)春学期第 1 回に配付
【秋学期】【秋学期】山田朗『兵士たちの戦場』(岩波現代文庫、2025 年)春学期第 14 回に配付

参考書

吉田裕『続・日本軍兵士』(中公新書、2025 年)
林博史『沖縄戦：なぜ 20 万人が犠牲になったのか』(集英社、2025 年)
宇田川幸大・内海愛子・金ヨンロン・芝健介『体験者「ゼロ」時代の戦争責任論』(岩波書店、2025 年)

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

成績は、参加状況(発言内容)、ゼミでの報告内容、レポートによって評価する(平常点 20%・報告 40%・レポート 40%)。レポートは採点のうえ、すべて返却する。ゼミでの報告・レポートなどの点数は、採点後、個別に開示する。

その他

状況が許せば、研究報告からなるゼミ合宿を夏期休暇中に実施する。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻　泰弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本近世史で卒業論文を執筆するために必要な史料読解と研究史把握について学び、卒業論文へ向けて具体的な準備をする演習である。春学期は、史料読解の能力を高め、自分の研究に関する先行研究を整理すること、卒業論文のテーマ設定を明確にし、使用史料の選定に努めることを目標とする。秋学期は、卒業論文の仮論題を示し、史料を用いた実証的な研究報告を行う。

授業内容

授業は、史料講読と卒業論文へ向けての研究報告によって進める。史料講読では、史料の音読と大意の把握に努める。研究報告では、個々の関心に基づく研究史整理の報告と、史料に基づいた実証的な報告を行う。

春学期から卒業論文で使用する史料を探すことが求められる。

丁寧な報告が求められる。

(1)授業の進め方と史料についての説明
(2)研究報告順の検討、史料講読 1
(3)研究報告 1
(4)史料講読 2
(5)研究報告 2
(6)史料講読 3
(7)研究報告 3
(8)史料講読 4
(9)研究報告 4
(10)史料講読 5
(11)研究報告 5
(12)卒業論文構想報告
(13)卒業論文構想報告
(14)まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成し、無断欠席をしないこと。報告・議論の蓄積によって研究への理解は深まるので、受講者全員の積極的な参加を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料講読の報告では、史料の音読ができるように注意を払うこと、報告にあたっていない受講者も授業で取り上げられる史料にはあらかじめ目を通しておくこと。研究報告では、史料に基づいた実証的な報告を行うこと、自分のテーマに関する史料の所在についても注意を払うこと。

学期中、常に卒業論文で使用する史料を探すように努めること。

教科書

授業で活字史料を配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。

佐藤孝之ほか著『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』(天野出版工房、2023 年)
「特集／はじめて学ぶ日本近世史」(『歴史評論』813 号、2018 年)
上野大輔ほか編『日本近世史入門』(勉誠社、2024 年)
歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
児玉幸多編『くずし字用例辞典』(東京堂出版)
児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

授業の最終回で検討する。

成績評価の方法

報告内容 70%、議論への貢献度 30%などによって評価する。

その他

学期中に学内で原史料(古文書)に触れる予定である。
くずし字の読解と古文書調査に関心がある者は相談のこと。
受講生の人数により内容を多少変更する場合がある。
節度ある態度を求める。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
落合　弘樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

明治維新の歴史は、史実が確定したかのように見えるが、さまざまな事象の背後には、研究者の解釈が分かれ、未解明な部分もある。

秋学期は宮地正人『自由民権創成史〈下〉公論世界の成立』を輪読し、西南戦争および明治 10 年代における在野の政治運動について検討する。

授業内容

テキストの講読をすすめる。テキストで示された論点を、引用された史料を検証しながら再検討していく。

1　授業計画およびゼミ運営について
2～13 テキスト輪読
　第3部 大阪会議と立憲政体の詔
　征韓論分裂と民選議院設立建白
　　岩倉・大久保政権の緊急対応
　　民権結社の簇生とその矛盾
　　大阪会議・「立憲政体樹立の詔」と地方官
　　木戸・板垣提携ラインの分裂と太政官政府の反撃
　　江華島事件と対朝鮮強硬姿勢の確立
　第4部 有司専制への諸抵抗
　日朝修好条規締結と政府攻勢化の第一歩
　　太政官政府の全面的攻勢化
　　有司専制への抵抗の諸相
　　士族反乱の続発、そして西南戦争
　　西南戦争と自由民権(1)熊本城攻防戦期
　　西南戦争と自由民権(2)包囲解除～終結期
14 まとめ、卒論に向けて

履修上の注意

報告者は必ずレジュメを作成すること。また、全員が事前にテキストを精読していることを前提とするので、自分の担当部分以外もよく読んでおくこと。報告は決められた日時に責任をもって行うこと。演習科目は討論で成り立つ。積極的なモチベーションの発揮を期待したい。なお、日本史料学Ⅲ、日本史料学Ⅳを履修することが望ましい。なお、テキストの舞台となった土地でのゼミ合宿を通じ、史実を実体験していきたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

輪読の担当者以外も、全員がテキストを精読すること。適宜、感想など発言を求める。

教科書

宮地正人『自由民権創成史〈下〉公論世界の成立』(岩波書店、2024 年、4,400 円)

参考書

適宜、授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

報告内容 50%、発言回数など授業への貢献度 30%、レポート 20%で総合評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習は、近世初期(織豊政権期～徳川初期)の政治・宗教・対外関係史について、史料にもとづいて考察する力を養うことを目的とする。国内秩序の再編と対外関係の変動が重なったこの時期の特質を、具体的史料から検討する。
近世史料の読解を通して史実を把握するだけでなく、史料の性格や限界を意識しながら、そこからどのような問題が設定できるのかを考えることを重視する。
本演習では、卒業論文作成に必要となる
① 史料の読解力
② 史料から問いを立てる力
③ 史料に基づいて自分の考えを述べる力
を段階的に身につけることを目標とする。
春学期は、京都の公家・神官である吉田兼見の日記『兼見卿記』を輪読し、織豊期京都における政治・社会・文化・宗教の実態を読み解く。史料の記述を正確に理解するとともに、その背景や記録者の立場を踏まえて史料を読む姿勢を養う。
秋学期は、『永青文庫叢書　細川家文書』に収録された島原・天草一揆関係史料を取り上げ、熊本藩側の史料からキリシタン一揆の実態と幕藩制国家形成との関係について考察する。史料の内容を整理するだけでなく、どのような点が歴史的に重要であるかを意識しながら議論を行う。
授業では、担当者による史料の読解・整理に加え、史料から何が読み取れるのか、どのような問いが立てられるのかについて、参加者全員で検討する。
本演習を通じて、史料読解力、問題設定能力、調査・考察力を養い、卒業論文作成に必要な基礎的研究能力の修得を目指す。

授業内容

本演習は、報告者を定め、史料を輪読する形式で進める。
報告者は、指定された史料について、釈文の作成、現代語訳、史料内容の整理を行う。
報告後は、参加者全員で史料の内容を確認したうえで、そこからどのような論点が導かれるかについて検討・議論を行う。
史料の解釈や論点の設定については、報告者一人に任せるのではなく、ゼミ全体で考えることを重視する。
最後に教員が議論を整理し、史料の位置づけや考察の方向性について講評を行う。
【秋学期】
1 授業計画およびゼミ運営について
2～13 テキスト『細川家文書』輪読
14 まとめと卒論に向けて

履修上の注意

本演習は発表および討論を中心とするため、積極的な参加を求める。
出席および事前準備を前提とし、無断欠席や準備不足は成績評価に影響することがあるので十分注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前、必ずテキストを一読し、報告者との議論に備えること。
授業後はテキストをもう一度読み直し、理解を定着させること。

教科書

秋学期:『細川家文書 島原・天草一揆編』(吉川弘文館、2020 年)
※テキストは必要に応じて配布する。

参考書

大橋幸泰『検証島原天草一揆』(吉川弘文館、2008 年)
清水有子『近世日本の形成とキリシタン』(吉川弘文館、2024 年)
その他の必要な書籍等は、授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにはすべてコメントを付して返却する(オーメイジ上でやり取りする)。

成績評価の方法

平常点 60%(報告内容 30%、発言回数など議論参加の態度 30%)、期末レポート 40%。

その他

必要に応じてフィールドワークを実施する場合がある。また、任意参加でゼミ合宿を行うことがある。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本近代史のうち、おもに都市史の領域を対象とする演習である。19 世紀～20 世紀初頭にかけての日本(植民地を含む)の都市の発達と、政治・社会文化面における変容とのかかわりについて探究する。
秋学期は、1911 年(明治 44)以来刊行が続いた『東京市史稿』(江戸－東京の歴史に関する編年体の史料集)のなかから各自が関心のある項目(史料)を選び、関連する歴史資料や先行研究についてもあわせて調査・分析することで、当該期の日本の都市に関する基本的な認識や見方を養うとともに、卒業論文の作成に向けたテーマ設定の仕方、研究方法などについても学習することを目指す。

授業内容

(1)秋学期授業の進め方についての説明
(2)『東京市史稿』市街篇・皇城篇・御墓地篇・上水篇・港湾篇・遊園篇から担当する項目(史料)の決定
(3)史料講読1
(4)史料講読2
(5)史料講読3
(6)史料講読4
(7)史料講読5
(8)史料講読6
(9)史料講読7
(10)史料講読8
(11)史料講読9
(12)史料講読 10
(13)史料講読 11
(14)史料講読 12

履修上の注意

報告者はかならずレジュメを作成し、担当する史料の正確な要約にくわえて、関連史料および文献などについてもみずから調査し、疑問点や論点を提示すること(これらの方法については初回の講義で説明をおこなう)。定刻に始めるので遅刻しないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者のみならず他のメンバーも事前に史料をよく読み、自分の担当以外についても理解を深め、報告後の質疑・討論に積極的に参加することを望む。

教科書

『東京市史稿』市街篇・皇城篇・御墓地篇・上水篇・港湾篇・遊園篇のなかから該当の史料内容を受講者全員に事前共有する。共有の方法については初回の講義で説明する。

参考書

授業のなかで随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業中、ないし Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

成績は、ゼミにおける報告内容と授業への貢献度(質疑・討論への参加状況など)、学期末の課題によって総合的に評価する(報告 40%・授業への貢献度 40%・期末課題 20%)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 直人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

明治から昭和戦前期の文化史を、主なテーマとするゼミナールです。「自分が本当に興味のあるトピックは、日本史学専攻の卒業論文では扱えないのかな。日本史学専攻っぽいテーマに変えないといけないのかな」と悩んでいる方々のお手伝いも出来ればと思っています。春学期に学んだ(1)史料論の基礎的内容を踏まえて、秋学期は、(2)先行研究を批判的に読み込むトレーニングをしてまいります(演習 A のシラバスも参照のこと)。講読文献は、佐藤卓己『〈増補〉八月十五日の神話：終戦記念日のメディア学』(筑摩書房、2014 年)です。当該書籍には、史料学(加工、捏造ほか)、時代区分論、メディア論、戦争の記憶、「創られた伝統」、歴史教育、民俗行事、スポーツ史など、多様な論点が含まれています。受講者数の関係上、2025 年度の 3 年生ゼミ(皆さんの 1 年先輩)では、結局扱うことが出来なかったので、再チャレンジしてみたいと思います。

【到達目標】

卒業論文の執筆を前に、〈正解〉としての〈史実〉がどこかに存在しているかのような社会科学習の楽観や、文献の読み方に〈正解〉があるかのような国語科学習の楽観をアンインストールし、歴史叙述の担い手になる準備をしてもらうことが、この授業の到達目標です。

授業内容

各回の担当者による口頭報告と受講者全員の討論を、主な授業内容といたします。テクスト報告に加え、秋学期の前半では、夏季休暇中の課題に関する口頭報告も行なっていただきます。受講者数にもよりますが、秋学期の発表回数は 2 回を予定。

第 1 回 方法としての読書
第 2 回 夏季休暇中の課題に関する口頭報告〈1 回目〉
第 3 回 夏季休暇中の課題に関する口頭報告〈2 回目〉
第 4 回 夏季休暇中の課題に関する口頭報告〈3 回目〉
第 5 回 夏季休暇中の課題に関する口頭報告〈4 回目〉
第 6 回 序章「メディアが創った「終戦」の記憶」
第 7 回 第 1 章「降伏記念日から終戦記念日へ：「断絶」を演出する新聞報道」
第 8 回 第 2 章「玉音放送の古層：戦前と戦後をつなぐお盆ラジオ」
第 9 回 第 3 章「自明な記憶から曖昧な歴史へ：歴史教科書のメディア学」
第 10 回 「おわりにかえて：戦後世代の「終戦記念日」を！」
第 11 回 補論 1「「八月十五日」の民意」
第 12 回 補論 2「「八・一五革命」再考」
第 13 回 補論 3「「九月ジャーナリズム」を提唱する」
第 14 回 秋学期のまとめ
※ 外部講師による「特別講義」、参加任意の巡検、映像鑑賞ほかを実施する場合があります。

履修上の注意

明治大学の日本史学専攻は、各時代を専門とする先生方が揃っている稀有な学習環境であると思います。とりわけ近現代史については、テーマや方法論に応じて、自分に合った指導教員を探せるという極めて贅沢な環境にあります。担当教員とのミスマッチを防ぐために、恐らく私のゼミだとあまり満足感を得られないのではないかという方々の傾向をお示ししておきます。〈相性診断〉にご活用下さい。

(A)教員が話したことやテクストの内容を、〈正しい〉情報として信じたいタイプの方。
(B)〈結論〉の出ない宙ぶらりん状態を、上手く楽しめない方。
(C)無難な(≒イイコちゃんな)卒業論文テーマを選ぼうと思っている方。
(D)コスパやタイパを過度に重んじる(≒1 周回ってコスパやタイパが良くない)方。
(E)他人を「論破」しようとする(≒議論があまり上手ではない)方。
(F)研究不正がダメな理由について、丁寧に説明されても、あまりピンと来ていない方。

あと、何かにつけて「深いわー」という浅いコメントを口にするのはやめましょう。深さや浅さに鈍感な人は、すぐに溺れてしまいます。

受験日本史を憎んでいる方々や、日本史が好きで入学したはずなのに、日本史学専攻に入ったらあまり面白くなかった方々へ。モヤモヤを抱えているあなたには、面白い卒論が書けるかもしれません。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、各回の授業までに、テクストの該当箇所を読んできて下さい(30 分。議論に参加出来るように、疑問点や論点を整理しておきましょう)。復習としては、各回の授業後に、コメントシートを提出していただければと思います(30 分)。

教科書

佐藤卓己『〈増補〉八月十五日の神話：終戦記念日のメディア学』筑摩書房、2014 年。

参考書

指定の参考書はありません。毎回の授業内容に関連して、適宜紹介いたします。

課題に対するフィードバックの方法

各回のコメントシートについては、次の回の授業冒頭で紹介・解説する予定です。

成績評価の方法

・口頭報告：60%
・各回のコメントシート(小課題を含む場合がある)：40%
※ なお、悪質な研究不正が見付かった場合は、100 点減点といたしますので、当該科目の成績評価全体が負の数となり、単位は認定されません。

その他

受講者の人数等により、授業内容や順序を一部変更・微調整する場合があります。受講者を取り巻く状況等によっては、卒業論文指導に特化した内容に変更することもありえます。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
演習Ⅰ(日本史)B	**演習Ⅰ(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本現代史のうち、おもに戦後の地域史や社会史をテーマとした演習です。秋学期は、卒業論文の具体的なテーマと使用する史料について報告を行ないます。また、併行して文献・史料の輪読にも取り組みます。卒業論文では、自分のテーマに関わる多様な文献や史料を、その性格や背景を考慮しつつ整理し、自らの歴史叙述に取り込んでいく必要があります。そのような卒論執筆に備え、秋学期は花森安治『ある日本人の暮し』(1954～68 年)を読み、さらにゼミでの討議を通じて文献・史料を読み思考する力を深めてゆきます。

【取り上げる史料】

・『花森安治選集 2 ある日本人の暮し』(暮しの手帖社、2020 年)

1950～60 年代の庶民の日常を描いたルポルタージュから、当時の人々の暮らしや働き方の実感や意味をひろいあげ読み込みます。個人の体験を記述した史料でも重要なのは正確な背景の理解です。歴史的な知識を通じて、ルポルタージュに現われる人々の姿を読み解いてゆきます。

授業内容

授業では、第 1 に卒業論文のテーマ設定に向けた研究報告をし、それぞれが関心を持つ分野や研究したいテーマについて発表します。第 2 に、テキストの輪読を通じて、日本現代史のなかの人々の生活、社会や経済の構造、政治・思想・文化の動向、日本や地域をめぐる歴史認識などの諸問題を議論します。

【秋学期】

第 1 回:先行研究と史料の探し方について
第 2 回:卒業論文に向けた研究報告①
第 3 回:卒業論文に向けた研究報告②
第 4 回:卒業論文に向けた研究報告③
第 5 回:卒業論文に向けた研究報告④
第 6 回:卒業論文に向けた研究報告⑤
第 7 回:卒業論文に向けた研究報告⑥
第 8 回:花森安治「ある日本人の暮し」の輪読①
第 9 回:花森安治「ある日本人の暮し」の輪読②
第 10 回:花森安治「ある日本人の暮し」の輪読③
第 11 回:花森安治「ある日本人の暮し」の輪読④
第 12 回:花森安治「ある日本人の暮し」の輪読⑤
第 13 回:花森安治「ある日本人の暮し」の輪読⑥
第 14 回:まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成して、テキストの要約、参考文献の調査、疑問点や論点の提示など丁寧な報告を求めます。報告者は無断欠席をしないこと。受講者はテキストに目を通し、討論に積極的に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告者は研究報告の準備には時間をかけ、卒業論文の準備に向けた取り組みを心がけて下さい。すべての受講生はテキストを精読し、討論の準備をして下さい。

教科書

授業で史料を配布します。

参考書

天野正子・石谷二郎・木村涼子『モノと子どもの戦後史』(吉川弘文館、2007 年)
荒川章二『日本の歴史 16 豊かさへの渇望』(小学館、2009 年)
大門正克・安田常雄・天野正子編『戦後経験を生きる』(吉川弘文館、2003 年)
安岡健一『戦後史 1945-2025』(中公新書・2881、2025 年)

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行ないます。

成績評価の方法

報告内容(40%)、授業への貢献度(30%)、レポート(30%)によって総合的に評価します。

その他

受講生の人数により内容を多少変更する場合があります。

科目ナンバー：(AL)PAC331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
オリエントの考古学A	**オリエントの考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小泉 龍人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業はオリエントのなかでもメソポタミアを中心とする西アジア地域の考古学を主題としている。西アジアでは約1万年前までに農耕が始まり、その後まもなく牧畜も起こり、やがて5千年以上も前に世界最古級の都市が誕生し、絵文字的な記号が発明された。シュメール都市国家の競合段階を経て、領域国家のアッカド王朝出現までに楔形文字が完成し、銀の貨幣も開発された。そして中央集権国家のウル第3王朝で度量衡が完成し、バビロン第1王朝にてハンムラビ法典が制定された。西アジアはつねに世界をリードしてきた人類史の宝庫となっているため、危険を承知の上で世界中の研究者が西アジア周辺のオリエントで考古学調査に取り組んでいる。本授業は古代オリエントにおける都市誕生とその発展について考古学的に学ぶことを目標としている。講師の実務経験(シリア、トルコ、エジプト、イラクなどでの考古学調査研究)を活かして講義を行う。

授業内容

授業は講義形式で行い、おもにパワーポイントを活用する。講師の海外出張(発掘調査、国際学会)等により休講になる場合は、補講代替措置としてオンデマンド(収録動画配信)型授業を実施し、授業動画視聴後に Oh-o! Meiji クラスウェブ「アンケート」にコメントを投稿してもらう予定。本授業は対面式を想定しているが、感染状況によっては明治大学活動制限指針に基づきオンデマンド型授業等に切り替わることもある。

※順番・内容の変更もあり得る。

第1回:イントロダクション、オリエント横断の旅－モヘンジョダロからアテネまで
第2回:オリエント概説－バベルの塔と『ギルガメシュ叙事詩』
第3回:いかにしてヒトは人になったのか－人間らしさの獲得
第4回:温暖化と寒冷化への適応－定住化から食糧生産へ
第5回:メソポタミアにおける都市化－水利施設の工夫と神殿建立
第6回:テルの層位的発掘－ユーフラテス川に沈むシリアの遺跡
第7回:最古の都市ウルクの誕生－街の軸線と銀の開発
第8回:シュメール都市国家の競合－楔形文字と青銅器の開発
第9回:アッカド王朝による領域国家－長距離交易と銀の貨幣
第 10 回:ウsル第3王朝の中央集権国家－度量衡の統一
第 11 回:都市問題の解決－ハンムラビ王の目指した弱者救済
第 12 回:オリエントの国際化－古アッシリア、ミタンニ、ヒッタイト
第 13 回:ビールの生産と消費－メソポタミア周辺
第 14 回:まとめと振り返り(リアクションペーパーへのフィードバック)

履修上の注意

本授業は考古学の専門知識がなくても履修可能だが、内容はかなり濃い。オリエントの歴史や海外の考古学に興味がある学生を歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にクラスウェブ「授業内容・資料」の PDF 等を閲覧しておく。授業日内に「アンケート」にて感想・質問等を回答する。

教科書

とくに指定しない。毎回、クラスウェブに授業レジュメ(PDF 等)をアップロードする予定。

参考書

拙著『都市の起源』選書メチエ 講談社(2016 年)、『ワインとビールの考古学』市民の考古学 同成社(2026 年) 。ほかは適宜プリントにて知らせる。

課題に対するフィードバックの方法

アンケート回答へのフィードバックは次回授業日まで、リアクションペーパーへのフィードバックは第 14 回授業までに行う予定。

成績評価の方法

期末レポート 60%:授業内容を理解した上で論述しているかどうかを評価。出席・授業態度 20%:遅刻2回で欠席扱いとし、授業マナー重視、アンケート投稿も考慮。その他 20%:適宜リアクションペーパー(小テスト)を実施して、授業の理解度を評価。

その他

質問等はクラスウェブ「アンケート」もしくはメール(初回授業にて伝える)を活用。

科目ナンバー：(AL)PAC331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
オリエントの考古学B	**オリエントの考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小泉 龍人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業のテーマは、オリエントのなかでもメソポタミアを中心とする西アジア地域において現代都市文明のルーツをさぐることにある。メソポタミア周辺では5千年前までに世界最古級の都市が誕生した後、シュメール都市国家の競合する段階を経て、アッカド王朝による領域国家が出現し、約4千年前にウル第 3 王朝で中央集権国家が登場した。約3千年前になると、新アッシリアをはじめとして、新バビロニアやアケメネス朝ペルシアといった帝国が順次現れ栄華を極めた。この間、メソポタミア周辺は、兵器開発、演劇、コイン製造、道路網整備などつねに世界をリードして、現代文明の基礎をかたちづくってきた。本授業は、メソポタミア周辺において現代の都市文明につながるさまざまなルーツがどのように形成されていったのかを考古学的な目線で学ぶことを目標としている。講師の実務経験(シリア、トルコ、エジプト、イラクなどでの考古学調査研究)を活かして講義を行う。

授業内容

授業は講義形式で行い、おもにパワーポイントを活用する。講師の海外出張(発掘調査、国際学会)等により休講になる場合は、補講代替措置として各自指定された博物館へ見学に行き、見学レポートを作成してもらう。提出日等は初回授業にて説明予定。本授業は対面式を想定しているが、感染状況によっては明治大学活動制限指針に基づきオンデマンド(収録動画配信)型授業等に切り替わることもある。

※内容・順番の変更もあり得る。

第1回:イントロダクション、集落から都市まで－メソポタミア周辺における都市誕生
第2回:都市国家から中央集権国家まで－メソポタミア周辺における国家発展
第3回:兵器の開発－新アッシリア帝国の拡大
第4回:都市の知－アッシュルバニパルの図書館
第5回:バベルの塔－新バビロニア帝国の栄華
第6回:メソポタミアの遺跡発掘－トルコでの国際調査と現地での滞在生活
第7回:都市の祭りと演劇－マルドゥク神の新年祭
第8回:インゴットからコインへ－リュディアの発明した硬貨
第9回:多民族の融和－アケメネス朝の「王の道」
第 10 回:オリエント最後の帝国－ペルセポリスとペルシア戦争
第 11 回:アッシリア、バビロニア、アケメネス－国家から帝国へ
第 12 回:「ノアの箱船」のルーツ－ワインの起源を探る
第 13 階:メソポタミアにおける世界遺産の現状
第 14 回:まとめと振り返り(リアクションペーパーへのフィードバック)

履修上の注意

本授業は考古学の専門知識がなくても履修可能だが、内容はかなり濃い。メソポタミア(西アジア)の歴史や海外の考古学に興味がある学生を歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にクラスウェブ「授業内容・資料」の PDF 等を閲覧しておく。授業日内に「アンケート」にて感想・質問等を回答する。

教科書

とくに指定しない。毎回、クラスウェブに授業レジュメ(PDF 等)をアップロードする予定。

参考書

拙著『都市の起源』選書メチエ 講談社(2016 年) 、『ワインとビールの考古学』市民の考古学 同成社(2026 年)。ほかは適宜プリントにて知らせる。

課題に対するフィードバックの方法

アンケート回答へののフィードバックは次回授業日まで、リアクションペーパーへのフィードバックは第 14 回授業までに行う予定。

成績評価の方法

期末レポート 60%:授業内容を理解した上で論述しているかどうかを評価。出席・授業態度 20%:遅刻2回で欠席扱いとし、授業マナー重視、アンケート投稿も考慮。その他 20%:適宜リアクションペーパー(小テスト)を教場で実施して、授業の理解度を評価。

その他

質問等はクラスウェブ「アンケート」もしくはメール(初回授業にて伝える)を活用。

科目ナンバー:(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
音韻・形態論Ⅰ	**音韻・形態論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語や日本語に関する音韻論・形態論の基本的な考え方を学びます。言語現象を理論的に見る目を養うことが授業の目標です。
音韻論は、連続体としての言語音に「音素」「音節」「モーラ」「フット」などの理論的単位を導入して、個別言語の音やアクセントの型の記述を行う分野です。それらの単位を使って言語音を考えることで、個別の言語の音韻構造が明らかになり、英語や日本語などの各言語がどのように異なっているのか、また、どのような共通性があるのかを捉えることができます。
形態論は、語の構造や語形成について考える分野です。語形成には音韻的な情報が大きく関わっており、形態論と音韻論は密接な関係にあります。語の構造や語形成についてこれまで行われてきた分析について考えていきます。

授業内容

第 1 回:言語の研究と音声の研究
第 2 回:音声の産出について
第 3 回:母音と子音
第 4 回:有標性について
第 5 回:音素と異音について
第 6 回:ミニマルペアと相補分布
第 7 回:弁別的素性とは
第 8 回:母音融合について
第 9 回:音節について
第 10 回:英語の音節
第 11 回:モーラについて
第 12 回:英語のモーラと日本語の音節
第 13 回:日本語と英語の音節構造について
第 14 回:a:子音結合について、b:試験

履修上の注意

特にありませんが、音声学を履修していることが望まれます。履修していない場合は、音声学で使われる基本的な用語について予めある程度調べて理解しておくことが大切です。検索サイトも役に立ちますので利用して調べてみて下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習として、教科書(または配布資料など)の次回の授業の該当箇所を前もって読んできて下さい。練習問題がある場合はそれについて考えてきて下さい。わからないところがあれば授業中に質問して下さい。復習として、授業の内容について授業での資料や教科書でもう一度確認し、練習問題を含めて授業の内容の理解を確実なものとして下さい。

教科書

『音声学・音韻論』窪薗晴夫(くろしお出版)
音韻論の基本的な考え方についてわかりやすく解説しています。

参考書

特に使用しませんが、関連する内容について資料や練習問題を適宜提示する予定です。

課題に対するフィードバックの方法

授業で出された課題については、次週の授業で解説します。

成績評価の方法

授業への貢献度 30%、定期試験 70%

その他

授業の内容に関する質問や相談したいことなどがありましたら、授業時や課題の提出時に聞いて下さい。

科目ナンバー:(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
音韻・形態論Ⅱ	**音韻・形態論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

音韻・形態論 A で学んだ音韻論と形態論の基本的な考え方を基に、英語や日本語に見られる言語現象について理解を深めていきます。私たちが毎日なにげなく使っていることばには、さまざまな構造や法則性が潜んでいることを発見していきます。言語を理論的に捉える目を養うことが授業の目標です。

授業内容

第 1 回:外来語の音韻論
第 2 回:語アクセントについて
第 3 回:アクセントの付与規則 Ⅰ
第 4 回:アクセントの付与規則 Ⅱ
第 5 回:派生語のアクセント
第 6 回:複合語のアクセント
第 7 回:文の発音
第 8 回:子音の発音と音変化について
第 9 回:連濁について Ⅰ
第 10 回:連濁について Ⅱ
第 11 回:連濁について Ⅲ
第 12 回:音節構造について
第 13 回:形態構造と音韻論
第 14 回:a:まとめ、b:試験

履修上の注意

特にありませんが、音声学を履修していることが望まれます。履修していない場合は、音声学で使われる基本的な用語について予めある程度調べて理解しておくことが大切です。検索サイトも役に立ちますので利用して調べてみて下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習として、教科書(または配布資料など)の次回の授業の該当箇所を前もって読んできて下さい。また、自分たちのまわりに見られる同じような言語現象についても考えてみましょう。わからないところがあれば授業中に質問して下さい。
復習として、授業の内容について授業での資料や教科書でもう一度確認し、授業の内容の理解を確実なものとして下さい。

教科書

『音声学・音韻論』 窪薗晴夫(くろしお出版)
音韻論の基本的な考え方についてわかりやすく解説しています。

参考書

特に使用しませんが、関連する内容について資料や練習問題を適宜提示する予定です。

課題に対するフィードバックの方法

授業で出された課題については、次週の授業で解説します。

成績評価の方法

授業への貢献度 30%、定期試験 70%

その他

授業の内容に関する質問や相談したいことなどがありましたら、授業時や課題の提出時に聞いて下さい。

科目ナンバー：(AL)ART141J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
音楽史A	**音楽史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 友計	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

当授業では主に西洋音楽の歴史を扱う。春学期では古代ギリシャから中世(17 世紀頃)までを対象とし、その実態の把握と理解に努める。また西洋音楽のより深い理解のために、和声と対位法に関する講義を随時行う。

授業内容

1 イントロダクション
2 概論
3 古代ギリシャの音楽
4 グレゴリオ成果
5 単旋律聖歌とポリフォニーの出現
6 中世の音楽 ～1150
7 ゴシック期の音楽 1150-1400
8 アルス・ノヴァの音楽
9 初期ルネサンスの音楽 1400-1600
10 中期ルネサンスの音楽
11 盛期ルネサンスの音楽
12 宗教と音楽/教育と音楽
13 バロック音楽:モンテヴェルディ
14 a:まとめ b:試験

履修上の注意

音楽史 B を続けて受講することが望ましい(必須というわけではありません)。

準備学習(予習・復習等)の内容

特にありませんが、普段聞いている音楽の幅を広げるよう意識してみてください。

教科書

グラウト/パリスカ『新・西洋音楽史』上巻・中巻 音楽之友社、1998.
(必須というわけではありません)
またイントロダクションで文献一覧を配布します。

参考書

同上

課題に対するフィードバックの方法

受講者多数のため授業後にアンケートを毎回 HP 上に開設し質問・照会を受け付けます。
その上で、記入者の同意が得られたものに関して次回以降の授業でフィードバックすることにしています。

成績評価の方法

期末試験 100%
試験は授業最終日に Oh-o! Meiji の HP の「小テスト」上で、
「授業内課題の試験」として行う予定です。

その他

毎年大勢の履修者が出席していますが、いかなる事由があろうとも授業の進行の妨げとなった者は即刻退出とし、当該授業の単位を認定しません。

科目ナンバー：(AL)ART141J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
音楽史B	**音楽史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 友計	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

当授業では主に西洋音楽の歴史を扱う。秋学期ではバロックから現代までを対象とし、最後の数講義で和声・調性以外の音楽にも接し、視野を広げる。またより深い理解のために、和声と対位法に関する講義を随時行う。

授業内容

1 春学期の振り返りとバロック初期の音楽
2 バロック中期の音楽(バッハ)
3 バロック後期の音楽(バッハ)
4 前期古典派(ハイドン)
5 中期古典派①(モーツァルト)
6 中期古典派②(モーツァルト)
7 後期古典派①(ベートーヴェン)
8 後期古典派②(ベートーヴェン)
9 後期古典派③(ベートーヴェン)
10 ロマン派の音楽
11 近代フランス音楽と印象主義
12 政治と音楽
13 20 世紀の挑戦
14 a:まとめ b:試験

履修上の注意

音楽史 A を履修しておくことが望ましい(必須というわけではありません)。

準備学習(予習・復習等)の内容

特にありませんが、普段聞いている音楽の幅を広げるよう意識してみてください。

教科書

グラウト/パリスカ『新・西洋音楽史』中巻・下巻 音楽之友社、1995.
(必須というわけではありません)
またイントロダクションで文献一覧を配布します。

参考書

同上

課題に対するフィードバックの方法

受講者多数のため授業後にアンケートを毎回 HP 上に開設し質問・照会を受け付けます。
その上で、記入者の同意が得られたものに関しては次回以降授業でフィードバックすることにしています。

成績評価の方法

期末試験 100%
試験は授業最終日に Oh-o! Meiji の HP の「小テスト」上で
「授業内課題の試験」として行う予定です。

その他

毎年大勢の履修者が出席していますが、いかなる事由があろうとも授業の進行の妨げとなった者は即刻退出とし、当該授業の単位を認定しません。

科目ナンバー:(AL)LIN241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
音声学入門 I	**音声学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の音声体系を概観し、英語音声学の基礎知識及び標準的なアメリカ英語の発音を習得することを目標とします。この講義の主要な目標は、音声学の基本的な理論を理解することにありますが、英語音声学を学ぶことによって、日本語と英語の音のちがいを明確に意識し、その知識を活用して練習を行うことで英語の発音及び聞き取りの改善に結び付くようにします。春学期は、子音と母音を中心に扱います。区別をすることが重要な音や日本語母語話者が苦手とする音に関しては発音練習の時間を設けます。

※受講を希望する学生は必ず初回の授業に参加してください。他の授業と迷って出席できない場合は事前にメールでご連絡ください。

授業内容

受講者の理解度によって多少変更する可能性がありますが、以下のように計画しています。

※初回の授業で、本コースの基礎となる用語の説明をします。授業内容を理解するうえで非常に重要な内容ですので、受講希望の学生は必ず初回の授業に出席すること。

第1回:イントロダクション、調音器官
第2回:子音のイントロダクション
第3回:音素と異音
第4回:閉鎖音
第5回:摩擦音1: /f v θ ð/
第6回:摩擦音2: /s z ʃ ʒ h/
第7回:破擦音
第8回:鼻音
第9回:側音、半母音
第 10 回:子音のまとめと発音試験
第 11 回:母音のイントロダクション
第 12 回:短母音
第 13 回:長母音
第 14 回:a) まとめ、b) 学期末試験

履修上の注意

必ずノートを準備し、板書をとること。発音練習では、できるだけ個別にフィードバックを与えるので、恥ずかしからず積極的に練習に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習していることを前提で授業を進める。必ずテキストの該当箇所を読んでくること。また、例として挙げられている単語や文の意味を辞書で調べるだけでなく、発音記号を調べて書いてくること。毎回予習としてこれを行うことで、音声記号に慣れ親しむこと。

授業後は、内容の復習と並行して、授業中に練習した音の発音練習を行い、習得できるようにすること。

教科書

竹林滋、清水あつ子、斎藤弘子(著)『改定新版 初級英語音声学』大修館書店

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内容の理解度確認問題については、採点後返却する。また、間違いが多かった箇所については、返却時に全体に向けて解説する。その他の箇所については、授業前後の時間やメールで個別に質問を受け付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度/毎回の授業の内容理解度 10%、
小テスト 20%、学期末試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LIN241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
音声学入門 II	**音声学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の音声体系を概観し、英語音声学の基礎知識及び標準的なアメリカ英語の発音を習得することを目標とします。英語音声学を学ぶことによって、日本語と英語の音のちがいを明確に意識し、その知識を活用して練習を行うことで英語の発音及び聞き取りの改善に結び付くようにします。秋学期は、春学期に扱えなかった母音や、アクセント、音の連続、音変化、リズム、イントネーションといったテーマを扱います。日本語母語話者が苦手とする音に関しては発音練習の時間を設けます。

※本講義の内容は、春学期の<音声学 A>のつづきとなります。

授業内容

受講者の理解度によって多少変更する可能性がありますが、以下のように計画しています。

第1回:春学期の復習:英語の子音と母音
第2回:二重母音1: [ɪ ʊ uː]に向かう二重母音
第3回:二重母音2: [ə˞]に向かう二重母音
第4回:弱母音
第5回:音節
第6回:語アクセント
第7回:句アクセント、複合語アクセント
第8回:音の連続
第9回:音変化
第 10 回:内容語と機能語
第 11 回:リズム
第 12 回:イントネーション1:イントネーション句の構造
第 13 回:イントネーション2:核音調
第 14 回:a) まとめ、b) 学期末試験

履修上の注意

必ずノートを準備し、板書をとること。発音練習では、できるだけ個別にフィードバックを与えるので、恥ずかしからず積極的に練習に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習していることを前提で授業を進める。必ずテキストの該当箇所を読んでくること。また、例として挙げられている単語や文の意味を辞書で調べるだけでなく、発音記号を調べて書いてくること。毎回予習としてこれを行うことで、音声記号に慣れ親しむこと。

授業後は、内容の復習と並行して、授業中に練習した音については重点的に発音練習を行い、習得できるようにすること。

教科書

竹林滋、清水あつ子、斎藤弘子(著)『改定新版 初級英語音声学』大修館書店

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内容の理解度確認問題については、採点後返却する。また、間違いが多かった箇所については、返却時に全体に向けて解説する。その他の箇所については、授業前後の時間やメールで個別に質問を受け付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度/毎回の授業の内容理解度 10%、
小テスト 20%、学期末試験 70%

その他

科目ナンバー：(AL)ABR911J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
海外現地研修 A	**海外現地研修 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

ベトナム・ホーチミンおよび近隣において、現地人たちとの交流を通じ現地の歴史や社会を学ぶことで異文化理解の基礎を養うとともに、化現地でのフィールドワークを通じてグローバルな柔軟性の取得を目的とする。

授業内容

説明会：4 月中旬を予定しています。日程・場所は Oh-o! Meiji および学内掲示を確認してください。
第1回 オリエンテーション・趣旨説明
第2回 グループミーティング
第3回 フィールドノートの取り方
第4回 インタビュー演習
第5回 危機管理セミナー
第6回 帰国後報告会・検討会
実習日程：9/7(月)～9/13(日)（＊予定：2026 年 1 月時点）
実習場所：ベトナム・ホーチミン市および近隣
宿舎：ホーチミン市内
募集人数：20 名
参加費用：約 25 万円(2024 年度参考：プログラム費用 137,000 円, 航空券代 71,000 円, その他の諸費用 約 39,220 円)
＊為替や国際情勢等により変動する可能性があります。
帰国後に 4-5 万円補助がでます。
募集方法：必要関係書類を期日までに提出すること(Oh-o! Meiji 上)

履修上の注意

事前研修・現地研修においてグループワークを重視します。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習・復習を含め、本研修では人類学のフィールドワーク手法をはじめ社会科学の調査方法になじみを持つことも目指します。

教科書

第1回のオリエンテーションの時に配布する。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

事前・事後研修、現地研修の場でフィードバックを提供する。

成績評価の方法

事前研修 40%、現地研修 40%、最終レポート 20%

その他

科目ナンバー：(AL)ABR911J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
海外現地研修 B	**海外現地研修 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、ロンドン大学(ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン, University College London)主催の言語学サマースクールに参加し、コーパス言語学および統語論に関する理解を深めることを目的とします。コーパス言語学の一部及び統語論は、「統語論入門 I, II」および「中級統語論 I, II」で使用しているテキスト"English Syntax and Argumentation"の著者である、Bas Aarts 教授が担当します。

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンはロンドンの文化的中心ブルームズベリー地区(Bloomsbury)に位置し、大英博物館(The British Museum)・大英図書館 (The British Library)なども徒歩圏にあるため、講義以外の時間を利用し文化施設等の見学も行います。

授業内容

第1回 事前授業(1)
第2回 事前授業(2)
第3回 言語学サマースクール①
第4回 言語学サマースクール②
第5回 言語学サマースクール③
第6回 文化施設等訪問
実習日程：6 月下旬の 1 週間(詳細は未定)
実習場所：ロンドン大学
募集方法：「英語学演習(3年)・英米文学演習(3 年)」及び「卒業論文」の振り分け結果発表後、Oh-o! Meiji にて参加希望学生を募ります。その後、参加する学生は履修登録をして下さい。

履修上の注意

1.「英語学概論 I, II」を履修済みで、「音声学入門 I, II」、「統語論入門 I, II」、「意味論入門 I, II」を履修済みまたは履修中であることが望ましい。
2.「英語学演習(3年)」または「卒業論文」を履修中であること、及び、「中級統語論 I, II」、「コーパス言語学」、「テキスト分析」を履修中または履修済みであることが望ましい。
現地研修期間は6月下旬の1週間を予定しています。
なお、旅費・滞在費・サマースクール授業料などの参加費用が別途かかります。参加費用の一部は大学から補助が出る予定です。
詳細は、「英語学演習(3年)・英米文学演習(3 年)」及び「卒業論文」の振り分け結果発表後に、Oh-o! Meiji にて「英語学演習(3年)」の履修者を中心にお知らせし、参加希望学生を募ります。その後、参加する学生は履修登録することになります。

準備学習(予習・復習等)の内容

ロンドン大学コーパス言語学サマースクールおよび統語論特別講義では、1年次「英語学概論 I, II」および2年次「音声学入門 I, II」、「統語論入門 I, II」、「意味論入門 I, II」の内容を基礎として、「中級統語論 I, II」、「コーパス言語学」、「テキスト分析」の内容が背景知識としてあると、スムーズに受講することができます。
現地研修後、各自6, 000 字程度のレポートを提出して下さい。

教科書

Bas Aarts (2024) English Syntax and Argumentation (6th Edition), Palgrave.(「統語論入門 I, II」および「中級統語論 I, II」のテキスト)
UCL コーパス言語学サマースクール用コースパケット(サマースクール登録後、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンからサマースクール参加者に配付されます)

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji でコメントを付けて返却する

成績評価の方法

研修前授業参加 20%, 研修参加態度 60%, 実施後のレポート 20%

その他

ICE-BC コーパスまたは DCPSE コーパス(定価約£350)のいずれかを無料でもらえます。

科目ナンバー:(AL)ABR911J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
海外現地研修 B	**海外現地研修 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

韓国仁川はソウル近郊地域として早くから発展し、韓国第三の都市としてアジアにおいても大きな存在感を持つ。本研修では、仁川とその周辺地域における遺跡の保存と活用の現状を実見するとともに、日韓の学生による交流行事も実施する。以上の現地見学や学生交流を通して、アジア諸地域の歴史や文化に対する理解を深める。

授業内容

第 1 回 イントロダクション。4 月上旬に駿河台・和泉両キャンパスで開催予定(日程が決まり次第 Oh-o!Meiji で文学部全学生に通知)。
具体的日程を説明し、「参加希望書」配布。応募締切は 4 月下旬。
第 2 回 事前学習(1)。4 月下旬に駿河台・和泉両キャンパスで開催予定。参加者を確定し履修手続き、今後の事前学習の課題を提示。
第 3 回 事前学習(2)。公開事前学習会。7 月上旬に和泉キャンパスで開催予定。参加者各自が研究テーマに関して報告し質疑。
第 4 回 事前学習(3)。8 月上旬。駿河台キャンパスで開催予定。合宿見学ガイドの原稿提出(A4 サイズ 1 頁以上)し、全員で共有。
第 5 回 現地調査
8 月 19 日(水)現地到着。仁荷大学校を訪問し、現地学生と交流
8 月 20 日(木)仁川市内見学:仁川チャイナタウン、仁川自由公園(旧租界地)、仁川上陸作戦記念館ほか
8 月 21 日(金)仁川・ソウル等市内自由見学
8 月 22 日(土)午前仁川市内見学:松岩美術館
第 6 回 9 月下旬を予定 最終報告会 受講生各自の研究テーマに関する最終報告
実習日程:(予定)8 月 19 日～8 月 21 日
実習場所:韓国・仁川およびソウル市内
募集人数:15 名以内(最少催行人数 5 名)
参加費用:約 12 万円 うち航空費 8 万円, 宿泊+交通+食費 4 万円(通貨状況により変動する)
募集方法:「参加希望書」を 4 月中旬までに提出
日程は変更の可能性がある。詳細は、4 月のガイダンスで説明する。

履修上の注意

定員は 15 名程度(5 名以上で成立)希望者が定員を上回った場合には、「参加希望書」によって選抜する。海外研修の科目であるため、渡航に伴う諸書類の提出期限を守ることができない場合には受講取消となる。また、現地での参加・離脱は緊急事態を除き認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

現地研修後, 各自 6,000 字程度のレポートを提出すること

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

事前学習での報告 20%, 現地における研究・交流 50%, 実施後のレポート 30%。

その他

科目ナンバー:(AL)ABR911J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
海外現地研修 B	**海外現地研修 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

中央集権国家の首都であるパリと、スペイン国境に近いポーというフランスの二つの都市を訪問し、中心性と周辺性の異なったあり方を理解し、履修者それぞれにとって身近な地域の将来について考える手がかりを得る。

授業内容

4 月 ガイダンス・参加者募集・決定
第1回(5 月オンデマンド)フランスについて学ぶこと
第2回(6 月オンデマンド)パリの歴史と現在
第3回(7 月オンデマンド)ポーの歴史と現在
7 月 出発前ガイダンス
9/6 現地到着
9/7 パリ市内巡検・午後自由時間
9/8 パリ市内および近郊の巡検
9/9 パリからポーへ移動・ポー市内巡検
9/10 近郊のレスカーおよびジュランソン巡検(路線バス)
9/11 ポー・アドゥール地方大学の学生とピレネー山脈巡検
9/12 ベアルン・ピレネー歴史博物館・ラック工業地域
スペイン側オンダリビアなど訪問(貸し切りバス)
9/13 現地出発
9/14 東京帰着
実習日程:(予定)9月6日～14日
実習場所:フランス パリ・ポー 宿舎:市内および近郊ホテル
募集人数:15名以内(最少催行人数5名)
参加費用:約 40 万円 航空費 30 万円、宿泊+食費+雑費 10 万円
募集方法:「志望動機」を A4一枚のレポートにまとめ、期日までに提出すること(Oh-o! Meiji 提出)。
オンデマンド講義に対し、毎回レポートを提出するとともに、現地研修後、各自のテーマに沿ったレポートを提出する。

履修上の注意

地理学を専攻するフランスの学生との交流があるため、地理学専攻を優先するが、他専攻からの応募も可能である。フランス語履修は必須にはしないが、応募者が多い場合は選考基準となる。詳しくはガイダンスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

オンデマンド講義でテキストを示すので、出発前までに読み込むこと。それぞれがテーマを持って参加するために、関心分野について資料収集や文献探索を進めること。

教科書

特になし。

参考書

オンデマンド講義で示す。

課題に対するフィードバックの方法

Oh!-Meiji で個別に評価内容を示す。

成績評価の方法

オンデマンド講義についてレポート提出がなければ、参加不可とする。
成績は現地での授業参加(6 割)とレポート(4 割)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
外国地誌	**外国地誌**	
担 当 者	開講期	開講地区
松宮 邑子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本にとっては近隣国でありながら，多くの人にとってモンゴルは馴染みの薄い国であろう．抱かれるイメージは，遊牧，相撲，『スーホの白い馬』…といったところだろうか．旧社会主義国，発展途上国といった特徴は，ネガティブなイメージへと結びつくかもしれない．本講義では，そうしたある種のステレオタイプ的な概念を払拭すべく，様々な角度からモンゴルの実状を紹介し，過去・現在・未来をとらえていく．モンゴルの事例を通じて，世界情勢や日本を含むアジアのあり方に目を向けるとともに，様々な「いま」「人びとの生活」が多様な関係の下に成り立つことを理解していく．

授業内容

1 イントロダクション：「モンゴル」「地誌」を学ぶ意義―モンゴルをレンズに世界を見つめる
2 モンゴルの今を見つめる①
3 モンゴル世界の広がり(1)世界史の中のモンゴル
4 モンゴル世界の広がり(2)多様な遊牧生活
5 モンゴル世界の広がり(3)『スーホの白い馬』を読み解く
6 近現代のモンゴル社会(1)社会主義国としてのあゆみ
7 近現代のモンゴル社会(2)ウランバートル都市史
8 近現代のモンゴル社会(3)人口政策と女性
9 近現代のモンゴル社会(4)都市への人口集中
10 ゲル地区の人々(1)移住と移動，日々の暮らし
11 ゲル地区の人々(2)「開発」をどう考えるか？
12 モンゴルの今をみつめる②
13 国際関係の中のモンゴル(1)近隣国との関係
14 国際関係の中のモンゴル(2)日本との関係

履修上の注意

講義の内容や進行は，受講者の人数や希望に沿って，また時勢にあわせて柔軟に変更する．

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布する資料や紹介する参考文献等を活用し，各自考察を深めること．日頃から新聞等に目を通し，社会情勢に気を配っておくこと．

教科書

特定の教科書は指定しない．

参考書

特になし．授業の進捗に応じて適宜紹介する．

課題に対するフィードバックの方法

授業内で回答する．

成績評価の方法

毎週のリアクションペーパーおよび中間課題(50%)，期末試験もしくは期末課題(50%)による
※期末試験の実施や課題提出については，受講人数により決定する．
リアクションペーパーの提出が 10 回に満たない場合，成績評価の対象としない．
※10 回以上の提出者に単位取得を保障するものではない．

その他

授業中は節度ある振る舞いを求める．

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
外国文芸受容史	**外国文芸受容史**	
担 当 者	開講期	開講地区
山中 剛史	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

明治以降の近代文学カテゴリとしての「翻訳文学」がいかに成立し、近代文学に影響を与えたのか。いわゆる純文学ばかりではなく、エンタテインメント小説や文芸映画、または書物の装幀や出版産業なども視野に入れながら、変化する時代の中で移り変わる西洋文芸受容の系譜を多角的に捉え直す。
近代文学を「外国文芸」の受容という点から改めて考察していくことで、さまざまな「外国文芸」の影響によって近代文学に豊かな多様性がもたらされたことを理解することが到達目標。

授業内容

第 1 回：「翻訳文学」とは何だろうか？
第 2 回：文学の近代化―逍遙と四迷
第 3 回：翻案・典拠・著作権
第 4 回：印刷・製本の西洋化
第 5 回：イメージの西洋文学①―文豪の肖像
第 6 回：イメージの西洋文学②―文芸映画
第 7 回："日本的"自然主義の諸相
第 8 回：伝播する想像力①―E.A.ポー
第 9 回：伝播する想像力②―O.ワイルド
第 10 回：詩は翻訳できるのか
第 11 回：モダニズムへの共振
第 12 回：澁澤龍彦と異端文学の系譜
第 13 回：幻想文学ブームとリトルプレス
第 14 回：「翻訳文学」とこれからーまとめ
＊講義内容は一部変更する場合もある。

履修上の注意

日本近代文学史はもちろん、19 世紀から 20 世紀の近代ヨーロッパ文学史の流れについて把握しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布するレジュメを振り返り、別個に自分なりに講義ノートをまとめておくこと。講義内容についての質問は随時受け付ける。また講義ごとに参考文献を紹介するので、それらに目を通し、あらかじめ自分なりの問題意識を持って講義に臨むこと。準備学習に要する時間はおおむね 1～2 時間程度。

教科書

特に定めない。

参考書

丸山眞男・加藤周一『翻訳と日本の近代』(岩波新書)
澁澤龍彦『悪魔のいる文学史』(中公文庫)
『欧米作家と日本近代文学』全 5 巻(教育出版センター)
山中剛史『谷崎潤一郎と書物』(秀明大学出版会)

課題に対するフィードバックの方法

提出されたリアクションペーパーのうち、全体にフィードバックすべき内容が記されているものについては、次回の講義冒頭で紹介・補足等を行う。小テストの場合は、次回講義冒頭にて回答および解説を行う。

成績評価の方法

不定期に講義へのリアクションペーパーまたは小テストを課す。
リアクションペーパー(50%)＋小テスト(50%)

その他

科目ナンバー：(AL)PSY121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
カウンセリング概論	**心理学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
諸富 祥彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

心理学は，こころについて考え，探求し，体験する学問です。人生のさまざまな問題を考え，自分自身の内面を見つめることが，この学問の基本になります。

この授業では，カウンセリングのさまざまな理論を学ぶことで、人間の心の基本的な仕組みとその働きについて理解を深めていきます。。「自分を見つめる」「人生を考える」「自分を語る」ことを基本に進めていきたいと思っています。

授業内容

「自分を見つめる」「人生を考える」「自分を語る」ことを基本に進めていく。

一方向的な講義のみでなく，さまざまなエクササイズ（実習）や集団討論，発表などを入れながら，主体的な姿勢を求めていく。

「自分を語る勇気」をもって参加してほしい。

(1) イントロダクション・リレーションづくり
(2) コミュニケーションワーク①
(3) コミュニケーション・ワーク②
(4) カウンセリングとは何か
(5) 広義のカウンセリング、狭義のカウンセリング
(6) カウンセリングの3つの次元
(7) カウンセリングと近接領域
(8) カウンセリングのプロセス
(9) カウンセリングの3つのアプローチ
(10) 自己成長論①
(11) 自己成長論②
(12) 精神力動論
(13) 認知行動論・システム論
(14) カウンセリング諸理論の比較

履修上の注意

さまざまなエクササイズや集団討論，発表などを組み込みながら授業を進めていく。傍観者的な気分での参加は許されない。

「自分を語る勇気」「他者にこころを開く姿勢」をもって参加してほしい。

その姿勢がないものは，受講しないこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

「自分を語る勇気」「他者にこころを開く姿勢」をもって参加してほしい

教科書

諸富祥彦著『カウンセリングの理論 上』(誠信書房)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを課 した場合には全体講評を次回の授業でおこなう

成績評価の方法

(1)授業への参加度(60%)，(2)レポート(30%)，(3)発表などへの主体的な参加(10%)などを総合的に評価する

その他

科目ナンバー：(AL)PSY131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
カウンセリング論(心理学的支援法)	**心理学的支援法 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
浅井 健史	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本科目では、心理学的支援の基本的発想と主な実践方法を学ぶ。心の専門家による支援を理解するだけでなく、日常生活で身近な他者をケアしたり、自分自身の心の健康をマネジメントする力を養うことも目的とする。動画資料や事例検討などの体験学習を多く取り入れる。

【到達目標】

・他者の心理を理解し、ケアすることができる。
・自分自身の心をケアし、精神的健康を維持・増進できる。
・カウンセリングの基本概念と進め方を理解する。
・臨床心理学の視点から、人々が生きやすい社会のあり方を構想できる。

授業内容

以下の内容を予定している。

1 ストレス・マネジメント1：ストレスの概念、コーピング
2 ストレス・マネジメント2：認知行動療法、自律訓練法
3 ストレス・マネジメント3：マインドフルネス、アサーション
4 心理アセスメントの基本的発想
5 カウンセリングの概要と環境づくり
6 カウンセリング初回面接の進め方
7 カウンセラーの志望動機とメンタルヘルス
8 コミュニティへの心理的支援とニーズアセスメント
9 予防と心理教育、多職種のコラボレーション
10 コンサルテーションによる支援
11 グループアプローチによる心理的支援
12 ピアサポートによる心理的支援1
13 ピアサポートによる心理的支援2
14 ピアサポートによる心理的支援3

履修上の注意

体験学習を重視するため、講義を受身的に聞くのではなく、能動的に考える姿勢が求められる。

準備学習（予習・復習等）の内容

初回の授業で提示する文献リストと各回で提示する参考文献をもとに、予習と復習に努めること。

教科書

プリントを用いて授業を進めるため、教科書は指定しない。

参考書

各回で参考書を紹介するので、それらを活用して関心を持ったテーマを掘り下げ、学期末レポートに結実させてほしい。

課題に対するフィードバックの方法

希望者に対して、リアクションペーパーおよび学期末レポートへのフィードバックを行う。

成績評価の方法

学期末レポート(70%)と各回のリアクションペーパーの提出状況と内容(30%)で総合的に評価する。
学期末レポートは、テーマについて掘り下げた考察がなされているか(50%)、自己の意見が明確に述べられているか(50%)を評価する。

その他

質問や連絡は浅井のメールアドレスまで。
aae19090@gmail.com

科目ナンバー：(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
学習・言語心理学	**学習・言語心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
齊藤 和貴	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、人の行動が変化する過程と言語の習得における機序について理解していくことを目標とする。

人が学習するために言語が果たす役割は大きく、言語は学習によって習得されることを考えると、両者は密接に関連しているといえる。そのため、学習心理学と言語心理学についてそれぞれの基本的な事項を学びながら、両者がどのように関連するのかについても理解を深めていく。

授業内容

01:イントロダクション
02:行動の測定と実験デザイン
03:生得性行動
04:レスポンデント条件づけ
05:オペラント条件づけ
06:問題解決と学習の転移
07:技能学習と熟達
08:社会的学習
09:言語の習得
10:コミュニケーションにおける言語
11:言語の発達
12:言語と推論
13:学習と言語の障害
14:まとめ

履修上の注意

・授業のプリント(PDF 形式)を事前に Oh-o! Meiji へアップロードするので、各自で準備すること。
・プリントには空欄が多くあるので、書き込み(入力)できるように準備をしておいてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

理解を深めるために、参考図書などを使った予習および復習が必須となる。
また、学習や言語といった内容を扱う授業であることから、日常生活において学んだ内容を振り返る機会には事欠かない。自分の体験と照らし合わせながら理解を深めていくことが知識を定着させる重要な復習となるため、機会を逃さないよう意識を持っておいてほしい。

教科書

特に使用しない。

参考書

『学習・言語心理学 支援のために知る「行動の変化」と「言語の習得」』 郷式 徹・西垣 順子 編著 (ミネルヴァ書房)
『学習と言語の心理学』 中島 定彦 著 (サイエンス社)
『学習・言語心理学』 楠見 孝 編 (遠見書房)

課題に対するフィードバックの方法

・課題については、授業内で解説を行う。
・授業後に寄せられた質問については、次の授業の冒頭でフィードバックを行う。

成績評価の方法

以下の内容について、総合して評価を行う。
・期末テスト(50%)
・授業への参加度(26%)
・提出物(24%)
詳細については初回授業(イントロダクション)内で説明するので、必ず確認すること。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
環境科学の世界	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
石崎 尚人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

首都東京をはじめ日本の主要都市では、近代以降の長きにわたり、国・都道府県などマクロな観点からの利便・経済性を優先して再編され続けてきた結果、地域固有の自然・社会文化的環境(風土性・場所性)は大きく損なわれていった。しかし、その一方で、自らが奪ったそれらのイメージに対しては強い憧憬を抱き、ときには、模倣・再現まで試みようとする。この矛盾に満ちた日本の近代都市の特質は、景観に最も集約的に反映される。この講義では、おもに日本の首都東京の景観変遷にスポットを当て、地理学をはじめ、造園・建築・土木系等、さまざまな諸学の景観(風景)論を参照しながら、これら諸問題の概要をみていく。

本授業では、以下のことを目標とする。すなわち、①ふだん、さして気にも留めずにいる、なにげない街の景観(風景)の「読解」を試みる。そして、この作業を通じて、②いま見えている街の景観(風景)が誕生した歴史的経緯を知り、また、その経緯で「得られたもの／失われたもの」を見極める。③さいごに、読解対象とした景観(風景)に対し、あらためて各自で新たな所感(気づき)を持ち、さらには、今後の都市環境に対する展望について自分なりの見解を持つ。

授業内容

第1回 街の景観(風景)を「読む」とは？ ～イントロダクション～
第2回 私たちが現在抱く首都東京のイメージとは？
第3回 首都東京の景観～自然的基盤(地形・植生)の概要
第4回 首都東京の景観形成における「画期(以前/以後)」の把握
第5回 首都東京の景観形成 明治・大正～昭和戦前期(1)概要
第6回 首都東京の景観形成 明治・大正～昭和戦前期(2)注目点～近代化・災害・戦争～
第7回 首都東京の景観形成 戦後復興・高度経済成長期(1)概要
第8回 首都東京の景観形成 戦後復興・高度経済成長期(2)注目点～ビルラッシュ、公害・交通問題、ニュータウン～
第9回 首都東京の景観形成 「安定成長期～バブル期」以降 ～顕在化した諸問題～
第10回 首都東京の景観に対するさまざまな評価 ～近代的合理性とその行方～
第11回 都市景観評価の転回(1) ～地域性・場所性への注目～
第12回 都市景観評価の転回(2) ～地域性・場所性と新たな課題～
第13回 「街の景観(風景)を読む」ことの今日的意義
第14回 筆記試験による講義理解度の確認
(※ 取り上げるトピックは、進度に応じて調整することがある。)

履修上の注意

講義形式を基本とし、適宜、質疑応答を取り入れていく。

授業時には、随時、参考資料を配布する。配布資料を通じて講義を進めることになるので、資料はすべて毎回持参すること。なお、資料の配布は、原則として、配布当日の 1 回限りとし、再配布はしない。欠席、あるいは紛失してしまった場合には、他の受講生にお願いしてコピーさせてもらうなど、各自で努力して補うこと。

特別な理由のない欠席が度重なったり、授業の進行を妨げるような授業途中の入室、退出、他の受講生に迷惑をかけるような行為が著しい場合は、注意喚起した上で、減点、もしくは単位「不可」の対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

予め読むように指示したものについては(配布資料、ホームページ等)、必ず事前に閲覧を済まし、自分なりの見解を持って授業に臨むこと。

教科書

とくに指定しない。

参考書

とくに指定しない(随時、参考資料を配布、もしくはホームページ等を紹介する)。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを毎回配布・回収し、原則として、次の回の講義において、結果の全体的講評をする。

成績評価の方法

・定期試験(70%)
・授業への参加状況(質疑応答や、リアクションペーパー等からなる平常点)(30%)
以上に基づく総合評価とする。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
環境社会学	**環境社会学**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、環境保護よりも環境破壊の「その後」に注目する。環境が破壊されたときになにが失われるのか、どうやって失われたものを回復させうるのか、解決の困難さはどこにあるのかといった問いについて考察し、社会学の視点から答える。

授業の到達目標は、①環境問題の発生・拡大メカニズムおよび解決可能性について社会学的に考察できること、②人文学・社会科学が環境問題を研究することの必然性および貢献可能性について自分なりの意見を持てることである。

授業内容

【公害――水俣病】
第１回　a:イントロダクション／b:熊本水俣病の被害はなぜ発生・拡大したのか
第２回　水俣病はなぜ「公害の原点」と呼ばれるのか
【食品公害――カネミ油症】
第３回 なぜ有害食品が販売されたのか
第４回 カネミ油症被害の実態はどのようなものか
第５回 誰がどのように被害を補償してきたのか
第６回 「食品公害は存在しない」？
第７回 a:被害者の生活回復にとってなにが必要なのか
【環境病――化学物質過敏症】
第７回　b:化学物質過敏症とはなにか
第８回 発症者はどのように生活しているのか
第９回 過敏症は「にせものの病気」？
第10回 世界で化学物質はどのように管理されているのか
第11回 解決とはなにを意味するのか
【地球環境問題――越境汚染】
第12回 汚染はどのように国境を越えるのか
第13回 なにを立証することが解決にとって重要なのか
第14回 a:全体のまとめ／b:試験

履修上の注意

大量に板書する授業である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱う事例に関する報道を見逃さないよう、日頃から注意を払うこと。授業で紹介する文献を積極的に読むこと。

教科書

特に定めない。教室でプリントを配布する。

参考書

『なぜ公害は続くのか：潜在・散在・長期化する被害』（シリーズ環境社会学講座 1）藤川賢・友澤悠季編(新泉社)2023 年.
『環境社会学の考え方：暮らしをみつめる 12 の視点』足立重和・金菱清編(ミネルヴァ書房)2019 年.

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対する応答を授業内で行う。

成績評価の方法

期末試験 100 パーセント。ただし、試験の点数で不可となる場合、救済措置として平常点を 15 点まで加算する。平常点とはリアクションペーパーの評点の合計を指す。試験の点数に平常点を加えて単位を認定する場合、最高でも C 評価しかつかない。
任意の課題として、授業で紹介する学会やシンポジウムに参加して感想レポートを提出した場合、特別点を加算する。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
環境の哲学	**環境の哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
串田 純一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「環境」が私たちにとって最も重大な問題の一つであると広く考えられるようになってすでに久しい。しかし、環境という言葉には幅広い意味があり、そのつど何が問題となっているかはしばしば曖昧であり、それが論議を空転させるということもある。そこでまず、事柄と言語の関係を記述・解釈して整理する必要があり、その上で、個々の人間とその集団が「環境」と関わる際にどのような必然性と可能性の領域が広がってるのかを探求せねばならない。こうした課題は「哲学」に属すと言ってよいだろう。
各自がこのような問いに出会いそれについて考えるためには、人文学と自然科学の両面で基礎的な知識がひつようであり、本講義でそれを習得していただきたい。

授業内容

第１回　イントロダクション：環境が哲学の問題となる歴史的な背景
第２回　哲学の歴史と近現代哲学の「超越論的」な特徴
第３回　生物の「環境世界」
第４回　人間とその他の生物の差異と連続性
第５回　世界内存在としての人間とその実存
第６回　地球環境の仕組み・惑星物理
第７回　地球環境の仕組み・生態系
第８回　地球環境の歴史
第９回　技術の歴史と環境問題
第10回　気候変動
第11回 気候変動
第12回　環境問題と政治・社会哲学
第13回　環境と倫理(の困難さ)とニヒリズム
第14回　まとめ。期末レポートの内容提示。

履修上の注意

・パワーポイントや画像資料も併用する予定だが、口述が中心となる。自分で能動的にノートを作ることを心がけていただきたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

・数回、簡単なデータの調べ物などをしていただくつもりである。
・毎回のノートを読み返して復習しておくこと。

教科書

・とくになし。

参考書

・J・v・ユクスキュル『生物から見た世界』日高・羽田訳、岩波文庫、2005 年。
・串田純一『ハイデガーと生き物の問題』、法政大学出版局、2017 年。
・M・ハイデガー『技術への問い』関口訳、平凡社ライブラリー、2013 年。
・M・ハイデガー『存在と時間』、訳書多種。

課題に対するフィードバックの方法

・調べ物の回答は授業内で提示。
・学期末レポートについては、後日オンラインで講評する予定。

成績評価の方法

・学期末のレポートを基本とし、それに平常点を加味する。

その他

以上を読んでお分かりだと思いますが、教員(串田)は 20 世紀ドイツの哲学者マルティン・ハイデガーを中心に研究しており、講義の内容もそれが背景となっています。しかし、「環境の哲学」には当然その他(とりわけ英米系哲学から)のアプローチもありえます。気になった方は、さらに自分で調べてみてください。

科目ナンバー：(AL)GEO322J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
環境歴史学	**環境歴史学**	
担 当 者	開講期	開講地区
財城 真寿美	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

46 億年前の地球誕生から現在までの間に、地球の環境がどのような変化をとげてきたかという「地球環境の歴史」が主テーマです。そして，環境変化の中で生物がどのように発生・進化したのか，そして私たち人類はどのように文明を発展させ，環境変化に対応してきたのかを考えていきます．

太陽系や地球環境のしくみを、地球科学的な視点から学び、地球環境の歴史について説明できるようになること，さらに過去の気候変動などの環境変化が一因となった文明や技術革新について理解を深めるだけでなく，独自に収集した資料をもとに自分の言葉で説明できることを目標とします．

授業内容

ターム前半では，46 億年前の地球誕生から1万年前の現生人類の時代までの地球環境の変化と生物の進化について，映像資料などを用い，地球科学的な視点から基礎的な事項を中心に解説します。後半は，地球環境システムの基礎を学びつつ，過去の自然環境と文明に起こった変化や近年の人為起源の環境問題について，環境と人間がどのように関わっていたのか，さらに現代文明とこれからの地球環境のあり方を様々な資料を用いて考察します．ターム後半には，教員が提示するテーマに関して，履修学生によるグループ発表を予定しています．なお，下記内容は対面授業を想定したものとなっており，オンラインで実施の場合には，変更が生じる可能性があります．

1. ガイダンス，地球の誕生
2. 生命進化の始まり
3. 第1，2回講義の振り返り
4. 生物の発展
5. 大陸の分裂
6. 第4，5回講義の振り返り
7. 氷河時代に向かう地球
8. 人類の進化
9. 第7，8回講義の振り返り
10. 中間確認テスト(選択式)
11. 過去の地球環境の復元・気候変動の要因
12. 歴史時代の気候変化と文明
13. 江戸・東京の気候変動
14. 学期末確認テストまたはレポート(記述式)

履修上の注意

授業後に内容を振り返るための小テスト(クイズ)を実施し，それにより出席を確認します．

準備学習(予習・復習等)の内容

前回の資料を読み返し，興味をもったことや疑問に思ったことを発言できるようにしておくこと．

教科書

特に指定しない．プリントを配布する．

参考書

『地球のはじまりからダイジェスト 地球のしくみと生命進化の 46 億年』(合同出版)西本昌司，ISBN:47-726-0360-3

『はじめての自然地理学』(古今書院)吉田英嗣，ISBN:9784772271455

『地球 46 億年気候大変動』(講談社)横山裕典，ISBN:978-4-06-513515-0

『講座 文明と環境(第 3巻)農耕と文明』(朝倉書店)梅原 猛・安田喜憲編，ISBN:978-4254105537

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭に，前回授業の小テスト(クイズ)の解答を確認します．

成績評価の方法

ターム前半終了時に実施する中間確認テスト、期末筆記試験の結果を総合して評価する(平常点および確認テスト 40%、期末試験 60%を目安とする)．

その他

なし

科目ナンバー：(AL)LAW311J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
関係行政論	**関係行政論**	
担 当 者	開講期	開講地区
古島 靖也	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業の概要

本講義では、公認心理師に必要な「関係行政論」分野にまつわる、法律ないし法、および関連する社会制度についての基本的な知識と考え方を学習することができる。

公認心理師法の目的は「国民の心の健康の保持増進に寄与すること」であり、公認心理師の活動は公的な社会活動である。また、公認心理師は分野間・職種間の連携、関係者・地域との連携を義務付けられ、協働やチームを含む連携を前提とする社会活動を実施する者である。そのような公認心理師が適切な社会的連携を実施するためには、連携する他職や地域における活動の前提となっている法律や制度を共有できていることが必須である。近代以降の国家社会は「法治国家」だといわれている。そこでは、さまざまな法律からなる法体系が存在し、これを根拠に、そしてその範囲内で国家社会は機能し、また国民個人の生活も営まれているのであり、公認心理師の活動やその対象もこれに漏れない。受講生には、そのような社会において他者への支援を行う主体となるための基礎の一端を身につけてもらう。

到達目標

「関係行政論」分野にまつわる、法律ないし法、および関連する社会制度についての基本的な知識と考え方を習得し、法律・制度の内容や構造を正確に理解できるようになることが目標である。

授業内容

第1回：イントロダクション 公認心理師と法
第2回：公認心理師法の理解
第3回：保健医療分野に関係する制度①
第4回：保健医療分野に関係する制度②
第5回：福祉分野に関係する制度①
第6回：福祉分野に関係する制度②
第7回：事例・問題の検討・コメント返し
第8回：教育分野に関係する制度①
第9回：教育分野に関係する制度②
第10回：司法・犯罪分野に関係する制度①
第11回：司法・犯罪分野に関係する制度②
第12回：産業・労働分野に関係する制度①
第13回：産業・労働分野に関係する制度②
第14回：期末試験に向けて・コメント返し

履修上の注意

教員が各回のレジュメ・資料等を用意し、講義を行う。レジュメ等は各回の講義前にWeb上にアップロードする予定である。受講者は、講義中にレジュメを参照できるようにした上で参加すること。(印刷をして持参してもよいし、電子機器にダウンロードするのでもよい。)
スマートフォン・PC等の電子機器を持参し、授業中に法律を参照することができるようにすること。
各回の講義で取り扱う内容は上記の通りであるが、あくまで予定であり、講義の進行状況や参加者の理解度によって内容を変更する場合がある。

受講生に対し発言を求めることがある。

毎回、またはときおり、講義へのリアクションを含む簡単な課題を提示し、授業中に、または短い期限を定めて受講生に提出してもらう。課題類は電子データで提出してもらうことがある。その際、特に簡易なレポート形式の課題に際してはPCで当該課題を作成することが望ましいので、PCを扱えるようにするか、仮にスマートフォン・タブレット等で作成せざるを得ないとしても、PCで作成したものと見分けがつかないほどのものを提出できるように機器の扱いに習熟しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習
レジュメや教科書・参考書類の講義該当箇所を少しでも読み、理解できないところを明確にしておくこと
さらに当日扱うテーマについて、他の資料があれば目を通しておくこと。
復習
講義資料、ノート等の見直し・整理、参考書類の理解確認を早期に行うこと。

教科書

指定しない．

参考書

指定しない。ただし、公認心理師資格を取得予定の者は参考書を用意し、試験対策問題集をも利用すること。下記は一例。

『関係行政論』下山晴彦ほか編著(ミネルヴァ書房)

『公認心理師試験の問題と解説』シリーズ こころの科学増刊編集部(日本評論社)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に、採点後の講評またはいわゆる「コメント返し」の形で行うか、提出物に対する添削・コメントの形で行う。

成績評価の方法

期末試験90%、リアクション等課題10%
ただし授業への貢献度や追加の課題の達成によってさらに加点することがある。

その他

教員メールアドレス：kojis4ar@gmail.com

科目ナンバー:(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
感情・人格心理学	**感情・人格心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
桶谷 雅人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
感情や人格(パーソナリティ)は個人を特徴づける人の心の重要な側面であり、古くから関心が持たれ続けているテーマである。今日でも高い関心が寄せられ、様々な研究知見や理論が提示されている。
多様な個人差やバリエーションが見られる感情と人格(パーソナリティ)だが、本講義では感情・人格心理学に関する基礎的な知識や理論を広く学んでいく。また、感情や人格(パーソナリティ)という人の心の側面を通して、自己理解と他者理解を深めていく。さらに、日常生活場面や臨床場面でどのように活かせるか、知識と実践を結びつけて考える力を養う。
＜到達目標＞
以下の 3 点を目標とする。
1. 感情の生起や制御に関するメカニズムおよび理論などの基礎知識を習得すること
2. 人格(パーソナリティ)の測定方法や代表的な理論などの基礎知識を習得すること
3. 感情・人格心理学の基礎知識を自己他者理解および実践と結びつけて考える力を養うこと

授業内容

＜概要＞
本講義の内容は主に 3 つのパートに分けられる。第 1 部では、「感情に関する理論および感情喚起の機序」、「感情が行動に及ぼす影響」などを中心とした感情に関する内容を扱う。第 2 部では、「人格(パーソナリティ)の概念及び形成過程」、「人格(パーソナリティ)の類型、特性等」などを中心とした人格(パーソナリティ)に関する内容を扱う。第 3 部では、「自己と感情と人格(パーソナリティ)」の関連について扱う。
＜リアクションペーパー＞
毎回の授業後にはリアクションペーパーの提出を求める。予習や他の科目で学んだ内容とも関連付けながら、感情・人格心理学を幅広い視点で捉えていくことが重要となる。また、リアクションペーパーの内容は受講生全体で共有するため、他の受講生の考えや感想に触れる機会も多くある。これらを通じて、自己理解と他者理解を深めながら、感情と人格(パーソナリティ)の多面的な理解を目指す。
＜小テスト・学期末レポート＞
小テストは感情に関する内容と人格(パーソナリティ)に関する内容について、計 2 回実施予定である。また、学期末レポートでは、授業で学んだ感情・人格心理学の基礎知識を自己理解や他者理解にどのように活かすことができるか、受講生それぞれの視点でまとめてもらうことを考えている。
＜各回の概要＞
第 1 回 イントロダクション(感情・人格心理学を学んでいくにあたっての概説)
第 2 回 感情の定義と理論
第 3 回 感情の生起
第 4 回 感情と行動
第 5 回 感情の失調と制御
第 6 回 人格(パーソナリティ)の定義
第 7 回 人格(パーソナリティ)の測定
第 8 回 代表的な人格(パーソナリティ)理論
第 9 回 人格(パーソナリティ)の形成
第 10 回 人格(パーソナリティ)の病理
第 11 回 人格(パーソナリティ)の臨床心理学的アセスメント
第 12 回 自己と感情
第 13 回 自己と認知
第 14 回 自己と人格(パーソナリティ)

履修上の注意

＜公認心理師資格受験希望者へ＞
公認心理師資格は文部科学大臣及び厚生労働大臣が主務大臣となる国家資格である(「公認心理師法」は 2017 年 9 月 15 日に施行)。公認心理師試験を受験するためには、臨床心理学専攻の学部在学期間中に定められた科目を全て履修する必要がある。科目等履修生及び大学院生としてその科目を履修しても受験資格は得られない。科目については、学生便覧の該当ページを確認の上、履修すること。
＜授業形態＞
基本的には講義形式で行う。また、毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める。次回授業の冒頭で、前回提出したリアクションペーパー(感想・質問等)に対してフィードバックを行う予定である。また、リアクションペーパーの内容を資料にまとめ、のちの授業時に全体で共有する場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞
日常生活の中での体験(特に、感情が大きく動いた出来事や自他のパーソナリティに触れる出来事など)に目を向けることが授業理解に役立つ。そのため、自分が気になった体験や印象的な出来事について、メモなどの記録にまとめておくこと。予習でまとめた生活体験と授業で得た知識を関連付けて考える習慣ができるとよい。
＜復習＞
基礎的な概念や理論については、教科書や配布資料を読み直すなどして、必ず内容の振り返りを行うこと。また、予習でまとめた記録と概念や理論を照らし合わせ、内容を整理しておくことも重要である。
加えて、興味関心を持った内容については、関連する文献資料を調べてまとめておくと、知識の定着やより深い理解につながる。他の科目で学んだ内容と本講義の内容を関連付けて考えることも幅広い理解に役立つ。

教科書

『感情・人格心理学 「その人らしさ」をかたちづくるもの』、中間玲子編著、(ミネルヴァ書房)

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるリアクションペーパー(感想・質問等)に対して、次回授業の冒頭で補足や回答を受講生全体にフィードバックする予定である。

成績評価の方法

以下の 3 点に基づき評価する。
1. 平常点(毎授業のリアクションペーパーの内容)(30%)
2. 小テスト(20%)
3. 学期末レポート(50%)

その他

なし。

科目ナンバー:(AL)LAN181J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
漢文A	**漢文A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐野 愛子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

前近代までの東アジアにおける共通の言語は漢文である。日本ではそれを読解するために、訓読という方法が編み出された。本授業では、黎澄の『南翁夢録』をとおして、漢文訓読を学ぶ。『南翁夢録』は明の正統三年(1438)に正義大夫資治尹工部左侍郎である黎澄によってかかれた書である。黎澄(1374～1446)は大越(現在の北ベトナム)の胡朝を建てた胡季犛の長子で、明の永楽帝による安南征略の際、明軍に捕らえられ、金陵へと送られたが、明でその才を認められ、中国で本書を記した。黎澄は中国人ではなく、本書の内容も大越の李陳時代(李朝:1009～1225、陳朝:1225～1400)の出来事を扱っているが、『南翁夢録』は中国で書かれた文言の漢文小説であるため、訓読して読むことができる。
本授業では黎澄の『南翁夢録』を白文から訓読および現代語訳できるようにする。また、本書の読解をとおして、当時の大越の状況や中国との関係などを理解することを目標とする。

授業内容

『南翁夢録』の内容は、「陳朝帝室に関するもの」、「僧道に関するもの」、「詩文に関するもの」の三つに分類できる。本授業ではそのうち、「陳朝帝室(特に陳仁宗)に関するもの」を主に扱う。
第 1 回:イントロダクション(『南翁夢録』概説)
第 2 回:序文
第 3 回:竹林示寂(1)
第 4 回:竹林示寂(2)
第 5 回:祖霊定命(1)
第 6 回:祖霊定命(2)
第 7 回:詩意清新(1)
第 8 回:詩意清新(2)
第 9 回:婦徳貞明(1)
第 10 回:婦徳貞明(2)
第 11 回:聞喪気絶(1)
第 12 回:聞喪気絶(2)
第 13 回:徳必有位
第 14 回:レポート提出および解説
＊授業は講義形式ですすめるが、訓読と現代語訳をしてもらう箇所もある。

履修上の注意

使用するテキストは漢文のため、特にベトナム語の知識は必要ないが、ベトナムの地名等を知っていると理解しやすい。

準備学習(予習・復習等)の内容

新しい話に入るまえに、予習をかねた課題を出す。また各自で訓読および現代語訳をしてくること。

教科書

使用するテキストはプリントし配布する。

参考書

漢和辞典

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説

成績評価の方法

レポート(50%)、課題(40%)、授業参加度(10%)

その他

漢文の基礎的な知識があることが望ましい。

科目ナンバー：(AL)LAN181J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
漢文B	**漢文B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐野　愛子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

前近代までの東アジアにおける共通の言語は漢文である。日本ではそれを読解するために、訓読という方法が編み出された。本授業では、黎澄の『南翁夢録』をとおして、漢文訓読を学ぶ。『南翁夢録』は明の正統三年(1438)に正義大夫資治尹工部左侍郎である黎澄によってかかれた書である。黎澄(1374～1446)は大越(現在の北ベトナム)の胡朝を建てた胡季犛の長子で、明の永楽帝による安南征略の際、明軍に捕らえられ、金陵へと送られたが、明でその才を認められ、中国で本書を記した。黎澄は中国人ではなく、本書の内容も大越の李陳時代(李朝:1009～1225、陳朝:1225～1400)の出来事を扱っているが、『南翁夢録』は中国で書かれた文言の漢文小説であるため、訓読して読むことができる。

本授業では黎澄の『南翁夢録』を白文から訓読および現代語訳できるようにする。また、本書の読解をとおして、当時の大越の状況や中国との関係などを理解することを目標とする。

授業内容

『南翁夢録』の内容は、「陳朝帝室に関するもの」、「僧道に関するもの」、「詩文に関するもの」の三つに分類できる。本授業では「僧道に関するもの」を主に扱う。

第１回:イントロダクション(『南翁夢録』概説)
第２回:入夢療病(1)
第３回:入夢療病(2)
第４回:圧浪真人(1)
第５回:圧浪真人(2)
第６回:尼師徳行(1)
第７回:尼師徳行(2)
第８回:僧道神通(1)
第９回:僧道神通(2)
第10回:明空神異(1)
第11回:明空神異(2)
第12回:奏章明験(1)
第13回:奏章明験(2)
第14回:a:まとめ、b:試験
＊授業は講義形式ですすめるが、訓読と現代語訳をしてもらう箇所もある。

履修上の注意

使用するテキストは漢文のため、特にベトナム語の知識は必要ないが、ベトナムの地名等を知っていると理解しやすい。

準備学習(予習・復習等)の内容

新しい話に入るまえに、予習をかねた課題を出す。また各自で訓読および現代語訳をしてくること。

教科書

使用するテキストはプリントし配布する。

参考書

漢和辞典

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説

成績評価の方法

期末試験(50%)、課題(40%)、授業参加度(10%)

その他

漢文の基礎的な知識があることが望ましい。

科目ナンバー：(AL)ART231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
戯曲作品論	**戯曲作品研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大橋　裕美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の近代戯曲を代表する２作と、シェイクスピア戯曲から１作を読む。

単なる精読や解釈ではなく、作品の背景に何があったのか、劇作家がどんな理念を持っていたか、当時の観客がそれをどう受けとって評価したかなど、ひとつの戯曲を多角的な視点から検証する。

検証にあたっては、演劇の重要な要素のひとつである「劇作法」に焦点を当てる。劇作法とは、劇作家の独自の筋立て(プロット)や台詞の文体を指す。劇作家のタイプや作風、時代や国によって、劇作法はさまざまに異なる。とりわけ日本の近代戯曲は、先行作品(能狂言、文楽、歌舞伎や、西洋演劇の諸作品)から多大な影響を受けている。したがってあるひとつの戯曲に、意外な作品のエッセンスを見いだせることも多い。そうした関係性なども視野に入れながら、戯曲をより深く、より面白く、理解することを目指す。

授業内容

谷崎潤一郎『お国と五平』、シェイクスピア『ヴェニスの商人』、三島由紀夫『鹿鳴館』の3本を読み、その特徴的な劇作法に焦点を当てる。作品解釈だけに留まらず、戯曲成立の経緯や時代背景、観客の反応、劇作家のエピソード等にも言及。それらを総合的に判断しながら各作品を改めて評価する。

(第 01 回)「戯曲」と「劇作法」について
(第 02 回)谷崎潤一郎『お国と五平』 作者と作品
(第 03 回)『お国と五平』 その2
(第 04 回)『お国と五平』 その3
(第 05 回)『お国と五平』 その4
(第 06 回)シェイクスピア『ヴェニスの商人』 作者と作品
(第 07 回)『ヴェニスの商人』 その2
(第 08 回)『ヴェニスの商人』 その3
(第 09 回)『ヴェニスの商人』 その4
(第 10 回)『ヴェニスの商人』 その5
(第 11 回)三島由紀夫『鹿鳴館』 作者と作品
(第 12 回)『鹿鳴館』 その2
(第 13 回)『鹿鳴館』 その3
(第 14 回)『鹿鳴館』 その4

履修上の注意

５回以上の欠席は不可。
中間レポートと期末レポートの提出が必須。どちらが欠けても単位取得はできない。
授業後にごく簡単な課題を出す場合がある。その際は毎回開設するコメント欄から答えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

戯曲を読んでおくこと。質問や感想はコメント欄でも受けつける。こちらから意見を聞く場合もあるので積極的に書き込んでほしい。詳細は講義の際に説明する。

教科書

シェイクスピア『ヴェニスの商人』松岡和子訳(ちくま文庫)
三島由紀夫『鹿鳴館』(新潮文庫)
谷崎潤一郎『お国と五平』のみ、全文を PDF で公開。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で解説、回答する。

成績評価の方法

中間レポート 30% 、期末レポート 60% 、平常点(授業後の小課題、コメントなど)10%。

その他

科目ナンバー：(AL)ART231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
戯曲を読む	**戯曲作品研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大橋 裕美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の近代戯曲を代表する 2 作と、シェイクスピア戯曲から 1 作を読む。

単なる精読や解釈ではなく、作品の背景に何があったのか、劇作家がどんな理念を持っていたか、当時の観客がそれをどう受けとって評価したかなど、ひとつの戯曲を多角的な視点から検証する。

検証にあたっては、演劇の重要な要素のひとつである「劇作法」に焦点を当てる。劇作法とは、劇作家の独自の筋立て(プロット)や台詞の文体を指す。劇作家のタイプや作風、時代や国によって、劇作法はさまざまに異なる。とりわけ日本の近代戯曲は、先行作品(能狂言、文楽、歌舞伎や、西洋演劇の諸作品)から多大な影響を受けている。したがってあるひとつの戯曲に、意外な作品のエッセンスを見いだせることも多い。そうした関係性なども視野に入れながら、戯曲をより深く、より面白く、理解することを目指す。

授業内容

菊池寛『父帰る』、シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』、泉鏡花『海神別荘』の3本を読み、その特徴的な劇作法に焦点を当てる。作品解釈だけに留まらず、戯曲成立の経緯や時代背景、観客の反応、劇作家のエピソード等にも言及。それらを総合的に判断しながら各作品を改めて評価する。

(第 01 回)戯曲と劇作法について
(第 02 回)菊池寛『父帰る』作者と作品
(第 03 回)『父帰る』その2
(第 04 回)『父帰る』その3
(第 05 回)『父帰る』その4
(第 06 回)シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』作者と作品
(第 07 回)『ジュリアス・シーザー』その2
(第 08 回)『ジュリアス・シーザー』その3
(第 09 回)『ジュリアス・シーザー』その4
(第 10 回)『ジュリアス・シーザー』その5
(第 11 回)泉鏡花『海神別荘』作者と作品
(第 12 回)『海神別荘』その2
(第 13 回)『海神別荘』その3
(第 14 回)『海神別荘』その4

履修上の注意

5 回以上の欠席は不可。
中間レポートと期末レポートの提出が必須。どちらが欠けても単位取得はできない。
授業後にごく簡単な課題を出す場合がある。その際は毎回開設するコメント欄から答えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

戯曲を読んでおくこと。質問や感想はコメント欄でも受けつける。こちらから意見を聞く場合もあるので積極的に書き込んでほしい。詳細は講義の際に説明する。

教科書

シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』松岡和子訳(ちくま文庫)
菊池寛『父帰る』は全文、泉鏡花『海神別荘』は一部分を PDF で公開。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で解説、回答する。

成績評価の方法

中間レポート 30% 、期末レポート 60% 、平常点(授業後の小課題、コメントなど)10%。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
気候学 I	**気候学 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

人類の最も基本的な物理環境は大気であり、風となって地球を廻る。風が運ぶ恵みの雨が緑なす大地を生み出すかと思えば、篠突く雨は濁流となって街を呑み込む。この気候の基礎を学ぶことがこの授業の目的である。「気候」は近現代の大学では伝統的に物理学(気象学の対象の一つとして)と地理学(自然地理学の一分野の気候学として)というかなり異なる二つの学問分野で扱われてきた。つまり同じ「気候」であっても中身は全くと言ってよいほど違っている。日本の大学の地理学専攻・学科の数が物理学専攻・学科と比べると圧倒的に少ないことからもわかるように、「物理学(気象学)の気候」がより一般的・基礎的な概念である。この授業では、気象学的な部分をなるべく平易なかたちで道具として採用しつつ、自然地理学の一分野である気候学のアウトラインを呈示してみたい。

授業内容

本講義では、物理学的な基礎の解説は簡略化し、その内容を文科系学生の常識レベルで理解できるよう配慮して、地球大気の特性を自然地理学の立場から理解することに努める。
1. イントロダクション
2. 大気の形成史と化学組成
3. 環境大気の放射収支
4. 環境大気の気温分布
5. 対流と降水過程
6. 気圧分布と恒常風：偏西風
7. 気圧分布と恒常風：貿易風
8. 季節風とモンスーン
9. 海陸風と山谷風
10. 局地風(フェーン・地峡風など)
11. 複雑地形上の気候(日向／日陰・冷気湖など)
12. 森林の気候(降水遮断, 蒸発散, フェノロジーと日射)
13. 都市の気候(都市気温, 都市構造と微気候)
14. 総括および試験

履修上の注意

自然地理学概論 A・B の単位が取得済みであることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用する図表は、原則として前日の夜までに Oh-o! Meiji System「資料」にアップロードする。授業ではこの図表をプレゼンテーションソフトウェアのスライドに貼り付けて提示するので、事前にプリントアウトしておくとノートを取りやすくなる。

教科書

使用しない。

参考書

地理学を専門とする学部3・4年生レベルの教科書としてもっとも標準的な下記の書籍を参考書として推薦する;
Barry, R. G. and A. M. Carleton, 2001: Synoptic and Dynamic Climatology. Routledge
気候学の基礎である気象学(物理学に属します)の基礎知識については、とくに高校で地学や物理を履修できなかった人向けに次の書籍を推薦する;
釜堀弘隆・川村隆一(共著)『トコトン図解 気象学入門』2018 年、講談社、244 ページ、2600 円(

課題に対するフィードバックの方法

講義内容および関連情報に関する質問等は、大学の電子メールシステムおよび Oh-o! Meiji System を活用して主にオンラインで常時受け付ける。

成績評価の方法

筆記試験(80%)および授業への参加・貢献状況等(20%)によって成績を評価する。筆記試験は授業内容からまんべんなく出題し、複数問(4～5問)を選択解答する形式とする。なお筆記試験は、試験時間を 90 分間確保するため、通常授業の最終回に行う「期間前実施」とする。また授業への参加状況等の評価は、教室で不定期に数回配布する理解度調査・質問票への記入内容によって行う。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
気候学Ⅱ	**気候学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

前半は気候学と気象学の境界領域について紹介し、後半は自然地理学における伝統的な気候学的課題を取り扱う。前半の最初は、気候を認識するために必須の大気現象である「一般循環における乱れ」すなわち低気圧に関する地理学的理解を試みる。次いで準グローバルな大気変動と気候の関係を紹介する。後半は世界各地に展開する自然景観および若干の文化景観について、そこに観察できる気候が作用した景観要素の分布に着目する。

本科目および前段である「気候学Ⅰ」を履修することにより、自然景観(地形景観と植生景観)の基本的な形成エージェントである気候をトータルにイメージできるようなるはずである。

授業内容

以下の内容とする。

1. イントロダクション
2. 大気の擾乱1:温帯低気圧
3. 大気の擾乱2:熱帯低気圧
4. 大気の擾乱3:その他の低気圧
5. テレコネクション1:ENSO
6. テレコネクション2:北極振動など
7. 気候と植生(偏形樹とファイトメーター)
8. 気候と集落(家屋、風除け、雪除け、涼風取り入れ)
9. 山岳の気候(森林限界、クルムホルツ、風食)
10. 海岸と島嶼の気候(家屋、集落形態、強風・塩風害、雲霧帯)
11. 多雪地域の自然環境(雪食地形、雪圧植生、融雪洪水の河川地形)
12. 寒冷地域の自然環境(周氷河地形、凍土の気候環境、サーモカルスト)
13. 乾燥地域の自然環境(砂漠気候、砂丘地形、風食、塩類風化、ロマス植生)
14. 総括および試験

履修上の注意

自然地理学概論 A・B、地形学Ⅰ、気候学Ⅰを履修済みであることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用する図表は、原則として前日の夜までに Oh-o! Meiji System「資料」にアップロードする。授業ではこの図表をプレゼンテーションソフトウェアのスライドに貼り付けて「画面共有」で提示するので、事前に「ノート用紙」としてプリントアウトしておくとメモを取りやすくなる。

教科書

使用しない。

参考書

講義の進行に合わせ、その都度講義内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義内容および関連情報に関する質問等は、大学の電子メールシステムおよび Oh-o! Meiji System を活用して主にオンラインで常時受け付ける。

成績評価の方法

筆記試験(80%)および授業への参加・貢献状況等(20%)によって成績を評価する。筆記試験は授業内容からまんべんなく出題し、複数問(4~5問)を選択解答する形式とする。なお筆記試験は、試験時間を 90 分間確保するため、通常授業の最終回に行う「期間前実施」とする。また授業への参加状況等の評価は、教室で不定期に数回配布する理解度調査・質問票への記入内容によって行う。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(アジア史)A	**基礎演習(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

主として漢文以外の史料を用いておこなわれる西アジアなどの研究領域を学ぼうとする学生を対象とする。ただし、この分野は日本語による先行研究が少ないので、外国語文献(主として英語)を利用することが多くなるとともに研究テーマの設定が制約される場合がある。

授業内容

1 イントロダクション:初回の授業で、漠然とではあれ、興味をもっている地域・テーマについて受講生各自に話してもらう。
2 基本的な工具(辞典・事典・文献目録・研究ガイドなど)を紹介する。
3 図書館において文献検索の実習をおこなう。
4 教科書および基本的な工具類に実際にあたって、興味をもったテーマに関する基本事項を調べる作業をおこなう。
5~13 口頭発表:グループあるいは個人発表。各自、受講生の人数分のレジュメを準備する。
14 まとめ、期末レポート提出

履修上の注意

先行研究が少ない分野なので、テーマの設定が難しいため、適宜アドヴァイスをおこなうが、希望にそえない(和文・英文による先行研究が少ないなど)場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で指定された文献を講読し、各自、手書きのノートにまとめる。必ず、ノートおよび筆記用具を持参すること。
ノートの大きさ等は、初回の授業で説明する。

教科書

小杉泰・江川ひかり編『ワードマップ イスラーム』新曜社、2006 年、2,640 円(税込み)

参考書

各自の研究テーマにそった参考文献を随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

随時、授業で全体に関わる問題点をコメントするとともに、各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

発表内容・授業への貢献度(50%)、春学期:各自の研究テーマに関する発表(50%)。
・演習授業なので、出席と発表、議論における積極性を重視する。
・無断欠席は減点になる。
・提出物の期限は厳守とする。

その他

・授業形態は、対面を基本とする。何らかの事情で変更がある場合には、事前に「シラバスの補足」で詳細を明らかにする。
・無断欠席は厳禁です。欠席する場合には、前もってメールで連絡すること。
・各自、ひとつは質問する心がまえで発表を聞くこと。
・発表者は、レジュメを Word あるいは PDF で作成し、発表前日の正午までに教員へメールで送信すること。
・「イスラム史(前近代)」「イスラム史(近現代)」を 1、2 年生のうちに必ず履修すること。
・英語の読解は不可欠となるため、各自、英語力向上のための努力を継続すること。
・「アラビア語 I」を 1、2 年生のうちに履修することが望ましい。
・授業内容の録音、録画、写真撮影は厳禁です。

科目ナンバー：(AL)HIS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(アジア史)A	**基礎演習(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
櫻井 智美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

アジア史研究を行う上で知っておくべき基礎的な知識を、演習形式の授業を通じて修得する。特に，先行研究の調べ方・読み方、史料・工具書の探し方について学びつつ、わかりやすいレジュメの作り方や、適切な発表の仕方を身につける。

授業内容

歴史研究の文献についてまとめて発表することを通じて、先行研究のまとめ方、わかりやすいレジュメの作成の仕方、意味の伝わる発表の仕方について修得する。教材として下記の参考書を利用する。単元ごとの概要を担当者がまとめて発表する。他の履修者は、適宜質問を出せるように準備する。履修者の人数を見て、全員が春学期中に少なくとも各 1 回ずつ報告ができるようにスケジュールをたてる。内容について全員に課題を出すこともある。

また、図書館見学を行うほか、夏休みには課題図書のまとめと見学感想文の宿題を出し、基礎演習Bで添削して返却する。

1　受講生の興味の把握と、参考書①②の概要について
2　発表のスケジュールの決定と、教員による模擬発表(序章 1)
3　図書館見学
4～5　参考書①を用いた分担発表
6～13　参考書②を用いた分担発表(序章 2、第 1～7 章、終章)
14　2回目の受講生の興味把握と先行研究の探し方
　史料の講読の準備、夏休みの宿題について

履修上の注意

やむを得ず欠席する場合には、予め教員と連絡をとること。ただ座っているだけでは出席とは見なさない。3分の1以上無断で欠席した場合単位は与えない。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修者は全員，教科書の該当箇所を必ず読んでおくこと。授業後、発表のレジュメを整理しておくこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

①『論点・東洋史学』(吉澤誠一郎監修、ミネルヴァ書房)、②『モンゴル帝国と長いその後』(杉山正明、講談社、文庫版)。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習、宿題、分担発表、発表に対する議論への参加と発言内容などを総合的に評価する。平常点 100%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(アジア史)A	**基礎演習(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この講義では、中国前近代、特に 10 世紀以前の歴史をこれから研究しようとする上で必要とされる基礎的知識や文献探索・収集方法、レポートや発表用レジュメの作成について学ぶとともに、受講者の関心あるテーマに即した概説書や論文を実際に探索し、それを基にしながら、そのテーマに関する発表を受講者に実施してもらい、研究への意識を高めることを目的とする。

授業内容

第一回　授業内容についての説明と受講者による関心のある地域・時代・テーマの報告
第二回　アジア(東洋)史関係の基本的な工具書・辞典の紹介と説明・概説書について
第三回　アジア(東洋)史関係の学術雑誌と研究書、文献探索の方法
第四回　歴史学の学術論文について(1)―論文の構造について
第五回　歴史学の学術論文について(2)―批評をどう行うか
第六回　中国古代・中世の史料について(1)
第七回　中国古代・中世の史料について(2)
第八回～第十四回　受講者による発表(必ず1人1回は発表してもらう)　この回までに、受講者は講義で紹介された文献や方法により、自分の関心あるテーマについて調査・考察を実施し、報告に備えること。発表担当者は、それぞれ発表用のレジュメを用意し、それに基づいて、
1.自己の関心あるテーマがどのようなものであるのか
2.それにかかわる概説書・論文にどのようなものがあり、どのような研究がなされてきたのか、その中で重要と考えられるもの1点を実際に読み内容と批評
3.そのテーマに対する自分の見解
などを中心に発表する。担当者以外の受講者は、その発表に対する批評を実施する。

履修上の注意

1、演習形式であるので出席と予習・復習が重視される。正当な理由を提示できない遅刻・欠席や予習不足を繰り返す者には単位を認定しない。課外活動やアルバイトは正当な理由にはならない。
2、各回のテーマに即した予習を実施してもらい、講義の席上で簡単に報告・提出してもらうことがある。わからない語句や事柄があった場合、必ず辞典などで調べるように。そうした作業を怠っていると講義担当者の方で判断した場合は、単位を認定しないことがある。
3、夏季休暇中に博物館にて各自にアジア史遺物の実見を実施してもらい、秋学期にレポートを提出してもらう予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習･･･次回に関係する参考文献などを読んでおくとともに、発表に向けた自分のテーマを決定・構築するための書籍を継続的に探索して読解しておく。
復習･･･講義内で提示されたポイントをまとめておき、報告やレポートに際してそれらのポイントを適宜織り交ぜ利用しできるようにしておく。

教科書

特定の教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

特定の参考書は使用しないが、最低限下記のものは図書館などで場所を把握しておき、必要に応じて利用できるようにしておいてもらいたい。
『中国歴史研究入門』名古屋大学出版会
『世界歴史大系　中国史』1～2、山川出版社
『アジア歴史事典』平凡社

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席した上で実施される発表の内容・発表に対する批評など(70%)と期末レポート(30%)を基礎として総合して判定する。

その他

変更が生ずることがあるので、大学からの通知や、Oh-o!Meiji を毎日確認するようにしてもらいたい。

科目ナンバー：(AL)HIS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(アジア史)B	**基礎演習(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

主として漢文以外の史料を用いておこなわれる西アジアなどの研究領域を学ぼうとする学生を対象とする。ただし、この分野は日本語による先行研究が少ないので、外国語文献(主として英語)を利用することが多くなるとともに研究テーマの設定が制約される場合がある。

授業内容

1 イントロダクション：初回の授業で、夏季休暇中の学習について受講生各自に話してもらう。
2 基本的な工具(辞典・事典・文献目録・研究ガイドなど)に加えて、史料の読解をおこなう。
3 研究テーマに関する文献および史料の探索をおこなう。
4～13 口頭発表：グループあるいは個人発表。各自、受講生の人数分のレジュメを準備する。
14 まとめ、期末レポート提出

履修上の注意

先行研究が少ない分野なので、テーマの設定が難しいため、適宜アドヴァイスをおこなうが、希望にそえない(和文・英文による先行研究が少ないなど)場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で指定された文献を講読し、各自、手書きのノートにまとめる。必ず、ノートおよび筆記用具を持参すること。
ノートの大きさ等は、初回の授業で説明する。

教科書

小杉泰・江川ひかり編『ワードマップ イスラーム』新曜社、2006 年、2,640 円(税込み)

参考書

各自の研究テーマにそった参考文献を随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

随時、授業で全体に関わる問題点をコメントするとともに、各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

・発表内容・授業への貢献度(50%)、春学期：各自の研究テーマに関する発表(50%)。
・演習授業なので、出席と発表、議論における積極性を重視する。
・無断欠席は減点になる。
・提出物の期限は厳守とする。

その他

・授業形態は、対面を基本とする。何らかの事情で変更がある場合には、事前に「シラバスの補足」で詳細を明らかにする。
・無断欠席は厳禁です。欠席する場合には、前もってメールで連絡すること。
・各自、ひとつは質問する心がまえで発表を聞くこと。
・発表者は、レジュメを Word あるいは PDF で作成し、発表前日の正午までに教員へメールで送信すること。
・「イスラム史(前近代)」「イスラム史(近現代)」を 1、2 年生のうちに必ず履修すること。
・英語の読解は不可欠となるため、各自、英語力向上のための努力を継続すること。
・「アラビア語 I」を 1、2 年生のうちに履修することが望ましい。
・授業内容の録音、録画、写真撮影は厳禁です。

科目ナンバー：(AL)HIS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(アジア史)B	**基礎演習(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
櫻井 智美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

アジア史研究を行う上で知っておくべき基礎的な知識を、演習形式の授業を通じて修得する。特に、先行研究の調べ方・読み方、辞典の使い方、史料の探し方について学びつつ、わかりやすいレジュメの作り方や、適切な発表の仕方を身につける。また、漢文史料講読の基礎を学ぶ。

授業内容

夏休みの課題にもとづいて各自研究発表を1回行なう。受講者は、他の受講者の発表を聞き、それについて意見を出すことを通じて、自分の研究したいテーマを少しずつ定めていく。学年末にレポートを課す。
史料の講読については、趙翼『廿二史箚記』から受講者の興味に沿った一節を選んで全員で読み進める。二度ミニテストを行う。この講読を通じて、辞書の使い方と漢文史料講読に取り組む姿勢を習得する。同時に外国語の論文にも触れる努力をする。

1 夏休みの学習成果について各自報告、発表スケジュールの決定
2～13 研究発表と史料の講読
14 授業の総括とレポート提出、春休みの活用について

履修上の注意

やむを得ず欠席する場合には，予め教員と連絡をとること。ただ座っているだけでは出席とは見なさない。3 分の 1 以上無断で欠席した場合単位は与えない。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料の講読では担当を決めないので、予習をして授業に臨むこと。復習は確認テストでペースを作って行うこと。

教科書

プリントを配布する。また、各自で漢和辞典(電子辞書ではない)を用意し、講読の授業には必ず持参する。推奨する漢和辞典は『新字源』(小川環樹他編, 角川書店)。

参考書

『論点・東洋史学』(吉澤誠一郎監修、ミネルヴァ書房)、『中央ユーラシア史』(小松久男編、山川出版社)、『中国史』(尾形勇・岸本美緒編、山川出版社)、「シリーズ中国の歴史」全五冊(岩波新書)。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

予習、宿題、確認テスト、研究発表、発表に対する議論への参加と発言内容、夏休みの宿題、学年末レポートを、総合的に評価する。平常点 65%、夏休みの宿題と学年末レポート 35%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(アジア史)B	**基礎演習(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

中国前近代、特に 10 世紀以前をこれから研究しようとする上で必要とされる漢文史料の読解について、基本的な史料である「正史」を題材に、受講者に読解を行ってもらうことにより、漢文史料に慣れ、必要な漢文史料の読解に独力でとりくむ基礎力を習得する。併せて適宜史料の時代背景などを説明するので、中国古代・中世の知識についても習得してもらう。

授業内容

第一回 授業内容についての説明と受講者による関心のある地域・時代・テーマの報告
第二回～第十四回 史料講読
最初は諸子百家や正史の短文を読解して漢文に慣れてもらい、その後、正史の列伝の講読を予定している(受講者の関心により講義後半から別の正史に切り替えることも考慮する)。受講者それぞれに輪読形式で当てていくので、当たった者は読み下しと日本現代語訳を口頭で回答する。また人名や地名、事柄について、基礎演習 A(アジア史)の知識をもとにあらかじめ調べておき、あわせて簡単に解説すること。また、出席を兼ねた漢文史料読解小テストを実施する。最終講義時に漢文史料の読解テストを行う。

履修上の注意

1、演習形式であるので出席と予習・復習が重視される。正当な理由を提示できない欠席や予習不足を繰り返す者には単位を認定しない。課外活動・アルバイト等は正当な理由にならない。
2、漢文史料の講読を実施するため、漢和辞典は必ず毎回持参すること(初回に詳しく指示する)。
3、わからない語句や事柄があった場合、必ず辞典などで調べておくこと。
4、基礎演習 A(アジア史)を履修していることを前提とした内容となる。基礎演習Aにおいて課した博物館実見の課題を提出できない者については、成績評価対象外とすることがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習・・・次回講読するであろう範囲について、自分の予想担当範囲以外の部分についても書き下し・日本現代語訳を実施しておき、地名・人名などについては調べておく。担当箇所以外の部分も含めて読解しないと意味が取れないことも多く、また輪読形式のため、担当者欠席・遅刻等の場合、担当予想箇所がずれることもある。
復習・・・講読の中で示された知識などについて整理しておき、次回以降ないし今後の研究に利用できる状況にしておく。

教科書

特定の教科書は使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

特に特定の参考書の指定はないが、高校で用いた漢文参考書などがあれば適宜利用してもらいたい。また、下記の書籍は積極的に利用して語句の調べを進めてもらいたい。
譚其驤主編『中国歴史地図集』地図出版社
『アジア歴史事典』平凡社
また、漢和辞典については必須となる(高校で利用したもので可)。所持していない者は、入手してもらいたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席しての担当箇所講読の良否・小テストなど(70%)と定期テスト(30%)を基礎として総合して判定する。

その他

変更が生ずる場合があるので、大学からの通知や Oh-o!Meiji は毎日確認してもらいたい。

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)A	**基礎演習(英米文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクスト――文学作品(詩・短編小説・小説・エッセイ・劇)、映画、演説――を主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身に着けます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)授業ですから、履修者の皆さんが主体となって授業に参加し、口頭発表、議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

毎回、以下の(1)と(2)をそれぞれ読み進めていく。
(1)原文で小説を読む
→各回の担当者を決め、担当者は発表ハンドアウトを作成・用意する
(2)文学作品の解釈について、読み方を学ぶ。
→中間レポートと期末レポートの二本を執筆する予定。

履修上の注意

自分がどこに着目したか、単語レベル、キャラクターレベル、プロットレベル等で必ず毎週授業までに考えをまとめておくこと。
なお、現代的な観点から見てふさわしくない表現や、暴力的な表現が扱う文学作品で用いられることもある。
「良くない」表現かもしれないが、文学批評をする以上、それらの表現が当時持っていた意味や、あえて作品中で使用されている意味を考える必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者は「あらすじ」、「重要な語彙」、「疑問点と考察」の 3 点を中心にハンドアウトを作成する。
当然のことながら、自分の読みとは異なる読みを他の履修生は提示すると思われる。予習の段階で、他にどのような読みが可能であるか、客観的に考える練習をしてみると良い。

教科書

上記「授業内容」における(1)のテクストは Oh-o! Meiji にて配布

参考書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容を翌週取り上げ、コメントする。

成績評価の方法

平常点(出席、議論への参加、レポートを除く提出物)60%、期末レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)A	**基礎演習(英米文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクストー文学作品(詩・短編小説・小説・エッセイ・劇)、映画、演説、ニュース報道などのメディアテクストーを主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身に着けます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)授業ですから、履修者の皆さんが主体となって授業に参加し、口頭発表、議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

Week-1 Introduction to Study/Academic Skills -1 (Reading & Writing skills)
Week-2 Introduction to Study/Academic Skills -2 (Writing & Presentation skills)
Week-3 Reading texts -1
Week-4 Reading texts -2
Week-5 Reading texts -3
Week-6 Writing about texts -1
Week-7 Reading texts -4
Week-8 Writing about texts -2
Week-9 Reading texts - 5
Week-10 Writing about texts -3
Week-11 Reading texts -6
Week-12 Presentation -1
Week-13 Presentation -2
Week-14 Term-end Review

履修上の注意

このクラスでは様々なスタイル(文体)と形式を持ったテクストを扱います。従って「読み方」も対象テクストによって変えていく必要があります。授業で扱うテクストは原則英文で書かれたものですが、文章に対する感覚を磨くために、日本語のテクストも適宜使用します。受験英語用だと思っていた英文法の知識もこの授業では役に立つでしょう。授業外でもなるべく多くの「テクスト」(日本語テクストも含む)に触れていただきたいと思います。大学の学びにおける「問い」は即答する必要はありません。一人一人が自分なりの「読み」を発見し、またそれを第三者に対し(書くこと、話すことを通じて)明確に発信していくことの重要性を念頭においていただきたいと思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回指定された「テクスト」には必ず目を通して質問・疑問点・コメントを準備しておくこと。授業は、みなさんからのコメントや質問を中心に進めますので、しっかりと問題意識を持ちながら、何らかの「メモ」を取りながら読み進めてください。授業中は他の履修生の発言をきちんと聞き、自分の「読み」をより充実したものにしてください。授業で一旦扱ったテクストについては、授業のあとで必ずもう一度読み直してみることが重要です。同じテクストでもその都度「読み」が変わってくることに気がつくでしょう。

教科書

斎藤兆史・中村哲子『English Through Literature 文学で学ぶ英語リーディング』研究社 2009.
迫桂・徳永聡子『英語論文の書き方入門』慶應大学出版会 2012.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

クラス内で返却及び、クラスウェブ上でコメントします。

成績評価の方法

平常点(授業参加、「テクスト」についての課題)50%
期末小論文 25%
期末プレゼンテーション 25%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)A	**基礎演習(英米文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクスト―文学作品(詩・小説・エッセイ・劇)、映画、演説―を主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身につけます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)の授業であるため、履修者全員が主体となって授業に参加し、口頭発表・議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

春学期はアメリカ文学(小説)を読む予定です。アメリカの小説を読み、考察と解釈の方法を学びながら、研究の基礎を築いていきます。発表担当者は協力して、あらすじ・語注・背景／理論／先行研究・考察・設問をまとめたレジュメを作成し、授業で発表します。発表に引き続き、コメンテイターが応答し、クラス全体でディスカッションをします。授業後、受講者全員リアクション・ペーパーの提出が求められます。

1. イントロダクション、文学理論の紹介
2. アメリカ文学小説 精読
3. アメリカ文学小説 背景
4. アメリカ文学小説 理論
5. アメリカ文学小説 先行研究
6. アメリカ文学小説 技法／理論
7. アメリカ文学小説 先行研究
8. アメリカ文学小説 技法／理論
9. アメリカ文学小説 先行研究
10. アメリカ文学小説 背景／理論
11. アメリカ文学小説 先行研究
12. 小論文発表
13. 小論文発表
14. 文学テクストを論じる意義、最終レポート執筆について

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員、課題範囲を読み、単語・熟語を調べるだけでなく、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備します。授業後は、範囲を再読し考察を深め、次週につなげていきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

全員、毎回の授業で対象とする文学テクストについて精読し、自分なりの「問い」や解釈を用意して授業に臨んでください。発表担当者は、テクストの精読は大前提として、作家・作品の歴史的・文化的背景、文学技法・理論、または、先行研究についてリサーチし、あらすじ・語註・考察・設問も含めて配布資料を作成します。クラスの人数分の資料を用意します。

教科書

文学テクストは、プリントを配布します。

参考書

竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』ミネルヴァ書房、2021 年。
『批評理論入門』廣野由美子著、中央公論新社

課題に対するフィードバックの方法

提出したリアクションペーパのなかから、興味深い考えや視点を次回の授業冒頭で紹介し、理解を深めます。

成績評価の方法

平常点(出席、議論への参加度、リアクション・ペーパー)20%、発表・コメント 30%、最終レポート 50%。原則として、全授業回数の 3 分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)A	**基礎演習(英米文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクスト――文学作品(詩・短編小説・小説・エッセイ・劇)、映画、演説――を主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身に着けます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)授業ですから、履修者の皆さんが主体となって授業に参加し、口頭発表、議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

以下の作家の短篇小説を読み、受講生それぞれの観点から発表していただきます。また、こちらからも解説を行ないます。
01. イントロダクション
02. Ernest Hemingway
03. Edgar Allan Poe (1)
04. Edgar Allan Poe (2)
05. Nathaniel Hawthorne (1)
06. Nathaniel Hawthorne (2)
07. Kate Chopin (1)
08. Kate Chopin (2)
09. Frank O' Connor (1)
10. Frank O' Connor (2)
11. Katherine Mansfield (1)
12. Katherine Mansfield (2)
13. Lorrie Moore (1)
14. Lorrie Moore (2)

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員が課題範囲を読み、単語・熟語を調べるのはもちろん、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備しましょう。なお、扱う作家・作品は変更される可能性もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

前提として、受講生全員が作品をじっくり読み、自分なりの考えを持った上で参加してください。その上で、担当者はあらすじや注釈、問いと考察をまとめた資料を作成してください。

教科書

使用しません。資料を配付します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはシステム上で回答します。

成績評価の方法

授業参加点(議論への参加、提出物など)50%
最終レポート 50%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)A	**基礎演習(英米文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期はまず、皆さんが受験勉強で培った英語力を、忘れてしまわないうちにブラッシュ・アップすることに当てます。その上で、大学で英文学を学ぶために必要な基礎技術を、実践を通して練習します。1)ノートの取り方、2)アイデア・マップのつくり方、3)英語で文学を読む際に役に立つ考え方などです。

授業内容

【第 1 回】 テクストを読む方法:シェイクスピア『十二夜』2幕4場から。A. 解説付きでシェイクスピアの英語を読む。B. 声に出して読んでみる。
【第 2 回】 テクストを読む方法:同箇所の論理を確かめる。それから論理では終えない箇所を抽出する。それをノートに書き出していく。
【第 3 回】 紙面の使い方「アイデアマップ」 A. 『十二夜』2幕4場からの一節について各自ノートに書き出したことを、最低三つずつ持ち寄って、グループ・ワークの中で披露する。B. グループでアイデア・マップを作る。C. 自分のアイデア・マップを作る(各自提出)。
【第 4 回】 テクストを読む方法： A. シェイクスピアの詩、ソネット 18 番を解説付きで読む。B. 声に出して読まれたものを見る／聴く(YouTube)。C. 声に出して読んでみる。D. どういう構成か考える。E. 暗唱できるかどうかやってみる。
【第 5 回】 暗唱大会。時間制限があるので、希望者優先(希望したこと自体が評価の上乗せになります)。希望者がいない場合にはランダムに当てます。人前である程度の出来(教師判断)で暗唱できれば、その人の春学期の評価は A 以上が確定します(但し、出席数によっては D もありうる)。教師の経験上、論理展開のある短い文章の暗記(ソネットなので 14 行しかない)と音声による再生が、語学においてもっとも効果的です。
【第 6 回】 文学における言葉の用法 A. 教師が W. H. Auden "文彩 (figure of speech) の中の誇張法 (hyperbole) を解説しますので、ノートをとってください。B. 解説の際に一節を取り上げた詩を読みます(音読・解説)。C. そこにある誇張法用法、そしてその他、特に文学的だと文彩の用法について、教師が問います。グループで話し合ってください。教師が各グループを回ります。話し合った内容も、ノートに取るように。グループ・ディスカッションの内容を、各自消化・発展しておくように。
【第 7 回】 6 回のグループ・ディスカッションの内容を、ランダムに当てた人に答えてもらいます。ノートを見せたり、ホワイトボードを使ったりしてもらいます。
【第 8 回】 Hyperbole 以外の文彩の用法等に触れながら、詩の内容についての理解を深めます。教師・学生間の応答を通して、文学的手法について教師が解説・補足を行います。
【第 9 回】 バラッドという形式と韻の踏み方について解説します。そしてその後で Auden の詩を音読してもらいます。
【第 10 回】 「時間」のテーマが、Auden の詩の中でどのような対照法(文彩の一形式)において呈示されているかについて考えます。
【第 11 回】 文学を「書く」ということ 「時間」のテーマが、すでに扱ったシェイクスピアのソネット 18 番においてどのように展開しているか、そしてそれがどのような対照法において展開されているかを考えます。
【第 12 回】 文彩 (figure of speech) のひとつとしての隠喩 (metaphor):事前に配った英語の短い文章を読んでおいてください。この回は文彩と隠喩の概念について解説した後、身の回りにあるメタファーを探します。次の授業に向けて、映画の『シン・ゴジラ』か『ゴジラ-1.0』をネットのレンタルで結構ですので見ておいてください。
【第 13 回】 最初のゴジラ映画である『ゴジラ』(1954)と、その後の展開を、ゴジラという怪獣が何のメタファーであるかについて解説します。ノートを取った上で、『シン・ゴジラ』や『ゴジラ-1.0』において、ゴジラがどのようなメタファーになっているかをグループ・ディスカッションで考えてもらいます。
【第 14 回】 課題 (50 分)。残りの時間は質疑応答や解説に充てます。

履修上の注意

この授業は、かなり綿密に組みましたが、あくまで予定です。予習や課題の提出が必要になる回が結構あります。授業中のパフォーマンスは常に成績・単位取得に直結します(もちろん出席も含めて)。分からないところは易しく説明するつもりですので、ついてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容の欄をよく読んで、予習と課題の提出を怠らないようにして下さい。

教科書

配布します。

参考書

必要に応じて指示・配布します。

課題に対するフィードバックの方法

提出物の返却または Oh-o! Meiji でのフィードバック。

成績評価の方法

授業中のパフォーマンス 50%、課題 50%。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)B	**基礎演習(英米文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクスト――文学作品(詩・短編小説・小説・エッセイ・劇)、映画、演説――を主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身に着けます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)授業ですから、履修者の皆さんが主体となって授業に参加し、口頭発表、議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

毎回、以下の(1)と(2)をそれぞれ読み進めていく。
(1)原文で短編小説を読む
→各回の担当者を決め、担当者は発表ハンドアウトを作成・用意する
(2)文学作品の読み方について学ぶ。
→中間レポートと期末レポートの二本を執筆する予定。

履修上の注意

自分がどこに着目したか、単語レベル、キャラクターレベル、プロットレベル等で必ず毎週授業までに考えをまとめておくこと。
なお、現代的な観点から見てふさわしくない表現や、暴力的な表現が扱う文学作品で用いられることもある。
「良くない」表現かもしれないが、文学批評をする以上、それらの表現が当時持っていた意味や、あえて作品中で使用されている意味を考える必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者は「あらすじ」、「重要な語彙」、「疑問点と考察」の 3 点を中心にハンドアウトを作成する。
当然のことながら、自分の読みとは異なる読みを他の履修生は提示すると思われる。予習の段階で、他にどのような読みが可能であるか、客観的に考える練習をしてみると良い。

教科書

上記「授業内容」における(1)のテクストは Oh-o! Meiji にて配布

参考書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容を翌週取り上げ、コメントする。

成績評価の方法

平常点(出席、議論への参加、レポートを除く提出物)60%、期末レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)B	**基礎演習(英米文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクストー文学作品(詩・短編小説・小説・エッセイ・劇)、映画、演説、ニュース報道などのメディアテクストーを主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身に着けます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)授業ですから、履修者の皆さんが主体となって授業に参加し、口頭発表、議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

Week-1 Study Skills Review: Reading
Week-2 Study Skills Review: Writing
Week-3 Study Skills Review: Presentation
Week-4 Reading texts -1
Week-5 Reading texts -2
Week-6 Writing about texts -1
Week-7 Reading texts -3
Week-8 Writing about texts -2
Week-9 Reading texts - 4
Week-10 Writing about texts -3
Week-11 Presentation -1
Week-12 Presentation -2
Week-13 Presentation -3
Week-14 Term-end Review

履修上の注意

このクラスでは様々なスタイル(文体)と形式を持ったテクストを扱います。従って「読み方」も対象テクストによって変えていく必要があります。授業で扱うテクストは原則英文で書かれたものですが、文章に対する感覚を磨くために、日本語のテクストも適宜使用します。受験英語用だと思っていた英文法の知識もこの授業では役に立つでしょう。授業外でもなるべく多くの「テクスト」(日本語テクストも含む)に触れていただきたいと思います。大学の学びにおける「問い」は即答する必要はありません。一人一人が自分なりの「読み」を発見し、またそれを第三者に対し(書くこと、話すことを通じて)明確に発信していくことの重要性を念頭においていただきたいと思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回指定された「テクスト」には必ず目を通して質問・疑問点・コメントを準備しておくこと。授業は、みなさんからのコメントや質問を中心に進めますので、しっかりと問題意識を持ちながら、何らかの「メモ」を取りながら読み進めてください。授業中は他の履修生の発言をきちんと聞き、自分の「読み」をより充実したものにしてください。授業で一旦扱ったテクストについては、授業のあとで必ずもう一度読み直してみることが重要です。同じテクストでもその都度「読み」が変わってくることに気がつくでしょう。

教科書

斎藤兆史・中村哲子『English Through Literature 文学で学ぶ英語リーディング』研究社 2009.
迫桂・徳永聡子『英語論文の書き方入門』慶應大学出版会 2012.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

クラス内で返却及び、クラスウェブ上でコメントします。

成績評価の方法

平常点(授業参加、「テクスト」についての課題)50%
期末小論文 25%
期末プレゼンテーション 25%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)B	**基礎演習(英米文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクスト―文学作品(詩・小説・エッセイ・劇)、映画、演説―を主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身につけます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)の授業であるため、履修者全員が主体となって授業に参加し、口頭発表・議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

秋学期はアメリカ文学(小説)を読む予定です。アメリカの小説を読み、考察と解釈の方法を学びながら、研究の基礎を築いていきます。発表担当者は協力して、あらすじ・語注・背景／理論／先行研究・考察・設問をまとめたレジュメを作成し、授業で発表します。発表に引き続き、コメンテイターが応答し、クラス全体でディスカッションをします。授業後、受講者全員リアクション・ペーパーの提出が求められます。

1. イントロダクション、文学理論の紹介
2. アメリカ文学小説 精読
3. アメリカ文学小説 背景
4. アメリカ文学小説 理論
5. アメリカ文学小説 先行研究
6. アメリカ文学小説 技法／理論
7. アメリカ文学小説 先行研究
8. アメリカ文学小説 技法／理論
9. アメリカ文学小説 先行研究
10. アメリカ文学小説 背景／理論
11. アメリカ文学小説 先行研究
12. 小論文発表
13. 小論文発表
14. 現代への接続

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員、課題範囲を読み、単語・熟語を調べるだけでなく、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備します。授業後は、範囲を再読し考察を深め、次週につなげていきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

全員、毎回の授業で対象とする文学テクストについて精読し、自分なりの「問い」や解釈を用意して授業に臨んでください。発表担当者は、テクストの精読は大前提として、作家・作品の歴史的・文化的背景、文学技法・理論、または先行研究についてリサーチし、あらすじ・語註・考察・設問も含めて配布資料を作成します。クラスの人数分の資料を用意します。

教科書

文学テクストはプリントを配布します。

参考書

竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』ミネルヴァ書房、2021 年。
『批評理論入門』廣野由美子著、中央公論新社

課題に対するフィードバックの方法

提出したリアクションペーパーのなかから、興味深い考えや視点を次回の授業冒頭で紹介し、理解を深めます。

成績評価の方法

平常点(出席、議論への参加度、リアクション・ペーパー)20%、発表・コメント 30%、最終レポート 50%。原則として、全授業回数の 3 分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)B	**基礎演習(英米文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語で書かれたテクスト――文学作品(詩・短編小説・小説・エッセイ・劇)、映画、演説――を主観的に楽しむだけでなく、多角的に分析・考察し、学術論文を書くための基礎的な技術を身に着けます。与えられた問題に答えるのではなく、「問い」自体を自分で見出します。その「問い」を主題として、リサーチをし、多角的に考察した内容を、他者に説得力を持って伝える文章力を培っていきます。また、「演習」(seminar)授業ですから、履修者の皆さんが主体となって授業に参加し、口頭発表、議論を重ねて、最終レポート(小論文)を執筆します。

授業内容

以下の作家の短篇小説を読み、受講生それぞれの観点から発表していただきます。また、こちらからも解説を行ないます。

01. イントロダクション
02. Sean O' Faolain (1)
03. Sean O' Faolain (2)
04. Kazuo Ishiguro (1)
05. Kazuo Ishiguro (2)
06. Nicholson Baker (1)
07. Nicholson Baker (2)
08. Ring Lardner (1)
09. Ring Lardner (2)
10. Gene Wolfe (1)
11. Gene Wolfe (2)
12. Karen Russell (1)
13. Karen Russell (2)
14. まとめ

履修上の注意

演習は学生が主体となる授業です。受講者全員が課題範囲を読み、単語・熟語を調べるのはもちろん、自らの考えをまとめ、授業内で発言できるように準備しましょう。なお、扱う作家・作品は変更される可能性もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

前提として、受講生全員が作品をじっくり読み、自分なりの考えを持った上で参加してください。その上で、担当者はあらすじや注釈、問いと考察をまとめた資料を作成してください。

教科書

使用しません。資料を配付します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはシステム上で回答します。

成績評価の方法

授業参加点(議論への参加、提出物など)50%
最終レポート 50%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(英米文学)B	**基礎演習(英米文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英米文学専攻におけるコース履修に必須の基礎技術を、実践を通して練習します。1)対象の選定と共有、2)トピックの発見、3)研究の企画(トピックの拡張可能性の見極めと方針決定)、4)調査と参照項目の記録、5)ストーリーの製作と発表、6)議論の進め方、7)議論の結果を踏まえたペーパーの作成――という流れを、春学期等同様の手順で経験してもらいます。また、秋学期では、英語入力と、できれば英語での出力の練習にも時間を割く予定です。 春学期で行ったことを思い出すとともに、リサーチ・クエスチョンとコンクルージョンがかみ合っているか、参照先が挙げられているか、所定の／わかりやすいフォーマット／書式で成果が提示されているかといった、「知の作法」上の最低限度の「掟」を、体験を通して身につけていきます。 「教えて君」ではなく、教えられる人を目指せるように、授業を進めていくのは、春学期と同様です。

授業内容

【第１回】ジョン・バージャーの Pig Earth (1979) のイントロを読み始めます(英語で 17 頁、pp. xi-xxvii)。予備解説の後、学生さんを当てながら読み進めていきます。この形式はしばらく続きますので、毎回予習が必要です。特に当てられた際のパフォーマンスは、ダイレクトに評価に響きますので、注意してください。予習をした形跡があるかどうかは最大の評価項目です。英語が分からないところがあれば、訊いてください。解説します。
【第２回】ノート・テイキングの方法を、A)思考を平面に投影すること、あるいはなぜノートを取るのか、B)ノート・テイキングの方法の例示(Cornell method の紹介)の順番で解説します。その後、再び Pig Earth の Introduction の続きに戻り、前回と同じ方式で授業を進めます。途中で、第 1･2 回の授業のノートをとる練習に入ります。自宅に戻ったら、ノートを他人がみてもわかる程度に清書してください(手書き推奨)。
【第３回】教師からクエスチョン・シートを配ります。第 1･2 回でカバーした範囲について、シートの問いに対し、答を準備してください。清書ノートを活用すること。それから、問いに答えてもらいます。この答は評価されます。なお清書・加筆したノートはコピーをとっておいてください(見開き A4 サイズで)。
【第４回】Pig Earth の Introduction を読み続けます。進め方は第１回と同様ですが、この回以降はクエスチョン・シートの問にも答えられるようにして下さい。
【第５回】同様。
【第６回】同様。
【第７回】Pig Earth 中の短い詩 “Sunset” (p. 65) を読みます。そしてこの詩におけるメタファーについて一緒に考えます。
【第８回】ペーパーの書き方 ペーパーを書く際のマインド・マップやノートの活用法について解説します。また、レファレンスの必要性と、その使い方についても解説します。残りの時間は “Sunset” にあてます。
【第９回】Pig Earth 中の短編 “A Question of Place” (pp. 3-6) を読んでおいてください。そこにおける農村の暮らしと都市経済との関係について考えます。
【第 10 回】同様。
【第 11 回】”A Question of Place” について発表したり、ペーパーを書いたりする際に、Pig Earth の ”Introduction” をどう使うかについて、考えていきます。グループ・ディスカッションならびに発言を求めます(評価対象となります)。
【第 12 回】同様。
【第 13 回】ペーパーの書き方について、レファレンスの挙げ方、引用の仕方などを解説します。また、必要な段落構成について、例を挙げながら解説します。
【第 14 回】期末ペーパーを出すための質疑応答に当てます。基本は学生が尋ねる側、教師が答える側です。

履修上の注意

予習をしたり、課題をこなしたりしないと、単位が取れない必修科目です。授業中のパフォーマンスは常に評価されます。みなさんも大変でしょうが、教師側も頑張って分からないところは易しく説明するつもりですので、どうかついてきてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容の欄をよく読んで、予習と課題の提出を怠らないようにして下さい。

教科書

配布します。

参考書

必要に応じて指示・配布します。

課題に対するフィードバックの方法

提出物の手渡し返却または Oh-o! Meiji でのフィードバック。

成績評価の方法

授業中のパフォーマンス 30%、提出課題への評価 30%、期末テスト 40%。 すべての授業は全回出席が基本です。正当であると教師が認めうる理由なくしての欠席回数が三分の一をこえると、単位が与えられません。

その他

科目ナンバー：(AL)ART132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)A	**基礎演習(演劇学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
星野 高	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の戯曲を、現代から時代をさかのぼって読んでいきます。戯曲を読み、関連映像を視聴し、発表や、戯曲ごとに提出してもらうレポートの作成を通じて作品への理解を深めます。様々な種類の日本語による戯曲表現に触れること、関連する演劇史的(文化史的)知識を得ることなどによって、演劇への理解の幅をひろげます。

授業内容

第１回 戦後日本演劇史について(講義)
第２回 作品研究その1:1990 年代の戯曲を読む①
第３回 作品研究その1:1990 年代の戯曲を読む②
第４回 作品研究その1:1990 年代の戯曲を読む③
第５回 作品研究その2:続・1990 年代の戯曲を読む①
第６回 作品研究その2:続・1990 年代の戯曲を読む②
第７回 レポート作成の要点(講義)
第８回 作品研究その2:続・1990 年代の戯曲を読む③
第９回 作品研究その2:続・1990 年代の戯曲を読む④
第 10 回 作品研究その3:1980 年代の戯曲を読む①
第 11 回 作品研究その3:1980 年代の戯曲を読む②
第 12 回 作品研究その3:1980 年代の戯曲を読む③
第 13 回 作品研究その3:1980 年代の戯曲を読む④
第 14 回 作品研究その3:1980 年代の戯曲を読む⑤
※なお、進み具合によりスケジュールを変更する場合があります。

履修上の注意

音読・黙読・発表等、履修者には、形を変え、くりかえし戯曲を「読む」ことが要求される。発表は、とり上げる戯曲によって、「①:履修者をグループに分け、戯曲の一部をリーディング形式で発表してもらう」、「②:戯曲の関連事項を、履修者ひとりひとりに調べてもらい、口頭発表をしてもらう」のどちらかのやり方で行ってもらう。また戯曲一作品の読みが終わったら、そのつど小レポートを提出してもらう。戯曲ごとの小レポートは提出の有無のみを成績評価の判断とし、最終的な成績評価は、学期末に提出してもらうレポートの内容で判断する。なお小レポート作成時の課題に、国会図書館や演劇博物館での資料調査をふくめることがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

学期中にとりあげる戯曲は、第1回授業で指示する。各戯曲は基本的に授業内でも読むが、まずはテキストを入手して、ひとりで読んで欲しい。また関連する作品や出来事について、積極的に調べて欲しい。資料の調べ方については主に第7回授業「レポート作成の要点」で講義する。

教科書

授業内で採り上げる戯曲に関する資料を配布する。

参考書

1, 扇田昭彦『日本の現代演劇』(岩波新書、1995 年)
2, 如月小春『都市民族の芝居小屋』(筑摩書房、1987 年)

課題に対するフィードバックの方法

発表・レポート等について、フィードバックが必要な場合には、全体に向けてコメントする。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習して欲しい。

成績評価の方法

発表:35%、課題(レポート等):35%、討論への参加度:30%、の割合で評価する。

その他

演習は、受講者相互の協力が不可欠である。おたがいの考えを尊重しあうことを第一に心がけて欲しい。テーマに関連する舞台作品の上演があれば、適宜、鑑賞(または放映・配信の視聴)もとりいれながらすすめる予定である。作品鑑賞の課題が出た場合には積極的にとりくんで欲しい。

科目ナンバー:(AL)ART132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)A	**基礎演習(演劇学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇学の学習の入り口として、シェイクスピアの劇世界の魅力を多角的に鑑賞する。
今年度は悲劇作品を一つ取り上げ、テキストの読解を、音読を含めて徹底的に行っていく。

授業内容

第1回 授業内容についての総合的な案内
第2回 発表の概要の説明
第3回～第 13 回 受講生によるテキストの読解。音読を含む
第 14 回 まとめ、ふりかえり

履修上の注意

授業内容と関連した上演がある場合、ゼミ単位で鑑賞に行く予定。
(2023 年は実施)
また、見学会等の課外授業も予定している。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの該当箇所は必ず事前に読んでおくこと。

教科書

シェイクスピア『ハムレット』を使用予定(出版社については授業内で指示する)

参考書

授業内で適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

参加者同士の相互の意見交換の機会を毎回設けていく。それをもってフィードバックとする。

成績評価の方法

毎回の授業内での取り組み(発言と討論の内容)で評価する。
特に意見交換への積極的参加を評価の対象とする。

その他

科目ナンバー:(AL)ART132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)A	**基礎演習(演劇学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇学の基礎文献を読むことで、演劇という対象に敢えてテキストからアプローチすることを学ぶ。課題図書を分担し、その内容をまとめて発表することが中心になる。
学問の対象として演劇を論じることを学び、演劇を学ぶための基礎となる枠組みを把握することを目標とします。受講生の様子を見て、個別発表あるいはグループ発表の形をとります。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2-3 回 資料の集め方、発表の仕方などの案内。課題図書の決定。
第 4-13 回 口頭発表
第 14 回 総括

履修上の注意

積極的に授業に参加しましょう。状況によっては、ゲストを招いて特別授業や課外授業を課す場合もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は、発表内容をまとめたレジュメ(配布資料)を準備すること。
発表担当でない場合も、対象となる演劇論に関して各自学習しておくこと。

教科書

なし

参考書

コンスタンチン・スタニスラフスキー『俳優の仕事 第一部』未来社、2008 年
エリカ・フィッシャー＝リヒテ『演劇学へのいざない』国書刊行会、2013 年
など
その他の参考書に関しては、授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(担当時の発表内容、授業内での発言等)70%、最終レポート 30%で評価する。
授業中にテキストをしっかり読み込んでいるか、テキストと向き合っているか、なども含めて総合的に判断します

その他

科目ナンバー:(AL)ART132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)A	**基礎演習(演劇学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の近・現代の「劇作家」をテーマに、1名乃至2名の「劇作家」に焦点を絞り、その作品を、分担して読みすすめる。

「戯曲」を味わうには、さまざまなアプローチがあるが、ひとりの「劇作家」の作品を、年代ごとに読みすすめてみるのも、一つの方法であろう。 同じ作家の複数の作品を読むことで、その「劇作家」の特質や、技法の変遷、作品ごとの工夫が見えてくる。

この演習では、「劇作家」が「戯曲」を書き続けるなかで、どのような課題に向き合ったのか、執筆された「時代」との関係も含めて考察する。

最初に導入的な講義を行うが、なによりも各自が作品と向き合い、自分の考えを整理して「発表」することが重要である。それぞれの「発表」については、お互いに意見交換をする「討論」の場を設けることにしたい。演習という形式の利点を生かして、より深く「戯曲」に親しみ、演劇における「劇作家」および「演出家」の役割についても考えて欲しい。

授業内容

第1回 「戯曲」とは何か
第2回 日本の「劇作家」について
第3回 「劇作家」や「戯曲」についての調査と研究について
第4回 図書館を利用した調査・研究方法について
第5回 作品を読む(作品研究その1)第1回
第6回 作品を読む(作品研究その1)第2回
第7回 作品を読む(作品研究その1)第3回
第8回 第1回の発表
第9回 第1回の発表についての討論
第 10 回 作品を読む(作品研究その2)第1回
第 11 回 作品を読む(作品研究その2)第2回
第 12 回 作品を読む(作品研究その2)第3回
第 13 回 第2回の発表と討論
第 14 回 「劇作家」や「戯曲」についてまとめる(「小論文」)

履修上の注意

演習の場合には、講義とは異なる形でテーマにアプローチをすることになる。「発表」や「討論」の場において受講者ひとりひとりがお互いの意見を交換することで、より楽しく、より深く学ぶことが出来るようになるはずである。本演習では各自に「発表」、「討論」への参加、レポート(「小論文」)を課すが、「発表」や「討論」は、お互いの考えを「共有」する場であることを考え、積極的な姿勢で臨んで欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習の場合には、発表者はもちろん、「発表」を聴く参加者側にも準備が必要である。参加者側が「発表」を聴くための準備をしていれば、テーマについてより深い内容の「討論」が展開されることになろう。具体的には、「発表」のテーマに関わる、基礎的な情報を調べるなどの「予習」を心がけて欲しい。また、「発表」を聴いたあとで、その日の「発表」のポイントがどこにあったのかを考えて、自分なりに整理するなどの「復習」も重要である。これらの「予習」や「復習」によって、演習のメンバー間で問題意識を、じゅうぶんに共有することができるようになるはずである。

教科書

受講者の意見を聞いた上で研究する「劇作家」と「作品」を決めるので、教科書はあらかじめ指定しない。最初の「劇作家」や「戯曲」についての講義においては、レジュメおよび講義資料を用意する。

参考書

受講者の意見を調整し研究する「劇作家」と「作品」を決めるので、開講後に、テーマに合わせて紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

発表・レポート等について、フィードバックが必要な場合には、全体に向けてコメントする。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習をして欲しい。

成績評価の方法

「発表」35%、レポート(「小論文」)35%、および「討論」への参加状況 30%により評価する。

その他

演習は、受講者相互の協力が不可欠である。お互いの考えを尊重しあうことを第一に心掛けて欲しい。テーマに関連する舞台作品の上演があれば、適宜、鑑賞(または放映・配信の視聴)もとり入れながらすすめる予定である。作品鑑賞の課題が出た場合には積極的に取り組んで欲しい。

科目ナンバー:(AL)ART132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)B	**基礎演習(演劇学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
星野 高	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の戯曲を、現代から時代をさかのぼって読んでいきます。戯曲を読み、関連映像を視聴し、発表や、戯曲ごとに提出してもらうレポートの作成を通じて作品への理解を深めます。様々な種類の日本語による戯曲表現に触れること、関連する演劇史的(文化史的)知識を得ることなどによって、演劇への理解の幅をひろげます。

授業内容

第 1 回 作品研究その1:1970 年代の戯曲を読む①
第 2 回 作品研究その1:1970 年代の戯曲を読む②
第 3 回 作品研究その1:1970 年代の戯曲を読む③
第 4 回 作品研究その1:1970 年代の戯曲を読む④
第 5 回 作品研究その2:1960 年代の戯曲を読む①
第 6 回 作品研究その2:1960 年代の戯曲を読む②
第 7 回 作品研究その2:1960 年代の戯曲を読む③
第 8 回 作品研究その2:1960 年代の戯曲を読む④
第 9 回 作品研究その2:1960 年代の戯曲を読む⑤
第 10 回 作品研究その3:1950 年代の戯曲を読む①
第 11 回 作品研究その3:1950 年代の戯曲を読む②
第 12 回 作品研究その3:1950 年代の戯曲を読む③
第 13 回 作品研究その3:1950 年代の戯曲を読む④
第 14 回 作品研究その3:1950 年代の戯曲を読む⑤
※なお、進み具合によりスケジュールを変更する場合があります。

履修上の注意

音読・黙読・発表等、履修者には、形を変え、くりかえし戯曲を「読む」ことが要求される。発表は、とり上げる戯曲によって、「①:履修者をグループに分け、戯曲の一部をリーディング形式で発表してもらう」、「②:戯曲の関連事項を、履修者ひとりひとりに調べてもらい、口頭発表をしてもらう」のどちらかのやり方で行ってもらう。また戯曲一作品の読みが終わったら、そのつど小レポートを提出してもらう。戯曲ごとの小レポートは提出の有無のみを成績評価の判断とし、最終的な成績評価は、学期末に提出してもらうレポートの内容で判断する。なお小レポート作成時の課題に、国会図書館や演劇博物館での資料調査をふくめることがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

学期中にとりあげる戯曲は、第1回授業で指示する。各戯曲は基本的に授業内でも読むが、まずはテキストを入手して、ひとりで読んで欲しい。また関連する作品や出来事について、積極的に調べて欲しい。特に、書籍や雑誌、新聞といった、インターネット上で入手できない資料まで、調べるように心がけて欲しい。

教科書

授業内で各戯曲に関する資料を配布する。

参考書

1, 扇田昭彦『日本の現代演劇』(岩波新書、1995 年)
2, 如月小春『都市民族の芝居小屋』(筑摩書房、1987 年)

課題に対するフィードバックの方法

発表・レポート等について、フィードバックが必要な場合には、全体に向けてコメントする。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習して欲しい。

成績評価の方法

発表:35%、課題(レポート等):35%、討論への参加度:30%、の割合で評価する。

その他

演習は、受講者相互の協力が不可欠である。おたがいの考えを尊重しあうことを第一に心がけて欲しい。テーマに関連する舞台作品の上演があれば、適宜、鑑賞(または放映・配信の視聴)もとりいれながらすすめる予定である。作品鑑賞の課題が出た場合には積極的にとりくんで欲しい。

科目ナンバー:(AL)ART132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)B	**基礎演習(演劇学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇学の学習の入り口として、シェイクスピアの劇世界の魅力を多角的に鑑賞する。
秋学期は、春学期に行った読解を踏まえて、その作品をめぐって与えられたテーマについて調べたり、報告、討論を行っていく。

授業内容

第1回 授業内容についての総合的な案内
第2回 発表の概要の説明
第3回～第 13 回 課題への取り組み(受講生の発表、討論)
第 14 回 まとめ、ふりかえり

履修上の注意

授業内容と関連した上演がある場合、ゼミ単位で鑑賞に行く予定。
(2023 年は実施、2024 年度は未実施)
また、見学会等の課外授業も予定している。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの該当箇所は必ず事前に読んでおくこと。

教科書

シェイクスピア『ハムレット』(出版社については授業内で指示する)

参考書

授業内で適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内でコメントをしていく。

成績評価の方法

毎回の授業内での取り組み(発表と討論)で評価する。
また最後に期末レポートを課す予定。

その他

科目ナンバー:(AL)ART132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)B	**基礎演習(演劇学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇学の基礎文献を読むことで、演劇という対象に敢えてテキストからアプローチすることを学ぶ。課題図書を分担し、その内容をまとめて発表することが中心になる。
学問の対象として演劇を論じることを学び、演劇を学ぶための基礎となる枠組みを把握することを目標とします。受講生の様子を見て、個別発表あるいはグループ発表の形をとります。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2-3 回 資料の集め方、発表の仕方などの案内。課題図書の決定。
第 4-13 回 口頭発表
第 14 回 総括

履修上の注意

積極的に授業に参加しましょう。状況によっては、ゲストを招いて特別授業や課外授業を課す場合もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は、発表内容をまとめたレジュメ(配布資料)を準備すること。
発表担当でない場合も、対象となる演劇論に関して各自学習しておくこと。

教科書

なし

参考書

コンスタンチン・スタニスラフスキー『俳優の仕事 第一部』未来社、2008 年
エリカ・フィッシャー=リヒテ『演劇学へのいざない』国書刊行会、2013 年
など
その他の参考書に関しては、授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(担当時の発表内容、授業内での発言等)70%、最終レポート 30%で評価する。
授業中にテキストをしっかり読み込んでいるか、テキストと向き合っているか、なども含めて総合的に判断します

その他

科目ナンバー：(AL)ART132J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(演劇学)B	**基礎演習(演劇学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の近・現代の「劇作家」をテーマに、1名乃至2名の「劇作家」に焦点を絞り、その作品を、分担して読みすすめる。
「戯曲」を味わうには、さまざまなアプローチがあるが、ひとりの「劇作家」の作品を、年代ごとに読みすすめてみるのも、一つの方法であろう。 同じ作家の複数の作品を読むことで、その「劇作家」の特質や、技法の変遷、作品ごとの工夫が見えてくる。
この演習では、ひとりの作家の、複数の戯曲に触れることで、作家と作品について考察し、「劇作家」が「戯曲」を書き続けるなかで、どのような課題に向き合ったのか、執筆された「時代」との関係も含めて考察する。
最初に導入的な講義を行うが、なによりも各自が作品を真摯に読み、自分の考えを整理して発表することが重要である。それぞれの「発表」については、お互いに意見交換をする「討論」の場を設けることにしたい。この形式の利点を生かしてより深く「戯曲」に親しみ、演劇における「演出家」の役割についても考えて欲しい。

授業内容

第1回 「劇作家」と「戯曲」について
第2回 「比較」の方法について(「劇作家」および「作品」の比較)
第3回 作品を読む(作品研究その3)第1回
第4回 作品を読む(作品研究その3)第2回
第5回 作品を読む(作品研究その3)第3回
第6回 第1、2回目の発表と討論
第7回 第3、4回目の発表と討論
第8回 第5、6回目の発表と討論
第9回 第7、8 回目の発表と討論
第 10 回 第9、10 回目の発表と討論
第 11 回 「演出家」の役割について(討論)
第 12 回 第 11、12 回目の発表と討論
第 13 回 第 13、14 回目の発表と討論
第 14 回 作品をどのように読んだか、考えをまとめる(「小論文」)

履修上の注意

演習の場合には、講義とは異なる形でテーマにアプローチをすることになる。「発表」や「討論」の場において受講者ひとりひとりがお互いの意見を交換することで、より楽しく学ぶことが出来るようになるはずである。本演習では各自に「発表」、「討論」への参加、レポート(「小論文」)を課すが、「発表」や「討論」は、お互いの考えを「共有」する場であることを考え、積極的な姿勢で臨んで欲しい。
演習の進度によっては、1年間の総仕上げとして、戯曲を立体化して試演する「発表会」を実施する場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習の場合には、発表者はもちろん、「発表」を聴く参加者側にも準備が必要である。参加者側が「発表」を聴くための準備をしていれば、テーマについてより深い内容の「討論」が展開されることになろう。具体的には、「発表」のテーマに関わる、基礎的な情報を調べるなどの「予習」を心がけて欲しい。また、「発表」を聴いたあとで、その日の「発表」のポイントがどこにあったのかを考えて、自分なりに整理するなどの「復習」も重要である。これらの「予習」や「復習」によって、演習のメンバー間で問題意識を共有することができるようになるはずである。

教科書

受講者の意見を聞いた上で研究する「劇作家」と「作品」を決めるので、教科書はあらかじめ指定しない。最初の「劇作家」や「戯曲」についての講義においては、レジュメおよび講義資料を用意する。

参考書

受講者の意見を調整し研究する「劇作家」と「作品」を決めるので、開講後に、テーマに合わせて紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

発表・レポート等について、フィードバックが必要な場合には、全体に向けてコメントする。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習をして欲しい。

成績評価の方法

「発表」35%、レポート(「小論文」)35%、および「討論」への参加状況 30%により評価する。

その他

演習は、受講者相互の協力が不可欠である。お互いの考えを尊重しあうことを第一に心掛けて欲しい。テーマに関連する舞台作品の上演があれば、適宜、鑑賞(または放映・配信の視聴)もとり入れながらすすめる予定である。作品鑑賞の課題が出た場合には積極的に取り組んで欲しい。

科目ナンバー：(AL)PAC192J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(考古学)A	**基礎演習(考古学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学専攻では、1～4年次に毎年設置された演習形式の科目群が、専門教育の背骨をなしている。その1年次配当科目が、この「基礎演習(考古学)」である。考古学とはどのような学問分野なのか、何をどのように分析し、どのように解釈して過去の人類史を解き明かすのかを実践的に学ぶ。
本授業の目標は、自ら課題を見出し、それを問題解決に導くという、「大学での学び」の基礎を、考古学を通して獲得することにある。

授業内容

本授業は、演習形式、すなわち教員による問題設定・資料提示・ミニ講義などをふまえて、班ごとに受講生が事前に共同学習を行い、その成果を教室で発表し、全員で討議することによってすすめられる。少なくとも毎月1回は発表を担当し、発表担当でない週はその課題についての事前学習レポートを提出する。内容は、春学期は基礎的な事項に重点を置き、秋学期は専門性を徐々に高めていく。春学期・秋学期の初回にそれぞれ実施計画の詳細を提示する。
第1回 「大学で学ぶ」とは？ 明治大学文学部、そして明大考古学とは？
第2回 各種の文献をどう読解し、レポートをどのように作成するか？
第3回 考古学とは何か、どのようにして学ぶか？
第4～14 回 考古学の基本的方法を学ぶ： 各班設定テーマから考える！
なぜ遺跡は調査されるのか？
遺跡の調査で何を得るのか？
遺物から何を知るのか？
遺物や遺跡の分布は何を示すのか？
(このうち1回は埼玉県行田市の特別史跡埼玉古墳群で授業を行う)

履修上の注意

本授業は、演習形式、すなわち教員による問題設定・資料提示・ミニ講義などをふまえて、班ごとに受講生が事前に共同学習を行い、その成果を教室で発表し、全員で討議することによってすすめられる。少なくとも毎月1回は発表を担当し、発表担当でない週はその課題についての事前学習レポートを提出する。内容は、春学期は基礎的な事項に重点を置き、秋学期は専門性を徐々に高めていく。春学期・秋学期の初回にそれぞれ実施計画の詳細を提示する。
6月上旬～中旬に1回、授業を埼玉県行田市埼玉古墳群で行う。交通費は自弁である。

準備学習(予習・復習等)の内容

4回目以降の授業は、課されたテーマの内容について各班が調べものをして、レジメを準備し、発表する。だいたい3～4週間に1回、発表が回ってくるが、準備には時間がかかるので、発表の3週間前から十分準備(予習)をしておくこと。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

大塚初重・戸沢充則・佐原眞『日本考古学を学ぶ』(全3冊)有斐閣
絶版ですが、古書店で入手することを勧めます。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表について、コメントします。

成績評価の方法

発表レジメ(5割)、授業への積極的貢献(5割)により評価する。

その他

都内や近県には明治大学博物館をはじめとして多数の博物館があり、展示だけでなく考古学関係の講座も毎週のように開催されている。これらを活用して関心・知見の向上に努めて欲しい。

科目ナンバー:(AL)PAC192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(考古学)A	**基礎演習(考古学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学専攻では、1～4年次に毎年設置された演習形式の科目群が、専門教育の背骨をなしている。その1年次配当科目が、この「基礎演習(考古学)」である。考古学とはどのような学問分野なのか、何をどのように分析し、どのように解釈して過去の人類史を解き明かすのかを実践的に学ぶ。
本授業の目標は、自ら課題を見出し、それを問題解決に導くという、「大学での学び」の基礎を、考古学を通して獲得することにある。

授業内容

本授業は、演習形式、すなわち教員による問題設定・資料提示・ミニ講義などをふまえて、班ごとに受講生が事前に共同学習を行い、その成果を教室で発表し、全員で討議することによってすすめられる。少なくとも毎月1回は発表を担当し、発表担当でない週はその課題についての事前学習レポートを提出する。内容は、春学期は基礎的な事項に重点を置き、秋学期は専門性を徐々に高めていく。春学期・秋学期の初回にそれぞれ実施計画の詳細を提示する。
第1回 「大学で学ぶ」とは？ 明治大学文学部、そして明大考古学とは？
第2回 各種の文献をどう読解し、レポートをどのように作成するか？
第3回 考古学とは何か、どのようにして学ぶか？
第4～14 回 考古学の基本的方法を学ぶ: 各班設定テーマから考える！
なぜ遺跡は調査されるのか？
遺跡の調査で何を得るのか？
遺物から何を知るのか？
遺物や遺跡の分布は何を示すのか？
(このうち1回は埼玉県行田市の特別史跡埼玉古墳群で授業を行う)

履修上の注意

本授業は、演習形式、すなわち教員による問題設定・資料提示・ミニ講義などをふまえて、班ごとに受講生が事前に共同学習を行い、その成果を教室で発表し、全員で討議することによってすすめられる。少なくとも毎月1回は発表を担当し、発表担当でない週はその課題についての事前学習レポートを提出する。内容は、春学期は基礎的な事項に重点を置き、秋学期は専門性を徐々に高めていく。春学期・秋学期の初回にそれぞれ実施計画の詳細を提示する。
6月上旬～中旬に1回、授業を埼玉県行田市埼玉古墳群で行う。交通費は自弁である。

準備学習(予習・復習等)の内容

4回目以降の授業は、課されたテーマの内容について各班が文献調査を行い、レジメを準備し、発表する。おおむね3～4週間に1回、発表が回ってくるが、準備には時間がかかるので、発表の3週間前から十分準備(予習)をしておくこと。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

大塚初重・戸沢充則・佐原眞『日本考古学を学ぶ』(全3冊)有斐閣
絶版ですが、古書店で入手することを勧めます。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表についてコメントし、改善点を指摘する。

成績評価の方法

発表レジュメの評価(5割)、授業への積極的貢献(5割)により評価する。

その他

都内や近県には明治大学博物館をはじめとして多数の博物館があり、展示だけでなく考古学関係の講座も毎週のように開催されている。これらを活用して関心・知見の向上に努めて欲しい。

科目ナンバー:(AL)PAC192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(考古学)B	**基礎演習(考古学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学専攻では、1～4年次に毎年設置された演習形式の科目群が、専門教育の背骨をなしている。その1年次配当科目が、この「基礎演習(考古学)」である。考古学とはどのような学問分野なのか、何をどのように分析し、どのように解釈して過去の人類史を解き明かすのかを実践的に学ぶ。
本授業の目標は、自ら課題を見出し、それを問題解決に導くという、「大学での学び」の基礎を、考古学を通して獲得することにある。

授業内容

本授業は、演習形式、すなわち教員による問題設定・資料提示・ミニ講義などをふまえて、班ごとに受講生が事前に共同学習を行い、その成果を教室で発表し、全員で討議することによってすすめられる。少なくとも毎月1回は発表を担当し、発表担当でない週はその課題についての事前学習レポートを提出する。内容は、春学期は基礎的な事項に重点を置き、秋学期は専門性を徐々に高めていく。春学期・秋学期の初回にそれぞれ実施計画の詳細を提示する。
第1～6回 旧石器・縄文時代の遺跡から考古学の基本を学ぶ
旧石器・縄文時代とは／遺跡の構造／年代決定法／遺跡と地域社会
(このうち1回は、群馬県みどり市岩宿遺跡で授業を行う予定)
第7～14 回 考古学の基本的方法・成果を学ぶ: 個人発表

履修上の注意

授業においてとりあげる文献は今後も繰り返し参照すべき必須文献のため、配布された資料やレジュメもふくめてすべてファイルして保管しておくこと。授業でとりあげる文献については予習・復習をおこない、理解の向上に努めること。
10 月中旬～11 月中旬に1回、授業を群馬県みどり市岩宿遺跡で行う。交通費は自弁である。

準備学習(予習・復習等)の内容

前半は、春学期の継続で、班ごとに発表を行う。後半は、自分の選んだテーマについて、自分で勉強した成果を発表する。そのテーマが学期末に提出するレポートのテーマとなる。レポートは 4000 字程度の長さが期待される。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

鈴木公雄 1988『考古学入門』東京大学出版会
大塚初重・戸沢充則・佐原眞『日本考古学を学ぶ』(全3冊)有斐閣
絶版ですが、古書店で入手することを勧めます。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容(4割)、レポート(4割)、平常点(2割)により評価する。

その他

都内や近県には明治大学博物館をはじめとして多数の博物館があり、展示だけでなく考古学関係の講座も毎週のように開催されている。これらを活用して関心・知見の向上に努めて欲しい。

科目ナンバー:(AL)PAC192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(考古学)B	**基礎演習(考古学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学専攻では、1～4年次に毎年設置された演習形式の科目群が、専門教育の背骨をなしている。その1年次配当科目が、この「基礎演習(考古学)」である。考古学とはどのような学問分野なのか、何をどのように分析し、どのように解釈して過去の人類史を解き明かすのかを実践的に学ぶ。
本授業の目標は、自ら課題を見出し、それを問題解決に導くという、「大学での学び」の基礎を、考古学を通して獲得することにある。

授業内容

考古学専攻では、1～4年次に毎年設置された演習形式の科目群が、専門教育の背骨をなしている。その1年次配当科目が、この「基礎演習(考古学)」である。考古学とはどのような学問分野なのか、何をどのように分析し、どのように解釈して過去の人類史を解き明かすのかを実践的に学ぶ。
本授業の目標は、自ら課題を見出し、それを問題解決に導くという、「大学での学び」の基礎を、考古学を通して獲得することにある。

履修上の注意

授業においてとりあげる文献は今後も繰り返し参照すべき必須文献のため、配布された資料やレジュメもふくめてすべてファイルして保管しておくこと。授業でとりあげる文献については予習・復習をおこない、理解の向上に努めること。
10 月中旬～11 月中旬に1回、授業を群馬県みどり市岩宿遺跡で行う。交通費は自弁である。

準備学習(予習・復習等)の内容

前半は、春学期の継続で、班ごとに発表を行う。後半は、自分の選んだテーマについて、自分で勉強した成果を発表する。そのテーマが学期末に提出するレポートのテーマとなる。レポートは 4000 字程度の長さが期待される。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

鈴木公雄 1988『考古学入門』東京大学出版会
大塚初重・戸沢充則・佐原眞『日本考古学を学ぶ』(全3冊)有斐閣
絶版ですが、古書店で入手することを勧めます。

課題に対するフィードバックの方法

発表に対し、毎回コメントし、課題点を指摘する。

成績評価の方法

発表内容(4割)、レポート(4割)、授業への参加度(2割)により評価する。

その他

都内や近県には明治大学博物館をはじめとして多数の博物館があり、展示だけでなく考古学関係の講座も毎週のように開催されている。これらを活用して関心・知見の向上に努めて欲しい。

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)A	**基礎演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
青谷 秀紀	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習では、文献検索の方法から史料の扱い方に至るまで、担当者の解説と受講生の実践双方から具体的に学んでゆく。最終的には、2年次以降における専門科目の学習に対応できる、歴史学的な視点や歴史研究の方法論を身につけることが目標となる。

授業内容

若干の変更はありうるが、以下のような形で指導を行う予定である。
第1回 イントロダクション、受講生各自の自己紹介および自己の関心のありかについての説明
第2回 図書館ツアーと文献検索について
第3回 レジュメの作り方、参考文献リストの作成、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方について
第4回 歴史学の考え方、史料についての考え方について
第5回～第 6 回 課題文献に基づくグループ報告とディスカッション
第7回～第 13 回 個別報告とディスカッション
第 14 回 春学期のまとめと夏休み中の課題設定

履修上の注意

特別な事情を除いて遅刻・欠席は認めない。自らの報告への熱心な取り組みだけでなく、他者の報告に対しても積極的に討論に加わる姿勢が要求される。

準備学習(予習・復習等)の内容

入念に調査を行い、レジュメやパワーポイントのスライドなどを用意して報告に臨むこと。課題文献は必ず事前に読んでおき、授業後もその内容について、ディスカッションの内容を踏まえて復習しておくことが望まれる。

教科書

受講生と相談のうえ決定する。

参考書

金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年。
服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編『人文学の接近法―西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010 年

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて、レポートにコメントする。

成績評価の方法

報告・レポート(70%)と授業への貢献度(30%)により評価を行う。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)A	**基礎演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文献の調査や文献の読解、レジュメの作成方法などの西洋史の研究の基礎や研究の進め方を学ぶ。また、邦語文献の読解と内容の報告を通じてそれらの定着を図ることを目的とする。履修者は事前に調査や読解を行い、その内容を演習で報告する。文献の読解を通じて得た知見を、自分が選択したテーマを深めるのに役立てることを目標とする。

授業内容

第1回～第2回 イントロダクション、各履修者が関心をもつテーマの報告 第3回～第5回 文献調査の方法、文献の選定、文献リストの作成 第6回～第8回 レジュメの作成、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方 第9回～第 13 回 履修者による文献についての報告 第 14 回 学期のまとめと最終課題について

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習で各報告に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

全14回の 3 分の2以上の出席を成績評価の条件とする。平常点(授業への貢献)と担当回の報告や最終課題の内容を総合的に評価する(100%)詳しくは初回の授業で説明します。教員からの連絡等を確認し、初回の授業に必ず出席するようにしてください。

その他

履修者の人数や調査の進捗状況に応じ、各回の計画は変更もありうる。

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)A	**基礎演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朋子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、大学で西洋史を学ぶにあたって必要な基本的技術(文献調査の方法、史料の扱い方、レジュメの作成、演習における報告および議論の仕方、レポートの作成等)を、実践を通じて学ぶことを目的とする。最終的には、2年次以降における専門科目の学習に対応できる歴史研究の方法論を身につけることを目標とする。

授業内容

まず、共通のテキストを受講者が分担して内容を報告する。報告者はレジュメを作成し、質疑に答えられるように準備する。次に、各自興味のあるテーマ(近現代史に関するものが望ましい)を選んで文献を探し、内容をレポートにまとめ、レジュメをつくって報告する。なお、受講者の人数に応じてグループで報告する場合もありえる。また、以下の予定は、受講者数に応じて変更することもありえる。

第1回 授業の進め方の説明
第2回 図書館ガイダンス
第3回 レポートの書き方とレジュメの作り方
第4回 テキスト講読①
第5回 テキスト講読②
第6回 テキスト講読③
第7回 テキスト講読④
第8回 報告の方法と文献紹介
第9回 報告テーマの決定と報告者の割り当て
第 10 回 報告①
第 11 回 報告②
第 12 回 報告③
第 13 回 報告④
第 14 回 報告⑤
第 15 回 まとめと反省

履修上の注意

受講者の積極的参加が何よりも重要である。自分の報告やその準備はもとより、他の受講者の報告に対する質問や意見を述べるためにも様々な文献を読むこと。AI の使用は禁止。ネット情報の使用は内容を精査し慎重に行うこと。なお、特別な事情を除いて遅刻・欠席・中途退席は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告するさいは、レジュメを作成し、入念に準備すること。場合によっては、パワーポイントのスライドなどプレゼンテーションの用意をして臨むこと。テキストの講読については、ディスカッションに積極的に参加できるように、必ず事前に読んでおくこと。授業後も文献の内容について、ディスカッションの内容を踏まえて復習しておくことが望ましい。

教科書

授業中に読むテキストは、授業開始時に指示する。

参考書

受講者の興味や選んだテーマに従って、適宜、授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で対応する。

成績評価の方法

成績は、授業態度やレポートの内容などから総合的に評価する(授業態度40%、レポートと報告60%)。なお、質問や意見は加点対象として重視する。授業日数の3分の2以上の出席を必要とする。

その他

基礎演習(西洋史)B を続けて受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)A	**基礎演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 耕	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、西洋史を学ぶ上で必要な基本的技術を習得すること、そして各受講者が関心のあるテーマを見つけ、理解を深めることにある。そのため学期の前半では日本語文献の講読、後半では研究報告を行う。文献講読では、担当者が指定された範囲の要約を作成し、出席者全員で内容を議論する。研究報告では、各自が関心のあるテーマについて報告してもらう。講読、報告のいずれも入念な準備が必要であり、各受講者には授業への積極的な参加を期待する。

授業内容

第 1 回 授業説明、図書館ツアー
授業について簡単に説明した後、和泉図書館を見学し、西洋史学に関係する雑誌や文献の所在を確認する。

第 2 回 文献の探し方
図書館およびインターネット上での文献の探し方を学び、実践する。

第 3 回 文献講読準備
講読に先立ち、文献の要約の仕方を学ぶ。

第 4～8 回 文献講読
日本語文献を全員で講読する。各回の担当者が入念に準備することはもちろん、他の参加者も事前に内容を読み込み、議論できるように努めること。

第 9 回 研究報告準備
文献の集め方、資料の作成ならびに報告の仕方について講義する。

第 10～14 回 研究報告
毎回複数名の受講者に報告してもらう。参加者も積極的に質問を行い、自分の報告に向けて参考にすることが望ましい。

履修上の注意

課題提出期限の厳守。議論への参加をはじめとする授業への積極的姿勢。なお担当講師の専門は近現代フランス史だが、本授業は西洋史学の基本的技術を学ぶことが目的であり、他分野に関心のある学生も幅広く受講されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

文献講読では事前に指定された部分を精読しておくこと。研究報告では授業での指示に従い、入念に準備しておくこと。

教科書

松浦義弘『ロベスピエール――世論を支配した革命家』山川出版社、2018 年。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で行う。

成績評価の方法

平常点(議論への参加姿勢など)40%, 報告 30%, 期末レポート 30%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)B	**基礎演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
青谷 秀紀	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習では、文献検索の方法から史料の扱い方に至るまで、担当者の解説と受講生の実践双方から具体的に学んでゆく。最終的には、2年次以降における専門科目の学習に対応できる、歴史学的な視点や歴史研究の方法論を身につけることが目標となる。

授業内容

若干の変更はありうるが、以下のような形で指導を行う予定である。
第1回 秋学期の授業の進め方と課題について
第2回～第6回 文献講読とディスカッション
第7回～第 13 回 個別報告とディスカッション
第 14 回 秋学期の授業の総括とレポートについて

履修上の注意

特別な事情を除いて遅刻・欠席は認めない。自らの報告への熱心な取り組みだけでなく、他者の報告に対しても積極的に討論に加わる姿勢が要求される。

準備学習(予習・復習等)の内容

入念に調査を行い、レジュメやパワーポイントのスライドなどを用意して報告に臨むこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年。
服部良久・南川高志・小山哲・金澤周作編『人文学の接近法―西洋史を学ぶ』京都大学学術出版会、2010 年

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて、レポートにコメントする。

成績評価の方法

報告・レポート(70%)と授業への貢献度(30%)により評価を行う。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)B	**基礎演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文献の調査や文献の読解、レジュメの作成方法などの西洋史の研究の基礎や研究の進め方を学ぶ。また、邦語文献の読解と内容の報告を通じてそれらの定着を図ることを目的とする。履修者は事前に調査や読解を行い、その内容を演習で報告する。文献の読解を通じて得た知見を、自分が選択したテーマを深めるのに役立てることを目標とする。

授業内容

第1回～第2回 イントロダクション、各履修者が関心をもつテーマの報告 第3回～第5回 文献調査の方法、文献の選定、文献リストの作成 第6回～第8回 レジュメの作成、プレゼンテーションの方法、レポートの書き方 第9回～第 13 回 履修者による文献についての報告 第 14 回 学期のまとめと最終課題について

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習で各報告に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

全14回の 3 分の2以上の出席を成績評価の条件とする。平常点(授業への貢献)と担当回の報告や最終課題の内容を総合的に評価する(100%)詳しくは初回の授業で説明します。教員からの連絡等を確認し、初回の授業に必ず出席するようにしてください。

その他

履修者の人数や調査の進捗状況に応じ、各回の計画は変更もありうる。

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)B	**基礎演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朋子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、大学で西洋史を学ぶにあたって必要な基本的技術(文献調査の方法、史料の扱い方、レジュメの作成、演習における報告および議論の仕方、レポートの作成等)を、実践を通じて学ぶことを目的とする。最終的には、2年次以降における専門科目の学習に対応できる歴史研究の方法論を身につけることを目標とする。

授業内容

まず、共通のテキストを受講者が分担して内容を報告する。報告者はレジュメを作成し、質疑に答えられるように準備する。次に、各自興味のあるテーマ(近現代史に関するものが望ましい)を選んで文献を探し、内容をレポートにまとめ、レジュメをつくって報告する。なお、受講者の人数に応じてグループで報告する場合もありえる。また、以下の予定は、受講者数に応じて変更することもありえる。

第1回 授業の進め方の説明
第2回 テキスト講読①
第3回 テキスト講読②
第4回 テキスト講読③
第5回 テキスト講読④
第6回 テキスト講読⑤
第7回 報告方法の説明
第8回 報告①
第9回 報告②
第 10 回 報告③
第 11 回 報告④
第 12 回 報告⑤
第 13 回 報告⑥
第 14 回 書き直しレポート提出
第 15 回 まとめと反省

履修上の注意

受講者の積極的参加が何よりも重要である。自分の報告やその準備はもとより、他の受講者の報告に対する質問や意見を述べるためにも様々な文献を読むこと。AI の使用は禁止。ネット情報の使用は内容を精査し慎重に行うこと。なお、特別な事情を除いて遅刻・欠席・中途退席は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告するさいは、レジュメを作成し、入念に準備すること。場合によっては、パワーポイントのスライドなどプレゼンテーションの用意をして臨むこと。テキストの講読については、ディスカッションに積極的に参加できるように、必ず事前に読んでおくこと。授業後も文献の内容について、ディスカッションの内容を踏まえて復習しておくことが望ましい。

教科書

授業中に読むテキストは、授業開始時に指示する。

参考書

受講者の興味や選んだテーマに従って、適宜、授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で対応する。

成績評価の方法

成績は、授業態度やレポートの内容などから総合的に評価する(授業態度40%、レポートと報告60%)。なお、質問や意見は加点対象として重視する。授業日数の3分の2以上の出席を必要とする。

その他

基礎演習(西洋史)A を受講しておくことが望ましい。

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(西洋史)B	**基礎演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 耕	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、西洋史を学ぶ上で必要な基本的技術を習得すること、そして各受講者が関心のあるテーマを見つけ、理解を深めることにある。そのため学期の前半では英語文献の講読、後半では研究報告を行う。文献講読では近現代史に関する著作を精読する予定である。研究報告では、各自が関心のあるテーマについて発表してもらう。講読、報告のいずれも入念な準備が必要であり、各受講者には授業への積極的な参加を期待する。

授業内容

第 1 回 授業説明
授業説明の後、各受講者から研究テーマについて簡潔に説明してもらう。

第 2～6 回 文献講読
文献は初回授業で配布する。参加者全員で読み進めるため、入念に準備すること。
第 7 回 史資料について
秋学期の演習では史資料を用いた研究報告を行う。それに先立ち、歴史学における史資料の取り扱いを学ぶ。
第 8 回 研究報告準備
研究テーマに関する文献一覧を持参してもらい、報告の準備状況について確認する。

第 9～14 回 研究報告
毎回複数名の受講者に報告してもらう。参加者も積極的に質問を行い、自分の報告に向けて参考にすることが望ましい。

履修上の注意

課題提出期限の厳守。議論への参加をはじめとする授業への積極的姿勢。なお担当講師の専門は近現代フランス史だが、本授業は西洋史学の基本的技術を学ぶことが目的であり、他分野に関心のある学生も幅広く受講されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

文献講読では事前に指定された部分を精読しておくこと。研究報告では授業での指示に従い、入念な準備をしておくこと。

教科書

特になし。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で行う。

成績評価の方法

平常点(議論への参加姿勢など)40%, 報告 30%, 期末レポート 30%。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)A	**基礎演習(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習では、大学で授業を聞き、研究を行うための基本的なスキル(レジュメをつくる、発表する、レポートを書くなど)を身につけるとともに、専門的な文献を読むための準備を行う。毎回、新聞記事の比較発表の担当者を決めるとともに、文献発表をレジュメとパワポの二回に分けて行う。また、秋学期に行う基礎演習実習の準備も始める。夏休みにはその資料作りをする。
受講生が演習とは何かを理解し、授業運営に積極的に参加できるようになることを到達目標とする。

授業内容

1. 自己紹介・演習とは何か
2. 図書館ガイダンス―文献と論文の探し方
3. データの探し方・まとめ方―根拠を持つ
4. 発表1－レジュメを使って発表する
5. 発表2
6. 発表3
7. プレゼンテーションの仕方―パワーポイント、議論への参加の仕方
8. 実習の場所とテーマを考える
9. 発表4―パワポを使って発表する
10. 発表5
11. 発表6
12. レポートの書き方
13. 実習資料作りの分担・協力体制づくり
14. 春学期のまとめ

履修上の注意

オンライン授業を取り入れる可能性があるので、インターネット環境や機材を整えておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の機会が多いため、授業外での作業をしっかりと行うこと。不明点は授業内で質問し、よりよいスキルを身につけられるよう努力すること。

教科書

田原洋樹『移動する共同性―地方創生のカギを握る新たな主体たち』千倉書房(変更する可能性があるので、事前に購入する必要はありません。)

参考書

慶応大学アカデミックスキルズの動画はお勧めできます。

課題に対するフィードバックの方法

春学期は授業内での発表が課題となるので、授業内で指導する。

成績評価の方法

平常点(発表、授業への参加度)(50%)と課題提出(50%)で評価する。3回以上の欠席は評価対象外とする。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)A	**基礎演習(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

地理学入門ゼミ。最初に，どういう「ものの見方」や考え方が地理「学」であるのかを体得する。

具体的には本学が立地する「武蔵野(台地)」について， 地理学内外の文献，また必ずしも学術的なものではない書籍等を読みつつ，地図作業を合わせて行いながら，地理学固有の視座や思考法を検討していく。

つぎに，自ら主題を立て，実際にフィールドに出て調査し，その成果を報告することで，ひととおりのスキルを身に着けていく。

授業内容

それぞれのテーマに従っておよそ3回ずつ行っていく。
<春学期>
1～3回:「街歩き」と地理学の関係:どのようにして風景を読んでいくか(文献を読む)
4～6回:近代的身体経験の変容と都市空間の関係性について(文献を読む)
7～9回:土地利用について:各種地図とどう付き合うか(地図を読む)
10～12 回:景観変化について:時間軸との接合(地図を読む)
13～14 回:地図をもって街を歩く:夏季休暇中の調査計画と準備

履修上の注意

発表者に対して，当該発表をどう良くするべきか，そのコメントおよび質問をつねに考えることが必要とされる。

地図作業を並行して行うので，12 色程度の色鉛筆とマーカーを毎回持参すること。

皆出席を前提とする。ただし診断書や証明書のある場合については考慮する。

欠席は3回までは認めるが(ただしそのつど減点の対象となる)，それ以上は進度に支障が生じるので認められない。

天気が良ければキャンパス周辺を巡検することもあるので，歩きやすい服装で出席するとよい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回課題を出すので，それを各自こなして次回の授業に出席すること。

授業中に作業する時間は無いので，必ず事前に行うこと。

教科書

特に用いない。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の作業とその講評。

成績評価の方法

平常点(40%)＋レポート・プレゼン内容(40%)＋α(20%)による。

α はクラスでの積極的な姿勢を指す。

平常点とは毎回の課題達成度を積算したものをいう。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)A	**基礎演習(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

大学という場で、できるだけ効果的に学ぶ上での基礎技術を身につける。地理学専攻の学生が対象ではあるが、本演習で体得する知識や技術の多くは、他の分野での学びにも応用できるものである。主な内容は:

1. 集める:文献検索、統計資料、野外観察、写真撮影などを通じて、どのようにして地理学研究に有用な情報やデータを集め、整理・管理するか。
2. 聞く:講義や発表、あるいはフィールドで、能動的に話を聞いて学びを深めるにはどうしたらよいか。
3. 読む:学術論文、地図、さらに図表のような視覚的資料まで、書き手・作り手と対話するように、効率的かつ批判的に読むためにはどうすればよいのか。
4. 備える:フィールド調査を行う上で、どのような事前知識を身につけ、また準備をすればよいのか。

授業内容

主な項目は以下の通り。ただし変更の可能性がある。変更の際には事前に連絡をする。
第 1 回 演習の概要・バカの定義・3分間自己紹介・フィールド実習日程
第 2 回 地理的歩き方・写真の取り方・地理院地図
第 3 回 つまらない話の聞き方・ノートの取り方・批判の仕方とされ方
第 4 回 学者の言うことはエライのか？報道記事と学術論文の違い
第 5 回 学者の書くもの：典型的構成・賢く読む
第 6 回 論文と対話する：中傷と批判は全然違う
第 7 回 論文を消化する：文献ノートの作り方
第 8 回 おでかけ前の準備：実習地の資料検索・図書館ツアー
第 9 回 文献リストの作り方・フォーマット地獄
第 10 回 数字に慣れる・地図や図表を読む
第 11 回 フィールド調査にむけて
第 12 回 調査事前発表1
第 13 回 調査事前発表2
第 14 回 ふりかえり

履修上の注意

基礎演習においては、学生自身の積極的な授業参加の姿勢と自由な対話が最も重視される。高校までとは異なり、知識の受け手ではなく、批判的に問い続ける習慣を身につけることを心がけること。授業中にノート型パソコンを利用することが多いため、コンピュータ・インターネット環境を事前に整えておくこと。

<注意> 今年度は 2026 年 9 月 16−17 日に現地実習を行う予定である。よって、この2日間を実習のために確保できる学生のみ履修希望を受け付ける。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題をもとにした学生による発表が授業の中心となるので、締切日までに指定の課題を仕上げ、報告の準備をしてくることが求められる。課題には、指定文献の解読、他の学生の発表に対するフィードバック、図表の作成、発表準備などが含まれる。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

学生の発表時に口頭でコメントや助言をするほか、各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また希望に応じて、口頭にて課題に対する助言や、授業内容に関する補足的解説を行う。

成績評価の方法

提出課題・発表(50%)＋ 授業参加・貢献度(50%)
3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に
[url=https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html]学生相談室[/url]を利用することをすすめる。(連絡先:03-3296-4217(駿河台);03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)A	**基礎演習(地理学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

大学での学びの醍醐味は，自らテーマを見つけて，調べ，考え，まとめ，発表するという一連の研究活動にある。本授業では，演習形式の授業をおこない，夏季休暇中に実施する野外実習(実習候補地：長野県松本市上高地、福島県北塩原村磐梯山、栃木県日光市奥鬼怒)での調査活動に向けて，研究に必要となる基本的なスキルを，各自が試行錯誤しながら習得することを目標とする。基礎演習 A では，自然景観に関する基礎的な知識の学習、調査地の情報収集～テーマ選定～現地調査の準備までを扱う。

授業内容

第 1 回 ガイダンス・自己紹介
第 2 回 資料の探し方 I
第 3 回 資料探し方 II、発表・ディスカッションの方法と実践
第 4 回 レジュメの作成方法
第 5 回 調査地の情報収集(グループ発表)
第 6 回 文献紹介 1(グループ発表)
第 7 回 文献紹介 2(グループ発表)
第 8 回 文献紹介 3(グループ発表)
第 9 回 文献紹介 4(グループ発表)
第 10 回 現地調査の内容立案 1
第 11 回 現地調査の内容立案 2
第 12 回 調査計画発表 1
第 13 回 調査計画発表 2
第 14 回 現地調査準備

履修上の注意

第 2 回以降の授業では各自のノート PC を使用し，文書作成ソフト(Microsoft Word 等)やプレゼンテーションソフト(Microsoft PowerPoint 等)が必要である。現地調査は地理学実習 I として実施するものであり，今年度は，9 月に 1 泊 2 日程度の野外実習(現地集合・現地解散)を予定している。同一教員が担当する「基礎演習(地理学)B」を併せて履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

資料の作成や発表を基本とした授業のため，授業時間以外で十分な準備をして授業に臨むこと。

教科書

特に定めない

参考書

松岡憲知・泉山茂之・檜本正明・松本潔編『山岳科学』(古今書院)
上高地自然誌研究会編『上高地の自然誌：地形の変化と河畔林の動態・保全』(東海大学出版部)
その他，授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業での発表 50%，授業への参加・貢献度(ディスカッションへの積極的な参加等)50%。全授業への出席を前提とするが，止むを得ない事情による欠席の場合は考慮する。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)B	**基礎演習(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、演習を春学期に経験した学生を対象に、大学での学習・研究のスキルをさらに高めていく。外国語と日本語の新聞記事比較を通じて、資料収集や情報伝達のツールとしての英語等利用の有効性を理解するとともに、理論の概説書を通じてより専門的な文献を読むための準備を行う。また、ディスカッションを通じて知識の信頼性を高める仕方を身につけていく。
受講生が演習とは何かを理解し、大学生としての発表スキルを十分に身につけることを到達目標とする。

授業内容

1. 秋学期の方針説明
2. 統計データ(国際統計)を読む・加工
3. データの発表、調査準備
4. グループ作業1－基礎的な調査
5. 発表1(パワポ)―ディスカッション1(どのようなデータが必要かを考える)
6. グループ作業2－現地調査準備
7. 発表2(現地調査報告・パワポ)―ディスカッション2(今後の方向性を考える)
8. 文献発表(レジュメ)1
9. 文献発表(レジュメ)2
10. 文献発表(レジュメ)3
11. 文献発表(レジュメ)4
12. グループ作業3―最終発表準備
13. 発表3(形式問わず)―ディスカッション3(相互評価)
14. 秋学期のまとめ

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備をしっかり行うこと。

教科書

酒井朋子ほか 2024『汚穢のリズムーきたなさ・おぞましさの生活考』左右社(事前に購入する必要はありません。また受講生の希望によって変える可能性もあります。)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート(4000 字)については、Oh-o!Meiji 提出とし、コメント機能から全員に評価を送付する。

成績評価の方法

平常点(発表、授業への参加度)(50%)と課題内容(50%)で評価する。3回以上の欠席は評価対象外とする。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)B	**基礎演習(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

地理学入門ゼミ。
最初に，どういう「ものの見方」や考え方が地理「学」であるのかを体得する。
本学が立地する「武蔵野(台地)」を事例に，地理学内外の文献，また必ずしも学術的なものではない書籍等を併せて読みつつ，地図作業を行いながら，地理学固有の視座や思考法を検討していく。
つぎに，自ら主題を立て，実際にフィールドに出て調査し，その成果を報告することで，ひととおりのスキルを身に着けていく。

授業内容

それぞれのテーマに従っておよそ3回ずつ行っていく。
<秋学期>
1～3回 夏期調査の報告(プレゼンをする)
4～6回 各自興味をもったテーマに関する文献の紹介(1)(文献を読む)
7～9回 各自興味をもったテーマに関する文献の紹介(2)(文献を読む)
10～12 回 冬季調査の準備(調査法について)
13～14 回 冬季調査の報告(プレゼンテーション)

履修上の注意

発表者に対して，当該発表をどう良くするべきか，そのコメントおよび質問をつねに考えることが必要とされる。
地図作業を並行して行うので，12 色程度の色鉛筆とマーカーを毎回持参すること。
皆出席を前提とする。ただし診断書や証明書のある場合については考慮する。
欠席は3回まで認めるが(ただしその都度減点)，それ以上は進度に支障が生じるので認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題を出すので，各自それをこなして次回の講義に臨むこと。
授業時間にその作業す時間はないので，必ず事前に行うこと。

教科書

特に用いない。

参考書

授業の際に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の作業とそれに対する講評。

成績評価の方法

平常点(40%)+レポート・プレゼン内容(40%)+α(20%)による。
α はクラスでの積極的な姿勢を指す。
平常点とは，毎回の課題達成度を積算したもの。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)B	**基礎演習(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

地理学を学ぶ上で必要な基本的視点、情報処理、思考表現の方法などの習得を目的とする。基礎演習 B においては、基礎演習 A と夏の現地実習の内容を踏まえて、地誌を作成する。その過程で図表の作り方、関連文献の探し方、学術的な文章表現、正しい体裁の整え方などを、繰り返し作業を通じて体得・習慣づけることを目標とする。
1．作る:表計算ソフトを使ってデータを加工し、どのように見やすく説得力のあるグラフや表を作成するか。
2．書く:現地調査の洞察と学術文献の知見を融合させて、読み手に自分の考えを正確に分かりやすく伝える地誌を書くにはどうすればよいのか。
3．直す:仲間からの批判や助言を受け止めて、どのように自分の書いたものをさらに良いものへと加筆修正するか。
4．話す:どのように聞き手の関心を惹きつけ、聞き手の知識や理解を深める報告を行うか。

授業内容

主な項目は以下の通り。ただし変更の可能性がある。変更の際には事前に連絡をする。
第 1 回 秋学期の方針説明・実習の振り返り・賢者の定義
第 2 回 実習記録提出:「面白い地誌」にむけて・関連文献の探し方
第 3 回 地域統計データの探し方・グラフの作り方
第 4 回 関連文献紹介・独自視点の打出し
第 5 回 グラフ評論会:見る目を養う
第 6 回 地誌草稿提出・読み合い:役に立つ批判とは
第 7 回 書式・体裁・そのほか細かすぎる事項
第 8 回 地誌草稿提出・口頭発表の仕方:お勉強の成果 vs アイデアの売り込み
第 9 回 個別アドバイス面談・スライド制作
第 10 回 口頭発表1
第 11 回 口頭発表2
第 12 回 口頭発表3
第 13 回 推敲・校正の仕方
第 14 回 最終原稿読み合い・まとめ

履修上の注意

基礎演習においては、学生自身の積極的な授業参加の姿勢と自由な対話が最も重視される。高校までとは異なり、知識の受け手ではなく、批判的に問い続ける習慣を身につけることを心がけること。授業中にノート型パソコンを利用することが多いため、コンピュータ・インターネット環境を事前に整えておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題をもとにした学生による発表が授業の中心となるので、締切日までに指定の課題を仕上げ、報告の準備をしてくることが求められる。課題には、指定文献の解読、他の学生の発表に対するフィードバック、図表の作成、発表準備などが含まれる。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

学生の発表時に口頭でコメントや助言をするほか、各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また希望に応じて、口頭にて課題に対する助言や、授業内容に関する補足的解説を行う。

成績評価の方法

提出課題・発表(50%)+ 授業参加・貢献度(50%)
3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に
[url=https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html]学生相談室[/url]を利用することをすすめる。(連絡先:03-3296-4217(駿河台);03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー:(AL)GEO192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(地理学)B	**基礎演習(地理学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では，研究を進める上で必要となる基本的なスキルを，各自が試行錯誤しながら習得することを目標とする。基礎演習 B の前半では，夏休み中に実施した地理学実習 I の現地調査結果を報告書にまとめる作業を通じて，調査地の特徴を多角的に分析し，地理学的なものの見方を学ぶとともに，学術的な文章の書き方を学ぶ。さらに，後半では，実際の学術論文を題材にして，批判的思考(クリティカルシンキング)に基づいた論文読解方法を学ぶ。

授業内容

第 1 回 イントロダクション，調査データの整理、論文の構造を探る
第 2 回 データの表現方法 1
第 3 回 データの表現方法 2
第 4 回 データから考察する 1
第 5 回 データから考察する 2
第 6 回 報告書の執筆 1(テーマ設定、タイトル、アウトライン)
第 7 回 報告書の執筆 2(調査地概要、調査方法)
第 8 回 報告書の執筆 3(結果)
第 9 回 報告書の執筆 4(考察)
第 10 回 報告書の執筆 5(はじめに)
第 11 回 文献紹介とディスカッション 1
第 12 回 文献紹介とディスカッション 2
第 13 回 文献紹介とディスカッション 3
第 14 回 文献紹介とディスカッション 4

履修上の注意

毎回の授業で各自のノート PC を使用する。同一教員が担当する「基礎演習(地理学)A」を併せて履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

資料の作成や発表を基本とした授業のため，授業時間以外で十分な準備をして授業に臨むこと。

教科書

特に定めない

参考書

授業内で適宜紹介する

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

提出課題および発表 50%，授業への参加・貢献度(ディスカッションへの積極的な参加等)50%。全授業への出席を前提とするが，止むを得ない事情による欠席の場合は考慮する。

その他

科目ナンバー:(AL)PHL112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(哲学)A	**基礎演習(哲学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

哲学研究を行うための基礎的な技法について学ぶ。担当教員が定めるテーマをもとに、具体的な作業・実践を通して哲学研究のための基礎的な力を身につけていく。第 11 回以降は、最初の与えられたテーマから、より絞りこんだテーマ設定を履修者が共同で行い、小論文にまとめる。関連する資料を探す力、他人の考えを正確に読み取ったり聞き取ったりする力、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につけるのが目標である。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:授業の進め方、目標、評価方法について説明
第2回 研究のテーマ設定の方法と資料収集の方法
第 3 回 資料の読み方(1)
第 4 回 研究の進め方と問いの立て方(1):井筒俊彦の研究紹介と検討を通して
第5回 研究の進め方と問いの立て方(2):井筒俊彦の研究紹介と検討を通して
第 6 回 資料の読み方(2)
第 7 回 資料の要約と、批判的検討の方法(1)
第 8 回 資料の要約と、批判的検討の方法(2)
第 9 回 自分の考えを整理し、伝える方法(1)
第 10 回 自分の考えを整理し、伝える方法(2)
第 11 回 小論文の作成(1):テーマ設定
第 12 回 小論文の作成(2):テクストの講読と要約の作成
第 13 回 小論文の作成(3):関連資料の読み方
第 14 回 小論文の作成(4):論文の体裁を整える方法

履修上の注意

クラス分けに従い、指定された教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

適宜課題を課すので、次回授業までに課題を準備してから次の授業に臨むようにしてほしい。

教科書

毎回プリントを配布する。

参考書

毎回の授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

レスポンスペーパーに書かれたいくつかの見解に対し毎回次回授業の際にコメントと共に紹介、フィードバックを行う。

成績評価の方法

課題:50%　授業への貢献度:50%

その他

科目ナンバー:(AL)PHL112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(哲学)A	**基礎演習(哲学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
哲学研究を行うための基礎的な技法について学ぶ。担当教員が定めるテーマをもとに、具体的な作業・実践を通して哲学研究のための基礎的な力を身につけていく。
哲学的な問いを立てる力、関連する資料を探す力、要約と論文を作成するための基礎的技能、グループでの研究と発表をするための手順を身につけるのが目標。

授業内容
1. イントロダクション、自己紹介
2. テキスト読解とは何か(要約を作る)
3. 論文・レポートとは何か(モデルレポートを読む)、テキストの紹介、グループ分け
4. 予習ワークシートの作成
5. 予習ワークシートの提出
6. グループワーク:担当箇所についてのディスカッション(専門家会議)、モデル発表資料を読む
7. グループワーク:グループごとのディスカッション(発表資料の作成)
8. グループ発表の準備:発表資料の提出準備
9. グループ発表と質疑応答
10. レポートの書き方についての説明、二次文献選定レポートの提出準備
11. 二次文献の選定と検討
12. 論文構想発表会、最終レポートの提出準備
13. 口頭試問(1)
14. 口頭試問(2)

履修上の注意
学年始めに発表するクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
おおむね各回の授業で課題が出るので、必ず次回までに与えられた課題を仕上げて授業に臨むこと。

教科書
戸田山和久『最新版 論文の教室:レポートから卒論まで』NHK 出版、2022 年。

参考書
ピーター・シンガー(山内友三郎・塚崎智監訳)(1999)『実践の倫理[新版]』、昭和堂

課題に対するフィードバックの方法
課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法
要約レポート 10%
予習ワークシート 20%
グループ発表 20%
二次文献選定レポート 10%
期末レポート 30%
口頭試問 10%
2/3 以上の出席が必要。通算で 5 回以上欠席した場合、単位認定の対象から外れる。

その他
・欠席はその原因にかかわらず、欠席とする。
・14 回の授業のうち、10 回の出席はこの授業の内容を把握する上で必須であるが、逆に言えば、4 回欠席可能である。その中で欠席回数を各自が管理すること。
・代替課題を出すことはしない。
・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

科目ナンバー:(AL)PHL112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(哲学)B	**基礎演習(哲学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
哲学研究を行うための基礎的な技法について学ぶ。一定のテーマをもとに、具体的な作業・実践を通して哲学研究のための基礎的な力を身につけていく。第8回までは、研究論文を参考にしながら一次文献を読み解く力を養う。第9回以降は、文献をもとに、みずからテーマを決め、共同発表と個別小論文の執筆をまとめる作業を行う。今年度は、江戸初期のキリシタン書『妙貞問答』をとりあげる。
関連する資料を探す力、他人の考えを正確に読み取ったり、聞き取ったりする力、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につけるのが目標。

授業内容
授業内容
第1回 イントロダクション:授業の進め方について
第2回 不干斎ハビアンに関する論文を読む1
第3回 『妙貞問答』巻中の儒家批判を読む1
第4回 不干斎ハビアンに関する論文を読む2
第5回 合同授業:東アジアの哲学
第6回 『妙貞問答』巻中の儒家批判を読む2
第7回 『妙貞問答』巻中の儒家批判を読む3
第8回 『妙貞問答』巻中の儒家批判を読む4
第9回 共同発表の準備1
第 10 回 共同発表の準備2
第 11 回 個別小論文のテーマ発表・講評
第 12 回 共同発表
第 13 回 個別小論文の発表
第 14 回 個別小論文の講評

履修上の注意
学年始めに発表するクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
おおむね各回の授業で課題が出るので、必ず次回までに与えられた課題を仕上げて授業に臨むこと。

教科書
特に定めない。PDF で資料を配布する。

参考書
戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』(NHK 出版)

課題に対するフィードバックの方法
提出課題や共同発表については授業内で講評し、個別小論文については Oh-o! Meiji のコメント機能を利用して個別に講評する。

成績評価の方法
授業への貢献度(提出課題の評価を含む)40%、授業期間中に提出する共同発表20%、個別小論文40%。
通算で5回以上欠席した場合, 単位認定の対象から外す。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(哲学)B	**基礎演習(哲学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

パスカルは「人間は考える葦である」と言った。宇宙はいとも簡単に人間を破壊しうるが、人間は自分が死ぬということを知っており、その点では宇宙に優っている。宇宙の中でも最も弱く脆い者が「思考」によって最強のものに勝る、というのだが、では「思考」とは何だろうか。「哲学」と呼ばれるものは「思考」について「思考する」ものである。誰もが常に思考し、思考について思考しているとはいえ、いつも同じ堂々巡りを続け、いつも同じ曖昧さにとどまっているとの印象を抱いたことはないだろうか。思考について思考することは想像以上に困難である。よほどの覚悟が必要である。授業では、「読む」「問いを立てる」「文を構成する」「文と文を繋ぐ」「論点とそれをめぐる推論を提示する」「質問に対応する」「討論する」といった実践を通じて、「思考」について「思考すること」の修練を行う。

授業内容

第一回：自己紹介、授業の進め方と諸注意
第二回：問題群を見つけ、問いをたてる
第三回：その問題について意見を綴ってみる
第四回：その作文を様々な視点から修正し再構造化する
第五回：ある問題について自己の意見を発表する
第六回：様々な意見について討論する
第七回：哲学書をどう読むか
第八回：哲学と言語
第九回：もう一度問いをたてる
第十回：もう一度それについて作文する
第十一回：もう一度発表する
第十二回：もう一度討論する
第十三回：これからの学習について
第一四回：これからの学習について

履修上の注意

演習中心の授業となるので、毎回出席し、与えられた課題を果たすことが求められる。物怖じすることなく発言するなど、積極的に授業に参加してほしい。受講生と相談の上、グループによる発表などを実施する可能性があるので、その場合は積極的に企画し実施してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習の必要はないが、授業内で提示された文献や作品についてみずから調査し鑑賞する意欲が求められる。個人またはグループによる発表に積極的に取り組む。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料は適宜配布する。

参考書

特定の参考書は使用しない。資料は適宜配布する。

課題に対するフィードバックの方法

発表または提出物については、授業の展開を勘案しながら、コメントする。

成績評価の方法

授業への積極的参加70%、課題の提出30%。

その他

科目ナンバー：(AL)ARS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(ドイツ文学)A	**基礎演習(ドイツ語圏文化)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 周平	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
この授業では、ドイツ語圏についての基礎知識を獲得すると同時に、学術情報の入手や文献の読み方、レポートの作成、発表の準備などの基本的なスキルを学びます。春学期の基礎演習 A は、ドイツ語圏文化について主に歴史的側面に焦点をあて、入門書の講読を通じて、内容の把握と要約、比較を行います。必要に応じて、生成 AI の適切な利用の仕方を考え、情報の調査・補足も行います。その後、講読に基づいたレポートの作成と受講者間での相互レヴューを行い、最終レポートにまとめる作業を行います。
〈到達目標〉
ドイツ語圏の歴史的側面についての基礎知識を習得します。その際、グループワークやピアレヴューを通じて、文献の内容を正確に把握し、伝達する力を養います。また、専門用語の調査や複数の文献の比較を通じて、知識を多角的に深く掘り下げていく態度を身につけます。

授業内容

1. イントロダクション
2. 文献の読み方・要約の仕方の基本
3. 講読①：古代
4. 講読②：中世 1：初期～盛期
5. 講読③：中世 2：後期
6. 講読④：近世 1：宗教改革時代
7. 講読⑤：近世 2：絶対主義
8. 講読⑥：近代 1：19 世紀前半
9. 講読⑦：近代 2：第二帝政
10. 講読⑧：現代 1：第一次世界大戦～ヴァイマル共和国
11. 講読⑨：現代 2：ナチ時代
12. 講読⑩：現代 3：第二次世界大戦後
13. レポートの相互チェック(ピアレビュー)
14. まとめ

履修上の注意

・演習形式の授業のため、発表担当以外の受講者も積極的な発言をすることが望まれます。
・授業内容は計画であり、進行に応じて変更されることがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

・講読では、受講者全員が次の回のテクストに目を通しておき、発表担当者が配付用のレジュメを作成します。
・発表をレポートとして仕上げられるように、自分の担当以外についてもポイントとなる要素を記録しておきます。

教科書

特に定めません

参考書

『アカデミック・スキルズ：AI 時代の知的技法入門(第 4 版)』佐藤望編著(慶應義塾大学出版会)2026 年

課題に対するフィードバックの方法

発表を含め課題に対してのフィードバックは、発表の授業時またはクラスウェブを通じて行う。

成績評価の方法

発表 40%、レポート 30%、ディスカッションへの参加 30%

その他

2026 年度の授業改善案
・発表の仕方やレポートの書き方について、引き続きより理解が深まるような工夫をしていく。
・講読の内容・分量をより適切なものに調整していく。
・授業進行の妨げにならないよう、学生の受講態度により配慮していく。
・生成 AI の適切な利用について、指導していく。

科目ナンバー:(AL)ARS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(ドイツ文学)A	**基礎演習(ドイツ語圏文化)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 周平	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

この授業では、ドイツ語圏についての基礎知識を獲得すると同時に、学術情報の入手や文献の読み方、レポートの作成、発表の準備などの基本的なスキルを学びます。春学期の基礎演習 A は、ドイツ語圏文化について主に歴史的側面に焦点をあて、入門書の講読を通じて、内容の把握と要約、比較を行います。必要に応じて、生成 AI の適切な利用の仕方を考え、情報の調査・補足も行います。その後、講読に基づいたレポートの作成と受講者間での相互レヴューを行い、最終レポートにまとめる作業を行います。

〈到達目標〉

ドイツ語圏の歴史的側面についての基礎知識を習得します。その際、グループワークやピアレヴューを通じて、文献の内容を正確に把握し、伝達する力を養います。また、専門用語の調査や複数の文献の比較を通じて、知識を多角的に深く掘り下げていく態度を身につけます。

授業内容

1. イントロダクション
2. 文献の読み方・要約の仕方の基本
3. 講読①:古代
4. 講読②:中世 1:初期～盛期
5. 講読③:中世 2:後期
6. 講読④:近世 1:宗教改革時代
7. 講読⑤:近世 2:絶対主義
8. 講読⑥:近代 1:19 世紀前半
9. 講読⑦:近代 2:第二帝政
10. 講読⑧:現代 1:第一次世界大戦～ヴァイマル共和国
11. 講読⑨:現代 2:ナチ時代
12. 講読⑩:現代 3:第二次世界大戦後
13. レポートの相互チェック(ピアレビュー)
14. まとめ

履修上の注意

・演習形式の授業のため、発表担当以外の受講者も積極的な発言をすることが望まれます。
・授業内容は計画であり、進行に応じて変更されることがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

・講読では、受講者全員が次の回のテクストに目を通しておき、発表担当者が配付用のレジュメを作成します。
・発表をレポートとして仕上げられるように、自分の担当以外についてもポイントとなる要素を記録しておきます。

教科書

特に定めません

参考書

『アカデミック・スキルズ:AI 時代の知的技法入門(第 4 版)』佐藤望編著(慶應義塾大学出版会)2026 年

課題に対するフィードバックの方法

発表を含め課題に対してのフィードバックは、発表の授業時またはクラスウェブを通じて行う。

成績評価の方法

発表 40%、レポート 30%、ディスカッションへの参加 30%

その他

2026 年度の授業改善案

・発表の仕方やレポートの書き方について、引き続きより理解が深まるような工夫をしていく。
・講読の内容・分量をより適切なものに調整していく。
・授業進行の妨げにならないよう、学生の受講態度により配慮していく。
・生成 AI の適切な利用について、指導していく。

科目ナンバー:(AL)ARS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(ドイツ文学)B	**基礎演習(ドイツ語圏文化)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 周平	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

この授業では、ドイツ語圏についての基礎知識を獲得すると同時に、学術情報の入手や文献の読み方、レポートの作成、発表の準備などの基本的なスキルを学びます。秋学期の基礎演習 B は、個人の関心について、テーマの設定や文献調査の方法を学び、10 分程度の発表と最終レポートにまとめる作業を行います。必要に応じて、生成 AI の適切な利用の仕方も考えます。

〈到達目標〉

文献や情報を収集し、特定のテーマについての報告を論理的な文章にまとめあげる方法を身につけます。

授業内容

1. イントロダクション
2. テーマの探し方、文献の探し方
3. 図書館の使い方、書誌の記録の仕方
4. テーマ決定報告
5. レポートの作成とツールの利用
6. 個人発表①
7. 個人発表②
8. 個人発表③
9. 個人発表④
10. 個人発表⑤
11. 個人発表⑥
12. 個人発表⑦
13. レポートの相互チェック(ピアレビュー)
14. まとめ

履修上の注意

・演習形式の授業のため、発表担当以外の受講者も積極的な発言をすることが望まれます。
・授業内容は計画であり、進行に応じて変更されることがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

・発表担当者は配付用のレジュメを作成します。
・発表担当者以外の全員が、予習用資料に目を通しておきます。

教科書

特に定めません

参考書

『アカデミック・スキルズ:AI 時代の知的技法入門(第 4 版)』佐藤望編著(慶應義塾大学出版会)、2026 年
『ドイツの現状(2023 年改訂版)』https://www.tatsachen-ueber-deutschland.de/en/germany-book-edition-2023

課題に対するフィードバックの方法

・授業時に、テーマ決定や発表に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

発表 40%、レポート 30%、ディスカッションへの参加 30%

その他

2025 年度の授業改善案

・テーマの決め方について、フィードバックを行いつつ、理解が深まるような工夫を続けていく。
・生成 AI の適切な利用の仕方について指導していく。

科目ナンバー：(AL)ARS122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(ドイツ文学)B	**基礎演習(ドイツ語圏文化)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 周平	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉

この授業では、ドイツ語圏についての基礎知識を獲得すると同時に、学術情報の入手や文献の読み方、レポートの作成、発表の準備などの基本的なスキルを学びます。秋学期の基礎演習 B は、個人の関心について、テーマの設定や文献調査の方法を学び、10 分程度の発表と最終レポートにまとめる作業を行います。必要に応じて、生成 AI の適切な利用の仕方も考えます。

〈到達目標〉

文献や情報を収集し、特定のテーマについての報告を論理的な文章にまとめあげる方法を身につけます。

授業内容

1. イントロダクション
2. テーマの探し方、文献の探し方
3. 図書館の使い方、書誌の記録の仕方
4. テーマ決定報告
5. レポートの作成とツールの利用
6. 個人発表①
7. 個人発表②
8. 個人発表③
9. 個人発表④
10. 個人発表⑤
11. 個人発表⑥
12. 個人発表⑦
13. レポートの相互チェック(ピアレビュー)
14. まとめ

履修上の注意

・演習形式の授業のため、発表担当以外の受講者も積極的な発言をすることが望まれます。
・授業内容は計画であり、進行に応じて変更されることがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

・発表担当者は配付用のレジュメを作成します。
・発表担当者以外の全員が、予習用資料に目を通しておきます。

教科書

特に定めません

参考書

『アカデミック・スキルズ：AI 時代の知的技法入門(第 4 版)』佐藤望編著(慶應義塾大学出版会)、2026 年
『ドイツの現状(2023 年改訂版)』https://www.tatsachen-ueber-deutschland.de/en/germany-book-edition-2023

課題に対するフィードバックの方法

・授業時に、テーマ決定や発表に対するフィードバックを行います。

成績評価の方法

発表 40%、レポート 30%、ディスカッションへの参加 30%

その他

2025 年度の授業改善案
・テーマの決め方について、フィードバックを行いつつ、理解が深まるような工夫を続けていく。
・生成 AI の適切な利用の仕方について指導していく。

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)A	**基礎演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 基礎演習についての説明と授業の進め方
2. 図書館の使い方について
3. 学術的な叙述について
4. フィールドワーク
5. 受講生各自の報告と討論
6. 受講生各自の報告と討論
7. 受講生各自の報告と討論
8. 受講生各自の報告と討論
9. 受講生各自の報告と討論
10. 受講生各自の報告と討論
11. 受講生各自の報告と討論
12. 受講生各自の報告と討論
13. 受講生各自の報告と討論
14. 振り返りと討論

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。アップル・アプリ、シャープ電子辞書"Papyrus"にも収録されている)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)A	**基礎演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
落合 弘樹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方 報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書 "Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)A	**基礎演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方 報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分程度)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及び期末課題(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)A	**基礎演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方 報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書 "Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)A	**基礎演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朗	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方 報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書 "Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)A	**基礎演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 豪	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方 報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書"Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)A	**基礎演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 基礎演習(日本史)について―日本史学専攻のカリキュラムとの関係で―
2. 日本史研究のための基本的文献、辞・事典、関係諸機関、学会など
3. 史料について
4～7. 本・論文の読み方。実際に論文を読んでみよう
8. 原稿・レポートの書き方
9. プレゼンテーションの方法と報告レジュメの作り方
10. 日本史理解の基礎知識＜1＞ 度・量・衡、貨幣制度
11. 同 上 ＜2＞ 暦法と時刻法・方角
12. 同 上 ＜3＞ 変体仮名、異字・異体字
13. 古文書を読んでみよう
14. 受講生各自が関心を有する日本史上のテーマの報告

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書"Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)B	**基礎演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 秋学期の基礎演習についての説明
2. レポートの検討
3. レポートの検討
4. レポートの検討
5. 受講生各自の報告と討論
6. 受講生各自の報告と討論
7. 受講生各自の報告と討論
8. 受講生各自の報告と討論
9. 受講生各自の報告と討論
10. 受講生各自の報告と討論
11. 受講生各自の報告と討論
12. 受講生各自の報告と討論
13. 受講生各自の報告と討論
14. 振り返りと討論

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書“Papyrus”にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)B	**基礎演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
落合 弘樹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方 報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書“Papyrus”にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)B	**基礎演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方　報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分程度)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)B	**基礎演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方 報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書 "Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)B	**基礎演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朗	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方　報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書 "Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)B	**基礎演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 豪	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。〈暗記する歴史〉から〈調べて考える歴史学〉への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方　報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書 "Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本史)B	**基礎演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史研究の入門ゼミナール。(暗記する歴史)から(調べて考える歴史学)への転換を目指す。
このゼミの概要説明から始めて、4年次に卒業論文を完成させていくための日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とする。

授業内容

授業の進行は、主に日本史研究の基礎的な知識・方法の習得を目標とし、受講生各自による日本史上で関心を有するテーマをめぐる報告と討論を中心に行い、最後に反省会を設ける。
1. 授業の進め方　報告テーマ確定
2～14. 受講生各自の報告と討論(報告時間は一人 30 分)

履修上の注意

毎回出席を確認する。講義は定刻に始めるので、遅刻はしないこと。やむを得ない場合 15 分まで認めるが、講義中の入退室は原則として認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、受講者への質問などを適宜行い、到達度をチェックする。復習に努めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書 "Papyrus"にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)と報告(30%)及びレポート(30%)にもとづいて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

近・現代文学を研究する際の基礎的な手続きや方法論について学ぶ。具体的には、戦後(1945～1956 あたりまで)の詩・小説・評論・短歌・俳句・戯曲など複数のジャンルの作品を扱いながら発表演習を行う。情報収集とその提示のスキルを磨き、質疑応答の実践を重ねることによって、文学研究に必要な基礎的な議論を構築できるようになることを目指す。

授業内容

第1回　概説・導入／発表担当決定
第2回　デモンストレーション(模擬演習)
第3回　黒田三郎「時代の囚人」(詩)
第4回　石垣りん「家」(詩)
第5回　原民喜「鎮魂歌」(長編詩)
第6回　野間宏「顔の中の赤い月」(小説)
第7回　坂口安吾「桜の森の満開の下」(小説)
第8回　武田泰淳「ひかりごけ」(レーゼドラマ)
第9回　田村泰次郎「肉体が人間である」(評論)
第 10 回　寺山修司「祖国喪失」(短歌)
第 11 回　金子兜太「トラック島」(俳句)
第 12 回　安部公房「どれい狩り」(戯曲)
第 13 回　受講者によるディスカッション
第 14 回　まとめ／総括
※履修人数や進捗状況によって内容を調整することがあります。

履修上の注意

取り上げるのはすべて戦後十年ほどの間に書かれた「戦後文学」であるため、同じ時代的思潮を共有するそれぞれの作品の共通点や相違点に留意しつつ、積極的に議論を深めてほしい。なお自分の発表だけでなく、他の履修者の発表に対する応答も同程度に重要な評価の対象となるので、そのつもりで臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当時以外も、対象作品を精読し疑問点や意見をクリアにしておくこと。議論で消化できなかったところがあれば各自で参考文献を集めるなどして、期末レポートに備えてほしい。

教科書

指定しない。それぞれの作品の収録本については別途紹介する。

参考書

紅野敏郎ほか編『日本近代短編小説選　昭和篇2』(岩波文庫)、飛高隆夫・野山嘉正編『展望現代の詩歌』全 11 巻(明治書院)など。

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表や質疑に対する講評は授業の終盤におこなう。また、期末レポートに関する全体講評は、Oh-o! Meiji で履修者に向けて公開する。

成績評価の方法

発表内容と平常点 50%、期末レポート 50%で評価する。平常点は授業時の発言や参加姿勢などによって総合的に判断する。なお、欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合は、発表や質疑の内容にかかわらず、単位を認定しない。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

[概要]
今後4年間、研究および学習を行なっていくにあたって必要となる基礎的知識および技術を演習形式で学ぶ。その中でも、この基礎演習は、国語学的な研究方法を主として学ぶことを目的とする。言葉をどのような観点から調査・考察して、どのような分析を行ない、どういった結論をだして、どのように発表・表現するのかという、一連の手順を習得する。
春学期配当の A では、最近の若者を中心とする言葉(「やばい」「かわいい」「まじ」「界隈」「無理」「横転」「秒で」「一生」など)の新しい用法を、自分で見つけてきて題材とし、調査・分析を行なう。
[到達目標]
過不足ない調査、見やすい資料作成、明快な発表ならびに質疑を行えるようになること。

授業内容

基本的方法を講義したあと、課題について、受講生が調査、プリントを作成・発表し、全体で討議するという形式を基本とする。
1. この演習の方法と概要
2. 授業資料作成の基礎(1、2)
3. 辞書情報の理解と利用、引用方法
4. Web 情報・データベース・コーパス利用法
5. 現代若者言葉についての発表(1〜7)
6. レポート作成の方法
7. まとめ[aモジュールで終了]
(受講生数との兼ね合いで回数が変動するテーマもある)

履修上の注意

インターネットにアクセスできるようにしておく。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]
1. 最近の若者を中心とする、新しい言葉の用法にアンテナを張っておく。
2. さまざまな検索方法を用いて、新しい用法についての理解を深めておく。
[復習]
1. 討議結果を整理して、どのようなことをレポートに反映させればよいかを考えておく。
2. 疑問に思えた点は、さまざまな検索方法を用いて追加調査する。

教科書

特に用いない。プリントを作成、配布。受講生の発表の際は、それぞれが作成・印刷したプリントを配付。

参考書

米川明彦『現代若者ことば考』(丸善ライブラリー)
米川明彦『若者ことば辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

・毎授業、リアクションペーパーを配付回収し、要フィードバックのものは、次回にコメントする。
・発表に対して行なわれる、受講生からのコメントについて、要フィードバックのものは、それをまとめる際に、コメントする。
・発表者からのリアクションについて、要フィードバックのものは、コメントする。

成績評価の方法

演習の発表(40%)、レポート(学期末1回, 40%)、平常点(リアクションペーパー、授業内発言等を総合、20%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
三田 誠司	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

奈良時代末の成立と考えられる萬葉集には長い研究史があり、その注釈書も数多い。本授業では山田孝雄氏の『萬葉集講義 巻第一』(昭和 3 年刊)を取り上げて、萬葉歌の一語一語に付された解説を読み解いていく。本書の刊行はおよそ百年前。訂正すべきところもあるが、その論証の方法は現代から見ても優れている。 授業は、受講生が輪番制で自分が担当する箇所について資料を作成し、解説の文中に現れる諸文献や研究用語等について調査を行い、発表を行う形で進められる。これらの作業をとおして、関連文献についての知識や古典文法について基礎的知識を身につけ、レポート作成や発表などの技術を体得することを到達目標とする。 春学期は萬葉集巻第一の二番歌を読む。

授業内容

第1回 『萬葉集講義』の概要と演習方法について
第2回 発表資料の作成方法について 図書館の利用法について
第3回 発表と質疑応答について
第4回 巻1・二番歌 ○山常庭 ○村山有等
第5回 ○取与呂布 ○天乃香具山
第6回 ○騰立 ○国見乎為者 ○国原
第7回 ○煙立辰
第8回 ○海原(「p31、17 行 この例によれり」まで)
第9回 ○海原(「p31、17 行 さてその終止形より」以下) ○加萬目立多都
第 10 回 ○ここまでにて〜 ○怜可国曽(「p33、4 行 適切なりとす」まで)
第 11 回 ○怜可国曽(「p33、4 行 又巻四」〜「p33、14 行 まされる心地す」)
第 12 回 ○怜可国曽(「p33、14 行 ウマシクニ」〜「p34、7 行 なりとす」まで)
第 13 回 ○蜻島
第 14 回 ○八間跡能国者 以下末尾まで

履修上の注意

・発表者以外の受講生は、発表内容に対する質疑応答に積極的に参加することを望む。
・第2回は、授業の後半で図書館へ移動する予定である。詳細は第1回の授業で予告する。
・第4回以降の内容は受講者人数により調整を行うことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

・発表担当者は、旧字体・旧仮名遣いの本文を適切に現在通用の字体・新字体に直すとともに、文語文の解説を現代文に直すことを第一の目標として資料作成に当たること。
・担当箇所により、入手しにくい文献や難解な部分もある。そうした場合の対処の仕方については事前に指示を与えるので注意しておくこと。
・復習として、発表箇所について質疑応答の際に疑問点が生じた部分について再調査を行うこと。その再調査は、期末のレポートに反映させること。

教科書

なし。必要なテキストは授業担当者がプリントし配布する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表終了後、資料の修正を要する箇所等を指摘する。

成績評価の方法

発表およびレポート(60%)、授業中の質疑等発言内容(20%)、授業時間内のミニテスト(20%)により評価する。ミニテストは、旧字体の漢字を新字体に直す、短い文語文を現代文に直すなど、基礎的な内容とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

平安時代の作品『枕草子』を読む。『枕草子』冒頭部は、当時の季節や風俗が、清少納言独自の感性で描かれており、その表現に注目しながら、平安文学を学ぶ上での基礎知識と調べ方を身につける。

授業内容

『枕草子』は、平安時代中期、中宮定子付きの女房であった清少納言が執筆した作品である。内容は、「ものづくし」で知られる類聚的章段、日記的章段、随想的章段などに分けられるが、「春はあけぼの」で有名な冒頭の章段から読み進めていく。発表者は、教員の指導の下、発表レジュメを作成し発表する。

(1～2)『枕草子』概説・参考文献紹介
以下、担当者を割り当て演習発表を行ってもらう。
(3～5)「春はあけぼの」
(6～11)「正月一日は」①～⑥
(12)「三月三日は」
(13)「四月、祭のころ」
(14)まとめ

履修上の注意

遅刻・欠席が多い場合、評価の対象としない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業範囲の本文を読んでくる。

教科書

池田亀鑑校訂『枕草子』岩波文庫(税抜 1010 円)

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

コメントを付す。

成績評価の方法

演習発表(70%)、質疑応答を含む授業態度(30%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
生方 智子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

小説とは何か

小説を読むための基本的な方法を習得すること、また、論理的に考える力を養成することを目標とする演習である。まずは受講者全員でテキストを精読した上で、演習では担当者に担当分のテキストの内容と読み方のポイントを報告してもらい、それを受けて参加者全員で読み方の可能性について議論する。同時に、レジュメの作り方、発表の仕方、ディスカッション、レポートの書き方などを習得し、大学で学ぶために必要となる基礎的な力を養うことを到達目標とする。

また、本演習では、近代日本において小説というジャンルはどのように生成されたのかという歴史的視座を持ちながら、小説の展開を追っていく。日本語の小説は明治時代に初めて書かれ、その後、現代に至るまで「小説とは、何を・どのように描くのか」という探求は続いている。小説に内在する問題意識に触れることによって、受講者各自が、現在、何を問うことができるのか言語化を行い、その過程のなかで、受講者自身が自らの問いを持つことを目指す。

授業内容

1 イントロダクション 小説の読み方1
2 小説の読み方2(芥川龍之介「羅生門」大正 4 年を読む)
3 芥川龍之介「芋粥」(大正 5 年)の発表とディスカッション
4 芥川龍之介「蜜柑」(大正 8 年)の発表とディスカッション
5 谷崎潤一郎「幇間」(明治 44 年)の発表とディスカッション
6 谷崎潤一郎「母を恋うる記」(大正 8 年)の発表とディスカッション
7 永井荷風「狐」(明治 42 年)の発表とディスカッション
8 志賀直哉「小僧の神様」(大正 9 年)の発表とディスカッション
9 江戸川乱歩「人間椅子」(大正 14 年)の発表とディスカッション
10 江戸川乱歩「押絵と旅する男」(昭和 4 年)の発表とディスカッション
11 太宰治「魚腹記」(昭和 8 年)の発表とディスカッション
12 太宰治「畜犬談」(昭和 14 年)の発表とディスカッション
13 レポート提出と現代小説をめぐるディスカッション
14 レポート返却と個別指導

履修上の注意

(1)授業で取り上げたテーマを出発点として自ら参考となる文献や資料をリサーチし、自主的にテクストを精読することを求める。
(2)文学作品を読むことを通して、「何が現代の問題につながっているのか」「今、何をテーマとして考えることが有意義なのか」を問うていく。授業を通して、受講者各自が自分自身の問題設定を立てられるようになることを求める。単なる感想レベルの説明のみでは評価の対象とはならないので注意すること。
(3)レポートは添削して個別指導を行う。基準点に満たない場合については学期スケジュール内で可能な限り再提出を求めるが、学期内で合格点に満たない場合には単位は付与しない。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、文学作品について調べた上で、作品の精読を行っておくこと。復習として、関連する作品を調査して読むこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

レポートは添削して返却し、個別指導を行う。

成績評価の方法

平常点(発表・ディスカッションでの発言含む)50 パーセント、レポート 50 パーセント。

その他

参加者には発表とレポート提出を課す。また、ディスカッションへの貢献も求める。積極的な参加を期待する。

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
木越 俊介	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

『源氏物語』と『修紫田舎源氏(にせむらさきいなかげんじ)』(初編・二編)を比較し、『源氏物語』におけるストーリーや場面が『田舎源氏』においてどのように置き換えられ、新たな作品として結実しているかについて、絵にも注目しながら比較し、語彙を調べ、考察をペーパーにまとめて発表し、討論する。

文章読解、文章表現、文献検索、ペーパー作成、口頭での発表・討論等の演習指導をおこない、人文学における基礎的なスキルを身につけることを学習の目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクション『修紫田舎源氏』とは何か
『修紫田舎源氏』の概要を紹介し、文学史上の位置づけを確認する。
第2回:『修紫田舎源氏』導入部を読む
序文読解、ならびに江戸時代の注釈書『湖月抄』の説明をする。
第3回:『修紫田舎源氏』1 初編・冒頭から13頁末尾まで
※第3回以降は、担当者はペーパーを作成し、それに基づき口頭発表する。他の学生は発表を受け活発な討論を行う。
第4回:『修紫田舎源氏』2 初編・14頁から19頁下段4行目「…連れて奥へぞ入り給ふ」まで
第5回:『修紫田舎源氏』3 初編・19頁下段5行目「寛仁大度の仰せには…」から23頁下段9行目「…まつたく偽筆」まで
第6回:『修紫田舎源氏』4 初編・23頁下段10行目「さればその事にて…」から28頁下段8行目「…嵯峨野へ送り給ひけり」まで
第7回:『修紫田舎源氏』5 初編・28頁下段9行目「さらでも秋の夕暮は…」から32頁下段5行目「襖閉て切り入りにけり」まで
第8回:『修紫田舎源氏』6 初編・32頁下段4行目「表の方に人の来る…」から37頁末尾まで
第9回:『修紫田舎源氏』7 二編・42頁から47頁下段11行目「…未頼もしくぞ見えにける」まで
第 10 回:『修紫田舎源氏』8 二編・47頁下段12行目「次郎の君…」から53頁上段3行目「…身を潜めてぞ窺ひゐる」まで
第 11 回:『修紫田舎源氏』9 二編・53頁上段4行目「光氏しばしうち案じ…」から58頁上段末尾まで
第 12 回:『修紫田舎源氏』10 二編・58頁下段から64頁上段3行目「…館へ帰り給ひけり」まで
第 13 回:『修紫田舎源氏』11 二編・64頁上段4行目「後は松風吹き添ひて…」から69頁上段12行目「…畳蹴たてゝ帰りけり」まで
第 14 回 a:『修紫田舎源氏』12 二編・69頁上段13行目「光氏はにつこと笑ひ…」から74頁末尾まで
b:演習総括

履修上の注意

高校古典の基礎を取得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中の担当者作成のペーパーを振り返り、自分の理解を確認し、不明な点があれば次回質問すること。また、『修紫田舎源氏』テキストの次回の箇所の精読、分からない語句の下調べをする。予習には 90 分、復習には 30 分程要する。

教科書

新日本古典文学大系 88『修紫田舎源氏 (上)』(岩波書店、1995)
※授業で扱う箇所をコピーで配布する。

参考書

新編日本古典文学全集 20『源氏物語(1)』(小学館、1994)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表に対して、授業中 10 分程度の講評を行う。さらに第 14 回において、授業全体の振り返りを 30 分程度行う。

成績評価の方法

調査・分析、ペーパーの作成と発表を 50%、質疑応答など、授業への貢献度を 30%、予習復習を 20%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 栄美子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

芥川龍之介を読む。日本の古典文学に題材を求めた作品、明治初期の開化期を舞台とした作品、中国の古典を題材とした作品など、どのように語られているか、ナラティヴの観点から作品構造を分析しつつ、多彩な作品世界が展開する芥川の小説を精読する。

高等学校国語教科書に掲載された「羅生門」でおなじみの芥川の全体像を理解しながら、文献調査や口頭発表の基礎的な技術を身につけることで、大学で学ぶための基礎力を養成することを目的とする。

授業内容

第1回 日本近代文学を学ぶ意義について考える。
第2回 芥川文学についての概論および文献調査のための方法1
第3回 芥川文学についての概論および文献調査のための方法2
第4回 発表とディスカッション1「地獄変」
第5回 発表とディスカッション2「邪宗門」
第6回 発表とディスカッション3「藪の中」
第7回 発表とディスカッション4「袈裟と盛遠」
第8回 発表とディスカッション5「六の宮の姫君」
第9回 発表とディスカッション6「或日の大石内蔵之助」
第 10 回 発表とディスカッション7「戯作三昧」
第 11 回 発表とディスカッション8「枯野抄」
第 12 回 発表とディスカッション9「舞踏会」
第 13 回 発表とディスカッション 10「秋山図」
第 14 回 まとめ
＊学習効果を高めるために、授業内容を変更することがある。

履修上の注意

発表やディスカッションに意欲をもって臨んでほしい。発表者はレジュメを用意する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、必ず作品を読み、問題点を検討しておくこと。事後学習として、授業で取り上げた作品を再読し、紹介した文献を調査すること。

教科書

芥川龍之介『地獄変・邪宗門・好色・藪の中』(岩波文庫)
芥川龍之介『或日の大石内蔵之助・枯野抄』(岩波文庫)

参考書

庄司達也編『芥川龍之介ハンドブック』(鼎書房)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に解説の時間を設けて講評をおこなう。

成績評価の方法

演習の発表 40%、学期末レポート 40%、授業中の発言など平常点 20%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本文学を研究するに当たって必要な知識や方法を演習形式で学ぶ。様々な古典に触れながら、古典読解に必要な作法を身につける。

(到達目標)

・本文(テキスト)や関係諸資料の探し方、収集方法を学ぶ。
・研究文献の入手方法を学ぶ。
・文献学について学ぶ。
・本文読解の方法と問題点の見つけ方を学ぶ。
・発表とレポートについて、基礎的な訓練をする。
・様々な古典に親しむ。

授業内容

『【年表資料】中世文学史 新装版』を教科書とする。

この教科書ではさまざまなジャンルの中世文学が取り上げられている(和歌、連歌、歌謡、日記・紀行、随筆、法語・五山文学、説話、軍記物語、史論・歴史物語、御伽草子、能・狂言、キリシタン文学)。

テキストで取り上げられているものから1つを選び、その本文(テキスト)について調査する。どのような写本があるか、本文研究の現状はどうかを調べる。文献学的研究の現状を調査しつつ、関係する資料についても探究する。この作業を通して、古典の本文の扱い方や資料の入手方法を学ぶ。

また入手した本文・資料を読解するために必要となる道具類(辞書やデータベースなど)について学ぶ。

授業は演習形式(発表と質疑応答・議論)で行う。参加者はそれぞれ担当する作品を決め、順に発表を行う。担当する作品の本文について調査した結果を報告し、関連資料を紹介する。疑問点・問題点が生じた場合には、それについて調査した結果を報告する。

古典読解のための基礎的な手順や、発表の仕方、レポートのまとめ方を身につけることが肝要であるが、同時に古典文学作品を読むことの面白さも実感したい。

(1) 古典文学の世界への誘い
(2) 文献学について
(3) 調査方法と発表の仕方
(4) 和歌
(5) 連歌・歌謡
(6) 日記・紀行、能・狂言、キリシタン文学
(7) 随筆
(8) 法語・五山文学
(9) 説話
(10) 軍記物語・史論・歴史物語
(11) 御伽草子・能・狂言・キリシタン文学
(12) 再調査とその報告(1)
(13) 再調査とその報告(2)
(14) 総括

履修上の注意

資料探索と本文読解のために、相当の努力と時間が必要である。古典に興味・関心を持ち、積極的な態度で発表と質疑応答に臨んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱われる古典について、あらかじめ調べておく。

教科書

藤平春男・井上宗雄・山田昭全・和田英道編『【年表資料】中世文学史 新装版』笠間書院、2008 年

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にレポートの講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)とレポート(60%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

李白と杜甫の詩を読む

詩は中国古典文学における主要なジャンルの一つであるが、その詩型(律詩・絶句)などの規則が定まって大きく発展を見たのが唐代である。そのなかでも、唐代のみならず中国を代表する詩人が、盛唐の李白と杜甫である。本授業では、この二人の詩の訓読・日本語訳と詩語への注釈を作成することを通して、漢詩読解のための作業手順を理解し、読解のための基礎力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回 a:李白と杜甫について
第2回:発表レジュメ作成の手順1:使用テキスト・工具書について
第3回:発表レジュメ作成の手順2:レジュメの体裁・作成手順について
第4回:李白・杜甫詩読解1
第5回:李白・杜甫詩読解2
第6回:李白・杜甫詩読解3
第7回:李白・杜甫詩読解4
第8回:李白・杜甫詩読解5
第9回:李白・杜甫詩読解6
第 10 回:李白・杜甫詩読解7
第 11 回:李白・杜甫詩読解8
第 12 回:李白・杜甫詩読解9
第 13 回:李白・杜甫詩読解 10
第 14 回:李白・杜甫詩読解 11
＊発表担当者数や必要な注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。その場合、シラバスの補足に適宜記載する。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を要求する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は以下の各項目を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。
○詩本文の訓読(使用する底本の返り点や辞書を引いて作成)
○押韻と平仄(授業の中で示す調べ方で作成)
○詩語への注釈(辞書義・辞書が引く用例で各種漢文大系にあるもの 2 例・『全唐詩』検索で探した用例 2 例)
○日本語訳(原文と注釈からなぜその翻訳になったのかプロセスを説明できるように作成)
また、発表後に授業内容を反映した訳注を基にレポートを作成する。その他の参加者は質疑応答で質問するために次回読む詩を予習しておく。

教科書

なし。

参考書

授業中に示す。

課題に対するフィードバックの方法

担当者の発表に対し、参加者全員が意見・質問を提出し、それに対して担当者が回答する。議論の中で適宜教員が概括・補足を行い、そのやりとりを踏まえた内容をレポートとして文章化してもらう。

成績評価の方法

演習発表(40%)、レポート(30%)、質疑応答における発言(参加態度を含む、30%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可、ジャパンナレッジで『大漢和辞典』が引ける)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhone アプリ有)。

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

遠藤周作の小説『おバカさん』(1958 年)と『わたしが・棄てた・女』(1964 年)を読む。
西洋文明の根幹にあるキリスト教を作品に取り入れた日本の文学者が数多くいる。そのうち、小説家遠藤周作(1923-1996) が際立つ存在である。長編小説『おバカさん』と『わたしが・棄てた・女』は、主人公たちの無私と愛の実践を示してくれる。学生は、遠藤文学を通して、ユーモアと感動の渦巻きの中で、博愛・平等・自由・平和を唱えるキリスト教の精神に馴染むことができる。学期の前半は『おバカさん』を、後半は『わたしが・棄てた・女』を読み、イエス・キリストとはだれか、主人公はキリストとどのような関係があるか、主人公は他の人物にいかなる影響を与えたのか、キリスト的人物の創造は日本文学にとってどのような意味があるかを考えながら、日本近代文学におけるキリスト教精神の存在を理解することができる。なぜ文学作品を読むのか、文学のフィックションからどのような精神上の糧が得られるか、キリスト教文学の精神から何を学ぶべきかを念頭に置きつつ、遠藤文学の奇想天外の展開と一貫した基調を楽しむ。受講者がテキストを精読するとともに、演習担当者は、それぞれ担当分のテキストの内容を報告し、先行研究に触れる役割がある。担当者以外は、その演習報告にコメントし、報告者に質問し、報告内容について活発な議論をすることが期待される。
テキストの理解、関連情報の収集、発表レジュメの作成、発表とディスカッションの方法、レポートの書き方などを習得し、文学理解の能力を養うことを目標とする。

授業内容

1回目『おバカさん』の主人公のモデルと創作動機を知り、『おバカさん』の第1章(ナポレオンの子孫)を読み、問題意識を育てる。
2回目『おバカさん』(主人公登場、?)の発表とディスカッション
3回目『おバカさん』(一人ぼっち、東洋の隠者)の発表とディスカッション
4回目『おバカさん』(山谷の夜、わな)の発表とディスカッション
5回目『おバカさん』(信ずることと疑うこと、星よ光れ)の発表とディスカッション
6回目『おバカさん』(北の国へ、地図)の発表とディスカッション
7回目『おバカさん』(暗い沼、しらさぎ)の発表とディスカッション
8回目『わたしが・棄てた・女』の主人公のモデルと創作動機を知り、『わたしが・棄てた・女』(僕の手記 1、2、3)を読み、問題意識を育てる。
9回目『わたしが・棄てた・女』(手の首のアザ1;僕の手記4、5)の発表とディスカッション
10 回目『わたしが・棄てた・女』(僕の手記6、手の首のアザ2、3)の発表とディスカッション
11 回目『わたしが・棄てた・女』(手の首のアザ4、5)の発表とディスカッション
12 回目『わたしが・棄てた・女』(僕の手記7)の発表とディスカッション。
　　レポート提出(2,500~3,000 字、クラスウェブへ):7 月 10 日(金)19:00。〆切厳守!
13 回目 レポート内容について 1 人 20 分ずつ、口頭発表
14 回目　　レポート内容について 1 人 20 分ずつ、口頭発表

履修上の注意

1、小説のテキストを丹念に繰り返し読み、言葉の意味をよく調べ、時代背景を把握し、人物間の関係を理解し、主人公の言動に十分留意する。
2、演習担当者は、レジュメの作成を丁寧に作り、クラスの参加者と教員に配布し、自分の研究内容を説明する。
3、レジュメは、a. 言葉の意味、b. 時代背景、c. 人物間の関係、d. 担当箇所以前の筋とのつながり、e. 先行研究、f. 質問を入れる。
4、学生全員は積極的に質問し、議論に参加し、説得力をもって独自な意見を呈示する。
5、クラス全員の毎回の出席が必須であり、病気の場合は診断書の提出が義務付けられる。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)事前学習として、テキストを精読し、興味を覚えた部分や疑問を感じた部分を整理する。それらの部分について、クラスでディスカッションする。
(2)事後学習として、授業で取り上げられた部分を再読し、理解を深める。
(3)作品を通して、作中人物はどのような性格と道徳観をもち、作中ではどのような社会問題が暗示され、文学と人生はどのような関係があるかを考える。
(4)演習を通して、問題意識を育てて、関係資料を探し、先行研究を参考し、文学研究の方法に馴染む。

教科書

遠藤周作『おバカさん』(角川文庫 2019 年)、『わたしが・棄てた・女』(講談社文庫、2012 年)

参考書

文藝春秋編『遠藤周作のすべて』(文春文庫、1998 年)、佐藤泰正編『遠藤周作を読む』(笠間書院、2004 年)、山根道公『遠藤周作の文学とキリスト教』(日本キリスト教団出版局、2024 年)

課題に対するフィードバックの方法

1)授業中、学生の質問、感想、議論に対して、教員は随時、コメントする。
2)演習レジュメの内容に対して、教員はコメントし、訂正意見を出す。
3)期末レポートに対して、教員はコメントし、成績を出す。
4)期末レポートの発表に対して、教員はコメントし、評価を出す。

成績評価の方法

平常点(演習発表・質疑応答・コメント・ディカッション):56 %(4% x 14 回)
期末レポート:44 %
合計:100%

その他

演習計画にしたがい、早めに準備をおこない、期末レポートの〆切を厳守することが期待される。

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)A	**基礎演習(日本文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小滝 真弓	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

平安前期に成立した『竹取物語』を読む。物語文学の祖とされる『竹取物語』には、古い伝承や中国文学の影響に加え、道教や仏教などの知識が反映されており、独自の世界観を構築している。本授業では『竹取物語』の表現に着目しつつ、平安文学を学ぶうえでの基礎知識と、関連資料や文献の調査方法を身につける。

授業内容

本授業は演習形式(発表と質疑応答)で行う。参加者は担当する本文について調査した結果を報告し、関連資料を紹介する。質疑応答を通じて疑問点・問題点が生じた場合には、それについて調査した結果を報告する。
第1・2回、発表の担当決め・『竹取物語』概説・参考文献紹介・発表の仕方について
(以下、担当者による発表)
第3・4回、かぐや姫の生い立ち
第5・6回、5人の求婚者
第7・8回、仏の御石の鉢
第9~14 回、蓬莱の玉の枝
(*参加者の人数に応じ、授業内容を変更する可能性がある。)

履修上の注意

受講者の人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なため、無断欠席は絶対に行わないこと。
また本授業では、関連論文等に加え、同時代の他の作品や、仏典、漢籍などを用いた広範な調査が求められる。発表準備に相当の労力を要するため、主体的な姿勢で臨んで欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り上げる範囲の本文をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

新版 竹取物語 現代語訳付き (室伏信助、角川ソフィア文庫、2001)
(※誤ってビギナーズ・クラシックス版を入手しないように注意すること)

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表内容に対して講評を行う。

成績評価の方法

資料および発表内容(70%)、積極的な質問など授業への参加度(30%)によって判断する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

近・現代文学を研究する際の基礎的な手続きや方法論について学ぶ。具体的には、戦後(1945～1956 あたりまで)の詩・小説・評論・短歌・俳句・戯曲など複数のジャンルの作品を扱いながら発表演習を行う。情報収集とその提示のスキルを磨き、質疑応答の実践を重ねることによって、文学研究に必要な基礎的な議論を構築できるようになることを目指す。

授業内容

第1回 概説・導入／発表担当決定
第2回 デモンストレーション(模擬演習)
第3回 黒田三郎「時代の囚人」(詩)
第4回 石垣りん「家」(詩)
第5回 原民喜「鎮魂歌」(長編詩)
第6回 野間宏「顔の中の赤い月」(小説)
第7回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(小説)
第8回 武田泰淳「ひかりごけ」(レーゼドラマ)
第9回 田村泰次郎「肉体が人間である」(評論)
第 10 回 寺山修司「祖国喪失」(短歌)
第 11 回 金子兜太「トラック島」(俳句)
第 12 回 安部公房「どれい狩り」(戯曲)
第 13 回 受講者によるディスカッション
第 14 回 まとめ／総括
※履修人数や進捗状況によって内容を調整することがあります。

履修上の注意

取り上げるのはすべて戦後十年ほどの間に書かれた「戦後文学」であるため、同じ時代的思潮を共有するそれぞれの作品の共通点や相違点に留意しつつ、積極的に議論を深めてほしい。なお自分の発表だけでなく、他の履修者の発表に対する応答も同程度に重要な評価の対象となるので、そのつもりで臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当時以外も、対象作品を精読し疑問点や意見をクリアにしておくこと。議論で消化できなかったところがあれば各自で参考文献を集めるなどして、期末レポートに備えてほしい。

教科書

指定しない。それぞれの作品の収録本については別途紹介する。

参考書

紅野敏郎ほか編『日本近代短編小説選 昭和篇2』(岩波文庫)、飛高隆夫・野山嘉正編『展望現代の詩歌』全 11 巻(明治書院)など。

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表や質疑に対する講評は授業の終盤におこなう。また、期末レポートに関する全体講評は、Oh-o! Meiji で履修者に向けて公開する。

成績評価の方法

発表内容と平常点 50%、期末レポート 50%で評価する。平常点は授業時の発言や参加姿勢などによって総合的に判断する。なお、欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合は、発表や質疑の内容にかかわらず、単位を認定しない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

[概要]
今後4年生となるまで、研究および学習を行なっていくにあたって必要となる基礎的知識および技術を演習形式で学ぶ。その中でも、この基礎演習は、国語学的な研究方法を主として学ぶことを目的とする。言葉をどのような観点から調査・考察して、どのような分析を行ない、どういった結論をだして、どのように表現するのかという、一連の手順を習得する。
秋学期配当の B は、現代語のオノマトペの類義語(「きりきり」と「しくしく」は、どちらの痛みがつらいか、のような)についての調査・分析・考察を行なう。
[到達目標]
過不足ない調査、見やすい資料作成、明快な発表ならびに質疑を行えるようになることが到達目標となる。

授業内容

基本的方法を説明したあと、課題について、受講生が調査、プリントを作成・発表し、全体で討議するという形式を基本とする。
1. この演習の目的と方法
2. 発表資料作成法
3. Web 情報の採集法
4. 日本語オノマトペ概説
5. 類義オノマトペの意味差(受講生の演習発表、1～7)
6. 発表の振り返り
7. レポート作成の要点
8. まとめ[aモジュールで終了]
(受講生数との兼ね合いで回数が変動するテーマもある)

履修上の注意

インターネットにアクセスできるようにしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]
1. 自分たちが担当する類義語の用法にアンテナを張っておく。
2. さまざまな検索方法を用いて、類義語の用法についての理解を深めておく。
3. 発表時の資料について、発表者同士で情報交換・共有をし、過不足ない発表を心がける。
[復習]
1. 討議結果を整理して、どのようなことをレポートに反映させればよいかを考えておく。
2. 疑問に思えた点は、さまざまな検索方法を用いて追加調査する。

教科書

特に用いない。プリントを作成、配布。受講生の発表の際は、発表者が作成・印刷したプリントを配付する。

参考書

國廣哲彌他『ことばの意味 1～3』(平凡社)
森田良行『基礎日本語辞典』(角川書店)
小野正弘『くらべてわかるオノマトペ』(東洋館出版)
山口 仲美／ 佐藤 有紀『「擬音語・擬態語」使い分け帳』(山海堂)

課題に対するフィードバックの方法

・毎回、リアクションペーパーを配付し、フィードバックの必要があるものは、次回にコメントする。
・演習発表に関する、受講生からのコメントについて、フィードバックの必要があるものは、適宜、コメントする。
・ディスカッションについて、フィードバックの必要があるものは、適宜、コメントする。

成績評価の方法

演習の発表(40%、レポート(年度末1回, 40%)、平常点(リアクションペーパー、発言等を総合、20%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
三田 誠司	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

奈良時代末の成立と考えられる萬葉集には長い研究史があり、その注釈書も数多い。本授業では山田孝雄氏の『萬葉集講義 巻第一』(昭和３年刊)を取り上げて、萬葉歌の一語一語に付された解説を読み解いていく。本書の刊行はおよそ百年前。訂正すべきところもあるが、その論証の方法は現代から見ても優れている。

授業は、受講生が輪番制で自分が担当する箇所について資料を作成し、解説の文中に現れる諸文献や研究用語等について調査を行い、発表を行う形で進められる。これらの作業をとおして、関連文献についての知識や古典文法について基礎的知識を身につけ、レポート作成や発表などの技術を体得することを到達目標とする。 秋学期は、萬葉集巻第一の一七番歌から一九番歌を読む。

授業内容

第1回 『萬葉集講義』の概要と演習方法について
第2回 発表資料の作成方法について 図書館の利用法について
第3回 発表と質疑応答について
第4回 巻1・一七番歌 ○味酒 ○三輪乃山 ○青丹吉
第5回 ○奈良能山乃 ○山際 ○伊隠萬代
第6回 ○道隈 ○伊積萬代爾
第7回 ○委曲
第8回 ○見管行武雄 ○数々毛 ○見放武八萬雄(4 行まで)
第9回 ○見放武八萬雄(4 行から)○以上 ○情無
第 10 回 ○雲乃 ○隠障倍之也 ○一首の意
第 11 回 巻1・一八番歌 ○然毛隠賀 ○雲谷裳 ○情有南畝(p109、3 行「論の外なり」まで)
第 12 回 ○情有南畝(p109、3 行「さて諸家が」から)○可苦佐布倍思哉 ○一首の意
第 13 回 巻1・一九番歌 ○林始乃
第 14 回 ○衣爾著成 ○目爾都久和我勢

履修上の注意

・発表者以外の受講生は、発表内容に対する質疑応答に積極的に参加することを望む。
・第2回は、授業の後半で図書館へ移動する予定である。詳細は第1回の授業で予告する。
・第4回以降の内容は受講者人数等により調整を行うことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

・発表担当者は、旧字体・旧仮名遣いの本文を適切に現在通用の字体・新字体に直すとともに、文語文の解説を現代文に直すことを第一の目標として資料作成に当たること。
・担当箇所により、入手しにくい文献や難解な部分もある。そうした場合の対処の仕方については事前に指示を与えるので注意しておくこと。
・復習として、発表箇所について質疑応答の際に疑問点が生じた部分について再調査を行うこと。その再調査は、期末のレポートに反映させること。

教科書

なし。必要なテキストは授業担当者がプリントし配布する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表終了後、資料の修正を要する箇所等を指摘する。

成績評価の方法

発表およびレポート(60%)、授業中の質疑等発言内容(20%)、授業時間内のミニテスト(20%)により評価する。ミニテストは、旧字体の漢字を新字体に直す、短い文語文を現代文に直すなど、基礎的な内容とする。

その他

なし。

科目ナンバー：(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

平安時代の作品『枕草子』を読む。具体的には『枕草子』の日記的章段を分担して発表する。当時の政治状況や文化的背景を踏まえながら、平安文学を学ぶ上での基礎知識と調べ方を身につける。

授業内容

『枕草子』は、平安時代中期、中宮定子付きの女房であった清少納言が執筆した作品である。内容は、「ものづくし」で知られる類聚的章段、日記的章段、随想的章段などに分けられるが、比較的長文の多い、日記的章段「宮にはじめてまいりたるころ」を分担して発表する。この章段は、作者である清少納言が、初めて宮仕えをした頃の話となる。またこの章段に関連して、他の章段も読んでいく。発表者は、教員の指導の下、発表レジュメを作成し発表する。

(1～2)『枕草子』概説・参考文献紹介
以下、担当者を割り当て演習発表を行ってもらう。
(3～13)「宮にはじめてまいりたるころ」の分担発表(「類聚」「随想」といった他章段にも触れながら)

(14)まとめ

履修上の注意

遅刻・欠席が多い場合、評価の対象としない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業範囲の本文を読んでくる。

教科書

池田亀鑑校訂『枕草子』岩波文庫(税抜 1010 円)

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

コメントを付す。

成績評価の方法

演習発表(70%)、質疑応答を含む授業態度(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
木下 幸太	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習では、文学研究として小説を扱うための基礎的な方法を訓練する。全参加者で作品を精読した上で、担当者が作品と読み方の方法について報告をする。その後、参加者全体でディスカッションを行い、作品や分析方法への可能性を議論し、理解を深める。この過程で、調査、レジュメ作成、発表、ディスカッション、レポート作成の訓練を行い、大学で学習するのに必要なアカデミックスキルを学ぶことを目標とする。

本演習では指定した教科書をもとに作品の報告をしてもらう。教科書では各作品に対して文学研究で用いられる分析概念を踏まえて説明がされている。文学作品だけではなく、教科書においてどのように説明されているか熟読することで、分析の方法や分析内容の論理の立て方を学ぶ。

授業内容

1. イントロダクション、報告スケジュール決定
2. 小説を読むこと、小説を分析すること
3. 夏目漱石「夢十夜 第一夜」：教員模擬報告とディスカッション
4. 森鷗外「高瀬舟」①：報告とディスカッション
5. 森鷗外「高瀬舟」②：報告とディスカッション
6. 芥川龍之介「南京の基督」①：報告とディスカッション
7. 芥川龍之介「南京の基督」②：報告とディスカッション
8. 川端康成「伊豆の踊子」①：報告とディスカッション
9. 川端康成「伊豆の踊子」②：報告とディスカッション
10. 岡本かの子「老妓抄」①：報告とディスカッション
11. 岡本かの子「老妓抄」②：報告とディスカッション
12. 太宰治「桜桃」①：報告とディスカッション
13. 太宰治「桜桃」②：報告とディスカッション
14. まとめ、期末レポート提出

履修上の注意

本演習では扱う作品はあらかじめ読んでおくこと。

「授業の概要・到達目標」でも書いたが、文学作品だけではなく、教科書の作品分析もよく読むこと。作品と分析を併せて読めるようになることが、文学研究では必要となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として報告のための調査・レジュメ作成、復習として報告・ディスカッションを踏まえて期末レポートを作成。

教科書

『テクスト分析入門』松本和也編著(ひつじ書房)

※この教科書に、授業内で扱う作品の全文が掲載されているので必ず用意すること。

参考書

具体的なテーマにかんしては授業内で適宜紹介する。

大学における調査・調査内容の整理・発表については『アカデミック・スキルズ(第 4 版)：AI 時代の知的技法入門』 佐藤望ら編著(慶応義塾大学出版会)が分かりやすい。

日本近現代文学研究において、どのようなテーマが議論になるのか知りたい場合は『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編(ひつじ書房)で目次・各項目を読んでキーワードを知るとよい。

分析や批評方法のバリエーションが知りたい場合は、『「感想文」から「文学批評」へ』小林真大(小鳥遊書房)が分

課題に対するフィードバックの方法

報告・コメントに対して返答をする。レポートには Oh-o! Meiji を介してコメントをする。

成績評価の方法

平常点(出席回数、報告・ディスカッションへの参加)50%、期末レポート 50%で評価する。

その他

扱う作家・作品やジャンルへの背景知識などは求めない。しかし、本授業は演習であるため、参加者のなかでも学生の授業への参加・貢献の比率が高くなる。考えたこと、気になったことを積極的に発言し、他の参加者(教員も含む)に共有してもらいたい。

科目ナンバー：(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
木越 俊介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

『源氏物語』と『修紫田舎源氏(にせむらさきいなかげんじ)』(初編・二編)を比較し、『源氏物語』におけるストーリーや場面が『田舎源氏』においてどのように置き換えられ、新たな作品として結実しているかについて、絵にも注目しながら比較し、語彙を調べ、考察をペーパーにまとめて発表し、討論する。

文章読解、文章表現、文献検索、ペーパー作成、口頭での発表・討論等の演習指導をおこない、人文学における基礎的なスキルを身につけることを学習の目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクション『修紫田舎源氏』とは何か

『修紫田舎源氏』の概要を紹介し、文学史上の位置づけを確認する。

第2回:『修紫田舎源氏』導入部を読む

序文読解、ならびに江戸時代の注釈書『湖月抄』の説明をする。

第3回:『修紫田舎源氏』1 初編・冒頭から13頁末尾まで

※第3回以降は、担当者はペーパーを作成し、それに基づき口頭発表する。他の学生は発表を受け活発な討論を行う。

第4回:『修紫田舎源氏』2 初編・14頁から19頁下段4行目「…連れて奥へぞ入り給ふ」まで

第5回:『修紫田舎源氏』3 初編・19頁下段5行目「寛仁大度の仰せには…」から23頁下段9行目「…まつたく偽筆」まで

第6回:『修紫田舎源氏』4 初編・23頁下段10行目「さればその事にて…」から28頁下段8行目「…嵯峨野へ送り給ひけり」まで

第7回:『修紫田舎源氏』5 初編・28頁下段9行目「さらでも秋の夕暮は…」から32頁下段5行目「襖閉て切り入りにけり」まで

第8回:『修紫田舎源氏』6 初編・32頁下段4行目「表の方に人の来る…」から37頁末尾まで

第9回:『修紫田舎源氏』7 二編・42頁から47頁下段11行目「…末頼もしくぞ見えにける」まで

第 10 回:『修紫田舎源氏』8 二編・47頁下段12行目「次郎の君…」から53頁上段3行目「…身を潜めてぞ窺ひゐる」まで

第 11 回:『修紫田舎源氏』9 二編・53頁上段4行目「光氏しばしうち案じ…」から58頁上段末尾まで

第 12 回:『修紫田舎源氏』10 二編・58頁下段から64頁上段3行目「…館へ帰り給ひけり」まで

第 13 回:『修紫田舎源氏』11 二編・64頁上段4行目「後は松風吹き添ひて…」から69頁上段12行目「…畳蹴たてゝ帰りけり」まで

第 14 回 a:『修紫田舎源氏』12 二編・69頁上段13行目「光氏はにつこと笑ひ…」から74頁末尾まで

b:演習総括

履修上の注意

高校古典の基礎を取得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中の担当者作成のペーパーを振り返り、自分の理解を確認し、不明な点があれば次回質問すること。また、『修紫田舎源氏』テキストの次回の箇所の精読、分からない語句の下調べをする。

教科書

新日本古典文学大系 88『修紫田舎源氏 (上)』(岩波書店、1995)

※授業で扱う箇所をコピーで配布する。

参考書

新編日本古典文学全集 20『源氏物語(1)』(小学館、1994)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表に対して、授業中 10 分程度の講評を行う。さらに第 14 回において、授業全体の振り返りを 30 分程度行う。

成績評価の方法

調査・分析、ペーパーの作成と発表を 50%、質疑応答など、授業への貢献度を 30%、予習復習を 20%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 栄美子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

芥川龍之介を読む。日本の古典文学に題材を求めた作品、明治初期の開化期を舞台とした作品、中国の古典を題材とした作品など、どのように語られているか、ナラティヴの観点から作品構造を分析しつつ、多彩な作品世界が展開する芥川の小説を精読する。

高等学校国語教科書に掲載された「羅生門」でおなじみの芥川の全体像を理解しながら、文献調査や口頭発表の基礎的な技術を身につけることで、大学で学ぶための基礎力を養成することを目的とする。

授業内容

第1回 日本近代文学を学ぶ意義について考える。
第2回 芥川文学についての概論および文献調査のための方法1
第3回 芥川文学についての概論および文献調査のための方法2
第4回 発表とディスカッション1「地獄変」
第5回 発表とディスカッション2「邪宗門」
第6回 発表とディスカッション3「藪の中」
第7回 発表とディスカッション4「袈裟と盛遠」
第8回 発表とディスカッション5「六の宮の姫君」
第9回 発表とディスカッション6「或日の大石内蔵之助」
第 10 回 発表とディスカッション7「戯作三昧」
第 11 回 発表とディスカッション8「枯野抄」
第 12 回 発表とディスカッション9「舞踏会」
第 13 回 発表とディスカッション 10「秋山図」
第 14 回 まとめ
＊学習効果を高めるために、授業内容を変更することがある。

履修上の注意

発表やディスカッションに意欲をもって臨んでほしい。発表者はレジュメを用意する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、必ず作品を読み、問題点を検討しておくこと。事後学習として、授業で取り上げた作品を再読し、紹介した文献を調査すること。

教科書

芥川龍之介『地獄変・邪宗門・好色・藪の中』(岩波文庫)
芥川龍之介『或日の大石内蔵之助・枯野抄』(岩波文庫)

参考書

庄司達也編『芥川龍之介ハンドブック』(鼎書房)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に解説の時間を設けて講評をおこなう。

成績評価の方法

演習の発表 40%、学期末レポート 40%、授業中の発言など平常点 20%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

日本文学を研究するに当たって必要な知識や方法を演習形式で学ぶ。様々な古典に触れながら、古典読解に必要な作法を身につける。

(到達目標)

・本文(テキスト)や関係諸資料の探し方、収集方法を学ぶ。
・研究文献の入手方法を学ぶ。
・文献学について学ぶ。
・本文読解の方法と問題点の見つけ方を学ぶ。
・発表とレポートについて、基礎的な訓練をする。
・様々な古典に親しむ。

授業内容

『【年表資料】中世文学史 新装版』を教科書とする。

この教科書ではさまざまなジャンルの中世文学が取り上げられている(和歌、連歌、歌謡、日記・紀行、随筆、法語・五山文学、説話、軍記物語、史論・歴史物語、御伽草子、能・狂言、キリシタン文学)。

テキストで取り上げられているものから1つを選び、その本文(テキスト)について調査する。どのような写本があるか、本文研究の現状はどうかを調べる。文献学的研究の現状を調査しつつ、関係する資料についても探究する。この作業を通して、古典の本文の扱い方や資料の入手方法を学ぶ。

また入手した本文・資料を読解するために必要となる道具類(辞書やデータベースなど)について学ぶ。

授業は演習形式(発表と質疑応答・議論)で行う。参加者はそれぞれ担当する作品を決め、順に発表を行う。担当する作品の本文について調査した結果を報告し、関連資料を紹介する。疑問点・問題点が生じた場合には、それについて調査した結果を報告する。

古典読解のための基礎的な手順や、発表の仕方、レポートのまとめ方を身につけることが肝要であるが、同時に古典文学作品を読むことの面白さも実感したい。

(1) 古典文学の世界への誘い
(2) 文献学について
(3) 調査方法と発表の仕方
(4) 和歌
(5) 連歌・歌謡
(6) 日記・紀行、能・狂言、キリシタン文学
(7) 随筆
(8) 法語・五山文学
(9) 説話
(10) 軍記物語・史論・歴史物語
(11) 御伽草子・能・狂言・キリシタン文学
(12) 再調査とその報告(1)
(13) 再調査とその報告(2)
(14) 総括

履修上の注意

資料探索と本文読解のために、相当の努力と時間が必要である。古典に興味・関心を持ち、積極的な態度で発表と質疑応答に臨んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱われる古典について、あらかじめ調べておく。

教科書

藤平春男・井上宗雄・山田昭全・和田英道編 『【年表資料】中世文学史 新装版』笠間書院、2008 年

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にレポートの講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)とレポート(60%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

李白と杜甫の詩を読む

詩は中国古典文学における主要なジャンルの一つであるが、その詩型(律詩・絶句)などの規則が定まって大きく発展を見たのが唐代である。そのなかでも、唐代のみならず中国を代表する詩人が、盛唐の李白と杜甫である。本授業では、この二人の詩の訓読・日本語訳と詩語への注釈を作成することを通して、漢詩読解のための作業手順を理解し、読解のための基礎力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回 a:李白と杜甫について
第2回:発表レジュメ作成の手順1:使用テキスト・工具書について
第3回:発表レジュメ作成の手順2:レジュメの体裁・作成手順について
第4回:李白・杜甫詩読解1
第5回:李白・杜甫詩読解2
第6回:李白・杜甫詩読解3
第7回:李白・杜甫詩読解4
第8回:李白・杜甫詩読解5
第9回:李白・杜甫詩読解6
第 10 回:李白・杜甫詩読解7
第 11 回:李白・杜甫詩読解8
第 12 回:李白・杜甫詩読解9
第 13 回:李白・杜甫詩読解 10
第 14 回:李白・杜甫詩読解 11
＊発表担当者数や必要な注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。その場合、シラバスの補足に適宜記載する。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を要求する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は以下の各項目を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。
○詩本文の訓読(使用する底本の返り点や辞書を引いて作成)
○押韻と平仄(授業の中で示す調べ方で作成)
○詩語への注釈(辞書義・辞書が引く用例で各種漢文大系にあるもの 2 例・『全唐詩』検索で探した用例 2 例)
○日本語訳(原文と注釈からなぜその翻訳になったのかプロセスを説明できるように作成)
また、発表後に授業内容を反映した訳注を基にレポートを作成する。その他の参加者は質疑応答で質問するために次回読む詩を予習しておく。

教科書

なし。

参考書

授業中に示す。

課題に対するフィードバックの方法

担当者の発表に対し、参加者全員が意見・質問を提出し、それに対して担当者が回答する。議論の中で適宜教員が概括・補足を行い、そのやりとりを踏まえた内容をレポートとして文章化してもらう。

成績評価の方法

演習発表(40%)、レポート(30%)、質疑応答における発言(参加態度を含む、30%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可、ジャパンナレッジで『大漢和辞典』が引ける)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhone アプリ有)。

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

遠藤周作の小説『おバカさん』(1958 年)と『わたしが・棄てた・女』(1964 年)を読む。

西洋文明の根幹にあるキリスト教を作品に取り入れた日本の文学者が数多くいる。そのうち、小説家遠藤周作(1923-1996) が際立つ存在である。長編小説『おバカさん』と『わたしが・棄てた・女』は、主人公たちの無私と愛の実践を示してくれる。学生は、遠藤文学を通して、ユーモアと感動の渦巻きの中で、博愛・平等・自由・平和を唱えるキリスト教の精神に馴染むことができる。学期の前半は『おバカさん』を、後半は『わたしが・棄てた・女』を読み、イエス・キリストとはだれか、主人公はキリストとどのような関係があるか、主人公は他の人物にいかなる影響を与えたのか、キリスト的人物の創造は日本文学にとってどのような意味があるかを考えながら、日本近代文学におけるキリスト教精神の存在を理解することができる。なぜ文学作品を読むのか、文学のフィックションからどのような精神上の糧が得られるか、キリスト教文学の精神から何を学ぶべきかを念頭に置きつつ、遠藤文学の奇想天外の展開と一貫した基調を楽しむ。受講者がテキストを精読するとともに、演習担当者は、それぞれ担当分のテキストの内容を報告し、先行研究に触れる役割がある。担当者以外は、その演習報告にコメントし、報告者に質問し、報告内容について活発な議論をすることが期待される。

テキストの理解、関連情報の収集、発表レジュメの作成、発表とディスカッションの方法、レポートの書き方などを習得し、文学理解の能力を養うことを目標とする。

授業内容

1回目『おバカさん』の主人公のモデルと創作動機を知り、『おバカさん』の第1章(ナポレオンの子孫)を読み、問題意識を育てる。
2回目『おバカさん』(主人公登場、?)の発表とディスカッション
3回目『おバカさん』(一人ぼっち、東洋の隠者)の発表とディスカッション
4回目『おバカさん』(山谷の夜、わな)の発表とディスカッション
5回目『おバカさん』(信ずることと疑うこと、星よ光れ)の発表とディスカッション
6回目『おバカさん』(北の国へ、地図)の発表とディスカッション
7回目『おバカさん』(暗い沼、しらさぎ)の発表とディスカッション
8回目『わたしが・棄てた・女』の主人公のモデルと創作動機を知り、『わたしが・棄てた・女』(僕の手記 1、2、3)を読み、問題意識を育てる。
9回目『わたしが・棄てた・女』(手の首のアザ1;僕の手記4、5)の発表とディスカッション
10 回目『わたしが・棄てた・女』(僕の手記6、手の首のアザ2、3)の発表とディスカッション
11 回目『わたしが・棄てた・女』(手の首のアザ4、5)の発表とディスカッション
12 回目『わたしが・棄てた・女』(僕の手記7)の発表とディスカッション。
　　レポート提出(2,500~3,000 字、クラスウェブへ):1 月 8 日(金)19:00。〆切厳守!
13 回目 レポート内容について 1 人 20 分ずつ、口頭発表
14 回目　 レポート内容について 1 人 20 分ずつ、口頭発表

履修上の注意

1、小説のテキストを丹念に繰り返し読み、言葉の意味をよく調べ、時代背景を把握し、人物間の関係を理解し、主人公の言動に十分留意する。
2、演習担当者は、レジュメの作成を丁寧に作り、クラスの参加者と教員に配布し、自分の研究内容を説明する。
3、レジュメは、a. 言葉の意味、b. 時代背景、c. 人物間の関係、d. 担当箇所以前の筋とのつながり、e. 先行研究、f. 質問を入れる。
4、学生全員は積極的に質問し、議論に参加し、説得力をもって独自な意見を呈示する。
5、クラス全員の毎回の出席が必須であり、病気の場合は診断書の提出が義務付けられる。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)事前学習として、テキストを精読し、興味を覚えた部分や疑問を感じた部分を整理する。それらの部分について、クラスでディスカッションする。
(2)事後学習として、授業で取り上げられた部分を再読し、理解を深める。
(3)作品を通して、作中人物はどのような性格と道徳観をもち、作中ではどのような社会問題が暗示され、文学と人生はどのような関係があるかを考える。
(4)演習を通して、問題意識を育てて、関係資料を探し、先行研究を参考し、文学研究の方法に馴染む。

教科書

遠藤周作『おバカさん』(角川文庫 2019 年)、『わたしが・棄てた・女』(講談社文庫、2012 年)

参考書

文藝春秋編『遠藤周作のすべて』(文春文庫、1998 年)、佐藤泰正編『遠藤周作を読む』(笠間書院、2004 年)、山根道公『遠藤周作の文学とキリスト教』(日本キリスト教団出版局、2024 年)

課題に対するフィードバックの方法

1)授業中、学生の質問、感想、議論に対して、教員は随時、コメントする。
2)演習レジュメの内容に対して、教員はコメントし、訂正意見を出す。
3)期末レポートに対して、教員はコメントし、成績を出す。
4)期末レポートの発表に対して、教員はコメントし、評価を出す。

成績評価の方法

平常点(演習発表・質疑応答・コメント・ディカッション):56 %(4% x 14 回)
期末レポート:44 %
合計:100%

その他

演習計画にしたがい、早めに準備をおこない、期末レポートの〆切を厳守することが期待される。

科目ナンバー:(AL)LIT112J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(日本文学)B	**基礎演習(日本文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小滝 真弓	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

平安前期に成立した『竹取物語』を読む。物語文学の祖とされる『竹取物語』には、古い伝承や中国文学の影響に加え、道教や仏教などの知識が反映されており、独自の世界観を構築している。本授業では『竹取物語』の表現に着目しつつ、平安文学を学ぶうえでの基礎知識と、関連資料や文献の調査方法を身につける。

授業内容

本授業は演習形式(発表と質疑応答)で行う。参加者は担当する本文について調査した結果を報告し、関連資料を紹介する。質疑応答を通じて疑問点・問題点が生じた場合には、それについて調査した結果を報告する。
第1・2回、発表の担当決め・『竹取物語』概説・参考文献紹介・発表の仕方について
(以下、担当者による発表)
第3～6回、火鼠の皮衣
第7～10 回、龍の頸の玉
第 11～14 回、燕の子安貝
(＊参加者の人数に応じ、授業内容を変更する可能性がある。)

履修上の注意

受講者の人数にもよるが、基本的に毎回全員に意見を求める。発表が重要なため、無断欠席は絶対に行わないこと。
また本授業では、関連論文等に加え、同時代の他の作品や、仏典、漢籍などを用いた広範な調査が求められる。発表準備に相当の労力を要するため、主体的な姿勢で臨んで欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り上げる範囲の本文をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

新版 竹取物語 現代語訳付き (室伏信助、角川ソフィア文庫、2001)
(※誤ってビギナーズ・クラシックス版を入手しないように注意すること)

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表内容に対して講評を行う。

成績評価の方法

資料および発表内容(70%)、積極的な質問など授業への参加度(30%)によって判断する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT132F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(フランス文学)A	**基礎演習(フランス文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、フランス(語圏)の社会、文化、文学、芸術、思想に関するさまざまなテーマや作品を取り上げ、テクストや関連記事を読んだり映像資料を視聴したりして分析・考察し、知識を深めながら考える力を身につけていきます。また、口頭発表やレポート作成の方法を学び、理論的・客観的に論じる力を養っていきます。

授業内容

春学期は、以下のようなテーマ・作品を取り上げる予定ですが、履修者の興味・関心により、多少変更する可能性があります。
第 1 回 授業全体の説明
第 2 回 フランスの教育と学校制度:歴史と現在
第 3 回 映画『ちいさな哲学者たち』をめぐって
第 4 回 小説と哲学:ヴォルテール『カンディード』
第 5 回 風刺と批判精神:モンテスキュー『ペルシア人の手紙』
第 6 回 啓蒙とユートピア:マリヴォー『奴隷の島』
第 7 回 移民の歴史と現在(1)
第 8 回 移民の歴史と現在(2)
第 9 回 ライシテをめぐって(1)
第 10 回 ライシテをめぐって(2)
第 11 回 発表とディスカッション(1)
第 12 回 発表とディスカッション(2)
第 13 回 発表とディスカッション(3)
第 14 回 全体のまとめ
各回、扱うテーマや作品についてディスカッションをしたり、コメントを記述してもらう時間を設けます。

履修上の注意

事前配布資料や指定されたテクストをあらかじめ読み、ディスカッションでは考えたことを積極的に発言してください。
各回、授業内容についての筆記コメントを求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回、事前配布資料や指定された箇所を予習し、気になった事項などをまとめてきてください。授業で扱った内容を復習し、図書館に行く習慣もつけてください。
授業で取り上げるテーマについて、積極的に調べたり、参考文献を読んだりしてください。

教科書

授業やクラスウェブ上で資料を配布します。
授業で扱う文学作品については、文庫版を購入してもらうこともあります(授業で指示します)。

参考書

授業やクラスウェブ上で随時提示します。
また、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

筆記コメントや課題、レポートについては、授業時またはクラスウェブ上でフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 50%(授業への意欲的な参加、各回の筆記コメント、発表など)
レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT132F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(フランス文学)A	**基礎演習(フランス文学)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランスについて学ぶと同時に、文学部の基礎的な教養を身につけ、文献の探し方、読み方、利用の仕方、発表の仕方、レポートの書き方などといった技術的な要素も身につける。フランス文化・思想の下地になっている古典を読み、それについて理解し、ある程度独自の見解を持つようにする。前期は主にレポートの書き方を習得する。

授業内容

第1回 紹介・説明
第2回 図書館資料検索ツアー
第3回 プラトン『国家』について
第4回 プラトン『国家』(グループ研究)
第5回 プラトン『国家』(グループ研究)
第6回 プラトン『国家』(発表＆レポート提出)
第7回 レポート:『国家』(レポート返却)
第8回 デカルト『方法序説』について
第9回 デカルト『方法序説』(グループ研究)
第 10 回 デカルト『方法序説』(グループ研究)
第 11 回 デカルト『方法序説』(発表＆レポート提出)
第 12 回 デカルト『方法序説』(レポート返却)
第 13 回 映画『小さな哲学者たち』スクリーニング
第 14 回 まとめ:考えるということについて＆大学という場所
(議論しながらの授業なので、必ずしもこの予定通り進行するわけではない)

履修上の注意

とにかく本を読んでもらいたい。わからなくても構わないからとにかく読み、疑問をもってもらいたい。そして自分で問題を立てて、考える術を身につけてほしい。そのため、授業時間以外でも積極的に読書や調べ物をしてもらう。もう勉強ではなく、自分のためにこの授業に参加し、考えていってもらいたい。授業で質問し、発言すること。これも評価に入ります。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り扱う本を必ず前もって読んでおくこと。授業中ノートをできるだけ取り、授業後、それを元に考え、次週の議論につなげること。知らない言葉、固有名詞、思想、歴史的事象については必ず調べておくこと(予習・復習)

教科書

プラトン『国家』岩波文庫
デカルト『方法序説』ちくま学芸文庫
ジャン＝ジャック・ルソー『社会契約論』白水社 U ブックス、『人間不平等起源論・社会契約論』中公クラシックス
大岡昇平『靴の話』集英社文庫
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』書籍工房早山

参考書

伊藤貞夫『古代ギリシャの歴史』講談社学術文庫
佐々木毅『よみがえる古代史創』講談社学術文庫
内山勝利『プラトン「国家」逆説のユートピア』岩波書店
谷川多佳子『デカルト「方法序説」を読む』、岩波現代文庫
田中仁彦『デカルトの旅/デカルトの夢――「方法序説」を読む 』、岩波現代文庫
ディミトリ ダヴィデンコ『快傑デカルト―哲学風雲録』(Planetary classics)工作社、1992
ジュヌヴィエーヴ ロディス=レヴィス『デカルト伝』未來社 1998/8
小林道夫『デカルト入門』ちくま新書
ジャン・スタ

課題に対するフィードバックの方法

レポートに具体的なコメントをたくさん加えるので、きちんと読み、場合によっては書き直してもらう。

成績評価の方法

授業参加 50%+レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT132F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(フランス文学)B	**基礎演習(フランス文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、フランス(語圏)の社会、文化、文学、芸術、思想に関するさまざまなテーマや作品を取り上げ、テクストや関連記事を読んだり映像資料を視聴したりして分析・考察し、知識を深めながら考える力を身につけていきます。また、口頭発表やレポート作成の方法を学び、理論的・客観的に論じる力を養っていきます。

授業内容

秋学期は芸術文化(戯曲、舞台上演、映画など)を中心に分析や考察を行います。
以下のようなテーマ・作品を取り上げる予定ですが、履修者の興味・関心により、多少変更する可能性があります。
第 1 回 授業の進め方と扱う作品について
第 2 回 現代に生き続ける古典作品(1)モリエール『タルチュフ』(戯曲)を読む
第 3 回 現代に生き続ける古典作品(2)テクストから演出へ―現代上演の分析
第 4 回 不条理の演劇(1)ベケット『ゴドーを待ちながら』
第 5 回 不条理の演劇(2)イヨネスコ『椅子』/『犀』
第 6 回 文学作品とアダプテーション(1)小説からオペラへ(『マノン』を例に)
第 7 回 文学作品とアダプテーション(2)文学作品とバレエ
第 8 回 初期のフランス映画
第 9 回 フランス映画と詩的リアリズム
第 10 回 ヌーヴェルヴァーグの世界
第 11 回 発表とディスカッション(1)
第 12 回 発表とディスカッション(2)
第 13 回 発表とディスカッション(3)
第 14 回 全体のまとめ
各回、扱うテーマや作品についてディスカッションをしたり、コメントを記述してもらう時間を設けます。

履修上の注意

事前配布資料や指定されたテクストをあらかじめ読み、ディスカッションでは考えたことを積極的に発言してください。
各回、授業内容についての筆記コメントを求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回、事前配布資料や指定された箇所を予習し、気になった事項などをまとめてきてください。授業で扱った内容を復習し、図書館に行く習慣もつけてください。
授業で取り上げるテーマについて、積極的に調べたり、参考文献を読んだりしてください。

教科書

授業やクラスウェブ上で資料を配布します。
授業で扱う文学作品については、文庫版を購入してもらうこともあります(授業で指示します)。

参考書

授業やクラスウェブ上で随時提示します。
また、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

筆記コメントや課題、レポートについては、授業時またはクラスウェブ上でフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 50%(授業への意欲的な参加、各回の筆記コメント、発表など)
レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT132F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(フランス文学)B	**基礎演習(フランス文学)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
フランスの革命以降のフランスの政治的・歴史的・文学的発展から、ひと、人間、個人について考える。後期は発表の仕方を学ぶ。啓蒙思想の重要なテキスト2篇の抜粋(教員が指示)を考えてもらい、そこから発表を作ってもらう。

授業内容
第1回 説明
第2回 Encyclopedie,『百科全書』(教員による見本発表)
第3回 Hobbes, Leviathan, ホッブズ『リヴァイアサン』
第4回 Montesquieu, L'Esprit des lois, Les Lettres persanes, モンテスキュー『法の精神』、『ペルシャ人の手紙』
第5回 Voltaire, Candide, De l'Intolérance, ヴォルテール『カンディード』、『寛容論』
第6回 Diderot, Le Neveu de Rameau, Supplément au voyage de Bougainville, ディドロ『ラモーの甥』、『ブーガンヴィル航海記補遺』
第7回 Rousseau, Discours sur l'origine et les fondements de l'inégalité, Le Contrat social, ルソー『不平等起源論』、『社会契約論』
第8回 Rousseau, Les Confessions, Rêveries du promeneur solitaire, ルソー『告白』、『孤独な散歩者の夢想』
第9回 Stendhal, Le Rouge et le noir、スタンダール『赤と黒』
第 10 回 Tocqueville, De la démocratie en Amérique, Livre II, 2e partie, chap. 1 et 2、トクヴィル『アメリカのデモクラシー』
第 11 回 Zola, Germinal 、ゾラ『ジェルミナル』
第 12 回 啓蒙に関するレポート提出＆発表
第 13 回 デモについて。その歴史と概念(発表とディスカッション)
第 14 回 テスト
(若干の変更が加えらることもある)

履修上の注意
とにかく本を読む。自分の担当ではない課題の本も読む。そしてテキストを分析する方法を身につける。発表は聞くだけではなく、わからないところは追求する。必ずお互いに評価・批判する。批判することを悪いことだと思わない。根拠のある批判は大事。

準備学習(予習・復習等)の内容
[必須]
授業中にマメにノートを取り、翌週までに前回話題になったことについて考えてくる。知らない言葉、固有名詞、歴史的事象、思想については、必ず家で調べる(予習・復習ともに)。
テストは授業に出ていないと難しい可能性大。

教科書
Textbook(s)【次年度編集用】
随時配信

参考書
水林章『公衆の誕生、文学の出現』、みすず書房、2003
『「カンディード」を前にした青年 (理想の教室) 』、みすず書房、2005
ロジェ・シャルチエ『書物から読書へ』、みすず書房、1992
E. R. クルチウス『フランス文化論』、みすず書房、1976
モンテーニュ『エッセー』宮下志朗訳、白水社
ディドロ『ブーガンヴィル航海記補遺―他一篇』、岩波文庫、1991
ブーガンヴィル＆ディドロ『世界周航記,ブーガンヴィル航海記補遺―実録 vs.架空旅行記 (シリーズ世界周航記 2) 』、岩波書店、2007
トクヴ

課題に対するフィードバックの方法
前期に同じ。授業の際にいろいろディスカッションするので、授業内でのフィードバックも多い。

成績評価の方法
授業参加 50%(発表含む)＋レポート 15%＋テスト 35%

その他
参加者の希望により、シラバスに若干変更を加える場合がある。

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)A	**基礎演習(文芸メディア)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎的知識と方法を，具体的な作業・訓練を通じて習得する。具体的には,1,文献調査の技術を身につける。2,発表の技術を学ぶ。3,議論の作法を学ぶ。4,小論文・レポートの書き方を覚える。といったことになる。

授業内容
メディアは単純な情報伝達手段ではない。新しいメディアを使うことで，人間のそもそもの思考や行動が変化する。そしてその新しい思考や行動がまた新しいメディアを生み出す。音声，絵画，文字と，メディアが人間の社会や文化に与えてきた影響ははかりしれない。この基礎演習では，文献調査の基礎や演習における発表のしかたを学びつつ，最新のデジタルメディアも視野に入れつつ，人間とメディアとの相互作用を考える。
第1回:演習とは
第2回:春学期の発表分担決定
第3回:講義1
第4回:講義2
第5回:講義3
第6回:発表1
第7回:発表2
第8回:発表3
第9回:発表4
第 10 回:発表5
第 11 回:発表6
第 12 回:発表7
第 13 回:発表8
第 14 回:春学期のまとめ

履修上の注意
万一欠席した場合は自覚と責任感をもってキャッチアップしてください。4000 字程度のレポートを1回課します(詳細は授業で説明)。

準備学習(予習・復習等)の内容
念入りに発表を準備するのはもちろんのこと、各回のテキストの予習と，授業での配布資料とあわせての復習をすること。

教科書
配付物のほか、演習内で提示します。

参考書
演習内で適宜、提示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
演習での発表・質疑…60%，レポート…40%を基準に評価します。出席状況がきわめて悪い(欠席や遅刻が多い)場合は，特段の事情がないかぎり単位を認めません。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)A	**基礎演習(文芸メディア)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

井原西鶴の『日本永代蔵』を読む。西鶴は無類に面白いが、論じにくい作家でもある。受講生と議論の枠組を構築しながら、「近世小説とは何か」を考究する。

授業内容

◎授業の進め方
　○各編を分担し、担当者が発表と司会を担当しながら進める。
　○発表者はレジュメを作成し、討議を中心に進める。
第1回:導入:井原西鶴の略歴・参考文献の紹介
第2回:巻一:「初午は乗て来る仕合」第１回
第3回:巻一:「初午は乗て来る仕合」第２回
第4回:巻一:「初午は乗て来る仕合」第３回
第5回:巻一:「初午は乗て来る仕合」第４回
第6回:巻二:「才覚を笠に着大黒」第１回
第7回:巻二:「才覚を笠に着大黒」第２回
第8回:巻二:「才覚を笠に着大黒」第３回
第9回:巻三:「煎じやう常とはかはる問薬」第１回
第 10 回:巻三:「煎じやう常とはかはる問薬」第２回
第 11 回:巻三:「煎じやう常とはかはる問薬」第３回
第 12 回:巻三:「紙子身躰の破れ時」第１回
第 13 回:巻三:「紙子身躰の破れ時」第２回
第 14 回:巻三:「紙子身躰の破れ時」第３回

履修上の注意

演習は学生自身が作る授業であり、教師は助言者たるべきものである。自主的な参加を望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

井原西鶴の生涯や作品ついては自ら調べ、また、その他の作品も読んでおかなければならない。

教科書

堀切実校注『日本永代蔵』(角川文庫ソフィア)

参考書

『日本永代蔵ほか』(岩波日本古典文学大系)・『井原西鶴集(3)』(小学館日本古典全集)・『日本永代蔵全訳注』(講談社学術文庫)

課題に対するフィードバックの方法

レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(40%)・発表(20%)・中間レポート(20%)・学期末レポート(20%)の 4 点について評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)A	**基礎演習(文芸メディア)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎的知識と方法を、具体的な作業・訓練を通じて習得する。具体的には、1、文献調査の技術を身につける。2、発表の技術を学ぶ。3、議論の作法を学ぶ。4、小論文・レポートの書き方を覚える。といったことになる。

かつて国語の定番教材とされていたいくつかの短編小説を分析対象とした発表とディスカッションを行い、〈読む／考える／発表する・議論する／書く〉という文学研究の基礎的な流れを習得することを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 読む(1) 読むとはどういうことか
第3回 読む(2) 何を読むのか
第4回 読む(3) どこまで読むのか
第5回 考える(1) 問いの立て方・テーマの見つけ方
第6回 考える(2) レジュメの作り方
第7回 考える(3) 文献検索・収集の仕方
第8回 発表とディスカッション(1)
第9回 発表とディスカッション(2)
第 10 回 発表とディスカッション(3)
第 11 回 書く(1) レポートのテーマ設定
第 12 回 書く(2) レポートの構成と材料
第 13 回 書く(3) レポート作成法
第 14 回 まとめ

履修上の注意

演習科目は受講者の発表とディスカッションによって成立する。授業には積極的な姿勢で臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回発表対象となるテクストを読んで問題点を整理しておくこと。発表者は各回発表準備に専念すること。授業後はディスカッションを踏まえ、次回の発表に備えること。

教科書

なし。プリントを配布する。

参考書

石原千秋『読者はどこにいるのか 読者論入門』(河出文庫)

課題に対するフィードバックの方法

発表の際は講評を行う。
学期末レポートは添削して、秋学期初回の授業で返却する。

成績評価の方法

発表 30%、ディスカッションへの参加態度 30%、学期末レポート 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)A	**基礎演習(文芸メディア)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎的知識と方法を，具体的な作業・訓練を通じて習得する。具体的には，1,文献調査の技術を身につける。2,発表の技術を学ぶ。3,議論の作法を学ぶ。4,小論文・レポートの書き方を覚える。といったことになる。

授業内容

室町時代から江戸時代前期にかけて制作された、お伽草子と呼ばれる短編の物語草子を素材として扱う。挿絵を持ち、口承文芸とのかかわりが深い、といった特徴を持つお伽草子を「読む」方法を学ぶ。

(1)イントロダクション―お伽草子とは
(2)お伽草子概説
(3)お伽草子を「読む」方法
(4)研究発表の方法
(5)レジュメの作り方
(6)テーマを設定する 1
(7)テーマを設定する 2
(8)資料収集の方法
(9)発表と討議
(10)発表と討議
(11)発表と討議
(12)発表と討議
(13)発表と討議
(14)発表と討議

履修上の注意

出席および積極的な授業参加が最も重視される。口頭発表は必須。演習は受講生全員で作り上げる学びの場であり、この時間が充実したものとなるか否かは受講生のやる気にかかっている。全員が毎回の討議に積極的・建設的に関わっていくことを望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備(資料収集・レジュメ作成)には非常に時間がかかるため、テーマが決まり次第、すぐに動き始めること。テキストをしっかり読み、常に問題意識をもって討議に参加できるよう準備しておくことも求められる。

教科書

市古貞次校注『御伽草子』(上・下)岩波文庫。

参考書

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(全 15 巻)角川書店、徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

発表(30%)、授業への貢献度(40%)、期末レポート(30%)によって評価する。最低1回の口頭発表と期末レポートの提出は必須。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)B	**基礎演習(文芸メディア)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎的知識と方法を，具体的な作業・訓練を通じて習得する。具体的には，1,文献調査の技術を身につける。2,発表の技術を学ぶ。3,議論の作法を学ぶ。4,小論文・レポートの書き方を覚える。といったことになる。

授業内容

メディアは単純な情報伝達手段ではない。新しいメディアを使うことで，人間のそもそもの思考や行動が変化する。そしてその新しい思考や行動がまた新しいメディアを生み出す。音声，絵画，文字と，メディアが人間の社会や文化に与えてきた影響ははかりしれない。この基礎演習では，春学期に引き続き、文献調査の基礎や演習における発表のしかたを学びつつ，最新のデジタルメディアも視野に入れつつ，人間とメディアとの相互作用を考える。

各回の内容(予定)
第1回:秋学期の発表分担決定
第2回:講義1
第3回:講義2
第4回:講義3
第5回:発表1
第6回:発表2
第7回:発表3
第8回:発表4
第9回:発表5
第 10 回:発表6
第 11 回:発表7
第 12 回:発表8
第 13 回:発表9
第 14 回:秋学期のまとめ

履修上の注意

同じ教員の基礎演習(文芸メディア)A から継続して受講してください。
万一欠席した場合は自覚と責任感をもってキャッチアップしてください。4000 字程度のレポートを1回課します(詳細は授業で説明)。

準備学習(予習・復習等)の内容

念入りに発表を準備するのはもちろんのこと、各回のテキストの予習と，授業での配布資料とあわせての復習をすること。

教科書

配付物ほか，演習内で提示します。

参考書

演習内で適宜、提示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

出席・演習での発表・質疑…60%，レポート…40%を基準に評価します。出席状況がきわめて悪い(欠席や遅刻が多い)場合は，特段の事情がないかぎり単位を認めません。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)B	**基礎演習(文芸メディア)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

井原西鶴の『日本永代蔵』を読む。西鶴は無類に面白いが、論じにくい作家でもある。受講生と議論の枠組を構築しながら、「近世小説とは何か」を考究する。

授業内容

◎授業の進め方
　○各編を分担し、担当者が発表と司会を担当しながら進める。
　○発表者はレジュメを作成し、討議を中心に進める。
第1回:巻四:「心を疊込古筆屏風」第１回
第2回:巻四:「心を疊込古筆屏風」第２回
第3回:巻四:「心を疊込古筆屏風」第３回
第4回:巻四:「茶の十徳も一度に皆」第１回
第5回:巻四:「茶の十徳も一度に皆」第２回
第6回:巻四:「茶の十徳も一度に皆」第３回
第7回:巻五:「世渡りは淀鯉のはたらき」第１回
第8回:巻五:「世渡りは淀鯉のはたらき」第２回
第9回:巻五:「世渡りは淀鯉のはたらき」第３回
第 10 回:巻六:「智恵をはかる八十八の升掻」第１回
第 11 回:巻六:「智恵をはかる八十八の升掻」第２回
第 12 回:巻六:「智恵をはかる八十八の升掻」第３回
第 13 回:『日本永代蔵』における経済的人間のあり方
第 14 回:『日本永代蔵』における西鶴の人間観

履修上の注意

演習は学生自身が作る授業であり、教師は助言者たるべきものである。自主的な参加を望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

井原西鶴の生涯や作品ついては自ら調べ、また、その他の作品も読んでおかなければならない。

教科書

堀切実校注『日本永代蔵』(角川文庫ソフィア)

参考書

『日本永代蔵ほか』(岩波日本古典文学大系)・『井原西鶴集(3)』(小学館日本古典全集)・『日本永代蔵全訳注』(講談社学術文庫)

課題に対するフィードバックの方法

レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(40%)・発表(20%)・中間レポート(20%)・学期末レポート(20%)の 4 点について評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)B	**基礎演習(文芸メディア)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎的知識と方法を、具体的な作業・訓練を通じて習得する。具体的には、1、文献調査の技術を身につける。2、発表の技術を学ぶ。3、議論の作法を学ぶ。4、小論文・レポートの書き方を覚える。といったことになる。
村田沙耶香「コンビニ人間」を分析対象とした発表とディスカッションを行い、Aで習得した方法や知識を応用した研究を進めていくことを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 読むことの確認
第3回 問いの立て方・テーマの見つけ方
第4回 レジュメの作り方
第5回 文献検索・収集の仕方
第6回 発表とディスカッション(1)
第7回 発表とディスカッション(2)
第8回 発表とディスカッション(3)
第9回 発表とディスカッション(4)
第 10 回 発表とディスカッション(5)
第 11 回 発表とディスカッション(6)
第 12 回 発表とディスカッション(7)
第 13 回 発表とディスカッション(8)
第 14 回 まとめ

履修上の注意

演習科目は受講者の発表とディスカッションによって成立する。授業には積極的な姿勢で臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回発表対象となるテクストを読んで問題点を整理しておくこと。発表者は各回発表準備に専念すること。授業後はディスカッションを踏まえ、次回の発表に備えること。

教科書

村田沙耶香『コンビニ人間』(文春文庫)

参考書

石原千秋『読者はどこにいるのか 読者論入門』(河出文庫)

課題に対するフィードバックの方法

発表の際は講評を行う。

成績評価の方法

発表 30%、ディスカッションへの参加態度 30%、学期末レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎演習(文芸メディア)B	**基礎演習(文芸メディア)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎的知識と方法を，具体的な作業・訓練を通じて習得する。具体的には,1,文献調査の技術を身につける。2,発表の技術を学ぶ。3,議論の作法を学ぶ。4,小論文・レポートの書き方を覚える。といったことになる。

授業内容

室町時代から江戸時代前期にかけて制作された、お伽草子と呼ばれる短編の物語草子を素材として扱う。挿絵を持ち、口承文芸とのかかわりが深い、といった特徴を持つお伽草子を「読む」方法を学ぶ。
(1)イントロダクション
(2)発表と討議
(3)発表と討議
(4)発表と討議
(5)発表と討議
(6)発表と討議
(7)発表と討議
(8)発表と討議
(9)発表と討議
(10)発表と討議
(11)発表と討議
(12)レポート作成の方法1
(13)レポート作成の方法2
(14)まとめ

履修上の注意

出席および積極的な授業参加が最も重視される。口頭発表は必須。演習は受講生全員で作り上げる学びの場であり、この時間が充実したものとなるか否かは受講生のやる気にかかっている。全員が毎回の討議に積極的・建設的に関わっていくことを望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備(資料収集・レジュメ作成)には非常に時間がかかるため、テーマが決まり次第、すぐに動き始めること。テキストをしっかり読み、常に問題意識をもって討議に参加できるよう準備しておくことも求められる。

教科書

市古貞次校注『御伽草子』(上・下)岩波文庫。

参考書

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(全 15 巻)角川書店、徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

発表(30%)、授業への貢献度(40%)、期末レポート(30%)によって評価する。最低1回の口頭発表と期末レポートの提出は必須。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎フランス語講読A	**基礎フランス語講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
森 真太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語の初学者のための、読解を中心とした授業です。最初は知らない単語でいっぱいの外国語の文章の塊が、だんだんと意味がわかってくるテクストに変貌するときの喜びは大きいと思います。フランス語の発音に慣れ、語彙を増やし、単語を聞き取りあるいは推測し、構文を見抜けるようになることを目指します。授業は、1)長文の読解と、2)ディクテ(聞き取り)という二つの部分がメインとなります。

授業内容

授業は次のような順で進めることを予定しています。
各課のあいだに、簡単なフランス語のテクストの読解を入れる予定です。
1. オリエンテーション: 学習の諸注意
2. 世界のフランス語圏(1)
3. 世界のフランス語圏(2)
4. フランスの言語(1)
5. フランスの言語(2)
6. ヨーロッパのフランス語(1)
7. ヨーロッパのフランス語(2)
8. 北米のフランス語(1)
9. 北米のフランス語(2)
10. カリブ海域のフランス語(1)
11. カリブ海域のフランス語(2)
12. オペラ、演劇、バレエ、映画等の鑑賞
13. 全体のまとめ
14. a . 試験 b. 解説

履修上の注意

語学の学習はすばやくはできません。ゆっくりでもたゆまず行えば、確実に力が付いてきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

新出単語、文法欄の例文、練習問題、長文の下調べが予習に該当します。
教室で当てますので、答えられるようにしておきましょう。忘れることは当たり前なので、復習をして自分の吸収できていない項目をつねに意識できるようにしてください。

教科書

小松 祐子, ジル デルメール 著『フランコフォニーへの旅』(駿河台出版社)
ISBN978-4-411-00927-2

参考書

仏和辞書は毎回かならず持ってくること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常の参加点 30%(授業への参加、問題への取り組み、レスポンスペーパー)＋期末考査 70%
成績評価の方法については、初回授業時にくわしく説明する。

その他

皆、同じスタートラインからひとつひとつ積み上げて学んで行きます。そのため出席は前提です。

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎フランス語講読A	**基礎フランス語講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
今関 アン	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
フランス語を学び始めた人のための読解の授業です。翻訳ソフトがどんどん優秀になっている昨今、フランス語講読に意味がないと思う人もいるかもしれません。しかし自分で語彙を覚え、文法構造を把握し、なぜこのような文章になっているのかを考えることを抜きに新しい言語を習得することは不可能です。未知の世界に踏み込むためには地道な努力が欠かせません。
文法事項を徹底的に頭に入れ、基本的な語彙を増やしていきます。またフランス語の発音には一定の規則性がありますが、つづり字と発音の関係を覚え、きちんと発音できるようにしましょう。
毎回発音テストとディクテ(聞き取り)を行い、読めて聞き取れることを目指します。
教材は主に『フランコフォニーへの旅(改訂版)』を使い、簡単な詩やシャンソンの歌詞、新聞・雑誌記事、美術館の作品解説などを読んでいきます。
＜到達目標＞
初級レベルの文法事項、発音、聞き取り能力を獲得し、フランス語の読解力を高める。

授業内容

授業は次のような順で進めることを予定しています。
1. フランス・フランス語について、辞書の使い方、Lecon 0 クイズ、アルファベ、つづり字と発音、リズムとイントネーション
2. 発音テスト、L.1 文法説明、練習問題
3. 発音テスト、L.1 文法説明続き、Dialogue、基本構文、基本文法、基本語彙
4. 発音テスト、L. 1 Lecture
5. 発音テスト、L. 2 文法説明、練習問題
6. 発音テスト、L. 2 文法説明続き、Dialogue、基本構文、基本語彙
7. 発音テスト、L. 2 Lecture
8. 発音テスト、L. 3 文法説明、練習問題
9. 発音テスト、L. 3 文法説明続き、Dialogue、基本構文、基本語彙
10. 発音テスト、L. 3 Lecture 文法説明、練習問題
11. 発音テスト、L. 4 文法説明、練習問題
12. 発音テスト、L. 4 文法説明続き、Dialogue、基本構文、基本語彙
13. 発音テスト、L. 4 Lecture
14. a. 期末試験／b. 解説

履修上の注意

・提出宿題・アンケート(単語帳、仏作文、練習問題、和訳、音声レポートなど)があります。未提出者は-5 点。
・毎回発音テストやディクテ、動詞活用試験があります。未受験者は-3 点。
・遅刻・欠席は小テスト未受験となるので注意してください。
・提出課題を自力で行わない場合、発覚すると-5の減点になります。
・辞書・教科書は必ず持ってくること。
・配布プリントをまとめるフォルダーを用意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は単語帳作成、文章構造把握、和訳などに当ててください。また意味を取ることに終始しがちですが、どのように発音するか確認するのに努めてください。
復習は発音の規則と学習した語彙の記憶に努め、課題提出に当ててください。

教科書

『フランコフォニーへの旅(改訂版)』駿河台出版

参考書

[url]http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/[/url]
web なびふらんせに登録

課題に対するフィードバックの方法

O-oh! Meiji 上、または授業時間内に行います。

成績評価の方法

期末テスト 100 点から課題未提出-5 点、授業内小テスト未受験-3 点を減点します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎フランス語講読A	**基礎フランス語講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 美穂	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の目標は、辞書を使ってフランスの新聞記事が読めるようになることです。単にフランス語の単語を日本語に置き換えるのではなく、そこで語られている意味が説明でき、表現に込められたニュアンスが理解できるようになることを目指します。

授業内容

毎週異なるテーマを扱った新聞記事を配布します。基本的に1～2週間以内のできごとを扱います。記事には、内容を問う質問がつけられています。辞書を使って記事を読み、質問の答をワード文書に各自で書き、その答を全員で共有して答合わせを行います。必要に応じて、フランス語のビデオも視聴します。2026 年のニュースを予測するのは不可能ですので、以下に、2025 年度春に行った講読のテーマをあげます。
第1回:イースターのチョコレート、高騰するカカオの代替品
第2回:ワインの容器、アルミ缶がフランスで登場
第3回:5 月1日のすずらん、メーデーに花屋さんで従業員を働かせるのは違法
第4回:ニューカレドニア、暴動以降観光客が減少
第5回:高速鉄道 TGV、ある男性の危険行為
第6回:カンヌ映画祭、リッチな観光客たち
第7回:ミネラルウォーター「ペリエ」、違法のフィルター処理が発覚
第8回:マルセイユ、レンタルされた車がそのまま港から密輸出される
第9回:サッカー、パリサンジェルマンが優勝したのに暴動がおきる
第10回:修復なったノートルダムが、大人気
第11回:猛暑を防ぐ鎧戸は、景観を乱すため禁止
第12回:猛暑でパン職人が疲労
第13回:ツールドフランスの経済効果
第14回:7月14日の軍事パレードに、ドローンが登場

履修上の注意

CALL 教室を最初の授業から使いますので、大学のパソコンにログインし、インターネットにつなげるようにしておいてください。また、初回の授業から辞書が必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習が大切です。授業での教員による解説を復習し、次回同じ表現パターンを目にした時に、その知識を生かせるようにしてください。

教科書

教科書はありません。教材は、毎回教員が配布します。

参考書

初回の授業から辞書が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

期末テストは平均点等を Oh o Meiji で知らせ、点数を知りたい方にはメールで点数を知らせます。

成績評価の方法

授業には 75%以上出席する必要があります。75%未満の場合は単位は取得できません。そして学期末に行う試験を100%として、評価を決めます。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎フランス語講読B	**基礎フランス語講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
森 真太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語の初学者のための、読解を中心とした授業です。最初は知らない単語でいっぱいの外国語の文章の塊が、だんだんと意味がわかってくるテクストに変貌するときの喜びは大きいと思います。フランス語の発音に慣れ、語彙を増やし、単語を聞き取りあるいは推測し、構文を見抜けるようになることを目指します。授業は、1)長文の読解と、2)ディクテ(聞き取り)という二つの部分がメインとなります。

授業内容

授業は次のような順で進めることを予定しています。
各課のあいだに、簡単なフランス語のテクストの読解を入れる予定です。
1. 前期の振り返り(1): 夏休みの宿題等
2. 前期の振り返り(2): 文法項目のおさらい。
3. 大型連休(1)
4. 大型連休(2)
5. わたしはフランスに住んでいなかった(1)
6. わたしはフランスに住んでいなかった(2)
7. アフリカに行こう(1)
8. アフリカに行こう(2)
9. 若者は旅をせよ(1)
10. 若者は旅をせよ(2)
11. 文法補遺(1)
12. 文法補遺(2)
13. フランス語検定に挑戦してみよう
14. a . 試験 b. 解説

履修上の注意

語学の学習はすばやくはできません。ゆっくりでもたゆまず行えば、確実に力が付いてきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

新出単語、文法欄の例文、練習問題、長文の下調べが予習に該当します。
教室で当てますので、答えられるようにしておきましょう。忘れることは当たり前なので、復習をして自分の吸収できていない項目をつねに意識できるようにしてください。

教科書

小松 祐子, ジル デルメール 著『フランコフォニーへの旅』(駿河台出版社)
ISBN978-4-411-00927-2

参考書

仏和辞書は毎回かならず持ってくること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常の参加点 30%(授業への参加、問題への取り組み、レスポンスペーパー)+期末考査 70%
成績評価の方法については、初回授業時にくわしく説明する。

その他

皆、同じスタートラインからひとつひとつ積み上げて学んで行きます。そのため出席は前提です。

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎フランス語講読B	**基礎フランス語講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
今関 アン	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
フランス語の発音・文法にも少し慣れたことでしょう。引き続き語彙数を増やし、文法構造の理解に努めていきます。
また教科書のテーマに合わせて、世界で使われているフランス語についての理解を深めましょう。
毎回発音テストとディクテ(聞き取り)を行い、読めて聞き取れることを目指します。
教材は主に『フランコフォニーへの旅(改訂版)』を使い、簡単な詩やシャンソンの歌詞、新聞・雑誌記事、美術館の作品解説などを読んでいきます。
＜到達目標＞
初級レベルの文法事項、発音、聞き取り能力を獲得し、フランス語の読解力を高める。

授業内容

1. 発音テスト、L.5 文法説明、練習問題
2. 発音テスト、L. 5 文法説明続き、Dialogue, 基本文法、基本構文
3. 発音テスト、L. 5 Lecture
4. 発音テスト、L. 6 文法説明、練習問題
5. 発音テスト、L. 6 Dialogue, 基本文法、基本構文、時刻の言い方、基本語彙
6. 発音テスト、L. 6 Lecture、L. 7 文法説明、練習問題
7. 発音テスト、L. 7 Dialogue, 基本文法 Lecture
8. 発音テスト、L. 8 文法説明、練習問題
9. 発音テスト、L. 8 Dialogue, 基本文法
10. 発音テスト、L. 8 Lecture L. 9 文法説明、練習問題
11. 発音テスト、L. 9 Dialogue, 基本文法、基本構文
12. 発音テスト、L. 9 Lecture、L. 10 文法説明、練習問題
13. 発音テスト、L. 10 Dialogue, Lecture
14. a. 期末試験/b. 解説

履修上の注意

・提出宿題・アンケート(単語帳、仏作文、練習問題、和訳、音声レポートなど)があります。未提出者は-5 点。
・毎回発音テストやディクテ、動詞活用試験があります。未受験者は-3 点。
・遅刻・欠席は小テスト未受験となるので注意してください。
・提出課題を自力で行わない場合、発覚すると-5の減点になります。
・辞書・教科書は必ず持ってくること。
・配布プリントをまとめるフォルダーを用意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は単語帳作成、文章構造把握、和訳などに当ててください。また意味を取ることに終始しがちですが、どのように発音するか確認するのに努めてください。
復習は発音の規則と学習した語彙の記憶に努め、課題提出に当ててください。

教科書

『フランコフォニーへの旅(改訂版)』駿河台出版

参考書

[url]http://navifr.fj.tokoha-u.ac.jp/wnf/[/url]
web なびふらんせに登録

課題に対するフィードバックの方法

O-oh! Meiji 上、または授業時間内に行います。

成績評価の方法

期末テスト 100 点から課題未提出-5 点、授業内小テスト未受験-3 点を減点します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
基礎フランス語講読B	**基礎フランス語講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 美穂	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の目標は、辞書を使ってフランスの新聞記事が読めるようになることです。単にフランス語の単語を日本語に置き換えるのではなく、そこで語られている意味が説明でき、表現に込められたニュアンスが理解できるようになることを目指します。

授業内容

基本的に1～2週間以内の出来事を扱った新聞記事を配布します。記事には、内容を問う質問がつけられています。辞書を使って記事を読み、質問の答をワード文書に各自で書き、その答を全員で共有して答合わせを行います。必要に応じてニュースのビデオも視聴します。2026 年のニュースを予測するのは不可能ですので、以下に、2025 年度秋に行った講読のテーマをあげます。

第 1 回:モロッコの高級レストラン
第 2 回:変わりつつあるハイパーマート
第 3 回:フランスがパレスチナ国家を承認
第 4 回:エッフェル塔の歴史
第 5 回:ルーブル美術館から宝飾品が盗まれる
第 6 回:生乳から作るチーズの危険性
第 7 回:モンサンミッシェルが、大潮で島となる
第 8 回:心のレストラン、住居も援助
第 9 回:米国によるウクライナ和平交渉
第 10 回:ストラスブールでマルシェドノエルが始まる
第 11 回:トリュフ泥棒を防ぐ手立て
第 12 回:ベルサイユの修復工事
第 13 回:国境なき医師団が、イスラエルによりガザでの活動を禁止される
第 14 回:冬を迎え、病院は大忙し

履修上の注意

CALL 教室を最初の授業から使いますので、大学のパソコンにログインし、インターネットにつなげるようにしておいてください。また、初回の授業から辞書が必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習が大切です。授業での教員による解説を復習し、次回同じ表現パターンを目にした時に、その知識を生かせるようにしてください。

教科書

教科書はありません。教材は、毎回教員が配布します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

期末テストは平均点等を Oh o Meiji で知らせ、点数を知りたい方にはメールで点数を知らせます。

成績評価の方法

授業には 75%以上出席する必要があります。75%未満の場合は単位は取得できません。そして学期末に行う試験を100%として、評価を決めます。

その他

科目ナンバー：(AL)IND919J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
キャリア・デザイン	**キャリア・デザイン**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 貴昭	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

現代社会は大きく変化しつづけています。その中で、将来の職業選択もふくめ、自分の人生をどのようにデザインしていけばいいのか、また自分の希望する進路に就くためには、学部時代にどのようなことをしていけばいいのかを、早めに考え準備していかなければいけません。

この講義では、様々な業種の第一線で活躍している講師が、自身の仕事内容やどのような姿勢で働いているかを紹介します。そして、社会で実際に必要とされる能力について実務経験を踏まえ、話します。講義を通して、将来のキャリア・デザインに必要な知識や情報を受講生が手に入れ、進路選択や学習に活かしてもらうことを目指します。世の中にはどのような進路や仕事があるのかを知ってもらうと同時に、自分の適性を活かしたり、能力を高めていくためにはどうすればいいのかを＜発見＞し学んでもらえたらと思います。

授業内容

第1回9月25日(金) 文学部教員・就職キャリア支援事務室職員【初回イントロダクション・就職活動の概要説明】各企業の採用状況や明大生の就職状況がどうなっているのか、数年後に待っている就職活動の実際について説明します。
第2回10月2日(金) Original Point株式会社【業界から社会の仕組みを理解する】就活の先にある、働くとは何かの前提や企業が成り立つ仕組みについて理解をふかめる。
その上で、社会の業界を俯瞰的にみる中で、自分の興味を具体化し、将来の理想について考える。
第3回10月9日(金) Original Point株式会社【職種から社会の仕組みを理解する】ある職種の働く1日に密着した動画を活用し、職種に対する先入観を持つ危険性を理解する。その上で、社会の職種を俯瞰的にみる中で、自分の価値観・強みを具体化し、将来の理想について考える。
第4回10月16日(金) 株式会社学び 代表取締役社長 寺裏誠司氏【これからの社会とこれからのキャリアを考える】未来の世界や人材ニーズはどのように変わっていくのでしょうか？今後の社会で求められる能力を明らかにしていきながら、そのために学生時代に今から身につけたい力を共有していきます。
第5回10月23日(金) 社会保険労務士 野中政宏氏【キャリア形成と労働法・社会保険の基礎知識】労働法や社会保険制度は、働くうえでのルールであり仕組みです。キャリアを考える前提として、このルールや仕組みを知り、将来のビジョンを自らの手で描くことに役立ててください。
第6回11月6日(金) 法政大学准教授 恵羅さとみ先生【職場における人材の多様性を知り、多様性のなかでの働き方を考える】職場における人材の多様性を知り、多様性をめぐる理念や雇用拡大の背景などを理解する。その上で外国人雇用に焦点を当て、制度概要や職場での取り組みなどを学びながら、多様性のなかでの働き方を考える。
第7回11月13日(金) 小田急箱根ホールディングス株式会社取締役営業統括部長 相沢喜一郎氏【CSR(企業の社会的責任)の視点でこれからの仕事を考える】小田急グループの活動を通じて、企業の社会的責任を紹介します。あわせて、文学部の皆さんのキャリアデザインを考えていきます。
第8回11月20日(金) 株式会社日本アクセス【食品流通業界における食品卸売業の役割】消費者の普段の生活の中では、目に触れることのないBtoB企業である食品卸売業の仕事。問屋不要論などもささやかれる昨今において、食品流通業界の中での役割や発揮している機能を交えながら、業界の重要性や仕事のやりがいなどを紹介します。小売業の売り場作りの裏側や外食産業へのメニュー提案など普段見えない世界についてご紹介します。
第9回11月27日(金) 一般社団法人ITエンジニア育成支援機構 半田哲司氏【IT業界について】IT業界の基礎知識と主要職種、文学的学びが活きる領域を取り上げ、"文学×IT"の可能性を具体的にお示しできればと考えています。
第10回12月4日(金) 講談社 ヤングマガジン編集部 乙部修平氏【出版業界について―表も裏も―】2020年に新卒で、読売新聞に記者職として入社。25年から現職です。漫画編集者と新聞記者の仕事内容や現場の雰囲気、また働いてみての実感についてお話しします。
第11回12月11日(金) 国際人権NGOヒューマン・ライツ・ウォッチ 東京オフィス オペレーションズアドミニストレーター 湯村帆名氏【国際NGOで働く:グローバルなキャリアステップ】大学生のときの経験が、今のキャリアにどうつながったのか。そして働き方、生き方の考えにどのような影響を与えてきたのか。国境を越えた将来の夢に近づくためのキャリアデザインを共に考える。
第12回12月18日(金) 株式会社東洋経済新報社 編集局 編集委員 田宮寛之氏【学生が気づかないグローバル成長業界・企業とは】国際情勢の変化に触れながら、今後の成長業界・企業を見極めるポイントを解説。さらに各業界を取り巻く環境と具体的な企業活動を取り上げつつ、業界の将来について講義する。
第13回1月8日(金) 文学部教授予定【大学院について】海外における大学院の状況、大学院進学のメリットやデメリットなどを紹介しながら、今後の国際社会やAI社会を生きていくうえで、大学院をどのように利用していけばいいかを考えたいと思います。【教師の仕事】「教員の仕事」というと、「授業」「部活動」「進路指導」などがイメージされるだろうが、それ以外の仕事も多い。本講義では、「教員の1日」などをとおして、教員の仕事を明らかにしたい。
第14回1月15日(金) 就職キャリア支援事務室【キャリアデザインと今後の学生生活の過ごし方】これまでの講義の振り返りやワークを通じて、キャリアデザインの重要性や今後どのように学生生活を過ごすことで自分らしい将来のキャリアをデザインできるのかについて講義します。

履修上の注意

毎回の講義の内容をどれくらい理解したかが、大きなポイントとなります。受け身の姿勢に終わるのではなく、将来のキャリア・デザインに向けて積極的に考えていく姿勢が大切です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、次回の授業範囲について新聞等で調べておくこと。復習として、授業で紹介した問題について文献等で調べること。

教科書

各回の講師より、参考文献の指示、資料・レジュメ等の配布がある。

参考書

「キャリア形成ガイドブック」坂本恒夫編(中央経済社 2008年)など

課題に対するフィードバックの方法

各授業後に提出するリアクションペーパーの得点

成績評価の方法

各回実施するアンサーシート(小レポート)に基づき評価する(100%)。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
旧石器時代の考古学A	**旧石器時代の考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
藤山 龍造	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

旧石器時代は人類史の最古の段階に相当し，現在とは異なった環境下で人類の生活が営まれていた時代である。そこでは狩猟採集が生活の基本となるため，古環境を含めた幅広い視野のもとに人間活動を読み解いてゆくことが必要とされる。ときには自然人類学を含めた様々な分野と広く結び付く一方で，遺跡に残される資料は限定されやすく，長期にわたって保存されやすい石器の緻密な分析が研究の基礎となる。

本講義の最大の目標は，いかなる観点のもとに石器の観察を進め，そこから人間活動を読み解いてゆくか，を理解することである。本講義は大きく3つの内容から構成されている。はじめに旧石器時代の考古学を概観したうえで(第2回～第3回)，石器研究の基礎を解説する(第4回～第8回)。また，そうした石器の分析を通じて導き出される主要な論点を解説する予定である(第9回～第 13 回)。

本講義では石器研究の方法論を中核に据える。講義の性格上，旧石器時代の話題が中心となるが，その方法論は様々な研究に応用しうるため，時代の枠を越えて履修することを推奨する。

授業内容

第1回 総 論
＜第1部:旧石器時代の考古学とその位置づけ＞(全2講)
第2回 旧石器時代の考古学とその枠組み
第3回 旧石器時代の考古学とその歩み
＜第2部:石器研究の基本手続き＞(全5講)
第4回 石器の観察とその基本
第5回 石器製作の仕組みを読み解く
第6回 石器の変遷を読み解く
第7回 石器の機能を読み解く
第8回 石器石材の広がりを読み解く
＜第3部:旧石器時代の考古学とその主要な論点＞(全5講)
第9回 旧石器時代の年代論と古環境
第 10 回 旧石器時代の集落・集団を読み解く
第 11 回 旧石器時代の遊動生活を読み解く
第 12 回 旧石器時代の遊動生活と石器製作
第 13 回 旧石器時代の食糧基盤は何であったか
第 14 回 総 括

履修上の注意

あわせて旧石器時代の考古学 B(秋学期)を履修することを推奨する。考古学専攻生以外の履修を歓迎するが，事前に「考古学概論Ⅰ」を履修していることが望ましい。あらかじめ『石器入門事典』(柏書房)などに目を通し，最低限の知識を持ち合わせていることを前提に授業を進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の内容に関して，必要に応じて参考文献を提示するため，それらを参照することを強く推奨する。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末試験による評価を基本とするが(9割)，必要に応じてレポート等の課題を与えることがある。また，講義に臨む姿勢も評価の対象とする(1割)。

その他

必要に応じて講義資料を配布するが，翌週以降は再配布しない。万一欠席した場合は，受講者同士で融通し合うこと。

科目ナンバー:(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
旧石器時代の考古学B	**旧石器時代の考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
藤山 龍造	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

旧石器時代は人類史の最古の段階に相当し，現在とは異なった環境下で人類の生活が営まれていた時代である。そこでは狩猟採集が生活の基本となるため，古環境を含めた幅広い視野のもとに人間活動を読み解いてゆくことが必要とされる。ときには自然人類学を含めた様々な分野と広く結び付く一方で，遺跡に残される資料は限定されやすく，長期にわたって保存されやすい石器の緻密な分析が研究の基礎となる。

本講義の最大の目標は，旧石器時代の考古学の動向を概観し，同時にその将来像を展望することである。本講義は幾つかの主要な論点を時系列で取り上げ，研究の現状と課題を解説する。なお，本講義では担当教員(藤山)以外のゲスト講師を招聘し，最新のトピックを共有することを視野に入れている。詳細な内容や実施日に関しては，初回授業で提示する予定である。

授業内容

第1回 総 論
第2回 前期旧石器捏造問題とは何であったか
第3回 日本列島における人類の足跡はどこまで遡るか
第4回 環状ブロック群とその解釈
第5回 石器製作の転換点と地域色の顕在化
第6回 石材受給の変質と生活領域の縮小
第7回 尖頭器の出現とその意味
第8回 細石刃石器群を携えた人々とその足跡
第9回 いわゆる神子柴石器群とその評価
第 10 回 旧石器時代から縄文時代への推移とは何であったか
第 11 回 特別講義(1)
第 12 回 特別講義(2)
第 13 回 特別講義(3)
第 14 回 総 括

履修上の注意

本講義を履修するためには，あらかじめ旧石器時代の考古学 A(春学期)を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の内容に関して，必要に応じて参考文献を提示するため，それらを参照することを強く推奨する。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末試験による評価を基本とするが(9割)，必要に応じてレポート等の課題を与えることがある。また，講義に臨む姿勢も評価の対象とする(1割)。

その他

必要に応じて講義資料を配布するが，翌週以降は再配布しない。万一欠席した場合は，受講者同士で融通し合うこと。

科目ナンバー:(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
教育・学校心理学	**教育・学校心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹松 志乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義は、臨床心理学の立場から、教育現場において生じる心理社会的問題及びその背景を理解するための基礎理論を学び、その支援のために必要となる基本的知識の習得や臨床的感覚の向上を目的としている。特に問題行動や心理的危機を呈した生徒に対する「カウンセリングマインド」の実践につながる事例研究や感受性訓練(体験学習)を多く導入するなど、できるだけ実践的に学習できるように努めたい。

授業内容

現在のところ,以下のような構成で講義を進める予定である。
第1回:教育現場で発揮とされるカウンセリングマインド(概論)(1)
第2回:教育現場で発揮とされるカウンセリングマインド(概論)(2)
第3回:教育現場で発揮とされるカウンセリングマインド(体験学習)(1)
第4回:教育現場で発揮とされるカウンセリングマインド(体験学習)(2)
第5回:教育相談で必要とされる精神保健的知識(心の病・軽度発達障害など)(1)
第6回:教育相談で必要とされる精神保健的知識(心の病・軽度発達障害など)(2)
第7回:教育相談・スクールカウンセリングの実際(不登校)(1)
第8回:教育相談・スクールカウンセリングの実際(不登校)(2)
第9回:教育相談・スクールカウンセリングの実際(いじめ・人権)(1)
第 10 回:教育相談・スクールカウンセリングの実際(いじめ・人権)(2)
第 11 回:教育相談・スクールカウンセリングの実際(反社会的問題行動)(1)
第 12 回:教育相談・スクールカウンセリングの実際(反社会的問題行動)(2)
第 13 回:教育現場でともに学ぶ「いのちの教育」(1)
第 14 回:教育現場でともに学ぶ「いのちの教育」(2)

履修上の注意

事例研究や体験学習を多く取り入れるなど、実践感覚を大切にしながら学生各人の感じ方や意見の表明を多く求める機会が含まれるため、講義には是非主体的かつ積極的に臨んでほしい。
教育に関心を寄せる者として、基本的に単位取得の条件に「全授業への貢献」を求める。授業進行の妨げになるため「遅刻」も厳禁である。
また、毎回事前に授業資料をクラスウエブ上にアップロードするので、当日はノート PC やタブレットなどを持参して教室内で閲覧したり、事前に各自印刷をして授業に臨むようお願いしたい。
(毎回、遅くとも「授業当日朝9時まで」にアップロードするよう努めます。)

準備学習(予習・復習等)の内容

事例文献を前週に掲示し、予め通読し意見をまとめたうえで講義に臨んでもらい、個人発表や小グループでディスカッションをしてもらうことなどを計画している。このように本講義では「予習・復習」を励行することが必須作業となる。

教科書

教科書として指定しないが、参考書や講義中に紹介する参考文献には、自発的にできるだけ目を通してほしい。

参考書

森谷寛之ほか「生徒指導と心の教育(入門編・実践編)」培風館、伊藤美奈子ほか「学校臨床心理学・入門」有斐閣アルマ、森谷寛之「臨床心理学への招待」サイエンス社、、森谷寛之・竹松志乃編「はじめての臨床心理学」北樹出版、下山晴彦編「よくわかる臨床心理学」ミネルヴァ書房、一般社団法人日本心理研修センター監修「公認心理師現任者講習会テキスト」金剛出版、など。

課題に対するフィードバックの方法

口頭および加筆などの形で、必要に応じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

「毎回課す授業に関する感想の紙」を 50%、「最終レポート」を 40%、「授業に臨む姿勢」を 10%として、総合的に評定する。

その他

臨床心理学専攻に所属し、将来「公認心理師」資格取得に関心を持つ学生に関して、本講義は資格取得に必要な法定科目のひとつであるため、できるだけ和泉在籍時代に履修し単位取得しておくことを勧める。

科目ナンバー:(AL)EDU111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
教育学A	**教育学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
前原 健二	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

現代日本の教育の現状について,毎回の講義ごとにトピックを定めて考察する。誰もが持っている「教育体験」や「学校観」を相対化・客体化して考察の対象とする知的態度や方法を身に付けることができる。「教育」「学校」「教師」に関する一定の理解を得ることはもちろん到達目標の一部であるが、それ以上に、それらの学習を通して「知的考察の態度と方法」を獲得することが重要な到達目標である。

授業内容

この教育学 A は「教育学」という学問についての理論的な紹介ではなく、「教育」「学校」「教師」について具体的に考える講義である。各回の講義でひとつの主題を取り上げる予定である。
第1回 大学について考える(1):今「大学生」であることの意味と価値と責任 +講義の概要と計画の説明
第2回 大学について考える(2):高等教育の発展段階論、大学のこれまでとこれから
第3回 大学について考える(3):大学のドイツ型とアメリカ型、特殊な日本型
第4回 「教師」という仕事(1):私たちの「教師観」
第5回 「教師」という仕事(2):教師の仕事、「学習学校」の教師と「生活学校」の教師
第6回 「教師」という仕事(3):数字で見る教師の現状
第7回 日本の学校と学力(1):戦後日本の学力政策を振り返る
第8回 日本の学校と学力(2):国内的視点から見る学力、国際的視点から見る学力
第9回 日本の学校と学力(3):グローバル化する社会、これからの学力
第 10 回 特論:アカデミック・ライティング及び「教育学 A」のレポートの作成法について
第 11 回 情報化社会の教育
第 12 回 ジェンダーと教育問題の関わり
第 13 回 インクルーシブな教育をどう実現するか
第 14 回 中途入職教員について考える

履修上の注意

特に基礎知識は必要ない。毎回の講義ごとにコメントを書いて提出してもらい、次回の講義においてその一部を使って振り返りを行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の講義について3時間程度の復習が望まれる。
毎回の講義について、配布プリント、ノートの内容、関連事項の探究、参考文献の参照を通じて重要な概念や考え方について理解の定着をはかることが望まれる。
毎回の講義ごとに、コメントペーパー(=リアクションペーパー)の提出を求める予定である。提出されたものの中から一部を切り出して質問への回答等も記したフィードバックプリントを作って配布する。フィードバックプリントの読み込みも、復習の一部である。

教科書

教科書は使用しない。
毎回の講義に先立って、講義プリントを Oh-o meiji システムのクラスウェブにアップするので、各自でダウンロード、プリントして持参、参照することとする。

参考書

講義で取り上げる話題に関連した,大学生が自立して読むことのできる参考図書を毎回紹介する。
なお講義時に紹介する参考図書は主に新書(一冊 700 円から 800 円程度)にする予定である。新書は古書の対義語ではないから、新書が古書で、たとえば 100 円で売っていたりもする。大学生として、講義や演習のテキストとは別に、4年間で 100 冊の新書を買って読むことを強く推奨したい。
とりあえずいくつかあげておく。
阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社 2024 年
本田由紀『「日本」ってどんな

課題に対するフィードバックの方法

毎回のコメントペーパーについては、読み取った PDF データが自動返送される。バリエーションを考慮して一部のコメントを切り出してプリントを作り次回の講義時に配布し、必要に応じてコメントする。
期末レポートについては、要望に応じて評定を通知する。

成績評価の方法

基本的に毎回のコメントの提出による講義への参加 70%、期末レポート 30%の比重で評価する。

その他

講義に関係のない私語がとびかう状況は望ましくない。私語には厳しく対処する。
この講義は、受講する学生諸君と一緒に、「教育を素材とした,週1回の知的な楽しみ」であることを目指す。教育学 B(秋学期)を連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)EDU111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
教育学B	**教育学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
前原 健二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この教育学 B は、春学期の教育学 A と同じく、「教育学」という学問についての理論的な紹介ではなく、「最近の教育問題」「教育の改革の動向」について具体的に考える講義である。各回の講義でひとつの主題を取り上げる予定である。

授業内容

第1回 学歴社会について(1):日本は「学歴社会」か？
第2回 学歴社会について(2):イデオロギーとしての「学歴主義」
第3回 学歴社会について(3):グローバル化と学歴
第4回 学校の「きまり」について考える
第5回 体罰について考える
第6回 学校部活動について考える
第7回 日本の英語教育の現状と改革について考える
第8回 日本の国語教育の現状と改革について考える
第9回 日本の算数・数学教育の現状と改革について考える
第 10 回 入学試験制度の現状と改革について考える
第 11 回 特論:アカデミックライティングと教育学 B のレポートの作成法について
第 12 回 就学前教育の現状と改革について考える
第 13 回 教育のオルタナティブについて考える
第 14 回 改めて、教育改革について考える

履修上の注意

特に基礎知識は必要ない。毎回の講義ごとにコメントを書いて提出してもらい、次回の講義においてその一部を使って振り返りを行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の講義について3時間程度の復習が望まれる。
毎回の講義について、配布プリント、ノートの内容、関連事項の探究、参考文献の参照を通じて重要な概念や考え方について理解の定着をはかることが望まれる。
毎回の講義ごとに、コメントペーパー(リアクションペーパー)の提出を求める予定である。提出されたものの中から一部を切り出して質問への回答等も記したフィードバックプリントを作って配布する。フィードバックプリントの読み込みも、復習の一部である。

教科書

教科書は使用しない。
毎回の講義に先立って、講義プリントを Oh-o meiji システムのクラスウェブにアップするので、各自でダウンロード、プリントして持参、参照することとする。

参考書

講義で取り上げる話題に関連した，大学生が自立して読むことのできる参考図書を毎回紹介する。
なお講義時に紹介する参考図書は主に新書(一冊 700 円から 800 円程度)にする予定である。新書は古書の対義語ではないから、新書が古書で、たとえば 100 円で売っていたりもする。大学生として、講義や演習のテキストとは別に、4年間で 100 冊の新書を買って読むことを強く推奨したい。
とりあえずいくつかあげておく。
広田照幸『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』ちくまプリマー新書 2022 年
野口悠紀雄『「超」創造法』幻冬舎新書

課題に対するフィードバックの方法

毎回のコメントペーパーについては、読み取った PDF データが自動返送される。バリエーションを考慮して一部のコメントを切り出してプリントを作り次回の講義時に配布し、必要に応じてコメントする。
期末レポートについては、要望に応じて評定を通知する。

成績評価の方法

基本的に毎回のミニレポートの提出による講義への参加 70%、期末レポート 30%の比重で評価する。

その他

講義に関係のない私語がとびかう状況は望ましくない。私語には厳しく対処する。
この講義は、受講する学生諸君と一緒に、「教育を素材とした，週1回の知的な楽しみ」であることを目指す。教育学 A(春学期)を連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
教職のための英文法	**英語史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

普遍文法を科学的に記述しようとする「生成文法」とは違い、いわゆる「学校文法」は言語の用法を重視し、対象言語を習得するにあたって必要とされる文法といえる。本科目は主に英語教員志望の学生を想定し、Quirk et al. (1985) や Huddleston and Pullum (2002, 2005)などに見られる伝統文法の枠組みを理解することで、英語の習得に資する文法理論を概観する。また、英語学習者が知るべき言語現象が辞書ではどのように記述されているかを見ることで、中学・高校などの教育現場で活用できる英文法への理解を深める。

授業内容

毎回、授業初めに復習内容についての小テストを Oh-o!Meiji を利用して行います。その後、教科書と配布資料を使って講義を行ないます。最後に授業内容の振り返りとして Oh-o!Meiji を利用して掲示板への書き込み活動を行います。
第1回 文法理論とは何か？
第2回 第1章 基本文型と動詞句の構造 前半、英文資料 1
第3回 第1章 基本文型と動詞句の構造 後半、英文資料 2
第4回 第2章 主部と名詞句の構造 前半、英文資料 3
第5回 第2章 主部と名詞句の構造 後半、英文資料 4
第6回 第3章 意味役割 前半、英文資料 5
第7回 第3章 意味役割 後半、英文資料 6
第8回 第4章 付加部 前半、英文資料 7
第9回 第4章 付加部 後半、英文資料 8
第 10 回 第5章 前置詞の機能と前置詞句の構造 前半、英文資料 9
第 11 回 第5章 前置詞の機能と前置詞句の構造後半、英文資料 10
第 12 回 第6章 否定と助動詞 前半、英文資料 11
第 13 回 ここまでの達成度確認
第 14 回 a 試験、b まとめ、解説

履修上の注意

理由のない欠席が3分の1を超える場合、単位認定はできません。同じく、理由のない遅刻は減点対象、 50 分以上の遅刻は欠席扱いです。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習部分や復習部分は毎週指示します。課題についてもその都度、指示します。

教科書

『英米の文法書に学ぶ 英文法基礎論』田子内 健介著(開拓社)
ISBN: 978-4758922944

参考書

1 辞書
学習英和辞典(『ウィズダム英和辞典』『ジーニアス英和辞典』など)や学習英英辞典(Longman Dictionary of Contemporary English など)を必ず持参すること。紙の辞書・電子辞書・アプリ・オンライン辞書などメディアにはこだわりませんが、用法や例文を確認できるものを用意すること。
2 本
Biber, Johansson, Leech, Conrad, and Finegan (1999)Longman Grammar of Spoken and Writte

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明します。

成績評価の方法

平常点(小テスト・書き込み活動・授業への貢献度など)50%、期末試験 50%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
キリスト教史	**キリスト教史**	
担 当 者	開講期	開講地区
坂田 奈々絵	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義は「キリスト教」という宗教の基礎的な思想とその成立について学ぶことを目標とする。全十四回のうち、第一回ではキリスト教という宗教の枠組みについて扱い、その後、第二回から第六回では旧約聖書を紐解きつつ、そこに書かれた神と人間の関係やメシア思想などについて見ていく。また平行する形で、ユダヤ教の成立と発展の歴史を追う。また第七回では新約聖書の基本的な構造とその成立について、そして第八回から第十三回では、新約聖書に書かれたイエスの言行及びキリスト教成立の過程を扱う。

具体的な到達目標は以下の通りである。

1. 講義内で扱った旧約聖書の諸文書に描かれた神と人間の関係について理解し、説明できる。
2. 新約聖書に書かれたイエスの言行や、その存在がどのように解釈されていたのかについて理解し、説明できる。
3. キリスト教という宗教の特徴と成立過程について理解し、説明できる。

授業内容

第1回 導入：キリスト教とはどのような宗教か？
第2回 旧約聖書の成立と構成
第3回 旧約聖書1：創造物語
第4回 旧約聖書2： 神と人間の関係
第5回 旧約聖書3： 契約
第6回 旧約聖書4： メシア待望・終末思想
第7回 新約聖書の成立と構成
第8回 新約聖書 1： 降誕物語
第9回 新約聖書 2：イエスの言行
第 10 回 新約聖書 3：奇跡物語
第 11 回 新約聖書 4：受難と復活
第 12 回 新約聖書 5：パウロの活躍とその思想
第 13 回 キリスト教の拡大とその後
第 14 回 まとめ

履修上の注意

積極的で真摯な受講態度を求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：事前に配布された資料をよく読むこと。また小テストに向けて知識の整理を十分に行うこと。
復習：講義で扱った概念などを整理し、不明点については参考文献や専門辞書を用いて自発的に調査を行うこと。

教科書

なし(必要に応じて資料を配布する)

参考書

『聖書 新共同訳 旧約続編付き』共同訳聖書実行委員会編、日本聖書協会、1987 年
山我哲雄『キリスト教入門』岩波書店、2014 年

課題に対するフィードバックの方法

各講義の冒頭でコメントペーパーへの応答を行う。

成績評価の方法

三回の小テスト 70%
コメントペーパーの質的評価 30%
※ 三分の一以上の出席を前提とし、出席日数が満たない場合は評価なしとなる。

その他

授業に関する連絡は以下のアドレスまで。
n-sakata@seisen-u.ac.jp

科目ナンバー：(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
近代英小説読解	**英文学講読C**	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 麻里	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

メアリ・シェリーの『フランケンシュタイン』(1818, 1831)を講読します。
メアリ・シェリーは 19 歳のとき、身の毛もよだつ夢を見て、『フランケンシュタイン』の着想を得ました。彼女の心をとらえて離さなかった恐怖の幻影が、今では、数多くの読者の悪夢となり、フランケンシュタイン・コンプレックスやフランケンシュタイン・シンドロームという言葉を生みました。世界で最初の空想科学小説であると謳う人もいる作品を、いっしょに読んでみませんか。
大勢で集まって文学作品を読む意義は、ひとりで読んでいては気づくことのできない様々な「読み」(視点)を獲得できることです。到達目標は、イギリスの小説を「読む」ことを楽しみ、その思いを明確に表現して伝えることができるようになること、そして、他者の意見を理解して、様々な視点を獲得し、多角的に作品を分析できるようになることです。また、物語を読み進める過程で、当時の社会や文化を知ることになるでしょう。

授業内容

1 指定範囲を精読して、感じたこと、考えたこと、話し合ってみたいことを書き出して提出します。
2 担当教員が 1 の宿題を評価した上で、意見をまとめ、受講生のコメントを掲載した進行表を作成します。
3 授業中は 2 の進行表を用いて、受講生の発表をもとに、ひとりで読んでいては気づくことのできない様々な「読み」を共有します。また、下記のように、作品理解を深める話題や資料を提示します。
4 受講生は授業中、発表に耳を傾け、投げかけられる問いから考察して、授業ノート(リアクション・ペーパー)を仕上げて提出、それを出席点とみなします。

第 1 回 作品を「読む」とは ／授業の目標と宿題の方法 ／北極海航路の将来
第 2 回 Part A （p. 28 l. 33 – p. 45）を分析した宿題を提出 ／小説とは何か（1）リチャードソン『パメラ』
第 3 回 Part B （p. 46 – p. 63 l. 24）宿題提出 ／Part A 講読 小説とは何か（2）デフォー『ロビンソン・クルーソー』
第 4 回 Part C （p. 63 l. 25 – p. 81 l. 3）宿題提出 ／Part B 講読 啓蒙思想とロマン主義
第 5 回 Part D （p. 81 l. 4 – p. 100 l. 13）宿題提出 ／Part C 講読 永世中立国スイス
第 6 回 Part E （p. 100 l. 14 – p. 117 l. 28）宿題提出 ／Part D 講読 情況証拠と冤罪事件
第 7 回 Part F （p. 117 l. 29 – p. 135 l. 22）宿題提出 ／Part E 講読 崇高と美の概念
第 8 回 Part G （p. 135 l. 23 – p. 155 l. 26）宿題提出 ／Part F 講読 クリーチャーの本棚
第 9 回 Part H （p. 155 l. 27 – p. 173 l. 19）宿題提出 ／Part G 講読 正義の女神テミス
第 10 回 Part I （p. 173 l. 20 – p. 190 l. 33）宿題提出 ／Part H 講読 出産神話
第 11 回 Part J （p. 190 l. 34 – p. 208 l. 36）宿題提出 ／Part I 講読 ヒトかモノか
第 12 回 Part K （p. 208 l. 37 – p. 225）宿題提出 ／Part J 講読 フュースリ「夢魔」
第 13 回 Part K 講読 入れ子構造の物語
第 14 回 a 春学期の総括
b 記述試験

履修上の注意

1 必ず、指定教科書を入手して受講しましょう。版が異なると、ページ数・行数が異なります。指定教科書のページ数・行数を明示していない提出物は受理しません。
2 遅刻厳禁。辞書必携。
3 難解な言葉を駆使して、一般的な意見を述べることよりも、今の自分が読むからこそ感じること、見えてくることを、飾らない身近な言葉で、ありのままに述べることが求められる授業です。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定範囲を読み解いていないと、意見を言うことも、他の人の意見を理解することもできません。毎回の宿題を、地道にこなすことが肝要です。準備学習には少なくとも、ゆったりと 2 時間はかけて、作品をエンターテイメントとして楽しむ余裕をもつと、自ずと魅力的な分析ができるようになるでしょう。

教科書

Mary Shelley, Frankenstein (London: Penguin, 2003) ISBN: 978-0-141-43947-1

参考書

随時、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の宿題と授業ノートは、採点して翌週に返却、その内容は授業中に、受講生が発表したり、担当教員が紹介して共有します。

成績評価の方法

日常点（宿題・授業ノート・発言） 60 %
期末試験 40 %
全授業数のうち、3 分の 2 以上出席することが、単位取得の前提条件です。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT321M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
近代米小説読解	**米文学講読C**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アメリカのゴシック短編小説、中編小説を幅広く読みます。18 世紀後半にイギリスで流行した中世風の怪奇恐怖小説の一群が「ゴシック小説」の始まりですが、ヨーロッパ的な「幽霊譚」をアメリカの作家が取り入れて創作したときに、どのような特色が表れたでしょうか。例えば、授業予定の後半で、近代リアリズム小説を確立したと言われる Henry James(1843-1916)の中編小説『ねじの回転』(The Turn of the Screw)(1898 年)を読みますが、ジェイムズは流行の幽霊譚を土台にしながら、「視点」の手法によって、何が真実なのか？の答えが出ない世界観を提示しました。『ねじの回転』は、女家庭教師(ガヴァネス)の視点から幽霊譚が語られるため、本当に幽霊はいたのか？それとも女家庭教師の幻想なのか？という問いを読者に投げかけています。20 世紀半ばの Truman Capote の「ミリアム」("Miriam")(1945 年)では、幽霊とは、実在する超自然的な存在ではなく、自己の内面の投影なのではないか、という現代的な心理描写の特色がさらに顕著になります。このような面白い謎について、一緒に考えていきましょう。そして、文章の内容・文体の両面に表れる作家の特色を鑑賞する力を身に付けることを目指します。

授業内容

1. イントロダクション
2. Edgar Allan Poe, "The Fall of the House of Usher"
3. Truman Capote, "Miriam"
4. Henry James, The Turn of the Screw,①
5. Henry James, The Turn of the Screw,②
6. Henry James, The Turn of the Screw,③
7. Henry James, The Turn of the Screw,④
8. Henry James, The Turn of the Screw,⑤
9. Henry James, The Turn of the Screw,⑥
10. Henry James, The Turn of the Screw,⑦
11. Nathaniel Hawthorne, "Rappaccini's Daughter"
12. 映画『回転』(The Turn of the Screw)
13. エッセイ発表
14. a. 全体の議論
b. 試験

*履修者の習熟度や関心に合わせて、予定には多少の変更があります。

履修上の注意

翻訳は参考にして構いませんが、作品を深く鑑賞するために、原文を精読する地道な努力が必要です。発表担当者(主に、物語の要約、重要な箇所の日本語訳と語彙の解説、短い自分の解釈)だけでなく、担当者以外も毎回予習をして授業に臨んで下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修上の注意 を参照。

教科書

①Henry James,The Turn of the Screw, Case Studies in Contemporary Criticism, 3rd. ed. (Boston : Bedford/St. Martin's, 2010).
上記の版を底本にしますが、各自入手しやすい版で構いません。Norton Critical Edition や Penguin Books からも出版されています。
②ポー、カポーティ、ホーソーンの短編小説は Oh-o ! Meiji のクラスウェブを通して PDF

参考書

とくに定めませんが、授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

発表者の配布資料を元に、改善点を教場でフィードバックします。

成績評価の方法

発表担当・出席/コメント 50%、期末試験 50%。原則として、全授業数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
グループカウンセリング技法(心理学的支援法)	**心理学的支援法Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
諸富 祥彦	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、将来、カウンセラー、子育て支援、教師などの対人援助職に従事する志を持つ者のための実践的なトレーニングを集中的におこなう。代表的なカウンセリングの概念、意義、適応及び限界などにふれながらも、心の健康教育の方法であり、かつ、カウンセラー・トレーニングのもっとも代表的な方法の一つとしておこなわれてきたベーシック・エンカウンター・グループを中心に、アクティヴ・リスニングなどの方法を交えながら、実際の「グループ体験」をしながら、体験的な学習をおこなっていく。カウンセラー、子育て支援、教師などの対人援助職に従事する者に必要な「人間関係の基礎力」を体験的に学んでいく。 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を学び、体得していく。 プライバシーへの配慮の重要性や、 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の重要性についても触れる。

授業内容

この授業では、カウンセラー・トレーニングのもっとも代表的な方法の一つとしておこなわれてきたベーシック・エンカウンター・グループを中心に、アクティヴ・リスニングなどの方法を交えながら、体験的な学習をおこなっていく。
1)エンカウンター・グループとは
2)代表的なカウンセリング方法の概念、意義、適応及び限界
3)ロジャーズ「出会いへの道」について語り合う
4)ペア・リスニングのトレーニング その1
5)ペア・リスニングのトレーニング その2
6)グループ体験 その1
7)グループ体験 その2
8)グループ体験 その3
9)ペア・リスニング体験 その1
10)グループ体験 その4
11)グループ体験 その5
12)グループ体験 その6
13)ペア・リスニング体験 その2
14)グループ体験 その7
授業の中で、「 代表的なカウンセリングの概念、意義、適応及び限界」「地域支援の意義」「 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法」「 プライバシーへの配慮」「 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援」「心の健康教育」といった内容にも触れることとする

履修上の注意

この授業では、将来、カウンセラー、子育て支援、教師などの対人援助職に従事する志を持つ者のための実践的なトレーニングを集中的におこなう。
自分を見つめる、自分を語る、他者を聴く、他者にかかわる、といったリアルな体験を積み重ねていく。こうした体験をかなり集中的におこなっていくので、その覚悟ができていない者、プロフェッショナルな対人援助者になる志を持っていない者は、受講しないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

心を開く姿勢で参加すること

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを課 した場合には全体講評を次回の授業でおこなう

成績評価の方法

1)授業への参加度 30%
2)体験学習への集中度 50%
3)自己の体験の認識 20%

その他

9月2日(水)3日(木)4日(金)の3日間の集中講義
将来、臨床心理士、公認心理師、カウンセラー、子育て支援、教師などの対人援助職に従事する志を持つ者はぜひ参加してください

科目ナンバー：(AL)HIS291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
経済史	**経済史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高見 純	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜概要＞

ヨーロッパで誕生した「近代社会」の社会経済構造は、我々が暮らす現代世界で、未だに支配的に機能している。経済史は、この現代世界の経済生活について歴史的な道筋を解明し、自身が生きる世界を相対化して理解する一助となる学問である。

経済史 A では、まず前半に、経済史の有する問題関心・分析視角を概観する。その上で、「生産」局面から「近代社会」の構造的特質の解明を目指す。比較対象としての「前近代社会」を措定し、「近代」を育んだヨーロッパ前近代社会を概観して「近代社会」の歴史的な成立を検討する。さらに、講義の後半には、近年多様化する経済史で取り上げられるトピックの一つ「富の再分配」に焦点を当てて議論する。

＜目標＞

学問的な成立過程、経済史を学ぶ上での基礎的な知識・分析視角を理解すること。

「近代社会」の構造的特質を、「近代」を生んだ「前近代社会」との対比の中で説明できるようになること。

授業内容

1. イントロダクション
2. 経済学と経済史の成立
3. 歴史分析の方法と産業革命：「革命」を巡る議論
4. イギリスの工業化(1)：工業化の諸前提
5. イギリスの工業化(2)：工業化の諸前提
6. イギリスの工業化(3)：経過と特徴
7. 福祉国家の起源
8. 現代的課題と福祉の類型
9. 近代イギリスの救貧
10. ドイツ社会国家の形成
11. 世界恐慌期の福祉
12. 民間福祉と慈善
13. 相互扶助と近世
14. a：まとめ(b が期末テストになる可能性もある)

履修上の注意

経済史 B とのセット履修が望ましい。 講義内容・進行は、履修者の理解度等をみながら調整・変更する可能性があります。講義動画や資料の転載・他での利用は禁止します。自筆ノートが最終的に自身の教科書になるよう努めましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

「経済」と名前が付いていますが、専門的な数学の知識などは必要ありません。

配布資料や自筆ノートの復習、指定された参考図書・論文をよく読み、また講義前には再度確認して準備しておいて下さい。

教科書

特定の教科書は用いない。必要な資料は講義中に配布します。

参考書

講義中に適宜、必要な参考文献を紹介するが、以下に一例を挙げておきます。

馬場哲ほか『エレメンタル欧米経済史』(晃洋書房)，2012 年。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜フィードバックを行います。

成績評価の方法

原則として、期末試験(60%)、平常点(40%)を総合的に評価します(受講人数によっては、中間レポートを課す場合もあり変動します)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
経済地理学 I	**経済地理学 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

現実の世界において、私たちの生活には必ず物質的基盤が必要となる。生身の人間が生きるうえでの活動は、必然的に特定の場所で、空間的広がりをもって、何らかのモノやヒトとの関わりのうえに成立している。つまり人間活動は全て地理的側面をもっている。本講義では、人間の営みのなかでも「経済」活動に焦点を絞り、それを地理学的視点から分析し理解するための基本的な考え方を紹介する。

本講義においては、とくに具体的な事例の検討を通じて学習することで、現実の経済現象や、メディア情報や一般に流布する言説に対して、学生自身が経済地理学の視点から、批判的かつ論理的に自身の見解を展開・表現できるようになることを目指す。その際、現代の経済地理学におけるいくつかの代表的な理論的立場を示し、トピック毎にこれらの理論がどのような設問をして、その答えを得ようとするかを考察する。この講義を履修することにより、現代の経済地理学の「面白さ」に触れ、その基本的な思考パターンを身につけることを到達目標とする。

授業内容

主な項目は以下の通り。ただし変更の可能性がある。変更の際には事前に連絡をする。

01. 授業の概要
02. 経済って何？
03. 地理学的視点とは
04. たてよこ偶然：環境決定論
05. 自然の重みと恵み
06. 資源の争い・資源の呪い
07. 水を治める：いのちと生活
08. 中間課題
09. 貿易と格差
10. 価値連鎖を駆け上る？
11. 人が先か仕事が先か：人口理論
12. 集まれ、さらば与えられん：集積論
13. 災害・文化・経済
14. a. 期末課題、b. まとめ・解説

履修上の注意

授業においては、教官の講義を聞いて理解するだけでなく、学生による質問、意見や感想を共有することを通じて、お互いの学びの質を高めることが肝要である。よって授業への出席はもちろんであるが、予習や事前課題を通じて準備を整え、積極的に授業参加する姿勢が必須である。本講義においては、学生に短い学習発表を行なってもらうことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業・ディスカッションに参加するためにも、指定の締切日までに課題の作業を仕上げてくることが求められる。課題には、指定文献(ニュース、雑誌記事、学術文献)の解読、映像資料(ビデオ)の視聴、授業内容に対する感想や質問、小論文などが含まれる。課題文献の中には英語文献も含まれることもあるが、オンライン上の翻訳機能を積極的に活用してよい(ただし、最終的に正しく内容を理解するか否かは本人の責任に基づく)。

教科書

今学期は、宮地秀作著(2025)『経済は地理から学べ・全面改訂版』(ダイヤモンド社)を課題図書とする。同名の書籍が 2017 年に出版されているが、内容が大幅に改定されているので、かならず 2025 年の全面改訂版を入手すること。本講義においては、本書を教科書としてというよりも、議論の出発点や批判的考察の対象として利用する。第 1 回目の授業までに、序章(39 頁まで)を読んでおくこと。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また学生の希望により、口頭で課題に対する助言や、授業内容に関する補足的解説を行う。

成績評価の方法

中間課題(30%)＋ 期末課題(50%)＋ 質問票・授業参加度(20%)

課題はテスト形式を原則とする。ただし、履修人数によって調整する可能性がある。

3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。

より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に
[url=https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html]学生相談室[/url]を利用することをすすめる。(連絡先：03-3296-4217(駿河台)；03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
経済地理学Ⅱ	**経済地理学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

私たちの日常生活において不可欠ともいえる電気。それはどこか特定の場所で作られ、広がりを持った空間を通じて運ばれ、特定の位置で消費される以上、必然的に地理的次元を含む。本講義においては、電源のなかでもとくに対立的な議論が多い、原子力エネルギーを主な題材とする。核や原子力に関する一般的な知識を踏まえながら、これを経済地理学的な視点から批判的に考察する。と同時に、経済地理学の方法論や異なるアプローチの特徴などについても解説し、議論する。
本講義では「核と原子力の経済地理学」という切り口から、現代の経済地理学の方法論や学術的知見に対する理解を深めることを到達目標とする。その際、原子力エネルギーに対する普遍的(没地理的)な是非論に留まることなく、異なる立場や地理的状況から立論することによって得られる多様な知見に対して向き合うことが求められる。

授業内容

主な項目は以下の通り。ただし変更の可能性がある。変更の際には事前に連絡をする。
01. 授業の概要
02. 経済地理学とエネルギー
03. 原子力開発の世界史・地理的状況
04. 核兵器と原子力の「平和的」利用
05. 原子力施設の立地：どこに、なぜ？
06. 原子力施設立地の意思決定：どこのだれが？
07. 核の「商品」連鎖：採掘から最終処理まで
08. 原子力施設は地域経済にとって呪いか福音か
09. 原子力施設の立地地域で生活すること
10. 気候変動と原子力：何が「正義」か？
11. 廃炉・核廃棄物の地理的空間
12. 原子力事故・災害
13. 原子力災害からの復興
14. a. 期末課題、b. まとめ・解説

履修上の注意

授業においては、教官の講義を聞いて理解するだけでなく、学生による質問、意見や感想を共有することを通じて、お互いの学びの質を高めることが肝要である。よって授業への出席はもちろんであるが、予習や事前課題を通じて準備を整え、積極的に授業参加する姿勢が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業・ディスカッションに参加するためにも、指定の締切日までに課題の作業を仕上げてくることが求められる。課題には、指定文献(ニュース、雑誌記事、学術文献)の解読、映像資料(ビデオ)の視聴、授業内容に対する感想や質問、小論文などが含まれる。課題文献の中には英語文献も含まれることもあるが、オンライン上の翻訳機能を積極的に利用してよい(ただし、最終的に正しく内容を理解するか否かは本人の責任に基づく)。

教科書

本講義の課題図書として、水野倫之・山崎淑行 (2023)『エネルギー危機と原発回帰』(NHK 出版)を使用する。近年の原子力エネルギーを巡る動向に関して、有用な基礎知識や背景情報を読みやすくまとめている。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また学生の希望に応じて、口頭にて課題に対する助言や、授業内容に関する補足的解説を行う。

成績評価の方法

中間課題(30%)＋ 期末課題(50%)＋ 小課題・質問票・授業参加度(20%)
履修人数によって、中間および期末課題はテスト形式になることがある。
3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に
[url=https://www.meiji.ac.jp/soudan/index.html]学生相談室[/url]を利用することをすすめる。(連絡先：03-3296-4217(駿河台)；03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)LIT211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
芸術学研究	**芸術学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
増野 亜子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この講義では芸術とは何かを考える。諸芸術の中でも特に音響芸術―歌、楽器演奏、演劇、舞踊など、音とかかわるさまざまな表現―を中心に扱い、時代や地域の異なる多様な事例を横断的に見ながら(聞きながら)、人間がなぜこれらの表現を必要とするのかを考えてみたい。人はさまざまな文脈において音楽を創造し、伝承し、演奏し、あるいは解釈し、理解し、学習し、音楽とともに祈り、踊り、働き、戦い、眠ってきた。そうした音と人のつながりは、狭義の「芸術」や「エンターテインメント」の枠内にとどまらず、人々の生活や世界観・価値観と深く関わり、儀礼・舞踊・演劇・美術・建築・武術・スポーツといった身体的・視覚的なコミュニケーションと連動して私たちの文化を培ってきたのである。この講義ではこうした視点から幅広く多様な芸術的表現をとりあげ、人間の創造性について考えてみたい。
なお講義の目的は「芸術とは何か」という問いに「正解」を提示するものではない。多様な具体例を視聴覚資料で紹介し、その表現の形態や美学だけでなく、社会的・歴史的な背景や文脈性を解説し、それをもとに履修者自身がさまざまな事例をもとに考えることを重視する。
今期は「楽器」「身体と空間」「視覚と聴覚」といった主題を中心に扱う。音楽の基本的メディアである楽器に注目し、音楽が人々の歴史や社会とどのように関わってきたかを考察する。また舞踊と音楽、武術と芸術、視覚芸術と音響芸術等、一般に異なるジャンルと考えられている領域が交差する事例について考察する。
[到達目標]
世界の多様な芸術文化についての知識を得る。但し最終的な目標は、知識の習得よりもむしろ、受講者が多様な音楽の可能性に対する開かれた「目」や「耳」を養うことにある。芸術表現をただ「鑑賞」したり、エンターテインメントとして「楽しむ」だけでなく、その成り立ちや背景を理解し、そこから人間と芸術のさまざまなかかわりについて考察する基礎的な視点を身につけてほしい。

授業内容

第1回：楽器の故郷 自然環境と楽器
第2回：楽器の旅①琵琶の旅
第3回：楽器の旅②フリーリード 3 兄弟
第4回：楽器の旅③中南米とアフリカ
第5回：軍隊/戦争/芸術 トルコとヨーロッパ
第6回：音楽と植民地主義
第7回：ピアノとピアノの祖先たち
第8回：「楽器になる」と考える
第9回：インドネシアの音楽と舞踊(1) バリ編
第 10 回：インドネシアの音楽と舞踊(2)ジャワ編
第 11 回：武術と芸術
第 12 回：芸術における身体と空間
第 13 回：音と造形、聴覚と視覚：サウンドアート
第 14 回[a のみ]総括：人間にとって音楽とは何か

履修上の注意

この授業は基本的に講義形式である。履修に際して五線譜の解読力や楽器の演奏能力等は問わない。
講義の順番やタイトルは部分的に変更することがある。
また基本的な方向性やテーマは春学期開講「芸術学の基礎」と共通しているが、「芸術学の基礎」を履修していない学生も履修可能であり、講義内容の理解には問題ない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：回ごとに指定する教科書のテキストに事前に目を通しておくこと
復習：講義中に紹介する動画やテキスト等を各自で視聴することが望ましい。
予習と復習を含めた授業時間外学習時間の目安は 1 時間程度である

教科書

なし

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji 上でリアクションや質問を受け付け、次回講義時に口頭でフィードバックする。

成績評価の方法

定期試験 100%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT211J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
芸術学の基礎	**芸術学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
増野 亜子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

[概要]

この講義では芸術とは何かを考える。諸芸術の中でも特に音響芸術―歌、楽器演奏、演劇、舞踊など、音とかかわるさまざまな表現ーを中心に扱い、時代や地域の異なる多様な事例を横断的に見ながら(聞きながら)、人間がなぜこれらの表現を必要とするのかを考えてみたい。人はさまざまな文脈において音楽を創造し、伝承し、演奏し、あるいは解釈し、理解し、学習し、音楽とともに祈り、踊り、働き、戦い、眠ってきた。そうした音と人のつながりは、狭義の「芸術」や「エンターテインメント」の枠内にとどまらず、人々の生活や世界観・価値観と深く関わり、儀礼・舞踊・演劇・美術・建築・武術・スポーツといった身体的・視覚的なコミュニケーションと連動して私たちの文化を培ってきたのである。この講義ではこうした視点から幅広く多様な芸術的表現をとりあげ、人間の創造性について考えてみたい。なお講義の目的は「芸術とは何か」という問いに「正解」を提示するものではない。多様な具体例を視聴覚資料で紹介し、その表現の形態や美学だけでなく、社会的・歴史的な背景や文脈性を解説し、それをもとに履修者自身がさまざまな事例をもとに考えることを重視する。

前期は主に「声の表現」を中心に扱う。ともに歌い、踊るという行為と共同体の関係、イスラムやヒンドゥー教における宗教的芸術観、儀礼と芸術の関係、物語と音楽・舞踊といったテーマをとりあげる。

[到達目標]

世界の多様な芸術文化についての知識を得る。但し最終的な目標は、知識の習得よりもむしろ、受講者が多様な音楽の可能性に対する開かれた「目」や「耳」を養うことにある。芸術表現をただ「鑑賞」したり、エンターテインメントとして「楽しむ」だけでなく、その成り立ちや背景を理解し、そこから人間と芸術のさまざまなかかわりについて考察する基礎的な視点を身につけてほしい。

授業内容

第1回:音楽・舞踊を文化として理解する
第2回:みんなで歌う、一人で歌う① 音楽が共同体をつくる
第3回:みんなで歌う、一人で歌う② 歌が身体を動かす
第4回:みんなで歌う、一人で歌う③ 子守歌から考える
第5回:イスラムの芸術観 視覚と聴覚
第6回:イスラム神秘主義と芸術
第7回:ヒンドゥー教の芸術観
第8回:儀礼と芸術① 変身
第9回:儀礼と芸術② 治療
第 10 回:物語を語る声
第 11 回:言葉のない歌
第 12 回:物語と舞踊 ラーマーヤナとその表現
第 13 回:みんなで踊る① 舞踊と祝祭
第 14 回:みんなで踊る② 舞踊と共同体

履修上の注意

この授業は基本的に講義形式である。履修に際して五線譜の解読力や楽器の演奏能力等は問わない。
講義の順番やタイトルは部分的に変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:回ごとに指定する教科書のテキストに事前に目を通しておくこと
復習:講義中に紹介する動画やテキスト等を各自で視聴することが望ましい。
予習と復習を含めた授業時間外学習時間の目安は 1 時間程度である

教科書

なし

参考書

徳丸吉彦監修、増野亜子編『民族音楽学 12 の視点』音楽之友社

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji 上でリアクションや質問を受け付け、次回講義時に口頭でフィードバックする。

成績評価の方法

定期試験 100%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL331J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
芸術と哲学	**芸術と哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

哲学と芸術は古代ギリシャの時代から不可分な関係にあり相互に作用を及ぼし続けてきた。とはいえ、両者は単に共存してきたわけではない。両者のあいだには高い緊張関係があり、しかもそれは時代や地域と共に変化を続けてきたのだ。講義では、古代ギリシャから現代にいたるまでのこの緊張関係の変遷を辿り、主要な美学のテクストを紹介し、時に現代の前衛的芸術と先端的哲学との対決を臨床的に経験することをめざす。

授業内容

第一回:講義の概要、その進め方
第二回:古代ギリシャにおける「芸術」、その「テクネー」との連関
第三回:ミメーシスとは何か
第四回:異教の諸芸術、キリスト教と芸術
第五回:ルネサンス期の思想と芸術
第六回;スピノザとフェルメール、カントとカント以降の美学
第七回:18 世紀の絵画論
第八回:音楽の哲学の誕生
第九回:ショーペンハウアーとニーチェ
第十回:ジンメルと諸芸術
第十一回:写真と映画
第十二回:新音楽の哲学:アドルノとジャンケレヴィッチ
第十三回:サルトル、メルロ＝ポンティと絵画、彫刻
第十四回:20 世紀後半からの哲学と芸術

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

予習する必要はないが、講義で紹介された書物や作品を自分で探して味わう習慣を身につけてほしい。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に論述試験を行うが、必要と判断される場合にコメントする。

成績評価の方法

学期末の論述試験100%

その他

必要に応じてコメントし、質問に答える。

科目ナンバー：(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
芸能と文芸	**パフォーマンス研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
今岡 謙太郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「寄席演芸」と聞いて、どのような種類の芸能をイメージするだろう。寄席演芸は、いわゆる舞台芸術また野外におけるパフォーマンスとも違う、独自の展開を遂げて現在にいたっている。この授業では、落語、講談、浪曲、漫才といった代表的な寄席芸を取り上げ、その特色と社会的な広について考えていく。
各種寄席演芸の特色を理解したうえで、独自の見解を組み立てられることを目標とする。

授業内容

具体的には、以下のような内容を扱う。場合によっては、関連する映像、音声資料を Oh-o!Meiji の機能を利用して案内し、閲覧してもらう可能性があるので注意していただきたい。
また、受講生との相談の上、若干の内容変更もありうる。
第１回 落語の成立と特徴：落語前夜から落語へ
第２回～第４回 落語の展開と寄席演芸の発展：様々な「演出」と寄席演芸の性格
第５回 落語と人情噺：「人情噺」の特色と長編物の展開
第６回 講談の展開①：講釈から講談へ
第７回 講談の展開②：「実録」と長編講談
第８回 講談の展開③：近代講談と大衆小説
第９回 浪花節(浪曲)の世界①：「語り物」と浪花節
第10回 浪花節(浪曲)の世界②：近代浪曲の広がり
第11回 漫才と「お笑い」：万歳から漫才へ
第12回 漫才と「お笑い」：近代漫才の展開
第13回 近代期における寄席芸の特色と寄席芸の「位置」
第14回 伝統芸としての寄席演芸

履修上の注意

対面授業で行う予定だが、場合によってはオンラインを介して資料の閲覧(視聴)などが必要になる可能性があるので、その点留意していただきたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で指示された映像(場合によっては音声)を視聴し、その感想などを各自でまとめておくこと。小レポートなどを課す場合もあるので注意してほしい。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しないが、参考にすべき文献などは授業内で示すので、目を通してほしい。

課題に対するフィードバックの方法

1. Oh-o!Meiji のシステムを用いて個別に連絡・フィードバックを行う
2. 授業前後の時間帯を用いていて個別に連絡・フィードバックを行う

成績評価の方法

授業内で指示のあった小レポート・授業に関する j 想など 40%、期末レポート(あるいは試験)60%

その他

科目ナンバー：(AL)ART331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
劇場文化論	**劇場論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中野 正昭	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

演劇は〈観る者〉と〈観せる者(演じる者)〉, あるいは〈観る者〉と〈観られる者〉の出逢いによって生まれるが, その出逢いを用意し演出する場所として劇場がある。本講義では〈モノ／建築としての劇場〉に焦点をあて, 特に西洋の劇場の歴史を通史的に扱いながら, 現在の私たちが自明と感じがちな〈劇場〉という文化について学んで行く。

授業内容

1. 導入 モノ／建築としての劇場空間
2. 古代ギリシア 儀式と祝祭
3. 古代ローマ パンと見世物
4. 中世 宗教的劇空間
5. ルネサンス 古典劇場の復活
6. シェイクスピアとイギリスの劇場
7. 作品鑑賞
8. 作品鑑賞
9. イタリア式劇場 額縁舞台と遠近法
10. バロック式宮廷劇場
11. オペラハウスの黄金時代
12. ワーグナーと理想の劇場
13. 小劇場とリアリズム 再現と鑑賞
14. ヴァラエティ・シアター 都市と娯楽

履修上の注意

講義途中の入室・退出は原則として認めない。理由があって欠席する場合は, 事前に連絡すること。連絡のない場合は, 欠席扱いとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習)
次回の授業内容について、指示した映像作品・資料等を事前に閲覧しておくこと。
準備学習(復習)
授業で紹介した問題について文献等で調べること。

教科書

特定の教科書は使用せず, 必要に応じて, 講義ごとにプリントを配布し, 参考資料を紹介する。

参考書

●S・ティドワース著, 白川宣力・石川敏男訳『劇場--建築・文化史--《新装版》』、早稲田大学出版部、1997 年
●清水裕之『劇場の構図』、鹿島出版社、1985 年
●『世界で一番美しい劇場』、エクスナレッジ、2015 年

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーのうち複数の学生の関心が集中したもの、議論を深めるものについては授業内で紹介し、内容を共有する。

成績評価の方法

成績は学期末レポート(60%)＋リアクションペーパー(40%)から総合的に評価する。出席は学生の義務なので加点にはしないが、欠席は減点対象とする。

その他

理解を深める上で, 秋学期の舞台空間論と連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)PSY331J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
健康・医療心理学	**健康・医療心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡安 孝弘	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ストレスフルな現代社会を生きる人々に多くみられる心の健康問題を取り上げ、医療領域における心理的支援のあり方、および地域社会における健康心理学的支援のあり方について、実際の介入がどのように行われるかを紹介する。それを通して、心の病気の治療と予防の方法を習得し、また自分自身の心の健康状態と人生の質(Quality of Life：QOL)を高める方法についても考えてもらいたい。

授業内容

医療領域における支援に関しては、特に精神医療領域において用いられることの多い科学的根拠に基づく心理療法である認知行動療法(Cognitive Behavioral Therapy：CBT)について、その理論的背景および治療的介入技法を中心に解説する。また、地域社会における健康心理学的支援に関しては、心の健康に大きな影響を及ぼすストレスに関して、その基本的な理論とストレスマネジメントの実際について解説する。

第1回 健康心理学および医療心理学を学ぶことの意義
第2回 健康・医療心理学的支援のための基礎理論
第3回 CBT の理論的背景と諸技法
第4回 社交不安障害への心理的支援
第5回 強迫性障害への心理的支援
第6回 うつ病への心理的支援
第7回 対人関係上の問題をもつ子どもへのソーシャルスキルトレーニング(SST)
第8回 アクセプタンス・コミットメント・セラピー(ACT)とマインドフルネス
第9回 ストレスの基礎理論と心身疾患
第 10 回 職場におけるストレスマネジメント
第 11 回 子どもの心理的問題とストレスマネジメント
第 12 回 災害時における心理的支援
第 13 回 インターネット依存のメカニズムとその予防的・治療的介入
第 14 回 心の健康を高めるための実践

履修上の注意

受講生に問いを投げかけながら授業を進めていくので、毎回必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義で使用するパワーポイントの資料をあらかじめアップロードしておくので、授業の前にそれに目を通して、疑問点を明らかにしておくこと。

教科書

特に定めない。必要な文献は授業において随時紹介する。

参考書

参考書については、講義中に随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

最終試験終了後に Oh-o！Meiji のクラスウエブにおいて解説する。

成績評価の方法

試験を 80%、授業時に数回課す小レポートを 20%の割合で評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LIN191N

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
言語学A	**言語学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
市橋 久美子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

私たち人間の日常生活で重要な役割をしている「ことば」。この「ことば」に関する身近な話題・疑問を取り上げ、人間の言語活動の社会におけるしくみや働きについてわかりやすく解説していきます。
この講義を通して、人間の「ことば」への関心や理解を深め、「ことば」の社会的役割に関する基礎的概念を学習し、個別の言語を越えて人間のことばの諸側面について客観的な考察をすすめていきます。

授業内容

授業は講義を中心にしつつ、個別の分析やグループディスカッションを通して問題意識を高め、積極的に考察を行います。

第1回 「ことば」の都市伝説
第２回 きまぐれな「ことば」
第３回 『正しい』ことば
第４回 世界の言語
第５回 言語の接触とその影響 その1
第６回 言語の接触とその影響 その2
第７回 危ない言語
第８回 言語のバリエーション
第９回 言語とアイデンティティー
第 10 回 ことばの衣替え
第 11 回 話しことばと書きことば
第 12 回 ことばのすれ違い
第 13 回 伝えあいの意味
第 14 回 学期末試験

履修上の注意

本授業は秋学期開講の「言語学 B」と合わせて言語学の学習領域を幅広くカバーするようデザインされているので、併せての履修が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各授業前に各自レジメを手元に準備し(各授業前に Oh-o! Meiji で公開予定)、記載されている問いかけに対し考察の上授業に参加する。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

締切後の次の授業にて解説・講評する。

成績評価の方法

授業毎のリアクションペーパー 30%
中間課題(レポート)30%
学期末試験 40%
提出は締切厳守。締切後の提出は受領しない。
学期末試験では配布したレジメ・資料および自分の手書きのノートのみ持ち込み・参照可。
学期末試験の追試は大学の「特別試験」の承認を受けた場合のみ受け付ける。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN191N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
言語学B	**言語学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
市橋 久美子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

身近な現象を通して観察できる人間の「ことば」のしくみや働きを、言語学という科学的枠組みの中でわかりやすく解説します。
この授業を通して、言語学の基本的概念を学習し、特定の言語に限らない枠組みを用いて人間の「ことば」の働きや仕組みについて客観的な考察をすすめていきます。

授業内容

授業は講義を中心にしつつ、個別の分析やグループディスカッションを通して問題意識を高め、積極的に考察を行います。
第１回 人間のことばへのアプローチ
第２回 ことばと思考
第３回 文化とカテゴリー化
第４回 言語音のつくり
第５回 発音のメカニズム
第６回 言語音の認識のメカニズム
第７回『違いがわかる』音
第８回 語の構造と分析
第９回 語の形成
第10回 文のしくみ
第11回 世界の言語のタイプ分け
第12回 談話研究
第13回 会話の中の文法
第14回 学期末試験

履修上の注意

本授業は春学期開講の「言語学 A」と合わせて言語学の学習領域を幅広くカバーするようデザインされているので、併せての履修が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各授業前に各自レジメを手元に準備し(各授業前に Oh-o! Meiji で公開予定)、記載されている問いかけに対し考察の上授業に参加する。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

締切後の次の授業にて解説・講評する。

成績評価の方法

授業毎のリアクションペーパー 30%
中間課題 20%
学期末試験 50%
提出物はすべて締切厳守。締切後の提出は受領しない。
学期末試験では配布したレジメ・資料および自分の手書きのノートのみ持ち込み・参照可。
試験の追試は大学の「特別試験」の承認を受けた場合のみ受け付ける。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
言語学とその歴史	**言語学とその歴史**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉田 浩美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

初めて言語学に触れる人のための入門の授業である。古くからの「ことば」に対する関心から始まり、比較言語学、近代言語学を経て、現代に至るまでの言語思想、言語研究の歴史を概観する. 同時に, ことばに関するいくつかの基本的なテーマを取り上げ, ことばについて考える.
「ことば」と深く関わりのある諸分野においてより専門的な知識を求めて行く際の土台を形成することを目標とする.

授業内容

おおよそ次のような予定で行うが, 進捗の具合などにより, シラバスにマイナーチェンジが生ずることがあり得る.
第１回 イントロダクション 言語学はどこから始まるか
第２回 比較言語学以前(1)
第３回 比較言語学以前(2)
第４回 比較言語学以前(3)
第５回 近代言語学の始まり:比較言語学(1)
第６回 近代言語学の始まり:比較言語学(2)
第７回 近代言語学の始まり:比較言語学(3)
第８回 授業内レポート(ここまでのまとめ)
第９回 ソシュールの登場と構造主義言語学(1)
第10回 ソシュールの登場と構造主義言語学(2)
第11回 チョムスキーの文法理論
第12回 言語地理学
第13回 社会言語学
第14回 まとめと試験

履修上の注意

授業は対面で行う.

準備学習(予習・復習等)の内容

言葉は常に私たちの周りにあるので, 日頃から観察しよう.

教科書

クラスウェブにアップロードされた講義資料(PDF ファイル)を, 各自に印刷またはダウンロードして使用してもらうこととする.
(※講義資料はこの授業の履修者のために作成しているものなので, 他者への譲渡, あらゆる手法による拡散・共有は厳にお断りします.)

参考書

教場で適宜指示する.

課題に対するフィードバックの方法

講評を行う.

成績評価の方法

授業への参加度(10%), 授業内で書いてもらうレポート(10%)と試験による(80%). 試験は試験期間内に行う予定.
授業内レポートは提出することが重要なのではなく, 大学生らしい内容を書くことが重要.

その他

科目ナンバー:(AL)ANT116J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
言語人類学〔M〕	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
In Linguistic Anthropology, you will learn the basic concepts and ideas of linguistic anthropology. Anthropology involves the systematic, comparative study of groups of people from all over the world and the knowledge those groups have that defines their cultures. We will draw on what we learn about other cultures to learn something about our own culture(s) and about ourselves.

授業内容
Week 1: Introduction
Week 2: What is Anthropology?
Week 3: Anthropological approach to language
Week 4: Signs and Symbols
Week 5: Computer-Mediated Communication
Week 6: Indexicality
Week 7: Language Socialization
Week 8: World View
Week 9: Intention
Week 10: Legal Application
Week 11: Spoken language and written language
Week 12: Analytical approaches
Week 13: Language and Power
Week 14: Review

履修上の注意
There are no prerequisites to enroll in this course.

準備学習(予習・復習等)の内容
The course will include lectures and discussions. Attendance is a minimal requirement. Participation is measured by attendance and by asking and answering questions on a timely basis. You are expected to read the suggested materials and to be able to ask and answer questions about them in class discussions.
This course uses an online system, Oh-o! Meiji. You can access Oh-o! Meiji at:[url]https://oh-o2.meiji.ac.jp/[/url]. You will need your Meiji University username and password to log in.

教科書
Nina Brown, Thomas McIlwraith, Laura Tubelle de González(2020) Perspectives: An Open Introduction to Cultural Anthropology, 2nd Edition, American Anthropological Association

参考書
Other readings will be posted on Oh-o! Meiji.

課題に対するフィードバックの方法
There will be weekly office hours.

成績評価の方法
Evaluation will be based on participation (20%), quizzes (20%), a mid-term exam (30%), and a final exam (30%).

その他
* This class will be in HyFlex format. You can physically be in the classroom or attend this class via Zoom from anywhere around the world. For the in-class/live streaming will be in 5th period of Tuesdays in Izumi. Please check the Oh-o! Meiji for the physical classroom location.

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読A	**原書講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷口 良生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
この授業は、主として西ヨーロッパを中心とした近世・近代・現代史を対象に、外国語(英語)による研究文献の講読を行う。西ヨーロッパ近世・近代・現代史を研究するにあたって必要となる基礎的な知識を身につけ、外国語による文献を精読することができるようになることが目標である。それを通じて、外国語の読解力を身につけ、卒業論文を執筆する準備を行うことが最終的な到達目標となる。

授業内容
第1回 イントロダクション:受講生の自己紹介(関心のあるテーマ含む)、授業の進め方、課題文献の紹介
第2回～第4回 講読(1)
第5回 講読(1)のまとめとディスカッション
第6回～第8回 講読(2)
第9回 講読(2)のまとめとディスカッション
第10回～第12回 講読(3)
第13回 講読(3)のまとめとディスカッション
第14回 授業のまとめと期末レポートについて
＊授業内容はおおむねこのとおりであるが、スケジュールについては受講者数によって調整する可能性がある。

履修上の注意
特別な事情を除いて遅刻・欠席は認められない。やむを得ない事情で欠席する場合は、担当教員に事前に連絡すること。講読する文献については、内容をしっかりと理解したうえで、ディスカッションにも積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
課題文献については、ディスカッションに積極的に参加できるように、必ず事前に読んでおくこと。さらに、授業後も文献の内容について、ディスカッションの内容を踏まえて復習すること。

教科書
課題文献については、受講生のテーマ等を考慮して決定する。

参考書
授業内で適宜示していくが、全体に関するものとして以下をあげる。
柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『フランス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
村岡健次、木畑洋一編『イギリス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
北原敦編『イタリア史(世界各国史)』新版(山川出版社)。
立石博高編『スペイン・ポルトガル史(世界各国史)』(山川出版社)。
谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史:国民国家形成の彼方に』(ミネルヴァ書房)。
木畑洋一、秋田茂編『近代イギリスの歴史:16 世紀から現代まで』(ミネルヴァ

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業内で行う。

成績評価の方法
予習・復習・ディスカッション(50%)と報告・レポート(50%)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読A	**原書講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊丹　聡一朗	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中近世のヨーロッパ世界を理解する際に重要となる幾つかのトピックを選び出し、それに関する英語論文または文献を講読する。その上で、その内容に関する発表及び議論を通じて、理解を深化させる。

授業内容

(1)授業全体のテーマと進め方、教材・参考書について
(2)～(14)論文・文献の講読

履修上の注意

課題提出期限の厳守と授業への積極的姿勢が求められる。特別な理由を除いて遅刻・欠席は認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の講読のために予習と復習を欠かさないこと。また講読内容に関連する文献も可能な限り読み、全体像を掴んで議論に参加できるようにすること。

教科書

特になし。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で実施する。

成績評価の方法

平常点(授業への参加姿勢など)40%、リアクションペーパー(毎回授業終了時に提出)60%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読A	**原書講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿南　大	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業の概要
Lord Acton, Nationality(1862).を講読します。19 世紀英国の著名な歴史家による 18 世紀後半から 19 世紀前半の欧州史を概観する論稿です。ペーパーバックで 30 ページ程度の分量ですが、一文ごとの情報量が非常に豊富で、欧州各地の近世・近代史を満遍なく包括するものになっています。この論稿を重要な事項を確認しながら丁寧に和訳していく授業にしたいと考えています。原書講読 A では主に前半部、欧州の近世的国家秩序が近代的ネイション概念に応じて変質し始めるフランス革命前後の数十年間が主題となります。
到達目標
①欧州近世・近代史を理解する上で不可欠な概念語彙を習得する
②フランス革命前後における欧州社会の構造的変化を理解する
③欧州近世・近代に至る前提としての古代・中世の位置付けを確認する
④19 世紀の歴史家の文章を当時の文脈に拘束された「史料」として読み解いていく感覚を習得する
⑤欧州言語で人文書を読むコツを身につける

授業内容

第 1 回:講読の前に:「基底の時代」について
第 2 回:講読:「共通善」の思想史
第 3 回:講読:宗教改革と大革命
第 4 回:講読:平等、共産主義、ネイション
第 5 回:講読:ウェストファリア体制と王朝国家
第 6 回:講読:ポーランド分割のインパクト
第 7 回:講読:共和政と民主政
第 8 回:講読:大革命とネイション
第 9 回:講読:近代の系譜①:旧教と新教
第 10 回:講読:近代の系譜②:ローマ・ガリアとチュートン
第 11 回:講読:ナポレオン戦争の影響
第 12 回:講読:王政復古とメッテルニヒ
第 13 回:講読:1830 年革命と諸国のナショナリズム
第 14 回:期末試験

履修上の注意

毎回担当者を決め、担当箇所を音読した上で和訳してもらいます。文献に登場する語彙は大学受験英語レベルで対応可能ですが、欧州史全般の知見を必要とする含蓄に富んだものなので、最初の段階ではおそらく内容を理解するのに困難を伴うのが当然だと思います。ゆえに和訳担当者は失敗を恐れず、まずは手持ちの英語と世界史の知識で訳してみてください。その上で教員を含めた参加者全員で「謎解き」をしていくような形で授業を進めたいと考えていますので、和訳担当者以外の学生も予習を欠かさないようにお願いします。また毎回の和訳担当者は、担当箇所に出てくる固有名詞(人名など)については可能な範囲で下調べをしてきてください。
なお、本授業は後期の「原書講読 B」と併せて履修すること、全員が毎回作成して提出する授業範囲の全訳(後述)は後期まで保管しておくことをおすすめします。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業後一週間以内に和訳担当者を含めた全員にその回の授業範囲(ペーパーバックで 1 ページ程度)の全訳を提出してもらうことで、予習と復習の促進をはかりたいと思います。その際、授業内に疑問に思ったこと、知りたいと思ったことなども併せて書いていただければ幸いです。加えて授業で触れた重要事項から派生した簡単な調べ物を課題として出すこともあります。

教科書

教員がコピーと PDF ファイルを配布します。

参考書

栄田卓彦『イギリス自由主義の展開』(早稲田大学出版部 1991 年)「第四章 アクトンにおける自由と権威」
中澤達哉編『王のいる共和政 ジャコバン再考』(岩波書店 2022)「序章 研究史から見えてくるもの(近藤和彦)」

課題に対するフィードバックの方法

提出された訳文に関してはその都度適切な訳をお返ししますので、その後の参考にしていただければ幸いです。

成績評価の方法

授業内での邦訳担当:10%
毎回の提出課題:50%
期末試験:30%
その他授業への貢献度:10%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読A	**原書講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
本間 美奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
ヨーロッパ前近代に関する、地域横断的な視点をもつ英文研究論文を、輪読形式で講読する。履修生が主体的に文献を読み込み、内容の発表や質疑応答、議論を交わすことで専門知識を深める場としたい。

授業内容
授業進行は以下を予定している。進捗によって変更もあり得る。
第 1a 回 ガイダンス:授業全体のテーマと進め方、教材と参考書について
第2回～第6回 講読
第7回 総合と考察
第8回～第12回 講読
第13回 総合と考察
第14回 学期末試験 / 講評

履修上の注意
語彙の多い英語辞書(電子辞書可ーリーダーズプラスなど)を持参すること

準備学習(予習・復習等)の内容
・逐語訳で読み進め、重要な概念や事象については履修生にも解説を求める。予習には相応の準備時間が必要となる。
・読解を数回重ねたのち、レジュメや資料を提出して履修生が内容を総合する場を設ける。したがって講読の復習は必須となる。

教科書
使用しない。

参考書
必要に応じて該当回に案内する。

課題に対するフィードバックの方法
授業内でのコメントはもちろん、クラスウエブに提出したレジュメ・資料にコメントを返却する。

成績評価の方法
春学期の授業回(14 回)の3分の2以上に出席することを原則としたい。とはいえ健康状態や社会情勢などに応じて柔軟に対応するので、何事もまず教員に相談・連絡してほしい。
成績評価は下記の配分で行う。
・平常点(講読/報告):55%
・試験:45%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読B	**原書講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷口 良生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
この授業は、主として西ヨーロッパを中心とした近世・近代・現代史を対象に、外国語(英語)による研究文献の講読を行う。西ヨーロッパ近世・近代・現代史を研究するにあたって必要となる基礎的な知識を身につけ、外国語による文献を精読することができるようになることが目標である。それを通じて、外国語の読解力を身につけ、卒業論文を執筆する準備を行うことが最終的な到達目標となる。

授業内容
第 1 回 イントロダクション:受講生の自己紹介(関心のあるテーマ含む)、授業の進め方、課題文献の紹介
第 2 回～第 4 回 講読(1)
第 5 回 講読(1)のまとめとディスカッション
第 6 回～第 8 回 講読(2)
第 9 回 講読(2)のまとめとディスカッション
第 10 回～第 12 回 講読(3)
第 13 回 講読(3)のまとめとディスカッション
第 14 回 授業のまとめと期末レポートについて
＊授業内容はおおむねこのとおりであるが、スケジュールについては受講者数によって調整する可能性がある。

履修上の注意
特別な事情を除いて遅刻・欠席は認められない。やむを得ない事情で欠席する場合は、担当教員に事前に連絡すること。講読する文献については、内容をしっかりと理解したうえで、ディスカッションにも積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
課題文献については、ディスカッションに積極的に参加できるように、必ず事前に読んでおくこと。さらに、授業後も文献の内容について、ディスカッションの内容を踏まえて復習すること。

教科書
課題文献については、受講生のテーマ等を考慮して決定する。

参考書
授業内で適宜示していくが、全体に関するものとして以下をあげる。
柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『フランス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
村岡健次、木畑洋一編『イギリス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
北原敦編『イタリア史(世界各国史)』新版(山川出版社)。
立石博高編『スペイン・ポルトガル史(世界各国史)』(山川出版社)。
谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史:国民国家形成の彼方に』(ミネルヴァ書房)。
木畑洋一、秋田茂編『近代イギリスの歴史:16 世紀から現代まで』(ミネルヴァ

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業内で行う。

成績評価の方法
予習・復習・ディスカッション(50%)と報告・レポート(50%)をもとに総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読B	**原書講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊丹　聡一朗	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中近世のヨーロッパ世界を理解する際に重要となる幾つかのトピックを選び出し、それに関する英語論文または文献を講読する。その上で、その内容に関する発表及び議論を通じて、理解を深化させる。

授業内容

(1)授業全体のテーマと進め方、教材・参考書について
(2)～(14)論文・文献の講読

履修上の注意

課題提出期限の厳守と授業への積極的姿勢が求められる。特別な理由を除いて遅刻・欠席は認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の講読のために予習と復習を欠かさないこと。また講読内容に関連する文献も可能な限り読み、全体像を掴んで議論に参加できるようにすること。

教科書

特になし。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で実施する。

成績評価の方法

平常点(授業への参加姿勢など)40%、リアクションペーパー(毎回授業終了時に提出)60%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読B	**原書講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿南　大	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業の概要
前期に引き続き Lord Acton, Nationality(1862).を講読します。一文一文、必要な事項を解説しながら丁寧に和訳していく授業にしたいと考えています。原書講読 B では主にその後半部、欧州の近世的国家秩序が近代的ネイション概念に応じて決定的に変質する 1848 年革命前後の半世紀が主題となります。前期以上に南欧や中東欧を含めた欧州史の複層性が視野に入ってくるはずです。また、前期からの講読を通して明確になってきた著者の歴史観を相対的なものとして理解することで、歴史学研究に臨む上での史学史的センスを身につけることも目的の一つです。
到達目標
①19 世紀欧州史を概観し、その共通構造と複層性を理解する
②近世社会と近代社会の間にある断絶と連続性を理解する
③アクトンの歴史観を理解した上でこれを一旦相対化することで、歴史学を学ぶ上で不可欠な「史学史」の考え方を学ぶ
④「帝国」「政教分離」「ロマン主義」など、近現代史研究の鍵となる概念語彙を習得する
⑤アクトンを源流とする英国ナショナリズム研究の視座に触れる

授業内容

第 1 回:講読の前に:アクトンの思想的背景
第 2 回:講読:マッツィーニとロマン主義
第 3 回:講読:1848 年革命
第 4 回:講読:統一と自治のジレンマ
第 5 回:講読:英国的自由とフランス的ネイション
第 6 回:講読:国民国家と「帝国」
第 7 回:講読:国家と教会
第 8 回:講読:ナショナリズムとパトリオティズム
第 9 回:講読:国民国家の問題点
第 10 回:講読:二つの「帝国」:オーストリアと英国
第 11 回:講読:「帝国」のジレンマ
第 12 回:講読:アクトンの見るナショナリズム①
第 13 回:講読:アクトンの見るナショナリズム②
第 14 回:期末試験

履修上の注意

毎回担当者を決め、担当箇所を音読した上で訳してもらいます。その上で教員を含めた参加者全員で「謎解き」をしていくような形で授業を進めたいと考えていますので、担当者以外の学生も予習を欠かさないようにお願いします。また毎回の和訳担当者は、担当箇所に出てくる固有名詞(人名など)については可能な範囲で下調べをしてきてください。
なお、「原書講読 A」からの続きになりますので併せて履修することをおすすめします。「原書講読 A」からの参加者は授業が始まる前に「原書講読 A」で扱った範囲を読み返しておくと、「原書講読 B」のためのよい基盤作りになるはずです。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業後一週間以内に担当者を含めた全員にその回の授業範囲(ペーパーバックで 1 ページ程度)の全訳を提出してもらうことで、予習と復習の促進をはかりたいと思います。その際、授業内に疑問に思ったこと、知りたいと思ったことなども併せて書いていただければ幸いです。加えて授業で触れた重要事項から派生した簡単な調べ物を課題として出すこともあります。
また、冬休み休暇を利用して総復習になるような日本語文献(ハードカバーで一章程度)の要約をレポートして課す予定です。

教科書

教員がコピーと PDF ファイルを配布します。

参考書

栄田卓弘『近代イギリスの自由と歴史』(大明堂 1997 年)「第3部　補論　ナショナリズムの史的考察―近代の双面神」『ファドランテ ： 四分儀 ： 地域・文化・位置のための総合雑誌』第 14 号(東京外国語大学海外事情研究所 2012 年)「帝国、国民国家、そして共和制の帝国(池田嘉郎)」※検索すれば電子テキストがすぐ見つかります

課題に対するフィードバックの方法

提出された訳文に関してはその都度適切な訳をお返ししますので、その後の参考にしていただければ幸いです。

成績評価の方法

授業内での邦訳担当:10%
毎回の提出課題:50%
期末試験:20%
冬休みレポート:10%
その他授業への貢献度:10%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS132J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
原書講読B	**原書講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
本間 美奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ヨーロッパ前近代に関する、地域横断的な視点をもつ英文研究論文を、輪読形式で講読する。履修生が主体的に文献を読み込み、内容の発表や質疑応答、議論を交わすことで専門知識を深める場としたい。

授業内容

授業進行は以下を予定している。進捗によって変更もあり得る。
第 1a 回 ガイダンス：授業全体のテーマと進め方、教材と参考書について
第2回～第6回 講読
第7回 総合と考察
第8回～第12回 講読
第13回 総合と考察
第14回 学期末試験 / 講評

履修上の注意

語彙の多い英語辞書(電子辞書可ーリーダーズプラスなど)を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・逐語訳で読み進め、重要な概念や事象については履修生にも解説を求める。予習には相応の準備時間が必要となる。
・読解を数回重ねたのち、レジュメや資料を提出して履修生が内容を総合する場を設ける。したがって講読の復習は必須となる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて該当回に案内する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でのコメントはもちろん、クラスウエブに提出したレジュメ・資料にコメントを返却する。

成績評価の方法

春学期の授業回(14 回)の3分の2以上に出席することを原則としたい。とはいえ健康状態や社会情勢などに応じて柔軟に対応するので、何事もまず教員に相談・連絡してほしい。
成績評価は下記の配分で行う。
・平常点(講読/報告)：55%
・試験：45%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代英小説読解	**英文学講読D**	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 麻里	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

イーヴリン・ウォーの『一握の塵』(1934)を講読します。
もしも、ほんの気晴らしのつもりで出かけた旅先で、永遠に、家に帰れなくなったとしたら、どうしますか？ どこかに閉じこめられたわけでも、手足を縛られて動けないわけでもないのに、帰ることができないのです。この背筋も凍る着想から生まれた『一握の塵』を読んで、珠玉のブラック・ユーモアを味わってみませんか。
大勢で集まって文学作品を読む意義は、ひとりで読んでいては気づくことのできない様々な「読み」(視点)を獲得できることです。到達目標は、イギリスの小説を「読む」ことを楽しみ、その思いを明確に表現して伝えることができるようになること、そして、他者の意見を理解して、様々な視点を獲得し、多角的に作品を分析できるようになることです。また、物語を読み進める過程で、当時の社会や文化を知ることになるでしょう。

授業内容

1 指定範囲を精読して、感じたこと、考えたこと、話し合ってみたいことを書き出して提出します。
2 担当教員が 1 の宿題を評価した上で、意見をまとめ、受講生のコメントを掲載した進行表を作成します。
3 授業中は 2 の進行表を用いて、受講生の発表をもとに、ひとりで読んでいては気づくことのできない様々な「読み」を共有します。また、下記のように、作品理解を深める話題や資料を提示します。
4 受講生は授業中、発表に耳を傾け、投げかけられる問いから考察して、授業ノート(リアクション・ペーパー)を仕上げて提出、それを出席点とみなします。
第 1 回 作品を「読む」とは ／授業の目標と宿題の方法 ／アーツ・アンド・クラフト運動とインテリア・デザイン
第 2 回 Part A （p. 10 – p. 30 l. 6）を分析した宿題を提出 ／ブルースト『失われたときを求めて』
第 3 回 Part B （p. 30 l. 7 – p. 50 l. 26）宿題提出 ／Part A 講読 マロリー『アーサー王の死』
第 4 回 Part C （p. 50 l. 27 – p. 71 l. 3）宿題提出 ／Part B 講読 女王ヴィクトリアと英国駐屯軍
第 5 回 Part D （p. 71 l. 4 – p. 91 l. 17）宿題提出 ／Part C 講読 会員制の紳士クラブ
第 6 回 Part E （p. 91 l. 18 – p. 111 l. 30）宿題提出 ／Part D 講読 東洋の神秘
第 7 回 Part F （p. 111 l. 31 – p. 132 l. 26）宿題提出 ／Part E 講読 ディケンズ『リトル・ドリット』
第 8 回 Part G （p. 132 l. 27 – p. 152 l. 29）宿題提出 ／Part F 講読 よくある名前ジョンとジェイン
第 9 回 Part H （p. 152 l. 30 – p. 173 l. 21）宿題提出 ／Part G 講読 ビーチリゾートの街ブライトン
第 10 回 Part I （p. 173 l. 22 – p. 193）宿題提出 ／Part H 講読 インディ・ジョーンズのモデル
第 11 回 Part J （p. 194 – p. 213 l. 33）宿題提出 ／Part I 講読 ウォー『九十二日間』
第 12 回 Part K （p. 213 l. 34 – p. 233）宿題提出 ／Part J 講読 ラファエル前派とミレー「オフィーリア」
第 13 回 Part K 講読 T・S・エリオット『荒地』
第 14 回 a 秋学期の総括
b 記述試験

履修上の注意

1 必ず、指定教科書を入手して受講しましょう。版が異なると、ページ数・行数が異なります。指定教科書のページ数・行数を明示していない提出物は受理できません。
2 遅刻厳禁。辞書必携。
3 難解な言葉を駆使して、一般的な意見を述べることよりも、今の自分が読むからこそ感じること、見えてくることを、飾らない身近な言葉で、ありのままに述べることが求められる授業です。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ指定範囲を読み解いていないと、意見を言うことも、他の人の意見を理解することもできません。毎回の宿題を、地道にこなすことが肝要です。準備学習には少なくとも、ゆったりと 2 時間はかけて、作品をエンターテイメントとして楽しむ余裕をもつと、自ずと魅力的な分析ができるようになるでしょう。

教科書

Evelyn Waugh, A Handful of Dust (London: Penguin, 2018) ISBN: 978-0-241-34110-0

参考書

随時、紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の宿題と授業ノートは、採点して翌週に返却、その内容は授業中に、受講生が発表したり、担当教員が紹介して共有します。

成績評価の方法

日常点 (宿題・授業ノート・発言) 60 %
期末試験 40 %
全授業数のうち、3 分の 2 以上出席することが、単位取得の前提条件です。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習A	**現代社会学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、人種・民族・エスニシティ、グローバリゼーション、貧困やジェンダーなどに関する基本文献を輪読し、こうした基本概念を理解するとともに、現代社会が直面する男女の平等、人種や民族の平等などの問題の基本構造を社会学的視点から理解できる基礎力を養う。輪読文献は初回授業において参加者と相談のうえで決定する。輪読に際しては、各自にレジュメに基づいて報告してもらい、全体でディスカッションを行う。

授業内容

第1回 授業計画の決定
第2回 春学期テーマについての基礎知識の習得、担当報告の割り当て決定
第3回 資料の収集の仕方・論文の執筆等についての講義
第4回 指定文献についての報告と討論(1)
第5回 指定文献についての報告と討論(2)
第6回 指定文献についての報告と討論(3)
第7回 指定文献についての報告と討論(4)
第8回 指定文献についての報告と討論(5)
第9回 中間的まとめ
第 10 回 指定文献についての報告と討論(6)
第 11 回 指定文献についての報告と討論(7)
第 12 回 指定文献についての報告と討論(8)
第 13 回 指定文献についての報告と討論(9)
第 14 回 指定文献についての報告と討論(10)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。授業では、毎回、参加者全員が積極的に発言することが強く求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んでから授業に参加すること。

教科書

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

オーメイジのアンケート機能などを用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらう①レポートの中身(30%)、ならびに②授業への参加度(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習A	**現代社会学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ジェンダーとセクシュアリティの社会学をメインテーマとして研究する。とくに現代日本人のセクシュアリティについての社会学的実証および、実践的活動に焦点をあてる。
セクシュアリティに関して、現代日本人には漠然と悩み苦しみをかかえている人は少なくないが、その悩み苦しみに言葉や考察が与えられないためにぼんやりとした不満にとどまることが多く、またその思いを自分の中に封じ込めたり、諦めたり、他のことで気晴らしをしたりする人も少なくないと思われる。
その悩み苦しみがどのようにして生じるのかを社会学的に明らかにしようとし、また悩み苦しみを解決して、どのような人もより幸せを感じられるようなセクシュアリティのありかたのために、どのような実践が可能なのかを考える。
またそもそも、悩み苦しみというネガティブな見方から解放されるような、セクシュアリティの幸福について考察する。
現代日本社会の状況に、距離をおいてみるために、他の社会の状況と、日本の過去の状況とを多く参照する。
これらの研究にあたっては常に、セクシュアルマイノリティを含めた性の多様性を念頭におくこととする。
到達目標は、セクシュアリティについての、生理学、医学、心理学、社会学の基礎知識の上で、現代日本社会のセクシュアリティの特徴を、生理、避妊、未婚化・晩婚化・早婚化、インターネットとの関係、セックスレス化、AV などのポルノ、性教育と性の相談、などの側面において基本的にとらえ、人々がどのような社会のしくみのもとで、どのような悩み苦しみをいだき、どのようにしたら解決できるかを理解できるようになること

授業内容

内容は、ゼミ生と話し合って決めるので、以下は一例である。
第1回 イントロダクション
第2回 性的マイノリティの理解を進める(1)
第3回 性的マイノリティの理解を進める(2)
第4回 現代日本の避妊・緊急避妊・中絶を考える
第5回 生理と生理教育を考える(1)
第6回 生理と生理教育を考える(2)
第7回 二次元の恋愛を考える(1)
第8回 二次元の恋愛を考える(2)
第9回 セックスレス・カップルを考える(1)
第 10 回 セックスレス・カップルを考える(2)
第 11 回 AV を考える(1)
第 12 回 AV を考える(2)
第 13 回 性教育・性の相談を考える(1)
第 14 回 性教育・性の相談を考える(2)
第 15 回 まとめ どのような調査、活動をしていくかの議論

履修上の注意

ゼミでも多くの文献を読んでいくが、日本ではセクシュアリティ領域の学問研究が非常に遅れているため、英語の文献を読むことも多い。英語の講演、動画、インターネットサイトなども多く勧めるので、よく勉強してほしい。
セクシュアリティの研究と聞くと、自分の個人的体験について話さなければならないのかと心配するかもしれないが、個人の体験の秘匿性をゼミではたがいに尊重しあいながら進めたい。むしろ、日本では、個人の体験を超えてセクシュアリティを考える機会が非常にとぼしいことが問題だという認識から、セクシュアリティの現象の幅広さに学生たちの目を開く方向で、研究を進めていきたい。
多くの日本人が、漠然と言葉にせずにすごしていることを言語化し、考察の俎上に上げるため、学生一人一人がセクシュアリティを考え研究する努力をしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

そのつど、予習・復習課題を出すので、しっかり取り組んでほしい。
発表者を決めて、課題についての発表をしてもらう。責任をもって発表に臨んでほしい。
レインボープライド、性教育についての研修会、セクシュアリティの博物館の設立のための見学会など、学外のイベントに参加してもらう機会も多い。

教科書

参考書

そのつど指定する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、直接口頭でおこなう、または、ワードの校閲機能やメールを使って必ずお伝えする。

成績評価の方法

参加度、発表の内容、学期末に書いてもらうレポートの内容の、総合評価とする。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習A	**現代社会学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

人間が人間にとって怪物になるとも言うべき諸現象について進化理論を社会学と結合して考え、暴力についての総合的展望を得るために、スティーブン・ピンカー『暴力の人類史』精読と、各自の発表、ディスカッションを行う。

このことによって、各自が広い範囲で暴力についての見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

教科書について，全員が読んでくる。教科書はスティーブン・ピンカー『暴力の人類史』(上)(下)(青土社)。レポーターは，発表の一週間前に，1つの章や論文について，・要約をつくり，かつ・その箇所をテーマにした論文(A4用紙で6枚以上，見開きなら3枚以上)をつくり，全員に配り，当日それを発表する。これについて、全員でディスカッションをし、考えを深めていく。

第1回 イントロダクション：学問的に暴力・迫害を問う射程
第2回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』、はじめに、第一章)
第3回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第二章)
第4回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第三章の①)
第5回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第三章の②)
第6回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第三章の③)
第7回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第四章の①)
第8回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第四章の②)
第9回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第四章の③)
第 10 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第五章の①)
第 11 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第五章の②)
第 12 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第五章の③)
第 13 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第六章の①)
第 14 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第六章の②)

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に出る前に毎回必ず教科書や配付資料を読んでくる必要がある。また、わからないところや、各自の問題関心から質問したり、発言したりする内容をノートに書いてくる必要がある。授業で紹介した内容については、文献等でしらべてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。授業の後に理解したことを要約すること。

教科書

『暴力の人類史』(上)(下)スティーブン・ピンカー(青土社)

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックに関しては、Oh-o!Meiji その他の媒体を通じて通知、配信等を行うので、確認すること。さまざまな手段を用いて質問があればそれに答える。

成績評価の方法

授業への参加度 50 パーセント，報告や論文の内容 50 パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習A	**現代社会学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この演習の目的は、チームで質的調査を行い、その結果を論文にまとめることで、社会調査の方法および学術論文の書き方を習得することである。この演習は、現地調査を行う「現代社会学実習 A」と相互に補完し合う。具体的には、公害、薬害、環境病、環境リスクなどの問題群から全員で一つの事例を選択し、夏に現地調査を行う。春学期はその準備として、文献購読、資料収集、調査依頼の手続きを進める。

演習の到達目標は、①質的調査の方法を身につけること、②学術的文章の書き方を身につけることである。これらが 4 年次に卒業研究を行うための基盤となる。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 調査事例に関する情報共有
第 3 回 どうやってデータを探すか
第 4 回 反転授業 1
第 5 回 反転授業 2
第 6 回 反転授業 3
第 7 回 反転授業 4
第 8 回 反転授業 5
第 9 回 調査地および調査対象者の決定
第 10 回 質問項目案の作成方法を学ぶ
第 11 回 質問項目案の検討／依頼状の作成方法を学ぶ
第 12 回 質問項目案の再検討／依頼状の文案検討
第 13 回 実査のシミュレーション
第 14 回 依頼状の最終確認

履修上の注意

できれば環境社会学(和泉科目)を履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

調査を行うためには多くの時間と労力が必要である。その分、集団で調査を行うという経験は、かけがえのない貴重なものとなるだろう。演習生には積極的な参加を求める。事前学習の時間を十分に確保すること。また、夏季休暇期間に調査前の打ち合わせと実査を行うので、計 5 日程度の予定を確保すること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。授業で配布する。

課題に対するフィードバックの方法

受講生の発表に対して授業内でコメントする。

成績評価の方法

調査の準備および各回の議論に対する貢献度(50 パーセント)、担当回の報告に対する時間と労力の投入の度合い(50 パーセント)から総合的に評価する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習A	**現代社会学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大畑 裕嗣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ふつう社会学は「社会構造」「社会関係」「社会的行為」「社会問題」などの研究と言われますが、うう、これはけっこう難しいです(まず、これらのガイネン自体が難しい。)そこで、このゼミではもっと簡単に「具体的でさまざまな出来事(事件、イベント)について調べて(書いて)、そこから社会(的なこと)について考える」というやり方をとります。扱う出来事は、それぞれの人が好きに決めてください。大きなことでも小さなことでも、よく知られていることでもそうでないことでも、社会的なことでも個人的なこと(「個人的なこと」も社会の中で起こっているので、結局、「社会的なこと」です)でも、最近のことでも昔のことでも、自分が経験したことでも他の人たちに起こったことでも、日本のことでも外国のことでもいい。ひとつの出来事について書いてもいいし、ふたつ以上の出来事を結びつけてもいい。さらに「本当はない(なかった)出来事」について書くというのもありです。到達目標は、頭を柔らかくして、この「簡単なやり方」に慣れてもらうことです。

授業内容

ゼミ全体で話しあいつつ、適宜、各自が発表しながら進めていきます。実際の進み具合に応じて、やり方は調整しますが、計画としては次のとおりです。

1 はじめに：私(各自)はこんな人でこのゼミでこんなことをやりたい
2 出来事の社会学ってなんだ(教員から)
3 興味を持っている出来事をすこし詳しく出しあう
4 出された出来事の類型とゼミの進め方の決定
5 ひとつの出来事の分析(1)：タイプ A の出来事
6 ひとつの出来事の分析(2)：タイプ B の出来事
7 ひとつの出来事の分析(3)：タイプ C の出来事
8 ひとつの出来事の分析をふりかえって
9 取りあげた出来事についてどう書いたらよいだろう(教員↔発表者)
10 演習テーマと実習テーマの関連について
11 出来事の関係(連鎖)の分析(1)
12 出来事の関係(連鎖)の分析(2)
13 出来事の関係(連鎖)についてどう書いたらよいだろう(教員↔発表者)
14 春学期の反省、秋学期に向けての展望

履修上の注意

1 担当教員の「現代社会学実習 A」「同 B」「現代社会学演習 B」を合わせて受講してください。
2 「現代社会学実習 A」「同 B」の全体テーマは「都市再開発をめぐる市民・住民の取り組み」とします。実習の詳細については演習の中で説明します。
3 授業時間の一部(足りなければ授業時間以外の時間も)を使って、ゼミ生各自と教員との 1 on 1 ミーティングを行います。

準備学習(予習・復習等)の内容

「やってみるとわりとおもしろいな」と感じてくれる人には、「ありがとう」以外に言うことはないのですが……。「楽勝と思って選んだが、どうしたらいいのかサッパリわからん」という状態になってしまったら(なる前に)気軽に相談してもらえるとうれしいです(教員のほうから声をかけることもあるかもしれないので、その時はよろしく。)

教科書

日本語のわかりやすいものは見つからなかったので、代わりに次の教員の論文のコピーを配布して解説します。「出来事という視座――社会運動論との関係において」大畑裕嗣(『明治大学心理社会学研究』19 号)。2025 年度の先輩たちが作成したゼミ論文集・実習報告書(教員から配布)も熟読して、参考にします。

参考書

『オルレアンのうわさ』エドガール・モラン(みすず書房)
『メディア・イベント』ダヤーン＆カッツ(青弓社)
『最新版 論文の教室』戸田山和久(NHK 出版)

課題に対するフィードバックの方法

＊授業での発表、発言に対して：教員が行う場合、発表・発言者を「傷つけない」ように配慮するのがとても大事です。状況をみて、授業中に口頭で行うか、その他の方法で発表・発言者にフィードバックするかについては柔軟に対応します。＊出来事に関する下書きに対して：(タイミング的に間に合えば)原則として、Oh-o!Meiji の「お知らせ」で執筆者ごとにコメントします。

成績評価の方法

授業での発表、発言と、出来事に関する下書き(アウトライン、中間形を含む)を総合して評価します。1 on 1 ミーティングでの発言内容は、成績評価の材料にはしません。(安心して気楽に話してほしい、ということです。)

その他

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習B	**現代社会学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、人種・民族・エスニシティ、グローバリゼーション、貧困やジェンダーなどに関する基本文献を輪読する。輪読文献は初回授業において参加者と相談のうえで決定する。輪読に際しては、各自にレジュメに基づいて報告してもらい、全体でディスカッションを行う。基本文献、専門文献について報告・討論を実施する。また参加者は卒業論文の作成に向けて、各自の興味関心に基づき問題テーマを設定し、それに基づいた研究報告を行うこととする。最終的には研究報告に基づいた論文(6000 字から1万字以上)を作成することを必須とする。こうした授業により卒業論文の作成に向けたたたき台となる文章を完成することを目指す。

授業内容

第1回 授業計画の決定
第2回 秋学期テーマに関しての基礎概念の解説 担当報告の割り当て決定
第3回 指定文献についての報告と討論(1)
第4回 指定文献についての報告と討論(2)
第5回 指定文献についての報告と討論(3)
第6回 指定文献についての報告と討論(4)
第7回 指定文献についての報告と討論(5)
第8回 指定文献についての報告と討論(6)
第9回 中間的なまとめ
第 10 回 各自の研究テーマについての報告(1)
第 11 回 各自の研究テーマについての報告(2)
第 12 回 各自の研究テーマについての報告(3)
第 13 回 各自の研究テーマについての報告(4)
第 14 回 全体のまとめ

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。授業では、毎回、参加者全員が積極的に発言することが強く求められる。国際社会学的なテーマについて強い関心を持ち、それについての学習意欲が高い学生の参加を求める。長期休業中は各自の研究テーマについての報告と実習準備のためのゼミ合宿なども行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んで授業に参加すること。

教科書

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

オーメイジのアンケート機能などを用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらう①論文の中身(50%)、ならびに②平常点(10%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(10%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習B	**現代社会学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ジェンダーとセクシュアリティの社会学をメインテーマとして研究する。とくに現代日本人のセクシュアリティについての社会学的実証および、実践的活動に焦点をあてる。
セクシュアリティに関して、現代日本人には漠然と悩み苦しみをかかえている人は少なくないが、その悩み苦しみに言葉や考察が与えられないためにぼんやりとした不満にとどまることが多く、またその思いを自分の中に封じ込めたり、諦めたり、他のことで気晴らしをしたりする人も少なくないと思われる。
その悩み苦しみがどのようにして生じるのかを社会学的に明らかにしようとし、また悩み苦しみを解決して、どのような人もより幸せを感じられるようなセクシュアリティのありかたのために、どのような実践が可能なのかを考える。
またそもそも、悩み苦しみというネガティブな見方から解放されるような、セクシュアリティの幸福について考察する。
現代日本社会の状況に、距離をおいてみるために、他の社会の状況と、日本の過去の状況とを多く参照する。
これらの研究にあたっては常に、セクシュアルマイノリティを含めた性の多様性を念頭におくこととする。
サブテーマとして、東日本大震災の被災地の復興と地域振興を考える。ゼミとして 12 年前から関わってきたテーマである。どのくらいの力の配分でふたつのテーマを扱うかは、被災地との相談や、学生との相談で決める。
秋学期の到達目標としては、春学期に理解した、現代日本社会のセクシュアリティの特徴すなわち、避妊、中絶、未婚化・晩婚化・早婚化、インターネットとの関係、セックスレス化、AV などのポルノ、性教育と性の相談、などの側面の特徴と、人々がどのような社会のしくみのもとで、どのような悩み苦しみをいだいているかにもとづいて、さらに、まだ明らかになっていない現実を実証的に明らかにすることと、人々の悩み苦しみを解消するためにどのような実践をするとよいかを考え、実践に踏み出すこととする。学期末に、実践と研究の成果を 6000 字程度のゼミ論文にまとめる。

授業内容

第1回 秋学期イントロダクション
第2回 夏休みの課題発表(1)
第3回 夏休みの課題発表(2)
第4回 秋学期の調査や実践のテーマ選定(1)
第5回 秋学期の調査や実践のテーマ選定(2)
第6回 先行研究の発表(1)
第7回 先行研究の発表(2)
第8回 調査や実践の計画
第9回 調査や実践の準備(1)
第 10 回 調査や実践の準備(2)
第 11 回 調査や実践の報告(1)
第 12 回 調査や実践の報告(2)
第 13 回 調査や実践の考察(1)ゼミ論文中間発表(1)
第 14 回 調査や実践の考察(2)ゼミ論文中間発表(2)
第 15 回 まとめ 今後の課題についての議論 ゼミ論文中間発表(3)
以上のように予定するが、つねに学生と相談しながら、学生にとって無理なく、興味関心を伸ばせるように、予定修正をしていく。

履修上の注意

このゼミで学ぼうとする人は、『ヒューマンセクソロジー 改訂新版』子どもの未来社 などで基礎的な性についての知識を身に着けてほしい。
ゼミでも多くの文献を読んでいくが、日本ではセクシュアリティ領域の学問研究が非常に遅れているため、英語の文献を読むことも多い。英語の講演、動画、インターネットサイトなども多く勧めるので、よく勉強してほしい。
セクシュアリティの学問研究になじみのない学生は、自分の個人的体験について話さなければならないのかと心配するかもしれないが、個人の体験の秘匿性をゼミではたがいに尊重しあいながら進めたい。むしろ、日本では、個人の体験を超えてセクシュアリティを考える機会が非常にとぼしいことが問題だという認識から、セクシュアリティの現象の幅広さに学生たちの目を開く方向で、研究を進めていきたい。
多くの日本人が、漠然と言葉にせずにすごしていることを言語化し、考察の俎上に上げるため、学生一人一人がセクシュアリティを考え研究する努力をしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時間以外に、講演会、ワークショップなどへの参加や、見学活動などを多く勧める。英語を含む文献、英語の動画やサイトなども多く勧める。積極的に取り組んでほしい。

教科書

その都度指定する。

参考書

そのつど指定する。

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは、直接口頭でおこなう、または、ワードの校閲機能やメールを使って必ずお伝えする。

成績評価の方法

参加度、発表の内容、学期末に書くゼミ論文の内容の、総合評価とする。ゼミ論文の提出は必須。

その他

このテーマの学問的意義・社会的意義についての補足
セクシュアリティに関して、現代日本人の多くが、漠然と悩み苦しみをかかえていると思われるが、その悩み苦しみに言葉や考察が与えられないためにぼんやりとした不満にとどまることが多く、またその思いを自分の中に封じ込めたり、諦めたり、他のことで気晴らしをしたりする人も少なくないと思われる。
一方現代は、物質的な豊かさの追求の時代のあと、「幸福」の追求が社会的に注目されている。
幸福の一側面として「性的幸福」があることはもちろんだが、性・セクシュアリティとは、たとえば性暴力は「魂の殺人」をもたらすと言われ、性の喜びはまた神聖な歓喜だとも言われるように、他の幸福の側面と比べても、よい状態と悪い状態の差は極端に大きく、それだけセクシュアリティのありかたが、人の幸福に与える影響は大きいのではないかとも考えられる。
現代日本人の漠然とした、セクシュアリティに関する悩み苦しみを、言葉にし、個人的な問題ではなく社会的な問題として考察し、この社会のどのようなしくみがそれを生じさせているのかを明らかにし、状況を変えていくことは、人々の幸福にとって、非常に重要な課題だと考えられる。

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習B	**現代社会学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

前期に引き続き、人間が人間にとって怪物になるとも言うべき諸現象について進化理論を社会学と結合して考えるために、スティーブン・ピンカー『暴力の人類史』精読と、各自の発表、ディスカッションを行う。
このことによって、各自が広い範囲で暴力についての見識を深め、これをもとに社会と人間について、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

教科書について，全員が読んでくる。教科書はスティーブン・ピンカー『暴力の人類史』(上)(下)(青土社)。レポーターは，発表の一週間前に，1つの章や論文について，・要約をつくり，かつ・その箇所をテーマにした論文(A4用紙で6枚以上，見開きなら3枚以上)をつくり，全員に配り，当日それを発表する。全員でディスカッションをし，考えを深めていく。
第1回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第六章の③)
第2回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第七章の①)
第3回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第七章の②)
第4回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第七章の③)
第5回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第七章の④)
第6回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第八章の①)
第7回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第八章の②)
第8回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第八章の③)
第9回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第八章の④)
第 10 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第九章の①)
第 11 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第九章の②)
第 12 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第九章の③)
第 13 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第九章の④)
第 14 回 教科書担当箇所をもとにした学生による発表(『暴力の人類史』第十章)

履修上の注意

毎回出席し発言することを要する。授業に出る前に必ず教科書や配付資料を読んでくること。受講希望者はシラバスを読んでいなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に出る前に毎回必ず教科書や配付資料を読んでくる必要がある。また、わからないところや、各自の問題関心から質問したり、発言したりする内容をノートに書いてくる必要がある。授業で紹介した内容については、文献等でしらべてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。授業後に理解したことを要約すること。

教科書

『暴力の人類史』(上)(下)スティーブン・ピンカー(青土社)

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックに関しては、Oh-o!Meiji その他の媒体を通じて通知、配信等を行うので、確認すること。さまざまな手段を用いて質問があればそれに答える。

成績評価の方法

授業への参加度 50 パーセント，報告や論文の内容 50 パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習B	**現代社会学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この演習の目的は、チームで質的調査を行い、その結果を論文にまとめることで、社会調査の方法および学術論文の書き方を習得することである。この演習は、現地調査を行う「現代社会学実習 A」と相互に補完し合う。
秋学期は調査の片付けとして、データの加工、資料整理、論文執筆を進める。学期末に各自が論文を完成させ、改稿を経て、3 月に論文集を刊行する。論文集を調査協力者に発送するまでが社会調査である。

演習の到達目標は、①質的調査の方法を身につけること、②学術的文章の書き方を身につけることである。これらが卒業研究に取り組むための基盤となる。

授業内容

第 1 回 調査速報
第 2 回 文字おこしの相互添削
第 3 回 論文の書き方を学ぶ
第 4 回 入手資料の輪読
第 5 回 関連文献の講読
第 6 回 論文構想発表 1
第 7 回 論文構想発表 2
第 8 回 論文構想発表 3
第 9 回 論文構想発表 4
第 10 回 第二回論文構想発表 1
第 11 回 第二回論文構想発表 2
第 12 回 第二回論文構想発表 3
第 13 回 第二回論文構想発表 4
第 14 回 執筆の進捗確認

履修上の注意

できれば、環境社会学(和泉科目)、現代社会論(駿河台科目)の履修を推奨する。

準備学習(予習・復習等)の内容

調査で得られた発見について皆で話し合い、論文の構想を練る時間は、なによりも楽しいものである。反対に、自らの報告になんの反応も返ってこないほど虚しいことはない。演習生には積極的な参加を求める。演習の時間外に論文執筆のための時間を十分に確保すること。

教科書

特に定めない

参考書

特に定めない。授業で配布する。

課題に対するフィードバックの方法

演習内で講評する。

成績評価の方法

調査の片づけおよび各回の議論に対する貢献度(50 パーセント)、論文執筆における時間と労力の投入の度合い(50 パーセント)から総合的に評価する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)SOC312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学演習B	**現代社会学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大畑 裕嗣	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習 A に続き、出来事に関する下書きを完成稿へと仕上げていき、そこからどんな社会学的知見が導けるかを、ゼミで討論しながら考えていきます。うまく行けばその結果をゼミ論文集にまとめます(実習報告書に付け加えるかたちで作成することになるでしょう。)到達目標は、出来事について実際に書くことができるようになり、それを来年度の卒業論文につなげるようにすることです。

授業内容

春学期の現代社会学演習 A の進行にも左右されざるをえませんが、次の予定で進めます。

1 春学期のゼミのふりかえりと秋学期の予定の確認
2 タイプ A の出来事の記述と分析
3 タイプ B の出来事の記述と分析
4 タイプ B の出来事の記述と分析
5 出来事の関係(連鎖)の記述と分析(1)
6 出来事の関係(連鎖)の記述と分析(2)
7 出来事の分析から具体的に読みとれることの検討(1)
8 出来事の分析から具体的に読みとれることの検討(2)
9 考察:出来事と社会(ないし「社会的なるもの」)(1)
10 考察:出来事と社会(ないし「社会的なるもの」)(2)
11 ゼミ論文集編集計画と章別構成の決定
12 出来事分析と卒業論文(1)
13 出来事分析と卒業論文(2)
14 出来事分析と卒業論文(3)

履修上の注意

1 担当教員の「現代社会学実習 A」「同 B」「現代社会学演習 A」を合わせて受講してください。
2 「現代社会学実習 A」「同 B」の全体テーマは「都市再開発をめぐる市民・住民の取り組み」とします。
3 「このゼミで書いている『作文』みたいなものが、本当に社会学の卒業『論文』につながるのか？」いや、ごもっともな疑問です。でも、その点は心配しなくて大丈夫。なんとかする「手だて」はあります。
4 授業時間の一部(足りなければ授業時間以外の時間も)を使って、ゼミ生各自と教員との 1 on 1 ミーティングを行います。

準備学習(予習・復習等)の内容

「やってみるとわりとおもしろいな」と感じてくれる人には、「ありがとう」以外に言うことはないのですが……。「楽勝と思って選んだが、どうしたらいいのかサッパリわからん」という状態になってしまったら(なる前に)気軽に相談してもらえるとうれしいです(教員のほうから声をかけることもあるかもしれないので、その時はよろしく。)

教科書

日本語のわかりやすいものは見つからなかったので、代わりに次の教員の論文のコピーを配布して解説します。「出来事という視座――社会運動論との関係において」大畑裕嗣(『明治大学心理社会学研究』19 号)。2025 年度の先輩たちが作成したゼミ論文集・実習報告書(教員から配布)も熟読して、参考にします。

参考書

『オルレアンのうわさ』エドガール・モラン(みすず書房)
『メディア・イベント』ダヤーン＆カッツ(青弓社)
『最新版 論文の教室』戸田山和久(NHK 出版)

課題に対するフィードバックの方法

＊授業での発表、発言に対して:教員が行う場合、発表・発言者を「傷つけない」ように配慮するのがとても大事です。状況をみて、授業中に口頭で行うか、その他の方法で発表・発言者にフィードバックするかについては柔軟に対応します。＊レポートに対して:原則として、Oh-o!Meiji の「お知らせ」で執筆者ごとにコメントします。

成績評価の方法

出来事に関するレポート 50%、授業時間内の発表、発言 50%。1 on 1 ミーティングでの発言内容は成績評価の材料にはしません。(安心して気楽に話してほしい、ということです。)

その他

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習A	**現代社会学実習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習A	**現代社会学実習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大畑 裕嗣	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習A	**現代社会学実習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A･B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習A	**現代社会学実習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A･B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

各教員が指定する場合がある。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

病気、障害その他の理由で、実習に参加できない学生は、教員と個別に相談してほしい。学生が他の活動をおこない、それをもって実習を代替すると見なす場合もある。

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習A	**現代社会学実習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	春学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習B	**現代社会学実習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習B	**現代社会学実習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大畑 裕嗣	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習B	**現代社会学実習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習B	**現代社会学実習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

病気、障害などで実習に参加するのが困難な学生は、担当教員と相談すること。代替活動を考える場合がある。

科目ナンバー:(AL)SOC315J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会学実習B	**現代社会学実習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

現代社会学演習の今年度の各担当教員(大畑, 内藤, 平山, 昔農, 宇田)が, ゼミナールの研究テーマに関連する社会の現場に赴いてフィールドワークをおこなう。具体的には, 市民活動, NPO 活動, 地域活動の活動現場で見学, 体験, 調査などをおこなったり, 社会問題に取り組む当事者に聞き取りをしたり, あるいはゼミナールがワークショップを主催して外部からの参加者の反応を観察したりという活動をおこなう。活動内容や実習場所は, 各ゼミナールで相談して決める。
活動の日数は目安として, 日帰りと宿泊の合計で, 年間 10 日間程度である。
到達目標として, 論文などの文字情報やネット情報を見るだけではとらえきれない, 社会の現実の多面性, 多層性, 可変性, 力学などを, 現場での具体的な体験の中でとらえること。社会の現実に対する, より高い解像度を身に着けて, 社会の問題を再定義すること。現場で出会うさまざまな立場の人たちと, 社会的な礼儀をわきまえて率直なコミュニケーションができるようになること。各種の社会調査をおこない, その調査報告や実習報告のレポートが書けるようになること。
具体的な到達目標としては, 現代社会学実習 A・B で, ゼミナール単位でのフィールドワークを通してこれらの力を養った上で, 卒業論文では, 研究テーマに必要なフィールドワークを個人でおこなえることも目指している。

授業内容

それぞれの現代社会学演習の内容に対応した社会の現場で, 実習を実施する。参加者の関心も考慮しながら, 各演習において実習対象を決定する。
集中講義の形式で実施する。
現場では, 参与観察法, インタビュー法, アクションリサーチ法などの, 各種の社会調査をおこなう。
調査報告や実習報告のレポートを書き, できるだけ年度末には実習報告書を作成する。

履修上の注意

各現代社会学演習の履修を前提として実施する。
履修登録時は,「集中講義」の欄にある本科目に, 忘れずに登録すること。必修科目なので, 登録を忘れてはならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習対象地域や事例に関する文献や資料を事前に精査し、現地での課題や聞き取り内容について検討を重ねる。

教科書

特に使用しない。

参考書

各実習対象に関する文献や資料を使用する。

課題に対するフィードバックの方法

実習のあとすぐに実習レポートを書いてもらう。実習レポートの執筆は、社会調査の重要な一部なので、できるだけ教員がコメントしたり添削したりしてフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

実習への参加と報告書により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代社会論	**現代社会論**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

和泉校舎での学びを経て、社会学とはどのような学問なのかを説明できるようになっただろうか。知識が増えた分、かえって混乱している人もいるかもしれない。結局のところ、社会学とはなんなのか。それは社会科や社会科学と什么が違うのか。なぜ大学の講義科目や専攻名になっているのか。この授業では、社会学の方法、概念、理論について具体的な事例を交えて解説し、社会学という学問の謎を解く。

授業の到達目標は、①現代社会のさまざまな現象を社会学的に考察できること、②社会学の基礎概念や理論的視点について理解できることである。

授業内容

第１回 a:イントロダクション／b:学問の価値自由とはなにか――よくある誤解
第２回 社会学の誕生
第３回 社会学の視点
第４回 マクロとミクロをつなぐ力――自殺論
第５回 社会学の根本問題
第６回 秩序を生み出すもの
第７回 逸脱
第８回 逸脱の相互作用論
第９回 凶悪犯罪と動機の語彙
第10回 権力と支配
第11回 官僚制支配
第12回 意図せざる帰結
第13回 歴史的な意図せざる帰結――プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神
第14回 a:全体のまとめ／b:試験

履修上の注意

大量に板書する授業である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介する参考文献を積極的に読むこと。

教科書

特に定めない。授業でプリントを配布する。

参考書

奥村隆, 2014,『社会学の歴史 I:社会という謎の系譜』有斐閣.
奥村隆, 2023,『社会学の歴史 II:他者への想像力のために』有斐閣.
木村至聖, 2022,『歴史と理論からの社会学入門』ナカニシヤ出版.
友枝敏雄・浜日出夫・山田真茂留編, 2017,『社会学の力:最重要概念・命題集』有斐閣.
ほか授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへの応答を授業内で行う。

成績評価の方法

期末試験 100 パーセント。ただし試験の点数だけでは不合格となる場合、救済措置として平常点を 15 点まで加算する。平常点とはリアクションペーパーの評点の合計を指す。試験の点数に平常点を加えて単位を認定する場合は、C 評価しかつかない。

その他

科目ナンバー：(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代日本演劇論	**同時代日本演劇A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本では、「古典劇」から「現代劇」まで、実に様々な種類の演劇が上演されている。特に都市部では、国内だけでなく海外から来日する劇団の上演に触れることも今や珍しいことではないであろう。こうした多種多様の演劇を、どのように受け止め、捉えれば良いのであろうか？本講義では、昭和初期以降の演劇を振り返り、日本の劇作家や演出家らにより行われてきた特色ある試みに焦点をあてる。これまで日本の劇作家や演出家たちにより、どのような挑戦が行われてきたのか、その軌跡をたどりつつ、現代の演劇について再考して欲しい。

授業内容

第1回 「現代日本演劇」の潮流
第2回 女性劇作家の系譜
第3回 女性劇作家―同時代思潮と演劇
第4回 女性劇作家―作家と作品
第5回 女性劇作家―戦後演劇の展開
第6回 加藤道夫―音楽入り「詩劇」としての「ミュージカル」
第7回 加藤道夫―劇団「四季」の創立者たちと加藤道夫
第8回 加藤道夫―戦前の演劇思潮と若者たち
第9回 加藤道夫―「詩劇」という理想
第10回 三島由紀夫―『近代能楽集』の試み(1)
第11回 三島由紀夫―『近代能楽集』の試み(2)
第12回 三島由紀夫―「古典劇」と「現代劇」
第13回 三島由紀夫―日本語のせりふと「様式」性
第14回 まとめ－演劇伝統の「継承」と「革新」

履修上の注意

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意します。過去のレジュメや資料に戻り説明することもありますから、レジュメや資料には、毎回、きちんと目を通しておいてください。また、「対面」での講義の場合には、各回で配布されたプリントは、次回以降も持参してください。現代舞台芸術論と合わせて履修することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意しますが、レジュメや資料の内容には、前後の講義につながる重要な項目が含まれます。したがって毎回のレジュメや資料を丁寧に見直すことが、そのまま「予習」や「復習」になります。資料のなかに難しい言葉などがあれば、データベースや辞書・事典類を用いて、自身で知らべておくことが重要です。

教科書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめますので、特に教科書は指定しませんが、授業のはじめに参考図書を紹介します。

参考書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめます。各時代のトピックごとに必要に応じて参考図書を紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーや、レポートについて、必要に応じ全体に向けてコメントする。コメントは、基本的に講義のなかで伝える。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習をして欲しい。

成績評価の方法

中間レポート(「小論文」)または中間テスト 35%、授業への貢献度 30%、期末レポート(「小論文」)または期末試験 35%
上記各項目における得点取得が必須

その他

作品を鑑賞(放映・配信を含む)した上での鑑賞レポート(小論文)の提出を求める場合があります。鑑賞が設定された場合には、積極的に視聴してください。

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代舞台芸術論	**同時代日本演劇B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

現代の日本では、「古典劇」から「現代劇」まで、実に様々な種類の舞台芸術が存在している。特に都市部では、国内だけでなく海外から来日する劇団の上演に触れることも今や珍しいことではないであろう。こうした多種多様の演劇を、どのように受け止め、捉えれば良いのであろうか？本講義では、昭和初期以降の日本の演劇を振り返り、日本の劇作家や演出家らにより行われてきた特色ある試みに焦点をあてる。これまで日本の劇作家や演出家たちにより、どのような挑戦が行われて、どのように現代につながっているのか、その軌跡をたどりつつ、現代の演劇について再考して欲しい。

授業内容

第1回 現代の日本演劇と前衛
第2回 寺山修司―「新劇」と「アングラ演劇」
第3回 寺山修司―短詩型文学と「詩劇」
第4回 寺山修司―舞台表現の革新
第5回 寺山修司―演劇という「メディア」
第6回 寺山修司ー同時代演劇の潮流
第7回 宮本研―「リアリズム」演劇の系譜
第8回 宮本研―「戦後」演劇からの出発と戦争の劇
第9回 宮本研―第二次世界大戦後の「歴史劇」
第 10 回 宮本研―「アングラ演劇」の登場と「群像劇」
第 11 回 安部公房―日本の「不条理」演劇
第 12 回 安部公房―「侵入」の「不条理」演劇
第 13 回 安部公房―演技論のイノベーション
第 14 回 安部公房―現代演劇と「パフォーマンス」

履修上の注意

第1～5回の間のいずれかで、関連する内容の「特別講義」をする場合があります。
毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意します。過去のレジュメや資料に戻り説明することもありますから、レジュメや資料には、毎回、きちんと目を通しておいてください。また、「対面」での講義の場合には、各回で配布されたプリントは、次回以降も持参してください。現代日本演劇論と合わせて履習することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意しますが、レジュメや資料の内容には、前後の講義につながる重要な項目が含まれます。したがって毎回のレジュメや資料を丁寧に見直すことが、そのまま「予習」や「復習」になります。資料のなかに難しい言葉などがあれば、データベースや辞書・事典類を用いて、自身で知らべておくことが重要です。

教科書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめますので、特に教科書は指定しませんが、授業のはじめに参考図書を紹介します。

参考書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめます。各時代のトピックごとに必要に応じて参考図書を紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーや、レポートについて、必要に応じ全体に向けてコメントする。コメントは、基本的に講義のなかで伝える。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習をして欲しい。

成績評価の方法

中間レポート(「小論文」)または中間テスト 35%、授業への貢献度 30%、期末レポート(「小論文」)または期末試験 35%
上記各項目における得点取得が必須

その他

作品を鑑賞(放映・配信を含む)した上での鑑賞レポート(小論文)の提出を求める場合があります。鑑賞が設定された場合には、積極的に視聴してください。

科目ナンバー:(AL)LIT321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
現代米小説読解	**米文学講読D**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

第一次世界大戦後に活躍したアメリカの若い小説家たち、たとえば、アーネスト・ヘミングウェイやスコット・フィッツジェラルドらは、世界へのゆるぎない信頼を失い、深い幻滅を味わいながらも、一条の光をもとめて大地を彷徨した「失われた世代」の作家といわれています。この「ロストの感覚」とはいかなるものであったのか、実際に彼らが書いたテクストを精読しながら、学期の前半で考えていきます。そのさい、「愛」という現象の奥深さや多層性についても注目していきたいと思います。愛といっても、家族愛、異性愛、同性愛、同郷愛など多様ですし、ジェンダーや社会変容と深く関わり、友情も含まれてくるのかもしれません。愛の喪失と獲得という視点からさまざまな人間模様を思考していきたいと考えています。
また学期の後半では、アメリカ「南部」作家の短篇小説を精読します。扱う作家は、ウィリアム・フォークナー、ユードラ・ウェルティ、カーソン・マッカラーズ、トルーマン・カポーティを予定しています。白人としての自我の起源、自然と日常の関わり、庭造りにこめられた人生の意味、人間の孤独と不安の綾なす幻想的な世界、愛をめぐる女性の生き方と悲しみなどを考察していきます。
適宜、歴史的文化的資料にあたり、時代の精神性を学びつつ、小説に描かれた人物の心情とふる舞いの意味をつぶさに観察し分析することに力点をおきます。小説の英語を熟読しながら、語彙・熟語のストックをため、構文把握力を向上させ、同時に、人間とは何かを問いつつ、アメリカの文化・歴史と人間の営みの関係性をめぐって考察を深めていきます。
なお、本授業は、後期の「米散文読解」(米文学講読 D)でとりあげる作家の小説を多く読みます。後期もぜひ受講してください。作家の創作と人生がより深く見えてくると思います。

授業内容

受講生は、事前に範囲の英文を読み、授業では、担当者の発表(要約・語注・考察)を踏まえて、英文解釈と作品世界の考察を行います。作品に関連する映像の分析も行う予定です。
1. イントロダクション
2. 小説読解1
3. 小説読解2
4. 小説読解3
5. 小説読解4
6. 映像分析1
7. 映像分析2
8. 小説読解5
9. 小説読解6
10. 小説読解7
11. 小説読解8
12. 小説読解9
13. 小説読解10
14. 小説読解11

履修上の注意

授業では解釈や考察を述べる機会もあるので、主体的かつ積極的な授業参加が必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として受講者全員、課題範囲を読み、単語・熟語調べや和訳などの準備をしましょう。授業後は、範囲を再読し考察を深めてください。

教科書

プリントを配布します。

参考書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編 ミネルヴァ書房出版)
『講義 アメリカ文学史[全三巻]』(渡辺利雄著 研究社出版)

課題に対するフィードバックの方法

提出したリアクションペーパのなかから、興味深い考えや視点を次回の授業冒頭で紹介し、理解を深めます。

成績評価の方法

授業への貢献度・出席(30%)、発表・提出物(20%)、レポート(50%)。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学概論ＩA	**考古学概論ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 憲一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学は、人類の歴史を解明するために極めて重要な学問である。文字記録が存在しない時代はもとより、文献が存在する時代においてすら、人々の営みを描きだすためには考古学の成果が不可欠である。本授業は、考古学の定義・枠組み、多彩な方法論、考古学と周辺科学の協業、考古学から描き出された具体的な歴史像、考古学が現代社会に果たす役割などを総合的に解説し、考古学という学問のアウトラインの理解を深めるものである。興味深い発掘調査の実例や最新の研究動向を織り込むなど、ビジュアルにも配慮した親しみやすい授業運営を行う。

本授業は、初学者向けの科目であることから、考古学や歴史学への扉を開く重要な位置づけを有する。考古学の魅力と有用性に気づき、知る楽しさと喜びを喚起したうえで、自主的な学習意欲を呼び覚ますことが本講座の到達目標である。

授業内容

第1回ａのみ 考古学とはどんな学問か
第2回 時代区分論
第3回 旧石器時代の考古学
第4回 縄文時代の考古学―土器、経済など
第5回 弥生時代の考古学(1)―農業の開始
第6回 弥生時代の考古学(2)―祭祀・戦争・外交
第7回 弥生時代の考古学(3)―集落・墳墓・社会
第8回 古墳時代の考古学(1)―前期
第9回 古墳時代の考古学(2)―中期
第 10 回 古墳時代の考古学(3)―生産と流通
第 11 回 古墳時代の考古学(4)―後期
第 12 回 日本考古学の歴史(1)―江戸～明治時代
第 13 回 日本考古学の歴史(2)―明治～大正時代
第 14 回 日本考古学の歴史(3)―戦前

履修上の注意

上記に挙げた内容を基本として進めるが、受講者の関心や理解度等に応じて内容を調整することがある。なお、秋学期に開講する「考古学概論ＩB」は本講座の内容を踏まえて、本格的な考古学の方法論や日本考古学の各時代の成果概要を紹介していくものである。このため、あわせて履修することを強く推奨する。

準備学習(予習・復習等)の内容

本講座は初学者向けであるが、下記に挙げる教科書・参考書は入手して目を通しておくこと。さらに必要な参考書は随時紹介する。加えて、考古学関連のニュース記事などを意識して収集することが望ましい。また、博物館の展示観覧や遺跡見学などの時間外学習の課題を課し、授業中にプレゼンを求める場合がある。

教科書

佐々木憲一・若狭徹ほか『はじめて学ぶ考古学』(改訂版)(有斐閣, 2023 年を必ず購入してください。旧版はダメです。

参考書

『考古学入門』鈴木公雄, (東京大学出版会, 1988 年)

課題に対するフィードバックの方法

授業中に必ず質問をするように心掛けてください。質問に対して、できる限りわかりやすく回答します。

成績評価の方法

期末試験による評価が基本である(90%)。加えて、授業参加の積極性に応じて評価を加減する(10%)。

その他

毎回講義レジメを配布する。

科目ナンバー:(AL)PAC191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学概論ＩB	**考古学概論ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 憲一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学は、人類の歴史を解明するために極めて重要な学問である。文字記録が存在しない時代はもとより、文献が存在する時代においてすら、人々の営みを描きだすためには考古学の成果が不可欠である。本授業は、考古学の定義・枠組み、多彩な方法論、考古学と周辺科学の協業、考古学から描き出された具体的な歴史像、考古学が現代社会に果たす役割などを総合的に解説し、考古学という学問のアウトラインの理解を深めるものである。

本授業は、初学者向けの科目であることから、考古学や歴史学への扉を開く重要な位置づけを有する。考古学の魅力と有用性に気づき、知る楽しさと喜びを喚起したうえで、自主的な学習意欲を呼び覚ますことが本講座の到達目標である。

授業内容

第1回 ヨーロッパ考古学の歴史―19 世紀以前(1)
第2回 ヨーロッパ考古学の歴史―19 世紀以前(2)
第3回 ヨーロッパ考古学の歴史―20 世紀前半(1)
第4回 ヨーロッパ考古学の歴史―20 世紀前半(2)
第5回 ヨーロッパ考古学の歴史―20 世紀後半
第6回 型式学(1)―遺物の相対的新古
第7回 型式学(2)―考古学における型式・形式・様式
第8回 年代論(1)―相対年代と層位学
第9回 年代論(2)―理化学的年代測定と絶対年代
第 10 回 弥生・古墳時代の年代観(1)
第 11 回 弥生・古墳時代の年代観(2)
第 12 回 考古学における「文化」の概念
第 13 回 旧石器時代遺跡ねつ造事件と理論考古学
第 14 回 理論考古学

履修上の注意

上記に挙げた内容を基本として進めるが、受講者の関心や理解度等に応じて内容を調整することがある。なお、春学期に開講する「考古学概論ＩA」は考古学の初歩的事項を扱い、本講座を理解するための基礎を形成するものである。このため、あわせて履修することを強く推奨する。

準備学習(予習・復習等)の内容

本講座は初学者向けであるが、下記に挙げる教科書・参考書は入手して目を通しておくこと。さらに必要な参考書は随時紹介する。加えて、考古学関連のニュース記事などを意識して収集することが望ましい。また、博物館の展示観覧や遺跡見学などの時間外学習の課題を課し、授業中にプレゼンを求める場合がある。

教科書

佐々木憲一・若狭徹ほか『はじめて学ぶ考古学』(改訂版)(有斐閣, 2023 年)を入手すること。旧版は不可。

参考書

『考古学入門』鈴木公雄, (東京大学出版会, 1988 年)

課題に対するフィードバックの方法

わからないことは、授業中に質問をするようにしてください。できる限りわかりやすく回答します。

成績評価の方法

期末試験による評価が基本である(90%)。加えて、授業参加の積極性に応じて評価を加減する(10%)。

その他

毎回講義レジメを配布する。

科目ナンバー:(AL)PAC191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学概論ⅡA	**考古学概論ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、考古学と現代社会との関りについて、多角的な立場や視点から考えるものである。懐古趣味的と捉えられがちな考古学であるが、実は文化財保護行政や博物館,展示、市民活動などを通じて、地域の人々と深いつながりを持ち、現代社会の地域形成にきわめて有用であることを論じていく。

また本授業は、考古学を学ぶ学生が大学での専門を生かし、卒業後に学芸員や公務員として職業選択するための、キャリア形成講座としても役立つ構成としている。

授業内容

専任教員(若狭・鶴来)、兼任講師(栗島・橋本)によるオムニバス授業であり、これに特別授業(本学卒業生)を組み合わせて実施する。若狭がコーディネーターである。
本授業は基本的には講義形式であるが、受講生との意見交換などを通じて双方向的な授業を展開する。
第1回 考古学の社会的役割とキャリアデザイン(若狭、aモジュール)
第2回 日本における文化財保護制度の枠組みと考古学(栗島)
第3回 都道府県における文化財保護と考古学(栗島)
第4回 埋蔵文化財センターの役割(橋本)
第5回 考古学と博物館(橋本)
第6回 考古学と学校教育(橋本)
第7回 考古学と市民活動・NPO(橋本)
第8回 史跡の整備と保存活用(若狭)
第9回 地方自治体(市)における文化財保護の実践(特別授業・卒業生1)
第 10 回 考古学を活かしたまちづくり(鶴来)
第 11 回 地方自治体(町村)における文化財保護の実践(特別授業・卒業生2)
第 12 回 災害と考古学―文化財レスキューの実態(栗島)
第 13 回 考古学と現代社会1(若狭)
第 14 回 考古学と現代社会2(若狭)

履修上の注意

考古学概論Ⅰを履修済みであるか、併せて履修することが求められる。
また、考古学概論ⅡB を続けて履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

資料は、あらかじめ Oh!Meiji システムにアップロードするので、プリントアウトして持参すること。事前に目をとおして臨むこと。
ただし、講師によっては、当日に印刷物が配布される場合もある。

教科書

特に指定しない。

参考書

佐々木憲一・小杉康・朽木量・菱田哲郎・若狭徹『はじめて学ぶ考古学(改定版)』有斐閣(2023 年)

課題に対するフィードバックの方法

レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法

レポート 70%、授業への参加度 30%

その他

科目ナンバー:(AL)PAC191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学概論ⅡB	**考古学概論ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学研究の最前線について、考古学専攻の全教員と講師が専門に応じ、分担して講義する。体系的な学習を目指した考古学概論Ⅰに対して、本授業はホットな学問的情報、教員が推進している最新研究、考古学の最新動向を論じる。このことで、考古学に対する関心をいっそう高め、3年次以降の専門教育への橋渡しの役割を果たすことを目標とする。

若狭がコーディネータとなり、オムニバス授業として実施する。専任教員(藤山・阿部・鶴来・佐々木・若狭)、兼任講師(田中)が数回ずつ担当する。

授業内容

若狭がコーディネータとなり、オムニバス授業として実施する。
第1回 概説1(若狭)
第2回 概説2(若狭)
第3回 旧石器時代研究の最前線(藤山)
第4回 旧石器時代研究の最前線(藤山)
第5回 縄文時代研究の最前線(阿部)
第6回 縄文時代研究の最前線(阿部)
第7回 弥生時代研究の最前線(鶴来)
第8回 弥生時代研究の最前線(鶴来)
第9回 古墳時代研究の最前線(若狭)
第 10 回 古墳時代研究の最前線(若狭)
第 11 回 歴史考古学研究の最前線(田中)
第 12 回 歴史考古学研究の最前線(田中)
第 13 回 世界の中の日本考古学(佐々木)
第 14 回 世界の中の日本考古学(佐々木)

履修上の注意

考古学概論Ⅰを履修済みであるか、併せて履修することが求められる。
また、考古学概論ⅡAも併せて履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

資料は、あらかじめ oh!Meiji システムにアプロードするので、プリントアウトして持参すること。事前に目を通して臨むこと。
ただし、当日に資料が配布される場合もある。
なお、新聞等で報じられる考古学に関わる最新情報にアンテナを伸ばしておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

事後学習が必要な場合は、講師ごとに紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法

レポート 70%、授業への参加度 30%

その他

科目ナンバー:(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ＩA	**考古学研究法ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
追川 吉生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ⅠA」では、主に土器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡA」では、主に土器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:考古学の調査研究 総論・授業の進め方
第 2 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-① 土器の製作と用途
第 3 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-② 遺跡の中の土器
第 4 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-③ 土器を観察する基礎
第 5 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-④ 土器の実測
第 6 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑤ 土器の実測
第 7 回: 単元Ⅲ:論文を読解する① 課題を解く論文
第 8 回: 単元Ⅲ:論文を読解する② 方針を説く論文
第 9 回: 単元Ⅲ:論文を読解する③ 遺跡研究論文
第 10 回: 単元Ⅳ:土器を調べるⅡ-① 縄文土器の装飾原理
第 11 回: 単元Ⅳ:土器を調べるⅡ-② 縄文土器の実測
第 12 回: 単元Ⅳ:土器を調べるⅡ-③ 土器と社会
第 13 回: 単元Ⅴ:考古学における分布論
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに、Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画および課題論文を掲示する。

履修上の注意

●考古学研究法ⅠA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。
●実測作業に必要な道具類は、春学期に各自購入すること(年度初めのガイダンスと初回授業時に詳細を指示する)。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回事前に論文読解を主とする課題を提示する。全員必ず指定された書式によるレポートを提出する。ただし口頭発表を担当する場合は、発表用資料をこのレポートに替えて作成・配布する。

教科書

教科書は用いない。課題論文はクラスウェブに掲示するので、余裕をもって事前に読解し、資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年
『ドイツ展記念概説 日本の考古学』(上・下)、稲田孝司・白石太一郎ほか編、(学生社)、2005 年
『発掘調査のてびき―集落遺跡調査編／整理・報告書編―』文化庁文化財部記念物課 2010 年・『発掘調査のてびき―各種遺跡調査編―』2013 年、文化庁文化財部記念物課編、(文化庁文化財部記念物課・同成社)

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表および討議)50%・課題論文レポート50%。
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。
学期中に 1 度教室での講義に代わり、土曜日か日曜日を利用した校外学習を実施する場合がある。

科目ナンバー:(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ＩA	**考古学研究法ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
大谷 薫	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ⅠA」では、主に土器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡA」では、主に土器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:考古学の調査研究 総論・授業の進め方
第 2 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-① 土器の製作と用途
第 3 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-② 遺跡の中の土器
第 4 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-③ 土器を観察する基礎
第 5 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-④ 土器の実測
第 6 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑤ 土器の実測
第 7 回: 単元Ⅲ:論文を読解する① 課題を解く論文
第 8 回: 単元Ⅲ:論文を読解する② 方針を説く論文
第 9 回: 単元Ⅲ:論文を読解する③ 遺跡研究論文
第 10 回: 単元Ⅳ:土器を調べるⅡ-① 縄文土器の装飾原理
第 11 回: 単元Ⅳ:土器を調べるⅡ-② 縄文土器の実測
第 12 回: 単元Ⅳ:土器を調べるⅡ-③ 土器と社会
第 13 回: 単元Ⅴ:考古学における分布論
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに、Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画および課題論文を掲示する。

履修上の注意

●考古学研究法ⅠA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。
●実測作業に必要な道具類は、春学期に各自購入すること(年度初めのガイダンスと初回授業時に詳細を指示する)。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回事前に論文読解を主とする課題を提示する。全員必ず指定された書式によるレポートを提出する。ただし口頭発表を担当する場合は、発表用資料をこのレポートに替えて作成・配布する。

教科書

教科書は用いない。課題論文はクラスウェブに掲示するので、余裕をもって事前に読解し、資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年
『ドイツ展記念概説 日本の考古学』(上・下)、稲田孝司・白石太一郎ほか編、(学生社)、2005 年
『発掘調査のてびき―集落遺跡調査編／整理・報告書編―』文化庁文化財部記念物課 2010 年・『発掘調査のてびき―各種遺跡調査編―』2013 年、文化庁文化財部記念物課編、(文化庁文化財部記念物課・同成社)

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表および討議)50%・課題論文レポート50%。
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。
学期中に 1 度教室での講義に代わり、土曜日か日曜日を利用した校外学習を実施する場合がある。

科目ナンバー:(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ＩB	**考古学研究法ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
追川 吉生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ＩB」では、主に石器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡB」では、主に石器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:石器の実測とは何か 総論・授業の進め方
第 2 回: 単元Ⅱ:剥片石器をいかに分類するか(1)
第 3 回: 単元Ⅱ:剥片石器をいかに分類するか(2)
第 4 回: 単元Ⅲ:剥片石器の素材生産を読み解く(1)
第 5 回: 単元Ⅲ:剥片石器の素材生産を読み解く(2)
第 6 回: 剥片の実測
第 7 回: 単元Ⅳ:石器群の変遷を探る(1)
第 8 回: 単元Ⅳ:石器群の変遷を探る(2)
第 9 回: 単元Ⅴ:石器石材は何を物語るか(1)
第 10 回: 単元Ⅴ:石器石材は何を物語るか(2)
第 11 回: 単元Ⅵ:石器製作の遺跡間連鎖を探る(1)
第 12 回: 単元Ⅵ:石器製作の遺跡間連鎖を探る(2)
第 13 回: 石器の実測
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに、Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画および課題論文を掲示する。

履修上の注意

考古学研究法ＩA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回事前に論文読解を主とする課題を提示する。全員必ず指定された書式によるレポートを提出する。ただし口頭発表を担当する場合は、発表用資料をこのレポートに替えて作成・配布する。

教科書

教科書は用いない。課題論文はクラスウェブに掲示するので、余裕をもって事前に読解し、資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表および討議)50%・課題論文レポート50%。
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。
学期中に 1 度教室での講義に代わり、土曜日か日曜日を利用した校外学習を実施する場合がある。

科目ナンバー:(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ＩB	**考古学研究法ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
大谷 薫	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ＩB」では、主に石器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡB」では、主に石器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:石器の実測とは何か 総論・授業の進め方
第 2 回: 単元Ⅱ:剥片石器をいかに分類するか(1)
第 3 回: 単元Ⅱ:剥片石器をいかに分類するか(2)
第 4 回: 単元Ⅲ:剥片石器の素材生産を読み解く(1)
第 5 回: 単元Ⅲ:剥片石器の素材生産を読み解く(2)
第 6 回: 剥片の実測
第 7 回: 単元Ⅳ:石器群の変遷を探る(1)
第 8 回: 単元Ⅳ:石器群の変遷を探る(2)
第 9 回: 単元Ⅴ:石器石材は何を物語るか(1)
第 10 回: 単元Ⅴ:石器石材は何を物語るか(2)
第 11 回: 単元Ⅵ:石器製作の遺跡間連鎖を探る(1)
第 12 回: 単元Ⅵ:石器製作の遺跡間連鎖を探る(2)
第 13 回: 石器の実測
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに、Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画および課題論文を掲示する。

履修上の注意

考古学研究法ＩA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回事前に論文読解を主とする課題を提示する。全員必ず指定された書式によるレポートを提出する。ただし口頭発表を担当する場合は、発表用資料をこのレポートに替えて作成・配布する。

教科書

教科書は用いない。課題論文はクラスウェブに掲示するので、余裕をもって事前に読解し、資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度(発表および討議)50%・課題論文レポート50%。
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。
学期中に 1 度教室での講義に代わり、土曜日か日曜日を利用した校外学習を実施する場合がある。

科目ナンバー:(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ⅡA	**考古学研究法ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
追川 吉生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ⅠA」では、主に土器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡA」では、主に土器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:考古学の調査研究
第 2 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-① 土器の製作と用途
第 3 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-② 遺跡の中の土器
第 4 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-③ 土器の観察と記録
第 5・6 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-④・⑤ 土器の実測
第 7 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑥ 土器片の観察と記録・拓本
第 8 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑦ 土器片からの復原実測
第 9 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑧ 縄文原体
第 10 回: 単元Ⅲ:土器を調べるⅡ-① 縄文土器の実測図
第 11・12 回: 単元Ⅲ:土器を調べるⅡ-② 縄文土器の実測
第 13 回: 単元Ⅴ:考古学における分布論
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画を掲示する。

履修上の注意

考古学研究法ⅠA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題はスケジュールに従って提出すること。また、下に掲示した参考書および各地の遺跡発掘調査報告書に触れて、準備学習を重ねること。

教科書

教科書は用いない。毎回資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年
『ドイツ展記念概説 日本の考古学』(上・下)、稲田孝司・白石太一郎ほか編、(学生社)、2005 年
『発掘調査のてびき―集落遺跡調査編／整理・報告書編―』文化庁文化財部記念物課 2010 年・『発掘調査のてびき―各種遺跡調査編―』2013 年、文化庁文化財部記念物課編、(文化庁文化財部記念物課・同成社)

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業で作成した実測図30%、課題提出20%、期末実技試験50%
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。

科目ナンバー:(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ⅡA	**考古学研究法ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
大谷 薫	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ⅠA」では、主に土器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡA」では、主に土器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:考古学の調査研究
第 2 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-① 土器の製作と用途
第 3 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-② 遺跡の中の土器
第 4 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-③ 土器の観察と記録
第 5・6 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-④・⑤ 土器の実測
第 7 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑥ 土器片の観察と記録・拓本
第 8 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑦ 土器片からの復原実測
第 9 回: 単元Ⅱ:土器を調べるⅠ-⑧ 縄文原体
第 10 回: 単元Ⅲ:土器を調べるⅡ-① 縄文土器の実測図
第 11・12 回: 単元Ⅲ:土器を調べるⅡ-② 縄文土器の実測
第 13 回: 単元Ⅴ:考古学における分布論
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画を掲示する。

履修上の注意

考古学研究法ⅠA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題はスケジュールに従って提出すること。また、下に掲示した参考書および各地の遺跡発掘調査報告書に触れて、準備学習を重ねること。

教科書

教科書は用いない。毎回資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年
『ドイツ展記念概説 日本の考古学』(上・下)、稲田孝司・白石太一郎ほか編、(学生社)、2005 年
『発掘調査のてびき―集落遺跡調査編／整理・報告書編―』文化庁文化財部記念物課 2010 年・『発掘調査のてびき―各種遺跡調査編―』2013 年、文化庁文化財部記念物課編、(文化庁文化財部記念物課・同成社)

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業で作成した実測図30%、課題提出20%、期末実技試験50%
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。

科目ナンバー：(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ⅡB	**考古学研究法ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
追川 吉生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ⅠB」では、主に石器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡB」では、主に石器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:石器を観察する
第 2 回: 単元Ⅰ:石器を観察する
第 3 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 4 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 5 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 6 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 7 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 8 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 9 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 10 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 11 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 12 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 13 回: 単元Ⅳ:石器の実測
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画を掲示する。

履修上の注意

●考古学研究法ⅠA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。
●実測作業に必要な道具類は、春学期に各自購入すること(年度初めのガイダンスと初回授業時に詳細を指示する)。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題はスケジュールに従って提出すること。また、下に掲示した参考書および各地の遺跡発掘調査報告書に触れて、準備学習を重ねること。

教科書

教科書は用いない。毎回資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業で作成した実測図30%、課題提出20%、期末実技試験50%
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。

科目ナンバー：(AL)PAC292J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学研究法ⅡB	**考古学研究法ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
大谷 薫	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

考古学では、考古資料・データの何をどのように分析して、歴史の実態を復元するのか、「考古学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、その実際を学ぶ。1 年次の考古学概論Ⅰ・Ⅱ及び基礎演習(考古学)で学んだことを基礎として、より具体的・実際的な考古学研究の世界―基本的な理論・資料分析法・分析結果の解釈・議論・提示方法など―を学び、修得する。これによって、本格的な論文読解と資料操作のトレーニングを行う 3 年次の「演習Ⅰ(考古学)」の基礎を形成する。

「考古学研究法ⅠB」では、主に石器に関する基本論文の読解とそれを理解するための基盤形成を行うのに対して、「考古学研究法ⅡB」では、主に石器を観察する方法と観察結果の記録・表現法の実際を学び、その基本的技術を習得する。なお、両者は相互に関連しあうため、横断した運営を行う。

授業内容

第 1 回: 単元Ⅰ:石器を観察する
第 2 回: 単元Ⅰ:石器を観察する
第 3 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 4 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 5 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 6 回: 単元Ⅱ:剥片の実測
第 7 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 8 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 9 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 10 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 11 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 12 回: 単元Ⅲ:石器の実測
第 13 回: 単元Ⅳ:石器の実測
第 14 回: まとめ および実技試験
なお、年度初めに Oh-o! Meiji のクラスウェブにおいて詳細な実施計画を掲示する。

履修上の注意

●考古学研究法ⅠA・B、同ⅡA・Bは考古学専攻2年次の必修科目であり、相互に密接に関連しあうため、あわせて履修すること。
●実測作業に必要な道具類は、春学期に各自購入すること(年度初めのガイダンスと初回授業時に詳細を指示する)。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題はスケジュールに従って提出すること。また、下に掲示した参考書および各地の遺跡発掘調査報告書に触れて、準備学習を重ねること。

教科書

教科書は用いない。毎回資料プリントを配布して授業を進める。

参考書

『岩波講座日本考古学』全 9 巻、近藤義郎ほか編、(岩波書店)、1985～87 年

課題に対するフィードバックの方法

課題(レポート、実測図)の返却時に必要に応じてコメントを付す。Oh-o! Meiji システムを介して提出された課題については、オンラインでコメントを付ける。

成績評価の方法

授業で作成した実測図30%、課題提出20%、期末実技試験50%
なお欠席が 3 回に達した場合、評価は「不可」(F)となる。遅刻 3 回で 1 回の欠席とみなすため注意されたい。

その他

学習を進めるにあたって、明治大学博物館図書室蔵書(貸出不可)を活用すること。出版社刊行物は図書館蔵書の方が充実しているので併用する。また、各自の関心に即した資料が収蔵・展示される各地の博物館・埋蔵文化財センターの見学等を重ねて、資料に即した学習を心がけること。

科目ナンバー:(AL)PAC295J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学実習ＩA	**考古学実習ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	春学期集中	その他

授業の概要・到達目標
遺跡の調査や資料の分析に従事し，考古学の実践に不可欠な基本技術を習得する。

授業内容
夏期休暇中を中心に，実際の発掘調査や整理作業に従事する。旧石器時代、弥生時代，古墳時代を中心に複数のチームが組織されるので，いずれかを選択し，参加する。これに先立って事前講義を実施するほか，実習終了後に実習成果報告会で口頭発表する。

履修上の注意
履修登録を4月に済ませた後，5～6月に発表される実習メニューから選択する(第2希望になる場合もある)。「考古学実習IB」とあわせて履修登録すること。なお，実習参加の諸経費(宿泊費，交通費など)は各自の負担である。

準備学習(予習・復習等)の内容
考古学実習室では恒常的に遺物の整理や報告書の作成を行っているため，日頃から参加しておくことが好ましい。

教科書
特に定めない。

参考書
必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法
レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法
実習への取り組みに加えて，事前・事後のレポート等に基づいて評価する。成績評価・単位付与は年度末に「考古学実習 IB」とともに行う。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC295J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学実習ＩB	**考古学実習ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	秋学期集中	その他

授業の概要・到達目標
遺跡の調査や資料の分析に従事し，考古学の実践に不可欠な基本技術を習得する。

授業内容
夏期休暇中を中心に，実際の発掘調査や整理作業に従事する。旧石器時代，弥生時代，古墳時代を中心に複数のチームが組織されるので，いずれかを選択し，参加する。これに先立って事前講義を実施するほか，実習終了後に実習成果報告会で口頭発表する。

履修上の注意
履修登録を4月に済ませた後，5～6月に実習地を選択・調整する。「考古学実習 IA」とあわせて履修登録すること。なお，実習参加の諸経費(宿泊費，交通費など)は各自の負担である。

準備学習(予習・復習等)の内容
考古学実習室では恒常的に遺物の整理や報告書の作成を行っているため，日頃から参加しておくことが好ましい。

教科書
なし。

参考書
必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法
レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法
実習への取り組みに加えて，事前・事後のレポート等に基づいて評価する。成績評価・単位付与は年度末に「考古学実習 IA」とともに行う。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC395J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学実習ⅡA	**考古学実習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	春学期集中	その他

授業の概要・到達目標
遺跡の調査や資料の分析に従事し、考古学の実践に不可欠な基本技術を習得する。

授業内容
夏期休暇中を中心に、実際の発掘調査や整理作業に従事する。旧石器時代、弥生時代、古墳時代を中心に複数のチームが組織されるので、いずれかを選択し、参加する。これに先立って事前講義を実施するほか、実習終了後に実習成果報告会で口頭発表する。

履修上の注意
履修登録を4月に済ませた後、5～6月に発表される実習メニューから選択する(第2希望になる場合もある)。「考古学実習IB」とあわせて履修登録すること。なお、実習参加の諸経費(宿泊費、交通費など)は各自の負担である。

準備学習(予習・復習等)の内容
考古学実習室では恒常的に遺物の整理や報告書の作成を行っているため、日頃から参加しておくことが好ましい。

教科書
特に定めない。

参考書
必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法
レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法
実習への取り組みに加えて、事前・事後のレポート等に基づいて評価する。成績評価・単位付与は年度末に「考古学実習 IB」とともに行う。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC395J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学実習ⅡB	**考古学実習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	秋学期集中	その他

授業の概要・到達目標
遺跡の調査や資料の分析に従事し、考古学の実践に不可欠な基本技術を習得する。

授業内容
夏期休暇中を中心に、実際の発掘調査や整理作業に従事する。旧石器時代、弥生時代、古墳時代を中心に複数のチームが組織されるので、いずれかを選択し、参加する。これに先立って事前講義を実施するほか、実習終了後に実習成果報告会で口頭発表する。

履修上の注意
「考古学実習 IA・B」の単位を取得していないと、履修登録できない。
履修登録を4月に済ませた後、5～6月に実習地を選択・調整する。「考古学実習 IA」とあわせて履修登録すること。なお、実習参加の諸経費(宿泊費、交通費など)は各自の負担である。

準備学習(予習・復習等)の内容
考古学実習室では恒常的に遺物の整理や報告書の作成を行っているため、日頃から参加しておくことが好ましい。

教科書
特に定めない。

参考書
必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法
レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法
実習への取り組みに加えて、事前・事後のレポート等に基づいて評価する。成績評価・単位付与は年度末に「考古学実習ⅡA」とともに行う。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学特説A	**考古学特説A**	
担 当 者	開講期	開講地区
樋泉 岳二	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

遺跡から出土する貝殻・骨等の分析を通じて、人と自然の関係史の解明を目ざす分野を動物考古学とよぶ。本講義では、動物考古学の観点から人類進化史の中での環境変動と人類の海洋適応の発達史を概観し、縄文文化の海洋適応の特徴について人類史的な視点から検討する。具体的な内容としては、人類進化史の概要、旧石器時代の水産資源利用、最終氷期から後氷期の環境変動、後氷期における海洋適応の世界的発達、人類史からみた縄文文化の海洋適応の特色を予定している。また古環境学や動物考古学の方法論に関わる基礎知識についても合わせて解説する予定である。

授業の到達目標:(1)人類の進化および海洋適応の発達史を通じて、環境変動と人類の適応の関係性を理解すること、(2)縄文文化の特徴を人類史的な枠組みの中で理解する視点を身につけること。

授業内容

第 1 回:講義の内容と計画
第 2 回:人類進化史の概要(1):地球環境変動と人類の起源
第 3 回:人類進化史の概要(2):第四紀の始まりと肉食の発達
第 4 回:人類進化史の概要(3):ホモ・サピエンスの出現と狩猟の発達
第 5 回:旧石器時代の水産資源利用(1):前期～中期旧石器時代
第 6 回:旧石器時代の水産資源利用(2):中期旧石器時代
第 7 回:旧石器時代の水産資源利用(3):後期旧石器時代
第 8 回:旧石器時代の水産資源利用(4):後期旧石器時代
第 9 回:氷河期の終焉と環境変動・人類の後氷期適応
第 10 回:後氷期における海洋適応の世界的発展(1):西アジア
第 11 回:後氷期における海洋適応の世界的発展(2):ヨーロッパ・アメリカ
第 12 回:後氷期における海洋適応の世界的発展(3):東～東南アジア・オセアニア
第 13 回:人類史からみた縄文文化の海洋適応の特色
第 14 回:試験

履修上の注意

配布するプリントはファイルして授業に必ず持参すること.

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として, 次の回の内容について事前に参考書や授業中に配布するレジュメに目を通しておくこと. また, 復習としてレジュメを参照しながら講義内容の要点を整理しておくこと.

教科書

特定の教科書は使用せず, 講義ごとにレジュメを配布する.

参考書

授業中に適宜紹介する.

課題に対するフィードバックの方法

提出する課題について, その都度解説する.

成績評価の方法

試験(80%), 授業への貢献度(20%).

その他

科目ナンバー:(AL)PAC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
考古学特説B	**考古学特説B**	
担 当 者	開講期	開講地区
樋泉 岳二	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

遺跡から出土する貝殻・骨等の分析を通じて, 人と自然の関係史の解明を目ざす分野を動物考古学とよぶ. 本講義では, おもに動物考古学の観点から, 最終氷期以降の日本列島の自然環境と縄文人の動物資源利用の変遷について, 関東地方の研究事例を中心に講義を行う. とくに海洋生態系の変化と水産資源利用の関係性について重点的に取り扱うが, 狩猟活動の動向についても解説する. また動物考古学や古環境復原の方法と問題点についてもあわせて解説したい.

到達目標:最終氷期～後氷期の日本列島の自然環境の変遷と縄文人の動物資源利用・環境適応の関係性および問題点を理解すること.

授業内容

第1回:授業の内容と計画
第2回:日本列島における最終氷期以降の自然環境の変遷
第3回:縄文貝塚の概観:分布と変遷の概要・貝塚の類型
第4回:東京湾の環境と貝塚の変遷(1)－概観
第5回:東京湾の環境と貝塚の変遷(2)－東京湾の形成過程／古環境復原の方法
第6回:縄文草創期:河川漁労のはじまり
第7回:縄文早期:縄文海進～海洋漁労の起源と貝塚の出現
第8回:縄文前期:内湾生態系の発達～貝塚の発達と漁労の多様化
第9回:縄文前期末～中期初頭:「縄文中期の小海退」をめぐる諸問題
第 10 回:縄文中期:大規模貝塚の出現
第 11 回:縄文中期末～後期初頭:「4.2ka イベント」をめぐる諸問題
第 12 回:縄文後期:大規模貝塚の復活
第 13 回:縄文中期～後期:縄文時代の資源管理
第 14 回:縄文晩期:関東における貝塚の衰退とその背景

履修上の注意

配布するプリントはファイルして授業に必ず持参すること.

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として, 次の回の内容について事前に参考書や授業中に配布するレジュメに目を通しておくこと. また, 復習としてレジュメを参照しながら講義内容の要点を整理しておくこと.

教科書

特定の教科書は使用せず, 講義ごとにレジュメを配布する.

参考書

樋泉岳二(1999)「東京湾地域における完新世の海洋環境変動と縄文貝塚形成史」『国立歴史民俗博物館研究報告』第 81 集, 289-310 頁
樋泉岳二(2001)「貝塚の時代－縄文の漁労文化」『NHK スペシャル 日本人はるかな旅 第3巻 海が育てた森の王国』日本放送出版協会, 127-143 頁
樋泉岳二(2014)「漁撈の対象」『講座日本の考古学4 縄文時代(下)』青木書店, 54-86 頁
そのほか必要に応じて講義の際に紹介する.

課題に対するフィードバックの方法

提出する課題について, その都度解説する.

成績評価の方法

期末に課すレポートまたは試験(80%), 授業への貢献度(20%).

その他

科目ナンバー：(AL)PSY331J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
公認心理師の職責	**公認心理師の職責**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 義高	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
本授業は、公認心理師の職責(職務上の責任)やその基本的コンセプトを学ぶことを目的とする。そして、公認心理師の役割、責任、業務内容、今後の課題等について理解し、将来、心理専門職となるための基本的姿勢を身に付けることを目指す。
＜到達目標＞
本授業の到達目標は以下の4つである
1）公認心理師の役割について説明できる
2）公認心理師の法的義務や倫理について説明できる
3）各分野における公認心理師の業務内容と多職種連携方法について説明できる
4）現代社会が抱える問題への解決に向けて公認心理師が貢献できることを説明できる

授業内容

第1回 イントロダクション／公認心理師の役割
第2回 公認心理師の法的義務・倫理
第3回 クライエント/患者等の安全の確保に必要な事項
第4回 情報の適切な取り扱いについて／ミニテスト1と解説
第5回 保健医療分野における公認心理師の具体的な業務
第6回 福祉分野における公認心理師の具体的な業務
第7回 教育分野における公認心理師の具体的な業務
第8回 司法・犯罪分野における公認心理師の具体的な業務
第9回 産業・労働分野における公認心理師の具体的な業務
第10回 公認心理師としての自己課題発見・解決能力、生涯学習
第11回 多職種連携・地域連携
第12回 公認心理師による自殺対策／グループワーク(今の自分達にできる自殺対策)
第13回 公認心理師による研究とエビデンスの活用法／グループワーク(研究したいこと)
第14回 ミニテスト2と解説／総括

履修上の注意

4 年生の開講科目「心理実習」と「心理演習」は「公認心理師の職責」の単位を修得済みであることが前提の授業である。そのため、4 年生で「心理実習」と「心理演習」を履修予定の場合は、3 年生で「公認心理師の職責」の単位を修得することが望ましい。
治療者、支援者としての自分をイメージしながら、好奇心を持って学習を深めてほしい。また、グループワークの時間は積極的に自身の意見を述べて議論の活発化を目指してほしい。授業中に関連のない作業をしている学生、私語など周りに迷惑をかける学生には退室を求めることがある。単位修得には、授業内に行うミニテストを 2 回必ず受け、さらに期末レポートを提出する必要がある。なお、やむを得ず遅刻あるいは欠席をする場合は、事前に必ず担当教員へ伝えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業を履修するにあたっては、事前に臨床心理学の知識を得ておくことが望ましい。また、各回のテーマを確認し、そのテーマに対するイメージや自身との関連について考えてから授業に参加するようにしてほしい。そして、授業後は、各テーマについて理解を深めるために、授業時の配布資料や板書を振り返る時間を設けてほしい。

教科書

特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書

野島一彦（監修)『公認心理師の職責』遠見書房
下山晴彦（監修)『公認心理師の職責』ミネルヴァ書房
吉川眞理（著)・平野直己（著)『心理職の専門性-公認心理師の職責-』NHK 出版

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。
ミニテストについては、受験直後にフィードバック(解説)を行う。

成績評価の方法

各回で実施する授業内レポートおよび講義・演習への参加態度・積極性(30%)、ミニテスト 2 回(各 20%)、期末レポート(30%)

その他

特記事項なし

科目ナンバー：(AL)LIN131J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学ＩA	**国語学ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡部 圭介	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

国語学の基礎知識と、ことばとの向き合い方の基本とを、幅広く身につけることを目標とする。
ＩAでは、主に音韻と文字を扱う。

授業内容

第 1 回:イントロダクション ／ 序説―言語
第 2 回:序説―国語
第 3 回:音韻―音声と音韻
第 4 回:音韻―音節と単音
第 5 回:音韻―音節と単音
第 6 回:音韻―音節と単音
第 7 回:音韻―アクセント
第 8 回:音韻―アクセント
第 9 回:音韻―アクセント<方言のアクセント ／ イントネーションとプロミネンス ／ 音便、連濁、連声
第 10 回:文字―漢字
第 11 回:文字―仮名
第 12 回:文字―仮名
第 13 回:文字―仮名
第 14 回:文字―ローマ字
【補足 1】すべての授業において、a・b 両モジュールを利用する。a モジュールでは、出題に沿った回答(4行以上)をリアクションペーパーに記入してもらうことと、その回答に対して学術的・教育的にコメントすることを中心とする。b モジュールでは、上記の授業内容に沿って、テキストに基づいて講義する。
【補足 2】上記の授業内容、授業時間の配分は、あくまでも目安にすぎない。受講者の理解度や興味・関心のあり方によって、時間配分や内容の変更がありえる。
【補足 3】期末試験は、「明治大学 2026 年度学年暦 全キャンパス共通」に従い、定期試験期間(7 月 23 日～31 日)に行う。

履修上の注意

(1)真摯に学ぶ気がない者の受講は固く断る。。
(2)リアクションペーパーには、受講年月日、学部・学科・専攻名、科目名、入学年度、学年・組・番号、担当者名、氏名をもれなく記入し、回答は4行以上書くこと。
(3)質問、要望、相談等は、原則的にリアクションペーパーに記入すること。
(4)私語、飲食、PC や携帯端末等の通信機器の使用は、原則的に禁止する。特に、本授業と無関係の行為が発覚した場合は、退出を命じることがある。
(5)授業を録画、録音、撮影することは、原則的に禁止する。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示がないかぎり、予習・復習する必要はない。
あえて言えば、日常生活で見聞する言語全般(特に、テレビ、ラジオ、書籍、会話等)に、常に注意を払っておくとよい。
そうすることによって、自己のものとは異なる言語表現が巷に溢れていることを実感し、その多様性を知ることができるようになる。ことばとの向き合い方の基本を身につけるうえで、立派な予習となるだろう。リアクションペーパーに回答する際にも、役立つはずである。
また、授業で習得した知識の検証・確認もでき、今までいかに日本語に無関心で過ごしてきたか、いかに知ったつもりでいたかということを実感することができるようにもなる。ことばとの向き合い方の基本を身につけるうえで、立派な復習となるだろう。
ただ、定期考査での得点が低いために単位を落とす者が毎年現れている。定期考査対策は入念にしておくこと。

教科書

『国語要説 五訂版』和田利政・金田弘 （大日本図書） 2003 年
https://www.dainippon-tosho.co.jp/books/product/01550/
【補足 1】講義の土台となるものであるため、必ず購入すること。
【補足 2】履修を迷っているものを除き、第 1 回から持参することが望ましい。

参考書

(1)『日本語学研究事典』飛田良文ほか （明治書院） 2007 年
(2)『国語学研究事典』佐藤喜代治ほか （明治書院） 1977 年
【補足 1】国語学・日本語学全般について、近年のことは(1)で調べるとよい。(2)は、内容は古いものの、前者にない情報も多く載っていて何かと重宝する。
【補足 2】いずれも、購入する必要はない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

(1)原則的に、試験 80%、平常点(リアクションペーパーに記した回答＝4行未満は無効)20%とする。ただし、授業態度や回答の内容によっては、平常点の増減がありえる。
(2)授業実施回数の 3 分の 1 およびそれ以上を欠席した者には単位を与えない。

その他

真にやむを得ない欠席(部活動や学内外のサークルにおける公式試合や発表会、法定伝染病の罹患、深刻な事故・事件との遭遇など。部・サークルの通常練習や合宿などは対象外)に関しては、特別な配慮をすることがあるので、なるべく早く申し出ること。ただし、原則として客観的な証明が必要となる。なお、場合によっては、事務室を経由してからでないと申し出を受理できない場合がある。

科目ナンバー：(AL)LIN131J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学ＩB	**国語学ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡部 圭介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

国語学の基礎知識と、ことばとの向き合い方の基本とを、幅広く身につけることを目標とする。
ＩBでは、主に語彙と文法を扱う。

授業内容

第１回:イントロダクション(講義の方針と受講上の注意など) ／ 語彙―語彙とその種類
第２回:語彙―語彙の系統
第３回:語彙―語彙の系統
第４回:語彙―語彙の系統
第５回:語彙―位相
第６回:語彙―語義
第７回:語彙―語構成
第８回:文法―文法 ／ 文と文節 ／ 文の構成
第９回:文法―文の構成
第 10 回:文法―単語・品詞
第 11 回:文法―単語・品詞
第 12 回:文法―単語・品詞
第 13 回:文法―単語・品詞
第 14 回:文法―単語・品詞 ／ 敬語
【補足 1】すべての授業において、a・b 両モジュールを利用する。a モジュールでは、出題に沿った回答(4行以上)をリアクションペーパーに記入してもらうことと、その回答に対して学術的・教育的にコメントすることを中心とする。b モジュールでは、上記の授業内容に沿って、テキストに基づいて講義する。
【補足 2】上記の授業内容、授業時間の配分は、あくまでも目安にすぎない。受講者の理解度や興味・関心のあり方によって、時間配分や内容の変更がありえる。
【補足 3】期末試験は、「明治大学 2026 年度学年暦 全キャンパス共通」に従い、定期試験期間(1 月 25 日～2 月 3 日)に行う。

履修上の注意

(1)真摯に学ぶ気がない者の受講は固く断る。
(2)リアクションペーパーには、受講年月日、学部・学科・専攻名、科目名、入学年度、学年・組・番号、担当者名、氏名をもれなく記入し、回答は4行以上書くこと。
(3)質問、要望、相談等は、原則的にリアクションペーパーに記入すること。
(4)私語、飲食、PC や携帯端末等の通信機器の使用は、原則的に禁止する。特に、本授業と無関係の行為が発覚した場合は、退出を命じることがある。
(5)授業を録画、録音、撮影することは、原則的に禁止する。

準備学習(予習・復習等)の内容

第 8 回～第 14 回に予定している「文法」に関しては、中学生レベルの教科書・便覧・参考書等でかまわないから、概要を必ず復習・理解しておくこと。その際、問題点や疑問点を自分なりにリストアップしておくとよい。それ以外に関しては、指示のないかぎり、予習・復習の必要はない。
なお、日常生活で見聞する言語全般(特に、テレビ、ラジオ、書籍、会話等)に、常に注意を払っておくとよい。
そうすることによって、自己のものとは異なる言語表現が巷に溢れていることを実感し、その多様性を知ることができるようになる。ことばとの向き合い方の基本を身につけるうえで、立派な予習となるだろう。リアクションペーパーに回答する際にも、役立つはずである。
また、授業で習得した知識の検証・確認もでき、今までいかに日本語に無関心で過ごしてきたか、いかに知ったつもりでいたかということを実感することができるようにもなる。ことばとの向き合い方の基本を身につけるうえで、立派な復習となるだろう。
ただ、定期考査での得点が低いために単位を落とす者が毎年現れている。定期考査対策は入念にしておくこと。

教科書

『国語要説 五訂版』和田利政・金田弘 (大日本図書) 2003 年
https://www.dainippon-tosho.co.jp/books/product/01550/
【補足 1】講義の土台となるものであるため、必ず購入すること。
【補足 2】履修を迷っているものを除き、第１回から持参することが望ましい。
【補足 3】例年、ＩBのみを履修する者がきわめて少ないため、明大サポートへのテキスト発注はしていない。履修希望者は各自で調達すること。

参考書

(1)『日本語学研究事典』飛田良文ほか (明治書院) 2007 年
(2)『国語学研究事典』佐藤喜代治ほか (明治書院) 1977 年
(3)『日本文法事典』北原保雄ほか (有精堂) 1981 年
(4)『日本文法大辞典』松村明 (明治書院) 1971 年
(5)『日本語文法がわかる事典』林巨樹ほか (東京堂出版) 2004 年
【補足 1】国語学・日本語学全般について、近年のことは(1)で調べるとよい。(2)は、内容は古いものの、(1)にない情報も多く載っていて何かと重宝する。文法に特化した単行本として

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

(1)原則的に、試験 80%、平常点(リアクションペーパーに記した回答＝4行未満は無効)20%とする。ただし、授業態度や回答の内容によっては、平常点の増減がありえる。
(2)授業実施回数の 3 分の 1 およびそれ以上を欠席した者には単位を与えない。

その他

(1)真にやむを得ない欠席(部活動や学内外のサークルにおける公式試合や発表会、法定伝染病の罹患、深刻な事故・事件との遭遇など。部・サークルの通常練習や合宿などは対象外)に関しては、特別な配慮をすることがあるので、なるべく早く申し出ること。ただし、原則として客観的な証明が必要となる。なお、場合によっては、事務室を経由してからでないと申し出を受理できない場合がある。
(2)ＩAで学んだ経験や知識をふまえて講義・解説するため、ＩBだけの履修は勧められない。(学則上、不可ではない。)

科目ナンバー：(AL)LIN332J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学ⅡA	**国語学ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[概要]
日本語オノマトペの分析・整理方法
日本語オノマトペについて、その特徴と分析・整理方法、個別的オノマトペの認定について、説明し、実際のレポートを作成する見本も呈示する。
[到達目標]
日本語オノマトペの語学的特徴と歴史を理解し、具体的な資料を語学的に分析して、レポート作成ができるようになる。その際、ある語がオノマトペであるかどうかの判断についての見通しもできるようになる。

授業内容

日本語のオノマトペ(擬音語・擬態語)について、その構造・派生方法・用例収集から分類方法、認定の問題までを考察し、実際のレポートについてひな形も提示する。
1. イントロダクション―日本語オノマトペの特徴[a モジュールで終了]
2. オノマトペの構造的特徴―基本要素・オノマトペ指標
3. オノマトペの3類
4. オノマトペの形成―加工の諸相
5. オノマトペの形成―展開の諸相
6. オノマトペの形成―実現の諸相
7. オノマトペの意味―本体(ボディー)の意味
8. オノマトペの意味―音象徴性
9. オノマトペの意味―ニュアンス付加:促音・撥音
10. オノマトペの意味―ニュアンス付加:り・長音・反復
11. オノマトペの認定
12. レポートの作成(1)朝井リョウ『何者』の場合
13. レポートの作成(2)『名探偵コナン』の場合
14. まとめ
※具体的な単元は、進度の具合、受講生の反応等に基づいて回数・テーマが変動する場合もある。
また、上記は、進行の順序を述べたもので、必ずしも各回に限ったものではない。
また、具体的に分析対象とするものも、変更することがある。

履修上の注意

○長すぎる私語には厳正な態度を取ることがあるので注意してほしい。
○出席表をリアクションペーパーとして、その回の授業に対する、質問・感想・意見などを書いてもらう。記入がなければ、平常点を附与しないことにする。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]
1. 授業時に配るプリントに目を通し、次回の内容を頭に入れておく。
2. 参考文献欄の諸辞典等を参考にしながら、分からない専門用語についての理解を深めておく。
3. 自分で、なにかのテキストを参照しながら、オノマトペを抜きだしてみる。
[復習]
1. 授業で説明したことを、もう一度確認しておく。
2. 理解しづらかったことは、リアクションペーパーに記して、自分でも調べてみる。
3. その際、専門用語については、参考文献欄の諸辞典を参考にする。

教科書

用いない。プリント配布。

参考書

飛田良文等編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)
小野正弘編『日本語オノマトペ辞典』(小学館)
小野正弘『感じる言葉 オノマトペ』(角川学術出版)
小野正弘『オノマトペ 擬音語・擬態語の世界』(角川ソフィア文庫)

課題に対するフィードバックの方法

○リアクションペーパーでの、質問等については、次回の授業時に、コメントする。

成績評価の方法

期末レポート(80%)、平常点(リアクションペーパー等による授業への積極的参加を総合的に評価:20%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIN332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学ⅡB	**国語学ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[概要]
日本語の歌謡曲の歌詞について、語彙的な側面と表現的側面からから分析していく。その際、具体的な歌謡曲を対象にしながら、実際に単位に区切って、そこに表れる特徴を見ていくことにする。

[到達目標]
歌謡曲の歌詞の語彙と表現を、どのような視点からどう分析すれば、面白い結果が得られるかが理解でき、そのための手法を用いることができること。

授業内容

1. 歌謡曲のことば
2. 歌謡曲の歌詞の特徴
3. 歌謡曲の歌詞の入手と単位区切りソフト「Web 茶まめ」の利用法(1-2)
4. 歌謡曲の歌詞の語彙分析 語種・品詞(1-3)
5. 歌謡曲の歌詞の語彙分析 用語ランキング(1-2)
6. 歌謡曲の歌詞の表現的特徴(1-3)
7. 歌謡曲の歌詞の文法的特徴
8. レポートの作成法
9. まとめ―歌のことば

具体的に扱う歌詞は、今のところ、YOASOBI と幾田りらのものを考えている。
※それぞれの単元の時間数は、変動する場合がある。第1回目は、a モジュールのみで行なう。

履修上の注意

○特に、講義と無関係で長い私語には厳正な態度で臨むので、予め覚悟しておいてもらいたい。
○リアクションペーパーを配布するので、授業終わりに、必ず何か意見・質問を書くこと。書いていないものは、欠席と同等とみなし平常点を付与しない。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]
1. 参考文献や歌謡曲の歌詞に関する研究論文を読んで、分析の方法について学ぶ。
2. 自分の好んでいる、または気になっている歌詞について、聴きこみ、その特徴を考える。

、

[復習]
1. 講義で扱われた分析方法について、上記の歌詞を使って、実際に行なってみる。
2. 講義に関連すると思われる研究論文を読んでみる。

教科書

用いない。プリント配布。

参考書

飛田良文他編『日本語学研究事典』(明治書院)
日本語学会編『日本語学大辞典』(東京堂出版)
伊藤雅光『Jポップの日本語研究―創作型人工知能のために』(紀伊國屋書店)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末のレポート(予定、1回, 80%)と平常点(出席度、授業中小提出物等、20%を総合的に評価)。
学期末の試験では、公開問題(選択)として、自分が自由に選んだ歌詞の調査・分析結果を答案で報告するという問題を出題するので、気になって扱ってみたいと考えている歌詞について、聴きこみ、特徴を見つけておくなど、準備をしておいてもらいたい。

その他

リアクションペーパーでの質問・意見等については、原則として、次の回の授業冒頭で対応する。

科目ナンバー：(AL)LIN231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学各説ⅠA	**国語学各説ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
八木下 孝雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本語を観察すると、さまざまな面で外国語や外国文化からの影響が散見される。この「授業の概要・到達目標」も漢字、ひらがなで書かれているが、「漢字」も「ひらがな」もどちらも中国語由来の漢字を日本語に合わせて使用しているものであり、このように、表記ひとつ取っても外国語・外国文化の影響なしには考えることができない。
この講義では、上述のような、日本語がを外国語からどのような影響を受けてきたのかについて、それぞれの事項ごとに概観していく。春学期は、文字・表記、語彙それぞれの面における事項と、漢文訓読からの影響を中心に見ていく。

授業内容

1 イントロダクション
2 文字・表記1 漢字【オンデマンド授業予定、動画配信予定日：2026/04/21】
3 文字・表記2 ひらがな カタカナ
4 文字・表記3 ローマ字
5 文字・表記4 縦書き・横書き 符号・記号
6 語彙1 漢語 【オンデマンド授業予定、動画配信予定日：2026/05/26】
7 語彙2 外来語
8 語彙3 その他事項【オンデマンド授業予定、動画配信予定日：2026/06/09】
9 漢文訓読1 漢字文化圏における訓読
10 漢文訓読2 漢文訓読の方法【オンデマンド授業予定、動画配信予定日：2026/06/23】
11 漢文訓読3 漢文訓読を由来とする表現
12 漢文訓読4 その後の翻訳への影響
13 漢文訓読5 その他事項【オンデマンド授業予定、動画配信予定日：2026/07/14】
14 補足と春学期のまとめ

履修上の注意

・私語厳禁。他の受講者の迷惑になる行為はしないこと。
・欠席、遅刻が多い場合には、評価の対象としない。
・毎授業、アンサーシートの提出を求める。オンライン上で記入する方式をとるので、スマートフォン等の QR コードが読み取れるデバイスを必ず持参すること。
・学期中、5回のオンデマンド授業を予定している。各授業予定日に配信される動画を視聴し、小課題を課す。対面授業時と同じく、アンサーシートにより出席の確認も行うので、質問がある場合にはアンサーシートを活用すること。その他、詳細は対面授業時等で連絡する。
・秋学期開講の「国語学各説ⅠB」と連続した内容として講義を進めるため、「国語学各説ⅠB」もあわせて受講することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前にプリントが配布されている場合は、事前に目を通し、疑問点等を明らかにしておくこと。
また、授業後は内容についてまとめておくこと。

教科書

基本的に Oh-o!meiji のシステムを利用してプリント(PDF)を配布する予定。授業時には各自プリントアウトやデバイスで閲覧可能な状態にして持参すること。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

必要な場合には、授業時、または、Oh-o!Meiji システムを利用してフィードバックをする。アンサーシートについて全体で共有すべき事項等がある場合なども同様に行う。

成績評価の方法

平常点(アンサーシートと小課題の提出)30%、学期末のレポート(またはテスト)を 70%として、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIN231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学各説ＩB	**国語学各説ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
八木下 孝雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本語を観察すると、さまざまな面で外国語や外国文化からの影響が散見される。この「授業の概要・到達目標」も漢字、ひらがなで書かれているが、「漢字」も「ひらがな」もどちらも中国語由来の漢字を日本語に合わせて使用しているものであり、このように、表記ひとつ取っても外国語・外国文化の影響なしには考えることができない。

この講義では、上述のような、日本語がを外国語からどのような影響を受けてきたのかについて、それぞれの事項ごとに概観していく。秋学期は、翻訳による影響を中心としてそれぞれの事項を見ていく。

授業内容

1 イントロダクション
2 欧文訓読1 欧文訓読とは
3 欧文訓読2 訳出法の具体例1【オンデマンド授業予定、動画配信予定日:2026/10/06】
4 欧文訓読3 訳出法の具体例2
5 欧文訓読4 訳出法の具体例とその影響【オンデマンド授業予定、動画配信予定日:2026/10/20】
6 欧文直訳的表現1 欧文直訳的表現とは
7欧文直訳的表現2 欧文直訳的表現の広がり
8 欧文直訳的表現3 欧文直訳的表現の影響
9 欧文直訳的表現4 その他の事項
10 その他の事項1 文法項目への影響1
11 その他の事項2 文法項目への影響2
12 その他の事項3 文法項目、語句への影響1
13 その他の事項4 文法項目、語句への影響2【オンデマンド授業予定、動画配信予定日:2027/01/12】
14 補足と総まとめ

履修上の注意

・私語厳禁。他の受講者の迷惑になる行為はしないこと。
・欠席、遅刻が多い場合には、評価の対象としない。
・毎授業、アンサーシートの提出を求める。オンライン上で記入する方式をとるので、スマートフォン等の QR コードが読み取れるデバイスを必ず持参すること。
・学期中、3回のオンデマンド授業を予定している。各授業予定日に配信される動画を視聴し、小課題を課す。対面授業時と同じく、アンサーシートにより出席の確認も行うので、質問がある場合にはアンサーシートを活用すること。その他、詳細は対面授業時等で連絡する。
・春学期開講の「国語学各説ＩA」と連続した内容として講義を進めるため、「国語学各説ＩA」もあわせて受講することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前にプリントが配布されている場合は、事前に目を通し、疑問点等を明らかにしておくこと。
また、授業後は内容についてまとめておくこと。

教科書

基本的に Oh-o!meiji のシステムを利用してプリント(PDF)を配布する予定。授業時には各自プリントアウトやデバイスで閲覧可能な状態にして持参すること。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

必要な場合には、授業時、または、Oh-o!Meiji システムを利用してフィードバックをする。アンサーシートについて全体で共有すべき事項等がある場合なども同様に行う。

成績評価の方法

平常点(アンサーシートと小課題の提出)30%、学期末のレポート(またはテスト)を 70%として、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIN332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学各説ⅡA	**国語学各説ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 佳那子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

・過去の人々が日本語をどのように記述し、言葉を扱う際に用いる道具立て(文法の枠組み、術語、辞書など)がどのように整えられてきたのか、具体的な知識を得る。
・現代の学校文法の用語や枠組みの基礎を形作った、国内の伝統的文法研究の歴史を辿る。

授業内容

第1回:a導入―学校文法の確認
　　b古代の国語意識と漢字漢文との出会い
第2回:歌学と国語研究
第3回:仮名遣いと契沖の国語研究
第4回:五十音図と活用
第5回:富士谷成章1―語の分類
第6回:富士谷成章2―助辞の分析
第7回:本居宣長1―テニヲハと係り結び
第8回:本居宣長2―活用研究〔第7回と同日の Lm に行う〕
第9回:鈴木朖の語分類と活用研究
第 10 回:本居春庭1―『詞八衢』
第 11 回:本居春庭2―『詞通路』
第 12 回:義門―春庭の敷衍
第 13 回:幕末の国語研究
第 14 回:まとめ

履修上の注意

日本語の古典文法の知識を前提とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書の当該箇所を通読する。
復習:授業で扱った資料を読み直し、授業内容を整理する。
　　また疑問点がある場合は次回の授業時に質問する。

教科書

・馬渕和夫・出雲朝子『国語学史』(2007)笠間書院(ISBN 9784305603029、¥1,800)

参考書

・古田東朔・築島裕(1972)『国語学史』東京大学出版会
・足立巻一(2015)『やちまた(上・下)』中公文庫

課題に対するフィードバックの方法

授業のはじめに、前回の課題や質問に対する回答を全体に対して行う。また必要に応じて個別に質問の回答や参考文献の案内を行う。

成績評価の方法

・授業への取り組み(事前準備、授業内での課題、質疑応答など)30%
・期末レポート 70%
※3 分の 2 以上の出席を必須とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LIN332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国語学各説ⅡB	**国語学各説ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 佳那子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

・過去の人々が日本語をどのように記述し、言葉を扱う際に用いる道具立て(文法の枠組み、術語、辞書など)がどのように整えられてきたのか、具体的な知識を得る。
・国内の語彙研究(辞書史)と、外国人による主な日本語研究を概観し、大槻文彦の日本語研究(『日本辞書言海』と「語法指南」)に結実するまでの流れを学ぶ。

授業内容

第1回:導入
第2回:日本の古辞書
第3回:宣教と言語研究
第4回:キリシタン資料における日本語研究1
第5回:キリシタン資料における日本語研究2
第6回:キリシタン資料における日本語研究3
第7回:蘭学と日本語研究
第8回:近世の辞書事情
第9回:宣教師の日本語研究1―ヘボン
第 10 回:宣教師の日本語研究2―ブラウン
第 11 回:外交官の日本語研究1―サトウ
第 12 回:外交官の日本語研究2―アストン
第 13 回:大槻文彦1―『日本辞書言海』
第 14 回:大槻文彦2―「語法指南」

履修上の注意

日本語の古典文法の知識を前提とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書の当該箇所を通読する。
復習:授業で扱った資料を読み直し、授業内容を整理する。
　また疑問点がある場合は次回の授業時に質問する。

教科書

・山東功『日本語の観察者たち:宣教師からお雇い外国人まで』(2013)岩波書店(ISBN 9784000286282、¥1,870)

参考書

・古田東朔・築島裕(1972)『国語学史』東京大学出版会
・西崎亨(1995)『日本古辞書を学ぶ人のために』世界思想社
・馬渕和夫・出雲朝子(2007)『国語学史』笠間書院

課題に対するフィードバックの方法

授業のはじめに、前回の課題や質問に対する回答を全体に対して行う。また必要に応じて個別に質問の回答や参考文献の案内を行う。

成績評価の方法

・授業への取り組み(事前準備、授業内での課題、質疑応答など)30%
・期末レポート 70%
※3 分の 2 以上の出席を必須とする。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS281J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国際関係史	**国際関係論**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿南 大	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

19 世紀後半から第一次世界大戦直前までの欧州史をハプスブルク帝国とブリテン連合王国を中心に概観します。両者には陸上帝国と海洋帝国という違いがありますが、共に多民族帝国として 19 世紀前半には「ウィーン体制」をリードする存在でした。ところが前者は第一次世界大戦によって崩壊して中・東欧の継承諸国へと分裂し、後者は世界最大の規模にまでその版図を拡大します。その運命の分かれ道はどこにあったのか。国際関係、帝国とナショナリズムの協働、国内の社会問題と政治的布置、ユダヤ人問題、世紀末文化などの物差しを用いながら、理解を深めていきます。
到達目標
①ハプスブルク帝国とブリテン連合王国が統治した地域の諸社会集団についての知識を身につける。
②両国の歴史を通して、西洋現代史における「帝国」の刻印について理解する。
③今日の国際問題(特にウクライナ問題とパレスチナ問題)の根源を理解する。

授業内容

第 1 回:はじめに(授業の概観)
第 2 回:18 世紀までの両帝国の歩み
第 3 回:ナショナリズムの勃興と近世帝国の変質
第 4 回:1860 年代英墺の国制的模索
第 5 回:ビスマルク体制下の英墺
第 6 回:自由主義と保守主義
第 7 回:ナショナリズムの変質
第 8 回:社会問題と民主化過程
第 9 回:ポスト・ビスマルク体制と英墺
第 10 回:反ユダヤ主義とシオニズム
第 11 回:ウィーンとロンドン:モダニズムの胚胎
第 12 回:多民族帝国の模索
第 13 回:バルカンの風雲:汎ゲルマン主義と汎スラヴ主義
第 14 回:まとめ

履修上の注意

特にありませんが、地域を問わず近現代史を主題に卒論を書く人の参考になるような授業が出来ればと思っています。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義科目なので予習は必要ありませんが、特に中・東欧史は諸集団の利害がパズルのように絡み合うので、それなりに復習は心掛けた方がいいと思います。復習の手助けになるようなリアクションペーパーのお題などは準備するつもりです。

教科書

特に定めません。

参考書

『岩波講座 世界歴史』(岩波書店)の、
第 16 巻 国民国家と帝国 19 世紀
第 20 巻 二つの大戦と帝国主義Ⅰ 20 世紀前半
第 21 巻 二つの大戦と帝国主義Ⅱ 20 世紀前半
に準ずる内容になります。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに「お題」が設定される回などは、その翌週に解題を行うつもりです。

成績評価の方法

期末試験 50%
毎回のリアクションペーパー 50%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国際交流史	**経済史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高見 純	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜概要＞

多様な側面でグローバル化が進む今日では、国境を架橋する交流や相互依存が当たり前の時代になっている。そうした時代的現実を受けて、歴史学においてもグローバルな視点は重視されている。本講義では、国民国家間の交流という枠組みだけにとらわれず、近代的な一国史を超えた視点から、グローバルに経済社会の歴史的変遷と性格を議論する。地域間の差異や相互影響に注目しつつ、国家を超えて広がるヒト、モノ、カネ、諸事象や活動についての事例も取り上げながら多角的に検討したい。

＜目標＞

グローバル経済史の基本的な分析枠組みを理解し、その射程と限界を意識できるようになること。

国家を超えて広がる現象について歴史的な視点から考察できるようになること。

授業内容

1. イントロダクション
2. 「世界史」の変遷とグローバル経済史の射程
3. 中世社会の都市と商業
4. 古代社会の都市と社会経済
5. 近代社会の成立と消費
6. 近世ヨーロッパとアジアの「世界＝経済」
7. 世界経済の成長と工業化の波及
8. 感染症と社会
9. 戦後ヨーロッパの復興と地域統合の試み(1)
10. 戦後ヨーロッパの復興と地域統合の試み(2)
11. 貿易と共通政策
12. 基軸通貨とヨーロッパ
13. 移民と社会経済
14. a：まとめ(b が期末テストになる可能性もある)

履修上の注意

経済史 A とのセット履修が望ましい。 講義内容や進行は、履修者の理解度等をみながら調整・変更する可能性があります。講義動画・資料の転載や他での利用は禁止します。自筆ノートが最終的に自身の教科書になるよう努めましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

「経済」と名前が付いていますが、専門的な数学の知識などは必要ありません。

配布資料や自筆ノートの復習、指定された参考図書・論文をよく読み、講義前には再度確認しておいて下さい。

教科書

特定の教科書は用いない。必要な資料を講義中に配布します。

参考書

講義中に適宜、必要な参考文献を紹介するが、以下に一例を挙げておきます。

馬場哲ほか『エレメンタル欧米経済史』(晃洋書房), 2012 年。

河﨑信樹, 村上衛, 山本千映『グローバル経済の歴史』(有斐閣アルマ)2020 年。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜フィードバックします。

成績評価の方法

原則として、期末試験(60%)、平常点(40%)を総合的に評価します(これらは受講人数によって中間レポートをおこなうなど変動もあり得ます)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)SOC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
国際社会学	**社会的共生論**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、人間社会の共生問題のうち、主として、欧米諸国や日本社会における民族的、文化的背景の異なる人々との間の共生問題(多文化・多民族共生・共存問題)を取り上げて、こうした問題についてどのような論争、取組みが行われているのか、共生を阻む、制度的・非制度的な障壁の問題を具体的に論じていく。さらには前記のテーマに、ジェンダーなどの概念を加味して、共生問題をより重層的に理解できるように講義を行う。授業は講義形式であるが、疑問点や質問があれば、それらをオーメイジを通じて任意で記入してもらい、それらの中からいくつかを次回の授業で取り上げるという形で授業を実施する。

授業内容

1. ガイダンス
2. 「移民」概念と共生問題
3. 第１回 移民映画とその背景的解説(1)
4. 第1回 移民映画とその背景的解説(2)
5. 移民とジェンダー①エスニシティとジェンダー
6. 移民とジェンダー②セクシュアリティ
7. 第2回 移民映画とその背景的解説(1)
8. 第２回 移民映画とその背景的解説(2)
9. 移民と排外主義①西欧諸国
10. 移民と排外主義②日本との比較
11. 第3回 移民映画とその背景的解説(1)
12. 第3回 移民映画とその背景的解説(2)
13. 都市と移民
14. 感染症のグローバル化と分断・排除、全体のまとめ

なお上記の授業計画はあくまで予定なので、変更の可能性がある。

履修上の注意

履修にあたって、前提となる知識の有無は問わないが、民族問題や移民・難民問題、排外主義問題などの国際社会学的テーマに関心を持っている人の受講が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で提示した資料をよく理解することはもちろんのこと、授業中に取り上げた基本文献を熟読し, 予習・復習を怠らないようにしてほしい。

教科書

特定の教科書は定めない。授業用の資料をオーメイジを通じて配布する予定である。

参考書

下記以外の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

宮島喬・佐藤成基編、2019 年『包摂・共生の政治か、排除の政治か』明石書店。小井土彰宏編、2017 年『移民受入の国際社会学』名古屋大学出版会。J・スコット、2012 年『ヴェールの政治学』みすず書房。樋口直人、2014 年『日本型排外主義』名古屋大学出版会。『社会学評論』56(2)「特集：グローバル化と現代社会」。『社会学評論』60(3)「特集：グローバリゼーション再考」。

課題に対するフィードバックの方法

オーメイジのアンケート機能などを用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業内に行う、レポートの提出(計2回)にて評価を行う予定である。詳しくは授業内で説明する。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心と身体の哲学	**心と身体の哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
小草 泰	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

心と身体(物)はどのような関係にあるのかという「心身問題」は、古代から現代にいたるまで、哲学の主要問題の一つであり続けています。この授業では、主として 20 世紀以降の「分析哲学」と呼ばれる分野の知見に基づいて、この問題に関するいくつかの代表的な立場と、またそれらの立場の間でなされてきた「議論」を解説します。それにより、心の問題を中心とする、哲学に関する基本的知識を獲得するとともに、哲学における議論とはどのようなものであるかということを、具体的に理解することを目指します。

以下の二つを到達目標とします。

(1) 心身問題を中心として、哲学に関する正確な基本的知識を獲得する。

(2) 哲学(または、学問一般)における議論とはどのようなものなのかを理解し、自分自身で諸々の議論について批判的な検討を行うことができるようになる。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:心の哲学とはどのような分野か
第 2 回 哲学における論証と批判についての解説
第 3 回 デカルト的二元論の概要と、デカルト的二元論を支持する論証
第 4 回 デカルト的二元論に対する反論
第 5 回 行動主義の概要と、行動主義を支持する論証
第 6 回 行動主義に対する反論
第 7 回 心脳同一説の概要と、心脳同一説を支持する論証
第 8 回 心脳同一説に対する反論
第 9 回 機能主義の概要と、機能主義を支持する論証
第 10 回 機能主義に対する反論
第 11 回 現象的意識に基づく反-物理主義的論証
第 12 回 現象的意識に基づく反-物理主義的論証に対する反論
第 13 回 ややマイナーな立場の検討:汎心論、非デカルト的な実体の二元論など
第 14 回 a:まとめ、b:試験

履修上の注意

特別な予備知識などは必要ありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

〔予習〕各回で取り上げるテーマについて、以下の参考文献や授業内で紹介する文献を(全部は理解できなくてももちろんかまわないので)読んでみること。それにより、ある程度の知識を得るとともに、わからない点を明らかにしておくこと。(1 時間)

〔復習〕授業資料や予習の際に読んだ文献を読み直し、学期末テストに向けて、理解を定着させること。その過程で疑問点が出てきた場合は、関連する文献を調べ、また担当教員に質問をすること。(1 時間)

教科書

教科書は使わず、資料を配布します。

参考書

金杉武司『心の哲学入門』(勁草書房)
ティム・クレイン『心の哲学』(勁草書房)

課題に対するフィードバックの方法

みなさんの答案を踏まえて、次回の授業の中で(正解があるタイプの問題の場合は)正解(例)を示し、また補足説明やコメントをします。
また個別に質問があれば、授業前後あるいはメール等でお答えします。

成績評価の方法

学期期間中の課題 50%と、学期末のテスト 50%により評価します。
学期期間中の課題は、(1)毎回の授業後半に実施する確認問題(40 点)と、(2)文献調査報告書(10 点)の二つがあります。課題については、「出来を評価する」というよりは、「取り組み姿勢を評価する」という観点から評価します。
学期末のテストは、(1)授業内容に関連するトピックを、正確で、なおかつ簡潔なわかりやすい文章にまとめることができるかどうか、また、(2)「論証を批判的に検討する」ということの意味を理解し、それを実際に行うことができるか

その他

科目ナンバー：(AL)PSY111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
こころの科学	**こころの科学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
諸富 祥彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では, 恋愛や結婚, 家族、子育ての問題をとりあげたいと思います。普段, 何気なくわかったつもりになりがちなこうした問題について, 改めて考えていくことを通して, 自分はこれまでどう生きてきたか, そしてどう生きていきたいか, 考えるヒントになるかもしれません。

授業の中心は, グループでのリサーチとプレゼンテーションです。主体的な態度での参加を望みます。

授業内容

恋愛, 結婚, 家族、子育てなどの問題について学んでいく。

一方向的な講義のみでなく, さまざまなエクササイズ(実習)やグループでのリサーチやプレゼンテーションなどを入れながら, 主体的な姿勢を求めていく。「自分を語る勇気」をもって参加してほしい。

(1)リサーチとプレゼンテーションで育つコンピテンシー
(2)自己開示とリレーション
(3)テーマづくり
(4)グループづくり
(5)リサーチの準備(1)
(6)リサーチの準備(2)
(7)異性間のコミュニケーション
(8)プレゼンテーションの準備(1)
(9)プレゼンテーションの準備(2)
(10)グループでのプレゼンテーション
(11)グループでのプレゼンテーション
(12)グループでのプレゼンテーション
(13)グループでのプレゼンテーション
(14)グループでのプレゼンテーション

履修上の注意

グループでのリサーチとプレゼンテーションを中心に授業を進めていく。傍観者的な気分での参加は許されない。「自分を語る勇気」「他者にこころを開く姿勢」をもって参加してほしい。その姿勢がないものは, 受講しないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

グループでのプレゼンテーションの準備

教科書

参考書

諸富祥彦『明治大学で教える「婚育」の授業』(青春出版)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを課 した場合には全体講評を次回の授業でおこなう

成績評価の方法

(1)授業への参加度(30%), (2)レポート(30%), (3)発表などへの主体的な参加(40%)などを総合的に評価する

その他

科目ナンバー：(AL)PHL151J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古代・中世の科学思想史	**科学思想史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥村 大介	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義では古代から初期近代までの科学思想史を概観します。「科学思想史」とは、簡単に言えば「科学について(誰かが)考えたことの歴史」です。では、科学についての考え(思想)というのは、誰の考えでしょうか。科学のことを考えるのは当然「科学者」だろう、と思うかたもいるでしょう。もちろん、それは間違いではありません。しかし、現在の私たちが思い浮かべるような専門家としての「科学者」が現れたのは 18 世紀後半以降のことです。では、それ以前の「科学」とはどのようなものであり、その担い手はどのような人々だったのでしょうか。近代に先立つ時代にあって、今日の科学に相当する「自然に関する知識」は、神話、哲学、神学、宗教、文学、美術、音楽、魔術、錬金術、占星術、建築、等々、さまざまな文化の形をとっています。

古代から 17 世紀頃までの歴史を鳥瞰し、人類文化の全体のなかで「自然に関する知識」が占めてきた位置価の変遷をたどることを通じて、私たちの文化の豊穣な複雑さを体感することがこの講義の目標です。

授業内容

1. 序論と解題:〈科学思想史〉の哲学
2. 自然を語る者たち――根源の探求、原子論、機械論、体液理論、医学の誓い
3. プラトン――宇宙創造論、存在の階梯、幾何学とイデア
4. アリストテレス――運動と時間、物質の性質、自然の三界
5. アレクサンドリアのムセイオン――大図書館、天体の円運動、人体解剖、ヒュパティアの死
6. ヘレニズムとヘブライズム――合理性、自由意思、啓示
7. ローマ科学――ウァッロの学問論、星をみるキケロとセネカ
8. 中世アラビア世界――知恵の館、翻訳文化、空中浮遊人間論
9. 中世西欧(1)――写本文化、十二世紀ルネサンス、インペトゥス理論
10. 中世西欧(2)――大学の成立、神学部と学芸学部、異端審問
11. 前ルネサンス――中世の秋、ペスト大流行、死の舞踏、ダンテの『神曲』
12. ルネサンスの知と魔術――1543 年という奇跡の年、建築の修辞学、ルドルフ二世
13. 錬金術と万有引力――隠れた性質、不可秤量流体、精気と蒸留
14. 十七世紀科学革命――コスモスの崩壊、円環の変貌、動物霊魂、科学におけるバロック

履修上の注意

「近現代の科学思想史」(科学思想史 B)を併せて履修することをすすめます。

準備学習(予習・復習等)の内容

特別な前提知識は必要としません。科学も含めて人間の文化・文明にたいする好奇心と批判精神をもって日常のさまざまな出来事に接し考えることが準備学習となるはずです。

教科書

使用しません。資料を配布します。

参考書

金森修『科学思想史の哲学』岩波書店、2015 年
坂本賢三『科学思想史』岩波全書、1984 年
中根美千代ほか『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』ベレ出版、2009 年
伊東俊太郎『近代科学の源流』中公文庫、2007 年
リンドバーグ『近代科学の源をたどる』朝倉書店、2011 年
ロイド『初期ギリシア科学』、叢書・ウニベルシタス、法政大学出版局、1994 年
ロイド『後期ギリシア科学』、叢書・ウニベルシタス、法政大学出版局、2000 年
ルゴフ『中世の知識人』岩波新書、1977 年
グラント『中世の自然学』みすず書房

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して授業内で応答します。

成績評価の方法

期末レポート(80%)、リアクション・ペーパー(20%)に基づいて評価します。レポートは授業内容の理解度と、授業内容から皆さんが考察したことや発展的に学習した内容を評価するものとします。

その他

質問は授業中や授業前後に直接、あるいは電子メールで随時受け付けます。
メールアドレス:okumuradaisuke1884[at]gmail.com

科目ナンバー：(AL)PHL151J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古代・中世の西洋思想史	**西洋思想史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

古代ギリシャの前ソクラテス思想家たちと古代ヘブライ思想を出発点としながら、デカルト前夜にに至るまで、その画期をなすような思想家とその思想を取り上げるが、単に知識を受容するのではなく、講義で語られたことを、受講者それぞれの人生における諸問題と結びつけ、新たな思考様式、物の見方を養うことをめざす。

授業内容

第1回:講義の概要とその進め方についての注意
第2回:前ソクラテス思想家たち
第3回:古代ヘブライの思想
第4回:プラトンとアリストテレス
第5回:ストア派とエピクロス派
第6回:アレキサンドリアのフィロンとヨセフス・フラヴィウス
第7回:ローマ法の思想
第8回:キリスト教の誕生
第9回:キリスト教哲学とは何か:アウグスティヌス
第10回:新プラトン主義の哲学
第11回:中世神学と三つの一神教
第12回:中世神学と一神教
第13回:ルネサンスの哲学
第14回:ルネサンスの哲学(続)

履修上の注意

様々な言語を使用するが、担当者が翻訳するので、言語についての特別な知識は必要ない。また、シラバス通り講義が進行しない場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習の必要はないが、講義で取り上げられた作品を、図書館などでみずから検索して調べて欲しい。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料は適宜アップロードする。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に論述形式の試験をおこない、必要と判断される場合にはコメントする。

成績評価の方法

学期末の論述試験100%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古代史と考古学A	**古代史と考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒井 秀規	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

広い意味での歴史学のなかに文献史学と考古学がある。歴史時代の考察において、この二つの学問が、(摺り合わせではなく)相互補完された時、それはより確固なものとなる。この授業では、日本の古代史を文献史学と考古学の両者から考える。とくには担当者の専攻である文献史学の立場から、今日の日本古代史研究に考古学の成果、主に出土文字資料がどのように反映されているのか、またその課題を考える。

現在の日本古代史研究の状況及びそのなかでの考古学研究を把握するとともに、考古学分野への文字資料の利用方法の習得を到達目標とする。

授業内容

第1回　歴史学と考古学
第2回　木簡1 七世紀の木簡
第3回　木簡2 八世紀以降の木簡
第4回　墨書土器
第5回　人面墨書土器
第6回　日本における文字のはじまり
第7回　正倉院文書-奈良時代の一次資料－
第8回　漆紙文書－地下の正倉院文書－
第9回　金石文1 墓誌
第 10 回　金石文2 銘文鉄剣
第 11 回　金石文3 文字瓦・紡錘車
第 12 回　金石文4 碑文 1
第 13 回　金石文 5 碑文 2
第 14 回　a:印と印面 b:試験・・・・・休講日があった場合はここで代替え、試験は試験期間中に行う予定。

授業内容に関連する新たな発掘出土情報などが公開された場合は、その紹介などのために授業内容を前後させることなどがある。

履修上の注意

講義内容の感想・質問などを配布用紙に記入してもらい、次回にその回答などを授業の導入とする。積極的な記入を求める。もちろん、当日の授業中の質問、意見発言も歓迎する。

春学期は出土文字資料のジャンルごと、秋学期は地域・テーマごとに考えるので、両期を通じての受講が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用するプリントは事前に「Oh-o!Meiji」にアップしておくので、各自ダウンロードして、通覧・予習し、かつ授業に持参すること。

授業で紹介した、関連展示会、遺跡、古社寺などには主体的に足を運ぶこと(レポート課題ともする)。

教科書

特に定めない。各回プリントを使用。事前に「Oh-o!Meiji」にアップするので、各自ダウンロードして、授業に必ず持参すること。

参考書

『出土史料の古代史』佐藤信（東京大学出版会)2002
シリーズ『文字と古代日本』全五巻 平川南・栄原永遠男ほか編（吉川弘文館） 2004～2006
『古代東国地域史と出土文字資料』高島英之 (東京堂出版)2006
『出土文字資料の新展開』国立歴史民俗博物館編（吉川弘文館)2005
『地下から出土した文字』鐘江宏之(山川出版社)2007
『墨書土器と文字瓦』吉村武彦・中村友一ほか編(八木書店)2023
『東国古代遺跡の定点』(高志書院） 2024
その他、授業で示す。

課題に対するフィードバックの方法

授業ごとにリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業または Oh-o!Meiji のシステムで回答する。

成績評価の方法

授業への参加度・平常点(出席)40%、試験 40%、レポート(下記「その他」に掲げる見学記)20%

その他

現在の居住地・自己の出生地、また旅行先の歴史・民俗系の博物館・資料館、埋蔵文化財展示施設、遺跡、古寺社などを積極的に見学すること。レポートの課題とすることを予定している。
(予定)
春期は、遺跡・古墳、古代に遡る寺社の見学記
秋期は、博物館・資料館など施設の見学記

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古代史と考古学B	**古代史と考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒井 秀規	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

広い意味での歴史学のなかに文献史学と考古学がある。歴史時代の考察において、この二つの学問が、(摺り合わせではなく)相互補完された時、それはより確固なものとなる。この授業では、日本の古代史を文献史学と考古学の両面から考える。とくには担当者の専攻である文献史学の立場から、今日の日本古代史研究に考古学の成果、主に出土文字資料がどのように反映されているのか、またその課題を考える。現在の日本古代史研究の状況及びそのなかでの考古学研究を把握するとともに、考古学分野への文字資料の利用方法の習得を到達目標とする。

春学期の各種出土文字資料の考察を受けて、秋学期は地域・テーマを扱う。ただし、秋期のみでの履修も可。

授業内容

第1回　文献史料と考古学／疫病と考古学
第2回　風土記と考古学 1『常陸国風土記』建評記事／『筑後国風土記』磐井の墓
第3回　風土記と考古学 2『出雲国風土記』新造院と郡家の移動
第4回　『魏志』倭人伝の馬－日本列島における馬－
第5回　自然災害(地震・噴火)と考古学 1
第6回　自然災害(地震・噴火)と考古学 2
第7回　「武蔵国造の乱」と「さきたま古墳群」
第8回　渡来人と渡来文化
第9回　官衙と寺院1 国府と国分寺
第 10 回　官衙と寺院2 郡家と郡寺
第 11 回　「上野国交替実録帳」と考古学
第 12 回　ヤマトタケル説話と考古学
第 13 回　「古代道・駅家」と考古学
第 14 回　a:庄園遺跡と条里遺構 b:試験・・・・・休講日があった場合はここで代替え、試験は試験期間中に行う予定。

授業内容に関連する新たな発掘出土情報などが公開された場合は、その紹介などのために授業 内容を前後させることがある。

履修上の注意

講義内容の感想・質問などを配布用紙に記入してもらい、次回にその回答などを授業の導入とする。積極的な記入を求める。もちろん、当日の授業中の質問、意見発言も歓迎する。

春学期は出土文字資料のジャンルごと、秋学期は地域・テーマごとに考えるので、両期を通じての受講が望ましいが、秋期のみ受講でも、成績評価に不利益はない。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用するプリントは事前に「Oh-o!Meiji」にアップしておくので、各自ダウンロードして、通覧・予習し、かつ授業に持参すること。授業で紹介した、関連展示会・遺跡などには主体的に足を運ぶこと(レポート課題ともする)。

教科書

特に定めない。各回プリントを使用。「Oh-o!Meiji」に事前にアップするので、各自ダウンロードして、授業に必ず持参すること。

参考書

『前方後円墳と東国社会』若狭徹（吉川弘文館） 2016
『坂東の成立』川尻秋生 (吉川弘文館) 2017
『覚醒する＜関東＞』荒井秀規 (吉川弘文館) 2017
『馬と人の古代史』若狭徹 (角川選書) 2026
その他授業で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業ごとにリアクションペーパーの提出を求め、次回の授業または Oh-o!Meiji のシステムで回答する。

成績評価の方法

授業への参加度・平常点 40%、試験 40%、レポート(下記「その他」参照)20%

その他

現在の居住地・自己の出生地、また旅行先の歴史・民俗系の博物館・資料館、埋蔵文化財展示施設、遺跡、古寺社などを積極的に見学すること。レポートの課題とすることを予定している。

(予定)
春期は、遺跡・古墳、古代に遡る寺社の見学記
秋期は、博物館・資料館など施設の見学記

科目ナンバー：(AL)LAN391N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古典ギリシア語講読	**古典ギリシア語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
古山 夕城	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
古典ギリシア語中級で習得された，文法学習を前提にして，さらに高度な文法の知識を身につけ，ギリシア語古典文献の散文テキストを読解できる能力を養う。

授業内容
まず、中級文法のおさらいと、文法テキストの残り部分の読了を果たす。
その後，古典文献の中からふさわしいテキストを選択し，講読授業へと進んでいく予定。
授業スケジュールはおよそ次の通り。
1～2. 命令法(能動・中動・受動)の用法
3～4. 間接話法、否定の表現
5～6. 特殊活用の mi 動詞の用法
7～14. テキスト講読

履修上の注意
本講義は、対面科目として計画していますが、全14回のうち最初の6回分をリアルタイム型のオンライン形式で実施します。
ただし、その後の授業形態については、履修学生との相談により、実施方法を決めていきます。
履修条件として、古典ギリシア語中級の単位を取得していること。場合によっては、中級文法の学力を確認する試験を行い、著しく学力が低い場合は、履修を勧めないこともあります。
なお、大学院の特修外国語「古典ギリシア語講読」の授業と抱き合わせで実施します。

準備学習(予習・復習等)の内容
事前のテキスト予習は必須です。
各課の内容を説明は授業内で行いますが、それを踏まえた練習問題の読解は必ず事前に準備しておくこと。
大学院特修科目として実施するこの授業は、単なる語学文法・テキスト読解だけでなく、その背後にある古代ギリシアの文化・社会・国家制度・歴史的背景なども学習することが重要であるため、それらについても授業の予習として調べておくこと。

教科書
田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 改訂版』(岩波全書)
講読の古典テキストについては、履修学生と相談のうえ決めます。

参考書
中級文法の段階でも，教科書の学習に辞書は必要ありませんが、古典テキスト講読には必要となるので、その前に初学者にふさわしい辞書・辞典類を紹介します。文法書巻末の語彙集ではまったく不十分であることを留意しておくこと。
定番として、次の辞典を挙げておく。
A Lexcon Abridged from Liddell and Scott's Greek-Englich Lexicon. (Martino Publishing 2015)

課題に対するフィードバックの方法
欠席時間のテキスト練習問題、あるいは講読テキストの部分をレポート解答として提出した場合は、添削の上、返送する。

成績評価の方法
授業への取り組み(評価基準＝練習問題・テキスト講読の解答率)によって，成績を評価する。
ただし、単位取得の要件は出席率 80%以上とします。
試験は行なわない予定。

その他
このシラバスは前年 12 月段階の計画であり、実際の授業がすべてこのとおりに行なわれることを保証するものではありません。
9月の授業開始時に，進め方と内容の一部について変更することがありますので「シラバスの補足」を必ず参照してください。

科目ナンバー：(AL)LAN291N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古典ギリシア語初級	**古典ギリシア語ⅠB**	
担 当 者	開講期	開講地区
篠原 道法	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
春学期の古典ギリシア語入門の内容の習得を前提として、古典ギリシア語の初級文法を学習します。とくに名詞・動詞の不規則な変化と種々の条件文および関係節の修飾など、複文での表現形式の理解と修練を目標とします。

授業内容
春学期と同様、教科書の構成に沿う形で各課の文法事項を説明します。毎回の授業(基本、教科書 2 課分)では、文法解説後にギリシア文の和訳に取り組んでもらい、文法構造の理解のため全員で正答を考えていきます(解答は教科書には記されていません)。
各回の講義予定は、おおよそ次の通りです。
1 初級文法のイントロダクション:テキスト後半の構成、文法事項の重要な点についての説明
2 春学期の入門学習の確認(名詞と動詞の規則的変化・代名詞の用法)
※学習内容の定着度の確認のため、授業の一環として簡単なテストも行います(結果は秋学期の成績に影響しません)。
3 名詞変化 6(第三変化:唇音幹・喉音幹)・動詞変化 11(能相欠如・約音動詞-ao 直説法)―教科書 XXVI, XXVII
4 名詞変化 7(第三変化:歯音幹)・動詞変化 12(約音動詞-eo/oo 直説法)―教科書 XXVIII, XXIX
5 動詞変化 12(黙音幹の完了諸形・直説法中受動相)・形容詞変化 2(第三変化1)―教科書 XXX, XXXI
6 動詞変化 13(流音幹のアオリスト・現在/過去直説法能動/中動相)・名詞変化 8(第三変化:流音幹)―教科書 XXXII, XXXIII
7 動詞変化 14(接続法能動相)・勧奨・思案の表現―教科書 XXXIV
8 動詞変化 15(接続法中/受動相)・目的・恐怖/危惧の副文章表現―教科書 XXXV
9 動詞変化 16(母音交替:第二形の語根)・形容詞変化 3(二重語幹)―教科書 XXXVI
10 条件文の概要(種々の仮定表現)・名詞変化 9 と形容詞変化 4(母音幹の約音)―教科書 XXXVII
11 動詞変化 17(約音の接続法)・予想的未来の表現―教科書 XXXVIII
12 動詞変化 18(不定法 1:形と用法・非人称・目的)・動詞変化 19(不定法 2:第二形・結果・独立表現)―教科書 XXXIX, XL
13 名詞変化 10(第三変化:s 語幹)・代名詞 5(関係代名詞・同化と逆の同化)―教科書 XLI, XLII
14 韻文に挑戦―教科書 XXIX(75 頁 288), XL(76 頁 400)、秋学期まとめ:中級文法(中級／II A)へ向けて

履修上の注意
古典ギリシア語入門／IA の単位の取得が絶対条件です。
講義内容の理解のため、復習・予習を欠かさないことが重要です。とくに、授業前に各課の練習問題(ギリシア文の和訳)を自分で取り組んでください。
初習の語学ですので、授業を休むとその後の講義内容が理解不能でついていけなくなる可能性が非常に高いです。やむを得ず欠席した場合は、次の授業までに、練習問題の解答をご提出ください。

準備学習(予習・復習等)の内容
準備学習として、テキストのギリシア文の音読をしてください(授業内でも音読してもらいます)。また、授業でのギリシア文和訳に際しては、用意した翻訳文を読み上げないで、その場で単語を一つひとつ拾い上げながらの逐語訳をするように心がけてください(その方が、文章を読む訓練になります)。

教科書
田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』岩波書店、2012 年

参考書
とくにありません。教科書の最後には語彙集がついていますので、練習問題はそれで対応可能です。また必要に応じて適時、授業内に文献の紹介をします。

課題に対するフィードバックの方法
欠席回の練習問題をレポート欄にアップロードした場合は、添削して返還します。

成績評価の方法
授業への取り組み姿勢(50%)と練習問題から判断される習熟度(50%)によって総合的に評価します。
期末の試験は行わない予定です。

その他
このシラバスは 2026 年 1 月段階で作成したものであり、2026 年度の授業開始時に、その一部または大部分が変更される場合もあることをご承知ください。変更の詳細は授業開始直前にシラバスの補足で、あるいは授業開始時に口頭で説明します。
また、実際の授業において履修生の人数や理解度によって進度が変わることもありえます。
本講義は、教室での対面授業を前提にするため、オンライン併用のハイブリッドやオンデマンドの授業配信は行いません。ただし、新型コロナウィルスの感染拡大により、大学全体としてオンライン授業の必要性が生じた場合は、それに応じた授業形式を取ることがあります。

科目ナンバー：(AL)LAN391N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古典ギリシア語中級	**古典ギリシア語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
篠原 道法	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

古典ギリシア語入門・初級で習得された初等文法・基礎文法を前提にして、さらに中級文法の学習を行ないます。これにより、ギリシア語古典文献の散文を読解できる能力を養うことを目的とします。

授業内容

授業スケジュールは，次のとおりです．ただし、履修学生の学習状況に合わせて柔軟に変更します。
第１回～第２回 初等・基礎文法(教科書 I～XXXIII の部分)の復習確認
※初回に基礎学力確認テスト(教科書 I～XXXIII の部分)も実施(あくまで基礎学力の確認を目的としており、結果は春学期の成績に影響しません)
第３回～第４回 接続法(能相・中受動相)の法の用法(勧奨思案・目的・恐怖危惧)―教科書 XXXIV, XXXV
第５回～第６回 条件文の諸形式(1)不問想定・反実仮想・予想的未来―教科書:XXXVII, XXXVIII
第７回～第８回 不定法の用法(目的意図・結果予想・独立的)―教科書:XXXIX, XL
第９回 関係代名詞の諸形式(同化・逆の同化)―教科書:XLII
第 10 回～第 11 回 希求法(能動・中受動)の用法(目的・恐怖危惧・配慮計画・可能性)―教科書:XLIII, XLIV, LIII
第 12 回 条件文の諸形式(2)可能的未来・普遍／反復的想定―教科書:XLVI, LV
第 13 回～第 14 回 分詞(能動・中動・受動の用法(情況・補語的・独立的)―教科書:XLVIII, XLIX, LI

履修上の注意

古典ギリシア語入門・初級あるいは、古典ギリシア語Ⅰ A・B の単位を取得し、中級文法の前提となる基礎学力を有していることを求めます。
初回の確認テストの結果、基礎学力が著しく低い場合は、履修を勧めないこともあります。
なお、大学院の「古典ギリシア語中級」の授業と抱き合わせで実施します。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に該当箇所を指示しますので、それに従って、授業前までに教科書の練習問題(ギリシア文の和訳)に取り組んでください。
他の語学科目と同様に、予習・復習を欠かさないようにしてください。

教科書

田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』岩波書店、2012 年

参考書

とくにありません。教科書の最後には語彙集がついていますので、中級の段階でも、練習問題はそれで対応可能です。
なお、秋学期にテキスト講読へ進む前に、辞書辞典類の紹介を行ないます。

課題に対するフィードバックの方法

欠席回の練習問題をレポート欄にアップロードした場合は、添削して返却します。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢(50%)と練習問題から判断される習熟度(50%)によって総合的に評価します。なお 10 回以上出席することが、評価の必須条件です。
期末の試験は行わない予定です。

その他

このシラバスは 2026 年 1 月段階で作成したものであり、2026 年度の授業開始時に、その一部または大部分が変更される場合もあることをご承知ください。変更の詳細は授業開始直前にシラバスの補足で、あるいは授業開始時に口頭で説明します。
また、実際の授業において履修生の人数や理解度によって進度が変わることもありえます。
本講義は、教室での対面授業を前提にするため、オンライン併用のハイブリッドやオンデマンドの授業配信は行いません。ただし、新型コロナウィルスの感染拡大により、大学全体としてオンライン授業の必要性が生じた場合は、それに応じた授業形式を取ることがあります。

科目ナンバー：(AL)LAN291N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古典ギリシア語入門	**古典ギリシア語ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
篠原 道法	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

古典ギリシア語の入門として、文字・発音・初歩文法を学習し、秋学期の初級文法につながる基礎知識の習得を目標とします。また、語学の背後にある古代ギリシアの文化と歴史に関する解説も行っていきます。

授業内容

教科書の構成に沿う形で各課の文法事項を説明します。毎回の授業(基本、教科書 2 課分)では、文法解説後にギリシア文の和訳に取り組んでもらい、文法構造の理解のため全員で正答を考えていきます(解答は教科書には記されていません)。
各回の講義予定は、おおよそ次の通りです(各回の進み具合により変更になる可能性があります)。
1 イントロダクション:授業の進め方・教科書の構成・ギリシアの文化・歴史についての解説
2 学習の前提(文字・発音・音韻・気息)・文法の基礎(音節・アクセント・句読記号)―教科書 I, II
3 動詞変化1(現在直説法能動相)・名詞変化 1(第一変化:-A)―教科書 III, IV
4 名詞変化2(第一変化:-H)・動詞変化2(未来直説法能動相)―教科書 V, VI
5 名詞変化3(第一変化:-a)・名詞変化4(第一変化:-AS/HS)―教科書 VII, VIIII
6 動詞変化3(未完了過去直説法能動相)・名詞変化5(第二変化:-O)―教科書 IX, X
7 形容詞変化 1(第一/第二母音幹)・前置詞(格支配)―教科書 XI, XII
8 動詞変化4(アオリスト直説法能動相)・動詞変化5(現在/過去完了直説法能動相)―教科書 XIII, XIV
※授業の進行状況により、動詞変化5の解説の一部(過去完了直説法能動相)を 9 回目の授業に回す場合があります。
9 代名詞1(指示/強意代名詞)・動詞変化 6(直説法能動相本時称)―教科書 XV, XVI
10 動詞変化7(直説法能動相副時称)・動詞変化 8(eimi/phemi の現在直説法)―教科書 XVII, XVIII
11 代名詞2(疑問/不定代名詞)・動詞変化9(現在・未来・未完了過去直説法中動相)―教科書 XIX, XX
12 代名詞3(人称代名詞)・動詞変化9(アオリスト・現在/過去/未来完了直説法中動相)―教科書 XXI, XXII
13 代名詞4(再帰/相互/所有代名詞)・動詞変化 10(第二アオリスト能動相/中動相)―教科書 XXIII, XXIV
14 動詞変化 10(直説法受動相・動詞の主要部分)・新約聖書に挑戦―教科書 XXV, , XVII (47 頁 163「新約聖書より」)、春学期のまとめ:秋学期の初級文法へ向けて

履修上の注意

講義内容の理解のため、復習・予習を欠かさないことが重要です。とくに、授業前に各課の練習問題(ギリシア文の和訳)を自分で取り組んでください。
初習の語学ですので、授業を休むとその後の講義内容が理解不能でついていけなくなる可能性が非常に高いです。やむを得ず欠席した場合は、次の授業までに、練習問題の解答をご提出ください。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習として、テキストのギリシア文の音読をしてください(授業内でも音読してもらいます)。また、授業でのギリシア文和訳に際しては、用意した翻訳文を読み上げないで、その場で単語を一つひとつ拾い上げながらの逐語訳をするように心がけてください(その方が、文章を読む訓練になります)。

教科書

田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 新装版』岩波書店、2012 年

参考書

とくにありません。教科書の最後には語彙集がついていますので、練習問題はそれで対応可能です。また必要に応じて適時、授業内に文献の紹介をします。

課題に対するフィードバックの方法

欠席回の練習問題をレポート欄にアップロードした場合は、添削して返還します。

成績評価の方法

授業への取り組み姿勢(50%)と練習問題から判断される習熟度(50%)によって総合的に評価します。
期末の試験は行わない予定です。

その他

このシラバスは 2026 年 1 月段階で作成したものであり、2026 年度の授業開始時に、その一部または大部分が変更される場合もあることをご承知ください。変更の詳細は授業開始直前にシラバスの補足で、あるいは授業開始時に口頭で説明します。
また、実際の授業において履修生の人数や理解度によって進度が変わることもありえます。
本講義は、教室での対面授業を前提にするため、オンライン併用のハイブリッドやオンデマンドの授業配信は行いません。ただし、新型コロナウィルスの感染拡大により、大学全体としてオンライン授業の必要性が生じた場合は、それに応じた授業形式を取ることがあります。

科目ナンバー：(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古墳時代の考古学A	**古墳時代の考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本の古墳時代研究における基礎的枠組みについて取り上げる。古墳の種類、時期区分とその変遷、中央と周縁、時期決定法などについて講義し、日本古墳時代の特質について理解することを目標とする。また、古墳・遺物の実態を把握するため、フィールドワークを組み合わせて理解を深めていく。

授業内容

第1回 古墳時代とは(a モジュール)
第2回 古墳時代の枠組みと東アジア情勢
第3回 倭王権の動向1(オオヤマト古墳群とその時代1)
第4回 倭王権の動向1(オオヤマト古墳群とその時代2)
第5回 倭王権の動向2(佐紀古墳群とその時代)
第6回 倭王権の動向3(百舌鳥・古市古墳群とその時代1)
第7回 倭王権の動向4(百舌鳥・古市古墳群とその時代2)
第8回 フィールドワーク事前学習
第9回 校外学習(群馬県の古墳群を歩く。休日実施)
第 10 回 フィールドワーク事後学習(討論)
第 11 回 倭王権の動向5(今城塚古墳と継体朝)
第 12 回 倭王権の動向6(五条野丸山古墳と欽明朝)
第 13 回 倭王権の動向7(飛鳥の古墳群とその時代)
第 14 回 古墳時代論の総括

履修上の注意

古墳時代の理解の基本である畿内の古墳動向ならびにその歴史的背景を中心に講義する。
また、考古学はフィールド重視の学問であることから、関東地方の古墳並びに博物館の実地踏査を行う。交通費・入館料などの経費は自己負担であり、履修生の参加は必須である。
なお、古墳時代の考古学 B(秋学期)と合わせて履修することを推奨する。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書に従って、該当箇所を事前に学習することが望ましい。

教科書

若狭徹 2013『ビジュアル版 古墳時代ガイドブック』新泉社

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法

レポート 70%, 授業への参加度 30%

その他

科目ナンバー：(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
古墳時代の考古学B	**古墳時代の考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

明治大学が存在する東日本の古墳文化の特質について、講義を中心に学習する。
古墳時代は、畿内の倭王権(ヤマト王権)を中心に語られている(畿内中心史観)。しかし、同時代は諸豪族の連合政権の状態にあり、地方にも多様な政体が存在していた。なかでも、劣位に評価されてきた東日本古墳時代社会は、実は倭王権の有力な同盟勢力であったことが判明してきた。本講座は、そうした東国古墳社会を立体的に学ぶことを目的とする。

授業内容

第1回 東国古墳論1(東国とはなにか。弥生後期の社会変動と集団移動)
第2回 東国古墳論2(古墳の出現―前方後円墳と前方後方墳―)
第3回 東国古墳論3(交通ネットワークと低湿地開発)
第4回 東国古墳論4(東国の巨大前方後円墳の出現と対外活動)
第5回 東国古墳論5(豪族の地域経営)
第6回 東国古墳論6(古墳時代首長の実像)
第7回 校外学習(博物館で古墳時代の展示をみる)
第8回 校外学習事後授業(討論)
第9回 東国古墳論7(継体朝期の東国)
第 10 回 東国古墳論8(多様化する東国1)
第 11 回 東国古墳論9(多様化する東国2)
第 12 回 東国古墳論 10(前方後円墳の終焉)
第 13 回 東国古墳論 11(北の古墳・南の古墳)
第 14 回 東国古墳論総括(aモジュール)

履修上の注意

本授業は、古墳時代の考古学A(春学期)と合わせて履修することを推奨する。
考古学はフィールドを重視するため、博物館での遺物見学などの校外学習を実施する場合がある(土ないし日曜日に実施)。校外授業への参加は必須であり、交通費・入館料等の経費は自己負担である

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の相当部分を事前学習しておくこと。

教科書

若狭徹 2017『前方後円墳と東国社会(古代の東国1)』吉川弘文館

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

レポート等課題についての全体講評を授業のなかで行う。

成績評価の方法

レポート 70%、授業への参加度 30%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
コミュニケーションの哲学	**コミュニケーションの哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
國領 佳樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日常的な意味で「コミュニケーション」とは、各々が自分の思考・感情・情報などを伝達し合うことです。おそらく、このコミュニケーションという活動こそが人間社会の基盤にあるという考えに反対する人はいないでしょう。しかし、それがなぜ、どのように成り立つのかについてはさまざまな意見があります。この授業では、こうしたコミュニケーションをテーマにした哲学的議論の一部を紹介しつつ、その内容を批判的に検討します。具体的には、「他人の感情を理解するとはどのようなことなのか？」「私たちは、どのようにして他人の感情を理解するのか？」「そもそも感情とは何か？」といった問いを中心にして、これまでの哲学上の議論を解説します。
この授業の到達目標は次の二つです。(1)論証とはどのようなものかを理解し、批判的な思考を身につけること、(2)コミュニケーションの哲学に関する基礎知識を習得することです。

授業内容

第 1 回授業 a: イントロダクション(コミュニケーションがなぜ哲学の問題になるのか)
b: コミュニケーションの多様性と重要性
第 2 回授業:コミュニケーションと他人の心
第 3 回授業:認識論的問題
第 4 回授業:概念的問題
第 5 回授業:処理問題
第 6 回授業:自分の心と他人の心
第 7 回授業:そもそも感情とは何か？(1)身体説
第 8 回授業:そもそも感情とは何か？(2)二要因説、評価理論
第 9 回授業:そもそも感情とは何か？(3)感情と価値
第 10 回授業:他人の感情を知覚する (1) 部分-全体知覚
第 11 回授業:他人の感情を知覚する(2) 知覚と推論の違い
第 12 回授業:真正な感情と虚偽の感情の区別
第 13 回授業:AI を愛することは真正な感情なのか？
第 14 回授業:総括とおまけの議論

履修上の注意

授業は講義形式で行いますが、授業内で質問や意見を求めます。予習内容は毎回授業の最後に提示します。復習は、次の授業で質問や意見を出せるようにノートをまとめ直すこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配付するレジュメの該当箇所を振り返り，不明な部分があれば授業で質問すること。また，次の回の内容について参考書に目を通しておくこと。

教科書

特に定めない。

参考書

源河亨『感情の哲学入門講義』慶應義塾大学出版会、2021 年
吉川孝・横地徳広・池田喬『映画で考える生命環境倫理学』勁草書房、2019 年
ショーン・ギャラガー、ダン・ザハヴィ『現象学的な心』石原孝二・宮原克典・池田喬・朴嵩哲訳、勁草書房、2011 年

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーと課題は、次の授業冒頭で解説ないし Oh-o! Meiji システムで配信します。

成績評価の方法

レポート 60%
授業の貢献度(リアクションペーパーや授業内発言など) 40%

その他

発言など積極的な授業参加を求めます。授業外の相談や質問は次のアドレスまでお願いします。
kuromejiro@rikkyo.ac.jp

科目ナンバー：(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
コミュニティ心理学(社会・集団・家族心理学)	**社会・集団・家族心理学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
浅井 健史	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
コミュニティ心理学は、人間を社会的存在として捉え、人間と生活環境(コミュニティ)が調和した状態を目指して研究と実践に取り組むことを目標する。人間の心理はコミュニティの在り方から多大な影響を受ける。それゆえ人間の心を理解し、心の健康を促進するためには、人間を取り巻く家庭・集団・社会などのコミュニティを視野に入れ、アプローチする必要がある。本科目では、私たちが暮らすコミュニティで生起する諸問題への理解を深めるとともに、コミュニティ心理学の視点で解決や予防に向けた方途を考える。
【到達目標】
・コミュニティ心理学の基本概念や発想を理解する。
・家庭・学校・地域社会など、身近なコミュニティや現代社会で起こっている問題を心理学的視点から考察し、対策を構想できる。

授業内容

コミュニティ心理学の発想を踏まえた上で、コミュニティで生起する身近なテーマを題材に、複眼的視点で理解と実践を検討していく。各回は以下の内容を予定している。
第1回 コミュニティ心理学の基本的発想
第2回 社会的存在としての人間
第3回 居場所の心理1:大人の居場所
第4回 居場所の心理2:子どもの居場所
第5回 オンライン・コミュニティの心理
第6回 迷惑行動の心理
第7回 偏見・差別の心理
第8回 いじめの心理と対策
第9回 精神障害者の地域支援
第 10 回 ひきこもりの理解と支援
第 11 回 児童虐待の予防と支援
第 12 回 DV の理解と支援
第 13 回 ハラスメントと職場のメンタルヘルス対策
第 14 回 異文化理解と異文化適応の心理

履修上の注意

動画の視聴や新聞記事を用いて自ら考える「ワーク」など、体験学習的な要素を毎回取り入れる。そのため受講者には受身的に講義を聴くのではなく、能動的に考える姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

初回授業で提示する文献リスト、および各回で紹介する関連文献を用いて、各自が予習と発展的学習に努めること。

教科書

プリントを用いて授業を進めるため、教科書は指定しない。

参考書

各回の授業で関連文献を紹介する。コミュニティ心理学の全体像を概観するには，以下の書籍を勧める。
植村勝彦・高畠克子ほか(編)(2017)よくわかるコミュニティ心理学(第3版)，ミネルヴァ書房，

課題に対するフィードバックの方法

希望者に対して、リアクションペーパーおよび学期末レポートへのフィードバックを行う。

成績評価の方法

学期末レポート(70%)と各回のリアクションペーパーの提出状況と内容(30%)により総合的に評価する。
学期末レポートは、テーマについて掘り下げた考察がなされているか(50%)、自己の意見が明確に述べられているか(50%)を評価する。

その他

質問や連絡は浅井のメールアドレスまで。
aae19090@gmail.com

科目ナンバー：(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
語用論	**語用論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井原 駿	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

私たちが，ある表現や文について「そういう言い方はしない・できない」「言いたいことは分かるけどちょっと不自然」と判定し，それらを修正したり言い換えたりすることができるのは一体なぜでしょうか。私たちが当たり前に持っているこの「能力」は，人工知能をもってしても完全に再現することは状において困難です。この能力を実現する大きな要因の一つとして，私たちがことばの「意味」や「意図」を理解していることが挙げられます。それでは，この「意味」「意図」の正体とは何でしょうか。私たちがことばの背後に潜む様々な意味を理解し，会話の「空気を読む」とき，どのような意味の処理が行われているのでしょうか。

この授業では，語用論の伝統的な知見から最近の研究成果までを参照しながら，上に挙げたような様々な問いについて考えるための足がかりを提供します。具体的には，「意味とは何か」を考えることからスタートし，オースティンやグライスによる伝統的な会話の理論，様々な種類の含意(推意)や社会的意味について身近な実例を取り上げつつ，それらの分析手法を提供します。

この授業は講義形式で行いますが、受講生には，授業で扱った知見や分析手法を使い，実際に身の回りで観察できる言語現象の分析を試みてもらいます。主体的な実践を通じて，無意識の中に潜む言葉の奥深さと複雑さ，そしてその仕組みを知ることの面白さと難しさを体感してもらうことがこの授業の大きなゴールの一つです。さらに，身の回りで観察できる言語現象について，言語学の「言葉」で客観的に分析できるようになること，また，授業内に与えられる資料と向き合ったり，抽象度の高い用語を理解する作業を通じて，社会を生き抜くために必要な知の基礎体力を養うことを目指します。

授業内容

基本的には講義形式で行いますが、あらかじめ授業資料を読んでおくことが求められます。
受講者の人数・理解度により、授業方法・速度について変更があります。
第 1 週 イントロダクション:「意味」とは何であって何でないか
第 2 週 グライスの会話の理論
第 3 週 グライスの理論の批判と展開
第 4 週 発話行為と文タイプ
第 5 週 敬語、談話助詞と慣習的推意
第 6 週 尺度推意とホーン・スケール
第 7 週 配慮表現とポライトネス理論
第 7 週 前提トリガーの性質
第 8 週 Question under Discussion と焦点・話題化
第 9 週 動的語用論 (1):平叙文と断定文の意味
第 10 週 動的語用論 (2):イントネーションと応答詞の意味
第 11 週 修辞的な発話行為の意味
第 12 週 言語使用とレジスター
第 13 週 実験語用論の展開
第 14 週 最終試験

履修上の注意

関連する言語学の授業を履修済み、もしくは同時履修することで理解が深まります。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:授業資料の指定範囲に必ず目を通しておいてください。資料内の Exercises についても、可能な限り考えておくとよいでしょう。
復習:授業で学んだ分析手法について可能な限り批判的に検討すること(例えば、「授業で扱わなかったこんなデータもあるが、これは授業で学んだ手法でどのように分析できるか(できないか)」を自分をなりに検討すること)。

教科書

授業資料はこちらで用意したものを配布します。特定の教科書を購入の必要はありません。

参考書

加藤重広 他 (2020)『はじめての語用論』研究社.
Clark, Billy (2021) Pragmatics: The Basics. Routledge.
Portner, Paul H. (2004) What is Meaning?: Fundamentals of Formal Semantics. Wiley-Blackwell.

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内でフィードバックを行います。

成績評価の方法

授業への参加度 20%
授業内課題 30%
最終試験 50%

その他

質問や連絡は次のメールアドレスまでお願いします:shun.ihara@tsuda.ac.jp

科目ナンバー：(AL)PHL151J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
近現代の科学思想史	**科学思想史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥村 大介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義では主として近現代の科学思想史を概観します。「科学思想史」とは、簡単に言えば「科学について〈誰かが〉考えたことの歴史」です。では、科学についての考え(思想)というのは、誰の考えでしょうか。科学のことを考えるのは当然科学者だろう、と思うかたもいるでしょう。もちろん、それは間違いではありません。科学者は科学の理論を考え、実験や観察の方法を考えます。しかし、科学者だけが科学について考えるわけではありません。たとえば私たちは 2011 年3月 11 日に大きな震災と未曾有の原発事故を経験しました。そのとき科学者でない私たちも、地震学や原子力工学や放射線医学といった諸科学について、あるいは「科学というもの」について、何事かを真剣に考えたはずです。あるいは 2019 年末以来の新型コロナウイルス感染症流行を前にして、感染症学・公衆衛生学・ウイルス学といった科学知の専門家のなかでもさまざまな(ときに対立する)見解が併存するとき、専門家でない私たちがそれらの知見をどう受け止め、どう身を処するかということは、切実な問題であり続けているはずです。同様に、歴史のなかにも、科学者以外の人々、たとえば哲学者、文学者、宗教家、芸術家、為政者、ジャーナリスト、社会思想家、あるいは市井の人々が科学について考えたこと(科学思想)が残されています。このように本講義では、科学思想を広い意味でとらえます。「科学者の思想」が中心になることは間違いありませんが、文学、哲学、絵画、映画、その他あらゆる文化のなかに科学思想を見出すことも重視します。

さまざまな文化のなかに科学思想はどのように浸透したのか。逆に、科学以外の文化から、科学者の思想はどのような影響を受けてきたのか。そのような科学の内と外を往還する思想の運動を捉えることで、人類の文化全体のなかで科学の果たしてきた役割を知ること、そして時代や地域や社会的文脈によって科学の役割はきわめて多様に変化したことを知り私たちの文化の複雑さを体感することがこの講義の目標です。

授業内容

1. 序論と解題:〈科学思想史〉の哲学
2. ルネサンスと初期近代(1):錬金術、占星術、自然魔術、ルドルフ二世
3. ルネサンスと初期近代(2):十七世紀科学革命、万有引力論、動物霊魂論
4. 十八世紀(1):分類される驚異——博物学、百科全書
5. 十八世紀(2):光の世紀——「科学者」の誕生、進化論の胎動
6. 十八世紀(3):理性のみた夢——動物磁気、至高存在の祭典
7. 十九世紀(1):熱と動力——蒸気機関、熱力学、電気、ロマン的科学
8. 十九世紀(2):「呪われた血筋」の近代化——遺伝学、進化論、優生学、精神医学
9. 世紀転換期:科学のアール・ヌーヴォー、感染症の解明、科学的不可知論
10. 二十世紀(1):物質の極限——相対性理論、量子力学、原子の構造
11. 二十世紀(2):情報と生命——分子生物学、コンピューター、脳科学
12. 二十世紀(3):銀河をこえて——現代宇宙論、ロシア・コスミズム、宇宙開発
13. 二十世紀(4):奇貨の代償——環境問題、公害、生命・医療倫理
14. 歴史と倫理:昨日、今日、明日の死者たちのために

履修上の注意

「古代・中世の科学思想史」(科学思想史A)を併せて履修することをすすめます。

準備学習(予習・復習等)の内容

特別な前提知識は必要としません。科学も含めて人間の文化・文明にたいする好奇心と批判精神をもって日常のさまざまな出来事に接し考えることが準備学習となるはずです。

教科書

使用しません。資料を配布します。

参考書

坂本賢三『科学思想史』岩波全書、1984 年
金森修編『科学思想史』勁草書房、2010 年
金森修『科学の危機』集英社新書、2015 年
金森修『科学思想史の哲学』岩波書店、2015 年
金森修『知識の政治学』せりか書房、2015 年
バシュラール『科学的精神の形成』平凡社ライブラリー、2012 年
ヘンリー『十七世紀科学革命』岩波書店、2005 年
中根美千代ほか『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』ベレ出版、2009 年
井山弘幸・金森修『現代科学論』新曜社、2000 年
伊東俊太郎『近代科学の源流』中公文庫、2007

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題に対して授業内で応答します。

成績評価の方法

期末レポート(80%)、リアクション・ペーパー(20%)に基づいて評価します。レポートは授業内容の理解度と、授業内容から皆さんが考察したことや発展的に学習した内容を評価するものとします。

その他

質問は授業中や授業前後に直接、あるいは電子メール(okumuradaisuke1884[at]gmail.com)で随時受け付けます。

科目ナンバー：(AL)PHL151J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
近現代の西洋思想史	**西洋思想史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

今、七十億の人々の目は何を見ているのだろうか。その手を何を掴み、何を造っているのだろうか。その足はどんな場所を踏みしめているのだろうか。人は生存する限り思考しないわけにはいかない。けれども、強固な習慣に阻まれて私たちの思考は大抵は同じ回路に即しての堂々巡りを続けている。そんなとき、歴史の風化作用に耐えてきた思想家たちの言葉や考え方が、普段とは異なる小さな通路のようなものをもたらしてくれることがある。講義では、単に哲学のみならず、宗教、文学、芸術にも目を配りながら、主に16世紀以降の西洋の偉大な思想家たちの考えを提示し、その解釈を通じて、受講者諸君が自分と自分の周囲について考え直す機会を作ることをめざす。

授業内容

第一回:講義の概要とその進め方などについての説明
第二回:モンテーニュを読む
第三回:デカルトとパスカル
第四回:その続き
第五回:スピノザの『エチカ」
第六回:スピノザと『神学政治論」
第七回:ライプニッツから18世紀の哲学者たちへ
第八回:カントの批判哲学とどの後のドイツ思想
第九回:その続き
第十回:19世紀フランス哲学と「人間の諸科学」
第十一回:その続き
第十二回:ニーチェ、ベルクソンから20世紀哲学へ
第十三回:20世紀哲学の諸相
第十四回:暫定的なまとめ

履修上の注意

講義中心の授業となるが、授業中に紹介された文献などをみずから読み、その周辺を調査するとともに、授業で提示された問題をみずからの問題として考える姿勢が要求される。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は不要だが、授業で言及された文献や作品についてみずから調査し、読解、鑑賞することが求められる。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料は、Oh meiji のシステムでアップされたものを各自ダウンロードして準備すること。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じてコメントし質問に答える。

成績評価の方法

学期末の論述形式の試験あるいは課題レポート100%

その他

様々な外国語が授業では用いられるが、基本的にすべて講師によって翻訳されるので、英語以外の外国語の知識は必ずしも必要ではない。

科目ナンバー：(AL)PHL151J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
近現代の東洋思想史	**東洋思想史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 せい	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、19 世紀末から 20 世紀中葉にかけての中国近現代哲学思想の歴史を紹介します。近現代哲学の形成に影響を与えた社会思潮的背景を幅広く取り上げるとともに、現代新儒家のの形而上学を概観し、その思想の特徴を明らかにします。

なお、授業は基本的にシラバスに沿って進めますが、受講者の理解度や関心に応じて、内容を一部調整する場合があります。

【到達目標】
(1)19 世紀末から 20 世紀中葉までの思想的変容を複数の視点から考察することができる。
(2)近代西洋の哲学思想と同じ地平から近代中国で行われた哲学・思想的近代化を理解し、その意義を自ら考え出すことができる。

授業内容

第 1 回:イントロダクション:キリスト教宣教活動を中心とした近代までの東西文化交流
第 2 回:清末の思想変容と譚嗣同の『仁学』
第 3 回:五・四新文化運動と近代中国の思潮
第 4 回:「科学と人生観」論争
第 5 回:馮友蘭と新理学①
第 6 回:馮友蘭と新理学②
第 7 回:梁漱溟と『東西文化及其哲学』①
第 8 回:梁漱溟と『東西文化及其哲学』②
第 9 回:熊十力と『新唯識論』①
第 10 回:熊十力と『新唯識論』②
第 11 回:賀麟と新心学①
第 12 回:賀麟と新心学②
第 13 回:総括的学習①
第 14 回:総括的学習②

履修上の注意

古代・近世の中国思想史および西洋哲学史に関する基礎的な知識を有していることが望ましいです。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介された内容のほか、関連の文献資料を自分自身で調べて学習すること。
授業時間外の質問は歓迎する。
各授業の予復習は、時間的には 90 分が目安。

教科書

特になし

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業中に口頭で行う

成績評価の方法

平常点　　30%
期末試験　　70%(履修人数によっては、試験をレポートに変更する場合があります)
ただし、授業の出席率が 60%以下の学生は成績評価対象外とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
作家作品研究ＩA	**作家作品研究ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 夢三	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

現実世界をありのままに再現(＝representaiton)するとはどういうことでしょうか。たとえば、トンボの色覚はヒトよりも鮮やかであることが知られていますが、ではトンボはヒトよりも〝リアル〟な風景を認識できているのでしょうか。もしトンボが写実画を描けたら、それはヒトに理解できるものでしょうか。あるいは、ひとまず現実世界に「似ている」ことが写実・写生の条件なのだとすれば、絵筆ではなく言語によって現実世界を写実・写生すること(つまり「写生文」という方法)は、そもそもどのようにして可能なのでしょうか。

近代日本の文芸思潮において模索された思想的課題のひとつは、はっきりとそう明言されているわけではありませんが、間違いなくそのような「描くこと／書くこと」をめぐる素朴な問いの探究にこそありました。自然主義的リアリズムという人びとの知覚の刷新を促す新しい表現様式のもとで、「言葉」と「物」を一致させる実に奇妙な記述システムが確立したにもかかわらず、その僅か十数年後には、上記の制度に対する不信や懐疑が書き手たちのあいだに共有され、「言葉」は「物」に従属することなく独自の暴走を始めていく……。そこに、モダニズムと呼ばれた時代精神の核心が浮かび上がってきます。その方法論的達成と挫折のあり方を再考することが本講義の目的です。

授業内容

第１回
佐々木くんは何を視ていたのか
第２回
「写実」をめぐるレッスン
第３回
風景の政治学
第４回
「平面描写」と「一元描写」
第５回
「言葉」＝「物」というフェイク
第６回
遠近法の成立と終焉
第７回
「書くこと／描くこと」のエチカ
第８回
裂開する自然主義的リアリズム
第９回
反逆するアヴァン・ギャルド
第10回
デカルトと「視の制度」
第11回
合理主義の破綻と表象の危機
第12回
砕け散るエクリチュール
第13回
映画という享楽革命
第14回
自意識の氾濫／反乱
第15回
モダニズムの未来

履修上の注意

授業の進捗状況に基づいて、シラバスの内容は柔軟に変更されることがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義内で多くの参照文献を紹介していくので、それをもういちど読んでみてください。

教科書

特になし。

参考書

松浦寿輝ほか『徹底討議――二〇世紀の思想・文学・芸術』(講談社、2024)は、本講義の前提となる事柄が多く取り扱われているので、一読をお勧めします。
また、自分が書いたものですが、加藤夢三『超越への回路――戦間期日本における科学と文芸』(水声社、2024)も挙げておきます(購入の必要はありません)。

課題に対するフィードバックの方法

希望者に対して、期末レポートの講評をお送りします。

成績評価の方法

期末レポートによって判断します。

その他

講義後の質問は歓迎します。

科目ナンバー：(AL)LIT211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
作家作品研究ＩB	**作家作品研究ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 夢三	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

かつて、「ゼロ年代」という時代がありました――。震災、テロ、そしてノストラダムスの大予言を通過した 2000 年代あたりを境として、主にサブカルチャーの分野を中心にさまざまな〝オタク的〟コンテンツが量産され、ひとつのムーヴメントを築き上げていたけれども、とりわけ 2011 年の東日本大震災以降、そのような虚構世界に安穏と浸っているだけの態度は批判され、芸術文化は再び眼の前の政治・社会とのかかわりを模索していく必要に迫られた……。今日の眼からまとめてみれば、そのような評価が一般的でしょうか。

2020 年代も折り返しを過ぎた時代に生きる私たちは、改めて「ゼロ年代」という出来事を歴史化することのできる時期にさしかかっています(もはやZ世代の皆さんにとって、「ゼロ年代」＝Y2K とは、数多あるレトロブームのひとつとして消費されるべきものになっているのでしょう)。本講義では「ゼロ年代」の文学／サブカルチャーに携わった担い手たちの表現活動を跡づけていくことで、その熱狂と興奮を支えていた文化状況の総体を再考してみたいと思います。

なお、この授業では、主に担当教員(加藤)の趣味・嗜好に合わせて多くの〝オタク的〟コンテンツに触れますが、各々の作品価値を礼賛／批判することが目的ではなく、あくまで〝オタク的〟コンテンツの成立と流行を支えていた歴史的水脈を理解することに重心を置いています。そのため、いわゆる狭義のオタクを自認する人はもちろん、漫画・アニメ・ゲームなどに対してあまり関心を持っていない方の受講こそを積極的に歓迎したく思います。

授業内容

第１回
漂白される「ヲタク文化」
第２回
「サブカルチュア」としての戦後日本
第３回
記号の帝国、そしてディズニーランド
第４回
震災、テロ、エヴァンゲリオン
第５回
世界の終わりとその後
第６回
春樹からハルヒへ、閉鎖空間のリトルネロ
第７回
ビューティフル・ドリーマーの逆襲
第８回
ナウシカはなぜ空を飛ぶのか
第９回
献身する魔法少女たち
第10回
「セカイ系」の季節、あるいは決断主義
第11回
異世界転生のレッスン
第12回
祝祭空間としてのニコニコ動画
第13回
「小説」の軽やかな終焉
第14回
コンビニ人間は夢を見るか
第15回
ゼロ年代への挽歌

履修上の注意

授業の進捗状況に基づいて、シラバスの内容は柔軟に変更されることがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義内で多くの参照文献を紹介していくので、それをもういちど読んでみてください。

教科書

特になし。

参考書

東浩紀『動物化するポストモダン』(講談社現代新書、2001)で取り上げられている内容を多く扱うので、通読しておくことを強く推奨します。

課題に対するフィードバックの方法

希望者に対して、期末レポートの講評をお送りします。

成績評価の方法

期末レポートによって判断します。

その他

授業後の質問は歓迎します。

科目ナンバー：(AL)LIT311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
作家作品研究ⅡA	**作家作品研究ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
品田 悦一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

聖なる皇統の盛衰――『万葉集』巻一・二が語る藤原宮時代

『万葉集』の巻一と巻二は雑歌・相聞・挽歌の三大部立てのもと、天皇の代ごとに歌をまとめている。そのうち「藤原宮御宇天皇代」の歌々(28～83)を、巻一を中心に巻二をも見合わせながら読み進め、テキスト上に展開する物語を解読していく。巻一の 28～53 歌で語られているのは、天武・持統両天皇の皇統が度重なる厄災をそのつど乗り越え、神々の導きのもと嫡系の皇孫たる文武の治世にたどり着くまでの過程である。文武朝の開幕は、帝国としての政治体制が完備された理想の時代の始まりとして、歓呼とともに迎えられた。ところが、54～83 歌では、その文武朝が過重な期待に押し潰されるようにして短命に終わった経緯が語られる。以上の物語は、捲土重来を期して再出発する聖武朝の物語の布石ともなっている。

この授業のテーマは、従来作者と作品を単位として読まれてきた『万葉集』を、歴史テキストとして読み解くことに置かれている。その意義が理解できたとき、それも「身にしみてよく分かった」と実感できたとき、目標が達成されたことになる。

授業内容

0)天武・持統皇統と『万葉集』巻一・巻二
1)天武朝の六首――伊勢・吉野と天武天皇
2)持統天皇の香具山の歌と近江荒都歌
3)大津皇子関係歌群――破綻した吉野の盟約
4)草壁皇子挽歌――神聖王権崩壊の危機
＊補説 天皇即神というドグマ――「神ながら」の本義
5)吉野讃歌――神聖王権の復調と永遠の奉仕
6)高市皇子挽歌――度重なる厄災
7)安騎野遊猟歌――大いなる奇跡の成就
8)藤原宮役民の歌・御井の歌――待ち望まれた時代の到来
9)文武朝の開幕と凋落 1
10)文武朝の開幕と凋落 2
11)展望――巻六へ向けて
＊以上の内容を 14 回で講ずる。

履修上の注意

1)資料は早めに Oh-o! Meiji に上げておくから、各自次回使用分の資料にあらかじめ目を通したうえで授業に臨まれたい。何が話題になるかを大まかにつかむとともに、難解そうな箇所に当たりをつけ、知らない語句はネット検索するなどしておくこと。これをするのとしないとのとでは、理解に相当の開きが生ずるはずである。
2)配付資料が大量になる(A4 で 40 枚以上)。以前配布した分を参照させることもあるから、すべて毎回持参されたい。ノートパソコンやタブレットなどで閲覧するのでもかまわない。
3)教科書は毎回持参すること。
4)秋学期開講の「作家作品研究ⅡB」はこの授業の続編である。

準備学習(予習・復習等)の内容

上記「履修上の注意 1)に加え、歌が正確に理解できているかどうか、毎回復習して欲しい。分からないことや困ったことはポートフォリオなどで質問されたい。

教科書

佐竹昭広他 2 名共著『補訂版 万葉集 本文篇』塙書房刊、ISBN978-4-8273-0081-9

参考書

授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

試験の結果については希望者にフィードバックコメントを伝える用意がある。ポートフォリオ機能を利用する予定。

成績評価の方法

定期試験を行なう。その際、問題の過半は予告する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
作家作品研究ⅡB	**作家作品研究ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
品田 悦一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

聖なる皇統の復興と凋落――『万葉集』巻六が語る聖武天皇の時代

『万葉集』巻六を、天武・持統皇統の復興と凋落を語る歴史テキストとして解読する。夭折した文武天皇の嫡子として、二代にわたる女帝の中継ぎの後、満を持して即位した聖武天皇。その治世は当初、期待された繁栄を先取りしたかのように、華やかな行幸に明け暮れていた。が、天平元年の長屋王の変を機に翳りを生じ、天平六年の大地震、翌七年・九年の天然痘大流行と多くの厄災が相次ぎ、無残な凋落を余儀なくされる。天平十二年からは遷都が繰り返され、混乱の渦中で聖武の唯一の皇子、安積親王が早世してしまう。男系の血筋が途絶したのであり、巻六の語るところ、それは、もはや神々の導きが期待できない時代への転落を意味していた。

この授業のテーマは、従来作者と作品を単位として読まれてきた『万葉集』を、歴史テキストとして読み解くことに置かれている。その意義が理解できたとき、それも「身にしみてよく分かった」と実感できたとき、目標が達成されたことになる。

授業内容

0)巻六の前奏としての巻一・巻二
1)冒頭を飾る吉野讃歌群――天武・持統皇統の復興
2)神亀年間を彩る行幸従駕歌の数々
3)長屋王謀殺――天平元年の空白と沈黙の批評
4)大伴旅人のまなざし――即位直後の吉野讃歌
5)大伴家持の登場
6)崩れゆく栄え――疫病襲来と天平六～九年の編成
7)醜聞の追い討ち――石上乙麻呂配流歌
8)放棄された平城京――天平十二年の東国巡幸と恭仁遷都
9)安積親王の早世と暗黒時代の到来
10)相次ぐ遷都とアイロニカルな讃歌
11)巻六を継ぐ家持歌日誌
＊以上の内容を 14 回で講ずる。

履修上の注意

1)資料は早めに Oh-o! Meiji に上げておくから、各自次回使用分の資料にあらかじめ目を通したうえで授業に臨まれたい。何が話題になるかを大まかにつかむとともに、難解そうな箇所に当たりをつけ、知らない語句はネット検索するなどしておくこと。これをするのとしないとのとでは、理解に相当の開きが生ずるはずである。
2)配付資料が大量になる(A4 でたぶん 40 枚以上)。以前配布した分を参照させることもあるから、すべて毎回持参されたい。ノートパソコン等で閲覧するのでもかまわない。
3)教科書は毎回持参すること。
4)必須ではないが、春学期の「作家作品研究ⅡA」を受講していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

上記「履修上の注意 1)に加え、歌が正確に理解できているかどうか、毎回復習して欲しい。分からないことや困ったことはポートフォリオなどで質問されたい。

教科書

佐竹昭広他 2 名共著『補訂版 万葉集 本文篇』塙書房刊、ISBN978-4-8273-0081-9

参考書

品田悦一著『万葉集のたくらみ 行間に仕組まれた聖武天皇の物語』角川選書。
2200 円、ISBN:9784047036604
その他は授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

試験の結果については希望者にフィードバックコメントを伝える用意がある。ポートフォリオ機能を利用する予定。

成績評価の方法

定期試験を行う。その際、問題の過半は予告する。

その他

科目ナンバー：(AL)POP216J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
サブカルチャー研究〔M〕	**サブカルチャー研究〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
辻 泉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文化はわれわれの身の回りに日常的に存在するものだが、こうした身近な文化から現代の社会状況を理解していく。そのためにも、文化社会学の基本的な考え方を述べた上で、具体的な文化の現象を入り口に、現代の社会状況の理解を試みたい。一例として、ファンやオタクと呼ばれるような、一見すると異質で、それでも身近に存在する文化の現象などを取り上げながら、理解を試みたいと考えている。

講義の計画としては、おおむね前半7～8回を通して、文化に対するこれまでの様々な学問的なアプローチを比較検討したうえで、文化社会学的なアプローチ(マルチメソッド・アプローチなど)を紹介する。

そして後半7～8回を通して、いくつかのポイントに分けて、具体的な文化現象を取り上げてその理解を試みる。予定しているものとしては、自己・身体性の快楽に関わる現象として SNS のコミュニケーションやファッションなどを、集団・関係性の快楽に関わる現象としてアイドルとそのファンなどを、社会・超越性の快楽に関わる現象として鉄道ファンなどを取り上げるつもりである。

こうした内容を通して、受講者が文化社会学の視座を理解し、そのアプローチを身に付け、自分でも、様々な文化現象の分析、理解ができるようになってほしい。

※なお 2026 年度は、この授業はすべての回の授業をメディア授業(オンデマンド配信)にて行う。毎回の授業については、学年暦の予定に沿って、火曜1限に配布資料や動画を Oh-o! Meiji にて配信するので、忘れずに確認し、指示がある場合はそれに従うこと。

授業内容

第1回 初回アンケート
第2回 詳細なイントロダクション
第3回 文化社会学入門(1):いまなぜ文化社会学か
第4回 文化社会学入門(2):文化はなぜ楽しいのか
第5回 文化社会学入門(3):文化とは何か
第6回 文化社会学入門(4):文化社会学とは何か
第7回 文化社会学入門(5):文化を分析するために
第8回 今日の文化(1):構造論から比較論へ
第9回 今日の文化(2):構造論から変動論へ
第 10 回 今日の文化(3):社会＝超越性の快楽
第 11 回 今日の文化(4):集団＝関係性の快楽
第 12 回 今日の文化(5):自己＝身体性の快楽
第 13 回 今日の文化(6):応用編
第 14 回 まとめ・授業内課題(オンラインでの試験)の実施
※ただし受講生数やその他の状況を加味して、若干の変更を加えることがありうる。

履修上の注意

講義中の私語やスマホ・携帯電話の使用などは、他の学生の迷惑になるので厳禁。また講義では資料の投影や板書を多用するが、スマホなどを用いてのその撮影も厳禁。

※上記の注意は、教室での対面授業の場合のものであり、メディア授業の注意点は、開始時に別途伝達する。

準備学習(予習・復習等)の内容

日ごろから、各種のメディアコンテンツ(テレビ番組や映画、雑誌、ラジオ、あるいは各種のインターネットサイトなど)を視聴・利用し、大いに「遊んで」おくことが望ましい。 それ以外の、多岐にわたるメディアやポピュラー文化の世界に精通しておくことも大いに結構である。堅苦しい学習だけが学問ではない。徹底的に「遊んで」おいたうえで、それを客観視するのもまた学問である。

なお講義後には、当該の回のノートを見返したり、テキストその他の書籍などで関連する内容をチェックしておくと、より理解が深まるだろう。

教科書

『文化社会学の視座』南田勝也・辻 泉編(ミネルヴァ書房)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業後にコメント・質問を受け付け、次回授業時の冒頭で適宜紹介する(Oh-o! Meiji を利用予定)

成績評価の方法

中間レポート(45%)および、授業最終週の時間中に実施される「授業内課題(オンラインでの試験実施)」の結果(55%)をもとに評価する。

ただし、毎回の講義では、Oh-o! Meiji を用いてコメント・質問を提出してもらい理解度を確認するが、特に優れたものについては、講義内で紹介し、適宜加点する予定である。

その他

毎回の講義でコメント・質問を受け受けて、次回の授業時に適宜紹介し、優れたものについて加点することについては好評であるため継続して行う。積極的な記入・提出を歓迎する。

科目ナンバー：(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
産業・組織心理学	**産業・組織心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇佐美 尋子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業概要】組織における人々の行動や心理的過程について学び、職場や組織における問題に対する解決策や、組織の一員としてより効果的に活動するための方法など、必要な心理に関する支援について考える。

【到達目標】「職場や組織における人の行動について心理学の基礎的知識を用いて説明できる」及び「職場における問題(メンタルヘルス、働き方、キャリア形成など)を理解し、問題に対する必要な心理に関する支援を検討し提案できる」とする。

授業内容

第1回 イントロダクション(産業・組織心理学とは何か)
第2回 職業性ストレス
第3回 労働者のメンタルヘルス:認知的評価
第4回 労働者のメンタルヘルス:ストレスコーピング
第5回 チームワーク
第6回 リーダーシップ
第7回 職場のコミュニケーション
第8回 ワークモチベーション
第9回 キャリア形成
第 10 回 産業・組織分野における心理学的援助
第 11 回 組織的問題に対する職場環境改善の検討
第 12 回 作業改善・安全衛生から考える健康経営
第 13 回 組織・職種の特徴と人的資源を踏まえた事例検討
第 14 回 a)講義全体のまとめとふりかえり b)試験

履修上の注意

グループディスカッションやグループワーク、ロールプレイ等を毎回の授業で行いますので、産業カウンセリング等の心理的支援に興味がある学生の積極的な授業参加を期待します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返るとともに、次回の授業内容に関して参考書等で調べること。また、授業で提示する復習を行うとともに、レジュメ等を読むこと。予習・復習とも 60 分～90 分程要する。

教科書

教科書は使用しない(レジュメを配布する)。

参考書

参考書は特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する講評を授業時間内に行う。授業時間内に実施できない場合は、Oh-o! Meiji システム等を利用もしくは次の授業内に行う。

成績評価の方法

授業内提出課題 50%、期末試験レポート 50%の割合で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
シアター・マネージメント研究	**劇場運営論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中山 夏織	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

舞台芸術、とりわけ演劇と観客・社会との関係性を、実際の事例を体験的に検証し、重層的な視点から考察していきます。舞台芸術のもつ様々な機能や抱える問題を理解し、社会とのよりよき対話を図るとともに、新たなシステムを構築しうるアートマネジャーの育成・職能の確立を目指します。とりわけ、文学部出身のアートマネジャーとして、文芸の素養を兼ね備えた人材を育てたいと願っています。

授業内容

劇場ならびに創造団体、アーティスト、アートマネジャーといった様々な視点から、舞台芸術の創造をめぐる現代的諸課題を考えるとともに、その理想像を探っていく。

第1回 アート・マーケティングの理念と実践－観客と出会う、観客を創る
第2回 演劇を鑑賞するということ
第3回 観客の変化／観客の参画
第4回 児童青少年演劇
第5回 演劇の教育・コミュニティへの関与－エデュケーション・プログラム
第6回 応用ドラマの領域－演劇がヒトを変え、社会を変える？
第7回 ダイバーシティの時代の障害者と芸術－インクルーシブ&インテグレイテッド
第8回 劇場をめぐる法制度1－指定管理者制度
第9回 劇場をめぐる法制度2－劇場法と基本法
第 10 回 著作権と著作隣接権
第 11 回 デジタル時代の著作権
第 12 回 舞台芸術と契約
第 13 回 芸術労働の課題－労働者性とハラスメント
第 14 回 プレゼンテーション－新しい劇場のあり方

履修上の注意

ディスカッションに参加すること。春学期のシアター・マネージメントの基礎履修者が望ましいです。
舞台芸術の基礎知識、関心を持っていることを期待しています。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布する資料を振り返り、不明な点があれば授業で質問すること。質問することがより深い理解、別の視点へとつながっていきます。
事前、リサーチを求めることもあります。

教科書

『子どもという観客』M・リーズン(晩成書房)、2018 年
『応用ドラマ』H・ニコルソン(而立書房)、2015 年
他、プリント配布。

参考書

『演劇と社会―英国演劇社会史』中山夏織(美学出版)、2003 年

課題に対するフィードバックの方法

授業の中で論点・問題点を整理し、シェアしていきます。

成績評価の方法

レポート(40%)
プレゼンテーション(30%)
授業への参加・貢献度(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
シアター・マネージメントの基礎	**劇場運営論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中山 夏織	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

舞台芸術も、その創造、提供、普及の場としての「劇場」も、政治や社会・経済システムから遊離して存在することはできません。舞台芸術をめぐる国家や自治体の関与としての文化政策を、日本のみならず国際的な視野から概観するとともに、舞台芸術の創造を支える組織と人の構造と、マネジメント理念と実践を多角的な側面から考えていきます。また、舞台公演の実際事例を活用することで、議論を深め、広げていきます。

変動する社会における舞台芸術、そしてその場としての劇場の役割と使命を担うべく、芸術に対する深い理解と、客観的・批判的分析力を兼ね備えた次世代のリーダーの育成をめざしています。

授業内容

第1回 芸術は誰のもの？／社会システムと芸術創造の相克
第2回 アートマネジメントの特殊性と文化政策
第3回 文化政策の理念と展開－秘密の花園から公園へ
第4回 芸術支援の理論的根拠－芸術と経済のジレンマ／芸術の道具化
第5回 文化政策の策定と意思決定の構造
第6回 アーツカウンシルと文化省
第7回 日本の文化政策
第8回 マネジメント理論と実践1－マネジメントという概念／営利と非営利
第9回 マネジメント理論と実践2－組織の構造
第 10 回 マネジメント理論と実践3－新しい組織のかたちと創造性
第 11 回 マネジメント理論と実践4－グレイト・グループとグループ・ダイナミクス
第 12 回 マネジメント理論と実践5－モチベーション
第 13 回 マネジメント理論と実践6－リーダーシップとカルチュラル・リーダーシップ
第 14 回 演劇創造の現代的課題－サスティナブルで、ハラスメントのない現場を作る

履修上の注意

ディスカッションに参加することを強く求めます。
舞台芸術の基礎知識、関心を持っている方を望みます。(但し、スポーツ・マネジメントにもつながるところがあります)。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布する資料を振り返り、不明な点があれば授業で質問してください。質問はより深い理解へのきっかけになります。
事前にトピックスを決め、個人あるいはグループでリサーチを求めることもあります。

教科書

プリント配布。授業に活用するパワーポイントを事前にお送りします。

参考書

『非営利組織の運営』P・ドラッカー(ダイヤモンド社)
『もっといい会社、もっといい人生』C・ハンディ(河出書房新社)
『なにもない空間』P・ブルック(河出書房新社)
『文化と不平等』宮島喬(有斐閣)
『芸術起業論』村上隆(幻冬舎)
『舞台芸術－芸術と経済のジレンマ』ボウモル&ボウエン(芸団協出版部)
『オルフェウス・プロセス』セイフター&エコノミー(角川書店)
『アート思考』秋元雄史(プレジデント社)

課題に対するフィードバックの方法

正解のない分野です。授業の中で論点をシェアし、整理していきます。

成績評価の方法

レポート(60%)
授業への参加・貢献度(40%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
詩歌研究	**詩歌研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

昭和 7(1932)年の明治大学文科再興時に起源を置く「詩歌研究」は、室生犀星が最初の担当者であった。犀星は 1 日で教壇から降りたが、以後も担当者が代わりながら今日まで続いている。本科目は詩人としての室生犀星の文学活動を主な対象とし、犀星とゆかりのある作家あるいは場所とそこで活躍した文学者にも目を向けつつ、同時代の文化的・社会的な文脈を詩の解釈の参照枠としながら、主に詩誌や詩集単位で日本の近代詩の歩みを辿ることを目的とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 口語自由詩完成まで(1)――『朱欒』『地上巡礼』
第3回 口語自由詩完成まで(2)――『卓上噴水』
第4回 『感情』の時代(1)――「私」について語ること
第5回 『感情』の時代(2)――散文詩の試み
第6回 街をうたうこと(1)――『愛の詩集』
第7回 街をうたうこと(2)――『星より来れる者』
第8回 街をうたうこと(3)――『炬火』『獅子』『制作地帯』『愛誦』
第9回 街をうたうこと(4)――添田唖蟬坊・知道
第 10 回 詩と小説の間にあるもの――『鐵集』
第 11 回 詩との別れ――室生犀星と萩原朔太郎
第 12 回 戦争と詩――『美以久佐』
第 13 回 戦後の試み――『続女ひと』
第 14 回 まとめ

履修上の注意

1. 授業の最初に当日扱う詩について感想を受講者に求める場合がある。受講に際しては、基本的なマナーを守って積極的な姿勢で臨むよう心がけること。
2. 対象となるテクスト等についてや、成績評価に関する重要な情報を初回の授業において説明するので、受講を希望する者は必ず初回の授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回で取り上げるテクストは必ず読んでおくこと。授業後は、講義をふまえて各自の見解をまとめておくこと。

教科書

室生犀星『室生犀星詩集』(岩波文庫)
上記詩集に未掲載のものについてはプリントを配布する。

参考書

授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、講義内容に基づいたミニレポートを提出してもらう。提出されたコメントのうち、全体にフィードバックすべき内容が記されているものについては、次回の講義冒頭で紹介・補足等を行う。

成績評価の方法

学期末レポート 60%、リアクションペーパー(ミニレポート)等 40%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ジェンダー史	**社会史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 麻美	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、西洋社会においてキリスト教にもとづくジェンダー観及びその規範がどのようにして作り出され、時代や社会に応じて変化してきた過程の理解を目指す。そのために「ジャンヌ・ダルク」と言う一人の女性の生涯・業績・イメージに焦点を当て、このような人物がなぜ登場し、どのようにして広く知られるようになり、後世の人々に認識されるに至ったのかという経緯を具体的に学ぶ。また、それと並んでジャンヌ・ダルクを取り巻く社会や人々のジェンダー認識の理解にも努める。これにより、現代社会におけるジェンダー規範がどのように形成されたかを理解し、将来の社会を考えるための手がかりを得ることを目的とする。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 古代の女性観とキリスト教
第 3 回 教会改革とジェンダー
第 4 回 中世における女性のライフサイクル
第 5 回 聖なる存在と男性性
第 6 回 境界を越える
第 7 回 14 世紀の社会とジャンヌ・ダルクの生涯
第 8 回 処刑裁判
第 9 回 復権裁判と中世の受容
第 10 回 近世の魔女迫害
第 11 回 ナポレオンと記憶の継承
第 12 回 列聖とナショナリズム
第 13 回 各地での受容
第 14 回 まとめと総括

履修上の注意

「西洋史概説」を履修済みであること。あるいはそれに準ずるヨーロッパ中世史に関する知識を有していることが望ましい。講義はパワーポイントならびに視聴覚的素材を利用して行う。授業中あるいは授業後にコメントやリアクションペーパーの提出を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱ったテキストや紹介した文献、視聴覚的素材について復習し、授業内容への理解を深めることが望ましい。

教科書

特に指定しない。

参考書

赤坂俊一『ヨーロッパ中世のジェンダー問題ー異性装・セクシュアリティ・男性性ー』(世界人権問題叢書 115)明石書店、2023 年
池上俊一『少女は、なぜフランスを救えたのか』(世界史のリテラシー)NHK 出版、2023 年
加藤玄『ジャンヌ・ダルクと百年戦争―時空をこえて語り継がれる乙女―』(世界史リブレット 32)山川出版社、2022 年
高山一彦『ジャンヌ・ダルク―歴史を生き続ける「聖女」―』岩波新書、2005 年
弓削尚子『はじめての西洋ジェンダー史ー家族史からグローバル・ヒストリーまでー』山川出版社、2021 年

課題に対するフィードバックの方法

第 2 回目以降は、授業冒頭で前週のリアクションペーパーに対する応答を行う時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験(60%)とリアクションペーパーにもとづき、総合的に評価を行う。

その他

講義内容は受講生にあわせて変更する場合がある。

科目ナンバー：(AL)PHL311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ジェンダーの哲学	ジェンダーの哲学	
担 当 者	開講期	開講地区
西條 玲奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、分析フェミニズムとよばれる哲学の実践を学ぶことを通じて、性別に関わる身近な現象を批判的に検討します。哲学者たちは広く使われる「性別」「女性」「男性」といった概念がどのように使われているのかを振り返るとともに、特定の目的に照らしてどのような概念をどのような定義を与えて使うことが望ましいかを論じてきました。こうした哲学者たちの先例をふまえて、みなさんが自分じしんで様々なテキストを分析したり、定義を検討したりする能力を養うことがこの授業の目標です。分析フェミニズムとは、記号論理学の発展を背景に厳密な語の意味や用法、論証を重視する分析哲学の一分野です。「フェミニズム」の名前のとおりここには女性差別をはじめとする性差別の終結という政治的目標が含まれています。フェミニストたちが関心を寄せる社会的または科学的な言説に用いられる概念を分析し、ときに改良案を提示する哲学的な実践です。この授業では特に、性自認や性的指向といった性別を中心とするひとのアイデンティティをテーマとしています。自己理解や自己決定が、社会に存在する集団や事物、共有される知識、規範、制度、暗黙の前提とどのように関わるかを考えます。

この授業の到達目標は以下の通りです。

(1) 分析フェミニズムの手法と主題を学び、概念の整理や分析が社会現象と関わりをもつことを理解できるようになる。
(2) (1)の知識をもとに性別に関する日常的な言説を批判的に考えられるようになる。

授業内容

第１回 イントロダクション：フェミニズムからのジェンダー問題入門
第２回 ジェンダー問題への哲学的アプローチ：分析フェミニズムの手法
第３回 概念の改訂と概念枠の選択：セックス／ジェンダー区別を例に
第４回 社会階層としてのジェンダー
第５回 ジェンダーアイデンティティの理論
第６回 男女二分制への抵抗：ノンバイナリーの理論
第７回 身体とアイデンティティ
第８回 性的指向と性的アイデンティティの理論
第９回　自律性と適応的選好
第10回 人工物の設計とジェンダー
第11回 暗黙のバイアスとステレオタイプ
第12回 認識的不正義１ 証言的不正義と解釈的不正義
第13回 認識的不正義２　無知・抑圧・抵抗
第14回 試験

履修上の注意

(1) センシティブな内容についての警告：この授業では、性別、セクシュアリティ、人種や国籍・ルーツ、障害の有無に基づく差別、性暴力を含む出来事に言及することがあります。特に注意を要する内容については授業冒頭で告知します。
(2) 差別的言動の禁止：さまざまな受講生が集う場でみなさんに安心して授業へ加わってもらうために、この授業ではあらゆる差別的言動を許容しません。差別的言動が繰り返された場合は、教員の判断で教室を退室してもらうことがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業で復習として授業後に簡単な小テストを受講または小レポートを作成してもらいます。また、次回授業までに予習としておこなうべき課題を提示します。

教科書

特になし。授業スライドを資料として PDF データで共有します。

参考書

・清水晶子(2022).『フェミニズムってなんですか？』,文春新書.
・周知あきら・高井ゆと里 (2023).『トランスジェンダー入門』, 集英社新書.
・ハスランガーほか(2022).『分析フェミニズム基本論文集』,木下頌子＋渡辺一暁＋飯塚理恵＋小草泰編訳, 勁草書房.
・フリッカー, ミランダ.(2023)『認識的不正義』, 佐藤邦政監訳・飯塚理恵訳, 勁草書房.
・Earp, B. D., Chambers, C., & Watson, L. (Eds.). (2022). The Routledg

課題に対するフィードバックの方法

原則として授業内に行います。またメールで質問を受つけます。

成績評価の方法

平常点 50%　授業ごとの予習課題・復習課題(小テスト)
期末試験 50%
これに授業中の発言やディスカッションへの参加を加点することがあります。

その他

オンラインで受講生にアンケートを取る、意見を求めることなどがあります。インターネットに接続できるようスマートフォン、タブレット端末、ノートパソコンなどの持参を推奨します。

科目ナンバー：(AL)GDR311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ジェンダー論	ジェンダー論	
担 当 者	開講期	開講地区
福永 玄弥	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【テーマ】
ラディカルな社会変革のために
【授業の概要】
近年、排外主義をともなう極右ポピュリズムが世界の各地で勢いを増しています。米国では第二次トランプ政権が発足し、トランスジェンダーや移民の排斥が政治の主要な争点として前景化しました。ヨーロッパでも、反移民や反多文化主義を掲げる右派勢力が政治の再編を促す規模で台頭しています。日本でも、「日本人ファースト」を掲げる極右政党の参政党が外国人や「LGBT」排斥の言説を動員して支持を広げ、国政での存在感を強めました。さらに 2025 年 10 月には高市政権が誕生し、自民党の極右化が急激な勢いで進展しています。こうした状況のなかで、マイノリティに対する差別や排除を批判する言葉が「思想が強い」と片づけられたり「パヨク」と貶められたりするとき、後者の主張はマイノリティへの暴力を正当化する役割を果たしています。
この授業では、差別とは何か、マジョリティ／マイノリティとはどのような概念であるかを説明したうえで、「性」(ジェンダー・セクシュアリティ)をめぐる現象の考察に取り組んできたフェミニズムやクィア・スタディーズと呼ばれる学術研究の知見をとりあげていきます。
【到達目標】
この授業では、①ジェンダー・セクシュアリティをめぐる多岐にわたる問題群について基礎的な知識を習得すること、そのうえで、②自分の問題を言語化して考え直すための視座の獲得を目指します。さらに③私たちの「性」をとりまく複雑な状況を適切に理解し、性の体制を変革するためのラディカルなフェミニズム／クィアのアプローチを模索します。

授業内容

第１週　ガイダンス＋導入(「性的同意」をめぐる政治)
第２週　差別と特権
第３週　生殖をめぐる政治
第４週　からかいの政治、ハラスメントの暴力
第５週　学校教育と性の政治
第６週　カミングアウト／クローゼット
第７週　越境する／しない身体
第８週　表象の政治と「ダイバーシティ」
第９週　同性婚を超えて：パートナーシップと親密性の統治
第10週「慰安婦」問題(1)映画鑑賞
第11週「慰安婦」問題(2) 移行期正義のために
第12週　極右ポピュリズムと批判的男性性研究
第13週　ケアの倫理と「もうひとつの世界」
第14週　ラディカルなフェミニズムのために

履修上の注意

この授業のテーマ(フェミニズム／クィア・スタディーズ)や内容について学ぶ意思を持たない学生の履修は歓迎しません。また冷笑的・否定的な態度で講義に臨むことも認めません。リアクションペーパーに、差別的な内容を含む発言や主張が見られた場合は注意をおこないます。たび重なる注意にもかかわらず同様の発言が継続して見られる場合は、単位を認めないことがあります。この点をよく理解したうえで履修を決めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーでは授業の内容に関する質問や感想や批判だけでなく、広く性に関する事柄であればプライベートな質問や悩みも歓迎します。寄せられた質問やコメントの一部に対しては、匿名処理を施したうえで次回の授業の冒頭でお応えします。

教科書

特に定めない。

参考書

福永玄弥『性／生をめぐる闘争――台湾と韓国における性的マイノリティの政治と運動』(明石書店)
清水晶子『フェミニズムってなんですか』(文春新書)
森山至貴『LGBT を読みとく：クィア・スタディーズ入門』(筑摩書房)
岡野八代『ケアの倫理：フェミニズムの政治思想』(岩波書店)
竹村和子『フェミニズム』(岩波書店)
岡真里『彼女の「正しい」名前とは何か』(青土社)
岩渕浩一編著『多様性との対話』(青弓社)
その他、授業で配布するレジュメで適宜提示するので、関心に応じて読むこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説をおこなう。

成績評価の方法

①リアクションペーパー(平常点)30%
②期末試験もしくは期末レポート 70%(授業開始後、履修者の人数や状況を見てから、どちらにするか判断する)
リアクションペーパーの未提出が 6 回以上の場合、成績不可となるので注意すること。また、リアクションペーパーで、悪質な差別的・暴力的発言を繰り返していると教員がみなした場合、減点の対象とする。字数の条件を大幅に不足している場合も同様である。

その他

問い合わせは初回ガイダンスでお伝えするメールアドレスまでお願いします。合理的配慮の申し出もメールで相談してください
教員紹介：[url]https://researchmap.jp/genya[/url]
X：[url]https://twitter.com/GenyaFukunaga[/url]

科目ナンバー:(AL)HIS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史学概論(アジア史)	**史学概論B(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
小松原 ゆり	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】アジア史学の研究入門。中国における「史学」や日本におけるアジア史学(東洋史学)研究の変遷、ヨーロッパにおける東洋学の発展など、時代背景を踏まえながら「アジア史学」について学んでいきます。加えて、アジア史学を研究するために必要な基本的史料や手法についても、中国や内陸アジアを事例に挙げながら具体的に身につけていきましょう。
【到達目標】アジア史を研究するうえでの基礎的な知識の習得を目標とします。

授業内容

第1回 a. アジア史・東洋史とは何か？ b.アジアに関する映像の鑑賞
第2回 アジア史における多言語史料と史料批判
第3回 中国:史書の誕生と正史の変遷
第4回 中国:清代考証学の興隆
第5回 中国:近代歴史学のはじまり―梁啓超と「新史学」―
第6回 近世日本とアジア:漢籍の流入と還流
第7回 近代日本におけるアジア史学(1)唐宋変革論
第8回 近代日本におけるアジア史学(2)時代区分論争
第9回 近代日本におけるアジア史学(3)日本の大陸進出と満鮮史
第 10 回 ヨーロッパにおける東洋学の発展
第 11 回 様々な史料・研究手法(1)木簡・竹簡・石刻
第 12 回 様々な史料・研究手法(2)文献史料
第 13 回 様々な史料・研究手法(3)地図・絵画・写真
第 14 回 a. まとめ b.テスト
※授業の進行具合によって内容が多少前後・変更する場合があります。

履修上の注意

毎回出欠確認を兼ねてリアクションペーパー(意見や質問など)を提出してもらいます。受講者の積極的な参加を求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

レジュメとパワーポイントを中心に進めますが、授業中に関連する書籍や論文・史料等を紹介するので、それらを参考に授業内容を整理・復習することが好ましいです。授業内容を振り返り、不明な個所があれば授業の後やリアクションペーパー内で遠慮なく質問してください。

教科書

特定の教科書はなし。毎回レジュメを配布します。

参考書

『増訂版中国史研究入門』上・下(山根幸夫編、山河出版社)、『アジア歴史研究入門』全6冊(島田虔次等編、同朋舎)、『中国歴史研究入門』(礪波護等編、名古屋大学出版会)、『支那史学史』全2巻(内藤湖南、東洋文庫)、『「正史」はいかに書かれてきたか－中国の歴史書を読み解く』(武内康浩、大修館書店)など。授業中に各回の参考文献をを紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のリアクションペーパーの内容については、次の授業で情報を共有し解説を行う予定です。

成績評価の方法

期末テスト 60%、授業への貢献度(出席、積極性、授業態度などを含む)40%。

その他

授業中の私語やスマホ・パソコンなどの使用は禁止。

科目ナンバー:(AL)HIS171J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史学概論(西洋史)	**史学概論B(西洋史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
古山 夕城	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

高校までの世界史とは違い、事件や人名や年号の暗記に終始するのではなく、むしろ西洋の歴史の問題点を探り出す見方と、その問題を深く追求していくための方法を学んでほしい。そして、西洋史と何か、という初歩的でありながら根本的な問いかけについて、学生諸君自身に考えてもらうきっかけを提供したい。

授業内容

西洋史における時代の認識、文献と史料の特徴、視点と問題意識について、いくつかの研究事例を参考として紹介しながら講義を進めていく。そして、西洋の過去とは、時間的にも空間的にも現在のわれわれとは異なるという二重の意味での異文化世界であることを十分認識してもらったうえで、西洋史という研究分野の魅力と面白さ、また反対に苦労と難しさを話していく予定。おおよそのスケジュールは以下の通り。
(1)イントロダクション
(2)西洋史入門:西洋とは、西洋史とは
(3)西洋の時間:時代区分
(4)19 世紀の歴史学:歴史の科学と認識
(5)世界史認識(1)文明の歴史
(6)世界史認識(2)環境と歴史
(7)世界史認識(3)発展段階説
(8)西洋史の理論(1)マクロ
(9)西洋史の理論(2)数量化
(10)西洋史の理論(3)人類学
(11)民衆への探求(1)歴史人類学
(12)民衆への探求(2)歴史心理学
(13)西洋史研究の課題
(14)エピローグ

履修上の注意

授業には毎回必ず出席し、そこで提起される課題を自分なりに考えてほしい。しばしば授業中にミニ・テストを実施するつもりなので、講義内容を聞き漏らさないように注意。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に紹介する文献は, できるだけ読み, 現在, 歴史学でどのようなことが議論されているか学んでもらいたい。

教科書

(a)特定のテキストは使用しない。必要な史・資料は、クラスウェブに掲示する。
(b)参考文献は、必要に応じて授業中に紹介する。

参考書

必要に応じて授業時に関連文献を紹介するが, とりあえず, ここでは数点上げておく。
小田中直樹『歴史学のアポリア』山川出版社, 2002 年
下田淳『歴史学「外」論―いかに考え、どう書くか』青木書店、2005 年
福井憲彦『歴史学入門』岩波書店, 2006 年
遅塚忠躬『史学概論』東京大学出版会, 2010 年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

ミニ・テストの提出状況と、学期末試験により成績をつける(評価 = 試験:理解度 ×ミニ・テスト: 提出率)。

その他

原則として、史学概論 A の履修・単位取得を前提とする。学生諸君の積極的な受講を期待したい。
このシラバスは、前年 12 月段階での予定であり、授業開始までに若干の、あるいは大幅な変更が生じることもありうる。開始 1 週間前には、クラスウェブに授業計画表を掲載するので、それを参照すること(初回のイントロダクションでも説明します)。

科目ナンバー：(AL)HIS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史学概論(日本史)	**史学概論B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋　一樹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本列島をフィールドとした歴史学の研究入門です。日本史学の研究をすすめるうえで不可欠な基礎的知識の習得をめざします。とくに基本史料や研究手法について具体的に学ぶとともに、時期や時代、地域の区分、国家形態などにもとづく歴史叙述のありかたとその変遷に関しても講じていきます。

授業内容

第1回　授業全体のテーマと進め方
第2回　時期区分論
第3回　時代区分論
第4回　地域の区分と認識の変化
第5回　修史事業と史料の調査・保存
第6回　史料と史料批判(1)史料の分類
第7回　史料と史料批判(2)史料批判の方法
第8回　史料と史料批判(3)歴史情報の析出
第9回　歴史認識と歴史叙述(1)政治史
第 10 回　歴史認識と歴史叙述(2)社会史
第 11 回　歴史認識と歴史叙述(3)環境史・災害史
第 12 回　歴史認識と歴史叙述(4)グローバル・ヒストリー
第 13 回　日本史学における「論争」
第 14 回　論文を読む・書く

履修上の注意

日本史学を研究するうえでの基本知識を広くあつかうため、自分がとくに興味をもった時期・時代やテーマなどに関して、より専門的な著書・論文にどんどんアプローチするとともに、さまざまな論説に対する批判的な読解力を養うことをもとめます。また、本講義は基礎演習とならんで、2年次以降の日本史学に関する学修の基盤をなすものですから、毎回積極的に授業へ参加されることを希望します。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回授業時に提示する参考文献等を精読し、あらかじめ理解を深めておくとともに、疑問点を整理しておいてください。

教科書

とくに指定しません。

参考書

授業の進捗にあわせて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、次回の授業内または Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

授業への積極性(コメントペーパーを含む)30%。レポート 70%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史学概論(歴史学)	**史学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻　泰弘	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

歴史学とは何か、歴史的事実とは何か、史実を確定するための史料とは何か、歴史認識とは何かといった根元的な問いをはじめ、世界史ないし日本史の理解をめぐる理論と分析方法がどのように構築されてきたのか、基本的かつ現代的な問題を講義する。現代歴史学のアウトラインを把握することを目標とする。

授業内容

(1)講義の概要と授業計画
(2)歴史(とくに西洋史)を学ぶことの意義
(3)歴史学の歴史：前近代ヨーロッパ編
(4)歴史学の歴史：近現代ヨーロッパ編(レポート1課題発表)
(5)西洋史と史料
(6)歴史認識論1：歴史認識とは何か：生命 46 億年(レポート1提出)
(7)歴史認識論 2：感染症から見る世界史
(8)歴史認識論 3：ヨーロッパ中心史観とオリエンタリズム（レポート2課題発表)
(9)歴史認識論 4：歴史学研究の現代的意義：被災地復興と歴史学
(10)歴史と史資料：資料の種類／資料保存機関について(レポート2提出)
(11)資料とフィールド：地域を歩き、資料をみる
(12)史料の虚実を考える(レポート3課題発表)
(13)史料を読む
(14)総括：歴史学の課題(レポート3提出)
(1)担当：青谷秀紀、江川ひかり、野尻泰弘
(2)～(5)担当：青谷
(6)～(9)担当：江川
(10)～(14)担当：野尻

履修上の注意

授業には毎回必ず出席し、各領域から提起される課題を考えてほしい。歴史理論・歴史認識論・史料論の3つの領域ごとにレポートを課すので、授業中に配付された資料のみならず、推薦された図書を学習してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回の授業内容をよく復習し、次回授業に臨むこと。

教科書

特定のテキストは使用しない。必要な史・資料は、授業中に配付する。

参考書

授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

レポート採点後、全体講評を Oh-o! Meiji で公開する。

成績評価の方法

試験は、3つの領域から、講義内容をふまえてそれぞれレポートを課す。成績は、3つのレポートの平均点によって判定する(レポート 100%)。レポートは必ず3領域すべてを提出すること。

その他

つづけて史学概論 B を受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)PSY391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自己成長の心理学	**心理学特論**	
担 当 者	開講期	開講地区
諸富 祥彦	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

心理学は，こころについて考え，探求し，体験する学問です。人生のさまざまな問題を考え，自分自身の内面を見つめることが，この学問の基本になります。

この授業では，人間の心の基本的な仕組みとその働き、心理学の成り立ちなどをふまえ、現代人の心の諸問題について人間性心理学をベースに考えていきます。「自分を見つめる」「人生を考える」「自分を語る」ことを基本に進めていきたいと思っています。

授業内容

「自分を見つめる」「人生を考える」「自分を語る」ことを基本に進めていく。

一方向的な講義のみでなく，さまざまなエクササイズ(実習)や集団討論，発表などを入れながら，主体的な姿勢を求めていく。

「自分を語る勇気」をもって参加してほしい。

(1) イントロダクション
(2) リレーションづくり
(3)カウンセリングの祖 カールロジャーズ
(4) カウンセリングとは
(5) ムスターカスの孤独論
(6) フォーカシング こころの声を聴く
(7) 構成的グループエンカウンター 自分を見つめる語る①
(8) フランクル 生きる意味を求めて
(9) フランクルの収容所体験 夜と霧
(10) トランスパーソナル心理学とは
(11) 構成的グループエンカウンター 自分を見つめる語る②
(12) こころの成長の究極モデル ウィルバー
(13) 死から自分を見つめる キューブラーロス
(14) 運命と自分 ヒルマン

評価基準
(1)授業への参加度(閲覧状況など)(30%),
(2)レポート(70%)

履修上の注意

さまざまなエクササイズや集団討論，発表などを組み込みながら授業を進めていく。傍観者的な気分での参加は許されない。

「自分を語る勇気」「他者にこころを開く姿勢」をもって参加してほしい。

その姿勢がないものは，受講しないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

「自分を語る勇気」「他者にこころを開く姿勢」をもって参加してほしい

教科書

諸富祥彦著『自己成長の心理学』(コスモスライブラリー)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを課 した場合には全体講評を次回の授業でおこなう

成績評価の方法

(1)授業への参加度(60%)，(2)レポート(30%)，(3)発表などへの主体的な参加(10%)などを総合的に評価する

その他

科目ナンバー：(AL)SOC331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自己の社会学	**アイデンティティ論**	
担 当 者	開講期	開講地区
河田 純一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【概要】

「自分」が今ここにいるとか、「私」が「私」であるという「自己」の感覚は、多くの人が当たり前にもっているものでしょう。しかし、同時に、「私」が誰なのか、今ここにいる「私」はいかにして「私」になったのか、「私」はこれから変わっていくのか、そんな問いを抱く人もいるのではないでしょうか。社会学もこうした問いに対峙してきました。なぜなら、自己(self)、あるいはアイデンティティをめぐる問題は、自分ひとりの中で完結するものではないからです。人は人との関係のなかで生きていく以上、他者との関係、つまり「社会」を考慮に入れずに自分について語ることは不可能だからです。この講義では、そうした「自己」の問題に対して社会学的にアプローチします。

この講義では、牧野智和『社会は「私」をどうかたちづくるのか』(ちくまプリマー新書、2025 年)をテキストとして読み進めることで、自己について社会学が蓄積してきた考え方を学びます。相互行為論における自己概念や近代社会とともに変化する自己、そして、自己への物語論的アプローチなどを取り上げます。講義の後半では、病気や障害の経験を例に、変化を強いられる、あるいは危機に陥る自己について考えていきます。そして、患者会や仲間となる同病者との関係が、ときに新たな自己物語を作り出していく過程を検討します。

【到達目標】

1)自己の社会学に関する基礎的な知識を習得する。
2)病気や障害の経験を自己の問題として捉える視点を習得する。
3)現代社会に生きる自分自身のアイデンティティについて、反省的に捉え直すことができる。

授業内容

第 1 回 イントロダクション:社会学の視点から自己を考える
第 2 回 他者と「私」:他者と私との関係から成り立つ私
第 3 回 相互行為と自己:アーヴィング・ゴフマンの『行為と演技』
第 4 回 現代社会における自己:私の問題は「心」の問題か
第 5 回 多元的自己:時と場面に応じて複数の自分がいる？
第 6 回 再帰的自己(1):A ギデンズと近代社会の再帰性
第 7 回 再帰的自己(2):自己を再帰的に構成する制度や技術
第 8 回 語られる「私」(1):「物語」としての自己
第 9 回 語られる「私」(2):自己語りと「制度」・「自己啓発」
第 10 回 病いの経験と自己(1)病いの旅路と物語
第 11 回 病いの経験と自己(2)がん患者のアイデンティティ
第 12 回 セルフヘルプ・グループとピアサポート(1)
第 13 回 セルフヘルプ・グループとピアサポート(2)
第 14 回 試験と授業のまとめ

履修上の注意

教科書の指定があります。また、講義後に講義内容に関するコメントの提出を求めます。質問やコメントへのリプライなどは、次回以降の講義で取り上げ、双方向的なコミュニケーションを重視します。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書を事前に読み込みよく理解することはもちろんのこと、不明な部分があれば講義で質問すること。講義中に取り上げた文献を実際に手に取り、予習・復習を怠らないようにすること。

教科書

牧野智彦『社会は「私」をどうかたちづくるのか』筑摩書房，2025 年(ちくまプリマー文庫 487、940 円＋税)。

参考書

アンソニー・エリオット『自己論を学ぶ人のために』世界思想社，2008 年。
アンソニー・ギデンズ『モダニティと自己アイデンティティ――後期近代における自己と社会』筑摩書房(ちくま学芸文庫)，2011。
浅野智彦『自己への物語論的接近――家族療法から社会学へ』勁草書房，2001 年。
片桐雅隆『自己の発見――社会学史のフロンティア』世界思想社，2011 年。
他に、授業の進行にしたがって、参考書以外にも重要な文献、資料を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義後に毎回コメントを回収し、講義内で全体的な返信を行う。

成績評価の方法

毎回講義の最後に、コメント機能を用いて、提示する課題、自由な考察、感想等の小文を書いてもらいます。なお、明らかに生成 AI で作成したと考えられるコメントに関しては、減点等の措置を講じます。生成 AI の使用基準については、別途講義中に指示します。
学期末には指定のノートのみ持ち込み可で期末試験をおこないます。
コメントの提出状況 40%、期末試験 60%の比重で評価します。

その他

受講者の関心によって一部内容を変える場合もあります。

科目ナンバー：(AL)PSY111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自己発見の心理学	**こころの科学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
諸富 祥彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

心理学は，こころについて考え，探求し，体験する学問です。人生のさまざまな問題を考え，自分自身の内面を見つめることが，この学問の基本になります。

この授業では現代人の心の諸問題について人間性心理学をベースに考えていきます。「自分を見つめる」「人生を考える」「自分を語る」ことを基本に進めていきたいと思っています。

授業内容

「自分を見つめる」「人生を考える」「自分を語る」ことを基本に進めていく。

一方向的な講義のみでなく，さまざまなエクササイズ(実習)や集団討論，発表などを入れながら，主体的な姿勢を求めていく。

「自分を語る勇気」をもって参加してほしい。

(1) イントロダクション
(2) リレーションづくり
(3) 生きている意味がわからない
(4) 自分を好きになれない
(5) 一人になりたくない
(6) 働きたくない 結婚したくない
(7) 構成的エンカウンター(1)
(8) 構成的エンカウンター(2)
(9) 実存的空虚
(10) カール・ロジャーズについて
(11) カウンセリングとは
(12) 孤独であることの意味
(13) 人間性心理学
(14) 傾聴 こころの声を聴く

履修上の注意

さまざまなエクササイズや集団討論，発表などを組み込みながら授業を進めていく。傍観者的な気分での参加は許されない。

「自分を語る勇気」「他者にこころを開く姿勢」をもって参加してほしい。

その姿勢がないものは，受講しないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

「自分を語る勇気」「他者にこころを開く姿勢」をもって参加してほしい

教科書

諸富祥彦著『自己成長の心理学』(コスモスライブラリー)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーを課 した場合には全体講評を次回の授業でおこなう

成績評価の方法

(1)授業への参加度(60%)，(2)レポート(30%)，(3)発表などへの主体的な参加(10%)などを総合的に評価する

その他

科目ナンバー：(AL)LAN322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
時事ドイツ語 A	**ドイツ語演習ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、2 年次までに習得した初歩的ドイツ語力を、中級レベルに引き上げることを目的とする。具体的には、新聞や雑誌に掲載された時事的ドイツ語文に数多くあたることで、基礎的なドイツ語力を地固めするとともに、より高度な読解力を身に着けることが目標である。

授業内容

参加学生各自に、この演習で読むテクスト(ジャンルは問わず、文化・政治・経済その他興味を持っている分野のものでよい)を予め選んでおいてもらい、分量にもよると思うが、2 回から 3 回程度で一つのテクストを読む。したがって、5 本から 7 本の時事テクストを読了することになる。

参加者は、対象テクストを音読も含めて事前に予習しておく。授業ではその場で訳読者を指名するので、その人にテクストの音読と日本語訳を発表していただく。質問が向けられたら、それにも応えてもらう。

第一回はイントロダクションで、テクスト選定のためにドイツ語圏の新聞や雑誌について簡単なガイダンスをおこなう。第二回以降がテクストの訳読ということになる。最初に扱うテクストはこちらで用意しておく。

履修上の注意

積極的・意欲的に受講できる者のみ参加してほしい。よって、辞書は毎回持参しなければならず、それも中級レベル以上の辞書でなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

テクストの予習は当たり前である。音読も必ずおこなっておくこと。訳をする際、ドイツ語文を見ながらその都度その場で訳してほしいので、テクストにはメモを書き入れておくこと。書いてきた訳文を読み上げるのは、朗読の練習にはなるが、ドイツ語力レベルアップのための練習にはならないので、厳禁である。

教科書

特定の教科書は使用せず、参加者が選定する新聞・雑誌記事をコピーして用いる。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度コメントをする。

成績評価の方法

平常点のみで評価をおこなう。平常点のポイントは、テクスト選定の有無・訳読担当実績・授業におけるコミュニケーションから見た貢献度である。

その他

特にない。

科目ナンバー：(AL)LAN322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
時事ドイツ語 B	**ドイツ語演習ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重　与志生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、2 年次までに習得した初歩的ドイツ語力を、中級レベルに引き上げることを目的とする。具体的には、新聞や雑誌に掲載された時事的ドイツ語文に数多くあたることで、基礎的なドイツ語力を地固めするとともに、より高度な読解力を身に着けることが目標である。

授業内容

参加学生各自に、この演習で読むテクスト(ジャンルは問わず、文化・政治・経済その他興味を持っている分野のものでよい)を予め選んでおいてもらい、分量にもよると思うが、2 回から 3 回程度で一つのテクストを読む。したがって、5 本から 7 本の時事テクストを読了することになる。

参加者は、対象テクストを音読も含めて事前に予習しておく。授業ではその場で訳読者を指名するので、その人にテクストの音読と日本語訳を発表していただく。質問が向けられたら、それにも応えてもらう。

第一回はイントロダクションで、テクスト選定のためにドイツ語圏の新聞や雑誌について簡単なガイダンスをおこなう。第二回以降がテクストの訳読ということになる。最初に扱うテクストはこちらで用意しておく。

履修上の注意

積極的・意欲的に受講できる者のみ参加してほしい。よって、辞書は毎回持参しなければならず、それも中級レベル以上の辞書でなければならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

テクストの予習は当たり前である。音読も必ずおこなっておくこと。訳をする際、ドイツ語文を見ながらその都度その場で訳してほしいので、テクストにはメモを書き入れておくこと。書いてきた訳文を読み上げるのは、朗読の練習にはなるが、ドイツ語力レベルアップのための練習にはならないので、厳禁である。

教科書

特定の教科書は使用せず、参加者が選定する新聞・雑誌記事をコピーして用いる。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にその都度コメントをする。

成績評価の方法

平常点のみで評価をおこなう。平常点のポイントは、テクスト選定の有無・訳読担当実績・授業におけるコミュニケーションから見た貢献度である。

その他

特にない。

科目ナンバー：(AL)SOC341J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
死生学	**ターミナルケア**	
担 当 者	開講期	開講地区
小館　貴幸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

人間とは人の間と記す。このことが意味するのは、人間は「間柄」の存在として、他者と関わり合いながら存在しているということである。そして同時に、人間はこの世に生を受けてから死を迎えるまでの間を生きる存在であるということでもある。人生という物語の主人公は私自身に他ならないが、その物語の始まりである生も、その物語を締めくくる死も決して私一人では成立しえない。なぜなら、私は他者から産まれたのであり、自らの死を決して体験することはできず、他者に委ねなくてはならないからである。生と死に向き合うということは、人間そのものに向き合うことに他ならない。そして、生も死も一部の専門家だけのものではなく、今を生きている私たち自身のものなのである。

この授業では、ターミナルケアやグリーフケアなどの日常で私たちが経験しうる具体的な事象や、生と死の思想などを取上げ、実践と理論の両側面から人間存在そのものを形作る生と死について真っ直ぐに向き合っていく。受講者には、映像資料を活用して追体験してもらう機会や、ワークやロールプレイを通して実感してもらう機会を設ける予定である。これらを通して、現実に私たちが出くわす生と死の問題に対して、「自分で答えを出す力」を養うことが本講義の最大の目的となる。

授業内容

基本諸事項については講義形式で説明しますが，映像資料などを活用しながら，多くの具体的事例を示して，みなさん自身の問題として死の問題を追体験してもらい，より深く考えてもらいます。

授業は対面にて実施します。一部、遠隔授業となる場合もあります。遠隔講義の際は、Zoom によるリアル配信の形で実施します。なお、最初の講義では講義の概要や評価についても説明しますので、必ず出席して下さい。最後の講義では全体のまとめも行う予定です。

第1回 a:イントロダクション　b:「いのち」とは何か
第2回:日本人の伝統的死生観
第3回:死生学とは何か ― 成立ちと意義
第4回:死の人称
第5回:生の思想
第6回:死の思想
第7回:ターミナルケアとは何か(1)―基本的諸事項の解説
第8回:ターミナルケアとは何か(2)―段階的なケアのあり方と実践的対処方法
第9回:トータルペインとトータルケア
第10回:a:人生の最終段階における意思決定　b:ロールプレイによる演習
第11回:グリーフケア(1)―基本的諸事項と初期のグリーフ論
第12回:グリーフケア(2)―新しいグリーフ論
第13回:グリーフケア(3)―グリーフケアの実践的取り組み
第14回:患者の生き方に学ぶ ―ゲストスピーカーを招いて

履修上の注意

受講者の数や意向を考慮した上で、一方的に講義をするだけではなく、実際にみなさんにも活動する機会も設け、ターミナルケアにおける様々な場面を実体験できるような工夫をするつもりです。

受講者の皆さんには、脳に汗をかくほど考え、心が燃えるほど感じてもらいたいと思います。主体的に参加する心構えをして、講義に出席してください。

基本的には対面講義を予定しますが、遠隔講義となった場合には、Zoom によるリアル配信型の遠隔講義を実施します(場合によっては、オンデマンド型になる場合もあります)。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、次回のテーマに関しての疑問点や質問事項などを整理しておいて下さい。また、関連する内容についての書籍や記事などを自主的に調べておいて下さい。

復習としては、課題への取組み、講義内で感じたことや考えたことを反芻しつつ、配布プリントを見直し講義内容を確認して知識の定着を図ることなどを行って下さい。

基本的には予習よりも復習に重きを置いて下さい。

教科書

特定のテキストは使用しません。ただし、必要に応じて講義ごとに毎回レジュメや資料を配布します。参考文献などは、講義にて適宜紹介します。

参考書

『ターミナルケア・ガイド』村上國男、(関西看護出版)2003 年。
『ケアの始まる場所』 金井淑子、竹内聖一編、(ナカニシヤ出版)2015 年。
『なぜ生命倫理なのか』朝倉輝一編、(大学教育出版)2024 年。
『人生の終わりをしなやかに』 清水哲郎、アルフォンス・デーケン、浅見昇吾編著、(三省堂)2012 年。
『悲嘆学入門』坂口幸弘、(昭和堂)2010 年。
『死』ヴラジミール・ジャンケレビッチ、仲沢紀雄訳、(みすず書房)1978 年。
『死生学』岩崎大、(春風社)2015 年。

課題に対するフィードバックの方法

web 上の提出物へのフィードバックに関しては、各自にコメントを記す形で行います。
グループワークなどの全体の集計結果については、次回の講義で集計結果を紹介して皆で共有します。

成績評価の方法

学期末試験、中間レポート、平常点(講義でのリアクションペーパー、グループワーク等)にもとづいて総合的に評価します。(学期末試験 60%、中間レポート 15%、平常点 25%)
※中間レポートは、クラスウェブを使用して実施する予定です。
※遠隔講義となった場合には、成績評価について変更があります。

その他

授業内容(講義計画)については、あくまで予定です。受講者の皆さんの関心や実際の講義の展開状況に合わせて、臨機応変に対応したいと思っています。質問などについては、講義後にゆっくり時間を取ります。講義とは違って、対話の中から気づきやヒントが見つかることもあるかもしれませんので、小さな疑問や感想などがあれば遠慮なく話して下さい。

遅い時間の講義となりますが、むしろこの時間だからこそ、一週間に一度「生と死」・「いのち」についてじっくり向き合うよい機会となると思います。

科目ナンバー：(AL)STS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自然科学的ものの考え方	**自然科学的ものの考え方**	
担 当 者	開講期	開講地区
芳賀 猛	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

自然科学系の科目に触れることが少ない文学部の皆さんに、「自然科学的なものの考え方」を身につけてもらうことで、より豊かな人生を歩んでもらうことを目的としています。現代では、誰しも自然科学の恩恵に預かっています。それと同時に、科学的という言葉を鵜呑みにすると危ないような情報も、飛び交っています。この講義では、自然科学の知識というより、自然科学的なものの見方や考え方を学んでもらうことで、世の中に溢れる情報から正しいものを見分けて理解し、根拠に基づいた意思表明できるようになること、また 受講生一人一人に、これから持続可能な社会を構築していくために浮かび上がってくる様々な課題を抽出し、課題解決へのアプローチを考えてもらうことを目標としています。

授業内容

「自然科学的なものの考え方」とはどういうものか、自然科学の背景や作法を学び、現在の恩恵につながる発見の数々が、どのような経緯で生まれてきたか、見ていきます。そして現在の課題を見つめ、将来にわたって持続可能で幸福な社会を構築するためにどのようなことが必要か、受講生の皆さんと一緒に考え、話し合いながらコースを進めたいと考えています。

1.自然科学とは
2.自然科学と真理
3.自然科学の方法
4.自然科学の応用
5.自然科学の恩恵
6.自然の多様性
7.自然のもたらす災害
8.自然と人工
9.自然科学と倫理
10.自然科学と環境
11.自然科学と食料
12.自然科学と健康
13.自然科学と人間
14.自然科学と持続可能な社会

履修上の注意

まがいものの科学に、惑わされていませんか。鵜呑みにするのは危険です。自然科学の考え方を学び、日々の生活に生かしていってください。自然界のルールが見えてくると、楽しくなってきます。身近な自然科学に関する話題に興味を持って、皆さんで話をしていくことで、より充実した人生になっていく体験をしていってもらいたいと思います。

このコースは、順を追って進んでいく構成になっているので、全ての回に出席することを心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回で提示するトピックについて、事前の自習や受講生同士のディスカッションを行い、次回の講義につなげます。

また、毎回の講義の終了後にミニレポートを提出し、それぞれの回を振り返るとともに、期末レポートへの準備を進めます。

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

主として講義の中で解説します。

成績評価の方法

期末レポート(60%)、ミニレポート[毎回終了時に、その回で気づきがあったことや感想・疑問 等を記載するもの](20%)、授業への参加度[任意提出レポートによる話題提供を含む](20%)に基づいて評価します。期末レポートは授業内容の理解度と、授業内容から皆さんが考察したことや発展的に学習した内容を評価するものとします。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自然科学と考古学A	**自然科学と考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷畑 美帆	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学は、歴史学の一つとされることが多い。しかし、その内容は多岐にわたるものであり、さまざまな側面を持っている。また本講義では、考古学を理解する手助けとなる境界領域を中心に複合的な研究分野を紹介し、自然科学の研究分野と考古学との関係性についても、あわせてみていくこととする。さらに講義を通じて、考古学は単なるロマンの対象ではなく、科学的研究方法によって成り立っている学問であることを認識していただき、その対象は太古の昔のみではなく、現代社会を生きる私たちに不可欠な研究分野の一つであることも講義を通じて知っていただきたいと考えている。

授業内容

第1回 a :講義の概要について
b :考古学について
第2回 考古学と考古科学について
第3回 a :科学的に遺構を掘る
b:出土遺物を科学的に研究する
第4回 それは何年前のことなのか？(年代測定による絶対年代の提示ほか)
第5回 それはどのような構造をしているのか？(SEM や XRF を使った構造調査ほか)
第6回 考古科学と保存科学について
第7回 保存処理とその概要について
第8回 出土遺物の保存処理)木製品の保存処理・金属製品の保存処理ほか)
第9回 保存修復について
第 10 回 a:博物館の環境管理について
b:燻蒸と IPM
第 11 回 a:心理学を用いた考古学について
b:復元・復原展示について
第 12 回 考古学と人類学
第 13 回 現代社会と考古学－1－(戦跡考古学ほか)
第 14 回 現代社会と考古学について－2－(震災レスキューほか)

履修上の注意

講義に関連する資料は Oh!meiji でアップするので、授業で使用する他、期末の課題(レポートなど)に際して必要なため、きちんと保管し、いつでも確認できるようにしておくこと。
講義内容については多少の変更はあるが、大きく変わることはない。
講義は、対面を中心に実施するがオンライン配信も実施する(オンライン配信のみの場合もあり)。
インターネットや書籍で調べることも重要であるが、基本は講義である。講義内容をどの程度理解しているかが重要であり、講義に出席するか、オンデマンドの場合はきちんと動画をみることが必須となる。こうした作業がきちんと行われているかは、成績評価の際、重要となってくる。

準備学習(予習・復習等)の内容

個々人の到達目標によって予習・復習の内容は変わってくる。そのため、各自で判断して時間の許す限り積極的に勉強するようにしていただきたい。また、全体を通しての講義内容はそれほど難解なものではないため、講義中に提示する文献等にも積極的に目を通してほしい(英語の場合もあり)。さらに、博物館の展示に関する講義も含まれているため、受講期間中少なくとも1回は関東地方(ほかでも OK、国内外を問わない)の博物館・資料館に足を運んでいただきたい。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。
Oh meiji にアップする資料(PDF)は必ず読んでおくこと。

課題に対するフィードバックの方法

適宜実施するアンケートに対するコメントを Oh,meiji に適宜アップする。
期末に提出するレポート(または試験)についても希望者にはコメントを Oh ,meiji に適宜アップする(レポートまたは試験提出時にその旨記述しておくこと)。

成績評価の方法

平常点と期末の課題により採点
レポートまたはテスト 90%、平常点 10%(講義態度・講義時に実施する小テスト他を含む)
レポートまたは試験については、課題を各自いかにクリアしたか、また講義を受けることによってどのような新知見を得たか等によって見ていく。
また平常点は、講義を受講する態度等を中心につけていく(講義中のおしゃべりについては注意をすることがある)。
講義中の私語は厳禁。特に注意しない場合も減点の対象となるため、講義態度には各自十分注意すること。

その他

考古学は、文学部の中に設置されている学科であるが、理科系の知識も必要ないわゆる文理融合の学問である。本講義においては、こうした側面を持つ考古学に触れていただければ幸いである。

科目ナンバー：(AL)PAC291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自然科学と考古学B	**自然科学と考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷畑 美帆	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

考古学と自然科学 A を履修することが望ましいが、必須ではない。

遺跡から出土する資料の中にはさまざまなものがあるが、ここでは墓などから出土する人骨資料を中心として講義を進めていく。人骨資料から明らかにできることは多岐にわたっているが、この資料が、土器などの人工遺物同様、遺跡から出土する資料であることを理解し、考古学の枠組みの中でも研究対象となることを知っていただきたい。

人骨から得られる情報の中でも、ここでは特に、骨病変として観察されるものを手掛かりとして、過去の社会をみていくこととする。このほか、人骨は他の資料と異なり、遺体としての側面をもっており、その取扱いや展示には注意が必要であることも認識していただきたいと考えている。

また歴史資料の一つである人骨の話を展開する都合上、歴史とは何かについても考えていく講義も組み込んでいく。

授業内容

第1回 講義の概要について＋人骨からわかること
第2回 人骨資料から明らかにできること
第3回 人体の構造(骨の形態等について)
第4回 人骨からわかること
第5回 人骨からわかること(＋古病理学)
第6回 人骨資料の活用ー展示を通しての注意点等を含むー
第7回 骨病変から見る―縄文時代・弥生時代―
第8回 骨病変から見る―古墳時代―
第9回 骨病変から見る―江戸時代ー
第 10 回 骨病変から見るー過去から現代へー
第 11 回 骨病変から見る―海外の事例を中心にー
第 12 回 地域の博物館の役割
第 13 回 歴史とは何か？伝統とは何か？
第 14 回 関連 DVD 鑑賞ほか(予定)

履修上の注意

講義の内容については多少の変更はあるが、大きく変わることはない。
本講義は前期同様、対面＋オンライン配信のハイブリットとなる(オンライン配信のみの場合あり)。
個々人の到達目標によって予習・復習の内容は変わってくる。そのため、各自で判断して時間の許す限り積極的に勉強するようにしていただきたい。また、全体を通しての講義内容はそれほど難解なものではないため、講義中に提示する文献等にも積極的に目を通してほしい(英語の場合もあり)。さらに、博物館の展示に関する講義も含まれているため、受講期間中少なくとも1回は関東地方(ほかでも OK、国内外を問わない)の博物館・資料館に足を運んでいただきたい。
インターネットや書籍で調べることも重要であるが、基本は講義である。講義内容をどの程度理解しているかが重要であり、講義に出席するか、オンデマンドの場合はきちんと動画をみることが必須となる。こうした作業がきちんと行われているかは、成績評価の際、重要となってくる。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義に関する資料は Oh!meiji にアップしていくので、授業で使用する他、期末の課題(試験またはレポート)に際して必要なため、きちんと保管し、いつでも確認できるようにしておくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。
Ohmeiji にアップした PDF は必ず読んでおくこと

課題に対するフィードバックの方法

適宜実施するアンケートに対するコメントを Oh、meiji に適宜アップする。
期末に提出するレポート(または試験)についても希望者にはコメントを Oh、meiji に適宜アップする(提出時にその旨記述すること)。

成績評価の方法

平常点と期末の課題により採点
小テストまたはレポート 90%、平常点 10%(講義態度等)
レポートまたは試験については、課題を各自いかにクリアしたか、また講義を受けることによってどのような新知見を得たか等によって見ていく。また平常点は、講義を受講する態度等を中心につけていく(私語は厳禁である)。

その他

人骨を取り扱うこともある発掘を中心とした学問・考古学は、文学部の中に設置されている学科であるが、理科系の知識も必要ないわゆる文理融合の学問である。本講義においては、こうした側面を持つ考古学に触れていただければ幸いである。

科目ナンバー：(AL)GEO121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自然地理学概論A	**自然地理学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

自然地理学は、地形、気候、植生、水文環境といった自然環境の構成要素のつながりを総合的・俯瞰的にとらえて、自然景観の成り立ちを読み解く学問であるとともに、自然資源の活用や自然災害の軽減といった自然と人間とのより良い共存関係を模索していく上で基盤となる重要な学問である。

本授業では、自然地理学の骨格となる地形・地質、気候、土壌、植生の内容を網羅的に扱い、自然環境の成り立ちを理解するために、各分野の大学教養レベルの基礎知識を確実に身に着けることを目標とする。さらに、それらの知識を用いて、気候変化による景観変化や自然災害といった、実際の現象を正しく理解し、説明できることを目指す。

授業内容

第 1 回 自然地理学で何を学ぶのか
(自然地理学の扱う範囲、自然地理学の時空間スケール、自然地理学の視点)
第 2 回 地球の内部構造・内的営力による地形の変化
(地球の内部構造、プレートテクトニクス、プルームテクトニクス、大地形)
第 3 回 地震活動と変動地形
(地震の分布、断層活動、褶曲、地震災害)
第 4 回 火山活動と火山地形
(火山の分布、噴火様式、火山地形、火山災害、火山の恵み)
第 5 回 日本列島の地質、風化・侵食
(日本列島の地質、風化様式、侵食地形)
第 6 回 山地の地形と人々の暮らし
(山地と丘陵地の地形、斜面災害、山地の土地利用)
第 7 回 平野の地形と人々の暮らし
(河川の流路形態、沖積低地の微地形、段丘の形成、水害)
第 8 回 大気と水の循環
(大気の大循環、海洋大循環、水資源と水循環)
第 9 回 世界と日本の気候
(気候要素と気候因子、世界の気候区分、日本の気候区分、気候に適応した暮らし)
第 10 回 気候と土壌、生物群系(エコトープ)
(土壌の生成、土壌・生物群系の地理的分布、生物多様性)
第 11 回 気候変化と景観変化
(第四紀の気候変動、氷期・間氷期サイクル、自然環境の変化、自然史)
第 12 回 人間活動と生態系
(自然の攪乱、里地里山、開発と保全、環境問題、自然保護)
第 13 回 自然災害とハザードマップ
(様々な自然災害、土地条件と災害リスク、ハザードマップの活用)
第 14 回 まとめと試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

授業資料を事前に Oh-o！Meiji にアップロードしておくので、印刷して授業に持参して授業ノートとして使用できるように準備すること。予習として(前の授業で出題された)簡単な課題に取り組み、授業後もコメントペーパの提出を通じて復習をすること。

教科書

特に定めないが、授業内で参考書を紹介する。自然地理学を専門にする場合には、下の参考書から 1 冊選んで購入しておくことを推奨する。

参考書

小野映介・吉田圭一郎編『みわたす・つなげる 自然地理学』(古今書院)
吉田英嗣『はじめての自然地理学』(古今書院)
高橋日出男・小泉武栄編著『地理学基礎シリーズ 2 自然地理学概論』(朝倉書店)
Darrel Hess『Physical Geography: A Landscape Appreciation』(Pearson)
William M. Marsh and Martin M. Kaufman『Physical Geography: Great systems and global environ

課題に対するフィードバックの方法

事前課題の解説は授業内でおこなう。また、期末試験の解説は、後日、Oh-o！Meiji に掲載する。

成績評価の方法

予習課題と授業後のコメントペーパ 30%、学期末の筆記試験 70%

その他

科目ナンバー：(AL)GEO121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自然地理学概論B	**自然地理学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業科目では、大学レベルの自然地理学の基礎知識を、気圏・生物圏(植生)・地圏・水圏(雪氷と海洋)の4圏について再整理することを目的とする。その際, 自然地理学分野の専門科目が用意されていない分野(海洋, 水文, 地質, 土壌, 植生)に重点を置くこととする。地理学全般の共通の対象は「空間としての地域」だが、その成り立ちを理解するためには、基本的環境としての気候や地形はもとより、土壌や植生にまで目を配る必要があるからである。また、現実の地球の地理学的自然環境は、数万年に及ぶ人類の諸活動の結果として眼前に展開しているものである。この授業を通して、「人と土地の諸関係」が自然地理学的な諸条件の知識獲得によってより深く理解できるようになることを目指す。

授業内容

本講義の内容は以下のとおりである。
1. 海水の性質と表層海流
2. 熱塩循環
3. 海氷
4. 水循環と降水
5. 蒸発散
6. 流出と河川水文
7. 固体地球の構造
8. 構造地質と変動地形
9. 日本列島周辺域の地史
10. 気候と植生
11. 土壌と植生
12. 日本列島の植生
13. 日本と世界の自然地域区分
14. a)全体の総括、b)期末試験

履修上の注意

「自然地理学概論A」を履修済みであることを前提として授業を進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

Oh-o! Meiji System に授業資料を掲載するので、事前にダウンロードしてメモを記入できるよう準備しておくこと。高校レベルの自然地理学／地学の専門用語については、原則として授業での詳細な解説は省略するので、分からない場合には図書館で『自然地理学辞典』(朝倉書店)、『地学事典』(平凡社)、『地形の辞典』(朝倉書店)、『気候学・気象学辞典』(二宮書店)等によって調べることを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

以下の4冊を独学用の関連参考書として推薦する(授業では使用しない)。
自然地理学全般:岩田修二『統合自然地理学』東京大学出版会、2018 年発行
気候学分野:釜堀弘隆・川村隆一『トコトン図解 気象学入門』講談社、2018 年発行
地形学分野:貝塚爽平『発達史地形学』東京大学出版会、1998 年発行
植生地理学分野:日本森林学会編『教養としての森林学』文永堂出版、2014 年発行(購入する場合は電子版となる)
大学院に進学して自然地理学(地形学／気候学)を研究したい人には、自習用に以下の2冊の英語の教科書を推薦

課題に対するフィードバックの方法

授業中に質問の時間を設ける。また、本学ホームページ(文学部地理学専攻)に電子メールアドレスを記載してあるので随時質問を受け付ける。

成績評価の方法

期末試験(80%)および不定期に実施する数回の小テスト(20%)の得点によって成績を評価する。なお、授業の進行状況により時間不足となった場合には小テストを順次省略し、その成績評価割合は期末試験に振り替えるものとする。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自然地理学特説Ⅰ	**自然地理学特説Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
蘭光 健人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、自然地理学のさまざまな分野(生態学、地形学、気候学など)を基盤に、実際の研究事例を通じて自然景観の特徴を理解し、その中で特定の植生がどのように形成されているかを学びます。

地域の自然環境は、気候、地形・地質、水文、生物、人間活動といった多様な要因が相互に作用して形成されています。このような相互作用を総合的に理解するための考え方として、地生態学、景観生態学、統合自然地理学といったアプローチがあります。これらの視点を通じて自然環境のつながりを意識することで、自然に対する理解を深めると同時に、社会的課題が自然環境に及ぼす影響を予測する力を養うことができます。

講義では、各回で数値データやグラフを活用し、地域ごとの自然景観の特徴や生物種の特性を読み解きます。そして、特定の植生が気候や地理的要因によってどのように形成されているのかを、総合的に議論することを目指します。授業は教員による解説だけでなく、文献や論文を用いたグループディスカッションを組み合わせて進行します。また、第 14 回目には、各グループが興味を持った地域の特色やその地域における植生の成り立ちについて議論した結果を発表する場を設けます。13 回目はそのテーマ選定と準備の時間とします。

授業内容

第 1 回:自然景観のとらえかた:地生態学、景観生態学、統合自然地理学の概念
第 2 回:植生の遷移
第 3 回:遷移初期と火山帯植生
第 4 回:高山帯植生
第 5 回:熱帯雨林の植生
第 6 回:生物多様性の評価方法
第 7 回:マングローブ林の植生
第 8 回:乾燥地帯の植生
第 9 回:温帯林の植生
第 10 回:樹上植物の特徴とその植生
第 11 回:授業担当者の研究紹介(植生と微生物共生)
第 12 回:植生の保全
第 13 回:グループ発表のテーマ選定と準備
第 14 回:グループ発表会

履修上の注意

生態学、地形学、気候学など自然地理学に関連する個別の授業を履修しておくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業内容を復習するとともに、関連する文献を Oh-o！Meiji システムにアップロードしておくので、次週までに適宜目を通しておくこと。

教科書

特に指定しない

参考書

『統合自然地理学』岩田修二(東京大学出版会)2018 年
『景観の分析と保護のための地生態学入門』横山秀司編(古今書院)2002 年
『地形植生誌』菊池多賀夫(東京大学出版会)2001 年
『地生態学からみた日本の植生』小泉武栄(文一総合出版)2018 年
『微地形学』藤本潔・宮城豊彦・西城潔・竹内裕希子編著(古今書院)2016 年

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(60%:出席および議論への参加状況)と第 14 回の発表(40%:着眼点、議論の論理性、プレゼン方法の工夫)を併せて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
自然地理学特説Ⅱ	**自然地理学特説Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 遼太郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

生態系の定量的な観測、評価、予測は、生物多様性の損失による社会リスクの低減や、自然のもつ多面的な機能を活用した社会づくりにとって不可欠である。本講義では、生態系の物理・生物環境を定量的に観測し、その地理的な成立要因や人間社会に対する影響を理解するための方法を紹介する。R や GIS を用いた解析等のグループワークを交えながら、身近な自然を定量的に観測・評価する方法について知り、人文・自然地理的な視点から考察する力を養うことを目標とする。授業は講義とグループワークの二回一組でテーマを変えながら行う。

授業内容

第1回 a: 講義概要についての説明と準備
b: 生態系観測の意義と自然・人文地理学との接点
第2回 a: 生態系リモートセンシングの基礎
b: QGIS と RStudio のインストールと基礎
第3回 RStudio を用いた地理情報解析の基礎①
第4回 RStudio を用いた地理情報解析の基礎②
第5回 生態系のリモートセンシング①:衛星画像による生態系観測
第6回 グループワーク:衛星画像による生態系観測
第7回 生態系のリモートセンシング②:地上撮影写真による生態系観測
第8回 グループワーク:地上撮影写真による生態系観測
第9回 生態系のリモートセンシング③:音響データによる生態系観測
第 10 回 グループワーク:音響データによる生態系観測
第 11 回 生物の地理的分布を説明・予測するモデル
第 12 回 グループワーク:生物の地理的分布を説明・予測するモデル
第 13 回 自然地理学と社会:Nature based Solutions (NbS) と「自然の持つ多面的な機能」
第 14 回 グループワーク:自然地理学と社会

履修上の注意

生態学 A/B や自然地理学系の講義を受講していることが望ましいが、必須ではない。
授業内及びグループワークでは QGIS による簡単なデータ解析を行うため、個人のノート PC の持参が必須である。新たに高価な製品を購入する必要はない。PC 本体の OS は Windows、Mac、Linux のいずれでも構わない。
履修開始までにコンピュータの基本的な操作を習得し、教室でインターネットに接続できるようにしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義の資料はオンラインで公開されているため(https://0kam.net/PG2/)、予め目を通しておくこと。各回の最後に、次回に向けた準備事項について説明するので準備を行うこと。グループワークでは必要に応じて授業時間外での調査や議論を積極的に行うこと。

教科書

特に定めない。

参考書

・『やさしい GIS 入門』, QGIS project,
https://docs.qgis.org/3.34/ja/docs/gentle_gis_introduction/index.html
・『植生のリモートセンシング』, Jones & Vaughan, 森北出版
・Richardson, A.D., Braswell, B.H., Hollinger, D.Y., Jenkins, J.P. and Ollinger, S.V. (2009), Near-surface remote sensi

課題に対するフィードバックの方法

隔週のグループワーク回では、グループワークの内容について発表し、参加者も含めて議論する。

成績評価の方法

授業への貢献度(20%)、各グループワークのテーマから各自が一つ選んで作成するレポート(80%)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
司法・犯罪心理学	**司法・犯罪心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
室城 隆之	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では, 文学部のカリキュラムポリシーである「人間とは何か」という問題への多角的な取り組みの一環として, 犯罪・非行などの問題を起こす人間という存在の本質の理解に関わる司法・犯罪分野の専門知識を身につけるとともに, 犯罪者や非行少年の更生に関する心理的援助のための知識や技法を学ぶことを目的としている。具体的な学習内容は, 以下のとおりである。なお, 基本的にはパワーポイントの資料を用いた講義形式の授業になるが, 視聴覚教材も活用する予定である。

1. 犯罪の原因に関する生物学的, 社会学的, 心理学的諸理論について学習する。
2. 各種犯罪の特徴について学習する。
3. 犯罪者の捜査, 司法手続き, 処遇, 立ち直りという一連のプロセスにおける心理的支援について学習する。
4. 犯罪被害者への支援や犯罪の予防について学ぶ。
5. 家庭裁判所における家事事件の内容と手続きおよび心理的支援について学習する。

この講義の到達目標は, 以下のとおりである。
(1)犯罪・非行, 犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につける。
(2)司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。

授業内容

第1回 司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法
第2回 犯罪の原因(1)生物学的要因
第3回 犯罪の原因(2)社会学的要因
第4回 犯罪の原因(3)心理学的要因, 環境との相互作用, 犯罪原因の統合的理解
第5回 犯罪捜査と心理学
第6回 非行・犯罪者に対する司法手続き～アセスメントを中心に
第7回 非行・犯罪者の処遇・矯正
第8回 家庭裁判所の家事事件と心理的支援
第9回 犯罪者の立ち直り
被害者支援と犯罪予防
第 10 回 犯罪各論(1)暴力犯罪, 殺人
第 11 回 犯罪各論(2)性犯罪・放火
第 12 回 犯罪各論(3)窃盗等の財産犯, その他の犯罪
第 13 回 犯罪各論(4)少年非行
第 14 回 a:司法・犯罪心理学の課題
b:試験

履修上の注意

履修に当たっては, 積極的な受講態度が望まれる。

準備学習(予習・復習等)の内容

本講義については, 予習においては, テキスト「Progress & Application 司法・犯罪心理学」の該当箇所を読み、ポイントなどをまとめておくこと。また, 復習においては, テキスト「Progress & Application 司法・犯罪心理学」, 講義資料, 必要に応じて参考文献を読んで理解を定着させることが必要である。

教科書

『Progress & Application 司法・犯罪心理学』越智啓太著(サイエンス社)

参考書

『犯罪心理学－犯罪の原因をどこに求めるのか』大渕憲一(培風館)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの講評を授業内に行なう。

成績評価の方法

授業への参加度(リアクションペーパー等で把握する)45% 試験 55%

その他

この科目は、公認心理師試験受験のために必要な科目である。
授業評価アンケートにパワーポイントの資料がやや見にくいという意見が合ったため、可能な範囲で見やすくする。

科目ナンバー：(AL)SOC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ジャーナリズム研究	**ジャーナリズム研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
阪本 博志	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「人間とは何か」という問題に多角的に取り組み充分な専門知識を身につけるという、明治大学文学部の「教育課程の理念」にもとづき、ジャーナリズムを考えるうえで重要な古典を読み、内容に対する理解を深める。

具体的な概要としては、ウォルター・リップマン『世論』を講読する。毎回担当者がレジュメを用意し、これにもとづいて発表する。報告者以外の受講者は、毎回「講読シート」を準備する。これは、そのときの範囲において重要だと判断したところやそこを通して学んだこと・考えたことを記入したものである。報告者の発表のあと、出席者がそれぞれ用意した講読シートにもとづき、発言する。このようにして、発表ならびに意見交換を進める。授業において発言するとともに受講者の様々な観点からの発言を聞くことで、多角的にかつより深くテクストを理解することができよう。

なお時間に余裕が生じた場合は、ジャーナリズムやメディア関連文献の講読(たとえば、主要新聞の社説の比較検討など)等をおこなう。

『世論』の内容を理解しその意義を考察できることが、本授業の到達目標である。

授業内容

1. イントロダクション
2. 『世論』第 1 部
3. 『世論』第 2 部
4. 『世論』第 3 部第 6 章～第 8 章
5. 『世論』第 3 部第 9 章～第 10 章
6. 『世論』第 4 部
7. 『世論』第 5 部第 13 章
8. 『世論』第 5 部第 14 章～第 15 章
9. 『世論』第 6 部第 16 章～第 18 章
10. 『世論』第 6 部第 19 章～第 20 章
11. 『世論』第 7 部
12. 『世論』第 8 部
13. 『世論』まとめ
14. 関連文献の講読もしくは関連映像の視聴

履修上の注意

本授業は、報告者の発表ならびに受講者の発言により、テクストへの理解を互いに深めていくものである。そのため、授業中の積極的な発言を求める。

受講者の人数やその問題関心により、内容の調整をはかることがある。たとえば、授業内容の 14 回目の内容は、授業の進行によっては、それ以前におこなうことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者はレジュメを作成する。他の受講者は上記「講読シート」を作成する。

教科書

『世論(上)』W・リップマン(掛川トミ子訳)(岩波文庫)
『世論(下)』W・リップマン(掛川トミ子訳)(岩波文庫)

参考書

『公衆とその諸問題――現代政治の基礎』J・デューイ(阿部齊訳)(ちくま学芸文庫)
『[改訂復刻版]沈黙の螺旋理論――世論形成の社会心理学』E.ノエル=ノイマン(池田謙一・安野智子訳)(北大路書房)
『輿論と世論――日本的民意の系譜学』佐藤卓己(新潮選書)
『メディア論の名著 30』佐藤卓己(ちくま新書)
『「ネット世論」の社会学――データ分析が解き明かす「偏り」の正体』谷原つかさ(NHK 出版新書)

課題に対するフィードバックの方法

発表者の報告ならびに「講読シート」にもとづく受講者の発言に対し、口頭でフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

授業中の発表 30%、平常点(「講読シート」の提出 60%、ミニレポートの提出 10%)70%。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
社会運動論	**社会運動論**	
担 当 者	開講期	開講地区
大畑 裕嗣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

近年の社会運動論については、教科書的な整理が、ある程度なされているので、それを「知識」として「理解」することは、それほど難しくはないでしょう。ただ、「理解」した「枠組」を、自分たちが生きている現実の歴史の流れの中で出会う、運動の営みと社会の変化に当てはめてみようとすると、「そんなものじゃない(それだけじゃない)はずだが…」とでも、つぶやきたくなるような「居心地の悪さ」を感じる時もあります。そういう「居心地の悪さ」に向きあうことこそが、社会学の原動力にもなるのです。1980 年代から 90 年代初頭にかけての民主化を転換点とする、韓国の社会運動と市民社会論という(多くの皆さんにとっては、おそらく)未知の対象を描きだして、その像を社会運動論の主要な理論的動向(資源動員論、「新しい社会運動」論)に「ぶつけて」みることで、そういう「居心地の悪さ」を引きだすことが、この授業の到達目標です。

授業内容

多少の変更はありえますが、次のような予定ですすめます。

1 授業の組み立てと意図
2 歴史的背景(1): 冷戦と脱冷戦
3 歴史的背景(2): 1980 年代におけるラテンアメリカ、アジアの民主化
4 歴史的背景(3): 分断体制下の韓国民主化運動
5 運動実践(ヨーロッパ): 東欧の改革運動と西欧の「新しい社会運動」
6 市民社会論(ヨーロッパ): 自己限定革命論としての市民社会論
7 運動実践(韓国): 民主化の「達成」と市民運動、労働運動の成長
8 市民社会論(韓国): 韓国市民社会の模索と論争
9 社会運動論の一般的枠組(1): 「古典的」理論群(マルクス主義運動論、集合行動論、大衆社会論)
10 社会運動論の一般的枠組(2): 資源動員論と「新しい社会運動」論
11 一般的枠組と韓国(1): 資源動員論からみた韓国の運動と市民社会
12 一般的枠組と韓国(2):「新しい社会運動」論からみた韓国の運動と市民社会
13 教員と受講者で話しあい、(授業内容に即して)試験問題を作成
14a 試験問題の確認+試験
14b 試験結果講評

履修上の注意

毎回の授業時間(1 回、14 回を除く)を目安として次のように区分して進めたいと思います。

前回のリアクションペーパーに対するコメント(5 分)→講義(40 分)→休憩(5 分)→グループに分かれ(それだけの人数がいれば)授業内容について質問、意見を出し合う(15 分)→出された質問、意見に関し、皆さんと教員で口頭のやり取り(20 分)→各自、リアクションペーパーを記入して提出(15 分)

ですから、授業内容に示したような話題に関して、グループでの、あるいは教員との討論はしたくない(できない)という方は、受講は遠慮して頂く方向でお考えください。ただし、障がいのためグループディスカッション参加は難しいが、受講したいという方は、受講登録の際にお申し出ください。また、授業内容でも示したように、この授業は教員と受講者が共同で試験問題を作成し、自らその問題をやってみるという、少し変わったやり方をするので、そういう授業運営に理解のある方の受講を求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

＊成績評価上、期末試験の割合が高いので、試験前はある程度、復習しておいたほうがよいと思います。返却されたリアクションペーパーは試験までは捨てないで保存しておいたほうがよいでしょう。
＊授業での発言やリアクションペーパーで「よくわからなかったところ」を指摘してくださると大変助かります。

教科書

用いず、レジュメや PPT を使用します。(映像資料も可能な限りで使用。)

参考書

『新・韓国現代史』文京洙(岩波新書)
『現代韓国の社会運動』金栄鎬(社会評論社)
『韓国社会運動のダイナミズム』三浦まり・金美珍編(大月書店)
『現代韓国の市民社会論と社会運動』大畑裕嗣(成文堂)
「何が起こった(ている)？」大畑裕嗣『明治大学人文科学研究所紀要』85
「ヨーロッパと韓国の市民社会論」大畑裕嗣『明治大学人文科学研究所紀要』90
『なぜ社会は変わるのか』富永京子(講談社現代新書)
これ以外は授業で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

＊授業の冒頭で前回のリアクションペーパーのいくつかについて簡単にコメントし、数回分ごとにまとめて、よりくわしいコメントを oh-o!meiji にアップロードします。
＊第 14 回 b のモジュールで試験結果の簡単な講評を行います。

成績評価の方法

試験問題案に関するアイディア提案 15%、試験答案内容 65%、リアクションペーパー15%、授業での発言 5%。授業を何回か欠席した人に対する救済のための特別課題は出しません。ただし、欠席によりリアクションペーパーを 5 回分以上、提出できなかった人が、第 13 回の授業までに欠席に関する「理由書」(書式は自由)を提出した場合は、理由の内容に応じて、試験答案内容の評価割合を 80%を上限として引きあげる対応を行うこともあります。

その他

科目ナンバー:(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
社会言語学	**社会言語学**	
担 当 者	開講期	開講地区
水澤　祐美子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

(授業の概要)
私たちは普段何気なくことばを使用していますが，文化やコンテクスト，伝える内容・相手・媒体などさまざまな要素によって，ことばを使い分けています。この授業では，社会言語学の基本的なアプローチを学び，ことばを科学的な視点で捉えなおすことにより，社会におけることばの形を探求します。
(到達目標)
これまで何気なく使用していたことばを科学的に捉え，身の回りの現象を新たな視座から考えられるようになることを到達目標とします。

授業内容

1. 社会言語学とは何か
2. ことばと文化
3. ことばと状況-1
4. ことばと状況-2
5. ことばと状況-3
6. ことばを使わない非言語コミュニケーション
7. ことばを組み立てる(話し手と聞き手による相互協力)
8. 場面や相手によって変わることば(ダイクシス)
9. ことばと文脈
10. 通じる意図と通じない意図(会話の含意と協調の原則)
11. ポライトネス
12. ことばの誕生と消滅
13. ことばの多様性
14. a: まとめ b:試験

履修上の注意

言語学に関する事前知識を必要としないが,ことばについて興味を持っていることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

必要に応じて提示された資料を読みましょう。
疑問に思うことがあれば,授業内・授業後に担当教員に質問してください。

教科書

『グローバル社会の英語コミュニケーション・ハンドブック』川村晶彦(編著)(三省堂)2024 年

参考書

An Introduction to Sociolinguistics (5th ed.), Holms, J. (Routledge) 2017.
『社会言語学入門 (改訂版)』東照二(研究社)2011 年
『改訂版 社会言語学』岩田祐子・重光由加・村田泰美 (ひつじ書房)2022 年

課題に対するフィードバックの方法

授業内、もしくは Oh Meiji を通して行う。

成績評価の方法

試験(50%), 授業への参加度合い(50%)により評価します。授業への参加度合いは，小テストの解答やリアクションペーパーの提出など積極的に授業へ参加する姿勢が評価の基準となります。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
社会史	**社会史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
菅原　未宇	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義ではまず、歴史学の一分野としての「社会史」が登場した経緯を論じる。続いて、その後の社会史研究の発展の中で生み出された様々な成果、例えば家族・人口、犯罪、環境をめぐる歴史研究を紹介しながら、社会史の持つ可能性と限界を考察する。取り上げる事例は中世、近世のブリテン諸島(イギリス)、フランスが中心となるが、必要に応じて他のヨーロッパ地域や近現代の事例に言及することもある。
到達目標は以下の通り。(1)歴史学の中での「社会史」の位置づけ、その意義と限界を知る。(2)歴史学の手法、歴史の語り方の多様性を理解する。(3)歴史学の持つ現代的な役割を認識する。

授業内容

1a. 講義計画の提示と前提となる事項の確認・解説
2. 社会史登場以前の歴史1－古代
3. 社会史登場以前の歴史2－中世
4. 社会史登場以前の歴史3－近世
5. 社会史登場以前の歴史4－近代歴史学の誕生
6. 社会史の登場
7. アナール派第一世代の歴史家たち
8. 系の歴史学
9. アナール派第二世代の歴史家たち
10. 社会史への批判
11. 歴史人口学の成果
12. 犯罪の社会史
13. 環境史
14. 社会史の課題と展望

履修上の注意

授業は講義形式で行うが、人数などの条件によっては、受講者による報告や意見の提出を求めることもある。コメントシートを通じた質問や疑問点の提示を歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で配布した史資料に目を通して次の授業に臨むこと。また、時代状況の概略について、西洋史の概説書(ミネルヴァ書房刊『大学で学ぶ西洋史』『教養のための西洋史入門』など)を用いて自ら学習すること。(100 分)
授業後は、ノートや史資料を見直し、必要に応じて西洋史の概説書も参照しつつ、授業内で解説した事項・事象について自分なりに説明できるようにすること。(100 分)

教科書

特に指定しない。

参考書

竹岡敬温、川北稔編『社会史への途』有斐閣、1995 年

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体講評を次の回の授業内で行う。

成績評価の方法

平常点(授業内で課題を課した場合、それを含む)30%
定期試験　70%

その他

受講生には、過去と現在の政治・社会・文化のあり方に関心を持つことを期待する。

科目ナンバー：(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
社会心理学(社会・集団・家族心理学)	**社会・集団・家族心理学Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
堀田 結孝	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本講義では、社会心理学の基礎的な理論を学んでいく。社会心理学とは、他者と関わる場面における人々の認知や行動の傾向を探究する心理学分野である。本講義では、1）対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程、2）人の態度及び行動、3）家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響をテーマとして扱う。関連する実証的研究や社会心理学の隣接領域の研究などの紹介もしていく。

＜到達目標＞

・社会心理学における基礎的な概念や理論について、説明することができる。
・対人関係や集団の中での人間の認知や行動パターンを説明することができる。
・家族、組織及び共同体などの社会集団の中で生じる問題とその問題に対する対処法を考えることができる。

授業内容

第１回　イントロダクション：社会心理学とはなにか
第２回　対人認知：帰属やヒューリスティック
第３回　態度の形成と変容：自己、認知的不協和、説得
第４回　対人関係：対人魅力
第５回　対人行動：社会的促進と社会的手抜き
第６回　対人行動：援助と攻撃
第７回　社会的相互作用：囚人のジレンマ
第８回　社会的影響：同調と服従
第９回　集団：内集団ひいき、社会的アイデンティティ
第10回　集団：偏見、集団間葛藤
第11回　集団：集団意思決定
第12回　家族及び社会集団：親密な関係やソーシャル・サポート
第13回　文化と社会心理
第14回　a: 試験　b: 試験の解説と全体のまとめ

履修上の注意

事前に取得しておくべき授業の単位については特にない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、参考書などを用いて、次回のテーマの概要について調べること。
復習として、配布資料を読み直して重要なキーワードについて理解を定着させておくこと。

教科書

特に指定しない

参考書

『公認心理師の基礎と実践：社会・集団・家族心理学』竹村和久 編(遠見書房)

課題に対するフィードバックの方法

小テストについては、授業時間内でフィードバックを行う。
期末試験については、同日に解説を行う。

成績評価の方法

期末試験を 60%、定期的に出題する小テストを 30%、授業への参加度を 10%とする。欠席回数が多い場合は、試験の評価対象とならない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
社会地理学Ⅰ	**社会地理学Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、地理学の基礎を身につけた学生を対象に、社会地理学の中心的な関心と現在までの成果、そして自分の身近な問題を社会地理学的に考える方法を示していく。地理学では、19 世紀以降、世界についての知識が広がる中で、その多様性をどう表現するかを追究していたが、第二次大戦後は、経済成長や植民地の独立といった急速な変化が起き、それまでの静態的な世界の見方への批判が現れた。それに応じて出てきたアプローチの一つが社会地理学で、現在に至るまで社会の多様な現象を捉える手法のひとつとなっている。授業を通じて、受講生が社会を地理学的に理解する仕方を身につけることを到達目標とする。

授業内容

1. 社会とは何か、社会地理学とは何か
2. 地理上の発見と植民地支配、コロニアリズム
3. セトラー・コロニアリズムを考える
4. 近代化と貧困を考える
5. ジェンダー・フェミニズムの地理学
6. 子ども・若者の地理学
7. セクシュアリティの地理学
8. 身体・感情と地理学
9. 移民・難民・外国人
10.オールドタイマー(オールドカマー)とニューカマー
11.民族、宗教、言語
12.セキュリティと排除の空間
13.トポフィリア
14. a.テスト　b.解説

受講生の関心や社会情勢によって順番や内容を変えることがある。
毎週、次の週の課題を提示するので、事前学習としてその課題について考え、各授業はじめに発表する時間を設ける。
それを踏まえて教員からの問題提起、関連ビデオの視聴を行い、さらにグループディスカッションを行う。
テキストは月曜日に配布するので、事前・事後学習として読むこと。

履修上の注意

授業冒頭の発表は、無作為に当てるので、しっかり準備をすること。また、授業時間の3分の1ぐらいを使ってグループディスカッションを行うので、常に新聞に目を通し、社会的な事象への関心を高めておくこと。映像資料を用いるため、字幕・音声などに特に必要なことがあれば初回の授業で申し出ること。その他の必要事項も個別に相談すること。
オンライン授業を取り入れる可能性があるので、インターネット環境や機材を整えておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

Oh-o!Meiji で毎週テキストを配布するので、各自読んでおくこと。復習は授業内容の理解を各自確認するとともに、テキストを読み直し、またテーマごとに示された参考文献を読むこと。不明点は早めに担当教員に問い合わせること。

教科書

授業内で配布する。

参考書

倉沢進・浅川達人編『新編　東京圏の社会地図 1975-90』東京大学出版会(2004)
人文地理学会編『人文地理学事典』丸善(2013)
モリッシー、J.ほか、上杉和央監訳、『近現代の空間を読み解く』古今書院(2017)
その他、テーマごとに授業内で示します。

課題に対するフィードバックの方法

期末テストについては、14 回目のbモジュール(授業後半)に解説する。

成績評価の方法

中間課題(30 点)、授業への貢献度(30 点)、期末課題(40 点)で評価する。履修人数によって調整する可能性がある。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
社会地理学Ⅱ	**社会地理学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、社会地理学Ⅰで学んだことをさらに専門的に発展させた内容を考えていく。最先端の思想を理解するための手掛かりを提供したい。
授業の後半では、一見政治的とは見られないテーマについて社会地理学・政治地理学な考察を進めていくことにしたい。緑地やアート、歴史などを用いた排除の手法が大きく広がっていることが背後にある。それが持つ意味について受講生とともに考えていきたい。
受講生がニュースや身の回りのことについて、批判的な目を養い、多面的な意見を述べることができるようにすることを到達目標とする。

授業内容

1. 国境、領域、国民国家
2. 植民者になるということ
3. 忘れられる引揚げ
4. 警察、軍は何を守るのか
5. 「無国籍者」について考える
6. 資源とは何か…プラネタリー・アーバニゼーション
7. モニュメント
8. アートと地理学の現在
9. 緑地はなぜつくられるのか
10. 歴史的景観
11. メガイベント
12. 文化財返還の現在
13. アルコールと酔っぱらいの地理学
14. 観光は救いか

受講生の関心や社会情勢によって順番や内容を変えることがある。
毎週、次の週の課題を提示するので、事前学習としてその課題について考え、各授業はじめに発表する時間を設ける。
それを踏まえて教員からの問題提起、関連ビデオの視聴を行い、さらにグループディスカッションを行う。
テキストは月曜日に配布するので、事前・事後学習として読むこと。

履修上の注意

授業冒頭の発表は、無作為に当てるので、しっかり準備をすること。また、授業時間の3分の1ぐらいを使ってグループディスカッションを行うので、常に新聞に目を通し、社会的な事象への関心を高めておくこと。映像資料を用いるため、字幕・音声などに特に必要なことがあれば初回の授業で申し出ること。その他の必要事項も個別に相談すること。
オンライン授業を取り入れる可能性があるので、インターネット環境や機材を整えておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

Oh-o!Meiji で毎週テキストを配布するので、各自読んでおくこと。復習は授業内容の理解を各自確認するとともに、テキストを読み直し、またテーマごとに示された参考文献を読むこと。不明点は早めに担当教員に問い合わせること。

教科書

授業内で配布する。

参考書

倉沢進・浅川達人編『新編　東京圏の社会地図 1975-90』東京大学出版会(2004)
人文地理学会編『人文地理学事典』丸善(2013)
モリッシー、J.ほか、上杉和央監訳、『近現代の空間を読み解く』古今書院(2017)
その他、テーマごとに授業内で示します。

課題に対するフィードバックの方法

レポートについては Oh-o!Meiji 提出とし、コメント機能から評価を示す。

成績評価の方法

中間課題(30 点)、授業への貢献度(30 点)、期末課題(40 点)で評価する。履修人数によって調整する可能性がある。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL141J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
宗教学Ⅰ	**宗教学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、宗教を「信仰体系」としてだけでなく、身体・儀礼・物質文化・共同体・法・都市空間など、多層的な現象として捉える視点を学ぶ。宗教学の基本概念と主要理論を概観しつつ、日本・イスラーム・西洋を中心とした比較的視野を通して、宗教が人間の世界理解や社会構造にどのように関わってきたのかを検討する。また、フィールドワークや具体的事例の分析を通じて、宗教を「生きられた経験」として理解する方法を身につける。宗教をめぐる現代的課題――世俗化、共同体の変容、宗教と法の関係、スピリチュアリティの再浮上など――にも触れ、宗教研究が現代社会に提供しうる視座を探求する。

授業内容

第１回 宗教学とは何か：学問の射程と限界
本回では、宗教学という学問がどのように成立し、どのような問題意識を抱えてきたのかを概観する。宗教という概念自体が近代に形成されたものであることを確認しつつ、宗教を対象化する際に生じる方法論的な限界や、宗教経験の複雑さを扱う難しさについて検討する。受講生自身の宗教観を共有し、学期全体の学びの基盤をつくる。
第２回 宗教経験と身体：現象学的アプローチ
宗教経験を「身体」を通して理解する視点を導入する。メルロ＝ポンティ以降の身体論を手がかりに、祈りや瞑想、儀礼的動作など、宗教的実践が身体化された知覚としてどのように成立するのかを考察する。宗教経験を単なる内面の出来事として扱うことの問題点を検討し、身体性を重視した宗教学の可能性を探る。
第３回 神話・象徴・世界観：宗教的想像力の構造
神話や象徴が宗教的世界観をどのように形づくるのかを学ぶ。エリアーデやレヴィ＝ストロースの議論を参照しながら、神話が共同体の秩序や価値観を支える仕組みを理解する。また、日本・イスラーム・西洋の神話的想像力を比較し、宗教的象徴の多様性と普遍性を検討する。
第４回 儀礼論Ⅰ：通過儀礼と共同体形成
ヴァン・ジェネップやターナーの儀礼論を中心に、誕生・成人・結婚・死などの通過儀礼が共同体の再生産に果たす役割を考察する。リミナリティ(境界性)やコミュニタス(共同性)といった概念を用い、儀礼が個人の変容と社会的統合を同時に実現する仕組みを理解する。
第５回 儀礼論Ⅱ：死・埋葬・追悼の宗教実践
死の儀礼に焦点を当て、埋葬・追悼・祖霊祭祀などの実践を比較する。イスラームにおける遺体の扱い、日本の祖霊観や民俗的死者観を取り上げ、死をめぐる宗教的世界観の違いと共通性を検討する。死の儀礼が共同体の記憶や倫理をどのように支えるのかを考える。
第６回 宗教と共同体：「共同体」の思想と現代社会
イスラームにおける共同体の概念を中心に、宗教が共同体の形成と維持に果たす役割を考察する。宗教法(シャリーア)と共同体倫理の関係、日本の村落共同体や祖先祭祀との比較を通して、宗教的共同体の構造と現代社会における変容を理解する。
第７回 宗教と法：規範・倫理・実践
宗教と法の関係を多角的に検討する。宗教法の基本構造を学びつつ、イスラーム法の特徴、日本の政教分離や宗教法人制度などを取り上げ、宗教的実践が現代の法制度とどのように交錯するのかを考える。宗教的規範と国家法の衝突事例を通して、宗教と公共性の問題を議論する。
第８回 宗教と都市：現代の宗教空間を読む
都市化が宗教のあり方に与える影響を考察する。メガチャーチ、都市モスク、神社・寺院の都市的配置などを例に、都市空間における宗教の可視性・不可視性を読み解く。宗教空間を身体的・象徴的に分析する方法を学ぶ。
第９回 宗教空間の観察と記述
神社・寺院・モスク・教会など、受講生が選択した宗教空間を訪れ、観察と記述を行う。空間構造、動線、音、身体の動き、象徴的配置などに注目し、宗教空間がどのように経験されるのかを実地で学ぶ。
第 10 回 宗教と物質文化：遺体・遺品・聖遺物
宗教における「物」の重要性を扱う。遺体・遺品・聖遺物など、物質が宗教的記憶や権威をどのように媒介するのかを検討する。日本の遺骨文化とイスラームの遺体観を比較し、物質性が宗教的世界観の形成に果たす役割を理解する。
第 11 回 宗教と近代：合理化・世俗化・霊性の再浮上
近代における宗教の変容を、ウェーバーの合理化論や世俗化論を手がかりに検討する。宗教が「見えにくく」なる一方で、スピリチュアリティや新宗教が台頭する現象を分析し、近代社会における宗教の再編成を考える。宗教の「公」と「私」の境界についても議論する。
第 12 回 宗教と他者：比較宗教の方法と倫理
比較宗教研究の方法論と倫理的課題を扱う。比較が持つ創造性と暴力性を検討し、オリエンタリズム批判や異文化理解の問題を踏まえつつ、宗教的他者をどのように理解しうるのかを考える。受講生のフィールドワーク報告をもとに、比較の実践的意義を議論する。
第 13 回 総括：宗教を学ぶとはどういうことか
学期全体の内容を総括し、宗教を学ぶことの意義と課題を再確認する。宗教研究が現代社会にどのような視座を提供しうるのかを議論し、宗教を「知る」ことと「生きる」ことの関係について深く考える機会とする。

履修上の注意

特になし

準備学習(予習・復習等)の内容

特に課さないが、予習の指示が出た場合には予習をしてから授業に出席すること。

教科書

なし。毎回必要な資料は講師が配布する。

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

授業内での有意義な発言等については参加者間で共有する。

成績評価の方法

授業への積極的な参加を求めます。授業中の発言等、授業への貢献を高く評価します。
上記に加え、参加者の人数により、グループあるいは個人での期末発表を課します。
授業への貢献度と発表とを合算して成績を評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL141J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
宗教学Ⅱ	**宗教学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業の後期では、前期で学んだ宗教学の基礎概念・方法論を土台として、宗教をめぐる高度な理論的議論と現代的課題に取り組む。宗教と感情、時間、空間、権力、ジェンダー、医療、メディア、経済、移民、科学など、多様な領域との交差点を検討し、宗教が社会の諸制度や文化実践とどのように相互作用しているのかを多角的に理解する。また、巡礼、聖地、ディアスポラ、環境宗教、ポスト世俗化など、近年の宗教研究の新潮流にも触れ、宗教現象を分析するための理論的視野を広げる。受講生は、比較宗教的アプローチを深化させつつ、宗教を「生きられた経験」として捉えるための分析力と批判的思考をさらに発展させることを目指す。

授業内容

第１回 宗教研究の再定位：前期の総括と後期の課題設定
前期で扱った宗教学の基礎概念・方法論を振り返り、後期ではより高度な理論的議論と比較宗教的分析に取り組むための課題を設定する。宗教研究における「比較」「他者」「身体」「物質性」といったキーワードを再確認し、後期の学習目標を共有する。
第２回 宗教と感情：情動の宗教学
宗教が喚起する恐れ、畏敬、愛、恍惚などの情動に注目し、感情が宗教的実践や共同体形成にどのように関わるのかを検討する。心理学・人類学・宗教学の交差点に位置する研究を参照し、情動の文化差と普遍性を考える。
第３回 宗教と時間：周期・記憶・終末論
宗教が時間をどのように構築するのかを扱う。祭礼の周期性、祖先祭祀における記憶の継承、イスラームやキリスト教の終末論などを取り上げ、宗教的時間が共同体の世界観をどのように支えるのかを考察する。
第４回 宗教と空間Ⅱ：聖地・巡礼・境界
聖地の成立、巡礼の身体性、宗教的境界の設定など、空間をめぐる宗教的実践を比較する。メッカ巡礼、熊野詣、聖地エルサレムなどを例に、宗教空間が政治・歴史・身体とどのように結びつくかを検討する。
第５回 宗教と権力：国家・暴力・抵抗
宗教と政治権力の関係を歴史的・現代的に考察する。国家による宗教統制、宗教的暴力の問題、宗教を基盤とした抵抗運動（例：イラン革命、黒人解放運動）などを取り上げ、宗教が権力とどのように交錯するのかを分析する。
第６回 宗教とジェンダー：身体・規範・再解釈
宗教がジェンダー規範をどのように形成し、また挑戦されてきたのかを検討する。イスラームにおける女性の身体と法、日本の巫女・女性宗教者の役割、フェミニスト神学などを参照し、宗教とジェンダーの複雑な関係を理解する。
第７回 宗教と医療：癒し・身体・ケアの倫理
宗教的治療、祈り、スピリチュアルケア、死生観と医療倫理など、宗教と医療の接点を扱う。日本の看取り文化、イスラームの終末期医療観、宗教的癒しの実践を比較し、ケアの倫理を考える。
第８回 宗教とメディア：可視化・拡散・デジタル宗教
宗教がメディアを通じてどのように表現され、変容してきたのかを検討する。印刷技術、テレビ、SNS、VR などのメディアが宗教的実践に与える影響を分析し、デジタル時代の宗教の新しい形態を考察する。
第９回 宗教と経済：贈与・市場・宗教産業
宗教と経済の関係を、贈与論（モース）、宗教的寄進、巡礼産業、宗教法人の経済活動などを通して考える。宗教が市場とどのように関わり、また市場が宗教をどのように変容させるのかを検討する。
第 10 回 宗教と移民：越境・アイデンティティ・ディアスポラ
移民・難民の宗教実践、ディアスポラ共同体の形成、越境する宗教ネットワークを扱う。日本におけるムスリム移民の宗教生活などを例に、宗教が移動とアイデンティティにどのように関わるかを考察する。
第 11 回 宗教と科学：対立・調和・再編成
宗教と科学の関係を歴史的・哲学的に検討する。進化論論争、医療倫理、AI と宗教、科学技術社会における宗教の再編成などを取り上げ、両者の対立と共存の可能性を考える。
第 12 回 宗教研究の新潮流：ポスト世俗化・新霊性・環境宗教
近年の宗教研究の動向を紹介する。ポスト世俗化論、新霊性運動、環境倫理と宗教、アニミズム再評価などを扱い、宗教研究が現代社会の課題にどのように応答しているかを検討する。
第 13 回 総括：宗教を比較し、語り、未来を構想する
後期の内容を総括し、宗教研究が現代社会にどのような視座を提供しうるのかを議論する。受講生の最終発表を通して、宗教を比較し語ることの倫理と可能性を再確認し、宗教研究の未来を展望する。

履修上の注意

特になし

準備学習（予習・復習等）の内容

特に課さないが、予習の指示が出た場合は予習の上参加のこと。

教科書

特になし。必要な資料は講師が都度配布の予定。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での有意義な発言については参加者間で共有する。

成績評価の方法

授業への積極的参加を求めます。授業内での発言等、授業への貢献度を高く評価します。
加えて参加者の人数に応じてグループあるいは個人での期末発表を課します。
上記2点を合算し成績評価致します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
出版印刷研究	**出版印刷研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

現代日本の出版といういとなみを，産業論，流通論，技術論まで全体的に学ぶ。

授業内容

出版といういとなみ全体を見通しながら，具体的な出版物の形や種類，流通の流れ，電子出版のインパクトなどを取り上げます。
第1回：イントロダクション
第2回：出版といういとなみ
第3回：出版産業の概観その1―仕事の流れ
第4回：出版産業の概観その2―各種データ
第5回：出版物その2―〈書籍〉1
第6回：出版物その3―〈書籍〉2
第7回：出版物その4―〈コミック〉
第8回：出版物その5―〈雑誌〉
第9回：出版社その1
第 10 回：出版社その2
第 11 回：本のカタチ―印刷・製本
第 12 回：流通
第 13 回：電子出版
第 14 回：まとめ

履修上の注意

本・雑誌について，広い視野で学びますから，旺盛な知的好奇心をもって積極的に授業に参加してください。レポートを1回課します（3000 字程度。詳細は授業で説明）。

準備学習（予習・復習等）の内容

配布資料に授業前・授業後に目をとおし，じゅうぶんに理解すること。

教科書

とくに指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考書

授業内で適宜，提示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて Oh-o! Meiji などでフィードバックする。

成績評価の方法

授業への貢献度…30%，レポート…30%，試験…40%

その他

より総合的に書籍と雑誌について学びたい諸君は，「DTP」（事前登録による抽選科目）ならびに，秋学期開講の「編集・企画」もあわせて受講することを勧めます。

科目ナンバー：(AL)SOC341J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
障害学	**障害学**	
担 当 者	開講期	開講地区
野澤 淳史	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

障害(者)に対する認識は、障害学(なかでも障害の社会モデル)の登場とともに大きな転 換を遂げている。この授業では、障害学登場の歴史的意義や到達点を踏まえながら、過去か ら現在に至るまで、社会はどのようにして障害に対する考え方を形作り、いかにして障害者 から生の可能性を剥奪し、そして、健常者中心の社会を作り上げてきたのかを議論する。そのうえで、現代社会に生じている障害をめぐる解決困難な難問と向き合い、粘り強く思考し ていくことを目的にしている。

授業内容

1. はじめに 価値と事実は分かれているか
2. 最重要概念「障害の社会モデル」
3. 優生思想の系譜
4. 戦力ならざる者①ー経済ー
5. 戦力ならざる者②ー戦争ー
6. 被害と障害の間ー環境汚染によって引き起こされる障害をめぐってー
7. "Nothing about Us Without Us!"ー自立生活という生き方と「わがまま」ー
8. 障害者スポーツと感動ポルノー「がんばる障害者」の何が問題かー
9. 合理的配慮と能力主義(1)ー障害学生支援と大学教育ー
10. 合理的配慮と能力主義(2)ーニューロ・ダイバーシティと労働環境ー
11. 「障害の社会モデル」の批判的検討
12. 新優生学と向き合う1ー自然保護の思想・実践と優生思想のつながりー
13. 新優生学と向き合う2ー反出生主義と出生奨励主義ー
14. 障害学のこれから

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

この講義では過去から現在に至るさまざまな障害者運動や、障害をめぐる出来事、事件などを取り上げていきます。ですが、それぞれ詳細に述べる時間は授業の計画上限界があります。どのような事例を扱うかは事前に紹介するので、受講生は各自その概要や歴史的経緯、解決策などを事前に学習してきてください。また、授業後は、配布・紹介された資料(新聞記事や動画)を見るなどして、扱われた事例等の歴史的位置付けや意義を確認してください。

教科書

指定しません。適宜プリントを配布します(紙での配布はしません)。

参考書

星加良司(2007)『障害とは何か-ディスアビリティの社会理論に向けて』生活書院.
飯野由里子・星加良司・西倉実季(2022)『「社会」を扱う新たなモードー「障害の社会モデル」の使い方』生活書院.
ロイ・リチャード・グリンカー(2022)『誰も正常ではないースティグマは作られ、作り変えられる』みすず書房.
など。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 100%

その他

授業の進行状況や受講生の関心等によりシラバスの内容を変更することがあります。

科目ナンバー：(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
障害者・障害児心理学	**障害者・障害児心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
二階堂 千絵	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

我々にとって、障害のある人にとって「障害」とは何だろうか。
障害とは何にとって、誰にとっての「障害」なのだろうか。
本講義では、身体障害、知的障害及び精神障害の概要に触れ、障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援について多角的思考を深めることを目的とする。
その題材として映像教材や文芸作品、マンガやアニメを用い、「障害」ある人への支援について考える。

授業内容

第1回 イントロダクション:我が国における障害者をめぐる歴史
第2回 周産期・乳幼児期の支援
第3回 心身に障害のある子どもとその家族への支援
第4回 疾病のある子どもの支援:疾病のある子どもを支える
第5回 発達障害(神経発達症):基礎知識
第6回 知的障害の基礎知識
第7回 ライフサイクルと発達障害:児童期・青年期
第8回 ライフサイクルと発達障害:成年期
第9回 ノーマライゼーション／インクルージョン
第 10 回 障害のある人が地域で暮らしていくということ
第 11 回 精神障害について考える
第 12 回 障害者の家族を支えるということ(1)
第 13 回 障害者の家族を支えるということ(2)
第 14 回 ケアについて考える

履修上の注意

「障害」を他人事としてだけでなく、自分ごととして思考することを求める。
映像作品を教材として使用するため、年齢によるレーティングに即した表現があることへの理解を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

わからない部分については口頭やリアクションコメントにて質問すること。
前回の授業について復習した上で次回の授業に臨むこと。
講義で取り上げたテーマに関する文献・文芸作品・映像作品, ニュースなどに積極的に触れること。

教科書

使用しないが, 下記に示す参考書の内容を踏まえて講義をする。

参考書

(1)下山晴彦ら監修, 障害者・障害児心理学 (公認心理師スタンダードテキストシリーズ 13)、ミネルヴァ書房, 2022
(2)村上靖彦, ケアとは何か-看護・福祉で大事なこと (中公新書, 2646), 中央公論新社 (2021)
その他随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションコメントにて寄せられた質問や疑問については、基本的にその次の回の講義にてフィードバックする。

成績評価の方法

小テスト40%, リアクションペーパー30%, 期末レポート30%
合計100%として評価する。
【小テスト】
Oh-o!Meiji 上にて各回または数回毎に実施する小テストにより、授業内容の基本知識及び専門用語の理解を評価する。
【リアクションペーパー】
授業内容に関する気づき、理解、疑問点などを簡潔に記述する。
授業内容との関連性、内容の具体性などを基準として評価する。併せて、コメントや質問などを通して、講義内容について主体的に思考しているかを評価する。
【期末レポート】
授業で扱った内容を踏まえ、障

その他

・小テスト及びリアクションペーパーは、講義内容の理解を確認する目的で実施する。
・期末レポートの定酒質方法及び課題内容は講義内で指示する。
・無断欠席や提出物の未提出が多い場合、評価に影響する。
・剽窃が認められた場合には大学の規定に基づき対応する。
生成 AI について
・生成 AI は思考の代替としてではなく、学習補助ツールとして利用すること。
・生成 AI のみを用いてレポート等の課題を作成することは禁止する。
・生成 AI が生成した文章をそのまま課題として提出することは認めない。
・情報探索や理解補助の目的で生成 AI を利用することは認める。
・生成 AI を利用した場合には、その利用方法をレポートに記載すること。
・不適切な利用が認められた場合には大学の規定に基づき対応する。

科目ナンバー：(AL)LAN112M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英語ＩA	**上級英語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

TOEIC のスコアアップを目標にして、授業を進めていきます。TOEIC スコア 650 点以上の取得を目指していきます。最終的には個人の目標そのためには TOEIC の形式に慣れ、問題のパターンを知り、英語の知識の定着を目指していきます。TOEIC のスコアアップのための英語の知識やスキルなど実践的な知識のみならず、さまざまな話題に対応できるように時事英語などにも触れていく予定です。
授業予定は変更になる可能性もあります。

授業内容

授業ではテキストを中心に進めていきますが、テキスト以外にもプリントを利用します。
必要に応じて、授業の進行が変更になる場合もあります。
単語テストや小テスト(テキストの内容の確認)を行って、知識の定着をはかります。
時折、時間を計って、問題を解いていきます。
TOEIC 以外の教材もやっていきたいと思います。
第 1 回 オリエンテーション, Pretest
第 2 回 Unit 1 Restaurant（Listening ）
第 3 回 Unit 1 Restaurant（Reading and Other Materials ）
第 4 回 Unit 2 Offices（Listening ）
第 5 回 Unit 2 Offices（Reading and Other Materials）
第 6 回 Unit 3　Daily Life（Listening）
第 7 回 Unit 3 Daily Life（Reading and Other Materials）
第 8 回 Unit 4　Personnel（Listening ）
第 9 回　Unit 4　　Personnel （Reading and Other Materials）
第 10 回　Unit 5　　Shopping（Listening ）
第 11 回　Unit 5　　Shopping（Reading and Other Materials ）
第 12 回　Unit 6　　Finances（Listening ）
第 13 回　Unit 6　　Finances（Reading and Other Materials ）
第 14 回　a.　春学期試験
　　b.春学期試験の解説

履修上の注意

・受講者自身でも TOEIC のスコアアップに関して、「700 点取得したい」など具体的な目標を持つことが必要です。具体的な目標を持つことで学習への意識も高まります。
・欠席と遅刻は評価に不利になります。欠席や遅刻があると、単語テストや小テストを受験できる回数も減ってきますので、当然その分のスコアも少なくなります。そして授業回数の 3 分の1の欠席があると単位を認定できません。
・授業には予習をして、積極的に参加してください。参加している際には、授業に集中するようにしましょう。
・私語をしたり、居眠りなど授業に関係ないことをしている場合には退室を命じます。
・春学期中に時間があれば、TOEIC　L&R テストの受験もするようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・テキストの指定された箇所を必ず予習をしておくこと。予習の段階では辞書を丁寧にひくようにすること。
・単語テストでは TOEIC に頻出する単語について行うので、単語の学習も習慣づけましょう。
・復習は学習した内容を振り返りましょう、そしてリスニングの場合には配布されたスクリプトを見ながら、音声を聴いて音読の練習をしましょう。(音読は有効です)

教科書

角山照彦、Simon Capper ： A Communicative　Approach to the TOEIC L & R Test　Book 3 (Advanced) 成美堂

参考書

Tex 加藤『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ[増補改訂版]』(TOEIC TEST 特急シリーズ) 朝日新聞出版
『公式 TOEIC Listening and Reading 問題集 12』
その他、必要に応じて指示します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点して個別に返却します。そして注意事項を全体にフィードバックします。
oh-o meiji で提出された課題には、oh-o meiji からコメントをします。

成績評価の方法

学期末試験 50% 小テスト 30% 課題および授業内での取り組み 20%で 60 点以上を取得した学生を合格とします。欠席、遅刻は減点対象となります。遅刻 2 回につき、欠席 1 回とみなします。欠席回数が授業回数の 3 分の1である 4 回に達した際には
単位を認定できません。
初回の授業でも詳細をお話しします。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN112M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英語ＩA	**上級英語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

下記のテキストを用い、様々なトピックに関するニュース映像を見て、内容を理解する能力を養う。
　ビデオ・音声の視聴および文章の読解を通し、語彙や表現に関する知識の拡充や聞き取り能力の向上を図り、色々な分野の英語の内容を把握できるようにする。

授業内容

第 1 回 LESSON 1 Energy-Efficient House [1]
第 2 回 LESSON 1 Energy-Efficient House [2]
第 3 回 LESSON 2 Ex-Racehorses Provide Comfort to Children in Need [1]
第 4 回 LESSON 2 Ex-Racehorses Provide Comfort to Children in Need [2]
第 5 回 LESSON 3 Relief and Despair: Repeal of Logging Ban Divides Kenya [1]
第 6 回 LESSON 3 Relief and Despair: Repeal of Logging Ban Divides Kenya [2]
第 7 回 LESSON 4 Bauhaus Design Turns 100 [1]
第 8 回 LESSON 4 Bauhaus Design Turns 100 [2]
第 9 回 LESSON 5 How Single-Use Plastic Still Rules the World [1]
第 10 回 LESSON 5 How Single-Use Plastic Still Rules the World [2]
第 11 回 LESSON 6 Save Koalas from Chlamydia [1]
第 12 回 LESSON 6 Save Koalas from Chlamydia [2]
第 13 回 LESSON 7 Notre-Dame Cathedral: Risen from the Ashes
第 14 回 a. 試験 / b. 解答・解説

履修上の注意

毎回授業前に、指定された範囲の予習を行なっておくこと。遅刻は授業開始から 30 分までとする。遅刻 3 回で欠席 1 回扱いとする。学期末に期末試験を行うが、出席が授業日数の 2/3 に達しない場合、期末試験の受験資格無しとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

1つのレッスンを授業2回程度のペースで進めることとし、この授業では Lesson 1から Lesson 7までを扱う予定である。授業中に視聴したビデオおよびリーディングの文章に関しては、翌週にその内容を確認するので、語句等を調べて予めある程度内容を把握しておくこと。また、学期末試験に向けて、教科書だけでなく板書した内容も含めて、復習しておく必要がある。(各授業毎計 2 時間程度)

教科書

『AFP World News Report 8』
Makoto Shishido / Kevin Murphy / Mariko Takahashi
(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末試験および授業への参加度により評価する。(授業への参加度 20%、期末試験 80%)

その他

科目ナンバー：(AL)LAN112M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英語ＩＢ	**上級英語ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、TOEIC のスコアアップを目標にして、授業を進めていきます。TOEIC スコア 650 点以上の取得を目指していきます。最終的には個人の目標そのためには TOEIC の形式に慣れ、問題のパターンを知り、英語の知識の定着を目指していきます。TOEIC のスコアアップのための英語の知識やスキルなど実践的な知識のみならず、さまざまな話題に対応できるように時事英語などにも触れていく予定です。
授業予定は変更になる可能性もあります。

授業内容

秋学期と同様に、授業ではテキストを中心に進めていきますが、テキスト以外にもプリントを利用します。
必要に応じて、授業の進行が変更になる場合もあります。
単語テストや小テスト(テキストの内容の確認)を行って、知識の定着をはかります。
時折、時間を計って、問題を解いていきます.
また TOEIC 以外のこともやっていきたいと思っております。
第１回　秋学期オリエンテーション
第２回 Unit 7 Transportation（Listening ）
第３回 Unit 7 Transportation（Reading and Other Materials ）
第４回 Unit 8　Technology（Listening ）
第５回 Unit 8　Technology（Reading and Other Materials）
第６回 Unit 9　 Health（Listening）
第７回 Unit 9　Health（Reading and Other Materials）
第８回 Unit 10　Travel（Listening ）
第９回　Unit　10　　Travel　(Reading and Other Materials)
第 10 回　Unit 11 Business
第 11 回　Unit 12　 Entertainment
第 12 回　Unit 13　Education
第 13 回　Unit 14　Housing
第 14 回　a.　秋学期試験
　　b.秋学期試験の解説

履修上の注意

・受講者自身でも TOEIC のスコアアップに関して、「700 点取りたい」とか「具体的な目標を持つことが必要です。
・欠席と遅刻は評価に不利になります。欠席や遅刻があると、単語テストや小テストを受験できる回数も減ってきますので、
・当然その分のスコアも少なくなります。そして授業回数の 3 分の1の欠席があると単位が認定できません。
・授業には予習をして、積極的に参加してください。参加している際には、授業に集中するようにしましょう。
・私語をしたり、居眠りなど授業に関係ないことをしている場合には退室を命じます。
・秋学期中になるべく TOEIC L&R テストの受験もするようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・テキストの指定された箇所を必ず予習をしておくこと。予習の段階では辞書を丁寧にひくようにすること。
・単語テストでは TOEIC に頻出する単語について行うので、単語の学習も習慣づけましょう。
・復習は学習した内容を振り返りましょう、そしてリスニングの場合には配布されたスクリプトを見ながら、音声を聴いて音読の練習をしましょう。(音読は有効です)

教科書

角山照彦、Simon Capper ： A Communicative　Approach to the TOEIC L & R Test　 Book 3 (Advanced) 成美堂

参考書

Tex 加藤『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ[増補改訂版]』(TOEIC TEST 特急シリーズ)　朝日新聞出版
『公式 TOEIC　Listening　and Reading 問題集 12』

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点して個別に返却します。そして注意事項を全体にフィードバックします。
oh-o meiji で提出された課題には、oh-o meiji からコメントをします。

成績評価の方法

学期末試験 50% 小テスト 30% 課題および授業内での取り組み 20%で 60 点以上を取得した学生を合格とします。
欠席、遅刻は減点対象となります。遅刻 2 回につき、欠席 1 回とみなします。欠席回数が授業回数の 3 分の1である 4 回に達した際には
単位を認定できません。
初回の授業でも詳細をお話しします。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN112M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英語ＩＢ	**上級英語ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部　了也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

下記のテキストを用い、様々なトピックに関するニュース映像を見て、内容を理解する能力を養う。
　ビデオ・音声の視聴および文章の読解を通し、語彙や表現に関する知識の拡充や聞き取り能力の向上を図り、色々な分野の英語の内容を把握できるようにする。

授業内容

第１回 LESSON 8 Sweden Grapples with Poverty [1]
第２回 LESSON 8 Sweden Grapples with Poverty [2]
第３回 LESSON 9 Chinese Youths Trade City Rat Race for Pottery [1]
第４回 LESSON 9 Chinese Youths Trade City Rat Race for Pottery [2]
第５回 LESSON 10 Philippine Jeepneys Face Uncertain Future [1]
第６回 LESSON 10 Philippine Jeepneys Face Uncertain Future [2]
第７回 LESSON 11 From Screen to Reality: South Korea K-Drama Tourism Boom [1]
第８回 LESSON 11 From Screen to Reality: South Korea K-Drama Tourism Boom [2]
第９回 LESSON 12 NASA Mars Exploration and Europa Mission [1]
第 10 回 LESSON 12 NASA Mars Exploration and Europa Mission [2]
第 11 回 LESSON 13 Britain's Iconic Red Phone Boxes Find New Lease of Life [1]
第 12 回 LESSON 13 Britain's Iconic Red Phone Boxes Find New Lease of Life [2]
第 13 回 LESSON 14 Brain Stimulation Can Help Injured People Walk
第 14 回 a. 試験 / b. 解答・解説

履修上の注意

毎回授業前に、指定された範囲の予習を行なっておくこと。遅刻は授業開始から 30 分までとする。遅刻 3 回で欠席 1 回扱いとする。学期末に期末試験を行うが、出席が授業日数の 2/3 に達しない場合、期末試験の受験資格無しとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

1つのレッスンを授業2回程度のペースで進めることとし、この授業では Lesson 8 から Lesson 14 までを扱う予定である。授業中に視聴したビデオおよびリーディングの文章に関しては、翌週にその内容を確認するので、語句等を調べて予めある程度内容を把握しておくこと。また、学期末試験に向けて、教科書だけでなく板書した内容も含めて、復習しておく必要がある。(各授業毎計 2 時間程度)

教科書

『AFP World News Report 8』
Makoto Shishido / Kevin Murphy / Mariko Takahashi
(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末試験および授業への参加度により評価する。(授業への参加度 20%、期末試験 80%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN312M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英語ⅡA	**上級英語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
西尾 洋子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
当科目では、TOEIC 等、資格試験の対策を軸にした技能向上と併せ、英語文化の教養を高めるため上質で有名な英文にも触れる。語彙、文法、読解、聴解のスキルアップに通じる演習問題と並行して、時事英語(英字新聞や BBC 等の最新ニュース素材)や英文学の名場面も採り入れ、知的探求と共に応用力の養成を図る。映画などの視聴覚教材も用い、最新のメディア英語と英文学とを横断しながら、広い視野と英語の語感を養いたい。

授業内容
授業計画(授業の展開により適宜、若干の変更もあり得る)
(1)講義の概要と計画 前期の教材プリント配布および担当の割り振り
(2)(3)イントロダクション(概説を英文エッセイで読む)
(4)(5)Scree English (based on the movie)
(6)(7)提案/ 時制の演習
(8)(9)助動詞、イディオム
(10)(11)フレーズリーディング
(12)(13)代名詞、前置詞
(14)a Review、b 前期の総括

履修上の注意
英語の語感や教養を高めたい方、広い視野で英語世界を探求していきたい方、好奇心を持って取り組んで下さい。
TOEIC600 点未満の人にも、800 点以上の人にも、取り組み甲斐のあるカリキュラムです。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習は必須。語句調べ、音読、下読み等。

教科書
The TOEIC Test Trainer Target 650 (Cengage Learning)
その他の英文資料は、その都度、授業にて教員から配布します。

参考書
授業内で折々に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法
授業内で直接、解答、解説、講評、返却等を行う。

成績評価の方法
学期末課題(50%)と授業への貢献度(50%)を総合評価。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN312M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英語ⅡB	**上級英語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
西尾 洋子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
当科目では、TOEIC 等、資格試験の対策を軸にした技能向上と併せ、英語文化の教養を高めるため上質で有名な英文にも触れる。語彙、文法、読解、聴解のスキルアップに通じる演習問題と並行して、時事英語(英字新聞や BBC 等の最新のニュース素材)を題材に用い、さらに英文学作品の名場面を通して、知的探求を行いながら応用力の養成を図る。映画などの視聴覚教材も用い、立体的に作品世界をとらえる機会を設けていく予定。最新のメディア英語と英文学とを横断しながら、広い視野と英語の語感を養いたい。

授業内容
授業計画(授業の展開により適宜、若干の変更もあり得る)
(1)イントロダクション
(2)(3)接続詞
(4)(5)関係詞
(6)(7)分詞構文
(8)(9) 仮定法
(10)(11)スキャニング
(12)(13)Screen English・リーディング
(14)a 学年末の総括, b 試験

履修上の注意
英語の語感や教養を高めたい方、広い視野で英語世界を探求していきたい方、好奇心を持って取り組んで下さい。
TOEIC600 点未満の人にも、800 点以上の人にも、取り組み甲斐のあるカリキュラムです。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習は必須。語句調べ、音読、下読み等。

教科書
The TOEIC Test Trainer Target 650 (Cengage Learning)

参考書
授業の中で折々に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法
授業内で直接、解答、解説、講評、返却等を行う。

成績評価の方法
学期末試験(50%)と授業への貢献度(50%)を総合評価。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英文解釈 I	**上級英文解釈 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、文学部の学生にふさわしい英文読解力を身につけることが目標です。とはいえ、まずは読書の楽しさを知ってもらうべく、できるだけ楽しく読める作品を中心に取り上げるつもりです。春学期は「怪奇小説」からはじめ、読者をこわがらせるために、作家がどのような工夫を凝らしているのか、どのように物語を組み立てているのかを丁寧に読み解いていきます。(そこまで怖い作品ではないので安心してください。)

英文読解は、単なる英語のお勉強ではなく、思考力を鍛える訓練でもあります。言い換えれば、自分の言葉に向き合うことです。怪奇小説の次は、ジョージ・オーウェルのエッセイを読み、論理的に文章を把握する力を養成したいと考えています。

授業内容

以下はあくまで予定なので、変更する場合もあります。

(1)初回アンケート／授業内容の確認／注意事項の説明など

(2～6)W. W. Jacobs, "The Monkey's Paw" 読解:担当者の発表、解説・補足

(7)George Orwell 紹介

(8～13)G. Orwell, "Politics and the English Language" 読解:担当者の発表、解説、補足

(14)春学期のまとめ ／期末試験

履修上の注意

1. 辞書は毎回持参する。基本的に、携帯電話は使用不可(要相談)。

2. 15 分以上遅れての入室は、原則として認めない。

3. 長時間にわたる、あるいは慢性的「居眠り」に関しては、出席とみなさない。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生は、しっかり準備をして授業にのぞんでください。授業の場で、慌てて辞書を引くことがないように。

翻訳を参照してもかまいませんが、授業では、訳文をただ読み上げるのではなく、どうしてその解釈になるのかをじっくり見ていきます。そのため、自分の力で英文を読み解いていないと、授業で質問を受けたときに、答えられない恐れがあります。

教科書

プリントを配布、または、Oh-o! Meiji にデータで提示する。

参考書

授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点(授業への参加姿勢、リアクションペーパー／レポートの内容):40%

2. 期末試験:60%

(注)欠席は 4 回まで。それを超えると、期末試験の受験資格を失います。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英文解釈 I	**上級英文解釈 A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山西 治男	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

「授業の概要」

1)まとまった英文を読むことで、英文法を復習しつつ、英文読解力・精読力を養成する。

2)英語で書かれた、エッセイや英米の物語作品などを課題文として扱う。

「到達目標」

1)英文の長文読解力の養成、英語の精読する力をつける

2)英語の文法事項であいまいなものをなくす。

3)日本語と英語との違いを理解する。(翻訳の基礎を学ぶ)

授業内容

第 1 回:英文の読解力とは？･･･読解に必要なものについて(授業の進め方の説明も含む)

第 2 回:英語のエッセイを読む(1)

第 3 回:英語のエッセイを読む(2)

第 4 回:英語のエッセイを読む(3)

第 5 回:英語のエッセイを読む(4)

第 6 回:英語のエッセイを読む(5)

第 7 回:英語の短編作品を読む(1)

第 8 回:英語の短編作品を読む(2)

第 9 回:英語の短編作品を読む(3)

第 10 回:英語の短編作品を読む(4)

第 11 回:英語の短編作品を読む(5)

第 12 回:英語の論説文を読む(1)

第 13 回:英語の論説文を読む(2)

第 14 回:英語の論説文を読む(3)･･･まとめ

履修上の注意

英文法の基礎を復習し、しっかりとした「使える」英文法の力も養成していく。その基礎の上に、英語の読む上で必要な知識(英米の文化的背景知識など)やスキルを身につけていく。かなり長い英文の題材も扱う予定なので、積極的に取り組む姿勢、粘り強く英文を読解する気持ちが求められます。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題文を熟読すること。しっかりと英和辞典など、辞書を活用すること。

課題文を十分に読み込んでくること。自分なりの訳文を作成することが求めれます。

教科書

『やさしい翻訳入門』山西・中野編(DTP 出版)

＊その他、必要なものは適宜配布する。

参考書

『ネイティブスピーカーの英語感覚』大西他 (研究社出版)

『翻訳の技法』飛田茂雄 (研究社出版)

『英文法の疑問』大津由紀雄 (NHK 出版)

課題に対するフィードバックの方法

各受講者に対して、Oh-O-Meiji で、短い講評を行う。また、各課題提出後の授業で、英文解釈上のポイントとなる講評・説明を行う。

成績評価の方法

以下の3つの点から、総合的に評価します。

1)課題文の訳出・まとめレポート、(5 回程度、50%)

2)教科書からの課題レポート (3 回、30%)

3)学期末のまとめのレポート(20%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英文解釈Ⅱ	**上級英文解釈 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、文学部の学生にふさわしい英文読解力を身につけることが目標です。秋学期は、春学期の応用編として、怪奇小説も少し凝った作品を取り上げます。また、英文学における短編の傑作も取り上げる予定です。それらの作品の英文読解を通して、文化や歴史などにも幅広く関心を持ち、理解を深めてもらいたいと思います。その助けとなるように、映像資料も取り入れます。楽しみながら視野拡大に努めてください。

授業内容

以下はあくまで予定なので、変更する場合もあります。
(1)初回アンケート／授業内容の確認／注意事項の説明など
(2～5)Elizabeth Bowen, "The Demon Lover" 読解:担当者の発表、解説・補足
(6)英文学における短編小説概観:Joseph Conrad, Thomas Hardy, Katherine Mansfield, E. M. Forster などの紹介
(7～11)短編小説読解:担当者の発表、解説、補足
(12･13)映像資料紹介:一部上映・解説
(14)春学期のまとめ ／期末試験

履修上の注意

1. 辞書は毎回持参する。基本的に、携帯電話は使用不可(要相談)。
2. 15 分以上遅れての入室は、原則として認めない。
3. 長時間にわたる、あるいは慢性的「居眠り」に関しては、出席とみなさない。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講生は、しっかり準備をして授業にのぞんでください。授業の場で、慌てて辞書を引くことがないように。
翻訳を参照してもかまいませんが、授業では、訳文をただ読み上げるのではなく、どうしてその解釈になるのかをじっくり見ていきます。そのため、自分の力で英文を読み解いていないと、授業で質問を受けたときに、答えられない恐れがあります。

教科書

プリントを配布、または、Oh-o! Meiji にデータで提示します。

参考書

授業内で紹介・解説します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点(授業への参加姿勢、リアクションペーパー／レポートの内容):40%
2. 期末試験:60%
(注意)欠席は 4 回まで。それを超えると、期末試験の受験資格を失います。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN212M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級英文解釈Ⅱ	**上級英文解釈 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山西 治男	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「授業の概要」
1)まとまった英文を読むことで、英文法を復習しつつ、英文読解力・精読力を養成する。
2)英語で書かれた、エッセイや英米の短編小説や詩、論説文などを課題文として扱う。
「到達目標」
1)英文の長文読解力の養成、英語の精読する力をつける
2)英語の文法事項であいまいなものをなくす。
3)日本語と英語との違いを理解する。(翻訳の基礎を学ぶ)

授業内容

第 1 回:英文の読解力とは？･･･読解に必要なものについて(授業の進め方の説明も含む)
第 2 回:英語のエッセイを読む(1)
第 3 回:英語のエッセイを読む(2)
第 4 回:英語のエッセイを読む(3)
第 5 回:英語のエッセイを読む(4)
第 6 回:英語のエッセイを読む(5)
第 7 回:英語の短編作品を読む(1)
第 8 回:英語の短編作品を読む(2)
第 9 回:英語の詩を読む(1)
第 10 回:英語の詩を読む(2)
第 11 回:英語の詩を読む(3)
第 12 回:英語の論説文を読む(1)
第 13 回:英語の論説文を読む(2)
第 14 回:英語の論説文を読む(3)･･･まとめ

履修上の注意

英文法の基礎を復習し、しっかりとした「使える」英文法の力も養成していく。その基礎の上に、英語の読む上で必要な知識(英米の文化的背景知識など)やスキルを身につけていく。かなり長い英文の題材も扱う予定なので、積極的に取り組む姿勢、粘り強く英文を読解する気持ちが求められます。
＊また、課題文の全訳と英文解釈上のポイント整理とをしたレポートを数回程度提出することが必須です。かなり tough な課題となりますので、注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題文を熟読すること。しっかりと英和辞典など、辞書を活用すること。
課題文を十分に読み込んでくること。自分なりの訳文を作成することが求めれます。

教科書

教科書は使用しない予定。必要なものは、適宜授業内で配布・紹介などをする。

参考書

・朱牟田夏雄『翻訳の常識』(八潮出版)
・中村保男『翻訳の秘訣』(新潮選書)
・中村保男『英和翻訳の原理・技法』(日外アソシエーツ)
・中原道喜『誤訳の構造』(吾妻書房)
・飛田茂雄『翻訳の技法』(研究社出版)
・斎藤兆史『英語の味わい方』(NHKブックス)
・池上嘉彦『〈英文法〉を考える』(ちくまライブラリー)
・柳瀬尚紀『翻訳はいかにすべきか』(岩波新書 652)
・丸山真男・加藤周一『翻訳と日本の近代』(岩波新書 580)
・佐々木高政『新訂 英文解釈考』(金子書

課題に対するフィードバックの方法

各受講者に対して、Oh-O-Meiji で、短い講評を行う。また、各課題提出後の授業で、英文解釈上のポイントとなる講評を全体に行う。

成績評価の方法

以下の3つの点から、総合的に評価します。
1) 課題文の訳出・まとめレポート、(5 回程度、60%)
2)課題図書からのレポート (20%)＊参考書を参照のこと
3)学期末のまとめのレポート(20%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN331F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語会話A	**上級フランス語会話A**	
担 当 者	開講期	開講地区
ビゼ, フランソワ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
This spring semester will be devoted to oral expression of the past. We will begin with simple exercises based on photographs (various events, the Notre-Dame de Paris fire). Next, we will work on documentaries. The theme will be urban transformation and the conversion of industrial sites into cultural sites (Musée d'Orsay, Parc de La Villette, Inujima, etc.).
Nous consacrerons ce semestre de printemps à l'expression orale du passé. Nous commencerons avec des exercices simples, à partir de photographies (événements divers, incendie de Notre-Dame-de-Paris). Dans un deuxième temps, nous travaillerons sur des documentaires. La thématique abordée sera : les transformations urbaines, et la réhabilitation des sites industriels en sites culturels (musée d'Orsay, parc de La Villette, Inujima…).

授業内容
第1回 : « Que s'est-il passé ? »
第2回:« Que s'est-il passé ? » (2)
第3回:L'incendie de Notre-Dame
第4回:L'incendie de Notre-Dame (2)
第5回:Exercice sur une rue de Paris
第6回:Exercice sur une rue de Paris (2)
第7回:Documentaire sur le musée d'Orsay
第8回:Documentaire sur le musée d'Orsay (2)
第9回:Documentaire sur le musée d'Orsay (3)
第 10 回:Documentaire sur le parc de La Villette
第 11 回:Documentaire sur le parc de La Villette (2)
第 12 回 : Documentaire sur la cité de la Musique
第 13 回:Exercice sur Inujima
第 14 回:Exercice sur Inujima (2)

履修上の注意
Regular attendance and consistent work will be required.
Une participation au cours et un travail régulier seront exigés.

準備学習(予習・復習等)の内容
The proposed texts should be read very carefully in order to prepare for the reading sessions in class.
Les textes proposés devront être lus très attentivement afin de préparer les séances de lecture en classe.

教科書
Nothing

参考書
Nothing

課題に対するフィードバックの方法
Nothing

成績評価の方法
40% for the first assignment, 60% for the second.
40% pour le premier devoir, 60% pour le second.

その他
Nothing

科目ナンバー:(AL)LAN331F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語会話A	**上級フランス語会話A**	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
Discussions à partir de thèmes et questions préparées.

授業内容
1. Internet
2. Les animaux domestiques
3. Le souvenir
4. Les arts
5. Le regret
6. La mode
7. La simplicité
8. La gastronomie
9. Les librairies
10. Chance et probabilités
11. Les cafés
12. L'approbation
13. Bonne et mauvaise humeur
14. Jeux de rôles et mises en situations

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容
Connaitre les points de grammaire de base (temps du passé, du futur, subjonctif et conditionnel, pronoms) et préparer le vocabulaire à l'avance.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法
課題を出す時に説明する。

成績評価の方法
Participation + niveau de l'oral (intonation et prononciation aussi) + présence

その他

科目ナンバー:(AL)LAN331F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語会話B	**上級フランス語会話B**	
担 当 者	開講期	開講地区
ビゼ, フランソワ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

This autumn semester, we will analyse a film by Mizoguchi Kenji, 赤線地帯, Street of Shame, and a film by the Dardenne brothers, Rosetta. These analyses will give rise to discussions and oral presentations. The aim of this course is to introduce students to auteur cinema and encourage them to express their aesthetic judgements.
Nous consacrerons ce semestre d' automne à l' analyse d' un film de Mizoguchi Kenji, 赤線地帯, La Rue de la honte, et d' un film des frères Dardenne, Rosetta. Ces analyses donneront lieu à des discussions et des exposés oraux. L' objectif de ce cours est d' ouvrir les étudiants au cinéma d' auteur et d' encourager l' expression de leur jugement esthétique.

授業内容

第1回 : Quelques remarques sur le cinéma
第2回:Projection de La Rue de la honte
第3回:Discussion (1)
第4回:Discussion (2)
第5回:Exposés (1)
第6回:Discussion (3)
第7回:Exposés (2)
第8回:Projection de Rosetta
第9回:Discussion (1)
第 10 回:Discussion (2)
第 11 回:Exposés (1)
第 12 回 : Discussion (3)
第 13 回:Exposés (2)
第 14 回:Exposés (3)

履修上の注意

Regular attendance and consistent work will be required.
Une participation au cours et un travail régulier seront exigés.

準備学習(予習・復習等)の内容

Students are encouraged to prepare for each session by reviewing their notes.
Les étudiants sont invités à préparer chaque séance en relisant leurs notes.

教科書

Nothing

参考書

Nothing

課題に対するフィードバックの方法

Nothing

成績評価の方法

40% for the first assignment, 60% for the second.
40% pour le premier devoir, 60% pour le second.

その他

Nothing

科目ナンバー:(AL)LAN331F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語会話B	**上級フランス語会話B**	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Discussions à partir de thèmes et questions préparées.

授業内容

1. le cinéma
2. prendre une décision
3. l'indifférence
4. mon quartier
5. la tv
6. les vacances
7. insupportable !
8. avoir de l'audace
9. donner des conseils
10. le verbe passer
11. faire des cadeaux
12. l'habitude
13. les supermarchés
14. jeux de rôles et mises en situations

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

Connaitre les points de grammaire de base (temps du passé, du futur, subjonctif et conditionnel, pronoms) et préparer le vocabulaire à l'avance.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題を出す時に説明する。

成績評価の方法

Participation + niveau de l'oral (intonation et prononciation aussi) + présence

その他

科目ナンバー:(AL)LAN331N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語講読A	**上級フランス語講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Nous allons lire principalement des articles de journaux ou de web français. Il y sera probablement question des problèmes sociaux qui agitent la France, du "wokisme" à la politique en passant par la loi immigration. Les articles peuvent être difficiles mais je serai là pour vous aider à les décrypter. J'expliciterai les points de grammaire difficiles en révisant les fondamentaux. La lecture de ces articles et mes commentaires vous amèneront à approfondir la compréhension de la société française et de sa culture. S'il y a des articles intéressants sur le Japon, nous pourrons aussi les lire en tentant d'analyser le regard actuel français sur le Japon.

フランスの新聞やネット記事を中心に授業を進めます。フランスの社会問題、ジェンダーや政治、話題のニュース、移民問題などが予想されます。駿河台に来ると折角身につけたフランス語力が落ちる可能性があるので、フランス語の勉強を続けたい人は一つでも多く「上級」科目をとるといいと思います。記事の読解は難しいことが多々ありますが、そうした箇所は私が授業で説明します。文法の基礎の復習もときどき兼ねるでしょう。そのときどきの記事を読むことによって現代フランス社会の、そして広くフランス文化の理解が深まるはずです。日本に関して面白い記事があった場合は、それも紹介します。現代のフランスの日本に対する眼差しを分析しながら読みましょう。

授業内容

J'apporterai des articles d'actualités françaises que nous lirons ensemble.
第1週:授業説明、勉強法
第 2 週から第 13 週:新聞やネット記事の読解と解説
第 14 週:テスト

履修上の注意

Lire et relire les textes. Apprendre le vocabulaire. Poser des questions en classe. Vous serez aussi amené à discuter en classe des problèmes politiques et sociaux.
記事を読んで読み直すこと。語彙を覚えること。授業中に質問すること。政治や社会問題について授業で意見を交換することも出てきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

Préparer le texte : chercher le vocabulaire, tenter de trouver les expressions idiomatiques, chercher sur internet et autres le contexte, les noms propres que vous ne connaissez pas. Traduire
Réviser en relisant le texte
予習:語彙を探す、定形表現を見つける、インターネットなどでコンテキストや知らない固有名詞について調べる。
翻訳
復習:テキストを読み返しながら。

教科書

プリント

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題ごとに授業でフィードバック。

成績評価の方法

毎回の参加 50-70%+試験 50-30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN331N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語講読B	**上級フランス語講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Nous allons lire principalement des articles de journaux ou de web français. Il y sera probablement question des problèmes sociaux qui agitent la France, du "wokisme" à la politique en passant par la loi immigration. Les articles peuvent être difficiles mais je serai là pour vous aider à les décrypter. J'expliciterai les points de grammaire difficiles en révisant les fondamentaux. La lecture de ces articles et mes commentaires vous amèneront à approfondir la compréhension de la société française et de sa culture. S'il y a des articles intéressants sur le Japon, nous pourrons aussi les lire en tentant d'analyser le regard actuel français sur le Japon.

フランスの新聞やネット記事を中心に授業を進めます。フランスの社会問題、ジェンダーや政治、話題のニュース、移民問題などが予想されます。駿河台に来ると折角身につけたフランス語力が落ちる可能性があるので、フランス語の勉強を続けたい人は一つでも多く「上級」科目をとるといいと思います。記事の読解は難しいことが多々ありますが、そうした箇所は私が授業で説明します。文法の基礎の復習もときどき兼ねるでしょう。そのときどきの記事を読むことによって現代フランス社会の、そして広くフランス文化の理解が深まるはずです。日本に関して面白い記事があった場合は、それも紹介します。現代のフランスの日本に対する眼差しを分析しながら読みましょう。

授業内容

J'apporterai des articles d'actualités françaises que nous lirons ensemble.
第1週:授業説明、勉強法
第 2 週から第 13 週:新聞やネット記事の読解と解説
第 14 週:テスト

履修上の注意

Lire et relire les textes. Apprendre le vocabulaire. Poser des questions en classe. Vous serez aussi amené à discuter en classe des problèmes politiques et sociaux.
記事を読んで読み直すこと。語彙を覚えること。授業中に質問すること。政治や社会問題について授業で意見を交換することも出てきます。

準備学習(予習・復習等)の内容

Préparer le texte : chercher le vocabulaire, tenter de trouver les expressions idiomatiques, chercher sur internet et autres le contexte, les noms propres que vous ne connaissez pas. Traduire
Réviser en relisant le texte
予習:語彙を探す、定形表現を見つける、インターネットなどでコンテキストや知らない固有名詞について調べる。
翻訳
復習:テキストを読み返しながら。

教科書

プリント

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題ごとに授業でフィードバック。

成績評価の方法

毎回の参加 50-70%+試験 50-30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN331N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語作文A	**上級フランス語作文A**	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
Chaque semaine, à partir d'un thème et d'un point de grammaire, vous allez écrire de petits textes et les lire en classe.

授業内容
1. Faire des phrases plus riches en français
2. Écrire une recette de cuisine (impératif)
3. Présenter un voyage organisé (futur)
4. Souvenirs du collège (imparfait)
5. Donner des conseils (impératif)
6. Écrire une offre d'emploi
7. Même prononciation mais orthographe différente (homophonie)
8. Verbes pronominaux et réfléchis (présent)
9. Verbes pronominaux et réfléchis (passe composé)
10. Quiz
11. Passé simple
12. Interrogation inversée (forme de politesse)
13. Imaginer (conditionnel)
14. Les difficultés du français

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容
Connaitre les points de grammaire de base (temps du passé, du futur, subjonctif et conditionnel, pronoms) et
préparer le vocabulaire à l'avance.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法
課題を出す時に説明する。

成績評価の方法
Présence + Participation + Niveau à l'écrit

その他

科目ナンバー:(AL)LAN331N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
上級フランス語作文B	**上級フランス語作文B**	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
Chaque semaine, à partir d'un thème et d'un point de grammaire, vous allez écrire de petits textes et les lire en classe.

授業内容
1. Les difficultés du français (ponctuation)
2. Dialogue de BD
3. Imaginez le 22e siècle (futur)
4. Dialogue de film
5. Présentez un membre de votre famille
6. Faire une critique de film
7. Titres de presse (forme passive)
8. Présentez votre quartier
9. Lettre de réclamation
10. Raconter un rêve
11. Devinettes personnages célèbres
12. Déclarer sa flamme
13. Problèmes de santé
14. Invention

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容
Connaitre les points de grammaire de base (temps du passé, du futur, subjonctif et conditionnel, pronoms) et
préparer le vocabulaire à l'avance.

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法
課題を出す時に説明する。

成績評価の方法
Participation, présence (assiduité) et production écrite.

その他

科目ナンバー：(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
小説研究	**小説研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

小説テクストには文字として記されていない空白や欠落がある。その空白や欠落を想像力によって埋めながら読み進めていく作業は、古い地図やガイドブック、文献を頼りに名所を訪れる街歩きと似ている。本科目は「街と小説」をキーワードに、様々な街を舞台とした小説テクストの空白や欠落を読み解き、私たちの想像力がそこにどのような作用を及ぼしていくかについて考えていくことを目標とする。前半は浅草を舞台とした小説、後半はその他の東京都内を舞台とした小説を扱う。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 谷崎潤一郎「秘密」
第3回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」
第4回 室生犀星「幻影の都市」
第5回 川端康成「浅草紅団」
第6回 堀辰雄「水族館」
第7回 武田麟太郎「日本三文オペラ」
第8回 寺山修司「浅草放浪記」
第9回 泉鏡花「夜行巡査」
第 10 回 田山花袋「少女病」
第 11 回 室生犀星「桃色の電車」
第 12 回 谷崎潤一郎「途上」
第 13 回 森鷗外「雁」
第 14 回 まとめ

履修上の注意

1. 授業の最初に当日扱う小説について感想を受講者に求める場合がある。受講に際しては、基本的なマナーを守って積極的な姿勢で臨むよう心がけること。
2. 対象となるテクスト等についてや、成績評価に関する重要な情報を初回の授業において説明するので、受講を希望する者は必ず初回の授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回で取り上げるテクストは必ず読んでおくこと。授業後は、講義をふまえて各自の見解をまとめておくこと。

教科書

上記テクストが収録された文庫本。入手困難なものはプリントを配布する。

参考書

金井景子・樋沢健・能地克宜・津久井隆・上田学・広岡祐『浅草文芸ハンドブック』(勉誠出版)

課題に対するフィードバックの方法

毎回、講義内容に基づいたミニレポートを提出してもらう。提出されたコメントのうち、全体にフィードバックすべき内容が記されているものについては、次回の講義冒頭で紹介・補足等を行う。

成績評価の方法

学期末レポート 60%、リアクションペーパー(ミニレポート)等 40%

その他

受講者の興味・関心によっては、シラバス記載の文芸作品以外の文芸作品を扱う場合もある。

科目ナンバー：(AL)SOC211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
情報社会論	**情報社会論**	
担 当 者	開講期	開講地区
是永 論	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

今から一世紀にさかのぼる間に、私たちの社会生活は、多様なメディアとの関係において展開してきた。近年のインターネットの普及などによりさらに新たな状況の展開を迎える中で、この講義では、メディアと社会の関係を、コミュニケーションの観点により基礎からとらえ直す。そのことは、社会学を通して社会の将来を見通す手がかりともなるだろう。
この講義では、コミュニケーションを中心的な視点に置きながら、メディアと社会の関係を捉え直すことを通じて、社会学の考え方について学ぶことを目的とする。

授業内容

1 コミュニケーションとは何か
2 ことばとコミュニケーション
3 談話を理解するメカニズム
4 文字のコミュニケーション
5 映像のコミュニケーション
6 親密性のコミュニケーション
7 メディアの影響力
8 世論と多数派形成
9 流行と普及
10 うわさのコミュニケーション
11 説得のコミュニケーション
12 全体の小括・試験・評価方法についての確認
13 スポーツ文化とコミュニケーション
14 a.中間課題の解説
b.試験

履修上の注意

資料の配布および課題の提出は原則としてすべてオンラインで行い、紙媒体は使用しない。
対面での実名によるコミュニケーションを重視したい。提出課題の解答例には実名を挙げてコメントするほか、授業欠席などの対応も、口頭で申し出ないでメールを送付されただけでは応じかねるので注意されたい。
私語については、私語をしたと認められる者の周囲を含めて列ごとに席を移動してもらうなど、厳正に対処する。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストについては各授業回に該当する箇所を指定するので、資料と合わせて事前に目を通しておくことが望ましい。

教科書

『コミュニケーション論をつかむ』、辻大介・是永論・関谷直也(有斐閣)

参考書

授業時に配布する資料の文献リストを通じて紹介する。授業で示した文献は試験の解答に使用することもできるので、どれか一部でよいので興味のあるものを学期内に読んでおくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に提出する課題については、次回以降の授業の冒頭で解答例を紹介しながら解説をする。
中間課題については第 13 回に解説と講評を行う。

成績評価の方法

定期試験50%、授業内課題40%、中間課題10%で評価する。
授業内で提示した課題については、授業時間を基準に提出された時間の早さを評価上の参考にする。また、授業で解答例として紹介した解答には成績評価に加点する。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
縄文時代の考古学A	**縄文時代の考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部 芳郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

縄文文化は気候の温暖化に適応して成立した日本列島独自の狩猟採集社会であり、1万年以上におよぶ。本講義では、さまざまな切り口で縄文文化を多面的に観察し、その実像に迫る。とくに近年の縄文時代考古学は伝統的なモノの観察と記述による研究を基盤にして、関連する理化学的な研究の進歩が目覚ましい。反面、これらの個別的な成果をどのようにまとめて1つの時代像を描くかという新たな課題に直面している。

この授業ではこうした課題にどのように応答して新たな縄文時代史を描くのかという問題意識を下敷きにした研究の事例を平易に解説する。秋学期は、縄文時代の道具の製作の技術を中心として紹介し、縄文文化の特質を理解するための講義をおこなう。なお、授業では専門的な用語はなるべく使用せず、他の専攻の学生にも理解できる平易な解説に心掛ける。

本講義の到達目標は難解な専門用語の暗記ではなく、縄文時代研究の現状を紹介するなかで、事物を深く考えることに興味をもち、歴史に対する認識を深める点に重点を置く。そのため、毎回の授業では質問や感想・意見・コメントなどを出席カードに記入してもらい、翌週にプリント(無記名)として配布し、解説と応答をおこないこれを復習に代える。

授業内容

第1回 縄文文化の特質をどう捉えるか。
第2回 時期区分の原理と実態
第3回 土器の製作技術をどう考えるか
第4回 初期の縄文土器の特徴
第5回 繊維土器の技術
第6回 土器の使い分けの実態
第7回 土器の多量化と生業活動
第8回 堅果類の加工技術と土器
第9回 縄文容器群の成り立ちと展開
第 10 回 土器製塩の技術
第 11 回 塩作りの中の土器
第 12 回 漆の利用と土器
第 13 回 漆器の製作技術と連鎖
第 14 回 モノ作りの工程と縄文社会の特質
※毎回の学生の質問や意見を反映させて、学生の興味に応じて若干の変更を行うこともある。

履修上の注意

毎回出席をとる。遅刻や途中退室は厳禁。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布するプリントは図・表を主とするので、毎回の授業内容をきちんとノートにまとめ、復習しておくこと。予習の必要はない。とくに毎回の授業で興味をもったことなどをまとめておくと良い。また考古学の専門用語などはとくに暗記する必要はなく、具体的な事例もなるべく平易に解説し、専攻以外の学生にも興味が持てるように配慮している。

教科書

特には指定しないが、毎回プリントを配布する。

参考書

阿部芳郎編著 2024『縄文時代を解き明かす』岩波ジュニア新書

課題に対するフィードバックの方法

特に課題は設けないが、授業における重要で有益と思われる質問については翌週の授業冒頭において解説を加える。

成績評価の方法

出席カードに授業内容に関する質問や意見を記入してもらい良問などについてはその都度平常点として加点することもある。授業への参加態度(20%)と学期末の試験の成績(80%)による。試験時には授業で配布したプリントやノートの持ち込みは認める。正統な理由のない授業への遅刻や欠席・途中退室は成績評価に反映されるの注意すること。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
縄文時代の考古学B	**縄文時代の考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部 芳郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

縄文文化は気候の温暖化に適応して成立した日本列島独自の狩猟採集社会であり、1万年以上におよぶ。本講義では、さまざまな切り口で縄文文化を多面的に観察し、その実像に迫る。とくに近年の縄文時代考古学は伝統的なモノの観察と記述による研究を基盤にして、関連する理化学的な研究の進歩が目覚ましい。反面、これらの個別的な成果をどのようにまとめて1つの時代像を描くかという新たな課題に直面している。

この授業ではこうした課題にどのように応答して新たな縄文時代史を描くのかという問題意識を下敷きにした研究の事例を平易に解説する。秋学期は、縄文時代の道具の製作の技術を中心として紹介し、縄文文化の特質を理解するための講義をおこなう。なお、授業では専門的な用語はなるべく使用せず、他の専攻の学生にも理解できる平易な解説に心掛ける。

本講義の到達目標は難解な専門用語の暗記ではなく、縄文時代研究の現状を紹介するなかで、事物を深く考えることに興味をもち、歴史に対する認識を深める点に重点を置く。そのため、毎回の授業では質問や感想・意見・コメントなどを出席カードに記入してもらい、翌週にプリント(無記名)として配布し、解説と応答をおこないこれを復習に代える。

授業内容

第 1 回 縄文時代の生業 最古の貝塚形成
第 2 回 大形貝塚の形成背景
第 3 回 貝塚形成と生業
第 4 回 資源流通と貝塚の多様性
第 5 回 生業の地域性
第 6 回 狩猟活動からみた縄文時代の実態
第 7 回 縄文時代の集落と生業
第 8 回 集落の長期継続化の背景
第 9 回 環状盛り土遺構とは何か
第 10 回 生業と土器の役割 縄文前半期の特徴
第 11 回 生業と土器の多量化 後半器の特徴
第 12 回 縄文時代の土偶と型式
第 13 回 土偶祭祀の実態
第 14 回 縄文文化の特質
＊毎回の学生の質問や意見を反映させて、学生の興味に応じて若干の変更を行うこともある。

履修上の注意

毎回出席をとる。遅刻は厳禁。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布するプリントは図・表を主とするので、毎回の授業内容をきちんとノートにまとめ、復習しておくこと。予習の必要はない。特に毎回の授業で興味をもったことなどをまとめておくと良い。専門的な学術用語は極力使用せず、なるべく平易な解説を行うように配慮する。

教科書

特に指定はしないが毎回プリントを配布する。

参考書

阿部芳郎 2024『縄文時代を解き明かす』岩波ジュニア新書

課題に対するフィードバックの方法

授業における重要で有益と思われる質問については特集の授業冒頭において解説を加える。

成績評価の方法

出席カードに授業内容に関する質問や意見を記入してもらい、良問についてはその都度平常点として加点することもある。授業への貢献度(20%)と学期末の試験の成績(80%)による。試験時には配布したプリントやノートの持ち込みは認める。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語圏文学講読 A	**ドイツ文学講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野口 健	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
本授業においては、ドイツ語を読み、また、書く練習も同時進行で行う。
a モジュール:過去から現在に至るドイツ語を母語とする著名人の文章を読み、その人となりに触れる。短文ではあるが、いろいろな文に触れることができるので、教科書のような基本的な文ではなく著名人の練ったドイツ語を味わうこともできる。
bモジュール:独作文の練習
多種のドイツ文に触れることで実際のドイツ語に習熟できる。著名人達の思想に触れられる。読んで書く練習をすることでドイツ語力を総合的に伸ばすことができる。

授業内容
第1回:イントロダクション(本授業において扱う文の作者の紹介)
第2回:Johann Gottlieb Fichte
第3回:Hermann Hesse
第4回:キリスト教パンフレット
第5回:Hans Carossa
第6回:Ludwig Tieck
第7回:Arthur Schopenhauer
第8回:Rainer Maria Rilke
第9回:Luise Rinser
第 10 回:Carl Friedrich von Weizsaecker
第 11 回:Hans Erich Nossack
第 12 回:Werner Heisenberg
第 13 回:Friedrich Schiller
第 14 回 a:総復習
b:試験

履修上の注意
毎回、ドイツ語の文を示しますので各自がそれを書き写し、ノートを作って行ってもらいます。書くことで養われる能力もありますので、その練習も兼ねて文章をあえて書いてもらいます。ドイツ語の基本的な単語力は必須です。

準備学習(予習・復習等)の内容
予め、該当回の作家について、その人の生涯や思想について下調べをしておくことが望ましい。

教科書
定めない。授業時に文を示すので、それを各自が書き取ったものが教科書。

参考書
定めない。

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業終了後に質問を受け付けます。

成績評価の方法
正当な理由なく4回欠席した者には試験の受験資格を与えないことがあります。授業への積極的な参加態度及び小テスト30%, ノート検査 20%, 定期試験 50%で総合的に評価します。

その他
特になし

科目ナンバー:(AL)LIT331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語圏文学講読 B	**ドイツ文学講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野口 健	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
本授業においては、ドイツ語を読み、また、書く練習も同時進行で行う。
a モジュール:過去から現在に至るドイツ語を母語とする著名人の文章を読み、その人となりに触れる。短文ではあるが、いろいろな文に触れることができるので、教科書のような基本的な文ではなく著名人の練ったドイツ語を味わうこともできる。
bモジュール:独作文の練習
多種のドイツ文に触れることで実際のドイツ語に習熟できる。著名人達の思想に触れられる。読んで書く練習をすることでドイツ語力を総合的に伸ばすことができる。本授業においては、ドイツ語を読み、また、書く練習も同時進行で行う。
a モジュール:過去から現在に至るドイツ語を母語とする著名人の文章を読み、その人となりに触れる。短文ではあるが、いろいろな文に触れることができるので、教科書のような基本的な文ではなく著名人の練ったドイツ語を味わうこともできる。
bモジュール:独作文の練習
多種のドイツ文に触れることで実際のドイツ語に習熟できる。著名人達の思想に触れられる。読んで書く練習をすることでドイツ語力を総合的に伸ばすことができる。

授業内容
第1回:イントロダクション(本授業において扱う文の作者の紹介)
第2回:Friedrich Hebbel
第3回:Gottfried Keller
第4回:Franz Kafka
第5回:Johann Wolfgang von Goethe
第6回:Georg Buechner
第7回:Heinrich von Kleist
第8回:戦前の教科書
第9回:Georg Simmel
第 10 回:Thomas Mann
第 11 回:Bermhard Bavink
第 12 回:Sigmund Freud
第 13 回:Albert Einstein
第 14 回 a:総復習
b:試験

履修上の注意
毎回、ドイツ語の文を示しますので各自がそれを書き写し、ノートを作って行ってもらいます。書くことで養われる能力もありますので、その練習も兼ねて書き写してもらいます。ドイツ語の基本的な単語力は必須です。

準備学習(予習・復習等)の内容
予め、該当回の作家について、その人の生涯や思想について下調べをしておくことが望ましい。

教科書
定めない。授業時に文を示すので、それを各自が書き取ったものが教科書。

参考書
定めない。

課題に対するフィードバックの方法
質問は毎回の授業終了後に受け付けます。

成績評価の方法
正当な理由なく4回欠席した者には試験の受験資格を与えないことがあります。授業への積極的な参加態度及び小テスト30%, ノート検査 20%, 定期試験 50%で総合的に評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN128N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語講読 A	**基礎ドイツ語会話A**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

同時並行で行われるドイツ語文法の授業の補完となるような授業として設計している。すなわち、「文法の再度簡単な説明」「練習問題をたくさん解く」「単語や動詞などを小テストを通して覚える」といったことである。

具体的には、練習問題を多く収録した教科書を授業中に一緒に解き進めながら、2年次での応用に対応できるような、文法知識の定着を図ってゆく。学生同士でのグループワークも取り入れるので、仲間同士で教え合いながら、出来るだけ話しやすい雰囲気の中で、学習を進めてゆきたい。

【到達目標】

多くの練習問題を通じて、文法内容をしっかり理解、記憶すると同時に語彙を増やすことを到達目標とする。

授業内容

第一回 a: イントロダクション(外国語学習の目標設定について)
b: 授業の進め方について／家庭での準備学習について
第二回 アルファベット、母音
第三回 子音、挨拶表現
第四回 動詞の現在人称変化(1)
第五回 名詞と冠詞の格変化
第六回 〃
第七回 名詞の複数形
第八回 a: 小テスト
b: 人称代名詞
第九回 命令法
第十回 定冠詞類
第十一回 不定冠詞類
第十二回 前置詞
第十三回 話法の助動詞
第十四回 a: 春学期の総復習 b: 期末テスト

履修上の注意

ドイツ語の辞書(電子辞書も可とする)と教科書を毎回持参すること。
スマートフォンは辞書として使用することは出来ない。

準備学習(予習・復習等)の内容

文法の授業で不明だった点に力点を置くので、何がわからなかったのか、覚えきれないかったのかを記憶しておくこと。
予習、復習にあまり負担をかけないような授業設計にする代わりに、授業時間内の作業には集中すること。

教科書

今井田・前田『シュリット・フュア・シュリット』(三修社)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時に口頭で回答するが、必要に応じて Oh-o ! Meiji を通じて回答することも可能とする。

成績評価の方法

随時行う小テスト(20%)、期末試験(80%)で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN128N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語講読 A	**基礎ドイツ語会話A**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語の文法の授業と並走しながら、基本的な文法・語彙の知識を多くの練習を通じて補うとともに、日常的なドイツ語によるコミュニケーションの礎を築くことに意を注ぐ。履修者が、この授業を通じてドイツ語の「基礎」を確実なものにすることに加えて、簡単なドイツ語で表現することの喜びを実体験し、次の言語習得段階に至る見通しをつけることができるようになることが到達目標である。

授業内容

第 1 回:ドイツ語で自己紹介する
第 2 回:人称代名詞、定動詞など
第 3 回:食事を楽しむ
第 4 回:名詞、数
第 5 回:旅の計画を話す
第 6 回:不規則変化動詞、格
第 7 回:買い物をする
第 8 回:定動詞の位置など
第 9 回:授業のことを話す
第 10 回:定冠詞、不定冠詞
第 11 回:予定を立てる
第 12 回:分離動詞、時制
第 13 回:週末や休みの予定を話す
第 14 回:前半:授業時テスト、後半:正答解説

履修上の注意

詳しい説明を行う第一回の授業から必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

途中からかなりのスピードで授業を進める予定なので、必ず入念に予習をしておくこと。また、文法・語彙などを中心に復習を欠かさないこと。

教科書

柿沼義孝他(著)『ABC ドイツ語初級総合読本 1』(白水社)2024
柿沼義孝他(著)『ABC ドイツ語初級総合読本 2』(白水社)2024
必ず、最新版を購入のこと。

参考書

特に指定しない。適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji 上で課題の提示と講評を行う。ポータルを常時チェックのこと。

成績評価の方法

授業への参加度(質疑応答への受け答え、リアクションペーパー、小テストなど)を 40%、最終授業時のテストを 60%として総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN128N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語講読 B	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

同時並行で行われるドイツ語文法の授業の補完となるような授業として設計している。すなわち、「文法の再度簡単な説明」「練習問題をたくさん解く」「単語や動詞などを小テストを通して覚える」といったことである。

具体的には、練習問題を多く収録した教科書を授業中に一緒に解き進めながら、2年次での応用に対応できるような、文法知識の定着を図ってゆく。学生同士でのグループワークも取り入れるので、仲間同士で教え合いながら、出来るだけ話しやすい雰囲気の中で、学習を進めてゆきたい。

【到達目標】

多くの練習問題を通じて、文法内容をしっかり理解、記憶すると同時に語彙を増やすことを到達目標とする。

授業内容

第一回 a: 春学期の復習
第二回 未来形・非人称動詞
第三回 分離動詞・非分離動詞
第四回 接続詞
第五回 動詞の三基本形
第六回 過去人称変化
第七回 現在完了形
第八回 a: 小テスト
b: 再帰表現
第九回 形容詞の格変化
第十回 比較表現
第十一回 zu 不定詞句
第十二回 関係代名詞・受動態
第十三回 接続法
第十四回 a: 秋学期の総復習 b: 期末テスト

履修上の注意

ドイツ語の辞書(電子辞書も可とする)を毎回持参すること。
スマートフォンは辞書として使用することは出来ない。

準備学習(予習・復習等)の内容

文法の授業で不明だった点に力点を置くので、何がわからなかったのか、覚えきれないかったのかを記憶しておくこと。
予習、復習にあまり負担をかけないような授業設計にする代わりに、授業時間内の作業には集中すること。

教科書

今井田・前田『シュリット・フュア・シュリット』(三修社)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

翌週の授業時に口頭で回答するが、必要に応じて Oh-o!Meji を通じて回答することも可能である。

成績評価の方法

随時行う小テスト(20%)、期末試験(80%)で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN128N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語講読 B	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語の文法の授業と並走しながら、また、春学期の成果を踏まえつつ、基本的な文法・語彙の知識を多くの練習を通じて補うとともに、日常的なドイツ語によるコミュニケーションの礎を築くことに意を注ぐ。履修者が、この授業を通じてドイツ語の「基礎」を確実なものにすることに加えて、簡単なドイツ語で表現することの喜びを実体験し、次の言語習得段階に至る見通しをつけることができるようになることが到達目標である。

授業内容

第 1 回:したいこと、しなければならないことを話す
第 2 回:前置詞、助動詞
第 3 回:過去の出来事を語る その1
第 4 回:動詞の3基本形
第 5 回:過去の出来ごちを語る その 2
第 6 回:現在完了形
第 7 回:お願いや要請をする(ここから、教科書の2に移行する予定なので、予習時に注意すること)
第 8 回:命令形、接続法 II 式
第 9 回:未来のことを話す
第 10 回:不定詞、非人称表現
第 11 回:理由を述べる
第 12 回:副文、接続詞
第 13 回:様子を説明する
第 14 回:前半:授業時テスト 後半:正答解説

履修上の注意

詳しい説明を行う第一回の授業から必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

かなりのスピードで授業を進める予定なので、必ず入念に予習をしておくこと。また、文法・語彙などを中心に復習を欠かさないこと。

教科書

柿沼義孝他(著)『ABC ドイツ語初級総合読本 1』(白水社)2024
柿沼義孝他(著)『ABC ドイツ語初級総合読本 2』(白水社)2024
必ず、最新版を購入のこと。

参考書

特に指定しない。適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji 上で課題の提示と講評を行う。ポータルを常時チェックのこと。

成績評価の方法

授業への参加度(質疑応答への受け答え、リアクションペーパー、小テストなど)を 40%、最終授業時のテストを 60%として総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN228N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語コミュニケーション A	**ドイツ語作文・会話ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
ゲスナー, ゲジーネ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
Im Mittelpunkt steht

授業内容
das vorhandene sprachliche Wissen zu vertiefen.

履修上の注意
Die Vertiefung des Wissens erfolgt anhand von Beispielen aus dem Alltagsleben.

準備学習(予習・復習等)の内容
Bitte kommen Sie regelmäßig zum Unterricht und sprechen Sie viel.

教科書
Themen sind z.B. Besuch im Restaurant

参考書
bei Freunden zu Hause.

課題に対するフィードバックの方法
Szenen 2 aktuell heute.

成績評価の方法

その他
Sie können den Lehrer jederzeit kontaktieren.

科目ナンバー:(AL)LAN228N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
初級ドイツ語コミュニケーション B	**ドイツ語作文・会話ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
ゲスナー, ゲジーネ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
Das im Frühjahrssemester erworbene Wissen wird vertieft und erweitert.

授業内容
Es geht um Themen wie Familie und Freunddchaftsbeziehungen.

履修上の注意
Kommen Sie regelmäßig zum Unterricht und beteiligen Sie sind aktiv.

準備学習(予習・復習等)の内容
Neben den oben erwähnten Themen

教科書
werden Themen

参考書
die Sie interessieren behandelt.

課題に対するフィードバックの方法
Szenen 2 heute aktuell. Kopien

成績評価の方法
Wörterbuch

その他
Sie können den Lehrer jederzeit kontaktieren.

科目ナンバー:(AL)ART395J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
書道A	**書道A**	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 昌弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

実習(毛筆実技)を中心にした講座。一般教養「書道」と教職科目(中学校国語)「書道」の受講生が混在した講座になっているため、春学期の書道Aは毛筆の基礎(楷書・行書)を学ぶ。

授業内容

01. 講座の案内・書道の用具
02. 楷書基礎(横画)「一二」
03. 楷書基礎(点・縦画)「小川」
04. 楷書基礎(永字八法)「永」
05. 楷書基礎の応用「少女」
06. 楷書基礎の応用「科学」
07. 楷書課題の点検
08. 行書基礎(横画)「一二」
09. 行書基礎(点・縦画)「小川」
10. 行書基礎(斜画・転折)「土木」
11. 行書基礎(点画の連続)「風」
12. 行書基礎の応用「科学」
13. 行書課題の点検・成績通知・個別面談
14. 未修得課題の復習

履修上の注意

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
必ず第1回授業に出席して書道実技のための準備内容を確認してください、第2回目より実技を行います。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
書道A(春学期)は「書道の基礎」を学びます。書道 B(秋学期)は「書道の応用」を学びます。
このため、書道Aを履修してから書道 B を履修することが望ましい展開です。
書道Aと書道 B は、それぞれ履修できます。
教職科目(書道)は書道A・書道 B の両方を合格しないと、教職2単位として認定されません。
毎回の作品の提出をもって出席とします。自分の書道用具を持参しない受講生は、欠席とします。
筆・半紙など、受講生のあいだの貸し借りは禁止します。
書道の経験・未経験は問いませんが、努力する態度が見受けられない受講生は、単位を認定しません。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の毛筆実技は、Youtube で視聴できます。
「遠藤」「書道」「課題の文字、一二など」の言葉を入力して検索し、予習・復習に役立てること。

教科書

初回授業時に、「すべての課題プリント」の配布を予定しています。
欠席の場合、友人などに依頼して必ず受け取ること。

未入手の場合、2回目までに申し出ること。
(保管場所がありませんので「未受領のプリント」は廃棄します)
3回目以後は受け取れません。

参考書

『書道全集』全 26 冊 (平凡社、大学中央図書館蔵
『中国法書選』全 60 冊 (二玄社、大学中央図書館蔵)
『中国法書選ガイド』全 60 冊 (二玄社、大学中央図書館蔵)
『日本名筆選』全 47 冊 (二玄社、大学中央図書館蔵)
遠藤昌弘『もっと知りたい臨書の世界』(匠出版、大学中央図書館蔵)
『書跡名品叢刊』全 208 冊 (二玄社)
『書の宇宙』全 24 冊 (二玄社)

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題(半紙作品)について、毎回、個別に添削して返却します。
課題の再提出も受け付けています。

成績評価の方法

作品課題の得点÷課題数により算定する。
作品の評価、Ⓐ:90 点・A:80 点・B:70 点・C:60 点・D:不可。
評価の B・C は、作品の再提出を受け付け、再評価する。再提出した作品は、「評価が上がらない場合」でも復習したとみなして加点する。

その他

書道の用具については、初回の「講座の案内」で詳しく説明します。
すでに持っているものは、そのまま使用して下さい。また、持っていないものは、配布する「購入案内書」で、購入することも可能です。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
固形墨は「大きさの指定」があります、第 1 回授業時の「配布プリント」参照。
墨液・墨汁は使用しない。
硯は、「石」のものに限る。プラスチックなどの模造品は、墨が磨れないので使用しない。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
(重要)2時限目と3時限目は同じ内容の講座ですが、各時限とも 40 名を越した場合は、人数の調整を行います。これは教室の水道設備の都合と、実技の個別指導を受けることができるようにするためです。
教員への連絡方法、shoendo@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)ART395J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
書道B	**書道B**	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 昌弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

実習(毛筆実技)を中心にした講座。一般教養「書道」と教職科目(中学校国語)「書道」の受講生が混在した講座になっているため、書道 B は一般教養「書道」と教職科目(中学校国語)「書道」で区分けして課題を設定する。書道 B の一般教養「書道」選択者は、篆書・隷書・草書・王朝仮名をテーマとし書の基本を学ぶ。さらに名筆・名跡を学ぶ「臨書」を行う。書道 B の教職科目(中学校国語)「書道」選択者は、中学校書写で取り扱う教科書教材にある楷書・行書課題の分析をおこない、実技・添削と進め、提出作品を完成させる。

授業内容

01. 講座の展開について
02. 一般教養:隷書1「洗心」
〃 教職科目:楷書1「天地」
03. 一般教養:隷書2「無極」
〃 教職科目:楷書2「成功」
04. 一般教養:篆書1「飛鳥」
〃 教職科目:楷書3「出発」
05. 一般教養:篆書2「激流」
〃 教職科目:楷書4「いろは歌」
06. 一般教養:草書1「青山」
〃 教職科目:楷書5「広がる世界」
07. 一般教養:既習課題の確認
〃 教職科目:既習課題の確認
08. 一般教養:草書2「話題」
〃 教職科目:行書1「初志」
09. 一般教養:王朝仮名1高野切より
〃 教職科目:行書2「開花」
10. 一般教養:王朝仮名2升色紙より
〃 教職科目:行書3「理想」
11. 一般教養:古典臨書1(各自選択)
〃 教職科目:行書4「喜びの声」
12. 一般教養:古典臨書2(各自選択)
〃 教職科目:行書5「美しい自然」
13. 一般教養:既習課題の確認
〃 教職科目:既習課題の確認
14. 秋学期課題の点検・成績通知・個別面談

履修上の注意

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
必ず第1回授業に出席して書道実技のための準備内容を確認してください、第2回目より実技を行います。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
書道A(春学期)は、書道の基礎を学びます。書道 B(秋学期)は、書道の応用を学びます。
このため書道Aを履修してから書道 B を履修することが望ましい展開です。
書道Aと書道 B は、それぞれ履修できます。教養科目(書道)は、各1単位です。
教職科目(書道)は書道A・書道 B の両方を合格しないと、教職2単位として認定されません。
毎回の作品の提出をもって出席とします。自分の書道用具を持参しない受講生は、欠席とします。
筆・半紙など、受講生のあいだの貸し借りは禁止します。
書道の経験・未経験は問いませんが、努力する態度が見受けられない受講生は、単位を認定しません。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の毛筆実技は、Youtube で視聴できます。
「遠藤」「書道」「課題の文字、一二など」を入力して検索し、予習・復習に役立てること。

教科書

初回授業時に、「すべての課題プリント」の配布を予定しています。欠席の場合、友人などに依頼して必ず受け取ること。
未入手の場合、2回目までに申し出ること。(保管場所がありませんので、未受領のプリントは廃棄します)3回目以後は、受け取れません。

参考書

『書道全集』全 26 冊 (平凡社、大学中央図書館蔵)
『中国法書選』全 60 冊 (二玄社、大学中央図書館蔵)
『中国法書選ガイド』全 60 冊 (二玄社、大学中央図書館蔵)
『日本名筆選』全 47 冊 (二玄社、大学中央図書館蔵)
遠藤昌弘『もっと知りたい臨書の世界』(匠出版、大学中央図書館蔵)
『書跡名品叢刊』全 208 冊 (二玄社)
『書の宇宙』全 24 冊 (二玄社)

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題(半紙作品)について、毎回、個別に添削して返却します。課題の再提出も受け付けています。

成績評価の方法

作品課題の得点÷課題数により算定する。
作品の評価、Ⓐ:90 点・A:80 点・B:70 点・C:60 点・D:不可。
評価の B・C は、作品の再提出を受け付け、再評価する。再提出した作品は、評価が上がらなくても復習したとみなして加点する。

その他

書道の用具については、初回の「講座の案内」で詳しく説明します。
すでに持っているものは、そのまま使用して下さい。また、持っていないものは、配布する「購入案内書」で、購入することも可能です。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
固形墨は「大きさの指定」があります。第 1 回授業時の「配布プリント」参照。
墨液・墨汁は使用しない。
硯は「石」のものに限る。プラスチックなどの模造品は、墨が磨れないので使用しない。
＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊
(重要)2時限目と3時限目は同じ内容の講座ですが、各時限とも 40 名を越した場合は、人数の調整を行います。これは教室の水道設備の都合と、実技の個別指導を受けることができるようにするためです。
教員への連絡方法、shoendo@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)INS919J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ジョブ・トライアル	**ジョブ・インターンシップ**	
担 当 者	開講期	開講地区
	春学期集中	和泉

授業の概要・到達目標

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

その他

科目ナンバー:(AL)HIS222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(アジア史)A	**史料演習(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

アジア史研究の方法と史料読解の基礎を学ぶ。時代は中世から近代、地域は中央ユーラシア、中国大陸、東南アジア、朝鮮半島、東アジア海域などを想定している。基礎演習の内容を発展させて、参考文献の読み方、研究発表の仕方、研究論文の書き方、史料読解と研究の方法などを多角的に学ぶ。最終的に、みずから研究テーマを設定し、必要な資料を収集し、分析する能力を身につけることを目指す。

授業内容

前半は研究論文の書き方、文献の調べ方についてレクチャーし、実際に特定のテーマについて参考文献リストを作成してもらう。また参考文献は、一般書、概説書、研究書に分けてその特徴やスタイルの違いについて学ぶ。後半は研究史料の講読として中国明清時代の漢文史料を講読する。内容を検討するというよりは、様々な資料にふれることで特徴的な表現や研究テーマとの関係などを学ぶ。

1 授業の進め方について説明
2 研究論文の書き方、文献の調べ方
3 参考文献リストの作成
4 参考文献の読解 1(一般書)
5 参考文献の読解 2(概説書)
6 参考文献の読解 3(研究書)
7･8 研究史料の講読(正史類)
10･11 研究史料の講読(上奏文)
12･13 研究史料の講読(私撰書)
14 講読のまとめ

履修上の注意

3回以上欠席した場合、評価の対象としない。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布された資料について必ず予習して授業に臨むこと。

教科書

使用しない。

参考書

史料講読では漢和辞典(角川新字源、全訳漢字海)、中国語辞典(中日大辞典)などが必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

コメントペーパーやレポート返却などを通じて実施する。

成績評価の方法

平常点50%、期末レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(アジア史)A	**史料演習(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
石野 智大	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【本授業の概要】

本授業では、前近代中国史に関わる漢文史料を講読し、受講生が今後研究に取り組むうえで必要となる漢文史料の読解・分析能力を養う。また、漢文史料の講読と並行して、漢文の小テストも定期的に実施し、読解能力の向上を図る。

春学期では「隋代の皇后と政治」をテーマとして、正史の列伝部を取り上げ、漢文の語法や史料用語を詳しく解説しながら読み進める。とくに本授業では、隋代政治史の重要人物である文献皇后(独孤伽羅)の列伝を読み解き、その事績を探りつつ、当時における皇帝の政治と家庭の問題を考えてみたい。

【到達目標】

(1)東洋史の研究を行ううえで必要な漢文読解能力を高める。
(2)各種の辞典や工具書を目的に応じて利用できるようになる。
(3)具体的な根拠と適切な表現を用いて自らの見解を伝えることができる。

授業内容

第 1 回:授業内容の説明、講読史料の配布と解説、予習方法の説明
第 2 回:参考書や工具書の紹介、漢和辞典の使い方
第 3 回:漢文読解方法の解説と練習
第 4 回:『隋書』列伝の講読(1)「文献独孤～為賢」
第 5 回:『隋書』列伝の講読(2)「及周宣帝～市之」
第 6 回:『隋書』列伝の講読(3)「后曰～乃止」
第 7 回:『隋書』列伝の講読(4)「使宦官～依古制」
第 8 回:『隋書』列伝の講読(5)「后曰～当斬」
第 9 回:『隋書』列伝の講読(6)「高祖～為二聖」
第 10 回:『隋書』列伝の講読(7)「后頗仁愛～苦諫」
第 11 回:『隋書』列伝の講読(8)「上太息～親礼」
第 12 回:『隋書』列伝の講読(9)「至是～謀也」
第 13 回:『隋書』列伝の講読(10)「仁寿二年～云」
第 14 回:本授業のまとめ、期末テスト(漢文)

履修上の注意

演習授業であるため、講読する史料の予習は必須です。
史料講読時には、戸川芳郎監修『全訳漢辞海(第四版以上)』(三省堂)、または小川環樹他編『新字源(改訂新版)』(角川書店)の小型漢和辞典を各自で用意し、ご持参ください。
個別の質問や相談は随時お受けしますので、授業前後にお願いします。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料の講読時には、受講生に書き下し文、史料用語の解説、現代日本語訳の報告を求めますので、十分な予習をして授業に臨んでください。

教科書

講読史料や参考資料は、プリントで配布します。
史料講読用に各自でノートを 1 冊ご準備ください。

参考書

漢文読解に際しては、西田太一郎『漢文の語法』(角川ソフィア文庫、KADOKAWA、2023 年)、加地伸行『漢文法基礎』(講談社学術文庫、講談社、2010 年)などの文法書を適宜参照してください。漢文を読む際には小型漢和辞典の末尾にある「付録」も有用です。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 70%((1)予習・報告の内容が十分な水準であるか、(2)意見の提示や議論への参加ができているか、(3)授業への取り組みは良好か)
期末テスト 30%(漢文読解の基礎が身に付いているか)
毎回の授業出席が前提であるため、遅刻や欠席は減点の対象となります。

その他

授業では漢文を精読しますが、小テストや予習・復習も含めて読む方法を身につけていきます。
毎回、頭をひねりながら、一緒に史料を読んでいきましょう。

科目ナンバー：(AL)HIS222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(アジア史)A	**史料演習(アジア史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 美穂子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

主に中東・イスラーム地域の研究領域を扱う学生を対象とし、英語論文ならびに英訳された史料の講読を行う。本授業をとおして、外国語による文献・史料を読むための力を養うと同時に、関連する歴史的事柄への理解を深めることを目的とする。あわせて、受講者が各自のテーマにしたがって、研究文献を収集・読解し、その進捗状況を適宜報告することで、3年次以降の研究につながる土台作りを進める。

授業内容

17 世紀におけるオスマン帝国およびその周辺諸国を周遊したエヴリヤ・チェレビー Evliya Çelebi の『旅行記 Seyâhat-nâme』の英訳を講読する。テクストは Dankoff, Robert & Sooyong Kim (eds.&trans.),An Ottoman Traveller : Selections from the Book of Travels of Evliya Çelebi, London, 2011. を用いる。
1(a のみ) イントロダクション:テクスト配布、受講生自己紹介
2～5 邦文による関連文献の講読
6～13 英文テクストの講読
14 春学期のまとめ
上記講読に加え、いくつかの課題の提出を求める。詳細については、その都度授業内で説明する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

講読の授業では、事前の入念な予習が不可欠となる。本文の読解(全訳作成)だけでなく、関連用語についても意味を調べてから授業に臨むこと。また、英和辞典を必ず用意すること。

教科書

テクストはコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション課題については、実施時にその場で講評を行う。提出物については、添削したうえで、授業内での解説を付して返却する。

成績評価の方法

・平常点(授業への参加状況、予習、議論における積極性)70%
・課題提出(期限厳守)30%

その他

無断欠席・遅刻は厳禁とする。やもえず欠席する場合には必ず事前に連絡を入れること。

科目ナンバー：(AL)HIS222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(アジア史)B	**史料演習(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

アジア史研究の方法と史料読解の基礎を学ぶ。時代は中世から近代、地域は中央ユーラシア、中国大陸、東南アジア、朝鮮半島、東アジア海域などを想定している。基礎演習の内容を発展させて、参考文献の読み方、研究発表の仕方、研究論文の書き方、史料読解と研究の方法などを多角的に学ぶ。最終的に、みずから研究テーマを設定し、必要な資料を収集し、分析する能力を身につけることを目指す。

授業内容

夏休み課題をもとに各自の研究テーマを設定し発表する。『史学雑誌』「回顧と展望」などを利用して関心のあるテーマについて研究動向を整理し、また関心のある研究論文、史料について調べる。調べた内容をグループディスカッションなどを通じて紹介する。研究論文・史料の読解を通じてえられた知見を研究発表にフィードバックさせて期末レポートを作成する。

1 夏休み課題の提出、研究発表の順番決定
2 研究発表１
3 研究発表２
4 研究発表３
5 研究発表４
6 研究発表５
7 研究動向の整理
8 研究論文の読解１
9 研究論文の読解２
10 研究論文の読解３
11 研究史料の読解１
12 研究史料の読解２
13 研究史料の読解３
14 授業のまとめ

履修上の注意

3回以上欠席した場合、評価の対象としない。

準備学習(予習・復習等)の内容

研究論文・史料などは夏休み中に収集しておくことが望ましい。

教科書

使用しない。

参考書

以下の入門書を必要に応じて参照し、関心のあるテーマの研究状況を把握しておくこと。
『論点・東洋史学　アジア・アフリカへの問い 158』(吉澤誠一郎監修, ミネルヴァ書房)
『中国歴史研究入門』(砺波護, 杉山正明, 岸本美緒編, 名古屋大学出版会)
『近代中国研究入門』(岡本 隆司,　吉澤 誠一郎編, 東京大学出版会)
『海域アジア史研究入門』(桃木至朗編, 岩波書店)
『アジア経済史研究入門』(水島司, 加藤博, 久保亨, 島田竜登編, 名古屋大学出版会)
『中央ユーラシア史研究入門』(小松久男, 荒川正晴, 岡洋樹編, 山川出

課題に対するフィードバックの方法

発表後のディスカッション、レポートの返却など。

成績評価の方法

平常点30%、期末レポート70%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(アジア史)B	**史料演習(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石野 智大	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【本授業の概要】

本授業では、前近代中国史に関わる漢文史料を講読し、受講生が今後研究に取り組むうえで必要となる漢文史料の読解・分析能力を養う。また、漢文史料の講読と並行して、漢文の小テストも定期的に実施し、読解能力の向上を図る。

秋学期では「唐代の筆記史料を読む」をテーマとして、官撰史書とは異なる性格を持つ筆記史料を取り上げ、その内容を詳しく解説しながら読み進める。正史に記録されない人・モノ・事件も、民間の逸話を伝える筆記史料には多くの記録が残されており、それらの史料は当時の社会や文化を考えるうえで重要な価値を持つ。本授業では、『太平広記』所収の漢文史料を読み解きながら、そこから窺える唐代社会史の問題を考えたい。また、授業後半では、受講生の今後の研究テーマ選定に関わる作業も進める。

【到達目標】

(1)東洋史の研究を行ううえで必要な漢文読解能力を高める。
(2)各種の辞典や工具書を目的に応じて利用できるようになる。
(3)具体的な根拠と適切な表現を用いて自らの見解を伝えることができる。

授業内容

第１回:授業内容の説明、講読史料の配布と解説、予習方法の説明
第２回:参考書や工具書の紹介、漢和辞典の使い方
第３回:『太平広記』精察部の講読(1)「天后時～無所出」
第４回:『太平広記』精察部の講読(2)「衢中～別駕」
第５回:『太平広記』精察部の講読(3)「無名～請其方」
第６回:『太平広記』精察部の講読(4)「無名曰～得賊乎」
第７回:『太平広記』精察部の講読(5)「無名曰～伺之」
第８回:『太平広記』精察部の講読(6)「見有～而笑」
第９回:『太平広記』精察部の講読(7)「無名喜～此盗」
第10回:『太平広記』精察部の講読(8)「対曰～人也」
第11回:『太平広記』精察部の講読(9)「奠而～紀聞」
第12回:受講生の研究テーマの報告
第13回:受講生の研究テーマの報告(つづき)
第14回:本授業のまとめ、期末テスト(漢文)

履修上の注意

演習授業であるため、講読する史料の予習は必須です。
史料講読時には、戸川芳郎監修『全訳漢辞海(第四版以上)』(三省堂)、または小川環樹他編『新字源(改訂新版)』(角川書店)の小型漢和辞典を各自で用意し、ご持参ください。
質問や相談は随時お受けしますので、授業前後にお願いします。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料の講読時には、受講生に書き下し文、史料用語の解説、現代日本語訳の報告を求めますので、十分な予習をして授業に臨んでください。

教科書

講読史料や参考資料は、プリントで配布します。
史料講読用に各自でノートを１冊ご準備ください。

参考書

漢文読解に際しては、西田太一郎『漢文の語法』(角川ソフィア文庫、KADOKAWA、2023 年)、加地伸行『漢文法基礎』(講談社学術文庫、講談社、2010 年)などの文法書を適宜参照してください。漢文を読む際には小型漢和辞典の末尾にある「付録」も有用です。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 70%((1)予習・報告の内容が十分な水準であるか、(2)意見の提示や議論への参加ができているか、(3)授業への取り組みは良好か)
期末テスト 30%(漢文読解の基礎が身に付いているか)
毎回の授業出席が前提であるため、遅刻や欠席は減点の対象となります。

その他

授業では漢文を精読しますが、小テストや予習・復習も含めて読む方法を身につけていきます。毎回、頭をひねりながら、一緒に史料を読んでいきましょう。

科目ナンバー：(AL)HIS222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(アジア史)B	**史料演習(アジア史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 美穂子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

主に中東・イスラーム地域の研究領域を扱う学生を対象とし、英語論文ならびに英訳された史料の講読を行う。本授業をとおして、外国語による文献・史料を読むための力を養うと同時に、関連する歴史的事柄への理解を深めることを目的とする。あわせて、受講者が各自のテーマにしたがって、研究文献を収集・読解し、その進捗状況を適宜報告することで、3年次以降の研究につながる土台作りを進める。

授業内容

17 世紀におけるオスマン帝国およびその周辺諸国を周遊したエヴリヤ・チェレビー Evliya Çelebi の『旅行記 Seyâhat-nâme』の英訳を講読する。テクストは Dankoff, Robert & Sooyong Kim (eds.&trans.),An Ottoman Traveller : Selections from the Book of Travels of Evliya Çelebi, London, 2011. を用いる。

1(a のみ)イントロダクション:テクスト配布、受講者による夏期活動報告
2～13 英文テクストの講読
14 秋学期のまとめ
上記講読に加え、いくつかの課題の提出を求める。詳細については、その都度授業内で説明する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

講読の授業では、事前の入念な予習が不可欠となる。本文の読解(全訳作成)だけでなく、関連用語についても意味を調べてから授業に臨むこと。また、英和辞典を必ず用意すること。

教科書

テクストはコピーを配布する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーション課題については、実施時にその場で講評を行う。提出物については、添削したうえで、授業内での解説を付して返却する。

成績評価の方法

・平常点(授業への参加状況、予習、議論における積極性)70%
・課題提出(期限厳守)30%

その他

無断欠席・遅刻は厳禁とする。やもえず欠席する場合には必ず事前に連絡を入れること。

科目ナンバー：(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)A	**史料演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊丹 聡一朗	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、1 年次の学習を踏まえ、西洋史を学ぶ上で必要な基本的技術を習得すること、そして各自の研究テーマについて理解を深めることにある。そのために学期を通じて、史料講読と研究発表を実施する。

授業内容

(1)ガイダンス
授業全体のテーマと演習の進め方、参加者が関心を持っている研究テーマについての自己紹介、報告者・報告順の決定。
(2)～(4)史料講読
翻訳史料(邦語、場合によっては英語)の精読、及びそれを踏まえた議論。
(5)～(6)報告準備
研究報告で扱う史料・文献の事前提出。及びそれを踏まえた口頭説明・グループディスカッション。
(7)～(14)研究報告。
春学期は史料または先行研究に関するまとめ報告、秋学期は個人の研究テーマに関する報告を予定。毎回 2 名程度が報告をおこない、他の受講者は積極的な質疑と議論への参加をもってこれに応えること。

履修上の注意

課題提出期限の厳守と授業への積極的姿勢が求められる。特別な理由を除いて遅刻・欠席は認められない。なお授業各回の構成・内容は受講者の人数や関心に応じて変更されることがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

史料講読では事前に指定された部分を精読しておくこと。研究報告では授業の指示に従い、入念に準備しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で実施する。

成績評価の方法

平常点(授業への参加姿勢など)40%、研究報告 30%、レポート 30%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)A	**史料演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鰐淵 秀一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習では、英語圏(イギリス大西洋史・アメリカ史)を中心とした近現代史の資史料の精読と各自の研究報告を中心に進め、歴史学の根幹である史料の読解と分析の方法を学ぶ。日本語・英語の文献の読解力を涵養すると同時に、史料を解釈するための調査方法や分析方法を習得することが目標となる。

授業内容

1 イントロダクション：自己紹介、演習の進め方、課題について
2 図書館・データベースの検索実習
3～7 テキスト講読
8 史料調査の方法と実習
9～13 史料研究報告(グループ発表)
14 授業のまとめと期末レポート提出について
※必要に応じて Zoom を用いたオンライン形式で行うことがある。その場合、事前に連絡を行う。

履修上の注意

演習ではクラスへの積極的な参加が重視される。特別な理由を除いて欠席は認められない。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。また、無断欠席、報告・発表の放棄、レポートの未提出、いずれの場合も単位の取得は認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習ではグループ・個別を問わず講読・報告・発表の準備をしっかり行うことが不可欠である。英文テキストの読解に際しては、事前にわからなかった単語や固有名詞を調べてくる。研究報告については、文献調査、レジュメ・パワーポイントの作成の準備をしっかり行って授業に臨むことが要求される。

教科書

テキストについては、初回に指示する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

文献講読のパフォーマンス 30%、研究報告のプレゼンテーション 30%、レポート 40%

その他

授業内容は概ねシラバスに沿うが、進め方は変更の可能性がある。

科目ナンバー：(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)A	**史料演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
水野 博子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習は、西欧、中欧、東欧からバルカン半島に至るまで、広い意味でのヨーロッパを検討対象とし、重要な外国語文献の精読と受講者の発表を組み合わせることで、近現代史研究の基礎となる理論的枠組みと実証的な方法論の習得を目標とします。

授業内容

この演習は、西欧、中欧、東欧からバルカン半島に至るまで、広い意味でのヨーロッパを検討対象とし、主としてヨーロッパ近現代史に関する外国語文献の講読と受講生個人の研究発表とを組み合わせて進行する予定です。
・文献講読について
精読形式を採用し、毎回の担当者にはテキストを克明に読み下してもらいますが、あらかじめ準備してきた日本語訳を読み上げる形式はとらず、原典テキストを見ながら日本語にするという同時通訳方式を採用します。これにより、正確かつスピーディに外国語文献を読む能力を訓練します。その際、総合的な議論の手がかりとして、担当者には簡潔なレジュメと補足説明資料を用意してもらいますが、担当ではない受講生もディスカッションの時には積極的な発言を求めますので、綿密な予習をしてください。
・受講生個人の研究発表について
各自関心のあるテーマについてプレゼンテーションをしてもらい、3年次以降のゼミでの研究準備を進めてもらいます。また、文献リストの作成、先行研究の成果に関する調査及び批判的考察、論証方法等の基礎を学びます。2 年次秋学期に実施される予定の 3 年ゼミ選びのためのレポート執筆につなげてもらいたいと思います。
実際の授業進行については、第1回目の授業で受講生と相談しますが、おおむね次のようなスケジュールで授業を進めていく予定です。
第1回 レポート(論文)の書き方、授業の進め方について
第2回 テーマ探究及び講読文献について
第3～9 回 外国語文献講読およびディスカッション
第 10～13 回 テーマ発表
第 14 回 当該学期授業の総合ディスカッションおよび長期休暇中のレポート課題について

履修上の注意

・文献講読および個々人のテーマ発表では、担当者が毎回レジュメを作成し、プレゼンテーションしてもらいますが、同時に発表者以外の受講生にも、司会進行、コメンテータ、書記などの役割を分担してもらうことがありますので、受講生の主体的な参加が前提の授業です。
・ディスカッションタイムでは皆で議論をする練習も行いますので、事前の予習が求められます。
・体調がすぐれない場合などは早めに病院に行くようにしてください。
・感染症の疑いがある時などは通学を控えてください。
・ただし、正当な理由のない無断欠席は減点対象となりえますので、注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

しっかりした準備が求められます。
講読について
〇単語の確認―訳語が文脈に合わせて検討されたかどうか
〇文法事項の確認―きちんとした文章把握ができているか
研究調査について
〇文献調査がしっかりできているか―文献リストの作成を行うこと
〇発表のためのレジュメを作成すること―物語ではなく歴史の論理を考えること
〇剽窃などをしないよう、注のためのメモを作成すること

教科書

詳細は初回授業で指示しますが、以下の文献を読む予定です。初回授業で配布しますので、必ず出席してください。
Timothy Baycroft, Nationalism in Europe, 1789-1945, Cambridg, 1998.
John Breilly, "Nationalism and National Unification in Nineteenth-Century Europe", in : John Breuilly (ed.),The Oxford Hand

参考書

水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム―戦争とナチズムの記憶をめぐって』ミネルヴァ書房、2020 年 3月。
小澤卓也・田中聡・水野博子編『教養のための現代史入門』(ミネルヴァ書房、2015 年)。
大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門――歴史のラビリンスへの招待――』(昭和堂、2013 年)。
アンダーソン、ベネディクト『定本 想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』(白石隆・白石さや訳)、書籍工房早山、2007 年(増補版 NTT 出版、1997 年)。
ゲルナー、アーネス

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績は、授業中の発表(60%)、ディスカッション 参加等による授業への貢献度(40%)をベースに総合的に判断します。

その他

広くヨーロッパ近現代史に関する限り、地域や言語、方法論は問いませんが、英語のほかに、各自関心のある地域の外国語(第二外国語)をさらにブラッシュアップさせて、原典史料にチャレンジできるくらいの運用能力を鍛えてもらいたいと願っています。

科目ナンバー:(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)A	**史料演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

西洋史の研究の進め方を、履修者が選んだテーマに関する欧文文献(場合によっては邦文文献)の読解と内容報告を通じて学んでゆくことを目的とする。履修者は事前に調査や読解を行い、その内容を演習で報告する。文献の読解を通じて得た知見を、自分が選択したテーマを深めるのに役立てることを目標とする。

授業内容

第1回～第2回 イントロダクション、各履修者が関心をもつテーマの発表 第3回～第8回 日本の研究状況(先行研究)の調査、文献リストの作成、先行研究についての報告 第9回～第 13 回 履修者による研究報告 第 14 回 学期のまとめと最終課題について

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習で各報告に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

全14回の 3 分の2以上の出席を成績評価の条件とする。平常点(授業への貢献)と担当回の報告や最終課題の内容を総合的に評価する(100%)詳しくは初回の授業で説明します。教員からの連絡等を確認し、初回の授業に必ず出席するようにしてください。

その他

履修者の人数や調査の進捗状況に応じ、各回の計画は変更もありうる。

科目ナンバー:(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)A	**史料演習(西洋史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 耕	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、一年次の学習を踏まえ、西洋史を学ぶ上で必要な基本的技術を習得すること、そして各自の研究テーマについて理解を深めることにある。そのため学期の前半では英語文献の講読、後半では研究報告を行う。文献講読では近現代史に関する著作を精読する予定である。また報告に先立ち、各自のテーマに関する文献一覧を作成してもらう。その上で報告を行い、受講者同士で議論する。講読、報告のいずれも入念な準備が必要であり、各受講者には授業への積極的な参加を期待する。

授業内容

第 1 回 授業説明
授業説明の後、各自の研究テーマについて口頭で簡潔に説明してもらう。

第 2～7 回 文献講読
文献は初回授業で配布する。なお履修者の学習状況によっては、講読のうち数回を、文献収集や研究の進め方といった基本事項の講義に振り替える場合もある。

第 8 回 研究報告準備
報告を行う上で求められる基本事項を確認する。

第 9～14 回 研究報告
毎回複数名の受講者に報告してもらう。参加者も積極的に質問を行い、自分の報告に向けて参考にすることが望ましい。

履修上の注意

課題提出期限の厳守。議論への参加をはじめとする授業への積極的姿勢。なお担当講師の専門は近現代フランス史だが、本授業は西洋史学の基本的技術を学ぶことが主な目的であり、他分野に関心のある学生も幅広く受講されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

文献講読では事前に指定された部分を精読しておくこと。研究報告では授業での指示に従い、入念に準備しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で行う。

成績評価の方法

平常点(議論への参加姿勢など)40%, 報告 30%, 期末レポート 30%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)B	**史料演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊丹 聡一朗	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、1 年次の学習を踏まえ、西洋史を学ぶ上で必要な基本的技術を習得すること、そして各自の研究テーマについて理解を深めることにある。そのために学期を通じて、史料講読と研究発表を実施する。

授業内容

(1)ガイダンス
授業全体のテーマと演習の進め方、参加者が関心を持っている研究テーマについての自己紹介、報告者・報告順の決定。
(2)～(4)史料講読
翻訳史料(邦語、場合によっては英語)の精読、及びそれを踏まえた議論。
(5)～(6)報告準備
研究報告で扱う史料・文献の事前提出。及びそれを踏まえた口頭説明・グループディスカッション。
(7)～(14)研究報告。
春学期は史料または先行研究に関するまとめ報告、秋学期は個人の研究テーマに関する報告を予定。毎回 2 名程度が報告をおこない、他の受講者は積極的な質疑と議論への参加をもってこれに応えること。

履修上の注意

史料講読では事前に指定された部分を精読しておくこと。研究報告では授業の指示に従い、入念に準備しておくこと。なお授業各回の構成・内容は受講者の人数や関心に応じて変更されることがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の予習・復習を欠かさないこと。

教科書

特になし。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で実施する。

成績評価の方法

平常点(授業への参加姿勢など)40%、研究報告 30%、レポート 30%。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)B	**史料演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鰐淵 秀一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習では、英語圏(イギリス大西洋史・アメリカ史)を中心とした近現代史の資史料の精読と各自の研究報告を中心に進め、歴史学の根幹である史料の読解と分析の方法を学ぶ。英文テキストの読解力を涵養すると同時に、史料を解釈するための調査方法や分析方法を習得することが目標となる。

授業内容

1 秋学期イントロダクション:学年末レポートに向けて
2 テキストの紹介、担当者またはグループの決定
3～7 英文テキスト講読
8 史料調査の方法と実習
9～13 史料研究報告(個別発表)
14 授業のまとめと学年末レポート提出について
※必要に応じて Zoom を用いたオンライン形式で行うことがある。その場合、事前に連絡を行う。

履修上の注意

演習ではクラスへの積極的な参加が重視される。特別な理由を除いて欠席は認められない。やむを得ず欠席する場合は事前に連絡すること。また、無断欠席、報告・発表の放棄、レポートの未提出、いずれの場合も単位の取得は認められない。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習ではグループ・個別を問わず講読・報告・発表の準備をしっかり行うことが不可欠である。英文テキストの読解に際しては、事前にわからなかった単語や固有名詞を調べてくる。研究報告については、文献調査、レジュメ・パワーポイントの作成の準備をしっかり行って授業に臨むことが要求される。

教科書

テキストについては、初回に指示する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

英文講読のパフォーマンス 30%、研究報告のプレゼンテーション 30%、レポート 40%

その他

授業内容は概ねシラバスに沿うが、進め方は変更の可能性がある。

科目ナンバー：(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)B	**史料演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
水野 博子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習は、西欧、中欧、東欧からバルカン半島に至るまで、広い意味でのヨーロッパを検討対象とし、重要な外国語文献の精読と受講者の発表を組み合わせることで、近現代史研究の基礎となる理論的枠組みと実証的な方法論の習得を目標とします。

授業内容

この演習は、西欧、中欧、東欧からバルカン半島に至るまで、広い意味でのヨーロッパを検討対象とし、主としてヨーロッパ近現代史に関する外国語文献の講読と受講生個人の研究発表とを組み合わせて進行する予定です。

・文献講読について

精読形式を採用し、毎回の担当者にはテキストを克明に読み下してもらいますが、あらかじめ準備してきた日本語訳を読み上げる形式はとらず、原典テキストを見ながら日本語にするという同時通訳方式を採用します。これにより、正確かつスピーディに外国語文献を読む能力を訓練します。その際、総合的な議論の手がかりとして、担当者には簡潔なレジュメと補足説明資料を用意してもらいますが、担当ではない受講生もディスカッションの時には積極的な発言を求めますので、綿密な予習をしてください。

・受講生個人の研究発表について

各自関心のあるテーマについてプレゼンテーションをしてもらい、3年次以降のゼミでの研究準備を進めてもらいます。また、文献リストの作成、先行研究の成果に関する調査及び批判的考察、論証方法等の基礎を学びます。2 年次秋学期に実施される予定の 3 年ゼミ選びのためのレポート執筆につなげてもらいたいと思います。

実際の授業進行については、第1回目の授業で受講生と相談しますが、おおむね次のようなスケジュールで授業を進めていく予定です。

第1回 レポート(論文)の書き方、授業の進め方について
第2回 テーマ探究及び講読文献について
第3～9 回 外国語文献講読およびディスカッション
第 10～13 回 テーマ発表
第 14 回 当該学期授業の総合ディスカッションおよび長期休暇中のレポート課題について

履修上の注意

・文献講読および個々人のテーマ発表では、担当者が毎回レジュメを作成し、プレゼンテーションしてもらいますが、同時に発表者以外の受講生にも、司会進行、コメンテータ、書記などの役割を分担してもらうことがありますので、受講生の主体的な参加が前提の授業です。
・ディスカッションタイムでは皆で議論をする練習も行いますので、事前の予習が求められます。
・体調がすぐれない場合などは早めに病院に行くようにしてください。
・感染症の疑いがある時などは通学を控えてください。
・ただし、正当な理由のない無断欠席は減点対象となりえますので、注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

しっかりした準備が求められます。
講読について
〇単語の確認―訳語が文脈に合わせて検討されたかどうか
〇文法事項の確認―きちんとした文章把握ができているか
研究調査について
〇文献調査がしっかりできているか―文献リストの作成を行うこと
〇発表のためのレジュメを作成すること―物語ではなく歴史の論理を考えること
〇剽窃などをしないよう、注のためのメモを作成すること

教科書

詳細は初回授業で指示しますが、以下の文献を読む予定です。初回授業で配布しますので、必ず出席してください。
Timothy Baycroft, Nationalism in Europe, 1789-1945, Cambridg, 1998.
John Breilly, "Nationalism and National Unification in Nineteenth-Century Europe", in : John Breuilly (ed.),The Oxford Hand

参考書

水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム―戦争とナチズムの記憶をめぐって』ミネルヴァ書房、2020 年3月。
小澤卓也・田中聡・水野博子編『教養のための現代史入門』(ミネルヴァ書房、2015 年)。
大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門――歴史のラビリンスへの招待――』(昭和堂、2013年)。
アンダーソン、ベネディクト『定本 想像の共同体―ナショナリズムの起源と流行』(白石隆・白石さや訳)、書籍工房早山、2007 年(増補版 NTT 出版、1997 年)。
ゲルナー、アーネス

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績は、授業中の発表(60%)、ディスカッション 参加等による授業への貢献度(40%)をベースに総合的に判断します。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)B	**史料演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

西洋史の研究の進め方を、履修者が選んだテーマに関する欧文文献(場合によっては邦文文献)の読解と内容報告を通じて学んでゆくことを目的とする。履修者は事前に調査や読解を行い、その内容を演習で報告する。文献の読解を通じて得た知見を、自分が選択したテーマを深めるのに役立てることを目標とする。

授業内容

第1回～第2回 イントロダクション、各履修者が関心をもつテーマの発表 第3回～第8回 日本の研究状況(先行研究)の調査、文献リストの作成、先行研究についての報告 第9回～第 13 回 履修者による研究報告 第 14 回 学期のまとめと最終課題について

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習で各報告に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

全14回の 3 分の2以上の出席を成績評価の条件とする。平常点(授業への貢献)と担当回の報告や最終課題の内容を総合的に評価する(100%)詳しくは初回の授業で説明します。教員からの連絡等を確認し、初回の授業に必ず出席するようにしてください。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS232J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(西洋史)B	**史料演習(西洋史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 耕	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習の目的は、一年次の学習を踏まえ、西洋史を学ぶ上で必要な基本的技術を習得すること、そして各自の研究テーマについて理解を深めることにある。そのため学期の前半では論文要約、後半では研究報告を行う。なお要約する論文は、各受講者が自身のテーマに沿って選定すること。要約、報告のいずれも入念な準備が必要であり、各受講者には授業への積極的な参加を期待する。

授業内容

第 1 回 授業説明
前期の授業を踏まえ、各受講者に今後の研究について口頭で簡潔に説明してもらう。
第 2～7 回 論文要約
各受講者が自身のテーマに沿って雑誌論文を選び、毎回複数名にそれぞれその内容を報告してもらう。
第 8 回 史資料の取り扱い
秋学期の演習では史資料を用いた研究報告を行う。それに先立ち、歴史学における史資料の取り扱いを学習する。
第 9～14 回 研究報告
毎回複数名の受講者に報告してもらう。参加者も積極的に質問を行い、自分の報告に向けて参考にすることが望ましい。

履修上の注意

課題提出期限の厳守。議論への参加をはじめとする授業への積極的姿勢。なお担当講師の専門は近現代フランス史だが、本授業は西洋史学の基本的技術を学ぶことが主な目的であり、他分野に関心のある学生も幅広く受講されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

要約では参加者全員が事前に対象論文を精読しておくこと。研究報告では授業の指示に従い、入念に準備しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

授業の進行に合わせ、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で行う。

成績評価の方法

平常点(議論への参加姿勢など)40%, 報告 30%, 期末レポート 30%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、日本近世史に関する史料を読解するため、基礎的な力を身につけることを目的とする。
近世史料の読み方や調べ方を学び、当該分野に関する理解を深める。

授業内容

はじめに授業で使うテキストについて話し合う。
藩または村・町に関わる活字史料を使用する。
各回の報告者と分担を決める。報告者はレジュメを準備し、担当箇所の史料の内容・用語を説明し、論点の提示を行う。
(1)授業計画および参考書・辞典類の説明
(2)報告と検討1
(3)報告と検討2
(4)報告と検討3
(5)報告と検討4
(6)報告と検討5
(7)報告と検討6
(8)報告と検討7
(9)報告と検討8
(10)報告と検討9
(11)報告と検討 10
(12)報告と検討 11
(13)報告と検討 12
(14)まとめ

履修上の注意

報告・議論の蓄積によって史料への理解は深まるので、受講者全員の積極的な参加を求める。
報告者はレジュメを作成し、遅刻・無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの音読は、報告分担に関わらず、受講者全員の必須である。
語句の読み・意味を予習すること。
音読と文意をとる練習を復習すること。

教科書

自治体史史料集等のプリントを配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。
佐藤孝之ほか著『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』(天野出版工房、2023 年)
「特集／はじめて学ぶ日本近世史」(『歴史評論』813 号、2018 年)
上野大輔ほか編『日本近世史入門』(勉誠社、2024 年)
歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
児玉幸多編『くずし字用例辞典』(東京堂出版)
児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

授業の最終回で検討する。

成績評価の方法

報告内容 40%、授業態度 40%、レポート 20%などによって評価する。

その他

受講生の人数により内容を多少変更する場合がある。
くずし字を特に学びたい者は相談のこと。
節度ある態度を求める。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
長沼 秀明	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

一年次の授業で学んだように，歴史学は史料にもとづく学問です。史料を吟味し，精読することによって，はじめて歴史叙述が可能になるのです。そこで，この授業では，いわゆる史料批判を行ないながら，史料を丹念に読み込んで，史料が意味するところを読み解いていく，という作業を，みんなで根気強くすすめていくことにします。そして，あなたが今後，自分の力で史料を読んで歴史像をつくりあげることができるようになることを目標とします。

授業内容

第1回 「異国船渡来」(1)
第2回 「異国船渡来」(2)
第3回 「異国船渡来」(3)
第4回 「異国船渡来」(4)
第5回 「異国船渡来」(5)
第6回 「異国船渡来」(6)
第7回 「異国船渡来」(7)
第8回 幕末の多摩の村(1)
第9回 幕末の多摩の村(2)
第 10 回 幕末の多摩の村(3)
第 11 回 幕末の多摩の村(4)
第 12 回 幕末の多摩の村(5)
第 13 回 幕末の多摩の村(6)
第 14 回 a:試験
b:まとめ

履修上の注意

1)史料を正確に読み解いていくためには，史料を音読することがとても大切です。
2)仲間とともに研究をすすめていくことの厳しさとたのしさとを味わってください。
3)「日本史概論 A」および「日本史概論 B」を必ず今年度までに履修してください。
4)授業時間は最大限に使います。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、指定された課題に真剣に取り組んでください。

教科書

東大和市史編さん委員会編『里正日誌の世界』(『東大和市史資料編』7)(東大和市，1997 年)(本体価格 2000 円)
上記は基本史料です。毎回の授業に必ず持参してください。

参考書

伊藤好一監修『里正日誌』第7巻～第 10 巻(東大和市教育委員会，1994～1996 年、2014 年)
上記は補助史料です(図書館に常備されています)。
その他，基本史料を読み解くための関連史料や必読文献などは授業で適宜，指示または配付します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に授業の一環として伝えます。

成績評価の方法

毎回の授業の成果(60%)，試験の得点(40%)を総合的に判定し，厳正に行ないます。

その他

1)外国語科目をしっかりと学んでください。
2)情報関係科目を履修することをすすめます。
3)「Oh-o! Meiji システム」の最大限の活用をはかります。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
徳永 健太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習では、日本中世の文献史料講読を通じて、史料に親しむとともに、史料の読み下し方や現代語訳、事項、地名や人名の調べ方など史料読解のための基礎的能力の涵養をめざします。また、史料からどのような「史実」が立ち上がるのか、その現場を体感してもらいたいと考えています。
本演習では、最初に史料の該当箇所を参加者各人に割り当て、その担当箇所について、史料の読み下し、現代語訳、語句や事項、地名・人名の説明という解釈的部分と、先行研究を踏まえ担当箇所にかかわる論点の提示という議論の部分とについて、事前にレジュメを作成し、担当回に報告を行ってもらいます。担当者以外の参加者は、報告に対する確認点、疑問点、補足点などの質疑を通じて、演習に参加してもらいます。

授業内容

本演習では、『東寺評定引付』のうち播磨国矢野荘に関わる部分を講読します。
現在の兵庫県相生市にあった播磨国矢野荘は、王家領や公家領を経て、鎌倉末期に後宇多上皇の寄進により東寺領となります。東寺領となる経緯と寺領化した後の様相が東寺文書に残されており、東寺の矢野荘関係史料は中世荘園史だけでなく中世史研究の宝庫とも言える存在です。
矢野荘関係史料はおもに古文書と古記録という形で残されています。古文書は朝廷や幕府、東寺を支配する寺院の出した命令や伝達、土地の領知や売買などにかかわる証拠書類といった性格です。一方古記録は、寺院内部でのお坊さんの話し合いを議事録としてまとめた「引付」が残されています。文書が内容的には比較的バラバラであるのに対し、「引付」ではある程度連続性のあるまとまった記事が記されており、荘園からの年貢徴収、百姓らの訴え、現地でのトラブルから、朝廷に臨時税を掛けられたり守護から戦費負担を求められたりすることへの対応など、荘園内部の支配だけでなく朝廷や守護、幕府とのやりとりなど、中世社会をめぐるさまざまな側面を史料からたどっていくことができます。本演習では、記述量の多い南北朝期を中心に、できるだけ矢野荘や東寺を考えていく上で興味深い箇所をピックアップして講読していきます。
第 1 回 史料講読演習の説明:演習の進め方 講読担当者の作業 参加者の役割など
講読史料・講読内容の概略説明:東寺について 東寺文書について 矢野荘について
第 2 回 講読担当決め
講読史料の内容説明:東寺寺院組織 東寺と朝廷・幕府・守護との関係
第 3 回 史料講読のための調べもの 辞書辞典類 先行研究 読み下し・現代語訳について
第 4 回 第 1 回講読(受講者担当) 以下第 14 回まで
最終回は、受講者による報告が終わっている場合には各報告の振り返りを行う

履修上の注意

報告担当者は、事前に報告レジュメを提出して参加者に共有するとともに、担当回ではみずから報告し、質疑応答を行ってもらいます。無断欠席すると演習が成立せず他の参加者の迷惑にもなりますので、くれぐれも欠席しないでください。受講人数にもよりますが、基本的にはみなさん最低 1 回は講読を担当していただきます。もし受講人数が多く講読を担当しない方が多く出るようなら、レポート課題も提示します。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者は読み下し・現代語訳の作成、語句等の調べものなどさまざまな準備が必要です。また担当者以外の参加者は、その回の該当部分について事前に目を通し、自身で読み下してみるとともに、その際に疑問やわからない点などをメモしておき、演習当日の質疑に備えておきましょう。

教科書

テキストとなる文献は、『相生市史』第 7 巻(矢野荘史料(1)引付集)に収録されています。講読する箇所は授業で指示します。

参考書

基本的な参考文献は授業時に提示します。

課題に対するフィードバックの方法

演習時の質疑応答・コメントを通じてフィードバックします。

成績評価の方法

講読担当時の発表内容と質疑 :70%
授業参加度 :30%

その他

機会があれば学期に 1 回ほど課外で博物館や史跡見学などを行い、広く日本中世史への関心を涵養したいと思います。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒井 秀規	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
日本史学専攻の学生が卒業に必要なものは卒業論文です。
それを書くための基礎力を演習形式により培うことが目標となります。
日本古代史の史料は基本的に漢文的な史料ですが，その読解を中心にし，さまざまな事項に対して古代史の研究方法の基礎を押さえながら進めていきます。

授業内容
六国史の二番目である『続日本紀』(しょくにほんぎ)を読んでいきます。
文武天皇元年(697)から桓武天皇の延暦 10 年(791)までの律令国家の公式記録です。
そのうち、天平神護元年(七六五)正月から、女帝である称徳天皇の時代を読んでみましょう。
史料には多様な事件や案件が出てきますが，何かに興味・問題意識を見つけられるような論文執筆上のヒントをつかめるように内容にも注目していきます。
前期中には読み込みを中心に報告をしていただきます。
(1)演習形式と進め方について，また論文や史料の引き方などについての説明を行います。
(2)史料の配布と『続日本紀』の解題(テキストの説明)。報告順の決定。
(3)手本として、天平神護元年(七六五)正月条を担当教員が報告
(4)～(14)報告順に従い演習発表を行っていただきます。

履修上の注意
欠席は事前に連絡することが望ましい。
報告に当たってる際の無断欠席は成績以前の問題ですので，最低限のマナーを守っていただくことを求めます。
レジュメについても，おおよそ体裁を揃えていただくようにしてもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容
漢文史料のため，漢和辞典などを日常的に利用し，漢文の文法に通じるよう努めること。
報告者は報告内容プラス質疑応答もあるので，幅広く勉強しておくこと，また報告担当者でない者も積極的に質問を発し，参加者全員で議論し，理解を深めていくように努める。

教科書
新日本古典文学大系『続日本紀』4(岩波書店)
テキストのコピーは授業時に配布します。

参考書
池田温編『日本古代史を学ぶための漢文入門』(吉川弘文館，2006)
吉村武彦編『古代史の基礎知識』(角川書店，2005)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 社会・史料編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 政治・外交編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史 1・2・3』(吉川弘文館，2022)
勝浦令子『孝謙・称徳天皇』ミネルヴァ書房 2014
寺西貞弘『道鏡』ちくま新書 2024
荒井秀規『高麗福信』吉川弘文館 2026
佐

課題に対するフィードバックの方法
次の授業の中で補足してもらう。教員側からも補足をする。

成績評価の方法
授業への出席・貢献度 50%　報告内容 50%
報告をしなかった場合、出席が 10 回未満であった場合は単位となりません。
内容については最低限の必要事項をクリアしていれば問題ありません。
まずは出席し，報告をしっかりとするということが大事です。

その他
古代の史料はそのほとんどが漢文体です。
漢和辞典を一冊手許におくようにしましょう。
『新字源』角川書店『新漢語林』大修館
あたりが良いでしょう
夏期休暇中には課題(博物館・遺跡・古社寺などの見学報告)を出します。後期の授業で報告してもらいます。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡井 誠一郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
本演習では、昭和戦前期の国際情勢や国際秩序に対し、知識人が有した認識に関係する史料を、当時の状況や歴史的文脈を前提としつつ講読する。これにより、日本史専攻の卒業論文執筆において不可欠となる、自身の問題関心に即した史料の検索・読解・批判といった能力および技術を身につけてもらうことを目標とする。
春学期は、1925 年に発足した「民間」の国際組織である太平洋問題調査会が、1929 年に京都で開催した第三回太平洋会議の報告書を講読する。国際秩序や東アジア情勢が変化する中、会議に参加した知識人がどのような問題に関心を抱いたのか、また他国の参加者のいかなる言説に注目したのかなど、国内外に対する認識について検討していきたい。

授業内容
第 1 回:イントロダクション①(授業内容、進め方の説明)
第 2 回:イントロダクション②(レジュメ作成・報告の方法／テキストについての説明)
第 3 回:「一九二七年第二回会議(ホノルル)以後の活動経過」(第一部)／「一九二九年第三回会議(京都)の準備経過」(第二部)
第 4 回:「中央理事会の決議」(第三部第一章)
第 5 回:「プログラム委員の配慮」(第三部第二章)／「京都に於ける本会議(1)」(第三部第三章:「開会式」)
第 6 回:「京都に於ける本会議(2)」(第三部第三章:各国代表者挨拶)
第 7 回:「京都に於ける本会議(3)」①(第三部第三章:「機械時代と伝統的文化」)
第 8 回:「京都に於ける本会議(3)」②(第三部第三章:「極東に於ける産業化問題」)
第 9 回:「京都に於ける本会議(3)」③(第三部第三章:「人口食糧問題」)
第 10 回:「京都に於ける本会議(3)」④(第三部第三章:中国問題)
第 11 回:「京都に於ける本会議(3)」⑤(第三部第三章:中国・満州問題)
第 12 回:「京都に於ける本会議(3)」⑥(第三部第三章:中国・満州問題／「太平洋外交関係」)
第 13 回:「京都に於ける本会議(3)」⑦(第三部第三章:国際連盟との連携／「一般公開講演会」)
第 14 回:「京都に於ける本会議(3)」⑧(第三部第三章:「太平洋問題調査会の概況」)／まとめ

履修上の注意
演習は、各人の主体的な授業への参加がなければ成立しない。テキストの熟読など、当日の議論に向けた準備を、意識的に行ってもらいたい。また、参加者には、それぞれ最低一回は史料に関する報告を行ってもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容
報告担当者は、史料の担当範囲について、要約と論点の提示のほか、他の参加者の質問に応答できるよう補足説明の用意をし、レジュメを作成すること。
　他の参加者は、議論への積極的な参加ができるよう、扱う史料についてただ読むのではなく、疑問点や論点を出せるよう熟読してくること。

教科書
新渡戸稲造編『太平洋問題――九二九年京都会議―』(太平洋問題調査会、1930 年)。
※各回の該当箇所のコピーを教員が用意する。

参考書
特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法
授業内での質疑応答、講評などによって行う。

成績評価の方法
報告内容(40%)、授業への参加度(40%)、学期末レポート(20%)によって評価する。

その他
特になし。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小林 信也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

明治初年の東京府政に関する文書などを素材に、日本近代史に関する史料の読解と分析を学ぶ。これによって、史料の発見・判読・分析の技能を高め、その分析結果からオリジナルな論点を抽出する能力を獲得することを到達目標とする。

授業内容

第1回 春学期演習のスケジュール作成とサンプル史料の提示。
第2回以降、第 14 回まで史料の輪読。

履修上の注意

演習は無遅刻・無欠席が原則であると考える。
やむをえず欠席する場合は事前の連絡をすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、輪読する史料について、語句の意味調べなどを行って読解を試みておくこと。復習として、輪読した史料について、関連する研究文献などを入手してより深い分析を各自で行うこと。また、史料から、論点を抽出してそれを文章化しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o! Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

レポート 70%、授業への貢献度 30%

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 豪	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史学専攻では卒業論文として日本に関する歴史を書くことが求められる。しかし、当然ながら過去のできごとについて知っているだけでは歴史を書くことはできない。そこでこの授業では歴史を書くために不可欠な史料批判の方法を学んでもらう。

徳川夢声という漫談家や俳優として活動した人物がアジア太平洋戦争下に書いていた日記を題材にして、政治家や軍人、知識人の著作とは違った角度から戦時下の日本について考察してほしい。なお、この授業では徳川夢声自身よりも、彼が生きた戦時下の日本について考えることに重点を置いている。当時の政治や戦争、人びとの暮らしなど各自の関心に沿って議論を進めてもらいたい。

授業内容

第 1 回:イントロダクション(1)(授業の内容・進行方法の説明)
第 2 回:イントロダクション(2)(報告方法の説明/テキスト『夢声戦中日記』について)
第 3 回:まえがき・昭和 16 年 12 月～昭和 17 年 4 月
第 4 回:昭和 17 年 5 月～8 月
第 5 回:昭和 17 年 9 月～11 月
第 6 回:昭和 17 年 12 月～昭和 18 年 1 月
第 7 回:昭和 18 年 2 月～9 月
第 8 回:昭和 18 年 10 月～12 月
第 9 回:昭和 19 年 1 月～3 月
第 10 回:昭和 19 年 4 月～5 月
第 11 回:昭和 19 年 6 月～9 月
第 12 回:昭和 19 年 10 月～11 月
第 13 回:昭和 19 年 12 月～昭和 20 年 1 月
第 14 回:昭和 20 年 2 月～3 月/まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成し、担当範囲の要約、補足説明や論点の提示などを行ってもらう。また、参加者からの質問にも答えられるように十分な準備をしてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では参加者による議論が何よりも重要である。そのためにも全員が教科書を授業前に熟読しておくことはもちろんのこと、内容についての疑問点や論点を出せるよう準備しておくことが望ましい。

教科書

徳川夢声『夢声戦中日記』(中公文庫、2015 年)
※ 1977 年版ではないので注意すること

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回にてレポートを返却し、講評を行う。

成績評価の方法

授業での報告(60%)、レポート作成(20%)、授業への参加度(20%)によって評価する。理由なく、報告やレポート提出がない場合は評価の対象とならないので注意してほしい。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習は、近世史料(活字化された古文書・古記録)を読みながら、史料読解の基礎を身につけることを目的とする。近世史料に初めて本格的に触れる学生を対象とし、史料の文体や語彙、記述の特徴に慣れながら、史料の内容を正確に理解する力を養う。あわせて、史料が書かれた背景にある当時の社会や人々の関心にも目を向ける。
授業では、史料の「考察」や「評価」を行うことよりも、まず史料を正確に読むこと、内容を整理して説明できるようになることを重視する。史料を読むための基礎的な力を身につけることが、3 年次以降の専門的な研究の土台となる。
春学期は、「長崎平戸町人別帳」と関連史料(起請文・法令等)を輪読する。いわゆる「鎖国」体制が成立する時期に作成された宗門人別改帳を読み、当時の長崎の町がどのような来歴を持つ人々や家族によって構成されていたのかを確認する。史料を通して、近世社会の基本的な構造を理解し、史料特有の表現や記載方法に慣れることを目指す。また、対外交流の窓口であった長崎の社会的特徴にも触れる。
秋学期は、島原の乱(島原・天草一揆)に関する「天草一揆書上」を扱う。実際に出来事を経験した人々の記録を読みながら、史料から何が読み取れるのかを確認し、当時の人々の視点にも目を向ける。

授業内容

【授業の進め方(1 回の流れ)】
1. 史料の背景説明(教員)
2. 担当者による釈文・現代語訳の報告
3. 全員で内容の確認・語句の整理
4. 教員による補足説明
5. 当日の内容の確認・まとめ

第 1 回 イントロダクション(授業の進め方・史料の概要)
第 2 回 史料の読解方法と発表の仕方
第 3 回～第 13 回 史料の講読と発表(担当者による報告・討論)
第 14 回 期末試験および解説

履修上の注意

本演習は、史料を読み、発表・討論を行う形式の授業である。毎回の授業への出席と、事前準備を前提とする。
近世史料は、初めて読む学生には難しく感じられる場合もあるが、授業内で読み方や考え方を丁寧に解説するため、意欲的に取り組んでほしい。
無断欠席や発表準備の不足は成績評価に影響するため注意すること。やむを得ない欠席の場合は、事前または事後に必ず連絡すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前に、読めない漢字や語句を調べながらテキストを一読しておくこと。
授業時に発表者の報告内容と照らし合わせ、相違点は質問すること。
授業後はもう一度テキストを一読し、理解を定着させること。

教科書

『九州史料叢書 第 16 (長崎平戸町人別帳)』(九州史料刊行会、1965 年)。国立国会図書館のデジタルコレクションで閲覧可能。https://dl.ndl.go.jp/pid/2992912/1/59
『近世長崎法制史料集【1】天正8年～享保元年』(岩田書院、2014 年)コピーを配布する。
『寺沢藩士による天草一揆書上』(苓北町、2000 年)。pdf を共有するので、各自でプリントアウトし、授業時に持参すること。

参考書

『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』(吉川弘文館、2023 年)
『近世古文書用語辞典』(吉川弘文館、2024 年)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

毎週の授業で、発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

成績評価は、発表(40%)、授業への参加態度(30%)、期末テスト(30%)を総合して行う。
発表では、担当史料の理解度、調査内容、発表の工夫などを評価する。
参加態度には、授業への出席状況、討論への参加、発言内容などを含む。
期末テストでは、授業で扱った史料や内容についての理解度を確認する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)A	**史料演習(日本史)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業は、日本現代史に関する史料を読解する基礎的な力を身につけるための演習である。史料の読み方や調べ方をよく理解し、史料の背景となる歴史的状況とあわせて史料を読解することは、歴史学に必須のスキルと言える。授業では、教育史・社会史・地域史に関する史料を取り上げて、有名人や大事件ではない、ローカルな人物や地域の視点から歴史を考える。春学期は、京都府北部で学校教員を務めた渋谷忠男(1926～2020 年)の著作を読解する。
また、この授業では戦後日本の教育について取り上げることから、教職に関心がある者の履修も歓迎する。
【到達目標】
1. 日本現代史に関する史料の読み方や調べ方について理解できる。
2. 史料の背景となる歴史的状況を多面的に調べて日本現代史について理解を深め、地域史像をみずから構築できる。

授業内容

第 1 回:授業の内容と進め方について
第 2 回:史料批判の方法について
第3回:渋谷忠男『郷土に学ぶ社会科』(1958 年)①
第 4 回:渋谷忠男『郷土に学ぶ社会科』(1958 年)②
第 5 回:渋谷忠男『郷土に学ぶ社会科』(1958 年)③
第 6 回:渋谷忠男『郷土に学ぶ社会科』(1958 年)④
第 7 回:渋谷忠男『郷土に学ぶ社会科』(1958 年)⑤
第 8 回:渋谷忠男『郷土に学ぶ社会科』(1958 年)⑥
第 9 回:渋谷忠男『学校は地域に何ができるか』(1988 年)①
第 10 回:渋谷忠男『学校は地域に何ができるか』(1988 年)②
第 11 回:渋谷忠男『学校は地域に何ができるか』(1988 年)③
第 12 回:渋谷忠男『学校は地域に何ができるか』(1988 年)④
第 13 回:渋谷忠男『学校は地域に何ができるか』(1988 年)⑤
第 14 回:まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成して、テキストの要約、参考文献の調査、疑問点や論点の提示など丁寧な報告を求めます。報告者は無断欠席をしないこと。受講者はテキストに目を通し、討論に積極的に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

すべての受講生はテキストを事前に精読し、語句の読みや意味を調べるなど、討論の準備をして下さい。

教科書

授業で史料を配布します。

参考書

北河賢三『戦後史のなかの生活記録運動 : 東北農村の青年・女性たち』(岩波書店、2014 年)
小林千枝子『戦後日本の地域と教育 : 京都府奥丹後における教育実践の社会史』(学術出版会、2014 年)
須永哲思『桑原正雄の郷土教育 : 「資本の環」の中の私達』(京都大学学術出版会、2020 年)
仲田陽一『地域に根ざす学校づくり : “子どもが主人公”の学校改革を求めて』(本の泉社、2016 年)
和井田結佳子『給食を通じた教育で子どもたちが学んだこと : 旧久美浜町・川上小学校の“給食教育”が残したもの』(農山

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行ないます。

成績評価の方法

報告内容(40%)、授業への貢献度(30%)、レポート(30%)によって総合的に評価します。

その他

受講生の人数により内容を多少変更する場合があります。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、日本近世史に関する史料を読解するため、基礎的な力を身につけることを目的とする。
活字史料の読み方や調べ方を学び、当該分野に関する理解を深める。

授業内容

はじめに授業で使うテキストについて話し合う。
秋学期は、史料輪読(活字史料)とともに、受講生が個々の関心に基づく史料を提示し研究報告を行う。
各回の報告者と分担を決める。報告者はレジュメを準備し、担当箇所の史料の内容・用語を説明し、論点の提示を行う。
(1)授業計画および参考書・辞典類の説明
(2)報告と検討1
(3)報告と検討2
(4)報告と検討3
(5)報告と検討4
(6)報告と検討5
(7)報告と検討6
(8)報告と検討7
(9)報告と検討8
(10)報告と検討9
(11)報告と検討 10
(12)報告と検討 11
(13)報告と検討 12
(14)まとめ

履修上の注意

報告・議論の蓄積によって史料への理解は深まるので、受講者全員の積極的な参加を求める。
報告者はレジュメを作成し、遅刻・無断欠席をしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの音読は、報告分担に関わらず、受講者全員の必須である。
語句の読み・意味を予習すること。
音読と文意をとる練習を復習すること。

教科書

自治体史史料集等のプリントを配布する。

参考書

授業で適宜紹介する。
佐藤孝之ほか著『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』(天野出版工房、2023 年)
「特集/はじめて学ぶ日本近世史」(『歴史評論』813 号、2018 年)
上野大輔ほか編『日本近世史入門』(勉誠社、2024 年)
歴史学研究会編『日本史年表』(岩波書店)
児玉幸多編『くずし字用例辞典』(東京堂出版)
児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版)

課題に対するフィードバックの方法

授業の最終回で検討する。

成績評価の方法

報告内容 40%、授業態度 40%、レポート 20%などによって評価する。

その他

受講生の人数により内容を多少変更する場合がある。
くずし字を特に学びたい者は相談のこと。
節度ある態度を求める。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
長沼 秀明	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

一年次の授業で学んだように, 歴史学は史料にもとづく学問です。史料を吟味し, 精読することによって, はじめて歴史叙述が可能になるのです。そこで, この授業では, いわゆる史料批判を行ないながら, 史料を丹念に読み込んで, 史料が意味するところを読み解いていく, という作業を, みんなで根気強くすすめていくことにします。そして, あなたが今後, 自分の力で史料を読んで歴史像をつくりあげることができるようになることを目標とします。

授業内容

第1回 幕末維新期の各地の史料(1)
第2回 幕末維新期の各地の史料(2)
第3回 幕末維新期の各地の史料(3)
第4回 幕末維新期の各地の史料(4)
第5回 幕末維新期の各地の史料(5)
第6回 幕末維新期の各地の史料(6)
第7回 幕末維新期の各地の史料(7)
第8回 戊辰戦争期の多摩の村(1)
第9回 戊辰戦争期の多摩の村(2)
第 10 回 戊辰戦争期の多摩の村(3)
第 11 回 戊辰戦争期の多摩の村(4)
第 12 回 戊辰戦争期の多摩の村(5)
第 13 回 戊辰戦争期の多摩の村(6)
第 14 回 a:試験
b:まとめ

履修上の注意

1)史料を正確に読み解いていくためには, 史料を音読することがとても大切です。
2)仲間とともに研究をすすめていくことの厳しさとたのしさとを味わってください。
3)「日本史概論 A」および「日本史概論 B」を必ず今年度までに履修してください。
4)授業時間は最大限に使います。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、指定された課題に真剣に取り組んでください。

教科書

東大和市史編さん委員会編『里正日誌の世界』(『東大和市史資料編』7)(東大和市, 1997 年)(本体価格 2000 円)
上記は基本史料です。毎回の授業に必ず持参してください。

参考書

伊藤好一監修『里正日誌』第7巻~第 10 巻(東大和市教育委員会, 1994~1996 年、2014 年)
上記は補助史料です(図書館に常備されています)。
その他, 基本史料を読み解くための関連史料や必読文献などは授業で適宜, 指示または配付します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に授業の一環として伝えます。

成績評価の方法

毎回の授業の成果(40%), 試験の得点(30%), 夏季休業中のレポートおよび年度末レポートの内容(30%)を総合的に判定し, 厳正に行ないます。

その他

1)外国語科目をしっかりと学んでください。
2)情報関係科目を履修することをすすめます。
3)「Oh-o! Meiji システム」の最大限の活用をはかります。

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
徳永　健太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
本演習では、日本中世の文献史料講読を通じて、史料に親しむとともに、史料の読み下し方や現代語訳、事項、地名や人名の調べ方など史料読解のための基礎的能力の涵養をめざします。また、史料からどのような「史実」が立ち上がるのか、その現場を体感してもらいたいと考えています。
本演習では、最初に史料の該当箇所を参加者各人に割り当て、その担当箇所について、史料の読み下し、現代語訳、語句や事項、地名・人名の説明という解釈的部分と、先行研究を踏まえ担当箇所にかかわる論点の提示という議論の部分とについて、事前にレジュメを作成し、担当回に報告を行ってもらいます。担当者以外の受講者は、報告に対する確認点、疑問点、補足点など質疑・意見を通じて、演習に参加してもらいます。

授業内容
本演習では、『東寺評定引付』のうち播磨国矢野荘に関わる部分を講読します。
現在の兵庫県相生市にあった播磨国矢野荘は、王家領や公家領を経て、鎌倉末期に後宇多上皇の寄進により東寺領となります。東寺領となる経緯と寺領化した後の様相が東寺文書に残されており、東寺の矢野荘関係史料は中世荘園史だけでなく中世史研究の宝庫とも言える存在です。
矢野荘関係史料はおもに古文書と古記録という形で残されています。古文書は朝廷や幕府、東寺を支配する寺院の出した命令や伝達、土地の領知や売買などにかかわる証拠書類といった性格です。一方古記録は、寺院内部でのお坊さんの話し合いを議事録としてまとめた「引付」が残されています。文書が内容的には比較的多種多様であるのに対し、「引付」ではある程度連続性のあるまとまった記事が記されており、荘園からの年貢徴収、百姓らの訴え、現地でのトラブルから、朝廷に臨時税を掛けられたり守護から戦費負担を求められたりすることへの対応など、荘園内部の支配だけでなく朝廷や守護、幕府とのやりとりのように、中世社会をめぐるさまざまな側面を史料からたどることができます。本演習では、記述量の多い南北朝期を中心に、矢野荘や東寺を考えていく上で特に興味深い箇所をピックアップして講読していきます。
第１回 史料講読演習の説明：演習の進め方 講読担当者の作業 参加者の役割など
講読史料・講読内容の概略説明・講読史料の内容説明 講読担当者決め
第２回 史料講読のための調べもの 辞書辞典類 先行研究 読み下し・現代語訳について
第３回 第１回講読（受講者担当） 以下第 14 回まで講読
最終回は、受講者による報告が終わっている場合には、各報告の振り返りを行う

履修上の注意
初回は演習の説明や受講人数の把握、担当者決めを行いますので、必ず出席してください。
報告担当者は、事前に報告レジュメを提出して参加者に共有するとともに、担当回ではみずから報告し、質疑応答を行ってもらいます。無断欠席すると演習が成立せず他の参加者の迷惑にもなりますので、くれぐれも欠席しないでください。受講人数にもよりますが、基本的にはみなさん最低１回は講読を担当していただきます。もし受講人数が多く講読を担当しない方が多く出るようなら、レポート課題も提示します。

準備学習(予習・復習等)の内容
報告担当者は読み下し・現代語訳の作成、語句等の調べものなどさまざまな準備が必要です。また担当者以外の参加者は、その回の該当部分について事前に目を通し、自身で読み下してみるとともに、その際に疑問やわからない点などをメモしておき、演習当日の質疑に備えておきましょう。

教科書
テキストとなる文献は、『相生市史』第７巻（矢野荘史料(1)引付集）に収録されています。講読する箇所は授業で指示します。

参考書
基本的な参考文献は授業時に提示します。

課題に対するフィードバックの方法
演習時の質疑応答・コメントを通じてフィードバックします。

成績評価の方法
講読担当時の発表内容と質疑 ：70%
授業参加度 ：30%

その他
機会があれば学期に１回ほど課外で博物館や史跡見学などを行い、広く日本中世史への関心を涵養したいと思います。

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒井　秀規	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
日本史学専攻の学生が卒業に必要なものは卒業論文です。
それを書くための基礎力を演習形式により培うことが目標となります。
日本古代史の史料は基本的に漢文的な史料ですが，その読解を中心にし，さまざまな事項に対して古代史の研究方法の基礎を押さえながら進めていきます。

授業内容
基本的に前期の続きを読み進めていきます。
どこからになるかは、前期の皆さんの奮闘次第です。
(1)後期の演習形式と進め方について
(2)～(14)報告順に従い演習発表を行っていただきます。
毎回　何人かに夏期休暇中のレポート報告(博物館・遺跡・古社寺などの見学報告)もしてもらいます

履修上の注意
欠席は事前連絡することが望ましい。
報告に当たっての際の無断欠席は成績以前の問題ですので，最低限のマナーを守っていただくことを求めます。
レジュメについても，おおよそ体裁を揃えていただくようにしてもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容
漢文史料のため，漢和辞典などを日常的に利用し，漢文の文法に通じるよう努めること。
報告者は報告内容プラス質疑応答もあるので，幅広く勉強しておくこと，また報告担当者でない者も積極的に質問を発し，参加者全員で議論し，理解を深めていくように努める。

教科書
新日本古典文学大系『続日本紀』4（岩波書店）
テキストのコピーは授業時に配布します。

参考書
池田温編『日本古代史を学ぶための漢文入門』(吉川弘文館，2006)
吉村武彦編『古代史の基礎知識』(角川書店，2005)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 社会・史料編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 政治・外交編』(吉川弘文館，2020)
新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史 1・2・3』(吉川弘文館，2022)
勝浦令子『孝謙・称徳天皇』ミネルヴァ書房 2014
寺西貞弘『道鏡』ちくま新書 2024
荒井秀規『高麗福信』吉川弘文館 2026
佐

課題に対するフィードバックの方法
次の授業の中で補足してもらう。教員側からも補足をする。

成績評価の方法
授業への出席・貢献度 50% 報告 50%
報告をしなかった場合、出席が 10 回未満であった場合は単位となりません。
内容については最低限の必要事項をクリアしていれば問題ありません。
まずは出席し，報告をしっかりとするということが大事です。

その他
古代の史料はそのほとんどが漢文体です。
漢和辞典を一冊手許におくようにしましょう。
『新字源』角川書店『新漢語林』大修館
あたりが良いでしょう

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡井 誠一郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習では、昭和戦前期の国際情勢や国際秩序に対し、知識人が有した認識に関係する史料を、当時の状況や歴史的文脈を前提としつつ講読する。これにより、日本史専攻の卒業論文執筆において不可欠となる、自身の問題関心に即した史料の検索・読解・批判といった能力および技術を身につけてもらうことを目標とする。

秋学期は、1941 年 1 月から 11 月にかけて、海軍省調査課が収集した資料や、同組織が知識人を集めて組織した各種懇談会の議事録などを講読する。日本とアメリカやイギリスなどの国々との間で開戦に至るまでに、どのような対外認識や外交方針が知識人らによって示されたのかなどを、その時々の国際情勢の変化と照らし合わせつつ議論したい。

授業内容

第 1 回:イントロダクション①(授業内容、進め方の説明)
第 2 回:イントロダクション②(テキストについての説明)
第 3 回:1～2 月における国際情勢分析および外交方針に関する諸見解①
第 4 回:1～2 月における国際情勢分析および外交方針に関する諸見解②
第 5 回:イギリス・ドイツ間における和平の可能性について①
第 6 回:イギリス・ドイツ間における和平の可能性について②
第 7 回:5～6 月における国際情勢分析および外交方針に関する諸見解
第 8 回:6 月における日米関係に対する諸見解
第 9 回:独蘇開戦について
第 10 回:蘭印問題①
第 11 回:蘭印問題②
第 12 回:7～8 月における国際情勢分析および外交方針に関する諸見解
第 13 回:アジア諸地域に対する認識
第 14 回:戦争目的・日米交渉に関する諸見解／まとめ

履修上の注意

演習は、各人の主体的な授業への参加がなければ成立しない。テキストの熟読など、当日の議論に向けた準備を、意識的に行ってもらいたい。また、参加者には、それぞれ最低一回は史料に関する報告を行ってもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者は、史料の担当範囲について、要約と論点の提示のほか、他の参加者の質問に応答できるよう補足説明の用意をし、レジュメを作成すること。

他の参加者は、議論への積極的な参加ができるよう、扱う史料についてただ読むのではなく、疑問点や論点を出せるよう熟読してくること。

教科書

大久保達正・永田元也・前川邦生・兵頭徹 編『昭和社会経済史料集成第十二巻 海軍省資料(12)』(大東文化大学東洋研究所、1988 年)。
大久保達正・永田元也・前川邦生・兵頭徹 編『昭和社会経済史料集成第十三巻 海軍省資料(13)』(大東文化大学東洋研究所、1989 年)。
大久保達正・永田元也・前川邦生・兵頭徹 編『昭和社会経済史料集成第十四巻 海軍省資料(14)』(大東文化大学東洋研究所、1990 年)。
※各回の該当箇所のコピーを、教員が用意する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での質疑応答、講評などによって行う。

成績評価の方法

報告内容(40%)、授業への参加度(40%)、学期末レポート(20%)によって評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小林 信也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

近現代の東京の都市社会に関する文書や図像史料(地図・写真など)などの史料素材を学生が自由に探索して、日本近代史に関する史料の読解と分析を学ぶ。これによって、史料の発見・判読・分析の技能を高め、その分析結果からオリジナルな論点を抽出する能力を獲得することを到達目標とする。

授業内容

第1回 秋学期演習のスケジュール作成とサンプル史料の提示。
第2回以降、第 14 回まで史料の輪読。

履修上の注意

演習は無遅刻・無欠席が原則であると考える。
やむをえず欠席する場合は事前の連絡をすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、輪読する史料についての語句調べなどを行い読解と試みる。復習として、輪読した史料に関連する研究文献などを入手してそれを読み、史料理解を深めておく。また、史料から各自で論点を抽出して文章化しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o! Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

レポート 70%、授業への貢献度 30%

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 豪	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史学専攻では卒業論文として日本に関する歴史を書くことが求められる。しかし、当然ながら過去のできごとについて知っているだけでは歴史を書くことはできない。そこでこの授業では歴史を書くために不可欠な史料批判の方法を学んでもらう。

アジア歴史資料センターが運営しているウェブサイトから閲覧できる史料を利用して、現代日本の政治・外交・軍事などに関する史料を読解する経験を積んでもらう。利用する史料は基本的に公文書に分類されるが、記述が正確ではない場合も念頭に置きながら読み進めてほしい。

授業内容

第 1 回:イントロダクション(1)(授業の内容・進行方法の説明)
第 2 回:イントロダクション(2)(報告方法の説明／アジア歴史資料センターの利用方法について)
第 3 回:国内政治に関する史料(1)
第 4 回:国内政治に関する史料(2)
第 5 回:国内政治に関する史料(3)
第 6 回:国内政治に関する史料(4)
第 7 回:外交に関する史料(1)
第 8 回:外交に関する史料(2)
第 9 回:外交に関する史料(3)
第 10 回:外交に関する史料(4)
第 11 回:軍事に関する史料(1)
第 12 回:軍事に関する史料(2)
第 13 回:軍事に関する史料(3)
第 14 回:軍事に関する史料(4)／まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成し、担当範囲の要約、補足説明や論点の提示などを行ってもらう。また、参加者からの質問にも答えられるように十分な準備をしてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では参加者による議論が何よりも重要である。そのためにも全員が当日利用する史料を授業前に熟読しておくことはもちろんのこと、内容についての疑問点や論点を出せるよう準備しておくことが望ましい。

教科書

アジア歴史資料センターのウェブサイトから指示した史料を各自でダウンロードあるいは印刷しておくこと。
利用方法はイントロダクションにおいて説明する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回にてレポートを返却し、講評を行う。

成績評価の方法

授業での報告(60%)、レポート作成(20%)、授業への参加度(20%)によって評価する。理由なく、報告やレポート提出がない場合は評価の対象とならないので注意してほしい。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習は、近世史料(活字化された古文書・古記録)を読みながら、史料読解の基礎を身につけることを目的とする。近世史料に初めて本格的に触れる学生を対象とし、史料の文体や語彙、記述の特徴に慣れながら、史料の内容を正確に理解する力を養う。あわせて、史料が書かれた背景にある当時の社会や人々の関心にも目を向ける。
授業では、史料の「考察」や「評価」を行うことよりも、まず史料を正確に読むこと、内容を整理して説明できるようになることを重視する。史料を読むための基礎的な力を身につけることが、3 年次以降の専門的な研究の土台となる。
春学期は、「長崎平戸町人別帳」と関連史料(起請文・法令等)を輪読する。いわゆる「鎖国」体制が成立する時期に作成された宗門人別改帳を読み、当時の長崎の町がどのような来歴を持つ人々や家族によって構成されていたのかを確認する。史料を通して、近世社会の基本的な構造を理解し、史料特有の表現や記載方法に慣れることを目指す。また、対外交流の窓口であった長崎の社会的特徴にも触れる。
秋学期は、島原の乱(島原・天草一揆)に関する「天草一揆書上」を扱う。実際に出来事を経験した人々の記録を読みながら、史料から何が読み取れるのかを確認し、当時の人々の視点にも目を向ける。

授業内容

【授業の進め方(1 回の流れ)】
1. 史料の背景説明(教員)
2. 担当者による釈文・現代語訳の報告
3. 全員で内容の確認・語句の整理
4. 教員による補足説明
5. 当日の内容の確認・まとめ

【授業計画】
第 1 回 イントロダクション(授業の進め方・史料の概要)
第 2 回 史料の読解方法と発表の仕方
第 3 回～第 13 回 史料の講読と発表(担当者による報告・討論)
第 14 回 期末試験および解説

履修上の注意

本演習は、史料を読み、発表・討論を行う形式の授業である。毎回の授業への出席と、事前準備を前提とする。
近世史料は、初めて読む学生には難しく感じられる場合もあるが、授業内で読み方や考え方を丁寧に解説するため、意欲的に取り組んでほしい。
無断欠席や発表準備の不足は成績評価に影響するため注意すること。やむを得ない欠席の場合は、事前または事後に必ず連絡すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前に、読めない漢字や語句を調べながらテキストを一読しておくこと。
授業時に発表者の報告内容と照らし合わせ、相違点は質問すること。
授業後はもう一度テキストを一読し、理解を定着させること。

教科書

『九州史料叢書 第 16 (長崎平戸町人別帳)』(九州史料刊行会、1965 年)。国立国会図書館のデジタルコレクションで閲覧可能。https://dl.ndl.go.jp/pid/2992912/1/59
『近世長崎法制史料集【1】天正8年～享保元年』(岩田書院、2014 年)コピーを配布する。
『寺沢藩士による天草一揆書上』(苓北町、2000 年)。pdf を共有するので、各自でプリントアウトし、授業時に持参すること。

参考書

『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』(吉川弘文館、2023 年)
『近世古文書用語辞典』(吉川弘文館、2024 年)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

毎週の授業で、発表に対する講評を行う。

成績評価の方法

成績評価は、発表(40%)、授業への参加態度(30%)、期末テスト(30%)を総合して行う。
発表では、担当史料の理解度、調査内容、発表の工夫などを評価する。
参加態度には、授業への出席状況、討論への参加、発言内容などを含む。
期末テストでは、授業で扱った史料や内容についての理解度を確認する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
史料演習(日本史)B	**史料演習(日本史)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

この授業は、日本現代史に関する史料を読解する基礎的な力を身につけるための演習である。史料の読み方や調べ方をよく理解し、史料の背景となる歴史的状況とあわせて史料を読解することは、歴史学に必須のスキルと言える。授業では、教育史・社会史・地域史に関する史料を取り上げて、有名人や大事件ではない、ローカルな人物や地域の視点から歴史を考える。秋学期は、京都府北部で学校教員を務めた池井保(1928～2022 年)らの著作を読解する。

また、この授業では戦後日本の教育について取り上げることから、教職に関心がある者の履修も歓迎する。

【到達目標】

1. 日本現代史に関する史料の読み方や調べ方について理解できる。
2. 史料の背景となる歴史的状況を多面的に調べて日本現代史について理解を深め、地域史像をみずから構築できる。

授業内容

第 1 回:授業の内容と進め方について
第 2 回:池井保『亡び村の子らと生きて』(1977 年)①
第3回:池井保『亡び村の子らと生きて』(1977 年)②
第 4 回:池井保『亡び村の子らと生きて』(1977 年)③
第 5 回:池井保『亡び村の子らと生きて』(1977 年)④
第 6 回:池井保『亡び村の子らと生きて』(1977 年)⑤
第 7 回:『丹後ちりめん子ども風土記』(1977 年)①
第 8 回:『丹後ちりめん子ども風土記』(1977 年)②
第 9 回:『丹後ちりめん子ども風土記』(1977 年)③
第 10 回:『丹後ちりめん子ども風土記』(1977 年)④
第 11 回:『丹後ちりめん子ども風土記』(1977 年)⑤
第 12 回:『丹後ちりめん子ども風土記』(1977 年)⑥
第 13 回:『丹後ちりめん子ども風土記』(1977 年)⑦
第 14 回:まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成して、テキストの要約、参考文献の調査、疑問点や論点の提示など丁寧な報告を求めます。報告者は無断欠席をしないこと。受講者はテキストに目を通し、討論に積極的に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

すべての受講生はテキストを事前に精読し、語句の読みや意味を調べるなど、討論の準備をして下さい。

教科書

授業で史料を配布します。

参考書

菊地暁・佐藤守弘編『学校で地域を紡ぐ：『北白川こども風土記』から』(小さ子社、2020 年)
北野裕子『生き続ける 300 年の織りモノづくり：京都府北部・丹後ちりめん業の歩みから』(新評論、2013 年)
駒込武編『生活綴方で編む「戦後史」：「冷戦」と「越境」の 1950 年代』(岩波書店、2020 年)
小林千枝子『戦後日本の地域と教育：京都府奥丹後における教育実践の社会史』(学術出版会、2014 年)
坂口慶治『廃村の研究：山地集落消滅の機構と要因』(海青社、2022 年)

課題に対するフィードバックの方法

授業における討論および講評を通じて適宜行ないます。

成績評価の方法

報告内容(40%)、授業への貢献度(30%)、レポート(30%)によって総合的に評価します。

その他

受講生の人数により内容を多少変更する場合があります。

科目ナンバー：(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
神経・生理心理学	**神経・生理心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 義高	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業では、神経心理学および生理心理学の概要を説明したうえで、脳と心の関係について、失語症・失認症・半側空間無視・記憶障害・精神疾患などの事例研究・臨床試験・基礎実験を紹介しながら解説する。また、神経心理学的アセスメントの方法と解釈について、ロールプレイを通して学ぶ。

＜到達目標＞

神経心理学および生理心理学の概要を理解し、さらに、脳神経系の構造とその機能、記憶・感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能障害に関する知識を習得することを目標とする。最終的には、本授業で学んだことを、日常生活や臨床実践の中でどのように活用できるかを考えられるようになることを目指す。

授業内容

第1回 イントロダクション(神経心理学および生理心理学の概説)
第2回 脳神経系の構造および機能
第3回 言語と脳神経系
第4回 感覚・知覚と脳神経系
第5回 記憶と脳神経系
第6回 感情と脳神経系
第7回 動機づけ・遂行機能と脳神経系
第8回 ミニテスト1と解説／高次脳機能障害と脳神経系
第9回 認知症と脳神経系
第10回 精神疾患と脳神経系
第11回 神経心理学的アセスメントの概要
第12回 学習・記憶に対する神経心理学的アセスメント
第13回 注意・遂行機能に対する神経心理学的アセスメント
第14回 ミニテスト2と解説

履修上の注意

本授業で得られる知識や体験を自身の日常生活へどのようにつなげるかを意識しながら、好奇心を持って学習を深めてほしい。また、ロールプレイの時間は、積極的に参加してほしい。授業中に関連のない作業をしている学生、私語など周りに迷惑をかける学生には退室を求めることがある。単位修得には、授業内に行うミニテストを 2 回必ず受け、さらに期末レポートを提出する必要がある。なお、やむを得ず遅刻あるいは欠席をする場合は、事前に必ず担当教員へ伝えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業を履修するにあたっては、事前に基礎心理学の知識を得ておくことが望ましい。また、各回のテーマを確認し、そのテーマに対するイメージや自身との関連について考えてから授業に参加するようにしてほしい。そして、授業後は、各テーマについて理解を深めるために、授業時の配布資料や板書を振り返る時間を設けてほしい。

教科書

特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書

必要に応じて参考となる書籍などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。
ミニテストについては、受験直後にフィードバック(解説)を行う。

成績評価の方法

各回で実施する授業内レポートおよび講義・演習への参加態度・積極性(30%)、ミニテスト 2 回(各 20%)、期末レポート(30%)

その他

特記事項なし

科目ナンバー：(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
深層心理学	**深層心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
水野　直樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

深層心理学は、人の無意識のメカニズムに焦点を当てる。神経症など不適応な状態に関する理解や臨床実践を行うための心理学の総称である。本講義では、主としてフロイト、アードラー、ユングの心理学理論を比較しながら進めていく。また深層心理学のルーツについても深く探っていく。

フロイトまでの流れと、フロイト・アードラー・ユングの理論のポイントを理解してもらうことを目的とする。

授業内容

(1) 深層心理学の概観
(2) フロイト以前1 メスメルの動物磁気論
(3) フロイト以前2 メスメルとガスナー
(4) フロイト以前3 シャーマニズム
(5) フロイト以前4 メスメル以降の流れ
(6) フロイトの生涯
(7) 精神分析理論
(8) 転移、夢、コンプレックス
(10) アードラーの心理学
(11) アードラーとフロイト
(12) ユングのタイプ論
(13) 神経症論、元型論
(14) a:期末レポートについて
b:講義全体の振り返りとレポートへのコメント

履修上の注意

深層心理学は、自らの心と切り離して考えることは出来ない。したがって、自らのことについて振り返る作業を必然的に伴うため、自己の責任において受講されることを条件とする。また、講義途中の入室・退出は原則として認めない。私語が甚だしい場合など、退席してもらうことがある。レポートに関しては自身と向き合う課題になることもあり得るので、それが可能であること。

準備学習(予習・復習等)の内容

分からないところなどは出席票の裏に質問する。感想などはアンケート機能の自由記述欄に記述すること。また、レポートでは自らの興味を抱いた理論や事柄などを自ら調べることが求められる。様々な文献に当たることを通して予習し、視野を広げていただきたい。

教科書

特定のテキストは使用せず。

参考書

『無意識の発見(上)・(下)』アンリ・エレンベルガー著(弘文堂)
『はじめての臨床心理学』森谷寛之・竹松志乃編著(北樹出版)

課題に対するフィードバックの方法

基本、講義の中で全体へのフィードバックをする。

成績評価の方法

成績は授業への貢献度(40%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)、に基づいて評価する。

その他

毎回、何らかの質問や感想をリアクションペーパー(出席票の裏面)やアンケート機能(クラスウェブ)を活用してフィードバックして頂く。

科目ナンバー：(AL)SOC211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
身体とセクシュアリティの社会学	**身体と社会**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山　満紀	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

身体は社会や時代の影響を深く受けている。現代は、とりわけ急速に情報社会化が進行して、身体は従来とは違う影響を受けて変容し、社会現象も、身体が社会からどのような影響を受けているかを理解してはじめて、充分読み解けるものが多い。この授業では、異なった時代や社会において、身体がどのような影響をうけて作られているかを具体的にたどる。他の時代や社会を身体の側面から見ることで、人間の生き方の幅広さに視野を広げることになるだろう。他方でそれを通じて、現代日本社会における身体の特徴を相対化しながら認識できる力を養う。

もうひとつのテーマとして、現代日本における性すなわちセクシュアリティの特徴に焦点を当てて理解する。避妊、中絶、性の多様性、エロティシズム、ポルノ、性関係などの現象を取り上げる。

到達目標として、現代日本社会の身体現象は、たとえば 10 年前、30 年前、50 年前、100 年前、500 年前とどのように異なるのか、他のいくつかの社会と比べてどのように異なるのか、そしてそれは何の違いに由来するのかの概要を理解し、語れるようになること。上掲の性的身体の現象が日本では他の国々と比べてどのような違いがあるのかを語れるようになることを掲げたい。

授業内容

第一回 イントロダクション 授業概要 人類の誕生、人間身体の他の動物身体との違い
第二回 狩猟採集社会の身体、農耕社会の身体、牧畜社会の身体、自己家畜化
第三回 身体の暴力性とその統御、宗教と身体観、宗教における身体修行
第四回 前近代日本の身体観、身体文化、日本における「生理」の歴史と現在。
第五回 日本における「出産」の歴史と現在。
第六回 日本における「性行動」の歴史と現在。
第七回 日本における「避妊」の歴史と現在。近代的避妊法。
第八回 身体の美。身体加工。消費社会と身体の外見。情報化と身体の外見。
第九回 性の多様性。
第十回 不妊治療、出産と妊娠中絶の現代的変化
第十一回 性に関するコミュニケーション。性的同意。
第十二回 情報化と性
第十三回 さまざまな性行動
第十四回 21 世紀の身体とセクシュアリティの行方 期末試験の一部を授業内でおこなう

履修上の注意

準備学習については、そのつど指示し、Oh-o!Meiji 上でも掲示する。

準備学習(予習・復習等)の内容

身体文化やセクシュアリティに関する動画や資料を、予習や復習のために見ることを求める。その考察をレスポンスに書いてもらうこともある。

教科書

マーゴ・デメッロ『ボディ・スタディーズ 性、人種、階級、エイジング、健康/病気の身体学への招待』 晃洋書房 2017

参考書

三浦雅士『身体の零度―何が近代をつくったか』講談社メチエ
ノルベルト・エリアス『文明化の過程(上、下)』法政大学出版会
ジャレド・ダイヤモンド『銃、病原菌、鉄(上、下)』草思社
渡辺京二『逝きし世の面影』平凡社ライブラリー
川村邦光『性家族の誕生』ちくま学芸文庫
マーゴ・デメッロ『ボディ スタディーズ』晃洋書房

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題は、週末までに Oh-o！Meiji に提出してもらい、それに対し次の回の授業の冒頭で、フィードバックをおこなう。優秀な意見、面白い意見は紹介し、誤解等は指摘し、質問にはお答えする。

成績評価の方法

毎回授業の最後で、リアクションペーパーに、提示した課題について、または自由な考察の小文を書いてもらう。
期末試験をおこない，その形式は，正誤問題と記述問題とする。いずれも，持ち込み不可。正誤問題は，Oh-o！Meiji 機能を使っておこないたいので，授業の最終回でおこなう予定。記述問題は，定期試験期間中におこなう。定期試験期間中の試験は，通常授業とは時間が異なっているので，文学部事務からの連絡によく注意すること。

その他

科目ナンバー：(AL)MED311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人体の構造と機能及び疾病	**人体の構造と機能及び疾病**	
担 当 者	開講期	開講地区
西山 晃好	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義は、「人体の構造と機能及び疾病」という果てしない科目名がついているが、「心身相関」を軸に講義を展開していく構成となっている。心と身体は自然科学の世界では別々に探求されてきた歴史があるが，臨床で出会う個々の人間が抱えた心の問題を理解し解決に向けて取り組んでいくとき，身体の理解を抜きにしてアプローチすることはできない。本講義では，その心と身体の密接な関わりおよびその病態化のメカニズムについて，歴史的展望を含めて概説すると共に，病態の診断および治療について，臨床的実例を交えながら心療内科医の視点から解説する。生体機能調整系として身体システムを支えている神経系・免疫系・内分泌系の絶妙なバランスの上でこそ身体は環境に適応すべく機能している。何らかの心身の不調を生じた対象(自分も含めて)に対して、個人的にも職業的にも有益な関わりができるように、心と身体の構造・機能とそこに密接に息づいている心身関係について基本的な評価・理解ができるようになることを本講義の目標としたい。

授業内容

以下の項目に沿って，臨床的実例を交えながら講義する予定である。
1. イントロダクション－心と身体のつながり
2. ストレスと疾患の関係：フロイトのヒステリー論・不安発作等価理論とアレキサンダーの学説
3. 心身機能と身体構造1：ストレスと神経系，内分泌系，免疫系の相関
4. 心身機能と身体構造2：循環器系・呼吸器系と疾患
5. 心身機能と身体構造3：消化器系と疾患
6. 心身機能と身体構造4：悪性腫瘍および難病性疾患
7. 心身医学的評価1：ストレスおよび心理社会的環境の評価・疾患に及ぼす影響
8. 心身医学的評価2：うつ・トラウマなど心身に影響を与える精神症状
9. 心身医学的評価3：人格特性および発達障害について
10. 心身医学的治療論1：治療総論(心理社会的な様々な治療法)
11. 心身医学的治療論2：精神療法(精神分析的精神療法を中心に)
12. 心身医学臨床の実際1：うつ病・パニック障害の治療
13. 心身医学臨床の実際2：オンコサイコロジー(悪性腫瘍を患った患者さんへの関わり方・治療的態度)とターミナルケア
14. 心身医学臨床の実際3：心身症およびまとめ

履修上の注意

心と身体の構造と機能の関係に関しては、心身関係を中心に広い領域が広がっている。本講義で触れることができ、得られるものは、その内のほんの一部である。この背後には魅力的で奥深い領域が広がっている。このような領域の存在を知り，その興味深さに触れ，人間理解の奥行きを広げていってほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は特に必要ないが、復習では授業で配布するレジュメの内容を振り返り、各自の理解や関心に伴い関連した書物に当たること。

教科書

特定のテキストは使用せず，講義毎にレジュメを配布する。

参考書

「心療内科」久保木富房他編、星和書店
「ストレスに負けない生活－心・身体・脳のセルフケア」熊野昭宏著、ちくま新書
「対象喪失」小此木啓吾著、中公新書
「新訂 方法としての面接」土居健郎著、医学書院
「リラクセーション反応」ハーバート ベンソン著、中尾陸宏ら訳、星和書店
「脳と心的世界」マーク・ソームズ、オリヴァー・ターンブル著、平尾和之訳、星和書店
「脳科学と心の臨床」岡野憲一郎著、岩崎学術出版社

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に、解説および全体講評の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験(a)で 95 点分，平常点(b)として 45 点分，を配分し，a+b を評価点とする。
ただし a+b＞60 の場合は 60＋(a+b－60)×1/2，を評価点(少数は切捨て)とする。

その他

心および身体の構造・機能を理解するときに自己の体験も貴重なサンプルになりうる。本講義を受講することが副産物として自己理解を深めるきっかけとなれば幸いである。

科目ナンバー：(AL)GEO111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人文地理学概論A	**人文地理学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
川口 太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

下記に示すようないくつかのテーマをトピック的にとりあげ，人文地理学の諸分野の取り組みを紹介していく。人文地理学の方法論を学ぶというよりも，日本の文化や社会・経済に対する地理学的なアプローチを示すことで，グローバル化する現代社会の諸問題に関心を持ってもらい，今後の学習に対する興味を喚起することを主眼とする。

授業内容

1. 地理学への招待
第1回 地理学の世界
第2回 地図の思想
第3回 地図の力
2. 環境としての自然
第4回 人間と環境のかかわり
第5回 日本の自然と日本人
第6回 日本の風土と文化
第7回 地球環境問題と国際社会
第8回 日本の温暖化対策
3. 産業活動と地理空間
第9回 農業の立地と土地利用
第 10 回 日本の農業・農村の変貌
第 11 回 工業の立地と集積
第 12 回 戦後日本の工業の展開
第 13 回 グローバル化と日本の製造業
第 14 回 小売業の変遷と商店街の再生

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用する PPT スライドを，授業開始までにクラスウェブにアップロードするので，各自ダウンロードして授業に臨むとよい。
授業中の資料配布は行わない。

教科書

使用しない

参考書

授業時間中に随時紹介する

課題に対するフィードバックの方法

質問などの問い合わせがあれば随時対応する。

成績評価の方法

論述形式の期末試験を実施する。
ちなみに過年度の評価は，S(18.5%)，A(19.2%)，B(25.4%)，C(23.1%)，F(13.8%)

その他

科目ナンバー：(AL)GEO111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人文地理学概論B	**人文地理学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

人文地理学は間口の広い学問と言われるが，奥行きも実は深い。本講義ではそうした人文地理学の地平の概要を把握することを目標とする。
また，基礎的なトピックスを押さえて行くことで，初歩的ではあるが，社会と空間の関係を理解する斯学の方法をすこしづつ学んでいく。

授業内容

1 空間と時間のなかの地理学 ■人文地理学の立ち位置
2 進化しつづける都市 ■都市地理学
3 現代社会における農村 ■農村地理学
4 人と地域を結ぶランドスケープ ■景観論
5 経済活動のグローバル化とローカル化 ■経済地理学(1)
6 キャリア形成と労働の空間 ■経済地理学(2)
7 企業の立地戦略と消費生活 ■経済地理学(3)
8 地域文化への地理学の視点 ■文化地理学
9 危険に対する空間的実践 ■政治地理学
10 地図から読み解く歴史 ■歴史地理学(1)
11 景観復元とその応用 ■歴史地理学(2)
12 政策論としての地理学の可能性 ■公共政策の地理学
13 地理空間情報と未来の社会 ■GIS 論
14 レジリエンスから考える防災 ■防災と地理学
（複数回でひとつのトピックを取り上げることが多いので，このすべてを取り上げるわけでは無い）

履修上の注意

教科書を毎回持参し，必要な箇所ではノートをとること。
デジカメでスライドを映しそれでて安心する受講生もいるが，手を動かすことで記憶を確実にしていく作業に取り組んだ方がよりベター。
板書については，わざわざ書くわけであるから，それらが各種のヒントとなるはずである。メモを取ることをお薦めする。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書を事前に読んで授業に臨むこと。

教科書

『人文地理学のパースペクティブ』，竹中克行編，(ミネルヴァ書房)，2022 年

参考書

上記教科書には各章ごとの「文献案内」が掲載されるので一読されたい。
他に必要な文献については講義の際に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

「概論」なので特段の「課題」は無いが，教科書の内容を「直観的に」理解できるよう随時パワポ等で補填していく。

成績評価の方法

期末試験の成績(85%)に，講義時に数度作業予定の提出物(平常点:15%)を加えて行う(予定)。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人文地理学特説 I	**人文地理学特説 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
須崎 成二	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

近年、ジェンダーやセクシュアリティに対する社会的関心が高まっている。本授業では、ジェンダーやセクシュアリティが地理学の鍵概念である空間・場所といかに関係しているのかについて、都市の事例を中心に扱う。私たちの身近なところで起きる事象をジェンダーやセクシュアリティおよび地理学的な視点から捉えることの意義について考えていく。

授業内容

1)私たちの生活とジェンダー・セクシュアリティ
2)フェミニズム運動の展開
3)男性学とは何か
4)ジェンダー地理学の意義と展開
5)労働とジェンダー
6)都市郊外とジェンダー
7)ケアとジェンダー
8)ホームとジェンダー
9)資本主義・ジェントリフィケーションとジェンダー
10)モビリティとジェンダー
11)グローバルサウスの労働・開発とジェンダー
12)政治権力とセクシュアリティ
13)都市とセクシュアリティ
14)a. 試験 b. 解説

履修上の注意

ジェンダーやセクシュアリティに関連する社会問題は日々立ち現れ、議論されている。そのため、昨今なにかと非難の対象となってはいるが、新聞やニュースなど「オールドメディア」から情報を収集しておくことが望ましい。特に、授業ではグループディスカッションを取り入れるので、事前の情報収集は授業効果を高め、積極的な授業参加につながる。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として指定する参考書を読むことが望ましい。
次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解しておくこと。
書籍や新聞、ニュースなどから授業に関連する内容を収集し概要を把握しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

『ジェンダーの視点でよむ都市空間』吉田容子・影山穂波編、(古今書院)

課題に対するフィードバックの方法

中間レポートについて、第 10 回の授業冒頭に解説する。
期末試験について、第 14 回の授業後半に解説する。

成績評価の方法

授業への貢献度(20%)、中間レポート(30%)、期末試験(50%)

その他

科目ナンバー：(AL)GEO311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人文地理学特説Ⅱ	**人文地理学特説Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本　由美子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

時代と共に都市は(町や村もだが)、その姿を変えていく。その中でも京都は長きに渡り、日本の政治、文化、商業、工業の中心地であったが故に、時の権力者やそこに住まう民衆らによって、街の形をその時々で変化させてきた。その地層のように折り重なる歴史や文化や人々の暮らしといった「土地の記憶」が至る所に残り、それが今でも京都の人々の暮らしを支え、世界的な観光都市として国内外からの観光客を惹きつける要因ともなっている。

本コースでは、京都という都市を地理学的な視点から取り上げる。特にこの都市を形成した自然環境及び地形的特徴が都市を形成する際にどのように影響し合い、どのように空間的に組織化されているか、長い歴史の中で様々なアクターが都市の生活空間や景観にどのように干渉し、変容してきたかを探求する。また、人文地理学、及び民俗文化研究や都市社会学などの関連分野における概念的なツールを援用しながら、具体的な事例を検討する。

平安遷都から 1200 年余りの歴史を持つ京都という場所を取り上げる都合上、授業内ではどうしても日本史の知識が必要な場面が出てくるが、高校での日本史の履修の有無は問わない。授業内容に応じて、必要な日本史の内容を提示しながら進めていく予定である。

授業内容

1. イントロ:授業概要
2. ある花街のまちづくり:「嫌なことからやろう」で築いた信頼関係
3. 古都京都のまちづくり史:今の京都はどのようにして出来上がったのか？
4. 国家主導の巨大プロジェクト:平安京建設は大規模開発？！
5. 未完の都と戦乱:平安京の衰退と庶民の団結
6. 豊臣秀吉の京都大改造:京都の原型はこうして造られた
7. 都としての景観整備とまちづくり:建物、産業、商業そして町衆
8. 治水と水運:寛文新堤と高瀬川によりもたらされたもの
9.首都の移転と都の衰退:起死回生をかけた大事業
10. 琵琶湖疏水がもたらすもの:近代化の先駆者たち
11. 花街と寺社と都市計画:花街の成り立ちと近代化の影響
12. 山鉾町を支える人々と組織:祇園祭でつながる地域
13. (a)期末課題のテーマについて:テーマの発表と意見交換 (b)第二次世界大戦下の京都
14. まとめ:現在の京都について考える

履修上の注意

授業においては、教官の講義を聞いて理解するだけでなく、学生による質問、意見や感想を共有することを通じて、お互いの学びの質を高めることが大切である。よって授業への出席はもちろんであるが、予習や事前課題を通じて準備を整え、積極的に授業に参加する姿勢が必須である。

授業内でグループディスカッションや質疑応答など、インタラクティブな参加型の授業を行う予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業・ディスカッションに参加するためにも、指定の期日までに課題の作業を仕上げてくることが求められる。

教科書

教科書は後日指定する。

参考書

授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また学生の希望に応じて、口頭で課題に対する助言や授業内容に関する捕捉的解説を行う。

成績評価の方法

中間課題(30%)＋期末課題(45%)＋授業参加・貢献度及び質問票の提出(25%)

正当な理由なく3回以上欠席した場合には評価対象外とする。

より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、積極的に学生相談室を利用することをすすめる。

科目ナンバー：(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理演習	**心理演習**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島　義高	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業は、具体的な場面を想定したロールプレイや事例検討を通して、公認心理師に必要とされる基礎知識及び技能について学ぶ。

＜到達目標＞

公認心理師に必要とされる次の(ア)から(オ)に関する基礎知識及び技能の習得を目指す。

(ア)心理に関する支援を要する者等に対するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等について適切に説明できるようになる。

(イ)心理に関する支援を要する者等のニーズを把握し、支援計画を作成できるようになる。

(ウ)心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチについて適切に説明できるようになる。

(エ)多職種連携及び地域連携について適切に説明できるようになる。

(オ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務について適切に説明できるようになる。

授業内容

第1回 公認心理師の業務・心得・職業倫理・法的義務
第2回 心理検査(PF スタディ)の演習
第3回 心理検査(PF スタディ)の解釈
第4回 心理検査(描画テスト)の演習
第5回 心理検査(描画テスト)の解釈
第6回 心理検査(発達検査)の実際
第7回 心理検査の結果に基づいた支援計画立案(発達障害)
第8回 心理検査の結果に基づいた支援計画立案(認知症)
第9回 心理面接におけるコミュニケーションの基本技術
第10回 心理面接のロールプレイ(教育分野)
第11回 心理面接のロールプレイ(産業・労働分野)
第12回 事例検討(現実生活を視野に入れたチームアプローチ)
第13回 事例検討(多職種による地域連携)
第14回 ふりかえり

履修上の注意

本授業は、公認心理師試験の受験資格取得を希望している学生のみ履修可能である。授業では、治療者、支援者としての自分をイメージしながら、好奇心を持って学習を深めてほしい。また、ロールプレイやグループワークの時間は積極的に自身の意見を述べて議論の活発化を目指してほしい。授業中に関連のない作業をしている学生、私語など周りに迷惑をかける学生には退室を求めることがある。なお、ロールプレイやグループワークを主とする授業のため、原則遅刻や早退は認めない。やむを得ず遅刻や早退あるいは欠席をする場合は、事前に必ず担当教員へ伝えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマを確認し、これまでの公認心理師関連必修科目で学んできたことを振り返り、それらと関連付けながら本授業に参加するようにしてほしい。そして、授業後は、各テーマについて理解を深めるために、授業時の配布資料や板書を振り返る時間を設けてほしい。

教科書

特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書

必要に応じて参考となる書籍などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。

成績評価の方法

講義やグループワークへの参加態度・積極性(60%)、期末レポート(40%)

その他

特記事項なし

科目ナンバー：(AL)PSY121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理学概論	**心理学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
早川 貴子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

心理学は、人間の行動や心の働きを探求する学問である。本講義では、心理学の成り立ちと人間の精神機能の基本的な仕組み及び働きについて概説する。本講義を通して、さまざまな専門を学ぶ上での基礎となる「科学的な人間理解」のための知識と考え方を身につけることを目指す。

授業内容

第1回 a:イントロダクション
b:心理学への招待
第2回 ： 心理学の成り立ち
第3回 ： 心理学の方法と統計
第4回 ： 行動の生物学的基盤
第5回 ： 感覚と知覚
第6回 ： 注意と記憶
第7回 ： 認知と思考
第8回 ： 情動と学習
第9回 ： 社会
第 10 回 ： 動機付け
第 11 回 ： 発達
第 12 回 ： パーソナリティ
第 13 回 ： 健康と臨床
第 14 回 a:まとめ
b:試験

履修上の注意

レジュメは、事前に Oh-o!Meiji にアップされているので、各自ダウンロードしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するレジュメの内容を確かめておくこと。また、授業および授業で使用したプリントを振り返り、授業内容について復習すること。不明な部分があれば担当教員に授業で質問すること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、期末試験 90%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY335J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理学実験	**心理学実験A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高瀬 由嗣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

臨床心理学を修得するためには，座学による学習だけでなく，調査や実験等による実証的なデータの収集法や心理アセスメントの技法，カウンセリングの技法など，体験を通してさまざまな技能を身につける必要がある。心理学実験 A では，調査法や心理アセスメント法を通して，実際にデータを収集するスキルおよびそれを統計的に分析するスキル，得られた結果から結論を導き出すスキルを習得することを目標とする。

授業内容

本実験実習は以下のような順序で実施する。
第1回 実験実習全体のイントロダクション
実験実習の進め方，テーマと担当教員についての説明を行なう。実験実習は受講者に課せられる課題が多いので，必ず全員が出席し，その内容やスケジュールについて確認すること。
第2回～第5回 自己評定尺度の作成と調査データの収集および分析
人間の態度や認知，情動を測定する自己評定尺度の構成を目的とした研究計画を立案し，実際に作成した尺度を用いてデータを収集して，平均値や標準偏差等の基礎統計量の算出の方法，群間差の検定の方法，相関分析に基づく尺度の信頼性や妥当性の検討の方法，それらをレポートにまとめる方法等について学ぶ。この単元では，効果的な研究(実験)計画を立案するために必要な方略，統計に関する基礎知識を習得することを主な目的とする。
第6回～第 11 回 ウェクスラー成人知能検査
さまざまな臨床心理アセスメント技法の中でも特に重要な心理テストについて，その基本的な理論，実施者に必要な姿勢および倫理，そして分析や解釈の方法などの基礎を体験的に学ぶ。ここでは，国内外のいずれにおいても，もっとも信頼され，もっともよく使用されているウェクスラー成人知能検査について，実施，分析，解釈を体験的に学ぶ。
第 12 回～第 14 回 ロールシャッハ・テスト
投映法の代表格であり，国内外のいずれにおいても使用頻度が高く，かつ研究論文数の多いロールシャッハ・テストについて，実施，分析，解釈を体験的に学ぶ。
第6回以降の心理的アセスメントに係る単元では，各心理検査を実際に体験するだけではなく，心理検査における基礎的な統計学の知識(信頼性・妥当性の推定方法，標準化，標準得点の意味と目的)を習得することが，もう1つの大きな柱となる。

履修上の注意

この授業は，臨床心理学専攻の必修科目であり，原則として3年次の学生のみが受講できる。時間割に割り当てられた時間・教室以外に調査実習や補習等が実施される場合もあるため，教員による指示や掲示などには常に注意を払うこと。この授業は，本専攻でもっとも力点を置いている「体験型授業」であり，原則として「全出席」が単位取得の基本条件である。遅刻も厳しく評定される。

準備学習(予習・復習等)の内容

各実習の前に，それぞれの実習内容(調査研究法と心理統計法，心理アセスメント法)の基本的な理論や方法についてあらかじめ学習しておくこと。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

心理アセスメント実習では，下記の文献を参考書として使用する。
(1)高瀬由嗣・関山徹・武藤翔太(2020)．心理アセスメントの理論と実践：テスト・観察・面接の基礎から治療的活用まで．岩崎学術出版社．
(2)藤田和弘・大六一志・山中克夫編(2011)．日本版 WAIS-Ⅲの解釈事例と臨床研究，日本文化科学社．
(3)片口安史(1987)．改訂 新・心理診断法：ロールシャッハ・テストの解説と研究，金子書房．ほか

課題に対するフィードバックの方法

自己評定尺度作成課題・心理検査体験課題のいずれも，授業内で解説の時間を設ける。

成績評価の方法

体験型の科目なので，毎回の授業における実習への取り組みの態度(60%)を重視する。さらにそこにレポートの内容(40%)を加味し，総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理学特論	**心理学特論**	
担 当 者	開講期	開講地区
会沢 信彦	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
1. 代表的なカウンセリング、心理療法の理論や技法について学ぶことで、理論的に自己及び他者に対する理解を深める。
2. 構成的グループエンカウンター等の体験学習を通して、実践的に自己及び他者に対する理解を深める。

授業内容
1. カウンセリングとは
2. カウンセリング理論概説
3. 体験学習①――リレーションをつくる
4. 精神分析
5. ユング心理学
6. アドラー心理学
7. 体験学習②――自他理解を深める
8. 交流分析
9. 来談者中心療法
10. 体験学習③――傾聴を学ぶ
11. 認知行動療法
12. 解決志向ブリーフセラピー
13. 内観法
14. 体験学習④――将来展望を語る

履修上の注意
特段の理由の無い限り出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
<予習>Oh-o! Meiji に掲載する授業資料を熟読すること。
<復習>講義で学んだ内容を、積極的に日常の人間関係で活用すること。

教科書
資料を配付する。

参考書
会沢信彦(編)『教師・保育者のためのカウンセリングの理論と方法』(北樹出版)

課題に対するフィードバックの方法
毎回の授業終了時に書くリアクションペーパーの一部について、次回授業で教員のコメントとともに紹介する。

成績評価の方法
毎回のミニレポートにより評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理言語学	**心理言語学**	
担 当 者	開講期	開講地区
桃生 朋子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
【概要】
本授業では、心理言語学の中でも主に言語獲得という研究分野を取り上げる。生成文法と呼ばれる言語理論では、ヒトには言語獲得に固有の生得的仕組みが与えられていると仮定し、その生得的仕組みが外的情報を選択的に取り込むことより、言語獲得が達成されると考える。本授業では、生成文法に基づく第一言語および第二言語獲得研究の成果の一部を解説する。
【到達目標】
・言語獲得を取り巻く諸問題を知り、生成文法が仮定する言語獲得のモデルを理解する。
・言語獲得に関する実証的研究の手法について理解する。
・身近な言語現象を客観的に観察できるようになる。

授業内容
第 1 回 心理言語学とは
第 2 回 子どもが第一言語を身につける環境
第 3 回 「刺激の貧困」の問題
第 4 回 子どもによる wh 疑問文の獲得
第 5 回 子どもによる省略構文の獲得
第 6 回 子どもによる音象徴の獲得
第 7 回 第一言語獲得と第二言語獲得の違い
第 8 回 第二言語獲得における「刺激の貧困」の問題
第 9 回 日本語学習者による自動詞の獲得(1)
第 10 回 日本語学習者による自動詞の獲得(2)
第 11 回 日本語学習者よる省略構文の獲得
第 12 回 中国語学習者による省略構文の獲得
第 13 回 関連分野の概要
第 14 回 a. 試験 b. 正答解説

履修上の注意
・授業は講義形式で行うが、講義内容の理解度を確認する小テスト・議論を適宜行う。
・受講にあたり前提となる専門知識はないが、生成文法に関する基礎知識があることが望ましい。
・受講者の関心や理解度に応じ、講義内容及び進度を変更する場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容
配布する資料を読み、疑問点をまとめておくこと。

教科書
特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書
大津由紀雄ら(監修)・杉崎鉱司ら(編集)(2022)『言語研究の世界：生成文法からのアプローチ』(研究社)
杉崎鉱司(2015)『はじめての言語学得：普遍文法に基づくアプローチ』(岩波書店)
鈴木孝明・白畑知彦(2015)『ことばの習得：母語獲得と第二言語獲得』(くろしお出版)
Patsy M. Lightbown and Nina Spada.(2013)"How Languages are Learned" Oxford University Press.

課題に対するフィードバックの方法
講義内で講評を行う。

成績評価の方法
1. 5 回以上無断欠席をした者は、成績評価の対象外とする。
2. 以下の基準により、総合的に評価する。
・試験 50%
・平常点(小テスト・課題提出、出席状況)50%

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理実習	**心理実習**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 義高	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
本授業は、保健医療、福祉、教育等の分野の施設において見学等による実習を行い、当該施設の実習指導者又は本学教員による指導を受けながら、公認心理師として臨床実践を行う際に必要とされる基礎知識及び技能を学ぶ。
＜到達目標＞
公認心理師として臨床実践を行う際に必要とされる次の(ア)から(ウ)に関する基礎知識及び技能を習得することを目指す。
(ア)心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの実践について具体的に説明できる
(イ)多職種連携及び地域連携の実践について具体的に説明できる
(ウ)公認心理師としての職業倫理及び法的義務について具体的に説明できる

授業内容

第1回 イントロダクション／グループ分け、実習の留意点など／エキスパートミーティング
第2回 事前学習①(保健医療分野)
第3回 事前学習②(教育分野等)
第4回 事前学習③(福祉分野等)
第5回 大学病院実習
第6回 総合病院実習
第7回 診療所実習
第8回 福祉施設実習
第9回 学校実習
第10回 司法施設実習
第11回 事後学習①とグループスーパービジョン
第12回 事後学習②とグループスーパービジョン
第13回 事後学習③とグループスーパービジョン
第14回 事後学習④とグループスーパービジョン

履修上の注意

本授業は、公認心理師試験の受験資格取得を希望している学生のみ履修可能である。施設見学の事前・事後学習では、実践を意識して、好奇心を持って学習を深めてほしい。また、発表やディスカッションの時間は積極的に自身の意見を述べて議論の活発化を目指してほしい。なお、本授業の単位を修得するためには、全 14 回全ての授業に参加する必要がある。感染症予防を含めた自身の健康管理には十分に注意すること。万が一、感染症等に罹患した可能性がある場合は、速やかに実習担当教員へ報告し、定められた手順に従って医療機関等を受診すること。また、授業中及び施設見学中に関連のない作業をしている学生、私語など周りに迷惑をかける学生には退室あるいは見学中止を求めることがある。原則遅刻や早退は認めない。やむを得ず遅刻や早退あるいは欠席をする場合は、事前に必ず担当教員へ伝えること。また、施設見学の時間で見聞きした施設内情報は口外厳禁とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回のテーマを確認し、これまでの公認心理師関連必修科目で学んできたことを振り返り、それらと関連付けながら本授業に参加するようにしてほしい。そして、授業後は、各テーマについて理解を深めるために、授業時の配布資料や板書を振り返る時間を設けてほしい。

教科書

特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書

必要に応じて参考となる書籍などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。

成績評価の方法

各発表の内容(40%)、講義・見学・グループスーパービジョンへの参加態度及び積極性(40%)、期末レポート(20%)

その他

特記事項なし

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩA	**心理社会研究基礎演習ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本を深く読み、何が書いてあるかを要約し、それについてオリジナルな自説を論文として書き、発表し、ディスカッションする技能を習得する。テキストは、小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)、内藤朝雄『いじめの構造』(講談社現代新書)、内藤朝雄『いじめの社会理論』(柏書房)。これらの本にとりくむことで、心理社会学科で勉強するうえでの基本となる思考能力を身につけることができる。

大学1年生が、書物の精読、要約、それをもとにした論文作成、発表、ディスカッション等の基本を習得しつつ、自分で思考を深めていく能力を身につけることが本授業の到達目標である。

授業内容

まず小笠原喜康『新版 大学生のためのレポート・論文術』(講談社現代新書)を用いて、参考文献を用いて論文を書く基本を勉強する。

次に、学生が順番に教科書の担当箇所について要約をつくり、それと関連づけて自分なりにテーマを設定して論文を書いてきて発表する。それについて、全員で活発な議論をする。

第1回 レポートや論文の書き方・図書館の使い方・議論の作法・その他
第2回 学生による発表と質疑応答(『いじめの構造』はじめにと第１章)
第3回 学生による発表と質疑応答((『いじめの構造』第２章)
第4回 学生による発表と質疑応答(『いじめの構造』第３章)
第5回 学生による発表と質疑応答(『いじめの構造』第４章)
第6回 学生による発表と質疑応答(『いじめの構造』第５章)
第7回 学生による発表と質疑応答(『いじめの構造』第６章)
第8回 学生による発表と質疑応答(関連論文購読--ニッチ構築その１)
第9回 学生による発表と質疑応答(関連論文購読--ニッチ構築その２)
第 10 回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』まえがきと第１章)
第 11 回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第２章第１～３節)
第 12 回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第２章第４節～6 節)
第 13 回 学生による発表と質疑応答(『いじめ(『いじめの社会理論』第２章第７節から第９説)
第 14 回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第３章)

履修上の注意

積極的に参加し、論文を作成し、ディスカッションをすることを要求される。発表レポートは感想文ではなく，論文であること。毎回、教科書を使用する。全員、教科書を読んでくること。

準備学習(予習・復習等)の内容

全員教科書を読んでくること。そして、全員が質問や発言をするためのノートをつくってくること。授業で紹介した内容については、文献等でしらべてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。また、授業後に理解したことの要約をすること。
初回授業までに、受講条件として、『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康(講談社現代新書)をかならず読んでくること。

教科書

『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康(講談社現代新書)
『いじめの構造』内藤朝雄(講談社)
『いじめの社会理論』内藤朝雄(柏書房)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックに関しては、Oh-o!Meiji その他の媒体を通じて通知、配信等を行うので、確認すること。さまざまな手段を用いて質問があればそれに答える。

成績評価の方法

授業への参加貢献度 50 パーセント、担当発表 50 パーセント

その他

科目ナンバー：(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＡ	**心理社会研究基礎演習ＩＡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この専攻を志望して入学した学生は，現代社会に生きることに，漠然とであっても何らかの疑問を抱いている人が多いだろう。

この演習は，学生一人一人が，その疑問を明確にし，深め，またいろいろな側面から疑問を捉えなおし，先行研究に学んだり，調査したり，考察することで，疑問について探求していけることを目的とし，それらを実行していく。基礎ゼミの学生同士で意見を交換し，刺激を与えあい，受けあいながら，学び，研究をしよう。

発表，討論，先行研究の探索，資料の探索，調査，体験，執筆，他の学生との共同作業など，大学で学び，研究をおこなうのに必要な能力の基礎を身につけることも，到達目標である。

授業内容

第1回 イントロダクション。よく知りあうためのワーク。
第2回 3分間スピーチ
第3回 現代社会を捉えたドキュメンタリー番組録画を見て、ディスカッション。
第4回 現代の社会現象について各自の関心に基づいてひとつのテーマを決め、新聞、雑誌、ネット記事等を持ち寄り発表(1)
第5回 現代の社会現象について各自の関心に基づき、新聞、雑誌、ネット記事等を持ち寄り発表(2)
第6回 現代の社会現象について各自の関心に基づき、新聞、雑誌、ネット記事等を持ち寄り発表（3）
第7回 現代の社会現象について各自の関心に基づき、新聞、雑誌、ネット記事等を持ち寄り発表（4）
第8回 現代の社会現象について各自の関心に基づき、新聞、雑誌、ネット記事等を持ち寄り発表（5）ディベートのテーマと準備。
第9回 読書案内。検索と入手の案内。輪読の場合のレジュメの書き方。「自分のお勧めする本」発表。
第 10 回 ディベート(第 12 回 レポートの書き方 のための短いレポートを宿題として書いてくる。宿題の詳細はこの回で。)
第 11 回 ディベート(2)
第 12 回 レポートの書き方実習。
第 13 回 調査法について インタビュー法、観察法、参与観察法のお薦め研究。
第 14 回 夏休みの課題(読書、体験・調査)について説明。まとめ。

履修上の注意

演習は，講義科目以上に，学生のみなさんが主人公なので，欠席は極力しないこと。遅刻や欠席は，必ず教員に知らせてほしい。
学生の発表の機会を多く設けるが，そのための準備が必要である。たとえばテキストの輪読では担当部分についてレジュメを書いてくるなど，授業外の時間を使う必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表準備、ディベートの準備など、そのつど多くの準備学習を必要とする。

教科書

そのつど指定する。

参考書

そのつど指定する。

課題に対するフィードバックの方法

直接口頭で伝える。また、レポートにはコメントをつけて Oh-o！Meiji で返却する。

成績評価の方法

参加度5割，レポートなどの成果の全体を5割とし、合わせて成績評価とする。

その他

基礎演習は、何をするかの自由度がとても高いので、みんなで研究してみたいこと、活動してみたいことをいろいろ提案して下さい。それにより、一部スケジュール変更も可能です。この自由を生かしていきましょう。

科目ナンバー：(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＡ	**心理社会研究基礎演習ＩＡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
見田 朱子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、社会科学の「アカデミック・ライティング」の素養を身につけていただきます。

皆さんは、大学という場に参入した以上、「研究」するという視点と方法を持つことを求められます。その具現化として、これから多くのレポートや論文というものを書くことになります。それは、小説や脚本や手紙や日記ではないですし、新聞雑誌の記事や説明文でも、感想文でも意見文でも妄想文でもありません。一言一句において論拠とオリジナリティを客観的に成立させながら、またそのことを読み手に明確に示しながら書き進めなければならない、要するにアカデミックな書きものです。具体的に、どうすればいいかわかっていますか？

「剽窃はいけない」「引用挙示を」「参考文献を」といった注意を、これまでに目にしたことがあるでしょうか（今後うんざりするほど目にします）。どれほど真摯にその注意に対応しようとしたでしょうか。胸を張って、対応の仕方を知っていると言えるでしょうか。これらの注意はすべて、レポートや論文が成立するための最低限以前の必須事項です。しかし卒業論文に至るまでその作法を知らず、先生も生徒も泣きたくなるような事態が起こることが多い…というよりほとんどというのが現状と思われます。書き方さえ知っていれば評価が跳ね上がる（だろう）提出物にため息をついて F 評価をつけ、実習報告書の作成編集や論文指導では締切直前に絶望を味わう、という私（講師）の経験は、多くの先生方と共有できるものでしょう。

この授業における到達目標は、上記のような諸注意に対応する技術を身につけ、アカデミックな物書きができる素養を身につけることです。正確には、その技術作法の基本編です。

「アカデミック（学術的）」と言い、レポートや論文執筆のためのように書きましたが、実はこの技術作法は、職場でも、家族や友人や見知らぬ人とのやり取りにも使える一生ものの作法になります。大学で身につけてきたものとして暗黙に期待されるものです。人類の歴史を通して培われた、論理的主張と説得の作法を具体的に身につけるわけです。

授業内容

第1回 イントロダクション：社会科学としての社会学の魅力と困難さ／ゼミの進め方
第2回 Show the Flag：突っ込みを受けながらの自己紹介。発言の作法
第3回 それって誰？(テーマ出し)：「私はこう思う」の源泉は何か。「学生」「若者」「みんな」って誰？
第4回 振り回されずに使う：AI を含めたネット情報を使って議論をする
第5回 「文献」はどこにあるか：ネット以外から資料を探してきて議論する
第6回 こんなのどうする：資料の探し方と種類を広げて議論する
第7回 コピペの仕方、引用の仕方：「私」が「私」になるために。「私」として議論する
第8回 どうしてこんな：相手のことを考えられる優しい人だと主張する
第9回 中間レポート発表①：先生みたいに自分みたいに親切じゃない
第 10 回 中間レポート発表②：同上。続き。
第 11 回 何をやりたいの：「私」を語る、語り方
第 12 回 何ができるの：現実はとっても現実的
第 13 回 巨人の肩の上に立つ：頭の上は遠い。っていうか巨人どこ？
第 14 回 脱・調べ学習：夏休みレポートの練習

履修上の注意

第 1 回以外は、すべて参加者のみなさんが準備してくることが求められます。各回の中心的発表者は 1～2 名ですが、全員が同じ準備を進めてくることが求められます。毎週少しずつレポートを完成させていく感覚です。

毎週きちんとやらなくてもしばらくばれませんが、すぐに他の参加者にも先生にもばれて恥をかく上に、自分がきつくなります。何より、準備をしないとゼミの時間が単なる無駄な時間になります。逆に、手間暇をかければそれだけの成果があります。本当に、人生という単位でいいことがあるはずです。

私（講師）はよく喋ります。しかし、喋らせるとみなさんの負担が増えてどんどん大変なことになります。黙らせるように発言してください。

授業内容は予定であり、参加人数および参加者の希望や理解度によってある程度の変更があり得ます。意見、相談、疑問などは言葉にしてください。そうしやすい環境を作れるように努めますが、最終的には結局自分が言わねばなりません。

リアクションペーパーの他、CommentScreen や Slido 等のオンラインでのリアルタイムコメントシステムを利用する可能性があります。スマートフォン、タブレット、パソコンなど web アクセスのできる機器があると良いかもしれません。機器類およびコメントシステムへの参加は必須ではありませんし、オンラインシステムは利用しないかもしれません。また、リアクションペーパーの内容は基本的に公開、共有します。

準備学習(予習・復習等)の内容

「履修上の注意」にもあるように、毎週の進展作業（予習）と作業の修正（復習）が求められます。各回、1 時間～3 時間ほどの想定です。

教科書

日本社会学会『社会学評論スタイルガイド』第 3 版：以下の URL でブラウザ上で閲覧可能。また、PDF 版も同ページからダウンロード可能。紙媒体の冊子版の購入方法も同ページにある（1 冊 500 円）。
日本社会学会『社会学評論スタイルガイド』第 3 版
https://jss-sociology.org/bulletin/guide/

参考書

特に指定しない。必要に応じて授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回授業中および次週授業の冒頭に、主に口頭でコメントする。

成績評価の方法

授業中の発表と発言：60%
リアクションペーパーや作業による貢献：20%
中間・期末レポート：20%

その他

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＡ	**心理社会研究基礎演習ＩＡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
桶谷 雅人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
本講義では少人数のグループ活動を中心とした演習を通して、関心のある研究テーマを見つける、研究に必要な文献を調べる、研究論文を読む、資料をまとめて発表をする、積極的にディスカッションを行う、などの基礎的なスキルと姿勢を身につけていく。
前期は演習形式に慣れることや資料まとめ、発表の練習を中心に行う。後期は臨床心理学領域のトピックを用いて、研究に必要な文献を集めて読む力をつけ、研究発表やディスカッションの基礎を学んでいく。
＜到達目標＞
演習を通して、以下に関する基礎的な力や姿勢を身につける。
・自分の意見や考えをまとめ、表現する力
・他者の意見や考えを尊重し、関心を持って話を聴く姿勢
・パワーポイントを利用した資料作りと発表の力
・心理学に関する文献資料を探す力
・研究論文を読み解く力
・ディスカッションを深めるための質問力
・自分の関心テーマを探っていく力

授業内容

＜前半＞
まず始めにグループワークや発表資料の作り方のレクチャーを行う。その後、受講生全員の自己紹介スピーチを通して、パワーポイント資料をまとめる、発表をする、質問を考える・答える、グループで話し合う、といった経験を積んでいく。
＜後半＞
受講生それぞれが関心を持ったテーマを集め、各グループで話し合い一つの研究テーマに絞っていく。そして、選んだ研究テーマをもとに、グループで資料をまとめて発表し、ディスカッションを行う。
また、毎回の授業後に感想や考えたこと、学んだこと、気付いたことなどをリアクションペーパーにまとめて提出する。
＜学期末＞
後半の研究発表の中で自分が特に興味関心を持った内容について、自分なりに調べ、考えや意見を「最終レポート」としてまとめる。
＜各回の概要＞
第 1 回 イントロダクション、グループワーク、グループ編成
第 2 回 発表資料の作り方のレクチャー、自己紹介スピーチの順序決め
第 3 回 自己紹介スピーチ 1
第 4 回 自己紹介スピーチ 2
第 5 回 自己紹介スピーチ 3
第 6 回 自己紹介スピーチ 4
第 7 回 自己紹介スピーチ 5
第 8 回 自己紹介スピーチ 6、自己紹介スピーチの振り返り
第 9 回 研究テーマ決め、グループ編成、研究発表順序決め
第 10 回 グループでの研究発表・ディスカッション 1
第 11 回 グループでの研究発表・ディスカッション 2
第 12 回 グループでの研究発表・ディスカッション 3
第 13 回 グループでの研究発表・ディスカッション 4
第 14 回 授業全体のまとめと振り返り

履修上の注意

本講義は演習形式のため、受け身ではなく教員と一緒に授業を作っていく姿勢で取り組んでほしい。そのため、授業やグループワークに主体的に取り組み、発言や質問を積極的にする姿勢が大切となる。演習形式に慣れるまでは戸惑うことも多いかもしれないが、グループのメンバーと協力しながら取り組むこと。また、他の受講生の発言や発表は関心を持って聞き、意見交換を活発に行っていきたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時間内はスピーチや発表・ディスカッションが中心となるため、授業時間外で発表準備を行う必要がある。個人作業やグループでの打ち合わせ、発表準備をきちんと行った上で授業に参加すること。
また、毎回の授業後にリアクションペーパーの提出を求める。自分の発表を振り返り、他の受講生の発表から学んだこと、感じたことなどを記録に残す機会となる。自分自身が考えたこと・感じたことを言葉にする習慣を身に着けてほしい。リアクションペーパーの内容については、のちの回の授業時に全体で共有する場合がある。
学期末には「最終レポート」をまとめるため、その準備として自分の興味関心がある内容や、反対に興味関心をあまり持てない内容についても整理しておくとよい。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

スピーチや発表の実施回は当該授業の時間中あるいは振り返りの授業回に教員からのコメントを共有する。また、リアクションペーパーの記載内容を次回授業時に共有する形でフィードバックを行う予定である。

成績評価の方法

以下の 3 点に基づき総合的に評価する。
1. 授業参加の積極性・リアクションペーパーの内容(40%)
2. 発表の内容(30%)
3. 最終レポート(30%)

その他

なし。

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＡ	**心理社会研究基礎演習ＩＡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
浅井 健史	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
「心のあり方や精神的健康を、私たちが暮らす生活環境や集団・社会と関連づけて考察すること」を中核テーマに置く。臨床心理学の領域を中心に学術文献を講読する。
【到達目標】
・専門的な学習を進めるための基礎となる、心理学の重要概念と研究法を理解する。
・文献の内容をまとめ、自分の意見をまじえて発表するスキルを習得する。
・心理学に関わるテーマについて、多面的な視点から考察できるようになる。

授業内容

基礎的な知識や発想を学びながら、発表とグループディスカッションを通して「筋道立てて考える姿勢」「複眼的に物事を捉える姿勢」「自己の考えを伝えながら、他者の意見にも耳を傾ける姿勢」を養う。
進め方は、主に教員が用意した学術誌に所収の候補文献から、受講者と協議して講読文献を選定していく。私たちの生活に身近な問題をもとに、心理学的発想や考察を深める。あわせて動画資料の視聴、体験学習的なエクササイズ、グループワークも随時取り入れ、実感に照らした心理学の理解を促進したい。
上記の過程を通して受講者は自身の問題意識を掘り下げ、学期末レポートに結実させる。
各回は以下の内容を予定している。
第1回:演習の進め方、仲間づくりのグループワーク
第2回:大学生のアイデンティティに関する文献
第3回:大学生のメンタルヘルスに関する文献
第4回:大学生の学習意欲に関する文献
第5回:ほめ・叱りに関する文献
第6回:学術的心理学と大衆心理学の違いに関する文献
第7回:アスリートの心理に関する文献
第8回:援助要請に関する文献
第9回:アサーションに関する文献
第 10 回:心理学を学ぶ意義に関する文献
第 11 回:犯罪心理に関する文献
第 12 回:アンガーマネジメントに関する文献
第 13 回:ソーシャルスキルに関する文献
第 14 回:振り返りとまとめ

履修上の注意

発表とグループディスカッションが演習授業の中心になるので、受講者には自ら探求する姿勢と、主体的なコミットメントが求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回で紹介する参考文献、および文献データベースを活用し、各自が予習と発展的学習に努めること。

教科書

指定しない。

参考書

各自が発展的な学習につなげられるよう、毎回の授業で関連文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

希望者に対して、学習報告と学期末レポートに関するフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート(60%)、授業への参加度(40%)により評価する。授業への参加度は、「各回のリアクションペーパーの内容」「発表」「授業とディスカッションに取り組む姿勢」により配点される。

その他

演習授業は受講者全員の能動的で誠意あるコミットメントにより創られる。その一員としての自覚と責任を持って取り組み、欠席・遅刻のないよう留意すること。
質問・連絡は浅井のメールアドレスまで
aae19090@gmail.com

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩA	**心理社会研究基礎演習ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
二階堂 千絵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

今後学んでいくさまざまな心理的課題の基礎となる、人のライフサイクルについて文献を購読する。
合わせて、文献の引用の仕方や参考文献の添付法などの作法からレジュメ作成、論の組み立て方、思考の深化につながる文章作成の仕方など、レポート・論文の書き方を学ぶ。
発表者としてレジュメを作成し発表すること，聞き手としてディスカッションに参加することを通して専門的な学習を進める上での基礎力と論理的思考力を育成する。

授業内容

教科書の内容について、参加者はあらかじめ購読し、発表者はレジュメを作成する。
授業では発表をもとにディスカッションを行う。
第1回:授業の進め方についての説明, 講師による模擬発表。発表担当の決定
第2回～第 14 回:発表及びディスカッション

履修上の注意

演習形式の授業であるので，ディスカッション，発表には主体的かつ積極的に取り組むこと。
発表者以外の受講生も文献を事前によく読んでおくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

複数人のグループメンバーを変更しながら複数回の発表を担当する。
発表のために，グループでの話し合い，個人で資料を読み，レジュメとしてまとめるなどのの準備を行う必要がある。

教科書

服部祥子(2020) 生涯人間発達論 第 3 版: 人間への深い理解と愛情を育むために 医学書院
阿部幸大(2024) まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書 光文社

参考書

授業内で都度紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションコメントにて寄せられた質問・疑問は基本的に次回の授業にてフィードバックし，再度ゼミ全体で考察する。

成績評価の方法

授業，ディスカッションへの参加態度(50%)及び最終レポート(50%)によって総合的に評価する。
なお、レポート提出は必須とする。

その他

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩB	**心理社会研究基礎演習ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

前期に続き、 教科書を深く読み、何が書いてあるかを要約し、それについてオリジナルな自説を論文として書き、発表し、ディスカッションする技能を習得する。
大学1年生が、書物の高度な精読、要約、それをもとにした論文作成、発表、ディスカッション等の基本を習得しつつ、自分で思考を深めていく能力を身につけることが本授業の到達目標である。

授業内容

前期に引き続き、教科書を用いて学生が順番に要約と論文を発表する。。各分担部分の学生発表について、全員で活発な議論をしてもらう。
第１回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第４章)
第２回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第５章)
第３回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第６章)
第４回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第７章)
第５回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第８章)
第６回 学生による発表と質疑応答(『いじめの社会理論』第９章とあとがき)
第７回 学生による発表と質疑応答(関連論文講読--職場のいじめ関連その 1--と各自の発表)
第８回 学生による発表と質疑応答(関連論文講読--職場のいじめ関連その 2--と各自の発表)
第９回 学生による発表と質疑応答(関連論文講読--発達障害関連--と各自の発表)
第 10 回 学生による発表と質疑応答(関連論文講読--全体主義との関連その 1--と各自の発表)
第 11 回 学生による発表と質疑応答(関連論文講読--全体主義との関連その 2--と各自の発表)
第 12 回 学生による発表と質疑応答(関連論文講読--人類の普遍性との関連その 1--と各自の発表)
第 14 回 学生による発表と質疑応答(関連論文講読--人類の普遍性との関連その 2--と各自の発表)

履修上の注意

積極的に参加し、論文を作成し、ディスカッションをすることを要求される。発表レポートは感想文ではなく，論文であること。毎回、教科書を使用する。全員、教科書を読んでくること。授業後に理解したことを要約すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

全員教科書を読んでくること。そして、全員が質問や発言をするためのノートをつくってくること。授業で紹介した内容については、文献等でしらべてくること。次回の授業範囲については、文献等で調べておくこと。

教科書

『いじめの構造』内藤朝雄(講談社現代新書)
『いじめの社会理論』内藤朝雄(柏書房)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックに関しては、Oh-o!Meiji を通じて通知、配信等を行うので、確認すること。さまざまな手段を用いて質問があればそれに答える。

成績評価の方法

参加貢献度 50 パーセント、担当発表内容 50 パーセント

その他

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＢ	**心理社会研究基礎演習ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この専攻を志望して入学した学生は，現代社会に生きることに，漠然とであっても何らかの疑問を抱いている人が多いだろう。

この演習は，学生一人一人が，その疑問を明確にし，深め，またいろいろな側面から疑問を捉えなおし，先行研究に学んだり，調査したり，考察することで，疑問について探求していけることを目的とし，それらを実行していく。基礎ゼミの学生同士で意見を交換し，刺激を与えあい，受けあいながら，学び，研究をしよう。

発表，討論，先行研究の探索，資料の探索，調査，体験，執筆，他の学生との共同作業など，大学で学び，研究をおこなうのに必要な能力の基礎を身につけることも，到達目標である。

秋学期は具体的には，社会学分野の多少の専門的な本を読むことに慣れること，フィールドワークか社会調査をおこない記録、分析を書くことも目標とする。

秋学期は学術的な内容と形式の基礎ゼミ論文を書いてもらう。

授業内容

秋学期(ただし学生と相談のうえ変更することもありうる)
第1回 夏休みの読書，体験・調査の報告(1)
第2回 夏休みの読書，体験・調査の報告(2)
第3回 論文の輪読(1)
第4回 論文の輪読(2)
第5回 問いをたてることを学ぶ 見学，観察，社会調査などの実習内容についての話し合い
第6回 ディベートのテーマについて話し合い
第7回 基礎ゼミ論文の問いをたてる
第8回 見学， 観察， 参与観察， インタビューなどの実習
第9回 基礎ゼミ論文の構想発表(1)
第 10 回 基礎ゼミ論文の構想発表(2)
第 11 回 ディベート(1)
第 12 回 ディベート(2)
第 13 回 基礎ゼミ論文発表(1)
第 14 回 基礎ゼミ論文発表(2) まとめ

履修上の注意

演習は，講義科目以上に，学生のみなさんが主人公なので，欠席は極力しないこと。学生の発表の機会を多く設けるが，そのための準備が必要である。たとえばテキストの輪読では担当部分についてレジュメを書いてくるなどに，授業外の時間をつかう必要がある。
フィールドワーク(見学，観察，参与観察など)は，曜日時間を変更して学外でおこなう可能性が高いので，了承してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

「夏休みの読書，体験・調査」は夏休み中にするべきこととして，課題を設定する。
論文の輪読では，全員が決められた論文をよく読み，考察することが予習として求められる。発表者に当たった人は，レジュメを用意してくる。
ディベートは，チームに分かれて準備をするが，準備時間は予習としてグループワークと個人学習の形でおこなう必要がある。
見学，観察，参与観察，インタビューなどの報告も各自用意する。

教科書

相談の上決める。

参考書

そのつど指定する。

課題に対するフィードバックの方法

口頭で伝える。または，Oh-o！Meiji 上でレポートにコメントをつけてお返しする場合もある。

成績評価の方法

参加度5割，論文などの成果を合わせて5割の総合評価。
基礎ゼミ論文を書くことは、単位取得のための最低条件。

その他

基礎演習は、何をするかの自由度がとても高いので、みんなで研究してみたいこと、活動してみたいことをいろいろ提案して下さい。この自由を生かしていきましょう。フィールドワークの内容もぜひ提案してください。
フィールドワークの過去の例:JICA で途上国の教育を考えるワークショップに参加,東京地裁の裁判傍聴,各国の留学生との文化紹介の交流会開催,映画上映会主催，ジェンダーまたはセクシュアリティに関する個人またはグループでのインタビュー調査など。

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＢ	**心理社会研究基礎演習ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
見田 朱子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、前期に続き社会科学の「アカデミック・ライティング」の素養を身につけていただきます。

皆さんは、大学という場に参入した以上、「研究」するという視点と方法を持つことを求められます。その具現化として、これから多くのレポートや論文というものを書くことになります。それは、小説や脚本や手紙や日記ではないですし、新聞雑誌の記事や説明文でも、感想文でも意見文でも妄想文でもありません。一言一句において論拠とオリジナリティを客観的に成立させながら、またそのことを読み手に明確に示しながら書き進めなければならない、要するにアカデミックな書きものです。具体的に、どうすればいいかわかっていますか？

「剽窃はいけない」「引用挙示を」「参考文献を」といった注意を、これまでに目にしたことがあるでしょうか(今後うんざりするほど目にします)。どれほど真摯にその注意に対応しようとしたでしょうか。胸を張って、対応の仕方を知っていると言えるでしょうか。これらの注意はすべて、レポートや論文が成立するための最低限以前の必須事項です。しかし卒業論文に至るまでその作法を知らず、先生も生徒も泣きたくなるような事態が起こることが多い…というよりほとんどというのが現状と思われます。書き方さえ知っていれば評価が跳ね上がる(だろう)提出物にため息をついて F 評価をつけ、実習報告書の作成編集や論文指導では締切直前に絶望を味わう、という私(講師)の経験は、多くの先生方と共有できるものでしょう。

この授業における到達目標は、上記のような諸注意に対応する技術を身につけ、アカデミックな物書きができる素養を身につけることです。正確には、その技術作法の基本編の後半です。

「アカデミック(学術的)」と言い、レポートや論文執筆のためのように書きましたが、実はこの技術作法は、職場でも、家族や友人や見知らぬ人とのやり取りにも使える一生ものの作法になります。大学で身につけてきたものとして暗黙に期待されるものです。人類の歴史を通して培われた、論理的主張と説得の作法を具体的に身につけるわけです。

授業内容

第1回 イントロダクション:発表の準備と方法／ゼミの進め方
第2回 Show the Flag:突っ込みを受けながらの自己紹介。発言の作法
第3回 テーマ発表①
第4回 テーマ発表②
第5回 テーマ発表③
第6回 テーマ発表④
第7回 「記述する」と「話す」:記述上の注意。word の設定／レジュメと発表資料、発表方法
第8回 人のふり見て我がふり直せ①:編集と添削
第9回 人のふり見て我がふり直せ②:編集と添削
第 10 回 幹と枝葉:本筋の構成、章節と見出しと小見出し、注や補遺
第 11 回 図と表は違うんです:図表のあつかい。図表番号、word でどうする
第 12 回 データとは:分析対象／「データ」の種類
第 13 回 データとは:データの出典挙示
第 14 回 それじゃ、書いてみて

履修上の注意

第 1 回以外は、すべて参加者のみなさんが準備してくることが求められます。各回の中心的発表者は 1～2 名ですが、全員が同じ準備を進めてくることが求められます。毎週少しずつレポートを完成させていく感覚です。

毎週きちんとやらなくてもしばらくばれませんが、すぐに他の参加者にも先生にもばれて恥をかく上に、自分がきつくなります。何より、準備をしないとゼミの時間が単なる無駄な時間になります。逆に、手間暇をかければそれだけの成果があります。本当に、人生という単位でいいことがあるはずです。

私(講師)はよく喋ります。しかし、喋らせるとみなさんの負担が増えてどんどん大変なことになります。黙らせるように発言してください。

授業内容は予定であり、参加人数および参加者の希望や理解度によってある程度の変更があり得ます。意見、相談、疑問などは言葉にしてください。そうしやすい環境を作れるように努めますが、最終的には結局自分が言わねばなりません。

リアクションペーパーの他、CommentScreen や Slido 等のオンラインでのリアルタイムコメントシステムを利用する可能性があります。スマートフォン、タブレット、パソコンなど web アクセスのできる機器があると良いかもしれません。機器類およびコメントシステムへの参加は必須ではありませんし、オンラインシステムは利用しないかもしれません。また、リアクションペーパーの内容は基本的に公開、共有します。

執筆は Windows のパソコンで Microsoft(MS)の Word を利用することを念頭に置いています。Mac や Linux、Word との互換性をうたう類似のアプリケーションはこの授業の範囲外とします。

準備学習(予習・復習等)の内容

「履修上の注意」にもあるように、毎週の進展作業(予習)と作業の修正(復習)が求められます。各回、1 時間～3 時間ほどの想定です。

教科書

日本社会学会『社会学評論スタイルガイド』第 3 版:以下の URL でブラウザ上で閲覧可能。また、PDF 版も同ページからダウンロード可能。紙媒体の冊子版の購入方法も同ページにある(1 冊 500 円)。
日本社会学会『社会学評論スタイルガイド』第 3 版
https://jss-sociology.org/bulletin/guide/

参考書

特に指定しない。必要に応じて授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回授業中および次週授業の冒頭に、主に口頭でコメントする。

成績評価の方法

授業中の発表と発言:60%
リアクションペーパーや作業による貢献:20%
中間・期末レポート:20%

その他

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＢ	**心理社会研究基礎演習ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
桶谷 雅人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞
本講義では少人数のグループ活動を中心とした演習を通して、関心のある研究テーマを見つける、研究に必要な文献を調べる、研究論文を読む、資料をまとめて発表をする、積極的にディスカッションを行う、などの基礎的なスキルと姿勢を身につけていく。
前期は演習形式に慣れることや資料まとめ、発表の練習を中心に行う。後期は臨床心理学領域のトピックを用いて、研究に必要な文献を集めて読む力をつけ、研究発表やディスカッションの基礎を学んでいく。
＜到達目標＞
演習を通して、以下に関する基礎的な力や姿勢を身につける。
・自分の意見や考えをまとめ、表現する力
・他者の意見や考えを尊重し、関心を持って話を聴く姿勢
・パワーポイントを利用した資料作りと発表の力
・心理学に関する文献資料を探す力
・研究論文を読み解く力
・ディスカッションを深めるための質問力
・自分の関心テーマを探っていく力

授業内容

＜概要＞
まず始めに研究論文などの文献や資料の探し方、研究論文の読み方、研究発表資料のまとめ方についてレクチャーを行う。その後、教員が指定した研究テーマと文献に沿って、グループで１つの研究発表資料をまとめ、それをもとに発表およびディスカッションを行っていく。
＜発表・ディスカッション＞
発表やディスカッションを通して、研究論文がどのように書かれているのか、何をポイントに読み解いていくのか、研究発表を実施してみてどのような感想をもったか、などを受講生と教員で共有していく。
ディスカッション後は文献で取り上げられている内容に関連する、臨床心理学のトピックの概説を教員が行う。研究テーマについては公認心理師および臨床心理士の主な職域である、「教育分野」「医療保健分野」「福祉分野」「司法分野」「産業労働分野」の文献に幅広く触れていこうと考えている。
＜学期末＞
受講生一人ひとり自分が関心を持った臨床心理学のトピックを選び、研究発表や概説の内容を掘り下げていき、「最終レポート」としてまとめる。
＜各回の概要＞
第 1 回 イントロダクション、研究テーマやトピックの紹介
第 2 回 文献・資料の探し方に関するレクチャー
第 3 回 研究論文の読み方、研究発表資料のまとめ方に関するレクチャー
第 4 回 パートⅠ:研究テーマ決め、グループ編成、研究発表順序決め
第 5 回 パートⅠ:グループでの研究発表・ディスカッション１
第 6 回 パートⅠ:グループでの研究発表・ディスカッション２
第 7 回 パートⅠ:グループでの研究発表・ディスカッション３
第 8 回 パートⅠ:グループでの研究発表・ディスカッション４
第 9 回 パートⅠ:まとめ／パートⅡ:研究テーマ決め、グループ編成、研究発表順序決め
第 10 回 パートⅡ:グループでの研究発表・ディスカッション１
第 11 回 パートⅡ:グループでの研究発表・ディスカッション２
第 12 回 パートⅡ:グループでの研究発表・ディスカッション３
第 13 回 パートⅡ:グループでの研究発表・ディスカッション４
第 14 回 授業全体のまとめと振り返り

履修上の注意

本講義は演習形式のため、受け身ではなく教員と一緒に授業を作っていく姿勢で取り組んでほしい。そのため、授業やグループワークに主体的に取り組み、発言や質問を積極的にする姿勢が大切となる。また、グループワークやディスカッションの中では多様な意見や考え、感想などが出るため、相手の意見を尊重する姿勢を常に忘れないこと。他の受講生の発言や発表を聴くことで、自分の意見や考えを深めてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時間内は発表・ディスカッションが中心となるため、授業時間外で発表準備を行う必要がある。個人作業やグループでの打ち合わせ、発表準備をきちんと行った上で授業に参加すること。また、教員に指定された文献だけでなく、当該テーマに関連する文献・資料を積極的に調べ、発表内容に含める、自分なりに整理するなどもしてほしい。
学期末には「最終レポート」を作成するため、自分が興味関心を持ったテーマや理論、概念などについて、毎授業後に書き留めておくこと。詳しく知りたいものについては文献・資料を調べ、自分なりの言葉でまとめておくとよい。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

発表の実施回は発表後に教員からのコメントを共有し、文献で取り上げられている内容に関連する、臨床心理学のトピックの概説を行う形でフィードバックをする予定である。

成績評価の方法

以下の 3 点に基づき総合的に評価する。
1. 授業参加やディスカッションの積極性(30%)
2. 発表の内容(40%)
3. 最終レポート(30%)

その他

なし。

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＢ	**心理社会研究基礎演習ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
浅井 健史	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
「心のあり方や精神的健康を、私たちが暮らす生活環境や集団・社会と関連づけて考察すること」を中核テーマに置く。臨床心理学領域を中心に文献を講読する。
【到達目標】
・専門的学習の基礎となる心理学の概念と研究方法を習得する。
・文献をまとめ、自分の意見をまじえて発表するスキルを習得する。
・心理学に関するテーマについて、柔軟かつ多面的に検討する姿勢を習得する。

授業内容

心理学の基礎的な知識や発想を学びながら、発表とグループディスカッションを通して「筋道立てて考える姿勢」「複眼的に物事を捉える姿勢」「自己の考えを伝えながら、他者の意見にも耳を傾ける姿勢」を養う。
進め方は、主に教員が用意した学術書・学術誌に所収の候補文献から、受講者と協議して講読文献を選定していく。メンタルヘルスと心理的支援に関する諸問題について、心理学的発想や考察を深める。あわせて動画資料の視聴、体験学習的なエクササイズ、グループワークも随時取り入れ、自身の実感に照らした心理学の理解を促進したい。
上記の過程を通して受講者は自身の問題意識を掘り下げ、学期末レポートに結実させる。
各回は以下の内容を予定している。
第1回:演習の進め方、夏休み読書課題の発表
第2回:夏休み読書課題の発表
第3回:発達障害に関する文献
第4回:不登校・ひきこもりに関する文献
第5回:自傷行動に関する文献
第6回:異文化適応に関する文献
第7回:ストレス・マネジメントに関する文献
第8回:当事者研究に関する文献
第9回:高齢者への心理的支援に関する文献
第 10 回:学生相談に関する文献
第 11 回:カウンセリングに関する質疑応答
第 12 回:カウンセリング初回面接の演習(1)
第 13 回:カウンセリング初回面接の演習(2)
第 14 回:コンサルテーション面接の演習

履修上の注意

発表やグループディスカッションが中心になるので、受講者には自ら探求する姿勢と、主体的なコミットメントが求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で提示した参考文献リスト、および文献データベースを活用し、各自が予習と発展的学習に努めること。

教科書

指定しない。

参考書

各自が発展的な学習につなげられるよう、毎回の授業で関連文献を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

希望者に対して学習報告と学期末レポートに関するフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート(60%)、授業への参加度(40%)により評価する。授業への参加度は、「リアクションペーパー」「発表」「授業とディスカッションに取り組む姿勢」により配点される。

その他

演習授業は受講者全員の能動的で誠意あるコミットメントにより創られる。その一員としての自覚と責任を持って取り組み、欠席・遅刻のないよう留意すること。
質問・連絡は浅井のメールアドレスまで
aae19090@gmail.com

科目ナンバー:(AL)ACD122J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ＩＢ	**心理社会研究基礎演習ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
二階堂 千絵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期に学んだ各ライフサイクルにおける臨床心理学的課題について，より深い知識と理解を深める。
発表者が個別にレジュメを作成し，その発表を踏まえて受講生同士でディスカッションを行う。
レジュメを作成し発表すること，ディスカッションに参加することを通して今後専門的な学習及び研究を進める上での基礎力を育成し、多角的な視点持つことを目標とする。
論文検索の仕方や論文の種類、先行研究のレビューについてなどについても併せて学んでいく。

授業内容

各ライフサイクルにおける臨床心理学的課題に関するテーマについて、発表者が学術論文，書籍等の文献を調べ，レジュメを作成する。
授業では発表をもとにディスカッションを行う。
第1回:担当の決定
第2回～第 14 回:発表及びディスカッション

履修上の注意

演習形式の授業であるので，ディスカッション，発表には主体的かつ積極的に取り組むこと。
発表者以外の受講生も購読する資料を事前によく読んでおくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人でレジュメ作成・発表に移行する。
発表のため個人で資料を読み込み，レジュメとしてまとめるなどの準備を行う必要がある。

教科書

阿部幸大(2024)．まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書 光文社

参考書

服部祥子(2020)． 生涯人間発達論 第３版: 人間への深い理解と愛情を育むために 医学書院
その他、都度紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションコメントにて寄せられた質問・疑問は基本的に次回の授業にてフィードバックし，再度ゼミ全体で考察する。

成績評価の方法

授業，ディスカッションへの参加態度(50%)及び最終レポート(50%)によって総合的に評価する。
なお，レポートは必須とする。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡA	**心理社会研究基礎演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、人種・民族・エスニシティ、グローバリゼーションのほか、家事や育児の男女の分担、家事と仕事の両立の問題などのジェンダーの問題などに関する基本文献を輪読する。その際に、授業や輪読文献で扱う基本概念を理解できる基礎力を養う。輪読文献は初回授業において参加者と相談のうえで決定する。輪読に際しては、各自にレジュメに基づいて報告してもらい、全体でディスカッションを行う。

授業内容

第1回 授業計画の決定
第2回 春学期テーマについての基礎知識の習得、担当報告の割り当て決定
第3回 資料の収集の仕方・論文の執筆等についての講義
第4回 指定文献についての報告と討論(1)
第5回 指定文献についての報告と討論(2)
第6回 指定文献についての報告と討論(3)
第7回 指定文献についての報告と討論(4)
第8回 指定文献についての報告と討論(5)
第9回 中間的まとめ
第 10 回 指定文献についての報告と討論(6)
第 11 回 指定文献についての報告と討論(7)
第 12 回 指定文献についての報告と討論(8)
第 13 回 指定文献についての報告と討論(9)
第 14 回 指定文献についての報告と討論(10)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。授業では、毎回、参加者全員が積極的に発言することが強く求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んでから授業に参加すること。

教科書

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

オーメイジのアンケート機能などを用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらう①レポートの中身(30%)、ならびに②授業への参加度(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡA	**心理社会研究基礎演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
野澤 淳史	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習では障害をめぐる現象を切り口として、福祉や教育、環境、ジェンダー、動物など幅広い領域の文献を講読することを通して、現代社会において社会学ならび障害学に関する基礎知識や思考力を養うことを目的とする。同時に、大学で学ぶ上で必須のリテラシー能力(読む・書く・発表する、議論するなど)の向上を図っていく。
前期は優生思想に関する文献を幅広く取り扱いながら文献講読を行い、同時にそれぞれの研究課題を掘り深めていく。

授業内容

第1回:イントロダクション:演習の目的と到達点の説明、自己紹介など
第2回:社会学の使い方
第3回:障害学の使い方
第4回:文献の紹介と順番決めなど
第5回:文献講読(1)
第6回:文献講読(2)
第7回:文献講読(3)
第8回:文献講読(4)
第9回:研究テーマを考える
第 10 回:文献講読(5)
第 11 回:文献講読(6)
第 12 回:文献講読(7)
第 13 回:文献講読(8)
第 14 回:総合討論

履修上の注意

演習を円滑に進めていくためには、受講生一人ひとりの積極的関わりが不可欠となる。報告者は事前の準備を、それ以外の参加者は必ず該当の論文を読んだ上で各回の演習に出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

社会学や障害額の概念や歴史を理解する上では、その背景にあるさまざまな歴史的・社会的事象の理解が欠かせない。しかしながら、各回 の演習でその説明に割ける時間は多くない。そこで、必要に応じて理解の補助としての必読文献や記事、映像などを紹介するので、それらを予習の参考にすること。復習として、演習で配布されたレジュメ(毎回ではない)やノートを振り返ることで翌週の議論へとつなげていくこと。

教科書

授業開始時に紹介する。

参考書

その都度紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題に対する個別ないし全体講評は、口頭もしくは Oh-o! Meiji でその都度公表する。

成績評価の方法

授業への参加度 40 点
学期末レポート 60 点

その他

授業内容や計画に変更が生じることがある。

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡA	**心理社会研究基礎演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
見田 朱子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、現代日本人の意識についての調査結果を読み解きながら、各自のテーマに沿った資料を追加した発表と議論をします。調査記録の読み方、調査資料の解釈と利用、自身のテーマに沿った資料の選定と利用、引用や参考と自分で考えたことの峻別、レポート記述の方法、発表報告の資料作成と方法、発表に対する傾聴や発言の姿勢、批判や質問への対応、学術的議論の司会進行、といったすべての総体的な経験と伸長を目指します。

授業内容

第1回 イントロダクション:購読本の紹介と構成の確認/ゼミの進め方
第2回 自己紹介と担当個所の決定
第3回 文献購読に基づく議論①
第4回 文献購読に基づく議論②
第5回 文献購読に基づく議論③
第6回 文献購読に基づく議論④
第7回 文献購読に基づく議論⑤
第8回 文献購読に基づく議論⑥
第9回 文献購読に基づく議論⑦
第 10 回 文献購読に基づく議論⑧
第 11 回 中間的まとめ
第 12 回 再発表の機会①
第 13 回 再発表の機会②
第 14 回 総論・最終レポートについて

履修上の注意

第 1 回以外は、すべて参加者のみなさんが準備してくることが求められます。各回の中心的発表者は 1〜2 名ですが、全員が文献を購読して「予告」に対する準備を済ませてから参加することが求められます。準備をしないと自分のゼミ時間が無駄になるだけでなく、価値の低い発言に時間をとられる他の参加者のリソースも奪うことになります。

なお、私(講師)はよく喋ります。しかし、喋らせるとみなさんの負担が増えてどんどん大変なことになります。黙らせるように発言してください。

授業内容は予定であり、参加人数および参加者の希望や理解度によってある程度の変更があり得ます。意見、相談、疑問などは言葉にしてください。そうしやすい環境を作れるように努めますが、最終的には結局自分が言わねばなりません。

リアクションペーパーの他、CommentScreen や Slido 等のオンラインでのリアルタイムコメントシステムを利用する可能性があります。スマートフォン、タブレット、パソコンなど web アクセスのできる機器があると良いかもしれません。機器類およびコメントシステムへの参加は必須ではありませんし、あくまで可能性なのでオンラインシステムは利用しないかもしれません。また、リアクションペーパーの内容は基本的に公開、共有します。

準備学習(予習・復習等)の内容

「履修上の注意」にもあるように、毎週の文献購読と予告された内容に対する準備(予習)と、必要に応じた自分の作業修正(復習)が必要です。毎週、2〜3 時間ほどが必要になる想定です。

教科書

NHK 放送文化研究所, 2020,『NHK ブックス 1260 現代日本人の意識構造[第九版]』NHK 出版.
＊ただし第十版が出版されていた場合、そちらに変更する。初回授業まで購入しなくてよい。

参考書

日本社会学会編集委員会, 2023,『社会学評論スタイルガイド 第 3 版』日本社会学会編集委員会
＊以下の URL でブラウザ上で閲覧可能。また、PDF 版も同ページからダウンロード可能。紙媒体の冊子版の購入方法も同ページにある(1 冊 500 円)。
『社会学評論スタイルガイド 第 3 版』
https://jss-sociology.org/bulletin/guide/
他は必要に応じて授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業時間中もしくは次週授業時間中に、主に口頭でコメントや評価を伝える。

成績評価の方法

授業中の発表と発言:60%
リアクションペーパーや作業による貢献:20%
期末レポート:20%
＊ただし、期末レポートの提出は必須とする。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡA	**心理社会研究基礎演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 掌子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

担当教員が指定した心理学分野のジェンダーやセクシュアリティ、その他文献の精読を行う。基礎的知識を習得し、論文を読みこなす力を養い、その上で批判的に検討をし、ディスカッション能力を高めることを目的とする。

授業内容

第1回:オリエンテーション:担当者の決定
第2回:論文や文献の検索の仕方
第3回:論文の読み方
第4回:発表とディスカッション
第5回:発表とディスカッション
第6回:発表とディスカッション
第7回:発表とディスカッション
第8回:発表とディスカッション
第9回:発表とディスカッション
第 10 回:発表とディスカッション
第 11 回:発表とディスカッション
第 12 回:発表とディスカッション
第 13 回:発表とディスカッション
第 14 回:まとめ

履修上の注意

グループでの発表となるため、メンバーそれぞれが主体的に調べてディスカッションを繰り返しながらひとつのレジュメを作成し、それを発表することを求める。非発表担当者も、各自批判的疑問を携えて授業に臨む必要があるため、全員参加型の授業となる。
欠席は認めないが、事情があり欠席せざるを得ない場合は、前もって E メールなどで連絡を入れること。

準備学習(予習・復習等)の内容

文献や論文を精読するためには、その周辺の文献を多く読みこなしておく必要がある。

教科書

ジェンダーの心理学 :「男女」の思いこみを科学する
青野篤子, 土肥伊都子, 森永康子著. -- 新版. -- ミネルヴァ書房, 2022.

参考書

僕らの世界を作りかえる哲学の授業(土屋 陽介著／青春出版社)
議論のレッスン（福澤一吉（著)生活人新書）」, その他は適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

①授業内での発表の内容、②非発表の際の批判的疑問の内容、③授業での発言内容により評価する(①50%, ②25%, ③25%)。

その他

なし

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡA	**心理社会研究基礎演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 尚子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

基礎演習の目的は, 臨床心理学の基礎的知識を習得すると共に卒業論文を到達点とする研究における基礎的な力を養うことである。そのためにこの演習では, 臨床心理学領域の基礎的な文献の講読を行いそれを発表することを通して, 文献や論文を読み解く力, 文献や論文をまとめて発表する力, 問題点を発見し批判的検討を加える力および学術的な議論をする力を養うことを目指す。また, グループワークを通して, 臨床実践を行う上で必要とされる, 異なる視点をとらえる力, 自己の価値観の検討, 自己のコミュニケーションの特性の振り返り, などを行い, 臨床心理学の理論と体験を立体的に修得することを目指す。

授業内容

初回の授業では, オリエンテーションとして授業の説明とゼミでの学習態度と関係性を築くためのグループワークを行う。その後は, グループワークを用いて授業内で取り扱う臨床心理学諸領域のテーマおよび文献を検討し, 発表の担当者を決める。全員がいずれかのテーマを選択し, グループ発表することとする。発表の際にはパワーポイントを使用し, 全員に資料を配布すること。活発なディスカッションが行われるよう工夫することも発表者の責務とする。発表終了後は, 全員が発表テーマについて考えたこと, 疑問, 意見などをレポートにまとめ, 発表者と教員に対して提出する。
グループワークでは, 履修者全員または小グループにわかれ, カウンセリングの知識と実践的技術を高める体験的学習を行う。
第1回 オリエンテーション
第2回 テーマ設定のためのグループワーク
第3回 テーマ設定のための質的分析方法を用いた分類
第4回・5回 グループワーク
第6回～14回 発表とディスカッション

履修上の注意

毎回必ず出席すること。発表時にはパワーポイントによる資料を必ず用意し, 全員に資料を配布すること。担当テーマについて責任を持ち, 準備から発表, 当日のディスカッションのファシリテーションも含め, 主体的に行うこと。指定討論者を設ける, スモールグループによるディスカッションタイムを取るなど, 受講者が積極的に議論に参加できる工夫を行うこと。ディスカッションにおいては, 全員の積極的参加を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

臨床心理学に関する基本書, 入門書を読んでおくこと。発表にあたっては, 当該テーマの専門書や学術的な文献を多数購読し, その内容をまとめておくことが求められる。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業時間に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内, または Oh-o!Meiji をとおしてフィードバックする。

成績評価の方法

学習態度・ディスカッションへの積極性(60%), 発表内容(20%), レポート(20%)に基づき総合的な評価を行なう。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡA	**心理社会研究基礎演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹松 志乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

「教育と心理・社会」「児童期・思春期・青年期」を中心テーマに、臨床心理学的観点から学生自身が「研究テーマ」を設定し、単独または共同発表を行う。演習を通して繰り返される「レジュメをまとめる作業」「自分の意見を発表するプレゼンテーション経験」「他者の意見を尊重・傾聴する姿勢」「お互いの意見を交換するディスカッション経験」「レポートを書く作業」などを通して、1 年次演習からの学びをさらに深め、3 年次以降の専門ゼミでの学習において必要不可欠な専門的な研究姿勢や発表力などを培うことを目的としている。

授業内容

本演習では受講生自身が「研究テーマ」を主体的に探し出し、類似テーマの仲間たちとグループを形成して、毎回1グループずつ、演習内で共同発表してもらう予定である。(または、1 回につき、個人 2 名の単独発表形式などもありうる。)

詳しくは、初回の講義時に集まったメンバーと相談して決めたい。ビデオなど、視聴覚教材を用いた授業も想定される。なお、以下のような領域のテーマが候補に考えられるが、基本的に学生が自由に選んだ研究テーマでの発表希望が認められる。

・児童期から青年期までの子どもたちと学校との関係を巡る諸問題
・親や兄弟姉妹など、家族関係を巡る諸問題
・友人や異性など、対人関係を巡る諸問題
・青年期のアイデンティティ形成や精神衛生を巡る諸問題
・反社会的問題行動や災害など、社会・コミュニティとの関係を巡る問題
・障害やハラスメント、マイノリティなど、人権に関わる問題
・子どもたちの表現するイメージについて、など。

第1回:イントロダクションと簡単な自己紹介。研究テーマの選択・研究テーマ別のグループの構成など、発表形式・発表順番の決定。
第2回～第3回:発表までの準備期間 (演習時間内では、教員が講義、ビデオ学習、体験学習などを用意して行う。)
第4回～第 13 回:個人あるいはグループ別の研究発表とディスカッション。発表者は発表要旨をパワーポイントや配布資料にまとめて発表する。その
後、全体による質疑応答やディスカッション・分かち合い。終了時に、感想を簡単にまとめた用紙を提出。
第 14 回:全体のまとめ。

履修上の注意

少人数による演習形式なので、何よりも自分がグループ構成員であることの自覚を持ち、自分の発表時だけでなく、他のゼミ構成員の発表に対しても、質疑応答・ディスカッション時などに、主体的かつ積極的に関与する姿勢が強く求められる。

なお、基本的に「全授業への貢献」が単位取得の条件である。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分の発表を終えての振り返りや、他のゼミ構成員(グループ)の発表に対する感想文を、「毎回簡単にまとめて、提出してもらう」ことが、必須の学習作業として課されている。

教科書

特になし。プリントを配布する。

参考書

世界思想社編集部「大学生 学びのハンドブック」世界思想社。ほか、随時紹介するので, 出来るだけ自発的に目を通していってほしい。

課題に対するフィードバックの方法

口頭および加筆などの形で、必要に応じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

「研究発表」を 50%、「期末レポート」を 30%、「毎回の感想文」を 10%、「授業に臨む姿勢」を 10%として, 総合的に評価する。

なお、基本として「全授業への貢献」が単位取得の必須条件である。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡB	**心理社会研究基礎演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、人種・民族・エスニシティ、グローバリゼーションのほか、家事や育児の男女の分担、家事と仕事の両立の問題などのジェンダーの問題などに関する基本文献を輪読する。その際に、授業や輪読文献で扱う基本概念を理解できる基礎力を養う。輪読文献は初回授業において参加者と相談のうえで決定する。輪読に際しては、各自にレジュメに基づいて報告してもらい、全体でディスカッションを行う。

授業内容

第1回 授業計画の決定
第2回 春学期テーマについての基礎知識の習得、担当報告の割り当て決定
第3回 資料の収集の仕方・論文の執筆等についての講義
第4回 指定文献についての報告と討論(1)
第5回 指定文献についての報告と討論(2)
第6回 指定文献についての報告と討論(3)
第7回 指定文献についての報告と討論(4)
第8回 指定文献についての報告と討論(5)
第9回 中間的まとめ
第 10 回 指定文献についての報告と討論(6)
第 11 回 指定文献についての報告と討論(7)
第 12 回 指定文献についての報告と討論(8)
第 13 回 指定文献についての報告と討論(9)
第 14 回 指定文献についての報告と討論(10)

履修上の注意

報告担当者は詳細な報告レジュメを作成し、必ずコメントも付け加えること。授業では、毎回、参加者全員が積極的に発言することが強く求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

報告担当者以外の授業参加者も必ず報告予定箇所を読んでから授業に参加すること。

教科書

参考書

授業において適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

オーメイジのアンケート機能などを用いてフィードバックを行う。

成績評価の方法

学期末に提出してもらう①レポートの中身(30%)、ならびに②授業への参加度(20%)、③担当報告の内容(30%)、④授業内での発言内容(20%)により総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡB	**心理社会研究基礎演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
野澤 淳史	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習では障害をめぐる現象を切り口として、福祉や教育、環境、ジェンダー、動物など幅広い領域の文献を講読することを通して、社会学ならび障害学に関する基礎知識や思考力を養うことを目的とする。同時に、大学で学ぶ上で必須のリテラシー能力(読む・書く・発表する、議論するなど)の向上を図っていく。
後期は前期に読み込んだ文献などを駆使しながら、各自が学期末レポートを作成していくことが主な内容となる。

授業内容

第1回:イントロダクション:秋学期の構成、報告者決めなど
第2回:学期末レポートの作り方(1)研究し、論文(レポート)を書くとはどういうことか
第3回:文献講読(1)
第4回:文献講読(2)
第5回:文献講読(3)
第6回:文献講読(4)
第7回:学期末レポートの作り方(2)「答えなき問い」の探し方
第8回:学期末レポートの作り方(3)事実に基づいて意見を言う
第9回:学期末レポートの作り方(4)先行研究とは何か
第 10 回:学期末レポートの作り方(5)剽窃を防ぐ
第 11 回:学期末レポートを執筆する(1)
第 12 回:学期末レポートを執筆する(2)
第 13 回:学期末レポート報告会(1)
第 14 回:学期末レポート報告会(2)

履修上の注意

演習を円滑に進めていくためには、受講生一人ひとりの積極的関わりが不可欠となる。報告者は事前の準備を、それ以外の参加者は必ず該当の論文を読んだ上で各回の演習に出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

社会学や障害額の概念や歴史を理解する上では、その背景にあるさまざまな歴史的・社会的事象の理解が欠かせない。しかしながら、各回 の演習でその説明に割ける時間は多くない。そこで、必要に応じて理解の補助としての必読文献や記事、映像などを紹介するので、それらを予習の参考にすること。復習として、演習で配布されたレジュメ(毎回ではない)やノートを振り返ることで翌週の議論へとつなげていくこと。

教科書

その都度紹介する。

参考書

阿部幸大(2024)『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』光文社.

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題に対する個別ないし全体講評については、口頭もしくは Oh-o! Meiji でその都度公開する。

成績評価の方法

授業への参加度 40 点
学期末レポート 60 点

その他

授業内容や計画に変更が生じることがある。

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡB	**心理社会研究基礎演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
見田 朱子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、現代社会のあり方を論じた社会学の文献を購読し、その理解にもとづいて、発表と議論を展開する。
参加者には、次のような能力とその伸長が期待される。発表を担当するにあたっては、現代社会の状況と構造について、文献の提供するそれを見る視点と方法、それを論じる際の基本概念を理解し、共通理解の場をつくる発表を準備して、議論の論点を提供し、批判や質問には適切に対応できること。議論への参加にあたっては、発表を含む他者の発言に対する傾聴の姿勢、意見や疑問を発言する作法、文献理解と議論への参加準備、時間配分の感覚、議論内容を消化し利用できること。
文献は初回授業において候補を挙げ、参加者と相談のうえで決定する。

授業内容

第1回 イントロダクション:購読本の決定と構成の確認/ゼミの進め方
第2回 自己紹介と担当個所の決定
第3回 文献購読に基づく議論①
第4回 文献購読に基づく議論②
第5回 文献購読に基づく議論③
第6回 文献購読に基づく議論④
第7回 文献購読に基づく議論⑤
第8回 文献購読に基づく議論⑥
第9回 文献購読に基づく議論⑦
第 10 回 文献購読に基づく議論⑧
第 11 回 文献購読に基づく議論⑨
第 12 回 文献購読に基づく議論⑩
第 13 回 文献購読に基づく議論⑪
第 14 回 総論・最終レポートについて

履修上の注意

第 1 回以外は、すべて参加者のみなさんが準備してくることが求められます。各回の中心的発表者は 1~2 名ですが、全員が文献を購読して議論の準備をしてくることが求められます。準備をしないと自分のゼミ時間が無駄になるだけでなく、価値の低い発言に時間をとられる他の参加者のリソースも奪うことになります。
授業内容は予定であり、参加人数および参加者の希望や理解度によってある程度の変更があり得ます。意見、相談、疑問などは言葉にしてください。そうしやすい環境を作れるように努めますが、最終的には結局自分が言わねばなりません。
リアクションペーパーの他、CommentScreen や Slido 等のオンラインでのリアルタイムコメントシステムを利用する可能性があります。スマートフォン、タブレット、パソコンなど web アクセスのできる機器があると良いかもしれません。機器類およびコメントシステムへの参加は必須ではありませんし、あくまで可能性なのでオンラインシステムは利用しないかもしれません。また、リアクションペーパーの内容は基本的に公開、共有します。

準備学習(予習・復習等)の内容

「履修上の注意」にもあるように、毎週の文献購読と予告された内容に対する準備(予習)と、必要に応じた自分の作業修正(復習)が必要です。毎週、発表者以外で 1~2 時間ほどが必要になる想定です。

教科書

初回授業で指示する。

参考書

日本社会学会編集委員会, 2023,『社会学評論スタイルガイド 第 3 版』日本社会学会編集委員会
*以下の URL でブラウザ上で閲覧可能。また、PDF 版も同ページからダウンロード可能。紙媒体の冊子版の購入方法も同ページにある(1 冊 500 円)。
『社会学評論スタイルガイド 第 3 版』
https://jss-sociology.org/bulletin/guide/
他は必要に応じて授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業時間中もしくは次週授業時間中に、主に口頭でコメントや評価を伝える。

成績評価の方法

授業中の発表と発言:60%
リアクションペーパー等による貢献:20%
期末レポート:20%
*ただし、期末レポートの提出は必須とする。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡB	**心理社会研究基礎演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
高瀬 由嗣	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

臨床心理学領域の基礎的な文献の講読を行ない，臨床心理学の現状，最近の知見などを学ぶ。この演習では，文献を読む力だけではなく，それをまとめて発表する力，学問的な議論をする力を養うことを目指す。

授業内容

まず，授業内で取り扱う臨床心理学諸領域のテーマを確認し，発表の担当者を決める。担当者は自らに与えられたテーマについて，さまざまな文献にあたり，内容をまとめる。発表の際には，担当者は内容を要約したレジュメを作成し，参加者全員に配布する。なお，発表においては，発表者以外に指定討論者などをもうけて，参加者全員で活発な議論を行なうことを目指す。

発表がすべて終了したら，すべての参加者は自らの発表したテーマについて考えたこと，疑問，意見などをレポートにまとめて提出する。具体的な授業の進め方は以下のとおりである。

(1)概要と計画
(2)プレゼンテーションに向けての諸注意と準備
(3)発表－発達の問題とその支援1
(4)発表－発達の問題とその支援2
(5)発表－発達の問題とその支援3
(6)発表－学校内のいじめをめぐる問題と対策
(7)発表－不登校をめぐる問題と対策
(8)発表－社会的引きこもりをめぐる問題と対策
(9)発表－児童虐待をめぐる問題と支援
(10)発表－母子関係、家族トラウマ等をめぐる問題と支援
(11)発表－犯罪被害者をめぐる問題と支援
(12)発表－高齢者をめぐる問題と支援
(13)発表－臨床心理学領域におけるその他の重要なトピックス
(14)発表－臨床心理学領域におけるその他の重要なトピックス

履修上の注意

演習は，受身的に参加するのではまったく意味がない。何事にも疑問を持つこと，そして積極的な姿勢で発表，ならびにディスカッションに臨むことが求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

臨床心理学領域の基礎的な文献(入門書，概論書等)をよく読んでおくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業時間内に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表された課題に関しては，授業内でのディスカッションを通して，コメントを行う。

成績評価の方法

学修態度・ディスカッションの姿勢(50%)，発表内容(30%)，レポート(20%)に基づき総合的な評価を行なう。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡB	**心理社会研究基礎演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡安 孝弘	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

基礎演習の目的は、卒業研究につなげていくための基礎的な力を養うことであると考える。
そのためには、自分の問題意識を明確にし、それを解決するためにこれまでの研究成果を参照しながら、実証的なデータを収集し、分析することが求められる。
本基礎演習ⅡB では、心の健康および認知行動療法に関する問題を取り上げ、それに関する文献を購読し、その内容をまとめて発表することを通して、文献をまとめる力と、問題意識を発見する力を養うことを目的とする。

授業内容

最初の2回のの授業では、文献検索の方法について教示するとともに、各学生がいつ発表するのかを決定する。
学生は、決められた予定に沿って、自身の関心のあるテーマの中から学術論文を選択し、その内容を発表する。
発表は，パワーポイントの資料に基づいて行う。
その後、発表された内容に関して、質疑応答を行う。

第1回 オリエンテーション
第2回 文献検索の方法および学術論文の読み方とまとめ方
第3回 健康心理学および認知行動療法の研究領域におけるトピックスの解説
第4回～第 13 回 学生による発表とディスカッション
第 14 回 発表に関する講評

履修上の注意

毎回必ず出席すること。発表時にはパワーポイントによる資料を必ず用意すること。また、他の学生の発表内容に対して、積極的に討論に参加することが求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表するためには、事前の準備として、設定した問題に関する学術的な文献を多数購読し、その内容をまとめておくことが求められる。

教科書

特に定めない。
何を選べばよいか分からないという学生の相談には応じる。

参考書

特に定めない。随時、授業で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表内容 70%、質疑応答時の積極性 30%として評価する。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)SOC212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究基礎演習ⅡB	**心理社会研究基礎演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
濱田 祥子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
児童期, 思春期の臨床心理学に関する問題についての知識を習得し, 理解を深める。
発表者がレジュメを作成し, その発表を踏まえて受講生でディスカッションを行う。レジュメを作成し, 発表すること, ディスカッションに参加することを通して専門的な学習を進める上での基礎力を育成することを目標とする。

授業内容
前半では、児童期, 思春期の臨床心理学に関するテーマについて、発表者が学術論文、書籍等の文献を調べ、その内容をまとめ, レジュメを作成する。その内容をもとにディスカッションを行う。
後半では、臨床心理学に関する書籍を受講生が一人一冊読み、発表する。その内容をもとにフロアとともにディスカッションを行う。
テーマは教科書に基づき、児童期, 思春期の臨床心理学的な問題を設定する。
授業では発表をもとにディスカッションを行う。
第1回:授業の進め方についての説明, 担当の決定
第2回:体験学習
第3回～第 14 回:発表・ディスカッション

履修上の注意
演習形式の授業であるので, ディスカッション, 発表には主体的かつ積極的に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容
2～3名のグループで春学期の間, 複数回の発表を担当する。
発表のために, グループでの話し合い, 個人で資料を読み, レジュメとしてまとめるなどのの準備を行う必要がある。

教科書
『支援のための心理学 エビデンスに基づく援助活動の実際』北樹出版 高岸幸弘・黒山竜太編

参考書
授業中に適宜, 紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
発表について、授業内でコメントをする。

成績評価の方法
授業, ディスカッションへの参加態度(50%)及び最終レポート(50%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究入門A	**心理社会研究入門A**	
担 当 者	開講期	開講地区
浅井 健史	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
【授業概要】
人間の多面性と活動領域の広さを反映し、心理学の研究・実践領域はきわめて広範囲にわたる。本科目では、大学生の日常生活や現代社会で生じる事象を題材を用いて、心理学の理論・概念を学ぶ。動画資料や自ら考える「ワーク」を活用し、体験学習的に理解を深めることを重視する。
同時に、自ら心理学の論文を探し、読み、「学習報告」にまとめる作業を通して、主体的に問題意識を掘り下げる姿勢とスキルを養う。
【到達目標】
・心理学における研究と実践の方法を理解する。
・身近な問題や社会的事象を心理学的な視点から考察する力を養う。
・文献調査の方法を理解し、関心を持った心理学のテーマを自ら調べ、探求する力を養う。
質問や連絡は浅井のメールアドレスまで。
aae19090@gmail.com

授業内容
各回の内容は以下を予定している。
1 心理学の研究領域と文献の調べ方
2 心理学論文の読み方1(学術論文の作法)
3 心理学論文の読み方2(量的研究)
4 心理学論文の読み方3(質的研究)
5 大学生期とアイデンティティ形成
6 集団心理の基本原理
7 集団意思決定の心理
8 群衆行動の心理
9 災害時の心理
10 リーダーシップの心理
11 マインドコントロールと説得の心理
12 組織不祥事の心理
13 心理検査とパーソナリティの測定
14 紛争解決と平和構築の心理

履修上の注意
授業についての質問や意見はリアクションペーパーまたはメールで受け付ける。双方向性の高い授業を目指したい。

準備学習(予習・復習等)の内容
初回授業で提示する文献調査の課題に取り組むとともに、各回のプリントに記載された参考文献を用いて、授業の予習と復習に努めること。

教科書
プリントを用いて進めるため、教科書は指定しない。

参考書
各回のプリントでテーマごとの参考書を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
希望者に対して、リアクションペーパーおよび学期末レポートへのフィードバックを行う。

成績評価の方法
・「学期末レポート」の得点(60%)
・「学習報告(計３回)」の提出状況(20%)
・各回のリアクションペーパーの提出状況と内容(20%)
上記により、総合的に評価する。
・「学期末レポート」は、各自が関心を持った心理学のテーマを選んで考察する形式を予定している。テーマについて掘り下げた考察がなされているか、自己の意見が明確に述べられているかを評価する。
・「学習報告」では、各自が関心を持った心理学文献を読んで内容紹介と考察を行う。文献調査のスキルを習得するとともに、問題意識を掘り下げて学期末レポート

その他

科目ナンバー：(AL)PHL111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究入門C	**心理社会研究入門C**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

学問にはそれぞれ歴史がある。心理学、社会学が哲学との関連でどのように成立したかを学び、自らの学問的位置づけを行うことを目指す。

古代の霊魂論から霊魂論の歴史、社会契約論の歴史を提示し、特に 19 世紀における人間の科学誕生の文脈のなかに心理学、社会学を位置づける。

授業内容

第1回：講義の概要と進め方
第2回：古代の霊魂論
第3回：古代の霊魂論
第4回：ユダヤ-キリスト教の世界
第5回：ユダヤ-キリスト教の世界
第6回：新プラトン主義の系譜、
第7回：16、17 世紀哲学における心身問題、国家問題
第8回：社会契約論の諸相
第9回：メーヌ・ド・ビランと心理学
第 10 回：オーギュスト・コントと社会学
第 11 回：シャルル・ルヌヴィエの批判的心理学
第 12 回：空想的社会主義からマルクスへ
第 13 回：ジャン＝マルタン・シャルコーとピエール・ジャネ
第 14 回：ガブリエル・タルドとエミール・デュルケム
定期試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

予習の必要はないが、講義で紹介された著書や作品についてみずから図書館などで調べ、その一部だけでも読書、鑑賞することが望まれる。

教科書

プリントなどで配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に論述試験を行うが、必要と判断される場合にコメントする。

成績評価の方法

学期末の論述式テスト100パーセント

その他

科目ナンバー：(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会調査研究法A(心理学統計法)	**心理社会調査研究法A(心理学統計法)**	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 岳人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義では、心理学や社会学における統計に関する基礎的な知識を身につけることを目的とする。また、データ分析に用いられる統計ソフトの基本的な操作方法を習得することで、心理学で用いられる統計手法の中でも、特に量的なデータを分析できるようになることも目標としている。これらの講義と実践を通して、先行研究で用いられている分析がある程度理解できる力を身につけていく。

授業内容

1. イントロダクション
2. データを扱う
3. 記述統計
4. 変数間の関係
5. 推測統計と正規分布①
6. 推測統計と正規分布②
7. カイ二乗検定
8. 独立したサンプルのt検定
9. 対応のあるt検定
10. 一要因分散分析(参加者間)
11. 一要因分散分析(参加者内)
12. 二要因分散分析
13. (重)回帰分析
14. まとめ

履修上の注意

成績評価のために毎回課題を設定するため、期日までに必ず提出すること。
また、PC 上の統計ソフトを使用するため、各自でノート PC を持参することを推奨(難しい場合は貸し出しもあり)。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題は受講者間で相談しながら取り組むことを推奨する。

教科書

特に指定しない。

参考書

西村純一・井上俊哉『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』ナカニシヤ出版(2016)
浦上昌則・脇田貴文『心理学・社会科学研究のための 調査系論文の読み方』東京図書(2008)
高野陽太郎・岡隆(編)『心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし』有斐閣アルマ(2004)
吉田寿夫『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房(1998)

課題に対するフィードバックの方法

課題は次の回の授業のはじめにフィードバックを全体に対して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業への参加度(30%)、中間テスト(20%)。

その他

特になし

科目ナンバー:(AL)PSY291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会調査研究法B(心理学研究法)	**心理社会調査研究法B(心理学研究法)**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本科目は、現代社会学専攻および臨床心理学専攻の必修科目である。この授業では、質的・量的な社会調査の方法と実践について学ぶ。授業の目的は、①社会調査という研究法の成り立ちや具体的成果について示し、②調査の準備から実施、分析、報告までのプロセスを概観し、③各調査法の特徴と相互補完性を明らかにすることである。

授業の到達目標は、①社会調査の多様な方法について理解できること、②自らの研究にとって適切な方法を選択し、調査企画を設計できること、③研究倫理と自らのポジショナリティについて思考できることである。

授業内容

第 1 回 a:イントロダクション／b:社会調査の特徴と展開
第 2 回 社会調査の成果例 1――質的研究
第 3 回 社会調査の成果例 2――量的研究
第 4 回 社会調査の成果例 3――質と量のクロス
第 5 回 調査の問いを立てるには
第 6 回 量的調査の方法
第 7 回 量的調査の実践
第 8 回 量的データ分析――有意差がない結果は無意味？
第 9 回 質的調査の方法
第 10 回 質的調査の実践
第 11 回 質的データ分析――一人だけの語りは無意味？
第 12 回 ライティング・カルチャー・ショック――調査の暴力性とどう向き合うか
第 13 回 セイフティ・ダンス――調査のためならなんでもするべきか
第 14 回 a:全体のまとめ／b:試験

履修上の注意

大量に板書する授業である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介する文献を積極的に読むこと。

教科書

特に定めない。授業でプリントを配布する。

参考書

大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2023,『最新 社会調査へのアプローチ:論理と方法』ミネルヴァ書房.(旧版も可)
好井裕明, 2006,『「あたりまえ」を疑う社会学:質的調査のセンス』光文社.
ほか授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへの応答を授業内で行う。

成績評価の方法

試験 100 パーセント。ただし、試験の点数で不合格となる場合、救済措置として平常点を 20 点まで加算する。平常点とはリアクションペーパーの評点の合計を指す。試験の点数に平常点を加えて単位を認定する場合、C 評価しかつかない。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理社会研究入門B	**心理社会研究入門B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

グループをつくってフィールドワークや文献調査を行い、それについて各グループで論文を作成しつつ、学会発表のように発表し、全員で質疑応答、ディスカッションをする。

学生がフィールドワークや文献調査を行い、それについての報告や自説発表の基本的な技能を身につけることが授業の目標である。

授業内容

グループをつくり、グループで調査計画をつくり、調査を実行し、グループごとに発表をする。
(1)グループづくり。フィールドワークや文献調査と論文づくり、発表についてのレクチャー。
(2)フィールドワークと論文づくり、発表についてのレクチャー。グループでの調査計画づくり。
(3)フィールドワークについてのグループでの準備作業
(4)フィールドワークについてのグループでの準備作業
(5)グループによる発表とディスカッション
(6)グループによる発表とディスカッション
(7)グループによる発表とディスカッション
(8)グループによる発表とディスカッション
(9)グループによる発表とディスカッション
(10)グループによる発表とディスカッション
(11)グループによる発表とディスカッション
(12)グループによる発表とディスカッション
(13)グループによる発表とディスカッション
(14)グループによる発表とディスカッション

履修上の注意

積極的にディスカッションをすること。意識的に発表とディスカッションのスタイルを探求しつつ実践すること。文献調査、フィールドワークなどを行う必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

グループで、フィールドワークを行い、発表の準備をしてくること。グループのテーマについて文献を読んでくること。学生同士で情報共有やディスカッションをすること。これを授業の前と後の両方で行うこと。

教科書

『〈いじめ学〉の時代』内藤朝雄(柏書房)2007 年

参考書

使用しない

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックに関しては、Oh-o!Meiji を通じて通知、配信等を行うので、確認すること。さまざまな手段を用いて質問があればそれに答える。

成績評価の方法

発表の内容が 50 パーセント、発表および授業への参加貢献度が 50 パーセント

その他

科目ナンバー：(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
心理的アセスメント	**心理的アセスメント**	
担 当 者	開講期	開講地区
高瀬 由嗣	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

臨床心理学業務の重要な柱の1つである心理的アセスメントについて，その基本的な観点，目的，対象，方法，倫理等の基礎を学ぶことを目的とする。授業形態は講義を主とするが，知識を定着させるために必要に応じて体験的な学習も取り入れる予定である。

授業内容

以下の内容で授業を進める。
1. 心理的アセスメントとは－授業の目的，心理的アセスメントの基本的な観点，倫理・歴史を学ぶ。
2. 心理的アセスメントの展開－アセスメントの具体的な方法としての，面接法・観察法・心理テストを学ぶとともに，それぞれのメリット・デメリットを考える。
3. 心理テストの科学性－心理テストの成立要件である信頼性・妥当性，および標準化の概念を学ぶ。さらに心理尺度の作成方法を実例に基づいて学習する。
4. 質問紙法(1)－わが国における代表的な質問紙検査である YG 性格検査を体験的に受検し，その信頼性・妥当性・標準化の概念について学ぶ。
5. 質問紙法(2)－世界的にもっとも有名な質問紙法である MMPI を体験的に受検し，その分析・解釈法を学ぶ。
6. 知能検査(1)－知能に関する基礎的な理論を学ぶ。
7. 知能検査(2)－わが国でもっとも使用頻度の高い知能検査であるウェクスラー式(WISC)を体験し，その基本的な考え方を学ぶ。
8. 知能検査(3)－WISC の事例に基づき，その分析および解釈方法を学習する。
9. 神経心理学検査－神経心理学検査とは何か？ 具体的に何を行なうのかを学ぶ
10. 投映法心理検査(1)－投映法心理検査の基本的な考え方，方法を学ぶ。
11. 投映法心理検査(2)－本邦でよく用いられる文章完成法(SCT)を体験的に学ぶ。
12. 心理的アセスメントのフィードバック法(1)－アセスメント結果を依頼者にフィードバックするための方法，すなわち報告書の作成について学習する。
13. 心理的アセスメントのフィードバック法(2)－アセスメント結果を対象者に伝達する際の留意点や，治療的な意味を持つ結果の返し方を学ぶ。
14. 総括－授業全体を振り返る。特に，心理的アセスメントにおける量的方法と質的方法という2つのアプローチに焦点を当て，両者の意義と関係性について学ぶ。

履修上の注意

この科目は臨床心理学専攻の学生のみに開かれた必修科目である。他学科・他専攻の学生は受講できないことを留意願いたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

心理的アセスメントの理論を学ぶにあたっては，統計学の基礎知識が必要となる。各自，1年次に学んだ研究法の基礎をよく復習したうえで授業に臨むこと。さらに，授業を終えてからは，授業時間内に配布した資料を読み返すことが大切である。体験学習から得た知識は，事後の復習によって定着するからである。

教科書

『心理アセスメントの理論と実践』. 高瀬由嗣・武藤翔太・関山徹. (岩崎学術出版社). 2020 年.

参考書

①『心理アセスメントハンドブック』. 上里一郎 監修. (西村書店). 2001 年.
②『臨床心理学の実践－アセスメント・支援・研究』. 八尋華那雄(監修)・高瀬由嗣・明翫光宜(編). (金子書房). 2013 年.
③『心理テスト－理論と実践の架け橋』. P. ホーガン著, 繁桝算男・椎名久美子・石垣琢麿共訳(培風館). 2010 年.

課題に対するフィードバックの方法

本科目の主たる目的である心理検査体験課題については，授業内で検査結果の読み方、解釈方略等についての解説の時間を設ける。

成績評価の方法

実際のアセスメント法に臨む熱意(40%)，学期末の試験(60%)を総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)ANT116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人類学概論〔M〕	**文化人類学B〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、4分野人類学全体とのつながりを理解しながら、文化人類学の特色と視点を学ぶことにより、社会分析の基礎力を養うことを目標とする。

授業内容

1.人類学とは
2.人類学の範囲
3.文化とは何か1：人類学的アプローチ
4.文化とは何か2：環境と人間
5.民族・人種・エスニシティ1：定義？
6.民族・人種・エスニシティ2：国家と民族
7.中間試験／人類学的手法・調査方法1：エスノグラフィー
8.人類学的手法・調査方法2：エスノロジー
9.言語と文化1：コミュニケーションの特色
10.言語と文化2：言葉の変化
11.生産・経済活動1：狩猟採集・焼畑農業
12.生産・経済活動2：農耕・工業社会
13.社会進化論
14.まとめ・ディスカッション

履修上の注意

通年の参加が望ましいが、1学期だけでも可。

準備学習(予習・復習等)の内容

Oh-o! Meiji に掲載されている課題を毎週授業前までに予習しておくこと。

教科書

Nina Brown, Thomas McIlwraith, Laura Tubelle de González(2020) Perspectives: An Open Introduction to Cultural Anthropology, 2nd Edition, American Anthropological Association
＊また、別途 Oh-o! Meiji 上で随時提供する。

参考書

Oh-o! Meiji 上で随時提供する。

課題に対するフィードバックの方法

オフィスアワーを活用してください。

成績評価の方法

平常点(20%)、小テスト(20%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)から総合的に評価する。

その他

＊この授業は「対面・オンライン併用授業」です。対面でも Zoom を介してどこからでも履修ができます。対面・ライブ配信は火曜日の 1 限目です。教室は Oh-o! Meiji を確認してください。

科目ナンバー：(AL)ANT116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人類学入門〔M〕	**文化人類学A〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
本授業では、4分野人類学全体とのつながりを理解しながら、文化人類学の特色と視点を学ぶことにより、社会分析の基礎力を養うことを目標とする。

授業内容
1.人類学とは
2.人類学の範囲
3.人類の起源
4.霊長類と身体的特徴
5.狩猟採集社会
6.狩猟採集民
7.農耕の起源
8.中間試験
9.北アメリカ
10.古代メソアメリカ
11 南アメリカ
12.アジア
13.オセアニア
14.まとめ・ディスカッション

履修上の注意
通年の参加が望ましいが、1学期だけでも可。

準備学習(予習・復習等)の内容
Oh-o! Meiji に掲載されている課題を毎週授業前までに予習しておくこと。

教科書
Nina Brown, Thomas McIlwraith, Laura Tubelle de González(2020) Perspectives: An Open Introduction to Cultural Anthropology, 2nd Edition, American Anthropological Association
＊また、別途 Oh-o! Meiji 上で随時提供する。

参考書
Oh-o! Meiji 上で随時提供する。

課題に対するフィードバックの方法
オフィスアワーを活用してください。

成績評価の方法
平常点(20%)、小テスト(20%)、中間試験(30%)、期末試験(30%)から総合的に評価する。

その他
＊この授業は「対面・オンライン併用授業」です。対面でも Zoom を介してどこからでも履修ができます。対面・ライブ配信は火曜日の 1 限目です。教室は Oh-o! Meiji を確認してください。

科目ナンバー：(AL)LAN341N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語で学ぶ文化と社会 IA	**中級スペイン語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
バリエントス	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
この授業ではすでに獲得しているスペイン語の力を伸ばし，更に様々な会話表現を身につけることを目指します。 正確に言いたいことを伝え，相手の言っていることを理解できるよう，話すことと聞くことに重点をおき，会話の幅を広げてゆきます。また履修者の興味に応じてスペイン語圏の様々な文化も授業でとりあげます。

授業内容
第1回:イントロダクション
第2回:El trabajo(仕事や勉強について話す)
第3回:El trabajo(交通手段について話す，頻度を表わす表現を使い話す)
第4回:Planes(将来の計画について話す)
第5回:Planes(義務や必要性について話す)
第6回:Comidas(店で商品について尋ねる，商品の値段を聞く)
第7回:Comidas(レストランで注文する，レストランで要求を伝える)
第8回:Un dia normal(最近したことを話す)
第9回:Un dia normal(謝る，言い訳をする)
第 10 回:Experiencias(個人的な体験について話す)
第 11 回:Opiniones(意見を伝える，賛成･反対する)
第 12 回:Ropa(着ている服を説明する，服の比較をする)
第 13 回:Ropa(店で服を買う)
第 14 回:a. 春学期末試験 b. 春学期のまとめ
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
言語を学ぶ際に音読することは大切であるので，積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で扱うテーマについて事前に考え、必要な単語を調べておくこと。また、配付プリントを読み、わからない点は質問を準備しておくこと。

教科書
プリントを配付します。

参考書
授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法
授業時に口頭で行う。

成績評価の方法
試験(40%)、授業参加(60%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN341N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語で学ぶ文化と社会 IB	**中級スペイン語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
バリエントス	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
この授業ではすでに獲得しているスペイン語の力を伸ばし，更に様々な会話表現を身につけることを目指します。 正確に言いたいことを伝え，相手の言っていることを理解できるよう，話すことと聞くことに重点をおき，会話の幅を広げてゆきます。また履修者の興味に応じてスペイン語圏の様々な文化も授業でとりあげます。

授業内容
第1回：En una fiesta(していることを話す，お祝いを言う，贈り物をあげる)
第2回：En una fiesta(物事について感想を言う，食べ物や飲み物をすすめる，すすめを承諾する・断る，日にちを言う)
第3回：Un viaje(過去について話す)
第4回：Un viaje(旅行について話す)
第5回：Famosos(歴史上の著名人，今の著名人について話す)
第6回：Permisos(許可を求める，許可を与える，可能か不可能かを尋ねる)
第7回：Favores(頼みごとをする，頼みごとをきく・断る，借りる)
第8回：Ir de viaje(座席の好み等について話し比較をする，交通手段についての情報を尋ねる・与える，天気について話す)
第9回：El fin de semana(先週末に何をしたか話す，過去の出来事について感想を言う)
第 10 回：La infancia(過去の人物，場所について説明する，過去の習慣について話す)
第 11 回：Regalos(事物を説明する，贈り物について話す)
第 12 回：El mundo(未来について話す)
第 13 回：El mundo(未来について予想する)
第 14 回：a. 秋学期末試験 b. 秋学期のまとめ
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
言語を学ぶ際に音読することは大切であるので，積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で扱うテーマについて事前に考え、必要な単語を調べておくこと。また、配付プリントを読み、わからない点は質問を準備しておくこと。

教科書
プリントを配付します。

参考書
授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法
授業時に口頭で行う。

成績評価の方法
試験(40%)、授業参加(60%)で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN242S		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語レベルアップ A	**中級スペイン語ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
セグ スビラホセオ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
以前に学んだ文法や語彙を使えるようにするための実践的なコースです。もちろん文法的な説明もありますが、このコースの主な目的は学生のスペイン語コミュニケーション能力を伸ばすことです。
授業で使用する教材は、スペイン語圏に関連する社会的・文化的な内容を扱ったテキストと、学生のレベルに合わせたビデオです。
授業では、取り上げられたトピックについてディスカッションし、自分の考えを発表することが求められます。
授業で学生が身につけるコミュニケーション・スキルは以下の通りです：
- 自分の意見を表現するための言語的要素
- 議論するための言語的要素
- 意見に対する反論
- 結論を述べる

授業内容
第 1 週　イントロダクション
第 2 週～第 13 週
毎週、スペイン語圏の文化や社会に関するトピックを取り上げます。このトピックについて自分の意見を述べ、クラスメートとディスカッションします。
第 14 週　発表

履修上の注意
スペイン語の文法と語彙の基礎知識がある。

準備学習(予習・復習等)の内容
毎週先生から送られてくる書類を読む。

教科書
毎週、先生から授業で使う教材が送られてきます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
Class Participation: 40% 積極的に授業に参加する
Others: 60% 最終発表

その他

科目ナンバー:(AL)LAN242S		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語レベルアップ B	**中級スペイン語ⅠB**	
担 当 者	開講期	開講地区
セグ スビラホセオ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

以前に学んだ文法や語彙を使えるようにするための実践的なコースです。もちろん文法的な説明もありますが、このコースの主な目的は学生のスペイン語コミュニケーション能力を伸ばすことです。
授業で使用する教材は、スペイン語圏に関連する社会的・文化的な内容を扱ったテキストと、学生のレベルに合わせたビデオです。
授業では、取り上げられたトピックについてディスカッションし、自分の考えを発表することが求められます。
授業で学生が身につけるコミュニケーション・スキルは以下の通りです:
- 自分の意見を表現するための言語的要素
- 議論するための言語的要素
- 意見に対する反論
- 結論を述べる

授業内容

第 1 週　イントロダクション
第 2 週～第 13 週
毎週、スペイン語圏の文化や社会に関するトピックを取り上げます。このトピックについて自分の意見を述べ、クラスメートとディスカッションします。
第 14 週　発表

履修上の注意

スペイン語の文法と語彙の基礎知識がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎週先生から送られてくる書類を読む。

教科書

毎週、先生から授業で使う教材が送られてきます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

Class Participation: 40% 積極的に授業に参加する
Others: 60% 最終発表

その他

科目ナンバー:(AL)HES291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スポーツ文化論Ⅱ	**スポーツ文化論Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>オリンピックやサッカーワールドカップなどに代表されるように、スポーツイベントは、世界共通文化の一つとなっている。本授業では、毎回の授業において一つのスポーツイベントを対象として、1)様々な情報(歴史、ルール、技術、最新情報など)を調べ、2)それらの内容をまとめてプレゼンテーションする参加型授業である。
<到達目標>
1. 世界規模のポーツイベントに関する様々な情報を他者にわかりやすくまとめることができる。
2. プレゼンテーション内容を、わかりやすく他者に説明することができる。
3. 半期授業全体を通して、スポーツ文化について自分の考えを述べることができる。

授業内容

以下に列挙するテーマで約 30 分間の講義の後、受講生が各スポーツイベントに関する情報を即座に収集し、グループワークやプレゼンテーションを行う。これらを通して、各スポーツイベントについて理解を深めていくものである。
授業進行:以下を予定している。
第 1週:授業概要説明、自己紹介、アイスブレーキング、ロスサンゼルスオリンピック 2028 について
第 2週:古代オリンピックの発祥・変遷・終焉
第 3週:近代オリンピックの発祥・変遷
第 4週:パラリンピックについて
第 5週:ユニバーシティーゲームズ
第 6週:アジア競技大会についてについて
第 7週:その他のゲームズ大会について(コモンウェルズ、アジアビーチ、アジアインドアなど)
第 8週:国民スポーツ大会について
第 9週:サッカーワールドカップについて
第 10 週:ワールドベースボールクラシックについて
第 11 週:ワールドアスレティックについて
第 12 週:箱根駅伝について
第 13 週:スキー・スノーボードワールドカップについて
第 14 週:まとめ

履修上の注意

本授業では、資料作成やプレゼンテーションの際にノート PC が必要となります。ノート PC がない場合は、タブレットやスマートフォンでも作業は可能です。授業時間だけで調査が完了しない場合には、予習・復習としてのインターネット調査が必要になります。

準備学習(予習・復習等)の内容

対象とするスポーツ競技大会が決まっている場合は、事前に概要を調査すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を提示する。

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、提出翌週の授業にて全体にフィードバックする。レポート課題を課した場合はコメント欄に個別にフィードバックする。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点 70 点(提出物 42%、授業への取り組み姿勢 28%)、筆記試験(30%)から総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スラヴ語圏の歴史	**スラヴ語圏の歴史**	
担 当 者	開講期	開講地区
山崎 信一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

現在に至るまでのスラヴ語圏の歴史的展開について概観するとともに、スラヴ語圏に暮らす諸民族のあり方に目を配李、その多様なあり方を理解する。また、近代以降の汎スラヴ主義の展開、南スラヴ統一運動、連邦国家の確立といったスラヴ統一への動きと並んで、20 世紀末から 21 世紀の連邦解体やスラヴ諸民族間の対立と戦争の展開を、南スラヴ圏を中心に考える。

スラヴ世界の多様なあり方を理解することを到達目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション:講義の全体像の提示
第2回 「スラヴ人」とは?「スラヴ語」とは?
第3回 東スラヴ世界とその特徴
第4回 西スラヴ世界とその特徴
第5回 南スラヴ世界とその特徴
第 6 回 スラヴ人と隣接する諸集団
第 7 回 スラヴ語圏における国民形成と汎スラヴ主義
第 8 回 南スラヴ統一主義とその展開
第 9 回 ユーゴスラヴィア国家とその特質
第 10 回 3 つの「スラヴ連邦国家」~ソ連、ユーゴスラヴィア、チェコスロヴァキア
第 11 回 ユーゴスラヴィアの解体と紛争をめぐって(1)
第 12 回 ユーゴスラヴィアの解体と紛争をめぐって(2)
第 13 回 紛争後の課題
第 14 回 講義のまとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の授業内容を振り返り、関心を持ったテーマに関しては参考文献などにあたること。また、次回の授業内容について簡単に調べておくことが望ましい。

教科書

指定しない。

参考書

必要に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題提出の次の授業の冒頭で説明、質問への回答を行う。

成績評価の方法

毎授業時のコメントシートを中心とする授業への参加度 50%、学期末の定期試験 50%。

その他

科目ナンバー:(AL)PHL311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
政治と哲学	**政治と哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
王 前	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、履修者と一緒に「哲学と政治」の関係を考える。具体的に言うと、どのように哲学の角度から政治を考えるべきなのかを一緒に考察する。

政治が対象なので、ただ抽象的に議論するのではなく、具体的な問題を手掛かりに、洋の東西を代表する哲学者が政治を論じる文献を一緒に読みながら、議論しよう。そのなかで我々はどのように政治という日々経験する対象を哲学的に思考するかを学ぶことができる。

この授業を履修することによって、普段あまり接することがない政治を論じる哲学の古典を理解できるようになるだけでなく、また自分で政治を合理的に考える力を身につけることを目標とする。

In this class, we will consider the relationship between 'philosophy and politics' together with the students. More specifically, we will consider together how we should think about politics from a philosophical angle.

Since politics is the subject, we will not just discuss it in the abstract, but rather take concrete issues as clues and discuss them while reading together the classical texts which written by leading philosophers from the West and East who discuss politics. In this way, we can learn how to think philosophically about politics, an object we experience every day.

By taking this course, you will not only be able to understand philosophical classics on politics, with which you are rarely exposed, but you will also acquire the ability to think rationally about politics on your own.

授業内容

1. イントロダクション:「哲学と政治」とはどういう関係なのか。デイヴィッド・ミラーの『はじめての政治哲学』(岩波現代文庫)を手掛かりに
2 プラトンと政治――『国家』の一部を読む
3. アリストテレスにおける政治:『政治学』と『倫理学』の一部を読む
4. 古代東洋における政治的思考――孔子、孟子、荀子、韓非子の政治思想
5. マキアベリの独創性?――『君主論』を読む
6. ホッブスと『リヴァイアサン』
7. ジョン・ロックの『統治論』と現代の政治
8. カントの政治論――『永遠平和のために/啓蒙とは何か』
9. マックス・ウェーバーから見る政治――『仕事としての政治』を読む
10.カール・シュミットと『政治的なものの概念』及び『現代議会主義の精神史的状況』
11. レイモン・アロンとアーレントの政治論
12.フーコーにおける哲学と政治
13. 丸山眞男における『政治の世界』
14. ハーバーマスが見る民主主義の政治

履修上の注意

授業では、最初は教員が取り上げる哲学者と文献について解説しますが、基本的なポイントをおさえてから、活発に議論してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料を予習しておくこと。

教科書

特に指定しない。事前に資料をサイトを通して配布する。

参考書

デイヴィッド ・ミラー、『はじめての政治哲学』(岩波現代文庫)
・丸山眞男『政治の世界』、松本礼二編集(岩波文庫)
・Charles Larmore, What is Political Philosophy? (Princeton University Press,2020)

課題に対するフィードバックの方法

サイトで提出した課題に対しては、サイトでコメントをする。

成績評価の方法

参加度 30%、レポート 70%

その他

とくにありません。

科目ナンバー:(AL)MED311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
精神疾患とその治療	**精神疾患とその治療**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 伸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

精神医学がとらえる「疾患」・「病気」や「治療」とはどのようなものか？専門分野として、そして日常の生活の中で関わりうる精神医学に対する基本的な知識を身につけることを目標とする。教養番組等の映像教材も用い、身近なものとして臨床像を理解できることを目指す。その上で、個々人の抱える「心」の問題と、それを扱う上での「精神医学」との位置関係、相互作用についての理解を深め、実際の場面で「精神医学がとらえる疾患」という概念を、人を援助するという目的のために使うための基礎を身につける。

授業内容

第1回 概論 精神医学とは？ 自己紹介
第2回 精神疾患総論 精神科における診断名とは？
第3回 精神疾患総論 精神科治療 薬物療法 精神療法／心理療法 医療機関との連携
第4回 物質関連障害群および嗜癖性障害群／神経認知障害群
第5回 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群
第6回 統合失調症スペクトラム障害および他の精神病性障害群2
第7回 双極性障害および関連障害群
第8回 抑うつ障害群
第9回 不安障害群／強迫性障害および関連障害群
第 10 回 心的外傷およびストレス因関連障害群
第 11 回 解離性障害群／身体症状症および関連障害群
第 12 回 その他の精神障害群(DSM5:10～14, 15, 18, 19)
第 13 回 神経発達障害群
第 14 回 試験と解説

履修上の注意

授業への質問や感想など、毎回のリアクションペーパーにて出席を兼ね、集めます。
専門的な診断名などの内容も多いため、ある程度の予備知識がないと難しい可能性があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

テレビ番組などでも、精神疾患について語られることは多い。
そういった場面でどのように説明されているか、語られているかなど、意識をして見ていただきたい。
また授業後は授業での説明をふまえ、新たな視点を交えつつ、見ていただきたい。

教科書

指定はありません。最低限の内容は授業で資料を配布いたします。
(クラスウェブから各自ダウンロードしていただく場合もありえます。)

参考書

専門医がやさしく語るはじめての精神医学 中山書店 ¥3,190- 一通りのことを確認できる教科書が欲しい方。
知っておきたい精神医学の基礎知識［第 2 版］:サイコロジストとメディカルスタッフのために 誠信書房 ¥4,290-
https://amzn.to/3Bzz81v 授業以外でも精神科臨床と接する方に。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

授業への参加度(リアクションペーパーによる出席の確認)50%
定期試験 50%

その他

状況に応じて、オンライン授業をする場合があります。

科目ナンバー:(AL)GEO121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生態学A	**生態学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
若松 伸彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

生態学は生物学の一分野であり、身近な自然を扱う学問である。生物種間およびその生き物が生存している環境との関係を明らかにすることを目的とする。
本講義では、前半では生物の進化について、中盤からは生物間の関係について扱う予定である。
なお、後期開講予定の生態学 B では、さらに生物と環境の関係を講義予定であり、履修予定の学生は本講義の履修を強く勧める。

授業内容

第1回 生態学の概要
第2回 生物の共通性と多様性
第3回 生物種の分類と系統
第4回 生物進化と種分化
第5回 地球の歴史と生物
第6回 生物の生活資源
第7回 個体群の特徴と個体間の関係
第8回 個体群の増殖
第9回 個体群における様々な密度効果
第 10 回 生物群集の構造と生物間相互作用
第 11 回 食物連鎖と生態系の安定性
第 12 回 種間競争
第 13 回 生態的地位と種の共存
第 14 回 まとめ

履修上の注意

積極的な授業の参加を望む。授業内容はいわゆる理系の領域を多く含むが, 文系学生でも理解できる内容である。

準備学習(予習・復習等)の内容

2回目以降の講義では、事前に web システムによってプリントを配布するので, 必ず印刷をして持参すること。
プリントは図表及び板書を補助するためのプリントであり, 復習や授業後の整理を行うことが望ましい。

教科書

教科書は定めないが, 参考書があると授業の理解が進む。

参考書

『大学生のための生態学入門』原登志彦監修・西村尚之著(共立出版)2017 年
『大学生物学の教科書』D・サダファ他著 石崎泰樹・斎藤成也監訳 (ブルーバックス)2014 年

課題に対するフィードバックの方法

レポートに対してはフィードバックをシステムを利用して実施する。

成績評価の方法

講義態度および中間レポート 40%, 期末試験もしくは期末レポート 60%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生態学B	**生態学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
若松 伸彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

生態学は生物学の一分野であり、身近な自然を扱う学問である。生物種間およびその生き物が生存している環境との関係を明らかにすることを目的とする。
本講義では特に植物(植生)と環境の関係について講義する。また、終盤では現在世界及び日本における生物多様性を中心とした環境問題の現状について講義を行う。
なお、前期開講予定の生態学 A では、本講義を行うための基礎的な生態学の概要について扱うことから、生態学 A を履修の上で、本講義を履修することを強く勧める。

授業内容

第1回 生態学の基礎
第2回 生物の地理的分布
第3回 世界の気候と植生1
第4回 世界の気候と植生2
第5回 日本の植生1
第6回 日本の植生2
第7回 植生の遷移
第8回 地形と植生1
第9回 地形と植生2
第 10 回 地形と植生3
第 11 回 亜高山帯における植生変化1
第 12 回 亜高山帯における植生変化2
第 13 回 生物多様性の取り組み
第 14 回 まとめ

履修上の注意

本講義履修者は，生態学の基礎編である生態学 A を履修しておくことを大変強く推奨する。
積極的な授業の参加を望む。授業内容はいわゆる理系の領域を一部含むものの，文系学生でも理解できる内容である。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に web システムによってプリントを配布するので，必ず印刷をして持参すること。
プリントは図表及び板書を補助するためのプリントであり，復習や授業後の整理を行うことが望ましい。

教科書

教科書は定めないが，参考書があると授業の理解が進む。

参考書

『大学生のための生態学入門』 原登志彦監修・西村尚之著(共立出版)2017 年
『微地形』 藤本潔・宮城豊彦・西城潔・竹内裕希子編(古今書院)2016 年
『地形植生誌』 菊池多賀夫著(東京大学出版会)2001 年
『上高地の自然誌』 上高地自然史研究会著 (東海大学出版会)2016 年

課題に対するフィードバックの方法

レポートに対してはフィードバックをシステムを利用して実施する。

成績評価の方法

講義態度および中間レポート 40%，期末試験もしくは期末レポート 60%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生命の政治社会学	**生命の政治社会学**	
担 当 者	開講期	開講地区
見田 朱子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
まず、「生命」とはどのようなものであると考えられるのか。多様な視点から多様なとらえ方がありえますが、この授業ではまじめにそのうち 2～3 の視点や考え方を敷衍します。
次に、政治社会学とは、権力機構や政治システムといった社会の〈しくみ〉を、固定したものや自明なものとして捉えるのではなく、その〈しくみ〉を私たちがどのように組みかえていけるのかを考える学問です。この授業では、まず政治社会学の問題の立て方や基本的な考え方を学びます。
これらのうえで、戦後の日本社会に生じた社会的事件や社会問題、社会的な変化を通して、政治家や政党、行政官僚だけが政治の主体ではないこと、普通の人びとが自分の人生のことは自分で決めるために動き、それが市民政治として形成され、展開されてきたことを学びます。
日本社会歴史上の具体的なそれぞれの現象を、現代社会――「今ここ」の権力システム――の中の「生命」である私たちが、いかに学び使うことができるのか。授業全体を通してこれを考えることで、授業後にもそれぞれの機会に自ら考えていくための視点と方法を知り、その練習をする内容です。
【到達目標】
1)社会の〈しくみ〉を自明視するのではなく、それを相対化できる論理的思考力を身につける。
2)具体的な状況に即して問題点の背景を調べ、客観的データをもちいて分析する方法を理解する。
3)自己と他者の関係の網の目を組みかえ、社会の〈しくみ〉を変革する、問題解決策を提案する力を身につける。

授業内容

1. イントロダクション
2. 生命：複数の意味内容、多様な学問的立場や考え方、「生命」の相対性を紹介する。
3. 政治と政治社会学：政治とは何か。政治社会学の提示する問題意識を学ぶ。
4. 「生命」と「政治」：政治社会学を踏まえて、「政治」はいかに「生命」とかかわってきたかを学び考える。
5. 「市民政治」の形成：戦後日本におけるいくつかの社会的運動や事件を取り上げる。
6. 「市民政治」の展開：戦後日本に形成されたはずの「市民政治」がどのように展開し、現在の社会に見られるか。
7. 水俣病①：水俣病の基礎的知識と、「公害病」にとどまらない歴史を確認する。
8. 水俣病②：①で学んだ現象を生み出した政治と経済の、人間に対するシステム、現代社会の〈しくみ〉を学ぶ。
9. 個人と社会、生命と政治：これまでの概論と具体例を踏まえて、その連関を考える。
10. 現代社会の理論と〈しくみ〉①：現代社会の諸問題の根本にある理論を学ぶ。
11. 現代社会の理論と〈しくみ〉②：現代社会の諸問題が、〈しくみ〉によって展開する方向と可能性を考察する。
12. 「ミナマタ」に示される、〈しくみ〉への対峙
13. 生命の政治社会学：現代社会における、幸福の〈しくみ〉と生命の政治
14. a：最終試験 b：解説とまとめ、質疑応答

履修上の注意

・授業はパワーポイントをもちいた講義を中心としますが、必要に応じて視聴覚教材(映像資料など)の参照を行います。
・授業資料は Oh-o!Meiji のクラスウェブを通じて公開しますが、一部は授業参加者のみが入手できる資料もあることをご了承ください。
・双方向的なコミュニケーションを重視します。小課題やコメントでのやり取りに加え、Slido 等のシステムをもちいた講義と同時コミュニケーションも考えています。講義中にインターネットアクセスのできる環境(スマートフォン、タブレット、ノート PCなど)が用意できると良いかもしれません(必須ではありません)。
結果として、参加者の理解度や興味関心によって、授業内容の予定に変更が生じる場合があります。また、参加人数によってはグループワーク的な実習も想定しています。
★この授業における学術的な語句の使用は社会学の基本に依拠しています。一般的な事辞典類、例えば国語辞典や広辞苑や各種英和・仏和辞書などに記載されている解説よりも、社会学辞典類(参考書欄に紹介)に記載の内容が優先します。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：事前に指定された資料などに目を通して概要を把握し、あるいは指定項目を調べて知識として理解しておくこと。
復習：講義ノート、参考文献、配布資料などを確認して、授業内容をまとめなおすとともに、生じた疑問に自分なりの予測的回答を用意して質問の準備をする。また、講義内で新しく知った学術的単語や語句は社会学辞典(参考文献)などで確認し、自らの知識としておくこと。

教科書

必須購入という意味では教科書は特にありません。
講義中に適宜案内をしますので、配布資料および下記参考書の欄も確認して、興味と必要に応じて自分で判断してご用意ください。

参考書

『証言 水俣病』栗原彬著、2000 年, 岩波書店.
『苦海浄土：わが水俣病』石牟礼道子著, 1972 年, 講談社(新装版：2004 年, 講談社).
『自由からの逃走 新版』E.フロム著, 日高六郎訳, 1952 年, 東京創元社.
・『「存在の現れ」の政治：水俣病という思想』栗原彬著, 2005 年, 以文社.
・・『管理社会と民衆理性：日常意識の政治社会学』栗原彬著, 1982 年, 新曜社.
・・『自我の冒険：脱工業社会の青年たち』E.H.エリクソン編, 栗原彬監訳, 1973 年, 金沢文庫. (原書タイトル『Youth: chang

課題に対するフィードバックの方法

講義期間内の小課題やコメントについては講義内でまとめて、最終試験については試験後の「まとめと解説」の時間に行います。課題提出にもとづく理解度の補足、および質問やコメント内容の効果は、基本的に参加者全体で共有したい(授業への貢献になる)ので、プライバシーにかかわらない限り、フィードバックはクラス全体に公開します。

成績評価の方法

講義内最終試験(60%)、講義期間内の小課題(30%)、講義への参加と貢献(10%)
＊成績評価および単位認定の基本的な考え方、「講義への参加と貢献」の具体的な内容などの詳細は、初回授業イントロダクションで説明します。
＊出欠および遅刻早退は成績に関係しませんが、大学・学部規定等によって「成績問い合わせ」が不可とされる状況にある場合は F 評価を覆すことはできません。
＊受講人数等によって、成績評価の方法は変更の可能性があります。

その他

状況に応じて、オンライン授業とする場合があります。

科目ナンバー:(AL)ART231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋演劇史ⅡA	**西洋演劇史ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
仮屋 浩子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
中世から 17 世紀にかけてのヨーロッパの演劇史を概観し、規制や劇空間、上演方法、舞台装置、衣装、受容について考察する。それぞれ代表的な作品を取り上げ、可能な限り現在の上演映像を観た上で、多角的な考察を試みる。後半はイギリス演劇、シェイクスピアの作品を取り上げ、作品を親しむとともに時代背景や様式などについて理解を深めることを到達目標とする。

授業内容
第1回　イントロ、中世までの演劇について
第2回　中世演劇 1 典礼劇の成立
第3回　中世演劇 2 愚者の祭り
第4回　中世演劇 3 宗教劇、道徳劇
第5回　中世演劇 4 演劇空間、演出効果、機械仕掛け
第6回　宗教改革と演劇
第7回　17 世紀前半までのイギリス演劇 1
第8回　17 世紀前半までのイギリス演劇 2
第9回　17 世紀前半までのイギリス演劇 3
第 10 回　シェイクスピア:時代背景と特徴
第 11 回　シェイクスピア『ハムレット』・『ヴェニスの商人』
第 12 回　シェイクスピア 『リチャード3世』
第 13 回　シェイクスピア『十二夜』
第 14 回　期末試験

履修上の注意
授業中にグループ作業で、作品を音読する場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で扱う作品は必ず事前に読んでおくこと。

教科書
特になし

参考書
石井美樹子訳『イギリス中世劇集』(篠崎書林、1983 年)
石井美樹子『中世劇の世界』(中公新書、1984 年)
ヴィアラ、アラン『演劇の歴史』(文庫クセジュ、2008 年)
太田一昭『英国ルネサンス演劇統制史』(九州大学出版会、2012 年)
小津次郎他編『エリザベス朝演劇集』(筑摩書房、1974 年)
貴志哲雄『英米演劇入門』(研究社、2003 年)
貴志哲雄編『イギリス王政復古演劇案内』(松柏社、2008 年)
佐和田敬司他編『演劇学のキーワーズ』(ぺりかん社、2007 年)
『西洋演劇論アンソロジー』(月曜社、2

課題に対するフィードバックの方法
毎回実施するリアクションペーパーの講評を、次回の授業の導入時、もしくは Oh o Meiji で公開する。

成績評価の方法
授業への参加度 40%、期末試験 60%で評価する。

その他
西洋演劇史 IIB と連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー:(AL)ART131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋演劇史ⅠA	**西洋演劇史ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
西洋演劇の基盤となるギリシア・ローマの演劇史を概観し, その卓越性, 歴史的意義について具体的に検証する。単に古典を学ぶというだけでなく, 現代に生きている古典, という観点からこの時代の演劇史をたどっていく。 春学期はギリシア悲劇を扱う。

授業内容
1. 受講上の注意および指導 西洋演劇を学ぶ意味とは
2. ギリシア悲劇の成立の謎
3. ギリシア悲劇の表現・劇場・劇場環境
4. ギリシア悲劇の世界~『オイディプス王』を軸に その1
5. ギリシア悲劇の世界~『オイディプス王』を軸に その2
6. 三大悲劇詩人の劇世界概観~アイスキュロスの劇世界 1
7. アイスキュロスの劇世界 2『オレスティア』三部作その1
8. アイスキュロスの劇世界 3『オレスティア』三部作その2
9. ソポクレスの劇世界 1 オイディプス後日談を中心に
10. ソポクレスの劇世界 2『エレクトラ』を中心に
11. エウリピデスの劇世界 1『エレクトラ』
12. エウリピデスの劇世界 2『トロイアの女たち』1
13. エウリピデスの劇世界 3『トロイアの女たち』2
14. エウリピデスの劇世界 4『王女メディア』『バッコスの信女』~エウリピデスの宗教観

履修上の注意
世界史的知識があることが望ましいが, 概要については授業内で補うので日本史受講者も特に心配は要らない。また取り扱われた作品が上演される場合, その鑑賞を課外授業の一環として行う。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業中に扱う劇作品は、戯曲として全編を紹介できるわけではないので、授業で扱った後には、しっかりと全編を読んでおくこと。
また、授業で扱うギリシア神話の背景的な知識は、授業内で十分に習得できるものではないので、説明を聞いた後、各自で復習することを求める。

教科書
特に指定しない。

参考書
山内登美雄『ギリシア悲劇神々と人間のドラマ』(新曜社) 川島重成『ギリシア悲劇神々と人間, 愛と死』(講談社学術文庫)
中村善也『ギリシア悲劇入門』(岩波同時代ライブラリー)

課題に対するフィードバックの方法
毎回課題を提示し、次の会の授業はその中の代表的なコメントを紹介する。その振り返りをもって、フィードバックとしていく。

成績評価の方法
平常時の取り組み(授業への積極的な参加)(50 点)と期末の試験(50 点)の総合評価。
平常時の取り組みの評価の仕方については初回に指示する。毎回課題を提示してそれにこたえてもらう形を採る予定。
テストは持ち込み可。

その他
西洋演劇史ⅠBと連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)ART131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋演劇史ＩB	**西洋演劇史ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
春学期と同様西洋演劇の基盤となるギリシア・ローマの演劇史を概観し，その卓越性，歴史的意義について具体的に検証する。単に古典を学ぶというだけでなく，現代に生きている古典という観点からこの時代の演劇史をたどっていく。 秋学期はギリシア喜劇とローマ演劇を主に扱う。

授業内容
1. 春学期の復習
2. アリストテレスの『詩学』
3. ギリシア喜劇の成立
4. ギリシア喜劇の表現
5. ギリシア喜劇の作家たち
6. アリストパネスの劇世界 1『女の平和』読解その1
7. アリストパネスの劇世界 2『女の平和』読解その2
8. アリストパネスの劇世界 3 アリストパネスの著名人批判
9. ローマ演劇の世界
10. ローマ喜劇の劇作家 1 プラウトゥス その1
11. ローマ喜劇の劇作家 2 プラウトゥス その2
12. ローマ喜劇の劇作家 3 テレンティウス その1
13. ローマ喜劇の劇作家 4 テレンティウス その2
14. ローマ悲劇～セネカの劇世界～ローマ演劇の後世への影響

履修上の注意
世界史的知識があることが望ましいが，概要については授業内で補うので日本史受講者でも問題はない。 また，取り扱われた作品が上演される場合，その鑑賞を課外授業の一環として行う。
授業内で戯曲を声を出して読むことを求めるかもしれないので、積極的に参加してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業内で扱う劇作品は全編を解説することはできない。授業終了後に全編を通読しておくことを求める。

教科書
特に指定しない。

参考書
『ギリシア喜劇全集』(ちくま文庫)『ローマ喜劇全集』(京大出版)『セネカ全集』(京大出版)『ローマ喜劇』(中公新書)

課題に対するフィードバックの方法
毎回課題を提示し、次の会の授業はその中の代表的なコメントを紹介する。その振り返りをもって、フィードバックとしていく。

成績評価の方法
平常時の参加姿勢・取り組み(50 点)と期末の試験(50 点)の総合評価。
平常時の取り組みの評価については授業初回に指示する。毎回課題を提示してそれに答えてもらう形を採る予定。
テストは持ち込み可とするが、認められるのは自筆のノートと配布プリントのみとする予定。

その他
西洋演劇史ＩA と連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)ART231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋演劇史ⅡB	**西洋演劇史ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
仮屋 浩子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
ルネサンス期から 17 世紀末までにかけてのイタリア、スペイン、フランス、および 18 世紀までのヨーロッパ演劇について概観する。それぞれ代表作を取り上げ、可能な限り現在における上演映像を観た上で、多角的な考察を試みる。
18 世紀までのヨーロッパにおける演劇および上演、その背景と様式などについて理解を深めることを到達目標とする。

授業内容
第1回 17 世紀末までのイタリア演劇 1
第2回 17 世紀末までのイタリア演劇 2
第3回 ルネサンス以降の上演空間 1
第4回 ルネサンス以降の上演空間 2
第5回 17 世紀末までのスペイン演劇 1
第6回 17 世紀末までのスペイン演劇 2
第7回 17 世紀末までのスペイン演劇 3
第8回 17 世紀末までのスペイン演劇 4
第9回 17 世紀末までのフランス演劇 1
第 10 回 17 世紀末までのフランス演劇 2
第 11 回 17 世紀末までのフランス演劇 3
第 12 回 18 世紀のヨーロッパ演劇 1
第 13 回 18 世紀のヨーロッパ演劇 2
第 14 回 期末試験

履修上の注意
授業中、グループを組み、作品の音読を行うこともある。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で扱う作品は必ず事前に読んでおくこと。

教科書

参考書
岩瀬孝他『フランス演劇史概説』(早稲田大学出版部、1995 年)
アダン、アントワーヌ『フランス古典劇』(白水社，1996 年)
ヴィアラ、アラン『演劇の歴史』(文庫クセジュ、2008 年)
牛島信明編訳『スペイン黄金世紀演劇集』
佐竹謙一『スペイン黄金世紀の大衆演劇』(三省堂、2001 年)
佐竹謙一『カルデロンの劇芸術』(国書刊行会、2019 年)
西洋比較演劇研究会編『新訂ベスト・プレイズ』(論創社，2011 年)
デュヌッド、オディール他監修『フランス 17 世紀演劇事典』(中央公論新社、2011 年)
ドゥヴ

課題に対するフィードバックの方法
毎回実施するリアクションペーパーの講評を、次回の授業の導入時、もしくは Oh o Meiji で公開する。

成績評価の方法
授業への参加度 40%、期末試験 60%で評価する。

その他
西洋演劇史 IIA と連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋演劇史ⅢA	**西洋演劇史ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

19 世紀から 20 世紀初頭までの西洋演劇史を扱う。基本的には時系列に沿って講義するが、主要な項目、作品、演劇人を扱いながら時代が前後することもある。ロシアを含むヨーロッパの近現代演劇史を社会的背景とともに学ぶことで、その時代性と現代に通ずる普遍性を理解する。19 世紀から 20 世紀へと至る演劇の基本的な文脈を抑えるとともに、演劇表現における戯曲と上演の関係性など、歴史的な展開を通時的・共時的に把握することを目標とする。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 ロマン主義演劇
第 3 回 自然主義演劇〔1〕
第 4 回 自然主義演劇〔2〕
第 5 回 演出家の誕生〔1〕
第 6 回 演出家の誕生〔2〕
第 7 回 象徴主義演劇〔1〕
第 8 回 象徴主義演劇〔2〕
第 9 回 アヴァンギャルド演劇とは何か
第 10 回 アヴァンギャルド演劇:イタリア未来派
第 11 回 アヴァンギャルド演劇:表現主義・バウハウス
第 12 回 演劇と映画:ロシア・アヴァンギャルドを例に
第 13 回 「演劇学」の誕生
第 14 回 試験

履修上の注意

講義の進行によっては、実際の上演記録を参照することもある。その際、時に性的あるいは暴力的な表現が含まれる場合もあることを了承の上、受講すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料等を見直す他、講義内で触れた作品、劇作家、演出家等に関して主体的に調べること。また、同時代の美術、文学などの芸術分野のほか、社会的背景に関しても目を配る等、積極的に予習・復習を行なうことが望ましい。

教科書

特に指定しない

参考書

山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』月曜社、2019 年
など
その他の参考書に関しては、適宜授業内で紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への参加度、コメントシート)50%、期末試験 50%で評価する。

その他

西洋演劇史ⅢB と合わせて受講することが望ましい。

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋演劇史ⅢB	**西洋演劇史ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

20 世紀以降の西洋演劇史を扱う。基本的には時系列に沿って講義するが、主要な項目、演劇人を扱いながら時代が前後することもある。20 世紀の演劇は、極めて多様な表現が生まれ、演劇の概念そのものが拡張し、複雑化していった。現代演劇史における「演劇」を多角的に考察しながら、それでもなお残るものを考えていきたい。また、演劇に限らずあらゆる芸術文化は、社会と密接に関わっている。自分なりの視点で対象をとらえるとともに、背景にある社会的文脈を踏まえてその対象の歴史を見直すことを意識する。現代史のなかでどのような舞台芸術が生まれてきたか、通時的・共時的に把握することを目標とする。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 ダダイズムとシュルレアリスム
第 3 回 ドキュメンタリー演劇
第 4 回 ブレヒトと叙事演劇
第 5 回 不条理演劇〔1〕
第 6 回 不条理演劇〔2〕
第 7 回 アントナン・アルトーと残酷演劇
第 8 回 演劇と身体
第 9 回 アメリカ演劇近現代演劇〔1〕
第 10 回 アメリカ演劇近現代演劇〔2〕
第 11 回 演劇とパフォーマンス
第 12 回 ドキュメンタリー演劇
第 13 回 現代演劇の多様性
第 14 回 試験

履修上の注意

講義の進行によっては、実際の上演記録を参照することもある。その際、時に性的あるいは暴力的な表現が含まれる場合もあることを了承の上、受講すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料等を見直す他、講義内で触れた作品、劇作家、演出家等に関して主体的に調べること。また、同時代の美術、文学などの芸術分野のほか、社会的背景に関しても目を配る等、積極的に予習・復習を行なうことが望ましい。

教科書

特に指定しない

参考書

山下純照・西洋比較演劇研究会編『西洋演劇論アンソロジー』月曜社、2019 年
など
その他の参考書に関しては、適宜授業内で紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への参加度、コメントシート)50%、期末試験 50%で評価する。

その他

西洋演劇史ⅢA と合わせて受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)HIS131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史概論A	**西洋史概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
本間 美奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

西洋史概論 A では、ローマ帝国以降ヨーロッパ世界を方向づけていった「帝国理念」と「キリスト教」をキーワードとして、ヨーロッパ前近代の社会を概観する。具体的には、その時代を特徴づける社会構造によりながら、西ヨーロッパ地域を中心に、中近世史を学ぶ上で必要な基本的事項と用語の理解を深めてゆく。同時に、グローバルな視座からヨーロッパをとらえ、他の文化圏との交流・衝突についても考察したい。この時代に形成されたヨーロッパ世界の様々な枠組みは、その後の社会にも大きな影響を残している。履修生のヨーロッパ社会の特質を考える手がかりとなることを目指している。

授業内容

授業内容は状況に応じて変更する場合もある。
第1回 a イントロダクション EU とヨーロッパ文化の古層
第2回～第7回 古代
・前近代のグローバリゼーション
・「帝国」を考える―古代世界のなかのローマ帝国
・キリスト教国教化
・「ローマ人」とは誰か
第8～第14回 中近世
・帝国理念の継承
・都市とヨーロッパ・サブシステム
・国家教会と宗教戦争
・多宗派化と海外布教
・前近代社会の特質と市民社会への展望

履修上の注意

高校世界史の教科書の知識があれば授業内容に親しみやすいと思うが、未修の人もヨーロッパ史に親しむ機会としてほしい。その場合、例えば『詳説 世界史研究』(木村・岸本・小松編、山川出版社、2017 年)などをはじめとする詳しめの一般的な概説書をその都度参照すると、全体像の把握に役立つと思う。

準備学習(予習・復習等)の内容

小課題を提出してもらう。授業内容に加えて参考文献なども利用しながら、自分の言葉で自由に作成してもらいたい。

教科書

特定の教科書は使用しない。毎回授業レジュメを配布して、その都度参考文献を紹介する。

参考書

授業期間を通じての基本的な文献として以下を挙げる。
服部良久・南川高志・山辺規子(編著)『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006 年.
小山哲・上垣豊・山田史郎・松本淑彦(編著)『大学で学ぶ西洋史[近現代]』ミネルヴァ書房、2011 年.

課題に対するフィードバックの方法

・全員で共有したい内容については、授業中に時間を設けて適宜ふれる

成績評価の方法

以下のような配分で成績評価する
・小課題：30%
・学期末試験：70%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史概論B	**西洋史概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山 千恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

近代以降の欧米の歴史について、歴史学の新しい研究成果をふまえ、世界的視野から概観します。大学教育において必要な欧米の歴史に関する基礎的な歴史的素養を身につけることができます。

授業内容

近代国民国家がどのようにヨーロッパで形成されたのか、そしてヨーロッパ社会が、その内部にあって、また外の世界との関係の中でどのように変容していったのかを検討します。
1 はじめに―授業の視点について
2 二重革命の時代―フランス革命と産業革命
3 自由主義と国民運動の展開(1)ウィーン体制
4 自由主義と国民運動の展開(2)ヨーロッパ各地域におけるナショナリズムの展開
5 1848 年革命
6 国民国家の時代とヨーロッパ(1)「国民国家」の形成
7 国民国家の時代とヨーロッパ(2)「国民国家」と国際関係
8 帝国主義時代のヨーロッパと世界
9 第一次世界大戦とヨーロッパ
10 第一次世界大戦後の新しい「国際体制」
11 「国民国家」をめぐる諸問題
12 世界恐慌とファシズム
13 第二次世界戦とヨーロッパ
14 a まとめと b 試験

履修上の注意

レジュメは当該授業日の前日に Oh-o!meiji に提示します。レジュメの提示期間は基本的に 1 週間です。

準備学習(予習・復習等)の内容

当該授業日前日にレジュメを Oh-o!meiji に提示しますので、当該授業時限までにダウンロード・印刷して、該当する内容を高校世界史の教科書で確認してください。授業後は参考文献一覧を参考にしながらレジュメを読み直して復習してください(計 4 時間)。

教科書

特定の教科書は使用しません。

参考書

初回に全体を通しての参考文献一覧を提示し、また各テーマごとに参考文献を適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題を出した場合には、全体講評を Oh-o! Meiji で公開します。

成績評価の方法

数回実施するリアクションペーパー(30%)、学期末試験(70%)で評価します。

その他

授業の進み具合によっては内容を若干変更する場合があります。

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋思想の基本概念	**西洋思想研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 一孝	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

「人間の心は何でできているのか？」「身体と心はどのように結びついているのか？」「模倣は現実を写すだけでなく、何かを創造するのか？」「共感とはどのように生まれ、倫理や社会にどのように影響を与えるのか？」――こうした問いは、古代から現代まで多くの哲学者たちが取り組んできた重要なテーマです。本講義では、古代ギリシアの哲学から近世哲学までを対象に、いくつかの基礎概念に焦点を当て、重要なテキストを読み解きながら、哲学的思考を深めていきます。

受講生には、古典テキストを扱いながら、哲学的な問いを自ら立て、考え抜く姿勢を身につけてもらうことを目指します。テキストの事前読解を行い、授業内では解釈や議論を深めるディスカッションに積極的に参加していただきます。

到達目標

・古典哲学や近世哲学のテキストを通じて、哲学的な概念を深く理解することができる。
・「心」「心身関係」「模倣」「共感」などのテーマについて、自ら問いを立て、それに基づいた議論を展開できる。
・古典テキストを自分の議論に効果的に引用し、哲学的な考察を深めることができる。

授業内容

第 01 週: 基礎概念を多角的に考察する(授業の概要・進め方・評価方法の説明)
第 02 週～第 04 週: トピック A:心
第 05 週～第 07 週: トピック B:心身関係
第 08 週～第 10 週: トピック C:模倣
第 11 週～第 13 週: トピック D:共感
第 14 週: レポートフィードバック
トピック A:心(第 02 週～第 04 週)
第 02 週: プラトン『パイドン』より抜粋
内容: 魂(心)の不死に関する議論。魂と身体の関係やイデアとの結びつきについて読む。
第 03 週: アリストテレス『デ・アニマ(霊魂論)』より抜粋
内容: 魂の定義や機能。知性や感覚との関係を考察する。
第 04 週: 『ストア派断片集』より抜粋
内容: 物体と魂の概念について理解する。
トピック B:心身関係(第 05 週～第 07 週)
第 05 週: プラトン『法律』より抜粋
内容: 物理的運動と魂の運動の関係について考察する。
第 06 週: アリストテレス『デ・アニマ(霊魂論)』より抜粋
内容: 質料と形相としての心身の関係。感覚と身体機能に関する議論を掘り下げる。
第 07 週: デカルト『省察』あるいは『情念論』より抜粋
内容: 近代哲学における心身二元論の確立。心と身体の相互作用について学ぶ。
トピック C:模倣(第 08 週～第 10 週)
第 08 週: プラトン『国家』第 10 巻より抜粋
内容: 模倣(ミメーシス)とイデア論。詩や芸術の社会的影響と批判的視点について考える。
第 09 週: アリストテレス『詩学』より抜粋
内容: 模倣物の鑑賞について考える。
第 10 週: ホラティウス『詩論』より抜粋
内容: ローマ時代における詩の規範論。古典的模倣観の発展を学ぶ。
トピック D:共感(第 11 週～第 13 週)
第 11 週: アリストテレス『問題集』より「共感に関する諸問題」
内容: 古代的な共感理解。人間が他者の感情を共有する仕組みについて考える。
第 12 週: アダム・スミス『道徳感情論』より抜粋
内容: 共感を道徳の基礎づけとするスミスの視点を学ぶ。
第 13 週: デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』より抜粋
内容: 共感の基礎づけについてスミスとの比較を行う。
第 14 週:レポートフィードバック・総括ディスカッション
内容: 学生の最終レポートの発表、フィードバック、質疑応答、授業全体のまとめ。

履修上の注意

・2週目より日本語訳テキストを読む。
・2週目より毎週授業中に oh-meiji 上で、テキストについての確認小テストを実施する。
・ディスカッション、プレゼンテーションなどの形式でアクティブラーニングを実施する。
・期末レポートを課す。

準備学習(予習・復習等)の内容

・確認小テストがあるので配布テキストを事前に読み込むこと。

教科書

なし。テクストと解説資料は oh-meiji 上で共有する。

参考書

『ギリシア哲学史』納富信留(筑摩書房)2021 年
『哲学の歴史 第一巻～第三巻』内山勝利、中川純男(編)(中央公論新社)2007-8 年
『ソフィスト』田中美知太郎(講談社学術文庫)1976 年
『ソクラテス』田中美知太郎(岩波書店)1957 年,
『プラトンの哲学』藤澤令夫(岩波書店)1998 年
『プラトンを学ぶ人のために』内山勝利(編)(世界思想社)2014 年
『はじめてのプラトン』中畑正志(講談社)2021 年
『西洋哲学史[古代中世編]―フィロソフィアの源流と伝統』内山勝利・中川純男(編著)(ミネルヴァ書

課題に対するフィードバックの方法

レポート講評を行う。

成績評価の方法

小テスト(70%)
期末レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋思想の古典を読む	**西洋思想研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 一孝	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「弱者のために尽くすことが正しいことである」、あなたは本気でそう思っていますか。強者が自分のために利益を貪ることこそが「正しいこと」ではないですか？ 本当の友人とはどのような存在でしょう。一緒にいて楽しさや利益のない人間を友人と言えるでしょうか。

本講義では、古代ギリシア哲学、すなわちソクラテス以前の哲学者たちからヘレニズム・ローマの哲学について、現代の我々を驚かすようなテキストを読みながら、哲学的な思考を身に着けていきます。古代ギリシアは哲学の源流と言われるとおり、まさに「哲学」という営みが生成した現場です。哲学的な用語や思考の様式がまだ用意されていない中で、ギリシアの人々は日常の平易な言葉を使い、ときには必要に迫られて専門的な用語を作りながら、哲学的議論を重ねていきました。受講生には古代ギリシアの哲学者たちの活き活きとした知的な活動を追体験しながら、自らも問いを重ね、考え抜く力を身につけてもらいたいと思います。

みなさんには私が選んだ短いテキストを事前に読んでもらい、テキスト理解についての小テストを受験してもらうので、予習は必須です。授業ではテキストの解釈を通じて積極的にディスカッションを行います。

【到達目標】

・古典に親しみながら読むことができる
・哲学の課題について、対立論者の議論を考慮しながら自らの論を立てることができる
・古典を自分の議論のために引用することができる

授業内容

1. 古代哲学史をなぜ学ぶのか：授業の目的と進め方
2. 正しいこととは、支配者の利益になることである：トラシュマコスからの挑戦(プラトン『国家』第 1 巻 338a-341a)
3. 透明人間になったら、悪事に手を染めるか：ギュゲスの指輪(プラトン『国家』第 2 巻 357a-360d)
4. 卑しい技術は存在するのか：弁論術批判(プラトン『ゴルギアス』462b-466a)
5. どうやって悪を欲求することが可能なのか：アクラシアの否定の問題(プラトン『メノン』77a-78b)
6. 芸術が真理に触れることがあるのか：プラトンの詩人追放論(595a-605c)
7. 我々は責任を取る必要はあるのか：ゴルギアスの全面的免責論(ゴルギアス B11 DK『ヘレネ頌』)
8. 真の友人とはどのような存在か：アリストテレスの友愛論(アリストテレス『ニコマコス倫理学』1156a-1157b)
9. 現代の価値観で過去をフェアに批判する方法：アリストテレスの奴隷論(アリストテレス『政治学』1254a17-1255a3)
10. 死は恐れるに値するのか：エピクロス派の死の思想(ルクレティウス『事物の本性について』830-911)
11. 欲望の衝動に従うのがなぜ悪いのか：ストアの宿命論(SVF974, 1000)
12. 肉を食べてはいけない理由：古代ベジタリアニズム(プルタルコス『肉食について』)
13. レポートの書き方(※要作業用 PC)
14. レポート講評

履修上の注意

・2週目より日本語訳テキストを読む。
・2週目より毎週授業中に oh-meiji 上で、テキストについての確認小テストを実施する。
・ディスカッション、プレゼンテーションなどの形式でアクティブラーニングを実施する。
・レポートを課す。

準備学習(予習・復習等)の内容

・配布テキストを事前に読み込む。

教科書

なし。講読資料・解説資料は oh-meiji 上で共有する。

参考書

『ギリシア哲学史』納富信留(筑摩書房)2021 年
『哲学の歴史 第一巻～第三巻』内山勝利、中川純男(編)(中央公論新社)2007-8 年
『ソフィスト』田中美知太郎(講談社学術文庫)1976 年
『ソクラテス』田中美知太郎(岩波書店)1957 年,
『プラトンの哲学』藤澤令夫(岩波書店)1998 年
『プラトンを学ぶ人のために』内山勝利(編)(世界思想社)2014 年
『はじめてのプラトン』中畑正志(講談社)2021 年
『西洋哲学史[古代中世編]―フィロソフィアの源流と伝統』内山勝利・中川純男(編著)(ミネルヴァ書

課題に対するフィードバックの方法

提出課題について、授業内でフィードバックをする。
レポート講評を行う。

成績評価の方法

小テスト(70%)
期末レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ＩA	**西洋古代史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
篠原 道法	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

■授業の概要

エーゲ文明が栄えた青銅器時代からローマにより支配されたローマ期まで(前 3200 年頃～後 4 世紀末)のギリシア世界の歴史の流れについて、主として政治・統治や戦争に注目しながら、近年の研究動向を踏まえたうえで解説します。

■到達目標

古代ギリシア史の大まかな流れについて説明できるようになる。
政治・統治や戦争の側面から、古代ギリシア世界の特徴について深く考察できるようになる。

授業内容

■毎回の授業の構成

毎回の授業は、(1)講義パートと(2)作業パート(リアクション・ペーパーを使用)の組み合わせで行われます。また(2)との関連で、ペア／グループ・ワークを行う場合もあります。
なお解説に際しては、レジュメだけではなく、図像・映像資料を適時利用します。

■授業スケジュール

各回の講義予定は、おおよそ次の通りです(各回の進み具合により変更になる可能性があります)。

1　イントロダクション：授業内容の説明およびギリシア世界の基礎(地理・気候等)に関する導入講義
2　青銅器時代におけるエーゲ文明の展開：ミュケナイ諸王国と統治
3　初期鉄器時代の地中海世界における人・物の交流
4　前古典期におけるスパルタの台頭：スパルタの神話と実像
5　前古典期アテナイにおける諸改革の展開―ドラコンの立法からクレイステネスの改革まで―：民主政の「誕生」の時期？
6　ペルシア戦争とその評価：ギリシア人と「自由」
7　古典期アテナイにおける民主政の確立(1)：民主政のシステムの特徴
8　古典期アテナイにおける民主政の確立(2)：民主政確立の背景
9　ペロポネソス戦争後のギリシア世界(1)：前5世紀末以降＝ポリスの「衰退」の時期？
10 ペロポネソス戦争後のギリシア世界(2)：前5世紀末以降におけるアテナイ社会の変ぼう
11 アレクサンドロス大王の東方遠征とヘレニズム期の幕開け：大王の虚像と実像
12 ヘレニズム諸王国と統治：プトレマイオス朝エジプトの場合
13 ヘレニズム諸王国とギリシア人
14 ローマ帝国とギリシア人

履修上の注意

履修にあたり、高校の世界史の教科書や一般教養書、WEB 記事等を通じて、古代のギリシア世界の大まかな歴史の流れを把握しておいてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

■予習

上記「授業内容」のスケジュールを踏まえて、当該授業のテーマについて調べておいてください。

■復習

毎回配布するレジュメや自身の講義ノートを読み返し、授業内容の要点のおさらいをしてください。加えて、レジュメに記載されている参考文献リストから興味を持った文献を 1 冊は読むことが望ましいです。

教科書

特にありません。

参考書

各回の授業のテーマに関する参考文献については、毎回配布するレジュメに記載します。
なお、授業全体を通じて、古代ギリシア世界の大まかな歴史を把握するうえで参考になるものは、次のとおりです(出版年順)。

1 服部良久ほか編『大学で学ぶ西洋史[古代・中世]』ミネルヴァ書房、2006 年。
2 長谷川岳男編著『はじめて学ぶ西洋古代史』ミネルヴァ書房、2022 年。
3 桜井万里子『古代ギリシア人の歴史』刀水書房、2025 年。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で記入・提出してもらうリアクション・ペーパーの内容については、次の授業の冒頭にて口頭でコメントします。また、必要に応じて、クラスウェブ上にも項目を立ててコメントします。

成績評価の方法

(1)リアクション・ペーパーの内容(50%)と(2)期末レポートの内容(50%)、二つを総合して最終的な評価を出します。

その他

このシラバスは 2026 年 1 月段階で作成したものであり、2026 年度の授業開始時に、その一部または大部分が変更される場合もあることをご承知ください。変更の詳細は授業開始直前にシラバスの補足で、あるいは授業開始時に口頭で説明します。

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ＩB	**西洋古代史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
篠原 道法	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

■授業内容

ポリス(古代ギリシアの国家・社会形態)のひとつであるアテナイを主な舞台として、古代ギリシアの社会・文化について解説します。
授業の前半(2～6)は、ポリスにおいて「他者」と一般にみなされる女性や外国人の存在に特に焦点を当てて社会の実態に迫り、授業の後半(7～13)は、文化をめぐるいくつかのトピックを取り上げ古代ギリシア社会・文化の特徴について考えます。また最後(14)に、われわれにとって「古代ギリシア」とは何であるのかについても考えます。

■到達目標

1. 古代ギリシアの社会・文化の特徴について説明できるようになる。
2. 社会や文化の側面から、古代ギリシア世界について深く考察できるようになる。
3. 現代社会の「他者」をめぐる問題について深く思考できるようになる。

授業内容

■毎回の授業の構成

毎回の授業は、(1)講義パートと(2)作業パート(リアクション・ペーパーを使用)の組み合わせで行われます。また(2)との関連で、ペア／グループ・ワークを行う場合もあります。
なお解説に際しては、レジュメだけではなく、図像・映像資料を適時利用します。

■授業スケジュール

各回の講義予定は、おおよそ次の通りです(各回の進み具合により変更になる可能性があります)。

1　イントロダクション：授業内容の説明および古代ギリシアの社会・文化に関する導入講義
2　ポリスを支える「他者」(1)：アテナイ社会と女性
3　ポリスを支える「他者」(2)：アテナイ社会と外国人―メトイコイ(居留外国人)・奴隷
4　スパルタと「他者」：ペリオイコイ(周辺民)・ヘイロタイ(農奴)
5　ギリシア人と「異民族」：「異民族」の誕生とその背景
6　アテナイ社会に向き合う外国人：フェニキア人の場合を中心に
7　アテナイ社会と碑文文化：碑に込められた人々の思い
8　ギリシア人の経済活動と社会
9　古代オリンピック(オリュンピアの競技会)とギリシア人
10 ギリシア人と神話：起源神話に注目して
11 ギリシア人と宗教祭祀
12 ギリシア人と演劇：アテナイにおける悲劇の上演とその意義
13 ギリシア人と死：死をめぐる問題が語ること
14 私たちと「古代ギリシア」：近代におけるアクロポリスの景観とその変化に注目して

履修上の注意

履修にあたり、できれば春学期開講の「西洋古代史 A」／「西洋史探究ＩA」を受講して、あるいは、少なくとも高校の世界史の教科書や一般教養書、WEB 記事等を通じて、古代ギリシア史の大まかな流れを把握しておいてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

■予習

上記「授業内容」のスケジュールを踏まえて、当該授業のテーマについて調べておいてください。

■復習

毎回配布するレジュメや自身の講義ノートを読み返し、授業内容の要点のおさらいをしてください。加えて、レジュメに記載されている参考文献リストから興味を持った文献を 1 冊は読むことが望ましいです。

教科書

特にありません。

参考書

各回の授業のテーマに関する参考文献については、毎回配布するレジュメに記載します。
なお、授業全体を通じて参考になるものは、次のとおりです(項目毎に、出版年順)。

■古代ギリシア世界の歴史の大まかな流れの把握のため

桜井万里子『古代ギリシア人の歴史』刀水書房、2025 年。

■古代ギリシアの社会・文化・生活全般の理解のため

1 高畠純夫ほか『図説 古代ギリシアの暮らし』河出書房新社、2018 年。
2 マティザック・フィリップ著、高畠純夫監修、安原和見訳『古代ギリシア人の 24 時間―よみがえる栄光のアテネ』河出書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で記入・提出してもらうリアクション・ペーパーの内容については、次の授業の冒頭にて口頭でコメントします。また、必要に応じて、クラスウェブ上にも項目を立ててコメントします。

成績評価の方法

(1)リアクション・ペーパーの内容(50%)と(2)期末レポートの内容(50%)、二つを総合して最終的な評価を出します。

その他

このシラバスは 2026 年 1 月段階で作成したものであり、2026 年度の授業開始時に、その一部または大部分が変更される場合もあることをご承知ください。変更の詳細は授業開始直前にシラバスの補足で、あるいは授業開始時に口頭で説明します。

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ⅡA	**西洋中世史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 麻美	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は西洋中世における女性の生活と社会的役割を基本テーマとし、キリスト教にもとづく女性観の展開と実社会での女性の活動の両面から論じる。中世では性別役割分担が明確であり、男性が聖俗両界で地位の優越をめぐって争う一方、女性の主要な役割は後継者の確保と死者の追悼による救済の獲得にあった。初期には王家や貴族家門のみが特権的に行っていた宗教実践が時代は時代が下るにつれて拡大し、教会組織が確立するにつれ、より広い階層の女性たちが教会の教えに従って生活することが政治・経済・文化の一部に組み込まれていく。やがて都市の発展により、女性の社会活動が活発になったとされてきたが、近年はこの定説の見直しが進みつつある。これらの新しい研究成果を取り入れつつ、これまで見落とされがちだった幅広い身分の女性の生に聖俗両面から焦点を当て、そこから見える女性観を理解することで西洋中世の社会が持つ独自性を考える。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 古代の女性観とキリスト教
第３回 初期中世社会の法と宗教
第４回 創出される聖性と女性
第５回 修道院改革と女性たち
第６回 結婚をめぐる諸問題
第７回 俗人女性と聖性
第８回 ベギンの生活と経済
第９回 都市における生活
第10回 女性文人たち
第11回 修道院と神秘霊性
第12回 女性と世襲王権
第13回 宗教改革と女性への規範
第14回 まとめと総括

履修上の注意

「西洋史概説」を履修済みであること。あるいはそれに準ずるヨーロッパ中世史に関する知識を有していること。
講義はパワーポイントならびに視聴覚的素材を利用して行う。授業中あるいは授業後にコメントやリアクションペーパーの提出を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱ったテキストや紹介した文献、視聴覚的素材について復習し、授業内容への理解を深めることが望ましい。

教科書

特に指定しない。

参考書

赤坂俊一『ヨーロッパ中世のジェンダー問題ー異性装・セクシュアリティ・男性性ー』(世界人権問題叢書 115)明石書店、2023 年
エーディト・エンネン(阿部謹也・泉眞樹子訳)『西洋中世の女たち』(人文書院)1992 年

課題に対するフィードバックの方法

第２回目以降は、授業冒頭で前週のリアクションペーパーに対する応答を行う時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験(60%)とリアクションペーパーにもとづき、総合的に評価を行う。

その他

講義内容は受講生にあわせて変更する場合がある。

科目ナンバー：(AL)HIS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ⅡB	**西洋中世史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
青谷 秀紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ヨハン・ホイジンガ著『中世の秋』は、古の騎士道精神に囚われたヴァロワ・ブルゴーニュ公の宮廷文化・社会をイメージ豊かに描いた古典的名著である。感情史研究の先駆的著作とされるなど、現在でもしばしば注目を集めている。この史書において重要な一つの舞台をなしたのが、14～15 世紀のネーデルラント(現在のベネルクスとその周辺に相当する地域)である。しかし、この地域が同時代の北中部イタリアと並ぶ都市先進地帯としての顔を持ち合わせていたことは、ホイジンガの叙述からあまり窺えない。この授業では、彼が深く論じることのなかった中世後期のネーデルラント都市に様々な社会史的論点から迫ってみたい。受講生は、最新の研究成果に触れることで、『中世の秋』で示されたものとは異なる、活気に満ちた都市的世界としてのネーデルラントの姿を知ることになるだろう。そして、授業に参加する学生が、まだまだ一般に流布している、停滞した野蛮で陰鬱な時代という「暗黒の中世」像を共有しているならば、本講義はその見直しのきっかけになるはずである。

授業内容

受講生の関心や反応により適宜変更の可能性はあるが、授業では、毎週、以下の諸テーマを取り上げる予定である。
1. イントロダクション：史学史的概観
2. 前史：ネーデルラント都市の成立と発展
3. 空間としての都市①：建造物と景観
4. 空間としての都市②：環境との対峙
5. 都市の社会集団①：階層・組織・家
6. 都市の社会集団②：マイノリティ
7. 社会関係の諸相①：友愛と名誉の絆
8. 社会関係の諸相②：紛争・犯罪・暴力
9. 市民の日常生活①：食をめぐる諸問題
10. 市民の日常生活②：セクシュアリティについて
11. 市民の心的世界①：信仰の実践と救霊
12. 市民の心的世界②：歴史叙述と歴史意識
13. 展望：近世都市への変容
14. まとめ

履修上の注意

講義はパワーポイントを使用し、視聴覚素材を利用しながら行う予定。授業後には、リアクション・ペーパーを提出してもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に紹介する文献を講義の前後に読んで、授業内容の理解を深めてもらいたい。

教科書

とくに使用しない。

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

定期試験もしくはレポートとリアクションペーパーに基づいて、総合的に評価を行う(試験もしくはレポート 70%, リアクションペーパー30%)。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ⅢA	**西洋近代史ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊丹 聡一朗	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、9-17 世紀にかけてのルーシ地域と周辺諸地域との相互関係について概観した上で、そこから現在のロシア国家へと繋がるモスクワ政治権力が分かれ出てきた歴史的経緯について論じる。本講義の到達目標は以下の通りである。
1. 「ルーシ」から「ロシア」へと至る歴史的経緯を包括的に理解できる。
2. 北欧、ビザンツ、モンゴルがルーシの歴史に与えた影響を理解できる。
3. 14 世紀ルーシにおける政治秩序の再編と後世への影響を理解できる。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)～(3)ヴァイキングとルーシ
(4)～(5)ビザンツ・南スラヴとルーシ
(6)～(7)モンゴルとルーシ
(8)～(9)モスクワ大公国の成立と発展
(10)～(11)「ルーシ」から「ロシア」へ
(12)～(13)「ウクライナ」の成立と発展
(14)まとめ

履修上の注意

東欧ロシア史の知識がなくても理解できるように、概説から授業を進める。ただし、授業と並行して関連文献を読み、理解を深めることが望ましい。疑問点があれば、遠慮なくリアクションペーパーなどを通じて質問してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：事前に関連文献を読み、授業内容の背景を理解しておく。
復習：配布資料を用いて授業内容を振り返る。

教科書

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

参考書

田中陽兒・倉持俊一・和田春樹共編『世界歴史体系 ロシア史 1：9～17 世紀』山川出版社、1995 年。
宮野裕『世界史リテラシー 「ロシア」はいかにして生まれたのか：タタールのくびき』NHK 出版、2023 年。
以上の文献は全体に関わるものである。これら以外は授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業冒頭にて、復習を兼ねてリアクションペーパーに対するフィードバックを実施する。

成績評価の方法

平常点 20%、期末試験 80%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ⅢB	**西洋近代史ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊丹 聡一朗	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、9-17 世紀にかけてのルーシ地域と周辺諸地域との相互関係について概観した上で、そこから現在のロシア国家へと繋がるモスクワ政治権力が分かれ出てきた歴史的経緯について論じる。本講義の到達目標は以下の通りである。
1. 「ルーシ」から「ロシア」へと至る歴史的経緯を包括的に理解できる。
2. 北欧、ビザンツ、モンゴルがルーシの歴史に与えた影響を理解できる。
3. 14 世紀ルーシにおける政治秩序の再編と後世への影響を理解できる。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)～(3)宗教と文化からみるルーシ
(4)～(5)河川と城塞からみるルーシ
(6)～(7)貨幣と毛皮からみるルーシ
(8)～(9)ペルミの宣教師ステファンとモスクワ政治権力
(10)～(11)ヴォルガの河川賊「ウシクイニク」とノヴゴロド政治権力
(12)～(13)14 世紀ルーシにおける政治秩序の再編と辺境
(14)まとめ

履修上の注意

東欧ロシア史の知識がなくても理解できるように、概説から授業を進める。ただし、授業と並行して関連文献を読み、理解を深めることが望ましい。疑問点があれば、遠慮なくリアクションペーパーなどを通じて質問してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：事前に関連文献を読み、授業内容の背景を理解しておく。
復習：配布資料を用いて授業内容を振り返る。

教科書

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

参考書

田中陽兒・倉持俊一・和田春樹共編『世界歴史体系 ロシア史 1：9～17 世紀』山川出版社、1995 年。
宮野裕『世界史リテラシー 「ロシア」はいかにして生まれたのか：タタールのくびき』NHK 出版、2023 年。
以上の文献は全体に関わるものである。これら以外は授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業冒頭にて、復習を兼ねてリアクションペーパーに対するフィードバックを実施する。

成績評価の方法

平常点 20%、期末試験 80%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ⅣA	**西洋近代史ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

(授業の概要) 帝政ロシア、ソ連、現代ロシアの近現代史、国際関係の通史を講義する。各時代について、まずヨーロッパ方面での事情について扱ったうえで、同時期にロシアがアジア方面でどのような動きをしていたのか講義する。また、ロシアをめぐる歴史認識や相互イメージ等を通じて、国際関係を多角的な側面から分析する手法を紹介する。 (到達目標)ロシアにとって、ヨーロッパとアジア双方の状況がいかに連動しているのかを理解することを目標とする。また、複雑な国際関係を歴史の流れに沿って巨視的に理解することも重要だが、例えば大国間の外交における周辺国や、外交官、戦争捕虜・難民、抑留者、亡命者など、国家や地域の間で媒介の役割を果たしていた存在にも着目することで、歴史の具体像に迫るための微視的な視点を養う。適宜、映画やドキュメンタリーを鑑賞し、理解や関心を深める。また、講義内容の中から関心を持ったテーマを選び、それについて掘り下げる各自のまとめを執筆する。

授業内容

1. 導入 ロシアとヨーロッパ、アジア 2. 帝政ロシアの国際関係(1)対ヨーロッパ 3. 帝政ロシアの国際関係(2)クリミア戦争とその影響 4. 帝政ロシアの国際関係(3)対アジア 5. 帝政ロシアの国際関係と日露戦争 6. 第一次世界大戦とロシア革命 7. 両大戦間期におけるソ連の国際関係(1)ヨーロッパ方面 8. 両大戦間期におけるソ連の国際関係(2)アジア方面 9. ソ連と冷戦(1)ヨーロッパ方面 10. ソ連と冷戦(2)アジア方面 11. 冷戦の展開と中ソ関係 12. 現代ロシアの対外政策(1) 対米、対欧州関係 13. 現代ロシアの対外政策(2) アジア諸国との関係 14 講義のまとめと最終課題(まとめレポート)について

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

ロシアとその近隣地域についての新聞記事・ニュースをチェックしてください。また、テーマごとに参考文献を紹介するので、各自が関心を持つ事柄について調べ、まとめレポートの作成に備えてください。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書

参考文献については予め指定しないが、各回の授業で示す。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業でリアクションペーパーに対する講評や質問への回答を行う。

成績評価の方法

手書きによる各回のリアクションペーパー(最終回のまとめを含む)の執筆内容で評価する(100%)。詳しくは初回の授業で説明します。教員からの連絡等を確認し、初回の授業に必ず出席するようにしてください。

その他

履修者の人数やの学びの状況に応じ、各回の計画は変更もありうる。

科目ナンバー：(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究ⅣB	**西洋近代史ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

(授業の概要)帝政ロシア、ソ連、現代ロシアの歴史と社会をテーマ別に学ぶ。特に、多民族性という問題は現代ロシアにとっても課題であり続けている。多種多様な民族を内包しながら、東と西双方の諸国家と関係を持ってきたとロシアの民族政策とそれに関連する諸問題について講義する。(到達目標) A は外政を主に扱うのに対し、B は民族政策などの内政に焦点を当てる。内政がどのように外政と関係し、民族という要素はどのような役割を果たしているのかを理解することを目標とする。最終回のまとめでは、こうした問題群が現代ロシアにおいてどのように反映されているのか、日本にとってどのような意味を持つのか、あるいは他の国・地域とどのように違うのか等について、受講者それぞれの問題関心から論じてもらう。

授業内容

歴史 1.導入(ロシアの諸問題についての概要) 2.ロシア帝国の民族政策(1) 3.ロシア帝国の民族政策(2) 4.ソ連の民族政策(1) 5.ソ連の民族政策(2) 6.1930 年代、1940 年代ソ連の諸問題 7.冷戦の始まりと人の移動 現代 8.ソ連崩壊と民族問題(1) 9.ソ連崩壊と民族問題(2) 10.ロシアと近隣諸国(1) 11.ロシアと近隣諸国(2) 12.現代ロシア・ナショナリズム 13.現代ロシアの国際関係と民族問題 14. 講義のまとめと最終課題(まとめレポート)について

履修上の注意

西洋史探究 IVA の知識が前提となるので、前期になど予め履修していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

ロシアとその近隣地域についての新聞記事・ニュースをチェックしてください。また、テーマごとに参考文献を紹介するので、各自が関心を持つ事柄について調べ、まとめレポートの作成に備えてください。

教科書

教科書は特に指定しない。

参考書

参考文献については予め指定しないが、各回の授業で示す。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業でリアクションペーパーに対する講評や質問への回答を行う。

成績評価の方法

手書きによる各回のリアクションペーパー(最終回のまとめを含む)の執筆内容で評価する(100%)。詳しくは初回の授業で説明します。教員からの連絡等を確認し、初回の授業に必ず出席するようにしてください。

その他

履修者の人数や学びの状況に応じ、各回の計画は変更もありうる。

科目ナンバー：(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究VIA	**西洋現代史ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 耕	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

西洋史探究VIAは、20 世紀前半におけるフランスの歴史を中心に講義を行う。フランス革命以降の度重なる体制変更を経て、19 世紀後半には第三共和政が成立した。これはそれまでの諸体制に比べて長く命脈を保ち、第二次世界大戦まで存続した。しかし 1940 年の対独敗北を契機として共和政は崩壊し、以後四年間にわたるドイツの占領とヴィシー政権による統治の時代を迎えることになる。国民国家が一応の完成を見たこの時代において、国民の境界をめぐる軋轢はむしろ激化し、外国人問題は国家的課題となっていた。本講義の目的は、反ユダヤ主義、移民政策や植民地拡張といったいくつかのテーマに焦点をあてながら、20 世紀前半におけるフランスの歴史的過程をたどることで、現代フランスが抱える諸問題への理解を深めることにある。

授業内容

第一回 イントロダクション
第二回 20 世紀という時代
第三～四回 世紀転換期のフランス
第五回 第一次世界大戦前夜
第六～七回 第一次世界大戦がもたらしたもの
第八～九回 戦間期フランスの動揺
第十回 第二次世界大戦の勃発と対独敗北
第十一～十二回 ヴィシー政権とホロコースト
第十三回 大戦の終結と新体制の模索
第十四回 試験

履修上の注意

受講者にはコメントペーパーを通じて何回か意見を求める。講義内容の理解のみならず、自身の意見を表明してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義の復習のみならず、授業中に紹介する史資料や文献を参照して理解を深めること。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で行う。

成績評価の方法

コメントペーパー30%、テスト 70%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋史探究VIB	**西洋現代史ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 耕	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

西洋史探究VIB は、20 世紀後半におけるフランスの歴史を中心に講義を行う。第二次世界大戦の終結後、フランスが戦前の体制に回帰することはなかった。戦間期の混乱から、政治的・経済的・社会的な刷新を求める声は強まっていたのである。しかしそれは容易に達成できる課題ではなく、次なる体制の模索は続いていくことになる。また、激変する国際情勢の中で、フランスはヨーロッパ統合への道や帝国の解体という大きな転換を迫られた。本講義の目的は、高度経済成長、脱植民地化や外国人問題といったいくつかのテーマに焦点をあてながら、20 世紀後半におけるフランスの歴史的過程をたどることで、現代フランスが抱える諸問題への理解を深めることにある。

授業内容

第一回 イントロダクション
第二回 第二次世界大戦後の世界
第三回 第四共和政の成立
第四～五回 戦後復興と植民地問題
第六～七回 アルジェリア戦争とフランス社会
第八～九回 第五共和政とド・ゴール
第十回 高度経済成長の終焉
第十一回 移民問題の変容
第十二～十三回 グローバリゼーションとフランス
第十四回 試験

履修上の注意

受講者にはコメントペーパーを通じて何回か意見を求める。講義内容の理解のみならず、自身の意見を表明してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義の復習のみならず、授業中に紹介する史資料や文献を参照して理解を深めること。

教科書

特になし。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で行う。

成績評価の方法

コメントペーパー30%、テスト 70%

その他

科目ナンバー：(AL)ART121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋美術史A	**西洋美術史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
宮澤 政男	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

常に西洋美術の大きな流れを考えながら、時代を追って作品を見ていくことで、西洋美術に対する理解と造詣を深める。ここで扱う古代から近代以前の美術は、それ自体の豊かさに加え、以降の展開を理解するうえで不可欠となる。
ヨーロッパ文明の起源である古代ギリシアの美術を皮切りに、キリスト教の絶大な影響を経た中世美術を経て、ルネサンスへと至るヨーロッパの美術の「主流」とはいったいどんなものであったか、そしてそれは更にどのように発展していったかを見ていく。具体的には 18 世紀までの美術をとりあげ、近代以前のヨーロッパ美術の全体像を把握する。

授業内容

(1) 美術史とは一講義の概要と計画 、古代ギリシア(イントロダクション))
(2) 古代ギリシア美術 — 美しき神々とアスリートたち
(3) 古代ローマ美術 — 文明の偉大なる継承者
(4) ビザンチン美術 — 世界の十字路(東ローマ帝国)
(5) ロマネスク美術 — 純朴な信仰の形
(6) ゴシック美術 — 神の高みと天使の微笑み
(7) 北方ルネサンス美術 — 無邪気な写実主義の世界(初期フランドル)
(8) イタリア・ルネサンス美術1 — 人間主義の始まり
(9) イタリア・ルネサンス美術2 — 巨匠たちの饗宴
(10) イタリア・ルネサンス美術3 — ヴェネチア派とマニエリスム
(11) バロック美術1 — 勢いづく対抗宗教改革(フランドル、スペイン)
(12) バロック美術2 — 新興国の躍進(オランダ、ドイツ)
(13) ロココ美術 — 太陽王と宮廷絵画
(14) 試験

履修上の注意

秋学期の西洋美術史 B をあわせて受講することが望ましい。
数は多くないが、重要な作品は、作者と題名を、画像も含めて暗記するようにすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り上げた作品をウェブなどで見直すことが望ましい。
また、履修中はできるだけ美術館に行き、実際の作品を見るようにすること(必ずしも取り上げた作品でなくてもいい)。

教科書

特になし。

参考書

E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』(新訳 2007 年)=『美術の歩み』(旧訳 1972 年)、(原著 The Story of Art. London: Phaidon 1950)など

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

評価は主に期末の試験によって行う予定。

その他

科目ナンバー：(AL)ART121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋美術史B	**西洋美術史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
宮澤 政男	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

西洋美術の頂点のひとつであったルネサンスから発展した美術の「主流」は、ナポレオン時代の混乱を経て、19 世紀には産業革命を背景とする近代化の中で大きな変貌を遂げていく。それは印象主義へと昇華していくものの、20 世紀初頭にはこの「主流」を否定する動きが現われ、現代の美術の基礎を創っていく。このようなダイナミックな近代美術史の流れを、図像を見ながら詳細に追っていく。

授業内容

(1) 新古典派とロマン派(1) — ナポレオンの栄光
(2) 新古典派とロマン派(2) — 異国への思い、過去への憧れ
(3) ベルギーの象徴主義美術とドイツ・ロマン派 — 19 世紀美術のもうひとつの流れ
(4) ラファエル前派(イギリスの 19 世紀美術)とウィーン分離派
(5) アール・ヌーヴォー — 建築と応用芸術における変革
(6) 写実主義とバルビゾン派— 産業革命と人間疎外
(7) マネと近代 — 現代(モデルニテ)の画家
(8) 印象派 — ルネサンス以来の西洋美術の集大成
(9) ポスト印象主義、フォーヴィスム、 — 自由さを増す美術、革命の予兆
(10) キュビスム — 20 世紀における最大の視覚革命
(11) シュルレアリスム、未来派、抽象絵画 — 発展する美術
(12) ナビ派、ロートレック、エコール・ド・パリ — 芸術の都パリ
(13) 20 世紀美術の異端児
(14) 試験
＊内容は入れ替わることがある

履修上の注意

ギリシア美術から 18 世紀の西洋美術(西洋美術史 A)の知識があることが望ましい。
数は多くないが、重要な作品は、作者と題名を、画像も含めて暗記するようにすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り上げた作品をウェブなどで見直すことが望ましい。
また、履修中はできるだけ美術館に行き、実際の作品を見るようにすること(必ずしも取り上げた作品でなくてもいい)。

教科書

特になし。

参考書

E.H.ゴンブリッチ『美術の物語』(新訳 2007 年)=『美術の歩み』(旧訳 1972 年)、(原著 The Story of Art. London: Phaidon 1950)など

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

評価は主に期末の試験によって行う予定。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋歴史社会論A	**西洋史特説ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
山根 徹也	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈概要〉

ドイツ近代史を考える(1)～1848年革命～

ドイツの 19 世紀の歴史を検討するために、一つのテーマに集中して検討する。今学期は、19 世紀前半のできごとの中から1848年革命をとりあげ、この革命をどのようにとらえるべきかをいくつかの角度から検討する。

その際、個別テーマについての研究史から理論的問題を把握することと、史料に取り組むグループワークも行う(史料としては史料の抜粋の日本語を用いる)。

〈到達目標〉

1848年革命の諸問題という切り口から、ドイツ近代史についての歴史学研究の成果を理解し、そのかぎりで歴史学研究の方法を身につけている。

授業内容

(以下の予定には途中での変更がありうる。)

1. ガイダンス
2. (レクチャー)序論～ドイツ1848年革命について～
3. (レクチャー)19 世紀前半のドイツ社会と社会運動
4. (レクチャー)19 世紀前半のドイツ諸国家と政治改革運動
5. (レクチャー)1848年革命(1) 革命の勃発
6. (レクチャー)1848年革命(2) 革命の経過
7. (レクチャー)1848年革命(3) 革命の終焉とその後のドイツ
8. (グループワーク)テーマ1 憲法と民主主義 (グループワーク)
9. (グループワーク)テーマ1 憲法と民主主義 (グループワーク成果発表と教員の解説)
10. (グループワーク)テーマ2 民衆運動(グループワーク)
11. (グループワーク)テーマ2 民衆運動 (グループワーク成果発表と教員の解説)
12. (グループワーク)テーマ3 初期社会主義運動(グループワーク)
13. (グループワーク)テーマ3 初期社会主義運動(グループワーク成果発表と教員の解説)
14. a:期末テスト
    b:まとめ

履修上の注意

・毎回課題(ミニレポートまたは感想提出)を課します。
・グループワークの中での貢献も課題として各自が提出します。
・毎回の出席、受講と活動参加および課題提出が義務です。欠席が複数回になると単位を取得できなくなることがあります。(ガイダンスの回の欠席は、他の科目の授業に出席した場合にのみ認めます。)

準備学習(予習・復習等)の内容

・課題への取り組みを通じて復習と予習を行います。
・初回授業のための予習は必要ありません。

教科書

特になし。

参考書

授業のなかで順次示します。

課題に対するフィードバックの方法

・oh-o.meiji で合否判定結果をお伝えします。
・oh-o.meiji で全履修者に対して総合的に注意点を公表ます。

成績評価の方法

・平常点 50%(グループワーク成果も評価対象に含まれます。)
・期末テスト 50%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
西洋歴史社会論B	**西洋史特説ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
山根 徹也	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈概要〉

ドイツ近代史を考える(2)～19 世紀後半の民衆運動～

ドイツの 19 世紀の歴史を検討するために、一つのテーマに集中して検討する。今学期は、ドイツ 19 世紀後半(20 世紀初頭も含め)の歴史の中でこの時期の民衆運動の重要な諸問題を検討する。特にその中で、労働運動と社会主義運動およびそれらと国家の関係に焦点を当てる。労働運動は政治権力から排除されてはいたものの、国家と社会体制をゆるがすもの、あるいは権力にとってその統合が必要なものとして重要である。社会主義運動は、その労働運動の一環として労働運動に大きな影響を与えたものとして、これまた重要である。

授業では、レクチャーとならんで個別テーマについての研究史から理論的問題を把握することと、史料に取り組むグループワークも行う(史料としては史料の抜粋の日本語を用いる)。

〈到達目標〉

19 世紀後半の民衆運動の歴史、特に労働運動と社会主義運動の歴史の諸問題という切り口から、ドイツ近代史についての歴史学研究の成果を理解し、そのかぎりで歴史学研究の方法を身につけている。

授業内容

(以下の予定には途中での変更がありうる。)

1. ガイダンス
2. (レクチャー)序論～19 世紀後半のドイツの社会と民衆運動について～
3. (レクチャー)19 世紀後半・20 世紀初頭ドイツの社会と政治
4. (レクチャー)歴史的前提～19 世紀初頭以降のドイツにおける民衆運動・労働運動
5. (レクチャー)19 世紀後半・20 世紀初頭の労働運動の展開
6. (レクチャー)社会主義思想、特にマルクス主義について
7. (レクチャー)19 世紀後半・・20 世紀初頭のドイツにおける社会主義運動
8. (グループワーク)テーマ1 カール・マルクスの社会変革論 (グループワーク)
9. (グループワーク)テーマ1 カール・マルクスの社会変革論 (グループワーク成果発表と教員の解説)
10. (グループワーク)テーマ2 19 世紀ドイツの社会主義政党の方針～綱領の検討～(グループワーク)
11. (グループワーク)テーマ2 19 世紀ドイツの社会主義政党の方針～綱領の検討～ (グループワーク成果発表と教員の解説)
12. (グループワーク)テーマ3 ドイツ社会民主党の内部での論争(グループワーク)
13. (グループワーク)テーマ3 ドイツ社会民主党の内部での論争(グループワーク成果発表と教員の解説)
14. a:期末テスト
b:まとめ

履修上の注意

・毎回課題(ミニレポートまたは感想提出)を課します。
・グループワークの中での貢献も課題として各自が提出します。
・毎回の出席、受講と活動参加および課題提出が義務です。欠席が複数回になると単位を取得できなくなることがあります。(ガイダンスの回の欠席は、他の科目の授業に出席した場合にのみ認めます。)

準備学習(予習・復習等)の内容

・課題への取り組みを通じて復習と予習を行います。
・初回授業のための予習は必要ありません。

教科書

特になし。

参考書

授業のなかで順次示します。

課題に対するフィードバックの方法

・oh-o.meiji で合否判定結果をお伝えします。
・oh-o.meiji で全履修者に対して総合的にまとめて注意点を公表ます。

成績評価の方法

・平常点 50%(グループワーク成果も評価対象に含まれます。)
・期末テスト 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
世界の言語	**世界の言語**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

世界の諸言語について、音声体系、文法体系、語彙、歴史的変遷など多様な観点から概要を学ぶとともに、その言語を習得することでどのような知が可能になるかを示し、言語と歴史、言語と社会の関係などについても学ぶ。授業はオムニバス形式で行い、各言語を専門的に扱っている教員がそれぞれの授業を担当する。

言語の多様性の具体的様相と、言語の多様性によってもたらされる世界の多様性について一定の知識を得るのが目標。

授業内容

第1回　総論・中国語(担当:志野好伸)
第2回　モンゴル語(担当:櫻井智美)
第3回※ 韓国・朝鮮語(担当:山下達也)
第4回　ベトナム語(担当:岩月純一)
第5回　広東語(担当:胡穎芝)
第6回　サンスクリット語, パーリ語(担当:馬場紀寿)
第7回　ペルシア語, アラビア語(担当:バフマン・ザキプール)
第8回　ラテン語(担当:小島久和)
第9回※ ロシア語(担当:伊藤愉)
第10回　フランス語(担当:根本美作子)
第11回　ドイツ語(担当:岡本和子)
第12回　オランダ語(担当:青谷秀紀)
第13回　英語、ピジン語(担当:山田亨)
第14回　まとめ・世界の中の日本語(担当:根本美作子・志野好伸)
※のついている回はオンデマンドで行い、その他は対面で行う。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

ある言語の特徴を理解するのに、別の言語と対比することは非常に重要なので、前回までの内容をよく復習して授業に臨むこと。

教科書

使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜、Oh-o! Meiji を通じて課題の講評を行う。

成績評価の方法

毎授業ごとに設定する課題による評価 100%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL141M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
世界の宗教	**世界の宗教**	
担 当 者	開講期	開講地区
ザキプール, バフマン	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

明治時代まで、「宗教」という言葉は日本語において存在しなかった。日本人は「宗教」の代わりに「道」という言葉を使っていた。「神道」や「仏道」のような言葉は「道」の概念を提示する。しかし明治時代、日本の文化は西洋の文化に直面して影響を受け、様々な言葉が英語・フランス語・ドイツ語などから日本語へ翻訳された。その際、日本人は「religion」という言葉を「宗教」に対応させた。

明治時代以降、日本人は世界の宗教を名付ける際に、「道」の代わりに「教」を使うようになった。「仏教」「キリスト教」「ユダヤ教」などの呼び方は、明治時代から普及しされた。

この時代から、「仏教」「道教」「儒教」「ヒンドゥー教」「キリスト教」「ユダヤ教」「イスラーム教」のような宗教が日本で知られるようになり、それらについて様々な研究が行われてきた。

20 世紀から、日本の文化はある種の「共通の宗教」を作り出す方向へと向かった。折口信夫、井筒俊彦などの研究者は、その「共通の宗教」を作る試みを行った。

しかしそれにもかかわらず、世界には「マンダー教」「バハイ教」のような、日本人研究者たちがあまり研究して来なかった様々な宗教が存在する。

本授業では、比較の方法によって「宗教の概念」を理解し、これまで知られてこなかった宗教について学ぶことを通じて、「世界の宗教」という枠組みそのものを再考する。あわせて、宗教と政治・ビジネス・社会との関係を批判的に理解する視点を身につけることを到達目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクションと授業のやり方
第2回:日本語における宗教の意義と定義
第3回:インドにおける宗教(1)
第4回:インドにおける宗教(2)
第5回:ペルシアにおける宗教【マンダー教(ドキュメンタリー映画の映像による)】
第6回:ペルシアにおける宗教【ゾロアスター教、マニー教、マズダク教】
第7回:ユダヤ教
第8回:キリスト教(映画の映像による)
第9回:イスラーム教と日本史
第 10 回:イスラームとバーハーイー教
第 11 回:新宗教
第 12 回:宗教とビジネス
第 13 回:宗教と現代社会
第 14 回:試験

履修上の注意

不明な部分があれば授業で積極的に質問すること。授業でのディスカッションも含めて成績評価の対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は必要としない。授業で紹介した内容について、自分なりに調べるなど、復習を欠かさないこと。

教科書

特に定めない。

参考書

『宗教の壁を乗り越える一多文化共生社会への思想的基盤』宮本久代+堀内俊郎編（ノンブル社）
『意識と本質――精神的東洋を索めて』井筒俊彦(岩波書店)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

授業の一つのテーマを選び、そのテーマに関するレポートは 40%、授業への参加度 40%、期末試験を 20%で評価する。

その他

科目ナンバー：		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
前近代研究方法論	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業は、前近代(古代・中世・近世)で卒業論文を執筆する学生を対象に、研究の方法を提示するものである。講義は、古代、中世、近世の各時代を 3 名の担当者で分担して行う。具体的には、研究をするためのテーマ設定の方法、史料の探し方、先行研究の探し方、調査の方法、論文の構成など、実践的な研究の方法を事例を基に解説する。

主として 3 年生を対象としているが、4 年生も含め、実際に研究を開始できる実践的な力を養うことが目標である。

授業内容

第 1 回:授業の概要と進め方
第 2 回:近世史研究／例とする論文の解説
第 3 回:テーマ設定の方法、史料の探し方・読み方・調べ方
第 4 回:史料保存機関の使い方とフィールドワーク
第 5 回:分析方法と叙述
第 6 回:古代史研究／一次史料(正倉院文書)と影写本・複製研究
第 7 回:先行研究の批評と時代背景、一次史料の故地調査
第 8 回:編纂史料(六国史)の内容と諸写本の検討
第 9 回:編纂史料と同時代史料の比較検討、論文の構成方法
第 10 回:中世史研究／史料の探索と分析の方法
第 11 回:史料の諸形態(原本・画像・影写本・刊本)とアクセス方法
第 12 回:古文書の読み方・調べ方
第 13 回:古記録の読み方・調べ方
第 14 回:まとめと振り返り

履修上の注意

前近代で卒業論文を執筆する学生を主たる対象とするが、近代以降で研究をしようとする学生の受講も歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定された論文等は事前に必ず読んでおくこと。また何度も読み返すこと。
授業で得られた知見(調べ方など)は、復習として実際に実践すること。

教科書

参考書

杉森哲也編『大学の日本史』3近世(山川出版社、2016 年)
「特集／はじめて学ぶ日本近世史」(『歴史評論』813、2018 年)
上野大輔ほか編『日本近世史入門』(勉誠社、2024 年)
吉村武彦編『古代史の基礎知識』(角川書店、2005 年)
秋山哲雄他編『増補改訂新版 日本中世史入門 論文を書こう』(勉誠出版、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配 信する。

成績評価の方法

期末にレポートを課し、これによって評価する。

その他

受講生の人数などにより、内容を一部変更する可能性もある。

科目ナンバー：(AL)PHL151J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
前近代の東洋思想史	**東洋思想史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 せい	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

東洋思想史において、倫理思想は常に重要な地位を占めてきました。とりわけ、諸学問の分立がさほど明確ではなく、学問の境界も定まっていなかった古代から前近代にかけては、倫理思想と哲学、政治学説がしばしば混同されていました。そのため、倫理思想は伝統的な東アジア思想を読み解く一つのアプローチでもあります。

本講義では、昨年度の内容を踏まえつつ、中国古代から中世にかけての倫理思想を主軸として、倫理思想史を概観するとともに、以下の五つの側面に焦点を当てます。すなわち、(1)人間論、(2)道徳の起源と本質、(3)道徳基準あるいは行為規範、(4)道徳修養、そして(5)道徳の理想です。

【到達目標】
(1)古代中国の倫理思想史の概観を把握する。
(2)倫理思想の役割および社会・政治との関わりについて理解する。

授業内容

第1回:オリエンテーション
　授業の進め方、成績評価の基準などの説明
第2回:秦-漢時期の倫理思想④
　『白虎通』について
第3回:魏晋南北朝の倫理思想①
　概説
第4回:魏晋南北朝の倫理思想②
　「名教」の自然論
第5回:魏晋南北朝の倫理思想③
　反「名教」思想
第6回:魏晋南北朝の倫理思想④
　「名教」すなわち「自然」
第7回:魏晋南北朝の倫理思想⑤
　『列子』について
第8回:隋唐時代の倫理思想①
　仏教思想の受容
第9回:隋唐時代の倫理思想②
　「道統」と「性情」
第 10 回:宋代の倫理思想①
　概説
第 11 回:宋代の倫理思想②
　周敦頤の道徳哲学
第 12 回:総括的学習①
第 13 回:総括的学習②
第 14 回:期末試験

履修上の注意

・授業の進行状況に応じて、内容が前後したり変更されたりする場合があります。
・中国史の大まかな流れについて、高校世界史程度の基礎知識があると望ましいです。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介された内容のほか、関連の文献資料を自分自身で調べて学習すること。
授業時間外の質問は歓迎する。
各授業の予復習は、時間的には 90 分が目安。

教科書

紙の資料は配布しません。初回授業を含めて、Oh-o! Meiji を通じて毎回事前に pdf 資料を配布します。それを PC やタブレット端末にダウンロードしたり、印刷したりして、各自のスタイルに合った形で学習に役立ててください。授業に PC やタブレット端末を持ち込んで、それでノートを取ったりしても構いません。

参考書

一般的な概説書や事典としては、以下のようなものがあります。
『中国思想文化事典』(東京大学出版会, 2001)
『中国文化史大事典』(大修館書店, 2013)
『中国思想基本用語集』(ミネルヴァ書房, 2020)
その他の文献は、授業資料の中で示されます。

課題に対するフィードバックの方法

授業のなかで口頭で返答します。

成績評価の方法

期末試験:100%
ただし、出席率が 60%以下の場合は、試験の結果にかかわらず、単位を取得することはできません。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
全体主義の超域的人間学	**社会的逸脱論**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

いじめをモデル現象として構築されてきたこれまでの理論をさらに発展させ、他の学問諸領域と社会学を結合しつつ、さまざまな事例をもとに、いわば人間が人間にとって怪物となるとでもいうべき諸現象を検討する。
このことによって、各自が理論の深化と事例を深く扱うことが一体となる受講体験により、本テーマに関して見識を深め、各自が各自の考えを生み出すことに寄与するのが授業の到達目標である。

授業内容

前期の理論をさらに発展させ、進化理論と社会学・心理学を結合しつつ、さまざまな事例をもとに、いわば人間が人間にとって怪物となるとでもいうべき諸現象を検討する。
第1回 導入・視点と現象の循環、人間が怪物になる現象。
第2回 心理実験等による人間の変化
第3回 進化理論と心理-社会学。
第4回 モデル現象としての学校の集団生活(その 1)
第5回 モデル現象としての学校の集団生活(その 2)
第6回 モデル現象としての学校の集団生活(その 3)
第7回 モデル現象としての学校の集団生活(その 4)
第8回 モデル現象としての学校の集団生活(その 5)
第9回 モデル現象としての学校の集団生活(その 6)
第 10 回 モデル現象としての連合赤軍の集団生活(その 1)
第 11 回 モデル現象としての連合赤軍の集団生活(その 2)
第 12 回 モデル現象としての連合赤軍の集団生活(その 3)
第 13 回 全体主義の理論
第 14 回 暴力に焦点をあてて人類が向かう先を考える

履修上の注意

レポートは感想文ではなく，論文であること。教科書の内容を前提に論理を発展させるので、教科書を読んでくること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に出る前に毎回必ず教科書や配付資料を読んでくる必要がある。また、復讐として授業の内容についてわからないところや、各自の問題関心から質問したり、発言したりする内容をまとめてノートに書いてくる必要がある。

教科書

『いじめの社会理論』内藤朝雄(柏書房)
『いじめの構造』内藤朝雄(講談社現代新書)
『改訂増補版 兵士たちの連合赤軍』植垣康博(彩流社)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックに関しては、Oh-o!Meiji その他を通じて通知、配信等を行うので、確認すること。さまざまな手段を用いて質問があればそれに答える。

成績評価の方法

レポート 100 パーセント

その他

科目ナンバー：(AL)SOC341J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ソーシャルワーク論	**ソーシャルワーク論**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒井 浩道	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では，ソーシャルワーク(社会福祉)の基礎的内容を扱う．aモジュールでは，現代社会で注目されるソーシャルワークに関するテーマ(いじめ，不登校，発達障害，虐待，孤立，LGBTQ+，ヤングケアラー，きょうだい児，貧困，認知症，看取り，コミュニティ，ボランティアなど)を扱った映像教材を視聴し，グループ・ディスカッションを行う．bモジュールでは，教科書にもとづきナラティヴ・アプローチを中心としたソーシャルワークの理論と方法について解説する．ただし，第14回(最終回)については，aモジュールで教場レポート，bモジュールで振り返りとまとめを行う．
授業全体をとおしてソーシャルワークに関する多様なテーマについて理解を深め，ソーシャルワーク的なパースペクティブ(ものの見方)を身につけることを到達目標とする．
なお，この授業は実務経験(地域包括支援センター社会福祉士，スクールソーシャルワーカー，スクールカウンセラー，いじめ重大事態調査委員等)を有する教員が担当し，それらの経験にもとづいて授業を展開する．

授業内容

第1回 a:多様なソーシャルワーク的課題
b:ナラティヴ・アプローチ序論
第2回 a:いじめ
b:社会構成主義①
第3回 a:不登校
b:社会構成主義②
第4回 a:発達障害
b:ナラティヴ・アプローチの種類①
第5回 a:虐待
b:ナラティヴ・アプローチの種類②
第6回 a:孤立
b:困難事例への支援
第7回 a:障害
b:認知症患者への支援
第8回 a:依存症
b:不登校児への支援
第9回 a:LGBTQ
b:ピアサポート①
第10回 a:認知症
b:ピアサポート②
第11回 a:看取り
b:物語としての地域支援①
第12回 a:コミュニティ
b:物語としての地域支援②
第13回 a:ヤングケアラー
b:計量テキスト分析(テキストマイニング)
第14回 a: 教場レポート
b: 振り返りとまとめ

履修上の注意

授業への主体的参加を期待する．

準備学習(予習・復習等)の内容

予習: 文献等を活用して各回の授業で扱うソーシャルワークに関するテーマについて予め調べる．
復習; 文献等を活用して各回の授業で扱ったソーシャルワークに関するテーマについて振り返る．

教科書

『ナラティヴ・ソーシャルワーク―"〈支援〉しない支援"の方法』荒井浩道著(新泉社)2014 年

参考書

『ソーシャルワーク論Ⅰ―基盤と専門職』木村容子・小原眞知子編著(法律文化社)2023 年
『ソーシャルワーク論Ⅱ―理論と方法』小原眞知子・木村容子編著(法律文化社)2023 年

課題に対するフィードバックの方法

各回の冒頭で，リアクションペーパーのフィードバックを行う．

成績評価の方法

教場レポート(90%)，平常点(10%)

その他

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
測量学Ⅰ	**測量学Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
今給黎 哲郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「測量」とは、位置の基準に基づいて地点間の相互位置・距離などを求めて記録し、地図などに表現する行為である。地図が作成されるまでには、例えば、地球の表面で正確な測量を行うための技術、測定結果から位置関係を体系的に記述するための座標系の定義、アーカイブされた位置情報・地理空間情報の管理と利活用するための適切なシステムなど、様々な科学的・技術的な知識の蓄積がある。一般に「地図」はアプリオリに存在する「道具」と思われがちであるが、それが作成されるまでには「測量」という行為が不可欠なのである。測量を行い、その結果から地図をまとめ、それが社会で利用されていくまでの過程全体が、「測量学」という学問分野に含まれている。地理学専攻の皆さんが、どのような技術を用いて地球の表面が計測され、それがどのような過程を経て地図にまとめられているかを理解することは、地図の性質を理解して自らの調査・研究に正しく用いる上で非常に有効であろう。
本授業では、測量の基礎的な理論、測量に用いられる技術、測量方法、測定結果の処理、測量結果の利活用、測量に関する法制度などについて講義を行うとともに、測量機材を用いた実習も行う。測量結果の整理、計算においては平面幾何や三角関数の基礎的な知識も要求されるのでそれらも復習することになる。
なお、測量技術は近年急速に進歩していることから、レーザ点群測量、リモートセンシング、GNSS 測位等の最新の測量技術についての紹介をできるだけ行う。
測量士補に必要な最低限の基礎知識と計算力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回　:イントロダクション、基礎的知識、測量の歴史、社会と測量
第２回　:地球の形状、位置の表現、測量の基礎理論、測量機材
第３回　:測量法、地理空間情報活用推進基本法、誤差
第４回　:基準点測量の基本、距離観測、角観測の手法と理論
第５回　:多角測量実習
第６回　:多角測量実習結果・計算整理、座標計算
第７回　:水準測量の手法と理論
第８回　:水準測量実習
第９回　:水準測量結果の整理、GNSS 測量
第 10 回 :地形測量、写真測量、航空レーザ測量
第 11 回 :等高線、DEM、応用測量(路線測量、河川測量、用地測量)、i-Construction
第 12 回 :VLBI、合成開口レーダー、UAV 測量、三次元形状処理(SfM/MVS)
第 13 回 :測地基準点網、基盤地図情報、地理院地図、測量・地図と災害対応
第 14 回　:a:地殻変動観測 b:試験
期間中、国土地理院(つくば市)において校外実習(1日)を行う予定である。

履修上の注意

この授業は「測量学Ⅱ」と一体として実施する。測量学Ⅰの履修者は必ず測量学Ⅱも履修すること。
期間中、国土地理院(つくば市)において校外実習(1日)を行う予定であり、履修者は原則として参加すること。校外実習を実施する日はその実習をもって講義1回分とする。
講義中で座標計算等、電卓、PC が必要な場合がある。電卓は三角関数機能があるものが望ましいが、PC で Excel 等の計算ソフトを利用できる場合はそれを利用することも推奨する。その他必要なものがあればその都度指示する。
測量機材を持って屋外での実習を行う回があるため、作業しやすい衣服・靴で講義に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

測量においては、距離・方位と座標の関係を認識する上で三角関数の最低限の知識は必要である。高等学校の数学で履修していなかった者についても、sin、cos、tan の意味については事前に学習して理解しておくこと。測量計算については演習問題も含めて教室で行うが、復習も必要に応じて行って慣れること。
測量・地理空間情報分野では、新しい技術が次々と登場している。それらに関する用語・略語については講義の際に説明するが、アルファベットが何の略称であるかなどについて、初出時には改めて国土地理院等関係機関の Web サイトや SNS 等で確認することを推奨する。またそれらの媒体を通じて最新の測量技術に関する情報を収集しておくことが望ましい。
参考書のほか、日本測量協会「測量」、日本地図センター「地図中心」等の書籍に積極的に目を通すことを推奨する。さらに、「測量の日」(6月3日)関連イベント、国土地理院報告会、G 空間 EXPO 等のイベントに積極的に参加することが望ましい。

教科書

特に定めない。

参考書

「地図づくりの現在形 地球を測り、図を描く」。宇根寛著。講談社
「よくわかる測量」海津優著。ユーキャン自由国民社
「図説 わかる測量」猪木幹雄ほか著。学芸出版社
「絵でわかる地図と測量」中川雅史著。講談社
「測量入門」大杉和由ほか著。実教出版
「測量学」大木正喜著。森北出版
「わかりやすい測量の数学－行列と最小二乗法」小白井亮一著。オーム社
「測地学入門－地球上の位置の決定」西修二郎著。技報堂出版
「測量用語辞典」日本測量協会

課題に対するフィードバックの方法

履修者からデイリーレポートとして授業の内容に関する疑問・コメントを Oh-o! Meiji で受け付け、それらについて、サイト内あるいは次回講義で解説する。

成績評価の方法

授業への貢献度 1/3 程度、定期試験 2/3 程度

その他

講義は日本語で行う。

科目ナンバー：(AL)GEO391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
測量学Ⅱ	**測量学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
今給黎 哲郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「測量」とは、位置の基準に基づいて地点間の相互位置・距離などを求めて記録し、地図などに表現する行為である。地図が作成されるまでには、例えば、地球の表面で正確な測量を行うための技術、測定結果から位置関係を体系的に記述するための座標系の定義、アーカイブされた位置情報・地理空間情報の管理と利活用するための適切なシステムなど、様々な科学的・技術的な知識の蓄積がある。一般に「地図」はアプリオリに存在する「道具」と思われがちであるが、それが作成されるまでには「測量」という行為が不可欠なのである。測量を行い、その結果から地図をまとめ、それが社会で利用されていくまでの過程全体が、「測量学」という学問分野に含まれている。地理学専攻の皆さんが、どのような技術を用いて地球の表面が計測され、それがどのような過程を経て地図にまとめられているかを理解することは、地図の性質を理解して自らの調査・研究に正しく用いる上で非常に有効であろう。
本授業では、測量の基礎的な理論、測量に用いられる技術、測量方法、測定結果の処理、測量結果の利活用、測量に関する法制度などについて講義を行うとともに、測量機材を用いた実習も行う。測量結果の整理、計算においては平面幾何や三角関数の基礎的な知識も要求されるのでそれらも復習することになる。
なお、測量技術は近年急速に進歩していることから、レーザ点群測量、リモートセンシング、GNSS 測位等の最新の測量技術についての紹介をできるだけ行う。
測量士補に必要な最低限の基礎知識と計算力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回　:イントロダクション、基礎的知識、測量の歴史、社会と測量
第２回　:地球の形状、位置の表現、測量の基礎理論、測量機材
第３回　:測量法、地理空間情報活用推進基本法、誤差
第４回　:基準点測量の基本、距離観測、角観測の手法と理論
第５回　:多角測量実習
第６回　:多角測量実習結果・計算整理、座標計算
第７回　:水準測量の手法と理論
第８回　:水準測量実習
第９回　:水準測量結果の整理、GNSS 測量
第 10 回 :地形測量、写真測量、航空レーザ測量
第 11 回 :等高線、DEM、応用測量(路線測量、河川測量、用地測量)、i-Construction
第 12 回 :VLBI、合成開口レーダー、UAV 測量、三次元形状処理(SfM/MVS)
第 13 回 :測地基準点網、基盤地図情報、地理院地図、測量・地図と災害対応
第 14 回　:a:地殻変動観測 b:試験
期間中、国土地理院(つくば市)において校外実習(1日)を行う予定である。

履修上の注意

この授業は「測量学Ⅰ」と一体として実施する。測量学Ⅱの履修者は必ず測量学Ⅰも履修すること。
期間中、国土地理院(つくば市)において校外実習(1日)を行う予定であり、履修者は原則として参加すること。校外実習を実施する日はその実習をもって講義1回分とする。
計算のために電卓を用いるが、三角関数機能がある方が便利である。PC で Excel 等の表計算ソフトを使える場合は、そちらが使いこなせるとなおよい。
測量機材を持って屋外での実習を行う回があるため、作業しやすい衣服・靴で講義に臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

測量においては、距離・方位と座標の関係を認識する上で三角関数の最低限の知識は必要である。高等学校の数学で履修していなかった者についても、sin、cos、tan の意味については事前に学習して理解しておくこと。測量計算は教室でも演習を行うが、復習して慣れることが望ましい。
測量・地理空間情報分野では、新しい技術が次々と登場している。それらに関する用語・略語については講義の際に説明するが、アルファベットが何の略称であるかなどについて、初出時には改めて国土地理院等関係機関の Web サイトや SNS 等で確認することを推奨する。またそれらの媒体を通じて最新の測量技術に関する情報を収集しておくことが望ましい。
参考書のほか、日本測量協会「測量」、日本地図センター「地図中心」等の書籍に積極的に目を通すことを推奨する。さらに、「測量の日」(6月3日)関連イベント、国土地理院報告会、G 空間 EXPO 等のイベントに積極的に参加することが望ましい。

教科書

特に定めない。

参考書

「地図づくりの現在形 地球を測り、図を描く」。宇根寛著。講談社
「よくわかる測量」海津優著。ユーキャン自由国民社
「図説 わかる測量」猪木幹雄ほか著。学芸出版社
「絵でわかる地図と測量」中川雅史著。講談社
「測量入門」大杉和由ほか著。実教出版
「測量学」大木正喜著。森北出版
「わかりやすい測量の数学－行列と最小二乗法」小白井亮一著。オーム社
「測地学入門－地球上の位置の決定」西修二郎著。技報堂出版
「測量用語辞典」日本測量協会

課題に対するフィードバックの方法

履修者からデイリーレポートとして授業の内容に関する疑問・コメントを Oh-o! Meiji で受け付け、それらについて、サイト内あるいは次回講義で解説する。

成績評価の方法

授業への貢献度 1/3 程度、定期試験 2/3 程度

その他

講義は日本語で行う。

科目ナンバー:(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅰ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【初回授業日 4 月 10 日に必ず出席すること】

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

授業内容

1)卒業論文とは何か
2)テーマの決め方(1)
3)テーマの決め方(2)
4)テーマの決め方(3)
5)参考文献・資料の探し方(1)
6)参考文献・資料の探し方(2)
7)参考文献・資料の探し方(3)
8)研究・分析の手法(1)
9)研究・分析の手法(2)
10)研究・分析の手法(3)
11)先行研究の検討(1)
12)先行研究の検討(2)
13)先行研究の検討(3)
14)中間発表

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献や先行研究の検討を周到に行う。また、確実な資料やデータを揃える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅰ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 氏貴	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

授業内容

1)卒業論文とは何か
2)テーマの決め方(1)
3)テーマの決め方(2)
4)テーマの決め方(3)
5)参考文献・資料の探し方(1)
6)参考文献・資料の探し方(2)
7)参考文献・資料の探し方(3)
8)研究・分析の手法(1)
9)研究・分析の手法(2)
10)研究・分析の手法(3)
11)先行研究の検討(1)
12)先行研究の検討(2)
13)先行研究の検討(3)
15)中間発表

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
佐幸信介　社会学、メディア文化論、メディア・コミュニケーション論。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献や先行研究の検討を周到に行う。また、確実な資料やデータを揃える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅰ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

授業内容

1)卒業論文とは何か
2)テーマの決め方(1)
3)テーマの決め方(2)
4)テーマの決め方(3)
5)参考文献・資料の探し方(1)
6)参考文献・資料の探し方(2)
7)参考文献・資料の探し方(3)
8)研究・分析の手法(1)
9)研究・分析の手法(2)
10)研究・分析の手法(3)
11)先行研究の検討(1)
12)先行研究の検討(2)
13)先行研究の検討(3)
16)中間発表

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
佐幸信介　社会学、メディア文化論、メディア・コミュニケーション論。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献や先行研究の検討を周到に行う。また、確実な資料やデータを揃える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅰ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

授業内容

1)卒業論文とは何か
2)テーマの決め方(1)
3)テーマの決め方(2)
4)テーマの決め方(3)
5)参考文献・資料の探し方(1)
6)参考文献・資料の探し方(2)
7)参考文献・資料の探し方(3)
8)研究・分析の手法(1)
9)研究・分析の手法(2)
10)研究・分析の手法(3)
11)先行研究の検討(1)
12)先行研究の検討(2)
13)先行研究の検討(3)
17)中間発表

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
佐幸信介　社会学、メディア文化論、メディア・コミュニケーション論。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献や先行研究の検討を周到に行う。また、確実な資料やデータを揃える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅰ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

授業内容

1)卒業論文とは何か
2)テーマの決め方(1)
3)テーマの決め方(2)
4)テーマの決め方(3)
5)参考文献・資料の探し方(1)
6)参考文献・資料の探し方(2)
7)参考文献・資料の探し方(3)
8)研究・分析の手法(1)
9)研究・分析の手法(2)
10)研究・分析の手法(3)
11)先行研究の検討(1)
12)先行研究の検討(2)
13)先行研究の検討(3)
14)中間発表

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴 文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至 日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子 古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
中江桂子 文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜 日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献や先行研究の検討を周到に行う。また、確実な資料やデータを揃える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅰ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

授業内容

1)卒業論文とは何か
2)テーマの決め方(1)
3)テーマの決め方(2)
4)テーマの決め方(3)
5)参考文献・資料の探し方(1)
6)参考文献・資料の探し方(2)
7)参考文献・資料の探し方(3)
8)研究・分析の手法(1)
9)研究・分析の手法(2)
10)研究・分析の手法(3)
11)先行研究の検討(1)
12)先行研究の検討(2)
13)先行研究の検討(3)
19)中間発表

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴 文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至 日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子 古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
中江桂子 文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜 日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献や先行研究の検討を周到に行う。また、確実な資料やデータを揃える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅱ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

・三年次の後期頃から、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月前後に全体的・個別教員別に予備指導を行う。

・四年次の4月のイントロダクションにおいて、卒業論文・卒業制作主題報告書が渡されるが、提出された報告書を基に、それぞれの希望と主題を考慮して担当教員の振り分けを行う。

・卒業論文・卒業制作は、担当教員の指導のもとに作成される。従って、四年次に開講される「卒業論文」の授業に参加し指導を受けることが前提である。

・卒業論文の枚数は 400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚以上。上限は指導教員の指示による。

・卒業制作については別途指示があるので、三年次および四年次に行われるイントロダクションに授業への参加態度としてその指示に従うこと。※卒業制作についてはイントロダクション時に別途指示する。

授業内容

1)研究計画の確認
2)第2期中間発表(1)
3)第2期中間発表(2)
4)第2期中間発表(3)
5)論文の書き方(1)
6)論文の書き方(2)
7)論文の書き方(3)
8)個別指導(1)
9)個別指導(2)
10)個別指導(3)
11)論文執筆(第一次稿)
12)論文執筆(第二次稿)
13)論文執筆(最終稿)
14)卒論面接準備

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

内容は言うまでもないが、構成・注・参考文献表など学位請求論文としての形式を整える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅱ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 氏貴	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

・三年次の後期頃から、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月前後に全体的・個別教員別に予備指導を行う。

・四年次の4月のイントロダクションにおいて、卒業論文・卒業制作主題報告書が渡されるが、提出された報告書を基に、それぞれの希望と主題を考慮して担当教員の振り分けを行う。

・卒業論文・卒業制作は、担当教員の指導のもとに作成される。従って、四年次に開講される「卒業論文」の授業に参加し指導を受けることが前提である。

・卒業論文の枚数は 400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚以上。上限は指導教員の指示による。

・卒業制作については別途指示があるので、三年次および四年次に行われるイントロダクションに授業への参加態度としてその指示に従うこと。※卒業制作についてはイントロダクション時に別途指示する。

授業内容

1)研究計画の確認
2)第2期中間発表(1)
3)第2期中間発表(2)
4)第2期中間発表(3)
5)論文の書き方(1)
6)論文の書き方(2)
7)論文の書き方(3)
8)個別指導(1)
9)個別指導(2)
10)個別指導(3)
11)論文執筆(第一次稿)
12)論文執筆(第二次稿)
13)論文執筆(最終稿)
14)卒論面接準備

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。
(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
佐幸信介　社会学、メディア文化論、メディア・コミュニケーション論。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

内容は言うまでもないが、構成・注・参考文献表など学位請求論文としての形式を整える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅱ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

・三年次の後期頃から、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月前後に全体的・個別教員別に予備指導を行う。

・四年次の4月のイントロダクションにおいて、卒業論文・卒業制作主題報告書が渡されるが、提出された報告書を基に、それぞれの希望と主題を考慮して担当教員の振り分けを行う。

・卒業論文・卒業制作は、担当教員の指導のもとに作成される。従って、四年次に開講される「卒業論文」の授業に参加し指導を受けることが前提である。

・卒業論文の枚数は 400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚以上。上限は指導教員の指示による。

・卒業制作については別途指示があるので、三年次および四年次に行われるイントロダクションに授業への参加態度としてその指示に従うこと。※卒業制作についてはイントロダクション時に別途指示する。

授業内容

1)研究計画の確認
2)第2期中間発表(1)
3)第2期中間発表(2)
4)第2期中間発表(3)
5)論文の書き方(1)
6)論文の書き方(2)
7)論文の書き方(3)
8)個別指導(1)
9)個別指導(2)
10)個別指導(3)
11)論文執筆(第一次稿)
12)論文執筆(第二次稿)
13)論文執筆(最終稿)
14)卒論面接準備

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。

(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
佐幸信介　社会学、メディア文化論、メディア・コミュニケーション論。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

内容は言うまでもないが、構成・注・参考文献表など学位請求論文としての形式を整える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅱ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

・三年次の後期頃から、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月前後に全体的・個別教員別に予備指導を行う。

・四年次の4月のイントロダクションにおいて、卒業論文・卒業制作主題報告書が渡されるが、提出された報告書を基に、それぞれの希望と主題を考慮して担当教員の振り分けを行う。

・卒業論文・卒業制作は、担当教員の指導のもとに作成される。従って、四年次に開講される「卒業論文」の授業に参加し指導を受けることが前提である。

・卒業論文の枚数は 400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚以上。上限は指導教員の指示による。

・卒業制作については別途指示があるので、三年次および四年次に行われるイントロダクションに授業への参加態度としてその指示に従うこと。※卒業制作についてはイントロダクション時に別途指示する。

授業内容

1)研究計画の確認
2)第2期中間発表(1)
3)第2期中間発表(2)
4)第2期中間発表(3)
5)論文の書き方(1)
6)論文の書き方(2)
7)論文の書き方(3)
8)個別指導(1)
9)個別指導(2)
10)個別指導(3)
11)論文執筆(第一次稿)
12)論文執筆(第二次稿)
13)論文執筆(最終稿)
14)卒論面接準備

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。

(氏名 50 音順)。
伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
佐幸信介　社会学、メディア文化論、メディア・コミュニケーション論。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

内容は言うまでもないが、構成・注・参考文献表など学位請求論文としての形式を整える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅱ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯　和香子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

・三年次の後期頃から、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月前後に全体的・個別教員別に予備指導を行う。

・四年次の4月のイントロダクションにおいて、卒業論文・卒業制作主題報告書が渡されるが、提出された報告書を基に、それぞれの希望と主題を考慮して担当教員の振り分けを行う。

・卒業論文・卒業制作は、担当教員の指導のもとに作成される。従って、四年次に開講される「卒業論文」の授業に参加し指導を受けることが前提である。

・卒業論文の枚数は 400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚以上。上限は指導教員の指示による。

・卒業制作については別途指示があるので、三年次および四年次に行われるイントロダクションに授業への参加態度としてその指示に従うこと。※卒業制作についてはイントロダクション時に別途指示する。

授業内容

1)研究計画の確認
2)第2期中間発表(1)
3)第2期中間発表(2)
4)第2期中間発表(3)
5)論文の書き方(1)
6)論文の書き方(2)
7)論文の書き方(3)
8)個別指導(1)
9)個別指導(2)
10)個別指導(3)
11)論文執筆(第一次稿)
12)論文執筆(第二次稿)
13)論文執筆(最終稿)
14)卒論面接準備

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。

(氏名 50 音順)。

伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

内容は言うまでもないが、構成・注・参考文献表など学位請求論文としての形式を整える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT411J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文・卒業制作Ⅱ(文学科)	**卒業論文・卒業制作Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江　桂子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文・卒業制作は、単位数は四単位であるが、大学四年間に学んだことの集大成として位置づけられている。各自が選び取ったテーマに従い、自らの視点と方法を模索しながら対象を探求し、一定の水準に達するまでに仕上げることが目標である。従って、その成果には、基本的に常に新しさや独自性が要求される。また、これまでの研究成果としてある参考資料や文献を踏まえ、実証性に裏打ちされた説得力のある論を作成することが必要である。重要なことは、各自が問題意識を潜めつつ、それぞれ自らを発見する契機として積極的な「創造の行為」を行うことである。

・三年次の後期頃から、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月前後に全体的・個別教員別に予備指導を行う。

・四年次の4月のイントロダクションにおいて、卒業論文・卒業制作主題報告書が渡されるが、提出された報告書を基に、それぞれの希望と主題を考慮して担当教員の振り分けを行う。

・卒業論文・卒業制作は、担当教員の指導のもとに作成される。従って、四年次に開講される「卒業論文」の授業に参加し指導を受けることが前提である。

・卒業論文の枚数は 400 字詰め原稿用紙に換算して 50 枚以上。上限は指導教員の指示による。

・卒業制作については別途指示があるので、三年次および四年次に行われるイントロダクションに授業への参加態度としてその指示に従うこと。※卒業制作についてはイントロダクション時に別途指示する。

授業内容

1)研究計画の確認
2)第2期中間発表(1)
3)第2期中間発表(2)
4)第2期中間発表(3)
5)論文の書き方(1)
6)論文の書き方(2)
7)論文の書き方(3)
8)個別指導(1)
9)個別指導(2)
10)個別指導(3)
11)論文執筆(第一次稿)
12)論文執筆(第二次稿)
13)論文執筆(最終稿)
14)卒論面接準備

履修上の注意

三年次の秋学期ごろから、卒業論文・卒業制作のテーマと指導教員を決定する準備をしておく必要がある。11 月末ごろに全体的・個別教員別に予備指導を行う。

自分の研究テーマに沿って個別指導を受けるために、各教員の専門分野に応じて受講すること。なお、場合によって受講人数を制限することがある。各教員の専門分野・研究テーマは以下のとおりである。

(氏名 50 音順)。

伊藤氏貴　文藝思潮。特に近現代の文学における「自我」の扱いの変遷。
内村和至　日本近世小説史・思想史。出版メディアと文学テクスト。
佐伯和香子　古典文学の民俗学的研究・口承文芸の研究。
相良剛〈読む・書く〉を、出版実務の経験を元として探索する。
中江桂子　文化社会学・メディアの社会史・社会心理と文化史。
能地克宜　日本近現代文学、室生犀星、浅草文芸、街と文学。

準備学習(予習・復習等)の内容

内容は言うまでもないが、構成・注・参考文献表など学位請求論文としての形式を整える。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問による。

成績評価の方法

卒業論文・卒業制作自体が評価のすべてだが、授業科目として「卒業論文・卒業制作」が設定されている。各教員の授業に参加して指導を受けることが必要である。また提出後の口頭試問を通過して初めて単位として認定される。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 友一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導

〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導

〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導

〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導

〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導

〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導

〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導

〈8〉山田 朗 現代史の論文指導

〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 一樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導

〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導

〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導

〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導

〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導

〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導

〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導

〈8〉山田 朗 現代史の論文指導

〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朗	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
落合 弘樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 直人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導

〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導

〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導

〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導

〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導

〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導

〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導

〈8〉山田 朗 現代史の論文指導

〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20,000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・面接を実施する。

・随時、授業で全体に関わる問題点をコメントするとともに、各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 Ⅱ」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
櫻井 智美	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 II」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 II」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 II」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高田 幸男	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 II」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
水野 博子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ヨーロッパ近現代史に関する歴史学的考察を進め、学年末には卒業論文を完成させることを目標とする。広い意味でのヨーロッパ近現代史に関する限り、地域や言語、アプローチの方法は問わないが、可能な限り多くの欧文文献および原典史料の調査に基づく論文作成を目指す。

授業内容

西洋史の分野では、卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することはむずかしいが、既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて、自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒論を書くということは、自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また、執筆する者の見解は、テーマに関する歴史プロセスの究明のかげに見え隠れしている、というのが普通である。こうした点は、自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。

進行計画は人によってさまざまであるが、およそ次のようになるだろう。

1)卒論指導の最初の時間に、卒論のテーマ・内容の基礎的部分を 10000 字程度にまとめ、それに文献リストを付したものを提出する。また、この段階で「目次」の作成を試みる。

2)指導教員によるそれへのコメント、指導・助言を受けて文献リストをさらに充実させ、5月の連休明け頃、各文献の所在をも付記したものをあらためて提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め、夏休みにかけて、それらを読みこなし、ノート、下書き、あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて、春学期中に必ず1回は中間報告を行う。

4)夏休み中、集中的に研究を進める。その中で、より具体的な卒論の構成(章別編成)も考えていくことが望まれる。夏休み中の研究成果は、20000 字程度(春学期初めに提出された 10000 字の改訂版を含む)にまとめなおして秋学期初回の授業時に提出する。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を、秋学期に少なくとも1回発表する。

6)こうした準備の上で、卒論(注を含む)の執筆には最低1ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では、他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

履修上の注意

参考文献を作成したら、それにそって文献・史料を読み進め、論点整理、事実関係の確認、あいまいな点を解明するなど、執筆に向けた具体的な作業を継続的に行ってもらいたい。また、10 月半ばまでに序文と第1章～2章を、そして論文提出締切のおよそ1か月前までには残りの章と終章を含む草稿(第1稿)を仕上げ、論理展開は妥当か(論証に矛盾はないか)、注はきちんとついているか(注のない抜書きは剽窃である)など、論文として認められるための手続きを確認する作業の徹底が望まれる。そして最後に、文章表現に問題はないか、しっかりとした推敲を行い、「論文」とよぶにふさわしい仕事を完成してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献リストの作成、注を付けるためのメモ、欧文文献調査、講読などが必要となる。4月最初の1万字をベースに、夏季休暇中にもう1万字、秋学期中にもう1万字の執筆を目指して、卒業論文の完成を目指します。

教科書

特に教科書が一つあるわけではありません。多くの講読文献、論文をリサーチし、史料の発掘に励んでください。いずれにしてもたくさんの文献講読が求められます。

参考書

水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム―戦争とナチズムの記憶をめぐって』ミネルヴァ書房、2020 年3月。

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界―近現代史の時空から』山川出版社、2023 年。

大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門――歴史のラビリンスへの招待――』(昭和堂、2013年)。

小澤卓也・田中聡・水野博子編『教養のための現代史入門』(ミネルヴァ書房、2015 年)。

石田勇治・福永美和子編『想起の文化とグローバル市民社会』(現代ドイツへの視座――歴史学的アプローチ1)(勉誠出版、2016 年)。

そのほか、適宜、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のゼミでの議論及び卒論レポートへの朱入れ・コメントを通して行います。

成績評価の方法

提出された卒業論文と卒論面接((1月末～2月初め)の結果を総合して評価する。

卒論面接は通常、副査制度をとっている。

その他

卒業論文の提出は別に日程、提出場所が設定されるので、それに注意すること。1分でも提出時間に遅れれば, 受理されないので注意すること。

個々のテーマ発表は、補講日などを用いて、全員で一斉に行う発表会を設定する場合がある。1 年のうちに、ゼミ合宿またはブロックゼミナール(1日発表会)を 1～2 回行う予定である。

授業は対面方式で行う予定である。ただし、新型コロナウィルスなどの感染症の状況次第では、オンラインによる授業形式になることもありうる。

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
青谷 秀紀	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

主として西洋中世史に関する卒業論文を書こうとする学生の指導を行なう。

授業内容

西洋史の分野では, 卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することはむずかしいが, 既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて, 自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒論を書くということは, 自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また, 執筆する者の見解は, テーマに関する歴史プロセスの究明のかげに見え隠れしている, というのが普通である。こうした点は, 自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。進行計画は人によってさまざまであるが, およそ次のようになるだろう。

1)卒論指導の最初の時間に, 卒論のテーマ・内容や研究の進め方, 計画などを 4000 字程度にまとめ, それに文献リストを付したものを提出する。

2)指導教員によるそれへのコメント, 指導・助言を受けて文献リストをさらに充実させ, 5月の連休明けに頃, 各文献の所在をも付記したものをあらためて提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め, 夏休みにかけて, それらを読みこなし, ノート, 下書き, あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて, 春学期中に必ず1回は中間報告を行う。

4)夏休み中, 集中的に研究を進める。その中で, 卒論の構成(章別編成)も考えていくことが望まれる。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を, 秋学期に少なくとも1回発表する。

6)こうした準備の上で, 卒論(注を含む)の執筆には最低1ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では, 他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期・秋学期に複数回の報告を義務とする。報告レジュメ・参考文献リストなどを準備すること。欠席する場合には教員に連絡すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問で講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と卒論面接(1月末～2月初め)で評価する。

その他

卒業論文の提出は別に日程, 提出場所が設定されるので, それに注意すること。1分でも提出時間に遅れれば, 受理されないので注意すること。

科目ナンバー:(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷口 良生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、4 年間の西洋史学専攻の学びの集大成である。悔いのない論文を書いて、自らの学業の努力の証としてほしい。本卒業論文では、主として西ヨーロッパ近現代史の卒業論文を書こうとする学生の指導を行う。

授業内容

西洋史の分野では、卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することは難しいが、既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて、自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒業論文を書くということは、自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また執筆する者の見解は、テーマに関する歴史プロセスの究明の影に見え隠れしている、というのが普通である。こうした点は、自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。

進行計画は、人によってさまざまであるが、およそ次のようになるであろう。

1)授業の最初の数回を使って、3 年次の演習で提出したレポートをもとに個別面談を行う。初回授業では個別面談と個別発表のスケジュールを決定するため、必ず出席すること。

2)個別面談での指導教員によるコメント、指導・助言を受けて、5 月の連休明けから随時、参考文献リスト(各文献の所在をも付記したもの)を提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め、夏休みにかけて、それらを読みこなし、ノート、下書き、あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて、春学期に必ず 1 回は中間報告を行う。

4)夏休み中、集中的に研究を進める。その中で、卒論の構成(章別編成)をも考えていくことが望まれる。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を、秋学期に少なくとも 1 回は発表する。

6)こうした準備の上で、卒論(注を含む)の執筆には最低 1 ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では、他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

卒業論文Ⅰでは、およそ上記の 1)から 4)と 7)までが対象となる。

履修上の注意

受講生には、複数回、プレゼンテーションを行ってもらう。報告レジュメおよび参考文献リストなどを準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

まずは、卒業論文のテーマについて、きちんとしたスケジュールを立て、それに沿って一歩一歩着実に研究を進めていくこと。また、自分のプレゼンテーションの際には、他の受講生にもわかるように、あらかじめしっかりしたレジュメを用意して報告すること。その他、他の受講生のプレゼンテーションに対しても積極的に議論に加わり、そこからも自分の卒業論文に役立つ視点・知見を学ぶこと。

教科書

各自のテーマに関連した史料・文献が教科書になる。必要に応じて担当教員に相談すること。

参考書

図書館などで参照する文献が参考書になる。わからないことは、担当教員あるいは図書館の司書の方に相談すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の一部で相談会、授業時間外でも面談などの機会を設けるので、研究の方向性などで迷ったときには遠慮なく活用してほしい。

成績評価の方法

卒論の内容と卒論面接(1 月末～2 月初め)で評価する。

その他

卒業論文の提出は別に日程、提出場所が設定されるので、それに注意すること。1 分でも提出時間が遅れれば、受理されないので十分注意すること。

科目ナンバー:(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

受講者の関心のあるテーマを設定し、ゼミ報告および個別指導によって卒業論文を作成する。必ずしもロシアに限らず、近隣地域(ウクライナ・中央アジア等)や、それらと周辺地域の関係をテーマにした論文指導も行う。

授業内容

第1回～第 2 回 イントロダクション、卒論構想の発表、担当者の決定 第3回～第 14 回 各履修者による卒論経過報告(卒論執筆の仮スケジュール、例) 前期:卒論論文のテーマの確定と論文の構成案の提出(ゼミでの発表) 9 月末:卒業論文の第一稿の提出(可能な範囲で構わない) 後期:第一稿についての中間発表と議論、第二稿の執筆 12 月上旬:第二稿の提出、個別指導 1 月:卒業論文の提出

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備、卒論原稿の執筆

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習での各報告や原稿に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

提出された卒業論文と卒論面接(1 月末~2 月初め)の結果を総合して評価する。

その他

卒業論文の提出は別に日程、提出場所が設定されるので、それに注意すること。1 分でも提出時間に遅れれば, 受理されないので注意すること。 履修者の人数や調査の進捗状況に応じ、スケジュールや計画の変更もありうる。

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
鰐淵 秀一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

大学での学びの集大成として卒業論文を完成させることを目標とする。各自の関心に基づいてテーマを設定し、可能な限り多くの欧文文献および原典史料の調査に基づく論文作成を目指す。

授業内容

西洋史の分野では、卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することはむずかしいが、既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて、自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒論を書くということは、自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また、執筆する者の見解は、テーマに関する歴史プロセスの究明のかげに見え隠れしている、というのが普通である。こうした点は、自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。

進行計画は人によってさまざまであるが、およそ次のようになるだろう。

1)卒論指導の最初の時間に、卒論のテーマ・内容の基礎的部分を 10,000 字程度にまとめ、それに文献リストを付したものを提出する。また、この段階で「目次」の作成を試みる。

2)指導教員によるそれへのコメント、指導・助言を受けて文献リストをさらに充実させ、5月の連休明け頃、各文献の所在をも付記したものをあらためて提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め、夏休みにかけて、それらを読みこなし、ノート、下書き、あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて、春学期中に必ず1回は中間報告を行う。

4)夏休み中、集中的に研究を進める。その中で、より具体的な卒論の構成(章別編成)も考えていくことが望まれる。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を、秋学期に少なくとも1回発表する。

6)こうした準備の上で、卒論(注を含む)の執筆には最低1ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では、他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

履修上の注意

ゼミ生は学期中に中間報告を行う。文献の調査、読書を進め、しっかりと報告レジュメ・参考文献を準備して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒論は一夜漬けで完成させられるものではない。授業の進行に沿ってその都度課される課題に取り組み、コツコツと進めていくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

テーマ設定や先行研究の調査には以下の文献が基本となる。

・金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年

・油井大三郎・有賀夏紀・紀平英作編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009 年

・『史学雑誌―回顧と展望』「アメリカ」(毎年5月号)

・小田悠生「アメリカ史研究におけるデジタル情報資源の現在」『立教アメリカン・スタディーズ』第 40 号、2018 年、33-56 頁(ダウンロード可)

・Eric Foner and Lisa McGirr, eds. American History Now (Temple University Press, 2011)

卒論作成の参考になるものとして、以下を挙げる。

・戸田山和久『新版 論文の教室』NHK 出版、2012 年(初心者・一般向け、知的活動一般に応用が効く)

・澤田昭夫『論文の書き方』講談社、1977 年(歴史学のスタイルの論文を準備するのに適している)

課題に対するフィードバックの方法

・授業時の発言に対するコメント

・報告に対するコメント

・レポートの添削

成績評価の方法

提出された卒業論文の内容と口頭試問の結果を合わせて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部 芳郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。

春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。

各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表を担当する班は、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しない班のメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

参考書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法

わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 憲一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。以上のプロセスを経て、卒業論文を完成させ、提出する。

授業内容

藤山・阿部・鶴来・佐々木・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、クラスを分けて担任する。

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。下記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

第1回 卒業論文執筆の意義(クラス分け、授業の内容・予定・進め方についての解説を含む)
第2回 卒論執筆に関わる注意点などの全体講義
第3～13 回 研究テーマに関する個人報告
第 14 回 卒論に関わる全体講評

履修上の注意

卒業論文の提出にあたっては、本演習に出席したうえで教員の適切な指導を受けている必要がある。卒業論文の詳細な作成要領については、春学期に行う第１回・第2回の全体講義時にプリントを配布する。卒業論文の提出方法については、文学部事務室からの掲示に十分に注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表の際には、進捗状況を明示した資料を作成し、当日、履修者全員に配布すること。授業においては、自らが報告をしない場合でも、他の履修者の研究内容について生産的な意見交換・問題提起をおこなうよう心がけ、その議論のなかに自らの研究にも資する部分を積極的にさぐる問題意識をもつこと。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
藤山 龍造	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。以上のプロセスを経て、卒業論文を完成させ、提出する。

授業内容

藤山・阿部・鶴来・佐々木・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、クラスを分けて担任する。

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。下記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

第1回 卒業論文執筆の意義(クラス分け、授業の内容・予定・進め方についての解説を含む)
第2回 卒論執筆に関わる注意点などの全体講義
第3～13 回 研究テーマに関する個人報告
第 14 回 卒論に関わる全体講評

履修上の注意

卒業論文の提出にあたっては、本演習に出席したうえで教員の適切な指導を受けている必要がある。卒業論文の詳細な作成要領については、春学期に行う第１回・第2回の全体講義時にプリントを配布する。卒業論文の提出方法については、文学部事務室からの掲示に十分に注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表の際には、進捗状況を明示した資料を作成し、当日、履修者全員に配布すること。授業においては、自らが報告をしない場合でも、他の履修者の研究内容について生産的な意見交換・問題提起をおこなうよう心がけ、その議論のなかに自らの研究にも資する部分を積極的にさぐる問題意識をもつこと。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。以上のプロセスを経て、卒業論文を完成させ、提出する。

授業内容

藤山・阿部・鶴来・佐々木・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、クラスを分けて担任する。

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。下記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

第1回 卒業論文執筆の意義(クラス分け、授業の内容・予定・進め方についての解説を含む)
第2回 卒論執筆に関わる注意点などの全体講義
第3～13 回 研究テーマに関する個人報告
第 14 回 卒論に関わる全体講評

履修上の注意

卒業論文の提出にあたっては、本演習に出席したうえで教員の適切な指導を受けている必要がある。卒業論文の詳細な作成要領については、春学期に行う第１回・第2回の全体講義時にプリントを配布する。卒業論文の提出方法については、文学部事務室からの掲示に十分に注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表の際には、進捗状況を明示した資料を作成し、当日、履修者全員に配布すること。授業においては、自らが報告をしない場合でも、他の履修者の研究内容について生産的な意見交換・問題提起をおこなうよう心がけ、その議論のなかに自らの研究にも資する部分を積極的にさぐる問題意識をもつこと。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。以上のプロセスを経て、卒業論文を完成させ、提出する。

授業内容

藤山・阿部・鶴来・佐々木・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、クラスを分けて担任する。

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。下記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

第1回 卒業論文執筆の意義(クラス分け、授業の内容・予定・進め方についての解説を含む)
第2回 卒論執筆に関わる注意点などの全体講義
第3～13 回 研究テーマに関する個人報告
第 14 回 卒論に関わる全体講評

履修上の注意

卒業論文の提出にあたっては、本演習に出席したうえで教員の適切な指導を受けている必要がある。卒業論文の詳細な作成要領については、春学期に行う第１回・第2回の全体講義時にプリントを配布する。卒業論文の提出方法については、文学部事務室からの掲示に十分に注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表の際には、進捗状況を明示した資料を作成し、当日、履修者全員に配布すること。授業においては、自らが報告をしない場合でも、他の履修者の研究内容について生産的な意見交換・問題提起をおこなうよう心がけ、その議論のなかに自らの研究にも資する部分を積極的にさぐる問題意識をもつこと。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて，自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注力し，4年間の成果といえるような，自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。

地理学における研究の大半は，具体的な地域調査(現地調査)を主体としている。地域調査にまとまった時間が取れるのは夏休みなので，春学期は主としてテーマの設定から調査の方法までを，また秋学期には調査の成果を論文という形にすることを，それぞれ主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 地理学の研究論文としての卒業論文
第2回 論文のテーマ設定
第3回 構想発表(その1)
第4回 構想発表(その2)
第5回 構想発表(その3)
第6回 対象地域の選定方法
第7回 調査地域の紹介(その1)
第8回 調査地域の紹介(その2)
第9回 調査地域の紹介(その3)
第 10 回 関連研究論文のまとめ方
第 11 回 データの品質管理と資料の検討
第 12 回 調査計画報告(その1)
第 13 回 調査計画報告(その2)
第 14 回 調査計画報告(その3)

履修上の注意

原則として3年次の「演習Ⅰ」の担当教員のクラスを履修することになる。
4月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので出席を重視する。出席状況が悪いとき，すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には，卒業論文の採点を拒否することがある。また，詳細な論文執筆上の注意点については，別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し，遵守すること。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末から2月初に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により，単位が認定される。なお，本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また，通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は，原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて，自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注力し，4年間の成果といえるような，自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。

地理学における研究の大半は，具体的な地域調査(現地調査)を主体としている。地域調査にまとまった時間が取れるのは夏休みなので，春学期は主としてテーマの設定から調査の方法までを，また秋学期には調査の成果を論文という形にすることを，それぞれ主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 地理学の研究論文としての卒業論文
第2回 論文のテーマ設定
第3回 構想発表(その1)
第4回 構想発表(その2)
第5回 構想発表(その3)
第6回 対象地域の選定方法
第7回 調査地域の紹介(その1)
第8回 調査地域の紹介(その2)
第9回 調査地域の紹介(その3)
第 10 回 関連研究論文のまとめ方
第 11 回 データの品質管理と資料の検討
第 12 回 調査計画報告(その1)
第 13 回 調査計画報告(その2)
第 14 回 調査計画報告(その3)

履修上の注意

原則として3年次の「演習Ⅰ」の担当教員のクラスを履修することになる。
4月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので出席を重視する。出席状況が悪いとき，すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には，卒業論文の採点を拒否することがある。また，詳細な論文執筆上の注意点については，別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し，遵守すること。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末から2月初に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により，単位が認定される。なお，本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また，通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は，原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて、自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注力し、4年間の成果といえるような、自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。

地理学における研究の大半は、具体的な地域調査(現地調査)を主体としている。地域調査にまとまった時間が取れるのは夏休みなので、春学期は主としてテーマの設定から調査の方法までを、また秋学期には調査の成果を論文という形にすることを、それぞれ主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 地理学の研究論文としての卒業論文
第2回 論文のテーマ設定
第3回 文献・構想発表(その1)
第4回 文献・構想発表(その2)
第5回 文献・構想発表(その3)
第6回 対象地域の選定方法
第7回 調査地域の紹介(その1)
第8回 調査地域の紹介(その2)
第9回 調査地域の紹介(その3)
第 10 回 関連研究論文のまとめ方
第 11 回 データの品質管理と資料の検討
第 12 回 調査計画報告(その1)
第 13 回 調査計画報告(その2)
第 14 回 調査計画報告(その3)

履修上の注意

原則として3年次の「演習Ⅰ」の担当教員のクラスを履修することになる。
4月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので出席を重視する。出席状況が悪いとき、すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には、卒業論文の採点を拒否することがある。また，詳細な論文執筆上の注意点については、別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し、遵守すること。

教科書

『地理学で卒業論文を書こう』小野映介・前田洋介(古今書院)2024 年

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末から2月初に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により、単位が認定される。なお、本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また、通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は、原則として単位を認定しない。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に学生相談室を利用することを勧めます。(連絡先：03-3296-4217(駿河台)；03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
川口 太郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて，自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注力し，4年間の成果といえるような，自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。

地理学における研究の大半は，具体的な地域調査(現地調査)を主体としている。地域調査にまとまった時間が取れるのは夏休みなので，春学期は主としてテーマの設定から調査の方法までを，また秋学期には調査の成果を論文という形にすることを，それぞれ主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 地理学の研究論文としての卒業論文
第2回 論文のテーマ設定
第3回 構想発表(その1)
第4回 構想発表(その2)
第5回 構想発表(その3)
第6回 対象地域の選定方法
第7回 調査地域の紹介(その1)
第8回 調査地域の紹介(その2)
第9回 調査地域の紹介(その3)
第 10 回 関連研究論文のまとめ方
第 11 回 データの品質管理と資料の検討
第 12 回 調査計画報告(その1)
第 13 回 調査計画報告(その2)
第 14 回 調査計画報告(その3)

履修上の注意

原則として3年次の「演習Ⅰ」の担当教員のクラスを履修することになる。
4月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので出席を重視する。出席状況が悪いとき，すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には，卒業論文の採点を拒否することがある。また，詳細な論文執筆上の注意点については，別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し，遵守すること。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により，単位が認定される。なお，本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また，通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は，原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学専攻において自然地理学(特に気候学・植生学の分野)の卒業「論文」を作成するためには、まず卒業「研究」を行わなければならない。卒論は単なる長いレポートではなく、研究のプロセスと成果を一定の形式の文章にまとめたものである。本授業では、卒業論文作成の前提となる「卒業研究」を自力で行うことができるようになること主な到達目標とする。地理学における研究の大半は、具体的な地域調査(現地調査)を主体としている。地域調査にまとまった時間が取れるのは夏休みなので、本授業では主としてテーマの設定から調査の方法の選択・考案までの指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 自然地理学の研究論文としての卒業論文とは？
日程調整と個別報告の分担決定を行う。
第2回 「ローテク・アナログ時代」の自然地理学研究論文紹介(その1)
1970 年代までの『地理学評論』掲載の論説を1本精読して紹介する。
第3回 「ローテク・アナログ時代」の自然地理学研究論文紹介(その2)
第4回 「ローテク・アナログ時代」の自然地理学研究論文紹介(その3)
第5回 「ハイテク・デジタル時代」の自然地理学研究論文紹介(その1)
2000 年代以降の『地理学評論』掲載の論説を1本精読して紹介する。
第6回 「ハイテク・デジタル時代」の自然地理学研究論文紹介(その2)
第7回 「ハイテク・デジタル時代」の自然地理学研究論文紹介(その3)
第8回 卒業研究の「分野」に関する展望(その1)
研究テーマの位置付けを目指して「分野」の紹介をおこなう：大学レベルの専門書による内容紹介と重要な論文のリストを作成して報告する。
第9回 卒業研究の「分野」に関する展望(その2)
第 10 回 卒業研究の「分野」に関する展望(その3)
第 11 回 卒業論文構想発表(その1)
論文作成の元となる卒業研究の構想を詳細に報告する。
第 12 回 卒業論文構想発表(その2)
第 13 回 卒業論文構想発表(その3)
第 14 回 調査計画報告(全員)
夏休みのフィールドワークの計画を報告し、必要な調査機材等の調整を行う。

履修上の注意

原則として3年次の「演習Ⅰ」の担当教員のクラスを履修することになる。第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。本クラスでは自然地理学の研究・論文作成指導を行う。集落景観や放棄農地に成立した二次林または気候地形なども本クラスでは研究対象にできるが、その場合は気候学よりもかなり多くの個人学習が必要になることを事前に個人の年間計画に盛り込む必要がある(研究遂行および論文執筆に必要な「勉強量が倍になる」と考えればよい)。卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので出席を重視する。出席状況が悪いとき、すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には、原則として成績評価の対象外とする。また、提出する卒業論文の作成にあたっては、「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を遵守すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業における口頭発表では、コンピュータを使用したプレゼンテーションであっても、必ず開始前に発表内容をまとめたレジュメを紙に印刷して配布すること。発表者は、担当教員および他の履修者からの質問に十分な内容の即答ができない場合には、次回の授業の冒頭にその回答をまとめたレジュメを作成して配布すること。

教科書

使用しない。

参考書

履修者の研究テーマごとに必読文献を指示する。

課題に対するフィードバックの方法

原則として水曜と金曜にオフィスアワーを設定するので、事前に電子メール等で時間を問い合わせること。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末頃に実施される面接試験の結果により単位が認定される。地理学専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって行い、成績評価は専攻の全専任教員の合議によって決定される。また、通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は、原則として単位を認定しない。なお、教室での授業に出席して所定の口頭発表などを行なった実績があっても、レポートとしての卒業論文の成績が Ｆ である場合は、教室での演習形式の授業としての本科目も同様の成績とする。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて，自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注力し，4年間の成果といえるような，自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。

地理学における研究の大半は，具体的な地域調査(現地調査)を主体としている。地域調査にまとまった時間が取れるのは夏休みなので，春学期は主としてテーマの設定から調査の方法までを，また秋学期には調査の成果を論文という形にすることを，それぞれ主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 地理学の研究論文としての卒業論文
第2回 論文のテーマ設定
第3回 構想発表(その1)
第4回 構想発表(その2)
第5回 構想発表(その3)
第6回 対象地域の選定方法
第7回 調査地域の紹介(その1)
第8回 調査地域の紹介(その2)
第9回 調査地域の紹介(その3)
第 10 回 関連研究論文のまとめ方
第 11 回 データの品質管理と資料の検討
第 12 回 調査計画報告(その1)
第 13 回 調査計画報告(その2)
第 14 回 調査計画報告(その3)

履修上の注意

原則として3年次の「演習Ⅰ」の担当教員のクラスを履修することになる。
4月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので出席を重視する。出席状況が悪いとき，すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には，卒業論文の採点を拒否することがある。また，詳細な論文執筆上の注意点については，別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し，遵守すること。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末から2月初に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により，単位が認定される。なお，本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また，通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は，原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高瀬 由嗣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて, 各自が研究テーマを設定し, 実証的なデータを収集, 分析し, それに基づいて研究内容に考察を加え, 論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅰでは, 各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の明確化, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論します。卒論指導授業でのこれらの作業を通じて, 各自は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考えます。各回の授業では, 研究の進捗状況を資料にまとめて, 報告することが求められます。

第1回 卒業論文のまとめ方に関する留意事項の説明
第2回～第4回 各学生の研究テーマとその設定理由についての発表
第5回～第 13 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 14 回 今後の研究の進め方についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に, 所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は, 研究内容だけでなく, 卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり, 十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められます。また, 実証的なデータを収集するにあたり, 調査や実験等の方法について, 十分な指導を受けておく必要があります。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

・発表された課題に関しては, 授業内でのディスカッションを通して, コメントを行います。
・論文作成課題については, 優れた点や修正を検討すべき点を指摘しながら, 個別に指導します。

成績評価の方法

進捗状況や卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 掌子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて, 各自が研究テーマを設定し, 実証的なデータを収集, 分析し, それに基づいて研究内容に考察を加え, 論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅰでは, 各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論します。卒論指導授業でのこれらの作業を通じて, 各自は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考えます。各回の授業では, 研究の進捗状況を資料にまとめて, 報告することが求められます。

第1回 卒業論文のまとめ方に関する留意事項の説明
第2回～第4回 各学生の研究テーマとその設定理由についての発表
第5回～第 13 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 14 回 今後の研究の進め方についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に, 所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は, 研究内容だけでなく, 卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり, 十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められます。また, 実証的なデータを収集するにあたり, 調査や実験等の方法について, 十分な指導を受けておく必要があります。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

進捗状況や卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹松 志乃	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、これまでの講義・演習・実習で学んできたことの集大成として、各自が関心をもち選択したテーマに関する論文を完成するために設けられている必修科目である。3年次の臨床心理学演習で履修した内容に基づいて、各自が研究テーマを設定し、実証的なデータを収集・分析し、それに基づいて研究内容に考察を加え、論文としてまとめて、最終的に定められた期限内に無事提出し、口頭試問に合格することが目標である。

授業内容

卒業論文Ⅰでは、各自が選んだテーマに即して関連する資料・事例・研究論文などの文献を収集・整理し、問題の所在・アプローチ・分析視点などを検討し発表・討論する。卒論指導授業でのこれらの作業を通じて、各自は問題意識・研究の深化をはかるとともに、論文の章・節などの構成を考えることになる。各自の授業では、研究の進捗状況を各自が報告し、相互に意見を述べて完成までのプロセスを励まし、協力し合う姿勢が期待される。個人指導も全員に対して実施する。

第1回:春休み中の進捗状況の報告。卒業論文のまとめ方や今後のスケジュールに関する説明・確認。
第2回～第 13 回:全体ゼミおよび全学生に対する個人指導。卒論に関する情報共有・確認。
第 14 回:まとめ。夏休み中の卒論の進め方に関する指導など。

履修上の注意

本単位は、研究内容だけでなく、「提出までの全プロセス」における卒論への取り組み状況などのすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら、各人が「自己責任」で計画的に取り組む姿勢が必要である。

基本的に「全授業における貢献」が求められる。進路活動などのためにやむなく欠席する際は、必ず事前に教員まで連絡すること。

<注意事項>
・卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文や未完成の卒業論文は受理されない。
・卒業論文の提出の際には「卒業論文要旨」も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
・卒業論文の提出後に、所定の日時(1 月下旬～2 月初め)に「口頭試問」がある。口頭試問に臨んでも、論文内容だけでなく、それまでの論文作成プロセスや当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があるので、事前に十分自覚しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり、十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められる。また、実証的なデータを収集するにあたり、調査や実験等の方法について、十分な事前学習や指導を受けておく必要がある。

教科書

特になし。

参考書

・南風原朝和ほか「心理学研究法入門―調査・実験から実践まで―」東京大学出版社、2001
・松井豊「改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社、2010
・小塩真司ほか「心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ」金子書房、2015
・戸田山和久「新版 論文の教室―レポートから卒論まで」NHKブックス、2012
・河野哲也「レポート・論文の書き方入門 第三版」慶応大学出版会、2003

・山田剛志ほか「よくわかる心理統計 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ)」ミネルヴァ書房、2004
・南風原朝和「心理統計学の基礎―統合的理解のために (有斐閣アルマ)」有斐閣、2002
・小塩真司 「SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第4版―因子分析・共分散構造分析まで」東京書籍、2023

・小塩真司ほか「心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ」金子書房、2015
・ 同 「研究事例で学ぶSPSSと Amos による心理・調査データ解析 第3版」東京書籍、2020
・石村光資郎「SPSSでやさしく学ぶ統計解析 第7版」(東京書籍)、2021
同 「SPSSによる統計処理の手順 第10版」(東京書籍)、2023
・石村友二郎「SPSSでやさしく学ぶアンケート処理 第5版」(東京書籍)、2020
・ 同 「SPSSによる心理分析のための統計処理の手順」(東京書籍)、2024
・ 同 「SPSSによるアンケート調査のための統計処理 第2版」(東京書籍)、2025
・堀洋道ほか「心理測定尺度集Ⅰ～Ⅵ」サイエンス社.
など

課題に対するフィードバックの方法

全体ゼミ及び個人指導時などにおいて、口頭または添削などの形でフィードバグを行う。

成績評価の方法

「全プロセス」における卒論への取り組み姿勢や進捗状況などを、総合的に考慮して評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 義高	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて, 各自が研究テーマを設定し, 実証的なデータを収集, 分析し, それに基づいて研究内容に考察を加え, 論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅰでは, 各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論します。卒論指導授業でのこれらの作業を通じて, 各自は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考えます。各自の授業では, 研究の進捗状況を資料にまとめて, 報告することが求められます。

第1回 卒業論文のまとめ方に関する留意事項の説明
第2回～第4回 各学生の研究テーマとその設定理由についての発表
第5回～第 13 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 14 回 今後の研究の進め方についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に, 所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は, 研究内容だけでなく, 卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり, 十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められます。また, 実証的なデータを収集するにあたり, 調査や実験等の方法について, 十分な指導を受けておく必要があります。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。

成績評価の方法

進捗状況や卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡安 孝弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、これまでの講義、演習、実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて、各自が研究テーマを設定し、実証的なデータを収集、分析し、それに基づいて研究内容に考察を加え、論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅰでは、各自が選んだテーマに即して関連する資料、事例、研究論文などの文献を収集・整理し、問題の所在、アプローチ、分析視点などを検討し発表、討論します。卒論指導授業でのこれらの作業を通じて、各自は問題意識・研究の深化をはかるとともに、論文の章・節などの構成を考えます。各回の授業では、研究の進捗状況を資料にまとめて、報告することが求められます。

第1回 卒業論文のまとめ方に関する留意事項の説明
第2回～第4回 各学生の研究テーマとその設定理由についての発表
第5回～第 13 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 14 回 今後の研究の進め方についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文、未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に、所定の日時に口頭試問があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は,研究内容だけでなく,卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら,各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり、十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められます。また,実証的なデータを収集するにあたり、調査や実験等の方法について、十分な指導を受けておく必要があります。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各学生による卒業研究計画および研究結果の発表時に、今後の論文作成の進め方について個別に検討する。

成績評価の方法

進捗状況や卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 尚子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて, 各自が研究テーマを設定し, 実証的なデータを収集, 分析し, それに基づいて研究内容に考察を加え, 論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅰでは, 各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論します。卒論指導授業でのこれらの作業を通じて, 各自は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考えます。各回の授業では, 研究の進捗状況を資料にまとめて, 報告することが求められます。

第1回 卒業論文のまとめ方に関する留意事項の説明
第2回～第4回 各学生の研究テーマとその設定理由についての発表
第5回～第 13 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 14 回 今後の研究の進め方についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に, 所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は, 研究内容だけでなく, 卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり, 十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められます。また, 実証的なデータを収集するにあたり, 調査や実験等の方法について, 十分な指導を受けておく必要があります。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に直接, または Oh-o!Meiji を通してフィードバックする。

成績評価の方法

進捗状況や卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
濱田 祥子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて, 各自が研究テーマを設定し, 実証的なデータを収集, 分析し, それに基づいて研究内容に考察を加え, 論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅰでは, 各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論します。卒論指導授業でのこれらの作業を通じて, 各自は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考えます。各回の授業では, 研究の進捗状況を資料にまとめて, 報告することが求められます。

第1回 卒業論文のまとめ方に関する留意事項の説明
第2回～第4回 各学生の研究テーマとその設定理由についての発表
第5回～第 13 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 14 回 今後の研究の進め方についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に, 所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は, 研究内容だけでなく, 卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり, 十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められます。また, 実証的なデータを収集するにあたり, 調査や実験等の方法について, 十分な指導を受けておく必要があります。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

発表に対して授業内でコメントをする。

成績評価の方法

進捗状況や卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。
卒業論文指導にあたる教員は, 3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)
本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。
(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)菅農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 公開卒論審査において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)
各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)
春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:
○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。
○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。
○卒業論文の提出後に, 所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。
①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。
②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び, 、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 公開卒論審査において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 公開卒論審査, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は,これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は,3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 公開卒論審査において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び、、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 公開卒論審査において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 公開卒論審査, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は,これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は,3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 公開卒論審査において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び、、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 公開卒論審査において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 公開卒論審査, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は, 3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 参考文献の掲示の方法をはじめとする学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 卒論発表会・審査会において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に卒論発表会・審査会がある。現代社会学専攻 1 年～3 年の学生が参加する、公開審査会である。論文内容のほか、当日の発表や応答などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び, 、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 卒論発表会・審査会において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 卒論発表会・審査会, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大畑 裕嗣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は, 3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 公開卒論審査において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び, 、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 公開卒論審査において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 公開卒論審査, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文には大きく言って二つの意味がある。一つは、これまでの人生の中で起こったこと、自ら考えたこと、学んだことを一度整理して、自分とは誰なのか、自分と他の人々、他の諸事物との関係はどのようなものなのか、今後、自分は、自分の周囲は、世界はどうなるべきなのか、を思考することである。第二は、どのような職業に就こうとも最も大事な課題となるであろう、人を納得させうるような文章を綴る術を習得することである。春学期の卒論指導では、この二つの目標を銘記してもらった上で、考えるべき主題をこちらから提示する。

授業内容

①卒業論文の形式、特に引用箇所の処理ついて説明する。
②受講者各人の現時点でのテーマについて発表してもらう。
③それを承けて、担当者から、関連テーマ、関連文献を提示する。
④担当者の話を踏まえて、再度、受講生各人の卒業論文テーマ、その問題点な乳について発表してもらう。

履修上の注意

①何よりも自分自身の人生を振り返り、何が起こっていたのか、自分とは、自分の周辺とは、世界とは何かについて不断に思考することが重要である。
②その上で、講義で提示されたものを柔軟に受容すること。
③必要な文献や資料については、安易な道を選ばず、自ら手を尽くして探し出すこと。
④理解し、理解されることに関して、繊細な感性を養うこと。
⑤様々な言語への生き生きとした関心を失わないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に必要ない。

教科書

特定の教科書は使用しない。必要な資料はその都度配布する。

参考書

参考書は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各受講生の卒論準備状況に応じてその都度指導を行う。

成績評価の方法

講義内での発表、講義への積極的参加100%。

その他

科目ナンバー:(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業は卒業論文の完成に向け、必要とされる情報や知識を提供するものである。

授業内容

卒業論文で取り扱う予定のテーマに沿い、参加者それぞれが文献を選択し、講読し、内容を論文として纏めるための準備を行う。
春学期のスケジュールは以下である。

4月:テーマの確認と文献の選定
5月:文献講読
6月・7月:卒論に向けた中間発表

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

各自、自身の選択した文献をどのようなスケジュールで講読するのか、まずは計画を立ててほしい。その後、計画を参加者全員で共有のし、計画通り読み進め、纏める作業を行えるよう、各自に準備作業をお願いしたい。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

レスポンスペーパーに書かれたいくつかの見解に対し毎回次回授業の際にコメントと共に紹介、フィードバックを行う。

成績評価の方法

授業への参加態度:70%
中間報告:30%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

大学での学びの集大成として、担当教員と相談しながら、また他の履修者からの意見も参考にしながら執筆を進め、卒業論文を完成させる。最新の研究蓄積を踏まえつつ、新しい知見を論理的・説得的に提示できるような論文を完成させることが目標である。

授業内容

第1回 テーマの決定
第2回 一次資料の精読1
第3回 一次資料の精読2
第4回 一次資料の精読3
第5回 一次資料の精読4
第6回 一次資料の精読5
第7回 一次資料の精読6
第8回 一次資料の精読7
第9回 二次資料の検討1
第10回 二次資料の検討2
第11回 二次資料の検討3
第12回 二次資料の検討4
第13回 構成を考える1
第14回 構成を考える2

履修上の注意

事前のアンケートに基づき，許可を受けた学生のみ履修できる。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当教員の指導のもと、文献の調査・読解など各自の課題に積極的に取り組むこと。

教科書

なし。

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でおおよその講評を行い、細かい指摘については，Oh-o! Meiji を通して行う。

成績評価の方法

卒業論文執筆に至る途中経過での取り組み 20%、中間報告 10% 、卒業論文に対する評価 60%、面接に対する評価 10%。
科目としては，「卒業論文 I」および「卒業論文 II」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ゼミでの発表や相互の応答を通じて、20,000 字以上の卒業論文を執筆します。
卒業論文自体だけでなく、卒業論文を仕上げるまでの過程での、自身の発表、他の受講生の発表への応答、予備論文への取り組みも評価の対象とします。
卒業論文の指導はゼミの開講時間でのみ行います。

授業内容

1. 春学期の流れの説明、成績評価の方法、春休みの課題の提出について
2. 卒論研究会：卒業論文とは何であり、何をする必要があるのか(春休みの課題をもとに各自発表、ディスカッション)、各回の役割分担の決定
3. 春休みの課題に対する講評(各自)
4. 卒論構想発表会の説明：発表のやり方、注意点、質問受付
5. 卒論構想発表会(1)：発表2名(コメンテーター2名、プロトコラント2名)
6. 卒論構想発表会(2)：[前半] プロトコルの確認、[後半]発表2名(コメンテーター2名、プロトコラント2名)
7. 卒論構想発表会(3)：[前半] プロトコルの確認、[後半]発表2名(コメンテーター2名、プロトコラント2名)
8. [前半]プロトコルの確認、[後半] [5]-[7]の振り返り(フォーマットに沿って発表)
9. 卒論構想発表会(4)：[前半] 発表2名(コメンテーター2名、プロトコラント2名)[後半] 作業
10. 卒論構想発表会(5)：[前半] プロトコルの確認、[後半]発表2名(コメンテーター2名、プロトコラント2名)
11. 卒論構想発表会(6)：[前半] プロトコルの確認、[後半]発表2名(コメンテーター2名、プロトコラント2名)
12. [前半] 前回のプロトコルの確認、[後半] [9]-[11]の振り返り(フォーマットに沿って発表)
13. 予備日
14. 夏休みの課題(予備論文)の確認、秋学期への展望

履修上の注意

・事前に発表されたクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に学生が準備した成果物がなければ、担当教員の指導や他の受講生のレスポンスは不可能になります。そのため、学生は必ず成果物を用意して授業に臨まなければなりません。

教科書

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK 出版

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

授業内発表 20%
発表への応答 10%
卒業論文 60%(予備論文の評価を含む)
口頭試問 10%

3/2 以上の出席が必要。5 回以上欠席した場合、単位認定の対象から外れる。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
生方 智子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学

2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)

3)牧野淳司:中世文学

4)杉田昌彦:近世文学

5)田口麻奈:近現代文学

6)竹内栄美子:近現代文学

7)生方智子:近現代文学

8)小野正弘:国語学

9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学

10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学

2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)

3)牧野淳司:中世文学

4)杉田昌彦:近世文学

5)田口麻奈:近現代文学

6)竹内栄美子:近現代文学

7)生方智子:近現代文学

8)小野正弘:国語学

9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学

10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行なわれることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、国語学の場合、研究の構想を発表する。具体的には、テーマ・目的・方法・先行研究・現時点での問題点等について発表して、受講生からの意見等も受ける。

1. 全体的ガイダンス、発表スケジュール決定
2. 受講生発表(1～10)
3. 構想発表後の経緯報告(1～2)
4. 春学期まとめ

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

国語学の場合、基本的に、毎回全員出席したかたちでの授業となる。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。国語学の場合は、横書きも普通に認める。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に Oh-o! Meiji システムから提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

特に設けない。構想発表の際は、全員分の資料を印刷して配布する。

参考書

衣畑智秀編『基礎日本語学 第二版』(ひつじ書房) 自分の分野と関連する章は、読みこんでおくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山崎 健司	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考書

必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
杉田 昌彦	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

○授業形式(杉田)

・最初数回対面式授業(もしくは教室でのリアルタイムオンライン授業)を行い、履修生確定次第、履修生各人の対面授業履修状況をもとに、リアルタイム型オンライン授業が実施可能な曜日時間帯を模索する(基本的に水曜1時限～2時限)。また、状況によっては、学期中に対面授業に移行することを視野に入れる可能性もある。

☆授業担当教員が25年度に引き続き本年度も就労特別配慮対象者であるため、上記のようにオンラインでの授業を基本としたいと考えております。その点を了解した上で授業を履修してください。

☆水曜1限の授業時のみならず、水曜2限の授業時間帯にも授業を予定しております。履修者は、必ず水曜2限の時間帯も受講できるようにしておいてください。3時限以降の他の授業への移動時間を配慮して「卒業論文Ⅰ」の授業を行う予定です。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

○授業内容(杉田)

・まず、提出された卒業論文テーマ調査票に即して論文作成相談の後、専門分野ごとにグループ分けを行い、その後グループ別に指導を行う。授業後半(6月中旬以降)に春学期の中間発表を各自1回ずつ行う。

※授業内容の詳細については、昨年12月19日に行った卒論ゼミガイダンスおよびその配信動画で説明した通りです。授業の初回にもう一度説明します。

・オンライン授業の場合、授業前日までに授業資料の UP と、ミーティングの招待(zoomlive の場合。「授業に関するお知らせ」で通知)を行う予定。

・レポート機能に、「質問・相談フォーム」を作成し、そこで質問と相談を受け付ける。

※この辺りについても詳細は、初回授業において説明・相談します。4月15日(水)の初回授業には必ず出席してください(当該教室での対面授業もしくは教室でのリアルタイムオンライン授業を予定)。➡リアルタイムオンライン授業に備えて、各自 ZOOM に接続するためのパソコン等を教室に持参してください。

※zoomlivemeeting に対応可能な通信環境を準備しておいてください。

※zoomlivemeeting 参加時には、必ず本名のフルネームで参加してください。

※必要事項は随時、Oh-o!Meiji クラスウェブの「授業に関するお知らせ」で連絡。確認を欠かさないようにしてください。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

授業中適宜指示する。

参考書

授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に適宜指示する。

成績評価の方法

(卒業論文Ⅰ)卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

(卒業論文Ⅱ)卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内　栄美子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学

2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)

3)牧野淳司:中世文学

4)杉田昌彦:近世文学

5)田口麻奈:近現代文学

6)竹内栄美子:近現代文学

7)生方智子:近現代文学

8)小野正弘:国語学

9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学

10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭　南燕	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学

2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)

3)牧野淳司:中世文学

4)杉田昌彦:近世文学

5)田口麻奈:近現代文学

6)竹内栄美子:近現代文学

7)生方智子:近現代文学

8)小野正弘:国語学

9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学

10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このクラスでは、ゼミナール・発表会などを通じて、卒業論文の作成を目指します。より具体的には、卒業論文の作成手順から始め、トピックの設定、研究計画の設定へと進めていきます。

授業内容

1. 卒業論文へのイントロダクション
2. 卒業論文の作成手順(1):トピックの設定の仕方
3. 卒業論文の作成手順(2):データ収集の方法
4. 卒業論文の作成手順(3):データー般化の方法
5. 卒業論文の作成手順(4):分析提示の方法
6. 卒業論文の作成手順(5):議論提示の方法
7. 卒業論文の作成手順(6):卒業論文の構成
8. トピックの設定
9. 研究計画の設定
10. データの収集
11. データの整理
12. データの一般化
13. 分析の提示
14. 中間発表会とフィードバック

履修上の注意

英語学科目でこれまで学習した内容を再度確認しておいて下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題を解決しながら、段階的に進めて行くようにして下さい。

教科書

使用しません。

参考書

各自のトピックに関連のある書籍・論文
　英米文学専攻英語学セクション HP の「卒業論文の書き方」

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する

成績評価の方法

トピックの独創性 35%、研究計画の妥当性 35%、中間発表会 30%

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年次演習(英米文学演習 III)でカバーした論文作成法をベースに卒業論文を完成していきます。

英(語)文学テクスト分析、英国文化、映画と小説(アダプテーション)の比較、美術・芸術と文学作品から絵本・アニメなどの「テクスト」を(関連する理論フレームワークをできるだけ援用しながら)分析・考察したものを完成してもらいます。重要なのは、各自ができるだけ主体性を持って執筆を進めること、「自分の」論文として、オリジナリティのある卒業論文を書くことを目指します。

春学期の目標は、1)論文主題を確定、最終決定し、2)アウトライン(仮)を設定、3)序論(rough draft)を書き、4)「本文」の 3 分の1程度の rough draft が仕上がっていることです。また春学期のうちに参考文献 References を集中して探すこと。またその中でも最も重要性の高い Key reference を最低1冊できれば数冊確保してから夏休みを迎えてほしいと思います。3)4)に対するコメント、ピアフィードバックを参考に、夏休み中に書ける部分をどんどん書き進めてもらいます。夏休み明けには、日本語論文8ページ程度、英語論文の場合はダブルスペースで10ページ程度の rough draft を提出してもらいます。

授業内容

(1) 卒論主題報告会
(2) 卒論主題最終決定
(3) 図書館ツアー(Assignment-1: 主題文 Thesis statement 提出)
(4) 個人面談－1
(5) 個人面談－2
(6) 個人面談－3
(7) 進捗報告会 －1(Assignment-2: Provisional Outline/Introduction 提出、Key reference(s) 報告)
(8) 個人面談－4
(9) 個人面談－5
(10) 個人面談－6
(11) グループ面談 (Assignment-3: Revised Outline/Introduction 提出、Additional references 報告)
(12) 個人面談－7
(13) 個人面談－8
(14) 進捗報告会－2(Assignment-4: Revised Outline/Introduction and rough draft、References 提出)

履修上の注意

執筆言語については日本語・英語どちらでも構いません。毎年3、4名の履修者が英語で論文を書きますが、教員免許の取得を目指している履修生については、原則英語論文でお願いしています。書式は原則 MLA 方式を採用しますので、MLA Handbook もしくは下記の参考書をいずれか1冊入手してください。

卒業論文執筆というと「厄介な作業」だと思う人もいるかもしれませんが、このクラスではその「苦痛」をできるだけ軽減すべく執筆のステップごとに締め切りを設けます。卒業論文は、最終的に期日通りに提出することが最も重要ですが、このクラスでは執筆の「プロセス」も同様に評価します。指示されたドラフトを期日通りに提出し、中間報告会には必ず出席し、積極的に授業参加(プレゼンテーション、Peer Feedback など)することが卒論完成への最短ルートです。うまく執筆が進んでいない場合こそ、休まず授業に出席するようにしてください。教員の指導だけでなく、他の履修生との意見交換の場としても貴重な機会となります。個人面談については、学期中1人最低2回の参加義務とします。

例年、主題決定にかなり時間がかかるケースがありますが、ある程度のところで確定し、比較的時間と精神的に余裕がある春学期のうちにしっかりと参考文献検索を行っておいてください。アウトラインについては常時、見直しが必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

提出ドラフトについては授業中に Peer Feedback を行います。これをより効果的なものにするため、指示された「卒論ドラフト提出用紙」に必要事項を記入して授業時に提出してください。また、個人面談の際には「質問シート」(Tutorial Record)に記入し、必ず持参してください。一人当たりの時間が限られていますので質問や問題点はまとめてから面談に臨んでください。

教科書

参考資料等、ハンドアウトを配布。

参考書

『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書、2018.
Edward Corbett and Sheryl Finkle.The Little English Handbook(8th ed.). Longman, 2010.
Kluge, David and Matthew Taylor.Basic Steps to Writing Research Papers. (2nd ed.) Cengage Learning, 2018.

課題に対するフィードバックの方法

メール・個人面談及び場合によってはドラフト郵送の形でフィードバックします。

成績評価の方法

Assignments 1-4 80%
個人面談　20%

その他

卒業論文は完成稿が「すべて」ではありません。執筆の経過、つまりデータ収集、分析、考察などのプロセスがあってこその完成稿です。中間報告会での発表や出席、個人面談に対する取り組みやドラフト提出など「ひとつひとつ」すべてのステップが納得のいく「自分の」論文の完成につながります。

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
久保田 俊彦	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

計量言語学、コーパス言語学に関する知識を背景とし、、テキスト(映画スクリプト, 小説, 脅迫状等, データ化できるものならなんでも使用可能)をデータとし、数量的に分析する論文の作成を行う。分析対象となるテキストへの理解、丁寧なデータ化が特に大事である。質、量ともに論文執筆に適したデータの作成を目標とする。また、今までにない情報、今までとは異なる情報を含む論文とするために、適切な先行研究を探し、内容を把握しておく必要がある。Blatt (2017) には小説を対象とする場合のヒントが多く含まれている。また APA の Publication Manual は執筆の際の事典的な使い方だけでなく、通読しても参考になる点が多いはずである。

授業内容

次のような進行を予定している。
1.データと方法に関する概論
2.論文とは
3.論文にふさわしいテーマ
4.論文を読む(1)
5.論文を読む(2)
6.論文を読む(3)
7.先行研究の扱い
8.手法の選択
9.文献の管理法
10 データの構築
11 データの構築
12 データの構築
13 データの構築
14 中間発表

履修上の注意

論文の構想、分析データの準備に十分な時間を割くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

「生田仮想デスクトップ PC」を利用し、予習・復習を行なうこと。

教科書

鹿島茂 (2004)『勝つための論文の書き方』東京: 文藝春秋.
上野千鶴子 (2018)『情報生産者になる』東京: 筑摩書房.

参考書

Wray, A. and Bloomer, A. (2012) (eds.) Projects in Linguistics and Language Studies (3rd edition). Abingdon : Hodder Arnold.

American Psychological Association. (2020). Publication Manual of the American Psychological Association (7th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

レポート, 発表等 80% 授業への貢献度 20%

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆のため、テーマを明確にし、先行研究を集め、議論の組み立て方を学び、定められた書式・スタイルに従ってアイデアをまとめるための方法論を確認します。前期ではテーマをまずは決めていきます。個別指導を経て中間発表までをクリアできるよう一歩ずつ進めていきましょう。後期では、テーマに沿って議論を組み立てながら、先行研究に対して自身の論をどのように位置づけるのかを明らかにしていきます。論文執筆とは、自分の考えを他人が理解できるよう説得的に伝える、という単純ながら難しい作業です。こうしたスキルは卒論のためだけではなく、卒業後も重要な意味をもちます。

授業内容

以下の流れで進めていきます。進捗状況に応じて、多少の変更が生じる可能性があります。

1. 卒論執筆という作業の意義について
2. テーマの例を確認
3. テーマの決め方について
4. 扱う作家・作品・テーマについて
5. 扱う作家・作品・テーマについて、より明確に
6. 先行研究さがし
7. 先行研究さがし、最初のまとめ
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. アウトライン発表
12. アウトライン発表
13. アウトライン発表
14. 秋学期に入るまでの流れについて

履修上の注意

ひとつのアイデアからどのように考えを発展させることができるか、色々な角度から物事をみるよう意識してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文執筆は書くのと同じ程度、削る作業が重要です。書いては直し、の作業を繰り返してよいものを仕上げてください。

教科書

無し。必要な資料は配布します。

参考書

必要に応じて紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容を翌週取り上げ、コメントする。

成績評価の方法

出席 10%、発表と提出物 20%、卒業論文 70%

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語で書かれた文学・文化テクストについて研究論文を書く技術を学び、卒業論文として完成させる。ある対象(具体的には文学・文化テクスト)に自分なりの問題意識を持ち、自分の「問い」から主題を見つけ出し、その「問い」への答えを探求するための具体的な方法を設定し、調査し、調べた資料に基づいて自分の考察を発展させ、考察した内容を他人に分かるように文章化する。このプロセスを学び身に付けるのが卒業論文授業の主目的であり、履修者が将来どの分野に進んでも、何に対しても独自の問題意識を持ち、深く多角的な考察をし、その考察を他者＝世界に言葉で発信する思考力を磨くことは必須だろう。

授業内容

主題の設定、対象とするテクストの選定、自らの「問い」への答えを見出すための調査方法の説明から始まり、各自が調査・考察した内容のレポートと文章力についての具体的な個人指導を中心に、年三回の中間報告発表会を通して、互いに批評し合い、論考を深め、最終的に卒業論文を執筆、完成させる。また研究論文に必要な書式についても学ぶ。(書式の統一は、形式主義ではなく、他者と知的財産を共有するために必要なものだ、と理解しましょう。)

＜授業予定＞

1～2. 研究論文とは？(感想文的なエッセイとはどう違うのか？)

3～4. 主題の設定、調査方法の確立。 プロポーザル+Working Bibliography の作成。

5～10. 各自の調査・考察レポートに基づく個人指導

11～13. 春学期末発表会(中間報告発表会Ⅰ)

14. 発表に基づく改善点。夏休みの研究計画。

履修上の注意

履修者へ：学生の皆さんが主体となる授業です。自分の問いへの答えはどこにも用意されていません。自分で模索し、自分で調査して執筆しなければ、論文は出来上がりません。このかけがえのない機会を楽しんで、良い論文を完成させましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

クラス共通の課題の他、各自の調査が主体となる。個人面談の度に、レポートを提出すること。

教科書

発表の際の配布資料は各自が用意すること。

参考書

MLA Handbook for Writers of Research Papers 最新版を参照のこと。 その他、授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

研究途上でのレポート、卒論草稿が提出されるたびに、添削指導します。

成績評価の方法

研究論文個人指導ならびに中間報告発表を中心とする授業への取り組み 20%、中間報告発表会Ⅰにおける発表・草稿(提出する卒業論文の土台となるレポート)80%。

その他

科目ナンバー：(AL)IND412E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In this course, students will write a thesis—a research paper of over twenty-five double-spaced pages in English on a work of literature in the English language. Students will be encouraged to choose the work and topics on which they focus, although guidance will be given by the instructor.

授業内容

1, Introduction to class
2.Choosing a research topic
3.Student discussions of thesis topics
4.What is a thesis?
5.What is plagiarism?
6.Student presentations on thesis topics
7.Building a bibliography
8.Submission of section one of thesis
9.How to use the library
10.How to use computer resources
11.Submission of section two of thesis
12.How to read and write about a text
13.Submission of section three of thesis
14.Discussion of progress in term thus far
15. Plan for next term

履修上の注意

Students must be able to read texts in English and to write about them in English. They must also be enthusiastic about engaging in a longer research project.

準備学習(予習・復習等)の内容

During classes and tutorials, students will be guided through the writing process and introduced to core research skills. Students will give regular presentations on their progress, responding spontaneously to questions from the instructor. Students will be given the opportunity to submit drafts of their thesis before final submission. Those seeking a high grade are advised to submit work on time and to respond positively to feedback.

教科書

Students should have a copy of the following for consultation : MLA Handbook for Writers of Research Papers (The Modern Language Association of America, 2016) eighth edition, ISBN-10: 890072021X, ISBN-13: 978-8900720211. Either paper or Kindle format. All further reading will be provided in class.

参考書

All additional reading provided in class.

課題に対するフィードバックの方法

To be explained in class.

成績評価の方法

The final grade is based on the thesis but may also be altered due to poor attendance or inadequate preparation for class. If there is any provable plagiarism detected in your thesis, you will receive a failing grade for the class.

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業の大きな目標は、卒業論文を完成させることです。そのためには、対象を正確かつ創造的に観察し、他人の意見とも照らし合わせながら、自分の思考を増殖させること、さらには、自分の考えを効果的な文章に編み上げることまでが必要となります。これらはアカデミックな目的だけでなく、卒業後の仕事にも間違いなく役立つスキルです。

授業内容

以下の流れに沿って進みますが、人数・進捗状況などによって変更が生じる可能性があります。

01. イントロダクション
02. 対象の選定、観察メモの作りかた
03. 先行研究の探しかた(1)
04. 先行研究の探しかた(2)
05. 進捗状況の報告
06. 個別指導(1)
07. 個別指導(2)
08. 個別指導(3)
09. 個別指導(4)
10. 個別指導(5)
11. 中間発表 I(1)
12. 中間発表 I(2)
13. 中間発表 I(3)
14. 夏の計画

履修上の注意

卒業論文で何よりも大事なのは、みなさんの主体性です。自分で考え、調べ、書かなければ論文は決して完成しません。しかし、少しずつでも考え続け、調べ続け、書き続けてゆけば、いずれ完成します。がんばっていきましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

詳しくは授業中に説明しますが、絶えずメモを更新しつづけ、少しずつでも書きつづけてください。

教科書

使用しません。必要な資料があれば配布します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中または個別指導においてコメントします。

成績評価の方法

授業参加点(普段の取り組みなど)30%
中間発表・草稿 70%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。就職活動などで欠席する場合は事前に連絡してください。

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田 麻里子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

物事を自分の頭で考え、自分の言葉で表現するという訓練を積み、卒業論文を完成させることが目的です。次のような工程(行程)をたどります。

まず、ひとつの作品(もしくは、ひとりの作家)を選ぶこと。そのためには、すでにある程度の数の作品を読んでいなければなりません。
次に、テーマ探しです。簡単に言えば、その作品において解き明かしたいことは何か、自分自身にとっての「問い」を立てます。漠然と読んでいては、「問い」を意識することはできないかもしれません。線を引いたり、付箋を付けたりしながら、何度も読み返すことが必要です。そこに何が描かれているかだけでなく、どのように描かれているかにも注目していきます。

そのかたわら、参考文献を集めます。さまざまな資料に触れているうちに、自分では予期していなかった方向性が現れてくるかもしれません。逸脱や脱線を楽しみつつ、最終的には自分のテーマに帰還するのを忘れないでください。もしかしたら、テーマが変わることもあり得ます。いずれにしても、(卒業)論文執筆というのは、自分の問いに対し、自分で答えを出していくことです。思考と言葉は切り離せません。したがって、初めに書いたように、自分自身の言葉にも敏感になること、意識的に言葉を鍛え上げること、これが当ゼミの到達目標です。

授業内容

(1) 「卒業論文」とは何か／初回レポート(各自で作品を選ぶ)
(2－4)レポートの発表(合評会)／テーマの設定について
(5･6)調査方法、資料(文献)の収集について確認／課題図書についてレポート
(7－9)レポートの発表(合評会)／課題図書について補足(再読・解説)
(10－12)計画書(章立て)提出／「イントロダクション」作成／個人面談
(13･14)春学期のまとめ～「イントロダクション」発表会／夏休み中に「第1章」の執筆

履修上の注意

以下、学生の皆さんに与えうる最大の助言、且つ、警告です。

授業にほとんど出席せず、中間報告もせず、いきなり冬休みから執筆を開始するというのは、恐怖との闘いであり、凄まじい体力が要ると(経験上)断言できる。それなりの、というか、低レベルの ecstasy は体験できるかもしれないが、経験の質から言っても、成績評価の点から言っても、決してお勧めしない。早い話、つまらぬ「武勇伝」となるだけである。

準備学習(予習・復習等)の内容

できるだけ早く、卒業論文で取り上げる作品を決めること。そのためには、多くの作品に触れておく必要があります。
以下は、卒業論文でよく取り上げられる作品です(数字は初版発行年度)。まずは日本語で構わないので、少しずつ読んでおきましょう。

ジェイン・オースティン『分別と多感』1811 年、『自負と偏見』1813 年
メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』1818 年
エミリー・ブロンテ『嵐が丘』1847 年
シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』1847 年
チャールズ・ディケンズ『オリバー・ツイスト』1838 年、『二都物語』1859 年、『大いなる遺産』1861 年
ジョージ・エリオット『サイラス・マーナー』1861 年
ロバート・ルイス・スティーヴンソン『宝島』1883 年、『ジキルとハイド』1886 年
オスカー・ワイルド『ドリアン・グレイの肖像』1890 年
トマス・ハーディ『テス』1891 年、『日陰者ジュード』1895 年
ジョセフ・コンラッド『闇の奥』1899 年、『ロード・ジム』1900 年
E・M・フォースター『眺めのいい部屋』1908 年、『モーリス』1971 年(死後出版)
サマセット・モーム『人間の絆』1915 年、『月と六ペンス』1919 年
ヴァージニア・ウルフ『ダロウェイ夫人』1925 年、『灯台へ』1927 年
オルダス・ハクスリー『すばらしい新世界』1932 年
ジョージ・オーウェル『一九八四年』1949 年
ウィリアム・ゴールディング『蠅の王』1954 年
マーガレット・ドラブル『碾臼』1976 年
カズオ・イシグロ『日の名残り』1989 年、『わたしを離さないで』2005 年

教科書

必要に応じて、資料を作成またはコピーし、配布します。

参考書

必要に応じて紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点 40%:
授業への参加姿勢(発表、発言、リアクションペーパー)、ならびに、卒業論文完成までの取り組み(レポートや草稿の内容・提出状況)などから判断します。

2. 最終的に提出された卒業論文 60%:
(注1)他人の文章の盗用・剽窃を行った論文、または、生成 AI から得た内容(生成 AI の出力結果)をそのまま記載した論文は、当然のことながら、不合格となります。
(注2)論文完成までに、担当教員に一度も草稿を提出せず、面談も受けないという事態にならないよう、各自、十分注意してください。

その他

1. 英語の原書は早めに入手しましょう。

2. 原文を引用し、日本語訳をつけるときは、翻訳本を丸写しにせず、自分の訳をつけること。

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このセミナーの目標は、文学作品の読み方・テーマの絞り方・論理的な文章の書き方・先行研究の調査方法・文学理論などを学びながら、アメリカ文学に関する卒業論文を完成させることである。

前期は卒論の書き方を確認しつつ、卒論で取り上げる作品をくりかえし精読し、作品世界と歴史的・文化的背景をまとめたレポートを作成する。また、そのレポートに基づき、テーマと章立てを紹介し、場面の考察を展開した発表報告を行う。

後期は先行研究の調査を進め、自らの読みを相対化し深めながら、卒業論文を仕上げる。各々のテーマに即して文学作品を論理的な文章で論じ、人間と文化に関する認識の地平を拡げていく。

授業内容

発表・討論・レポートを通して、人間と世界を批評する力を養う。4年間の集大成として卒業論文を書き上げる。

第1回:シラバス確認、担当者決め、卒論規定の確認
第2回:作品・テーマの確認、文学作品の読み方、テーマの絞り方(情報の整理)
第3回:論理的な文章の書き方、引用の仕方
第4回:「図書館 資料検索」
第5回:自分の扱う作品とテーマの紹介
第6回:自分の扱う作品とテーマの紹介
第7回:作品研究、小論の読み合わせ
第8回:文学理論を学ぶ
第9回:文学理論を学ぶ
第 10 回:文学理論を学ぶ
第 11 回:テーマ研究
第 12 回:卒論中間発表
第 13 回:卒論中間発表
第 14 回:卒論執筆個別指導(夏に向けて)

履修上の注意

日々、卒論であつかう作品、作家、テーマについて考えてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

アイデアを書きとめ、文章で表現する訓練を積み重ねてください。

教科書

プリントを配布します。

参考書

『MLA 英語論文の手引』最新版 北星堂書店
『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』竹内理矢・山本洋平編 ミネルヴァ書房(文学史、作家・作品・テーマ研究)
『アメリカ文学史』入門 全三巻 補遺版 渡辺利雄著 研究社(作家と作品の紹介)
『アメリカ文化―55 のキーワード』野田研一他編 ミネルヴァ書房(アメリカ文化の紹介)
『新文学入門』大橋洋一著 岩波書店(文学理論の解説)

課題に対するフィードバックの方法

卒論の添削を行い、コメントをします。

成績評価の方法

出席・討論への参加度(30%)、レポート(20%)、発表(30%)、卒論への意欲と執筆(20%)
各学期、欠席を5回以上した場合、単位は認めない。遅刻・早退合計3回につき1回の欠席とする。原則として授業開始 20 分以降の入室は認めない。就職活動で欠席する場合は、事前連絡(メール)と証明書提出が求められる。

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ゼミナールおよび個人面談を通じて、卒業論文の作成を目指します。具体的には、3年次までに学習した英語(あるいはそれ以外の言語)の音声に関する知識を背景に、卒業論文のトピックを設定し、音声データの収集・分析方法について検討するなど、論文執筆のための研究計画を立てます。

授業内容

第1回 クラスの概要と計画
第2回 卒業論文の作成手順(1):トピックの設定の仕方
第3回 卒業論文の作成手順(2):データ収集の方法
第4回 卒業論文の作成手順(3):データ分析の方法
第5回 卒業論文の作成手順(4):論文の構成
第6回 トピックの設定(1)
第7回 トピックの設定(2)
第8回 先行研究に関する発表(1)
第9回 先行研究に関する発表(2)
第 10 回 先行研究に関する発表(3)
第 11 回 データ収集(1)
第 12 回 データ収集(2)
第 13 回 収集したデータおよび分析方法に関する議論
第 14 回 中間発表会

履修上の注意

英語学科目でこれまで学習した内容を再度確認しておいて下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題を解決しながら、段階的に進めて行くようにして下さい。

教科書

使用しません。

参考書

各自のトピックに関連のある書籍・論文
英米文学専攻英語学セクション HP の「卒業論文の書き方」

課題に対するフィードバックの方法

発表や課題についてのフィードバックは、主に全体に向けて行う。卒業論文の原稿の一部になるような提出物については、個別に対応する。

成績評価の方法

独創性 20%、先行研究の調査 30%、研究計画 20%、中間発表会 30%

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業のテーマ及び到達目標　卒論を書くための準備をお手伝いします。卒論の構想を練り，資料準備をおこないながら，できるだけ早めに執筆を始動させることが目標です。

　授業の概要　　専門領域・作家・作品：シェイクスピアから現代までの英国演劇，比較演劇，演劇批評，演技受容史，言語身体論。

　関心領域・作家・作品：英語で書かれた演劇，ならびに演劇一般が主ですが，希望卒論テーマにはどんなものでも一応耳を貸します。ただし，参考文献等の裏付けは必ず求めます。それから英米文学なので，英語は読んでもらいます。

授業内容

春学期進行予定は大体以下の通りです。

　4-5月：自己紹介の後，企画会議を続けながら，興味範囲の文献を，あくまで最初の手がかりとして 10 冊以上のリストにまとめて，その文献のノートを見せてもらいます。

　6月：この時点で方向性が決まっていないと苦しいでしょう。方向性は実際に書いてみることからしか見えてきません。またこの段階で，文献の調べ方，引用の仕方，書式などを実際に練習していきます。

　7月：夏休み前までに，日本語であれば 1600 字，英語であれば 600 words くらいで第1章の目論見を必ず提出してもらいます。

　第1回：企画会議段階1　テーマの候補選定
　第2回：企画会議段階2　short reading list（SRL）の作成
　第3回：企画会議段階3　文献解説
　第4回：企画会議段階4　文献解説，もくろみの議論
　第5回：企画会議段階5　新たな文献解説，もくろみの議論，リサーチの仕方の確認
　第6回：一章分の主題設定：リサーチ・ゴールの仮設定
　第7回：リサーチ状況確認，問題点の指摘，展開予測
　第8回：リサーチ状況確認，問題点の指摘，展開予測
　第9回：リサーチ状況確認，問題点の指摘
　第 10 回：執筆開始確認（一章分）
　第 11 回：引用，書式の確認，経過報告発表
　第 12 回：引用，書式の確認，経過報告発表
　第 13 回：引用，書式の確認，経過報告発表
　第 14 回：中間発表

履修上の注意

論文指導はクラス形式で行います。教員だけではなく，卒論を書く同輩にも自分の考えを説明することで，刺激だけではなく，意欲がうまれるのをみてきたからです。ですから，できるだけ毎週来てください。たとえ進捗が芳しくなくても，現在の状況を話し，自分が今いる位置を確認するだけでも，大きな違いがあります。時間はあっという間に過ぎていきます。指導を受けることは，少なくともタイム・マネジメント上極めて重要です（指導の 60%は，いわゆる「お尻を叩く」ことにあるのですから）。就活等で忙しい人もいるでしょうが，卒業論文の研究テーマをはっきりさせ，執筆を精力的に行うことは，就活でも有効です。

準備学習（予習・復習等）の内容

学生さんには以下のフォーマットで卒論を書くように勧めています。
　梗概／イントロ／第1～3章／結論／書誌
　夏休み中：少なくとも第1章を書きます。中間発表（1章の紹介）を学期末ならびに合宿ができるようであればその時にもしてもらいます。

教科書

論文に関する様々な注意書きはよく読むように。プレゼンテーションの体裁（書式，読みやすさなど）は，論文の質を決定する重要な要素であるだけでなく，社会に出てからも常に要求されます。

参考書

文献探しは早めに。英語の原書がある場合には，必ず当たること。引用を行う際に英語の原文（そして日本語で執筆の際はその日本語訳）を出典と共に記すのが，当専攻の卒業論文のルールです。作品はできるだけ早めに，何度も読むこと。一回読んだだけでは論文は書けません。論文で扱う作品は，見極めをつけるのにも，早めに当たっておくことが重要なのです。文献は調べながら書いていく際に芋づる式に出て行きます。面倒くさがらずに，その蔓を辿ることが重要です。もちろんこちらから指示も出します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

指導を受けた学生さんが挙げた成果がそのまま評価対象になります。なお，当然ですが，剽窃は絶対ダメです（卒論が認められないだけではなく，処分の対象になります）。「教えて君」を育てるつもりはありません。

その他

指導中に「これをやればよいですか」，「これをやってもダメですよね」と私に訊いても大概無駄です。卒論指導は，学生の問題発見力と，その自主的な解決力をつけてもらう場ですので，そういう質問には答えません。

科目ナンバー：(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い，その際に生じた疑問点を解決してゆく。
　明確な問いをもち，対象を批判的に考察したうえで，論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

　岡 本 和 子：十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学，思想，および，ベルリン関係
　冨 重 与志生：十八世紀および現代のドイツ文学，近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
　福 間 具 子：近，現代の抒情詩全般、思想（特に言語哲学），ユダヤ系文化
　マンデラルツ，ミヒャエル M.：ゲーテ，ロマン派，写実主義，ユダヤ文学，文化学
　渡 辺 学：日独言語文化，現代ドイツ語の諸相（特にグループ語，若者ことば，造語，慣用句），メディア言語学，異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回：およそ二か月に及ぶ夏休みの間に進めた卒論のテーマの進捗状況について，一人 10 分程度で発表してもらう。その後，卒論のテーマや書き方について相談がある人には個別に対応する。
　第2回から第 13 回：論文の書式についての説明（注の付し方、引用の仕方）を行い，個別面談において具体的な執筆過程で生じた疑問点について解決をはかる。適宜，執筆中の論文についての意見交換も行う。
　第 14 回：完成した卒業論文を読み直し，再度の確認を行う。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち，計画的に勉強を進めること。

準備学習（予習・復習等）の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら，資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが，必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて，適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い、その際に生じた疑問点を解決してゆく。
明確な問いをもち、対象を批判的に考察したうえで、論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

岡 本 和 子:十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、および、ベルリン関係
冨 重 与志生:十八世紀および現代のドイツ文学、近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
福 間 具 子:近、現代の抒情詩全般、思想(特に言語哲学)、ユダヤ系文化
マンデラルツ、ミヒャエル M.:ゲーテ、ロマン派、写実主義、ユダヤ文学、文化学
渡 辺 学:日独言語文化、現代ドイツ語の諸相(特にグループ語、若者ことば、造語、慣用句)、メディア言語学、異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回:卒業論文とレポートの違いといった基礎的、概略的説明を行うとともに、2025 年1月初旬における卒業論文提出までの日程表の説明。併せて、各人の卒論のテーマの早期確立を促す。
第2回以降第 13 回までは、すでに前年度から行っている卒論予備ゼミにおける個人面談を受けて、各人の卒論テーマについて発表してもらう。また、昼休み等の時間を利用して個別指導も行う予定である。
第 14 回は夏休みを控えた、卒論のための資料の収集および読み込みに重要な時期なので、全員かならず出席して今後の方針を明確にするように指導する。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち、計画的に勉強を進めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら、資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い、その際に生じた疑問点を解決してゆく。
明確な問いをもち、対象を批判的に考察したうえで、論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

岡 本 和 子:十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、および、ベルリン関係
冨 重 与志生:十八世紀および現代のドイツ文学、近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
福 間 具 子:近、現代の抒情詩全般、思想(特に言語哲学)、ユダヤ系文化
マンデラルツ、ミヒャエル M.:ゲーテ、ロマン派、写実主義、ユダヤ文学、文化学
渡 辺 学:日独言語文化、現代ドイツ語の諸相(特にグループ語、若者ことば、造語、慣用句)、メディア言語学、異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回:卒業論文とレポートの違いといった基礎的、概略的説明を行うとともに、2025 年1月初旬における卒業論文提出までの日程表の説明。併せて、各人の卒論のテーマの早期確立を促す。
第2回以降第 13 回までは、すでに前年度から行っている卒論予備ゼミにおける個人面談を受けて、各人の卒論テーマについて発表してもらう。また、昼休み等の時間を利用して個別指導も行う予定である。
第 14 回は夏休みを控えた、卒論のための資料の収集および読み込みに重要な時期なので、全員かならず出席して今後の方針を明確にするように指導する。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち、計画的に勉強を進めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら、資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い、その際に生じた疑問点を解決してゆく。
明確な問いをもち、対象を批判的に考察したうえで、論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

岡 本 和 子：十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、および、ベルリン関係
冨 重 与志生：十八世紀および現代のドイツ文学、近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
新 本 史 斉：十九世紀から現代にかけてのドイツ語文学、ヨーロッパ越境文学、翻訳論、および、スイス関係
福 間 具 子：近、現代の抒情詩全般、思想(特に言語哲学)、ユダヤ系文化
マンデラルツ、ミヒャエル M.：ゲーテ、ロマン派、写実主義、ユダヤ文学、文化学
渡 辺 学：日独言語文化、現代ドイツ語の諸相(特にグループ語、若者ことば、造語、慣用句)、メディア言語学、異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回：卒業論文とレポートの違いといった基礎的、概略的説明を行うとともに、2025 年1月初旬における卒業論文提出までの日程表の説明。併せて、各人の卒論のテーマの早期確立を促す。
第2回以降第 13 回までは、すでに前年度から行っている卒論予備ゼミにおける個人面談を受けて、各人の卒論テーマについて発表してもらう。また、昼休み等の時間を利用して個別指導も行う予定である。
第 14 回は夏休みを控えた、卒論のための資料の収集および読み込みに重要な時期なので、全員かならず出席して今後の方針を明確にするように指導する。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち、計画的に勉強を進めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら、資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT432G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

graduate paper writing is carried out, and the question in the time is solved.
The goal is to complete a logical graduate paper with clear questions and critical consideration of objects.

Kazuko Okamoto: German literature, thought, and Berlin from the 19 century to the first half of the 20 century
Yoshio Tomishige: 18 century and modern German literature, modern and contemporary art, architecture, design, crafts, cooking literature, etc.
Fuminari Niimoto: German literature from the 19 century to the modern age, European transboundary literature, translation theory, and Swiss relations
Tomoko FUKUMA: modern and contemporary lyric poetry in general, philosophy (especially linguistic philosophy), Jewish culture
MANDELARTZ MICHAEL M.: Goethe, Romans, realism, Jewish literature, cultural studies
WATANABE MANABU: Japanese-German language culture, aspects of modern German (especially group language, youth language, creation language, idiom), media linguistics, cross-cultural understanding and cross-cultural communication

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20,000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者 と主な専門

奥 香織 舞台芸術・芸術文化(史)、劇文学(戯曲、演出、翻案等)、芸術と社会、文化史
小島 久和 16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子 文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあり ます。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおり です。

4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

1月冬休み明け 卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20,000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし,「論文」だからといっ て、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意 してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

提出物(課題)は添削して返却します。

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者と主な専門

渡辺惟央 20 世紀フランスにおける文学言語論、文学と言語思想の関係、北アフリカを中心としたフランス語圏の文学と社会
奥香織 舞台芸術・芸術文化(史)、劇文学(戯曲、演出、翻案等)、芸術と社会、文化史
小島 久和 16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子 文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあります。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおりです。
4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

〔目標〕
5月～7月 資料収集・読み込み 論文の構成確立
8月 執筆開始
9月 論文の 30%完成
10 月 論文の 50%完成
11 月 論文の 80%完成
12 月 論文の 100%完成
1月 冬休み明け 卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといって、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意 してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

提出物(課題)は添削して返却します。

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者と主な専門

渡辺惟央 20 世紀フランスにおける文学言語論、文学と言語思想の関係、北アフリカを中心としたフランス語圏の文学と社会
奥香織　舞台芸術・芸術文化(史)、劇文学(戯曲、演出、翻案等)、芸術と社会、文化史
小島 久和　16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子　文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあります。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおりです。
4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

1月冬休み明け　卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといって、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意 してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

提出物(課題)は添削して返却します。

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田母神 顯二郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

教員から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

私の専門は、フランス詩、フランス思想ですが、相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。また履修者数を調整させてもらうことがあるのであらかじめご了承ください。

授業内容

初回のイントロダクション(全員参加)を除き、授業は個人指導が中心になります。春学期のおおまかな流れとしては、
1)各自のテーマを仮決定します。
2)それに基づき、資料リストを作成します。
3)またその結果を踏まえ、テーマを絞ったり変更したりします(変わらない場合もあります)。
4)その後で作品や資料の読解作業に入ります。

また、受講者のテーマによっては、フランス語の原典にあたり、フランス語の引用を行うなどのアドバイスをすることもあります。

履修上の注意

注意事項(全てのゼミ共通)
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといっ て、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意してください。
6 卒業論文提出後、1月末から2月初めの間に卒論についての面接試問を行い、それによって最終評価が決定します。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文のテーマを決めるため、必要な文献一覧を中央図書館などを活用して作成しておいてください。

教科書

特になし。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

卒業論文 80% 面接試問 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者と主な専門

渡辺響子 19 世紀フランス小説、文化論
小島 久和 16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子 文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあります。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおりです。
4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

1月冬休み明け 卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといって、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意 してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

提出物(課題)は添削して返却します。

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー:(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

4年間の取り組みの総まとめとして卒業論文の作成・提出を目指した指導を通年で行う。
井上の指導で行う領域は原則として西洋演劇に関わるものとする。

授業内容

春学期
第1回～第3回 卒論テーマ決定, 文献収集の方法ガイダンス, 図書館ガイダンス。
第4回～第 13 回 各自のテーマに基づいて文献収集・資料読解およびその報告。
第 14 回 春学期のまとめ 論文執筆ワークショップ

※受講人数にもよるが, 春学期末か秋学期初頭に(場合によったら合宿形式で)中間発表会を行う。(2025 年度は合宿を行った。)

履修上の注意

執筆までの取り組みを重視するので, 授業にまったく来ないでいきなり提出日に論文を提出するのは認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期は文献収集の仕方をみっちり授業内で指導するので、文献をまず探すことに時間を割くこと。

教科書

授業としては定めない。各自のテーマに応じて必要な文献を指示する。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回参加者同士と教員からのコメントを発表者に提示していく。

成績評価の方法

春学期は文献収集への姿勢が評価の対象となる。文研収集とその読解の都度の報告を 100 パーセント評価基準とする。(ただし秋学期と合わせて単位とする)

その他

上記のように, 原則的に途中経過を定期的に報告することを必須とする。

科目ナンバー:(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文の作成・提出を目標とし, 各自の選定した研究テーマに沿って指導する。
テーマ設定の推奨領域は, 近代以後の演劇、主に欧米演劇。

授業内容

卒業論文Ⅰでは以下のように進める。
1)～5)討論および論文購読―テーマ設定, 構想についての検討
6)～13)テーマの絞込, 資料収集を進めながら構想を固めていく。
図書館利用, 資料収集, 文献分析の方法など, 各々のテーマについて個別指導。
授業内で進捗状況の発表も順次行う。
14)概要をまとめたペーパーを提出。

さらに卒業論文Ⅱに継続して指導を進める。
15)～19)夏休み後半から秋学期はじめに中間発表会を実施する。(草稿の提出)
20)～25)本論の執筆を各自進める。途中経過の報告。個人指導。
26)～28)仕上げ, 論文の体裁などをチェック。

履修上の注意

上記の推奨テーマ以外の指導を希望する場合には, 事前に相談に来ること。
1月末か2月に行われる口頭試問への出席を必須とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに各自の研究テーマに沿った資料収集を心がける。
かつ各種発表準備のためのレジュメ作成。

教科書

個別に指示する

参考書

個別に提示する

課題に対するフィードバックの方法

各発表について、同日のディスカッションおよびコメントにて対応する。

成績評価の方法

卒業論文Ⅱと合わせて単位を認める。
口頭試問の無断欠席は, 評価の対象外となる。

その他

科目ナンバー:(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

学部の集大成として卒業論文を完成させるとともに、これまでに習得した専門的な知識を用いて、文章を論理的に構築するスキルを獲得することを目標とする。テーマはモダニズム以降の西洋演劇を推奨する。ただし、演劇学専攻で学んだ知識・理論を応用して論じるのであれば、テーマの限定はしない(履修上の注意をよく読むこと)。

授業内容

第 1-4 回 論文執筆ルールの確認、文献収集方法の確認、卒論テーマ決定
第 5-12 回 構成の確立(章立て、目次)
第 13-14 回 卒業論文完成までの計画表作成
＊春学期の終わりか秋学期の初めに中間報告を行なう。

履修上の注意

個別指導が主となるため、自発的に担当教員と連絡を取り、卒業論文完成に向けて主体的に努めることを前提とします。また、好きであることと論じることは異なる行為であることを自覚し、学問の体系を理解することが必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

指導教員と相談の上、資料検索、文献収集・読解等を自主的に行なっていくことが必要です。

教科書

なし

参考書

指導教員と相談の上、各自で論文作成のための文献表を作成していく。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

論文への取り組み 100%だが、卒業論文Ⅱと合わせて単位とする。
口頭試問の無断欠席は、評価の対象外となる。

その他

科目ナンバー：(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢内 賢二	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

大学における学修の集大成としての卒業論文の完成を目指す。

各自の問題意識や執筆の進度に即し、テーマと仮説の設定、論旨の構成、資料の扱い方、実証・論証の方法、表記・書式等について具体的な指導を行う。受講者には複数回の口頭発表が課せられる。

的確明瞭で論理的な記述・表現による論文の執筆により、学術的意義のある議論や主張を提示できる能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 テーマと仮説の設定
第３回 論文の構成方法
第４回 資料調査の方法(1)一次資料
第５回 資料調査の方法(2)先行研究
第６回 論文の表記・書式
第７回 執筆計画発表(1)
第８回 執筆計画発表(2)
第９回 執筆計画発表(3)
第10回 講評
第11回 執筆計画発表(4)
第12回 執筆計画発表(5)
第13回 執筆計画発表(6)
第14回 講評・まとめ

履修上の注意

必ず「卒業論文 II」と合わせて履修すること。
第２回に発表の担当日程等を決定するので履修希望者は必ず出席すること。
他の受講者の発表に対しても積極的に発言し議論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料や参考書による予習・復習を行い、不明点は可能な範囲で調べること。
他の受講者の発表に対するコメント等も聞き流さずノートを取るなどして復習を行うこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』(NHK出版)、阿部幸大『まったく新しいアカデミック・ライティングの教科書』(光文社)など、論文執筆の入門書を一冊通読することを勧める。

課題に対するフィードバックの方法

課題・質問に対する講評・回答を翌週の授業または Oh-o! Meiji で行う。

成績評価の方法

授業での報告・発表 70%、授業への参加度 30%。

その他

科目ナンバー：(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅰ(文学科)	**卒業論文Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は4年間の総まとめである。どのようなテーマを選択するかにより、論文作成の方法も変わってくるので、まずはテーマの選択について充分に考える時間を持って欲しい。テーマをしっかり吟味したうえで、しかるべき手順を踏んですすめていけば、必ず完成させることが出来るものであるが、時間的な制約も考慮して早めにきちんとした計画を立てることが重要な鍵となる。特に4年次は卒業論文作成以外に様々な課題を抱える時期でもあるので、指導教員との連絡を密にして、作成のための時間配分に留意して欲しい。

指導の領域は、日本演劇全般(歌舞伎を除く)とする。

授業内容

第1回 テーマの選択について
第2回 調査・研究の方法について(どのように考えるか)
第3回 図書館その他での調査・研究方法について(何を使うか)
第4回 テーマの再考
第5回 第1次レポートのための指導(調査について)
第6回 第1次レポートのための指導(考察について)
第7回 第1次レポートについての報告
第8回 第1次レポートの提出
第9回 第1次レポートについてのコメント
第10回 テーマについての再調整
第11回 第1稿のための調査
第12回 第1稿の構成と研究計画の報告
第13回 第1稿の構成と研究計画についてのコメント
第14回 第1稿のための中間発表

履修上の注意

4月のスタート段階では、受講者全員に共通して必要な、論文執筆のための基本的な姿勢や執筆方法についての講義を行う。各自のテーマについてのレポート執筆以降は、それぞれに向けた指導を個別に行う予定なので、必ず教員との連絡を密にとるようにして欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

4月のスタート段階では、受講者全員に共通して必要な、論文執筆のための基本的な姿勢や執筆方法についての講義を行うので、各自ノートなどを用意して、基礎的な事項を整理しておくこと。また、文章を書くことに慣れる必要もあるので、短い文章でも良いから、自分の考えをノートなどに随時まとめておくと良いだろう。

「文献一覧表」については、エクセルなどを使用して、随時追加していく方法も考えられよう。卒業論文完成まで、幾つかのステップがあるので、多少遅れることがあっても、ひとつひとつのステップにおける課題を着実にこなしていくように努力して欲しい。

教科書

各自のテーマに合わせた必読書を紹介する。全員に共通の教科書は特に指定しないが、配布プリントを中心に論文の書き方についての指導を行う。

参考書

各自のテーマに合わせた参考書を紹介する。全員に共通の参考書は特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

各自の進捗状況に合わせて、対面または、クラスウェブを通じてコメントする。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習をして欲しい。

成績評価の方法

構想案および第1稿、第2稿、提出論文の内容について、指導への対応を考慮しながら評価する。(卒業論文Ⅱと合わせての評価とする)

その他

受講者は指導教員との連絡を密にとることを心掛けて欲しい。

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 友一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導

〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導

〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導

〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導

〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導

〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導

〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導

〈8〉山田 朗 現代史の論文指導

〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 一樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導

〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導

〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導

〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導

〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導

〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導

〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導

〈8〉山田 朗 現代史の論文指導

〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 朗	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
野尻 泰弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
落合 弘樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導

〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導

〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導

〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導

〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導

〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導

〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導

〈8〉山田 朗 現代史の論文指導

〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 有子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導

〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導

〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導

〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導

〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導

〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導

〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導

〈8〉山田 朗 現代史の論文指導

〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 直人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈1〉中村 友一 古代史の論文指導
〈2〉高橋 一樹 中世史の論文指導
〈3〉清水 有子 近世史(主に政治・外交)の論文指導
〈4〉野尻 泰弘 近世史の論文指導
〈5〉落合 弘樹 明治維新史・近代史の論文指導
〈6〉松山 恵 近代史(都市・文化)の論文指導
〈7〉三浦 直人 近現代史の論文指導
〈8〉山田 朗 現代史の論文指導
〈9〉富山 仁貴 現代史(戦後)の論文指導

授業内容

卒業論文は、受講生が各自の卒業論文を完成するために設けられた必修科目である。特別な事情がない限り、3年次に履修した教員の卒業論文を履修することが望ましい。受講生数の大幅な偏りが生じた場合、希望どおりにならないこともありうるが、その場合は、指導教員が相談することとなろう。卒業論文の進行計画はおおむね以下のごとくとなろう。

春学期:各自が設定したテーマに即した研究史の整理・問題の所在と分析視点・関連史料の収集などをめぐる検討結果の発表と討議。受講生はその作業を通じて各自の問題意識・研究の深化をはかるとともに、テーマや論文の章・節の構成の確定に努める。

秋学期:春学期同様の検討・発表も継続されるが、秋学期の課題は卒業論文の完成である。テーマは勿論、論文の構成も確定しておく必要がある。そのためには、卒業論文の授業ばかりではなく夏期休暇をいかに有効に使うかが重要である。秋学期は授業としては論文をめぐる発表と討議が中心となる。

履修上の注意

・具体的進行については、それぞれの指導教員の指示に従うこと。

・卒業論文の分量は最低 70 枚(400 字換算)以上とする。

・卒業論文は、先行研究の著書や論文を単にまとめたりあるいは継ぎ合わせればよいと考える者もいるようだが、そのようなものは卒業論文と認めない。

・研究の深化・発展に各自努めなくてはならないが、お互いのテーマをめぐる問題や研究方法について討論しあうことも大切である。自分の発表がなくても授業には出席し、討論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文の進捗状況を常に指導教員に報告し、指示にもとづいて研究を進めること。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

個別に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは基本的に Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

論文審査および面接により評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
江川 ひかり	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。
(1)高村 武幸 殷～唐
(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア
(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア
(4)高田 幸男 アジア近現代
(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20,000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。
以下はおおよその進行スケジュールである。
4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。
5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。
6月 参考文献閲読とテーマの確定。
7月 おおよその「目次」案の作成。
7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。
8月～9月 上記作業の継続。
10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。
11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。
1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。
1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。
その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。
なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・面接を実施する。
・随時、授業で全体に関わる問題点をコメントするとともに、各自の課題を添削して返却する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。
なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 Ⅱ」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
櫻井 智美	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 Ⅱ」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 Ⅱ」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 Ⅱ」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS422J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高田 幸男	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員の分担は原則として以下の通りとする。ただし受講生の要望に応じて、この分担にこだわらず柔軟に対応するので、遠慮なく相談すること。

(1)高村 武幸 殷～唐

(2)櫻井 智美 唐～明、中央アジア、内陸アジア、東北アジア、東南アジア

(3)鈴木 開 明～清、朝鮮半島、東北アジア、東南アジア

(4)高田 幸男 アジア近現代

(5)江川 ひかり 西アジア、南アジア、東南アジア

授業内容

卒業論文作成にあたっては、指導教員と密に連絡を取り、その指導を受けること。教員の指示に従い、必ず数度の中間報告を経て完成させる。卒業論文の分量は、20.000 字(400 字詰原稿用紙換算で 50 枚)以上とする。

以下はおおよその進行スケジュールである。

4月 研究テーマの設定、関連する参考文献及び史料の目録作成、合わせて文献・史料の収集開始。

5月 上記作業の継続。収集史料の閲読開始。

6月 参考文献閲読とテーマの確定。

7月 おおよその「目次」案の作成。

7月までに、少なくとも1回は中間報告をおこなう。受講者は可能な限り授業に出て、他の報告を参考にし、また相互に議論・意見交換をして、問題意識や論点を明確にすること。

8月～9月 上記作業の継続。

10 月～12 月上旬 各ゼミで最終段階の報告をおこない、論文構成の最終決定。

11 月上旬 各ゼミ合同の卒業論文中間報告会の開催。浄書に着手。

1月上旬 提出。提出日時は厳守すること。遅延した場合は受理されない。指定日時に提出する正本のほかに、正本と全く同一内容の副本を 3 部印刷し、2 部はアジア史専攻(4 年生担任教員)へ審査用として提出する。もう1部は手元に置き、面接に備えて内容を検討し、あわせて卒論要旨を作成する。

1月末～2月初 面接。面接は必ず受けること。

その他、細目に関しては、授業開始時に別紙要項を配布する。

履修上の注意

「卒業論文」の時間・運営は各ゼミの方針による。

なお、3年次の秋学期に実施する卒業論文予備ガイダンスにおいてゼミ別仮分属を行い、1月から3月まで卒業論文作成の指導を受ける。4年次4月の履修登録によって指導教員を確定し、正規のゼミを開始する。

準備学習(予習・復習等)の内容

各指導教員の指示に従うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

面接を実施する。

成績評価の方法

主題の明確さ、文章表現の的確さ、先行研究の把握、外国語文献の読解、論理的構成、結論の合理性、および面接の内容を総合的に評価する。

なお、科目としては、「卒業論文Ⅰ」および「卒業論文 Ⅱ」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
水野 博子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ヨーロッパ近現代史に関する歴史学的考察を進め、学年末には卒業論文を完成させることを目標とする。広い意味でのヨーロッパ近現代史に関する限り、地域や言語、アプローチの方法は問わないが、可能な限り多くの欧文文献および原典史料の調査に基づく論文作成を目指す。

授業内容

西洋史の分野では、卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することはむずかしいが、既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて、自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒論を書くということは、自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また、執筆する者の見解は、テーマに関する歴史プロセスの究明のかげに見え隠れしている、というのが普通である。こうした点は、自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。

進行計画は人によってさまざまであるが、およそ次のようになるだろう。

1)卒論指導の最初の時間に、卒論のテーマ・内容の基礎的部分を 10000 字程度にまとめ、それに文献リストを付したものを提出する。また、この段階で「目次」の作成を試みる。

2)指導教員によるそれへのコメント、指導・助言を受けて文献リストをさらに充実させ、5月の連休明け頃、各文献の所在をも付記したものをあらためて提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め、夏休みにかけて、それらを読みこなし、ノート、下書き、あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて、春学期中に必ず1回は中間報告を行う。

4)夏休み中、集中的に研究を進める。その中で、より具体的な卒論の構成(章別編成)も考えていくことが望まれる。夏休み中の研究成果は、20000 字程度(春学期初めに提出された 10000 字の改訂版を含む)にまとめなおして秋学期初回の授業時に提出する。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を、秋学期に少なくとも1回発表する。

6)こうした準備の上で、卒論(注を含む)の執筆には最低1ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では、他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

履修上の注意

参考文献を作成したら、それにそって文献・史料を読み進め、論点整理、事実関係の確認、あいまいな点を解明するなど、執筆に向けた具体的な作業を継続的に行ってもらいたい。また、10 月半ばまでに序文と第1章～2章を、そして論文提出締切のおよそ1か月前までには残りの章と終章を含む草稿(第1稿)を仕上げ、論理展開は妥当か(論証に矛盾はないか)、注はきちんとついているか(注のない抜書きは剽窃である)など、論文として認められるための手続きを確認する作業の徹底が望まれる。そして最後に、文章表現に問題はないか、しっかりとした推敲を行い、「論文」とよぶにふさわしい仕事を完成させてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考文献リストの作成、注を付けるためのメモ、欧文文献調査、講読などが必要となる。4月最初の1万字をベースに、夏季休暇中にもう1万字、秋学期中にもう1万字の執筆を目指して、卒業論文の完成を目指します。

教科書

特に教科書が一つあるわけではありません。多くの講読文献、論文をリサーチし、史料の発掘に励んでください。いずれにしてもたくさんの文献講読が求められます。

参考書

水野博子『戦後オーストリアにおける犠牲者ナショナリズム―戦争とナチズムの記憶をめぐって』ミネルヴァ書房、2020 年3月。

水野博子・川喜田敦子編『ドイツ国民の境界―近現代史の時空から』山川出版社、2023 年。

大津留厚・水野博子・河野淳・岩崎周一編『ハプスブルク史研究入門――歴史のラビリンスへの招待――』(昭和堂、2013年)。

小澤卓也・田中聡・水野博子編『教養のための現代史入門』(ミネルヴァ書房、2015 年)。

石田勇治・福永美和子編『想起の文化とグローバル市民社会』(現代ドイツへの視座――歴史学的アプローチ1)(勉誠出版、2016 年)。

そのほか、適宜、授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中のディスカッション及び卒論レポートへの朱入れ・コメントを通して行います。

成績評価の方法

提出された卒業論文と卒論面接((1月末～2月初め)の結果を総合して評価する。

卒論面接は通常、副査制度をとっている。

その他

卒業論文の提出は別に日程、提出場所が設定されるので、それに注意すること。1分でも提出時間に遅れれば, 受理されないので注意すること。

個々のテーマ発表は、補講日などを用いて、全員で一斉に行う発表会を設定する場合がある。1 年間のうちにゼミ合宿またはブロックゼミナール(1日発表会)を 1～2 回行う予定である。

授業は対面方式で行う予定である。ただし、新型コロナウィルスなどの感染症の状況次第では、オンラインによる授業形式になることもありうる。

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
青谷 秀紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

主として西洋中世史に関する卒業論文を書こうとする学生の指導を行なう。

授業内容

西洋史の分野では, 卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することはむずかしいが, 既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて, 自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒論を書くということは, 自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また, 執筆する者の見解は, テーマに関する歴史プロセスの究明のかげに見え隠れしている, というのが普通である。こうした点は, 自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。進行計画は人によってさまざまであるが, およそ次のようになるだろう。

1)卒論指導の最初の時間に, 卒論のテーマ・内容や研究の進め方, 計画などを 4000 字程度にまとめ, それに文献リストを付したものを提出する。

2)指導教員によるそれへのコメント, 指導・助言を受けて文献リストをさらに充実させ, 5月の連休明けに頃, 各文献の所在をも付記したものをあらためて提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め, 夏休みにかけて, それらを読みこなし, ノート, 下書き, あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて, 春学期中に必ず1回は中間報告を行う。

4)夏休み中, 集中的に研究を進める。その中で, 卒論の構成(章別編成)も考えていくことが望まれる。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を, 秋学期に少なくとも1回発表する。

6)こうした準備の上で, 卒論(注を含む)の執筆には最低1ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では, 他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期・秋学期に複数回の報告を義務とする。報告レジュメ・参考文献リストなどを準備すること。欠席する場合には教員に連絡すること。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

口頭試問で講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と卒論面接(1月末～2月初め)で評価する。

その他

卒業論文の提出は別に日程, 提出場所が設定されるので, それに注意すること。1分でも提出時間に遅れれば, 受理されないので注意すること。

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
谷口 良生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、4 年間の西洋史学専攻の学びの集大成である。悔いのない論文を書いて、自らの学業の努力の証としてほしい。本卒業論文では、主として西ヨーロッパ近現代史の卒業論文を書こうとする学生の指導を行う。

授業内容

西洋史の分野では、卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することは難しいが、既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて、自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒業論文を書くということは、自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また執筆する者の見解は、テーマに関する歴史プロセスの究明の影に見え隠れしている、というのが普通である。こうした点は、自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。

進行計画は、人によってさまざまであるが、およそ次のようになるであろう。

1)授業の最初の数回を使って、3 年次の演習で提出したレポートをもとに個別面談を行う。初回授業では個別面談と個別発表のスケジュールを決定するため、必ず出席すること。

2)個別面談での指導教員によるコメント、指導・助言を受けて、5 月の連休明けから随時、参考文献リスト(各文献の所在をも付記したもの)を提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め、夏休みにかけて、それらを読みこなし、ノート、下書き、あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて、春学期に必ず 1 回は中間報告を行う。

4)夏休み中、集中的に研究を進める。その中で、卒論の構成(章別編成)をも考えていくことが望まれる。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を、秋学期に少なくとも 1 回は発表する。

6)こうした準備の上で、卒論(注を含む)の執筆には最低 1 ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では、他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

卒業論文 II では、およそ上記の 4)から 7)までが対象となる。

履修上の注意

受講生には、複数回、プレゼンテーションを行ってもらう。報告レジュメおよび参考文献リストなどを準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

まずは、卒業論文のテーマについて、きちんとしたスケジュールを立て、それに沿って一歩一歩着実に研究を進めていくこと。また、自分のプレゼンテーションの際には、他の受講生にもわかるように、あらかじめしっかりしたレジュメを用意して報告すること。その他、他の受講生のプレゼンテーションに対しても積極的に議論に加わり、そこからも自分の卒業論文に役立つ視点・知見を学ぶこと。

教科書

各自のテーマに関連した史料・文献が教科書になる。必要に応じて担当教員に相談すること。

参考書

図書館などで参照する文献が参考書になる。わからないことは、担当教員あるいは図書館の司書の方に相談すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の一部で相談会、授業時間外でも面談などの機会を設けるので、研究の方向性などで迷ったときには遠慮なく活用してほしい。

成績評価の方法

卒論の内容と卒論面接(1 月末～2 月初め)で評価する。

その他

卒業論文の提出は別に日程、提出場所が設定されるので、それに注意すること。1 分でも提出時間が遅れれば、受理されないので十分注意すること。

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 祥平	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

受講者の関心のあるテーマを設定し、ゼミ報告および個別指導によって卒業論文を作成する。必ずしもロシアに限らず、近隣地域(ウクライナ・中央アジア等)や、それらと周辺地域の関係をテーマにした論文指導も行う。

授業内容

第1回～第 2 回 イントロダクション、卒論構想の発表、担当者の決定 第3回～第 14 回 各履修者による卒論経過報告(卒論執筆の仮スケジュール) 前期:卒論論文のテーマの確定と論文の構成案の提出(ゼミでの発表) 9 月末:卒業論文の第一稿の提出(可能な範囲で構わない) 後期:第一稿についての中間発表と議論、第二稿の執筆 12 月上旬:第二稿の提出、個別指導 1 月:卒業論文の提出

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

文献の調査と読解、担当する報告の準備、卒論原稿の執筆

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の演習での各報告や原稿に対してフィードバックを行う。

成績評価の方法

提出された卒業論文と卒論面接(1 月末~2 月初め)の結果を総合して評価する。

その他

卒業論文の提出は別に日程、提出場所が設定されるので、それに注意すること。1 分でも提出時間に遅れれば, 受理されないので注意すること。 履修者の人数や調査の進捗状況に応じ、スケジュールや計画の変更もありうる。

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
古山 夕城	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は，4年間の西洋史学専攻の学びの集大成である。悔いのない論文を書いて，自らの学業の努力の証としてほしい。本卒業論文では，主として西洋古代史の卒業論文を書こうとする学生の指導を行う。

授業内容

西洋史の分野では，卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することは難しいが，既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて，自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒業論文を書くということは，自分が選んだテーマに関する主体な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また執筆する者の見解は，テーマに関する歴史プロセスの究明の影に見え隠れしている，というのが普通である。こうした点は，自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。

進行計画は，人によってさまざまであるが，およそ次のようになるであろう。

1）夏休み中およびそれ以降の研究成果を，秋学期に少なくとも2回は発表する。

2）こうした準備の上で，卒論(注を含む)の執筆には最低1ヶ月は必要である。

3）12 月前半に、各自の卒論構成を披歴する「章立て」発表を行う。

＊西洋史学専攻では，他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

履修上の注意

秋学期に2回の報告を義務とする。報告レジュメ・参考文献リストなどを準備すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

夏休み明けに中間状況レポートの提出を課すので、卒論作成のステップとすること。

教科書

各自のテーマに沿って進める史料・文献が教科書になる。必要に応じて担当教員に相談すること。

参考書

図書館などで参照する文献が参考書となる。分からないことは，担当教員あるいは図書館の司書の方に相談すること。

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題については、添削指導の他に、授業内の発表報告で各自の取り組みに関する問題点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒論の内容と卒論面接(90%)，その他(発表内容など)(10%)で評価する。なお，成績は，卒業論文工と合わせて評価する。

その他

卒業論文の提出は別に日程，提出場所が設定されるので，それに留意すること。
(1分でも提出が遅れれば，受理されない。)

このシラバスは、前年度12月段階に作成された予定・計画であり、ここで示した内容や進め方が必ずしも実際の授業となるわけではありません。
2026 年度秋学期の具体的な授業の方針とシステム及び内容については、9月中旬にクラスウェブに掲載します。

科目ナンバー：(AL)HIS432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
鰐淵 秀一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

大学での学びの集大成として卒業論文を完成させることを目標とする。各自の関心に基づいてテーマを設定し、可能な限り多くの欧文文献および原典史料の調査に基づく論文作成を目指す。

授業内容

西洋史の分野では、卒業論文において新しい史料による独創的見解を論証することはむずかしいが、既存の史料や文献を十分使いこなすという地道な作業に基づいて、自分の納得のいく論文を書くように努めてほしい。卒論を書くということは、自分が選んだテーマに関する主体的な関心とテーマに関する史料・文献が提供する素材とのひとつの格闘の所産である。自分の意見に都合の良い素材だけを抽出してまとめるという方法は学問的とは言えない。また、執筆する者の見解は、テーマに関する歴史プロセスの究明のかげに見え隠れしている、というのが普通である。こうした点は、自分のテーマに関係のある先人の論文や著作を読んで参考にしてほしい。

進行計画は人によってさまざまであるが、およそ次のようになるだろう。

1)卒論指導の最初の時間に、卒論のテーマ・内容の基礎的部分を 10,000 字程度にまとめ、それに文献リストを付したものを提出する。また、この段階で「目次」の作成を試みる。

2)指導教員によるそれへのコメント、指導・助言を受けて文献リストをさらに充実させ、5月の連休明け頃、各文献の所在をも付記したものをあらためて提出する。

3)自分の卒論にとって中心的な文献・史料を定め、夏休みにかけて、それらを読みこなし、ノート、下書き、あるいはカードを作る。こうした作業を踏まえて、春学期中に必ず1回は中間報告を行う。

4)夏休み中、集中的に研究を進める。その中で、より具体的な卒論の構成(章別編成)も考えていくことが望まれる。

5)夏休み中およびそれ以降の研究成果を、秋学期に少なくとも1回発表する。

6)こうした準備の上で、卒論(注を含む)の執筆には最低1ヶ月は必要である。

7)西洋史学専攻では、他に「卒業論文の作成・提出に関する注意」を配布する。

履修上の注意

ゼミ生は学期中に中間報告を行う。文献の調査、読書を進め、しっかりと報告レジュメ・参考文献を準備して臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒論は一夜漬けで完成させられるものではない。授業の進行に沿ってその都度課される課題に取り組み、コツコツと進めていくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

テーマ設定や先行研究の調査には以下の文献が基本となる。
・金澤周作監修『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020 年
・油井大三郎・有賀夏紀・紀平英作編『アメリカ史研究入門』山川出版社、2009 年
・『史学雑誌―回顧と展望』『アメリカ』(毎年5月号)
・小田悠生「アメリカ史研究におけるデジタル情報資源の現在」『立教アメリカン・スタディーズ』第 40 号、2018 年、33-56 頁(ダウンロード可)
・Eric Foner and Lisa McGirr, eds. American History Now (Temple University Press, 2011)

卒論作成の参考になるものとして、以下を挙げる。
・戸田山和久『新版 論文の教室』NHK 出版、2012 年(初心者・一般向け、知的活動一般に応用が効く)
・澤田昭夫『論文の書き方』講談社、1977 年(歴史学のスタイルの論文を準備するのに適している)

課題に対するフィードバックの方法

・授業時の発言に対するコメント
・報告に対するコメント
・レポートの添削

成績評価の方法

提出された卒業論文の内容と口頭試問の結果を合わせて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部 芳郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次の「考古学概論」、「基礎演習」、「考古学研究法」でマスターした知識、理解を自分で深めてゆく。特に翌年次の卒業論文作成の前提作業として、テーマの選定とそのテーマに関する研究史を学習する。

授業内容

阿部・鶴来・佐々木・藤山・若狭の5名が担当し、各学生の関心と、各担当教員の研究の中心となる時代の両方を勘案した上で、最初の時間にクラス分けを行う。各教員の今年度のおおよその担当は次の通り。旧石器時代・藤山、縄文時代・阿部、弥生時代・鶴来、古墳時代・若狭、佐々木・古墳時代以降。

春学期は5つのセミナー共通で、日本と近隣諸地域の考古学に関する知識・理解を深めるため、日本語の基本文献を、復習の意味も兼ねて一通りマスターする。その過程で、日本考古学の基礎、具体的な研究法(資料操作)を学び、自分で研究する能力を養う。そして、各自が卒論で取り組みたいテーマを見つけられるよう努力する。

各セミナーでは、受講生を数名ごとの班に分けて、毎週各班が課題文献を学史の中に位置づけながら、その内容をクラスメートにわかりやすいように発表する。各セミナーの毎週の課題文献は、受講生の関心に応じて毎年変わるので、クラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

履修上の注意

自分が発表を担当しない週でも学習を怠らず、積極的に議論に参加すること。また、教員が他の受講生に対して助言しているときも、それは自分にとってもプラスになるので、しっかり聞いておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表を担当する班は、それに向けた準備は当然であるが、発表を担当しない班のメンバーも、積極的に議論に参加できるよう、課題論文を精読しておくこと。

教科書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

参考書

毎週数多くの文献を取り上げる。各セミナーで毎年変わるので、詳細はクラス分けの後、Oh-o!Meiji クラスウェブに5月 10 日までに公開する。

課題に対するフィードバックの方法

わからないことは、クラスメートどうしでまず質問、回答しあうことが望ましい。また各発表については、教員がコメントする。

成績評価の方法

発表の際のレジメ 50%、積極的な議論への参加 20%、レポート 30%に基づく。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 憲一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。

本授業の目標は、質の高い卒業論文の完成・提出にある。

授業内容

第1回 卒論執筆に関わる概説

第2～13 回 研究テーマに関する個人報告

第 14 回 卒業論文発表会： 面接試問後の2月下旬の予定。

履修上の注意

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。上記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表と全体での討議を基本とするため、全員が十分な準備の下に参加すること。発表者は、進捗状況を示した資料を準備し、当日、履修者全員に配布すること。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
藤山 龍造	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。

本授業の目標は、質の高い卒業論文の完成・提出にある。

授業内容

第1回 卒論執筆に関わる概説

第2～13 回 研究テーマに関する個人報告

第 14 回 卒業論文発表会: 面接試問後の2月下旬の予定。

履修上の注意

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。上記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表と全体での討議を基本とするため、全員が十分な準備の下に参加すること。発表者は、進捗状況を示した資料を準備し、当日、履修者全員に配布すること。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
若狭 徹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。

本授業の目標は、質の高い卒業論文の完成・提出にある。

授業内容

第1回 卒論執筆に関わる概説

第2～13 回 研究テーマに関する個人報告

第 14 回 卒業論文発表会: 面接試問後の2月下旬の予定。

履修上の注意

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。上記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表と全体での討議を基本とするため、全員が十分な準備の下に参加すること。発表者は、進捗状況を示した資料を準備し、当日、履修者全員に配布すること。

教科書

必要に応じて紹介・解説する。受講に際しては、朝尾直弘ほか編『新版日本史辞典』(角川書店、1996 年。シャープ電子辞書“Papyrus”にも収録。スマホアプリもある)があれば便利である。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年生までに培った考古学的な知識と技術および研究史の理解をふまえ、歴史学的な課題を自ら設定したうえで、その解決に必要となる方法論の吟味、データ収集・分析をおこなう。授業では、自らの研究の進捗状況、論理の構築方法、解釈の方向性などについて報告し、その結果について教員および履修者全員と議論をかさねる。

本授業の目標は、質の高い卒業論文の完成・提出にある。

授業内容

第1回 卒論執筆に関わる概説

第2～13 回 研究テーマに関する個人報告

第 14 回 卒業論文発表会: 面接試問後の2月下旬の予定。

履修上の注意

基本的に個人発表によって授業を構成し、論文の課題設定、分析の方法、考察の内容などについて研究計画や進捗状況を報告する。発表内容について教員や演習参加者と議論する時間を設けるので、その内容を論文の完成度の向上に役立てるようにする。上記のとおりの進行計画を予定しているが、必要に応じて順序などを変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表と全体での討議を基本とするため、全員が十分な準備の下に参加すること。発表者は、進捗状況を示した資料を準備し、当日、履修者全員に配布すること。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の口頭発表およびレジメに対して、優れている点、改善すべき点を指摘する。

成績評価の方法

提出された卒業論文にもとづき、1月末～2月初めに行われる全教員による面接試問により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて, 自ら問題を設定・調査・検証し, 自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注入し, 4年間の成果といえるような, 自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。秋学期は, 夏季休業中に行った現地調査の成果を論文という形にすることを主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 調査結果のまとめ方

第2回 夏休み成果報告(その1)

第3回 夏休み成果報告(その2)

第4回 夏休み成果報告(その3)

第5回 夏休み成果報告(その4)

第6回 中間報告(その1)

第7回 中間報告(その2)

第8回 中間報告(その3)

第9回 中間報告(その4)

第 10 回 最終報告(その1)

第 11 回 最終報告(その2)

第 12 回 最終報告(その3)

第 13 回 最終報告(その4)

第 14 回 卒論報告会(3 年生同席)・日程は調整

履修上の注意

原則として3年次の「演習Ⅰ」の担当教員のクラスを履修することになる。

9月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。また, 詳細な論文執筆上の注意点については, 別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し, 遵守すること。

なお, 卒業論文提出後, 3年ゼミのメンバーを招いて卒論報告会を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので, 出席を重視する。出席状況が悪いとき, すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には, 卒業論文の採点を拒否することがある。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。

また、1 月末に行われる口頭試問において、2 人の審査によって評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月下旬から2月初旬に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により, 単位が認定される。本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また, 通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は, 原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて，自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注入し，4年間の成果といえるような，自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。秋学期は，夏季休業中に行った現地調査の成果を論文という形にすることを主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 調査結果のまとめ方
第2回 夏休み成果報告(その1)
第3回 夏休み成果報告(その2)
第4回 夏休み成果報告(その3)
第5回 夏休み成果報告(その4)
第6回 中間報告(その1)
第7回 中間報告(その2)
第8回 中間報告(その3)
第9回 中間報告(その4)
第 10 回 最終報告(その1)
第 11 回 最終報告(その2)
第 12 回 最終報告(その3)
第 13 回 最終報告(その4)
第 14 回 卒論報告会(3 年生同席)・日程は調整

履修上の注意

原則として3年次の「演習 I」の担当教員のクラスを履修することになる。
9月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。また，詳細な論文執筆上の注意点については，別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し，遵守すること。
なお，卒業論文提出後，3年ゼミのメンバーを招いて卒論報告会を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので，出席を重視する。出席状況が悪いとき，すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には，卒業論文の採点を拒否することがある。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。
また、1 月末に行われる口頭試問において、2 人の審査によって評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月下旬から2月初旬に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により，単位が認定される。本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また，通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は，原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて、自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注力し、4年間の成果といえるような、自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。
地理学における研究の大半は、具体的な地域調査(現地調査)を主体としている。地域調査にまとまった時間が取れるのは夏休みなので、春学期は主としてテーマの設定から調査の方法までを、また秋学期には調査の成果を論文という形にすることを、それぞれ主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 調査結果のまとめ方
第2回 夏休み成果報告(その1)
第3回 夏休み成果報告(その2)
第4回 夏休み成果報告(その3)
第5回 夏休み成果報告(その4)
第6回 中間報告(その1)
第7回 中間報告(その2)
第8回 中間報告(その3)
第9回 中間報告(その4)
第 10 回 最終報告(その1)
第 11 回 最終報告(その2)
第 12 回 最終報告(その3)
第 13 回 最終報告(その4)
第 14 回 卒論報告会(3 年生同席)・日程は調整

履修上の注意

原則として3年次の「演習 I」の担当教員のクラスを履修することになる。
9月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。また、詳細な論文執筆上の注意点については、別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し、遵守すること。
なお、卒業論文提出後、3年ゼミのメンバーを招いて卒論報告会を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので、出席を重視する。出席状況が悪いとき、すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には、卒業論文の採点を拒否することがある。

教科書

(春学期と同じ)『地理学で卒業論文を書こう』小野映介・前田洋介(古今書院)2024 年

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。
また、1 月末に行われる口頭試問において、2 人の審査によって評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月下旬から2月初旬に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により、単位が認定される。本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また、通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は、原則として単位を認定しない。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に学生相談室を利用することをすすめる。(連絡先:03-3296-4217(駿河台);03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー:(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
川口 太郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて，自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注入し，4年間の成果といえるような，自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。秋学期は，夏季休業中に行った現地調査の成果を論文という形にすることを主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 調査結果のまとめ方
第2回 夏休み成果報告(その1)
第3回 夏休み成果報告(その2)
第4回 夏休み成果報告(その3)
第5回 夏休み成果報告(その4)
第6回 中間報告(その1)
第7回 中間報告(その2)
第8回 中間報告(その3)
第9回 中間報告(その4)
第 10 回 最終報告(その1)
第 11 回 最終報告(その2)
第 12 回 最終報告(その3)
第 13 回 最終報告(その4)
第 14 回 卒論報告会(3 年生同席)・日程は調整

履修上の注意

原則として3年次の「演習 I」の担当教員のクラスを履修することになる。
9月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。また，詳細な論文執筆上の注意点については，別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し，遵守すること。
なお，卒業論文提出後，3年ゼミのメンバーを招いて卒論報告会を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので，出席を重視する。出席状況が悪いとき，すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には，卒業論文の採点を拒否することがある。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。
また、1 月末に行われる口頭試問において、2 人の審査によって評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により，単位が認定される。本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また，通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は，原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO492J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学の特に自然地理学に関する分野において、自ら研究課題を設定・調査・検証し、卒業論文として自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注入し、4年間の成果といえるような立派な「作品」を仕上げることが求められる。「卒業論文 I」のシラバスの繰り返しになるが、自然地理学(特に気候学)の卒業論文を作成するためには、まず「卒業研究」を行わなければならない。卒論は単なる長いレポートではなく、研究のプロセスと成果を一定の形式ないしは構造の文章にまとめたものである。本授業では、履修者はまず夏季休業中に行った予備調査の成果を主な材料として具体的な研究報告を口頭で行い、ついで地理学における一般的な科学研究の形式に沿った論文という形に発展させることを演習形式で行う。

授業内容

4年次は卒業後の進路決定等で卒業論文作成の進行状況に大きな個人差が生じることが多い。個別に集中的な指導が必要なこともあるため、演習授業を「全体会(発表者が決まっている通常の演習形式)」と「研究指導」の二種類とする。研究上の問題点の大半は全員に共通するため、「研究指導」は履修者が進行状況を口頭で報告して他の履修者から質問を受け、それを自分の研究の疑問点・不十分な点として認識し、担当教員からアドバイスを受けつつ効率的な改善方法を作り出す演習の場とする。
第1回 全体会:調査結果のまとめ方
第2回 全体会:卒業研究の予備報告(その1)
第3回 全体会:卒業研究の予備報告(その2)
第4回 研究指導
第5回 研究指導
第6回 全体会:中間報告(その1)
第7回 全体会:中間報告(その2)
第8回 研究指導
第9回 研究指導
第 10 回 研究指導
第 11 回 全体会:論文執筆の指導
第 12 回 全体会:最終報告(その1)
第 13 回 全体会:最終報告(その2)
第 14 回 全体会:総括

履修上の注意

第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので出席を重視する。出席状況が悪いとき、すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には、原則として成績評価の対象外とする。また、提出する卒業論文の作成にあたっては、「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を遵守すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

「全体会」での口頭発表時には、レジュメおよび図表資料を発表前に配布すること。なおレジュメには発表の表題(研究科題名)、課題の位置付け、研究方法, 研究結果(調査結果または予想される調査結果)、考察および問題点、引用文献リストなどの標準的な内容が必要である。

教科書

使用しない。

参考書

履修者の研究テーマごとに必読文献を指示する。

課題に対するフィードバックの方法

原則として水曜と金曜にオフィスアワーを設定するので、事前に電子メール等で時間を問い合わせること。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月末頃に実施される面接試験の結果により単位が認定される。地理学専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって行い、成績評価は専攻の全専任教員の合議によって決定される。また、通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は、原則として単位を認定しない。なお、教室での授業に出席して所定の口頭発表などを行なった実績があっても、レポートとしての卒業論文の成績が F である場合は、教室での演習形式の授業としての本科目も同様の成績とする。

その他

地理学専攻では、文学部全体の卒業論文提出形式(原則としてデジタルファイルのオンライン提出)に関わらず、「卒業論文」担当教員の指示する要領でオンライン提出済みの卒業論文のプリントアウト(紙に印刷したもの)を必ず提出すること。

科目ナンバー:(AL)GEO492J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(史学地理学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地理学に関する卒業論文の作成を通じて，自ら問題を設定・調査・検証し，自説を主張する過程を学ぶことを目的とする。受講者は大学で学んだことのすべてを注入し，4年間の成果といえるような，自らに恥じることのない立派な「作品」を仕上がることが求められる。秋学期は，夏季休業中に行った現地調査の成果を論文という形にすることを主眼とする指導を演習形式で行う。

授業内容

第1回 調査結果のまとめ方
第2回 夏休み成果報告(その1)
第3回 夏休み成果報告(その2)
第4回 夏休み成果報告(その3)
第5回 夏休み成果報告(その4)
第6回 中間報告(その1)
第7回 中間報告(その2)
第8回 中間報告(その3)
第9回 中間報告(その4)
第 10 回 最終報告(その1)
第 11 回 最終報告(その2)
第 12 回 最終報告(その3)
第 13 回 最終報告(その4)
第 14 回 卒論報告会(3 年生同席)・日程は調整

履修上の注意

原則として3年次の「演習 I」の担当教員のクラスを履修することになる。
9月の第1回の授業では発表の順番等を決定するので必ず出席すること。また，詳細な論文執筆上の注意点については，別途配布する「地理学専攻卒業論文作成上の注意」を熟読し，遵守すること。
なお，卒業論文提出後，3年ゼミのメンバーを招いて卒論報告会を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の作成には適切な指導が不可欠なので，出席を重視する。出席状況が悪いとき，すなわち適切な指導を受けたと見なされない場合には，卒業論文の採点を拒否することがある。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

クラス内での発表に対してコメントするほか、個別の面談を行う場合には、その際に評価を示す。
また、1 月末に行われる口頭試問において、2 人の審査によって評価を示す。

成績評価の方法

卒業論文の査読および1月下旬から2月初旬に実施される面接試験(詳しくは卒業論文提出後に掲示する)の結果により，単位が認定される。本専攻の面接試験は指導教員を含む2名以上の専任教員によって実施する。成績評価は専攻の全専任教員による合議によって決定される。また，通常授業における課題を果していない場合(すなわち所定の発表回数を満たしていない場合)は，原則として単位を認定しない。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高瀬 由嗣	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は，これまでの講義，演習，実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて，各自が研究テーマを設定し，実証的なデータを収集，分析し，それに基づいて研究内容に考察を加え，論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文 II において何より重要なのは，卒業論文の執筆・完成です。そのためには，研究テーマに関して勉強してきたことに基づいて，章・節など論文構成を確定する必要があります。卒業論文指導の授業だけでなく，夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となります。

第1回 論文のまとめ方に関する解説
第2回～第 10 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 11 回～第 13 回 論文の構成に関する発表と指導
第 14 回 口頭試問での発表方法についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文，未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に，所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は，論文内容だけでなく，卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら，各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

最終的に卒業論文を作成するにあたり，事象的データに基づいた論理的な論文を構成することが求められます。指導教員と十分に相談しながら，論文を執筆するための準備をしてください。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

・発表された課題に関しては，授業内でのディスカッションを通して，コメントを行います。
・論文作成課題については，優れた点や修正を検討すべき点を指摘しながら，個別に指導します。

成績評価の方法

論文内容や面接での質疑応答の内容，および卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 掌子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は，これまでの講義，演習，実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて，各自が研究テーマを設定し，実証的なデータを収集，分析し，それに基づいて研究内容に考察を加え，論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文 II において何より重要なのは，卒業論文の執筆・完成です。そのためには，研究テーマに関して勉強してきたことに基づいて，章・節など論文構成を確定する必要があります。卒業論文指導の授業だけでなく，夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となります。

第1回 論文のまとめ方に関する解説
第2回～第 10 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 11 回～第 13 回 論文の構成に関する発表と指導
第 14 回 卒論面接での発表方法についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文，未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に，所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は，論文内容だけでなく，卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら，各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

最終的に卒業論文を作成するにあたり，事象的データに基づいた論理的な論文を構成することが求められます。指導教員と十分に相談しながら，論文を執筆するための準備をしてください。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

論文内容や面接での質疑応答の内容，および卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹松 志乃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、これまでの講義・演習・実習で学んできたことの集大成として、各自が関心を持ち選択したテーマに関する論文を完成するために設けられている必修科目である。3年次の臨床心理学演習で履修した内容に基づいて、各自が研究テーマを設定し、実証的なデータを収集・分析し、それに基づいて研究内容に考察を加え、論文としてまとめて、最終的に定められた期限内に無事提出し、口頭試問に合格することが目標である。

授業内容

卒業論文Ⅱでは、卒業論文Ⅰでのプロセスを踏まえて、本格的なデータ収集や執筆作業に計画的に取り組み、定められた期限内・条件で無事に提出を果たすことが目標となる。

第 1 回：夏休み中の進捗状況の各人からの報告および意見交換。卒論提出までの注意事項やスケジュールの説明・確認。
第 2 回～第 13 回：全体ゼミおよび個人指導。本格的なデータ収集や分析・考察・執筆のプロセスを、各自が計画的に進める必要がある。
11 月下旬に開催予定の「卒論事前発表会」や 12 月中旬予定の「仮提出」の機会を有効活用して、翌年 1 月 10 日前後に正式に提出することとなる。
「締切初日」に全員提出できるよう、ゼミ生が協力・励まし合う。卒論提出に関する情報の共有・確認を毎回行う。
第 14 回：「口頭試問」に対する注意事項の説明・確認。

履修上の注意

本単位は、研究内容だけでなく、「提出までの全プロセス」における卒論への取り組み状況などのすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら、各人が「自己責任」で計画的に取り組む姿勢が必要である。
基本的に「全授業における貢献」が求められる。進路活動などのためにやむなく欠席する際は、必ず事前に教員まで連絡すること。

＜注意事項＞
・卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文や未完成の卒業論文は受理されない。
・卒業論文の提出の際には「卒業論文要旨」も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
・卒業論文の提出後に、所定の日時(1 月下旬～2 月初め)に「口頭試問」がある。口頭試問に臨んでも、論文内容や論文作成プロセス、当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があるので、事前に十分自覚しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文を作成するにあたり、十分な数の国内外の文献の購読に基づいた研究テーマの設定が求められる。また、実証的なデータを収集するにあたり、調査や実験等の方法について、十分な指導を受けておく必要がある。

教科書

特になし。

参考書

・南風原朝和ほか「心理学研究法入門―調査・実験から実践まで―」東京大学出版社、2001
・松井豊 「改訂新版 心理学論文の書き方---卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社、2010
・小塩真司ほか「心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ」金子書房、2015
・戸田山和久「新版 論文の教室―レポートから卒論まで」NHKブックス、2012
・河野哲也 「レポート・論文の書き方入門 第三版」慶応大学出版会、2003

・小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析 第4版―因子分析・共分散構造分析まで」東京書籍、2023
・小塩真司ほか「心理学の卒業研究ワークブック: 発想から論文完成までの 10 ステージ」金子書房、2015
・ 同 「研究事例で学ぶSPSSと Amos による心理・調査データ解析 第3版」東京書籍、2020
・石村光資郎「SPSSでやさしく学ぶ統計解析 第7版」(東京書籍)、2021
・ 同 「SPSSによる統計処理の手順 第10版」(東京書籍)、2023
・石村友二郎「SPSSでやさしく学ぶアンケート処理 第5版」(東京書籍)、2020
・ 同 「SPSSによる心理分析のための統計処理の手順」(東京書籍)、2024
・ 同 「SPSSによるアンケート調査のための統計処理 第2版」(東京書籍)、2025
・堀洋道ほか「心理測定尺度集Ⅰ～Ⅵ」サイエンス社. など

課題に対するフィードバックの方法

全体ゼミ及び個人指導時などにおいて、口頭または添削などの形でフィードバッグを行う。

成績評価の方法

「全プロセス」における卒業論文への取り組み姿勢や進捗状況などを、総合的に考慮して評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 義高	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は，これまでの講義，演習，実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて，各自が研究テーマを設定し，実証的なデータを収集，分析し，それに基づいて研究内容に考察を加え，論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅱにおいて何より重要なのは，卒業論文の執筆・完成です。そのためには，研究テーマに関して勉強してきたことに基づいて，章・節など論文構成を確定する必要があります。卒業論文指導の授業だけでなく，夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となります。

第1回 論文のまとめ方に関する解説
第2回～第 10 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 11 回～第 13 回 論文の構成に関する発表と指導
第 14 回 卒論面接での発表方法についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文，未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に，所定の日時に口頭面接があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は，論文内容だけでなく，卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら，各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

最終的に卒業論文を作成するにあたり，事象的データに基づいた論理的な論文を構成することが求められます。指導教員と十分に相談しながら，論文を執筆するための準備をしてください。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。

成績評価の方法

論文内容や面接での質疑応答の内容，および卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡安 孝弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、これまでの講義、演習、実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて、各自が研究テーマを設定し、実証的なデータを収集、分析し、それに基づいて研究内容に考察を加え、論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文Ⅱにおいて何より重要なのは、卒業論文の執筆・完成です。そのためには、研究テーマに関して勉強してきたことに基づいて、章・節など論文構成を確定する必要があります。卒業論文指導の授業だけでなく、夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となります。

第1回 論文のまとめ方に関する解説
第2回～第 10 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 11 回～第 13 回 論文の構成に関する発表と指導
第 14 回 卒論面接での発表方法についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文、未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に、所定の日時に口頭試問があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は，論文内容だけでなく、卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら、各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

最終的に卒業論文を作成するにあたり、事象的データに基づいた論理的な論文を構成することが求められます。指導教員と十分に相談しながら、論文を執筆するための準備をしてください。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各学生による卒業研究計画および研究結果の発表時に、今後の論文作成の進め方について個別に検討する。

成績評価の方法

論文内容や面接での質疑応答の内容、および卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 尚子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、これまでの講義、演習、実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて、各自が研究テーマを設定し、実証的なデータを収集、分析し、それに基づいて研究内容に考察を加え、論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文 II において何より重要なのは、卒業論文の執筆・完成です。そのためには、研究テーマに関して勉強してきたことに基づいて、章・節など論文構成を確定する必要があります。卒業論文指導の授業だけでなく、夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となります。

第1回 論文のまとめ方に関する解説
第2回～第 10 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 11 回～第 13 回 論文の構成に関する発表と指導
第 14 回 卒論面接での発表方法についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文、未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に、所定の日時に口頭試問があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は，論文内容だけでなく、卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら、各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

最終的に卒業論文を作成するにあたり、事象的データに基づいた論理的な論文を構成することが求められます。指導教員と十分に相談しながら、論文を執筆するための準備をしてください。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各学生による卒業研究計画および研究結果の発表時に、今後の論文作成の進め方について個別に検討する。

成績評価の方法

論文内容や面接での質疑応答の内容、および卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
濱田 祥子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は、これまでの講義、演習、実習で学んできたことの集大成として各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目です。3年次に履修した臨床心理学演習で履修した内容に基づいて、各自が研究テーマを設定し、実証的なデータを収集、分析し、それに基づいて研究内容に考察を加え、論文としてまとめることが目標です。

授業内容

卒業論文 II において何より重要なのは、卒業論文の執筆・完成です。そのためには、研究テーマに関して勉強してきたことに基づいて、章・節など論文構成を確定する必要があります。卒業論文指導の授業だけでなく、夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となります。

第1回 論文のまとめ方に関する解説
第2回～第 10 回 各学生の研究の進捗状況についての発表
第 11 回～第 13 回 論文の構成に関する発表と指導
第 14 回 卒論面接での発表方法についての説明

履修上の注意

注意事項:

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文、未完成の卒業論文は受理されません。
○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておくこと。
○卒業論文の提出後に、所定の日時に口頭試問があります。口頭試問に臨んでも、論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性があります。
○本単位は，論文内容だけでなく、卒論への取り組み状況などすべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら、各人計画的に取り組んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

最終的に卒業論文を作成するにあたり、事象的データに基づいた論理的な論文を構成することが求められます。指導教員と十分に相談しながら、論文を執筆するための準備をしてください。

教科書

特に使用しません。

参考書

必要に応じて適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各学生による卒業研究計画および研究結果の発表時に、今後の論文作成の進め方について個別に検討する。

成績評価の方法

論文内容や面接での質疑応答の内容、および卒論への取り組み状況などを総合的に考慮して評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇田 和子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は, 3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 公開卒論審査において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び, 、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 公開卒論審査において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 公開卒論審査, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 朝雄	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は, 3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 公開卒論審査において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び, 、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 公開卒論審査において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 公開卒論審査, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
昔農 英明	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は, 3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 公開卒論審査において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び, 、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 公開卒論審査において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 公開卒論審査, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は, これまでの講義, 演習, 実習で学んできたことの集大成として, 各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は, 3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には, 変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては, 社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき, 自分のたてた研究の問いに対して, 先行研究の十分な摂取, 論理的な推論, 正確な実証により, 答えを与えるプロセスを, 正しい言語(日本語が基本)により, 学術論文のルールに従って, 論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて, 卒論発表会・審査会において, プレゼン資料を作成してプレゼンをし, 審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は, 4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料, 事例, 研究論文などの文献を収集・整理し, 問題の所在, アプローチ, 分析視点などを検討し発表, 討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は, フィールドの選定や現場の方との連絡など, 早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて, 学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに, 論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが, 秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく, 夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は, 現場の方たちの都合もあるので, 特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意:

○具体的進行については, それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文, 未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に, 所定の日時に卒論発表会・審査会がある。現代社会学専攻１年～３年の学生が参加する、公開審査会である。論文内容のほか、当日の発表や応答などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は, 一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら, 各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって, 特に春学期は就職活動があり, 卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは, かけられる時間が少なすぎ, 不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ, 研究計画, 基礎的なデータ集め, 基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も, 必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び, 、読み進めること。

就職活動でも, 面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば, その際にもよい応答ができて就職, 卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として, ゼミでの発表の形で, あるいは担当教員との個別のやりとりの形で, 中間発表をしてもらい, それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては, 卒論発表会・審査会において, また場合によっては別の機会も加えて, 教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容, 卒論発表会・審査会, 平常点など, すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大畑 裕嗣	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は，これまでの講義，演習，実習で学んできたことの集大成として，各自が関心をもち選択したテーマにもとづいて論文を完成するために設けられている必修科目である。

卒業論文指導にあたる教員は，3年次の現代社会学演習・実習の担当教員となる。(選んだテーマが演習・実習の担当教員のテーマと大きく異なる場合には，変更を認めることがある。その場合は変更前と変更先の両方の教員の了承を得ること。)

本年度の現代社会学専攻の卒業論文担当教員は以下の通り。

(1)大畑裕嗣 (2)内藤朝雄 (3)平山満紀 (4)昔農英明 (5)宇田和子

到達目標としては，社会学の基礎知識と基礎的な発想の十分な理解に基づき，自分のたてた研究の問いに対して，先行研究の十分な摂取，論理的な推論，正確な実証により，答えを与えるプロセスを，正しい言語(日本語が基本)により，学術論文のルールに従って，論文として執筆すること。文字数は 20000 字以上とする。加えて，公開卒論審査において，プレゼン資料を作成してプレゼンをし，審査者や一般参加者からの質問に答えることも目標である。

授業内容

卒業論文は，4月に行われる各自の卒業論文指導担当教員の説明をよく聞くこと。ついで担当教員と密接な連絡を常時とりつつ,以下のような段取りで進めること。

「卒業論文Ⅰ」(春学期)

各自が選んだテーマに即して関連する資料，事例，研究論文などの文献を収集・整理し，問題の所在，アプローチ，分析視点などを検討し発表，討論する。フィールドワークなどの社会調査をおこなう場合は，フィールドの選定や現場の方との連絡など，早めに開始して計画的に進める。本授業でのこれらの研究活動を通じて，学生は問題意識・研究の深化をはかるとともに，論文の章・節などの構成を考える。

「卒業論文Ⅱ」(秋学期)

春学期と同様の研究を続けるが，秋学期には卒業論文の執筆・完成に力をさく。そのためにはテーマを明確にしておくことはもちろん章・節など論文構成を確定する必要がある。授業だけでなく，夏期休暇を論文作成にむけていかに有効に使うかが重要となる。フィールドワークなどの社会調査は，現場の方たちの都合もあるので，特に早めに計画的に進める必要がある。調査の後の分析の時間もみておく。

履修上の注意

注意：

○具体的進行については，それぞれの指導教員の指示に従うこと。

○卒業論文の提出期日は「厳守」すること。提出日時に1分でも遅れた卒業論文，未完成の卒業論文は受理されない。

○卒業論文の提出のさいには卒業論文要旨も提出すること。要旨作成には意外に時間を要するので十分余裕をみておく。

○卒業論文の提出後に，所定の日時に公開卒論審査がある。論文内容や当日の面接態度などに問題がある場合、不合格となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

○本単位は，一年間の「卒業論文演習」での平常点など、すべてを「総合評定」した結果であることを十分自覚しながら，各人計画的に取り組んでください。

多くの学生にとって，特に春学期は就職活動があり，卒論に集中することが難しいかもしれない。だからといって就職活動がすっかり終わってからの時期に卒論に取り組み始めるのでは，かけられる時間が少なすぎ，不十分な内容になってしまう。そこで、ふたつのことを勧めたい。

①就職活動が本格化する前にテーマ，研究計画，基礎的なデータ集め，基礎的な文献調査などをおこなっておくこと。

②就職活動中も，必要な文献のうちハンディなものをカバン持ち運び，、読み進めること。

就職活動でも，面接で卒論のテーマが話題になることがしばしばある。このやり方をしていれば，その際にもよい応答ができて就職，卒論両者がうまくいくだろうと期待できる。

教科書

参考書

特に使用しない

課題に対するフィードバックの方法

卒業論文の完成を目標として，ゼミでの発表の形で，あるいは担当教員との個別のやりとりの形で，中間発表をしてもらい，それに対して教員は改善点や講評をおこなう。完成された卒業論文に対しては，公開卒論審査において，また場合によっては別の機会も加えて，教員から総合的な講評をおこなう。

成績評価の方法

論文の内容，公開卒論審査，平常点など，すべてを「総合評定」した結果を評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期の指導を踏まえて、実際に卒業論文を執筆し、その完成をめざす。

授業内容

①卒業論文の構成を定める。

②参考文献の整理を行う。

③中間発表。

④中間発表を踏まえて個別指導を行う。

履修上の注意

卒業論文完成までの各段階で、自分の達成度を冷静に確認し、他人からの意見、アドヴァイスを活かす努力を怠らないこと。また、剽窃の疑義などかけられないよう、安易な引用に過度に頼らず、孤独の中での思考力を錬成するようにしてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に必要ない。

教科書

特定の教科書は使用しない。

参考書

参考書は適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

各受講生の卒論進捗状況に応じてその都度指導を行う。

成績評価の方法

卒業論文とその面接審査100%。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
本授業は卒業論文の完成に向け、必要とされる情報や知識を提供するものである。

授業内容
参加者各自の卒業論文テーマに沿い、文献を選択、講読し、論文として纏める。
秋学期の予定は以下である。

9 月:夏休みに読んだ資料を基に、まとめのレポートを作成
10 月、11 月:文献の再度の選定と講読
12 月:卒業論文提出前最終発表
1 月:口頭試問対策

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容
各自が計画を立て、卒業論文の完成に向け、準備を行うこと。

教科書
特になし。

参考書
特になし。

課題に対するフィードバックの方法
レスポンスペーパーに書かれたいくつかの見解に対し毎回次回授業の際にコメントと共に紹介、フィードバックを行う。

成績評価の方法
授業への参加態度:70%
最終発表:30%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
大学での学びの集大成として、担当教員と相談しながら、また他の履修者からの意見も参考にしながら執筆を進め、卒業論文を完成させる。最新の研究蓄積を踏まえつつ、新しい知見を論理的・説得的に提示できるような論文を完成させることが目標である。

授業内容
第1回 構成を整える1
第2回 構成を整える2
第3回 執筆内容の検討1
第4回 執筆内容の検討2
第5回 執筆内容の検討3
第6回 執筆内容の検討4
第7回 執筆内容の検討5
第8回 執筆内容の検討6
第9回 執筆内容の検討7
第10回 執筆内容の検討8
第11回 暫定版提出、暫定版の修正1
第12回 暫定版の修正2
第13回 暫定版の修正3
第14回a 卒業論文の最終確認

履修上の注意
事前のアンケートに基づき、許可を受けた学生のみ履修できる。

準備学習(予習・復習等)の内容
担当教員の指導のもと、文献の調査・読解など各自の課題に積極的に取り組むこと。

教科書
なし。

参考書
なし。

課題に対するフィードバックの方法
授業内でおおよその講評を行い、細かい指摘については、Oh-o! Meiji を通して行う。

成績評価の方法
卒業論文執筆に至る途中経過での取り組み 20%、中間報告 10%、卒業論文に対する評価 60%、面接に対する評価 10%
科目としては、「卒業論文 I」および「卒業論文 II」と分かれているが、成績は卒業論文の面接後にまとめて評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(心理社会学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ゼミでの発表や相互の応答を通じて、20,000 字以上の卒業論文を執筆します。

卒業論文自体だけでなく、卒業論文を仕上げるまでの過程での、自身の発表、他の受講生の発表への応答、予備論文への取り組みも評価の対象とします。

卒業論文の指導はゼミの開講時間でのみ行います。

授業内容

1. 秋学期の流れ、成績評価の方法、予備論文提出の確認
2. 前回の振り返り、研究発表のやり方、各回の役割分担の決定
3. 卒論研究発表(1)発表2名、特定コメンテーター2名
4. 卒論研究発表(2)発表2名、特定コメンテーター2名
5. 卒論研究発表(3)発表2名、特定コメンテーター2名
6. [3]-[5]の振り返り(フォーマットに沿って発表)
7. 卒論研究発表(4)発表2名、コメンテーター2名
8. 卒論研究発表(5)発表2名、コメンテーター2名
9. 卒論研究発表(6)発表2名、コメンテーター2名
10. [7]-[9]の振り返り(フォーマットに沿って発表)
11. 作業日
12. 最終相互形式チェック
13. 卒論要旨の検討(卒業論文の提出直前)
14. 全体の振り返り

履修上の注意

事前に発表されたクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に学生が準備した成果物がなければ、担当教員の指導や他の受講生のレスポンスは不可能になります。そのため、学生は必ず成果物を用意して授業に臨まなければなりません。

教科書

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHK 出版

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

授業内発表 20%
発表への応答 10%
卒業論文 60%(予備論文の評価を含む)
口頭試問 10%

3/2 以上の出席が必要。5 回以上欠席した場合、単位認定の対象から外れる。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
生方 智子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
各教員が担当する専門分野は以下のとおり。
1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]
4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

秋学期は、国語学の場合、自分の研究テーマについての、中間報告を行なう。具体的には、論文題名・章立て・一部報告・当面の問題点等についての報告を行ない、他の受講生からも意見質問等を受ける。

1. 秋学期の進行説明、資料作成法、発表スケジュール決定
2. 受講生中間報告(1~10)
3. 中間報告後の進展(1~2)
4. まとめ

※受講生数で、変動がある

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行なうこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

国語学の場合、秋学期も、全員出席を原則とする。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。国語学の場合、横書きも認められる。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

用いない。プリント配布。受講生の発表の際も、受講生全員分の資料を印刷・配付する。

参考書

衣畑智秀編『基礎日本語学 第二版』(ひつじ書房) 自分の研究と関連する分野は、読みこんでおく。

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
山崎 健司	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司:上代文学
2)湯淺幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
杉田 昌彦	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。
1)山崎健司:上代文学
2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

○授業形式(杉田)
・本年度も授業担当教員が就労特別配慮対象者であるため、リアルタイム型を軸にオンライン授業を行う予定である。
ただし、状況によって対面授業を導入する可能性もある。その点を了解した上で授業を履修しい。
・春学期同様、水曜1限の授業時のみならず水曜2限の授業時間帯にも授業を予定。履修者は、必ず水曜2限の時間帯も受講できるようにしておくこと。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。
　卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。
　春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

○授業内容(杉田)
・まず、卒業論文Ⅰ(春学期)の中間発表と、夏休みの研究の成果をふまえてグループ別に指導を行い、10月中旬頃より最終中間発表を各自1回ずつ行う。発表終了後は、個別の論文作成相談と全体授業を織り交ぜて授業を進行する。
※現在のところこのような講義内容を予定していますが、授業を取り巻く環境の変化や受講生の反応によっては、今後内容の変更が大いにありえます。秋学期の開始時期(9月)に、より具体的な情報をシラバスの補足に UP する予定ですので、そちらも確認等よろしくお願いします。また、授業内容については、第一回授業内でも詳細に説明します。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。
　論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。
　完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。
　卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業のさいに指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

授業中適宜指示する。

参考書

授業中適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業に際して適宜指示する。

成績評価の方法

(卒業論文Ⅰ)卒論ゼミでの活動、その取り組み方(100%)で評価する。
(卒業論文Ⅱ)卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 栄美子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]
各教員が担当する専門分野は以下のとおり。
1)山崎健司:上代文学
2)湯浅幸代:平安文学(物語・日記・和歌など)
3)牧野淳司:中世文学
4)杉田昌彦:近世文学
5)田口麻奈:近現代文学
6)竹内栄美子:近現代文学
7)生方智子:近現代文学
8)小野正弘:国語学
9)甲斐雄一:日中比較文学、漢文学
10)郭南燕:比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]
4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT412J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業の概要]

各教員が担当する専門分野は以下のとおり。

1)山崎健司：上代文学

2)湯淺幸代：平安文学(物語・日記・和歌など)

3)牧野淳司：中世文学

4)杉田昌彦：近世文学

5)田口麻奈：近現代文学

6)竹内栄美子：近現代文学

7)生方智子：近現代文学

8)小野正弘：国語学

9)甲斐雄一：日中比較文学、漢文学

10)郭南燕：比較文学、近現代文学、キリシタン文学

[到達目標]

4年間の集大成となるような自身の文学考察を執筆し、完成させる。

授業内容

日本文学専攻においては、3年生の秋学期より、卒業論文の作成のための予備指導を行う。3年生は、秋学期の中頃に、全員が集まって卒業論文についての全般的な指導を受ける。その後、自分のテーマと希望する指導教員名(第3志望まで記す)を「卒業論文希望調査アンケート」に記入する。人数が偏った場合、志望をもとに調整が行われることもある。したがって、遅くとも3年次の秋学期には、書こうとする卒業論文のイメージをつくりあげておくことが必要である。

卒業年次生(4年生)は、新学年度の初めに、さらに具体的な「卒業論文テーマ票」を提出して指導を受ける。指導は、それぞれの指導教員の指示にしたがって随時行われるが、それ以外にも積極的に個人指導を受けることが望ましい。

春学期は、対象とする作家や作品について調査および考察を進め、卒論の構成(章立て)を考え、まず序章を執筆する。

履修上の注意

卒論指導の進行は、受講生の主題や人数によって異なる。また就職や教育実習と重なる時期でもあるので、かならずしも毎回出席できないときがある。各教員も、年度によって毎週卒論指導を行うこともあり、また数名ずつ呼び出して指導する場合もある。したがって卒論提出者は、担当の教員の方針をよく聞いておくことが必要である。

論文は縦書きを原則とし、字数は 20000 字以上とする。

完成した卒業論文は、本人が所定の日時に提出しなければならない。この時、決められた時刻に遅れた場合受理されないので注意してほしい。また1月末もしくは2月はじめに行なわれる、指導教員の面接試問を必ず受けなければならない。

卒論を提出する学生は、自分のテーマに近い教員を選ぶこと。教員の専門とかけ離れたテーマを申し出た場合は、教員との相談の上で、教員を変更したりテーマを変更せざるをえない場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際に指示する。事前学習として、取り組むテーマの調査を丹念に行うこと。事後学習として、調査に基づいた考察を丹念に行うこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業の際に、あるいは個別指導において行う。

成績評価の方法

卒業論文の内容 90%、口頭試問 10%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このクラスでは、ゼミナール・発表会などを通じて、卒業論文の作成を目指します。より具体的には、卒業論文Ⅰを基にして、データ収集・調査、分析の提示、議論の組み立てと進めていきます。

授業内容

1. 論文の流れの提示
2. 議論の組み立ての提示
3. 文献、雑誌論文の検索
4. 文献、雑誌論文の資料収集
5. 参考文献目録の提出とフィードバック
6. 卒論の章立ての提出とフィードバック
7. 先行研究の提出とフィードバック
8. 分析の提出とフィードバック
9. 序章の提出とフィードバック
10. 結論の提出とフィードバック
11. 注と参考文献の提出とフィードバック
12. 初稿の提出とフィードバック
13. 完成稿の提出
14. 卒論要旨の提出

履修上の注意

秋学期からは、本格的に論文を書き始めます。少しずつ書いていくようにして下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題を解決しながら、段階的に進めて行くようにして下さい。

教科書

使用しません。

参考書

各自のトピックに関連のある書籍・論文。

英米文学専攻英語学セクション HP の「卒業論文の書き方」。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する

成績評価の方法

独創性 20%、論理的構成 20%、経験的証拠 20%、分析の妥当性 20%、口頭試問 20%

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

3年次演習(英米文学演習 III)でカバーした論文作成法をベースに卒業論文を完成していきます。

英(語)文学テクスト分析、英国文化、映画と小説(アダプテーション)の比較、美術・芸術と文学作品から絵本・アニメなどの「テクスト」を(関連する理論フレームワークをできるだけ援用しながら)分析・考察したものを完成してもらいます。重要なのは、各自ができるだけ主体性を持って執筆を進めること、「自分の」論文として、ある程度オリジナリティのある卒業論文を書くことを目指します。秋学期開始時にイントロダクション、アウトライン、本文のいずれかの部分のドラフト、参考文献リストを提出してもらいますが、それに対するフィードバックからスタートします。秋学期は、論文において重要なポイントの一つである「引用全般」についてもう一度確認、クラス全体、個人ベースで指導していきます。12月初旬には、論文全体の rough draft が完成していることを目指します。Proofing(校正)も重要なプロセスの一部ですので、内容だけでなく論文書式についても再度確認していきます。

授業内容

(1) 進捗報告会 −3(Assignment-5: Revised Introduction, Outline, Chapter draft, References 提出)

(2) 個人面談−9
(3) 個人面談−10
(4) 個人面談−11
(5) 個人面談−12
(6) 個人面談−13
(7) 進捗報告会 −4(Assignment-6: Revised Introduction, Outline, Chapter draft, References 提出)
(8) 個人面談−14
(9) 個人面談−15
(10) 個人面談−16
(11) 個人面談−17
(12) 個人面談−18
(13) 進捗報告会 −5(Assignment-7: Complete draft 最終ドラフト 提出)
(14) 論文提出前最終確認授業(履修者全員、最終個人面談)

＊卒論提出後の面接は履修者全員参加しなければなりません。

履修上の注意

執筆言語については日本語・英語どちらでも構いません。毎年3、4名の履修者が英語で論文を書きますが、教員免許の取得を目指している履修生については、原則英語論文でお願いしています。書式は原則 MLA 方式を採用しますので、MLA Handbook もしくは下記の参考書をいずれか1冊入手してください。

卒業論文執筆というと「厄介な作業」だと思う人もいるかもしれませんが、このクラスでは「苦痛」をできるだけ軽減すべく執筆のステップごとに締め切りを設けます。卒業論文は、最終的に期日通りに提出することが最も重要ですが、このクラスでは執筆の「プロセス」も同様に評価します。指示されたドラフトを期日通りに提出し、中間報告会には必ず出席し、積極的に授業参加(プレゼンテーション、Peer Feedback など)することが卒論完成への最短ルートです。うまく執筆が進んでいない場合こそ、休まず授業に出席するようにしてください。教員の指導だけでなく、他の履修生との意見交換の場としても貴重な機会となります。個人面談については、学期中1人最低2回の参加義務とします。

例年、主題決定にかなり時間がかかるケースがありますが、ある程度のところで確定し、比較的時間と精神的に余裕がある春学期のうちにしっかりと参考文献検索を行っておいてください。アウトラインについては常時、見直しが必要です。

卒論提出前には必ず全体ドラフト(Assignment-7 これは最終稿ではありません)を提出した上で、1月の最終稿の提出をすること。合格ラインに達した論文を提出するためには、この時点での最終チェックは必ず行います。

準備学習(予習・復習等)の内容

秋学期は個人面談がより重要になってくるため、面談をより効果的に行うために面談日の(遅くとも)3日前までに何らかの「メモ書き」やドラフトを提出した上で個人面談にのぞんでください。

教科書

参考資料等、ハンドアウトを配布。

参考書

『最新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書、2018.
Edward Corbett and Sheryl Finkle.The Little English Handbook.(8th ed.). Longman, 2010.
Kluge, David and Matthew Taylor.Basic Steps to Writing Research Papers. Cengage Learning, 2018.

課題に対するフィードバックの方法

メール・個人面談、場合によってはドラフト郵送の形でフィードバックします。

成績評価の方法

Assignments 5-7: 40%
卒論最終稿 60%

その他

卒業論文は完成稿が「すべて」ではありません。執筆の経過、つまりデータ収集、分析、考察などのプロセスがあってこその完成です。中間報告会での発表や出席、面談に対する取り組みやドラフト提出など「ひとつひとつ」すべてのステップが納得のいく「自分の」論文の完成につながります。

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
久保田 俊彦	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

計量言語学、コーパス言語学に関する知識を背景とし、、テキスト(映画スクリプト, 小説, 脅迫状等, データ化できるものならなんでも使用可能)をデータとし、数量的に分析する論文の作成を行う。分析対象となるテキストへの理解、丁寧なデータ化が特に大事である。質、量ともに論文執筆に適したデータの作成を目標とする。また、今までにない情報、今までとは異なる情報を含む論文とするために、適切な先行研究を探し、内容を把握しておく必要がある。

卒業論文Ⅰで作成したデータをもとに分析を行い、論文として完成する。細部の形式については APA の Publication Manual を参照すること。

授業内容

次のような進行を予定している。
1.執筆過程の確認
2.データとパイロットスタディ
3.追加データの構築(1)
4.追加データの構築(2)
5.追加データの構築(3)
6.中間発表(1)
7.中間発表(2)
8.執筆に関する相談
9.執筆に関する相談
10 執筆に関する相談
11 執筆に関する相談
12 執筆に関する相談
13 執筆に関する相談
14 執筆に関する相談

履修上の注意

論文の構想、分析データの準備に十分な時間を割くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

「生田仮想デスクトップ PC」を利用し、予習・復習を行なうこと。

教科書

鹿島茂 (2004)『勝つための論文の書き方』東京: 文藝春秋.
上野千鶴子 (2018)『情報生産者になる』東京: 筑摩書房.

参考書

Wray, A. and Bloomer, A. (2012) (eds.) Projects in Linguistics and Language Studies (3rd edition). Abingdon : Hodder Arnold.

American Psychological Association. (2020). Publication Manual of the American Psychological Association (7th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評する。

成績評価の方法

論文80% 、発表、授業への貢献度 20%

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆のため、テーマを明確にし、先行研究を集め、議論の組み立て方を学び、定められた書式・スタイルに従ってアイデアをまとめるための方法論を確認します。前期ではテーマをまずは決めていきます。個別指導を経て中間発表までをクリアできるよう一歩ずつ進めていきましょう。後期では、テーマに沿って議論を組み立てながら、先行研究に対して自身の論をどのように位置づけるのかを明らかにしていきます。論文執筆とは、自分の考えを他人が理解できるよう説得的に伝える、という単純ながら難しい作業です。こうしたスキルは卒論のためだけではなく、卒業後も重要な意味をもちます。

授業内容

以下の流れで進めていきます。進捗状況に応じて、多少の変更が生じる可能性があります。

1. 夏期休暇に書き進めた点について(テーマの再確認)
2. アウトラインの確認
3. アウトラインの確認
4. アウトラインの確認、先行研究のまとめ(修正版)
5. 中間発表
6. 中間発表
7. 中間発表
8. 個別指導
9. 個別指導
10. 個別指導
11. 進捗確認
12. 進捗確認
13. 最終確認
14. 最終確認

履修上の注意

ひとつのアイデアからどのように考えを発展させることができるか、色々な角度から物事をみるよう意識してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

論文執筆は書くのと同じ程度、削る作業が重要です。書いては直し、の作業を繰り返してよいものを仕上げてください。

教科書

無し。必要な資料は配布します。

参考書

適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの内容を翌週取り上げ、コメントする。

成績評価の方法

出席 10%、発表と提出物 20%、卒業論文 70%

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語で書かれた文学・文化テクストについて研究論文を書く技術を学び、卒業論文として完成させる。ある対象(具体的には文学・文化テクスト)に自分なりの問題意識を持ち、自分の「問い」から主題を見つけ出し、その「問い」への答えを探求するための具体的な方法を設定し、調査し、調べた資料に基づいて自分の考察を発展させ、考察した内容を他人に分かるように文章化する。このプロセスを学び身に付けるのが卒業論文授業の主目的であり、履修者が将来どの分野に進んでも、何に対しても独自の問題意識を持ち、深く多角的な考察をし、その考察を他者＝世界に言葉で発信する思考力を磨くことは必須だろう。

授業内容

主題の設定、対象とするテクストの選定、自らの「問い」への答えを見出すための調査方法の説明から始まり、各自が調査・考察した内容のレポートと文章力についての具体的な個人指導を中心に、年三回の中間報告発表会を通して、互いに批評し合い、論考を深め、最終的に卒業論文を執筆、完成させる。また研究論文に必要な書式についても学ぶ。(書式の統一は、形式主義ではなく、他者と知的財産を共有するために必要なものだ、と理解しましょう。)

＜授業予定＞

1. 夏休みの研究報告。
2～4. 中間報告発表会 II 小論文ならびに卒業論文の章立て案
5～10. 各自の卒業論文の土台となる草稿のレポートに基づく個人指導
11～13. 中間報告発表会 III 卒業論文の一章あるいは概略
14. 卒業論文完成に向けての最終討議。 論考の改善、文章の修正、書式の統一。

履修上の注意

履修者へ：学生の皆さんが主体となる授業です。自分の問いへの答えはどこにも用意されていません。自分で模索し、自分で調査して執筆しなければ、論文は出来上がりません。このかけがえのない機会を楽しんで、良い論文を完成させましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

クラス共通の課題の他、各自の調査が主体となる。個人面談の度に、レポートを提出すること。

教科書

発表の際の配布資料は各自が用意すること。

参考書

MLA Handbook for Writers of Research Papers 最新版を参照のこと。その他、授業中に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

研究途上でのレポート、卒論草稿が提出されるたびに、添削指導します。

成績評価の方法

研究論文個人指導ならびに中間報告発表 II・III における発表・草稿 30%、提出する卒業論文 70%。

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In this course, students will write a thesis—a research paper of over twenty-five double-spaced pages in English on a work of literature in the English language. Students will be encouraged to choose the work and topics on which they focus, although guidance will be given by the instructor.

授業内容

1. Submission of work completed over the break
2.Discussion of thesis
3.How to read and write about criticism
4.How to read and write about theory
5.Student submission of further work
6.How to do historical research
7.Student presentations on thesis progress
8.Student submission of further work
9.How to read and write about a text 2
10.How to read and write about criticism 2
11.Student submission of penultimate draft
12.Instructor feedback on student drafts
13.Student submission of final draft
14.Wrap-up session
15. Submission

履修上の注意

Students must be willing to write, read and speak in English and be interested in conducting a longer research project.

準備学習(予習・復習等)の内容

During classes and tutorials, students will be guided through the writing process and introduced to core research skills. Students will give regular presentations on their progress, responding spontaneously to questions from the instructor. Students will be given the opportunity to submit drafts of their thesis before final submission. Those seeking a high grade are advised to submit work on time and to respond positively to feedback.

教科書

Students should have a copy of the following for consultation : MLA Handbook for Writers of Research Papers (The Modern Language Association of America, 2016) eighth edition, ISBN-10: 890072021X, ISBN-13: 978-8900720211. Either paper or Kindle format. All further reading will be provided in class.

参考書

All additional reading provided in class.

課題に対するフィードバックの方法

To be explained in class.

成績評価の方法

The final grade is based on the thesis but may also be altered due to poor attendance or inadequate preparation for class. If there is any provable plagiarism detected in your thesis, you will receive a failing grade for the class.

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業の大きな目標は、卒業論文を完成させることです。そのためには、対象を正確かつ創造的に観察し、他人の意見とも照らし合わせながら、自分の思考を増殖させること、さらには、自分の考えを効果的な文章に編み上げることまでが必要となります。これらはアカデミックな目的だけでなく、卒業後の仕事にも間違いなく役立つスキルです。

授業内容

以下の流れに沿って進みますが、人数・進捗状況などによって変更が生じる可能性があります。

01. 夏休みの報告
02. 中間発表 II(1)
03. 中間発表 II(2)
04. 中間発表 II(3)
05. 個別指導(1)
06. 個別指導(2)
07. 個別指導(3)
08. 個別指導(4)
09. 個別指導(5)
10. 中間発表 III(1)
11. 中間発表 III(2)
12. 中間発表 III(3)
13. 最終確認(1)
14. 最終確認(2)

履修上の注意

卒業論文で何よりも大事なのは、みなさんの主体性です。自分で考え、調べ、書かなければ論文は決して完成しません。しかし、少しずつでも考え続け、調べ続け、書き続けてゆけば、いずれ完成します。がんばっていきましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

詳しくは授業中に説明しますが、絶えずメモを更新しつづけ、少しずつでも書きつづけてください。

教科書

使用しません。必要な資料があれば配布します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中または個別指導においてコメントします。

成績評価の方法

授業参加点(普段の取り組みなど)30%
中間発表・草稿 70%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。就職活動などで欠席する場合は事前に連絡してください。

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
塚田　麻里子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

物事を自分の頭で考え、自分の言葉で表現するという訓練を積み、卒業論文を完成させることが目的です。次のような工程(行程)をたどります。

まず、ひとつの作品(もしくは、ひとりの作家)を選ぶこと。そのためには、すでにある程度の数の作品を読んでいなければなりません。

次に、テーマ探しです。簡単に言えば、その作品において解き明かしたいことは何か、自分自身にとっての「問い」を立てます。漠然と読んでいては、「問い」を意識することはできないかもしれません。線を引いたり、付箋を付けたりしながら、何度も読み返すことが必要です。そこに何が描かれているかだけでなく、どのように描かれているかにも注目していきます。

そのかたわら、参考文献を集めます。さまざまな資料に触れているうちに、自分では予期していなかった方向性が現れてくるかもしれません。逸脱や脱線を楽しみつつ、最終的には自分のテーマに帰還するのを忘れないでください。もしかしたら、テーマが変わることもあり得ます。いずれにしても、(卒業)論文執筆というのは、自分の問いに対し、自分で答えを出していくことです。思考と言葉は切り離せません。したがって、初めに書いたように、自分自身の言葉にも敏感になること、意識的に言葉を鍛え上げること、これが当ゼミの到達目標です。

授業内容

(1－3)「第1章」提出／中間報告会
(2･3)計画書の書き直し･提出／「第2章」執筆開始
(4－6)「第2章」以降の執筆／草稿提出／個人面談
(7－9)中間発表会
(10－12)草稿提出／個人面談
(13･14)最終確認作業

履修上の注意

以下、学生の皆さんに与えうる最大の助言、且つ、警告です。

授業にほとんど出席せず、中間報告もせず、いきなり冬休みから執筆を開始するというのは、恐怖との闘いであり、凄まじい体力が要ると(経験上)断言できる。それなりの、というか、低レベルの ecstasy は体験できるかもしれないが、経験の質から言っても、成績評価の点から言っても、決してお勧めしない。早い話、つまらぬ「武勇伝」となるだけである。

準備学習(予習･復習等)の内容

秋学期後半から、執筆作業が中心となります。「レポート(3～5枚程度)提出→面談の予約→論文指導」という流れです。
学生各自の自主的な取り組みが何よりも大切です。書き直せば書き直すほど、良いものが生まれます。できるだけ多く面談の予約を入れ、どんどん執筆作業を進めましょう。

とにかく、書いて書いて書いて、前に進んでいくこと。

教科書

必要に応じて、資料を作成またはコピーし、配布します。

参考書

必要に応じて紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各自が提出したリアクションペーパーやレポートの講評を、Oh-o! Meiji システム等を利用して実施します。

成績評価の方法

1. 平常点 40%:
授業への参加姿勢(発表、発言、リアクションペーパー)、ならびに、卒業論文完成までの取り組み(レポートや草稿の内容･提出状況)などから判断します。

2. 最終的に提出された卒業論文 60%:
(注1)他人の文章の盗用･剽窃を行った論文、または、生成 AI から得た内容(生成 AI の出力結果)をそのまま記載した論文は、当然のことながら、不合格となります。
(注2)論文完成までに、担当教員に一度も草稿を提出せず、面談も受けないという事態にならないよう、各自、十分注意してください。

その他

1. 英語の原書は早めに入手しましょう。

2. 原文を引用し、日本語訳をつけるときは、翻訳本を丸写しにせず、自分の訳をつけること。

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内　理矢	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このセミナーの目標は、文学作品の読み方･テーマの絞り方･論理的な文章の書き方･先行研究の調査方法･文学理論などを学びながら、アメリカ文学に関する卒業論文を完成させることである。
前期は卒論の書き方を確認しつつ、卒論で取り上げる作品をくりかえし精読し、作品世界と歴史的･文化的背景をまとめたレポートを作成する。また、そのレポートに基づき、テーマと章立てを紹介し、場面の考察を展開した発表報告を行う。
後期は先行研究の調査を進め、自らの読みを相対化し深めながら、卒業論文を仕上げる。各々のテーマに即して文学作品を論理的な文章で論じ、人間と文化に関する認識の地平を拡げていく。

授業内容

発表･討論･レポートを通して、人間と世界を批評する力を養う。
第1回:卒論進捗報告
第2回:テーマ研究
第3回:先行研究
第4回:先行研究
第5回:本論執筆
第6回:本論執筆
第7回:個別指導
第8回:個別指導
第9回:個別指導
第 10 回:個別指導
第 11 回:個別指導
第 12 回:発表会
第 13 回:発表会
第 14 回:書式の確認、推敲

履修上の注意

4年間の集大成として卒業論文を書き上げる。

準備学習(予習･復習等)の内容

テーマに沿った研究を継続し、人と文化について考えていきましょう。

教科書

プリントを配布します。各自のハンドアウト。

参考書

『MLA 英語論文の手引』最新版 北星堂書店
『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』竹内理矢･山本洋平編 ミネルヴァ書房(文学史、作家･作品･テーマ研究)
『アメリカ文学史』入門 全三巻 補遺版 渡辺利雄著 研究社(作家と作品の紹介)
『アメリカ文化――55 のキーワード』野田研一他編 ミネルヴァ書房(アメリカ文化の紹介)
『新文学入門』大橋洋一著 岩波書店(文学理論の解説)

課題に対するフィードバックの方法

卒論の添削を行い、コメントをします。

成績評価の方法

出席･討論への参加度(10%)、発表(20%)、卒業論文(70%)

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ゼミナールおよび個人面談を通じて、卒業論文の作成を目指します。具体的には、卒業論文Ⅰで設定した研究計画に基づいて、収集したデータの分析を行い、論文執筆を進めていきます。

授業内容

第1回 進捗状況についての発表
第2回 収集したデータおよび分析方法についての発表(1)
第3回 収集したデータおよび分析方法についての発表(2)
第4回 パイロットスタディ(1)
第5回 パイロットスタディ(2)
第6回 参考文献一覧の提出
第7回 中間発表
第8回 目次の提出
第9回 執筆に関する相談(1)
第 10 回 執筆に関する相談(2)
第 11 回 執筆に関する相談(3)
第 12 回 執筆に関する相談(4)
第 13 回 執筆に関する相談(5)
第 14 回 発表会

履修上の注意

英語学科目でこれまで学習した内容を再度確認しておいて下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題を解決しながら、段階的に進めて行くようにして下さい。

教科書

使用しません。

参考書

各自のトピックに関連のある書籍・論文
英米文学専攻英語学セクション HP の「卒業論文の書き方」

課題に対するフィードバックの方法

発表や課題についてのフィードバックは、主に全体に向けて行う。卒業論文の原稿の一部になるような提出物については、個別に対応する。

成績評価の方法

独創性 10%, 先行研究の調査 20%, データ収集および分析方法 30%, 考察・論理性 30%, 口述試験 10%

その他

科目ナンバー：(AL)IND412J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 学	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業のテーマ及び到達目標 卒論執筆・提出のための指導。指導を取り入れ、自分がおこなったリサーチに基づいた卒論を提出することが目的です。

授業内容

専門領域・作家・作品：シェイクスピアから現代までの英国演劇, 比較演劇, 演劇批評, 演技受容史, 言語身体論。
関心領域・作家・作品：英語で書かれた演劇, ならびに演劇一般が主ですが, 希望卒論テーマにはどんなものでも一応耳を貸します。ただし, 参考文献等の裏付けは必ず求めます。それから英米文学なので, 英語は読んでもらいます。

進行予定は大体以下の通りです。

9-10 月：第1章の検討から, 第2, 3章の流れを決め, 卒業論文の構成をかためていきます。この時点でスケルトンが完成すると同時に, 残りの章の執筆が進みます。
11 月：細かく執筆中の章を検討していきながら, 全3章の草稿を書き上げます。
12 月：イントロと結論を書きながら, 論文の最終チェックをします。書式, 書誌のチェックもここで行います。
冬休み：技術的な点を総チェックして提出に備えます。

第1回： 中間発表(一章分)の検討, 全体の構成固め
第2回： スケルトン案作成
第3回： 執筆確認(二章目)
第4回： 執筆確認(二章目)
第5回： 執筆確認(二章目), 三章に向けて方向性の確認
第6回： 執筆確認(二章目), 三章に向けて方向性の確認
第7回： 執筆確認(三章目)
第8回： 執筆確認(三章目)
第9回： 執筆確認(三章目)
第 10 回： イントロと結論の整合性確認
第 11 回： イントロ執筆確認
第 12 回： イントロを受けて, 全体手直し
第 13 回： 書式確認
第 14 回： 提出前チェック

履修上の注意

論文指導はクラス形式で行います。教員だけではなく, 卒論を書く同輩にも自分の考えを説明することで, 刺激だけではなく, 意欲がうまれるのをみてきたからです。

時間はあっという間に過ぎていきます。指導を受けることは, 少なくともタイム・マネジメント上極めて重要です(指導の 60%は, いわゆる「お尻を叩く」ことにあるのですから)。就活等で忙しい人もいるでしょうが, 卒業論文の研究テーマをはっきりさせ, 執筆を精力的に行うことは, 就活でも有効です。

指導中に「これをやればよいですか」,「これをやってもダメですよね」と私に訊いても大概無駄です。卒論指導は, 学生の問題発見力と, その自主的な解決力をつけてもらう場ですので, そういう質問には答えません。

準備学習(予習・復習等)の内容

できるだけ毎週来てください。たとえ進捗が芳しくなくても, 現在の状況を話し, 自分が今いる位置を確認するだけでも, 大きな違いがあります

教科書

論文に関する様々な注意書きはよく読むように。プレゼンテーションの体裁(書式, 読みやすさなど)は, 論文の質を決定する重要な要素あるだけでなく, 社会に出てからも常に要求されます。

参考書

英語の原書がある場合には, 必ず当たること。引用を行う際に英語の原文(そして日本語で執筆の際はその日本語訳)を出典と共に記すのが, 当専攻の卒業論文のルールです。作品はできるだけ早めに, 何度も読むこと。一回読んだだけでは論文は書けません。文献は調べながら書いていく際に芋づる式に出て行きます。面倒くさがらずに, その蔓を辿ることが重要です。もちろんこちらから指示も出します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

卒業論文 80%。口頭試問 20%。なお, 当然ですが, 剽窃は絶対ダメです(卒論が認められないだけではなく, 処分の対象になります)。「教えて君」を育てるつもりはありません。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い，その際に生じた疑問点を解決してゆく。
明確な問いをもち，対象を批判的に考察したうえで，論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

岡 本 和 子：十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学，思想，および，ベルリン関係
冨 重 与志生：十八世紀および現代のドイツ文学，近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
福 間 具 子：近，現代の抒情詩全般、思想(特に言語哲学)，ユダヤ系文化
マンデラルツ，ミヒャエル M.：ゲーテ，ロマン派，写実主義，ユダヤ文学，文化学
渡 辺 学：日独言語文化，現代ドイツ語の諸相(特にグループ語，若者ことば，造語，慣用句)，メディア言語学，異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回：卒業論文とレポートの違いといった基礎的，概略的説明を行うとともに，2025 年1月初旬における卒業論文提出までの日程表の説明。併せて，各人の卒論のテーマの早期確立を促す。
第2回以降第 13 回までは，すでに前年度から行っている卒論予備ゼミにおける個人面談を受けて，各人の卒論テーマについて発表してもらう。また，昼休み等の時間を利用して個別指導も行う予定である。
第 14 回は夏休みを控えた，卒論のための資料の収集および読み込みに重要な時期なので，全員かならず出席して今後の方針を明確にするように指導する。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち，計画的に勉強を進めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら，資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが，必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて，適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い、その際に生じた疑問点を解決してゆく。
明確な問いをもち、対象を批判的に考察したうえで、論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

岡 本 和 子：十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、および、ベルリン関係
冨 重 与志生：十八世紀および現代のドイツ文学、近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
福 間 具 子：近、現代の抒情詩全般、思想(特に言語哲学)、ユダヤ系文化
マンデラルツ、ミヒャエル M.：ゲーテ、ロマン派、写実主義、ユダヤ文学、文化学
渡 辺 学：日独言語文化、現代ドイツ語の諸相(特にグループ語、若者ことば、造語、慣用句)、メディア言語学、異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回：およそ二か月に及ぶ夏休みの間に進めた卒論のテーマの進捗状況について、一人 10 分程度で発表してもらう。その後、卒論のテーマや書き方について相談がある人には個別に対応する。
第2回から第 13 回：論文の書式についての説明(注の付し方、引用の仕方)を行い、個別面談において具体的な執筆過程で生じた疑問点について解決をはかる。適宜、執筆中の論文についての意見交換も行う。
第 14 回：完成した卒業論文を読み直し、再度の確認を行う。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち、計画的に勉強を進めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら、資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い、その際に生じた疑問点を解決してゆく。
明確な問いをもち、対象を批判的に考察したうえで、論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

岡 本 和 子:十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、および、ベルリン関係
冨 重 与志生:十八世紀および現代のドイツ文学、近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
福 間 具 子:近、現代の抒情詩全般、思想(特に言語哲学)、ユダヤ系文化
マンデラルツ、ミヒャエル M.:ゲーテ、ロマン派、写実主義、ユダヤ文学、文化学
渡 辺 学:日独言語文化、現代ドイツ語の諸相(特にグループ語、若者ことば、造語、慣用句)、メディア言語学、異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回:およそ二か月に及ぶ夏休みの間に進めた卒論のテーマの進捗状況について、一人 10 分程度で発表してもらう。その後、卒論のテーマや書き方について相談がある人には個別に対応する。
第2回から第 13 回:論文の書式についての説明(注の付し方、引用の仕方)を行い、個別面談において具体的な執筆過程で生じた疑問点について解決をはかる。適宜、執筆中の論文についての意見交換も行う。
第 14 回:完成した卒業論文を読み直し、再度の確認を行う。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち、計画的に勉強を進めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら、資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文執筆を行い、その際に生じた疑問点を解決してゆく。
明確な問いをもち、対象を批判的に考察したうえで、論理的に構成された卒業論文の完成を目標とする。

岡 本 和 子:十九世紀から二十世紀前半にかけてのドイツ文学、思想、および、ベルリン関係
冨 重 与志生:十八世紀および現代のドイツ文学、近現代の美術・建築・デザイン・工芸・料理文学など
新 本 史 斉:十九世紀から現代にかけてのドイツ語文学、ヨーロッパ越境文学、翻訳論、および、スイス関係
福 間 具 子:近、現代の抒情詩全般、思想(特に言語哲学)、ユダヤ系文化
マンデラルツ、ミヒャエル M.:ゲーテ、ロマン派、写実主義、ユダヤ文学、文化学
渡 辺 学:日独言語文化、現代ドイツ語の諸相(特にグループ語、若者ことば、造語、慣用句)、メディア言語学、異文化理解と異文化コミュニケーション

授業内容

第1回:およそ二か月に及ぶ夏休みの間に進めた卒論のテーマの進捗状況について、一人 10 分程度で発表してもらう。その後、卒論のテーマや書き方について相談がある人には個別に対応する。
第2回から第 13 回:論文の書式についての説明(注の付し方、引用の仕方)を行い、個別面談において具体的な執筆過程で生じた疑問点について解決をはかる。適宜、執筆中の論文についての意見交換も行う。
第 14 回:完成した卒業論文を読み直し、再度の確認を行う。

履修上の注意

指導教員と常にコンタクトを持ち、計画的に勉強を進めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに論文の構成を念頭におきながら、資料収集・分析を進めること。

教科書

特に使用しない。

参考書

特に定めないが、必要に応じて指示する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

卒論の内容と口頭試問で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

graduate paper writing is carried out, and the question in the time is solved.
The goal is to complete a logical graduate paper with clear questions and critical consideration of objects.

Kazuko Okamoto: German literature, thought, and Berlin from the 19 century to the first half of the 20 century
Yoshio Tomishige: 18 century and modern German literature, modern and contemporary art, architecture, design, crafts, cooking literature, etc.
Fuminari Niimoto: German literature from the 19 century to the modern age, European transboundary literature, translation theory, and Swiss relations
Tomoko FUKUMA: modern and contemporary lyric poetry in general, philosophy (especially linguistic philosophy), Jewish culture
MANDELARTZ MICHAEL M.: Goethe, Romans, realism, Jewish literature, cultural studies
WATANABE MANABU: Japanese-German language culture, aspects of modern German (especially group language, youth language, creation language, idiom), media linguistics, cross-cultural understanding and cross-cultural communication

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20,000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者 と主な専門

奥 香織 舞台芸術・芸術文化(史)、劇文学(戯曲、演出、翻案等)、芸術と社会、文化史
小島 久和 16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子 文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを
選ぶことも可能です。また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあり ます。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおり です。

4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

〔目標〕
8月 執筆開始
9月 論文の 30%完成
10 月 論文の 50%完成
11 月 論文の 80%完成
12 月 論文の 100%完成

1月冬休み明け 卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20,000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし,「論文」だからといっ て、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

提出物(課題)は添削して返却します。

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者と主な専門

渡辺惟央　20 世紀フランスにおける文学言語論、文学と言語思想の関係、北アフリカを中心としたフランス語圏の文学と社会
奥香織　舞台芸術・芸術文化(史)、劇文学(戯曲、演出、翻案等)、芸術と社会、文化史
小島 久和　16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子　文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあります。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおり です。
4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
　中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
　下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

〔目標〕
8月 執筆開始
9月 論文の 30%完成
10 月 論文の 50%完成
11 月 論文の 80%完成
12 月 論文の 100%完成

1月冬休み明け　卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといって、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

提出物(課題)は添削して返却します。

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者と主な専門

渡辺惟央　20 世紀フランスにおける文学言語論、文学と言語思想の関係、北アフリカを中心としたフランス語圏の文学と社会
奥香織　舞台芸術・芸術文化(史)、劇文学(戯曲、演出、翻案等)、芸術と社会、文化史
小島 久和　16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子　文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあります。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおり です。
4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
　中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
　下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

〔目標〕
8月 執筆開始
9月 論文の 30%完成
10 月 論文の 50%完成
11 月 論文の 80%完成
12 月 論文の 100%完成

1月冬休み明け　卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといって、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

提出物(課題)は添削して返却します。

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田母神 顯二郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

教員から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

私の専門は、フランス詩、フランス思想ですが、相談の上、他のテーマを
選ぶことも可能です。 また履修者数を調整させてもらうことがあるので
あらかじめご了承ください。

授業内容

秋学期も、授業は個人指導が中心になります。実際の論文作成を目指して
指導を行います。

秋学期のおおまかな流れとしては、

1)作品・参考資料の読解を元に、卒論の最終テーマを決め、構成を考えます。
2)10 月中には執筆を開始し、最初の草稿部分を教員に提出します。教員は
それをもとに、論文の書き方など必要な指導を行います。
3)11 月は、本格的に論文を書き進め、教員は各人に応じた指導を行います。
4)12 月は、教員のアドバイスを受けながら、いよいよ論文の仕上げに入ります。
5). 1 月の冬休み明けに論文を提出し、1月末～2月初めに面接試問を行います。

＊上記は、平均的なペースを書いたもので、実際は各受講者によってペースは
異なります。

履修上の注意

注意事項(全てのゼミ共通)
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといっ て、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意してください。
6 卒業論文提出後、1月末から2月初めの間に卒論についての面接試問を行い、それによって最終評価が決定します。

準備学習(予習・復習等)の内容

面接指導がある時は、毎回、教員に見てもらえるような形で、メモや草稿を用意しておいてください。

教科書

特になし。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

卒業論文 80% 面接試問 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

指導担当の先生から指導を受けながら、1年かけて 20、000 字以上の卒業論文を作成します。

指導担当者と主な専門

渡辺響子 19 世紀フランス小説、文化論
小島 久和 16 世紀文学
谷口亜沙子 フランスの文学、映画
田母神顯二郎 フランス詩、フランス文化全般、フランス思想
根本 美作子 文学・表象文化論

参考までに、卒論担当者の専門領域を略記しましたが、担当者と相談の上、他のテーマを選ぶことも可能です。 また履修者数の調整によって、担当者が希望した先生にならないこともあります。

授業内容

卒業論文の制作は、3年生の秋学期の卒論プレ指導によって主題への関心付けがなさ れ、4年次春の担当者決定によって本格的に始まります。大まかな流れは以下のとおり です。
4月 初旬 イントロダクション 、「主題報告書」の配付
中旬 「主題報告書」の提出(事務室)
下旬 担当教員の決定(掲示板)、 第1回の論文指導

2回目以降は、担当教員の指示にしたがってください。

〔目標〕
8月 執筆開始
9月 論文の 30%完成
10 月 論文の 50%完成
11 月 論文の 80%完成
12 月 論文の 100%完成

1月冬休み明け 卒論提出
1月末～2月初め 面接試問

履修上の注意

注意事項
1 4月のガイダンスおよび第一回目の論文指導には必ず出席してください。
2 卒業論文の字数は、日本語で 20、000 字(400 字原稿用紙 50 枚)以上 です。それにフランス語の要約(レジュメ)を添付してください。書式その他の詳細は、指導教授 の指示に従ってください。
3 「論文指導」では、各自の主題に従って、論考の進め方、参考文献の調査、執筆の手順など具体的な助言を与えます。しかし、論文の作成は、いわば大学の勉強の総決算ですから、受け身の指導に甘んぜず、自主性を発揮してください。
4 多くの学生にとって、50 枚の文章を書くのは初めての経験でしょう。せっかくの機会ですから、持てる力を十分に発揮してください。しかし、「論文」だからといっ て、必要以上に背伸びをせず、自分の考えを自分の言葉で書いてください。
5 論文の提出日時は厳格です。万一その時刻に遅れると、正当な理由がない限り受理してもらえません。そうなれば3月卒業も見送りとなりますので、くれぐれも注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業論文の主題を論じるために必要な文献一覧を中央図書館等を活用して作成してください。

教科書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

参考書

担当教員と相談のうえ、その指示に従ってください。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にフィードバック

成績評価の方法

卒業論文 80% 口頭試問 20%

その他

科目ナンバー：(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

4年間の取り組みの総まとめとして卒業論文の作成・提出を目指した指導を通年で行う。
井上の指導で行う領域は原則として西洋演劇に関わるものとする。

授業内容

秋学期
第1回 卒論の執筆上の諸注意
第2回～第 10 回 受講生によるプレゼン (進捗報告)
第 11 回～第 13 回 卒業論文執筆, 個別面談
第 14 回 卒業論文反省会

※2025 年度は合宿を実施。

履修上の注意

春学期と同様、執筆までの取り組みを重視するので, 授業に来ないでいきなり提出日に論文を提出するのは認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

中盤以降、面接形式を取るので、授業に出席しない間には当然十分な卒業論文への取り組みが求められる。
少しずつでも確実に進めるように心がけること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

毎回参加者同士と教員からのコメントを発表者に提示していく。

成績評価の方法

卒業論文自体の評価で判断するが, 春学期の取り組みと合わせて日常的な取り組み(都度の進捗状況の報告・途中経過の提出)も加味される。(提出前の日常的な取り組みの度合い 50 点+卒業論文の評価 50 点)
また, 口頭試問の無断欠席は, 評価の対象外となる。

その他

データで卒業論文集を作成する予定

科目ナンバー：(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文の作成・提出を目標とし, 各自の選定した研究テーマに沿って指導する。
テーマ設定の推奨領域は, 近代以後の演劇, 主に欧米演劇。

授業内容

卒業論文 II では、卒業論文 I と継続して指導を進める。
15)～19)夏休み後半から秋学期はじめに中間発表会を実施する。(草稿の提出)
20)～25)本論の執筆を各自進める。途中経過の報告。個人指導。
26)～28)仕上げ, 論文の体裁などをチェック。

履修上の注意

上記の推奨テーマ以外の指導を希望する場合には, 事前に相談に来ること。
1月末か2月に行われる口頭試問への出席を必須とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

つねに各自の研究テーマに沿った資料収集を心がける。
かつ各種発表準備のためのレジュメ作成。

教科書

個別に指示する

参考書

個別に提示する

課題に対するフィードバックの方法

各発表について、同日のディスカッションおよびコメントにて対応する。

成績評価の方法

卒業論文の内容(口頭試問を含む)70%, 取り組む姿勢 30%で評価。
口頭試問の無断欠席は, 評価の対象外となる。

その他

科目ナンバー:(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 愉	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

学部の集大成として卒業論文を完成させるとともに、これまでに習得した専門的な知識を用いて、文章を論理的に構築するスキルを獲得することを目標とする。テーマはモダニズム以降の西洋演劇を推奨する。ただし、演劇学専攻で学んだ知識・理論を応用して論じるのであれば、テーマの限定はしない(履修上の注意をよく読むこと)。

授業内容

第 1 回 論文作成においての注意点、枠組み章立ての再確認。
第 2-6 回 卒業論文執筆、個別面談
第 7 回 論文執筆ルールの確認
第 8-13 回 卒業論文執筆、個別面談
第 14 回 完成論文の報告とディスカッション

履修上の注意

個別指導が主となるため、自発的に担当教員と連絡を取り、卒業論文完成に向けて主体的に努めることを前提とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

指導教員と相談の上、各自で論文作成のための書誌情報を作成していく。個別面談は、それまでの成果を報告するために十分に準備して臨むこと。

教科書

なし

参考書

指導教員と相談の上、各自で論文作成のための書誌情報を作成していく。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

卒論執筆に向けた取り組み(30%)、卒業論文の内容(70%)に基づいて総合的に評価する。
口頭試問の無断欠席は、評価の対象外となる。

その他

科目ナンバー:(AL)ART432J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢内 賢二	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

大学における学修の集大成としての卒業論文の完成を目指す。
各自の問題意識や執筆の進度に即し、テーマと仮説の設定、論旨の構成、資料の扱い方、実証・論証の方法、表記・書式等について具体的な指導を行う。受講者には複数回の口頭発表が課せられる。
的確明瞭で論理的な記述・表現による論文の執筆により、学術的意義のある議論や主張を提示できる能力を身に付けることを目標とする。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 論文報告(1)
第 3 回 論文報告(2)
第 4 回 論文報告(3)
第 5 回 論文報告(4)
第 6 回 講評
第 7 回 論文報告(5)
第 8 回 論文報告(6)
第 9 回 論文報告(7)
第 10 回 論文報告(8)
第 11 回 講評
第 12 回 最終チェック(1)
第 13 回 最終チェック(2)
第 14 回 講評・まとめ

履修上の注意

必ず「卒業論文Ⅰ」と合わせて履修すること。
第 1 回に発表の担当日程等を決定するので必ず出席すること。
他の受講者の発表に対しても積極的に発言し議論に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料や参考書による予習・復習を行い、不明点は可能な範囲で調べること。
他の受講者の発表に対するコメント等も聞き流さずノートを取るなどして復習を行うこと。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題・質問に対する講評・回答を翌週の授業または Oh-o! Meiji で行う。

成績評価の方法

授業での報告・発表 70%、授業への参加度 30%。

その他

科目ナンバー：(AL)ART432J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
卒業論文Ⅱ(文学科)	**卒業論文Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文は4年間の総まとめである。どのようなテーマを設定するかにより、論文作成の方法も変わってくるので、ある程度論文の内容が定まってきた段階で、再度、テーマを吟味するよう心がけるようにして欲しい。しかっりとテーマの絞り込みを行ったうえで、しかるべき手順を踏んですすめていけば、必ず完成させることが出来るものであるが、時間的な制約も考慮して早めにきちんとした計画を立てることが重要な鍵となる。特に4年次は卒業論文作成以外に様々な課題を抱える時期でもあるので、指導教員との連絡を密にして、作成のための時間配分に留意して欲しい。

指導の領域は、日本演劇全般(歌舞伎を除く)とする。

授業内容

第1回 第1稿の提出
第2回 第1稿についてのコメント
第3回 第1稿改訂のための調査・研究(1)
第4回 第1稿改訂のための調査・研究(2)
第5回 第2稿提出のための研究計画
第6回 第2稿提出のための研究計画へのコメント
第7回 第2稿のための調査・研究(1)
第8回 第2稿のための調査・研究(2)
第9回 第2稿の提出
第10回 第2稿の最終調整(論文形式の最終チェック)
第11回 完成原稿の提出
第12回 完成原稿へのコメント
第13回 提出原稿の最終チェック
第14回 提出原稿へのコメント

履修上の注意

受講者全員に共通して必要な、論文執筆のための基本的な姿勢や執筆方法についての講義と、各自のテーマについての、個々に向けた指導の両方を行う予定なので、必ず教員との連絡を密にとるようにして欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

夏季休暇明けに、まずは第1稿を提出すること。ここから、この第1稿を修正しつつ、最終的な論文の完成を目指すことになる。第1稿の提出後は、あらためて、より広い視野で自身のテーマについて再考してみると良いだろう。指導教員から第一稿へのコメントを伝えるので、コメントを良く読み、第2稿に反映させることが重要である。また、完成にむけて、論文の形態も整えること。以上のことがらを含め、毎回の指導のなかで、各自に細かいアドバイスを与えるので、必ずノートなどに整理しておいて欲しい。

教科書

各自のテーマに合わせた必読書を紹介する。全員に共通の教科書は特に指定しないが、配布プリントを中心に論文の書き方についての指導を行う。

参考書

各自のテーマに合わせた参考書を紹介する。全員に共通の参考書は特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

各自の進捗状況に合わせて、対面または、クラスウェブを通じてコメントする。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習をして欲しい。

成績評価の方法

全体の構想案、および第1稿、第2稿、提出論文の内容について、指導への対応を考慮しながら評価する。(卒業論文Ⅰと合わせての評価とする。)

その他

受講者は指導教員との連絡を密にとることを心掛けて欲しい。

科目ナンバー：(AL)GEO191J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地域統計学Ⅰ	**地域統計学Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
小泉 諒	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義では、統計データや地域特性を定量的に分析・理解するための技術を学ぶ。

講義の前半では統計学やデータ分析の基礎的事項を学び、後半では統計分析に基づく統計地図の作成や統計データの地理的可視化を学ぶ。

これらを通して、地理学において必要な空間的思考の基礎となる統計的知識の獲得を目標とする。

授業内容

第 01 回 モジュール b(1 限後半)のみ 地域調査と統計データ(国勢調査, 社会経済統計, 各種地域統計の入手)
第 02 回 質問票の作成とサンプリング手法
第 03 回 データ種別・図表作成の基礎
第 04 回 平均, 度数分布, ヒストグラム
第 05 回 相関, 移動平均
第 06 回 分散, 標準偏差
第 07 回 カイ二乗検定と推定, グラフ作成と表現
第 08 回 基礎統計量と相関分析, 回帰分析(多変量解析)
第 09 回 クロス集計と属性別の分析
第 10 回 統計地図作成の基礎(基本操作, 階級区分, データ収集法)
第 11 回 地域的分布の把握, 人口移動, 地域間相互作用
第 12 回 地図の重ね合わせ, グラフ表示, 地域特性分析
第 13 回 気象統計の利用, 等値線, 地域の分類
第 14 回 商業統計の利用, 応用技術

履修上の注意

Excel の基本的操作を取得している前提で展開する。
遅刻や欠席が無いように努め、地域統計学 II を連続して受講すること。
事前学習の指示は web 上で行う。
なお履修希望者が多数となった場合, 初回出席者を対象として抽選となる可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の内容を、私有の PC で独力で解けるよう復習しておくこと。次回の予習にもなる。

教科書

谷 謙二(2022)『フリーGIS ソフト MANDARA10 入門 増補版』古今書院.

参考書

半澤誠司・武者忠彦・近藤章夫・濱田博之(2015)『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ出版.

課題に対するフィードバックの方法

全体講評を講義内で行う。講義内で行えない場合は、Oh-o! Meiji で公開する。

成績評価の方法

講義内の作業課題(70%)、期末レポート(30%).
なお成績評価を受けるためには、すべての作業課題(欠席時を含む)ならびに期末レポートの提出が必要である.

その他

使用ソフトを、私有の PC にもインストールして下さい。
・Excel
・地理情報分析支援ソフト MANDARA(windows のみ)

科目ナンバー:(AL)GEO191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地域統計学Ⅱ	**地域統計学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
小泉 諒	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義では、地域特性を定量的に把握し、GIS(地理情報システム)ソフトウェアを用いて地図化するための技術を学ぶ。
自然地理学分野・人文地理学分野それぞれの統計データや変数の地図化を通して、地域特性を定量的に把握する技術の獲得を目標とする。

授業内容

第 01回 統計データの種類とその入手(総務省統計局サイト e-stat の利用)
第 02 回 背景地図の種類とその入手
第 03 回 地域統計データの種類とその入手
第 04 回 地理空間データの種類とその入手
第 05 回 GIS ソフトウェアの基礎
第 06 回 自然地理学的分野の統計データ分析
第 07 回 自然地理学的分野の統計データ分析とその地図化
第 08 回 人文地理学分野の統計データ分析
第 09 回 人文地理学分野の統計データ分析とその地図化
第 10 回 一般図の作成
第 11 回 地域特性分析とその地図化
第 12 回 アドレスマッチングやバッファ機能を用いた立地分析
第 13 回 メッシュデータによる地域分析
第 14 回 GIS の応用技術

履修上の注意

地域統計学Ⅰを履修済であり、Excel と MANDARA の基本的操作を習得していることを前提とする。
遅刻や欠席が無いよう努めること。
事前学習の指示は web 上で行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

私有の PC で、各回の内容を独力で解けるよう復習しておくこと。次回の予習にもなる。

教科書

谷 謙二(2022)『フリーGIS ソフト MANDARA10 入門 増補版』古今書院。

参考書

半澤誠司・武者忠彦・近藤章夫・濱田博之(2015).『地域分析ハンドブック』ナカニシヤ出版。
村山祐司・駒木伸比古(2013).『地域分析 : データ入手・解析・評価』古今書院。
若林芳樹(2018).『地図の進化論 : 地理空間情報と人間の未来』創元社。

課題に対するフィードバックの方法

全体講評を講義内で行う。講義内で行えない場合は、Oh-o! Meiji で公開する。

成績評価の方法

講義内の作業課題(70%)、期末レポート(30%)。
なお成績評価を受けるためには、すべての作業課題(欠席時を含む)ならびに期末レポートの提出が必要である。

その他

使用ソフトを私有の PC にもインストールして下さい。
・Excel
・地理情報分析支援ソフト MANDARA(windows のみ)
・qGIS 長期リリースリポジトリ

科目ナンバー:(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
知覚・認知心理学	**知覚・認知心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
小粥 宏美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

感覚や知覚、思考などの認知機能に関わる研究は、様々な形で社会的な課題に貢献している。知覚や認知機能の仕組みを理解することで、私たちの暮らしに生まれる様々な変化について考えていくことが、認知心理学を学ぶ意義となる。この授業では、感覚・知覚・認知の基本的な仕組みについて理解し、人間の行動を情報処理モデルに基づいて説明できることを目標とする。

授業内容

第1回:認知心理学の概説
第2回:知覚と感覚の仕組み①
第3回:知覚と感覚の仕組み②
第4回:知覚機能の障害
第5回:認知とは?問題解決と推論
第6回:問題解決と推論
第7回:判断と意思決定
第8回:記憶①
第9回:記憶②
第 10 回:認知の発達①
第 11 回:認知の発達②
第 12 回:認知の発達③
第 13 回:認知機能の障害
第 14 回 a:まとめ
b:試験

履修上の注意

最初の授業で、履修上の注意や授業内容の大筋を伝えるため、本授業のイメージをつかんで欲しい。
授業で扱ったテーマを、日常生活にも積極的に応用しようとする意欲が求められる。
授業期間中に、数回にわたりグループワークを行う予定があることを理解してから履修を決めるようにすること。
授業の進行は、履修者の理解度によって変更するため、授業内容の変更がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

難しい専門用語が多いため、自己学習が必須になる。
適宜授業内で参考図書を紹介するため、それらを使って予習や復習をして欲しい。
授業に関連する内容の動画などを予習や復習に活用することがある。

教科書

使用しない

参考書

授業中に随時紹介するが、以下の本を事前に見ておくことが望ましい。

『認知心理学』 箱田裕司他 (有斐閣)
『グラフィック認知心理学』 森 敏昭・井上毅・松井孝雄共著 (サイエンス社)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する

成績評価の方法

授業内アンケートおよび授業への貢献度(20%)、期末試験(80%)により総合的に評価する

その他

科目ナンバー：(AL)GEO121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地球環境A	**地球環境A**	
担 当 者	開講期	開講地区
長谷川 裕彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

地球環境問題や日本列島の自然保護・環境保全問題を考えていく上で基礎となる天体地球および日本列島の自然特性について考える。

文系学部に在籍するみなさんは，小・中・高で歴史科目を学び，歴史時代の時間感覚をすでに身につけていることと思います。明治維新，戦国時代，平安時代くらいまでなら，日常生活の時間軸の延長上に位置する出来事として，きちんと理解できているのではないでしょうか。ところが紀元前になるとどうでしょう。かなりの歴史好き，考古学好きでないとちょっとあやふやになってくる(注:ここから先は，考古学専攻生と，地理学専攻生のうち自然地理学を専攻する学生を除いての話です)。さらに 1 万年前以前になると，よほどの考古学オタクか地学・自然地理学オタクでもないかぎり，自分自身の時間軸の範疇外となってしまうのが普通です。1 万年前も，100 万年前も，1 億年前も，すべてひっくるめて「大昔」。

しかし，それでは 46 億年に渡る地球史を正確に理解することはできません。現在の地球上に展開する様々な自然景観，言い換えれば現在の「地球環境」は，少なくとも数万年～数億年に渡る歴史を経て生成されたものです。この授業では，現在の地球環境を理解するために必要となる，地球史 46 億年の中で生じてきた様々な出来事に言及します。

前期終了時までに，地質学的時間感覚を身につけ，自然景観の中に読み取れる自然史の意味を理解できるようになることが，本授業の到達目標です。

授業内容

1. 天体地球：地球の形とサイズ，空間スケールの認識
　キーワード：ジオイド，チョモランマ(エベレスト)山，マリアナ海溝
2. 地球の内部構造，時間スケールの認識
　キーワード：地殻，花崗岩，玄武岩，マントル，プレート，地質時代，人類史
3. 地形営力と地形作用
　キーワード：広域応力場(圧縮応力・引張応力)，褶曲作用，断層作用，風化(作用)
4. 内的営力と内作用1：プレートテクトニクス理論(1)研究史
　キーワード：化石，大陸，海洋，放射年代測定，地磁気，古地磁気
5. 内的営力と内作用2：プレートテクトニクス理論(2)理論の実際
　キーワード：プレート境界，海嶺，海溝，造山運動，造山帯，火山帯
6. 内的営力と内作用3：日本列島の地体構造
　キーワード：トラフ，構造線，堆積岩，砂岩，泥岩，石灰岩，付加体
7. 内的営力と内作用4：断層作用と地震
　キーワード：プレート境界(型)地震，直下型地震，震源，地震波，波食棚
8. 内的営力と内作用5：火山
　キーワード：マグマ，マグマ溜り，溶岩，テフラ，火山灰，火砕流
9. 気象と気候1：気温
　キーワード：自転，公転，地軸，緯度，日較差，年較差，気圧，海抜高度
10. 気象と気候2：風・降水
　キーワード：高気圧，低気圧，コリオリの力，気団，前線帯，温暖前線，寒冷前線
11. 気象と気候3：気圧帯と恒常風，モンスーン，地方風
　キーワード：偏西風，貿易風，海流，暖流，寒流，気圧傾度
12. 気象と気候4：気候地域，日本の気候
　キーワード：ケッペン，植生，植生帯，森林限界，乾燥限界，土壌帯
13. 第四紀環境変動
　キーワード：第四紀，更新世，完新世，氷河，氷床，氷河の質量収支，雪線
14. 深海底コア・氷床コアから明らかにされた地球環境変動
　キーワード：有孔虫，(酸素の)安定同位体，海洋酸素同位体ステージ(MIS)，氷河氷

履修上の注意

第 1 回授業で半期間の授業内容の詳細と進行予定および成績評価の方法等について情報提供するので，履修希望者は必ず出席されたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習には，下記参考書が役立つ。また，授業時にその他の参考書についても随時紹介する。

授業で使用するパワーポイントの pdf 版を当日中に Oh-o!Meiji「授業内容・資料」にアップするので，授業の内容を明瞭に記憶している期間内に，配布プリントの図表や板書した図等と合わせてノート等にまとめ，知識の定着を計ることを推奨する。

(教員ごとに考え方は異なるが)大学における講義は「新たな知」との出逢いの場であり，その歓びを最大限に味わうためには，予習は不要と考える。ただし，授業内容(地球科学)の理解に対して不安を感じる場合には，「授業内容」に示した各回のキーワードについて検索しておくことを勧める。

教科書

教科書は使用しない。パワーポイント，および随時配布するプリントを利用して授業を進める。

参考書

『地理学基礎シリーズ：自然地理学概論』高橋日出男・小泉武栄(朝倉書店)
『図解プレートテクトニクス入門』木村 学・大木勇人(講談社ブルーバックス)
『日本列島の誕生』平 朝彦(岩波新書)
『日本列島 100 万年史 大地に刻まれた壮大な物語』山崎春雄・久保純子(講談社ブルーバックス)
『氷河時代の謎をとく』インブリー，J.・インブリー，K.P.(小泉 格 訳)(岩波書店)
『人類と気候の 10 万年史』中川 毅(講談社ブルーバックス)

課題に対するフィードバックの方法

質問は，毎回課すリアクションペーパーで受け付ける。質問に対しては，次回授業開始時にできる限り答える予定であるが，質問数が多い場合には，質問者以外の受講生にとってもプラスになる内容に絞って返答する。

成績評価の方法

平常点 50%(毎回課すリアクションペーパーへの取り組み方によって評価する)，学期末提出のレポート 50%。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地球環境B	**地球環境B**	
担 当 者	開講期	開講地区
長谷川 裕彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

唯一無二の宇宙船地球号の乗組員として知っておくべき事実を紹介し，人類が生存し続けていくために今何が問題となっているのか，その問題を解決していくために何を成すべきかを考える。

みなさんは「保護」と「保全」の違いについて考えたことがありますか？ そして，「地球環境の保護・保全」とは，いったい「誰のため」，「何のため」に必要だと考えられているのでしょうか？

今，私たちの周りには，様々なスケールの環境問題が渦巻いています。私たちヒト(ホモ＝サピエンス)がこの地球上で生き延びていくためには，一人一人が明確なスタンス(立ち位置，視点，哲学，思想……様々な言葉に置き換えて考えてみてください)を持ち，一つ一つの問題に対峙していく必要があります。本授業では，地球規模の環境問題や，日本列島における自然破壊の実例について，そのプロセスと結果を紹介し，根本的な原因がどこにあるのかを考えていきます。

授業最終回までに，受講生のみなさん一人一人が，1)「誰のための，何のための保護・保全であるのか」という問いかけに対する答えを見いだし，2)環境問題に対峙していく時の各自のスタンスを確立すること，の 2 点を本授業の到達目標とします。

授業内容

1. イントロダクション：地球生態系，地球環境問題 1：地球温暖化
2. 地球環境問題 2：オゾン層破壊，地球環境問題 3：酸性雨(1)
3. 地球環境問題 3：酸性雨(2)，地球環境問題 4：砂漠化と人口爆発
4. 地球環境問題 5：熱帯林破壊(1)東南アジア
5. 地球環境問題 5：熱帯林破壊(2)アマゾン
6. 地球環境問題 6：種の保存と文化・産業，商業捕鯨の是非
7. そして我が祖国日本 1：森林伐採と林道開発(1)森林破壊史
8. そして我が祖国日本 1：森林伐採と林道開発(2)林道開発の事例
9. そして我が祖国日本 2：原子力発電と環境(1)安全性，放射性廃棄物の問題
10. そして我が祖国日本 2：原子力発電と環境(2)原発建設のプロセス，日本の電力需要
11. そして我が祖国日本 2：原子力発電と環境(3)福島第一原発事故
12. そして我が祖国日本 3：河川開発，ダムの功罪(1)ダム開発史
13. そして我が祖国日本 3：河川開発，ダムの功罪(2)ダム開発の事例
14. そして我が祖国日本 4：砂防事業，まとめ：誰のための保護・保全か？

履修上の注意

第1回の授業時に授業内容の詳細と進行予定および成績評価の方法等について情報提供するので，履修希望者は必ず出席されたい。

事前に地球環境 A を履修済みであることが望ましい。地球環境 B のみを履修する場合には，A で扱っている内容について事前学習しておくことを勧める。

準備学習(予習・復習等)の内容

学びを深めるには，下記参考書が役に立つ。その他の参考書についても授業時に随時紹介する。

(教員ごとに考え方は異なるが)大学における講義は「新たな知」との出逢いの場であり，その歓びを最大限に味わいたいのであれば，予習は不要である。地球科学の専門知を扱う地球環境 A とは異なり，地球環境 B で扱う内容は，新聞を読んで理解できる能力があれば，専門用語に対する事前準備等は必要ない。

本授業で取り扱う内容は，人類が直面する喫緊の大問題ばかりである。また，我々日本人には一見無関係に思える話題でも，実は密接な関わりがあったりもする。この授業に真剣に取り組めば取り組むほど，人間の醜悪さや，自分の無力さを強く感じることになるだろう。そんな時，授業内で感じたこと，考えたことを，是非回りの友人たちや家族の方々に話してみてほしい。身の回りの人たちとの議論を通じ，様々な物・事が明確化されるはずだ。この授業を誘い水に，どんどん自身を啓発していってほしい。

教科書

教科書は使用しない。授業はパワーポイントと随時配布するプリントを利用して進める。授業で使用したパワーポイントは，授業後に pdf 版を Oh-o!Meiji「授業内容・資料」からダウンロードできるようにするので活用されたい。

参考書

『生態系ってなに？』江崎保男(中公新書)
『地球環境報告』石 弘之(岩波新書)
『酸性雨』石 弘之(岩波新書)
『地球環境報告 II』石 弘之(岩波新書)
『アマゾン 生態と開発』西沢利栄・小池洋一(岩波新書：絶版)
『原発のコスト』大島堅一(岩波新書)
『まやかしの安全の国 原子力村からの告発』田辺文也(角川新書)
『犠牲のシステム 福島・沖縄』高橋哲哉(集英社新書)
『人新世の「資本論」』斎藤幸平(集英社新書)

課題に対するフィードバックの方法

質問は，毎回課すリアクションペーパーで受け付ける。質問に対しては，次回授業開始時にできる限り答える予定であるが，質問数が多い場合には，質問者以外の受講生にとってもプラスになる内容に絞って返答する。

成績評価の方法

単位を取得できるかどうかの判定は学期末提出のレポート 100%。但し，単位取得者の成績評価(S・A・B・C 判定)に関しては，毎回課すリアクションペーパーへの取り組み等平常点を加味する。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地形学Ⅰ	**地形学Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

地形は，気候，水資源とともに，人間活動・生物活動の基盤となる重要な自然要素の一つである。地形景観は，様々なプロセスで形成された地形の集合体で，個々の地形の形成は「地形構成物質」「地形営力」「時間」で説明される。本授業では，これら 3 つの要素を軸にして地表の多様な地形形成プロセスを理解するとともに，気候・水文環境との関係を意識して地形景観を読み解くことを目標とする。これらの学習は，地質学的時間スケールでの地形発達や，災害発生メカニズムの理解の基礎となる。

授業内容

第 1 回 地形学で学ぶこと、地形営力
第 2 回 変動地形、活断層
第 3 回 火山地形
第 4 回 風化
第 5 回 カルスト地形
第 6 回 斜面地形
第 7 回 河川プロセス・河川地形
第 8 回 海岸地形
第 9 回 乾燥地形
第 10 回 氷河地形
第 11 回 周氷河地形
第 12 回 気候地形
第 13 回 人工地形
第 14 回 まとめと試験

履修上の注意

自然地理学概論 A, B を履修しておくこと。高校レベルの物理と化学に関する基礎的な知識を必要とする場合があるため、高校で未履修の場合は必要に応じて予習をしておくこと。地形学を専門とする場合には、秋学期の地形学 II も合わせて履修するのが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業資料を事前に Oh-o！Meiji にアップロードしておくので、印刷して授業に持参すること。予習として教科書の該当部分を読んでから授業に臨むと理解が深まる。

教科書

松倉公憲『地形学』(朝倉書店)

参考書

Paul R. Bierman, David R. Montgomery『Key Concept in Geomorphology』(Macmillan Learning)
Dale F. Ritter, R. Craig Kochel, Jerry R. Miller『Process Geomorphology』(Waveland Press)

課題に対するフィードバックの方法

質問があれば期末試験の解説は、後日、Oh-o！Meiji に掲載する。

成績評価の方法

コメントペーパー30%、学期末の筆記試験 70%

その他

科目ナンバー：(AL)GEO221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地形学Ⅱ	**地形学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では，地形学のうち変動地形学および発達史地形学を主に扱い，地質学的時間スケールでの地形形成について学習する。内的営力と外的営力の相互作用による地形の形成や，第四紀の気候変化・海水準変化・地殻変動の相互作用の結果としての地形形成といった，複雑な地形発達を理解することを目標とする。後半では，特に日本列島の形成史に焦点を当てて学習する。

授業内容

第 1 回 イントロダクション・地形学の考え方
第 2 回 地形発達の履歴を知る方法
第 3 回 地形と環境の編年
第 4 回 活断層による地形変化
第 5 回 地殻変動の履歴
第 6 回 隆起と侵食
第 7 回 変動帯に位置する日本列島の概観
第 8 回 日本列島の形成史 1(鮮新世以降の地殻変動による隆起と沈降)
第 9 回 日本列島の形成史 2(更新世中期以降の変動地形)
第 10 回 日本列島の形成史 3(第四紀の火山活動と地形形成)
第 11 回 第四紀の気候変動と地形の形成 I(山地の侵食・段丘)
第 12 回 第四紀の気候変動と地形の形成 II(海岸地形・海底地形)
第 13 回 関東平野の地形発達史
第 14 回 まとめと試験

履修上の注意

自然地理学概論 A, B および地形学 I を履修しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業資料を事前に Oh-o！Meiji にアップロードしておくので、印刷して授業に持参すること。

教科書

特に定めない

参考書

貝塚爽平『発達史地形学』(東京大学出版会)
太田陽子ほか『日本列島の地形学』(東京大学出版会)
Douglas W. Burbank, Robert S. Anderson『Tectonic Geomorphology』(Wiley-Blackwell)
Paul R. Bierman, David R. Montgomery『Key Concept in Geomorphology』(Macmillan Learning)

課題に対するフィードバックの方法

期末試験の解説は、後日、Oh-o！Meiji に掲載する。

成績評価の方法

コメントペーパー30%、学期末の筆記試験 70%

その他

科目ナンバー：(AL)GEO131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地誌学概論A	**地誌学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

地誌学とは特定の地域の特性(地域性)を総合的に解明する学問といわれているが、なぜ訪れたことも、訪れるつもりもない地域のことを知る必要があるのだろうか。本講義は「なぜ、誰のために、地誌学という学問が必要・有用なのか」、あるいは「地誌学とはどうあるべきか」などの素朴かつ根本的な問いから出発する。そのうえで、国内外の様々な地域に関する地誌を、実用・他分野の地域的記述(ウィキペディア、観光書、環境史など)とも比較しながら解読・検討する。本講義を通じて、対象地域に関する知識(環境と生活、文化、生業と産業、農業、まちづくり、国土開発、地域活性化など)を増やすだけではなく、地域記述の存在意義や分析方法、あるいは社会的影響などについても、批判的に考える習慣とスキルを身につけることを到達目標とする。

授業内容

主な項目は以下の通り。ただし変更の可能性がある。変更の際には事前に連絡をする。

01. 授業の概要・自己紹介
02. 地誌・地誌学とはなにか：地域性、風土、景観、権力(第 1・ 2 章)
03. 地誌の道具(第 3・4 章)・面白い地誌とは(第 5 章)
04. 都市の個性(第 6 章)
05. 産業・都市(第 7 章)
06. 自然と人間・環境史(第 8・9 章)
07. まちやむらの変遷(第 10 章)
08. 通期課題中間ディスカッション
09. 交通、交易、観光(第 11 章)
10. 災害と共に生きる(第 12 章)
11. 外国地誌1(第 15 章)
12. 外国地誌2(第 20 章)
13. 地誌は役に立つか
14. a. 期末試験 b. まとめ・解説

履修上の注意

授業においては、教官の講義を聞いて理解するだけでなく、学生による質問、意見や感想を共有することを通じて、お互いの学びの質を高めることが肝要である。よって授業への出席はもちろんであるが、予習や事前課題を通じて準備を整え、積極的に授業参加する姿勢が必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業・ディスカッションに参加するためにも、指定の締切日までに課題の作業を仕上げてくることが求められる。課題には、指定文献(ニュース、雑誌記事、学術文献)の解読、映像資料(ビデオ)の視聴、授業内容に対する感想や質問、小論文などが含まれる。

教科書

『みわたす・つなげる地誌学』上杉和央・小野映介(古今書院)2023 年

参考書

『地誌学概論(第 2 版)』矢ケ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢(朝倉書店) 2020 年
『つながりの地理学： マイノリティと周縁からの地誌』熊谷圭知(古今書院) 2022 年
『地理・地誌・地理学の論理構造』田邉裕(古今書院) 2024 年

課題に対するフィードバックの方法

各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また学生の希望に応じて、口頭で課題に対する助言や、授業内容に関する補足的解説を行う。

成績評価の方法

通期課題(40%)＋ 期末試験(40%)＋ 質問票・授業参加度(20%)
3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。
履修人数によって調整する可能性がある。
より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に学生相談室を利用することをすすめる。(連絡先: 03-3296-4217(駿河台);03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)GEO131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地誌学概論B	**地誌学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

地誌学は、19 世紀以降、世界が急速に結びついていく中で、自然、環境と生活、文化、生業や産業などの情報を総合し、さまざまな地域の見方をつくり出してきた。それは世界の理解を進めるのと同時に、時には地域の見方を固定し、偏見を生み出してしまったこともある。この授業では、主にヨーロッパについての地誌学的な考え方を提示しながら、陥穽にはまらずに地誌学的な研究をするためには何が必要なのかを受講生とともに考えていきたい。
受講生がヨーロッパとそこにとどまらない人びとの行動と空間の広がりについて考えることを通じて、地誌学の可能性を理解することを到達目標とする。

授業内容

ガイダンスののち、教科書『世界地誌 11 ヨーロッパ』(朝倉書店 2019)に沿って授業を行う。授業の中では、教科書の内容を解説するにとどまらず、むしろそこから批判的に展開できる事項について、資料やビデオなどを用いながら議論を進めていく。また、教員が訪問した国を地誌学的にとらえる仕方を提示し、受講生との意見交換も行う。

1. ヨーロッパを地誌学的に考える
2. EU という組織
3. 自然環境
4. 農業と村落
5. 工業化
6. 都市の形成と発展
7. 観光
8. EU 市民の暮らし
9. ヨーロッパ人の地理的想像力
10. 移民
11. 難民
12. 統合する EU と国境地域
13. 世界の中の EU
14. a.期末テスト b.解答

履修上の注意

映像資料を多用するので、字幕や音声に特に希望があれば早めに申し出ること。その他の必要事項も応相談。
オンライン授業を取り入れる可能性があるので、インターネット環境や機材を整えておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書を読むこと。理解が難しければ、教員に確認すること。授業内で紹介する参考図書を読むこと。

教科書

加賀美雅弘編 2019『世界地誌シリーズ 11 ヨーロッパ』朝倉書店

参考書

加賀美雅弘ほか編 2014『ヨーロッパ学への招待』学文社

その他、テーマごとに授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

期末課題については、14 回目の b モジュール(授業後半)で解説する。

成績評価の方法

毎回コメントペーパーの提出を求める。4回欠席した場合は期末テストを受けることを認めない。
評価はコメントペーパーの内容で 10%、読書レポート 40%、試験 50%で行う。
また、授業内での発言を積極的に加味する。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地図学Ⅰ	**地図学Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇根 寛	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(概要)

地図は、地理学において最も基礎的かつ重要な道具であり、地域の自然や人間活動の科学的な調査、分析、表現を行うために必要不可欠なツールである。また、人類が最も早く手にしたコミュニケーションツールであり、世界観を構成する要素でもある。本講義では、地図学Ⅱと併せて、地図とは何か、地図の歴史、地図の種類、地図表現の原理、地図の作り方、現代の地図、地図の利用など、地図に関する基礎的な知識と技術を幅広く学習する。

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員がその実務経験(国土地理院職員として 38 年間勤務)を活かして講義を行う科目である。

和泉校舎での対面授業で実施する。

(到達目標)

地図学Ⅱの履修と併せて、地図についての基礎知識を全般的に習得し、地図に関する理解と地図を利活用する能力を養い、地理学の調査研究のみならず、地理空間情報活用社会の担い手として、社会のあらゆる場面において、地図の作成と利用を的確に行える能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクション、基礎知識確認
第2回:地図とは何か、地図の歴史
第3回:近代国家と地図
第4回:地形表現、等高線
第5回:地図図式、地形図読図実習
第6回:測地系、三角測量
第7回:地球の形、GNSS 測量
第8回:地図投影法
第9回:主題図
第 10 回:地図表現法
第 11 回:空中写真、標高データ
第 12 回:地理院地図、電子地形図
第 13 回:地図と世界観、地名
第 14 回 a:授業のまとめ b:試験

履修上の注意

この授業は、秋学期に実施する「地図学Ⅱ」と連続しており、このうち、地図学Ⅰでは、主に地図の基本的な知識を習得し、地図学Ⅱでは、主に地図の活用方法を身につける。両者を通して履修することにより目標に到達するよう設計されており、できるかぎり両者を同じ年度に履修することが望ましい。

履修希望者多数の場合は人数制限を行う可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義資料は原則として事前に Oh-o! Meiji に掲載される。予習をしておくとともに、これをプリントまたはダウンロードして授業に持参すること。やむをえず授業を欠席した場合は、Oh-o! Meiji に掲載された講義資料を閲覧するとともに、教科書などにより自習しておくこと。

教科書

『地図づくりの現在形 地球を測り、図を描く』 宇根寛・講談社

上記のほか国土地理院の2万5千分1地形図1枚を実習に使用するので購入すること。使用する図名、購入方法等は授業で指示する。

参考書

授業の中で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業終了後にリアクションレポートを提出すること。リアクションレポートには、講義内容に関する疑問点、確認したい点などを記入すること。レポートに記された質問等はコメントとして直接フィードバックするか、次回の授業内容に取り入れる。

成績評価の方法

(1)授業への貢献度(レポートを含む)、(2)定期試験を総合的に判断して評価する。目安として、(1)が 50%、(2)が 50%。地図地理検定試験を受検したことを報告した場合には評価に加味する。

その他

地図関連のイベント、関連施設を適宜紹介するので、積極的に参加・訪問して欲しい。

地理学専攻以外の学生の受講を大いに歓迎する。

科目ナンバー:(AL)GEO191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地図学Ⅱ	**地図学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
宇根 寛	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(概要)

地図は、地理学において最も基礎的かつ重要な道具であり、地域の自然や人間活動の科学的な調査、分析、表現を行うために必要不可欠なツールである。また、人類が最も早く手にしたコミュニケーションツールであり、世界観を構成する要素でもある。本講義では、地図学Ⅰと併せて、地図とは何か、地図の歴史、地図の種類、地図表現の原理、地図の作り方、現代の地図、地図の利用など、地図に関する基礎的な知識と技術を幅広く学習する。

この科目は当該授業内容に関する実務の経験を有する教員がその実務経験(国土地理院職員として 38 年間勤務)を活かして講義を行う科目である。

和泉校舎での対面授業を予定している。校外実習(1日)を行う予定である。その場合、講義1回を休講とする。

(到達目標)

地図学Ⅰの履修と併せて、地図についての基礎知識を全般的に習得し、地図に関する理解と地図を利活用する能力を養い、地理学の調査研究のみならず、地理空間情報活用社会の担い手として、社会のあらゆる場面において、地図の作成と利用を的確に行える能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回:ウエブ地図の時代
第2回:地理空間情報活用推進基本法
第3回:地理空間情報活用社会とは
第4回:地域メッシュと地理情報標準
第5回:基盤地図情報と電子国土基本図
第6回:海の地図
第7回:医療と地図
第8回:災害と地図
第9回:ハザードマップ
第 10 回:ハザードマップを信じるな?
第 11 回:地図を活用した防災教育(グループ討議)
第 12 回:地図を活用した防災教育(プレゼンテーション)1
第 13 回:地図を活用した防災教育(プレゼンテーション)2
第 14 回 a:講義全体のまとめ b:試験

履修上の注意

この授業は、春学期に実施する「地図学Ⅰ」と連続しており、このうち、地図学Ⅰでは、主に地図の基本的な知識を習得し、地図学Ⅱでは、主に地図の活用方法を身につける。両者を通して履修することにより目標に到達するよう設計されており、できるかぎり両者を同じ年度に履修することが望ましい。また、校外実習(1日)を行う予定であり、履修者は原則として参加すること。校外実習を実施する場合は講義1回を代休とする。

後半には、防災教育の指導案を作成するグループ討議とプレゼンテーションを実施する。

履修希望者多数の場合は人数制限を行う可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義資料は原則として事前に Oh-o! Meiji に掲載される。予習をしておくとともに、これをプリントまたはダウンロードして授業に持参すること。やむをえず授業を欠席した場合は、Oh-o! Meiji に掲載された講義資料を閲覧するとともに、教科書などにより自習しておくこと。

教科書

『地図づくりの現在形 地球を測り、図を描く』宇根寛・講談社

参考書

授業の中で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業終了後にリアクションレポートを提出すること。リアクションレポートには、講義内容に関する疑問点、確認したい点などを記入すること。レポートに記された質問等はコメントとして直接フィードバックするか、次回の授業内容に取り入れる。

成績評価の方法

(1)授業への貢献度(レポートを含む)、(2)プレゼンテーション(3)定期試験を総合的に判断して評価する。目安として、(1)が 30%、(2)が 20%。(3)が 50%。地図地理検定試験を受検したことを報告した場合には評価に加味する。

その他

地図関連のイベント、関連施設を適宜紹介するので、積極的に参加・訪問して欲しい。

地理学専攻以外の学生の受講を大いに歓迎する。

科目ナンバー：(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級意味論	**語用論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 文紀	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

このクラスでは、英語の分析において役立つ意味論と語用論について学びます。言葉の意味は一見当たり前のように思えますが、厳密に分析しようとすると捉えどころがないものです。このような言葉の意味を探求する分野が意味論です。また、表現の持つ意味を理解したとしても、実際の使用状況においては別の意味で使われることがあります。この文字通りの意味と使用状況における意味の違いを分析するのに役立つ概念を学ぶのが語用論です。

この授業では、学んだ内容を応用して問題解決ができることを目標にします。意味論と語用論における概念や手法を、実際の言語現象に適用して説明することが評価の基準になります。理解と実践の間に存在するギャップは、思われているよりも大きいものです。この授業を通じて、単に意味論や語用論を知っているだけでなく、具体的な問題を解決するための実用的な知識と知恵を身につけていただきたいと思います。

授業内容

初回に担当者(グループ)を決めて、発表してもらう形で進めます。各回の授業進行は大まかには以下のように予定しています。

1. 担当者による教科書担当箇所の発表によって理解する。(理解)
2. 教員による発展的内容・具体的な研究時例の紹介によって使い方を考える。(発展)
3. 実際の(日)英語の例題・文例を用いて、実際に分析を試みる。(応用)

第１週 イントロダクション(担当者決め)、語用論とは何か？
第２週 Textbook Chapter 1 Introduction
第３週 Textbook Chapter 2 Literal vs. non-literal meaning
第４週 意味論と語用論の境界線
第５週 Textbook Chapter 3 Implicature
第６週 Textbook Chapter 4 Speech acts
第７週 Textbook Chapter 5 Reference
第８週 Textbook Chapter 6 Definiteness and anaphora
第９週 Textbook Chapter 7 Presupposition
第 10 週 Textbook Chapter 8 Information Structure
第 11 週 Textbook Chapter 9 New Directions
第 12 週 Textbook Chapter 10 Conclusion
第 13 週 語用論の広がり(Politeness, Interactional Linguistics)
第 14 週 講義のまとめ、レポート課題紹介

受講者の人数・理解度によって授業方法・速度について変更があります。

履修上の注意

関連する授業(統語論、音声学、コーパス言語学、意味論)を取っておくと言語学全体における意味論・語用論の位置付けと有用性がより明確に理解できると思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞
担当しているかどうかに関わらず、教科書の指定範囲を必ず読んで下さい。章末の Exercises についても担当者は(間違っても良いので)解答して下さい。

＜復習＞
学んだ内容と関連する日英語の実例を集め、分析してください。その時、どのようなデータが適切か考え選択できることも、意味論・語用論を使う上で重要な技能になります。

教科書

Birner, Betty J. 2021. Pragmatics. London, England: Oxford University Press. ISBN: 9780198828594
Kroeger, Paul. 2022. Analyzing Meaning. Language Science Press.(https://langsci-press.org/catalog/book/359 より pdf 入手可)

参考書

関連する文献は、授業内で適宜紹介しますが、授業全体を通しては以下の書籍を参考文献として紹介します。

Cruse, Alan D. (2006). Glossary of Semantics and Pragmatics. Edinburgh University Press.
Cruse, Alan D. (2011). Meaning in Language: An Introduction to Semantics and Pragmatics. Oxford University Press. (片岡宏仁(訳). (2012).『言語における意味: 意味論と語用論』. 東京電機大学出版局.)
Lyons, John. (1977) Semantics. 2vols. Cambridge University Press.

課題に対するフィードバックの方法

発表については、その場でコメントします。書かれたものについてはフィードバックを書き込んで返却する予定です。

成績評価の方法

授業内課題(担当箇所発表、Exercise 解答、その他授業内ディスカッション、70%)、最終課題(30%)

その他

言葉の意味は、誰しもが話すことができる以上、知っていると思われがちですが、少し考えてみると多くの謎があります。たとえば、「恋」と「愛」の違いについて自信をもって説明できますか？「sweet」と「甘い」は、何が同じで何が異なるのでしょうか？「Good morning」や「Hello」という表現の意味は何でしょうか？「How are you?」や「What do you do?」には、単語と文法だけでは解釈できない特別な意味が含まれています。「I wish I could.」や「行けたら行くわ。」が断りの意味を持つのはなぜでしょうか？これらは言語の謎のほんの一部に過ぎません。これらの素朴な疑問に答えるために、意味論や語用論を含む言語学という学問は、時間をかけて必要な概念やツール、実証方法を開発してきました。言語の謎に言語学のツールを用いて挑むことで、研究という活動の難しさと面白さを体験していただきたいと思います。

科目ナンバー：(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級音声学 I	**英語学研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、英語のテクストを読み、イギリス英語を具体的例として扱いながら、音声学一般について幅広く学んでいきます。

春学期は特に、英語音に限らず世界の様々な言語の音を扱いますので、十分に理解するには、積極的に声を出して練習することが求められます。音声一般について幅広く学んでいくなかで、英語の発音についての理解がより一層深まるようにします。春学期は基礎となる知識を学び、秋学期に非標準的な英語変種や学習者の発音について考えるための素地を養います。

授業内容

受講者の理解度によって多少変更する可能性がありますが、以下のように計画しています。
初回の授業日に担当者を決め、発表してもらう形で進めます。

第1回:ガイダンス(担当者決め+イントロダクション)
第2回:A4 How we produce speech (音声器官、気流の種類、声帯)
第3回:A3 How we produce speech (調音点、調音様式)
第4回:A4 Consonant possibilities (子音一般)
第5回:A5 English obstruents (英語の阻害音)
第6回:A6 English sonorants (英語の共鳴音)
第7回:A7 Vowel possibilities (母音一般)
第8回:A8 English short vowels + A9 The English long vowels(英語の短母音、長母音)
第9回:A10 The English diphthongs and vowels + /r/
第 10 回:B1 Phoneme and syllable revisited (音素に関する諸問題)
第 11 回:B1 Phoneme and syllable revisited (音節に関する諸問題)
第 12 回:B4 Features of connected speech (音変化)
第 13 回:B4 Features of connected speech (音変化)---続き
第 14 回:春学期のまとめ

履修上の注意

2年次の「音声学入門 I, II」あるいはその他音声学関連科目を少なくとも1つ履修済みであること。他専攻・他学部の学生など、なんらかの理由でこれを履修していない場合は、初回授業で申し出ること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、必ず教科書の指定範囲を読み、入念に予習をしてくること。都度出てくる Activity にも取り組むこと。

教科書

Carley, P., Mees, I. and Collins, B. (2025) Practical English Phonetics and Phonology (5th ed.). Routledge.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内容の理解度確認問題については、採点後返却する。また、間違いが多かった箇所については、返却時に全体に向けて解説する。その他の箇所については、授業前後の時間やメールで個別に質問を受け付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、宿題 30%、期末試験 60%

その他

科目ナンバー:(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級音声学 II	**英語学研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
新城 真里奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、英語のテクストを読み、イギリス英語を具体的例として扱いながら、音声学一般について幅広く学んでいきます。

秋学期は、超分節音に関連する英語発音の特徴を扱います。学期の中盤以降は、これまでに身に着けた音声学の知識を活用して、いくつかの非標準的な英語変種の特徴を観察します(教科書付属の音声を使用して、グループごとに実際に聴覚印象に基づく分析を試みます)。これを通して、英語の多様性についての理解を深めます。また、世界中で様々な英語が話されている現代において、英語を外国語として学ぶ人に発音を教える際に、どのような発音を目標にするべきか、何を、どの程度身に着ける必要があるのかを検討していきます。

授業内容

受講者の理解度によって多少変更する可能性がありますが、以下のように計画しています。

初回の授業日に担当者を決め、発表してもらう形で進めます。

第1回:イントロダクション(担当者決め+春学期の復習)
第2回:B2 Word stress ＋ B3 Sentence stress (語強勢、文強勢)
第3回:B5 Speech melody (イントネーション)
第4回:B5 Speech melody (イントネーション)---続き
第5回:Sec. C2～ Exploration (英語変種 1)
第6回:Sec. C2～ Exploration (英語変種 2)
第7回:Sec. C2～ Exploration (英語変種 3)
第8回:グループ発表
第9回:B7 Teaching a foreign language
第 10 回:B8 Learning a foreign language
第 11 回:テキスト講読
第 12 回:議論:日本語母語話者に教える場合
第 13 回:議論:日本語母語話者に教える場合
第 14 回:秋学期のまとめ、期末試験

履修上の注意

2年次の「音声学 A, B」あるいはその他音声学関連科目を少なくとも1つ履修済みであること。他専攻の学生など、なんらかの理由でこれを履修していない場合は申し出ること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、必ず教科書の指定範囲を読み、入念に予習をしてくること。都度出てくる Activity にも取り組むこと。

教科書

Carley, P., Mees, I. and Collins, B. (2025) Practical English Phonetics and Phonology (5th ed.). Routledge.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内容の理解度確認問題については、採点後返却する。また、間違いが多かった箇所については、返却時に全体に向けて解説する。その他の箇所については、授業前後の時間やメールで個別に質問を受け付ける。

成績評価の方法

授業への貢献度:10%
課題:10%
グループ発表:20%
学期末試験:60%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN228J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級ドイツ語講読 A	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
久保 哲司	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語の発音や初級文法を復習しながら、日常生活に関する平易な文章を読む練習をします。初級文法で詳しく扱われない文法項目については、できるだけていねいに説明するつもりです。音声や(必要があれば)動画なども活用し、聞く力の養成につとめ、ドイツ語圏の文化への関心を深めるようにしたいと思います。
授業のときには独和辞典を必ず持参してください。

【到達目標】
1)ドイツ語の発音をしっかり身につける
2)基礎的な文法項目を十分に理解する
3)日常生活に関する平易なテキストの読解・聞き取りができるようになる

授業内容

第1回: イントロダクション
第2回～第13回:テキストの講読、練習問題の答え合わせ
第14回 a: まとめの試験、b: 解説

履修上の注意

ドイツ語の初歩を学習していることが履修の前提となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】辞書を綿密に引いて予習をしてくること。

【復習】よくわからなかった点はあいまいなままにせず、辞書を引きなおしたり、1 年時に使った教科書などを読み返したり、次回の授業時に教員に質問したりしてください。

教科書

Susanne Schermann / 篠原敏昭 / 岡田恒雄著『ドイツ語万華鏡』(三修社)改訂版、2004 年

参考書

次に挙げるものは文法をかなり詳しいところまでコンパクトにまとめた本で、持っていると非常に便利:
中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ —改訂版—』(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日にまとめの試験を行い、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

平常点(授業への参加度)40 パーセント、まとめの試験 60 パーセント。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN228J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級ドイツ語講読 B	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
久保 哲司	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語の発音や初級文法を復習しながら、日常生活に関する文章を読む練習をします。学期の終わりのほうでは、一般的な文章に近いレベルのテキストを扱うことになるでしょう。初級文法で詳しく扱われない文法項目については、できるだけていねいに説明するつもりです。音声や(必要があれば)動画なども活用し、聞く力の養成につとめ、ドイツ語圏の文化への関心をさらに深めていきたいと思います。

授業のときには独和辞典を必ず持参してください。

【到達目標】

1)日常会話でよく使われる単語や言い回しに慣れる

2)日常生活に関する、一般的な文章に近いレベルのテキストの読解・聞き取りができるようになる

授業内容

第1回: イントロダクション

第2回～第13回:テキストの講読、練習問題の答え合わせ

第14回 a: まとめの試験、b: 解説

履修上の注意

教科書は春学期の「中級ドイツ語講読 A」から継続して使いますが、秋学期からの参加でもとくに不都合はないと思います。

ドイツ語の初歩を学習していることが履修の前提となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】辞書を綿密に引いて予習をしてくること。

【復習】よくわからなかった点はあいまいなままにせず、辞書を引きなおしたり、1 年時に使った教科書などを読み返したり、次回の授業時に教員に質問したりしてください。

教科書

春学期の「中級ドイツ語講読 A」から継続して

Susanne Schermann / 篠原敏昭 / 岡田恒雄著『ドイツ語万華鏡』(三修社)改訂版、2004 年

を用います。

参考書

次に挙げるものは文法をかなり詳しいところまでコンパクトにまとめた本で、持っていると非常に便利:

中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ ―改訂版―』(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日にまとめの試験を行い、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

平常点(授業への参加度)40 パーセント、まとめの試験 60 パーセント。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級ドイツ語コミュニケーション A	**ドイツ語作文・会話ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
ドゥッペル, メヒティ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In diesem Kurs steht „Kommunikation“ im Mittelpunkt – also miteinander auf Deutsch sprechen. Am wichtigsten ist dabei nicht perfektes Deutsch, sondern dass wir verstehen, was die andere Person meint.

Wir benutzen das deutsche Lehrbuch Momente (A2.1) und üben vor allem das Sprechen (in Paar- und Gruppenarbeit), aber auch Hören und Lesen. Jedes Mal gibt es eine kurze Hausaufgabe zur Wiederholung. Am Ende machen wir eine mündliche Prüfung.

Im Kurs soll gelernt werden, sich frei auf Deutsch auszudrücken und seine Meinung zu verschiedenen Themen sagen zu können.

本授業は「コミュニケーション」、つまりドイツ語で会話することに重点を置いている。完璧なドイツ語ではなく、相手の言いたいことを理解できるのは最も重要である。ドイツの教科書 Momente (A2.1)を使用し、ペアやグループでスピーキング、リスニング、リーディングを練習する。毎回、復習のための宿題が出される。期末に口頭試験を行う。

＜到達目標＞

ドイツ語で自由に表現でき、様々なテーマについて自分の意見をドイツ語で述べることができるようになる。

授業内容

第 1 回:イントロダクション

第 2 回:Imbiss und Lieferservice (Momente A2.1, Lektion 7)

第 3 回:Etwas bestellen und bezahlen (Lektion 7)

第 4 回:Mittagspause (Lektion 8)

第 5 回:Etwas vergleichen; die Meinung sagen (Lektion 8)

第 6 回:Gewohnheiten (Lektion 9)

第 7 回:Über persönliche Gewohnheiten sprechen (Lektion 9)

第 8 回:Verkehr in der Stadt (Lektion 10)

第 9 回:Jemanden überreden (Lektion 10)

第 10 回:Urlaub und Reisen (Lektion 11)

第 11 回:Wünsche äußern (Lektion 11)

第 12 回:Freiwilliges Soziales Jahr (Lektion 12)

第 13 回:Höfliche Fragen stellen (Lektion 12)

第 14 回:Mündliche Prüfung

履修上の注意

Der Unterricht ist für Studierende gedacht, die ca. zwei Jahre Deutsch gelernt haben. Je nach Interesse der Teilnehmenden können die Themen eventuell geändert werden.

ドイツ語学習歴 2 年前後の学生を対象としている。受講者の興味に応じて取り上げるテーマを変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

Zur Wiederholung gibt es jedes Mal eine Hausaufgabe.

教科書

Momente A2.1 Kursbuch. München: Hueber 2021.

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

授業への参加度 :30% 宿題:20% 期末試験:50%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級ドイツ語コミュニケーションB	**ドイツ語作文・会話ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
ドゥッペル, メヒティ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In diesem Kurs steht „Kommunikation“ im Mittelpunkt – also miteinander auf Deutsch sprechen. Am wichtigsten ist dabei nicht perfektes Deutsch, sondern dass wir verstehen, was die andere Person meint.
Wir benutzen das deutsche Lehrbuch Momente (A2.1) und üben vor allem das Sprechen (in Paar- und Gruppenarbeit), aber auch Hören und Lesen. Jedes Mal gibt es eine kurze Hausaufgabe zur Wiederholung. Am Ende machen wir eine mündliche Prüfung.
Im Kurs soll gelernt werden, sich frei auf Deutsch auszudrücken und seine Meinung zu verschiedenen Themen sagen zu können.
本授業は「コミュニケーション」、つまりドイツ語で会話することに重点を置いている。完璧なドイツ語ではなく、相手の言いたいことを理解できるのは最も重要である。ドイツの教科書 Momente (A2.1)を使用し、ペアやグループでスピーキング、リスニング、リーディングを練習する。毎回、復習のための宿題が出される。期末に口頭試験を行う。
<到達目標>
ドイツ語で自由に表現でき、様々なテーマについて自分の意見をドイツ語で述べることができるようになる。

授業内容

第 1 回:イントロダクション
第 2 回:Imbiss und Lieferservice (Momente A2.1, Lektion 7)
第 3 回:Etwas bestellen und bezahlen (Lektion 7)
第 4 回:Mittagspause (Lektion 8)
第 5 回:Etwas vergleichen; die Meinung sagen (Lektion 8)
第 6 回:Gewohnheiten (Lektion 9)
第 7 回:Über persönliche Gewohnheiten sprechen (Lektion 9)
第 8 回:Verkehr in der Stadt (Lektion 10)
第 9 回:Jemanden überreden (Lektion 10)
第 10 回:Urlaub und Reisen (Lektion 11)
第 11 回:Wünsche äußern (Lektion 11)
第 12 回:Freiwilliges Soziales Jahr (Lektion 12)
第 13 回:Höfliche Fragen stellen (Lektion 12)
第 14 回:Mündliche Prüfung

履修上の注意

Der Unterricht ist für Studierende gedacht, die ca. zwei Jahre Deutsch gelernt haben. Je nach Interesse der Teilnehmenden können die Themen eventuell geändert werden.
ドイツ語学習歴 2 年前後の学生を対象としている。受講者の興味に応じて取り上げるテーマを変更することがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

Zur Wiederholung gibt es jedes Mal eine Hausaufgabe.

教科書

Momente A2.1 Kursbuch. München: Hueber 2021.

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う。

成績評価の方法

授業への参加度 :30% 宿題:20% 期末試験:50%

その他

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
担 当 者	開講期	開講地区

授業の概要・到達目標

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

その他

科目ナンバー:(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級統語論 I	**英語学研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、英語の統語についての分析を行うことを通じて、統語論の基本的な考え方を少しずつ身に付けていくことを目的とします。内容としては、2年次「統語論入門 I, II」の続きになりますす。より具体的には、2年次「統語論入門 I, II」の復習から始め、文の構造・移動規則・統語論での議論の進め方について概観します。

授業内容

1. Review of Chapters 1-7 (1): Function
2. Review of Chapters 1-7 (2): Word Classes, Phrases, Clauses
3. Review of Chapters 1-7 (3): Predicates, Thematic Roles, X-bar Syntax
4. More on Clauses (1): The I-node
5. More on Clauses (2): Clauses functioning as Direct Object, Subject and Adjunct
6. More on Clauses (3): Clauses functioning as Complements and Adjuncts with NP
7. Movement (1): Verb Movement
8. Movement (2): NP Movement : Passive
9. Movement (3): NP Movement : Raising
10. Movement (4): Wh-Movement
11. Tense, Aspect, and Mood (1): Time and Tense
12. Tense, Aspect, and Mood (2): Aspectuality and Aspect
13. Tense, Aspect, and Mood (3): Modality and Mood
14. Review

履修上の注意

2年次「統語論入門 I, II」を履修済みまたは履修中であることが好ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業で扱う内容は、徐々に蓄積されそして累進的に専門的になっていきます。従って、教科書の指定箇所は、授業に来る前に各自で読んで下さい。重要な内容を見落とし、理解不足のままにしておくと、その後の授業での内容が理解できなくなりますので、わからないことはその都度解決するように留意して下さい。

教科書

Bas Aarts (2024)English Syntax and Argumentation (6th Edition), Bloomsbury.

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji で返却し授業で解説する

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、発表点 5%、宿題 25%、期末試験 60%

その他

科目ナンバー:(AL)LIN342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級統語論 II	**英語学研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、英語の統語についての分析を行うことを通じて、統語論の基本的な考え方を少しずつ身に付けていくことを目的とします。内容としては、「中級統語論 I」の続きになりますす。より具体的には、構成素・構成素テスト・述語と項・文法的不確定性・事例研究について概観します。

授業内容

1. Syntactic Argumentation (1): Economy of Description
2. Syntactic Argumentation (2): Elegance of Description, Independent Justification
3. Constituency : Movement and Substitution (1): Movement Test : Movement to the Left
4. Constituency : Movement and Substitution (2): Movement Test : Movement to the Right
5. Constituency : Movement and Substitution (3): Substitution Test
6. Constituency : Some Additional Tests (1): The Coordination Test, The Cleft and Pseudocleft Tests
7. Constituency : Some Additional Tests (2): The Insertion Test, The Constituent Response Test
8. Information Structuring (1)
9. Information Structuring (2)
10. Predicates and Arguments Revisited (1): Establishing Argumenthood
11. Predicates and Arguments Revisited (2): Two Further Types of Verb + NP
12. Grammatical Indeterminacy (1): Category Boundaries and Gradience
13. Grammatical Indeterminacy (2): Subjective Gradience, Interactive Gradience
14. Case Studies : Negated Modal Auxiliaries, Noun Phrase Structure, Verb Complementation

履修上の注意

2年次「統語論入門 I, II」を履修済みまたは履修中であることが好ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業で扱う内容は、徐々に蓄積されそして累進的に専門的になっていきます。従って、教科書の指定箇所は、授業に来る前に各自で読んで下さい。重要な内容を見落とし、理解不足のままにしておくと、その後の授業での内容が理解できなくなりますので、わからないことはその都度解決するように留意して下さい。

教科書

Bas Aarts (2024)English Syntax and Argumentation (6th Edition), Bloomsbury.

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji で返却し授業で解説する

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、発表点 5%、宿題 25%、期末試験 60%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級フランス語講読A	**中級フランス語講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
増田 晴美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、国際的な外交言語・作業言語であるフランス語の基礎的な文法を理解した上で、主として読解力の定着を行うクラスです。1年次に習得した基礎を確認しながら、その発展、応用として、ある程度の長さを持ったフランス文化に関する話題の文章が訳せる・聴き取れることを目的とします。また、短い文章や関連語彙の暗誦・暗記も、適宜、行います。

教材を通じて、あるいは、その他の資料を通じて、フランスの文化や時事的なトピックに接し、「フランス共和国」のイメージを、より具体的に持てるようになることも目標です。

今日、様々な民族が共生・対立する世界情勢の中で、問題を発見し解決する柔軟な思考方法を獲得するには、「グローバル・ランゲージ＝英語」以外の言語が担う文化や表現形式を識ることが大切です。将来、多様な分野に進んでゆく皆さんに、英語圏(anglophone)とは異なるフランス語圏(francophone)の存在に慣れ親しんでほしいと思います。

授業内容

第1回 ： 1年次の習熟度やフランスの基本情報の確認
第2回 ： 文のつながりを理解する ／ フランスの祝日・祭りの話題
第3回 ： 文のつながりを理解する ／ フランスの祝日・祭りの話題
第4回 ： 動詞を理解する ／ フランスにおける日本文化の話題
第5回 ： 動詞を理解する ／ フランスにおける日本文化の話題
第6回 ： 冠詞を理解する ／ フランスの家族事情の話題
第7回 ： 冠詞を理解する ／ フランスの家族事情の話題
第8回 ： 前置詞を理解する ／ フランスのヴァカンス・夏休みの話題
第9回 ： 前置詞を理解する ／ フランスのヴァカンス・夏休みの話題
第 10 回 ： 複合過去・半過去を理解する ／ フランスの食生活の話題
第 11 回 ： 複合過去・半過去を理解する ／ フランスの食生活の話題
第 12 回 ： さまざまな疑問文・否定文を理解する ／ フランスのストライキ・政治参加の話題
第 13 回 ： さまざまな疑問文・否定文を理解する ／ フランスのストライキ・政治参加の話題
第 14 回 ： a 復習 b 筆記試験による理解度の確認

履修上の注意

・教科書は必ず用意すること。学期開始時に教科書チェックを行う。
・度重なる注意にも関わらず教科書を用意しない場合は単位「不可」とする。
・辞書は紙の辞書、電子辞書のどちらでも可。
・授業の進行を妨げるような講義途中の入室、退出、私語等を慎むこと。
場合によっては減点や単位「不可」の対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業は、読解・聞き取りを中心に行う予定ですので、教材に用意された文法問題は、自主的に学習することをお勧めします。
・ふだんから、フランス発、あるいはヨーロッパ発の情報・ニュースに関心を持つようにするとよいでしょう。

教科書

『シヴィ・ラング(改定版)』(Michel Sagaz、中里まき子、駿河台出版社、2022 年)

参考書

特に指定なし。
辞書、あるいは辞書に相当するデバイスは必ず持参すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に簡易な小テストを行った場合は、次の授業時に返却し、解説を行う。

成績評価の方法

授業と定期試験の総合評価とする(試験 40%、出席状態と授業内の活動 60%)。
定期試験の得点が 100 点満点中 30 点に満たない場合は，授業内の活動とは無関係に「不可」とする

その他

授業内容は、進度や習熟度等、必要に応じて調整することがある。

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級フランス語講読A	**中級フランス語講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 明美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次に習得したフランス語の読解力をさらに高めることを目標に授業を行います。

授業内容

毎回教科書数ページの講読を行います。文法の復習、ものがたりの背景、音読などにも考慮しながら授業を進めます。

履修上の注意

欠席・遅刻をしないこと。積極的に授業に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習と宿題を必ず行うこと。

教科書

ことばの色 ー中級からのフランス文学読本ー 朝日出版社 2100円+TAX

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中に返却・コメント。

成績評価の方法

平常点30% 定期試験70%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級フランス語講読A	**中級フランス語講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

簡単なフランス語の文学作品を読んでいきます。社会と個人の関係を扱った歌や詩からはじめ、参加者のレベルを見ながら少しずつ難易度を上げる予定です。Seuls avec tous という教材を中心にテキストを選びますが、7 回目からモーパッサンの短編、Clochette を読む予定です。語彙を増やす工夫をしながら、文法事項もおさらいし、文学的な分析の仕方も学んでいきます。

授業内容

1. 授業説明
2. 1978 年のシャンソン Le blues du businessman
3. ボリス・ヴィアン Boris Vian の Le déserteur
4. アメリ・ノトン Amélie Nothomb の ¥"Et si c'était vous¥"
5. シルヴァン・テソン Sylvain Tesson, Dans les forêts de Sibérie から
6. 5回の続き
7–13回 Maupassant, Clochette を読む
14. 試験

(進度によって変更あり)

履修上の注意

少人数の授業なので、積極的に質問したり会話したりフルに授業に参加し、授業を活用すること。希望があればその都度提案すること。提案が受け入れられかどうかはわかりませんが。

準備学習(予習・復習等)の内容

よく予習すること。わからないとことは必ず質問すること。授業中の議論に参加すること。また必ずその日読んだところを家に帰って読みながら意味がわかるようになるまで音読すること。

教科書

プリント

参考書

課題に対するフィードバックの方法

少人数授業であり、話し合いながら進めていく授業なので、参加すれば随時フィードバックが得られるはず。

成績評価の方法

小テストも実施する可能性あり。その場合小テストは参加ともテストともみなされうる

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級フランス語講読B	**中級フランス語講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
増田 晴美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、本授業では、国際的な外交言語・作業言語であるフランス語の基礎的な文法を理解した上で、主として読解力の定着を行います。ある程度の長さを持ったフランス文化に関する話題の文章が訳せる・聴き取れることが目的です。また、適宜、短い文章や関連語彙の暗誦・暗記も行います。

教材を通じて、あるいは、その他の資料を通じて、フランスの文化や時事的なトピックに接し、「フランス共和国」のイメージを、より具体的に持てるようになることも目標です。

今日、様々な民族が共生・対立する世界情勢の中で、問題を発見し解決する柔軟な思考方法を獲得するには、「グローバル・ランゲージ＝英語」以外の言語が担う文化や表現形式を識ることが大切です。将来、多様な分野に進んでゆく皆さんに、英語圏(anglophone)とは異なるフランス語圏(francophone)の存在に慣れ親しんでほしいと思います。

授業内容

第1回 ： 春学期の振り返りなど
第2回 ： 目的補語人称代名詞を理解する ／ フランスのIT分野の話題
第3回 ： 目的補語人称代名詞を理解する ／ フランスのIT分野の話題
第4回 ： 単純未来を理解する ／ フランスの教育制度の話題
第5回 ： 単純未来を理解する ／ フランスの教育制度の話題
第6回 ： 数量表現を理解する ／ フランスの食文化の話題
第7回 ： 数量表現を理解する ／ フランスの食文化の話題
第8回 ： 比較級・最上級を理解する ／ フランスのカップル事情の話題
第9回 ： 比較級・最上級を理解する ／ フランスのカップル事情の話題
第 10 回 ： 受動態・非人称構文・文のつながりを理解する ／ フランスの健康事情(タバコ)の話題
第 11 回 ： 受動態・非人称構文・文のつながりを理解する ／ フランスの健康事情(タバコ)の話題
第 12 回 ： 条件法現在・ジェロンディフを理解する ／ フランスの飲酒の話題
第 13 回 ： 条件法現在・ジェロンディフを理解する ／ フランスの飲酒の話題
第 14 回 ： a 復習　b 筆記試験による理解度の確認

履修上の注意

・教科書は必ず用意すること。学期開始時に教科書チェックを行う。
・度重なる注意にも関わらず教科書を用意しない場合は単位「不可」とする。
・辞書は紙の辞書、電子辞書のどちらでも可。
・授業の進行を妨げるような講義途中の入室、退出、私語等を慎むこと。
場合によっては減点や単位「不可」の対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業は、読解・聞き取りを中心に行う予定ですので、教材に用意された文法問題は、自主的に学習することをお勧めします。
・ふだんから、フランス発、あるいはヨーロッパ発の情報・ニュースに関心を持つようにするとよいでしょう。

教科書

『シヴィ・ラング(改定版)』(Michel Sagaz、中里まき子、駿河台出版社、2022 年)

参考書

特に指定なし。
辞書、あるいは辞書に相当するデバイスは必ず持参すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に簡易な小テストを行った場合は、次の授業時に返却し、解説を行う。

成績評価の方法

授業と定期試験の総合評価とする(試験 40%、出席状態と授業内の活動 60%)。
定期試験の得点が 100 点満点中 30 点に満たない場合は、授業内の活動とは無関係に「不可」とする

その他

授業内容は、進度や習熟度等、必要に応じて調整することがある。

科目ナンバー:(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級フランス語講読B	**中級フランス語講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 明美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
春学期に続き、中級にふさわしい内容の講読を続けます。

授業内容
中級者用の文学作品のアンソロジーを読んでゆきます。文法の復習、作品の背景などの解説も行います。

履修上の注意
欠席・遅刻をしないこと。積極的に授業に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習・復習・宿題を必ず行うこと。

教科書
春学期と同じ。 ことばの色 朝日出版社 2100円+TAX

参考書

課題に対するフィードバックの方法
春学期と同じ。

成績評価の方法
平常点30% 定期試験70%。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中級フランス語講読B	**中級フランス語講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
春に続き Seuls avec tous という教材を中心にテキストを選びながら、簡単なフランス語の文学作品を読んでいきます。少しずつ難易度を上げる予定です。この教材の特徴として、文学作品からの引用だけではなく、文学史的な解説などもついているので、後期はそうした部分も読みながら、個人という概念がフランス社会の中でどのように育ち、どのような変遷を経てきたのかも考えていきます。

授業内容
1回 モーパッサン Maupassant の Bel-Ami から
2−4回 モーパッサン Maupassant の『脂肪の塊』から
5―7回 ユーゴ Hugo の Les Misérables から
8−10回 ボードレール Baudelaire ¥"Le Spleen de Paris¥"(Les foules)
11−13回 ボードレール¥"Le Peintre de la vie moderne¥" (le parfait flâneur)
14回 試験
(進度によって変更あり)

履修上の注意
少人数の授業なので、積極的に質問したり会話したりフルに授業に参加し、授業を活用すること。希望があればその都度提案すること。提案が受け入れられかどうかはわかりませんが。

準備学習(予習・復習等)の内容
よく予習すること。わからないとことは必ず質問すること。授業中の議論に参加すること。また必ずその日読んだところを家に帰って読みながら意味がわかるようになるまで音読すること。

教科書
プリント

参考書

課題に対するフィードバックの方法
少人数授業であり、話し合いながら進めていく授業なので、参加すれば随時フィードバックが得られるはず。

成績評価の方法
小テストも実施する可能性あり。その場合小テストは参加ともテストともみなされうる

その他

科目ナンバー：(AL)LAN361N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語で学ぶ文化と社会 IA	**中級中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
永井 弥人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

読解を中心とし、やや高度な文献を読みこなす力を養うことを目的とします。
文献の内容は、時事、文化、歴史、小説等なるべく多岐に渉る様心掛けたいと考えております。
簡体字文献のみならず、繁体字文献等にも積極的に取り組みたいと考えております。

授業内容

第１回 長文1(時事)
第２回 長文1(時事)
第３回 長文1(時事)
第４回 長文2(文化)
第５回 長文2(文化
第６回 長文2(文化)
第７回 長文2(文化)
第８回 長文3(歴史)
第９回 長文3(歴史)
第10回 長文3(歴史)
第11回 長文3(小説)
第12回 長文4(小説)
第13回 長文4(小説)
第14回 長文4(小説)

履修上の注意

積極的に授業にご参加下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習をして授業に臨む様にして下さい。

教科書

教材は、その都度、Oh-o! Meiji 上に掲載致します。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末のレポート(指定文献の和訳)50%＋平常点 50% ※平常点は、授業中の姿勢を中心とします。

その他

① 進度に多少遅速が生じたり、文献を読む順番が入れ替わったりする可能性があります。早めに予定を消化した場合、別途教材を用意します。

② 受講生の学習状況に応じて、文法事項等の復習を行う場合もあります。

科目ナンバー：(AL)LAN361N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語で学ぶ文化と社会 IB	**中級中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
永井 弥人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

読解を中心とし、やや高度な文献を読みこなす力を養うことを目的とします。
文献の内容は、時事、文化、歴史、小説等なるべく多岐に渉る様に心掛けたいと考えております。
簡体字文献のみならず、繁体字文献や文語体の文章にも積極的に取り組みたいと考えております。

授業内容

第１回 長文(時事)
第２回 長文(時事)
第３回 長文(宗教)
第４回 長文(宗教)
第５回 長文(歴史)
第６回 長文(歴史)
第７回 長文(小説)
第８回 長文(小説)
第９回 長文(小説)
第10回 長文(小説)
第11回 長文(小説)
第12回 長文(文語体の文章)
第13回 長文(文語体の文章)
第14回 長文(文語体の文章)

履修上の注意

積極的に授業にご参加下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習をして授業に臨んで下さい。

教科書

教材は、その都度 Oh-o! Meiji 上に掲載致します。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末のレポート(指定文献の和訳)50%＋平常点 50% ※平常点は授業中の姿勢を中心とします。

その他

① 進度に多少遅速が生じたり、文献を読む順番が入れ替わったりする可能性があります。早めに予定を消化した場合、別途教材を用意します。

② 受講生の学習状況に応じて、文法事項等の復習を行う場合もあります。

科目ナンバー:(AL)LAN262N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語レベルアップ A	**中級中国語ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 せい	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、より高いレベルの読解力と文法力の習得を目指します。 本格的な文献の読解に進む前段階として、多少難しい文章も含め、幅広いジャンルの現代中国語で書かれた文章を読解していきます。

中国語の新聞や雑誌を中心に使用します。春学期は経済や社会に関する記事、秋学期は観光や文化・歴史に関する記事を取り上げます。指定の内容に加え、希望に応じて自由に選んだ文献の抜粋を取り入れるなど、各回の教材は変更することがあります。

テキスト購読は、事前に準備した和訳を授業中に一緒に検討する形で進めます。

中級程度の中国語の読解力を身につけるために、下記の三点を到達目標とします。
(1)辞書を使いながら現代中国語の文章の内容を理解できる。
(2)内容に合った訳語を辞書から適切に選べる。
(3)文法の理解を深め、文章を正しく読み取る力を身につける。

授業内容

第1回:イントロダクション(使用テキストの紹介、今後の進め方の説明など)
第2回:テキストの購読とその解説1
第3回:テキストの購読とその解説2
第4回:テキストの購読とその解説3
第5回:テキストの購読とその解説 4
第6回:テキストの購読とその解5
第7回:テキストの購読とその解説6
第8回:テキストの購読とその解説7
第9回:テキストの購読とその解説8
第10回:テキストの購読とその解説9
第11回:テキストの購読とその解説10
第12回:テキストの購読とその解説11
第13回:テキストの購読とその解説12
第14回:総括(授業全体のふりかえりとフィードバック)

履修上の注意

中国語の基礎文法と初級程度の読解力は前提となります。
また、必ず授業のときに漢和辞書(出版社は特定しない)を持って行くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)予習・復習にかかる時間には個人差があると思いますが、予習は約 120 分、復習は約 80 分を目安にします。
(2)次週の授業範囲の文章は、事前に和訳を作成し、構文や訳語の解説を和訳の下にまとめておきます。
(3)音読も必ず行い、発音やリズムを身につけます。
(4)授業中の理解を助けるため、語彙・文法・文章内容に関するメモを適宜取りながら復習します。

教科書

その都度プリントを配布します(ohomeiji にアップしない)

参考書

瀬戸口律子『完全マスター・中国語の文法 改訂版』、語研、2003(必須ではありません)

課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業中に口頭で行う

成績評価の方法

授業への参加度 30%
平常点 20%
講読文の理解(和訳も含む) 50%
ただし、授業の出席率が 60%以下の学生は成績評価対象外とします。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN262N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語レベルアップ B	**中級中国語ⅠB**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 せい	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、より高いレベルの読解力と文法力の習得を目指します。 本格的な文献の読解に進む前段階として、多少難しい文章も含め、幅広いジャンルの現代中国語で書かれた文章を読解していきます。

中国語の新聞や雑誌を中心に使用します。春学期は経済や社会に関する記事、秋学期は観光や文化・歴史に関する記事を取り上げます。指定の内容に加え、希望に応じて自由に選んだ文献の抜粋を取り入れるなど、各回の教材は変更することがあります。

テキスト購読は、事前に準備した和訳を授業中に一緒に検討する形で進めます。

中級程度の中国語の読解力を身につけるために、下記の三点を到達目標とします。
(1)辞書を使いながら現代中国語の文章の内容を理解できる。
(2)内容に合った訳語を辞書から適切に選べる。
(3)文法の理解を深め、文章を正しく読み取る力を身につける。

授業内容

第1回:イントロダクション(使用テキストの紹介、今後の進め方の説明、分担を決めるなど)
第2回:テキストの購読とその解説1
第3回:テキストの購読とその解説2
第4回:テキストの購読とその解説3
第5回:テキストの購読とその解説 4
第6回:テキストの購読とその解5
第7回:テキストの購読とその解説6
第8回:テキストの購読とその解説7
第9回:テキストの購読とその解説8
第10回:テキストの購読とその解説9
第11回:テキストの購読とその解説10
第12回:テキストの購読とその解説11
第13回:テキストの購読とその解説12
第14回:総括(授業全体のふりかえりとフィードバック)

履修上の注意

中国語の基礎文法と初級程度の読解力は前提となります。
また、必ず授業のときに漢和辞書(出版社は特定しない)を持って行くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)予習・復習にかかる時間には個人差があると思いますが、予習は約 120 分、復習は約 80 分を目安にします。
(2)次週の授業範囲の文章は、事前に和訳を作成し、構文や訳語の解説を和訳の下にまとめておきます。
(3)音読も必ず行い、発音やリズムを身につけます。
(4)授業中の理解を助けるため、語彙・文法・文章内容に関するメモを適宜取りながら復習します。

教科書

その都度プリントを配布します(ohomeiji にアップしない)

参考書

瀬戸口律子『完全マスター・中国語の文法 改訂版』、語研、2003(必須ではありません)

課題に対するフィードバックの方法

毎回、授業中に口頭で行う

成績評価の方法

授業への参加度 30%
平常点 20%
講読文の理解(和訳も含む) 50%
ただし、授業の出席率が 60%以下の学生は成績評価対象外とします。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国の考古学A	**中国の考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小澤 正人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

人類は当初狩猟採集の生活を送っていたが、やがて定住農耕生活を始め、さらに都市や国家を生み出していきました。この人類史の流れが東アジアにも当てはまることは言うまでもありません。東アジアでは中国においてこの変化が最も早く起こり、紀元前 2000 年頃には都市や国家が姿を現しています。

この授業では中国における上記のような歴史の流れ、すなわち遊動狩猟採集生活から定住農耕生活へ、そして農耕社会における都市や国家の形成へといった歴史過程を、考古学資料を用いて概観することを目的とします。

従って到達目標は、受講者が中国における国家や都市の出現に至る歴史的な流れを理解する、といったものになります。

授業内容

第1回:イントロダクション－中国の風土
第2回:中国における最古の人類とその文化－旧石器時代
第3回:農耕の始まり－新石器時代前期
第4回:農耕社会の定着－新石器時代中期(1)
第5回:農耕社会の定着－新石器時代中期(2)
第6回:農耕社会の変化－新石器時代後期(1)
第7回:農耕社会の変化－新石器時代後期(2)
第8回:農耕社会の変化－新石器時代後期(3)
第9回:都市と国家の形成－初期王朝時代二里頭文化(1)
第 10 回:都市と国家の形成－初期王朝時代二里頭文化(2)
第 11 回:都市と国家の形成－初期王朝時代二里頭文化(3)
第 12 回:都市と国家の広がり－初期王朝時代二里崗文化(1)
第 13 回:都市と国家の広がり－初期王朝時代二里崗文化(2)
第 14 回:まとめ

履修上の注意

受講前に中国史の概説を読んでおくと、授業がより理解しやすくなります。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業後には講義ノートを整理し，授業前には前回の講義ノートを読んで授業に参加することを希望します。

教科書

教科書は特に指定しません。授業で使う資料は、クラスウェブに掲載します。

参考書

松丸道雄他『中国文明の成立』(ビジュアル版世界の歴史5 講談社)
松丸道雄他編『中国史(1) 先史～後漢』(世界歴史大系 山川出版社)
小澤正人・西江清高・谷豊信『中国の考古学』(同成社)
また、授業中にも紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては、授業で随時言及する
中間レポートについては、全体講評を授業で言及する。

成績評価の方法

授業のリアクションペーパー(クラスウエブ提出 200 字程度)20%
中間レポート(25%)
期末レポート(55%)

その他

科目ナンバー:(AL)PAC321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国の考古学B	**中国の考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小澤 正人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中国では紀元前 2000 年頃には都市や国家が成立し、紀元前 2000 年紀後半には同時代の文字記録をもつ最古の王朝となる殷王朝が出現します。その後周王朝への政権の移行とその衰退を経て、中国は春秋戦国時代の分裂と戦乱の時代を迎えますが、やがて秦始皇帝による統一が果たされ、その後の中国の政治体制を規定することになる皇帝政治が始まることになります。

授業ではこのような殷王朝から秦の統一による古代帝国の出現までの中国の歴史過程を考古学資料を用いて概観することを目的とします。従って受講者がこのような中国古代における社会の変遷を理解することを到達目標とします。

授業内容

第1回:イントロダクション－殷王朝以前の中国
第2回:殷墟と殷王朝の考古学(1)
第3回:殷墟と殷王朝の考古学(2)
第4回:殷王朝の特質(1)
第5回:殷王朝の特質(2)
第6回:殷王朝から周王朝へ
第7回:周王朝の考古学(1)
第8回:周王朝の考古学(2)
第9回:春秋戦国時代の考古学(1)
第 10 回:春秋戦国時代の考古学(2)
第 11 回:春秋戦国時代の考古学(3)
第 12 回:秦帝国の考古学(1)
第 13 回:秦帝国の考古学(2)
第 14 回:まとめ

履修上の注意

受講前に中国史の概説を読んでおくと、授業がより理解しやすくなります。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業後には講義ノートを整理し，授業前には前回の講義ノートを読んで授業に臨むことを望みます。

教科書

教科書は特に指定しません。授業で使う資料は、クラスウェブに掲載します。

参考書

松丸道雄他『中国文明の成立』(ビジュアル版世界の歴史5 講談社)
松丸道雄他編『中国史(1) 先史～後漢』(世界歴史大系 山川出版社)
小澤正人・西江清高・谷豊信『中国の考古学』(同成社)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては、授業で随時言及する
中間レポートについては、全体講評を授業で言及する。

成績評価の方法

2 回のレポート(各 1200 字程度)80%
授業のリアクションペーパー(クラスウエブ提出 200 字程度 20%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国文学研究ＩA	**中国文学研究ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

中国の艶詩※と白居易「長恨歌」

文学史上、唐代は初唐・盛唐・中唐・晩唐と伝統的に区分されるが、中唐は大きな革新の時代である。それは官僚任用試験である科挙が整備され、また安史の乱によって既得権益層が没落したことで、新たな階層の文人達が文学の担い手となったことに起因している。

中唐の文学集団は大きく二つ、白居易を中心とするグループと韓愈を中心とするグループに代表される。それぞれ文学的成就があるが、白居易の文学集団は、中国文学史上、特に恋愛を主題とした作品において、異端と言うべき成果を残している。

本授業では、名作「長恨歌」を読み解く一つの手がかりとして、中国古典詩における艶詩の系譜をたどっていきながら、中国における女性を主体とした作品の特徴について考えていきたい。また、女性を主体とした作品の位置づけを考えることで、日本文学と異なる中国古典文学の特質も見えてくるだろう。総じて、中国古典文学における艶詩についての理解を深め、「長恨歌」の持つ新しさについて理解することを本授業の目標とする。

※「女性の立場に立ち、空閨の嘆き、日常の出来事、身の回りの品物、立ち居振る舞いの美しさを、繊細に描写した作品」(石川忠久『玉台新詠』36 頁、中国の古典、学習研究社、1986 年)

授業内容

第1回:本授業が扱う時代とその文学史について
第2回:艶詩①古詩・楽府
第3回:艶詩②曹植
第4回:艶詩③潘岳
第5回:艶詩④張華・陸機
第6回:艶詩⑤『玉台新詠』
第7回:艶詩⑥七夕のうた
第8回:白居易の人生と白詩の四分類
第9回:「長恨歌」通読 1
第 10 回:「長恨歌」通読 2
第 11 回:「長恨歌」通読 3
第 12 回:「長恨歌」通読 4
第 13 回:艶詩と「長恨歌」
第 14 回 a:まとめ

※進行や準備の都合で内容が一部変更になる可能性がある。

履修上の注意

私語厳禁とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題に対して問いを立てると共に、どういう調査・分析を行えばその問いが解決するかを自ら考える。また扱った作品や文人についての参考図書・論文を各自で読み、理解を深める。

教科書

参考書

【中国文学史関係】
安藤信廣『中国文学の歴史 古代から唐宋まで』、東方選書 56、東方書店、2021 年
○宋代までに限定されるが、日本語で書かれた最新の文学史解説書。

興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』、世界思想社、1991 年
○研究社が鋭い視点で各時代、各ジャンルの変遷を整理している。基本的なことを頭に入れてから読むとよいだろう。

【白居易と「長恨歌」】
九州大学中国文学会編『わかりやすくおもしろい中国文学講義』、中国書店、2002 年
Ⅰ詩文編 第二講 静永健「音楽の"見える"詩歌――白楽天「琵琶行」」
同上、第三講 諸田龍美「中唐の恋愛詩――紫式部を感動させた「長恨歌」の悲恋」
下定雅弘『白楽天の愉悦 生きる叡智の輝き』、勉誠出版、2006 年
○一般向けに読みやすく書かれたもの。

下定雅弘『白楽天』、ビギナーズ・クラシックス中国の古典、角川ソフィア文庫、2010 年
川合康三『白楽天詩選』上下、岩波文庫赤 44、2011 年
○日本語の訳注書。解説に白居易の生涯、詩風、文学史上の位置づけなどが説明される。

下定雅弘『長恨歌 楊貴妃の魅力と魔力』、勉誠出版、2011 年
○「長恨歌」本文の詳細な注釈と、解釈史についての整理。

諸田龍美『白居易恋情文学論 長恨歌と中唐の美意識』、勉誠出版、2011 年
○研究書。本授業における、中唐文学の特徴を生んだ背景の説明は多くをこの書に負う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対するフィードバックは次回授業の冒頭か、もしくはクラスウェブ上で行う。

成績評価の方法

授業ごとの小レポート(45%)と期末レポート(55%)により、内容の理解到達度・発想の独創性・日本語の文章力を基準として評価する。
なお、5 回以上の欠席は成績評価の対象としない。

その他

予習・復習時に漢和辞典を引くことを強く推奨する(電子辞書可、ジャパンナレッジで『大漢和辞典』が引ける)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhone アプリ有)。

科目ナンバー：(AL)LIT241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国文学研究ＩB	**中国文学研究ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉井 涼子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

『史記』刺客列伝から、より物語性の高い唐代の伝奇小説まで、その当時の時代背景や文化などと合わせて多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する理解を深める。
物語性の高い作品を実際に多く読むことで身につけた理解力により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

授業内容

第1回 a:ガイダンス(授業の詳細説明)
b:古代中国について概説
第2回:『史記』刺客列伝① 刺客列伝とは
第3回:『史記』刺客列伝② 荊軻と太子丹
第4回:『史記』刺客列伝③ 暗殺計画
第5回:『史記』刺客列伝④ 結末
第6回:志怪① 志怪とは
第7回:志怪② 異界のはなし
第8回:志怪③ 予言のはなし
第9回:唐代伝奇① 枕中記
第10回:唐代伝奇② 人虎伝 李徴について
第11回:唐代伝奇③ 人虎伝 李徴と虎
第12回:唐代伝奇④ 人虎伝 まとめ
第13回:総括と復習
第14回 a:試験
b:試験解説

履修上の注意

漢文の訓読方法を学ぶ授業ではないが、書き下し文などを使用するため、高校レベルの漢文読解の基礎知識があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

『史記』刺客列伝や人虎伝などの長文を数回に分けて精読するため、よく復習してそれまでの内容を理解してから次の授業に臨むこと。先の部分が配布資料に載っている場合は、必ず目を通して予習しておくこと。

教科書

特に定めない。必要な資料は都度配布する。

参考書

明治書院 中国古典小説選『捜神記・幽明録・異苑他』?
明治書院 新釈漢文大系『史記』八(列伝一)明治書院 新釈漢文大系『唐代伝奇』
?平凡社 東洋文庫『捜神記』?
など。この他、授業時に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や質問などは次の授業時に解説する。

成績評価の方法

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、リアクションペーパー(又は小課題)の提出と内容で平常点を決定する。出席は大前提とする。
成績は、平常点 30%期末試験 70%で評価する。

その他

電子辞書やアプリで構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。

科目ナンバー：(AL)LIT342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国文学研究ⅡA	**中国文学研究ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
石橋 賢太	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉この授業では、中国最古の文学作品である『詩経』を講読する。『詩経』は儒教のメインテキストである「五経」の一つであり、長く読まれ続けている。その影響は文学だけでなく、政治・宗教・道徳など広範囲に渡り、中国のみならず朝鮮・日本など東アジア全体で広く愛読された。東アジアの文学・文化を理解するうえで必読の書の一つである。本授業では『詩経』読解のもっともスタンダードである毛氏による注釈を用いる。履修者はその日の範囲の書き下し・現代語訳を作成し、授業内で発表することで内容の理解を深めていく。本授業では『詩経』の中で冒頭の「国風」の「周南」「召南」の詩を読解していく。

〈到達目標〉本授業では以下の三点を目標とする。

①『詩経』の各作品の内容をただしく把握し、そこに込められたメッセージを読み取る。

②注釈の読解を通して、古典を解釈する方法を学ぶ。

③古代中国の政治や社会などの時代背景を通して、文学や思想における歴史性の違いやそれを超えた人間の普遍性について、受講者各自が自身の考えを持つことができる。

授業内容

第１回 イントロダクション:『詩経』とは何か？
第２回 『詩経』の構成と歴史
第３回 周南①「關雎」
第４回 周南②「葛覃」「卷耳」
第５回 周南③「樛木」「螽斯」
第６回 周南④「桃夭」「兔罝」
第７回 周南⑤「芣苢」「漢廣」
第８回 周南⑥「汝墳」「麟之趾」
第９回 召南①「鵲巣」「采蘩」
第10回 召南②「草蟲」「采蘋」
第11回 召南③「甘棠」「行露」
第12回 召南④「羔羊」「殷其雷」
第13回 召南⑤「摽有梅」「小星」
第14回 召南⑥「江有汜」

履修上の注意

漢和辞典を引く習慣をつけておくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の範囲の書き下し・現代語訳を作成しておく。また、難しい語句なども漢和辞典等で調べておく。所要時間の目安は90 分程度。

教科書

特定の教科書は使用しない。必要な資料は授業内で配布する。

参考書

『漢文大系第 12 巻 毛詩・尚書』(冨山房)
『新釈漢文大系第 110 巻 詩経(上)』(明治書院)

課題に対するフィードバックの方法

受講者による講読に対しては、授業内で修正点等を伝える。
また、リアクションペーパーにおける質問・疑問には次回授業の冒頭で回答する。

成績評価の方法

毎回の授業における書き下し・現代語訳等を平常点とし(50%)、これに加えて学期末のレポート(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT342J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国文学研究ⅡB	**中国文学研究ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

蘇軾の詩について

蘇軾は、宋代文学を代表する文人だが、人生の中で大きな挫折に遭いながら、吉川幸次郎評するところの「悲哀の止揚」を成し遂げた詩人である。本授業では、彼の経歴における大きな挫折である「烏台詩案」とその結果としての黄州左遷を中心にしながら、彼の文学について見ていきたい。

授業内容

第1回:宋代文学概観
第2回:蘇軾の人生と親しい人々
第3回:蘇軾の詩の世界 1
第4回:蘇軾の詩の世界 2
第5回:「烏台詩案」と蘇軾
第6回:蘇軾の詩の世界 3
第7回:「赤壁賦」
第8回:蘇軾の詩の世界 4
第9回:蘇軾の詩の世界 5
第 10 回:蘇軾の詩の世界 6
第 11 回:蘇軾の詩の世界 7
第 12 回:蘇軾の詩の世界 8
第 13 回:蘇軾の詩の世界 9
第 14 回 a:まとめ
※各回で扱う詳細な内容は暫定的なものであり、変更の可能性がある。

履修上の注意

私語厳禁とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の課題に対して問いを立てると共に、どういう調査・分析を行えばその問いが解決するかを自ら考える。また扱った作品や文人についての参考図書・論文を各自で読み、理解を深める。

教科書

参考書

【中国文学史関係】
安藤信廣『中国文学の歴史 古代から唐宋まで』、東方選書 56、東方書店、2021 年
〇宋代までに限定されるが、日本語で書かれた最新の文学史解説書。

興膳宏編『中国文学を学ぶ人のために』、世界思想社、1991 年
〇研究社が鋭い視点で各時代、各ジャンルの変遷を整理している。基本的なことを頭に入れてから読むとよいだろう。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対するフィードバックは次回授業の冒頭か、もしくはクラスウェブ上で行う。

成績評価の方法

授業ごとの小レポート(45%)と期末レポート(55%)により、内容の理解到達度・発想の独創性・日本語の文章力を基準として評価する。
なお、5 回以上の欠席は成績評価の対象としない。

その他

予習・復習時に漢和辞典を引くことを強く推奨する(電子辞書可、ジャパンナレッジで『大漢和辞典』が引ける)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhone アプリ有)。

科目ナンバー:(AL)LIT241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国文学講読ⅠA	**中国文学講読ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
吉井 涼子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

殷代の資料から唐詩までを対象とし、作品の時代背景・文化・エピソードなどと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識(五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄)を学ぶ。
中国古典を鑑賞するために必要な知識を習得する。

授業内容

第1回 a:ガイダンス(授業の詳細説明)
b:古代中国について概説
第2回:甲骨・金文
第3回:『詩経』
第4回:『楚辞』
第5回:『淮南子』
第6回:楽府・古詩
第7回:三曹
第8回:陶淵明
第9回:李白
第10回:杜甫
第11回:白居易① 安史の乱と長恨歌
第12回:白居易② 長恨歌と神仙世界
第13回:総括と復習
第14回 a:試験
b:試験解説

履修上の注意

漢文の訓読方法を学ぶ授業ではないが、書き下し文などを使用するため、高校レベルの漢文読解の基礎知識があることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の資料が予め配布された場合には、授業までに必ず一読しておくこと。他の回の授業内容と関連している場合も多々あるため、知識をきちんと身につけられるように、授業後は復習をしておくこと。

教科書

特に定めない。必要な資料は都度配布する。

参考書

大島正二『漢字と中国人―文化史をよみとく―』(岩波書店2003年)
?岡村繁『文選の研究』(岩波書店1999年)
?興膳宏『六朝詩人伝』(大修館書店2000年)?
小川環『唐代の詩人―その傳記』(大修館書店1975年)?
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』(大修館書店1987年)?
など。この他、授業時に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や質問などは次の授業時に解説する。

成績評価の方法

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、リアクションペーパー(又は小課題)の提出と内容で平常点を決定する。出席は大前提とする。
成績は、平常点 30%期末試験 70%で評価する。

その他

電子辞書やアプリで構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。

科目ナンバー:(AL)LIT341J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国文学講読ⅡB	**中国文学講読ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
石橋 賢太	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉この授業では、中国最古の文学作品である『詩経』を講読する。『詩経』は儒教のメインテキストである「五経」の一つであり、長く読まれ続けている。その影響は文学だけでなく、政治・宗教・道徳など広範囲に渡り、中国のみならず朝鮮・日本など東アジア全体で広く愛読された。東アジアの文学・文化を理解するうえで必読の書の一つである。本授業では『詩経』読解のもっともスタンダードである毛氏による注釈を用いる。履修者はその日の範囲の書き下し・現代語訳を作成し、授業内で発表することで内容の理解を深めていく。本授業では『詩経』「雅」の「小雅」の詩を読解していく。
〈到達目標〉本授業では以下の三点を目標とする。
①『詩経』の各作品の内容をただしく把握し、そこに込められたメッセージを読み取る。
②注釈の読解を通して、古典を解釈する方法を学ぶ。
③古代中国の政治や社会などの時代背景を通して、文学や思想における歴史性の違いやそれを超えた人間の普遍性について、受講者各自が自身の考えを持つことができる。

授業内容

第1回 イントロダクション:『詩経』の「雅」とは?
第2回 古代中国の政治と社会について
第3回 鹿鳴之什①「鹿鳴」「四牡」
第4回 鹿鳴之什②「皇皇者華」「常棣」
第5回 鹿鳴之什③「伐木」「天保」
第6回 鹿鳴之什④「采薇」「出車」
第7回 鹿鳴之什⑤「秋杜」「魚麗」
第8回 南有嘉魚之什①「南有嘉魚」「南山有臺」
第9回 南有嘉魚之什②「蓼蕭」「湛露」
第10回 南有嘉魚之什③「彤弓」「菁菁者莪」
第11回 南有嘉魚之什④「六月」「采芑」
第12回 南有嘉魚之什⑤「車攻」「吉日」
第13回 鴻雁之什①「鴻雁」「庭燎」
第14回 鴻雁之什②「沔水」「鶴鳴」

履修上の注意

漢和辞典を引く習慣をつけておくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の範囲の書き下し・現代語訳を作成しておく。また、難しい語句なども漢和辞典等で調べておく。所要時間の目安は90 分程度。

教科書

特定の教科書は使用しない。必要な資料は授業内で配布する。

参考書

『漢文大系第 12 巻 毛詩・尚書』(冨山房)
『新釈漢文大系第 110 巻 詩経(上)』(明治書院)

課題に対するフィードバックの方法

受講者による講読に対しては、授業内で修正点等を伝える。
また、リアクションペーパーにおける質問・疑問には次回授業の冒頭で回答する。

成績評価の方法

毎回の授業における書き下し・現代語訳等を平常点とし(50%)、これに加えて学期末のレポート(50%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN371N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語で学ぶ文化と社会 IA	**中級朝鮮語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
平野 鶴子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、20 世紀の朝鮮半島の歴史文化に関する現代韓国・朝鮮語の文献を精読する。これにより、朝鮮語の基礎的な読解訓練を行うとともに、朝鮮近現代史の諸問題に対する理解を深めていく。春学期は、主に、韓国で今日までに歴史的に象徴的な「場」として記憶されてきた空間や風景に関して、とりわけ京城(ソウル)を対象とした文献を取り上げる。

【到達目標】

研究を進める上で必要となる朝鮮語読解力を習得しつつ、参照すべき文献を把握し、それらを活用できるようになる。

授業内容

第 1 回 概説・導入
第 2 回 文献講読 1
第 3 回 文献講読 2
第 4 回 文献講読 3
第 5 回 文献講読 4
第 6 回 文献講読 5
第 7 回 文献講読 6
第 8 回 文献講読 7
第 9 回 文献講読 8
第 10 回 文献講読 9
第 11 回 文献講読 10
第 12 回 文献講読 11
第 13 回 文献講読 12
第 14 回 まとめ／総括

履修上の注意

朝鮮語の文章の構造は比較的日本語と類似しているため、初級程度を履修していれば、やや難解な文章に挑むことも可能である。しかしながら、朝鮮語独特の語彙や表現を理解し、正確に読解するためには辞書の活用が欠かせない。また、正しく発音できることは、正確な読解の助けとなるため、必要に応じて発音指導も行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に文献を精読し、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

염복규『서울의 기원 경성의 탄생: 1910-1945 도시계획으로 본 경성의 역사』(이데아、2016)김종욱『근대를 산책하다-문화유산으로 보는 한국 근현대사 150 년』(다산초당、2012)ほか。

必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。ただし、テキストについては状況に応じて変更することがあるので、その場合は授業で説明する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への主体的な取り組み、授業への貢献度、訳読の正確さおよび厳密さ等)(60%)を重視するが、期末試験(40%)を実施し、総合的に評価する。ただし、原則として 3 回以上欠席した場合は、評価の対象とみなさない。

その他

今まで朝鮮語文献をあまり読んだことのない人も、受講者の理解度に応じて適宜解説を行うため、安心して受講してほしい。

科目ナンバー：(AL)LAN371N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語で学ぶ文化と社会 IB	**中級朝鮮語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
平野 鶴子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、20 世紀の朝鮮半島の歴史文化に関する現代韓国・朝鮮語の文献を精読する。これにより、朝鮮語の基礎的な読解訓練を行うとともに、朝鮮近現代史の諸問題に対する理解を深めていく。秋学期は、主に、当時の朝鮮半島の人々にとって身近な日常的事象や生活文化に関する文献を取り上げる。

【到達目標】

研究を進める上で必要となる朝鮮語読解力を習得しつつ、参照すべき文献を把握し、それらを活用できるようになる。

授業内容

第 1 回 概説・導入
第 2 回 文献講読 1
第 3 回 文献講読 2
第 4 回 文献講読 3
第 5 回 文献講読 4
第 6 回 文献講読 5
第 7 回 文献講読 6
第 8 回 文献講読 7
第 9 回 文献講読 8
第 10 回 文献講読 9
第 11 回 文献講読 10
第 12 回 文献講読 11
第 13 回 文献講読 12
第 14 回 まとめ／総括

履修上の注意

春学期から継続して履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に文献を精読し、自らの解釈を述べられるように準備しておくこと。

教科書

『서울시민의 결혼문화 : 2023 서울생활사조사연구』(서울생활사박물관、2024)、박현수『경성 맛집 산책 : 식민지 시대 소설로 만나는 경성의 줄 서는 식당들』(한겨레출판、2023)ほか。

必要部分を配布するので、とくに購入の必要はない。ただし、テキストについては状況に応じて変更することがあるので、その場合は授業で説明する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への主体的な取り組み、授業への貢献度、訳読の正確さや厳密さ等)(60%)を重視するが、期末試験(40%)を実施し総合的に評価する。ただし、原則として3回以上欠席した場合は、評価の対象とみなさない。

その他

今まで朝鮮語文献をあまり読んだことのない人も、受講者の理解度に応じて適宜解説を行うため、安心してほしい。

科目ナンバー:(AL)LAN272N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語レベルアップ A	**中級朝鮮語 I A**	
担 当 者	開講期	開講地区
趙 義成	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次に文学部の朝鮮語を履修し、学習事項をしっかり理解できている者(あるいはそれと同等の学力を有する者)が、より高度な朝鮮語運用能力を養うことを目的とする。春学期は個々の子音・母音の発音、音の高低などに注意を払い、ネイティブスピーカーに通じやすい発音の技術を磨く。また、簡単な会話を練習し、実際に使える表現も併せて学ぶ。

「1年次に文学部の朝鮮語を履修し、学習事項をしっかり理解できている者」とは、文字を正しく読み書きでき、用言の活用、ヘヨ体とハムニダ体、過去形、連体形などがきちんと理解できていて、その形を正しく作ることができる者を指す。

授業内容

01)導入
02)発音矯正1
03)会話練習1
04)発音矯正2
05)会話練習2
06)発音矯正3
07)会話練習3
08)発音矯正4
09)会話練習4
10)発音矯正5
11)会話練習5
12)発音矯正6
13)会話練習6
14)まとめ

履修上の注意

朝鮮語母語話者(韓国人留学生等)は原則として履修を認めない。
この授業を過去に受講したことのある者の再度の受講を認めない。
授業内容は基本的に春学期と秋学期でワンセットとする予定なので、春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

学習した内容を次の授業時間までに復習しておくことが望ましい。

教科書

開講後に指示する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の発表 50%、授業への貢献度 50%

その他

オンライン授業となった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業となる。その場合、Zoom ミーティングの URL 情報等は「Oh-o! Meiji」で流す予定なので、チェックしておくこと。

科目ナンバー:(AL)LAN272N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語レベルアップ B	**中級朝鮮語 I B**	
担 当 者	開講期	開講地区
趙 義成	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次に文学部の朝鮮語を履修し、学習事項をしっかり理解できている者(あるいはそれと同等の学力を有する者)が、より高度な朝鮮語運用能力を養うことを目的とする。秋学期は辞書を引かずに漢字語を推測し、辞書をなるべく引かずに Web などの朝鮮語の文章を読む技術を養う。同時に聞き取りの訓練をする。

「1年次に文学部の朝鮮語を履修し、学習事項をしっかり理解できている者」とは、文字を正しく読み書きでき、用言の活用、ヘヨ体とハムニダ体、過去形、連体形などがきちんと理解できていて、その形を正しく作ることができる者を指す。

授業内容

01)導入
02)漢字語推測訓練1
03)聞き取り訓練1
04)漢字語推測訓練2
05)聞き取り訓練2
06)漢字語推測訓練3
07)聞き取り訓練3
08)漢字語推測訓練4
09)聞き取り訓練4
10)漢字語推測訓練5
11)聞き取り訓練5
12)漢字語推測訓練6
13)聞き取り訓練6
14)まとめ

履修上の注意

朝鮮語母語話者(韓国人留学生等)は原則として履修を認めない。
この授業を過去に受講したことのある者の再度の受講を認めない。
授業内容は基本的に春学期と秋学期でワンセットとする予定なので、春学期と秋学期を通して受講することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

学習した内容を次の授業時間までに復習しておくことが望ましい。

教科書

開講後に指示する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業中の発表 50%、授業への貢献度 50%

その他

オンライン授業となった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業となる。その場合、Zoom ミーティングの URL 情報等は「Oh-o! Meiji」で流す予定なので、チェックしておくこと。

科目ナンバー：(AL)HIS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮史(近世近現代)	**朝鮮史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮史の基本的な流れを 14 世紀の朝鮮王朝の成立から現代まで学ぶ。朝鮮半島を舞台として、現在の私たちがイメージする「朝鮮」という枠組みがどのように展開し今日に至っているかに留意しながら講義を行う。朝鮮史についての基本的な事項を解説しながら、朝鮮半島と隣接する諸国・諸勢力との交渉についても注意を払っていく。通史的な事柄を扱う講義のほか、テーマにそって通時的に解説していく回を数回設定する。本講義の目的は単に隣国の歴史を学ぶというだけにとどまらない。大国ではないが、かといって小国でもない朝鮮という地域、民族の歴史を学ぶことを通じて、これまで触れたことのないアジアの様々な国や地域、民族の歴史をいかに捉え、いかに考えていくかという、歴史学の基礎的な思考法を身に着けること到達目標とする。

授業内容

第1回 朝鮮前期の政治と社会
第2回 朝鮮時代の日朝関係
第3回 朝鮮の儒教
第4回 朝鮮後期の政治と社会
第5回 中朝関係の変容
第6回 朝鮮の文学
第7回 a 第1～6回のまとめ b ディスカッション
第8回 開港から大韓帝国へ
第9回 植民地朝鮮
第 10 回 解放と分断
第 11 回 韓国朝鮮のキリスト教
第 12 回 韓国朝鮮の家族
第 13 回 a 韓国朝鮮の現代 b ディスカッション
第 14 回 a 期末試験 b 第8～13 回のまとめ

履修上の注意

朝鮮史(古代中世)を同時に履修すること。
多くの人名、事項を扱うことになる。教科書・参考書を通じた予習・復習が必要不可欠である。
講義資料をもとにしたディスカッションを行うので積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書・参考書に必ず目を通し、各時代の大まかな流れを把握してから講義に臨むこと。
さらに日本史や中国史など隣接諸分野についても知見を深める努力をすること。

教科書

鈴木開『朝鮮は、いかに「外患」を克服したのか―ホンタイジによる丙子の乱』NHK 出版(ISBN 978-4-14-407327-4)

参考書

『朝鮮の歴史―先史から現代』(田中俊明編, 昭和堂)
『朝鮮史 (新版 世界各国史2)』(武田幸男編, 山川出版社)
『新版 朝鮮の歴史』(朝鮮史研究会編, 三省堂)
『朝鮮史2: 近現代(世界歴史大系)』(李成市, 宮嶋博史, 糟谷憲一編, 山川出版社)
『新版 韓国 朝鮮を知る事典』(平凡社)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

中間レポート 30%, 期末試験 70%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮史(古代中世)	**朝鮮史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 開	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮史の基本的な流れを先史から 14 世紀の朝鮮王朝の成立まで学ぶ。朝鮮半島を舞台として、現在の私たちがイメージする「朝鮮」という枠組みがどのように成立していったのかに留意しながら講義を行う。朝鮮史についての基本的な事項を解説しながら、朝鮮半島と隣接する諸国・諸勢力との交渉についても注意を払っていく。本講義の目的は単に隣国の歴史を学ぶというだけにとどまらない。大国ではないが、かといって小国でもない朝鮮という地域、民族の歴史を学ぶことを通じて、これまで触れたことのないアジアの様々な国や地域、民族の歴史をいかに捉え、いかに考えていくかという、歴史学の基礎的な思考法を身に着けること到達目標とする。

授業内容

第1回 朝鮮史のはじまり
第2回 高句麗の隆盛
第3回 百済と加耶
第4回 新羅から統一新羅へ
第5回 古代日朝交流
第6回 渤海の歴史
第7回 後三国の興亡と高麗王朝の成立
第8回 a 第1～7回のまとめ b ディスカッション
第9回 高麗前期の政治と社会
第 10 回 高麗後期の政治と社会
第 11 回 高麗時代の文化
第 12 回 高麗時代の日朝関係
第 13 回 a 高麗末期の政治と社会 b ディスカッション
第 14 回 a 期末試験 b 第9～13 回のまとめ

履修上の注意

聞いたことのある、知っている国・地域ではなく、未知の国・地域の歴史を学ぶつもりで講義に臨むこと。
多くの人名、事項を扱うことになる。教科書・参考書を通じた予習・復習が必要不可欠である。
講義資料をもとにしたディスカッションを行うので積極的に発言すること。
朝鮮史(近世近現代)を同時に履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書に必ず目を通し、各時代の大まかな流れを把握してから講義に臨むこと。
必要に応じて参考書も併読することが望ましい。
さらに日本史や中国史など隣接諸分野についても知見を深める努力をすること。

教科書

森平雅彦編『朝鮮の王朝外交―"ややこしさ"からの気づき』集英社新書(ISBN:978-4-08-721397-3)

参考書

『朝鮮の歴史―先史から現代』(田中俊明編, 昭和堂)
『朝鮮史 (新版 世界各国史2)』(武田幸男編, 山川出版社)
『新版 朝鮮の歴史』(朝鮮史研究会編, 三省堂)
『朝鮮史1: 先史-朝鮮王朝(世界歴史大系)』(李成市, 宮嶋博史, 糟谷憲一編, 山川出版社)
『新版 韓国 朝鮮を知る事典』(平凡社)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

中間レポート 30%, 期末試験 70%。

その他

科目ナンバー:(AL)PAC321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮の考古学A	**朝鮮の考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 孝文	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

韓国では近年の開発に伴う発掘調査の増大により、膨大な量の資料が蓄積されつつあるが、日本に入る情報量は決して多くない。本講義では、日本列島に最も近い位置にあり、各時代を通じて列島の諸集団・諸地域と深いつながりを持っていた朝鮮半島(韓半島)の考古学的調査および研究の成果を最新の情報を交えて概説的内容を講義し、加えて研究の現状や議論の対象となっている部分を紹介する。特に日本列島と深く関わる部分に関しては詳細なテーマを設定する。春学期の「朝鮮の考古学A」では、朝鮮半島考古学の地理・歴史環境、時期区分、学史からはじめ、先史時代の資料を中心に概観する。

近年の資料によって新たに構築された朝鮮半島の各時代像を遺跡・遺構・遺物によって把握し、その考古資料に対する知識を得ることで、朝鮮半島考古学研究の枠組みと内容、日本列島と朝鮮半島の新しい交渉史を理解することを目標とする。

なお、授業内容に関する質問はリアクションペーパーなどによって随時受け付け、その内容を授業にも反映させる。

授業内容

第1回 a : イントロダクション
b : 朝鮮半島考古学とは －研究の傾向と課題
第2回 朝鮮半島の地理と環境
第3回 朝鮮半島の歴史と時期区分の問題
第4回 朝鮮半島における考古学研究の歴史と現状
第5回 朝鮮半島における土器の変遷
第6回 旧石器時代の文化と社会
第7回 新石器時代の文化と社会
第8回 青銅器時代の文化と社会
第9回 いわゆる古朝鮮の問題
第 10 回 初期鉄器時代の文化と社会
第 11 回 朝鮮半島における楽浪の歴史的位置と文化
第 12 回 原三国時代の文化と社会1 －馬韓
第 13 回 原三国時代の文化と社会2 －辰韓・弁韓
第 14 回 a:まとめ
b:試験

履修上の注意

朝鮮の考古学 B(秋学期)を連続して受講することが望ましい。
授業中に提示する参考文献を並行して各自で読んでいくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書に指定した書籍のうち、講義内容に関連する部分を読んでおくこと。

教科書

教科書は使用しない。
授業内にプリント等を配布する。

参考書

『概説韓国考古学』 韓国考古学会編、庄田慎矢・山本孝文訳(同成社) 2013 年

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーないし課題については、授業内で紹介し解説する。

成績評価の方法

授業内リアクションペーパーないし簡易課題 20%、定期試験 60%、その他の受講姿勢 20%

その他

科目ナンバー:(AL)PAC321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮の考古学B	**朝鮮の考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 孝文	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

韓国では近年の開発に伴う発掘調査の増大により、膨大な量の資料が蓄積されつつあるが、日本に入る情報量は決して多くない。本講義では、日本列島に最も近い位置にあり、各時代を通じて列島の諸集団・諸地域と深いつながりを持っていた朝鮮半島(韓半島)の考古学的調査および研究の成果を最新の情報を交えて概説的内容を講義し、加えて研究の現状や議論の対象となっている部分を紹介する。特に日本列島と深く関わる部分に関しては詳細なテーマを設定する。秋学期の「朝鮮の考古学B」では、朝鮮半島における国家の問題と、三国時代を中心に概観する。

近年の資料によって新たに構築された朝鮮半島の各時代像を遺跡・遺構・遺物によって把握し、その考古資料に対する知識を得ることで、朝鮮半島考古学研究の枠組みと内容、日本列島と朝鮮半島の新しい交渉史を理解することを目標とする。

なお、授業内容に関する質問はリアクションペーパーなどによって随時受け付け、その内容を授業にも反映させる。

授業内容

第1回 a : イントロダクション
b : 朝鮮半島の社会発展段階に対する理解
第2回 朝鮮半島の国家形成に関する諸論
第3回 三国時代とはどのような時代か
第4回 高句麗の歴史と遺跡
第5回 高句麗の古墳壁画
第6回 百済の歴史と遺跡1 －百済の成立と漢城期
第7回 百済の歴史と遺跡2 －百済の中興と熊津期
第8回 百済の歴史と遺跡3 －百済の滅亡と泗沘期
第9回 栄山江流域の文化と遺跡
第 10 回 韓国の前方後円墳に関する諸議論
第 11 回 新羅の歴史と遺跡
第 12 回 新羅と西方文化
第 13 回 加耶の歴史と遺跡
第 14 回 a:まとめ
b:試験

履修上の注意

朝鮮の考古学 A(春学期)を受講していることが望ましい。
授業中に提示する参考文献を並行して各自で読んでいくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書に指定した書籍のうち、講義内容に関連する部分を読んでおく。

教科書

教科書は使用しない。
授業内にプリント等を配布する。

参考書

『概説韓国考古学』 韓国考古学会編、庄田慎矢・山本孝文訳(同成社) 2013 年
『古代韓半島と倭国』 山本孝文(中央公論新社) 2025 年(e ブック)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーないし課題については、授業内で紹介し解説する。

成績評価の方法

授業内リアクションペーパーないし簡易課題 20%、定期試験 60%、その他の受講姿勢 20%

その他

科目ナンバー：(AL)GEO222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法A	**地理学研究法A**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

自然地理学では、標高データや気象データなどの公共空間情報を国土地理院や気象庁などの官公庁からデジタルデータとして取得し、コンピュータを使用して解析するのが一般的である。しかし、いずれのデータも自然地理学の地域研究用に作成されたものではないので、デジタル処理した結果が、研究・調査目的に適合した精度・空間解像度をもつか検証する必要がある。その手段としては、現地調査による実態把握や、狭い領域をサンプルとした詳細なアナログ解析による対比が理想的である。この授業では、そのような検証能力の獲得を目標として、自然地理学の基礎的な調査技術の訓練を行う。内容は、地域調査の事前準備・事後のまとめとしての机上作業、自然地理学における各種データの取り扱い、および野外調査法の基礎である。教室での授業の他に、2 日間(日帰りの野外実習 2 回)の地理学実習を利用して実地体験する。

授業内容

01:イントロダクション、等高線描法
02:地形図による水系図・流域区分
03:接峰面図
04:空中写真判読入門(実体視とオルソ化画像)
05:空中写真判読による地表面被覆区分
06:空中写真判読による地形面区分図
07:空中写真判読による植生区分図
08:野外巡検の事前準備
09:野外巡検の取りまとめ(個別プレゼン)
10:簡易測量の方法
11:測量データ解析の処理と作図
12:地上気象観測データ解析
13:流量データ解析
14:自然地理学のフィールド設定方法・全体の総括
※:上記以外に、2回の野外実習(日帰り)を週末を利用して実施する。

履修上の注意

東京近郊において週末に日帰りの野外実習を2回実施する予定である。具体的な場所と日程は1回目の授業時に指示する。教室の授業では、この実習地域の空間情報を教材とするので、実習への参加は必須である。なお、この実習は本科目に付属するものなので、本科目の単位が取得できない場合(履修の中断や成績不合格)には、実習の参加実績も認定しない。

個人用の地形図数枚および分度器やコンパスなどの製図用品(約2千円)、三角関数機能付き関数電卓(約千円:実習時に足場の悪い野外でも使用するので、破損の心配がある高価なスマートフォンの使用は避けた方がよい)、野外調査用個人装備としてクリノメータ付き方位コンパス(約8千円)等、若干の費用がかかる。それぞれ使用条件(スペック)を授業時に説明するので、各自の好みで個別に準備する。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]授業資料(ハンドアウト)を原則として Oh-o!Meiji システムから履修者がダウンロードできるようにするので、事前に目を通しておけばよい。

[復習]課題レポート提出のためには、教室内での作業を指定の領域全体に拡張して完結させねばならない。これには教室以外での追加作業が復習として必要となる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

各回の授業で、それぞれの回の内容に関連する参考書を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

小テーマごとにレポート課題を提出してもらうが、そこにコメントを付して返却する。また、各回の教室授業には机上作業の時間が含まれるので、そこで個別の質問への対応・指導も随時行う。

成績評価の方法

全レポートの合計点(100 点満点に換算する)で評価する。ただし、教室での授業の欠席 1 回につきこの合計点から 10 点の減点とする。教室における技術体験型の授業科目であるため、理由によらず4回以上欠席した場合は到達目標を達成できないので原則として単位を認めない。また、未提出のレポートがある場合も原則として単位を認めない。なお、このレポートには 2 回の野外実習のレポートを含むので2回の実習参加が単位取得の前提条件となる。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法A	**地理学研究法A**	
担 当 者	開講期	開講地区
梅本 亨	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

自然地理学では、標高データや気象データなどの公共空間情報を国土地理院や気象庁などの官公庁からデジタルデータとして取得し、コンピュータを使用して解析するのが一般的である。しかし、いずれのデータも自然地理学の地域研究用に作成されたものではないので、デジタル処理した結果が、研究・調査目的に適合した精度・空間解像度をもつか検証する必要がある。その手段としては、現地調査による実態把握や、狭い領域をサンプルとした詳細なアナログ解析による対比が理想的である。この授業では、そのような検証能力の獲得を目標として、自然地理学の基礎的な調査技術の訓練を行う。内容は、地域調査の事前準備・事後のまとめとしての机上作業、自然地理学における各種データの取り扱い、および野外調査法の基礎である。教室での授業の他に、2 日間(日帰りの野外実習 2 回)の地理学実習を利用して実地体験する。

授業内容

01:イントロダクション、等高線描法
02:地形図による水系図・流域区分
03:接峰面図
04:空中写真判読入門(実体視とオルソ化画像)
05:空中写真判読による地表面被覆区分
06:空中写真判読による地形面区分図
07:空中写真判読による植生区分図
08:野外巡検の事前準備
09:野外巡検の取りまとめ(個別プレゼン)
10:簡易測量の方法
11:測量データ解析の処理と作図
12:地上気象観測データ解析
13:流量データ解析
14:自然地理学のフィールド設定方法・全体の総括
※:上記以外に、2回の野外実習(日帰り)を週末を利用して実施する。

履修上の注意

東京近郊において週末に日帰りの野外実習を2回実施する予定である。具体的な場所と日程は1回目の授業時に指示する。教室の授業では、この実習地域の空間情報を教材とするので、実習への参加は必須である。なお、この実習は本科目に付属するものなので、本科目の単位が取得できない場合(履修の中断や成績不合格)には、実習の参加実績も認定しない。

個人用の地形図数枚および分度器やコンパスなどの製図用品(約2千円)、三角関数機能付き関数電卓(約千円:実習時に足場の悪い野外でも使用するので、破損の心配がある高価なスマートフォンの使用は避けた方がよい)、野外調査用個人装備としてクリノメータ付き方位コンパス(約8千円)等、若干の費用がかかる。それぞれ使用条件(スペック)を授業時に説明するので、各自の好みで個別に準備する。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]授業資料(ハンドアウト)を原則として Oh-o!Meiji システムから履修者がダウンロードできるようにするので、事前に目を通しておけばよい。

[復習]課題レポート提出のためには、教室内での作業を指定の領域全体に拡張して完結させねばならない。これには教室以外での追加作業が復習として必要となる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

各回の授業で、それぞれの回の内容に関連する参考書を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

小テーマごとにレポート課題を提出してもらうが、そこにコメントを付して返却する。また、各回の教室授業には机上作業の時間が含まれるので、そこで個別の質問への対応・指導も随時行う。

成績評価の方法

全レポートの合計点(100 点満点に換算する)で評価する。ただし、教室での授業の欠席 1 回につきこの合計点から 10 点の減点とする。教室における技術体験型の授業科目であるため、理由によらず4回以上欠席した場合は到達目標を達成できないので原則として単位を認めない。また、未提出のレポートがある場合も原則として単位を認めない。なお、このレポートには 2 回の野外実習のレポートを含むので2回の実習参加が単位取得の前提条件となる。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法A	**地理学研究法A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

自然地理学では、標高データや気象データなどの公共空間情報を国土地理院や気象庁などの官公庁からデジタルデータとして取得し、コンピュータを使用して解析するのが一般的である。しかし、いずれのデータも自然地理学の地域研究用に作成されたものではないので、デジタル処理した結果が、研究・調査目的に適合した精度・空間解像度をもつか検証する必要がある。その手段としては、現地調査による実態把握や、狭い領域をサンプルとした詳細なアナログ解析による対比が理想的である。この授業では、そのような検証能力の獲得を目標として、自然地理学の基礎的な調査技術の訓練を行う。内容は、地域調査の事前準備・事後のまとめとしての机上作業、自然地理学における各種データの取り扱い、および野外調査法の基礎である。教室での授業の他に、2 日間(日帰りの野外実習 2 回)の地理学実習を利用して実地体験する。

授業内容

01:イントロダクション, 等高線描法
02:地形図による水系図・流域区分
03:接峰面図
04:自然地理学のデータ解析1:測定・計測の精度と物理量としての性質など
05:野外における簡易測量と樹幹投影図の作成方法
06:自然地理学のデータ解析2:データの可視化と使用条件など
07:空中写真判読による地形面区分1(地形面の空間的認識)
08:空中写真判読による地形面区分2(実体視による地形把握)
09:空中写真判読による地形面区分3(地形面区分図の編集方法)
10:空中写真判読による土地利用の経年変化1(土地利用の種類と認定)
11:空中写真判読による土地利用の経年変化2(マッピング)
12:自然地理学のデータ解析3:時系列データとしての統計解析など
13:自然地理学のデータ解析4:空間データとしての統計解析など
14:自然地理学のフィールド設定方法・全体の総括
※:上記以外に、2回の野外実習(日帰り)を週末を利用して実施する。

履修上の注意

東京近郊において週末に日帰りの野外実習を2回実施する予定である。具体的な場所と日程は1回目の授業時に指示する。教室の授業では、この実習地域の空間情報を教材とするので、実習への参加は必須である。なお、この実習は本科目に付属するものなので、本科目の単位が取得できない場合(履修の中断や成績不合格)には、実習の参加実績も認定しない。個人用の地形図数枚および分度器やコンパスなどの製図用品(約2千円)、三角関数機能付き関数電卓(約千円:実習時に足場の悪い野外でも使用するので、破損の心配がある高価なスマートフォンの使用は避けた方がよい)、野外調査用個人装備としてクリノメータ付き方位コンパス(約8千円)等、若干の費用がかかる。それぞれ使用条件(スペック)を授業時に説明するので、各自の好みで個別に準備する。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]授業資料(ハンドアウト)を原則として Oh-o!Meiji システムから履修者がダウンロードできるようにするので、事前に目を通しておけばよい。
[復習]課題レポート提出のためには、教室内での作業を指定の領域全体に拡張して完結させねばならない。これには教室以外での追加作業が復習として必要となる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

各回の授業で、それぞれの回の内容に関連する参考書を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

小テーマごとにレポート課題を提出してもらうが, そこにコメントを付して返却する。また、各回の教室授業には机上作業の時間が含まれるので、そこで個別の質問への対応・指導も随時行う。

成績評価の方法

全レポートの合計点(100 点満点に換算する)で評価する。ただし、教室での授業の欠席 1 回につきこの合計点から 10 点の減点とする。教室における技術体験型の授業科目であるため、理由によらず4回以上欠席した場合は到達目標を達成できないので原則として単位を認めない。また、未提出のレポートがある場合も原則として単位を認めない。なお、このレポートには 2 回の野外実習のレポートを含むので2回の実習参加が単位取得の前提条件となる。

その他

毎回の作業に必要な準備品や、2回の野外実習の詳細については、教室の授業において別途詳しく説明する。

科目ナンバー：(AL)GEO222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法A	**地理学研究法A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 夏来	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

自然地理学では、標高データや気象データなどの公共空間情報を国土地理院や気象庁などの官公庁からデジタルデータとして取得し、コンピュータを使用して解析するのが一般的である。しかし、いずれのデータも自然地理学の地域研究用に作成されたものではないので、デジタル処理した結果が、研究・調査目的に適合した精度・空間解像度をもつか検証する必要がある。その手段としては、現地調査による実態把握や、狭い領域をサンプルとした詳細なアナログ解析による対比が理想的である。この授業では、そのような検証能力の獲得を目標として、自然地理学の基礎的な調査技術の訓練を行う。内容は、地域調査の事前準備・事後のまとめとしての机上作業、自然地理学における各種データの取り扱い、および野外調査法の基礎である。教室での授業の他に、2 日間(日帰りの野外実習 2 回)の地理学実習を利用して実地体験する。

授業内容

01:イントロダクション, 等高線描法
02:地形図による水系図・流域区分
03:接峰面図
04:自然地理学のデータ解析1:測定・計測の精度と物理量としての性質など
05:野外における簡易測量と樹幹投影図の作成方法
06:自然地理学のデータ解析2:データの可視化と使用条件など
07:空中写真判読による地形面区分1(地形面の空間的認識)
08:空中写真判読による地形面区分2(実体視による地形把握)
09:空中写真判読による地形面区分3(地形面区分図の編集方法)
10:空中写真判読による土地利用の経年変化1(土地利用の種類と認定)
11:空中写真判読による土地利用の経年変化2(マッピング)
12:自然地理学のデータ解析3:時系列データとしての統計解析など
13:自然地理学のデータ解析4:空間データとしての統計解析など
14:自然地理学のフィールド設定方法・全体の総括
※:上記以外に、2回の野外実習(日帰り)を週末を利用して実施する。

履修上の注意

東京近郊において週末に日帰りの野外実習を2回実施する予定である。具体的な場所と日程は1回目の授業時に指示する。教室の授業では、この実習地域の空間情報を教材とするので、実習への参加は必須である。なお、この実習は本科目に付属するものなので、本科目の単位が取得できない場合(履修の中断や成績不合格)には、実習の参加実績も認定しない。個人用の地形図数枚および分度器やコンパスなどの製図用品(約2千円)、三角関数機能付き関数電卓(約千円:実習時に足場の悪い野外でも使用するので、破損の心配がある高価なスマートフォンの使用は避けた方がよい)、野外調査用個人装備としてクリノメータ付き方位コンパス(約8千円)等、若干の費用がかかる。それぞれ使用条件(スペック)を授業時に説明するので、各自の好みで個別に準備する。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]授業資料(ハンドアウト)を原則として Oh-o!Meiji システムから履修者がダウンロードできるようにするので、事前に目を通しておけばよい。
[復習]課題レポート提出のためには、教室内での作業を指定の領域全体に拡張して完結させねばならない。これには教室以外での追加作業が復習として必要となる。

教科書

教科書は使用しない。

参考書

各回の授業で、それぞれの回の内容に関連する参考書を紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

小テーマごとにレポート課題を提出してもらうが, そこにコメントを付して返却する。また、各回の教室授業には机上作業の時間が含まれるので、そこで個別の質問への対応・指導も随時行う。

成績評価の方法

全レポートの合計点(100 点満点に換算する)で評価する。ただし、教室での授業の欠席 1 回につきこの合計点から 10 点の減点とする。教室における技術体験型の授業科目であるため、理由によらず4回以上欠席した場合は到達目標を達成できないので原則として単位を認めない。また、未提出のレポートがある場合も原則として単位を認めない。なお、このレポートには 2 回の野外実習のレポートを含むので2回の実習参加が単位取得の前提条件となる。

その他

毎回の作業に必要な準備品や、2回の野外実習の詳細については、教室の授業において別途詳しく説明する。

科目ナンバー：(AL)GEO212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法B	**地理学研究法B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 大策	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

よい地理学研究を行うためには、適切な研究設問の設定、先行研究との関連づけ、良質なデータの収集、論理的な結果の解釈といった複数の条件が求められる。本演習では、人文地理的なデータ収集・整理・分析の手法に焦点を絞り、実習を通してそのポイントや難しさを学ぶ。具体的には、2日間の現地実習を行う地域を定め、社会経済統計データを用いたグラフの作成、現地で収集した土地利用データの GIS 分析、聞き取り調査などを通じて、地理学的視点から対象地域の理解を深める。3年次以降のゼミや卒業論文において、応用可能な研究スキルを学ぶことを実践的な目的とする。

授業内容

主な項目は以下の通り。ただし現地実習の日程などに応じて、予定変更の可能性がある。

第 1 回 演習の概要・現地調査日程・人文地理学の研究方法
第 2 回 統計データ：e-stat を使う
第 3 回 清く正しいグラフの作成：エクセルを使って
第 4 回 グラフ提出(品評会)・GIS の基本・QGIS の準備
第 5 回 第1回目現地調査準備
第 6 回 現地調査の反省・収集データの整理
第 7 回 実習レポート提出・読み合い
第 8 回 主題図品評会：美しい地図とは
第 9 回 第2回目現地調査準備
第 10 回 現地調査の反省・収集データの整理
第 11 回 空間分析のいろは
第 12 回 実習レポート提出・読み合い・聞き取り調査の準備
第 13 回 聞き取り調査の結果報告・最終課題に向けて
第 14 回 まとめの作業

履修上の注意

授業初日までに、ノート型パソコンとインターネット環境を整えておくこと。また、ノート型パソコンに表計算ソフト Excel と GIS ソフトの QGIS をあらかじめインストールしておくこと。QGIS(PC・Mac 版)は https://qgis.org/から無料で入手できる。iPad などのタブレット型コンピュータでは QGIS は利用できないので注意すること。また、授業初日には2日間の現地調査日程を決定するので、必ず出席すること。

2回の現地調査に参加できない場合は、実習単位を取得することはできない。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題をもとにした教員・学生同士のディスカッションの機会が多いため、締切日までに指定の課題を仕上げ、報告の準備をしてくることが求められる。課題にはグラフの作成、主題図の作成、レポートなどが含まれる。

教科書

授業内で必要に応じて参考書を紹介する。

参考書

野間晴雄ほか『ジオ・パル NEO：地理学・地域調査便利帖(第2版)』海青社(2017)(入手する場合「第2版」(茶色の表紙)が最新版であるので、その購入を進める)

河端瑞貴『事例で学ぶ経済・政策分析のための GIS 入門』(2022) 古今書院.

課題に対するフィードバックの方法

学生の発表時に口頭でコメントや助言をするほか、各課題の提出物に対して、評価や助言、またその理由などを添えて返却する。また要望に応じて、口頭にて課題に対する助言や、授業内容に関する補足的解説を行う。

成績評価の方法

提出課題・発表(50%)＋ 授業参加・貢献度(50%)
3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。授業に 30 分以上遅れたら欠席扱いとなる。
より詳細な評価基準については授業内で説明する。

その他

学期中に授業内外において、学習に支障がでるような問題(心身の健康、人間関係、経済的問題など)が生じた場合には、担当教員(dyamamoto@meiji.ac.jp)に連絡するか、もしくは積極的に学生相談室を利用することをすすめる(連絡先：03-3296-4217(駿河台)；03-5300-1178(和泉))

科目ナンバー：(AL)GEO212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法B	**地理学研究法B**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、現地調査に加え、そこで得た知識を統計データや行政資料などから補完し、先行研究をどのように批判的に乗り越えるのかを考える。地理思想についてもテキストから学び、人文地理学に特徴的な知識とスキルを身につける。具体的には、多摩地域での調査を行い、必要な情報収集を行って、その結果を地理学的に示す仕方を考えていく。受講生が地理学的な手法の有効性を理解することを到達目標とする。

授業内容

1. 自己紹介・何をどこまで進めるか
2. 多摩地域と郊外化－都市化・表象・ジェンダー
3. 調査準備―関連論文の調査
4. 調査準備―資料収集・データの示し方
5. 現地調査①のまとめ
6. 統計を地図化する①―有効性と危険性
7. 統計を地図化する②―実習
8. 調査準備―追加的な文献調査
9. 調査準備―理論的補強
10. 現地調査②のまとめ
11. 報告書の作成1―何を書く・描くのか
12. 報告書の作成2－理論的補強
13. 発表―初稿チェック・ディスカッション
14. 学期のまとめ・相互評価

履修上の注意

授業内では時間外での作業の発表が主となるため、必要な時間を確保できるように留意すること。5 月と 6 月の週末に調査を行う。授業初回に日程調整を行う。実習への参加が研究法と実習 II の単位に必要なので、5 月と 6 月の週末については、実習を最優先にできるよう、できる限り予定を空けておくこと。

オンライン授業を取り入れる可能性があるので、インターネット環境や機材を整えておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備ができなければ調査には出られないため、地域への理解を深めるために文献を読むこと。

教科書

加藤政洋・大城直樹編著『都市空間の地理学』ミネルヴァ書房(2006)
(出版社で品切れなので事前に入手する必要はありません。)
野間晴雄ほか編著『ジオ・パル NEO―地理学・地域調査便利帳』(第二版)海青社(2017)

参考書

谷謙二 2018『フリーGIS ソフト MANDARA10 パーフェクトマスター』古今書院
今木洋大・岡安利治編著 2018『QGIS 入門第二版』古今書院

その他授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート(8000 字)は Oh-o!Meiji 提出とし、コメント機能から全員に評価を通知する。

成績評価の方法

出席と課題への取り組みを重視する。3回以上欠席した場合には評価の対象外とする。平常点(40%)と課題(60%)で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法B	**地理学研究法B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

人文地理学を学ぶ上で必要な知識およびスキルを身につけることを目的とする。教科書に沿って，毎週課題をこなしていく。また一泊二日の野外調査も行う。

授業内容

1 授業内容説明
2 文献・情報の探し方
3 地図の種類
4 空中写真・Google earth
5 土地利用図作成
6～8 統計の種類と加工
9～10 主題図について
11～12 野外調査準備(フィールド選定と，テーマ決定)
13～14 調査報告のプレゼンテーション

履修上の注意

第1回目の授業の際に，発表の順番や1泊2日の野外調査日程を決定するので，必ず出席すること。

なお，毎週の作業のなかには，授業時間外にやらねば間に合わないものも多いので留意すること。
皆出席を前提とする。
ただし診断書や証明書のある場合については考慮する。
(欠席は最大3回まで。それ以上は進度に支障が生じるので認められない)。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回必ず課題を与えるので，それを各自こなしてから授業に臨むこと。
授業時にその作業を行う時間は無いので注意すること。
エクセルとパワーポイントを使えるよう，必ず事前に習得しておくこと。
また，描画ソフトのイラストレーター(アドビ社)ないしはインクスケープ(フリーソフト)が使えることが望ましいので，各キャンパスで用意されている関連講座ないしは各種マニュアルによって習得しておくことが望ましい。

教科書

野間晴雄ほか『ジオ・パル NEO：地理学・地域調査便利帖(第3版)』海青社，2026 年(3 月刊行予定)
必ず「第3版」(黒色の表紙)を事前に購入し，初回も含め毎回持参すること。
版が異なるとズレが生じるので気を付けること。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

「毎回の課題と進捗状況に対する講評。

成績評価の方法

・平常点(40%)＋レポート・プレゼン内容(40%)＋α(20%)による。
α はクラスでの積極的な姿勢を指す。
平常点とは，毎回の課題達成度を積算したもののことをいう。
・19 時から授業が開始できるよう，遅刻しないこと。
・春学期中に行う1泊2日の野外調査に必ず出席すること。これに参加できない場合，単位を与えることはできない。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学研究法B	**地理学研究法B**	
担 当 者	開講期	開講地区
川口 太郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

人文地理学を学ぶ学生が，学習・研究に当たって心得ておくべき基本的な知識や技術の習得をはかる。受講者は開講時に示される授業計画に沿って以下の作業，発表を行い，レポートを提出する。また，付随して2日間の野外実習を行う。
Work 1－地理学の文献紹介(第2回～第7回)
人文地理学に関する専門の学術雑誌に掲載されている論文を取り上げ，各自が紹介する。
Work 2－主題図の作成と統計の分析(第2回～第7回)
任意の都道府県を選び，指示に従って市町村別の各種分布図を作成する。
Work 3－現地調査の準備(第8回～第 14 回)
任意の市町村を選び，指示に従って各種作業をしたあと，現地調査の企画をたてる。
Work 4－研究テーマの準備(第8回～第 14 回)
任意のテーマについて論文を5本以上取り上げ，既往研究の成果と課題についてまとめる。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 Work 1，Work 2の報告(その1)
第3回 Work 1，Work 2の報告(その2)
第4回 Work 1，Work 2の報告(その3)
第5回 Work 1，Work 2の報告(その4)
第6回 Work 1，Work 2の報告(その5)
第7回 Work 1，Work 2の報告(その6)
第8回 Work 3，Work 4の報告(その1)
第9回 Work 3，Work 4の報告(その2)
第 10 回 Work 3，Work 4の報告(その3)
第 11 回 Work 3，Work 4の報告(その4)
第 12 回 Work 3，Work 4の報告(その5)
第 13 回 Work 3，Work 4の報告(その6)
第 14 回 総括

履修上の注意

指示の詳細は，授業開始時に授業計画を配付し，説明するので，必ず出席すること。また，10 月後半の土曜日曜に野外実習を予定している。

準備学習(予習・復習等)の内容

Work 2ならびに Work 3の作業は基本的に授業時間以外の時間を用いて各自行うことになる。

教科書

野間晴雄ほか編著『ジオ・パルNEO－地理学・地域調査便利帖(第2版)』(海青社，2017 年)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

質問などの問い合わせがあれば随時対応する。

成績評価の方法

出席を最重視し，3回以上の欠席は評価の対象としない。また，レポートの期限に遅れるのも同様である。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO195J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学実習Ⅰ	**地理学実習Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期集中	その他

授業の概要・到達目標

1年次に学外で実施する授業であり，現地観察を通じて，地域の人文や自然の特徴を把握するための基礎的な訓練を行う。

授業内容

以下のように「演習形式の必修科目に付随する実習」と「参加者を募集して行う実習」の2種類があり，指定の実習に計「4日」参加し，それぞれのレポートに合格する必要がある。詳細については，入学時の「専攻別ガイダンス」において説明する。

1)オリエンテーション実習

原則として4月に行われる1泊2日の実習で，地図の使用法やフィールドノートのとり方など，実習での野外活動の基本を実地に学ぶ。実習参加実績「1日」に換算する。

2)1年次必修科目「基礎演習(地理学)A および B」に付随する1～2日間の実習

教室での学習(演習)と関連付けた入門コースの実習である(クラスにより内容が異なる)。実習参加実績「1日」に換算する。

3)選択の実習

地域やテーマを設定して参加者を募る形式で，原則として日帰りの実習(年間5～6回開催)。首都圏にある興味深い観察地を歩き，地域を見る目を養う「巡検」形式の実習である。1回につき実習参加実績「1日」に換算する。

履修上の注意

履修申請，単位認定に関しては，入学時の「専攻別ガイダンス」で説明するので，全員が必ず出席すること。実習に参加したカレンダー上の日数と，成績評価に使用する実習参加実績の日数は異なるので注意する必要がある。

上記3)の「選択の実習」は，原則として5月から 12 月(夏季休業期間を除く)の第1または第2土曜日に実施される(具体的な日程等は別途掲示する)。また，それ以外の実習も週末に実施されることが多い。よって，実習に積極的に参加するためには土曜日に定期的な用事を入れないことが肝要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ実習資料を Oh-o!Meiji の地理学専攻グループページに掲載するので，各自ダウンロードして，現地に行くまでに学習しておくこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出された個々のレポートへの講評。

成績評価の方法

1年次を通じて，単位取得のために必要とされた実習に参加し，それらのすべてについてレポートに合格した場合に単位が認定される。

その他

「地理学実習Ⅰ」の単位を既に取得している場合でも，3)の実習には任意に参加することができ，余分に取得した実習参加実績は，未取得の地理学実習の成績に反映させることもある。

科目ナンバー:(AL)GEO295J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学実習Ⅱ	**地理学実習Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期集中	その他

授業の概要・到達目標

2年次に学外で実施する授業であり，現地観察を通じて，地域の人文や自然の特徴を把握するための技法を身につける。詳細については「専攻別ガイダンス」および春学期・秋学期の授業初回において説明する。

授業内容

「地理学研究法に付随する実習」であり，具体的な調査技術等を実地に応用する最初の本格的な実習である。

1)2年次必修科目「地理学研究法 A」の実習

地理学研究法 A に付随する自然地理学関連の実習で，2日間に相当する内容で実施する(1泊2日の実習を1回もしくは日帰り実習を2回)。

2)2年次必修科目「地理学研究法 B」の実習

地理学研究法 B に付随する人文地理学関連の実習で，2日間に相当する内容で実施する(1泊2日の実習を1回もしくは日帰り実習を2回)。

履修上の注意

履修申請，単位認定に関しては，専攻別ガイダンスにて説明するので，全員が必ず出席すること。実習は週末に実施されることが多いので，実習に積極的に参加するためには土曜日に定期的な用事を入れないことが肝要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

現地に行く前に，あらかじめ指示された作業を行っておく必要がある。また，実習終了後のレポートの提出を求める。

教科書

参考書

個々の実習の事前準備として参考文献を指定することがある。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に行う毎回の進捗評価。

成績評価の方法

2年次を通じて，単位取得のために必要とされた実習に参加し，それらのすべてについてレポートに合格した場合に単位が認定される。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO395J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学実習Ⅲ	**地理学実習Ⅲ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

3年次に学外で実施する授業であり，地域の人文や自然の特徴を把握するために2年次の研究法で身につけた諸技法を，現地調査を通じて実地に応用する。また，卒業論文を意識して調査結果の分析から取りまとめに至るプロセスを学習する。

授業内容

3年次必修科目「演習Ⅰ(地理学)A および B」に付随する現地調査のうち4日間を実習参加日とする。実施時期は原則として夏休み期間中となる。この実習は，4月から始まる共同調査テーマの設定，調査計画の立案と調査地域に関する研究論文等の事前学習や，12 月に一般公開形式で行う研究報告会での調査成果のプレゼンテーション，さらには年度末までに調査報告書を作成し印刷刊行するという1年がかりのプロジェクトの中核となるものである。

履修上の注意

履修申請，単位認定に関しては，専攻別ガイダンスにて説明するので，全員が必ず出席すること。また，個別の実習のレポートの合否については担当教員に問い合わせること。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当教員の指示により，事前・事後の作業が課されることがある。

教科書

参考書

個々の実習の事前準備として参考文献を指定することがある。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に行う毎回の進捗評価。

成績評価の方法

4日以上の出席と，実習レポートの合格によって単位が認定される。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO495J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
地理学実習Ⅳ	**地理学実習Ⅳ**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒又 美陽	秋学期集中	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文に関わる現地調査を通じて，各自の設定したテーマに基づく地域の人文や自然の特徴を把握する。

授業内容

4年次必修科目「卒業論文(地理学)ⅠおよびⅡ」に関連する4日間以上に相当するフィールドワークである。

履修上の注意

履修申請，単位認定に関しては，専攻別ガイダンスにて説明するので，全員が必ず出席すること。また，実習の合否の詳細については卒業論文の担当教員に問い合わせること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に担当教員と綿密に相談することが求められる。

教科書

参考書

個々のフィールドワークの事前準備として参考文献を指定することがある。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に行う毎回の進捗評価。

成績評価の方法

各自のフィールドワークの成果が反映された卒業論文との関わりにおいて単位が認定される。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト研究A	**テクスト研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 氏貴	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

同性愛というテーマは，濃淡の差こそあれ古今東西の文学の中で扱われてきた。現代の日本文学においてもある位置を占めているが，ただその場合「同性愛」は「同性愛者」の文学としてとらえられがちである。古典においても同性愛は頻繁にとりあげられているのだが，それは現在のわれわれと著しく異なるまなざしによるものであり，そこから現代までの大きな流れを辿ることにより，われわれの同性愛／同性愛者観がどのようにして成立してきたのかを考える。

授業内容

日本近代のセクシュアリティに大きな影響を与えた西洋のそれと、日本近代文学について、特に同性愛に関する部分に集中しながら現代まで辿る。

1 イントロダクション
2 ソクラテス＝プラトン 「パイドロス」「饗宴」
3 プラトン以外のギリシャ、ローマの思想
4 ネオプラとニズムとルネサンス
5 ヘッセ、マン
6 プルースト、ジイド
7 ワイルド、ホイットマン
8 明治時代以前の日本の同性愛表象
9 逍遥、鷗外、漱石
10 白樺派
11 谷崎、芥川、太宰
12 三島由紀夫
13 三島以後、平成まで
14 令和

履修上の注意

できるかぎり紹介するテキストをあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

紹介するテクストは数多い。それぞれ自分であたること。

教科書

一冊に限定することはなく，扱われる作品にできるかぎり自分であたること。

参考書

伊藤氏貴『同性愛文学の系譜』勉成出版

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

試験 80%，平常点 20%

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト研究A	**テクスト研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
武田 比呂男	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本の民俗学の父・柳田国男と岩手県遠野出身の小説家志望の学生佐々木喜善との出会いから生まれた『遠野物語』(明治43 年刊行)は日本民俗学の始発にかかわる記念碑的作品とされます。それは、山男や山女、神隠し、ザシキワラシ、河童、姥捨て、……と不思議な物語で満ち、古代の『古事記』や『風土記』、あるいは中世の『今昔物語集』などに記された伝承的世界を彷彿とさせもします。しかし、『遠野物語』は伝承の聞き書き＝フィールドワークの成果というような単純なものではありません。一方に個の自覚にもとづく近代文学の世界を、一方に声や身体による伝承によって共有される民俗的世界を見据えつつ(見出しつつ)、柳田国男が織りなしたテクストです。

刊行後 100 年を経た現在、『遠野物語』を読むことがどのような意味を持つのかを考えながら、『遠野物語』というテクストを読み解き、伝承的世界と近代文学の交錯する様相を捉えたいと思います。

授業内容

(1)柳田国男と佐々木喜善

(2)日本民俗学の生成

(3)「外国に在る人びとに呈す」―刊行の意図

(4)姉妹神の鎮座―はじまりの神話

(5)山人・山女との遭遇―憧憬と恐怖

(6)サムトの婆―神隠し譚と共同体

(7)馬と娘の恋―オシラサマと養蚕の起源

(8)ザシキワラシ―家の盛衰にかかわる神霊たち

(9)マヨヒガ―山中の楽園幻想

(10)動物との交感―狼・熊・狐たち

(11)河童淵の伝承―カッパの子を産む話

(12)死者の行方―お花畑のあるあの世への入り口

(13)ダンノハナとデンデラノ―姥捨ての物語

履修上の注意

講義形式の授業ですが、意見・感想などの小レポートを課しますので、積極的に参加してください。毎回、出席を取ります。止むを得ない場合をのぞいて遅刻、欠席をしないよう心がけてください。

テキスト(『遠野物語』)を用意し、3回目くらいまでに『遠野物語』に一通り目を通しておいてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】 次回のテーマに関する資料等を事前に読んだり、事項を調べておきましょう。

【復習】 授業の際のノートを読み返し、整理・要約し、わからないことなどを調べたり、興味を持ったことを更に調べましょう。

教科書

テキストとして柳田国男『遠野物語　付遠野物語拾遺』(角川ソフィア文庫または角川文庫)を用意して下さい。

参考書

参考文献は授業中に随時紹介していきます。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対して次回授業時に概要を報告、講評、授業の補足等を行う。

成績評価の方法

試験またはレポート 70%，授業内での提出物・小レポートなど 30%の割合です。60 点以上を合格とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト研究A	**テクスト研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

メディア・文化・社会、これらの関係をとらえ、考え、考察するための、基礎的な理論と思想について学ぶ。
基礎的理論と概念などを理解し、自分の論文を効果的に論じるための道具を身につける。
この授業では具体的に、スーザン・ソンタグの著作を理解することを目標とする。

授業内容

1. はじめに―メディア・文化・社会
2. 近代から現代へ一時代の中の文学と文化
3. テクストとメディア、その力を問う――ソンタグの実験
4.~13 スーザン・ソンタグを読む（解題と討論）
『反解釈』『隠喩としての病・エイズとその隠喩』『ラディカルな意志のスタイル』などから、毎回指示された小論をとりあげて読み進めることとする。
14 総括。

履修上の注意

求められた文献の読書は必須。
割り当てられた発表やレポートなどは、期限を守り、必ず提出すること。
講義とそれぞれの発表とを入れながら進めるので、自分の責任範囲を意識すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

基本テキストを必ず読んでから授業に臨むこと。
読まないで授業出席した場合、欠席とみなす。
また、関連の文献で指示されたものについてはもちろん学習を進めること。
指示された文献でなくても、理解を広げるための読書は積極的に進めること。

教科書

なし。部分部分についてのテクスト(プリント)を配布する。

参考書

スーザン・ソンタグ『反解釈』ちくま学芸文庫
スーザン・ソンタグ 『隠喩としての病い・エイズとその隠喩』(岩波文庫 赤 349-1)
スーザン・ソンタグ『ラディカルな意志のスタイルズ』河出書房新社
スーザン・ソンタグ『他者の苦痛へのまなざし』みすず書房

課題に対するフィードバックの方法

全体の講評、および注意ポイントや重要な発見などについては、授業内の議論の話題に取り上げることで、フィードバックに代替する。

成績評価の方法

担当部分の発表 30%
授業参加、研究への積極性 20%
レポート 50%

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト研究B	**テクスト研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 氏貴	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

殺人というテーマは，濃淡の差こそあれ古今東西の文学の中で扱われてきた。「罪」や「犯罪」一般は人間の負の一面を照らすものとして文学のテーマになりやすいが，ただそれらが含む範囲は時代や場所によって相当変わる。そのなかでしかし「殺人」は普遍的に「罪」であり「犯罪」であった。この取り返しのつかない問題について、文学はどう向き合ってきたか、またその取り返しのつかないことをしてしまった殺人者自身は、どのように「書くこと」を通じて向き合ったかを、テクストを通じて考える。

授業内容

殺人について書かれたテクストを通じて、特に実際にその殺人を犯した者の書いたテクストをつうじて、
1 イントロダクション
2 キューブリック、クラーク『2001 年宇宙の旅』
3 メアリー・シェリー『フランケンシュタイン』
4 トルストイ『クロイツェル・ソナタ』
5 ドストエフスキー『罪と罰』
6 カミュ『異邦人』
7 カポーティ『冷血』
8 グロスマン『戦争における「人殺し」の心理学』
9 永山則夫『無知の涙』
10 永山則夫『木橋』
11 桐山襲『パルチザン伝説』
12 町田康『告白』
13 中村文則『銃』
14 試験とまとめ

履修上の注意

できるかぎり紹介するテキストをあらかじめ読んでおくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

紹介するテクストは数多い。それぞれ自分であたること。

教科書

一冊に限定することはなく，扱われる作品にできるかぎり自分であたること。

参考書

随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

試験 80%，平常点 20%

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト研究B	**テクスト研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
庄司 達也	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
主に大正期に活躍をした作家芥川龍之介を対象に、文学と出版メディアの関係について講じます。
芥川龍之介は、大正 8(1919)年に大阪毎日新聞社と契約を交わし「社員」となり、文壇に於ける地位の確立をはかりました。また、大正 15(1926)年に起こった所謂「円本」全集ブームに於いては、改造社の主催した東北・北海道への宣伝講演旅行に加わり、与えられた役割を十分に果たしたことが知られています。さらには、その死後に『芥川龍之介全集』と命名された書籍が複数の出版社から多く出版されていますが、それら『芥川龍之介全集』が研究上で十分に活用されるためには幾つかの共有されるべき問題点のあることが近年注目を集めつつあります。
これらの事例を踏まえ、文学とメディアの関係についての課題への考察を深めます。
【到達目標】
作家や作品に対する理解をメディアとの関係性の中で捉え直し、文学研究に於ける新たな視点を獲得することを目指します。

授業内容

第1回a:イントロダクション(文学研究と出版メディア)
b:メディアで「家」を語るということ
第2回:実父と実家
第3回:養父と養家
第4回:「文壇」を見据える作家志望の若者たち
第5回:師夏目漱石の教えの中に
第6回:大阪毎日新聞社への入社
第7回:「新聞小説作家」芥川龍之介の仕事
第8回:「講演会」と芥川龍之介
第9回:「円本」全集をめぐる宣伝講演旅行と文学者たち
第 10 回:芥川龍之介の東北・北海道への宣伝講演旅行
第 11 回:『芥川龍之介全集』をめぐる課題
第 12 回:ノート、草稿、原稿、初出、初刊本、定本とは
第 13 回 講義のまとめ、振り返り
第 14 回 a:試験
b:試験の解説
＊受講生と相談の上、オンデマンドによる講義を行うこともあります。

履修上の注意

特記すべきことはありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配付された資料を読了して講義に臨むよう心掛けてください。

教科書

特に指定しません。

参考書

庄司達也編『芥川龍之介ハンドブック』鼎書房、2015、ISBN978-4-907282-13-4
関口安義編『芥川龍之介新辞典』翰林書房、2003、ISBN4-87737-179-6 C0591

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の解説を行います。

成績評価の方法

授業ごとに提出する受講コメント(30%)、試験(70%)の合計点によりますが、自由課題などによって加点をすることもあります。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト研究B	**テクスト研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

メディア・文化・社会、これらの関係をとらえ、考え、考察するための、基礎的な理論と思想について学ぶ。
基礎的理論と概念などを理解し、自分の論文を効果的に論じるための道具を身につける。

授業内容

今年は、同時代にメディア的広がりを作り出した白樺派に焦点をあてたい。
文学研究としての白樺派のとらえ方とは異なるので、注意されたい。

1. はじめに―メディア・文化・社会
2. メディアが作り出す"場"と文化の交錯と発信
3. 時代のなかのs"白樺派"と雑誌『白樺』
4. 超領域的なコミュニケーションをたどる―実篤・文章・隆三郎を例として
5.
～10.『白樺』を読む―『白樺』から考える多様な文化人の活動を考える―『白樺』に連動して生まれるメディアを追う
11. 多様性と拡散―文化運動の運命
12. メディアが運ぶ思想と社会構築
13. 草の根の文化教育とメディア文化
14 総括。

履修上の注意

求められた範囲の資料精読は必須。
発表やレポートなどは、期限を守り、必ず提出すること。
講義とそれぞれの発表とを入れながら進めるので、自分の責任範囲を意識すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

基本テキストを必ず読んでから授業に臨むこと。
また、関連の文献で指示されたものについてはもちろん学習を進めること。
指示された文献でなくても、積極的に読み進めること。

教科書

なし

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

複数回にわたって求められる、発表および読書レポート　80%
授業参加及び研究への積極性　20%

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト講読A	テクスト講読A	
担 当 者	開講期	開講地区
阪本 博志	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「人間とは何か」という問題に多角的に取り組み幅広い教養と充分な専門知識を身につけるという、明治大学文学部の「教育課程の理念」にもとづき、メディア論の古典的図書を読む。

具体的な概要としては、ダニエル・J・ブーアスティン(後藤和彦訳)『幻影(イメジ)の時代――マスコミが製造する真実』、ハロルド・イニス(久保秀幹訳)『メディアの文明史――コミュニケーションの傾向性とその循環』を講読する。毎回担当者がレジュメを用意し、これにもとづいて発表する。報告者以外の受講者は、毎回「講読シート」を準備する。これは、そのときの範囲において重要だと判断したところやそこを通して学んだこと・考えたことを記入したものである。報告者の発表のあと、出席者がそれぞれ用意した講読シートにもとづき、発言する。このようにして、発表ならびに意見交換を進める。授業において発言するとともに受講者の様々な観点からの発言を聞くことで、多角的にかつより深くテクストを理解することができよう。

なお時間に余裕が生じた場合は、メディア関連文献の講読(たとえば、主要新聞の社説の比較検討など)等をおこなう。

メディア論の古典的図書を理解・把握できることが、到達目標である。

授業内容

1. イントロダクション
2. 関連文献の講読もしくは資料映像の視聴
3. 『幻影の時代』序章・第１章
4. 『幻影の時代』第２章
5. 『幻影の時代』第３章
6. 『幻影の時代』第４章
7. 『幻影の時代』第５章
8. 『幻影の時代』第６章
9. 『メディアの文明史』第１章～第２章
10. 『メディアの文明史』第３章～第４章
11. 『メディアの文明史』第５章～第６章
12. 『メディアの文明史』第７章～第８章
13. 『メディアの文明史』第９章
14. 『メディアの文明史』付録一～付録二

履修上の注意

本授業は、報告者の発表ならびに受講者の発言により、テクストへの理解を互いに深めていくものである。そのため、授業中の積極的な発言を求める。

なお、受講者の人数やその問題関心によって、授業内容に調整をはかることがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者はレジュメを作成する。他の受講者は上記「講読シート」を作成する。

教科書

『幻影(イメジ)の時代――マスコミが製造する真実』ダニエル・J・ブーアスティン(後藤和彦訳)(東京創元社)
『メディアの文明史』ハロルド・イニス(久保秀幹訳)(ちくま学芸文庫)

参考書

『メディア論の名著 30』佐藤卓己(ちくま新書)

課題に対するフィードバックの方法

発表者の報告ならびに「講読シート」にもとづく受講者の発言に対し、口頭でフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

授業中の発表 30%、平常点(「講読シート」の提出 60%、ミニレポートの提出 10%)70%。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト講読A	テクスト講読A	
担 当 者	開講期	開講地区
柳澤 幹夫	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

永井荷風『濹東奇譚』、泉鏡花『草迷宮』を精読し、そこに現れる〈女性イメージ〉がいかなる言語的／物語的手続きによって造形されるのか、また、それはいかなる心性や世界観によって可能になるのかをひもといていく。それを通して、いつの世にも〈存在〉する〈イメージとしての女性〉という現象を考える端緒を開きたい。

また、両作品ともに、その物語の空間＝場の性質(トポロジー)という点にも注目してみたい。具体的には、『濹東綺譚』においては〈昭和 10 年前後の東京のトポロジー〉、『草迷宮』においては〈別界のトポロジー〉ということになる。

さらに、文学作品の受容のされ方の一側面を、映画化という角度から探ってみたい。

授業内容

1. 永井荷風プロフィール
2. 『濹東綺譚』導入…荷風と「玉の井」
3. 「活動写真」と「古本屋」
4. 昭和のフラヌール(遊歩者)
5. 「お雪」の肖像
6. ある映画作品…作品受容の一側面
7. 荷風受容論
8. 泉鏡花プロフィール
9. 『草迷宮』導入…〈手毬唄〉の謎
10. ダブルイメージの〈世界〉
11. 〈球体〉幻想と消える〈女〉
12. 〈迷宮〉の中心
13. ある映画作品…創造的差異
14. 鏡花受容論

履修上の注意

必ず指定した小説をあらかじめ読んで授業に臨むこと。

作品のある部分や問題に対する自分の見解を適宜書いてもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・取りあげる作品の精読を必須とする。特に、各回のテーマや該当部分について、読み直し、そのつど自分の見解をもってのぞむようにしたい。

・テーマによっては、自己の見解を書いてきてもらうことがある。

教科書

永井荷風『濹東綺譚』(岩波文庫)
泉鏡花『草迷宮』(岩波文庫)

参考書

特に指定しない。授業の進行の中で、適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては、その講評を原則として提出の翌週に行う。

期末試験もしくはレポートについては、採点後、クラスウェブに全体講評をアップする。

成績評価の方法

各授業時における質問への見解、授業への参加度(50%)＋ 試験もしくはレポート(50%)によって評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト講読B	テクスト講読B	
担 当 者	開講期	開講地区
熊澤 真沙歩	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

文学を研究することは、一つの手法によってのみ行われるよりはむしろ、さまざまな批評理論を基礎とした「読み」を練り上げる行為だ。本授業では、廣野由美子『批評理論入門『フランケンシュタイン』解剖講義』を軸として、小説技法と批評理論の両面から小説『フランケンシュタイン』を例に多面的・多層的な「読み」を提示する。本授業を通して小説の「読み」の多面性・多層性を探ることで、理論と実践を体得する。

【到達目標】

一つの文学作品を複数の批評理論から分解・組成する方法を受講生が理解することを最低限の目標とする。さらに、受講者自身が主体的な読み手となって各批評理論を組み合わせて駆使し、小説の読解を実践的する期末レポートの執筆を最終到達目標とする。

授業内容

【第1回】イントロダクション：批評理論を通して小説を「読む」とは
【第2回】小説技法篇(1～8)
【第3回】小説技法篇(9～15)
【第4回】批評理論篇(1伝統的批評)
【第5回】批評理論篇(2ジャンル批評)
【第6回】批評理論篇(4脱構築批評)
【第7回】批評理論篇(5精神分析批評)
【第8回】批評理論篇(6フェミニズム批評)
【第9回】批評理論篇(7ジェンダー批評)
【第10回】批評理論篇(9文化批評批評)
【第11回】批評理論篇(11新歴史主義批評)
【第12回】期末レポートの課題小説を読解する
【第13回】期末レポートの課題小説を考察する
【第14回】授業の総括
なお、授業内容は進度や履修人数に応じて変更する場合がある。

履修上の注意

・初回までに教科書を購入して授業に参加することが望ましい。
・グループワーク、ディスカッション、リアクションペーパー、小レポートへのフィードバック、図書館での能動的な参考資料調査を通したアクティブ・ラーニングを適宜行い、双方向的な授業形式を導入する。
・国籍や人種、ジェンダー等の属性によって学生を分け隔てることはしないという方針に同意したうえで履修する。
・教員との連絡には、Oh-o! Meiji システムのメッセージ機能を用いること。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】毎回、授業前までに教科書の指定範囲を通読すること。
【復習】期末レポート執筆に向けて各回の内容の理解を深め、課題小説の読解において実践すること。

教科書

廣野由美子『批評理論入門『フランケンシュタイン』解剖講義』(中公新書、2024 年 6 月)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題・リアクションペーパー・小レポートは次回授業にて全体へのフィードバックのかたちで共有する。場合に応じて、Oh-o! Meiji システムのメッセージ機能を用いて返却することもある。

成績評価の方法

授業への取り組み方、各回の課題、および期末レポートを、概ね以下の割合で評価する。
・授業への取り組み方 20%
・各回の課題 40%
・期末レポート 40%
なお、期末レポート未提出の者は不合格とする。また、課題、レポートともに指定した方法以外で提出することは認めない。
また、期末レポートの執筆において、生成 AI を使用した剽窃・盗用・捏造が確認できた場合には、単位を不可とする。

その他

本授業に関する質問・相談は、授業終了後に次の授業に支障がない範囲で教室内にて対応する。緊急時や、やむを得ない事情がある場合は、Oh-o! Meiji システムのメッセージ機能で質問・相談を受け付ける。

科目ナンバー：(AL)LIT291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
テクスト講読B	テクスト講読B	
担 当 者	開講期	開講地区
柳澤 幹夫	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

谷崎潤一郎の小説テキストを用いて、そこに「時代」や「都市」や「文化現象」がどのように埋め込まれ、作用し、また、そこにどのような世界像や精神性が表出されているのかを見ていこうと思う。それを通して、明治末から大正末にいたる日本の〈モダニティ〉の一端を垣間見たい。
テクストとしては、『秘密』(明治 44／1911 年)を導線として、そこから江戸川乱歩の探偵小説、さらに谷崎の「犯罪小説」「映画小説」へと歩を進めて行き、最後に『痴人の愛』(大正 13／1924 年)にたどり着く予定である。

授業内容

1.「〈谷崎〉的」… 谷崎潤一郎の世界
2. 谷崎潤一郎『秘密』テクスト解析 I ―〈「浅草」のトポロジー〉
3.『秘密』テクスト解析 II ―〈「女」のトポロジー〉
4.『秘密』と「映画」―〈シネマティカルトポロジー〉
5.『秘密』から大正の「都市」へ ―〈近体都市の二重性〉
6.「私」の系譜 ― ポー〈群集の人〉… ベンヤミン〈遊歩者〉
… 漱石〈高等遊民〉
7. 江戸川乱歩『D坂の殺人事件』/「明智小五郎」登場
8. 江戸川乱歩『屋根裏の散歩者』/〈退屈〉の果て
9. 谷崎潤一郎『或る罪の動機』と『青塚氏の話』/〈精神の極北〉と〈猟奇〉の時代
10.『痴人の愛』/「ナオミ」の肖像
11.『痴人の愛』/「ハリウッド映画」「セレブリティ」「モダンガール」
12.『痴人の愛』/「ナオミ」の〈モダニティ〉
13. ある映画作品…『痴人の愛』受容の一側面
14.「ナオミ」の系譜

履修上の注意

指定した作品をあらかじめ読んで授業に臨むこと。
作品内の内容や事項に関する自分なりの見方や分析を適宜書いてもらう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・取りあげる作品の精読を必須とする。特に、各回のテーマに関し、自己の見解を持って授業にのぞむようにしたい。
・テーマによっては、自己の見解・分析を書いてきてもらうことがある。

教科書

谷崎潤一郎『刺青・秘密』(新潮文庫)
谷崎潤一郎『痴人の愛』(新潮文庫)
谷崎潤一郎『潤一郎ラビリンス8 犯罪小説集』(中公文庫)
谷崎潤一郎『潤一郎ラビリンス 11 銀幕の彼方』(中公文庫)
江戸川乱歩『D坂の殺人事件』(春陽文庫他)
江戸川乱歩『屋根裏の散歩者』(春陽文庫他)

参考書

特に指定しない。授業の進行の中で、適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーについては、その講評を原則として提出の翌週に行う。
期末試験もしくはレポートについては、採点後、クラスウェブに全体講評をアップする。

成績評価の方法

各授業時における質問への見解、授業への参加度(50%)＋ 試験もしくはレポート(50%)によって評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PHL212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(2年)Ⅰ	**哲学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 隼暉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習では、上野修『哲学者たちのワンダーランド:デカルト・スピノザ・ホッブズ・ライプニッツ』(NHK ブックス)を講読する。予備知識は必要ないが、書籍に書かれている内容について積極的に思考し、柔軟に引き受けることが必要になる。担当者は決めないが、指定された範囲について各自読んでから参加することを求める。指名されたさいには内容について説明することができるように準備してくること。本演習を通じて、受講者には次のことを身に付けてもらいたい。(1)古典的な哲学者の主張を読み解き、その主張を自ら分析することができるようになること、(2)哲学的な議論について自らの言葉で他者に説明することができるようになること、(3)他者の議論を受けて、批判や質問をすることができるようになること。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 『哲学者たちのワンダーランド』1-2 章(デカルト)
第 3 回 『哲学者たちのワンダーランド』3-4 章(デカルト)
第 4 回 『哲学者たちのワンダーランド』5 章(デカルト)
第 5 回 『哲学者たちのワンダーランド』6-7 章(スピノザ)
第 6 回 『哲学者たちのワンダーランド』8-9 章(スピノザ)
第 7 回 『哲学者たちのワンダーランド』10-11 章(スピノザ)
第 8 回 『哲学者たちのワンダーランド』18-19 章(ライプニッツ)
第 9 回 『哲学者たちのワンダーランド』20-21 章(ライプニッツ)
第 10 回 『哲学者たちのワンダーランド』22-23 章(ライプニッツ)
第 11 回 期末レポートの構想発表(各自 A4 用紙にレポートの構想をまとめてくる)
第 12 回 『哲学者たちのワンダーランド』終章
第 13 回 口頭試問 前半
第 14 回 口頭試問 後半

履修上の注意

指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

第 2 回から第 10 回、第 12 回については指定された範囲を読解すること、また第 11 回、第 13 回以降はレポート等の作成を行うこと。

教科書

上野修『哲学者たちのワンダーランド [改版] デカルト・スピノザ・ホッブズ・ライプニッツ』(NHK ブックス、2024 年)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内で行う。

成績評価の方法

毎回の授業で指名されたさいの回答 50%
期末レポート 30%
口頭試問 20%
期末レポート提出は評価の必要条件なので、提出がない場合には評価対象から外れる
出席が 10 回に満たない場合には評価対象外となる

その他

・開始 20 分以降の入室の場合、欠席扱いとなる。
・各回、不在の場合には、すべて欠席扱いとする(いかなる理由でも欠席免除扱いとはしない)。

科目ナンバー:(AL)PHL212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(2年)Ⅰ	**哲学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
峰尾 公也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の概要
(1)文献講読を通じて、哲学書の基本的な読解の仕方を学ぶ。講読する文献について、シラバス上ではM・ハイデガー『芸術作品の根源』を指定しておくが、これは変更の可能性もあるという点に留意されたい。(2)レポート・論文に関する書き方のレクチャーを経たうえで、実際に研究発表を行なってもらう。

到達目標
(1)哲学書を自力で読解し、その読解内容を自身の立論のうちで正しく活用する技術を身につけること。(2)レポート・論文の書き方に関する基本的な知識を習得すること。

授業内容

第1回 イントロダクション(授業内容、評価についての説明)
第2回 文献講読
第3回 文献講読
第4回 発表準備(レポート、論文の書き方についての説明)
第5回 発表準備(レポート、論文の書き方についての説明)
第6回 研究内容の発表、論評
第7回 研究内容の発表、論評
第8回 研究内容の発表、論評
第9回 研究内容の発表、論評
第 10 回 研究内容の発表、論評
第 11 回 研究内容の発表、論評
第 12 回 研究内容の発表、論評
第 13 回 研究内容の発表、論評
第 14 回 授業のまとめ

履修上の注意

授業全体の進め方や担当の割り振りなどを決めるため、初回授業には必ず参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習・復習等)の内容は授業内にて指定する。

教科書

マルティン・ハイデガー『芸術作品の根源』関口浩訳、平凡社ライブラリー、2008 年

参考書

河野哲也『レポート・論文の書き方入門』第 4 版、慶應義塾大学出版会、2018 年

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行なう。

成績評価の方法

授業への積極的参加(30%)
研究発表(70%)

その他

科目ナンバー:(AL)PHL212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(2年)Ⅱ	**哲学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

哲学研究を行うための基礎的な技法について学ぶ。担当教員が定めるテーマをもとに、具体的な作業・実践を通して哲学研究のための基礎的な力を身につけていく。原典資料の読み方、研究論文の読み方、論文の書き方などについて、具体例を通して学んでいく。本年度は，江戸時代の『老子』注釈書の一つである広瀬淡窓『老子摘解』を主な素材とする。

関連する資料を探す力、他人の考えを正確に読み取ったり聞き取ったりする力、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につけるのが目標。

授業内容

第1回 卒業論文計画書準備についての説明(合同授業)
第2回 広瀬淡窓とその老荘思想理解について
第3回 広瀬淡窓『老子摘解』第１章、第２章の読解
第4回 広瀬淡窓『老子摘解』第 11 章、第 15 章の読解
第5回 広瀬淡窓『老子摘解』第 8 章、第 16 章、第 23 章の読解
第6回 広瀬淡窓の老子理解に関する研究を読む1
第7回 広瀬淡窓『老子摘解』第 23 章、第 36 章の読解
第8回 広瀬淡窓『老子摘解』第 49 章、第 52 章の読解
第9回 広瀬淡窓の老子理解に関する研究を読む2
第10回 哲学演習(3年)および卒業論文計画書についての説明(合同授業)
第11回 個別レポートの準備
第12回 広瀬淡窓の老子理解に関する研究を読む3
第13回 個別レポートの発表
第14回 レポートの講評

履修上の注意

学年始めに発表するクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

おおむね各回の授業で課題が出るので、必ず次回までに与えられた課題を仕上げて授業に臨むこと。

教科書

資料を PDF で配布する。

参考書

戸田山和久『論文の教室―レポートから卒論まで』(NHK 出版)

課題に対するフィードバックの方法

提出課題については授業内で講評し、個別小論文については Oh-o! Meiji のコメント機能を利用して個別に講評する。

成績評価の方法

授業で提示する課題への取り組み(60%)、学期末レポート(40%)
通算で5回以上欠席した場合、単位認定の対象から外す。

その他

科目ナンバー:(AL)PHL212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(2年)Ⅱ	**哲学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本演習では、思想や哲学に関連する文献を読み、研究を行う際に必要となる技法を、実践を通して身につけることを目標とする。毎回イスラム思想に関連するテーマを定め、文献講読と参加者間の意見交換を通し、自身の考えをまとめ、伝えるための方法を学んでいく。具体的に、1)文献の集めかた、2)文献の読みかた、3)文献のまとめかた、を身につけることを目指す。

授業内容

第１回 イントロダクション:授業の進め方、目標、評価方法について説明
第2回 イスラム思想とは何か
第３回 イスラム思想一般に関連する文献の講読及び参加者間での討議
第４回 イスラム倫理学に関連する文献の講読及び参加者間での討議
第５回 イスラム倫理学に関連する文献の講読及び参加者間での討議
第６回 イスラム神秘主義に関連する文献の講読及び参加者間での討議
第７回 イスラム神秘主義に関連する文献の講読及び参加者間での討議
第８回 イスラム神秘主義に関連する文献の講読及び参加者間での討議
第９回 イスラム文化に関連する文献の講読参加者間での討議
第 10 回 イスラム文化に関連する文献の講読参加者間での討議
第 11 回 イスラム文化に関連する文献の講読参加者間での討議
第 12 回 イスラム文化に関連する文献の講読参加者間での討議
第 13 回 イスラム文化に関連する文献の講読参加者間での討議
第 14 回 授業のまとめ

履修上の注意

クラス分けに従い、指定された教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業においてテーマとなっているテクストを読み、自分なりに意見をまとめてくること。また授業後に課題を課すので、次回授業までに課題を準備してから次の授業に臨むようにしてほしい。

教科書

毎回プリントを配布する。

参考書

毎回の授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

レスポンスペーパーに書かれたいくつかの見解に対し毎回次回授業の際にコメントと共に紹介、フィードバックを行う。

成績評価の方法

課題:50%　授業への貢献度:50%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年) I	**哲学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

今年度はまず哲学と言語の関連について考える。多和田葉子の『エクソフォニー』を手掛かりにして、西田幾多郎、九鬼周造、和辻哲郎らにおける「日本語」と哲学との関係について考察する。次いで、主にフランス語圏の哲学思想について、また、その主要な人物について概観する。参考書、入門書的なものから入るのではなく、歴史の風雪に耐えてきた名著に挑む気構えがまず要求される。そうした著作の内容と展開を的確に押さえ、周辺にも広くかつ繊細に目を配りながら、一方でその問題点を摘出し、他方でその応用の方法をじっくり考えること、ひところで言うと、それが「読む」ということなのだが、「読む」とはどういう行為なのかはいまだ明らかにされていないし、「読む」ことは、多くの者がほとんどつねに行っているにもかかわらず、決して容易なことではない。ましてや相手が外国語で書かれた原書となれば、単語の選択、時制や法の選択など、微妙な細部への注意が不可欠であり、並々ならぬ語学的修練が要求される。講義の主眼は、概説的知識の伝達よりもむしろ、「読む」ことの技法の修得と実践にある。16−17世紀ヨーロッパの哲学に実際にあたりながら、その具体的な訓練を行う。

授業内容

第一回:授業の概要とそれに臨む心構え
第二回:多和田葉子『エクソフォニー』を読む
第三回:それを踏まえて、日本哲学における言語の問題について考える
第四回:続き
第五回:デカルトの著作『方法序説』に触れる
第六回:デカルトをフランス語で読む
第七回:続き
第八回:パスカル『パンセ』を読む
第九回:19−20 世紀フランス語圏哲学をめぐって
第十回:続き
第十一回:続き
第十二回:受講者による研究発表
第十三回:続き
第十四回:続き

履修上の注意

単に授業に参加して話を聞くのではなく、課題となった著作のまずは邦訳をみずから読み続けるよう努めてもらいたい。フランス語圏の哲学者が多く取り上げられているが、フランス語を第二外国語として履修している必要はない。ドイツ語など他の西洋の言語、更には東洋の言語を履修している者も、日常使用しているのとは異なる言語で書かれたテクストにどう向かい合うかというその技法を学んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は不要だが、演習ではある哲学者のテクストのごく一部しか取り上げることができないので、ぜひその全体に迫るべく持続的に読解を続けてもらいたい。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料はそのつど配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業において担当者に翻訳や要約を担当してもらい、そのつどコメントする。

成績評価の方法

演習への積極的参加 70 パーセント、学期末のレポートもしくは論述式のテスト 30 パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年) I	**哲学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習では、卒業論文作成のために必要となる論文作成技法を、実践を通して身につけることを最終的な目標とする。具体的に秋学期は、1)文献収集、2)文献を読む、3)関連文献を集める、4)論文を書く、という作業を通し、自ら論文の骨組みを作成し、肉付けしていくための方法論を身につけることを目指す。本演習では日本におけるイスラム思想研究の泰斗、井筒俊彦の諸著作を通しイスラム思想史について学習するが、秋学期は諸外国語で書かれた関連する文献についても取り上げ比較検討を行うことで、イスラム思想界における井筒俊彦の独自性についても検討する。

授業内容

第１回 イントロダクション:授業の進め方、目標、評価方法について説明
第2回『イスラーム思想史』第１部を再読、再考する
第３回『イスラーム思想史』第２部を再読、再考する
第４回『イスラーム思想史』第３部を再読、再考する
第５回『イスラーム思想史』第４部を再読、再考する
第６回 関連する英語文献講読
第７回 関連する英語文献講読
第８回 関連する英語文献講読
第９回 関連する英語文献講読
第 10 回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第 11 回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第 12 回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第 13 回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第 14 回 授業のまとめ

履修上の注意

イスラム思想に関連するテクストにはイスラム教はもちろんのこと、ユダヤ教やキリスト教の知識、またギリシア哲学など関連する諸知識も広く必要である。適宜講師から説明するように心がけるが、分からない単語などがあれば、必ず確認をしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎週担当者を決めて発表をしてもらう。担当者は担当部分に関しテクストを読み、レジュメを作成する。授業での検討の後、改訂版を提出すること。参加者はテクストを読み、自分で簡単にまとめておき、質問などの準備をしておく。

教科書

上智大学中世思想研究所編『中世思想原典集成 11 イスラーム哲学』、平凡社
井筒俊彦『イスラーム思想史』、中央公論新社
資料はそのつど配布するので、購入の必要はない。

参考書

毎回の授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

レスポンスペーパーに書かれたいくつかの見解に対し毎回次回授業の際にコメントと共に紹介、フィードバックを行う。

成績評価の方法

レジュメ・小論文:50% 授業への貢献度:50%

その他

科目ナンバー:(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅰ	**哲学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

20 世紀中国の著名な哲学者である馮友蘭(1895-1990)が、日中戦争のさなかに書き上げた中国哲学史に関する書籍である『新原道―中国哲学之精神』(1944)を読解してゆく。

1947 年に E. R. Hughes によって英語に翻訳され、The Spirit of Chinese Philosophy というタイトルで出版された。馮友蘭は、1934 年に『中国哲学史』を上梓しているが、それよりも馮友蘭独自の視点が強く反映された内容になっている。伝統的な中国哲学のエッセンスを学ぶとともに、近代における中国哲学観を学ぶことができる。

自分で問題を発見する力、資料の探索の仕方、文献を読み解く力、問題を分析し、明晰な文章で表現する力を養うのが目標。

授業内容

第1回 演習の進め方についての説明、馮友蘭についての概説
第2回『新原道』緒論
第3回『新原道』第五章 易庸1
第4回『新原道』第五章 易庸2
第5回『新原道』第六章 漢儒1
第6回『新原道』第六章 漢儒2
第7回『新原道』第七章 玄学1
第8回『新原道』第七章 玄学2
第9回『新原道』第八章 禅宗1
第10回『新原道』第八章 禅宗2
第11回『新原道』第九章 道学1
第12回 レポートの梗概の作成
第13回『新原道』第九章 道学2
第14回 レポートの発表

履修上の注意

事前のアンケートに基づき、許可を受けた学生のみ履修できる。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の担当の有無にかかわらず、取り扱う箇所を読んでくるとともに、関連する内容をみずから積極的に調べること。また,自分の関心を広げ、卒業論文につながるテーマを探求すること。

教科書

PDF を配付する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

レポートに対する講評を授業内に行う。

成績評価の方法

毎回の演習への取り組み70%、学期末レポート30%

その他

科目ナンバー:(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅰ	**哲学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この3年次演習では、(1)(難解な)哲学書を読む、(2)関連する文献を読む、(3)哲学書について関連文献を用いて論文を書く、という三つの作業を一年かけて行う(春学期と秋学期の内容は一連の流れとしてデザインされている)。

(1)20 世紀以降の現代哲学の最大の潮流の一つである現象学の創始者 E. フッサールの『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』(『危機』と略記)を輪読制で読解し、(2)二次文献を用い、(3)学術論文のスタイルで『危機』の現象学について各自論じる。

到達目標は、以上のステップを通じて卒業論文を書くために必要なスキルを習得すること。

授業内容

1 自己紹介、春学期の流れの説明、役割分担の説明と決定
2 フッサール現象学の基礎:春休みの課題の確認と『危機』および参考文献の概観
3 輪読
[前半] 前回の復習
[後半] 輪読
4 輪読
[前半] 前回の記録の確認
[後半] 輪読
5 輪読
[前半]前回の記録の確認
[後半]読解(輪読)
6 輪読
[前半]前回の記録の確認
[後半]読解(輪読)
7 輪読
[前半]前回の記録の確認
[後半]読解(輪読)
8 輪読
[前半]前回の記録の確認
[後半] これまでの輪読をふまえて『危機』第一部を概括する
9 [前半] 前回の記録の確認
[後半] 期末レポートの説明、レポートの問いの設定
10 期末レポートの執筆作業
11 期末レポート構想検討会
12 期末レポートの提出
13 口頭試問
14 夏休みの課題の説明、秋学期への展望

履修上の注意

志望理由に基づいたゼミの振り分けで認められた担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

このゼミでは、輪読の各回に、記録係(プロトコラント)と司会(議論の進行役)を決め、学生主体で学術的な議論の場を生み出します。どの係も、前回のゼミでの議論内容を把握し、その回に読む文献の該当箇所を事前に読み込んでいないと務まりません。毎週の予習・復習は必須です。

第 9 回には論文とは何かをテーマにしますが、その際、一年の基礎演習の教科書の内容は前提とします。再読しておきましょう。戸田山和久『論文の教室:レポートから卒論まで』NHK 出版。

第 11 回に期末レポートの構想発表会を行うので早めに課題を理解し、準備を進めること。

教科書

加藤精司(2015)『フッサール』新装版、清水書院
フッサール, E.(1995)『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』(細谷恒夫・木田元訳)、中央公論新社

参考書

榊原哲也(2008)「フッサール」、野家啓一編『哲学の歴史〈10〉危機の時代の哲学』、中央公論新社、pp. 101-176

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

・事前準備の課題(15%)
・演習での司会(15%)
・演習でのプロトコル(30%)
・期末レポート(40%)
・出席 2/3 以上
ただし、自分の担当の3週分は確実に出席すること。出席が 10 回に満たない場合、期末レポートを提出しても評価対象にならない。なお、第一回(役割分担についての説明と決定)は欠席すると著しい不利益を被ることになる。必ず出席すること。

その他

科目ナンバー:(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅰ	**哲学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 隼暉	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この演習では、17 世紀ヨーロッパで活躍した哲学者 G. W. ライプニッツのテクストを読解し、関連する二次文献を批判的に参照した上で、最終的に各自で論文を作成する。基本的に、〈一次文献→二次文献→一次文献→…〉という仕方で読み進める。ライプニッツに関する予備知識は必要ないが、毎回、文献をきちんと読んでから参加することを求める。また演習中には積極的な発言を求める。全員の予習を前提として進めるため、担当者等は決めず、演習中に指名されたさいに自分なりに理解できた範囲で文献内容を説明してもらう形とする。本演習の到達目標は、(1)哲学者のテクストのうちからそれぞれが自ら問いを発見することができるようになること、(2)一次文献を精読し分析できるようになること、(3)二次文献を適切に選択し自らの分析と比較検討できるようになること、である。各人が最善を尽くすことに期待する。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)ライプニッツの基礎を学ぶ(1)酒井潔『人と思想 ライプニッツ』pp. 241–262
(3)ライプニッツの基礎を学ぶ(2)パーキンズ『知の教科書 ライプニッツ』pp. 114–144.
(4)ライプニッツの基礎を学ぶ(3)パーキンズ『知の教科書 ライプニッツ』pp. 144–189.
(5)ライプニッツ『実在的現象を想像の現象から区別する仕方について』
(6)井上龍介『ライプニッツ〈試論〉』第 2 章「現象のリアリティ」
(7)ライプニッツ『心身結合についての新たな説』§1–10
(8)ライプニッツ『心身結合についての新たな説』§11–18
(9)山本信『ライプニッツ哲学研究』第 4 章, pp. 155–197
(10)山本信『ライプニッツ哲学研究』第 4 章, pp. 198–223
(11)ライプニッツ「アルノー宛書簡」1687 年 4 月 30 日付
(12)山本信『ライプニッツ哲学研究』第 5 章, pp. 256–290
(13)山本信『ライプニッツ哲学研究』第 5 章, pp. 291–316
(14)期末レポートについての発表

履修上の注意

前受講者がきちんと予習してから参加することを求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

該当範囲について質問されたさい、自分なりに答えられるように準備してから参加すること。また、授業後に疑問点がある場合にはそのままにせず自ら調べておくこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業内で指名されたさいの回答 50%
期末レポートに関する発表と質疑 20%
期末レポート 30%

その他

科目ナンバー:(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅱ	**哲学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

卒業論文で取り扱うテーマについて受講者自身に発表してもらい、受講者全員による質疑応答を行う。それに基づいて、12 月には卒業論文計画書を提出できるようにすることが第一の目標である。その間、担当者は春学期の講義内容を踏まえて、それが20世紀の哲学においてどのように展開されかを講じる。サルトル、メルロ=ポンティ、シモーヌ・ヴェイユ、レヴィナス、ドゥルーズ、デリダなどを取り上げる。

授業内容

第一回:授業の概要とそれに臨む心構え
第二回:アンリ・ベルクソン紹介
第三回:ベルクソン(『時間と自由』)をフランス語で読む
第四回:研究発表
第五回:研究発表
第六回:研究発表
第七回:研究発表
第八回:研究発表
第九回:アランとシモーヌ・ヴェイユ
第十回:サルトルとメルロ=ポンティ
第十一回:レヴィナス
第十二回:レヴィナスとその後
第十三回:続き
第十四回:これからの学習の心構え

履修上の注意

単に授業に参加して話を聞くのではなく、課題となった著作のまずは邦訳をみずから読み続けるよう努めてもらいたい。フランス語圏の哲学者が多く取り上げられているが、フランス語を第二外国語として履修している必要はない。ドイツ語など他の西洋の言語、更には東洋の言語を履修している者も、日常使用しているのとは異なる言語で書かれたテクストにどう向かい合うかというその技法を学んでもらいたい。と同時に、みじからの研究発表に際して、どのように問いをたて、発表を構成し、自分の意見をどのように述べ、それに対する意見をどのように活かすか、を身をもって学ぶ覚悟をもって欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は不要だが、演習ではある哲学者のテクストのごく一部しか取り上げることができないので、ぜひその全体に迫るべく持続的に読解を続けてもらいたい。人に聞かせるに足る発表をしっかり準備すること。

教科書

特定の教科書は使用しない。資料はそのつど配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

受講生による発表に際しては、他の受講生との討論を行い、授業担当者も意見を述べる。

成績評価の方法

演習への積極的参加 70 パーセント、学期末のレポートもしくは論述式のテスト 30 パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅱ	**哲学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 貴恵	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習では、卒業論文作成のために必要となる論文作成技法を、実践を通して身につけることを最終的な目標とする。具体的に秋学期は、1)文献収集、2)文献を読む、3)関連文献を集める、4)論文を書く、という作業を通し、自ら論文の骨組みを作成し、肉付けしていくための方法論を身につけることを目指す。本演習では日本におけるイスラム思想研究の泰斗、井筒俊彦の諸著作を通しイスラム思想史について学習するが、秋学期は諸外国語で書かれた関連する文献についても取り上げ比較検討を行うことで、イスラム思想界における井筒俊彦の独自性についても検討する。

授業内容

第１回 イントロダクション：授業の進め方、目標、評価方法について説明
第2回『イスラーム思想史』第１部を再読、再考する
第３回『イスラーム思想史』第２部を再読、再考する
第４回『イスラーム思想史』第３部を再読、再考する
第５回『イスラーム思想史』第４部を再読、再考する
第６回 関連する英語文献講読
第７回 関連する英語文献講読
第８回 関連する英語文献講読
第９回 関連する英語文献講読
第10回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第11回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第12回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第13回 関連するアラビア語原典の日本語訳文講読
第14回 授業のまとめ

履修上の注意

イスラム思想に関連するテクストにはイスラム教はもちろんのこと、ユダヤ教やキリスト教の知識、またギリシア哲学など関連する諸知識も広く必要である。適宜講師から説明するように心がけるが、分からない単語などがあれば、必ず確認をしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎週担当者を決めて発表をしてもらう。担当者は担当部分に関しテクストを読み、レジュメを作成する。授業での検討の後、改訂版を提出すること。参加者はテクストを読み、自分で簡単にまとめておき、質問などの準備をしておく。

教科書

上智大学中世思想研究所編『中世思想原典集成 11 イスラーム哲学』、平凡社
井筒俊彦『イスラーム思想史』、中央公論新社
資料はそのつど配布するので、購入の必要はない。

参考書

毎回の授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

レスポンスペーパーに書かれたいくつかの見解に対し毎回次回授業の際にコメントと共に紹介、フィードバックを行う。

成績評価の方法

レジュメ・小論文：50% 授業への貢献度：50%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅱ	**哲学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

西谷啓治『宗教とは何か』(1961)を読解してゆく。本書は、過去の宗教についての研究をまとめたものというよりも、西谷啓治(1900-1990)自身が「宗教とは何か」という問いに哲学的に取り組んだ著作である。1961 年に著作としてまとめられ、1982 年には Religion and Nothingness というタイトルで英語訳され、欧米圏の哲学研究にも大きな影響を与えている。本書には六篇の論文から構成されているが、2026 年度は「1 宗教とは何か」「2 宗教における人格性と非人格性」「3 虚無と空」をとりあげる。
並行して、卒業論文のテーマについても授業を通して検討を行う。
自分で問題を発見する力、資料の探索の仕方、文献を読み解く力、問題を分析し、明晰な文章で表現する力を養うのが目標。

授業内容

第1回 卒業論文に向けてのテーマ検討1
第2回 「1 宗教とは何か」第1、2節
第3回 「1 宗教とは何か」第3、4節
第4回 「1 宗教とは何か」第5、6、7節
第5回 西谷啓治に関する論文を読む1
第6回 「2 宗教における人格性と非人格性」第1、2節
第7回 卒業論文計画書の検討
第8回 「2 宗教における人格性と非人格性」第3、4節
第9回 「2 宗教における人格性と非人格性」第5節、「3 虚無と空」第1節
第10回 「3 虚無と空」第2、3、4節
第11回 「3 虚無と空」第5、6、7節
第12回 「3 虚無と空」第8、9、10節
第13回 卒業論文に向けてのテーマ検討2
第14回 卒業論文に向けてのテーマ検討3

履修上の注意

事前のアンケートに基づき、許可を受けた学生のみ履修できる。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の担当の有無にかかわらず、取り扱う箇所を読んでくるとともに、関連する内容をみずから積極的に調べること。また、自分の関心を広げ、卒業論文につながるテーマを探求すること。

教科書

PDF を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

レポートに対する講評を授業内に行う。

成績評価の方法

毎回の演習への取り組み70%, 学期末レポート30%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅱ	**哲学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この3年次演習では、(1)(難解な)哲学書を読む、(2)関連する文献を読む、(3)哲学書について関連文献を用いて論文を書く、という三つの作業を一年かけて行う(春学期と秋学期の内容は一連の流れとしてデザインされている)。
(1)20 世紀以降の現代哲学の最大の潮流の一つである現象学の創始者 E. フッサールの『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』(『危機』と略記)を輪読制で読解し、(2)二次い文献を用い、(3)学術論文のスタイルで『危機』の現象学について各自論じる。
到達目標は、以上のステップを通じて卒業論文を書くために必要なスキルを習得すること。

授業内容

1 秋学期の流れの説明、今後の役割分担の説明と決定
2 研究計画の検討(提出物をもとに各自報告)
3 輪読
[前半] 春学期の輪読箇所の再確認
[後半] 輪読
4 輪読
[前半] 前回の記録の確認
[後半] 輪読
5 輪読
[前半]前回の記録の確認
[後半]読解(輪読)
6 輪読
[前半]前回の記録の確認
[後半]読解(輪読)
7 輪読
[前半]前回の記録の確認
[後半]読解(輪読)
8 輪読
[前半]前回の記録の確認

履修上の注意

志望理由に基づいたゼミの振り分けで認められた担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

このゼミでは、輪読の各回に、記録係(プロトコラント)と司会(議論の進行役)を決め、学生主体で学術的な議論の場を生み出します。どの係も、前回のゼミでの議論内容を把握し、その回に読む文献の該当箇所を事前に読み込んでいないと務まりません。毎週の予習・復習は必須です。
第 9 回には論文とは何かをテーマにしますが、その際、一年の基礎演習の教科書の内容は前提とします。再読しておきましょう。戸田山和久『論文の教室:レポートから卒論まで』NHK 出版。
第 11 回に期末レポートの構想発表会を行うので早めに課題を理解し、準備を進めること。

教科書

加藤精司(2015)『フッサール』新装版、清水書院
フッサール, E.(1995)『ヨーロッパ諸学の危機と超越論的現象学』(細谷恒夫・木田元訳)、中央公論新社

参考書

榊原哲也(2008)「フッサール」、野家啓一編『哲学の歴史(10)危機の時代の哲学』、中央公論新社、pp. 101-176

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

・事前準備の課題(15%)
・演習での司会(15%)
・演習でのプロトコル(30%)
・期末レポート(40%)
・出席 2/3 以上
ただし、自分の担当の3週分は確実に出席すること。出席が 10 回に満たない場合、期末レポートを提出しても評価対象にならない。なお、第一回(役割分担についての説明と決定)は欠席すると著しい不利益を被ることになる。必ず出席すること。
プロトコルは授業内での発表を経た後、加筆修正した確定版を提出してはじめて評価対象となるので注意すること。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学演習(3年)Ⅱ	**哲学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 隼暉	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この演習では、17 世紀ヨーロッパで活躍した哲学者 G. W. ライプニッツのテクストを読解し、関連する二次文献を批判的に参照した上で、最終的に各自で論文を作成する。基本的に、〈一次文献→二次文献→一次文献→…〉という仕方で読み進める。ライプニッツに関する予備知識は必要ないが、毎回、文献をきちんと読んでから参加することを求める。また演習中には積極的な発言を求める。全員の予習を前提として進めるため、担当者等は決めず、演習中に指名されたさいに自分なりに理解できた範囲で文献内容を説明してもらう形とする。本演習の到達目標は、(1)哲学者のテクストのうちからそれぞれが自ら問いを発見することができるようになること、(2)一次文献を精読し分析できるようになること、(3)二次文献を適切に選択し自らの分析と比較検討できるようになること、である。各人が最善を尽くすことに期待する。

授業内容

(1)ライプニッツ『形而上学叙説』§8-12
(2)ライプニッツ『形而上学叙説』§13-16
(3)酒井潔『世界と自我』第 II 部第 1 章, pp. 248-268
(4)酒井潔『世界と自我』第 II 部第 2 章, pp. 269-284
(5)ライプニッツ「アルノー宛書簡」1687 年 10 月 9 日付(前半)
(6)ライプニッツ「アルノー宛書簡」1687 年 10 月 9 日付(後半)
(7)論文:伊豆蔵好美「ライプニッツにおける「物体の現象性」――近世的思考空間の生成に関する一考察」
(8)ライプニッツ『理性に基づく自然と恩寵の原理』前半
(9)ライプニッツ『理性に基づく自然と恩寵の原理』後半
(10)佐々木能章「真理の連鎖――「合理主義」の戦略」(『真理の探究――17 世紀合理主義の射程』収録)
(11)期末論文の構想発表
(12)橋本由美子「分割・連続・運動――ライプニッツ自然観の視界を拓く試み」(『思想』751 号収録)
(13)期末論文の発表会前半(後半の人が前半の人に質疑を行う)
(14)期末論文の発表会後半(前半の人が後半の人に質疑を行う)

履修上の注意

前受講者がきちんと予習してから参加することを求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

該当範囲について質問されたさい、自分なりに答えられるように準備してから参加すること。また、授業後に疑問点がある場合にはそのままにせず自ら調べておくこと。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業内でフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業内で指名されたさいの回答 50%
期末レポートに関する発表と質疑 20%
期末レポート 30%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学外書講読	**哲学特論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中野 愛理	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では近代ドイツの哲学者イマヌエル・カントの倫理学・政治思想について、日本語・英語の二次文献を検討することによって、多角的に理解することを目指します。講義前半部では『道徳形而上学の基礎づけ』(1785)を、後半では『永遠平和のために』(1795)についての二次文献を読解します。

カント倫理学研究において「君の格律が普遍的法則になることを、その格律を通じて同時に君が意欲できるような、そのような格律にのみ従って行為せよ」という定言命法をどのように理解すべきかは、長らく議論の対象になってきました。本講義前半部では、アレン・ウッドの解釈を読解することで、定言命法についての解釈の一つの立場を理解することを試みましょう。

後半部は、カントの理想的国家構想や国際関係論という論争的トピックを扱います。どのような国家のあり方が理想的であるのかについて、一次文献としては『永遠平和のために』および「法論」を、二次文献として、網谷壮介、ポーリーン・クラインゲルトの文献を読解することで理解を試みましょう。

以上のプロセスを踏むことで、最新の研究の潮流を踏まえた、カント倫理学の理解を得られるようになるでしょう。

到達目標:
・カントの倫理学および政治思想について、研究上の論点を理解し、立場をとること
・カントの定言命法の概念および理想的な政治体制について、二次文献を用いて説明できるようになること

注意:本講義は春学期の「哲学文献講読」の履修を前提に構成されています。本講義のみ履修することも可能ですが、その場合、『道徳形而上学の基礎づけ』と『永遠平和のために』をあらかじめ読んでから参加すること。授業はこれらを読み終えていることを前提に進行します。

授業内容

1. 授業の概要・カントの生涯
2. ウッド(1)定式の体系
3. ウッド(2)道徳原理は何のためにあるのか？
4. ウッド(3)第一定式:判断の基準としての普遍化可能性
5. ウッド(4)普遍化可能性テストのメカニズム
6. ウッド(5)四つの例
7. ウッド(6)人間性の定式と自律の定式
8. 網谷(1)自由の権利
9. 網谷(2)社会契約論
10. 網谷(3)共和主義の理念と制度
11. 網谷(4)国際法と世界市民法
12. クラインゲルト(1)歴史的文脈
13. クラインゲルト(2)現代的評価
14. 期末試験と総括

履修上の注意

・授業資料は Oh-o! Meiji のクラスページ内に授業前にアップロードしますので、必要であれば印刷して持参してください。紙での配布は行いません。
・毎回、授業課題として内容に関する簡単な記述問題を課します。また、授業内でわからなかった箇所は課題内の質問欄で積極的に聞いてください。
・授業課題の提出率が 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎授業の終わりに次回までに行う課題を指示します。予習として、指定された資料を読み、わからない部分に線を引いておくこと。また復習として、教科書及び資料を繰り返し読み、内容理解に努めること。

教科書

授業では以下の文献についての解釈を見てゆきます。前半部では『道徳形而上学の基礎づけ』を、後半部では『永遠平和のために』を毎回持参してください。
『道徳形而上学の基礎づけ』、イマヌエル・カント、大橋容一郎訳(岩波書店, 2024)
『永遠平和のために』、イマヌエル・カント、宇都宮芳明訳(岩波書店, 1985)。

参考書

購入の必要はありませんが、以下を勧めます。
『カントの政治哲学入門:政治における理念とは何か』, 網谷壮介, (白澤社・現代書館, 2018)。
Ertl, Wolfgang. The Guarantee of Perpetual Peace, Cambridge, 2020.
Pauline Kleingeld, ¥"Kant's theory of peace¥", in The Cambridge Companion to Kant and Modern Philosophy, edited by Paul Guyer, Cambridge University Press 2007.
Wood, Allen. Formulas of the Moral Law. Cambridge, 2017.

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義冒頭で、前回の授業内課題の解説及び、全体講評を行います。

成績評価の方法

授業課題(30%)、期末試験(70%)

その他

科目ナンバー：(AL)PHL111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学概論Ⅰ	**哲学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小草 泰	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、哲学の主要問題をめぐる代表的な立場と議論を解説し、みなさんが哲学に関わる正確な基礎知識と、また哲学的探究に対する理解や関心を獲得されることを目指します。
哲学概論Ⅰでは、哲学という学問の特色や手法について一般的な説明をしたのち、「われわれは何を知っているのか」を問う「認識論」と、またわれわれが信じることやそれを表す文が「真である」とはいかなることかを問う「真理論」に焦点を当て、これらのトピックに関する代表的な立場と、その間でなされてきた議論を概観します。

以下の二つを到達目標とします。

(1)「認識論」と「真理論」を中心に、哲学に関する基礎知識を身につける。
(2) 哲学的探究や議論は何を目指してどのように行われているのかに関する理解と関心を獲得する。

授業内容

「初めに」
1. イントロダクション 授業のねらいや進め方についての説明
2. 哲学は何をどんなふうに探求しているのか――本質の探究、思考実験、哲学と常識の関係、など

「認識論」
3.「認識的正当化」の問題:われわれが信じていることに根拠はあるのだろうか
4. 古典的基礎づけ主義:われわれが信じていることを支える「土台」がある
5. 整合説:土台などなく、つじつまが合っていれば信じてよい
6. 信頼性主義(1) 信頼性主義の概要:われわれが信じていることは「心の外」の何かによって支えられている
7. 信頼性主義(2) 信頼性主義に対する反論
8. 現象的保守主義:○○にみえたら○○と信じるための「一見自明の正当化」がある

「真理論」
9.「真である」とはどういうことなのだろうか
10. 対応説:真であるとは事実と合致するということである
11.整合説:真であるとはつじつまが合っているということである
12.プラグマティズム:真理とは探究の終局である
13.デフレ主義:真理には探究されるべき本性などない

14. a.まとめ、b.試験

履修上の注意

あらかじめ必要な知識などは特にありません。
この授業で取り上げられる哲学的トピックは限られていますので、哲学についてより広くまた深く知りたい方は、哲学概論Ⅱも併せて履修してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

〔予習〕各回で取り上げるテーマについて、以下の参考文献や授業内で紹介する文献を(全部は理解できなくてももちろんかまわないので)読んでみること。それにより、ある程度の知識を得るとともに、わからない点を明らかにしておくこと。(1時間)
〔復習〕授業資料や予習の際に読んだ文献を読み直し、学期末テストに向けて理解を定着させること。その過程で疑問点が出てきた場合は、関連する文献を調べ、また担当教員に質問をすること。(1 時間)

教科書

教科書は使わず、資料を配布します。

参考書

「哲学とは」
金杉武司『哲学するってどんなこと』(ちくまプリマー新書)

「認識論」
ダンカン・プリチャード著、笠木雅史訳『知識とは何だろうか』(勁草書房)
ダンカン・プリチャード著、横路佳幸訳『哲学がわかる 懐疑論』(岩波書店)
戸田山和久『知識の哲学』(産業図書)

「真理論」
チェイス・レン著、野上志学訳『現代哲学のキーコンセプト 真理』(岩波書店)
須田悠基『真理の本性』(勁草書房)

課題に対するフィードバックの方法

みなさんの答案を踏まえて、次回の授業内にて(はっきりとした正解のある問題については)正解例を提示し、また必要な解説を行います。
また個別に質問があれば、授業の前後やメール等にてお答えします。

成績評価の方法

学期期間中の課題 50%と、学期末のテスト 50%により評価します。

学期期間中の課題は、(1)毎回の授業後半に実施する確認問題(40 点)と、(2)文献調査報告書(10 点)の二つがあります。課題については、「出来を評価する」というよりは、「取り組み姿勢を評価する」という観点から評価します。

学期末のテストは、(1)授業内容に関連するトピックを、正確で、なおかつ簡潔なわかりやすい文章にまとめることができるかどうか、また、(2)「論証を批判的に検討する」ということの意味を理解し、それを実際に行うことができるかどうかという点から評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL111J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学概論Ⅱ	**哲学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小草 泰	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、哲学の主要問題をめぐる代表的な立場と議論を解説し、みなさんが哲学に関わる正確な基礎知識と、また哲学的探究に対する理解や関心を獲得されることを目指します。

哲学概論Ⅱでは、「われわれは自由にふるまっているのか」を問う「自由意志論」と、幸福ないしウェルビーイングとは何なのかを問う「幸福論」に焦点を当て、これらのトピックに関する代表的な立場と、その間でなされてきた議論を概観します。

(1)「自由意志論」と「幸福論」を中心に、哲学に関する基礎知識を身につける。
(2) 哲学的探究や議論は何を目指してどのように行われているのかに関する理解を獲得する。

授業内容

第１回 イントロダクション――授業のねらいや授業の進め方に関する説明

【自由意志の問題】
第２回 自由をめぐる問題と論争状況の整理
第３回 自由の「他行為可能性モデル」と「フランクファート型事例」
第４回 自由の「源泉性モデル」
第５回 決定論と「他行為可能性」としての自由：帰結論証
第６回 決定論と「源泉性」としての自由：操作論証
第７回 リバタリアニズムの概要とその問題点

【幸福論】
第８回 「幸福とは何か」という問いについて整理する：誰か「にとってのよさ」という概念を理解する
第９回 「快楽説」の概要とその問題点
第10回 「客観説」(客観的リスト説、完成主義)の概要とその問題点
第11回 「欲求実現説」の概要とその問題点
第12回 「ケア型評価説」の概要とその問題点
第13回 ところで、どんな存在者が幸福の主体となりうるのだろうか：人間以外の動物、植物、無生物も幸せになれるのか？

第14回 a:まとめ、b:試験

履修上の注意

あらかじめ必要な知識などはありませんが、哲学概論Ⅰを履修されたのちに履修することをお勧めします。

準備学習(予習・復習等)の内容

〔予習〕各回で取り上げるテーマについて、以下の参考文献や授業内で紹介する文献を(全部は理解できなくてももちろんかまわないので)読んでみること。それにより、ある程度の知識を得るとともに、わからない点を明らかにしておくこと。(1時間)
〔復習〕授業資料や予習の際に読んだ文献を読み直し、学期末テストに向けて理解を定着させること。その過程で疑問点が出てきた場合は、関連する文献を調べ、また担当教員に質問をすること。(1時間)

教科書

教科書は使用せず、資料を配布します。

参考書

【自由意志】
高崎将平『そうしないことはありえたか』(青土社)

【幸福】
成田和信『幸福をめぐる哲学』(勁草書房)
森村進『幸福とは何か』(ちくまプリマー新書)

課題に対するフィードバックの方法

みなさんの答案を踏まえて、次回の授業内にて(正解がはっきりある類の問題については)正解例を提示し、また必要な解説を行います。
また個別に質問があれば、授業の前後やメール等にて受け付けます。

成績評価の方法

学期期間中の課題 50%と、学期末のテスト 50%により評価します。

学期期間中の課題は、(1)毎回の授業後半に実施する確認問題(40 点)と、(2)文献調査報告書(10 点)の二つがあります。課題については、「出来を評価する」というよりは、「取り組み姿勢を評価する」という観点から評価します。

学期末のテストは、(1)授業内容に関連するトピックを、正確で、なおかつ簡潔なわかりやすい文章にまとめることができるかどうか、また、(2)「論証を批判的に検討する」ということの意味を理解し、それを実際に行うことができるかどうかという点から評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL251J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学交流論	**哲学交流論**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢口 直英	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

哲学交流論という授業ですが、医学思想史を扱います。これは古代中世の医学が哲学と密接な関係にあるからです。かつて哲学は学問一般を意味しており、自然哲学は科学すべての基礎となっていました。科学の一つである医学も哲学を土台としており、また反対に医学が哲学に影響を与えることもありました。そのため、医学思想の歴史を学ぶことは、哲学の理解を深めるうえで意義があります。

西洋医学はヒポクラテスやガレノスに代表される古代ギリシアの医学者に始まり、翻訳を通じて中東イスラーム世界に伝わって、その後再び翻訳によってヨーロッパに至ります。本授業は古代ギリシアからイスラーム世界を中心に、この過程で登場した様々な医学(的)思想を概観します。近代以前の医学は体液学説と言われるもので、四元素を初めとするギリシア哲学の概念と密接な関係にあるため、一部の哲学思想にも触れます。

医学思想が異なる文化圏を渡って受け継がれる中で、どのような発展を示したかを理解することが目標です。

授業内容

第１回 ヒポクラテスと医学
第２回 ヒポクラテス学派と体液学説
第３回 ギリシアの哲学者と自然観
第４回 教条主義と方法主義と経験主義
第５回 ガレノスと解剖
第６回 ガレノスと魂
第７回 ガレノスと生殖
第８回 フナインと翻訳
第９回 ラーズィーと錬金術
第10回 イブン・ハイサムと視覚
第11回 イブン・スィーナーと医学と哲学
第12回 イスラームの信仰と医学
第13回 イブン・ナフィースと血液の小循環
第14回ａ アラビア語医学書と中世ヨーロッパ

授業の進行により、内容は前後することがあります。

履修上の注意

特になし。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回までの授業内容を復習して、次の授業に臨んでください。興味をもった事柄については自分でも調べてみてください。

教科書

教科書は使用しません。教材は適宜配付します。

参考書

マンフレッド・ウルマン『イスラーム医学』、橋爪烈・中島愛里奈(訳)、青土社、2022 年。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対しては、次の回の冒頭で返答します。

成績評価の方法

リアクションペーパーに基づく平常点(40%)
学期末レポートに基づく評価(60%)

その他

科目ナンバー:(AL)PHL262J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学プラクティスⅠ	哲学プラクティスⅠA	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、「対話(問答)」を通じて批判的・創造的・ケア的に思考するという「哲学プラクティス」の手法の一つを用い、(1)「共同で哲学的に思考する」練習をし、(2)その対話の場を共同で作り出します。そのために、哲学対話を「する」と「つくる」の両方に取り組みます。

対話は以下のステップで進められます。1. 問いの変形を通じて対話のための問いを立てる。2. 立てた問いについて対話を行う。3. 対話を様々な角度から振り返る。

対話の企画は以下のステップで進められます。1. グループごとに対話の企画を立案する。2. 立案した企画について、発表する。3. 参加者を迎えて、対話を行う。4. 行った企画を様々な角度から振り返る。

授業内容

(1) 哲学プラクティスとは何か:この授業の概要

(2) 質問ゲームと哲学対話のやり方の説明

(3) 哲学対話の構造の説明と問いだし

(4) 哲学対話

(5) 哲学対話の振り返りレポートの提出

(6) 哲学対話の振り返り(レポートに基づいた話し合い)

(7) 哲学プラクティス関連文献の読解

(8) 哲学プラクティス関連文献についてのレポートの提出

(9) レポートへのレスポンス

(10) 哲学対話の企画(1) 問いと概要の設定

(11) 哲学対話の企画(2) 対話のやり方の設定

(12) 哲学対話企画の発表

(13) 哲学対話企画の実施

履修上の注意

学年始めに発表するクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

おおむね各回の授業で課題が出るので、必ず次回までに与えられた課題を仕上げて授業に臨むこと。

教科書

河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン 増補二版』河出書房新社、2026 年。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

出席:2/3 以上(14 回中 10 回以上の出席がない場合には単位認定の対象から外れる)

遅刻:20 分まで入室可

振り返りレポート 25%

関連文献レポート 25%

企画発表(グループ) 25%

哲学対話企画振り返りレポート 25%

その他

・欠席はその原因にかかわらず、欠席とする。教育実習を除き、欠席免除とはしない。

・14 回の授業のうち、10 回の出席はこの授業の内容を把握する上で必須であるが、逆に言えば、4 回欠席可能である。その中で欠席回数を各自が管理すること。

・代替課題を出すことはしない。

・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

科目ナンバー:(AL)PHL262J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学プラクティスⅠ	哲学プラクティスⅠA	
担 当 者	開講期	開講地区
後藤 美乃理	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、「対話(問答)」を通じて批判的・創造的・ケア的に思考するという「哲学プラクティス」の手法の一つを用い、(1)「共同で哲学的に思考する」練習をし、(2)その対話の場を共同で作り出します。そのために、哲学対話を「する」と「つくる」の両方に取り組みます。　対話は以下のステップで進められます。1. 問いの変形を通じて対話のための問いを立てる。2. 立てた問いについて対話を行う。3. 対話を様々な角度から振り返る。　対話の企画は以下のステップで進められます。1. グループごとに対話の企画を立案する。2. 立案した企画について、発表する。3. 参加者を迎えて、対話を行う。4. 行った企画を様々な角度から振り返る。

授業内容

(1) 哲学プラクティスとは何か:この授業の概要 (2) 質問ゲームと哲学対話のやり方の説明 (3) 哲学対話の構造の説明と問いだし (4) 哲学対話 (5) 哲学対話の振り返りレポートの提出 (6) 哲学対話の振り返り(レポートに基づいた話し合い) (7) 哲学プラクティス関連文献の読解 (8) 哲学プラクティス関連文献についてのレポートの提出 (9) レポートへのレスポンス (10) 哲学対話の企画(1) 問いと概要の設定 (11) 哲学対話の企画(2) 対話のやり方の設定 (12) 哲学対話企画の発表 (13) 哲学対話企画の実施 (14) 哲学対話企画振り返りレポートの提出

履修上の注意

学年始めに発表するクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

おおむね各回の授業で課題が出るので、必ず次回までに与えられた課題を仕上げて授業に臨むこと。

教科書

参考書

河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン 増補二版』河出書房新社、2026 年。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

出席:2/3 以上(14 回中 10 回以上の出席がない場合には単位認定の対象から外れる) 遅刻:20 分まで入室可　振り返りレポート 25% 関連文献レポート 25% 企画発表(グループ) 25% 哲学対話企画振り返りレポート 25%

その他

・欠席はその原因にかかわらず、欠席とする。教育実習を除き、欠席免除とはしない。・14 回の授業のうち、10 回の出席はこの授業の内容を把握する上で必須であるが、逆に言えば、4 回欠席可能である。その中で欠席回数を各自が管理すること。・代替課題を出すことはしない。・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

科目ナンバー:(AL)PHL262J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学プラクティスⅡ	**哲学プラクティスⅠB**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、「対話(問答)」を通じて批判的・創造的・ケア的に思考するという「哲学プラクティス」の手法の一つを用い、(1)「共同で哲学的に思考する」練習をし、(2)その対話の場を共同で作り出します。そのために、哲学対話を「する」と「つくる」の両方に取り組みます。

対話は以下のステップで進められます。1. 問いの変形を通じて対話のための問いを立てる。2. 立てた問いについて対話を行う。3. 対話を様々な角度から振り返る。

対話の企画は以下のステップで進められます。1. グループごとに対話の企画を立案する。2. 立案した企画について、発表する。3. 参加者を迎えて、対話を行う。4. 行った企画を様々な角度から振り返る。

授業内容

(1) 哲学プラクティスとは何か:この授業の概要
(2) 質問ゲームと哲学対話のやり方の説明
(3) 哲学対話
(4) 哲学対話を振り返る
(5) 哲学対話の評価を議論する
(6) 哲学対話の問いの哲学史的背景を調べる
(7) 哲学対話の問いの哲学史的背景知の研究会
(8) 哲学対話
(9) 哲学対話を振り返る
(10) 哲学対話の企画(1) 問いと概要の設定
(11) 哲学対話の企画(2) 対話のやり方の設定
(12) 哲学対話企画の発表
(13) 哲学対話企画の実施
(14) 哲学対話企画振り返りレポートの提出

履修上の注意

学年始めに発表するクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

おおむね各回の授業で課題が出るので、必ず次回までに与えられた課題を仕上げて授業に臨むこと。

教科書

河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン 増補二版』河出書房新社、2026 年。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

出席:2/3 以上(14 回中 10 回以上の出席がない場合には単位認定の対象から外れる)
遅刻:20 分まで入室可

哲学対話　25%
哲学史的背景知レポート 25%
企画発表(グループ) 25%
哲学対話企画振り返りレポート 25%

その他

・欠席はその原因にかかわらず、欠席とする。教育実習を除き、欠席免除とはしない。
・14 回の授業のうち、10 回の出席はこの授業の内容を把握する上で必須であるが、逆に言えば、4 回欠席可能である。その中で欠席回数を各自が管理すること。
・代替課題を出すことはしない。
・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

科目ナンバー:(AL)PHL262J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学プラクティスⅡ	**哲学プラクティスⅠB**	
担 当 者	開講期	開講地区
後藤 美乃理	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、「対話(問答)」を通じて批判的・創造的・ケア的に思考するという「哲学プラクティス」の手法の一つを用い、(1)「共同で哲学的に思考する」練習をし、(2)その対話の場を共同で作り出します。そのために、哲学対話を「する」と「つくる」の両方に取り組みます。　対話は以下のステップで進められます。1. 問いの変形を通じて対話のための問いを立てる。2. 立てた問いについて対話を行う。3. 対話を様々な角度から振り返る。　対話の企画は以下のステップで進められます。1. グループごとに対話の企画を立案する。2. 立案した企画について、発表する。3. 参加者を迎えて、対話を行う。4. 行った企画を様々な角度から振り返る。

授業内容

(1) 哲学プラクティスとは何か:この授業の概要 (2) 質問ゲームと哲学対話のやり方の説明 (3) 哲学対話　(4) 哲学対話を振り返る(共同評価のための作業) (5) 哲学対話の評価を議論する(評価の発表) (6) 哲学対話の問いの哲学史的背景を調べる (7) 哲学対話の問いの哲学史的背景知の研究会 (8) 哲学対話 (9) 哲学対話を振り返る(評価する) (10) 哲学対話の企画(1) 問いと概要の設定 (11) 哲学対話の企画(2) 対話のやり方の設定 (12) 哲学対話企画の発表 (13) 哲学対話企画の実施 (14) 哲学対話企画振り返りレポートの提出

履修上の注意

学年始めに発表するクラス分けに従い、指定された担当教員の授業を履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

おおむね各回の授業で課題が出るので、必ず次回までに与えられた課題を仕上げて授業に臨むこと。

教科書

河野哲也『じぶんで考えじぶんで話せるこどもを育てる哲学レッスン 増補二版』河出書房新社、2022 年。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

出席:2/3 以上(14 回中 10 回以上の出席がない場合には単位認定の対象から外れる) 遅刻:20 分まで入室可 哲学対話　25% 哲学史的背景知レポート 25% 企画発表(グループ) 25% 哲学対話企画振り返りレポート 25%

その他

・欠席はその原因にかかわらず、欠席とする。教育実習を除き、欠席免除とはしない。・14 回の授業のうち、10 回の出席はこの授業の内容を把握する上で必須であるが、逆に言えば、4 回欠席可能である。その中で欠席回数を各自が管理すること。・代替課題を出すことはしない。・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

科目ナンバー：(AL)PHL361J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学プラクティス研究 Ⅰ	**哲学プラクティスⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、近年注目を集める「哲学プラクティス」(子どものための／とする哲学、学校での哲学対話、哲学カフェ、哲学カウンセリングなど)について、今現在、どのようなことが議論されているのかを調査・探究する。哲学プラクティスの営みは、対話や思考のもつ意味、他者と共にあることの意味を考えさせたり、学校・学び・政治参加などの社会の諸側面についての考察を促したりする。到達目標は、そうした考察や議論の状況を把握し、サーヴェイ論文(レポート)として報告できるようになること。

授業内容

この授業は主に二つのパートから成り立っています。

(1)最初の3回(1-3 回目)は、この講義の狙いややり方を理解し、各受講生が担当する文献や発表日を決定するのに費やします。

(2)現在日本語で入手可能な文献(翻訳含む)の内容を各受講生がまとめて口頭発表し、その内容を全体で共有します。(4-11 回目)。

(3)それを踏まえて、各受講生は「哲学プラクティスについての現在の日本における議論・研究状況」をテーマにレポートを書きます(12-13 回目)。

以下のテーマは暫定的なもので、受講生が選んだ文献の内容によって変化します。なお、学生の数が少ない場合には、関連する映画を鑑賞したり、哲学対話を行ったりする回を設ける可能性があります。

1 この授業の狙いと進め方の説明
2 文献を概観し、各自が発表する文献の希望を集める
3 発表文献と日程の決定、授業担当者によるモデル発表
4 学び:学生による発表
5 尊重:学生による発表
6 コミュニティ:学生による発表
7 思考:学生による発表
8 他者:学生による発表
9 聴くこと:学生による発表
10 ケア:学生による発表
11 創造性:学生による発表
12 レポート(サーヴェイ論文)の書き方についての説明
13 レポート提出日
14 レポートを終えての話し合い

履修上の注意

授業やそれ以外の場で哲学プラクティスに参加した経験があることが望ましい。哲学専攻で哲学プラクティスに関する卒業論文を書くつもりの学生は必ずこの授業を受け、単位を取ること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・第2回目の授業で、下記の書籍またはリンク先から、各自が取り上げたい論文を挙げてもらいます。

小玉重夫監修『対話的教育論の探究:子どもの哲学が描く民主的な社会』、東京大学出版会、2023 年
(本書は、哲学プラクティスに関する日本初の専門的研究書であり、和泉と駿河台の図書館に所蔵している。)

「P4C の論文」(P4C in School Kansai - Japan)
https://kansai.p4c-japan.com/docs-jp/p4c_theses/

『思考と対話』第 1-7 号(日本哲学プラクティス学会)
https://philopracticejapan.jp/magazine/

上記の書籍または HP 以外からの文献(書籍または学術論文)を取り上げたい、という場合にはその第2回目の授業で文献を挙げてもらい、発表の対象としてふさわしいかを判断します。

・第 2 回目の授業で文献の偏りなどを調整した上で、第3回目に各自が発表する日と文献を決定します。(発表の対象として取り上げる予定の文献に著しい偏りが見られた場合、同一テーマを扱った文献の担当をお願いすることがあります。)

受講者は各回に取り上げる文献を必ず印刷して持参すること。

教科書

なし

参考書

上記[準備学習(予習・復習)の内容]の書籍とリンクを参照。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

出席:2/3 以上(14 回中 10 回以上の出席がない場合には単位認定の対象から外れる)
遅刻:20 分まで入室可

発表 40%
期末レポート 40%
授業への貢献 20%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL361J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学プラクティス研究 II	**哲学プラクティスⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
堀越 耀介	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「哲学プラクティス(Philosophical Practice)」というカテゴリーで名指される様々な実践について、それを実際に実践してみるだけでなく、理論や歴史という視点からも概観し、検討する。授業内容は原則として受講者の興味関心に基づいて設定されるが、哲学プラクティスの広がりや歴史・理論を理解するなかで、様々な論点、方法、実践事例などにかんして受講者が自らの研究課題を発見し、深めていくことを目標とする。そして、その成果について、授業内でのプレゼンテーションおよびレポートという形でアウトプットすることを求めたい。

授業内容

1 オリエンテーションおよび、履修者による自己紹介
2 「哲学対話」の広がりと国際的な哲学プラクティスの動向
3 「P4C(子どもとする哲学)」の理論と実践
4 ハワイの p4c
5 映画「小さな哲学者たち」
6 哲学コンサルティング
7 哲学ウォーク
8 哲学カウンセリング
9 哲学プラクティスにかんするテキスト読解
10 ネオ・ソクラティク・ダイアローグ(NSD/SD)①
11 ネオ・ソクラティク・ダイアローグ(NSD/SD)②
12 プレゼンテーション①
13 プレゼンテーション②
14 総括

履修上の注意

本授業は、いわゆる講義形式(スクール形式)ではなく、履修者が主体となる、少人数の演習(ゼミナール)形式で進められます。従って、授業では、履修者の積極的な参加が求められます。なお、授業内容は、受講者の興味関心や研究内容に基づいて変更されることがあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:授業のトピックや講読文献について、参考書や指示されたテキストから概要を把握する。

復習:レポートやプレゼンテーションにむけて、論点や関心のある話題、文献を見つけて調べる。

教科書

参考書

堀江剛『ソクラティク・ダイアローグ:対話の哲学に向けて』大阪大学出版会、2017 年。
Marinoff, Lou. (2001). Philosophical Practice. San Diego, CA: Academic Press.
マシュー・リップマン『探求のコミュニティ:考えるための教室』河野哲也・土屋陽介・村瀬智之監訳、玉川大学出版部、2014 年。
M. Gregory, J. Haynes, and K. Murris.eds. (2016). The Routledge International Handbook of Philosophy for Children, Abingdon: Routledge. (M. グレゴリー、J. ヘインズ、K. ムリス『子どものための哲学教育ハンドブック:世界で広がる探究学習』小玉重夫監訳、東京大学出版、2020 年)。
ピーター・ラービ『哲学カウンセリング:理論と実践』法政大学出版会、2006 年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

プレゼンテーションの作成と発表(30%)、授業・ディスカッションへの貢献度(30%)、期末レポート(40%)

その他

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
哲学文献講読	**哲学特論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中野 愛理	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では近代ドイツの哲学者イマヌエル・カントの倫理学・政治思想について、彼の著作を丁寧に読むことによって、その概要を理解することを目指します。講義前半部では『道徳形而上学の基礎づけ』(1785)を、後半では『永遠平和のために』(1795)を講読します。

カント倫理学で最もよく知られている概念は「定言命法」と呼ばれる道徳の絶対的命令です。それは「君の格律が普遍的法則になることを、その格律を通じて同時に君が意欲できるような、そのような格律にのみ従って行為せよ」と仮借なくあらゆる人にあらゆる場所で命じます。しかし、その意味するところは何であるのかは判明ではありません。前半部はこのことを明らかにするよう試みましょう。

後半部では国際連合に影響を与えたとされる政治思想の本である『永遠平和のために』を扱います。カントはこの本で平和のために国家がどのようなものであるべきかを示しますが、それはどのようなものであり、どんな根拠に基づいているのでしょうか？後半部はこの問いを扱います。

以上二つの著作は倫理学と政治思想という異なるトピックを扱っています。これらの領域を繋ぐ概念として、さらに「最高

授業内容

1. 講義の概要説明・カントの生涯
2. 『道徳形而上学の基礎づけ』(1)『基礎づけ』の目的
3. 『道徳形而上学の基礎づけ』(2)善意志と日常的な例からの道徳原理の導出
4. 『道徳形而上学の基礎づけ』(3)法則の表象に従う意志の能力
5. 『道徳形而上学の基礎づけ』(4)普遍的法則の定式・自然法則の定式
6. 『道徳形而上学の基礎づけ』(5)人間性の定式
7. 『道徳形而上学の基礎づけ』(6)自律の定式・目的の国の定式
8. 『実践理性批判』:最高善
9. 『永遠平和のために』(1)予備条項
10. 『永遠平和のために』(2)確定条項
11. 『永遠平和のために』(3)神の摂理と人間による永遠平和への道
12. 『永遠平和のために』(4)道徳的政治家
13. 『たんなる理性の限界内における宗教』:倫理的公共体
14. 期末試験と総括

履修上の注意

・授業資料は Oh-o! Meiji のクラスページ内に授業前にアップロードしますので、必要であれば印刷して持参してください。紙での配布は行いません。
・第 2 回目までに必ず教科書を入手してください。
・毎回、授業課題として内容に関する簡単な記述問題を課します。また、授業内でわからなかった箇所は課題内の質問欄で積極的に質問をしてください。
・授業課題の提出率が 3 分の 2 を満たさない場合、期末試験の受験資格が失われます。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎授業の終わりに次回までに行う課題を指示します。予習として、指定された資料を読み、わからない部分に線を引いておくこと。また復習として、教科書及び資料を繰り返し読み、内容理解に努めること。

教科書

『道徳形而上学の基礎づけ』、イマヌエル・カント、大橋容一郎訳(岩波書店, 2024)
『永遠平和のために』、イマヌエル・カント、宇都宮芳明訳(岩波書店, 1985)。
・第 2 回目までに必ず入手してください。
・どちらの本も翻訳が複数ありますが、必ずこの翻訳を入手してください。
・毎回の持参が必要です。

参考書

購入の必要はありませんが、以下を勧めます。
『カントの政治哲学入門:政治における理念とは何か』, 網谷壮介, (白澤社・現代書館, 2018)。
『カント『永遠平和のために』を読み直す:どうすれば戦争はなくなるのか』, 寺田俊郎, (現代書館, 2019)。
『自分で考える勇気:カント哲学入門』, 御子柴善之, (岩波書店, 2015)。
Pauline Kleingeld, ¥"Kant's theory of peace¥", in The Cambridge Companion to Kant and Modern Philosophy, edited by Paul Guyer, Cambridge University Press 2007.

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義冒頭で、前回の授業内課題の解説及び、全体講評を行います。

成績評価の方法

授業課題(30%)、期末試験(70%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
伝承文学研究	**詩歌研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

お伽草子を読む。室町物語などとも呼ばれるお伽草子は、室町時代から江戸時代前期にかけて多く作られた短編の物語であり、その数は 400 を超えるといわれる。それまでの貴族中心・都中心であった物語とは異なり、お伽草子には庶民や武士、僧侶、異類といった実にさまざまな主人公が登場する。また、地方や異国を舞台にした作品も少なくない。昔話・伝説といった口承文芸や芸能などと深い関わりを持つ作品も多く、お伽草子の理解にはこうした諸領域を視野に入れることが必要となる。

お伽草子の持つ力強く大らかな庶民性を味わいつつ、民俗や芸能との関係性を含めてお伽草子の特徴を理解することを到達目標とする。

授業内容

1. お伽草子概説
   (1)お伽草子の性格
   (2)お伽草子と口承文芸
   (3)お伽草子の絵

2.『物くさ太郎』を読む
   (1)不思議な主人公の登場
   (2)“ものくさ”から“まめ”へ
   (3)中世史研究からの視点
   (4)謎解き聟
   (5)歌の力
   (6)お伽草子の申し子譚
   (7)『物くさ太郎』は本地物か否か

3.『天稚彦草子』を読む
   (1)発端―口承文芸との類似①
   (2)日本の神話、世界の神話
   (3)後半―口承文芸との類似②
   (4)まとめ

履修上の注意

第一回の授業で履修上の注意点について説明するので必ず出席すること。
授業時に小レポートを課すことがある。また、特段の事情がある場合を除いて授業中のノートパソコンの使用は不可とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業では毎回、指名してテキストを音読してもらう。また、授業時に指示した作品には各自目を通しておいてほしい。
授業後にはノートや配布プリント(多い！)を見直し、わからないことがあれば質問すること。

教科書

授業時にプリントを配布する。

参考書

市古貞次『中世小説の研究』(東京大学出版会)、徳田和夫編『お伽草子事典』(東京堂出版)など。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

授業への参加度(40%)および期末試験(60%)によって評価する。2/3以上の出席を単位認定の前提とする。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ言語学研究 A	**ドイツ語学特殊研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

従来とかく「偏見・先入観」として否定的評価を与えられてきた「ステレオタイプ」には，社会心理学の最新の知見に基づけば、真理発見にいたる道としての積極的な役割も認められるという。また，「ポライトネス」を探究する際には「無礼さ」「無作法さ」への目線も必要であることが近年指摘されている。「罵倒語」も視野に収められるべきであろう。本講義では，「ステレオタイプ」と「ポライトネス」をメインテーマとし，日本語・ドイツ語・英語をはじめとするいくつかの言語，さらには方言なども含むできるだけたくさんの言語変種を常時参照しながら，1．「イメージ」と言語的な定型表現（命題）としての「ステレオタイプ」の関係を考え，2．対人配慮表現や配慮行動として見たポライトネスの問題圏を日独語を中心的素材として探訪し，1，2のトピックが異文化コミュニケーションという枠組みの中にどのように定位されるかを考える。その際随時これまでの研究成果を参照していく。ドイツ文学専攻生はもとより，広く言語研究・言語学に興味をもつひとの参加を期待したい。

授業内容

第１回 導入的概説
第２回 イメージ，プロトタイプ，ステレオタイプ
第３回 言語的なステレオタイプ（日独語などを例に）
第４回 方言などに見られるステレオタイプ
第５回 定型表現，慣用表現
第６回 ポライトネスと「敬語」「罵倒語」
第７回 「罵倒語」「ののしりことば」研究の現在
第８回 言語的ポライトネス研究の射程
第９回 コミュニケーション・スタイル
第10回 コミュニケーション・ジャンルとポライトネス
第11回 多言語社会のなかのコミュニケーション
第12回 異文化コミュニケーション研究の現況
第13回 異文化の理解
第14回 総括と展望

履修上の注意

授業の方法について付言すると，担当教員の概説・問題提起を中心として進めることに加え，参加者とのインタラクション，質疑応答の機会を随時設ける。これを踏まえて履修のこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

授業時に配布するプリントを熟読して予習・復習し，あわせて紹介する文献を読み，知見を深めること。

教科書

特に指定しない。プリントを配布する。

参考書

和泉悠『悪い言語哲学入門』筑摩書房，2022 年
井上史雄『新・敬語論　なぜ「乱れる」のか』NHK 出版，2017 年
P.チャールズ『科学としての異文化コミュニケーション』ナカニシヤ出版，2006 年
蒲谷宏『待遇コミュニケーション論』大修館書店，2013 年
菊池久一『憎悪表現とは何か　＜差別表現＞の根本問題を考える』勁草書房，2001 年
本名信行他編著『異文化理解とコミュニケーション 1，2』三修社，2005 年
C. マクガーティ他編著『ステレオタイプとは何か』明石書店，2007 年
H.スペンサー＝オーティー『異文化理解の語用論』研究社，2004 年
滝浦真人『ポライトネス入門』研究社，2008 年
三宅和子／野田尚史／生越直樹編『「配慮」はどのように示されるか』ひつじ書房，2012 年
Claus Ehrhardt/Eva Neuland: Sprachliche Höflichkeit. Tübingen: Narr Francke Attempto, 2021.
Maria Pümpel-Mader: Personenstereotype. Eine linguistische Untersuchung zu Form und Funktion von Stereotypen. Heidelberg: Winter, 2010.
他は追って紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて，適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

学期末にレポートを課す。授業時の参加度（質疑応答、討論への貢献など）（40%）と学期末レポート（60%）を総合して評価する。

その他

常日頃から言語意識を研ぎ澄ます訓練を重ねよう。

科目ナンバー：(AL)LAN322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ言語学研究 B	**ドイツ語学特殊研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

必要に応じて，また可能な範囲で，文体論・レトリック・社会文体（社会様式）論の近年の研究状況を踏まえながら，「文体・スタイル（Stil）」と「視点（Perspektive）」の問題点を概観し，歴史言語学的にも言語類型論的にも異質な言語とされる日独語を対照する手法に慣れ親しみつつ，言語データを観察・記述・分析するための素地をつくる。これに加えて，現代言語学の潮流において現在何がどのように問われ，またどこまで明らかにされているかについての概要を知ることを副次的な目標とする。参加者は，ある程度のドイツ語の知識を有することが望ましいが，それを必須条件とはしない。ドイツ文学専攻生はもとより，広く言語研究・言語学に興味をもつひとの参加を期待したい。

授業内容

第１回 概説的導入
第２回　文体・スタイルへのアプローチ
第３回 語彙の選択としての文体・スタイル
第４回　文体論などの歴史概観
第５回 社会文体論（社会様式論）の可能性と射程
第６回 談話とコミュニケーションの文体・スタイル
第７回 日本語の視点，ドイツ語の視点
第８回 言語内的問題としての視点
第９回　言語外的問題としての視点
第10回 評価語，モダリティから見た「視点」
第11回 語感や言語意識と視点
第12回 文体・スタイルと視点のリンケージ
第13回　現代言語学のなかの文体・スタイルと視点
第14回 総括と展望

履修上の注意

授業の方法について付言すると，担当教員の概説・問題提起を中心として進めることに加え，参加者とのインタラクション，質疑応答の機会を随時設ける。これを踏まえて履修のこと。

準備学習（予習・復習等）の内容

プリントの予習・復習を欠かさないこと。あわせて，紹介した文献を読み，関連領域についての知見を深めること。

教科書

特に指定せず，プリントを配布する。

参考書

内田樹『街場の文体論』ミシマ社，2012 年
Wilhelm Köller: Perspektivität und Sprache. Zur Struktur von Objektivierungsformen in Bildern, im Denken und in der Sprache. Berlin/New York: de Gruyter, 2004.
中村明『悪文　裏返し文章読本』筑摩書房，1995 年
中村明『日本語文体論』岩波書店，2016 年
渡辺学・山下仁編著『ドイツ語の社会語用論』ひつじ書房，2014 年
他は追って紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて，適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

学期末にレポートを課す。授業時の参加度（質疑応答、討論への貢献など）（40%）と学期末レポート（60%）を総合して評価する。

その他

常日頃から言語意識を研ぎ澄ます訓練を重ねよう。

科目ナンバー：(AL)ARS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ現代文化論 A	**ドイツ社会誌研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
相原 剣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

ドイツ及びオーストリアの現代文化・同時代文化を一つの軸として、狭義の社会誌研究及び言語圏・地域文化研究の枠組を踏まえつつも、それを越えた思考を不断に巡らす試みです。

音楽と映画を中心に、文学やアート、ファッション、スポーツ、アニメ、ゲーム、演劇、建築、思想等、諸領域に自由に逸脱しながら、自明とされる文化領域・学問領域を批判的に再検証していきます。主に映像・音楽等の視聴によってこの体験は行われますが、関連資料の分析とのリンケージによって一層立体的で自由な空間を創り出していきたいと思います。「現代/同時代の事象・文化」をテーマとしますが、それは当然のごとく過去や未来と隔絶したものではあり得ません。授業は、歴史的なテキストとアクチュアルな文化事象の相互連関を模索する構造をとります。

【到達目標】

「当該文化や歴史の知識」といった予め保証された「解答」ではなく、「不断に思考する想像力」を養っていきましょう。

授業内容

第1回 内容説明と具体例の予告提示及びイントロダクション

第2回 方法論と具体的試みの例示(以下、予想されるキーワードと共に)

第3回 個々の事象の体験(音楽と香り ～アナール学派の顰みに倣って)

第4回 個々の事象の体験(音楽とファッション、EDM の終焉と細分化)

第5回 個々の事象の体験(音楽と SNS ～拡散するポップカルチャー)

第6回 個々の事象の分析(原子力とポスト・テクノ[ロジー])

第7回 個々の事象の分析(環境問題とポップミュージック、エネルギー政策の隘路にて)

第8回 テーマと枠組の構築(ヨーロッパのなかのドイツ、文学とロック)

第9回 テーマと枠組の構築(ハンブルク派と D-POP の奇跡)

第10回 構築した枠組に沿って(Don't stop the rock! ～コロナ禍に於けるポップカルチャー)

第11回 構築した枠組に沿って(デヴィッド・ボウイとベルリンの壁)

第12回 批判的再検証(ドイツの音楽フェス、ドイツ語と英語の間で)

第13回 批判的再検証(Verschwende deine Jugend! ～クラウトロックと NDW)

第14回 課題の確認、講義全体の振り返りとまとめ

まずはドイツをはじめとするヨーロッパの現代文化/同時代文化を、受講する皆さんの興味ある様々な分野との相互の「越境」を意識しながら「体験」していきます。これは単に様々な事象を恣意的につまみ食いするといった事を意味しません。様々な領域に関する膨大な関連事項をひとつひとつ丁寧に体験していく事で、我々の目的である社会・文化領域への複眼的な思考は一層豊になると考えます。

メジャーだ、マイナーだ、古典だ、前衛だ、ロックだ、ロックじゃない、アンダーグラウンドだ、セルアウトだ、カルトだ、アヴァンギャルドだ、陳腐だ、難解だ、子供っぽい、怖い、カワイイ、楽しい、興味がある、苦手だ、興味がない、好き、嫌いといった自らの事前のカテゴライズを一旦捨て去る勇気を持ち、あらゆる歴史・文化事象に思考を巡らせ、発信していくことを目的とします。

※受講する皆さん一人一人の興味とシーンの動向によって、このシラバスが書かれた時点では想像も出来ない内容になる事を期待しています。

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

音楽や映画その他についての事前知識は特に必要ありません。対象を棚上げすることなく、好奇心と想像力をもって思考し、発信し続ける事を厭わない勇気ある方々との一年間を楽しみにしています。

準備学習(予習・復習等)の内容

【準備学習の内容】

様々な分野に日々関心を持ち、分からないことを恐れず、思考し続ける勇気を持ちましょう。

【復習すべき内容】

関連の文化事象について、さらに興味の幅を広げていきましょう。それは出来るだけ自由に、そして際限なく行われるべきかと存じます。

教科書

必要に応じてプリント等を配布します。特に教科書は使用しません。

参考書

特に定めません。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に随時、個別の講評及び各自の発信の共有を行います。Oh-o! Meiji システムを利用しての補足等も行います。最終授業日には全体講評を行います。また随時個別の講評も行います。

成績評価の方法

平常点・授業内の取り組み(個別の事象に対する自らの思考の積み重ねと発信、他者の思考の検討と反映)70%、期末課題30%

その他

みなさま、よろしくお願いします。

科目ナンバー：(AL)ARS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ現代文化論 B	**ドイツ社会誌研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
相原 剣	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

引き続き、ドイツ及びオーストリアの現代文化・同時代文化を一つの軸として、狭義の社会誌研究及び言語圏・地域文化研究の枠組を踏まえつつも、それを越えた思考を不断に巡らす試みです。

音楽と映画を中心に、文学やアート、ファッション、スポーツ、アニメ、ゲーム、演劇、建築、思想等、諸領域に自由に逸脱しながら、自明とされる文化領域・学問領域を批判的に再検証していきます。主に映像・音楽等の視聴によってこの体験は行われますが、関連資料の分析とのリンケージによって一層立体的で自由な空間を創り出していきたいと思います。「現代/同時代の事象・文化」をテーマとしますが、それは当然のごとく過去や未来と隔絶したものではあり得ません。授業は、歴史的なテキストとアクチュアルな文化事象の相互連関を模索する構造をとります。

【到達目標】

「当該文化や歴史の知識」といった予め保証された「解答」ではなく、「不断に思考する想像力」を養っていきましょう。春学期の成果を引き継ぎ、更なる深化を試みます。

授業内容

第1回 内容説明と予告提示及びイントロダクション

第2回 方法論と具体的試みの例示(以下、予想されるキーワードと共に)

第3回 個々の事象の体験(狂躁と頽廃の 20 年代)

第4回 個々の事象の体験(LGBTQ+とポップカルチャー)

第5回 個々の事象の体験(ヒトラー・キッチュとホロコーストの表象)

第6回 個々の事象の分析(ベルリン再開発／崩壊する新建築)

第7回 個々の事象の分析(勝てばドイツ人、負ければ移民 ～ドイツとトルコ)

第8回 テーマと枠組の構築(多文化主義は失敗した？ ～多様なルーツを巡って)

第9回 テーマと枠組の構築(オーストリアの古典と前衛 ～古典派と分離派と音響派、アクショニズム)

第10回 構築した枠組に沿って(アートと音楽 ～リヒター、ティルマンス、アンネ・イムホフ)

第11回 構築した枠組に沿って(クリスマスって何？ ～Was ist Weihnachten? － Das ist Weihnachten.)

第12回 批判的再検証(Futur Drei ～未来は私たちのもの、ダイバーシティとインクルージョン)

第13回 批判的再検証(Gib mir den letzten Abschiedskuss ～ラストコンサート)

第14回 課題の確認、講義全体の振り返りとまとめ

例えばラムシュタインというドイツのバンドの音楽について考えるということは、ただドイツ語圏の音楽シーンに注力すれば事足りるものではありません。その影響関係は当然、所謂「ドイツ」などという枠組みに留まるものではないし、歴史・思想への考察も必要となるでしょう。

ドイツの映画監督であるヴィム・ヴェンダースの映画を考える為には、当然そこで扱われる様々な国や時代の文化にむかいあう必要があると思います。ヴェンダースの映画ひとつとっても、キューバ音楽やブルース、アイルランドの U2、アメリカのルーツ・ミュージックを探求するライ・クーダー、ドイツの方言ロック、小津安二郎やヨウジヤマモトまで、多種多様な文化への視点が必要になると思います。もちろん、ピナ・バウシュも。そうすれば「必然的」に、ブラジルのカエターノ・ヴェローゾ、スペインのペドロ・アルモドバルに出会うことになるでしょう。

※受講する皆さん一人一人の興味とシーンの動向によって、このシラバスが書かれた時点では想像も出来ない内容になる事を期待しています。

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

音楽や映画その他についての事前知識は特に必要ありません。対象を棚上げすることなく、好奇心と想像力をもって思考し、発信し続ける事を厭わない勇気ある方々との一年間を楽しみにしています。

準備学習(予習・復習等)の内容

【準備学習の内容】

様々な分野に日々関心を持ち、分からないことを恐れず、思考し続ける勇気を持ちましょう。

【復習すべき内容】

関連の文化事象について、さらに興味の幅を広げていきましょう。それは出来るだけ自由に、そして際限なく行われるべきかと存じます。

教科書

必要に応じてプリント等を配布します。特に教科書は使用しません。

参考書

特に定めません。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に随時、個別の講評及び各自の発信の共有を行います。Oh-o! Meiji システムを利用しての補足等も行います。最終授業日には全体講評を行います。また随時個別の講評も行います。

成績評価の方法

平常点・授業内の取り組み(個別の事象に対する自らの思考の積み重ねと発信、他者の思考の検討と反映)70%、期末課題30%

その他

みなさま、よろしくお願いします。

科目ナンバー：(AL)LAN122G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語演習ＩA	ドイツ語演習ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
ヤマダ・クロッツ,	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、明治大学における初級ドイツ語(A1)科目であり、Momente A1(Hueber Verlag 刊)を基盤教材として使用する。ドイツ語を初めて学ぶ、またはほとんど学習経験のない学生を対象とし、日常的な場面で必要となる基礎的な表現能力を段階的に習得することを目的とする。授業では、発音と文字体系の基礎から始め、身近なテーマ(自己紹介、大学生活、家族、余暇、買い物など)を扱いながら、語彙・文法・表現を統合的に学習する。聞く・話す・読む・書くの四技能をバランスよく育成し、特に口頭でのやり取りを重視する。また、ドイツ語圏の文化や日常生活についても適宜紹介し、言語と文化を関連づけながら理解を深める。本授業修了時には、ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)A1 レベルに相当する基礎的能力を身につけ、身近で具体的な話題について、簡単なドイツ語で理解および表現ができるようになることを目標とする。具体的には、自分自身や他者について簡単に紹介し、出身地・専攻・趣味などの基本的な情報を伝えることができる。日常的な場面において、簡単な質問をしたり答えたりしながら、短い会話を行うことができる。ゆっくりとはっきり話されるドイツ語であれば、基本的な内容を聞き取ることができ、短い文章やメッセージから必要な情報を読み取ることができる。また、自己紹介文や簡単なメールなど、短い文章を書くことができる。さらに、現在形の基本的な動詞活用や語順、冠詞などの初歩的な文法事項を理解し、基礎的な文を組み立てることができるとともに、ドイツ語圏における基本的な挨拶や丁寧表現の使い分けなど、初歩的な異文化理解も身につける。

授業内容

授業 1 – レッスン 1「私はミリアムです」
_ アルファベットと発音 挨拶 自己紹介(名前、出身地) 動詞 heißen / sein 疑問詞を使った質問 ミニダイアログ / ペアワーク_
_ 授業 2 – レッスン 1(復習)_
_ 自己紹介の復習 聴解:短い会話 ライティング課題:プロフィール作成 ペアインタビュー / 全体発表_
_ 授業 3 – レッスン 2「あなたたちは何をしていますか？」_
_ 職業の紹介 動詞 machen の現在形 人称代名詞(単数) 疑問文の作り方 ペアインタビュー_
_ 授業 4 – レッスン 2(復習)_
_ 職業の複数形 聴解:会話の聞き取り ライティング課題:「私の職業 / 友達の職業」ロールプレイ_
_ 授業 5 – レッスン 3「私の家族」_
_ 家族メンバーの語彙 所有冠詞(mein / dein) 文の語順(主格) Yes/No 質問 ペアワーク_
_ 授業 6 – レッスン 4「その絵はとてもきれいです」_
_ 色、物の名前、形容詞 動詞 sein 文の語順練習 ミニダイアログ:絵の説明_
_ 授業 7 – レッスン 5「これはテーブルですか？」_
_ 家具 / 物の名前 対格(Akkusativ)の導入 質問文の作り方:「これは…ですか？」ペアワーク / ミニダイアログ_
_ 授業 8 – レッスン 6「私たちは約束があります」_
_ 時間、曜日、1 日の時間帯 動詞 haben + 時間表現 文の語順練習:「私は…時に時間があります／ありません」ペアワーク:予定の確認・調整_
_ 授業 9 – レッスン 6(復習)_
_ 聴解:予定に関する会話 ライティング課題:「私の予定表」ロールプレイ:予定のやり取り_
_ 授業 10 – レッスン 7「あなたはとても上手に踊れます」_
_ 助動詞 können 能力・得意なことの表現 文の語順:主語 + 助動詞 + 動詞原形 ペアワーク:自分の能力を紹介_
_ 授業 11 – レッスン 7(復習)_
_ 聴解:能力についての会話 ライティング課題:「あなたは何が得意ですか？」ロールプレイ / ミニプレゼンテーション_
_ 授業 12 – レッスン 1～7 の復習_
_ 文法まとめ:現在形、冠詞、人称代名詞、助動詞 聴解 / 会話練習 ペアインタビュー / ミニプレゼンテーション_
_ 授業 13 – レッスン 8「残念ながら時間がありません」_
_ 時間、曜日、1 日の時間帯 動詞 haben + 時間表現 文の語順練習 ペアワーク:予定を確認・相談_
_ 授業 14 – レッスン 9「私はハンバーガーが好きです」_
_ 好き・嫌いを表す表現:動詞 mögen 食べ物 / 飲み物の語彙 レストラン / カフェでの簡単な会話 ペアワーク:好きな食べ物を紹介、会話の練習

履修上の注意

授業中の心構え(Denkweise während des Unterrichts)_
_ アクティブに参加すること_ 授業中は積極的に質問したり、ペアやグループ活動に参加しましょう。_ 聞くだけではなく、自分でも声に出して話すことが大切です。_ 間違いを恐れないこと_ 語学学習では間違えることは自然です。間違いから学ぶ姿勢を持ちましょう。_ 教師や友達のフィードバックを前向きに受け入れましょう。_
_ 日常での活用を意識すること_
_ 授業で学んだ表現や単語を、授業外でも使うように心がけましょう。_ 自分の生活や経験と結びつけて考えると理解が深まります。_ 小さな成功を積み重ねること_ 毎回の授業で少しでも新しい表現や文法を使えるようになることを目標にしましょう。_
_ 予習・復習を習慣にする_
_ 次回の授業の前に少しだけ単語や表現を見ておくと理解が早まります。_ 授業後は必ず復習して、書いたり声に出したりしましょう。_
_ 集中力を保つ_
_ 100 分は長いので、授業中は集中力を切らさないようにしましょう。_ 分からないことがあればメモを取り、質問の時間に確認しましょう。_
_ 協力と尊重_
_ ペアワーク・グループワークでは、相手の話をよく聞き、丁寧に対応しましょう。お互いの間違いを笑わず、助け合う姿勢を大切に。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備_ 新しい単語や文法を軽く確認_ 例文を声に出して読む_ 不明点をメモしておく_
復習_ 授業で学んだ語彙・文法を復習_ 簡単な文を書いたり声に出したりする_ 日常で使える表現を試す_
目安: 準備＋復習で 1 週間合計 約 100 分。

教科書

コースブックとワークブックの両方を購入してください。_
_ タイトル: Momente A1 – Kursbuch_
_ 著者: Sabine Glasemann, Monika Reimann, Susanne Tschirner_ 出版社: Hueber Verlag_
_ タイトル: Momente A1 – Arbeitsbuch_
_ 著者: Sabine Glasemann, Monika Reimann, Susanne Tschirner_ 出版社: Hueber Verlag

参考書

特にないです。

課題に対するフィードバックの方法

授業中・授業後_
_ 学生の発話や課題への短い口頭コメント_ ペアワークやグループ活動での気づきを即時に共有_
_ 小テスト・課題後_
_ 成績と改善点を明確に伝える_ 次回授業で復習ポイントとして取り上げる_
_ オンライン(Oh-o! Meiji システム)_
_ 課題や質問への書面フィードバック_ 学生が自分のペースで確認できる

成績評価の方法

授業参加と宿題:30 点_ 授業での積極的な発話、ペア／グループワークへの参加_ 宿題の提出と完成度_
定期テスト:30 点_ 3 回の授業ごとのレッスンテスト(小テスト)_ 授業中の単語テストも含む_
学期末評価:40 点_ 終了テスト筆記試験_ 簡単な口頭試験 口頭試験

その他

科目ナンバー：(AL)LAN122G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語演習ＩA	ドイツ語演習ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
オルランド, ダビデ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Let us learn German together with fun and motivation!_
_ The main objective of this course is to develop balanced proficiency in fundamental communication skills, including also listening, reading and some writing._
_ The course aims to provide students with basic elementary vocabulary and expressions, enabling them to understand simple everyday situations and to communicate with confidence, enjoyment, and effective learning strategies._
_ Another goal of this course is to foster an understanding of different cultures and to achieve language proficiency equivalent to Level A1 of the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR). Through pair work and group work, students will also develop critical thinking and teamwork skills, which are highly valued in today's society._
_ To improve speaking abilities and reading comprehension, learners will be provided with supplementary texts from various textbooks. In addition, a variety of materials (mainly short texts) designed for the Goethe-Zertifikat A1 examination will be used._
_ 楽しく、意欲をもってドイツ語を一緒に学びましょう！_本授業の主な目的は、「聞く・読む・話す・書く(基礎)」といった基本的なコミュニケーション能力をバランスよく身につけることです。学生は初級レベルの基本的な語彙や表現を学び、日常の簡単な場面を理解し、自信と楽しさをもって、効果的な学習方法を活用しながらコミュニケーションができるようになることを目指します。_また、本授業では異文化理解を深めるとともに、「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)」の A1 レベルに相当する語学力の習得を目標とします。ペアワークやグループワークを通して、現代社会で高く評価されている批判的思考力や協働する力も養います。_発話力および読解力の向上のため、さまざまな教科書からの補助教材を使用します。さらに、ゲーテ・ドイツ語検定 A1 レベルに対応した短文を中心とする多様な教材も活用します。_

授業内容

Lesson 1: Meeting People; Useful Information about Germany_ Lesson 2: Greetings; Self-introductions; Accent and Intonation_ Lesson 3: Greetings; Verb Conjugation; Interrogative Sentences_ Lesson 4: Greetings; Interrogative Pronouns; Nominative Case_ Lesson 5: Review; Test: Meeting German Students at the Cafeteria (1)_ Lesson 6: Free Time; Verb Conjugation; Irregular Verbs_ Lesson 7: Free Time; The Alphabet_ Lesson 8: Free Time; Numbers; How to Use "Like" / "Dislike"_ Lesson 9: Free Time; What Do Germans Like to Do in Their Free Time?_ Lesson 11: Test 2; Meeting German Students at the Cafeteria (2), Daily Activities; Telling the Time_ Lesson 12: Daily Activities; Modal Verbs_ Lesson 13: Daily Activities; Separable Verbs_ Lesson 14: Final Review; German Conversation; Short Oral Tests: Meeting German Students at the Cafeteria (3)_
_ 第 1 課: 出会いと自己紹介／ドイツに関する基礎情報_ 第 2 課: あいさつ／自己紹介／アクセントとイントネーション_
_ 第 3 課: あいさつ／動詞の活用／疑問文_ 第 4 課: あいさつ／疑問代名詞／主格_
_ 第 5 課: 復習／テスト:カフェテリアでドイツ人学生と会う(1)_ 第 6 課: 余暇活動／動詞の活用／不規則動詞_
_ 第 7 課: 余暇活動／アルファベット_ 第 8 課: 余暇活動／数字／「好き・嫌い」の表現方法_
_ 第 9 課: 余暇活動／ドイツ人は自由時間に何をするのか_ 第 11 課: テスト 2／カフェテリアでドイツ人学生と会う(2)／日常生活／時間の表現_
_ 第 12 課: 日常生活／助動詞_ 第 13 課: 日常生活／分離動詞_ 第 14 課: 総復習／ドイツ語会話／短い口頭テスト:カフェテリアでドイツ人学生と会う(3)_

履修上の注意

The textbook will be used as needed during class. The tasks conducted in class will be adjusted to accommodate various levels and learning paces, meaning not all individual exercises in the textbook will be covered. Since the course focuses primarily on communication, there will be a significant amount of small group work._
教科書は授業で適宜使用します。授業中に行う課題は、様々なレベルや進度に合わせて行います。つまり、教科書にある個々の課題を全て扱うわけではありません。またコミュニケーションのための授業が中心となるので、小グループでの学習が多くなります。_

準備学習(予習・復習等)の内容

Students should read and understand the articles distributed during class. Before each class, they should memorize key vocabulary, familiarize themselves with the lesson content, and review the main grammar points._ Regularly complete homework and actively participate in class._
_ 復習 授業中に配布される記事を読み、理解すること。また、毎回の授業の前に、主な語彙を覚え、授業内容の概要を把握し、主な文法事項を復習しておくこと。定期的に宿題をこなし、積極的に授業に参加すること。_

教科書

スタート！1 ノイ コミュニケーション活動で学ぶドイツ語 Start frei! 1 Neu_
_ 発売日: 2025 年 02 月 20 日頃_
_ 著者／編集: 藤原 三枝子(著), 桂木 忍(著), 木河 裕子(著), 野村 幸宏(著), Anja Poller(著), Rita Sachse-Toussaint(著)_ 出版社: 三修社_ 発行形態: 単行本_ ページ数: 132p_ ISBN: 9784384123128

参考書

will introduce it as needed._ 適宜紹介します。_

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be tailored to each student's individual needs. Feedback will be done not only on assignments but also on exams._
_ Students can contact me through multiple channels, including their personal email addresses, Meiji's main address, online, or after lessons. If students wish for more detailed feedback or would like to discuss their performance, I can also offer short Zoom sessions._
_ フィードバックは生徒の個々のニーズに合わせて行います。フィードバックは課題だけでなく、試験についても行われる。_
_ 生徒の皆さんは、個人メールアドレス、明治のメインアドレス、オンライン、レッスン後など、複数の方法で私に連絡することができます。より詳細なフィードバックを希望される場合や、自分の演奏について話し合いたい場合は、短い Zoom セッションを提供することもできます。_

成績評価の方法

Students will be evaluated based on their contribution to the class, participation, homework (30%), and mainly speaking tests conducted throughout the semester (40%). All tests will focus on the recently covered material._
Attendance will be graded as 30%. Unexcused absences will affect the grade. If a student has more than three unexcused absences, they will fail the course._
_ 成績評価は、授業への貢献度・参加態度・宿題(30%)および、学期を通して実施されるスピーキングテスト(40%)を主に基準とします。すべてのテストは、直近に学習した内容を対象とします。出席点は 30%とし、無断欠席は成績に影響します。無断欠席が 3 回を超えた場合は、本授業の単位を取得できません。

その他

Developing communication skills means not being afraid of making mistakes. When we speak with fun and motivation, mistakes become a natural and important part of learning. Let us try together and enjoy the process of learning German._ Students can contact the instructor via email at any time._ _
コミュニケーション能力を伸ばすためには、間違いを恐れないことが大切です。楽しさと意欲をもって話すことで、間違いは学習の自然で重要な一部となります。皆で一緒に挑戦し、ドイツ語学習の過程を楽しみましょう。生徒はいつでもメールで講師に連絡することができます。_

科目ナンバー：(AL)LAN122G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2024 年度以降)	
ドイツ語演習ＩB	**ドイツ語演習ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
オルランド, ダビデ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

materials (mainly short texts) for the Goethe A1 exam will also be used.

本授業の主な目的は、前期に身につけた技能を活用しながら、基礎的なコミュニケーション能力をバランスよく習得することです。コミュニケーション能力を伸ばすためには、間違いを恐れないことが大切です。楽しさと意欲をもって話すことで、間違いは学習過程における自然で重要な一部となります。皆で一緒に挑戦し、ドイツ語学習を楽しみましょう。

学生はドイツ文化への理解をさらに深めるとともに、「ヨーロッパ言語共通参照枠(CEFR)」の A1 レベルに相当する語学力の定着・向上を目指します。ペアワークやグループワークを通して、社会で高く評価される批判的思考力や協働する力も養います。

読解力向上のため、他の教科書からの補助教材を配布します。また、ゲーテ・ドイツ語検定 A1 レベルに対応した短文を中心とする各種教材も使用します。

授業内容

Lesson 1: Meeting People; Review of the “Cafeteria Talks”Lesson 2: Talking About Time (1)
Lesson 3: Talking About Time and Free Time (2)Lesson 4: Talking About Time and Free Time (3)
Lesson 5: Talking About Time: Making Appointments (4)Lesson 6: How to Make or Cancel Appointments
Lesson 7: Test 1: “Making Appointments”; How Do We Live?Lesson 8: Forms of Living (1)
Lesson 9: Forms of Living (2); Talking About “My Home”Lesson 11: Test 2: How We Live; Food in Germany and Japan (1)
Lesson 12: Food in Germany and Japan (2)Lesson 13: Let’s Go ShoppingLesson 14: Final Review; Oral Test
第１課: 出会いと自己紹介／「カフェテリアでの会話」の復習第２課: 時間について話す(1)
第３課: 時間と自由時間について話す(2)第４課: 時間と自由時間について話す(3)
第５課: 時間について話す:約束をする(4)第６課: 約束の取り方・キャンセルの仕方
第７課: テスト１:「約束をする」／私たちはどのように暮らしているか第８課: 住まいの形(1)
第９課: 住まいの形(2)／「私の家」について話す第 11 課: テスト２:私たちの生活／ドイツと日本の食文化(1)
第 12 課: ドイツと日本の食文化(2)第 13 課: 買い物に行こう第 14 課: 総復習／口頭試験

履修上の注意

The textbook will be used as needed during class. The tasks conducted in class will be adjusted to accommodate various levels and learning paces, meaning not all individual exercises in the textbook will be covered. Since the course focuses primarily on communication, there will be a significant amount of small group work. 教科書は授業で適宜使用します。授業中に行う課題は、様々なレベルや進度に合わせて行います。つまり、教科書にある個々の課題を全て扱うわけではありません。またコミュニケーションのための授業が中心となるので、小グループでの学習が多くなります。
レッスンは主にコミュニケーションに重点を置いているため、生徒はしばしば小グループで学習します。

準備学習(予習・復習等)の内容

Review: Students should read and understand the articles distributed during class. Before each class, they should memorize key vocabulary, familiarize themselves with the lesson content, and review the main grammar points.Regularly complete homework and actively participate in class.
復習 授業中に配布される記事を読み、理解すること。また、毎回の授業の前に、主な語彙を覚え、授業内容の概要を把握し、主な文法事項を復習しておくこと。定期的に宿題をこなし、積極的に授業に参加すること。

教科書

スタート！1 ノイ コミュニケーション活動で学ぶドイツ語 Start frei! 1 Neu 発売日: 2025 年 02 月 20 日頃著者／編集: 藤原 三枝子(著), 桂木 忍(著), 本河 裕子(著), 野村 幸宏(著), Anja Poller(著), Rita Sachse-Toussaint(著)出版社: 三修社発行形態: 単行本ページ数: 132pISBN: 9784384123128

参考書

適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

Feedback will be tailored to each student’s individual needs. Feedback will be done not only on assignments but also on exams.

Students can contact me through multiple channels, including their personal email addresses, Meiji’s main address, online, or after lessons. If students wish for more detailed feedback or would like to discuss their performance, I can also offer short Zoom sessions.

フィードバックは生徒の個々のニーズに合わせて行います。フィードバックは課題だけでなく、試験についても行あわれる。

生徒の皆さんは、個人メールアドレス、明治のメインアドレス、オンライン、レッスン後など、複数の方法で私に連絡することができます。より詳細なフィードバックを希望される場合や、自分の演奏について話し合いたい場合は、短い Zoom セッションを提供することもできます。

成績評価の方法

Students will be evaluated based on their contribution to the class, participation, homework (30%), and mainly speaking tests conducted throughout the semester (40%). All tests will focus on the recently covered material.

Attendance will be graded as 30%. Unexcused absences will affect the grade. If a student has more than three unexcused absences, they will fail the course.

成績評価は、授業への貢献度・参加態度・宿題(30%)および、学期を通して実施されるスピーキングテスト(40%)を主に基準とします。すべてのテストは、直近に学習した内容を対象とします。

出席点は 30%とし、無断欠席は成績に影響します。無断欠席が 3 回を超えた場合は、本授業の単位を取得できません。

その他

Developing communication skills means not being afraid of making mistakes. When we speak with fun and motivation, mistakes become a natural and important part of learning. Let us try together and enjoy the process of learning German.Students can contact the instructor via email at any time.

コミュニケーション能力を伸ばすためには、間違いを恐れないことが大切です。楽しさと意欲をもって話すことで、間違いは学習の自然で重要な一部となります。皆で一緒に挑戦し、ドイツ語学習の過程を楽しみましょう。生徒はいつでもメールで講師に連絡することができます。

科目ナンバー：(AL)LAN122G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語演習ＩB	**ドイツ語演習ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
ヤマダ・クロッツ,	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この秋学期のコースは、前学期(春学期)の「ドイツ語演習ＩA」を基礎として行われます。さらに発展的な文法事項を導入・応用し、日常生活に関するさまざまなテーマを扱いながら、言語運用能力を拡大していきます。学期の終わりには、A1 レベルの修了を目指します。_

授業内容

【Lektion 10】Wann kommst du denn an?(旅行・交通手段)_
_第１回:導入・基礎_ テーマ:旅行計画・到着時刻を伝える_ 語彙:交通手段、駅・空港に関する表現_ 文法:分離動詞(ankommen など)_
表現:出発・到着時刻を尋ねる／答える 活動:時刻表を用いたペアワーク、リスニング練習_
第２回:応用・まとめ 文法:前置詞＋３格(mit, nach, zu など)_ 会話練習:旅行の予定を立てるロールプレイ_ 読解:旅行に関する短文_
作文:簡単な旅行計画を書く【Lektion 11】Was haben Sie gestern gemacht?(日課・過去の出来事)_
_第３回:導入・基礎_ テーマ:昨日の出来事を話す_ 文法:現在完了形(Perfekt)― haben を用いる動詞_ 語彙:日常生活・一日の流れ_
表現:過去の出来事を述べる
第４回:応用・まとめ 文法:Perfekt(haben)復習_ 文法:時間を表す前置詞(am, um, im など)_ 会話練習:昨日のスケジュールを説明する_
作文:自分の一日について書く【Lektion 12】Im Frühling bin ich nach Hamburg gefahren_（年間の流れ・旅行・行事）_
_第５回:導入・基礎_ テーマ:季節・年間行事・旅行経験_ 文法:Perfekt(sein を用いる動詞)_ 文法:Präteritum(haben, sein)_
語彙:季節、祝祭、旅行関連語彙 表現:過去の旅行や出来事を語る_ 第６回:応用・まとめ_ 文法:時間を表す前置詞(im, seit)_
文法:場所を表す前置詞(nach) 会話:祝祭や旅行について話す_ 作文:印象に残った旅行・行事について書く_
【第７回】Lektion 13 „Berlin gefällt mir“ – Orte in der Stadt テーマ:街の場所_ 語彙:公共施設、観光地、都市施設_
文法:es gibt + Akkusativ 文法:３格をとる動詞(gefallen)_ 表現:ある場所がある／ないことを述べる_
活動:都市地図を使った会話練習、短文作成
【第８回】Lektion 13 応用 文法:人称代名詞３格(mir, dir, ihm など)_ 表現:場所を評価する(schön, interessant, modern など)_
会話:自分の好きな場所や街の評価を発表 作文:自分のおすすめスポット紹介_
【第９回】Lektion 14「Vor dem Kaufhaus nach rechts」– Wege beschreiben ・テーマ:道案内、都市の施設_
・語彙:市役所、広場、銀行などの都市施設 ・文法:lokale Präpositionen(an, auf, neben, hinter, über, zwischen)_
・表現:道を尋ねる、道がわからないことを伝える、お礼を言う ・活動:地図を使った会話練習、道案内のロールプレイ、簡単な文章作成_
【第 10 回】Lektion 14 応用 ・文法:lokale Präpositionen の復習と応用_ ・表現:丁寧に道案内をする、感謝の表現_
・会話:ペアで道案内のロールプレイ ・作文:自分の街の行き方を説明する短文作成_
【第 11 回】Lektion 15「Ich finde ihr Zimmer schön.」– Wohnen ・テーマ:住まい、部屋、家具_
・語彙:家具、部屋、住居に関する語彙 ・文法:Possessivartikel(所有冠詞)の Nominativ と Akkusativ_
・表現:部屋や家具を説明する、所有関係を述べる ・活動:自分の部屋や家具について会話練習、簡単な文章作成_
【第 12 回】Lektion 15 応用 ・文法:Possessivartikel の復習と応用_ ・表現:部屋や家具を評価する(schön, groß, gemütlich など)_
・会話:自分の部屋や友達の部屋を紹介・評価する ・作文:自分や他人の部屋について短文作成_
【第 13 回】Lektion 16「Wir haben hier ein Problem」– Termine und Geräte ・テーマ:予定、機器_
・語彙:予定、機器に関する語彙 ・文法:基本文型の復習(主語・動詞・目的語)_
・表現:予定を決める、予定をキャンセル・提案する ・活動:予定を決めるロールプレイ、簡単な文章作成_
【第 14 回】Lektion 16 応用 ・文法:文法の総復習(既習文法の整理)_ ・表現:助けを提供する、助けを求める、依頼に応じる_
・会話:ペアワークで助けを頼む／提案する会話練習 ・作文:予定調整や問題解決の短文作成_

履修上の注意

本コースは A1 レベルを対象としています。_
授業では積極的な発話・ペアワークを行いますので、毎回出席し予習・復習を行うことが望まれます。 宿題や作文、口頭発表は成績評価に含まれます。_
教科書「Momente A1」とノートを必ず持参してください。 辞書(電子辞書やアプリ可)を授業内で使用可能です_

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業の本文や新出語彙、文法を予習してください。_ 授業で扱った内容は復習し、ペアワークや発表で使った表現も整理しましょう。_ 宿題や短文作成も授業外で確認してください。_ 授業１回分の時間と同程度を目安に、予習・復習に取り組みましょう。_

教科書

コースブックとワークブックの両方を購入してください._
タイトル: Momente A1 – Kursbuch 著者: Sabine Glasemann, Monika Reimann, Susanne Tschirner_ 出版社: Hueber Verlag_
タイトル: Momente A1 – Arbeitsbuch 著者: Sabine Glasemann, Monika Reimann, Susanne Tschirner_ 出版社: Hueber Verlag_

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中・授業後
学生の発話や課題への短い口頭コメント ペアワークやグループ活動での気づきを即時に共有_
小テスト・課題後 成績と改善点を明確に伝える_ 次回授業で復習ポイントとして取り上げる_
オンライン(Oh-o! Meiji システム) 課題や質問への書面フィードバック_ 学生が自分のペースで確認できる _

成績評価の方法

授業参加と宿題：30 点_ 授業での積極的な発話、ペア／グループワークへの参加_ 宿題の提出と完成度_
定期テスト：30 点 3 回の授業ごとのレッスンテスト(小テスト)_ 授業中の単語テストも含む_
学期末評価：40 点 終了テスト筆記試験_ 口頭試験_

その他

科目ナンバー:(AL)LAN222G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語演習ⅡA	**ドイツ語演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業は、ドイツ語力を総合的に高めるとともに、ドイツの文化についての理解を深めることを目的としています。ドイツの大学に学ぶ日本人の学生が主人公の教科書を使って学びます。授業の言語はドイツ語です。必要な時は日本語や英語も使っています。

授業内容
(1) 第1課:旅行の準備
(2) 文法: 助動詞
(3) ドイツの地理1
(4) ドイツの地理2
(5) 第2課:大学での学期開始
(6) 文法:敬語
(7) テキスト:古いヨーロッパの大学
(8) 文法:過去形
(9) テキスト:1800年以降の大学
(10) 第3課:ヨーロッパの歴史
(11) テキスト:古代の歴史
(12) テキスト:中世
(13) テキスト:近代の前半(19世紀まで)
(14) 筆記試験

履修上の注意
積極的な参加と発言。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業の内容について、毎回よく復習すること。

教科書
「Studium Generale」(授業内でコピーを配布します)。

参考書

課題に対するフィードバックの方法
授業内で説明する。

成績評価の方法
授業での参加度、積極的な発言、テスト。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN222G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語演習ⅡA	**ドイツ語演習ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業は、ドイツ語力を総合的に高めるとともに、ドイツの文化についての理解を深めることを目的としています。ドイツの大学に学ぶ日本人の学生が主人公の教科書を使って学びます。授業の言語はドイツ語です。必要な時は日本語や英語も使っています。

授業内容
(1) 第1課:旅行の準備
(2) 文法: 助動詞
(3) ドイツの地理1
(4) ドイツの地理2
(5) 第2課:大学での学期開始
(6) 文法:敬語
(7) テキスト:古いヨーロッパの大学
(8) 文法:過去形
(9) テキスト:1800年以降の大学
(10) 第3課:ヨーロッパの歴史
(11) テキスト:古代の歴史
(12) テキスト:中世
(13) テキスト:近代の前半(19世紀まで)
(14) 筆記試験

履修上の注意
積極的な参加と発言。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業の内容について、毎回よく復習すること。

教科書
「Studium Generale」(授業内でコピーを配布します)。

参考書

課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法
授業での参加度、積極的な発言、テスト。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN222G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語演習ⅡB	**ドイツ語演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語力を総合的に高めるとともに、ドイツの文化についての理解を深めることを目的としています。ドイツの大学に学ぶ日本人の学生が主人公の教科書を使って学びます。授業の言語はドイツ語です。必要な時は日本語や英語も使っています。

授業内容

(1) 第3課(前期からの続き):絵の説明
(2) 文法:副文(目的文)
(3) テキスト:絶対主義
(4) 第4課:ベルリンへのエクスカーション、文法:前置詞
(5) 練習:前置詞
(6) テキスト:ベルリンの都市景観
(7) 練習:ベルリンの歴史
(8) 第5課:1800年ごろの文学。会話:シラーのガーデンハウス
(9) 文法:現在完了
(10) テキスト:ゲーテが子ども時代を語る
(11) 文法:過去形
(12) 過去形の練習
(13) 口頭の語りと筆記の語り
(14) 筆記試験

履修上の注意

積極的な参加と発言。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の内容について、毎回よく復習すること。

教科書

「Studium Generale」(コピー)。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

授業での参加度、積極的な発言、テスト。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN222G		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語演習ⅡB	**ドイツ語演習ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語力を総合的に高めるとともに、ドイツの文化についての理解を深めることを目的としています。ドイツの大学に学ぶ日本人の学生が主人公の教科書を使って学びます。授業の言語はドイツ語です。必要な時は日本語や英語も使っています。

授業内容

(1) 第3課(前期からの続き):絵の説明
(2) 文法:副文(目的文)
(3) テキスト:絶対主義
(4) 第4課:ベルリンへのエクスカーション、文法:前置詞
(5) 練習:前置詞
(6) テキスト:ベルリンの都市景観
(7) 練習:ベルリンの歴史
(8) 第5課:1800年ごろの文学。会話:シラーのガーデンハウス
(9) 文法:現在完了
(10) テキスト:ゲーテが子ども時代を語る
(11) 文法:過去形
(12) 過去形の練習
(13) 口頭の語りと筆記の語り
(14) 筆記試験

履修上の注意

積極的な参加と発言。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の内容について、毎回よく復習すること。

教科書

「Studium Generale」(コピー)。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

授業での参加度、積極的な発言、テスト。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語学概論A	**ドイツ語学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部　一哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語学の基本的な知識を習得し、言語学的視点から言語を分析する手法を身につけ、ドイツ語への理解をより深めることを目標とします。

ドイツ語学概論 A では、ドイツ語を人間の言語の一つとして捉え、主に言語学的観点からドイツ語のありようを見ていきます。

授業内容

第１回「ドイツ語学とは何か」

ドイツ語学の目的・方法・考え方について概観を得ます。ドイツ語学の背景にある言語学についても触れます。

第２回「ドイツ語について」

ドイツ語学の対象となる「ドイツ語」を人間の言語として位置付け、我々が「ドイツ語」と呼んでいるものは一体何なのかについて考えます。また授業の最後にドイツ語学の下位分野に言及し、春学期の授業の内容について概観を得ます。

第３回「ドイツ語の音1」

ドイツ語の音を、どのように発音するのか、という観点から見ていきます。初級文法の教科書などを参考にしながら、ドイツ語を実際に発音しながらドイツ語の音への理解を深めます。

第４回「ドイツ語の音2」

ドイツ語が音をどのように整理しているのかについて見ていきます。日本語であれば、音は「五十音」という形で整理されています。ではドイツ語はどうなのか‥こんな問題について見ていきます。

第５回「ドイツ語の語の形1」

ドイツ語は豊かな語形変化の体系を備えています。(言い方を変えると、単語の形がコロコロ変わるので難しい、とよく言われます)このドイツ語の文法に応じた語形変化を「体系」という観点から見ていきます。

第６回「ドイツ語の語の形2」

ドイツ語では Handshuh「手袋」は Hand「手」と Schuh「靴」という二つの語からなっています。また interesaant「興味深い」に un-という接頭辞を付与すると uninteressant「面白味のない」という反義語を作ることができます。このようにドイツ語は既存の語を用いて別の語を作るご形成の比較的豊かな体系を備えています。ここではこの語形成という観点からドイツ語の語の形を見ていきます。

第７回「ドイツ語の文の作り方1」

ドイツ語では平叙文は定形(主語が定まっており、そのことが語形に反映されている動詞)を文の第2位において形成します‥というように正しいドイツ語の文を作るためには語順規則に従う必要があります。ここではドイツ語の語順規則について言語学的な観点から概観を得ます。

第８回「ドイツ語の文の作り方 2」

前回に引き続き、ドイツ語の語の配列法について見ていきます。ここではドイツ語に特化した、語の配列法の整理の仕方について学習します。

第９回「ドイツ語における意味 1」

独和辞典を見るとドイツ語の単語の意味が日本語で説明してあります。しかし、この「意味」とはそもそも何なのでしょうか？ここでは「意味の意味」についてドイツ語の事例を見ながら考えていきます。またドイツ語の語彙体系についても見ていきます。

第10 回「ドイツ語における意味 2」

前回に引き続き、「ドイツ語における意味」の諸相を具体的に見ていきます。ここでは、ドイツ語の文の意味という問題について見ていきます。

第11 回「ドイツ語という言語について」

第２回とは異なる観点で、ドイツ語に関するさまざまな情報を整理して、ドイツ語のことをあまり知らない人にドイツ語のことを自分の言葉で説明せ切るようになることを目指します。

第12 回「ドイツ語の歴史」

ドイツ語の歴史について概観を得ます。ドイツ語には日本語の「古文」のような概念はあるのでしょうか？こういった問題について切り込んでいきます。

第13 回「ドイツ語の方言」

授業で習っているドイツ語と、ドイツやオーストリアで話されているドイツ語が全然違う！という声をしばしば耳にします。これは、ドイツ語には様々な方言があることも一つの原因となっています。ここでは豊かなドイツ語方言についての概観を得ます。

第14 回「ドイツ語とその使用」

ドイツ語を使う、ということがどういうことなのかについて見ていきます。果たして学校でドイツ語を習うだけで、ドイツ語を使いこなすことができるようになるのでしょうか？なるとしたら、学校におけるドイツ語教育はどのようなことに配慮してカリキュラム構築や授業設計が行われているのでしょう？逆に使いこなせないとしたら、理想のドイツ語教育とはどのようなものになるのでしょうか？ドイツ語の使用という問題を、今まさにドイツ語を学んでいる皆さんに引き寄せて考えていきます。

履修上の注意

ドイツ語に対する興味を深めていくつもりで、授業に臨んでください。

毎回の授業で、まず前回授業の要約を含む「ウォーミングアップ・クエスチョン」という課題に取り組んでもらいます。

授業中はワークシートの問題に取り組む形で学習に取り組みます。(ワークシートの解答例は授業中及び、次の回の授業で示します)

授業後は、2回に1本授業レポートを作成してもらいます。と言っても 800 字程度の内容理解の程度を把握するための課題ですので、そんなに大変じゃないと思います。

期末には学期末レポートに取り組んでもらいます。これも 1600 字以上でテーマに自由度を持たせた課題になります。

ウォーミングアップ・クエスチョン、授業レポート、期末レポートは全てポータルを経由して取り組んでもらったり提出してもらったりしますのでご留意ください。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞ 事前に配信される授業資料に目を通しておいてください。また、授業前にウォーミングアップ課題に取り組んでもらいます。

＜復習＞ 毎回の授業内容をまとめ、意見や感想を書くリアクションに取り組んでもらいます。授業資料やノートをきちんと見直して取り組むようにしてください。

＜その他＞ ドイツ語を学習する際に授業内容を思い出してもらったり、何かのおりにポーッと授業内容について思い出してもらったりと、みなさんの生活に授業内容を結び付けながら授業に取り組んでください。

教科書

プリントもしくは電子的に配布しますので購入の必要はありません。

参考書

・はじめての言語学（講談社現代新書）(日本語) 新書 –黒田 龍之助 (著)

・ドイツ語の構造―現代ドイツ語へのアクセス アンソニー・フォックス著、福本 義憲 訳

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

ウォーミング・アップクエスチョン 20%、授業レポート 30%、期末レポート 50%の計 100%で評価します。

その他

何か不明なことがあったらメールください。履修前の相談でも構いませんよ。

阿部一哉 kazuya.abe@gmail.com

科目ナンバー：(AL)LIN211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語学概論B	**ドイツ語学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部　一哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語学の基本的な知識を習得し、言語学的視点から言語を分析する手法を身につけ、ドイツ語への理解をより深めることを目標とします。ドイツ語学概論 B では、ドイツ語 A に引き続きドイツ語を人間の言語の一つとして捉え、ドイツ語学における各論を掘り下げます。そのために2回に1本のペースでドイツ語学に関する論文を取り上げて批判的に読み進めていきます。

授業内容

第１回「ドイツ語学の目的1」 第２回「ドイツ語学の目的2」

最初の2回を使ってドイツ語学の目的について論じた次の論文を講読します。

在間進(2006):「言語使用に基づくドイツ語研究方法論―言語使用、応用、そして評価―」in:『語学研究所論集』第 11 号(2006)、pp. 45-66. 東京外国語大学. URL: http://repository.tufs.ac.jp/handle/10108/21960

＝＝＝＝＝

第３回「ドイツ語のカナ発音1」 第４回「ドイツ語のカナ発音2」

ドイツ語の発音を日本語のカナで表す際に生じる問題点を整理することで、ドイツ語の発音についての理解を深めます。2回の授業で次の論文を講読します。

高橋希衣(2013):「ドイツ語の音声・音韻とカナ発音の問題点」in:『北海道大学大学院文学研究科 研究論集』第 13 号(2013)、pp. 181-204 北海道大学大学院文学研究科. URL: https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/54069

＝＝＝＝＝

第５回「名詞句の格変化1」 第６回「名詞句の格変化2」

ドイツ語の変化の歴史を紐解きながら、現代ドイツ語の名詞句の格変化の体系についてに理解を深めます。2回の授業で次の論文を講読します。

田中雅敏(2019):「現代ドイツ語のシグナル語尾について」in:『東洋法学』第 62 号(2013)、pp. 407-426. 東洋大学法学部. URL: https://bit.ly/3hRXwzQ

＝＝＝＝＝

第７回「接頭辞動詞1」 第８回「接頭辞動詞2」

現代ドイツ語には分離前つづり、非分離前つづり、分離・非分離の前つづりという三つの前つづりが認められます。このうち三番目の「分離・非分離の前つづり」は同型の前置詞が存在していて、前置詞との意味的関連性に着目して前つづりの働きが論じられてきました。2回の授業を使って「分離・非分離の前つづり」が非分離で用いられる場合に関する分析を行う次の研究を取り上げ、ドイツ語の前つづりについての理解を深めます。

高橋亮介(2003):「ドイツ語の場所格交替と複合動詞の意味構造」in:『言語情報科学』第１号(2003)、pp. 203-216. 東京大学大学院総合文化研究科言語情報科学専攻「言語情報科学」編集委員会 編. URL: https://bit.ly/36151C3

＝＝＝＝＝

第９回「ドイツ語の存在文1」 第 10 回「ドイツ語の存在文 2」

ある場所にある物体が存在していることを表す「存在文」について統語論・意味論の観点から見ていくことで、ドイツ語文についての理解を深めます。2回の授業で次の論文を講読します。

最上英明(1987):「ドイツ語の存在文をめぐって」in:『独語独文学科年報』13. S.71-86. URL: https://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/handle/2115/25744

＝＝＝＝＝

第 11 回「ドイツ語の疑問付加語句1」 第 12 回「ドイツ語の疑問付加語句2」

「～ですよね」「～でしょ」といったニュアンスを表す「疑問付加語句」について見ることで、語用論的観点からのドイツ語の理解を深めます。2回の授業で次の論文を講読します。

木村英莉子(2016):「疑問付加語句の語用論的考察: 話し言葉のもつ特性を中心に」in:『言語科学論集 = Papers in linguistic science』22. S.45-65. URL: https://bit.ly/2ZUMaEL

＝＝＝＝＝

第 13 回「コンピューターを用いたドイツ語研究1」 第 14 回「コンピューターを用いたドイツ語研究2」

コーパス言語学、テキストマイニングといった方法論について独自教材を用いて紹介します。

履修上の注意

ドイツ語に対する興味を深めていくつもりで、授業に臨んでください。

毎回の授業で、まず前回授業の要約を含む「ウォーミングアップ・クエスチョン」という課題に取り組んでもらいます。

授業中はワークシートの問題に取り組む形で学習に取り組みます。(ワークシートの解答例は授業中及び、次の回の授業で示します)

授業後は、2回に1本授業レポートを作成してもらいます。と言っても 800 字程度の内容理解の程度を把握するための課題ですので、そんなに大変じゃないと思います。

期末には学期末レポートに取り組んでもらいます。これも 1600 字以上でテーマに自由度を持たせた課題になります。

ウォーミングアップ・クエスチョン、授業レポート、期末レポートは全てポータルを経由して取り組んでもらったり提出してもらったりしますのでご留意ください。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞ 事前に配信される授業資料に目を通しておいてください。また、授業前にウォーミングアップ課題に取り組んでもらいます。

＜復習＞ ・毎回の授業内容をまとめ、意見や感想を書くリアクションに取り組んでもらいます。授業資料やノートをきちんと見直して取り組むようにしてください。 ・論文を一本読み終えるたびに、授業レポートに取り組んでもらいます。

＜その他＞ ドイツ語を学習する際に授業内容を思い出してもらったり、何かのおりにポーッと授業内容について思い出してもらったりと、みなさんの生活に授業内容を結び付けながら授業に取り組んでください。

教科書

プリントもしくは電子的に配布しますので購入の必要はありません。

参考書

・関口・初等ドイツ語講座 Band 1 (ISBN: 978-4384004830)

・〃 Band 2 (978-4384004847) ・〃 Band 3 (978-4384004854)

・詳解ドイツ語文法 (ISBN: 978-4469213072) ・ドイツ語の構造 (ISBN: 978-4385354446)

・はじめての言語学(ISBN: 978-4061497016)

・機能文法概説―ハリデー理論への誘い (ISBN: 978-4874242100)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

ウォーミング・アップクエスチョン 20%、授業レポート 30%、期末レポート 50%の計 100%で評価します。

その他

何か不明なことがあったらメールください。履修前の相談でも構いませんよ。 阿部一哉 kazuya.abe@gmail.com

科目ナンバー：(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語圏芸術研究 A	**ドイツ作家作品研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
舩木 篤也	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
ドイツ語圏における音楽文化の歴史を知る

授業内容
ドイツ語圏における文化的事象のなかで、「音楽」は魅力的かつ重要なものの一つでしょう。ここでいう音楽とは、芸術音楽、一般にクラシック音楽と呼ばれるものを指します。バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン……彼らは、どのような時代を背景とし、どのような仕事を成し遂げたのでしょう？ それをルネッサンス期から 20 世紀まで、1年かけて(ドイツ文学講読 C および D で)通史的に追ってゆきますが、その際、彼らが活躍した「都市」を考察の切り口に設けます。都市を通して音楽文化を知る、と同時に、音楽を通して都市文化を知る。現在のような統一国家「ドイツ」が存在していなかった時代の文化を知るには、これはとくに有効な視点です。

具体的には、毎回、特定の作曲家をめぐって書かれた、特定の都市にかんするドイツ語テキストを読みます。その際、語学的・内容的に不明な点を皆で明らかにしていきます。そして、そこで扱われた作曲家の作品を、CD などを用いて実際に聴いてみよう。このサイクルを、前期の間に4都市分こなすのが目標。前期のメニューは、以下のとおり。初回はイントロダクションを行います:

第2回～第4回 ミュンヘン(ラッソ)
第5回～第7回 ライプツィヒ(バッハ)
第8回～第 10 回 ザルツブルク(モーツァルト)
第 11 回～第 14 回 ドレスデン(ロマン派・ウェーバー)

履修上の注意
音楽の知識は前提としませんが、好奇心と積極性をもって参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習の段階で日本語訳を準備するように。

教科書
教材はプリントで配布します。独和辞典は必携(電子辞書でも可)。

参考書
授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法
おもにクラスウェブを通して行います。

成績評価の方法
学期末に行う筆記試験＝70%、授業への貢献度＝30%

その他
履修者の人数を制限する場合があります。

科目ナンバー：(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語圏芸術研究 B	**ドイツ作家作品研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
舩木 篤也	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
ドイツ語圏における音楽文化の歴史を知る

授業内容
ドイツ語圏における文化的事象のなかで、「音楽」は魅力的かつ重要なものの一つでしょう。ここでいう音楽とは、芸術音楽、一般にクラシック音楽と呼ばれるものを指します。バッハ、モーツァルト、ベートーヴェン……彼らは、どのような時代を背景とし、どのような仕事を成し遂げたのでしょう？ それをルネッサンス期から 20 世紀まで、1年かけて(ドイツ文学講読 C および D で)通史的に追ってゆきますが、その際、彼らが活躍した「都市」を考察の切り口に設けます。都市を通して音楽文化を知る、と同時に、音楽を通して都市文化を知る。現在のような統一国家「ドイツ」が存在していなかった時代の文化を知るには、これはとくに有効な視点です。

具体的には、毎回、特定の作曲家をめぐって書かれた、特定の都市にかんするドイツ語テキストを読みます。その際、語学的・内容的に不明な点を皆で明らかにしていきます。そして、そこで扱われた作曲家の作品を、CD などを用いて実際に聴いてみよう。前期に受講していなかった者でも参加は可:

第1回～第3回 デュッセルドルフ(シューマン・メンデルスゾーン)
第4回～第6回 ワイマール(新ドイツ派・リスト)
第7回～第9回 チューリヒ(ワーグナー)
第 10 回～第 12 回 ウィーン(マーラー・第2ウィーン派)
第 13 回～第 14 回 ドナウエッシンゲン(現代音楽祭)

履修上の注意
音楽の知識は前提としませんが、好奇心と積極性をもって参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習の段階で日本語訳を準備するように。

教科書
教材はプリントで配布します。独和辞典は必携(電子辞書でも可)。

参考書
授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法
おもにクラスウェブを通して行います。

成績評価の方法
学期末に行う筆記試験＝70%、授業への貢献度＝30%

その他
履修者の人数を制限する場合があります。

科目ナンバー:(AL)HIS231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語圏の歴史	**ドイツ語圏の歴史**	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山 千恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本講義は、第一次世界大戦から 1933 年ヒトラーの政権掌握までのドイツ語圏の歴史について概説します。第一次世界大戦からドイツ革命を経てのヴァイマル共和国およびオーストリア第一共和国の成立、両国の政治・経済・社会の諸問題、ナチズムへと向かう流れを検討します。

現代のドイツ語圏についての基本的な歴史知識を習得することを目標とします。

授業内容

第一次世界大戦から時系列に講義を進めていきます

第1回:初めに―第一次世界大戦開戦時のドイツとオーストリア=ハンガリー二重君主国

第2回:第一次世界大戦

第3回:第一次世界大戦下のドイツ

第4回:ドイツ革命

第5回:第一次世界大戦とオーストリア=ハンガリー二重君主国の崩壊

第6回:ヴァイマル共和国の成立

第7回:オーストリア共和国の成立

第8回:ヴァイマル共和国―内外の危機

第9回:ヴァイマル共和国―相対的安定期

第 10 回:ヴァイマル共和国―共和国の空洞化

第 11 回:ヴァイマル共和国―大統領内閣

第 12 回:戦間期のオーストリア共和国

第 13 回:ヴァイマル共和国―共和国の終焉

第 14 回 a:まとめ

b:試験

履修上の注意

レジュメは当該授業日前日に Oh-o!Meiji に提示します。各自ダウンロード・印刷してください。基本的にレジュメは 1 週間提示します。レジュメの提示期間に注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にレジュメに目を通し、授業後はレジュメを参考に復習(4 時間程度)してください。

教科書

特定の教科書は使用しません。

参考書

授業で随時紹介します。基本文献として、以下を挙げることができます。

若尾裕司/井上茂子編著『近代ドイツの歴史』ミネルヴァ書房 2005 年。

田村栄子/星乃治彦編『ヴァイマル共和国の光芒』昭和堂 2007 年。

石田勇治編『図説ドイツの歴史』河出書房新社 2007 年。

増谷英樹/古田善文『図説オーストリアの歴史』河出書房新社 2011 年。

田野大輔/柳原伸洋編著『教養のドイツ現代史』ミネルヴァ書房 2016 年。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験(100%)で評価します。

その他

授業の進行状況によって内容を一部変更(オーストリア第一共和国について)することがあります。

科目ナンバー:(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語圏文学講読 A	**ドイツ文学講読C**	
担 当 者	開講期	開講地区
久保 哲司	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ドイツ文学を代表する作品のひとつであるゲーテの長篇小説『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』を取り上げ、その最終巻である第 8 巻における主要な箇所を抜粋し、原文で読む。初級・中級のドイツ語の授業で詳しく扱われない文法事項や、現代ではあまり使われないドイツ語表現については、できるだけていねいに解説するつもりである。

ドイツ語を正確に読む訓練とともに、この作品の内容(主人公ヴィルヘルムの人生観、仕事にたいする考え方、彼と女性たちとのかかわり、この上なく魅力的な少女ミニョンの悲しい運命など)について自分の頭で考え、その考えを自分の言葉で表現することが授業の目標である。

授業内容

最初の 5 回程度は担当教員による講義。『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』第 7 巻までのあらすじや人物関係を解説したのち、第 8 巻冒頭から講読する。それ以降は重要な個所の輪読(担当者はあらかじめ決めておく)を行い、内容について議論する。

履修上の注意

ドイツ語の基礎的な文法を習得していることが履修の前提となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業で扱う内容について十分に予習しておくこと。少なくとも、辞書を綿密に引き、語学上の疑問点を明らかにしておくこと。

できれば小説の第 7 巻までを、日本語訳でもよいから読んでおいてもらいたい。

教科書

テキストはハンブルク版ゲーテ著作集第 7 巻を用い、プリントを配布する。

参考書

入手しやすい翻訳:

ゲーテ著、前田敬作／今村孝訳「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」、『ゲーテ全集 7 新装普及版』(潮出版社)所収

ゲーテ著、山崎章甫訳『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代(上)(中)(下)』(岩波文庫)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーでの質問に対しては、次回の授業で回答する。

学期末のレポートに対するコメントは、Oh-o! Meiji を使って伝える。

成績評価の方法

授業への参加度 50%、学期末のレポート 50%。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語圏文学講読 A	**ドイツ文学講読C**	
担 当 者	開講期	開講地区
古矢 晋一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

レマルクの『西部戦線異状なし』(1929)を抜粋で講読する(毎回 2～3 頁程度)。授業では、文法、構文、語彙、発音などを丁寧に確認する。毎授業、単語テストも行う。ドイツの文学や思想書を読み解くための中級以上のドイツ語力の養成を目標とする。授業ではあわせて第一次世界大戦をめぐる文学について様々な観点から検討し、関連する映像も視聴する。

授業内容

第 1 回:レマルクについて(導入の講義)
第 2 回:『西部戦線異状なし』読解
第 3 回:『西部戦線異状なし』読解
第 4 回:『西部戦線異状なし』読解
第 5 回:『西部戦線異状なし』読解
第 6 回:『西部戦線異状なし』読解
第 7 回:『西部戦線異状なし』読解
第 8 回:『西部戦線異状なし』読解
第 9 回:『西部戦線異状なし』読解
第 10 回:『西部戦線異状なし』読解
第 11 回:『西部戦線異状なし』読解
第 12 回:『西部戦線異状なし』読解
第 13 回:『西部戦線異状なし』読解
第 14 回:a:試験、b:解説
授業の計画・進度は履修者の関心に応じて変更の可能性もある。

履修上の注意

毎回予習をし、辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回指定範囲をあらかじめ訳読し、文法等に関する質問に答えられるように、入念な予習と復習が求められる。

教科書

プリントを配布する。

参考書

レマルク(秦豊吉訳)『西部戦線異状なし』(新潮文庫)2007

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

平常点(予習の状況、小テスト、授業への積極的参加度等)60%
試験 40%
原則として授業実施回数の 3 分の 2 以上の出席が成績評価の前提となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語圏文学講読 B	**ドイツ文学講読D**	
担 当 者	開講期	開講地区
久保 哲司	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期の「ドイツ語圏文学講読 A」(「ドイツ文学講読 C」)からの継続で、ドイツ文学を代表する作品のひとつであるゲーテの長篇小説『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』を取り上げ、その最終巻である第 8 巻における主要な箇所を抜粋し、原文で読む。初級・中級のドイツ語の授業で詳しく扱われない文法事項や、現代ではあまり使われないドイツ語表現については、できるだけていねいに解説するつもりである。
ドイツ語を正確に読む訓練とともに、この作品の内容(主人公ヴィルヘルムの人生観、仕事にたいする考え方、彼と女性たちとのかかわり、この上なく魅力的な少女ミニョンの悲しい運命など)について自分の頭で考え、その考えを自分の言葉で表現することが授業の目標である。

授業内容

最初の3回程度は担当教員による講義。春学期に読んだ箇所までを振り返ったのち、講読を進める。さらに、担当者を決めて輪読を行い、内容について議論する。

履修上の注意

春学期の「ドイツ語圏文学講読 A」(「ドイツ文学講読 C」)の継続だが、秋学期からの参加も可能である。
ドイツ語の基礎的な文法を習得していることが履修の前提となる。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業で扱う内容について十分に予習しておくこと。少なくとも、辞書を綿密に引き、語学上の疑問点を明らかにしておくこと。
できれば小説の第 7 巻までを、日本語訳でもよいから読んでおいてもらいたい。

教科書

テキストはハンブルク版ゲーテ著作集第 7 巻を用い、プリントを配布する。

参考書

入手しやすい翻訳:
ゲーテ著、前田敬作／今村孝訳「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」、『ゲーテ全集 7 新装普及版』(潮出版社)所収
ゲーテ著、山崎章甫訳『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代(上)(中)(下)』(岩波文庫)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーでの質問に対しては、次回の授業で回答する。
学期末のレポートに対するコメントは、Oh-o! Meiji を使って伝える。

成績評価の方法

平常点(授業への積極的参加・貢献度)50 パーセント、学期末のレポート 50 パーセント。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語圏文学講読 B	ドイツ文学講読D	
担 当 者	開講期	開講地区
古矢 晋一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
春学期に引き続き、レマルクの『西部戦線異状なし』(1929)を抜粋で講読する(毎回 2～3 頁程度)。授業では、文法、構文、語彙、発音などを丁寧に確認する。毎授業、単語テストも行う。ドイツの文学や思想書を読み解くための中級以上のドイツ語力の養成を目標とする。授業ではあわせて第一次世界大戦をめぐる文学について様々な観点から検討し、関連する映像も視聴する。

授業内容
第 1 回:レマルクについて・春学期の復習(導入の講義)
第 2 回:『西部戦線異状なし』読解
第 3 回:『西部戦線異状なし』読解
第 4 回:『西部戦線異状なし』読解
第 5 回:『西部戦線異状なし』読解
第 6 回:『西部戦線異状なし』読解
第 7 回:『西部戦線異状なし』読解
第 8 回:『西部戦線異状なし』読解
第 9 回:『西部戦線異状なし』読解
第 10 回:『西部戦線異状なし』読解
第 11 回:『西部戦線異状なし』読解
第 12 回:『西部戦線異状なし』読解
第 13 回:『西部戦線異状なし』読解
第 14 回:a:試験、b:解説
授業の計画・進度は履修者の関心に応じて変更の可能性もある。

履修上の注意
毎回予習をし、辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
毎回指定範囲をあらかじめ訳読し、文法等に関する質問に答えられるように、入念な予習と復習が求められる。

教科書
プリントを配布する。

参考書
レマルク(秦豊吉訳)『西部戦線異状なし』(新潮文庫)2007

課題に対するフィードバックの方法
授業内に行う。

成績評価の方法
平常点(予習の状況、小テスト、授業への積極的参加度等)60%
試験 40%
原則として授業実施回数の 3 分の 2 以上の出席が成績評価の前提となる。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN322N

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語で学ぶ文化と社会 IA	中級ドイツ語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
本授業は、学部3年生には「ドイツ語で学ぶ文化と社会」、4年(2023 年度までの入学者)においては「中級ドイツ語 II」、大学院においては「特修外国語 I 」となります。

■ドイツ語の初級文法を終え、中級から上級のドイツ語力を習得したいと希望する学生を対象に、文法に力点をおきつつ、難易度の高い文章を読めるようにすることを到達目標としています。

■教材とするドイツ語テキストをどのような分野のものにするかは、基本的にはドイツ語圏の文化や社会事情を知るものを想定していますが、初回に履修者の希望を聞き、柔軟に対応してゆくつもりです。

■基本的な動詞、形容詞の格変化や現在完了、受動態の形は理解していても、助動詞の多様な用法や接続法、非人称の es の用法など、初級の教科書には出てこない文法はたくさんあり、それらを理解しないと難易度の高い文章を正しく読むことができません。そのため、この授業では通常の講読の授業よりも、文法の解説に多くの時間を費やす予定です。

■しかし、語学学習のモティベーションを高めてくれるのはやはりドイツ語圏への関心です。そのため、ドイツ語圏の文化や社会を知ることのできるテクストを選び、理解を深めてくれる動画なども随時紹介してゆく予定です。

授業内容
第一回 授業の進め方の説明と、使用テクストについての話し合い
第二回 テクスト読解と「冠詞の用法」の解説(※文法解説項目は暫定的に入れたものですが、一般に皆さんが苦手な項目を挙げておきます)
第三回 テクスト読解と「形容詞の格変化」の解説
第四回 テクスト読解と「人称代名詞」の解説
第五回 テクスト読解と「現在完了形」の解説
第六回 テクスト読解と「受動態」の解説
第七回 テクスト読解と「接続法Ⅰ式(間接話法)」の解説
第八回 テクスト読解と「接続法Ⅰ式(要求話法)」の解説
第九回 テクスト読解と「接続法Ⅱ式(非現実話法)」の解説
第十回 テクスト読解と「接続法Ⅱ式(外交的接続法)」の解説
第十一回 テクスト読解と「心態詞」の解説
第十二回 テクスト読解と「非人称の es」の解説
第十三回 テクスト読解と「知覚動詞」の解説
第十四回 春学期試験と解説

履修上の注意
履修を制限するものではありませんが、ドイツ語検定では 3 級程度、ゲーテドイツ語技能試験では A2 程度の文法知識、読解力を持っていることを前提としたレベル設定にしています。(検定を受けている必要はなく、あくまでもレベルの目安として提示しています。)そのレベルに達していない場合、最初のうちは予習に時間がかかると思われるので、その覚悟を持って臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容
事前に担当を決めておくやり方ではないので、十分な予習をしてきてください。

教科書
教科書としてではなく、参考書として指定する文法書はありますが、購入は必須ではありません。
文法の解説の際に役立つので、1 年次の文法教科書を持参することが望ましいです。

参考書
中島・平尾・朝倉:必携ドイツ文法総まとめ(白水社)2003 年
教科書の項目で書いたように購入は必須ではありませんが、初級の教科書に載っていないような中級の文法内容を扱っている文法書です。ドイツ語を今後も必要とするならば、手元に置くことをお勧めします。

課題に対するフィードバックの方法
次回授業において口頭でフィードバックを行いますが、別の方法を希望する場合は出来る限り対応します。

成績評価の方法
通常授業時の訳読における内容の理解度、授業への積極的な参加姿勢(発言など)から総合的に判断する平常点が2割。
第十四回で行うペーパー試験の点数が8割。ペーパー試験の実施方法は、履修者数によって通常授業時の訳読担当回数が多いか少ないかにもよるが(極端に履修者が少なく、毎週訳読担当が当たるなど、通常授業時の負担が多いようであれば試験の免除も検討します)、基本的には辞書の持ち込みを認めたうえでの筆記試験を行う予定です。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語で学ぶ文化と社会 IB	**中級ドイツ語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業は、学部3年生には「ドイツ語で学ぶ文化と社会 B」、4年(2023 年度までの入学者)においては「中級ドイツ語 II」、大学院においては「特修外国語 II」となります。

■ドイツ語の初級文法を終え、中級から上級のドイツ語力を習得したいと希望する学生を対象に、文法に力点をおきつつ、難易度の高い文章を読めるようにすることを到達目標としています。

■教材とするドイツ語テキストをどのような分野のものにするかは、基本的にはドイツ語圏の文化や社会事情を知るものを想定していますが、初回に履修者の希望を聞き、柔軟に対応してゆくつもりです。

■基本的な動詞、形容詞の格変化や現在完了、受動態の形は理解していても、助動詞の多様な用法や接続法、非人称の es の用法など、初級の教科書には出てこない文法はたくさんあり、それらを理解しないと難易度の高い文章を正しく読むことができません。そのため、この授業では通常の講読の授業よりも、文法の解説に多くの時間を費やす予定です。

■しかし、語学学習のモティベーションを高めてくれるのはやはりドイツ語圏への関心です。そのため、ドイツ語圏の文化や社会を知ることのできるテクストを選び、理解を深めてくれる動画なども随時紹介してゆく予定です。

授業内容

第一回 授業の進め方の説明と、使用テクストについての話し合い
第二回 テクスト読解と「冠詞の用法」の解説(※文法解説項目は暫定的に入れたものですが、一般に皆さんが苦手な項目を挙げておきます)
第三回 テクスト読解と「不規則変化動詞」の解説
第四回 テクスト読解と「定冠詞類・不定冠詞類」の解説
第五回 テクスト読解と「指示代名詞」の解説
第六回 テクスト読解と「関係代名詞・不定関係代名詞」の解説
第七回 テクスト読解と「助動詞の主観的用法」の解説
第八回 テクスト読解と「接続法Ⅰ式(要求話法)」の解説
第九回 テクスト読解と「相関関係詞」の解説
第十回 テクスト読解と「接続法Ⅱ式(非現実話法の様々な形)」の解説
第十一回 テクスト読解と「心態詞」の解説
第十二回 テクスト読解と「形式主語・形式目的語」の解説
第十三回 テクスト読解と「lassen」の解説
第十四回 秋学期試験と解説

履修上の注意

履修を制限するものではありませんが、ドイツ語検定では 3 級程度、ゲーテドイツ語技能試験では A2 程度の文法知識、読解力を持っていることを前提したレベル設定にしています。(検定を受けている必要はなく、あくまでもレベルの目安として提示しています。)そのレベルに達していない場合、最初のうちは予習に時間がかかると思われるので、その覚悟は持って臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に担当を決めておくやり方ではないので、十分な予習をしてきてください。

教科書

教科書としてではなく、参考書として指定する文法書はありますが、購入は必須ではありません。
文法の解説の際に役立つので、1 年次の文法教科書を持参することが望ましいです。

参考書

中島・平尾・朝倉:必携ドイツ文法総まとめ(白水社)2003 年

教科書の項目で書いたように購入は必須ではありませんが、初級の教科書に載っていないような中級の文法内容を扱っている文法書です。ドイツ語を今後も必要とするならば、手元に置くことをお勧めします。

課題に対するフィードバックの方法

次回授業において口頭でフィードバックを行いますが、別の方法を希望する場合は出来る限り対応します。

成績評価の方法

通常授業時の訳読における内容の理解度、授業への積極的な参加姿勢(発言など)から総合的に判断する平常点が2割。
第十四回で行うペーパー試験の点数が8割。ペーパー試験の実施方法は履修者数によって通常授業時の訳読担当回数が多いか少ないかにもよるが(極端に履修者が少なく、毎週訳読担当が当たるなど、通常授業時の負担が多いようであれば試験の免除も検討します)、基本的には辞書の持ち込みを認めたうえでの筆記試験を行う予定です。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語表現法A	**ドイツ語表現法A**	
担 当 者	開講期	開講地区
時田 伊津子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

場面に応じたドイツ語の表現を学び、実際に口頭や筆記で使えるようにする。CEFR で B1 のレベルを目指し、2人の会話のなかで提案したり、計画を立てたりできるようにする。また、友人にメールを書けるようにする。会話や作文の能力の向上のために、既習のドイツ語文法の内容も振り返る。進度に合わせて、様々なテーマの語彙の確認や聞き取り、関連テキストなどにも取り組む。
適切なドイツ語表現を用いて自分の考えや気持ちを言い表す力、書き表す力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクション、ドイツ語での自己紹介
第2回:A. 計画を立てる 0. 目標の理解
第3回: 1. 提案の表現 様々な提案の表現
第4回: 1. 提案の表現 会話の例
第5回: 2. 会話を進める表現:テーマに合った質問
第6回: 2. 会話を進める表現:会話を円滑に進める表現
第7回: 3. 会話での実践:会話をして計画を立てる
第8回: 3. 会話での実践:様々なテーマ
第9回: a. 小テスト 計画を立てる
b. B. メールを書く 1. メールの形式
第10回: 2. 理由を述べる表現
第11回: 3. 提案を表す表現
第12回: 4. 呼びかけ、結びの表現、導入の表現
第13回: 5. メールの実践:テーマに合ったメールを書く
第14回: a. 試験 メールを書く、b. 正答解説

履修上の注意

初級ドイツ語文法の教科書(参考書)、独和辞典を持参すること。準備学習で和独辞典も使用できるよう準備しておくこと。
詳細について説明するので、初回の授業にも参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として指定した課題(空欄補充の問題、和訳、メールの作成など)に取り組むこと。
復習として授業で扱った表現を覚えて、使えるようにしておくこと。
いずれも疑問点や質問を明確にしておくこと。

教科書

プリントを使用する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

全体的なフィードバックは授業中に行ない、個別の添削結果は授業時間の最初に返却し、解説する。もしくは Oh-o! Meiji システムを利用して返却する。

成績評価の方法

授業への参加度、課題の提出等の平常点と、小テストを含む試験を総合して評価する(平常点 30%、試験 70%)。

その他

予習、復習などの課題には忘れずに取り組み、積極的な姿勢で授業に臨んで下さい。

科目ナンバー:(AL)LAN322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語表現法B	**ドイツ語表現法B**	
担 当 者	開講期	開講地区
時田 伊津子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

場面に応じたドイツ語の表現を学び、実際に口頭や筆記で使えるようにする。CEFR で B1 のレベルを目指し、あるテーマについて自分の意見を書けるようにしたり、丁寧なメールを書けるようにする。また、指定のテーマについてプレゼンテーションができるようにする。会話や作文の能力の向上のために、既習のドイツ語文法の内容も振り返る。進度に合わせて、様々なテーマの語彙の確認や聞き取り、関連テキストなどにも取り組む。

適切なドイツ語表現を用いて自分の考えや気持ちを言い表す力、書き表す力を身につけることを目標とする。

授業内容

第 1 回:イントロダクション、夏休みの出来事について会話と作文
第 2 回:A. 意見を書く 1. 例を読む
第 3 回: 2. 意見を表す表現
第 4 回: 3. 実践:まとまった文章を書く
第 5 回: a. 小テスト 意見を書く
b. B. メールを書く 1. メールの形式
第 6 回: 2. 挨拶の表現
第 7 回: 3. 謝罪の表現
第 8 回: 4. 実践:テーマに合ったメールを書く
第 9 回:C. テーマについて発表する 1. 内容の組み立て
第 10 回: 2. 導入の表現
第 11 回: 3. 理由、例示、問題点や意見を表す表現
第 12 回: 4. 結語と質問の表現
第 13 回: 5. 関連語彙を増やす
第 14 回:a. 試験、b. 正答解説

履修上の注意

初級ドイツ語文法の教科書(参考書)、独和辞典を持参すること。準備学習で和独辞典も使用できるよう準備しておくこと。詳細について説明するので、初回の授業にも参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として指定した課題(空欄補充の問題、記事・メールの作成、プレゼン準備など)に取り組むこと。
復習として授業で扱った表現を覚えて、使えるようにしておくこと。
いずれも疑問点や質問を明確にしておくこと。

教科書

プリントを使用する。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

全体的なフィードバックは授業中に行ない、個別の添削結果は授業時間の最初に返却し、解説する。もしくは Oh-o! Meiji システムを利用して返却する。

成績評価の方法

授業への参加度、課題の提出等の平常点と試験を総合して評価する(平常点 30%、試験 70%)。

その他

予習、復習などの課題には忘れずに取り組み、積極的な姿勢で授業に臨んで下さい。

科目ナンバー:(AL)ARS322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語文献講読 A	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Lektüre von Originaltexten I

Am Anfang der Auseinandersetzung mit fremdsprachigen Texten stehen Wortschatzarbeit und grammatische Analyse. Das gilt besonders, wenn die Texte über das bisher erreichte Sprachniveau hinausgehen. Da wir in diesem Seminar hauptsächlich Auszüge aus Originaltexten behandeln, wird das fast durchgängig der Fall sein.

Inhaltlich beschäftigen wir uns in dem Seminar mit grundlegenden Texten ganz verschiedener Gattungen: Philosophie, Religion, Kulturwissenschaft, Literatur und Literaturwissenschaft. Neben dem Umgang mit Originaltexten sollen auch wichtige Positionen der deutschen und europäischen Kultur vermittelt werden. Die Auswahl der Autoren und Texte wird auch vom Sprachniveau und dem Interesse der Studenten abhängen. Die unten angegebene Auswahl ist daher nur vorläufig.

Darüber hinaus sollen die Studenten literarische Texte außerhalb des Seminars (auf Japanisch) lesen und darüber (auf Deutsch) berichten. Der Lektürebericht wird in Gruppenarbeit vorbereitet. Dafür kommen bekannte Erzählungen, kürzere Romane und Dramen in Frage.

Für die Gruppenarbeit benutzen wir ein Wiki.

URL: https://etherpad.wikimedia.org/p/Doitsugo_Bunken_Koudoku_2026

授業内容

(1) Grammatische Analyse und Arbeit mit dem Wörterbuch
(2) Immanuel Kant: Was ist Aufklärung? (1)
(3) Immanuel Kant: Was ist Aufklärung? (2)
(4) Aus der Bibel (1)
(5) Martin Luther (1)
(6) Martin Luther (2)
(7) Andreas Gryphius
(8) Gotthold Ephraim Lessing (1)
(9) Gotthold Ephraim Lessing (2)
(10) Wolfgang Kayser: Das sprachliche Kunstwerk
(11) Friedrich Schiller (1)
(12) Friedrich Schiller (2)
(13) Johann Peter Hebel
(14) Prüfung

履修上の注意

Für die Arbeit an Texten in Kleingruppen arbeiten wir teilweise mit einem Wiki. Es wäre daher wünschenswert, wenn die Studenten ihre PCs oder Tablets mitbringen würden.

準備学習(予習・復習等)の内容

Aktive Mitarbeit und regelmäßige Teilnahme sind sehr erwünscht. Regelmäßige Wiederholung des behandelten Stoffes nach dem Unterricht.

教科書

-

参考書

-

課題に対するフィードバックの方法

Während des Seminars gibt es Gelegenheit zu Fragen.

成績評価の方法

Regelmäßige Anwesenheit, aktive Mitarbeit, Test am Ende des Kurses.

その他

科目ナンバー：(AL)ARS322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語文献講読 B	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Lektüre von Originaltexten II_
_ Am Anfang der Auseinandersetzung mit fremdsprachigen Texten stehen Wortschatzarbeit und grammatische Analyse. Das gilt besonders, wenn die Texte über das bisher erreichte Sprachniveau hinausgehen. Da wir in diesem Seminar hauptsächlich Auszüge aus Originaltexten behandeln, wird das fast durchgängig der Fall sein. _
_ Inhaltlich beschäftigen wir uns in dem Seminar mit grundlegenden Texten ganz verschiedener Gattungen: Philosophie, Religion, Kulturwissenschaft, Literatur und Literaturwissenschaft. Neben dem Umgang mit Originaltexten sollen auch wichtige Positionen der deutschen und europäischen Kultur vermittelt werden. Die Auswahl der Autoren und Texte wird auch vom Sprachniveau und dem Interesse der Studenten abhängen. Die unten angegebene Auswahl ist daher nur vorläufig. _
_ Darüber hinaus sollen die Studenten literarische Texte außerhalb des Seminars (auf Japanisch) lesen und darüber (auf Deutsch) berichten. Der Lektürebericht wird in Gruppenarbeit vorbereitet. Dafür kommen bekannte Erzählungen, kürzere Romane und Dramen in Frage._
_ Für die Gruppenarbeit benutzen wir ein Wiki. _
_ URL: https://etherpad.wikimedia.org/p/Doitsugo_Bunken_Koudoku_2026_

授業内容

(1) Georg Wilhelm Hegel: Wer denkt abstrakt? (1)_
_ (2) Georg Wilhelm Hegel: Wer denkt abstrakt? (2)_
_ (3) Johann Wolfgang Goethe: Über Wahrheit und Wahrscheinlichkeit der Kunstwerke_
_ (4) Johann Wolfgang Goethe: Naturformen der Dichtung _
_ (5) Johann Wolfgang Goethe: Erlkönig / Der Fischer_
_ (6) Friedrich Schlegel: Aus dem Athenäum _
_ (7) Novalis: Die Christenheit oder Europa (1)_
_ (8) Novalis: Die Christenheit oder Europa (2)_
_ (9) Wilhelm von Humboldt: Schriften zur Universitätsgründung _
_ (10) Friedrich Schleiermacher: Über die Religion_
_ (11) Johann Peter Hebel: Aus dem Schatzkästlein _
_ (12) Heinrich Heine: Zur Geschichte der Religion und Philosophie in Deutschland_
_ (13) Hugo von Hofmannsthal: Ein Brief_
_ (14) Rückblick und Prüfung_

履修上の注意

Für die Arbeit an Texten in Kleingruppen arbeiten wir teilweise mit einem Wiki. Es wäre daher wünschenswert, wenn die Studenten ihre PCs oder Tablets mitbringen würden._

準備学習(予習・復習等)の内容

Aktive Mitarbeit und regelmäßige Teilnahme sind sehr erwünscht. Regelmäßige Wiederholung des behandelten Stoffes nach dem Unterricht._

教科書

Kopien_

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Während des Kurses gibt es Gelegenheit zu Fragen. _

成績評価の方法

Regelmäßige Anwesenheit, aktive Mitarbeit, Test am Ende des Kurses._

その他

科目ナンバー：(AL)LAN222N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語レベルアップ A	**中級ドイツ語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部 一哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語の初級(A1、 A2)の学習を一通り終えた方を対象に、これまでの学習の復習を行いつつ、ドイツ語運用能力の更なる向上を目指します。_

_ 具体的な到達目標としては、Goethe-Institut で記述されている、B1 レベルのドイツ語運用能力の習得を設定します。なお、Goethe-Institut のサイトでは、B1 相当のドイツ語運用能力として、次のような記述がありますので、参考にしてください。_

「明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。」
_ (https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/kon/stu.html)_

_ 中級ドイツ語 IA では、A2 レベルの復習を前半行い、後半は B1 レベルの内容を扱います。_
_ 中級ドイツ語 IB では、B1 レベルの内容を扱います。_

授業内容

第 1 回:Am Wochenende_
_ 第 2 回:Meine Sachen_
_ 第 3 回:Kommunikation_
_ 第 4 回:Unterwegs_
_ 第 5 回:Reisen_
_ 第 6 回:Geld_
_ 第 7 回:Lebensstationen_
_ 第 8 回:Glueck im Alltag 1_
_ 第 9 回:Glueck im Alltag 2_
_ 第 10 回:Unterhaltung 1_
_ 第 11 回:Unterhaltung 2_
_ 第 12 回:Gesund bleiben 1_
_ 第 13 回:Gesund bleiben 2_
_ 第 14 回:個別面接テスト_

履修上の注意

授業の内容だけでなく、ドイツ語圏の文化や社会、ドイツ語について興味を持ちさまざまな情報にアンテナを張り巡らせておいてください。_

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で、次回授業の教材資料を配布しますので、予習復習を必ず行うようにしてください。また、予習復習用課題を Oh-O!Meiji に掲出しますので、取り組むようにしてください。_

教科書

購入の必要はありません。プリントで配布します。_

参考書

Schritte international neu 4 Hueber_
_ Schritte international neu 5 Hueber_
_ 清野智昭著『中級ドイツ語のしくみ』_

課題に対するフィードバックの方法

授業中に全体講評を行い、個別のフィードバックは Oh-o!Meiji 経由で行います。_

成績評価の方法

第 6 回目の授業までに1回、第7回目から2回の授業ごとに小テストを行います。また、第 14 回目の授業で、個別の面接試験を行います。成績評価は総合的に行います。割合の目安は次のとおりです。_

「毎回の授業参加度」30%
「小テスト合計」30%
「最終面接試験」40%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN222N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語レベルアップ B	**中級ドイツ語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
阿部　一哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語の初級(A1、 A2)の学習を一通り終えた方を対象に、これまでの学習の復習を行いつつ、ドイツ語運用能力の更なる向上を目指します。

具体的な到達目標としては、Goethe-Institut で記述されている、B1 レベルのドイツ語運用能力の習得を設定します。なお、Goethe-Institut のサイトでは、B1 相当のドイツ語運用能力として、次のような記述がありますので、参考にしてください。

「明瞭な通常のドイツ語であれば、仕事や趣味や生活など日常的な事柄についてのドイツ語の発言や文章が理解できます。例えば、旅行中に出会うさまざまな出来事に対して、必要な対応ができ、また、自分の経験や夢・希望・目標などについて話すことができます。さらに、自分に身近なテーマあれば、意見を述べたり、その論拠を説明したりできます。」(https://www.goethe.de/ins/jp/ja/spr/kon/stu.html)

中級ドイツ語 IA では、A2 レベルの復習を前半行い、後半は B1 レベルの内容を扱います。
中級ドイツ語 IB では、B1 レベルの内容を扱います。

授業内容

第 1 回:Sprachen 1
第 2 回:Sprachen 2
第 3 回:Eine Arbeit finden 1
第 4 回:Eine Arbeit finden 2
第 5 回:Dienstleistung 1
第 6 回:Dienstleistung 2
第 7 回:Rund ums Wohnen 1
第 8 回:Rund ums Wohnen 2
第 9 回:Pause und Rueckblick
第 10 回:Unter Kollegen 1
第 11 回:Unter Kollegen 2
第 12 回:Virtuelle Welt2
第 13 回:Virtuelle Welt 1
第 14 回:個別面接テスト

履修上の注意

授業の内容だけでなく、ドイツ語圏の文化や社会、ドイツ語について興味を持ちさまざまな情報にアンテナを張り巡らせておいてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で、次回授業の教材資料を配布しますので、予習復習を必ず行うようにしてください。また、予習復習用課題を Oh-O!Meiji に掲出しますので、取り組むようにしてください。

教科書

購入の必要はありません。プリントで配布します。

参考書

Schritte international neu 4 Hueber
Schritte international neu 5 Hueber
清野智昭著『中級ドイツ語のしくみ』

課題に対するフィードバックの方法

授業中に全体講評を行い、個別のフィードバックは Oh-o!Meiji 経由で行います。

成績評価の方法

2回の授業ごとに小テストを行います。また、第 14 回目の授業で、個別の面接試験を行います。成績評価は総合的に行います。割合の目安は次のとおりです。

「毎回の授業参加度」30%
「小テスト合計」30%
「最終面接試験」40%

その他

科目ナンバー：(AL)ARS322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ思想研究 A	**ドイツ文化研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Religion und Kultur: Bibel, Theologie, Religionsphilosophie I

Neben der griechischen und römischen Antike sind das Alte und das Neue Testament die wichtigsten Quellen der europäischen Kultur. Ohne grundlegende Kenntnisse wichtiger Bibeltexte und ihrer Rezeption durch das Christentum und die Philosophie ist die europäische Kultur kaum zu verstehen. In diesem Kurs besprechen wir ausgewählte Bibeltexte und einige theologische und philosophische Texte. Zum Vergleich beschäftigen wir uns auch mit dem Shintoismus.

Die Studenten erarbeiten sich die Texte in Kleingruppen. Dafür können auch japanische Übersetzungen benutzt werden. Ziel ist eine Zusammenfassung des Textes auf Japanisch und Deutsch sowie eine Interpretation unter theologischen, politisch-soziologischen oder kulturhistorischen Aspekten. Anschließend werden die Ergebnisse im Plenum zweisprachig (auf Japanisch mit deutscher Zusammenfassung) präsentiert. Es folgt eine Diskussion.

Zu ausgewählten Themen bereiten die Studenten außerhalb des Seminars in Gruppen Referate vor, die im Plenum vorgetragen und diskutiert werden.

Für Gruppenarbeit und Referate wird ein Wiki benutzt, in dem die Studenten gemeinsam an ihren Texten arbeiten können. Es wäre daher gut, wenn Sie Ihre Notebooks oder Tablets mitbringen würden.

URL: https://etherpad.wikimedia.org/p/doitsu-shisou-kenkyuu-2026

授業内容

(1) Einführung: Zur Entstehung und Struktur der Bibel
(2) Altes Testament: Die Schöpfung
(3) Altes Testament: Der Sündenfall
(4) Georg Wilhelm Friedrich Hegel zum Sündenfall
(5) Kain und Abel
(6) Die Sintflut
(7) Der Turmbau zu Babel
(8) Abraham und Isaak
(9) Jakob und Esau
(10) Josefsgeschichte
(11) Moses, der Auszug aus Ägypten und das goldene Kalb
(12) Saul und David
(13) Hiob
(14) Rückblick und Prüfung

履修上の注意

Regelmäßige Teilnahme und aktive Mitarbeit werden erwartet.

準備学習(予習・復習等)の内容

Regelmäßige Wiederholung des behandelten Stoffes nach dem Unterricht.

教科書

Ich bereite die Texte vor.

参考書

- Die Bibel, oder, Die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments nach der Übersetzung Martin Luthers mit Apokryphen. Revidierter Text 1975. Stuttgart: Deutsche Bibelstiftung 1978
- Rienecker, Fritz: Lexikon zur Bibel. Wuppertal: R. Brockhaus 1974
- Religion in Geschichte und Gegenwart. Handwörterbuch für Theologie und Religionswissenschaft. Vierte Auflage. Hrsg. v. Betz, Hans D., Don S. Browning, Bernd Janowski u. a. Tübingen: Mohr Siebeck 1998-2007
Online-Bibeln japanisch:
- https://www.churchofjesuschrist.org/study/scriptures/ot?lang=jpn (Altes Testament)
- https://www.churchofjesuschrist.org/study/scriptures/nt?lang=jpn (Neues Testament)
- Online-Bibeln deutsch: https://www.bibleserver.com/
- Bibel-Lexikon: WiBiLex. Das wissenschaftliche Bibellexikon im Inter-net. URL: https://www.bibelwissenschaft.de/wibilex/

課題に対するフィードバックの方法

Während des Unterrichts ist Zeit für Erklärungen.

成績評価の方法

Regelmäßige Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht, Referate, Test.

その他

科目ナンバー：(AL)ARS322N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ思想研究 B	**ドイツ文化研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
マンデラルツ	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

Religion und Kultur: Bibel, Theologie, Religionsphilosophie II

Neben der griechischen und römischen Antike sind das Alte und das Neue Testament die wichtigsten Quellen der europäischen Kultur. Ohne grundlegende Kenntnisse wichtiger Bibeltexte und ihrer Rezeption durch das Christentum und die Philosophie ist die europäische Kultur kaum zu verstehen. In diesem Kurs besprechen wir ausgewählte Bibeltexte und einige theologische und philosophische Texte. Zum Vergleich beschäftigen wir uns auch mit dem Shintoismus.

Die Studenten erarbeiten sich die Texte in Kleingruppen. Dafür können auch japanische Übersetzungen benutzt werden. Ziel ist eine Zusammenfassung des Textes auf Japanisch und Deutsch sowie eine Interpretation unter theologischen, politisch-soziologischen oder kulturhistorischen Aspekten. Anschließend werden die Ergebnisse im Plenum zweisprachig (auf Japanisch mit deutscher Zusammenfassung) präsentiert. Es folgt eine Diskussion.

Zu ausgewählten Themen bereiten die Studenten außerhalb des Seminars in Gruppen Referate vor, die im Plenum vorgetragen und diskutiert werden.

Für Gruppenarbeit und Referate wird ein Wiki benutzt, in dem die Studenten gemeinsam an ihren Texten arbeiten können. Es wäre daher gut, wenn Sie Ihre Notebooks oder Tablets mitbringen würden. URL: https://etherpad.wikimedia.org/p/doitsu-shisou-kenkyuu-2026

授業内容

(1) Einführung: Altes und Neues Testament, Juden- und Christentum
(2) Altes Testament: Psalmen und Hoheslied
(3) Altes Testament: Propheten
(4) Neues Testament: Geburtsgeschichte Jesu
(5-7) Neues Testament: Gleichnisse Jesu
(8-9) Neues Testament: Kreuzigung und Himmelfahrt Christi
(10) Leibniz: Die beste aller möglichen Welten
(11) Schiller: Die Götter Griechenlands
(12-13) Monotheismus und Polytheismus: Shintoismus / David Hume über natürliche Religion
(14) Rückblick und Test

履修上の注意

Aktive Mitarbeit und regelmäßige Teilnahme sind erwünscht.

準備学習(予習・復習等)の内容

Lektüre der Texte vor dem Unterricht und regelmäßige Wiederholung des behandelten Stoffes nach dem Unterricht.

教科書

Ich bereite die Texte vor.

参考書

- Die Bibel, oder, Die ganze Heilige Schrift des Alten und Neuen Testaments nach der Übersetzung Martin Luthers mit Apokryphen. Revidierter Text 1975. Stuttgart: Deutsche Bibelstiftung 1978
- Rienecker, Fritz: Lexikon zur Bibel. Wuppertal: R. Brockhaus 1974
- Religion in Geschichte und Gegenwart. Handwörterbuch für Theologie und Religionswissenschaft. Vierte Auflage. Hrsg. v. Betz, Hans D., Don S. Browning, Bernd Janowski u. a. Tübingen: Mohr Siebeck 1998-2007

Online-Bibeln japanisch:
- https://www.churchofjesuschrist.org/study/scriptures/ot?lang=jpn (Altes Testament)
- https://www.churchofjesuschrist.org/study/scriptures/nt?lang=jpn (Neues Testament)
- Online-Bibeln deutsch: https://www.bibleserver.com/
- Bibel-Lexikon: WiBiLex. Das wissenschaftliche Bibellexikon im Inter-net. URL: https://www.bibelwissenschaft.de/wibilex/

課題に対するフィードバックの方法

Während des Seminars können Fragen gestellt werden.

成績評価の方法

Regelmäßige Anwesenheit, Mitarbeit im Unterricht, Referate, Test.

その他

科目ナンバー：(AL)ARS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文化演習A	**ドイツ文化演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

昨年度に引き続き、様々な形で芸術に引用される『旧約聖書』の諸編に親しむことを目標とする。

授業内容

旧約聖書中の「士師記」、「ルツ記」、「サムエル記上」、「サムエル記下」、「列王記上」、「列王記下」、「エズラ記」、「ネヘミア記」、「エステル記」、「ヨブ記」を、参加者に分担担当してもらい、その概要について報告してもらう。第一回目のイントロダクションで、全体の進行予定を提示し担当者を決定し、第二回目以降上記の順に、担当者に発表していただく。

発表する内容は、担当箇所のあらましをパワーポイントを併用しながら口頭で報告することと、担当箇所において特に担当者に重要・奇異等と思われた事柄について説明することである。他の参加者は、発表について様々な質問をし、担当者はできる限りそれに応答しなければならない。

履修上の注意

毎回必ず出席することは当然だが、質問をしたり、指名されたら何か応答したり、その回の授業のテーマを掘り下げる貢献をしてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の下準備を入念におこなっておくばかりでなく、担当外の個所も入念に読んでおくこと。

教科書

紙媒体の『旧約聖書』(新共同訳)を用意しておいてほしい。

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

授業の中でおこなう。

成績評価の方法

平常点 40 点とレポート 60 点で評価する。レポートとは各担当回の口頭発表のことである。

その他

特にない。

科目ナンバー:(AL)ARS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文化演習A	**ドイツ文化演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本語にもドイツ語にもグループ語というものが存在する。これにはごく少数の人々(peer-group)にしか通じず外部には漏れないようにするための「隠語」も含まれる。「俗語」の一部はこの隠語に由来するものである。また、「俗語」といわゆる「日常語」「通用語(Umgangssprache)」の境界は往々にして曖昧でもある。この授業では、若者語・学生語(キャンパス用語)に焦点を当て、日独語におけるその歴史を端緒的に概観したのち、現代におけるその変容の姿を追究し、SNS などのデジタルニューメディアにも注意を払いつつ「ことばと社会」の関係をグループ語の視座から理解する力の錬成を目指す。その際日独語の「多様性」ならびに「文体」の諸問題にも注意を向けていく。必要な概念や方法、ドイツ語の現況について適宜授業教員による概説を加えながら、テキスト講読から始めて徐々に受講者の小発表やディスカッションを取り入れていく。

ドイツ語学、言語学のテキストに親しみ、その概念や方法・視点を少しずつ身につけることが到達目標である。

授業内容

一回の授業を前半と後半に分ける。

前半では、教員による基本概念等の概説を行う。

後半では、関連するテキストの読解を行う。精読しながら、言語学のアプローチに慣れていく。テキストは、履修者の関心も考慮して選ぶ。

第1回:イントロダクション

第2回―第3回:日独若者語の歴史についての概説とテキスト講読

第4回―第8回:語彙を中心とする日独若者語の現況概説とテキスト講読

第9回―第 12 回:メディアに焦点を当てた日独若者語の現況概説とテキスト講読

第 13 回:ディスカッションと質疑応答

第 14 回:全体のふりかえり

履修上の注意

ドイツ語学や言語学に慣れ、視野を広めるためにも、春学期秋学期続けての履修が望ましい。詳しい説明をする初回の授業から必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの予習は単語や言い回しをよく調べ、毎回入念に行うこと。また、配布プリントなどはよく読み返すこと。

教科書

プリントを使用する。

参考書

特に定めず、必要に応じて紹介する。

日本語によるものとして、ひとまず以下を挙げておく。

米川明彦『若者語を科学する』(明治書院)1998

米川明彦(編)『集団語辞典』(東京堂出版)2000

米川明彦(編)『日本俗語大辞典』(東京堂出版)2003

渡辺学「文体論の可能性―とりわけ「文字の機能」と「俗語」に着目して―」、日本文体論学会編『文体論研究」70 号(2024)、13-44 頁。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji 上で、適宜課題の提示、ならびに講評を行う。課題があるかどうか、ポータルをまめにチェックのこと。

成績評価の方法

授業への参加度(討論への参加、プレゼンテーションの出来映え)等の平常点(40%)と学期末のレポート(60%)を総合して評価する。

その他

常日頃から「言語意識」を研ぎ澄ますように心がけよう。

科目ナンバー:(AL)ARS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文化演習B	**ドイツ文化演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

秋学期のこの授業では、旧約聖書と並んで多くの芸術作品にその典拠として利用される新約聖書の中でも、四福音書に親しみ、各編の相異なる特徴を把握し、後代の芸術作品にどのように利用されているか具体的な事例について考察することを目的とする。四福音書とは「マタイによる福音書」、「マルコによる福音書」、「ルカによる福音書」、「ヨハネによる福音書」である。

授業内容

第一回目に全体へのガイダンスをおこない、四福音書を 12 回に分けて日程を提示するので、参加者に自身のレポート担当箇所を選んでいただく。第十四回目の授業は総括とする。

授業は毎回その回の担当者が、自身の担当する個所についてその概略をレポートし、その特徴や各自興味を引いた事柄について発表していただく。他の参加者は、発表について担当者にコメント・質問をおこなう。

履修上の注意

参加者は担当個所だけを読むのではなく、それ以外もきちんと読み、発表に対しては積極的にコメントや質問をして欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

少なくとも次の回の個所を読んでおくこと。発表の際は、PowerPoint 等の資料を用意しておいて欲しい。

教科書

書籍としての『新共同訳 聖書』を用意すること。

参考書

特にないが、必要な際は授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントする。

成績評価の方法

平常点のみによって評価する。平常点とは出席点ではなく、レポートばかりでなく、コメントや質問による授業への貢献点である。

その他

特にない。

科目ナンバー：(AL)ARS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文化演習B	**ドイツ文化演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

世界の言語は決して純粋に成長発展するのではなく、常に外からの要素を取り入れるオープン・システムである。その最たるものは借用語・外来語であろう。日本語になったドイツ語にはピッケル、テーゼ、アイゼンなどがあり、ドイツ語になった日本語には der Kimono, der Tofu, das Sushi, kawaii などがある。最近では、味覚を表す umami や der Onigiri, der Matcha なども加わっている。この授業では、日独語におけるこうしたことばの「出し入れ」を調べることからスタートし、世界を席巻する「英語語法(Anglizismus)」の現状や「言語接触研究 ・接触言語学(Sprachkontaktforschung /Kontaktlinguistik) 」の問題圏にまで視野を広げていく。授業全体で、世界の言語の現況を見渡し未来を見据える力を錬成することが目標である。必要な概念や方法、ドイツ語の現況について適宜授業教員による概説を加えながら、テキスト講読から始めて徐々に受講者の小発表やディスカッションを取り入れる。

ドイツ語学、言語学のテキストに親しみ、その概念や方法・視点を少しずつ身につけることが到達目標である。

授業内容

一回の授業を前半と後半に分ける。

前半では、教員による基本概念等の概説を行う。

後半では、関連するテキストの読解を行う。精読しながら、言語学のアプローチに慣れていく。テキストは、履修者の関心も考慮して選ぶ。

第1回:イントロダクション

第2回―第5回:日独語間に見られる借用語・外来語の概説とテキスト講読

第6回―第8回:借用語・外来語としての英語語法の現況概説とテキスト講読

第 10 回―第 12 回:言語接触研究の概説とテキスト講読

第 13 回:ディスカッションと質疑応答

第 14 回:全体のふりかえり

履修上の注意

ドイツ語学や言語学に慣れ、視野を広めるために、春学期秋学期続けての履修が望ましい。詳しい説明をする初回の授業から必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの予習は単語や言い回しをよく調べ、毎回入念に行うこと。また、配布プリントなどは読み返すこと。

教科書

プリントを使用する。

参考書

特に定めず、必要に応じて紹介する。

とりあえずの文献として以下を挙げておく。

Gaston Dorren: Sprachen. Eine verbale Reise durch Europa. 2. Aufl. Berlin: Ullstein, 2017.

原聖(編)『言語的多様性という視座』(三元社)2010

ヘンリー・ヒッチングズ(著)、田中京子(訳)『英語化する世界、世界化する英語』(みすず書房)2014

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji 上で、適宜課題の提示、ならびに講評を行う。課題があるかどうか、ポータルをまめにチェックのこと。

成績評価の方法

授業への参加度(討論への参加度、プレゼンテーションの出来映え)等の平常点(40%)と学期末のレポート(60%)を総合して評価する。

その他

常日頃から「言語意識」を研ぎ澄ますように心がけよう。

科目ナンバー：(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学演習A	**ドイツ文学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

わたしたちが日々手にする情報はメディアを介して届けられている。このゼミでは、第一次大戦から第二次大戦にかけての戦間期のドイツおよびオーストリアにおけるジャーナリズムの言説を分析しながら、とりわけ、第一次大戦敗戦後の 1920 年代のベルリンにおける言語空間の背後にはどのような精神性があったのかを考察する。ドイツは、第一次大戦後にワイマール共和制となり、民主主義が誕生して大衆文化が花開いた「黄金の二十年代」と呼ばれる一方で、経済的には依然として苦境にあり、政治的には各党派の対立が高まって、様々な問題が山積みとなった「荒れた二十年代」でもある。二十年代は、どのような見方をするかによって、見えてくる部分が大いに異なる。1920 年代のベルリンがどのような時空間だったのかを、単純化することなく、その複雑さをたどりながら考察することを目指す。ドイツは第一次世界大戦をどのように受け止めたのか、あるいは受け止めなかったのか、また、ドイツがなぜその後、二度目の戦争へと向かってゆくことになったのかを、精神的・文化的背景のなかに探ることになるが、それは危機の時代に文学の課題とは何か、わたしたちが文学を読むとは何を意味するのか、を考えることでもある。

テキストを正確に読み、そのうえで自分が考えたことを表現する力を身につけるのがこの授業の目標である。

授業内容

毎回、各自で課題となるテキストを読み進め、問題点や疑問点などを確認しておき、授業では担当者が議論の進行役をつとめる。

また、時代背景を理解するための補助として、ジャーナリズムに関するテキストに加えて、コルドンの小説『ベルリン 1933 壁を背にして 』を並行して読み進める。

テキストから出発し、文学を通して自分は何を考えることができるのか、自分が生きている時代をどのようにとらえることができるのか、といった問題をつねに念頭に置きつつ読解すること。

(1)ジャーナリズム、ルポルタージュとは何か？(新聞、出版、批評)

(2)ドイツ語圏の文学とジャーナリズム(ハイネ、クライスト、フォンターネ)

(3-13)第一次大戦以降のジャーナリズムおよび大都市をテーマとするテクストの読解(クラウス、ベンヤミンのジャーナリズム論、ロート、キッシュのルポルタージュ、トゥホルスキー、リヒテンシュタイン、ハルデコプフ等の詩)、コルドンの小説読解

(14)レポート課題についての討論

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

課題となるテクストについては十分な予習をして授業に臨むこと。

担当者はレジュメを作成すること。

教科書

クラウス・コルドン著(酒寄進一訳)『ベルリン 1933 壁を背にして (上)・(下)』(岩波少年文庫)

ISBN: 978-4001146233

ISBN: 978-4001146240

およびプリント

参考書

授業で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

期末レポートにコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業への参加度:40% 期末レポートと討論:60%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学演習A	**ドイツ文学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習ではドイツ語圏の「ベストセラー」「文学賞」の研究を行う。古典的名作は授業で扱うことが多いが、今この時代にドイツ人はどんな本を読み、どんな作品を評価しているのだろうか。そこから、どんな社会事情、関心のあり方が見えてくるのだろうか。作品自体を読み通すことは学部生には難しいが、少なくとも概要は見えてくるはずである。日本の「ベストセラー」「文学賞ノミネート作」と比較しながら、そこにどんな違いや共通点があるのかを探ってみたい。

インターネット時代であることを強みに、作品紹介をしている動画を視聴するなど、持てる手段はフル活用しながら、「今」のドイツに接近する。情報収集能力を身に着けること、自動翻訳では十分でない文章を自分で丁寧に翻訳すること、その作品が人気を持つ背景を自分なりに考察してみること、それを発表するスキルを身に着けることを目標とする。

授業内容

第一回 導入―演習の目的と進め方(「ドイツ人は何を読んでいるのか？」)
第二回 調べ方と紹介
第三回 リスト調査(1)
第四回 リスト調査(2)
第五回 分析方法についての検討―情報入手の可能性と限界(1)
第六回 分析方法についての検討―情報入手の可能性と限界(2)
第七回 背景についての考察(1)
第八回 背景についての考察(2)
第九回 日独比較の試み(1)
第十回 日独比較の試み(2)
第十一回 発表に向けた作業日
第十二回 発表(1)
第十三回 発表(2)
第十四回 筆記試験

履修上の注意

本演習は、ディスカッションやプレゼンテーション、履修人数によってはグループワークを行う。そのことを了解の上で履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習のメインは発表であり、そのための準備が毎回必要となる。その作業を事前にしっかり行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に直接口頭で行うが、必要に応じてメールや Oh-o！Meiji を通じた回答も行う。いずれにせよ、気軽に教員とコミュニケーションを取れる体制を用意する。

成績評価の方法

毎回の授業での活動の状況で判断するものが 20%、学期に一度行う発表が 60%、学期末に行う筆記試験(とはいえ、理解を見るための簡単な感想文)の内容 20%で総合的に判定する。

その他

春学期と秋学期で、アプローチ方法を変える予定である。グループ発表と個人発表、あるいはドイツだけのものと日独比較など、アプローチの変え方は履修者と話し合って決めていく。そのため、通年で履修することが望ましいが、強制するものではない。

科目ナンバー：(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学演習B	**ドイツ文学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

わたしたちが日々手にする情報はメディアを介して届けられている。このゼミでは、第一次大戦から第二次大戦にかけての戦間期のドイツおよびオーストリアにおけるジャーナリズムの言説を分析しながら、とりわけ、第一次大戦敗戦後の 1920 年代のベルリンにおける言語空間の背後にはどのような精神性があったのかを考察する。ドイツは、第一次大戦後にワイマール共和制となり、民主主義が誕生して大衆文化が花開いた「黄金の二十年代」と呼ばれる一方で、経済的には依然として苦境にあり、政治的には各党派の対立が高まって、様々な問題が山積みとなった「荒れた二十年代」でもある。二十年代は、どのような見方をするかによって、見えてくる部分が大いに異なる。1920 年代のベルリンがどのような時空間だったのかを、単純化することなく、その複雑さをたどりながら考察することを目指す。ドイツは第一次世界大戦をどのように受け止めたのか、あるいは受け止めなかったのか、また、ドイツがなぜその後、二度目の戦争へと向かってゆくことになったのかを、精神的・文化的背景のなかに探ることになるが、それは危機の時代に文学の課題とは何か、わたしたちが文学を読むとは何を意味するのか、を考えることでもある。

テキストを正確に読み、そのうえで自分が考えたことを表現する力を身につけるのがこの授業の目標である。

授業内容

毎回、各自で課題となるテキストを読み進め、問題点や疑問点などを確認しておき、授業では担当者が議論の進行役をつとめる。

また、時代背景を理解するための補助として、ジャーナリズムに関するテキストに加えて、イルムガルト・コインの小説『この夜を越えて 』(1937)を並行して読み進める。

テキストから出発し、文学を通して自分は何を考えることができるのか、自分が生きている時代をどのようにとらえることができるのか、といった問題をつねに念頭に置きつつ読解すること。

(1)女性ジャーナリストの活躍(テルギット、ヘッセル)
(2)写真と言葉(ベンヤミン、フリードリヒ)
(3-13)第一次大戦後のジャーナリズムおよび大都市に関するテクストの読解(ブレヒト、テルギットのジャーナリズム論、メーリング、ケストナー、マーシャ・カレコ等の詩)、コインの小説読解
(14)レポート課題についての討論

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

課題となるテクストについては十分な予習をして授業に臨むこと。
担当者はレジュメを作成すること。

教科書

イルムガルト・コイン著(田丸理砂訳)『この夜を越えて』(左右社)
ISBN: 978-4865280944(Kindl 版あり)
およびプリント

参考書

授業で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

期末レポートにコメントを付して返却する。

成績評価の方法

授業への参加度：40% 期末レポートと討論：60%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学演習B	**ドイツ文学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習ではドイツ語圏の「ベストセラー」「文学賞」の研究を行う。古典的名作は授業で扱うことが多いが、今この時代にドイツ人はどんな本を読み、どんな作品を評価しているのだろうか。そこから、どんな社会事情、関心のあり方が見えてくるのだろうか。作品自体を読み通すことは学部生には難しいが、少なくとも概要は見えてくるはずである。日本の「ベストセラー」「文学賞ノミネート作」と比較しながら、そこにどんな違いや共通点があるのかを探ってみたい。

インターネット時代であることを強みに、作品紹介をしている動画を視聴するなど、持てる手段はフル活用しながら、「今」のドイツに接近する。情報収集能力を身に着けること、自動翻訳では十分でない文章を自分で丁寧に翻訳すること、その作品が人気を持つ背景を自分なりに考察してみること、それを発表するスキルを身に着けることを目標とする。

授業内容

第一回 導入―演習の目的と進め方(「ドイツ人は何を読んでいるのか？」)
第二回 調べ方と紹介
第三回 リスト調査(1)
第四回 リスト調査(2)
第五回 分析方法についての検討―情報入手の可能性と限界(1)
第六回 分析方法についての検討―情報入手の可能性と限界(2)
第七回 背景についての考察(1)
第八回 背景についての考察(2)
第九回 日独比較の試み(1)
第十回 日独比較の試み(2)
第十一回 発表に向けた作業日
第十二回 発表(1)
第十三回 発表(2)
第十四回 筆記試験

履修上の注意

本演習は、ディスカッションやプレゼンテーション、履修人数によってはグループワークを行う。そのことを了解の上で履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

演習のメインは発表であり、そのための準備が毎回必要となる。その作業を事前にしっかり行うこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に直接口頭で行うが、必要に応じてメールや Oh-o！Meiji を通じた回答も行う。いずれにせよ、気軽に教員とコミュニケーションを取れる体制を用意する。

成績評価の方法

毎回の授業での活動の状況で判断するものが 20%、学期に一度行う発表が 60%、学期末に行う筆記試験(とはいえ、理解を見るための簡単な感想文)の内容 20%で総合的に判定する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学史Ⅰ	**ドイツ文学史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語圏では、どのような時代にどのような文学が生まれたのか、ドイツ文学を担った作家たちはどのような土地に生活していたのか。ドイツ文学の作品を、その歴史的・地理的な背景をさぐりながら読み、その時代の人々が何を考えていたのか、文学が何を表現しようとしていたのかを考察します。

また、文学は、その他のさまざまな芸術・学問分野との交流のうえに成り立っています。哲学、宗教、映画、造形芸術、音楽、パフォーマンスアートなどにまで視野を広げつつ、ドイツ語圏の文化を形成する精神を理解することを目指します。

授業内容

1)ドイツ語圏の地理1
2)ドイツ語圏の地理2
3)戦後ドイツ文学(第二次世界大戦)
4)戦後ドイツ文学(第二次世界大戦)
5)戦後ドイツ文学(壁の文学)
6)戦後ドイツ文学(壁の文学)
7)ドイツ文学のはじまり
8)ルターとドイツ文学
9)三十年戦争とドイツ文学
10)18世紀ドイツ文学(啓蒙の時代1)
11)18世紀ドイツ文学(啓蒙の時代2)
12)フランス革命とドイツ文学1
13)フランス革命とドイツ文学2
14)全体のまとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

普段からドイツ語圏・ヨーロッパのニュースに関心をもつこと。
手当たり次第にドイツ文学作品を読み、映画を見ること。

教科書

畠山寛ほか編著『ドイツ文学の道しるべ ニーベルンゲンから多和田葉子まで』(ミネルヴァ書房)

参考書

柴田翔編著『初めて学ぶ ドイツ文学史』(ミネルヴァ書房)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末レポートおよび試験(60%)と授業中に課す発表やレポート等の平常点(40%)を基準に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学史Ⅱ	**ドイツ文学史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語圏では、どのような時代にどのような文学が生まれたのか、ドイツ文学を担った作家たちはどのような土地に生活していたのか。ドイツ文学の作品を、その歴史的・地理的な背景をさぐりながら読み、その時代の人々が何を考えていたのか、文学が何を表現しようとしていたのかを考察します。

また、文学は、その他のさまざまな芸術・学問分野との交流のうえに成り立っています。哲学、宗教、映画、造形芸術、音楽、パフォーマンスアートなどにまで視野を広げつつ、ドイツ語圏の文化を形成する精神を理解することを目指します。

授業内容

1)ベルリンの歴史
2)フランス革命後のドイツ文学1
3)フランス革命後のドイツ文学2(ロマン派)
4)フランス革命後のドイツ文学3(ロマン派)
5)市民社会とドイツ文学1
6)市民社会とドイツ文学2
7)市民社会とドイツ文学3
8)産業化・大都市とドイツ文学1
9)産業化・大都市とドイツ文学2
10)第一次世界大戦とドイツ文学1
11)第一次世界大戦とドイツ文学2
12)第一次世界大戦後のドイツ文学1
13)第一次世界大戦後のドイツ文学2
14)全体のまとめ

履修上の注意

春学期の講義を踏まえた講義内容です。必ず春学期のドイツ文学史Ⅰも履修しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

普段からドイツ語圏・ヨーロッパのニュースに関心をもつこと。
手当たり次第にドイツ文学作品を読み、映画を見ること。

教科書

畠山寛ほか編著『ドイツ文学の道しるべ ニーベルンゲンから多和田葉子まで』(ミネルヴァ書房)

参考書

柴田翔編著『初めて学ぶ ドイツ文学史』(ミネルヴァ書房)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末レポートおよび試験(60%)と授業中に課す発表やレポート等の平常点(40%)を基準に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学テーマ研究 A	**ドイツ文学特殊研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 潤	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中世高地ドイツ語および中世ドイツ文学の入門のための授業。まず中世高地ドイツ語文法の基礎を学ぶ。その上で、ドイツ中世文学を読み解くための語学能力を身につけることを通し、ドイツ語に関する基本的な言語知識・感覚を獲得することができる。

ドイツ中世に成立した文学作品、具体的には 13 世紀初頭の成立が推測されている英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』を精読することにより、ドイツ中世という時代の様相(価値観、生活習慣、文化、社会状況など)を知ることができる。また、異稿との比較や研究文献および注釈を踏まえた上で独自の解釈の可能性を探るなど、中世文学研究を実践的に学ぶことができる。

授業内容

第 1 回 a:イントロダクション
b:ドイツ語史概説
第 2 回:中世高地ドイツ語入門(1)発音について
第 3 回:中世高地ドイツ語入門(2)冠詞、代名詞
第 4 回:中世高地ドイツ語入門(3)強変化動詞
第 5 回:中世高地ドイツ語入門(4)弱変化動詞、過去形現在動詞、語根動詞
第 6 回:中世高地ドイツ語入門(5)名詞、形容詞
第 7 回:『ニーベルンゲンの歌』読解のための基礎知識
第 8 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(1)―中世の社会
第 9 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(2)―宮廷風恋愛
第 10 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(3)―キリスト教的歴史観
第 11 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(4)―中世の戦争
第 12 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(5)―英雄と騎士
第 13 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(6)―騎士道と現実
第 14 回 a:既読部分に関しての解説
b:既読部分に関しての議論

以上の計画は、授業の進度や受講者からの希望などによって変更する場合がある。

履修上の注意

中世高地ドイツ語を学ぶことに主眼の一つを置き、またテクスト精読により授業を進めるため、現代ドイツ語の基礎知識は必須である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布する資料に目を通し、また精読に際しては配布テクストの担当箇所の訳を準備すること。授業で扱った内容精読した箇所に関して不明なことがあれば、授業で質問すること。

教科書

中世高地ドイツ語読解のため、以下の辞書を手元に用意してもらいたい。
Beate Hennig: Kleines Mittelhochdeutsches Wörterbuch. 7. Auflage (De Gruyter), 2022

参考書

『ニーベルンゲンの歌』前編・後編、相良守峯訳(岩波文庫)、1955 年

課題に対するフィードバックの方法

期末課題については、解説を Oh-o! Meiji を通じて配信する予定であるので、各自確認すること。

成績評価の方法

毎回担当箇所を指定し、訳読を行う。学期末に課題を提出してもらう予定。課題 40%、平常点 60%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文学テーマ研究 B	**ドイツ文学特殊研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山本 潤	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中世高地ドイツ語および中世ドイツ文学の入門のための授業。まず中世高地ドイツ語文法の基礎を学ぶ。その上で、ドイツ中世文学を読み解くための語学能力を身につけることを通し、ドイツ語に関する基本的な言語知識・感覚を獲得することができる。

ドイツ中世に成立した文学作品、具体的には 13 世紀初頭の成立が推測されている英雄叙事詩『ニーベルンゲンの歌』を精読することにより、ドイツ中世という時代の様相(価値観、生活習慣、文化、社会状況など)を知ることができる。また、異稿との比較や研究文献および注釈を踏まえた上で独自の解釈の可能性を探るなど、中世文学研究を実践的に学ぶことができる。

授業内容

第 1 回 a:イントロダクションおよび春学期の振り返り
b:ドイツ語史概説
第 2 回:中世高地ドイツ語入門(1)発音について
第 3 回:中世高地ドイツ語入門(2)冠詞、代名詞
第 4 回:中世高地ドイツ語入門(3)強変化動詞
第 5 回:中世高地ドイツ語入門(4)弱変化動詞、過去形現在動詞、語根動詞
第 6 回:中世高地ドイツ語入門(5)名詞、形容詞
第 7 回:『ニーベルンゲンの歌』の構造と主題
第 8 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(1)―中世社会における女性
第 9 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(2)―中世の結婚
第 10 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(3)―英雄伝説と歴史伝承
第 11 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(4)―キリスト教と騎士道
第 12 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(5)―「滅び」と「救済」
第 13 回:『ニーベルンゲンの歌』精読(6)―近世以降の中世文学受容
第 14 回 a:既読部分に関しての解説
b:既読部分に関しての議論

以上の計画は、授業の進度や受講者からの希望などによって変更する場合がある。

履修上の注意

中世高地ドイツ語を学ぶことに主眼の一つを置き、またテクスト精読により授業を進めるため、現代ドイツ語の基礎知識は必須である。また、秋学期から初めて履修する場合にも問題がないよう配慮するが、春学期開講のドイツ文学テーマ研究 A も併せて履修することが望ましい。精読は春学期に読了した箇所の続きから始めるため、それ以前の内容を日本語訳でよいので確認しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布する資料に目を通し、また精読に際しては配布テクストの担当箇所の訳を準備すること。授業で扱った内容精読した箇所に関して不明なことがあれば、授業で質問すること。

教科書

中世高地ドイツ語読解のため、以下の辞書を手元に用意してもらいたい。
Beate Hennig: Kleines Mittelhochdeutsches Wörterbuch. 7. Auflage (De Gruyter), 2022

参考書

『ニーベルンゲンの歌』前編・後編、相良守峯訳(岩波文庫)、1955 年

課題に対するフィードバックの方法

期末課題については、解説を Oh-o! Meiji を通じて配信する予定であるので、各自確認すること。

成績評価の方法

毎回担当箇所を指定し、訳読を行う。学期末に課題を提出してもらう。課題 40%、平常点 60%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ文化研究入門	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

3 年生以降に本格的に始まるドイツ語による文学・文化の研究に向けて、具体的な研究方法、研究対象・研究テーマの可能性、最新の研究の動向などを、ドイツ文学専攻の教員がそれぞれの研究をもとに、具体的な例を挙げつつ紹介・概説する。もってドイツ文化を概観しそれにアプローチする基礎力を養う。

授業内容

第 1 回 導入―「研究」とはなにか(福間)
第2回 英語・日本語から見たドイツ語(渡辺)
第3回 ドイツ語のいろいろ(方言、地域語、グループ語)(渡辺)
第4回 「ことばを使う」とは何をすることか(渡辺)
第5回 「美」から見る近代ドイツ文学(十八世紀～十九世紀)(冨重)
第6回 ジョルジュ-アルチュール・ゴルトシュミットと翻訳 (冨重)
第7回 言語と批評(岡本)
第8回 都市と文学－1920 年代のベルリン文学(岡本)
第9回 ジャンル論(Gattungstheorie)(マンデラルツ)
第10回 語りの理論 (Erzähltheorie)(マンデラルツ)
第11回 大学生のための研究技法(Arbeitstechniken für Studenten)(マンデラルツ)
第12回 ドイツ語詩の鑑賞(福間)
第13回 ドイツ語詩の研究(福間)
第14回 a.:筆記試験、b: 正答解説 (福間)

履修上の注意

担当教員の概説・問題提起を中心として進めることに加え、参加者とのインタラクション、質疑応答の機会を随時設ける。これを踏まえて履修のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

プリントや授業資料の予習・復習を欠かさないこと。あわせて、紹介した文献を読み、関連領域についての知見を深めること。

教科書

とくに指定しない。

参考書

阿部謹也『物語ドイツの歴史 ドイツ的とは何か』(中央公論新社)
1998
スイス文学研究会『スイスを知るための 60 章』(明石書店)2014
内藤道雄(編)『ドイツ詩を学ぶ人のために』(世界思想社)2003
他は追って紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を用いて、適宜課題の提示と講評を行う。

成績評価の方法

学期末に試験を行う。授業への出席・[授業時のコメントペーパーを含む]参加度 (45%)と学期末試験(55%)を総合して評価する。

その他

予習復習を欠かさず授業に積極的に参加し、問題意識をもって臨むこと。

科目ナンバー：(AL)IND211J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
統計学	統計学	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 岳人	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、統計学の基本的な考え方と知識を学ぶ。

近年、世の中にはさまざまなデータがあふれているが、それらを正しく扱い、客観的な判断を下すことは容易ではない。統計学は、そうしたデータを正しく理解するために役立つ学問である。しかし、「統計」という言葉を聞くと、複雑な数式を連想し、「難しそう」「とっつきにくい」と感じて敬遠する人も少なくないだろう。

本講義では、そのような先入観を持たずにデータを理解できるようになるため、PC 上の分析用ソフトである R を使用しながら、基礎から「統計」への理解を深めていく。

授業内容

1. イントロダクション
2. 「統計」とは
3. データを集める
4. データの種類を考える
5. データをまとめる
6. データを理解する
7. a:中間まとめ、b:中間テスト
8. 確率で考える
9. 確率を考える
10. 統計的に考える
11. データの関連について考える
12. 集団の違いを考える
13. 連続するデータの変化を考える
14. まとめ

履修上の注意

成績評価のために毎回課題を設定するため、期日までに必ず提出すること。

また授業内で PC を使用するため，各自でノート PC を持参することを推奨(難しい場合は貸出有)

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時間以外でも学習内容を実践することが、復習・予習となるため、重要である。日常生活でも、データを扱うニュースや話を見聞きする際に学びを活かせるよう意識していってほしい。

また、毎回の課題などで生じた疑問や問題は受講者間で相談しながら取り組むことを推奨する。

教科書

特に指定しない。

参考書

西村純一・井上俊哉『これから心理学を学ぶ人のための研究法と統計法』ナカニシヤ出版(2016)

吉田寿夫『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房(1998)

小島寛之『完全独習 統計学入門』ダイヤモンド社(2006)

課題に対するフィードバックの方法

課題は次の回の授業のはじめにフィードバックを全体に対して行う。

成績評価の方法

課題(50%)、授業への参加度(30%)、中間テスト(20%)。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL)LIN241J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
統語論入門 II	統語論B	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語の統語(文法)についての分析を行うことを通じて、統語論の基本的な考え方を少しずつ身に付けていくことを目的とします。内容としては、「統語論入門 I」の続きになります。より具体的には、皆さんが高校まで学んだ英語の学校文法と統語論との違いに留意しながら、文法形式と文法機能とのインターフェイスについて、述部、項、及び主題役割について、範疇横断的一般化：X バー統語論について概観します。

授業内容

1. The Grammatical Form - Grammatical Function Interface（文法形式と文法機能とのインターフェイス）(1)
2. The Grammatical Form - Grammatical Function Interface（文法形式と文法機能とのインターフェイス)(2)
3. The Grammatical Form - Grammatical Function Interface（文法形式と文法機能とのインターフェイス)(3)
4. Predicates, Arguments and Thematic Roles(述部、項、及び主題役割)(1)
5. Predicates, Arguments and Thematic Roles(述部、項、及び主題役割)(2)
6. Predicates, Arguments and Thematic Roles(述部、項、及び主題役割)(3)
7. Predicates, Arguments and Thematic Roles(述部、項、及び主題役割)(4)
8. Predicates, Arguments and Thematic Roles(述部、項、及び主題役割)(5)
9. Cross-categorial Generalization: X-bar Syntax(範疇横断的一般化：X バー統語論)(1)
10. Cross-categorial Generalization: X-bar Syntax(範疇横断的一般化：X バー統語論)(2)
11. Cross-categorial Generalization: X-bar Syntax(範疇横断的一般化：X バー統語論)(3)
12. Cross-categorial Generalization: X-bar Syntax(範疇横断的一般化：X バー統語論)(4)
13. Cross-categorial Generalization: X-bar Syntax(範疇横断的一般化：X バー統語論)(5)
14. Review(復習)

履修上の注意

2年次「統語論入門 I」を履修済みであることが好ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の指定箇所は、授業に来る前または授業を受講後に各自で読んで下さい。重要な内容を見落とし、理解不足のままにしておくと、その後の授業での内容が理解できなくなりますので、わからないことはその都度解決するように留意して下さい。

教科書

Bas Aarts (2024)English Syntax and Argumentation (6th Edition), Bloomsbury.(各自で Amazon JP などで購入して下さい。購入の際には、2024 年出版の第 6 版であることを確認してください)

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji で返却し授業で解説する

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、発表点 5%、宿題 25%、期末試験 60%

その他

科目ナンバー:(AL)LIN241J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
統語論入門 I	**統語論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
石井 透	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語の統語(文法)についての分析を行うことを通じて、統語論の基本的な考え方を少しずつ身に付けていくことを目的とします。内容としては、1 年次「英語学概論 I, II」で学んだ統語論についてさらに詳しく見ていくことになります。より具体的には、皆さんが高校まで学んだ英語の学校文法と統語論との違いに留意しながら、語・語の範疇(品詞)・句などの文法形式について、主語・目的語などの文法機能について、節や文について概観します。

授業内容

1. Introduction
2. Grammatical Forms: Words, Word Classes, and Phrases (文法形式について:語・語の範疇・句)(1)
3. Grammatical Forms: Words, Word Classes, and Phrases (文法形式について:語・語の範疇・句)(2)
4. Grammatical Forms: Words, Word Classes, and Phrases (文法形式について:語・語の範疇・句)(3)
5. Grammatical Forms: Words, Word Classes, and Phrases (文法形式について:語・語の範疇・句)(4)
6. Grammatical Forms: Words, Word Classes, and Phrases (文法形式について:語・語の範疇・句)(5)
7. Grammatical Function(文法機能について)(1)
8. Grammatical Function(文法機能について)(2)
9. Grammatical Function(文法機能について)(3)
10. Grammatical Function(文法機能について)(4)
11. Grammatical Function(文法機能について)(5)
12. More on Form: Clauses and Sentences(文法形式に関する追加事項:節と文)(1)
13. More on Form: Clauses and Sentences(文法形式に関する追加事項:節と文)(2)
14. More on Form: Clauses and Sentences(文法形式に関する追加事項:節と文)(3)

履修上の注意

1 年次「英語学概論 I, II」を履修済みまたは履修中であることが好ましい。情報コミュニケーション学部の方は「言語学」を履修済みまたは履修中であることが好ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の指定箇所は、授業に来る前または授業を受講後に各自で読んで下さい。重要な内容を見落とし、理解不足のままにしておくと、その後の授業での内容が理解できなくなりますので、わからないことはその都度解決するように留意して下さい。

教科書

Bas Aarts (2024)English Syntax and Argumentation (6th Edition), Bloomsbury.(各自で Amazon JP などで購入して下さい。購入の際には、2024 年出版の第 6 版であることを確認してください)

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji で返却し授業で解説する

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、発表点 5%、宿題 25%、期末試験 60%

その他

科目ナンバー:(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東洋思想の基本概念	**東洋思想研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

主として中国の思想をとりあげ、その鍵となる概念について解説する。概念の歴史的な意味、またその意味の変化を解説するとともに、その概念が現代においてもつ哲学的な可能性についても検討する。東アジアの伝統思想を繙く際に頻出する概念について、一定の知識を得て、その可能性について考察できる力を養うのが目標。

授業内容

第1回 天
第2回 理と天理と天主
第3回 無
第4回 道
第5回 自然
第6回 気, 陰陽
第7回 鬼神
第8回 人と禽獣
第9回 仁
第10回 礼
第11回 名
第12回 孝
第13回 性
第14回 善と悪

履修上の注意

本授業は哲学専攻・日本文学専攻・アジア史専攻の専攻選択科目 A であるが、文学部他専攻・他学部の学生の履修も歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回一つのテーマについて講義をするが、それぞれのテーマは互いに関連し合っているので、前回までの内容を振り返った上で、次の授業に臨むこと。

教科書

資料を PDF で配布する。

参考書

湯浅邦弘編著『中国思想基本用語集』(ミネルヴァ書房、2020)
溝口雄三・丸山松幸・池田知久編『中国思想文化事典』(東京大学出版会、2001)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対する講評を次回の授業で行う。

成績評価の方法

学期末レポート50%、原則毎授業ごとに提出してもらう課題50%。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東洋思想の古典を読む	**東洋思想研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

東洋思想の古典として『論語』をとりあげ、過去の思想家が『論語』を解釈する際にどのような哲学的争点を見出してきたのかを考察する。テキストとして江戸時代に松平頼寛が編纂した『論語徴集覧』を用いる。このテキストは、何晏の『論語集解』、朱熹の『論語集注』、伊藤仁斎の『論語古義』、荻生徂徠の『論語徴』を、『論語』の各章ごとに並べ直したものである。履修者には、参考文献を手掛かりに、朱熹、仁斎、徂徠のそれぞれの解釈の違いをはっきり説明できるよう、授業内で課題に取り組んでもらう。部分的にグループワークも取り入れる。

古典に対する研究の方法を学び、議論のポイントを的確に把握できる力を身につけるのが目標。

授業内容

第1回 『論語』の思想史
第2回 学而篇「有子曰, 其為人也孝弟」章の読解1
第3回 学而篇「有子曰, 其為人也孝弟」章の読解2
第4回 学而篇「弟子入則孝」章の読解
第5回 学而篇「有子曰, 礼之用和為貴」章の読解
第6回 為政篇「孟懿子問孝」章の読解
第7回 雍也篇「子貢曰, 如有博施於民」章の読解
第8回 子罕篇「子罕言利」章の読解
第9回 顔淵篇「顔淵問仁」章の読解1
第10回 顔淵篇「顔淵問仁」章の読解2
第11回 季氏篇「孔子曰, 天下有道」章の読解
第12回 陽貨篇「性相近也」章の読解1
第13回 陽貨篇「性相近也」章の読解2
第14回 まとめ

履修上の注意

本授業は哲学専攻・日本文学専攻の専攻選択科目 A であるが、文学部他専攻・他学部の学生の履修も歓迎する。
漢文を読む能力はあった方が望ましいが、授業は現代日本語訳をもとに進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

第2回以降、必ず事前に配布する資料に目を通し、事前課題に回答すること。

教科書

『論語徴集覧』の一部を PDF で配布する。

参考書

金谷治『論語』(岩波文庫)、吉川幸次郎『論語』(角川ソフィア文庫)、渡邉義浩『論語集解―魏・何晏(集解)』(早稲田文庫)、朱熹『論語集注』(土田健次郎訳注、平凡社、東洋文庫)、子安宣邦『仁斎論語―『論語古義』現代語訳と評釈』(ぺりかん社)、荻生徂徠『論語徴』(小川環樹訳注、平凡社、東洋文庫)

課題に対するフィードバックの方法

事前課題ならびに授業内の課題について、授業内で講評する。

成績評価の方法

事前課題20%、授業内での課題80%。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL141J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東洋の宗教	**東洋の宗教**	
担 当 者	開講期	開講地区
狩野 希望	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、イスラム世界の歴史をたどりながら、イスラム教の教義や宗教思想の発展史を学びます。イスラム教やイスラム世界での事象について、世間の言説にそのまま従うことなく自ら判断するための基礎となる知識を身に着けることがこの授業の目標です。

授業内容

第1回 ガイダンス・導入
第2回 イスラム史概説
第3回 イスラム教の成立とムハンマドの活動
第4回 コーラン概説
第5回 コーランとイスラム思想
第6回 正統カリフ時代からウマイヤ朝期：イスラム思想の萌芽
第7回 ギリシア文明の継承発展：哲学・神学・科学
第8回 イスラム法とイスラム法学
第9回 イスラム法学の発展
第 10 回 スーフィズム概説
第 11 回 スーフィズムの発展
第 12 回 近代以降：イスラムの政治思想
第 13 回 シーア派思想
第 14 回 まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書に目を通して予習・復習をしてください。関心を抱いた点については、他の資料にあたって深い理解に努めてください。

教科書

菊地達也編著『ふくろうの本 図説イスラム教の歴史』河出書房新社、2017 年.

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、授業の冒頭で前回授業のリアクションペーパーの講評を行います。

成績評価の方法

平常点 50%(出席回数・リアクションペーパーの内容・履修態度)
レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
都市地理学Ⅰ	**都市地理学Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
川口 太郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

都市は，その時代の新技術をもとに人が集まり，より安全に快適に生活するための発明である。そしてそこには，さまざまな権力関係，支配や差別・排除といった広義の社会関係が渦巻いており，人びとが新たに実現可能な秩序を創造しようとしてきた歴史がある。本講義の前半では，都市を取り巻く社会・経済・政治・技術の在り様から都市の変遷を追究するとともに，都市形成のメカニズムについて考えていく。また後半では，都市の記憶や景観を読み解くことを通じて，都市の地理学的アプローチの可能性を示していく。

授業内容

Ⅰ. 都市の発達
- 第1回 都市の地理学
- 第2回 都市の成立と発達
- 第3回 都市化とスラム
- 第4回 理想都市の設計
- 第5回 人口の集中と都市の拡大
- 第6回 郊外の発展と成熟(その 1)
- 第7回 郊外の発展と成熟(その 2)
- 第8回 大都市の空洞化と再生(その 1)
- 第9回 大都市の空洞化と再生(その 2)
- 第 10 回 成熟時代のまちづくり

Ⅱ. 都市を読む
- 第 11 回 都市の記憶(その 1)
- 第 12 回 都市の記憶(その 2)
- 第 13 回 都市の景観(その 1)
- 第 14 回 都市の景観(その 2)

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用する PPT スライドを，授業開始までにクラスウェブにアップロードするので，各自ダウンロードされたい。
授業中の資料配布は行わない。

教科書

特定の教科書は用いない。必要な参考書を授業中に随時紹介する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

質問などの問い合わせがあれば随時対応する。

成績評価の方法

3 回程度のレポート課題を課す。すべての課題を提出するのが合格の必要条件である。
ただし，受講生の数によっては，学期末の試験に替えることもある。
ちなみに過年度の評価は，S(20.0%)，A(22.3%)，B(22.3%)，C(20.0%)，F(15.3%)

その他

科目ナンバー：(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
都市地理学Ⅱ	**都市地理学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
川口 太郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

都市は，その時代の新技術をもとに人が集まり，より安全に快適に生活するための発明である。そしてそこには，さまざまな権力関係，支配や差別・排除といった広義の社会関係が渦巻いており，人びとが新たに実現可能な秩序を創造しようとしてきた歴史がある。

本講義では，現代社会に作用する生産と消費の経済システム，国家や統治に関する社会関係，人口問題を取り巻く家族・ジェンダー関係などさまざまな視点から今日の都市の諸断面を描き出し，都市を取り巻く今日的課題を理解するとともに，その対処法を見いだす一助としたい。

授業内容

Ⅰ. ポストフォーディズムの世界と都市
- 第1回 世界経済の構造転換
- 第2回 フレキシブルな経済と労働市場

Ⅱ. 情報化と都市
- 第3回 情報化の進展
- 第4回 情報化がもたらす社会の分断
- 第5回 情報化がもたらす社会の格差
- 第6回 情報化と都市空間
- 第7回 情報化と空間管理社会

Ⅲ. 人口の少子高齢化と都市
- 第8回 人口の少子化
- 第9回 少子化社会への対応
- 第 10 回 人口の高齢化
- 第 11 回 人口縮小時代の都市再編

Ⅳ. 国際化と都市
- 第 12 回 日本の外国人
- 第 13 回 外国人との共生
- 第 14 回 都市の政治

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で使用するPPTスライドを，授業開始までにクラスウェブにアップロードするので，各自ダウンロードされたい。
授業中の資料配布は行わない。

教科書

特定の教科書は用いない。必要な参考書を授業中に随時紹介する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

質問などの問い合わせがあれば随時対応する。

成績評価の方法

3 回程度のレポート課題を課す。すべての課題を提出するのが合格の必要条件である。

その他

科目ナンバー：(AL)SOC211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
都市とコミュニティの社会学	**コミュニティデザイン論**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 久美子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

みなさんはいま、自分自身が住み、学び働き、憩い、思考している「場」を、どのように捉えているだろうか？そもそも、それを何と呼んでいるだろうか？

本講義では、社会学の個別分野である「都市社会学」の立場から、「都市とコミュニティ」を通して、社会そのものと、併せて自らの生活、自らの生き方を見い出していくことを目指す。そこで、「都市社会学」「コミュニティ論」の知見を解説すると同時に、自らが関心を寄せる特定の「場」を訪れて、現場を観察する(＝フィールドワーク)ことを実践してもらうために、並行して、方法論としての「フィールドワーク／エスノグラフィー論(質的調査)」についても論じる。

受講者一人ひとりが、社会【＝都市・コミュニティ】と関わるうえで必要となるものの見方、考え方を身につけ、その成果として、自らのまなざしを通して見たもの考察したことを、「調査レポート」というかたちで書き起こし、表現することができるようになることを到達目標として掲げる。

授業内容

第1回：aのみ：イントロダクション
　　(都市とコミュニティから社会、そして自分自身をみつめる)
第2回：都市感覚を鍛えよう 1：フィールドワークのイメージをつくろう
第3回：都市・コミュニティとライフ・ストーリー
第4回：都市とはなにか
第5回：コミュニティとはなにか
第6回：都市感覚を鍛えよう 2：フィールドワーク・レッスンに向けて
第7回：都市化とコミュニティの変容
第8回：都市・コミュニティの危機と再編 1：労働力の移動とインナーシティ
第9回：都市・コミュニティの危機と再編 2：郊外のゆくえ
第 10 回：都市・コミュニティとウェルビーイング 1：現代都市が災害に向き合うとき
第 11 回：都市・コミュニティとウェルビーイング 2：都市化と家族のゆくえ
第 12 回：都市・コミュニティとウェルビーイング 3：超少子高齢社会を生きる
第 13 回：都市・コミュニティとソーシャルインクルージョン
第 14 回：都市とコミュニティのエスノグラフィー

履修上の注意

毎回の課題(お題に対しての自由記述)⇒中間レポート①⇒中間レポート②⇒最終レポートと、プロセスを踏んだ学びを計画的に行っていく。とりわけ、中間レポート②および最終レポートは、実際に現場に出てもらう(＝フィールドワークの実施)ことを予定しており、テーマ内容に積極的に関わる意欲のある受講者を歓迎する。

なお、上記の課題等をとりまとめた資料を次回以降の教材として取り扱うこともあるので、自分の書いた成果物が他者の目に触れること、他者の書いた成果物を読むことで他者の意見を知ることができることを、自覚的、能動的にとらえてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、授業ごとに配信する資料の最後に次回テーマを予告するので、事前にキーワード等を調べておくこと。リアルタイムの社会をよみとるために、ニュースを常にチェックしておくこと。

復習としては、授業で提示した問題についてさらに調べてみること、不明な部分があれば直接質問すること。

最終課題である「調査レポート」に向けて、その対象や方法等、授業でプロセスを踏んで解説していくが、自分でも積極的に早い段階から予め考え始め、情報を収集しておくこと。不明な部分があれば直接質問すること。

なお、中間レポートとして、①ライフ・ストーリー作成、②フィールドワーク・レッスンの成果物作成という 2 つのレッスン課題を出すので、最終レポートに向けて前向きに取り組んでほしい。

予習・復習ともに 30～45 分程度する。また中間レポート作成に関しては、それにプラスして 90～180 分程度要する。

教科書

特に定めない。

参考書

『改訂版 都市社会学・入門』松本康編(有斐閣アルマ)2022 年
『改訂版 エスノグラフィー入門 〈現場〉を質的研究する』小田博志(春秋社)2023 年
『都市感覚を鍛える観察学入門 まちを読み解き、まちをつくる』平本一雄・未繁雄一(晶文社)2023 年

課題に対するフィードバックの方法

授業後の課題の一部は、教材としてまとめて配信する。講義内で全体的な講評を行うともに、個々にじっくり他者の言説にも直接触れたうえで、自らの考察を深める一助とする。

なお、提出された課題に対する全体的な講評のほか、担当者のコメントを個人的に欲する場合は、直接リクエストしていただければ、必ず対応する。

成績評価の方法

毎回の課題(30%)、中間レポート①「ライフ・ストーリー」(10%)、中間レポート②「フィールドワーク・レッスン」(20%)、調査レポート(40%)。

その他

科目ナンバー：(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドラマトゥルギー分析	**戯曲論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

戯曲論 A と同様，演劇上演における戯曲の役割について，古今の劇作品を実際に比較しながら，検証していく。

授業内容

マーティン・エスリン『ドラマの解剖』を軸に，劇作品を構成する諸要素の実際を検討する。その際，そこに扱われている劇作品については可能な限り紹介していく。

1. 批評的語彙の有効性1 ジャンル分けと作品理解
2. 批評的語彙の有効性2 重要なキーワード
3. 悲劇，喜劇，悲喜劇のジャンル分類の意味 1
4. ジャンル分類の意味2 喜劇と悲劇の境界
5. ジャンル分類の意味3 悲喜劇と現代戯曲
6. 舞台とメディア1 劇表現の媒体
7. 舞台とメディア2 機械的再生メディアとドラマ
8. 舞台とメディア3 ドラマの歴史とその細分化
9. イリュージョンと現実1 ドラマと現実性
10. イリュージョンと現実2 俳優のイリュージョン
11. イリュージョンと現実3 現代戯曲のイリュージョン破り
12. ドラマと社会のかかわり1 ドラマと政治性
13. ドラマと社会のかかわり2 ドラマと社会
14. ドラマと真実，フィクション 劇世界の描ける範囲

履修上の注意

春学期同様，扱われた劇作品が実際に上演される場合，授業として鑑賞に行く。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業のスライドは Oh-o! Meiji の授業サイトに、授業終了後にアップロードされる。次の回までにスライドに目を通しておくこと。それが復習であると同時に次の回への予習となる。次の回は必ず前回の振り返りから始まる。

教科書

授業内でプリント配布

参考書

エスリンの上記の著書の二種類の翻訳(『ドラマを解剖する』山内登美訳，『演劇の解剖』佐久間康夫訳)は積極的に参照して欲しい。

課題に対するフィードバックの方法

毎回課題を提示し、次の会の授業はその中の代表的なコメントを紹介する。その振り返りをもって、フィードバックとしていく。

成績評価の方法

毎回の授業内で課される小テスト・小レポートを評価の対象とする。

その他

授業内ではあるが，レポート数本分の分量の文章を書いてもらうことになるのでそのつもりで受講してほしい。

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドラマトゥルギー論	**戯曲論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 優	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演劇上演における戯曲の役割について，古今の劇作品を実際に比較しながら，検証していく。

授業内容

マーティン・エスリン『ドラマの解剖』を軸に，劇作品を構成する諸要素の実際を検討する。その際，そこに扱われている劇作品については可能な限り紹介していく。

1. 戯曲とは何か
2. 戯曲の定義1 今日のドラマ
3. 戯曲の定義2 マス・メディアとドラマ
4. 戯曲の本質1 行動の表現としてのドラマ
5. 戯曲の本質2 遊戯本能とドラマ
6. 集団的体験としてのドラマ1 観客とその反応
7. 集団的体験としてのドラマ2 演劇と祭儀
8. 集団的体験としてのドラマ3 ドラマと政治
9. 様式と人物1 作品の様式と演技
10. 様式と人物2 観客に対する事前情報としての様式
11. 様式と人物3 ドラマと行動
12. 戯曲の構造1 サスペンスの構築
13. 戯曲の構造2 古典的構造の戯曲
14. 戯曲の構造3 ドラマとその分節化

履修上の注意

扱われた劇作品が実際に上演される場合，授業として鑑賞に行く。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業のスライドは Oh-o! Meiji の授業サイトに、授業終了後にアップロードされる。次の回までにスライドに目を通しておくこと。それが復習であると同時に次の回への予習となる。次の回は必ず前回の振り返りから始まる。

教科書

授業内でプリント配布

参考書

エスリンの上記の著書の二種類の翻訳(『ドラマを解剖する』山内登美雄訳，『演劇の解剖』佐久間康夫訳)は積極的に参照して欲しい。

課題に対するフィードバックの方法

毎回課題を提示し、次の会の授業はその中の代表的なコメントを紹介する。その振り返りをもって、フィードバックとしていく。

成績評価の方法

毎回の授業内で課される小テスト・小レポートを評価の対象とする。

その他

授業内ではあるがレポート数本分の文章を小テストで書いてもらうことになる。作業としては決して楽ではないのでそのつもりで参加してほしい。

科目ナンバー:(AL)LIT192J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日韓比較文学	**日韓比較文学**	
担 当 者	開講期	開講地区
金 任仲	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日韓比較文学は、日韓両国の文学・文化の相互関係について、その交流の歴史と文学作品などを通して跡付ける研究である。その中で、中世文学の絵巻・伝記・説話集において、新羅僧である元暁・義湘の思想と言説が、どのように受け止められ、日本の思想文化の形成にいかなる影響を及ぼしていたか、明恵と元暁・義湘との関連を文献資料に基づき、日韓比較文学について必要な知識を学ぶ。

授業内容

具体的には、明恵と元暁・義湘の伝記に関する基礎的知識を解説し、彼らの出家と仏教説話を考察する。また、明恵と元暁・義湘との関連について、高山寺関連資料・絵巻・説話集・史書、韓国の『三国遺事』・『三国史記』など、日韓両国の資料を多様に援用しながら比較分析し、日本中世文学における仏教説話の受容の形態を考察する。

第１回:明恵の出家と遁世
第２回:『華厳縁起』の成立と伝来
第３回:絵巻の筆者
第４回:元暁絵・義湘絵制作の背景
第５回:新羅僧元暁の伝記
第６回:新羅僧義湘の伝記
第７回:明恵と元暁との関係
第８回:元暁の入唐放棄と開悟
第９回:明恵の印度渡航の断念
第10回:天竺への思い
第11回:明恵の捨身行
第12回:明恵周辺の女性たち
第13回:女性との夢
第14回:善妙寺の尼僧・まとめ
以上のように講義を進める予定であるが、順序や内容に変更もあり得る。

履修上の注意

質問や意見は、講義後に受け付けるが、できれば毎回配布する「出席カード」の裏面に書いて提出してほしい。次の講義に必ず回答する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に絵巻の該当箇所の詞書釈文を読み、次回の授業内容に関する詞書釈文の意味について仏教辞典等で調べること。復習として、絵巻及び参考書の該当箇所を読んで理解すること。

教科書

特に定めない。
(続日本の絵巻『華厳宗祖師絵伝(華厳縁起)』、中央公論社、1990 年)。

参考書

奥田勲『明恵―遍歴と夢』(東京大学出版会、1978 年)、河合隼雄『明恵、夢を生きる』(京都松柏社、1987 年)。他の参考文献は、必要に応じて講義の際に紹介・解説する。

課題に対するフィードバックの方法

課題については、授業中にその内容に対して伝達する。

成績評価の方法

平常点(30%)、期末試験(70%)にして総合的に評価する。

その他

授業中に配布されたプリント類は重要であり、ファイルにして必ず授業の際にすべて持参すること。

科目ナンバー：(AL)ART131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本演劇史ＩA	**日本演劇史ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本では、伝統的な演劇、すなわち過去からの伝統を継承して上演されている演劇と、現代的な演劇、すなわち日々の新しい事象を反映して生み出される現代劇が同時に存在している。日本の演劇について深く考察するには、双方の演劇を理解することが必要である。本講義では、中世以来の伝統を持つ能・狂言に焦点をあてて、舞台鑑賞を想定した入門的な授業を行う。この講義を通して、受講者ひとりひとりが、伝統的な演劇にアプローチするための基礎的な知識を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回 伝統的な演劇「能・狂言」の特徴
第2回 能・狂言鑑賞入門1能・狂言の物語(「典拠」)
第3回 能・狂言鑑賞入門2能・狂言の上演ルール(カテゴリー)
第4回 能・狂言鑑賞入門3能の作品例
第5回 能・狂言鑑賞入門4能の表現の特徴1(「台本」)
第6回 能・狂言鑑賞入門5能の表現の特徴2(「身体表現」)
第7回 能・狂言鑑賞入門6狂言における「笑い」の表現(「省略」「誇張」の手法)
第8回 能・狂言についての考察(まとめ1)
第9回 能・狂言鑑賞入門7 能・狂言の劇場(能楽堂という劇場)
第 10 回 能・狂言鑑賞入門8 能・狂言の表現形式(物語の「型」―「夢幻能」)
第 11 回 能・狂言鑑賞入門9 能・狂言の表現形式(「型」の文化)
第 12 回 能・狂言鑑賞入門 10 能・狂言の舞台装置(能面・作り物・装束)
第 13 回 能・狂言鑑賞入門 11 能・狂言の音楽(囃子)
第 14 回 能・狂言についての考察(まとめ2)「現代演劇」と「伝統的演劇」

履修上の注意

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意します。過去のレジュメや資料に戻り説明することもありますから、レジュメや資料には、毎回、きちんと目を通しておいてください。また、「対面」での講義の場合には、各回で配布されたプリントは、次回以降も持参してください。、日本演劇史ＩＢと合わせて履修することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意しますが、レジュメや資料の内容には、前後の講義につながる重要な項目が含まれます。したがって毎回のレジュメや資料を丁寧に見直すことが、そのまま「予習」や「復習」になります。資料のなかに難しい言葉などがあれば、辞書や事典類を用いて、自身で知らべておくことが重要です。

教科書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめますので、特に教科書は指定しませんが、授業のはじめに参考図書を紹介します。

参考書

本講義では、各回ともレジュメを中心に授業をすすめますので、参考図書は必須ではありません。しかし、自身の予習・復習のために、以下の参考図書があるとより理解が深まるでしょう。その他の参考図書については、講義の最初に紹介します。
西野春雄・竹西寛子『能・狂言・風姿花伝』(新潮古典文学アルバム15)(新潮社)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーや、レポートについて、必要に応じ全体に向けてコメントする。コメントは、基本的に講義のなかで伝える。

成績評価の方法

中間レポート(「小論文」)または中間テスト 35%、授業への貢献度 30%、期末レポート(「小論文」)または期末試験 35%
上記各項目における得点取得が必須

その他

能・狂言等を鑑賞(放映・配信を含む)した上での鑑賞レポート(小論文)の提出を求める場合があります。鑑賞が設定された場合には、積極的に視聴してください。

科目ナンバー：(AL)ART131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本演劇史ＩB	**日本演劇史ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本では、伝統的な演劇、すなわち過去からの伝統を継承して上演されている「古典劇」と、現代的な演劇、すなわち日々の新しい事象を反映して生み出される「現代劇」が同時に存在している。日本の演劇について深く考察するには、双方の演劇を理解することが必要である。本講義では、中世以来の伝統を持つ能・狂言に焦点をあてて、そのルーツを遡り、また、近代までの展開をおおまかにたどる。古代からの日本演劇の流れを概観することを通して、受講者ひとりひとりが、伝統的な演劇について考えるための基本的な知識を身につけて欲しい。

授業内容

第1回 舞踊や演劇のルーツ
第2回 古代の舞踊・演劇
第3回 中世の舞踊・演劇
第4回 芸能探訪(1)寺院で行われた芸能
第5回 芸能探訪(2)民間で行われた芸能
第6回 芸能探訪(3)伝統演劇と伝承形態
第7回 「伝統的演劇」(「古典劇」)についての考察(まとめ1)「演劇」と祭祀
第8回 能の誕生―「劇」の萌芽
第9回 能の作品と作者―世阿弥の作品(1)
第 10 回 能の作品と作者―世阿弥の作品(2)
第 11 回 能の作品と作者―世阿弥の作品(3)
第 12 回 狂言の「笑い」と祝祷
第 13 回 近世から近代にかけての能・狂言(「伝統」とその展開)
第 14 回 「伝統的演劇」(「古典劇」)についての考察(まとめ2)「古典劇」と「現代劇」

履修上の注意

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意します。過去のレジュメや資料に戻り説明することもありますから、レジュメや資料には、毎回、きちんと目を通しておいてください。また、「対面」での講義の場合には、各回で配布されたプリントは、次回以降も持参してください。、日本演劇史ＩＡと合わせて履修することを強く推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意しますが、レジュメや資料の内容には、前後の講義につながる重要な項目が含まれます。したがって毎回のレジュメや資料を丁寧に見直すことが、そのまま「予習」や「復習」になります。資料のなかに難しい言葉などがあれば、辞書や事典類を用いて、自身で知らべておくことが重要です。

教科書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめますので、特に教科書は指定しませんが、授業のはじめに参考図書を紹介します。

参考書

本講義では、各回ともレジュメを中心に授業をすすめますので、参考図書は必須ではありません。しかし、自身の予習・復習のために、以下の参考図書があるとより理解が深まるでしょう。その他の参考図書については、講義の最初に紹介します。
天野文雄『現代能楽講義』(大阪大学新世紀レクチャー)(大阪大学出版会)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーや、レポートについて、必要に応じ全体に向けてコメントする。コメントは、基本的に講義のなかで伝える。

成績評価の方法

中間レポート(「小論文」)または中間テスト 35%、授業への貢献度 30%、期末レポート(「小論文」)または期末試験 35%
上記各項目における得点取得が必須

その他

能・狂言等を鑑賞(放映・配信を含む)した上での鑑賞レポート(小論文)の提出を求める場合があります。鑑賞が設定された場合には、積極的に視聴してください。

科目ナンバー:(AL)ART231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本演劇史ⅡA	**日本演劇史ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢内 賢二	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

近世における歌舞伎の成立と発展について概説する。
適宜映像資料等を視聴して理解の助けとする。
第５回(５月 19 日)には歌舞伎俳優・女方の中村蝶紫丈(https://meikandb.kabuki.ne.jp/actor/207/)による特別講義を実施する。
日本の演劇史について基礎的な知識を修得し、伝統芸能の同時代の文化としての価値を理解することを目標とする。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 歌舞伎の成立(1)前史
第３回 歌舞伎の成立(2)初期歌舞伎の様相
第４回 歌舞伎の成立(3)女方の成立
第５回 特別講義・女方の演技と心得(歌舞伎俳優　中村蝶紫丈)
第６回 元禄期の歌舞伎(1)上方の和事
第７回 元禄期の歌舞伎(2)江戸の荒事
第８回 元禄期の歌舞伎(3)戯曲・演技・演出の発展
第９回 歌舞伎の舞台機構(1)歴史的変遷
第 10 回 歌舞伎の舞台機構(2)演出の特色
第 11 回 歌舞伎の舞台機構(3)舞台における効果
第 12 回 歌舞伎と人形浄瑠璃の交流
第 13 回 近世中期の歌舞伎
第 14 回 a:まとめ、b:試験

履修上の注意

毎回リアクションペーパーの提出を課し、成績評価の一部とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料や参考書による予習・復習を行い、不明点は可能な範囲で調べること。
歌舞伎をはじめ、人形浄瑠璃、能楽、演芸などの伝統芸能を劇場または配信で見物する機会をもってもらいたい。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

いずれも授業で直接には使用しないが参考までに。
『ちゃぶ台返しの歌舞伎入門』矢内賢二(新潮選書)
『岩波講座 歌舞伎・文楽』鳥越文蔵他編(岩波書店)
『日本芸能史』芸能史研究会編(法政大学出版局)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対する回答・講評を翌週の授業または Oh-o! Meiji で行う。

成績評価の方法

期末試験 60%、授業への参加度 40%(リアクションペーパーの内容を含む)。

その他

科目ナンバー:(AL)ART231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本演劇史ⅡB	**日本演劇史ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢内 賢二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

歌舞伎と人形浄瑠璃を中心に、近世における演劇・芸能の成立と発展について概説する。
歌舞伎については生世話物・怪談物の名作として知られる『東海道四谷怪談』を抜粋で鑑賞しながら戯曲や演技・演出の特色について解説する。
人形浄瑠璃については成立の過程を解説した後に作品を抜粋で鑑賞する。
適宜映像資料等を視聴して理解の助けとする。
日本の演劇史について基礎的な知識を修得し、日本の演劇・芸能の表現の特質について理解することを目標とする。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 鶴屋南北－時代背景と作劇の特色
第３回 作品鑑賞『東海道四谷怪談』(1)
第４回 作品鑑賞『東海道四谷怪談』(2)
第５回 作品鑑賞『東海道四谷怪談』(3)
第６回 作品鑑賞『東海道四谷怪談』(4)
第７回 人形浄瑠璃の成立と発展(1)語り物の歴史
第８回 人形浄瑠璃の成立と発展(2)語り物の特色
第９回 人形浄瑠璃の成立と発展(3)人形操りの歴史と特色
第 10 回 人形浄瑠璃の表現の特質(1)時代物
第 11 回 人形浄瑠璃の表現の特質(2)世話物
第 12 回 落語の成立と発展
第 13 回 落語の表現の特質
第 14 回 a:まとめ、b:試験

履修上の注意

毎回リアクションペーパーの提出を課し、成績評価の一部とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料や参考書による予習・復習を行い、不明点は可能な範囲で調べること。
できれば歌舞伎をはじめ、人形浄瑠璃、能楽、演芸などの伝統芸能を劇場または配信で見物する機会をもってもらいたい。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

いずれも授業で直接には使用しないが参考までに。
『ちゃぶ台返しの歌舞伎入門』矢内賢二(新潮選書)
『岩波講座 歌舞伎・文楽』鳥越文蔵他編(岩波書店)
『日本芸能史』芸能史研究会編(法政大学出版局)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対する回答・講評を翌週の授業または Oh-o! Meiji で行う。

成績評価の方法

期末試験 60%、授業への参加度 40%(リアクションペーパーの内容を含む)。

その他

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本演劇史ⅢA	**日本演劇史ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
矢内 賢二	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

幕末から明治期における演劇・芸能の発展について概説する。
特に演劇改良の具体的な様相について解説するとともに、歌舞伎の作者・役者・観客・興行師等がそれに対してどのように反応し、近代劇の確立への道程が用意されていったかを検討する。
日本の演劇史について基礎的な知識を修得し、演劇という表現の特質や、演劇及び周辺文化と社会との関わりを理解することを目標とする。

授業内容

第１回 イントロダクション
第２回 幕末の歌舞伎と河竹黙阿弥(1)
第３回 幕末の歌舞伎と河竹黙阿弥(2)
第４回 演劇改良(1)
第５回 演劇改良(2)
第６回 演劇改良(3)
第７回 演劇改良(4)
第８回 九代目市川団十郎の事績
第９回 「活歴」の特色と意義
第10回 五代目尾上菊五郎の事績
第11回 「散切物」の特色と意義
第12回 川上音二郎の事績
第13回 新派劇の成立と発展
第14回 a:まとめ、b:試験

履修上の注意

「日本演劇史 IIA」「日本演劇史 IIB」を履修しておくことが望ましい。
毎回リアクションペーパーの提出を課し、成績評価の一部とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料や参考書による予習・復習を行い、不明点は可能な範囲で調べること。
できれば歌舞伎をはじめ、人形浄瑠璃、能楽、演芸などの伝統芸能を劇場または配信で見物する機会をもってもらいたい。

教科書

適宜プリントを配布する。

参考書

いずれも授業で直接には使用しないが参考までに。
『明治キワモノ歌舞伎 五代目尾上菊五郎の時代』矢内賢二(講談社学術文庫)
『明治、このフシギな時代』1・2・3 矢内賢二編(新典社)
『ちゃぶ台返しの歌舞伎入門』矢内賢二(新潮選書)
『岩波講座 歌舞伎・文楽』鳥越文蔵他編(岩波書店)
『日本芸能史』芸能史研究会編(法政大学出版局)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対する回答・講評を翌週の授業または Oh-o! Meiji で行う。

成績評価の方法

期末試験 60%、授業への参加度 40%(リアクションペーパーの内容を含む)。

その他

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本演劇史ⅢB	**日本演劇史ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 真紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本の演劇は、近代以降、欧米の演劇からの影響を受けて大きく変化した。現在上演されている「現代劇」の直接的なルーツを探ると、明治後期に始まる「近代劇」の上演活動に至るであろう。本講義では、明治末期以降に、西欧文化を摂取しつつ成長した日本の「近代劇」の様相を、時代ごとのトピックを中心に探る。第二次世界大戦終結までの時代において、日本の演劇が各時期の課題にどのように向き合ってきたのか、その軌跡をふまえたうえで現代の演劇についても再考して欲しい。

授業内容

第1回 日本演劇の「近代」
第2回 自由劇場の成立－小山内薫の活躍
第3回 文芸協会の設立－坪内逍遙による演劇改革
第4回 帝国劇場の開場－国家と国民のための劇場
第5回 日本の「社会劇」－イプセンの受容と「女優」の登場
第6回 「民衆」のための演劇－島村抱月・松井須磨子と芸術座
第7回 文学者による戯曲とその上演―「新歌舞伎」の世界
第8回 明治末から大正前期の日本演劇(まとめ 1)
第9回 関東大震災後の東京の演劇
第10回 築地小劇場の設立―翻訳劇の上演と近代劇の演技術
第11回 築地小劇場の展開―創作戯曲の上演
第12回 新国劇と前進座－「大衆」のための演劇と「プロレタリア演劇」
第13回『劇作』派の演劇－岸田國士の演劇観
第14回 大正後期から昭和期の日本演劇(まとめ 2)

履修上の注意

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意します。過去のレジュメや資料に戻り説明することもありますから、レジュメや資料には、毎回、きちんと目を通しておいてください。また、「対面」での講義の場合には、各回で配布されたプリントは、次回以降も持参してください。、同時代日本演劇 A と合わせて履習することを推奨します。

準備学習(予習・復習等)の内容

ほぼ毎回講義のレジュメおよび参考資料を用意しますが、レジュメや資料の内容には、前後の講義につながる重要な項目が含まれます。したがって毎回のレジュメや資料を丁寧に見直すことが、そのまま「予習」や「復習」になります。資料のなかに難しい言葉などがあれば、データベースや辞書・事典類を用いて、自身で知らべておくことが重要です。

教科書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめますので、特に教科書は指定しませんが、各時代のトピックごとに参考図書を紹介します。

参考書

基本的に講義のレジュメおよび参考資料を中心に授業をすすめます。各時代のトピックごとに必要に応じて参考図書を紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーや、レポートについて、必要に応じ全体に向けてコメントする。コメントは、基本的に講義のなかで伝える。全体に向けてのコメントがあった箇所は、重要なポイントであることも多いので、注意して復習をして欲しい。

成績評価の方法

中間レポート(「小論文」)または中間テスト 35%、授業への貢献度 30%、期末レポート(「小論文」)または期末試験 35%
上記各項目における得点取得が必須

その他

作品を鑑賞(放映・配信を含む)した上での鑑賞レポート(小論文)の提出を求める場合があります。鑑賞が設定された場合には、積極的に視聴してください。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本近現代史料学	**日本史料学Ⅳ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岩村 麻里	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義では、主に国・地方自治体における文書管理や編さん事業について理解を深めるとともに、近代史料を読み解くための基礎的な力を身につけることを目標とします。

第1回から第5回までは、近代以降の公文書の管理や様式について概説し、第6回以降は様々なアーカイブズの事例を取り上げて近現代史料をめぐる現状や課題について学んでいきます。

授業内容

第1回:イントロダクション～アーカイブズとは～
第2回:公文書管理をめぐる現状
第3回:明治太政官制下の公文書管理
第4回:明治太政官文書の様式
第5回:内閣制下の公文書管理
第6回:明治政府の修史事業～復古記の編纂～
第7回:明治政府の修史事業～府県史料の編纂～
第8回:維新史料編纂会の活動と日本史籍協会叢書の編纂
第9回:旧藩主家の近代史料
第10回:地方自治体におけるアーカイブズ機関
第11回:自治体史編纂の現状
第12回:企業アーカイブズの事例
第13回:大学アーカイブズの事例・総括
第14回:期末試験

履修上の注意

毎授業、史料(くずし字)の解読を行うので辞書等を持参して受講することを推奨する。

準備学習(予習・復習等)の内容

解読する史料について、予習が必要な場合には事前に指示する。
くずし字解読の能力は、一朝一夕に得られるものではなく地道な鍛練が必要である。授業の復習を心がけるなど、日頃から史料に慣れ親しんでおくこと。

教科書

特に定めない。適宜資料を配布する。

参考書

児玉幸多編『くずし字用例辞典普及版』(東京堂出版、1993 年)
児玉幸多編『くずし字解読辞典普及版』(東京堂出版、1993 年)
中野目徹『近代史料学の射程 —明治太政官文書研究序説—』(弘文堂、2000 年)
その他必要に応じて、授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業の冒頭で、前回の課題についての解説・総括を行う。

成績評価の方法

平常点(授業毎の小課題・リアクションペーパーなど)(50%)および期末試験(50%)により総合的に評価する。

その他

講義内容は受講生の関心や授業の進度により変更することがある。

科目ナンバー：(AL)HIS211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本近世史	**日本近世史**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 浩一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本近世(江戸時代)の人々が、どのような自然災害に遭遇し、どのように対応していたのかについて講義する。そのことを通じて、自然と人間の相互浸透関係に関する理解を深めることが到達目標である。

2011 年東日本大震災以後、2016 年熊本地震、2018 年西日本豪雨、2019 年台風 19 号、2021 年から 3 年続いた新型コロナウィルス感染症、2024 年能登半島地震および 2025 年洪水など、19 世紀半ば以来の大地動乱期を迎え、さらに地球温暖化の影響が目に見えて現れはじめた現在を考えると、日本史のなかで災害史を学ぶことはとても重要である。このことは、第一に防災意識を高めることにつながる。さらにそれだけでなく、私たちの歴史の見方を豊富にすることにもつながる。地球環境危機が叫ばれるなか、私たちは自然と人間の関係について再考を迫られている。大災害を引き起こす地震や台風は自然現象のなかのイベント(事象)である。それら は自ら意志を持っているわけではなく、生物ですらないが、被害が甚大であった場合には人間の歴史に大きな影響を与える。歴史が人間だけで作られてきたわけではないことを顕著に示す学習対象としても有効である。

災害を考える際に注意しなければならない点をあらかじめ述べておく。まず災害を引き起こす自然現象を人間に対する単なる脅威としてのみ見ないという点である。この自然の脅威という見方は、人間が自然を克服してきたという歴史観の裏返しである。自然克服史観は地球環境悪化を引き起こしてきた人間活動を是認している。こうした私たちが無意識に抱いているパラダイムを考え直さなくてはならない。「復興」という言葉にも気を付けなければならない。これも自然克服パラダイムを無意識に前提としている場合が多い。このような問題に歴史を通じて取り組むことが、災害史の究極の課題である。

授業内容

第 1 回 授業の進め方、および基本的な考え方、前提となる日本列島の自然条件
第 2 回 日本列島の近世災害と被害
第 3 回 日本列島の災害対応と復旧
第 4 回 災害対応と文書行政
第 5 回 水害記録と対策マニュアルの形成
第 6 回 災害復興をめぐる近世都市政策と地域社会
第 7 回 江戸の天明期連続複合災害
第 8 回 江戸の安政期連続複合災害
第 10 回 江戸水害と都市インフラ
第 11 回 水系と水害
第 12 回 1742 年台風後の玉川上水と鮎
第 13 回 松江猟師仲間と奥出雲のたたら製鉄

履修上の注意

毎回のコメントシートを必ず提出すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習として参考文献を読むことを推奨する。

教科書

参考書

『近世都市「江戸」の水害 : 災害史から環境史へ』吉川弘文館 2022 年
『江戸水没 : 寛政改革の水害対策』平凡社 2019 年
『気候変動から近世をみなおす5 : 数量・システム・技術』鎌谷, かおる, 渡辺, 浩一, 中塚, 武 (担当:共編者(共編著者)) 臨川書店 2020 年
近世の大火・水害・地震『日本史の現在 4 近世』山川出版社 2024 年
災害と都市社会 『日本近世史を見通す4 地域からみる近世社会』吉川弘文館 2023 年
台風・上水・鮎の〈連関〉の環境史 —寛保二(一七四二)年寛保大水害後の奥多摩渓谷と江戸—『 国立歴史民俗博物館研究報告』(249) 2024 年
文書実践と神話—松江漁師仲間の文書編集と歴史叙述—『歴史学研究』(984) 2019 年

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートのなかから質問を 2,3 を選んで次回の授業の冒頭で回答する。

成績評価の方法

テスト。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本近世史料学	**日本史料学Ⅲ**	
担 当 者	開講期	開講地区
黒滝 香奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、歴史学の研究において不可欠な古文書(近世史料)読解の基礎的スキルを養います。近世社会では、日常のあらゆる場面で文書が作成・やりとりされたため、現在でも相当量の史料が残されています。近世史研究を行う際には、これらの史料を調査し、収集した史料を適切に読解する作業が必要となります。

しかし、近世史料は「くずし字」で書かれているため、読解には専門的な訓練が必要です。授業では、まず、活字史料を用いて、正確な読み下しや読解能力を養います。その上で、くずし字解読の基礎についても身に付けていきます。以上に加え、自分の関心に基づいて史料を探し活用する調査方法についても、実践を交えながら解説します。

本授業を通して、近世史料の読解・解釈に必要な文法・語句の知識を修得し、史料の内容を正確に理解することを目指します。それは自ずと近世社会の基本的なあり方を学ぶことにも繋がるでしょう。

授業内容

第１回　近世史料の作成と伝来
第２回　近世史料の基本的な読み方
第３回　活字史料を読む1 御触書集成
第４回　活字史料を読む2 御仕置例類集
第５回　a小テスト　bくずし字読解の基本
第６回　藩の史料を読む1 地域の支配
第７回　藩の史料を読む2 用水の支配
第８回　村の史料を読む1 年貢
第９回　村の史料を読む2　村の取り決め
第10回　村の史料を読む3 事件と訴訟
第11回　村の史料を読む4 由緒
第12回　史料整理・調査の方法
第13回　史料整理・調査の実践
第14回　a期末テスト　bテストの解説とまとめ

履修上の注意

・近世史料の解読方法を基礎から学ぶ授業であるため、くずし字史料、さらには近世史料の解読未経験者であっても、受講を歓迎します。
・受講者の興味・関心や授業の進み具合により、授業内容に変更が生じる場合があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：活字史料・原史料を読む回ともに予習を必要とします。それぞれ１週間前の授業で配布しますので、可能な限り判読した上で授業に臨んでください。また、わからない語句や地名があれば、事前に調べてきてください。
復習：古文書読解は、反復練習も重要です。授業後には必ず復習してください。

教科書

特定のテキストは使用せず、毎回資料を配布します。

参考書

佐藤孝之監修『近世史を学ぶための古文書「候文」入門』(吉川弘文館、2023 年)
児玉幸多『くずし字用例辞典』(東京堂出版、1993 年)
児玉幸多『くずし字解読辞典』(東京堂出版、1993 年)
そのほか、適宜授業内に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に、前回の授業のリアクションペーパーへの応答をします。
また、小テスト・期末テストは、それぞれ授業内でフィードバックを行います。

成績評価の方法

⑴授業への参画度(リアクションペーパー、グループワークへの参加)20%
　リアクションペーパー(計４回)には授業の中で得た学び・気づきや疑問点を記述することを求めます。
⑵小テスト 20%
⑶期末テスト 60%(辞書のみ持ち込み可)

その他

やむを得ない事情がある場合を除き、３分の２以上の出席を必須とします。

科目ナンバー：(AL)HIS211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本近代史	**日本近代史**	
担 当 者	開講期	開講地区
岩村 麻里	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ペリー来航を大きな契機とする明治維新と呼ばれる社会変動により、それまでの政治や社会の仕組みなどは大きく変容した。対外的危機感の高まりのなか、自己変革を迫られた諸藩は様々な改革を実施し、政治的な影響力を拡大していくこととなった。そして王政復古により成立した新政府では、諸藩からの人材が中心的な担い手となり、国家建設を推し進めていく。廃藩置県により藩は制度的に解消されるものの、藩を核とする社会的結合は近代以降も存続し、旧藩主である華族は地域の近代化に寄与している。

本講義では、こうした近代国家形成過程における藩という存在を視座として、幕末から明治期にかけての政治や地域の動向を考察することで、日本の近代について学ぶことを目的とする。第1回から第6回までは、近世から明治維新期の藩をめぐる政治過程や旧藩主である華族にかかわる制度について概説する。第7回以降は、駿河国沼津藩(上総国菊間藩)水野家の事例を取り上げて、近代以降の藩をめぐる動向について理解を深めていく。

授業内容

第1回:イントロダクション
第2回:藩とは何か
第3回:幕末の政治改革と諸藩
第4回:維新政権の成立と諸藩
第5回:維新政権における諸藩の改革
第6回:明治国家と華士族
第7回:沼津藩の概要
第8回:幕末政局のなかでの沼津藩
第9回:戊辰戦争の展開と藩の引っ越し
第10回:明治初年の改革と廃藩への過程
第11回:廃藩置県後の旧藩主・旧藩士
第12回:旧藩士の立身出世
第13回:旧藩と地域社会
第14回:まとめと展望

履修上の注意

本講義は通史ではなく、専門的テーマを取り扱う授業である。高校までの日本史の知識を前提として講義を進めるので、教科書や概説書を利用するなど基本的な知識を習得したうえで受講すること。
また、史料の読解能力は問わないが、史料の探し方や内容に関連する史料の解説なども交えながら講義を進めていく予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回の講義は全て連関した内容で構成されているため、前回までの内容を理解したうえで毎授業臨むこと。また、わからない語句などがあれば、適宜参考書・辞典などを用いて積極的に調べるように心がけること。

教科書

特に定めない。適宜資料を配布する。

参考書

必要に応じて、授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業の冒頭で、前回の課題についての解説・総括を行う。

成績評価の方法

授業毎の小課題(小テスト・リアクションペーパー)(30%)および期末レポート(70%)により総合的に評価する。

その他

授業毎の小課題では、講義内容を踏まえた課題を提示するため、主体的な姿勢での出席を求める。
なお、講義内容は受講生の関心や授業の進度により変更することがある。

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本劇作家研究	**日本近代戯曲研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
熊谷 知子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

・授業の概要

本授業では小山内薫の戯曲および上演について時代を追って検証する。その際、同時代の関連する人物や作品、時代背景を踏まえ、多面的に展開された日本演劇の動向を探る。秋学期では、関東大震災発生(1923 年)後から昭和初期頃までを扱う予定である。

・到達目標

授業内容を理解した上で自分の考えを述べられるようになることを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション:関東大震災後の演劇界
第2回 小山内薫と大阪
第3回 築地小劇場の始まり
第4回『吉利支丹信長』1:小田春永から織田信長へ
第5回『吉利支丹信長』2:岡本綺堂『増補信長記』
第6回『吉利支丹信長』3:戯曲と上演の概要
第7回『円タクの悲哀』1:表現主義の影響
第8回『円タクの悲哀』2:戯曲と上演の概要
第9回『国性爺合戦』1:小山内薫のソヴィエト訪問
第 10 回『国性爺合戦』2:歌舞伎『国性爺合戦』鑑賞
第 11 回『国性爺合戦』3:戯曲と上演の概要
第 12 回 小山内薫の死
第 13 回 その後の展開
第 14 回 まとめ

履修上の注意

戯曲や上演または関連する事象について、各自の意見や視座を持って授業に臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で配布するプリントは整理しておくこと。また、使用したスライドを授業後に配信するので、適宜見直すこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

コメント課題については、授業内で全体に向けてフィードバックを行う。

成績評価の方法

レポート課題 60%、平常点(授業への参加度、コメント課題の内容等)40%。
出席登録等の不正を行った者は成績評価の対象外とする。

その他

スライドの文字の大きさ、マイクや映像資料の音量などが適切かどうか注意しながら授業を進めるが、見え方や聞こえ方について気が付いたことがあれば遠慮なく伝えてほしい。

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本劇作家論	**日本近代戯曲研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
熊谷 知子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

・授業の概要

本授業では小山内薫の戯曲および上演について時代を追って検証する。その際、同時代の関連する人物や作品、時代背景を踏まえ、多面的に展開された日本演劇の動向を探る。春学期では、自由劇場創始(1909 年)頃から関東大震災発生(1923 年)頃までを扱う予定である。

・到達目標

授業内容を理解した上で自分の考えを述べられるようになることを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション:日本近代と小山内薫
第2回 演劇改良運動
第3回 文芸協会と芸術座
第4回 自由劇場
第5回 新劇場1:小山内薫の洋行と山田耕筰
第6回 新劇場2:舞踊詩の試み
第7回『緑の朝』1:市村座と六代目尾上菊五郎
第8回『緑の朝』2:戯曲と上演の概要
第9回『緑の朝』3:菊池寛『屋上の狂人』
第 10 回 宗教演劇の流行
第 11 回『第一の世界』1:心霊主義の影響
第 12 回『第一の世界』2:戯曲と上演の概要
第 13 回『第一の世界』3:武者小路実篤『人間万歳』
第 14 回 まとめ

履修上の注意

戯曲や上演または関連する事象について、各自の意見や視座を持って授業に臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で配布するプリントは整理しておくこと。また、使用したスライドを授業後に配信するので、適宜見直すこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

コメント課題については、授業内で全体に向けてフィードバックを行う。

成績評価の方法

レポート課題 60%、平常点(授業への参加度、コメント課題の内容等)40%。
出席登録等の不正を行った者は成績評価の対象外とする。

その他

スライドの文字の大きさ、マイクや映像資料の音量などが適切かどうか注意しながら授業を進めるが、見え方や聞こえ方について気が付いたことがあれば遠慮なく伝えてほしい。

科目ナンバー：(AL)HIS211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本現代史(戦後)	**日本現代史Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
富山 仁貴	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

この授業では、「日本型大衆社会の成立と変容」を主題として、1950 年代から今日までの日本現代史について講義する。とくに政治・経済・社会・地域・文化などの各分野について、その時代を生きた人びとの経験に焦点を当て、人びとがどのように社会に関わろうとしたのかについて考える。

【到達目標】

1. 日本社会の各時期における特質を知り、当時の人びとの経験を踏まえて現代史を多面的に理解できる。
2. 史料に基づいて考察するという「歴史学的思考」の基本を理解できる。
3. 現代社会の課題を歴史的に理解したうえで、自分の関心のあるテーマについて問いを立て、考えを発信できる。

授業内容

第 1 回:イントロダクション
第 2 回:平和主義と日米同盟はどのような関係にあったのか？ (占領復興期の政治)
第 3 回:戦後の社会運動はどのようなものだったのか？ (占領復興期の社会)
第 4 回:経済と文化の「二重構造」とは何か？ (占領復興期の経済と文化)
第 5 回:自民党はどのように安定政権を実現したのか？ (高度成長期の政治①)
第 6 回:革新政党はどのような対抗ビジョンを示したのか？ (高度成長期の政治②)
第 7 回:経済成長は人びとの仕事と暮らしをどう変えたのか？ (高度成長期の経済と社会)
第 8 回:経済成長は地域と文化をどのように変えたのか？ (高度成長期の地域と文化)
第 9 回:革新自治体とは何だったのか？ (安定成長期の政治)
第 10 回:「男は仕事／女は家庭」はどのように成立したのか？ (安定成長期の経済と社会)
第 11 回:「豊かな社会」は人びとの暮らしに何をもたらしたのか？(安定成長期の地域と文化)
第 12 回:繰り返される「政治改革」とは何だったのか？ (新自由主義期の政治と経済)
第 13 回:格差と災害にどのように向き合ってきたのか？ (新自由主義期の社会・地域・文化)
第 14 回:まとめ

履修上の注意

この授業では、毎回のテーマ(問い)を設定し、それに関連する史料を提示します。また、授業時には積極的な発言を求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に指示したテキストや動画に目を通して下さい。また、授業内で獲得した知識が現代社会とどのように関わっているのか考察を深めるようにして下さい。

教科書

とくに定めません。

参考書

小澤卓也・田中聡・水野博子編『教養のための現代史入門』(ミネルヴァ書房、2015 年)
安岡健一『戦後史 1945-2025』(中公新書・2881、2025 年)
このほか、授業の中で適宜文献を紹介・配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業ごとのリアクションペーパーへの全体講評(解説・返答など)は、授業中に行ないます。
期末試験への全体講評は、Oh-o! Meiji で行ないます。

成績評価の方法

授業ごとのリアクションペーパー(40%)、期末試験(60%)

その他

科目ナンバー：(AL)HIS211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本現代史(戦前)	**日本現代史Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊勢 弘志	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
第一次世界大戦後からアジア・太平洋戦争にいたる「日本現代史」をテーマとして国内政治史と国際情勢を講義する。
・近代から現代への移行にはどのような意味があるのか？
・戦前日本はどのような国際環境の中で戦争を行ったのか？
・そして、どのような問題が今なお残されているのか？を学習する。

<到達目標>
1、「現代」の国際秩序について理解・説明できる。
2、戦前日本の政治・軍事・外交について多面的な分析ができる。
3、日本の戦争責任がなぜ問われるのかについて理解・説明できる。
4、専門的知識を獲得したうえで、現在の社会問題を考えていくことができる。
5、教育現場において実践される「歴史総合」の課題と意義・留意点を理解できる。

授業内容

第 1 回 :「現代史」はいつから始まるか？
第 2 回 : ワシントン体制の意図と排除された者たちの動き
第 3 回 :「デモクラシー」の思想と男子普通選挙の成立
第 4 回 : 新たな国際秩序形成への対応と二大政党制
第 5 回 :「国民外交」に見る日本の国際秩序認識
第 6 回 : 国際秩序への挑戦－満州事変から国際連盟脱退まで
第 7 回 : 世界恐慌後の既存秩序の動揺と各国の選択
第 8 回 : 日中戦争の全面展開－中国と戦争すると世界はどうなるか？
第 9 回 : 枢軸世界の創出-世界はどう対立したか？
第 10 回 :「独ソ戦」の衝撃-日本の外交戦略は何を見誤ったか？
第 11 回 : アジア・太平洋戦争-「東亜新秩序」は何を意味したか？
第 12 回 : 世界史の中の日中戦争-日本はなぜアメリカと開戦したのか？
第 13 回 :「敗戦」と「聖断」-戦後はどう始まるのか？
第 14 回 :「東京裁判」-何を裁き・何を裁かなかったか？

履修上の注意

・オムニバス形式で進める。
・成績評定の方法などを初回の授業において説明するので、必ず把握したうえで履修すること。
(理解のないまま履修した場合、成績評定に不利になる場合があります。)

＊この講義では、特別な理由のない限り教室での PC・スマホの使用はできません。必ず理解の上で履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

① 教科書は必ず用意すること。

② 毎時の講義内容について、次の講義までに教科書を読んで理解を深めておくこと。

③ 授業内で獲得した知識をもとに現代社会のさまざまな事象について考察を深めるように臨むこと。

教科書

伊勢弘志『明日のための現代史 1914～1948』(上巻)(芙蓉書房出版、2021 年)。

参考書

伊勢弘志『明日のための近代史』(増補新版)(芙蓉書房出版、2023 年)。
宮地正人監修、山田朗ほか『改訂新版 日本近現代史を読む』(新日本出版社、2019 年)。
山田朗『日本の戦争 II:暴走の本質』(新日本出版社、2018 年)。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で対応する。

成績評価の方法

第 1 回～第 7 回に関するレポート 1 で 50%
第 8 回～第 14 回に関するレポート 2 で 50%を原則とする。
リアクション・ペーパーでも加点する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIN111J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本語音声学	日本語音声学	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 孝滋	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

[概要]

日本語音声について、「音声学的基礎と音韻論的基礎」を学び、「音声・音韻表記訓練」と「レントゲン&MRI による発話運動動画及び声紋分析による視覚的音響資料の読み取り訓練」をとおして、理解を深める。また、アナウンサーや日本語教師に必要とされる調音方法だけでなく、演劇・歌唱など特別な場面にみられる多様な調音方法についても、発音体験をとおして、理解を深める。

さらに, 授業の学びの応用として, 2025 年度履修生のみなさんと同様に, 音響音声学的分析による「母音無声化」「ガ行鼻濁音」「母音体系形状」について, 授業内の学びを発展させた授業内学術成果としてまとめ, 「日本語学会」・「言語学フェス」・他の全国学会・研究会等での発表を体験していただく。

[到達目標]

日本語音声の特徴を音声学的・音韻論的に理解し、具体的な日本語音声について、音声学的・音韻論的に分析し、音声・音韻表記(IPA 表記、音韻表記)と「レントゲン&MRI による発話運動映像と視覚的音響資料の読み取りができるようになる。また、アナウンサーや日本語教師に必要とされる調音方法を習得し、さらに演劇・歌唱など多様な状況下において、もっともふさわしく効果的な発音(調音行動)がとれるようになる。授業内学術成果を, 全国学会等のレベルにまとめ上げ, 発表する体験をとおして, 日本語音声学に関して, 独力で活動できる基礎力を培う。

授業内容

日本語の各音声について, (1)その特徴を、調音音声学的・音響音声学的・聴覚音声学的視点と音韻論的視点から具体的に分析し、理解を深める。また、(2)IPA 表記と音韻表記の訓練、(3)視覚的音響資料(サウンドスペクトルグラム=声紋、ピッチグラム)の読み取り訓練の他、(3)スポーツ応援・演劇・朗読・歌唱(含ポップス・ロック系)に即活用できる実践音声学的訓練を行う。

また, 授業内学術成果を, 全国学会等のレベルにまとめ上げ, 発表する体験をとおして, 日本語音声学に関して, 独力で活動できる基礎力を培う。

a では, 理解と分析力を養成し, b では, 授業内学術成果をまとめる体験により, 学術的基礎力を養成する。

1. a のみ:イントロダクション
   日本語音声・音韻の導入概説
2. 音声学の諸領域と音韻論、音声器官・調音方法と IPA
3. 母音(基本的母音)
4. 破裂音と破裂音拍
5. 鼻音・はじき音と鼻音拍・ラ行拍
6. 摩擦音と摩擦音拍
7. 破擦音と破擦音拍
8. 接近音(半母音・半子音)とワ行・ヤ行拍
9. 特殊拍(促音・撥音・長音)、音節と拍
10. 母音(無声化)
11. アクセント
12. イントネーション
13. パラ言語的要素と音声表現
14. ガ行鼻濁音と母音無声化の習得法と指導法

※(2)は、音声を視覚的に判別する訓練で、日本語に限らず聴覚的に聞き分けが困難な音声習得・指導に有効である。また、聴覚障がい者の方の音声習得・指導にも有効であると考えられる。

※※必要に応じ、履修生のみなさんを対象として、①音声を授業中録音しその場で分析をしたり、②黒板上で発話音声の表記をしたりする機会があるが、積極的にご協力いただきたい。

履修上の注意

(a)公認欠席を除き、欠席時の授業内容・連絡事項については、各自自己責任で対処すること。公認欠席以外の欠席者に対するフォローは、毎回出席している全受講生への指導の支障・不利益につながるので原則として行わない。

(b)授業に相応しくない言動は厳禁とする。授業妨害とみなし、単位を出さない場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]

テキストの指定箇所や指定資料を読み、概要を把握しておくこと。

[復習]

1.各授業分の復習課題(指定テキストの演習問題&配布課題)を指定シートに記入し、必ず期限までに指定の方法で提出すること。

2.必要に応じ、専門用語や概念については、参考書を参照し、定義(と代表的用例)を理解すること。

3.疑問・質問などについては、復習課題提出シートに記入し、提出すること。

教科書

齋藤孝滋編『増補改訂版 地域言語調査研究法』DTP 出版

参考書

上野善道編『朝倉日本語講座3 音声・音韻』朝倉書店

風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健『言語学』第2版, 東京大学出版会

飛田良文・佐藤武義編『現代日本語講座3発音』明治書院

川上蓁『日本語音声概説』おうふう

斎藤純男『日本語音声学入門 改訂版』三省堂

飛田良文等編『日本語学研究事典』明治書院

佐藤武義 ・前田富祺代表編『日本語大事典』朝倉書店

日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

全授業分の復習課題提出シート(100%)のみで評価を行う。なお、授業中の極めて有益な指摘・発言等については、プラス α で評価するものとする。

その他

授業に関連する、無料で参加できる学会発表・研究会・講演会・シンポジウム等について、積極的に案内し、参加を奨励する。

これらへの取り組みは、「参加+参加コメント提出」で、平常点+α 点とする。

科目ナンバー:(AL)LIN352J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本語教育学演習A	日本語教育学演習A	
担 当 者	開講期	開講地区
西村 美保	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

初級日本語学習者を念頭に置き、「日本語教授法 I」、「日本語教授法 II」等の日本語教育に関する科目で学んだ知識を実践に移す演習を行います。効果的なシラバスのデザインを考え、分担して実際に模擬授業を行い、お互いに検討しあいます。

本科目を通して、日本語教育を取り巻く諸事情、日本語授業活動、日本語学習上の問題点、日本語教育の現場を具体的に理解し、説明できるようになることを期待します。そして、日本語教員の役割を知り、日本語教育に関する知識を多角的に深め、初級日本語学習者に対する教授技能を習得し、発揮できるようになることを目標とします。

授業内容

第1回 日本語ができるとはどういうことか:Can-do Statements
第2回 初級教材分析、シラバスデザイン
第3回 評価項目の検討、教案作成
第4回 模擬授業(1)、模擬授業(2)
第5回 模擬授業(3)、模擬授業(4)
第6回 模擬授業(5)、模擬授業(6)
第7回 模擬授業(7)、模擬授業(8)
第8回 模擬授業(9)、模擬授業(10)
第9回 模擬授業(11)、模擬授業(12)
第 10 回 模擬授業(13)、模擬授業(14)
第 11 回 模擬授業(15)、模擬授業(16)
第 12 回 模擬授業(17)、模擬授業(18)
第 13 回 模擬授業(19)、模擬授業(20)
第 14 回 a:模擬授業の振り返り、b:試験

履修上の注意

「日本語教授法 I」、「日本語教授法 II」を履修済みであるか、履修中であることが望まれます。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料がある場合には、授業時間の前に目を通して参加してください。また、自身が模擬授業の担当の際には、十分に準備をして来てください。

教科書

適宜資料を配布します。

参考書

国際交流基金(2007)『初級を教える (国際交流基金日本語教授法シリーズ9)』ひつじ書房
遠藤織枝編(2011)『日本語教育を学ぶ(第二版)』三修社
鮎澤孝子編(2014)『日本語教育実践』凡人社
星野恵子(2006)『日本語教育能力検定試験に合格するための記述式問題 50』(旧版)アルク
スリーエーネットワーク編著(2012)『みんなの日本語初級 I 第2版本冊』スリーエーネットワーク
できる日本語教材開発プロジェクト(2011)『できる日本語初級』アルク
など

課題に対するフィードバックの方法

基本的には授業時間内に口頭で行います。

成績評価の方法

期末試験(50%)と、授業への参加度(50%)に基づいて評価します。

その他

定員は最大 20 名までとし、上級生を優先します。

日本語教育に関する科目全般を通じて学んだ内容をよく復習し、積極的に社会へ還元する活動を行ってください。特に、地域日本語教育や外国人児童生徒支援のボランティア活動などを奨励するので、学内外での活動に積極的に参加してください。

科目ナンバー:(AL)LIN352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本語教育学演習 B	**日本語教育学演習 B**	
担 当 者	開講期	開講地区
西村 美保	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中上級日本語学習者を念頭に置き、「日本語教授法 I」、「日本語教授法 II」等の日本語教育に関する科目で学んだ知識を実践に移す演習を行います。効果的なシラバスのデザインを考え、分担して実際に模擬授業を行い、お互いに検討しあいます。

本科目を通して、日本語教育を取り巻く諸事情、日本語授業活動、日本語学習上の問題点、日本語教育の現場を具体的に理解し、説明できるようになることを期待します。そして、日本語教員の役割を知り、日本語教育に関する知識を多角的に深め、中上級日本語学習者に対する教授技能を習得し、発揮できるようになることを目標とします。

授業内容

第1回 レベル別・技能別の指導法
第2回 中級教材分析、シラバスデザイン
第3回 評価項目の検討、教案作成
第4回 模擬授業(1)、模擬授業(2)
第5回 模擬授業(3)、模擬授業(4)
第6回 模擬授業(5)、模擬授業(6)
第7回 模擬授業(7)、模擬授業(8)
第8回 模擬授業(9)、模擬授業(10)
第9回 模擬授業(11)、模擬授業(12)
第 10 回 模擬授業(13)、模擬授業(14)
第 11 回 模擬授業(15)、模擬授業(16)
第 12 回 模擬授業(17)、模擬授業(18)
第 13 回 模擬授業(19)、模擬授業(20)
第 14 回 a:模擬授業の振り返り、b:試験

履修上の注意

「日本語教授法 I」、「日本語教授法 II」および「日本語教育学演習 A」を履修済みであるか、履修中であることが望まれます。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料がある場合には、授業時間の前に目を通して参加してください。また、自身が模擬授業の担当の際には、十分に準備をして来てください。

教科書

適宜資料を配布します。

参考書

国際交流基金(2011)『中・上級を教える (国際交流基金日本語教授法シリーズ 10)』ひつじ書房
遠藤織枝編(2011)『日本語教育を学ぶ(第二版)』三修社
鮎澤孝子編(2014)『日本語教育実践』凡人社
星野恵子(2006)『日本語教育能力検定試験に合格するための記述式問題 50』(旧版)アルク
国際交流基金(2016)『まるごと―日本のことばと文化中級1 B1』三修社
東京外国語大学留学生日本語教育センター(2015)『日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書―出会い』【本冊テーマ学習・タスク活動編】ひつじ書房
など

課題に対するフィードバックの方法

基本的には授業時間内に口頭で行います。

成績評価の方法

期末試験(50%)と、授業への参加度(50%)に基づいて評価します。

その他

定員は最大 20 名までとし、上級生を優先します。
日本語教育に関する科目全般を通じて学んだ内容をよく復習し、積極的に社会へ還元する活動を行ってください。特に、地域日本語教育や外国人児童生徒支援のボランティア活動などを奨励するので、学内外での活動に積極的に参加してください。

科目ナンバー:(AL)LIN451J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本語教育学概論	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
山森 理恵	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

<授業の概要>
日本語を母語としない人を対象とした言語教育である日本語教育について概観し、日本語学習者とはどういう人か、どのように学習するのかなどを理解するための授業です。日本語教育を専門的に学びたいと考えている人はもちろん、第二言語としての日本語の教育に関心のある人を対象とした授業です。
<到達目標>
1. 日本語教育に関わる専門的な用語の意味が理解できる。
2. 日本語教育の概要や現状、指導方法が理解できる。
3. 日本語教育の知識を活用し、「やさしい日本語」の文章が作成できる。
4. 日本語教育の教材を分析し、考察を行うことができる。

授業内容

第 1 回 イントロダクション、日本語教育とは
第 2 回 日本語学習者とは
第 3 回 日本語教師とは
第 4 回 日本語能力の測定と試験
第 5 回 コースをデザインしよう
第 6 回 さまざまな教授法
第 7 回 学習レベルと教材・教具
第 8 回 学習者の目から日本語を見てみよう
第 9 回 ティチャートークとやさしい日本語、小課題について
第 10 回 教室でのやりとりと学習者へのフィードバック
第 11 回 これからの日本語教育、ことばの教育とは
第 12 回 教材分析準備(グループ活動)
第 13 回 教材分析発表(グループ発表)
第 14 回 a:試験、b:正答解説・まとめ
＊授業の予定は変更になる場合があります。

履修上の注意

ほぼ毎回、グループで話す時間を持つ。グループで発表を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書/資料の指定範囲を読んでおく。(2 時間)
復習:講義の内容をまとめる。指定された課題を行い、提出する。(2 時間)

教科書

『超基礎・日本語教育[改訂版]』森篤嗣[編著]太田陽子/奥野由紀子/小口悠紀子/嶋ちはる/中石ゆうこ/柳田直美(くろしお出版)978-4801110014

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出物に対するフィードバックは、個別に Oh-o!Meiji システム等を利用して実施する。
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末試験 30%、提出物 30%、小課題 20%、グループ発表 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LIN352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本語教授法 I	**日本語教授法 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
二瓶 知子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

この授業では、外国語としての日本語を教える際に必要な基本的な教授法の考え方と実践のための基礎を学びます。日本語教育と国語教育の違いや日本国内外における日本語教育の現状と課題を理解した上で、学習者や学習環境に応じたコースデザインの考え方をはじめ、レベル別・技能別指導、文字・語彙、音韻・音声の指導方法について、具体的な教材例や授業活動を通して考えます。さらに、日本語教育の現場で生じる異文化コミュニケーションの課題にも目を向け、文化や価値観の違いを踏まえた教師の役割や対応について検討します。本科目を通して、理論と実践を結びつけながら、日本語教師として求められる基礎的な視点を養います。

【到達目標】

・日本語教育の特徴や課題を理解し、学習者のレベルや目的に応じたコースや授業内容を考えることができる。

・日本語教育現場における異文化コミュニケーションの課題を理解し、教師として必要な配慮や対応について考えることができる。

授業内容

第１回 イントロダクション 日本語教育と国語教育

第２回 国内外の日本語教育の概況

第３回 コースデザイン

第４回 日本語教育文法を考える

第５回 レベル別の指導(1) 初級

第６回 レベル別の指導(2) 中上級

第７回 技能別の指導(1)聞く・読む

第８回 技能別の指導(2)話す・書く

第９回 文字・語彙の指導

第10回 音韻・音声の指導

第11回 日本語教育現場における異文化コミュニケーション(1) 文化とは、異文化理解能力とは

第12回 日本語教育現場における異文化コミュニケーション(2) 異文化間における対人コミュニケーション

第13回 日本語教育現場における異文化コミュニケーション(3) 異文化理解のためのコミュニケーションスキル

第14回 a:期末試験 b: 試験の振り返りと総括

履修上の注意

この授業は、ディスカッションを通して日本語教育を取り巻く様々な現状について考えていきます。積極的にディスカッションに参加してください。また、本授業を履修前に「日本語教育学概論」を、履修後に「日本語教授法 II」や「日本語教育学演習」を学ぶことで、日本語教育に関する基礎的な知識を体系的に学習し、日本語教師としてのノウハウを、実践を通して学習することができます。

準備学習(予習・復習等)の内容

1. 準備学習(予習、週2時間程度):配布資料(ポートフォリオ)に個人の意見を記入してから授業に出席する。

2. 事後学習(復習、週2時間程度):各授業または各テーマ終了時に小課題を行い、提出する。

教科書

適宜プリントを配布します。

参考書

『日本語教育を学ぶ(第二版)』遠藤織枝編(三修社)

『新 日本語教育を学ぶ なぜ、なにを、どう教えるか』遠藤織枝編(三修社)

『日本語教育実践』鮎澤孝子他(凡人社)

『実践日本語教育を学ぶ人のために』佐々木瑞枝(世界思想社)

『国際交流基金 日本語教授法シリーズ(全 14 巻)』国際交流基金(ひつじ書房)

『新・はじめての日本語教育1増補改訂版 日本語教育の基礎知識』高見澤孟他(アスク出版)

『新・はじめての日本語教育2増補改訂版 日本語教授法入門』高見澤孟他(アスク出版)

『日本語教育のスタートライン』荒川洋平(スリーエーネットワーク)

『異文化理解入門』原沢伊都夫(研究社)

『日本語教師のための入門言語学―演習と解説―』原沢伊都夫(スリーエーネットワーク)

課題に対するフィードバックの方法

次の授業時または Oh-o！Meiji 上でフィードバックします。

成績評価の方法

期末試験(40%)、課題(30%)、授業への参加度(30%)により評価をします。

その他

「日本語教育」で論じられる事柄は、社会と密接に関わる問題を多く含んでいます。日ごろからアンテナを張り、自分の周りや地域・社会で今どんなことが起こっているのか、積極的に情報を得ようとする姿勢を持ってください。それを教室内でのディスカッションに活かしてくれることを期待します。また授業については、前年度のアンケートにおいて、配布資料やPPT、授業内容、スピード等に関し、「ちょうどよい」との意見であったため、今年度も継続して実施します。

科目ナンバー:(AL)LIN352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本語教授法Ⅱ	**日本語教授法Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
二瓶 知子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

この授業では、日本語教育実践を理論的に捉えることを目指します。前半では、教育評価の目的と機能を整理し、コースやクラスの中で行われる評価、テストによる評価及びテストによらない評価について理解を深めます。中盤では、さまざまな外国語教授法が生まれた背景や時代的文脈をたどり、それぞれの教授法の特徴や限界を批判的に検討します。後半では、第二言語習得研究の主要な見解や教室研究、認知的プロセス、個人差要因を扱い、日本語教育実践との関連について考察します。さらに、社会とことば、日本語教育の歴史にも目を向け、日本語教育を社会的・歴史的文脈の中で捉える視点を養います。本科目を通して、日本語教育実践を評価・理論・社会の観点から多角的に捉える力を身につけます。

【到達目標】

・日本語教育における評価の目的と機能を理解し、コースや授業の中での評価のあり方について説明できる。

・さまざまな外国語教授法および第二言語習得研究の考え方を理解し、日本語教育実践との関係を批判的に考察できる。

・日本語教育を社会的・歴史的文脈の中で捉え、日本語教師としての専門的視点を深めることができる。

授業内容

第1回 評価(1) 評価の目的と機能

第2回 評価(2) コース・クラスの中で行う評価

第3回 評価(3) テストによる評価

第4回 評価(3) テストによらない評価

第5回 さまざまな外国語教授法(1) なぜさまざまな外国語教授法が生まれるか

第6回 さまざまな外国語教授法(2) 外国語教授法の流れとその時代背景

第7回 さまざまな外国語教授法(3) 課題の共有とまとめ

第8回 第二言語習得研究(1)言語獲得・習得に関する様々な見解

第9回 第二言語習得研究(2)教室における第二言語習得研究

第10回 第二言語習得研究(3)第二言語習得の認知的プロセス

第11回 第二言語習得研究(4)外国語学習における個人差要因

第12回 社会とことば

第13回 日本語教育の歴史

第14回 a: 試験 b: 講義全体の振り返りと試験の解説

履修上の注意

この授業は、ディスカッションを通して日本語教育を取り巻く様々な現状について考えていきます。積極的にディスカッションに参加してください。また本授業履修にあたって「日本語教授法 I」の単位取得は必須ではありませんが、授業内容をより良く理解するためには取り終えていることが望ましいです。

準備学習(予習・復習等)の内容

1. 準備学習(予習、週2時間程度):ポートフォリオに自身の意見を記入してから授業に出席する。

2. 事後学習(復習、週2時間程度):各授業または各テーマ終了時に小課題を行い、提出する。

教科書

適宜プリントを配布します。

参考書

『国際交流基金 日本語教授法シリーズ(全 14 巻)』国際交流基金(ひつじ書房)

『日本語教育を学ぶ(第二版)』遠藤織枝編(三修社)

『新 日本語教育を学ぶ なぜ、なにを、どう教えるか』遠藤織枝編(三修社)

『ことばの習得 母語獲得と第二言語習得』鈴木孝明・白畑知彦(くろしお出版)

『改訂版 日本語教育に生かす第二言語習得研究』迫田久美子(アルク)

『OPI の考え方に基づいた日本語教授法』山内博之(ひつじ書房)

『ACTFL-OPI 入門』牧野成一他(アルク)

『日本語教師のためのテスト作成マニュアル』伊東祐郎(アルク)

『やさしい日本語―多文化共生社会へ』庵功雄(岩波新書)

『日本語教育史研究序説』関正昭(スリーエーネットワーク)

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時または Oh-o！Meiji 上でフィードバックします。

成績評価の方法

期末試験(40%)、課題(30%)、授業への参加度(30%)により評価をします。

その他

皆さんの周りにはたくさんの日本語学習者が存在します。日ごろから外国人の友人や学内の留学生など、実際に日本語を外国語として勉強してきた人たちと積極的に交流してください。その際、どのようにしたらより良く日本語が学べるようになるのか自分で考えたり、話しを聞いたりしましょう。それを教室内でのディスカッションに活かしてくれることを期待します。また、登録日本語教員試験の受験も視野に入れて授業に臨んでください。

授業については、前年度のアンケートにおいて、配布資料や PPT、授業内容、スピード等に関し、「ちょうどよい」との意見であったため、今年度も継続して行います。

科目ナンバー：(AL)LIN211J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本語史	日本語史	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 孝滋	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

[概要]

日本語の歴史について、文献日本語史研究による成果を中心としながら、必要に応じて、比較方言学・言語地理学・言語類型論等による成果を照合しつつ、日本語の過去から現在の変化を明らかにし、可能な領域については将来像を推定する。授業では、単に、古代から現代(領域によっては将来)への描き出された歴史的変遷を暗記するのではなく、文献日本語史研究・比較方言学・言語地理学・言語類型論等のどのような分析により、その歴史的変遷が描き出されたか、さらに、その描き出された変遷から覗える変遷メカニズムについて、推定し、解説する。

さらに，授業の学びの応用として，2025 年度履修生のみなさんと同様に，コーパスを用いた分析を行い，授業内の学びを発展させた授業内学術成果としてまとめ，「日本語学会」・「言語学フェス」・他の全国学会・研究会等での発表を体験していただく。

[到達目標]

日本語の歴史を明らかにする上での重要な方法論である文献日本語史研究・比較方言学・言語地理学等の方法論の概要を理解し、各方法論で取り上げられる典型的な例については、独力で歴史的変遷過程が推定できるようになる。その上で、音韻・アクセント・文字表記・文法・語彙・文章文体・言語行動の諸領域についての歴史的変遷について、把握し、典型的な例については、変遷のメカニズムについて推定できるようになる。授業内学術成果を，全国学会等のレベルにまとめ上げ，発表する体験をとおして，日本語史研究に関して，独力で活動できる基礎力を培う。

授業内容

授業では、文献日本語史研究・比較方言学・言語地理学・言語類型論等の方法論の概要を解説するが、履修生はその解説を理解し、復習課題により実際の推定問題に取り組むことで、独力で歴史的変遷過程を推定することとなる。その上で、音韻・アクセント・文字表記・文法・語彙・文章文体・言語行動の諸領域についての歴史的変遷についても、解説を理解し、復習課題により変遷のメカニズムについて推定することとなる。

全ての研究領域において、最も尊重されるのは一次資料であることはいうまでもない。授業では、近年インターネットで公開されるようになった国立国語研究所や国立博物館等の質感溢れる一次資料の画像(含国宝・重要文化財)を極力紹介する。その一方で、特に日本語史研究において効率面で多大なる貢献をなしうる成果である国立国語研究所『日本語歴史コーパス』語彙統計も、可能な限り紹介する。

aでは，理解と分析力を養成し，bでは，授業内学術成果をまとめる体験により，学術的基礎力を養成する。

1. aのみ:イントロダクション(日本語史研究の射程)
2. 文献日本語史研究・比較方言学・言語地理学・言語類型論の目的と方法
3. 音韻史(1)上代
4. 音韻史(2)中古～中世
5. 音韻史(3)近世～現代そして将来像、変遷のメカニズム
6. アクセント史:変遷とそのメカニズム
7. 文字表記史:変遷とそのメカニズム
8. 文法史(1)上代
9. 文法史(2)中古～中世
10. 文法史(3)近世～現代そして将来像、変遷のメカニズム
11. 語彙史(1)上代～中古～中世
12. 語彙史(2)近世～現代そして将来像、変遷のメカニズム
13. 文章文体史:変遷とそのメカニズム
14. 言語行動史:変遷とそのメカニズム

※具体的な単元は，進度の具合、受講生の反応等に基づいて回数等が変動する場合もある。

履修上の注意

(a)公認欠席を除き、欠席時の授業内容・連絡事項については、各自自己責任で対処すること。公認欠席以外の欠席者に対するフォローは、毎回出席している全受講生への指導の支障・不利益につながるので原則として行わない。

(b)授業に相応しくない言動は厳禁とする。授業妨害とみなし、単位を出さない場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]

テキストの指定箇所や指定資料を読み、概要を把握しておくこと。

[復習]

1.各授業分の復習課題(指定テキストの演習問題＆配布課題)を指定シートに記入し、必ず期限までに指定の方法で提出すること。

2.必要に応じ、専門用語や概念については、参考書を参照し、定義(と代表的用例)を理解すること。

3.疑問・質問などについては、復習課題提出シートに記入し、提出すること。

教科書

沖森卓也『日本語全史』ちくま新書

参考書

上野善道・相澤正夫・加藤和夫・沢木幹栄著 1989「音韻総覧」尚学図書編『日本方言大辞典』(小学館)

大木一夫『ガイドブック日本語史』ひつじ書房
大木一夫編『ガイドブック日本語史調査法』ひつじ書房
大西拓一郎編『空間と時間の中の方言』朝倉書店
大西拓一郎編『新日本言語地図: 分布図で見渡す方言の世界』朝倉書店
金田一春彦『日本語方言の研究』東京堂出版
小林隆『方言が明かす日本語の歴史』岩波書店
ヘルマン パウル著、福本 喜之助訳『言語史原理』講談社学術文庫
佐藤武義・前田富祺代表編『日本語大事典』朝倉書店
日本語学会編『日本語学大辞典』東京堂出版
飛田良文等編『日本語学研究事典』明治書院

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

全授業分の復習課題提出シート(100%)のみで評価を行う。なお、授業中の極めて有益な指摘・発言等については、プラスαで評価するものとする。

その他

授業に関連する、無料で参加できる学会発表・研究会・講演会・シンポジウム等について、積極的に案内し、参加を奨励する。これらへの取り組みは、「参加＋参加コメント提出」で、平常点＋α点とする。

科目ナンバー：(AL)HIS211J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本古代史	日本古代史	
担 当 者	開講期	開講地区
五十嵐 基善	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

古代の日本は国家形成が進展した時期であり、国際情勢の影響も受けながら文明化が図られ、日本という国家の枠組が形成された点で重要となる。本授業では、弥生時代を起点とし、平安中期に至る日本古代史に関する事項を解説する。下記の授業内容に示したように、2 人の教員が分担して授業を進める。

歴史学は過去を対象とする学問であり、過去の情報が記録・保存されている歴史資料が判断材料となる。歴史資料の有無・性格によっては、史実を明確にすることが難しいこともあるが、過去の出来事を復元することの難しさと楽しさに触れて欲しい。この他、歴史上の出来事を個別の事象として捉えるのではなく、物事の本質をふまえて多面的に応用する力を養って欲しい。

授業内容

第1回 ： a:イントロダクション b:歴史学の基礎知識 【五十嵐】
第2回 ： 旧石器・縄文時代の社会 【五十嵐】
第3回 ： 弥生時代の国家形成と邪馬台国連合 【五十嵐】
第4回 ： ヤマト王権の成立と広域支配 【五十嵐】
第5回 ： 古墳・飛鳥時代の対外戦略 【五十嵐】
第6回 ： 飛鳥時代の国制 【服部】
第7回 ： 律令の編纂 【服部】
第8回 ： 律令制の成立と支配構造 【服部】
第9回 ： 律令制国家の軍事問題(1) 【五十嵐】
第 10 回 ： 律令制国家の軍事問題(2) 【五十嵐】
第 11 回 ： 平安前期の政治と律令制の変容 【服部】
第 12 回 ： 摂関政治の成立と展開 【服部】
第 13 回 ： 武士の成立と台頭 【五十嵐】
第 14 回 ： 授業の総括 【五十嵐】

履修上の注意

授業は講義形式で行なうが、受け身ではない姿勢で臨むことを求める。履修前提科目はないが、歴史学・日本史学に関心を持っていることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱う事項に関して、あらかじめ参考書・辞典・インターネットなどで概要を調べておくと理解しやすくなる。また、授業で紹介した文献などを読み、理解を深める意識を持つことも期待する。

教科書

指定しない。授業では資料を毎回配布し、パワーポイントも併用して解説する。

参考書

・吉村武彦編『新版 古代史の基礎知識』(角川書店)
・石川日出志ほか「シリーズ 日本古代史」1～6 (岩波書店)
・佐藤信編「古代史講義シリーズ」(筑摩書房)
・佐藤信監修・新古代史の会編「テーマで学ぶ日本古代史」(吉川弘文館)
この他、授業の中で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭で前回の内容を整理し、レポート作成を進める上で必要な論点を提示する。

成績評価の方法

平常点の評価は全体の 40%を占める。出席確認を兼ねたリアクションペーパーを毎回書いてもらい、内容をふまえて授業に取り組む姿勢として評価する(第1回～14 回)。レポートの評価は全体の 60%を占める。第 14 回の授業が終了した後、Oh-o!Meiji に提出してもらう。詳細は授業の中で指示する。

なお、授業には原則として毎回出席をすること。正当な理由のない欠席を 5 回以上した場合、レポートを提出しても単位の認定はしない。当然のことではあるが、4 回まで欠席しても問題ないということではない。

また、遅刻による入室は授業の妨げとなるだけではなく、平常点の公平性が担保できないため、原則として遅刻は認めない。この他、リアクションペーパーの代筆は不正行為となるため、発覚した場合は例外なく単位の認定はしない。

その他

・受講者の関心をふまえ、授業内容を一部変更する場合もある。
・授業とは関係のない言動は厳に慎むこと。状況によっては退室を指示する。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本古代史料学	**日本史料学 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
服部 一隆	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

歴史学は事実に基づいた学問であり、そのためには史料の分析が必要となる。そこで本授業では、日本古代史に関する基本史料の読解方法について学習する。

また、近年発達しているインターネットを使用した史料研究についても紹介する。

研究テーマについて、関連史料を探索・読解できるようになることが目標である。

授業内容

各回の前半(a)奈良・平安時代の史料(正格漢文中心)を種類別に読み、後半(b)は平安中期の史料(貴族日記などの変体漢文中心)を読み進める。学生が担当箇所を報告し、講師が解説する。なお、古記録は昨年度に引き続き長元元年(1028)に起きた平忠常の乱に関する記事を読む予定である。

第1回：古代史料の調査・読解方法と参考文献の紹介
第2回：(a)令 令義解(b) 古記録(小右記ほか)
第3回：(a)令 令義解(b) 古記録(小右記ほか)
第4回：(a)国史 続日本紀(b) 古記録(小右記ほか)
第5回：(a)格 類聚三代格(b)古記録(小右記ほか)
第6回：(a)格 類聚三代格(b)古記録(小右記ほか)
第7回：(a)格 類聚三代格(b)古記録(小右記ほか)
第8回：(a)式 延喜式(b)古記録(小右記ほか)
第9回：(a)式 延喜式(b)古記録(小右記ほか)
第 10 回：(a)式 延喜式(b)古記録(小右記ほか)
第 11 回：(a)木簡・銘文(b)古記録(小右記ほか)
第 12 回：(a)木簡(b)古記録(小右記ほか)
第 13 回：(a)正倉院文書(b)古記録(小右記ほか)
第 14 回：(a)東南院文書(b)古記録(小右記ほか)

履修上の注意

高校の漢文・古文を復習し、高校日本史の史料集(古代部分)に目を通しておくこと。
配布資料およびレジュメはファイルに綴じて毎回持参すること。
毎回の報告をきちんと聴き、知識を深めていくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：(a)は漢和辞典(『全訳漢辞海』『新字源』など)、(b)は古語辞典(『日本国語大辞典』など)を引き、各自で訓読してくること。
復習：授業での訓読を再度辞書で確認し、各自で理解すること。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する。

参考書

『日本史を学ぶための古文書・古記録訓読法』苅米一志著(吉川弘文館)
『古代史料を読む 上 律令国家篇』佐藤信・小口雅史編(吉川弘文館)
『古代史料を読む 下 平安王朝篇』佐藤信・小口雅史編(吉川弘文館)
『日本古代史を学ぶための漢文入門』池田温編(吉川弘文館)
『木更津市史史料編4古代』(木更津市)

課題に対するフィードバックの方法

質問をアンケートに記入し、サイトや授業で回答する。

成績評価の方法

報告・質疑 50% レポート 50%

その他

授業で扱わない史料についての質問も受け付ける。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史映像資料研究	**日本史映像資料研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
宜野座 菜央見	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

19 世紀末に登場した映画は、20 世紀に著しく発達し世界中の大衆に支持され、最も民主的な＜娯楽・メディア・芸術＞になりました。今日では SNS で誰もがアイデアやパフォーマンスを世界に発信できますが、そうしたツールが存在しなかった社会では、大衆は映画に熱い期待を寄せたのです。テレビもまたナショナリズムを結びつくメディアとして機能します。そのようなものとしての映画・テレビ番組を、本講座は大衆観客の価値観・心情の理解に洞察を与える史資料としてアプローチします。

全体を通して、講義・映像視聴・関連資料のリーディングを行いながら、学生が「イデオロギー」・「検閲制度」・「プロパガンダ」・「ジェンダー」等のキー概念を把握しながら分析できることを到達目標とします。

講座前半で、製作を含む基本事項を確認し、検閲があった時代の映画(戦前・戦中の国家検閲・戦後の GHQ 検閲)を考察します。

講座後半では、占領終了後から 1989 年(昭和と冷戦の終焉)までを区切りとして、日本社会で注目された映画・テレビ番組における戦争認識・記憶を分析し、表象の変容を確認します。アメリカで始まった＃MeToo 運動で明らかにされたように女性差別は長く続き、日本社会一般及び日本映画産業も例外ではありませんでした。そうした問題も、教室での映像視聴と、時代ごとの社会的要因とを考え合わせることで、学生自身が問題意識を持つよう促します。

授業内容

Class 1. 成績評価の説明、映画のイデオロギー、映画製作の基本(脚本)
Class 2. 映画検閲と日本映画の変容：1920 年代(サイレント期)
Class 3. モダン・ライフを活写する 1930 年代映画から戦時プロパガンダ
Class 4. 占領期の GHQ 検閲と日本映画の戦争認識
Class 5. 民主主義を歌う原節子主演映画と東宝争議
Class 6. 1950 年代：喪の時間・場所としての日本映画
Class 7. 独立プロの挑戦
Class 8. テレビの登場：冷戦とナショナリズム
Class 9. 1960 年代：戦争記憶の風化・異化
Class 10. 1970 年代：ベトナム戦争期の反戦映画
Class 11. 1980 年代：人気テレビ番組の戦争認識
Class 12. 1980 年代：ナショナリズムを刺激する映画
Class 13. 期末レポートに基づく報告会(レポート提出締切日)
Class 14. 原爆をめぐる映画表象の変遷

履修上の注意

・学生には、毎週、授業参加の証明としてコメントを UP することが課せられます。単位取得には最低 10 回のコメント UP が必要です。
逆に言うと、5 回、コメントを怠った段階で「授業放棄」として扱います。
・Class 13 の期末レポートに基づく報告会への参加は必須で、この日の欠席は成績に直接影響しますので注意して下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容を理解するために、毎回、ハンドアウトをアップロードするので、資料と併せて予習・復習に読んでください。

教科書

特に指定しません。授業内容のハンドアウトとリーディング・マテリアル(資料)は Oho Meiji にアップロードします。

参考書

講座後半では、年代ごとの戦争認識を示す表象がどのように変容したか確認していくので、参考文献として、吉田裕『日本人の戦争観：戦後史のなかの変容』(岩波文庫)を指定します。

課題に対するフィードバックの方法

・毎週、「ディスカッション」に学生が UP したコメントの中で注意を払うべきものには、フィードバックとして教室で言及します。
・「期末レポート」に関しては、クラスウェブ上でフィードバックとして全体評を公開します。場合によっては、個別のレポートに言及します。

成績評価の方法

授業参加とライティングを重視し、以下の3項目を総合的に判断して評価します。

①授業参加点(「ディスカッション」へのコメントのアップは一種の「課題」として扱う)：3 ポイント×14 クラス＝42%
②期末レポートと報告会参加：48%
③その他(クラス全体への貢献・突出した努力への評価など該当する場合)：10%。

その他

・「ディスカッション」は出席証明であるだけでなく、コメントを通じて各自が感じ考えたことを表明する機会です。日常的に親しんでいる映像に歴史
的視点から取り組むと新鮮な発見があるはずです。多くの学生にとって、映画をアカデミックな観点から論じるのに慣れていないのが現状なので、
意識変化を促すことを狙っています。
・過去に「映画論」など映像に関する科目を履修した学生の参加を歓迎します。それらの科目で獲得した問題意識・アプローチと、この授業との相違
点・類似点を指摘する発言があれば、他の学生にとって知的刺激となり、クラス全体への貢献として評価します。
・女子学生の参加を歓迎します。ジェンダー平等を問題意識として維持したいので、多くの女子に参加してもらい、声を聞かせてほしいです。
・グループ討論を通常の教室で実施する Class 13 以外は、グローバル・ホールでの授業を予定しています。
・4 年生に向けて
就職活動や教育実習(通常、欠席 3 回となる)で出席が確保できないのであれば、到底、履修は勧められません。
この授業は、グローバル・ホールで視聴しないと履修意義がないからです。

科目ナンバー:(AL)HIS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史概論A	**日本史概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 一樹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

古代から近世にかけての日本の歴史を概観する。通史的に講義するが総花的な解説ではなく、4名の教員［古代:里舘翔大、中世:高橋一樹、中近世:清水有子、近世:野尻泰弘］が各自の専門にもとづき、重要な時期や事件などに焦点を絞りこみつつ数回の講義をおこなうオムニバス形式をとる。全講義をつうじて、日本の古代・中世・近世の歴史を学ぶうえで必要な基本事項の理解を深めることを目的としている。

授業内容

プロローグ(担当:高橋一樹)
第1回 日本史概論の授業スタイルと単位履修について
文献史学(前近代)の研究方法

古代(担当:里舘翔大)
第2回 古墳・飛鳥時代の制度と政治史
第3回 奈良時代の制度と政治史
第4回 平安時代(院政期まで)の制度と政治史

中世(担当:高橋一樹)
第5回 院政の展開と鎌倉幕府
第6回 王権の分裂と内乱
第7回 公武統一政権と東アジア
第8回 大名と一揆

中近世(担当:清水有子)
第9回 天下人の時代(1)織田信長
第10回 天下人の時代(2)豊臣秀吉
第11回 天下人の時代(3)徳川家康

近世(担当:野尻泰弘)
第12回 近世の村
第13回 近世の城下町
第14回 近世社会の仕組み

履修上の注意

授業開始までに日本史に関する概説書を読み、基礎知識を養っておくこと。また年表や歴史地図などにも目を通しておくことが望ましい。
講義中、私語が甚だしい場合などは退出してもらうことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

通史や講座などの文献を使って予習すること。
授業中に示された参考文献を使って復習すること。

教科書

とくに使用しないが、講義内ではレジュメを配布するほか、DTP(パワーポイント)およびビデオ教材なども適宜、活用する。

参考書

『概論日本歴史』(吉川弘文館、2000 年)。このほか、毎回の授業のなかで紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・提出物に対するフィードバックは、次回の授業内または Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

成績は、4名の担当教員ごとに課題を提出し、それを総合して評価する。すべての課題について、それぞれ期限を厳守して提出すること。担当教員ごとに課題の内容や提出の期限は異なり、4名の教員がそれぞれ担当する古代・中世・中近世・近世の時期区分ごとの講義内容を偏りなく聴講してもらう必要があるため、各担当教員から提出をもとめられた課題のうち、1つでも未提出の場合は F 評価となるので、十分に注意すること。

その他

日本史概論 B(秋学期)を引き続き受講することが望ましい。

科目ナンバー:(AL)HIS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史概論B	**日本史概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

近代から現代にかけての日本の歴史を概観する。通史的に講義するが総花的な解説ではなく、今年度は 4 名の教員(落合弘樹、松山恵、山田朗、富山仁貴)が各自の専門にもとづき、重要な時期や事件などに焦点を絞りこみつつ数回の講義をおこなうオムニバス形式をとる。全講義をつうじて、日本近代史・現代史を学ぶうえで必要な基本事項の理解を深めることを目的としている。

授業内容

第1回 ペリー来航への対応(担当:落合弘樹)
第2回 安政・文久期の政局(同上)
第3回 薩長連合の成立(同上)
第4回 明治政府の成立と都市(担当:松山恵)
第5回 開港場と居留地(同上)
第6回 明治・大正期の都市文化(1)(同上)
第7回 明治・大正期の都市文化(2)(同上)
第8回 帝国主義の時代(1) :日清・日露戦争(担当:山田朗)
第9回 帝国主義の時代(2) :植民地支配の始まり(同上)
第10回 世界戦争への道(1) :満州事変と日中戦争(同上)
第11回 世界戦争への道(2) :三国同盟とアジア太平洋戦争(同上)
第12回 敗戦による非軍事化と戦争放棄(担当:富山仁貴)
第13回 冷戦下における再軍備と平和運動(同上)
第14回 日米安保体制の展開と戦争観の変容(同上)

履修上の注意

授業開始までに日本史に関する概説書を読み、基礎知識を養っておくこと。また年表や歴史地図などにも目を通しておくことが望ましい。
講義中、私語が甚だしい場合などは退出してもらうことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

通史や講座などの文献を使って予習すること。
授業中に示された参考文献を使って復習すること。

教科書

とくに使用しないが、講義内では適宜レジュメを配布するほか、DTP(パワーポイント)およびビデオ教材なども活用する。

参考書

『概論日本歴史』(吉川弘文館、2000 年)。このほか、毎回の授業のなかで紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業中、ないし Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

成績は 4 名の担当教員が出題する課題にもとづいて評価する。詳細については、それぞれの授業回において説明する。
なお、各提出期限を厳守し、すべての課題を提出すること。4 教員の課題のうち、1 つでも課題が未提出の場合は F 評価となる。

その他

日本史概論A(春学期)から引きつづき受講することが望ましい。
授業形式については「対面」を想定しているが、感染症の拡大状況などによっては「ハイブリッド型(対面とオンラインの併用)」へと切り替える可能性がある。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史図像資料研究	**日本史図像資料研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
鷲頭 桂	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本では古来、さまざまな主題の絵画が、多様な形式や技法によって制作されてきた。これらの絵画史料に対しては、表現の時代・地域的特質を明らかにする様式史的研究が行われるほか、その絵画史料がいかなる社会的要請のもとに制作され、どのように受容されてきたのかを解明する美術社会史的なアプローチも展開されてきた。さらに、絵画は文献史料を補完し、過去の歴史・文化を知るための素材としても積極的に活用されてきた。

本講義では、日本絵画の基本的な見方、読み方を学ぶとともに、特に中世絵画における主題選択の仕組みや、制作背景、享受の実際を考察することを目指す。

授業内容

1. イントロダクション
2. 絵巻物1
3. 絵巻物2
4. 掛幅縁起1
5. 掛幅縁起2
6. 屏風絵・障壁画1
7. 屏風絵・障壁画2
8. 肖像画
9. 風俗図1
10. 風俗図2
11. 南蛮美術1
12. 南蛮美術2
13. 見学課題1
14. 見学課題2

※授業期間に原物の絵画史料が美術館、博物館などで公開されている場合、それらを授業で扱うなど、授業内容と順番を変更することがある。

※見学課題は、前後の授業との兼ね合いから、土曜日に実施する可能性がある。実施の詳細は授業において通知する。

履修上の注意

・課題として、博物館等での展示見学を課す。展示見学には交通費、観覧料が発生する場合がある。なお、本学の学生は、展覧会の観覧において、美術館・博物館の会員制度を活用できるため、積極的に利用してほしい(https://www.meiji.ac.jp/campus/campus_members.html)。

・美術史に関する専門知識の有無は問わないが、美術作品、絵画史料に関心があることが望ましい。

・授業各回の最後にリアクションペーパーを書き、提出する。

・授業に関係のない私語やスマートフォン、パソコンの使用は控えること。著しい場合はその回の受講を認めないことがある。

準備学習(予習・復習等)の内容

負担にならない範囲で展覧会等で実物資料を見たり、授業内で紹介する参考書を読んだりすること。

教科書

教科書は使用しない。授業はパワーポイントで行い、適宜レジュメを配布する。

参考書

授業の中で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の最後にコメントシートを提出してもらい、次回以降の授業のなかで適宜フィードバックして共有する。

成績評価の方法

授業中の貢献(リアクションペーパー) 60%

期末レポート 40%

その他

なし。

科目ナンバー：(AL)HIS211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本思想史 I	**日本思想史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 光明	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

江戸時代の日本列島に生きた様々な人々(知識人・歌舞伎役者・政治家・女性等)は、何を考え、どんな思想を抱いたのか？彼ら・彼女たちは、現実の政治・社会の動きをどのように認識し、それらに対して如何に関わったのか？ そのような彼ら・彼女たちの思索や動向は、隣国と比較するとどのように位置づけられるのか？

この授業では、これらのテーマについて、具体的な史料(知識人や語り手の代表的なテクストの一部)を通して検討することで、(1)史料を自分で読み解く能力、(2)史料から自分で問題をたてる能力、(3)その問題についてさらに自分で調べ考え抜く能力、(4)その調査や思索を他人にも共有可能な文章で的確に表現する能力を鍛えます。

授業内容

第1回 イントロダクション(「日本思想史」への招待。「日本思想史」とは何か。江戸時代の思想史についての最近の研究状況の説明、参考文献・工具書の紹介等)

第2回 主題1基礎 近世日本と東アジア世界①:科挙と科挙批判の比較史

第3回 主題1展開 近世日本と東アジア世界②:出版文化の特徴と知的ネットワークの形成

第4回 主題2基礎 儒学の思想と文化①:荻生徂徠の思想と南総体験

第5回 主題2展開 儒学の思想と文化②:荻生徂徠の思想とその影響

第6回 主題3基礎 芸能者の思想と文化①:市川団十郎とその時代

第7回 主題3展開 芸能者の思想と文化②:初世中村仲蔵と田沼時代・寛政改革

第8回 主題4基礎 政治改革の思想と文化①:松平定信の来歴と思想

第9回 主題4展開 政治改革の思想と文化②:中井竹山の思想と懐徳堂

第10回 主題5基礎 国学の思想と文化①:本居宣長の来歴と思想形成

第11回 主題5展開 国学の思想と文化②:本居宣長の思想とその影響

第12回 主題6基礎 女性の思想と文化①:只野真葛の来歴と思想形成

第13回 主題6展開 女性の思想と文化②:只野真葛の思想とロシア認識

第14回 まとめ

履修上の注意

授業の進め方は、以下の通りです。〈基礎授業〉(1)主題の解説、(2)史料の音読と簡単な質疑応答、(3)解説と講義、〈展開授業〉(1)補足説明、(2)史料の音読と簡単な質疑応答、(3)さらに深めるべき問題について議論、(4)史料を読むなかで生じた自問自答をカードに書いて提出。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の前には、あらかじめ配布された史料をよく読んでおくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

プリント史料(『日本思想大系』の各巻からの抜粋等)が基本。それ以外は、授業の際に適宜紹介する。なお、上野大輔・清水光明・三ツ松誠・吉村雅美編『日本近世史入門:ようこそ研究の世界へ！』(勉誠社、2024年)を手に取れば理解が深まるであろう。

課題に対するフィードバックの方法

上記の2回に1回提出してもらうカードの内容に点数とコメントを付して返却する。

成績評価の方法

6つの主題のカードの計6回の記述内容(各回700字程度)を、1回20点満点で評価する。合計95点以上S、80点以上A、70～79点B、60～69点C。50点～59点の人には追加小レポートを課す。

その他

候文等の和漢文や古文体・漢文体・漢文訓読体の史料が多いので、難語を辞書で調べ音読の予習をしっかり行うこと。また、その上で、それぞれの思想・文化の共通点・相違点、相互の影響関係及び比較史的視点に注意を払うことも重要です。

科目ナンバー：(AL)HIS211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本思想史Ⅱ	**日本思想史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊勢 弘志	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業内容＞

・日本思想史Bでは、近代から現在までの政治・社会に影響を与えた思想動向を中心に講義する。
・思想の内容だけでなく、それが当時の社会とどれほど関わったのか、さらには現在にどれほど影響しているのかを学ぶ。
・日本の社会とは、どのような体質の社会であるのかを考察し、自身の暮らす環境への理解を深める。

＜到達目標＞

・日本社会が現代に至るまでに、どのような思想の影響を受けてきたのかを理解できる。思想史を学ぶことが、現代社会での暮らしにどれほど関わることなのか理解できる。
・歴史事象に影響を与えた思想に対して、同時代における評価と、現代から見た評価との双方の観点から考察できる。
・現在の自分自身の環境がどのようにつくられてきたのか、思想史の視点から理解できる。
・日本社会とは、どのような体質の社会であるのか、自らの理解のうえに説明できる。

授業内容

以下のテーマに沿って、できるだけ様々な思想に触れながら、歴史と思想の関係を考察していく。

1. 思想と哲学の方法 -思想とは何か？
2. 日本史に「革命」はあるのか？ -革命思想の社会史
3. 日本人の法意識 -「自由」と「勝手」はどう違うか？
4. 国家教育と思想統制 -国民の支配と統制
5. 国権思想と国民教化 -権力への加担と集団的圧力
6. 国体思想と教育 -無上の価値×疎外の尺度
7. 思想トレンドと国体学 -「顛倒の論理」
8. ナショナリズムの思想史 -「進化論」の世紀
9. 社会主義思想-「働く」とは何か？
10. 都市と大衆とデモクラシー -「改良」から「改造」へ
11. 「新自由主義」という思想 -能力主義社会は成立するか？
12. 「自由」と「民主」はどう違うか？ -強制と自助
13. 「近代化論」と歴史学 -「文明」と「文化」はどう違うか？
14. 現代思想と日本社会

私たちのいる現在の日本社会と、近現代の思想との関連性を理解する。
そのために特定のジャンルや思想のみ取り上げるのではなく、各時期の思想トレンドとともに歴史的背景を学習することで、その思想が生み出され、受容された理由を考えていく。

履修上の注意

◎ 初回の授業時に、成績評定の方法などを説明するので、必ず把握したうえで履修すること。
（理解のないまま履修した場合、成績評定に不利になる場合があります。）

① 特定の思想だけでなく、各時代・各時期の様々な考え方を理解するように臨むこと。

② 教科書は必ず用意すること。

③ 各テーマに対してとにかく積極的に考えること。そのうえで、「なぜ勉強をするのか？」必死に考えること。

＊ 教室では特別な理由のない限り PC・スマホは使用できません。必ず理解した上で履修すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

①授業時間の他に、講義で学習した思想について考える時間をつくること。

②教科書を読んで、自らの意見・考えをノートしておくこと。

③自ら調べて学習すること(「教わるのを待つ」姿勢ではなく、「自身で学ぶ」姿勢で臨むこと)。

教科書

伊勢弘志『権利と道徳 － 二宮金次郎が校庭にいたわけ』(高文研、2026 年)。

参考書

伊勢弘志『明日のための現代史 戦後の世界と日本』[下巻](芙蓉書房出版、2022 年)。

＊ 他に希望のある場合には、それに応じて教室で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で対応する。

成績評価の方法

リアクションペーパー50%、 レポート50%

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史特説(政治と宗教)A	**日本史特説ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
石津 裕之	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本近世における政治と宗教の関係について講義を行う。具体的には、僧侶や僧侶が運営する寺院に着目し、彼らが政治権力(織田・豊臣・徳川の各政権)からどのような統制を受けていたのかを解説する。また、そうした統制のもとで、僧侶がどのような身分を保持し、僧侶・寺院が社会といかなる関係を構築していたのかという問題にも論及することで、政治権力による統制が僧侶・寺院に与えた影響を多角的に論じる。なお、比較的イメージしやすい僧侶だけでなく、一般にはあまり馴染みのない門跡(もんぜき)寺院についても取り上げる。日本近世における僧侶・寺院と政治権力の関係について、基礎的な知識を身につけるとともに、そこから見えてくる当時の政治・社会のあり方について、自分の言葉で他者に説明できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 近世の前提としての中世の宗教構造①(中世前期)
第3回 近世の前提としての中世の宗教構造②(中世後期)
第4回 織田・豊臣政権による寺院・僧侶統制
第5回 江戸幕府による寺院・僧侶統制
第6回 江戸時代の僧侶の身分
第7回 僧位僧官の制度
第8回 寺院・僧侶と社会①(仏教と社会の回路)
第9回 寺院・僧侶と社会②(仏教思想をめぐる動向)
第10回 江戸幕府による門跡統制の全体像
第11回 輪王寺門跡をめぐる様相
第12回 朝廷における門跡の位置づけ
第13回 門跡の相続と江戸幕府・朝廷
第14回 a:試験
b:試験の解説

履修上の注意

毎回レジュメを配布するが、一部空欄になっているので、授業を聞いて自分で埋めること。授業後に感想(質問があれば質問も含む)を提出してもらうので、主体的に授業を聞くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の冒頭に前回授業へのフィードバック(感想の紹介や質問への回答)を行うため、前回の授業内容を毎回必ず復習したうえで授業に出席すること。また、講義中に紹介する参考文献を確認しておくとともに、冠婚葬祭や寺社参詣といった身の回りにある宗教に関わる事象について、歴史的な背景を考える習慣を身に付けておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業後に感想(・質問)を提出してもらい、次回の授業の冒頭で、時間の許す範囲でコメントを行う。また、最終授業日に期末試験を実施し、直後に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末試験:60%(授業の理解度を問う筆記試験を学期末に実施する。持ち込みは不可)。
平常点:40%(毎回の授業後に提出してもらう感想で評価)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史特説(政治と宗教)B	**日本史特説ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
石津　裕之	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期に続き、日本近世における政治と宗教の関係について講義を行う。具体的には、神職や神職が運営する神社に着目し、彼らが政治権力(特に江戸幕府)からどのような統制を受けていたのかを解説する。また、そうした統制のもとで、神職がどのような身分を保持し、神職・神社が社会といかなる関係を構築していたのかという問題にも論及することで、政治権力による統制が神職・神社に与えた影響を多角的に論じる。さらに、修験・陰陽師・勧進聖・巫女といった、現在ではイメージしづらくなってしまった宗教者に関しても同様の視角から解説を加える。なお、春学期を踏まえ、神仏関係(寺院との関係)にも目配りする。日本近世における上記の諸宗教者と政治権力の関係について、基礎的な知識を身につけるとともに、そこから見えてくる当時の政治・社会のあり方について、自分の言葉で他者に説明できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第1回　江戸幕府による神社・神職統制①－諸社禰宜神主法度の前提－
第2回　江戸幕府による神社・神職統制②－諸社禰宜神主法度の意義－
第3回　中小規模の神社の神職の身分
第4回　国家祭祀対象社の社家の身分
第5回　神社・社家と社会①(村落の場合)
第6回　神社・社家と社会②(都市の場合)
第7回　近世の神仏関係①(寺院と神社の関係)
第8回　近世の神仏関係②(江戸幕府による統制の影響)
第9回　修験の存在形態
第10回　陰陽師の存在形態
第11回　勧進聖の存在形態
第12回　巫女の存在形態
第13回　総括－江戸幕府による統制と宗教者－
第14回　a:試験
　　b:試験の解説

履修上の注意

受講は、原則として春学期の履修を前提とする。その他の注意点は、春学期と同じ。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の冒頭に前回授業へのフィードバック(感想の紹介や質問への回答)を行うため、前回の授業内容を毎回必ず復習したうえで授業に出席すること。また、講義中に紹介する参考文献を確認しておくとともに、冠婚葬祭や寺社参詣といった身の回りにある宗教に関わる事象について、歴史的な背景を考える習慣を身に付けておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業後に感想(・質問)を提出してもらい、次回の授業の冒頭で、時間の許す範囲でコメントを行う。また、最終授業日に期末試験を実施し、直後に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末試験:60%(授業の理解度を問う筆記試験を学期末に実施する。持ち込みは不可)。
平常点:40%(毎回の授業後に提出してもらう感想で評価)。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史特説(政治と文化)A	**日本史特説ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
宜野座　菜央見	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この講座では、近代前期 16 世紀から始めて 20 世紀前半までの流れをたどりながら、日本を訪れた多種多様な外国人を中心に、海外で日本について考えた日本人らのケースも加えて「外からの眼差し」として認識し、日本の何に独自性が見出され肯定・否定されたか考察し、それぞれの時代の世界状況に日本を関連づけます。

授業では、週ごとの講義トピックに沿って、「外から眼差し」で日本を考察した人々自身の記述、彼らに関する文献を読み、彼らが育った言語文化・価値観と日本文化との隔たり、背景となる国際政治を確認しながら、学生にとって当たり前の知識に見えた歴史的事柄を、従来と異なる視角から捉え直します。学生が人種・民族・言語文化・ジェンダー・宗教・階級・世代など「差異」をもたらすカテゴリーに明敏になるよう促し、学生自身の専門分野での知的パックグランドを強化します。

また、翻訳が入手可能な場合、海外での研究成果も紹介して、日本が海外の研究者に探究される問題意識に触れる機会を提供するので、「外からの眼差し」を学術レベルにおいても認識できます。

授業内容

Class 1. イントロダクション:「外からの眼差し」を意識する
ルイス・フロイス『日本史』、田中優子『グローバリゼーションの中の江戸』
Class 2. パックス・トクガワ(徳川の平和)と4つの窓
ポダルト＝ベイリー＝『ケンペルと徳川綱吉』・ロナルド・トビ『鎖国という外交』
テッサ・モーリス＝鈴木『辺境から眺める:アイヌが経験する近代』
Class 3. 幕末を見た外交官たち
アーネスト・サトウ『一外交官のた明治維新』・佐野真由子『オールコックの江戸:初代英国公使が見た幕末日本』
Class 4. 日本人の海外体験から
福沢諭吉『福翁自伝』・イアン・ニッシュ『欧米から見た岩倉使節団』・森有礼「書簡」
Class 5. 明治日本を訪れた個性的な旅行者たち
イザベラ・バード『日本奥地紀行』・小松久男『イブラヒム、日本への旅:ロシア・オスマン帝国・日本』
Class 6.　失われる心性と「創造された伝統」
渡辺京二『逝き日の面影』、岡倉天心『茶の本』・ドナルド・キーン「松浦武四郎を読んでみて」
Class 7. 中間レポート報告会(学生が各自のレポートに基いて報告する)
Class 8.　朝鮮半島:日本の植民地主義
張赫宙「岩本志願兵」(短編小説)・水野直樹・文京洙『在日朝鮮人:歴史と現在』・高史明『生きることの意味』
Class 9. 敵か友か:中国から見た日本
周恩来『十九歳の日本日記』・蒋介石「敵か友か」・ラナ・ミッター『五四運動の残響:20 世紀中国と近代世界』
Class 10.　パンと憧れ:大正のサロン・中村屋ストーリー
相馬愛蔵(中村屋創業者)『私の小売商道』・中島岳志『中村屋のボース:インド独立運動と近代日本のアジア主義』
Class 11.　軍国日本の目撃者たち
ヒュー・バイアス『昭和帝国の暗殺政治:テロとクーデターの時代』・ジョセフ・グルー『滞日十年』
ケネス・ルオフ『紀元二千六百年:消費と観光のナショナリズム』
Class 12　昭和のモダン文化と日本の女性たち
キャサリン・ソンサム『東京に暮す』
Class 13. ゾルゲ事件とは何か
リヒャルト・ゾルゲ『ゾルゲの見た日本』・チャルマーズ・ジョンソン『ゾルゲ事件とは何か』・加藤哲郎『ゾルゲ事件』
Class 14.　学生による学期末レポートの報告会

履修上の注意

・特にありません。学生自身が読む作業を重視するので、読むことに向き合う学生に参加してほしいです。
このクラスは多様性を重視しており、留学生も歴史専攻ではない学生も歓迎します。
聴解力・読解力に自信のある留学生であれば、履修上、大きな不利はないでしょう。不安な場合は相談してください。
日本史専攻ではない学生も、相談してくれれば、レポートでのトピック選定で考慮するなど対応します。
・中間レポートと期末レポートを課すので 2 つレポートを書くことになります。
目安として、今学期を「自分が関心の持てる新書を 2 冊をしっかり読む機会」と捉えて取り組んでほしいと思います。
・学生には、毎週、授業参加の証明としてコメントを UP することが課せられます。授業終了時刻 10 分前(午後4時 50 分)から翌週水曜の夜
(午後 11 時 59 分)までの間に Oho Meiji の「ディスカッション」にコメントを UP してほしいのです。教室でもコメント UP を呼びかけますが、
単位取得には最低 10 回のコメント UP が必要です。逆に言うと、5 回、コメントを怠った段階で「授業放棄」として扱います。
コメントに関しては教室で詳しく説明するので、履修希望者は Class 1 に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

リーディング・マテリアル(20 ページ程度)をクラス・ウェブサイトにアップするので、週ごとのトピックに合わせて事前に読む予習リーディング、または、講義を聞いてから読む復習リーディングのどちらかを課します。

教科書

特に定めません。

参考書

＜関心のある学生向け＞
文庫にしては分厚いのですが、渡辺京二『逝きし日の面影』(平凡社ライブラリー2005 年)は大変面白いので言及しておきます。幕末から明治に日本を訪れた外国人たちの観察(彼らの著作から)が大量に引用されている点も驚異的ですが、明治の近代化で失われる前の人々のメンタリティー(心性)を伝える情報にもビックリしてしまいます。授業でも部分的に扱いますが、関心のある人には部分的にでも読むことを推奨します。

課題に対するフィードバックの方法

・「履修上の注意」で明記した通り、学生は、毎週の授業後、Oh! Meiji の「ディスカッション」にコメントを UP するので、注意を払うべきコメントにはフィードバックとして教室で言及します。
・中間及び期末レポートに関しては全体評を教室で伝えるか、クラスウェブで公開します。場合によって個別評を Oh!Meiji で伝えます。

成績評価の方法

以下の4項目を総合的に考慮して、評価します。
①授業への参加(毎週の授業後、クラスウェブの「ディスカッション」にコメントをアップする。):30%
②中間レポートと報告(発表)会:30%
③学期末レポートと報告(発表)会:30%
④その他(授業への突出した貢献・格別な努力など):10%。

その他

・比較的新しい講座なので、履修生の知識水準を確認しながら進めます。
・多彩な著者の個性を絵画・写真等を通じてヴィヴィッドに紹介するので、学生からの積極的なフィード・バックを歓迎します。
・多くはありませんが、小説も紹介します。学生に、普段、読むきっかけのない短編小説を知る機会を提供します。
植民地支配の時代に関して日本人著者が書いた短編小説、植民地期に日本語で教育を受けた朝鮮人著者が日本語で書いた短編小説、プロレタリア文学として分類される短編小説(著者は男性・女性)などです。
・4 年生で、履修に関心があるけれど、教育実習で3回欠席が予定されるので不安を抱く学生に向けて
事前に申し出てくれれば、報告の機会を他の学生とは別に設けるなど対応可能な場合もあるので、Class 1 の教室に来て問い合わせてください。

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本史特説(政治と文化)B	**日本史特説ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
宜野座 菜央見	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講座(副題として「外からの眼差し」戦後編)は、海外(主にアメリカ合衆国)から日本に向けられた学問的関心を対象化します。日本への海外からの関心の変容は、世界における日本の位置と連動しています。戦前・戦中、日本はアジアにおける侵略勢力であったため、連合国を構成した諸国からは戦後も敵視されました。海外で「日本」を対象とする学問的研究が本格化したのは、第2次世界大戦後です。とりわけアメリカ合衆国の日本研究は、戦争の所産である『菊と刀』の刊行に始まり、国際的影響をもたらしました。しかし、日本の研究者・知識人と海外の研究者との関係は必ずしも単純に平穏なものではなかったのです。米軍占領下に日本語翻訳が刊行された『菊と刀』に対して微妙な反発がありましたし、1960 年代には日本の「近代」の解釈をめぐって日米の歴史研究者の間に深刻な対立がありました。ベトナム戦争を境にしてアメリカに新しい世代が台頭してから、日米の研究者の関係はポジティブに変容し、今日に至っています。本講座では、毎回、史的関心から書かれた重要な著作・著者を紹介しながら、時系列とテーマごとに戦後史をたどり、海外から日本の何が注目され、それが、どんな政治言説の形成と関連したか、しているか考察します。とりわけ、日本の研究者と海外の研究者の問題意識及び歴史認識の違い、対立の背後にあった冷戦時代の政治的イデオロギーの影響など、学生が偏見なく適切に理解するよう促します。本講座で扱う問題を理解していくことで、学生は「自分自身の研究対象への向き合い方」を考えるパースペクティブ(大局的で釣り合いの取れた見方)を獲得するでしょう。

授業内容

1. イントロダクション：講義内容及び成績評価の説明、日本研究「前史」　アメリカの大学で日本研究が確立される過程では在米日本人の協力があった。見過ごされやすい彼らの貢献を「前史」として布置し、講座全体の流れを示した後、第 2 次世界大戦下の日米の状況を確認する。

2. 兵士から研究者へ：ドナルド・キーンの戦後日本　アメリカによる占領の基本を確認した後、キーンの軌跡を通じて、アメリカの日本研究を概観する。太平洋戦争に兵士として加わったキーンは、占領終了後に研究者として日本を再訪した。定期的に滞在し、三島由紀夫ら日本の作家たちとの交流を深め、彼らの小説を英語に翻訳して海外に紹介した。キーンは日本・日本人に何を見出したのか。

3. 戦争から生まれた研究：人類学者の文化相対主義　『菊と刀』は、第二次大戦中、敵国の日本人へのアプローチを模索した文化人類学者ルース・ベネディクトが戦後に刊行した。占領下の日本では反発され、その後も批判を受けてきたが、『菊と刀』は今日、「古典」として扱われる。

4. 忘れられた E・H・ノーマン：歴史家として外交官として　日本生まれのバイリンガル E・H・ノーマン(カナダ人)は GHQ で働き、歴史家としては徳川時代の思想家安藤昌益を思想史上に蘇らせた。日本の知識人と温かな交流を持ったが、冷戦を背景に悲劇的死をとげ、日本でも彼の友人たちに衝撃を与えた。

5. 合衆国主導の戦後世界：アメリカの「近代化論」　日本生まれの駐日大使(1961-65)として日本で慕われたエドウィン・ライシャワーは、ハーバード大学教授で日本の専門家だった。だが彼を代表とするアメリカの研究者と、日本のマルクス主義歴史学者とは「日本の近代」の解釈をめぐって真っ向から対立した。

6. 歴史研究が見なかったもの　日本と深い関係がありながら日本研究の埒外におかれたトピックが「日系移民」である。彼らは帝国日本が始めた戦争のせいで大きな苦難を強いられた。日系アメリカ人の経験を最初に広く伝えたのはドキュメンタリー作家ドウス昌代の仕事である。

7. 学生による中間レポート報告会　授業で紹介されたか、関連のある論文・論考の中から学生各自が選択してレポートを書き、グループごとに報告する。

8. 台頭する日本への関心　戦後日本の経済成長は国際的関心を呼び、多くの研究が生まれた。社会学者ヴォーゲルは、一般の日本市民のインタビューを含めた多角的リサーチを行い『ジャパン・アズ・ナンバーワン』を著した。また日本の政治(自民党の長期支配)は海外からは異質に見えた。政治学者カーティスは日本の政治構造を解き明かそうとした。

9. 日本のソフト・パワー：大衆文化の魅力　戦後、黒澤明・小津安二郎作品が海外で紹介されると日本映画は「芸術」として認知された。NHK テレビドラマ『おしん』()1983-84)は日本への反感が強かったアジアでもイメージを好転させた。また、スーザン・ネイピアの先駆的著作によりアニメは研究対象として認知されるようになった。

10. 東京裁判の認識：ダワーから戸谷へ　1990 年代までに日本研究のテーマ、アプローチは多様化した。近代化論を批判しベトナム戦争に反対した世代の研究者ジョン・ダワー(日米でベスト・セラーになった『敗北を抱きしめて』の著者)さえも乗り越えられた。次の世代トニ・ユマ(戸谷由麻)らが東京裁判の研究を深めている。

11. ポストコロニアルの認識①靖国神社と台湾　靖国神社は戦死した旧日本植民地出身者(台湾・韓国)の兵士を祀るが、遺族は喜ぶどころか抹消を要求したのに彼らの願いは無視されてきた。靖国問題を「ポストコロニアル」の観点から認識する。さらに、日本統治を経験した台湾人の日本に向ける複雑な心理に目を向ける。

12. ポストコロニアルの認識②)：ヒロシマ、朝鮮半島、ジェンダー　文化人類学者リサ米山の『広島 記憶のポリティクス』は、韓国人慰霊碑をめぐる問題、証言活動を通して深化した被爆者の戦争認識など、複雑なトピックを単純化せずに、リスペクトと繊細さを保って分析する。

13.「反日」に関する考察　海外からの問題提起として、台湾出身で神戸で少年期を過ごしアメリカで大学人となった研究者レオ・チンの著作『反日』を取り上げる。さらに、政治的にユニークな軌跡を歩んだ政治学者チャルマーズ・ジョンソンの沖縄に関する指摘と哲学者高橋哲哉が論じる構造的差別を繋げて考察する。

14. 学生による学期末レポートの報告会

履修上の注意

・特にありません。学生が読む作業を重視するので、読むことに向き合う学生に参加してほしいです。
　留学生も歴史学を専攻としない学生も歓迎します。
・中間期を過ぎた後半の授業では、リーディング・マテリアルに論文・学術書を紹介するため難しいと感じるかもしれません。でも、リーディングとレポートに関しては、個別相談に乗るので、留学生、日本史専攻以外の学生、近現代の専攻ではない学生が履修しても大丈夫です。
・中間レポートと期末レポートを課すので 2 つレポートを書くことになりますが、目安として、今学期を「自分が関心の持てる新書を 2 冊をしっかり読む機会」と捉えて取り組んでほしいと思います。
・学生には、春学期同様、毎週、授業参加の証明としてコメントを UP することが課せられます。
　授業終了時刻 10 分前(午後4時 50 分)から翌週水曜の夜(午後 11 時 59 分)までの間に Oho Meiji の「ディスカッション」にコメントを UP してほしいのです。教室でもコメント UP を呼びかけますが、単位取得には最低 10 回のコメント UP が必要です。逆に言うと、5 回、コメントを怠った段階で「授業放棄」として扱います。

準備学習(予習・復習等)の内容

リーディング・マテリアル(20 頁程度を予定)をクラス・ウェブにアップするので、毎回のトピックに合わせて予習、場合によっては復習として読んでください。

教科書

特に指定しません。毎回、ハンドアウトをクラスウェブに事前にアップするので、学生は授業でそれを参照することになります。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

・学生は、毎週の授業後、Oh! Meiji の「ディスカッション」にコメントを UP するので、注意を払うべきコメントにはフィードバックとして教室で言及します。・中間及び期末レポートに関しては全体評を教室で伝えるか、クラスウェブで公開します。場合によって個別評を Oh!Meiji で伝えます。

成績評価の方法

以下の 4 項目を総合的に考慮して評価します。①授業への参加(毎回「ディスカッション」にコメントを UP する)：30%　②中間レポートと発表(報告)：30%　③学期末レポートと発表(報告)：30%　④その他(授業への突出した貢献・格別な努力など)：10%。

その他

・戦後日本の軌跡を「海外の研究者の眼差し」でたどる、という比較的新しい内容の科目です。シラバスでは想像しにくい点もあると思いますので、履修に関心がある学生は、初回の授業に出席して問い合わせてください。新しい知識に触れながら楽しく勉強しましょう。
・多くはありませんが、小説も紹介します。日系アメリカ人の経験を伝える秀逸な小説などです。
　また、戦後日本における「歴史の語り手」の一つは「大衆文化」で人気のあった歴史小説も含まれます。歴史小説と学術書籍の目的・叙述スタイルの違いに関して、自分なりの認識を持ちたい学生にとっても刺激を提供できると思います。
・古領期に関する「知識不足」(たとえば、ベアテ・シロタの日本国憲法への貢献、占領期の抑圧的政策、未解決事件の連続を知らない)が見受けられるので、講座前半には、占領期を中心に戦後史をたどる作業を導入します。ですから、戦後史を補強したい学生にも履修を勧めます。

科目ナンバー：(AL)GEO331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本地誌	**日本地誌**	
担 当 者	開講期	開講地区
平川 亨	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「旅する巨人」と呼ばれた民俗学者宮本常一(1907-1981)は日本全国を歩き，その地域，場所，そしてそこに生きる人びとを記録した。本講義では，宮本常一の『海に生きる人びと』をテキストとして，日本を移動しながら海を生業を立てる場所として生活した人びとを捉え，そこから人びとの定住を考え，そして集落や産業の成り立ちを知る。この宮本常一の著作を精読し，彼の足跡を辿りながら「旅する日本地誌」を実践することで，各地域の成り立ちとその特徴を把握し，その独自性や他の地域とのつながりなどを認識し理解していく。そして「あるく，みる，きく」を標榜した宮本常一の研究法を，明治大学地理学教室のモットーである「あるく，観る，考える」に援用することにより，地理学を学ぶ者としてのより有効なフィールドワークの方法を身につけることを目的とする。

授業内容

第１回 イントロダクション：日本地誌とは，地域の捉え方，宮本常一の業績，『海に生きる人びと』：旅で死んだ漁民
第２回『海に生きる人びと』：狩猟と漁撈，海人の里，
第３回『海に生きる人びと』：安曇連，内海の海人の生活
第４回『海に生きる人びと』：隼国の海人，角鹿の海人
第５回『海に生きる人びと』：船住い（瀬戸内海の家船とその九州などへの移動）
第６回 特講「瀬戸内海の島とハワイとのつながり」（瀬戸内の島からハワイへの移民について）
第７回『海に生きる人びと』・鐘ヶ崎の海人
第８回『海に生きる人びと』・対馬の海人
第９回『海に生きる人びと』・壱岐の海人
第 10 回『海に生きる人びと』・舳倉の海人
第 11 回『海に生きる人びと』・志摩の海人
第 12 回『海に生きる人びと』・捕鯨と漁民（海人と捕鯨との関係）
第 13 回 特講：『くじら取りの系譜』を読む（日本の捕鯨史と漁法・鯨の利用の変遷）
第 14 回 特講：『海を渡った鯨組』を知る（戦前に和歌山からアメリカに渡った移民のドキュメント）

履修上の注意

講義の内容や進行は，さらなる理解を求めるために一部変更する場合がある。
毎回リアクションペーパーの提出を求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，事前に講義内容のレジュメの PDF をアップするので，必ず印刷したうえ目を通しておくこと(事前に閲覧，印刷をしなかった場合には平常点が減点となる)。
復習として，講義した内容の関連事項を文献などで調べること。

教科書

宮本常一(1964)『海に生きる人びと 日本民衆史 3』未来社(文庫版：2015，河出文庫)

参考書

宮本常一(1960)『忘れられた日本人』未来社(文庫版：1984，岩波文庫)
宮本常一(1967~1975)『私の日本地図』(全 15 冊)同友館(復刻版：2008~2016，未来社)
佐野眞一(1996)『旅する巨人 宮本常一と渋沢敬三』文藝春秋社(2009，文春文庫)
中園成生(2012)『くじら取りの系譜 概説日本捕鯨史 改訂版』長崎新聞新書
その他，授業の進捗に応じて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点 50%(出席とリアクションペーパー，小課題など。記述内容により最大 10%までの加点することがある)
期末試験レポート 50%(文字数 4000 字以上，論文形式に準ずる。地図・図表の使用，複数の書籍・論文などの参照を求める。テーマは授業内で提示する)

その他

科目ナンバー：(AL)HIS211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本中世史	**日本中世史**	
担 当 者	開講期	開講地区
土山 祐之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

環境・災害という視点から、日本中世社会の諸事象を読み解いていきます。中世村落の生活史を主な素材としながら、環境や災害がいかに人びとの生活を規定し、人びとはそれにどう適応したのか(あるいは適応できなかったのか)という点に注目します。その上で、現代社会における歴史学の意義についての理解を深めていきます。

高校生までで学んできた「日本史」を、各人が相対化できることを到達目標とします。そのために、①自らの考えを鍛える／養うことの意義を知る

②「なぜ」という問いを持ち続けることの重要性を知る

③多元的な社会の存在を知る

という 3 点を重視します。

授業内容

1 イントロダクション～歴史学とはなにか～

2 気候変動と中世社会　付治承寿永の乱

3 「実在」する神仏～起請文の世界～

4 黒山はなぜ描かれたのか～「領域」の形成～

5 中世百姓の生産活動と畠作

6 生活における「山野河海」

7 武士について～地域支配を中心に～

8 「惣村」の成立と資源の独占化～付「自力の村」と「非力の村」～

9 「興行」の変遷

10 領主と百姓の対立・協働～災害対応を考える～

11 「一揆」とはなにか～「結ばれる」一揆と慢性的飢饉～

12 古文書の作成と伝来～なぜ百姓は文字を書く／書けたのか～

13 中世的景観を読み解く～絵図と現地調査～

14 まとめ～見える「過去」と見えない「未来」～

履修上の注意

「自分であればどう考えるか」ということを意識しながら受講してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

高校日本史 B の教科書を読みなおしてください(出版社は問いません)。

可能であれば、講談社学術文庫『日本の歴史』シリーズも読んでください。

講義の理解に役立ちます。

教科書

特になし

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

授業後にリアクションペーパーの提出を求めます。そのコメントや質問について、次回授業にて回答します。

成績評価の方法

レポート 90%

授業への参加度 10%

なお、欠席が 5 回を超えた場合は、不可とします。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本中世史料学	**日本史料学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
宮崎 肇	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

古文書や古記録といった文献史料読解の基礎について学びます。

主に中世の史料を扱いますが、中世史料を解読するためには、くずし字の知識以上に、当時の言葉や言い回しの知識、文意・文脈から文字を推測する思考力が求められます。

本授業では、史料原本の画像をテキストとして、解読に関する総合的な知識の習得をめざします。紙面に書かれている文字をただ読むだけではなく、その書風や筆跡、料紙、伝存のあり方などから得られる情報についても取り上げ、史料をモノ史料の視点からも考察します。

また、近年充実しつつある史料にまつわるデジタルアーカイブを紹介し、その利用法も併せて学びます。

授業内容

授業は基本的に講義形式で進め、授業後にリアクションペーパーを提出していただきます。

第1回:中世史料を学ぶにあたって―中世史料の枠組み―

第2回:中世文書の二つのかたち―公式様と書札様―

第3回:院政期の古記録―『愚昧記』を読む―

第4回:初期鎌倉幕府発給文書を読む―付 花押を読む―

第5回:漢字の院宣・仮名の院宣―文字遣いが語るもの―

第6回:譲状の史料学―自筆の意味―

第7回:南北朝内乱期の史料―同時に多数発給される文書―

第8回:足利尊氏と直義―その発給文書をめぐって―

第9回:古文書の様式と執筆姿勢―書風・書体のTPO―

第 10 回:お茶を一服―茶屋関係史料を読む―

第 11 回:「施行」と「遵行」―室町幕府の使節遵行文書を読む―

第 12 回:情報の口頭伝達と文書―口宣案と女房奉書―

第 13 回:信長入京―禁制を読む―

第 14 回:豊臣秀吉文書を読む―秀吉の法令と遺言―

履修上の注意

リアクションペーパーの活用を推奨します。授業内容についての疑問や感想は、遠慮せず積極的に書いてお寄せください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は必要ありません。授業後、授業中に読んだ史料やその関連史料について復習してください。

教科書

特になし。適宜プリント等を配布します。

参考書

久留島典子・五味文彦『史料を読み解く 1 中世史料の流れ』(山川出版、2006 年)

東京大学史料編纂所「電子くずし字字典データベース」(https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/w34/search/character)

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーでの質問や感想、授業後の口頭での質問等については、必要に応じて次の授業で取り上げます。

成績評価の方法

平常点(出席状況・リアクションペーパー等):80%、期末レポート:20%

その他

出席回数が 3 分の 2(10 回)に満たない場合は、単位不認定となります。

科目ナンバー：(AL)HIS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本美術史Ⅰ	**日本美術史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
清水 健	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

飛鳥時代から江戸時代に至る各時代を代表する作品を毎回一つ取り上げ、「いつ」、「どこで」、「誰が」、「何を」、「なぜ」、「どのように」作ったのかをテーマとして講義を行う。

日本美術史の流れを把握し、日本美術についての理解を深め、日本美術を鑑賞するための基礎的な知識と方法を習得し、一人で博物館や美術館、社寺等に出掛けても作品を鑑賞できるようになることを到達目標とする。

授業内容

1. イントロダクション：日本美術に親しむ
2. 作品を理解するための視点 那智瀧図 快智筆
3. 飛鳥時代前期 法隆寺金堂釈迦三尊像 鞍作止利作
4. 飛鳥時代後期 興福寺仏頭
5. 奈良時代1 鑑真和上坐像
6. 奈良時代2 螺鈿紫檀五絃琵琶
7. 平安時代前期 高雄曼荼羅
8. 平安時代後期 伴大納言絵巻 常盤光長作
9. 鎌倉・南北朝時代1 願成就院阿弥陀如来坐像 運慶作
10. 鎌倉・南北朝時代2 後鳥羽天皇像 伝藤原信実筆
11. 室町時代 山水長巻 雪舟筆
12. 安土桃山時代 楓図 長谷川等伯筆
13. 江戸時代前期 色絵吉野図茶壺 野々村仁清作
14. 江戸時代後期 夏秋草図屏風 酒井抱一筆

履修上の注意

気が散るので、私語はしない。音を立てて寝ない。ご飯を食べない。スマートフォンをいじらない。その他、講義の支障となるようなことはしないこと。

学期中に、最低1回は博物館、美術館に出掛け、実際に作品を見る機会を作ること。

講義で取り上げる作品はすべて参考書に掲載されているので、購入しておくのが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義で取り上げる作品について参考書等で事前に確認しておくこと。

教科書

特になし。

参考書

『日本美術史』山下裕二・高岸輝監修、美術出版社、平成 26 年初版

課題に対するフィードバックの方法

講義の際に提出を受けた課題については、次の講義内で総括と講評を行う。

成績評価の方法

平常点(講義中に課題に対する回答を記入して提出)：41%、期末レポート：59%

その他

東京は、美術鑑賞には非常に恵まれた環境にあるので、その利点を活かし、月に1回程度は博物館や美術館、社寺などに足を運び、講義で取り上げる作品、あるいは関連作品について実見することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)HIS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本美術史Ⅱ	**日本美術史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
三宅 秀和	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

江戸時代末までの中世・近世の日本美術を、中国および西洋からの影響とその日本化を軸に、絵画を主として講義する。

各時代にどのような作品が作られたのか、それらはどのような背景事情があって作られることになったのか、各時代の特色を自分の言葉で説明できるようになること、美術作品を見る能力を高めるとともに、歴史的背景との関連を考えられるようにすることを、到達目標とする。

授業内容

1、日本の絵画の画面形式：掛軸・障壁画・絵巻(画巻)・画帖・扁額
2、唐絵とやまと絵
3、南北朝・室町時代(1)：唐物趣味と水墨画の受容と詩画軸
4、室町時代(2)：筆様制作
5、室町時代後期・桃山時代(1)：水墨画の和様化(日本化)、やまと絵と水墨画の兼帯と融合
6、室町時代後期・桃山時代(2)：巨大城郭の御殿障壁画
7、近世初期風俗画：洛中洛外図屏風と南蛮屏風を中心に
8、江戸時代(1)：江戸時代の狩野派・狩野探幽と土佐派・住吉派・菱川派
9、江戸時代(2)：やまと絵の新生と、岩佐又兵衛、琳派(～江戸琳派)、復古やまと絵
10、江戸時代(3)：写生と「奇想」
11、江戸時代(4)：黄檗美術と文人画(南画)
12、江戸時代(5)：浮世絵
13、洋風画と諸派の洋風表現
14、まとめ

履修上の注意

日本の歴史の流れを押さえていることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

・予習：①鎌倉・南北朝時代から江戸時代の末、明治時代に至るまでの流れを段階的に押さえること。②「授業内容」に示した各回の内容について、どのような時代か、どのような分野か、どのような絵師がいるか、また、どのような作品があるかなどを調べておくこと。

・復習：①配布資料やノートを見て、その回の授業内容を振り返りまとめかえすこと。②参考書類の該当個所を見ること。

教科書

特に指定しない。

参考書

・辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』美術出版社、1991 年
・山下裕二・高岸輝監修『美術出版ライブラリー 歴史編 日本美術史』美術出版社、2014 年
・各社の日本美術全集類
そのほか、授業時に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各回授業冒頭に行う。

成績評価の方法

各回の内容確認(50%)と学期末レポート(50%)。

その他

授業で扱った分野や作品で興味を持ったものについて積極的に調べ、関連する作品を博物館等に見にいってほしい。

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
木越 俊介	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

尾崎雅嘉著『百人一首一夕話』の中の一首とその解説について、当該和歌の解釈史を検証し、詠者の伝記事項の内容について注釈を付し、各出典を確認し、史実との照合を行う。さらに、『百人一首一夕話』の稿本との本文・挿絵の対校を行う(学期末レポート課題)。

韻文と散文両方の読解、古典の文献調査、文献学的アプローチの方法、ペーパー作成、口頭での発表・討論等の演習指導をおこない、日本古典文学を学習する上での基礎的なスキルを身につけることを到達目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクション『百人一首一夕話』とは何か

『百人一首一夕話』の概要を紹介し、文学史上の位置づけを確認する。

第2回:『百人一首一夕話』発表デモンストレーション

『百人一首一夕話』から蟬丸条冒頭を対象に、教員が適切な演習発表の例を示す。

第3回:蟬丸

※第3回以降は、担当者が指定した項目について語釈などをペーパーにまとめ発表し、質疑応答を行う。

第4回:河原左大臣

第5回:中納言行平

第6回:在原業平朝臣

第7回:藤原敏行朝臣

第8回:素性法師

第9回:平兼盛

第 10 回:壬生忠見

第 11 回:源重之

第 12 回 1111:右大臣道綱母

第 13 回:三条院

第 14 回:皇太后宮大夫俊成

(予備):藤原清輔・式子内親王

履修上の注意

基礎演習(日本文学)の単位を修得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回に扱うテキストの条を精読し、分からない語句の下調べをする。また、授業中の担当者作成のペーパーを振り返り、自分の理解を確認し、不明な点があれば次回質問すること。※これに加え授業の発表担当者はペーパーを作成する時間が必要となる。

教科書

『百人一首一夕話(上・下)』(岩波文庫、1972・1973)。

※授業で扱う箇所をコピーして配布する。

参考書

『尾崎雅嘉自筆稿本 百人一首一夕話』(臨川書店、1993)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表に対して、授業中 10 分程度の講評を行う。

成績評価の方法

ペーパーの作成と発表、学期末のレポート提出を 50%、質疑応答など、授業への貢献度を 30%、予習復習を 20%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

[概要]

二十一代集において、いまだ注釈書のない、室町時代の『新拾遺和歌集』(1364 年成立)について、その用語(歌言葉)に注目して問題点をみつけ、語学的に分析しながら、その特徴を見いだしてゆく。

具体的には『新拾遺和歌集』の恋の巻の歌を対象として、分析・考察していく。

その際、歌集のデータベースを利用しながら、歌言葉としての特性を見つけ出す、という手法も学ぶ。

[到達目標]

『新拾遺和歌集』の歌に即して、語学的な問題点を発見でき、それに基づいた適切な調査・考察を行なって、適切な資料を作成し、明快に発表・質疑できること。

授業内容

二十一代集とは、『古今和歌集』から『新続古今和歌集』にいたる勅撰集をいう。『新拾遺和歌集』は、その 19 番目にあたるものである。このなかの歌について、その用語・表現が、歌言葉としてどのように受け継がれ、変容されているのかを、言語分析の側面から考察していく。

1.『新拾遺和歌集』の歌語

2. 二十一代集の構成(1―2)

3. 春学期演習発表の方法(1―2)

4. 受講生による発表(1―8)

5. 春学期まとめ[aモジュールで終了]

受講生の数が多い場合は、1回でふたりが別々の歌を担当するという形式になる。また、受講生の数によって、発表に充てる回数が変動する場合がある。

履修上の注意

コンピュータに関する特別な知識は必要としないが、インターネットに接続できるようにしておく。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]

1. 自分の担当する歌の内容を、古典文法の知識と辞書をこまめに引くことで理解する。
2. 分析対象の語について、データベースを検索しながら、その展開について理解を深める。
3. 注釈書のある勅撰和歌集について、なにかひとつを読み進めてみる。

[復習]

1. 授業中に出た、疑義や意見・質問事項について追加調査と考察を行ない、レポートに備える。
2. 歌の解釈や文法事項について、さらに調査を加え、理解を深める。

教科書

教科書は使用しない。プリント配布。発表者は、受講生の分の資料を、印刷・配付する。

参考書

新編日本古典文学全集の和歌の巻(小学館)

新日本古典文学大系の和歌の巻、特に八代集(岩波書店)

日本古典集成の和歌の巻(新潮社)

和歌文学大系(明治書院)

課題に対するフィードバックの方法

・リアクションペーパー(出席票と一体)での質問等については、次週の授業等において、適宜返答する。

・発表に対する受講生コメントは、整理して、コメント者匿名で整理し、次週までに公開する。

・Oh-o! Meiji ディスカッションのコメントについても、適宜コメントを加えていく。

成績評価の方法

演習の発表(40%)、レポート(40%)、平常点(リアクションペーパー、授業中の発言物等を総合、20%)。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

『玉台新詠』所収詩を読む。

詩は中国古典文学における主要なジャンルの一つであるが、六朝梁のとき(6 世紀前半)に成立した、「艶詩」※を収録した詩集である。本授業では、『玉台新詠』所収詩の訓読・日本語訳と詩語への注釈を作成することを通して、漢詩読解のための作業手順を理解し、読解のための基礎力を身につけることを目標とする。また、漢詩における女性の描写について、受講者と共に分析・考察していきたい。

※「女性の立場に立ち、空閨の嘆き、日常の出来事、身の回りの品物、立ち居振る舞いの美しさを、繊細に描写した作品」(石川忠久『玉台新詠』36 頁、中国の古典、学習研究社、1986 年)

授業内容

第1回 a:『玉台新詠』とその時代背景について
第2回:発表レジュメ作成の手順1:使用テキスト・工具書について
第3回:発表レジュメ作成の手順2:レジュメの体裁・作成手順について
第4回:『玉台新詠』所収詩読解1
第5回:『玉台新詠』所収詩読解2
第6回:『玉台新詠』所収詩読解3
第7回:『玉台新詠』所収詩読解4
第8回:『玉台新詠』所収詩読解5
第9回:『玉台新詠』所収詩読解6
第 10 回:『玉台新詠』所収詩読解7
第 11 回:『玉台新詠』所収詩読解8
第 12 回:『玉台新詠』所収詩読解9
第 13 回:『玉台新詠』所収詩読解 10
第 14 回:『玉台新詠』所収詩読解 11
＊発表担当者数や必要な注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。その場合、シラバスの補足に適宜記載する。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を要求する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は以下の各項目を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。
○詩本文の訓読(使用する底本の返り点や辞書を引いて作成)
○押韻(授業の中で示す調べ方で作成)
○詩語への注釈(詳細は第 3 回で説明)
○日本語訳(原文と注釈からなぜその翻訳になったのかプロセスを説明できるように作成)
また、発表後に授業内容を反映した訳注を基にレポートを作成する。その他の参加者は質疑応答で質問するために次回読む詩を予習しておく。

教科書

なし。

参考書

鈴木虎雄『玉台新詠集』上中下(岩波文庫、初版 1953-56 年、復刊 1994 年)
内田泉之助『玉台新詠』(新釈漢文大系 60・61、明治書院、1974-75 年)
石川忠久『玉台新詠』(中国の古典、学習研究社、1986 年)
○それぞれ日本語訳。

川合康三等訳注『文選 詩篇』一(岩波文庫、2018 年)
○『文選』は『玉台新詠』とほぼ同時期に成立しているため、巻末の「解説」が『玉台新詠』の背景を知る上で有益である。

課題に対するフィードバックの方法

担当者の発表に対し、参加者全員が意見・質問を提出し、それに対して担当者が回答する。議論の中で適宜教員が概括・補足を行い、そのやりとりを踏まえた内容をレポートとして文章化してもらう。

成績評価の方法

演習発表(40%)、レポート(30%)、質疑応答における発言(参加態度を含む、30%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可、ジャパンナレッジで『大漢和辞典』が引ける)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhone アプリ有)。

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(授業の概要)
『建礼門院右京大夫集』を読む。建礼門院右京大夫は、平家の栄華から滅亡にいたる戦乱の世を、平家一門のすぐ傍で生きた女性である。平安時代後期、源平合戦という激動の時代を生きた女性がどのような言葉を残したか、彼女の残した和歌を輪読形式で読解する。

(到達目標)
・和歌を通して、古典文学読解の方法を身に付ける。
・和歌の表現方法とその鑑賞について、理解を深める。
・平安時代から鎌倉時代にかけての諸文化について知識を得る。

授業内容

建礼門院は平清盛の娘にして高倉天皇の中宮であり、安徳天皇の生母となった女性である。彼女に仕えた右京大夫は平家一門の公達である平資盛と恋仲関係にあった。『建礼門院右京大夫集』には、宮中に出仕した頃から平家滅亡後まで、激動の人生を送った右京大夫が折々に詠んだ和歌が収録されている。

彼女は戦乱で愛する人を失った後、恋人を追って死ぬこともできず、あるいは出家して亡き人の菩提を弔うこともできず、ただ茫然自失の日々を送るばかりであった。そのような我が身の不甲斐なさを情けなく思いつつも、我が人生の証となる和歌を書き付けた。約三百六十首あまりの歌があるが、それらにはしばしば長大な詞書が付いている。そのため、本作品は日記文芸的な性格も合わせ持っている。

『建礼門院右京大夫集』について、多くの注釈書・研究書が出版されている。それらを参考にしながら、和歌を一首ずつ読解する。和歌についてできるだけ丁寧に分析し、関連する資料を参照する。作者である建礼門院右京大夫だけでなく、その周りにいた平家一門の人々についても調べたい。また、平氏政権時代の他の文学作品にも目を向ける。

1回目の発表では、担当する和歌について諸注釈書でどのように読解されているか調べて発表する。
2回目の発表では、見つかった問題点や関心を持ったことについて調べて発表する。
(1)建礼門院右京大夫とその出自
(2)建礼門院右京大夫集について
(3)和歌読解 323 番歌
(4)和歌読解 324 番歌
(5)和歌読解 325 番歌
(6)和歌読解 326 番歌
(7)和歌読解 327 番歌
(8)和歌読解 328 番歌
(9)和歌読解 329 番歌
(10)問題点をめぐる調査結果報告(1)
(11)問題点をめぐる調査結果報告(2)
(12)問題点をめぐる調査結果報告(3)
(13)問題点をめぐる調査結果報告(4)
(14)総合討論

履修上の注意

発表に向けて十分な調査と読解を行う必要がある。討論(質疑応答)も含めて、積極的な姿勢で臨むことが求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

『建礼門院右京大夫集』を通読して授業に臨む。関係する資料・文献について調査し報告する。

教科書

『全訳注 建礼門院右京大夫集』糸賀きみ江編(講談社学術文庫)

参考書

日記文学会中世文科会編『『建礼門院右京大夫集』の発信と影響』新典社、2020 年

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にレポートの講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)とレポート(60%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 純	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

[授業の概要―日本の神話を読解してみよう」

日本の上代文学を扱う科目です。奈良時代に成立した作品群を対象とします。奈良時代成立の代表的作品は『万葉集』ですが、この授業では散文作品を扱います。具体的には、『古事記』『日本書紀』『風土記』です。これらに共通する最大の特徴は「神話」を収録していることでしょう。この科目は日本の神話を学ぶ授業です。その調査方法に重点を置き、さらに分析能力と読解能力を身につけます。演習形式ですので、自ら調査してプレゼンテーションすることになります。

[到達目標]

この科目を修得すると、以下の達成が期待できます。

1、日本の神話の特徴を理解できるようになる。

2、発表資料作成とレポート作成の能力が向上する。

3、上代文学の基礎調査ができるようになる。

4、上代文学作品を読解できるようになる。

授業内容

第１回　a イントロダクション―発表とは何かを「風土記」を用いて説明する―

b クエスチョンの作り方―ヤマタノヲロチ退治神話の「箸」から考える―

第２回　a 調査方法と発表順番について―工具の使い方と活用方法―

b 研究史の概説―GLAY と BiSH、PEDRO から学ぶ―

第３回　a 研究史の概説―西郷信綱と神野志隆光から学ぶ―

b レポートの望ましい形を知る―村上春樹「螢」を用いて―

第４回　a 授業担当者による実演―神話と典拠―

b 授業担当者による実演―黄泉国訪問譚と『捜神記』―

第５回　a 練習発表（『古事記』ヤマタノヲロチ退治）

b 練習発表（『日本書紀』ヤマタノヲロチ退治）

第６回　a 練習発表（『古事記』イナバノシロウサギ）

b 練習発表（『古事記』大国主神の神話）

第７回　a 練習発表（『豊後国風土記』餅の的伝承）

b 練習発表（『日本霊異記』狐との婚姻）

第８回　a 予備発表（『古事記』ヤマタノヲロチ退治）

b 予備発表（『日本書紀』ヤマタノヲロチ退治）

第９回　a 予備発表（『古事記』イナバノシロウサギ）

b 予備発表（『古事記』大国主神の神話）

第 10 回 a 予備発表（『豊後国風土記』餅の的伝承）

b 予備発表（『日本霊異記』狐との婚姻）

第 11 回 a 本発表（『古事記』ヤマタノヲロチ退治）

b 本発表（『日本書紀』ヤマタノヲロチ退治）

第 12 回 a 本発表（『古事記』イナバノシロウサギ）

b 本発表（『古事記』大国主神の神話）

第 13 回 a 本発表（『豊後国風土記』餅の的伝承）

b 本発表（『日本霊異記』狐との婚姻）

第 14 回 まとめと解説

履修上の注意

演習形式の授業です。各自で作品を選び、調査して発表します。

発表回数は３回です。すべて個人発表です。発表順は第２回授業時に決めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]

発表資料の作成等、発表準備にかかる時間が予習時間となります(2～3 時間)。

[復習]

発表後に得られたフィードバックを次の発表に活用します。次の発表をより良い発表にするためです。自分の発表の振り返りと、最終レポートの作成も含んで復習時間となります(2～3 時間)。

教科書

オリジナルのプリントを作成して配布します。

参考書

山口佳紀 神野志隆光校注『古事記』(新編日本古典文学全集 小学館)。

この新編日本古典文学全集シリーズには『日本書紀』『風土記』『日本霊異記』もあります。

いずれも購入不要です。

課題に対するフィードバックの方法

その場で発表資料を添削して返却します。

成績評価の方法

授業への貢献度(30%)　発表・レポート(70%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 栄美子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

「昭和戦前期の短篇小説を読む」

モダニズム文化やプロレタリア文化など多彩な文化の広がりを見せた昭和戦前期の短篇小説を読む。

それぞれの作家についての理解を深めるとともに、作品が書かれた歴史的社会的背景を知ることで、この時代と交差する作品の多様なテーマを理解する。批判的読解力を身につけ、多様な観点からものごとを捉える能力を養う。

授業内容

第1回　昭和初期の時代背景について考える。スケジュール確認。

第2回　モダニズム文学とプロレタリア文学について

第3回　平林たい子「施療室にて」

第4回　井伏鱒二「鯉」

第5回　佐多稲子「キャラメル工場から」

第6回　堀辰雄「死の素描」

第7回　横光利一「機械」

第8回　梶井基次郎「闇の絵巻」

第9回　牧野信一「ゼーロン」

第 10 回　小林多喜二「母たち」

第 11 回　伊藤整「生物祭」

第 12 回　北条民雄「いのちの初夜」

第 13 回　宮本百合子「築地河岸」

第 14 回　まとめ

＊学習効果を高めるために、授業内容を変更することがある。

履修上の注意

発表やディスカッションに意欲をもって臨んでほしい。発表者はレジュメを用意する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、必ず作品を読み、問題点を検討しておくこと。事後学習として、授業で取り上げた作品を再読し、紹介した文献を調査すること。

教科書

紅野敏郎・紅野謙介・千葉俊二・宗像和重・山田俊治編『日本近代短篇小説選　昭和篇1』(岩波文庫)

参考書

井上ひさし・小森陽一『座談会昭和文学史』全六巻(集英社)、楜沢健編『アンソロジー・プロレタリア文学』1～5巻(森話社)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に解説の時間を設けて講評をおこなう。

成績評価の方法

演習の発表 40%、学期末レポート 40%、授業中の発言など平常点 20%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
金 孝珍	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

『源氏物語』の「明石」巻を読む。「明石」巻は、光源氏が須磨から明石に移り、明石一族と出会い、明石の君と結婚し、故桐壺院の夢を契機に政治的情勢が変化し、帝都へ召還されるまでの物語である。この巻は異郷訪問譚(異類婚姻譚)としての読みも可能であり、住吉信仰や祖霊信仰、また海幸山幸や神功皇后伝承などの神話的要素も潜んでいる。これらにも注意を払いながら物語の深層まで追及していく。授業は演習形式で初回の授業の際に発表者と担当本文を割り振る。発表者の発表後に、発表内容につて参加者全員で質疑応答や意見交換などの討論を行う。

〈到達目標〉

・古典文学を読むための基礎的な知識と古文読解のスキルを習得する。

・文献や他の論文の調査を通じて、テキストの読みを深める。

・発表後の意見交換を通じて、「須磨」巻の理解を相互に深めていく。

授業内容

第１回 授業の概要と『源氏物語』、および「明石」巻の前巻である「須磨」巻について説明し、発表の担当を割り当てる。

第２回 模擬発表(須磨の嵐―周公旦と菅公の典拠)

第３回 参考文献紹介および発表方法・討論について

以下、担当者による発表と討論

第４回 暴風雨の中、紫上の使者の到着。高潮が襲い。源氏、住吉神に祈願

第５回 故桐壺院の夢のお告げ

第６回 明石入道の源氏を迎え、娘を源氏に嫁がせたいと願望を抱く

第７回 明石入道、娘を嫁がせたい願望を源氏に打ち明ける

第８回 源氏と明石の君との文通

第９回 朱雀帝、故桐壺院を夢で見て、目を患う

第10回 源氏と明石の君との結婚

第11回 源氏、紫上に明石の君との結婚をほのめかす、明石の君の懐妊

第12回 源氏の召還の宣旨下る

第13回 源氏、明石の浦を去る

第14回 授業のまとめ

履修上の注意

発表の割当を初回の授業に決めるので、履修を希望する者は必ず出席すること。なお演習形式の授業のため、発表者の準備と参加者の積極的な討論が何より大事である。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者以外の人も次回取りあげる本文を必ず精読して授業に臨むこと。また、「須磨」巻だけでなく、物語の全体の内容や登場人物について把握しておく必要があるので、『源氏物語』のテキストや参考文献に自主的に目を通しておくこと。

教科書

岩波文庫『源氏物語(二)紅葉賀―明石』柳井滋・室伏信助ほか校注(岩波書店)、2017 年

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にリアクションペーパーの全体講評の時間を設ける。

成績評価の方法

演習発表:40% レポート:30% 授業への参加度(質疑応答を含む):30%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
野本 聡	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

米津玄師の「カンパネルラ」は言うまでもなく宮澤賢治「銀河鉄道の夜」の登場人物の名を踏まえている。その歌詞のなかにある「波打ち際にボタンが一つ」は中原中也「月夜の浜辺」から引用されている。同じ米津の「Lemon」は高村光太郎「レモン哀歌」や梶井基次郎「檸檬」を織り込んだテクストでもある。この演習は第一講で(少し古いのだが)AKB48 の楽曲の歌詞(乃木坂 46 の歌詞にも触れる)を分析対象に取り上げるように、日本の近代詩と現在の多様なメディアやサブカルチャーを含む文化表象との交差を探究する。萩原朔太郎らによって創始される口語自由詩の展開をたどりながら、アヴァンギャルド(前衛)詩の実験にも触れたい。例えば今もシリーズとして続いているウルトラマンとアヴァンギャルド芸術との関連を紐解く探究から文学テクストを多様な文化表象に開いていく(あるいは拓いていく)演習でありたい。

講義とディスカッションとによって授業は進められる。詩篇の解釈などはグループワークとして議論していく。詩篇テクストの解釈の方法を文学批評理論を参照しながら身につけていく。討論の方法やレジュメの作成法や効果的な発表、評価されるレポートの作成法もこの演習の課題である。

授業内容

1 AKB48(乃木坂 46 にも触れる)と与謝野晶子――詩的であるとは？――

2 それは殺人事件から始まった――島崎藤村「初恋」から萩原朔太郎『月に吠える』へ――

3 萩原朔太郎「死なない蛸」／梶井基次郎「櫻の樹の下には」を読む

4 レモンを齧る――高村光太郎「レモン哀歌」から米津玄師「Lemon」へ――

5 中原中也「一つのメルヘン」「サーカス」を読む――三岸好太郎の絵画との交差――

6 中原中也「湖上」「月夜の波辺」――米津玄師はなぜ中原中也の詩篇を引用したのか――

7 立原道造「はじめてのもの」「のちのおもひに」を読む――詩と建築と和歌との交差――

8 イタリア未来派とダダの流入

9 「●」をどう読むか――草野心平『第百階級』――

10 尾形亀之助『色ガラスの街』――鏡のなかの私という他者――

11 「シン・ゴジラ」は宮澤賢治『春と修羅』から始まっている

12 レポート中間発表

13 くちづけの詩学――高田敏子「別の名」、吉原幸子「初恋」を読む――

14 アヴァンギャルド芸術とウルトラマン

履修上の注意

演習であるので授業では積極的な発言が求められる。教室の後ろの席に座ることを当然としている者も、最前列に位置取り討論に加わるような熱い演習でありたい。3 名から 4 名でグループを構成し、そこで詩篇の解釈を行う。積極的にディスカッションを行おうとする者の受講を歓迎する。前提となる文学史的知識は特に必要としない。レポートの中間発表にあたっては各自が研究対象となるテクストを定め、レジュメや PowerPoint などを作成し口頭発表を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回事前に配布する詩篇テクストを一読し、自身なりにその詩篇テクストのモチーフなどを考えておく。授業で扱った詩人の他のテクストにも関心を持ち、自身で調査する。レポート課題についての先行研究を批評的に読みこなしていく。

教科書

特定の教科書は特に定めない。原則としてこの演習で扱う詩篇は毎回 Oh-o！Meiji より配布する。各自ダウンロードし閲覧できる状態で授業に参加すること。

参考書

詩篇テクストについての先行研究はその都度提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

グループワーク、ディスカッションへの参加、口頭発表 30%、レポート 70%で成績を評価する。

授業で積極的な発言、質問は歓迎し、評価に加味する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
生方 智子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

近代小説を読む――リアリズムから「語り」へ

まず、日本近代文学においてリアリズムの方法を完成させた志賀直哉の文学作品を取り上げ、小説というジャンルの方法と特徴について考察を深める。さらに、モダニズム文学の展開を視野に入れて、小説の方法が「語り」を発展させていく様態を検証する。具体的には、芥川龍之介から太宰治に至る女性の一人称の語りの方法に注目し、小説ジャンルの方法が展開していく状況を考察する。

授業は演習形式であり、参加者には担当する作品について分析・発表してもらう。受講者各自が文学作品を分析的に読解する力をつけることに加え、日本近代文学の特徴について理解することを到達目標とする。

授業内容

1 イントロダクション・近代小説の展開と「焚火」(大正 9 年)を読む(1)
2 「焚火」を読む(2)
3 志賀直哉「佐々木の場合」(大正6年)の発表とディスカッション
4 志賀直哉「雨蛙」(大正 13 年)の発表とディスカッション
5 志賀直哉「城の崎にて」(大正 6 年)「濠端の住まい」(大正 14 年)の発表とディスカッション
6 芥川龍之介「蜃気楼」(昭和 2 年)の発表とディスカッション
7 芥川龍之介「南京の基督」(大正 9 年)の発表とディスカッション
8 芥川龍之介「雛」(大正 12 年)の発表とディスカッション
9 川端康成「禽獣」(昭和 8 年)の発表とディスカッション
10 太宰治「道化の華」(昭和 10 年)の発表とディスカッション
11 太宰治「女生徒」(昭和 13 年)の発表とディスカッション
12 太宰治「皮膚と心」(昭和 14 年)の発表とディスカッション
13 レポート提出と現代小説のディスカッション
14 レポート返却と個別指導

履修上の注意

授業で取り上げる作品をあらかじめ精読しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、次回授業で取り上げる文学作品について調べておくこと。復習として、関連する作品を調査して読むこと。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

レポートは添削して返却し、個別指導を行う。

成績評価の方法

平常点(発表・ディスカッションでの発言含む)50 パーセント、レポート 50 パーセント。

その他

参加者には、発表とレポート提出を課す。ディスカッションへの貢献も求める。積極的な参加を期待する。

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)A	**日本文学演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
木下 幸太	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

伊藤計劃『ハーモニー( )』(2008)を通して、文学研究における分析方法、資料調査、発表にかんする総合的な訓練を行う。小説家としての伊藤計劃の活動期間は、デビュー以前から闘病生活を送っていたこともあり、亡くなるまでの約2年という短い期間に限られる。また、『ハーモニー』は、その早逝した作者の生前最後の作品であり、日本 SF 大賞およびフィリップ・K・ディック特別賞を受賞した作品である。これらの話題性の高さに加えて、本作はコミックス化・アニメ映画化したことによって、「面白いフィクション作品」として消費されることが多い。しかし、SF というジャンルとして語られる物語、作品形式など、他作品との影響関係など、日本近現代文学として検討すべき要素を多分に含んだ作品でもある。本演習では、事前に参加者に調査・分析をするテーマを割り振る。そして参加者による報告とそれを踏まえたディスカッションを参加者全体で行う。一つの作品を読み続け、議論し続けることで、文学研究の諸技法と作品の意義を学ぶことを目標とする。

授業内容

1. イントロダクション、『ハーモニー』について
2. 報告スケジュール、担当テーマ決定
3. 教員模擬報告、小レポート提出
4. 先行研究を読む
5. 報告とディスカッション
6. 報告とディスカッション
7. 報告とディスカッション
8. 報告とディスカッション
9. 報告とディスカッション
10. 報告とディスカッション
11. 報告とディスカッション
12. 報告とディスカッション
13. 報告とディスカッション
14. まとめ、期末レポート提出

履修上の注意

本演習では一冊の長編を扱うのであらかじめ読んでおくこと。第3回の授業の際に『ハーモニー』の概要と所感、注目した点などを書いた小レポートの提出を求める。小レポートを作成することで一度、作品内容や印象などを言語化してもらいたい。その上で、報告とディスカッション、それらのまとめとして期末レポートを作成してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として報告に伴う調査・レジュメ作成をする。報告と参加者とのディスカッションを踏まえて、期末レポートとしてまとめる。

教科書

『ハーモニー』伊藤計劃(ハヤカワ文庫)

参考書

具体的なテーマにかんしては授業内で個別に紹介する。
大学における調査・調査内容の整理・発表については『アカデミック・スキルズ(第 4 版):AI 時代の知的技法入門』佐藤望ら編著(慶応義塾大学出版会)が分かりやすい。
日本近現代文学研究において、どのようなテーマが議論になるのか知りたい場合は『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編(ひつじ書房)で目次・各項目を読んでキーワードを知るとよい。
分析や批評方法のバリエーションが知りたい場合は、『「感想文」から「文学批評」へ』小林真大(小鳥遊書房)が分かりやすい。もちろん、文学理論の本から確認してもよい。その場合、『ワードマップ 現代文学理論―テクスト・読み・世界』土田 知則ら著(新曜社)が分かりやすい。また『クリティカル・ワード 文学理論』三原芳秋ら著(フィルムアート社)も近年の理論を紹介している。

課題に対するフィードバックの方法

報告・コメントに対して返答をする。レポートには Oh-o! Meiji を介してコメントをする。

成績評価の方法

平常点(出席回数、報告・ディスカッションへの参加、提出物)50%、期末レポート 50%で評価する。

その他

扱う作家・作品や SF ジャンルへの背景知識などは求めない。しかし、本授業は演習であるため、参加者のなかでも学生の授業への参加・貢献の比率が高くなる。考えたこと、気になったことを積極的に発言し、他の参加者(教員も含む)に共有してもらいたい。

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
木越 俊介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

近世中期の明和8年(1771)に書かれた、建部綾足(たけべあやたり)『折々草(おりおりぐさ)』という散文集をテキストとし、音読・語釈・現代語訳することにより内容の理解を深める。本テキストには多くの古語が意図的にちりばめられており、特にそうした語彙について注意を払いながら、文章表現における特色を見極める。さらに、作品の成立過程や描かれた時代相を理解した上で作品を味読し、現代語訳をし、発表者自身が解釈をした上で改めて音読を行う。

文章読解、文章表現、文献検索、ペーパー作成、口頭での発表・音読等の演習指導をおこない、日本古典文学を学習する上でのスキルを身につけることを到達目標とする。

授業内容

第1回 a:イントロダクション・建部綾足と『折々草』の概要説明
b:発表見本・人をたのみて飛入し鴈をいふ条(上)
第2回 a:人をたのみて飛入し鴈をいふ条(下)
b:雪なだりにあひて命をのがれしぬす人の事
第3回:江戸の根岸にて女の住家を求ありきし条(上)
第4回:江戸の根岸にて女の住家を求ありきし条(中)
第5回:江戸の根岸にて女の住家を求ありきし条(下)
第6回 a:荘子を好める人を云条
b:真間の天古奈の考を云条
第7回 a:蝶に命取られし条
b:鴬の巣にほとゝぎすの子もたるを見し条
第8回:歌ぬす人とて追出されし条(上)
第9回:歌ぬす人とて追出されし条(下)
第 10 回:梅が代(しろ)といふ香の名を付し条
第 11 回:蜜の蜂に成りしをいふ条
第 12 回:若狭の国に頼む主にかはりて犬に喰はれて死ける女を云条
第 13 回:龍石をいふ条
第 14 回:野守とふ虫の事
予備:屁ひりの翁をいふ条

履修上の注意

基礎演習(日本文学)の単位を修得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回に扱うテキストの条を精読し、分からない語句の下調べをする。また、授業中の担当者作成のペーパーを振り返り、自分の理解を確認し、不明な点があれば次回質問すること。
※これに加え授業の発表担当者はペーパーを作成する時間が必要となる。

教科書

建部綾足著・高田衛他校注 新日本古典文学大系 '79『本朝水滸伝 紀行 三野日記 折々草』(岩波書店、1992)

参考書

風間誠史『近世和文の世界』(森話社、1998)

課題に対するフィードバックの方法

毎回の発表に対して、授業中 10 分程度の講評を行う。さらに第 14 回において、授業全体の振り返りを 30 分程度行う。

成績評価の方法

ペーパーの作成と発表、学期末のレポート提出を 50%、質疑応答など、授業への貢献度を 30%、予習復習を 20%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
茂野 智大	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

『萬葉集』研究の方法 『萬葉集』巻十一「寄物陳思」歌(人麻呂歌集出)を対象として、上代(古代前期)特有の表現や発想について考える。なお、本授業は受講者各自が担当歌について発表し、議論する形で進めていく。『萬葉集』の歌は全て漢字で表記されているため、それを日本語の歌としてどう「よむ」かが、まずは問題となる。本授業では、一字一字にこだわって「よむ」(訓む・読む)方法、具体的には本文校訂や訓詁といった基礎的なスキルを身につけた上で、個々の歌の表現を分析できるようになることを到達目標とする。

授業内容

第 1 回 導入① 授業の進め方や前提となる基礎知識について 第 2 回 導入② 調査方法や資料の作成方法について 第 3 回『校本萬葉集』を用いた調査と資料作成 第 4 回 発表と議論(2415・2416 歌) 第 5 回 発表と議論(2417・2418 歌) 第 6 回 発表と議論(2419・2420 歌) 第 7 回 発表と議論(2421・2422 歌) 第 8 回 発表と議論(2423・2424 歌) 第 9 回 発表と議論(2425・2426 歌) 第 10 回 発表と議論(2427・2428 歌) 第 11 回 発表と議論(2429・2430 歌) 第 12 回 発表と議論(2431・2432 歌) 第 13 回 発表と議論(2433・2434 歌) 第 14 回 発表と議論(2435・2436 歌)

履修上の注意

本授業は演習形式で行う。第 1～2 回で担当教員が調査や分析の方法についての解説を行い、第 3 回は発表に向けた相談を受け付ける。第 4 回以降は実際に発表と議論を行う形で進めていく。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】各回で取り上げられる歌について、注釈書等で論点を確認すること。発表者は自身が取り上げる歌について幅広く調査し、発表資料を作成すること。【復習】授業での議論を振り返り、整理してまとめること。授業内で解決しなかった疑問点があれば、追加調査を行うこと。

教科書

1. 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之『補訂版 萬葉集 本文篇』(塙書房、1998 年) 2. 坂本信幸・毛利正守『万葉事始』(和泉書院、1995 年)

参考書

第 1～3 回の授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表内容に関しては授業内で随時フィードバックを行う。

成績評価の方法

発表および発表資料(40%)、発表の総括レポート(40%)、議論への参加(20%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

『玉台新詠』所収詩を読む。
詩は中国古典文学における主要なジャンルの一つであるが、六朝梁のとき(6 世紀前半)に成立した、「艶詩」※を収録した詩集である。本授業では、『玉台新詠』所収詩の訓読・日本語訳と詩語への注釈を作成することを通して、漢詩読解のための作業手順を理解し、読解のための基礎力を身につけることを目標とする。また、漢詩における女性の描写について、受講者と共に分析・考察していきたい。

※「女性の立場に立ち、空閨の嘆き、日常の出来事、身の回りの品物、立ち居振る舞いの美しさを、繊細に描写した作品」(石川忠久『玉台新詠』36 頁、中国の古典、学習研究社、1986 年)

授業内容

第1回 a:『玉台新詠』とその時代背景について
第2回:発表レジュメ作成の手順1:使用テキスト・工具書について
第3回:発表レジュメ作成の手順2:レジュメの体裁・作成手順について
第4回:『玉台新詠』所収詩読解1
第5回:『玉台新詠』所収詩読解2
第6回:『玉台新詠』所収詩読解3
第7回:『玉台新詠』所収詩読解4
第8回:『玉台新詠』所収詩読解5
第9回:『玉台新詠』所収詩読解6
第 10 回:『玉台新詠』所収詩読解7
第 11 回:『玉台新詠』所収詩読解8
第 12 回:『玉台新詠』所収詩読解9
第 13 回:『玉台新詠』所収詩読解 10
第 14 回:『玉台新詠』所収詩読解 11
＊発表担当者数や必要な注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。その場合、シラバスの補足に適宜記載する。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を要求する。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は以下の各項目を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。
○詩本文の訓読(使用する底本の返り点や辞書を引いて作成)
○押韻(授業の中で示す調べ方で作成)
○詩語への注釈(詳細は第 3 回で説明)
○日本語訳(原文と注釈からなぜその翻訳になったのかプロセスを説明できるように作成)
また、発表後に授業内容を反映した訳注を基にレポートを作成する。その他の参加者は質疑応答で質問するために次回読む詩を予習しておく。

教科書

なし。

参考書

鈴木虎雄『玉台新詠集』上中下(岩波文庫、初版 1953-56 年、復刊 1994 年)
内田泉之助『玉台新詠』(新釈漢文大系 60・61、明治書院、1974-75 年)
石川忠久『玉台新詠』(中国の古典、学習研究社、1986 年)
○それぞれ日本語訳。

川合康三等訳注『文選 詩篇』一(岩波文庫、2018 年)
○『文選』は『玉台新詠』とほぼ同時期に成立しているため、巻末の「解説」が『玉台新詠』の背景を知る上で有益である。

課題に対するフィードバックの方法

担当者の発表に対し、参加者全員が意見・質問を提出し、それに対して担当者が回答する。議論の中で適宜教員が概括・補足を行い、そのやりとりを踏まえた内容をレポートとして文章化してもらう。

成績評価の方法

演習発表(40%)、レポート(30%)、質疑応答における発言(参加態度を含む、30%)。

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可、ジャパンナレッジで『大漢和辞典』が引ける)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhone アプリ有)。

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
石澤 一志	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業概要:『三部抄』(明治大学図書館蔵・毛利家文庫本)をテキストとし、奈良時代から鎌倉時代までの和歌史の流れをたどる。そして、著名な歌人の和歌を読む。
到達目標:日本文学史における、和歌の占めた位置について理解する。平安時代から鎌倉時代初期までに成立した「勅撰和歌集」、具体的には『古今和歌集』から『新古今和歌集』の『八代集』と、その和歌についての知見を深めることを目的とする。

授業内容

『三部抄』(明治大学図書館蔵・毛利家文庫本)を読む。『三部抄』は藤原定家の歌論・歌学書とされる『詠歌大概』『秀歌之体大略』『百人一首』『未来記』『雨中吟』をいう。
このそれぞれの作品の講読を通じて、奈良時代から鎌倉時代までの著名な歌人たちについて知り、その和歌に触れる。また、奈良時代～鎌倉時代までの和歌の歴史、その流れについての講義を行う。
明治大学図書館には、山口の毛利家旧蔵の古典籍が所蔵されている。これらは、室町時代末から江戸時代にかけて活躍した、連歌師、特に里村家の人々が書写したものが多く、これまでにもその存在は知られていたものの、あまり活用されてこなかった。近年、その調査を通じて明らかに事実などもいくつかある。それらを活かしながら、授業を行いたい。

第 1 回 本講義の概要 日本文学史概説(講義)
第 2 回 和歌の歴史と『三部抄』(講義)
第 3 回 和歌の演習について 和歌概説(講義・演習)
第 4 回『詠歌大概』その 1(講義・演習)
第 5 回『詠歌大概』その 2(講義・演習)
第 6 回『秀歌之体大略』その 1(講義・演習)
第 7 回『秀歌之体大略』その 1(講義・演習)
第 8 回『秀歌之体大略』その 1(講義・演習)
第 9 回『百人一首』その 1(講義・演習)
第 10 回『百人一首』その 2(講義・演習)
第 11 回『百人一首』その 3(講義・演習)
第 12 回『百人一首』その 4(講義・演習)
第 13 回『百人一首』その 5(講義・演習)
第 14 回『未来記』『雨中吟』の和歌(講義・演習)

履修上の注意

本講義は「演習」科目であるので、話しを聴くだけではなく、
受講生各自に発表・質疑を行ってもらい、それを基に進めてゆくことをご承知置き願います

準備学習(予習・復習等)の内容

・中学・高校までに学修してきたところの、日本史・文学史の確認を行う(予習)
・聴講した内容のまとめ、質問／感想を提出する(復習)。
・担当する和歌の内容についての、発表資料の作成(本文の翻刻・校訂、語釈／現代語訳・考察)を行い、発表とそれに伴う質疑を受けて、補足説明を聴き、講義内容について理解を深める(予習・復習)。

教科書

『三部抄』(明治大学図書館蔵・毛利家文庫本)
https://m-archives.meiji.jp/ (明治大学デジタルアーカイブス)

授業中にも説明します

参考書

和歌関係の書籍全般。また、講義中に適宜、紹介・指示する

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji システムを利用して行う。また、授業内で解説する

成績評価の方法

提出課題 40%・発表報告(発表資料作成・口頭発表)60% で評価する

その他

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

戦前の現代詩(1920 年代～1940 年代頃まで)を読み、それらを多角的に分析・考察するための実践を重ねる。近・現代詩の歴史的変遷を学ぶとともに、詩という文芸ジャンルの特徴や課題をふまえた学問的な議論を構築できるようになることを目指す。

授業内容

第1回 概説・導入／発表担当決定
第2回 デモンストレーション(模擬演習)
第3回 草野心平『第百階級』(1928)
第4回 安西冬衛『軍艦茉莉』(1929)
第5回 田中冬二『青い夜道』(1929)
第6回 三好達治『測量船』(1930)
第7回 中野重治『中野重治詩集』(1931)
第8回 西脇順三郎『Ambarvalia』(1933)
第9回 中原中也『山羊の歌』(1934)
第 10 回 丸山薫『鶴の葬式』(1935)
第 11 回 立原道造『萱草に寄す』(1937)
第 12 回 山之口貘『思弁の苑』(1938)
第 13 回 村野四郎『体操詩集』(1939)
第 14 回 まとめ／総括
※履修人数や進捗状況によって内容を調整することがあります。

履修上の注意

詩篇は原則的に時系列順で取り上げてゆくので、詩の歴史の推移や時代背景を共有しながら、積極的に議論を深めてほしい。なお自分の発表だけでなく、他の履修者の発表に対する応答も同程度に重要な評価の対象となるので、そのつもりで臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当時以外も、対象作品を精読し疑問点や意見をクリアにしておくこと。議論で消化できなかったところがあれば各自で参考文献を集めるなどして、期末レポートに備えてほしい。

教科書

西原大輔編『日本名詩選2』(笠間書院)

参考書

指定しない。それぞれの作品に関わる参考文献は別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表や質疑に対する講評は授業の終盤におこなう。また、期末レポートに関する全体講評は、Oh-o! Meiji で履修者に向けて公開する。

成績評価の方法

発表内容と平常点 50%、期末レポート 50%で評価する。平常点は授業時の発言や参加姿勢などによって総合的に判断する。なお、欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合は、発表や質疑の内容にかかわらず、単位を認定しない。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
追田 好章	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、さまざまなジャンルの表現を批判的に分析するための方法論、すなわち批評理論を学び、日本近現代文学の分析に援用する方法を身につけ、実践することを目標とする。授業ではとくにアダプテーション理論・ポストコロニアル理論・クィア理論を取り上げる。それぞれの批評理論の基礎を学び、批評理論を支えにして研究対象を分析するための方法を知り、実践する。さらに、学期末論文では、批評理論をとおして文学テクストを分析した成果を論述する練習も行う。自身でテクストを選び、先行研究や理論との対話をとおして自らの解釈を練り上げて表現するという、研究の一練のプロセスを体験する。

授業内容

第１回:イントロダクション
第２回:批評理論とは何か
第３回:アダプテーション理論
第４回:ポストコロニアル理論
第５回:クィア理論
第６回:論文作成法―理論を援用して論文を書く―
第7回:理論を援用する I―芥川龍之介「桃太郎」―
第8回:理論を援用する II―太田良博「黒ダイヤ」―
第9回:学期末論文の構想を共有する
第 10 回:個別相談会 I
第 11 回:学期末論文の発表 I
第 12 回:学期末論文の発表 II
第 13 回:個別相談会 II
第 14 回:まとめ

履修上の注意

本講義のテーマに関する事前知識は必要としない。発表や論文の書き方をはじめとする研究上の技術を身につけてもらうため、発表の練習や毎回の論述課題を行う。
　自分自身で分析するテクストを選び、研究計画をデザインし、論文にするため、履修者は第6回の授業時までに取り上げるテクストを選択すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取りあげる作品は、必ず授業前に読んだうえで、自分なりの意見や問いを提示できるように準備すること。発表担当者は資料を作成する。
　授業内容を復習し、学期末論文の執筆に活かしてほしい。

教科書

授業内でハンドアウトを配布する。

参考書

授業内でハンドアウトを配布する。あわせて適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題はクラスウェブをとおして提出することとし、提出された課題にはコメントを付けて返却する。

成績評価の方法

授業への参加度・授業内課題 30%
　発表 10%
　学期末論文 60%
　なお、学期末論文が未提出の者は不合格とする。また、学期末論文は指定した方法以外で提出することは認めない。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

平安時代中期の作品『紫式部日記』をくずし字(変体仮名)に留意しながら読む。当時の貴族社会の慣習や文化を理解しながら、清少納言批判など日記の中間部以降、消息体部分(書簡体部分)を中心に読み進める。物語作家でもある紫式部の思考と日記のあり方について考察を深める。

＊くずし字学習にそれほど興味はないが、日記の内容に興味がある、という方も歓迎します。

授業内容

最初に、作品について冒頭部も含めて概説し、くずし字の説明をした後、演習発表のための参考文献紹介を行う。その後、教員の指導の下、各自レジュメを作成し、発表する。その内容をもとに、全員で質疑応答を行う。

(1)『紫式部日記』概説
(2)くずし字概説、小レポート説明
(3)参考文献紹介
(4～5)宮中の女房達
(6)斎院方女房・中将の君の手紙
(7～10)斎院方女房と中宮方女房
(12～13)和泉式部・赤染衛門・清少納言評
(14)まとめ

履修上の注意

遅刻・欠席が多い場合、評価の対象としない。また演習は発表と意見交換が基本となるため、各自の主体的な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業範囲の本文を読んでくること。

教科書

『字典かな―出典明記―改訂版』(笠間書院)418 円
山本淳子訳注『紫式部日記―現代語訳付き』(角川ソフィア文庫)約 1000 円
＊ビギナーズ・クラシックスと間違えないこと。

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講評を行う。

成績評価の方法

演習発表(50 パーセント)と毎回のくずし字小レポート、もしくは小テスト(20%)、質疑応答を含む授業態度(30%)

＊学期末の長文レポートは課さない。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
野本 聡	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「シュールだね」はよく用いられる会話表現ではないだろうか。わけのわからないことや奇妙な情景に出遭ったときに発するこの「シュール」とは 1920 年代後半から 1930 年代にかけて隆盛したシュルレアリスム(超現実主義)という芸術運動に由来する。無意識や夢、偶然性などを方法論として採用したシュルレアリスムはヨーロッパに起源を持つが、ほぼ同時代に日本にも伝播し、詩においてもその傾向を有する言語的実験が試みられた。この演習では日本におけるシュルレアリスム詩の展開を追い、そのテクストを精読していく。シュルレアリスムは同時代の多様なメディア、芸術と交錯した。絵画は言うまでもないが、映画、ラジオ、音楽、ダンス、写真、スポーツ、書道とも関連を持つ。これら多メディアとどう交錯し、そこにどのような創作が行われたかをたどり、その意義を検討するのがこの演習の目的である。交錯から生まれるテクストの豊かな創造性を感知すると同時に、それが抱えていた問題性(特に女性表象をめぐる問題)を批評的に思考できる視角も身につけたい。
ヨーロッパに起源を持つシュルレアリスムの日本における展開を検討することで比較文学的視角が養成されるであろう。多メディアとの交錯を調査することは資料の収集と分析の力を養うことともなる。テクストの精読はグループワークを基本として行うので傾聴力、発言力、対話力も鍛えられる。当然ながらレポートの執筆において先行研究を参照しつつ独自の見解を論述することが最終的な到達目標である。

授業内容

1　ルイス・ブニュエル／サルバドール・ダリの映画「アンダルシアの犬」を観る――シュルレアリスムとは何か――
2　「てふてふが一匹韃靼海峡を渡つて行つた」――安西冬衛と植民地のシュルレアリスム――
3　マン・レイ「ひとで」と竹中郁のシネ・ポエム――映画と詩とスポーツの表象との交差――
4　北園克衛のプラスチック・ポエム――写真と詩との交差――
5　二人の「ちか」――左川ちかと「アンダルシアの犬」、そして金子千佳――
6　千田光「失脚」「誘ひ」を読む
7　李箱「烏瞰図」を読む
8　海豚はゐるか――古賀春江の絵画とその解題詩を読む――
9　瀧口修造『妖精の距離』――詩画集という余白をどう読むか――
10　吉岡実「僧侶」を読む――シュルレアリスムの戦後への展開――
11　書の前衛――日田井南谷、井上有一の前衛書を読む――
12　女性詩の現在――平田俊子「宝物」、伊藤比呂美「ナシテ、モーネン」を読む――
13　レポート中間発表
14　新国誠一のコンサートポエトリーと谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」の交差

履修上の注意

演習であるので授業では積極的な発言が求められる。教室の後ろの席に座ることを当然としている者も、最前列に位置取り討論に加わるような熱い演習でありたい。3 名から 4 名でグループを構成し、そこで詩篇の解釈を行う。積極的にディスカッションを行おうとする者の受講を歓迎する。前提となる文学史的知識は特に必要としない。演習におけるグループ発表では多様な視点からテクストを解釈し、それらをまとめ発表する。分担より協同を！ レポートの中間発表にあたっては各自が研究対象となるテクストを定め、レジュメや PowerPoint などを作成し口頭発表を行う。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回事前に配布する詩篇テクストを一読し、自身なりにその詩篇テクストのモチーフなどを考えておく。授業で扱った詩人の他のテクストにも関心を持ち、自身で調査する。レポート課題についての先行研究を批評的に読みこなしていく。

教科書

特定の教科書は特に定めない。原則としてこの演習で扱う詩篇は毎回 Oh-o！Meiji より配布する。各自ダウンロードし閲覧できる状態で授業に参加すること。

参考書

詩篇テクストについての先行研究はその都度提示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

グループワーク、ディスカッションへの参加、口頭発表 30%、レポート 70%で成績を評価する。
授業で積極的な発言、質問は歓迎し、評価に加味する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

志賀直哉の作品を通して、その言語観、自然観、宗教観、文学観を理解する。

志賀直哉の文体は、近代日本文学において、もっとも模倣されているものである。その文学の特徴は、最小の言葉で読者の想像を最大限に引き出し、書かないことによって書くことである。イデオロギーや抽象的な言葉をほとんど使わず、透徹した観察によって、人の見逃しやすい細部を映像的に表現する方法をとっている。

志賀は近代文学の最高峰に位置しながら、日本語の代わりにフランス語を国語にしようと提案したことがあり、物議を醸した。志賀の真意をどのように受け止めたらよいか、志賀の日本語表現にどのような文学的効果があるか、なぜ志賀がドイツの作家ゲーテの「世界文学」の観点に傾倒したのか、なぜ大量な自然物を描写しているのか、などの質問を念頭に入れて、志賀の言語観・自然観・宗教観を理解し、志賀の受けた日本文学と外国文学の影響を分析し、志賀が目指したのはいかなる文学かを検討する。

授業内容

1回目 志賀の「箱根山・驟雨」と台湾中学生の作文を読み比べ、「リーチのこと」を読む。
2回目 随筆「馬と木賊」「盲亀浮木」の発表とディスカッション
3回目 随筆「国語問題」「龍安寺の庭」の発表とディスカッション
4回目 随筆「沓掛にて」「赤城山にて」の発表とディスカッション
5回目 随筆「太宰治の死」「白い線」の発表とディスカッション
6回目 短編小説『城の崎にて』の発表とディスカッション
7回目 短編小説『好人物の夫婦』の発表とディスカッション
8回目 短編小説『赤西蠣太』の発表とディスカッション
9回目 短編小説『小僧の神様』の発表とディスカッション
10 回目 短編小説『焚火』の発表とディスカッション
11 回目 短編小説『真鶴』の発表とディスカッション
12 回目 短編小説『雨蛙』の発表とディスカッション
13 回目 短編小説『濠端の住まい』の発表とディスカッション
期末レポート(3, 000 字)の提出:1 月 8 日(金)19:00 〆切厳守
14 回目(1 月 20 日) レポート内容の口頭発表 一人 5～10 分ずつ

履修上の注意

1、テキストを丹念に繰り返し読み、言葉の意味をよく調べ、時代背景を把握し、人物間の関係を理解し、主人公の言動に十分留意する。
2、演習担当者は、レジュメの作成を丁寧に作り、クラスの参加者と教員に配布し、自分の研究内容を説明する。
3、レジュメは、
a. 特殊な言葉の意味、
b. 時代背景、
c. 人物間の関係、
d. 自然物に関する描写、
e. 先行研究、
f. 質問を入れる

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)事前学習として、テキストを精読し、興味を覚えた部分や疑問を感じた部分を整理する。それらの部分について、クラスでディスカッションする。
(2)事後学習として、授業で取り上げられた部分を再読し、理解を深める。
(3)志賀直哉の小説と随筆を通して、その独自な言語観、自然観、文学観を考え、「私小説」を特色としながら、なぜゲーテの「世界文学」に共鳴したのかを理解し、紹介した文献を調査し、自ら参考となる文献を探し、自分の意見を立証すること。
(4)演習を通して、問題意識を育てて、関係資料を探し、先行研究を参考し、文学研究の方法に馴染む。

教科書

志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』(新潮文庫、2005 年)、志賀直哉『志賀直哉随筆集』(岩波書店、1995 年)

参考書

郭南燕『志賀直哉で「世界文学」を読み解く』(作品社、2016 年)

課題に対するフィードバックの方法

1)授業中、学生の質問、感想、議論に対して、教員は随時、コメントする。
2)演習レジュメの内容に対して、教員はコメントし、意見を出す。
3)期末レポートに対して、教員はコメントし、成績を出す。
4)期末レポートの発表に対して、教員はコメントし、評価を出す。

成績評価の方法

平常点(演習発表・質疑応答・コメント・ディカッション):56 %(4% x 14 回)
期末レポート:44 %
合計:100%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(2年)B	**日本文学演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
木下 幸太	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

伊藤計劃『ハーモニー( )』(2008)を通して、文学研究における分析方法、資料調査、発表にかんする総合的な訓練を行う。小説家としての伊藤計劃の活動期間は、デビュー以前から闘病生活を送っていたこともあり、亡くなるまでの約2年という短い期間に限られる。また、『ハーモニー』は、その早逝した作者の生前最後の作品であり、日本 SF 大賞およびフィリップ・K・ディック特別賞を受賞した作品である。これらの話題性の高さに加えて、本作はコミックス化・アニメ映画化したことによって、「面白いフィクション作品」として消費されることが多い。しかし、SF というジャンルとして語られる物語、作品形式など、他作品との影響関係など、日本近現代文学として検討すべき要素を多分に含んだ作品でもある。本演習では、事前に参加者に調査・分析をするテーマを割り振る。そして参加者による報告とそれを踏まえたディスカッションを参加者全体で行う。一つの作品を読み続け、議論し続けることで、文学研究の諸技法と作品の意義を学ぶことを目標とする。

授業内容

1. イントロダクション、『ハーモニー』について
2. 報告スケジュール、担当テーマ決定
3. 教員模擬報告、小レポート提出
4. 先行研究・参考文献を読む
5. 報告とディスカッション
6. 報告とディスカッション
7. 報告とディスカッション
8. 報告とディスカッション
9. 報告とディスカッション
10. 報告とディスカッション
11. 報告とディスカッション
12. 報告とディスカッション
13. 報告とディスカッション
14. まとめ、期末レポート提出

履修上の注意

本演習では一冊の長編を扱うのであらかじめ読んでおくこと。第3回の授業の際に『ハーモニー』の概要と所感、注目した点などを書いた小レポートの提出を求める。小レポートを作成することで一度、作品内容や印象などを言語化してもらいたい。その上で、報告とディスカッション、それらのまとめとして期末レポートを作成してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として報告のための調査・レジュメ作成、復習として報告・ディスカッション内容を踏まえた期末レポートを作成する。

教科書

『ハーモニー』伊藤計劃(ハヤカワ文庫)

参考書

具体的なテーマにかんしては授業内で紹介する。
大学における調査・調査内容の整理・発表については『アカデミック・スキルズ(第 4 版):AI 時代の知的技法入門』 佐藤望ら編著(慶応義塾大学出版会)が分かりやすい。
日本近現代文学研究において、どのようなテーマが議論になるのか知りたい場合は『ハンドブック 日本近代文学研究の方法』日本近代文学会編(ひつじ書房)で目次・各項目を読んでキーワードを知るとよい。
分析や批評方法のバリエーションが知りたい場合は、『「感想文」から「文学批評」へ』小林真大(小鳥遊書房)が分かりやすい。もちろん、文学理論の本から確認してもよい。その場合、『ワードマップ 現代文学理論―テクスト・読み・世界』土田 知則ら著(新曜社)が分かりやすい。また『クリティカル・ワード 文学理論』三原芳秋ら著(フィルムアート社)も近年の理論を紹介している。

課題に対するフィードバックの方法

報告・コメントに対して返答をする。レポートには Oh-o! Meiji を介してコメントをする。

成績評価の方法

平常点(出席回数、報告・ディスカッションへの参加、提出物)50%、期末レポート 50%で評価する。

その他

扱う作家・作品や SF ジャンルへの背景知識などは求めない。しかし、本授業は演習であるため、参加者のなかでも学生の授業への参加・貢献の比率が高くなる。考えたこと、気になったことを積極的に発言し、他の参加者(教員も含む)に共有してもらいたい。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

戦後の現代詩の展開をその前史を含めて(1930 年代後半～1950 年代半ばまで)読み、それらを多角的に分析・考察するための実践を重ねる。近・現代詩の歴史的変遷を学ぶとともに、詩という文芸ジャンルの特徴や課題をふまえた学問的な議論を構築できるようになることを目指す。

授業内容

第1回 概説・導入／発表担当決定
第2回 デモンストレーション(模擬演習)
第3回 三好豊一郎『囚人』(1949)
第4回 吉本隆明『転位のための十篇』(1953)
第5回 黒田三郎『ひとりの女に』(1954)
第6回 鮎川信夫『鮎川信夫詩集』(1955)
第7回 田村隆一『四千の日と夜』(1956)
第8回 中間レビュー
第9回 永瀬清子『美しい国』(1948)
第 10 回 壷井繁治『壷井繁治詩集』(1948)
第 11 回 峠三吉『原爆詩集』(1951)
第 12 回 関根弘『絵の宿題』(1953)
第 13 回 谷川雁『大地の商人』(1954)
第 14 回 まとめ／総括
※履修人数や進捗状況によって内容を調整することがあります。

履修上の注意

取り上げるのはすべて戦後十年ほどの間に書かれた「戦後詩」であるため、同じ時代的思潮を共有するそれぞれの作品の共通点や相違点に留意しつつ、積極的に議論を深めてほしい。なお自分の発表だけでなく、他の履修者の発表に対する応答も同程度に重要な評価の対象となるので、そのつもりで臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当時以外も、対象作品を精読し疑問点や意見をクリアにしておくこと。議論で消化できなかったところがあれば各自で参考文献を集めるなどして、期末レポートに備えてほしい。

教科書

鮎川信夫・大岡信・北川透編『戦後代表詩選』『戦後代表詩選　続』(詩の森文庫)、西原大輔『日本名詩選3』(笠間書院)

参考書

指定しない。それぞれの作品に関わる参考文献は別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表や質疑に対する講評は授業の終盤におこなう。また、期末レポートに関する全体講評は、Oh-o! Meiji で履修者に向けて公開する。

成績評価の方法

発表内容と平常点 50%、期末レポート 50%で評価する。平常点は授業時の発言や参加姿勢などによって総合的に判断する。なお、欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合は、発表や質疑の内容にかかわらず、単位を認定しない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[概要]
芥川龍之介の直喩に関する研究を言語学・表現論的な観点から行なう。
春学期配当の A では、まず、受講生各自が芥川龍之介の短編5～6作品について、年代順に分析・考察を行ない、秋学期における分析との対照に備える。

[到達目標]
芥川自身の直喩上の特徴を見出し、それを調査によって整理した資料が作成でき、さらに他の作家との比較対照を行なって、その特徴をさらに明確なものにすること、ならびに、そのような調査・考察を行なって、明快な発表・質疑を行えるようになること。

授業内容

芥川龍之介の直喩の特徴について、半期をかけて、総合的に分析を重ねてゆく。具体的には、担当者が少しずつ作品を分担しながら、その範囲に現れた直喩について、分析・報告する。芥川の作品発表順に分析を重ねて、芥川の直喩がどのような推移をたどるかもあわせて確認していく。また、その際、どのようなものを直喩と認定すべきかという原理的な考察も行なう。
また、電子ファイル化されたインターネット上のテキストを検索して整形することもあわせて習得していく。

1. 直喩とは
2. 直喩の認定方法について(1)「ような」「ように」・構文からの判断
3. 直喩の認定方法について(2)カテゴリー間落差とカテゴリー設定
4. 春学期演習発表の方法(1)「ような」「ように」
5. 春学期演習発表の方法(2)カテゴリーの設定方法
6. 受講生春学期発表(1―8)
7. まとめ[aモジュールで終了]

※受講生の人数によって、各単元の回数が異なる可能性がある。

履修上の注意

コンピュータに関する特別な知識は必要としないが、インターネットにアクセスできること、Excel の基本操作が分かっていること等が望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]
1. 担当する芥川の作品を読み解きながら、あわせて、電子ファイルを利用しつつデータ採取を行なう。
2. 直喩と問題なく認定すべきもの、明らかに異なるもの、微妙なものに分けて、特に微妙なものについて考察を深めておく。

[復習]
1. 発表時の意見・質問等をふまえて、直喩の解釈についての認識を深めておく。
2. 芥川と対比すべき作家について、見当をつけておく。

教科書

プリントを配布。

演習発表者は、演習参加者全員分、プリントを印刷・配布する。

参考書

『芥川龍之介全集』(岩波書店、1995-1998 版を基本的に使用)
関口安義／庄司達也編『芥川龍之介全作品事典』(勉誠出版)
半沢幹一編『直喩とは何か』(ひつじ書房)

課題に対するフィードバックの方法

・リアクションペーパーを配付した場合、フィードバックの必要があるものは、次回コメントする。

・演習発表についての、受講生からのコメントの際に、フィードバックの必要があるものは、次回コメントする。

・Oh-o! Meiji のディスカッションの内容について、フィードバックの必要があるものは、適宜コメントする。

成績評価の方法

演習の発表(40%)、レポート(40%)、平常点(リアクションペーパー、授業中の発言等を総合、20%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

白居易「新楽府」を読む_

_ 白居易(字楽天)は、中国文学史において中唐を代表する詩人であるのみならず、その詩文集『白氏文集』が平安朝の日本に広く受容されたことで知られる。_

_ 本授業では、日中にわたる複数のテキストを校勘材料としながら、白居易の諷諭詩の代表作「新楽府」を対象に、詩本文の校勘・訓読・日本語訳と詩語への注釈を作成する。本文批判を踏まえた漢詩読解力を身につけることで、論文執筆の際に漢詩文を資料として扱う能力の養成を目標とする。_

授業内容

第1回 a:白居易と『白氏文集』について_

_ 第2回:発表レジュメ作成の手順1:使用テキスト・工具書_

_ 第3回:発表レジュメ作成の手順2:「七徳舞」を例に_

_ 第4回:「新楽府」読解 1_

_ 第5回:「新楽府」読解 2_

_ 第6回:「新楽府」読解 3_

_ 第7回:「新楽府」読解 4_

_ 第8回:「新楽府」読解 5_

_ 第9回:「新楽府」読解 6_

_ 第 10 回:「新楽府」読解 7_

_ 第 11 回:「新楽府」読解 8_

_ 第 12 回:「新楽府」読解 9_

_ 第 13 回:「新楽府」読解 10_

_ 第 14 回:「新楽府」読解 11_

_ ＊発表担当者数や必要な注釈の多寡に合わせて進行を調整することがある。その場合、シラバスの補足に適宜記載する。

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を期待する。_

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は詩本文の校勘・訓読・日本語訳と詩語への注釈を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。また、発表後に授業内容を反映した訳注を作成し、レポートとして提出する。その他の参加者は質疑応答で質問するために次回読む箇所を予習しておく。_

教科書

授業中にプリントを配布する。_

参考書

岡村繁『白氏文集』一(新釈漢文大系 97、明治書院、2017 年)。_

課題に対するフィードバックの方法

担当者の発表に対し、参加者全員が意見・質問を提出し、それに対して担当者が回答する。議論の中で適宜教員が概括・補足を行い、そのやりとりを踏まえた内容をレポートとして文章化してもらう。_

成績評価の方法

演習発表(40%)、レポート(30%)、質疑応答における発言(参加態度を含む、30%)。_

その他

漢和辞典を持参すること(電子辞書可、ジャパンナレッジで『大漢和辞典』が引ける)。推奨は『全訳漢辞海』(三省堂・iPhone アプリ有)。_

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鉄野 昌弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

『万葉集』巻四は、全体が相聞歌の巻で、古い歌も含んでいるが、途中からは、大伴氏の氏族誌の様相を呈している。奈良時代貴族の家族のありようを知ることの出来る興味深い史料ともなる。一方、巻八は、四季による分類を施した上で、雑歌・相聞の二部に分けており、大方奈良時代の歌で占められている。漢詩文に示唆を受けながら、四季の素材を用いて、いかに恋の思いを託するかの試行が行われている。どちらの巻の歌も、趣向が凝らされており、味読に値する。この授業では、各人が一首を取り上げて、諸注釈を確かめながら、自分なりの読解を形成することを目指す。『万葉集』について、専門的な知識を得るとともに、その研究方法を習得することができる。和歌の読み方に習熟する。文献探索や、その読解についての能力を養成することを目標とする。

授業内容

1、イントロダクション 2、教員による発表(1)643～5 歌 本文 3、教員による発表(2)643～5 歌 研究史 4、教員による発表(3) 考察 5～14、学生による発表(巻四・巻八相聞部から一首乃至二首)

履修上の注意

積極的な発言を求める。発表に当たっては、ネット情報を鵜呑みにしないこと、AI に頼らないことを求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者のみならず、出席者は全員、その週に扱う歌の注釈署を見てきて下さい。この他、授業中に紹介する書物などは、つとめて読んで下さい。

教科書

『万葉集』本文篇(塙書房)_

_『万葉事始』(和泉書院)

参考書

1、『万葉集』1～4(小学館新編日本古典文学全集)_

_ 2、『セミナー万葉の歌人と作品』第1～12集 (和泉書院)_

_ 3、『万葉集の基礎知識』(角川書店)

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートを利用してフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート 50% ・平常点(授業内での発表・発言)50%

その他

スケジュールは、受講者の数およびレベルによって適宜変更する。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

百人一首とその時代について探究する。百人一首は今も多くの人に親しまれているが、その原型は藤原定家が編纂した百人秀歌である。彼が生きた時代は、平安時代が終わり、鎌倉時代へと移る激動の時代であった。定家は、若い頃には源平の争乱を目の当たりにし、後には承久の乱を経験する。この乱では和歌を愛した後鳥羽院が鎌倉の北条氏に敗れ、隠岐に流罪になった。このような中で、定家はどのような経緯で百人秀歌を作ったのか。彼が関わった人物や、彼が生きた時代状況を視野に入れながら百人秀歌を読解する。また、百人秀歌をもとに、後世、百人一首が誕生する。その編者や成立時代については、近年に議論が進み、新説も出されている。それらを参照しつつ、百人秀歌と百人一首をめぐるさまざまな謎について探究したい。

(到達目標)

・百人一首の原型である百人秀歌について理解を深め、その編者である藤原定家の和歌観・文芸観を探究する。
・平安末期から鎌倉時代、動乱の時代の文化について理解を深める。
・百人秀歌と百人一首を通して、古典読解の方法を身に付ける。
・百人秀歌と百人一首から、現代における古典の意義について考える。

授業内容

平安時代末から鎌倉時代初期という激動の時代を生きた歌人である藤原定家は、その晩年に百人秀歌を編んだ。その後(定家の死後)、何者かによって百人一首が生み出される。百人秀歌と百人一首には、若干の違いがある。もっとも大きな違いは、後鳥羽院・順徳院の歌の有無である(百人秀歌には、両人が入っていない)。百人秀歌の撰者は藤原定家と考えて間違いないが、百人一首については、撰者と成立時代が明らかになっていない。しかし、2022 年に最新の研究成果が発表された。中川博夫・田渕句美子・渡邊裕美子編『百人一首の現在』青簡舎である。本書には、百人一首をさまざまな角度から分析した多くの論文が収録されている。これを手掛かりにすることで、百人一首をより深く理解できるであろう。そして残された課題に迫ることができる。

百人秀歌と百人一首はともに小さな歌集であるが、どのような意図・方針で編纂されたか、謎は多い。百人秀歌について言えば、数多くいる歌人の中からどのようにして百人を選んだか、また、各歌人の代表歌を選ぶ時の基準は何であったのか。このような疑問に答えるためには、藤原定家の人生や、彼が生きた時代について理解を深めなければならない。また、定家の父である俊成や、彼が仕えた後鳥羽院など、彼を取り巻く歌人たちについて知る必要もある。また、百人一首について言えば、百人秀歌をもとに、いつ誰が、どのような目的で百人秀歌に手を加えて百人一首としたのか、興味が尽きない。

春学期には、百人秀歌・百人一首の歌人から各自が数名を選んで、その人生(経歴)について発表する。なるべく藤原定家と近い時代の歌人を調べる。奈良・平安時代の歌人を選ぶ場合は、平安末期にその歌人がどのようなイメージを持っていたか調べなければならない。和歌については、どのように解釈されてきたか、諸注釈書を調査して報告する。その際、和歌が詠まれた時点での意味、勅撰集に撰入された際の意味、百人秀歌・百人一首に採られた時の意味、それぞれを分けて考察する。百人秀歌と関係する時代不同歌合も参照する。

(1)百人秀歌・百人一首の世界へ
(2)藤原定家とその時代
(3)時代不同歌合について
(4)1～10 番歌
(5)11～20 番歌
(6)21～30 番歌
(7)31～40 番歌
(8)41～50 番歌
(9)51～60 番歌
(10)61～70 番歌
(11)71～80 番歌
(12)81～90 番歌
(13)91～100 番歌
(14)総括

履修上の注意

作品・資料に丹念に向き合い、積極的な態度で発表と質疑応答に臨んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

取り上げる作者と和歌について、それを解説した注釈書・論文に目を通しておく。

教科書

樋口芳麻呂校注『王朝秀歌選』岩波文庫

参考書

中川博夫・田渕句美子・渡邊裕美子編『百人一首の現在』青簡舎、2022 年
田渕句美子『百人一首――編纂がひらく小宇宙』岩波新書、2024年
『百人一首注釈書叢刊』(和泉書院)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にレポートの講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)とレポート(60%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

平安時代中期の作品『源氏物語』初音巻を古注釈に留意して読めるようになる。初音巻は、光源氏が妻を集い住ませるための邸宅・六条院を造営し、初めての正月を迎えた様子を描く。新春の明るい雰囲気とともに、紫の上、花散里、明石の君、玉鬘、など、それぞれの女人たちと光源氏との関係性が浮き彫りになる巻である。また現代に続く、当時の儀式・習慣について確認しながら、平安期の物語における意味解釈の多様性について理解する。

授業内容

『源氏物語』初音巻を読む。授業初回に『源氏物語』及び初音巻の概説を行い、発表に必要な参考文献を紹介する。その後、発表者に担当を割り振るので、教員の指導の下、各自レジュメを作成し、発表する。その発表をもとに物語の内容・表現について、参加者全員で討論する。

(1～2)『源氏物語』初音巻の概説・参考文献紹介
(3～4) 発表方法、討論方法の指導
以下、作品本文を担当者を割り当て演習発表を行ってもらう。
(5)六条院の新春、春の町の様子
(6)六条院の新春、紫の上と光源氏の贈答
(7)明石の姫君、実母・明石の君に返歌。
(8)光源氏、花散里の元を訪れる
(9)光源氏、玉鬘の元を訪れる。
(10)光源氏、明石の君の元に宿泊し、新春早々、騒がれる。
(11)臨時客、六条院の宴
(12～13)光源氏、空蝉・末摘花の住む二条東院を訪れる。
(14)まとめ＊男踏歌の説明

＊展示により、美術館・博物館見学に行く可能性がある。

履修上の注意

演習は発表と意見交換が基本となるため、各自の主体的な姿勢が求められる。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に次の発表者の担当範囲を読んでおく。

教科書

プリントを配布する。＊(くずし字ではなく活字テキスト)

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

演習発表(35%)とレポート(35%)、質疑応答を含む授業への取り組み(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	日本文学演習(3年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
生方 智子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

夏目漱石『夢十夜』を分析的に読解する。

文学理論、批評理論を学ぶことを通して、今日、文学作品を読むためにどのような方法が可能であるのかを探求する。演習形式で、大橋洋一『新文学入門』等の文学理論・批評理論のテクストを輪読した後、夏目漱石『夢十夜』を分析・発表してもらう。受講者各自が理論を用いて文学作品を分析する力をつけることを到達目標とする。

また、卒業論文執筆に向けて、書く力をつけることを目標とする。春学期ではレポートを添削し、書き方について個人指導を行う。レポートは必要に応じて修正して再提出してもらうことになる。合格点に満たない受講者には合格点に達するまで書き直しを求める。レポート課題は「『夢十夜』を批評理論に基づいて分析する」というものである。

授業内容

第1回 文学理論・批評理論とは
第2回 構造分析の方法
第3回 脱構築批評分析
第4回 精神分析批評Ⅰ・無意識の構造
第5回 精神分析批評Ⅱ・欲望の構造
第6回 フェミニズム・ジェンダー批評の方法
第7回『夢十夜』「第一夜」分析
第8回『夢十夜』「第三夜」分析
第9回『夢十夜』「第五夜」分析
第10回『夢十夜』「第七夜」分析
第11回『夢十夜』「第八夜」分析
第12回『夢十夜』「第九夜」分析
第13回『夢十夜』「第九夜」分析とレポート提出
第14回 レポート返却と個別指導

履修上の注意

(1)批評理論を十分に理解した上で、実際に自らが理論を用いて作品分析することができるようになるために、理論書を読みこなすことが必等である。理論書は一冊に限らず、発展的に読み進めていくこと。また、日ごろから分析的に考える練習をしておくこと。そして、合格点に達するまでレポートを書き直し続けること。

(2)既存の枠組みに当てはめることに終わらずに、受講者各自が「何を問題として考えることが有意義なのか」を問い続けること。自分自身の問題設定を立てて思考し、自分の意見をプレゼンテーションすることを求める。単なる感想レベルの説明のみでは評価の対象とはならず、したがって単位を付与しないので注意すること。

(3)レポートは添削して個別指導を行う。基準点に満たない場合については学期スケジュール内で再提出を求めるが、学期内で合格点に満たない場合には単位は付与しない。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、次回の授業範囲について教科書を精読しておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。

教科書

夏目漱石『夢十夜』(岩波文庫など)、大橋洋一『新文学入門』岩波書店

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

レポートは添削して返却し、個別指導を行う。

成績評価の方法

平常点(発表・ディスカッションでの発言含む)50 パーセント、レポート 50 パーセント

その他

参加者には、発表とレポート提出を課す。ディスカッションへの貢献も求める。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	日本文学演習(3年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
杉田 昌彦	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

○授業概要・目標

日本の中世後期から近世にかけての和歌文学を取り上げ，その代表的歌人とその和歌作品について，調査研究し演習発表を行う。また，卒業論文に向けて和歌以外の近世文学作品の研究を希望する学生については，各自が研究対象とする作品についての演習発表を行ってもよいこととする。

○授業形式

・最初数回対面式授業(もしくは教室でのリアルタイムオンライン授業)を行い、履修生確定次第、履修生各人の対面授業履修状況をもとに、リアルタイム型オンライン授業が実施可能な曜日時間帯を模索する。また、状況によっては、学期中に対面授業に移行することを視野に入れる可能性もある。

☆授業担当教員が25年度に引き続き就労特別配慮対象者であるため、上記のようにオンラインでの授業を基本としたいと考えております。その点を了解した上で授業を履修してください。

☆25年度の場合、①オンライン授業時には、金曜日5時限(17:10～18:50)に授業時間を移し、3時限からの移動に配慮して授業、②対面授業時(あるいは活動指針レベル2以上)には時間割通り金曜日4時限(15:20～17:00)で授業、という形態にしておりました。26年度も基本的に同様の形態にする予定(①の場合金曜5限②の場合金曜4限)です。

授業内容

春学期は主に，近世期和歌とそこに多大な影響を与えた中世後期和歌の代表的歌人について，担当者を決めて演習発表を行う。また，和歌以外の近世文学作品の研究を希望する学生については，各自が研究対象とする作品の演習を行う。

(1)演習内容の解説1
(2)演習内容の解説2
(3)中世後期和歌と近世期和歌1
(4)中世後期和歌と近世期和歌2
(5)中世後期和歌と近世期和歌3
(6)中世後期歌人演習1
(7)中世後期歌人演習2
(8)中世後期歌人演習3
(9)近世期歌人演習1
(10)近世期歌人演習2
(11)近世期歌人演習3
(12)近世文学作品演習1
(13)近世文学作品演習2
(14)近世文学作品演習3
※演習テーマ・内容等は，授業の進行・受講者の反応などにより適宜変更する。

○オンライン授業時の授業内容

・授業の概要や内容についてはシラバスにここまでに記載した通りである。

・まず、授業内容紹介と授業形態の決定、近世期和歌史概説講義、サンプル演習発表を教員のほうで行う。その後、発表担当の決定(早ければ第3回を予定)や発表資料作成相談(第4回？)を行った後、履修者による演習発表を開始する(最初数回は対面授業もしくは教室でのリアルタイムオンライン授業の予定。オンライン授業の場合はリアルタイム配信型)。

・オンライン授業の場合、発表者はレポート機能上の演習発表資料 UP フォームに自分が発表する前回の授業開始時までに発表資料と発表原稿を UP すること。

・授業日の前日までに授業資料の UP と、ミーティングの招待(zoomlive の場合。「授業に関するお知らせ」で通知)を行う予定。

・レポート機能に、「質問・相談フォーム」を作成し、そこで質問と相談を受け付ける。

※詳細は、初回授業において説明します。4月11日(金)の初回授業には必ず出席してください(教室での対面授業もしくは教室でのリアルタイムオンライン授業を予定)。➡リアルタイムオンライン授業に備えて、各自 ZOOM に接続するためのパソコン等を教室に持参してください。

※zoomlivemeeting に対応可能な通信環境を準備しておいてください。

※必要事項は随時、Oh-o!Meiji クラスウェブの「授業に関するお知らせ」で連絡。確認を欠かさないようにしてください。

※zoomlivemeeting 参加時には、必ず本名のフルネームで参加してください。

履修上の注意

※杉田が担当する秋学期の日本文学演習(3年)Bとあわせて履修することがのぞましい。また日本近世文学および和歌文学を学ぶことに高い意欲を持つ学生の履修を望む。和歌以外の近世文学に興味を持つ学生についても，各自の興味に相応しい演習を行うことが可能なので，積極的に参加することを期待する。授業中の私語等は厳禁とし，受講態度が場にふさわしくない学生には，退席を求めることがある。

※今のところ(26年1月時点)対面授業とオンライン授業に両方を想定に入れたシラバスを UP しておくが、26年度も在宅就労特別配慮者となるため、25年度と同様、各学期の授業全体もしくはその一部の形態をオンライン授業で行う可能性が高いことを承知しておいてほしい。

26年度の学期が始まったところで、オンライン授業を想定したさらに詳しいシラバス補足を記載する予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の発表内容について毎回予習してくるとともに、自らの担当発表後は、レポート提出までに、発表時の指摘・討論をふまえて発表資料を補訂してくること。

教科書

プリントなどを適宜配布。

参考書

授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜指示する。

成績評価の方法

演習内容やレポート等によって評価することに加え，出席状況や授業への参加度・参加態度などの平常点も加味して総合的に評価する。演習・レポート 65%，平常点(出席率ならびに受講態度を含む)35%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 栄美子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「戦争と文学」1

戦争を描いた作品を読む。戦争文学は日本文学の大きなテーマのひとつであり、これまで、人間の実存に迫るような多くの優れた作品が書かれてきた。傷痍軍人、従軍、軍隊生活、銃後、空襲など、また戦後の問題であるものの、やはり戦争から導かれた占領や引揚げの問題もここに含めることができるであろう。

野間宏、武田泰淳、大西巨人をはじめとした戦争のさまざまな局面を描いた作品を読むことで、人間や社会を学び直すことを目的とする。

授業内容

第1回 日本文学において戦争がどのように描かれたかについて考える。

第2回 スケジュール決定、作品担当を決める

第3回 野間宏「顔の中の赤い月」

第4回 中野重治「萩のもんかきや」

第5回 傷痍軍人 小川未明「汽車奇談」

第6回 従軍 木原孝一「戦争の中の建設」

第7回 軍隊生活 大西巨人「神聖喜劇」

第8回 特攻 島尾敏雄「魚雷艇学生」

第9回 引揚げ 松本清張「赤いくじ」

第 10 回 銃後 佐多稲子「香に匂ふ」

第 11 回 空襲 吉行淳之介「焔の中」

第 12 回 敗戦 黒田喜夫「わが内なる戦争と戦後」

第 13 回 高村光太郎、秋山清、佐藤春夫らの詩

第 14 回 まとめ

＊学習効果を高めるために、授業内容を変更することがある。

履修上の注意

発表やディスカッションに意欲をもって臨んでほしい。発表者はレジュメを用意する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、必ず作品を読み、問題点を検討しておくこと。事後学習として、授業で取り上げた作品を再読し、紹介した文献を調査すること。

教科書

石川巧・川口隆行編『戦争を〈読む〉』(ひつじ書房)。

参考書

浅田次郎・奥泉光・川村湊・高橋敏夫・成田龍一編『戦争×文学』全 20 巻別巻1(集英社)、ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』(岩波書店)、日本社会文学会編『社会文学の三〇年』(菁柿堂)、海老坂武『戦争文化と愛国心』(みすず書房)、黒田喜夫『燃えるキリン』(共和国)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に解説の時間を設けて講評をおこなう。

成績評価の方法

演習の発表 40%、学期末レポート 40%、授業中の発言など平常点 20%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)A	**日本文学演習(3年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「日本近代作家とキリスト教」(1)

日本近代作家の多くは聖書に親炙し、キリスト教文学を創造している。本演習は以下を到達目標とする。

1、聖書の原典を読みながら、日本人作家が再創造したキリスト教的内容を正しく理解する。

2、数多くの近代作家がキリスト教を創作に取り入れた理由を、歴史、文学、倫理、神学の側面から考察する。

3、文学作品に現れた絵画、彫刻、音楽、建築のイメージを分析し、キリスト教文学の豊かさを理解する。

4、文学研究の方法を学び、論文執筆の技術を身につける。

5、近代文学によってキリスト教が日本人の日常生活の一部分となっていることを観察する。

授業内容

小説家:正宗白鳥、志賀直哉、芥川龍之介、太宰治、宮沢賢治、小山清など

詩人:上田敏、岩野泡鳴、木下杢太郎、北原白秋、三木露風、竹友藻風、日夏耿之介、高村光太郎、中勘助、中原中也、金子光晴など

随筆家:岩下壮一、吉満義彦、カンドー神父、ボイヴェルス神父など

最終レポート(4,000 字前後)の提出

履修上の注意

1、テキストを丹念に繰り返し読み、言葉の意味をよく調べ、時代背景を把握し、人物間の関係を理解し、聖書との異同に十分に留意する。

2、演習担当者は、レジュメの作成を丁寧に作り、クラスの参加者と教員に配布し、自分の研究内容を説明する。

3、レジュメは、a. 言葉の意味、b. 時代背景、c. 人物間の関係、d. 先行研究、e. 質問を入れる。

4、学生全員は積極的に質問し、議論に参加し、説得力をもって独自な意見を呈示する。

5、クラス全員の毎回の出席が必須であり、病気の場合は診断書の提出が義務付けられる。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)事前学習として、テキストを精読し、興味を覚えた部分や疑問を感じた部分を整理する。それらの部分について、クラスでディスカッションする。

(2)事後学習として、授業で取り上げられた部分を再読し、理解を深める。

(3)作品を通して、なぜ近代作家たちが聖書に興味があり、それを文学創作に取り入れたのかを考えて、紹介した文献を調査し、自ら参考となる文献を探し、自分の意見を立証する こと。

(4)演習を通して、問題意識を育てて、関係資料を探し、先行研究を参考し、文学研究の方法に馴染む。

教科書

『近代日本キリスト教文学』全 15 巻(教文館、1974-1982 年)

(以上のうちの一部分)

参考書

1、遠藤祐『世界日本キリスト教文学事典』(教文館、1994 年)

2、大田正紀『日本近代文学と聖書』(一麦出版社、2023 年)

課題に対するフィードバックの方法

1)授業中、学生の質問、感想、議論に対して、教員は随時、コメントする。

2)演習レジュメの内容に対して、教員はコメントし、訂正意見を出す。

3)期末レポートに対して、教員はコメントし、成績を出す。

4)期末レポートの発表に対して、教員はコメントし、評価を出す。

成績評価の方法

平常点(演習発表・質疑応答・コメント・ディカッション):56 %(4% x 14 回)

期末レポート:44 %

合計:100%

その他

演習計画にしたがい、早めに準備をおこない、期末レポートの〆切を厳守することが期待される。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

戦後の現代詩(1950 年代～1960 年代頃まで)を読み、それらを多角的に分析・考察するための実践を重ねる。近・現代詩の歴史的変遷を学ぶとともに、詩という文芸ジャンルの特徴や課題をふまえた学問的な議論を構築できるようになることを目指す。

授業内容

第1回 概説・導入／発表担当決定
第2回 谷川俊太郎『二十億光年の孤独』(1952)
第3回 飯島耕一『他人の空』(1953)
第4回 吉野弘『消息』(1957)
第5回 茨木のり子『見えない配達夫』(1958)
第6回 富岡多恵子『返礼』(1958)
第7回 石垣りん『私の前にある鍋とお釜と燃える火と』(1959)
第8回 中間レビュー
第9回 入沢康夫『夏至の火』(1958)
第 10 回 吉岡実『僧侶』(1958)
第 11 回 渡辺武信『まぶしい朝・その他の朝』(1961)
第 12 回 鈴木志郎康『新生都市』(1963)
第 13 回 堀川正美『太平洋』(1964)
第 14 回 まとめ／総括

履修上の注意

取り上げるのはすべて戦後十年ほどの間に書かれた「戦後詩」およびその影響下に出発した戦後派の詩篇であるため、同じ時代的思潮を共有するそれぞれの作品の共通点や相違点に留意しつつ、積極的に議論を深めてほしい。なお自分の発表だけでなく、他の履修者の発表に対する応答も同程度に重要な評価の対象となるので、そのつもりで臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当時以外も、対象作品を精読し疑問点や意見をクリアにしておくこと。議論で消化できなかったところがあれば各自で参考文献を集めるなどして、期末レポートに備えてほしい。

教科書

鮎川信夫・大岡信・北川透編『戦後代表詩選』『戦後代表詩選　続』(詩の森文庫)、西原大輔『日本名詩選3』(笠間書院)

参考書

指定しない。それぞれの作品に関わる参考文献は別途紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の発表や質疑に対する講評は授業の終盤におこなう。また、期末レポートに関する全体講評は、Oh-o! Meiji で履修者に向けて公開する。

成績評価の方法

発表内容と平常点 50%、期末レポート 50%で評価する。平常点は授業時の発言や参加姿勢などによって総合的に判断する。なお、欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合は、発表や質疑の内容にかかわらず、単位を認定しない。

その他

特になし

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野 正弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[概要]
芥川龍之介とは別の作家の直喩を対比する研究を言語学・表現論的な観点から行なう。
秋学期配当の B では、受講生が自分で選んだ芥川龍之介以外の、近現代の作家(自由選択)についての分析・考察を行ない、春学期における結果と対比する。また、他の受講生の、調査・分析結果とも照合していく。

[到達目標]
芥川自身の直喩上の特徴に基づいて、芥川以外の作家の場合を調査して、整理した資料が作成でき、芥川との比較対照を行なって、その特徴をさらに明確なものにすること、ならびに、そのような調査・考察を行なって、明快な発表・質疑を行えるようになること。

授業内容

春学期に見出した芥川龍之介の直喩の特徴に基づいて、秋学期では、半期をかけて、他の作家作品の直喩との対照を行なってゆく。具体的には、担当者が、自分の自由に選んだ作家作品の範囲に現れた比喩について、分析・報告し、芥川の比喩と対比させる。その際、どのようなものを直喩と認定すべきかという原理的な考察も継続してゆく。
また、電子ファイル化されたインターネット上のテキストを検索して整形することもあわせて習得していく。

1. 芥川以外の直喩のありよう：三島由紀夫「花盛りの森」の場合
2. 直喩認定についての確認(1)カテゴリー間落差、構文的な判断
3. 直喩認定についての確認(2)「ようだ」の用法確認
4. 秋学期演習発表の方法(1)「ような」「ように」
5. 秋学期演習発表の方法(2)「みたいな」「みたいに」
6. 受講生秋学期発表(1―8)
7. まとめ[aモジュールで終了]

※受講生の人数によって、各単元の回数が異なる可能性がある。

履修上の注意

コンピュータに関する特別な知識は必要としないが、インターネットにアクセスできること、Excel の基本操作を理解していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

[予習]
1. 芥川と対比する作家の作品を読み解きながら、データ採取を行なう。
2. 直喩と問題なく認定すべきもの、明らかに異なるもの、微妙なものに分けて、特に微妙なものについて考察を深めておく。

[復習]
1. 発表時の意見・質問等をふまえて直喩の解釈についての認識を深めておく。
2. 自分の担当した作家が、芥川と対比したときにどのような特徴があるのかを整理し、レポートに備える。

教科書

プリントを配布。

発表者も、資料プリントを演習参加者全員分、印刷・配布する。

参考書

関口安義／庄司達也編『芥川龍之介全作品事典』(勉誠出版)
各作家の全集本、単行本等
半沢幹一編『直喩とは何か』(ひつじ書房)

課題に対するフィードバックの方法

・リアクションペーパーを配付した場合、フィードバックの必要があるものは、次回コメントする。

・演習発表に対する、受講生からのコメントで、フィードバックの必要があるものは、適宜、コメントする。

・Oh-o! Meiji のディスカッションの内容に、フィードバックの必要があるものは、適宜コメントする。

成績評価の方法

演習の発表(40%)、レポート(40%)、平常点(リアクションペーパー、授業中の発言等を総合、20%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
甲斐 雄一	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

白居易「新楽府」に関する論文を批評する_
_ 本授業では、春学期に読解した白居易「新楽府」についての主要な論文を対象に、論文に述べられている内容の概要を作成し、論文の構成・資料の取り扱い・提出されている知見について批評する。先行研究に対して適切な批評を加える力を養うことで、卒業論文作成のための土台を形成することを目標とする。_

授業内容

第1回 a:本授業で扱う論文の紹介・説明_
_ 第2回:発表レジュメ作成についての説明_
_ 第3回:「新楽府」関連論文批評1_
_ 第4回:「新楽府」関連論文批評2_
_ 第5回:「新楽府」関連論文批評3_
_ 第6回:「新楽府」関連論文批評4_
_ 第7回:「新楽府」関連論文批評5_
_ 第8回:「新楽府」関連論文批評6_
_ 第9回:「新楽府」関連論文批評7_
_ 第 10 回:「新楽府」関連論文批評8_
_ 第 11 回:「新楽府」関連論文批評9_
_ 第 12 回:「新楽府」関連論文批評 10_
_ 第 13 回:「新楽府」関連論文批評 11_
_ 第 14 回:「新楽府」関連論文批評 12_
_ ＊発表担当者数が少ない場合、後半はそれぞれ関心のあるテーマの論文を対象とし発表する。その場合は後半の発表をレポート相当とし、置き換えて成績を評価する。_

履修上の注意

演習は担当者の発表と参加者全員による質疑応答の二部から構成される。担当回はもちろん、それ以外の回の質疑応答における積極的な発言を要求する。_

準備学習(予習・復習等)の内容

発表担当者は論文に述べられている内容の概要、論文の形式・資料の取り扱い・提出されている知見についての批評を記載したレジュメを作成し、担当回に発表する。_
_ また、発表とは別に本人の関心によって選んだ論文を批評したレポートを作成し、提出する。_
_ その他の参加者は質疑応答で質問するために次回会読する論文を予習しておく。_

教科書

なし。_

参考書

なし。_

課題に対するフィードバックの方法

担当者の発表に対し、参加者全員が意見・質問を提出し、それに対して担当者が回答する。議論の中で適宜教員が概括・補足を行い、そのやりとりを踏まえた内容をレポートとして文章化してもらう。_

成績評価の方法

演習発表(40%)、レポート(30%、受講者が少ない場合は2回目の発表で代替する)、質疑応答における発言(参加態度を含む、30%)。_

その他

なし。_

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鉄野 昌弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

『万葉集』には「雑歌」「相聞」「挽歌」という三つの部を持つ巻が多く、この中で最も歌の数が多いのは相聞歌である。相聞歌は、私的に交わされる歌であることを表わすが、私的であることは政治的でないことを意味しない。『万葉集』の歌は、基本的に貴族・官人たちの作品であるから、その交際、就中結婚は、政治そのものなのである。前期は、巻四・八の相聞歌を読んだが、この授業では、その枠を外して、『万葉集』全体から相聞歌・譬喩歌などを自由に選んで読むことにする。各人が一首乃至数首を取り上げて、諸注釈を確かめながら、自分なりの読解を形成することを目指す。『万葉集』について、専門的な知識を得るとともに、その研究方法を習得することができる、また和歌の読み方に習熟する。文献探索や、その読解についての能力を養成することを目標とする。

授業内容

1、イントロダクション 2、教員による発表(1) 2368 歌 読解 3、教員による発表(2) 2368 歌 考察 4～14 学生による発表

履修上の注意

積極的な発言を期待する。発表に際しては、ネット情報を鵜呑みにせず、AI に頼らないことを求める。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表者のみならず、出席者は全員、その週に扱う歌の注釈署を見てきて下さい。この他、授業中に紹介する書物などは、つとめて読んで下さい。

教科書

『万葉集』本文篇(塙書房)_
_『万葉事始』(和泉書院)

参考書

1、『万葉集』1～4(小学館新編日本古典文学全集)_
_ 2、『セミナー万葉の歌人と作品』第1～12集 (和泉書院)_
_ 3、『万葉集の基礎知識』(角川書店)

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートを利用してフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート 50% ・平常点(授業内での発表・発言)50%

その他

スケジュールは、受講生の数およびレベルによって変更する場合がある。

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

(授業の概要)

百人一首とその時代について探究する。百人一首は今も多くの人に親しまれているが、その原型は藤原定家が編纂した百人秀歌である。彼が生きた時代は、平安時代が終わり、鎌倉時代へと移る激動の時代であった。定家は、若い頃には源平の争乱を目の当たりにし、後には承久の乱を経験する。この乱では和歌を愛した後鳥羽院が鎌倉の北条氏に敗れ、隠岐に流罪になった。このような中で、定家はどのような経緯で百人秀歌を作ったのか。彼が関わった人物や、彼が生きた時代状況を視野に入れながら百人秀歌を読解する。また、百人秀歌をもとに、後世、百人一首が誕生する。その編者や成立時代については、近年に議論が進み、新説も出されている。それらを参照しつつ、百人秀歌と百人一首をめぐるさまざまな謎について探究したい。

(到達目標)

・百人一首の原型である百人秀歌について理解を深め、その編者である藤原定家の和歌観・文芸観を探究する。
・平安末期から鎌倉時代、動乱の時代の文化について理解を深める。
・百人秀歌と百人一首を通して、古典読解の方法を身に付ける。
・百人秀歌と百人一首から、現代における古典の意義について考える。

授業内容

平安時代末から鎌倉時代初期という激動の時代を生きた歌人である藤原定家は、その晩年に百人秀歌を編んだ。その後(定家の死後)、何者かによって百人一首が生み出される。百人秀歌と百人一首には、若干の違いがある。もっとも大きな違いは、後鳥羽院・順徳院の歌の有無である(百人秀歌には、両人が入っていない)。百人秀歌の撰者は藤原定家と考えて間違いないが、百人一首については、撰者と成立時代が明らかになっていない。しかし、2022 年に最新の研究成果が発表された。中川博夫・田渕句美子・渡邊裕美子編『百人一首の現在』青簡舎である。本書には、百人一首をさまざまな角度から分析した多くの論文が収録されている。これを手掛かりにすることで、百人一首をより深く理解できるであろう。そして残された課題に迫ることができる。

百人秀歌と百人一首はともに小さな歌集であるが、どのような意図・方針で編纂されたか、謎は多い。百人秀歌について言えば、数多くいる歌人の中からどのようにして百人を選んだか、また、各歌人の代表歌を選ぶ時の基準は何であったのか。このような疑問に答えるためには、藤原定家の人生や、彼が生きた時代について理解を深めなければならない。また、定家の父である俊成や、彼が仕えた後鳥羽院など、彼を取り巻く歌人たちについて知る必要もある。また、百人一首について言えば、百人秀歌をもとに、いつ誰が、どのような目的で百人秀歌に手を加えて百人一首としたのか、興味が尽きない。

秋学期には、春学期に行った発表を踏まえて、そこから問題点を見つけ出し、それについてさらなる調査を行った結果と考察について報告する。

(1)問題点の見つけ方
(2)調査と報告の方法
(3)1～10 番歌
(4)11～20 番歌
(5)21～30 番歌
(6)31～40 番歌
(7)41～50 番歌
(8)51～60 番歌
(9)61～70 番歌
(10)71～80 番歌
(11)81～90 番歌
(12)91～100 番歌
(13)全体討論
(14)総括

履修上の注意

作品・資料に丹念に向き合い、積極的な態度で発表と質疑応答に臨んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

取り上げる作者と和歌について、それを解説した注釈書・論文に目を通しておく。

教科書

樋口芳麻呂校注『王朝秀歌選』岩波文庫

参考書

中川博夫・田渕句美子・渡邊裕美子編『百人一首の現在』青簡舎、2022 年
田渕句美子『百人一首――編纂がひらく小宇宙』岩波新書、2024年
『百人一首注釈書叢刊』(和泉書院)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji にレポートの講評を掲示する。

成績評価の方法

授業への貢献度(40%)とレポート(60%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

平安時代の作品を集めた短編集『堤中納言物語』を読む。それぞれ任意の短編を選び、話を要約、研究動向等を確認した上で、興味を持った点、疑問に思う点についてまとめる。比較的、研究史の浅い物語について自分で調べることで、新しい研究方法を探り出す。

授業内容

発表までの手続きについては演習 A に同じ。

(1)『堤中納言物語』概説1
(2)『堤中納言物語』概説2
(3)発表方法の説明
(4)「花桜折る少将」
(5)「このついで」
(6)「虫めづる姫君」
(7)「ほどほどの懸想」
(8)「逢坂越えぬ権中納言」
(9)「貝合」
(10)「思はぬ方にとまりする少将」
(11)「はなだの女御」
(12)「はいずみ」
(13)「よしなしごと」
(14)まとめ

履修上の注意

演習は発表と意見交換が基本となるため、各自の主体的な姿勢が求められる。

平安文学関連の展示を見に行く可能性がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書を読んでおく。

教科書

岩波文庫 黄21ー1 大槻修校注『堤中納言物語』(税込 704 円)

参考書

授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

レポートにはコメントを付す。

成績評価の方法

演習発表(35%)とレポート(35%)、質疑応答を含む授業態度(30%)。
*レポートは 2500 字以上(内容は授業時に指示)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
生方 智子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

近代小説の歴史性を探求する

日本の近代化において生じた歴史的状況を参照して作品の時代背景に関する知識を深めた上で、文学作品を精緻に読み解いていく。今期は田山花袋「少女病」、夏目漱石『彼岸過迄』を中心に、日露戦後の日本の状況を学びつつ、当時の文学的展開と作品世界の特徴を検証する。

演習形式で、受講者は田山花袋「少女病」、夏目漱石『彼岸過迄』を分析・発表してもらう。その際、小説の時代背景を調査した上で作品を読解することを求める。受講者は小説を理論的に読むことに加えて、近代日本の歴史的・文化的状況に関する知識を増やし、文学作品を精緻に読解する力をつけることを到達目標とする。

また、卒業論文執筆に向けて、春学期に引き続き、書く力をつけることを目標とする。受講者には『彼岸過迄』論をレポートとして提出してもらうが、合格点に満たない場合には書き直しを求める。

授業内容

第1回 文学作品の時代背景と小説のコンテクストについて
第2回 「少女病」読解(一)読解
第3回 「少女病」読解(二)読解
第4回 「少女病」読解(三)(四)(五)読解
第5回 浪漫主義再考(国木田独歩「春の鳥」「河霧」読解)
第6回 自然主義文学から大正期の文学へ
第7回 『彼岸過迄』「風呂の後」発表
第8回 『彼岸過迄』「風呂の後」討議
第9回 『彼岸過迄』「停留所」発表と討議
第10回 『彼岸過迄』「報告」発表と討議
第11回 『彼岸過迄』「雨の降る日」発表と討議
第12回 『彼岸過迄』「須永の話」発表と討議
第13回 『彼岸過迄』「松本の話」「結末」発表と討議
第 14 回 『彼岸過迄』討議・レポート提出

履修上の注意

(1)図書館の文献や新聞記事のデータベースを調査し、日露戦後の歴史的・文化的状況に関する知識を深めることを求める。発表では、文学作品の時代背景の調査成果と作品読解を報告してもらう。

(2)既存の枠組みに当てはめることに終わらずに、受講者各自が「何を問題として考えることが有意義なのか」を問い続けること。自分自身の問題設定を立てて思考し、自分の意見をプレゼンテーションすることを求める。単なる感想レベルの説明のみでは評価の対象とはならず、したがって単位を付与しないので注意すること。

(3)レポートが基準点に満たない場合には学期スケジュール内で再提出を求めるが、学期内で合格点に満たない場合には単位は付与しない。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、次回の授業範囲の作品を精読しておくこと。復習として、同作家や同時代の他の作品を読むこと。

教科書

夏目漱石『彼岸過迄』(岩波文庫など)。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

レポートは添削して返却する。

成績評価の方法

平常点(発表・ディスカッションでの発言含む)50 パーセント、レポート 50 パーセント

その他

参加者には、発表とレポート提出を課す。ディスカッションへの貢献も求める。レポートは合格点に達するまで再提出を求める。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
杉田 昌彦	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

○授業概要・目標

日本の中世後期から近世にかけての和歌文学を取り上げ，その代表的歌人とその和歌作品について，調査研究し演習発表を行う。また，卒業論文に向けて和歌以外の近世文学作品の研究を希望する学生については，各自が研究対象とする作品についての演習発表を行ってもよいこととする。

○授業形式

・現時点(1月末)では、授業担当教員が就労特別配慮対象者であるため、リアルタイム型を軸にオンライン授業を模索する予定である。ただし、秋学期は授業の一部を対面授業に移行する可能性も残されている。その点を了解した上で授業を履修してほしい。

☆25年度の場合、春学期の日本文学演習(3年)A と同様に、①オンライン授業時には、金曜日5時限(17:10～18:50)に授業時間を移し、3時限からの移動に配慮して授業、②対面授業時(あるいは活動指針レベル2以上)には時間割通り金曜日4時限(15:20～17:00)で授業、という形態にしておりました。26年度の秋学期も基本的に同様の形態にする予定(①の場合金曜5限②の場合金曜4限)です。

授業内容

秋学期は主に，春学期で取り上げた歌人の代表的和歌について，歌ことばおよび和歌表現に留意しつつ担当者を決めて演習発表を行う。また，和歌以外の近世文学作品の研究を希望する学生については，各自が研究対象とする作品について、春学期よりもさらにテーマを焦点化した演習を行う。さらに，各自の卒業研究テーマが明確になった時期以降は，卒業論文に向けての指導も織り交ぜていく。

(1)演習内容の解説1
(2)演習内容の解説2
(3)中世後期和歌演習1
(4)中世後期和歌演習2
(5)中世後期和歌演習3
(6)近世期和歌演習1
(7)近世期和歌演習2
(8)近世期和歌演習3
(9)近世期和歌演習4
(10)近世文学作品演習1
(11)近世文学作品演習2
(12)近世文学作品演習3
(13)卒業研究基礎講座1
(14)卒業研究基礎講座2

※演習テーマ・内容等は，授業の進行・受講者の反応などにより適宜変更する。

○オンライン授業時の授業内容
秋学期は、春学期に演習発表した歌人の代表歌(一人につき一首)を調べて演習発表する。なお、卒業論文にむけて、和歌以外の近世文学作品の研究を希望する学生については、各自が研究対象とする作者・作品について調査し、自身の卒業研究のテーマを模索しつつ演習発表を行ってもよい。
※現在のところこのような講義内容を予定していますが、授業を取り巻く環境の変化や受講生の反応によっては、今後内容の変更が大いにありえます。秋学期の開始時期(9月)に、具体的な情報をシラバスの補足に UP する予定ですので、確認等よろしくお願いします。また、授業内容については、第一回授業内でも詳細に説明します。

履修上の注意

※杉田が担当する春学期の日本文学演習(3年)Aとあわせて履修することがのぞましい。日本近世文学および和歌文学を学ぶことに高い意欲を持つ学生の履修を望む。和歌以外の近世文学に興味を持つ学生についても，各自の興味に相応しい演習を行うことが可能なので，積極的に参加することを期待する。授業中の私語等は厳禁とし，受講態度が場にふさわしくない学生には，退席を求めることがある。
※今のところ(26年1月時点)対面授業とオンライン授業に両方を想定に入れたシラバスを UP しておくが、26年度も在宅就労特別配慮者となるため、25年度と同様、各学期の授業全体もしくはその一部の形態をオンライン授業で行う可能性が高いことを承知しておいてほしい。
26年度の学期が始まったところならびに秋学期の開始時に、より具体的な情報をシラバスの補足に記載する予定である

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の発表内容について毎回予習してくるとともに、自らの担当発表後は、レポート提出までに、発表時の指摘・討論をふまえて発表資料を補訂してくること。

教科書

プリントなどを適宜配布。

参考書

授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜指示する。

成績評価の方法

演習内容やレポート等によって評価することに加え，出席状況や授業への参加度・参加態度などの平常点も加味して総合的に評価する。演習・レポート 65%，平常点(出席率ならびに受講態度を含む)35%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 栄美子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「戦争と文学」2

戦争を描いた作品を読む。戦争文学は日本文学の大きなテーマのひとつであり、これまで、人間の実存に迫るような多くの優れた作品が書かれてきた。傷痍軍人、従軍、軍隊生活、銃後、空襲など、また戦後の問題であるものの、やはり戦争から導かれた占領や引揚げの問題もここに含めることができるであろう。

野間宏、武田泰淳、大西巨人をはじめとした戦争のさまざまな局面を描いた作品を読むことで、人間や社会を学び直すことを目的とする。

授業内容

第1回 春学期の復習、スケジュール確認
第2回 武田泰淳「審判」
第3回 目取真俊「水滴」
第4回 井上ひさし「父と暮らせば」
第5回 中野重治「五勺の酒」
第6回 占領 小島信夫「アメリカン・スクール」
第7回 沖縄 池沢聰「ガード」
第8回 強制収容 石原吉郎「望郷と海」
第9回 疎開 津島佑子「葦舟、飛んだ」
第10回 原爆 林京子「空缶」
第11回 従軍慰安婦 古山高麗雄「セミの追憶」
第12回 難民 シリン・ネザマフィ「サラム」
第13回 コラム
第14回 まとめ
＊学習効果を高めるために、授業内容を変更することがある。

履修上の注意

発表やディスカッションに意欲をもって臨んでほしい。発表者はレジュメを用意する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、必ず作品を読み、問題点を検討しておくこと。事後学習として、授業で取り上げた作品を再読し、紹介した文献を調査すること。

教科書

石川巧・川口隆行編『戦争を〈読む〉』(ひつじ書房)。

参考書

浅田次郎・奥泉光・川村湊・高橋敏夫・成田龍一編『戦争×文学』全 20 巻別巻1(集英社)、ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』(岩波書店)、日本社会文学会編『社会文学の三〇年』(菁柿堂)、海老坂武『戦争文化と愛国心』(みすず書房)、黒田喜夫『燃えるキリン』(共和国)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に解説の時間を設けて講評をおこなう。

成績評価の方法

演習の発表 40%、学期末レポート 40%、授業中の発言など平常点 20%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学演習(3年)B	**日本文学演習(3年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「日本近代作家とキリスト教」(2)

日本近代作家の多くは聖書に親炙し、キリスト教文学を創造している。本演習は以下を到達目標とする。
1、聖書の原典を読みながら、日本人作家が再創造したキリスト教的内容を正しく理解する。
2、数多くの近代作家がキリスト教を創作に取り入れた理由を、歴史、文学、倫理、神学の側面から考察する。
3、文学作品に現れた絵画、彫刻、音楽、建築のイメージを分析し、キリスト教文学の豊かさを理解する。
4、文学研究の方法を学び、論文執筆の技術を身につける。
5、近代文学によってキリスト教が日本人の日常生活の一部分となっていることを観察する。

授業内容

小説家:正宗白鳥、志賀直哉、芥川龍之介、太宰治、宮沢賢治、小山清など

詩人:上田敏、岩野泡鳴、木下杢太郎、北原白秋、三木露風、竹友藻風、日夏耿之介、高村光太郎、中勘助、中原中也、金子光晴など

随筆家:岩下壮一、吉満義彦、カンドー神父、ボイウェルス神父など

最終レポート(4,000 字前後)の提出

履修上の注意

1、テキストを丹念に繰り返し読み、言葉の意味をよく調べ、時代背景を把握し、人物間の関係を理解し、聖書との異同に十分に留意する。
2、演習担当者は、レジュメの作成を丁寧に作り、クラスの参加者と教員に配布し、自分の研究内容を説明する。
3、レジュメは、a. 言葉の意味、b. 時代背景、c. 人物間の関係、d. 先行研究、e. 質問を入れる。
4、学生全員は積極的に質問し、議論に参加し、説得力をもって独自な意見を呈示する。
5、クラス全員の毎回の出席が必須であり、病気の場合は診断書の提出が義務付けられる。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)事前学習として、テキストを精読し、興味を覚えた部分や疑問を感じた部分を整理する。それらの部分について、クラスでディスカッションする。
(2)事後学習として、授業で取り上げられた部分を再読し、理解を深める。
(3)作品を通して、なぜ近代作家たちが聖書に興味があり、それを文学創作に取り入れたのかを考えて、紹介した文献を調査し、自ら参考となる文献を探し、自分の意見を立証すること。
(4)演習を通して、問題意識を育てて、関係資料を探し、先行研究を参考し、文学研究の方法に馴染む。

教科書

『近代日本キリスト教文学』全 15 巻(教文館、1974-1982 年)
(以上のうちの一部分)

参考書

1、遠藤祐『世界日本キリスト教文学事典』(教文館、1994 年)
2、大田正紀『日本近代文学と聖書』(一麦出版社、2023 年)

課題に対するフィードバックの方法

1)授業中、学生の質問、感想、議論に対して、教員は随時、コメントする。
2)演習レジュメの内容に対して、教員はコメントし、訂正意見を出す。
3)期末レポートに対して、教員はコメントし、成績を出す。
4)期末レポートの発表に対して、教員はコメントし、評価を出す。

成績評価の方法

平常点(演習発表・質疑応答・コメント・ディカッション):56 %(4% x 14 回)
期末レポート:44 %
合計:100%

その他

演習計画にしたがい、早めに準備をおこない、期末レポートの〆切を厳守することが期待される。

科目ナンバー：(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩA	**日本文学講義ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

中島京子(1964－)は、日本近代文学の蓄積をふまえた創作活動を通して、近代日本の歴史や文学の再解釈を提示している興味深い現代作家のひとりである。本講義では、中島の小説を土台として、モチーフとなっている先行作品や歴史的背景を学ぶとともに、現代文学が過去の歴史に対峙する際に浮上する課題や問題点を検討する。作品が提示している歴史的・思想的課題を把握した上で、積極的な読みの実践を重ねることを目指す。

授業内容

第1回 概説・導入
第2回 「小さいおうち」を読む(1)本作の評価と課題の確認
第3回 「小さいおうち」を読む(2)東京の都市モダニズム
第4回 「小さいおうち」を読む(3)戦前の女性のライフコース
第5回 「小さいおうち」を読む(4)イノセンスとノスタルジー
第6回 「小さいおうち」を読む(5)映像化と主題の変化
第7回 「小さいおうち」を読む(6)総論
第8回 中間レビュー：補足・小レポート
第9回 「Futon」を読む(1) 田山花袋と日本近代文学
第 10 回 「Futon」を読む(2) 大日本帝国の敗戦とジェンダー
第 11 回 「Futon」を読む(3) 表象不可能性と記憶の継承
第 12 回 「Futon」を読む(4) 総論
第 13 回 期末レビュー：補足・小レポート
第 14 回 まとめ／総括
※履修人数や進捗状況によって内容を修正することがあります。

履修上の注意

履修者の理解度や関心の所在を確認しながら授業を進行するため、履修者には毎時リアクションペーパーの提出を求めるほか、授業内でのレポート課題も設ける。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストは必ず事前に一読してから受講すること。講義内で言及した固有名や歴史的事項について理解が不十分な箇所がある場合は文献などで調べておくこと。

教科書

中島京子「小さいおうち」(文春文庫)、同「Futon」(講談社文庫)。その他はプリントを配布する。

参考書

特になし。個別のトピックについて履修者から質問が出た場合、必要に応じて授業時に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーないし授業内に提出された課題についての講評を、提出翌週の授業の冒頭におこなう。

成績評価の方法

授業内で指示するレポート課題 50%、平常点 50%で評価する。平常点は毎回のリアクションペーパーを中心に、出席状況、授業への参加姿勢に基づいて総合的に判断する。なお、欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合は、課題の達成度にかかわらず、単位を認定しない。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩA	**日本文学講義ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

テーマ：日本近代文学における聖書の言葉

日本近代文学にキリスト教の旧約聖書と新約聖書の言葉が頻繁に登場している。日本の代表的な文学者で、聖書を読んでいない人はいないと言えよう。西洋文明に関心があれば、その根幹にあるキリスト教の存在が無視できないからだろう。作品に聖書の言葉を登場させた日本の文学者は数多くいる。たとえば、芥川龍之介、有島武郎、有吉佐和子、犬養道子、井上洋治、内村鑑三、遠藤周作、大岡昇平、大原富枝、小川国夫、長部日出雄、加賀乙彦、川端康成、木崎さと子、北原白秋、木下尚江、木下杢太郎、倉田百三、阪田寛夫、椎名麟三、志賀直哉、島尾敏雄、島崎藤村、庄野潤三、清流院流水、曽野綾子、谷崎潤一郎、徳富蘆花、夏目漱石、高橋たか子、高村光太郎、武田泰淳、太宰治、田中澄江、永井隆、長与善郎、中原中也、平野万里、福永武彦、三浦綾子、三浦朱門、三木露風、武者小路実篤、森禮子、八木重吉、矢代静一、柳美里、与謝野鉄幹、吉井勇、若松賤子、渡辺和子など、枚挙にいとまがない。

本講義は、日本の代表的な文学作品(小説、随筆、詩歌)に刻まれた聖書の言葉を分析し、日本文化に影響を与えた聖書の精神を理解し、日本文学と聖書との密接な関係を考える。

授業内容

1回目『聖書』の名文を読む
2回目『聖書』の名文を読む
3回目 明治期の文学と聖書(1)
4 回目 明治期の文学と聖書(2)
5回目 明治期の文学と聖書(3)
6回目 大正期の文学と聖書(1)
7回目 大正期の文学と聖書(2)
8回目 昭和期の文学と聖書(1)
9 回目 昭和期の文学と聖書(2)
10 回目 昭和期の文学と聖書(3)
11 回目 昭和期の文学と聖書(4)
12 回目 昭和期の文学と聖書(5)
13 回目 平成期の文学と聖書
14 回目 研究発表
期末レポートを提出する。

履修上の注意

聖書を読み、なぜ日本の文学者が聖書の言葉を繰り返し引用し、聖書の関係人物を自作に頻繁に登場させてきたのかを考える。本講義は、学生が教員の授業を聞き、文学作品(指定テキスト)を丁寧に読み込み、グループの活発な討論を通して、日本近代文学と聖書との関係を理解することが要求される。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)事前学習として、聖書と文学作品(指定テキスト)を精読し、興味を覚えた部分や疑問を感じた部分を整理する。それらの部分について、クラスで討論する。

(2)事後学習として、授業で取り上げられた部分を再読し、理解を深め、聖書に魅了された日本近代の文学者たちの創作の原動力をより深く理解する。

教科書

鈴木範久『文語訳聖書を読む』(講談社、2019 年)、長濵拓磨『戦後文学と聖書』(かんよう出版、2022 年)、さまざまな日本近代文学作品。

参考書

名尾耕作『旧約聖書名言集』(講談社、1980 年)、小嶋潤『新約聖書名言集』(講談社、1978 年)、武田友寿『日本のキリスト者作家たち』(教文館、1974 年)、沖野岩三郎『明治キリスト教児童文学史』(久山社、1995 年)、久保田暁一『日本の作家とキリスト教：二十人の作家の軌跡』(第2版、朝文社、2006 年)、安森敏隆ほか編『キリスト教文学を学ぶ人のために』(世界思想社、2002 年)、大田正紀『日本近代文学と聖書』(一麦出版社、2023 年)

課題に対するフィードバックの方法

1)授業中、学生の質問、感想、議論に対して、教員は随時、コメントする。
2)精読内容に対して、教員はコメントし、訂正意見を出す。
3)期末レポートに対して、教員はコメントし、成績を出す。

成績評価の方法

平常点(授業出席、質疑応答・コメント・ディカッション)：56 %(4% x 14 回)
期末レポート：44 %
合計：100%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩA	**日本文学講義ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 孝弘	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(テーマ)「日本の幽霊・妖怪」 (概要)日本の幽霊・妖怪についての通史的概説を行うと共に、その背景となる日本人の死生観や支配的宗教等につき講ずる。また、怪異研究を具体的に行うための諸文献についても紹介する。怪異について学術的に考えること、及びその意義につき講じていきたい。 (到達目標)日本の幽霊・妖怪についての基礎知識を習得すると共に、怪異が学術的な考察対象になり得ることや、では、どういう切り口や方法で学術的な怪異研究が成り立つのかを知る。加えて、怪異研究は学際的な研究動向が進んでいることもあり、民俗学・歴史学・神話学・文化人類学といった国文学の隣接学問における怪異研究の知見に触れることを目指す。

授業内容

以下の順に講じていく予定。(番号は扱う順番であり、第何週の講義かとは一致しない。授業の進度に応じ、順番を変えたり一部を省いたりすることもある。)(1)導入(授業の進め方・評価方法の説明)、及び、怪異研究の学問的意義、(2)怪異譚の面白さと研究方法、(3)説話とは何か、及び、伝説と昔話と世間話、(4)日本の怪異研究史、及び、幽霊と妖怪の違い、(5)異界と他界、(6)日本の主要な宗教と他界観、(7)日本人の幽霊観の変遷――幽霊はいつ頃なぜ怖い存在となったか――、(8)幽霊に女性が多いのはなぜか、(9)近世(江戸時代)に怪異物が流行したのはなぜか、(10)幽霊画・妖怪画の見方、(11)百物語、及び、怪談の話型学的研究法、(12)全体のまとめ。

履修上の注意

怪異・怪談に、学術的な意味で興味・関心を持っていること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業テーマに応じて多くの参考文献を紹介するので、興味に合わせ、率先して自ら関連文献に当たるのが望ましい。

教科書

授業内でプリントで配布。

参考書

小松和彦監修、常光徹・山田奨治・飯倉義之編『日本怪異妖怪大事典』(2025 年、東京堂出版)、乾克己・小池正胤・志村有弘・高橋貢・鳥越文蔵編『日本伝奇伝説大事典』(1986 年、角川書店)、諏訪春雄・志村有弘編『日本説話伝説大事典』(2000 年、勉誠出版)、志村有弘・松本寧至編『日本奇談逸話伝説大事典』(1994 年、勉誠社)、稲田浩二編『〈日本昔話通観・研究篇2〉日本昔話と古典』(1998 年、同朋社)、太刀川清『近世怪異小説研究』(1979 年、笠間書院)、高田衛・有働裕・佐伯孝弘編『西鶴と浮世草子研究 Vol.2〈特集・怪異〉』(2007 年、笠間書院)等。その他、授業内で紹介。

課題に対するフィードバックの方法

授業期間中に2, 3度、アンケート形式で質問に答えてもらい、総評を行う予定。

成績評価の方法

平常点40%、学期末に課すレポート60%の割合で、評価を合わせて行う。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩA	**日本文学講義ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
瀧口 翠	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本古代文学を代表する作品である萬葉集を、女性歌人の作品を中心に読む。各作品の芸術的特質や文学的意義を、その背景となる歴史や文化との関連において理解すること、歌人と作品の距離を確かめてゆくことを通じて、学生自身が文学との関わりを主体的に考えることを目標とする。

授業内容

はじめに相聞歌を読み、贈答歌の形式を確かめる。その後女性歌人の歌を中心に個々の作品を読み、古代における和歌の役割や、平安時代以降の女歌に通じてゆくありようを学んでゆく。内容の区切りごとに小レポートを課し、理解の深さや関心の傾向を確かめる。それにより、進行計画を変更する場合がある。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布する作品解説や参考資料をよく読み、歌の内容をおさえて授業に臨む。
授業内で紹介する参考文献を読むなどして復習をする。小レポートに取り組む。

教科書

教科書は使用しない。プリントを配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

特に良いもの、共有すべき問題のあるものを授業内または Oh-o!Meiji 内で紹介する。

成績評価の方法

小レポート 50%、期末レポート 50%

その他

一週　イントロダクション
二週　萬葉集概説
三週　相聞歌を読む
四週　歌垣
五週　額田王(一) 蒲生野の歌
六週　額田王(二)熟田津の歌 近江へ下る時の歌
七週　額田王(三)春秋競憐歌 山科御陵退散歌
八週　額田王(四) 弓削皇子との贈答 額田王まとめ
九週　古代日本の書記事情
十週　坂上郎女(一)歌からたどる親族関係
十一週 坂上郎女(二)家刀自として
十二週　狭野弟上娘子
十三週　萬葉の女性歌人たち
十四週　まとめ

科目ナンバー:(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩA	**日本文学講義ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

平安時代の歌物語『伊勢物語』について講義する。在原業平をモデルとする主人公・「昔男」の一生が一二五の章段によって綴られる。

歌と物語との関係をおさえつつ、本作品の情趣を味わうとともに、後世の作品への影響も考える。

具体的には、章段ごとに「伊勢絵」を紹介しながら、場面の理解を促す一助としたい。

授業内容

(1)『伊勢物語』概説

(2)『伊勢物語』の成立―『古今和歌集』との関係―

(3)初段「初冠」

(4～6)二条后章段

(7～9)東下り章段

(10～11)二十三段「筒井筒」

(12～13)斎宮章段

(14)惟喬親王章段

履修上の注意

遅刻・欠席が多い場合、評価の対象としない。

私語厳禁。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書を読んでおくこと

教科書

石田穣二　校註・訳『新版・伊勢物語―現代語訳付き 』(角川ソフィア文庫) 858 円(税込)

参考書

授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末試験(70%)、出席票へのコメントを含む平常点(30%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩB	**日本文学講義ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「日本古典文学と仏教」

(授業の概要)

日本の古典文学は仏教(神祇信仰を含む)と切り離すことができない。本講義では、日本古典文学と仏教との接点に注目して、前近代の文学の特質を考究する。主に、中世(摂関時代、院政時代、鎌倉・南北朝・室町時代)を扱う。

(到達目標)

日本の古典文学が持つ宗教的特質について理解する。

日本の宗教史について、知識を得る。

授業内容

文学は「目に見えない世界」を「ことば」で表現する芸術と言える。「目に見えない世界」とは、具体的に言えば、人の「こころ」、神や仏(またはモノノケや鬼・魔)の世界、あるいは死者の領域である。近現代文学では人の「こころ」(内面・心理)が重視されるようになったが、前近代の文学を読解するためには、宗教とそれが生み出す諸文化に対する理解が不可欠である。本講義では、仏教とそれに関係する諸文化に注目しながら、文学と宗教の領域の重なりを見ていく。宗教との接触により文学が獲得してきた豊かな世界を探究したい。

1. 日本古典文学世界への案内
2. 日本宗教史を理解するために
3. 仏教の言葉と日本の古典文学
4. 古代の韻文と仏教
5. 古代の散文と仏教
6. 和歌と仏教
7. 物語と仏教
8. 説話と仏教
9. 仏教儀礼とその資料
10. 説経とその文化
11. 宗教文芸の特質
12. 芸能と仏教
13. 思想・教義と文学
13. 宗教テクストの広がり
14. 総括、まとめ

履修上の注意

古典文法や現代語訳を行うわけではない。古典文学への興味・関心を持って授業に臨むことが必要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り上げる資料と文献について調査・学習し、報告する。

教科書

特定のテキストは使用しない。プリントを配付する。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でコメントし、補足説明をまとめた資料を配付する。

成績評価の方法

授業への参加度(35%)、試験もしくはレポート(65%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩＢ	**日本文学講義ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内　栄美子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「モダニズム文学とアヴァンギャルド」

1920 年代から 30 年代にかけての時代、第二次世界大戦が始まるまでには、大衆文化としてのモダニズムが促進されアヴァンギャルド芸術運動やプロレタリア文化運動など、新たな試みが文化や芸術の領域で展開した。「文藝春秋」「赤と黒」「マヴォ」「文藝戦線」「文藝時代」「戦旗」など多くの雑誌が創刊され、世界の動きに連動した文化や思想が現出したが、この授業では、とりわけ関東大震災のあたりから 1930 年代半ばにかけての文学と思想の結びつきについて考察する。

日本近代文学におけるモダニズム文学とアヴァンギャルドについての理解を深める。作品にあらわれた歴史的社会的背景をふまえ、文学表現に内在する問題を理解する。批判的読解力を身につけ、多様な観点からものごとを捉える能力を養う。

授業内容

第1回　1920 年代から 1930 年代にかけての見取り図
第2回　関東大震災と芥川龍之介の死1
第3回　関東大震災と芥川龍之介の死2
第4回　関東大震災と芥川龍之介の死3
第5回　円本時代に見る出版ブーム1
第6回　円本時代に見る出版ブーム2
第7回　円本時代に見る出版ブーム3
第8回　モダニズムの到来「文藝時代」など1
第9回　モダニズムの到来「文藝時代」など2
第 10 回　モダニズムの到来「文藝時代」など3
第 11 回　アナキズムからアヴァンギャルドへ-村山知義と「マヴォ」1
第 12 回　アナキズムからアヴァンギャルドへ-村山知義と「マヴォ」2
第 13 回　アナキズムからアヴァンギャルドへ-村山知義と「マヴォ」3
第 14 回　まとめ
＊学習効果を高めるために、授業内容を変更することがある。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、時代背景や文学史的な背景を把握し、あらかじめ指定する作品は読んできてほしい。また、事後学習として、授業で取り上げた作品を再読し、紹介した文献を調査すること。

教科書

使用しない。

参考書

高見順『昭和文学盛衰史』(文春文庫)、『大杉栄全集』(ぱる出版)、『秋山清全集』(ぱる出版)、竹内栄美子編・和田博文監修『コレクション都市モダニズム詩誌2　アナーキズム』(ゆまに書房)、金井景子ほか編『浅草文芸ハンドブック』(勉誠出版)、武田麟太郎『蔓延する東京　都市底辺作品集』(共和国)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に解説の時間を設けて講評をおこなう。

成績評価の方法

学期末レポート 70%および平常点 30%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ＩＢ	**日本文学講義ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
木下　幸太	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「日本近現代文学と記憶の表象」というテーマで、それぞれ異なる発表時期・ジャンルの作品を読む。文学作品というものは何かしらの過去や歴史という形で集合的・個人的記憶に言及することが多いため、「記憶」というテーマは多くの文学作品に関わる。そのため、明示的に作品内で言及されている場合もあれば、何気なく語られた言葉や描写物から、ある文脈の「記憶」や歴史までたどることができる場合もある。そのうちから、本授業では「記憶」を意識的に扱ってきた諸作家の作品を対象とする。作品の内外問わず、文学作品がどのような形で「記憶」というテーマと関わるのかという問題意識から、文学研究における分析方法と知識を学ぶことを目標とする

授業内容

1. 講義概要説明・授業テーマ説明
2. 福永武彦『忘却の河』①
3. 福永武彦『忘却の河』②
4. 福永武彦『忘却の河』③
5. 福永武彦『忘却の河』④
6. ここまでのまとめ・授業内小レポート
7. 村上春樹「パン屋再襲撃」①
8. 村上春樹「パン屋再襲撃」②
9. 小川洋子「薬指の標本」①
10. 小川洋子「薬指の標本」②
11. 伊藤計劃「The Indifference Engine」①
12. 伊藤計劃「The Indifference Engine」②
13. まとめ
14. 授業内レポート

履修上の注意

(1)同じ作品を数回取り上げるので、授業で取り上げる作品はあらかじめ読むこと。なるべく短編を選んだが『忘却の河』だけは長編なので余裕をもって読み始めること。

(2)授業ではコメントの提出を求める。

(3)授業の第6回目で長編『忘却の河』のまとめと、授業内で小レポートの作成を行う。第 14 回目で短編作品群も含め全作品を対象とした期末レポートの作成を行う。

(4)授業で言及されていなくても今語られている作品や文芸批評・理論、主題について各自で調べ、人文学領域の現状を把握しようと、アンテナを張り続ける意識を持つこと。そして、自分が興味を持った作品や主題については人に伝えてみること。友人知人はもちろん、授業コメントを介して教員に紹介しても構わない。

(5)授業で扱う作品は限られている。授業内容が自分の関心のあるフィクションや物事にも適用できないか考えてみること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として授業で扱う作品をあらかじめ読んでおくこと。復習として、授業内での説明を振り返りつつ作品を読み直し、自身の知っている作品の分析に応用できないか考えること。

教科書

①『忘却の河』福永武彦(新潮文庫)
②『薬指の標本』小川洋子(新潮文庫)
③『パン屋再襲撃』村上春樹(文春文庫)
④『The Indifference Engine』伊藤計劃(ハヤカワ文庫)

参考書

各作品に即して授業内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業で求めたコメントに対して返答をする。

成績評価の方法

平常点(出席回数、授業態度)50%、レポート(第 6 回・第 14 回)50%で評価する。欠席回数が全授業回数の 3 分の 1 を超えた場合、評価の対象としない。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡA	**日本文学講義ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 栄美子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「アナキズムとプロレタリア文学」

1920 年代から 30 年代にかけての時代、第二次世界大戦が始まるまでには、大衆文化としてのモダニズムが促進されアヴァンギャルド芸術運動やプロレタリア文化運動など、新たな試みが文化や芸術の領域で展開した。「文藝春秋」「赤と黒」「マヴォ」「文藝戦線」「文藝時代」「戦旗」など多くの雑誌が創刊され、世界の動きに連動した文化や思想が現出したが、この授業では、とりわけ関東大震災のあたりから 1930 年代半ばにかけての文学と思想の結びつきについて考察する。

日本近代文学におけるアナキズム思想とプロレタリア文学についての理解を深める。作品にあらわれた歴史的社会的背景をふまえ、文学表現に内在する問題を理解する。批判的読解力を身につけ、多様な観点からものごとを捉える能力を養う。

授業内容

第1回 1910 年、大逆事件に対する文学者の反応
第2回 「近代思想」
第3回 大杉栄1
第4回 大杉栄2
第5回 「赤と黒」1
第6回 「赤と黒」2
第7回 有島武郎「宣言一つ」
第8回 「驢馬」の人たち1 芥川龍之介、室生犀星、萩原朔太郎
第9回 「驢馬」の人たち2 中野重治、堀辰雄、佐多稲子
第 10 回 「種蒔く人」から「文藝戦線」へ1
第 11 回 「種蒔く人」から「文藝戦線」へ2 葉山嘉樹
第 12 回 プロレタリア文学と「戦旗」1
第 13 回 プロレタリア文学と「戦旗」2 中野重治
第 14 回 武田麟太郎『蔓延する東京 都市底辺作品集』に見る 1930 年代の東京
＊学習効果を高めるために、授業内容を変更することがある。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、時代背景や文学史的な背景を把握し、あらかじめ指定する作品は読んできてほしい。また、事後学習として、授業で取り上げた作品を再読し、紹介した文献を調査すること。

教科書

使用しない。

参考書

高見順『昭和文学盛衰史』(文春文庫)、『大杉栄全集』(ぱる出版)、『秋山清全集』(ぱる出版)、竹内栄美子編・和田博文監修『コレクション都市モダニズム詩誌2 アナーキズム』(ゆまに書房)、金井景子ほか編『浅草文芸ハンドブック』(勉誠出版)、武田麟太郎『蔓延する東京 都市底辺作品集』(共和国)、萩原恭次郎『断片 1926−1932』(共和国)ほか。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に解説の時間を設けて講評をおこなう。

成績評価の方法

学期末レポート 70%および平常点 30%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡA	**日本文学講義ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
茂野 智大	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

死は万人にかかわる普遍的な事象だが、それに対する理解や向き合い方は時代や地域によって異なっている。死に対する理解は生に対する理解とも表裏し、我々が生きてあるこの世界の捉え方にも通じる。死生観はいわば、ある文化の特徴を知る有効な指標ともなりうるものなのである。本講義では『萬葉集』の挽歌を読み解くことで、古代の人々の心性やその背景について考えていく。 本講義では、『萬葉集』をはじめとした上代文学作品の基盤となる文字環境や時代背景等を踏まえた上で、幅広い観点で歌の表現や発想の特質を分析するための知識と態度とを身につけることを到達目標とする。

授業内容

第 1 回 導入① 歌を漢字で記すということ 第 2 回 導入② 常識を取り払う 第 3 回 導入③ 枕詞と序詞の修辞学 第 4 回 「挽歌」概説 第 5 回 「天智天皇挽歌群」を読む① 第 6 回 「天智天皇挽歌群」を読む② 第 7 回 「大津皇子関係歌」を読む 第 8 回 生別の表現と死別の表現 第 9 回 柿本人麻呂の挽歌を読む①:「泣血哀慟歌」第一歌群 第 10 回 柿本人麻呂の挽歌を読む②:「泣血哀慟歌」第二歌群・或本歌群 第 11 回 葬法の変容と挽歌の表現 第 12 回 柿本人麻呂の挽歌を読む③:「明日香皇女挽歌」第 13 回 山上憶良「恋男子名古日歌」を読む 第 14 回 a:確認テスト b:解答と解説

履修上の注意

毎回異なる作品やテーマを扱うが、それ以前の授業とも関連付けた講義を行う。したがって、毎回の講義内容を前提知識として蓄積していくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】前回までの受容内容を振り返っておくこと。【復習】先行する授業回で扱った作品と比較し、ノート等に整理しておくこと。

教科書

特に指定しない。資料(授業内で投影したスライドの PDF 等)はオンラインで配付する。

参考書

必要に応じて授業中に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業後コメントで質問等を受け付け、次回授業の最初にフィードバックをおこなう。

成績評価の方法

毎回の授業後コメント(40%)、最終回の確認テスト(60%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡA	**日本文学講義ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
牧野 淳司	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〔概要〕

平家物語を中心に、日本中世文学について講義する。平家物語は治承・寿永の内乱(源平合戦)を描いた軍記物語であるが、平安王朝の物語伝統を継承した部分や、巷間に流布した説話伝承を取り入れた部分も合わせ持つ。歴史的出来事を扱った物語であるので、文書や古記録など歴史資料を取り込んだ箇所もある。また、無常観など仏教思想の影響も見逃せない。このような多様な側面を持つ平家物語を中心に、それと関係する文学・文化を取り上げて、日本の中世文学の特質を探究する。

〔到達目標〕

・平家物語と日本の中世文学について理解を深める。
・平家物語を生み出した時代とその資料について知る。
・平家物語を生み出した時代の文化的特質について知る。

授業内容

最初に、平家物語について、その成立した時代や諸本のことなど、基礎的なことを説明する。
続いて平家物語のいくつかの場面を取り上げて、その多様な側面を探究していく。
第1回:講義の概要
第2回:平家物語の成立(1) 作者について
第3回:平家物語の成立(2) 成立時代について
第4回:平家物語の成立(3) 諸本について
第5回:平家物語と貴族社会
第6回:平家物語と寺院文化圏
第7回:平家物語と物語文学の伝統
第8回:平家物語が語る歴史
第9回:平家物語が語る武士
第 10 回:平家物語とその時代の文化
第 11 回:平家物語とその時代の仏教
第 12 回:平家物語における王権
第 13 回:平家物語における死者
第 14 回:総括、まとめ

履修上の注意

日本の古典文学と歴史、文化に興味を持ち、講義内容に関連することを積極的に調査してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容に関係する諸文献や文献について調べて学習し、報告する。

教科書

特定のテキストは使用せず、プリントを配付する。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内でコメントし、補足説明をまとめた資料を配付する。

成績評価の方法

平常点(35%)、期末試験もしくはレポート(65%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡA	**日本文学講義ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
小滝 真弓	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

11 世紀初頭に成立した『源氏物語』を読む。

本授業では、光源氏の継母であり、理想の女性として思慕された藤壺の生涯を辿る形で主要な場面を精読する。光源氏と密通し、不義の子を成した罪に苦悩する一方、母となってからは強かな政治手腕を見せる藤壺は、作中でも特異な存在である。主要な場面に描かれている思想信仰について解説すると共に、作品の文脈を丹念に読み解くことで、王権と関わる密通を語った『源氏物語』の死生観・政治観について考察する。

授業内容

第 1 回、イントロダクション・『源氏物語』について
第2回、桐壺巻 藤壺の入内
第3回、若紫巻 密通と懐妊
第4回、紅葉賀巻①紅葉賀の試楽
第5回、紅葉賀巻②藤壺の出産
第6回、紅葉賀巻③藤壺の立后
第7回、賢木巻①桐壺院の崩御
第8回、賢木巻②源氏、再び藤壺に関係を迫る
第9回、賢木巻③藤壺、出家を決意する
第 10 回、賢木巻④藤壺の法華八講と出家
第 11 回、賢木巻⑤諒闇の新年と源氏方の不遇
第 12 回、澪標巻 冷泉帝即位と後宮
第 13 回、薄雲巻 藤壺の崩御
第 14 回、朝顔巻 源氏の夢枕に立つ藤壺・全体のまとめ

(※講義の進捗状況や受講者の興味関心に応じ、授業内容を変更する可能性がある。)

履修上の注意

遅刻・欠席・途中退席が多い場合は評価の対象としない。
また、授業中の電子機器(電子辞書を除く)の使用は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業では受講者を指名し音読をさせ、本文の内容を確認する。授業で取り上げる範囲の本文をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

新編日本古典文学全集『源氏物語』(小学館)
その他の参考文献は授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に前回のフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート 70%(＊履修状況により試験に変わる場合もある)、授業への参加度(平常点)30%

その他

古語辞典を用意しておくこと。(電子辞書可)

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡB	**日本文学講義ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
湯淺 幸代	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

平安時代中期の作品である『源氏物語』絵合巻について講義する。

絵合巻は、一時は都を離れ、須磨への流離を余儀なくされた主人公・光源氏が政界へ復帰し、不義の子・冷泉帝の後見役として活躍する姿を描く。

「絵合」の華麗な行事を軸に織りなされる人間模様は、後宮における政治的な争いとは別に、光源氏と藤壺との禁断の恋や、冷泉妃・斎宮女御(光源氏養女)への未練を断ち切れない朱雀院の恋心を絡ませつつ展開する。

そのような人々の心の動きを追うとともに、史上の「天徳内裏歌合」を下敷きとする「絵合」行事の意味についても考える。

授業内容

(1)源氏物語概説
(2)源氏物語の作者と巻々について
(3～4)斎宮女御の入内と朱雀院の未練
(5)冷泉後宮での競い合い―斎宮女御と弘徽殿女御
(6～7)絵を好む冷泉帝と絵の蒐集を競う後宮
(8～9)藤壺、「物語絵合」を開催
(10)朱雀院、斎宮女御へ絵を贈る
(11～12)冷泉帝の御前での「絵合」開催、光源氏の絵日記が賞讃を浴びる
(13～14)源氏と帥の宮の諸芸評論、光源氏の感慨

履修上の注意

遅刻・欠席が多い場合、評価の対象としない。
私語厳禁。

準備学習(予習・復習等)の内容

次に読む範囲の物語本文を事前に読んでおく。

教科書

玉上琢弥訳注『源氏物語―付現代語訳』(第3巻) 角川ソフィア文庫 - 1967/2 約907円

(注意)「ビギナーズクラシックス」と間違えないこと。

参考書

授業時に紹介する。

また「絵」がモチーフとなる巻なので、参考として、随時、展示図録の回覧やプロジェクターで後世の「源氏絵」等を投影する。

課題に対するフィードバックの方法

講評を行う。

成績評価の方法

学期末試験(70%＊状況によってはレポートに変更する)、出席票へのコメントを含む授業態度(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡB	**日本文学講義ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
杉田 昌彦	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「物のあはれを知る説」を中核とした宣長の文学論について，その歴史的意義の再評価を試み，さらにそのことを通じて，和歌や物語といった文芸を理論的に分析・批評することの意味合いを考察することにしたい。

☆授業担当教員が25年度に引き続き就労特別配慮対象者であるため、オンラインでの授業を基本としたいと考えております。その点を了解した上で授業を履修してください。

オンライン授業時には、基本的にオンデマンド型を中心にしたオンライン授業を行うが、履修生の他の対面授業の履修時間帯を考慮しつつ、一部リアルタイム型やディスカッション型の授業などの導入も模索していきたい。また、講読授業であるため、テキストや資料を読み、課題を提出する等の授業要素も含まれる。また状況によっては、学期中に対面授業に移行することを視野に入れる可能性もある。

授業内容

近世期における人情論や<まこと>論などの文芸思潮の流行の中で，宣長がどのように自説を構築したかということを考証し，その結果産み出された「物のあはれを知る」説の特質と文学史的意義を究明するとともに，キーワードや文学理論を導入することが文学作品の理解にどのような可能性と限界をもたらすのかということを考える。

(1)授業内容の概説
(2)本居宣長について〈1〉
(3)本居宣長について〈2〉
(4)近世における性情論と<まこと>論
(5)勧善懲悪と人情主義
(6)『あしわけをぶね』の実情論と人情論〈1〉
(7)『あしわけをぶね』の実情論と人情論〈2〉
(8)「物のあはれを知る」説の基本構造
(9)「物のあはれを知る」説と和歌
(10)寓言論的物語観と宣長
(11)「蛍巻の物語論」の解釈
(12)物語論としての「物のあはれを知る」説〈1〉
(13)物語論としての「物のあはれを知る」説〈2〉
(14)「物のあはれを知る」説の意義
※授業内容については、履修者の反応や授業状況によっては、適宜変更しながら進めていく可能性がある。

〇オンライン授業時の授業内容
・オンライン授業として、本居宣長の前半生と彼に影響を与えた漢学者・国学者について概観した後、杉田の著書『宣長の源氏学』(新典社、2011年)の中から、江戸時代の文芸思潮と「物のあはれを知る説」を中核とする宣長の文学論(歌論・物語論)との関りについて書かれた論文を取り上げ、それらを読解していくことにより、宣長の文学論の成立とその背景についての学習に主眼を置いた講義を行う。
・具体的には、『宣長の源氏学』の第一部中から、まず第一章「歌人の創作意識と「まこと」 ―『あしわけをぶね』を中心に―」の前半部と、第五章「本居宣長と人情主義 ―その継承と革新―」の後半部を取り上げて宣長の歌論が成立する背景を概観し、その後第二章「「物のあはれ」を知ることの意義 ―『紫文要領』について―」を資料として講読しつつ、「物のあわれを知る」説と宣長の歌論・物語論の関係を講義をしていく予定である。
・オンライン授業時には、上記の通り、『宣長の源氏学』中の論文を主な資料とし、また補助教材も参照しつつ、オンデマンド型教材によって各回の授業内容を解説する、論文の講読等を含む「オンデマンド型」で授業を行う。毎回、600～800字程度の小レポートによって各回の受講生の出席状況と授業理解度を判定し、最終レポートと合わせて成績評価する(小レポート65%　最終レポート35%の予定)。なお履修者数が比較的少人数の場合には、履修者の他の対面授業に重ならない日時で、ZOOMによるリアルタイム型でまとめと質疑応答の授業を数回組み込むことも想定したい。それが不可能な場合は、ディスカッション機能を利用したまとめ授業を導入する。
・レポート機能に、「質問・相談フォーム」を作成し、そこで質問と相談を受け付ける。毎回の小レポートに質問・相談を付記することも可能。
・秋学期が開始される前に、より詳細なシラバス補足を提示する予定である。
・また、授業内容については、第一回授業内でも詳細に説明する予定。
※現在のところこのような講義内容を予定していますが、感染症の状況など授業を取り巻く環境の変化や受講生の反応によっては、今後内容の変更が大いにありえます。秋学期の開始時期(9月)に、具体的な情報をシラバスの補足に UP する予定ですので、確認等よろしくお願いします。また、学期途中に授業形態を変更する場合には、履修生の皆さんと相談した上で決定したいと思います。
※履修者一人一人が自分自身で「考える」ことを重視し、毎回の授業につき小レポートを課します。オンデマンド教材の視聴以外の要素を含み結構作業量の多い授業になることをあらかじめ了解した上で履修してください。

履修上の注意

※日本文学を学ぶことに高い意欲を持つ学生の履修が望ましい。授業中の私語は厳禁とし，受講態度が場にふさわしくない学生には，退席を求めることがある。
※とりわけ、現在聴神経を患い騒々しい場所にいることが困難であるため、教員の入室後から授業を終了して退室するまでの間一切の私語・雑談を厳禁としたい。それを厳守できる学生のみの履修を希望する。
※今のところ(26年1月時点)対面授業とオンライン授業に両方を想定に入れたシラバスを UP しておくが、25年度も在宅就労特別配慮者となるため、25年度と同様、各学期の授業全体もしくはその一部の形態をオンライン授業で行う可能性が高いことを承知しておいてほしい。26年度の学期が始まったところおよび秋学期の開始時期(9月)に、具体的な情報をシラバスの補足に記載する予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回に使用するプリント等を熟読してくること。

教科書

プリントを配布

参考書

授業時に適宜指示

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜指示

成績評価の方法

学期末試験およびレポートの成績に加え，受講シートなどを参照しつつ，授業への出席率・授業理解度，平常の受講態度などを総合的に評価する。対面授業時には試験・レポート 65%，平常点(出席率ならびに受講態度を含む)35%

オンライン授業時には、毎回、600～800字程度の小レポートによって各回の受講生の出席状況と授業理解度を判定し、最終レポートと合わせて成績評価する(小レポート65%　最終レポート35%の予定)。

その他

なし

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡB	**日本文学講義ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
田口 麻奈	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文学作品に出てくる「詩人」像に注目し、各作品において「詩」や「詩人」がどのような役割を負っているかを具体的に考察する。ジャンルとしての詩のみならず、日本近現代文学における概念としての「詩」や「詩人」の位相について学ぶことによって、各作品を新たな文脈で把握し直すことを目標とする。またその作業を通じて、日本の詩をめぐる現代的な課題を理解し考察することを目指す。

授業内容

第1回 概説・導入
第2回 中島敦「山月記」における詩人像(1)本作の評価と課題の確認
第3回 中島敦「山月記」における詩人像(2)自然主義と「内面」をめぐって
第4回 中島敦「山月記」における詩人像(3)作品史との接続
第5回 三島由紀夫「卒塔婆小町」における詩人像(1)本作の評価と課題の確認
第6回 三島由紀夫「卒塔婆小町」における詩人像(2)「近代能楽集」と詩劇
第7回 三島由紀夫「卒塔婆小町」における詩人像(3)詩史との接続
第8回 中間レビュー
第9回 芥川龍之介における「詩」の位置(1)「詩集」の構造
第 10 回 芥川龍之介における「詩」の位置(2)「末期の眼」をめぐって
第 11 回 現代における「詩」の位置(1)荒川洋治
第 12 回 現代における「詩」の位置(2)藤井貞和
第 13 回 期末レビュー
第 14 回 まとめ／総括
※履修人数や進捗状況によって内容を修正する場合があります。

履修上の注意

履修者の理解度や関心の所在を確認し反映しながら授業を進行するため、履修者には随時リアクションペーパーの提出を求めるほか、授業内での発言やグループワーク、レポート課題を設ける場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義内で指示のあったテキストは必ず事前に一読してから受講すること。講義内で言及した固有名や歴史的事項について、理解が不十分な箇所がある場合は文献などで調べておくこと。

教科書

中島敦『山月記』(岩波文庫、新潮文庫、角川文庫ほか)、三島由紀夫『近代能楽集』(新潮文庫)。その他はプリントを配布する。

参考書

特になし。個別のトピックについて履修者から質問が出た場合は、必要に応じて授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーないし授業内に提出された課題についての講評を、提出翌週の授業の冒頭におこなう。

成績評価の方法

授業内で指示するレポート課題 50%、平常点 50%で評価する。平常点はリアクションペーパー、授業内でのディスカッションなどを中心に、出席状況と授業への参加姿勢に基づいて総合的に判断する。なお、欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合は、課題の達成度にかかわらず、単位を認定しない。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講義ⅡB	**日本文学講義ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
郭 南燕	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

テーマ:キリシタン文学と細川ガラシャ

キリスト教信仰者の細川玉(1563-1600)は、日本史上、もっとも著名なキリシタンの一人である。本能寺の変の謀反者明智光秀を父親にもつ玉は、幽閉生活を強いられているうち、キリスト教に徐々に傾倒していく。彼女の信仰を育んだのは、宣教師から渡された和訳ローマ字の『コンテムツス・ムンヂ』(世間を厭ひ捨てること)であった。これの原本はラテン語の『イミタチオ・クリスティ』(キリストに倣いて、1420 年頃)であり、世界各国で聖書に次いで広く読まれてきた書物である。本書はキリシタン文学の白眉と称されている。これを愛読した玉は、侍女たちとともに繰り返し読み、意味の理解に腐心したことが記録されている。

本講義では、和訳国字本『こんてむつすむん地』の第一巻を精読し、言文一致の先駆であるキリシタン文学の欧語多用の言語表現を理解し、玉がもっとも感銘を受けただろうと思われるキリスト教の内容に注目し、玉が入信する時に自ら選択した霊名「ガラシャ」の意味を考える。

授業内容

1 回目 キリシタン文学の概況と細川ガラシャの人生を知る(NHK 番組)。
キリシタン文学に占める『こんてむつすむん地』の意義を理解する。
2 回目『こんてむつすむん地』巻第一、1～2を読み、ディスカッション
3 回目『こんてむつすむん地』巻第一、3～5 を読み、ディスカッション
4 回目『こんてむつすむん地』巻第一、6～9 を読み、ディスカッション
5 回目『こんてむつすむん地』巻第一、10～12 を読み、ディスカッション
6 回目『こんてむつすむん地』巻第一、13～15 を読み、ディスカッション
7 回目 『こんてむつすむん地』巻第一、16～17 を読み、ディスカッション
8 回目『こんてむつすむん地』巻第一、18 を読み、ディスカッション
9 回目『こんてむつすむん地』巻第一、19～20 を読み、ディスカッション
＊レポートの書き方について
10 回目『こんてむつすむん地』巻第一、21 を読み、ディスカッション
11 回目『こんてむつすむん地』巻第一、22 を読み、ディスカッション
12 回目『こんてむつすむん地』巻第一、23 を読み、ディスカッション
最終レポート(3,000 字前後)の提出、1 月 8 日(金)19:00 〆切厳守
13 回目　レポート内容の口頭発表:1 人5～10 分
14 回目 レポート内容の口頭発表:1 人5～10 分

履修上の注意

1、キリシタン文学の言語表現、キリスト教の精神を理解し、ガラシャの境遇を念頭におき、本書がガラシャに与えられそうな影響を考えるために、授業のディスカッションに積極的に参加することが求められる。
2、教科書、参考書、関係文献、先行研究を広く読むことが望ましい。
3、クラス全員の毎回の出席が必須であり、病気の場合は診断書の提出が義務付けられる。

準備学習(予習・復習等)の内容

(1)事前学習として、テキストを精読し、興味を覚えた部分や疑問を感じた部分を整理する。それらの部分について調べ、クラスでのディスカッションに備える。
(2)事後学習として、授業で取り上げられた部分を再読し、同じ部分でも繰り返し読むことにより、理解が深まる。
(3)『こんてむつすむん地』を通して、キリシタン文学に親しみ、そこから多大な養分を吸収してきた日本文学を新たに認識する。

教科書

新村出、柊源一　校注『吉利支丹文学集1』(東洋文庫、1993 年)
1)クラスウェブにアップしたのをプリントしてください。
2)明治大学図書館で電子ブックの『吉利支丹文学集1』を読む。
3)ネットで古本を購入する。

参考書

1. 田端泰子『細川ガラシャ:散りぬべき時しりてこそ』(ミネルヴァ書房、2010 年)
2. 安廷苑『細川ガラシャ:キリシタン史料から見た生涯』(中央公論新社、2014 年)
3. 井上章一、呉座勇一、フレデリック・クレインス、郭南燕『明智光秀と細川ガラシャ:戦国を生きた父娘の虚像と実像』(筑摩書房、2020 年)
4. 山田貴司『ガラシャ:つくられた「戦国のヒロイン」像』(平凡社、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

1)授業中、学生の質問、感想、議論に対して、教員は随時、コメントする。
2)精読の内容に対して、教員はコメントし、訂正意見を出す。
3)期末レポートに対して、教員はコメントし、成績を出す。
4)期末レポートの発表に対して、教員はコメントし、評価を出す。

成績評価の方法

平常点(授業参加、質疑応答・コメント・ディカッション・口頭発表):56 %(4% x 14 回)
期末レポート:44 %
合計:100%

その他

授業計画にしたがい、早めに準備をおこない、期末レポートの〆切を厳守することが期待される。

科目ナンバー：(AL)LIT211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ＩA	**日本文学講読ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
野本　聡	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

江戸川乱歩(本名:平井太郎、1894～1965)というペンネームは言うまでもなく「モルグ街の殺人」などで著名なエドガー・アラン・ポーに由来する。しかしこの筆名は東京を遊歩するという彼のテクストのモチーフを予告するものでもあった。ちなみに平井太郎という本名も、それを自身で記し、そう呼ばれるたびに彼は「ヒタイタロウ、開いたろう」ともう一つの意味を聴き取っていたはずだ。そのダブルミーニングこそ探偵小説家の誕生にふさわしい。期せずしてこの二重性は彼のテクストに多く登場する双子のトリックへとつながっていく。

日本文学講読ＩA は江戸川乱歩のテクストを講読、というより精読する。乱歩のテクストは探偵小説というジャンルに留まらず、都市モダン文学へと展開していくことができる。また精神分析などを援用した文学理論を応用し読解していくモデルケースとして適切である。乱歩のテクストをグループワークによって読み解き、プレゼンテーションを行い、討論することで小説を批評的に研究する力を身につける。それがこの授業の目的である。

授業内容

1 乱歩的モチーフとは(「押絵と旅する男」を精読する)
2 乱歩を文学史に位置付ける(高橋世織「「謎」の系譜――ミステリーゾーンとしての団子坂」を読む)
3 グループワークによる乱歩テクストの読解
4 グループワークによる乱歩テクストに関するプレゼンテーション準備
5 プレゼンテーションと討論①「二銭銅貨」
6 プレゼンテーションと討論②「D 坂の殺人事件」
7 プレゼンテーションと討論③「心理試験」
8 プレゼンテーションと討論④「屋根裏の散歩者」
9 プレゼンテーションと討論⑤「人間椅子」
10 プレゼンテーションと討論⑥「鏡地獄」
11 プレゼンテーションと討論⑦「芋虫」
12 プレゼンテーションと討論⑧「人でなしの恋」
13 プレゼンテーションと討論⑨「パノラマ島奇談」
14 もうひとりの江戸川亂歩――アヴァンギャルドと亂歩／乱歩――

履修上の注意

グループワークにより乱歩のテクストをコンテクスト(社会、歴史状況)、インターテクスチャリティ(先行するテクストからの引用)に留意しつつ読解する。分担より協同を第一としたグループワークを行う。グループワークへの積極的な参加が求められる。他者との協同的な実践を苦手とする者もこの授業を通して自らを鍛えていってほしい。前提となる知識は特に必要としない。小説を読むことが好きな者の受講を期待する。

準備学習(予習・復習等)の内容

取り上げる乱歩テクストは必ず読了して授業に参加する。他のグループが発表する際も討論に加わり、プレゼンテーションを評価することも成績に加味する。第１講では「押絵と旅する男」について講義する。各自必ず読了して授業に参加すること。読了テストあり！

教科書

『決定版 江戸川乱歩全集』(Kindle 版電子書籍)が授業で取り上げるテクストのすべてと同時代評も収めており、極めて便利。しかも持ち運びが容易。Kindle Unlimited 会員は無料。会員でなくとも 622 円と安価！ 授業前に各自購入し、デバイスで閲覧できるようにしておく。

参考書

参考文献
松山巖『乱歩と東京 1920 都市の貌』(ちくま学芸文庫)
高橋世織『感覚のモダン 朔太郎・純一郎・賢治・乱歩』(せりか書房)
平野嘉彦『ホフマンと乱歩 人形と光学器械のエロス』(みすず書房)
高山宏『殺す・集める・読む 推理小説特殊講義』(創元ライブラリー)
その他は各講で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

グループによるプレゼンテーションの内容 30 点、個人レポート 50 点、読了テスト 5 点、プレゼンテーション相互評価表 15 点

その他

科目ナンバー：(AL)LIT211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ＩA	**日本文学講読ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
石澤　一志	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

『徒然草』を講読する。その内容の多彩さと、日本の歴史／文学の歴史の流れを把握する。

日本の歴史と文学の歴史、特に奈良時代から鎌倉時代後期までの歴史と、日本文学史の流れについて理解する。
個別の文学作品やその作家についての理解を深める。
兼好法師が生きた、鎌倉時代後期の時代感について知る
などを目的とする

授業内容

『徒然草』を読む。鎌倉時代後期に成立した『徒然草』は
それ以前の歴史・文学に関する事実を多数含む。
随筆的な部分が多く取り上げられてきたが、内容はそれだけに留まらない。
日本ひいては東アジアの歴史と文化、鎌倉時代の文学史のつながりを意識した講義を行いたい。

第１回　本講義の概要　日本文学史の時代区分
第２回『徒然草』概説　序段から
第３回『徒然草』講読　10 段まで
第４回『徒然草』講読　20 段まで
第５回『徒然草』講読　30 段まで
第６回『徒然草』講読　50 段まで
第７回『徒然草』講読　80 段まで
第８回『徒然草』講読　136 段まで
第９回『徒然草』講読　137 段から
第 10 回『徒然草』講読　145 段まで
第 11 回『徒然草』講読　165 段まで
第 12 回『徒然草』講読　205 段まで
第 13 回『徒然草』講読　220 段まで
第 14 回『徒然草』講読　243 段まで

基本的には最初から順番に読んでいくが、
途中で別の章段に移動することが予想されるので、
教科書は「必携」のこと

履修上の注意

本講義は、当方の話しを「聞く」だけではなく、話しを「聴く」こと。
齋藤孝『話し上手　聞き上手』『読み上手　書き上手』(ちくまプリマー新書)などを参照のこと

準備学習(予習・復習等)の内容

・中学・高校までに学修してきたところの、日本史・文学史の確認を行う(予習)
・聴講した内容のまとめ、質問／感想を提出する(復習)

教科書

『徒然草』(角川ソフィア文庫・小川剛生校注)を使用する。「必携」のこと

参考書

『徒然草』関連の書籍全般。また、講義中に適宜、紹介・指示する

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji システムを利用して行う。また、授業内で解説する

成績評価の方法

提出課題 40%・期末試験 60%　で評価する
期末試験については、講義内で説明する

その他

日本文学演習(２年)(当方担当の演習)を併せて受講することが好ましい

科目ナンバー：(AL)LIT211J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ＩA	**日本文学講読ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
木下 幸太	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

福永武彦(1918-1979)のテクストを通して、近現代日本文学・文化がいかなる話題と関わり合うのかを理解してゆく。福永武彦の文学は、〈孤独〉、〈愛〉、〈死〉、〈芸術〉といったキーワードで読まれることが多かったが、そのような読み方をする他にも、読み方が存在しないだろうか考えてゆきたい。

本授業では、福永文学が先行研究紹介を通して「どのように読まれて来たのか」、そしてその読み方の他に「どう読めるのか」を考え、一つの作品に対して複数の読み方やアプローチが存在するということを理解できるようにしたい。また、授業ではなるべく多くの話題やテーマを紹介し、学生が今後の研究で問題設定をする際に広い視野から研究対象へアプローチできるようになることも目指す。

授業内容

1. a モジュールのみ：イントロダクション
2. 福永武彦について
3. 「夜の時間」①〈孤独〉・〈愛〉・〈死〉
4. 「夜の時間」②欲望の三角形・ホモソーシャル
5. 「夜の時間」③情動、アダプテーション(筒井康隆・大林宣彦の「時をかける少女」)
6. 「深淵」①戦後直後期の結核
7. 「深淵」②物語的アイデンティティ
8. 『草の花』①一高文化
9. 『草の花』②死者と記憶、物語を書くこと
10. 「廃市」①ノスタルジア
11. 「廃市」②インターテクスチュアリティ
12. 大林宣彦『廃市』(映画)鑑賞①
13. 大林宣彦『廃市』(映画)鑑賞②・まとめ
14. 授業内レポート

履修上の注意

(1) 授業のスタイルとして、同じ作品を数回取り上げるので、授業で取り上げる作品はあらかじめ読んでください。なるべく短編を選びましたが『草の花』だけは長編なので余裕をもって読み始めてください。また、時間の制約上、授業では各話題を「広く浅く」紹介することになります。言及した文献・フィクションについて、気になったものは授業後に各自で詳しく確認してください。

(2) 授業内容で、作品名と併記したテーマは一例です。参加者からの反応や感想を鑑みて一部変更する場合もあります。

(3) 毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。

(4) 授業で言及されていなくても今語られている作品や文芸批評・理論、主題について各自で調べ、人文学領域の現状を把握しようと、アンテナを張り続ける意識を持ってください。そして、自分が興味を持った作品や主題については人に伝えてみてください。友人知人はもちろん、リアクションペーパーを介して教員に紹介しても構いません。

(5) 本授業では、授業者が各主題を説明する都合上、福永武彦のテクストを用います。授業内容が福永武彦のフィクションだけではなく、自分の関心のあるフィクションや物事にも適用できないか考えてみてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、次回の授業で扱う作品を読んでおいてください。また、復習として、授業の内容に基づいて読み直したり、その他、自分で触れたフィクションに応用できないか考えたりしてみてください(考えたことを次回のリアクションペーパーに書いても構わないです)。

教科書

① 『夜の三部作』福永武彦(小学館 P+D BOOKS)
② 『草の花』福永武彦(新潮文庫)
③ 『廃市』福永武彦(小学館 P+D BOOKS)

授業内で扱う作品が収録され、現在でも新品が購入可能なものを挙げましたが、古本の文庫や図書館の本でももちろん良いです。上記の作品はすべて電子書籍もあります。

参考書

福永武彦について概要を把握するには『新潮日本文学アルバム 50 福永武彦』小久保実編(新潮社、1994)がよい。その他、各授業内でのテーマにかかわるものは適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、リアクションペーパーの提出を求めます。そしてそれに対してのフィードバックを次の授業冒頭で行います。他の参加者がどのように作品を読んだり、作品から何かを考えたりしたのかを知る時間に充てたいと思います。

成績評価の方法

平常点(授業態度・リアクションペーパーなども含む)40 パーセント、レポート 60 パーセント。また、欠席が全授業数の 3 分の 1 を超えた場合、その他の課題の達成度にかかわらず、評価の対象としません。リアクションペーパー・レポートについて生成 AI を用いた形跡があった場合、個別の連絡をします。生成 AI の使用が確認された場合も評価の対象としません。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LIT211J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ＩB	**日本文学講読ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
小滝 真弓	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

11 世紀後半に成立した『更級日記』を読む。菅原孝標女が約 40 年にわたる生涯を振り返り書き記した『更級日記』には、少女時代に抱いた『源氏物語』への憧憬から、夫と死別し孤独に老いた悲哀まで、現代の読者にも通じる作者の人生観や感性が語られている。主要な場面をとり上げて平安期の習俗や信仰を解説すると共に、作品の文脈を丹念に読み解くことで、『更級日記』への理解を深めていく。

授業内容

第 1 回、イントロダクション・『更級日記』について
第 2 回、上洛の記①物語憧憬と薬師信仰
第 3 回、上洛の記②足柄の遊女
第 4 回、家居の記①帰京と物語への憧れ
第 5 回、家居の記②継母との別れと二つの夢告げ
第 6 回、家居の記③姉の死
第 7 回、家居の記④父の任官
第 8 回、家居の記⑤初瀬寺の夢告げと天照信仰
第 9 回、宮仕えの記①初出仕の思い出
第 10 回、宮仕えの記②再出仕
第 11 回、物詣での記①石山詣で
第 12 回、物詣での記②初瀬寺へ参籠
第 13 回、晩年の記①夫の死
第 14 回、晩年の記②阿弥陀来迎の夢・全体のまとめ

(＊講義の進捗状況や受講者の興味関心に応じ、授業内容を変更する可能性がある。)

履修上の注意

遅刻・欠席・途中退席が多い場合は評価の対象としない。
また、授業中の電子機器(電子辞書を除く)の使用は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業では受講者を指名し音読をさせ、本文の内容を確認する。授業で取り上げる範囲の本文をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

適宜プリントを配布するが、『更級日記』の本文を確認できるテキストを各自用意すること。
＊原文が書かれており、注釈が付いているものが望ましい。新全集等のコピーや文庫本でも構わないが、現代語訳のみのテキストの使用は認めない。
＊電子書籍は使用不可。

参考書

新編日本古典文学全集『更級日記』(小学館)
その他の参考文献は授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に前回のフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート 70%(＊状況により試験に変わる場合もある)、授業への参加度(平常点)30%

その他

古語辞典を用意しておくこと。(電子辞書可)

科目ナンバー:(AL)LIT211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ＩＢ	**日本文学講読ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
峯村 康広	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

三遊亭円朝「怪談牡丹燈籠」を読む。「怪談牡丹燈籠」は怪談噺として知られる落語であるが、明治 17 年に速記本として刊行された。円朝の落語は、現在では近代文学の一ジャンルとして認識されている。一般的に近代文学は明治 20 年代の「浮雲」「舞姫」をもって嚆矢とされる。逆に言えば、それ以前の作品は、たとえそれが小説の形式をとっていたとしても、近代文学とはみなされないのである。だが、「牡丹燈籠」が口語の、とりわけ「浮雲」の文体の成立に一役買っていることはよく知られている。であれば「牡丹燈籠」を読むことも決して無駄ではない。作品は全部で 22 回に分かれるが、授業ではその内「第一回」から、およそ「第十四回」までを順次取上げ読解する。映像教材の使用も予定している。

「怪談牡丹燈籠」を読むことを通して、前近代および近代という時代、歴史、社会、文化等の問題にアプローチする。古いからといって敬遠するのではなく、積極的にテクストに働きかけ、アクチュアルな問題をつかみ出す姿勢を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回:a イントロダクション(「怪談牡丹燈籠」の世界へようこそ)
　　b 「怪談牡丹燈籠」「第一回」
第2回:「怪談牡丹燈籠」「第二回」
第3回:「怪談牡丹燈籠」「第三回」
第4回:a「怪談牡丹燈籠」「第四回」
　　b 映像教材
第5回:「怪談牡丹燈籠」「第五回」
第6回:「怪談牡丹燈籠」「第六回」
第7回:「怪談牡丹燈籠」「第七回」
第8回:「怪談牡丹燈籠」「第八回」
第9回:「怪談牡丹燈籠」「第九回」
第 10 回:「怪談牡丹燈籠」「第十回」
第 11 回:「怪談牡丹燈籠」「第十一回」
第 12 回:a「怪談牡丹燈籠」「第十二回」
　　b 映像教材
第 13 回:「怪談牡丹燈籠」「第十三回」
第 14 回:a「怪談牡丹燈籠」「第十四回」
　　b 試験

履修上の注意

特にない。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するプリントに目を通し、自分なりに問題意識を持つこと。難読語や語句の意味等、不明な点があれば授業後に質問する。次回授業に向けて作品を読んでおくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

『円朝全集』第一巻(岩波書店)、『怪談牡丹燈籠』(岩波文庫・角川文庫)

課題に対するフィードバックの方法

途中実施する2～3回の確認テスト。最終授業日に期末試験を実施し、評価基準を説明する。

成績評価の方法

授業への参加度 10%、確認テスト 20%、期末試験 70%で評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ＩＢ	**日本文学講読ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
乗木 大朗	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

堀辰雄文学を主テキストとして、1930～50 年代(昭和前期および戦後)の日本文学と思想の状況について考究する。

昭和前期の代表的作家の一人に数えられる堀辰雄は、ブルーストやリルケなどの西洋文学を積極的に受容しつつ、『万葉集』や王朝文学など日本古典をも材源としながら詩や小説、随筆を執筆した。芥川龍之介や萩原朔太郎、室生犀星らに師事し、雑誌『山繭』『驢馬』『詩と詩論』『四季』などに関わりながら、中野重治や川端康成、立原道造ら多くの文学者と交流し、マチネ・ポエティクグループをはじめとして遠藤周作や堀田善衛、三島由紀夫など様々な戦後派作家に影響を与えている。

本講義では、堀文学がもっとも充実した 1930～40 年代の小説、随筆を取り上げ、モダニズムや戦争文化などの同時代状況に接続させながら作品の読解分析を展開する。さらに戦後派作家への影響と継承の実際を概観することで、堀辰雄文学の意義と可能性についての総体的理解を図る。

「文学」の位置づけを近代化の深まりや戦中戦後の社会を枠組みとして検証する作業を通じて、知識理解を深めながら批評精神を養うとともに、人文学／研究の今日的意義についてみずからの考察を獲得することを到達目標とする。

授業内容

第1回 導入――人文学／研究の現在地(1)
第2回 昭和前期・戦後の文学状況(概説)
第3回 堀辰雄とその文学(概説)
第4回 堀辰雄「美しい村」(1)――モダニズムと避暑地文化
第5回 堀辰雄「美しい村」(2)――軽井沢とその文学表象
第6回 堀辰雄「木の十字架」など――戦時下の軽井沢と文学者たち
第7回 堀辰雄「風立ちぬ」――死生観とその同時代性
第8回 小林秀雄「故郷を失った文学」など――思想的課題としての〈故郷喪失〉
第9回 堀辰雄「大和路・信濃路」(1)――戦時下の日本古典受容
第 10 回 堀辰雄「大和路・信濃路」(2)――文学と神話・宗教
第 11 回 堀辰雄と戦後派作家(1)――遠藤周作
第 12 回 堀辰雄と戦後派作家(2)――福永武彦、中村真一郎、加藤周一
第 13 回 堀辰雄と戦後派作家(3)――堀田善衛、石原吉郎など
第 14 回 総括――人文学／研究の現在地(2)

＊履修者数や学習状況などに応じて授業内容を変更することがあります。

履修上の注意

とくになし。ペアワークやグループワークは行いませんが、リアクションペーパーのコメントを通じて全体での相互的な意見共有の場を設けます。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ作品を読んでおくと学習効果が高まります。講義後は、関連する作品(日本近現代文学に限りません)を読むことや、人文学その他の幅広い学問領域のなかに講義内容を積極的に接続させることで思考を深めることを期待します。

教科書

堀辰雄『風立ちぬ・美しい村』、『大和路・信濃路』(いずれも新潮文庫ほか)。
必ずしも購入する必要はありませんが、講義で扱う回にそれぞれテキストを持参して下さい。そのほかの作品はプリントを配布します。

参考書

・日本文学研究資料刊行会編『日本文学研究資料叢書 堀辰雄』(有精堂)
・池内輝雄編『鑑賞日本現代文学 18 堀辰雄』(角川書店)
・竹内清己編『堀辰雄事典』(勉誠出版)
・『国文学解釈と鑑賞別冊 堀辰雄とモダニズム』(至文堂)
・『明治の文学』『大正の文学』『昭和の文学』(有斐閣選書)
・十川信介『近代日本文学案内』(岩波文庫別冊)
・三原芳秋・渡邊英理・鵜戸聡編『クリティカルワード 文学理論』(フィルムアート社)
上記の他、講義内に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

講義の冒頭に、前回提出分のリアクションペーパー内のコメントについて全体で共有しフィードバックを行います。

成績評価の方法

リアクションペーパー(毎回)50%、学期末レポート 50%を中心に、出席状況や参加姿勢とも合わせて総合的に判断します。欠席が全授業回数の3分の1を超過した場合、課題の達成水準にかかわらず単位不可とします。また、期末レポート未提出の場合、出席日数にかかわらず単位を認定しません。

その他

所属する学部専攻領域にかかわらず、関心のある学生の受講を広く歓迎します。

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ⅡA	**日本文学講読ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
杉田 昌彦	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本近世文学の作品本文を精読することにより、その作品世界を味わうとともに、そこから読み取ることのできる作者の思想や歴史的背景、さらにはその作品の文学史的意義などを考察していく。

近世文学作品の文章を読みこなすことができるようになるとともに、近世文学とのその文章・文体に関する基礎教養の涵養を最終的な到達目標としたい。

☆授業担当教員が25 年度に引き続き就労特別配慮対象者であるため、オンラインでの授業を基本としたいと考えております。その点を了解した上で授業を履修してください

オンライン授業時には、基本的にオンデマンド型を中心にしたオンライン授業を行うが、履修生の他の対面授業の履修時間帯を考慮しつつ、一部リアルタイム型やディスカッション型の授業などの導入も模索していきたい。また、講読授業であるため、テキストや資料を読み、課題を提出する等の授業要素も含まれる。また、状況によっては、学期中に対面授業に移行することを視野に入れる可能性もある。

授業内容

本居宣長の文学理論である「物のあはれを知る」説が展開されていることで知られる、彼の源氏物語論書『紫文要領』の上巻を中心に輪読する予定である。

(1)授業内容について
(2)作品ジャンルの概説(国学とは？)
(3)作者について(本居宣長)1
(4)作者について(本居宣長)2
(5)近世文学作品輪読1
(6)近世文学作品輪読2
(7)近世文学作品輪読3
(8)近世文学作品輪読4
(9)近世文学作品輪読5
(10)近世文学作品輪読6
(11)近世文学作品輪読7
(12)作品の思想・世界観1
(13)作品の思想・世界観2
(14)作品の文学史的意義について

※なお、講読予定作品については、履修者の反応や授業状況によっては、作品そのものや講読箇所を変更しながら授業を進めていく可能性がある。

〇オンライン授業時の授業内容

・本居宣長の源氏物語研究と、その最初の源氏物語評論書である『紫文要領』(宝暦13年、1763年成立)を、主に取り上げる。

・オンライン授業として、まず本居宣長の前半生と彼の源氏物語研究について概観した後、杉田の著書『宣長の源氏学』(新典社、2011年)の中から、①序章「源氏研究及び講義の概略」と、②第一部第三章「「物のあはれ」と勧善懲悪 ―『紫文要領』の作中人物論―」について講読していく。続いて、『源氏物語』蛍巻中の「蛍巻の物語論」を講読し、最後に『紫文要領』の中の「蛍巻の物語論」についての評論の重要部分を講読し半期の授業を締めくくる。

・オンライン授業時には、上記の通り、『宣長の源氏学』中の論文を主な講読テキストとして各自講読してもらい、また補助教材も参照しつつ、オンデマンド型教材によって各回の授業内容を解説する、テキスト講読を含む「オンデマンド型」で授業を行う。毎回600～800字程度の小レポートによって各回の受講生の出席状況と授業理解度を判定し、最終レポートと合わせて成績評価する(小レポート65%　最終レポート35%の予定)。なお履修者数が比較的少人数の場合には、履修者の他の対面授業に重ならない日時で、ZOOM によるリアルタイム型でまとめと質疑応答の授業を数回組み込むことも想定したい。それが不可能な場合は、ディスカッション機能を利用したまとめ授業を導入する。

・レポート機能に、「質問・相談フォーム」を作成し、そこで質問と相談を受け付ける。毎回の小レポートに質問・相談を付記することも可能。

・授業内容の詳細については、シラバスの補足により詳しく書くとともに、第一回授業内で説明予定。

※履修者一人一人が自分自身で「考える」ことを重視し、毎回の授業につき小レポートを課し、さらには最終レポート課題も課します。学術論文の講読などオンデマンド教材の視聴以外の要素を含み、比較的高度で作業量の多い授業になります。そのことをあらかじめ了解した上で履修してください。

履修上の注意

※現在聴神経を患い、騒々しい場所にいることが体調上困難であるため、教員の入室後から授業を終了して退室するまでの間一切の私語・雑談を厳禁したい。それを厳守できる学生のみの履修を希望する。守れない学生には退席を求める求めたり受講を拒否することがあり得る。

※今のところ(26年1月時点)対面授業とオンライン授業に両方を想定に入れたシラバスを UP しておくが、25年度も在宅就労特別配慮者となるため、25年度と同様、各学期の授業全体もしくはその一部の形態をオンライン授業で行う可能性が高いことを承知しておいてほしい。

24年度の学期が始まったところで、オンライン授業を想定したさらに詳しいシラバス補足を記載する予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

対面授業の場合毎回出席者に本文を読み上げてもらいながら授業を進める輪読形式をとる予定。各回の講読担当箇所をあらかじめ現代語訳しておくなどして、講読する本文の内容をしっかりと予習し、十分把握した上で授業に臨んでほしい。

教科書

プリントなどを適宜配布。

参考書

授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜指示する。

成績評価の方法

学期末試験およびレポートの成績に加え，受講シートなどを参照しつつ，授業への出席率・授業理解度，平常の受講態度などを総合的に評価する。対面授業時には試験・レポート 65%，平常点(出席率ならびに受講態度を含む)35%

オンライン授業時には、毎回、600～800字程度の小レポートによって各回の受講生の出席状況と授業理解度を判定し、最終レポートと合わせて成績評価する(小レポート65%　最終レポート35%の予定)。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ⅡA	**日本文学講読ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
峯村 康広	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

プロレタリア文学作品、主として小説を読む。日本のプロレタリア文学(運動)は、おおむね大正末から昭和初期にかけて既成文壇(自然主義・白樺派など)、新感覚派とともに日本文学の一勢力をなした。社会主義、マルクス主義思想を基盤として書かれたプロレタリア文学は、政治性を強く押し出した特徴から、今日では読者から忌避される傾向にある。だが、それらを差し引いたとしても、よく読むと意外に文学的な豊かさ、アクチュアリティーを内包していることがわかる。とすれば、日本の近代文学を学ぼうとする者にとって、プロレタリア文学を読んでおくことは欠かせない。本講座では、特に初期から晩期へと至る作品を順を追って取上げ、読んでみたい。映像教材の使用も予定している。

授業を通して、プロレタリア文学が時代に要請された意味と、それらを読む現代的意義を理解することを目標とする。

授業内容

第1回:a イントロダクション(プロレタリア文学概説)
　　b 葉山嘉樹①「セメント樽の中の手紙」「淫売婦」
第2回:a 葉山嘉樹②「セメント樽の中の手紙」「淫売婦」
　　b 映像教材
第3回:黒島伝治①「二銭銅貨」「豚群」「渦巻ける烏の群」
第4回:黒島伝治②「二銭銅貨」「豚群」「渦巻ける烏の群」
第5回:佐多稲子①「キャラメル工場から」「怒り」
第6回:佐多稲子②「キャラメル工場から」「怒り」
第7回:徳永 直①「太陽のない街」
第8回:a 徳永 直②「太陽のない街」
　　b 映像教材
第9回:中野重治①「春さきの風」「交番前」
第 10 回:中野重治②「春さきの風」「交番前」
第 11 回:宮本百合子①「一九三二年の春」「乳房」
第 12 回:宮本百合子②「一九三二年の春」「乳房」
第 13 回:小林多喜二①「蟹工船」「党生活者」
第 14 回:a 小林多喜二②「蟹工船」「党生活者」まとめ
　　b映像教材

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

前もって作品を読んでおくことが望ましい。授業中に読解した作品の内容や指摘した問題点について不明なところがあれば授業後に質問すること。次回の授業で取り上げる作品を読んでおくこと。

教科書

特に指定しない。

参考書

各作家の個人全集。近代文学作品を収録している文学集。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に机上レポートを実施し、評価の基準を説明する。

成績評価の方法

授業への参加度 20%、平常点 20%、机上レポート 60%の割合で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ⅡA	**日本文学講読ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
小滝 真弓	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

11 世紀初頭に成立した『源氏物語』を読む。

『源氏物語』において、仏教の思想・信仰は登場人物の生死や罪の言説と深く結びついており、物語を理解するうえで重要な位置を占めている。

本授業では、源氏への思いに翻弄され、生霊・死霊へと姿を変える六条御息所に着目し、その生涯を辿る形で、『源氏物語』に見える夢や物の怪といった他界との交渉や、女君の死を描いた場面を精読する。物語世界への理解を深めると共に、平安期の信仰や仏教受容の諸相について解説し、当時の思想・信仰がどのように『源氏物語』に取り入れられ、独自の文脈を形作っているかについて考察する。

授業内容

第 1 回、イントロダクション・『源氏物語』について
第 2 回、夕顔巻①何がしの院の物の怪
第 3 回、夕顔巻②夕顔の死
第 4 回、夕顔巻③夕顔の四十九日供養
第 5 回、葵巻①車争いと六条御息所の苦悩
第 6 回、葵巻②物の怪に悩まされる葵の上
第 7 回、葵巻③葵の上の出産
第 8 回、葵巻④葵の上の急逝と葬送
第 9 回、葵巻⑤源氏と六条御息所の贈答歌
第 10 回、賢木巻①六条御息所と野宮の別れ
第 11 回、賢木巻②六条御息所の伊勢下向
第 12 回、その後の六条御息所①六条御息所の死
第 13 回、その後の六条御息所②死霊となった六条御息所
第 14 回、全体のまとめ

(＊講義の進捗状況や受講者の興味関心に応じ、授業内容を変更する可能性がある。)

履修上の注意

遅刻・欠席・途中退席が多い場合は評価の対象としない。
また、授業中の電子機器(電子辞書を除く)の使用は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業では受講者を指名し音読をさせ、本文の内容を確認する。授業で取り上げる範囲の本文をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

プリントを配布する。

参考書

新編日本古典文学全集『源氏物語』(小学館)
その他の参考文献は授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に前回のフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート 70%(＊履修状況により試験に変わる場合もある)、授業への参加度(平常点)30%

その他

古語辞典を用意しておくこと。(電子辞書可)

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ⅡB	**日本文学講読ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
杉田 昌彦	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

上田秋成著の江戸期小説『雨月物語』を講読する授業を行う。『雨月物語』の諸短編の中でも「性(さが)」というキーワードが見受けられる「青頭巾」「浅茅が宿」「吉備津の釜」の三つの短編を主に講読し、同作品中に描かれた男女の「性(さが)」の特徴を検証していくとともに、背景にある作者秋成の創作意図や思想を読み解いていきたい。

☆授業担当教員が25 年度に引き続き就労特別配慮対象者であるため、オンラインでの授業を基本としたいと考えております。その点を了解した上で授業を履修してください
オンライン授業時には、基本的にオンデマンド型を中心にしたオンライン授業を行うが、履修生の他の対面授業の履修時間帯を考慮しつつ、一部リアルタイム型やディスカッション型の授業などの導入も模索していきたい。また、講読授業であるため、テキストや資料を読み、課題を提出する等の授業要素も含まれる。また状況によっては、学期中に対面授業に移行することを視野に入れる可能性もある。

授業内容

1 「『雨月物語』講読」講義概要
2 上田秋成と『雨月物語』について
3 「青頭巾」講読①
4 「青頭巾」講読②
5 「青頭巾」講読③
6 「青頭巾」講読まとめ
7 「浅茅が宿」講読①
8 「浅茅が宿」講読②
9 「浅茅が宿」講読まとめ
10 「吉備津の釜」講読①
11 「吉備津の釜」講読②
12 「吉備津の釜」講読③
13 「吉備津の釜」講読まとめ
14 『雨月物語』における「性(さが)」
※なお、講読予定作品については、履修者の反応や授業状況によっては、作品そのものや講読箇所を変更しながら授業を進めていく可能性がある。
〇オンライン授業時の授業内容
・上田秋成著の江戸期小説『雨月物語』、中でも「性(さが)」というキーワードが見受けられる「青頭巾」「浅茅が宿」「吉備津の釜」の三つの短編を主に講読する。
・テキスト(教科書)としては、岩波文庫の長島弘明校注『雨月物語』(岩波書店、2018年)を使用する。三省堂明大マート駿河台店にて本授業の教科書として販売される予定なので、履修希望者は、授業開始に間に合うように購入すること。
・オンライン授業時には、上記の通り、岩波文庫本『雨月物語』を講読テキストとし、また補助教材も参照しつつ、オンデマンド型教材によって各回の授業内容を解説する、テキスト講読を含む「オンデマンド型」で授業を行う。毎回、600～800字程度の小レポートによって各回の受講生の出席状況と授業理解度を判定し、最終レポートと合わせて成績評価する(小レポート65%　最終レポート35%の予定)。なお履修者数が比較的少人数の場合には、履修者の他の対面授業に重ならない日時で、ZOOM によるリアルタイム型でまとめと質疑応答の授業を数回組み込むことも想定したい。それが不可能な場合は、ディスカッション機能を利用したまとめ授業を導入する。
・レポート機能に、「質問・相談フォーム」を作成し、そこで質問と相談を受け付ける。毎回の小レポートに質問・相談を付記することも可能。
・秋学期が開始される前に、より詳細なシラバス補足を提示する予定である。
・また、授業内容については、第一回授業内でも詳細に説明する予定。
※現在のところこのような講義内容を予定していますが、感染症の状況など授業を取り巻く環境の変化や受講生の反応によっては、今後内容の変更が大いにありえます。秋学期の開始時期(9月)に、具体的な情報をシラバスの補足に UP する予定ですので、確認等よろしくお願いします。また、学期途中に授業形態を変更する場合には、履修生の皆さんと相談した上で決定したいと思います。
※履修者一人一人が自分自身で「考える」ことを重視し、毎回の授業につき小レポートを課します。オンデマンド教材の視聴以外の要素を含み結構作業量の多い授業になることをあらかじめ了解した上で履修してください。

履修上の注意

※現在聴神経を患い、騒々しい場所にいることが体調上困難であるため、教員の入室後から授業を終了して退室するまでの間一切の私語・雑談を厳禁としたい。それを厳守できる学生のみの履修を希望する。守れない学生には退席を求める求めたり受講を拒否することがあり得る。
※今のところ(26年1月時点)対面授業とオンライン授業に両方を想定に入れたシラバスを UP しておくが、26年度も在宅就労特別配慮者となるため、25年度と同様、各学期の授業全体もしくはその一部の形態をオンライン授業で行う可能性が高いことを承知しておいてほしい。25年度の学期が始まったところおよび秋学期の開始時期(9月)に、より具体的な情報をシラバスの補足に記載する予定である。

準備学習(予習・復習等)の内容

対面授業時には毎回出席者に本文を読み上げてもらいながら授業を進める輪読形式をとる予定。各回の講読担当箇所をあらかじめ現代語訳しておくなどして、講読する本文の内容をしっかりと予習し、十分把握した上で授業に臨んでほしい。

教科書

テキスト(教科書)としては、岩波文庫の長島弘明校注『雨月物語』(岩波書店、2018年)を使用する。三省堂明大マート駿河台店にて教科書として販売される予定なので、履修希望者は、授業開始に間に合うように購入すること。

参考書

プリントなどを適宜配布するほか、授業時に適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜指示する。

成績評価の方法

学期末試験およびレポートの成績に加え，受講シートなどを参照しつつ，授業への出席率・授業理解度，平常の受講態度などを総合的に評価する。対面授業時には試験・レポート 65%，平常点(出席率ならびに受講態度を含む)35%

オンライン授業時には、毎回、600～800字程度の小レポートによって各回の受講生の出席状況と授業理解度を判定し、最終レポートと合わせて成績評価する(小レポート65%　最終レポート35%の予定)。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ⅡB	**日本文学講読ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
小滝 真弓	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

12 世紀初頭に成立した『讃岐典侍日記』を読む。作者は藤原顕綱の娘長子であり、若くして亡くなった堀河天皇に女房として仕えた。主従関係であり、男女関係でもあった堀河天皇が死にゆく様子が克明に描写され(上巻)、次代に即位した幼い鳥羽天皇に仕えながら、亡き堀河天皇を哀慕する日々が記されている(下巻)。本作品は、宮廷女官の事実上の最高位であった「典侍」による現存唯一の「日記」であり、その内容は、天皇の病や崩御、即位式、宮中祭祀など多岐にわたる。本授業では、主要な場面をとり上げて平安期の宮廷生活や儀式、信仰を解説すると共に、作品の文脈を丹念に読み解くことで、『讃岐典侍日記』への理解を深めていく。

授業内容

第１回、イントロダクション・『讃岐典侍日記』序文
第２回、堀河天皇重態となる(上巻)
第３回、中宮、参上する(上巻)
第４回、物の怪出現(上巻)
第５回、堀河天皇、危篤に陥り崩御する(上巻)
第６回、神璽、宝剣の渡御(上巻)
第７回、幼い鳥羽天皇への出仕を決意する(下巻)
第８回、鳥羽天皇の即位(下巻)
第９回、三十講に参り中宮に会う(下巻)
第10回、諒闇があけ、喪服を改める(下巻)
第11回、亡き堀河天皇を偲ぶ(下巻)
第12回、五節の雪の朝を思い起こす(下巻)
第13回、清暑堂の御神楽(下巻)
第14回、堀河天皇と死別した日が遠のく悲しみ(下巻)・全体のまとめ

(※講義の進捗状況や受講者の興味関心に応じ、授業内容を変更する可能性がある。)

履修上の注意

遅刻・欠席・途中退席が多い場合は評価の対象としない。
また、授業中の電子機器(電子辞書を除く)の使用は認めない。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業では受講者を指名し音読をさせ、本文の内容を確認する。授業で取り上げる範囲の本文をあらかじめ読んでおくこと。

教科書

各自で『讃岐典侍日記』の原文と注が確認できるテキストを用意すること。
(『讃岐典侍日記』は、日本古典全書、講談社学術文庫、新編日本古典文学全集等に所収されている。コピーでも構わないが、必ず全文を用意して授業に参加すること。電子書籍の使用は認めない。)

参考書

・『 讃岐典侍日記：全訳注』(森本元子、講談社学術文庫、1977)
・『新編日本古典文学全集 (26) 和泉式部日記 紫式部日記 更級日記 讃岐典侍日記』(小学館、1994)など。
その他の参考文献は授業時に紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に前回のフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート 70%(※履修状況により試験に変わる場合もある)、授業への参加度(平常点)30%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT312J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学講読ⅡB	**日本文学講読ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
石澤 一志	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本文学史に於ける「和歌」の位置を確認・理解する。
中世文学の始発とその展開、そこに「勅撰和歌集」がどう関わるかを見ていく。
院政期から鎌倉時代、南北朝から室町時代までの和歌の歴史を概観しつつ、
他の韻文・散文、演劇芸能などとの関わりを理解する

中世文学の中における和歌がどのように成立し、
どのように後代に受け継がれていったのか、
「和歌」が果たした役割を理解することを目的とする

授業内容

中世の和歌史を概観する。
文学史に於ける中世の始まりから、「勅撰和歌集」の歴史を中心に見ていく。
政治史と文学史のつながりを考えつつ、文学としての和歌の変遷を理解する。
日本文学に於ける、他の韻文とのかかわり、散文作品や絵画史などとの関わりについても注意する。
最終的に、日本文学史に於ける和歌文学の位置を確認してもらいたい

第１回 「中世」という時代　一日本文学史 概観 「勅撰和歌集」ということ
第２回 中世の始まり　後三条と白河　『後拾遺和歌集』
第３回 白河院政の下で　『金葉和歌集』『詞花和歌集』
第４回 後白河院と乱世の文学　『千載和歌集』
第５回 後鳥羽院と『新古今和歌集』の時代
第６回 承久の乱以後　定家と家隆と後鳥羽院『新勅撰和歌集』
第７回 後嵯峨院とその時代　為家と反為家の歌人たち　『続後撰和歌集』/『続古今和歌集』
第８回 持明院統と大覚寺統　御子左家の分立『続拾遺和歌集』/『新後撰和歌集』
第９回 伏見院と京極派　『玉葉和歌集』と『風雅和歌集』
第10回 後宇多院と後醍醐　南北朝へ　『続千載和歌集』/『続後拾遺和歌集』
第11回 足利氏・室町幕府と「勅撰和歌集」『新千載和歌集』/『新拾遺和歌集』
第12回 北朝と南朝と「勅撰和歌集」『新後拾遺和歌集』と『新葉和歌集』
第13回 室町時代と最後の「勅撰和歌集」『新続古今和歌集』
第14回 応仁文明の乱とそれ以後の和歌史 「勅撰和歌集」の終焉と幻の「勅撰和歌集」

履修上の注意

本講義は、当方の話しを「聞く」だけではなく、話しを「聴く」こと。
齋藤孝『話し上手 聞き上手』(ちくまプリマー新書)を参照

準備学習(予習・復習等)の内容

・中学・高校までに学修してきたところの、日本史・文学史の確認を行う(予習)
・聴講した内容のまとめ、質問／感想を提出する(復習)

教科書

使用しない。講義資料を配付する

参考書

和歌関連の書籍全般。また、講義中に適宜、紹介・指示する

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji システムを利用して行う。また、授業内で解説する

成績評価の方法

提出課題 40%・期末試験 60%　で評価する
期末試験については、講義内で説明する

その他

とにかく手を動かしながら話しを「聴く」こと
「聞いてる」つもりじゃ「駄目」なのです

科目ナンバー:(AL)LIT111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文学史	**日本文学史**	
担 当 者	開講期	開講地区
木下 幸太	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

明治期から平成までの日本近現代文学を扱う。「小説」はどのような試行錯誤を経て今に至るのか。「小説」は何を表現してきたのか。「小説」は何を期待されていたのか。時代や社会、他領域創作などと往還しながら「小説」という概念が更新され続けた様子を、具体的な作品検討から確認してゆく。近現代の日本における「小説」の変遷を「歴史」として理解し、参加者各自がひとつの「文学史」を構成できることを目指す。

授業内容

1 イントロダクション、明治期の文学① 戯作・翻訳・政治
2 明治期の文学② 言文一致
3 明治期の文学③ 自然主義
4 明治文学④ 漱石・鷗外
5 大正文学① 白樺派・耽美派
6 大正文学② 新思潮・心境小説
7 昭和の文学① モダニズム文学・プロレタリア文学
8 昭和の文学② 戦争と文学
9 昭和の文学③ 戦後派
10 昭和の文学④ ポストモダン
11 平成の文学① 90 年代
12 平成の文学② 2000 年代
13 平成の文学③ 2010 年代
14 試験

履修上の注意

(1)教室内では静粛にすること。
(2)授業ではコメントシートの提出を求める場合もある。

準備学習(予習・復習等)の内容

シラバスに記載したキーワードにもとづいてどのような作品が関連するのか調べておくこと。授業で扱った作品および関連作品はできる限り確認すること。授業で扱った作品と配布資料を読み直し復習すること。

教科書

使用しない。資料を配布する。

参考書

改めて購入する必要はないが、これまでに使用した国語の教科書や便覧があると学習の助けになる。

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートを次回授業で読み、返答をする。

成績評価の方法

平常点(出席回数、授業態度、コメントなどの総合)50%、試験 50%で評価する。欠席回数が全授業回数の 3 分の 1 を超えた場合、評価の対象としない。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文化史 I	**日本文化史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
松山 恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

都市文化は、地域の相違をこえて成立する側面と、固有性・地域性にみちた側面とをあわせもつ。前半(第 2～8 回)では江戸-東京を素材に前者の動向を論じる一方、後半(第 10～13 回)では列島の諸都市を事例として後者の動向に焦点を絞る。「都市とは何か、文化とは何か」という問いも念頭に起きながら、日本都市の近現代への移行過程を講義する。

授業内容

(1)講義の概要と授業計画
(2)日本の近世都市:城下町の空間=社会=文化1
(3)日本の近世都市:城下町の空間=社会=文化2
(4)城下町の明治:「廃城」や武家地処分のあり方
(5)「三都」から首都へ:東京遷都の影響
(6)民衆文化への打撃:広場の消失, 演劇改良運動
(7)都市下層の生活世界
(8)近現代のライフサイクル:居住をめぐる諸問題
(9)まとめ1
(10)京都・奈良の近代:「古都」文化の形成
(11)大阪の近代:原動力としての遊興文化
(12)地方城下町の近代
(13)北海道と開拓都市・札幌の展開
(14)まとめ2

履修上の注意

授業は定刻に始めるので、遅刻をしないようにすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

学期中に複数回、それまでの授業内容に関する小テストを実施し, その書き込みにもとづき習熟度をはかる。小テストの詳しい実施方法については授業中に説明する。

教科書

松山恵『都市空間の明治維新』(筑摩書房、2019 年)。講義では、パワーポイント(絵図や写真などの教材)をもちいた説明をおこなう。

参考書

授業のなかで随時提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業中、ないし Oh-o!Meiji を通じておこなう。

成績評価の方法

上述の「小テスト」の提出状況および書き込み内容によって判定する。小テストの詳しい実施方法については授業中に説明する。

その他

授業形式については「対面」を想定しているが、特段の事情が発生した場合には「ハイブリッド型(対面とオンラインの併用)」などへと切り替えるとともに、授業内容にも一定の変更を加える可能性がある。
引き続き、日本文化史 II(秋学期開講)を履修することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)HIS111J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文化史Ⅱ	**日本文化史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 友一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本文化の基層を知ると、現代にまで繋がる事項も多い。
現在の日本文化のアイデンティティーの出発点である古代の文化を概説する。
本講義を通じて、日本の通史的理解に大筋を見出せるように、
かつグローバル化する者会の中で日本人の立ち位置を理解し、多様性がある考え方を養成する。

授業内容

1　日本文化史Ⅱ受講にあたって／導入・先史時代の文化　（中村） 9／30
2　古墳時代の文化　（中村）10／7
3　飛鳥時代の文化　（中村）10／14
4　日本列島における文字使用のはじめ－漢字・国字と則天文字－（荒井）10／21
5　奈良時代の文化　（中村）10／28
6　渡来文化の一端　舶来土器・クキと丹参（荒井)11／4
7　平安時代前期の文化（中村）11／11
8　平安時代中・後期の文化（中村）11／18
9　古代の文化とジェンダー（中村）11／25
10 自然災害(地震・噴火)と古代史料・地震痕跡（荒井）12／2
11 古代の食文化　（中村）12／9
12 その他の宗教文化史　（中村）12／16
13 鎌倉・室町期の文化概観　（中村）1／13
14 織豊期の文化概観　（中村）1／20
※順番は前後する可能性があります

履修上の注意

講義科目であるが出席とランダムに行われるコメントペーパーへの対応を求めます。
理解力を計ると共に、その都度授業への意見も取り入れられるようにします。
授業の妨げとなるような長時間の私語や大声、食事などは退出してもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

とくに準備学習は必要ないが、基本的用語などの質問は控えて欲しい。
用語集や簡便な辞典で各自で調べるように。

教科書

レジュメ類を配付するのでとくに使用しない。

参考書

家永三郎『日本文化史』第二版, 岩波新書, 岩波書店, 1982 年
川崎庸之・笠原一男『宗教史』体系日本史叢書, 1964 年
中村友一『日本古代の氏姓制』八木書店, 2009 年
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史　社会・史料編』吉川弘文館, 2020 年
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史　政治・外交編』吉川弘文館, 2020 年
新古代史の会編『人物で学ぶ日本古代史　1・2・3』吉川弘文館, 2022 年
『性差の日本史』国立歴史民俗博物館監修, 集英社, 2021 年
他, 各回の授業時に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時のコメントやプリントなどに反映させる。
オー明治の活用などでフィードバックする。

成績評価の方法

平常点 50 点・レポート 50 点。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT391J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文芸思潮史A	**日本文芸思潮史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

俳諧は江戸時代に確立された文芸であるが、それは日本文化全般に底流する「俳諧的精神」とも呼ぶべきものに支えられている。その精神のあり方を芭蕉を頂点とする俳諧史の中に探っていく。

授業内容

第1回 連句文芸史概説・参考文献の紹介
第2回 連歌略史:『菟玖波集』『新撰菟玖波集』
第3回 俳諧の連歌:『犬筑波集』『竹馬狂吟集』
第4回 貞門から談林へ:松永貞徳・西山宗因・井原西鶴
第5回 芭蕉の生涯
第6回 俳諧歌仙の作法
第7回『芭蕉七部集』の展開―蕉風俳諧の成立と展開
第8回『冬の日』『狂句こがらしの巻」第１講 発句～第 18 句
第9回『冬の日』『狂句こがらしの巻」第２講 第 19 句～挙げ句
第 10 回『ひさご』『木のもとにの巻」
第 11 回『猿 簑』『灰汁桶の巻」
第 12 回『猿 簑』『鳶の羽の巻 」
第 13 回『炭 俵』『梅が香の巻」
第 14 回 俳諧から俳句へ

履修上の注意

授業で言及した論文や文献について随時レポートが課す。

準備学習(予習・復習等)の内容

芭蕉や俳諧史について自ら調べ、また、作品を読まなければならない。

教科書

クラスウェブにデータをアップする。

参考書

桜井武次郎『連句文芸の流れ』(和泉書院)、新日本古典文学大系『芭蕉七部集』（岩波書店）

課題に対するフィードバックの方法

レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(30%)・レポート(30%)・試験(40%)の 3 点について評価を下す。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
日本文芸思潮史B	**日本文芸思潮史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
日本の小説史の中でも、江戸時代は極めて多くの小説が刊行された時期である。この授業では、近世小説史の展開を跡づけながら、「小説とは何か」をテクスト論的に考えていきたい。

授業内容
●授業内容
第 1 回 近世前期小説史概観
第 2 回 御伽草子・奈良絵本
第 3 回 仮名草子:
第 4 回 浮世草子:井原西鶴
第 5 回 浮世草子:西鶴以後
第 6 回 近世後期小説史概観
第 7 回 洒落本
第 8 回 黄表紙
第 9 回 合巻
第 10 回 前期読本
第 11 回 後期読本
第 12 回 戯作とは何か?
第 13 回 様々な「小説」概念
第 14 回 近代小説への架構

履修上の注意
授業で扱った作品についてのレポートを課す。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業内で扱った作家・作品について自ら調べ、また、作品を読まなければならない。

教科書
授業資料はウェブにアップする。

参考書
ドナルド・キーン『日本文学の歴史』第7～9巻・近世篇1～3(中央公論社)

課題に対するフィードバックの方法
レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法
授業への参加態度・予習復習(30%)・レポート(30%)・試験(40%)の 3 点について評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)INF991J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
人間と情報	**人間と情報 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
小久保 秀之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
到達目標:
現代における人間と情報の関係を、幅広い視野から捉えて考察できるようにする。

授業の概要:
「人間はコンピュータなのか」「人工知能は心をもつ機械なのか」「人間は結局のところ機械なのか」という問題がある。これを考えるには、宇宙を構成する要素としての人間や、社会の構成要素としての人間など、さまざまな視点から幅広く議論する必要がある。この授業では「人間」と「情報」をキーワードとして、現在の情報社会における人間についての問題を通覧する。

授業内容
第 1 回:人間と情報
第 2 回:情報とは何か 生物と情報・エントロピー
第 3 回:宇宙の進化と生物の進化
第 4 回:生物の環境適応 地磁気と生物
第 5 回:生物の進化と心の問題
第 6 回:人工知能(1) アルゴリズムとカオス
第 7 回:人工知能(2) 意味の問題
第 8 回:人工知能(3) 総合的判断と暗黙知
第 9 回:心のありか
第 10 回:心と時間
第 11 回:認識と世界 人間原理、共時性、多世界解釈
第 12 回:ミドルワールド ランダムと非ランダムの混じった世界
第 13 回:人間社会と高度情報化
第 14 回:真の情報と偽の情報

履修上の注意
日本語で授業します。
質問は授業時間内に受け付けますが、メールでも受け付けます

準備学習(予習・復習等)の内容
Oh-o!Meiji に掲載の資料を使って予習・復習をしながら授業にのぞむこと。

教科書
指定なし。

参考書
「だまされ上手が生き残る～入門！進化心理学」, 石川幹人, 光文社新書, 2010 年
Kindle 版が出版されているので、そちらを参照してください。「進化心理学入門」, カートライト, 新曜社
「安心社会から信頼社会へ」, 山岸俊男, 中公新書(Kindle 版が入手可能です)

課題に対するフィードバックの方法
レポート課題は採点後に総評を Oh-o! Meiji で連絡する予定です。

成績評価の方法
レポート課題:6 割
平常点(授業に対する取り組み):4 割

なお、レポートを作成するときは、以下の点に注意してください。
1. 薄っぺらい本でいいので、レポート(報告書)・論文の書き方を紹介した本を読んで勉強してください。
2. レポートは、内容だけでなく、様式も評価の対象です。適切な改行、見出し設定などのレイアウトがされていないものは採点対象外、あるいは評価を下げます。。
3. サイトに載っている記事や文献を引用・参照していいですが、引用文と出典を適切に本文に記してください。また文献一覧を付けてください。
4. 引用・参照するときは、その文書が参照している元の記事が正しいことを可能な限り確認してください。
5. レポートは MS ワード、または PDF でオー・メイジで提出してください。指定外の形式で提出された場合は未提出として扱います。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ノンフィクション研究	**小説研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯　和香子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

日本民俗学の基礎を築いた柳田國男の著作『女性と民間伝承』を取り上げる。これは大正 15 年4月から昭和2年 11 月まで『婦女新聞』に連載され、昭和7年に刊行された、柳田の女性観がうかがえる論考である。全国各地に残る和泉式部や小野小町の伝説は、誰によってどのように伝播・伝承されてきたのか。なぜ和泉式部の墓が各地に存在するのか、という疑問から始まるこの論考を手がかりとして、昔話や伝説を管理しつつ、これを全国に運んで歩いた人々について考えてみたい。

口承文芸の伝播および伝承のありようについて理解することを到達目標とする。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)和泉式部の伝説
(3)伝説「和泉式部の足袋」
(4)和泉式部の墓
(5)夢の話
(6)歌の力
(7)みのかさの歌
(8)和泉式部と小野小町
(9)話の運搬者
(10)女性の芸能者・宗教者
(11)熊野比丘尼・瞽女
(12)小野氏の伝承
(13)話の泉
(14)まとめ

履修上の注意

第一回の授業で履修上の注意点について説明するので必ず出席すること。

授業時に小レポートを課すことがある。また、特段の事情がある場合を除いて授業中のノートパソコンの使用は不可とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回ランダムに指名してテキストを読んでもらう。読みにくい漢字が多いので、テキストにはあらかじめ目を通し、読めるようにしておくこと。

教科書

授業時にプリントを配布する。

参考書

『柳田國男全集』(筑摩書房)、『柳田國男事典』(勉誠出版)など。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度(40%)および期末試験(60%)によって評価する。2/3以上の出席を単位認定の前提とする。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
発達心理学	**発達心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
早川　貴子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

人がどのような過程を経て成長発達するのかについて概説する。特に、乳幼児期から児童期までの認知、言語、社会性、情動自己などの領域の発達について、主要な理論や研究を紹介しながら基礎的な内容を講義する。

本講義を通じて、自分自身についてだけでなく、子どもやおとなにまつわる社会問題について、講義の内容と照らし合わせながら考えることで、発達心理学の理解を深めてほしい。

授業内容

第1回 a:イントロダクション
b:発達心理学とは何か
第2回 ： 発達心理学の概論
第3回 ： 胎児期の発達
第4回 ： 乳児期の発達
第5回 ： アタッチメントと親子関係の問題
第6回 ： 身体・運動の発達
第7回 ： 認知の発達
第8回 ： 言語の発達
第9回 ： 情動の発達・他者認知
第 10 回 ： 社会性の発達(1) 幼児期までの仲間関係の発達
第 11 回 ： 社会性の発達(2) 児童期以降の仲間関係の発達
第 12 回 ： 発達に難しさを抱える子どもとその支援
第 13 回 ： 自己の発達と中年期・老年期(高齢者)の発達
第 14 回 a:まとめ
b:試験

履修上の注意

レジュメは、事前に Oh-o!Meiji にアップされているので、各自ダウンロードしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布するレジュメの内容を確かめておくこと。また、授業および授業で使用したプリントを振り返り、授業内容について復習すること。不明な部分があれば授業で質問すること。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

・レポートについては個々にフィードバックを行う。
・最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、レポート 10%、期末試験 80%で評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア近現代史概説	**東アジア近現代史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高田 幸男	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中国を中心に 19 世紀末から現在にいたる東アジア近現代史を概観し、現在の東アジア情勢を見る歴史的視座を養う。

授業内容

まず、本講義の概要・到達目標を説明したのち、アンケートを実施して受講者の東アジア・中国に対する認識傾向を確認する。次いで、日本の中国近現代史研究の変遷を概観し、研究の諸課題を提示する。そして、19 世紀半ば以降現在にいたる中国を、ただ時系列にみるのではなく、各時代の事象を現在との関連でとらえ、現在への視角を提示する。

(1)a:イントロダクション、b:受講者アンケート
(2)アンケート結果にみる受講者の東アジア・中国認識
(3)東アジア・中国近現代史研究の変遷
(4)東アジア・中国にとっての近世・近代
(5)20 世紀初頭の世界と中国
(6)地方の時代―地方の視点
(7)民族運動の展開―革命史観
(8)自立への模索―国家建設
(9)抗日戦争―日本との葛藤
(10)台湾と香港
(11)中国社会主義の迷走
(12)改革開放の曲折
(13)現代の中国・台湾・香港
(14)a:期末試験、b:出題の意図と正答の解説
以上は、大まかな流れであり、変更の可能性がある。

履修上の注意

通常の講義はまず最初の 20 分ほどで、前回の質問に答え、ポイントを確認したのち、新しい内容に入る。毎回、疑問点等の質問や感想を書いてほしい。また、授業時間内に発言することも歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

中国近現代史の大まかな流れを掴んでおくことが大事なので、あらかじめ教科書をはじめ、参考書に示した概説書・通史などに目を通しておくこと。授業は教科書の内容をなぞるのではなく、予習を前提に重要な事項・視点を提示する。

教科書

久保亨・高田幸男ほか『現代中国の歴史 第2版―両岸三地 100 年のあゆみ』(東京大学出版会)。さらに、次回授業に関する配布プリントを、事前に Oh-o!Meiji にアップする。

参考書

田中比呂志・飯島渉編『中国近現代史研究のスタンダード』(研文出版)、『シリーズ 20 世紀中国史』全 4 巻(東京大学出版会)、中村元哉ほか『概説中華圏の戦後史』(東京大学出版会)、泉谷陽子ほか『やさしい中国近現代史』(勉誠社)など。毎回のテーマに関連する文献は随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

成績は、期末試験の成績を基礎に、授業態度を加点して評価する(期末試験の成績 70%、平常点・授業態度 30%)。期末試験は教科書、配布プリント、ノート持ち込み可とするが、授業内容をよく理解しないと解答できない問題を出す。

その他

第1回に実施するアンケートは、履修者の東アジア・中国に対する認識傾向を確認するために実施するものであり、結果は第2回以降で過去の結果と比較する以外に使用しない。

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア近現代史探究	**東アジア近現代史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
関 智英	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1945 年 8 月、日中戦争は日本の敗北で終わった。中国では抗戦に勝利した中華民国の指導者蒋介石のもと、新たな国作りが進められるかに見えた。しかし、日中戦争中から続いていた国民党と共産党の水面下での対立は内戦へと発展した。当初は国民党の優勢と見られていたが、経済政策の失敗や政権の腐敗などから人心は急速に国民党から離れ、1949 年 10 月には北京で中華人民共和国が成立し、中華民国政府は台湾へ逃れた。この 4 年間は中国にとって極めて大きな変化であったと言えよう。ただ日中戦争と中華人民共和国成立という大事件の狭間にあることもあり、この 4 年間の動向について、日本では必ずしも注目されてきたわけではない。本講義では国共内戦の 4 年間に焦点を合わせ、国内政治・国際政治、経済、社会といった問題から検討する。

授業内容

第1講 国共内戦を目撃した日本人
第2講 近代中国の政党――議会による政治と党による政治
第3講 国共合作――国民党と共産党の提携
第4講 国共の分裂――国民党の弾圧と共産党の抵抗
第5講 西安事件と日中戦争
第6講 日本の敗戦と国共の動向――1945 年の動向
第7講 国共内戦勃発――1946 年の動向
第8講 形勢の転換――1947 年の動向
第9講 共産党の攻勢――1948 年の動向
第 10 講 中華民国の撤退と新体制の樹立――1949 年の動向
第 11 講 満洲――戦後の共産党根拠地――の動向
第 12 講 内戦と少数民族地域――内モンゴル・チベット・新疆の動向
第 13 講 中華人民共和国成立後の「内戦」――二つの中国
第 14 講 国共内戦を振り返って(a:まとめ b:試験)

履修上の注意

高校世界史・高校日本史の近現代の知識を再整理しておくことが望ましい。1日5分程度でもよいので、新聞に目を通す習慣をつけて欲しい。新聞の国際面を読んでおくと授業のきっかけになるだろう。新聞が難しければ NHK ニュース・クローズアップ現代・NHK スペシャルなどの視聴を薦める。また参考文献に挙げた書籍を各自読んでおくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習……参考文献の関連事項を把握しておくとよい。
復習……授業内容を整理し、疑問点があれば整理しておくとよい。

教科書

特に指定せず毎回レジュメを配布する。

参考書

・姫田光義編著『戦後中国国民政府史の研究―1945-1949 年』中央大学出版部、2001 年。
・飯島渉・久保亨・村田雄二郎編『シリーズ 20 世紀中国史(全4巻)』東京大学出版会、2009 年。
・吉澤誠一郎他『シリーズ 中国近現代史(全6巻)』岩波新書、2010 年。
・波多野澄雄・久保亨・中村元哉編『日中戦争の国際共同研究 6 日中終戦と戦後アジアへの展望』慶應義塾大学出版会、2017 年。
・久保亨他『現代中国の歴史(第二版)―両岸三地 100 年のあゆみ』東京大学出版会、2019 年。
・関智英『対日協力者の政治構想―日中戦争とその前後』名古屋大学出版会、2019 年。
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学―アジア・アフリカへの問い 158』ミネルヴァ書房、2022 年。
・ラナ・ミッター著、関智英監訳『中国の「よい戦争」―甦る抗日戦争の記憶と新たなナショナリズム』みすず書房、2022 年。
・中村元哉・関智英他『概説 中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。
これ以外にも、岩波新書・中公新書・ちくま新書などで関心を持った書籍に積極的にチャレンジしてほしい。

課題に対するフィードバックの方法

コメントのうち優れたものは次回授業で紹介し、適宜解説をおこなう。

成績評価の方法

授業毎のコメント(50%)と学期末試験(50%)で評価する。
【重要】コメント提出の方法
・コメントの提出をもって出席と判断する。
・コメントは授業に参加した方のみ提出できる(欠席者は提出できない)。
※特殊な事情で出席できない場合は個別に知らせること。例外措置を認める場合あり。
・授業開始時に出席票(氏名・フリガナ記入)を提出する。これを元に指名する。
・授業終了後 24 時間以内に参加者にはコメント記入用の google form の URL を送付する。
・各自コメントを記入する。締切は授業実施週の土曜日 24 時。
例)9 月 24 日(木)の授業コメント⇒締切は 9 月 26 日(土)24 時

その他

・毎回授業の最後にコメントを集め、講義を進める際の参考とする。また講義では問答・対話を重視する。問いに如何に応えるか。これは学問の世界のみならず、社会に出てからも常に必要とされる。間違いを恐れず、一歩前へ！
・受講者のレベルや受講環境によって内容を変更する場合がある。

科目ナンバー:(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア近世史概説	**東アジア近世史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
櫻井 智美	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

11-14 世紀の東ユーラシアの状況について、各王朝の興亡と国際関係を概観した後、宋・大元の政治・制度・文化の関係性について、研究史を振り返りながら解説する。

本講義を通して、中国を中心とする東ユーラシアの歴史展開を理解し、各王朝の政策の意図や被支配者の反応、王朝の持続や衰退の原因について考察する。また、「第二次南北朝」や「モンゴル時代史概念」など、新しい歴史研究の潮流について考え、高校世界史・アジア史概説における認識を一歩進めることを目標とする。

授業内容

1 契丹の建国から崖山の戦いまで:第二次南北朝
2 高校教科書の記述と各王朝の位置づけ
3 北宋の政治制度と司馬光『資治通鑑』
4 南宋をめぐる国際関係と朱子学の成長
5 オゴデイによる華北支配開始モンケ期の文化政策
6 モンケ期の道教と儒学:朱子学の北伝
7 クビライ期前半の宗教・文化政策
8 南宋接収の意味とその後の宗教・文化政策
9 テムル期の東西和合と至元 31 年「崇奉儒学聖旨碑」
10 大徳 11 年「加号孔子聖詔」と近年における石刻研究の展開
11 アユルバルワダ期の科挙の復活とチベット仏教
12 トク・テムルからトゴン・テムルへ:奎章閣学士院の設立
13 モンゴル統治者による中国的祭祀の展開
14 a 中国監察制度史上における宋・大元の位置づけ b テスト

履修上の注意

特に無し。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分が興味を持つ時代や地域の状況と比較しながら、問題意識を持って授業に臨むこと。授業で紹介された文献を 2 冊は読むこと。

教科書

使用しない。プリントを配布する。

参考書

『宋代とは何か―最前線の研究が描き出す新たな歴史像』(平田茂樹他編、勉誠出版、)、『モンゴル帝国の興亡』上下(杉山正明、講談社)、『元朝の歴史―モンゴル帝国期の東ユーラシア』(櫻井智美他編、勉誠出版)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

コミュニケーションペーパーの内容 35%、テスト 65%。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS222J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア近世史探究	**東アジア近世史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
森本 創	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

宋代を中心とした 10～13 世紀の東アジア史に関心を持っている学生を対象とします。2000 年代以降の研究状況を踏まえ、ユーラシア大陸東部の時代像が従来の歴史理解からどのように変化しているのかを講義します。

本授業の主題は 10～13 世紀の東アジア史ですが、研究の進展によって従来の歴史叙述が変化することは、日本でも西洋史でも同様です。卒業論文を作成する際に先行研究の整理は必要となりますので、歴史学の普遍的な取り組みを理解するための一助として下さい。

①授業では、毎回異なるテーマで講義を行います。学生は、毎回のテーマで扱う問題について、時代像と 2000 年代以降の研究状況を踏まえた変化を記述できるようにして下さい。
②授業では、研究の進展による歴史叙述の変化を講義します。学生は、歴史学に共通する手続きの修得として、最終的には自身の関心ある地域・時代でも応用できるよう、その分野の研究状況を自分なりに理解・整理することを目指して下さい。

授業内容

第 1 回:イントロダクション
第 2 回:ユーラシア大陸東部の生態環境と東洋史学①―新しい歴史観の構築へ―
第3回:ユーラシア大陸東部の生態環境と東洋史学②―ユーラシアの多元世界―
第 4 回:ユーラシア大陸東部の生態環境と東洋史学③―「大中国」と「小中国」―
第5回:ユーラシア大陸東部の生態環境と東洋史学④―境界とグローバル・ヒストリー―
第6回:10～13 世紀の中華世界と時代像①―中国史研究の時代区分論と唐宋変革論―
第7回:10～13 世紀の中華世界と時代像②―中国の「近世」をめぐる議論―
第8回:10～13 世紀の中華世界と時代像③―中国の伝統社会の構造と科挙―
第9回:10～13 世紀の中華世界と時代像④―宋代の独裁君主制と“風流天子”徽宗の再評価―
第 10 回:中央ユーラシアからの視座①―草原地帯からみる宋代史像の変化―
第 11 回:中央ユーラシアからの視座②―宋代の「武」の位置付けについて―
第 12 回:中央ユーラシアからの視座③―ユーラシア東方の国際関係―
第 13 回:中央ユーラシアからの視座④―ユーラシア東方の境界世界―
第 14 回:中央ユーラシアからの視座⑤―モンゴルの衝撃とチベット―

履修上の注意

原則として対面形式で行います。授業は講義形式で行いますが、毎回の理解度を確認するためにリアクション・ペーパー(感想・質問など)を提出してもらいます。なお、「授業内容」は、授業の進捗状況や学生の興味・関心に合わせて変更する場合があります。

受講にあたって、高校の「世界史」教科書で記載されている程度の 10～13 世紀の東アジア史の知識は、事前に把握していることが望まれます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布するレジュメの該当箇所を振り返り、不明な部分があればリアクション・ペーパーで質問すること。また、次の回の内容についてレジュメや参考書に目を通しておくこと。

教科書

使用しない。毎回プリントを配布する。

参考書

①『論点・東洋史学―アジア・アフリカへの問い 158―』吉澤誠一郎監修(ミネルヴァ書房)2022 年 1 月
②『グローバル・ヒストリー』妹尾達彦(中央大学出版部)2018 年 4 月

各回の参考書及び文献は、講義内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて、授業時間内での解説や講評、クラスウェブのコメント機能にてフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点……60 点
レポート……40 点

平常点は、毎回のリアクション・ペーパーや授業への取り組みなどで評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア古代史概説	**東アジア古代史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「秦・漢帝国の歴史」

前漢時代(前 3 世紀末～後 1 世紀初)の時代は、後の中華王朝に多大な影響を与えた時期である。近年、出土史料の増加と研究の進展により、秦・漢帝国像は 30 年前に考えられていたものとは相当異なってきている。そこで本講義では、なるべく最新の知見から秦漢帝国を概観し、受講者に最初の中華帝国の姿を理解してもらうことを目的としたい。

授業内容

第一回 はじめに
第二回 秦の発展
第三回 秦の統一とその崩壊
第四回 楚漢戦争
第五回 前漢前半期
第六回 呉楚七国の乱
第七回 武帝の時代
第八回 前漢後半期
第九回 王莽の政策
第十回 両漢交替期と光武帝
第十一回 後漢前半期
第十二回 後漢後半期
第十三回 後漢と異民族
第十四回 まとめ

履修上の注意

1、高校世界史 B(世界史探求)程度の中国古代史の知識は確認しておくこと。
2、板書を多用するので、毎回ノートをしっかりとり、整理するように。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習…前回の内容をノート・配布資料に基づき確認しておく
復習…講義内容のメモを整理してノートを作成する

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

特に指定はないが、ガイダンス時に数点掲げるので、必要に応じて図書館などで見てもらいたい。

課題に対するフィードバックの方法

講義中で説明

成績評価の方法

定期試験(100%)に基づいて判定する。

その他

各種連絡(試験の詳細など)は講義中に実施するが、急に大きな変更が生ずる場合もあるので、大学からの通知や Oh-o!Meiji については毎週 1 度は確認してもらいたい。なお、資料については印刷物として教室で配布するものとし、Oh-o!Meiji での配布は原則的に実施しない。

科目ナンバー:(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア古代史探究	**東アジア古代史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 武幸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「西北辺郡からみた漢帝国」

前 3 世紀から後 3 世紀にかけて中国を支配した漢帝国は、西北辺境の異民族との関係に苦心し続け、漢帝国の対異民族政策は、のちの中国王朝にとっても振り返るべきモデルケースとなっていった。この西北辺境の状況は、20 世紀から続く簡牘史料の利用と、それにともなう文献史料の見直しにより、単なる辺境の話ではなく、漢帝国全体の状況とも深いかかわりを持つ事柄であることが判明してきた。
本講義では、簡牘史料の内容を多用しながら、西北辺郡から漢帝国を見直していきたいと考えている。

授業内容

第一回 はじめに
第二回 漢と匈奴の戦い
第三回 河西回廊の奪取
第四回 河西四郡の成立
第五回 河西四郡防衛機構
第六回 河西四郡の兵士たち
第七回 河西四郡と関東の戍卒
第八回 前漢後半期における河西での対匈奴戦の状況
第九回 河西地域社会と辺境防衛機構
第十回 河西に対する物資供給の状況
第十一回 河西回廊の異民族たち
第十二回 後漢西北辺郡の状況と羌の大反乱
第十三回 西北異民族統御官と後漢衰亡
第十四回 まとめ

履修上の注意

1、高校世界史 B 程度の中国古代史の知識は確認しておくこと。
2、板書を多用するので、毎回ノートをしっかりとり、整理するように。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:前回までのノートによって論点をとらえなおしておく。
復習:ノートをまとめなおしておくとともに、不明な語句などについて、各種工具書で調べる。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

特に指定はないが、ガイダンス時に数点掲げるので、必要に応じて図書館などで見てもらいたい。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

定期試験(100%)に基づいて判定する。

その他

大学からの知らせやOh-o!Meijiの確認を欠かさないでもらいたい。

科目ナンバー:(AL)HIS221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア中世史概説	**東アジア中世史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
津田 資久	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

本授業は、東アジアの中世史、とりわけ 3～10 世紀までの、中国の魏晋南北朝・隋唐史の歴史的展開について概説を行うものです。統一帝国である後漢の崩壊から未曽有の大分裂の時代を経て、後漢とは異なる枠組みで再構築された隋・唐帝国の出現と崩壊までを扱います。

〔到達目標〕

以下の4点を設定します。

1. アジア史における中国魏晋南北朝・隋唐時代の特徴を説明できる。
2. 魏晋南北朝・隋唐史が、これまでどのようなテーマから議論されてきたかを具体的に説明できる。
3. 教材資料をふまえつつ、漢族・胡族の関係を指摘できる。
4. 教材資料をふまえつつ、魏晋南北朝・隋唐に関する歴史史料の抱える問題点を提示できる。

授業内容

第1回　ガイダンス:授業内容に関する概要の説明、魏晋南北朝・隋唐時代史に関する史料・文献の紹介
第2回　後漢の崩壊
第3回　三国の鼎立
第4回　三国の抗争
第5回　三国の終焉と西晋による再統一
第6回　「八王の乱」から西晋の滅亡へ
第7回　江南亡命政権・東晋の興亡
第8回　華北戦国時代:「五胡十六国」の消長
第9回　北朝の出現:北魏の時代
第 10 回　南朝の貴族社会
第 11 回　南北朝後期の抗争から隋による再統一
第 12 回　東アジア帝国としての唐
第 13 回　「安史の乱」から「黄巣の乱」へ
第 14 回　そして五代十国、北宋へ

履修上の注意

ある程度、漢文史料を扱うことから、漢文読解に関する授業を既に修得していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について事前に参考書等で調べておくこと。
また教材資料を事後に再読して、内容の把握を深めること。

教科書

教材資料(配布ないし Oh-o!Meiji にアップ)を使いますので、特に指定しません。

参考書

受講に際しては、下記のいずれかを事前に通読しておくことが望ましい
①中国通史
・津田資久・井ノ口哲也『教養の中国史』(ミネルヴァ書房、2018 年。ISBN:9784-623-08031-1)など。
②六朝時代史
・川勝義雄『魏晋南北朝』(1974 年初出。講談社学術文庫、2003 年、ISBN:4-06159595- 4)
・川本芳昭『中国の歴史 5 中華の崩壊と拡大』(2005 年初出。講談社「講談社学術文庫」、2020 年、ISBN:978-4-06-521906-5)
・会田大輔『南北朝時代―五胡十六国から隋の統一まで』(中央公論新社「中公新書」、 2021 年、ISBN:978-4-12-102267-5) など。
③隋唐時代史
・平田陽一郎『隋―「流星王朝」の光芒』(中央公論新社「中公新書」、 2023 年、ISBN:978-4-12-102769-6)
・森部豊『唐―東ユーラシアの大帝国』(中央公論新社「中公新書」、 2023 年、ISBN:978-4-12-102742-9) など。
また携帯用の漢和辞典も手元においておき、中国史に関する用語を調べるのが望ましい。 実用的な辞典として以下のものを挙げておきます。
・『角川新字源』(角川書店)
・『全訳漢辞海』(三省堂) など。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①評価の前提として、単位修得には 10 回以上の出席を要します。
②具体的な成績の評価方法は下記の通りです。
・期末レポート:60%
・毎回の授業内容まとめ:40%

その他

科目ナンバー:(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
東アジア中世史探究	**東アジア中世史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
津田 資久	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

〔授業の概要〕

本授業は、唐代に成立した六朝(孫呉、東晋、劉宋、南斉、梁、陳)通史である、許嵩『建康実録』の特色を検討する講義です。

『建康実録』は基本的に『三国志』、『晋書』、『宋書』、『南斉書』、『梁書』、『陳書』などの中国「正史」をダイジェストして作られた簡略な歴史書ですが、それらには見えない別の史料源も用いて撰述されており、独自の価値を持つ貴重な文献史料ですが、その一方で、杜撰な節略による原史料の誤読や、流伝における版本の少なさから 誤字・脱字や部分的な散佚があちこちに見られます。そのため、これまでの六朝史の研究には積極的に活用される機会が極端に少なかったことが指摘されます。それゆえ、十 分な基礎的な検討もあまりなされていない現状にあります。

以上の問題関心により、本授業では『建康実録』の主要な研究課題に対する検討を通じて、本書の特徴を明らかにすることを目的とします。

〔到達目標〕

以下の4点を設定します。

1.『建康実録』がどのような漢籍「史部」における位置づけにあるかを説明できる。
2.『建康実録』の独自の史料価値を有する歴史書であるかを具体的に説明できる。

授業内容

第 1 回　ガイダンス:授業に関する概括的な方針の説明、『建康実録』の構成と現状
第 2 回『建康実録』に対する従来の評価
第 3 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(1):孫呉
第 4 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(2):東晋
第 5 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(3):劉宋
第 6 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(4):南斉
第 7 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(5):南斉に附録された「 魏虜伝」
第 8 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(6):梁と侯景
第 9 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(7):もう一つの南朝・後梁
第 10 回『建康実録』に描かれた六朝史とその特色(8):陳
第 11 回『建康実録』の独自記事の諸問題
第 12 回『建康実録』の成立年代に関する問題
第 13 回『建康実録』の叙述傾向
第 14 回『建康実録』の撰述目的

履修上の注意

中国古代史に関する授業ですので、ある程度、前年度までに中国史・漢文訓読・中国語に関する基礎的な授業を履修していることが望ましい。 基礎的知識が十分でない場合には、内容理解に困難を伴いますので、別途自習をお願 いします。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について事前に参考書等で調べておくことと、事後、教材資料を再読して理解を深めること。

教科書

教材資料(配布ないし Oh-o!Meiji にアップ)を使いますので、教科書は指定しません。

参考書

受講に際しては、下記のいずれかを事前に通読しておくことが望ましい。
①中国通史
・津田資久・井ノ口哲也『教養の中国史』(ミネルヴァ書房、2018 年。ISBN:978 4-623- 08031-1)など。
②六朝時代史
・ 川勝義雄『魏晋南北朝』(1974 年初出。講談社学術文庫、2003 年、ISBN:4-06 159595- 4)
・ 川本芳昭『中国の歴史 5 中華の崩壊と拡大』(2005 年初出。講談社「講談社学 術文庫」、2020 年、ISBN:978-4-06-521906-5)
・ 会田大輔『南北朝時代 五胡十六国から隋の統一まで』(中央公論新社「中公新 書」、2021 年、ISBN:978-4-12-102267-5)など。
また携帯用の漢和辞典も手元においておき、歴史用語を調べるのが望ましいので、実用的な辞典として以下のものを挙げておきます。
・『角川新字源』(角川書店)
・『全訳漢辞海』(三省堂) など

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

①成績評価を行うに当たっての前提として、10 回以上の出席を要します。
②具体的な成績の評価方法は、下記の通りです。
・期末レポート:60%
・毎回の授業内容まとめ:40%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
批評理論	**批評理論**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 氏貴	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

作品を読み解くにあたり、たんなる個人の感想を越えて、客観的な価値をもった批評をするためには、どれほどその作品を愛し、自分なりに深く読み込んだつもりでいても、無手勝流のままでは不可能なのは言うまでもない。それなりの方法論が必要である。特に 20 世紀後半において、文学の世界ではさまざまな批評理論が生まれ、読みの可能性を広げてきた。そのうちの代表的なものにあたり、またそれを実際に作品にあてはめて読むトレーニングを行う。

到達目標は、身に着けた理論をもって、自分の好きな作品に新たな、かつ客観的価値を持つ読みができるようにすることである。そのときの作品とは、必ずしも狭義の文学作品に限らない。批評理論は漫画、アニメ、美術、さらには文化事象一般にも敷衍できるものである。

授業内容

1 イントロダクション なぜ理論が必要か
2 批評の起源
3 解釈の方法論
4 道徳的批評
5 精神分析批評
6 構造主義
7 解釈学
8 脱構築
9 フェミニズム批評
10 ジェンダー批評
11 カルチュラルスタディーズ
12 ポストコロニアリズム
13 新歴史主義
14 まとめ

履修上の注意

理論はあくまで方法論であり手段である。目標点ではない。授業後にこの手段を用いて、授業後に履修者が各自自分の選んだ作品と切り結ぶことを望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書を予習しておくこと。

教科書

伊藤氏貴『読む技法』中公新書

参考書

筒井康隆『文学部唯野教授』(岩波書店)
廣野由美子『批評理論入門』(中公新書)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

期末にテストを行う。加えて任意で批評の実践としてレポートを課す。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅰ	**表現・創作ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
柳澤 幹夫	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文章表現の基礎的認識、表現事例の分析、表現の実践といった形で授業を展開する。

具体的には,「文」の基本構造の捉え直し、言葉で表現するということへの自覚、表現の技術の習得、表現ジャンルにおける言葉のあり方への認識、そして、実作とそれに対する他者の評価を知るといった過程を通し、自己のこれまでの文章表現に関する省察と覚醒を春学期の目標とする。

授業内容

「文を書く」という行為において自らが何を行っていることになるのか、それを改めて再確認するところから入ろうと思う。それは必然的に、日本語の「文」の〈構造〉を意識化し、捉え直すことにもなろう。

これに続けて、「言語表現」の各ジャンル(エッセイ・小説・詩・短歌・俳句)における「言葉」のあり方と〈技法〉を解析し、自らの表現へのヒントや参考例を獲得していきたいと思う。。

以上を、さまざまな作家、詩人、歌人、俳人等における実例を通して認識する。

また、以上の学習の実践演習として、〈エッセイ〉〈写生文〉〈物語文〉〈短文表現〉を創作してもらう。

これらの課題については相互に積極的かつ率直に批評し合う。そのことによって、他者には自分の文章がどのように映るのか、その読者の反応ということを実体験し、自己の表現を錬磨する契機としたい。

〔各回の講義内容〕
1 授業の目的・性質・展開・必要事項について + ある実践
2 「文」を再認識するａ― 連辞と範列(連合)
3 「文」を再認識するｂ― 散文の技法
4 「文」を再認識するｃ― レトリック・リズム(呼吸)・文体(課題 I「私」)
5 「文体」を認識するａ― 詩のレトリック
6 「文体」を認識するｂ― 短歌・俳句の言葉
7 「描写」の技法〈1〉
8 「描写」の技法〈2〉
9 「描写」の技法〈3〉(課題 II「最寄駅」)
10 「物語」の技法〈1〉
11 「物語」の技法〈2〉
12 「物語」の技法〈3〉(課題 III「一枚の写真」)
13 「短文表現」〈1〉 ―「俳句」
14 「短文表現」〈2〉 ―「短歌」

履修上の注意

この授業は各回の講義内容がそれぞれ次回へと有機的に連接していく性質を持っており、それらを踏まえて、〈書く〉→〈合評する〉という行程の中で表現意識・表現力を高めていこうとするものである。すなわち実践的プログラムとしての側面を強くもつため、授業への出席と表現意欲の強さが重要となる。欠席は基本的にしないという態勢及び意欲を持ちうる者、また、文章言語による表現・創作ということに積極的モチベーションを持つ者が望ましい。

上記の「授業内容」は「講義」の内容予定であり、それに加えて、課題 I・II の「合評」「概評」を授業の前半に時間を設定して行う。すなわち、第5回以降は、モジュールa=「学生作品の合評・概評」、モジュールb=「上記の授業内容の講義」という授業構成となる。

また、場合によっては、学生間の「合評」をクラスウェブの「ディスカッション」のコーナーでやってもらい、それを受けての「概評」を私がモジュールaで行うという方式をとることもある。

準備学習(予習・復習等)の内容

・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの課題作品を構想し、アイデアを練り上げ、書き上げること(指定期間までに自宅で書いて提出)。
・合評用の学生作品についての批評・添削を用意してもらうことがある。
・講義に使用する実例の表現について、分析を用意してもらうことがある。
・俳句、短歌を作る。
・上に記したように、「ディスカッション」上で合評をしてもらう可能性がある。

教科書

使用しない。適宜、プリントを配布する。

参考書

特に指定しない。授業の中で、適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題作品については、上記の通り、学生の合評を受けて、概評を行う。
授業内で提出した分析・感想等については、原則として翌週に返却し、講評を行う。

成績評価の方法

他者の作品に対する批評・発言、講義で取り上げた表現実例に対する分析、授業への取り組み=50% + 各課題=50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅰ	**表現・創作ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 雄生	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
文章表現の基礎的知識の修得と，その実践を中心として授業を展開する。具体的には，「日本語」の概念の捉え直し，日本語表記の問題点，編集・造本の知識と技術など，文章表現全般に関わる問題と技術を取り上げながら，実際に様々な文章を書く訓練を行う。

授業内容
近代・現代の文章論・日記・随筆等を鑑賞し、それらの文章の構成や表現の分析を通して、すぐれた文章とは何かという問題を考察する。

本授業の目的は、名文に触れるだけではなく、自分の言葉で、自分自身の問題意識や思考したことを、誰にでもわかるように書く、すなわち「自己表現の探求」というところにあります。

各回の内容
1 文章論の書き手
2 谷崎潤一郎「文章読本」
3 三島由紀夫「文章読本」・丸谷才一「文章読本」
4 中村明「名文」井上ひさし「説明文の伝達度」
5 森鷗外「独逸日記」
6 阿部次郎「三太郎の日記」 大宅壮一「大宅壮一日記」
7 文章論に関するレポートの講評
8 宮柊二「青春日記」 寿岳章子「過ぎたれど去らぬ日々」
9 大庭みな子「幸福な結婚」(随筆)
10 大宅歩「詩と反逆と死」・高野悦子「二十歳の原点」
11 高野悦子「二十歳の原点」
12 赤木智弘『丸山真男』をひっぱたきたい」
13 小林秀雄「信じることと知ること」(随筆)
14 小林秀雄に関するレポートを書く

履修上の注意
文章論と日記・随筆に関するレポートは 1000 字程度のレポートで、4 回課す予定である。題目はこちらから提示するときもあるし、自由なときもある。他に 400 字ぐらいのレポート課題を数回課す。欠席はできるだけしないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容
講義で取り上げる作品の著者について、あらかじめ調べておくこと。

教科書
特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書
谷崎潤一郎『文章読本』(中公文庫)
三島由紀夫『文章読本』(中公文庫)
丸谷才一『文章読本』(中公文庫)
本田勝一『日本語の作文技術』(朝日文庫)
清水幾太郎『論文の書き方』(岩波新書)

課題に対するフィードバックの方法
個人単位のフィードバックは、オー明治によって、全員に返信します。
7回目の講義で、文章論に関するレポートの講評をします。

成績評価の方法
授業への貢献度 20%、課題(4 回の 1000 字程度のレポート)80%。

その他
表現・創作ⅠBと合わせて受講してください。
原則、対面授業です。
万が一、休講になった時は、補講を行うのではなく、オンラインの授業を配信します。
プリントの配布やレポートの提出等は、オー明治を活用します。

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅰ	**表現・創作ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
廣岡 祐	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
文章表現の基礎的知識の修得と、その実践を中心として授業を展開する。「日本語」の概念の捉え直し、日本語表記の問題点、編集・造本の知識と技術など、文章表現全般に関わる問題と技術を取りあげながら、実際に様々な文章を書く訓練を行う。授業を通じてさまざまな作品の特徴をとらえ、「読むこと」から「書くこと」へのヒントをつかみ実践していく。 言葉のもつ力を心にとどめ、自覚的に、能動的に表現することのできる社会人をめざす。

授業内容
ネット社会の発展、また SNS の広がりによって、私たちはさまざまなかたちで文章をまとめ、不特定多数の人々にむけて発信することができるようになりました。この授業の目的は、人に読まれる文章を書くこと、そして人に読ませる文章を書くこと。コミュニケーションの手段としての短文だけでなく、自分自身で言葉をえらび、文章を『作品』として完成させることです。

毎回の授業ではテーマをひとつ決め、文章を書くことにチャレンジします。エッセイ、掌編小説、批評など、さまざまな作品づくりにとりくんでみましょう。

エッセイや小説、詩などのすぐれた作品を読んでその表現にふれ、テーマに沿った文章づくりをしていきます。書き上げた個々の作品はあつめてプリントし、翌週に全員で読み感想や意見をやりとりします。読み手の反応から自分の文章をブラッシュアップしていくことにより、表現の幅を広げていくことが重要です。仲間の文章を読み解き考えることは、自分の作品の客観的な分析を可能にします。

失敗を恐れず、さまざまなスタイルの作品作りにチャレンジしてみましょう。「人に読ませること」を自覚した文章を構築することが、春学期の最初の目標です。

1年間の授業を通じ、表現力・文章力を磨いていこう。

(春学期)
1 イントロダクション 文章を書くことの意味について考える …人に読ませる文章とは？
2 誰のために書くか、何のために書くか(1) 文章のスタイルについて
3 誰のために書くか、何のために書くか(2) 近現代の文学作品から、その表現や時代性をみる
4 誰のために書くか、何のために書くか(3) 近現代の文学作品から、その表現や時代性をみる
5 誰のために書くか、何のために書くか(4) テーマの設定と文章のルール
6 言葉の力と表現について(1) 描写の重要性 高揚と抑制
7 言葉の力と表現について(2) 描写の重要性 書くこと・書かないことの峻別
8 言葉の力と表現について(3) 言葉のえらびかた
9 言葉の力と表現について(4) イメージをふくらませる
10 言葉の力と表現について(5) 物語のセオリーを考える
11 言葉の力と表現について(6) 作詞家の表現から学ぶ、ことばの選択
12 言葉の力と表現について(7) 子どもの文章を味わう
13 言葉の力と表現について(8) 視点を変えてみる
14 まとめ 自由なテーマで書いてみよう

履修上の注意
授業前半が講義と前回作品の講評、後半を創作の時間とします。(時間配分は授業の進行とともに変更あり)

毎回 800～1200 字程度の作品完成をめざしてください。提出した作品は添削し、前回の授業で書かれた作品の中から数編をえらび回読・講評します。1年間の授業で、受講者の作品が数回ずつ取り上げられることになります(匿名です)。みなさんの声も同時にプリントにしますので、楽しみながらさまざまな視点の感想や意見が出ることを期待します。仲間の作品を読み、自作にフィードバックさせていくことが授業の最大のポイントです。自分の文章のスタイルや文学観をもっている人も、さまざまな工夫をしてみよう。

授業前半の講義は創作上の大きなヒントになります。遅刻・欠席はしないようにしましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容
毎回配布するプリントは保管し、自作、他の受講者の作品は時間をあけて再読してください。とくに長期休業期間は、もう一度ひととおり読み直すことが大切です。授業で紹介したエッセイや詩編については、できればその作品集を通読し、作者の生きた時代や歴史的背景を知ることが望ましい。

教科書
参考作品や資料を毎回プリントで配布します。教科書はありませんが、必要があれば授業中に指示された文庫本・電子書籍などを各自用意すること。

参考書
必要があれば授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法
提出作品に対する添削指導と、回読を通じての講評

成績評価の方法
授業内で提出する作品・提出物 70%
授業への関心や意欲 30%

…他者の作品に関して、自分の感想や意見を的確にまとめることができたか。
…授業中の発言などを通じ、積極的に授業に参加しているか。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅰ	**表現・創作ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤　氏貴	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文章表現の基礎的知識の修得と，その実践を中心として授業を展開する。具体的には，「日本語」概念の捉え直し，日本語表記の問題点，編集・造本の知識と技術など，文章表現全般に関わる問題と技術を取りあげながら，実際に様々な文章を書く訓練を行う。

授業内容

「表現・創作」する技術は，「表現」すべき内容に伴って学ばれるべきだろう。どんなに腕のたつコックでも材料がなければ料理はつくれない。じぶんは一体なにを表現したいのか。そしてそれは表現するに値するのか。言いかえればはたして他者はその表現に関心をもつか。そうしたことを考えつつ，実際に表現する技術を学んでいく。

秋学期は主に小説や評論等の分野を考える。

1 表現から創作へ
2 「創作」するということの意義
3 単純な自己表現を超えて1－他者のことばに耳を澄ませる
4 単純な自己表現を超えて2－テーマ設定
5 単純な自己表現を超えて3－モチーフの使い方
6 単純な自己表現を超えて4－視点の置き方
7 単純な自己表現を超えて5－メタファーの意義
8 単純な自己表現を超えて6－会話表現　第一回提出物締め切り
9 中間発表－提出物の相互批評1
10 中間発表－提出物の相互批評2
11 他者へ向かって1－「翻訳」の導入1
12 他者へ向かって2－「翻訳」の導入2
13 他者へ向かって3－「他者」としての作品　第二回提出物締め切り
14 最終発表－提出物の相互批評

履修上の注意

自分で表現したい何かを探す意欲をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

特に一冊に指定することはない。

参考書

随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

提出物・発表 70%、平常点 30%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅱ	**表現・創作ⅠB**	
担 当 者	開講期	開講地区
柳澤　幹夫	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「言語表現」と「言語以外の表現メディア」との比較、交叉、表現可能性の探究を通して、最終的には、われわれにとって「表現」とは何であるのかを実感的にさぐりたいと考えている。

具体的には「言語表現」として「小説」と「歌詞」を取り上げ、「言語以外の表現メディア」として「映像(映画)」と「音(声・楽曲)」を取り上げる。

授業内容

本題の前に、「表現・創作」の共通学習事項として、簡単に〈論文〉の基本性質と必要事項を確認してもらう。また、その実践として「作品論」を一つ仕上げてもらう。

その上で、上述したように、言語表現と他の表現手段との差異と交叉、その創造性という点へと授業を展開していく。特に「言語表現」との交叉対象として焦点化するのは「映画表現」と「歌唱/音楽表現」である。

〔各回の内容予定〕
1 秋学期授業のテーマと展開について
2 〈論文〉の方法 a― 「論文」の基本性質と作成手順
3 〈論文〉の方法 b― 引用・出典・注・文献一覧などについて(課題Ⅳ「作品論」)
4 言語表現と映像表現a ― 谷崎潤一郎『春琴抄』の表現とテーマ解析 α
5 言語表現と映像表現a ― 谷崎潤一郎『春琴抄』の表現とテーマ解析 β
6 言語表現と映像表現b ― 映画『春琴抄』の鑑賞①
7 言語表現と映像表現c ― 映画『春琴抄』の鑑賞②
8 言語表現と映像表現 d ― 「小説／言語」と「映画／映像」の境界(課題Ⅴ「言語表現と映像表現」)
9 歌謡における表現 a ― 「歌詞」と「声」
10 歌謡における表現 b ― 「歌詞」と「歌唱」
11 歌謡における表現c ― 「歌詞」と「楽曲」
12 歌謡における表現d ― 「歌詞」+「歌唱／楽曲」+「映像」
13 歌謡における表現e ― 〈うた〉〈音声言語〉〈書記言語〉
14 歌謡における表現f ― 歌謡表現／言葉と声(課題Ⅵ「歌謡における表現」)

履修上の注意

上記の「講義内容」でわかるように、この授業は各回の内容を前提として次回の内容が展開される。したがって、欠席は原則としてしないという態勢と意欲を持ちうる者が望ましい。

また、取り上げる作品・映画・歌詞・楽曲・映像に関して、適宜各自の感想や分析を書いて提出してもらう。したがって、上記の探究内容に積極的・主体的な興味・関心を抱く者が望ましい。

上記の課題Ⅳ「作品論」は3でテーマを決めた上、各自調査・考察を重ね、最終日に提出してもらう。

課題Ⅴ、及び、課題Ⅵは講義を受けての自分の考察をまとめてもらうものである。

なお、この「表現・創作ⅠB」においては、講義の前半(モジュールa)を利用して、春学期「表現・創作ⅠA」の課題Ⅲ「一枚の写真」の合評・概評をいくつかの回で実施する。

準備学習(予習・復習等)の内容

・課題Ⅳ「作品論」における作品の選定、読解、論の構想、資料の調査、執筆。
・課題Ⅴ・Ⅵの準備、分析、執筆。
・谷崎潤一郎『春琴抄』の解析。
・「歌詞」の分析、及び「歌唱／楽曲」を聴いての歌謡作品の分析を用意してきてもらうことがある。

教科書

谷崎潤一郎『春琴抄』(新潮文庫)

参考書

特に指定しない。授業の中で、適宜、紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題Ⅳ・Ⅴ・Ⅵについては、提出後、クラスウェブに全体講評をアップする。
授業内での解析等については、回収・評価後、原則として翌週に返却し、講評を行う。

成績評価の方法

小説の解析、映画の解析、歌詞の解析、歌唱／楽曲の解析、合評等における発言＝50% ＋ 各課題＝50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅱ	**表現・創作ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 雄生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文章表現の基礎的知識の修得と，その実践を中心として授業を展開する。具体的には，「日本語」の概念の捉え直し，日本語表記の問題点，編集・造本の知識と技術など，文章表現全般に関わる問題と技術を取り上げながら，実際に様々な文章を書く訓練を行う。

授業内容

論理的文章を書くための基本的な考え方、資料収集法、論文作成法などを理解し、その実践方法を学んでいきます。

各回の内容
1 作文と論文の違い・論文の発想法
2 ロジカル・シンキング(1)
3 ロジカル・シンキング(2)
4 テーマの決め方(1)
5 テーマの決め方(2) テーマの決定
6 資料の収集・整理・分析(1)
7 資料の収集・整理・分析(2)
8 資料の収集・整理・分析(3) 参考文献1冊目要約提出
9 論文作成法(1)
10 論文作成法(2)
11 論文作成法(3)
12 目次の完成
13 プレゼンテーション(1)
14 プレゼンテーション(2)

履修上の注意

最終的には、全員に 4000 字以上の論文を課します。テーマなどは全く自由です。
毎回教室で指示する課題や調査などは確実にこなすこと。従って、できるだけ欠席しないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分の論文テーマに関係する書籍などをどんどん読破すること。

教科書

特に指定しない。適宜プリントを配布する。

参考書

澤田昭夫『論文の書き方』(講談社学術文庫)
ウンベルト・エコ『論文作法』(而立書房)
神永正博『統計思考力』(日経ビジネス人文庫)

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法
課題の提出やフイードバックは、オー明治を活用します。
13回目、14回目の授業で、全員にプレゼンテーションをしてもらい、その場で一人一人フイードバックします。
提出した論文については、オー明治を活用し、一人一人に返信します。

成績評価の方法

授業への貢献度 50%、最後に提出する論文 50%。

その他

表現・創作ＩＡから継続して受講してください。
原則対面授業です。
万が一休講した時は、補講をせずに、オンラインで配信します。
プリントの配布やレポートの提出は、オー明治を活用します。

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅱ	**表現・創作ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
廣岡 祐	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文章表現の基礎的知識の修得と、その実践を中心として授業を展開する。「日本語」の概念の捉え直し、日本語表記の問題点、編集・造本の知識と技術など、文章表現全般に関わる問題と技術を取りあげながら、実際に様々な文章を書く訓練を行う。授業を通じてさまざまな作品の特徴をとらえ、「読むこと」から「書くこと」へのヒントをつかみ実践していく。 言葉のもつ力を心にとどめ、自覚的に、能動的に表現することのできる社会人をめざす。

授業内容

春学期の学習内容を深化させ、さまざまな作品づくりをめざします。仲間の文章を読み解いて自作にフィードバックさせていくことはいままでと同様ですが、言葉のえらびかたや描写だけでなく、書き手の世界観をつかむことを心がけてください。同時にあなたの世界観を読み手にどのように提示できるか、「書かずばいられぬ」部分をどう作品に昇華していけるかを考えよう。

(秋学期)
1 イントロダクション 春学期のおさらい
2 長い文章をまとめる(1) テーマの設定
3 長い文章をまとめる(2) スタイルの構築
4 長い文章をまとめる(3) 文章の構成を考える
5 長い文章をまとめる(4) 文章の構成を考える
6 長い文章をまとめる(5) 効果的な比喩表現
7 長い文章をまとめる(6) 効果的な比喩表現
8 長い文章をまとめる(7) 推敲による作品の変化をみる
9 長い文章をまとめる(8) 推敲による作品の変化をみる
10 長い文章をまとめる(9) 記憶の断片を文章化してみよう
11 長い文章をまとめる(10) 内面の描写を深める
12 長い文章をまとめる(7) 自分と他者、自分と社会との関係性
13 長い文章をまとめる(7) 世界観をもって書く
14 自由テーマによる最終課題

履修上の注意

授業前半が講義と前回作品の講評、後半を創作の時間とします。(時間配分は授業の進行とともに変更あり)

毎回 800～1200 字程度の作品完成をめざしてください。提出した作品は添削し、前回の授業で書かれた作品の中から数編をえらび回読・講評します。1年間の授業で、受講者全員の作品が数回ずつ取り上げられることになります(匿名です)。みなさんの声も同時にプリントにしますので、楽しみながらさまざまな視点の感想や意見が出ることを期待します。

授業前半の講義は創作上の大きなヒントになります。遅刻・欠席はしないようにすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回配布するプリントは保管し、自作、他の受講者の作品は時間をあけて再読してください。授業で紹介したエッセイや詩編については、できればその作品集を通読し、作者の生きた時代や歴史的背景を知ることが望ましい。

教科書

参考作品や資料をプリントで配布します。教科書はありませんが、必要があれば授業中に指示された文庫本・電子書籍などを各自用意すること。

参考書

必要があれば授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出作品に対する添削指導と、回読を通じての講評

成績評価の方法

授業内で提出する作品・提出物 70%
授業への関心や意欲 30%

…他者の作品に関して、自分の感想や意見を的確にまとめることができたか。
…授業中の発言などを通じ、積極的に授業に参加しているか。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT152J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作Ⅱ	**表現・創作ⅠB**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤　氏貴	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文章表現の基礎的知識の修得と，その実践を中心として授業を展開する。具体的には，「日本語」概念の捉え直し，日本語表記の問題点，編集・造本の知識と技術など，文章表現全般に関わる問題と技術を取りあげながら，実際に様々な文章を書く訓練を行う。

授業内容

「表現・創作」する技術は，「表現」すべき内容に伴って学ばれるべきだろう。どんなに腕のたつコックでも材料がなければ料理はつくれない。じぶんは一体なにを表現したいのか。そしてそれは表現するに値するのか。言いかえればはたして他者はその表現に関心をもつか。そうしたことを考えつつ，実際に表現する技術を学んでいく。

秋学期は主に小説や評論等の分野を考える。

1 表現から創作へ
2 「創作」するということの意義
3 単純な自己表現を超えて1－他者のことばに耳を澄ませる
4 単純な自己表現を超えて2－テーマ設定
5 単純な自己表現を超えて3－モチーフの使い方
6 単純な自己表現を超えて4－視点の置き方
7 単純な自己表現を超えて5－メタファーの意義
8 単純な自己表現を超えて6－会話表現　第一回提出物締め切り
9 中間発表－提出物の相互批評1
10 中間発表－提出物の相互批評2
11 他者へ向かって1－「翻訳」の導入1
12 他者へ向かって2－「翻訳」の導入2
13 他者へ向かって3－「他者」としての作品　第二回提出物締め切り
14 最終発表－提出物の相互批評

履修上の注意

自分で表現したい何かを探す意欲をもって臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

特に一冊に指定することはない。

参考書

随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

提出物・発表 70%、平常点 30%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT491J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作研究A	**表現・創作ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤　氏貴	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

表現者として世に出ることを目指す者にとって，そのための方法論をともに探る。

単純な自己表現を超えて，いま表現すべきことはなんなのかという時代の問題意識を共有すべく，同時代の作品を読み，かつ各自が実践として創作を試みる。

授業内容

どんな表現(アウトプット)であっても，それに先立ってインプットが必ず必要なはずだ。創作にあたってはまず既成のなにかを壊し傷つける(＝創)からはじめなければならない。それで実際になにかを表現創作していくにあたって(1)同時代の作家たちがどのように道を切り拓いたのか，および(2)いま壊すべきものはなにか，の二点を考える。具体的には、現代の表現者たちが実際に用いている手法とその起源を分析する。

期中に作品の提出を求め，それに値する作品があれば合評する。

1 導入・純文学を書くということ
2 純文学とエンターテインメントとはどこが違うのか
3 石原慎太郎『太陽の季節』
4 安部公房『壁―S・カルマ氏の犯罪』
5 大江健三郎『死者の奢り』
6 中上健次『十九歳の地図』
7 村上龍『限りなく透明に近いブルー』
8 村上春樹『風の歌を聴け』
9 町田康『くっすん大黒』
10 金原ひとみ『蛇にピアス』
11 綿谷りさ『インストール』
12 白岩玄『野ブタ。をプロデュース』
13 文体について
14 テーマについて

履修上の注意

テクストに必ずじぶんであたること。

準備学習(予習・復習等)の内容

書くことが目的の講座であるが、授業中に実作する時間はない。あくまで作品制作は自宅で行う。

教科書

上記の作品すべて。

参考書

特に指定しない。

課題に対するフィードバックの方法

提出物にはコメントを返す。

成績評価の方法

提出物 80%、議論への参加など平常点 20%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT491J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現・創作研究B	**表現・創作ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
大鋸 一正	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
担当教員自身の執筆経験に基づき、小説の創作方法の事例を示すとともに、各自の提出作品の講評を行う。
各自が小説の執筆を実践し、講義、および創作を通して、表現するとはどういうことなのか、なぜ表現をするのか、などをともに検討し、それらの検討内容を各自の創作に生かすことを試みる。
小説という表現方法を探求し、自分の意図した内容を作品として表現できるようになる。

授業内容
各回のテーマについて講義を行う。並行して、各自にて執筆を進める。講義においては、これまで当たり前と思われてきたことを掘り下げて検討する。執筆においては、各自が小説を執筆するにあたって、可能な範囲で、それぞれの課題を共有し、意見を交わしながら、実作を進める。教員、学生ともに柔軟な姿勢で、より多くの発見と発展があるように努める。
第1回 導入・ガイダンス
第2回 小説とは何か？
第3回 作者とは何か？
第4回 何を書くのか？
第5回 どうやって書くのか？
第6回 どう読むのか？(講評演習)
第7回 どうやって書いたのか？(講師自作事例)
第8回 どうしたら、もっとよくなるか？(中間提出)
第9回 中間講評・合評(1)
第 10 回 中間講評・合評(2)
第 11 回 いつ完成するのか？
第 12 回 書いた後に、どうするか？(最終提出)
第 13 回 作品講評・合評(1)
第 14 回 作品講評・合評(2)

履修上の注意
小説の執筆を目的とするため、表現への意欲が求められる。評価対象となる提出物として、自作の小説(2,000 字～10,000 字程度)を提出する。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業内で執筆する時間は設けない。提出物は自宅での執筆を基本とする。

教科書
特に指定しない。適宜、プリントなど配布する。

参考書
大鋸一正『蛾』(図書出版みぎわ)、『O介』(河出書房新社)

課題に対するフィードバックの方法
提出物には、口頭、もしくは文面にてコメントを返す。
可能な範囲で講評を行う。

成績評価の方法
提出物 60%、議論への参加など平常点 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
表現と倫理	**表現と倫理**	
担 当 者	開講期	開講地区
新嶋 良恵	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
政治学や社会学、また文化人類学など、表現文化を取り扱ってきた学術の成果について学びます。授業の前半で講義を行い、後半では文献講読やディスカッションを行います。ディスカッションシートを持参してもらい、関連の深い新聞記事の紹介などを踏まえての積極的な発言を求めます。

到達目標
表現の倫理をめぐる基礎知識を習得し、メディア表現を批判的にとらえなおすための能力を身につけている。【論理的思考力】
表現をめぐる法的規制や歴史を構造的に把握し、そこに内在する問題を認識し、その解決にむけた方向性を明示する能力を身につけている。【創造的思考力】

授業内容
第 1 回 イントロダクション(表現と倫理とは)
第2回 a:倫理問題を扱うということ ドキュメンタリーの事例
b:ディスカッション
第3回 a:メディア表現と生命倫理
b:文献講読とディスカッション
第4回 a:多文化社会における表現(1)人を傷つける伝統文化と表現の自由
b:文献講読
第5回 a: 多文化社会における表現(2)伝統文化をアップデートする
b:ディスカッション
第6回 a:表現と規制(1) 映画界の自主規制－ヘイズコード
b:文献講読
第7回 a:表現と規制(2)レッドパージ
b:ディスカッション
第8回 a:プロパガンダ(1)戦争とメディア表象
b:文献講読
第9回 a:プロパガンダ(2)ナチスドイツに対する映画を通した批判
b:ディスカッション
第10回 a: メディア規範と情報化社会(1)メディア不信
b:文献講読
第11回 a:メディア規範と情報化社会(2) 二分化する社会 ドイツ
b:文献講読
第12回 a: メディア規範と情報化社会(3) 二分化する社会 アメリカ
b:ディスカッション
第13回 a:表現の自由と共生社会　ヘイト・スピーチ問題を事例に
b:ディスカッション
第14回 a:講義全体のふりかえりとディスカッション
b:試験

履修上の注意
毎回出席を取り、講義内容をふまえてディスカッション掲示板に書き込みを行ってもらいます。また、使用した映像などについてのリアクションペーパー、小テストなどで講義内容の理解度をはかります。議論することを繰り返し要求されるのでこの点を踏まえた上で履修してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習として、事前に発表する次週講義内容に沿った新聞記事を調べ学習し、講義内で行われるディスカッションに備えることが必要となります。
配布される資料を精読し重要概念について復習すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習として、事前に発表する次週講義内容に沿った新聞記事を調べ学習し、講義内で行われるディスカッションに備えることが必要となります。
配布される資料を精読し重要概念について復習すること。

教科書
指定なし

参考書
『ジャーナリズムは甦るか』池上彰・大石裕・片山杜秀・駒村圭吾・山腰修三著(慶應義塾大学出版会)2015 年
参考書の使用方法については授業の最初の回で説明します。

課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、解説をを Oh-o! Meiji にて公開する。

成績評価の方法
講義への貢献度40%(ディスカッション・ディスカッションシート・リアクションペーパー)
小テスト10%
期末試験50%

その他
特になし

科目ナンバー:(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
評論研究	**評論研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1910 年代から 1930 年代にかけて日本の文壇で議論された問題は、現在に至るまでの文芸作品を考えるにあたり示唆に富んだものが多い。本講義は、そのうちいくつかのトピックに絞って、文芸評論及びそこで言及された小説・詩あるいは関連する小説・詩を読むことを通して、描写論、私小説、リアリズムなどをめぐる問題を受講者自身の関心に寄せて修得し、各自が日本近現代文学を研究していく上での視座を得ることを目標とする。

授業内容

第1回 1910 年代文壇状況の確認
第2回 描写論(1)
第3回 描写論(2)
第4回 私小説(1)
第5回 私小説(2)
第6回 私小説(3)
第7回 感覚派と新感覚派(1)
第8回 感覚派と新感覚派(2)
第9回 リアリズム再検討(1)
第 10 回 リアリズム再検討(2)
第 11 回 純粋小説(1)
第 12 回 純粋小説(2)
第 13 回 純粋小説(3)
第 14 回 まとめ

履修上の注意

1. 本科目は、対象となる文芸評論を読むにあたり、そこで言及されている文学者や小説など、すべてに授業で触れるわけではない。また、各トピックの中から部分的に抽出したかたちで講義を進めていく場合もある。受講に際しては基本的な日本近代文学史に関する知識や、この時代に発表された小説の読書経験を有していることが望ましい。
2. 対象となるテクスト等についてや、成績評価に関する重要な情報を初回の授業において説明するので、受講を希望する者は必ず初回の授業に参加すること。
3. 受講に際しては、基本的なマナーを守って積極的な姿勢で臨むよう心がけること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回で取り上げるテクストは必ず読んでおくこと。授業後は、講義をふまえて各自の見解をまとめておくこと。

教科書

プリントを配布する予定である。

参考書

初回の授業時に文献一覧を配布する予定である。

課題に対するフィードバックの方法

講義内容に関したコメントを6~7回程度提出してもらう。提出されたコメントのうち、全体にフィードバックすべき内容が記されているものについては、次回の講義冒頭で紹介・補足等を行う。

成績評価の方法

学期末レポート 60%、リアクションペーパー等 40%

その他

科目ナンバー:(AL)PSY331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
福祉心理学	**福祉心理学**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 尚子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

すべての人は誰しも生涯を通して福祉サービスを利用し続ける。本講義では福祉サービスについて概観し, 福祉現場において生じる問題及びその背景, 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について学ぶ。特に子ども虐待をはじめとした家庭と個人の問題および社会的養護についての基本的知識と, それに関わる心理的問題と対応について理解を深めることを目標とする。

具体的には家族と個人をめぐる様々な問題への支援, 昨今特に問題となっている子ども虐待についての基本的な知識と心理学的諸テーマについて学ぶ。また福祉の現場に資する臨床心理学とは何かということについて, 具体的な事例, 映像教材をモチーフに理解を深める。 福祉の現場は心理だけでなく医療・保健・教育・福祉・司法などそれぞれの専門家が連携して当たっていくことが必要な領域である。福祉領域での臨床心理学的支援を行うために必要な, 連携やコミュニティアプローチ, その具体的心理技法についても学びたい。以上を通して, 福祉領域で活躍する心理職として必要な知識と視点を培う。

授業内容

①福祉現場において生じる問題及びその背景
②福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援
③こども虐待と家族に関わる心理的課題についての基本的知識

第 1 回 イントロダクション 福祉心理学とは
第 2 回 家族の機能と心理的諸問題
第 3 回 子ども虐待と心理支援 1 子ども虐待の現状
第 4 回 子ども虐待と心理支援 2 子ども虐待の理論
第 5 回 子ども虐待と心理支援 3 アタッチメントと治療的支援
第 6 回 子ども虐待と心理支援 4 トラウマと治療的支援
第 7 回 福祉領域における心理的支援 トラウマインフォームドケア
第 7 回 社会的養護
第 8 回 社会的養護における心理的支援
第 9 回 子ども時代の逆境的体験(ACEs)と貧困
第 10 回 夫婦間・カップル間暴力(DV)と心理的支援
第 11 回 多職種連携とコミュニティアプローチ
第 12 回 コミュニティアプローチとコンサルテーション
第 13 回 支援者支援
第 14 回 まとめ

履修上の注意

講義を踏まえて, 自主的な学習の進化を期待します。授業中に他者の学習の妨げになる行為(私語や学習に関係のない動画視聴など)に対しては, 厳しく対応します。

準備学習(予習・復習等)の内容

社会福祉にかかわる様々な領域について幅広い知見を培うため、福祉に関する文献、 各テーマに隣接した文芸作品、映像作品、ニュース等に積極的に日ごろから興味関心を持ち、触れること。

教科書

講義でわからなかった点や疑問に思った点については各自関連図書にあたり理解を深めること。 福祉に関する諸問題及び講義で取り上げた映像資料に関連する文献や文芸作品, 映 像作品, ニュースなどに積極的に触れること。

参考書

「虐待から子どもを守る」小学館
加えて, 下記に示す参考書の内容を踏まえて講義をする。
「福祉心理学」ミネルヴァ書房
「公認心理師ベーシック講座 福祉心理学」講談社

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーにて寄せられた質問・疑問に関しては, 基本的にその次の回の講義にて回答する。

成績評価の方法

成績は学期末レポート(60%)+リアクションペーパー(40%)か ら総合的に評価する。7 割以下の出席率となった場合は評価対象としない。

その他

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞台演出の研究	**演出論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演出論 B では 20 世紀に登場した演出家という存在について、
_ 異なるタイプの演出家を取り上げ、それぞれの試みについて、その内実や意義について考察していく。
_ 演出家の取り組みを通して、演劇や舞台芸術という芸術の特異性、表現可能性の広がりについて理解を深めながら、演劇や舞台芸術が社会の中で獲得してきた役割についても考えていければと考える。

授業内容

1) 授業の進め方
_ 2) 演出家の誕生−総合芸術
_ 3) 演出家の仕事(1)創世記
_ 4) 演出家の仕事(2)演技論
_ 5) 演出家の仕事(3)演出ノート
_ 6) 演出と異化効果
_ 7) インターナショナル・インターカルチュラル
_ 8) ミニマリズム
_ 9) フィジカルシアター・タンツテアター
_ 10) デバイスドシアター・コラボレーション
_ 11) パフォーマンス・ハプニング
_ 12) ポストドラマ
_ 13) サイトスペシフィック・イマーシブ
_ 14) まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回配布する資料において参考資料からの引用などを紹介するが、
_ 理解を深める上では、そうした関連書籍を読み進めていくことが必要。

教科書

特に指定しない

参考書

講義において適宜提示する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体講評を翌週の授業にて行う。

成績評価の方法

授業参加の態度 50%, レポート 20%, 試験 30%で評価。

その他

科目ナンバー:(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞台演出の理論	**演出論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
大林 のり子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演劇や舞台芸術は、古来から現代まで見渡すと、様々な表現や製作方法により上演／パフォーマンスを展開してきた。たとえば、文字として書かれたテクストとしてのドラマを舞台化すること、あるいは、俳優や美術家や音楽家など多様な芸術家によるコラボレーションによって形作られていくこと、あるいは舞台上で即興的に生まれるパフォーマンスなどもある。
_ しかしいずれにしても、小説や絵画と大きくことなるのは、創造活動の過程において、多様な人々が関わり、ひとつの舞台作品が生み出されるというところにある。そして、演劇や舞台芸術においては、それらの多様な要素を纏めていく過程の中に、演出という行為があり、また、近代以後には専門的な職能としての役割を与えられることになった。
_ この講義では、そうした演出の起源や展開、役割の変化について理解を深められればと考える。

授業内容

1) 授業の進め方
_ 2) 演出とはなにか
_ 3) 伝統演劇と演出(1)
_ 4) 伝統芸能と演出(2)
_ 5) 音楽劇の演出(1)
_ 6) 音楽劇の演出(2)
_ 7) 俳優と演出
_ 8) 劇作家と演出
_ 9) 舞踊劇の演出(1)
_ 10) 舞踊劇の演出(2)
_ 11)上演空間と演出(1)
_ 12)上演空間と演出(2)
_ 13)上演空間と演出(3)
_ 14)まとめ

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

演劇や舞台芸術は、上演されることで完成される芸術ということもできます。
_ 意識的に劇場へ足を運んで、戯曲と上演との違い、演出を味わう機会も持ってもらえればと思います。
_ また、授業内で引用する参考資料については、理解を深めるためには原本に触れていってください。

教科書

特に指定なし

参考書

講義内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーの全体講評を翌週の授業にて行う。

成績評価の方法

授業参加の態度 50%, レポート 20%, 試験 30%で評価。

その他

科目ナンバー：(AL)ART331J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞台空間論	**劇場論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中野 正昭	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
演劇は〈観る者〉と〈観せる者(演じる者)〉, あるいは〈観る者〉と〈観られる者〉の出逢いによって生まれるが, その出逢いを用意し演出する場所として舞台がある。本講義では〈コト／現象としての舞台〉に焦点をあて, 様々な事例を取り上げながら, 現在の私たちが自明と感じがちな〈舞台〉という空間について学んで行く。

授業内容
1. 導入 コト／現象としての舞台と体験
2. 舞台と日本文化 能楽堂 1
3. 舞台と日本文化 能楽堂 2
4. 舞台と日本文化 歌舞伎劇場 1
5. 舞台と日本文化 歌舞伎劇場 2
6. 舞台と日本文化 大道芸と見世物
7. 作品鑑賞 演劇と一回性1
8. 作品鑑賞 演劇と一回性2
9. 舞台と体験 美術と照明1
10. 舞台と体験 美術と照明2
11. 舞台と体験 大劇場とスペクタクル
12. 舞台と体験 小劇場と親密性・緊張性
13. 舞台と体験 脱劇場1
14. 舞台と体験 脱劇場2

履修上の注意
講義途中の入室・退出は原則として認めない。理由があって欠席する場合は, 事前に連絡すること。連絡のない場合は, 欠席扱いとする。

準備学習(予習・復習等)の内容
準備学習(予習)
次回の授業内容について、指示した映像作品・資料等を事前に閲覧しておくこと。

準備学習(復習)
授業で紹介した問題について文献等で調べること。

教科書
特定の教科書は使用せず, 必要に応じて, 講義ごとにプリントを配布し, 参考資料を紹介する。

参考書
●S・ティドワース著, 白川宣力・石川敏男訳『劇場--建築・文化史--《新装版》』, 早稲田大学出版部、1997 年
●清水裕之『劇場の構図』, 鹿島出版社、1985 年
●『世界で一番美しい劇場』, エクスナレッジ、2015 年

課題に対するフィードバックの方法
リアクションペーパーのうち複数の学生の関心が集中したもの、議論を深めるものについては授業内で紹介し、内容を共有する。

成績評価の方法
成績は学期末レポート(60%)＋リアクションペーパー(40%)から総合的に評価する。出席は学生の義務なので加点にはしないが、欠席は減点対象とする。

その他
理解を深める上で, 春学期の劇場文化論と連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)ART231J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞台芸術研究Ⅰ(舞踊と身体表現)	**舞台芸術研究ⅠA**	
担 当 者	開講期	開講地区
岩本 眞由美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
クラシック・バレエを取り上げ、劇場芸術として発展した舞踊の身体表現について学ぶ。
成立時や興隆時の時代的な背景と潮流、技術的な変遷を踏まえつつ、いくつかの作品について映像を参照しながら詳細に分析、考察を行う。
言葉を介さない身体を使ったダンスという表現方法と、その総合芸術としての魅力を理解し、その上で観客として舞台に積極的に関わる＝鑑賞する力をつけていくことが目標。

授業内容
(1)いま、なぜダンスか？/バレエ芸術の定義
(2)バレエは「平和と秩序」の象徴？ 起源と二つの宮廷バレエ
(3)スターも神も活躍した パリ・オペラ座の誕生
(4)ロマンティック・バレエの登場～『ラ・シルフィード』(第１幕)
(5)今ここではない世界へ～ロマン主義と『ラ・シルフィード』(第２幕)
(6)文学者が入れ込んだバレエ～『ジゼル』の成立と第１幕
(7)霊界へようこそ～『ジゼル』とバレエ・ブラン(第２幕)
(8)ロマンティック・バレエの興隆と凋落
(9)帝政ロシアにおけるバレエの発展
(10)「白鳥の乙女」と恋に落ちる～『白鳥の湖』の成立と第１幕
(11)華麗なスペクタクルへ～『白鳥の湖』第２幕～第３幕
(12)マリウス・プティパと帝室バレエ
(13)『眠れる森の美女』にみるバレエの古典主義
(14)『眠れる森の美女』にみるバレエの身体

履修上の注意
期末には試験に代えて、レポート課題を出します。
受講にあたってバレエやダンスの実技の経験はまったく不要です。

準備学習(予習・復習等)の内容
毎授業のレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。
また授業に関連する映像資料リストを配布するので、取り上げる作品の映像を授業の前後に学内のメディアライブラリー等で視聴しておいてください。

教科書
レジュメと必要な資料をクラスウェブで配布します。

参考書
参考文献リスト、資料映像リストを授業期間中にクラスウェブで配布します。

課題に対するフィードバックの方法
期末レポート以外の課題を実施する場合は、クラスウェブまたは授業中にフィードバックします。

成績評価の方法
期末レポート(30%)／授業参加、小課題(70%)をふまえて行います。

その他
学内のメディアライブラリーにある豊富な映像資料を活用するのと同時に、劇場へ足を運ぶことでさらに感性に磨きをかけてもらいたいと思います(随時、公演案内を行います)。

科目ナンバー：(AL)ART231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞台芸術研究Ⅱ(ダンス・パフォーマンス論)	**舞台芸術研究ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
岩本 眞由美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

20 世紀以降に創作されたバレエ／ダンスを取り上げその現代的な主題の在り方と多彩な表現方法について学んでいく。
最初に 20 世紀初頭のバレエ・リュスの活動を起点として発展した世界的な潮流を、それ以前のクラシック・バレエとの違いを踏まえつつ概観する。その上で「物語バレエ」を中心にいくつかの作品を取り上げ、映像を参照しつつ詳細に考察を行う。作品ごとに、文学、演劇、映画、オペラ、音楽など関連する他分野の作品との比較も行う。
言葉を介さない舞踊作品に対して理解や共感の糸口を見出し、より身近なものとして感じとりながら鑑賞できるようになることが目標。

授業内容

(1)バレエ・リュスの衝撃～舞踊のモダニズム
(2)バレエ・リュスの 5 人の振付家とその後への影響
(3)現代の物語バレエ『ロミオとジュリエット』1～ラヴロフスキー版からマクミラン版へ
(4)現代の物語バレエ『ロミオとジュリエット』2～マクミラン版を通して
(5)『ロミオとジュリエット』の変奏曲
(6)モーリス・ベジャール 1～『春の祭典』バレエ・リュスからベジャールへ
(7)モーリス・ベジャール 2～現代のとしてのバレエ
(8)モーリス・ベジャール 3～博覧強記の演劇性と死をめぐる創造
(9)物語バレエの系譜～ジョン・クランコ 1 ザ・グレイテイスト・ストーリーテラー
(10)物語バレエの系譜～ジョン・クランコ 2 ダンスで物語る手法『オネーギン』
(11)物語バレエの系譜～ケネス・マクミラン 1 名門ロイヤルの反逆児、あるいはバレエ界の文学者
(12)物語バレエの系譜～ケネス・マクミラン 2 ファム・ファタールのバレエ『マノン』
(13)物語バレエの系譜～ジョン・ノイマイヤー1 「心」の探究者
(14)物語バレエの系譜～ジョン・ノイマイヤー2 恋愛って何？『椿姫』

履修上の注意

期末には試験に代えて、レポート課題を出します。
受講にあたってバレエやダンスの実技の経験はまったく不要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業でとりあげるバレエ作品の原作となっている文学をあらかじめ読んでおいてください。
毎授業のレジュメを事前に配布するので必ず目を通しておくこと。
また作品の映像を授業の前後に学内のメディアライブラリー等で視聴してください。

教科書

レジュメと必要な資料をクラスウェブで配布します。

参考書

参考文献リスト、資料映像リストを授業期間中にクラスウェブで配布します。

課題に対するフィードバックの方法

期末レポート以外の課題を実施する場合は、クラスウェブまたは授業中にフィードバックします。

成績評価の方法

期末レポート(30%)／授業参加、課題レポート(70%)をふまえて行います。

その他

学内のメディアライブラリーを活用するとともに、劇場へも足を運ぶよう心がけてください(随時、公演案内をします)。

科目ナンバー：(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞台芸術研究Ⅲ(演劇と音楽)	**舞台芸術研究ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
森 佳子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

演劇と音楽の関係を考える上で重要なジャンルの一つ、オペラの誕生と発展について学ぶ。
オペラは、全てが歌と音楽で進行する演劇で、その起源はルネサンス末期のイタリアにおける「古代ギリシア演劇」の復興運動にある。授業ではオペラ誕生の経緯、オペラの基本的な特徴を押さえた上で、イタリア、フランスの初期作品を例に、オペラの発声による「歌」の特徴を理解し、ドラマとともに楽しめるようにする。
具体的には、映像資料などを使用し、音楽や演出面から分析を行う。

授業内容

第1回:イントロダクション
第2回:音楽劇の誕生(古代、中世)
第3回:イタリアにおけるオペラの誕生(17世紀、モンテヴェルディ《オルフェオ》)(1)
第4回:イタリアにおけるオペラの誕生(17世紀、モンテヴェルディ《オルフェオ》)(2)
第5回:オペラの発展(1)(イタリア)
第6回:オペラの発展(2)(イタリア)
第7回:前半のまとめ
第8回:ルイ14世時代のフランススタイル(リュリ)(1)
第9回:ルイ14世時代のフランススタイル(リュリ)(2)
第10回:フランスにおける発展(ラモー)(1)
第11回:フランスにおける発展(ラモー)(2)
第12回:演劇としてのオペラ(グルックのオペラ改革)(1)
第13回:演劇としてのオペラ(グルックのオペラ改革)(2)
第14回:後半のまとめ

履修上の注意

音楽劇に興味がある学生の受講が望ましい。音楽的知識は問わない。まずは音楽や歌を楽しむこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布するレジュメを見ておく。YouTube に掲載されている動画を使って復習を行う。

教科書

レジュメを配布する。

参考書

戸口幸策『オペラの誕生』東京書籍、1995 年
丸本孝ほか編『キーワードで読む オペラ／音楽劇研究ハンドブック』アルテスパブリッシング、2017 年

課題に対するフィードバックの方法

課題については、授業中または Oh-o! Meiji において解説、講評を行う。

成績評価の方法

レポート 50%、授業態度およびリアクションペーパー50%で評価する。

その他

舞台芸術研究 IIB を継続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)ART332J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞台芸術研究Ⅳ(音楽劇の諸相)	**舞台芸術研究ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
森 佳子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

さまざまなオペラ作品と上演、それらの広がりについて理解を深める。

全てが歌と音楽で進行するオペラというジャンルは、時代や国によってスタイルが変化していくが、その背景にはそれぞれの政治的または文化的状況の違いがある。一方で、音楽が物語を先導していくため、言葉の壁を越えて他の国でも再演しやすいジャンルでもある。以上の点を踏まえながら、映像資料を使ってそれぞれの上演を分析していく。

授業ではモーツァルト以後(18世紀末～)における、各国・各時代の作品の特徴と上演(演出を含む)について理解し、評価できるようになることを目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクション
第2回:イタリア・オペラのジャンル(オペラ・セーリアとオペラ・ブッファ)
第3回:モーツァルトのオペラ・ブッファ(1)
第4回:モーツァルトのオペラ・ブッファ(2)
第5回:フランスにおけるオペラと政治(グランド・オペラ)(1)
第6回:フランスにおけるオペラと政治(グランド・オペラ)(2)
第7回:前半のまとめ
第8回:ドイツのヴァーグナーの影響(1)
第9回:ドイツのヴァーグナーの影響(2)
第10回:ヴェルディのイタリア・オペラ
第11回:自然主義的なオペラ(フランスその他)
第12回:ヴェリズモ・オペラ
第13回:オペラ以外の音楽劇とその広がり(オペレッタ)
第14回:後半のまとめ

履修上の注意

音楽劇に興味がある学生の受講が望ましい。音楽的知識は問わない。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布するレジュメを見ておく。YouTube に掲載されている動画を使って復習を行う。

教科書

レジュメを配布する。

参考書

丸本孝ほか編『キーワードで読む オペラ／音楽劇研究ハンドブック』アルテスパブリッシング、2017 年

課題に対するフィードバックの方法

課題については、授業中または Oh-o! Meiji において解説、講評を行う。

成績評価の方法

レポート 50%、授業態度およびリアクションペーパー50%で評価する。

その他

舞台芸術研究 IIA を受講しておくことが望ましい。

科目ナンバー：(AL)ART311J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞踊学研究	**舞踊学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
上野 房子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

20 世紀に誕生した劇場芸術としての舞踊である「モダンダンス」に焦点をあて、その特色を研究する。

教材として映像を多用し、20～21 世紀の主要振付家による作品の視聴を通して、各々の特性の理解を深め、観賞力・分析力を高める。

授業内容

社会と舞踊の関係に留意し、時代の変遷とともに、舞踊がいかに変化していったのかを考察する。

1)モダンダンス概論、先駆者の貢献と限界:ロイ・フラー
2)モダンダンス先駆者の貢献と限界:イサドラ・ダンカン、ルース・セント・デニス

3)モダンダンス創始者:マーサ・グラハム、ドリス・ハンフリー
4)グラハム振付「ナイト・ジャーニー」考察

5)モダンダンスへの反発:マース・カニングハム、アルウィン・ニコライ
6)「特別」から「普通」へ:ポスト・モダンダンス
7)「特別」から「普通」へ:アフリカ系アメリカ人他のアイデンティティ
8)モダンダンスとバレエの融合

9)20 世紀総括(1):物語世界の拡大、進化、深化
10)20 世紀総括(2):ケネス・マクミラン全幕作品考察
11)20 世紀総括(3):ジョン・ノイマイヤー全幕作品考察
12)20 世紀総括(4):ニューヨーク・シティ・バレエ上演作品考察
13)21 世紀概略:激変する世界の中で「ダンスの今」を考察

14)任意のライブ公演鑑賞
15)学期末試験

履修上の注意

1)参考書「Oxford Dictionary of Dance」は、毎回、授業で使用する。
各自で入手して授業に持参、予習・復習時にも活用されたい。

2)下記の課題を出す。

a. ライブ公演鑑賞課題
各自で任意のダンス公演を任意の日時に鑑賞し、所定の事項を調べる。
ライブ公演の鑑賞を推奨するが、各人の事情などによっては映像視聴で代替可とする。

b. 「Oxford Dictionary of Dance」を所持・活用していることを前提にした問題

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の前後に、下記の参考書で関連項目を精読する。

教科書

なし

参考書

Debra Craine and Judith Mackrell,
¥"The Oxford Dictionary of Dance, Second Edition.¥"
Oxford: Oxford University Press, 2010.

課題に対するフィードバックの方法

レポート欄の「コメント」欄で個別にフィードバックする。

成績評価の方法

成績評価には、公演鑑賞課題 20%、ミニテスト 10%、学期末試験 70%を反映させる。

学期末試験には、下記のものに限り持ち込み可とする。
1)受講者が自筆で作成したメモの原本(B5～A4 サイズ、片面使用)5 枚以内
2)「The Oxford Dictionary of Dance, Second Edition」の原本

上記以外の資料類はすべて持ち込み不可とする。
上記1)および2)に該当する資料であっても、そのコピーやプリントアウト、上記2)の日本語版、ならびにスマートフォン、パソコン、タブレット等のデジタル機器類も不可。

授業時に視聴した映像および全編を視聴するように指定した映像は、すべて学期末試験の出題範囲とする。
「Oxford Dictionary of Dance」を所持・活用していることを前提にした問題を設ける。

その他

ジョージ・バランシン作品関連 Web ページ:
https://note.com/sako_ueno

科目ナンバー：(AL)ART311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
舞踊学の基礎	**舞踊学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
上野 房子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
劇場芸術としての舞踊、なかでも 19～21 世紀のバレエに焦点をあて、その特色を研究する。

教材として映像を多用し、19～21 世紀の主要舞踊作品の視聴を通して、各々の特性の理解を深め、観賞力・分析力を高める。

授業内容
社会と舞踊の関係に留意し、時代の変遷とともに、舞踊がいかに変化していったのかを考察する。

16～18 世紀:草創期のバレエ
1）ダンス概論
2）宮廷バレエ----踊る王族ルイ 14 世とパリ・オペラ座の誕生
3）ジャン＝ジョルジュ・ノヴェールのバレエ・ダクション

19 世紀:古典バレエの確立と舞踊技術の発展
4）ロマンチック・バレエの誕生
5）1841 年初演『ジゼル』考察
6）ロシア・バレエの栄華
7）マリウス・プティパ振付『眠れる森の美女』考察

20 世紀:古典バレエからの脱却
8）バレエ・リュッスの新風
9）ミハイル・フォーキン振付『ペトルーシュカ』考察
10）ジョージ・バランシンとアメリカン・バレエの誕生
11）バランシン振付『セレナーデ』考察
12）ジェローム・ロビンズのアメリカン・バレエ
13）21 世紀概略
14）ライブ公演鑑賞
15）学期末試験

履修上の注意
1)参考書「Oxford Dictionary of Dance」は、毎回、授業で使用する。
各自で入手して授業に持参、予習・復習時にも活用されたい。

2)下記の課題を出す。

a. ライブ公演鑑賞課題
各自で任意のダンス公演を任意の日時に鑑賞し、所定の事項を調べる。
ライブ公演の鑑賞を推奨するが、各人の事情などによっては映像視聴で代替可とする。

b.「Oxford Dictionary of Dance」を所持・活用していることを前提にしたミニテスト

3)授業内容を変更する必要が生じた場合は、随時、クラスウェブで連絡する。

4)ダンス公演およびダンス映像を視聴する際にはメモを取り、緻密に記録・記憶・分析する習慣を身につけてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業の前後に、下記の参考書の関連項目を精読する。

教科書
なし

参考書
Debra Craine and Judith Mackrell,
¥"The Oxford Dictionary of Dance, Second Edition.¥"
Oxford: Oxford University Press, 2010.

課題に対するフィードバックの方法
レポート欄の「コメント」欄で個別にフィードバックする。

成績評価の方法
成績評価には、公演鑑賞課題 20%、ミニテスト 10%、学期末試験 70%を反映させる。

学期末試験には、下記のものに限り持ち込み可とする。
1)受講者が自筆で作成したメモの原本(B5～A4 サイズ、片面使用)5 枚以内
2)「The Oxford Dictionary of Dance, Second Edition」の原本

上記以外の資料類はすべて持ち込み不可とする。
上記1)および2)に該当する資料であっても、そのコピーやプリントアウト、上記2)の日本語版、ならびにスマートフォン、パソコン、タブレット等のデジタル機器類も不可。

授業時に視聴した映像および全編を視聴するように指定した映像は、すべて学期末試験の出題範囲とする。
「Oxford Dictionary of Dance」を所持・活用していることを前提にした問題を設ける。

その他
ジョージ・バランシン作品関連 Web ページ:
https://note.com/sako_ueno

科目ナンバー：(AL)LIN391F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語学演習(3・4年)A	**フランス語学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
「街を歩く」という行為を手がかりに、フランス文学における都市や身体経験を主題とする作品を読み、ディスカッションを行います。
都市を歩く身体感覚を通じて思考・感情・想像力を飛翔させる試みは、フランス文学において長い伝統をもち、現代を生きる私たちに多くの示唆を与えてきました。本授業では、訳読・受講生による発表・ディスカッションを中心に進めるとともに、実際に駿河台・神保町周辺の街に出て観察・思考する課題にも取り組みます。
自分の声や身体を使い、他の受講生と対話しながら文学作品を読み、考える力を養うことを目標とします。

授業内容
授業内容は以下の通りですが、受講者の関心や授業の状況に応じて内容を変更する場合があります。

第 1 回 オリエンテーション(授業のテーマと方法)
第 2 回 歩行・身体・思考の関係:グロ『歩くという哲学』(1)
第 3 回 都市と散歩の文化史:グロ『歩くという哲学』(2)
第 4 回 19 世紀パリと遊歩の文学(1):ボードレール『悪の華』
第 5 回 19 世紀パリと遊歩の文学(2):ボードレール『パリの憂鬱』
第 6 回 19 世紀パリと遊歩の文学(3):ボードレール『パリの憂鬱』+課題発表
第 7 回 遊歩と資本主義:ベンヤミン『パサージュ論』
第 8 回 遊歩と歴史意識:ベンヤミン『パサージュ論』+課題発表
第 9 回 シュルレアリスムと都市経験(1):ブルトン『ナジャ』
第 10 回 シュルレアリスムと都市経験(2):ブルトン『ナジャ』
第 11 回 シュルレアリスムと都市経験(3):アラゴン『パリの農夫』+課題発表
第 12 回 街歩き実践(1):駿河台・神保町フィールドワーク
第 13 回 街歩き実践(2):課題発表
第 14 回 課題発表の残り・総合討議

履修上の注意
・各回で扱う作品は、事前に必ず読んだ上で授業に臨んでください。
・授業内では発展的なフランス語表現や文法事項も扱うため、基礎文法の知識を前提とします。
・ディスカッションや発表において、積極的に意見を述べ、他者の発言に応答する姿勢が求められます。
・大学構内だけでなく神保町の街に出て行う課題も含まれるため、グループワークにおける協調性、安全への配慮、時間管理を重視します。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習を特に重視します。課題作品の該当箇所を事前に読み、わからない単語や構文を調べてメモしておくこと。疑問点を整理しておくこと。

教科書
授業内でプリントや課題テクストを配布します。

参考書
授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法
・ 授業内で実施する小テストやリアクションペーパーについては、次回の授業時にフィードバックを行います。
・ プレゼンテーションは、発表後に講評を行い、必要に応じて個別指導を行います。

成績評価の方法
・ 平常点(訳文発表の回数、授業への積極的参加など):60%
・ 授業内発表と期末レポート:40%
・ 遅刻・欠席が多い場合は大幅に減点しますので注意してください。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN391F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語学演習(3･4年)B	フランス語学演習B	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

「街を歩く」という行為を手がかりに、フランス文学における都市や身体経験を主題とする作品を読み、ディスカッションを行います。

秋学期は、20 世紀から現代の文学作品を中心に扱います。訳読・受講生による発表・ディスカッションを中心に進めるとともに、実際に駿河台・神保町周辺の街に出て観察・思考する課題にも取り組みます。

自分の声や身体を使い、他の受講生と対話しながら文学作品を読み、考える力を養うことを目標とします。

授業内容

授業内容は以下の通りですが、受講者の関心や授業の状況に応じて内容を変更する場合があります。

第１回 イントロダクションと春学期の振り返り
第２回 現代都市の散歩文学(1):ソルニット『ウォークス』
第３回 現代都市の散歩文学(2):ソルニット『ウォークス』
第４回 日常を書くという試み(1):ペレックと観察の技法
第５回 日常を書くという試み(2):ペレック『L' Infra-Ordinaire』
第６回 記憶の迷宮としての都市(1):歩行・探索・名前
第７回 記憶の迷宮としての都市(2):モディアノ『暗いブティック通り』
第８回 記憶の迷宮としての都市(3):モディアノ『暗いブティック通り』+課題発表
第９回 都市と失踪:ペレックとモディアノの比較
第10回 都市と書店:ベンヤミン『パサージュ論』
第11回 街歩き実践(1):神保町フィールドワーク(書店・古書店・街路の観察)
第12回 街歩き実践(2):フィールドノートの共有と討議
第13回 最終課題発表
第14回 最終課題発表の残り・全体まとめ

履修上の注意

・各回で扱う作品は、事前に必ず読んだ上で授業に臨んでください。
・授業内では発展的なフランス語表現や文法事項も扱うため、基礎文法の知識を前提とします。
・ディスカッションや発表において、積極的に意見を述べ、他者の発言に応答する姿勢が求められます。
・大学構内だけでなく神保町の街に出て行う課題も含まれるため、グループワークにおける協調性、安全への配慮、時間管理を重視します。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習を特に重視します。課題作品の該当箇所を事前に読み、わからない単語や構文を調べてメモしておくこと。疑問点を整理しておくこと。

教科書

授業内でプリントや課題テクストを配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

・ 授業内で実施する小テストやリアクションペーパーについては、次回の授業時にフィードバックを行います。
・ プレゼンテーションは、発表後に講評を行い、必要に応じて個別指導を行います。

成績評価の方法

・ 平常点(訳文発表の回数、授業への積極的参加など):60%
・ 授業内発表と期末レポート:40%
・ 遅刻・欠席が多い場合は大幅に減点しますので注意してください。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語学概論A	フランス語学概論A	
担 当 者	開講期	開講地区
中川 亮	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

[授業概要]

フランス語学とは、フランス語という言語のしくみを明らかにすることを目的とする言語学の分野です。フランス語自体は世界中にある様々な言語の一つに過ぎないとも考えられますが、しかしその事例を掘り下げることを通じて、人間の言語が持つ普遍的な特徴に近づくことができます。また、フランス語学では、教室でしばしばトップダウン的に伝授されるような発音・文法・語彙などの知識を、より体系的に記述し整理することを目指します。そのため、フランス語の学習にとっても、フランス語学は有用なはずです。

フランス語のしくみを考える上では、言語学の基本的概念をいくつか導入する必要があります。そこで今学期は、音を扱う分野である＜音声学・音韻論＞と、語の形を扱う＜形態論＞を中心にその分析手段の概要を示しつつ、フランス語の事例に適用する方法をみていくことにします。また、該当分野におけるフランス語の術語も学びます。なお、語よりも大きい単位(句、文)と意味については秋学期に扱います。

上記と並行して、この授業ではフランス国内に存在するフランス語の変異を導入し、フランス語内部の多様性にも触れます。今学期は、参照フランス語(FR)と南仏のフランス語を扱います。

一口にフランス語といっても、実際にはフランス内外で様々なフランス語の変種が使用されています。教室で耳にするフランス語とは違う変種に触れてみることで、その豊かな世界がよりはっきりと見えるようになります。

[到達目標]

・言語学、とくに音声学・音韻論、形態論の基本的概念を理解し運用できるようになる。
・上記分野における基本的概念を表すフランス語の術語を習得する。
・フランス語に多様性があることを理解し、参照フランス語と南仏のフランス語の様相を簡単に説明できるようになる。

授業内容

※以下で「第□部第○章」とある部分は教科書(⑤教科書を参照)の該当箇所を指します。
第１回 a:イントロダクション(言語学の射程)／b:言語記号、ラングとパロール、連辞と範列
第２回:音声学① 音声器官、発声と調音
第３回 a:音声学② 国際音声字母(IPA)／b:音韻論、とくに音素とミニマルペア(最小対)について
第４回 a:音声学・音韻論の演習課題／b:第Ⅰ部第１章「話しことばを記述するための言語学的知識」
第５回:第Ⅰ部第２章「話しことばのフランス語の変種」
第６回:第Ⅰ部第３章「社会的音声変異の例示」
第７回:第Ⅱ部第１章「参照フランス語(FR):概略」
第８回:第Ⅱ部第２章「参照フランス語(FR)の話し手」
第９回:第Ⅲ部第１章「南仏のフランス語:概略」
第10回:第Ⅲ部で取り上げられている南仏のフランス語話者の検討
第11回 a:フランス語形態論の分析課題／b:形態論① 二重分節と形態素
第12回:形態論② 派生と複合
第13回:形態論③ フランス語とそのほかのロマンス諸語との比較
第14回 a:試験／b:試験の解説、および講義全体のふりかえり

履修上の注意

フランス語を学習した経験があることが望ましい。履修を希望するフランス語未習者ならびに受講に関して不安のある履修希望者は初回に必ず出席して相談してほしい。
教科書は必ず準備してください。
公欠や感染症を理由とする出席停止等、真にやむを得ない事情がある場合を除き、遅刻・欠席者への個別対応はしません。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で導入された概念や術語が適用されうる具体例をコメントシートで提出してもらう。したがって、その準備が復習事項となる。(30 分)
また、次回扱う箇所に目を通しておき、答えるべき問題がある場合はその解答を準備してきてもらう。(30 分)
そのほか必要があれば疑問点や不明点について授業内で担当者に質問すること。

教科書

『フランコフォンの世界:コーパスが明かすフランス語の多様性』Detey, S., Durand, J., Laks, B., Lyche, Ch. [編著]、川口 裕司・矢頭 典枝・秋廣 尚恵・杉山 香織 [日本語版編訳](三省堂)

参考書

『よくわかる言語学』窪園晴夫 [編著](ミネルヴァ書房)
『French: A Linguistic Introduction』Fagyal, Z., Kibbee, D., Jenkins, F.(Cambridge University Press)
※これらの参考書は、必要に応じて各自参照ください。

課題に対するフィードバックの方法

第４回ａと第11回ａで実施する課題の解説は授業内で行うか、または Oh-o! Meiji を通じて配信する。第14回ａで行う試験も同様。

成績評価の方法

音声学・音韻論の演習課題(20%)、形態論に関する課題(20%)、コメントシート(10%)、試験(50%)
全体の３分の１を超える欠席があった場合、単位は取得できません。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語学概論B	フランス語学概論B	
担 当 者	開講期	開講地区
中川 亮	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

[授業概要]

フランス語学とは、フランス語という言語のしくみを明らかにすることを目的とする言語学の分野です。フランス語自体は世界中にある様々な言語の一つに過ぎないとも考えられますが、しかしその事例を掘り下げることを通じて、人間の言語が持つ普遍的な特徴に近づくことができます。また、フランス語学では、教室でしばしばトップダウン的に伝授されるような発音・文法・語彙などの知識を、より体系的に記述し整理することを目指します。そのため、フランス語の学習にとっても、フランス語学は有用なはずです。

フランス語のしくみを考える上では、言語学の基本的概念をいくつか導入する必要があります。そこで今学期は、句や文を扱う分野である＜統語論＞と意味を扱う＜意味論＞を中心にその分析手段の概要を示しつつ、フランス語の事例に適用する方法を学ぶことにします。また、該当分野におけるフランス語の術語も学びます。

上記と並行して、この授業ではフランス語の変種をいくつか導入し、フランス語内部の多様性にも触れます。今学期は、ベルギー、スイス、北アメリカ、アフリカのフランス語が対象です。

一口にフランス語といっても、実際にはフランス内外で様々なフランス語の変種が使用されています。教室で耳にするフランス語とは違う変種に触れてみることで、その豊かな世界がよりはっきりと見えるようになります。

[到達目標]

・言語学、とくに統語論、意味論のごく基本的な概念を理解し運用できるようになる。

・上記分野における基本的概念を表すフランス語の術語を習得する。

・ベルギー、スイス、アフリカ、北アメリカのフランス語の様相を簡単に説明できるようになる。

授業内容

※以下で「第□部第〇章」等とある部分は教科書の該当箇所を指します。なお、講義構成の都合上、教科書は第 IV 部→第 V 部→第 VII 部→第 VI 部の順で取り組みます。

第 1 回:統語論① 文の構成要素と文の構造

第 2 回:統語論② フランス語の動詞と否定辞

第 3 回:意味論の基礎

第 4 回:統語論と意味論の分析演習

第 5 回:第 IV 部「ベルギーのフランス語」

第 6 回:第 IV 部で取り上げられているベルギーのフランス語話者の検討

第 7 回:第 V 部第 1 章「スイスのフランス語:概略」:地理言語学的状況

第 8 回:第 V 部第 1 章「スイスのフランス語:概略」:言語的不安

第 9 回:第 VII 部第 1 章前半「北アメリカのフランス語:概略」

第 10 回:第 VII 部第 1 章前半「北アメリカのフランス語:構造的特徴」

第 11 回:第 VII 部で取り上げられている北アメリカのフランス語話者の検討

第 12 回:第 VI 部「アフリカと海外県・海外領域圏(DROM)」:歴史的経緯

第 13 回:第 VI 部「アフリカと海外県・海外領域圏(DROM)」:現在のフランス語使用状況

第 14 回:フランス語のバリエーションに関する発表と討論

履修上の注意

フランス語を学習した経験があることが望ましい。履修を希望するフランス語未習者、ならびに受講に関して不安のある履修希望者は初回に必ず出席して相談してほしい。

教科書は必ず準備してください。

公欠や感染症を理由とする出席停止等、真にやむを得ない事情がある場合を除き、遅刻・欠席者への個別対応はしません。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で導入された概念・術語・知識等に関する説明や具体例をコメントシートで提出してもらう。したがって、その準備が復習事項となる。(30 分)

また、次回扱う箇所に目を通しておき、答えるべき問題がある場合はその解答を準備してきてもらう。(30 分)

そのほか必要があれば疑問点や不明点について授業内で担当者に質問すること。

教科書

『フランコフォンの世界:コーパスが明かすフランス語の多様性』Detey, S., Durand, J., Laks, B., Lyche, Ch. [編著]、川口 裕司・矢頭 典枝・秋廣 尚恵・杉山 香織 [日本語版編訳](三省堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

第 4 回に行う課題の解説は授業内で解説するか、または Oh-o! Meiji を通じて配信する。第 14 回に実施する発表のフィードバックは各発表の直後に行う。

成績評価の方法

意味論・統語論の演習課題(25%)、フランス語のバリエーションに関する発表と討論(35%)、コメントシート(5%)、発表と討論に基づくレポート(35%)

レポートとして生成 AI のアウトプットをそのまま提出すること、もしくはそれに近いと考えられる状態で提出することは認めません。

また、担当者の指示する形式(スタイルシート)に準拠していない場合には大きな減点になります。

剽窃や不適切な引用を含んだ発表資料・レポートを最終成果として提示・提出した場合には厳しく対応します。

全体の 3 分の 1 を超える欠席があった場合、単位は取得できません。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN391F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語学研究A	フランス語学研究A	
担 当 者	開講期	開講地区
中川 亮	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業概要]

本授業では、①音声学・音韻論、②フランス語史、③学習者のフランス語研究に関する基礎的な術語・概念・理論の習得を目指します。

まず、フランス語を例にとりながら音声学・音韻論の基礎を概説し、フランス語の音の体系を科学的に記述する方法を学びます。これによって、習得が難しいとされている音(たとえば文字 R の発音)の調音について説明できるようになることを目指します。このさい、音声学・音韻論の用語をフランス語と日本語の両方で学びます。

次に、フランス語の歴史について、入門レベルのフランス語テクストを読み、フランス語の成立過程と他のロマンス語との差異について学びます。これによって、フランス語がイタリア語やスペイン語と近いといわれる理由(の一部)を説明できるようになることを目指します。

最後に、学習者のフランス語研究について基礎的なフランス語テクストを読みながら、第二言語習得論とフランス語教育学のごく入門的な知識を学びます。これらの知識は、自他の外国語学習経験をより客観的に分析するうえで有益です。

[到達目標]

1. ①音声学・音韻論、②フランス語史、③学習者のフランス語研究の各分野において、その基本的概念とそれを表すフランス語を習得する。

2. 上記各分野における近年の研究手法とその成果がどのようなものかを知り、フランス語学の本格的な研究論文を今後読むための基礎的知識を得る。

授業内容

第 1 回:音声学・音韻論① 音声学・音韻論とはどのような分野か

第 2 回:音声学・音韻論② フランス語の調音

第 3 回:音声学・音韻論③ 国際音声字母によるフランス語の音声表記

第 4 回:音声学・音韻論④ フランス語の音韻

第 5 回:音声学・音韻論⑤ リエゾンの成立、リエゾンの調査演習

第 6 回:フランス語史① フランス語の歴史的研究の射程

第 7 回:フランス語史② フランス語とそのほかのロマンス語との相違点

第 8 回:フランス語史③ フランス語史の時代区分と各時代の概要

第 9 回:フランス語史④ 最初期のフランス語テクストの言語的特徴 I

第 10 回:フランス語史⑤ 最初期のフランス語テクストの言語的特徴 II

第 11 回:学習者のフランス語研究① 学習者のフランス語研究の射程

第 12 回:学習者のフランス語研究② 学習者のフランス語研究におけるいくつかの潮流

第 13 回:学習者のフランス語研究③ いくつかの教授法

第 14 回a:学習者のフランス語研究④ 学習者のフランス語の評価にまつわる問題

b:レポート案の発表と討論

ただし、履修者の関心や状況によって扱う順序がやや変わる可能性があります。

履修上の注意

少なくとも辞書があればフランス語を読むことができるだけのフランス語力、またはその意欲が必要です。

配布されるフランス語資料には必ず事前に目を通すこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定されるフランス語テクストを事前に読み、その訳文を用意するとともに疑問点を整理すること。(60 分)

必要があれば疑問点や不明点について授業内で担当者に質問すること。

教科書

ありません。

参考書

『Initiation à la linguistique française』(2e édition)Zufferey, S., Moeschler, J.(Armand Colin)

『Les variétés du français parlé dans l'espace francophone: Ressources pour l'enseignement』Detey, S., Durand, J., Laks, B., Lyche, Ch.(Ophrys)

『100 fiches pour comprendre la linguistique』Siouffi, G., van Raemdonck, D.(Bréal)

課題に対するフィードバックの方法

口頭発表のフィードバックは各発表の直後に行う。期末レポートの講評は Oh-o! Meiji を通じて配信する。

成績評価の方法

訳文の作成(30%)、レポート案の作成とその発表(30%)、第 14 回の討論への貢献(10%)、発表と討論に基づくレポートの提出(30%)

レポートとして生成 AI のアウトプットを直接提出すること、もしくはそれに近いとみなしうる状態で提出することは認めません。

また、担当者の指示する形式(スタイルシート)に準拠していない場合には大きな減点になります。

剽窃や不適切な引用を含んだ発表資料・レポートを最終成果として提出した場合には厳しく対応します。

全体の 3 分の 1 を超える欠席があった場合、単位は取得できません。

その他

科目ナンバー：(AL)LIN391F		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語学研究B	フランス語学研究B	
担 当 者	開講期	開講地区
中川 亮	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

[授業概要]

本授業では、フランス語とほかの言語との接触について考えることを通じ、フランス語の言語的特徴とフランス語史に関する理解を深めます。

フランス語は、その歴史の中でフランス本国から様々な地域に「輸出」され、現地の言語と接触し、相互に影響を及ぼしあってきました。このような言語接触により、フランス語には多様性がもたらされることになりました。現地ではフランス語がしばしば外国語や第二言語として学習されたり、媒介言語としての機能を持つこととなったため、フランス語を母語としない話者によるフランス語使用という別の位相の問題も生じてきます。

フランス語と接触してきた言語は多数ありますが、本授業では比較的取り組みやすい英語と日本語との接触、そして事例として興味深いカリブ海地域にもたらされたフランス語について扱います。

上で述べたようなフランス語のバリエーションと変化及び学習者のフランス語についての考察は、「フランス語＝フランス共和国の言語」という図式的理解を再検討することにつながります。また、この考察をするにあたって、フランス語の言語的特徴をいくつか検討しますので、フランス語の仕組みをよりよく理解できるようになり、したがってフランス語学習にとっても有益です。

授業では、フランス語もしくは日本語で書かれた研究論文等の読解と、テーマに関係する講義とを交互に実施します。

[到達目標]

1. フランス語と英語・日本語・クレオールとの差異について実例を挙げて説明できるようになる。
2. フランス語と英語・日本語・クレオールとの接触に関するフランス語や日本語で書かれた論文の議論を整理し、説明できるようになる。

授業内容

第 1 回:言語変異と言語変化
第 2 回:言語変異と言語変化に関する文献の分析
第 3 回:フランス語と英語① フランス語史・英語史の時代区分
第 4 回:フランス語と英語② ブリテン島のフランス語 I:ノルマン・コンクエスト
第 5 回:フランス語と英語③ ブリテン島のフランス語 II:新教徒難民の流入
第 6 回:フランス語と英語④ 現代フランス語における英語由来の語彙
第 7 回:日本におけるフランス語① 日本人学習者によるフランス語動詞の使用
第 8 回:日本におけるフランス語② フランス語に取り入れられた日本語
第 9 回:日本におけるフランス語③ 日本語に取り入れられたフランス語
第 10 回:日本におけるフランス語④ 日本語に取り入れられたフランス語の分析演習
第 11 回:カリブ海とフランス語① カリブ海地域とフランス語
第 12 回:カリブ海とフランス語② クレオールとフランス語との相違点概略
第 13 回:カリブ海とフランス語③ フランス語ベースのクレオールとフランス語の語彙・形態・統語
第 14 回:期末レポート案の発表と討論、ピアレビュー

ただし、履修者の人数、関心、状況によって扱う順序がやや変わる可能性があります。

履修上の注意

少なくとも辞書があればフランス語を読むことができるだけのフランス語力、またはその意欲が必要です。
配布されるフランス語資料には必ず事前に目を通すこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定される事前リーディングにとりくみ、フランス語のものには訳文を用意する。フランス語・日本語いずれについてもあらかじめ疑問点を整理すること(60 分)。
必要があれば不明点などについて授業内で担当者に質問すること。

教科書

ありません。

参考書

『フランス語の発想:日本語の発想との比較とを通じて』春木仁孝、岩男考哲(くろしお出版)
『Grande Grammaire Historique du Français』Marchello-Nizia, Ch., Combettes, M., Prévost, S., Scheer, T.(De Gruyter)
『Le français dans l'espace francophone : Description linguistique et sociolinguistique de la francophonie, t. 2』ROBILLARD, D. de, BENIAMINO, M. (éds.),(Champion)
『Les créoles à base française』Hazaël-Massieux, M.-Chr.(Ophrys)
※これらの参考書は、必要に応じて各自参照ください。

課題に対するフィードバックの方法

口頭発表とレポート案に対するフィードバックは第 14 回で行う。
期末レポートの講評は Oh-o! Meiji を通じて配信する。

成績評価の方法

訳文の作成(30%)、レポート案の作成とその発表(30%)、第 14 回の討論への貢献(10%)、発表と討論に基づくレポートの提出(30%)
レポートとして生成 AI のアウトプットを直接提出すること、もしくはそれに近いとみなしうる状態で提出することは認めません。
また、担当者の指示する形式(スタイルシート)に準拠していない場合には大きな減点になります。
剽窃や不適切な引用を含んだ発表資料・レポートを最終成果として提出した場合には厳しく対応します。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語圏の歴史	フランス語圏の歴史	
担 当 者	開講期	開講地区
谷口 良生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、主として近世から現代にかけてのフランス史を概観していく。大きくは時代ごとにわけられているが、そのなかで政治・社会・文化といった多様な側面にできるかぎりふれていく。また、いわゆる国民国家フランスの枠組みにとらわれない、グローバルな側面についても数回あつかいたい。
フランス史やフランスの影響下にあった地域の歴史に関する基礎知識を養うことを目標とする。またあわせて、そうした基礎知識をもとにフランス語圏の歴史はどのようなテーマで語ることができるのかを理解することも到達目標となる。

授業内容

第 1 回 イントロダクション
第 2 回 アンシャン・レジーム期のフランス(1):ルネサンスと宗教改革
第 3 回 アンシャン・レジーム期のフランス(2):フランスの海外進出と植民地
第 4 回 アンシャン・レジーム期のフランス(3):絶対王政とその構造
第 5 回 アンシャン・レジーム期のフランス(4):アンシャン・レジームの社会と文化
第 6 回 「長い 19 世紀」のフランス(1):フランス革命とナポレオン体制
第 7 回 「長い 19 世紀」のフランス(2):19 世紀フランスの政治的変動
第 8 回 「長い 19 世紀」のフランス(3):フランスにおける国民国家の形成
第 9 回 「長い 19 世紀」のフランス(4):フランスの対外拡張と植民地帝国
第 10 回 「長い 19 世紀」のフランス(5):19 世紀フランスの社会と文化
第 11 回 「短い 20 世紀」のフランス(1):両大戦とフランス
第 12 回 「短い 20 世紀」のフランス(2):冷戦におけるフランス
第 13 回 「短い 20 世紀」のフランス(3):国民国家フランスとグローバル化
第 14 回 講義のまとめと期末レポートについて

履修上の注意

フランス史の基礎知識がなくともわかるように進めていく。積極的な受講を歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料にもとづいて授業内容を復習することにくわえ、毎回示される読書案内のうち、興味のあるものを選択し、学期中に 1～2 冊読み、授業内容の理解を深めてほしい。不明な点や疑問点があれば、リアクションペーパーなどを通じて質問してほしい。

教科書

とくに定めない。

参考書

毎回の授業で各テーマに関する読書案内を示すが、全体に関するものとして以下をあげる。

柴田三千雄、樺山紘一、福井憲彦編『フランス史(世界歴史大系)』1～3(山川出版社)。
谷川稔、渡辺和行編『近代フランスの歴史:国民国家形成の彼方に』(ミネルヴァ書房)。
平野千果子編『新しく学ぶフランス史』(ミネルヴァ書房)。
上垣豊編『はじめて学ぶフランスの歴史と文化』(ミネルヴァ書房)。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業のリアクションペーパーに対して、次回授業までに Oh-o!Meiji 上でフィードバックを行う。

成績評価の方法

リアクションペーパー(50%)とレポート(50%)で評価する。リアクションペーパーについては、授業の感想や質問などを授業後に提出してもらう(原則毎回行うが、受講生数によっては変更の可能性がある)。

その他

科目ナンバー：(AL)ARS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語圏表象文化 A	フランス語圏表象文化	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

フランス語圏表象文化 A(春学期)では、主として現代フランスの舞台作品を取り上げ、テクストと演出の関係を考えていきます。秋学期の表象文化 B では、主として文学作品のアダプテーション(小説から舞台・映画化された作品など)を扱います。

今ではごく自然に用いられる「演出」という言葉／概念は、19 世紀末のヨーロッパで誕生したものです。それ以前は、例えばモリエールのように作家兼俳優である人物が舞台創造の現場をまとめていたり、コンメディア・デッラルテのように一座の座長が統括したりすることで舞台が作り上げられていました。それが、1900 年前後の世紀転換期から、次第に舞台作りを専門的に行う演出家という職分が確立されていきます。この授業では、まず「戯曲／演劇テクスト」の特異性、劇場や舞台装置の「近代化」の歴史、「演出」概念の誕生・発展を概観し、その後、主として 20 世紀以降の演劇テクストや舞台作品がどのような構造をもち、どのように演出／舞台化されているのか、フランスの劇作品を中心に取り上げて具体的にみていきます。

主として現代フランスの作品(20 世紀以降の作品)を取り上げますが、演出例を比較検討するにあたってフランス以外の作品や古典作品の現代演出例を取り上げたり、翻案やオペラの演出について考えてみたりする機会も設けます。また、時代と共に変化し続けるテクストと演出の関係についても(集団創造という創作方法とその作品例を取り上げるなど)検討していきます。

授業内容

以下のように進める予定ですが、履修者の興味・関心により、多少変更する可能性があります。

第 1 回 授業全体の説明 ／舞台芸術におけるテクストと演出
第 2 回 「演出」概念誕生以前の上演：劇場、舞台装置、衣装の「近代化」／新たな視覚性の展開
第 3 回 「演出」概念と「演出家」の誕生：19 世紀末～20 世紀初頭の試み
第 4 回 イヨネスコ『犀』RHINOCEROS の解釈：全体主義とアレゴリー
第 5 回 『犀』の現代演出：不条理劇の舞台化
第 6 回 ベケット『しあわせな日々』OH LES BEAUX JOURS の解釈：演劇と不動の身体
第 7 回 『しあわせな日々』の舞台化：身体と言葉の強度
第 8 回 ジュネ『女中たち』LES BONNES の解釈：「演じること」を舞台化する
第 9 回 『女中たち』をいかに演出するか：演劇性と身体性
第 10 回 オペラ『ヴォツェック』WOZZECK：ビューヒナーの戯曲からベルクのオペラへ
第 11 回 『ヴォツェック』の演出分析
第 12 回 太陽劇団 THEATRE DU SOLEIL と集団創造：文化の民主化を考える
第 13 回 太陽劇団と集団創造：革命劇『1789』の分析・考察
第 14 回 全体のまとめ

履修上の注意

・各回、授業内容についての筆記コメント(リアクションペーパー)を求めます。
・授業で取り上げるテーマについて積極的に調べたり、授業で扱う作品を読んだり映像資料を視聴したりしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前配布資料、指定された作品や抜粋をあらかじめ読んで授業に臨んでください。
・授業後は、授業内容を復習し、メディアライブラリーの映像資料等も積極的に活用して視聴してください。

教科書

授業やクラスウェブ上で資料を配布します。

参考書

授業やクラスウェブ上で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

筆記コメントや課題(レポート等)については、授業やクラスウェブ上でフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 50%(授業への意欲的な参加、各回の筆記コメントなど)
レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL)ARS331J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語圏表象文化 B	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業(フランス語圏表象文化 B・秋学期)では、フランスの作品を中心に、文学作品のアダプテーションについて考えていきます。小説から舞台化または映画化された作品、戯曲(演劇)から映画化された作品、小説からオペラ、あるいはバレエ作品が作られた例など、文学作品のアダプテーションは多様です。まずは原作がどのような作品であるのか、物語の筋だけでなく創作背景等を踏まえて解釈し、原作そのものについての理解を深めます。そのうえでアダプテーション作品について考察し、原作からどのように変更されているのか、ジャンルの特徴や創作された時代の文化・社会的文脈を踏まえて考え、また近年のアダプテーション理論も読みながら多角的に分析していきます。必要に応じてフランス以外の作品も取り上げて検討していきます。

授業内容

以下のように進める予定ですが、履修者の興味・関心により、多少変更する可能性があります。

第 1 回 授業全体の説明／文学・芸術とアダプテーション
第 2 回 ヴィクトール・ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』NOTRE-DAME DE PARIS(小説)の解釈
第 3 回 『ノートル・ダム・ド・パリ』:小説から映画へ(ジャン・ドラノワ監督)
第 4 回 『ノートル・ダム・ド・パリ』:小説からバレエへ(ローラン・プティ振付)
第 5 回 プロスペール・メリメ『カルメン』CARMEN(小説)の解釈
第 6 回 『カルメン』:小説からオペラへ(ビゼー作曲)
第 7 回 『カルメン』:小説・オペラから複数の映画へ
第 8 回 エドモン・ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』CYRANO DE BERGERAC(戯曲)の解釈と演出例
第 9 回 『シラノ』:舞台から映画へ
第 10 回 マルセル・パニョル『父の大手柄』LA GLOIRE DE MON PERE(小説):家族の様子と大自然の描写
第 11 回 『父の大手柄』(小説):小説から映画へ―いかに映像化するか
第 12 回 J.-L. ラガルス『まさに世界の終わり』JUSTE LA FIN DU MONDE:戯曲の解釈
第 13 回 『まさに世界の終わり』:舞台から映画へ(グザヴィエ・ドラン監督)
第 14 回 全体のまとめ

履修上の注意

・各回、授業内容についての筆記コメント(リアクションペーパー)を求めます。
・授業で取り上げるテーマについて積極的に調べたり、授業で扱う作品を読んだり映像資料を視聴したりしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前配布資料、指定された作品や抜粋をあらかじめ読んで授業に臨んでください。
・授業後は、授業内容を復習し、メディアライブラリーの映像資料等も積極的に活用して視聴してください。

教科書

授業やクラスウェブ上で資料を配布します。

参考書

授業やクラスウェブ上で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

筆記コメントや課題(レポート等)については、授業やクラスウェブ上でフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 50%(授業への意欲的な参加、各回の筆記コメントなど)
レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションＩＡ	フランス語コミュニケーションＩＡ	
担 当 者	開講期	開講地区
クロズ　山口エリア	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

この授業はコミュニケーションに重点をおいた授業です。教科書『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』を使用し、フランス語を母語とする教員が担当します。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。

第１回:授業全体の説明／Leçon 1 挨拶をする、名前を言う、名前のスペルを言う
第２回:Leçon 2 国籍・職業を言う、出身地を言う
第３回:Leçon 2 動詞 être、形容詞の練習
第４回:Leçon 3 話せる言語を言う、専攻を言う
第５回:Leçon 3 好きなことを言う
第６回:Leçon 4 住んでいる国や都市について言う
第７回:Lecon 4 否定する
第８回:これまでのまとめ
第９回: Leçon 5 持ち物を言う、年齢を言う
第 10 回:Leçon 5 授業について話す
第 11 回:冠詞、動詞 avoir、否定文の練習
第 12 回:Leçon 6 行き先を言う、家事について話す
第 13 回:Leçon 6 普段することを語る
第 14 回:a:まとめ b:試験

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。

教科書

『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』 Ayako Kitamura, Vincent Durrenberger 著(朝日出版社)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)10%、テスト 90%で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションＩＡ	フランス語コミュニケーションＩＡ	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

春学期 Premier semestre

授業の概要・到達目標
フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容
この授業はコミュニケーションに重点をおいた授業です。教科書『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』を使用し、フランス語を母語とする教員が担当します。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。

第１回:授業全体の説明／Leçon 1 挨拶をする、名前を言う、名前のスペルを言う
第２回:Leçon 2 国籍・職業を言う、出身地を言う
第３回:Leçon 2 動詞 être、形容詞の練習
第４回:Leçon 3 話せる言語を言う、専攻を言う
第５回:Leçon 3 好きなことを言う
第６回:Leçon 4 住んでいる国や都市について言う
第７回:Lecon 4 否定する
第８回:これまでのまとめ
第９回: Leçon 5 持ち物を言う、年齢を言う
第 10 回:Leçon 5 授業について話す
第 11 回:冠詞、動詞 avoir、否定文の練習
第 12 回:Leçon 6 行き先を言う、家事について話す
第 13 回:Leçon 6 普段することを語る
第 14 回:a:まとめ b:試験

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。

教科書

教科書
『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』 Ayako Kitamura, Vincent Durrenberger 著(朝日出版社)

参考書

特になし
学生の学習意欲・興味のある分野等に応じて，希望者には参考文献を紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)60%、テスト 40%で評価します。

その他

間違いを恐れず積極的に授業に参加しましょう。なるべく大きな声ではっきりと発音すること，わからない時は恥ずかしがらずにすぐ質問することをお勧めします。

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションＩA	フランス語コミュニケーションＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 美穂	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の目標は、フランス語のニュース番組・ホームページから、自分の求める情報が探し出せるようになり、その情報に関してフランス語で口頭でコメントできるようになることです。そのために、毎回の授業でフランス語のニュース番組のきき とり、ホームページでの情報検索という2種類の練習を行います。この2種類の練習は毎回の授業でひとつの同じテーマに沿って作られています。そして授業の最後に、その日のテーマに関してフランス語でコメントを述べる練習を行います。録音を提出し、次週に教員からのコメントを受け取ります。

授業内容

基本的に1週間以内の最新のニュースをテーマとしてとりあげます。2026 年のニュースを予測することはできませんので、次に参考として 2025 年度春学期に扱ったテーマを列挙します。

第1回:イースターのチョコレート、高騰するカカオの代替品
第2回:ワインの容器、アルミ缶がフランスで登場
第3回:5 月1日のすずらん、メーデーに花屋さんで従業員を働かせるのは違法
第4回:ニューカレドニア、暴動以降観光客が減少
第5回:高速鉄道 TGV、ある男性の危険行為
第6回:カンヌ映画祭、リッチな観光客たち
第7回:ミネラルウォーター「ペリエ」、違法のフィルター処理が発覚
第8回:マルセイユ、レンタルされた車がそのまま港から密輸出される
第9回:サッカー、パリサンジェルマンが優勝したのに暴動がおきる
第10回:修復なったノートルダムが、大人気
第11回:猛暑を防ぐ鎧戸は、景観を乱すため禁止
第12回:猛暑でパン職人が疲労
第13回:ツールドフランスの経済効果
第14回:7月14日の軍事パレードに、ドローンが登場

履修上の注意

ニュース番組のききとりと、ホームページの閲覧には、CALL 教室のパソコンを使います。1回目の授業から大学のパソコンが使えるように、パスワード等の確認を行っておいてください。
1回目の授業から辞書が必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

会話録音に関して教員から返却されたコメントをよく読んで、次週の録音に反映させるようにしてください。

教科書

教科書購入の必要はありません。

参考書

辞書は1回目の授業から必要です。

課題に対するフィードバックの方法

毎週提出される録音は、教員が自宅で聞いてコメントをワードに記入し、次週に教室で返却します。期末テストは平均点等を Oh o Meiji で知らせ、点数を知りたい方にはメールで点数を知らせます。

成績評価の方法

授業には 75%以上出席する必要があります。75%未満の場合は単位は取得できません。そして学期末に行う試験を100%として、評価を決めます。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションＩB	フランス語コミュニケーションＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
クロズ 山口エリア	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

この授業はコミュニケーションに重点をおいた授業です。教科書『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』を使用し、フランス語を母語とする教員が担当します。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。

第１回:春学期の復習／Leçon 7 人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う
第２回:Leçon 7 形容詞、所有形容詞の練習
第３回:Leçon 8 欲しいものを言う、色・サイズを言う、値段を尋ねる
第４回:Leçon 8 時刻を言う
第５回:Leçon 9 食べ物について話す
第６回:Leçon 9 食料品を言う、値段を言う
第７回:これまでのまとめ
第８回:Leçon 10 位置関係を言う
第９回:Leçon 10 天候について話す
第10回:Leçon 11 質問する
第11回:Leçon 11 予定について語る
第12回:Leçon 12 過去の行為や出来事を語る
第13回:Leçon 12 複合過去形の練習
第14回:a:まとめ b:試験

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。

教科書

『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』 Ayako Kitamura, Vincent Durrenberger 著(朝日出版社)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)10%、テスト 90%で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションＩＢ	フランス語コミュニケーションＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

秋学期 Deuxième semestre

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

この授業はコミュニケーションに重点をおいた授業です。教科書『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』を使用し、フランス語を母語とする教員が担当します。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。

第１回:春学期の復習／Leçon 7 人や物を描写する、所有を言う、電話番号を言う
第２回:Leçon 7 形容詞、所有形容詞の練習
第３回:Leçon 8 欲しいものを言う、色・サイズを言う、値段を尋ねる
第４回:Leçon 8 時刻を言う
第５回:Leçon 9 食べ物について話す
第６回:Leçon 9 食料品を言う、値段を言う
第７回:これまでのまとめ
第８回:Leçon 10 位置関係を言う
第９回:Leçon 10 天候について話す
第10回:Leçon 11 質問する
第11回:Leçon 11 予定について語る
第12回:Leçon 12 過去の行為や出来事を語る
第13回:Leçon 12 複合過去形の練習
第14回:a:まとめ b:試験

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。

教科書

教科書

『プチ・マエストロ 1(Le Petit Maestro 1)』 Ayako Kitamura, Vincent Durrenberger 著(朝日出版社)

参考書

特になし

学生の学習意欲・興味のある分野等に応じて，希望者には参考文献を紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)60%、テスト 40%で評価します。

その他

間違いを恐れず積極的に授業に参加しましょう。なるべく大きな声ではっきりと発音すること，わからない時は恥ずかしがらずにすぐ質問することをお勧めします。

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションＩＢ	フランス語コミュニケーションＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
井上 美穂	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の目標は、フランス語のニュース番組・ホームページから、自分の求める情報が探し出せるようになり、その情報に関してフランス語で口頭でコメントできるようになることです。そのために、毎回の授業でフランス語のニュース番組のききとり、ホームページでの情報検索という2種類の練習を行います。この2種類の練習は毎回の授業でひとつの同じテーマに沿って作られています。そして授業の最後に、その日のテーマに関してフランス語でコメントを述べる練習を行います。録音を提出し、次週に教員からのコメントを受け取ります。

授業内容

基本的に1週間以内の最新のニュースをテーマとしてとりあげます。2026 年のニュースを予測することはできませんので、次に参考として 2025 年度秋学期に扱ったテーマを列挙します。

第１回:モロッコの高級レストラン
第２回:変わりつつあるハイパーマート
第３回:フランスがパレスチナ国家を承認
第４回:エッフェル塔の歴史
第５回:ルーブル美術館から宝飾品が盗まれる
第６回:生乳から作るチーズの危険性
第７回:モンサンミッシェルが、大潮で島となる
第８回:心のレストラン、住居も援助
第９回:米国によるウクライナ和平交渉
第10回:ストラスブールでマルシェドノエルが始まる
第11回:トリュフ泥棒を防ぐ手立て
第12回:ベルサイユの修復工事
第13回:国境なき医師団が、イスラエルによりガザでの活動を禁止される
第14回:冬を迎え、病院は大忙し

履修上の注意

ニュース番組のききとりと、ホームページの閲覧には、CALL 教室のパソコンを使います。1回目の授業から大学のパソコンが使えるように、パスワード等の確認を行っておいてください。

1回目の授業から辞書が必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

会話録音に関して教員から返却されたコメントをよく読んで、次週の録音に反映させるようにしてください。

教科書

教科書購入の必要はありません。

参考書

辞書は1回目の授業から必要です。

課題に対するフィードバックの方法

毎週提出される録音は、教員が自宅で聞いてコメントをワードに記入し、次週に教室で返却します。期末テストは平均点等を Oh o Meiji で知らせ、点数を知りたい方にはメールで点数を知らせます。

成績評価の方法

授業には 75%以上出席する必要があります。75%未満の場合は単位は取得できません。そして学期末に行う試験を100%として、評価を決めます。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅡA	フランス語コミュニケーションⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

各回、教科書のテーマに沿って、フランス語コミュニケーションの基礎を学んでいきます。文法事項も確認しながら、実践的な練習を重視して授業を進めます。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。

第１回:授業全体の説明／綴り字・発音、挨拶
第２回:出会いと自己紹介
第３回:実践・応用練習
第４回:住まいや国籍を尋ねる
第５回:実践・応用練習
第６回:知人を紹介する
第７回:実践・応用練習
第８回:専攻と余暇について
第９回: 実践・応用練習
第10回:家族について話す
第11回:実践・応用練習
第12回:持ち物について話す
第13回:実践・応用練習
第14回:a:まとめ b:試験

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。

教科書

『新エスカパード！』、Janick Magne、東辰之介ほか著(駿河台出版社)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)60%、テスト40%で評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅡA	フランス語コミュニケーションⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美緒	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

各回、教科書のテーマに沿って、フランス語コミュニケーションの基礎を学んでいきます。文法事項も確認しながら、実践的な練習を重視して授業を進めます。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。

第１回:授業全体の説明／綴り字・発音、挨拶
第２回:挨拶をする
第３回:実践・応用練習
第４回:自己紹介をする
第５回:実践・応用練習
第６回:持ち物・年齢・趣味について話す
第７回:実践・応用練習
第８回:質問する／情報を尋ねる
第９回: 実践・応用練習
第10回:ものや人を提示する・説明する
第11回:実践・応用練習
第12回:夏休みの予定について話す
第13回:実践・応用練習
第14回:a:まとめ b:試験

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。

教科書

『新エスカパード！』、Janick Magne、東辰之介ほか著(駿河台出版社)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)60%、テスト40%で評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅡA	フランス語コミュニケーションⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
ドナティ, ジャンアレ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(Pouvoir parler en français desujets de société (culture, environnement, art, économie, histoire, sport...)_

_ (社会問題(文化、環境、芸術、経済、歴史、スポーツなど)についてフランス語を話せるようになること)_

_ _

_ (Savoir enchaîner sans hésiter les idées dans une conversation)_

_ 迷いなく自然にフランス語で会話を続けられるようになること。_

_ _

_ Savoir préparer un PowerPoint professionnel sur un sujet de société et le présenter de manière professionnelle_

_ 社会的なテーマについてプロフェッショナルなパワーポイントを作成し、プロフェッショナルな方法でプレゼンテーションする方法を知っている_

_ _

_ (Acquérir suffisamment d' autonomie pour un voyage dans les pays francophones)_

_ フランス語圏の国を旅行したときに困らないレベルのフランス語を身につけること。_

授業内容

(SEMESTRE D'AUTOMNE)_

_ 第 1 回:0 課と 1 課. Étude de texte - Vocabulaire - Écriture_

_ 第 2 回:2 課. Lecture + compréhension écrite_

_ 第 3 回:3 課. Révisions_

_ 第 4 回:4 課. Préparation de présentation_

_ 第 5 回:4 課. Préparation PowerPoint_

_ 第 6 回:復習. Présentation_

_ 第 7 回:5 課. Révisions_

_ 第 8 回:5 課. Étude de texte - vocabulaire - Écriture_

_ 第 9 回:6 課. Présentations de nouvelles + Interaction_

_ 第 10 回:6 課. Présentations de nouvelles + Interaction_

_ 第 11 回:復習. Révisions_

_ 第 12 回:7 課. Préparation test final_

_ 第 13 回:8 課. Préparartion PowerPoint_

_ 第 14 回:筆記試験 . Présentation finale_

_ _

_ (Le programme est susceptible d'être modifié)_

_ 授業計画は変更する可能性があります_

履修上の注意

Niveaux B1, B2_

準備学習(予習・復習等)の内容

Les cours seront variés :_

_ _

_ - cours de révision_

_ - cours de pratique orale en petits groupes_

_ - présentations de sujets divers sur PowerPoint par les étudiant(e)s_

_ - présentations de sujets divers avec TV5 Monde et d'autres supports_

_

教科書

Pas de manuel spécifique._

_ Le professeur proposera des documents de sources différentes._

_

参考書

Un dictionnaire de français_

_

課題に対するフィードバックの方法

Corriger des devoirs (production écrite)_

_ フランス語作文等の課題は、添削して返却します。_

成績評価の方法

(Examen final) (Contrôle continu)_

_ 期末試験 (kimatsu shiken) 小テスト (sho tesuto)_

_ _

_ (Sont pris en compte la présence et la participation à 40%, et de petits tests à 60%.)_

_ 成績は、出席と授業態度が 40%、小テストが 60%です。 _

_ _

_ (Dans ce cours, le plus important c'est la présence et la participation active.)_

_ この授業では、出席して積極的に参加することが大切です。_

_ _

_ (Attention les absences et retards répétés sont éliminatoires pour l' unité de valeur.)_

_ 欠席と遅刻が多い場合、単位は認定されません。_

_ _

_ (Deux retards valent une absence.)_

_ 2回遅刻すると、欠席1回と見なします。_

_ _

_ (Test écrit / Test oral)_

_ 筆記試験 (hikki shiken) / 口頭試験 (koutou shiken)_

その他

Les activités orales sont aussi très importantes. C' est pourquoi il faut être très concentré et très actif lors des activités de groupes en classe. Mais ce travail doit être poursuivi à la maison par des révisions et un entraînement phonétique,_

科目ナンバー:(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅡB	フランス語コミュニケーションⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。_

_

授業内容

各回、教科書のテーマに沿って、フランス語コミュニケーションの基礎を学んでいきます。文法事項も確認しながら、実践的な練習を重視して授業を進めます。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。_

_ _

_ 第 1 回:授業全体の説明／春学期の復習_

_ 第 2 回:鉄道に乗る・時刻を聞く・頼む_

_ 第 3 回:実践・応用練習 _

_ 第 4 回:バカンスの報告をする_

_ 第 5 回:実践・応用練習_

_ 第 6 回:贈り物について考え、説明する_

_ 第 7 回:実践・応用練習_

_ 第 8 回:これまでのまとめ_

_ 第 9 回:日常の行動について話す_

_ 第 10 回:実践・応用練習_

_ 第 11 回:過去の出来事を語る_

_ 第 12 回:旅した国・場所について話す_

_ 第 13 回: 実践・応用練習_

_ 第 14 回:a:まとめ b:試験_

_

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。_

_

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。_

_

教科書

『新エスカパード！』、Janick Magne、東辰之介ほか著(駿河台出版社)_

_

参考書

特になし_

_

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。_

_

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)60%、テスト 40%で評価します。_

_

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅡB	フランス語コミュニケーションⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美緒	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語でコミュニケーションを行う基礎力を身につけます。教科書の各課のテーマに沿って、基礎的な文法事項も学びながら実践練習や応用練習を行い、読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。1年次の終りには、仏検3級とDELF A1～A2レベルに到達することを目標にしています。

授業内容

各回、教科書のテーマに沿って、フランス語コミュニケーションの基礎を学んでいきます。文法事項も確認しながら、実践的な練習を重視して授業を進めます。進度はおおよその目安です。また、語彙を増やしたり、応用練習をしたりするために、教科書以外の内容を扱うこともあります。

第１回:授業全体の説明／春学期の復習
第２回:鉄道に乗る・時刻を聞く・頼む
第３回:実践・応用練習
第４回:バカンスの報告をする
第５回:実践・応用練習
第６回:贈り物について考え、説明する
第７回:実践・応用練習
第８回:これまでのまとめ
第９回:日常の行動について話す
第10回:実践・応用練習
第11回:過去の出来事を語る
第12回:旅した国・場所について話す
第13回: 実践・応用練習
第14回:a:まとめ b:試験

履修上の注意

基礎力を身につけるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業後に復習を心がけてください。予習箇所が指定されている場合や、次回までの課題が出されている場合は、必ず行って授業に参加してください。

教科書

『新エスカパード！』、Janick Magne、東辰之介ほか著(駿河台出版社)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加)60%、テスト40%で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN132N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅡB	フランス語コミュニケーションⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
ドナティ, ジャンアレ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(Pouvoir parler en français desujets de société (culture, environnement, art, économie, histoire, sport...)
(社会問題(文化、環境、芸術、経済、歴史、スポーツなど)についてフランス語を話せるようになること)

(Savoir enchaîner sans hésiter les idées dans une conversation)
迷いなく自然にフランス語で会話を続けられるようになること。

Savoir préparer un PowerPoint professionnel sur un sujet de société et le présenter de manière professionnelle
社会的なテーマについてプロフェッショナルなパワーポイントを作成し、プロフェッショナルな方法でプレゼンテーションする方法を知っている

(Acquérir suffisamment d'autonomie pour un voyage dans les pays francophones)
フランス語圏の国を旅行したときに困らないレベルのフランス語を身につけること。

授業内容

(SEMESTRE D'AUTOMNE)
第１回:0課と１課. Étude de texte - Vocabulaire - Écriture
第２回:2 課. Lecture + compréhension écrite
第３回:3 課. Révisions
第４回:4 課. Préparation de présentation
第５回:4 課. Préparation PowerPoint
第６回:復習. Présentation
第７回:5 課. Révisions
第８回:5 課. Étude de texte - vocabulaire - Écriture
第９回:6 課. Présentations de nouvelles + Interaction
第10回:6 課. Présentations de nouvelles + Interaction
第11回:復習. Révisions
第12回:7 課. Préparation test final
第13回:8 課. Prépararion PowerPoint
第14回:筆記試験 . Présentation finale

(Le programme est susceptible d'être modifié)
授業計画は変更する可能性があります

履修上の注意

Niveaux B1, B2

準備学習(予習・復習等)の内容

Les cours seront variés :

- cours de révision
- cours de pratique orale en petits groupes
- présentations de sujets divers sur PowerPoint par les étudiant(e)s
- présentations de sujets divers avec TV5 Monde et d'autres supports

教科書

Pas de manuel spécifique.
Le professeur proposera des documents de sources différentes.

参考書

Un dictionnaire de français

課題に対するフィードバックの方法

Corriger des devoirs (production écrite)
フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

(Examen final) (Contrôle continu)
期末試験 (kimatsu shiken) 小テスト (sho tesuto)

(Sont pris en compte la présence et la participation à 40%, et de petits tests à 60%.)
成績は、出席と授業態度が 40%、小テストが 60%です。

(Dans ce cours, le plus important c'est la présence et la participation active.)
この授業では、出席して積極的に参加することが大切です。

(Attention les absences et retards répétés sont éliminatoires pour l'unité de valeur.)
欠席と遅刻が多い場合、単位は認定されません。

(Deux retards valent une absence.)
2回遅刻すると、欠席1回と見なします。

(Test écrit / Test oral)
筆記試験 (hikki shiken) / 口頭試験 (koutou shiken)

その他

Les activités orales sont aussi très importantes. C'est pourquoi il faut être très concentré et très actif lors des activités de groupes en classe. Mais ce travail doit être poursuivi à la maison par des révisions et un entraînement phonétique.

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅢA	フランス語コミュニケーションⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
ドナティ, ジャンアレ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(Tout en étudiant les bases de la grammaire française, on s' entraîne à parler en français de sa vie quotidienne et de ses centres d' intérêt. Pour parvenir à parler plus spontanément, on fait à deux des activités d' automatismes écrites ou orales.)

フランス語の基本文法を勉強しながら、自分自身の日常生活や興味を持っていることについてフランス語で話す練習をします。自然にフランス語が口をついて出るよう、教科書にそってペアでの会話練習とさまざまな練習問題を繰り返し行います。

(Les objectifs de ce cours sont les suivants)

この授業の目標は次のとおりです。

(Être capable de construire une proposition simple dans le respect de la syntaxe : rôles respectifs des noms, adjectifs, adverbes, articles, verbes, prépositions etc.)

フランス語の構文の規則(名詞、形容詞、副詞、冠詞、動詞、前置詞などの品詞の役割)に従って簡単な文を作れるようになること。

(Être capable de lier les différentes propositions entre elles de manière naturelle et logique)

複数の文を論理的かつ自然につなげられるようになること。

(Être capable d' écrire sans fautes d' orthographe)

スペルを間違えずに書けるようになること。

(S' habituer progressivement à la prononciation du français)

フランス語の発音に少しずつ慣れること。

(Acquérir les réflexes oraux nécessaires au bon déroulement d' une conversation courante en français)

会話をなめらかに展開させるために必要なフランス語の反射神経を身につけること。

(Pouvoir parler en français de sa vie quotidienne et de ses centres d' intérêt)

自分の日常生活や興味のあることについて、フランス語で話せるようになること。

(Savoir enchaîner sans hésiter les idées dans une conversation)

迷いなく自然にフランス語で会話を続けられるようになること。

(Acquérir des rudiments sur les spécificités de la culture française et ses différences avec la culture japonaise)

フランス文化の特性と、フランス文化と日本文化との違いについての基本的な知識を得ること。

(Acquérir suffisamment d' autonomie pour un voyage dans les pays francophones)

フランス語圏の国を旅行したときに困らないレベルのフランス語を身につけること。

(On fait en groupes les exercices proposés dans chaque leçon du manuel, en alternant activités écrites ou orales)

教科書の各課で提案される練習問題をグループで行います。筆記による練習問題と口頭によるアクティビティを行います。

授業内容

SEMESTRE DE PRINTEMPS

L.1 否定疑問に答える L.2 部屋の描写をする感嘆する L.3 必要なこと、ものを言うしたいこと、欲しいものを言う
L.4 計画、予定、未来に起こることを言う仮定する L.5 人や物についての感想を言う L.6 フランスの画家、彫刻家とその作品
Révision
まとめのテスト: 練習問題、話してみよう!
L.7 感情を伝える L.8 相手に指示を与える L.9 関係代名詞を使って人や物、場所を説明する L.10 婉曲に表現する事実に反する仮定をする
L.11 相手を非難する強調して伝える L.12 フランスの本土と海外県・海外領土
まとめのテスト: 練習問題、話してみよう!
Le contenu des leçon pourra être modifié selon les besoins des étudiants
生徒のニーズに合わせてレッスン内容を変更可能

履修上の注意

(Les activités orales sont aussi très importantes. C' est pourquoi il faut être très concentré et très actif lors des activités de groupes en classe. Mais ce travail doit être poursuivi à la maison par des révisions et un entraînement phonétique. Et bien sûr, il est demandé de réviser systématiquement le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente avant d' arriver au cours. Les progrès que vous ferez dépendent tout simplement du temps que vous y avez consacré.)

口頭練習はとても大事です。ですから、もちろん授業ではしっかりペアで口頭練習をし、積極的に授業に参加して下さい。しかし、自宅での学習も重要です。自宅では、口頭練習やさまざまな復習をして下さい。また、前回の授業で学習した文法項目やボキャブラリーをしっかり復習して授業に臨むことが大事です。フランス語が上達するか否かは、日々の学習時間にかかっています。

準備学習(予習・復習等)の内容

Avant le cours : préparer son exposé ou la discussion avec des thèmes donnés.
Après le cours : réviser le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente.
指定された内容やテーマに沿って、発表やディスカッション等の授業準備をしてきてください。
また授業後は、学んだ単語や文法事項を復習してください。

教科書

MAESTRO 2 (Méthode de français) Durremberger Vincent Kitamura Ayako
ISBN 978-4-255-35320-3 C1085 2,970 Y (1,700 + tax)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Corriger des devoirs (production écrite) フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

(Examen final) (Contrôle continu)
期末試験 (kimatsu shiken) 小テスト (sho tesuto)
(Sont pris en compte la présence et la participation à 30%, et de tests à 70%.)
成績は、出席と授業態度が 30%、テストが 70%です。
(Dans ce cours, le plus important c'est la présence et la participation active.)
この授業では、出席して積極的に参加することが大切です。
(Attention les absences et retards répétés sont éliminatoires pour l' unité de valeur.)
欠席と遅刻が多い場合、単位は認定されません。 (Deux retards valent une absence.)
2回遅刻すると、欠席1回と見なします。 (Test écrit / Test oral)
筆記試験 (hikki shiken) / 口頭試験 (koutou shiken)

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅢA	フランス語コミュニケーションⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
ドナティ, ジャンアレ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
(Tout en étudiant les bases de la grammaire française, on s' entraîne à parler en français de sa vie quotidienne et de ses centres d' intérêt. Pour parvenir à parler plus spontanément, on fait à deux des activités d' automatismes écrites ou orales.)
フランス語の基本文法を勉強しながら、自分自身の日常生活や興味を持っていることについてフランス語で話す練習をします。自然にフランス語が口をついて出るよう、教科書にそってペアでの会話練習とさまざまな練習問題を繰り返し行います。
(Les objectifs de ce cours sont les suivants)
この授業の目標は次のとおりです。
(Être capable de construire une proposition simple dans le respect de la syntaxe : rôles respectifs des noms, adjectifs, adverbes, articles, verbes, prépositions etc.)
フランス語の構文の規則(名詞、形容詞、副詞、冠詞、動詞、前置詞などの品詞の役割)に従って簡単な文を作れるようになること。
(Être capable de lier les différentes propositions entre elles de manière naturelle et logique)
複数の文を論理的かつ自然につなげられるようになること。
(Être capable d' écrire sans fautes d' orthographe)
スペルを間違えずに書けるようになること。
(S' habituer progressivement à la prononciation du français)
フランス語の発音に少しずつ慣れること。
(Acquérir les réflexes oraux nécessaires au bon déroulement d' une conversation courante en français)
会話をなめらかに展開させるために必要なフランス語の反射神経を身につけること。
(Pouvoir parler en français de sa vie quotidienne et de ses centres d' intérêt)
自分の日常生活や興味のあることについて、フランス語で話せるようになること。
(Savoir enchaîner sans hésiter les idées dans une conversation)
迷いなく自然にフランス語で会話を続けられるようになること。
(Acquérir des rudiments sur les spécificités de la culture française et ses différences avec la culture japonaise)
フランス文化の特性と、フランス文化と日本文化との違いについての基本的な知識を得ること。
(Acquérir suffisamment d' autonomie pour un voyage dans les pays francophones)
フランス語圏の国を旅行したときに困らないレベルのフランス語を身につけること。
(On fait en groupes les exercices proposés dans chaque leçon du manuel, en alternant activités écrites ou orales)
教科書の各課で提案される練習問題をグループで行います。筆記による練習問題と口頭によるアクティビティを行います。

授業内容

SEMESTRE DE PRINTEMPS
L.1 否定疑問に答える L.2 部屋の描写をする感嘆する L.3 必要なこと、ものを言うしたいこと、欲しいものを言う
L.4 計画、予定、未来に起こることを言う仮定する L.5 人や物についての感想を言う L.6 フランスの画家、彫刻家とその作品
Révision まとめのテスト: 練習問題、話してみよう!
L.7 感情を伝える L.8 相手に指示を与える L.9 関係代名詞を使って人や物、場所を説明する L.10 婉曲に表現する事実に反する仮定をする
L.11 相手を非難する強調して伝える L.12 フランスの本土と海外県・海外領土 Révision まとめのテスト: 練習問題、話してみよう!
Le contenu des leçon pourra être modifié selon les besoins des étudiants
生徒のニーズに合わせてレッスン内容を変更可能

履修上の注意

(Les activités orales sont aussi très importantes. C' est pourquoi il faut être très concentré et très actif lors des activités de groupes en classe. Mais ce travail doit être poursuivi à la maison par des révisions et un entraînement phonétique. Et bien sûr, il est demandé de réviser systématiquement le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente avant d' arriver au cours. Les progrès que vous ferez dépendent tout simplement du temps que vous y avez consacré.)
口頭練習はとても大事です。ですから、もちろん授業ではしっかりペアで口頭練習をし、積極的に授業に参加して下さい。しかし、自宅での学習も重要です。自宅では、口頭練習やさまざまな復習をして下さい。また、前回の授業で学習した文法項目やボキャブラリーをしっかり復習して授業に臨むことが大事です。フランス語が上達するか否かは、日々の学習時間にかかっています。

準備学習(予習・復習等)の内容

Avant le cours : préparer son exposé ou la discussion avec des thèmes donnés.
Après le cours : réviser le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente.
指定された内容やテーマに沿って、発表やディスカッション等の授業準備をしてきてください。また授業後は、学んだ単語や文法事項を復習してください。

教科書

MAESTRO 2 (Méthode de français) Durremberger Vincent Kitamura Ayako
ISBN 978-4-255-35320-3 C1085 2,970 Y (1,700 + tax)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Corriger des devoirs (production écrite) フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

(Examen final) (Contrôle continu)
期末試験 (kimatsu shiken) 小テスト (sho tesuto)
(Sont pris en compte la présence et la participation à 30%, et de tests à 70%.)
成績は、出席と授業態度が 30%、テストが 70%です。 (Dans ce cours, le plus important c'est la présence et la participation active.)
この授業では、出席して積極的に参加することが大切です。 (Attention les absences et retards répétés sont éliminatoires pour l' unité de valeur.)
欠席と遅刻が多い場合、単位は認定されません。 (Deux retards valent une absence.)
2回遅刻すると、欠席1回と見なします。 (Test écrit / Test oral)
筆記試験 (hikki shiken) / 口頭試験 (koutou shiken)

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅢB	フランス語コミュニケーションⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
ドナティ, ジャンアレ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(Les objectifs de ce cours sont les suivants)_
_ この授業の目標は次のとおりです。_
(Être capable de construire une proposition plus complexe dans le respect de la syntaxe : rôles respectifs des noms, adjectifs, adverbes, articles, verbes, prépositions etc.)
（名詞、形容詞、副詞、冠詞、動詞、前置詞などのそれぞれの役割などの構文を尊重しながら、より複雑な命題を構築できるようになります。）
(Être capable de lier les différentes propositions entre elles de manière naturelle et logique)
_ 複数の文を論理的かつ自然につなげられるようになること。_
(Être capable d'écrire sans fautes d'orthographe)
_ スペルを間違えずに書けるようになること。_
(Acquérir les réflexes oraux nécessaires au bon déroulement d'une conversation courante en français)
_ 会話をなめらかに展開させるために必要なフランス語の反射神経を身につけること。_
(Pouvoir parler en français à un niveau B1)
（B1 レベルのフランス語を話せること）
(Savoir enchaîner sans hésiter les idées dans une conversation)
_ 迷いなく自然にフランス語で会話を続けられるようになること。_
(Acquérir des rudiments sur les spécificités de la culture française et ses différences avec la culture japonaise)
_ フランス文化の特性と、フランス文化と日本文化との違いについての基本的な知識を得ること。_
(Acquérir suffisamment d'autonomie pour un voyage dans les pays francophones)
_ フランス語圏の国を旅行したときに困らないレベルのフランス語を身につけること。_
(On fait en groupes les exercices proposés dans chaque leçon du manuel, en alternant activités écrites ou orales)
_ 教科書の各課で提案される練習問題をグループで行います。筆記による練習問題と口頭によるアクティビティを行います。_

授業内容

SEMESTRE D'AUTOMNE_ L.13 略号を読む texto を読み、書く_ L.14 願望、必要性を述べる_
_ L.15 感情や疑い、不安を述べる_ L.16 同時性や方法、原因を述べる_ L.17 全否定する_ L.18 フランスのお祭り、イベント_ Révision_ まとめのテスト; 練習問題、話してみよう!_
_ L.19 発明、発見されたものを言う_ L.20 過去の一時点より前に起きたことを言う命令する_ L.21 伝達する間_
_ L.22 人に何かさせることを表現する比較する_ L.23 貸し借り、授受について話す_ L.24 フランスの映画_
_ Révision_ まとめのテスト; 練習問題、話してみよう!_

履修上の注意

(Les activités orales sont aussi très importantes. C'est pourquoi il faut être très concentré et très actif lors des activités de groupes en classe. Mais ce travail doit être poursuivi à la maison par des révisions et un entraînement phonétique. Et bien sûr, il est demandé de réviser systématiquement le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente avant d'arriver au cours. Les progrès que vous ferez dépendent tout simplement du temps que vous y avez consacré.)_
_ 口頭練習はとても大事です。ですから、もちろん授業ではしっかりペアで口頭練習をし、積極的に授業に参加して下さい。しかし、自宅での学習も重要です。自宅では、口頭練習やさまざまな復習をして下さい。また、前回の授業で学習した文法項目やボキャブラリーをしっかり復習して授業に臨むことが大事です。フランス語が上達するか否かは、日々の学習時間にかかっています。_
_

準備学習(予習・復習等)の内容

Avant le cours : préparer son exposé ou la discussion avec des thèmes donnés._
_ Après le cours : réviser le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente._
_ 指定された内容やテーマに沿って、発表やディスカッション等の授業準備をしてきてください。_ また授業後は、学んだ単語や文法事項を復習してください。_

教科書

MAESTRO 2 (Méthode de français)_ Durremberger Vincent _ Kitamura Ayako_
_ ISBN 978-4-255-35320-3　C1085_ 2,970 Y (1,700 + tax)_

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Corriger des devoirs (production écrite)_ フランス語作文等の課題は、添削して返却します。_
_

成績評価の方法

(Examen final) (Contrôle continu)_
_ 期末試験（kimatsu shiken）小テスト（sho tesuto)_
_ _ (Sont pris en compte la présence et la participation à 30%, et de tests à 70%.)_
_ 成績は、出席と授業態度が 30%、テストが 70%です。_
_ (Dans ce cours, le plus important c'est la présence et la participation active.)_
_ この授業では、出席して積極的に参加することが大切です。_
_ _ (Attention les absences et retards répétés sont éliminatoires pour l'unité de valeur.)_
_ 欠席と遅刻が多い場合、単位は認定されません。_
(Deux retards valent une absence.)
_ 2回遅刻すると、欠席1回と見なします。_
(Test écrit / Test oral)
_ 筆記試験（hikki shiken）/ 口頭試験（koutou shiken)_

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅢB	フランス語コミュニケーションⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
ドナティ, ジャンアレ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(Tout en étudiant les bases de la grammaire française, on s'entraîne à parler en français de sa vie quotidienne et de ses centres d'intérêt. Pour parvenir à parler plus spontanément, on fait à deux des activités d'automatismes écrites ou orales.)_
_ フランス語の基本文法を勉強しながら、自分自身の日常生活や興味を持っていることについてフランス語で話す練習をします。自然にフランス語が口をついて出るよう、教科書にそってペアでの会話練習とさまざまな練習問題を繰り返し行います。_
(Les objectifs de ce cours sont les suivants)
_ この授業の目標は次のとおりです。_
(Être capable de construire une proposition simple dans le respect de la syntaxe : rôles respectifs des noms, adjectifs, adverbes, articles, verbes, prépositions etc.)
_ フランス語の構文の規則(名詞、形容詞、副詞、冠詞、動詞、前置詞などの品詞の役割)に従って簡単な文を作れるようになること。_
(Être capable de lier les différentes propositions entre elles de manière naturelle et logique)
_ 複数の文を論理的かつ自然につなげられるようになること。_
(Être capable d'écrire sans fautes d'orthographe)
_ スペルを間違えずに書けるようになること。_
(S'habituer progressivement à la prononciation du français)
_ フランス語の発音に少しずつ慣れること。_
(Acquérir les réflexes oraux nécessaires au bon déroulement d'une conversation courante en français)
_ 会話をなめらかに展開させるために必要なフランス語の反射神経を身につけること。_
(Pouvoir parler en français de sa vie quotidienne et de ses centres d'intérêt)
_ 自分の日常生活や興味のあることについて、フランス語で話せるようになること。_
(Savoir enchaîner sans hésiter les idées dans une conversation)
_ 迷いなく自然にフランス語で会話を続けられるようになること。_
(Acquérir des rudiments sur les spécificités de la culture française et ses différences avec la culture japonaise)
_ フランス文化の特性と、フランス文化と日本文化との違いについての基本的な知識を得ること。_
(Acquérir suffisamment d'autonomie pour un voyage dans les pays francophones)
_ フランス語圏の国を旅行したときに困らないレベルのフランス語を身につけること。_
(On fait en groupes les exercices proposés dans chaque leçon du manuel, en alternant activités écrites ou orales)
_ 教科書の各課で提案される練習問題をグループで行います。筆記による練習問題と口頭によるアクティビティを行います。_

授業内容

(SEMESTRE D'AUTOMNE)_
_ 第 1 回:0 課と 1 課. Étude de texte - Vocabulaire - Écriture_ 第 2 回:2 課. Lecture + compréhension écrite_
_ 第 3 回:3 課. Révisions_ 第 4 回:4 課. Préparation de présentation_ 第 5 回:4 課. Préparation PowerPoint_
_ 第 6 回:復習. Présentation_ 第 7 回:5 課. Révisions_ 第 8 回:5 課. Étude de texte - vocabulaire - Écriture_
_ 第 9 回:6 課. Présentations de nouvelles + Interaction_ 第 10 回:6 課. Présentations de nouvelles + Interaction_
_ 第 11 回:復習. Révisions_ 第 12 回:7 課. Préparation test final_ 第 13 回:8 課. Préparartion PowerPoint_
_ 第 14 回:筆記試験 . Présentation finale_ (Le programme est susceptible d'être modifié)_
_ 授業計画は変更する可能性があります_

履修上の注意

(Les activités orales sont aussi très importantes. C'est pourquoi il faut être très concentré et très actif lors des activités de groupes en classe. Mais ce travail doit être poursuivi à la maison par des révisions et un entraînement phonétique. Et bien sûr, il est demandé de réviser systématiquement le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente avant d'arriver au cours. Les progrès que vous ferez dépendent tout simplement du temps que vous y avez consacré.)_
_ 口頭練習はとても大事です。ですから、もちろん授業ではしっかりペアで口頭練習をし、積極的に授業に参加して下さい。しかし、自宅での学習も重要です。自宅では、口頭練習やさまざまな復習をして下さい。また、前回の授業で学習した文法項目やボキャブラリーをしっかり復習して授業に臨むことが大事です。フランス語が上達するか否かは、日々の学習時間にかかっています。_

準備学習(予習・復習等)の内容

Avant le cours : préparer son exposé ou la discussion avec des thèmes donnés._
_ Après le cours : réviser le vocabulaire et les points de grammaire étudiés dans la leçon précédente._
_ 指定された内容やテーマに沿って、発表やディスカッション等の授業準備をしてきてください。_ また授業後は、学んだ単語や文法事項を復習してください。_

教科書

MAESTRO 2 (Méthode de français)_ Durremberger Vincent _ Kitamura Ayako_
ISBN 978-4-255-35320-3　C1085_ 2,970 Y (1,700 + tax)_

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Corriger des devoirs (production écrite)_ フランス語作文等の課題は、添削して返却します。_

成績評価の方法

(Examen final) (Contrôle continu)_
_ 期末試験（kimatsu shiken）小テスト（sho tesuto)_
_ (Sont pris en compte la présence et la participation à 30%, et de tests à 70%.)_
_ 成績は、出席と授業態度が 30%、テストが 70%です。_
_ (Dans ce cours, le plus important c'est la présence et la participation active.)_
_ この授業では、出席して積極的に参加することが大切です。_
_ (Attention les absences et retards répétés sont éliminatoires pour l'unité de valeur.)_
_ 欠席と遅刻が多い場合、単位は認定されません。_
(Deux retards valent une absence.)
_ 2回遅刻すると、欠席1回と見なします。_
(Test écrit / Test oral)
_ 筆記試験（hikki shiken）/ 口頭試験（koutou shiken)_

その他

科目ナンバー:(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅣA	フランス語コミュニケーションⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
クロズ 山口エリア	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1 年次で学んだ内容を踏まえ、フランス語で読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。実際の状況や会話などを想定し、聞き取り練習や発音、イントネーション練習、グループでの会話練習などを行います。DELF A2と仏検準2級を視野に入れ、実践的なフランス語の運営能力、応用力を身につけていきます。

授業内容

プリント教材を使用して進めます。テーマや進度はおおよその目安ですので、到達度に合わせて予定を変更することもあります。また、聞き取りや会話練習のほかに、テーマに関連したミニ・プレゼンテーションを行ったり、課題を出したりすることもあります。

第 1 回:授業全体の説明／フランスとフランス語について
第 2 回:人物について描写する　文法:半過去、複合過去
第 3 回:住んでいる街について話す　文法:直接法現在
第 4 回:応用練習 ホテルを予約する　文法:形容詞の位置
第 5 回:趣味について話す　文法:不定詞
第 6 回:余暇について話す　文法: 比較級
第 7 回:駅で切符を買う、数字、時間の復習　文法:形容詞 quel
第 8 回:物事を描写する　文法 : 形容詞から動詞を作る
第 9 回: 買い物をする　文法:疑問文 (三つの形)
第 10 回:応用練習 レストランでの注文　文法:前置詞(à, de)
第 11 回:旅行の準備について　文法:間接話法
第 12 回:バカンスについて調べる、苦情を言う　文法:近接未来
第 13 回:健康について話す　文法:代名動詞+定冠詞
第 14 回:慰める、吠えんすること　文法:受動態

履修上の注意

実践的なフランス語運用能力を高めるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、指定された箇所の予習をしてきて下さい。また、授業後に復習を心がけてください。

教科書

プリント教材を使用(教場で配布)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

毎週ミニテスト 100%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅣA	フランス語コミュニケーションⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1 年次で学んだ内容を踏まえ、フランス語で読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。実際の状況や会話などを想定し、聞き取り練習や発音、イントネーション練習、グループでの会話練習などを行います。DELF A2と仏検準2級を視野に入れ、実践的なフランス語の運営能力、応用力を身につけていきます。

授業内容

プリント教材を使用して進めます。テーマや進度はおおよその目安ですので、到達度に合わせて予定を変更することもあります。また、聞き取りや会話練習のほかに、テーマに関連したミニ・プレゼンテーションを行ったり、課題を出したりすることもあります。

第 1 回:PRESENTATIONS
第 2 回:TUTOYER et VOUVOYER
第 3 回:AIMER / PREFERER + COMME
第 4 回:VILLES et PAYS
第 5 回:LIEUX
第 6 回:LE PRONOM Y
第 7 回:LES LOISIRS
第 8 回:JOURS / DATES / FETES
第 9 回: LES HEURES
第 10 回:PRENDRE LE TRAIN
第 11 回:LES ACTIVITES DE TOUS LES JOURS
第 12 回:LA JOURNEE D'UNE CHAMPIONNE
第 13 回:QUESTIONS POUR LE TEST ORAL
第 14 回:TEST ORAL

履修上の注意

実践的なフランス語運用能力を高めるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、指定された箇所の予習をしてきて下さい。また、授業後に復習を心がけてください。

教科書

プリント教材を使用(教場で配布)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

授業への積極的参加・課題等 60%、試験 40%で評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅣB	フランス語コミュニケーションⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
クロズ 山口エリア	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

1 年次で学んだ内容を踏まえ、フランス語で読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。実際の状況や会話などを想定し、聞き取り練習や発音、イントネーション練習、グループでの会話練習などを行います。DELF A2と仏検準2級を視野に入れ、実践的なフランス語の運営能力、応用力を身につけていきます。

授業内容

プリント教材を使用して進めます。テーマや進度はおおよその目安ですので、到達度に合わせて予定を変更することもあります。また、聞き取りや会話練習のほかに、テーマに関連したミニ・プレゼンテーションを行ったり、課題を出したりすることもあります。

第 1 回:授業全体の説明／春学期の復習
第 2 回:日常生活について話す(1) 使用方法の説明 文法:動詞+à, de
第 3 回:日常生活について話す(2) 盗難届け 文法:受動態 se faire+不定詞
第 4 回:思い出を語る 二人の出会い 文法:複合過去、半過去、時間に関しての表現
第 5 回:やりたいことを説明する 文法:代名詞
第 6 回:応用練習 注文する 文法:前置詞
第 7 回:誘う 文法:条件法現在
第 8 回:電話やメールでのやりとり 文法 : en 代名詞
第 9 回: 情報を聞く、迷う、相談する 文法: pouvoir 動詞
第 10 回:同意や反対を表明する 文法: ne…que
第 11 回:経歴を説明する 求人募集と応募 文法:savoir, connaître の使い分け
第 12 回:願いや希望を表現する 文法:ジェロンディフ
第 13 回:ほめること 文法:現在分詞と形容詞
第 14 回:驚きの表現 誕生日パーヒィ 文法:動詞から名詞を作る

履修上の注意

実践的なフランス語運用能力を高めるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、指定された箇所の予習をしてきて下さい。また、授業後に復習を心がけてください。

教科書

プリント教材を使用(教場で配布)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

毎週のミニテスト 100%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語コミュニケーションⅣB	フランス語コミュニケーションⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
レット, フランソワ・	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

1 年次で学んだ内容を踏まえ、フランス語で読む・聞く・話す・書く能力を総合的に養っていきます。実際の状況や会話などを想定し、聞き取り練習や発音、イントネーション練習、グループでの会話練習などを行います。DELF A2と仏検準2級を視野に入れ、実践的なフランス語の運営能力、応用力を身につけていきます。

授業内容

プリント教材を使用して進めます。テーマや進度はおおよその目安ですので、到達度に合わせて予定を変更することもあります。また、聞き取りや会話練習のほかに、テーマに関連したミニ・プレゼンテーションを行ったり、課題を出したりすることもあります。

第 1 回:AIMER / DETESTER
第 2 回:GATEAU AU CHOCOLAT / CAFE AU LAIT
第 3 回:LES SPECIALITES GASTRONOMIQUES / LA CUISINE
第 4 回:DIALOGUES AU RESTAURANT
第 5 回:DIALOGUES A L'EPICERIE
第 6 回:LES COMMERCES et LES COURSES
第 7 回:LES LOISIRS
第 8 回:LE PASSE COMPOSE
第 9 回: HISTOIRE D'AMOUR (IMPARFAIT)
第 10 回:PRONOMS DIRECTS ET INDIRECTS
第 11 回:LES SUPERLATIFS
第 12 回:QUE VISITER A PARIS ?
第 13 回:QUESTIONS POUR LE TEST
第 14 回:TEST ORAL

履修上の注意

実践的なフランス語運用能力を高めるために、練習問題や口頭練習を積極的に行い、意欲的に授業に参加してください。また、各回の授業後に復習をし、授業外でもできるだけ発音練習等をするよう、心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、指定された箇所の予習をしてきて下さい。また、授業後に復習を心がけてください。

教科書

プリント教材を使用(教場で配布)

参考書

特になし

課題に対するフィードバックの方法

フランス語作文等の課題は、添削して返却します。

成績評価の方法

授業への積極的参加・課題等 60%、試験 40%で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語レベルアップ A	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
ルオー, オリビエ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本コースは、フランス語中上級レベル(B1 修了・B2 を目指す)の学習者を対象とし、個人、社会、職業、および市民としての関わりという 4 つの主要な側面を軸とした全 9 章(Dossier 1～9)で構成されています。本講義では、実際の社会生活に基づいた具体的な「実践課題(Tâches cibles)」を達成することを目指す「行動中心アプローチ」を採用しています。

学習内容は以下の 4 つの大きな柱に分かれています:

・健康と身近な生活環境：健康管理、予防、旅行、芸術、住環境の改善(Dossier 1-3)

・社会的・経済的アイデンティティ：人間関係の構築、家計管理、自己イメージと才能の開花(Dossier 4-6)

・職業生活：職場環境への適応と起業プロジェクトの推進(Dossier 7)

・社会への関わりと世界理解：メディア分析、歴史的出来事、環境保護、および社会的連帯(Dossier 8-9)

学生は、動画制作、パンフレットの作成、資金調達計画の立案、社会貢献キャンペーンの構築などのプロジェクトを通じて、高度な言語知識を実践的に活用する能力を養います。

到達目標（Learning Objectives）本コースの修了時に、学生に以下の能力が身についていることを目標とします。

・言語運用能力（Pragmatique）:

・複雑なプロセスや変化、感情を詳細かつ正確に記述できる。

・願望、必要性、意見(確信や疑念不満)(indignation)を適切に表現できる。

・プロジェクトの提案(ピッチ)、社会問題に関する討論、他者への行動喚起において、効果的な論証を展開できる。

・ニュース、証言、歴史的事実を論理的に構成して報告できる。

・言語知識・文法（Morphosyntaxe）:

・接続法(現在・過去)、条件法(現在・過去)、受動態、およびジェロンディフ(gérondif／現在分詞構文)などの高度な動詞体系を使いこなせる。

・譲歩(concession)、対立、原因、結果、目的を表す高度な論理的接続詞を使い、複雑な文章を構築できる。

・単純・複合関係代名詞(pronoms relatifs simples et composés)や強調構文(mise en relief)を用いて、洗練された表現ができる。

・社会文化理解および学習戦略（Socioculturel & Stratégies）:

・フランス社会の諸制度(医療、教育、メディア、連帯の仕組み)について深い理解を得る。

・語彙の拡充、論理的な文章構成、および討論(débat)への能動的な参加のための戦略を習得する。

授業内容

各回で実践的なタスク、コミュニケーション目的、および文法事項を学習します。

テーマ：健康、旅行、住環境、対人関係(Dossier 1-4)

1 健康とライフスタイル　健康状態の推移やプロセスの記述。文法：les comparatifs, les marqueurs temporels

2 予防と緊急事態への対応　予防策の説明、必要性の表現。文法：il faut / que + subjonctif

3Dossier 1　総合演習　健康と予防に関する実践課題(Tâches cibles)の実施。

4 旅行と場所の発見　旅行形態の記述、場所や住民の紹介。文法：les indéfinis, les pronoms relatifs (où/dont)

5 文化・芸術活動　文化体験の共有、作品に対する印象。文法：la mise en relief, l' accord du participe passé

6Dossier 2　総合演習　旅行と文化に関するプロジェクト(パンフレット作成など)。

7 住居の改修と希望　工事の情報収集、要望や意図の表現。文法：l' infinitif ou le subjonctif, le conditionnel

8 都市生活と理想の環境　不満の表明、改善要求。文法：l' interrogation indirecte, le conditionnel pour l' hypothèse

9Dossier 3　総合演習　住環境の改善案の作成とプレゼンテーション。

10 対人関係と回想　思い出の語り、感謝や感情の表現。文法：souvenir の動詞、plus-que-parfait

11 人間関係のトラブル解決　対人状況の報告、共感。文法：les pronoms personnels (COI), le discours rapporté

12Dossier 4　総合演習　対人関係の構築とトラブル解決のロールプレイ。

13 春学期総合復習　Dossier 1-4 の重要文法(接続法、関係代名詞、条件法、過去時制)の総まとめ。

14 定期試験(春学期)　第 1 回から第 13 回までの学習内容を対象とした試験

履修上の注意

・前提条件（Prérequis）：本コースは中級レベル(B1 程度)を修了し、上級レベル(B2)を目指す学習者を対象としています。接続法や条件法の基礎など、中級文法の知識があることを前提に授業を進めます。

・予習・復習（Préparation et révision）：各章の冒頭にある「Réactivation(既習事項の再活性化)」がスムーズに行えるよう、関連する語彙や基本文法の復習を事前に行ってください。また、学期ごとに 8 回の授業内容に基づいた定期試験を行うため、継続的な家庭学習が不可欠です。

・積極的な参加（Participation active）：本講義は「行動中心アプローチ」を採用しており、動画制作、討論(débat)などの「実践課題(Tâches cibles)」が中心となります。

・言語使用（Usage de la langue）：教室内のコミュニケーションは原則としてフランス語で行います。

・辞書の持参（Matériel）：仏和・和仏辞書(電子辞書可)を持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習（Préparation）： 新しい章(Dossier)に入る前に、各章の冒頭に設定されている「Réactivation(既習事項の再活性化)」の項目を確認し、関連する基礎語彙や文法事項を復習しておいてください。これにより、高度な内容を扱う授業にスムーズに参加するための準備ができます。 具体的には、以下の項目の事前確認を推奨します:

・健康、旅行、住居、人間関係、仕事などのテーマ別語彙(lexique)。

・比較級(la comparaison)、命令法(l'impératif)、関係代名詞(les pronoms relatifs)、条件法(le conditionnel)などの基礎文法。

復習（Révision）:

授業で学習した「Objectifs pragmatiques(目的)」および「morphosyntaxiques(文法)」を定着させるため、各レッスンの「Tâches-cible(実践課題)」を想定したアウトプットの練習を行うこと。

各章の「Stratégies et techniques pour...(戦略とテクニック)」で提示された、情報の処理方法や文章構成のスキル、議論の進め方などを振り返り、自身の学習や課題作成に応用すること。

学期ごとの定期試験に備え、8 回分のレッスンで扱った重要表現や文法構造を定期的に見直すこと。

教科書

『Mon alter ego 3 - Livre de l'élève (B1)』・著者：Céline Himber, Catherine Hugot, Martine Darchelet

・出版社：Hachette FLE ・出版日：2025 年 3 月 10 日

参考書

『Mon alter ego 3 - Cahier d'activités (B1)』・著者：Céline Himber, Catherine Hugot, Martine Darchelet

・出版社：Hachette FLE ・説明：教科書の内容を定着させるための練習問題集。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での答え合わせ（Correction en classe）： 宿題や提出課題については、原則として次回の授業内に全員で答え合わせを行い、重要なポイントや共通の誤りについて解説します。

個別フィードバック（Feedback individuel）： 記述課題や発表課題については、教員が添削を行い、適宜コメントを付して返却します。

デジタル教材の活用（Utilisation des outils numériques）： 教科書に付随するオンライン教材(Parcours digital®)の「自己採点式アクティビティ」を活用することで、学生は練習問題の結果について即時にフィードバックを得ることができます。

成績評価の方法

・期末試験（Examen final）：60%・平常点（Note de participation）：40%

補足事項：成績評価は、各 Dossier で設定されている到達目標の達成度に基づいて行われます。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語レベルアップ B	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
ルオー, オリビエ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本コースは、フランス語中上級レベル(B1 修了・B2 を目指す)の学習者を対象とし、個人、社会、職業、および市民としての関わりという 4 つの主要な側面を軸とした全 9 章(Dossier 1～9)で構成されています。本講義では、実際の社会生活に基づいた具体的な「実践課題(Tâches cibles)」を達成することを目指す「行動中心アプローチ」を採用しています。

学習内容は以下の 4 つの大きな柱に分かれています:

・健康と身近な生活環境：健康管理、予防、旅行、芸術、住環境の改善(Dossier 1-3)

・社会的・経済的アイデンティティ：人間関係の構築、家計管理、自己イメージと才能の開花(Dossier 4-6)

・職業生活：職場環境への適応と起業プロジェクトの推進(Dossier 7)

・社会への関わりと世界理解：メディア分析、歴史的出来事、環境保護、および社会的連帯(Dossier 8-9)

学生は、動画制作、パンフレットの作成、資金調達計画の立案、社会貢献キャンペーンの構築などのプロジェクトを通じて、高度な言語知識を実践的に活用する能力を養います。

到達目標（Learning Objectives）本コースの修了時に、学生に以下の能力が身についていることを目標とします。

・言語運用能力（Pragmatique）:

・複雑なプロセスや変化、感情を詳細かつ正確に記述できる。

・願望、必要性、意見(確信や疑念不満)(indignation)を適切に表現できる。

・プロジェクトの提案(ピッチ)、社会問題に関する討論、他者への行動喚起において、効果的な論証を展開できる。

・ニュース、証言、歴史的事実を論理的に構成して報告できる。

・言語知識・文法（Morphosyntaxe）:

・接続法(現在・過去)、条件法(現在・過去)、受動態、およびジェロンディフ(gérondif／現在分詞構文)などの高度な動詞体系を使いこなせる。

・譲歩(concession)、対立、原因、結果、目的を表す高度な論理的接続詞を使い、複雑な文章を構築できる。

・単純・複合関係代名詞(pronoms relatifs simples et composés)や強調構文(mise en relief)を用いて、洗練された表現ができる。

・社会文化理解および学習戦略（Socioculturel & Stratégies）:

・フランス社会の諸制度(医療、教育、メディア、連帯の仕組み)について深い理解を得る。

・語彙の拡充、論理的な文章構成、および討論(débat)への能動的な参加のための戦略を習得する。

授業内容

各回で実践的なタスク、コミュニケーション目的、および文法事項を学習します。

テーマ：　消費、自己実現、キャリア、社会、世界(Dossier 5-9)

1 消費行動と予算管理　消費者のプロフィールの記述。文法：le gérondif, les adverbes, pronoms en et y

2 プロジェクトの資金調達　資金調達の提案、融資の依頼。文法：les doubles pronoms, l'alternative

3 文法総合演習 I　算管理や融資交渉のロールプレイ。戦略：情報の取捨選択と伝達。

4 外見と自己イメージ　スタイルの記述、服装の選択理由。文法：la place des adjectifs, cause et conséquence

5 才能の開花と成功　才能の振り返り、意見(確信・不満)の表明。文法：indicatif ou subjonctif

6 文法総合演習 II　自己アピールと論証の議論。戦略：口頭発表の構造化。

7 職業環境での適応　労働条件の記述、仕事の経験談。文法：les pronoms relatifs composés

8 起業とプロジェクト提案　ピッチの実施、正式な依頼書の作成。文法：l'infinitif ou le subjonctif (目的)

9Dossier 7　総合演習　起業プロジェクトの推進とプレゼンテーション。

10 メディアと社会(Dossier 8)　ニュース分析、社会問題に関する討論。他者への行動喚起。

11 歴史と世界理解(Dossier 9)　歴史的事実の報告と論理的構成。

12 環境保護と社会的連帯　環境問題、社会貢献キャンペーンの構築。

13 秋学期総合復習　過去の接続法・条件法を含む、B2 到達レベルの高度な文法の総復習。

14 定期試験(秋学期)　第 1 回から第 13 回までの学習内容(B1 修了・B2 到達レベル)の試験

履修上の注意

・前提条件（Prérequis）：本コースは中級レベル(B1 程度)を修了し、上級レベル(B2)を目指す学習者を対象としています。接続法や条件法の基礎など、中級文法の知識があることを前提に授業を進めます。

・予習・復習（Préparation et révision）：各章の冒頭にある「Réactivation(既習事項の再活性化)」がスムーズに行えるよう、関連する語彙や基本文法の復習を事前に行ってください。また、学期ごとに 8 回の授業内容に基づいた定期試験を行うため、継続的な家庭学習が不可欠です。

・積極的な参加（Participation active）：本講義は「行動中心アプローチ」を採用しており、動画制作、討論(débat)などの「実践課題(Tâches cibles)」が中心となります。

・言語使用（Usage de la langue）：教室内のコミュニケーションは原則としてフランス語で行います。

・辞書の持参（Matériel）：仏和・和仏辞書(電子辞書可)を持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習（Préparation）： 新しい章(Dossier)に入る前に、各章の冒頭に設定されている「Réactivation(既習事項の再活性化)」の項目を確認し、関連する基礎語彙や文法事項を復習しておいてください。これにより、高度な内容を扱う授業にスムーズに参加するための準備ができます。 具体的には、以下の項目の事前確認を推奨します:

・健康、旅行、住居、人間関係、仕事などのテーマ別語彙(lexique)。

・比較級(la comparaison)、命令法(l'impératif)、関係代名詞(les pronoms relatifs)、条件法(le conditionnel)などの基礎文法。

復習（Révision）:

授業で学習した「Objectifs pragmatiques(目的)」および「morphosyntaxiques(文法)」を定着させるため、各レッスンの「Tâches-cible(実践課題)」を想定したアウトプットの練習を行うこと。

各章の「Stratégies et techniques pour...(戦略とテクニック)」で提示された、情報の処理方法や文章構成のスキル、議論の進め方などを振り返り、自身の学習や課題作成に応用すること。

学期ごとの定期試験に備え、8 回分のレッスンで扱った重要表現や文法構造を定期的に見直すこと。

教科書

『Mon alter ego 3 - Livre de l'élève (B1)』・著者：Céline Himber, Catherine Hugot, Martine Darchelet

・出版社：Hachette FLE ・出版日：2025 年 3 月 10 日

参考書

『Mon alter ego 3 - Cahier d'activités (B1)』・著者：Céline Himber, Catherine Hugot, Martine Darchelet

・出版社：Hachette FLE ・説明：教科書の内容を定着させるための練習問題集。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での答え合わせ（Correction en classe）： 宿題や提出課題については、原則として次回の授業内に全員で答え合わせを行い、重要なポイントや共通の誤りについて解説します。

個別フィードバック（Feedback individuel）： 記述課題や発表課題については、教員が添削を行い、適宜コメントを付して返却します。

デジタル教材の活用（Utilisation des outils numériques）： 教科書に付随するオンライン教材(Parcours digital®)の「自己採点式アクティビティ」を活用することで、学生は練習問題の結果について即時にフィードバックを得ることができます。

成績評価の方法

・期末試験（Examen final）：60%・平常点（Note de participation）：40%

補足事項：成績評価は、各 Dossier で設定されている到達目標の達成度に基づいて行われます。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(2年)A	フランス文学演習(2年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

『Hirondelle 2026 時事フランス語 2026 年度版』をテキストに選んで、平易なフランス語で書かれたトピックスを読み進めます。トピックスの内容はフランス並びにフランス語圏の政治・経済・社会・文化・歴史など多岐にわたっています。テキストを中心に授業を進めますが、インターット上に公開されている新聞記事などを補助資料として提供し、さらなる情報を得るようにします。

授業内容

春学期の授業内容(予定)を 14 回分列挙します。
第1回 a:イントロダクション b:フランスの日本人サッカー選手たち(1)
第2回 フランスの日本人サッカー選手たち(2)
第3回 フランス政局の激動(1)
第4回 フランス政局の激動(2)
第5回 アルザス地方の料理(1)
第6回 アルザス地方の料理(2)
第7回 フランスの子どもの課外活動(1)
第8回 フランスの子どもの課外活動(2)
第9回 ストリート・ミュージシャンたち(1)
第 10 回 ストリート・ミュージシャンたち(2)
第 11 回 ミストラル AI(1)
第 12 回 ミストラル AI(2)
第 13 回 ベトナム、カンボジア、ラオスとフランス(1)
第 14 回 ベトナム、カンボジア、ラオスとフランス(2)

履修上の注意

この授業は現代フランス(フランス語圏)の実情を理解するために行いますが、1 年次に学習したフランス語の綴りと発音の関係や文法の基本的な項目も再確認します。履修者はテキストの音声(https://text.asahipress.com/free/french/jijifutsu2026/)を繰り返し聞き、声に出して模倣し、フランス語に慣れてください。

テキストが扱っているトピックスの多くは、日本のメディアも取り上げていますので、新聞記事で予備知識を持つようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの内容を理解するために、文法に注意しながら丁寧に仏和辞典を引いてください。使用する電子辞書に複数の仏和辞典や仏仏辞典、そして仏英辞典が内蔵されている場合は、それらを十分に活用してください。

教科書

『Hirondelle 2026 時事フランス語 2026 年度版』石井洋二郎 野崎夏生 ジョルジュ・ヴェスィエール編著 (朝日出版社) 2026 年

参考書

参考書は使用しませんが、授業内容に関連する資料を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する全体講評を授業で行います。

成績評価の方法

授業への貢献度・平常点(訳の正確さ・発音の正確さ・文法事項の理解)60%、レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(2年)A	フランス文学演習(2年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習では、フランス文学の戯曲作品を取り上げ、フランス語による演劇上演に取り組みます。
上演作品を決定した後、テクストの訳読や内容に関するディスカッションを行い、役柄や作品世界への理解を深めた上で、ひたすら稽古を重ね、最終的に上演を行います。

参考として、昨年度は サミュエル・ベケット『ゴドーを待ちながら』および ウジェーヌ・イヨネスコ『犀』を上演しました。

授業内容

授業内容は以下を予定していますが、稽古の進度に応じて、一部内容を変更する場合があります。

第１回 オリエンテーションと上演作品について
第２回 上演作品の訳読
第３回 上演作品の演出方法・舞台構成の検討
第４回 配役オーディション
第５回 稽古①:担当箇所の内容理解と役作り
第６回 稽古②:フランス語で演技してみる
第７回 稽古③:リズム・グループで台詞を覚える
第８回 稽古④:ペアとの掛け合いを磨く
第９回 第一回リハーサル:担当箇所の前半
第 10 回 リハーサル振り返りと字幕作成
第 11 回 稽古⑤:身振り・身体表現を加える
第 12 回 第二回リハーサル:担当箇所全体
第 13 回 最終稽古:通しチェック
第 14 回 上演・まとめ

履修上の注意

・稽古および上演を行う授業のため、欠席・遅刻は大きな減点となります。
・演劇はすべてフランス語で行うため、基礎的なフランス語文法の知識を前提とします。
・ペアやグループでの稽古が中心となるため、継続的に話し合い、協力できる姿勢が求められます。
・人前で声を出すこと、身体を使った表現に取り組む意欲のある受講生を歓迎します。

準備学習(予習・復習等)の内容

台詞を覚えないまま稽古に臨むと、ペアやチームの進行に支障が出てしまいます。
毎週必ず台詞の暗記と音読を行い、十分に準備した上で授業に参加してください。

教科書

授業内でプリントや台本を配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

・ 毎回の授業後にリアクションペーパーを書いてもらい、次回の授業時にフィードバックを行います。
・ リハーサルや上演の後に、教員から履修者一人一人へのフィードバックを行います。

成績評価の方法

・ 稽古への積極的参加:70%
・ 上演:30%

稽古および上演を行う授業のため、欠席・遅刻は大きな減点となります。

その他

秋学期の「フランス文学演習 B」を続けて取るようにしてください。

科目ナンバー:(AL)LIT232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(2年)B	フランス文学演習(2年)B	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

『Hirondelle 2026 時事フランス語 2026 年度版』をテキストに選んで、平易なフランス語で書かれたトピックスを読み進めます。トピックスの内容はフランス並びにフランス語圏の政治・経済・社会・文化・歴史など多岐にわたっています。テキストを中心に授業を進めますが、インターット上に公開されている新聞記事などを補助資料として提供し、さらなる情報を得るようにします。

授業内容

春学期の授業内容(予定)を 14 回分列挙します。
第1回 a:イントロダクション b:パルクールシュップ(1)
第2回 パルクールシュップ(2)
第3回 日本映画とカンヌ(1)
第4回 日本映画とカンヌ(2)
第5回 フランスの地方言語(1)
第6回 フランスの地方言語(2)
第7回 百獣の王だった熊(1)
第8回 百獣の王だった熊(2)
第9回 パティックの職業教育(1)
第 10 回 パティックの職業教育(2)
第 11 回 EU と農業協定(1)
第 12 回 EU と農業協定(2)
第 13 回 フロン・ド・メール
第 14 回 浸食が進むフランスの沿岸地帯

履修上の注意

この授業は現代フランス(フランス語圏)の実情を理解するために行いますが、1 年次に学習したフランス語の綴りと発音の関係や文法の基本的な項目も再確認します。履修者はテキストの音声(https://text.asahipress.com/free/french/jijifutsu2026/)を繰り返し聞き、声に出して模倣し、フランス語に慣れてください。

テキストが扱っているトピックスの多くは、日本のメディアも取り上げていますので、新聞記事で予備知識を持つようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの内容を理解するために、文法に注意しながら丁寧に仏和辞典を引いてください。使用する電子辞書に複数の仏和辞典や仏仏辞典、そして仏英辞典が内蔵されている場合は、それらを十分に活用してください。

教科書

『Hirondelle 2026 時事フランス語 2026 年度版』石井洋二郎 野崎夏生 ジョルジュ・ヴェスィエール編著 (朝日出版社) 2026 年

参考書

参考書は使用しませんが、授業内容に関連する資料を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する全体講評を授業で行います。

成績評価の方法

授業への貢献度・平常点(訳の正確さ・発音の正確さ・文法事項の理解)60%、レポート 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT232N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(2年)B	フランス文学演習(2年)B	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この演習では、フランス文学の戯曲作品を取り上げ、フランス語による演劇上演に取り組みます。
上演作品を決定した後、テクストの訳読や内容に関するディスカッションを行い、役柄や作品世界への理解を深めた上で、ひたすら稽古を重ね、最終的に上演を行います。

秋学期は、春学期よりも長く複雑な会話場面を含む演劇作品を選ぶ予定です。

参考として、昨年度は サミュエル・ベケット『ゴドーを待ちながら』および ウジェーヌ・イヨネスコ『犀』を上演しました。

授業内容

授業内容は以下を予定していますが、稽古の進度に応じて、一部内容を変更する場合があります。

第 1 回 オリエンテーションと上演作品について
第 2 回 上演作品の訳読
第 3 回 上演作品の演出方法・舞台構成の検討
第 4 回 配役オーディション
第 5 回 稽古①:担当箇所の内容理解と役作り
第 6 回 稽古②:フランス語で演技してみる
第 7 回 稽古③:リズム・グループで台詞を覚える
第 8 回 稽古④:ペアとの掛け合いを磨く
第 9 回 第一回リハーサル:担当箇所の前半
第 10 回 リハーサル振り返りと字幕作成
第 11 回 稽古⑤:身振り・身体表現を加える
第 12 回 第二回リハーサル:担当箇所全体
第 13 回 最終稽古:通しチェック
第 14 回 上演・まとめ

履修上の注意

・稽古および上演を行う授業のため、欠席・遅刻は大きな減点となります。
・演劇はすべてフランス語で行うため、基礎的なフランス語文法の知識を前提とします。
・ペアやグループでの稽古が中心となるため、継続的に話し合い、協力できる姿勢が求められます。
・人前で声を出すこと、身体を使った表現に取り組む意欲のある受講生を歓迎します。

準備学習(予習・復習等)の内容

台詞を覚えないまま稽古に臨むと、ペアやチームの進行に支障が出てしまいます。
毎週必ず台詞の暗記と音読を行い、十分に準備した上で授業に参加してください。

教科書

授業内でプリントや台本を配布します。

参考書

授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

・ 毎回の授業後にリアクションペーパーを書いてもらい、次回の授業時にフィードバックを行います。
・ リハーサルや上演の後に、教員から履修者一人一人へのフィードバックを行います。

成績評価の方法

・ 稽古への積極的参加:70%
・ 上演:30%

稽古および上演を行う授業のため、欠席・遅刻は大きな減点となります。

その他

秋学期の「フランス文学演習 B」を続けて取るようにしてください。

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)A	フランス文学演習(3・4年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、フランスの芸術文化、なかでも視覚芸術(戯曲と舞台・絵画・映画など)を中心に、時代の精神や思想、作品が描き出す世界観や人間像などを読み解いていきます。春学期は舞台作品(戯曲・オペラ・バレエとその上演)を中心に、秋学期は絵画作品と絵画評を中心に、演劇と絵画といった近接領域の影響関係にも目を向けて、テーマと関連する同時代の小説や思想的著作、美術批評などのテクストの抜粋も取り上げ、演劇や絵画作品を味わいつつ、分析対象へのアプローチ方法(分析方法)も学びながら多角的に考察していきます。

春学期は、現代でも上演され続ける「古典」と称される舞台作品(戯曲・オペラ・バレエ)を複数取り上げ、各作品に特徴的な文体や表現、語彙などに注目してじっくり読み解き、また、遊戯性、流動性、仄めかし、コケットリー、ギャラントリー、異性装など、同時代の文脈に置いて複数の視点から分析・考察していきます。原文の詳細なテクスト分析を踏まえ、上演・演出も読み解き、現代フランスにおける舞台芸術の位置づけや、現代もなお生き続ける「古典」作品の重要性についても考えていきます。

劇作品は、17 世紀の韻文悲劇ラシーヌ『フェードル』、アレゴリー劇と称される 18 世紀マリヴォーの『いさかい』、オペラで知られる『フィガロの結婚』の原作(ボーマルシェの戯曲)などを取り上げる予定です。例えば、18 世紀は理性の世紀であるとともに感性の世紀でもあります。この時代の作品に身体や感覚はどう書き込まれているのか、理性と相反するようなこうした要素にも目を向け、時代の精神・感性について考えていきます。また『フェードル』は、台詞劇であっても視覚要素がテクスト自体に多様に書き込まれていますが、現代演出では別様に視覚化されることもあります。初演時と現代、双方の上演と観客の存在も視野に入れて、立体的に読み解いていきます。また、オペラやバレエ作品も取り上げ、同時代の社会の中に置いて読み解くとともに、演出や振付の分析も行います。これらの作業を通し、芸術と社会の関係、文学と芸術の関わり合い、さらには現代の我々に通じる点についても考えていきたいと思います。

授業内容

以下の作品は一案です。取り上げる具体的な作品は(時代も含め)、受講者のみなさんの興味・関心を聞きながら、初回授業で決めたいと思います。

テクスト分析の際はフランス語原文の抜粋を読み解きます。原文読解と上演分析を踏まえて、発表やディスカッションも行います。

第 1 回 授業の進め方について／扱う作品について
第 2 回 ラシーヌ『フェードル』PHEDRE 原文の読解と演出分析(1)悲劇と神話世界
第 3 回 ラシーヌ『フェードル』原文の読解と演出分析(2)理性と情念のはざま／情念の描き方／絵画性
第 4 回 マリヴォー『いさかい』LA DISPUTE 原文の読解と演出分析(1)文明と自然・本性／理性と感性
第 5 回 マリヴォー『いさかい』原文の読解と演出分析(2)実験と観察：露わにされる人間性
第 6 回 ボーマルシェ『フィガロの結婚』LE MARIAGE DE FIGARO 原文の読解と演出分析(1)批判精神と政治性
第 7 回 ボーマルシェ『フィガロの結婚』原文の読解と演出分析(2)演劇と絵画の相関(絵画性)、遊戯性、異性装の舞台効果
第 8 回 演劇からオペラへ(『フィガロ』を例に)
第 9 回 J.-P. ラモーのオペラ(パリ・オペラ座での上演を例に)
第 10 回 古典バレエの振付と演出:『ラ・フィユ・マル・ガルデ』LA FILLE MAL GARDEE を例に
第 11 回 バレエダクション(ballet d' action)と身体の言語
第 12 回 発表とディスカッション(1)
第 13 回 発表とディスカッション(2)
第 14 回 発表とディスカッション(3)／全体のまとめ

履修上の注意

・指定された作品や抜粋をあらかじめ読んで授業に臨み、ディスカッションでは考えたことを積極的に発言しましょう。
・各回の授業で筆記コメントを求めます。
・発表や課題(レポート)では、自分なりの問いを立て、作品やテクストとじっくり向き合って分析・考察し、自身の言葉で理論的・客観的に論じることを目指してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り上げる作品をあらかじめ読んできてください。
また、各回、指定する箇所(フランス語原文の抜粋など)を必ず予習し、気になった事項などをまとめてきてください。

教科書

授業やクラスウェブ上で資料を配布します。

参考書

授業やクラスウェブ上で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

筆記コメントや発表、課題(レポート等)については、授業やクラスウェブ上でフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 50%(授業への意欲的な参加、各回の筆記コメント、口頭発表など)
レポート 50%

＊発表やレポートでは、自分なりの問いを立て、作品やテクストとじっくり向き合って分析・考察し、自身の言葉で理論的・客観的に論じているかどうかを評価します。参考文献等も積極的に調べて読んでください。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)A	フランス文学演習(3・4年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業は以下の 3 点を軸に構成されます。

(1)フランスの現代作家 Pascale Roze の Histoires Dérangées に所収されている短編を読みます。

この作家は 1954 年3月 22 日にサイゴンで生まれ、1996 年に Le Chasseur Zéro でゴンクール賞を受賞しました。

授業で取り上げる短編は、主人公の人柄や生活ぶりを簡潔に描きながらも, 外見からはうかがえない人間心理を丁寧に分析しています。各短編の結末に用意されたサプライズに困惑・動揺しながら読み進めましょう。

(2)私が和泉キャンパスで担当した「フランス文学演習(2 年)AB」では、フランスの時事問題をテキストにしましたので、演習授業の継続性の観点から、フランス語圏の政治・社会・文化に関わる新聞記事や雑誌記事を読みます。

(3)「フランス文学演習(3・4 年)」は 4 年生の「卒業論文」とも関わりますので、私の専門分野である 16 世紀文学の作品も、授業で扱う予定です。

授業内容

以下に 14 回分の授業内容(予定)を列挙します。
(第1回)イントロダクション 作者の紹介と作品の説明
(第2回)Gloria の読解 (1)
(第3回)Gloria の読解 (2)
(第4回)Gloria の読解 (3)
(第5回)Gloria の読解 (4)
(第6回)Gloria の読解 (5)
(第7回)Emma の読解 (1)
(第8回)Emma の読解 (2)
(第9回)Emma の読解 (3)
(第 10 回)Emma の読解 (4)
(第 11 回)Un cordonnier の読解 (1)
(第 12 回)Un cordonnier の読解 (2)
(第 13 回)Un cordonnier の読解 (3)
(第 14 回)Un cordonnier の読解 (4)

これらに、時事問題の記事や 16 世文学作品の講読が適宜加わる予定です。

履修上の注意

それぞれの短編は簡明なフランス語で書かれているために、仏和辞典や仏仏辞典で単語の意味を調べるだけでは、作品の字面を追うだけになりかねません。登場人物や植物の何気ない描写に込められた作者の意図を読み解く時間を持つようにして下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

Pascale Roze の短編を読むときには、主人公の心の動きを行間を通して想像する必要があります。読み手には短編をシナリオとして映画を作り上げるような創造が求められます。場面の展開・切替が頻繁に起こりますので、前後のつながりを常に確認しておく慎重さも大切です。

教科書

Pascale Roze,Histoires Dérangées, Livre de Poche, 1998.
テキストについては、授業開始時に説明します。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する全体講評を授業で行います。

成績評価の方法

授業への貢献度・平常点(訳の正確さ・発音の正確さ・文法事項の理解)60%、レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)A	フランス文学演習(3・4年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
田母神 顯二郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

フランス語を誇りとするフランス人にとって、「詩」poèmes は言葉の精華ともいえるほど大切なものです。詩はフランスの街中にあふれ、フランス人の日々の生活を豊かにしています。

それ以外にも、詩は世界の見方を変え、固定された枠組みから解放し、生き方や思考を自由にしてくれます。

あるいは、変化しつづける世界にあって、いちばん大事なことを気づかせてくれ、生涯の指針となる教えを授けてくれます。

詩の解釈には、「ただ一つの正解」というものはありません。また、意味だけではなく、音や韻律といった音楽性に注目することも大切です。この授業を通し、詩の魅力に目覚め、自分の感性や思考力を磨いていってもらえればと思います。

授業内容

春学期は、20 世紀の詩人アンリ・ミショーHenri Michaux の代表的な作品をひとつひとつ丁寧に読んでいきたいと思います。

はじめに現代とも多くの共通点をもつ 20 世紀前半の時代背景や社会状況を学んだあと、ミショーの生涯をたどり、作品解釈の基礎を作ります。その上で、幾つかのテーマに分けて、ミショーの作品を全員で読んでいきます。基本的に前半は講読が中心になりますが、受講者の様子を見て、後半は希望者を中心に発表の時間も入れる予定です。その際は、発表の方法やハンドアウトの作成の仕方についての説明を行い、受講者のインプットとアウトプットの能力を共に向上させたいと思います。

1週目 授業の説明
2週目 アンリ・ミショーとその時代(1)
3週目 アンリ・ミショーとその時代(2)
4週目 ミショーの作品を読む(1)
5週目 ミショーの作品を読む(2)
6週目 ミショーの作品を読む(3)
7週目 ミショーの作品を読む(4)
8週目 ミショーの作品を読む(5)
9週目 ミショーの作品を読む(6)
10 週目 発表の仕方のレクチャー
11 週目 学生による発表 (1)
12 週目 学生による発表 (2)
13 週目 学生による発表 (3)
14 週目 授業のまとめ

履修上の注意

前半の授業では、ほぼ毎回、受講者の皆さんに発表してもらうことになります。誰がどこを当てられても良いように、指定されたテクストの箇所を調べておいてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、課題となっている作品や資料について調べてくること

教科書

私が作成したプリント教材をもとに授業を行ないます(教室で配布します)。

参考書

参考書については、授業中に随時指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは添削し、コメントを付して返却します。
口頭発表に対しては、毎時間、授業内で質疑応答とコメントの時間を取ります。

成績評価の方法

受講者の人数にもよりますが，基本的に平常点(60%)と学期末レポート(40%)によって判断します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)A	フランス文学演習(3・4年)A	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

今年も去年に引き続き友情について考えたい。フランスの LGBT 研究者、エレーヌ・ジャネッキーにの友情論を元に、参加者の友情感を語り合い、友情についていろいろな角度から議論する。友情に性差・世代差・文化差で違いがあるのか、他の人間関係との違いなどについて議論しながら、家族という制度からはみ出る LGBT 的な人間のつながり方、社会の作り方を著者とともに考えてみたい。

授業内容

第 1 週:顔合わせ＋授業説明
第 2 週:友情について書くアトリエ
第 3 週:皆の書いたものを読み合って議論
第 4 週～12 週:Hélène Giannecchini の本、Un désir démesuré d' amitié を読みながら、シモーヌ・ヴェイユやモンテーニュやアリストテレスの友情についての文章についても考える。
第 13 週:最後に友情についてもう一度書くアトリエ
第 14 週: 皆の書いたものを読み合って議論

履修上の注意

フランス語のテキストを教科書にするが、フランス語を読むことをメインにするというよりは、それを元に各自友情について考えてもらうことが目的。また、もう一つの目的は、「友情」といったテーマを与えられたときに、どのようについてそれについて議論を発展させながら考え、書くことができるのか、論の展開の仕方をマセの短い論文を参考に勉強することでもある。
毎回フランス語のテキストの翻訳もするが、メインはそれを元にした質問や議論になるので、授業での発言が重要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、次に読む箇所の概要をまず説明します。それを手がかりにフランス語のテキストを読んで予習してくる。
テキストに何が書かれているかだけではなく、どのように書かれているか、どのように論が展開するかに注目するようにする。
また、毎回新たに加わる議論にたいして自分の考えたことを箇条書きでもいいのでまとめてくる。
授業後に授業で読んだ部分のフランス語のテキストを読み返し、次の授業に向けて準備する。

教科書

プリント

参考書

主にプリントなどで配布

課題に対するフィードバックの方法

授業中に議論などで多くのフィードバックが得られるはずだが、その他にもお互いに書いたものを全員で読めるようにし、それに関して議論する。

成績評価の方法

参加 50-70%＋提出物 30-50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)B	フランス文学演習(3・4年)B	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、フランスの芸術文化、なかでも視覚芸術(戯曲と舞台・絵画・映画など)を中心に、時代の精神や思想、作品が描き出す世界観や人間像などを読み解いていきます。春学期は舞台作品(戯曲・オペラ・バレエとその上演)を中心に、秋学期は絵画作品と絵画評を中心に、演劇と絵画といった近接領域の影響関係にも目を向けて、テーマと関連する同時代の小説や思想的著作、美術批評などのテクストの抜粋も取り上げ、演劇や絵画作品を味わいつつ、分析対象へのアプローチ方法(分析方法)も学びながら多角的に考察していきます。

秋学期は、ロココの時代からフランス革命期に活躍した画家たちの作品を中心的に取り上げ、ディドロの絵画評(『サロン評』Salons de Diderot の抜粋)もフランス語原文で精読しながら絵画の分析・考察をし、またそこから同時代の社会や文化を読み解いていきます。ディドロの『サロン評』(絵画の官展(サロン)に出品された作品評)には絵画についての記述や考察がありますが、絵画の主題からさらなる「物語(フィクション)」が展開されていくこともあり、文学作品としても興味深い著作です。ディドロの文体や世界観を味わいながら絵画についての分析・考察を深め、文学と絵画の関係についても考えてみたいと思います。

ディドロの『サロン評』では、フラゴナールなど、よく知られた画家の作品のほか、グルーズやシャルダン、ブーシェ、カルル・ヴァン・ローなど、日本ではあまり知られていない画家とその作品も取り上げられていますが、いずれも絵画史において重要な画家たちの作品です。例えばグルーズは 2025-2026 年にパリのプチ・パレで特別展が開催されましたし、装飾画家としても知られるブーシェの作品は、貴族の私邸を再活用したパリのナショナル・アーカイブの一室にも飾られています。カルル・ヴァン・ローの絵画は、パリの中心にあるノートル・ダム・デ・ヴィクトワール教会の祭壇を飾っていますし、ルーヴル美術館には、ディドロの『サロン評』で取り上げられた絵画を一挙に紹介する展示室もあります。絵画評や絵画の分析方法、アプローチ方法を学びながら、フランスの社会、文化、歴史についての造詣も深めていきます。

授業内容

以下の作品は一案です。取り上げる具体的な作品は(時代も含め)、受講者のみなさんの興味・関心を聞きながら、初回授業で決めたいと思います。

テクスト分析の際はフランス語原文の抜粋を読み解きます。原文読解と作品分析を踏まえて、発表やディスカッションも行います。

第１回 授業の進め方について／ロココの時代の芸術と絵画について
第２回 ディドロの『サロン評』とグルーズ(J.-B. Greuze)の作品:歴史画と風俗画を読み解く
第３回 『サロン評』とシャルダン(J.-B. S. Chardin)の作品:静物画を読み解く
第４回 グルーズとシャルダンが描く子どもたち
第５回 フランソワ・ブーシェ(F. Boucher)とパストラル(田園風景と恋愛の主題):装飾画とタペストリー
第６回 ブーシェの絵画:同時代の演劇の主題との相関
第７回 『サロン評』とカルル・ヴァン・ロー(Carle Van Loo)の作品:歴史画と宗教画を読み解く
第８回 ユベール・ロベール(H. Robert)とカプリッチョ(奇想画)、ヴェドゥータ(都市景観画)
第９回 『サロン評』とロベール:「廃墟の詩学」／絵画と「時間」(過去・現代・未来)
第１０回 ディドロ「ヴェルネ散歩」(Promenade Vernet):風景画と「語り」／絵画から広がる「物語」
第１１回 フラゴナール(J.-H. Fragonard)とディドロの『サロン評』:絵画・物語・演劇
第１２回 発表とディスカッション(1)
第１３回 発表とディスカッション(2)
第１４回 発表とディスカッション(3)／全体のまとめ

履修上の注意

・指定された作品や抜粋をあらかじめ読んで授業に臨み、ディスカッションでは考えたことを積極的に発言しましょう。
・各回の授業で筆記コメントを求めます。
・発表や課題(レポート)では、自分なりの問いを立て、作品やテクストとじっくり向き合って分析・考察し、自身の言葉で理論的・客観的に論じることを目指してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で取り上げる作品をあらかじめ読んできてください。
また、各回、指定する箇所(フランス語原文の抜粋など)を必ず予習し、気になった事項などをまとめてきてください。

教科書

授業やクラスウェブ上で資料を配布します。

参考書

授業やクラスウェブ上で随時提示します。

課題に対するフィードバックの方法

筆記コメントや発表、課題(レポート等)については、授業やクラスウェブ上でフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点 50%(授業への意欲的な参加、各回の筆記コメント、口頭発表など)
レポート 50%

＊発表やレポートでは、自分なりの問いを立て、作品やテクストとじっくり向き合って分析・考察し、自身の言葉で理論的・客観的に論じているかどうかを評価します。参考文献等も積極的に調べて読んでください。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)B	フランス文学演習(3・4年)B	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業は 3 点で構成されます。

(1)現代フランス文学を代表する作家の一人 Patrick Modiano (1945 -) が 1978 年に発表した Rue des Boutiques Obscures を読みます。この作品は同年の le Prix Goncourt を受賞しました。Modiano は多くの作品を世に出していて、2014 年にはノーベル文学賞を受賞しました。
Modiano の作品の多くは日本語に翻訳されていて、容易に彼の文学世界を堪能することができます。今年度の授業のテキストに選んだ作品にも翻訳があります。この作品の概要は、記憶喪失になった男性が自分の過去を探求し、自分の失われた過去を再構成するということです。授業の目標は、その過程を丹念にたどりながら、作者が問うている「自分は何者か」を考えることです。

(2)私が和泉キャンパスで担当した「フランス文学演習(2 年)AB」では、フランスの時事問題をテキストにしましたので、演習授業の継続性の観点から、時事問題に関わる新聞記事や雑誌記事を読みます。

(3)「フランス文学演習(3・4 年)」は 4 年生の「卒業論文」とも関わりますので、私の専門分野である 16 世紀文学の作品も、授業で扱う予定です。

授業内容

Patrick Modiano, Rue des Boutiques Obscures, folio Gallimard, 1978 をテキストにします。全体で 240 ページですが、120 ページ弱の読了を目指します(予定)。
第1回 1章 pp.11-16
第2回・第3回 2章 pp.17-29
第4回 3章 pp.30-37
第5回 4章 pp.38-50
第6回・第7回 5－7章 pp.51-70
第8回 8-10 章 pp.71-81
第9回・第 10 回 11 章 pp.82-97
第 11 回 12-14 章 pp.98-106
第 12 回・第 13 回 15 章 pp.107-124
第 14 回 まとめ

これらに、時事問題の記事や 16 世文学作品の講読が適宜加わる予定です。

履修上の注意

1回の授業で精読するページ数が多いので、時間をかけて下調べをする必要があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

意味のわからない単語は辞書で丁寧に調べて下さい。

教科書

Patrick Modiano, Rue des Boutiques Obscures, folio Gallimard, 1978.
テキストについては授業開始時に説明します。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対する全体講評を Oh-o!Meiji で公開する。

成績評価の方法

授業への貢献度・平常点(訳の正確さ・発音の正確さ・文法事項の理解)60%、レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)B	フランス文学演習(3・4年)B	
担 当 者	開講期	開講地区
田母神 顯二郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

フランス語を誇りとするフランス人にとって、「詩」poèmes は言葉の精華ともいえるほど大切なものです。詩はフランスの街中にあふれ、フランス人の日々の生活を豊かにしています。

それ以外にも、詩は世界の見方を変え、固定された枠組みから解放し、生き方や思考を自由にしてくれます。あるいは、変化しつづける世界にあって、いちばん大事なことを気づかせてくれ、生涯の指針となる教えを授けてくれます。

詩の解釈には、「ただ一つの正解」というものはありません。また、意味だけではなく、音や韻律といった音楽性に注目することも大切です。この授業を通し、詩の魅力に目覚め、自分の感性や思考力を磨いていってもらえればと思います。

後期の授業では、卒業論文を見据えつつ、専門的なレベルの学習も採り入れます。具体的には、文学作品の分析法を学んでいき、さらには各自の発表能力を高めていくことを目標としています。

以上の目標のため、授業ではできるだけ日本語で読める参考文献が豊富にある詩人の作品を選びたいと思います。みなさんは、授業で基本的事項を学んだあと、自分で参考文献にあたりながら、作品の解釈と発表に臨んでください。

授業内容

秋学期は、フランス詩についての基礎知識を学んでもらったあとで、「近代詩の父」と言われたボードレールの代表作を中心に読んでいきます。また、同じ象徴派の系譜に属する、ランボーやヴェルレーヌなどの作品も読んでいきたいと思います。

こうした 19 世紀の詩人の作品を読解するためには、フランス詩の規則や修辞法を知る必要があるので、その説明のための時間も持ちたいと思います。いずれにしろ、前半は教師主体に授業を進め、後半は学生の発表を主体に授業を進めていく予定です。

1週目 授業の説明
2週目 象徴派の詩人について
3週目 フランス詩のルールと技法(1)
4週目 フランス詩のルールと技法(2)
5週目 ボードレールの作品を読む(1)
6週目 ボードレールの作品を読む(2)
7週目 ボードレールの作品を読む(3)
8週目 ヴェルレーヌの作品を読む(1)
9週目 ヴェルレーヌの作品を読む(2)
10 週目 ランボーの作品を読む
11 週目 学生による発表 (1)
12 週目 学生による発表 (2)
13 週目 学生による発表 (3)
14 週目 授業のまとめ

履修上の注意

授業では、ほぼ毎回、受講者の皆さん全員に発言してもらうことになります。誰がどこを当てられても良いように、指定されたテクストの箇所を調べておいてください。また、できるだけ早い段階で、ボードレールの『悪の華』をどの翻訳でもいいので読み通しておくと良いでしょう(一応、お勧めは集英社文庫の安藤元雄訳、ちくま文庫版の阿部良雄訳などです)。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、課題となっている作品や資料について調べてくること

教科書

私が作成したプリント教材をもとに授業を行ないます(教室で配布します)。

参考書

参考書については、授業中に随時指示しますが、とりあえず以下のものを挙げておきます。

『ボードレール全集』阿部良雄訳、筑摩書房
『ボードレールの世界』阿部良雄編、青土社
『悪の花・注釈』多田道太郎編、平凡社
『パリ論・ボードレール論集成』ベンヤミン、ちくま学芸文庫

『ヴェルレーヌ』野内良三、清水書院
『ヴェルレーヌ詩集』(橋本一明訳、角川書店または野村喜和夫、思潮社など)

『ランボー全詩集』、宇佐美斉訳、ちくま文庫
『対訳 ランボー詩集』、中地義和訳、岩波文庫

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートは添削し、コメントを付して返却します。
口頭発表に対しては、毎時間、授業内で質疑応答とコメントの時間を取ります。

成績評価の方法

受講者の人数にもよりますが, 基本的に平常点(60%)と学期末レポート(40%)によって判断します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT332N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学演習(3・4年)B	フランス文学演習(3・4年)B	
担 当 者	開講期	開講地区
根本 美作子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、友情について考えます。フランスの社会学者ジョフロワ・ドゥ＝ラギャヌリーの友情論を元に、参加者の友情感を語り合い、友情についていろいろな角度から議論する。春学期のジャネッキーニがレズビアンの観点から友情を論じていたのに対し、ドゥ＝ラギャヌリーはゲイの友情関係を主軸にしているので、その違いを考察しながら、春学期と同様、ドゥ＝ラギャヌリーの文章を起点に参加者にいろいろ考え・発表してもらうだけではなく、秋学期は参加者が見つけてきた友情物語を紹介してもらう。

授業内容

第 1 週:顔合わせ＋授業説明
第 4 週～10 週:Geoffroy de Lagasnerie の本、3. Une aspiration au dehors を読みながら、友情について考える。
第 10 週～14 週:発表
(進行状況は参加者次第で変わることもある)

履修上の注意

フランス語のテキストを教科書にするが、フランス語を読むことをメインにするというよりは、それを元に各自友情について考えてもらうことが目的。また、もう一つの目的は、「友情」といったテーマを与えられたときに、どのようについてそれについて議論を発展させながら考え、書くことができるのか、論の展開の仕方をマセの短い論文を参考に勉強することでもある。
毎回フランス語のテキストの翻訳もするが、メインはそれを元にした質問や議論になるので、授業での発言が重要である。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、次に読む箇所の概要をまず説明します。それを手がかりにフランス語のテキストを読んで予習してくる。
テキストに何が書かれているかだけではなく、どのように書かれているか、どのように論が展開するかに注目するようにする。
また、毎回新たに加わる議論にたいして自分の考えたことを箇条書きでもいいのでまとめてくる。
授業後に授業で読んだ部分のフランス語のテキストを読み返し、次の授業に向けて準備する。

教科書

プリント

参考書

主にプリントを配布

課題に対するフィードバックの方法

授業中に議論などで多くのフィードバックが得られるはずだが、その他にもお互いに書いたものを全員で読めるようにし、それに関して議論する。

成績評価の方法

参加 50-70%＋提出物 30-50%

その他

春学期とともに履修することが好ましい。

科目ナンバー:(AL)LIT131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学史A	フランス文学史A	
担 当 者	開講期	開講地区
田母神 顯二郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス文学には、長い歴史と充実した伝統があります。この授業では、各時代の代表作家・作品に親しみながら、フランス文学の知識を広げ、理解を深めていきます。個性的で革新性に満ちたフランスの作家たちを知ることで、フランス精神がどのように形成されてきたか、その精髄(エッセンス)に触れてもらえたらと思います。作品の書かれた時代背景や作家の生涯を調べたり、美術や音楽、演劇、舞踊など他のジャンルの動向も知ることで、より複眼的なフランス文化体験ができるようになると思います。

春学期の授業は、中世から 19 世紀前半までの時代を見ていく予定です。この時代は、日本人にとってそれほど馴染み深いとは言えないかもしれませんが、当時の社会状況や文化状況、そして歴史などを学ぶうちに、どこか深いところで私たちとつながっていることが分かるようになるでしょう。できるだけ視聴覚資料を多く採り入れ、五感を使ってフランス文学を理解していけるよう心がけるつもりです。

授業内容

だいたい以下のようなスケジュールで授業を進めていきたいと思っていますが、受講者の反応を見て、重点的に深めた方がよいパートなどは、少しゆっくり時間をかけてやることもあります。

第一回 授業の説明 フランス文学史の概観
中世(1)中世入門
第二回 中世(2)『ロランの歌』から宮廷恋愛詩まで
第三回 中世(3)『狐物語』からヴィヨンまで
第四回 16 世紀 フランス・ルネッサンス期の文学(1)
第五回 16 世紀 フランス・ルネッサンス期の文学(2)
第六回 17 世紀(1)絶対王政と古典主義の確立
第七回 17 世紀(2)古典主義期の作家たち その 1
第八回 17 世紀(3)古典主義期の作家たち その2
第九回 18 世紀(1)18 世紀前半の文学
第十回 18 世紀(2)百科全書派の作家たち
第十一回 18 世紀(3)18 世紀のその他の作家たち
第十二回 19 世紀(1)前ロマン主義の作家たち
第十三回 19 世紀(2)ロマン主義の作家たち その1
第十四回 19 世紀(3)ロマン主義の作家たち その2 全体のまとめ

履修上の注意

第一回目の授業には必ず出席してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で配布したプリント資料は必ず読んで、知識の定着を図ってください。
できるだけ授業で取りあげた本を読むようにしてください。また知識を定着し、
各種のスキルをアップするには、毎回必ずリアクションを書くことが必要です。

教科書

いわゆる「教科書」はありませんが、次の本は他の授業でも参考になるうえに、
四年間(あるいは卒業後も)使える便利なものなので必ず購入してください。

『フランス文学小事典 増補版』、岩根久、柏木隆雄ほか、朝日出版社

またこれとは別に、毎回、私が作成したフランス文学史関係のプリントを配布します。

参考書

以下のうちどれか一つを早めに通読しておくことをお勧めします。

『はじめて学ぶフランス文学史』、横山安由美・朝比奈美知子、ミネルヴァ書房
『新版 フランス文学史』饗庭孝男・加藤民男、白水社
『増補 フランス文学案内』渡辺一夫・鈴木力衛、岩波文庫

課題に対するフィードバックの方法

各回のアンサーシート(授業へのリアクション)の中から、優秀なものを紹介し、全員の参考になるようにします。

成績評価の方法

平常点(50%)と試験(もしくは学期末レポート 50%)を基準に評価します。

その他

この授業は、フランス文学専攻の学生を想定した授業になるため、授業でフランス語を使います。

科目ナンバー:(AL)LIT131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文学史B	フランス文学史B	
担 当 者	開講期	開講地区
田母神 顯二郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス文学には、長い歴史と充実した伝統があります。この授業では、各時代の代表作家・作品に親しみながら、フランス文学の知識を広げ、理解を深めていきます。個性的で革新性に満ちたフランスの作家たちを知ることで、フランス精神がどのように形成されてきたか、その精髄(エッセンス)に触れてもらえたらと思います。作品の書かれた時代背景や作家の生涯を調べたり、美術や音楽、演劇、舞踊など他のジャンルの動向も知ることで、より複眼的なフランス文化体験ができるようになると思います。

秋学期は、19 世紀の写実主義文学から始める予定です。文学作品であれ、背景となる時代や社会であれ、19 世紀のフランスは私たちにとって身近な時代であり、多くの共感できるキャラクター(登場人物)やテーマそして作家に出会えると思います。後半は、20 世紀以降のフランス文学を見ていきます。フランスだけでなく、世界中に強い影響を与えた 19 世紀・20 世紀のフランス文学を学ぶことで、現代文化のルーツがわかり、創造的な発想も得やすくなるはずです。できるだけ視聴覚資料も多く採り入れ、五感を使って作品を理解していけるよう心がけるつもりです。

授業内容

だいたい以下のようなスケジュールで授業を進めていきたいと思っていますが、前期の進度によっては変更することがあります。

第一回 授業の説明 秋学期の概観
第二回 ロマン派から写実主義へ(1)バルザック
第三回 ロマン派から写実主義へ(2)スタンダール
第四回 ロマン派から写実主義へ(3)メリメほか
第五回 ロマン派から写実主義へ(4)フローベール
第六回 ゾラと自然主義の作家たち
第七回 象徴派の詩人たち(1)ボードレールと『悪の華』
第八回 象徴派の詩人たち(2)ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ
第九回 ベル・エポック期の作家たち
第十回 20 世紀文学の展開(1)ダダとシュルレアリスム、両大戦間期の文学
第十一回 20 世紀文学の展開(2)実存主義と不条理の文学
第十二回 20 世紀文学の展開(3)新しい小説と演劇の試み
第十三回 20 世紀文学の展開(4)20 世紀のその他の作家たちと思想家たち
第十四回 全体のまとめ

履修上の注意

第一回目の授業には必ず出席してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

できるだけ課題として挙げた本を読んでから出席するようにしてください。
また、授業で配布したプリントなどは必ず読んで、知識の定着を図ってください。

教科書

いわゆる「教科書」はありませんが、次の本は他の授業でも参考になるうえに、
四年間(あるいは卒業後も)使える便利なものなので必ず購入してください。

『フランス文学小事典 増補版』、岩根久、柏木隆雄ほか、朝日出版社

また、これとは別に、毎回、私が作成したフランス文学史関係のプリントを配布します。

参考書

以下のうちどれか一つを早めに通読しておくことをお勧めします。

『はじめて学ぶフランス文学史』、横山安由美・朝比奈美知子、ミネルヴァ書房
『新版 フランス文学史』饗庭孝男・加藤民男、白水社
『増補 フランス文学案内』渡辺一夫・鈴木力衛、岩波文庫

また、19 世紀に特化したものとして、次のような本も参考になります。

『十九世紀フランス文学を学ぶ人のために 』小倉孝誠、世界思潮社
『十九世紀フランス文学の展望』ドミニック・ランセ、文庫クセジュ

課題に対するフィードバックの方法

各回のアンサーシート(授業へのリアクション)の中から、優秀なものを紹介し全員の参考になるようにします。

成績評価の方法

平常点(50%)と試験(もしくは学期末レポート 50%)を基準に評価します。

その他

この授業は、フランス文学専攻の学生を想定した授業になるため、授業でフランス語を使います。

科目ナンバー：(AL)ARS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文化研究A	フランス文化研究A	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、フランスの社会・歴史・文化を広く学びます。今日の世界で、フランス文化はどのような役割を担っているのか。今もなお広い地域で何らかの影響力を残しているとすれば、そこにはどのような歴史的・社会的背景があるのか。こうした問いに答えるための、基礎的な知識を習得できます。

春学期は、フランスの首都パリに焦点を当て、基本となる文化・歴史を概観します。フランスの代表的な史跡や文化施設が、どのような時代背景や社会的要請を受けて成立し、現在にまで受け継がれているかを考察し、フランス文化の持つ多層性をとらえます。

単なる史実の暗記にとどまらず、歴史と現代を関連付けて考える思考力を身につけることを目指します。

授業内容

以下のような内容を予定していますが、受講者の興味・関心に応じて一部変更する可能性があります。

第１回 オリエンテーション:「フランス文化」とは何か？
第２回 ノートルダム大聖堂:フランスと聖母信仰
第３回 ヴェルサイユ宮殿:宮廷社会、国際共通語としてのフランス語
第４回 バスティーユ広場、その他の広場・街路:フランス革命、ナポレオン、パリ改造
第５回 美術館:サロンとアカデミー・フランセーズ
第６回 エッフェル塔:産業革命と万国博覧会
第７回 モンマルトル:ボヘミアン文化と芸術家たち
第８回 文化研究(1):作品鑑賞の方法
第９回 オペラ座:舞台芸術と祝祭
第10回 文化研究(2):レポートの書き方
第11回 カルチエ・ラタン:パリ左岸文化と知識人
第12回 文化研究(3):作品解釈の方法
第13回 パリの地下世界:メトロ、カタコンブ、下水道
第14回 レポートのフィードバック／フランス文化史のまとめ

履修上の注意

毎回必ずリアクションペーパーを提出してもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に復習を重視します。紹介した文化的施設・歴史的事件について、気になった箇所やキーワードはメモを取り、リアクションペーパーで質問するなど、能動的な学習を心がけてください。

教科書

授業内でプリントや抜粋資料を配布します。

参考書

田村毅・塩川徹也ほか編『フランス文化事典』丸善出版、2012 年。
天野知香(編)『西洋近代の都市と芸術3 パリII 近代の相克』竹林舎、2015 年。
その他、授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各回のリアクションペーパーは、次の授業で講評や補足説明を行います。
期末レポートは、提出後、授業最終回でフィードバックを行います。

成績評価の方法

・平常点:60%(出席回数、授業参加の姿勢、リアクションペーパー)
・レポート:40%(学期末レポート)
・遅刻・欠席が多い場合は大幅に減点しますので注意してください。

その他

秋学期に開講される「フランス文化研究 B」と合わせて受講するようにしてください。A・B を通じて体系的にフランス文化を学ぶことで、歴史的視点から現代社会の重要問題まで総合的な理解が深まります。

科目ナンバー：(AL)ARS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス文化研究B	フランス文化研究B	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 惟央	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では、フランスの社会・歴史・文化を広く学びます。今日の世界で、フランス文化はどのような役割を担っているのか。今もなお広い地域で何らかの影響力を残しているとすれば、そこにはどのような歴史的・社会的背景があるのか。こうした問いに答えるための、基礎的な知識を習得できます。

秋学期は「フランス語圏」の文化に焦点を当てます。フランス語を公用語、または第二言語(母語の次に学習する言語)としている国が、世界に 30 カ国以上あることを知っていますか？ こうした地域を「フランス語圏(フランコフォニー)」と呼びます。しかし、一言で「フランス語圏」と言っても、それぞれの地域ごとに独自の歴史的背景があり、フランス語の位置付けも文化圏によって異なります。

この授業では、フランス語圏地域が拡大した歴史的背景、とりわけフランス植民地帝国が形成されるに至った経緯をたどります。そのうえで、フランス本国と今日でも関係の深い「マグレブ」と呼ばれる北アフリカ地域(現在のアルジェリア、モロッコ、チュニジア)について学び、フランス本国との関係について考察します。

授業内容

以下のような内容を予定していますが、受講者の興味・関心に応じて一部変更する可能性があります。

第１回 オリエンテーション:「フランス語圏文化」とは何か？
第２回 パリのモスク:多文化共生と政教分離(ライシテ)
第３回 万国植民地博覧会:共和国主義と植民地主義
第４回 異文化へのまなざし:オリエンタリスム
第５回 異文化へのまなざし:ジャポニスム
第６回 ケ・ブランリー博物館:「異文化」展示のゆくえ
第７回 フランス文化研究(1):歴史・社会的事件の分析
第８回 フランス文化研究(2):文献調査の方法
第９回 「マグレブ」地域の植民地化:アルジェリア、モロッコ、チュニジア
第10回 アルジェリア戦争(1954～1962 年) :植民地支配の転換点
第11回 脱植民地化:引揚と戦後補償
第12回 現代フランス・アルジェリア関係と「記憶の戦争」
第13回 現代フランス文化と移民問題:郊外、貧困、教育
第14回 レポートのフィードバック／「フランスらしさ」と多文化共生

履修上の注意

毎回必ずリアクションペーパーを提出してもらいます。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に復習を重視します。紹介した文化的施設・歴史的事件について、気になった箇所やキーワードはメモを取り、リアクションペーパーで質問するなど、能動的な学習を心がけてください。

教科書

授業内でプリントや抜粋資料を配布します。

参考書

平野千果子『フランス植民地主義の歴史:奴隷制廃止から植民地帝国の崩壊まで』人文書院、2002 年。
平野千果子『フランス植民地主義と歴史認識』岩波書店、2014 年。
N. バンセル、P. ブランシャール、F. ヴェルジェス『植民地共和国フランス』平野千果子・菊池恵介訳、岩波書店、2011 年。
大嶋えり子『旧植民地を記憶する フランス政府による〈アルジェリアの記憶〉の承認をめぐる政治』吉田書店、2022 年。
その他、授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

各回のリアクションペーパーは、次の授業で講評や補足説明を行います。
期末レポートは、提出後、授業最終回でフィードバックを行います。

成績評価の方法

・平常点:60%(出席回数、授業参加の姿勢、リアクションペーパー)
・レポート:40%(学期末レポート)
・遅刻・欠席が多い場合は大幅に減点しますので注意してください。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文学概論A	**文学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文学作品は、私たちの人生と私たちの生きる世界を、広く深く描いています。この授業では、多様な視点から主としてアメリカ文学と日本文学を中心にさまざまな文学テクスト(小説とエッセイ)を読み解いていきます。人生的側面では、生・子ども・家族・心理・友情・恋愛・旅・結婚・老い・死、社会／歴史的側面では、貨幣・共同体・人種・階級・戦争・都市・乗り物、文化的側面では、絵画・音楽・写真・映画、あるいは、自然と動植物、文体と手法などがあげられますが、これらの視座から小説やエッセイを読み(ときに小説が映画化された場面を視聴し)、文学の諸相と総体を考えていきます。

授業内容

春学期と秋学期で、異なる視点を取り上げていきます。
第1回 イントロダクション、小説家の散文、エッセイ
第2回 文学と視点 1
第3回 文学と視点 2
第4回 文学と視点 3
第5回 文学と視点 4
第6回 文学と視点 5
第7回 文学と視点 6
第8回 文学と視点 7
第9回 文学と視点 8
第 10 回 文学と視点 9
第 11 回 文学と視点 10 (学期末レポートについて)
第 12 回 文学と視点 11
第 13 回 文学と視点 12
第 14 回 文学と視点 13

履修上の注意

受講者数に応じて授業の進め方を決定します。携帯電話の使用・私語は厳禁。
英語で書かれたテクストを多くとり上げますが、訳読をします。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料を読んできてください。

教科書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢・山本洋平編 ミネルヴァ書房出版)生協で購入してください。
配布資料。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

受講者数との兼ね合いになりますが、リアクションペーパーのなかから、興味深い考えや視点を、次回の授業冒頭で紹介します。

成績評価の方法

出席 20%、課題 30%、学期末レポート 50%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文学概論B	**文学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文学作品は、私たちの人生と私たちの生きる世界を、広く深く描いています。この授業では、多様な視点から主としてアメリカ文学と日本文学を中心にさまざまな文学テクスト(小説とエッセイ)を読み解いていきます。人生的側面では、生・子ども・家族・心理・友情・恋愛・旅・結婚・老い・死、社会／歴史的側面では、貨幣・共同体・人種・階級・戦争・都市・乗り物、文化的側面では、絵画・音楽・写真・映画、あるいは、自然と動植物、文体と手法などがあげられますが、これらの視座から小説やエッセイを読み(ときに小説が映画化された場面を視聴し)、文学の諸相と総体を考えていきます。

授業内容

春学期と秋学期で、異なる視点を取り上げていきます。
第1回 イントロダクション、小説家の散文、エッセイ
第2回 文学と視点 1
第3回 文学と視点 2
第4回 文学と視点 3
第5回 文学と視点 4
第6回 文学と視点 5
第7回 文学と視点 6
第8回 文学と視点 7
第9回 文学と視点 8
第 10 回 文学と視点 9
第 11 回 文学と視点 10 (学期末レポートについて)
第 12 回 文学と視点 11
第 13 回 文学と視点 12
第 14 回 文学と視点 13

履修上の注意

受講者数に応じて授業の進め方を決定します。携帯電話の使用・私語は厳禁。
英語で書かれたテクストを多くとり上げますが、訳読をします。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料を読んできてください。

教科書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢・山本洋平編 ミネルヴァ書房出版)生協で購入してください。
配布資料。

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

受講者数との兼ね合いになりますが、リアクションペーパーのなかから、興味深い考えや視点を、次回の授業冒頭で紹介します。

成績評価の方法

出席 20%、課題 30%、学期末レポート 50%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文学と哲学	**文学と哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
合田 正人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文学も哲学も高度な言語活動である。それがどうして哲学と文学に分割されたのか。それは果たして分割されているのか。また、いかに分割されているのか。「哲学と文学の間」を古来、哲学者たちはどのように考えてきたのだろうか。受講者各人がその点を深く考えることを目指す。

ヘブライ語聖書の言語、古代におけるロゴスとミュトス(神話)との連関から始めて、モンテーニュらの検討を経て、20 世紀の東西の哲学者たちによる文学論を紹介し検討する。

授業内容

第1回:ヘブライ語聖書とはいかなるものか？
第2回:ヘブライ語聖書の言語とその翻訳
第3回:プラトンにおけるロゴスとミュトス
第4回:プラトン、アリストテレスにおける詩学
第5回:ギリシャ悲劇をめぐって
第6回:アウグスティヌスの『告白』
第7回:モンテーニュと『エセー』
第8回:モンテーニュと『エセー』
第9回:ヴィーコと『新しい学』
第 10 回:ヴォルテール、ディドロ、ルソー
第 11 回:ヴォルテール、ディドロ、ルソー
第 12 回:ドイツロマン派と「リズム」
第 13 回:サルトルらの文学論
第 14 回:まとめ
定期試験

履修上の注意

様々な言語を使用するが、原則的には担当者が翻訳するので、その言語を習得している必要はない。また、講義の内容がシラバスとは異なる場合がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習の必要はないが、講義で紹介された著書や作品についてみずから図書館などで調べ、その一部だけでも読解、鑑賞することが望まれる。

教科書

主に Oh-o! Meiji を利用して指示または配布する。

参考書

適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要がある場合にはその都度コメントし、質問に答える。

成績評価の方法

学期末の論述式テスト100パーセント

その他

科目ナンバー：(AL)MUS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文化財科学A	**文化財科学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
和田 浩	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【概要】博物館資料周囲の環境は資料の保存状態に大きく影響を及ぼす。従って環境を適切に整えることで資料の劣化を緩和することができる。博物館における環境とは，展示環境・収蔵環境・輸送環境の大きく3つに分けられ，それぞれ保全の方法に特徴がある。一方，適切な環境を維持しても資料の修理が必要な局面も多く，博物館が資料の保存と活用を両立するためには，環境と修理に関する活動を効果的に取り入れる考え方が重要となる。本講義では上記の内容について博物館の現場から得られる具体的な情報を取り入れた講義を展開する。
【位置づけ】学芸員として必要な知識を獲得し，学芸員課程で履修する実習に対応するための準備として本講義を位置付ける。
【ねらい】講義では，実際の博物館で行われている学芸員の業務についての画像や動画を提示し，また可能であれば，校外学習として博物館の現場で講義を実施することで博物館資料保存に関する理解を深めることを全体的な目標とする。
【目標 1】博物館で発生する資料の損傷とその原因を学び，損傷を予防するための環境作りを考えられるようになる。
【目標 2】環境に含まれる各要素とそれらが資料に及ぼす影響を把握した上で，環境を保全するための理論を習得し，実践に役立つ基礎力を養う。
【目標 3】博物館と関わる様々な職種が資料保存とどのように関わることができるのかを考えられるようになる。

授業内容

第 1 回_ 博物館における資料保存の意義と位置付け
博物館の経営的側面から見た資料保存の位置付け、最新の資料保存の考え方
第 2 回_ 資料と損傷_ 博物館において資料に生じうる損傷の種類およびその原因
第 3 回_ 資料の管理-資料の点検_ 資料の保存状態を診断、記録する手法について
第 4 回_ 資料の修理 1_ 資料の局所的な修理(応急修理)の意義と実例
第 5 回_ 資料の修理 2_ 資料の全体的な修理(本格修理)の意義と実例
第 6 回_ 博物館の環境_ 予防保存という概念を学び、展示・収蔵・輸送環境の特徴をつかむ
第 7 回_ 温湿度環境の管理_ 温湿度を計測する各手法とその特徴
第 8 回_ 生物被害対策_ 生物被害の予防と対処について
第 9 回_ 資料の展示-展示照明_ 各種照明器具の特徴と照明による資料の劣化、照明による演出効果との両立
第 10 回_ 資料の活用-梱包_ 資料を梱包する作業内容と、学芸員が果たす役割について
第 11 回_ 資料の活用-輸送_ 資料を輸送する作業内容と、学芸員が果たす役割について
第 12 回_ 資料の活用-近代化遺産_ 景観や近代化遺産の保存、文化遺産の活用と保存について
第 13 回_ 地震対策_ 地震による収蔵庫および展示室の被害、耐震と免震、収蔵庫と展示室における対策
第 14 回_ 被災文化財の救援_ 大規模災害発生時における各種関連団体の連携と具体的作業内容

履修上の注意

一部の内容は博物館施設等を訪れて展示の現場で講義を行う予定です。授業外学習および講義内で見学する博物館・美術館施設の入場料等および現地までの交通費は学生の個人負担となります。
また、一部の講義はオンデマンド方式を採用したものになります。1週間前までにクラスウェブで告知いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習)事前に教科書(配信資料がある場合は資料)を一読する。
復習)講義中により詳細な情報を得ておきたい部分をチェックしておき、講義後に調べる。

教科書

『実践博物館資料保存論』和田浩(著)、Amazon
https://www.amazon.co.jp/dp/B0BR5C783J
文化財科学 B と共通の教科書になります。kindle 版でもペーパーバック版でもどちらでも結構です。

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

オンラインで、課題に対する講評を共有する。

成績評価の方法

課題を提示する。その課題を採点する。評価は課題に対する採点が 100%。

その他

科目ナンバー：(AL)MUS121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文化財科学B	**文化財科学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
和田 浩	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【概要】博物館が文化財を保存活用する上では、文化財を科学的に理解することが必須事項となる。科学的な理解とは、抽象的な評価に基づく解釈ではなく、自然法則の摂理にしたがって様々な事象を把握することに他ならない。すなわち、文化財を科学的に理解することは、文化財の素材や構造、それらの特性を可能な限り数値的に表現することにほぼ等しい。なお、本講義は文化財科学 A を受講した学生を対象として、展開するものである。

【到達目標】文化財科学 A では言及しつくせなかった狭く深い部分に焦点を当てて、具体的な事例を引用しながら、講義を行う。受講することによって、文化財を科学的に理解する力を養う。

授業内容

第１回

地球環境と文化財

現在の地球環境の状況と、その状況下で実践する文化財保存に関する課題について

第２回

展示ケースの設計における文化財保存技術について

第３回

環境データの可視化

博物館で収集される各種の環境データの可視化について

第４回

文化財の輸送環境データ

文化財を輸送する際に発生する加速度データの取り扱いについて

第５回

梱包資材の落下衝撃吸収特性

文化財の梱包に用いる資材が持つ衝撃吸収特性について

第６回

梱包資材の振動応答特性

文化財の梱包に用いる資材が持つ振動応答特性について

第７回

展示ケース内の温湿度環境

展示ケース内の温湿度データの解析から見た環境変化について

履修上の注意

一部の内容は博物館施設等を訪れて展示の現場で講義を行う予定です。授業外学習および講義内で見学する博物館・美術館施設の入場料等および現地までの交通費は学生の個人負担となります。

また、一部の講義はオンデマンド方式を採用したものになります。1週間前までにクラスウェブで告知いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習)事前に教科書(配信資料がある場合は資料)を一読する。

復習)講義中により詳細な情報を得ておきたい部分をチェックしておき、講義後に調べる。

教科書

『実践博物館資料保存論』和田浩(著)、Amazon

https://www.amazon.co.jp/dp/B0BR5C783J

文化財科学 A と共通の教科書になります。kindle 版でもペーパーバック版でもどちらでも結構です。

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

オンラインで、課題に対する講評を共有する。

成績評価の方法

課題を提示する。その課題を採点する。評価は課題に対する採点が 100%。

その他

科目ナンバー：(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文化地理学 I	**文化地理学 I**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文化地理学とはいったいどのような学問なのか，その実相について，具体的な研究事例をもとに検討していく。

そして，「文化地理学の視座から地域をまなざす」にはどのようにすればよいかを学ぶ。

鍵となる地理学的概念としては「景観」と「場所／地域」，そして「アイデンティティ」である。

これらについても理論的・方法論的な観点から説明していく。

授業内容

およそ以下の通りに進めていく予定である(随時変更はありうる。一つのトピックを複数回で扱うことが多いので，このすべてを網羅するものではない。また順番はこの通りではない可能性もある)。

1 学史：講義の文脈説明:1980 年代後半の人文地理学における文化論的転回

2 方法論1：認識としての文化

3 景観読解1：村落景観の社会性

4 場所の系譜学1：墓地と場所感覚

5 場所の系譜学2：　ナショナリズムと「民俗」の風景

6 都市空間と身体性1：ヴァルター・ベンヤミン―遊歩者(フラヌール)と幻像(ファンタスマゴリー)―

7 都市空間と身体性2：ポストモダン都市の遊歩をめぐる諸相

8 地理学的知の存在論：「他なるもの」／「外部」に介入する地理学的知

9 地域文化の認識論：「地域文化」について考える

10 場所の系譜学3：1980 年代の「裏原宿」―文化地理学的回想―

11 方法論2：街歩きの詩学

12 方法論3 ポストモダン地理学とは何であったのか？

13 景観読解2 東京オリンピック 1964 と 2020－都市(再)開発の様相に関するメモランダム－

14 場所の認識論 居場所と逃げ場

履修上の注意

授業の際に数度簡単な作業をしてもらう予定。

それに期末試験の点数を加えて評価する。

授業開始後の出入りは慎むこと。用があればその都度連絡してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の講義に関する文献を PDF 化して Oh-o！Meiji システムに UP するので，必ず事前にダウンロードし読んでおくこと。

また毎回講義時に持参すること。

教科書

特に用いないが，関係する文献については講義時に指示する。

参考書

都度紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

講義時の小テストとそれに対する講評。

成績評価の方法

定期試験(85%)と平常点(15%:授業時の小レポート等および出席状況)を併せて評価する(予定)。

その他

科目ナンバー:(AL)GEO211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文化地理学Ⅱ	**文化地理学Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
大城 直樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文化地理学的視座から，都市ならびに都市環境に関する表象とそれをめぐる政治(力関係)ならびに社会＝経済的構造との連関性について考えて行く。
様々なメディア(とくに映画)を事例に，その時系列的な変遷について理解できるようにする。

授業内容

毎回一つの作品を取り上げながら，都市問題，様々な社会的矛盾(人種，階級等)，建造環境，郊外，未来のイメージ，などのトピックについて検討していく。

第1・2回:未来都市イメージ，企業支配，労働力の問題
第3・4回:都市とモダニティ:フォーディズムを中心に
第5回:都市と移民と犯罪
第6回:都市インフラとマイノリティ
第7回:戦時の都市空間
第8回:焼け跡の都市で生きる
第9回:都市への人口移動と核家族化:残された家族の問題
第 10 回:都市の郊外化と社会問題
第 11 回:失業と文化摩擦
第 12・13 回:都市の社会的格差:インナーシティ問題，持てる者と持てざる者
第 14 回:人種問題，人種内格差と音楽の交錯

履修上の注意

授業の際に毎回作業を行う。よって毎回出席を前提とする。
3回までの欠席は正当な理由がある場合認めるが，それ以上の欠席は授業の構造上成績評価に支障が生じるため認められない。同様に大幅な遅刻も認められない(作業が出来ないので)。

一回目の授業時に受講にあたっての注意事項を述べるので必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，次回の映画の概要等について各自事前に調べ，A4 用紙にプリントアウトし持参すること。
その用紙に，その回の授業中の課題を行ってもらう。

教科書

特に使用しない

参考書

講義中にその都度照会する。

課題に対するフィードバックの方法

講義時の小テストとそれに対する講評。

成績評価の方法

期末試験(15%)と平常点(85%:毎回の作業内容と出席状況)を合算し評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸研究	**文芸メディア概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「文芸」概念の基礎をなすのが「ことば」であることは言うまでもない。本講義では「ことば」の様々な様相を基礎的に考察し、「文芸とか何か？」という問題に迫っていきたい。

授業内容

第1回 「ことば」論 1:「こと」と「もの」
第2回 「ことば」論 2:「言語」「language」
第3回 言葉と人間 1:『古今和歌集』『仮名序』の言葉論
第4回 言葉と人間 2:音声と文字
第5回 文字論 1:文とは何か？
第6回 文字論 2:字とは何か？
第7回 言語宇宙 1:仏教の言語観
第8回 言語宇宙 2:空海の言語宇宙
第9回 文学テクストの成立条件 1:テクストを読むこと
第 10 回 文学テクストの成立条件 2:テクストを書くこと
第 11 回 文学テクストの位相 1:作者論
第 12 回 文学テクストの位相 2:読者論
第 13 回 文学と人間 1:文学の頽落
第 14 回 文学と人間 2:人間解放へ向けて

履修上の注意

「ことば」と「文芸」をめぐる文献を自分で読んでもらい、そのレポートを課す。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で言及した論文や文献は自ら読まなければならない。

教科書

クラスウェブにデータをアップする。

参考書

廣松渉『もの・こと・ことば』(ちくま学芸文庫)、長谷川美千子『日本語の哲学へ』(ちくま新書)

課題に対するフィードバックの方法

レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度(30%)・レポート(30%)・試験(40%)の 3 点について評価を下す。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年) I	**文芸メディア演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

文芸メディアの研究の基礎固めであるが、この演習ではどちらかといえばメディア研究に重心を置きながら、必要不可欠な基礎的知識をまなび、文芸メディアにかかわる本を読む。
文芸メディアの研究の世界を除き、その広がりと面白さを把握することを目的とする。
そのうえで、小論文・レポートの書き方を実践的に学ぶとととする。

授業内容

1. イントロダクション 2年生に求められる学習について
2. 新しい時代の"人文知"とはなにか
3. ことばは、同時代の文化と社会のなかに育まれる――ことばの相対化のこころみ
4. "限界芸術"としてのことばと作品――あそびから文化へ――粋であることと自由
5. メトロポリスと文化産業――作品世界の足場をとらえる――作品の文脈の時代性を考える
6. ステレオタイプは売れる――差異の表現としての文化――生きられる世界の叙述とは何亜 k
7. 越境し、流通する文化――さまよう文化と文化帝国主義――＜どこでもでィズニー＞の逆説
8. 文化の政治学――素朴なままではいられない"わたし"
9. 中間のまとめ
10. ネットワークは作品世界を豊かにするか――PC はどこでも図書館――検索の落とし穴
11. パフォーミング化する言葉と文化――じぶん"以上"が求められることの可能性と疲労感
12. アーカイヴの発展――言語と記憶の継承と未来
13. 人間と研究は、一緒に変化し成長していく―学びから知る自分―
14. まとめ

履修上の注意

演習では出席が重視される。
文献を読むことや、それに基づく発表は当然のことだが、それらの積極性が期待されている。
メディア文化と私たちの日常を、研究の対象としていくための「とらえ方」を考える手引きとして、テキストを用いるが、テキストを読むだけで満足することがないようにすることが大事である。

準備学習(予習・復習等)の内容

本を必ず読んでくること。
読んでいない場合は、欠席とみなす。
与えられた課題を着実にこなすこと。
グループや共同作業をする場合があるので、仲間との連携をつくること。

教科書

吉見俊哉『現代文化論―新しい人文知とは何か―』有斐閣アルマ

参考書

演習内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

全体の講評、および注意ポイントや重要な発見などについては、授業内の議論の話題に取り上げることで、フィードバックに代替する。

成績評価の方法

平常点(授業への貢献)60%、レポート・提出物など 30%、討論積極性 10%。

その他

とくになし

科目ナンバー：(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年) I	**文芸メディア演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

メディアと社会の相互関係を、歴史と理論をたどりながら考える。領域は従来型のマスメディアおよびインターネット・メディア。項目としては、マスメディア批判、民主主義、排外主義、原子力発電、情報セキュリティなど、現実世界の諸問題を扱う。

授業内容

各回の内容
(1)本演習での準備のしかた・その1
(2)本演習での準備のしかた・その2／発表分担決め
(3)発表1
(4)発表2
(5)発表3
(6)発表4
(7)発表5
(8)発表6
(9)発表7
(10)発表8
(11)発表9
(12)発表 10
(13)発表 11
(14)レビュー

履修上の注意

同一教員の 2 年演習 B と組みあわせて履修してください。
念入りに発表を準備することはもちろんですが、そのほかにも予習・復習・小課題提出など多くの基礎作業を日常的に確実に行ってください。それらをふまえたうえで, 学生諸君による発表と質疑・応答を高密度に展開します。万一欠席した場合は責任感をもって各自キャッチアップしてください。レポート(各 4000 字程度)を 2 回課します(春学期中 1 回・夏期 1 回)。

準備学習(予習・復習等)の内容

よい演習のためには、発表者及び発表を聞く側、双方の積極的な参加が必須です。そのために、発表者は自分の担当部分にとどまらずはば広く文献資料に目を通すこと、また、発表を聞く側はテキストの予習をして、質問を準備することが求められます。また、テキストの各章は相互に関連しています。適宜、前の演習内容を復習することも重要です。

教科書

津田正太郎『メディアは社会を変えるのか――メディア社会論入門』(世界思想社、2016 年)ほか、演習内で指示します。

参考書

演習内で適宜、示します。

課題に対するフィードバックの方法

レポート集を作成し、クラスに配布する。
学生発表に対する、クラス・メンバー各人のコメントをクラス全体で共有する。

成績評価の方法

演習での発表・質疑…60%, レポート・小課題…40%を基準に評価します。ただし出席状況が悪い(欠席や遅刻が多い)場合は, 特段の事情がないかぎり単位を認めません。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年) I	**文芸メディア演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

室町時代から江戸時代前期にかけて制作された、お伽草子と呼ばれる短編の物語草子を素材として扱う。お伽草子の形態は、絵巻、奈良絵本、版本とさまざまだが、演習では渋川版(版本)をテキストとして用いる予定である。

本文の「読み」はもちろんのこと、挿絵の「読み」、作品の中にあらわれる民俗事象の「読み」など、多角的な視点から古典文学を「読む」方法を習得することを目標とする。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)お伽草子概説 1
(3)お伽草子概説 2
(4)テーマ設定 1
(5)テーマ設定 2
(6)研究発表の方法
(7)変体仮名を読む 1
(8)変体仮名を読む 2
(9)発表と討議
(10)発表と討議
(11)発表と討議
(12)発表と討議
(13)発表と討議
(14)まとめ

履修上の注意

出席および積極的な授業参加が最も重視される。口頭発表は必須。演習は受講生全員で作り上げる学びの場であり、この時間が充実したものとなるか否かは、受講生のやる気にかかっている。全員が毎回の討議に積極的・建設的に関わっていくことを望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備(資料収集・レジュメ作成)には非常に時間がかかるため、早い段階から準備を進めること。テキストをしっかり読み、常に問題意識をもって討議に参加できるよう準備しておくことが求められる。

教科書

市古貞次校注『御伽草子』(上・下)岩波文庫、中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。

参考書

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(全 15 巻)角川書店、徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

発表(30%)、授業への貢献度(40%)、期末レポート(30%)によって評価する。最低1回の口頭発表と期末レポートの提出は必須。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年) I	**文芸メディア演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

小説をはじめとしたフィクションといわゆるノンフィクションの境界について考えることは、フィクションのノンフィクション性とノンフィクションのフィクション性について考えることに等しい。本演習では日本でノンフィクションというジャンルが成立する以前に書かれたものから現代に至るまでの様々な文章を、フィクションとノンフィクションという切り口で捉え、同じテーマに沿って書かれたフィクションとノンフィクションの文章を読むことを通して、それらの相異点や共通点を考えていく。まず、ある特定の街について書かれた様々な文章を読み、そこで得たものをもとに演習参加者による発表を行う。最後に、公害・災害、戦争、労働などについてのテクストを用いて文芸メディア専攻の学生がさまざまな文章を読む／書く上で必要となる指針を習得することを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 公害・災害をめぐるフィクションとノンフィクション
第3回 戦争をめぐるフィクションとノンフィクション
第4回 労働をめぐるフィクションとノンフィクション
第5回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(1)
第6回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(2)
第7回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(3)
第8回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(4)発表1
第9回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(5)発表2
第 10 回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(6)発表3
第 11 回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(7)発表4
第 12 回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(8)発表5
第 13 回 街をめぐるフィクションとノンフィクション(9)発表6
第 14 回 まとめ

履修上の注意

演習科目は受講者の発表とディスカッションによって成立する。授業には積極的な姿勢で臨むこと。発表内容は〈問い〉と〈答え〉が明確なものを期待したい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回発表対象となるテクストを読んで問題点を整理しておくこと。発表者は各回発表準備に専念すること。授業後はディスカッションを踏まえ、次回の発表に備えること。

教科書

なし。プリントを配布する。

参考書

武田徹『日本ノンフィクション史 ルポルタージュからアカデミック・ジャーナリズムまで』(中公新書)

課題に対するフィードバックの方法

発表の際は講評を行う。
学期末レポートは添削して、秋学期初回の授業で返却する。

成績評価の方法

発表 30%、ディスカッションへの参加態度 30%、学期末レポート 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年)Ⅰ	**文芸メディア演習(2年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐幸 信介	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

表象作品は、社会、政治、歴史と無縁ではありえない。現代において、表象作品がメディアあるいは ICT と結びつくと経済的市場に引っ張られてしまう。このような文化をとりまく環境のなかで、私たちが表象作品にどのように接近し、蒐集し、あるいは発見したらよいのだろうか。この演習では、自分自身の文化的性向／好みだけで語るあり方といったん手を切り、表象作品を蒐集する(学問的には、文献を収集する作業と近似)作業を行う。そのうえで、自分の目で選んだ表象作品の読解とレジュメ作成、プレゼン、ディスカッションを組み込みながら、文化をとおして社会について具体的に考えること、社会を通して文化について具体的に考えることを行う。14 回の講義を、3つのクールに分け、それぞれのクールにキーワードを設ける。表象作品を選ぶこと、まとめること、キーワードをもとにテーマを設定してレポート(批評、書評、論文等の形式)として表現できることを到達目標とする。

授業内容

第 1 回a:イントロダクション
b:書物の分類、書物の形態
第 2 回:『誰のための排除アート?』読解①
第 3 回:『誰のための排除アート?』読解②
第 4 回:街の空間とは? 魅力ある街空間、美しい街／醜い街とは?
第 5 回:文芸誌、批評誌、総合誌、思想誌 etc.から、テキストを発見する
第 6 回:発見したテクストについてプレゼンする
第 7 回:発見したテクストについてディスカッションする
第 8 回:書物が作る空間とは? 言説が作る空間とは?
第 9 回:人間とテクノロジーを考えるための表象作品を発見する
第 10 回:発見した表象作品を鑑賞する
第 11 回:発見した表象作品についてディスカッションする
第 12 回:生命を操作することとは?
第 13 回:現在における虚構とは?
第 14 回:全体のまとめのディスカッション

履修上の注意

普段から、文芸誌、批評誌、総合誌、思想誌、書評新聞などに接すること。
映画、美術展、漫画、アニメなどの領域にも目を配ること。
講義の構成上、出席は必須。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、テキストや表象作品を選ぶ作業を行う。レジュメなどの形式でサマリーをまとめる作業を行う。
復習として、講義の内容をノートにまとめるなどの作業をしたうえで、キーワードに基づいたレポートを作成する(レポートは 3 回を予定)。

教科書

五十嵐太郎『誰のための排除アート?－不寛容と自己責任論』(岩波書店／岩波ブックレット)

参考書

講義内で適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

演習という形式を生かし、講義内でフィードバックする。

成績評価の方法

3 回のレポート(60%)、授業への貢献度／参加度(40%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年)Ⅱ	**文芸メディア演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文芸メディアの研究の基礎固めであるが、この演習ではどちらかといえばメディア研究に重心を置きながら、必要不可欠な基礎的知識をまなび、文芸メディアにかかわる本を読む。
文芸とメディアの研究の世界を除き、その広がりと面白さを把握することを目的とする。
そのうえで、小論文・レポートの書き方を実践的に学ぶととととする。

授業内容

1. 夏休みの生活と研究の報告
2. メディアと物語の創造ーそのダイナミズムをとらえる
3. 歴史／伝統の創造／メディアによる物語化／ノンフィクションとフィクションの力
4. 私たちの身のまわりのメディア言説から考えよう ーテーマの説明と課題
5～11 研究報告ー各自の割りあて
12. 人間の存在に迫る言葉とは何か／身体にうけとめる言説のありか
13. 事実をとらえることの困難／メディア言説の可能性と陥穽
14. 総括

履修上の注意

研究報告も含まれるので、積極的な学びが求められている。
課題をたとえ出されなくても、自分で問いをもち、調べて考えることは習慣とすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で要求された課題や宿題については、必ず準備をしてから授業に臨むこと。
その準備ができていない(予定されていたテーマで発言ができない)等については、欠席とみなす。
プリント類は必ず読みこなしてから授業に参加すること。

教科書

とくになし。

参考書

授業内で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の最初に前回のフィードバックを行う。

成績評価の方法

期末レポート 50%授業への参加度(平常点)50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年)Ⅱ	**文芸メディア演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

メディアと社会の相互関係を、歴史と理論をたどりながら考える。領域は従来型のマスメディアおよびインターネット・メディア。項目としては、マスメディア批判、民主主義、排外主義、原子力発電、情報セキュリティなど、現実世界の諸問題を扱う。

授業内容

各回の内容

(1)春学期レビュー／発表分担決め
(2)発表1
(3)発表2
(4)発表3
(5)発表4
(6)レビュー
(7)発表5
(8)発表6
(9)発表7
(10)発表8
(11)発表9
(12)発表 10
(13)発表 11
(14)全体レビュー

履修上の注意

同一教員の 2 年演習 A と組みあわせて履修してください。

念入りに発表を準備することはもちろんですが、そのほかにも予習・復習・小課題提出など多くの基礎作業を日常的に確実に行ってください。それらをふまえたうえで，学生諸君による発表と質疑・応答を高密度に展開します。万一欠席した場合は責任感をもって各自キャッチアップしてください。レポート(各 4000 字程度)を 1 回課します。

準備学習(予習・復習等)の内容

よい演習のためには、発表者及び発表を聞く側、双方の積極的な参加が必須です。そのために、発表者は自分の担当部分にとどまらずはば広く文献資料に目を通すこと、また、発表を聞く側はテキストの予習をして、質問を準備することが求められます。また、テキストの各章は相互に関連しています。適宜、前の演習内容を復習することも重要です。

教科書

津田正太郎『メディアは社会を変えるのか――メディア社会論入門』(世界思想社、2016 年)ほか、演習内で指示します。

参考書

演習内で適宜、示します。

課題に対するフィードバックの方法

レポート集を作成し，クラスメンバーに配布します。

成績評価の方法

演習での発表・質疑…60%，レポート・小課題…40%を基準に評価します。ただし出席状況が悪い(欠席や遅刻が多い)場合は，特段の事情がないかぎり単位を認めません。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年)Ⅱ	**文芸メディア演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

室町時代から江戸時代前期にかけて制作された、お伽草子と呼ばれる短編の物語草子を素材として扱う。お伽草子の形態は、絵巻、奈良絵本、版本とさまざまだが、演習では渋川版(版本)をテキストとして用いる予定である。

本文の「読み」はもちろんのこと、挿絵の「読み」、作品の中にあらわれる民俗事象の「読み」など、多角的な視点から古典文学を「読む」方法を習得することを目標とする。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)発表と討議
(3)発表と討議
(4)発表と討議
(5)発表と討議
(6)発表と討議
(7)発表と討議
(8)発表と討議
(9)発表と討議
(10)発表と討議
(11)発表と討議
(12)発表と討議
(13)発表と討議
(14)まとめ

履修上の注意

出席および積極的な授業参加が最も重視される。口頭発表は必須。演習は受講生全員で作り上げる学びの場であり、この時間が充実したものとなるか否かは、受講生のやる気にかかっている。全員が毎回の討議に積極的・建設的に関わっていくことを望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備(資料収集・レジュメ作成)には非常に時間がかかるため、早い段階から準備を進めること。テキストをしっかり読み、常に問題意識をもって討議に参加できるよう準備しておくことが求められる。

教科書

市古貞次校注『御伽草子』(上・下)岩波文庫、中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。

参考書

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(全 15 巻)角川書店、徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

発表(30%)、授業への貢献度(40%)、期末レポート(30%)によって評価する。最低1回の口頭発表と期末レポートの提出は必須。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年)Ⅱ	**文芸メディア演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

街と文学の関係とはどのようなものか。かつて存在した街並み、今もある街並みをテクスト上で追体験することが、文学を読むことにおいてどのような意味を持つのかについて考える。本演習は具体的に 1910～1940 年に発表された東京を舞台とした文学テクストを対象とし、当時の東京の姿を文学がどのように引用し、そこにどのような想像力を働かせてきたかを読み取ることを目標とする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 森鷗外「普請中」
第3回 谷崎潤一郎「人面疽」
第4回 芥川龍之介「魔術」
第5回 田村俊子「東京の公園」
第6回 志賀直哉「小僧の神様」
第7回 川端康成「招魂祭一景」
第8回 室生犀星「公園小品」
第9回 梶井基次郎「泥濘」
第 10 回 江戸川乱歩「押絵と旅する男」
第 11 回 堀辰雄「水族館」
第 12 回 伊藤整「M百貨店」
第 13 回 岡本かの子「鮨」
第 14 回 まとめ

履修上の注意

演習科目は受講者の発表とディスカッションによって成立する。授業には積極的な姿勢で臨むこと。発表内容は〈問い〉と〈答え〉が明確なものを期待したい。

準備学習(予習・復習等)の内容

各回発表対象となるテクストを読んで問題点を整理しておくこと。発表者は各回発表準備に専念すること。授業後はディスカッションを踏まえ、次回の発表に備えること。

教科書

ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語2 一九一〇～一九四〇』(岩波文庫)

参考書

石原千秋『読者はどこにいるのか 読者論入門』(河出文庫)
前田愛『都市空間のなかの文学』(ちくま学芸文庫)
佐藤義雄『文学の認知空間―近代日本文学と東京』(蒼丘書林)

課題に対するフィードバックの方法

発表の際は講評を行う。

成績評価の方法

発表 30%、ディスカッションへの参加態度 30%、学期末レポート 40%

その他

授業内容は教科書の目次に準じている。受講者の発表希望作品によって各回の対象作品が変わる場合もある。

科目ナンバー:(AL)LIT252J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(2年)Ⅱ	**文芸メディア演習(2年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐幸 信介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

秋学期は、石田英敬『記号論講義－日常生活批判のためのレッスン』(ちくま学芸文庫)をテクストとし、読解・レジュメ作成・プレゼン・ディスカッションを行う。記号とは、言語やコミュニケーションの次元だけでなく、メディア、ファッション、広告、アート、音楽、建築などを構成し、あるいはそれらを読み解くための手掛かりでもある。記号論の基礎的な文献をとおして、記号の仕組みを理解し、表象作品や社会現象を分析することができることを目標とする。

授業内容

第１回a:イントロダクション／レジュメ作成の担当者を決める
b:記号とは
第２回:記号としてのモノ
第３回:記号と意味
第４回:メディアとコミュニケーション
第５回:記号とわたしの問題
第６回:都市と記号
第７回:欲望と記号
第８回:情報消費と記号(ディスカッション)
第９回:身体と記号
第 10 回:身体表現を理解することは可能か？(ディスカッション)
第 11 回:象徴政治と記号操作
第 12 回:現象学的日常
第 13 回:ヴァーチャルとは？
第 14 回:全体のまとめとディスカッション

履修上の注意

普段から、さまざまなメディア接触をすること

準備学習(予習・復習等)の内容

各講義で扱うテキストの該当章を読み、メモをとったり、派生する参考文献に各自目を通すこと。担当したレジュメ作成をすること。
講義後は、講義の内容をふまえて、講義に提示するテーマについてポータルに論述をすること。

教科書

石田英敬『記号論講義－日常生活批判のためのレッスン』(筑摩書房／ちくま学芸文庫)

参考書

講義内で、適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

演習内でフィードバックする。

成績評価の方法

授業への貢献／参加度(50%)、２回のレポート(50%)

その他

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年) Ⅰ	**文芸メディア演習(3・4年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

上田秋成『雨月物語』を考究する。Ⅰでは、秋成の生涯と著作を概観した後、「序文」「浅茅が宿」「夢応の鯉魚」を受講生の発表を中心として考察していく。

授業内容

第１回　上田秋成の生涯と著作
第２回『雨月物語』序文―その由来と署名の問題点
第３回　「浅茅が宿」―勝四郎と宮木
第４回　「浅茅が宿」―勝四郎の出立
第５回　「浅茅が宿」―勝四郎の帰郷
第６回　「浅茅が宿」―宮木との再会
第７回　「浅茅が宿」―幻の宮木
第８回　「浅茅が宿」―勝四郎の嘆き
第９回　「浅茅が宿」―漆間の翁の語り
第10回「夢応の鯉魚」―三井寺の画僧、興義
第11回「夢応の鯉魚」―興義の死と再生
第12回「夢応の鯉魚」―興義の臨死体験
第13回「夢応の鯉魚」―魚に変身した興義
第14回「夢応の鯉魚」―釣り上げられた興義の再生

履修上の注意

演習は学生が作る授業であり、教師は助言者たるべきものである。自主的な参加を望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

上田秋成の他の作品や関連論文などを自ら読んでいかなければならない。

教科書

長島弘明校注『雨月物語』(岩波文庫)

参考書

『雨月物語』注釈や論考は数多いので、その都度、授業で紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度・予習復習(40%)・発表(30%)・レポート(30%)の３点について評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年) Ⅰ	**文芸メディア演習(3・4年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 氏貴	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎知識と方法を，具体的な作業・訓練を通じて修得する。

授業内容

広義での〈読む〉ということの意味について考える。具体的にはさまざまな作品をとりあげ、発表者がそれについて新しくかつ深い〈読み〉を提供し、その後，受講者全員で討論するというかたちをとる。
　とりあげる作品は発表者が自分で選ぶが、事前に発表者が講師の承認を得て、それを受講者に周知する。
ただし、とりあげる対象については①先行研究のあるもの、②他の受講生が入手しやすいものに限る。
下記はこれまでとりあげられた作品の例にもとづく。なお、受講生は発表に使われる作品に毎週必ずあたってこなければならない。
1　導入
2回目以降　以下は過去に取り上げられた作品の例
　寺山修司「毛皮のマリー」
　ノーラン「インセプション」
　志賀直哉「和解」
　ウィアー「トゥルーマン・ショー」
　桜庭一樹「砂糖菓子の弾丸は撃ち抜けない」
　森博嗣「スカイクロラ」
　カフカ「変身」
　吉田修一「パレード」
　谷崎潤一郎「刺青」
　村上春樹「風の歌を聴け」
　金原ひとみ「蛇にピアス」
　竹宮恵子「風と木の詩」　等
14　まとめ

履修上の注意

第一回目の授業で、自分が何を研究対象にするのかを尋ねるので、明確に答えられるようにしておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分の発表の準備は言うまでもなく、他人の発表の題材も必ずあらかじめあたってこなければならない。

教科書

上記のとおり、使用される作品のすべて。

参考書

特に指定するものはない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は公表し、それをもとに議論を行う。

成績評価の方法

発表 70%、議論への参加など平常点 30%。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年) Ⅰ	**文芸メディア演習(3・4年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

現実と虚構の境界線の引き直しに興味がある者にとって、文学が教室や図書館、文庫本の中にのみあるのではなく、街中のあらゆるものと接続していることは容易に想像がつくはずだ。過去に書かれた小説を読んで現代について考えることもその連続性を意識することにもなるだろう。本科目は 1920 年代後半から 40 年代にかけての昭和戦前期に発表された短編小説を分析対象とし、文芸メディア専攻の学生が日本近現代文学研究を主体的に進めて行く上での必要な方法を、発表とディスカッションを通して習得することを目標とする。また、適宜文学散歩を取り入れながら「歩く文学」を実践していくことも目標にする。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 芥川龍之介「玄鶴山房」
第3回 黒島伝治「橇」」
第4回 梶井基次郎「闇の絵巻」
第5回 林芙美子「風琴と魚の町」
第6回 徳田秋声「和解」
第7回 木山捷平「一昔」
第8回 室生犀星「あにいもうと」
第9回 伊藤整「馬喰の果て」
第 10 回 太宰治「満願」」
第 11 回 新美南吉「久助君の話」
第 12 回 金史良「コブタンネ」
第 13 回 中島敦「名人伝」
第 14 回 織田作之助「木の都」

履修上の注意

演習科目は受講者の発表とディスカッションによって成立する。授業には積極的な姿勢で臨むこと。発表内容は〈問い〉と〈答え〉が明確なものを期待したい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業開始までに下記教科書を通読しておくこと。各回発表箇所を再読し問題点を整理しておくこと。発表者は各回発表準備に専念すること。授業後はディスカッションを踏まえ、次回の発表に備えること。

教科書

荒川洋治編『昭和の名短篇 戦前篇』(中公文庫)

参考書

佐藤義雄・松下浩幸・長沼秀明『都市空間を歩く 日本近代文学と東京』(翰林書房)
石原千秋『読者はどこにいるのか 読者論入門』(河出文庫)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

発表 30%、ディスカッションへの参加態度 30%、学期末レポート 40%

その他

・授業内容は教科書の目次順に並べているだけである。演習参加者の希望によっては全てをこの順番で扱うわけではない。この授業内容の中に 2 回ほど 100 分文学散歩を取り入れる予定である。
・本演習の参加を希望する者は必ず初回の授業に参加すること。
・春学期中に、3回程度、文学散歩を予定している。昨年は駿河台周辺の文学散歩、本郷周辺の文学散歩を演習時間内に行った。小説を読むことだけでなく、実際に小説の舞台を歩くことで得られるものに興味・関心のある者の参加を期待したい。

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年) Ⅰ	**文芸メディア演習(3・4年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

室町時代から江戸時代前期にかけて制作された、お伽草子と呼ばれる短編の物語草子を素材として扱う。この演習では渋川版に限らず、受講生が選んだ作品を全員で読んでいく。
本文の「読み」はもちろんのこと、挿絵の「読み」、作品の中にあらわれる民俗事象の「読み」など、多角的な視点から古典文学を「読む」方法を習得することを目標とする。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)お伽草子の世界―絵巻・奈良絵本・版本
(3)参考文献の紹介と資料収集の方法
(4)研究発表の方法
(5)変体仮名を読む
(6)発表と討議
(7)発表と討議
(8)発表と討議
(9)発表と討議
(10)発表と討議
(11)発表と討議
(12)発表と討議
(13)発表と討議
(14)まとめ

履修上の注意

出席および積極的な授業参加が最も重視される。口頭発表は必須。演習は受講生全員で作り上げる学びの場であり、この時間が充実したものとなるか否かは受講生のやる気にかかっている。全員が毎回の討議に積極的・建設的に関わっていくことを望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備(資料収集・レジュメ作成)には非常に時間がかかるため、早い段階から準備を進めること。テキストをしっかり読み、常に問題意識をもって討議に参加できるよう準備しておくことが求められる。

教科書

市古貞次校注『御伽草子』(上・下)岩波文庫、中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。

参考書

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(全 15 巻)角川書店、徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

発表(30%)、授業への貢献度(40%)、期末レポート(30%)によって評価する。最低1回の口頭発表と期末レポートの提出は必須。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年) I	**文芸メディア演習(3・4年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生が、やがて執筆する卒業論文の準備として、着実な基礎固めをすることを目標とする。
この演習では、メディア文化、文学・文芸と社会、メディアと言語政治に関連するテーマを扱う。
学生それぞれにとって必要な文献を読み、考える方法をみにつけ、論文の構想をそだてることまで到達することを目指す。

授業内容

メディアと社会の諸問題にふれ、言葉・文芸・メディアを社会的文脈をとおして理解し、さらにその意味について考える。
とりあげる具体的な対象については、参加者との相談で、変更される場合がある。

1. イントロダクション
2. 演習の方法と担当について
3. 大衆文化史を概観する／表現とキャラクターの関係を考える
4. 伝承と文芸、そのメディア化と現代へのメタモルフォーゼ
5. ミッキーの書式と戦後のシュミレーション
6. 身近な可愛さと潜む凶暴さ―露出される闇―物語に潜む歴史の陰翳
7. ヒーロー像の歴史と物語(義経・秀吉・内蔵助‥影あるヒーローの時代)
8. ヒーロー像の歴史と物語(勧善懲悪の起源から現在へ)
9. 荒ぶる神の伝承と、戦後のゴジラ、シンゴジラへ(1)
10. 荒ぶる神の伝承と、戦後のゴジラ、シンゴジラへ(2)
11. 時代とそのなかで生まれる作品――誰に向けて語られる物語なのか
12. 共創としての文芸　読者・あるいは観客が創りだすもの／形を変えて生き続ける伝統
13. 文学・文芸の社会学への展望
14. まとめ――夏休みの活動への展望

履修上の注意

演習は基本的に、学生自身が研究し、発表し、議論する場であることを、共通理解とする。
与えられた課題について研究し、そこから新たな発見と疑問を導き出すこと。
演習の内容に即した論文を配布するので、その読解は必須であり、それに基づいて研究および発表を行うこととする。
夏休みの前後に、＜書籍と読書を推すプロジェクト＞を、ゼミ活動として何か行動したいと思っています。
何をどうやるか、そのためのディスカッションを演習の時間にときどき設定します。
プロジェクトは、夏休みに長期で、というわけではありませんが、取材したり、記事を書いたり、編集したりという、小さな実習と考えてください。
一緒に何かをつくりあげる活動を楽しんでほしいと思っています。

準備学習(予習・復習等)の内容

テーマに対応した論文の配布ないし課題が出されることがあるので、忘れないこと。
それぞれが選ぶテーマで、最終的なレポートを提出しなければならない。
また、課題への研究をつうじて、演習内での討論のための事前学習にもすること。

教科書

荒木浩ほか『＜キャラキター＞の大衆文化』角川書店

参考書

授業内で示すので、読んでくること。

課題に対するフィードバックの方法

全体の講評、および注意ポイントや重要な発見などについては、授業内の議論の話題に取り上げることで、フィードバックに代替する。

成績評価の方法

発表 40%、議論への参加など平常点 20%、レポートを含む課題 40%。

その他

テクストを読んで、思考して、それから演習に参加すること。
読んでいない場合は欠席とみなすので注意すること。
履修希望者があまりにも多かった場合は選考することがあるので、第1回目の授業は出席を必須とする。

科目ナンバー:(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年) I	**文芸メディア演習(3・4年)A**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

社会的争点をメディアはどう伝えているのか。同じ種類のメディア内での差異, 異なる種類のメディア間の差異を手掛かりに, 受け手の姿は見えてくるだろうか。そしてそれは, 異見の対話につながるのか, 社会の分断を招くのか。
昨年度に引き続き、今年度も「沖縄」と「原発」をめぐる言説に焦点をあてる。

授業内容

第1回:演習の説明(基礎)
第2回:演習の説明(発展)/発表分担
第3回:講義1
第4回:講義2
第5回:発表1
第6回:発表2
第7回:発表3
第8回:発表4
第9回:発表5
第 10 回:発表6
第 11 回:発表7
第 12 回:発表8
第 13 回:発表9
第 14 回:春学期のまとめ

履修上の注意

同一教員の 3 年演習 B と組みあわせて履修してください。万一欠席した場合は自覚と責任感をもってキャッチアップしてください。4000 字程度のレポートを春学期中 1 回、夏期(9 月提出)に 1 回課します。(詳細は演習内で説明)。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの予習及び, テキストに関連する文献を収集して目を通すこと。授業で配布された資料と合わせて復習し, じゅうぶんに理解し, 新たな課題・検討項目を提案すること。

教科書

学術論文, 単行本, 雑誌記事, 新聞記事, ネットメディアを適宜テクストとする。詳細は演習内で提示する。

参考書

演習内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

レポート集を作成し、クラスに配布する。
学生発表に対する、クラス・メンバー各人のコメントをクラス全体で共有する。

成績評価の方法

演習での発表・質疑…60%, レポート…40%を基準に評価します。ただし出席状況が悪い(欠席や遅刻が多い)場合は, 特段の事情がないかぎり単位を認めません。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年)Ⅱ	**文芸メディア演習(3・4年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

上田秋成『雨月物語』を考究する。Ⅱでは、「吉備津の釜」「貧福論」を受講生の発表を中心として考察していく。授業内で、関係論文の相互検討を行い、自らの作品論を構築する一助とする。

授業内容

第１回「吉備津の釜」―神社の由来
第２回「吉備津の釜」―女の貞節
第３回「吉備津の釜」―男の裏切り
第４回「吉備津の釜」―復讐
第５回「吉備津の釜」―軒端の元結い
第６回「貧福論」―岡左内の金銭論
第７回「貧福論」―黄金の精の出現
第８回「貧福論」―黄金の精の貧福論
第９回「貧福論」―左内の貧福論
第10回「貧福論」―黄金の精の金言
第11回『雨月物語』関係論文を読む 1―中村幸彦諸論文
第12回『雨月物語』関係論文を読む 2―徳田武諸論文
第13回『雨月物語』関係論文を読む 3―内村和至諸論文
第14回　作品論とは何か？―その可能性について―

履修上の注意

演習は学生が作る授業であり、教師は助言者たるべきものである。自主的な参加を望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

上田秋成の他の作品や関連論文などを自ら読んでいかなければならない。

教科書

長島弘明校注『雨月物語』(岩波文庫)

参考書

『雨月物語』注釈や論考は数多いので、その都度、授業で紹介していく。

課題に対するフィードバックの方法

レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法

授業への参加態度・予習復習(40%)・発表(30%)・レポート(30%)の３点について評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年)Ⅱ	**文芸メディア演習(3・4年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 氏貴	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生として今後各自がそれぞれに研究を進めていく上で必要不可欠な基礎知識と方法を，具体的な作業・訓練を通じて修得する。

授業内容

広義での〈読む〉ということの意味について考える。具体的にはさまざまな作品をとりあげ、発表者がそれについて新しくかつ深い〈読み〉を提供し、その後，受講者全員で討論するというかたちをとる。

とりあげる作品は、前半は太宰治『人間失格』、後半は発表者が自分で選ぶが、事前に発表者が講師の承認を得て、それを受講者に周知する。下記は昨年度とりあげられた作品の例にもとづく。なお、受講生は発表に使われる作品に毎週必ずあたってこなければならない。

1 導入
2～6 太宰治『人間失格』
7回目以降 以下は過去に取り上げられた作品の例
　寺山修司「毛皮のマリー」
　ノーラン「インセプション」
　志賀直哉「和解」
　ウィアー「トゥルーマン・ショー」
　桜庭一樹「砂糖菓子の弾丸は撃ち抜けない」
　森博嗣「スカイクロラ」
　カフカ「変身」
　吉田修一「パレード」
　谷崎潤一郎「刺青」
　村上春樹「風の歌を聴け」
　金原ひとみ「蛇にピアス」
　竹宮恵子「風と木の詩」　等
14 まとめ

履修上の注意

演習は基本的に受講者の研究発表の場であることを念頭に置くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分の発表の準備は言うまでもなく、他人の発表の題材も必ずあらかじめあたってこなければならない。

教科書

上記のように、太宰治『人間失格』、および発表に使用される作品のすべて。

参考書

特に指定するものはない。

課題に対するフィードバックの方法

課題は公表し、それをもとに議論を行う。

成績評価の方法

発表 70%、議論への参加など平常点 30%。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年)Ⅱ	**文芸メディア演習(3・4年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
能地 克宜	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本演習はどのようなアプローチ(分析方法)によって対象となるテクストを捉え、論を立てて口頭発表を行い、それをどのように論文化していくかといういわば〈読む／考える／発表する／討議する／書く〉といった一連の過程を実践し、文芸メディア専攻の学生が卒業論文を執筆する上で必要とされる知識や方法を習得することを目標する。演習参加者がそれぞれ発表作品とどのように関わり、それを発表・文章化する際にどれだけ対象化しえるのかを意識して演習に臨んでもらう。対象となるテクストは受講生自身が選択し、分析・調査・立論を実践しながら学んでもらう予定である。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 発表およびディスカッション(1)
第3回 発表およびディスカッション(2)
第4回 発表およびディスカッション(3)
第5回 発表およびディスカッション(4)
第6回 発表およびディスカッション(5)
第7回 発表およびディスカッション(6)
第8回 発表およびディスカッション(7)
第9回 発表およびディスカッション(8)
第 10 回 発表およびディスカッション(9)
第 11 回 発表およびディスカッション(10)
第 12 回 発表およびディスカッション(11)
第 13 回 発表およびディスカッション(12)
第 14 回 まとめ

履修上の注意

演習科目は受講者の発表とディスカッションによって成立する。授業には積極的な姿勢で臨むこと。発表内容は〈問い〉と〈答え〉が明確なものを期待したい。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回扱うテクストや配付された資料は事前に必ず目を通しておくこと。発表者は各回発表準備に専念すること。授業後は当日のディスカッションをふまえ、テクストや配付された資料を再読し、レポートを作成する準備をしておくこと。

教科書

受講生が自ら選んだ発表対象とするテクスト
(ただし、発表者各自が受講生全員に事前配付可能なものとする)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

発表の際は講評を行う。
学期末レポートは添削して、「卒論・卒制」初回の授業で返却する。

成績評価の方法

発表 30%、ディスカッションへの参加態度 30%、学期末レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年)Ⅱ	**文芸メディア演習(3・4年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐伯 和香子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

室町時代から江戸時代前期にかけて制作された、お伽草子と呼ばれる短編の物語草子を素材として扱う。この演習では渋川版に限らず、受講生が選んだ作品を全員で読んでいく。
本文の「読み」はもちろんのこと、挿絵の「読み」、作品の中にあらわれる民俗事象の「読み」など、多角的な視点から古典文学を「読む」方法を習得することを目標とする。

授業内容

(1)イントロダクション
(2)発表と討議
(3)発表と討議
(4)発表と討議
(5)発表と討議
(6)発表と討議
(7)発表と討議
(8)発表と討議
(9)発表と討議
(10)発表と討議
(11)発表と討議
(12)発表と討議
(13)発表と討議
(14)まとめ

履修上の注意

出席および積極的な授業参加が最も重視される。口頭発表は必須。演習は受講生全員で作り上げる学びの場であり、この時間が充実したものとなるか否かは受講生のやる気にかかっている。全員が毎回の討議に積極的・建設的に関わっていくことを望む。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表の準備(資料収集・レジュメ作成)には非常に時間がかかるため、早い段階から準備を進めること。テキストをしっかり読み、常に問題意識をもって討議に参加できるよう準備しておくことが求められる。

教科書

市古貞次校注『御伽草子』(上・下)岩波文庫、中野幸一編『変体仮名の手引』武蔵野書院。

参考書

横山重・松本隆信編『室町時代物語大成』(全 15 巻)角川書店、徳田和夫編『お伽草子事典』東京堂出版、など。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う。

成績評価の方法

発表(30%)、授業への貢献度(40%)、期末レポート(30%)によって評価する。最低1回の口頭発表と期末レポートの提出は必須。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年)Ⅱ	**文芸メディア演習(3・4年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

文芸メディア専攻の学生が、やがて執筆する卒業論文の準備として、着実な基礎固めをすることを目標とする。この演習では、メディア文化、文芸と文学と社会、メディアと政治の領域に関連するテーマとする。それぞれにとって必要な文献を読み、考える方法をみにつけ、論文の構想をつくることまで到達することを目指す。

授業内容

メディアと社会の諸問題にふれ、言葉・文芸・メディアを社会的文脈をとおして理解し、さらにその意味について考える。
とりあげる具体的な対象については、参加者との相談で、変更される場合がある。

1. イントロダクション
2. メディアを研究することの危険と可能性について
3. テクスト――意味の網の目をほどく／つなぎなおす／コミュニケーション効果の理論・その限界と可能性
4. 技術としてのメディアと、文化としてのメディア
5. 高度消費社会の"孤独"と物語化／メディアの近代的・現代的機能
6. 象徴の貧困と表現の沸騰という時代／マイノリティのメディア 一閉鎖性・内在的言語から、外向性・発信する言語へ
7. 中間のまとめ
8. 想像の共同体としての"言葉"と"メディア"
9. 各自与えられたテーマの発表と討論
10. 各自与えられたテーマの発表と討論
11. 各自与えられたテーマの発表と討論
12. 各自与えられたテーマの発表と討論
13. 文学・文芸の社会学への展望／卒論へ向けて
14. まとめ

履修上の注意

演習は基本的に、学生自身が研究し、発表し、議論する場であることを、共通理解とする。
与えられた課題について研究し、そこから新たな発見と疑問を導き出すこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当のテーマに対応した課題が出される。
その課題について、レポートを提出しなければならない。
また、課題への研究をつうじて、演習内での討論のための事前学習にもすること。

教科書

授業内でテーマに応じて指示する。

参考書

授業内で指示する

課題に対するフィードバックの方法

全体の講評、および注意ポイントや重要な発見などについては、授業内の議論の話題に取り上げることで、フィードバックに代替する。

成績評価の方法

発表 40%、議論への参加など平常点 20%、レポートを含む課題 40%。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT352J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア演習(3・4年)Ⅱ	**文芸メディア演習(3・4年)B**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

社会的争点をメディアはどう伝えているのか。同じ種類のメディア内での差異, 異なる種類のメディア間の差異を手掛かりに, 受け手の姿は見えてくるだろうか。そしてそれは, 異見の対話につながるのか, 社会の分断を招くのか。
昨年度に続き今年度も,「沖縄」と「原発」をめぐる言説に焦点をあてる。

授業内容

第1回:演習の説明(基礎)
第2回:演習の説明(発展)/発表分担
第3回:講義1
第4回:講義2
第5回:発表1
第6回:発表2
第7回:発表3
第8回:発表4
第9回:発表5
第 10 回:発表6
第 11 回:発表7
第 12 回:発表8
第 13 回:発表9
第 14 回:秋学期のまとめ

履修上の注意

同一教員の 3 年演習 A と組みあわせて履修してください。万一欠席した場合は自覚と責任感をもってキャッチアップしてください。4000 字程度のレポートを 1 回課します(詳細は演習内で説明)。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの予習及び, テキストに関連する文献を収集して目を通すこと。授業で配布された資料と合わせて復習し, じゅうぶんに理解し, 新たな課題・検討項目を提案すること。

教科書

学術論文, 単行本, 雑誌記事, 新聞記事, ネットメディアを適宜テクストとする。詳細は演習内で提示する。

参考書

演習内で提示する。

課題に対するフィードバックの方法

レポート集を作成し、クラスに配布する。
学生発表に対する、クラス・メンバー各人のコメントをクラス全体で共有する。

成績評価の方法

演習での発表・質疑…60%, レポート…40%を基準に評価します。ただし出席状況が悪い(欠席や遅刻が多い)場合は, 特段の事情がないかぎり単位を認めません。

その他

科目ナンバー:(AL)LIT191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文芸メディア概論	**文芸メディア概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
内村 和至	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
「文芸というメディア」「メディアとしての文芸」という観点から、文芸とメディアの相互的連関を様々な角度から考察していく。

授業内容
第1回 イントロダクション
第2回 メディア概念 1:「medium」と「media」
第3回 メディア概念 2:メディア空間
第4回 情報の概念 1:パッケージモデル
第5回 情報の概念 2:拡張モデル
第6回 環境世界としてのメディア 1:生物の生存戦略
第7回 環境世界としてのメディア 2:欲望の機序
第8回 メディアの中の人間 1:西洋的人間観
第9回 メディアの中の人間 2:東洋的人間観
第 10 回 メディアと遊び 1:ホイジンガ、カイヨワ、西村清和
第 11 回 メディアと遊び 2:眩暈と忘我
第 12 回 メディアと他者 1:幻想としての他者
第 13 回 メディアと他者 2:世界の再発見
第 14 回 メディアの未来像

履修上の注意
文芸メディアの概念を肉付けするために、参考文献を自分で読んでもらい、そのレポートを課す。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で言及した論文や文献は自ら読まなければならない。

教科書
クラスウェブにデータをアップする。

参考書
西垣通『基礎情報学』『続基礎情報学』(NTT出版)、丸山圭三郎『言葉と無意識』(講談社現代新書)、
丸山圭三郎『言葉・狂気・エロス』(講談社学術文庫)

課題に対するフィードバックの方法
レポートの評価は総合成績に反映させる。

成績評価の方法
授業への参加態度(30%)・レポート(30%)・試験(40%)の 3 点について評価を下す。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)A	**文献講読A(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
櫻井 智美	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標
各自が興味を持つ時代・分野の研究に必要な言語の史料(漢文中心、その他中国語・英語など)について、中国近世・中央アジア史・東南アジア史・朝鮮史に関する論文や史料を用いながら、その読解を訓練する。同時に、2年次までに身につけたアジア史の研究方法や文献・史料の収集方法をみがく。
授業を通して、教材とする史料や論文から内容を読み取るとともに、それらの記述の背景にある歴史事象についてまで考察できることができるようになるのが目標である。

授業内容
漢文の読解力を身につけるため、『輟耕録』『簷曝雑記』などの筆記史料を講読する。講読に先立って、辞書と工具書の使い方、教材にとりあげる史料をめぐる問題などについて講義する。また、関連する中国語・英語の論文・史料について担当を決めて宿題を出す。
1 受講生の興味を把握し、具体的な講読史料を決定する。工具書や辞書を紹介する。
2 史資料の読み方について解説する。
3〜13 史料の講読(途中2回確認テスト)。
14 総括、夏休みの宿題について(秋学期も登録している者にそのための宿題を課す)。

履修上の注意
やむを得ず欠席する場合には、予め教員と連絡をとること。ただ座っているだけでは出席とは見なさない。3 分の 1 以上無断で欠席した場合単位は与えない。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習をして授業に臨むこと。復習は確認テストでペースを作って行うこと。

教科書
必要に応じてプリントを配布する。

参考書
各自で漢和辞典(電子辞書ではない)を用意すること。推奨する漢和辞典は『新字源』(小川環樹他編、角川書店)。

課題に対するフィードバックの方法
添削して返却する。

成績評価の方法
予習、宿題、議論への参加・発言内容、テストを、総合的に評価する。平常点 50%、確認テスト 50%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)A	**文献講読A(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
平野 豊	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

イスラーム史に関する平易な英語文献を講読する。授業の目的は、アルファベット転写のアラビア語が頻出する英文に慣れること、イスラーム史を理解する上で必要な術語や専門用語を身につけることである。各自が独力で英語文献を参照できるだけの要領と読解力を養い、4年次の卒業論文の作成に備えることが目標となる。

授業内容

今年度も G. Le Strange (trans. & ed. with intro.),Don Juan of Persia: A Shi'ah Catholic 1560-1604., New York and London (1926). を読む。本書は西暦 1604 年にスペイン王国の首都バリャドリードで出版された『ペルシア人ドン・ファンの報告書(Relaciones de Don Juan de Persia)』の英訳である。著者ウールーチ・ベグはサファヴィー朝イランのトルコマン系遊牧部族バヤート部所属の軍事貴族だったが、その文才を買われ、同王朝の第5代君主シャー・アッバース1世(在位 1587-1629 年)が初めて派遣した訪欧使節団に首席書記官として参加した人物である。往復に丸3年を要したこのミッションの目的は、西欧諸国からの再三に及ぶ対オスマン同盟締結の呼びかけに応え、ローマ教皇や神聖ローマ帝国皇帝、スペイン王その他の諸侯に宛てた書状を届けることだった。受け取りを拒否したヴェネツィア共和国元首を例外として、当初の目的は概ね果たされたが、長旅の影響からか、使節団と随員のうちの6名が途中ローマ・カトリックに改宗し、現地に残る道を選んだ。つまり「ドン・ファン」とは著者のカトリック名であり、本書はイスラーム信仰の棄教者が欧文で発表した極めて珍しい史料といえる。

本書の構成は、古代から 15 世紀末までのイラン史を概観した第1部、オスマン朝遠征軍との戦いを中心に 16 世紀サファヴィー朝の歴史をまとめた第2部、そして同王朝の首都イスファハーンから西欧諸国までの旅の様子を記録した第3部からなる。本来であれば第3部だけが帰朝報告書としてシャーに献呈されたはずだが、上記の経緯からスペインでの出版となったため、第1部と第2部が急遽追加されたものである。

春学期は第2部の5～6章を講読する。
(1)受講者によるコンフェッション:各自が関心を持つ地域や時代について順番に発表
(2)「第5章:スルタン・ムラド3世とシャー・ムハンマド・フダーバンダとの戦いの詳細、及びジョージアとその王たちについて。」(pp.136-137)
(3)同(pp.137-138)
(4)同(pp.139-140)
(5)同(pp.141-142)
(6)同(pp.143-144)
(7)同(pp.145-146)
(8)「第6章:ペルシア王ムハンマド・フダーバンダに対するスルタン・ムラド3世の軍隊の大遠征。および、タタール王アーディル・ギライの死とその原因について。」同(pp.147-148)
(9)同(pp.148-149)
(10)同(pp.149-150)
(11)同(pp.150-151)
(12)同(pp.152-153)
(13)同(pp.154-155)
(14)春学期授業まとめ

履修上の注意

特にイスラーム史に興味が無くても、卒業論文で英語文献を参照する予定の学生であれば歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に講読予定箇所を指定するので毎回必ず予習してくること。やむなく欠席する場合は、クラスウェブに「授業予習レポート」を投稿することで出席扱いとする。その際には訳文だけでなく文法上の質問や記事内容の疑問点などを必ず併記すること。

教科書

テキストはクラスウェブに PDF 形式でアップロードする。

参考書

難読箇所のヒントや地図、参考画像等も、適宜クラスウェブにアップロードする。

課題に対するフィードバックの方法

受講者が「授業予習レポート(欠席者用)」に記した文法上の質問や疑問点に対しては可能な限り回答する予定。

成績評価の方法

基本的には授業中の口頭発表の出来により評価する。もちろん事前の「授業予習レポート」提出も大歓迎。加点的に評価する。(英文和訳 50%＋質疑応答 50%)

その他

科目ナンバー：(AL)HIS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)A	**文献講読A(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
会田 大輔	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、前近代中国史(主に魏晋南北朝隋唐)に関わる漢文史料や論文を講読し、卒業論文に取り組むうえで必要となる史料・論文の読解・分析能力を養う。春学期では、南北朝隋唐時代の文献資料を読解していく。

【授業の到達目標】
(1)中国史の研究を行う上で必要な漢文読解能力を高める。
(2)史料の特性を理解し、分析ができる。

授業内容

第1回:授業内容の説明
第2回:南北朝隋唐時代の史料概要
第3回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(1)
第4回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(2)
第5回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(3)
第6回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(4)
第7回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(5)
第8回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(6)
第9回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(7)
第 10 回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(8)
第 11 回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(9)
第 12 回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(10)
第 13 回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(11)
第 14 回:南北朝隋唐時代の文献史料の講読(12)
※授業内容は適宜必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

講読する史料や論文の予習は必須です。戸川芳郎監修『全訳漢辞海 第五版』(三省堂)または小川環樹他編『新字源 改訂新版』(角川書店)などの漢和辞典を各自で用意して持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者は必ずレジュメを準備してください。レジュメには書き下し文・翻訳・用語解説が必要です。
また担当者以外も必ず予習すること。

教科書

特にありません。
必要な史料類は、プリントで配布します。

参考書

漢文読解については、加地伸行『漢文法基礎』(講談社学術文庫、2010 年)や西田太一郎『漢文の語法』(角川ソフィア文庫、2023 年)などの文法書を適宜参照してください。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点(予習・報告内容、授業態度、提出物など)100%。
なお、一度も担当報告を行わなかった場合は、成績評価の対象外となります。

その他

研究テーマ(特に魏晋南北朝隋唐時代)の史料や研究などの収集・整理などについて質問がある場合には、個別に対応しますので、授業のあとに相談してください。

科目ナンバー：(AL)HIS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)A	**文献講読A(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 航	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、近現代の中国史に関する中国語の文献を講読する。中国近現代史およびアジア史の研究に必要な中国語(簡体字)の文献を自分で読み解き、考察する力を身につけることを目的とし、中国語学習が必須となる。講読の際は、担当者が一文ずつ文献を音読し、文の形の理解を示しながら日本語に翻訳して、内容の理解を全員で検討する。また、関連する事項・歴史的な背景についての調査・発表を行う。

春学期の「A」では、1920-30 年代の中国メディア文化に関する中国語(簡体字)の研究論文を講読する予定だが、受講者のレベルに合わせて内容や進度は調整・変更することがある。

授業内容

1、導入ー授業の進め方やテキストの背景についての解説
2～6、1920-30 年代の中国メディア文化に関する中国語の研究論文(前半)
7、解説と関連事項や背景についての発表 1
8～12、1920-30 年代の中国メディア文化に関する中国語の研究論文(後半)
13、解説と関連事項や背景についての発表 2
14、a.試験、b.まとめ

履修上の注意

1)出席することは最低限の前提となるので、欠席が多い場合には単位は認定されない。やむを得ず欠席する場合は理由を提示し、クラスウェブにあげた資料によって自習と復習をして次の授業に参加すること。
2)中国語初級(1～2 年生程度)のレベルを前提に授業を進める。未修者や水準が不足している者は、各自独学を進めなければならない。
3)中国語の紙媒体の辞書を必ず入手し、毎回持ってくること(参考文献参照)。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習)事前に自分のわからない語彙をすべて辞書を引いて調べ、文法を確認してノートをつくる。例文のピンインを読む練習をしてくること。各回の担当者は単語・関連事項などの一覧、日本語への翻訳をまとめたレジュメを作成すること。この予習は、中国語の語彙や文法を自分の力で確認し、理解する過程を重視するため、生成 AI サービスを用いずに行うこととする。

また、各自授業内で 1 回レポート発表を担当し、発表用資料の準備をしてくる。教科書に出てくる関連キーワードについて調べて発表する。調査・発表にあたっては、WEB 資料・図書を問わず、根拠となる資料を実際に読み、理解した上でまとめることを基本とする。生成 AI は資料読解の代替ではなく、考えの整理や論点の明確化を目的とした補助的利用に限って認める。AI を用いた場合は、使用場面や参考にした点、修正・再考した点を発表資料に明示し、内容の正確性については各自が最終的な責任を負う。なお、AI に依らない独創的な考察やオリジナリティのある記述は積極的に評価する。

復習)各担当の翻訳で修正されたポイントや、内容理解のための背景などについてノートにまとめておくこと。

教科書

初回の授業で講読するテキストを配布する。

参考書

<辞典>
・愛知大学中日大辞典編纂所編『中日大辞典』大修館書店。
(中国語の史料を読む場合に必要となる多数の語彙が収録されている)。
・北京商務印書館・小学館編『中日辞典第3版』小学館、2016 年。
(最低限、このような中辞典レベルの紙の辞書を用意すること)。

<通史>
・坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波新書、岩波書店、2016 年。
・久保亨、高田幸男、井上久士、土田哲夫『現代中国の歴史(第 2 版)』東京大学出版会、2019 年。
・中村元哉、森川裕貫、関智英、家永真幸『概説中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。

<研究入門など>
・田中比呂志、飯島渉編『中国近現代史研究のスタンダード――卒業論文を書く』研文出版、2005 年。
・光田剛編『現代中国入門』(ちくま新書)筑摩書房、2017 年。
・川島真、中村元哉『中華民国史研究の動向――中国と日本の中国近代史理解』晃洋書房、2019 年。
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学――アジア・アフリカへの問い 158』ミネルヴァ書房、2022 年。
その他、随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

中間まとめの回で、質問やコメントについて回答する。

成績評価の方法

主体的な授業参加 60%(予習・コメント・発表)

学期末のまとめ試験 40%

その他

外国語の文献講読は、単に外国語の文章を日本語に直すことにとどまりません。それは異なる文化との対話であり、新たな視点を見つける機会になるはずです。主体的な参加を望みます。

科目ナンバー：(AL)HIS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)B	**文献講読B(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
櫻井 智美	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各自が興味を持つ時代・分野の研究に必要な言語の史料(漢文中心、その他中国語・英語など)について、中国近世・中央アジア史・東南アジア史・朝鮮史に関する論文や史料を用いながら、その読解を訓練する。同時に、文献講読Aで身につけたアジア史の研究方法や文献・史料の収集方法をみがく。

授業を通して、教材とする史料や論文から内容を読み取るとともに、それらの記述の背景にある歴史事象についてまで考察できることができるようになるのが目標である。

授業内容

文献講読Aで養った漢文読解力を基礎として、履修者が興味関心を持つ地域・時代を考慮して、漢文史料を選読する。テキストは『黒韃事略』を予定しているが、10～17 世紀の史料から履修者と相談の上最終決定する。関連する中国語・英語の論文・史料については、担当を決めて宿題を出す。学期末に各自が卒論で用いる史料についてレポートとして提出する。
1 具体的な講読史料を決定し、それに関する参考資料や辞書を紹介する。
2～13 史料の講読(途中1回確認テスト)。
14 総括及びテストの復習。

履修上の注意

やむを得ず欠席する場合には、予め教員と連絡をとること。ただ座っているだけでは出席とは見なさない。3 分の 1 以上無断で欠席した場合、単位は与えない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習をして授業に臨むこと。復習は確認テストやレポート準備でペースを作って行うこと。

教科書

必要に応じてプリントを配布する。

参考書

各自で漢和辞典(電子辞書ではない)を用意すること。推奨する漢和辞典は『新字源』(小川環樹他編、角川書店)。

課題に対するフィードバックの方法

添削して返却する。

成績評価の方法

予習、宿題、議論への参加・発言内容、テスト、レポートを、総合的に評価する。平常点 50%、確認テスト・レポート 50%。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)B	**文献講読B(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
平野 豊	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

イスラーム史に関する平易な英語文献を講読する。授業の目的は、アルファベット転写のアラビア語が頻出する英文に慣れること、イスラーム史を理解する上で必要な術語や専門用語を身につけることである。各自が独力で英語文献を参照できるだけの要領と読解力を養い、4年次の卒業論文の作成に備えることが目標となる。

授業内容

今年度も G. Le Strange (trans. & ed. with intro.),Don Juan of Persia: A Shi'ah Catholic 1560-1604., New York and London (1926). を読む。本書は西暦 1604 年にスペイン王国の首都バリャドリードで出版された『ペルシア人ドン・フアンの報告書(Relaciones de Don Juan de Persia)』の英訳である。著者ウールーチ・ベグはサファヴィー朝イランのトルコマン系遊牧部族バヤート部所属の軍事貴族だったが、その文才を買われ、同王朝の第5代君主シャー・アッバース1世(在位 1587-1629 年)が初めて派遣した訪欧使節団に首席書記官として参加した人物である。往復に丸3年を要したこのミッションの目的は、西欧諸国からの再三に及ぶ対オスマン同盟締結の呼びかけに応え、ローマ教皇や神聖ローマ帝国皇帝、スペイン王その他の諸侯に宛てた書状を届けることだった。受け取りを拒否したヴェネツィア共和国元首を例外として、当初の目的は概ね果たされたが、長旅の影響からか、使節団と随員のうちの6名が途中ローマ・カトリックに改宗し、現地に残る道を選んだ。つまり「ドン・フアン」とは著者のカトリック名であり、本書はイスラーム信仰の棄教者が欧文で発表した極めて珍しい史料といえる。

本書の構成は、古代から 15 世紀末までのイラン史を概観した第1部、オスマン朝遠征軍との戦いを中心に 16 世紀サファヴィー朝の歴史をまとめた第2部、そして同王朝の首都イスファハーンから西欧諸国までの旅の様子を記録した第3部からなる。本来であれば第3部だけが帰朝報告書としてシャーに献呈されたはずだが、上記の経緯からスペインでの出版となったため、第1部と第2部が急遽追加されたものである。

秋学期は第2部の7～8章を講読する。
(1)受講者によるコンフェッション：各自が関心を持つ地域や時代について順番に発表
(2)「第7章：トルコ軍に対する棄教者シモンとアリークリー・ハーンの軍事行動、及びムラド3世の遠征軍がマヌーチフルの指揮下で何を行ったかについて。」(pp.156-157)
(3)同(pp.157-158)
(4)同(pp.158-159)
(5)同(pp.160-161)
(6)同(pp.162-163)
(7)同(pp.164-165)
(8)「第8章：ここではなぜペルシア王が息子アッバースと戦うためヘラートに進軍したのか、そして宰相ミールザー・サルマーンがいかにして処罰されたのか、さらには、エルズルムにてファルハード・パシャがオスマン朝スルタンにより軍司令官に任じられた経緯について語られる。」同(pp.166-167)
(9)同(pp.167-168)
(10)同(pp.169-170)
(11)同(pp.171-172)
(12)同(pp.173-174)
(13)同(pp.175-176)
(14)秋学期授業まとめ

履修上の注意

特にイスラーム史に興味が無くても、卒業論文で英語文献を参照する予定の学生であれば歓迎する。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に講読予定箇所を指定するので毎回必ず予習してくること。やむなく欠席する場合は、クラスウェブに「授業予習レポート」を投稿することで出席扱いとする。その際には訳文だけでなく文法上の質問や記事内容の疑問点などを必ず併記すること。

教科書

テキストはクラスウェブに PDF 形式でアップロードする。

参考書

難読箇所のヒントや地図、参考画像等も、適宜クラスウェブにアップロードする。

課題に対するフィードバックの方法

受講者が「授業予習レポート(欠席者用)」に記した文法上の質問や疑問点に対しては可能な限り応答する予定。

成績評価の方法

基本的には授業中の口頭発表の出来により評価する。もちろん事前の「授業予習レポート」提出も大歓迎。加点的に評価する。(英文和訳 50%＋質疑応答 50%)

その他

科目ナンバー：(AL)HIS322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)B	**文献講読B(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
会田 大輔	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では、前近代中国史(主に魏晋南北朝隋唐)に関わる漢文史料や論文を講読し、卒業論文に取り組むうえで必要となる史料・論文の読解・分析能力を養う。秋学期では、南北朝隋唐時代の文献史料・石刻史料を読解していく。

【授業の到達目標】
(1)中国史の研究を行う上で必要な漢文読解能力を高める。
(2)史料の特性を理解し、分析ができる。

授業内容

第1回：南北朝隋唐時代の石刻史料概要
第2回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(1)
第3回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(2)
第4回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(3)
第5回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(4)
第6回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(5)
第7回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(6)
第8回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(7)
第9回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(8)
第 10 回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(9)
第 11 回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(10)
第 12 回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(11)
第 13 回：南北朝隋唐時代の石刻関連史料の講読(12)
第 14 回：授業のまとめ
※授業内容は適宜必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

講読する史料や論文の予習は必須です。戸川芳郎監修『全訳漢辞海 第五版』(三省堂)または小川環樹他編『新字源 改訂新版』(角川書店)などの漢和辞典を各自で用意して持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

担当者は必ずレジュメを準備してください。レジュメには書き下し文・翻訳・用語解説が必要です。
また担当者以外も必ず予習すること。

教科書

特にありません。
必要な史料類は、プリントで配布します。

参考書

漢文読解については、加地伸行『漢文法基礎』(講談社学術文庫、2010 年)や西田太一郎『漢文の語法』(角川ソフィア文庫、2023 年)などの文法書を適宜参照してください。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点(予習・報告内容、授業態度など)100%。
なお、一度も担当報告を行わなかった場合は、成績評価の対象外となります。

その他

研究テーマ(特に魏晋南北朝隋唐時代)の史料や研究などの収集・整理などについて質問がある場合には、個別に対応しますので、授業の後に相談してください。

科目ナンバー：(AL)HIS322J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(アジア史)B	**文献講読B(アジア史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 航	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標
本授業では、近現代の中国史に関する中国語の文献を講読する。中国近現代史およびアジア史の研究に必要な中国語(繁体字)の文献を自分で読み解き、考察する力を身につけることを目的とし、中国語学習が必須となる。講読の際は、担当者が一文ずつ文献を音読し、文の形の理解を示しながら日本語に翻訳して、内容の理解を全員で検討する。また、関連する事項・歴史的な背景についての調査・発表を行う。

秋学期の「B」では、1920-30 年代の中国メディア文化に関する中国語(繁体字)の史料を講読する予定だが、受講者のレベルに合わせて内容や進度は調整・変更することがある。

授業内容
1、導入ー授業の進め方やテキストの背景についての解説
2～6、1920-30 年代の中国メディア文化に関する中国語の史料(前半)
7、解説と関連事項や背景についての発表 1
8～12、1920-30 年代の中国メディア文化に関する中国語の史料(後半)
13、解説と関連事項や背景についての発表 2
14、a.試験、b.まとめ

履修上の注意
1)出席することは最低限の前提となるので、欠席が多い場合には単位は認定されない。やむを得ず欠席する場合は理由を提示し、クラスウェブにあげた資料によって自習と復習をして次の授業に参加すること。
2)中国語初級(1～2 年生程度)のレベルを前提に授業を進める。未修者や水準が不足している者は、各自独学を進めなければならない。
3)中国語の紙媒体の辞書を必ず入手し、毎回持ってくること(参考文献参照)。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習)事前に自分のわからない語彙をすべて辞書を引いて調べ、文法を確認してノートをつくる。例文のピンインを読む練習をしてくること。各回の担当者は単語・関連事項などの一覧、日本語への翻訳をまとめたレジュメを作成すること。この予習は、中国語の語彙や文法を自分の力で確認し、理解する過程を重視するため、生成 AI サービスを用いずに行うこととする。
　また、各自授業内で 1 回レポート発表を担当し、発表用資料の準備をしてくる。教科書に出てくる関連キーワードについて調べて発表する。調査・発表にあたっては、WEB 資料・図書を問わず、根拠となる資料を実際に読み、理解した上でまとめることを基本とする。生成 AI は資料読解の代替ではなく、考えの整理や論点の明確化を目的とした補助的利用に限って認める。AI を用いた場合は、使用場面や参考にした点、修正・再考した点を発表資料に明示し、内容の正確性については各自が最終的な責任を負う。なお、AI に依らない独創的な考察やオリジナリティのある記述は積極的に評価する。

復習)各担当の翻訳で修正されたポイントや、内容理解のための背景などについてノートにまとめておくこと。

教科書
初回の授業で講読するテキストを配布する。

参考書
<辞典>
・愛知大学中日大辞典編纂所編『中日大辞典』大修館書店。
(中国語の史料を読む場合に必要となる多数の語彙が収録されている)。
・北京商務印書館・小学館編『中日辞典第3版』小学館、2016 年。
(最低限、このような中辞典レベルの紙の辞書を用意すること)。

<通史>
・坂元ひろ子『中国近代の思想文化史』岩波新書、岩波書店、2016。
・久保亨、高田幸男、井上久士、土田哲夫『現代中国の歴史(第 2 版)』東京大学出版会、2019 年。
・中村元哉、森川裕貴、関智英、家永真幸『概説中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。

<研究入門など>
・田中比呂志、飯島渉編『中国近現代史研究のスタンダード――卒業論文を書く』研文出版、2005 年。
・光田剛編『現代中国入門』(ちくま新書)筑摩書房、2017 年。
・川島真、中村元哉『中華民国史研究の動向――中国と日本の中国近代史理解』晃洋書房、2019 年。
・吉澤誠一郎監修『論点・東洋史学――アジア・アフリカへの問い 158』ミネルヴァ書房、2022 年。
その他、随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
中間まとめの回で、質問やコメントについて回答する。

成績評価の方法
主体的な授業参加 60%(予習・コメント・発表)

学期末のまとめ試験 40%

その他
外国語の文献講読は、単に外国語の文章を日本語に直すことにとどまりません。それは異なる文化との対話であり、新たな視点を見つける機会になるはずです。主体的な参加を望みます。

科目ナンバー：(AL)HIS212J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読 A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
里舘 翔大	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
【授業概要】
　本授業では日本古代史に関する文献、佐藤信編『古代史講義 ―邪馬台国から平安時代まで』(ちくま新書、筑摩書房、2018 年初版)を講読していきます。高校までの教科書等で学習してきた内容は、実際にどのようなテーマ設定のもとで史料が読まれ、議論されてきたのかを最新の研究成果を踏まえた概説書をもって学習していきます。本書には、政治史、外交史、地域社会史、土地制度史、軍事史、交通史、宗教史、文化史など様々なテーマを幅広く、しかし深く学ぶことができます。本書の講読を通して、歴史研究の方法論を学習していただきます。
　受講者の皆さんには、本書からテーマを選んでいただき、そのテーマを熟読の上、テーマの論点をまとめ、報告していただきます。また、報告者以外の受講者にも事前に該当するテーマを熟読した上で授業に臨んでいただきます。教員のみならず、学生同士での活発な議論もしていただきます。
　授業最終日には 3,000～5,000 字程度のレポート(詳しい課題は授業内で提示します)を提出していただき、自分なりの論点の見つけ方と書き方も学んでいただきます。

【到達目標】
　日本史学専攻では卒業論文の執筆が求められます。卒業論文は自身の研究の集大成です。本授業を通して、高校までに学習してきた「勉強」とは異なる「研究」の奥深さを理解し、テーマ設定のやり方、先行研究を参照する重要性、文献・論点のまとめ方、歴史学の方法論を学び、卒業論文執筆への土台を築くことが目標です。

授業内容
第 1 回 授業内容と文献の紹介
第 2 回 報告者の決定、報告のやり方・見本
第 3 回 テーマ報告:邪馬台国から古墳の時代へ
第 4 回 テーマ報告:倭の大王と地方豪族
第 5 回 テーマ報告:蘇我氏とヤマト王権
第 6 回 テーマ報告:飛鳥・藤原の時代と東アジア
第 7 回 テーマ報告:平城京の実像
第 8 回 テーマ報告:奈良時代の争乱
第 9 回 テーマ報告:地方官衙と地方豪族
第 10 回 テーマ報告:遣唐使と天平文化
第 11 回 テーマ報告:平安遷都と対蝦夷戦争
第 12 回 テーマ報告:平安京の成熟と都市王権の展開
第 13 回 テーマ報告:摂関政治の実像
第 14 回 授業全体のふり返り・レポート提出

履修上の注意
報告者は事前にレジュメを準備し、報告日に受講者全員に配布をしてください。受講者が多数に及ぶ場合は、報告の前日までに教員にレジュメの原本を送っていただければ、教員側で受講者分のレジュメを印刷し、配布いたします。
　無断欠席や遅刻は減点の対象となります。欠席・遅刻をする場合は必ず事前に連絡をしてください。また、報告日の無断欠席は絶対にしないでください。全回出席が望ましく、5 回以上の欠席については評価を一考いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容
下記の【参考書】欄に挙げた日本古代史の概説書もあわせて講読してください。また、報告者に限らず、受講者は全員、事前に教科書の各回のテーマを熟読し、論点を確認してください。専門用語については、『国史大辞典』等で調べてきてください。不明な部分については授業中に質問し、教員が作成した補足レジュメとあわせて復習をし、理解を深めてください。
　各論文・各テーマの講読におよそ 1～2 時間、報告資料の作成や専門用語の調査、復習にはそれ以上に多くの時間(1 日～数日)がかかるため、時間に余裕をもって学習・準備に取りかかってください。

教科書
佐藤信編『古代史講義 ―邪馬台国から平安時代まで』(ちくま新書、筑摩書房、2018 年初版)

参考書
①『古代史講義』シリーズ、佐藤信編(ちくま新書・筑摩書房)、戦乱篇(2019 年)、宮都篇(2020 年)、氏族篇(2021 年)、海外交流篇(2023 年)
②『テーマで学ぶ日本古代史』シリーズ、佐藤信監修／新古代史の会編(吉川弘文館)2020 年、1 巻(社会・史料編)、2 巻(政治・外交編)
③『人物で学ぶ日本古代史』シリーズ、新古代史の会編(吉川弘文館)2022 年、1 巻(飛鳥時代編)、2 巻(奈良時代編)、3 巻(平安時代編)
④『歩いて学ぶ日本古代史』シリーズ、新古代史の会編(吉川弘文館)、1 巻(2024 年、邪馬台国から大化改新まで)、2 巻(2025 年、律令国家の成立と天平の世)、3 巻(2025 年、平安遷都から武士の台頭まで)
⑤『古代史の基礎知識』吉村武彦編(角川書店)2005 年

ほか、適宜授業内で提示いたします。

課題に対するフィードバックの方法
毎授業の担当報告者には口頭でコメントをし、加えて教員の補足レジュメをもって論点を深掘りして説明いたします。
　配布する出席票には毎授業、簡単な感想や疑問点があれば書いていただき、復習として、次回の授業の冒頭で受講者全員に疑問点とそれに関する補足説明を共有いたします。
　授業最終日に提出していただいたレポートにつきましては講評をして返却いたします。

成績評価の方法
平常点・授業への参加度(出席、予習・復習の確認、議論への積極的な参加などを総合的に評価)30%、報告 40%、期末レポート 30%。報告およびレポートの提出は必須です。理由無く報告をしない、もしくはレポートを提出しない場合は評価の対象外とさせていただきます。

その他
受講人数によっては各回の報告内容や順序を変更することがあります。

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
則竹 雄一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本中世史に関する論文の購読とレポート、およびレポートに対するディスカッションを通じて歴史学の基本的な概念や理論を学び、歴史研究を行って論文を作成する際の基礎的な力を得ることを目標にします。論文は先行研究の整理、目的・課題の設定、資史料の分析、分析結果と成果の総括などの要素によって構成されており、歴史研究を進める上ではそれらを読み取り整理し、理解した内容を他者へ説明できる能力が重要です。また、レジュメを作成し、それを用いた報告を行い、ディスカッションに中心的な役割を果たすためのスキルの習熟も目標とします。

総じて先行研究の正確な読解に基づき、それを整理して他者へ説明でき、また自身の意見・疑問を見出し提示できる能力を身に着けることを到達目標とします。

授業内容

授業では、論文ごとに報告者を決定し、事前に作成・提出した要約レジュメをもとに報告をおこない、それに基づいて参加者全員で質疑を行います。

報告者は、担当論文の要点や学術用語の説明、学説の現状を中心に報告をしてください。また、該当論文に加えて、密接に関連する著書・論文などの研究成果も取り上げ、担当論文が当該分野の研究史上にどのように位置づけられるのかも吟味する必要があります。また、行論上、重要な史料については、要約レジュメに引用してください。報告者には、ディスカッションでの質疑応答を反映したレポートを提出してもらいます。したがって、自らの報告に関する質疑の概要をメモすることがもとめられます。

授業の進行予定は以下の通りです、状況によっては論文の変更や・追加の可能性もあります。中世史の基本を理解するための論文を選択しました。

1、授業内容のイントロダクションと担当者の決定
2、高橋昌明「武士を見なおす」『武士の成立武士像の創出』東京大学出版会(1999)
3、黒田俊雄「中世の国家と天皇」『岩波講座日本歴史』6中世2岩波書店(1963)
4、高橋典幸「鎌倉幕府論」『岩波講座日本歴史』第6巻中世1岩波書店(2013)
5、平雅行「中世宗教の社会的展開」『講座日本歴史』3中世1東京大学出版会(1984)
6、網野善彦「鎌倉末期の諸矛盾」『講座日本史』3東京大学出版会(1970)
7、佐藤進一「室町幕府論」『岩波講座日本歴史』7中世3岩波書店(1963)
8、村井章介「建武・室町政権と東アジア」『講座日本歴史』4中世2東京大学出版会(1985)
9、峰岸純夫「村落と土豪」『講座日本史』3(1970)
10、黒田日出男「中世の開発と自然」『一揆』4東京大学出版会(1981)
11、勝俣鎮夫「戦国法」『岩波講座日本歴史』中世4(1976)
12、永原慶二「大名領国制の構造」『岩波講座日本歴史』中世4(1976)
13、藤木久志『豊臣平和令と戦国社会』東京大学出版会(1985)の「序」と「第一章第二　節　豊臣九州停戦令と国分」
14、総括的議論と試験(最終レポート)

履修上の注意

報告者は上記の内容からなるレジュメを必ず事前に作成・提出してください。また、報告者以外の履修学生も、毎回の授業での論文はあらかじめ読解して、授業時に疑問点などを積極的に発言することが求められます。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業に際して報告者であるか否かにかかわらず、該当論文を精読して、疑問点などをあらかじめ掴んでおく必要があります。

教科書

指定の教科書はありません。購読する論文は配布する予定です。

参考書

必要な関連論文や著書などは授業時に適宜紹介します。『岩波講座日本歴史』(1960 年版・1970 年版・2010 年版)『岩波講座日本通史』『講座日本史』『講座日本歴史』などの関連論文は研究史の把握に参考となります。また、報告に際しての歴史用語の確認には、『国史大辞典』全 15 巻吉川弘文館、『日本史大事典』全7巻平凡社、『日本歴史大事典』全4巻小学館を利用しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の報告ごとに又最後に総括的な議論を行います。報告へのコメントを行うとともに、随時の質問・相談を受け付けます。

成績評価の方法

評価点は①レジュメの作り方(20%)、②発表の仕方(20%)、③質疑への積極的な参加(20%)、④最終試験又はレポート(40%)の 100 点で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊勢 弘志	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

受験勉強で学んだ知識を、何に活かし、どのように使えばよいのか、その考え方を身に付けられるように、近現代の代表的な文献や歴史的名著を講読する。

国家や社会のあり方をめぐって、同時代に同じ課題を挙げながらも、それぞれの政治的・思想的立場から異なる解釈や解決方法を論じていたり、同じ立場でありながらも全く異なる目標や理念を掲げていたりするなどした当時の議論から、考え方を学ぶ。

文献を読むとは、何を読み取ることなのか。文献・史資料を読むためには、何を・どのように調べる必要があるのか、受験勉強以前には取り組めなかったであろう課題に挑戦する。

＜到達目標＞

過去や未知の情報に臨む際に必要な視角・考え方を身につけるには、そのための勉強をせねばならない。例えば、一つの政治的立場や思想に立脚した時に、自らは何に気づくべきであり、その次には何が問題となるのか、それらを考えられるように、歴史学の考え方を身に付ける。

当時の議論が正しいかどうかではなく、なぜそのように書かれたのか、どう解釈できるのかを理解すること。単なる道具としての知識を、考える力、調べる力、立論や議論の方法として役立てられるように練習する。

また、それらのいずれもが、自らが有権者として向き合う現代の社会を理解するために必要な考察であることを理解できるようになること。

授業内容

テーマ 1・近代国家とは何か？
　『三酔人経綸問答』(中江兆民)　×　『文明論之概略』(福沢諭吉)
テーマ 2・国家は何を目指すべきか？
　『人権新説』(加藤弘之)　×　『平民主義』(幸徳秋水)
テーマ 3・社会はどうあるべきか？
　『貧乏物語』(河上肇)　×　『憲政の本義、その有終の美』(吉野作造)
テーマ 4・政治は何を実現すべきか？
　『最終戦争論』(石原莞爾)　×　『日本改造法案大綱』(北一輝)
＊ 上記のうち前期でどこまで扱うか等の進捗は履修者数にもよるため、進め方は相談して決める。

履修上の注意

① 報告の担当に拘わらず、採り上げることになったテキストは通読する。
② テキストの他にも、補足として史料や論稿を読むことがある。
③ 後期に備えて、夏休みに取り組むべき課題があるので予定しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

① 履修する場合にはテキストをそれぞれ入手し、読み進めておくこと。
　それぞれの著者・著作がどのように評価されているかを事前に調べておくこと。
② 毎回の授業を通じて「授業概要」・「到達目標」に挙げた考え方を習得すること。

教科書

＊ここでは安価な新書・文庫を優先して挙げた。出版社や版は問わないので、自身で選んで入手またはコピーしておくこと。
中江兆民『三酔人経綸問答』(岩波文庫):青 110-1。
加藤弘之『人権新説:全』〔コピーを配布する〕。
福沢諭吉『文明論之概略』(岩波文庫):青 102-1。
河上 肇『現代語訳 貧乏物語』佐藤優(講談社現代新書):2372。
幸徳秋水「社会主義」・「非戦論」・「思想と趣味」『平民主義』(中公クラシックス): J 58。
吉野作造『憲政の本義、その有終の美』山田博雄訳(光文社古典新訳文庫):C ヨ 1-1。
石原莞爾『最終戦争論』(中公文庫):B 1-11 20 世紀 BIBLIO。
石原莞爾『戦争史大観』(中公文庫):B 14-7 BIBLIO S。
石原莞爾『世界最終戦争』(新書版)(毎日ワンズ、二〇一九年)。
北 一輝『日本改造法案大綱』(中公文庫):き 42-1。

参考書

『河上肇評論集』杉原四郎編(岩波文庫):青 132-7。
吉野作造『憲政の本義』(中公文庫):よ-56-1。
『明六雑誌』上 (岩波文庫):青 130-1。
内村鑑三『余はいかにしてキリスト信徒になりしか』(岩波文庫):青 119-2。
E・H・カー『歴史とは何か』清水幾太郎訳(岩波新書、一九六二年)。
エリック・ホブズボーム『帝国の時代 1875-1914』野口建彦・野口照子訳(みすず書房、一九九三年)。
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』白石隆・白石さや訳(書籍工房早山、二〇〇七年)。
西川長夫『国民国家論の射程 : あるいは「国民」という怪物について』増補版(柏書房、二〇一二年)。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で対応する。

成績評価の方法

報告、および課題に取り組む姿勢や理解度で評定する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒木 仁朗	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、論文講読と史料輪読を通じて日本近世史に関する基礎的知識を養っていく演習です。

前半は、現在の日本近世史における研究動向を理解するために、1980 年代以降の研究潮流を作り出した論文を講読する。報告者は、論文講読のレジュメを作成して報告し、それをもとに教員と受講者で講読論文の研究史上における意義を討論する。後半は、まず第一に活字化された地方文書を講読する。そのテキストは東京都大田区史編さん委員会編『大田区史』(資料編)とする。特に年貢関係文書を輪読し、年貢徴収の仕組みを理解していく予定である。その上で第二として活字史料に慣れてきたら、原文書の写真版を輪読していく。つまり、この授業の柱は論文講読と史料輪読である。卒業論文作成に必要な基礎的スキルを獲得することを到達目標とする。そのうえで、近世史への理解と関心を深め、問題意識を高めたい。

授業内容

第1回 授業の目的・進め方、文献の探し方
第2回 1980 年代以降の研究潮流を作り出した論文の報告及び討論1
第3回 1980 年代以降の研究潮流を作り出した論文の報告及び討論2
第4回 1980 年代以降の研究潮流を作り出した論文の報告及び討論3
第5回 1980 年代以降の研究潮流を作り出した論文の報告及び討論4
第6回 1980 年代以降の研究潮流を作り出した論文の報告及び討論5
第7回 1980 年代以降の研究潮流を作り出した論文の報告及び討論6
第8回 史料輪読1
第9回 史料輪読2
第 10 回 史料輪読3
第 11 回 史料輪読4
第 12 回 史料輪読5
第 13 回 史料輪読6
第 14 回 史料輪読7

受講者の人数や興味関心・史料読解能力に応じて、内容を変更することもある。

履修上の注意

報告担当者は、必ずレジュメを作成し、絶対に無断欠席しないこと。担当箇所に登場する文献や史料にもできる限り確認してレジュメを作成すること。受講者も該当箇所を予習(講読)し、疑問点を整理して討論に積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に講読する論文・史料を読み、論文講読では疑問点を整理し、史料輪読では理解できない語句を調べて現代語訳できるように予習をおこなうこと。復習としては、講読論文ないしは講読史料および授業時に配布したレジュメを読み返すこと。予習には、90～120 分, 復習には 60 分程要する。

教科書

とくに指定しない。必要な資料などは適宜配布する。

参考書

史料輪読に際しては、古文書解読辞典として児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版)ないしは児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版)または林英夫監修『新編・古文書解読字典』(柏書房)を推奨しておく。なお、「特集／はじめて学ぶ日本近世史」(『歴史評論』813 号、2018 年)も受講に際して一読しておくことをお勧めする。

課題に対するフィードバックの方法

レポートの全体講評および解説を Oh-o! Meiji で提出が終了した後に行う。

成績評価の方法

報告 30% レポート 30% 授業への貢献度 40%
なお報告担当時の欠席は、成績に重大な影響を与える。

その他

・古文書解読の補習授業(サブゼミ)を試験的に行ったが、
熱心に勉強する学生にとって評判が良かったため、
来年度も引き続き継続したい。金曜4限の時間帯に
実施することを予定している。

・くずし字の読解と古文書調査に関心がある者は相談のこと。

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 直人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本ゼミナールでは、南塚信吾、小谷汪之編著『歴史的に考えるとはどういうことか』(ミネルヴァ書房、2019 年)を講読してまいります。授業担当者は、大学受験を経験していないため、日本史の細かな知識を有してはいません。それでも、明治大学の日本史学専攻で楽しく学ぶことが出来たのは、そして、曲がりなりにも研究者として学びを続けることが出来ているのは、結局のところ、日本史の細かい知識を持っているか否かということが、研究とあまり関係がなかったからだと思います。歴史学研究に必要なのは、どうでもよい知識ではなく、「歴史的に考える」方法論だということになるでしょう。それでは、「歴史的に考えるとはどういうことか」。テクストを通して、皆さんとあれやこれや議論してみたいと思います。

【到達目標】

授業担当者がこの文献をテクストに選んだのは、それが非の打ち所のない完璧な書籍だからではなく、突っ込みどころも多い書籍だからです。受験国語のように、あるはずもない〈正答〉を求めてテクストを読むのではなく、突っ込みながら読む力を、ゆっくり付けていきましょう。

授業内容

各回の担当者による口頭報告(毎回 1～2 名)と少人数のグループ討論(3～5 名程度)を、主な内容といたします。春学期の発表回数は 1 回。

第 1 回 他のテクストとの関係において読むということ
第 2 回 要約のテクニック：背骨を取り出す
第 3 回～第 13 回 受講者による口頭報告とグループ討論

第 1 章 歴史と出会うとき(南塚信吾)
第 2 章 歴史の中で「他者」と出会う(小谷汪之)
第 3 章 史料から歴史へ(秋山晋吾)
第 4 章 歴史を意味づける(割田聖史)
第 5 章 「歴史の見方」に潜む落とし穴(小谷汪之)
第 6 章 「歴史的に考える」ことの学び方・教え方(日髙智彦)
第 7 章 大学で歴史を学ぶということ(鹿住大助)
第 8 章 日常の中で歴史的に考える「七力条」(南塚信吾)

第 14 回 春学期のまとめ

※ 長期休暇中などに、参加任意の巡検ほかを実施する場合があります。

履修上の注意

大学の良いところの 1 つは、学生が自分で、教員を選べるところかなと思っています。担当教員とのミスマッチを防ぐために、恐らく私のゼミだとあまり満足感を得られないのではないかという方々の傾向をお示ししておきます。〈相性診断〉にご活用下さい。

(A)教員が話したことやテクストの内容を、〈正しい〉情報として信じたいタイプの方。
(B)〈結論〉の出ない宙ぶらりん状態を、上手く楽しめない方。
(C)言語化を面倒臭がる方。たとえば、何でも「深いわー」という浅いコメントで済ませようとする方。
(D)コスパやタイパを過度に重んじる(≒1 周回ってコスパやタイパが良くない)方。
(E)他人を「論破」しようとする(≒議論があまり上手ではない)方。
(F)研究不正がダメな理由について、丁寧に説明されても、あまりピンと来ていない方。

逆に、(a)受験日本史を憎んでいる方、(b)日本史が好きで入学したはずなのに、日本史学専攻に入ったらあまり面白くなかった方など、常にモヤモヤを抱えている方々と、一緒に議論出来ればと思っております。

「歴史と関係のある仕事なんてほとんどない」と思って大学生活を送るよりは、「歴史と関係のない仕事なんてほとんどない」と思って大学生活を送る方が、恐らく学びは大きいかと思います。「歴史する」・「パブリック・ヒストリー」といった概念の無限定な拡張を警戒しつつも、「歴史を社会に活かす」(歴史学研究会編『歴史を社会に活かす：楽しむ・学ぶ・伝える・観る』東京大学出版会、2017 年)方法を、それぞれに摸索してみて下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、各回の授業までに、その回の課題論文を読んできて下さい(30 分)。

事後学習としては、考えたこと、疑問に思ったことなどをまとめ、コメントシートとして提出して下さい(30 分)。

教科書

南塚信吾、小谷汪之編著『歴史的に考えるとはどういうことか』ミネルヴァ書房、2019 年。

参考書

指定の参考書はありません。毎回の授業内容に関連して、適宜紹介いたします。

課題に対するフィードバックの方法

各回のコメントシートについては、次の回の授業冒頭で紹介・解説する予定です。

成績評価の方法

・口頭報告：50%
・各回のコメントシート(その他の小課題を含む場合がある)：30%
・面接試験：20%

※ なお、悪質な研究不正が見付かった場合は、100 点減点といたしますので、当該科目の成績評価全体が負の数となり、単位は認定されません。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
服部 一隆	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本古代史(文献史学中心)を中心とした研究文献の読み方を学習する。高校の歴史学習は教科書の理解が中心であったのに対し、大学の研究では学説がどのような根拠に基づいて、いかに構成されているかを自分自身で理解することが必要となる。そのために本授業では卒業論文執筆に必要な文献講読の訓練を実施する。

具体的には、学生が主体的に研究テーマ(仮の卒業論文)を選択したうえで、文献目録の作成、文献収集、文献講読を実施する。授業では、研究文献の論点を整理して報告し、学生同士で議論する。

研究文献の根拠と論点を整理することによって、各自の意見を持てるようになることが目標である。とくに文献の論理と根拠となる史料に注意する。

授業内容

第1回 授業の概要説明 学生の希望調査
第2回 研究テーマの報告
第3回 研究文献の選択
第4回 文献報告 1飛鳥時代1
第5回 文献報告 2飛鳥時代2
第6回 文献報告 3奈良時代1
第7回 文献報告 4奈良時代2
第8回 文献報告 5平安時代前期1
第9回 文献報告 6平安時代前期2
第10回 文献報告 7平安時代中期1
第11回 文献報告 8平安時代中期2
第12回 レポート発表1
第13回 レポート発表2
第14回 まとめ

履修上の注意

日本古代史の概説書もしくは高等学校日本史Bの教科書の古代史部分を読んでおくこと。
報告に対して、積極的に質問すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:指定文献を全員が事前に読み、各自で意見を考えておく。
復習:授業中に提示した文献や史料を読み直し、各自で再調査する。

教科書

テキストは各自で選択したものを事前にコピーして配布する。

参考書

新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 政治・外交編』吉川弘文館、2020 年
新古代史の会編『テーマで学ぶ日本古代史 社会・史料編』吉川弘文館、2020 年
歴史科学協議会編『戦後歴史学用語辞典』東京堂出版、2012 年

課題に対するフィードバックの方法

授業中に質問を受け付け、毎回アンケートにて意見・感想・質問について記入する。全体のことは授業中に説明するか授業内容・資料に回答し、個別のことはアンケートに返信する。授業時間以外では Oh-o! Meiji を活用する。

成績評価の方法

報告・平常点 50% レポート 50%

その他

わからないことは何でも質問してほしい。授業以外のことも受け付ける。
受講人数によって各回の報告を変更することがある。
古代史以外の受講生がいた場合は適宜対応する。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 豪	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史学専攻では卒業論文として日本に関する歴史を書くことが求められる。しかし、当然ながら過去のできごとについて知っているだけでは歴史を書くことはできない。そこでこの授業では歴史を書くために不可欠な先行研究の読解方法を学んでもらう。

春学期では単著の読解に慣れることに重点を置き、通史シリーズの一冊である有馬学『帝国の昭和』を取りあげる。昭和期(主に戦前)の時代背景を学ぶと共に、まずは比較的読みやすいテキストで履修者は報告を実践し、より難解な研究書への手がかりにしてもらいたい。テキストは通史であり叙述されている分野が幅広いため、報告者それぞれが自身の関心に沿って報告を組み立ててほしい。

授業内容

第 1 回:イントロダクション(1)(授業の内容・進行方法の説明)
第 2 回:イントロダクション(2)(報告方法の説明/テキスト『帝国の昭和』について)
第 3 回:プロローグ 過去は外国である
第 4 回:第 1 章 普通選挙と政党内閣
第 5 回:第 2 章 ワシントン体制の変容と日本
第 6 回:第 3 章「挙国一致」内閣の時代
第 7 回:第 4 章「非常時」の表と裏(1)
第 8 回:第 4 章「非常時」の表と裏(2)
第 9 回:第 5 章 革新の光明?(1)
第 10 回:第 5 章 革新の光明?(2)
第 11 回:第 6 章 総力戦の諸相(1)
第 12 回:第 6 章 総力戦の諸相(2)
第 13 回:終章「戦時」とモダニティ
第 14 回:まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成し、担当範囲の要約、補足説明や論点の提示などを行ってもらう。また、参加者からの質問にも答えられるように十分な準備をしてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では参加者による議論が何よりも重要である。そのためにも全員が教科書を授業前に熟読しておくことはもちろんのこと、内容についての疑問点や論点を出せるよう準備しておくことが望ましい。

教科書

有馬学『帝国の昭和』(日本の歴史 23)(講談社学術文庫、2010 年)
※ ハードカバー版(講談社、2002 年)でも可

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回にてレポートを返却し、講評を行う。

成績評価の方法

授業での報告(60%)、レポート作成(20%)、授業への参加度(20%)によって評価する。理由なく、報告やレポート提出がない場合は評価の対象とならないので注意してほしい。

その他

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)A	**文献講読A(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
大江 洋代	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

3 年次以降、幕末明治史ゼミを選択しようとする皆さん、または幕末明治史をお試ししてみたい皆さんを想定したゼミ。

文献から研究史や研究視角を学び, 自らの研究視角につなげていくことは、歴史学研究において不可欠な学びである。
幕末明治史の政治、社会にわたる様々な研究潮流を把握し、みずからの関心を広め、掘り下げていこう。
以上を通じ、卒論に必要な本の読み方として「楽しく、そして批判的に読む」修行を開始したい。

授業内容

瀧井博一『「明治」という遺産 : 近代日本をめぐる比較文明史』(ミネルヴァ書房、2020 年)を読む

報告の構成は以下の通り
・各論から、自身の関心のあるものを選ぶ。
・要旨をまとめる。
・評価点、疑問点をまとめる。
・評価点、疑問点について、他の文献、論文を使って深掘りしたり、解決したりしてみる。
・以上をふまえて自分なりの読み方を示す(書評する)

スケジュールは以下の通り
第1回 この授業でつけたい力
第2回 本、論文の探し方 近現代バージョン
第3回～第 14 回 報告(以下から選んで報告)
徳川日本における自由とナポレオン / 大久保健晴 著明治社会は¥"成功¥"したか / 勝部眞人 著比較史から見た明治維新 / 島田幸典 著中国革命派の明治維新観 / 深町英夫 著建築と都市から見える明治維新 / 井上章一 著日本の近代化と公共性・天皇制 / 伊藤之雄 著勲章外交 / ジョン・ブリーン 著学制布告書の思想史的考察 / 前田勉 著知識交換の明治 / 瀧井一博 著文明としての議事と議場 / 清水唯一朗 著近代日本の転換点 / 小林道彦 著明治の国楽創成と音楽効用論 / 光平有希 著東京帝国大学における林学教育の導入とその使命 / 岡本貴久子 著維新期政治運動と社会改良運動 / 小川原正道 著明治八年の政変 / 内藤一成 著明治天皇と皇族夫妻の海外渡航 / 浅見雅男 著進化と教理 / 松田宏一郎 著普遍史論に基づく皇国史観 / 今野元 著明治日本が見たストックホルムオリンピック / 牛村圭 著木戸孝允の明治・大正・昭和 / 齊藤紅葉 著「昭和/戊辰」における明治維新イメージ / 奈良岡聰智 著昭和維新にとっての明治維新 / 植村和秀 著五箇条の御誓文と「普選壇」建設運動 / 西田彰一 著「明治一五〇年」とは何だったのか / 一坂太郎 著「混合文明」の日本から世界を見る / 上野景文 著文明・文化・近代日本 / 長尾龍一 著明治維新とグローバル化 / 三谷博 著グローバル化と明治の鉄道発展 / 中村尚史 著大英帝国のマスメディアと明治の大衆新聞・錦絵 / アリステア・スウェール 著朝鮮・韓国における「議会設立」運動と日本 / 國分典子 著

履修上の注意

特別な理由がない限り、無断欠席・遅刻は認めない。
特に報告日の無断欠席は許されない。

準備学習(予習・復習等)の内容

本の読み方を会得し、報告者の報告を楽しむためには、各参加者には是非予習をしてきていただきたい。
各参加者は、毎回報告予定の論文を読み、A4×1枚に要旨と、一言コメントをまとめていただく。それをもとに議論を行うことで、思いがけない論点を発見したり、歴史の世界の広がり方を実感したり、その瞬間を味わえればよいと思う。

したがって、報告者や参加者といった自分以外の報告や意見をおもしろいと思える皆さん、それを自分の糧にしたいと思える皆さんに御参加いただくことを切望する。

教科書

瀧井博一『「明治」という遺産 : 近代日本をめぐる比較文明史』(ミネルヴァ書房、2020 年)著作権の範囲内で配布

参考書

授業中に適宜お知らせする。

課題に対するフィードバックの方法

毎回予習ペーパーにコメントを書き入れて返却する。
報告者には口頭でコメントする。

成績評価の方法

報告40%、毎回の予習にもとづくコメント、討論への参加姿勢60%

その他

夏休みの宿題あり。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読 B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
里舘 翔大	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
本授業では日本古代史に関する文献・論文を講読していきます。概説書ではない専門の論文を講読することを通じて、論文の執筆者がどのような史料を取捨選択し、どのような理論をもって論文を執筆したのかを学んでいきます。
講読対象の論文は夏季休暇期間中に受講者自身で選び、教員に講読論文を事前に伝えてもらい、その後、教員が Oh-o!Meiji を通して受講者全員に講読論文をお知らせいたします。報告者には、講読する論文を熟読の上、論点をまとめ、論文内で扱われている資史料にも触れてもらい、自分なりの講評をしていただきます。また、報告者以外の受講者にも事前に該当する論文を熟読した上で授業に臨んでいただきます。教員のみならず、学生同士での活発な議論もしていただきます。

授業最終日には 5,000 字以内のレポート(詳しい課題は授業内で提示します)を提出していただき、論文の読み方と書き方、史料の扱い方を学んでいただきます。
【到達目標】
日本史学専攻では卒業論文の執筆が求められます。卒業論文は自身の研究の集大成です。本授業を通して、高校までに学習してきた「勉強」とは異なる「研究」の奥深さを理解し、テーマ設定のやり方、先行研究を参照する重要性、文献・論点のまとめ方、歴史学の方法論を学び、卒業論文執筆への土台を築くことが目標です。

授業内容

第 1 回 授業内容と文献の紹介
第 2 回 報告者の決定、報告のやり方・見本
第 3 回 論文報告① 6 世紀の政治史・社会史
第 4 回 論文報告② 6 世紀の文化史・制度史
第 5 回 論文報告③ 7 世紀の政治史・社会史
第 6 回 論文報告④ 7 世紀の文化史・制度史
第 7 回 論文報告⑤ 8 世紀の政治史・社会史
第 8 回 論文報告⑥ 8 世紀の文化史・制度史
第 9 回 論文報告⑦ 9 世紀の政治史・社会史
第 10 回 論文報告⑧ 9 世紀の文化史・制度史
第 11 回 論文報告⑨ 10 世紀の政治史・社会史
第 12 回 論文報告⑩ 10 世紀の文化史・制度史
第 13 回 論文報告⑪ 11 世紀の政治史・社会史
第 14 回 授業全体のふり返り・レポート提出

履修上の注意

報告者は事前にレジュメを準備し、報告日に受講者全員に配布をしてください。受講者が多数に及ぶ場合は、報告の前日までに教員にレジュメの原本を送っていただければ、教員側で受講者分のレジュメを印刷し、配布いたします。
無断欠席や遅刻は減点の対象となります。欠席・遅刻をする場合は必ず事前に連絡をしてください。また、報告日の無断欠席は絶対にしないでください。全回出席が望ましく、5 回以上の欠席については評価を一考いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容

下記の【参考書】欄に挙げた日本古代史の概説書もあわせて講読してください。また、報告者に限らず、受講者は全員、事前に各論文を熟読し、論点を確認してください。専門用語については、『国史大辞典』等で調べてください。不明な部分については授業中に質問し、教員が作成した補足レジュメとあわせて復習をし、理解を深めてください。
各論文の講読におよそ 1～2 時間、報告資料の作成や専門用語の調査、復習にはそれ以上に多くの時間(1 日～数日)がかかるため、時間に余裕をもって学習・準備に取りかかってください。

教科書

各講読論文は事前に Oh-o!Meiji を通してお知らせいたします。

参考書

①『古代史講義』シリーズ、佐藤信編(ちくま新書・筑摩書房)、戦乱篇(2019 年)、宮都篇(2020 年)、氏族篇(2021 年)、海外交流篇(2023 年)
②『テーマで学ぶ日本古代史』シリーズ、佐藤信監修／新古代史の会編(吉川弘文館)2020 年、1 巻(社会・史料編)、2 巻(政治・外交編)
③『人物で学ぶ日本古代史』シリーズ、新古代史の会編(吉川弘文館)2022 年、1 巻(飛鳥時代編)、2 巻(奈良時代編)、3 巻(平安時代編)
④『歩いて学ぶ日本古代史』シリーズ、新古代史の会編(吉川弘文館)、1 巻(2024 年、邪馬台国から大化改新まで)、2 巻(2025 年、律令国家の成立と天平の世)、3 巻(2025 年、平安遷都から武士の台頭まで)
⑤『古代史の基礎知識』吉村武彦編(角川書店)2005 年

ほか、適宜授業内で提示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

毎授業の担当報告者には口頭でコメントをし、加えて教員の補足レジュメをもって論点を深掘りして説明いたします。
配布する出席票には毎授業、簡単な感想や疑問点があれば書いていただき、復習として、次回の授業の冒頭で受講者全員に疑問点とそれに関する補足説明を共有いたします。
授業最終日に提出していただいたレポートにつきましては講評をして返却いたします。

成績評価の方法

平常点・授業への参加度(出席、予習・復習の確認、議論への積極的な参加などを総合的に評価)30%、報告 40%、期末レポート 30%。報告およびレポートの提出は必須です。理由無く報告をしない、もしくはレポートを提出しない場合は評価の対象外とさせていただきます。

その他

受講人数によっては各回の報告内容や順序を変更することがあります。

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
則竹 雄一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本中世史に関する論文の購読とレポート、およびレポートに対するディスカッションを通じて歴史学の基本的な概念や理論を学び、歴史研究を行って論文を作成する際の基礎的な力を得ることを目標にします。論文は先行研究の整理、目的・課題の設定、資史料の分析、分析結果と成果の総括などの要素によって構成されており、歴史研究を進める上ではそれらを読み取り整理し、理解した内容を他者へ説明できる能力が重要です。また、レジュメを作成し、それを用いた報告を行い、ディスカッションに中心的な役割を果たすためのスキルの習熟も目標とします。

総じて先行研究の正確な読解に基づき、それを整理して他者へ説明でき、また自身の意見・疑問を見出し提示できる能力を身に着けることを到達目標とします。

授業内容

授業では、論文ごとに報告者を決定し、事前に作成・提出した要約レジュメをもとに報告をおこない、それに基づいて参加者全員で質疑を行います。

報告者は、担当論文の要点や学術用語の説明、学説の現状を中心に報告をしてください。また、該当論文に加えて、密接に関連する著書・論文などの研究成果も取り上げ、担当論文が当該分野の研究史上にどのように位置づけられるのかも吟味する必要があります。また、行論上、重要な史料については、要約レジュメに引用してください。報告者には、ディスカッションでの質疑応答を反映したレポートを提出してもらいます。したがって、自らの報告に関する質疑の概要をメモすることがもとめられます。

授業の進行予定は以下の通りです、状況によっては論文の変更や・追加の可能性もあります。前半は現在の中世史をを理解するための基本的な論文を選択しました。後半は、報告者の関心に従って自由に選択した論文の報告とする予定です。

1、イントロダクションと担当決め
2、川端新「院政初期の立荘形態」『日本史研究』407(1996)
3、川合康「治承・寿永の「戦争」と鎌倉幕府」344(1991)
4、千枝大志「中世後期の貨幣と流通」『岩波講座日本歴史』8中世3(2014)
5、勝俣鎮夫「戦国時代の村落」『社会史研究』6(1985)
6、藤木久志「村からみた戦国大名」『長岡市史研究』5(1994)
7、神田千里「中世末の「天下」について」『武田氏研究』42(2010)
8、自由選択論文
9、自由選択論文
10、自由選択論文
11、自由選択論文
12、自由選択論文
13、自由選択論文
14、総括的議論と試験(最終レポート)

履修上の注意

報告者は上記の内容からなるレジュメを必ず事前に作成・提出してください。また、報告者以外の履修学生も、毎回の授業での論文はあらかじめ読解して、授業時に疑問点などを積極的に発言することが求められます。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業に際して報告者であるか否かにかかわらず、該当論文を精読して、疑問点などをあらかじめ掴んでおく必要があります。

教科書

指定の教科書はありません。購読する論文は配布する予定です。

参考書

必要な関連論文や著書などは授業時に適宜紹介します。『岩波講座日本歴史』(1960 年版・1970 年版・2010 年版)『岩波講座日本通史』『講座日本史』『講座日本歴史』などの関連論文は研究史の把握に参考となります。また、報告に際しての歴史用語の確認には、『国史大辞典』全 15 巻吉川弘文館、『日本史大事典』全7巻平凡社、『日本歴史大事典』全4巻小学館を利用しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の報告ごとに又最後に総括的な議論を行います。報告へのコメントを行うとともに、随時の質問・相談を受け付けます。

成績評価の方法

評価点は①レジュメの作り方(20%)、②発表の仕方(20%)、③質疑への積極的な参加(20%)、④最終試験又はレポート(40%)の 100 点で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊勢 弘志	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

受験勉強で学んだ知識を、何に活かし、どのように使えばよいのか、その考え方を身に付けられるように、近現代の代表的な文献や歴史的名著を講読する。

国家や社会のあり方をめぐって、同時代に同じ課題を挙げながらも、それぞれの政治的・思想的立場から異なる解釈や解決方法を論じていたり、同じ立場でありながらも全く異なる目標や理念を掲げていたりするなどした当時の議論から、考え方を学ぶ。

文献を読むとは、何を読み取ることなのか。文献・史資料を読むためには、何を・どのように調べる必要があるのか、受験勉強以前には取り組めなかったであろう課題に挑戦する。

＜到達目標＞

過去や未知の情報に臨む際に必要な視角・考え方を身につけるには、そのための勉強をせねばならない。例えば、一つの政治的立場や思想に立脚した時に、自らは何に気づくべきであり、その次には何が問題となるのか、それらを考えられるように、歴史学の考え方を身に付ける。

当時の議論が正しいかどうかではなく、なぜそのように書かれたのか、どう解釈できるのかを理解すること、単なる道具

授業内容

テーマ 1・近代国家とは何か？
『三酔人経綸問答』(中江兆民) × 『文明論之概略』(福沢諭吉)
テーマ 2・国家は何を目指すべきか？
『人権新説』(加藤弘之) × 『平民主義』(幸徳秋水)
テーマ 3・社会はどうあるべきか？
『貧乏物語』(河上肇) × 『憲政の本義、その有終の美』(吉野作造)
テーマ 4・政治は何を実現すべきか？
『最終戦争論』(石原莞爾) × 『日本改造法案大綱』(北一輝)

＊ 後期でどの範囲を学習するかは、前期の進捗状況と履修状況に応じて定める。上記のテキストでの課題を終えた場合には、「参考書」に挙げたものをテキストとする。

履修上の注意

① 報告の担当に拘わらず、採り上げることになったテキストは通読する。
② テキストの他にも、補足として史料や論稿を読むことがある。
③ 後期に備えて、夏休みに取り組むべき課題があるので予定しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

① 履修する場合にはテキストをそれぞれ入手し、読み進めておくこと。
それぞれの著者・著作がどのように評価されているかを事前に調べておくこと。
② 毎回の授業を通じて「授業概要」・「到達目標」に挙げた考え方を習得すること。

教科書

＊ここでは安価な新書・文庫を優先して挙げた。出版社や版は問わないので、自身で選んで入手またはコピーしておくこと。
中江兆民『三酔人経綸問答』(岩波文庫)：青 110-1。
加藤弘之『人権新説：全』(谷山樓藏版一八八三年)。
福沢諭吉『文明論之概略』(岩波文庫)：青 102-1。
河上 肇『現代語訳 貧乏物語』佐藤優(講談社現代新書)：2372。
幸徳秋水「社会主義」・「非戦論」・「思想と趣味」『平民主義』(中公クラシックス)：Ｊ 58。
吉野作造『憲政の本義、その有終の美』山田博雄訳(光文社古典新訳文庫)：Ｃヨ1-1。
石原莞爾『最終戦争論』(中公文庫)：B 1-11 20 世紀 BIBLIO。
石原莞爾『戦争史大観』(中公文庫)：B 14-7 BIBLIO S。
石原莞爾『世界最終戦争』(新書版)(毎日ワンズ、二〇一九年)。
北 一輝『日本改造法案大綱』(中公文庫)：き 42-1。

参考書

『明六雑誌』上 (岩波文庫)：青 130-1。
吉野作造『憲政の本義』(中公文庫)：よ-56-1。
内村鑑三『余はいかにしてキリスト信徒になりしか』(岩波文庫)：青 119-2。
河上 肇『河上肇評論集』杉原四郎編(岩波文庫)：青 132-7。
E・H・カー『歴史とは何か』清水幾太郎訳(岩波新書、一九六二年)。
エリック・ホブズボーム『帝国の時代 1875-1914』野口建彦・野口照子訳(みすず書房、一九九三年)。
ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』白石隆・白石さや訳(書籍工房早山、二〇〇七年)。
西川長夫『国民国家論の射程 ： あるいは「国民」という怪物について』増補版(柏書房、二〇一二年)。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間の前後に教室で対応する。

成績評価の方法

報告、および課題に取り組む姿勢や理解度で評定する。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
荒木 仁朗	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、論文講読と史料輪読を通じて日本近世史に関する基礎的知識を養っていく演習です。

前半は、各自卒業論文に向けて関心がある分野の論文を選び、講読をする。報告者は、論文講読のレジュメを作成して報告し、それをもとに教員と受講者で講読論文の研究史上における意義を討論する。後半は、まず第一に活字化された地方文書を講読する。そのテキストは東京都大田区史編さん委員会編『大田区史』(資料編)とする。特に年貢関係文書を輪読し、年貢徴収の仕組みを理解していく予定である。つまり、この授業の柱は論文講読と史料輪読である。その上で第二として活字史料に慣れてきたら、原文書の写真版を輪読していく。

卒業論文作成に必要な基礎的スキルを獲得することを到達目標とする。そのうえで、近世史への理解と関心を深め、問題意識を高めたい。

授業内容

第1回 授業の目的・進め方、文献の探し方
第2回 卒業論文に向けた関心のある分野の論文報告及び討論1
第3回 卒業論文に向けた関心のある分野の論文報告及び討論2
第4回 卒業論文に向けた関心のある分野の論文報告及び討論3
第5回 卒業論文に向けた関心のある分野の論文報告及び討論4
第6回 卒業論文に向けた関心のある分野の論文報告及び討論5
第7回 卒業論文に向けた関心のある分野の論文報告及び討論6
第8回 史料輪読1
第9回 史料輪読2
第 10 回 史料輪読3
第 11 回 史料輪読4
第 12 回 史料輪読5
第 13 回 史料輪読6
第 14 回 史料輪読7

受講者の人数や興味関心・史料読解能力に応じて、内容を変更することもある。

履修上の注意

報告担当者は、必ずレジュメを作成し、絶対に無断欠席しないこと。担当箇所に登場する文献や史料にもできる限り確認してレジュメを作成すること。受講者も該当箇所を予習(講読)し、疑問点を整理して討論に積極的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に講読する論文・史料を読み、論文講読では疑問点を整理し、史料輪読では理解できない語句を調べ現代語訳できるように予習をおこなうこと。復習としては、講読論文ないしは講読史料および授業時に配布したレジュメを読み返すこと。予習には 90～120 分, 復習には 60 分程度する。

教科書

とくに指定しない。必要な資料などは適宜配布する。

参考書

史料輪読に際して、古文書解読辞典として、児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』(東京堂出版、1981 年)ないしは児玉幸多編『くずし字解読辞典』(東京堂出版)または林英夫監修『新編・古文書解読字典』(柏書房、1993 年)を推奨しておく。なお、「特集／はじめて学ぶ日本近世史」(『歴史評論』813 号、2018 年)も受講に際して一読しておくことをお勧めする。

課題に対するフィードバックの方法

レポートの全体講評および解説を Oh-o! Meiji で提出が終了した後に行う。

成績評価の方法

報告 30% レポート 30% 授業への貢献度 40%
なお報告担当時の欠席は、成績に重大な影響を与える。

その他

・古文書解読の補習授業(サブゼミ)を試験的に行ったが、
熱心に勉強する学生にとって評判が良かったため、
来年度も引き続き継続したい。金曜4限の時間帯に
実施することを予定している。
・くずし字の読解と古文書調査に関心がある者は相談のこと。
・オプションとして、授業終了後1月末ないしは2月頭に史料収蔵機関
(および原文書の閲覧)への見学を実施している。

科目ナンバー：(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 直人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本ゼミナールでは、日本近現代史という 1 つの学問領域を意識しつつも、隣接諸学を含む多様な領域の論考に触れてまいります。近年ますます、〈学際〉性が重んじられるようになってきましたが、個々の学問領域が先行して存在し、それらを越境する〈学際〉的な研究テーマなるものが、あとから生じてきたわけではありません。むしろ、あらゆる研究テーマは本来〈学際〉的であるにもかかわらず、学問の側が、専門分化(それ自体は悪いことではありませんが……)によってその可能性を狭めてきた側面があるとも言えそうです。卒業論文を書く上でも、多様な方法論に馴染みがあった方が、恐らく良いアイディアが浮かびやすくなるかと思います。民俗学・哲学・文学など、領域の壁を取り払ってつまみ食いしてみましょう。

【到達目標】

一般的には他の学問領域に属するとされている論考をも、(それぞれの危うさを自覚しつつ)積極的に取り込んでいける柔軟な思考を養うと同時に、他分野という鏡を通して、日本史学・日本近現代史の姿(弱点も)を捉え直していくことが、秋学期の目標となります。完璧な学問分野などというものはありませんし、完璧な論文などというものもありません。

授業内容

各回の担当者による口頭報告(毎回 1～2 名)と少人数のグループ討論(3～5 名程度)を、主な内容といたします。初回授業時に、候補となる文献のリストをお配りしたいと思いますので、その中から担当したい論文を選んで下さい(歴史学・文化人類学・民俗学・哲学・社会学・日本文学・日本語学など。リクエストに応じて、リスト外の文献も扱います)。秋学期の発表回数は 1 回。

第 1 回 そこに壁はあるのか
第 2 回 論文講読とグループ討論の予行演習
第 3 回～第 13 回 口頭報告と討論
※ 受講者の人数や関心等によって、取り上げる文献は変わりますが、ご参考までに、昨年度の講読文献と同候補文献(実際には講読しなかったもの)をいくつか挙げておきたいと思います。
・【日本史学】牧原憲夫「万歳の誕生」
・【日本史学】勝俣鎮夫「バック トゥ ザ フューチュアー：過去と向き合うということ」
・【文化人類学】川田順造「声と文字と歴史と：「文字を必要としなかった社会」からの視点」
・【民俗学】八木透「民俗学の生い立ちと現在」
・【社会学】佐藤健二「クダンの誕生」
・【社会学】吉見俊哉「運動会の思想：明治日本と祝祭文化」
・【哲学】永井均「私とは誰か？」
・【哲学】青山拓央「過去の自分を殺せるか」
・【哲学】飯田隆「クワス算」
・【文学】富山太佳夫「フィクション抜きの史実は存在するか」
・【日本文学】前田愛「音読から黙読へ：近代読者の成立」
・【日本文学】石原千秋「物語と主人公の力学」
・【日本語学】田中ゆかり「方言ヒーロー／ヒロインは、幕末ものに咲く！」
・【漫画論】藤本由香里「「女たちは歴史が嫌い」か？：少女マンガの歴史ものを中心に」
・【漫画論】大塚英志「ディズニーとアヴァンギャルドの野合：外国の人々に向けた日本まんがアニメ史」
第 14 回 秋学期のまとめ
※ 長期休暇中などに、参加任意の巡検ほかを実施する場合があります。

履修上の注意

大学の良いところの 1 つは、学生が自分で、教員を選べるところかなと思っています。担当教員とのミスマッチを防ぐために、恐らく私のゼミだとあまり満足感を得られないのではないかという方々の傾向をお示ししておきます。〈相性診断〉にご活用下さい。

(A)教員が話したことやテクストの内容を、〈正しい〉情報として信じたいタイプの方。
(B)〈結論〉の出ない宙ぶらりん状態を、上手く楽しめない方。「あ、先生、もう議論終わりました」と言う方(終わりません)。
(C)言語化を面倒臭がる方。たとえば、何でも「深いわー」という浅いコメントで済ませようとする方。
(D)コスパやタイパを過度に重んじる(≒1 周回ってコスパやタイパが良くない)方。
(E)他人を「論破」しようとする(≒議論があまり上手ではない)方。
(F)研究不正がダメな理由について、丁寧に説明されても、あまりピンと来ていない方。

逆に、(a)受験日本史を憎んでいる方、(b)日本史が好きで入学したはずなのに、日本史学専攻に入ったらあまり面白くなかった方など、常にモヤモヤを抱えている方々と、一緒に議論出来ればと思っております。文献を講読するゼミですので、文献を講読せずに、出席票だけ出しに来て、授業中ずっと脳をシャットダウンしてても意味はありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、各回の授業までに、その回の課題論文を読んできて下さい(30 分～1 時間程度。当日発言出来るように、疑問点や論点を整理しておいて下さい)。事後学習としては、考えたこと、疑問に思ったことなどをまとめ、コメントシートとして提出して下さい(30 分)。

教科書

教科書は指定いたしません。各回で講読する論文は、「Oh-o! Meiji」システムを通して配信いたします(著作権の範囲内において)。

参考書

指定の参考書はありません。毎回の授業内容に関連して、適宜紹介いたします。

課題に対するフィードバックの方法

各回のコメントシートについては、次の回の授業冒頭で紹介・解説する予定です。

成績評価の方法

・口頭報告：50%
・各回のコメントシート(その他の小課題を含む場合がある)：30%
・面接試験：20%
※ なお、悪質な研究不正が見付かった場合は、100 点減点といたしますので、当該科目の成績評価全体が負の数となり、単位は認定されません。

その他

授業担当者も皆さんも、読者としてはもちろん対等です。参加者全員が、誰かにとっての教師となりえます。「そんなスリリングな読み方があったなんて！」とこちらが驚くような読み方に出会えることを、ひそかに期待しています。たまに、私が言ったことにすぐ納得して、同じことを言う方がいるのですが、「それって私の感想ですよね？」と言いたくなります。教員の言うことなんて、簡単に信じないで下さい。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
五十嵐 基善	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

歴史学は過去を対象とする学問であり、現存する様々な種類の歴史資料を分析し、可能な限り史実に接近することが求められる。そのため、文字資料を読解する能力や、関連・隣接する分野にも留意する学際的視野も必要となる。その上で、先行研究の見解を評価・批判し、自身の見解を述べていくことになる。本授業では、これらの点をふまえて歴史学の理解を深め、卒業論文の執筆に必要な能力の習得を目指す。学術的な文章を書く上で必要なスキルの習得も目指すので、卒業論文の執筆を意識して授業に臨んで欲しい。

なお、この時間(水曜・4限)の文献講読は、春学期と秋学期で担当教員が異なる。日本古代史が基本とはなるが、文献講読 B では物事の共通性・普遍性を重視することで、他の時代に関心がある学生にも成果を得られるよう工夫する。

授業内容

春学期の文献講読 A の内容・報告テーマをふまえ、受講者の関心を重視した授業を進める。卒業論文の執筆を見据えたテーマを設定し、教員が概要を解説した上で、関連する論考を読んで報告・質疑・討論をする形で授業を進める。シラバスには具体的な内容は記載しないが、テーマは受講者の関心を優先して柔軟に対応する。

第1回 イントロダクション(授業の概要・説明)
第2回 報告者の決定 歴史学・日本史学の概要
第3回～第 13 回 教員の解説 受講者の報告
第 14 回 授業の総括

履修上の注意

報告担当者は事前にレジュメを作成し、当日受講者全員に配布すること。受講者は報告の有無にかかわらず、報告箇所を予習して積極的に発言をすること。報告担当者は責任をもって報告を行なうこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

受講者は報告箇所を事前に読み、分からない用語・事項は調べておくこと。また、授業後は報告者・教員の資料に掲出されている参考文献などを読み、授業で扱った事項に関する理解を深めることが望ましい。

教科書

教科書は指定しない。講読する文献は、受講者の関心をふまえて決定・配布する。

参考書

歴史学の基礎文献としては下記のものが有益である。

・『歴史学事典 6 歴史学の方法』樺山紘一責任編集（弘文堂）1998 年
・『戦後歴史学用語辞典』歴史科学協議会編（東京堂出版）2012 年
・『20 世紀日本の歴史学』永原慶二（吉川弘文館）2003 年

解説・報告のテーマに関する参考文献は、授業の中で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭で前回の内容を整理し、レポート作成を進める上で必要な論点を提示する。

成績評価の方法

出席と報告を重視し、学期末のレポートもふまえて総合的に評価する(授業への貢献度 30%、報告 40%、レポート 30%)。積極的に授業に取り組む姿勢は高く評価する。

なお、授業には原則として毎回出席すること。正当な理由のない欠席を 5 回以上した場合、単位を認定することはできないので注意すること。当然のことであるが、4 回まで欠席しても問題ないということではない。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)HIS212J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 豪	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本史学専攻では卒業論文として日本に関する歴史を書くことが求められる。しかし、当然ながら過去のできごとについて知っているだけでは歴史を書くことはできない。そこでこの授業では歴史を書くために不可欠な先行研究の読解方法を学んでもらう。

秋学期では学術論文の読解に慣れることに重点を置き、論文集である『岩波講座 日本通史』シリーズを取りあげる。学術論文を読解するためにはある程度の技術と慣れが必要であり、その訓練を積んでもらいたい。履修者は近現代(主に 1910～60 年代)の論文が収録されている巻のなかから論文を選択し、さらにその論文のテーマとかかわる別の論文を探し出し、両者を比較する報告をしてもらう。そのため論文の検索も実践することになる。少し作業量は多くなるが、意欲的に取り組んでほしい。

授業内容

第 1 回:イントロダクション(1)(授業の内容・進行方法の説明)
第 2 回:イントロダクション(2)(報告方法の説明／テキスト『岩波講座 日本通史』シリーズについて)
第 3 回:〈近代 3〉
第 4 回:〈近代 3〉
第 5 回:〈近代 3〉
第 6 回:〈近代 3〉
第 7 回:〈近代 4〉
第 8 回:〈近代 4〉
第 9 回:〈近代 4〉
第 10 回:〈近代 4〉
第 11 回:〈現代 1〉
第 12 回:〈現代 1〉
第 13 回:〈現代 1〉
第 14 回:まとめ

履修上の注意

報告者はレジュメを作成し、担当範囲の要約、補足説明や論点の提示などを行ってもらう。また、参加者からの質問にも答えられるように十分な準備をしてもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では参加者による議論が何よりも重要である。そのためにも全員が教科書を授業前に熟読しておくことはもちろんのこと、内容についての疑問点や論点を出せるよう準備しておくことが望ましい。

教科書

『岩波講座 日本通史』第 18～20 巻(岩波書店、1994～1995 年)
※ 収録された論文のコピーを配布する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回にてレポートを返却し、講評を行う。

成績評価の方法

授業での報告(40%)、レポート作成(20%)、授業への参加度(40%)によって評価する。理由なく、報告やレポート提出がない場合は評価の対象とならないので注意してほしい。

その他

科目ナンバー：(AL)HIS212J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
文献講読(日本史)B	**文献講読B(日本史)**	
担 当 者	開講期	開講地区
大江　洋代	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文献講読 A では、本の読み方・先行研究の処理の仕方をすこしづつ学びました。
これを踏まえ、文献講読Bでは、最新の論文を読んでみることにチャレンジしていきます。
具体的には毎年6月に発行される『史学雑誌』の「回顧と展望」から各自、一論文を選んでの書評を報告します。「回顧と展望」には、前年における史学史的に重要とされる論文が紹介されています。しかし、ここに選ばれ掲載された論文は、素晴らしいかもしれないし、素晴らしくないかもしれません。本ゼミでは論文をあらゆる角度から検証することを通じて、それが本当に素晴らしい論文かどうか、みなさんそれぞれが自らの腕力で評価できるところまで、論文を読む力を磨きあげていきます。
論文の精読を通じて、歴史学のものの考え方や歴史学の「美しい」論文の書き方を学んできましょう。文献をおもしろく読むこと、そして批判的に読むこと、そこからわくわくと視野を広げていくためのトレーニングを積んで参りましょう。

授業内容

今年6月に発行される『史学雑誌』の「回顧と展望」から各自、論文を選んで報告。
要旨の他、その論文がどのような問題意識の上に書かれたのか、また、史料により実証できているところ、推測にとどまるところの区別、感銘を受けた点、疑問点、批判点、研究史のどこに位置付くのかなどについて、その論文周辺の先行研究や史料を踏まえて、自分なりの読み方を提示してみてください。

第1回　　：本ゼミが目指すもの，テキスト紹介
第2回～第3回：夏休みの宿題その1　ブックレポート
（「美しい論文を読む」報告(『史学雑誌』、『歴史学研究』、『日本史研究』、『日本歴史』に論文掲載されたものを1つ選んで読んでくる))
夏休みの宿題その2　戦後 80 年報告
（戦後 80 年を意識した8月 15 日前後のメディア企画等を視聴した上で考えたことを、文献を1冊以上読んでまとめてくる)

第4回～第 14 回：報告と討論
春休み　　：一日遠足(任意参加)
図書館、アーカイブズ、博物館等の見学と周辺の巡検。参加者の興味関心を踏まえて場所を選定する。

履修上の注意

報告担当者は、自らの決めた報告日に責任を持って行ってください。担当箇所に登場する文献や史料にも目配りしつつ報告レジュメを作成してください。
参加者は全員，当該箇所を読み予習することで報告に向き合って下さい。論文そのもののおもしろさだけでなく、報告者、各参加者の全員の「目からうろこが落ちる」それぞれの読み方を楽しみ、関心を次々に広げていってほしいです。
したがって、報告者や参加者といった自分以外の意見をおもしろいと思える皆さん、それを自分の糧にしたいと思える皆さんに御参加いただくことを切望いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容

本の読み方を会得し、報告者の報告を楽しむためには、各参加者には是非予習をしてきていただきたいです。
各参加者は、毎回報告予定の論文を読み、A4×1枚に要旨と、一言コメントをまとめてみてください。それをもとに議論を行うことで、思いがけない論点を発見したり、歴史の世界の広がり方を実感したり、その瞬間を味わえればよいなと思います。

教科書

・「2025 年の歴史学界　回顧と展望」(『史学雑誌』134－5，2026 年刊行予定)
・上記掲載の論文
※以上は著作権の範囲内で，コピーを配布

参考書

ゼミ中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回予習ペーパーにコメントを書き入れて返却する。
報告者には口頭でコメントする。

成績評価の方法

報告(40%)、毎回の予習レポートに基づくゼミの議論への貢献度(60%)を基準として総合的に勘案して判断します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT221M

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米近代文学講読	**米文学講読A**	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山　義典	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

アメリカン・モダニズム小説の探求_コースタイトル: アメリカン・モダニズム小説の探究_
コース内容:_ コースでは、1900 年代初頭から 1940 年代にかけての作品を取り上げます。これにより、アメリカ文学におけるこの重要な時期の理解を深めるとともに、現代の物語に及ぼすその持続的な影響を探ります。
授業概要_ この授業では、19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけてのアメリカ小説を読みながら、_「アメリカ社会はどのように変わり、人々は何に悩み、何を信じようとしていたのか」を考えていきます。扱う作家は、ケイト・ショパンからウィリアム・フォークナーまで。家族、結婚、町の価値観、戦争、孤独、夢と挫折など、100 年以上前に書かれた作品でありながら、現代の私たちにも驚くほど近いテーマが描かれています。授業ではまず、教員が_作品が書かれた時代背景_作家の問題意識_読解のポイント_わかりやすく整理します。その後、クラスディスカッションを通して、自分はどう感じたか」「他の人はどう読んだか」を共有し、_ 自分自身の読み方や視点を振り返っていきます。の授業では、決まった「正解」を当てることよりも、自分なりの発見や問いを大切にすることを重視します。この授業で扱う 2 つの大きな流れ ① 社会をリアルに描く小説_まず注目するのは、アメリカ社会の現実を鋭く描いた小説です。急速に近代化する社会の中で、偏見_偽善_時代遅れの価値観_がどのように人々を縛っていたのかを読み取ります。代表的な作品として、シンクレア・ルイス『本町通り』この作品は、閉鎖的な地方都市を舞台に、「みんなと同じであること」がなぜ息苦しくなるのかを描いた小説です。② 人間の〈心の中〉を描こうとした小説 20 世紀に入ると、小説は「社会」だけでなく、人間の内面(感情・記憶・意識)へと関心を向け始めます。この時代の作家たちは、「人の心は、そんなに単純じゃない」と感じ、新しい表現方法に挑戦しました。その背景には、ジークムント・フロイトの精神分析理論など、当時の新しい思想の影響もあります。意識の流れ、独白のような語りなど、少し読みにくいけれど、とても実験的で刺激的な小説が生まれました。モダニズム小説が生まれた理由_この時代、多くの作家たちは戦争を経験し、「これまで信じてきた価値観が通用しない」という感覚を抱えていました。_F・スコット・フィッツジェラルド、アーネスト・ヘミングウェイ、ジョン・スタインベック、そしてフォークナーらは、それぞれ異なる方法で「近代を生きる人間」を描こうとしました。_彼らの小説は、✔ 読みにくい ✔ わかりにくい ✔ でも強く印象に残る_——そんな特徴を持っています。この授業で大切にしたいこと_作品を「昔の名作」として遠ざけない_自分の感覚や言葉で考えてみる_他者の読みから、新しい視点を得る_従来の研究と、受講者一人ひとりの現代的な感性をブレンドしながら、「自分だけの読み」を見つけることが、この授業のゴールです。

授業内容

1. イントロダクション（Introduction）_アメリカの小説、評論、社会現象についての概要を紹介し、それぞれの物語の焦点を解説。
2. ケイト・ショパン「1時間の物語」（1894）_ケイト・ショパンの「1時間の物語」について学び、登場人物、時代背景、人間の掟の在り方、その時代の人間関係の考え方を考察。
3. オー・ヘンリー「こころと手」（1902）_オー・ヘンリーの「こころと手」を読み解き、物語の構造と空間を分析。
4. ジョン・スタインベック「朝食」（1938）_スタインベックの「朝食」を通じて、登場人物の職業が何かを読み取る。
5. アーネスト・ヘミングウェイ「殺し屋たち」（1927）_アーネスト・ヘミングウェイの「殺し屋たち」の読解と分析。
6. シャーウッド・アンダーソン「森の中の死」（1933)シャーウッド・アンダーソンの「森の中の死」の老婆の考察。
7. ジョン・スタインベック「プロミス」（1937）ジョン・スタインベックの「プロミス」の仔馬と少年の関係を考察。
8. デルモア・シュワルツ「夢のなかで責任がはじまる」（1937）若者たちが抱える焦りと輝きについての詳細な議論。
9. スコット・フィッツジェラルド「出発までの 3 時間」（1941）_スコット・フィッツジェラルドの「出発までの 3 時間」で何か起こったのか詳細な解説。
10. キャサリン・アン・ポーター「あの子」（1931）_キャサリン・アン・ポーター「あの子」の中で展開する「家族」のテーマを探ります。
11. ウィリアム・フォークナー「納屋を焼く」part 1（1939）_ウィリアム・フォークナーの「納屋を焼く」前半の詳細な分析。
12. ウィリアム・フォークナー「納屋を焼く」part 2（1939）_「納屋を焼く」後半の父と息子の関係。
13. アメリカ音楽の歌、フォーク・ソング、カントリー、ブルーズを聞く_アメリカ音楽のさまざまなジャンルについて学び、その文化的背景を探ります。
14. 春学期のまとめ_学期を通じて学んだ内容の要点をまとめ、総括します。

「＊」マークの付いた作品には、ハンドアウトを使用します。
このリストは、授業内で扱われる各作品の内容と目的を明確にし、学生が期待される学習成果について理解しやすくすることを目指しています。授業では、これらの作品を通じて、アメリカ文学の多様な側面を探求し、それぞれの作品が描く時代背景や社会的な状況、人間関係の概念に焦点を当てます。また、ディスカッションと読解を通じて、受講者は物語の深い理解と解釈のスキルを養うことが期待されます。授業の最終的な目標は、受講者が文学的な知識を深め、批判的思考能力を高めることです。

履修上の注意

シラバスの要点:_ 予習の重要性:_ このコースでは、ハンドアウトとテキストブックを交互に利用します。そのため、授業の内容を事前に予習することが非常に重要です。各授業で扱うテーマやテキストについて、あらかじめ準備をしておくことで、授業への理解が深まります。
出席とクラス参加:_ 定期的な出席はこのコースで成功するために不可欠です。授業に積極的に参加することが期待されており、多くの欠席は授業への参加を困難にしますので、出席には特に注意してください。
プレゼンテーションの実施:_ 毎週、指定されたテキストを読んで、その中から重要と思われるパラグラフや文章を選び出し、それについて短いプレゼンテーションを行います。このプレゼンテーションはクラスでの積極的な参加を示す重要な部分であり、各学生にはしっかりと準備してくることが求められます。

準備学習(予習・復習等)の内容

このコースでは、授業前に配布されるレジュメと資料をしっかり読んでおくことが重要です。_ 事前の準備は、授業に積極的に参加し、内容を深く理解するために不可欠です。

教科書

岩元巌・酒本雅之編『現代アメリカ短編集』(成美堂)　1300 円 ISBN979-4-7919-0519-5_ S Anderson: Death in the Woods / E Hemingway: The Killers /_ J Steinbeck: The Promise / W Faulkner: Barn Burning_

参考書

福嶋 亮太「思考の庭のつくりかた」星海社_ 三宅 香帆『『話が面白い人』は何をどう読んでいるのか」新潮新書_
井上 謙治「アメリカ小説入門」研究社_

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法_ ・課題の具体的な箇所を示し、良い点と改善点を明確に伝える。
・改善のための具体的なアドバイスを含め、建設的なフィードバックを行う。_ ・肯定的なコメントと改善点をバランスよく提示する。_ ・課題はできるだけ速やかに返却し、次の学習に生かせるようにする。

成績評価の方法

このコースで求められる様々な課題の提出物が成績の 30%を占めます。これには、指定された課題の適時提出と、その質が含まれます。
レポート＋課題の提出物 (50%+20%): 70% :
コースの大きな部分を占めるのがレポートで、成績の 50%を構成します。レポートでは、論理的で独自性のある内容の提供が重要です。主題に関する深い理解と、独創的な見解を示すことが期待されます。
クラス参加とプレゼンテーション　30%:
授業への積極的な参加とプレゼンテーションが成績の 20%を占めます。これには、授業内での発言の積極性、議論への貢献度が含まれます。学生はディスカッションに能動的に参加し、プレゼンテーションを通じて自分の理解とアイデアを効果的に伝えることが求められます。

その他

授業完了のための要件:_ この授業を無事に修了するためには、すべての課題を完了し、提出することが必須です。コースの全体的な学習目標を達成し、適切な評価を受けるためには、指定された全ての課題(レポート、プロジェクト、その他の提出物)を期限内に提出することが重要です。

科目ナンバー：(AL)LIT221M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米現代文学講読	**米文学講読B**	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山 義典	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、1960 年代以降のアメリカ文学を中心に、「現代のアメリカ人は、どんな日常を生き、何に悩み、何を大切にしてきたのか」を短編小説・エッセイ・音楽などを通して読み解いていきます。登場するのは、シカゴの下町、郊外の住宅地、南部の家族、思春期の友情、静かな夫婦関係、忘れられない別れ、少し不思議な出来事――大きな歴史事件よりも、「ごく普通の人の人生の一場面」が多く描かれます。作品は一見すると地味に見えるかもしれませんが、読んでいくうちに、「これ、自分や周りの人にもありそうだ」と感じる瞬間がきっとあります。この授業で読む作品とテーマ ● 都市と記憶 スチュアート・ダイベックの「ペット・ミルク」「ファーウェル」では、シカゴという都市を舞台に、子ども時代の記憶や、別れの瞬間の感情をたどります。街と個人の記憶がどのようにつながっているのかを考えます。● 成長・友情・すれ違い トバイアス・ウルフ「ふたりの少年とひとりの少女」では、友情と恋のあいだで揺れる若者の感情を描きます。誰かを好きになること、誰かと距離ができること――その微妙な心理に注目します。● 家族と社会のリアル ドロシー・アリソン「ママ」では、アメリカ南部の家族と母親像を取り上げます。「家族を守る」とはどういうことなのか、きれいごとではない現実を読み解きます。● 感情の複雑さ・沈黙の意味 ジェーン・アン・フィリップス「レイミー」や、レイモンド・カーバー「静けさ」では、言葉にできない感情や、沈黙の中のコミュニケーションを考えます。「話さないこと」は、何を伝えているのか――がテーマです。● 郊外・日常・違和感 ジョン・チーヴァー「深紅の引っ越しトラック」では、郊外での新生活と「理想の家族像」の裏側を読みます。一見幸せそうな日常に潜む違和感に注目します。● 記憶・語り・フィクション レベッカ・ブラウン「わたしたちがやったこと」では、個人と集団の記憶、語ることの意味を考えます。ポール・オースター「オーギー・レンのクリスマス・ストーリー」や、ケリー・リンク「大いなる離婚」では、現実とフィクション、ファンタジーの境界が揺らぐ物語を扱います。● 文学と音楽から見る 1970 年代アメリカ 1970 年代のシンガーソングライターの音楽も取り上げ、文学と音楽の両面から、当時の社会や若者文化を考えます。

授業の進め方とゴール

授業では、教員が作品の背景や読みどころを整理 作品の一場面・表現について考える。ディスカッションで意見を共有。自分の読みを振り返るという流れで進めます。この授業の目的は、難しい理論を覚えること 解を当てることではありません。「この作品、ちょっと気になる」「自分ならこう読むかもしれない」そんな感覚を大切にしながら、現代アメリカ文学を自分の言葉で味わうことがゴールです。

授業内容

1. 授業の概要とイントロダクション: アメリカ文化の探究:イントロダクション
2. スチュアート・ダイベック「ペット・ミルク」: シカゴを駆け抜ける急行列車
3. スティーヴン・ミルハウザー「Snowmen」: 冬の寓話:少年たちと雪の芸術
4. トバイアス・ウルフ「ふたりの少年とひとりの少女」友情と恋のはざまにゆれる三角関係
5. ドロシー・アリソン「ママ」:南部で家族を支える「ママ」と娘の知られざる秘密
6. ジェーン・アン・フィリップス「レイミー」: レイミー:70年代的なコミュニティとそこに生きるひとびとの将来
7. レベッカ・ブラウン「わたしたちがやったこと」: わたしとあなたはどのようにお互いのアイデンティティを確立するのか。
8. レイモンド・カーバー「静けさ」: 静寂の中の沈黙とコミュニケーション
9. ジョン・チーヴァー「深紅の引っ越しトラック 」郊外の新生活とニューファミリーの登場
10. 米国の 1970 年代のシンガー・ソングライターの世界と 70 年代社会の風景
11. スチュアート・ダイベック「ファーウェル」: さよならの瞬間:ヨーロッパ世界を垣間見る先生とわたし
12. ポール・オースター「オーギー・レンのクリスマス・ストーリー」: オーギー・レンの話とクリスマス・ストーリーの奇跡
13. ケリー・リンク「大いなる離婚」:「家族のファンタジーと現実社会の交差点」
14. 授業のまとめと発表: 「総括:アメリカ小説と文化探究:個人発表と意見交換」

履修上の注意

この授業は春学期の「米近代文学講読」と関連が深いため、秋学期のみの履修を考えている学生は、その点に特に注意が必要です。春学期の授業内容に基づいた知識や情報が、秋学期の授業で前提とされることがあります。学生は、授業で取り上げられる文学作品から重要なパラグラフやパッセージを選び出し、それらについてのプレゼンテーションを行うことが求められます。これは授業の理解を深め、議論を豊かにするために重要です。そのため、授業の準備は欠かせません。授業の中で ZOOM を使う週があります。ZOOM のチャット機能を利用します。また、各授業の終了後、受講者はその日のレクチャーや議論に対するレスポンスを提出することになります。これは学生の理解度や参加度を確認するためのものです。さらに、授業中の出席と参加、および提出するレポートやエッセイも評価の対象となります。授業への定期的な出席と積極的な参加、課題の期限内提出は非常に重要ですので、注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業への準備として、講師が指定した特定の部分に特に注意を払って予習を行ってください。これには、事前に提供されるレジュメや配布資料を念入りに読み込み、授業中に議論できるような質問やコメントを準備することが含まれます。この予習は、授業の内容を深く理解し、より有意義なディスカッションに貢献するために重要です。さらに、授業終了後に提出するレスポンスについても、事前にしっかりと準備をすることが求められます。このレスポンスは、授業で学んだ内容や議論に基づいて書かれるべきであり、予習を通して得た理解と見解を反映させることが望ましいです。このような準備は、授業の効果を最大化し、あなたの学びを深めるために不可欠です。

教科書

テキスト新装版『柴田元幸ハイブ・リット』(アルク)とアメリカ文学関係ハンドアウトを利用する。新装版を利用するので、ご注意ください。授業は『柴田元幸ハイブ・リット』(アルク)とハンドアウト中心に行う。毎週、クラスの前に事前に指定された課題を予習することが大切である。

参考書

三宅 香帆『文体のひみつ』サンクチュアリブック 2025 年 岩元 巌『現代アメリカ文学講義』彩流社 2016 年
福嶋 亮太『思考の庭のつくり方』星海社親書211

課題に対するフィードバックの方法

課題の内容・構成・表現について、具体例を示しながらコメントを行う。良い点を評価すると同時に、改善の方向性を明確に伝え、次回の書き直しにつなげる。フィードバックは原則として速やかに返却する。

成績評価の方法

1. 提出するもの(40%): この部分は、授業中に求められる様々な課題の提出に基づいて評価されます。定期的な小テストや短いエッセイなど、指示された全ての課題の提出がこの評価の一部を構成します。2. レポート提出(30%): レポートの評価は、成績の半分を占める重要な部分です。ここでは、提出されたレポートがどれだけ論理的で、独自の視点や深い洞察を含んでいるかが重視されます。研究内容の質、論理的な構成、文献の使用、独創性などが評価の基準となります。3. クラス参加＋プレゼンテーション(30%): 授業への参加度は、授業内での発言や議論への貢献度に基づいて評価されます。積極的な参加、質の高い発言、他の学生との有意義な対話などが評価されます。また、プレゼンテーションの質もこの部分で考慮され、内容の深さ、発表の明確さ、質疑応答への対応などが重要です。全体的に、授業への積極的な参加、質の高いレポートの提出、効果的なプレゼンテーションが、高い成績を得るための鍵となります。各要素は総合的に評価され、全体の成績に大きく影響します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米散文読解	**米文学講読D**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹内 理矢	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

20 世紀アメリカ人作家がしるした散文(エッセイや手紙など)を丁寧に読解・解釈していく授業です。扱う作家は、ウィリアム・フォークナー、スコット・フィッツジェラルド、アーネスト・ヘミングウェイを中心に考えていますが、それ以外の作家(ウィラ・キャザー、カーソン・マッカラーズ、トルーマン・カポーティなど)の名散文も読む場合があります。たとえば、フォークナは、1955 年に文化大使として来日し、日本と米国南部の戦後と文学について論及した「日本の若者たちへ」や「日本の印象」といったエッセイを書き残し、フィッツジェラルドは、「私の失われた都市」というニューヨークへの哀惜をつづったエッセイを発表し、ヘミングウェイは、主としてパリ時代を振り返った『移動祝祭日』という散文集を世に送りだしています。いずれも美しい彫琢された文体で書き上げられ、創作と人生、作家の深遠な内面世界、作家の時代を見つめる鋭い眼が表現され、作品理解の大きな助けになることはもちろん、わたしたち読み手の人生を広げ、深めることにつながっていくとおもいます。じっくり丹念に作家・作品に向き合いたい学生にとくに受講をお勧めしたいとおもいます。そのほか、時間があれば、『ミッドナイト・イン・パリ』などアメリカの小説家が登場したりアメリカ文学が原作となっている映画のスクリプトも読んでみようと考えています。

授業内容

授業では、担当者の発表(要約・語注・考察)とコメンテイターの意見を踏まえて、英文解釈と作品世界の考察を行います。

1. イントロダクション
2. 散文精読1
3. 散文精読2
4. 散文精読3
5. 散文精読4
6. 散文精読5
7. 散文精読6
8. 散文精読7
9. 散文精読8
10. 散文精読9
11. 散文精読10
12. 映画スクリプト1
13. 映画スクリプト2
14. 映画スクリプト3

履修上の注意

授業では解釈や考察を述べる機会もあるので、主体的かつ積極的な授業参加が必要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として受講者全員、課題範囲を読み、単語・熟語調べや和訳などの準備をしましょう。授業後は、範囲を再読し考察を深めてください。

教科書

プリントを配布します。

参考書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編 ミネルヴァ書房出版)
『講義 アメリカ文学史[全三巻]』(渡辺利雄著 研究社出版)

課題に対するフィードバックの方法

提出したリアクションペーパのなかから、興味深い考えや視点を次回の授業冒頭で紹介し、理解を深めます。

成績評価の方法

授業への貢献度・出席(30%)、発表・提出物(20%)、レポート(50%)。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT321M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米詩読解	**米文学講読C**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

詩は国民文学の精髄と言われ、歴史の古い国家の最初の文学は詩でした。18 世紀後半にアメリカ合衆国が成立したとき、旧世界であるヨーロッパでは既に詩以外のジャンル(演劇や小説)が発展していましたが、アメリカという新しい国の文化的独立のために「アメリカ詩」(American Poetry)「アメリカ詩人」が求められました。そのとき、英詩(English Poetry)をアメリカに住む詩人が書けばいいという問題ではなく、旧世界とは異なる「新しい」「アメリカ詩」が探求されたのです。そのため、英詩の伝統に基づく「良い詩作品」を書けばすむのではなく、優れたアメリカ詩人達は「アメリカ詩」とは何かを常に問いながら作品を生み出していきました。この授業では、アメリカの詩作品を、アメリカの歴史を辿るように年代順に広く読み、詩人達が苦闘した「詩とは」「アメリカ詩とは」という問題について考えていきます。このような一貫した主題に加えて、詩人それぞれ、作品それぞれの「個性」について深く分析していくことを目指します。

授業内容

授業予定は以下の通りです。
1. イントロダクション:「アメリカ詩」とは？
2. Anne Bradstreet
3. Walt Whitman
4. Emily Dickinson
5. Robert Frost, Ezra Pound
6. William Carlos Williams, Wallace Stevens
7. Langston Hughes, Hart Crane
8. Allen Ginsberg
9. Sylvia Plath
10. Adrienne Rich
11. Louise Gluck
12. Li-Young Lee
13. Bob Dylan
14. レヴュー
＊上記の予定表は履修者の関心や習熟度によって多少変更されます。

履修上の注意

授業で教員の解説を聞く前に、事前に自分で詩作品を読み、最初に自分がどのように感じたかを意識して大事にしてもらいたいと思います。そのため、各自、毎回の授業で扱う予定の詩作品を予習してください。発表担当者は、詩作品の日本語訳(既存の訳を参考にして構いませんが、英語の語彙を調べ、自分なりの英語解釈に努力して下さい)と解釈を配布資料として用意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修上の注意と参照してください。

教科書

詩作品はクラスウェブを通して入手可能なようにする予定です。

参考書

亀井俊介『英詩を愉しむ』南雲堂、2021。
亀井俊介、川本皓嗣編『アメリカ名詩選』岩波、1993。
朝比奈緑『詩が語るアメリカ――多様なる声への誘い』小鳥遊書房、2022。
諏訪部浩一編、梶原照子他共著『アメリカ文学入門[新版]』三修社、2024。*アメリカ詩人の解説頁
Poetry Foundation.

課題に対するフィードバックの方法

授業中に発表内容や発言についてフィードバックします。

成績評価の方法

学期末レポート 50%、発表・議論への参加 50%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席が成績評価の前提条件です。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学史Ⅰ	**米文学史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

なぜ米文学史を学ぶ必要があるのでしょうか。アメリカ文学作品を背景知識なしに読んでも楽しめますし、感銘を受けることもあるでしょう。しかし、そういうナイーヴな読み方は自分の限られた経験――21 世紀現代日本に生きる皆さんの経験――の範疇を出ることなく、異なる時代・環境・文化に生きた作家の視野を著しく誤解したまま、自分の物の見方に合わせてしまう恐れがあります。米文学史を学び、作品が生み出された時代背景、歴史、作家の個性を知ることは、作品を強引に自分の方に合わせることなく、作品に誠実に向き合い、より豊かに読む手助けになります。逆方向に見れば、アメリカ文学作品はアメリカの個々の時代・環境・文化を作家の個性が編み上げた集大成ですから、作品を通してアメリカの歴史・文化・地域性を学ぶことができます。最後に、米文学史の授業を通して、文学を楽しむだけでなく「研究」するための基礎知識と方法論を学ぶことを挙げておきます。

授業内容

アメリカの歴史的背景を辿り、文学史の概略をつかみ、個々の作家作品について学ぶ、という方法で進みます。大まかな時代区分に沿った歴史、文学史の概略、代表的な作家の紹介については指定教科書を中心に解説しますが、履修者の皆さんには個別の作品(英語原文)に出来るだけ触れてもらいたいので、焦点をあてる作品の抜粋(Oh-o！Meiji のクラスウェブを通して配信)を精読してください。春学期は以下の予定で進みます。

1. イントロダクション
＜植民地時代 1607-1776＞
2. ピューリタン文学
3. 啓蒙思想
＜独立期から南北戦争まで 1776-1865＞
4. ロマンティシズム①
5. ロマンティシズム②
6. アメリカン・ルネサンス①
7. アメリカン・ルネサンス②
8. アメリカン・ルネサンス③
9. アメリカン・ルネサンス④
10. アメリカン・ルネサンス⑤
11. 南北戦争期の文学
＜南北戦争後から世紀転換期まで 1865-1900＞
12. リアリズムの勃興
13. リアリズムの展開
＊上記の予定表は、履修者の習熟度や関心によって多少修正する可能性があります。

履修上の注意

授業の出席がとても大事です。毎回、新しい作家作品・歴史的文学史上の知識を解説していきます。
授業中に指示するだけでなく Oh-o！Meiji を通して連絡することが多いので、クラスウェブを確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

イントロダクションで詳しく説明しますが、予習は①作品(英語テクスト)の抜粋の精読、②教科書の指定箇所:時代区分に沿った歴史・文学史の概略と作家紹介に目を通しておくことです。復習は、授業の解説を忘れないうちに自分の考察(感想・疑問点)をまとめることです。

教科書

諏訪部浩一・梶原照子他『アメリカ文学入門[新版]』、三修社、2025 年。

参考書

亀井俊介『アメリカ文学史講義』全三巻 、南雲堂、1997-2000 年。
竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学――源流と展開』、ミネルヴァ書房、2021 年。
平石貴樹『アメリカ文学史』、松柏社、2010 年。

課題に対するフィードバックの方法

課題(作品についての考察)を 2 回以上、提出してもらう予定です。そのフィードバックは、授業内での全体講評を通して行います。

成績評価の方法

授業への積極的な参加・課題 30%、学期末試験 70%。全授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT121J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学史Ⅱ	**米文学史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

なぜ米文学史を学ぶ必要があるのでしょうか。アメリカ文学作品を背景知識なしに読んでも楽しめますし、感銘を受けることもあるでしょう。しかし、そういうナイーヴな読み方は自分の限られた経験――21 世紀現代日本に生きる皆さんの経験――の範疇を出ることなく、異なる時代・環境・文化に生きた作家の視野を著しく誤解したまま、自分の物の見方に合わせてしまう恐れがあります。米文学史を学び、作品が生み出された時代背景、歴史、作家の個性を知ることは、作品を強引に自分の方に合わせることなく、作品に誠実に向き合い、より豊かに読む手助けになります。逆方向に見れば、アメリカ文学作品はアメリカの個々の時代・環境・文化を作家の個性が編み上げた集大成ですから、作品を通してアメリカの歴史・文化・地域性を学ぶことができます。最後に、米文学史の授業を通して、文学を楽しむだけでなく「研究」するための基礎知識と方法論を学ぶことを挙げておきます。

授業内容

アメリカの歴史的背景を辿り、文学史の概略をつかみ、個々の作家作品について学ぶ、という方法で進みます。大まかな時代区分に沿った歴史、文学史の概略、代表的な作家の紹介については指定教科書を中心に解説しますが、履修者の皆さんには個別の作品(英語原文)に出来るだけ触れてもらいたいので、焦点をあてる作品の抜粋(Oh-o！Meiji のクラスウェブを通して配信)を精読してください。

秋学期は以下の予定で進みます。

1. イントロダクション
＜南北戦争後から世紀転換期 1865-1900＞
2-1. 地方色文学、先駆的モダニズム、心理主義的リアリズム
＜世紀転換期から第一次世界大戦まで 1900-1917＞
2-2. ナチュラリズム/自然主義文学
＜第 1 次世界大戦後から第 2 次世界大戦まで 1917-1945＞
3. モダニズム(詩)
4-1. モダニズム(小説)ロスト・ジェネレーション
4-2. ロスト・ジェネレーション②/サザン・ルネサンス
5. ハーレム・ルネサンス
6. モダニズム(社会抗議の小説)
＜第 2 次世界大戦後から冷戦終結まで 1945-1990＞
7. ポストモダニズムへ(1950 年前後の小説)
8. ポストモダニズム(詩)
9. ポストモダンのマイノリティの文学①
10. ポストモダンのマイノリティの文学②
11-1. ミニマリズム
11-2.境界脱構築的 SF
＜冷戦終結後から 21 世紀 1990->
12. 21 世紀の二人のノーベル文学賞詩人

＊上記の予定表は、履修者の習熟度や関心によって多少修正する可能性があります。

履修上の注意

授業の出席がとても大事です。毎回、新しい作家作品・歴史的文学史上の知識を解説していきます。

授業中に指示するだけでなく Oh-o！Meiji を通して連絡することが多いので、クラスウェブを確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

イントロダクションで詳しく説明しますが、予習は①作品(英語テクスト)の抜粋の精読、②教科書の指定箇所：時代区分に沿った歴史・文学史の概略と作家紹介に目を通しておくことです。復習は、授業の解説を忘れないうちに自分の考察(感想・疑問点)をまとめることです。

教科書

諏訪部浩一・梶原照子他『アメリカ文学入門[新版]』、三修社、2025 年。

参考書

亀井俊介『アメリカ文学史講義』全三巻 、南雲堂、1997-2000 年。
竹内理矢・山本洋平編『深まりゆくアメリカ文学――源流と展開』、ミネルヴァ書房、2021 年。
平石貴樹『アメリカ文学史』、松柏社、2010 年。

課題に対するフィードバックの方法

課題(作品についての考察)を二回以上提出してもらう予定です。そのフィードバックは授業内での全体講評を通して行います。

成績評価の方法

授業への積極的な参加・課題 30%、学期末試験 70%。全授業回数の三分の二以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学と階級	**米作家作品研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期は『子供の時間』(リリアン・ヘルマン)を、秋学期は『るつぼ』(アーサー・ミラー)読みます。原文・日本語訳を併用しながら進めていきます。両作とも、子供の「訴え」が大人の社会を揺るがす事態を引き起こす物語です。どちらも映画化されているため、映画も視聴しながら年齢やジェンダーといった視点や、個としての在り方を考えます。また、フィクションというジャンル自体についても考えます。作品を読んでひっかかる箇所、ハッとする箇所を意識しながら、文学を読む意義・意味、さらに自分にとって良い作品とは何か、という基準についても考えます。アメリカ文学を読んだことがないという受講者も歓迎します。

授業内容

授業冒頭、作品読解に入る前に英語圏の歌を聞いて、歌詞の意味について考えます。
また、英語で書かれた「俳句」(リチャード・ライト)の作品を毎回とりあげて想像力を膨らませます。

作品読解については、登場する人物のキャラクター像のほか、使われているメタファーなどに着目しながら読み進めていきます。

履修上の注意

受講者数(規模)に応じて具体的な進め方を決定する予定です。この点は初回に確認します。
自分がどこに着目したか、単語レベル、キャラクターレベル、プロットレベル等で必ず毎週授業までに考えをまとめておくこと。
なお、現代的な観点から見てふさわしくない表現や、暴力的な表現が扱う文学作品で用いられることもある。
「良くない」表現かもしれないが、文学批評をする以上、それらの表現が当時持っていた意味や、あえて作品中で使用されている意味を考える必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料(作品)に目を通しておいてください。

教科書

無し。必要な資料は配布します。

参考書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

受講者数(規模)に応じて異なりますが、授業で書いてもらったコメント等に関しては翌週の冒頭で共有します。

成績評価の方法

出席 30%、レポートを除く提出物 30%、期末レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学と芸術	**米作家作品研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

《声(voice)》の芸術としての詩

この授業では、アメリカ詩を中心に、「《声(voice)》の芸術としての詩」について考察していきます。詩はどのように生み出されるのか。抒情詩(lyric)のルーツを辿れば、古代ギリシアの弦楽器リラ(lyre)に合わせた言葉つまり「歌」として古代共同体で共有された芸術でした。近代の印刷技術の発展による「目で読むもの」として詩の認識や、他の文学ジャンルや芸術ジャンルの発展により、現代詩についての受容は大きく変化を遂げました。その変遷のなかでは、古来の共同体性を喪った「孤独な独り言」(by S. ミル)としての現代抒情詩の姿や、20 世紀の前衛的絵画に照応した視覚的な詩の言語実験も見られます。多様に変容する詩という芸術において、《声》の伝統の復活を色濃く刻むのは 19 世紀中葉のウォルト・ホイットマンの¥"Song of Myself¥"、20 世紀後半のアレン・ギンズバーグの¥"Howl¥"、そして 2016 年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランの歌になるでしょう。しかしながら、このような先例を通して、詩における《声》とは、実際に朗誦して声に出すこと、ある種のパフォーマティヴな演出だという単純な理解で終わってはいけません。2020 年にノーベル文学賞を受賞したルイーズ・グリュックは、詩の《声》は音読すると見失われてしまうかもしれない、と述べたことがあります。なぜなら詩の《声》は濃密で、多義的だからです。実際に一人の人が音読して一つの声に限定してしまう前の、多層を含んだ濃縮された《声》、自己・魂の代名詞でもある《声》が詩の本質だと考えられます。このよう視点から、様々な詩作品を皆さんと一緒に読み、感じ、解釈し、また問いを発していきます。

授業内容

授業予定は以下の通りです。

1. イントロダクション
2. 歌としてアメリカ詩
2−1 Walt Whitman
2−2 Allen Ginsberg
2−3 Bob Dylan
3. 《声》の探求
3−1 Louise Gluck
3−2 Sylvia Plath
3−3 Adrienne Rich
3−4 Li-Young Lee
4. 詩という芸術
4−1 Emily Dickinson
4−2 Louise Gluck②

＊上記の予定表は、履修者の関心や習熟度によって多少の変更があります。

履修上の注意

授業は講義形式で進みますが、教員の解説を聞く前に、事前に自分で詩作品を読み、自分が最初に感じたことを大切にしてもらいたいと思っています。毎回、予定されている詩作品を読んでおいてください。感想や疑問をメモ書きでも残しておくことを強く勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修上の注意を参照してください。

教科書

クラスウェブを通して入手可能にする予定です。

参考書

授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

毎回のコメント用紙について、次回の授業時に全体でフィードバックします。

成績評価の方法

学期末レポート 60%、授業への積極的な参加(出席・発言・コメント用紙)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

(アメリカ)詩を今まで読んでこなかった人も、主題に興味があれば、ぜひ参加してください。英語に関しては、日本語訳を紹介するなど、英語力に不安のある人も授業についていけます。ただし、出席が重要です。

科目ナンバー：(AL)LIT321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学と個人	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、個人を観点に米文学作品を読み解くことを通して、作品を一つの観点から分析し、批評する学術的手法に触れます。同時に、教員の講義を手助けとしながら、個人が作品を生み出し、作品に個人が書き込まれている諸相を学んでゆきます。

授業内容

毎回、短篇小説一本を扱い、それぞれに「問い」が設定してあります。授業では、受講生のみなさんから事前に提出していただいた「回答」を紹介しながら、こちらが説明を行ないます。

01. イントロダクション
02. Edward P. Jones
03. Charles W. Chesnutt
04. Delmore Schwartz
05. Shirley Jackson
06. Vladimir Nabokov
07. Sylvia Plath
08. John Cheever
09. Raymond Carver
10. Gene Wolfe
11. Jhumpa Lahiri
12. David Foster Wallace
13. Yiyun Li
14. George Saunders

履修上の注意

授業には英語の辞書を持参し、適宜参照してください。なお、扱う作家・作品は変更される可能性もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：毎回、課題作品を読んだ上で、こちらが提示した「問い」に答えてください。

復習：授業中の説明とは別の観点から作品を読解できないか、考えてみてください。

なお、作品テクストはオリジナル(英語)と翻訳(日本語)の両方を用意しますが、気になった作品や気になった箇所だけでもよいので、オリジナル版を読んでみてください。

教科書

使用しません。資料を配付します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中に(匿名の状態で)質問・コメントに回答します。

成績評価の方法

授業参加点(課題の提出)50%

最終レポート 50%

なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学とコミュニケーション	**英米劇作家作品研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アメリカ合衆国における視覚文化を学びます。資料として映画作品を毎回、部分的に視聴します。
前期は米国の映画とスターの関係について、1910 年代から 1950 年代までの変遷を概観します。後期は「見ること」に焦点を合わせながら、認識の枠組みがどのように形成されてきたのか考えます。文化の発展を通時的に振り返りながら、現在を見つめなおす批評精神を確立することを目標とします。映像や資料は英語ベースのものを使用しますが、こちらで適宜解説していきます。

授業内容

各回、テーマに沿って映像や資料を確認します。

1. イントロダクション
視るという行為の「文化的意味」
2. 身体を見る／診る／視ること：南北戦争(1861-1865)における病院
負傷した身体表象と情報の共有、新たな知の獲得について
3. 見ることと見られることの関係性について：権力およびジェンダー構造
4. 見ることとは分類すること：19 世紀における万博とミュージアム
5. 分類できない存在＝モンスター：キングコング
6. P. T. バーナムとフリークショウ
アメリカにおけるホラ話の伝統について
7. アジアに向けられた視線と新たな種の発見について
8. 見る存在としての女性の台頭：1900 年代
視覚文化とデパートの関係(Macy's のパレード)
9. 高所と資本主義：見ることと購買欲(Thanksgiving)
視覚的な表象と文学的な表象の比較について
10.「見せる」ことがもつ力について
11.カメラの位置(1)
12.カメラの位置(2)
13.「見る」ことと主体の形成
14. 総括

履修上の注意

現代的な観点から見てふさわしくない表現(言葉遣いなど)や、暴力的な描写が映画内で用いられることもある。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料は目を通しておいてください。

教科書

無し。必要な資料は配布します。

参考書

授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

受講者数(規模)に応じて異なりますが、授業で書いてもらったコメント等に関しては翌週の冒頭で共有します。

成績評価の方法

出席 30%、レポートを除く提出物 30%、期末レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学とジェンダー	**米作家作品研究A**	
担 当 者	開講期	開講地区
梶原 照子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アメリカのフェミニズム文学の先駆的名作と称される、Kate Chopin(1851-1904)の The Awakening(『目覚め』1899 年)を読みましょう。ショパン(Chopin)は、アメリカ南部ルイジアナ州を舞台とした地方色を描く短編小説家として、好評を博していましたが、『目覚め』を出版したことで、文壇から追放同然の目にあい、失意のまま亡くなります。当時「セックス・フィクション」「汚い小説」という非難を浴びた『目覚め』は、1960 年代のフェミニズム運動の興隆とともに再評価されるのですが、はたして、『目覚め』の女主人公エドナの「目覚め」はどのようなものだったのか、一緒に考えてみましょう。20 世紀後半に通じるフェミニズムの主題を確認するだけでなく、テクストの細部に書き込まれた様々な主題を探っていきましょう。また、短編1~2編も精読し、文章の内容・文体の両面に表れる作家の特色を鑑賞する力を身に付けることを目指します。

授業内容

1. イントロダクション
2. 短編 “Désirée's Baby”
3. The Awakening, Chs.1～4
4. Chs.5～7
5. Chs.8～10
6. Chs.11～14
7. Chs.15～17
8. Chs.18～21
9. Chs.22～25
10. Chs.26～30
11. Chs.31～35
12. Chs.36～39
13. 短編 “The Storm”
14. a. 全体の議論
b. 試験
*履修者の習熟度や関心に合わせて、予定には多少の変更があります。

履修上の注意

翻訳は参考にして構いませんが、作品を深く鑑賞するために、原文を精読する地道な努力が必要です。発表担当者(例:物語の要約、興味深い箇所を 3－5 点選び日本語訳と短い自分の解釈)だけでなく、担当者以外も毎回予習(テクストのその週の範囲を読んでくる)をして授業に臨んで下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

履修上の注意 を参照。

教科書

Kate Chopin,The Awakening, A Norton Critical Edition, 3rd. ed. (New York : Norton, 2018).
上記を底本にしますが、入手しやすい別の版でも構いません。
短編はコピー教材を配布します。

参考書

とくに定めませんが、授業中に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に発表内容(の良かった点と改善点)についてフィードバックします。

成績評価の方法

発表担当・出席/コメント 50%、期末試験 50%。原則として、全授業数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

『目覚め』は 1899 年のアメリカ女性作家の中編小説ですが、主人公と彼女を眺める語り手が探求する「わたしとは何か」「わたしが本当に求めているものは何か」という問いは今世紀の皆さんも男女問わず抱いているものではないでしょうか。英語も平易で読みやすいですし、翻訳も出ていますので、英語力に不安のある人も、主題に興味があれば、ぜひ参加してください。楽しんで読み、議論していきましょう。

科目ナンバー:(AL)LIT322J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学と人種	**米作家作品研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期は『子供の時間』(リリアン・ヘルマン)を、秋学期は『るつぼ』(アーサー・ミラー)読みます。原文・日本語訳を併用しながら進めていきます。両作とも、子供の「訴え」が大人の社会を揺るがす事態を引き起こす物語です。どちらも映画化されているため、映画も視聴しながら年齢やジェンダーといった視点や、個としての在り方を考えます。また、フィクションというジャンル自体についても考えます。作品を読んでひっかかる箇所、ハッとする箇所を意識しながら、文学を読む意義・意味、さらに自分にとって良い作品とは何か、という基準についても考えます。アメリカ文学を読んだことがないという受講者も歓迎します。

授業内容

授業冒頭、作品読解に入る前に英語圏の歌を聞いて、歌詞の意味について考えます。
また、英語で書かれた「俳句」(リチャード・ライト)の作品を毎回とりあげて想像力を膨らませます。
作品読解については、登場する人物のキャラクター像のほか、使われているメタファーなどに着目しながら読み進めていきます。

履修上の注意

受講者数(規模)に応じて具体的な進め方を決定する予定です。この点は初回に確認します。

現代的な観点から見てふさわしくない表現(言葉遣いなど)や、暴力的な描写が作品内で用いられることもある。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料(作品)に目を通しておいてください。

教科書

無し。必要な資料は配布します。

参考書

『深まりゆくアメリカ文学―源流と展開』(竹内理矢、山本洋平編、ミネルヴァ書房、2021 年)

課題に対するフィードバックの方法

受講者数(規模)に応じて異なりますが、授業で書いてもらったコメント等に関しては翌週の冒頭で共有します。

成績評価の方法

出席 30%、レポートを除く提出物 30%、期末レポート 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LIT321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文学と歴史	**ー**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、歴史を観点に米文学作品を読み解くことを通して、作品を一つの観点から分析し、批評する学術的手法に触れます。同時に、教員の講義を手助けとしながら、歴史が作品を生み出し、作品に歴史が書き込まれている諸相を学んでゆきます。

授業内容

毎回、短篇小説一本を扱い、それぞれに「問い」が設定してあります。授業では、受講生のみなさんから事前に提出していただいた「回答」を紹介しながら、こちらが説明を行ないます。

01. イントロダクション
02. Jack Finney
03. Washington Irving
04. Ambrose Bierce
05. Susan Glaspell
06. Ernest Hemingway
07. Irwin Shwa
08. Philip K. Dick
09. Flannery O' Connor
10. Bernard Malamud
11. Alice Walker
12. Tim O' Brien
13. Susan Sontag
14. Aleksandar Hemon

履修上の注意

授業には英語の辞書を持参し、適宜参照してください。なお、扱う作家・作品は変更される可能性もあります。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:毎回、課題作品を読んだ上で、こちらが提示した「問い」に答えてください。
復習:授業中の説明とは別の観点から作品を読解できないか、考えてみてください。

なお、作品テクストはオリジナル(英語)と翻訳(日本語)の両方を用意しますが、気になった作品や気になった箇所だけでもよいので、オリジナル版を読んでみてください。

教科書

使用しません。資料を配付します。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中に(匿名の状態で)質問・コメントに回答します。

成績評価の方法

授業参加点(課題の提出)50%
最終レポート 50%
なお原則として、全授業回数の3分の2以上の出席が成績評価の前提条件となります。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT322J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
米文化研究	**英米文化研究B**	
担 当 者	開講期	開講地区
横山 晃	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

アメリカ合衆国における視覚文化を学びます。資料として映画作品を毎回、部分的に視聴します。

前期は米国の映画とスターの関係について、1910 年代から 1950 年代までの変遷を概観します。後期は「見ること」に焦点を合わせながら、認識の枠組みがどのように形成されてきたのか考えます。文化の発展を通時的に振り返りながら、現在を見つめなおす批評精神を確立することを目標とします。映像や資料は英語ベースのものを使用しますが、こちらで適宜解説していきます。

授業内容

各回、テーマに沿って映像や資料を確認します。年代毎に分けた週では社会・歴史的な背景についても学びます。

1. イントロダクション
2.スターとは誰か(1): サイレントおよびトーキーの特徴--Chaplin や Keaton を例に
3.スターとは誰か(2): サイレントおよびトーキーの特徴--Pickford や Garbo を例に
4.スターの型としての ¥"Rags-to-Riches¥": Garland
5.1930 年代のスターの「形」: Mae West, 「人気」とは観客の欲望か
6.スター像について
7. ドキュメンタリーフィルム
記録媒体としての役割
8. 人種とエスニシティ①
非英語圏文化、アジア系／イタリア系／アフリカ系アメリカ人、
9. 人種とエスニシティ②
非英語圏文化、アジア系／イタリア系／アフリカ系アメリカ人、
10. ジェンダー／セクシュアリティ①
「スター」の魅力とは何か
11. ジェンダー／セクシュアリティ②
「スター」の魅力とは何か
12.「モンスター」の表象
映画 King Kong(1933)を中心に
13. 言語哲学の観点から
フィクショナルなキャラクターの存在について
「スター」の名前とその指示対象の関連について
14. 総括

履修上の注意

現代的な観点から見てふさわしくない表現(言葉遣いなど)や、暴力的な描写が映画内で用いられることもある。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布された資料は目を通しておいてください。

教科書

無し。必要な資料は配布します。

参考書

授業時に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

受講者数(規模)に応じて異なりますが、授業で書いてもらったコメント等に関しては翌週の冒頭で共有します。

成績評価の方法

出席 30%、レポートを除く提出物 30%、期末レポート 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT391J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
編集・企画	**編集・企画**	
担 当 者	開講期	開講地区
相良 剛	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

書籍・雑誌の編集・企画とはどういうことをするのか学びます。

授業内容

出版といういとなみの中で, 編集と企画とは何を目指し, どういうことをするのか, 小課題とレポートで具体的な作業も交えながら, 授業を進めます。

第1回:編集・企画という講義タイトルについて
第2回:編集について(その1):概観
第3回:編集について(その2):原稿チェックの基本
第4回:編集について(その3):やや高度な原稿チェック
第5回:編集について(その4):タイトルの考え方
第6回:編集者の仕事1―生活雑誌
第7回:編集者の仕事2―女性誌
第8回:編集者の仕事3―シニア女性誌
第9回:編集者の仕事4―文芸誌・コミック誌
第 10 回:企画について(その1)―概論
第 11 回:企画について(その2)―インタビュー企画を立ててみる
第 12 回:企画について(その3)―実際の企画をみる1
第 13 回:企画について(その4)―実際の企画をみる2
第 14 回:企画について(その4)―実際の企画をみる3

履修上の注意

編集や企画は抽象的なものではありません。具体的な作業をともなう「小課題」(3回程度)と「レポート」(2回)を課します。積極的な取り組みを求めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布資料に授業前・授業後に目をとおし, じゅうぶんに理解すること。

教科書

とくに指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考書

授業のなかで適宜, 提示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出された小課題について、全員の結果を一覧表などにまとめたプリントを配布。
適宜、それにもとづき出席者のリアクションを集計してクラスに還元する。

成績評価の方法

平常点…40%, 「小課題」と「レポート」…60%

その他

より総合的に書籍と雑誌について学びたい諸君は, 「DTP」(事前登録・抽選科目)ならびに春学期開講の「出版印刷研究」もあわせて受講することを勧めます。

科目ナンバー:(AL)SOC391J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
放送メディア論	**放送論**	
担 当 者	開講期	開講地区
米倉 律	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

映像・音声メディアである放送は、数百～数千万の人々に同時に視聴されるマス・メディアとして巨大産業へと発展し、日本の政治・社会・文化に大きな影響を与えてきた。その一方で放送は今、デジタル化や「放送・通信の融合」、インターネット、ソーシャル・メディア、携帯情報端末の普及といったメディア環境の急激な変化の中で、大きな転換期を迎えてもいる。

本授業では、メディアとは何か・放送とは何かという基礎論から出発しつつ、「送り手＝(放送局、制作者)」、「受け手＝(視聴者)」、「コンテンツ(＝番組)」のそれぞれの観点から放送のあり方について多角的に検討し、放送のあるべき姿や将来像、課題等を探る。

放送をとりまく現代的状況、メディア環境の変化が放送にもたらしている影響などについて理論的、および実践的に理解・習得することを到達目標とする。

授業内容

第1回:イントロダクション
第2回:メディアとは何か、放送メディアとは何か
第3回:制度・装置産業としての放送
第4回:放送産業の構造と実相①:公共放送の組織と事業運営
第5回:放送産業の構造と実相②:公共放送の放送事業の特徴と課題
第6回:放送産業の構造と実相③:民放のネットワークとビジネスモデル
第7回:放送産業の構造と実相④:民放の番組制作の特徴と課題
第8回:震災報道①:災害報道の課題
第9回:震災報道②:復興に向き合う、被災者に寄り添う
第 10 回:放送と集合的記憶①:戦争記憶と 8 月ジャーナリズム
第 11 回:放送と集合的記憶②:日本の戦争加害をめぐる表象
第 12 回:放送におけるジェンダーバイアス
第 13 回:テレビの行方
第 14 回:a.総括 b.授業内試験(レポート)

履修上の注意

授業内容の理解を深めるためにも、普段からテレビを批判的・分析的に視聴する習慣を身に付けておくことが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、教科書、参考書、関連文献などについて目を通しておくこと。また、復習として、授業での配布資料、ノートなどを読み返すこと。
予習には 60～100 分、復習には 80 分要する。

教科書

『新 放送論』島崎哲彦・米倉律編(学文社)2018 年

参考書

『図説 日本のメディア』藤竹暁・竹下俊郎(NHK 出版)2018 年

課題に対するフィードバックの方法

授業内で適宜、説明する。

成績評価の方法

授業への貢献度(30%)、レポート(70%)

その他

科目ナンバー:(AL)LIT351J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
翻訳・翻案研究	**翻訳研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
山中 剛史	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

翻訳・翻案研究といっても狭義の「翻訳文学」研究というのではなく、現代的な状況を踏まえながら、文学作品の映像化やコミック化などメディアのジャンルを異にした翻案＝アダプテーションについて、その多層的なありように迫る。
原作とアダプテーション作品との関係を考えることで、文学自体また他メディアにおける固有の条件や限界などを改めて捉え直し、アダプテーション作品に対する基礎的知識と批評眼を涵養することを講義の到達目標とする。

授業内容

第 1 回:翻訳・翻案・アダプテーション
第2回:アダプテーションの理論①―パラゴーネ
第3回:アダプテーションの理論②―受容理論と窃
第4回:原典と展開①―再話の創造性
第5回:原典と展開②―古典の現代化
第6回:原典と展開③―モデル小説
第7回:「読んでから見るか、見てから読むか」
第8回:想像力の差異と限界―「パノラマ島奇談」
第9回:盲目の視覚化―「春琴抄」
第 10 回:原作者によるアダプテーション
第 11 回:アダプテーションの変奏―「金閣寺」
第 12 回:短歌から映画へ―寺山修司
第 13 回:「文豪」イメージの拡散
第 14 回:アダプテーションの現在―まとめ
＊講義内容は一部変更する場合もある。

履修上の注意

映画や演劇、そしてまた現代文化、サブカルチャーなど文学だけにとらわれない旺盛な知的関心を抱く学生に向いている。自分なりの問題意識を持って授業に臨んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

配布するレジュメを振り返り、自分なりに講義ノートをまとめておくこと。講義内容についての質問は随時受け付ける。また講義ごとに紹介する参考文献などに目を通し、あらかじめ自分なりの問題意識を持って授業に臨むこと。準備学習に要する時間は 1～2 時間。

教科書

特に定めない。

参考書

リンダ・ハッチオン／片渕悦久他訳『アダプテーションの理論』(晃洋書房)
ジェラール・ジュネット／和泉涼一訳『パランプセスト: 第二次の文学』(水声社)
浅井健二郎他訳『ベンヤミン・コレクション 2』(ちくま学芸文庫)
ミーケ・バル『カラバッジオの引用』(シカゴ大学出版局)

課題に対するフィードバックの方法

提出されたリアクションペーパーのうち、全体にフィードバックすべき内容が記されているものについては、次回の講義冒頭で紹介・補足等を行う。

成績評価の方法

不定期のリアクションペーパーと小テストを課す。
授業への参加度(50%)＋小テスト(50%)

その他

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
南アジア史A	**南アジア史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
小嶋 常喜	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業ではインダス文明の誕生からナショナリズム勃興前までの南アジアの歴史を概観し、「複合的社会」や「多様性社会」などと称される南アジア世界が歴史的にいかに形成されてきたかを検討する。とりわけ南アジア史の展開にとって重要な内在的諸問題とともに、隣接する地域世界との交渉や植民地支配の中で南アジアの政治・文化・社会が大きな影響を受けたという点にも着目する。近年の南アジア史研究の動向にも注意を払いつつ、特殊な地域とされる南アジアの事例を歴史研究に関わる一般的な諸問題と結びつけながら授業を進める。近年のインド映画やドキュメンタリーなどから良質な映像資料を多く取り上げ、南アジアの多様な文化について積極的に紹介していきたい。

本授業の到達目標の一つは、南アジア史がどのような力学で展開してきたのかというダイナミクスを理解し、南アジアの古代・中世・近世・近代という各時代について大観的把握が可能になることである。また、歴史を学ぶことは現在をより良く理解することであることから、歴史的視点から現在の南アジア世界の諸問題を理解可能になることがもう一つの重要な到達目標である。そして南アジア世界の諸問題を特殊なものとはせず、自らが生きる社会の諸問題とも比較・関連させながら理解することを学生諸君に求めたい。

授業内容

第１回 複合的社会としての南アジア～イントロダクション
第２回 南アジアの古代文明～インダス文明とその交易ネットワーク
第３回 「アーリヤ人」とは誰か？～ヴェーダ時代の社会
第４回 仏教の誕生と南アジア社会
第５回 仏教美術と貨幣にあらわれる古代南アジアの東西交流
第６回 ヒンドゥー教とカースト
第７回 南アジアの「中世」～社会・文化の多様性はどのように育まれたのか
第８回 スーフィーと聖者廟～南アジアのイスラーム(1)
第９回 インド=イスラーム文化～南アジアのイスラーム(2)
第10回 インド洋海域世界～海がつなぐ世界
第11回 植民地支配と南アジアの「近代」
第12回 差異化と分類～植民地社会を記録することの意味
第13回 「文化と帝国主義」～キプリング、クリケット、チャイ
第14回 a:試験 b:まとめ 講義全体のふりかえり

履修上の注意

高校世界史探究で扱う南アジア史の内容を理解していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業後、授業内容および授業で配布する史資料などを使って振り返りを行い、「振り返りシート」をオンラインで提出すること。

教科書

特定のテキストは使用しない。講義ごとにレジュメと史資料を配布し、視聴覚資料についてはパワーポイントなどで提示する。

参考書

内藤雅雄・中村平治編『南アジアの歴史』、有斐閣、2006 年。
石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編『ようこそ南アジア世界へ』、昭和堂、2020 年。
辛島昇編『南アジア史』(世界各国史)、山川出版社、2004 年。
小西正捷・山崎元一編『南アジア史 1 先史・古代』(世界歴史大系)、山川出版社、2007 年。
小谷汪之編『南アジア史 2 中世・近世』(世界歴史体系)、山川出版社、2007 年。
辛島昇編『南アジア史 3 南インド』(世界歴史体系)、山川出版社、2007 年。
長崎暢子編『南アジア史 4 近代・現代』(世界歴史体系)、山川出版社、2019 年。

課題に対するフィードバックの方法

提出された「振り返りシート」を添削し、不十分な点や質問に対しては、個別に返信する。また重要なものについては次回の授業で解説を行う。

成績評価の方法

13 回の授業のうち 10 回分の「振り返りシート」40%、期末試験 60%で評価する。提出された「振り返りシート」の内容が不十分な場合は評価しない。

その他

南アジア史 B(秋学期)を連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)HIS321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
南アジア史B	**南アジア史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
小嶋 常喜	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

植民地期におけるナショナリズム勃興から「グローバルサウス」、「新興国」、「BRICS」などと称されてその経済発展が注目を浴びている現在までの南アジア近現代史を概観する。本授業では南アジアにおける植民地支配に重点をおき、植民地社会におけるアイデンティティ構築やナショナリズム形成、脱植民地化後の各国の政治・経済、そしていまも解決されないポストコロニアルな諸問題について扱う。インドとパキスタンの独立から約 80 年がたち、改めて注目が集まっている分離独立をめぐる諸問題も含め、近年の研究状況や南アジアの現状を踏まえながら授業を展開する。春学期の南アジア史 A と同様に、より理解を深めるために、近年のインド映画やドキュメンタリーなどから良質な映像資料を多く取り上げたい。

本授業の到達目標の一つは、植民地支配が政治的・経済的・社会的・文化的な意味で被支配社会に極めて重要な影響を及ぼし続けていることを認識し、植民地主義を克服しかつ南アジアの豊かな多様性を守るために様々な努力が行われてきたことについて理解できるようになることである。また、歴史を学ぶことは現在をより良く理解することであることから、歴史的視点から現在の南アジア世界の諸問題を理解可能になることがもう一つの重要な到達目標である。そして南アジア世界の諸問題を特殊なものとはせず、自らが生きる社会の諸問題とも比較・関連させながら理解することを学生諸君に求めたい。

授業内容

第１回 インド大反乱をめぐる諸問題
第２回 植民地エリートとナショナリズムの勃興～南アジアのナショナリズム(1)
第３回 インド兵はなぜ戦ったのか？～第一次世界大戦と南アジア
第４回 M・K・ガンディーの思想と行動～南アジアのナショナリズム(2)
第５回 ヒンドゥーとムスリムの境界～南アジアのナショナリズム(3)
第６回 B・R・アンベードカルと不可触民解放運動
第７回 ファシズムと植民地主義のはざまで～第二次世界大戦と南アジア
第８回 脱植民地化～印パ分離独立の過程
第９回 南アジア諸国の政治・経済
第10回 南アジアと日本～その交流の歴史
第11回 歴史と記憶～南アジアのポストコロニアル(1)(オンデマンド)
第12回 カシュミールをめぐる諸問題～南アジアのポストコロニアル(2)
第13回 南アジア系移民の歴史
第14回 a:試験 b:まとめ 講義全体のふりかえり

履修上の注意

高校世界史探究で扱う南アジア史の内容を理解していることが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業後、授業内容および授業で配布する史資料などを使って振り返りを行い、「振り返りシート」をオンラインで提出すること。

教科書

特定のテキストは使用しない。講義ごとにレジュメと史資料を配布し、視聴覚資料についてはパワーポイントなどで提示する。

参考書

石坂晋哉・宇根義己・舟橋健太編『ようこそ南アジア世界へ』、昭和堂、2020 年。
辛島昇編『南アジア史』(世界各国史)、山川出版社、2004 年。
内藤雅雄・中村平治編『南アジアの歴史』、有斐閣、2006 年。
長崎暢子編『南アジア史 4 近代・現代』(世界歴史体系)、山川出版社、2019 年。
ラーマチャンドラ・グハ(佐藤宏訳)『インド現代史 1947-2007』上・下巻、明石書店、2012 年。

課題に対するフィードバックの方法

提出された「振り返りシート」を添削し、不十分な点や質問に対しては、個別に返信する。また重要なものについては次回の授業で解説を行う。

成績評価の方法

13 回の授業のうち 10 回分の「振り返りシート」40%、期末試験 60%で評価する。提出された「振り返りシート」の内容が不十分な場合は評価しない。

その他

南アジア史 A(春学期)から連続して受講することが望ましい。

科目ナンバー：(AL)ART332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ミュージカル論	**舞台芸術研究ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
辻 佐保子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この講義では、アメリカン・ミュージカルの表現手法の歴史を、アメリカの社会動向との相互的な関係を踏まえながら辿ります。現在、アメリカン・ミュージカルは日本も含めて世界各国で上演されており、その際、「アメリカ発のポピュラー・エンターテインメント」という背景を抜きにして受容されることも決して珍しくはありません。しかし、アメリカン・ミュージカルの劇作の方法論(たとえば、楽曲とドラマの関係性や、歌・ダンスの働き)は、アメリカの政治的・社会的・経済的・文化的状況と密接に関わっています。

以上の前提に立って、本授業では、表現手法の成立や変化を多角的な視点から考察することを通して、アメリカン・ミュージカルが刻んできた歴史をダイナミックにとらえていきます。

この講義の到達目標は、次の通りです。

・アメリカン・ミュージカルの歴史の基本知識を身につける。
・各時代の代表的な作家や作品を知り、その特徴を理解する。
・ミュージカルを規定する美学や、様々な条件を知り、時代や地域といかに深く関わるかを理解する。

授業内容

第１回 a オリエンテーション(本講義の目的と概要)
b アメリカン・ミュージカル前史①：独立前後のアメリカ、ミンストレル・ショー、メロドラマ
第２回 アメリカン・ミュージカル前史②：ヴォードヴィル、ティン・パン・アレー、レヴュー、ミュージカル・コメディ
第３回 エポック・メイキングとしての『ショー・ボート』
第４回 大恐慌下のアメリカン・ミュージカル
第５回 新たな時代の始まりへ：「統合」概念の席巻
第６回 WWII から冷戦期のミュージカル(前編)
第７回 WWII から冷戦期のミュージカル(後編)
第８回 「分離」の時代のミュージカルへ
第９回 幻滅と孤独の時代のミュージカル
第 10 回 アメリカの保守化、ブロードウェイのテーマパーク化、ミュージカルのフランチャイズ化
第 11 回 国家と自己の暗がりを見つめるアメリカン・ミュージカル
第 12 回 グローバル資本主義とアメリカン・ミュージカル
第 13 回 21 世紀のアメリカン・ミュージカル
第 14 回 a まとめ
b 試験

履修上の注意

教員による説明はあるものの、日本語字幕のついていない映像を視聴する機会があるので、その点は留意すること。
また、講義ノートは授業当日2時間前までにはコースページにアップするので、各自でダウンロードしたり印刷したりすること。ただし、初回授業は教員が印刷して持参する。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業でとりあげた作品を、劇場や映画館に直接足を運んだり、レンタルや配信といったサービスを利用して、鑑賞することが望ましいです。
また、授業では限られた数の作品や作り手しか言及できないため、参考書をよく読み、より深く複合的にミュージカル史を理解するよう努めてください。

教科書

特になし

参考書

・小山内伸『ミュージカル史』中央公論社、2016 年
・スコット・マクミリン『ドラマとしてのミュージカル』有泉学宙訳、彩流社、2015 年
・日比野啓『アメリカン・ミュージカルとその時代』青土社、2020 年
・宮本直美『ミュージカルの歴史 なぜ突然歌い踊るのか』中公新書、2022 年
・長尾晃一『ミュージカルの解剖学』春秋社、2024 年。
・山本秀行・渡邊真理香編著『アメリカン・ミュージカルと文化表象』小鳥遊書房、2025 年

課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を課すコメントシートの中から、優れたものや質問を抜粋し、次回冒頭にフィードバックを行う。

成績評価の方法

コメントシート(35%)、試験(65%)
※対面形式での試験を実施する。

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)ANT121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
民俗学Ⅰ	**民俗学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 英恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の民俗学は親から子へ、子から孫へと、世代を超えて人びとがくり返してきた生活文化を対象に、その変遷過程を追究する学問である。この授業では、いのちの民俗学をテーマに、先祖代々にわたって受け継がれてきた人生儀礼を中心に取り上げる。人生儀礼とは、一言でいえば冠婚葬祭にかんする人生の節目を指す。私たちは生まれてから死を迎えるまで、さまざまな儀礼を経験する。本授業では、人生儀礼に関連する歴史民俗的な蓄積をもとに、現代社会における人生儀礼のあり方を提示し、歴史民俗研究における、いのちのあり方を検討していく。本授業の到達目標は、日本民俗学における基礎的概念を理解した上で、世代を超えて受け継がれてきた生活文化を見つめ直し、その変化の考え方を獲得することである。このような視点を持つことは、生活の質を向上させると考える。

授業内容

1)現在学としての民俗を学ぶ意義
2)民俗学とは何か 柳田國男の民俗学
3)人生儀礼と人生の四季
4)人生儀礼と絵の民俗 赤子の誕生を祝う絵の民俗
5)命名の民俗とキラキラネーム
6)いのちの誕生
7)お守りとは何か
8)産育儀礼と子どもの成長
9)民間信仰の神々 生活に密着した神の民俗
10)若者の試練と成長
11)結婚の民俗
12)厄年と年祝い
13)長寿の民俗
14)まとめ 葬送儀礼の民俗とその変化

履修上の注意

必要に応じて授業内でプリントを配布する。民俗学にかんする基礎的な学術用語については、事例を取り上げながら丁寧に解説する。授業内容を掘り下げて理解する場合は、必要に応じて DVD(映像記録)を用いる。授業内容に合わせて教科書の該当ページを指示するので、必ずテキストを手元に置くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、教科書『図解案内日本の民俗』を通読し、予め授業内のテーマに沿った該当ページを読むこと。さらに言えば、自身が関心を持つテーマ、民俗学の内容を獲得することが望ましい。教科書を窓口に、参考図書を参照できるような環境を整えること。復習については、授業内で取り上げた内容を確認し、自分の言葉で説明できるように考え、まとめてみること。予習・復習に際しては、約 100 分を予定すること。

教科書

福田アジオ、内山大介、小林光一郎、鈴木英恵、萩谷良太、吉村風編『図解案内 日本の民俗』(吉川弘文館、2012 年)

参考書

谷口 貢・松崎 憲三編『民俗学講義 生活文化へのアプローチ』(八千代出版、2006 年)
福田アジオほか編『知って役立つ民俗学 現代社会への 40 の扉民』(ミネルヴァ書房、2015 年)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で取り上げ、解説する場合がある。

成績評価の方法

民俗学の理解度を深めるため、授業内で小テストをおこなう。また、民俗学に関連するレポート作成の課題を出す。自身が経験した人生儀礼や行事等についての認識を見直すため、レポートの作成に力を注いでもらいたい。適切な時期に、授業内でレポートの書き方と課題内容を説明する。インターネットの参照は厳禁である。

その他

日々の生活における不思議なこと、なぜ伝統的な風習(民俗)が今でも続いているのかなど、常に問題意識を持ちながらの受講を心掛けてほしい。現代社会に根付いてきた生活文化は、過去から現在にわたって常に変化してきた歴史がある。そうした長い時間軸のなかで、民俗が生成されてきた。現時点で確認できる伝統的な風習(民俗)を認識し、それぞれの(風習)民俗を自らの言葉で説明できる姿勢が必要である。私語は他の受講者に迷惑になる厳禁である。授業の出席だけでは単位取得は認めない。

科目ナンバー：(AL)ANT121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
民俗学Ⅱ	**民俗学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 英恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本の民俗学は親から子へ、子から孫へと、毎年のように人びとがくり返し行ってきた生活文化を対象に、その変遷過程を追究する学問である。この授業では、引き続き春学期で学んだ「いのちの民俗学」を重視する。秋学期「いのちの民俗学Ⅱ」では春学期の内容を掘り下げて医療と民俗学の接点を理解する。季節の節目におこなわれる災い除けの年中行事、そして医療にかんする歴史民俗的な調査研究の蓄積をもとに、人は病気に対してどのように向き合い、病いを克服していったのかを歴史民俗研究のなかに位置づけ、その特性を検討していく。

秋学期では絵の民俗学をテーマに、人びとが日々の生活の中で必要としてきた絵についても取り上げる。絵の民俗学で対象とするのは、主に縁起のよい絵で、将来への願望を絵で表したものである。これらの絵の民俗に関連する調査研究成果を確認しながら、歴史民俗研究のなかで絵の民俗学の位置づけを模索する。

到達目標は、日本民俗学における基礎的概念を理解した上で、過去から現在まで続けられてきた生活文化を発展させる視点を持ち、その考え方を獲得し、自身の生活の質を向上させることである。

授業内容

1)医療民俗学とは何か（その1 医療民俗学の創設）
2)医療民俗学とは何か（その2 医療民俗学の視点と方法）
3)盲目の旅芸人瞽女
4)年中行事とはなにか
5)四季をめぐる民俗（その1 災いを払う民俗）
6)四季をめぐる民俗（その2 災いを払う民俗の特徴）
7)薬の民俗
8)農を楽しむ高齢女性とその生きがい(老人観・健康・農産物直売所・道の駅)
9)伝統を紡ぐこと 民具の発見と民藝(伝統技術を次世代に伝える・老人観)
10)民俗芸能とは何か（次世代に獅子舞を伝える・老人観)
11)地域の民俗芸能を次世代へ（人形芝居を続けること・次世代への継承)
12)モノに宿る霊魂
13)絵の民俗学とは何か ―その視点と方法―
14)まとめ 絵の機能と役割（新年を祝す絵と図像資料)

履修上の注意

必要に応じて授業内でプリントを配布する。授業内では、民俗学にかんする基礎的な学術用語については、事例を取り上げながら丁寧に解説する。授業のテーマを掘り下げて考えるため、場合によっては DVD(映像記録)を用いる。授業内で教科書の該当ページを指示し、説明する場合があるので、必ず手元に置くこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習として、教科書『図解案内日本の民俗』を通読し、予め授業内のテーマに沿った該当ページを読むこと。さらに言えば、教科書から自身の関心あるテーマや項目を獲得することが望ましい。教科書を窓口に、参考図書を参照できるような環境を整えること。復習については、授業内で取り上げた内容を確認し、自分の言葉で説明できるように考えをまとめてみること。予習・復習に際しては、約 100 分を予定すること。

教科書

福田アジオ、内山大介、小林光一郎、鈴木英恵、萩谷良太、吉村風編『図解案内 日本の民俗』(吉川弘文館、2012 年)

参考書

福田アジオほか編『知って役立つ民俗学 現代社会への 40 の扉民』(ミネルヴァ書房、2015 年)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で取り上げ、解説する場合がある。

成績評価の方法

授業の理解度を深めるため、授業内で小テストをおこなう。授業内で取り上げたテーマ、レジュメ、民俗学にかかわるレポート作成の課題を出す。適切な時期に、授業内でレポートの書き方と内容について解説する。インターネットの参照は厳禁である。

その他

日々の生活における不思議なこと、なぜ伝統的な風習(民俗)が今でも続いているのか等、常に問題意識を持ちながらの受講を心掛けてほしい。現代社会における伝統的な風習(民俗)を認識し、その民俗の理解を自らの言葉で説明できる姿勢が必要である。私語は他の受講者に迷惑になる厳禁である。授業の出席だけでは単位取得は認めない。

科目ナンバー：(AL)SOC261J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
メディア研究	**メディア研究**	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

メディアとコミュニケーションの基礎を学ぶ。
集合現象・大衆現象とメディアとのかかわりを通して、それらの背景にある社会や文化を理解すること。
および、それらにかかわる、理論を学ぶことを目的とする。

授業内容

1. イントロダクション――メディアとはなにか
2. パーソナルコミュニケーションとマスコミュニケーションの理論と実例――口コミ・SNS・マスコミ
それぞれの性格の特徴とちがい
3. パーソナルコミュニケーションとマスコミュニケーションの理論と実例――デマとパニック・うわさから都市伝説へ
伝える／伝わる、という技術とわたしたち
4. メディアと流行――産業社会の成立と文化現象とその理論－－なぜ、"変化"することは、推奨されるのか。
5. 現実を構築する――物語をつくる――メディアに託されたもの
6. 世論と大衆操作――私たちが私たちを知ることは可能か
7. 報道とジャーナリズム――事実、とは、伝えることは可能か？ その力のあやうい所在について
8. 事実・広告・告知・宣伝――民主主義とメディアの功罪
9. 大衆文化としての広告――言葉の商業化と生活の植民地化
10. 大衆文化と娯楽――メディアによる人間の肥大化とその傷
11. 大衆文化と娯楽――"楽しみ"のちからと権力
12. インターネット時代の言葉――伝達の可能性をめぐる功罪――メディア的暴力について
13. インターネット時代のメディア倫理とデモクラシーの所在
14. まとめ――現代社会のメディア的諸問題

履修上の注意

授業に関連する資料類を Oh！o-Meiji にあげておくことがある。
資料類はあらかじめ目を通して授業参加すること。
授業内で、受講者の理解度を確認することがある。
日ごろから新聞や雑誌等を読む習慣をつけること。
授業を聞きながら自分でノートをつけること。
身のまわりの現象について好奇心をもち、問いを持ち続けること。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考書等を自分で調べ、授業の内容と合わせて、要点を整理したノートをつくっておくこと。

教科書

指定したものは無し。

参考書

授業内で紹介する。たくさん紹介するので、自分の積極的な学習に役立てること。

課題に対するフィードバックの方法

全体の講評、および注意ポイントや重要な発見などについては、授業内の議論の話題に取り上げることで、フィードバックに代替する。

成績評価の方法

試験 70%、学習への積極性など 30%。

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL)SOC161J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
メディア史	メディア史	
担 当 者	開講期	開講地区
中江 桂子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

メディアというキーワードで、日本の文化史、とくに生活史を検証する。
わたしたちの文化的基層を、メディアと社会のダイナミクスの歴史的結果として理解できることが目標である。

授業内容

1. イントロダクション
2. 都市空間の成立とメディア――江戸から明治近代へ――かわら版・浮世絵・町人たちのメディアの先進性について
3. 時代の変動期の民衆メディア――文化摂取と揺籃の場としての庶民メディアを考える
4. 近代国家とメディア―近代国家への教養的素地とメディアの役割―私たちはなぜ国家に結び付けられているのか
5. 近代メディアとしての新聞――伝統と革新の相克の場としての新聞――輿論と世論・生活文化の変化と新聞
6. ラジオの時代――放送のちからがもたらす社会変動――音としての「ことば」の歴史
7. 視覚メディアの戦前・戦後――時代の変貌をわかりやすく伝える力――日本文化と視覚メディア
8. ラジオ――音としての言葉／標準語なるもの――国民化のメディア
9. 映像メディアの保守性――権力のおだやかな顔をめぐって
10. 雑誌メディアの位置付けとその歴史―同時代の言論・議論を集約する雑誌メディア――表現の自由にかかわる事件
11. テレビの登場――生活文化の都市化への影響――新しい時代の伝統の創造
12. 私たちの表現の自由を奪うもの――世の中を騒がせることは悪か？
3. インターネットの言葉は新しいか――リアリティとバーチャルが混在する世界のリスクと可能性について
14. まとめ

履修上の注意

日ごろから新聞や雑誌などの言論の動向に関心をもつこと。
身の回りの出来事への関心を、相対化し、社会的背景との関連の上で考えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

オオメイジをつかって資料類が配布されることがある。
資料類には必ず目を通して、授業参加すること。
授業の内容を合わせて、自分のノートづくりをすること。
その上で、授業の要点を整理し、頭に入れておくこと。
内容についての問いを持ち続けること。

教科書

なし。

参考書

『大正史講義(文化篇)』(筒井清忠編、ちくま書房)
『昭和史講義(戦後文化篇)上・下』(筒井清忠編 ちくま書房)
『戦争と放送』(竹山昭子、吉川弘文館)
『ラジオの時代』(竹山昭子、世界思想社)
『現代メディア史』(佐藤卓己、岩波書店)
その他。
授業内でも紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

全体の講評、および注意ポイントや重要な発見などについては、授業内の議論の話題に取り上げることで、フィードバックに代替する。

成績評価の方法

試験 70%、学習への積極性など 30%。

その他

とくになし。

科目ナンバー：(AL)SOC291J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
メディア文化論	現代文化論	
担 当 者	開講期	開講地区
佐幸 信介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

文化を経済や政治、あるいは社会と切り分けて単独の領域として論じることは不可能であり、メディアとも不可分な関係にある。
この講義では、歴史的な観点からの表象、複製の問題、近代とメディアとの関係、テクノロジーとメディアといった論点を軸にしつつ、具体的なメディア文化の事例を取り上げながら議論をしていく。とりわけ文化社会学的なアプローチをふまえたえうで、受講生自らが具体的に事象を分析し、議論を組み立てることを到達目標とする。

授業内容

第1回a:イントロダクション
b:複製技術と表象(映像資料:映画の始まり)
第2回:記号の消費から情報の消費へ
第3回:メディアイベントと想像の共同体①(映像資料:20世紀を振り返る映画)
第4回:メディアイベントと想像の共同体②
第5回:オリンピックと都市空間(テキスト:第1章、第2章)
第6回:メディアと現実構成(映像資料:『トゥルーマンショー』)
第7回:メディアとシミュラークル
第8回:ICTと監視社会①(映像資料活用)
第9回:ICTと監視社会②(テキスト:第3章、第4章)
第 10 回:カタストロフィと文化①(映像資料:『ゴジラ』1954年)
第 11 回:カタストロフィと文化②:
第 12 回:メディアと身体①(サイボーグの身体:映像資料)
第 13 回メディアと身体②:クイア化する身体
第 14 回:講義の全体の振り返り

履修上の注意

講義内で数回の小レポートを書いてもらう。レポートのテーマは、講義で扱った内容。概要は第1回目のイントロダクションで説明する。講義のテーマに関連した、さまざまな文化へ接触し、数多く経験することが必要。

準備学習(予習・復習等)の内容

講義に関連した資料や文献などをあらかじめ準備してもらう。具体的には、講義のなかで説明する。また、授業内容と自らのレポートとを比べて、疑問点や不明な部分は、授業で確認すること。

教科書

佐幸信介『空間と統治の社会学』(青弓社)

参考書

講義内で参考文献、必須文献は提示する

課題に対するフィードバックの方法

課題は、リアクションペーパーとして提出する形式やワークシートやレポートの形式を採用する。フィードバックは、講義内での解説や、クラスウェブのコメント機能を使う。

成績評価の方法

授業への参加度(30%)、講義内レポート(70%)

その他

科目ナンバー：(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
弥生時代の考古学A	**弥生時代の考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

弥生時代は本格的な農耕が始まった時代として知られているが、一般的な弥生時代像は特定の地域や時期、事象を強調している場合が多い。弥生時代の特質は、生業の変化にとどまらず、それに連動する社会システム全体の変容にあり、地域的多様性にも富んでいる。本講義では経済、社会、祭祀などの側面について、具体的な事例をもとに解説し、弥生時代の実像を理解することを目標とする。

弥生時代の理解は、つねに最新の資料や研究を受けて見直しが進んできた。現在の理解だけを結論としてただ暗記するのではなく、そこに至るまでの研究史を学ぶことで「弥生時代の本質とは何か」を深く掘り下げ、歴史を考察する力を身につける。授業のなかでも主体的に思考し、自身の意見を組み立てる姿勢を歓迎する。

授業内容

第1回 弥生時代の輪郭
第2回 弥生時代の研究史1―弥生時代研究の黎明
第3回 弥生時代の研究史2―戦前の弥生時代研究
第4回 弥生時代の研究史3―戦後の弥生時代研究
第5回 弥生時代の年代1―相対年代と時代区分
第6回 弥生時代の年代2―暦年代論
第7回 弥生時代の農耕技術
第8回 弥生時代の環境と資源利用
第9回 弥生時代の交流
第 10 回 弥生時代の集落構造
第 11 回 弥生時代の集団
第 12 回 弥生時代の墓制と権力
第 13 回 弥生時代と戦争
第 14 回 弥生文化と東アジア

履修上の注意

考古学専攻生以外の履修も歓迎し、専門知識がなくても理解できるよう努める。ただし、考古学の基本的な考え方や知識は身につけている前提で進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

既習回の内容を理解している前提で授業を進めるため、配布する授業資料や参考書を利用して各自復習しておくこと。

教科書

特に使用しないが、各講義で多数の文献を紹介するので、積極的に目を通すことを推奨する。

参考書

石川日出志 2010『農耕社会の成立』岩波新書

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の終了時に簡易レポートを課し、授業中に提示する小課題に対する自身の考察や授業内容に関連する所感・疑問点を記入して提出してもらう。次回授業の冒頭でこれらを総括し、疑問に対する回答や補足を提示する。

成績評価の方法

毎回の簡易レポートに対する評価を平常点(30%)として、期末レポートの成績(70%)と総合して成績評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(AL)PAC311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
弥生時代の考古学B	**弥生時代の考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
鶴来 航介	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

弥生時代の地域社会は、諸集落が相互に連関しながら多様な要素が絡み合って成り立つ。その様態を正しく読み解くためには、遺物や集落の変化や広がりを丁寧に分析し、相互の関係性をつぶさに検討する必要がある。講義の前半では遺物の形態や技術の展開について取り上げ、後半では南関東に焦点を当てて地域社会の形成過程を概観し、弥生社会を理解するための視点と方法を学ぶ。

考古資料はいくつもの脈絡で当時の社会に紐づいており、切り口を変えれば社会の異なる断面を見ることができる。授業のなかでは考古資料がもつ様々な可能性を提示するので、特定の理解に落とし込むのではなく、資料からより多くの情報を引き出す探究力を涵養してもらいたい。

授業内容

第1回 弥生時代の物質文化
第2回 石器の生産と流通
第3回 鉄器の生産と流通
第4回 木器の生産と流通
第5回 青銅器の精神世界
第6回 青銅器の生産と流通
第7回 装身具の生産と流通
第8回 関東の弥生社会1：縄文から弥生へ
第9回 関東の弥生社会2：再葬墓の広がり
第 10 回 関東の弥生社会3：水田農耕の開始
第 11 回 関東の弥生社会4：環濠集落の展開
第 12 回 関東の弥生社会5：後期の社会変動
第 13 回 関東の弥生社会6：弥生から古墳へ
第 14 回 まとめ

履修上の注意

考古学専攻生以外の履修を歓迎し、専門知識がなくても理解できるよう努める。ただし、考古学の基本的な考え方や知識は身につけている前提で進める。

準備学習(予習・復習等)の内容

既習回の内容を理解している前提で授業を進めるため、配布する授業資料や参考書を利用して各自復習しておくこと。

教科書

特に使用しないが、各講義で多数の文献を紹介するので、積極的に目を通すことを推奨する。

参考書

石川日出志 2010『農耕社会の成立』岩波新書

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業の終了時に簡易レポートを課し、授業中に提示する小課題に対する自身の考察や授業内容に関連する所感・疑問点を記入して提出してもらう。次回授業の冒頭でこれらを総括し、疑問に対する回答や補足を提示する。

成績評価の方法

毎回のレポートに対する評価を平常点(30%)として、期末レポートの成績(70%)と総合して成績評価をおこなう。

その他

科目ナンバー：(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ライフコースと人間	ライフサイクルと人間Ⅱ	
担 当 者	開講期	開講地区
平山 満紀	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

受胎から死後に到る(誕生から死までではないことが本授業の特徴。ただし死後については「生者が死後をどう考えるかの想念」を考察する)人生の諸段階が，特にこの数十年間の社会変動の中でどう変化してきたかを見ながら，その現代日本でのあり方の特徴を反省的に掴んでいく。一方で(1)年齢やライフイベントにともなう身体の変化を(性的発達，妊娠・出産・産後，更年期，老いなど)，(2)ジェンダーとセクシュアリティに，特に焦点を当てる。具体的には、たとえば女性の生涯の月経回数の増加，男女の不妊の増加，また長寿化や健康年齢の上昇，若者の性的関心の変化，親密な関係性の変化，ポルノの性生活への影響などを取り上げていく。

到達目標は，人生の各段階についての，現代日本社会の特徴をつかみ，それを場合によっては作り替えながら，それぞれの人が持てる生命力を十全に発揮できる方途を見つける，基本的な知識と発想を身につけることである。

授業内容

第1回 ライフコースとは。社会と寿命。人生の諸段階のさまざまな考え方，あり方。
第2回 受胎＝妊娠，中絶，胎児期，誕生:
第3回 乳児期，子ども期(1)：＜子ども＞の誕生。子どもをかこむ生活環境や人間関係。
第4回 子ども期(2)：子どもと学校。子どもの格差。子どもとジェンダー。子どもの性教育
第5回 思春期：性的発達と身体の発達。社会性の発達。思春期の暴力性。思春期と孤独。現代日本の性的発達。思春期の性教育
第6回 青年期(1)：＜青年期＞の誕生と普及。青年たちと社会
第7回 青年期(2)：＜青年期＞の現代的変容。アイデンティティの現代的変容。
第8回 成人期(1)：キャリア形成。社会経済的格差。職業とジェンダー
第9回 成人期(2)：現代日本の親密な関係性。恋愛，性関係，ソロで生きる。
第 10 回 成人期(3)：現代日本人の性。
第 11 回 成人期(4)：次世代育成性。親になることとならないこと。
第 12 回 成人期(5)：＜中年＞の誕生。中年の危機。
第 13 回 老年期：更年期の心身の変化。老年期の心身の変化。＜老年期＞の現代的変容。
第 14 回 死：死への準備。現代日本の孤独死，無縁死。死後についての考え方とその変化。葬送と墓制。ライフコース全体を見通して。最終回の授業では、定期試験の一部(正誤問題の部分)をおこなう。

履修上の注意

日本の現代史(およそ 1960 年代～2020 年代)の知識が基盤にないと、時代的変化の説明が理解しにくい。ところが、高校までの日本史では、現代史を取り上げないため、学んだことがなく、知識不足の学生が多いのが現状である。現代史、昭和史、平成史などの基礎知識を得る本、記録動画などを自分でも心がけて学ぶことを求めたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

特定のライフコースの人の生き方を取材したドキュメンタリー動画を見たり、特定のライフコースにある人の書いた手記を読み、レポートを書くなど、授業中に指示する。

教科書

平山の執筆した私家版テキストを使用する。Oh-o!Meiji から各自ダウンロードのこと。

参考書

『母性社会の行方』平山満紀，紀伊國屋書店
『ライフコースの社会学』井上俊ほか編，岩波書店
『アイデンティティ』E・H・エリクソン，金沢文庫
『幼児期と社会1，2』E・H・エリクソン，みすず書房
『社会的ひきこもり』斎藤環，PHP 新書
『日本の少子化対策はなぜ失敗したのか』山田昌弘,光文社新書
『夫婦幻想―子あり、子なし、子の成長後』奥田祥子,ちくま新書
『超ソロ社会 「独身大国・日本」の衝撃』荒川和久,PHP 新書 ほか随時紹介

課題に対するフィードバックの方法

各回の課題は、週末までに Oh-o！Meiji に提出してもらい、それに対し次の回の授業の冒頭で、フィードバックをおこなう。優秀な意見、面白い意見は紹介し、誤解等は指摘し、質問にはお答えする。

成績評価の方法

毎回の授業の終わりに，リアクションペーパーに，課題を提示して，または自由な内容で，小文を書いてもらう。

期末試験をおこない，その形式は，正誤問題と記述問題とする。いずれも，持ち込み不可。正誤問題は，Oh-o！Meiji 機能を使っておこないたいので，授業の最終回でおこなう予定。記述問題は，定期試験期間中におこなう。定期試験期間中の試験は，通常授業とは時間が異なっているので，文学部事務からの連絡によく注意すること。開始時間を間違えた人への救済措置はありません。

成績評価は，授業毎のレスポンス 5 割，期末試験 5 割の総合評価とします。

その他

科目ナンバー：(AL)ARS131J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ラテンアメリカ文化論	ラテンアメリカ文化論	
担 当 者	開講期	開講地区
所 康弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【概要】
ラテンアメリカ・カリブ海地域は、世界でもっとも強烈なコントラスト(光と影、明暗の差異)を持つ大陸です。しかし、日本から遠く離れているため、この地域の社会や文化、生活について知る機会は多くありません。本授業では、資料や動画を活用しながら、その解説を行います。

【目的】
歴史を紐解きながら、多文化・多民族社会としてのラテンアメリカの特異性を学び、文化の平等性と多様性を理解することを目指します。それにより、多様で複雑な現代世界に対応するための、より実践的な知識を身につけることを目的とします。

授業内容

第 1 回:イントロダクション(地域の特徴)
ラテンアメリカ・カリブ海地域の概要と特徴について紹介します。
第 2 回:国を知る(各国の特徴)
各国の社会・文化的特徴を概観します。
第 3 回:文明と古代文化①(「失われた文明 インカ・マヤ」の視聴と解説)
古代文明の興隆と、その文化的な特徴を学びます。
第 4 回:文明と古代文化②(「失われた文明 インカ・マヤ」の視聴と解説)
古代文明と、その後の植民地時代の人種的要素の形成について解説します。
第 5 回:社会の歴史①(奴隷貿易とラテンアメリカ)
奴隷貿易がラテンアメリカ・カリブ社会に与えた影響を探ります。
第 6 回:社会の歴史②(奴隷制と多民族・多文化)
奴隷制がもたらした多民族・多文化社会の形成について学びます。
第 7 回:社会の歴史③(奴隷制と下層民衆文化)
奴隷制の中で発展した民衆文化について考察します。
第 8 回:貧困の文化①
壁画運動とその文化的影響について分析します。
第 9 回:貧困の文化②
「死者の日」とその社会的影響を取り上げます。
第 10 回:現代に生きる文化①
ピクサー映画「リメンバー・ミー」から考える「死者の日」
第 11 回:現代に生きる文化②
ラテン音楽(「ラ・バンバ」)の多様性とその文化的背景を探ります。
第 12 回:麻薬の文化①
米国とメキシコの問題に焦点を当て、その社会的側面を考えます。
第 13 回:麻薬の文化②
麻薬戦争がラテンアメリカ社会に与えた影響について議論します。
第 14 回:学期末試験

履修上の注意

毎回、15 分程度の小テスト(リアクションペーパーの記入)を、授業内に実施します。
なお、この課題提出が規定数に満たない場合、成績評価の対象になりません。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書は中間レポート課題のために使用する。11 月初旬頃までに各自、読んでおいてください。
中間レポート課題テーマ:指定教科書を読んで「奴隷貿易と奴隷制が新生アメリカに果たした人種的影響について」を記述し、また、教科書全体の内容に対する自身の所感を述べてください。文字数 2,000 字程度(目途)。
レポートの形式の詳細、提出日、提出方法などは後日、Oh- Meiji で指示します。

教科書

授業に関しては、そのつど講義資料を配布します。
中間レポート課題、ならびに期末試験(「持ち込み可」)のために使用する教科書は以下の通りです。
ブレンダ・E・スティーヴンソン『奴隷制の歴史』ちくま学芸文庫、2023 年。

参考書

所康弘ほか著『グローバルサウス入門』文眞堂、2025 年。
所康弘ほか編『日本の国際協力 中南米編 環境保全と貧困克服を目指して』ミネルヴァ書房、2021 年。
所康弘『米州の貿易・開発と地域統合』法律文化社、2017 年。
所康弘『北米地域統合と途上国経済』西田書店、2009 年。
オリヴィエ・ダベーヌ他(太田佐絵子訳)『地図で見るラテンアメリカハンドブック』原書房、2017 年。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパー課題に対する講評を授業内で行います。
11 月中に中間レポート課題に対する講評を授業内で行います。

成績評価の方法

毎回の授業で実施するリアクションペーパー(20%)、中間レポート課題(20%)、学期末試験(60%)の成績に基づいて評価します。
※学期末試験は「持ち込み可」(大学が定める範囲内)とします。

なお、理由のいかんを問わず、リアクションペーパーについて「未提出」または「低評価(C 評価未満)」が 5 回以上ある場合は、成績評価の対象としません。

その他

【※重要】担当教員が商学部で開講する科目との重複履修は控えてください。

科目ナンバー：(AL)LAN291N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ラテン語初級	ラテン語ＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ラテン語入門で名詞や形容詞の格変化、そして動詞の活用を学びました。これで格変化や活用の基本的なルールがだいぶ理解できたことでしょう。

秋学期のラテン語初級では、実際に文章を読む上で欠かせない関係代名詞や分詞構文、それに接続法などを学びます。

ラテン語の初級文法をマスターして、ラテン語の作品世界に少しずつ踏み込みましょう。

授業内容

14 回分の授業内容を列挙します。ただし、授業の進捗状況に応じて変化することがあります。

第1回 指示代名詞 指示形容詞
第2回 人称代名詞　 所有代名詞 所有形容詞
第3回 疑問代名詞・疑問形容詞 関係代名詞
第4回 関係代名詞・関係形容詞
第5回 不定法
第6回 デポネンス動詞 スピーヌム
第7回 現在能動分詞 完了受動分詞 未来能動分詞
第8回 接合分詞
第9回 絶対的奪格
第 10 回 動名詞 動形容詞
第 11 回 不規則動詞
第 12 回 接続法現在 接続法未完了
第 13 回 接続法完了 接続法過去完了
第 14 回 a.まとめ　b. 試験

履修上の注意

ラテン語入門の修了者のみ履修してください。

単語の意味を調べるときには、教科書付録の「単語集」の他に、『Lexicon Latino-Japonicum(羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編(研究社)や『古典ラテン辞典語(増補改訂版)』國原吉之助著(大学書林)を参照してください。また、和泉図書館に羅英・羅仏・羅独などが開架されていますので，十分に活用してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

学習した文法項目の復習を必ずしてください。これを怠ると，授業が分からなくなります。また，教科書の内容を補足する資料を配布しますので、読んでください。また、Oh-o! Meiji システムを利用して、文法項目の理解を確認する課題を出しますので、期限を守って提出してください。

教科書

『標準ラテン文法』 中山恒夫著 (白水社)

参考書

『ラテン広文典』 泉井久之助著 (白水社)
『新ラテン文法』 松平千秋, 国原吉之助著 (東洋出版)
『古典ラテン語文典』 中山恒夫著 (白水社)

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題には、Oh-o! Meiji システムを利用して、コメントを付して返却します。また、その全体講評を授業で行います。

成績評価の方法

授業参加への積極性と提出された課題の内容(単語調べの丁寧さ，訳の正確さ)(70%)，テスト(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)LAN391N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ラテン語中級講読 A	ラテン語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ラテン語入門・IA とラテン語初級・IB の授業で学習した基本的な文法事項を確認しながら，中級者向けの比較的易しい短文集を丁寧に読んでいきます。これによってラテン語の文章読解に慣れて，より長い文章を読むための基礎的能力を習得します。

授業内容

以下に 14 回分の授業内容を列挙します。ただし、授業の進捗状況に応じて変化します。

(第1回)初級文法の総復習
(第2回)De Gallicis divis.
(第3回)De Romae origine.
(第4回)De Cambysis filii Cyri expeditione.
(第5回)De patronis.
(第6回)De priscis Romanis.
(第7回)De primis bibliothecis.
(第8回)Pythagoras Crotonienses ad usum frugalitatis revocat.
(第9回)Sapiens opes contemnit.
(第 10 回)Fames optimum condimentum.
(第 11 回)De gloria Augusti bellica.
(第 12 回)Trajanus.
(第 13 回)De Athenarum initiis.
(第 14 回)Asinus et Lyra.

履修上の注意

ラテン語入門・IA とラテン語初級・IB を修了している学生のみ履修してください。

辞書は『Lexicon Latino-Japonicum(羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編(研究社)、または『古典ラテン辞典』國原吉之助著(大学書林)を参考にしてください。また、中央図書館に羅英・羅仏・羅独・羅伊などが開架されていますので，十分に活用してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

文章の内容理解に十分な時間をかけてください。辞書で単語の意味を調べるときには、語義のすべてに目を通してください。動詞を調べるときには、どのような構文を取るのか、前置詞や不定詞を従えるのかなどを丁寧に確認してください。

教科書

『ラテン語読本』 松本悦治著 (駿河台出版社)

参考書

『ラテン広文典』 泉井久之助著 (白水社)
『新ラテン文法』 松平千秋, 國原吉之助著 (東洋出版)
『古典ラテン語文典』 中山恒夫著 (白水社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加の積極性、丁寧な単語調べ・読解の正確さ(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)LAN391N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ラテン語中級講読 B	ラテン語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ラテン語入門・IA とラテン語初級・IB で学習したラテン語の基礎的文法事項を確認しながら，短文集を読み進めます。文章の内容は春学期のものより難しくなっていますので，単語を一つ一つ確認しながら，ラテン語の読解能力を高めていきます。

授業内容

以下に 14 回分の授業内容を列挙します。ただし、授業の進捗状況に応じて変化します。

(第1回)De Draconis et Solonis legibus contra latrones.
(第2回)Pisistratus.
(第3回)Miltiades Lemno potitur.
(第4回)De Britannia.
(第5回)Euripides.
(第6回)Euripides.
(第7回)Cyri regis sepulcrum.
(第8回)Scythes Alexandri ambitionem accusat.
(第9回)Casus miraculum efficit.
(第 10 回)Demetrius Poliorcetes et tabula Protogenis pictoris.
(第 11 回)De prima victoria navali Romanorum.
(第 12 回)Hannibal Cretae avaritiam Gortyniorum fallit.
(第 13 回)De M. Catonis laudibus.
(第 14 回)Pomponius Atticus.

履修上の注意

ラテン語入門・IA とラテン語初級・IB を修了している学生のみ履修してください。

辞書は『Lexicon Latino-Japonicum(羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編(研究社)、または『古典ラテン辞典』國原吉之助著(大学書林)を参考にしてください。また、中央図書館に羅英・羅仏・羅独・羅伊などが開架されていますので，十分に活用してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習に十分時間をかけて、文章の内容をしっかり把握してください。動詞を調べるときには、意味だけでなく、動詞の取る構文を丁寧に確認してください。

教科書

『ラテン語読本』 松本悦治著 (駿河台出版社)

参考書

『ラテン広文典』 泉井久之助著 (白水社)
『新ラテン文法』 松平千秋, 國原吉之助著 (東洋出版)
『古典ラテン語文典』 中山恒夫著 (白水社)

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業参加の積極性・丁寧な単語調べ・読解の正確さ(70%)、レポート(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)LAN291N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ラテン語入門	ラテン語ⅠA	
担 当 者	開講期	開講地区
小島 久和	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ラテン語の初級文法を学びます。

ラテン語は名詞や形容詞の格変化、そして動詞活用の複雑さによって、少しむずかしい言語のように思うかもしれませんが、格変化や活用の規則性に気づくと、「複雑さ」が解消していって、実に見事に構築された文法規則を持つ言語であることがわかります。

また、ラテン語は「死語」と思われているかもしれませんが、ネット上ではラテン語によるラジオ放送を聴くことができます。
(https://www.vaticannews.va/en/podcast/vatican-radio-news-in-latin.html)

授業内容

14 回分の授業内容は以下の通りです。ただし、授業の進捗状況によって変わることがあります。

(第1回)ラテン語のしくみについて解説
(第2回)直説法現在 第1変化名詞
(第3回)直説法未完了 第2変化名詞
(第4回)直説法未来 第2変化名詞
(第5回)sum 動詞の派生形 形容詞
(第6回)直説法完了 第2変化名詞
(第7回)直説法過去完了
(第8回)直説法未来完了 特殊な形の名詞
(第9回)第3変化名詞
(第 10 回)第3変化名詞 直説法現在受動態
(第 11 回)直説法未完了受動態 直説法未来受動態
(第 12 回)形容詞の比較級・最上級
(第 13 回)直説法完了受動態 直説法過去完了受動態 直説法未来完了受動態
(第 14 回)a:まとめ b:試験

履修上の注意

各回の授業内容は盛りだくさんなので、最初は大変と感じるかもしれません。しかし変格や活用の規則性を覚えると、暗記が楽になりますから、あきらめないで出席してください。

教科書には単語集が付いていますが、必ずしも説明が十分ではありません。そこで、語義や動詞の構文を深く調べるときには『Lexicon Latino-Japonicum (羅和辞典 改訂版)』水谷智洋編(研究社)や『古典ラテン辞典語(増補改訂版)』國原吉之助著(大学書林)を参照してください。また、和泉図書館に羅英・羅仏・羅独などが開架されていますので，十分に活用してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

学習した文法項目の復習を必ずしてください。これを怠ると，授業が分からなくなります。また，教科書の内容を補足する資料を配布しますので、読んでください。また、Oh-o! Meiji システムを利用して、文法項目の理解を確認する課題を出しますので、期限を守って提出してください。

教科書

『標準ラテン文法』 中山恒夫著 (白水社)

参考書

『ラテン広文典』 泉井久之助著 (白水社)
『新ラテン文法』 松平千秋, 國原吉之助著 (東洋出版)
『古典ラテン語文典』 中山恒夫著 (白水社)

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題には、Oh-o! Meiji システムを利用して、コメントを付して返却します。また全体講評を授業で行います。

成績評価の方法

授業参加への積極性と提出された課題の内容(単語調べの丁寧さ，訳の正確さ)(70%)，テスト(30%)

その他

科目ナンバー：(AL)ABR916J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
留学入門講座〔M〕	**留学準備講座 A〔M〕**	
担 当 者	開講期	開講地区
山田 亨	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本科目では海外留学に興味のある学生及び留学準備の段階にある学生を中心に、本学で取組める留学の諸制度を学生それぞれの専門性の追求と結び付けていくトレーニングをすることにより、留学を学びの機会としてより実りのあるものにする準備ができるようにすることを目標とする。

授業内容

1.まじめに留学の話
2.留学の種類
3.自己分析(留学で何をする？)
4.言語の違い・表現の違い
5.留学先で専門性を追求する
6.交換留学における「学ぶ」ということ
7.留学先での授業履修(体験談とディスカッション)
8.海外での業務・ボランティア
9.留学先での日常生活・課外活動
10.授業で学ぶこと／授業外で学ぶこと
11.専門と趣味についてのリフレクション(自己分析)
12.留学と就職・キャリア準備
13.プラニング・資金準備
14.まとめ・ディスカッション

履修上の注意

通年の参加が望ましいが、1学期だけでも可。

準備学習(予習・復習等)の内容

Oh-o! Meiji に掲載されている課題を毎週授業前までに予習しておくこと。また、授業は課題を基礎に、日本語と英語を随時使い分けながら講義とディスカッションを組合せて進める。

教科書

Oh-o! Meiji 上で随時提供する。

参考書

Oh-o! Meiji 上で随時提供する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji やメール、および、教室で提供します。

成績評価の方法

授業への貢献度(50%)、小テスト(50%)から総合的に評価する。

その他

＊この授業は「対面・オンライン併用授業」です。対面でも Zoom を介してどこからでも履修ができます。対面・ライブ配信は火曜日の 3 限目です。教室は Oh-o! Meiji を確認してください。

科目ナンバー：(AL)PSY335J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理援助技法	**心理学実験B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹松 志乃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期の「心理学実験 A」に引き続き、臨床心理学の実践的な活動に関する体験学習を行う。
　加藤・川島・佐々木・竹松・濱田が共同で担当する。
　授業は2グループに分かれて、(1)試行カウンセリング体験(加藤・川島・佐々木担当)、(2)イメージ表現技法体験(竹松・濱田担当)のいずれかを選択して受講する。

授業内容

＜第1回＞ イントロダクションおよびグループ分け
　「試行カウンセリング体験グループ」(担当：加藤・佐々木・川島)、または「イメージ表現技法体験グループ」(担当：竹松・濱田)のいずれかを選択する。なお、グループ分けを行う初回には、「全員が必ず出席」すること。

(1)「試行カウンセリング体験グループ」(担当：加藤・川島・佐々木)
　＜第2回～第 14 回＞
　第2回～第 5 回 カウンセリングに関する講義および具体的オリエンテーション
　第6回～第 14 回 カウンセリング実習および担当教員・TA によるスーパーヴィジョン
　受講生は、クライエント中心療法に基づくカウンセリングの体験学習を行う。そのなかで、受講生は自らがカウンセラーとクライエントの双方の役割を体験し、担当教員及び TA よりカウンセリングの進め方に関するスーパーヴィジョンを受ける。

(2)「イメージ表現技法体験グループ」(担当：竹松・濱田)
　＜第2回～第 14 回＞
　第2回～第 10 回 箱庭制作実習
　グループに分かれ、「箱庭療法」の制作を体験する。制作しないメンバーはフロアで観察する。制作終了後、箱庭表現から伝わってくるイメージを『率直かつ配慮のこもった言葉』で互いに交換し合う体験を通して、参加者全員がカウンセリングマインドを深化させることを目指す。基本文献のブックレポートやビデオなどの視聴覚教材による学習時間も設ける。
　第 11 回～第 13 回 コラージュ制作実習
　"持ち運びのできる簡便な箱庭"といえる「コラージュ療法」の制作も体験する。制作後に箱庭との比較に関するグループディスカッションなどを通して、カウンセリングマインドの真髄について触れる。
　第 14 回 まとめ

履修上の注意

この授業は、臨床心理学専攻の必修科目であり、原則として3年次の学生のみが受講できる。時間割に割り当てられた時間・教室以外に実施される場合もあり、教員による指示や掲示などには、常に十分に注意を払うこと。
　本専攻で最も力点を置いている「体験型授業」であり、基本的に「全授業への貢献」が単位取得の基本条件である。遅刻も厳しく評定される。

準備学習(予習・復習等)の内容

カウンセリングに関する基礎理論、及びカウンセリング技法に関する基本書、箱庭療法に関する基本書を精読すること。復習として、体験を踏まえ、改めて「カウンセリング理論／技法」と「箱庭療法など、イメージ表現技法」に関する文献を精読すること。

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

授業内で適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

口頭または加筆の形で、必要に応じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

「授業への貢献度」を 70%、「レポート評価」を 30%として、総合評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習A	**臨床心理学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
濱田 祥子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

児童期, 思春期の臨床心理学に関する問題についての知識を習得し, 理解を深める。
発表者がレジュメを作成し, その発表を踏まえて受講生でディスカッションを行う。レジュメを作成し, 発表すること, ディスカッションに参加することを通して専門的な学習を進める上での基礎力を育成することを目標とする。

授業内容

児童期, 思春期の臨床心理学に関するテーマについて、発表者が学術論文、書籍等の文献を読み、その内容をまとめ, レジュメを作成する。
テーマは児童期, 思春期の臨床心理学的な問題を予定している。授業では発表をもとにディスカッションを行う。
第1回:授業の進め方についての説明, 担当の決定
第2回～第 14 回:発表・ディスカッション

履修上の注意

演習形式の授業であるので, ディスカッション, 発表には主体的かつ積極的に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期の間, 一人の学生が複数回の発表を担当する。
発表のために, グループでの話し合い, 個人で資料を読み, レジュメとしてまとめるなどのの準備を行う必要がある。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業中に適宜, 紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表の際にコメントをする。

成績評価の方法

授業, ディスカッションへの参加態度(50%)及び最終レポート(50%)によって総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習A	**臨床心理学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
高瀬 由嗣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

臨床心理学領域の基礎的な文献の講読を行ない, 研究の発想と方法を学ぶ。さらに, この学習の成果を踏まえて, 自らの力で研究の立案・計画を行うことを体験し, 卒業論文へとつなげる。

授業内容

第1～14 回:心理アセスメント, 心理療法, 臨床心理学の研究法などを学ぶうえできわめて重要な文献を紹介する。ここでは, 国内のみならず海外の文献も広く紹介する予定である。紹介されたそれぞれの文献には担当者が割り当てられる。その担当者が中心となって内容を精読した後, 発表ならびに参加者全員でディスカッションを行う。なお, 発表に際しては, 発表担当者の他に指定討論者をもうけて, 活発なディスカッションを行なうことを目指す。

履修上の注意

文献の検索から, 発表, 研究の立案・計画に至るまで, 積極的な姿勢で臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業に臨むにあたって, 1年次, 2年次に学んだ心理学の基礎知識をよく復習しておくことが大切である。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業時間内に随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表された課題に関しては, 授業内でのディスカッションを通して, コメントを行う。

成績評価の方法

学修態度・ディスカッションの姿勢(50%), 発表内容(30%), レポート(20%)に基づき総合的な評価を行なう。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習A	**臨床心理学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡安 孝弘	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

思春期・青年期における教育臨床上の諸問題(学校不適応, 仲間関係等の社会的行動、攻撃行動、うつや不安などの病理的問題など)について、認知行動療法的観点から検討していく。そのような問題についての基礎的な文献講読を行いながら、自らの力で研究テーマを設定し、それを遂行していくための基本的な能力を培い、卒業論文の作成につなげていくことを目的とする。

授業内容

各回の授業は、下記の研究領域および隣接領域に関する文献講読およびその内容に基づく発表とディスカッションを中心として進めていく。

子どもや青年が日常生活の中で経験する人間関係上のストレスや学業上のストレスは、うつ病, 、安障害、学校不適応、いじめ・非行など、さまざまな心の病理と密接に関連している。そのような諸問題について、以下のように治療と予防という2つの観点から考察する。

(1)治療的観点

うつ病や不安障害などの治療において大きな効果が示されている認知行動療法のさまざまな技法とその効果や意義について理解を深める。

(2)予防的観点

心や身体の疾患を予防するだけでなく、QOL(人生の質)を高めることを目的とした健康心理学の基本的な考え方について理解を深める。

特に、QOL に大きく影響を及ぼすと考えられている児童期から思春期の子どもに対して、将来の社会的不適応を予防するために、コミュニケーション能力や問題解決能力を高めるような支援のあり方に重点をおきたい。

以上のような学習を通して、(1)他者への支援方法だけでなく、自分自身の QOL を高めるための方法について考察を深めること、(2)卒業論文に向けて各自のテーマを具体的に設定することを最終的な目標とする。

授業計画は以下の通りである。

第1回 年間の授業の進め方および発表方法についての説明
第2回 問題の設定方法や文献の検索方法、文献の購読やまとめ方に関する解説
第3回 臨床心理学領域における治療的観点に関する最新の研究テーマの解説
第4回 臨床心理学領域における予防的観点に関する最新の研究テーマの解説
第5回 臨床心理学における支援方法に関する解説
第6回～第 13 回 各学生の発表とディスカッション
第 14 回 発表についての総評

履修上の注意

卒業研究につながる重要な内容を含むので、受講者には積極的に授業に参加することを期待している。なお、発表には原則としてパワーポイントの資料を用いること。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表を行うにあたり、事前に十分な数の文献を購読し、その内容をまとめ、パワーポイントの資料を作成しておくことが求められる。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

さまざまな学会の会誌掲載論文を参考にして発表資料をまとめることになるが、具体的な参考資料については適宜アドバイスする。

課題に対するフィードバックの方法

各学生の発表時に、発表内容に対する講評を行う。

成績評価の方法

成績は、発表内容およびディスカッションへの参加によって評価する(発表 60%、ディスカッションの内容 40%)。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習A	**臨床心理学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 掌子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

ジェンダーやセクシュアリティに関する臨床心理学とその関連領域の主に英文の文献や論文の講読を行い、心理学英語に馴染み、研究法を理解することを目的とする。卒業論文に向け、心理学の方法論(論文の書き方やデータの分析法など)を習得していってほしい。

授業内容

第1回:イントロダクション:担当者の決定
第2回:論文や文献の検索の仕方
第3回:論文の読み方①
第4回:論文の読み方②
第5回:論文の読み方③
第6回:発表とディスカッション
第7回:発表とディスカッション
第8回:発表とディスカッション
第9回:発表とディスカッション
第 10 回:発表とディスカッション
第 11 回:発表とディスカッション
第 12 回:発表とディスカッション
第 13 回:発表とディスカッション
第 14 回:まとめ

履修上の注意

グループでの発表か個人発表かは、初回の話し合いで決定する。非発表担当者も、各自批判的疑問を携えて授業に臨む必要があるため全員参加型の授業となる。

欠席は認めないが、事情があり欠席せざるを得ない場合は、前もって E メールなどで連絡を入れること。

準備学習(予習・復習等)の内容

文献や論文を精読するためには、その周辺の文献を多く読みこなしておく必要がある。各自関心のある英語論文を A4版1～2枚で要約することを夏休みの課題とする。

教科書

特になし。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

①授業内での発表の内容、②非発表の際の批判的疑問の内容、③授業での発言内容により評価する(①50%、②25%、③25%)。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習A	**臨床心理学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹松 志乃	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

数多くの専門文献の通読や実際の体験学習などを通して、臨床心理学についての学習をより深く実践的に進めていくことにより、将来臨床心理士や公認心理師などの専門援助職を志向する学生はもちろん、家庭や職場・地域社会などにおいて「カウンセリングマインド」を持って関わり、活躍できる人材の育成を目指したい。少人数教育の利点を生かし、「ともに学びあう」スタイルで行なっていきたい。

特に「教育」「医療」「子ども」「思春期・青年期」「イメージ」「親・友人・異性などとの対人関係」「人権」などに関する内容を取り上げる予定である。

授業内容

詳しくは、初回に集まったメンバーで話し合って決めたいが、現在のところ、以下のようないくつかの展開を考えている。

(1)臨床心理学を専門的に学ぶうえで、是非読んでおきたい古典から最新トピックまでの重要文献を選び、毎週レポーターを決めて発表・ディスカッションする。

(2)専門誌に発表された学術論文や出版物などから学生各人が題材を探し出し、レジュメを作成・配布しながらゼミで発表を担当する。他のメンバーも、事前に対象文献を通読して意見をレポート用紙にまとめておき、当日のディスカッションに積極的に参加する。

(3)学生各人が4年次に自分が取り組んでいきたい卒論テーマを念頭において模索しながら、自由研究を発表する。

(4)箱庭やコラージュ、描画など、イメージ作品の制作・検討を1作品ずつじっくり行なう。

(5)学校や教育相談所など、教育を中心とする臨床現場を見学する。受講生には、授業外でも学校現場や児童館・学童保育、あるいは学習塾その他などにおいて、短期間でも実際の現場における有償または無償の実践活動の体験を奨励したい。

(6)教員が課題図書として貸し出す「臨床心理学を学ぶにあたり読むべき良書(単行本)」を1冊ずつ読み、感想レポートを提出する作業を、ほぼ隔週毎に通年継続する。

以上のような学習過程を経るなかで、最終的には卒業論文に取り上げたい各人のテーマの発見へとつなげることを目指す。

第1回:イントロダクション

第2回～第 13 回:「箱庭制作」「コラージュ制作」「描画」などの体験学習、受講生による発表およびディスカッション、など

第 14 回:まとめ

履修上の注意

少人数で行なう演習課目なので、グループ構成員として各人が担う自分の責任を強く自覚しながら、積極的かつ主体的に臨んできてほしい。基本的に「全授業への貢献」が履修の絶対条件である。

なお、教員から届くメールなどの連絡に対して「必ず返信」すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分に割り当てられた発表時だけでなく、他のゼミ構成員の発表元文献も事前に配布されるので、全員が予め通読して意見をレポート用紙にまとめて、授業当日有意義なディスカッションができるように準備をすることが求められるなど、「毎回の予習・復習」が必須作業になる。

教科書

特に指定しない。

参考書

講義時に随時紹介するので、受講生は積極的に目を通し、発展的に関連文献へと学習を進めていってほしい。なお、松井豊「改訂新版 心理学論文の書き方-卒業論文や修士論文を書くために 」(河出書房新社)、河野哲也「レポート・論文の書き方入門」(慶応義塾大学出版会)などを参考に、普段からレジュメやレポートの書き方の基本をしっかり習得することを意識してほしい。

特に、4年次の卒論作成に向けて、「統計」についても着々と自己学習を進めること。

課題に対するフィードバックの方法

口頭および加筆などの形で、必要に応じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

「発表やレポート評価」を 70%、「授業に臨む姿勢」を 30%として、総合的に評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習A	**臨床心理学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 義高	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

学術論文の読み方、研究結果を臨床実践で活用する方法、各研究の限界や課題点の見つけ方を、講義、グループ発表、ディスカッションを通して学ぶ。グループ発表については、以下の1)から4)のテーマの中から各自関心のあるものを選び、テーマごとにグループを作る。そして、テーマに関連する学術論文を読む。さらに、研究のサマリーと研究の限界および課題点を発表し、全体でのディスカッションによって理解を深める。

1)病気や障害を抱える人の心理
2)自傷・自殺予防
3)メンタルヘルスの維持・向上
4)支援者のストレスとケア

<到達目標>

研究デザインや方法の違いが理解できるようになること、自身の関心のあるテーマを選びそのテーマに関連する学術論文が読めるようになること、そのテーマに対する興味・関心を高め専門的知識を蓄積すること、そして、今後必要とされる新たな研究のアイデアを挙げられるようになることを目指す。

授業内容

第1回 イントロダクションと自己紹介
第2回 グループワーク(温かみのある雰囲気作り)
第3回 グループワーク(アートを用いた対話)
第4回 学術論文の読み方、活かし方①観察研究
第5回 学術論文の読み方、活かし方②尺度開発研究
第6回 学術論文の読み方、活かし方③介入研究
第7回 国内外の文献の検索方法、論文サマリーの作り方
第8回 グループ発表とディスカッション
第9回 グループ発表とディスカッション
第 10 回 グループ発表とディスカッション
第 11 回 グループ発表とディスカッション
第 12 回 グループ発表とディスカッション
第 13 回 グループ発表とディスカッション
第 14 回 春学期のふりかえり

履修上の注意

研究と臨床実践のつながりを意識しながら、好奇心を持って学習を深めてほしい。また、ディスカッションの時間は、自由に様々な意見を積極的に出してほしい。なお、やむを得ず遅刻あるいは欠席をする場合は、事前に必ず担当教員へ伝えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

グループ発表では、事前に該当論文が全員へ配布される。そのため、授業参加者は該当論文を一読したうえで発表を聞くことを原則とする。発表担当者は、発表当日までに該当論文を丁寧に読み込み、研究のサマリーと研究の限界および課題点をまとめたパワーポイントを作成する。そして発表当日は、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。発表後は、ディスカッションで挙がった指摘を整理し、今後の研究計画を立案する際に役立てる。

教科書

特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書

必要に応じて参考となる書籍などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表内容(60%)、ディスカッションへの参加態度・積極性(20%)、各回で実施する授業内レポート(10%)、学期末レポート(10%)

その他

特記事項なし

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習A	**臨床心理学演習A**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 尚子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

臨床心理学の基本的な発想・思考方法の習得と，基本的な研究方法について学ぶ。特に，養育関係，子ども虐待などの子育てにおける諸問題，コミュニティをベースにした心理臨床活動の検討を通して，これらのことを学んでいく予定である。本講義の成果をふまえ，自分なりの研究課題の発見と，研究の立案・計画を行い，卒業論文へとつなげていく予定である。

授業内容

春学期に開講されるこの演習では、主に学習を支えるグループ作りと、関心領域に基づく専門的な臨床心理学に関わる知識の習得を目指す。

第 1 回～5 回:グループワークを通して，学習の基礎となる集団づくりと，自己の対人コミュニケーションの特徴について体験を通して学ぶ。この回では，自己理解を深めると同時に，知識と実際の態度についての自己覚知を図ることが目的である。

第 6 回～14 回:トラウマ，アタッチメント，児童虐待，心理コンサルテーション，コミュニティアプローチなどに関する基本的理解と現在の研究の到達点を理解するために，トラウマに焦点をあてた心理療法，トラウマインフォームドケア，代替養育者とのアタッチメント形成，虐待を受けた子どもの心理療法，アタッチメントの観点からの心理療法，DV とその心理的被害，施設内暴力，情動調律など，具体的なテーマに基づき小グループで調査をし発表を行う。その内容に基づき，皆でディスカッションを行う。ここでは，関連領域に関する知識を得ることと同時に，これまでの授業に基づき自分たちで文献検索・資料収集を行い，その内容を一定の形式にもとづいてまとめ発表することにより，基本的な研究発表の力を身につけることが目的である。

履修上の注意

卒業研究につながる科目であるため，受講者には積極的に授業に参加することを期待している。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表にあたっては，当該テーマに関する文献，論文を精読すること。復習として，授業で扱った内容に関する基本文献を精読すること。

教科書

「施設心理士という仕事」加藤尚子編著　ミネルヴァ書房
「虐待から子どもを守る」加藤尚子著　小学館

参考書

必要な参考文献については，適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に直接，または Oh-o!Meiji を通してフィードバックする。

成績評価の方法

成績は，発表内容と授業への参加態度、レポートによって評価する(発表およびディスカッションの内容 50%，レポート 50%)。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習B	**臨床心理学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
濱田 祥子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

児童期，思春期の心理的問題について理解を深める。また，自身の関心のあるテーマを見つけ，研究課題を設定し，研究計画を立てることを目標とする。大きなねらいは以下の3点である。(1)臨床心理学の論文の読み方及び構成を習得すること，(2)臨床心理学研究への関心を養うこと，(3)自身の卒業論文の研究テーマを見つけ，研究の立案・計画を行い，次年度の卒業論文執筆へとつなげていくこと。

具体的には，自身の研究テーマを設定し，研究計画を立て，調査等の実施に向け，準備を進める。

授業内容

第1回:文献検索の方法，引用の仕方とレポートの書き方など，卒業論文作成時に必要となる基本的な技法について学ぶ。

第2回～第 14 回:自身の関心のあるテーマについての研究論文の発表と自身の研究計画の発表を行う。

履修上の注意

卒業論文につながる重要な内容を含むので，受講者には授業中のディスカッション等に積極的に参加することを期待している。他の受講生の発表の際にも，ディスカッションの内容を自分の研究に活かせるよう，主体的に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

秋学期において、複数回の発表を行う。

発表の際には自身の関心のあるテーマに関連した先行研究を読んだ上で，自身の研究課題を設定し，教員，受講生とディスカッションを行う。

発表の際には必ずレジュメを準備すること。

教科書

特に指定しない。

参考書

『心理学の卒業研究ワークブック　発想から論文完成までの 10 ステージ』小塩真司・宅香菜子著　金子書房　2015 年

課題に対するフィードバックの方法

発表に対して授業内でコメントをする。

成績評価の方法

成績は授業への参加態度と発表内容及び最終レポートによって評価する(発表及びディスカッションへの参加態度，内容:50%，期末レポート:50%)。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習B	**臨床心理学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
高瀬 由嗣	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

臨床心理学領域の基礎的な文献の講読を行ない，研究の発想と方法を学ぶ。さらに，この学習の成果を踏まえて，自らの力で研究の立案・計画を行うことを体験し，卒業論文へとつなげる。

授業内容

第1～9 回:各自が関心を持つ領域の研究論文を，学生自らが探し出し，まとめて発表する。ここでは最低でも2編以上の研究論文の発表が義務づけられる。なお，発表に先立って，文献検索の方法や図書館の効果的な活用法についてのレクチャーおよびトレーニングを実施する。

第 10～14 回:各自の関心領域が定まったら，それを卒業論文につなげるための作業が必要となる。そこでこの期間においては，具体的な研究の立案・計画を行う。ここでは，すべてのメンバーに実際に研究計画書を提出してもらい，そのテーマ(研究の目的)の設定から，文献の収集方法，具体的な計画の立て方，研究を進めるにあたっての留意点，倫理的な配慮までを総合的にディスカッションする。

履修上の注意

文献の検索から，発表，研究の立案・計画に至るまで，積極的な姿勢で臨むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

秋学期が終わるまでに，卒業論文のための「研究計画書」を提出してもらう。各自，自らの研究テーマを確立するために，関連文献をしっかりと読みこむことが大切である。

教科書

特に指定しない。

参考書

授業時間内に随時紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

発表された課題に関しては，授業内でのディスカッションを通して，コメントを行う。

成績評価の方法

学修態度・ディスカッションの姿勢(50%)，発表内容(30%)，レポート(20%)に基づき総合的な評価を行なう。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習B	**臨床心理学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡安 孝弘	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

春学期の「臨床心理学演習A」と同様，思春期・青年期における教育臨床上の諸問題についての基礎的な文献講読を行いながら、卒業論文の研究計画を具体的に立案していくことを目的とする。

授業内容

春学期の「臨床心理学A」の内容をさらに発展させて、卒業研究の計画立案に必要な文献講読およびその内容に基づく発表とディスカッションを中心として進めていく。

第1回 臨床心理学研究で用いられるデータ分析法と結果の見方の解説
第2回～第7回 文献講読に基づく発表とディスカッション
第8回～第 13 回 各自の研究テーマの設定と研究計画の立案
第 14 回 卒業論文の作成に関する留意事項の説明

履修上の注意

卒業研究につながる重要な内容を含むので、受講者には積極的に授業に参加することを期待している。なお、発表には原則としてパワーポイントの資料を用いること。

準備学習(予習・復習等)の内容

卒業研究のための準備として、各自の問題意識に基づいて、十分な数の文献を購読しておくことが求められる。また、発表のために、パワーポイントの資料を用意しておくことが必要である。

教科書

特定のテキストは使用しない。

参考書

さまざまな学会の会誌掲載論文を参考にして発表資料をまとめることになるが、具体的な参考資料については適宜アドバイスする。

課題に対するフィードバックの方法

各学生の発表時に、発表内容に対する講評を行う。

成績評価の方法

成績は、発表内容およびディスカッションへの参加によって評価する(発表内容 60%、ディスカッションの内容 40%)。

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習B	**臨床心理学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 掌子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

各受講生が自らの卒業論文に向けて、テーマを絞り、そのテーマの問いを明らかにするためにはどのような方法論が妥当なのかを考え、そして、これまでどのような研究が実施されてきたのかを発表する授業である。非発表者全員に発表内容に対する批判点を挙げてもらうので、修正を繰り返し、より洗練された内容に改善していってほしい。

授業内容

第1回:イントロダクション:担当者の決定
第2回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第3回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第4回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第5回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第6回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第7回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第8回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第9回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第 10 回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第 11 回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第 12 回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第 13 回:各自の卒業論文の「問題」・「方法」部分の発表とディスカッション
第 14 回:まとめ

履修上の注意

卒論に向けた各自の発表に対し、非発表者は必ず批判的意見を発さなければならない。
欠席は認めないが、事情があり欠席せざるを得ない場合は、前もって Ｅメールなどで連絡を入れること。

準備学習(予習・復習等)の内容

先行研究をどれだけ限なく調べきっているかが卒業論文の質を左右する。英文誌を含んで先行研究にあたってほしい。

教科書

特になし。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

①授業内での発表の内容、②授業での発言内容により評価する(①50%, ②50%)。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習B	**臨床心理学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
竹松 志乃	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

数多くの専門文献の通読や実際の体験学習などを通して、臨床心理学についての学習をより深く実践的に進めていくことにより、将来臨床心理士や公認心理師など専門援助職を志向する学生はもちろん、家庭や職場・地域社会などにおいて「カウンセリングマインド」を持って関わり、活躍できる人材の育成を目指したい。少人数教育の利点を生かし、「ともに学びあう」スタイルで行なっていきたい。
特に「教育」「医療」「子ども」「思春期・青年期」「イメージ」「親・友人・異性などとの対人関係」「人権」などに関する内容を取り上げる予定である。

授業内容

本演習は、春学期の「臨床心理学演習A」に引き続き、以下のようないくつかの展開を考えているが、特に4年次の卒業論文制作に向けた準備を中心に進めていく予定である。

(1)4 年次の卒論テーマの模索のために、夏休みの課題として収集した 20～30 編程度の専門誌に発表された学術論文のなかから、3 編を選び出し、レジュメを作成・配布しながらゼミで発表をする。他のメンバーも、事前に対象文献を通読しておき、当日のディスカッションに積極的に参加する。
(2)箱庭やコラージュなど、イメージ作品の制作・検討を1作品ずつじっくり行なう。
(3)学校や教育相談所など、教育を中心とする臨床現場を見学する。受講生には、授業外でも学校現場や児童館・学童保育、あるいは学習塾その他などにおいて、短期間でも実際の現場における有償または無償の実践活動の体験を奨励したい。
(4)教員が課題図書として貸し出す「臨床心理学を学ぶにあたり読むべき良書(単行本)」を1冊ずつ読み、感想レポートを提出する作業を、ほぼ隔週毎に通年継続する。
(5)毎年 11 月下旬頃に開催されるゼミ 4 年生の「卒論事前発表会」にオブザーバーとして参加し、次年度の参考にする。
(6)ゲスト講師(ゼミ出身者含む)による講演会を開催する。

以上のような学習過程を経るなかで、最終的には卒業論文に取り上げたい各人のテーマの発見へとつなげることを目指す。
第1回:イントロダクション
第2回～第 13 回:受講生による卒論に向けた準備発表およびディスカッション
第 14 回:総まとめ・これからの卒論作成に向けてのミニレクチャー

履修上の注意

少人数で行なう演習課目なので、グループ構成員として各人が担う自分の責任を強く自覚しながら、積極的かつ主体的に臨んできてほしい。基本的に「全授業への貢献」が履修の絶対条件である。
なお、教員から届くメールなどの連絡に対して「必ず返信」すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

自分に割り当てられた発表時だけでなく、他のゼミ構成員の発表元文献も事前に配布されるので、全員が予め通読して意見を簡単にまとめて、授業当日有意義なディスカッションができるように準備をすることが求められるなど、「毎回の予習・復習」が必須作業になる。

教科書

特に指定しない。

参考書

講義時に随時紹介するので、受講生は積極的に目を通し、発展的に関連文献へと学習を進めていってほしい。なお、松井豊「改訂新版 心理学論文の書き方--卒業論文や修士論文を書くために」河出書房新社、河野哲也「レポート・論文の書き方入門」(慶応義塾大学出版会)などを参考に、普段からレジュメやレポートの書き方の基本をしっかり習得することを意識してほしい。
特に、4年次の卒論作成に向けて「統計」についても自己学習を着々と進めること。

課題に対するフィードバックの方法

口頭および加筆などの形で、必要に応じてフィードバックを行う。

成績評価の方法

「発表やレポート評価」を 70%、「授業に臨む姿勢」を 30%として、総合的に評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習B	**臨床心理学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 義高	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

春学期と同様に、以下の1)から4)のテーマの中から各自関心のあるものを選び、卒業論文の執筆を見据えた研究計画書を作成する。具体的には、研究計画書の書き方を講義を通して学び、その後、各自が関連文献の検索、研究計画書の「背景」・「目的」・「方法」の執筆を進める。そして、個人発表と全体ディスカッションを通して推敲を重ねる。

1)病気や障害を抱える人の心理
2)自傷・自殺予防
3)メンタルヘルスの維持・向上
4)支援者のストレスとケア

<到達目標>

臨床心理学に関連した研究を行う際の基盤となる姿勢、倫理、方法論、専門的知識を身に付け、卒業論文の研究計画書の作成を目指す。また、授業内での個人発表とディスカッションを通して、プレゼンテーションやディスカッションのスキルを磨く。

授業内容

第1回 イントロダクション(研究計画書の書き方、研究を行う際の心構えなど)
第2回 個人発表とディスカッション
第3回 個人発表とディスカッション
第4回 個人発表とディスカッション
第5回 個人発表とディスカッション
第6回 個人発表とディスカッション
第7回 個人発表とディスカッション
第8回 個人発表とディスカッション
第9回 個人発表とディスカッション
第 10 回 個人発表とディスカッション
第 11 回 個人発表とディスカッション
第 12 回 個人発表とディスカッション
第 13 回 個人発表とディスカッション
第 14 回 1年間のふりかえり

履修上の注意

研究と臨床実践のつながりを意識しながら、好奇心を持って学習を深めてほしい。また、ディスカッションの時間は、自由に様々な意見を積極的に出してほしい。なお、やむを得ず遅刻あるいは欠席をする場合は、事前に必ず担当教員へ伝えること。

準備学習(予習・復習等)の内容

個人発表の担当者は、発表当日までに卒業論文の研究計画書で引用する論文を複数選び丁寧に読み込む。そして、各論文を引用しながら研究計画書の「背景」、「目的」、「方法」を検討し、パワーポイントにまとめる。そして発表当日は、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行う。発表後は、ディスカッションで挙がった指摘を整理し、研究計画書の推敲に役立てる。

教科書

特に指定しない。
必要に応じてプリントを配布する。

参考書

必要に応じて参考となる書籍などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

課題が出された次の回の授業冒頭にてフィードバックを行う。

成績評価の方法

授業での発表内容(60%)、ディスカッションへの参加態度・積極性(20%)、各回で実施する授業内レポート(10%)、学期末レポート(10%)

その他

特記事項なし

科目ナンバー:(AL)PSY332J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学演習B	**臨床心理学演習B**	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 尚子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

臨床心理学の基本的な発想・思考方法の習得と, 基本的な研究方法について学ぶ。特に, 養育関係, 子ども虐待などの子育てにおける諸問題, コミュニティをベースにした心理臨床活動の検討を通して, これらのことを学んでいく予定である。本講義の成果をふまえ, 自分なりの研究課題の発見と, 研究の立案・計画を行い, 卒業論文へとつなげていく予定である。

授業内容

秋学期に開講されるこの演習では、卒業論文執筆を視野にいれ、各自が関心を持つテーマについて発表し、研究内容と計画を検討していく。

第1回～14 回:各自が関心を持つテーマの研究論文を探し, 内容をまとめて発表する。取り上げる研究論文は, 学会誌など一定の質と形式が担保されたものを題材とする。その上で、卒業論文の構想をまとめ、テーマ, 内容, 研究方法, 今後の予定など, 具体的な項目について話し合う。

履修上の注意

卒業研究につながる科目であるため, 受講者には積極的に授業に参加することを期待している。

準備学習(予習・復習等)の内容

発表にあたっては, 当該テーマに関する文献, 論文を精読すること。復習として, 他者の発表など授業で扱った内容に関する基本文献も精読すること。

教科書

「施設心理士という仕事」加藤尚子編著 ネルヴァ書房
「虐待から子どもを守る」加藤尚子著 小学館

参考書

必要な参考文献については, 適宜指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に直接, または Oh-o!Meiji を通してフィードバックする。

成績評価の方法

成績は, 発表内容と授業への参加態度、レポートによって評価する(発表およびディスカッションの内容 50%, レポート 50%)。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学概論	**臨床心理学概論Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐々木 掌子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

臨床心理学とは、何らかの問題を持つ人々に対して心理学的知識や技法を用いて援助するために、その技法や理論を研究する学問体系である。古典的には個人の変容に焦点が当てられてきたが、現在では個人を取り囲む人々の変容にも領域を広げて「問題」を援助する実践が行われてきている。本授業は、臨床心理学の基本的な成り立ちと理論を押さえ、その上で架空事例を用いながらさまざまなアセスメント法や心理療法による臨床心理学的介入について理解を深め、また架空事例を論理的且つ共感的に理解できるようになることを目的とする。

授業内容

第1回:イントロダクション
第2回:臨床心理学の成り立ち①
第3回:臨床心理学の成り立ち②
第4回:臨床心理学と研究
第5回:臨床心理学と心理アセスメント
第6回:臨床心理学の代表的な理論と心理療法①精神分析
第7回:臨床心理学の代表的な理論と心理療法②認知行動療法
第8回:臨床心理学の代表的な理論と心理療法③ヒューマニスティック・アプローチ
第9回:臨床心理学の代表的な理論と心理療法④システミック・アプローチ
第 10 回:臨床心理学の代表的な理論と心理療法⑤コミュニティ・アプローチ
第 11 回:「性の健康」と臨床心理学
第 12 回:「性の多様性」と臨床心理学1
第 13 回:「性の多様性」と臨床心理学2
第 14 回:a:試験 b:解説・まとめ

履修上の注意

本授業は、「対面授業」を基本としますが、適宜「オンデマンド授業」も行います。どの回がオンデマンド授業となるかは、授業内でアナウンスをします。
初回は「対面授業」です。

臨床心理学の領域に足を踏み入れる際の留意点としては、①曖昧さ耐性を持つこと、②客観性を保つこと、が挙げられる。安易な"答えのようなもの"に飛びつかず、常に主観に偏っていないかセルフモニタリングできることを目指す。そのためには、毎回授業で得た知識に対して批判的思考ができるよう、関連書籍などに目を通しておく必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習として、授業中に紹介した文献や配布資料・関連書籍を読むこと。

教科書

配布資料を使用して講義する。

参考書

適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

コメントが必要なリアクションペーパーについては、次の週に言及する。
最終授業日に期末試験を実施し、試験実施後に対面で解説し、さらにオンデマンドで講評を行う。

成績評価の方法

授業内でのリアクションペーパー(20%)、中間レポート(40%)、及び期末試験(40%)の成績により評価する。

その他

科目ナンバー:(AL)PSY231J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床心理学特論	**臨床心理学概論Ⅱ**	
担 当 者	開講期	開講地区
濱田 祥子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

児童期, 思春期の心の発達, 心理的問題について理解を深める。子どもの内的世界を理解し, 子どもの臨床心理学に関する基礎的な知識を身につける。

授業内容

第1回:イントロダクション
第2回:臨床心理学の基礎理論
第3回:子どもの心の特徴と発達の臨床理論①乳幼児期(1)
第4回:子どもの心の特徴と発達の臨床理論②乳幼児期(2)
第5回:子どもの心の特徴と発達の臨床理論③児童期
第6回:子どもの心の特徴と発達の臨床理論④思春期・青年期
第7回:神経発達症(発達障害)について①(自閉スペクトラム症)
第8回:神経発達症(発達障害)について②(注意欠如・多動性障害)
第9回:神経発達症(発達障害)について③(学習障害)
第 10 回:子どもの心の問題①
第 11 回:子どもの心の問題②
第 12 回:子どもの心の問題③
第 13 回:子どもの心理療法①
第 14 回:子どもの心理療法②

履修上の注意

授業で学んだ内容について, 各自で調べるなどし, 学習を深めること。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習として, 教科書の該当箇所及び授業中に紹介した文献を読むこと。

教科書

『支援のための心理学 エビデンスに基づく援助活動の実際 』高岸幸弘・黒山竜太編著 北樹出版 2022 年
この他, 授業中に適宜資料を配布する。

参考書

『乳幼児精神医学入門』本城秀次著 みすず書房 2011 年
『再び「青年期」について』笠原嘉著 みすず書房 2011 年
『心理臨床における遊び その意味と活用』弘中正美編著 遠見書房 2016 年

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーに対して、次の授業において全体に向けてコメントをする。
リアクションペーパーで質問された内容については、次回の授業において答える。

成績評価の方法

授業中の小レポート及び期末試験の成績により評価する(授業中の小レポート 20%, 期末試験 80%)。

その他

授業でパワーポイントを使用する回には、事前にパワーポイントの資料を Oh-o!Meiji にアップロードする。
その資料を各自プリントアウトしたり、ダウンロードしたりして持参した上で授業に臨むこと。
その他、必要な資料を授業の際に配布することがある。

科目ナンバー：(AL)PHL261J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
臨床哲学	**臨床哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

－フッサール現象学への入門－

この講義では、日本において比較的最近発展してきた「臨床哲学(clinical philosophy)」の背景にある「現象学(phenomenology)」の基本的思想を学ぶ。臨床哲学の特徴には、現実に生きる個々の人間の経験を重視し(例えば、ある病を理解しようとするときに、医学的観点だけでなく、患者や看護師の経験も重視する)、その経験の当事者の語りを聴くことを哲学実践の一部とすることがある。

現象学は、20 世紀以降の現代哲学における最大の潮流の一つであり、ドイツの E. フッサールを創始者とし、M. ハイデガーに引き継がれ、さらにフランスで M. メルロ＝ポンティ、J-P. サルトル、S. de. ボーヴォワールなどによる実存主義的な哲学として展開していった。現象学は「一人称観点から私たちの経験を探究する」哲学であると言われ、行き過ぎた科学信仰を牽制したり客観性や主観性の概念を再考したりすることにも特徴がある。この講義ではこうした現象学の思想が臨床哲学の発想にどう結びつくのか、またどのようにその発想を伸ばしうるのかについても考察する。到達目標は、臨床哲学の背景という観点から、現象学の創始者であるフッサールの現象学の基本的思想を理解することである。

授業内容

1 この授業の狙いと進め方の説明
2 フッサールの生涯とその時代
3 数学から現象学へ
4 意味・表現・知覚
5 これまでの復習とコメント受付
6 現象学的還元と超越論的現象学
7 直観・志向性・現実性
8 デカルト的道と生活世界からの道
9 これまでの復習とコメント受付
9 知覚の現象学の深まり：身体性と時間性
10 知覚の現象学の深まり：地平としての世界、間主観性
11 これまでの復習とコメント受付
12 現象学と臨床哲学との関係、レポートの説明
13 レポートの提出
14 レポートの振り返り、全体の総括と今後の展望

履修上の注意

・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業の講義内容は三つのまとまり(フッサールの思想の初期・中期・後期の大まかな区分)からなっており、一つのまとまりが終わるごとにコメントを書いてもらいます。高い水準のコメントを書くためには毎回の授業内容の復習が必要です。

教科書

参考書

鷲田清一『「聴く」ことの力：臨床哲学試論』、筑摩書房、2015 年(初版 1999 年)
榊原哲也(2008)「フッサール」、野家啓一編『哲学の歴史〈10〉危機の時代の哲学』、中央公論新社、pp. 101-176

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

各コメントに対する評価 50%
レポートに対する評価 50%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL221J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
倫理学外書講読	**倫理学特論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
林 永強	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本科目は徳倫理学(virtue ethics)という視点から、明治以降の近代日本倫理学を再考する。まず、徳倫理学を概観する。そして、徳倫理学から近代日本倫理学、特に西田幾多郎、和辻哲郎、そして三木清の倫理学を再構築する。最後に、西田、和辻、三木の倫理学から、徳倫理学への意義を掘り出す。進め方として、英語での文献を取り上げ、精読していく。使用言語は日本語と英語である。

到達目標は、一、徳倫理学の再認識、二、近代日本倫理学の再考、三、倫理学的新論理の創出、主にこの三点である。

授業内容

第 1 回：徳倫理学の背景と定義
第 2 回：徳倫理学における徳
第 3 回：徳倫理学における行為者
第 4 回：徳倫理学における道徳感情
第 5 回：西田幾多郎の倫理学 I：人生問題
第 6 回：西田幾多郎の倫理学 II：活動説
第 7 回：西田幾多郎の倫理学 III：人格実現説
第 8 回：和辻哲郎の倫理学 I：人間学
第 9 回：和辻哲郎の倫理学 II：間柄
第 10 回：和辻哲郎の倫理学 III：信頼
第 11 回：三木清の倫理学 I：行為哲学
第 12 回：三木清の倫理学 II： 感情論
第 13 回：三木清の倫理学 III：身体論
第 14 回：近代日本倫理学における新論理の創出

履修上の注意

倫理学や近代日本哲学の予備知識は必要ない。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定文献を精読した上、議論に積極的に参加して下さい。

教科書

特に定めない。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で発表と討議を通して、解説を含め、独自の視点を整理させながら深めていく。期末のレポートも、文献を精読し、要点を纏めた上、自分の意見を示してもらう。メールや Oh-o! Meiji でコメントを提示する。

成績評価の方法

発表(40%)、レポート(60%)

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)PHL121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
倫理学概論Ⅰ	**倫理学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

嘘から始める倫理学入門(前半)

この授業では、嘘をつくという人間の行為に関して、嘘をつくとは何をすることか(春学期)、それはなぜ悪いのか(秋学期)、という二つの問いを取り上げ、哲学・倫理学の議論を検討します。

倫理学において、嘘をつくことは、道徳的な悪の典型として長い間取り上げられてきました。しかし、そもそも嘘をつくとは何をすることでしょうか。例えば、皮肉や冗談は、真ではないことをまるで真であるかのように語る点で嘘に似ています。しかし、嘘とは異なり、悪だとは考えられていません。ではどこが違うのでしょうか。また、なぜ嘘をつくことは悪いと言えるのでしょうか。人を助けるためであっても、嘘をつくことはやはり悪いことでしょうか。

この講義の目標は、以上のような問いの探求を通じて、倫理学的な物の考え方に習熟し、倫理学的に考えるための基礎的な知識を得ることです。

授業内容

1 この授業の狙いと進め方の説明
2 哲学の問い方、行為と意図(区別と関連性)
3 言語行為論の枠組、嘘をつくことと間違ったことを言うこと
4 嘘の標準的定義の批判的検討
5 ここまでの議論のまとめ、第一回レポートの説明・質問受付
6 第一回レポートの提出
7 第一回レポートの振り返り、嘘と皮肉の違い
8 嘘と冗談の違い、「サプライズのための嘘」を考える
9「自分に嘘をつく」を考える
10 嘘に騙す意図は必要ないという説の検討、嘘の自発性と強制性のグラデーション
11 ここまでの議論のまとめ、第二回レポートの説明・質問受付
12 第二回レポートの提出
13 第二回レポートの振り返り
14 全体の総括と秋学期への展望

履修上の注意

・春学期と秋学期の授業内容は連続している。通年で履修することが望ましい。
・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では、内容上の一定のまとまりを説明し終えるごとにコメントを書いてもらいます。高い水準のコメントを書くためには毎回の授業内容の復習が必要です。

教科書

池田喬、『「嘘をつく」とはどういうことか―哲学から考える』、ちくまプリマー新書、2025 年

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

第一回レポート 30%
第二回レポート 40%
授業参加状況 30%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL121J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
倫理学概論Ⅱ	**倫理学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 喬	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

嘘から始める倫理学入門(後半)

この授業では、嘘をつくという人間の行為に関して、嘘をつくとは何をすることか(春学期)、それはなぜ悪いのか(秋学期)、という二つの問いを取り上げ、哲学・倫理学の議論を検討します。

倫理学において、嘘をつくことは、道徳的な悪の典型として長い間取り上げられてきました。しかし、そもそも嘘をつくとは何をすることでしょうか。例えば、皮肉や冗談は、真ではないことをまるで真であるかのように語る点で嘘に似ています。しかし、嘘とは異なり、悪だとは考えられていません。ではどこが違うのでしょうか。また、なぜ嘘をつくことは悪いと言えるのでしょうか。人を助けるためであっても、嘘をつくことはやはり悪いことでしょうか。

この講義の目標は、以上のような問いの探求を通じて、倫理学的な物の考え方に習熟し、倫理学的に考えるための基礎的な知識を得ることです。

授業内容

1 この授業の狙いと進め方の説明
2 相手に害を与えるから悪いという見方
3 心の傷を例に害説を批判的に検討する
4 自分を苦しめる：害説の別の局面
5 ここまでの内容のまとめ、レポートの説明・質問受付
6 第一回レポートの提出
7 第一回レポートの振り返り、「善意の嘘」を考える
8「善意の嘘」を考える(続き)
9 相手に対する尊重を欠くから悪いという見方
10 理想論という観点から尊重説を検討する
11 ここまでの内容のまとめ、レポートの説明・質問受付
12 第二回レポートの提出
13 第二回レポートの振り返り
14 全体の振り返りと今後の展望

履修上の注意

・春学期と秋学期の授業内容は連続している。通年で履修することが望ましい。
・スマートフォンは研究の道具とは見なさない。そのため、授業中の閲覧は禁止する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業は連続している。それゆえ、毎回、前回の講義内容の復習が必要である。

教科書

池田喬、『「嘘をつく」とはどういうことか：哲学から考える」、ちくまプリマー新書、2025 年

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは授業内に行う。

成績評価の方法

第一回レポート 30%
第二回レポート 40%
授業参加状況 30%

その他

科目ナンバー：(AL)PHL221J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
倫理学文献講読	**倫理学特論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 邦政	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業の目的は、証言的不正義(testimonial injustice)について、話し手のナラティブ(語り)(narrative)と聴き手の信念に対する責任の観点から検討することである。証言的不正義とは、個人の偏見や社会に蔓延るイデオロギーなどのせいで、社会的に力の弱い集団やマイノリティに属する人々が証言の伝達を不当に妨げられる不正義のことである。この概念を提起したミランダ・フリッカーの議論は、証言が客観的な真実から個人の経験まで様々な内容を伝達しうるメディアであることまで想定されていなかった。しかし、近年の証言の認識論の進展により、証言の種類も分類されてきている。本授業では、人々の一人称のナラティブに焦点を当て、その固有の特徴について検討する。また、信念の倫理の近年の研究を踏まえて、証言を受けとる聴き手の責任だけではなく、聴き手に語ることの規範や話し手の責任について検討する。

本授業の到達目標は、学生が、以上の研究内容(たとえば、「どのようなことなのか」の知識、ナラティブの本性、話し手の責任、信念への責任)についての基本的な知識を得たうえで、自分自身で批判的に考えられるようになることである。

なお、本特講は、講義形式ではなく、毎回、参加者が担当箇所を発表し、それに基づいて参加者全体でディスカッションする形態にする予定です。

授業内容

1回 a: シラバスに基づく講義の概要説明、b: 証言的不正義と信念の倫理学の研究背景
2回 証言的不正義:認識的不正義の背景や証言的不正義の定義の検討
3回 「どのようなことか」の知識:意識の哲学における議論背景、「メアリーの部屋」の検討、経験条件の検討
4回 「どのようなことか」の三つの形態:現象説、認知能力説、命題説の検討
5回 ナラティブの特徴:パースペクティブの合図説の検討、「どのようなことか」の知識伝達の検討
6回 ナラティブの証言的不正義:パースペクティブを語る能力への不正と記憶を構築する能力への不正の検討
7回 語ることの規範:断定の規範性の紹介、伝えることの語り手の責任の検討
8回 聴くことの倫理学:他者の声の傾聴を超えて、声の主体から見えている現実を想像することへ
9回 証言的不正義への責任:偏見のコントロール可能性と偏見的判断への責任の検討
10回 現代の信念の倫理:信念的責任の議論背景の紹介、不信の態度への帰属責任、制裁責任、合理化責任の検討
11回 変容的経験:認識的変容、個人的変容、合理性、ナラティブの受けとめによる変容の検討
12回 信念変容と vision:信念的改宗(conversion)の検討、「なる」に着目する徳と見方の倫理学
13回 語り、聴く場:文学、映画、ドキュメンタリーを用いた体系的な不正義の是正策
14回 講義全体のふりかえり、質問受付、最終レポートに向けた学生の構想発表

履修上の注意

プリントの配布や提出物は、Oh-o!Meiji 上で行うため、受講者はかならず PC を持参すること。

遅刻は 15 分以内まで入室を許可します。それ以降は、授業を欠席したとみなします。特別な事情があるときは教員に連絡してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習としては、配布資料について、毎回の授業で該当ページを示すので、次回の講義に臨む前に読んでおいてください。(毎回 40 分以上)。

事後学習としては、毎講義で配布される資料を読みなおし、基本的な概念や考え方を整理し、自分の考えを進めてください(毎回 80 分以上)。

最終レポート課題は、講義の中で扱われる主題から好きなものを選び、みずからテーマを設定し、自分の考えを説得的に述べることです。その準備のため、講義中に示した話題をもとに、みずからの考えをまとめてください(30時間程度)。

事前・事後学習のために、E メールでの質問など受け付けます。

教科書

まだ日本語では紹介・議論されていないテーマを扱うため、pdf ファイルなどを事前に配布する。

参考書

佐藤邦政、神島裕子、榊原英輔、三木那由他(編著)『認識的不正義ハンドブック』. 勁草書房(税込み3300円)

課題に対するフィードバックの方法

毎授業、授業の冒頭でリアクションペーパーの全体講評を行う。

成績評価の方法

本講義の評価は次の三つの要素から成る。(1)毎授業時の提出物としての小レポート提出 (2)1200～1600 字程度の最終レポート (3)授業中の発表や討論などへの参加度

成績評価の配分は、小レポートが 30%、最終レポートが 40%、参加度 30%となる。

最終試験はない。

その他

学期中の研究出張などに応じて、単発的にオンラインで授業を実施することがある。詳細は、事前に連絡するため、各自で必ず Oh-o!Meiji を確認してください。

科目ナンバー：(AL)PAC311J

科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
歴史時代の考古学A	**歴史時代の考古学A**	
担 当 者	開講期	開講地区
追川 吉生	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

歴史時代の考古学(歴史考古学)とは、文献の有無による時代区分の一つ、歴史時代を対象とした考古学研究に対する便宜的な呼称である。

考古学は物質的資料に基づく歴史研究であるから、どの時代を研究対象とするのであれ研究方法は共通する。しかし歴史考古学では、文献・絵図といった史料や建築史など、諸分野との学際的な研究が不可欠な点に特色がある。

本科目では歴史考古学の研究成果から、その研究のあり方を学ぶ。

授業内容

第1回 日本考古学と歴史考古学
第2回 城の見方
第3回 城の歩き方
第4回 歴史考古学の分析資料
第5回 城とは何か
第6回 中世の武家屋敷
第7回 中世集落のあり方
第8回 中世の上級武家屋敷
第9回 鎌倉にみる中世都市のあり方
第10回 中世の城下町
第11回 中世の江戸(1)江戸の旧地形
第12回 中世の江戸(2)江戸城とその城下
第13回 中世都市の多様性
第14回 a:学習のまとめ b:試験

履修上の注意

●歴史考古学の特色の一つは、考古学と他分野の学問との学際的な研究である。従って受講生も専攻にかかわらず、各自のテーマとする研究分野との関わりという点を常に意識して授業に臨んでほしい。
●授業ではプレゼンテーションソフトを利用するが、この投影画面を撮影することは禁止する。
●教室での授業に代わり、土曜日か日曜日を利用した校外学習を実施する場合がある。
●毎回リアクションペーパーを配布する。講義はリアクションペーパーによって理解度をはかり、その内容を適宜変更していく。理解が難しいことがうかがえる場合には、再度の説明を行うなど双方向的な学習の場となるようにする。
●そのためにも、受講生も授業で何を考えたか、何がわからなかったかを積極的に表明してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では準備と復習に 4 時間以上を標準としている。
・講義資料は Oh-o! Meiji を通じて配信するので授業前までにダウンロードして準備にあてる(DL には期限を設ける)。
・講義資料で学習内容を振り返り、不明な部分があれば次回授業時までに質問事項としてまとめておく。
これらを参考に、各自で授業外での学習にあたること。授業の進捗状況によって1～2 回のレポートを課すこともある。

教科書

特に定めない。講義資料は Oh-o! Meiji に提示する。各自で事前にダウンロードして授業に臨むこと。

参考書

授業時に学習項目に関連する資料などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji のレポート機能を使用する。
リアクションペーパーに寄せられた質問などについては、次の授業時に解説する。

成績評価の方法

期末試験(60%)、授業への参加度(30%)、学習への取組(10%)で評価する。

その他

【履修上の注意】に記したように、本授業では毎回リアクションペーパーを配布する。
これによって学習項目の理解を把握する。質問などはここに記入すること。なおリアクションペーパーは、配布時点で教室に在室している受講生を対象とする。またリアクションペーパーの提出は授業終了後とする(途中退席の際の提出は認めない)。

連絡先 oikawa55@meiji.ac.jp
メールで問い合わせをする場合は、タイトルに用件を含めること。

科目ナンバー：(AL)PAC321J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
歴史時代の考古学B	**歴史時代の考古学B**	
担 当 者	開講期	開講地区
追川 吉生	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

歴史時代の考古学(歴史考古学)とは、文献の有無による時代区分の一つ、歴史時代を対象とした考古学研究に対する便宜的な呼称である。

考古学は物質的資料に基づく歴史研究であるから、どの時代を研究対象とするのであれ研究方法は共通する。しかし歴史考古学では、文献・絵図といった史料や建築史など、諸分野との学際的な研究が不可欠な点に特色がある。

本科目では歴史考古学の研究成果から、その研究のあり方を学ぶ。

授業内容

第1回 近世城下町江戸の誕生
第２回 大名屋敷と都市開発
第３回 大名屋敷の宴会儀礼
第４回 大名屋敷の長屋
第５回 大名屋敷の多様性
第６回 旗本屋敷の暮らし
第７回 町地の暮らし
第８回 江戸の墓と祈り
第９回 近世都市の考古学
第10回 遺跡からみる江戸時代の海外交流
第11回 都市考古学の比較研究
第12回 近・現代の考古学
第13回 埋蔵文化財の保存と活用
第14回 a:学習のまとめ b:試験

履修上の注意

●歴史考古学の特色の一つは、考古学と他分野の学問との学際的な研究である。従って受講生も専攻にかかわらず、各自のテーマとする研究分野との関わりという点を常に意識して授業に臨んでほしい。
●歴史時代の考古学(B)の講義は、歴史時代の考古学(A)の受講を前提として進めていく。従って受講するにあたっては歴史時代の考古学(A)を履修していることが望ましい。
●授業ではプレゼンテーションソフトを利用するが、この投影画面を撮影することは禁止する。
●教室での講義に代わり、土曜日か日曜日を利用した校外学習を実施する場合がある。
●毎回リアクションペーパーを配布する。講義はリアクションペーパーによって理解度をはかり、その内容を適宜変更していく。理解が難しいことがうかがえる場合には、再度の説明を行うなど双方向的な学習の場となるようにする。
●そのためにも、受講生も授業で何を考えたか、何がわからなかったかを積極的に表明してもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

この授業では準備と復習に 4 時間以上を標準としている。
・講義資料は Oh-o! Meiji を通じて配信するので授業前までにダウンロードして準備にあてる(DL には期限を設ける)。
・講義資料で学習内容を振り返り、不明な部分があれば次回授業時までに質問事項としてまとめておく。
これらを参考に、各自で授業外での学習にあたること。授業の進捗状況によって1～2 回のレポートを課すこともある。

教科書

特に定めない。講義資料は Oh-o! Meiji に提示する。各自で事前にダウンロードして授業に臨むこと。

参考書

授業時に学習項目に関連する資料などを紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji のレポート機能を使用する。
リアクションペーパーに寄せられた質問については、次回の授業時に解説する。

成績評価の方法

期末試験(60%)、授業への参加度(30%)、学習への取組(10%)で評価する。

その他

【履修上の注意】に記したように、本授業では毎回リアクションペーパーを配布する。
これによって学習項目の理解を把握する。質問などはここに記入すること。なおリアクションペーパーは、配布時点で教室に在室している受講生を対象とする。またリアクションペーパーの提出は授業終了後とする(途中退席の際の提出は認めない)。
連絡先 oikawa55@meiji.ac.jp
メールで問い合わせをする場合は、タイトルに用件を含めること。

科目ナンバー：(AL)PHL211J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
歴史と哲学	**歴史と哲学**	
担 当 者	開講期	開講地区
峰尾 公也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【概要】
私たちはふだん「歴史」という言葉を何気なく使用していますが、そもそも「歴史」とは一体何なのでしょうか。西洋哲学のなかで「歴史」が明確に問題となりはじめたのは 17～18 世紀のことであり、「歴史学」と呼ばれる実証的学問が確立されたのも 19 世紀に入ってからのことでした。本講義では、このように西洋近現代に確立され、発展してきた「歴史哲学」や「歴史学」について概観しながら、個々の発展段階における重要な人物・思想について紹介していきます。

【到達目標】
「歴史哲学」について基礎的な知識を獲得する。

授業内容

第1回 授業内容の説明、導入
第2回 啓蒙思想と歴史(ヴォルテール、ルソー)
第3回 反啓蒙と歴史(ヘルダー、ヴィーコ)
第4回 ドイツ観念論と歴史(カント、フィヒテ、シェリング)
第5回 ヘーゲルの歴史哲学
第6回 近代歴史学の成立(ランケ、ドロイゼン)
第7回 生と歴史①(ニーチェ、ブルクハルト)
第8回 生と歴史②(ディルタイ、ジンメル)
第9回 新カント派と歴史(ヴィンデルバント、リッカート)
第 10 回 ハイデガーの歴史論①
第 11 回 ハイデガーの歴史論②
第 12 回 歴史の終焉と物語論(コジェーヴ、ホワイト、ダント)
第 13 回 歴史の概念(ベンヤミン)、総括
第 14 回 授業内試験

履修上の注意

とくに哲学史の知識は必要ありませんし、これまで一度も哲学について学んだことがないという学生も歓迎しますが、授業内容としては少し専門性が高く感じられるかもしれません。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配布するレジュメ・資料を振り返り、わからない部分については質問すること。前回の授業について復習して次回の授業に臨むこと。

教科書

なし

参考書

関連する重要文献については適宜授業内で紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーへのレスポンス時間を各授業回ごとに設ける。

成績評価の方法

試験 100%。詳しくは初回授業で説明する。

その他

受講希望者は初回授業に必ず出席すること。

科目ナンバー：(AL)LAN351N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語で学ぶ文化と社会 IA	中級ロシア語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 春子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

到達目標は2つです。第1に、統辞論的なアプローチによって、これまでのロシア語学習で得た基礎知識を再統合していくことで、ロシア語の素養をより確実なものとすること。第2に、上記のアプローチを応用したテクストの読解、分析によって、実践力をつけることです。授業では、実用的な統辞論を講義し、この観点から、ロシア語のさまざまな文のスタイルとその意味をていねいに学びます。さらに、受講生とともに、歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品の任意のテクストを選び、読解やテクスト分析、質疑応答のプロセスをとおして、語学力の総体的なステップ・アップを図ります。ロシアの現地映像、視聴覚教材等を適宜、導入します。

授業内容

第１回 ガイダンス:
1)ロシア語「統辞論」入門
2)歴史、地理、文化、社会の分野から希望するテクストについて意見交換
第２回 統辞と文体の意味を考える
テクスト読解・分析(1)
第３回 主格、生格のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(2)
第４回 名詞の諸格と前置詞のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(3)
第５回 名詞の諸格のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(4)
第６回 文法補強とテクスト読解・分析(5)
第７回 動詞の不定法(完了体、不完了体)のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(6)
第８回 文法補強とテクスト読解・分析(7)
第９回 人称代名詞の諸格を用いた表現
文法補強とテクスト読解・分析(8)
第１０回 文法補強とテクスト分析(9)
第１１回 動詞の直接法現在と不定法のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(10)
第１２回 文法補強とテクスト読解・分析(11)
第１３回 文法補強とテクスト読解・分析(12)
第１４回 a.課題または試験、b.春学期のふり返りと正答解説

履修上の注意

◎受講資格としてロシア語歴２年以上。ロシア語の場合、最初の２年間で文法学習がほぼ終了し、
本講座のような実践を重ねることで言葉の世界を、より楽しめるようになります。
◎毎回、ワークショップ、小テストを実施し、楽しくアクティヴな実力養成を図ります。
◎歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品のテクスト、および、視聴覚教材等については、
受講生の希望や言語コミュニケーション力を配慮し、年度ごとに、更新されます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に適宜、指示します。

教科書

オリジナル・プリントを配布。『ロシア文法の基礎』木村彰一著、白水社を購入のこと。

参考書

『博友社ロシア語辞典、改訂新版』博友社、『研究社露和辞典』研究社など。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜、指示する。

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、出席 40%、ワークショップ、レポート、小テストの総合点 50%

その他

受講希望者は、初回ガイダンスに出席のこと。出席できない場合、クラスウェブにて連絡のこと。

科目ナンバー：(AL)LAN351N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語で学ぶ文化と社会 IB	中級ロシア語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 春子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

到達目標は2つです。第1に、統辞論的なアプローチによって、これまでのロシア語学習で得た基礎知識を再統合していくことで、ロシア語の素養をより確実なものとすること。第2に、上記のアプローチを応用したテクストの読解、分析によって、実践力をつけることです。授業では、実用的な統辞論を講義し、この観点から、ロシア語のさまざまな文のスタイルとその意味をていねいに学びます。さらに、受講生とともに、歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品の任意のテクストを選び、読解や質疑応答のプロセスをとおして、語学力の総体的なステップ・アップを図ります。ロシアの現地映像、視聴覚教材等を適宜、導入します。

授業内容

第１回 1)ガイダンス:「統辞論」の表現力を考える
2)歴史、地理、文化、社会の分野から希望するテクストについて意見交換
第２回 быть とその他の動詞における否定生格のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(1)
第３回 仮定法の諸相
文法補強とテクスト読解・分析(2)
第４回 文法補強とテクスト読解・分析(3)
第５回 無人称文、普遍人称文、不定人称文の諸相
文法補強とテクスト読解・分析(4)
第６回 文法補強とテクスト読解・分析(5)
第７回 疑問詞、不定代名詞、不定副詞のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(6)
第８回 文法補強とテクスト読解・分析(7)
第９回 形容詞的代名詞のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(8)
第１０回 名詞の省略、形容詞の名詞転化、不定代名詞、否定代名詞のコンビネーション
文法補強とテクスト読解・分析(9)
第１１回 文法補強とテクスト読解・分析(10)
第１２回 接続詞、助詞、不定代名詞によって接続する文
文法補強とテクスト読解・分析(11)
第１３回 文法補強とテクスト読解・分析(12)
第１４回 a.課題または試験 b.秋学期のふり返りと正答解説

履修上の注意

◎受講資格としてロシア語学習歴２年以上。ロシア語の場合、最初の２年間で文法学習がほぼ終了し、
本講座のような演習を積み重ねることで言葉の世界を、より楽しめるようになります。
◎毎回、ワークショップ、小テストを実施し、楽しくアクティヴな実力養成を図ります。
◎歴史、地理、文化、社会に関わる文章や文学作品のテクスト、および、視聴覚教材等については、
受講生の希望や言語コミュニケーション力を配慮し、年度ごとに、更新されます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時に適宜、指示します。

教科書

オリジナル・プリントを配布。『ロシア文法の基礎』木村彰一著、白水社を購入のこと。

参考書

『博友社ロシア語辞典　改訂新版』博友社、『研究社露和辞典』研究社など。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜、指示する。

成績評価の方法

授業への貢献度 10%、出席 40%、ワークショップ、レポート、小テストの総合点 50%

その他

受講希望者は、初回ガイダンスに出席のこと。春学期からの継続受講をお薦めします。

科目ナンバー:(AL)LAN252N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語レベルアップ A	中級ロシア語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
松本 隆志	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ロシア語を１年間学習した人を対象とした授業です。練習問題を解きながら、既習の文法的な知識を定着させ、ロシア語の運用能力(話す／聞く／書く／読む)を総合的に高めることを目標とします。また、ロシア語という言語を通して、ロシア語圏の文化や歴史についての理解を深めることができるような授業にしたいと思います。

授業内容

第１回:イントロダクション
第２回:発音の復習
第３回:動詞の体と時制(1)
第４回:動詞の体と時制(2)
第５回:名詞生格の用法
第６回:名詞与格の用法
第７回:名詞対格の用法
第８回:さまざまな前置詞の用法
第９回:名詞造格の用法
第10回:個数詞の格変化
第11回:時間の表現(基礎)
第12回:時間の表現(発展)
第13回:移動の動詞と接頭辞
第14回:a:試験、b: 試験の解説

履修上の注意

授業の内容は、受講生の習熟度や関心に応じて変更する場合があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

ロシア語文法の習得には反復練習が欠かせません。短時間でかまわないので、名詞格変化などの文法規則を繰り返し声に出して唱えることを日課にしてもらいたいと思います。

教科書

プリントを配布します。

参考書

露和辞典(詳細は初回の授業で指示します)。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

試験 50%、授業への参加度 50%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN252N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語レベルアップ B	中級ロシア語ＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
松本 隆志	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ロシア語を１年以上学習し、初級レベルの文法や語彙がおおむね身に付いている人を対象とした授業です。
長文読解と作文、会話練習をとおして、文法知識の定着と運用能力の向上を目指します。
毎回、あるテーマのまとまった文章を読み、そこで使われている語彙や表現を用いて作文と会話の練習を行ないます。学期の終盤には、外国人向けの語学教材ではなく、実際にロシアの人々が読んでいるテキスト(新聞・雑誌の記事や小説)にも挑戦してみましょう。

授業内容

第１回:イントロダクション
第２回:自分について
第３回:家族
第４回:住居
第５回:大学
第６回:一日の過ごし方
第７回:通勤・通学
第８回:買い物
第９回:病院
第10回:伝記
第11回:ニュース記事を読む
第12回:児童文学を読む
第13回:日本に関する文章を読む
第14回:レポート課題の添削と解説

履修上の注意

授業の内容は、受講生の習熟度や関心に応じて変更する場合があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で読むテキストは事前に配布するので、辞書を引いて日本語に訳せるように予習しておいてください。「わからない」、「訳せない」という箇所をあらかじめ知っておくことが重要です。

教科書

プリントを配布します。

参考書

露和辞典(詳細は初回の授業で指示します)。

課題に対するフィードバックの方法

学期末に露文和訳とロシア語作文のレポート課題を出し、最終授業日に添削と解説を行ないます。

成績評価の方法

レポート 50%、授業への参加度 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LIT191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア文学史A	**ロシア文学史A**	
担 当 者	開講期	開講地区
中澤 朋子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ロシア文学のはじまりから 19 世紀半ばまでのロシア文学を概観します。なお、「文学史」の「概観」ではありますが、その後の各受講者の学習や研究に役立ててもらうためにも、ロシア文学のテクストをじかに手に取ることが必須となります。したがって、開講期間中にはいくつかのロシア文学作品をじっさいに読んでもらうことになりますので、受講者はそのつもりで臨んでください。この授業を受講したあとには、各受講者がそれぞれの興味にしたがってさらに自由にロシア文学作品を読みすすめていくことを目標としましょう。

授業内容

第1回 授業の概要と計画、参考文献紹介
第2回 ロシア文学のはじまり
第3回 10～12 世紀(キエフ・ロシアの文学)、13 世紀前半
第4回『イーゴリ遠征物語』を読む
第5回 13 世紀後半～15 世紀
第6回 16～17 世紀:イヴァン4世、アヴァクーム、シメオン・ポロツキイ
第7回 18 世紀(1):ピョートル大帝の改革
第8回 18 世紀(2):カンテミール、トレジアコフスキイ、ロモノソフ、スマロコフ
第9回 18 世紀(3):エカテリーナ2世、デルジャーヴィン、ノヴィコフ、フォンヴィージン、ヘラスコフ
第 10 回 18 世紀(4):ラジーシチェフ、カラムジン
第 11 回 19 世紀(1):プーシキン
第 12 回 プーシキン『エヴゲーニイ・オネーギン』を読む
第 13 回 19 世紀(2):ゴーゴリ、レールモントフ、チュッチェフ、『外套』を読む
第 14 回 試験

履修上の注意

受講者のなかから、授業内で具体的な作品について発表してくれる人を募ります。学期の初めに担当作品と発表者を決定しますので、第1回目の授業には出席するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

翻訳で読める作品リストをあらかじめ配布しますので、発表担当者はそこから任意の作品1点を選び、それについて報告してもらいます(ただし古典的作品であればそのリストのなかからでなくてもかまいませんが、下記の理由により、なるべく事前にどの作品について報告するのか申告してもらうことが望ましいかと思われます)。とはいうものの、なるべく各発表担当者の希望にはしたがいたいと思っていますので、ある回によっては発表者による報告がないこともあり得るかと思います。

具体的な流れとしては、「(前半 50 分)教員による講義→(後半 50 分)発表担当者による報告および討論」となるようにしたいと思っています。

また、できるだけ活発な議論をおこなっていくためにも、報告される予定の諸作品を各受講者もあらかじめ読んでくることをめざしましょう。

教科書

プリントを配布します。

参考書

『はじめて学ぶロシア文学史』藤沼貴/水野忠夫/井桁貞義編著(ミネルヴァ書房)
『新版ロシア文学案内』藤沼貴・小野理子・安岡治子著(岩波書店)

課題に対するフィードバックの方法

試験後にその全体講評を Oh-o!Meiji で公開します。

成績評価の方法

学期末試験(50%)、授業への参加意欲や積極性などを考慮に入れた平常点(50%)で総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LIT191J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア文学史B	**ロシア文学史B**	
担 当 者	開講期	開講地区
中澤 朋子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期の内容にひきつづき、19 世紀半ばから 20 世紀初めまでのロシア文学の大まかな流れを見ていきます。また、秋学期でとりあげられる作家やロシア文学作品は直接的に日本文学にも大きな影響を与えるようになってきますので、随時それらについても言及していきたいと思っています。

なお、「文学史」の「概観」ではありますが、その後の各受講者の学習や研究に役立ててもらうためにも、ロシア文学のテクストをじかに手に取ることが必須となります。したがって、開講期間中にはいくつかのロシア文学作品をじっさいに読んでもらうことになりますので、受講者はそのつもりで臨んでください。この授業を受講したあとには、各受講者がそれぞれの興味にしたがってさらに自由にロシア文学作品を読みすすめていくことを目標としましょう。

授業内容

第1回 授業の概要と計画、参考文献紹介
第2回 19 世紀(3):ベリンスキイ、ゲルツェン、アクサーコフ、ゴンチャロフなど
第3回 19 世紀(4):トゥルゲーネフ
第4回 19 世紀(5):チェルヌィシェフスキイ、ネクラーソフ、オストロフスキイなど
第5回 19 世紀(6):ドストエフスキイ
第6回『罪と罰』を読む
第7回 19 世紀(7):トルストイ
第8回『アンナ・カレーニナ』を読む
第9回 20 世紀(1):チェーホフ
第 10 回『桜の園』を読む
第 11 回 20 世紀(2):アンドレーエフ、アルツィバーシェフ、ゴーリキイなど
第 12 回 20 世紀(3):ソログープ、ブリューソフ、ブローク、ベールイなど
第 13 回 20 世紀(4):フレーブニコフ、マヤコフスキイ、パステルナークなど
第 14 回 試験

履修上の注意

受講者のなかから、授業内で具体的な作品について発表してくれる人を募ります。学期の初めに担当作品と発表者を決定しますので、第1回目の授業には出席するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

翻訳で読める作品リストをあらかじめ配布しますので、発表担当者はそこから任意の作品1点を選び、それについて報告してもらいます(ただし古典的作品であればそのリストのなかからでなくてもかまいませんが、下記の理由により、なるべく事前にどの作品について報告するのか申告してもらうことが望ましいかと思われます)。とはいうものの、なるべく各発表担当者の希望にはしたがいたいと思っていますので、ある回によっては発表者による報告がないこともあり得るかと思います。

具体的な流れとしては、「(前半 50 分)教員による講義→(後半 50 分)発表担当者による報告および討論」となるようにしたいと思っています。

また、できるだけ活発な議論をおこなっていくためにも、報告される予定の諸作品を各受講者もあらかじめ読んでくることをめざしましょう。

教科書

プリントを配布します。

参考書

『はじめて学ぶロシア文学史』藤沼貴/水野忠夫/井桁貞義編著(ミネルヴァ書房)
『新版ロシア文学案内』藤沼貴・小野理子・安岡治子著(岩波書店)

課題に対するフィードバックの方法

試験後にその全体講評を Oh-o!Meiji で公開します。

成績評価の方法

学期末試験(50%)、授業への参加意欲や積極性などを考慮に入れた平常点(50%)で総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
論理学概論Ⅰ	**論理学概論A**	
担 当 者	開講期	開講地区
山﨑　紗紀子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

「論理学」では、「正しい推論」について考察を行います。
本講義では、命題論理について、日本語の記号化からはじめ、自然演繹・真理表・タブローなどを中心に解説していきます。
記号論理学についての基礎的な知識を身につけることを目的とします。
論理結合子の働きなどを理解し、証明系等での証明などを構成できるようになることを目指します。

授業内容

第１回:インロトダクション
第２回:日本語の記号化１:「連言」「選言」「含意」「否定」
第３回:日本語の記号化２:記号化のまとめ
第４回:自然演繹１:自然演繹の導入・「含意」
第５回:自然演繹２:「連言」「選言」
第６回:自然演繹３:「否定」
第７回:自然演繹４:自然演繹のまとめ
第８回:真理表１:真理表への準備・「含意」
第９回:真理表２:「連言」「選言」「否定」
第10回:命題論理のタブロー1:タブローの導入・「含意」
第11回:命題論理のタブロー2:「連言」「選言」
第12回:命題論理のタブロー3:「否定」
第13回:命題論理のタブロー4:タブローのまとめ
第14回:命題論理のまとめ

履修上の注意

特別な予備知識は必要ありません。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:前回の授業の内容を復習し、次回の授業時に解決・質問などができるように、改めて疑問点などを確認しておくようにしておいてください(60 分程度)。
復習:授業中に扱った練習問題等で解けなかったものについては改めて取り組んでみてください(60 分程度)。

教科書

特に定めません。プリントを配布する予定です。

参考書

特に定めませんが、必要に応じて紹介していきます。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に中間課題についての解説を行います。

成績評価の方法

中間課題 20%、期末試験 80%で評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)PHL111J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
論理学概論Ⅱ	**論理学概論B**	
担 当 者	開講期	開講地区
山﨑　紗紀子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「論理学」では、「正しい推論」について考察を行います。
本講義では、述語論理について、日本語の記号化からはじめ、自然演繹・タブロー・シークエント計算などを中心に解説していきます。
記号論理学についての基礎的な知識を身につけることを目的とします。
論理結合子や量化子の働きなどを理解し、証明系等での証明などを構成できるようになることを目指します。

授業内容

第１回:インロトダクション
第２回:日本語の記号化１:「連言」「選言」「含意」「否定」
第３回:日本語の記号化２:「全称」「存在」
第４回:自然演繹１:「含意」「否定」「連言」「選言」
第５回:自然演繹２:「全称」「存在」
第６回:自然演繹３:自然演繹のまとめ
第７回:述語論理のタブロー1:「含意」「否定」「連言」「選言」
第８回:述語論理のタブロー2:「全称」「存在」
第９回:述語論理のタブロー3:タブローのまとめ
第10回:シークエント計算１:シークエント計算の導入・「含意」「否定」
第11回:シークエント計算２:「連言」「選言」
第12回:シークエント計算３:「全称」「存在」
第13回:シークエント計算４:シークエント計算のまとめ
第14回:述語論理のまとめ

履修上の注意

論理学概論 A・Ⅰを履修していることを想定しています。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:前回の授業の内容を復習し、次回の授業時に解決・質問などができるように、改めて疑問点などを確認しておくようにしておいてください(60 分程度)。
復習:授業中に扱った練習問題等で解けなかったものについては改めて取り組んでみてください(60 分程度)。

教科書

特に定めません。プリントを配布する予定です。

参考書

特に定めませんが、必要に応じて紹介していきます。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に中間課題についての解説を行います。

成績評価の方法

中間課題 20%、期末試験 80%で評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)IND311J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ー	**ライフサイクルと人間Ⅰ**	
担 当 者	開講期	開講地区
小粥 宏美	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、ヒトの一生を通したライフサイクルの視点から、生涯にわたって変化する心と身体の問題に触れていく。
各発達段階における課題を取り上げる中で、自己への気づきを促し、人の発達や成長を促す要因に対する理解を深めることを到達目標とする。

授業内容

第1回　ライフサイクル論の概説
第2回　胎児期
第3回　乳児期～幼児期
第4～5回 児童期～思春期
第6～7回 青年期
第8～9回 成人期
第 10～11 回 老年期
第 12～13 回 グループワーク
第 14 回　aまとめ bテスト

履修上の注意

発達心理学に関連する授業を履修していることが望ましい。履修していない場合は、履修前に発達心理学に関連する書籍を読んでおくことが望まれる。
授業中に実施するワークや紹介動画を用いて、積極的に自己理解を深める態度が求められる。
授業期間中に、グループワークを実施することを理解しておくこと。
受講生の傾向によって、授業内容は随時変更することを理解したうえで、受講を決めてほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

参考図書や紹介動画を視聴して、さまざまな角度から発達段階における課題の理解を深めてほしい

教科書

特に指定しない

参考書

授業中に紹介する

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する

成績評価の方法

授業内アンケート及び授業への貢献度(20%)と期末試験(80%)により総合的に評価する

その他

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

対象技能：Reading
第 1 回 Unit 1 The Arts: Multisensory Art [1]
第 2 回 Unit 1 The Arts: Multisensory Art [2]
第 3 回 Unit 2 Identity: Personality and Inner Growth [1]
第 4 回 Unit 2 Identity: Personality and Inner Growth [2]
第 5 回 Unit 3 Nature and Humanity: The Subterranean World [1]
第 6 回 Unit 3 Nature and Humanity: The Subterranean World [2]
第 7 回 Unit 4 Achievement: Elements of Genius [1]
第 8 回 Unit 4 Achievement: Elements of Genius [2]
第 9 回 Unit 5 Careers: Sports Medicine [1]
第 10 回 Unit 5 Careers: Sports Medicine [2]
第 11 回 Unit 6 Culture: Cultural Awareness [1]
第 12 回 Unit 6 Culture: Cultural Awareness [2]
第 13 回 Unit 7 Lifestyles: Living off the Grid
第 14 回 a. 試験 / b. 解答・解説

履修上の注意

毎回授業前に、指定された範囲の予習を行なっておくこと。遅刻は授業開始から 30 分までとする。遅刻 3 回で欠席 1 回扱いとする。学期末に期末試験を行うが、出席が授業日数の 2/3 に達しない場合、期末試験の受験資格無しとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの文章に関し予め語句等を調べ、ある程度内容を理解し、説明できるようにしておく必要がある。また、練習問題についても、あらかじめ答えを考えておくこと。学期末試験に向けて、文章の内容や表現等の復習が必要である。(各授業毎計 2 時間程度)

教科書

『Reading Fusion 3』
Andrew E. Bennett
南雲堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
岩崎 永一	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

この科目は上記の「授業の概要・到達目標」の中の Writing 科目です。

英文エッセイ全体の「構成(organisation)」の基礎を学び、また、様々な種類のエッセイについても学びます。並行して、英語の母語話者がどのように英文を認識し書いているかという点まで掘り下げ、文レベルの高度な文法・統語構造や高度なメタファーの使用法についても、言語学の学術成果を踏まえて解説致します。各回の内容は概ね、以下の通りですが、進行状況によって変更となる場合もあります。

第1回 イントロダクション 第2回 Unit 1 の前半(1) 第3回 Unit 1 の前半(2)
第4回 Unit 1 の後半(1) 第5回 Unit 1 の後半(2) 第6回 Unit 2 の前半(1) 第7回 Unit 2 の前半(2)
第8回 Unit 2 の後半(1) 第9回 Unit 2 の後半(2) 第10回 Unit 3 の前半(1) 第11回 Unit 3 の前半(2)
第12回 Unit 3 の後半(1) 第13回 Unit 3 の後半(2) 第14回 a. まとめ b. 試験

履修上の注意

○毎回、辞書(英和)を必ず持参してください。
○遅刻複数回は状況に応じて欠席としてカウントします。
○この科目はライティング科目ですが、高度な英語を書くためには、膨大な量のインプットを確保することと英語を母語話者と同レベル(かそれ以上に)で精確に読む、ということが前提となります。
○私は言語学(特に、意味論)が専門ですので、言語学的な知見を援用した文法説明も行うと思います。そのためには、授業中に自由に質問をして頂くことが大事です。質問が多いほど、私の方はみなさんに多くの知識を伝授することができます。この授業を上手く活用すれば(i.e., 積極的な授業参加により、私の知識を上手く引き出し、それを吸収すれば)、母語話者がどのような頭の働きで英語を理解しているか、を学ぶと同時に、英語の文構造や文法の真理を学ぶことができる貴重な機会とすることができると思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

○予習としては、毎回、教科書の語彙を調べてきてください。その他の詳しいことは授業中にお伝え致します。
○復習としては、各回の内容や語彙を確認し、身に付けることです。小テストの前にはそのための勉強もして頂きます。

教科書

Great Writing Level 4 (5th ed.) Student Book with Spark Access + e-Book (1 year access)
著者：Keith Folse, April Muchmore-Vokoun, Elena Solomon
ISBN: 9798214333090
¥4,000 (税込¥4,400)
National Geographic

※Edition と Level を間違えないようにお願い致します。

参考書

特に指定致しません。

課題に対するフィードバックの方法

○課題の結果を踏まえて解説致します。
○Oh!Meiji の掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
オボグネ, マリリン	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
The objectives of this course are to prepare students for interactive communication in the English language and to stimulate interest in and understanding of global and domestic issues that are relevant to their communication needs.

授業内容
Week 1: Introduction & Syllabus discussion. (Handout will be provided)
Week 2: Unit 1: And we're off! (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 3: Unit 1: Pair work / group oral presentation
Week 4: Unit 2: The future of food (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 5: Unit 2: Pair work / group oral presentation
Week 6: Unit 3: What's it worth (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 7: Unit 3: Pair work / group oral presentation
Week 9: Unit 4: Going glocal (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 10: Unit 4: Pair work / group oral presentation
Week 11: Unit 5: True stories (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 12: Unit 5: Pair work / group oral presentation
Week 11: Unit 6: Community action (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 12: Unit 6: Pair work / group oral presentation
Week 13: Final oral presentation
Week 14: Final Test

履修上の注意
Students must earn a score of 60% or more and be in attendance for 2/3 of classes in order to pass.

準備学習(予習・復習等)の内容
Reading tasks and listening practice will be provided as homework to help students develop critical thinking. Students should prepare for each class by completing the homework and learning about the upcoming topic. Two hours of self-study is required per week.

教科書
Title: Evolve Level 4 Student's Book with eBook
著者:Ben Goldstein & Ceri Jone
Cambridge
ISBN:9781009230827

参考書

課題に対するフィードバックの方法
Students will receive feedback in a variety of ways during typical face-to-face classes:
・Provide written feedback on assignments
・In-class / One-on-One (Question and answer)
・Provide feedback during lessons and check-ins.

成績評価の方法
Grades will be based on the following:

Homework - 40%
Presentation for Oral communication -40%
Final Presentation - 10%
Final paper test- 10%

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
松野 亜希子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション—どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容
Reading のクラスです。アート、心理学、サイエンスなどの多彩なトピックを扱った英語の文章を読んで、様々な練習問題を解くことにより、語彙力ならびに読解力を高めることを目指します。

第1回 授業のイントロダクション
第2回 Unit 1 Multisensory Art (1)
第3回 Unit 1 Multisensory Art (2)
第4回 Unit 2 Personality and Inner Growth (1)
第5回 Unit 2 Personality and Inner Growth (2)
第6回 Unit 3 The Subterranean World (1)
第7回 Unit 3 The Subterranean World (2)
第8回 Unit 4 Elements of Genius (1)
第9回 Unit 4 Elements of Genius (2)
第 10 回 Unit 5 Sports Medicine (1)
第 11 回 Unit 5 Sports Medicine (2)
第 12 回 Unit 6 Cultural Awareness (1)
第 13 回 Unit 6 Cultural Awareness (2)
第 14 回 学期末試験と授業の総括

履修上の注意
辞書を引きながら、英語の文章を丁寧に読むことが求められます。よって、英和辞典(電子辞書・紙媒体のどちらでも可)を必ず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習:教科書のなかで事前に講師が指定する箇所を熟読し，練習問題を解いておくこと。
復習:授業で読んだ長文をもう一度熟読し、理解が不十分な箇所がないかどうかをチェックしておくこと。疑問点がある場合は、次回の授業で教員に質問すること。

教科書
[i]Reading Fusion 3[/i](南雲堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法
課題や小テストの解説は授業時間内に行う。

成績評価の方法
学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回 a：イントロダクション
b：Chapter 1 Paragraph Structure Introduction
第2回：Chapter 1 Noticing Vocabulary : Word Families /グループワーク(1)
第3回：Chapter 1 Parts of a Paragraph
第4回：Chapter 1 Applying Vocabulary : Using Word Families
第5回：Chapter 1 The Writing Process
第6回：Chapter 1 Writing Assignment : A Paragraph about Communication
第7回：Chapter 1 Self-Assessment / Expansion
第8回：Chapter 2 Unity and Coherence Introduction / Noticing Vocabulary : Synonyms 1
第9回：Chapter 2 Unity /グループワーク(2)
第 10 回：Chapter 2 Coherence / グループワーク(3)
第 11 回：Chapter 2 Applying Vocabulary : Using Synonyms 1
第 12 回：Chapter 2 Writing Assignment : A Paragraph about Health and Medicine
第 13 回：Chapter 2 Self-Assessment / Expansion
第 14 回 a：まとめ
b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Alice Oshima, Ann Hogue, [i]Longman Academic Writing Series[/i]4[i]: Paragraphs to Essays, Fifth Edition [/i](Pearson Longman)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

講義が聞き取りやすいように、場合によりマイクを使用します。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 志保美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第 1 回 Course Guidance, Review on Paragraph Writing
第 2 回 Unit 1 Exploring the Essay 1
第 3 回 Unit 1 Exploring the Essay 2
第 4 回 Unit 1 Exploring the Essay 3
第 5 回 Unit 1 Exploring the Essay 4, Vocabulary Quiz #1
第 6 回 Unit 2 Cause-Effect Essays 1
第 7 回 Unit 2 Cause-Effect Essays 2
第 8 回 Unit 2 Cause-Effect Essays 3
第 9 回 Unit 2 Cause-Effect Essays 4, Vocabulary Quiz #2
第 10 回 Unit 3 Comparison Essays 1
第 11 回 Unit 3 Comparison Essays 2
第 12 回 Unit 3 Comparison Essays 3
第 13 回 Unit 3 Comparison Essays 4, Vocabulary Quiz #3
第 14 回 Review and Exam

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参してください。
授業の性質上、積極的な参加を求めます。また、課題の提出締切を厳守すること。
担当者への連絡は Oh-o! Meiji の「教員とのメッセージ」を使ってください。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にお知らせします。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として教科書の該当箇所をしっかり読み、練習問題に取り組んでから授業に臨みましょう。また、復習として課題に取り組み、必ず提出してください。
しっかりした英文を書くためには、インプットを多くして、自分が使える文の種類や言い回し、語彙を増やし、文法について確認しておく必要があります。英語の論文や文献に多く触れるように心がけてください。
教科書にはオンライン教材がついています。こちらも積極的に活用してください。

教科書

Great Writing Level 4 (5th ed.) Student Book with Spark Access + e-Book
著者：Keith Folse, April Muchmore-Vokoun, Elena Solomon
ISBN: 9798214333090
￥4,400 (税込)
National Geographic Learning

参考書

授業内に随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

全体として授業内で解説、講評します。
Oh-o! Meiji を通じて、また紙面で個別におこないます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

これは Writing のクラスです。

01. イントロダクション
02. Chapter 1 (1)
03. Chapter 1 (2)
04. Chapter 2 (1)
05. Chapter 2 (2)
06. Chapter 3 (1)
07. Chapter 3 (2)
08. Chapter 4 (1)
09. Chapter 4 (2)
10. Chapter 5 (1)
11. Chapter 5 (2)
12. Chapter 6 (1)
13. Chapter 6 (2)
13. まとめ等

履修上の注意

英語の辞書を持参してください。
授業の進行は、教室での様子を踏まえて適宜調整される可能性があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

詳しくは授業中に説明しますが、教科書のうち指定された範囲を予習してきてください。また復習として、学んだことを自分の文章に活かしてみてください。

教科書

Longman Academic Writing Level 4 (5th ed.): Essays
著者: Alice Oshima and Ann Hogue
ISBN: 9780136838630
¥3,960 (税込)
Pearson Longman

参考書

課題に対するフィードバックの方法

教室またはオンラインでフィードバックを行ないます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	English Academic Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
松本 美千代	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively, and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回 イントロダクション What is Writing?
第2回 Sentence Structure and Introducing Yourself
第3回 Sentence Mechanics and Your Journal
第4回 Sentence Organization and A Paragrah about Your Morning Routine
第5回 The Writing Process and A Paragrah about Your Sleep Habits
第6回 Subjects of Sentence and Grammar Advice and A Paragraph about someone in a Photo
第7回 Looking at the Models and sentence Structure. A Paragraph about Someone You Know Well
第8回 A Paragraph about Your Journal
第9回 Looking at the Sentence Models about A Good Day
第 10 回 A Paragraph about a Typical Day
第 11 回 A Paragraph aobut a Favorite Holiday
第 12 回 Looking at the Models on Your Hometown
第 13 回 A Paragraph Describing Your Hometown
第 14 回 (a)試験、(b)解説

履修上の注意

授業参加度と課題提出を重視する。
英語ライティングを実施するために必要な「辞書」や提出用の用紙(あるいは PC)を持参する。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書に記載された課題を行う(平常点の成績となる)。

教科書

Longman Academic Writing Level 1 (2nd ed.)
著者:Linda Butler
ISBN: 9780136769958
¥3,600 (税込 3,960)
Pearson Longman

参考書

辞書

課題に対するフィードバックの方法

・ライティングの課題についてディスカッションを行う。
・より良いライティングについて授業内で考えながら進めるので、安心して参加してください。
・最終授業日にライティング課題を実施し、同日に解説の時間を設ける。
・課題の講評を毎週授業で行う。

成績評価の方法

学期末に試験を行う。成績評価は、授業参加度 44%(平常点 20%・授業態度(積極的な発言)・小テスト)、課題の提出(学期末の試験)56%を総合的に判断して行う。
(ライティングの授業のため、エッセイライティングの課題提出物を評価します。)

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。 S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	English Academic Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In English Academic Writing, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively, and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

English Academic Writing では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回 この授業の概要説明などイントロダクション
第2回 課題英訳作成その1
第3回 課題英訳作成その2
第4回 課題英訳作成その3
第5回 課題英訳作成その4
第6回 課題英訳作成その5
第7回 中間まとめ・確認テスト
第8回 課題英訳作成その6
第9回 課題英訳作成その7
第 10 回 課題英訳作成その8
第 11 回 課題英訳作成その9
第 12 回 課題英訳作成その10
第 13 回 課題英訳作成その11
第 14 回 a:講義(春学期のまとめ)
b:試験

履修上の注意

和英・英和・英英辞典など自分が必要とすると思われる辞書類は必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。

携帯電話やノートパソコン等、インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当教員が許可しない限り、いかなる目的であっても禁止します。

その他の注意事項に関しては、1回目の講義で伝えます。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、教科書で次週扱う範囲の問題を講義前までに解答しておくこと。

復習としては、次週までにもう一度しっかり見直しを行い、不明な点があればすぐに講義担当者に質問するようにすること。

教科書

プリントを配布します。

参考書

特に定めませんが、必要に応じて講義中に紹介していきます。

課題に対するフィードバックの方法

英作文の課題は、担当者が添削したものを必ず学期中に直接返却しますが、履修者全員分を添削するのにはかなりの時間を要しますので、返却まで時間がかかることを了承してください。(いつ頃返却できるかの見通しが立ち次第、授業中にアナウンスします。)

添削された箇所に関する疑問・質問は、返却時に(授業中に)受け付けます。

成績評価の方法

平常点(小テスト・課題提出物の成績など)30%、期末試験 70%で 100 点満点に換算する。欠席が授業回数の3分の1をこえた場合、平常点と期末試験の合計が 60 点に達しない場合には、いずれも単位を認定しない。

その他

授業に関する要望があれば、学期末実施の「授業改善アンケート」に書くよりも、学期中に授業担当教員に直接言うようにしてください。可能な範囲で対処します。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	English Academic Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション—どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第一回 a:イントロダクション(この授業の進め方)
b:英語の読解についての概説
第二回:第一課
第三回:第二課
第四回:第三課
第五回:第四課
第六回:第五課
第七回:第六課
第八回:第七課
第九回:第八課
第十回:第九課
第十一回:第十課
第十二回:第十一課
第十三回:第十二課
第十四回 a:春学期のまとめ
b:テスト

履修上の注意

予習してくることが望ましいが、出来ていない場合、その場でやってもらうことになる。
従って、辞書(電子辞書可)を持参して来ること。

準備学習(予習・復習等)の内容

出来る限り、毎回一課進む予定なので、それに合わせて予習をしておくこと。
特に本文は、出来る限り、訳せるようにしておくこと。

教科書

野田小枝子、『Read to Write』、朝日出版社

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
高島 和哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 Ch.1 30 Years of Pokemon's Global Success
第3回 Ch.1 30 Years of Pokemon's Global Success
第4回 Ch.2 All Eyes on the Chimps
第5回 Ch.2 All Eyes on the Chimps
第6回 Ch.3 Making Helmets Safe and Cute
第7回 Ch.3 Making Helmets Safe and Cute
第8回 Ch.4 Benefits of Sleeping on the Job
第9回 Ch.4 Benefits of Sleeping on the Job
第 10 回 Ch.5 Cosplaying Going Global
第 11 回 Ch.5 Cosplaying Going Global
第 12 回 Ch.6 Resume Photo Influences Hiring Decisions
第 13 回 Ch.6 Resume Photo Influences Hiring Decisions
第 14 回 a: 試験
b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

教科書とともに辞書(電子辞書可)を必ず持参すること。携帯電話・スマートフォンは使用不可。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にテキストの文章に目を通し、単語・熟語等を調べ、設問に対する答えも用意しておくこと。

教科書

[i]Insight 2026[/i]／世界を読むメディア英語入門 2026
ISBN: 978-4-7647-4242-0
金星堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
藤野 悠子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 Unit 1 Friends For Life
第3回 Unit 1 Friends For Life
第4回 Unit 2 That's Entertainment!
第5回 Unit 2 That's Entertainment!
第6回 Unit 3 Eating In or Eating Out
第7回 Unit 3 Eating In or Eating Out
第8回 Unit 4 A World of Fashion
第9回 Unit 4 A World of Fashion
第 10 回 Unit 5 Music Makes the World Go Round
第 11 回 Unit 5 Music Makes the World Go Round
第 12 回 Unit 6 Olympic Sports
第 13 回 Unit 6 Olympic Sports
第 14 回 a: 試験 b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参し、積極的に参加してください。
担当者のメールアドレスは第1回目の授業時にお知らせします。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にてお知らせします。

準備学習(予習・復習等)の内容

クラスでは精読をしますが、予習の際に辞書で意味を調べてきてください。

教科書

In Focus: Intro
著者:Charles Browne / Brent Culligan
ISBN:978-4-7647-4222-2
出版社:金星堂

参考書

授業内で解説、講評します。

課題に対するフィードバックの方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	English Academic Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 志保美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:

「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:

一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション―どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第 1 回 Course Introduction
第 2 回 Lesson 1: Hi Jason (An e-mail)
第 3 回 Lesson 2: Crash Closes Bridge during Storm (A newspaper article)
第 4 回 Lesson 3: Hightones Reunion Concert (A magazine article)
第 5 回 Lesson 4: Dear Sirs: A Letter of Request (A letter)
第 6 回 Lesson 5: Assembly Instructions for the XYZ Three-Shelf Bookcase (An instruction manual)
第 7 回 Lesson 6: The Lesson of the Talking Fish (A fairy tale)
第 8 回 Lesson 7: Stranded! Leaves Us Cold (A movie review)
第 9 回 Lesson 8: The Big Storm (A blog)
第 10 回 Lesson 9: This Is Your Captain (An announcement on a plane)
第 11 回 Lesson 10: Two Letters (Two letters accompanying a job application)
第 12 回 Lesson 11: Japanese Youth: Can There Be Life without a Cellphone? (Using numbers)
第 13 回 Lesson 12: How Long Can People Live? (An academic article)
14 回 Review and Exam

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参してください。
予習前提の授業を行います。
授業の性質上、積極的な参加を求めます。また、課題の提出締切を厳守してください。
担当者への連絡は Oh-o! Meiji の「教員とのメッセージ」を使ってください。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にお知らせします。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として教科書の Rreading 部分について目を通し、Vocabulary Building と Comprehension Questions を解いておくこと。
授業内で復習の小テストを行います。
ライティング課題は必ず期限内に提出してください。
しっかりした英文を書くためには、インプットを多くして、自分が使える文の種類や言い回し、語彙を増やし、文法について確認しておく必要があります。英語の論文や文献に多く触れるように心がけてください。

教科書

Read to Write: An Integrated Course for College Students
著者: Saeko Noda
ISBN: 9784255155326
￥2,090 (税込)
朝日出版社

参考書

授業内で随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

全体として授業内で解説、講評します。
Oh-o! Meiji を通じて、また紙面で個別におこないます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:スポーツに関する, 英語で書かれたニュースを読むクラス。
目標:スポーツ関連の英語の語彙を覚え, 英語のスポーツニュースを読めるようになること。

授業内容

英語のニュースを教材とする。
1. a. イントロダクション b. 質疑応答
2. a. アメリカのプロ野球のニュースを読む b. 今後の授業の進め方
3. a. セ・リーグのニュースを読む b. 確認問題
4. a. パ・リーグのニュースを読む b. 確認問題
5. a. 高校野球のニュースを読む b. 確認問題
6. a. 国内サッカーのニュースを読む b. 確認問題
7. a. 海外サッカーのニュースを読む b. 確認問題
8. a. バスケットボールのニュースを読む b. 確認問題
9. a. 相撲のニュースを読む b. 確認問題
10. a. ラグビーのニュースを読む b. 確認問題
11. a. 男子ゴルフのニュースを読む b. 確認問題
12. a. 女子ゴルフのニュースを読む b. 確認問題
13. a. 男子テニスのニュースを読む b. 確認問題
14. a. 女子テニスのニュースを読む b. 確認問題

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って, 出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, 配布資料を予習してくること。
教科書に書いてある英語をすべて読めて, 日本語にできるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

予習ノート:5%
確認問題:95%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

1. a. イントロダクション、b. 友達に関するリーディング
2. a. 友達に関するライティング、b. 小テスト
3. a. 友達に関するライティングを読む、b. 小テスト
4. a. 食べ物に関するリーディング、b. 小テスト
5. a. 食べ物に関するライティング、b. 小テスト
6. a. 食べ物に関するライティングを読む、b. 小テスト
7. a. 携帯電話に関するリーディング、b. 小テスト
8. a. 携帯電話に関するライティング、b. 小テスト
9. a. 携帯電話に関するライティングを読む、b. 小テスト
10. a. 消費に関するリーディング、b. 小テスト
11. a. 消費に関するライティング、b. 小テスト
12. a. 消費に関するライティングを読む、b. 小テスト
13. a. 危機管理に関するリーディング、b. 小テスト
14. a. 危機管理に関するライティング、b. 期末試験

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って、出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:毎回、教員の指示に従ってリーディング、ライティングの予習してくること。
復習:毎回、小テストや期末試験に備えて復習すること。

教科書

[i]Colin Ward and Margot Gramer. Q Skills for Success: Reading and Writing 3 (Student Book with iQ Online Practice)[/i]3rd ed. Oxford University Press, 2019.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容
第1回 ガイダンス
第２回 Unit1 The Future of the Meat Market
第３回 Unit1 The Future of the Meat Market
第４回 Unit2 The Road to a Carbon-Free World
第５回 Unit2 The Road to a Carbon-Free World
第６回 Unit3 The Meaning of a healthy Life
第７回 Unit3 The Meaning of a healthy Life
第８回 Unit4 Keys to a Successful Job Interview
第９回 Unit4 Keys to a Successful Job Interview
第10回 Unit5 The Healing Power of Animals
第11回 Unit5 The Healing Power of Animals
第12回 Unit6 Measures to help Job Seekers
第13回 Unit6 Measures to help Job Seekers
第14回 まとめ・試験

これは予定にすぎませんので，クラスの様子や状況によっていくつか 変更もありえます。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容
毎回テキストの授業予定箇所を予習をしておくこと。
単語の復習テストを行います。

教科書
Integrity Intermediate 金星堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法
最終授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法
学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容
Week-1 Orientation: How to express your opinions in English
Week-2 1-Psychology: Happiness
Week-3 1-Psychology: Happiness
Week-4 2- Linguistics: A Time to Learn
Week-5 2- Linguistics: A Time-to Learn
Week-6 3-Public Health: Sleep
Week-7 3-Public Health: Sleep
Week-8 4-Business: Negotiation for Success
Week-9 4-Business: Negotiating for Success
Week-10 5-Art History: Modern Art
Week-11 5-Art History: Modern Art
Week-12 6-Engineering: Robots
Week-13 Term-end Presentation Group-1
Week-14 Term-end Presentation Group-2

履修上の注意
This is a student/learner-orientated class, so students are strongly encouraged to express their own opinions based on what is provided in the textbook chapters. There is no need to construct so-called "perfect" and "complete" sentences before you speak. It is vital for a speaker to have solid opinions regardless of the language they use. So please do not afraid of making mistakes.

準備学習(予習・復習等)の内容
Students are expected to have their own views on a given subject each week. It is important to be able to ask good and relevant questions.

教科書
Solorzano, Helen and Laurie Frazier. Contemporary Topics 1: 21st century skills for academic success. (4th edition) Pearson, 2017.

参考書
To be advised during the class

課題に対するフィードバックの方法
Written assigments will be commented and returned in the class.

成績評価の方法
学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 匠	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 英作文実践:「春休みの出来事」について英語で書く
第3回 Chapter 1 Academic Paragraphs: Model Paragraph を読む
第4回 Chapter 1 Academic Paragraphs:「自己紹介」の英文を書く
第5回 Chapter 1 Academic Paragraphs:「春休みの出来事」英作文の修正
第6回 Chapter 1 Academic Paragraphs: Writing Process を体感する
第7回 Chapter 2 Narrative Paragraphs: Model Paragraph を読む
第8回 Chapter 2 Narrative Paragraphs: Timed Writing 実践
第9回 Chapter 3 Basic Paragraph Structure: Model Paragraph を読む
第 10 回 Chapter 3 Basic Paragraph Structure: Summary Writing
第 11 回 Chapter 4 Logical Division of Ideas: Model Paragraph を読む
第 12 回 Chapter 4 Logical Division of Ideas: Transitional Signals
第 13 回 Chapter 4 Logical Division of Ideas: Outline から完成形へ
第 14 回 講義全体のまとめ

履修上の注意

出席はもちろん、語彙のチェックなど、毎回の予習・復習は必須である。予習、復習に関しては事前に指示するので、きちんと行なってから出席することが求められる。なお、辞書は原則として毎回持参すること！

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で学んだことを踏まえて英語のパラグラフを書く作業は、授業時間だけでは終わらない場合も多いだろう。当然授業外で課題を仕上げる機会が多くなるはずだが、それだけでなく授業で扱った Model Paragraph を精読する作業も授業外に行なってほしい。そこで得られた知見を活かしながら更に多様な英文を読み込むことで、以前には気づかなかったことに気づく機会も得られるだろう。同時に返却された英作文のチェックをし、その反省を次の課題に活かすための復習も行なってほしい。そうした準備と復習に、毎回2時間ほど必要になるだろう。納得できない箇所がある場合には、授業前後の時間を利用して積極的に質問してほしい。

教科書

[i]Longman Academic Writing Level 3[/i](4th ed.), Alice Oshima and Ann Hogue. Pearson Longman (ISBN: 9780136838531)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業時に、次の課題に向けた修正点を含む簡単なコメントと共に返却する。こちらとのやりとりを通じて何かヒントを得られる部分もあると思うので、積極的な質問をしてほしい。

成績評価の方法

レポート 60%、平常点(章ごとに提出してもらう課題など)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。なお 30 分を超える遅刻は欠席として扱い、遅刻も「0.5 欠席」扱いとするので、注意すること。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

授業内容

この授業では、12 のユニットに分けられた短編小説を読解します。まず、注を参考にして英文に目を通し、大意を把握します。次に、知らない語彙、文法等を調べながら、基本的な内容を正確に読み取ります。さらに、異なる文化的背景の知識を得ながら、客観的な視点を伴うより深い読解を行っていきます。

第1回 : イントロダクション
第2回 : Sophie Hamada, summer in South Carolina (1) Sophie, Her Aunt Parisa and Chester
第3回 : Sophie Hamada, summer in South Carolina (2) Sophie and Her Mother Olivia
第4回 : "First contact" on the beach, a young man with cinnamon skin (1) Sophie's Breakfast
第5回 : "First contact" on the beach, a young man with cinnamon skin (2) A Young Man with a Sinnamon Skin
第6回 : Dante, beyond the silence (1) Dante /グループワーク(1)
第7回 : Dante, beyond the silence (2) Dante's Promise /グループワーク(2)
第8回 : A text message from Dante (1) Preparing Dinner
第9回 : A text message from Dante (2) Dante's Texting Sophie
第 10 回 : American Sign Language, the very first body-boarding (1) Sophie's Bathing Suit
第 11 回 : American Sign Language, the very first body-boarding (2) A Few Stretches and Body-boarding
第 12 回 : Yuto and D., an invitation to a date at the Aquarium (1) Dog Biscuits
第 13 回 : Yuto and D., an invitation to a date at the Aquarium (2) Sophie's Notebook
第 14 回 a : まとめ
b : 試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べ、練習問題を解いておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Suzanne Kamata, [i]Summer at Cinnamon Beach[/i]『シナモン・ビーチの夏』鎌田スザーン(朝日出版社)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	English Academic Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Ch. 1a
第3回 Ch. 1b
第4回 Ch. 2a
第5回 Ch. 2b
第6回 Ch. 3a
第7回 Ch. 3b
第8回 Review Session Ia
第9回 Ch. 4a
第 10 回 Ch. 4b
第 11 回 Ch. 5a
第 12 回 Ch. 5b
第 13 回 Review Session Ib
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種メディアに接してみること。

教科書

Q: Skills for Success (3rd ed.): Level 3: Reading & Writing Student Book with IQ Online Practice
ISBN: 9780194903943
Oxford University Press

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて応答し、議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
内田 大貴	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション—どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

この授業では"Reading"技能を高めることを主眼に置きます。

＜春学期授業予定＞
#1 イントロダクション
#2 Unit 1
#3 Unit 1
#4 Unit 2
#5 Unit 2
#6 a: まとめ、b: 中間試験
#7 Unit 3
#8 Unit 3
#9 Unit 4
#10 Unit 4
#11 Unit 5
#12 Unit 5
#13 a: まとめ、b: 試験
#14 試験返却・解説

履修上の注意

毎授業必ず予習をして臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

英和辞書等を用いて知らない単語や表現を事前に調べたうえで、「どの登場人物がどこでいつ何をしているのか」を自身の言葉で説明できるまで事前の精読を行なってください。

教科書

Michael Larson, [i]Notes on Brotherhood: English Literature in the Classroom[/i],[i] [/i]Vol. 1, 朝日出版社。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

定期試験に関しては、翌週以降に答案の返却・解説・質問を受け付ける時間を設けます。その他の質問は授業後などに随時受け付けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

In English Academic Writing, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively, and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

English Academic Writing では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回：a：イントロダクション b：Things happen for a reason の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第2回：応用英作文を練習します。
第3回：same or different の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第4回：応用英作文を練習します。
第5回：Here's what I think の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第6回：応用英作文を練習します。
第7回：sorting things out の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第8回：応用英作文を練習します。
第9回：step by step の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第10回：応用英作文を練習します。
第11回：feeling through your senses の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第12回：応用英作文を練習します。
第13回：Don't you agree?の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第14回：a：授業のふりかえりとまとめ b：試験の実施

履修上の注意

授業中の、私語とか他のことをするとかの行為は避けてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの予習をしておいてください。おすすめする参考書や SNS を利用して、予習してください。復習は予習よりも楽に出来ます。

教科書

Jigsaw ＜センゲージラーニング＞ Robert Hickling

参考書

英語のハノン初級 ＜筑摩書房＞ 横山雅彦

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出する場合、私のパソコンのメアドに直接送ってください。授業において、メアドはお伝えします。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション—どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

対象技能:Reading
第 1 回 Unit 8 The Performing Arts: The Actor's Craft [1]
第 2 回 Unit 8 The Performing Arts: The Actor's Craft [2]
第 3 回 Unit 9 Conservation: Eco-Packaging [1]
第 4 回 Unit 9 Conservation: Eco-Packaging [2]
第 5 回 Unit 10 Business Trends: Pop-up Shops [1]
第 6 回 Unit 10 Business Trends: Pop-up Shops [2]
第 7 回 Unit 11 Growing Up: Screen Time [1]
第 8 回 Unit 11 Growing Up: Screen Time [2]
第 9 回 Unit 12 Wealth and Giving: The World of the Super Rich [1]
第 10 回 Unit 12 Wealth and Giving: The World of the Super Rich [2]
第 11 回 Unit 13 Animals: The Emotions of Animals [1]
第 12 回 Unit 13 Animals: The Emotions of Animals [2]
第 13 回 Unit 14 Space: Alien Linguistics
第 14 回 a. 試験 / b. 解答・解説

履修上の注意

毎回授業前に、指定された範囲の予習を行なっておくこと。遅刻は授業開始から 30 分までとする。遅刻 3 回で欠席 1 回扱いとする。学期末に期末試験を行うが、出席が授業日数の 2/3 に達しない場合、期末試験の受験資格無しとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの文章に関し予め語句等を調べ、ある程度内容を理解し、説明できるようにしておく必要がある。また、練習問題についても、あらかじめ答えを考えておくこと。学期末試験に向けて、文章の内容や表現等の復習が必要である。(各授業毎計 2 時間程度)

教科書

『Reading Fusion 3』
Andrew E. Bennett
南雲堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
岩崎 永一	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:

「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:

一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション―どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

この科目は上記の「授業の概要・到達目標」の中の Writing 科目です。

英文エッセイ全体の「構成(organisation)」の基礎を確認しつつ、新たに様々な種類のエッセイについても学びます。特に、argument essay についても学び、「主張の質」をいかに高めるか、について考えます。並行して、英語の母語話者がどのように英文を認識し書いているかという点まで掘り下げ、文レベルの高度な文法・統語構造や高度なメタファーの使用法についても、言語学の学術成果を踏まえて解説致します。各回の内容は概ね、以下の通りですが、進行状況によって変更となる場合もあります。

第1回 イントロダクション 第2回 Unit 4 の前半(1) 第3回 Unit 4 の前半(2)
第4回 Unit 4 の後半(1) 第5回 Unit 4 の後半(2) 第6回 Unit 5 の前半(1)
第7回 Unit 5 の前半(2) 第8回 Unit 5 の後半(1) 第9回 Unit 5 の後半(2)
第10回 Unit 6 の前半(1) 第11回 Unit 6 の前半(2) 第12回 Unit 6 の後半(1)
第13回 Unit 6 の後半(2) 第14回 a. まとめ b. 試験

履修上の注意

〇毎回、辞書(英和)を必ず持参してください。
〇遅刻複数回は状況に応じて欠席としてカウントします。
〇この科目はライティング科目ですが、高度な英語を書くためには、膨大な量のインプットを確保することと英語を母語話者と同レベル(かそれ以上に)で精確に読む、ということが前提となります。
〇私は言語学(特に、意味論)が専門ですので、言語学的な知見を援用した文法説明も行うと思います。そのためには、授業中に自由に質問をして頂くことが大事です。質問が多いほど、私の方はみなさんに多くの知識を伝授することができます。この授業を上手く活用すれば(i.e., 積極的な授業参加により、私の知識を上手く引き出し、それを吸収すれば)、母語話者がどのような頭の働きで英語を理解しているか、を学ぶと同時に、英語の文構造や文法の真理を学ぶことができる貴重な機会とすることができると思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

〇予習としては、毎回、教科書の語彙を調べてきてください。その他の詳しいことは授業中にお伝え致します。
〇復習としては、各回の内容や語彙を確認し、身に付けることです。小テストの前にはそのための勉強もして頂きます。

教科書

Great Writing Level 4 (5th ed.) Student Book with Spark Access + e-Book (1 year access)
著者:Keith Folse, April Muchmore-Vokoun, Elena Solomon
ISBN: 9798214333090
¥4,000 (税込￥4,400)
National Geographic

※Edition と Level を間違えないようにお願い致します。

参考書

特に指定致しません。

課題に対するフィードバックの方法

〇課題の結果を踏まえて解説致します。
〇Oh!Meiji の掲示板で教科書の内容についての質問に回答致します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
オボグネ, マリリン	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

The objectives of this course are to prepare students for interactive communication in the English language and to stimulate interest in and understanding of global and domestic issues that are relevant to their communication needs.

授業内容

Week 1: Introduction & Syllabus discussion. (Handout will be provided)
Week 2: Unit 7: Can we talk (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 3: Unit 7: Pair work / group oral presentation
Week 4: Unit 8: Lifestyles (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 5: Unit 8: Pair work / group oral presentation
Week 6: Unit 9: Yes, you can! (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 7: Unit 9: Pair work / group oral presentation
Week 8: Unit 10: What if…? (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 9: Unit 10: Pair work / group oral presentation
Week 10: Unit 11: Contrasts (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 11: Unit 11: Pair work / group oral presentation
Week 12: Unit 12: Looking back (Vocabulary, grammar, reading and writing) / homework
Week 13: Unit 12: Pair work / group final oral presentation
Week 14: Final Test

履修上の注意

Students must earn a score of 60% or more and be in attendance for 2/3 of classes in order to pass.

準備学習(予習・復習等)の内容

Reading tasks and listening practice will be provided as homework to help students develop critical thinking. Students should prepare for each class by completing the homework and learning about the upcoming topic. Two hours of self-study is required per week.

教科書

Title: Evolve Level 4 Student's Book with eBook
著者:Ben Goldstein & Ceri Jone
Cambridge
ISBN:9781009230827

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Students will receive feedback in a variety of ways during typical face-to-face classes:
・Provide written feedback on assignments
・In-class / One-on-One (Question and answer)
・Provide feedback during lessons and check-ins.

成績評価の方法

Grades will be based on the following:
Homework - 40%
Presentation for Oral communication -40%
Final Presentation - 10%
Final paper test- 10%

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
松野　亜希子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

Reading のクラスです。演劇、環境、ビジネスなどの多彩なトピックを扱った英語の文章を読んで、様々な練習問題を解くことにより、語彙力ならびに読解力を高めることを目指します。

第1回　Unit 7 Living off the Grid (1)
第2回　Unit 7 Living off the Grid (2)
第3回　Unit 8 The Actor's Craft (1)
第4回　Unit 8 The Actor's Craft (2)
第5回　Unit 9 Eco-Packaging (1)
第6回　Unit 9 Eco-Packaging (2)
第7回　Unit 10 Pop-up Shops (1)
第8回　Unit 10 Pop-up Shops (2)
第9回　Unit 11 Screen Time (1)
第 10 回　Unit 11 Screen Time (2)
第 11 回　Unit 12 The World of the Super Rich (1)
第 12 回　Unit 12 The World of the Super Rich (2)
第 13 回　Unit 13 The Emotions of Animals
第 14 回　学期末試験と授業の総括

履修上の注意

辞書を引きながら、英語の文章を丁寧に読むことが求められます。よって、英和辞典(電子辞書・紙媒体のどちらでも可)を必ず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：教科書のなかで事前に講師が指定する箇所を熟読し，練習問題を解いておくこと。
復習：授業で読んだ長文をもう一度熟読し、理解が不十分な箇所がないかどうかをチェックしておくこと。疑問点がある場合は、次回の授業で教員に質問すること。

教科書

[i]Reading Fusion 3[/i](南雲堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題や小テストの解説は授業時間内に行う。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
原田　道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回　a：イントロダクション
　　b：Chapter 3 Using Outside Sources Introduction
第2回：Chapter 3 Analyzing the Model
第3回：Chapter 3 Noticing Vocabulary : Synonyms 2
第4回：Chapter 3 Using and Citing Sources
第5回：Chapter 3 Quotations / Paraphrasing
第6回：Chapter 3 Analyzing the Model / Summarizing
第7回：Chapter 3 Analyzing the Model / Applying Vocabulary : Using Synonyms 2
第8回：Chapter 3 Writing Assignment : A Summary of an Article　/ グループワーク(1)
第9回：Chapter 3 Self-Assessment / Expansion　/ グループワーク(2)
第 10 回：Chapter 4 From Paragraph to Essay Introduction / Analyzing the Model
第 11 回：Chapter 4 Noticing Vocabulary : Nouns and Noun Suffixes / Parts of an Essay
第 12 回：Chapter 4 Patterns of Organization / Outlines of Essays
第 13 回：Chapter 4 Applying Vocabulary : Using Nouns and Noun
　　Suffixes / Writing Assignment : An Essay about Education
第 14 回　a：まとめ
　　b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Alice Oshima, Ann Hogue, [i]Longman Academic Writing Series[/i]4[i]: Paragraphs to Essays, Fifth Edition [/i](Pearson Longman)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

講義が聞き取りやすいように、場合によりマイクを使用します。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 志保美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第 1 回 Course Guidance, Review on Essay Writing
第 2 回 Unit 4 Argument Essays 1
第 3 回 Unit 4 Argument Essays 2
第 4 回 Unit 4 Argument Essays 3
第 5 回 Unit 4 Argument Essays 4, Vocabulary Quiz #1
第 6 回 Unit 5 Problem-Solution Essays 1
第 7 回 Unit 5 Problem-Solution Essays 2
第 8 回 Unit 5 Problem-Solution Essays 3
第 9 回 Unit 5 Problem-Solution Essays 4, Vocabulary Quiz #2
第 10 回 Unit 6 Reaction Essays and Exam Questions 1
第 11 回 Unit 6 Reaction Essays and Exam Questions 2
第 12 回 Unit 6 Reaction Essays and Exam Questions 3
第 13 回 Unit 6 Reaction Essays and Exam Questions 4, Vocabulary Quiz #3
第 14 回 Review and Exam

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参してください。
授業の性質上、積極的な参加を求めます。また、課題の提出締切を厳守すること。
担当者への連絡は Oh-o! Meiji の「教員とのメッセージ」を使ってください。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にお知らせします。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として教科書の該当箇所をしっかり読み、練習問題に取り組んでから授業に臨みましょう。また、復習として課題に取り組み、必ず提出してください。
しっかりした英文を書くためには、インプットを多くして、自分が使える文の種類や言い回し、語彙を増やし、文法について確認しておく必要があります。英語の論文や文献に多く触れるように心がけてください。
教科書にはオンライン教材がついています。こちらも積極的に活用してください。

教科書

Great Writing Level 4 (5th ed.) Student Book with Spark Access + e-Book
著者:Keith Folse, April Muchmore-Vokoun, Elena Solomon
ISBN: 9798214333090
￥4,400 (税込)
National Geographic Learning

参考書

授業内に随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

全体として授業内で解説、講評します。
Oh-o! Meiji を通じて、また紙面で個別におこないます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Adv.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
竹部 春樹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

これは Writing のクラスです。

01. イントロダクション
02. Chapter 7 (1)
03. Chapter 7 (2)
04. Chapter 8 (1)
05. Chapter 8 (2)
06. Chapter 9 (1)
07. Chapter 9 (2)
08. Chapter 10 (1)
09. Chapter 10 (2)
10. Chapter 11 (1)
11. Chapter 11 (2)
12. Chapter 12 (1)
13. Chapter 12 (2)
14. まとめ等

履修上の注意

英語の辞書を持参してください。
授業の進行は、教室での様子を踏まえて適宜調整される可能性があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

詳しくは授業中に説明しますが、教科書のうち指定された範囲を予習してきてください。また復習として、学んだことを自分の文章に活かしてみてください。

教科書

Longman Academic Writing Level 4 (5th ed.): Essays
著者: Alice Oshima and Ann Hogue
ISBN: 9780136838630
￥3,960 (税込)
Pearson Longman

参考書

課題に対するフィードバックの方法

教室またはオンラインでフィードバックを行ないます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	English Academic Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
松本 美千代	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively, and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回 イントロダクション What is Writing？
第2回 Sentence Structure and Introducing Yourself
第3回 Sentence Mechanics and Your Journal
第4回 Sentence Organization and A Paragrah about Your Morning Routine
第5回 The Writing Process and A Paragrah about Your Sleep Habits
第6回 Subjects of Sentence and Grammar Advice and A Paragraph about someone in a Photo
第7回 Looking at the Models and sentence Structure. A Paragraph about Someone You Know Well
第8回 A Paragraph about Your Journal
第9回 Looking at the Sentence Models about A Good Day
第 10 回 A Paragraph about a Typical Day
第 11 回 A Paragraph aobut a Favorite Holiday
第 12 回 Looking at the Models on Your Hometown
第 13 回 A Paragraph Describing Your Hometown
第 14 回 (a)試験、(b)解説

履修上の注意

授業参加を重視する。
英語ライティングを実施するために必要な「辞書」や提出用の用紙(あるいは PC)を持参する。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書に記載された課題を行う(平常点の成績となる)。

教科書

Longman Academic Writing Level 1 (2nd ed.)
著者:Linda Butler
ISBN: 9780136769958
¥3,600 (税込 3,960)
Pearson Longman

参考書

辞書

課題に対するフィードバックの方法

・ライティングの課題についてディスカッションを行う。
・より良いライティングについて授業内で考えながら進めるので、安心して参加してください。
・最終授業日にライティング課題を実施し、同日に解説の時間を設ける。
・課題の講評を毎週授業で行う。

成績評価の方法

学期末に試験を行う。成績評価は、授業参加度 44%(平常点 20%・授業態度(積極的な発言)・小テスト)、課題の提出(学期末の試験)56%を総合的に判断して行う。
(ライティングの授業のため、エッセイライティングの課題提出物を評価します。)

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	English Academic Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

In English Academic Writing, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively, and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.
English Academic Writing では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回 この授業の概要説明などイントロダクション
第2回 課題英文エッセイ作成その1
第3回 課題英文エッセイ作成その2
第4回 課題英文エッセイ作成その3
第5回 課題英文エッセイ作成その4
第6回 課題英文エッセイ作成その5
第7回 中間まとめ・確認テスト
第8回 課題英文エッセイ作成その6
第9回 課題英文エッセイ作成その7
第 10 回 課題英文エッセイ作成その8
第 11 回 課題英文エッセイ作成その9
第 12 回 課題英文エッセイ作成その10
第 13 回 課題英文エッセイ作成その11
第 14 回 a:講義(秋学期のまとめ)
b:試験

履修上の注意

和英・英和・英英辞典など自分が必要とすると思われる辞書類は必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。
携帯電話やノートパソコン等、インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当教員が許可しない限り、いかなる目的であっても禁止します。
その他の注意事項に関しては、1回目の講義で伝えます。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、教科書で次週扱う範囲の問題を講義前までに解答しておくこと。
復習としては、次週までにもう一度しっかり見直しを行い、不明な点があればすぐに講義担当者に質問するようにすること。

教科書

プリントを配布します。

参考書

特に定めませんが、必要に応じて講義中に紹介していきます。

課題に対するフィードバックの方法

英作文の課題は、担当者が添削したものを必ず学期中に直接返却しますが、履修者全員分を添削するのにはかなりの時間を要しますので、返却まで時間がかかることを了承してください。(いつ頃返却できるかの見通しが立ち次第、授業中にアナウンスします。)
添削された箇所に関する疑問・質問は、返却時に(授業中に)受け付けます。

成績評価の方法

平常点(小テスト・課題提出物の成績など)30%、期末試験 70%で 100 点満点に換算する。欠席が授業回数の3分の1をこえた場合、平常点と期末試験の合計が 60 点に達しない場合には、いずれも単位を認定しない。

その他

授業に関する要望があれば、学期末実施の「授業改善アンケート」に書くよりも、学期中に授業担当教員に直接言うようにしてください。可能な範囲で対処します。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	English Academic Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第一回:春学期の復習
第二回:第十三課
第三回:第十四課
第四回:第十五課
第五回:第十六課
第六回:第十七課
第七回:第十八課
第八回:第十九課
第九回:第二十課
第十回:第二十一課
第十一回:第二十二課
第十二回:第二十三課
第十三回:第二十四課
第十四回 a:一年間のまとめ
b:テスト

履修上の注意

予習してくることが望ましいが、出来ていない場合、その場でやってもらうことになる。
従って、辞書(電子辞書可)を持参して来ること。

準備学習(予習・復習等)の内容

出来る限り、毎回一課進む予定なので、それに合わせて予習をしておくこと。
特に本文は、出来る限り、訳せるようにしておくこと。

教科書

野田小枝子、『Read to Write』、朝日出版社

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
高島 和哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 Ch.7 Online Pollution Produced by AI
第3回 Ch.7 Online Pollution Produced by AI
第4回 Ch.8 Finding Plastic Waste from Space
第5回 Ch.8 Finding Plastic Waste from Space
第6回 Ch.9 Quiet Cuts
第7回 Ch.9 Quiet Cuts
第8回 Ch.10 Night Schools Open Doors
第9回 Ch.10 Night Schools Open Doors
第 10 回 Ch.11 From Weight-Loss Tip to Delicious Fish
第 11 回 Ch.11 From Weight-Loss Tip to Delicious Fish
第 12 回 Ch.12 Saudi Arabia's Big Dream: A Dragon Ball Theme Park
第 13 回 Ch.12 Saudi Arabia's Big Dream: A Dragon Ball Theme Park
第 14 回 a: 試験
b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

教科書とともに辞書(電子辞書可)を必ず持参すること。携帯電話・スマートフォンは使用不可。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にテキストの文章に目を通し、単語・熟語等を調べ、設問に対する答えも用意しておくこと。

教科書

[i]Insight 2026[/i]／世界を読むメディア英語入門 2026
ISBN: 978-4-7647-4242-0
金星堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
藤野 悠子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 Unit 7 Shop Till You Drop?
第3回 Unit 7 Shop Till You Drop?
第4回 Unit 8 Live, Laugh, Travel
第5回 Unit 8 Live, Laugh, Travel
第6回 Unit 9 Changing Technology
第7回 Unit 9 Changing Technology
第8回 Unit 10 Holidays and Celebrations
第9回 Unit 10 Holidays and Celebrations
第 10 回 Unit 11 Part-time Jobs
第 11 回 Unit 11 Part-time Jobs
第 12 回 Unit 12 Science and Innovation
第 13 回 Unit 12 Science and Innovation
第 14 回 a: 試験 b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参し、積極的に参加してください。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にてお知らせします。

準備学習(予習・復習等)の内容

クラスでは精読をしますが、予習の際に辞書で意味を調べてきてください。

教科書

In Focus: Intro
著者:Charles Browne / Brent Culligan
ISBN:978-4-7647-4222-2
出版社:金星堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説、講評します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	English Academic Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 志保美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。
Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。
Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。
Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第 1 回 Review on Lessons1-12
第 2 回 Lesson 13: Dear Sirs: A letter of Complaint (A letter)
第 3 回 Lesson 14: A Farewell Speech (A speech manuscript)
第 4 回 Lesson 15 Wind Force 2000 Air Conditioner Limited Warranty (A warranty)
第 5 回 Lesson 16: Hollingsworth State Park (A notice)
第 6 回 Lesson 17: Super White (An advertisement)
第 7 回 Lesson 18: The Taft Television Spring Conference (A guide)
第 8 回 Lesson 19: The Woman Who Made Cellphone Life Possible (A biography)
第 9 回 Lesson 20: Geology Class Field Trip to Yellowstone (A travel diary)
第 10 回 Lesson 21: Country Cottage Potato Salad (A recipe)
第 11 回 Lesson 22: An Open Hearing (A formal request letter)
第 12 回 Lesson 23: A letter to the Editor (A letter)
第 13 回 Lesson 24: The use of Child Seats (Expository writing)
第 14 回 Review and Exam

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参してください。
予習前提の授業を行います。
授業の性質上、積極的な参加を求めます。また、課題の提出締切を厳守してください。
担当者への連絡は Oh-o! Meiji の「教員とのメッセージ」を使ってください。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にお知らせします。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として教科書の Rading 部分について目を通し、Vocabulary Building と Comprehension Questions を解いておくこと。
授業内で復習の小テストを行います。
ライティング課題は必ず期限内に提出してください。
しっかりした英文を書くためには、インプットを多くして、自分が使える文の種類や言い回し、語彙を増やし、文法について確認しておく必要があります。英語の論文や文献に多く触れるように心がけてください。

教科書

Read to Write: An Integrated Course for College Students
著者: Saeko Noda
ISBN: 9784255155326
￥2,060 (税込)
朝日出版社

参考書

授業内で随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

全体として授業内で解説、講評します。
Oh-o! Meiji を通じて、また紙面で個別におこないます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:スポーツに関する,英語で書かれたニュースを読むクラス。
目標:スポーツ関連の英語の語彙を覚え,英語のスポーツニュースを読めるようになること。

授業内容

英語のニュースを教材とする。
1. a. イントロダクション b. 質疑応答
2. a. 男子水泳のニュース b. 今後の授業の進め方
3. a. 女子水泳のニュース b. 確認問題
4. a. ボクシングのニュース b. 確認問題
5. a. 男子体操のニュース b. 確認問題
6. a. 女子体操のニュース b. 確認問題
7. a. 柔道のニュース b. 確認問題
8. a. 男子バレーボールのニュース b. 確認問題
9. a. 女子バレーボールのニュース b. 確認問題
10. a. アイスホッケーのニュース b. 確認問題
11. a. 男子マラソンのニュース b. 確認問題
12. a. 女子マラソンのニュース b. 確認問題
13. a. 男子フィギュアスケートのニュース b. 確認問題
14. a. 女子フィギュアスケートのニュース b. 確認問題

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って,出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回,配布資料を予習してくること。
教科書に書いてある英語をすべて読めて,日本語にできるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

予習ノート:5%
確認問題:95%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

1. a. イントロダクション、b. 人間関係に関するリーディング
2. a. 人間関係に関するライティング、b. 小テスト
3. a. 人間関係に関するライティングを読む、b. 小テスト
4. a. 論理的思考に関するリーディング、b. 小テスト
5. a. 論理的思考に関するライティング、b. 小テスト
6. a. 論理的思考に関するライティングを読む、b. 小テスト
7. a. 問題解決に関するリーディング、b. 小テスト
8. a. 問題解決に関するライティング、b. 小テスト
9. a. 問題解決に関するライティングを読む、b. 小テスト
10. a. 仕事と金に関するリーディング、b. 小テスト
11. a. 仕事と金に関するライティング、b. 小テスト
12. a. 仕事と金に関するライティングを読む、b. 小テスト
13. a. 人生と成功に関するリーディング、b. 小テスト
14. a. 人生と成功に関するライティング、b. 期末試験

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って、出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：毎回、教員の指示に従ってリーディング、ライティングの予習してくること。
復習：毎回、小テストや期末試験に備えて復習すること。

教科書

[i]Colin Ward and Margot Gramer. Q Skills for Success: Reading and Writing 3 (Student Book with iQ Online Practice)[/i]3rd ed. Oxford University Press, 2019.

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように 1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

第1回 ガイダンス
第 2 回 Unit7 The Future of the Meat Market
第 3 回 Unit7 The Future of the Meat Market
第 4 回 Unit8 The Strategy to Prevent Obesity
第 5 回 Unit8 The Strategy to Prevent Obesity
第 6 回 Unit9 Heated Debate on VAR
第 7 回 Unit9 Heated Debate on VAR
第 8 回 Unit10 Lively Learning about Food Waste
第 9 回 Unit10 Lively Learning about Food Waste
第 10 回 Unit11 Inside an Underground Homeless Community
第 11 回 Unit11 Inside an Underground Homeless Community
第 12 回 Unit12 Women's Right and AI Development
第 13 回 Unit12 Women's Right and AI Development
第 14 回 まとめ・試験

これは予定にすぎませんので，クラスの様子や状況によっていくつか 変更もありえます。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所を予習をしておくこと。
単語の復習テストを行います。

教科書

Integrity Intermediate 金星堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 るみこ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容
Week-1 Review: How to present one's ideas
Week-2 7-Media Studies: Interactive Games
Week-3 7-Media Studies: Interactive Games
Week-4 8- Biology: Genetically Modified Food
Week-5 8- Biology: Genetically Modified Food
Week-6 9-Business: Design Thinking
Week-7 9-Business: Design Thinking
Week-8 10-History: Shackleton
Week-9 10-History: Shackleton
Week-10 11-Philosophy: Ethics
Week-11 11-Philosophy: Ethics
Week-12 12-Information Technology: Big Data
Week-13 Term-end Presentation Group-1
Week-14 Term-end Presentation Group-2

履修上の注意
This is a student/learner-orientated class, so students are strongly encouraged to express their own opinions based on what is provided in the textbook chapters. There is no need to construct so-called "perfect" and "complete" sentences before you speak. It is vital for a speaker to have solid opinions regardless of the language they use. So please do not afraid of making mistakes.

準備学習(予習・復習等)の内容
Students are expected to have their own views on a given subject each week. It is important to be able to ask good and relevant questions.

教科書
Solorzano, Helen and Laurie Frazier. Contemporary Topics 1: 21st century skills for academic success. (4th edition) Pearson, 2017.

参考書
To be advised during the class

課題に対するフィードバックの方法
Written assigments will be commented and returned in the class.

成績評価の方法
学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 匠	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:
Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:
一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容
第1回 a: 春学期内容の復習
b: Chapter 5 Process Paragraph: Model Paragraph を読む
第2回 Chapter 5 Process Paragraph: Write the First Draft
第3回 Chapter 6 Definition Paragraphs: Model Paragraph を読む
第4回 Chapter 6 Definition Paragraphs: From Clustering to Writing
第5回 Chapter 7 Cause / Effect Paragraphs: Model Paragraph を読む
第6回 Chapter 7 Cause / Effect Paragraphs: From Transition Signals to Writing
第7回 Chapter 8 Comparison / Contrast Paragraphs: Model Paragraph を読む
第8回 Chapter 8 Comparison / Contrast Paragraphs: From Transition Signals to Writing
第9回 Chapter 9 Essay Organization: Model Essay を読む
第 10 回 Chapter 9 Essay Organization: Outlining an Essay
第 11 回 Chapter 10 Opinion Essays: Model Essay を読む
第 12 回 Chapter 10 Opinion Essays: Developing Supporting Details
第 13 回 Chapter 10 Opinion Essays: Write the First Draft
第 14 回 講義全体のまとめ

履修上の注意
出席はもちろん、語彙のチェックなど、毎回の予習・復習は必須である。予習、復習に関しては事前に指示するので、きちんと行なってから出席することが求められる。なお、辞書は原則として毎回持参すること！

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で学んだことを踏まえて英語のパラグラフを書く作業は、授業時間だけでは終わらない場合も多いだろう。当然授業外で課題を仕上げる機会が多くなるはずだが、それだけでなく授業で扱った Model Paragraph や Model Essay を精読する作業も授業外に行なってほしい。そこで得られた知見を活かしながら更に多様な英文を読み込むことで、以前には気づかなかったことに気づく機会も得られるだろう。同時に返却された英作文のチェックをし、その反省を次の課題に活かすための復習も行なってほしい。そうした準備と復習に、毎回2時間ほど必要になるだろう。納得できない箇所がある場合には、授業前後の時間を利用して積極的に質問してほしい。

教科書
[i]Longman Academic Writing Level 3[/i](4th ed.), Alice Oshima and Ann Hogue. Pearson Longman (ISBN: 9780136838531)

参考書

課題に対するフィードバックの方法
授業時に、次の課題に向けた修正点を含む簡単なコメントと共に返却する。こちらとのやりとりを通じて何かヒントを得られる部分もあると思うので、積極的な質問をしてほしい。

成績評価の方法
レポート 60%、平常点(章ごとに提出してもらう課題など)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。なお 30 分を超える遅刻は欠席として扱い、遅刻も「0.5 欠席」扱いとするので、注意すること。

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading:
「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

授業内容

この授業では、12 のユニットに分けられた短編小説を読解します。まず、注を参考にして英文に目を通し、大意を把握します。次に、知らない語彙、文法等を調べながら、基本的な内容を正確に読み取ります。さらに、異なる文化的背景の知識を得ながら、客観的な視点を伴うより深い読解を行っていきます。

第1回 ：イントロダクション
第2回 ：At the Aquarium #1, lacing fingers together (1) The Transaction
第3回 ：At the Aquarium #1, lacing fingers together (2) The Loggerhead Turtle
第4回 ：At the Aquarium #2, future visions (1) The Staff
第5回 ：At the Aquarium #2, future visions (2) Cownose Stingrays
第6回 ：Loggerhead turtles in Hiwasa, learning new words (1) Sophie's Photos
第7回 ：Loggerhead turtles in Hiwasa, learning new words (2) Yuto and Dante /グループワーク(1)
第8回 ：A list of good memories in Japan, a surprise (1) Sophie and Olivia /グループワーク(2)
第9回 ：A list of good memories in Japan, a surprise (2) All the Things that Sophie would miss in the United States
第 10 回 ：Go on the kayak adventure (1) Aunt Parisa and Dante
第 11 回 ：Go on the kayak adventure (2) The Jeep and Dolphins
第 12 回 ：An unforgettable day in Sophie's life (1) Kayaking
第 13 回 ：An unforgettable day in Sophie's life (2) Olivia's Warning about the Situation
第 14 回 a：まとめ
b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べ、練習問題を解いておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Suzanne Kamata, [i]Summer at Cinnamon Beach[/i]『シナモン・ビーチの夏』鎌田スザーン(朝日出版社)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	English Academic Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

In Academic English, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて, 他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Ch. 6a
第3回 Ch. 6b
第4回 Ch. 7a
第5回 Ch. 7b
第6回 Ch. 8a
第7回 Ch. 8b
第8回 Review Session IIa
第9回 Ch. 9a
第 10 回 Ch. 9b
第 11 回 Ch. 10a
第 12 回 Ch. 10b
第 13 回 Review Session IIb
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種メディアに接してみること。

教科書

Q: Skills for Success (3rd ed.): Level 3: Reading & Writing Student Book with IQ Online Practice
ISBN: 9780194903943
Oxford University Press

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて応答し、議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
内田 大貴	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Reading, Writing, Speaking の三種類のクラスのどれかを選択する。各クラスの概要・目的は以下の通り。

Reading:

「読む」技術を伸ばすために、単語の意味を知っていることも重要だが、それと同様に文章の構造を理解することが肝要である。一つひとつの単語の意味をセンテンスレベルで把握すること、そして各センテンスの集まりをパラグラフという単位の中で理解すること、さらに複数のパラグラフによって一つのエッセイや記事が構成されている、と意識することが「読む」技術の向上につながるだろう。また、各パラグラフは一定のパターンに従って展開されていることも確認しよう。例えば、冒頭の導入で書き手の主張が示された後には、具体例を交えたエピソードや主張に対して予期される反論などが紹介されることも多い。パラグラフの繋がりや、全体の中で果たす役割に着目・把握することは、ライティングの技術を伸ばす上でも有益となるはずである。

Writing:

Academic English では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

Speaking:

一般的に理解されている「英会話レッスン・クラス」は英語圏での日常生活をする上で必要となる所謂口語表現を最優先に習得することが多いと思います。大学(将来的には職場)では「アカデミックでよりフォーマル」な英語のスピーキングスキルが必要とされます。具体的には、次の2つの状況下で必要とされる英語のスキルがあります。1)グループディスカッション 2)プレゼンテーション一どちらも英語でのスピーキング能力が要求されることは同じですが、1)の方は即時に英語で対応する能力と表現力、2)はスピーキングの形式は取ってはいますが、ベースは英語でのライティングにあります。このように1)は相手の言っていることを的確に聴き取る力も要求され、2)はライティングスキルがスピーチの良し悪しを左右します。「英語で話さなければならないため、本当に言いたいことをある程度妥協しなければならない」程度を少しでも減らすための語彙力・表現力をつけることが重要です。つまり自分が「何 what」を話す・話したいかが明確であること、そしてそれを「どう how」表現するかということです。

授業内容

この授業では"Reading"技能を高めることを主眼に置きます。

<秋学期授業予定>
#1 イントロダクション
#2 Unit 8
#3 Unit 8
#4 Unit 9
#5 Unit 9
#6 a: まとめ、b: 中間試験
#7 Unit 10
#8 Unit 10
#9 Unit 11
#10 Unit 11
#11 Unit 12
#12 Unit 12
#13 a: まとめ、b: 試験
#14 試験返却・解説

履修上の注意

毎授業必ず予習をして臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

英和辞書等を用いて知らない単語や表現を事前に調べたうえで、「どの登場人物がどこでいつ何をしているのか」を自身の言葉で説明できるまで事前の精読を行なってください。

教科書

参考書

Michael Larson, [i]Notes on Brotherhood: English Literature in the Classroom[/i],[i] [/i]Vol. 1, 朝日出版社。

課題に対するフィードバックの方法

定期試験に関しては、翌週以降に答案の返却・解説・質問を受け付ける時間を設けます。その他の質問は授業後などに随時受け付けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Inter.)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

In English Academic Writing, you will learn how to write clear and informative sentences, organize sentences into coherent paragraphs, and arrange paragraphs into longer essays. You will develop your ability to write logical explanations, persuasive arguments, vivid descriptions, and thoughtful responses. You will learn how to organize your ideas effectively, and make use of information from print or digital sources. You will learn the proper way to use information and ideas that someone else has written or thought, by learning the rules of quoting, referencing, and making a bibliography. You will learn what is plagiarism—how to avoid it and why you must. You will expand your vocabulary and acquire useful English expressions for reading and writing academic English.

English Academic Writing では、明快でわかりやすい文章の書き方、文章をまとまりのあるパラグラフにまとめる方法、複数の段落を長目の文章にしていく方法を学びます。論理的な説明、説得力のある議論の進め方、生き生きとした描写、そしてちゃんと考えたレスポンスを書く能力を養います。自分の考えを効果的に整理する方法に加えて、書籍やインターネットからの情報を活用する方法、さらに引用の仕方、参考文献の示し方を通じて，他の人が研究などによって得た情報や考えを適切に活用する方法を学びます。剽窃とは何か、それを避けるためにはどうすればよいのか、なぜ避けなければならないのかを知るには必要なことです。このクラスを通じて英語の語彙を増やし、アカデミックな英語の読み書きに役立つ英語表現を身につけましょう。

授業内容

第1回： you be the judge の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第2回： 応用英作文を練習します。
第3回： two sides to every story の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第4回： 応用英作文を練習します。
第5回： a bit of advice の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第6回： 応用英作文を練習します。
第7回： please don't misunderstand の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第8回： 応用英作文を練習します。
第9回： revisiting the past の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第10回： 応用英作文を練習します。
第11回： seeking solutions の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第12回： 応用英作文を練習します。
第13回： let me entertain you の英文を読み、英作文の練習をしてゆきます。
第14回： a： 授業のふりかえりとまとめ b： 試験の実施

履修上の注意

授業中の、私語とか他のことをするとかの行為は避けてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの予習をしておいてください。おすすめする参考書や SNS を利用して、予習してください。復習は予習よりも楽に出来ます。

教科書

Jigsaw <センゲージラーニング> Robert Hickling

参考書

英語のハノン初級 <筑摩書房> 横山雅彦

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出する場合、私のパソコンのメアドに直接送ってください。授業において、メアドはお伝えします。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回:a:introduction b:starting up という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第2回:starting up という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第3回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第4回:fragile forests という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第5回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第6回:bright ideas という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第7回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第8回:game changers という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第9回:game changers という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 10 回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 11 回:lessons in learning という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 12 回:lessons in learning という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 13 回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 14 回:a:授業のふりかえりとまとめ b:試験の実施

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

熱意を持って授業に臨む心構えを持って欲しいので、必ずテキストの下調べをしておくように望んでいます。授業で指示する参考書とか SNS の情報とかを十分に利用して欲しいです。テキストを利用しつつ、役立つ参考書、アプリは授業において勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストの内容を調べておくと同時に、不明な箇所は質問すること。テッドトークスのアプリは SNS で参照出来るので、存分に活用することを強く望んでいます。1 時間前後の予習復習の学習を望んでいます。

教科書

『Tedtalks21st century reading 2』 Laurie brass(センゲージラーニング)

参考書

『英語のハノン初級』 横山雅彦 (筑摩書房)

課題に対するフィードバックの方法

課題については私のパソコンのメアドを通じてやり取りします。試験は基本的に対面で実施しますが、問い合わせはパソコン上で行います。

成績評価の方法

出席 50%、試験 50%とします。

その他

学生の方々が自由に勉強できる環境を整えたいと思います。

科目ナンバー:(AL)LAN111E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

初回に説明します。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

初回に説明します。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 ：イントロダクション
第2回 ：Let Us Go Out Into the Field (1) The Last Inning / Grammar Guide - 分詞構文の意味(1)
第3回 ：Let Us Go Out Into the Field (1) Riding Home / Grammar Guide - 分詞構文の意味(2)
第4回 ：Let Us Go Out Into the Field (2) The Reservation / Grammar Guide - 過去完了(1)
第5回 ：Let Us Go Out Into the Field (2) The Soldiers / Grammar Guide - 過去完了(2)
第6回 ：Let Us Go Out Into the Field (3) Lenny and Dan / Grammar Guide - as if と省略(1)/グループワーク(1)
第7回 ：Let Us Go Out Into the Field (3) Mrs. Miller and Lenny / Grammar Guide - as if と省略(2)/グループワーク(2)
第8回 ：Let Us Go Out Into the Field (4) Rob and Dan / Grammar Guide - 仮定法過去完了(1)
第9回 ：Let Us Go Out Into the Field (4) Artillery Practice / Grammar Guide - 仮定法過去完了(2)
第 10 回 ：One Flew East, One Flew West (1) Julie Cosentino / Grammar Guide - 関係副詞の非制限用法(1)
第 11 回 ：One Flew East, One Flew West (1) Lenny and Randa / Grammar Guide - 関係副詞の非制限用法(2)
第 12 回 ：One Flew East, One Flew West (2) Mr. Suden's Accident / Grammar Guide - 関係詞節の挿入(連鎖関係詞節)(1)
第 13 回 ：One Flew East, One Flew West (2) Randa and Leon / Grammar Guide - 関係施設の挿入(連鎖関係詞節)(2)
第 14 回 a：まとめ
b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べ、練習問題を解いておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Michael Larson, [i]Notes on Brotherhood: English Literature in the Classroom Vol. 1[/i]『兄と弟の記録』マイケル・W・ラーソン(朝日出版社)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
水口 小百合	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 イントロダクション(group/pair reading of an autobiographical essay as an exercise)
第2回 Unit1
第3回 Unit3
第4回 "Sea critters hitchhike across Pacific on tsunami debris"
第5回 Unit5
第6回 "Survivor marks 6 minutes of strength and silence at rally"
第7回 Unit7
第8回 Unit8
第9回 Unit9
第 10 回 Unit10
第 11 回 Unit11
第 12 回 Unit12
第 13 回 extra reading (group/pair reading of a poem as an intensive reading exercise)
第 14 回 a: 試験、b: 正答解説とまとめ

履修上の注意

恒常的なリーディングスキルの向上には、リーディング内容に高い関心を持って読むことが重要です。
各トピックに関連するオーセンティックな英文も読む予定ですので、自分との接点を見つけるように心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：テキストの該当部分を読み、知らない語句があれば持参する辞書で調べる。(90 分)
復習：授業で学んだ内容についてノートなどを用いて整理する。また、次回の単語テストに向けて準備を始める。(90 分)

教科書

English through the News Media: 2025 Edition 著者：Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell ISBN：9784255157283 ¥1,980(税込) 朝日出版社

参考書

複数授業回(第4・6回)は、以下の教科書に掲載されている新聞記事を読む予定です(変更の可能性あり)。教材は教員が用意します。
Jump into the World through News in English ニュース英語で世界に飛び込む 編著者：渡邉あをい ISBN: 9784384334845 ¥2,090(税込) 三修社

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の最後にリアクションペーパーを回収しますので、質問がある場合は記入してください。次週に解説ハンドアウトを配布します。また、適宜 Google Form を用いて、質問を受け付けることがあります。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
高島 和哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 Unit 1 Superstitions
第3回 Unit 1 Superstitions
第4回 Unit 2 Health
第5回 Unit 2 Health
第6回 Unit 3 Remarkable Talents
第7回 Unit 3 Remarkable Talents
第8回 Unit 4 Beauty
第9回 Unit 4 Beauty
第 10 回 Unit 5 Technology
第 11 回 Unit 5 Technology
第 12 回 Unit 6 Punishment
第 13 回 Unit 6 Punishment
第 14 回 a: 試験
b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

教科書とともに辞書(電子辞書可)を必ず持参すること。携帯電話・スマートフォンは使用不可。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にテキストの文章に目を通し、単語・熟語等を調べ、設問に対する答えも用意しておくこと。

教科書

[i]Strategic Reading Level[/i]3 (2nd Edition)
ISBN: 978-0-521-28111-9
Cambridge University Press

参考書

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回:世界のニュースを英語で読む
第 2 回:Unit 1　男女同権の実現に向かって！
第 3 回:Unit 2　日本の女性小説家　男性中心のメディアへの反発から執筆
第 4 回:Unit 3　韓国、ディープフェイクポルノでも「男尊女卑」
第 5 回:Unit 4　グリーンランドの支配権は誰に？
第 6 回:Unit 5　中南米諸国は米国からの強制送還要求を受け入れるが、社会不安化を懸念
第 7 回:Unit 6　「メキシコ湾」の呼称を「アメリカ湾」に変えるぞとトランプ大統領
「アメリカ湾」を巡り、AP 通信記者の入室禁止
第 8 回:Unit 7　全米で反トランプ集会
第 9 回:Unit 8　マクロン大統領、欧州軍のウクライナ派遣に言及
第 10 回:Unit 9　アサド政権崩壊後のシリアを巡りトルコとイスラエルの緊張高まる
第 11 回:Unit 10　中国製の汎用人工知能アプリでは良い出来だが政治的バイアスが
第 12 回:Unit 11　国家安全保障担当者らが軍事攻撃計画をテキストメッセージで送信
豪州で 16 歳未満の SNS 利用禁止を猶予するよう擁護者が要求
第 13 回:Unit 12　大谷選手のおかげで、MLB は日本で大成功
第 14 回:a:まとめ、b:試験

履修上の注意

特にありませんが、世界で起こる出来事に関心を持ち、興味のあるところについて調べてみましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習として、教科書の次回の授業の該当箇所を前もって読み、練習問題について考えてきて下さい。復習としては、授業の内容について教科書をもう一度確認し、練習問題を含めて授業の内容の理解を確実なものとして下さい。

教科書

"English through the News Media: 2026 Edition,"
Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell,
Asahi Press

参考書

特に使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

ニュースで問題となっていることについて、どのように考えているかをクラスで話し合ってみましょう。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 匠	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 テキストの英文の傾向を知る：長文読解の練習問題と解説
第3回 Chapter 1 Rise to the Challenge! Reading 1
第4回 Chapter 1 Rise to the Challenge! Reading 2
第5回 確認問題、Chapter 2 Compete or Cooperate? Reading 1
第6回 Chapter 2 Compete or Cooperate? Reading 1, 2
第7回 Chapter 2 Compete or Cooperate? Reading 2
第8回 Chapter 3 The Ties That Bind Reading 1
第9回 Chapter 3 The Ties That Bind Reading 2
第 10 回 Chapter 4 Healthy Mind, Healthy Body Reading 1
第 11 回 Chapter 4 Healthy Mind, Healthy Body Reading 2
第 12 回 Chapter 5 Hi-Tech, Low-Tech, or No Tech? Reading 1
第 13 回 Chapter 5 Hi-Tech, Low-Tech, or No Tech? Reading 2
第 14 回 a: 試験
b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

出席はもちろん、語彙のチェックなど、毎回の予習・復習は必須である。予習、復習に関しては事前に指示するので、きちんと行なってから出席することが求められる。なお、辞書は原則として毎回持参すること！

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前の予習としては、単語を調べるだけでなく、自分で納得出来るまで英文を突き詰めていく努力が、そして授業で得た知識をより確実にするための復習を継続的に行なうなどの積極的な姿勢が求められることになる。毎回一時間半ほどの予習・復習が必要になるだろう。納得できない箇所がある場合には、授業前後の時間を利用して積極的に質問してほしい。

教科書

[i]New Interactions 4[/i], Brenda Wegmann & Miki Knezevic. McGraw-Hill (ISBN: 978-1-4470-8000-8)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックに関しては、基本的には授業時に行なう。小テスト、期末試験は返却し、確認時間を設けることとする。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。なお 30 分を超える遅刻は欠席とし、遅刻は「0.5 欠席」相当として扱うので、注意すること。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

Session 1: Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 Unit 1 Rise and Fall A : Secrets of the Maya
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 3 Unit 2 High Achievers
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 4 Unit 3 Science and Progress
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 5 Unit 4 Saving Cities
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 6 Unit 5 Energy Choices
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 7 Unit 6 Survival and Protection
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 8 Presentation -- Group 1
-- Discussion
Session 9 Presentation -- Group 2
-- Discussion
Session 10 Presentation -- Group 3
-- Discussion
Session 11 Presentation -- Group 4
-- Discussion
Session 12 Presentation -- Group 5
-- Discussion
Session 13 Presentation -- Group 6
-- Discussion
Session 14 Review and Final paper

履修上の注意

The exchange of opinions in class will be in English. Summarise your opinions in English in the preparation phase.

準備学習(予習・復習等)の内容

Attendance is a must. Preparation is also essential, e.g. checking vocabulary. Make sure to read the texts and look up any unfamiliar words in advance. You will need at least 120 minutes for preparation/revision.

教科書

[Spark] Reading Explorer 3/E Spark Edition Level 5
Written by Nancy Douglas et al.
ISBN: 9780357116302
Published by CENGAGE Learning
¥3,300

参考書

References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法

Discussions are held in each class to identify issues.

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

＊学生向け連絡手段は新学期開始以降、Oh-o! Meiji クラスウェブ"シラバスの補足"に明記します

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野川 浩美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

科学・歴史・医学・芸術など、多岐にわたるテーマを扱った記事を読みます。各ユニットが Passage A と Passage B で構成されています。2 回の授業で 1 つの記事を取り上げる予定です。1 週目はとりあげる記事を理解するためのプリントを用いながら読解し、2 週目は内容の再確認をした後、さまざまな Reading Skill を勉強することで読み方のテクニックを身につけ、Vocabulary Practice によって語彙の確認をします。
(1)News Article
(2)Unit 1A Secrets of the Maya (Understanding Complex Infographics 1) Read the Passage with Q & A
(3)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(4)Unit 1 B The Collapse of Angkor (Evaluating Arguments 1) Read the Passage with Q & A
(5)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(6)Unit 2 A The Sky Runner (Guessing Meaning from Context) Read the Passage with Q & A
(7)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(8)Unit 2 B The Free Soloist (Understanding Rhetorical Purpose) Read the Passage with Q & A
(9)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(10)Unit 3 A The Age of Disbelief (Identifying Figurative Language) Read the Passage with Q & A
(11)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(12)Unit 3 B Goalkeepers for the Planet (Making Inferences 1) Read the Passage with Q & A
(13)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(14)a: まとめ b: 試験
授業形態の変更によって生じるシラバスの修正は、シラバス補足に追記します。

履修上の注意

・必ず予習をして授業に臨むように。
・課題の提出は2回までとし、それ以降は受理しないので注意。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業計画と授業時の指示に従い、綿密に辞書を引いて次回の記事を読むとともに、代名詞が何を指示しているかなどの細部を確認しておくこと。また、事前に配布したレポート課題に取り組み、授業時に発表できるように準備しておいてください。

教科書

『Reading Explorer 5』, 3rd Edition (Cengage Learning) by Nancy Douglas ￥3,000

参考書

プリント

課題に対するフィードバックの方法

採点・返却後、授業内で解説。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Adv.)	English Academic Reading A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
香西 史子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回　ガイダンス
第 2 回　Unit 1 Reading A, B
第 3 回　Unit 1 Reading A, B exercises, activities
第 4 回　Quiz for Unit 1, Unit 2 Reading A
第 5 回　Unit 2 Reading A, B exercises, activities
第 6 回　Quiz for Unit 2, Unit 3 Reading A
第 7 回　Unit 3 Reading A, B exercises, activities
第 8 回　Quiz for Unit 3, Unit 4 Reading A
第 9 回　Unit 4 Reading A, B exercises, activities
第 10 回　Quiz for Unit 4, Unit 5 Reading A
第 11 回　Unit 5 Reading A, B exercises, activities
第 12 回　Quiz for Unit 5, Unit 6 Reading A
第 13 回　Unit 6 Reading A, B exercises, activities
第 14 回　期末試験 (English Reading Proficiency test, vocab from the readings)60%

履修上の注意

欠席が授業数の 1/3 以上の場合、受験資格を失います。 教室備え付けの PC を使用します。保存が必要なデータ用のストレージ(USB、クラウド等)を必ず準備/持参してください。授 業中に積極的にインターネットの活用をする場合があります。なお、授業は英語と日本語を併用して行います。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で、次回までの課題等を指示しますので、必ず時間を作って準備してきてください。予習には 60 分程度、復習にも 60 分程度要します。

教科書

Nancy Douglas, David Bohlke 著 [i]Reading Explorer 5 [/i](National Geographic, Third Edition)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題にはコメントをつけて Oh Meiji を通して返却する。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
石川 太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

基本的に決まった教科書は使いません。
授業中にプリントを配り、それを読みます。
その後学習内容に応じてライティングやスピーキングも行います。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

復習重視。未知の単語・熟語は意味を調べてくる。
読んだ内容の要約を毎回行う(英語・日本語)。
最終的に、要約を見ないで同じような内容が言えるように(または書けるように)する。

教科書

基本的に決まった教科書は使いません。
授業中にプリントを配り、それを読みます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

添削した原稿にコメントと評価を記入して毎回返却予定。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 当講義の概要・使用教材と学習の進め方の解説
第2回 教科書第1課・前半学習
第3回 教科書第1課・後半学習
第4回 教科書第2課・前半学習
第5回 教科書第2課・後半学習
第6回 教科書第3課・前半学習
第7回 教科書第3課・後半学習
第8回 教科書第4課・前半学習
第9回 教科書第4課・後半学習
第10回 教科書第5課・前半学習
第11回 教科書第5課・後半学習
第12回 教科書第6課・前半学習
第13回 教科書第6課・後半学習
第14回 a)講義(春学期のまとめ) b)学期末試験

履修上の注意

英和(英英)辞典は必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。
携帯電話やノートパソコン等、インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当者の許可がない限り、いかなる目的であっても禁止します。その他、細かい注意点に関しては、初回の講義時にプリントを配布して説明します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容に関しては、復習が中心になります。次週までに前週の教科書を復習し、不明な点は授業担当者に質問するように心がけること。

教科書

Developing Academic English (Intermediate)、Clive Langham 著、朝日出版社
＊教科書は、必ず大学指定の業者から購入すること。教科書未購入者にはこのクラスの受講を許可しません。授業中、電子データでの教科書の使用は、絶対に認めません。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題については、次週以降、優秀作を取り上げて、授業中に講評することがあります。
基本的に、平常点を算出するために、成績を出し終わるまで返却は行いませんが、訂正指導など、必要に応じて一時的に課題を返却して、提出者と面談を行う場合があります。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。
教室は「公共空間」であると認識し、私的な振る舞いは慎むこと。と同時に、教室では「間違い」を恐れずに、自分の頭を「働かせる」こと。
授業に関する要望があれば、学期末実施の「授業改善アンケート」に書くよりも、学期中に授業担当教員に直接言うようにしてください。可能な範囲で対処します。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 Reading について
第2回 Chapter 1 When did we become human？ What is it to be human？
第3回 Chapter 1
第4回 Chapter 2 Civilized Mindsets(1)
第5回 Chapter 2
第6回 Chapter 3 Civilized Mindsets(2)
第7回 Chapter 3
第8回 Chapter 6 Travel: Marco Polo
第9回 Chapter 6
第 10 回 映画を用いた授業
第 11 回 映画を用いた授業
第 12 回 Chapter 9 Galileo Galilei
第 13 回 Chapter 9
第 14 回 a. まとめ
b. 試験

履修上の注意

第1回授業に必ず出席すること。
授業には教科書本体と英和辞典か英英辞典(電子辞書でも紙の辞書でもどちらでもよい)を[b]必ず持参[/b]すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

表面的な読みで終わらせるのではなく、内容をしっかりと理解することが大事です。

教科書

[i]Epoch Explorer[/i](Asahi Press) 指定教科書

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末試験 40%、平常点 20%、授業内課題 40%で評価します。
原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advance で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

世界的に注目を集めているテッドトークスのテキストを使用することによって英語の力を高めてゆきます。内容は政治、法律、宗教、芸術、科学、スポーツ等々、様々な分野の第一線で活躍する人々のリアルな英語がちりばめられているものとなっています。
到達目標は、例えば TOEIC の試験で 800 点以上を取得出来るようになることですが、英語の総合的な能力を高めてゆくことも目標としています。

授業内容

第1回:a:イントロダクション b:life changes という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第2回:try something new for 30 days という lesson Bの英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第3回:team power という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第4回:build a team という lesson B の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第5回:ocean wonders という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第6回:underwater astonishments という lesson B の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第7回:what we wear という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第8回:what we wear という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第9回:wewring nothing new という lesson B の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 10 回:moments and memories という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 11 回:moments and memories という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 12 回:one second every day という lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 13 回:buildingsolutions という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 14 回:a:授業のふりかえりとまとめ b:試験の実施

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

熱意を持って授業に臨む心構えを持って欲しいので、必ずテキストの下調べをしておくように望んでいます。授業で指示する参考書とか SNS の情報とかを十分に利用して欲しいです。テキストを利用しつつ、役立つ参考書、アプリは授業において勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストの内容を調べておくと同時に、不明な箇所は質問してほしいです。予習復習に1時間前後の学習を望んでいます。テッドトークスのアプリは SNS で参照出来るので、存分に活用することを強く望んでいます。

教科書

『Tedtalks 21st century reading 1』 Laurie Blass (センゲージラーニング)

参考書

『英語のハノン初級』 横山雅彦 (筑摩書房)

課題に対するフィードバックの方法

課題については私のパソコンのメアドを通じてやり取りします。試験は基本的に対面で実施しますが、問い合わせはパソコン上で行います。

成績評価の方法

出席 50%、試験 50%とします。

その他

学生の方々が自由に勉強できるような環境を整えたいと思います。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
尾関 裕子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第一回 オリエンテーション(テキスト使用)
第二回 Adventures in India, Body Language in the United States
第三回 Hot Spots in Cross-Cultural Communication, Shopahoics
第四回 Young Millionaires, Pity the Poor Lottery Winner
第五回 The Ancient Olympic Games, The Greatest Marathon Runner
第六回 Extreme Sports, Music and Moods
第七回 I'll Be Back, The Biology of Music
第八回 The Penguin of Brazil, Exotic Animals---Not as a pets!
第九回 Let's Abandon Zoos, Vacationing in Space
第十回 Ecotourism, Jet Lag
第十一回 テキスト外資料による reading 1.
第十二回 テキスト外資料による reading 2.
第十三回 テキスト外資料による reading 3.
第十四回 a.まとめ b.テスト

履修上の注意

授業では、比較的読みやすい英文(テキスト)と、丁寧な準備が必要とされる英文(テキスト外資料)により、速読と精読の学習を行います。読むスピードに関わらず、正確に読み取ることが大事です。相手の主張を正確にとらえることなく、自分勝手な解釈をし、そのうえにたって、相手の主張を批評、判断することはあってはなりません。正確に読むには語彙、表現方法、文法、文化の問題など多くの情報が必要となります。予習で英文を読み進める際に疑問を感じたらすぐ調べるようにしましょう。

なお、英文和訳が reading のゴールではありません。和訳できたことで安心するのではなく、それを表現するのに英語ではどのように言葉を駆使するのかを知り、そうした表現をご自身も使えるようにしましょう。
英語という言語を身に着けることが授業で英語を学ぶ目標であると考えます。そのためのエクササイズを実施することもあります。積極的な参加が望まれます。英文和訳はスタート地点とお考え下さい。

自分に英語力をつけることが英語学習の目標です。つねに自分の力でトライすることを忘れずに。
授業時にはオンライン使用は禁じます。したがって、授業中、携帯電話はオフにしておきます。

遅刻、途中退室は二回で一回の欠席、とカウントします。交通機関の遅延証は 3 回まで有効です。公欠、病欠の扱いとなるためにはそれを証明する文書を後日ご提示ください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習
・予定されている箇所の英文を読みましょう。必要に応じ辞書をひくなどして内容を確認しましょう。
・英文はチャンク(意味の塊)ごとに読み進めましょう。
・表現を覚えるエクササイズにすぐ取り掛かれるように、テキストのエクササイズも解答しておきましょう。

復習
・授業で扱った表現を「意味がわかる」にとどめず、覚えましょう

教科書

Strategic Reading 1 (by J.C.Richards/ S.Eckstut-Didier) (2012) Cambridge University Press

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出物は、採点のうえ次回授業時に返却されます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。出席のカウントに関する注意は上記「履修上の注意」にもお知らせしております。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
小川 真理	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を 培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考 法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

1. 春学期授業内容の概説
2. UNIT 1A The World's Game
3. UNIT 1B What Makes an Olympic Champion?
4. UNIT 2A What Is Beauty?
5. UNIT 2B Skin: The Body's Canvas
6. UNIT 3A Racing to Rescue Koalas
7. UNIT 3B Tracking the Snow Leopard
8. UNIT 4A Sacred Summits
9. UNIT 4B Is Prediction Possible?
10. UNIT 5A Land of Fire and Ice
11. UNIT 5B The Perfect Beach
12. UNIT 6A The World's Favorite Drug
13. UNIT 6B Addicted to Distraction
14. 春学期授業内容の総括

履修上の注意

出来不出来は問いませんので、授業で扱うリーディングパッセージをしっかりと読み、練習問題を全て解いた上で授業に出席して下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

英問英答コーナーは、答えを英語で準備する。
リーディングパッセージ本文は、意味を解説できるようにしておく。
練習問題コーナーは、問題を全て解いておく。
また、オンラインコンテンツも利用して学習しましょう。
(想定学修時間：2 時間)

教科書

[i]Reading Explorer 3[/i], Third Edition, Nancy Douglas and David Bohlke 著 (Cengage, 2020)
ISBN: 9798214085647

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験は採点して返却します。課題を課した場合は、添削・採点の上返却します。

成績評価の方法

学期末試験 60% 、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加) 40% 。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回 Unit 1A: The World's Game
第 2 回 Unit 1B: What Makes an Olympic Champion?
第 3 回 Unit 2A: What Is Beauty?
第 4 回 Unit 2B: Skin: The Body's Canvas
第 5 回 Unit 3A: Racing to Rescue Koalas
第 6 回 Unit 3B: Tracking the Snow Leopard
第 7 回 Unit 4A: Sacred Summits
第 8 回 Unit 4B: Is Prediction Possible?
第 9 回 Unit 5A: Land of Fire and Ice
第 10 回 Unit 5B: The Perfect Beach
第 11 回 Unit 6A: The World's Favorite Drug
第 12 回 Unit 6B: Addicted to Distraction [1]
第 13 回 Unit 6B: Addicted to Distraction [2]
第 14 回 a. 試験 / b. 解答・解説

履修上の注意

毎回授業前に、指定された範囲の予習を行なっておくこと。遅刻は授業開始から 30 分までとする。遅刻 3 回で欠席 1 回扱いとする。学期末に期末試験を行うが、出席が授業日数の 2/3 に達しない場合、期末試験の受験資格無しとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの文章に関し予め語句等を調べ、ある程度内容を理解し、説明できるようにしておく必要がある。また、練習問題についても、あらかじめ答えを考えておくこと。学期末試験に向けて、文章の内容や表現等の復習が必要である。(各授業毎計 2 時間程度)

教科書

『Reading Explorer 3 (3rd ed.)』
Nancy Douglas and David Bohlke
(Cengage Learning)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

再履を受講することになった方はどうも、英語が出来ないからではなく、何らかの理由で授業に出るのが苦手、あるいは大学に来ることが出来ないらしいということがわかりました。
ですので、出来る限り授業に出てこれるように、ネイティヴの大学生が実際に読んでいる思想の入門書をこつこつと講読してまいります。
「継続は力なり」。
訳に対してのアドヴァイス、内容についての解説、さらに検討を行います。
今年度はミシェル・フーコーの入門書をテクストに取りあげます。なお、著者はフーコー研究で有名なフィンランド人女性哲学者です。
なお、今年は序章と第三章以降を読む予定です。

授業内容

第1回:イントロダクション:原書講読と重要性とフーコーを学ぶ意義
第2回:テクストを読む 序 1～2 頁 第一回
第3回:同上 序 3～4頁 第二回
第4回:同上 序 5頁 第三回
第5回:テクストを読む 第三章 25～26 頁 第一回
第6回:同上 第三章 27～28 頁 第二回
第7回:同上 第三章 29～30 頁 第三回
第8回:同上 第三章 31～32 頁 第四回
第9回:同上 第三章 33～35 頁 第五回
第 10 回:テクストを読む 第四章 36～37 頁 第一回
第 11 回:同上 第四章 38～39 頁 第二回
第 12 回:同上 第四章 40～41 頁 第三回
第 13 回:同上 第四章 42～44 頁 第四回
第 14 回:a:春学期のまとめ。b:試験

＊講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

語学の授業である限り、セメスター中、5回以上欠席した場合、原則、不合格とします。また、出席を授業最初に取ります。従って、欠席・遅刻は減点対象になります。出来る限り予習してくることが上達に繋がります。その場で訳すのであれば、辞書(電子辞書可)を必ず持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、2～3頁進むので、事前に予習してくることが望ましい。
それが出来ないのなら、辞書を毎回授業に持参して、その場で訳すこと。

教科書

Johanna Oksala, How to Read Foucault (Granta), 2007
Amazon などで購入することが好ましいが、該当箇所のプリントを適宜配布する。

参考書

オクサラ、関訳、『フーコーをどう読むか』、新泉社
慎改康之、『ミシェル・フーコー』、岩波新書
その他は講義中に、その都度提示します。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度)

その他

持参するのは電子辞書でもかまいませんが、書籍の英和辞典を活用しないと理解できないことになるでしょう。

S・A評価の割合については、原則として Advance で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

授業では，現代社会の問題に関するテキストを使います。

教室では，グループワークや講師との対話などを通して，教材の内容を正確に把握できているか確認します。受講者各自が積極的に自分の意見を述べることで，内容に対する理解を深めます。

このような作業を通して、受講者はそのテーマに対する自分なりの意見を確立していきます。どんな意見を持つのも自由ですが，ただしその根拠も必要です。そのためにも日頃から読書や新聞、テレビ，インターネットで情報などで資料を収集するようにします。各章ごとに、受講者それぞれの意見を発表してもらう予定です。

また，テキストだけでなく，その他の資料を見て，批判的に分析し，考え，意見を持つ訓練もしたいと考えています。

第1週:イントロダクション
第2週:テキスト unit1-1
第3週:テキスト unit1-2
第4週:テキスト unit2-1
第5週:テキスト unit2-2
第6週:テキスト unit3-1
第7週:テキスト unit3-2
第8週:テキスト unit4-1
第9週:テキスト unit4-2
第 10 週:テキスト unit5-1
第 11 週:テキスト unit5-2
第 12 週:テキスト unit6-1
第 13 週:テキスト unit6-2
第 14 週:春学期まとめ

履修上の注意

最初はどんな素朴な意見でもかまいません。積極的に発言する訓練をしたいと思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎週、テキストの予習をチェックし、単語テストを行います。

常習的に予習をしていない者は出席を認めないことがあります。

教科書

Dave Rear、杉藤久志、『新しい世界の読み方』、成美堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Basic)	English Academic Reading A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山 義典	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは、単に単語や文法を覚えることだけではありません。文章全体の流れを理解し、「筆者は何を伝えようとしているのか」という主題をつかむことが大切です。本授業では、そのような**英語の文章を正確に読み取り、内容を理解する力(リーディング力)**を身につけることを目標とします。
授業では Reading Explorer 3 をテキストとして使用し、世界の文化、自然、科学、社会などさまざまなテーマの英文を読みながら、英語の読解力を高めていきます。文章の大意を素早くつかむ読み方(速読)や、重要な情報を見つける読み方、また文章の構造や表現を丁寧に理解する精読など、さまざまな方法を練習します。
Reading Explorer では、世界各地の文化や社会に関する興味深いテーマが扱われています。英語を読む練習をしながら、英語圏や世界の文化についても理解を深めていきます。
この授業は、体育会に所属する学生の履修も想定しています。
練習、公式試合、遠征、合宿、あるいはチームの緊急ミーティングなど、競技活動によってやむを得ず授業を欠席する場合があることも理解しています。その場合は、事前または事後に連絡をしてください。授業内容や課題については、できるだけフォローできるようにします。
一方で、英語の力を伸ばすためには、続して学ぶことが大切です。スポーツのトレーニングと同じように、英語も日々の積み重ねが大きな力になります。忙しい中でも授業に参加し、少しずつ英語を読む力を伸ばしていきましょう。

授業内容

【春学期】
1. イントロダクション: "探究の旅の始まり"
2. Unit 1 Sports and Fitness (1): "エネルギーの源: スポーツの世界"
3. Unit 1 Sports and Fitness (2): "体と心の調和"
4. Unit 2 Skin Deep (1):"美の秘密: 皮膚の科学"
5. Unit 2 Skin Deep (2): "皮膚の奥に隠された物語"
6. Unit 3 Animals in Danger (1): "絶滅の危機に瀕する生命"
7. Unit 3 Animals in Danger (2):"保護のための行動"
8. Unit 4 Violent Earth (1): "地球の怒り: 自然災害の解析"
9. Unit 4 Violent Earth (2):"自然の力と人間の対応"
10. Unit 5 Islands and Beaches (1): "楽園の探求: 島々と海岸線"
11. Unit 5 Islands and Beaches (2): "隠れた宝物: 海の秘密"
12. Unit 6 Global Addictions (1): "現代の依存症: グローバルな視点"
13. Unit 6 Global Addictions (2): "依存の連鎖を断つ"
14. 学期末授業ポイントまとめ: "旅の終わり、学びの始まり"

履修上の注意

授業の進め方
授業では、テキスト [i]Reading Explorer 3[/i] を使用し、PowerPoint を用いた解説を行いながら授業を進めます。まず、各ユニットのテーマや背景を説明し、重要な語彙や表現を確認したうえで、本文のリーディングに取り組みます。
授業では、英文を一度読むだけでなく、[b]パラグラフ(段落)ごとに内容を確認しながら読み直し[/b]、文章の構成や筆者の主題を理解していきます。また、内容理解のための質問やディスカッションを行い、学生の皆さんが自分の考えを英語で表現する機会も設けます。
授業では、対面での活動に加えて、オンラインの学習サイトも利用します。そのため、授業にはノート PC またはタブレット端末を持参することを推奨します。オンライン教材や追加資料を参照しながら、理解を深めていきます。
本授業は[b]対面授業を基本[/b]としますが、体育会の学生の中には、遠征や大会などの事情により大学に来ることが難[illegible]

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に臨むにあたり、学生は教科書 [i]Reading Explorer 3[/i] の中から、[b]講師が指定した箇所を事前に読んでくること[/b]が求められます。あらかじめ本文に目を通し、分からない語彙や内容を確認しておくことで、授業中の理解がより深まります。
効果的な学習のためには、[b]授業の予習に約 2 時間、授業後の復習にも約 2 時間[/b]を目安として学習時間を確保することが推奨されています。予習では文章の大意をつかみ、復習では授業で学んだ語彙や表現、文章の構成をもう一度確認することで、内容理解をさらに深めることができます。
また、復習の際には、本文の重要なパラグラフを読み直したり、語彙や表現を整理したりすることで、英語の読解力を着実に高めることができます。
予習と復習は、授業内容の理解を深め、英語の力を伸ばすための大切な学習習慣です。忙しい学生生活の中でも、[b]計画的に学習時間を確保し、継続して取り組むこと[/b]が望まれます。

教科書

Reading Explorer 3 (3rd ed.)
著者:David Bohlke, et. al.
ISBN: 9798214085647
Cengage Learning (National Geographic Learning)

参考書

美誠社『英語の構文 150』アルク『キクタン BASIC4000』

課題に対するフィードバックの方法

Oh-Meiji を使ってフィードバックする予定。

成績評価の方法

本授業の成績評価は、授業内試験(60%)と授業への貢献度(40%)によって総合的に評価します。
授業への貢献度には、授業中の活動への参加、課題提出、小テストへの取り組み、授業での発言や質問など、授業にどれだけ主体的に関わったかが含まれます。授業では [i]Reading Explorer 3[/i] の内容理解を中心に、語彙確認や小テストなども行う予定です。
また、成績評価を受けるためには、[b]授業の 3 分の 2 以上の出席[/b]が必要です。この出席条件を満たさない場合は、定期試験の点数にかかわらず成績評価の対象になりませんので注意してください。
本授業では、定期試験の結果だけでなく、[b]日々の授業への参加や学習の積み重ね[/b]を重視しています。授業中の活動に積極的に参加し、英語の読解力を少しずつ高めていくことを期待しています。
体育会に所属している学生については、公式試合、大会、遠征などの事情がある場合もあると思います。その場合は、できるだけ事前に連絡をしてください。授業内容や課題を確認し、学習が遅れないように取り組んでください。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advance d で 70% Intermedia te で 50% Basic で 30% とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 志保美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第１回　Course Guidance
第２回　Unit 1 Reading A: The World's Game
第３回　Unit 1 Reading B: What Makes an Olympic Champion?
第４回　Unit 2 Reading A: What Is Beauty?
第５回　Unit 2 Reading B: Skin: The Body's Canvas
第６回　Unit 3 Reading A:　Racing to Rescue Koalas
第７回　Unit 3 Reading B: Tracking the Snow Leopard
第８回　Unit 4 Reading A:　Sacred Summits
第９回　Unit 4 Reading B:　Is Protection Possible?
第１０回　Unit 5 Reading A:　Land of Fire and Ice
第１１回　Unit 5 Reading B: The Perfect Beach
第１２回　Unit 6 Reading A: The World's Favorite Drug
第１３回　Unit 6 Reading B: Addicted to Distraction
第１４回　Review and Exam

これは予定にすぎませんので，クラスの様子や進捗状況によって変更もありえます。

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参してください。
予習前提の授業です。授業への積極的な参加を求めます。
担当者への連絡は Oh-o! Meiji の「教員とのメッセージ」を使ってください。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にお知らせします。
テキストには e-Book が付いていますので、個人でテキストを PC やスマホなどのデバイスに取り込むことは認めません。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所の予習をしておくこと。
単語の復習テストを行います。

教科書

Reading Explorer 3 (3rd ed.) Student Book with Spark Access + e-Book
著者: David Bohlke, et.al.
ISBN: 9798214085647
￥3,930 (税込み)
Cengage Learning

参考書

授業内で随時指示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説・講評します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter 1A
3rd session: Chapter 1B
4th session: Chapter 2A
5th session: Chapter 2B
6th session: Chapter 3A
7th session: Chapter 3B
8th session: Chapter 4A
9th session: Chapter 4B
10th session: Chapter 5A
11th session: Chapter 5B
12th session: Chapter 6A
13th session: Chapter 6B
14th session:まとめ・試験

履修上の注意

履修者全員でテキストの指定箇所を訳読し、そのうえで自分に興味のあるテーマを選んで論じてもらう。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業前に指定の章をよく読み、わからない単語などを自分で調べておくこと

教科書

David Bohlke 著.『Reading Explorer 3 (3rd ed.) 』(ISBN: 9780357116272) Cengage Learning

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

最終授業ですべて返却する。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容
第1回 Introduction
第2回 Unit 1 (a)
第3回 Unit 1 (b)
第4回 Unit 2 (a)
第5回 Unit 2 (b)
第6回 Unit 3 (a)
第7回 Unit 3 (b)
第8回 Unit 4 (a)
第9回 Unit 4 (b)
第 10 回 Unit 5 (a)
第 11 回 Unit 5 (b)
第 12 回 Unit 6 (a)
第 13 回 Unit 6 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意
言葉を「読む」ためにはそれなりの技能が必要となります。この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容
日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書
Epoch Explorer
著者：岩永道子・上村淳子・吉岡みのり
ISBN: 9784255155128
朝日出版社

参考書
なし。

課題に対するフィードバックの方法
教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法
学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容
Session 1: Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 Unit 1 Sports and Fitness
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 3 Unit 2 Skin Deep
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 4 Unit 3 Animals in Danger
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 5 Unit 4 Violent Earth
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 6 Unit 5 Islands and Beaches
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 7 Unit 6 Global Addictions
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 8 Presentation -- Group 1
-- Discussion
Session 9 Presentation -- Group 2
-- Discussion
Session 10 Presentation -- Group 3
-- Discussion
Session 11 Presentation -- Group 4
-- Discussion
Session 12 Presentation -- Group 5
-- Discussion
Session 13 Presentation -- Group 6
-- Discussion
Session 14 Review and Final paper

履修上の注意
The exchange of opinions in class will be in English. Summarise your opinions in English in the preparation phase.

準備学習(予習・復習等)の内容
Attendance is a must. Preparation is also essential, e.g. checking vocabulary. Make sure to read the texts and look up any unfamiliar words in advance. You will need at least 120 minutes for preparation/revision.

教科書
[Spark] Reading Explorer 3/E Spark Edition Level 3
Written by:David Bohlke, et. al.
ISBN: 9780357116272
¥3,300
Published by Cengage Learning

参考書
References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法
Discussions are held in each class to identify issues.

成績評価の方法
学期末試験 60% (Presentation 40% Final Paper 20%)、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他
1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

＊学生向け連絡手段は新学期開始以降、Oh-o! Meiji クラスウェブ"シラバスの補足"に明記します

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 Reading について
第2回 Chapter 1 When did we become human？ What is it to be human？
第3回 Chapter 1
第4回 Chapter 2 Civilized Mindsets(1)
第5回 Chapter 2
第6回 Chapter 3 Civilized Mindsets(2)
第7回 Chapter 3
第8回 Chapter 6 Travel: Marco Polo
第9回 Chapter 6
第 10 回 映画を用いた授業
第 11 回 映画を用いた授業
第 12 回 Chapter 9 Galileo Galilei
第 13 回 Chapter 9
第 14 回 a. まとめ
b. 試験

履修上の注意

第1回授業に必ず出席すること。
授業には教科書本体と英和辞典か英英辞典(電子辞書でも紙の辞書でもどちらでもよい)を[b]必ず持参[/b]すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

表面的な読みで終わらせるのではなく、内容をしっかりと理解することが大事です。

教科書

[i]Epoch Explorer[/i](Asahi Press) 指定教科書

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末試験 40%、平常点 20%、授業内課題 40%で評価します。
原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advance で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
石川 太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

イギリス BBC 英語ニュースを観て、スクリプトを読む事が中心になる。
その後学習内容に応じてライティングやスピーキングも行います。
予習は必須。学生の希望に応じて教科書以外のニュース映像も使う予定。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、未知の単語・熟語は意味を調べてくる。
ニュース全体の要約を毎回行う(英語・日本語)。
復習は、この要約を見ないで同じような内容が言えるように(または書けるように)する。

教科書

British News Update 8 (金星堂)2800 円(税別)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

添削した原稿にコメントと評価を記入して毎回返却予定。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 1 (a)
第3回 Unit 1 (b)
第4回 Unit 2 (a)
第5回 Unit 2 (b)
第6回 Unit 3 (a)
第7回 Unit 3 (b)
第8回 Unit 4 (a)
第9回 Unit 4 (b)
第 10 回 Unit 5 (a)
第 11 回 Unit 5 (b)
第 12 回 Unit 6 (a)
第 13 回 Unit 6 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

言葉を「読む」ためにはそれなりの技能が必要となります。この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

Epoch Explorer
著者：岩永道子・上村淳子・吉岡みのり
ISBN: 9784255155128
朝日出版社

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 オリエンテーション
第２回 The World's Game
第３回 What Makes an Olympic Champion?
第４回 What is Beauty?
第５回 Skin : The Body's Canvas
第６回 Racing to Rescue Koala
第７回 Tracking the Snow Leopard
第８回 Sacred Summits
第９回 Is Protection Possible?
第10回 Land of Fire and Ice
第11回 The Perfect Beach
第12回 The World's Favorite Drug
第13回 Addicted to Distraction
第14回 まとめ・試験

これは予定にすぎませんので, クラスの様子や状況によっていくつか 変更もありえます。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所を予習をしておくこと。
単語の復習テストを行います。

教科書

Reading Explorer 3 3rd Edition Cengage Learning

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
小池 知之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第１回 メディア英語の概要１
第２回 メディア英語の概要２
第３回 メディア英語と英語資格試験
第４回 時事問題記事
第５回 政治問題記事
第６回 メディア英文法 時制
第７回 メディア英文法 統一
第８回 環境問題記事
第９回 国際問題記事
第10回 メディア英文法 省略
第12回 メディア英文法 ダングリングモディファイ
第13回 メディア英語 復習 1
第14回 メディア英語 復習 2

履修上の注意

指定教科者の予習復習は勿論のこと、英語各種資格試験の受験なども積極的に行うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として指定教材、教科書の単語、語彙の下調べ、内容把握、訳、および演習問題を解く。復習にて単語、語彙の暗記、本文把握のための文法構文の完全把握を行う。

教科書

English through the News Media:2024 Edition. Richard Powell 著、朝日出版。

参考書

公式 TOEIC 問題集,国際ビスケットコミュニケーション協会

課題に対するフィードバックの方法

課題内容に適した方法、添削、コメント等。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の３分の２以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading A(Inter.)	English Academic Reading A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美奈子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 The World's Game
第 3 回 What Makes an Olympic Champion?
第 4 回 What Is Beauty?
第 5 回 Skin: The Body's Canvas
第 6 回 Racing to Rescue Koalas
第 7 回 Tracking the Snow Leopard
第 8 回 Sacred Summits
第 9 回 Is Protection Possible?
第 10 回 Land of Fire and Ice
第 11 回 The Perfect Beach
第 12 回 The World's Favorite Drug
第 13 回 Addicted to Distraction
第 14 回 まとめ・試験

＊進捗状況などによって変更の可能性があります。

履修上の注意

授業には必ず辞書を持参してください。携帯電話・スマートフォンやパソコンの辞書機能の使用は禁止します。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所の予習をしておくこと。
授業後に教科書を見直し、知らない単語やフレーズは次の授業までに覚えること。

教科書

[i]Reading Explorer 3 (3rd ed.): Student Book with Spark Access + e-Book[/i] (1 year access)
著者:David Bohlke, et. al.
ISBN: 9798214085647
¥3,630(税込)
Cengage Learning

参考書

適宜授業内で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回:food for life の見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第2回:food for life の見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第3回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第4回:body signs という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第5回:body signs という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第6回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第7回:energy builders という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第8回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第9回:changing perspectives という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 10 回:changing perspectives という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 11 回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 12 回:data detectives という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 13 回:lessonB の英文を読み、最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 14 回:a:授業のふりかえりとまとめ b:試験の実施

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

熱意を持って授業に臨む心構えを持って欲しいので、必ずテキストの下調べをしておくように望んでいます。授業で指示する参考書とか SNS の情報とかを十分に利用して欲しいです。テキストを利用しつつ、役立つ参考書、アプリは授業において勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストの内容を調べておくと同時に、不明な箇所は質問すること。テッドトークスのアプリは SNS で参照出来るので、存分に活用することを強く望んでいます。1時間前後の予習復習を望んでいます。

教科書

『Tedtalks 21st century reading 2』 Laurie Blass (センゲージラーニング)

参考書

『英語のハノン初級』 横山雅彦 (筑摩書房)

課題に対するフィードバックの方法

課題については私のパソコンのメアドを通じてやり取りします。試験は基本的に対面で実施しますが、問い合わせはパソコン上で行います。

成績評価の方法

平常点 50%、試験 50%とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN111E		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

初回に説明します。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

初回に説明します。

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 : イントロダクション
第2回 : One Flew East, One Flew West (3) Steven and the AC Unit / Grammar Guide - 使役動詞 have ＋目的語＋原型不定詞(1)
第3回 : One Flew East, One Flew West (3) Sue Hamlin and John Lycker / Grammar Guide - 使役動詞 have ＋目的語＋原型不定詞(2)
第4回 : One Flew East, One Flew West (4) Opening Night / Grammar Guide - 副詞句の前置による強調と倒置(1)
第5回 : One Flew East, One Flew West (4) Philip and Randa / Grammar Guide - 副詞句の前置による強調と倒置(2)
第6回 : One Flew East, One Flew West (5) Steven's Ankle Injury / Grammar Guide - 未来のことを考える would(1)
第7回 : One Flew East, One Flew West (5) The Curtain Call /Grammar Guide - 未来のことを考える would(2) /グループワーク (1)
第8回 : Reunion (1) Rob's Joining the Reserves / Grammar Guide - 名詞節を導く接続詞の if(1)/グループワーク(2)
第9回 : Reunion (1) Rob, Valerie and Dan / Grammar Guide - 名詞節を導く接続詞の if(2)
第 10 回 : Reunion (2) Major Peers / Grammar Guide - 直接法の if(1)
第 11 回 : Reunion (2) Volunteering for Activation / Grammar Guide - 直接法の if(2)
第 12 回 : Reunion (3) Chris, Rob and Dan / Grammar Guide - 接続詞 but(1)
第 13 回 : Reunion (3) A Check / Grammar Guide - 接続詞 but(2)
第 14 回 a : まとめ
b : 試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べ、練習問題を解いておくこと。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Michael Larson, [i]Notes on Brotherhood: English Literature in the Classroom Vol. 1[/i]『兄と弟の記録』マイケル・W・ラーソン(朝日出版社)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
水口 小百合	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 イントロダクション(group/pair reading of short story as an exercise)
第2回 Unit13
第3回 Unit14
第4回 Unit16
第5回 Unit18
第6回 Unit19
第7回 "Restitution but at what price? "
第8回 Unit21
第9回 "The New Testament's unsolved mysteries"
第 10 回 Unit22
第 11 回 Unit23
第 12 回 "The science behind the first successful pig-to-human heart transplant"
第 13 回 extra reading (group/pair reading of a short story as an intensive reading exercise)
第 14 回 a: 試験、b: 正答解説とまとめ

履修上の注意

恒常的なリーディングスキルの向上には、リーディング内容に高い関心を持って読むことが重要です。
各トピックに関連するオーセンティックな英文も読む予定ですので、自分との接点を見つけるように心がけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：テキストの該当部分を読み、知らない語句があれば持参する辞書で調べる。(90 分)
復習：授業で学んだ内容についてノートなどを用いて整理する。また、次回の単語テストに向けて準備を始める。(90 分)

教科書

English through the News Media: 2025 Edition 著者：Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell ISBN：9784255157283 ¥1,980(税込) 朝日出版社

参考書

複数授業回(第7・9・12 回)は、以下の教科書に掲載されている新聞記事を読む予定です(変更の可能性あり)。テクストは教員が用意します。
Read the World through News in English ニュース英語で世界を読み解く 編著者：石井隆之、喜多尊史 ISBN: 9784384335262 ¥2,310(税込) 三修社

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業の最後にリアクションペーパーを回収しますので、質問がある場合は記入してください。次週に解説ハンドアウトを配布します。また、適宜 Google Form を用いて、質問を受け付けることがあります。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
高島 和哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 イントロダクション
第2回 Unit 7 Memory
第3回 Unit 7 Memory
第4回 Unit 8 Personality
第5回 Unit 8 Personality
第6回 Unit 9 Fashion
第7回 Unit 9 Fashion
第8回 Unit 10 The Media
第9回 Unit 10 The Media
第 10 回 Unit 11 Art
第 11 回 Unit 11 Art
第 12 回 Unit 12 Humor
第 13 回 Unit 12 Humor
第 14 回 a: 試験
b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

教科書とともに辞書(電子辞書可)を必ず持参すること。携帯電話・スマートフォンは使用不可。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前にテキストの文章に目を通し、単語・熟語等を調べ、設問に対する答えも用意しておくこと。

教科書

[i]Strategic Reading Level[/i]3 (2nd Edition)
ISBN: 978-0-521-28111-9
Cambridge University Press

参考書

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の正答解説と講評を行う。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
橋本 文子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第１回:Unit 13　被爆者団体、日本被団協が核兵器反対運動でノーベル平和賞
第２回:Unit 14　人口減少と高齢化問題に取り組む国が増えている 中国もだ
第３回:Unit 15　ドロボーに対抗して自警団を結成する中流階級
第４回:Unit 16　店員に笑顔を求めるのはハラスメント
第５回:Unit 17　クック諸島 緊密な関係のニュージーランドを裏切り、中国と手を
第６回:Unit 18　インドネシア、やっとオランダから返還された古代の遺物を展示
第７回:Unit 19　アフリカが、若者の頭脳流出を止めるためには
第８回:Unit 20　昆虫の触角を利用した匂い検知ドローン災害救助への活用へ
第９回:Unit 21　日本、二酸化炭素問題解決に地下深くに目を
第 10 回:Unit 22　インドの宗教行事で大勢が転倒・圧死事故
　　世界最大級の宗教行事でまたもや殺到・圧死事故
第 11 回:Unit 23　科学を用いてより優しい方法のフォアグラを開発
第 12 回:Unit 24　「Shogun 将軍」はエミー賞授賞式で史上最多の 14 部門で受賞
第 13 回:最新のニュースを読む
第 14 回:a:まとめ、b:試験

履修上の注意

特にありませんが、世界で起こる様々な出来事に関心を持ち、興味のあるところについて調べてみましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の予習として、教科書の次回の授業の該当箇所を前もって読み、練習問題について考えてきて下さい。復習としては、授業の内容について教科書をもう一度確認し、練習問題を含めて授業の内容の理解を確実なものとして下さい。

教科書

"English through the News Media: 2026 Edition,"
Masami Takahashi, Noriko Itoh, Richard Powell,
Asahi Press

参考書

特に使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

ニュースで問題となっていることについて、どのように考えているかをクラスで話し合ってみましょう。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
加藤 匠	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 a 春学期内容の復習
b: Chapter 6 Dollars, Deeds, and Dreams Reading 1
第2回 Chapter 6 Dollars, Deeds, and Dreams Reading 2
第3回 Chapter 6 Dollars, Deeds, and Dreams Reading 2
第4回 Chapter 7 Standing Out from the Crowd Reading 1
第5回 Chapter 8 Imagine, Create, Succeed Reading 1
第6回 Chapter 8 Imagine, Create, Succeed Reading 1
第7回 Chapter 8 Imagine, Create, Succeed Reading 2
第8回 Chapter 9 Social Behaviour Reading 1
第9回 Chapter 9 Social Behaviour Reading 1
第 10 回 Chapter 9 Social Behaviour Reading 2
第 11 回 Chapter 10 It's a Crime! Reading 1
第 12 回 Chapter 10 It's a Crime! Reading 1
第 13 回 Chapter 10 It's a Crime! Reading 2
第 14 回 a: 試験
b: 講義全体のまとめと試験の正答解説

履修上の注意

出席はもちろん、語彙のチェックなど、毎回の予習・復習は必須である。予習、復習に関しては事前に指示するので、きちんと行なってから出席することが求められる。なお、辞書は原則として毎回持参すること！

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前の予習としては、単語を調べるだけでなく、自分で納得出来るまで英文を突き詰めていく努力が、そして授業で得た知識をより確実にするための復習を継続的に行なうなどの積極的な姿勢が求められることは言うまでもない。毎回一時間半ほどの予習・復習が必要になるだろう。納得できない箇所がある場合には、授業前後の時間を利用して積極的に質問してほしい。

教科書

[i]New Interactions 4[/i], Brenda Wegmann & Miki Knezevic. McGraw-Hill (ISBN: 978-1-4470-8000-8)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックに関しては、基本的には授業時に行なう。小テスト、期末試験は返却し、確認時間を設けることとする。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。なお 30 分を超える遅刻は欠席とし、遅刻は「0.5 欠席」相当として扱うので、注意すること。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

Session 1 Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 Unit 7 Human Body
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 3 Unit 8 Social Behavior
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 4 Unit 9 Creativity
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 5 Unit 10 New Discoveries
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 6 Unit 11 Cultural Encounters
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 7 Unit 12 Precious Resources
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 8 Presentation -- Fall Group 1
-- Discussion
Session 9 Presentation -- Fall Group 2
-- Discussion
Session 10 Presentation -- Fall Group 3
-- Discussion
Session 11 Presentation -- Fall Group 4
-- Discussion
Session 12 Presentation -- Fall Group 5
-- Discussion
Session 13 Presentation -- Fall Group 6
-- Discussion
Session 14 Review and Final Paper

履修上の注意

The exchange of opinions in class will be in English. Summarise your opinions in English in the preparation phase.

準備学習(予習・復習等)の内容

Attendance is a must. Preparation is also essential, e.g. checking vocabulary. Make sure to read the texts and look up any unfamiliar words in advance. You will need at least 120 minutes for preparation/revision.

教科書

[Spark] Reading Explorer 3/E Spark Edition Level 5
Written by Nancy Douglas et al.
ISBN: 9780357116302
Published by CENGAGE Learning
¥3,300

参考書

References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法

Discussions are held in each class to identify issues.

成績評価の方法

学期末試験 60% (Presentation 40% Final Paper 20%)、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野川 浩美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

科学・歴史・医学・芸術など、多岐にわたるテーマを扱った記事を読みます。各ユニットが Passage A と Passage B で構成されています。2 回の授業で 1 つの記事を取り上げる予定です。1 週目はとりあげる記事を理解するためのプリントを用いながら読解し、2 週目は内容の再確認をした後、さまざまな Reading Skill を勉強することで読み方のテクニックを身につけ、Vocabulary Practice によって語彙の確認をします。

(1)Unit 6 A Quicksilver Vanishing Cities (Understanding words with Multiple Meanings) Read the Passage with Q & A
(2)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(3))Unit & B Building the Ark (Determining the Meaning of Root Words) Read the Passage with Q & A
(4)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(5)Unit 7 A Secrets of the Brain (Understanding the use of the Passive Voice) Read the Passage with Q & A
(6)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(7)Unit 7 B Human Bionics (Distinguish Fact from Opinion) Read the Passage with Q & A
(8)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(9)Unit 8 A The Genius of Swarms (Making Inferences 2) Read the Passage with Q & A
(10)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(11)Unit 8 B Of Ants and Humans (Identifying Multiple Answers to Questions) Read the Passage with Q & A
(12)Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice
(13)Unit 9 A Decoding Leonard (Understanding Complex Infographics 2) Read the Passage with Q & A
(14)a. Reading Comprehension / Reading Skill / Vocabulary Practice / まとめ b. 試験

授業形態の変更によって生じるシラバスの修正は、シラバス補足に追記します。

履修上の注意

・必ず予習をして授業に臨むように。
・課題の提出は2回までとし、それ以降は受理しないので注意。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業計画と授業時の指示に従い、綿密に辞書を引いて次回の記事を読むとともに、代名詞が何を指示しているかなどの細部を確認しておくこと。また、事前に配布したレポート課題に取り組み、授業時に発表できるように準備しておいてください。

教科書

『Reading Explorer 5』, 3rd Edition (Cengage Learning) by Nancy Douglas ￥3,000

参考書

配布プリント

課題に対するフィードバックの方法

採点・返却後、授業内で解説。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Adv.)	English Academic Reading B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
香西 史子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回 ガイダンス
第 2 回 Unit 7 Reading A, B
第 3 回 Unit 7 Reading A, B exercises, activities
第 4 回 Quiz for Unit 7, Unit 8 Reading A
第 5 回 Unit 8 Reading A, B exercises, activities
第 6 回 Quiz for Unit 8, Unit 9 Reading A
第 7 回 Unit 9 Reading A, B exercises, activities
第8回 Quiz for Unit 9, Unit 10 Reading A
第 9 回 Unit 10 Reading A, B exercises, activities
第 10 回 Quiz for Unit 10, Unit 11 Reading A
第 11 回 Unit 11 Reading A, B exercises, activities
第 12 回 Quiz for Unit 11, Unit 12 Reading A
第 13 回 Unit 12 Reading A, B exercises, activities
第 14 回 期末試験 (English Reading Proficiency test, vocab from the readings)60%

履修上の注意

欠席か☒授業数の 1/3 以上の場合、受験資格を失います。 教室備え付けの PC を使用します。保存か☒必要なテ☒ータ用のストレージ☒(USB、クラ ウト☒等)を必す☒準備/持参してくた☒さい。授 業中に積極的にインターネットの活用をする場合か☒あります。 なお、授業は英語と日本語を併用して行います。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内て☒、次回まて☒の課題等を指示しますので☒、必す☒時間を作って準備してきてくた☒さい。予習には 60 分程度、復習にも 60 分程度要しま す。

教科書

Nancy Douglas, David Bohlke 著 [i]Reading Explorer 5 [/i](National Geographic, Third Edition)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題にはコメントをつけて Oh Meiji を通して返却する。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
石川 太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

基本的に決まった教科書は使いません。
授業中にプリントを配り、それを読みます。
その後学習内容に応じてライティングやスピーキングも行います。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

復習として、未知の単語・熟語は意味を調べてくる。
読んだ内容の要約を毎回行う(英語・日本語)。
最終的に、要約を見ないで同じような内容が言えるように(または書けるように)する。

教科書

基本的に決まった教科書は使いません。
授業中にプリントを配り、それを読みます。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

添削した原稿にコメントと評価を記入して毎回返却予定。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 当講義の概要・使用教材と学習の進め方の解説
第2回 教科書第7課・前半学習
第3回 教科書第7課・後半学習
第4回 教科書第8課・前半学習
第5回 教科書第8課・後半学習
第6回 教科書第9課・前半学習
第7回 教科書第9課・後半学習
第8回 教科書第10課・前半学習
第9回 教科書第10課・後半学習
第10回 教科書第11課・前半学習
第11回 教科書第11課・後半学習
第12回 教科書第12課・前半学習
第13回 教科書第12課・後半学習
第14回 a)講義(春学期のまとめ) b)学期末試験

履修上の注意

英和(英英)辞典は必ず持参して、講義中はすぐに使用できるように準備しておくこと。
携帯電話やノートパソコン等、インターネットに接続できる機器の授業中の使用は、授業担当者の許可がない限り、いかなる目的であっても禁止します。その他、細かい注意点に関しては、初回の講義時にプリントを配布して説明します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内容に関しては、復習が中心になります。次週までに前週の教科書を復習し、不明な点は授業担当者に質問するように心がけること。

教科書

春学期に引き続き、Developing Academic English (Intermediate)、Clive Langham 著、朝日出版社を使用します。
＊教科書は、必ず大学指定の業者から購入すること。教科書未購入者にはこのクラスの受講を許可しません。授業中、電子データでの教科書の使用は、絶対に認めません。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題については、次週以降、優秀作を取り上げて、授業中に講評することがあります。
基本的に、平常点を算出するために、成績を出し終わるまで返却は行いませんが、訂正指導など、必要に応じて一時的に課題を返却して、提出者と面談を行う場合があります。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。
教室は「公共空間」であると認識し、私的な振る舞いは慎むこと。と同時に、教室では「間違い」を恐れずに、自分の頭を「働かせる」こと。
授業に関する要望があれば、学期末実施の「授業改善アンケート」に書くよりも、学期中に授業担当教員に直接言うようにしてください。可能な範囲で対処します。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Chapter 4 Religion (1) Why is religion about death?
第3回 Chapter 4
第4回 Chapter 5 Religion (2) Excerpt from the Koran and the Enlightenment of Buddha?
第5回 Chapter 5
第6回 Chapter 7 The Renaissance(1) Leonard's Perspective
第7回 Chapter 7
第8回 Chapter 8 The Renaissance(2) A Prelude to the Scientific Revolution
第9回 Chapter 8
第 10 回 映画を用いた授業
第 11 回 映画を用いた授業
第 12 回 Chapter10 Mahatma Gandhi
第 13 回 Chapter10
第 14 回 a. まとめ
b. 試験

履修上の注意

授業には教科書本体と英和辞典か英英辞典を必ず持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

表面的な読みで終わらせるのではなく、内容をしっかりと理解することが大事です。

教科書

[i]Epoch Explore[/i]r (Asahi Press) 指定教科書

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末試験 40%、平常 20%、授業内課題 40%で評価します。
原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advance で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回：building solutions の見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第2回：lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。その後に動画を視聴して理解を確認します。
第3回：roads to fame という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第4回：roade to fame という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。i
第5回：lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第6回：face off という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第7回：face off という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第8回：lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第9回：community voices という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 10 回：community voices という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 11 回：lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 12 回：robot and us という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 13 回：lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 14 回：a：授業のふりかえりとまとめ b：試験の実施

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

熱意を持って授業に臨む心構えを持って欲しいので、必ずテキストの下調べをしておくように望んでいます。授業で指示する参考書とか SNS の情報とかを十分に利用して欲しいです。テキストを利用しつつ、役立つ参考書、アプリは授業において勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストの内容を調べておくと同時に、不明な箇所は質問すること。テッドトークスのアプリは SNS で参照出来るので、存分に活用することを強く望んでいます。予習復習には1時間前後の学習を望んでいます。

教科書

『Tedtalks 21st century reading 1』Laurie Blass（センゲージラーニング）

参考書

『英語のハノン初級』横山雅彦（筑摩書房）

課題に対するフィードバックの方法

課題については私のパソコンのメアドを通じてやり取りします。試験は基本的に対面で実施しますが、問い合わせはパソコン上で行います。

成績評価の方法

平常点 50%、試験 50%とします。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
尾関 裕子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第一回　オリエンテーション(前期の復習など)
第二回　Love on the Internet, Help on the Internet
第三回　How Wikis Work, Ten Easy Ways to Make Friends
第四回　Best Friends, Are Online Friends Real Friends?
第五回　Gift Giving, Modern Day Self-Sacrifice
第六回　Gift Cards, Do You Have a Sense of Humor?
第七回　Envy:　Is It Hurting or Helping You?　The Value of Tears
第八回　Chocolate,　Urban Farms
第九回　It Tastes Just Like Chiken, Power Napping is Good for the I.Q.
第十回　Common Questions About Dreams, What is a Dream?
第十一回 テキスト外資料による読解1.
第十二回 テキスト外資料による読解2.
第十三回 テキスト外資料による読解3。
第十四回 a.まとめ　　b.試験

履修上の注意

前期に同じ。
前期に引き続き、読解した英文の中にある表現を覚える努力をしましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

前期に同じ。
表現を覚えるためのエクササイズをスムーズに実施するためにもテキストの英文を読んでから授業へ参加し、授業後には表現自体を覚える努力を続けましょう。

教科書

前期に同じ。
Strategic Reading 1　(J.C.Richards/ S. Eckstut-Dider)　2021 Cambridge University Press

参考書

課題に対するフィードバックの方法

採点評価のうえ返却します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
小川 真理	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を 培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考 法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

1. UNIT 7A Powering the Planet
2. UNIT 7B City of the Future?
3. UNIT 8A China's Grand Canal
4. UNIT 8B Highway of Dreams
5. UNIT 9A The Power of Virtual Reality
6. UNIT 9B High-Flying Helpers
7. UNIT 10A What's on Your Mind?
8. UNIT 10B Inside Animal Minds
9. UNIT 11A Van Gogh's World
10. UNIT 11B Seeing the Light
11. UNIT 12A Defying Gravity
12. UNIT 12B The Ultimate Trip
13. Spark
14. 秋学期授業内容の総括

履修上の注意

出来不出来は問いませんので、授業で扱うリーディングパッセージをしっかりと読み、練習問題を全て解いた上で授業に出席して下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

英問英答コーナーは、答えを英語で準備する。
リーディングパッセージ本文は、意味を解説できるようにしておく。
練習問題コーナーは、問題を全て解いておく。
また、オンラインコンテンツも利用して学習しましょう。
(想定学修時間：2 時間)

教科書

[i]Reading Explorer 3[/i], Third Edition, Nancy Douglas and David Bohlke 著 (Cengage, 2020)
ISBN: 9798214085647

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験は採点して返却します。課題を課した場合は、添削・採点の上返却します。

成績評価の方法

学期末試験 60% 、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加) 40% 。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。
そ

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回 Unit 7A: Powering the Planet
第 2 回 Unit 7B: City of the Future?
第 3 回 Unit 8A: China's Grand Canal
第 4 回 Unit 8B: Highway of Dreams
第 5 回 Unit 9A: The Power of Virtual Reality
第 6 回 Unit 9B: High-Flying Helpers
第 7 回 Unit 10A: What's on Your Mind?
第 8 回 Unit 10B: Brain Power Inside Animal Minds
第 9 回 Unit 11A: Van Gogh's World
第 10 回 Unit 11B: Seeing the Light
第 11 回 Unit 12A: Defying Gravity
第 12 回 Unit 12B: The Ultimate Trip [1]
第 13 回 Unit 12B: The Ultimate Trip [2]
第 14 回 a. 試験 / b. 解答・解説

履修上の注意

毎回授業前に、指定された範囲の予習を行なっておくこと。遅刻は授業開始から 30 分までとする。遅刻 3 回で欠席 1 回扱いとする。学期末に期末試験を行うが、出席が授業日数の 2/3 に達しない場合、期末試験の受験資格無しとする。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストの文章に関し予め語句等を調べ、ある程度内容を理解し、説明できるようにしておく必要がある。また、練習問題についても、あらかじめ答えを考えておくこと。学期末試験に向けて、文章の内容や表現等の復習が必要である。(各授業毎計 2 時間程度)

教科書

『Reading Explorer 3 (3rd ed.)』
Nancy Douglas and David Bohlke
(Cengage Learning)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

再履を受講することになった方はどうも、英語が出来ないからではなく、何らかの理由で授業に出るのが苦手、あるいは大学に来ることが出来ないらしいということがわかりました。

ですので、出来る限り授業に出てこれるように、ネイティヴの大学生が実際に読んでいる思想の入門書をこつこつと講読してまいります。

「継続は力なり」。

訳に対してのアドヴァイス、内容についての解説、さらに検討を行います。

今年度はミシェル・フーコーの入門書をテクストに取りあげます。なお、著者はフーコー研究で有名なフィンランド人女性哲学者です。

なお、今年は序章と第三章以降を読む予定です。

授業内容

第1回:イントロダクション:前期の復習と後期の展望
第2回:テクストを読む 第五章 45~46 頁 第一回
第3回:同上 第五章 47~48 頁 第二回
第4回:同上 第五章 49~50 頁 第三回
第5回:同上 第五章 51~52 頁 第四回
第6回:同上 第五章 53~54 頁 第五回
第7回:テクストを読む 第六章 55~56 頁 第一回
第8回:同上 第六章 57~58 頁 第二回
第9回:同上 第六章 59~60 頁 第三回
第 10 回:同上 第六章 61~63 頁 第四回
第 11 回:テクストを読む 第七章 64~65 頁 第一回
第 12 回:同上 第七章 66~67 頁 第二回
第 13 回:同上 第七章 68~69 頁 第三回
第 14 回:a:秋学期のまとめ。b:試験

*講義内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

語学の授業である限り、セメスター中、5回以上欠席した場合、原則、不合格とします。また、出席を授業最初に取ります。従って、欠席・遅刻は減点対象になります。出来る限り予習してくることが上達に繋がります。その場で訳すのであれば、辞書(電子辞書可)を必ず持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、2~3頁進むので、事前に予習してくることが望ましい。
それが出来ないのなら、辞書を毎回授業に持参して、その場で訳すこと。

教科書

Johanna Oksala, How to Read Foucault (Granta), 2007
Amazon などで購入することが好ましいがコピーを適宜配布する。

参考書

オクサラ、関訳、『フーコーをどう読むか』、新泉社
慎改康之、『ミシェル・フーコー』、岩波新書
その他は講義中に、その都度提示します。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度)

その他

持参するのは電子辞書でもかまいませんが、書籍の英和辞典を活用しないと理解できないことになるでしょう。

S・A評価の割合については、原則として Advance で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題——筆者が伝えようとすること——をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

授業では, 現代社会の問題に関するテキストを使います。

教室では, グループワークや講師との対話などを通して, 教材の内容を正確に把握できているか確認します。受講者各自が積極的に自分の意見を述べることで, 内容に対する理解を深めます。

このような作業を通して、受講者はそのテーマに対する自分なりの意見を確立していきます。どんな意見を持つのも自由ですが, ただしその根拠も必要です。そのためにも日頃から読書や新聞、テレビ, インターネットで情報などで資料を収集するようにします。各章ごとに、受講者それぞれの意見を発表してもらう予定です。

また, テキストだけでなく, その他の資料を見て, 批判的に分析し, 考え, 意見を持つ訓練もしたいと考えています。

第1週:イントロダクション
第2週:テキスト unit7-1
第3週:テキスト unit7-2
第4週:テキスト unit8-1
第5週:テキスト unit8-2
第6週:テキスト unit9-1
第7週:テキスト unit9-2
第8週:テキスト unit10-1
第9週:テキスト unit10-2
第 10 週:テキスト unit11-1
第 11 週:テキスト unit11-2
第 12 週:テキスト unit12-1
第 13 週:テキスト unit12-2
第 14 週:秋学期まとめ

履修上の注意

最初はどんな素朴な意見でもかまいません。積極的に発言する訓練をしたいと思います。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎週、テキストの予習をチェックし、単語テストを行います。

常習的に予習をしていない者は出席を認めないことがあります。

教科書

Dave Rear、杉藤久志、『新しい世界の読み方』、成美堂

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Basic)	English Academic Reading B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山 義典	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは、単に単語や文法を覚えることだけではありません。文章全体の流れを理解し、「筆者は何を伝えようとしているのか」という主題をつかむことが大切です。本授業では、そのような英語の文章を正確に読み取り、内容を理解する力(リーディング力)を身につけることを目標とします。授業では Reading Explorer 3 をテキストとして使用し、世界の文化、自然、科学、社会などさまざまなテーマの英文を読みながら、英語の読解力を高めていきます。文章の大意を素早くつかむ読み方(速読)や、重要な情報を見つける読み方、また文章の構造や表現を丁寧に理解する精読など、さまざまな方法を練習します。Reading Explorer では、世界各地の文化や社会に関する興味深いテーマが扱われています。英語を読む練習をしながら、英語圏や世界の文化についても理解を深めていきます。この授業は、体育会に所属する学生の履修も想定しています。練習、公式試合、遠征、合宿、あるいはチームの緊急ミーティングなど、競技活動によってやむを得ず授業を欠席する場合があることも理解しています。その場合は、事前または事後に連絡をしてください。授業内容や課題については、できるだけフォローできるようにします。一方で、英語の力を伸ばすためには、**継続して学ぶことが大切です。**スポーツのトレーニングと同じように、英語も日々の積み重ねが大きな力になります。忙しい中でも授業に参加し、少しずつ英語を読む力を伸ばしていきましょう。

授業内容

第1回 Unit 7 Energy Solution(1) 第2回 Unit 7 Energy Solution(2)
第3回 Unit 8 Epic Engineering(1) 第4回 Unit 8 Epic Engineering (2)
第5回 Unit 9 High-Tech Solutions(1) 第6回 Unit 9 High-Tech Solutions(2)
第7回 Unit 9 High-Tech Solutions(3) 第8回 Unit 10 All in the Mind(1)
第9回 Unit 10 All in the Mind(2) 第 10 回 Unit 10 All in the Mind(3)
第 11 回 Unit 11 Visual Pioneers(1) 第 12 回 Unit 11 Visual Pioneers(2)
第 13 回 Unit 11 Visual Pioneers(3) 第 14 回 まとめと秋学期のポイント復習

履修上の注意

履修上の注意(秋学期)
本授業では、テキスト Reading Explorer 3 を使用し、準中級レベルの英語リーディング力を身につけることを目標とします。テキストには、英文読解力を高めるための多くの練習問題が用意されており、段階的に読解力を伸ばしていくことができます。また、本書ではインプット(読む・聞く)とアウトプット(話す・書く)を組み合わせた統合型の学習活動も多く取り入れられています。授業では、文化、医療、科学、歴史など、さまざまな分野に関する英文を読みながら、世界の多様なテーマについて理解を深めていきます。Reading Explorer の各ユニットには、関連する 2 つのテーマのリーディングが収録されており、文化、自然科学、社会問題、人文、旅行、冒険など、世界のさまざまなトピックが紹介されています。また、文章だけでなく、チャート、グラフ、写真などを用いたパッセージを読み取る練習も行います。授業では主に次のような学習活動を行います。テキストの内容理解を中心とした読解力(内容把握力)の向上 重要な語彙の習得と語彙力の強化 文法および表現力の練習 内容に関する対話理解(リスニングやディクテーションを含む活動) クリティカルシンキングを通して文章内容を深く理解する演習 なお、体育会に所属する学生については、練習、公式試合、大会、遠征などの事情で授業を欠席する場合もあると思います。その場合は、できるだけ事前に担当教員へ報告することが望まれます。欠席後は授業内容や課題を確認し、学習が遅れないように努めてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に臨むにあたり、学生は教科書 [i]Reading Explorer 3[/i] の中から、[b]講師が指定したユニットおよびリーディング本文を事前に読んでおくこと[/b]が求められます。予習では、本文を読みながら大まかな内容を理解し、分からない語彙や表現を確認しておくことが重要です。また、写真、チャート、グラフなどの資料にも目を通し、文章のテーマについて考えておくと、授業中の理解が深まります。
復習では、授業で扱った文章をもう一度読み直し、重要な語彙や表現、文章の構成を確認してください。特に、各パラグラフの要点を整理し、文章全体の主題や筆者の主張を理解することが大切です。また、授業で扱った練習問題や語彙を復習することで、読解力をより確実なものにすることができます。
大学の授業では、授業時間だけでなく、[b]授業外での学習時間の確保[/b]も重要です。一般的な目安として、[b]授業の予習に約 2 時間、復習にも約 2 時間程度の学習時間[/b]を確保することが望まれます。忙しい学生生活の中でも、計画的に学習時間を確保し、継続的に取り組むことで英語の読解力は着実に向上します。
スポーツのトレーニングと同様に、英語の学習も日々の積み重ねが大きな成果につながります。授業で学んだ内容を復習しながら、継続的に学習に取り組んでください。

教科書

Reading Explorer 3 (3rd ed.)
著者:David Bohlke, et. al.
ISBN: 9798214085647
Cengage Learning

参考書

美誠社『英語の構文 150』アルク『キクタン BASIC4000』

課題に対するフィードバックの方法

[b]フィードバックの方法[/b]
課題の具体的な箇所に言及しながら、良い点と改善点を明確に示す。
指摘にとどまらず、改善のための具体的な助言を行い、肯定的なコメントとあわせてバランスよくフィードバックする。
フィードバックはできるだけ迅速に行い、次の課題に活用できるようにする。

成績評価の方法

成績評価の方法(秋学期)
本授業の成績評価は、授業内試験(60%)と授業への貢献度(40%)によって総合的に評価します。
授業への貢献度には、授業中の活動への参加、課題提出、小テストへの取り組み、授業での発言や質問など、授業にどれだけ主体的に関わったかが含まれます。秋学期では、[i]Reading Explorer 3[/i] の内容理解に加え、語彙の確認や内容理解のための小テストなども行う予定です。
また、成績評価を受けるためには、[b]授業の 3 分の 2 以上の出席[/b]が必要です。この出席条件を満たさない場合は、定期試験の成績にかかわらず評価の対象になりませんので注意してください。
本授業では、定期試験の結果だけでなく、[b]日々の授業への参加や学習の積み重ね[/b]を重視しています。授業での活動や課題を通して、英語の読解力を段階的に高めていくことを期待しています。体育会に所属している学生については、公式試合、大会、遠征などの事情がある場合もあります。その場合は、できるだけ[b]事前に担当教員へ連絡すること[/b]が望まれます。欠席後は授業内容や課題を確認し、学習が遅れないように取り組んでください。
英語の力は、スポーツのトレーニングと同じように、継続的な努力によって伸びていきます。授業に積極的に参加し、着実に力を高めていきましょう。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
川島 志保美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回 Course Guidance
Unit 7 Reading A: Powering the Planet
第 2 回 Unit 7 Reading A: Powering the Planet
第 3 回 Unit 7 Reading B: City of the Future?
第 4 回 Unit 8 Reading A: China's Grand Canal
第 5 回 Unit 8 Reading B: Highway of Dreams
第 6 回 Unit 9 Reading A: The Power of Virtual Reality
第 7 回 Unit 9 Reading B: High-Flying Helpers
第 8 回 Unit 10 Reading A: What's on Your Mind?
第 9 回 Unit 10 Reading B: Inside Animal Minds
第 10 回 Unit 11 Reading A: Van Gogh's World
第 11 回 Unit 11 Reading B: Seeing the Light
第 12 回 Unit 12 Reading A: Defying Gravity
第 13 回 Unit 12 Reading B: The Ultimate Trip
第 14 回 Review and Exam

これは予定にすぎませんので, クラスの様子や進捗状況によって変更もありえます。

履修上の注意

授業には必ずテキストを持参してください。
予習前提の授業です。授業への積極的な参加を求めます。
担当者への連絡は Oh-o! Meiji の「教員とのメッセージ」を使ってください。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にお知らせします。
テキストには e-Book が付いてますので、個人でテキストを PC やスマホなどのデバイスに取り込むことは認めません。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所の予習をしておくこと。
単語の復習テストを行います。

教科書

Reading Explorer 3 (3rd ed.) Student Book with Spark Access + e-Book
著者: David Bohlke, et.al.
ISBN: 9798214085647
￥3,630 (税込み)
Cengage Learning

参考書

必要に応じて授業内で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説・講評します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter 7A
3rd session: Chapter 7B
4th session: Chapter 8A
5th session: Chapter 8B
6th session: Chapter 9A
7th session: Chapter 9B
8th session: Chapter 10A
9th session: Chapter 10B
10th session: Chapter 11A
11th session: Chapter 11B
12th session: Chapter 12A
13th session: Chapter 12B
14th session:まとめ・試験

履修上の注意

履修者全員でテキストの指定箇所を訳読し、そのうえで自分に興味のあるテーマを選んで論じてもらう。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業前に指定の章をよく読み、わからない単語などを自分で調べておくこと

教科書

David Bohlke 著,『Reading Explorer 3 (3rd ed.) 』(ISBN: 9780357116272) Cengage Learning

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 7 (a)
第3回 Unit 7 (b)
第4回 Unit 8 (a)
第5回 Unit 8 (b)
第6回 Unit 9 (a)
第7回 Unit 9 (b)
第8回 Unit 10 (a)
第9回 Unit 10 (b)
第 10 回 Unit 11 (a)
第 11 回 Unit 11 (b)
第 12 回 Unit 12 (a)
第 13 回 Unit 12 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

言葉を「読む」ためにはそれなりの技能が必要となります。この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

Epoch Explorer
著者：岩永道子・上村淳子・吉岡みのり
ISBN: 9784255155128
朝日出版社

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

Session 1 Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 Unit 7 Energy Solutions
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 3 Unit 8 Epic Engineering
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 4 Unit 9 High-Tech Solutions
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 5 Unit 10 All in the Mind
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 6 Unit 11 Visual Pioneers
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 7 Unit 12 Far Out
-- Reading, critical thinking, and discussion
Session 8 Presentation -- Fall Group 1
-- Discussion
Session 9 Presentation -- Fall Group 2
-- Discussion
Session 10 Presentation -- Fall Group 3
-- Discussion
Session 11 Presentation -- Fall Group 4
-- Discussion
Session 12 Presentation -- Fall Group 5
-- Discussion
Session 13 Presentation -- Fall Group 6
-- Discussion
Session 14 Review and Final Paper

履修上の注意

The exchange of opinions in class will be in English. Summarise your opinions in English in the preparation phase.

準備学習(予習・復習等)の内容

Attendance is a must. Preparation is also essential, e.g. checking vocabulary. Make sure to read the texts and look up any unfamiliar words in advance. You will need at least 120 minutes for preparation/revision.

教科書

[Spark] Reading Explorer 3/E Spark Edition Level 3
Written by:David Bohlke, et. al.
ISBN: 9780357116272
¥3,300
Published by Cengage Learning

参考書

References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法

Discussions are held in each class to identify issues.

成績評価の方法

学期末試験 60%(Presentation 40% Final Paper 20%)、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Chapter 4 Religion (1) Why is religion about death?
第3回 Chapter 4
第4回 Chapter 5 Religion (2) Excerpt from the Koran and the Enlightenment of Buddha?
第5回 Chapter 5
第6回 Chapter 7 The Renaissance(1) Leonard's Perspective
第7回 Chapter 7
第8回 Chapter 8 The Renaissance(2) A Prelude to the Scientific Revolution
第9回 Chapter 8
第 10 回 映画を用いた授業
第 11 回 映画を用いた授業
第 12 回 Chapter10 Mahatma Gandhi
第 13 回 Chapter10
第 14 回 a. まとめ
b. 試験

履修上の注意

第1回授業に必ず出席すること。
授業には教科書本体と英和辞典か英英辞典を[b]必ず持参[/b]すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

表面的な読みで終わらせるのではなく、内容をしっかりと理解することが大事です。

教科書

[i]Epoch Explore[/i]r (Asahi Press) 指定教科書

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点 20%、、授業内課題 20%で評価します。
原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とします。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advance で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
石川 太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

イギリス BBC 英語ニュースを観て、スクリプトを読む事が中心になる。
その後学習内容に応じてライティングやスピーキングも行います。
予習は必須。学生の希望に応じて教科書以外のニュース映像も使う予定。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として、未知の単語・熟語は意味を調べてくる。
ニュース全体の要約を毎回行う(英語・日本語)。
復習は、この要約を見ないで同じような内容が言えるように(または書けるように)する。

教科書

British News Update 8 (金星堂)2800 円(税別)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

添削した原稿にコメントと評価を記入して毎回返却予定。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 6: A
第3回 Unit 6: B
第4回 Unit 7: A
第5回 Unit 7: B
第6回 Unit 8: A
第7回 Unit 8: B
第8回 Review Session Ia
第9回 Unit 9: A
第 10 回 Unit 9: B
第 11 回 Unit 10: A
第 12 回 Unit 10: B
第 13 回 Review Session Ib
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

言葉を「読む」ためにはそれなりの技能が必要となります。この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種メディアに接してみること。

教科書

Epoch Explorer
著者:岩永道子・上村淳子・吉岡みのり
ISBN: 9784255155128
朝日出版社

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて応答し、議論を行う。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の 3 分の 2 以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第 1 回 オリエンテーション
第 2 回 Powering the Future
第 3 回 City of the Future?
第 4 回 China's Grand Canal
第 5 回 Highway of Dreams
第 6 回 The Power of Virtual Reality
第 7 回 High-Frying Helpers
第 8 回 What's on Your Mind?
第 9 回 Inside Animal Minds
第 10 回 Van Gogh's World
第 11 回 Seeing the Light
第 12 回 Defying Gravity
第 14 回 まとめと試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所を予習をしておくこと。
単語の復習テストを行います。

教科書

Reading Explorer 3 3rd Edition Cengage Learning

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の3分の2以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
小池 知之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第１回 メディア英語の応用１
第２回 メディア英語の応用２
第３回 メディア英語と英語資格試験２
第４回 国内問題記事
第５回 国際紛争問題記事
第６回 メディア英文法 略語
第７回 メディア英文法 記号
第８回 健康衛生問題記事
第９回 国際協力記事
第10回 メディア英文法 run on sentences
第12回 メディア英文法 unity and coherence
第13回 国際教育記事
第14回 メディア英語総合復習

履修上の注意

指定教科者の予習復習は勿論のこと、英語各種資格試験の受験なども積極的に行うこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として指定教材、教科書の単語、語彙の下調べ、内容把握、訳、および演習問題を解く。復習にて単語、語彙の暗記、本文把握のための文法構文の完全把握を行う。

教科書

English through the News Media:2024 Edition. Richard Powell 著、朝日出版。

参考書

公式 TOEIC 問題集、国際ビジネスコミュニケケーション協会

課題に対するフィードバックの方法

課題内容に適した方法、添削、コメント等。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の３分の２以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Academic Reading B(Inter.)	English Academic Reading B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美奈子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語の文章を読む力とは何か。短文を理解する語彙力や文法力だけではなく、英語の文章の構成を理解し、その文章の主題――筆者が伝えようとすること――をつかむ力こそ、英語の文章を正確に深く読み解くために必要である。このような英文読解力を培うことが本授業の目標である。読む訓練としては、素早く大意をつかむ速読から、比喩など修辞的な表現まで文体を理解するための精読まで、多様な手法を用いる。さらに、文章の構成、主題の選択、議論の展開、文体には、英語文化圏の書き手の思考法・文化背景が表れており、英語の文章を読み解く過程で、英語圏の文化についても学ぶことになるだろう。

授業内容

第1回 オリエンテーション / Powering the Planet
第２回 Powering the Planet
第３回 City of the Future?
第４回 China's Grand Canal
第５回 Highway of Dreams
第６回 The Power of Virtual Reality
第７回 High-Flying Helpers
第８回 What's on Your Mind?
第９回 Inside Animal Minds
第10回 Van Gogh's World
第11回 Seeing the Light
第12回 Defying Gravity
第13回 The Ultimate Trip
第14回 まとめ・試験

＊進捗状況などによって変更の可能性があります。

履修上の注意

授業には必ず辞書を持参してください。携帯電話・スマートフォンやパソコンの辞書機能の使用は禁止します。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所の予習をしておくこと。
授業後に教科書を見直し、知らない単語やフレーズは次の授業までに覚えること。

教科書

[i]Reading Explorer 3 (3rd ed.): Student Book with Spark Access + e-Book[/i] (1 year access)
著者：David Bohlke, et. al.
ISBN: 9798214085647
¥3,630(税込)
Cengage Learning

参考書

適宜授業内で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説します。

成績評価の方法

学期末試験 60%、平常点(課題・小テスト・積極的な授業参加)40%。原則として、全授業回数の３分の２以上の出席を成績評価の前提条件とする。

その他

1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

授業は教科書を中心に行います。時々、ノートテイキングの練習やディスカッションなどを行います。
授業ではテキストの内容の理解が中心となりますが、その内容を踏まえて時々ペアワークやグループワークなどを取り入れます。
★ なお、授業の進行状況によって、扱う Unit の内容は変更になることもあります。

1st session: Guidance. 授業の進め方、評価などの説明
2nd session: Chapter 1 On Learning and Teaching English
3rd session: Chapter 1 On Learning and Teaching English
4th session: Chapter 1 On Learning and Teaching English Pair Work
5th session: Chapter 2The Greatest Gift
6th session: Chapter 2 The Greatest Gift
7th session: Chapter 3 Cats and Dogs
8th session: Chapter 3 Cats and Dogs Group Work
9th session: Chapter 4 Visual Perception: Ads, Art and Cognition.
10th session: Chapter 5What is Good Taste?
11th session: Chapter 5What is Good Taste? Pair work
12th session: Chapter 7 Food Culture: Overweight and Undernourished
13th session: Chapter 7 Food Culture: Overweight and Undernourished
14th session: a 春学期試験
b 春学期試験の解説，総括

履修上の注意

授業に参加する際は必ず予習をしておくこと。

各章において、以下のステップを踏んでいきます
1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、
2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、
3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。
4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。
途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

必ず積極的にディスカッションなど、アクティビティに参加しましょう。
準備不足であったりすると、皆の迷惑になるので、必ず準備をして授業内活動に参加しましょう。
授業に出席していてもアクティビティに積極的にとりくまないと評価が不利になる場合があります。
また授業に参加する際には節度を持って参加すること。他人の発言に対して攻撃をしたりしないこと

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。
授業の予習の際には、きちんと音読をしておきましょう。音読はすべての基本となります。
パラグラフごとの内容をとらえておきましょう。
復習では、その日に学習した内容をもう一度確認しておきましょう。音読したり、パラグラフを英語で言い換えてみましょう

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

必要に応じて、学習した内容に授業時に指示します。
あわせて、関連する映像なども紹介していきます。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施する際には、答案を返却します。答え合わせをして全体にフィードバックをします。また、授業内で行ったリアクションペーパーなどに関するフィードバックも個人に対して行うほかにも、全体に対して共有するべき内容がある場合には授業時間内に全体にお知らせします。課題も同様に対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメントや小テストや授業内活動の評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。
欠席、遅刻、授業への積極的な参加などを加味します。

遅刻や欠席は減点対象となります。また遅刻 2 回と欠席 1 回と数えます。
授業回数の 3 分の1の欠席回数に達した場合には、単位を認定することはできません。
また課題の提出期限を守らなかった場合には評価が不利になるので、気をつけてください

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 麻里	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。
1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の宿題や小テストは、その内容について授業中に解説し、また採点して翌週に返却します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。
1 年次 4 月実施の TOEIC 試験受験有無を、第 1 回授業の出席点として扱います。必ず受験しましょう。
全授業数のうち、3 分の 2 以上出席することが、単位取得の前提条件です。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。

S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

授業は教科書を中心に行います。時々、ノートテイキングの練習やディスカッションなどを行います。
授業ではテキストの内容の理解が中心となりますが、その内容を踏まえて時々ペアワークやグループワークなどを取り入れます。
★ 授業の進行状況によって、扱う Unit が変更になることもあります

1st session: Guidance. 授業の進め方、評価などの説明
2nd session: Chapter 1On Learning and Teaching English
3rd session: Chapter 1 On Learning and Teaching English
4th session: Chapter 1 On Learning and Teaching English Group Work
5th session: Chapter 2The Greatest Gift
6th session: Chapter 2 The Greatest Gift
7th session: Chapter 3 Cats and Dogs
8th session: Chapter 3 Cats and Dogs Pair Work
9th session: Chapter 4 Visual Perception: Ads, Art and Cognition.
10th session: Chapter 5What is Good Taste?
11th session: Chapter 5What is Good Taste?
12th session: Chapter 7 Food Culture: Overweight and Undernourished
13th session: Chapter 7 Food Culture: Overweight and Undernourished
14th session: 春学期試験
春学期試験の解説と総括

履修上の注意

授業に参加する際は必ず予習をしておくこと。授業が終了したら復習をすること

各章において、以下のステップを踏んでいきます
1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、
2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、
3)議論の構築：問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。
4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。
途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。
授業の予習の際には、きちんと音読をしておきましょう。音読はすべての基本となります。
パラグラフごとの内容をとらえておきましょう。
復習では、その日に学習した内容をもう一度確認しておきましょう。音読したり、パラグラフの内容を英語で言い換えてみましょう

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

必要に応じて、学習した内容に授業時に指示します。
あわせて、関連する映像なども紹介していきます。

課題に対するフィードバックの方法

小テストを実施する際には、答案を返却し答え合わせをして全体にフィードバックをします。
また、授業内で行ったリアクションペーパーなどに関するフィードバックも個人に対して行うほかにも、
全体に対して共有するべき内容がある場合には授業時間内に全体にお知らせします。課題も同様に対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメントや小テストや授業内活動の評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。
欠席、遅刻、授業への積極的な参加などを加味します。

遅刻や欠席は減点対象となります。また遅刻 2 回と欠席 1 回と数えます。
授業回数の 3 分の1の欠席回数に達した場合には、単位を認定することはできません。
また課題の提出期限を守らなかった場合には評価が不利になるので、気をつけてください。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第1回:a:introduction b:starting up という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第2回:starting up という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第3回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第4回:fragile forests という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第5回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第6回:bright ideas という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第7回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第8回:game changers という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第9回:game changers という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 10 回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 11 回:lessons in learning という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 12 回:lessons in learning という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 13 回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 14 回:a:授業のふりかえりとまとめ b:試験の実施

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

熟意を持って授業に臨む心構えを持って欲しいので、必ずテキストの下調べをしておくように望んでいます。授業で指示する参考書とか SNS の情報とかを十分に利用して欲しいです。テキストを利用しつつ、役立つ参考書、アプリは授業において勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストの内容を調べておくと同時に、不明な箇所は質問すること。テッドトークスのアプリは SNS で参照出来るので、存分に活用することを強く望んでいます。1 時間前後の予習復習の学習を望んでいます。

教科書

『Tedtalks21st century reading 2』 Laurie brass(センゲージラーニング)

参考書

『英語のハノン初級』 横山雅彦 (筑摩書房)

課題に対するフィードバックの方法

課題については私のパソコンのメアドを通じてやり取りします。試験は基本的に対面で実施しますが、問い合わせはパソコン上で行います。

成績評価の方法

出席 50%、試験 50%とします。

その他

学生の方々が自由に勉強できる環境を整えたいと思います。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Adv.)	English Communication Skills A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で返却する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度 : 教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

第 1 回 : TOEIC 試験で代替
第2回 : イントロダクション
第3回 : Chapter 2 The Greatest Gift (1) Hilo
第4回 : Chapter 2 The Greatest Gift (2) College / グループワーク(1)
第5回 : Chapter 2 The Greatest Gift (3) Becoming a Writer / グループワーク(2)
第6回 : Chapter 3 Cats and Dogs (1) Animal Companions
第7回 : Chapter 3 Cats and Dogs (2) Experiments
第8回 : Chapter 3 Cats and Dogs (3) Animals' Powers
第9回 : Chapter 4 Food Culture: Overweight and Undernourished (1) Obesity / グループワーク(3)
第 10 回 : Chapter 4 Food Culture: Overweight and Undernourished (2) Jamie Oliver / グループワーク(4)
第 11 回 : Chapter 4 Food Culture: Overweight and Undernourished (3) School Lunch Programs
第 12 回 : Chapter 9 The Roman Empire: The Social Meaning of the Gladiators (1) Bloody Public Spectacles
第 13 回 : Chapter 9 The Roman Empire: The Social Meaning of the Gladiators (2) A Warrior Society
第 14 回 a: まとめ b: 試験

●使用言語 : 教室では英語を使いますが、各担当教官の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従ってください。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。グループワークの前には、ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G[/i].『人類の遺産』(Tokyo: Seibido).

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席点として扱う。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。
「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容
各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意
各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容
出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書
Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法
適宜対応します。

成績評価の方法
予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他
1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。
「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容
各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意
各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容
出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書
Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法
最終授業で返却する。

成績評価の方法
予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他
1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
狩野 郁子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。
「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

The goal of this class is to improve English linguistic skills for communication in various situations. Students are to develop their abilities through reading with many kinds of topics. Assignments should be done on time. A comprehensive test is given after going through a chapter.
Module a (30 minutes): a vocabulary quiz and review of the previous classes
Module b (70 minutes): reading and comprehensive exercises

授業内容
各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

Schedule:
1st class: Guidance
2nd: Introduction to the course. Reading exercises for Chap.8.
3rd: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 8.
4th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 8.
5th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 8.
6th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 8.
7th: Mid-term examination on Chap. 8, and reading exercises for Chap. 5.
8th: Review of the test. Reading exercises for Chap. 5.
9th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 5.
10th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 5.
11th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 5
12th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 5 and supplementary reading.
13th: Vocabulary quiz. Reading exercises.
14th: Review of the classes. Term examination.

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意
各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容
出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書
Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書
They will be introduced in class.

課題に対するフィードバックの方法
A vocabulary quiz is given at the beginning of each class.
Assignments and examinations are reviewed in the following week.

成績評価の方法
40% = participation, in-class tasks, assignments and quizzes.
60% = mid-term and term examinations

その他
1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。
「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容
各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意
各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容
出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書
Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法
授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明する。

成績評価の方法
予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他
1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。

S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度：教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語：教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築：問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。
習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

『R. E. A. D. I. N. G. 』Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.)(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。
また、オンライン課題については Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

期末試験後は、模範解答を公開します。

成績評価の方法

授業への参加・貢献(30%)、ライティング課題(30%)、期末テスト(40%)

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度：教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語：教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築：問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で返却する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第 1 回:春学期授業の概要説明
第 2 回:Chapter 1-3,4 (On Learning and Teaching English) ①/2
第 3 回: ②/2
第 4 回:Chapter 7 (Food Culture: Overweight and Undernourished) ①/2
第 5 回: ②/2
第 6 回: ― Review ―
第 7 回:Chapter 8 (Migrant Workers and Global Capital) ①/2
第 8 回: ②/2
第 9 回:Chapter 4 (Visual Perception: Ads, Art and Cognition) ①/2
第 10 回: ②/2
第 11 回:Chapter 11 (The Elephant and the Dove: Diego Rivera and Frida Kahlo' s Artistic Union) ①/2
第 12 回: ②/2
第 13 回: ― Review ―
第 14 回:a. 春学期総まとめ
b. 試験

☆上記はあくまで予定です。授業を進めながら、随時参考資料を配布、使用します。
それに伴い、授業の進行に変更が生じる場合があります。

履修上の注意

各章で、テキストの読解、グループワーク、課題の提出などを課します。
授業中の指示、クラスウェブでのお知らせなど、注意して確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。
・クラスメイト同士で課題のチェックを行う機会も設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

この授業では対面授業がありませんので、オンラインで課題を提出していただくことになります。月に1回程度の課題ですので、定期的に ohmeiji の方で確認してください。

履修上の注意

課題を私のパソコンのメアドに提出していただければ大丈夫です。質問もパソコンのメアドに直接送ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題はテキストから出すようにしますので、テキストを読み、英作ができるように準備してください。

教科書

READING<成美堂>Gayle Sato

参考書

英語のハノン初級<筑摩書房>横山雅彦

課題に対するフィードバックの方法

パソコン上で行います。

成績評価の方法

課題の提出によって判断します。対面による試験はありません。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Basic)	English Communication Skills A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:スポーツに関する, 英語で書かれたニュースを読むクラス。
目標:スポーツ関連の英語の語彙を覚え, 英語のスポーツニュースを読めるようになること。

授業内容

英語のニュースを教材とする。
1. a. イントロダクション b. 質疑応答
2. a. アメリカのプロ野球のニュースを読む b. 今後の授業の進め方
3. a. セ・リーグのニュースを読む b. 確認問題
4. a. パ・リーグのニュースを読む b. 確認問題
5. a. 高校野球のニュースを読む b. 確認問題
6. a. 国内サッカーのニュースを読む b. 確認問題
7. a. 海外サッカーのニュースを読む b. 確認問題
8. a. バスケットボールのニュースを読む b. 確認問題
9. a. 相撲のニュースを読む b. 確認問題
10. a. ラグビーのニュースを読む b. 確認問題
11. a. 男子ゴルフのニュースを読む b. 確認問題
12. a. 女子ゴルフのニュースを読む b. 確認問題
13. a. 男子テニスのニュースを読む b. 確認問題
14. a. 女子テニスのニュースを読む b. 確認問題

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って, 出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, 配布資料を予習してくること。
教科書に書いてある英語をすべて読めて, 日本語にできるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

予習ノート:5%
確認問題:95%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第 1 回:春学期授業の概要説明
第 2 回:Chapter 1-3,4 (On Learning and Teaching English) ①/2
第 3 回: ②/2
第 4 回:Chapter 7 (Food Culture: Overweight and Undernourished) ①/2
第 5 回: ②/2
第 6 回: ― Review ―
第 7 回:Chapter 8 (Migrant Workers and Global Capital) ①/2
第 8 回: ②/2
第 9 回:Chapter 4 (Visual Perception: Ads, Art and Cognition) ①/2
第 10 回: ②/2
第 11 回:Chapter 11 (The Elephant and the Dove: Diego Rivera and Frida Kahlo' s Artistic Union) ①/2
第 12 回: ②/2
第 13 回: ― Review ―
第 14 回:a. 春学期総まとめ
b. 試験

☆上記はあくまで予定です。授業を進めながら、随時参考資料を配布、使用します。
それに伴い、授業の進行に変更が生じる場合があります。

履修上の注意

各章で、テキストの読解、グループワーク、課題の提出などを課します。
授業中の指示、クラスウェブでのお知らせなど、注意して確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。
・クラスメイト同士で課題のチェックを行う機会も設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。
習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

『R. E. A. D. I. N. G. 』Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.)(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。
また、オンライン課題については Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

期末試験後は、模範解答を公開します。

成績評価の方法

授業への参加・貢献(30%)、ライティング課題(30%)、期末テスト(40%)

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
リッター, エリック	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題については、次週以降、優秀作を取り上げて、授業中に講評することがあります。
基本的に、平常点を算出するために、成績を出し終わるまで返却は行いませんが、訂正指導など、必要に応じて一時的に課題を返却して、提出者と面談を行う場合があります。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第 1 回:春学期授業の概要説明
第 2 回:Chapter 1-3,4 (On Learning and Teaching English) ①/2
第 3 回: ②/2
第 4 回:Chapter 7 (Food Culture: Overweight and Undernourished) ①/2
第 5 回: ②/2
第 6 回: ― Review ―
第 7 回:Chapter 8 (Migrant Workers and Global Capital) ①/2
第 8 回: ②/2
第 9 回:Chapter 4 (Visual Perception: Ads, Art and Cognition) ①/2
第 10 回: ②/2
第 11 回:Chapter 11 (The Elephant and the Dove: Diego Rivera and Frida Kahlo' s Artistic Union) ①/2
第 12 回: ②/2
第 13 回: ― Review ―
第 14 回:a. 春学期総まとめ
b. 試験

☆上記はあくまで予定です。授業を進めながら、随時参考資料を配布、使用します。
それに伴い、授業の進行に変更が生じる場合があります。

履修上の注意

各章で、テキストの読解、グループワーク、課題の提出などを課します。
授業中の指示、クラスウェブでのお知らせなど、注意して確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。
・クラスメイト同士で課題のチェックを行う機会も設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
小川 真理	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験は採点して返却します。
課題を課した場合は、添削指導を行います。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。
1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。
習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

『R. E. A. D. I. N. G. 』Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.)(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。
また、オンライン課題については Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

期末試験後は、模範解答を公開します。

成績評価の方法

授業への参加・貢献(30%)、ライティング課題(30%)、期末テスト(40%)

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。1章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

春学期同様に、内容の理解をしたあとにペアワークやグループワークなどを行います。
また、ノートテイキングの練習なども時々行います。
2 章終了するたびに小テストを行います

1st session: 秋学期のオリエンテーション
2nd session: Chapter 8 Migrant Workers and Global Capital.
3rd session: Chapter 9The Roman Empire: The Social Meaning of the Gladiators
4th session: Chapter 11 The Elephant and the Dove: Diego Rivera and Frida Kahlo's Artistic Union
5th session: Chapter 11 The Elephant and the Dove: Diego Rivera and Frida Kahlo's Artistic Union
6th session: Chapter 12 Career Prospects Opening Up for Women in "STEM" Fields
7th session: Chapter 14 The Obsessive Doctor
8th session: Chapter 15 Japan's Star Monster: The Meaning of Godzilla
9th session: Chapter 16 Charles Darwin: Time Traveler
10th session: Chapter 16 Charles Darwin: Time Traveler
11th session: Presentation
12th session: Presentation
13th session: Presentation
14th session: 秋学期試験
秋学期試験の解説、まとめ

履修上の注意

必ず予習をして授業に参加すること。わからない点をはっきりさせて授業に参加しましょう

各章において、以下のステップを踏んでいきます
1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、
2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓
3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。
4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。活発な意見交換をして、積極的に授業に参加してください。

必ず積極的にディスカッションなど、アクティビティに参加しましょう。
準備不足であったりすると、皆の迷惑になるので、必ず準備をして授業内活動に参加しましょう。
授業に出席していてもアクティビティに積極的にとりくまないと評価が不利になる場合があります。
発言者の意見を尊重すること

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。
予習の際には、必ず音読を行ってください。復習の際にはわからなかったところをよく振り返ってみましょう。そのときにも必ず音読をしてみましょう。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

必要に応じて、授業時に指示をします。
また関連する映像なども紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは返却し、模範解答を返却し注意するべき内容を全体にフィードバックをしていきます。またディスカッションや授業内作業で行ったものに関しても、全体で共有するべき内容は授業時間内にフィードバックをします。課題などに対しても、同様に対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(小テスト、アサインメント評価、授業時の作業を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。
春学期と同様に、欠席、遅刻は減点対象となります。
授業回数の 3 分の1の欠席があった場合には、単位の認定はできません
遅刻 2 回を欠席 1 回と数えます。
また、課題の未提出も評価は不利になります。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 麻里	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

毎回の宿題や小テストは、その内容について授業中に解説し、また採点して翌週に返却します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。
全授業数のうち、3 分の 2 以上出席することが、単位取得の前提条件です。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
ワトソン, アレックス	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。1章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

春学期同様に、内容の理解をしたあとにペアワークやグループワークなどを行います。
また、ノートテイキングの練習なども時々行います。
2 章終了するたびに小テストを行います

1st session: 秋学期のオリエンテーション
2nd session: Chapter 8 Migrant Workers and Global Capital.
3rd session: Chapter 9 The Roman Empire: The Social Meaning of the Gladiators
4th session: Chapter 11 The Elephant and the Dove: Diego Rivera and Frida Kahlo' s Artistic Union
5th session: Chapter 11 The Elephant and the Dove: Diego Rivera and Frida Kahlo' s Artistic Union
6th session: Chapter 12 Career Prospects Opening Up for Women in “STEM” Fields
7th session: Chapter 14 The Obsessive Doctor
8th session: Chapter 15 Japan' s Star Monster: The Meaning of Godzilla
9th session: Chapter 16 Charles Darwin: Time Traveler
10th session: Chapter 16 Charles Darwin: Time Traveler
11th session: Presentation
12th session: Presentation
13th session: Presentation
14th session: 秋学期試験
秋学期試験の解説、まとめ

履修上の注意

必ず予習をして授業に参加すること。わからない点をはっきりさせて授業に参加しましょう

各章において、以下のステップを踏んでいきます
1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、
2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓
3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。
4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。活発な意見交換をして、積極的に授業に参加してください。

必ず積極的にディスカッションなど、アクティビティに参加しましょう。
準備不足であったりすると、皆の迷惑になるので、必ず準備をして授業内活動に参加しましょう。
授業に出席していてもアクティビティに積極的にとりくまないと評価が不利になる場合があります。
発言者の意見を尊重すること

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。
予習の際には、必ず音読を行ってください。復習の際にはわからなかったところをよく振り返ってみましょう。そのときにも必ず音読をしてみましょう。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

必要に応じて、授業時に指示をします。
また関連する映像なども紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは返却し、模範解答を返却し注意するべき内容を全体にフィードバックをしていきます。またディスカッションや授業内作業で行ったものに関しても、全体で共有するべき内容は授業時間内にフィードバックをします。課題などに対しても、同様に対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(小テスト、アサインメント評価、授業時の作業を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。
春学期と同様に、欠席、遅刻は減点対象となります。

授業回数の 3 分の1の欠席があった場合には、単位の認定はできません
遅刻 2 回を欠席 1 回と数えます。
また、課題の未提出も評価は不利になります。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第1回:food for life の見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第2回:food for life の見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第3回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第4回:body signs という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第5回:body signs という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第6回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第7回:energy builders という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第8回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第9回:changing perspectives という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 10 回:changing perspectives という見出しの英文を読み、更に、問題を解いてゆきます。
第 11 回:lessonB の英文を読み、問題を解いてゆきます。最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 12 回:data detectives という見出しの英文を読み、様々な問題を解いてゆきます。
第 13 回:lessonB の英文を読み、最後に動画を視聴して理解を確認します。
第 14 回:a:授業のふりかえりとまとめ b:試験の実施

＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

熱意を持って授業に臨む心構えを持って欲しいので、必ずテキストの下調べをしておくように望んでいます。授業で指示する参考書とか SNS の情報とかを十分に利用して欲しいです。テキストを利用しつつ、役立つ参考書、アプリは授業において勧めます。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で扱うテキストの内容を調べておくと同時に、不明な箇所は質問すること。テッドトークスのアプリは SNS で参照出来るので、存分に活用することを強く望んでいます。1時間前後の予習復習を望んでいます。

教科書

『Tedtalks 21st century reading 2』Laurie Blass（センゲージラーニング）

参考書

『英語のハノン初級』横山雅彦 （筑摩書房）

課題に対するフィードバックの方法

課題については私のパソコンのメアドを通じてやり取りします。試験は基本的に対面で実施しますが、問い合わせはパソコン上で行います。

成績評価の方法

平常点 50%、試験 50%とします。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Adv.)	English Communication Skills B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で返却する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度 : 教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

第 1 回 : イントロダクション
第2回 : Chapter 12 Career Prospects Opening Up for Women in "STEM" Fields (1) The Question that Every Elementary School Student Is Asked
第3回 : Chapter 12 Career Prospects Opening Up for Women in "STEM" Fields (2) The Number of Women in STEM Professions
第4回 : Chapter 12 Career Prospects Opening Up for Women in "STEM" Fields (3) The Activities of the MWM / グループワーク(1)
第5回 : Chapter 14 The Obsessive Doctor (1) Mozart and Freud /グループワーク(2)
第6回 : Chapter 14 The Obsessive Doctor (2) Obsessional Personalities
第7回 : Chapter 14 The Obsessive Doctor (3) Freud's Personality
第8回 : Chapter 15 Japan's Star Monster: The Meaning of Godzilla (1) Japanese Icons
第9回 : Chapter 15 Japan's Star Monster: The Meaning of Godzilla (2) The Nuclear Attacks
第 10 回 : Chapter 15 Japan's Star Monster: The Meaning of Godzilla (3) Godzilla Movies
第 11 回 : Chapter 16 Charles Darwin: Time Traveller (1) / グループワーク(3)Time
第 12 回 : Chapter 16 Charles Darwin: Time Traveller (2) / グループワーク(4)Charles Darwin
第 13 回 : Chapter 16 Charles Darwin: Time Traveller (3) The Galapagos Islands
第 14 回 a: まとめ b: 試験

●使用言語 : 教室では英語を使いますが、各担当教官の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従ってください。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。グループワークの前には、ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G[/i]. 『人類の遺産』(Tokyo: Seibido).

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で返却する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
狩野 郁子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

The goal of this class is to improve English linguistic skills for communication in various situations. Students are to develop their abilities through reading with many kinds of topics. Assignments should be done on time. A comprehensive test is given after going through a chapter.
Module a (30 minutes): a vocabulary quiz and review of the previous classes
Module b (70 minutes): reading and comprehensive exercises

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st class: Introduction to the course. Reading exercises for Chap. 15.
2nd: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 15.
3rd: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 15.
4th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 15.
5th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 15.
6th: Mid-term examination.
7th: Review of the exam. Reading exercises for Chap. 4.
8th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 4.
9th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 4.
10th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 4.
11th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 4.
12th: Vocabulary quiz. Reading exercises for Chap. 4 and supplementary reading.
13th: Vocabulary quiz. Reading exercises.
14th: Term examination

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

They will be introduced in class.

課題に対するフィードバックの方法

A vocabulary quiz is given orally in each class.
Assignments and examinations are reviewed in the following week.

成績評価の方法

30% = participation, in-class tasks, assignments, and quizzes
70% = mid-term and term examinations

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度：教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語：教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築：問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。

S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度：教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。
1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語：教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築：問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。
習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

『R. E. A. D. I. N. G. 』Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.)(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。
また、オンライン課題については Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

期末試験後は、模範解答を公開します。

成績評価の方法

授業への参加・貢献(30%)、ライティング課題(30%)、期末テスト(40%)

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
安田 努	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter A
3rd session: Chapter A
4th session: Chapter B
5th session: Chapter B
6th session: Chapter C
7th session: Chapter C
8th session: Chapter D
9th session: Chapter D
10th session: Chapter E
11th session: Chapter E
12th session: Chapter F
13th session: Chapter F
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業で返却する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第 1 回:春学期授業の概要説明
第 2 回:Chapter 3 (Cats and Dogs) ①/2
第 3 回: ②/2
第 4 回:Chapter 2 (The Greatest Gift) ①/2
第 5 回: ②/2
第 6 回: ― Review ―
第 7 回:Chapter 5 (What is Good Taste?) ①/2
第 8 回: ②/2
第 9 回:Chapter 14 (The Obsessive Doctor) ①/2
第 10 回: ②/2
第 11 回:Chapter 15 (Japan's Star Monster: The Meaning of Godzilla) ①/2
第 12 回: ②/2
第 13 回: ― Review ―
第 14 回:a. 秋学期総まとめ
b. 試験

☆上記はあくまで予定です。授業を進めながら、随時参考資料を配布、使用します。
それに伴い、授業の進行に変更が生じる場合があります。

履修上の注意

各章で、テキストの読解、グループワーク、課題の提出などを課します。
授業中の指示、クラスウェブでのお知らせなど、注意して確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。
・クラスメイト同士で課題のチェックを行う機会も設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
吉村 由佳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内もしくは Oh-o!Meiji を使って説明する。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
池田 史彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

この授業では対面授業がありませんので、オンラインで課題を提出していただくことになります。月に1回程度の課題ですので、定期的に ohmeiji の方で確認してください。

履修上の注意

課題を私のパソコンのメアドに提出していただければ大丈夫です。質問もパソコンのメアドに直接送ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

課題はテキストから出すようにしますので、テキストを読み、英作ができるように準備してください。

教科書

READING＜成美堂＞Gayle Sato

参考書

英語のハノン初級＜筑摩書房＞横山雅彦

課題に対するフィードバックの方法

パソコン上で行います。

成績評価の方法

課題の提出によって判断します。対面による試験はありません。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Basic)	English Communication Skills B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:スポーツに関する, 英語で書かれたニュースを読むクラス。
目標:スポーツ関連の英語の語彙を覚え, 英語のスポーツニュースを読めるようになること。

授業内容

英語のニュースを教材とする。
1. a. イントロダクション b. 質疑応答
2. a. 男子水泳のニュース b. 今後の授業の進め方
3. a. 女子水泳のニュース b. 確認問題
4. a. ボクシングのニュース b. 確認問題
5. a. 男子体操のニュース b. 確認問題
6. a. 女子体操のニュース b. 確認問題
7. a. 柔道のニュース b. 確認問題
8. a. 男子バレーボールのニュース b. 確認問題
9. a. 女子バレーボールのニュース b. 確認問題
10. a. アイスホッケーのニュース b. 確認問題
11. a. 男子マラソンのニュース b. 確認問題
12. a. 女子マラソンのニュース b. 確認問題
13. a. 男子フィギュアスケートのニュース b. 確認問題
14. a. 女子フィギュアスケートのニュース b. 確認問題

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って, 出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, 配布資料を予習してくること。
教科書に書いてある英語をすべて読めて, 日本語にできるようにしておく。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

予習ノート:5%
確認問題:95%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。
「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第 1 回:春学期授業の概要説明
第 2 回:Chapter 3 (Cats and Dogs) ①/2
第 3 回: ②/2
第 4 回:Chapter 2 (The Greatest Gift) ①/2
第 5 回: ②/2
第 6 回: ― Review ―
第 7 回:Chapter 5 (What is Good Taste?) ①/2
第 8 回: ②/2
第 9 回:Chapter 14 (The Obsessive Doctor) ①/2
第 10 回: ②/2
第 11 回:Chapter 15 (Japan's Star Monster: The Meaning of Godzilla) ①/2
第 12 回: ②/2
第 13 回: ― Review ―
第 14 回:a. 秋学期総まとめ
b. 試験

☆上記はあくまで予定です。授業を進めながら、随時参考資料を配布、使用します。
それに伴い、授業の進行に変更が生じる場合があります。

履修上の注意

各章で、テキストの読解、グループワーク、課題の提出などを課します。
授業中の指示、クラスウェブでのお知らせなど、注意して確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。
・クラスメイト同士で課題のチェックを行う機会も設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。
1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。
習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

『R. E. A. D. I. N. G. 』Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.)(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。
また、オンライン課題については Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

期末試験後は、模範解答を公開します。

成績評価の方法

授業への参加・貢献(30%)、ライティング課題(30%)、期末テスト(40%)

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
リッター, エリック	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
宇野 雅章	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題については、次週以降、優秀作を取り上げて、授業中に講評することがあります。
基本的に、平常点を算出するために、成績を出し終わるまで返却は行いませんが、訂正指導など、必要に応じて一時的に課題を返却して、提出者と面談を行う場合があります。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
佐久間 桃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

第 1 回:春学期授業の概要説明
第 2 回:Chapter 3 (Cats and Dogs) ①/2
第 3 回: ②/2
第 4 回:Chapter 2 (The Greatest Gift) ①/2
第 5 回: ②/2
第 6 回: ― Review ―
第 7 回:Chapter 5 (What is Good Taste?) ①/2
第 8 回: ②/2
第 9 回:Chapter 14 (The Obsessive Doctor) ①/2
第 10 回: ②/2
第 11 回:Chapter 15 (Japan's Star Monster: The Meaning of Godzilla) ①/2
第 12 回: ②/2
第 13 回: ― Review ―
第 14 回:a. 秋学期総まとめ
b. 試験

☆上記はあくまで予定です。授業を進めながら、随時参考資料を配布、使用します。
それに伴い、授業の進行に変更が生じる場合があります。

履修上の注意

各章で、テキストの読解、グループワーク、課題の提出などを課します。
授業中の指示、クラスウェブでのお知らせなど、注意して確認するようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・随時出題される課題に関しては、クラスウェブより各自にフィードバックを行う。
・クラスメイト同士で課題のチェックを行う機会も設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
岡部 了也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。
●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
小川 真理	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.),[i]R.E.A.D.I.N.G.[/i](Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験は採点して返却します。
課題を課した場合は、添削指導を行います。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。

S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。

1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.), R.E.A.D.I.N.G. (Tokyo: Seibido).

参考書

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

予習の度合いを含めたクラスでのパフォーマンス(アサインメント評価を含む、60%)、ペーパー・テスト(40%)。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。

S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
斎藤 寿葉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、英語でのコミュニケーション技術を育むために、インプット(入力)とアウトプット(出力)を結びつける訓練をします。ここで身につけた技術は、大学での授業においてはもちろんのこと、英語以外の言語によるコミュニケーションにも使えるはずです。

「6 年(以上)英語を勉強してきたはずなのに、英語ができない……。」こういう悩みを持っていませんか？ それは大概英語の問題ではありません。たしかに適切な語彙は必要ですが、それに劣らず重要なのが、自分の論点を整理し、メッセージをシンプルにし、議論を整理する技術です。これができれば、自分の英語能力の範囲内でも、驚くほど多くのことがコミュニケートできるようになるでしょう。

授業内容

各クラスの習熟度に従って、担当教員が以下の判断を行います。

●進度:教科書は、各章 1,000 語程度の英語(日本語なら 2,400 字程度に相当するでしょうか)よりなる 18 章構成です。初回のガイダンスに引き続き、クラスの習熟度に鑑みて各クラス担当教員が選ぶ章を扱います。一章を 2 回から 3 回に分けて扱います。
1st session: Guidance.
2nd session: Chapter G
3rd session: Chapter G
4th session: Chapter H
5th session: Chapter H
6th session: Chapter I
7th session: Chapter I
8th session: Chapter J
9th session: Chapter J
10th session: Chapter K
11th session: Chapter K
12th session: Chapter L
13th session: Chapter L
14th session:まとめ・試験

●使用言語:教室では英語を使いますが、各担当教員の判断で日本語も使用します。英語の使用頻度は、習熟度が高いクラスほど高くなります。完全に英語だけの授業もありえます。教員の指示に従って下さい。

履修上の注意

各章において、以下のステップを踏んでいきます。1)主に Q&A による内容の把握の確認と、必要に応じた語彙・文法面の解説、2)自分にとって興味あるトピックの抽出、そして可能ならば関連トピックの開拓、3)議論の構築:問題提示、賛否両論の呈示、そして自分の立場の表明。4)議論のプレゼンテーション。
習熟度が高くなるにつれて、重点が 1 から 4 へとシフトしていきます。途中、学生同士のグループ・ディスカッション、教員と学生とのディスカッションを挟みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

出席はもちろんですが、語彙のチェックなど、予習は必須です。かならず事前に授業範囲のテクストを読み、分からない単語は調べておいてください。

教科書

『R. E. A. D. I. N. G. 』Gayle K. Sato & Yoshiaki Koshikawa (eds.)(成美堂)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業冒頭でクラス全体に向けて授業内課題の論評を行います。
また、オンライン課題については Oh-o! Meiji 経由で個別フィードバックをします。

期末試験後は、模範解答を公開します。

成績評価の方法

授業への参加・貢献(30%)、ライティング課題(30%)、期末テスト(40%)

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 ガイダンス
第2回 Getting Ready to Write
第3回 Getting Ready to Write
第4回 Writing Paragraphs
第5回 Writing Paragraphs
第6回 Revising and Editing
第7回 Revising and Editing
第8回 Writing Essays
第9回 Writing Essays
第 10 回 Process Essays
第 11 回 Process Essays
第 12 回 Division and Classification Essays
第 13 回 Division and Classification Essays
第 14 回 まとめ・試験

これは予定にすぎませんので, クラスの様子や状況によっていくつか 変更もありえます。

履修上の注意

第 1 回授業期間は TOEIC 試験で代替する(TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席点扱い)

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所を予習し、課題をこなすこと。

教科書

初回の授業日に指示する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出してもらい、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 : TOEIC 試験で代替
第2回 : イントロダクション
第3回 : Chapter 1 Getting Ready to Write (1) Finding a Subject /グループワーク(1)
第4回 : Chapter 1 Getting Ready to Write (2) Identifying Purpose
第5回 : Chapter 1 Getting Ready to Write (3) Audience / Writing Different Audiences
第6回 : Chapter 1 Getting Ready to Write (4) Generating Ideas
第7回 : Chapter 2 Writing Paragraphs (1) The Parts of a Paragraph
第8回 : Chapter 2 Writing Paragraphs (2) Analyzing Topic Sentences
第9回 : Chapter 2 Writing Paragraphs (3) Writing Topic Sentences /グループワーク(2)
第 10 回 : Chapter 2 Writing Paragraphs (4) Analyzing Paragraphs for Support/ グループワーク(3)
第 11 回 : Chapter 2 Writing Paragraphs (5) Writing Supporting Sentences
第 12 回 : Chapter 2 Writing Paragraphs (6) Titles
第 13 回 : Chapter 2 Writing Paragraphs (7) Unity and Coherence
第 14 回 a : まとめ
b : 試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Karen Blanchard and Christine Root, [i]Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (4th ed.)[/i]Pearson Longman

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。TOEIC 受験有無を 1 回目の出席点として扱う。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山 義典	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語で文章を書くとき、「何を書けばよいのか分からない」「文法が合っているか不安でなかなか書けない」と感じたことはありませんか。また、自分の考えを英語で分かりやすく伝える方法を知りたいと思っている人もいるでしょう。この授業は、英語で文章を書くことに自信をつけたい 1 年生のための実践的なライティングトレーニングの授業です。英語の文章の基本単位であるパラグラフ(paragraph)の書き方を学びながら、短い文章を書く練習を積み重ねていきます。授業では、英語のパラグラフの基本構造であるトピックセンテンス(主題文)・サポートセンテンス(具体例や説明)・コンクルージョン(まとめ)を理解し、次のようなテーマで実際に文章を書きます。自分自身や友人について紹介するパラグラフ 好きな場所、趣味、食べ物など身近なテーマの説明文 「なぜそれが好きか」「なぜそう思うか」を理由とともに説明する文章 写真や短いトピックをもとにしたパラグラフライティング 書いた文章を読み直し、より分かりやすく書き直す練習(revision) また、授業では文章を書くだけでなく、クラスメートと内容を共有したり、簡単な意見交換を行ったりしながら、英語で考えを整理し、伝える力も養います。英語で論理的に文章を書く力は、英語のレポートやエッセイだけでなく、日本語の小論文やレポート、将来の就職活動でのエントリーシートなどを書く際にも役立つ大切なスキルです。この授業では、「書くことに慣れること」を大切にします。最初から完璧な文章を書く必要はありません。毎回少しずつ書く練習を重ねることで、英語で文章を書く力は確実に伸びていきます。一年間、真面目にこつこつと取り組めば、英語でパラグラフや短いエッセイを書くことに対する自信が必ずついてきます。本授業を通して、英語で自分の考えを分かりやすく表現できる力を身につけることを目標とします。

授業内容

(Unit 1～Unit 5) 第 1 回 Course Introduction / Paragraph Writing とは何か 授業の目的と進め方の説明 英語のパラグラフ構造の基本理解 良いパラグラフの例を読む Writing 活動 短い自己紹介パラグラフを書く (Topic sentence の導入)
第 2 回 Topic Sentence の書き方 パラグラフの主題文とは何か 良い Topic Sentence と悪い Topic Sentence の違い 主題と具体例の関係 Writing 活動 自分の好きな場所・都市について Topic sentence を書く(Unit1)
第 3 回 Supporting Sentences Supporting sentence の役割 理由や具体例の書き方 Transition words(First, Second, Finally) Writing 活動 理由を 3 つ書くパラグラフ作成 (Unit1)
第 4 回 Concluding Sentence Conclusion sentence の役割 パラグラフのまとめ方 Writing 活動 完成したパラグラフを書く (Unit1) Unit2 Formal Writing
第 5 回 Formal Writing(フォーマルな英語) Academic writing の特徴 カジュアル表現とフォーマル表現 Writing 活動 informal → formal rewriting (Unit2)
第 6 回 Formal Email Writing Greeting Closing Request expressions Writing 活動 友人へのメール 教員へのフォーマルメール (Unit2) Unit3 Opinion Paragraph
第 7 回 Opinion Paragraph の書き方 意見を書くパラグラフ Opinion + Reason structure Writing 活動 社会問題について意見を書く (Unit3)
第 8 回 Argument and Evidence Reason と Evidence の書き方 説得力のある文章 Writing 活動 Opinion paragraph 作成 (Unit3) Unit4 Problem-Solution Paragraph
第 9 回 Problem-Solution Paragraph 社会問題の書き方 問題 → 解決策 Writing 活動 問題と解決策を書く (Unit4)
第 10 回 Solution の説明 Solution + Expected result 説明の論理構造 Writing 活動 Problem-Solution paragraph 作成 (Unit4) Unit5 Cause and Effect Paragraph
第 11 回 Cause Paragraph 原因を書くパラグラフ Reason structure Writing 活動「なぜ～なのか」paragraph 作成 (Unit5)
第 12 回 Effect Paragraph 結果を書くパラグラフ Cause / Effect expressions Writing 活動 Cause-Effect paragraph (Unit5)
第 13 回 Paragraph Writing Practice Cause-Effect paragraph 作成 Peer review Writing 活動
パラグラフの修正
第 14 回 Final Writing / Course Review 学期のまとめ Final Paragraph Writing Writing 活動 自分のテーマでパラグラフを書く

履修上の注意

本授業では、英語の文章の基本単位であるパラグラフ(paragraph)の書き方を学びながら、実際に英語で文章を書く練習を行います。テキスト From Paragraph to Essay を使用し、段階的に英語のライティング力を身につけていきます。授業では、英語の文章構成(トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルージョン)を理解し、短いパラグラフを書く実践的なトレーニングを行います。さらに、意見を述べる文章(Opinion Paragraph)、問題と解決策を説明する文章(Problem-Solution Paragraph)、原因と結果を説明する文章(Cause and Effect Paragraph)など、さまざまなタイプの文章を書く練習を行います。また、授業では自分で文章を書く活動だけでなく、書いた文章を見直して修正する作業(revision)や、クラスメートと内容を共有する活動なども取り入れます。これらの活動を通して、論理的で分かりやすい英語の文章を書く力を身につけることを目指します。ライティングの力は、一度の授業で身につくものではなく、継続的な練習によって少しずつ向上していくものです。そのため、授業では積極的に文章を書くことが求められます。授業中のライティング活動や課題には、できるだけ主体的に取り組んでください。なお、授業ではテキストの内容に基づいたライティング練習を行うため、教科書を必ず持参することが必要です。また、授業で扱うテーマについて自分の意見を考えておくなど、事前の準備をして授業に参加することが望まれます。継続して文章を書く練習を重ねることで、英語で自分の考えを分かりやすく表現する力を身につけていきましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に臨むにあたり、学生は教科書 From Paragraph to Essay の中から、講師が指定したユニットや例文に事前に目を通しておくことが求められます。予習では、パラグラフの構成(トピックセンテンス、サポートセンテンス、コンクルージョン)を確認しながら文章を読み、重要な語彙や表現を理解しておくことが望まれます。また、授業で扱うテーマについて、自分の意見や具体例を簡単に考えておくと、授業中のライティング活動に取り組みやすくなります。復習では、授業で書いたパラグラフを読み直し、語彙や表現、文章の構成を確認しながら内容を整理してください。また、授業で指摘された文法や表現の誤りを見直し、より分かりやすい文章に書き直す(revision)ことも重要です。このような復習を行うことで、英語で論理的な文章を書く力を着実に伸ばすことができます。大学の授業では、授業時間だけでなく、授業外での学習時間を確保することも重要です。一般的な目安として、授業の予習に約 2 時間、復習にも約 2 時間程度の学習時間を確保することが望まれます。継続して文章を書く練習を積み重ねることで、英語で自分の考えを表現する力が少しずつ身についていきます。ライティングの能力は、スポーツや語学学習と同じように、継続的な練習によって向上するものです。忙しい学生生活の中でも計画的に学習時間を確保し、授業で学んだ内容を積極的に復習することが期待されます。

教科書

Kate Elwood &Leonid Yoffe『From Paragraph to Essay』効果的な英文エッセイの書き方
―Get Your Message Across Ⅱ 南雲堂 9784523177272 TOEIC レベル 600～700 点
2,420 円(本体 2,200 円+税)

参考書

リーバーすみ子・横川綾子『アメリカ人なら小学校で学ぶ英文ライティング』アルク
大井恭子『英語モードでライティング』講談社

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、担当教員が個別にコメントを記入し、具体的な改善点を示します。特に、文章の論理的な構成、文法の正確さ、語彙の適切な使用などに注目し、より明確で分かりやすいパラグラフを書くことができるよう助言を行います。また、必要に応じて、授業の中で多くの学生に共通して見られる課題や改善点を紹介し、より効果的なライティング方法について説明します。このようなフィードバックを通して、学生が自分の文章を見直し、ライティングスキルを段階的に向上させていくことを目指します。

成績評価の方法

本授業の成績評価は、授業内課題の提出(40%)、授業への貢献度[授業中の発言や活動への参加など](20%)、学期末課題(40%)を総合的に判断して行います。授業では、パラグラフライティングの練習として短い文章を書く活動を行うため、授業内で作成する課題の提出状況や内容が成績評価の重要な要素となります。また、授業中の意見交換やディスカッションなどへの積極的な参加も評価の対象となります。さらに、学期末には、授業で学んだパラグラフ構成やライティング技術を活用した課題を提出してもらいます。これらの評価項目を総合的に判断し、最終的な成績を決定します。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S･A 評価の割合については、原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
青木 敬子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

1. TOEIC
2. Writing Guide and Introduction
3. 演習
4. 演習
5. What is Paragraph?
6. 演習
7. Supporting Sentences
8. 演習
9. 演習
10. Time Order
11. 演習
12. 演習
13. Structure
14. まとめ

履修上の注意

欠席回数4回までとなります。欠席 4 回後に遅刻、病気(指定感染症)以外の早退の場合は、超過欠席となります。
辞書(電子辞書、書籍の辞書)を必ず持参してください。授業内小テストに使用します。
TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席認定及び授業の加点とします。

出次の自己管理をお願いします。授業得点は自己管理(ポートフォリオにて)をお願いします。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストやプリントを課題学習にします。

教科書

[i]Ready to Write : From Paragraph to Essay[/i]4th edition
著者: Karen Blanchard and Christine Root
(Pearson Longman)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

プリント・テキストなどの練習課題については、全員へのフィードバックをします。個人作文課題は、個人に対してフィードバックコメントを出します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S･A 評価の割合については、原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
小池 知之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた論題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 パラグラフの書き方のステップ
第2回 ブレインストームとトピックセンテンス
第3回 アウトラインの書き方
第4回 サポートセンテンスの書き方
第5回 コンクルージョンの書き方
第6回 第一回目パラグラフ演習
第7回 統一性の展開
第8回 結束性の展開
第9回 第二回パラグラフ演習
第 10 回 ブレインストームとアウトライン応用
第 11 回 トピック、サポート、コンクルージョン応用
第 12 回 第三回パラグラフ演習
第 13 回 定義と例示の展開応用
第 14 回 パラグラフライティング総合演習

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出して下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の予習を行い、授業で扱ったテーマでの英文ライティングを復習として必ず行うこと。

教科書

Ready to write 3(Pearson)

参考書

Get Your Message Across (NAN' UN-DO)

課題に対するフィードバックの方法

課題内容に適した方法、添削、コメント等。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次 4 月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき 1 年次のクラス編成を行います。また、1 年次期末実施の TOEIC 試験スコアに基づき 2 年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

テキストに基づいて、授業を進めていきます。授業内作業や小テストも行います。
進行状況に応じて、変更する可能性もあります。

第 1 週 Orientation
第 2 週 Chapter 1 Getting to Ready to Write
第 3 週 Chapter 1 Getting to Ready to Write
第 4 週 Chapter 2 Writing Paragraphs
第 5 週 Chapter 2 Writing Paragraphs
第 6 週 Chapter 3 Revising and Editing
第 7 週 Chapter 3 Revising and Editing
第 8 週 Chapter 4 Writing Essays
第 9 週 Chapter 4 Writing Essays
第 10 週 Chapter 5 Process Essays
第 11 週 Chapter 5 Process Essays
第 12 週 Chapter 6 Division and Clarification Essays
第 13 週 Chapter 6 Division and Clarification Essays
第 14 週 a： 秋学期試験
b: 秋学期試験の解答と解説

履修上の注意

テキストは必ず初回授業時までに購入しておき、オリエンテーションまでに準備をしておくこと。
授業時は予習をして必ず参加をすること。そして授業終了後には必ず復習をしてください。
必ず辞書を持参してください。Writing の授業であるため、英英辞典を使うこともあります。
欠席した場合には必ず oh-o meiji から連絡事項などを確認するようにしてください。
課題の未提出、遅刻や欠席が度重なる場合には、評価が不利になるので気をつけること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・指定された箇所を必ず読んでおくこと。とくに Peer Feedback Pair Work, Group Work が予定されている場合には課題作成忘れがあった場合には
相手にも迷惑をかけますので、指定された課題は必ずやっておくようにしてください。
・わからない箇所をはっきりさせて授業に臨みましょう。
・復習は授業でやったところをきちんと見直しましょう。

教科書

Ready to Write 3 : From Paragraph to Essay (Fourth Edition)
出版社 Pearson

参考書

授業時に随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

課題には、コメントをつけて返却します。また全体に注意を促すべき箇所は授業中に伝えます。
oh-o meiji で提出された課題には oh-o meiji 上で返却します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Adv.)	English Paragraph Writing A(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 ガイダンス
第2回 Getting Ready to Write
第3回 Getting Ready to Write
第4回 Writing Paragraphs
第5回 Writing Paragraphs
第6回 Revising and Editing
第7回 Revising and Editing
第8回 Writing Essays
第9回 Writing Essays
第 10 回 Process Essays
第 11 回 Process Essays
第 12 回 Division and Classification Essays
第 13 回 Division and Classification Essays
第 14 回 まとめ・試験

これは予定にすぎませんので, クラスの様子や状況によっていくつか 変更もありえます。

履修上の注意

第 1 回授業期間は TOEIC 試験で代替する(TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席点扱い)

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所を予習し、課題をこなすこと。

教科書

初回の授業日に指示する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出してもらい、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Placement Test
第2回 Unit 1 (a)
第3回 Unit 1 (b)
第4回 Unit 2 (a)
第5回 Unit 2 (b)
第6回 Unit 3 (a)
第7回 Unit 3 (b)
第8回 Unit 4 (a)
第9回 Unit 4 (b)
第 10 回 Unit 5 (a)
第 11 回 Unit 5 (b)
第 12 回 Unit 6 (a)
第 13 回 Unit 6 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

『移民の国アメリカ文化の散歩道:VA から NASA まで』
出版社:英宝社
ISBN:9784269420113

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

Session 1 Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 CHAPTER 1 Writing About Yourself.....1-6
Session 3 CHAPTER 1 Writing About Yourself.....7-13
Paper due #1
Session 4 CHAPTER 2 Writing About Your Family and Friends.....14-20
Session 5 CHAPTER 2 Writing About Your Family and Friends.....21-27
Paper due #2
Session 6 CHAPTER 3 Writing About Your Activities.....28-33
Session 7 CHAPTER 3 Writing About Your Activities.....34-37
Session 8 CHAPTER 3 Writing About Your Activities.....38-41
Paper due #3
Session 9 CHAPTER 4 Giving Instructions.....42-45
Session 10 CHAPTER 4 Giving Instructions.....46-50
Session 11 CHAPTER 4 Giving Instructions.....51-55
Paper due #4
Session 12 CHAPTER 5 Writing About Your Day.....56-60
Session 13 CHAPTER 5 Writing About Your Day.....61-72
Session 14 Paper due #5 and Examination

履修上の注意

The instructor's email address will be informed to students as a contact point for questions and consultations.

準備学習(予習・復習等)の内容

Assignments must be submitted in full. A minimum of 120 minutes is required for preparation/review.

教科書

Ready to Write 1 (4th ed.)
著者:Karen Blanchard and Christine Root
ISBN: 9780134400655
Pearson Longman
¥2,850(税込 ¥3,135)

参考書

References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法

Submitted assignments are generally returned the following week after correction.

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。
TOEIC 試験は初回授業の代替となりますので、必ず受験してください。
TOEIC 試験の有無は、初回授業の出席点数として扱います。

＊学生向け連絡手段は新学期開始以降、Oh-o! Meiji クラスウェブ"シラバスの補足"に明記します

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第１週:授業の進め方についての説明
第２週: Part I 第1のパターン:意見サポート型
1 Conclusion / Reasons 理由で押し切る！
A. Ekiden should be one of the events in the Olympic Games
第３週:B. Japanese universities should introduce a "Gap Year". Do you agree?
第４週:2 Social Trends 社会事象を考える
A. Young people are less likely to have a wedding ceremony
第５週:B. Why is Japan a popular tourist destination?
第６週:3 Results / Causes 原因を究明する
A. Why did the voting age become 18 years old?
第７週:B. Why is Japanese society aging now?
第８週:Part II 第2のパターン:パラグラフ並列型
4 Several Explanations いくつかの説明
A. The Honnoji Incident
第９週:B. Why do women live longer than men?
第10週:5 Comparison 比べてみよう！
A. Viking and buffet
第11週:B. TOEFL and TOEIC
第12週:6 For and Against 賛成と反対
A. Should the Olympic Games be abolished?
第13週:B. Retirement age should be seventy
第14週:まとめ・試験

履修上の注意

常習的に予習していない者、辞書を持参しない者は出席を認めない場合があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎週課題および小テストがあります。

教科書

『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ〈中級編〉』(第３版)、成美堂

参考書

辞書は必ず用意すること。紙・電子、どちらでもかまいません。スマホ、PC は教室内では使用しないでください。

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 TOEIC 受験
第2回 Introduction
第3回 Unit 1
第4回 Unit 1
第5回 Unit 2
第6回 Unit 2
第7回 Unit 3
第8回 Unit 3
第9回 Unit 4
第 10 回 Unit 4
第 11 回 Unit 5
第 12 回 Unit 5
第 13 回 Unit 6
第 14 回 a. Unit 6
b. 試験

履修上の注意

第1回授業時の TOEIC を受験してください。受験した場合、授業出席として扱います。

第2回授業に必ず出席すること。

課題は必ず提出して下さい。

授業に教科書本体と辞書を持参しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示された予習を行ったうえで授業に臨みましょう。

教科書

[i]Eye on American Culture[/i](EIHOSHA) 指定教科書

担当者が配布するプリント

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。

成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。
また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
小川 真理	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 TOEIC
第2回 Chapter 1 Writing about Yourself
第3回 Chapter 1 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第4回 Chapter 1 Writing Activities, Real-life Writing
第5回 Chapter 2 Writing about Your Family and Friends
第6回 Chapter 2 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第7回 Chapter 2 Writing Activities, Real-life Writing
第8回 Chapter 3 Writing about Your Activities
第9回 Chapter 3 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第 10 回 Chapter 3 Writing Activities, Real-life Writing
第 11 回 Chapter 4 Giving Instructions
第 12 回 Chapter 4 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第 13 回 Chapter 4 Writing Activities, Real-life Writing
第 14 回 a. 学期末英作文課題
b. 春学期末試験

※ 履修人数や理解度に応じて、進行速度は変わる可能性があります。

履修上の注意

授業中にも英文を書く作業がありますので、各自、英語を書くのに必要とする辞書を必ず持参して下さい。教員からの辞書の貸し出しは行いません。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書 ON YOUR OWN のコーナーは各自トピックを選んで予め作文してきて下さい。教科書は英語で書かれていますので、文法用語を辞書で確認しておきましょう。
また、教科書に付属しているオンラインリソースも学習しましょう。
(想定学修時間:1 時間)

教科書

[i]Ready to Write Level 1: A First Composition Text[/i], 4th Edition, Karen Blanchard and Christine Root 著 (Pearson Longman, 2017) ISBN: 9780134400655

参考書

『ジーニアス英和辞典 第5版』(ISBN: 9784469041804)
[i]Oxford Collocations Dictionary for Students of English[/i](ISBN: 9780194325387)
『英和活用大辞典』(研究社) (ISBN: 9784767410357)
[i]Longman Language Activator[/i](ISBN: 9780582419520)
[i]Longman Collocations Dictionary with Thesaurus[/i](ISBN: 9781408252260)

課題に対するフィードバックの方法

試験は採点して返却します。
英作文課題は添削・採点の上返却します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。TOEIC は成績評価の対象外である。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Placement Test
第2回 Unit 1 (a)
第3回 Unit 1 (b)
第4回 Unit 2 (a)
第5回 Unit 2 (b)
第6回 Unit 3 (a)
第7回 Unit 3 (b)
第8回 Unit 4 (a)
第9回 Unit 4 (b)
第 10 回 Unit 5 (a)
第 11 回 Unit 5 (b)
第 12 回 Unit 6 (a)
第 13 回 Unit 6 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

『移民の国アメリカ文化の散歩道:VA から NASA まで』
出版社:英宝社
ISBN:9784269420113

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 TOEIC 受験
第2回 Introduction
第3回 Unit 1
第4回 Unit 1
第5回 Unit 2
第6回 Unit 2
第7回 Unit 3
第8回 Unit 3
第9回 Unit 4
第 10 回 Unit 4
第 11 回 Unit 5
第 12 回 Unit 5
第 13 回 Unit 6
第 14 回 a. Unit 6
b. 試験

履修上の注意

第1回授業時の TOEIC を受験してください。受験した場合、授業出席として扱います。

第2回授業に必ず出席すること。

課題は必ず提出して下さい。

授業に教科書本体と辞書を持参しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示された予習を行ったうえで授業に臨みましょう。

教科書

[i]Eye on American Culture[/i](EIHOSHA) 指定教科書

担当者が配布するプリント

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。

成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。
また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

Session 1 Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 CHAPTER 1 Writing About Yourself.....1-6
Session 3 CHAPTER 1 Writing About Yourself.....7-13
Paper due #1
Session 4 CHAPTER 2 Writing About Your Family and Friends.....14-20
Session 5 CHAPTER 2 Writing About Your Family and Friends.....21-27
Paper due #2
Session 6 CHAPTER 3 Writing About Your Activities.....28-33
Session 7 CHAPTER 3 Writing About Your Activities.....34-37
Session 8 CHAPTER 3 Writing About Your Activities.....38-41
Paper due #3
Session 9 CHAPTER 4 Giving Instructions.....42-45
Session 10 CHAPTER 4 Giving Instructions.....46-50
Session 11 CHAPTER 4 Giving Instructions.....51-55
Paper due #4
Session 12 CHAPTER 5 Writing About Your Day.....56-60
Session 13 CHAPTER 5 Writing About Your Day.....61-72
Session 14 Paper due #5 and Examination

履修上の注意

The instructor's email address will be informed to students as a contact point for questions and consultations.

準備学習(予習・復習等)の内容

Assignments must be submitted in full. A minimum of 120 minutes is required for preparation/review.

教科書

Ready to Write 1 (4th ed.)
著者:Karen Blanchard and Christine Root
ISBN: 9780134400655
Pearson Longman
¥2,850(税込 ¥3,135)

参考書

References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法

Submitted assignments are generally returned the following week after correction.

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。
TOEIC 試験は初回授業の代替となりますので、必ず受験してください。
TOEIC 試験の有無は、初回授業の出席点数として扱います。

＊学生向け連絡手段は新学期開始以降、Oh-o! Meiji クラスウェブ"シラバスの補足"に明記します

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Placement Test
第2回 Unit 1 (a)
第3回 Unit 1 (b)
第4回 Unit 2 (a)
第5回 Unit 2 (b)
第6回 Unit 3 (a)
第7回 Unit 3 (b)
第8回 Unit 4 (a)
第9回 Unit 4 (b)
第 10 回 Unit 5 (a)
第 11 回 Unit 5 (b)
第 12 回 Unit 6 (a)
第 13 回 Unit 6 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

『移民の国アメリカ文化の散歩道：VA から NASA まで』
出版社：英宝社
ISBN：9784269420113

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:与えられたテーマで自由に英作文をするクラス。
目標:文法、語彙、形式が正確で、内容、展開が優れた、一段落の英文を書けるようになること。

授業内容

1. a. イントロダクション b. イントロダクションについての質疑応答
2. a. シラバス b. シラバスについての質疑応答
3. a. バイトについての英作文 b. 今後の授業の進め方
4. a. バイトについての英作文の発表 b. 講師の講評
5. a. バイトについての英作文の質疑応答 b.講師の講評
6. a. クラブ、サークルについての英作文 b. 講師の講評
7. a. クラブ、サークルについての英作文の発表 b. 講師の講評
8. a. クラブ、サークルについての英作文の質疑応答 b. 講師の講評
9. a. 好きな食べ物についての英作文 b. 講師の講評
10. a. 好きな食べ物についての英作文の発表 b. 講師の講評
11. a. 好きな食べ物についての英作文の質疑応答 b. 講師の講評
12. a. 好きな映画についての英作文 b. 講師の講評
13. a. 好きな映画についての英作文の発表 b. 講師の講評
14. a. 好きな映画についての英作文の質疑応答 b. 講師の講評

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って、出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは、最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、他の学生が書いた英作文を、すべて読め、日本語にでき、間違いが指摘できるようにしておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

英作文:50%
英作文を読む課題:50%

その他

S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Basic)	English Paragraph Writing A(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも, 英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して, 論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は, そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので, 英語のエッセイや論文のみならず, 日本語の小論文やエッセイ(あるいは, エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間, 真面目にこつこつ訓練をこなせば, 英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます

授業内容

第一回 a:イントロダクション(英語を学ぶとは)
b:教科書の使い方。授業の進行の仕方
第二回:第一課① 本文読解
第三回:第一課② 問題を解く
第四回:第二課① 本文読解
第五回:第二課② 問題を解く
第六回:第三課① 本文読解
第七回:第三課② 問題を解く
第八回:第四課① 本文読解
第九回:第四課② 問題を解く
第十回:第五課① 本文読解
第十一回:第五課② 問題を解く
第十二回:第六課① 本文読解
第十三回:第六課② 問題を解く
第十四回 a:ここまでのまとめ
b:試験

履修上の注意

予習が出来ていない場合, その場でやってもらうことになるので, 辞書(電子辞書可)を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

二回で一課進むので, それを踏まえて事前に予習しておくことが望ましい。
特に本文は出来る限り調べ, 訳せるようにしておくこと。

教科書

Jack Brajcich, 谷岡敏博, 『移民の国アメリカ文化の散歩道』, 英宝社

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は, 平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また, 1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野川 浩美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

1 つの Chapter を 2 週で終わらせる予定です。1 週目は、それぞれのパラグラフ展開方とそのパラグラフ展開で使われる表現の解説をし、2 週目は実際にその展開法を用いたパラグラフを読んで、パラグラフの構造を分析します。

第1回 大学実施の TOEIC 試験に代替えする(教室での授業はありません)
第2回 Layout and Rules of Punctuation 基本的な書式と句読点の使い方。
第3回 Chapter 1 パラグラフ構成、トッピックセンテンス、サポーティングセンテンス、コンクルーディングセンテンスについて。それらを理解するための実践問題。
第4回 Chapter 2 トピックセンテンスの書き方。適切なトッピックセンテンスを選ぶ。トピックセンテンスを書く。
第5回 与えられたパラグラフのトピックセンテンスを書く。
第6回 Chapter 3 サポーティングセンテンスの書き方。サポーティングセンテンスの適切な構成。
第7回 与えられたトピックに関するサポーティングセンテンスを書く。
第8回 Chapter 4 現在や過去に関する出来事の書き方。
第9回 時間関係を捉え、与えられたトピックについてパラグラフを書く。
第 10 回 Chapter 5場所・位地・方向 に関する情報の書き方。
第 11 回 空間関係を示す語句を理解して書く。
第 12 回 Chapter 6 過程・手順などを説明するパラグラフの書き方。
第 13 回 与えられたトピックについて過程・手順を明確に説明できるようパラグラフを書く。
第 14 回 a. 試験 b. まとめ

授業形態の変更によって生じるシラバスの修正は、シラバス補足に追記します。

履修上の注意

提出物の期限は一週目と二週目のみとします。それ以降は受け付けませんので注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、教科書で扱う範囲を読み、授業で扱うテーマを確認しておいてください。授業用のプリントは事前に配布しますので、必ず読んで不明点は調べてから授業に臨むように。また、それぞれの授業でとりあげたパラグラフ展開法に従って、「140～150 語程度のパラグラフを書く」課題に取り組んでくるようにしてください。

教科書

Get Your Message Across （NAN'UN-DO） ￥2, 000＋税

参考書

授業用プリント

課題に対するフィードバックの方法

採点・返却後、授業内で解説。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 英文パラグラフ・ライティングとは何か・作文のための辞書の使い方
第2回 Chapter 1-1
第3回 Chapter 1-2
第4回 Chapter 2-1
第 5 回 Chapter 2-2
第 6 回 Chapter 3-1
第 7 回 Chapter 3-2
第 8 回 Chapter 4-1
第 9 回 Chapter 4-2
第 10 回 Chapter 5-1
第 11 回 Chapter 5-2
第 12 回 Chapter 6-1
第 13 回 Chapter 6-2
第 14 回 a 試験, b まとめ, 解説

履修上の注意

理由のない欠席が3分の1を超える場合、単位認定はできません。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業への積極的参加, 自宅学習が重要です。目標は単位取得ではなく, あくまでも英語力の向上であることを忘れないように。

教科書

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs
著者:Jimbo, et al. ed. ISBN: 978-4-5231-7593-3 南雲堂

参考書

学習英和辞典を持参すること。紙の辞書・電子辞書・アプリ・オンライン辞書などメディアにはこだわりませんが, 用法や例文を確認できるものでないと学習には使えないので辞書とは認めません。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
相馬 美明	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

高校までの英語教育ではやってこなかったパラグラフ(段落)の作り方を学びます。具体的には----

(1)パラグラフの冒頭に来るトピックセンテンスの書き方、それにつづく文の構成。
(2)パラグラフを作る際に考えるべきアウトライン。
(3)複数のパラグラフを積み重ねて、論理的な小論文(エッセイ)にする方法など。

模範となる文章を読みながら、トピックを決めたエッセイ・ライティングの訓練をします。トピックとして
(1)自分の好きなスポーツ(料理、芸術、動物)
(2)ペットを飼うことの是非
(3)読書について など

第1回 レベル別クラス分けに伴う TOEIC 試験。1 回目の授業の代替となるので必ず受験すること。
第2回 パラグラフとは(1)、年間計画、諸注意など
第3回 パラグラフとは(2)、P.8-13, Centipede, Film1, 文法
第4回 パラグラフとは(3)、P.13-17, 文法 (7)まで、 Film 2
第5回 パラグラフとは(4)、P.18-23, writing 指示、Your Song
第6回 トピックセンテンスの書き方(1)、P.24-25, 文法 (15)まで
第7回 トピックセンテンスの書き方(2)、P.26-27, 文法 (16)分詞構文まで
第8回 トピックセンテンスの書き方(3)、P.27-29, writing 指示、Film 3第9回 アウトラインとは(1)、Film 3-4, Top of the world
第 10 回 アウトラインとは(2)、P.30-34, 文法 (33)まで
第 11 回 アウトラインとは(3)、P.35-36,
第 12 回 アウトラインとは(4)、P.37-39, 文法 (45)まで、Film 4
第 13 回 実践、P.40-41, Film 5, Kathy's song
第 14 回 まとめ

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示に従い、決められた課題をこなし、授業には積極的に参加すること。

教科書

Get Your Message Across (NAN'UN-DO)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じ Oh-o!Meiji に掲載、対応したい。

欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。
学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

★TOEIC 試験受験有無は成績評価の対象に含まず 13 回の授業で判断

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
青木 敬子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

1. TOEIC
2. Writing Guide and Introduction
3. 演習
4. 演習
5. What is Paragraph?
6. 演習
7. Supporting Sentences
8. 演習
9. 演習
10. Time Order
11. 演習
12. 演習
13. Structure
14. まとめ

履修上の注意

欠席回数4回までとなります。欠席 4 回後に遅刻、病気(指定感染症)以外の早退の場合は、超過欠席となります。
辞書(電子辞書、書籍の辞書)を必ず持参してください。授業内小テストに使用します。
TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席認定及び授業の加点とします。

出欠の自己管理をお願いします。授業得点は自己管理(ポートフォリオにて)をお願いします。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストやプリントを課題学習にします。

教科書

[i]Get Your Message Across : Writing Communicative Paragraphs[/i]
著者:Jimbo, et al, ed.
(南雲堂)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

プリント・テキストなどの練習課題は全員むけにフィードバックします。個人の作文課題は個人にフィードバックコメントを出します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
松野 亜希子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

英語の文章は複数のパラグラフ(段落)で構成されています。そしてそれぞれのパラグラフはトピック・センテンス(主題文)やサポーティング・センテンス(支持文)などで構成されています。この授業では、様々な実践練習を通して、英語で文章を書くときに必要となるパラグラフの基礎を学びます。

春学期は
(1)パラグラフの構成要素であるトピック・センテンスやサポーティング・センテンスなどの特徴と書き方
(2)センテンスをどのような順序で並べて、パラグラフへと組み立てていくのか
などを学びます。
また、英語の文章を書く際に役に立つ文法事項の復習も適宜行います。

第1回 クラス分けのための TOEIC 試験(この授業は休講)
第2回 授業のイントロダクション
第3回 Chapter 1 Getting Organized
第4回 Chapter 2 Understanding Paragraphs (1)
第5回 Chapter 2 Understanding Paragraphs (2)
第6回 Chapter 2 Understanding Paragraphs (3)
第7回 Chapter 3 Organizing Information by Time Order (1)
第8回 Chapter 3 Organizing Information by Time Order (2)
第9回 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance (1)
第 10 回 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance (2)
第 11 回 Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order (1)
第 12 回 Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order (2)
第 13 回 春学期のまとめ
第 14 回 学期末試験と授業の総括

履修上の注意

英語の文章を書く課題を出すので、課題はかならず提出すること。
課題に取り組むときには必ず英和辞典と和英辞典の両方(電子辞書・紙媒体のどちらでもよい)を用意し、辞書を積極的に活用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：教科書のなかで事前に講師が指定する箇所を熟読し，練習問題を解いておくこと。
復習：授業で学んだ内容を整理するとともに、授業で学んだこと(トピック・センテンスやサポーティング・センテンスの書き方など)を踏まえていろいろなパターンの英文を書く練習をすること。

教科書

Karen Blanchard & Christine Root,[i]Ready to Write 2[/i] Pearson
ISBN: 978-0-13-439932-4

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説および講評については、授業時間内に行うか、Oh-o!Meiji を通じて配信する。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
藤野 悠子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 春学期授業の概要説明
第2回 Chapter 1 Getting Organized
第3回 Chapter 2 Understanding Paragraphs
第4回 Chapter 3 Understanding Paragraphs
第5回 Chapter 3 Organizing Information by Time Order
第6回 Chapter 3 Organizing Information by Time Order
第7回 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance
第8回 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance
第9回 Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order
第 10 回 Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order
第 11 回 Chapter 6 Understanding the Writing Process
第 12 回 Chapter 6 Understanding the Writing Process
第 13 回 Review
第 14 回 a: 試験
b: 試験の解説

TOEIC 試験受験有無を第 1 回授業の出席点として扱います。随時、homework を提出してもらいます。
授業内容については予定であり、進捗状況によって変更する可能性があります。変更する場合は授業内にてお知らせします。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、テキストの次回の授業で扱う部分に目を通し、内容を把握してきてください。随時 homework を出しますので、必ず準備して授業に臨んでください。

教科書

Ready to Write 2 (5th ed.): Perfecting Paragraphs
著者:Karen Blanchard / Christine Root
ISBN:9780134399324
出版社:Pearson Longman

参考書

課題に対するフィードバックの方法

前週の授業内容や解答した問題の一部については、次週の授業で振り返る機会を設けます。随時出題される homework に関しては、各自にフィードバックを行います。また、クラスメイト同士でチェックを行う機会も設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advanced で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第１回：TOEIC 試験で代替
第2回 a：イントロダクション
b：Writing Guide
第3回：Chapter 1 What is a Paragraph? /グループワーク(1)
第4回：Chapter 2 The Topic Sentence Step 1:主題文とは？
第5回：Chapter 2 The Topic Sentence Step 2:トピック+コメント
第6回：Chapter 3 Supporting Sentences ：支持文とは？
第7回：Chapter 3 Supporting Sentences ：組み立て
第8回：Chapter 4 Time Order Step 1:時間の順序
第9回：Chapter 4 Time Order Step 2:時間関係を示す語句/グループワーク(2)
第１０回：Chapter 4 Time Order Step 3 ：主題と主題に関するコメント/グループワーク(3)
第１１回：Chapter 5 Space Order Step 1:空間の順序
第１２回：Chapter 5 Space Order Step 2:固定した視点と動く視点
第１３回：Chapter 6 Process and Direction Step 1 / Step 2 / Step 3
第１４回 a：まとめ
b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

[i]Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs[/i]『効果的なパラグラフの書き方』神保尚武 他（南雲堂）

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。TOEIC 試験受験有無を１回目の出席点として扱う。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
香西 史子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

高校までの英語教育ではやってこなかったパラグラフ(段落)の作り方を学びます。具体的には----

(1)パラグラフの冒頭に来るトピックセンテンスの書き方、それにつづく文の構成。
(2)パラグラフを作る際に考えるべきアウトライン。
(3)複数のパラグラフを積み重ねて、論理的な小論文(エッセイ)にする方法など。

模範となる文章を読みながら、トピックを決めたエッセイ・ライティングの訓練をします。トピックとして
(1)自分の好きなスポーツ(料理、芸術、動物)
(2)ペットを飼うことの是非
(3)読書について など

第1回 ガイダンス
第2回 Chapter 1 Getting Organized
第3回 Chapter 2 Understanding Paragraphs (1)
第4回 Chapter 2 Understanding Paragraphs (2)
第5回 Chapter 2 Understanding Paragraphs (3)
第6回 Chapter 3 Organizing Information by Time Order
第7回 小テスト
第8回 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance (1)
第9回 Chapter 4 Organizing Information by Order of Importance (2)
第１０回 Chapter 5 Organizing Information by Spatial Order
第１１回 Chapter 6 Understanding the Writing Process (1)
第１２回 Chapter 6 Understanding the Writing Process (2)
第１３回 試験

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出すること。

欠席が授業数の1/3以上の場合、受験資格を失います。
教室備え付けの PC を使用します。保存が必要なデータ用のストレージ(USB、クラウド等)を必ず準備／持参してください。授業中に積極的にインターネットの活用をする場合があります。
なお、授業は英語と日本語を併用して行います。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で、次回までの課題等を指示しますので、必ず時間を作って準備してきてください。課題には、授業内で学んだことを基にしたライティングと、次回授業で深める内容についての予習の2種類があります。
予習には 60 分程度、復習にも 60 分程度要します。

教科書

Karen Blanchard and Christine Root 著 Ready to Write 2 (Pearson Longman, Fifth Edition)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題にはコメントをつけて Oh Meiji を通して返却する。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については，原則として Advance で 70%，Intermediate で 50%，Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
相馬 美明	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

高校までの英語教育ではやってこなかったパラグラフ(段落)の作り方を学びます。具体的には----

(1)パラグラフの冒頭に来るトピックセンテンスの書き方、それにつづく文の構成。
(2)パラグラフを作る際に考えるべきアウトアライン。
(3)複数のパラグラフを積み重ねて、論理的な小論文(エッセイ)にする方法など。

模範となる文章を読みながら、トピックを決めたエッセイ・ライティングの訓練をします。トピックとして
(1)自分の好きなスポーツ(料理、芸術、動物)
(2)ペットを飼うことの是非
(3)読書について など

第1回 レベル別クラス分けに伴う TOEIC 試験。1 回目の授業の代替となるので必ず受験すること。
第2回 パラグラフとは(1)、年間計画、諸注意など
第3回 パラグラフとは(2)、P.8-13, Centipede, Film1, 文法
第4回 パラグラフとは(3)、P.13-17, 文法 (7)まで、 Film 2
第5回 パラグラフとは(4)、P.18-23, writing 指示、Your Song
第6回 トピックセンテンスの書き方(1)、P.24-25, 文法 (15)まで
第7回 トピックセンテンスの書き方(2)、P.26-27, 文法 (16)分詞構文まで
第8回 トピックセンテンスの書き方(3)、P.27-29, writing 指示、Film 3第9回 アウトラインとは(1)、Film 3-4, Top of the world
第 10 回 アウトラインとは(2)、P.30-34, 文法 (33)まで
第 11 回 アウトラインとは(3)、P.35-36,
第 12 回 アウトラインとは(4)、P.37-39, 文法 (45)まで、Film 4
第 13 回 実践、P.40-41, Film 5, Kathy's song
第 14 回 まとめ

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示に従い、決められた課題をこなし、授業には積極的に参加すること。

教科書

Get Your Message Across (NAN'UN-DO)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じ Oh-o!Meiji に掲載、対応したい。

欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。
学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

★TOEIC 試験受験有無は成績評価の対象に含まず 13 回の授業で判断

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第 1 回：TOEIC 試験で代替
第2回 a：イントロダクション
b：Writing Guide
第3回：Chapter 1 What is a Paragraph? /グループワーク(1)
第4回：Chapter 2 The Topic Sentence Step 1:主題文とは？
第5回：Chapter 2 The Topic Sentence Step 2:トピック+コメント
第6回：Chapter 3 Supporting Sentences :支持文とは？
第7回：Chapter 3 Supporting Sentences :組み立て
第8回：Chapter 4 Time Order Step 1:時間の順序
第9回：Chapter 4 Time Order Step 2:時間関係を示す語句/ グループワーク(2)
第 10 回：Chapter 4 Time Order Step 3:主題と主題に関するコメント/ グループワーク(3)
第 11 回：Chapter 5 Space Order Step 1:空間の順序
第 12 回：Chapter 5 Space Order Step 2:固定した視点と動く視点
第 13 回：Chapter 6 Process and Direction Step 1 / Step 2 / Step 3
第 14 回 a：まとめ
b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

[i]Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs[/i]『効果的なパラグラフの書き方』神保尚武 他 (南雲堂)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席点として扱う。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 ガイダンス
第2回 Causes and Effect Essays
第3回 Causes and Effect Essays
第4回 Comparison and Contrast Essays
第5回 Comparison and Contrast Essays
第6回 Problem-Solution Essays
第7回 Problem-Solution Essays
第8回 Writing Summaries
第9回 Writing Summaries
第 10 回 Expressing Your Opinions
第 11 回 Expressing Your Opinions
第 12 回 Writing Undergraduate and Graduate School Application Essays
第 13 回 Writing Undergraduate and Graduate School Application Essays
第 14 回 まとめ・試験

これは予定にすぎませんので, クラスの様子や状況によっていくつか 変更もありえます。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所を予習し、課題をこなすこと。

教科書

初回の授業日に指示する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出してもらい、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 ：イントロダクション
第2回 ：Chapter 3 Revising and Editing (1) Practicing Paragraph Revision
第3回 ：Chapter 3 Revising and Editing (2) Agreement of Subjects and Verbs
第4回 ：Chapter 3 Revising and Editing (3) Agreement of Pronouns and Nouns
第5回 ：Chapter 3 Revising and Editing (4) Agreement of Possessive Pronouns and Adjectives
第6回 ：Chapter 3 Revising and Editing (5) Gerunds and Infinitives
第7回 ：Chapter 3 Revising and Editing (6) Punctuation and Capitalization
第8回 ：Chapter 4 Writing Essays (1) The Introduction
第9回 ：Chapter 4 Writing Essays (2) Thesis Statements
第 10 回 ：Chapter 4 Writing Essays (3) Analyzing Thesis Statements/ グループワーク(1)
第 11 回 ：Chapter 4 Writing Essays (4) The Body (Supporting Paragraphs) / グループワーク(2)
第 12 回 ：Chapter 4 Writing Essays (5) The Title
第 13 回 ：Chapter 4 Writing Essays (6) Ordering Supporting Paragraphs to Create a Coherent Essays
第 14 回 a：まとめ
b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

Karen Blanchard and Christine Root, [i]Ready to Write 3: From Paragraph to Essay (4th ed.)[/i]Pearson Longman

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
秋山 義典	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

秋学期の授業では、春学期に学んだパラグラフライティングの基礎を発展させ、英語でエッセイを書くための基本的な構成と論理展開を学びます。テキスト From Paragraph to Essay を使用し、エッセイの基本構造(導入・本文・結論)や、論理的な文章構成の方法を段階的に理解していきます。授業ではまず、エッセイの中心となる Thesis Statement(主張文)の書き方や、文章全体の構成を整理するためのアウトライン(outline)の作成方法を学びます。そのうえで、いくつかのエッセイの型を取り上げながら、英語でまとまりのある文章を書く練習を行います。扱う主なライティングの形式は次の通りです。説明的エッセイ(Descriptive Essay) 意見を述べるエッセイ(Persuasive Essay) 比較・対照エッセイ(Comparison Essay) 授業では、文章構成の理解だけでなく、語彙や表現の使い方、論理的な説明の方法、具体例の示し方などにも注目しながら、段階的にライティング練習を行います。また、書いた文章を見直して修正する作業(revision)や、アウトライン作成の練習なども取り入れ、より明確で説得力のある英語の文章を書く力を養います。
秋学期の到達目標は、基本的なエッセイ構造を理解し、複数のパラグラフからなる短い英語エッセイを書くことができるようになることです。授業を通して、英語で自分の考えを論理的に表現する力をさらに高めていくことを目指します。

授業内容

秋学期 授業計画(Unit6–Unit12) 第 1 回 Course Review / Essay Writing Introduction 春学期のパラグラフ構造の復習 エッセイとは何か パラグラフとエッセイの違い Writing 活動 短いパラグラフの復習ライティング
第 2 回 Unit6:Essay Structure エッセイの基本構造 Introduction Body Conclusion Writing 活動 短いエッセイの構造分析
第 3 回 Unit6:Thesis Statement Thesis statement の役割 良い主張文の書き方 Writing 活動 Thesis statement 作成練習
第 4 回 Unit7:Essay Outline エッセイのアウトライン作成 段落構成の計画 Writing 活動 Essay outline 作成
第 5 回 Unit7:Essay Organization パラグラフの論理的つながり Transition expressions Writing 活動 Outline → paragraph writing
第 6 回 Unit8:Descriptive Essay 説明的エッセイの構造 描写の表現 Writing 活動 自分の好きな場所について書く
第 7 回 Unit8:Descriptive Writing Practice 五感を使った描写 具体例の使い方 Writing 活動 Descriptive paragraph
第 8 回 Unit9:Persuasive Essay 意見を説得的に述べる方法 Reason と Evidence Writing 活動 Opinion paragraph
第 9 回 Unit9:Persuasive Writing Practice 説得力のある表現 Counterargument Writing 活動 Persuasive essay draft
第 10 回 Unit10:Comparison Essay 比較・対照エッセイ Block organization / Point-by-point Writing 活動 Comparison paragraph
第 11 回 Unit10:Comparison Essay Practice 比較表現 対照構造 Writing 活動 Comparison essay
第 12 回 Unit11:Essay Development 具体例の使い方 Supporting details Writing 活動 Essay revision
第 13 回 Unit12:Essay Writing Practice エッセイの総合練習 Peer review Writing 活動 Essay draft 作成
第 14 回 Final Essay Writing 学期のまとめ Final essay 作成 Writing 活動 完成エッセイ提出

履修上の注意

秋学期の授業では、春学期に学んだパラグラフライティングの基礎をもとに、英語でエッセイを書くための基本的な構成と論理展開を学びます。テキスト From Paragraph to Essay を使用し、エッセイの基本構造(Introduction・Body・Conclusion)や、文章全体の論理的な組み立て方を理解しながら、段階的にライティング練習を行います。授業では、Thesis Statement(主張文)の書き方や、文章の構成を整理するためのアウトライン(outline)の作成方法を学び、複数のパラグラフからなる短い英語エッセイを書く練習を行います。また、説明的エッセイ、説得型エッセイ、比較・対照エッセイなど、さまざまな文章形式を取り上げながら、論理的で分かりやすい文章を書く力を養います。授業では実際に文章を書く活動を多く取り入れます。書いた文章を見直し、より分かりやすい表現に修正する作業(revision)や、クラスメートと内容を共有する活動なども行いながら、ライティングスキルを段階的に向上させていきます。ライティング能力は、短期間で身につくものではなく、継続的な練習によって少しずつ向上していくものです。そのため、授業内でのライティング活動や課題には積極的に取り組むことが求められます。また、授業ではテキストの内容に基づいたライティング練習を行うため、教科書を必ず持参することが必要です。授業で扱うテーマについて自分の考えや具体例をあらかじめ考えておくなど、事前の準備をして授業に参加することが望まれます。継続して文章を書く練習を重ねることで、英語で自分の考えを論理的に表現する力を身につけていきましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に臨むにあたり、学生は教科書 From Paragraph to Essay の中から、講師が指定したユニットや例文に事前に目を通しておくことが求められます。予習では、エッセイの構成(Introduction、Body、Conclusion)や、Thesis Statement(主張文)の役割に注意しながら文章を読み、重要な語彙や表現を確認しておくことが望まれます。また、授業で扱うテーマについて、自分の意見や具体例を簡単に考えておくと、授業中のライティング活動に取り組みやすくなります。復習では、授業で作成したパラグラフやエッセイを読み直し、文章の構成や論理展開、語彙や文法の使い方を確認してください。特に、授業で指摘された改善点をもとに文章を書き直す(revision)作業を行うことで、より分かりやすく説得力のある文章を書く力を身につけることができます。また、授業で扱ったアウトライン(outline)やエッセイ構成を整理することも復習として重要です。大学の授業では、授業時間だけでなく、授業外での学習時間を確保することも重要です。一般的な目安として、授業の予習に約 2 時間、復習にも約 2 時間程度の学習時間を確保することが望まれます。継続して文章を書く練習を重ねることで、英語で自分の考えを論理的に表現する力を段階的に高めることができます。

教科書

Kate Elwood &Leonid Yoffe『From Paragraph to Essay』(「効果的な英文エッセイの書き方」)
南雲堂 ISBN 978−4−523−17727−2

参考書

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、担当教員が個別にコメントを記入し、具体的な改善点を示します。特に、エッセイの構成(Introduction・Body・Conclusion)、Thesis Statement の明確さ、段落間の論理的なつながり、文法や語彙の適切な使用などに注目し、より分かりやすく説得力のある英語エッセイを書くことができるよう助言を行います。また、必要に応じて、授業内で多くの学生に共通して見られる課題や改善点を紹介し、より効果的なライティング方法について説明します。さらに、アウトラインの作成方法や文章構成の改善点などについても解説し、学生が自分の文章を見直しながら修正する(revision)力を養うことを目指します。このようなフィードバックを通して、学生が自分の文章の特徴や課題を理解し、ライティングスキルを段階的に向上させていくことを目標とします。

成績評価の方法

本授業の成績評価は、授業内課題の提出(40%)、授業への貢献度[授業中の発言や活動への参加など](20%)、学期末課題(40%)を総合的に判断して行います。授業ではエッセイライティングの練習として、アウトライン作成やパラグラフ作成などの課題を行います。そのため、授業内で取り組む課題の提出状況や内容が成績評価の重要な要素となります。また、授業での意見交換やディスカッションなどへの積極的な参加も評価の対象となります。さらに、学期末には、授業で学んだエッセイ構成(Introduction・Body・Conclusion)や論理的な文章展開を活用したエッセイ課題を提出してもらいます。これらの評価項目を総合的に判断し、最終的な成績を決定します。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
青木 敬子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

1 Introduction and review
2.Definition
3. 演習
4. 演習
5. Process and Direction
6. 演習
7. 演習
8. Exploring the theme for presentation
9. 演習
10. 演習
11. Preparation for presentation
12. Presentation
13. Preparation for short essay
14. まとめ

履修上の注意

欠席回数4回までとなります。欠席 4 回後に遅刻、病気(指定感染症)以外の早退の場合は、超過欠席となります。
辞書(電子辞書、書籍の辞書)を必ず持参してください。授業内小テストに使用します。
TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席認定及び授業の加点とします。

出欠の自己管理をお願いします。授業得点は自己管理(ポートフォリオにて)をお願いします。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストやプリントを課題学習にします。

教科書

[i]Ready to Write : From Paragraph to Essay 4th edition[/i]
著者: Karen Blanchard and Christine Root
(Pearson Longman)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

プリント・テキストなどの練習課題については、全員へのフィードバックをします。個人作文課題は、個人に対してフィードバックコメントを出します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
小池 知之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた論題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 従属性の展開
第2回 スタイルの種別
第3回 描写パラグラフの展開
第4回 第4回パラグラス演習
第5回 比較と対照応用2の展開
第6回 分類の展開
第7回 第5回パラグラフ演習
第8回 論議展開
第9回 論議展開応用
第 10 回 第6回パラグラフ演習
第 11 回 因果関係応用の展開
第 12 回 通過、手順による応用展開
第 13 回 パラグラスからエッセイへ
第 14 回 パラグラフからエッセイ応用

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出して下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の予習をし、授業で扱ったテーマでの英文ライティングを復習として必ず行うこと。

教科書

Ready to Write 3(Pearson)

参考書

Get Your Message Across (NAN' UN-DO)

課題に対するフィードバックの方法

課題内容に適した方法、添削、コメント等。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次 4 月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき 1 年次のクラス編成を行います。また、1 年次期末実施の TOEIC 試験スコアに基づき 2 年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
大須賀 寿子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

春学期に使用したテキストを引き続き利用していきます。小テスト、授業内作業、ペアワーク、グループワークなども行います。
授業の進行によって、予定が変更されることもあります。

第１週 オリエンテーション、春学期授業で行った内容の復習
第２週 Chapter 7 Cause and Effect Essays
第３週 Chapter 7 Cause and Effect Essays
第４週 Chapter 8 Comparison and Contrast Essays
第５週 Chapter 8 Comparison and Contrast Essays
第６週 Chapter 9 Problem-Solution Essays
第７週 Chapter 9 Problem -Solution Essays
第８週 Chapter 10 Writing Summaries
第９週 Chapter 10 Writing Summaries
第 10 週 Chapter 11 Expressing Your Opinions
第 11 週 Chapter 11 Expressing Your Opinions
第 12 週 Chapter 12 Writing Undergraduate School Application Essays
第 13 週 Chapter 12 Writing Undergraduate School Allocation Essays
第 14 週 a. 秋学期試験
b. 秋学期試験の解説、総括

履修上の注意

・授業時は予習をして必ず参加をすること。そして授業終了後には必ず復習をしてください。
・必ず辞書を持参してください。Writing の授業であるため、英英辞典を使うこともあります。
(授業中にはスマートホンの辞書をなるべく使用しないでください。スマートホンを使用した場合には退室を命じます)
・欠席した場合には必ず oh-o meiji から連絡事項などを確認するようにしてください。
・課題の未提出、遅刻や欠席が度重なる場合には、評価が不利になるので気をつけること。
・遅刻２回を欠席１回と数えます。欠席が授業回数の３分の1[4 回]に達した場合には単位を認定しません

準備学習(予習・復習等)の内容

・指定された箇所を必ず読んでおくこと。とくに Peer Feedback Pair Work, Group Work が予定されている場合には課題作成忘れがあると
相手にも迷惑をかけますので、指定された課題は必ずやっておくようにしてください。
・わからない箇所をはっきりさせて授業に臨みましょう。
・復習は授業でやったところをきちんと見直しましょう。

教科書

Ready to Write 3 : From Paragraph to Essay (Fourth Edition)
出版社 Pearson
(春学期に使用する教科書と同じ)

参考書

授業時に随時指示をします。

課題に対するフィードバックの方法

課題には、コメントをつけて返却します。また全体に注意を促すべき箇所は授業中に伝えます。
oh-o meiji で提出された課題には oh-o meiji 上で返却します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Adv.)	English Paragraph Writing B(Adv.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野田 恵子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 ガイダンス
第2回 Causes and Effect Essays
第3回 Causes and Effect Essays
第4回 Comparison and Contrast Essays
第5回 Comparison and Contrast Essays
第6回 Problem-Solution Essays
第7回 Problem-Solution Essays
第8回 Writing Summaries
第9回 Writing Summaries
第 10 回 Expressing Your Opinions
第 11 回 Expressing Your Opinions
第 12 回 Writing Undergraduate and Graduate School Application Essays
第 13 回 Writing Undergraduate and Graduate School Application Essays
第 14 回 まとめ・試験

これは予定にすぎませんので, クラスの様子や状況によっていくつか 変更もありえます。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回テキストの授業予定箇所を予習し、課題をこなすこと。

教科書

初回の授業日に指示する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出してもらい、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 7 (a)
第3回 Unit 7 (b)
第4回 Unit 8 (a)
第5回 Unit 8 (b)
第6回 Unit 9 (a)
第7回 Unit 9 (b)
第8回 Unit 10 (a)
第9回 Unit 10 (b)
第 10 回 Unit 11 (a)
第 11 回 Unit 11 (b)
第 12 回 Unit 12 (a)
第 13 回 Unit 12 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

『移民の国アメリカ文化の散歩道:VA から NASA まで』
出版社:英宝社
ISBN:9784269420113

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

Session 1 Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 CHAPTER 6 Writing Descriptions.....73-79
Session 3 CHAPTER 6 Writing Descriptions.....80-85
Session 4 CHAPTER 6 Writing Descriptions.....86-92
Paper due #1
Session 5 CHAPTER 7 Writing About Places.....93-97
Session 6 CHAPTER 7 Writing About Places.....98-101
Session 7 CHAPTER 7 Writing About Places.....102-107
Session 8 Paper due #2
Session 9 CHAPTER 8 Writing a Narrative.....108-113
Session 10 CHAPTER 8 Writing a Narrative.....114-121
Session 11 CHAPTER 8 Writing a Narrative.....122-129
Paper due #3
Session 12 CHAPTER 9 Expressing Your Opinion.....130-134
Session 13 CHAPTER 9 Expressing Your Opinion.....135-144
Session 14 Paper due #4 and Examination

履修上の注意

The instructor's email address will be informed to students as a contact point for questions and consultations.

準備学習(予習・復習等)の内容

Assignments must be submitted in full. A minimum of 120 minutes is required for preparation/review.

教科書

Ready to Write 1 (4th ed.)
著者:Karen Blanchard and Christine Root
ISBN: 9780134400655
Pearson Longman
¥2,850(税込 ¥3,135)

参考書

References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法

Submitted assignments are generally returned the following week after correction.

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
宮本 正治	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第 1 週:授業の進め方についての説明
第 2 週:7 Classification 分類してみよう！
A. Sports
第 3 週:B. Harassment
第 4 週:Part III 第 3 のパターン:直線フロー型
8 History 歴史を知ろう！
A. Toyotomi Hideyoshi
第 5 週:B. Albert Einstein
第 6 週:9 Processes 過程を説明
A. Tea Ceremony
第 7 週:B. Christian wedding ceremony
第 8 週:10 Causes and Effects 原因と結果
A. How the coronavirus pandemic changed our society
第 9 週:B. Tissue paper
第 10 週:Part IV 第 4 のパターン:異質パラグラフ型
11 Definition of a New Word 新しい言葉を説明しよう！
A. Ikumen
第 11 週:B. Black company
第 12 週:13 New Products 新製品
A. Kirobo
第 13 週:B. i-Pot
第 14 週:まとめ・試験

履修上の注意

常習的に予習していない者、辞書を持参しない者は出席を認めない場合があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎週課題および小テストがあります。

教科書

『Skills for Better Writing 構造で書く英文エッセイ〈中級編〉』(第 3 版)、成美堂

参考書

辞書は必ず用意すること。紙・電子、どちらでもかまいません。スマホ、PC は教室内では使用しないでください。

課題に対するフィードバックの方法

適宜対応します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 7
第3回 Unit 7
第4回 Unit 8
第5回 Unit 8
第6回 Unit 9
第7回 Unit 9
第8回 Unit 10
第9回 Unit 10
第 10 回 Unit 11
第 11 回 Unit 11
第 12 回 Unit 12
第 13 回 Unit 12
第 14 回 a. まとめ
b. 試験

履修上の注意

課題はかならず提出して下さい。

授業に教科書本体と辞書を持参しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示された予習は必ず行ったうえで授業に臨むこと。

教科書

[i]Eye on American Culture[/i](EIHOSHA)

担当者が配布するプリント

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
小川 真理	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Chapter 5 Writing about Your Day
第2回 Chapter 5 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第3回 Chapter 5 Writing Activities, Real-life Writing
第4回 Chapter 6 Writing Descriptions
第5回 Chapter 6 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第6回 Chapter 6 Writing Activities, Real-life Writing
第7回 Chapter 7 Writing about Places
第8回 Chapter 7 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第9回 Chapter 7 Writing Activities, Real-life Writing
第 10 回 Chapter 8 Writing a Narrative
第 11 回 Chapter 8 Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第 12 回 Chapter 8 Writing Activities, Real-life Writing
第 13 回 Chapter 9 Expressing Your Opinion : Grammar for Writing, Paragraph Pointers
第 14 回 a. 学期末英作文課題
b. 秋学期末試験

※ 履修人数や理解度に応じて、進行速度は変わる可能性がありますが、教科書は全て終えます。

履修上の注意

授業中にも英文を書く作業がありますので、各自、英語を書くのに必要とする辞書を必ず持参して下さい。教員からの辞書の貸し出しは行いません。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書 ON YOUR OWN のコーナーは各自トピックを選んで予め作文してきて下さい。教科書は英語で書かれていますので、文法用語を辞書で確認しておきましょう。
また、教科書に付属しているオンラインリソースも学習しましょう。
(想定学修時間:1 時間)

教科書

[i]Ready to Write Level 1: A First Composition Text[/i], 4th Edition, Karen Blanchard and Christine Root 著 (Pearson Longman, 2017) ISBN: 9780134400655

参考書

『ジーニアス英和辞典 第5版』(ISBN: 9784469041804)
[i]Oxford Collocations Dictionary for Students of English[/i](ISBN: 9780194325387)
『英和活用大辞典』(研究社) (ISBN: 9784767410357)
[i]Longman Language Activator[/i](ISBN: 9780582419520)
[i]Longman Collocations Dictionary with Thesaurus[/i](ISBN: 9781408252260)

課題に対するフィードバックの方法

試験は採点して返却します。
英作文課題は添削・採点の上返却します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 7 (a)
第3回 Unit 7 (b)
第4回 Unit 8 (a)
第5回 Unit 8 (b)
第6回 Unit 9 (a)
第7回 Unit 9 (b)
第8回 Unit 10 (a)
第9回 Unit 10 (b)
第 10 回 Unit 11 (a)
第 11 回 Unit 11 (b)
第 12 回 Unit 12 (a)
第 13 回 Unit 12 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

『移民の国アメリカ文化の散歩道:VA から NASA まで』
出版社:英宝社
ISBN:9784269420113

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
渡邊 浩子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 7
第3回 Unit 7
第4回 Unit 8
第5回 Unit 8
第6回 Unit 9
第7回 Unit 9
第8回 Unit 10
第9回 Unit 10
第 10 回 Unit 11
第 11 回 Unit 11
第 12 回 Unit 12
第 13 回 Unit 12
第 14 回 a. まとめ
b. 試験

履修上の注意

課題はかならず提出して下さい。

授業に教科書本体と辞書を持参しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示された予習は必ず行ったうえで授業に臨むこと。

教科書

[i]Eye on American Culture[/i](EIHOSHA)

担当者が配布するプリント

参考書

必要に応じて担当者が紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時にフィードバックします。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
矢野 磯乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

Session 1 Course Introduction, Explanation and Discussion
Session 2 CHAPTER 6 Writing Descriptions.....73-79
Session 3 CHAPTER 6 Writing Descriptions.....80-85
Session 4 CHAPTER 6 Writing Descriptions.....86-92
Paper due #1
Session 5 CHAPTER 7 Writing About Places.....93-97
Session 6 CHAPTER 7 Writing About Places.....98-101
Session 7 CHAPTER 7 Writing About Places.....102-107
Session 8 Paper due #2
Session 9 CHAPTER 8 Writing a Narrative.....108-113
Session 10 CHAPTER 8 Writing a Narrative.....114-121
Session 11 CHAPTER 8 Writing a Narrative.....122-129
Paper due #3
Session 12 CHAPTER 9 Expressing Your Opinion.....130-134
Session 13 CHAPTER 9 Expressing Your Opinion.....135-144
Session 14 Paper due #4 and Examination

履修上の注意

The instructor's email address will be informed to students as a contact point for questions and consultations.

準備学習(予習・復習等)の内容

Assignments must be submitted in full. A minimum of 120 minutes is required for preparation/review.

教科書

Ready to Write 1 (4th ed.)
著者:Karen Blanchard and Christine Root
ISBN: 9780134400655
Pearson Longman
¥2,850(税込 ¥3,135)

参考書

References will be introduced from time to time during class.

課題に対するフィードバックの方法

Submitted assignments are generally returned the following week after correction.

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
三松 幸雄	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 Introduction
第2回 Unit 7 (a)
第3回 Unit 7 (b)
第4回 Unit 8 (a)
第5回 Unit 8 (b)
第6回 Unit 9 (a)
第7回 Unit 9 (b)
第8回 Unit 10 (a)
第9回 Unit 10 (b)
第 10 回 Unit 11 (a)
第 11 回 Unit 11 (b)
第 12 回 Unit 12 (a)
第 13 回 Unit 12 (b)
第 14 回 Final Examination

※ 上述の内容は大枠での予定。実際の授業では進展に応じて適宜調整。

履修上の注意

基本的な内容を扱うので、この機会に身につけてください。
「授業の概要・到達目標」欄の内容は同系列の授業と共通。

準備学習(予習・復習等)の内容

日頃から目標言語による各種の媒体に接してみること。
教科書に加えて、基礎を培うべく様々な資料を適宜用いる予定。

教科書

『移民の国アメリカ文化の散歩道:VA から NASA まで』
出版社:英宝社
ISBN:9784269420113

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

教場にて議論を行う。適宜授業サイトを用いる。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN116M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
西浦 徹	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:与えられたテーマで自由に英作文をするクラス。
目標:文法、語彙、形式が正確で、内容、展開が優れた、一段落の英文を書けるようになること。

授業内容

1. a. イントロダクション b. イントロダクションについての質疑応答
2. a. シラバス b. シラバスについての質疑応答
3. a. 印象に残っている出来事についての英作文 b. 今後の授業の進め方
4. a. 印象に残っている出来事についての英作文の発表 b. 講師の講評
5. a. 印象に残っている出来事についての英作文の質疑応答 b.講師の講評
6. a. 好きな音楽についての英作文 b. 講師の講評
7. a. 好きな音楽についての英作文の発表 b. 講師の講評
8. a. 好きな音楽についての英作文の質疑応答 b. 講師の講評
9. a. 好きな人物についての英作文 b. 講師の講評
10. a. 好きな人物についての英作文の発表 b. 講師の講評
11. a. 好きな人物についての英作文の質疑応答 b. 講師の講評
12. a. 好きな漫画についての英作文 b. 講師の講評
13. a. 好きな漫画についての英作文の発表 b. 講師の講評
14. a. 好きな漫画についての英作文の質疑応答 b. 講師の講評

履修上の注意

私語禁止。
携帯電話の電源を切って、出さない。
授業と関係のないものを出さない。
詳しくは、最初のクラスで説明する。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、他の学生が書いた英作文を、すべて読め、日本語にでき、間違いが指摘できるようにしておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法

英作文:50%
英作文を読む課題:50%

その他

S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー：		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Basic)	English Paragraph Writing B(Basic)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも, 英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して, 論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は, そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので, 英語のエッセイや論文のみならず, 日本語の小論文やエッセイ(あるいは, エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間, 真面目にこつこつ訓練をこなせば, 英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます

授業内容

第一回 これまでの復習
第二回:第七課① 本文読解
第三回:第七課② 問題を解く
第四回:第八課① 本文読解
第五回:第八課② 問題を解く
第六回:第九課① 本文読解
第七回:第九課② 問題を解く
第八回:第十課① 本文読解
第九回:第十課② 問題を解く
第十回:第十一課① 本文読解
第十一回:第十一課② 問題を解く
第十二回:第十二課① 本文読解
第十三回:第十二課② 問題を解く
第十四回 a:ここまでのまとめ
b:試験

履修上の注意

予習が出来ていない場合, その場でやってもらうことになるので, 辞書(電子辞書可)を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

二回で一課進むので, それを踏まえて事前に予習しておくことが望ましい。
特に本文は出来る限り調べ, 訳せるようにしておくこと。

教科書

Jack Brajcich, 谷岡敏博, 『移民の国アメリカ文化の散歩道』, 英宝社

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は, 平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また, 1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします

科目ナンバー：(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
野川 浩美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

1 つの Chapter を 2 週で終わらせる予定です。1 週目は、それぞれのパラグラフ展開方とそのパラグラフ展開で使われる表現の解説をし、2 週目は実際にその展開法を用いたパラグラフを読んで、パラグラフの構造を分析します。

<授業内容の進行>
第1回 Chapter 7 因果関係によるパラグラフ展開　因果関係を表す表現について。
第2回 因果関係によるパラグラフを読む。与えられたトピックについて因果関係による展開のパラグラフを書く。
第3回 Chapter 8 例示によるパラグラフ展開　例示を表す表現について。
第4回 例示によるパラグラフを読む。与えられたトピックについて例示を挙げながらパラグラフを書く。
第5回 Chapter 9 定義によるパラグラフの展開方法。
第6回 与えられたトピックについて定義をするパラグラフを書く。
第7回 Chapter 10 複数の項目を分類することによるパラグラフの展開方法。
第8回 与えられたトピックセンテンスについて明確に分類しながらパラグラフを書く。
第9回 Chapter 11 比較・対照によるパラグラフの展開方法。
第 10 回 比較・対照を表す語句を用いて与えられたトピックについてパラグラフを書く。
第 11 回 Chapter 12 パラグラフ構造とその展開方法についてまとめと復習。
第 12 回 トピックを選び、適切なトピックセンテンスとそれを裏付けるサポーティングセンテンスを、パラグラフ展開に留意しなが 150 語程度のパラグラフを書く。
第 13 回 Chapter 13 パラグラフからショートエッセイへの展開。序論・本論・結論について。
ショートエッセイのそれぞれのパラグラフをトピックセンテンス・サポーティングセンテンスに注意しながら要約する。
複数のパラグラフからなるショートエッセイを書く。(課題)
第 14 回 a. 試験　b. まとめ

授業形態の変更によって生じるシラバスの修正は、シラバス補足に追記します。

履修上の注意

課題の提出は2回までとします。それ以降は受け付けませんので注意をしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、教科書で扱う範囲を読み、授業で扱うテーマを確認しておいてください。授業用のプリントは事前に配布しますので、必ず読んで不明点は調べてから授業に臨むように。また、それぞれの授業でとりあげたパラグラフ展開法に従って、「140～150 語程度のパラグラフを書く」課題に取り組んでくるようにしてください。

教科書

Get Your Message Across (NAN'UN-DO) ￥2,000 + 税

参考書

授業用プリント

課題に対するフィードバックの方法

採点・返却後、授業内で解説。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。S・A 評価の割合については、原則として Advanced で 70%、Intermediate で 50%、Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
関 修	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 英文パラグラフ・ライティングの基礎と復習
第2回 Chapter 7-1
第3回 Chapter 7-2
第4回 Chapter 8-1
第５回 Chapter 8-2
第６回 Chapter 9-1
第７回 Chapter 9-2
第８回 Chapter 10-1
第９回 Chapter 10-2
第10回 Chapter 11-1
第11回 Chapter 11-2
第12回 Chapter 12-1
第13回 Chapter 12-2
第14回 a試験, bまとめ, 解説

履修上の注意

理由のない欠席が3分の1を超える場合、単位認定はできません。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業への積極的参加, 自宅学習が重要です。目標は単位取得ではなく, あくまでも英語力の向上であることを忘れないように。

教科書

Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs
著者:Jimbo, et al. ed.　ISBN: 978-4-5231-7593-3　南雲堂

参考書

学習英和辞典を持参すること。紙の辞書・電子辞書・アプリ・オンライン辞書などメディアにはこだわりませんが, 用法や例文を確認できるものでないと学習には使えないので辞書とは認めません。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を通じて配信するため、確認すること。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
相馬 美明	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

高校までの英語教育ではやってこなかったパラグラフ(段落)の作り方を学びます。具体的には----

(1)パラグラフの冒頭に来るトピックセンテンスの書き方、それにつづく文の構成。
(2)パラグラフを作る際に考えるべきアウトアライン。
(3)複数のパラグラフを積み重ねて、論理的な小論文(エッセイ)にする方法など。

模範となる文章を読みながら、トピックを決めたエッセイ・ライティングの訓練をします。トピックとして
(1)将来の夢
(2)大学で学びたいこと
(3)旅について など

第1回 パラグラフライティング、リスニング(1)、P.45, EX.13, Wedding Ceremony Expenses, Just the way you are
第2回 パラグラフライティング、リスニング(2)、P.45-50, EX.14, Good memory, Film 1
第3回 パラグラフライティング、リスニング(3)、P.50-60, EX.16, Halloween, Film 1
第4回 EX.17, Film 1-2, writing 指示
第5回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(1)
第6回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(2)
第7回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(3)
第8回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(4)
第9回 実践(1)、TOEIC test, Film 2
第10回 実践(2)、EX.18, Film 3,
第11回 実践(3)、EX.19, Film 4,
第12回 実践(4)
第13回 実践(5)
第14回 まとめ

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示に従い、決められた課題をこなし、授業には積極的に参加すること。

教科書

Get Your Message Across (NAN'UN-DO)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じ Oh-o!Meiji に掲載、対応したい。

欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。
学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
青木 敬子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

1 Introduction and review
2.Definition
3. 演習
4. 演習
5. Process and Direction
6. 演習
7. 演習
8. Plural paragraphs
9. 演習
10. 演習
11. Preparation for short essay
12. short essay writing
13. Review essay
14. まとめ

履修上の注意

欠席回数4回までとなります。欠席 4 回後に遅刻、病気(指定感染症)以外の早退の場合は、超過欠席となります。
辞書(電子辞書、書籍の辞書)を必ず持参してください。授業内小テストに使用します。
TOEIC 試験受験有無を 1 回目の出席認定及び授業の加点とします。

出欠の自己管理をお願いします。授業得点は自己管理(ポートフォリオにて)をお願いします。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストやプリントを課題学習にします。

教科書

[i]Get Your Message Across : Writing Communicative Paragraphs[/i]
著者:Jimbo, et al, ed.
(南雲堂)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

プリント・テキストなどの練習課題については、全員へのフィードバックをします。個人作文課題は、個人に対してフィードバックコメントを出します。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・発表 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
松野 亜希子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

春学期に学んだパラグラフの基礎を踏まえて、より説得力のある文章を書くための方法や、様々な種類のパラグラフを書く練習を行います。

秋学期は
(1)パラグラフを書く時の適切なステップ
(2)説得力のあるパラグラフを書くための様々な方法
(3)様々な種類のパラグラフ(描写文、意見文など)の特徴と書き方
などを学びます。
また、英語の文章を書く際に役に立つ文法事項の復習も適宜行います。

第1回 授業のイントロダクション, Chapter 6 Understanding the Writing Process (1)
第2回 Chapter 6 Understanding the Writing Process (2)
第3回 Chapter 7 Supporting the Main Idea (1)
第4回 Chapter 7 Supporting the Main Idea (2)
第5回 Chapter 7 Supporting the Main Idea (3)
第6回 Chapter 9 Writing Descriptions (1)
第7回 Chapter 9 Writing Descriptions (2)
第8回 Chapter 9 Writing Descriptions (3)
第9回 Chapter 10 Expressing Your Opinion (1)
第 10 回 Chapter 10 Expressing Your Opinion (2)
第 11 回 Chapter 10 Expressing Your Opinion (3)
第 12 回 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects (1)
第 13 回 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects (2)
第 14 回 学期末試験と授業の総括

履修上の注意

英語の文章を書く課題を出すので、課題はかならず提出すること。
課題に取り組むときには必ず英和辞典と和英辞典の両方(電子辞書・紙媒体のどちらでもよい)を用意し、辞書を積極的に活用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書のなかで事前に講師が指定する箇所を熟読し, 練習問題を解いておくこと。
復習:授業で学んだ内容を整理するとともに、授業で学んだこと(トピック・センテンスやサポーティング・センテンスの書き方など)を踏まえていろいろなパターンの英文を書く練習をすること。

教科書

Karen Blanchard & Christine Root,[i]Ready to Write 2[/i] Pearson
ISBN: 978-0-13-439932-4

参考書

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説および講評については、授業時間内に行うか、Oh-o!Meiji を通じて配信する。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30% とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
藤野 悠子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 春学期授業の概要説明
第2回 Chapter 7 Supporting the Main Idea
第3回 Chapter 8 Explaining a Process
第4回 Chapter 8 Explaining a Process
第5回 Chapter 9 Writing Descriptions
第6回 Chapter 9 Writing Descriptions
第7回 Chapter 10 Expressing Your Opinion
第8回 Chapter 10 Expressing Your Opinion
第9回 Chapter 11 Comparing and Contrasting
第 10 回 Chapter 11 Comparing and Contrasting
第 11 回 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects
第 12 回 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects
第 13 回 Review
第 14 回 a: 試験 b: 試験の解説

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、テキストの次回の授業で扱う部分に目を通し、内容を把握してきてください。随時 homework を出しますので、必ず準備して授業に臨んでください。

教科書

Ready to Write 2 (5th ed.): Perfecting Paragraphs
著者:Karen Blanchard / Christine Root
ISBN:9780134399324
出版社:Pearson Longman

参考書

課題に対するフィードバックの方法

前週の授業内容や解答した問題の一部については、次週の授業で振り返る機会を設けます。随時出題される homework に関しては、各自にフィードバックを行います。また、クラスメイト同士でチェックを行う機会も設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advanced で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいわないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回 a：イントロダクション
b：Chapter 7 Cause and Effect Step 1:因果関係による展開
第2回 ：Chapter 7 Cause and Effect Step 2:原因・結果パラグラフの基本パターン
第3回 ：Chapter 8 Examples Step 1:例示による展開
第4回 ：Chapter 8 Examples Step 2:固有名詞
第5回 ：Chapter 8 Examples Step 3:具体例を導く語句
第6回 ：Chapter 9 Definition Step 1:定義による展開
第7回 ：Chapter 9 Definition Step 2:主題の定義文
第8回 ：Chapter 10 Classification Step 1:分類による展開
第9回 ：Chapter 10 Classification Step 2 :分類の基準
第 10 回 ：Chapter 11 Comparison and Contrast Step 1:比較・対照による展開/ グループワーク(1)
第 11 回 ：Chapter 11 Comparison and Contrast Step 2:類似と相違/ グループワーク(2)
第 12 回 ：Chapter 12 Review
第 13 回 ：Chapter 13 From a Paragraph to a Short Essay
第 14 回 a：まとめ
b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

[i]Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraphs[/i]『効果的なパラグラフの書き方』神保尚武 他 (南雲堂)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
香西 史子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

高校までの英語教育ではやってこなかったパラグラフ(段落)の作り方を学びます。具体的には----

(1)パラグラフの冒頭に来るトピックセンテンスの書き方、それにつづく文の構成。
(2)パラグラフを作る際に考えるべきアウトアライン。
(3)複数のパラグラフを積み重ねて、論理的な小論文(エッセイ)にする方法など。

模範となる文章を読みながら、トピックを決めたエッセイ・ライティングの訓練をします。トピックとして
(1)自分の好きなスポーツ(料理、芸術、動物)
(2)ペットを飼うことの是非
(3)読書について など

第１回 ガイダンス
第２回 Chapter 7 Supporting the Main Idea (1)
第３回 Chapter 7 Supporting the Main Idea (2)
第４回 Chapter 8 Explaining a Process (1)
第５回 Chapter 8 Explaining a Process (2)
第６回 Chapter 9 Writing Descriptions (1)
第７回 小テスト
第８回 Chapter 10 Expressing Your Opinion (1)
第９回 Chapter 10 Expressing Your Opinion (2)
第 10 回 Chapter 11 Comparing and Contrasting (1)
第 11 回 Chapter 11 Comparing and Contrasting (2)
第 12 回 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects (1)
第 13 回 Chapter 12 Analyzing Causes and Effects (2)
第 14 回 試験

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出すること。

欠席が授業数の1/3以上の場合、受験資格を失います。
教室備え付けの PC を使用します。保存が必要なデータ用のストレージ(USB、クラウド等)を必ず準備／持参してください。授業中に積極的にインターネットの活用をする場合があります。
なお、授業は英語と日本語を併用して行います。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で、次回までの課題等を指示しますので、必ず時間を作って準備してきてください。課題には、授業内で学んだことを基にしたライティングと、次回授業で深める内容についての予習の2種類があります。
予習には 60 分程度、復習にも 60 分程度要します。

教科書

Karen Blanchard and Christine Root 著 Ready to Write 2 (Pearson Longman, Fifth Edition)

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題にはコメントをつけて Oh Meiji を通して返却する。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
相馬 美明	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいかないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

高校までの英語教育ではやってこなかったパラグラフ(段落)の作り方を学びます。具体的には----

(1)パラグラフの冒頭に来るトピックセンテンスの書き方、それにつづく文の構成。
(2)パラグラフを作る際に考えるべきアウトアライン。
(3)複数のパラグラフを積み重ねて、論理的な小論文(エッセイ)にする方法など。

模範となる文章を読みながら、トピックを決めたエッセイ・ライティングの訓練をします。トピックとして
(1)将来の夢
(2)大学で学びたいこと
(3)旅について など

第1回 パラグラフライティング、リスニング(1)、P.45, EX.13, Wedding Ceremony Expenses, Just the way you are
第2回 パラグラフライティング、リスニング(2)、P.45-50, EX.14, Good memory, Film 1
第3回 パラグラフライティング、リスニング(3)、P.50-60, EX.16, Halloween, Film 1
第4回 EX.17, Film 1-2, writing 指示
第5回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(1)
第6回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(2)
第7回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(3)
第8回 複数のパラグラフライティング、プレゼンテーション(4)
第9回 実践(1)、TOEIC test, Film 2
第 10 回 実践(2)、EX.18, Film 3,
第 11 回 実践(3)、EX.19, Film 4,
第 12 回 実践(4)
第 13 回 実践(5)
第 14 回 まとめ

履修上の注意

授業は楽しくても、予習／復習は楽しくない。それは、英語の授業だけでなく、どの世界・分野でも同じ。課題はかならず提出すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

指示に従い、決められた課題をこなし、授業には積極的に参加すること。

教科書

Get Your Message Across (NAN'UN-DO)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

できうる限り授業内においてフィードバックしたいと考える。あるいは必要に応じ Oh-o!Meiji に掲載、対応したい。

欠席のご連絡をいただいた学生には、できうるかぎり授業の音声ファイルによるフォロー、確認、資料配布などを行っていきたいと考える。
学生にとって理解の大きな一助となることを願っております。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
原田 道子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

どうも英語の小論文とはいないまでも、英語の作文が苦手だと思っている人はいませんか？
与えられた課題に対して、論理的かつ説得力のある文章を書くための秘訣を知りたいとは思いませんか？
この授業は、そんな人に打ってつけです。
とにかく実践的な訓練を積み重ねるので、英語のエッセイや論文のみならず、日本語の小論文やエッセイ(あるいは、エントリーシート)を書く際にも役に立ちます。
一年間、真面目にこつこつ訓練をこなせば、英語でエッセイや小論文を書くことに対する自信が必ずつきます。

授業内容

第1回　a：イントロダクション
　　b：Chapter 7 Cause and Effect Step 1:因果関係による展開
第2回：Chapter 7 Cause and Effect Step 2:原因・結果パラグラフの基本パターン
第3回：Chapter 8 Examples Step 1:例示による展開
第4回：Chapter 8 Examples Step 2:固有名詞
第5回：Chapter 8 Examples Step 3:具体例を導く語句
第6回：Chapter 9 Definition Step 1:定義による展開
第7回：Chapter 9 Definition Step 2:主題の定義文
第8回：Chapter 10 Classification Step 1:分類による展開
第9回：Chapter 10 Classification Step 2 :分類の基準
第 10 回：Chapter 11 Comparison and Contrast Step 1:比較・対照による展開/ グループワーク(1)
第 11 回：Chapter 11 Comparison and Contrast Step 2:類似と相違/ グループワーク(2)
第 12 回：Chapter 12 Review
第 13 回：Chapter 13 From a Paragraph to a Short Essay
第 14 回　a：まとめ
　　b：試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を読み、分からない語句について辞書等で調べること。復習として、教科書の該当箇所を読むこと。ディスカッションのトピックについて下調べをし、その要約を用意すること。予習には 90 分、復習には 60 分程度を要する。

教科書

[i]Get Your Message Across: Writing Communicative Paragraph[/i]s『効果的なパラグラフの書き方』神保尚武 他 (南雲堂)

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解説は、期末試験前の授業で行います。また、最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

学期末に試験を行なう。成績評価は、平常点 20%・小テスト 10%・課題の提出 10%・授業態度(積極的な発言)10%・学期末の試験 50%を総合的に判断して行なう。

その他

1年次4月実施の TOEIC 試験のスコアに基づき1年次のクラス編成を行います。また、1年次期末実施の TOEIC 試験のスコアに基づき2年次のクラス編成を行います。
S・A 評価の割合については, 原則として Advance で 70%, Intermediate で 50%, Basic で 30%とします。
マイクを使用して、講義が聞き取りやすいようにします。

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English A(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
竹谷悦子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
授業内容
履修上の注意
準備学習(予習・復習等)の内容
教科書
参考書
課題に対するフィードバックの方法
成績評価の方法
その他

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
Academic English B(Basic)	ー	
担 当 者	開講期	開講地区
竹谷悦子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
授業内容
履修上の注意
準備学習(予習・復習等)の内容
教科書
参考書
課題に対するフィードバックの方法
成績評価の方法
その他

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills A(Inter.)	English Communication Skills A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
タプスフィルド, エイミー	春学期	和泉
授業の概要・到達目標		
授業内容		
履修上の注意		
準備学習(予習・復習等)の内容		
教科書		
参考書		
課題に対するフィードバックの方法		
成績評価の方法		
その他		

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Communication Skills B(Inter.)	English Communication Skills B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
タプスフィルド, エイミー	秋学期	和泉
授業の概要・到達目標		
授業内容		
履修上の注意		
準備学習(予習・復習等)の内容		
教科書		
参考書		
課題に対するフィードバックの方法		
成績評価の方法		
その他		

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing A(Inter.)	English Paragraph Writing A(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
タプスフィルド, エイミー	春学期	和泉
授業の概要・到達目標		
授業内容		
履修上の注意		
準備学習(予習・復習等)の内容		
教科書		
参考書		
課題に対するフィードバックの方法		
成績評価の方法		
その他		

科目ナンバー:(AL)LAN111M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
English Paragraph Writing B(Inter.)	English Paragraph Writing B(Inter.)	
担 当 者	開講期	開講地区
タプスフィルド, エイミー	秋学期	和泉
授業の概要・到達目標		
授業内容		
履修上の注意		
準備学習(予習・復習等)の内容		
教科書		
参考書		
課題に対するフィードバックの方法		
成績評価の方法		
その他		

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅠA	スペイン語ⅠA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 麻里乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

スペイン語を初めて習う学生を対象とし、読み方と文法の初歩を学ぶ。動詞の現在形を使った平易な表現が一通りわかるようになることを目標とする。

授業内容

第1回～第2回 第1課(発音、アクセントなど)
第3回～第4回 第2課(名詞の性数・冠詞・基数詞など)
第5回～第7回 第3課(形容詞・主格人称代名詞・動詞 ser・疑問文・否定文など)、第4課(規則動詞・疑問詞疑問文・接続詞など)
第8回～第 10 回 第5課(動詞 estar と hay・序数詞・時刻や日付の表現など)、第6課(不規則動詞1・指示詞・所有詞1など)
第 11 回～第 13 回 第7課(不規則動詞2・目的格人称代名詞など)、第8課(不規則動詞3・所有詞2など)
第 14 回 a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は積み重ねなので、習ったことをよく理解し覚えていられるかどうかが重要になります。したがって、特に復習をしっかりすることが必要です。教科書でやった文法事項と単語の意味は必ず暗記しましょう。予習としては、新出事項以外の部分が理解できているかどうかを確認しておくとよいでしょう。

教科書

『スペイン語基礎文法[改訂版]』和佐敦子著(白水社)

参考書

『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂)

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答を授業内で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%＋授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅠA	スペイン語ⅠA	
担 当 者	開講期	開講地区
有田 美保	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

スペイン語の基礎を学ぶ。スペイン語は母語話者数・学習者数ともに世界有数の言語であり、大変有用な言語である。本授業は入門者向けであり、文法の理解・習得と作文に焦点をあてる。動詞の直説法現在の活用とその他の基礎的な文法事項を学び、それらを用いた短い文を作ることができるようになることを目標とする。

授業内容

第1週 アルファベート、発音、あいさつ表現
第2週 英語の be 動詞にあたる表現(ser 動詞)
第3週 英語の be 動詞にあたる表現(ester 動詞)
第4週 英語の be 動詞にあたる表現まとめ
第5週 指示詞・所有形容詞・疑問詞
第6週 規則動詞(-ar 動詞)
第7週 規則動詞(-er/ir 動詞)
第8週 不規則動詞(dar/ver/ir)
第9週 不規則動詞(hacer)
第 10 週 不規則動詞(tener)
第 11 週 不規則動詞(hacer/tener まとめ)
第 12 週 不規則動詞(querer/venir)
第 13 週 不規則動詞(conocer/saber/poder)
第 14 週 a:まとめ、b:試験

履修上の注意

講義内容を復習し、都度 100%の理解をもって進むことが語学学習には不可欠である。よって、毎回の出席と復習をかねた宿題遂行を特に重んじている。任意的な課題の機会も応用し、この言語を一歩ずつ確実に自分のものにしていこう！
○欠席した場合の次回参加は各人で授業内容(含 宿題)をフォローアップしていることを前提とする。授業回数3分の1以上の欠席者は評価対象外となるが、「特別な理由」(診断書のある疾病、立証書類で客観性の認められる就職活動や学業活動、冠婚葬祭等)による欠席は都度教員に相談のこと。理由を申し述べることのない3連続欠席の場合、便宜上、教員のリストから抹消する。
○「自分はこれまで何回欠席していますか？」、「XX月XX日に遅刻したのですが、欠席扱いになっていますか？」等の出欠歴の照会をお断りする。
○教員連絡用アドレス m-arita@obirin.ac.jp(欠席に関する連絡は不要。欠席授業の内容や課題確認も含め返信していない。)
○再試験・単位授与のためのレポート等は認めない。
○板書の撮影、授業の録音等、教員が許可しない電子機器の使用を禁じ、違反を減点する。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストのふろくを用いて、毎回の授業範囲の単語を暗記すること。
学習したスペイン語文はかならず家で音読すること。

教科書

『Paso doble ～ Primer paso』有田美保 (弘学社) ￥2200(価格未定)
(今回教科書改訂を行なっているため、大学生協より正規に購入のこと。前年度版や複写・撮影画像等での授業参加は認めていない。)
※近年、アマゾンやメルカリといったフリマアプリより旧版の中古本を購入した学生が授業進行を混乱させるケースがあるため、前もって厳禁を言い渡しておく。

参考書

配布プリントを補助教材として常時携帯のこと

課題に対するフィードバックの方法

直接返却及び学内システムを使用

成績評価の方法

試験の得点(小テストと期末試験の合計得点を 100 点換算したもの)から、欠席・遅刻、宿題・欠席のフォローアップ未遂行・態度不良、教科書(本体)を持参しない受講、貧困な内容の提出物などに対し減点(最大 30 点)、積極的な質問、優秀な提出物などに対し加点(最大 10 点)したうえで最終評価を出します。60 点以下の者には単位を授与しません。

その他

楽器をマスターするのと同様に、語学もまたスクーリングだけで身につくものではありません。できるだけ毎日スペイン語に触れると、次回クラスでの感触が全然違います。毎授業たった数個の重要ポイントを確実に身に付けることにより、語学は『誰にでも、必ず』習得できると考えます。語学好きの者は更なる西語学習や別言語へのチャレンジを、苦手意識のある者はそれを打破する機会となることを期待します！

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩA	スペイン語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤　麻里乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

スペイン語を初めて習う学生を対象とし、読み方と文法の初歩を学ぶ。動詞の現在形を使った平易な表現が一通りわかるようになることを目標とする。

授業内容

第1回～第2回 第1課(発音、アクセントなど)
第3回～第4回 第2課(名詞の性数・冠詞・基数詞など)
第5回～第7回 第3課(形容詞・主格人称代名詞・動詞 ser・疑問文・否定文など)、第4課(規則動詞・疑問詞疑問文・接続詞など)
第8回～第 10 回 第5課(動詞 estar と hay・序数詞・時刻や日付の表現など)、第6課(不規則動詞1・指示詞・所有詞1など)
第 11 回～第 13 回 第7課(不規則動詞2・目的格人称代名詞など)、第8課(不規則動詞3・所有詞2など)
第 14 回 a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は積み重ねなので、習ったことをよく理解し覚えていられるかどうかが重要になります。したがって、特に復習をしっかりすることが必要です。教科書でやった文法事項と単語の意味は必ず暗記しましょう。予習としては、新出事項以外の部分が理解できているかどうかを確認しておくとよいでしょう。

教科書

『スペイン語基礎文法[改訂版]』和佐敦子著(白水社)

参考書

『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂)

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答を授業内で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%＋授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩA	スペイン語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
石原　セルヒオナバロ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ネイティブの教師とともに、まずスペイン語の発音・イントネーションを身につけることから始めます。さまざまに設定された場面の中で、スペイン語特有の表現を覚えていきましょう。日常的な挨拶や自己紹介、買い物などができることを今期の目的とします。

授業内容

第1回:スペイン語に入門 Introducción al español.
第2回:Unidad 1.
名詞の性, 名詞の数, 定冠詞と不定冠詞.
第3回:Unidad 2.
形容詞の性と数, 指示形容詞.
第4回:Unidad 3.
動詞 Estar 直説法現在, Ser vs Estar, 動詞 Haber (Hay), Hay vs Estar, 所有形容詞前置形,
動詞 Tener 直説法現在
第5回:Unidad 3.
動詞 Estar 直説法現在, Ser vs Estar, 動詞 Haber (Hay), Hay vs Estar, 所有形容詞前置形,
動詞 Tener 直説法現在
第6回:Unidad 4.
直接法現在規則活用動詞, 前置詞、疑問視
第7回:Unidad 4.
直接法現在規則活用動詞,前置詞、疑問視
第8回:Unidad 5.
直接法現在不規則活用動詞 (1), 不定詞表現
第9回:Unidad 5.
直接法現在不規則活用動詞 (1), 不定詞表現
第 10 回:Unidad 6.
直接法現在不規則活用動詞 (3), 動詞 Querer+不定詞, 動詞 Poder+不定詞, 動詞 Pensar+不定詞
第 11 回:Unidad 6
直接法現在不規則活用動詞 (3), 動詞 Querer+不定詞, 動詞 Poder+不定詞, 動詞 Pensar+不定詞
第 12 回:Unidad 7.
直接法現在不規則活用動詞 (2), 動詞 Saber と Conocer, 時刻の表現, 天候の表現
直接目的格人称代名詞, 間接目的格人称代名詞
第 11 回:Unidad 7.
直接法現在不規則活用動詞 (2), 動詞 Saber と Conocer, 時刻の表現, 天候の表現
直接目的格人称代名詞, 間接目的格人称代名詞
第 12 回:Unidad 8.
再帰動詞
第 13 回:まとめ
再帰動詞
第 14 回: 定期試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】
レッスンの準備をする, 宿題をやる.
【復習】
レッスンを見直す. 困難なポイントを学ぶ.

教科書

Eugenio del Prado/Hanako Saito/Shinji Nakamichi
Nuevo español con ritmo 1
Hakusuisha (白水社), 2023
ISBN 978-4-8102-0443-8

参考書

授業で指示します.

課題に対するフィードバックの方法

答案・レポートを適切な方法で返却する
試験問題(模範解答)・レポートの解説を行う

成績評価の方法

各クラスの宿題
授業への参加度 30%
定期試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅠA	スペイン語ⅠA	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 セルヒオナバロ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
ネイティブの教師とともに、まずスペイン語の発音・イントネーションを身につけることから始めます。さまざまに設定された場面の中で、スペイン語特有の表現を覚えていきましょう。日常的な挨拶や自己紹介、買い物などができることを今期の目的とします。

授業内容
第1回:春学期の復習
第2回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第3回:Unidad 9
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第4回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第5回:Unidad 10
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第6回:Unidad 10.
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第7回:Unidad 11.
直接法点過去規則活用動詞
第8回:Unidad 12.
直接法点過去規則活用動詞, 線過去
第9回:Unidad 13.
過去分詞, 直接法現在完了
第 10 回:Unidad 13
過去分詞, 直接法現在完了
第 11 回:Unidad 14
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 12 回:Unidad 14.
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 13 回:Unidad 15.
直接法未来, 直接法過去
第 14 回 : 定期試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

準備学習(予習・復習等)の内容
きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

教科書
Eugenio del Prado/Hanako Saito/Shinji Nakamichi
Nuevo español con ritmo 1
Hakusuisha (白水社), 2023
ISBN 978-4-8102-0443-8

参考書
授業で指示します

課題に対するフィードバックの方法
答案・レポートを適切な方法で返却する
試験問題(模範解答)・レポートの解説を行う

成績評価の方法
各クラスの宿題
平常点 30%, 定期試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅠA	スペイン語ⅠA	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 セルヒオナバロ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
ネイティブの教師とともに、まずスペイン語の発音・イントネーションを身につけることから始めます。さまざまに設定された場面の中で、スペイン語特有の表現を覚えていきましょう。日常的な挨拶や自己紹介、買い物などができることを今期の目的とします。

授業内容
第1回:スペイン語に入門 Introducción al español.
第2回:Unidad 1.
名詞の性, 名詞の数, 定冠詞と不定冠詞.
第3回:Unidad 2.
形容詞の性と数, 指示形容詞.
第4回:Unidad 3.
動詞 Estar 直説法現在, Ser vs Estar, 動詞 Haber (Hay), Hay vs Estar, 所有形容詞前置形,
動詞 Tener 直説法現在
第5回:Unidad 3.
動詞 Estar 直説法現在, Ser vs Estar, 動詞 Haber (Hay), Hay vs Estar, 所有形容詞前置形,
動詞 Tener 直説法現在
第6回:Unidad 4.
直接法現在規則活用動詞, 前置詞、疑問視
第7回:Unidad 4.
直接法現在規則活用動詞,前置詞、疑問視
第8回:Unidad 5.
直接法現在不規則活用動詞 (1), 不定詞表現
第9回:Unidad 5.
直接法現在不規則活用動詞 (1), 不定詞表現
第 10 回:Unidad 6.
直接法現在不規則活用動詞 (3), 動詞 Querer+不定詞, 動詞 Poder+不定詞, 動詞 Pensar+不定詞
第 11 回:Unidad 6
直接法現在不規則活用動詞 (3), 動詞 Querer+不定詞, 動詞 Poder+不定詞, 動詞 Pensar+不定詞
第 12 回:Unidad 7.
直接法現在不規則活用動詞 (2), 動詞 Saber と Conocer, 時刻の表現, 天候の表現
直接目的格人称代名詞, 間接目的格人称代名詞
第 11 回:Unidad 7.
直接法現在不規則活用動詞 (2), 動詞 Saber と Conocer, 時刻の表現, 天候の表現
直接目的格人称代名詞, 間接目的格人称代名詞
第 12 回:Unidad 8.
再帰動詞
第 13 回:まとめ
再帰動詞
第 14 回: 定期試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

準備学習(予習・復習等)の内容
【予習】
レッスンの準備をする, 宿題をやる.
【復習】
レッスンを見直す. 困難なポイントを学ぶ.

教科書
Mizue Shinomiya, Sae Ochiai, Paloma Trenado
¡Acción! Tercera edición
白水社, 2021
ISBN 978-4-560-09955-1

参考書
授業で指示します.

課題に対するフィードバックの方法
答案・レポートを適切な方法で返却する
試験問題(模範解答)・レポートの解説を行う

成績評価の方法
各クラスの宿題
平常点 30%, 定期試験 70%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩＢ	スペイン語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤　麻里乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ＩＡに引き続き、文法の初歩を学ぶ。過去形、分詞、比較表現、関係詞、また gustar 構文・再帰動詞など英語とは異なる表現が一通りわかるようになることを目標とする。

授業内容

第1回　春学期の復習
第2回～第4回　第9課(前置詞格・gustar 型動詞など)、第 10 課(再帰動詞など)
第5回～第7回　第 11 課(命令法・不定詞・現在分詞など)、第 12 課(過去分詞・現在完了・不定語と否定語など)
第8回～第 10 回　第 13 課(比較表現・感嘆文など)、第 14 課(点過去規則動詞など)
第 11 回～第 13 回　第 15 課(点過去不規則動詞・受動文など)、第 16 課(線過去・過去完了・関係詞など)
第 14 回　a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は積み重ねなので、習ったことをよく理解し覚えていられるかどうかが重要になります。したがって、特に復習をしっかりすることが必要です。教科書でやった文法事項と単語の意味は必ず暗記しましょう。予習としては、新出事項以外の部分が理解できているかどうかを確認しておくとよいでしょう。

教科書

『スペイン語基礎文法[改訂版]』和佐敦子著(白水社)

参考書

『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂)

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答を授業内で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%＋授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩＢ	スペイン語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
有田　美保	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では，現在形を学んでいることを前提に，現在完了形，過去形など新しい時制を中心に学び，スペイン語の基礎を固めると同時に，表現や理解の幅を広げていきます。スペイン語である程度のコミュニケーションを成立させること、辞書を片手にスペイン語の文章をある程度読み取れることを到達目標とします。

学んだ知識を用いて積極的に表現し，意欲をもって予復習に取り組み，検定受検など自分なりの目標を定め，スペイン語力の向上に努めてください。

授業内容

第1週　直接目的格代名詞
第2週　間接目的格代名詞
第3週　目的格代名詞仕上げ
第4週　向き違いの動詞(1)
第5週　向き違いの動詞(2)
第6週　向き違いの動詞(3)
第7週　再帰表現(自分自身に及ぶ動作)
第8週　再帰表現(変意・相互)
第9週　再帰表現(受身・無人称)
第 10 週　再帰表現(まとめ)　＆　映像で見るスペインの文化と生活
第 11 週　ふたつの過去形(基礎)
第 12 週　ふたつの過去形(応用)
第 13 週　ふたつの過去形(まとめ)
第 14 週　a:まとめ、b:試験

履修上の注意

講義内容を復習し，都度 100%の理解をもって進むことが語学学習には不可欠である。よって，毎回の出席と復習をかねた宿題遂行を特に重んじている。任意的な課題の機会も応用し，この言語を一歩ずつ確実に自分のものにしていこう！
○欠席した場合の次回参加は各人で授業内容(含　宿題)をフォローアップしていることを前提とする。授業回数3分の1以上の欠席者は評価対象外となるが，「特別な理由」(診断書のある疾病，立証書類で客観性の認められる就職活動や学業活動，冠婚葬祭等)による欠席は都度教員に相談のこと。理由を申し述べることのない3連続欠席の場合，便宜上，教員のリストから抹消する。
○「自分はこれまで何回欠席していますか？」、「XX月XX日に遅刻したのですが、欠席扱いになっていますか？」等の出欠歴の照会をお断りする。
○再試験・単位授与のためのレポート等は認めない。
○板書の撮影，授業の録音等，教員が許可しない電子機器の使用を禁じ，違反を減点する。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストのふりくを用いて、毎回の授業範囲の単語を暗記すること。
学習したスペイン語文はかならず家で音読すること。

教科書

『Paso doble　～　Primer paso』有田美保（弘学社）￥2200(価格未定)
(今回教科書改訂を行なっているため、大学生協より正規に購入のこと。前年度版や複写・撮影画像等での授業参加は認めていない。)
※近年、アマゾンやメルカリといったフリマアプリより旧版の中古本を購入した学生が授業進行を混乱させるケースがあるため、前もって厳禁を言い渡しておく。

参考書

配布プリントがあれば、補助教材として常時携帯のこと

課題に対するフィードバックの方法

直接返却及び学内システムを使用

成績評価の方法

試験の得点(小テストと期末試験の合計得点を 100 点換算したもの)から，欠席・遅刻，宿題・欠席のフォローアップ未遂行・態度不良、教科書(本体)を持参しない受講、貧困な内容の提出物などに対し減点(最大 30 点)、積極的な質問，優秀な提出物などに対し加点(最大 10 点)したうえで最終評価を出します。60 点以下の者には単位を授与しません。

その他

本言語の学習を通し，英文法に対して別の視点から理解を深めることができるようになったり，他のラテン語系に触れたときになんとなく理解できたり…といったような言語学的な直感が磨かれるならこの上ない幸せです。

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩＢ	スペイン語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤　麻里乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ＩＡに引き続き、文法の初歩を学ぶ。過去形、分詞、比較表現、関係詞、また gustar 構文・再帰動詞など英語とは異なる表現が一通りわかるようになることを目標とする。

授業内容

第1回 春学期の復習
第2回～第4回 第9課(前置詞格・gustar 型動詞など)、第 10 課(再帰動詞など)
第5回～第7回 第 11 課(命令法・不定詞・現在分詞など)、第 12 課(過去分詞・現在完了・不定語と否定語など)
第8回～第 10 回 第 13 課(比較表現・感嘆文など)、第 14 課(点過去規則動詞など)
第 11 回～第 13 回 第 15 課(点過去不規則動詞・受動文など)、第 16 課(線過去・過去完了・関係詞など)
第 14 回 a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は積み重ねなので、習ったことをよく理解し覚えていられるかどうかが重要になります。したがって、特に復習をしっかりすることが必要です。教科書でやった文法事項と単語の意味は必ず暗記しましょう。予習としては、新出事項以外の部分が理解できているかどうかを確認しておくとよいでしょう。

教科書

『スペイン語基礎文法[改訂版]』和佐敦子著(白水社)

参考書

『デイリーコンサイス西和・和西辞典』(三省堂)

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解答を授業内で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%＋授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩＢ	スペイン語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
石原　セルヒオナバロ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ネイティブの教師とともに、まずスペイン語の発音・イントネーションを身につけることから始めます。さまざまに設定された場面の中で、スペイン語特有の表現を覚えていきましょう。日常的な挨拶や自己紹介、買い物などができることを今期の目的とします。

授業内容

第1回:春学期の復習
第2回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第3回:Unidad 9
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第4回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第5回:Unidad 10
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第6回:Unidad 10.
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第7回:Unidad 11.
直接法点過去規則活用動詞
第8回:Unidad 12.
直接法点過去規則活用動詞, 線過去
第9回:Unidad 13.
過去分詞, 直接法現在完了
第 10 回:Unidad 13
過去分詞, 直接法現在完了
第 11 回:Unidad 14
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 12 回:Unidad 14.
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 13 回:Unidad 15.
直接法未来, 直接法過去
第 14 回:定期試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

準備学習(予習・復習等)の内容

きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

教科書

Eugenio del Prado/Hanako Saito/Shinji Nakamichi
Nuevo español con ritmo 1
Hakusuisha (白水社), 2023
ISBN 978-4-8102-0443-8

参考書

授業で指示します

課題に対するフィードバックの方法

答案・レポートを適切な方法で返却する
試験問題(模範解答)・レポートの解説を行う

成績評価の方法

各クラスの宿題
平常点 30%, 定期試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩＢ	スペイン語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 セルヒオナバロ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
ネイティブの教師とともに、まずスペイン語の発音・イントネーションを身につけることから始めます。さまざまに設定された場面の中で、スペイン語特有の表現を覚えていきましょう。日常的な挨拶や自己紹介、買い物などができることを今期の目的とします。

授業内容
第1回:春学期の復習
第2回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第3回:Unidad 9
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第4回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第5回:Unidad 10
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第6回:Unidad 10.
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第7回:Unidad 11.
直接法点過去規則活用動詞
第8回:Unidad 12.
直接法点過去規則活用動詞, 線過去
第9回:Unidad 13.
過去分詞, 直接法現在完了
第 10 回:Unidad 13
過去分詞, 直接法現在完了
第 11 回:Unidad 14
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 12 回:Unidad 14.
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 13 回:Unidad 15.
直接法未来, 直接法過去
第 14 回:定期試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

準備学習(予習・復習等)の内容
きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

教科書
Eugenio del Prado/Hanako Saito/Shinji Nakamichi
Nuevo español con ritmo 1
Hakusuisha (白水社), 2023
ISBN 978-4-8102-0443-8

参考書
授業で指示します

課題に対するフィードバックの方法
答案・レポートを適切な方法で返却する
試験問題(模範解答)・レポートの解説を行う

成績評価の方法
各クラスの宿題
平常点 30%, 定期試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ＩＢ	スペイン語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 セルヒオナバロ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
ネイティブの教師とともに、まずスペイン語の発音・イントネーションを身につけることから始めます。さまざまに設定された場面の中で、スペイン語特有の表現を覚えていきましょう。日常的な挨拶や自己紹介、買い物などができることを今期の目的とします。

授業内容
第1回:春学期の復習
第2回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第3回:Unidad 9
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第4回:Unidad 9.
前置詞格人称代名詞, Gustar 動詞, Gustar と同様に用いられる動詞
第5回:Unidad 10
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第6回:Unidad 10.
所有形容詞後置形, 比較級, 最上級
第7回:Unidad 11.
直接法点過去規則活用動詞
第8回:Unidad 12.
直接法点過去規則活用動詞, 線過去
第9回:Unidad 13.
過去分詞, 直接法現在完了
第 10 回:Unidad 13
過去分詞, 直接法現在完了
第 11 回:Unidad 14
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 12 回:Unidad 14.
現在分詞,現在進行形、関係詞
第 13 回:Unidad 15.
直接法未来, 直接法過去
第 14 回:定期試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容
きちんと出席し、積極的に授業に参加しましょう。
3分の1以上欠席した場合は、試験を受ける権利を放棄したことになります.

教科書
Mizue Shinomiya, Sae Ochiai, Paloma Trenado
¡Acción! Tercera edición
白水社, 2021
ISBN 978-4-560-09955-1

参考書
授業で指示します

課題に対するフィードバックの方法
答案・レポートを適切な方法で返却する
試験問題(模範解答)・レポートの解説を行う

成績評価の方法
各クラスの宿題
平常点 30%, 定期試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡA	スペイン語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
デ・エステバン・バケ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は初めてスペイン語を学ぶ学生が対象です。まずは世界におけるスペイン語の現状を把握し、その重要性を確認すること、英語とは違うアルファベットや記号などスペイン語の主な特徴を知ることから始めます。時制は規則活用と不規則活用の一部を含む直説法現在に焦点を当て、時間をかけて丁寧に学習します。また、少人数のグループに分かれ、単語カードを使うなどして語彙力を身につけていきます。音読と書き取りの練習も行います。
到達目標:スペイン語の基本 4 技能(聞く、話す、読む、書く)の習得を目指し、初歩的なコミュニケーション能力

授業内容

第 1 回目
イントロダクション:講師の自己紹介、世界におけるスペイン語とスペイン語圏の主な国々
第 2 回目
アルファベット、大文字・小文字、数字(1～10)、句読点、疑問符・感嘆符、発音、挨拶と授業で使われる主な表現
第 3 回目
音節、アクセントとその記号、品詞概要、主格人称代名詞(単数)、直説法現在形 SER 動詞(単数)「～である」、姓と名前(挨拶・簡単な自己紹介の仕方)
第 4 回目
定冠詞、主格人称代名詞(複数)、直説法現在 SER 動詞(複数)、名詞と形容詞における性・数、否定文・疑問文
第 5 回目
不定冠詞、女性名詞につく冠詞 el、曜日・月・日付、国名と国籍、疑問詞＋SER 動詞
第 6 回目
第 1 回小テスト、所有詞、主な副詞(muy, bien/mal, mucho/poco)、直説法現在規則活用の -ar 動詞、色、数字(11～20)
第 7 回目
指示詞、場所と時間を表す副詞、直説法現在規則活用の -er 動詞、CREER ＋que「～と思う」、音読
第 8 回目
直説法現在規則活用の -ir 動詞、 -ar 動詞と-er 動詞の復習、時刻表現、主な前置詞(冠詞・人称代名詞との組み合わせ)、音読
第 9 回目
直説法現在 ESTAR 動詞「いる・ある」と副詞・前置詞・現在分詞・過去分詞・形容詞との組み合わせ、書き取り
第 10 回目
第2回小テスト、直説法現在 HABER 動詞「～がある」・HABER＋que＋不定詞「～しなければならない」、主な接続詞、音読と書き取り
第 11 回目
SER・ESTAR・HABER 動詞のまとめ、直説法現在不規則活用の動詞(o/u→ue)、PODER 動詞(可能・許可・依頼)
第 12 回目
一人称単数が不規則活用の動詞、数字(21～100)、PODER 動詞と SABER 動詞の違い、音読と書き取り
第 13 回目
第 1 回～第 12 回のまとめ、期末試験の説明、音読と書き取りテスト
第 14 回目
a. 期末試験
b. 正答解説

履修上の注意

スピーキング能力を向上させるため、ペアワークやグループでの会話、ロールプレイなどの活動を行います。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを期待します。

準備学習(予習・復習等)の内容

「予習を円滑に行えるよう、教材は原則として授業の 1 週間前に配布します。学生は事前に目を通し、不明な単語や文法事項を調べておくことが求められます。」

教科書

特に定めません。

参考書

西和辞典を用意して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

正答解説:小テストは次の講義で、期末試験は第 14 回の b モジュールで行います。

成績評価の方法

筆記の小テスト 20%、 音読テスト 15%、書き取りテスト 15%、期末試験 50%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡA	スペイン語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
セグ スビラホセオ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は, 初めてスペイン語を学習する人を対象として, スペイン語の発音から学びはじめ, 現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は, 綴りと発音の関係が明確で, 比較的発音しやすいので, 最初
からスムーズに学んでいけます。動詞の活用, 名詞／形容詞の性数一致など, 覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も, 発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し, 一歩一歩着実に進んでいけるよう

授業内容

第 1 週:アルファベット、発音、アクセント、挨拶
第 2 週:自己紹介
第 3 週:主語代名詞、名詞の性と数 定冠詞、"SER" 動詞。 国籍・職業を表現する
第 4 週:不定冠詞、30 までの数字、品質形容詞. "TENER"動詞。 年齢を表現する
第 5 週:不定冠詞。人物描写／モノ描写
第 6 週:所有詞前置形. 家族
第 7 週:指示形容詞. "ESTAR" 動詞. 位置の表現
第 8 週:"ESTAR - HAY" 動詞. 場所を表す副詞
第 9 週:数字 / 場所を描写する
第 10 週:規則動詞(1) "HACER" "IR" 動詞
第 11 週:規則動詞 (2), 曜日 疑問詞 (2),
第 12 週:規則動詞 (3), 頻度副詞 (教科書:Unidad 5)/ 時間
第 13 週:復習
第 14 週:まとめ. 期末試験

履修上の注意

積極的に授業に参加する事

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:Oh-o Meiji に"Learning materials"を見てください。
復習:授業で勉強した内容(文法・語彙・など)を復習する。

教科書

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末試験 80% 授業のへ貢献度 20%

その他

特になし

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡA	スペイン語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
豊丸 敦子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

入門レベルの文法、基本語彙・表現を習得し、簡単なメッセージを理解したり、簡単なコミュニケーションがとれるようになること。

授業内容

1 あいさつする(1):アルファベット、母音、
2 あいさつする(2):子音
3 食料品を買う(1):男性名詞と女性名詞、単数形と複数形
4 食料品を買う(2):冠詞
5 人を紹介する(1):主語人称代名詞と動詞 ser
6 人を紹介する(2):形容詞、疑問文と否定文
7 発展練習
8 仕事や勉強について話す(1):直説法現在・規則動詞(-AR 動詞)
9 仕事や勉強について話す(2):頻度と曜日の表現
10 日常生活について話す(1):直説法現在・規則動詞(-ER 動詞、-IR 動詞)
11 日常生活について話す(2): 所有詞、時刻の表現
12 自分の出身地について話す(1):指示詞
13 自分の出身地について話す(2):動詞 HAY、動詞 ESTAR
14 講義のまとめ、試験とその解説
＊講義内容や進度は必要に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

スペイン語 II A、スペイン語 II B を合わせて履修し、習った内容をしっかり復習して着実に覚えること。
辞書を毎回持参してください。
再試験・単位授与のためのレポート等は実施しません。
私語が甚だしい場合などは退席させます。
また, 講義中のスマートフォンや携帯電話の使用は一切認めないので, 講義に出席するときは電源を切ってください。
教科書を忘れた場合は授業が始まるまでに自分でコピーを用意してください。
板書の撮影、講義の録音等、電子辞書以外の電子機器の使用を固く禁止します。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書にある単語や例文を何度も音読しましょう。それぞれの意味がわからなくてもかまいません。つづりを覚えるのに役立ちます。
復習:授業で習うさまざまな「言葉の決まり」をきちんと覚えるよう努めましょう。語学は積み重ねなので, 毎回の内容をしっかり理解し覚えていられるかどうかが重要になります。

教科書

『アクシオン！≪ライト版≫』
四宮瑞枝、落合佐枝、パロマ・トレナド・デアン 著 (白水社)

参考書

書籍タイプの西和・和西辞書(初回の授業で紹介します)

課題に対するフィードバックの方法

授業内に説明する。

成績評価の方法

試験・授業への参加度を総合的に勘案して評価します。
(おおよその目安は試験 70%・授業への参加度 30%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡA	スペイン語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
スペイン語を初めて学ぶ人が、初級文法を習得するための授業です。
【到達目標】
スペイン語で基本的な事柄を表現し、理解できるようになることを目指します。

授業内容

第1回:アルファベット、発音、あいさつ
第2回:名詞、冠詞
第3回:主語、規則動詞
第4回:形容詞、hay
第5回:指示詞、所有詞
第6回:ser, estar
第7回:estar, hay
第8回:ここまでの確認
第9回:時刻
第 10 回:再帰動詞
第 11 回:比較
第 12 回:前置詞
第 13 回:振り返り
第 14 回:a まとめ・b 試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業前にテキストの内容に目を通しておくことが望ましい。
・定期的に復習し、わからない点は質問すること。

教科書

『El faro エル・ファロ 書いて確認！スペイン語』 栗林ゆき絵他 (朝日出版社)

参考書

スペイン語の辞書を各自で選び、用意する。(電子辞書も可)

課題に対するフィードバックの方法

・試験の解説はクラスウェブ上で行う。
・質問は授業後またはクラスウェブで受け付ける。

成績評価の方法

中間試験と学期末試験(100%)
・遅刻、欠席が多い場合は 10%減点
・授業貢献度低い場合は 10%減点

その他

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡB	スペイン語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
デ・エステバン・バケ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

今学期は前期の内容の復習後、引き続き直説法現在形の不規則動詞を学んでいきます。次に、スペイン語の過去時制の中でも覚えやすいとされる「直説法現在完了」へと進みます。それから、これまでに学んだ動詞に加えて再帰動詞や、間接目的語を用いる動詞(gustar 型動詞)も組み込み、表現の幅を広げていきます。また、前期同様に少人数のグループに分かれ、単語カードを使うなどして語彙力を身につけます。学期の終盤には命令形にも触れます。
到達目標：初級スペイン語における基本表現の習得を目標とする。学期末には得た知識

授業内容

第 1 回目
イントロダクション：世界におけるスペイン語とスペイン語圏の様々な文化、前期の復習 1
第 2 回目
前期の復習 2、直説法現在不規則活用の動詞(e→ie)、QUERER 動詞「～したい・欲しい」
第 3 回目
直説法現在 IR 動詞「行く」、a ＋ 不定詞との組み合わせ、直説法現在不規則活用の動詞(e→i、y)、書き取り
第 4 回目
直説法現在 TENER 動詞「持つ・ある」、TENER＋que＋不定詞「～しなければならない」、目的格人称代名詞(直接・間接)、直説法現在 DAR 動詞「与える」、直説法現在不規則活用の VENIR「来る」・DECIR「言う」・OÍR「聞く」動詞
第 5 回目
直説法現在完了(規則・不規則の過去分詞、時間表現との組み合わせ)
第 6 回目
第 1 回小テスト、再帰動詞・相互再帰動詞の直説法現在、音読と書き取り
第 7 回目
再帰動詞・相互再帰動詞の直説法現在完了、音読と書き取り
第 8 回目
直説法現在 GUSTAR 型動詞、序数(1～10)、書き取り
第 9 回目
条件・譲歩・原因・結果・理由・逆説を表す文、書き取り
第 10 回目
第 2 回小テスト、自己紹介の説明と作文
第 11 回目
様々な語彙と表現：食事・交通・方角・時期・時間帯・季節・学習
第 12 回目
書き取りテスト、命令形、様態と時間の表し方
第 13 回目
自己紹介文の暗唱テスト、第 1 回～第 12 回のまとめ
第 14 回目
a. 期末試験
b. 正答解説

履修上の注意

「スピーキング能力を向上させるため、ペアワークやグループでの会話、ロールプレイなどの活動を行います。間違いを恐れず、積極的に発言・参加することを期待します。」

準備学習(予習・復習等)の内容

「予習を円滑に行えるよう、教材は原則として授業の 1 週間前に配布します。学生は事前に目を通し、不明な単語や文法事項を調べておくことが求められます。」

教科書

特に定めません。

参考書

西和辞典を用意して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

正答解説：小テストは次の講義で、期末試験は第 14 回の b モジュールで行います。

成績評価の方法

筆記の小テスト 20%、 音読テスト 15%、書き取りテスト 15%、期末試験 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡB	スペイン語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
セグ スビラホセオ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は，初めてスペイン語を学習する人を対象として，スペイン語の発音から学びはじめ，現在形を使ってある程度表現・理解ができ、スペイン語で最低限の意志を伝えられるようになることを到達目標とします。 スペイン語は，綴りと発音の関係が明確で，比較的発音しやすいので，最初
からスムーズに学んでいけます。動詞の活用，名詞／形容詞の性数一致など，覚えること・難しい点も少なくない文法面の問題も，発音のしやすさという間口の広さをバネに乗り越えていきましょう。またそのためにも復習を繰り返し，一歩一歩着実に進んでいけるよう

授業内容

第 1 週：前期の復習
第 2 週：不定詞を伴う不規則動詞 :"QUERER ＋ 不定詞" "TENER QUE ＋ 不定詞"
第 3 週：語幹母音変化動詞①、時間、月/ 季節の表現
第 4 週：交通機関・時刻を表示する
第 5 週：語幹母音変化動詞②、天候の表現
第 6 週：再帰動詞 ①
第 7 週：再帰動詞 ②
第 8 週：不定詞を伴う不規則動詞② "PODER ＋ 不定詞"(依頼文) "SABER-CONOCER"動詞
第 9 週："GUSTAR"動詞
第 10 週："GUSTAR"と同じ用いられる動詞
第 11 週：【状態-体調-感情】を表現 "ESTAR ＋ 形容詞"・ "TENER ＋ 名詞"・"DOLER 動詞"
第 12 週：直接目的語代名詞
第 13 週：復習
第 14 週：まとめ、期末試験

履修上の注意

積極的に授業に参加する事

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：Oh-o Meiji に"Learning materials"を見てください。
復習：授業で勉強した内容(文法・語彙・など)を復習する。

教科書

参考書

特に定めない

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末試験 80% 授業のへ貢献度 20%

その他

特になし

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡB	スペイン語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
豊丸 敦子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

入門レベルの文法、基本語彙・表現を習得し、簡単なメッセージを理解したり、簡単なコミュニケーションがとれるようになること。

授業内容

1 春学期の復習
2 伝統文化を紹介する(1):直接目的人称代名詞
3 伝統文化を紹介する(2):1人称単数が不規則な動詞
4 パーティーを準備する(1):間接目的人称代名詞
5 パーティーを準備する(2):語根母音変化動詞(e→ie 型)
6 ネットで繋がる(1):語根母音変化動詞(o→ue 型、e→i 型)
7 ネットで繋がる(2):不定語、否定語
8 旅行の計画を立てる(1):不規則動詞
9 旅行の計画を立てる(2):所有詞(後置形)
10 趣味について話す(1):動詞 GUSTAR
11 趣味について話す(2):比較
12 生活習慣と体調を述べる(1):再帰動詞
13 生活習慣と体調を述べる(2):再帰代名詞 se とその他の用法
14 講義のまとめ、試験とその解説
＊講義内容や進度は必要に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

スペイン語 II A、スペイン語 II B を合わせて履修し、習った内容をしっかり復習して着実に覚えること。
辞書を毎回持参してください。
再試験・単位授与のためのレポート等は実施しません。
板書の撮影、講義の録音等、電子辞書以外の電子機器の使用を固く禁止します。
私語が甚だしい場合などは退席させます。
また, 講義中のスマートフォンや携帯電話の使用は一切認めないので, 講義に出席するときは電源を切ってください。
教科書を忘れた場合は授業が始まるまでに自分でコピーを用意してください。
板書の撮影、講義の録音等、電子辞書以外の電子機器の使用を固く禁止します。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書にある例文を何度も音読しましょう。意味はわからなくてもかまいません。つづりを覚えるのに役立ちます。
復習:授業で習う「言葉の決まり」をきちんと覚えるよう努めましょう。語学は積み重ねなので, 毎回の内容をしっかり理解し覚えていられるかどうかが重要になります。

教科書

『アクシオン！≪ライト版≫』
四宮瑞枝、落合佐枝、パロマ・トレナド・デアン 著 (白水社)

参考書

書籍タイプの西和・和西辞書

課題に対するフィードバックの方法

授業内に説明する。

成績評価の方法

試験・授業への参加度を総合的に勘案して評価します。
(おおよその目安は試験 70%・授業への参加度 30%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅡB	スペイン語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
スペイン語を初めて学ぶ人が、初級文法を習得するための授業です。
【到達目標】
スペイン語で基本的な事柄を表現し、理解できるようになることを目指します。

授業内容

第1回:不規則動詞(1 人称単数のみ不規則)
第2回:語幹母音変化動詞
第3回:不規則動詞(その他)
第4回:「を格」、「に格」
第5回:gustar
第6回:点過去(規則)
第7回:点過去(不規則)
第8回:ここまでの確認
第9回:線過去
第 10 回:天気
第 11 回:接続法現在
第 12 回:命令
第 13 回:振り返り
第 14 回:a まとめ・b 試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業前にテキストの内容に目を通しておくことが望ましい。
・定期的に復習し、わからない点は質問すること。

教科書

『El faro エル・ファロ 書いて確認！スペイン語』 栗林ゆき絵他 (朝日出版社)2200 円＋税

参考書

スペイン語の辞書を各自で選び、用意する。(電子辞書も可)

課題に対するフィードバックの方法

・試験の解説はクラスウエブ上で行う。
・質問は授業後またはクラスウエブの「連絡窓口」で受け付ける。

成績評価の方法

中間試験と学期末試験(100%)
・遅刻、欠席が多い場合は 10%減点
・授業貢献度低い場合は 10%減点

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢA	**スペイン語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 麻里乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次で扱った事項に加え、関係詞・未来時制・比較表現・接続法などを習得し、文法知識を完成させる。また講読を通じて長文を読むことに慣れ、読解力を養う。

授業内容

第1回 1年次の復習
第2回～第3回 第 14 課(直説法未来・未来完了・関係詞)
第4回～第5回 第 15 課(比較級・最上級・絶対最上級)
第6回～第7回 第 16 課(直説法過去未来・過去未来完了・話法と時制の一致・関係詞の独立用法)
第8回～第9回 第 17 課(接続法現在・命令文)
第 10 回～第 11 回 第 18 課(接続法現在完了・過去・過去完了・条件文・譲歩文)
第 12 回～第 13 回 講読
第 14 回 a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は積み重ねなので、習ったことをよく理解し覚えていられるかどうかが重要になります。したがって、特に復習をしっかりすることが必要です。教科書でやった文法事項と単語の意味は必ず暗記しましょう。予習としては、新出事項以外の部分が理解できているかどうかを確認しておくとよいでしょう。講読では本文の指定された箇所をあらかじめ読み、単語の意味を辞書で調べて、和訳できるようにしておくこと。

教科書

『初級スペイン語文法 三訂版』和佐敦子著(朝日出版社)(昨年度スペイン語Ⅰで使用したもの)
『お父さんの入れ歯』ラゴ著(大学書林)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験の解答・解説を授業内または Oh-o!Meiji 上で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%＋授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢA	**スペイン語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
デ・エステバン・バケ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:本授業では1年次に学んだ文法や語彙を復習しながら、再帰動詞・ gustar 型動詞を含む動詞の直説法の時制(未来、現在完了、現在進行形、点過去)の習得を軸に、スペイン語の基礎的な構文を解説する。
到達目標:ドリルを使い十分に反復練習をして構文を身につける。リスニング、スピーキングの 2 技能の上達を目指す。

授業内容

第 1 回目
イントロダクション:授業の説明、1年次の復習(挨拶、名詞・形容詞の姓と数、定・不定冠詞、基数詞、序数詞)
第 2 回目
直説法未来規則・不規則活用、1年次の復習(直説法現在規則活用、主格人称代名詞、所有詞、指示詞、主な前置詞)
第 3 回目
過去分詞の用法、直説法現在完了、1年次の復習(直説法現在不規則活用、副詞、時刻・時間表現)
第 4 回目
小テスト、前置詞・疑問詞と疑問文
第 5 回目
再帰代名詞、再帰動詞、相互再帰
第 6 回目
関係代名詞 que 、関係副詞 como, cuando, donde, cuanto
第 7 回目
目的格人称代名詞、前置詞格人称代名詞、gustar 型動詞
第 8 回目
小テスト、現在分詞の用法、estar 動詞+現在分詞(進行形)
第 9 回目
不定語と否定語
第 10 回目
直説法点過去規則活用
第 11 回目
直説法点過去不規則活用、書き取りテスト
第 12 回目
Ser 動詞と過去分詞を用いた受動文、音読テスト
第 13 回目
第 1 回～第 12 回のまとめ、期末試験の説明
第 14 回目
a 期末試験
b 正答解説

履修上の注意

スピーキングの技能を高めるための授業中のアクティビティに積極的に参加して下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

第 1 回目～第3回目は、初級科目で使用した教科書などの教材で直説法現在の活用形(規則・不規則)を中心に復習して下さい。また、授業中に配付する資料を使って、次の講義の予習をして下さい。

教科書

特に定めない。

参考書

西和辞典を用意して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは次の講義、期末試験の正答解説は 14 回の b モジュールで行う

成績評価の方法

音読テスト 15% 書き取りテスト 15% 筆記の小テスト 20% 期末試験 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢA	スペイン語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤　麻里乃	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次で扱った事項に加え、関係詞・未来時制・比較表現・接続法などを習得し、文法知識を完成させる。また講読を通じて長文を読むことに慣れ、読解力を養う。

授業内容

第1回 1年次の復習
第2回～第3回 第 14 課(直説法未来・未来完了・関係詞)
第4回～第5回 第 15 課(比較級・最上級・絶対最上級)
第6回～第7回 第 16 課(直説法過去未来・過去未来完了・話法と時制の一致・関係詞の独立用法)
第8回～第9回 第 17 課(接続法現在・命令文)
第 10 回～第 11 回 第 18 課(接続法現在完了・過去・過去完了・条件文・譲歩文)
第 12 回～第 13 回 講読
第 14 回 a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は積み重ねなので、習ったことをよく理解し覚えていられるかどうかが重要になります。したがって、特に復習をしっかりすることが必要です。教科書でやった文法事項と単語の意味は必ず暗記しましょう。予習としては、新出事項以外の部分が理解できているかどうかを確認しておくとよいでしょう。講読では本文の指定された箇所をあらかじめ読み、単語の意味を辞書で調べて、和訳できるようにしておくこと。

教科書

『初級スペイン語文法 三訂版』和佐敦子著(朝日出版社)(昨年度スペイン語Ⅰで使用したもの)
『お父さんの入れ歯』ラゴ著(大学書林)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験の解答・解説を授業内または Oh-o!Meiji 上で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%＋授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢA	スペイン語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木　正士	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業の概要は、初級文法を復習し、さらに詳しく文法を学ぶ、というものである。本授業の目標は以下の3点である。スペイン語の日常的な会話に精通すること、文法体系を学ぶことで論理性や理解力を深め専門課程のための基礎学力をつけること、国際的に生きるための常識を身につけること。

授業内容

第 1回目 ser/estar 動詞について
第 2回目 比較級・最上級
第 3回目 動詞・点過去形について①
第 4回目 動詞・点過去形について②
第 5回目 形容詞の基本
第 6回目 関係代名詞について
第 7回目 疑問文と疑問詞
第 8回目 前置詞格人称代名詞
第 9回目 目的格人称代名詞
第10回目 再帰動詞
第11回目 動詞・線過去形について①
第12回目　動詞・線過去形について①
第13回目 gusutar 型の動詞
第14回目 試験

履修上の注意

本授業を履修する者は、テキストと辞書を必ず購入すること。そして積極的に授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習、復習を熱心にすること。予習・復習を合わせて 1 時間は授業外で学習すること。

教科書

テキストは、学期初めに教科書販売所で購入すること。テキストは、西川喬著『基礎から学ぶスペイン語教室』(同学社)。

参考書

辞書も必要。辞書をもっていない者は、辞書を購入して準備すること。お薦めの辞書は、『現代スペイン語辞典』(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間をもうける。

成績評価の方法

授業への参加度など平常点20%、試験80%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となる。
授業中のスマートフォンの使用は大幅な減点の対象となる。

その他

第2外国語習得は、専門課程への重要な足がかりとなります。丁寧に教えるので、スペイン語、ひいては外国語学習に興味とやる気をもって、積極的に学んでほしい。

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢA	**スペイン語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
ブルゴス	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、文法事項を再確認し、未習の基礎文法を仕上げます。自の感情を含め、身の回りのことについてある程度表現し理解もできることを目指します。広大なスペイン語圏を旅行する際に、人と知り合い、自分のことを話し相手の話を聞けるようになること、辞書を片手に初歩的な文章の読解ができるようになることを到達目標とします。

意欲的に予復習に取り組み、語彙を増やしさまざまな活用を覚え、学んだことを積極的に表現に用いて、辞書を使わない理解や表現の喜びをつかみ取ってください。

授業内容

第1回:a) イントロダクション
b) 復習:直説法現在
第2回:復習:目的人称代名詞・再帰代名詞 / 現在進行形
第3回:現在分詞の他の使用法 / 復習:直説法点過去
第4回:関係詞: 関係代名詞 que / 復習:SER ・ ESTAR ・ HABER ・ TENER
第5回:直説法線過去: 活用 / 直説法線過去の用法 / 直説法線過去の用法
第6回:直説法点過去と線過去 / 色々な副詞節 / 過去分詞
第7回:第一回テスト
第8回:第一回テスト(正答解説) /
第 9 回:直説法現在完了 / 直説法現在完了の用法
第10回:過去分詞その他の用法
第11回:直説法未来: 活用 / 直説法未来の用法
第12回:直説法未来完了: 活用と用法 / 直説法過去未来の用法 I
第13回:第二回テスト
第14回:a)第二回テスト(正答解説)
b)発表会

履修上の注意

なし。

準備学習(予習・復習等)の内容

[準備学習] 前回、授業時に配付したプリント(配付した場合) の熟読。また、課題(出た場合)の完了。
[授業中] ノート復習してテストに備える。授業内の発言が評価入れるために備えて教科書の予習。
[復習] 授業中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする。

教科書

『Entre amigos 2 (3ª edición) - 総合スペイン語コース中級 改訂版』、スペイン語教材研究会(著者)、朝日(出版社)

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行います。

成績評価の方法

平常点(発表、発言、参加、宿題)50%
試 験(授業中にテストが二回あります)50%

その他

出席状況等総合的に評価する。
辞書は必携です。
参考として、初級スペイン語で使用した教科書も持参すると良いでしょう。

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢB	**スペイン語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 麻里乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

講読を通じて長文を読むことに慣れ読解力を養うとともに、ストーリーを追って読み進める楽しみを味わう。

授業内容

第1回～第13回 テキスト本文の訳読・解説
第14回 a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

本文の指定された箇所をあらかじめ読み、和訳できるようにしておくこと。その際、翻訳ソフトなどにたよるのではなく、自分で各文の文法構造や個々の語の意味を確認しながら取り組むように。復習としては、各文を文法的に理解したうえで和訳と結び付けられるよう、あらためて確認しておくこと。これをしっかりやっておくことが試験での得点につながります。

教科書

『お父さんの入れ歯』ラゴ著(大学書林)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験の解答・解説を授業内または Oh-o!Meiji 上で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%+授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢB	**スペイン語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
デ・エステバン・バケ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要:本授業では前学期で学んだ内容を復習した後、直説法時制(線過去、大過去、過去未来、未来完了)、接続法の現在、命令形の習得を軸に、不定人称文、無主語文など、スペイン語のより複雑な構文を解説する。
到達目標:ドリルを使って、十分に反復練習をして学んだ構文を身につけること。リスニング、スピーキング、リーディング、ライティングの4技能がバランスよく上達すること。

授業内容

第 1 回目
イントロダクション:授業の説明、前期の復習
第 2 回目
主な接続詞
第 3 回目
直説法線過去
第 4 回目
比較:比較級、最上級、同等比較
第 5 回目
再帰受身及び不定人称(無人)文における se
第 6 回目
小テスト、無主語文
第 7 回目
直説法過去完了(大過去)、自己 PR の構成と表現
第 8 回目
現在完了、点過去、線過去、大過去のまとめ
第 9 回目
直説法過去未来
第 10 回目
小テスト、直説法未来完了
第 11 回目
接続法現在(1)ojalá, quizás 等を用いた希望・可能性表現
第 12 回目
接続法現在(2)、自己紹介の練習
第 13 回目
命令形、第 2 回目～第 13 回目のまとめ、自己紹介の暗唱テスト
第 14 回目
a 期末試験
b 正答解説

履修上の注意

スピーキングの技能を高めるための授業中のアクティビティに積極的に参加して下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に配付する資料を使って、次の授業の予習をして下さい。

教科書

特に定めない。

参考書

西和辞典を用意して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは次の講義、期末試験の正答解説は 14 回の b モジュールで行う。

成績評価の方法

暗唱テスト 30% 小テスト 20% 期末試験 50%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢB	**スペイン語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 麻里乃	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

講読を通じて長文を読むことに慣れ読解力を養うとともに、ストーリーを追って読み進める楽しみを味わう。

授業内容

第1回～第 13 回 テキスト本文の訳読・解説
第 14 回 a 試験／b 全体の振り返り

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

本文の指定された箇所をあらかじめ読み、和訳できるようにしておくこと。その際、翻訳ソフトなどにたよるのではなく、自分で各文の文法構造や個々の語の意味を確認しながら取り組むように。復習としては、各文を文法的に理解したうえで和訳と結び付けられるよう、あらためて確認しておくこと。これをしっかりやっておくことが試験での得点につながります。

教科書

『お父さんの入れ歯』ラゴ著(大学書林)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

試験の解答・解説を授業内または Oh-o!Meiji 上で行う予定。

成績評価の方法

試験(小テストを含む)80%+授業への参加度 20%を原則とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢB	スペイン語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
鈴木 正士	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業の概要は、初級文法を復習したあと、受講者は比較的平易なスペイン語の小説を読解する、というものである。本授業の目標は以下の3点である。スペイン語の日常的な会話に精通すること、文法体系を学ぶことで論理性や理解力を深め専門課程のための基礎学力をつけること、国際的に生きるための常識を身につけること。

授業内容

第 1回目 春学期の復習
第 2回目 未来形について
第 3回目 過去未来形について
第 4回目 接続法現在形・規則形
第 5回目 接続法現在形・不規則型
第 6回目 接続法の用法①
第 7回目 接続法の用法②
第 8回目 接続法の用法③
第 9回目 命令文・祈願文・疑惑文
第10回目 簡単な読み物の訳読①
第11回目 簡単な読み物の訳読②
第12回目 簡単な読み物の訳読③
第13回目 簡単な読み物の訳読④
第14回目 試験

履修上の注意

本授業を履修する者は、テキストと辞書を必ず購入すること。そして積極的に授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習、復習を熱心にすること。予習・復習を合わせて 1 時間は授業外で学習すること。

教科書

本授業を選択履修したい者は、テキストと辞書を必ず購入すること。そして積極的に授業に参加すること。

参考書

本授業を履修する者は、テキストと辞書を必ず購入すること。そして積極的に授業に参加すること。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間をもうける。

成績評価の方法

授業への参加度など平常点20%、試験80%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となる。
授業中のスマートフォンの使用は大幅な減点の対象となる。

その他

第2外国語習得は、専門課程への重要な足がかりとなります。丁寧に教えるので、スペイン語、ひいては外国語学習に興味とやる気をもって、積極的に学んでほしい。

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅢB	スペイン語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
ブルゴス	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業では、文法事項を確認し、基礎文法を仕上げつつ、言いたいことを表現する技術、書かれていること・言われていることを理解するコツを身につけたり、語彙を強化したりしていきます。スペイン語で友人と話をすること、辞書さえあればスペイン語の文章をニュアンスも含めて理解できるようになること。

授業内容

第 1 回 : a)イントロダクション
b) 春学期の復習 / 直説法過去完了: 活用と用法
第 2 回 : 直説法の時制: まとめ / 関係詞 II
第 3 回 : 命令形 I: tú / vosotros に対する肯定命令法
第 4 回 : 命令形の用法
第 5 回 : 命令形と目的人称代名詞・再帰代名詞 / 無人代表現
第 6 回 : 直説法過去未来の用法 II
第 7 回 : 第一回テスト
第 8 回 : 第一回テスト (正答解説) / 接続法現在: 活用
第 9 回 : 接続法現在の用法 I: 名詞節
第 10 回 : 命令形 II: usted / ustedes に対する肯定命令法 / 命令形 III: 否定命令
第 11 回 : 接続法現在の用法 II: 副詞節
第 12 回 : 接続法の用法 II: 形容詞節 接続法現在完了: 活用と用法
第 13 回 : 第二回テスト
第 14 回 : a)第二回テスト (正答解説)
b)発表会

履修上の注意

なし。

準備学習(予習・復習等)の内容

[準備学習] 前回、授業時に配付したプリント(配付した場合) の熟読。また、課題(出た場合)の完了。
[授業中] ノート復習してテストに備える。授業内の発言が評価入れるために備えて教科書の予習。
[復習] 授業中に取ったメモを整理し、授業資料と共にファイリングする。

教科書

『Entre amigos 2 (3ª edición) - 総合スペイン語コース中級 改訂版』、スペイン語教材研究会(著者)、朝日(出版社)

参考書

なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行います。

成績評価の方法

平常点(発表、発言、参加、宿題)50%
試 験(授業中にテストが二回あります)50%
詳細は初回の授業でさらに説明します。

その他

出席状況等総合的に評価する。
辞書は必携です。
参考として、初級スペイン語で使用した教科書も持参すると良いでしょう。

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語IVA	スペイン語IVA	
担 当 者	開講期	開講地区
デ・エステバン・バケ	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は基本的に月曜日の講義で扱う時制に沿い、Q&A、会話、音読、暗唱、書き取り、語彙カードを使ったアクティビティーなど、より実践的な内容を中心に進めていきます。
到達目標：直説法の主な時制を軸として、月曜日に学んだ知識をより深く理解し実際に使えるようになることを目指す。

授業内容

第1回目
イントロダクション、スペイン語圏の国々における語彙や発音等々の違い
第2回目
「電車で行くよ」「とても甘いでしょ？」予定や計画・推測：直説法未来の応用
第3回目
「今朝は何をしましたか？」「今週は何をしましたか？」：直説法現在完了を用いる範囲と場面
第4回目
直説法未来と直説法現在完了の不規則動詞を使う練習
第5回目
「いつから東京に住んでいるの？」：疑問詞および前置詞＋疑問詞を用いる質問と答え方
第6回目
「朝 6 時に起きる」：よく使われる再帰動詞の直説法現在で表される日常的な動作や行動
第7回目
「今朝話した友人」：人物・物・出来事を現在形・未来形・現在完了形の動詞を含む QUE に導かれる関係節で特定
第8回目
「どちらが好き？」gustar 型動詞：意見・好み・趣味・興味・身体の痛みなどの表し方、疑問詞と前置詞格人称代名詞の用法
第9回目
「いま何をしているの？」：現在進行形(ESTAR 動詞＋現在分詞)を用いて自分の状況を説明
第10回目
「誰も」「何も」「どれも」などの否定語の用法
第11回目
「それはどうやったの？」：直説法点過去と現在分詞を用いて既に終わった行動を説明
第12回目
「結果はどうだった？」：直説法点過去を用いて出来事を時系列に説明

第13回目
「私は選ばれた」：これまでに学んだ様々な時制の SER 動詞 ＋ 過去分詞による受身表現
第14回目
a 期末試験
b 正答解説

履修上の注意

スピーキング能力を向上させるため、ペアワークやグループでの会話、ロールプレイなどを行います。間違いを恐れず、積極的に発言・参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習を円滑に行えるよう、教材は原則として授業の 1 週間前に配布します。事前に目を通し、不明な単語や文法事項を調べておきましょう。

教科書

特に定めません。

参考書

西和辞典を用意して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

正答解説：小テストは次の講義で、期末試験は第 14 回の b モジュールで行います。

成績評価の方法

平常点 60%(授業内活動への積極的な参加、および各課題の達成度・提出状況を含む)、期末試験 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語IVA	スペイン語IVA	
担 当 者	開講期	開講地区
バリエントス	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では，様々な会話表現・語彙を身につけ，スペイン語の力を伸ばすことを目指します。スペイン語の直接法現在形を用いて，正確に言いたいことを伝え，相手の言っていることを理解できるよう，話すこと・聞くことに重点をおき，会話の練習をします。

授業内容

第1回：a: イントロダクション
b: スペイン語の読み方を復習し，クラスメートとあいさつをし，自己紹介する
第2回：名前，職業，国籍や出身地について話す
第3回：基本的な動詞を使って毎日の生活を話す(1)
第4回：基本的な動詞を使って毎日の生活を話す(2)
第5回：自分の家族のこと，名前，年齢，性格，容姿等を話す(1)
第6回：自分の家族のこと，名前，年齢，性格，容姿等を話す(2)
第7回：自分の部屋，家，住んでいるところについて話す(1)
第8回：自分の部屋，家，住んでいるところについて話す(2)
第9回：自分の好きなものや嫌いなものを話す(1)
第 10 回：自分の好きなものや嫌いなものを話す(2)，天気の説明をする
第 11 回：友達を誘ったり，頼む表現を覚え，買い物や食事の際の会話を学ぶ(1)
第 12 回：友達を誘ったり，頼む表現を覚え，買い物や食事の際の会話を学ぶ(2)
第 13 回：時間や曜日の表現を覚え，1日，1週間のスケジュールを話す
第 14 回：a: 春学期末試験
b: 春学期まとめ

履修上の注意

言語を学ぶ際に音読することは大切であるので，積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ教科書の文法の説明を読んで確認しておき，不明な点については質問を準備してくること。また，授業で出された宿題や課題は必ずやってくること。

教科書

『¡Imagínatelo! Nueva edición イラストで楽しもう，スペイン語！改訂版』浦眞佐子，フランシスコ・パルティダ(朝日出版社)

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

試験(50%)，口頭小テスト・小テスト(25%)，授業参加および課題(25%)で評価します。

その他

出席が3分の2に満たない場合は評価対象外とします。また、授業時の携帯電話等の電子機器・インターネットの使用は禁止します。

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅣA	スペイン語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
豊丸 敦子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

接続法を含む、基本文法、語彙・表現を習得し、簡単なコミュニケーションがとれ、平易な文章の読み書きができるようになること。

授業内容

1 1年次の復習 1:発音など
2 1年次の復習 2:名詞や形容詞
3 1年次の復習 3:動詞の活用形と代名詞
4 第10課:比較表現、不定語・否定語
5 第10課:疑問文
6 第11課:点過去形 規則活用
7 第11課:点過去形 不規則活用
8 第12課:線過去形
9 第12課:過去形の使い分け方
10 第13課:不定詞、現在分詞の用法
11 第13課:過去分詞、受身表現
12 第14課:関係詞、副詞
13 第14課:現在完了形
14 これまでのまとめ、試験とその解説
＊講義内容や進度は必要に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

スペイン語 Ⅳ A、スペイン語 Ⅳ B を合わせて履修し、習った内容をしっかり復習して着実に覚えましょう。
試験は2回行う予定で、日程は講義の進度に合わせて決定します。 再試験・単位授与のためのレポート等は実施しません。
辞書を毎回持参してください。
私語が甚だしい場合などは退席させます。また, 講義中のスマートフォンや携帯電話の使用は一切認めないので, 講義に出席するときは電源を切ってください。
教科書を忘れた場合は授業が始まるまでに自分でコピーを用意しましょう。
板書の撮影、講義の録音等、電子辞書以外の電子機器の使用を固く禁止します。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書にある会話文や例文を何度も音読しましょう。意味はわからなくてもかまいません。つづりを覚えるのに役立ちます。
復習:授業で習うさまざまな「言葉の決まり」をきちんと覚えるよう努めましょう。語学は積み重ねなので, 毎回の内容をしっかり理解し覚えていられるかどうかが重要になります。

教科書

『新 スペイン語へようこそ！』
木村琢也 著 (同学社)

参考書

書籍タイプの西和・和西辞書。1年次に使っていたものでよい。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に説明する。

成績評価の方法

成績は, 試験・授業への参加度を総合的に勘案して評価します。
(おおよその目安は試験 70%・授業への参加度 30%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語ⅣB	スペイン語ⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
デ・エステバン・バケ	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は基本的に月曜日の講義で扱う時制に沿い、Q&A、会話、音読、暗唱、書き取り、語彙カードを使ったアクティビティーなど、より実践的な内容を中心に進めていきます。
到達目標:直説法の主な時制および接続法現在に焦点を当て、月曜日に学んだ知識の定着を図るとともに、実践的な運用能力の向上を目指す。

授業内容

第1回目
イントロダクション:授業の説明、前期の復習
第2回目
「雨だったが、出かけた」:二つの短い文を接続詞で繋ぎ、表現の幅を広げる
第3回目
「人が多くて入れなかった」:活用は単純だが使い方が分かりにくいといわれる「直説法線過去」を、少数の動詞に絞ってマスター
第4回目
「…より…の方がいい」「A は B ほど…ではない」:比較級や最上級、同等比較などの比較表現の仕組みの理解および練習
第5回目
「作られている」「解決される」:スペイン語独自の受身構造で、実はシンプルで便利な「再帰受身」
第6回目
「雨が降る」「もう夜だった」:天気関連や時間の経過・継続を表す際に無主語となる文
第7回目
「もうしていた」:視点はすでに過去にあり、そこからさらに時間を遡る『過去の中の過去』を表す「過去完了」を他の時制と組み合わせ、詳細を伝える
第8回目
「今朝見た」と「昨日見た」の時制の違い:これまでに学んだ過去の時制の使い分け
第9回目
「来ると言った」:発話した時点(過去)から見た将来の出来事を表す『過去における未来』という便利な「過去未来」をマスター
第10回目
「明日9時までには、もう到着しているはず」:未来の特定の時点において『完了していること』を表す「未来完了」+様々な時間表現
第11回目
「おそらく…ではないだろう」「もう一度会えますように」:可能や推測、希望を表す短くて簡単な表現から「接続法現在」に親しむ
第12回目
「…するのも当然」「…ないのは珍しい」:幅広く使える「接続法現在」
第13回目
「来い！」「こちらへどうぞ」:様々な相手を想定した命令文
第14回目
a 期末試験
b 正答解説

履修上の注意

スピーキング能力を向上させるため、ペアワークやグループでの会話、ロールプレイなどを行います。間違いを恐れず、積極的に発言・参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習を円滑に行えるよう、教材は原則として授業の1週間前に配布します。事前に目を通し、不明な単語や文法事項を調べておきましょう。

教科書

特に定めません。

参考書

西和辞典を用意して下さい。

課題に対するフィードバックの方法

正答解説:小テストは次の講義で、期末試験は第14回の b モジュールで行います。

成績評価の方法

平常点 60 %(授業内活動への積極的な参加、および各課題の達成度・提出状況を含む)、期末試験 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語IVB	スペイン語IVB	
担 当 者	開講期	開講地区
バリエントス	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では, 様々な会話表現・語彙を身につけ, スペイン語の力を伸ばすことを目指します。直説法現在形・過去形を用いて, 正確に言いたいことを伝え, 相手の言っていることを理解できるよう, 話すこと・聞くことに重点をおき, 会話の練習をします。

授業内容

第1回:春学期の復習(テキストの Lección 1-7)
第2回:誕生日やクリスマスに友達にプレゼントを贈る際の会話やカードの書き方を学ぶ⑴
第3回:誕生日やクリスマスに友達にプレゼントを贈る際の会話やカードの書き方を学ぶ⑵
第4回:痛み, 病気, 体調が悪い時の表現を覚え, 症状について話す⑴
第5回:痛み, 病気, 体調が悪い時の表現を覚え, 症状について話す⑵
第6回:行ったことがある, 食べたことがある等, 経験を話し, 道順や料理の作り方等について話す⑴
第7回:行ったことがある, 食べたことがある等, 経験を話し, 道順や料理の作り方等について話す⑵
第8回:過去にしたことや旅行について話す⑴
第9回:過去にしたことや旅行について話す⑵
第 10 回:身近な人物の一生について話す
第 11 回:子供の頃のことや旅行の思い出を話す⑴
第 12 回:子供の頃のことや旅行の思い出を話す⑵
第 13 回:子供の頃のことや旅行の思い出を話す⑶
第 14 回:a. 秋学期末試験 b. 秋学期まとめ

履修上の注意

言語を学ぶ際に音読することは大切であるので, 積極的にスペイン語を声に出して読むこと。辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめ教科書の文法の説明を読んで確認しておき, 不明な点については質問を準備してくること。また, 授業で出された宿題や課題は必ずやってくること。

教科書

『¡Imagínatelo! Nueva edición イラストで楽しもう, スペイン語！改訂版』浦貝佐子, フランシスコ・パルティダ(朝日出版社)

参考書

授業時に適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に口頭で行う。

成績評価の方法

試験(50%), 口頭小テスト・小テスト(25%), 授業参加および課題(25%)で評価します。

その他

出席が3分の2に満たない場合は評価対象外とします。また、授業時の携帯電話の使用は禁止します。

科目ナンバー:(AL)LAN141N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
スペイン語IVB	スペイン語IVB	
担 当 者	開講期	開講地区
豊丸 敦子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

接続法を含む、基本文法、語彙・表現を習得し、簡単なコミュニケーションがとれ、平易な文章の読み書きができるようになること。

授業内容

1 第 15 課:未来形
2 第 15 課:丁寧表現
3 第4課:接続法現在形(1)
4 第5課:接続法現在形(2)
5 第6課:接続法現在形(3)
6 第7課:肯定命令形
7 第8課:否定命令形
8 第8課:接続法過去形
9 第9課:直説法過去未来形
10 第 10 課:直説法過去未来完了形
11 第 10 課:接続法現在完了形
12 第 11 課:接続法過去形
13 第 12 課:直説法過去完了形
14 これまでのまとめ、試験とその解説
＊講義内容や進度は必要に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

スペイン語 IV A、スペイン語 IV B を合わせて履修し、習った内容をしっかり復習して着実に覚えましょう。
試験は2回行う予定で、日程は講義の進度に合わせて決定します。 再試験・単位授与のためのレポート等は実施しません。
辞書を毎回持参してください。
私語が甚だしい場合などは退席させます。また, 講義中のスマートフォンや携帯電話の使用は一切認めないので, 講義に出席するときは電源を切ってください。
教科書を忘れた場合は授業が始まるまでに自分でコピーを用意しましょう。
板書の撮影、講義の録音等、電子辞書以外の電子機器の使用を固く禁止します。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:教科書の会話文や例文を、何度も声に出して読む。声に出すことで発音の上達が期待でき、単語を覚えるのにも役立ちます。
復習:授業で習うさまざまな「言葉の決まり」をきちんと覚えるよう努めましょう。語学は積み重ねなので, 毎回の内容をしっかり理解し覚えていられるかどうかが重要になります。

教科書

『新 スペイン語へようこそ！』木村琢也 著 (同学社)
『スペインへのパスポート』木村琢也 著 (同学社)

参考書

書籍タイプの西和・和西辞書。1年次に使用していたものでよい。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に説明する。

成績評価の方法

成績は, 試験・出席状況・平常点を総合的に勘案して評価する(おおよその目安は試験 70%・出席状況など平常点 30%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
喬 志航	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

基礎中国語の入門編であり，中国語の基礎づくりを目的に，まずは正しい発音を身につけてもらうことが重要である。それから基礎語彙を中心に簡単な会話を習得してから，さらに文法要項を反映させる基本文型へと進めていく。
語学の学習とともに中国の歴史や現代中国事情についても紹介したりしていく予定である。
現代中国語の発音の特徴や基礎文型などを習得することを目標とする。
基本的なものを聞いて理解し，話せるように，「聞く」・「話す」・「読む」という基礎的要項に到達できるよう期待する。

授業内容

第1回 a:イントロダクション
b:発音の基本知識(声調と単母音)
第2回:発音の基本知識(複母音)
第3回:発音の基本知識(子音)
第4回:発音の基本知識(鼻音を伴う母音)
第5回:第1課
第6回:第2課
第7回:第3課
第8回:中間試験
第9回:第4課
第 10 回:第5課
第 11 回:第6課
第 12 回:第7課
第 13 回:第8課
第 14 回 a:期末試験
b:正答解説

履修上の注意

積極的にとりくむことを求める。
語学習得には，特に出席率が重要である。
また授業中，ノートを取ることも試験準備に不可欠である。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習:テキスト本文を読了する。
事後学習:テキスト単語・文法を振り返る。

教科書

『シンプルチャイニーズ北京』(文法篇)，早稲田大学理工学術院中国語部会著，朝日出版社。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への貢献度，中間試験など)，期末試験に基づいて評価する。平常点 40%，期末試験 60%。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤 三知夫	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の基礎(発音・聞く・話す・読む)を習得することを目的とします。具体的な到達目標は、自己紹介・日常会話ができ、中国人に自分の意思が伝えられるようになることです。

授業内容

春学期
1 動詞述語文
2 否定の副詞
3 疑問文
4 是の構文
5 形容詞述語文
6 量詞
7 主述述語文・疑問詞疑問文
8 結果補語
9 動態助詞
10 前置詞
11 連動文
12 比較文
13 助動詞
14 ａまとめ b試験

履修上の注意

漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味がわかることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 80%、レポート 10%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
王 前	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の最も重要な基礎知識を習得することを目標とします。発音や基礎文法を解説しながら、中国語の基礎をしっかり学ぶことに重点を置きます。一学期の勉強で、自己紹介など、簡単な会話ができるようになります。
The aim of this class is to acquire the most important basic knowledge of the Chinese language. Emphasis is placed on learning the basics of the Ch

授業内容

1.発音篇(1)
2.発音篇(2)
3.発音篇(3)
4..第一課 人称代名詞、動詞述語文など
5..第二課 疑問詞疑問文など
6.第三課 数詞など
7.第四課(1)場所を表す表現など
8.第四課(2)形容詞述語文など
9.第五課(1)所有・存在を表す表現など
10.第五課(2)完了を表す表現など
11.第六課(1)能願動詞など
12.第六課(2)動詞の重ね型など
13.第七課(1)連動文など
14 第七課(2)主題化構文など

履修上の注意

語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書

『中国語の基礎づくり』楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書

中国語の辞書を各自一部用意してください。

課題に対するフィードバックの方法

教室でも対応できるし、大学のサイトを通してもできます。

成績評価の方法

参加度 20%と期末試験 80%。

その他

とくにありません。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 美千子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈概要〉　中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。　発音のしかた, 中国語の音節構造, ピンインの読み方・書き方, 初級レベルの短い文の読解, 文法事項, 簡体字の習得をめざす。
〈到達目標〉　まず、中国語の発音を表すピンインと声調を正確に発音できることを目標にする。そのうえで初級レベルの短文を中国語らしく音読でき, 読解できる。文法項目を理解する。簡体字を認識できて書けることを目標とする。

授業内容

各課, 先に文法事項を学んでから, 本文の会話を音読し, 意味を確認していく。 練習問題は、単語を覚えていることが前提。
第1回 イントロダクション 発音
第2回　発音
第3回　発音
第4回　第1課 動詞 名前の言い方
第5回　第１課 練習問題
第6回　第２課 人称代名詞
第7回　第２課 練習問題
第８回 第３課 名詞述語文 連動文
第9回　第３課 練習問題
第10回　第４課 指示詞 形容詞述語文
第11回　第４課 練習
第12回　第５課 離合詞
第13回　第５課 練習
第14回 a. 試験 b. 正答解説

履修上の注意

大学に入って初めて学び始める外国語である。発音の練習では、大きな声で練習してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

単語の小テストを実施してから, 授業に入るので、しっかり単語を覚えてくること。
単語テストの範囲は, その日の授業中の履修する単語。

教科書

『購読編 読む力・書く力を鍛える初級中国語』楊凱栄監修 雷桂林・賈黎黎著

参考書

『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995　辞典は:『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社 を推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解答例は、Oh！Mieiji で公開し、返却時に解説する。
期末試験については、同日に解答例を配布し詳細に解説する。

成績評価の方法

小テスト(50%)定期試験(50%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤　三知夫	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の基礎(発音・聞く・話す・読む)を習得することを目的とします。具体的な到達目標は、自己紹介・日常会話ができ、中国人に自分の意思が伝えられるようになることです。

授業内容

春学期
1 動詞述語文
2 否定の副詞
3 疑問文
4 是の構文
5 形容詞述語文
6 量詞
7 主述述語文・疑問詞疑問文
8 結果補語
9 動態助詞
10 前置詞
11 連動文
12 比較文
13 助動詞
14 ａまとめ b試験

履修上の注意

漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味がわかることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 80%、レポート 10%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
王　前	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の最も重要な基礎知識を習得することを目標とします。発音や基礎文法を解説しながら、中国語の基礎をしっかり学ぶことに重点を置きます。一学期の勉強で、自己紹介など、簡単な会話ができるようになります。
The aim of this class is to acquire the most important basic knowledge of the Chinese language. Emphasis is placed on learning the basics of the Ch

授業内容

1.発音篇(1)
2.発音篇(2)
3.発音篇(3)
4..第一課 人称代名詞、動詞述語文など
5..第二課 疑問詞疑問文など
6.第三課 数詞など
7.第四課(1)場所を表す表現など
8.第四課(2)形容詞述語文など
9.第五課(1)所有・存在を表す表現など
10.第五課(2)完了を表す表現など
11.第六課(1)能願動詞など
12.第六課(2)動詞の重ね型など
13.第七課(1)連動文など
14 第七課(2)主題化構文など

履修上の注意

語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書

『中国語の基礎づくり』 楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書

中国語の辞書を各自一部用意してください。

課題に対するフィードバックの方法

教室でも対応できますし、サイトを通してもできます。

成績評価の方法

参加度 20%と期末試験 80%。

その他

とくにありません。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
建部 良平	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

基本的な単語や文法の学習を通して、中国語の基礎を習得することを本授業の目標とする。年間を通して、自身の経験談も含めながら、中国文化に親しんでもらえるような話も織り交ぜたいと考えている。教科書は HSK(漢語水平考試)関連のテキストを使用する。HSK は世界各国で実施されている中国語検定試験であり、留学やビジネスにおける中国語レベルの指標となっている。本授業は HSK の取得を目標とはしないが、中国語を深めたい受講者がいた際には、HSK が良い道標になると考えているため、HSK 関連のテキストを教科書に選んだ。

授業内容

第１回(4/14):イントロダクション
第２回(4/21):拼音について
第３回(4/28):第１課(人称代名詞・動詞「是」・名前の言い方)
第４回(5/12):第２課(動詞述語文・語気助詞「吧」・疑問詞疑問文)
第５回(5/19):第３課(指示代名詞⑴・「的」・語気助詞「呢」)
第６回(5/26):小テスト(第 1～3 課)、第４課(形容詞述語文・「想」と「要」・動詞の重ね型)
第７回(6/2) :第５課(時間表現⑴・「有」・反復疑問文)
第８回(6/9) :第６課(数詞・量詞・「几」と「多少」)
第９回(6/16):小テスト(第４～6 課)、前半振り返り
第 10 回(6/23):第７課(指示代名詞⑵・方位詞・「有」と「在」)
第 11 回(6/30):第８課(時間表現⑵・変化の「了」・年齢の言い方)
第 12 回(7/7) :小テスト(第 7～8 課)、第９課(完了の「了」・前置詞「給」・主述述語文)
第 13 回(7/14):春学期の復習
第 14 回(7/21):試験

履修上の注意

日本語や英語との違いや近さを感じながら、楽しく中国語を学んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

①毎授業の最後、リアクションペーパーの記入時間を 5～10 分ほど設ける。内容は、授業で疑問が残った事項、興味深いと感じたこと、中国語や中国に関する質問など、自由記述とする。
②春学期中に小テストを 3 回行う。具体的な形式や範囲については授業時に伝えるので、それを元に学習を進めてほしい。
③期末試験は、授業や小テストの状況を踏まえながら範囲を定める。学習時間を十分に確保できるよう、可能な限り早めに範囲を告知する。

教科書

南勇『新 HSK にチャレンジ！一年生の中国語』朝日出版社、2023 年。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

①リアクションペーパーにて、フォローアップが必要な質問事項があれば、翌週の授業にて対応する。
②小テストは実施週の翌週に返却する。

成績評価の方法

①平常点(リアクションペーパー):30%
②小テスト:30%
③期末試験:40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
速水 大	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業では、中国語を初めて学ぶ受講生を対象に、発音の基礎からスタートし、基本的な文法事項と会話表現などを段階的に学んでいく。同時に、中国の文化や歴史、社会事情等についても紹介し、中国及び中国語に広く親しむ。
【到達目標】
(1) 中国語の発音表記「ピンイン」の綴りを習得し、十分な時間をかけて反復練習を行うことで、正確で美しい発音の習得を目指す。
(2) 学んだ語彙や基本文型を用いることにより、身近な事柄について簡潔な文で表現し、他者と対話できる力を身につける。
(3)簡単な自己紹介と会話

授業内容

第１回　イントロダクション、発音 1(声調、単母音)
第２回　発音 2(子音)
第３回　発音 3(複母音、そり舌母音、鼻母音)
第４回　発音 4(アル化、声調変化)、発音まとめ
第５回　第１課［自己紹介］
　文法のポイント(人称代詞、“是”構文、動詞述語文、～の(連体修飾の表し方))
第６回　第 1 課［自己紹介］
　単語テスト 練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第７回　第 2 課［趣味を言う］
　文法のポイント(指示代詞(1)、疑問詞疑問文、語気助詞“吧”(1)、“一边～一边…”構文)
第８回　第 2 課［趣味を言う］
　単語テスト、練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第９回　第 3 課［ラインを交換する］
　文法のポイント(形容詞述語文、語気助詞“吧”(2)、選択疑問文、助動詞“可以”)
第 10 回　第 3 課［ラインを交換する］
　単語テスト、練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第 11 回　第 4 課［料理を注文する］
　文法のポイント(助動詞“想”、助動詞“能”、量詞と物事の数え方、省略疑問文)、練習問題
第 12 回　第 4 課［料理を注文する］ 単語テスト、練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第 13 回　第 5 課［勘定する］
　文法のポイント(変化を表す“了”、結果補語、金額の言い方、二重目的語)
第 14 回　a.期末テスト、b.正答解説

履修上の注意

第一回授業で説明するが、授業にはどのような形態でもよいので必ず中日辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習 60 分:各課の新出単語を練習する。次の課の会話文を和訳する。
復習 60 分:授業内容を必ず見直す。本文と例文の発音練習を行う。
　各回の授業で「練習問題」を課題とするので回答する。

教科書

李軼倫著『中国語スタートブック(総合編)』金星堂

参考書

特に定めないが、中日辞書を用意することが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

「練習問題」の一部を宿題として提出してもらい、個別にフィードバックを行う。
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解答例を配布し詳細に解説する。

成績評価の方法

平常点(授業への貢献度、小テストなど)30%、期末試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩA	**中国語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

現代漢語＝中国語の発音の基礎と基本的な表現習得を目指す基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し，1年間で無理なく無駄なく，発音や基礎文法等を体系的に学習する。他の言語と同様に中国語のコミュニケーションも，送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。日常の生活における交流場面に着目する問答練習を中心に，基礎的な表現を読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回 単母音
第2回 子音
第3回 複母音
第4回 発音のまとめ
第5回 姓名をたずねる表現
第6回 判断・動作行為の表現
第7回 性質や状態の表現
第8回 連体修飾の表現
第9回 数量の表現
第 10 回 曜日と月日の表現
第 11 回 時刻の表現
第 12 回 時間量や回数の表現
第 13 回 方位と所在の表現
第 14 回 まとめ

履修上の注意

毎回授業の初めに既習内容の質問をするので、即答できるように予習しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

大学に入って初めて学び始める外国語である。新たな気持ちで恥ずかしがらず，大きな声で発音練習してほしい。語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから，放課後は、付属の CD と DVD(オンライン提供)を活用しながら予習・復習をすることが重要。

教科書

『日常をコミュニケーションする中国語初級』 株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

推薦辞書なども含め，授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法

期中に小テスト1回(30%)，期末に口語テスト(問答・朗読、10%)，筆記テスト1回(60%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩB	**中国語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
喬 志航	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

基礎中国語の入門編であり，中国語の基礎づくりを目的に，まずは正しい発音を身につけてもらうことが重要である。それから基礎語彙を中心に簡単な会話を習得してから，さらに文法要項を反映させる基本文型へと進めていく。
語学の学習とともに中国の歴史や現代中国事情についても紹介したりしていく予定である。
現代中国語の発音の特徴や基礎文型などを習得することを目標とする。
基本的なものを聞いて理解し，話せるように，「聞く」・「話す」・「読む」という基礎的要項に到達できるよう期待する。

授業内容

第1回:春学期授業内容の復習
第2回:第9課
第3回:第 10 課
第4回:第 11 課
第5回:第 12 課
第6回:第 9−12 課 ヒアリング、会話の練習
第7回:中間試験
第8回:第 13 課
第9回:第 14 課
第 10 回:第 15 課
第 11 回:第 16 課
第 12 回:第 13-16 課 ヒアリング、会話の練習
第 13 回:総復習
第 14 回a:期末試験
b:正答解説

履修上の注意

積極的にとりくむことを求める。
語学習得には，特に出席率が重要である。
また授業中，ノートを取ることも試験準備に不可欠である。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習:テキスト本文を読了する。
事後学習:テキスト単語・文法を振り返る。

教科書

『シンプルチャイニーズ北京』(文法篇)，早稲田大学理工学術院中国語部会著，朝日出版社。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への貢献度，中間試験など)，期末試験に基づいて評価する。平常点 50%，期末試験 50%。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩB	**中国語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤　三知夫	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の基礎(発音・聞く・話す・読む)を習得することを目的とします。具体的な到達目標は、自己紹介・日常会話ができ、中国人に自分の意思が伝えられるようになることです。

授業内容

秋学期
1 状態補語
2 地の使い方
3 可能補語
4 数量補語
5 時間・場所・方法の強調
6 処置文
7 使役文
8 兼語文
9 動作の進行
10 受動文
11 疑問詞の呼応文
12 就と才
13 又と再
14 ａまとめ b試験

履修上の注意

漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味がわかることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 80%、レポート 10%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩB	**中国語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
王　前	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の最も重要な基礎知識を習得することを目標とします。基礎文法を解説しながら、中国語の基礎をしっかり学ぶことに重点を置きます。二学期目の勉強で、簡単な日常会話ができることと短い文章を書けることを目指します。
The aim of this class is to acquire the most important basic knowledge of the Chinese language. Emphasis will be placed on learning the basics

授業内容

1.第八課(1) 結果補語など
2.第八課(2) 指示詞の使い方など
3.第九課(1)存現文など
4.第九課(2)主述述語文
5.第十課(1)時間詞など
6.第十課(2)二重目的語構文
7.第十一課(1)数量の表現
8.第十一課(2)方位詞など
9.第十二課(1)兼語文など
10.第十二課(2)接続詞"所以"など
11.第十三課(1)動作量と回数表現など
12.第十三課(2)能願動詞"想"など
13.第十四課(1) 名詞述語文・伝聞表現など
14.第十四課(2) 前置詞"給" など

履修上の注意

語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書

『中国語の基礎づくり』楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書

中国語の辞書を一部用意しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

教室でも対応できるし、サイトを通しても対応できます。

成績評価の方法

参加度 20%トと期末試験 80%。

その他

とくにありません。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩＢ	**中国語ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 美千子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈概要〉 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた，中国語の音節構造，ピンインの読み方・書き方，初級レベルの短い文の読解，文法事項，簡体字の習得をめざす。
〈到達目標〉 まず、中国語の発音を表すピンインと声調を正確に発音できることを目標にする。そのうえで初級レベルの短文を中国語らしく音読でき，読解できる。文法項目を理解する。簡体字を認識できて書けることを目標とする。

授業内容

各課，先に文法事項を学んでから，本文の会話を音読し，意味を確認していく。 練習問題は、単語を覚えていることが前提。
第1回 第５課までの復習
第2回 第６課 方向補語
第3回 第６課 練習問題
第4回 第７課 変化の了 前置詞
第5回 第7課 練習問題
第6回 第８課 比較
第7回 第８課 練習問題
第８回 第９課 存現文
第9回 第９課 練習問題
第10回 第10課 様態補語・結果補語
第11回 第10課 練習問題
第12回 第11課 可能補語 把の構文
第13回 第11課 練習問題
第14回 a. 試験 b. 正答解説

履修上の注意

大学に入って初めて学び始める外国語である。発音の練習では、大きな声で練習してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

単語の小テストを実施してから，授業に入るので、しっかり単語を覚えてくること。
単語テストの範囲は，その日の授業中の履修する単語。

教科書

『購読編 読む力・書く力を鍛える初級中国語』楊凱栄監修 雷桂林・賈黎黎著

参考書

『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は:『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社 を推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解答例は、Oh！Mieiji で公開し、返却時に解説する。
期末試験については、同日に解答例を配布し詳細に解説する。

成績評価の方法

小テスト(50%)定期試験(50%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩＢ	**中国語ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤 三知夫	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の基礎(発音・聞く・話す・読む)を習得することを目的とします。具体的な到達目標は、自己紹介・日常会話ができ、中国人に自分の意思が伝えられるようになることです。

授業内容

秋学期
1 状態補語
2 地の使い方
3 可能補語
4 数量補語
5 時間・場所・方法の強調
6 処置文
7 使役文
8 兼語文
9 動作の進行
10 受動文
11 疑問詞の呼応文
12 就と才
13 又と再
14 ａまとめ b試験

履修上の注意

漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味がわかることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 80%、レポート 10%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩB	**中国語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
王 前	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では中国語の最も重要な基礎知識を習得することを目標とします。基礎文法を解説しながら、中国語の基礎をしっかり学ぶことに重点を置きます。二学期目の勉強で、簡単な日常会話ができることと短い文章を書けることを目指します。

The aim of this class is to acquire the most important basic knowledge of the Chinese language. Emphasis will be placed on learning the basics

授業内容

1.第八課(1) 結果補語など
2.第八課(2) 指示詞の使い方など
3.第九課(1)存現文など
4.第九課(2)主述述語文
5.第十課(1)時間詞など
6.第十課(2)二重目的語構文
7.第十一課(1)数量の表現
8.第十一課(2)方位詞など
9.第十二課(1)兼語文など
10.第十二課(2)接続詞"所以"など
11.第十三課(1)動作量と回数表現など
12.第十三課(2)能願動詞"想"など
13.第十四課(1) 名詞述語文・伝聞表現など
14.第十四課(2)前置詞"給"など

履修上の注意

語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書

『中国語の基礎づくり』楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書

中国語の辞書を一部用意しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

教室でも対応できますし、サイトを通しても対応できます。

成績評価の方法

参加度 20%トと期末試験 80%。

その他

とくにありません。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩB	**中国語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
建部 良平	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

基本的な単語や文法の学習を通して、中国語の基礎を習得することを本授業の目標とする。年間を通して、自身の経験談も含めながら、中国文化に親しんでもらえるような話も織り交ぜたいと考えている。教科書は HSK(漢語水平考試)関連のテキストを使用する。HSK は世界各国で実施されている中国語検定試験であり、留学やビジネスにおける中国語レベルの指標となっている。本授業は HSK の取得を目標とはしないが、中国語を深めたい受講者がいた際には、HSK が良い道標になると考えているため、HSK 関連のテキストを教科書に選んだ。

授業内容

第 1 回(9/22) :イントロダクション
第 2 回(9/29) :第 10 課(時間表現⑶・連動文・疑問詞「怎么」)
第 3 回(10/6) :第 11 課(前置詞「在」・二重目的語・前置詞「跟」)
第 4 回(10/13) :第 12 課(経験を表す「过」・動作量補語・お金の言い方)
第 5 回(10/20) :小テスト(第 10～12 課)、第 13 課(時間量・時間量補語・「从」「到」「离」)
第 6 回(10/27) :第 14 課(助動詞「会」「能」「可以」)
第 7 回(11/10) :第 15 課(比較の表現・「是～的」構文・様態補語)
第 8 回(11/17) :小テスト(第 13～15 課)、第 16 課(「快～了」・方向補語・「着」)
第 9 回(11/24) :第 17 課(結果補語・「把」・「让」)
第 10 回(12/1) :第 18 課(進行を表す副詞「在」・可能補語・「别」と「不要」)
第 11 回(12/8) :小テスト(第 16～18 課)、第 19 課(前置詞「往」「对」・選択疑問文「还是」)
第 12 回(12/15):第 20 課(「因为～所以」・疑問詞の不定用法と任意用法)
第 13 回(1/12) :1 年間の復習
第 14 回(1/19) :試験

履修上の注意

日本語や英語との違いや近さを感じながら、楽しく中国語を学んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

①毎授業の最後、リアクションペーパーの記入時間を 5～10 分ほど設ける。内容は、授業で疑問が残った事項、興味深いと感じたこと、中国語や中国に関する質問など、自由記述とする。
②秋学期中に小テストを 3 回行う。具体的な形式や範囲については授業時に伝えるので、それを元に学習を進めてほしい。
③期末試験は、授業や小テストの状況を踏まえながら範囲を定める。学習時間を十分に確保できるよう、可能な限り早めに範囲を告知する。

教科書

南勇『新 HSK にチャレンジ！一年生の中国語』朝日出版社、2023 年

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

①リアクションペーパーにて、フォローアップが必要な質問事項があれば、翌週の授業にて対応する。
②小テストは実施週の翌週に返却する。

成績評価の方法

①平常点(リアクションペーパー):30%
②小テスト:30%
③期末試験:40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩB	**中国語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
速水 大	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業は中国語ＩＡの継続科目である。中国語ＩＡで学んだ発音や語彙、基本文型を土台とし、音声・文法・表現面において中国語の全体像がつかめるような基礎的知識の習得及び運用能力の養成を目指す。同時に、中国の文化や歴史、社会事情等についても学び、中国及び中国語に広く親しむ。
【到達目標】
(1)春学期の基礎の上に、正しい発音を身につける。
(2)中国語の語順・基本文型等をマスターし、読解力、聴解力の向上を目指す。
(3) 学んだ語彙や文法事項を組み合わせて用いることにより、身近な事柄や自分の考え

授業内容

第１回　　第 6 課［カフェに誘う］
　文法のポイント(指示代詞2、助動詞"要/得"、連動文、感嘆表現"太～了")
第２回　第 6 課［カフェに誘う］
　単語テスト 練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第３回　　第 7 課［ペットの話をする］
　文法のポイント(場所代詞・方位詞、所在を表す"在"、存在を表す"有"、前置詞"在")
第４回　　第 7 課［ペットの話をする］
　単語テスト 練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第５回　　第 8 課［家族の話をする］
　文法のポイント(所有を表す"有"、比較表現、疑問詞"几 / 多少"、年齢の聞き方)
第６回　　第 8 課［家族の話をする］
　単語テスト 練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第７回　　第 9 課［待ち合わせする］
　文法のポイント(進行を表す"在"、年月日・曜日の言い方、時刻の言い方)
第８回　　第 9 課［待ち合わせする］
　単語テスト 練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第９回　　第 10 課　［旅行の話をする］
　文法のポイント(経験を表す"过"、"是～的" 構文、動詞の重ね型)
第 10 回　　第 10 課［旅行の話をする］
　単語テスト 練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第 11 回　　第 11 課［カラオケに行く］
　文法のポイント(様態補語、"有点儿" と "一点儿"、完了を表す"了"、反復疑問文)
第 12 回　　第 11 課［カラオケに行く］
　単語テスト 練習問題の解説、本文音読練習、会話実践練習
第 13 回　　第 12 課［再会を待ち望む］
　文法のポイント("快 / 就要～了"、可能性を表す"会"、状態の持続を表す"着"、方向補語)
第 14 回　　期末テストおよび解説

履修上の注意

授業にはどのような形態でもよいので必ず中日辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習 60 分：各課の新出単語を練習する。次の課の会話文を和訳する。
復習 60 分：授業内容を必ず見直す。本文と例文の発音練習を行う。
　　各回の授業で「練習問題」を課題とするので回答する。

教科書

李軼倫著『中国語スタートブック(総合編)』金星堂

参考書

特に定めないが、中日辞書を用意することが望ましい。

課題に対するフィードバックの方法

「練習問題」の一部を宿題として提出してもらい、個別にフィードバックを行う。
最終授業日に期末試験を実施し、同日に解答例を配布し詳細に解説する。

成績評価の方法

平常点(授業への貢献度、小テストなど)30%、期末試験 70%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ＩB	**中国語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

現代漢語＝中国語の発音の基礎と基本的な表現習得を目指す基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し，1年間で無理なく無駄なく，発音や基礎文法等を体系的に学習する。他の言語と同様に中国語のコミュニケーションも，送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。日常の生活における交流場面に着目する問答練習を中心に，基礎的な表現を読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回 春学期学習内容の復習
第2回 金額の表現
第3回 距離・起点・動作の場所
第4回 家族構成の表現
第5回 比較の表現
第6回 完了の表現
第7回 変化の表現
第8回 中間テスト
第9回 過去の経験に関する表現
第 10 回 完了した動作の時間・場所・方式の確認
第 11 回 動作の進行と持続
第 12 回 高さ・長さ・重さ
第 13 回 感覚・願望の表現
第 14 回 まとめ

履修上の注意

春学期より、難易度も内容量も増大しており、毎回授業の初めに聞かれる質問に即答できるよう、しっかり復習しておくことが求められる。語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから，放課後は、付属の CD と DVD(オンライン提供)を活用しながら予習・復習をすることが重要。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業の初めに既習内容に関する質問をするので、予習しておくこと。

教科書

『日常をコミュニケーションする中国語初級』 株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

推薦辞書なども含め，授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法

期中に小テスト1回(25%)，期末に口語テスト(問答・朗読、10%)，筆記テスト1回(65%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

現代漢語＝中国語の発音の基礎と基本的な表現習得を目指す基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し，1年間で無理なく無駄なく，発音や基礎文法等を体系的に学習する。他の言語と同様に中国語のコミュニケーションも，送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。日常の生活における交流場面に着目する問答練習を中心に，基礎的な表現を読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回 単母音
第2回 子音
第3回 複母音
第4回 発音のまとめ
第5回 姓名をたずねる表現
第6回 判断・動作行為の表現
第7回 性質や状態の表現
第8回 連体修飾の表現
第9回 数量の表現
第 10 回 曜日と月日の表現
第 11 回 時刻の表現
第 12 回 時間量や回数の表現
第 13 回 方位と所在の表現
第 14 回 まとめ

履修上の注意

毎回授業の初めに既習内容の質問をするので、即答できるように予習しておくこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

大学に入って初めて学び始める外国語である。新たな気持ちで恥ずかしがらず，大きな声で発音練習してほしい。語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから，放課後は、付属の CD と DVD(オンライン提供)を活用しながら予習・復習をすることが重要。

教科書

『日常をコミュニケーションする中国語初級』 株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

推薦辞書なども含め，授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法

期中に小テスト1回(30%)，期末に口語テスト(問答・朗読、10%)，筆記テスト1回(60%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 穎芝	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、中国語を初めて学ぶ学部 1 年生を対象とした入門科目です。中国語の基礎的な音声体系に慣れ、「聴く」「話す」を中心とした初歩的な言語運用能力の習得を目的とします。
授業では、初心者向けの教科書を用い、発音練習、リスニング、会話練習を中心に進めます。あわせて、定型表現を用いた簡単なライティングにも取り組みます。教科書を基本としつつ、個人練習やグループワークを取り入れ、必要に応じてゲーム、歌、アニメ、ドラマなどの教材も活用します。
評価は、定期的に実施するリスニングおよびスピーキングの小テストによって

授業内容

第 1 回 導入(授業の進め方、中国語とは何か)
第 2 回 発音(1)：声調、軽声単母音、複母音
第 3 回 発音(2)：子音
第 4 回 発音(3)：鼻母音、声調の変化、声調の組み合わせ
第 5 回 本編 第1課 自己紹介①ー名前、出身
第 6 回 本編 第2課 自己紹介②ー所属、専攻
第 7 回 本編 第3課 自己紹介③ー家族について
第 8 回 本編 第4課 お誘い
第 9 回 本編 第5課 レストラン
第 10 回 本編 第6課 買い物
第 11 回 本編 第7課 道案内
第 12 回 本編 第8課 趣味に関する雑談
第 13 回 まとめ
第 14 回 期末試験

履修上の注意

語学学習は、建物を建てることにたとえることができます。丈夫な建物を造るためには、最初にしっかりとした土台を作ることが大切です。中国語学習においては、発音や音に慣れることがその土台になります。
最初は間違えるのが当たり前です。間違うことを恐れず、積極的に授業に参加し、たくさん声に出して発音練習を行いましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：次回の授業で扱うテキストを事前に読み、内容を確認するとともに、わからない単語や表現を辞書で調べておきます。
復習：毎週授業で学んだ内容を復習したうえで、教科書付属の音声を繰り返し聞きながら音読練習を行い、発音やリズムの定着を図ります。

教科書

『中国語でコミュニケーション』(沈国威 監修/氷野善寛、小嶋美由紀、海暁芳、紅粉芳恵、阿部慎太郎共著、朝日出版社。)およびプリント。

参考書

語学学習において辞書の使用は不可欠です。
授業では、中日辞典(商務印書館・小学館共編／小学館)、中日辞典(相原茂編／講談社)、超級クラウン中日辞典(松岡榮志主幹、費錦昌・古川裕・樋口靖・白井啓介・代田智明編著／三省堂)などの中日辞典を推奨します。
また、講談社・小学館・三省堂の辞書を収録した電子辞書や、スマートフォンの中国語辞書アプリを使用しても構いません。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う発音練習および提出された課題については、教員がコメントを付してフィードバックを行い、学習内容の定着と発音・表現力の向上を図ります。

成績評価の方法

平常点(出席状況、授業内での発音練習への参加度、課題への取り組みなど)：20%
定期的に実施する小テスト(リスニング・スピーキング)：40%
期末評価(リスニングを中心とした試験)：40%

その他

4 回以上無断欠席(欠席連絡なし)の場合は成績評価の対象になりません。
部の活動や病気などで欠席する場合には必ず公的な書類を提出してください。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 隆哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期は専ら，ピンインをしっかり音読して聴き取ることに神経を集中する。「ピンイン」とはアルファベットで表記される中国語の仮名文字のことで，その習得なしには言葉を発することもできない。

ここで習得した発音力は，自転車や水泳のように諸君の身体の中に残り，将来中国語が必要となった時は，ゼロから学び直す必要はないものと思われる。

授業内容

授業の初めに，前回教えた範囲からピンイン書き取りの，テストを実施する。発音されるピンインを聴き取って書くものであり，出題範囲が毎回変わるので注意が必要である。このテストのためには，指示された音源を 15 分位聴いて準備しておく必要がある。

次に，プリントを用いてピンイン音読の練習をしてゆく。

細心の注意をはらいながら，学生1人1人の唇の形と発音をチェックする。

(1) 授業の概要と計画
(2) 単母音の発音
(3) 単母音・二重母音の発音
(4) 二重母音・三重母音の発音
(5) 鼻母音の発音その1
(6) 鼻母音の発音その2
(7) 子音の発音その1
(8) 子音の発音その2
(9) 子音の発音その3
(10) 母音復習
(11) 音節表その1
(12) 音節表その2
(13) 音節表その3
(14) 音節表総復習

履修上の注意

1年目の中国語は特に前期が重要であり，ここをいい加減にやり過ごしてしまうと，2年間すべてが台無しになってしまうので，極力休まないようにして欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回の授業で指示された箇所を復習して、小テストに臨むこと。

教科書

本間史他『中国語ポイント 42』白水社、2100 円+税

参考書

中日辞典等については授業中に指示するので，急いで買わないこと

課題に対するフィードバックの方法

小テストで間違えた箇所を、音声を聴いて、自分で発音して練習すること。

成績評価の方法

毎回実施する小テスト(10 点満点)の合計点が3分の2，7月の本テストが3分の1を占める。授業最初の小テストに遅刻すると，その日は0点になるので注意されたい。

その他

発音でのどを使うので，授業中の水分補給は可だが，ガムやキャンディーの類は口の動きを制限するので厳禁である。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
蝦名 良亮	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

現代中国語の日常的な会話表現を採用したテキストを使用し、使用文字・発音の基礎を習得し、「読み・聴き・書く・話す」練習を通じて、中国語による基本的なコミュニケーション能力を養う。

常用の挨拶表現の習得、簡単な自己紹介ができることを目標とする。

授業内容

1 中国語概論とテキスト紹介
2 テキスト第1課:音節と声調
3 テキスト第2課:単母音と複母音
4 テキスト第3課:子音(1)
5 テキスト第4課:子音(2)
6 テキスト第4課:鼻母音
7 発音のまとめ
8 テキスト第5課:動詞"是"/"的"/名前の言い方
9 テキスト第6課:年齢の言い方/年月日の言い方/動詞述語文
10 テキスト第7課:存在を表す動詞"有"/所在を表す動詞"在"/選択疑問文
11 テキスト第8課:形容詞述語文/動詞"喜欢"/連動文
12 テキスト第9課:助動詞"想"、"要"/量詞/100 以上の数
13 テキスト第 10 課:進行/変化/時刻
14 a:春学期到達度の確認。b:正答解説。

履修上の注意

原則として毎回、単語のつづりなどに関する小テストを実施または課題の提出を求める。小テストでの不正行為が発覚した場合、以後の履修を認めない。また、授業の妨げとなる私語などの行為、授業中はスマホの私的な使用は堅く慎んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキスト本文と例文について毎回 30 分程度の予習復習が必要である。

教科書

陳淑梅・劉渇氷『異文化面白体験初級中国語』朝日出版社。

参考書

基本的に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

原則として添削し返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度　20%
授業参加の積極性など
授業内小テスト　40%
期末の試験　40%

その他

特になし。

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
林 茜茜	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

中国語の発音を表すピンインと声調をしっかり練習して、基礎的な文法を学ぶ。応答練習を通して簡単なコミュニケーション能力を身につけ、初級レベルの文章を読み書きできることを目標とする。

授業内容

＊以下はあくまで予定で、必要に応じて変更することがあります。
1. 声調、単母音、複母音
2. 子音、有気音と無気音
3. 鼻母音、声調の組み合わせ、数字
4. 第1課(1) 人称代名詞、“是”の文、否定を表す“不”
5. 第1課(2) 名前のたずねかた、発音ノート(1)
6. 第2課(1) 動詞が述語になる文、疑問詞
7. 第2課(2) 疑問文、語気助詞
8. 第3課(1) 指示詞(1)、“～的”
9. 第3課(2) 副詞“也”と“都”、形容詞が述語になる文
10. 第4課(1) 数の言い方、数量詞
11. 第4課(2) “有”と“没有”、“几”と“多少”、 発音ノート(2)
12. 第5課(1) 指示詞(2)場所、存在の表現
13. 第5課(2) 年月日の言い方、連動文
14. a まとめ b 期末試験

履修上の注意

授業中、できるだけ大きな声で音読練習をすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

新しい文法や本文を予習し、分からない単語があれば、調べておくこと。既習内容の質問に即答できるよう、教えた内容をしっかり復習しておくこと。

教科書

『シンプルチャイニーズ東京会話篇』早稲田大学理工学術院中国語部会(朝日出版社)

参考書

『中日辞典』第3版(小学館)や『講談社中日辞典』第3版(講談社)などを推奨する。電子辞書でもよい。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(出席状況、授業中の問答、本文暗唱、宿題など)50%、期末試験 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
建部 良平	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

基本的な単語や文法の学習を通して、中国語の基礎を習得することを本授業の目標とする。年間を通して、自身の経験談も含めながら、中国文化に親しんでもらえるような話も織り交ぜたいと考えている。教科書は HSK(漢語水平考試)関連のテキストを使用する。HSK は世界各国で実施されている中国語検定試験であり、留学やビジネスにおける中国語レベルの指標となっている。本授業は HSK の取得を目標とはしないが、中国語を深めたい受講者がいた際には、HSK が良い道標になると考えているため、HSK 関連のテキストを教科書に選んだ。

授業内容

第１回(4/10) ：イントロダクション
第２回(4/17) ：拼音について
第３回(4/24) ：第１課(人称代名詞・動詞「是」・名前の言い方)
第４回(5/8) ：第２課(動詞述語文・語気助詞「吧」・疑問詞疑問文)
第５回(5/15) ：第３課(指示代名詞⑴・「的」・語気助詞「呢」)
第６回(5/22) ：小テスト(第１～３課)、第４課(形容詞述語文・「想」と「要」・動詞の重ね型)
第７回(5/29) ：第５課(時間表現⑴・「有」・反復疑問文)
第８回(6/5) ：第６課(数詞・量詞・「几」と「多少」)
第９回(6/12) ：小テスト(第４～６課)、前半の振り返り
第 10 回(6/19)：第７課(指示代名詞⑵・方位詞・「有」と「在」)
第 11 回(6/26)：第８課(時間表現⑵・変化の「了」・年齢の言い方)
第 12 回(7/3) ：小テスト(第７～８課)、第９課(完了の「了」・前置詞「給」・主述述語文)
第 13 回(7/10)：春学期の復習
第 14 回(7/17)：試験

履修上の注意

日本語や英語との違いや近さを感じながら、楽しく中国語を学んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

①毎授業の最後、リアクションペーパーの記入時間を 5～10 分ほど設ける。内容は、授業で疑問が残った事項、興味深いと感じたこと、中国語や中国に関する質問など、自由記述とする。
②春学期中に小テストを 3 回行う。具体的な形式や範囲については授業時に伝えるので、それを元に学習を進めてほしい。
③期末試験は、授業や小テストの状況を踏まえながら範囲を定める。学習時間を十分に確保できるよう、可能な限り早めに範囲を告知する。

教科書

南勇『新 HSK にチャレンジ！一年生の中国語』朝日出版社、2023 年。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

①リアクションペーパーにて、フォローアップが必要な質問事項があれば、翌週の授業にて対応する。
②小テストは実施週の翌週に返却する。

成績評価の方法

①平常点(リアクションペーパー)：30%
②小テスト：30%
③期末試験：40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 美千子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈概要〉 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた, 中国語の音節構造, ピンインの読み方・書き方, 初級レベルの短い文の読解, 文法事項, 簡体字の習得をめざす。
〈到達目標〉 まず、中国語の発音を表すピンインと声調を正確に発音できることを目標にする。そのうえで初級レベルの短文を中国語らしく音読でき, 読解できる。文法項目を理解する。簡体字を認識できて書けることを目標とする。

授業内容

各課, 先に文法事項を学んでから, 本文の会話を音読し, 意味を確認していく。 練習問題は、単語を覚えていることが前提。
第1回 イントロダクション 発音
第2回 発音
第3回 発音
第4回 第1課 動詞 名前の言い方
第5回 第１課 練習問題
第6回 第２課 人称代名詞
第7回 第２課 練習問題
第８回 第３課 名詞述語文 連動文
第9回 第３課 練習問題
第10回 第４課 指示詞 形容詞述語文
第11回 第４課 練習問題
第12回 第５課 離合詞
第13回 第５課 練習問題
第14回 a. 試験 b. 正答解説

履修上の注意

大学に入って初めて学び始める外国語である。発音の練習では、大きな声で練習してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

単語の小テストを実施してから, 授業に入るので、しっかり単語を覚えてくること。
単語テストの範囲は, その日の授業中の履修する単語。

教科書

『購読編 読む力・書く力を鍛える初級中国語』楊凱栄監修 雷桂林・賈黎黎著

参考書

『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は:『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社 を推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解答例は、Oh！Mieiji で公開し、返却時に解説する。
期末試験については、同日に解答例を配布し詳細に解説する。

成績評価の方法

小テスト(50%)定期試験(50%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
斉 金英	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

中国語の発音(ピンインや声調)をしっかりと身につけた上で、基礎的な文法や初歩的な聴く、書く、話す総合的な応用能力を学生が習得することを目標とする。

授業内容

第1回 第１課 声調・単母音・複母音
第2回 第２課 子音
第3回 第３課 鼻母音・軽声
第4回 第４課 声調変化・挨拶言葉
第5回 復習・小テスト
第6回 第５課 “吗”疑問文
第7回 第６課 動詞述語文
第8回 第７課 指示代名詞
第9回 第８課 疑問詞疑問文
第10回 復習・小テスト
第11回 第９課 形容詞述語文
第12回 第10課 所有を表す“有”・量詞
第13回 第11課 文末の“了”・時点時刻
第14回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

・語学の学習には日頃のこつこつとした努力が必要である。毎回の授業内容を復習する習慣を身につけてください。
・授業中会話練習を通して応用力を磨く。また、学期中定期的に小テストを行う。
・授業に１回欠席で１点減点される。
・疑問があったらいつでも気軽に質問してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

できるだけ毎回の授業内容を復習する習慣を身につけて欲しい。復習方法として、音声を聞きながらリピートし、聞き取れた内容を書き取ることをお勧めする。

教科書

『改訂版 大学生のための初級中国語 24 回』、杉野元子・黄漢青著、 (白帝社)。

参考書

相原茂編『講談社パックス中日・日中辞典』(講談社)、電子辞書でもよい。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を授業中に行う。

成績評価の方法

期末試験 50%、平常点(授業で行う小テスト)40%、授業への参加度 10%で評価する。

その他

小テストの結果を講評することは授業内容の理解が深まると好評であったため, 今年度も継続する。
状況により授業の進度を適宜に調整することがある。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡA	**中国語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
永井 弥人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

四声・ピンインの読み方等、中国語の発音に習熟することを目標とします。加えて、初歩的な文法を一部学習します。

授業内容

1 概説 四声 単母音 2 子音 無気音と有気音 舌面音他 3 子音 そり舌音 舌歯音 4 二重母音 三重母音 5 前鼻音 n 後鼻音 ng
6 変調 2音節語の発音 軽声 アル化 間違えやすい発音の組み合わせ 7 第1課 是構文 名詞述語文 時刻と曜日の言い方
8 朗読 練習問題 9 第2課 形容詞述語文 主述述語文 連体修飾語 10 朗読 練習問題 11 第3課 動詞述語文 連用修飾語
所有と存在の表現 12 朗読 練習問題 13 第4課 選択疑問文 疑問詞疑問文 14 a各自復習 b試験

履修上の注意

出来るだけ声を出して発音する様にして下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は不要ですが、復習はする様にして下さい。

教科書

『ぐんぐんのびる中国語①』 何珍時著 (朝日出版社)
参考書

参考書

『60 日完成中国語の基礎文法』何珍時著 (朝日出版社)

課題に対するフィードバックの方法

基本的に ohomeiji 上で行う予定です。

成績評価の方法

学期末試験 60% 平常点 40%
① 試験(100 点満点)×0.6+平常点(40 点満点)=成績(100 点満点) 60 点以上合格。
② 平常点は、授業中、指名され、読みや訳を行う際、その出来具合を評価して加算します。例 よく出来ている 2 点。 まあまあよい 1 点。 出来ていない ノーカウント。(2 点、1 点というのは、あくまでも目安です。全体人数及び指名回数により変動します。)
③ 私語等授業妨害行為が絶えない場合、減点の対象となります。
④ 出席点というものは存在しません。出席している

その他

特に無し。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

現代漢語=中国語の発音の基礎と基本的な表現習得を目指す基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し,1年間で無理なく無駄なく,発音や基礎文法等を体系的に学習する。他の言語と同様に中国語のコミュニケーションも,送受信=質問と答えのやり取りを基本としている。日常の生活における交流場面に着目する問答練習を中心に,基礎的な表現を読む・聞く・話す・書く能力を身につけることを目標とする。

授業内容

第1回 春学期学習内容の復習
第2回 金額の表現
第3回 距離・起点・動作の場所
第4回 家族構成の表現
第5回 比較の表現
第6回 完了の表現
第7回 変化の表現
第8回 中間テスト
第9回 過去の経験に関する表現
第 10 回 完了した動作の時間・場所・方式の確認
第 11 回 動作の進行と持続
第 12 回 高さ・長さ・重さ
第 13 回 感覚・願望の表現
第 14 回 まとめ

履修上の注意

春学期より、難易度も内容量も増大しており、毎回授業の初めに聞かれる質問に即答できるよう、しっかり復習しておくことが求められる。語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから,放課後は、付属の CD と DVD(オンライン提供)を活用しながら予習・復習をすることが重要。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、授業の初めに既習内容に関する質問をするので、予習しておくこと。

教科書

『日常をコミュニケーションする中国語初級』 株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

推薦辞書なども含め,授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法

期中に小テスト1回(25%),期末に口語テスト(問答・朗読、10%),筆記テスト1回(65%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 穎芝	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、中国語を初めて学ぶ学部１年生を対象とした入門科目です。中国語の基礎的な音声体系に慣れ、「聴く」「話す」を中心とした初歩的な言語運用能力の習得を目的とします。
授業では、初心者向けの教科書を用い、発音練習、リスニング、会話練習を中心に進めます。あわせて、定型表現を用いた簡単なライティングにも取り組みます。教科書を基本としつつ、個人練習やグループワークを取り入れ、必要に応じてゲーム、歌、アニメ、ドラマなどの教材も活用します。
評価は、定期的に実施するリスニングおよびスピーキングの小テストによって

授業内容

第１回　本編　第9課　旅行の計画①
第２回　本編　第9課　旅行の計画②
第３回　本編　第10課　病院①
第４回　本編　第10課　病院②
第５回　本編　第11課　トラブル①
第６回　本編　第11課　トラブル②
第７回　本編　第12課　ホテル①
第８回　本編　第12課　ホテル②
第９回　本編　第13課 約束する①
第10回　本編　第13課 約束する②
第11回　本編　第14課 掲示板を見る①
第12回　本編　第14課 掲示板を見る②
第13回　まとめ
第14回　期末試験

履修上の注意

語学学習は、建物を建てることにたとえることができます。丈夫な建物を造るためには、最初にしっかりとした土台を作ることが大切です。中国語学習においては、発音や音に慣れることがその土台になります。
最初は間違えるのが当たり前です。間違うことを恐れず、積極的に授業に参加し、たくさん声に出して発音練習を行いましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：次回の授業で扱うテキストを事前に読み、内容を確認するとともに、わからない単語や表現を辞書で調べておきます。
復習：毎週授業で学んだ内容を復習したうえで、教科書付属の音声を繰り返し聞きながら音読練習を行い、発音やリズムの定着を図ります。

教科書

『中国語でコミュニケーション』(沈国威 監修/氷野善寛、小嶋美由紀、海暁芳、紅粉芳恵、阿部慎太郎共著、朝日出版社。)およびプリント。

参考書

語学学習において辞書の使用は不可欠です。
授業では、中日辞典(商務印書館・小学館共編／小学館)、中日辞典(相原茂編／講談社)、超級クラウン中日辞典(松岡榮志主幹、費錦昌・古川裕・樋口靖・白井啓介・代田智明編著／三省堂)などの中日辞典を推奨します。
また、講談社・小学館・三省堂の辞書を収録した電子辞書や、スマートフォンの中国語辞書アプリを使用しても構いません。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う発音練習および提出された課題については、教員がコメントを付してフィードバックを行い、学習内容の定着と発音・表現力の向上を図ります。

成績評価の方法

平常点(出席状況、授業内での発音練習への参加度、課題への取り組みなど)：20%
定期的に実施する小テスト(リスニング・スピーキング)：40%
期末評価(リスニングを中心とした試験)：40%

その他

４回以上無断欠席(欠席連絡なし)の場合は成績評価の対象になりません。
部の活動や病気などで欠席する場合には必ず公的な書類を提出してください。

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 隆哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

秋学期は，春学期に培った発音能力を基礎とし，語彙を増やしつつ簡単な文を聴き取ったり自ら口に出して言えるようになることを目指すものとする。
またそれを通じて，ピンインを完全に音読・書き取りできるようになるであろう。

授業内容

授業の最初に，前回教えた範囲に関する小テキストを実施する。発音を聴いて単語(筒体字・ピンイン・意味)を書き取るのが中心である。このテストのためには，教科書に付いている CD を聴いて，自分で書いて準備しておく必要がある。
次に教科書の新しい内容を，音読しつつ説明してゆく。
(1) 授業の概要と計画
(2) 人称代詞，是と不是
(3) 「的」の用法，SVO 文型
(4) 有と在
(5) 指示代詞と量詞
(6) 助動詞「能」「会」「可以」，連動文
(7) 動詞＋「了」，在～
(8) 親族の呼称，動詞の重ね型
(9) 動作の進行，動詞＋「過」
(10) A 還是 B，反復疑問文
(11) 数量をたずねる疑問詞，A 比 B～
(12) 結果補語，SVOO 文型
(13) 様態補語，使役動詞
(14) 時刻・年月日・数字の言い方

履修上の注意

春学期の単位を落とした人でも，秋学期のやり方次第では単位取得が可能だが，かなりの苦労が必要となる。
その意味でも，春学期にしっかりと基礎を固めて欲しい。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回の授業で指示された箇所を復習して小テストに臨むこと。

教科書

本間史『中国語ポイント 42』白水社、2100 円+税

参考書

中日辞典等については授業中に指示するので，急いで買わないこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テストで間違えた箇所を、音声を聴いて自分で発音して、書いて復習すること。

成績評価の方法

毎回実施する小テスト(10 点満点)と1月の本テスト(80 点満点)の合計で評価する。

その他

春学期に引き続き，授業中の水分補給を可とするが，ガムやキャンディーは厳禁である。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
蝦名 良亮	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期の習得内容を基礎として、「読み・聴き・書く・話す」練習を通じて、より複雑な構文を習得し、中国語による基本的なコミュニケーション能力をさらに充実させる。

旅行・買い物などの状況に対応する表現の習得と，文章語の初歩的な読解スキルの習得が目標である。

授業内容

1 テキスト第 11 課:料理の注文/比較/動詞の重ね型・文法ポイント
2 テキスト第 11 課:会話
3 テキスト第 12 課:完了の“了”/経験を表す“过”/“有点儿”と“一点儿”
4 テキスト第 12 課:会話
5 テキスト第 13 課:助動詞“可以”/“从”“往”“在”/時間量
6 テキスト第 13 課:会話
7 秋学期前半学習事項のまとめ
8 テキスト第 14 課:結果補語/助動詞“会”“能”/様態補語
9 テキスト第 14 課:会話
10 テキスト第 15 課:方向補語/使役表現/可能補語
11 テキスト第 15 課:会話
12 テキスト第 16 課:受身表現/禁止表現/“是～的”構文
13 テキスト第 16 課:会話
14 a:秋学期到達度の確認。b:正答解説。

履修上の注意

原則として毎回、単語のつづりなどに関する小テストを実施する。小テストでの不正行為が発覚した場合、以後の履修を認めない。また、授業の妨げとなる私語などの行為は堅く慎んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキスト本文と例文について毎回 30 分程度の予習復習が必要である。

教科書

陳淑梅・劉湯氷『異文化面白体験初級中国語』朝日出版社。

参考書

基本的に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

原則として採点したうえで返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度 20%
授業参加の積極性など
授業内小テスト 40%
期末の試験 40%

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
林 茜茜	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

さらにきれいな中国語の発音を身につけ、より複雑な基礎文法を学ぶ。応答練習を通してコミュニケーション能力を身につけ、より難しい初級レベルの文章を読み書きできることを目標とする。

授業内容

＊以下はあくまで予定で、必要に応じて変更することがあります。
1. 第6課(1) 完了を表す“了”、時刻・曜日の言い方
2. 第6課(2) 変化・到達を表す“了”、前置詞“跟”
3. 第7課(1) 助動詞“想”、動詞が名詞を修飾する場合
4. 第7課(2) 反復疑問文、前置詞“在”
5. 第8課(1) 助動詞“会”“能”“可以”
6. 第8課(2) 様態補語
7. 第9課(1) 比較を表す“比”、経験を表す表現
8. 第9課(2) 前置詞“給”、選択疑問文の表現
9. 第10課(1) 前置詞“从”“到”“离”、“要”
10. 第10課(2) 時間の長さ、動作の回数を表す言葉、動詞の重ね型
11. 第11課(1) 動作の進行を表す“在”、動作・状態の持続を表す“着”
12. 第11課(2) 禁止の表現
13. 第12課 結果補語、二つの目的語を取る動詞
14. a まとめ b 期末試験

履修上の注意

授業中、できるだけ大きな声で音読練習をすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

新しい文法や本文を予習し、分からない単語があれば、調べておくこと。既習内容の質問に即答できるよう、教えた内容をしっかり復習しておくこと。

教科書

『シンプルチャイニーズ東京会話篇』早稲田大学理工学術院中国語部会(朝日出版社)

参考書

『中日辞典』第3版(小学館)や『講談社中日辞典』第 3 版(講談社)などを推奨する。電子辞書でもよい。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業時にフィードバックを行う。

成績評価の方法

平常点(出席状況、授業中の問答、本文暗唱、宿題など)50%、期末試験 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
建部 良平	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

基本的な単語や文法の学習を通して、中国語の基礎を習得することを本授業の目標とする。年間を通して、自身の経験談も含めながら、中国文化に親しんでもらえるような話も織り交ぜたいと考えている。教科書は HSK(漢語水平考試)関連のテキストを使用する。HSK は世界各国で実施されている中国語検定試験であり、留学やビジネスにおける中国語レベルの指標となっている。本授業は HSK の取得を目標とはしないが、中国語を深めたい受講者がいた際には、HSK が良い道標になると考えているため、HSK 関連のテキストを教科書に選んだ。

授業内容

第 1 回(9/25) :イントロダクション
第 2 回(10/2) :第 10 課(時間表現⑶・連動文・疑問詞「怎么」)
第 3 回(10/9) :第 11 課(前置詞「在」・二重目的語・前置詞「跟」)
第 4 回(10/16) :第 12 課(経験を表す「过」・動作量補語・お金の言い方)
第 5 回(10/23) :小テスト(第 10～12 課)、第 13 課(時間量・時間量補語・「从」「到」「离」)
第 6 回(11/6) :第 14 課(助動詞「会」「能」「可以」)
第 7 回(11/13) :第 15 課(比較の表現・「是～的」構文・様態補語)
第 8 回(11/20) :小テスト(第 13～15 課)、第 16 課(「快～了」・方向補語・「着」)
第 9 回(11/27) :第 17 課(結果補語・「把」・「让」)
第 10 回(12/4) :第 18 課(進行を表す副詞「在」・可能補語・「别」と「不要」)
第 11 回(12/11):小テスト(第 16～18 課)、第 19 課(前置詞「往」「对」・選択疑問文「还是」)
第 12 回(12/18):第 20 課(「因为～所以」・疑問詞の不定用法と任意用法)
第 13 回(1/8) :復習
第 14 回(1/15) :試験

履修上の注意

日本語や英語との違いや近さを感じながら、楽しく中国語を学んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

①毎授業の最後、リアクションペーパーの記入時間を 5～10 分ほど設ける。内容は、授業で疑問が残った事項、興味深いと感じたこと、中国語や中国に関する質問など、自由記述とする。
②秋学期中に小テストを 3 回行う。具体的な形式や範囲については授業時に伝えるので、それを元に学習を進めてほしい。
③期末試験は、授業や小テストの状況を踏まえながら範囲を定める。学習時間を十分に確保できるよう、可能な限り早めに範囲を告知する。

教科書

南勇『新 HSK にチャレンジ！ 一年生の中国語』朝日出版社、2023 年。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

①リアクションペーパーにて、フォローアップが必要な質問事項があれば、翌週の授業にて対応する。
②小テストは実施週の翌週に返却する。

成績評価の方法

①平常点(リアクションペーパー):30%
②小テスト:30%
③期末試験:40%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 美千子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈概要〉 中国語未習の1年次の学生に中国語の初級レベルの教育を行う。 発音のしかた, 中国語の音節構造, ピンインの読み方・書き方, 初級レベルの短い文の読解, 文法事項, 簡体字の習得をめざす。
〈到達目標〉 まず、中国語の発音を表すピンインと声調を正確に発音できることを目標にする。そのうえで初級レベルの短文を中国語らしく音読でき, 読解できる。文法項目を理解する。簡体字を認識できて書けることを目標とする。

授業内容

各課, 先に文法事項を学んでから, 本文の会話を音読し, 意味を確認していく。 練習問題は、単語を覚えていることが前提。
第1回 第 5 課までの復習
第2回 第 6 課 方向補語
第3回 第 6 課 練習問題
第4回 第 7 課 変化の了 前置詞
第5回 第7課 練習問題
第6回 第 8 課 比較
第7回 第 8 課 練習問題
第 8 回 第 9 課 存現文
第9回 第 9 課 練習問題
第 10 回 第 10 課 様態補語・結果補語
第 11 回 第 10 課 練習問題
第 12 回 第 11 課 可能補語 把の構文
第 13 回 第 11 課 練習問題
第 14 回 a. 試験 b. 正答解説

履修上の注意

大学に入って初めて学び始める外国語である。発音の練習では、大きな声で練習してほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

単語の小テストを実施してから, 授業に入るので、しっかり単語を覚えてくること。
単語テストの範囲は, その日の授業中の履修する単語。

教科書

『購読編 読む力・書く力を鍛える初級中国語』楊凱栄監修 雷桂林・賈黎黎著

参考書

『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 アスク出版 2010 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 東方書店 1995 辞典は:『中日辞典第2版』小学館または『中日辞典第3版』講談社 を推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

課題の解答例は、Oh！Mieiji で公開し、返却時に解説する。
期末試験については、同日に解答例を配布し詳細に解説する。

成績評価の方法

小テスト(50%)定期試験(50%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
斉 金英	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
中国語の発音(ピンインや声調)をしっかりと身につけた上で、基礎的な文法や初歩的な聴く、書く、話す総合的な応用能力を学生が習得することを目標とする。

授業内容
第 1 回　第 12 課 連動文
第 2 回　第 13 課 方位詞・存在を表す“有”“在”
第 3 回　第 14 課　動詞の後ろの“了”・前置詞 “ 给”
第 4 回　第 15 課　経験の“过”・前置詞“跟”
第 5 回　第 16 課　前置詞“从”・“到”
第 6 回　第 17 課　助動詞 “会”・“能”
第 7 回　復習・小テスト
第 8 回　第 18 課　比較文・“多”+形容詞
第 9 回　第 19 課　“是～的”構文・100 以上の数字
第 10 回　第 20 課　状態補語・“有点儿”
第 11 回　第 21 課　方向補語・進行の “在”
第 12 回　第 22 課　結果補語・処置文・助動詞“可以”
第 13 回　復習・小テスト
第 14 回　a:まとめ b:試験

履修上の注意
・語学の学習には日頃のこつこつとした努力が必要である。毎回の授業内容を復習する習慣を身につけてください。
・学期中定期的に小テストを行う。
・授業に 1 回欠席で 1 点減点される。
・疑問があったらいつでも気軽に質問してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
毎回の授業内容を復習する必要がある。復習方法として、音声を聞きながらリピートし、聞き取れた内容を書き取ることをお勧めする。

教科書
『改訂版 大学生のための初級中国語 24 回』、杉野元子・黄漢青著、 (白帝社)。

参考書
相原茂編『講談社パックス中日・日中辞典』(講談社)、電子辞書でもよい。

課題に対するフィードバックの方法
小テストの解説を授業中に行う。

成績評価の方法
期末試験 50%、平常点(授業で行う小テスト)40%、授業への参加度 10%で評価する。

その他
小テストの結果を講評することは授業内容の理解が深まると好評であったため, 今年度も継続する。
状況により授業進度を適宜に調整することがある。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅡB	**中国語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
永井 弥人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
前期同様、文法事項を正確に把握することに務め、且つ朗読・リスニング練習に意を用いたいと考えております。
-

授業内容
1 第5課 語気助詞
2 朗読 練習問題
3 第6課「完了」を表すアスペクト助詞了
4 朗読 練習問題
5 第7課 アスペクト助詞 過 着 進行形 命令文 依頼文
6 朗読 練習問題
7 第8課 可能・能力を表す助動詞 願望・欲求を表す助動詞
8 朗読 練習問題
9 第9課 義務・必要を表す助動詞 推量・可能性を表す助動詞
10 朗読 練習問題
11 第10課 文の成分 主語・動詞・目的語・補語
12 目的語 補語 朗読
13 練習問題
14 復習 その他
2024-12-13 09:40:53 - DA1314admin (履歴)
-

履修上の注意
出来るだけ声を出して発音する様にして下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習は不要ですが、復習はする様にして下さい。

教科書
『ぐんぐんのびる中国語①』　何珍時著 (朝日出版社)
参考書

参考書
『60 日完成中国語の基礎文法』何珍時著 (朝日出版社)

課題に対するフィードバックの方法
基本的に ohomeiji 上で行う予定です。

成績評価の方法
学期末試験 60%　平常点 40%
① 試験(100 点満点)×0. 6+平常点(40 点満点)=成績(100 点満点)　　60 点以上合格。
② 平常点は、授業中、指名され、読みや訳を行う際、その出来具合を評価して加算します。例。 よく出来ている 2 点。 まあまあよい 1 点。 出来ていない　　ノーカウント。(2 点、1 点というのは、あくまでも目安です。全体人数及び指名回数により変動します。)
③ 私語等授業妨害行為が絶えない場合、減点の対象となります。
④ 出席点というものは存在しません。出席している

その他
特に無し。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
喬 志航	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

中国語を一年間学習した学生を対象として、中国語の長文読解と文法学習、中国語会話の練習を行う。
やや複雑な文法や語彙、中国語独特の表現などを、実例を用いながら丁寧に説明する。そして学生に例文を作らせて発言させ、各人が興味を持って積極的に参加するような授業にする。さらに、練習問題を使って発音や文法の使い方を強化する。
言語の学習だけでなく、中国語圏の社会、政治、文化、歴史等について幅広く学習を行い、自己の思考の相対化を図ることができるようにする。
基本 1000 語程度の中国語でごく簡単な会話ができること

授業内容

第1回:授業の全体像の説明
第2回:第1課
第3回:第2課
第4回:第3課
第5回:第4課
第6回:第 1-4 課　ヒアリング、会話の練習
第7回:中間試験
第8回:第5課
第9回:第6課
第 10 回:第 5、6 課　ヒアリング、会話の練習
第 11 回:第7課
第 12 回:第8課
第 13 回:第 7、8 課　ヒアリング、会話の練習
第 14 回 a:期末試験
　　b:正答解説

履修上の注意

興味を持って積極的にとりくむことを期待する。
語学習得には、特に出席率が重要である。
授業中、ノートを取ることが大事である。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習:テキスト本文を読了する。
事後学習:テキスト単語・文法を振り返る。

教科書

『中国語スピーキング沙龍』、相原茂、蘇紅著、朝日出版社。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への貢献度, 中間試験など), 期末試験に基づいて評価する。平常点 50%, 期末試験 50%。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤 三知夫	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本人は漢字を中国人と共有しており、その親近感から中国語の文章を勘に頼って理解する傾向があります。この授業では中国の短編小説にとりくみ、勘に頼るのではなく、正確に日本語におきかえることができるようになることを目的とします。

授業内容

春学期
1 発音の復習
2 一年次の文法の復習
3 結果補語を重点的に学習
4 状態補語を重点的に学習
5 方向補語を重点的に学習
6 可能補語を重点的に学習
7 数量補語を重点的に学習
8 「だーれだ？」(『中国掌の小説選』)の読解をとおして補語の使い方を習得(1)
9 「だーれだ？」(同上)の読解をとおして補語の使い方を習得(2)
10 「だーれだ？」(同上)の読解をとおして補語の使い方を習得(3)
11 「だーれだ？」(同上)の読解をとおして補語の使い方を習得(4)
12 「一つの蜜柑」(同上)を読む(1)
13 「一つの蜜柑」(同上)を読む(2)
14 ａまとめ ｂ試験

履修上の注意

要予習。
中日辞典は必ず持ってきて、こまめに辞書をひく習慣をつけること。
漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味が分かることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)を文法復習用の教科書とします。この授業では主に相原茂編『中国掌の小説選』(東方書店, 1997 年)を使いますが、現在入手不可能なのでプリントして配布します

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
王 前	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、今まで覚えた中国語の基礎知識を復習したうえで、スキルアップを目指し、話す力と書く力などを総合的に高めることを目標とします。より複雑な日常会話だけでなく、中国語の文章作成力も高めることができます。
The aim of this class is to review the basic knowledge of Chinese that you have learnt so far, and then to improve your skills and to comprehensively

授業内容

1.第一課(1)"把"構文
2.第一課(2)持続を表す"着"など
3.第二課(1)形容詞の重ね型
4.第二課(2)"是一的"構文
5.第三課(1)可能補語
6.第三課(2)"応該"など
7.第四課(1)方向補語
8.第四課(2)原因を聞く表現
9.第五課(1)受け身文
10.第五課(2)禁止の表現
11.第六課(1)手段や方法を表す表現など
12.第六課(2)名詞の重ね型など
13.第七課(1)方向補語の派生用法
14.第七課(2)連動文の"着"など

履修上の注意

語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書

『中国語のかたちづくり』楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書

中日・日中辞典。

課題に対するフィードバックの方法

教室でも対応できますし、サイトを通しても対応できます。

成績評価の方法

参加度 20%%トと期末試験 80%。

その他

とくにありません。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 美千子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

基礎的な表現や文法事項を復習しつつ、応用的な表現能力と読解能力をバランス良く身につける。授業では、総合的な能力の養成に重点をおく。
基礎的な会話ができ、まとまった文章を読解できるレベルに到達することを目指す。

授業内容

1 1年の復習 疑問詞疑問文を復習します。
2 第１課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 是･･･的の構文
3 第１課 練習 練習問題を通した理解
4 第２課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 可能の助動詞
5 第２課 練習 練習問題を通した理解 前置詞
6 第３課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 文末の了
7 第３課 練習 練習問題を通した理解
8 第４課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 比較の表現
9 第４課 練習 練習問題を通した理解
10 第５課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 疑問詞の不定用法
11 第５課 練習 練習問題を通した理解
12 第６課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解 可能補語 様態補語
13 第６課 練習 練習問題を通した理解
14 今学期の内容のまとめ 期末テスト

履修上の注意

授業中の私語は厳禁であるが、グループワークの際は、積極的に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

語句の意味は教科書に記載されているが、もし本文で知らない単語があるなら、予め調べておきましょう。
練習問題にはピンインがついていない箇所があるのでの音読で困らないように発音できるように準備しておくこと。

教科書

『2 年目の伝える中国語　自分のこと日本のこと』 及川淳子著 白水社

参考書

『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著（アスク出版 2010）
『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著（東方書店 1995）
辞典は:『中日辞典第2版』(小学館)または『中日辞典第3版』(講談社）を推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji に解答例を掲示するとともに、授業時に解説。提出物は、訂正して返却する。

成績評価の方法

試験 50%　平常点 50%
授業中にその日の内容で適宜小テストをする。小テストを平常点とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤　三知夫	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本人は漢字を中国人と共有しており、その親近感から中国語の文章を勘に頼って理解する傾向があります。この授業では中国の短編小説にとりくみ、勘に頼るのではなく、正確に日本語におきかえることができるようになることを目的とします。

授業内容

春学期
1 発音の復習
2 一年次の文法の復習
3 結果補語を重点的に学習
4 状態補語を重点的に学習
5 方向補語を重点的に学習
6 可能補語を重点的に学習
7 数量補語を重点的に学習
8「だーれだ？」(『中国掌の小説選』)の読解をとおして補語の使い方を習得(1)
9「だーれだ？」(同上)の読解をとおして補語の使い方を習得(2)
10「だーれだ？」(同上)の読解をとおして補語の使い方を習得(3)
11「だーれだ？」(同上)の読解をとおして補語の使い方を習得(4)
12「一つの蜜柑」(同上)を読む(1)
13「一つの蜜柑」(同上)を読む(2)
14 a まとめ b 試験

履修上の注意

要予習。
中日辞典は必ず持ってきて、こまめに辞書をひく習慣をつけること。
漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味が分かることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)を文法復習用の教科書とします。この授業では主に相原茂編『中国掌の小説選』(東方書店, 1997 年)を使いますが、現在入手不可能なのでプリントして配布します

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
王　前	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、今まで覚えた中国語の基礎知識を復習したうえで、スキルアップを目指し、話す力と書く力などを総合的に高めることを目標とします。より複雑な日常会話だけでなく、中国語の文章作成力も高めることができます。
The aim of this class is to review the basic knowledge of Chinese that you have learnt so far, and then to improve your skills and to comprehensively

授業内容

1.第一課(1)"把"構文
2.第一課(2)持続を表す"着"など
3.第二課(1)形容詞の重ね型
4.第二課(2)"是一的"構文
5.第三課(1)可能補語
6.第三課(2)"応該"など
7.第四課(1)方向補語
8.第四課(2)原因を聞く表現
9.第五課(1)受け身文
10.第五課(2)禁止の表現
11.第六課(1)手段や方法を表す表現など
12.第六課(2)名詞の重ね型など
13.第七課(1)方向補語の派生用法
14.第七課(2)連動文の"着"など

履修上の注意

語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書

『中国語のかたちづくり』楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書

中日・日中辞典。

課題に対するフィードバックの方法

教室でも対応できますし、サイトを通しても対応できます。

成績評価の方法

参加度 20%と期末試験 80%。

その他

とくにありません。

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
建部 良平	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

一年生での学習を踏まえ、中国語への理解を深めることを本授業の目標とする。中国語の理解は中国文化の理解とも密接に関わるため、自身の経験談も交えながら、中国文化に親しんでもらえるような授業を考えている。教科書には、HSK(漢語水平考試)の主催団体が編纂したものを選択した。HSK は世界各国で実施されている中国語検定試験であり、留学やビジネスにおける中国語レベルの指標となっている。本授業は HSK の取得を目標とはしないが、更に中国語を深めたい受講者がいた際には、HSK が良い道標になると考えているため、HSK 関連のテ

授業内容

第１回(4/14)：イントロダクション
第２回(4/21)：第１課(結果補語「好」・「一…也」「都不…」「都没…」・連詞「那」)
第３回(4/28)：第２課(単純方向補語・動作の連続発生・反語)
第４回(5/12)：第３課(「还是」と「或者」・「着」①・可能性の「会」)
第５回(5/19)：小テスト(第１～３課)、第４課(「又…又」・「着」②)
第６回(5/26)：第５課(変化の「了」・「越来越」)
第７回(6/2)　：第６課(可能補語・「呢」・「刚」と「刚才」)
第８回(6/9)　：小テスト(第４～６課)、前半の振り返り
第９回(6/16)：第７課(動作の持続時間の言い方・興味の表し方・時間表現)
第10回(6/23)：第８課(「又」と「再」・「就」の応用)
第11回(6/30)：第９課(「越Ａ越Ｂ」・比較文①)
第12回(7/7)　：小テスト(第７～９課)、第10課(比較文②・概数の言い方①)
第13回(7/14)：春学期の復習
第14回(7/21)：試験

履修上の注意

日本語や英語との違いや近さを感じながら、楽しく中国語を学んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

①毎授業の最後、リアクションペーパーの記入時間を 5～10 分ほど設ける。内容は、授業で疑問が残った事項、興味深いと感じたこと、中国語や中国に関する質問など、自由記述とする。
②春学期中に小テストを 3 回行う。具体的な形式や範囲については授業時に伝えるので、それを元に学習を進めてほしい。
③期末試験は、授業や小テストの状況を踏まえながら範囲を定める。学習時間を十分に確保できるよう、可能な限り早めに範囲を告知する。

教科書

姜麗萍主編『スタンダードコース中国語―中国語の世界標準テキスト―3』(SPRIX、2015 年)。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

①リアクションペーパーにて、フォローアップが必要な質問事項があれば、翌週の授業にて対応する。
②小テストは実施週の翌週に返却する。

成績評価の方法

①平常点(リアクションペーパー)：30%
②小テスト：30%
③期末試験：40%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
速水 大	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業では、1 年目の初級中国語の学習を終了した受講生を対象に、より高度で実用的な会話表現を習得していく。1 年間の学習で、会話力を高めるのと同時に、中国文化・習慣や中国人の価値観・考え方などを広く深く理解する。
【到達目標】
(1)実用的な会話表現をマスターし、会話力のレベルをさらに高める。音読やロールプレイ練習などを通じて、発音とリスニング力を向上させる。(2)授業で取り上げた中国文化や中国人の考え方などを知ることにより、中国・中国人及び日中異文化コミュニケーションについての理解を深

授業内容

第１回. イントロダクション　初級の学習の振り返り
第２回. 第 1 課[你穿这身衣服参加入学典礼吗？]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(使役動詞“让”「～させる」、“怎么”「なんで、どうして」、“怎么＋動詞”「どのように～、どうやって～」)。
第３回. 第 1 課[你穿这身衣服参加入学典礼吗？]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第４回. 第 2 課[咱们加个微信吧。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(量詞の語気を和らげる用法、“動詞＋ 不了”「～することができない」、目的達成の意味を表す“上”)
第５回. 第 2 課[咱们加个微信吧。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第６回. 第 3 課[中国的卡拉 OK 房间比这个大多了。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(程度を表す“这么＋形容詞”「こんなに～」、“～多了”「ずっと～」、“越～越…”「～すればするほど…」)
第７回. 第 3 課[中国的卡拉 OK 房间比这个大多了。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第８回. 第 4 課[不就是个学长吗？怎么那么牛啊？]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(語気助詞“嘛”「(だって) ～もの、 ～じゃないか」、“不就是～吗 ？ ”「(たかが) ～じゃないか」、“基本上”「基本的に」)
第９回. 第 4 課[不就是个学长吗？怎么那么牛啊？]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第10回. 第 5 課[中国的学校有社团活动吗？]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(“A 是 A, …”「A は A だが、(しかし)…」、列挙を表す“都”、“可能”「～かもしれない」)
第11回. 第 5 課[中国的学校有社团活动吗？]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第12回. 第 6 課[手提包也帮你拿。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(積極的な姿勢を表す“来”、“～就行(了)”「～すればそれでよい」、疑問詞“什么”を用いる反語文)
第13回. 第 6 課[手提包也帮你拿。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第14回. 期末試験と解説

履修上の注意

第1回授業で説明するが、授業にはどのような形態でもよいので必ず中日辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習 60 分：各課の新出単語を練習する。
復習 60 分：授業内容を必ず見直す。 各回の授業で「練習問題」を課題とするので回答する。

教科書

李軼倫著『日中文化 Q & A』金星堂

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解答例を配布し詳細に解説する。
「練習問題」の一部を宿題として提出してもらい、個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法

定期試験(60%)、平常点(40%)。平常点は単語小テストの成績、授業への参加状況等を考慮し、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し，仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常の生活における交流場面に対応する、比較的高度な

授業内容

1回 一年生で習った内容の復習①: 年月日、時刻、時間量
2回 一年生で習った内容の復習②: 態
3回 一年生で習った内容の復習③:比較表現
4回 一年生で習った内容の復習④:前置詞
5回 一年生で習った内容の復習⑤:願望表現
6回 第1課 一年生で習った内容の総合的な復習①
7回 第2課 一年生で習った内容の総合的な復習②
8回 第3課 連動文
9回 第4課 好き嫌い
10 回 第5課 程度補語
11 回 第6課 可能の表現
12 回 第7課 結果補語
13 回 第8課 方向補語
14 回 復習 春学期のまとめ

履修上の注意

語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから，放課後の予習・復習を怠らないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業の初めに既習内容の質問をするので、即答できるように予習しておくこと。

教科書

『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

課題に対するフィードバックの方法

次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法

期中に小テスト1回(25%)，期末に口語テスト(問答・朗読、10%)，筆記テスト1回(65%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
石野 智大	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、一年次に学習した中国語の文法・発音の内容を踏まえ、中国語準中級～中級レベルの教育を行う。各課の講義では、教科書の本文(会話文)を利用して、文法事項や新出単語に解説を加える。その後、会話文の音読と内容理解を進め、あわせて会話・文法の練習問題に取り組んでゆく。それらを通して、中国語の基礎力向上を図る。初級中国語から無理なくステップアップできるよう、全体として準中級のレベルを意識して授業を進めていく予定である。

【授業の到達目標】

中国語準中級～中

授業内容

第1回:一年次学習事項の復習(1)
第2回:一年次学習事項の復習(2)第1課 可能の助動詞、主述述語文など
第3回:第1課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第4回:第2課 原因・理由を表わす「因为」、文末助詞「吧」「呢」など
第5回:第2課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第6回:第3課 連動文、「是～的」構文、疑問詞「怎么」
第7回:第3課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第8回:第4課「了」の用法、副詞「就」
第9回:第4課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第 10 回:第5課 様態補語、可能性の予測を表わす「会」、仮定表現
第 11 回:第5課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第 12 回:第6課 結果補語(1)、副詞「有点儿」
第 13 回:第6課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第 14 回:期末テスト

履修上の注意

語学の習得には日々の継続的な学習が大切です。予習・復習を行って授業に臨むこと。また、授業中の音読練習は大きな声で行うようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

(予習)教科書付属の音源を活用して、各課の本文を複数回音読する。また、新出単語の字形・発音・意味を覚えてくる。
(復習)授業で習った文法事項や新出単語を見直し、理解を定着させる。

教科書

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一歩』(白水社、2010 年)

参考書

中日辞典について、携帯のしやすい小型の辞典では『ポケットプログレッシブ中日・日中辞典』(小学館)、中型の辞典では『中日辞典』(小学館)や『東方中国語辞典』(東方書店)をおすすめします。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点(発音練習、課題、授業への取り組み)50%。
期末テスト 50%。
本授業は毎回出席が前提ですので、遅刻や欠席は減点の対象となります。

その他

個別の質問や相談は随時お受けしますので、授業後にお願いします。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢA	**中国語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中国語の基本的な文法とさまざまな表現のパターンを学習し、初歩的な読み、書き、聞き、話す能力を習得する。教科書の本文は会話文から構成され、簡にして要を得た文法の説明がなされ、聞き取りを中心とする充実した練習問題がついており、これらを利用して中国語の着実なレベルアップをはかる。

中国語を読み、書き、聞き、話すための基本的な能力を身につけ、簡単な中国語会話が自由にできるようになるのが目標。

授業内容

第1回 中国語の発音と初級文法のおさらい1
第2回 初級文法のおさらい2
第3回 第1課の解説
第4回 第1課の練習
第5回 第2課の解説
第6回 第2課の練習
第7回 第3課の解説
第8回 第3課の練習
第9回 第4課の解説
第10回 第4課の練習
第11回 第5課の解説
第12回 第5課の練習
第13回 第6課の解説と練習
第14回 春学期の復習と試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

予習・復習を欠かさず行うこと。Web からダウンロードできる音声を利用し、反復練習すること。

教科書

『2冊めの中国語 会話クラス』、劉穎・柴森・杉野元子・小澤正人、白水社

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う小テストは次の授業で返却し、学期末試験については最終授業日に実施し、試験実施後、質問を受け付ける時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験70%＋平常点(原則毎回授業で行う小テストや課題)30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
喬 志航	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

中国語を一年間学習した学生を対象として、中国語の長文読解と文法学習、中国語会話の練習を行う。

やや複雑な文法や語彙、中国語独特の表現などを、実例を用いながら丁寧に説明する。そして学生に例文を作らせて発言させ、各人が興味を持って積極的に参加するような授業にする。さらに、練習問題を使って発音や文法の使い方を強化する。

言語の学習だけでなく、中国語圏の社会、政治、文化、歴史等について幅広く学習を行い、自己の思考の相対化を図ることができるようにする。

基本 1000 語程度の中国語でごく簡単な会話ができること

授業内容

第1回:春学期授業内容の復習
第2回:第9課
第3回:第 10 課
第4回:第 9、10 課 ヒアリング、会話の練習
第5回:第 11 課
第6回:第 12 課
第7回:第 11、12 課 ヒアリング、会話の練習
第8回:中間試験
第9回:第 13 課
第 10 回:第 14 課
第 11 回:第 15 課
第 12 回:第 13-15 課 ヒアリング、会話の練習
第 13 回:総復習
第 14 回 a:期末試験
b:正答解説

履修上の注意

興味を持って積極的にとりくむことを期待する。
語学習得には、特に出席率が重要である。
授業中、ノートを取ることが大事である。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前学習:テキスト本文を読了する。
事後学習:テキスト単語・文法を振り返る。

教科書

『中国語スピーキング沙龍』、相原茂、蘇紅著、朝日出版社。

参考書

授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常点(授業への貢献度, 中間試験など), 期末試験に基づいて評価する。平常点 50%, 期末試験 50%。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤　三知夫	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本人は漢字を中国人と共有しており、その親近感から中国語の文章を勘に頼って理解する傾向があります。この授業では中国の短編小説にとりくみ、勘に頼るのではなく、正確に日本語におきかえることができるようになることを目的とします。

授業内容

秋学期
1 「応接間にて」(『中国掌の小説選』)を読む(1)
2 「応接間にて」(同上)を読む(2)
3 「心のしこり」(同上)を読む(1)
4 「心のしこり」(同上)を読む(2)
5 「心のしこり」(同上)を読む(3)
6 「心のしこり」(同上)を読む(4)
7 「スローガン」(同上)を読む(1)
8 「スローガン」(同上)を読む(2)
9 「スローガン」(同上)を読む(3)
10 「幽霊になったばかりですから」(『総合現代中国語』)を読む
11 「千日酔わせて」(『総合現代中国語』)を読む
12 「野百合の如き君なりき」(『総合現代中国語』)を読む
13 「この身は亡ぶとも」(『総合現代中国語』)を読む
14 ａまとめ　ｂ試験

履修上の注意

要予習。
中日辞典は必ず持ってきて、こまめに辞書をひく習慣をつけること。
漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味がわかることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)を文法復習用の教科書とします。この授業では主に相原茂編『中国掌の小説選』(東方書店, 1997 年)を使いますが、現在入手不可能なのでプリントして配布します

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
王　前	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、今まで覚えた中国語の基礎知識を復習したうえで、スキルアップを目指し、話す力と書く力などを総合的に高めることを目標とします。より複雑な日常会話だけでなく、中国語の文章作成力も高めることができます。
The aim of this class is to review the basic knowledge of Chinese that you have learnt so far, and then to improve your skills and to comprehensively

授業内容

1.第八課(1)量詞の重ね型など
2.第八課(2)疑問詞連鎖による複文表現
3.第九課(1)仮定表現
4.第九課(2)因果関係など
5.第十課(1)副詞"一直"
6.第十課(2)形容詞の重ね型(2)
7.第十一課(1)副詞"都"
8.第十一課(2)前置詞"為了"
9.第十二課(1)疑問代詞の使い方など
10.第十二課(2)能願動詞"肯"の使い方
11.第十三課(1)副詞"可能"
12.第十三課(2)副詞"肯定"
13.第十四課(1)　読み物(1)
14.第十四課(2)　読み物(1)

履修上の注意

語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書

『中国語のかたちづくり』楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書

日中・中日辞典

課題に対するフィードバックの方法

教室でも対応できますし、サイトを通しても対応できます。

成績評価の方法

参加度 20%と期末試験 80%。

その他

とくにありません。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 美千子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

基礎的な表現や文法事項を復習しつつ、応用的な表現能力と読解能力をバランス良く身につける。授業では、総合的な能力の養成に重点をおく。
基礎的な会話ができ、まとまった文章を読解できるレベルに到達することを目指す。

授業内容

1 春学期の復習
2 第７課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解
3 第７課 練習問題を通しての理解
4 第８課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解
5 第８課 練習問題を通しての理解
6 第９課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解
7 第９課 練習問題を通しての理解
8 第10課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解
9 第10課 練習問題を通しての理解
10 第11課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解
11 第11課 練習問題を通しての理解
12 第12課 文法のポイント・解説学習 会話の内容理解
13 第12課 練習問題を通しての理解
14 秋学期の総復習 期末テスト

履修上の注意

授業中の私語は厳禁であるが、グループワークの際は、積極的に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

語句の意味は教科書に記載されているが、もし本文で知らない単語があるなら、予め調べておきましょう。
練習問題にはピンインがついていない箇所があるのでの音読で困らないように発音できるように準備しておくこと。

教科書

『2 年目の伝える中国語 自分のこと日本のこと』 及川淳子著 白水社

参考書

『基礎から発展までよくわかる中国語文法』丸尾誠著 (アスク出版 2010)
『やさしくくわしい中国語文法の基礎』守屋宏則著 (東方書店 1995)
辞典は:『中日辞典第2版』(小学館)または『中日辞典第3版』(講談社) を推奨する。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji に解答例を掲示するとともに、授業時に解説。提出物は、訂正して返却する。

成績評価の方法

試験 50% 平常点 50%
授業中にその日の内容で適宜小テストをする。小テストを平常点とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
三澤 三知夫	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

日本人は漢字を中国人と共有しており、その親近感から中国語の文章を勘に頼って理解する傾向があります。この授業では中国の短編小説にとりくみ、勘に頼るのではなく、正確に日本語におきかえることができるようになることを目的とします。

授業内容

秋学期
1 「応接間にて」(『中国掌の小説選』)を読む(1)
2 「応接間にて」(同上)を読む(2)
3 「心のしこり」(同上)を読む(1)
4 「心のしこり」(同上)を読む(2)
5 「心のしこり」(同上)を読む(3)
6 「心のしこり」(同上)を読む(4)
7 「スローガン」(同上)を読む(1)
8 「スローガン」(同上)を読む(2)
9 「スローガン」(同上)を読む(3)
10 「幽霊になったばかりですから」(『総合現代中国語』)を読む
11 「千日酔わせて」(『総合現代中国語』)を読む
12 「野百合の如き君なりき」(『総合現代中国語』)を読む
13 「この身は亡ぶとも」(『総合現代中国語』)を読む
14 ａまとめ ｂ試験

履修上の注意

要予習。
中日辞典は必ず持ってきて、こまめに辞書をひく習慣をつけること。
漢字を中国人と共有する日本人が中国語を学ぶ上で注意しなければならないのは、漢字を見てその意味がわかることです。これは日本人の中国語学習にとって長所にもなりますが、短所にもなります。また中国語の発音は日本人にはなじみがないものが多いですから特に注意を要します。ピンインによって正しい発音を身につけ、音としての中国語をおぼえる努力が必要となります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1習った発音を自宅で繰り返す。
2単語をおぼえる。
3中国語作文

教科書

加藤・後藤・土谷・許山・長谷部・松尾・松原『総合現代中国語－会話と閲読－』(東方書店)を文法復習用の教科書とします。この授業では主に相原茂編『中国掌の小説選』(東方書店, 1997 年)を使いますが、現在入手不可能なのでプリントして配布します

参考書

辞書及び参考書は授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業日に期末試験を実施し、解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 70%、小テスト 20%、平常点 10%。
平常点は授業への取り組み等による。

その他

連絡先
lishy@meiji.ac.jp

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
王 前	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業では、今まで覚えた中国語の基礎知識を復習したうえで、スキルアップを目指し、話す力と書く力などを総合的に高めることを目標とします。より複雑な日常会話だけでなく、中国語の文章作成力も高めることができます。
The aim of this class is to review the basic knowledge of Chinese that you have learnt so far, and then to improve your skills and to comprehensively

授業内容
1.第八課(1)量詞の重ね型など
2.第八課(2)疑問詞連鎖による複文表現
3.第九課(1)仮定表現
4.第九課(2)因果関係など
5.第十課(1)副詞"一直"
6.第十課(2)形容詞の重ね型(2)
7.第十一課(1)副詞"都"
8.第十一課(2)前置詞"為了"
9.第十二課(1)疑問代詞の使い方など
10.第十二課(2)能願動詞"肯"の使い方
11.第十三課(1)副詞"可能"
12.第十三課(2)副詞"肯定"
13.第十四課(1) 読み物(1)
14.第十四課(2) 読み物(1)

履修上の注意
語学は近道がないので、こつこつと継続することが大事です。

準備学習(予習・復習等)の内容
事前に予習しておいて、復習もしっかりやっておくこと。

教科書
『中国語のかたちづくり』楊凱栄・張麗群著　白帝社

参考書
日中・中日辞典

課題に対するフィードバックの方法
教室でも対応できますし、サイトを通しても対応できます。

成績評価の方法
参加度 20%と期末試験 80%。

その他
とくにありません。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
建部 良平	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
一年生での学習を踏まえ、中国語への理解を深めることを本授業の目標とする。中国語の理解は中国文化の理解とも密接に関わるため、自身の経験談も交えながら、中国文化に親しんでもらえるような授業を考えている。教科書には、HSK(漢語水平考試)の主催団体が編纂したものを選択した。HSK は世界各国で実施されている中国語検定試験であり、留学やビジネスにおける中国語レベルの指標となっている。本授業は HSK の取得を目標とはしないが、更に中国語を深めたい受講者がいた際には、HSK が良い道標になると考えているため、HSK 関連のテ

授業内容
第 1 回(9/22) :イントロダクション
第 2 回(9/29) :第 11 課(「把」構文①・概数の言い方②)
第 3 回(10/6) :第 12 課(「才」と「就」・「把」構文②)
第 4 回(10/13) :第 13 課(複合方向補語・「一辺…一辺…」)
第 5 回(10/20) :小テスト(第 11～13 課)、第 14 課(「把」構文③・「先…」「再…」「又…」「然后…」)
第 6 回(10/27) :第 15 課(「除了…以外」「都…」「还…」「也…」・疑問代詞の応用②・程度の言い方)
第 7 回(11/10) :第 16 課(「如果」・複雑な状態補語・形容詞の重ね型)
第 8 回(11/17) :小テスト(第 14～16 課)、前半の振り返り
第 9 回(11/24) :第 17 課(動詞の重ね型・疑問代詞の応用③)
第 10 回(12/1) :第 18 課(「只要…就…」・介詞「关于」)
第 11 回(12/8) :第 19 課(方向補語の派生的意味・「使」「叫」「让」)
第 12 回(12/15):小テスト(第 17～19 課、第 20 課(「被」・「只要…才」)
第 13 回(1/12) :1 年間の復習
第 14 回(1/19) :試験

履修上の注意
日本語や英語との違いや近さを感じながら、楽しく中国語を学んでもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容
①毎授業の最後、リアクションペーパーの記入時間を 5～10 分ほど設ける。内容は、授業で疑問が残った事項、興味深いと感じたこと、中国語や中国に関する質問など、自由記述とする。
②春学期中に小テストを 3 回行う。具体的な形式や範囲については授業時に伝えるので、それを元に学習を進めてほしい。
③期末試験は、授業や小テストの状況を踏まえながら範囲を定める。学習時間を十分に確保できるよう、可能な限り早めに範囲を告知する。

教科書
姜麗萍主編『スタンダードコース中国語―中国語の世界標準テキスト―3』(SPRIX、2015 年)。

参考書
授業中に適宜紹介する。

課題に対するフィードバックの方法
①リアクションペーパーにて、フォローアップが必要な質問事項があれば、翌週の授業にて対応する。
②小テストは実施週の翌週に返却する。

成績評価の方法
①平常点(リアクションペーパー):30%
②小テスト:30%
③期末試験:40%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
速水 大	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業の概要】
この授業では、1 年目の初級中国語の学習を終了した受講生を対象に、より高度で実用的な会話表現を習得していく。1 年間の学習で、会話力を高めるのと同時に、中国文化・習慣や中国人の価値観・考え方などを広く深く理解する。
【到達目標】
(1)実用的な会話表現をマスターし、会話力のレベルをさらに高める。音読やロールプレイ練習などを通じて、発音とリスニング力を向上させる。(2)授業で取り上げた中国文化や中国人の考え方などを知ることにより、中国・中国人及び日中異文化コミュニケーションについての理解を深

授業内容

第 1 回:前期の復習
第 2 回. 第 7 課[就像奥运会一样。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(“像～一样”「まるで～のようだ、 ～みたい」、“動詞＋ 起来”「～してみる(と)」、“～的话”「～ならば」)
第 3 回. 第 7 課[就像奥运会一样。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第 4 回. 第 8 課[情人节快乐！]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(“原来”「(なんだ /なんと) ～だったのか」、“到底”「いったい、結局のところ」、離合詞)
第 5 回. 第 8 課[情人节快乐！]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第 6 回. 第 9 課[高中谈恋爱的人很多啊。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(“会～(的) ”「～だろう、～のはずだ」、“别说～(了) ”「～どころか」、“有” ＋名詞＋修飾語)
第 7 回. 第 9 課[高中谈恋爱的人很多啊。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第 8 回. 第 10 課[总觉得他不太热情。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(“总觉得”「なんとなく ～と感じる」、“不会吧”「まさか」、“也许”「～かもしれない」)
第 9 回. 第 10 課[总觉得他不太热情。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第 10 回. 第 11 課[吃饭更重要。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(“(都)怪～ ”「(全部)～のせいだ」、“要不然”「さもなければ」、“～就～ ”「～したら～したまでのことだ」)
第 11 回. 第 11 課[吃饭更重要。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第 12 回. 第 12 課[语音信息更方便嘛。]
新出単語の学習。本文の意味確認と音読練習。ポイントの学習(“一会儿”「少しの間;少ししたら」、“挺～(的) ”「けっこう～、なかなか～」、“确实”「たしかに、間違いなく」)
第 13 回. 第 12 課[语音信息更方便嘛。]
単語小テスト。前回の復習。練習問題の答え合わせと解説。「日中文化 Answer」の学習と音読練習。
第 14 回. 期末試験と解説

履修上の注意

第1回授業で説明するが、授業にはどのような形態でもよいので必ず中日辞書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習 60 分:各課の新出単語を練習する。
復習 60 分:授業内容を必ず見直す。 各回の授業で「練習問題」を課題とするので回答する。

教科書

李軼倫著『日中文化 Q & A』金星堂

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解答例を配布し詳細に解説する。
「練習問題」の一部を宿題として提出してもらい、個別にフィードバックを行う。

成績評価の方法

定期試験(60%)、平常点(40%)。平常点は単語小テストの成績、授業への参加状況等を考慮し、総合的に判断する。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し，仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常の生活における交流場面に対応する、比較的高度な

授業内容

1回 総括 春学期期末試験の解説
2回 第9課 可能補語
3回 第 10 課 使役の表現
4回 第 11 課 受身の表現
5回 第 12 課 存現文
6回 第 13 課 対象への処理・処分を表す表現
7回 中間テスト
8回 第 14 課 二つの動作の前後順・時間順の表現
9回 第 15 課 仮定の表現
10 回 第 16 課 因果関係を表す表現
11 回 第 17 課 逆接関係を表す表現
12 回 第 18 課 付け加えの表現
13 回 第 19 課 除外の表現
14 回 復習 秋学期のまとめ

履修上の注意

語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから，放課後の予習・復習を怠らないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業の初めに既習内容の質問をするので、即答できるように予習しておくこと。

教科書

『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

課題に対するフィードバックの方法

次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法

期中に小テスト1回(25%)，期末に口語テスト(問答・朗読、10%)，筆記テスト1回(65%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
石野 智大	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

【授業の概要】

本授業では、一年次に学習した中国語の文法・発音の内容を踏まえ、中国語準中級～中級レベルの教育を行う。各課の講義では、教科書の本文(会話文)を利用して、文法事項や新出単語に解説を加える。その後、会話文の音読と内容理解を進め、あわせて会話・文法の練習問題に取り組んでゆく。それらを通して、中国語の基礎力向上を図る。初級中国語から無理なくステップアップできるよう、全体として準中級のレベルを意識して授業を進めていく予定である。

【授業の到達目標】

中国語準中級～中

授業内容

第1回:第7課 存現文、動作の時間量の表現など
第2回:第7課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第3回:第8課 状態の持続を表わす「着」、副詞「再」、疑問詞の不定用法
第4回:第8課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第5回:第9課 方向補語、使役を表わす「让」
第6回:第9課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第7回:第 10 課 可能補語、強調表現、中国料理名の表記
第8回:第 10 課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第9回:第 11 課 結果補語(2)、受け身を表わす「被」
第 10 回:第 11 課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第 11 回:第 12 課 近接未来の表現、「把」構文
第 12 回:第 12 課のつづき 発音練習、文法読解練習、聞き取り練習
第 13 回:中国語メール文の形式と書き方
第 14 回:期末試験

履修上の注意

語学の習得には日々の継続的な学習が大切です。予習・復習を行って授業に臨むこと。また、授業中の音読練習は大きな声で行うようにしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

(予習)教科書付属の音源を活用して、各課の本文を複数回音読する。また、新出単語の字形・発音・意味を覚えてくる。
(復習)授業で習った文法事項や新出単語を見直し、理解を定着させる。

教科書

尹景春・竹島毅著『中国語つぎへの一歩』(白水社、2010 年)

参考書

中日辞典について、携帯のしやすい小型の辞典では『ポケットプログレッシブ中日・日中辞典』(小学館)、中型の辞典では『中日辞典』(小学館)や『東方中国語辞典』(東方書店)をおすすめします。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に解説や講評などのフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点(発音練習、課題、授業への取り組み)50%。
期末テスト 50%。
本授業は毎回出席が前提ですので、遅刻や欠席は減点の対象となります。

その他

個別の質問や相談は随時お受けしますので、授業後にお願いします。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語ⅢB	**中国語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
志野 好伸	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

中国語の基本的な文法とさまざまな表現のパターンを学習し、初歩的な読み、書き、聞き、話す能力を習得する。教科書の本文は会話文から構成され、簡にして要を得た文法の説明がなされ、聞き取りを中心とする充実した練習問題がついており,これらを利用して中国語の着実なレベルアップをはかる。
中国語を読み、書き、聞き、話すための基本的な能力を身につけ、簡単な中国語会話が自由にできるようになるのが目標。

授業内容

第1回 中国語の中級文法のおさらい
第2回 第7課の解説
第3回 第7課の練習
第4回 第8課の解説
第5回 第8課の練習
第6回 第9課の解説
第7回 第9課の練習
第8回 第10課の解説
第9回 第10課の練習
第10回 第11課の解説
第11回 第11課の練習
第12回 第12課の解説
第13回 第12課の練習
第14回a 秋学期の復習と試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

予習・復習を欠かさず行うこと。Web からダウンロードできる音声を利用し、反復練習すること。

教科書

『2冊めの中国語 会話クラス』、劉穎・柴森・杉野元子・小澤正人、白水社

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う小テストは次の授業で返却し、学期末試験については最終授業日に実施し、試験実施後、質問を受け付ける時間を設ける。

成績評価の方法

学期末試験70%＋平常点(原則毎回授業で行う小テストや課題)30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVA	**中国語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し，仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常の生活における交流場面に対応する、比較的高度な

授業内容
1回 一年生で習った内容の復習①: 年月日、時刻、時間量
2回 一年生で習った内容の復習②: 態
3回 一年生で習った内容の復習③:比較表現
4回 一年生で習った内容の復習④:前置詞
5回 一年生で習った内容の復習⑤:願望表現
6回 第1課 一年生で習った内容の総合的な復習①
7回 第2課 一年生で習った内容の総合的な復習②
8回 第3課 連動文
9回 第4課 好き嫌い
10 回 第5課 程度補語
11 回 第6課 可能の表現
12 回 第7課 結果補語
13 回 第8課 方向補語
14 回 復習 春学期のまとめ

履修上の注意
語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから，放課後の予習・復習を怠らないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容
毎回授業の初めに既習内容の質問をするので、即答できるように予習しておくこと。

教科書
『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

課題に対するフィードバックの方法
次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法
期中に小テスト1回(25%)，期末に口語テスト(問答・朗読、10%)，筆記テスト1回(65%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVA	**中国語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 穎芝	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
本授業は、中国語の学習経験を有する学部 2 年生を対象とした科目です。
週 2 回という授業条件を踏まえ、新しい文法や語彙の習得よりも、中国語の音や声調に重点を置き、リスニングおよびスピーキング能力を中心とした基礎的な言語運用力の見直しを目的とします。
これまでの授業実践および指導経験から、学生はピンイン表記を手がかりに読める一方で、発音や声調、音声理解に課題を抱えている傾向が見られます。
本授業では、初心者向けの教科書を用いながら、発音練習、リスニング、会話練習を通して、音声能力の再構築を図ります。授業は

授業内容
第 1 回 導入(授業の進め方／簡単な会話ができるようになるための学び方)
第 2 回 発音(1): 声調、軽声単母音、複母音
第 3 回 発音(2): 子音
第 4 回 発音(3): 鼻母音、声調の変化、声調の組み合わせ
第 5 回 本編 第1課 自己紹介①ー名前、出身
第 6 回 本編 第2課 自己紹介②ー所属、専攻
第 7 回 本編 第3課 自己紹介③ー家族について
第 8 回 本編 第4課 お誘い
第 9 回 本編 第5課 レストラン
第 10 回 本編 第6課 買い物
第 11 回 本編 第7課 道案内
第 12 回 本編 第8課 趣味に関する雑談
第 13 回 まとめ
第 14 回 期末試験

履修上の注意
語学学習は、建物を建てることにたとえることができます。丈夫な建物を造るためには、最初にしっかりとした土台を作ることが大切です。中国語学習においては、発音や音に慣れることがその土台になります。
最初は間違えるのが当たり前です。間違うことを恐れず、積極的に授業に参加し、たくさん声に出して発音練習を行いましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容
予習:次回の授業で扱うテキストを事前に読み、内容を確認するとともに、わからない単語や表現を辞書で調べておきます。
復習:毎週授業で学んだ内容を復習したうえで、教科書付属の音声を繰り返し聞きながら音読練習を行い、発音やリズムの定着を図ります。

教科書
『中国語でコミュニケーション』(沈国威 監修/氷野善寛、小嶋美由紀、海暁芳、紅粉芳恵、阿部慎太郎共著、朝日出版社。)およびプリント。

参考書
語学学習において辞書の使用は不可欠です。
授業では、中日辞典(商務印書館・小学館共編／小学館)、中日辞典(相原茂編／講談社)、超級クラウン中日辞典(松岡榮志主幹、費錦昌・古川裕・樋口靖・白井啓介・代田智明編著／三省堂)などの中日辞典を推奨します。
また、講談社・小学館・三省堂の辞書を収録した電子辞書や、スマートフォンの中国語辞書アプリを使用しても構いません。

課題に対するフィードバックの方法
授業内で行う発音練習および提出された課題については、教員がコメントを付してフィードバックを行い、学習内容の定着と発音・表現力の向上を図ります。

成績評価の方法
平常点(出席状況、授業内での発音練習への参加度、課題への取り組みなど):20%
定期的に実施する小テスト(リスニング・スピーキング):40%
期末評価(リスニングを中心とした試験):40%

その他
4 回以上無断欠席(欠席連絡なし)の場合は成績評価の対象になりません。
部の活動や病気などで欠席する場合には必ず公的な書類を提出してください。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVA	**中国語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 隆哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期5月一杯はピンインの音読と書き取りの復習を中心とする。
6月以降は，カンが戻ったところで，単語の聴き取り小テストで語彙を増やすことに努める一方，簡単な文を各自が言えるようになるようにトレーニングしてゆく。

授業内容

授業の最初に，教科書の前回教えた範囲からの小テストを実施する。発音を聴いて単語(簡体字，ピンイン・意味)を書き取るのが中心である。
次に教科書の新しい内容を，音読しつつ説明してゆく。
(1) 授業の概要と計画
(2) 母音復習その1
(3) 母音復習その2
(4) 子音復習その1
(5) 子音復習その2
(6) 助動詞「可以」「要」の用法
(7) 主語述語文，主述句目的語
(8) 「因為」，「可是」の用法
(9) 文末の助詞「ba」と「ma」
(10) 連動文，疑問視「zenme」
(11) 「是～的」の訳し方
(12) 「了」の用法
(13) 副詞「就」
(14) 春学期のまとめ

履修上の注意

2年次の授業なので，それだけに満足することなく，中国語の原文(ピンインが書かれていないもので，別に用意して授業中に配布する)を辞書に引きながら訳して行く練習もしたい。従って，指示のあった日からは中日辞典を毎回持参する必要がある。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回の授業で指示された箇所を復習して小テストに臨むこと。

教科書

本間史他『2 年めの中国語ポイント 45』白水社、2300 円+税

参考書

中日辞典等については授業中に指示するので，急いで買わないこと。
翻訳練習のための参考文献は，適宜プリントを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

前回の小テストで間違えた箇所を、音声を聴いて自分で発音して、書いて復習すること。

成績評価の方法

毎回実施する小テスト(10 点満点)の合計点が3分の2，7月の本テストの合計点が3分の1を占める。授業最初の小テストに遅刻すると，その日は0点になるので注意されたい。

その他

しっかり発音するために授業中の水分補給を可とするが，ガム・キャンディーの類は口の動きを制限するので厳禁である。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVA	**中国語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
蝦名 良亮	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

日常会話の定型的な表現に基づく教材を用いて、スピーキング・リスニング能力の確立・養成を図ることを主目的とし、同時に基本的な文法の知識・語彙などを確認して、総合的な中国語運用能力の向上をめざす。

授業内容

第１回
授業概要の説明(口語と文章語、古典語と現代語)。発音の復習。工具書の紹介。
第２回 ウォーミングアップ1:本文＋練習12
第３回 ウォーミングアップ1:例文＋練習34
第４回 ウォーミングアップ2:本文＋練習12
第５回 ウォーミングアップ2:例文＋練習34
第６回 テキスト第1講:本文＋練習12
第７回 テキスト第1講:例文＋練習34
第８回 テキスト第2講:本文＋練習12
第９回 テキスト第2講:例文＋練習34
第10回 テキスト第3講:本文＋練習12
第11回 テキスト第3講:例文＋練習34
第12回 テキスト第4講:本文＋練習12
第13回 テキスト第4講:例文＋練習34
第14回 a:試験、b:正答解説

履修上の注意

授業では、日常における平易な常套表現の聞き取り、口頭練習を主に行なう。中日辞典、中国語辞典などを入手し、授業時に携帯すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業内小テストないしは課題を提示するので、事前に指示された例文の暗誦ないしは期限内に提出するための作業が必要である。

教科書

南雲大悟著『キャンパス・ナビゲーション 北京の大学生たち』 朝日出版社。

参考書

基本的に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

原則として採点したうえで、返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度 20%
小テスト・課題の提出状況 40%
期末の試験 40%

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVA	**中国語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
斉 金英	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

初級で学んだ内容を再確認しつつ、さらにステップアップした語句や文法、読解と応用会話の学習を展開する。
しっかりと基礎知識を身につけた上で、中級レベルの読解、聴解能力や身近な会話、作文能力を習得することを目標とする。

授業内容

第１回　第１課 経験の“过”・動作量補語
第２回　第２課 動詞の重ね型・使役文
第３回　第３課 助動詞“应该”・近い未来
第４回　第４課 “一点儿”+“也/都”・時間量補語
第５回　復習・小テスト
第６回　第５課 状態補語・前置詞“为了”
第７回　第６課 結果補語
第８回　第７課 進行形・“无论～还是…, 都～”
第９回　復習・小テスト
第10回　第８課 100 以上の数字・金額の言い方
第11回　第９課 方向補語
第12回　第10課 受け身文・“先～, 然后…”
第13回　復習・小テスト
第14回　a:まとめ・ b:試験

履修上の注意

・毎週の授業後に必ず復習をしてください。
・学期中に３回の小テストを予定している。小テストの成績は期末評価にカウントされるので、小テストに必ず参加してください。
・授業に欠席１回で１点減点される。
・疑問があったらいつでも気軽に質問してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・聞く力や書く力また話す力を高めるためには、音声を繰り返し聞きながらリピートしたり、書き取りをしたりする復習方法をお勧めする。
・毎回の小テストに向けた復習が必要である。

教科書

『大学生のための中級中国語 20 回』、杉野元子・黄漢青著、(白帝社)。

参考書

相原茂編『講談社パックス中日・日中辞典』(講談社)、電子辞書でもよい。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を授業中に行う。

成績評価の方法

期末試験 50%、平常点(授業で行う小テスト)40%、授業への参加度 10%で評価する。

その他

・小テストの結果を講評することは授業内容の理解が深まると好評であったため、今年度も継続する。
・状況により授業の進度を適宜に調整することがある。
・中国語資格試験などに関して何か聞きたいことがあったら気軽に相談してください。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVA	**中国語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
永井 弥人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

一年次で学習した文法事項を復習しつつ、新たな文法事項・表現を学び、中国語の基礎文法を網羅することを目標と致します。
また、読解力涵養の為、授業の後半に於いて、簡単な長文を読みます。

授業内容

1 文の成分(主語・動詞・目的語等)長文読解　2 朗読 練習問題 長文読解 3 第２課 連体修飾語 連用修飾語　長文読解
4 朗読 練習問題 長文読解　5 第３課 動量補語 時量補語 長文読解 6 朗読 練習問題 長文読解 7 第４課 様態補語 程度補語 長文読解 8 朗読 練習問題 長文読解 9 第５課 単純方向補語 複合方向補語 長文読解 10 朗読 練習問題 長文読解
11 第６課 結果補語 可能補語 長文読解 12 朗読 練習問題 長文読解 13 第７課 比較文 同等比較 最上級 朗読 練習問題
(乃至は 長文読解。進行により変化します。)14 各自復習 試験

履修上の注意

出来るだけ声を出して発音する様にして下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習・復習を心掛けて下さい。

教科書

『ぐんぐんのびる中国語②』何珍時著 (朝日出版社) ※長文は ohomeiji 上に掲載します。

参考書

『60日完成中国語の基礎文法』何珍時著 (朝日出版社)

課題に対するフィードバックの方法

基本的に ohomeiji 上で行う予定です。

成績評価の方法

学期末試験 60%　平常点 40%
① 試験(100 点満点)×0.6+平常点(40 点満点)=成績(100 点満点)　　60 点以上合格。
② 平常点は、授業中、指名され、読みや訳を行う際、その出来具合を評価して加算します。例。 よく出来ている ２点。 まあまあよい １点。 出来ていない　　ノーカウント。(２点、１点というのは、あくまでも目安です。全体人数及び指名回数により変動します。)
③ 私語等授業妨害行為が絶えない場合、減点の対象となります。
④ 出席点というものは存在しません。出席している

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVB	**中国語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
薬 進太郎	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業の目的は、架空の中国生活ではなく、日本での日常について質問し、答えられるようにすることです。中国語のコミュニケーションは、他のコミュニケーションと同様に、送受信＝質問と答えのやり取りを基本としている。問いと答えを繰り返せば必ず話せるようになる。一年生で発音の基礎と基本的な表現を習得した学習者が、複文や接続詞などより複雑な表現を学ぶ基礎の授業。基礎的な表現を項目別に従って編集されたビデオ付テキストを使用し，仮定や因果関係や逆接などの表現を学習した上、日常の生活における交流場面に対応する、比較的高度な

授業内容

1回 総括　春学期期末試験の解説
2回 第9課　可能補語
3回 第 10 課 使役の表現
4回 第 11 課 受身の表現
5回 第 12 課 存現文
6回 第 13 課 対象への処理・処分を表す表現
7回 中間テスト
8回 第 14 課 二つの動作の前後順・時間順の表現
9回 第 15 課 仮定の表現
10 回 第 16 課 因果関係を表す表現
11 回 第 17 課 逆接関係を表す表現
12 回 第 18 課 付け加えの表現
13 回 第 19 課 除外の表現
14 回 復習　秋学期のまとめ

履修上の注意

語学力は短期間で身につけられない。日々の積み重ねこそ大切だから，放課後の予習・復習を怠らないこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業の初めに既習内容の質問をするので、即答できるように予習しておくこと。

教科書

『日常のコミュニケーションができる中国語中級』株式会社シーエスピー出版部、PDF 版無償提供

参考書

課題に対するフィードバックの方法

次回課題のページに解説または解答を載せる。

成績評価の方法

期中に小テスト1回(25%)，期末に口語テスト(問答・朗読、10%)，筆記テスト1回(65%)を実施して評価する。無断欠席や遅刻は減点となる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVB	**中国語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
胡 穎芝	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、中国語の学習経験を有する学部 2 年生を対象とした科目です。週 2 回という授業条件を踏まえ、新しい文法や語彙の習得よりも、中国語の音や声調に重点を置き、リスニングおよびスピーキング能力を中心とした基礎的な言語運用力の見直しを目的とします。
これまでの授業実践および指導経験から、学生はピンイン表記を手がかりに読める一方で、発音や声調、音声理解に課題を抱えている傾向が見られます。
本授業では、初心者向けの教科書を用いながら、発音練習、リスニング、会話練習を通して、音声能力の再構築を図ります。
授業は教

授業内容

第 1 回　本編　第9課　旅行の計画①
第 2 回　本編　第9課　旅行の計画②
第 3 回　本編　第10課　病院①
第 4 回　本編　第10課　病院②
第 5 回　本編　第11課　トラブル①
第 6 回　本編　第11課　トラブル②
第 7 回　本編　第12課　ホテル①
第 8 回　本編　第12課　ホテル②
第 9 回　本編　第13課 約束する①
第 10 回　本編　第13課 約束する②
第 11 回　本編　第14課 掲示板を見る①
第 12 回　本編　第14課 掲示板を見る②
第 13 回　まとめ
第 14 回　期末試験

履修上の注意

語学学習は、建物を建てることにたとえることができます。丈夫な建物を造るためには、最初にしっかりとした土台を作ることが大切です。中国語学習においては、発音や音に慣れることがその土台になります。
最初は間違えるのが当たり前です。間違うことを恐れず、積極的に授業に参加し、たくさん声に出して発音練習を行いましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：次回の授業で扱うテキストを事前に読み、内容を確認するとともに、わからない単語や表現を辞書で調べておきます。
復習：毎週授業で学んだ内容を復習したうえで、教科書付属の音声を繰り返し聞きながら音読練習を行い、発音やリズムの定着を図ります。

教科書

『中国語でコミュニケーション』(沈国威 監修/氷野善寛、小嶋美由紀、海暁芳、紅粉芳惠、阿部慎太郎共著、朝日出版社。)およびプリント。

参考書

語学学習において辞書の使用は不可欠です。
授業では、中日辞典(商務印書館・小学館共編／小学館)、中日辞典(相原茂編／講談社)、超級クラウン中日辞典(松岡榮志主幹、費錦昌・古川裕・樋口靖・白井啓介・代田智明編著／三省堂)などの中日辞典を推奨します。
また、講談社・小学館・三省堂の辞書を収録した電子辞書や、スマートフォンの中国語辞書アプリを使用しても構いません。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で行う発音練習および提出された課題については、教員がコメントを付してフィードバックを行い、学習内容の定着と発音・表現力の向上を図ります。

成績評価の方法

平常点(出席状況、授業内での発音練習への参加度、課題への取り組みなど)：20%
定期的に実施する小テスト(リスニング・スピーキング)：40%
期末評価(リスニングを中心とした試験)：40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVB	**中国語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
江崎 隆哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期より高度な文法を理解すると共に，それを運用した文が言えるようにトレーニングする。
又，新聞記事レヴェルの中国語の原文を，辞書を引きながら読めるようになることも目指したい。?

授業内容

春学期同様，小テストから授業を開始し，次に教科書の新しい内容に入る。
(1) 授業の概要と計画
(2) 結果補語
(3)「有点儿」「要是」
(4) 存現文
(5)「又～又～」,「一辺～一辺～」の用法
(6) 状態持続の「着」
(7)「再」の用法，部分否定
(8) 方向補語
(9) 使役動詞
(10) 可能補語
(11) 可能性の「会」の用法，「～了～了」の用法
(12) 受動態
(13)「把」の用法
(14) 総まとめ
又，授業の最後の 20 分位を使って，中国語の原文を辞書を引いて訳す練習も行う。

履修上の注意

毎回必ず中日辞典を持参すること。1月の最終テストまで，忘れないように。

準備学習(予習・復習等)の内容

前回の授業で指示された箇所を復習して小テストに臨むこと。

教科書

本間史他『2 年めの中国語ポイント 45』白水社、2300 円+税

参考書

中日辞典を持っていない学生は単位を取れないので注意すること。
翻訳練習のための参考文献は，適宜プリントを配布する。

課題に対するフィードバックの方法

前回の小テストで間違えた箇所を、音声を聴いて自分で発音して、書いて復習すること。

成績評価の方法

毎回実施する小テスト(10 点満点)と，1月の最終テスト(70 点満点)の合計によって評価する。

その他

授業の最初に行う小テストに遅刻すると，その日は0点になるので注意されたい。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVB	**中国語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
蝦名 良亮	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期学習の到達度を踏まえて、日常会話の定型的な表現に基づく教材を用いて、スピーキング・リスニング能力の確立・養成を図ることを主目的とし、同時に基本的な文法の知識・語彙などを確認して、総合的な中国語運用能力の向上をめざす。

授業内容

第 1 回
春学期学習内容の確認
第 2 回 テキスト第5講:本文＋練習12
第 3 回 テキスト第5講:例文＋練習34
第 4 回 テキスト第6講:本文＋練習12
第 5 回 テキスト第6講:例文＋練習34
第 6 回 テキスト第7講:本文＋練習12
第 7 回 テキスト第7講:例文＋練習34
第 8 回 テキスト第8講:本文＋練習12
第 9 回 テキスト第8講:例文＋練習34
第 10 回 テキスト第9講:本文＋練習12
第 11 回 テキスト第9講:例文＋練習34
第 12 回 テキスト第 10 講:本文＋練習12
第 13 回 テキスト第 10 講:例文＋練習34
第 14 回 a:試験、b:正答解説

履修上の注意

授業では、日常における平易な常套表現の聞き取り、口頭練習を主に行なう。中日辞典、中国語辞典などを入手し、授業時に携帯すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回授業内小テストないしは課題を提示するので、事前に指示された例文の暗誦ないしは期限内に提出するための作業が必要である。

教科書

南雲大悟著『キャンパス・ナビゲーション 北京の大学生たち』 朝日出版社。

参考書

基本的に使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

原則として採点したうえで、返却する。

成績評価の方法

授業への貢献度 20%
小テスト・課題の提出状況 40%
期末の試験 40%

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVB	**中国語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
斉 金英	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

初級で学んだ内容を再確認しつつ、さらにステップアップした語句や文法、読解と応用会話の学習を展開する。
しっかりと基礎知識を身につけた上で、中級レベルの読解、聴解能力や身近な会話、作文能力を習得することを目標とする。

授業内容

第１回　第 11 課 “是～的”・“不仅～, 而且…”
第２回　第 12 課　比較文・可能補語
第３回　第 13 課 “有点儿”と“一点儿”・処置文
第４回　第 14 課 “要么～, 要么…”
第５回　復習・小テスト
第６回　第 15 課 “就”と“才”・“除了～以外”
第７回　第 16 課　疑問詞＋ “都/也”
第８回　第 17 課 “难怪”・存現文
第９回　復習・小テスト
第 10 回　第 18 課　副词“刚”・“却”・“并”
第 11 回　第 19 課　反語表現・補語のまとめ
第 12 回　第 20 課 “对～来说”・“之所以～、是因为…”
第 13 回　復習・小テスト
第 14 回　a:まとめ・ b:試験

履修上の注意

・毎週の授業後に必ず復習をしてください。
・学期中に 3 回の小テストを予定している。小テストの成績は期末評価にカウントされるので、小テストに必ず参加してください。
・授業に欠席 1 回で 1 点減点される。
・疑問があったらいつでも気軽に質問してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・聞く力や書く力また話す力を高めるためには、音声を繰り返し聞きながらリピートしたり、書き取りをしたりする復習方法をお勧めする。
・毎回の小テストに向けた復習が必要である。

教科書

『大学生のための中級中国語 20 回』、杉野元子・黄漢青著、 (白帝社)。

参考書

相原茂編『講談社パックス中日・日中辞典』(講談社)、電子辞書でもよい。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を授業中に行う。

成績評価の方法

期末試験 50%、平常点(授業で行う小テスト)40%、授業への参加度 10%で評価する。

その他

小テストの結果を講評することは授業内容の理解が深まると好評であったため、今年度も継続する。
授業進度は状況により適宜に調整することがある。
資格試験などに関して聞きたいことがあったら気軽に相談してください。

科目ナンバー:(AL)LAN161N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
中国語IVB	**中国語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
永井 弥人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

一年次で学習した文法事項を復習しつつ、新たな文法事項・表現を学び、中国語の基礎文法を網羅することを目標と致します。
また、読解力涵養の為、授業の後半に於いて、簡単な長文を読みます。

授業内容

1 第８課　連動文 兼語文 使役文 受け身文 (必要があれば、第７課分の朗読 練習問題)2 朗読 練習問題 長文読解
3 第９課 存現文 無主語文 特殊な「有」構文 長文読解 4 朗読 練習問題 長文読解 5 第 10 課 是一的構文 把構文
感嘆文 長文読解 6 朗読 練習問題 長文読解 7 第 11課 並列・連続・累加の構文 又 再 長文読解 8 朗読 練習問題
長文読解 9 第 12 課 選択・取捨・仮定・条件の構文 長文読解 10 朗読 練習問題 長文読解 11 第 13課 逆接・譲歩・因果・目的の構文 長文読解 12 朗読 練習問題 長文読解 13 第 14 課 時間・様態の構文 疑問詞呼応 緊縮文 朗読 練習問題
14 各自復習 試験

履修上の注意

出来るだけ声を出して発音する様にして下さい。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習・復習を心掛けて下さい。

教科書

『ぐんぐんのびる中国語②』何珍時著(朝日出版社) ※ 長文は ohomeiji 上に掲載します。

参考書

『60 日完成中国語の基礎文法』何珍時著(朝日出版社)

課題に対するフィードバックの方法

基本的に ohomeiji 上で行う予定です。

成績評価の方法

学期末試験 60% 平常点 40%
① 試験(100 点満点)×0.6＋平常点(40 点満点)＝成績(100 点満点)　　60 点以上合格。
② 平常点は、授業中、指名され、読みや訳を行う際、その出来具合を評価して加算します。例。 よく出来ている 2 点。 まあまあよい 1点 出来ていない　　ノーカウント。(2 点、1 点というのは、あくまでも目安です。全体人数及び指名回数により変動します。)
③ 私語等授業妨害行為が絶えない場合、減点の対象となります。
④ 出席点というものは存在しません。出席しているだ

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩA	**朝鮮語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 英人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
朝鮮語の基礎中の基礎を学ぶことを目的とする。

授業内容
第1回　朝鮮語とはどんな言葉か
第2回　文字と発音
第3回　文字と発音
第4回　文字と発音
第5回　文字と発音
第6回　1課 主格助詞
第7回　2課 否定形(1)
第8回　3課 指示代名詞と方向位置を表す助詞
第9回　4課 文末のハムニダ体
第 10 回 5課 文末のヘヨ体
第 12 回 6課 否定形(2)
第 13 回 7課 漢数詞と会話文の語尾(1)
第 14 回 理解度確認

履修上の注意
木曜日の李興淑先生とペアで進むが、この授業の方が早く進む。文字、発音、ｂん峰をしっかち理解することを目的とし、木曜日で、ネイティヴ教員から話し聞く訓練を受ける形を採る。

準備学習(予習・復習等)の内容
復習を中心に。

教科書
北村スマ子監修・金孝珍著『即！実践 楽しもう 韓国語』白帝社
ISBN978-4-86398-277-2

参考書
なし。

課題に対するフィードバックの方法
小テスト、期末テストを返却する。

成績評価の方法
練習問題板書に手を挙げた人に毎回加点。小テスト、期末試験の平均点に加点分を加える。

その他
特になし。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩA	**朝鮮語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
【授業概要】
初めて朝鮮語(韓国語)を学ぶ学生を対象に、ハングルの書き方、発音、文法の基礎的な知識を習得します。初級の文法と文型に徹底的に取り組み、会話の実践演習も行います。
【到達目標】
朝鮮語の基礎知識をマスターし、「話す」「聞く」能力を養い、簡単な挨拶や基礎的な会話ができるようになることです。同時に、朝鮮語の学習を通じて、韓国文化への理解を深めます。ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目指します。

授業内容
第１回　イントロダクション
　　a:朝鮮語について　b:朝鮮語の学習全般について
第２回　基本的な母音と子音
第３回　平音と鼻音終声・流音終声
第４回　激音と濃音
第５回　半母音と口音終声
第６回　名詞述語文の否定形
第７回　存在の表現を学ぶ
第８回　用言の活用と子音語幹のヘヨ体
第９回　母音語幹のヘヨ体、接続形
第 10 回 漢字語数詞・接続形
第 11 回 ㄹ語幹・願望表現
第 12 回 固有語数詞・依頼の表現
第 13 回 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第 14 回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意
この授業は朝鮮語ⅡA(木4限・趙義成)と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容
語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書
『NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめる 韓国語入門』(趙義成著、NHK 出版) ISBN: 978-4140351765

参考書
特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法
小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法
期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩA	**朝鮮語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
金 孝珍	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は初めて韓国語を学ぶ学生を対象とします。前半は表音文字であるハングルの仕組みと発音のルールを習得し、文字の読み書き、正確な発音ができるように練習します。後半は基礎文法・文型を踏まえ初歩的な表現を学びます。確実にハングルの読み書きができるように繰り返し練習します。自己紹介や簡単な挨拶ができるように必要な語彙や文の基本パターンを習います。基本文法や表現パターンを会話文で練習し、「話せる、すぐに使える韓国語」を身につけましょう。確実に身につけるためにその都度語彙とフレーズ、文法問題を用意し、きちんと覚えら

授業内容

第1回 イントロダクション・朝鮮語・朝鮮半島についての紹介
第2回 文字編 第1課 基本母音
第3回 文字編 第2課 子音(1)
第4回 文字編 第3課 子音(2)激音と濃音
第5回 文字編 第4課 複合母音
第6回 文字編 第5課 終声(パッチム)
第7回 文字編 第6課 発音の変化
第8回 第1課 指定詞を学ぶ
第9回 第2課 指定詞の否定形を学ぶ
第 10 回 第3課 指示詞と方向位置を表す表現を学ぶ
第 11 回 第4課 ハムニダ体を学ぶ
第 12 回 第5課 ヘヨ体を学ぶ
第 13 回 文化に触れる
第 14 回 a:講義 b:期末試験

履修上の注意

金曜日の李興淑先生の授業と連動授業になるので、必ず金曜日の授業を同時履修してください。
学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し, 授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は, 評価対象になりません。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前学習
授業で進む予定の箇所を前もって読んで、わからないところをまとめておく。
該当する課の音声 DL をよく聞き、発音をチェックしておく。
・事後学習
毎回授業で学んだ新しい単語や会話文を丸暗記すること。

教科書

北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』白帝社

参考書

『実用日韓・韓日辞典』(成美堂)
朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度、小テスト、課題を含む)

その他

韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩA	**朝鮮語ＩA**	
担 当 者	開講期	開講地区
韓 必南	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮語の文字(ハングル)の仕組みと発音のルールを習得し、初歩的な表現を学ぶ。前半は文字と発音の習得に重点をおき、後半は基礎文法と表現を中心に進めていく。簡単な対話練習を通して基本的なコミュニケーション能力を養う。
朝鮮語の読み書き、基礎語彙、基礎文法を身につけ、基本的な挨拶、簡単な自己紹介、身の回りの事物について話したり、書いたりすることができることを目標とする。

授業内容

第 1回 a:イントロダクション b:朝鮮語について
第 2回 文字編 第1課 基本母音
第 3回 文字編 第2課 子音(1)
第 4回 文字編 第3課 子音(2)激音と濃音
第 5回 文字編 第4課 複合母音
第 6回 文字編 第5課 終声(パッチム)
第 7回 文字編 第6課 発音の変化
第 8回 第1課 指定詞を学ぶ
第 9回 第2課 指定詞の否定形を学ぶ
第 10 回 第3課 指示詞と方向位置を表す表現を学ぶ
第 11 回 第4課 ハムニダ体を学ぶ
第 12 回 第5課 ヘヨ体を学ぶ
第 13 回 既習文法の復習
第 14 回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

金曜日の朴先生の授業と連動授業であるため、必ず金曜日の授業を同時履修すること。
全講義数の 3 分の1以上を欠席した者は成績評価の対象にならない。
発音練習・口頭練習に積極的に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回の授業で学んだ文字と発音を音読・発音練習を重ねて覚える。
あらかじめ教科書の内容に目を通しておく。

教科書

『即！実践 楽しもう韓国語』北原スマ子監修、金孝珍著 (白帝社)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の解説及びクラスウェブの資料を通して対応する。

成績評価の方法

期末試験 60%
課題達成度・小テスト 20%
平常点・授業内活動 20%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩB	**朝鮮語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 英人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
基礎的な文法をテキストで学んだあと、中級コリア語教材で変則用言、連体形、漢字音を学ぶ。

授業内容
第1回　7課残り、8課 固有語数詞
第２回　9課 過去形
第3回　10課 尊敬形
第4回　11課 希望
第5回　12課 原因、意志
第6回　13課 譲譲
第7回　14課 条件
第8回　15課 逆接、許可
第9回　中級コリア語教材、漢字音
第10回 中級コリア語教材、漢字音
第11回 中級コリア語教材、漢字音
第12回 中級コリア語教材、漢字音
第13回 中級コリア語教材、漢字音
第14回 理解度確認

履修上の注意
木曜日の李興淑先生とペアだが、こちらの方が早く進む。

準備学習(予習・復習等)の内容
復習と予習をよくやること。『中級コリア語教材』は予習が必須。ただし、同教材の「漢字音練習帳」は予習禁止。

教科書
北原スマ子監修・金孝珍著『即！実践 楽しもう 韓国語』白帝社
ISBN978-4-86398-277-2
伊藤英人『韓国漢字音トレーニングブック』白水社
ISBN978-4-560-09935-3
『中級コリア語教材』をクラスウェブに貼ります。

参考書
なし。

課題に対するフィードバックの方法
小テストを返却する。

成績評価の方法
練習問題を板書した人に毎回加点。小テスト、期末試験の平均点に加点分を加える。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩB	**朝鮮語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
【授業概要】
「朝鮮語ＩA」に引き続き、初級の文法、文型、会話文などを学びます。
【到達目標】
初級レベルでの会話や作文ができるようになることを目標にします。
また、ハングル能力検定試験５級レベルの実力を身につけることを目指します。

授業内容
第１回: 不可能形、現在連体形(1)
第２回: 進行形
第３回: 現在連体形(2)
第４回: 尊敬形、意志・推量の表現(1)
第５回: 尊敬形、意志・推量の表現(2)
第６回: 합니다体、未実現連体形
第７回: 特殊な尊敬形、婉曲形
第８回: ㅇ語幹
第９回: 過去連体形
第10回: 可能・不可能
第11回: 許可・不許可
第12回: 理由表現
第13回: 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第14回: a:まとめ b:期末試験

履修上の注意
この授業は朝鮮語ⅡB(木4限・趙義成)と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容
語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書
『NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめる 韓国語入門』(趙義成著、NHK 出版) ISBN: 978-4140351765

参考書
特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法
小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法
期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩB	**朝鮮語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
金 孝珍	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮語ＩＡで学習した基礎を土台として短文の言い換え練習を繰り返し、文法を固めてから、少しずつ言葉を出しながら会話練習を重ねます。習った文法や表現を使って、実際のコミュニケーションを楽しんでみましょう。確実に身につけるためにその都度語彙とフレーズ、文法問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら進めていきます。

基本的な文の読み書きと簡単な日常会話が出来ることを目標とします。

授業内容

第1回 第6課 用言文の否定形を学ぶ
第2回 第7課 漢数詞と助数詞を学ぶ
第3回 第8課 固有数詞と助数詞を学ぶ
第4回 第9課 過去時制を学ぶ
第5回 第 10 課 尊敬表現を学ぶ(1)
第6回 第 11 課 希望、試みの表現を学ぶ
第7回 第 12 課 理由、意志・推測表現を学ぶ
第8回 第 13 課 尊敬表現を学ぶ(2)
第9回 第 14 課 仮定、相談表現を学ぶ
第 10 回 第 15 課 許可、不許可表現を学ぶ
第 11 回 第 16 課 意図、丁寧な依頼表現を学ぶ
第 12 回 第 17 課 ㅎ不規則表現を学ぶ
第 13 回 文化に触れる
第 14 回 a:講義 b:期末試験

履修上の注意

金曜日の李興淑先生の授業と連動授業になるので、必ず金曜日の授業を同時履修してください。
学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し，授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は，評価対象になりません。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前学習
授業で進む予定の箇所を前もって読んで、わからないところをまとめておく。
該当する課の音声 DL をよく聞き、発音をチェックしておく。
・事後学習
毎回授業で学んだ新しい単語や会話文を丸暗記すること。

教科書

北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』白帝社

参考書

『実用日韓・韓日辞典』(成美堂)
朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度、小テスト、課題を含む)

その他

韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ＩB	**朝鮮語ＩB**	
担 当 者	開講期	開講地区
韓 必南	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

テキストに沿って朝鮮語の基礎語彙、基礎文法を学ぶ。場面設定のペアワークやグループワークの会話練習を通してコミュニケーション能力を養う。
朝鮮語の基礎語彙、基礎文法を身につけ、身の回りの事物、日常生活における簡単な対話ができる、簡単な作文ができることを目標とする。

授業内容

第 1回 第6課 用言文の否定形を学ぶ
第 2回 第7課 漢数詞と助数詞を学ぶ
第 3回 第8課 固有数詞と助数詞を学ぶ
第 4回 第9課 過去時制を学ぶ
第 5回 第 10 課 尊敬表現を学ぶ(1)
第 6回 第 11 課 希望、試みの表現を学ぶ
第 7回 第 12 課 理由、意志・推測表現を学ぶ
第 8回 第 13 課 尊敬表現を学ぶ(2)
第 9回 第 14 課 仮定、相談表現を学ぶ
第 10 回 第 15 課 許可、不許可表現を学ぶ
第 11 回 第 16 課 意図、丁寧な依頼表現を学ぶ
第 12 回 第 17 課 ㅎ不規則表現を学ぶ
第 13 回 既習文法の復習
第 14 回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

金曜日の朴先生の授業と連動授業であるため、必ず金曜日の授業を同時履修すること。
全講義数の 3 分の1以上を欠席した者は成績評価の対象にならない。
発音練習・ペアワーク・口頭練習に積極的に取り組むこと。

教科書

『即！実践 楽しもう韓国語』北原スマ子監修、金孝珍著 (白帝社)

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の解説及びクラスウェブの資料を通して対応する。

成績評価の方法

期末試験 60%
課題達成度・小テスト 20%
平常点・授業内活動 20%

その他

特になし。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡA	**朝鮮語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
趙 義成	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
文字と発音から始めて、平易な文が理解できる程度の基礎的な朝鮮語運用能力を養う。

授業内容
01)導入
02)第1課
03)第2課
04)第3課
05)第3課(つづき)
06)第4課
07)第5課
08)第6課
09)第7課
10)第7課(つづき)
11)第8課
12)第9課
13)第 10 課
14) a. 試験
b. まとめと試験の正答解説

履修上の注意
この授業は月曜日李興淑教員とリレー形式で行なう。
出席は毎回とる。

準備学習(予習・復習等)の内容
語学の学習は1回1回の積み重ねが非常に大切である。予習復習をおろそかにせず、確かな歩みで学習をすすめることが上達の秘訣である。分からないこと、欠席などで習得が不十分なことは、そのまま放置せずに、教員に質問するなどして、必ず解決して先に進むようにすること。

教科書
『NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめる 韓国語入門』(趙義成著、NHK 出版)
ISBN: 978-4140351765

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
対面授業の場合:学期末試験 80%、授業内課題(小テストなど)20%
オンライン授業の場合:学期末課題 50%、毎回の課題 30%、授業への貢献度 20%(オンライン授業の状況により変更される場合あり)

その他
オンライン授業となった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業となる予定。その場合、Zoom ミーティングの URL 情報等は「Oh-o! Meiji」で流す予定なので、チェックしておくこと。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡA	**朝鮮語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
【授業概要】
初めて朝鮮語(韓国語)を学ぶ学生を対象に、ハングルの書き方、発音、文法の基礎的な知識を習得します。初級の文法と文型に徹底的に取り組み、会話の実践演習も行います。
【到達目標】
韓国語の基礎知識をマスターし、「話す」「聞く」能力を養い、簡単な挨拶や基礎的な会話ができるようになることです。同時に、韓国語の学習を通じて、韓国文化への理解を深めます。ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目指します。

授業内容
第1回: イントロダクション
a:朝鮮語について b:朝鮮語の学習全般について
第2回: 子音(読み書き)
第3回: 母音(読み書き)
第4回: 子音と母音のまとめ
第5回 パッチム(読み書き)
第6回: 発音(発音練習)
第7回: 1課 私はイ・ドンミンです。
第8回: 2課 専攻は何ですか。
第9回: 3課 図書館の横にあります。
第 10 回: 4 課 土曜日はアルバイトをします。
第 11 回: 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第 12 回: 5 課 韓国映画が好きですか。
第 13 回: 6課 あまり遠くありません。
第 14 回: a:まとめ b:期末試験

履修上の注意
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容
語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書
『即!実践 楽しもう韓国語』北原スマ子監修・金孝珍著(白帝社、2017 年) ISBN:978-4-86398-277-2

参考書
特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法
小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法
期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡA	**朝鮮語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
初めて朝鮮語(韓国語)を学ぶ学生を対象に、ハングルの書き方、発音、文法の基礎的な知識を習得します。初級の文法と文型に徹底的に取り組み、会話の実践演習も行います。
【到達目標】
朝鮮語の基礎知識をマスターし、「話す」「聞く」能力を養い、簡単な挨拶や基礎的な会話ができるようになることです。同時に、朝鮮語の学習を通じて、韓国文化への理解を深めます。ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目指します。

授業内容

第1回: イントロダクション
a:朝鮮語について b:朝鮮語の学習全般について
第2回: 子音(読み書き)
第3回: 母音(読み書き)
第4回: 子音と母音のまとめ
第5回 パッチム(読み書き)
第6回: 発音(発音練習)
第7回: 1課 私はイ・ドンミンです。
第8回: 2 課 専攻は何ですか。
第9回: 3 課 図書館の横にあります。
第 10 回: 4 課 土曜日はアルバイトをします。
第 11 回: 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第 12 回: 5 課 韓国映画が好きですか。
第 13 回: 6課 あまり遠くありません。
第 14 回: a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

この授業は朝鮮語ⅠA(火1限・金孝珍)と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『即!実践 楽しもう韓国語』北原スマ子監修・金孝珍著(白帝社、2017 年) ISBN:978-4-86398-277-2

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡA	**朝鮮語ⅡA**	
担 当 者	開講期	開講地区
朴 知恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮語は、日本語と文法が類似しています。また、同じ漢字文化圏であるため、語彙も類似します。そのため、日本人が最も覚えやすい言語といえるでしょう。
この授業では朝鮮語の基礎を学びます。まず、ハングルの仕組みを理解し、発音や読み、書きがきちんとできるようにします。その上で挨拶や自己紹介などができることを目標とします。

授業内容

第1回 イントロダクション・朝鮮語・朝鮮半島についての紹介
第2回 文字編 第1課 基本母音
第3回 文字編 第2課 子音(1)
第4回 文字編 第3課 子音(2)激音と濃音
第5回 文字編 第4課 複合母音
第6回 文字編 第5課 終声(パッチム)
第7回 文字編 第6課 発音の変化
第8回 第1課 指定詞を学ぶ
第9回 第2課 指定詞の否定形を学ぶ
第 10 回 第3課 指示詞と方向位置を表す表現を学ぶ
第 11 回 第4課 ハムニダ体を学ぶ
第 12 回 第5課 ヘヨ体を学ぶ
第 13 回 文化に触れる
第 14 回 a:講義 b:期末試験

履修上の注意

火曜日の韓必南先生の授業と連動授業になるので、必ず火曜日の授業を同時履修してください。
学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前学習
授業で進む予定の箇所を前もって読んで、わからないところをまとめておく。
・事後学習
毎回授業で学んだ新しい単語や会話文を丸暗記すること。

教科書

北原スマ子監修、金孝珍著『即!実践 楽しもう韓国語』白帝社

参考書

『実用日韓・韓日辞典』(成美堂)
朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

出席率を最も重要視します。その上で定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度、小テスト)との総合評価とします。

その他

語学はアウトプットが大事です。新しく覚えた語句は積極的に使ってみましょう。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡB	**朝鮮語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
趙 義成	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
文字と発音から始めて、平易な文が理解できる程度の基礎的な朝鮮語運用能力を養う。

授業内容
01)導入
02)第 11 課
03)第 12 課
04)第 13 課
05)第 13 課(つづき)
06)第 14 課
07)第 15 課
08)第 16 課
09)第 17 課
10)第 17 課(つづき)
11)第 18 課
12)第 19 課
13)第 20 課
14) a. 試験
b. まとめと試験の正答解説

履修上の注意
この授業は月曜日李興淑教員とリレー形式で行なう。
出席は毎回とる。

準備学習(予習・復習等)の内容
語学の学習は1回1回の積み重ねが非常に大切である。予習復習をおろそかにせず、確かな歩みで学習をすすめることが上達の秘訣である。分からないこと、欠席などで習得が不十分なことは、そのまま放置せずに、教員に質問するなどして、必ず解決して先に進むようにすること。

教科書
『NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめる 韓国語入門』(趙義成著、NHK 出版)
ISBN: 978-4140351765

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法
対面授業の場合:学期末試験 80%、授業内課題(小テストなど)20%
オンライン授業の場合:学期末課題 50%、毎回の課題 30%、授業への貢献度 20%(オンライン授業の状況により変更される場合あり)

その他
オンライン授業となった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業となる予定。その場合、Zoom ミーティングの URL 情報等は「Oh-o! Meiji」で流す予定なので、チェックしておくこと。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡB	**朝鮮語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
【授業概要】
「朝鮮語ⅡA」に引き続き、初級の文法、文型、会話文などを学習します。
【到達目標】
初級レベルでの会話や作文ができるようになることを目標にします。
また、ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目指します。

授業内容
第1回: 7 課 誕生日はいつですか。
第2回: 8 課 7 時から 9 時までです。
第3回: 9 課 先週の土曜日にコンサートに行きました。
第4回: 10 課 本当にお若くみえますね。
第5回: 11 課 連休の時、何をしたいですか。
第6回: 12 課 道がとても混んで遅れました。
第7回: 13 課 両親が日本へ旅行に行きました。
第8回: 14 課 少し早く出発しましょうか。
第9回: 15 課 一度食べてみてもいいですか。
第 10 回:16 課 景福宮に行こうと思います。
第 11 回:17 課 とても忙しくて連絡もできませんでしたね。
第 12 回: 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第 13 回: 朝鮮語の文法・文型・会話文のまとめ
第 14 回: a:まとめ b:期末試験

履修上の注意
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容
語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書
『即!実践 楽しもう韓国語』(北原スマ子監修・金孝珍著、白帝社、2017 年) ISBN:978-4-86398-277-2

参考書
特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法
小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法
期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡB	**朝鮮語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
「朝鮮語ⅡA」に引き続き、初級の文法、文型、会話文などを学習します。
【到達目標】
初級レベルでの会話や作文ができるようになることを目標にします。
また、ハングル能力検定試験 5 級レベルの実力を身につけることを目指します。

授業内容

第1回: 7課　誕生日はいつですか。
第2回: 8課　7 時から 9 時までです。
第3回: 9課　先週の土曜日にコンサートに行きました。
第4回: 10 課 本当にお若くみえますね。
第5回: 11 課 連休の時、何をしたいですか。
第6回: 12 課 道がとても混んで遅れました。
第7回: 13 課 両親が日本へ旅行に行きました。
第8回: 14 課 少し早く出発しましょうか。
第9回: 15 課 一度食べてみてもいいですか。
第 10 回: 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第 11 回: 16 課 景福宮に行こうと思います。(1)
第 12 回: 16 課 景福宮に行こうと思います。(2)
第 13 回: 17 課 とても忙しくて連絡もできませんでしたね。
第 14 回: a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

この授業は朝鮮語ⅠB(火1限・金孝珍)と連携授業であり、教科書も共通です。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『即！実践 楽しもう韓国語』北原スマ子監修・金孝珍著(白帝社、2017 年) ISBN:978-4-86398-277-2

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅡB	**朝鮮語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
朴 知恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮語ⅡA に引き続き、日常生活ですぐ使える文法や語彙を覚え、初級レベルの会話・作文ができることを目標とします。

授業内容

第1回 第6課 用言文の否定形を学ぶ
第2回 第7課 漢数詞と助数詞を学ぶ
第3回 第8課 固有数詞と助数詞を学ぶ
第4回 第9課 過去時制を学ぶ
第5回 第 10 課 尊敬表現を学ぶ(1)
第6回 第 11 課 希望、試みの表現を学ぶ
第7回 第 12 課 理由、意志・推測表現を学ぶ
第8回 第 13 課 尊敬表現を学ぶ(2)
第9回 第 14 課 仮定、相談表現を学ぶ
第 10 回 第 15 課 許可、不許可表現を学ぶ
第 11 回 第 16 課 意図、丁寧な依頼表現を学ぶ
第 12 回 第 17 課 ㅎ不規則表現を学ぶ
第 13 回 文化に触れる
第 14 回 a:講義 b:期末試験

履修上の注意

火曜日の韓必南先生の授業と連動授業になるので、必ず火曜日の授業を同時履修してください。
学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前学習
授業で進む予定の箇所を前もって読んで、わからないところをまとめておく。
・事後学習
毎回授業で学んだ新しい単語や会話文を丸暗記すること。

教科書

北原スマ子監修、金孝珍著『即！実践 楽しもう韓国語』白帝社

参考書

『実用日韓・韓日辞典』(成美堂)
朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度、小テスト、課題を含む)

その他

語学はアウトプットが大事です。授業内での発音練習は特に語句は積極的に使ってみましょう。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢA	**朝鮮語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
塩田 今日子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮語の基礎を履修してハングルの読み方を習得し、基礎的な文法を学び終えた学生を対象にした科目である。
実践的な会話を学びながら必要な発音、表現、文法を習得し、基本的な日常会話ができるようになることを目指す。
socrative というツールを使って、学生が間違いを恐れずに文法や作文の練習を行えるようにし、それぞれに合った能力の向上を図る。

授業内容

第1回 a:実力診断 b:基礎のまとめ
第2回 第１課 ～しましょうか
第3回 第１課 ～すればいいのに
第4回 第２課 ～してみますか
第5回 第２課 ～するらしい
第6回 第３課 ～するか
第7回 第３課 ～するんですよ
第8回 第４課 ～と聞きました
第9回 第４課 ～するそうです
第 10 回 第５課 ～と言うんですよ
第 11 回 第５課 ～してくれと
第 12 回 第６課 ～してはいけない
第 13 回 第６課 ～するな
第 14 回 a:まとめ b:試験

履修上の注意

ハングルの読み方を習得済みで、朝鮮語の基礎的な文法知識があることが強く望まれる。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習 : 該当する課の音声 DL をよく聞き、わからないところをまとめておく。
復習 : まとめの練習問題を解いて提出する。

教科書

『これなら聞ける話せる！実践ハングル』塩田今日子(NHK 出版)

参考書

『韓国語中級文法』(プリント)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を使って添削を行う。

成績評価の方法

レポート 25%、授業への貢献度 25%、定期試験 50%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢA	**朝鮮語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
中級段階における文法と語彙の深化、読解力や聴解力の向上、ライティングスキルの進展、流暢なスピーキングとコミュニケーション能力の向上、そして韓国文化への深化した理解に焦点が当てられます。効果的な学習を促進するために、テキストやオンラインリソースを上手に利用し、グループ活動やディスカッションを通じた深層学習が展開されます。
【到達目標】
中級レベルのエッセイやレポートを論理的かつ明確に執筆できる能力の習得です。さらに、文章構造と表現力の向上を通じて、日常的なトピックにおいて円滑なコミュニケーショ

授業内容

第1回 朝鮮語基礎の復習
第2回 1課 依頼、意志・約束の表現
第3回 2課 動作の先行、理由・原因の表現
第4回 2課 ㅎ不規則活用
第5回 3課 試み・経験の表現
第6回 3課 感嘆・驚きの表現
第7回 4課 動詞の連体形、存在詞の現在連体形
第8回 4課 形容詞、指定詞の現在連体形
第9回 5課 連体形のまとめ
第 10 回 6課 ㅂ不規則活用
第 11 回 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第 12 回 7課 推測の表現
第 13 回 7課 完了状態の持続の表現
第 14 回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

朝鮮語の基礎的な文法をマスターしていることが望ましい。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』金孝珍・李英球・北原マス子著(白帝社、2022 年) ISBN978-4-86398-5

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢA	**朝鮮語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
韓 必南	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

初級の授業を履修した者あるいはそれと同等のレベルの知識を有する者を対象とし、既習の文法・表現を復習しながら、テキストに沿って朝鮮語の運用力を伸ばすための中級レベルの文法・表現を学ぶ。ペアワークやグループワークの会話練習を通してコミュニケーション能力を向上させる。
日常の多様な場面において朝鮮語で簡単な会話ができ、多様な話題に合わせて朝鮮語で簡単な作文ができることを目標とする。

授業内容

第1回 a:イントロダクション b:1 年次学習内容の復習
第2回 第1課 -아서/어서, -고 계시다, -(으)십시오、文法活用と練習問題
第3回 会話(1) 사람이 많아서 시간이 걸렸어요.
第4回 第2課 -지만, -(으)면, ㅂ不規則活用、文法活用と練習問題
第5回 会話(2) 주말에 시간이 있으면 같이 가요.
第6回 第3課 -(으)ㄹ게요, -(이)라도, 아/어 주다, -아/어 보다、文法活用と練習問題
第7回 会話(3) 학교 식당에 가 봤어요?
第8回 第4課 -(으)ㄹ 거예요, -(으)니까, -네요, ㄷ不規則活用、文法活用と練習問題
第9回 会話(4) 행사가 있으니까 붐빌 거예요.
第 10 回 第5課 動詞連体修飾、形容詞連体修飾、文法活用と練習問題
第 11 回 -(으)ㄹ 때、-(이)나, -거나、文法活用と練習問題
第 12 回 会話(5) 요즘 인기있는 맛집이에요.
第 13 回 表現を増やそう
第 14 回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

会話練習、ペアワークなどの学習活動に積極的に取り組むこと。
全講義数の 3 分の1以上を欠席した者は成績評価の対象にならない。

準備学習(予習・復習等)の内容

前もって用例に目を通しておく。
毎回学んだ表現を復習し、音読・発音練習を重ねる。
単語の暗記を怠らない。
課題を着実に熟す。

教科書

『maru 韓国語 中級』韓必南・金民・全恵子著 (博英社) 2024 年

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の解説及びクラスウェブの資料を通して対応する。

成績評価の方法

期末試験 60%
課題達成度・小テスト 20%
平常点・授業内活動 20%

その他

ハングル検定試験や TOPIK などの検定試験の受験もチャレンジしましょう。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢA	**朝鮮語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
金 孝珍	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

基礎になる文法をしっかり身につけ、語彙を増やし、それを応用できるようにしましょう。現実のコミュニケーション場面に近い設定で話すことができるようにコミュニケーションスキルを高めます。確実に身につけるために1つの課が終わると語彙とフレーズ、文法の問題を用意し、きちんと覚えられているのかチェックしながら復習をします。また、文化コーナーを設けて朝鮮半島の文化に対する関心を持ち、理解を深めるようにします。
中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。

授業内容

第1回 イントロダクション、1 年次学習内容の復習(1)
第2回 1 年次学習内容の復習(1)
第3回 第1課 -아/어 주세요/주시겠어요?(~てください/ていただけますか 依頼)、-(으)ㄹ게요(~ます、~よ・から 意志・約束)、-고 있다(~ている 動作の進行)の文法内容と練習問題
第4回 第1課 会話文と復習 plus
第5回 第2課 -아/어서(~て、~ので、動作の先行、原因・理由)、으不規則活用、못 - / -지 못하다(~できな・(ら)れない不可能)の文法内容と練習問題
第6回 第2課 会話文と復習 plus
第7回 第3課 -아/어 보다(~てみる 試み・経験)、-네요(~ですね、ますね 感嘆・驚き)、-기로 하다(~ことにする 約束・決定・決心)の文法内容と練習問題
第8回 第3課 会話文と復習 plus
第9回 第4課 動詞の連体形、存在詞の現在連体形、 -(으)ㄴ 적이 있다/없다(~たことがある/ない 経験の有無)の文法内容と練習問題
第 10 回 第4課 会話文と復習 plus、みんなで BINGO ゲーム(1)
第 11 回 第5課 形容詞、指定詞の現在連体形、-(으)ㄹ 거예요(?)(~つもりです(か)、~でしょう 意志・推量)、-(으)ㄹ 때、-았/었을 때 (~時、 ~た時)の文法内容と練習問題
第 12 回 第5課 会話文と復習 plus、◆連体形のまとめ
第 13 回 韓国文化コーナー(韓国ドラマや Kpop、ニュースの聞き取り)
第 14 回 a:講義 b:期末試験

履修上の注意

学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前学習
授業で進む予定の箇所を前もって読んで、わからないところをまとめておく。
該当する課の音声 DL をよく聞き、発音をチェックしておく。
・事後学習
毎回授業で学んだ新しい単語や会話文を丸暗記すること。

教科書

金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』(白帝社、2022 年 3 月)

参考書

『実用日韓・韓日辞典』(成美堂)
朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度、小テスト、課題を含む)

その他

韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。

科目ナンバー：(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢB	**朝鮮語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
塩田 今日子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

朝鮮語ⅢA を履修して必要な発音、表現、文法を習得した学生を対象にした科目。
実践的な会話を学びながら必要な文法やいろいろな表現を学び，それらが使えるようになることを目指す。
socrative というツールを使って、学生が間違いを恐れずに文法や作文の練習を行えるようにし、それぞれに合った能力の向上を図る。

授業内容

第1回 発音と文法のまとめ
第2回 第７課 ～のようにみえる
第3回 第７課 ～している
第4回 第８課 ～するさ
第5回 第８課 ～ご存知なの？
第6回 第９課 ～だっけ？
第7回 第９課 ～だったんだよ
第8回 第 10 課 この、その、あの
第9回 第 10 課 ～してある
第 10 回 第 11 課 ～なの？
第 11 回 第 11 課 ～していた
第 12 回 第 12 課 ～しなければならない
第 13 回 第 12 課 ～するんだった
第 14 回 a:まとめ b:試験

履修上の注意

ハングルの読み方を習得済みで、朝鮮語の基礎的な文法知識があることが強く望まれる。
朝鮮語ⅢA を履修済みであることが望まれる。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習 ： 該当する課の音声 DL をよく聞き、わからないところをまとめておく。
復習 ： まとめの練習問題を解いて提出する。

教科書

『これなら聞ける話せる！実践ハングル』塩田今日子(NHK 出版)

参考書

『韓国語中級文法』(プリント)

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji を使って添削を行う。

成績評価の方法

レポート 25%、授業への貢献度 25%、定期試験 50%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢB	**朝鮮語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「朝鮮語ⅢA」の学習を基盤に、中級程度の文法、文型、および語彙の習得を更に深め、応用力を向上させます。さらに、より複雑で高度な表現を学び、日常的なコミュニケーションだけでなく、文書や文章を通じた韓国語の習熟度を向上させることが期待されます。また、言語学習のみならず、韓国語の表現に影響を与える文化や社会的コンテキストにも焦点を当てます。韓国文化の要素に触れながら、言葉の使用において文脈を理解し、より豊かな表現力を身につけます。テキストやオンラインリソースの活用、ディスカッション、そして実践的な状況設定に基づ

授業内容

第1回 ８課 前置き、許可の表現
第2回 ９課 ㄷ不規則活用
第3回 ９課 同時進行、禁止の表現
第4回 10 課 ㅅ不規則活用
第5回 10 課 時間の経過の表現
第6回 11 課ㄹ不規則活用
第7回 11 課 根拠や状態の説明
第8回 12 課 意図、計画の表現
第9回 13 課ㅎ不規則活用
第 10 回 13 課 可能、不可能の表現
第 11 回 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第 12 回 14 課 直接引用(間接話法)
第 13 回 総合練習
第 14 回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

朝鮮語の基礎的な文法をマスターしていることが望ましい。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』金孝珍・李英球・北原マス子著(白帝社、2022 年) ISBN978-4-86398-5

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢB	**朝鮮語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
韓 必南	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

テキストに沿って朝鮮語の運用力を伸ばすための中級文法、選択表現を学習する。ペアワークやグループワークの会話練習を通してコミュニケーション能力を向上させる。朝鮮語中級レベルの文法を習得し、表現の応用力・運用力を伸ばす。
日常の多様な場面において朝鮮語で簡単な会話ができ、多様な話題に合わせて朝鮮語で簡単な作文ができることを目標とする。

授業内容

第1回 第6課 -(으)ㄹ 수 있다/없다, -(으)려고 하다 文法活用と練習問題
第2回 会話(6) 교대역에 가려면 어떻게 가야 해요?
第3回 第7課 -(으)ㄴ 후에, -기 전에, ㅅ不規則活用, -는데/(으)ㄴ데 文法活用と練習問題
第4回 会話(7) 약은 하루에 세 번 식사하신 후에 드세요.
第5回 第8課 -(으)ㄴ/-는/-(으)ㄹ 것 같다 文法活用と練習問題
第6回 -아/어하다, 르不規則活用, 文法活用と練習問題
第7回 会話(8) 듣기 시험은 다들 힘들어하는 것 같아요.
第8回 第9課 -(으)면 되다, -(으)면 안 되다, -아도/어도 되다 文法活用、練習問題
第9回 会話(9) 음식물 쓰레기를 그냥 버려도 돼요?
第10回 第10課 -(으)ㄴ 적이 있다, -(으)면서 文法活用と練習問題
第11回 -(으)ㄹ 줄 알다/모르다, -지 못하다 文法活用と練習問題
第12回 会話(10) 다문화 축제에 참여해 본 적이 있어요?
第13回 表現を増やそう
第14回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

発音練習、会話練習、ペアワークなどの学習活動に積極的に取り組むこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回学んだ表現を復習し、音読・発音練習を重ねる。
単語の暗記を怠らない。
課題を着実に熟す。

教科書

『maru 韓国語 中級』韓必南・金民・全恵子著 (博英社) 2024 年

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内の解説及びクラスウェブの資料を通して対応する。

成績評価の方法

期末試験 60%
課題達成度・小テスト 20%
平常点・授業内活動 20%

その他

ハングル検定試験や TOPIK などの検定試験の受験もチャレンジしましょう。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅢB	**朝鮮語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
金 孝珍	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

表現・文法の学習を中心とし、しっかり文型を練習した上で、その学習を効果的に行うために会話や読解、作文などを練習します。授業では毎回語彙とフレーズの簡単な問題を用意し、確実に覚えられているのか確認しながらゆっくり進めていきます。初級レベルの学習内容を復習しつつ、より複雑な表現・文法を増やして無理なくレベルアップができるように目指します。
中級レベルの文章力、会話力の取得を目標とします。

授業内容

第1回 第6課 -(으)니까(～だから、～ので 理由・原因)、ㅂ〔비읍〕不規則活用、
-기 쉽다/어렵다(～やすい、～のが簡単だ/～にくい、～のが難しい)の文法内容と練習問題
第2回 第6課 会話文と復習 plus
第3回 第7課 動詞、存在詞、形容詞、指定詞の連体形＋것 같다(～ようだ 推測)、
-아/어 있다(～ている 状態の継続)、-는/(으)ㄴ 편이다(～なほうだ 傾向)の文法内容と練習問題
第4回 第7課 会話文と復習 plus、総合練習(1)
第5回 第8課 -는/(으)ㄴ데(～だが、～けど、～から、～のに)、-다가(～ている途中で、～ているうちに、～ていて)、-아/어도 되다(～てもいい 許可)の文法内容と練習問題
第6回 第8課 会話文と復習 plus
第7回 第9課 ㄷ〔디귿〕不規則活用、-(으)면서(～ながら)、-지 말다(～しない、～のをやめる 禁止)の文法内容と練習問題
第8回 第9課 会話文と復習 plus
第9回 第10課 르不規則活用
第10回 第10課 会話文と復習 plus
第11回 第11課 르不規則活用、-거든요(～んですよ、～ですから 根拠や状況の説明)、-(으)ㄹ래요(?)(～ます(か) 意志)の文法内容と練習問題
第12回 第11課 会話文と復習 plus
第13回 韓国文化コーナー(韓国ドラマや Kpop、ニュースの聞き取り)
第14回 a:講義 b:期末試験

履修上の注意

学習の遅れにつながりますので欠席しないでください。やむを得ず欠席する場合は前もって届けを出し、授業内容と課題を学習して遅れをとらないようにしてください。全講義数の3分の1以上を欠席した学生は、評価対象になりません。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前学習
授業で進む予定の箇所を前もって読んで、わからないところをまとめておく。
該当する課の音声 DL をよく聞き、発音をチェックしておく。
・事後学習
毎回授業で学んだ新しい単語や会話文を丸暗記すること。

教科書

金孝珍・李英珠・北原スマ子著『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』(白帝社、2022 年 3 月)

参考書

『実用日韓・韓日辞典』(成美堂)
朝鮮語だけではなく朝鮮半島の社会・文化に関する参考書を随時紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

定期試験 60%、平常点 40%(授業への参加度、小テスト、課題を含む)

その他

韓国の文化や習慣、リアルタイムの情報などにも耳を傾けて、韓国社会全般の理解を深めていきましょう。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語IVA	**朝鮮語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
趙 義成	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次に学習したことを基礎に、話し言葉を中心とした、さらなる朝鮮語の運用能力を養う。

授業内容

01)導入
02)第1課
03)第1課(つづき)
04)第2課
05)第2課(つづき)
06)第3課
07)第3課(つづき)
08)第4課
09)第4課(つづき)
10)まとめ
11)第5課
12)第5課(つづき)
13)第6課
14)a. 試験
b. まとめと試験の正答解説

履修上の注意

出席は毎回とる。

準備学習(予習・復習等)の内容

1年次に比べ学習内容が難しいので、復習と練習をしっかりおこなうのが望ましい。1年次の学習内容のうち、用言の活用、過去形、連体形などは特に重要で、2年次の学習とも密接に関係するので、理解が不十分な学生はしっかりと復習をしておくこと。

教科書

『楽しく学ぶハングル2』(白帝社, ISBN 978-4-89174-996-5)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

対面授業の場合:学期末試験 80%、授業での課題(小テストなど)20%
オンライン授業の場合:学期末課題 50%、毎回の課題 30%、授業への貢献度 20%(オンライン授業の状況により変更される場合あり)

その他

オンライン授業となった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業となる予定。その場合、Zoom ミーティングの URL 情報等は「Oh-o! Meiji」で流す予定なので、チェックしておくこと。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語IVA	**朝鮮語IVA**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
中級段階における文法と語彙の深化、読解力や聴解力の向上、ライティングスキルの進展、流暢なスピーキングとコミュニケーション能力の向上、そして韓国文化への深化した理解に焦点が当てられます。効果的な学習を促進するために、テキストやオンラインリソースを上手に利用し、グループ活動やディスカッションを通じた深層学習が展開されます。
【到達目標】
中級レベルのエッセイやレポートを論理的かつ明確に執筆できる能力の習得です。さらに、文章構造と表現力の向上を通じて、日常的なトピックにおいて円滑なコミュニケーショ

授業内容

第1回 朝鮮語基礎の復習
第2回 1課 依頼、意志・約束の表現(2)
第3回 2課 動作の先行、理由・原因の表現(2)
第4回 2課 ㅎ不規則活用(2)
第5回 3課 試み・経験の表現(2)
第6回 3課 感嘆・驚きの表現(2)
第7回 4課 動詞の連体形、存在詞の現在連体形(2)
第8回 4課 形容詞、指定詞の現在連体形(2)
第9回 5課 連体形のまとめ(2)
第10回 6課 ㅂ不規則活用(2)
第11回 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ(2)
第12回 7課 推測の表現(2)
第13回 7課 完了状態の持続の表現(2)
第14回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

朝鮮語の基礎的な文法をマスターしていることが望ましい。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』金孝珍・李英球・北原マス子著(白帝社、2022年) ISBN978-4-86398-5

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅣA	**朝鮮語ⅣA**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

【授業概要】
中級段階における文法と語彙の深化、読解力や聴解力の向上、ライティングスキルの進展、流暢なスピーキングとコミュニケーション能力の向上、そして韓国文化への深化した理解に焦点が当てられます。効果的な学習を促進するために、テキストやオンラインリソースを上手に利用し、グループ活動やディスカッションを通じた深層学習が展開されます。
【到達目標】
中級レベルのエッセイやレポートを論理的かつ明確に執筆できる能力の習得です。さらに、文章構造と表現力の向上を通じて、日常的なトピックにおいて円滑なコミュニケーショ

授業内容

第1回　初級のまとめ
第2回　2課「銀行に行こうと思います」
第3回　2課 意図、予定の表現と文法
第4回　3課「明日は何をするつもりですか」
第5回　3課 予想と推測の表現と文法
第6回　4課 1課～3課の復習
第7回　5課「キムチは辛いです」
第８回　5課 ㅂ不規則の文法
第9回　6課「どこで撮った写真ですか」
第 10 回 6課 連体形の現在、過去、未来の表現
第 11 回 視聴覚教材(映画)
第 12 回 7課「歌を歌いました」
第 13 回 ８課 ５課～7 課の復習
第 14 回　a:まとめ　b:期末試験

履修上の注意

朝鮮語の基礎的な文法をマスターしていることが望ましい。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『やさしく仕組みがわかる 韓国語中級Ⅰ 講義ノート』(李昌圭著、白帝社) ISBN978-4-86398-157-7

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅣB	**朝鮮語ⅣB**	
担 当 者	開講期	開講地区
趙 義成	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次に学習したことを基礎に、話し言葉を中心とした、さらなる朝鮮語の運用能力を養う。

授業内容

01)第7課
02)第7課(つづき)
03)第8課
04)第8課(つづき)
05)第9課
06)第9課(つづき)
07)まとめ
08)第 10 課
09)第 10 課(つづき)
10)第 11 課
11)第 11 課(つづき)
12)第 12 課
13)第 12 課(つづき)
14)a. 試験
b. まとめと試験の正答解説

履修上の注意

出席は毎回とる。

準備学習(予習・復習等)の内容

1年次に比べ学習内容が難しいので、復習と練習をしっかりおこなうのが望ましい。1年次の学習内容のうち、用言の活用、過去形、連体形などは特に重要で、2年次の学習とも密接に関係するので、理解が不十分な学生はしっかりと復習をしておくこと。

教科書

『楽しく学ぶハングル2』(白帝社, ISBN 978-4-89174-996-5)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

対面授業の場合:学期末試験 80%、授業での課題(小テストなど)20%
オンライン授業の場合:学期末課題 50%、毎回の課題 30%、授業への貢献度 20%(オンライン授業の状況により変更される場合あり)

その他

オンライン授業となった場合は、Zoom によるリアルタイム配信型の授業となる予定。その場合、Zoom ミーティングの URL 情報等は「Oh-o! Meiji」で流す予定なので、チェックしておくこと。

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅣB	**朝鮮語ⅣB**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「朝鮮語ⅢA」の学習を基盤に、中級程度の文法、文型、および語彙の習得を更に深め、応用力を向上させます。さらに、より複雑で高度な表現を学び、日常的なコミュニケーションだけでなく、文書や文章を通じた韓国語の習熟度を向上させることが期待されます。また、言語学習のみならず、韓国語の表現に影響を与える文化や社会的コンテキストにも焦点を当てます。韓国文化の要素に触れながら、言葉の使用において文脈を理解し、より豊かな表現力を身につけます。テキストやオンラインリソースの活用、ディスカッション、そして実践的な状況設定に基づ

授業内容

第1回 8課 前置き、許可の表現(2)
第2回 9課 ㄷ不規則活用(2)
第3回 9課 同時進行、禁止の表現(2)
第4回 10課 ㅅ不規則活用(2)
第5回 10課 時間の経過の表現(2)
第6回 11課ㄹ不規則活用(2)
第7回 11課 根拠や状態の説明(2)
第8回 12課 意図、計画の表現(2)
第9回 13課ㅎ不規則活用(2)
第10回 13課 可能、不可能の表現(2)
第11回 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ(2)
第12回 14課 直接引用(間接話法)(2)
第13回 総合練習(2)
第14回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

朝鮮語の基礎的な文法をマスターしていることが望ましい。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『もっとレベルアップ 楽しもう韓国語』金孝珍・李英球・北原マス子著(白帝社、2022 年) ISBN978-4-86398-5

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN171N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
朝鮮語ⅣB	**朝鮮語ⅣB**	
担 当 者	開講期	開講地区
李 興淑	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「朝鮮語ⅣA」の学習を基盤に、中級程度の文法、文型、および語彙の習得を更に深め、応用力を向上させます。さらに、より複雑で高度な表現を学び、日常的なコミュニケーションだけでなく、文書や文章を通じた韓国語の習熟度を向上させることが期待されます。また、言語学習のみならず、韓国語の表現に影響を与える文化や社会的コンテキストにも焦点を当てます。韓国文化の要素に触れながら、言葉の使用において文脈を理解し、より豊かな表現力を身につけます。テキストやオンラインリソースの活用、ディスカッション、そして実践的な状況設定に基づ

授業内容

第1回 9課 「お金を両替することができますか」(本文と発音)
第2回 9課 可能や不可能、能力の有無の意を表す表現と文法
第3回 10課 「到着したら電話します」(本文と発音)
第4回 10課 仮定などの条件の意を表す表現と文法
第5回 11課 「雨が降っているようですね」(本文と発音)
第6回 11課 話し手での推測や判断の表現と文法
第7回 12課 9課～11課の復習
第8回 13課 「窓が開いています」(本文と発音)
第9回 13課 状態や結果の持続の意を表す表現と文法
第10回 視聴覚教材(映画)を活用し、朝鮮語を学ぶ。
第11回 14課 「写真を撮ってもいいですか」(許可の意を表す表現と文法)
第12回 15課 「何時まで行けばいいですか」(義務、必要性の意を表す表現と文法)1
第13回 15課 「何時まで行けばいいですか」(義務、必要性の意を表す表現と文法)2
第14回 a:まとめ b:期末試験

履修上の注意

朝鮮語の基礎的な文法をマスターしていることが望ましい。
語学の授業は、毎回の積み重ねが非常に重要なので、出席は毎回とります。
やむを得ず欠席した場合は、自習を怠らず、確実に学習を進めることが上達の鍵となります。
分からないことや、欠席によって不足している部分は放置せず、積極的に教員に質問し、
解決してから次に進むように心掛けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学の学習では、予習と復習をしっかり行うことが大切です。
予習では、教科書に添付された音声ファイルを活用し、毎回準備してください。
また、次回の授業範囲の単語を事前に必ず覚えておくよう心掛けてください。
復習では、前回の授業内容を必ず次回の授業までに覚えるようにしましょう。
数回の小テストを実施し、予習と復習の進捗を確認します。

教科書

『やさしく仕組みがわかる 韓国語中級Ⅰ 講義ノート』(李昌圭著、白帝社) ISBN978-4-86398-157-7

参考書

特に定めない。その都度、必要に応じて資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

小テストおよび作文課題に対しては、答案用紙および作文用紙を用いて、個別的かつ具体的なフィードバックを行います。
必要に応じて、口頭や「クラスウェブ」の「ポートフォリオ(学習履歴)」を活用し、個別指導またはクラス全体へのフィードバックも実施します。
発音に関しては、授業中に気づいた時点で、その都度フィードバックをします。

成績評価の方法

期末試験 60%、平常点(小テスト・課題・授業への参加度など)40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
今村 武	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(1)大学初年次にぜひ身につけておきたい英語以外の外国語であるドイツ語の基礎的運用能力を身につけるための授業です。この授業では主にドイツ語初級文法の修得を目指します。
(2)授業の到達目標は、以下のように設定します。
・ドイツ語の初級文法を十分に理解した上で、基礎的運用能力を身につけます。
・ドイツ語圏の根底をなすドイツ語の学修を通じて、異文化理解への土台を築きます。
・ドイツ語検定4級合格程度の実力養成を、具体的な到達目標とします。

授業内容

第1回 a:授業内容と進め方、予習と復習の方法、成績評価方法等について説明します。b:基礎的なドイツ語の発音の練習、基本単語の口頭練習などを行います。
第2回:Lektion 1 ドイツ語の人称代名詞、動詞の現在人称変化を学習し、あわせて練習問題を通じて、その理解を深めます。各回の授業では a において解説をおこない、b において練習問題を通じてその知識の定着をはかります。また小テストも行います。以下各回の授業について、学習する項目を記載します。
第3回:Lektion 1 規則的な動詞の現在人称変化
第4回:Lektion 2 定動詞の位置、ドイツ語の名詞の性
第5回:Lektion 2 定冠詞と不定冠詞
第6回:Lektion 3 重要な動詞の現在人称変化
第7回:Lektion 3 不規則変化動詞の現在人称変化
第8回:Lektion 4 名詞の複数形
第9回:Lektion 4 並列接続詞、従属接続詞、副文
第 10 回:Lektion 5 前置詞
第 11 回:Lektion 5 人称代名詞
第 12 回:Lektion 6 再帰代名詞、再帰動詞
第 13 回:Lektion 6 定冠詞類と不定冠詞類
第 14 回 a:春学期の学習項目について達成度についての試験形式による確認をします。b:学習事項のまとめ、及び補足説明を行います。

履修上の注意

(1)学期を通して「授業の内容」に記載した要領で授業を進めていきます。進行具合はクラスの状況等により多少の変更もあり得ます。その場合は授業で周知します。
(2)疑問点がある場合は、授業時にその場でどしどし質問してください。
(3)授業開始の 30 分前を大学到着時刻の目安としてください。やむを得ない事情で遅刻した場合は、後ろのドアから静かに行ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業の開始当初は、予習範囲を指定します。回数が進むにつれて予習すべき範囲がおおむね予測できるようになりますので、各自で必ず文法項目を予習し、練習問題を一通り自分のノートに解答しておいてください。

教科書

『レーアブッフ=レーゲンスブルク』今村 武(著)朝日出版社

参考書

たくさんのドイツ語参考書・問題集・独検対策参考書が出版されています。まずは自分で書店に出向いて手にとってみてください。選択に迷った場合はいつでも相談に応じます。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に前回の簡単な復習を行い、新しい事項に進みます。また、提出された小テストまたレポート等は原則として次回の授業時に返却しますので、各自において見直しを行なってください。質問等があれば、授業時はもちろん授業終了後に質問してください。

成績評価の方法

以下の要領で成績評価を行います。全授業の7割以上に出席していることが、成績評価を開始する前提条件となります。
小テスト及び授業時の練習問題解答回数等:70%
定期期末試験結果:30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
金子 祥之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》
ドイツ語を読み・書き・話すためのツールである基礎文法及び発音を学んでいきます。まずは基本的な発音のルールから始めていきます。最終的には辞書を使って簡単なドイツ語の文を読み・書くことができるようになることが目標です。ドイツ語圏の文化や社会に関する解説も適宜加えていきます。
《授業の概要》
教科書に基づいてまず文法を学び、練習問題を用いて作文を行います。

授業内容

第1回:a: イントロダクション b: 発音のルール
第2回:動詞の人称変化
第3回:名詞と冠詞(1)
第4回:名詞と冠詞(2)
第5回:名詞の複数形
第6回:複数形の格変化
第7回:不規則変化動詞
第8回:人称代名詞
第9回:前置詞1
第10回:前置詞2
第11回:冠詞類1
第12回:冠詞類2
第13回:否定表現
第14回:まとめ・定期テスト

履修上の注意

辞書を一冊用意してください(電子辞書も可)。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容

入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。

教科書

『大学生のドイツ語教本「青春はうるわし」 改訂版』(荻野蔵平、Tobias Bauer 著、朝日出版社)を使用する予定です。

参考書

適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業評価(30 パーセント)及び定期テスト(70 パーセント)

その他

連絡先:初回授業時に示します。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
正月 瑛	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業概要
初級ドイツ語の授業です。アルファベットの読み方や発音の規則からはじめ、文法の基本事項を一年かけて学びます。また、ドイツ語の学習をつうじてドイツの文化や政治、生活といったトピックについて理解を深めます。
到達目標
ドイツ語の初級文法を身につけることを目標とします。ドイツ語で書かれた文章の意味を理解すること、簡単な文章が聞き取れること、日常的な会話表現を使えるようになることが理想です。

授業内容

第1回 イントロダクション、ドイツ語のアルファベット、文字と発音
第2回 Lektion 1: 動詞の現在人称変化、sein と haben、動詞の位置
第3回 Lektion 1: 動詞の現在人称変化、sein と haben、動詞の位置
第4回 Lektion 2: 名詞の性、名詞の格変化(1格と4格)
第5回 Lektion 2: 名詞の性、名詞の格変化(1格と4格)
第6回 Lektion 3：不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形、名詞の3格
第7回 Lektion 3：不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形、名詞の3格
第8回 Lektion 4：前置詞と名詞の格
第9回 Lektion 4：前置詞と名詞の格
第10回 Lektion 5：人称代名詞の3･4格、再帰代名詞と再帰動詞、名詞の2格
第11回 Lektion 6：定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞 kein
第12回 Lektion 6：定冠詞類、不定冠詞類、否定冠詞 kein
第13回 春学期のふりかえり
第14回 期末試験

履修上の注意

授業は原則対面で行います。独和の辞書をかならず持参してください。
辞書については最初のガイダンスでいくつか紹介します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前に教科書を確認し、新しい単語などをチェックしておきましょう。また、授業内で課題を出しますので、それを用いて学習した文法事項や単語、表現などをしっかり復習しましょう。

教科書

書籍名 ドイツ語の時間 ＜恋するベルリン＞ Web 改訂版 エピローグ付
著者名 清野智昭 出版社 朝日出版社
出版年 2017 価格 2,860 円 ISBN 978-4-255-25393-0

参考書

授業内ないし Oh-o Meiji で適宜配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施します。

成績評価の方法

授業への参加度:35% 試験:65%
授業を3分の1以上欠席すると評価の対象にはなりません。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
宗宮 朋子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

このクラスではドイツ語の基礎文法をゼロから学習します。
動詞の人称変化や名詞の格変化など、ドイツ語の文章を作文、読解するための基礎文法項目を正確に身につけることを目指します。
身につけた文法項目をテキスト読解を通して確認できるようになることも目指します。

授業内容

［第1回］ a:イントロダクション／b:主語となる人称代名詞／述語となる動詞
［第2回］ 現在形の用法／疑問文
［第3回］ nicht の配置／平叙文の１番目の位置
［第4回］ ３人称の人称代名詞と現在人称変化／不規則な現在人称変化
［第5回］ 主語と目的語／４格の人称代名詞
［第6回］ 定冠詞と名詞の格／名詞の性／人称代名詞の性
［第7回］ 不定冠詞／否定冠詞
［第8回］ 名詞の複数形／数量の表現
［第9回］ 所有冠詞／人称代名詞の４格／不定代名詞 man
［第 10 回］ 動詞 gehören／持ち主の表現:２格と von
［第 11 回］ 定冠詞類／wer と was の格変化
［第 12 回］ 定冠詞類／不定代名詞
［第 13 回］ 春学期のまとめ
［第 14 回］ a:試験／b:正答解説
※ 授業内容は履修者の理解度に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に参加、貢献する意志のある人は教室前方に着席すること。
授業では問題演習や発音練習に自力で取り組むこと。
授業の最後に時間を取るので、分からないことは必ず質問すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

新規学習項目は各自で必ず復習、暗記すること。

教科書

『ドイツ語 学びの小径 1』藤縄康弘〔ほか〕著（朝日出版社）
※ 教科書は第１回授業より毎回使用します。

参考書

独和辞典

課題に対するフィードバックの方法

希望者には問題演習等の添削、補足説明を直接行います。

成績評価の方法

期末試験の結果 85%、平常点 15%をもとに判定する。
平常点は毎回の授業で「授業への貢献度」および「授業への参加度」が認められた者にのみその度合いに応じて加点する。
※ 教室に来て座っているだけの「出席」に対する加点は一切無い。
※ 成績評価の公平を期すため、期末試験を課題等で代替することは一切しない。

その他

授業開始時刻厳守です。
授業開始後の教室への無断入退出は原則禁止。
授業に取り組む姿勢が見られない場合(目に余る居眠り、教科書不携帯等)は教室から退出してもらいます。
学部事務室を通した正規の証明書類の提出がない学生への特別な配慮は一切しません。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
三根 靖久	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語の初修者を対象にした、人文系のドイツ語文献を読めるようになることを目的に行われます。授業では、練習問題や作文を通じてドイツ語の文法をしっかりと身につけ、簡単なテクストの読解もできるようになることを目指します。

到達目標:辞書等の助けがあれば、A1.1 レベルのドイツ語を理解できるようになる。

授業内容

導入
Lektion 1:動詞の現在人称変化
Lektion 1:定動詞二位の法則
Lektion 2:名詞の性と冠詞、複数形
Lektion 3:名詞の格変化・代名詞の格変化
Lektion 3:否定冠詞 kein と否定詞 nicht
Lektion 4:不規則変化動詞
Lektion 4:前置詞
Lektion 5:定冠詞類・不定冠詞類
Lektion 5:不定代名詞、非人称 es
Lektion 6:分離動詞、従属接続詞
Lektion 6:再帰動詞
理解を深めるための総合と発展
総括

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

学習した文法事項を整理する、練習問題・課題に取り組む、教科書のテクストを音読するなど、復習を中心に取り組んでください。

教科書

専門コースへのドイツ語文法、井出万秀著、朝日出版社

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o！Meiji を通じて文書にて
あるいは授業中、授業後に対面にて

成績評価の方法

参加度:25%、期末試験:75%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語の初級文法・読解・聴解・作文を参加者が確実に身につけることを目標とする。

授業内容

第一回授業でイントロダクションをおこない、辞書、学習方法等について講義する。ドイツ語ＩA 授業は、ドイツ語ⅡA と一体で進めていく。したがって、試験もＩA、ⅡA と個別にはおこなわず、いずれかの最終授業時に統一の試験をおこない、成績はＩA、ⅡA に共通評価をおこなう。

したがって、第二回授業は、一回目がＩA であれば、ⅡA 授業ということになる。そのようにして、教科書の約半分の章を春学期に終了させる。具体的に項目をあげるなら、

アルファベートと発音／動詞の現在人称変化(1)／動詞の現在人称変化(2)・格と人称代名詞／冠詞・名詞の単数形／動詞の現在人称変化(3)・話法の助動詞／不定冠詞類の格変化・前置詞と格支配／名詞の複数形／定冠詞の格変化・動詞の現在人称変化(4)・未来時称／形容詞の格変化／動詞の３基本形と過去人称変化・数詞／完了時称／(進度次第で先に進むこともある)

これら一つ一つの章を、おおよそ二回の授業で終えるつもりである。

履修上の注意

辞書は必ず持参すること。またこの辞書は紙媒体の辞書にして欲しいと強く願っている。電子辞書や携帯の翻訳機能などを使うと、学生自身の脳に記憶されない傾向が強いためである。

授業には予習の上で参加すること。特に練習問題は事前にチャレンジしておかなければ、授業に来る意味がない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は、次におこなわれる授業に対応する教科書の個所につき、音読、文法事項の理解、例文研究、練習問題の解答という点でおこなっておいて欲しい、

復習は、特に例文暗唱や新出語彙の記憶などにあてるとよい。

教科書

新訂　岩崎・平尾・初歩ドイツ文法(新正書法対応版)、同学社刊

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントする。

成績評価の方法

平常点 40 点、筆記試験成績 60 点の計 100 点満点で評価する。平常点とは、授業中に指名質問されたり、当てられた練習問題等をきちんとおこなったか否かによる評価であり、決して出席点ではない。

その他

特にない。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
小野間 亮子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の概要
初級文法の定着を図りつつ、辞書を使って平易なテクストが読める程度の力を養成する。
また、発音練習や作文を通じて基本的な語彙や表現を学ぶ。
履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・会話文の和訳を行い、その都度教員が確認する。
宿題を課した場合は次週の授業で解答を行う。
到達目標
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を使って平易なドイツ語のテクストを読むことができるようになる。

授業内容

第1回 Lektion 0 挨拶をする
第2回 Lektion 1 人称代名詞・動詞の現在人称変化・語順・否定表現
第3回 Lektion 1 紹介する
第4回 Lektion 2 名詞の性と格変化(1・4格)
第5回 Lektion 2 持ち物を尋ねる
第6回 Lektion 3 その他の格(3・2格)・人称代名詞・3・4格の語順
第7回 Lektion 3 体調について述べる
第8回 Lektion 4 不規則動詞の現在人称変化・命令形
第9回 Lektion 4 好きなものについて話す
第 10 回 Lektion 5 不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回 Lektion 5 家族について話す
第 12 回 Lektion 6 前置詞・分離動詞・非分離動詞
第 13 回 Lektion 6 道を尋ねる
第 14 回 a 試験・b まとめ

履修上の注意

辞書を持参すること(授業時に辞書の紹介を行う)。
毎回の出席を心がけること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各課に掲載されている例文および会話については授業前にわからない単語を調べ、教科書の付属音声で発音を確認すること。
授業後は学習内容を復習し、知識の定着につとめること。

教科書

『シュリット・フュア・シュリット 三訂版』今井田亜弓・前田織絵著 (三修社)2021 年

参考書

『必携ドイツ文法総まとめ』中島 悠爾 ・平尾 浩三 ・朝倉巧 著(白水社)2003 年

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の解説を行う。

成績評価の方法

平常点(予習状況・練習問題や発音練習への取り組みなど)40%、期末試験 60%を総合的に判断する。
なお評価の対象となるためには原則として授業実施回数の3分の2以上の出席を必要とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
久保 哲司	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

初級ドイツ語の学習歴がある学生向けの授業です。
ふつう初級文法で学ぶ範囲のおもに前半部を扱い、知識を定着させ、実際に運用する練習を行います。
また、ドイツ語圏の社会や文化に関する関心を深めることをめざします。
授業のときは独和辞典を必ず持参してください。
到達目標:
1)平易な文章を読解することができる
2)簡単な発話が聞き取れる
3)日常的なテーマについて話すことができる
4)自分に身近なテーマについて書くことができる

授業内容

第 1 回:イントロダクション
第 2 回:発音(その1)
第 3 回:発音(その2)
第 4 回:人称代名詞、規則動詞の現在人称変化
第 5 回:定動詞の位置、sein の現在人称変化
第 6 回:名詞の性、定冠詞と不定冠詞、冠詞と名詞の格変化
第 7 回:格の用法、haben と werden の現在人称変化
第 8 回:名詞の複数形、男性弱変化名詞
第 9 回:不規則動詞の現在人称変化、命令文
第 10 回:人称代名詞の格変化、疑問視 wer と was
第 11 回:前置詞
第 12 回:定冠詞類と不定冠詞類
第 13 回:分離動詞と非分離動詞、接続詞
第 14 回:a. まとめの試験 b. 正答解説

履修上の注意

「授業の概要・到達目標」欄に書いたように、初級ドイツ語の学習歴がある学生向けの授業です。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】教員の指示に従い、教科書の説明を読んだり、練習問題をやってくること。
【復習】初級の語学では一歩一歩確実に進むことが、結局は一番の早道です。よくわからなかった点はあいまいなままにせず、教科書などを読み返したり、次回の授業時に教員に質問したりしてください。

教科書

久保哲司／Andrea Raab 著『心に刻まれるドイツ語』(朝日出版社)

参考書

次に挙げるものは文法をかなり詳しいところまでコンパクトにまとめた本で、持っていると非常に便利:
中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ ―改訂版―』(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点して授業中に返却します。
最終授業日にまとめの試験を行い、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

平常点(授業への参加度や小テスト)40 パーセント、まとめの試験 60 パーセント。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
野口 健	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期は、アルファベットと単語の発音から始めて、動詞の人称変化、名詞の格変化、冠詞、前置詞、形容詞などを中心に学びます。
文法の授業で学んでいる内容を、実際に文を通して学ぶことでよりしっかりと定着することを目指します。
すでに習得している英語の知識を活用しながら展開していきますので、より着実な理解を得られます。
到達目標は2年次以降に学ぶ「ドイツ語 III」の授業に対応できるだけのドイツ語能力を養うことです。

授業内容

各課ともに文法規則を確認しながら簡潔な文を読んでいきます。進行は以下に示したものは目安です。
1回 第1課 アルファベット/動詞の現在人称変化/主文の語順
2回 第2課 定冠詞と名詞の格変化/不定冠詞と名詞の格変化
3回 第3課 sein, haben の現在人称変化/副文の語順
4回 第4課 dieser 型の定冠詞類/疑問代名詞
5回 第5課 mein 型の定冠詞類
6回 第6課 名詞の複数形/男性弱変化名詞
7回 第7課 a→a(ウムラウト)型動詞と e→ie 動詞/命令法
8回 第8課 形容詞の格変化/形容詞の名詞化
9回 第8課 形容詞の格変化/形容詞の名詞化
10 回 第9課 前置詞/前置詞と定冠詞の融合系
11 回 第10課 非人称動詞/es gibt～/ zu 不定詞/um, ohne, statt と zu 不定詞句
12 回 第10課 現在分詞
13 回 第11課 人称代名詞の各変化/3格4格の語順
14 回 a:試験 b:正答解説

履修上の注意

文法と読本の授業は常にお互いに補完しあう関係にあります。ドイツ文の文構造の理解と生きた例文とを常に対比させながら、語彙を増やし、応用力を養うことが大切です。外国語の勉強は、なんと言っても反復練習が上達の近道です。必ずあらかじめテキストに目を通し、練習問題に取り組み、理解できなかった箇所をはっきりさせて授業に臨む姿勢が肝要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として一読し、わからない単語の意味を調べておくこと。

教科書

『新みんなのドイツ語文法読本』』大岩信太郎著(三修社)

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了後に質問を受け付けます。

成績評価の方法

正当な理由なく4回欠席した者には試験の受験資格を与えないことがあります。授業への積極的な参加態度及び小テスト30%, ノート検査 20%, 定期試験 50%で総合的に評価します。

その他

欠席の場合は必ず欠席理由を書面で届けてください。

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩA	ドイツ語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
松澤 智子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

英語よりも変化が複雑なドイツ語を学ぶため、初級文法の基礎をしっかりと学習します。あいさつや数詞などの日常生活に関連する単語を取り入れながらドイツ語の発音に慣れ、綴りを見て単語を発音できるようになりましょう。文法は、構造を説明した後に練習問題に取り組みます。繰り返し練習問題を解くことで、初級文法を着実に理解することを目標にします。

授業内容

第1回 オリエンテーション
イントロダクション:ドイツ語が話されているおもな国々、アルファベット
第2回 Lektion 1 ドイツ語の発音 ①:発音の3大原則、母音
第3回 Lektion 1 ドイツ語の発音 ②:子音
第4回 Lektion 2 人称代名詞と動詞の現在人称変化:一般動詞の人称変化、重要動詞 sein ・haben の人称変化
第5回 Lektion 2 ドイツ語の語順:平叙文、決定疑問文、補足疑問文
第6回 Lektion 3 名詞の性と格:名詞の性、名詞の格、格変化(定冠詞、不定冠詞)、複数形
第7回 Lektion 4 定冠詞類と不定冠詞類 ①:定冠詞類、不定冠詞類(所有冠詞)
第8回 Lektion 4 定冠詞類と不定冠詞類 ②:不定冠詞 kein、否定文と nicht の位置
第9回 Lektion 5 人称代名詞 ①:人称代名詞の格変化、3 人称の人称代名詞、3 格と 4 格の語順
第 10 回 Lektion 5 人称代名詞 ②:非人称の es
第 11 回 Lektion 6 不規則動詞:おもな不規則動詞、重要な不規則動詞
第 12 回 Lektion 7 前置詞 ①:前置詞の格支配、おもな 3 格支配の前置詞、おもな 4 格支配の前置詞、3・4 格支配の前置詞
第 13 回 Lektion 7 前置詞 ②:前置詞と定冠詞の融合形、前置詞エトセトラ
第 14 回 春学期試験、試験の振返り
※授業の進行状況により、授業内容を変更する場合があります。

履修上の注意

・授業時間だけで初級文法を理解することは非常に難しいです。練習問題で間違えた箇所をもう一度見直すなど、欠かさずに復習することを習慣づけてください。
・新たに学ぶ外国語の文法を身に着ける場合、一回の欠席が後の学習に大きな支障をきたす可能性が高いです。可能な限り休まずに出席してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・各回の授業内容を確認し、教科書の該当ページに載っているわからない単語を事前に調べておいてください。
・授業時に提示した資料等はクラスウェブにて公開しますので、復習に活用してください。
・予習よりも復習を重視して下ください。

教科書

荻原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法(三訂版)』白水社

参考書

・授業では独和辞書を持参してください。辞書については第１回目の授業で説明しますので、持っていない方は説明の後で購入してください。
・他の参考書については、授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

採点後に返却と解説をします。

成績評価の方法

・平常点 10%(積極的に手を挙げて練習問題を解答するなど)
・課題(学期間中に1回出題)の点数 25%
・期末試験の点数 65%

その他

・第1回目の授業で重要事項をお伝えしますので、履修者は必ず出席してください。
・授業で提示したスライドや配布物に加え、連絡事項等も授業後にクラスウェブに公開します。欠席した場合は必ず クラスウェブを確認してください。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩB	ドイツ語ＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
今村 武	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(1)大学初年次生にとってぜひ身につけておきたい英語以外の外国語の基礎的運用能力を身につけるための授業です。この授業ではドイツ語初級文法の修得を目指します。
(2)授業の到達目標は、以下のように設定します。
・ドイツ語の初級文法を十分に理解した上で、基礎的運用能力を身につけます。
・ドイツ語圏の根底をなすドイツ語の学修を通じて、異文化理解への土台を築きます。
・ドイツ語検定4級合格程度の実力養成を、具体的な到達目標とします。

授業内容

第1回:a:春学期の学習項目についての復習、補足説明を行います。b:Lektion 7 不定詞、分離動詞について解説と問題演習を行います。各回の授業では a において解説をおこない、b において練習問題を通じてその知識の定着を図ります。また小テストも行います。以下各回の授業について、学習する項目を記載します。
第2回:Lektion 7 非分離動詞
第3回:Lektion 8 形容詞の格変化
第4回:Lektion 8 比較級、最上級の用法
第5回:Lektion 9 話法の助動詞
第6回:Lektion 9 動詞の三基本形、過去人称変化
第7回:Lektion 10 現在完了形
第8回:Lektion 10 受動態の基本的用法
第9回:Lektion 10 受動態の過去形、現在完了形、状態受動
第 10 回:Lektion 11 関係代名詞
第 11 回:Lektion 11 命令の表現
第 12 回:Lektion 12 接続法第1式
第 13 回:Lektion 12 接続法第2式
第 14 回:a:学習内容についてテスト形式で理解度を確認します。b:秋学期の学習項目、特に重要文法事項の補足説明および解説を行います。

履修上の注意

(1)学期を通して「授業の内容」に記載した要領で授業を進めていきます。進行具合はクラスの状況等により多少の変更もあり得ます。その場合は授業で周知します。
(2)疑問点がある場合は、授業時にその場でどしどし質問してください。
(3)授業開始の 30 分前を大学到着時刻の目安としてください。やむを得ない事情で遅刻した場合は、後ろのドアから静かに行ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業の開始当初は、予習範囲を指定します。回数が進むにつれて予習すべき範囲がおおむね予測できるようになりますので、各自で必ず文法項目を予習し、練習問題を一通り解答しておいてください。

教科書

「レーアブッフ=レーゲンスブルク」今村 武(著)朝日出版社 2015 年

参考書

たくさんのドイツ語参考書・問題集・独検対策参考書が出版されています。まずは自分で書店に出向いて手にとってみてください。選択に迷った場合はいつでも相談に応じます。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に前回の簡単な復習を行い、新しい事項に進みます。また、提出された小テストまたレポート等は原則として次回の授業時に返却しますので、各自において見直しを行なってください。質問等があれば、授業時はもちろん授業終了後に質問してください。

成績評価の方法

以下の要領で成績評価を行います。全授業の7割以上に出席していることが、成績評価を開始する前提条件となります。
小テスト等及び授業時の問題解答回数等:70%
定期期末試験結果:30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩB	ドイツ語ＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
金子 祥之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

基本から中級へ, より複雑なドイツ語表現を学習します。過去時制や助動詞といった事柄を学習し, 読解・作文演習を行います。
基本文法を用いて読解や作文ができるようになると同時に、各章末尾に掲載されている Lesetext(読解テキスト)の読解をとおして読解力を向上させることを目標とします。言語のみならず、ドイツ語文化圏の事象に関心を以て接する機会となることを期待いたします。

授業内容

[第1回] a:イントロダクション
b:基本事項の復習
[第2回] 分離動詞・非分離動詞
[第3回] 副文
[第4回] 話法の助動詞
[第5回] 未来形
[第6回] 動詞の3基本形
[第7回] 過去形
[第8回] 現在完了
[第9回] 非人称主語
[第 10 回] 形容詞の付加語的用法
[第 11 回] 比較・最上級
[第 12 回] 受動態
[第 13 回] 再帰表現
[第 14 回] a:まとめ b:テスト

履修上の注意

教科書・辞書を必ず携帯し, 授業に臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

あらかじめテキストに目を通しておいたうえで授業に臨むよう心掛けてください。また, 予習・授業等で生じた疑問点については放置しないよう心掛けてください。

教科書

『大学生のドイツ語教本「青春はうるわし」改訂版(荻野蔵平、Tobias Bauer 著、朝日出版社)』を使用する予定です。

参考書

解説用資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

採点し返却した後、解説を行います。

成績評価の方法

テスト 70 パーセント, 平常点 30 パーセントから算出し, 60 パーセント以上を合格とします。

その他

ドイツ語検定(4級以上)にもチャレンジしてください。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩＢ	**ドイツ語ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
正月 瑛	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業概要
初級ドイツ語の授業です。アルファベットの読み方や発音の規則からはじめ、文法の基本事項を一年かけて学びます。また、ドイツ語の学習をつうじてドイツの文化や政治、生活といったトピックについて理解を深めます。
到達目標
ドイツ語の初級文法を身につけることを目標とします。ドイツ語で書かれた文章の意味を理解すること、簡単な文章が聞き取れること、日常的な会話表現を使えるようになることが理想です。

授業内容

第1回 Lektion 7: zu 不定詞句、分離動詞
第2回 Lektion 7: zu 不定詞句、分離動詞
第3回 Lektion 8: 話法の助動詞
第4回 Lektion 8: 話法の助動詞
第5回 Lektion 9: 過去形、現在完了形、受動態
第6回 Lektion 9: 過去形、現在完了形、受動態
第7回 Lektion 10: 形容詞の格変化、比較級と最上級
第8回 Lektion 10: 形容詞の格変化、比較級と最上級
第9回 Lektion 11：関係代名詞、命令形
第10回 Lektion 11：関係代名詞、命令形
第11回 Lektion 12：接続法
第12回 Lektion 12：接続法
第13回 秋学期のふりかえり
第14回 期末試験

履修上の注意

授業は原則対面で行います。独和の辞書をかならず持参してください。
辞書については最初のガイダンスでいくつか紹介します。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業前に教科書を確認し、新しい単語などをチェックしておきましょう。また、授業内で課題を出しますので、それを用いて学習した文法事項や単語、表現などをしっかり復習しましょう。

教科書

書籍名 ドイツ語の時間 ＜恋するベルリン＞ Web 改訂版 エピローグ付
著者名 清野智昭 出版社 朝日出版社
出版年 2017 価格 2,860 円 ISBN 978-4-255-25393-0

参考書

授業内ないし Oh-o Meiji で適宜配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施します。

成績評価の方法

授業への参加度:35% 試験:65%
授業を3分の1以上欠席すると評価の対象にはなりません。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩＢ	**ドイツ語ＩＢ**	
担 当 者	開講期	開講地区
宗宮 朋子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

このクラスでは前期に引き続きドイツ語の基礎文法を学習します。
助動詞や様々な時制を使った、より細かなニュアンスの文章を作文したり読解したりすることが目標です。
また、様々な語彙、文法を使った文章を正確に分析できるようになることも目標です。

授業内容

［第1回］ 前置詞
［第2回］ 男性弱変化名詞
［第3回］ 前置詞＋定冠詞の融合形／da(r)＋前置詞
［第4回］ 命令形と命令文
［第5回］ 非人称文
［第6回］ 話法の助動詞
［第7回］ 未来形
［第8回］ 目的語の格
［第9回］ 分離動詞と非分離動詞
［第 10 回］ 再帰代名詞
［第 11 回］ 身体部位へのはたらきかけの表現
［第 12 回］ 応用演習
［第 13 回］ 秋学期の復習
［第 14 回］ a:試験／b:正答解説
※ 授業内容は履修者の理解度に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業に参加、貢献する意志のある者は教室前方に着席すること。
授業では問題演習や発音練習に積極的に取り組むこと。
授業の終わりに時間を取るので、分からないことは必ず質問すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

新規学習項目は各自で必ず復習、暗記すること。
単語は各自で整理, 暗記すること。

教科書

『ドイツ語 学びの小径 1』藤縄康弘〔ほか〕著（朝日出版社）
※教科書は第 1 回授業から毎回使用します

参考書

独和辞典

課題に対するフィードバックの方法

希望者には問題演習等の添削、補足説明を直接します。

成績評価の方法

期末試験の結果 85%、平常点 15%として算出する。
平常点は毎回の授業で「授業への貢献度」および「授業への参加度」が認められた者にのみ、その度合いに応じて加点する。
※ 教室に来て座っているだけの「出席」に対する加点は一切ありません。
※ 公正な成績評価のため、試験を課題等で代替することはしません。

その他

授業開始時刻厳守です。
授業開始後の教室への無断入退出は原則禁止。
授業に取り組む姿勢が見られない態度は(目に余る居眠り、教科書不携帯等)授業妨害ですので教室から退出してもらいます。
学部事務室を通した正規の書類の提出が無い者への配慮等は一切しません。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩＢ	ドイツ語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
三根 靖久	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語の初修者を対象にした、人文系のドイツ語文献を読めるようになることを目的に行われます。授業では、練習問題や作文を通じてドイツ語の文法をしっかりと身につけ、簡単なテクストの読解もできるようになることを目指します。

到達目標:辞書等の助けがあれば、A1.2 レベルのドイツ語を読んで理解できるようになる。

授業内容

Lektion 7:話法の助動詞
Lektion 7:zu 不定詞
Lektion 8:動詞の三基本形と過去形
Lektion 8:現在完了形
Lektion 9:受動文
Lektion 9:命令表現
Lektion 10:形容詞の格変化
Lektion 10:形容詞の比較変化
Lektion 11:関係代名詞
Lektion 11:不定関係代名詞
Lektion 12:接続法Ⅰ式
Lektion 13:接続法Ⅱ式
理解を深めるための総合と発展
総括

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

学習した文法事項を整理する、練習問題・課題に取り組む、教科書のテクストを音読するなど、復習を中心に取り組んでください。

教科書

専門コースへのドイツ語文法、井出万秀著、朝日出版社

参考書

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o!Meiji を通して書面にて
あるいは授業中・授業後に対面にて

成績評価の方法

参加度:25%、期末試験:75%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩＢ	ドイツ語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語の初級文法・読解・聴解・作文を参加者が確実に身につけることを目標とする。

授業内容

第一回授業でイントロダクションをおこない、辞書、学習方法等について講義する。ドイツ語ＩＢ授業は、ドイツ語ⅡＢと一体で進めていく。したがって、試験もＩＢ、ⅡＢと個別にはおこなわず、いずれかの最終授業時に統一の試験をおこない、成績はＩＢ、ⅡＢに共通評価をおこなう。

したがって、第二回授業は、一回目がＩＢであれば、ⅡＢ授業ということになる。そのようにして、教科書の後半部分の章を秋学期に終了させる。具体的に項目をあげるなら、

接続詞／所有代名詞・不定代名詞・疑問代名詞・形容詞の名詞的用法／分離動詞・不定詞の用法・分詞とその用法／形容詞と副詞の比較／指示代名詞・再帰代名詞・再帰動詞／関係代名詞／非人称動詞・受動態／話法について・命令法・接続法の形態／接続法の時称・接続法の用法(1)／接続法の用法(2)

これら一つ一つの章を、おおよそ二回の授業で終えるつもりである。

なお、予定より早目に教科書を終えたら、プリント等による追加テクストで学習することにする。

履修上の注意

辞書は必ず持参すること。またこの辞書は紙媒体の辞書にして欲しいと強く願っている。電子辞書や携帯の翻訳機能などを使うと、学生自身の脳に記憶されない傾向が強いためである。

授業には予習の上で参加すること。特に練習問題は事前にチャレンジしておかなければ、授業に来る意味がない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は、次におこなわれる授業に対応する教科書の個所につき、音読、文法事項の理解、例文研究、練習問題の解答という点でおこなっておいて欲しい、

復習は、特に例文暗唱や新出語彙の記憶などにあてるとよい。

教科書

新訂 岩崎・平尾・初歩ドイツ文法(新正書法対応版)、同学社刊

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントする。

成績評価の方法

平常点 40 点、筆記試験成績 60 点の計 100 点満点で評価する。平常点とは、授業中に指名質問されたり、当てられた練習問題等をきちんとおこなったか否かによる評価であり、決して出席点ではない。

その他

特にない。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩB	ドイツ語ＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
小野間 亮子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の概要
初級文法の定着を図りつつ、辞書を使って平易なテクストが読める程度の力を養成する。
また、発音練習や作文を通じて基本的な語彙や表現を学ぶ。
履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・会話文の和訳を行い、その都度教員が確認する。
宿題を課した場合は次週の授業で解答を行う。
到達目標
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を使って平易なドイツ語のテクストを読むことができるようになる。

授業内容

第1回 Lektion 7 話法の助動詞・不定代名詞 man・副文
第2回 Lektion 7 得意なことについて話す
第3回 Lektion 8 動詞の三基本形・過去の表現・現在完了形
第4回 Lektion 8 過去の事柄について話す
第5回 Lektion 9 zu 不定詞句の用法・再帰代名詞・再帰動詞
第6回 Lektion 9 人を誘う
第7回 Lektion 10 形容詞の格変化・形容詞・副詞の比較表現
第8回 Lektion 10 服装、色について好みを言う
第9回 Lektion 11 関係代名詞・指示代名詞
第 10 回 Lektion 11 事柄について詳しく述べる
第 11 回 Lektion 12 受動態・接続法 II 式
第 12 回 Lektion 12 丁寧にお願いする
第 13 回 接続法 I 式
第 14 回 a 試験・b まとめ

履修上の注意

辞書を持参すること。
毎回の出席を心がけること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各課に掲載されている例文および会話については授業前にわからない単語を調べ、教科書の付属音声で発音を確認すること。
授業後は学習内容を復習し、知識の定着につとめること。

教科書

『シュリット・フュア・シュリット 三訂版』今井田亜弓・前田織絵著 (三修社)2021 年

参考書

『必携ドイツ文法総まとめ』中島 悠爾 ・平尾 浩三 ・朝倉巧 著(白水社)2003 年

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の解説を行う。

成績評価の方法

平常点(予習状況・練習問題や発音練習への取り組みなど)40%、期末試験 60%を総合的に判断する。
なお評価の対象となるためには原則として授業実施回数の3分の2以上の出席を必要とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩB	ドイツ語ＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
久保 哲司	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

初級ドイツ語の学習歴がある学生向けの授業です。
春学期のドイツ語ＩA／ドイツ語ＩＩA から継続して、ふつう初級文法で学ぶ範囲のおもに後半部を扱い、知識を定着させ、実際に運用する練習を行います。
また、ドイツ語圏の社会や文化に関する関心を深めることをめざします。
授業のときは独和辞典を必ず持参してください。
到達目標:
1)平易な文章を読解することができる
2)簡単な発話が聞き取れる
3)日常的なテーマについて話すことができる
4)自分に身近なテーマについて書くことができる

授業内容

第 1 回:イントロダクション
第 2 回:話法の助動詞、未来形
第 3 回:形容詞の格変化
第 4 回:形容詞と副詞の比較変化
第 5 回:再帰代名詞と再帰動詞
第 6 回:zu 不定詞、非人称の es
第 7 回:動詞の 3 基本形
第 8 回:過去形
第 9 回:現在完了形と過去完了形
第 10 回:現在分詞と過去分詞
第 11 回:関係代名詞、関係副詞
第 12 回:指示代名詞、接続法(その 1)
第 13 回:接続法(その 2)
第 14 回:a. まとめの試験 b. 正答解説

履修上の注意

「授業の概要・到達目標」欄に書いたように、初級ドイツ語の学習歴がある学生向けの授業です。
下の「教科書」欄にあるように、教科書は春学期のドイツ語ＩA／ドイツ語ＩＩA から継続して使いますが、春学期の授業を履修しなくとも、秋学期にこの授業を履修することは可能です。

準備学習(予習・復習等)の内容

【予習】教員の指示に従い、教科書の説明を読んだり、練習問題をやってくること。
【復習】初級の語学では一歩一歩確実に進むことが、結局は一番の早道です。よくわからなかった点はあいまいなままにせず、教科書などを読み返したり、次回の授業時に教員に質問したりしてください。

教科書

春学期のドイツ語ＩA／ドイツ語ＩＩA から継続して
久保哲司／Andrea Raab 著『心に刻まれるドイツ語』(朝日出版社)
を用います。
「履修上の注意」欄に書いたように、春学期のドイツ語ＩA／ドイツ語ＩＩA を履修しなくとも、秋学期にこの授業を履修することは可能ですが、上記の教科書はもちろん購入しなくてはなりません。

参考書

次に挙げるものは文法をかなり詳しいところまでコンパクトにまとめた本で、持っていると非常に便利:
中島悠爾他著『必携ドイツ文法総まとめ ―改訂版―』(白水社)

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点して授業中に返却します。
最終授業日にまとめの試験を行い、同日に解説の時間を設けます。

成績評価の方法

平常点(授業への参加度や小テスト)40 パーセント、まとめの試験 60 パーセント。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩＢ	ドイツ語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
野口 健	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

秋学期は、動詞を中心に学びます。
文法の授業で学んでいる内容を、実際に文を通して学ぶことでよりしっかりと定着することを目指します。
到達目標は2年次以降に学ぶ「ドイツ語 III」の授業に対応できるだけのドイツ語能力を養うことです。
すでに習得している英語の知識を活用しながら授業を展開していくので、より深く理解を得られます。

授業内容

各課ともに文法規則を学習した後に練習問題で理解度の確認を行いながら進んでいきます。進行予定は目安です。
1回 第12課 分離動詞/基数
2回 第13課 動詞の3基本形
3回 第14課 過去人称変化/未来人称変化
4回 第15課 完了の3時制/sein 支配動詞
5回 第16課 受動態
6回 第16課 受動態
7回 第17課 関係代名詞
8回 第18課 話法の助動詞/wissen
9回 第19課 比較級と最上級/序数
10 回 第20課 接続法Ⅰ式/要求話法
11 回 第21課 接続法Ⅱ式
12 回 第21課 非現実話法/als ob
13 回 第22課 間接話法
14 回 a:試験 b:正答解説

履修上の注意

文法と読本の授業は常にお互いに補完しあう関係にあります。ドイツ文の文構造の理解と生きた例文とを常に対比させながら、語彙を増やし、応用力を養うことが大切です。外国語の勉強は、なんと言っても反復練習が上達の近道です。必ずあらかじめテキストに目を通し、練習問題に取り組み、理解できなかった箇所をはっきりさせて授業に臨む姿勢が肝要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習として一読し、わからない単語の意味を調べておくこと。

教科書

『新みんなのドイツ語文法読本』大岩信太郎(三修社)

参考書

特に指定しません。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了後に質問を受け付けます。

成績評価の方法

正当な理由なく4回欠席した者には試験の受験資格を与えないことがあります。授業への積極的な参加態度及び小テスト30%, ノート検査 20%, 定期試験 50%で総合的に評価します。

その他

欠席の場合は必ず欠席理由を書面で届けてください。

科目ナンバー:		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ＩＢ	ドイツ語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
松澤 智子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期で学んだ文法を踏まえて、さらに次の段階に進みます。
話法の助動詞、動詞の3基本形、現在完了形、受動態など動詞の変化が重要な文法事項を理解し、基本的な文章を読めるようになることやドイツ語で表現できることを目標とします。

授業内容

第1回 オリエンテーション
Lektion 8 分離動詞:分離動詞、非分離動詞
第2回 Lektion 8 接続詞:従属接続詞、並列接続詞
第3回 Lektion 9 話法の助動詞:話法の助動、未来・推量の助動詞
第4回 Lektion 10 動詞の3基本形:動詞の3基本形
第5回 Lektion 10 過去形
第6回 Lektion 11 現在完了形:完了の助動詞
第7回 Lektion 11 受動文:受動の助動詞、受動の過去、状態受動
第8回 Lektion 12 形容詞 ①:3つの用法、形容詞の格変化
第9回 Lektion 12 形容詞 ②:形容詞と副詞の比較表現
第 10 回 Lektion 13 再帰代名詞:再帰代名詞、再帰動詞
第 11 回 Lektion 13 zu 不定詞:3つの用法
第 12 回 Lektion 14 関係代名詞
第 13 回 Lektion 14 接続法2式:接続法第2式の基本形、用法
第 14 回 秋学期試験、試験の振返り
※授業の進行状況により、授業内容を変更する場合があります。

履修上の注意

・授業時間だけで初級文法を理解することは非常に難しいです。練習問題で間違えた箇所をもう一度見直すなど、欠かさずに復習することを習慣づけてください。
・新たに学ぶ外国語の文法を身に着ける場合、一回の欠席が後の学習に大きな支障をきたす可能性が高いです。可能な限り休まずに出席してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・各回の授業内容を確認し、教科書の該当ページに載っているわからない単語を事前に調べておいてください。
・授業時に提示した資料等はクラスウェブにて公開しますので、復習に活用してください。
・予習よりも復習を重視して下ください。特にドイツ語特有の動詞の変化をしっかりと理解しましょう。

教科書

荻原耕平・山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法(三訂版)』白水社

参考書

・授業では独和辞書を持参してください。
・他の参考書については、授業内で適宜紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

採点後に返却と解説をします。

成績評価の方法

・平常点 10%(積極的に手を挙げて練習問題を解答する、疑問点を質問する など)
・課題(学期間中に1回出題)の点数 25%
・期末試験の点数 65%

その他

・第1回目の授業で重要事項をお伝えしますので、履修者は必ず出席してください。
・授業で提示したスライドや配布物に加え、連絡事項等も授業後にクラスウェブに公開します。欠席した場合は必ずクラスウェブを確認してください。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡA	ドイツ語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 竹彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この講座ではドイツ語の基礎文法を「読む」・「書く」を中心に学習します。ドイツ語特有の発音、挨拶表現、動詞の現在人称変化、名詞と冠詞の格変化、前置詞、助動詞、分離動詞をあつかいます。これはドイツ語技能検定4級の出題範囲に対応します。またドイツ語の日常会話レベルの文章を読解します。
春学期終了時にはドイツ語で自己紹介や道案内ができるようになっているはずです。

授業内容

第1回 文字と発音
第2回 動詞の現在人称変化
第3回 語順など 様々な疑問文
第4回 sein 名詞の性と格変化
第5回 定冠詞と不定冠詞の用法
第6回 格の用法 haben
第7回 不規則動詞
第8回 命令形 人称代名詞
第9回 名詞の複数形 定冠詞の仲間
第10回 不定冠詞の仲間 ein と kein
第11回 2格支配、3格支配、4格支配の前置詞
第12回 3, 4格支配の前置詞 前置詞の様々な用法
第13回 分離動詞
第14回 a モジュール:試験 b モジュール:正答解説

履修上の注意

授業は連続して休まないようにしましょう。宿題をやってこなかったり、寝ていたり、ただそこに座っているだけでは出席にはなりません。授業には積極的に参加してください。練習問題で間違えた個所は、そのままにせず、問題点をその場で解決していくことが重要です。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

教科書

『ドイツ語、私の好きなことば』南はるつ 著 (同学社) 2023 年

参考書

独和辞典は必ず必要です。どの辞書が良いのかについては授業中に説明します。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meiji を用いることもあります。

成績評価の方法

授業への貢献度 20%、試験80%
3分の2以上の出席が期末試験を受験する条件です。
出席の条件をクリアしたうえで、小テスト、試験の結果から総合的に評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡA	ドイツ語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
木村 千恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、初めてドイツ語を学ぶ学生を対象とし、初級文法を中心とした基礎的なドイツ語を学ぶことを目的とする。自己紹介や買い物などの簡単な日常表現の理解と運用を目指し、練習問題や会話、読解、作文を通して実践力を養う。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学び、言語の背景となる文脈への理解と関心を深める。

授業内容

到達目標:

履修上の注意

1.

準備学習(予習・復習等)の内容

ドイツ語の発音についての基礎的な知識を持ち、挨拶や簡単な自己紹介をすることができる。

教科書

2.

参考書

初歩的なドイツ語のフレーズや表現を聞き取り、理解することができる。

課題に対するフィードバックの方法

3.

成績評価の方法

語形変化や語順についての初歩的な知識を持ち、簡単なドイツ語の文章の意味を推測することができる。

その他

4.

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡA	ドイツ語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
小野間 亮子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の概要
初級文法の定着を図りつつ、辞書を使って平易なテクストが読める程度の力を養成する。
また、発音練習や作文を通じて基本的な語彙や表現を学ぶ。
履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・会話文の和訳を行い、その都度教員が確認する。
宿題を課した場合は次週の授業で解答を行う。
到達目標
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を使って平易なドイツ語のテクストを読むことができるようになる。

授業内容

第1回 Lektion 0 挨拶をする
第2回 Lektion 1 人称代名詞・動詞の現在人称変化・語順・否定表現
第3回 Lektion 1 紹介する
第4回 Lektion 2 名詞の性と格変化(1・4格)
第5回 Lektion 2 持ち物を尋ねる
第6回 Lektion 3 その他の格(3・2格)・人称代名詞・3・4格の語順
第7回 Lektion 3 体調について述べる
第8回 Lektion 4 不規則動詞の現在人称変化・命令形
第9回 Lektion 4 好きなものについて話す
第 10 回 Lektion 5 不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回 Lektion 5 家族について話す
第 12 回 Lektion 6 前置詞・分離動詞・非分離動詞
第 13 回 Lektion 6 道を尋ねる
第 14 回 a 試験・b まとめ

履修上の注意

辞書を持参すること(授業時に辞書の紹介を行う)。
毎回の出席を心がけること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各課に掲載されている例文および会話については授業前にわからない単語を調べ、教科書の付属音声で発音を確認すること。
授業後は学習内容を復習し、知識の定着につとめること。

教科書

『シュリット・フュア・シュリット 三訂版』今井田亜弓・前田織絵著 (三修社)2021 年

参考書

『必携ドイツ文法総まとめ』中島 悠爾 ・平尾 浩三 ・朝倉巧 著(白水社)2003 年

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の解説を行う。

成績評価の方法

平常点(予習状況・練習問題や発音練習への取り組みなど)40%、期末試験 60%を総合的に判断する。
なお評価の対象となるためには原則として授業実施回数の3分の2以上の出席を必要とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡA	ドイツ語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 浩太	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では,1年間でひととおりの初級文法を習得することを目的とします。
ドイツ語の運用に必要な基本的なルールを一緒に勉強していきましょう。
よろしくお願いします。

授業内容

第1回 イントロダクション、ドイツ語が話されている国
第2回、第3回 Lektion1
第4回、第5回 Lektion2
第6回、第7回 Lektion3
第8回、第9回 Lektion4
第 10 回、第 11 回 Lektion5
第 12 回、第 13 回 Lektion6
第 14 回 春学期のまとめ

履修上の注意

授業中の私語, 携帯電話、スマホの無断操作等, 授業の進行を妨げた者については聴講許可を取り消します。

準備学習(予習・復習等)の内容

独和辞典は各自で必ず用意して下さい。使用する辞典については特に指定しません。
指定した箇所の準備(予習)は、必ず行って下さい。

教科書

『プロムナード やさしいドイツ語文法 【三訂版】』
萩原耕平・山崎泰孝著 (白水社)2024 年

参考書

橋本郁雄/伊藤眞『読んでわかるドイツ語』(同学社)
『アポロン独和辞典』(同学社)
(上記の書物はあくまで「参考」ですので、各自の好みに応じて用意してください。詳細は授業の初回に説明します。)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、必要に応じて解説の機会を設ける。

成績評価の方法

定期試験(学期末に実施予定)70%, 平常点 30%
(平常点は授業中の受け答えにより評価します。)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡA	ドイツ語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語文法の基礎を学びます。

初級ドイツ語文法を習得し，平易な文章を自力で読めるようになることが，この授業の目的です。外国語を学ぶということは，他者の論理を理解するということにほかなりません。日本語のそれとも英語のそれとも異なるドイツ語の論理(文法)の理解を通じて，他者の論理の多様性に具体的に触れ，みずからの思考・視野の幅を広げてゆくことを目指します。また，毎時間最初の 15 分程度を，耳の訓練(短い会話文を使った練習やドイツ語の歌を聴く等)に充てます。

授業内容

1. ドイツ語の特徴。発音練習。
2. 発音練習。動詞の現在人称変化
3. 動詞の現在人称変化
4. sein, haben, werden の人称変化
5. 名詞の<性・数・格>
6. 定冠詞と名詞の格変化，名詞の複数形
7. 不定冠詞と名詞の格変化
8. 定冠詞類と不定冠詞類
9. 不規則動詞の現在人称変化
10. 人称・代名詞，非人称の es，man
11. 前置詞
12. 前置詞・命令形
13. 形容詞
14. 試験と解説

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の Dialog の部分を予習し、教科書の問題で復習をしてください。
ドイツ語圏やヨーロッパのニュースに関心を持ち、つねにチェックするよう心がけてください。

教科書

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[四訂版](上野 成利、本田 雅也 著)ISBN:9784560064450
独和辞典は、授業で説明を聞いてから購入してください。

参考書

授業中に提示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末テストと平常点(授業への参加)を総合的に評価します。(期末テスト 70%，平常点 30%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡA	ドイツ語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語の初級文法・読解・聴解・作文を参加者が確実に身につけることを目標とする。

授業内容

第一回授業でイントロダクションをおこない、辞書、学習方法等について講義する。ドイツ語ⅡA 授業は、ドイツ語ⅠA と一体で進めていく。したがって、試験もⅠA、ⅡA と個別にはおこなわず、いずれかの最終授業時に統一の試験をおこない、成績はⅠA、ⅡA に共通評価をおこなう。

したがって、第二回授業は、一回目がⅡA であれば、ⅠA 授業ということになる。そのようにして、教科書の約半分の章を春学期に終了させる。具体的に項目をあげるなら、

アルファベートと発音／動詞の現在人称変化(1)／動詞の現在人称変化(2)・格と人称代名詞／冠詞・名詞の単数形／動詞の現在人称変化(3)・話法の助動詞／不定冠詞類の格変化・前置詞と格支配／名詞の複数形／定冠詞の格変化・動詞の現在人称変化(4)・未来時称／形容詞の格変化／動詞の 3 基本形と過去人称変化・数詞／完了時称／(進度次第で先に進むこともある)

これら一つ一つの章を、おおよそ二回の授業で終えるつもりである。

履修上の注意

辞書は必ず持参すること。またこの辞書は紙媒体の辞書にして欲しいと強く願っている。電子辞書や携帯の翻訳機能などを使うと、学生自身の脳に記憶されない傾向が強いためである。

授業には予習の上で参加すること。特に練習問題は事前にチャレンジしておかなければ、授業に来る意味がない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は、次におこなわれる授業に対応する教科書の個所につき、音読、文法事項の理解、例文研究、練習問題の解答という点でおこなっておいて欲しい、

復習は、特に例文暗唱や新出語彙の記憶などにあてるとよい。

教科書

新訂 岩崎・平尾・初歩ドイツ文法(新正書法対応版)、同学社刊

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントする。

成績評価の方法

平常点 40 点、筆記試験成績 60 点の計 100 点満点で評価する。平常点とは、授業中に指名質問されたり、当てられた練習問題等をきちんとおこなったか否かによる評価であり、決して出席点ではない。

その他

特にない。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡB	**ドイツ語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 竹彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
ドイツ語ⅡA に引き続き、この講座ではドイツ語の基礎文法を「読む」・「書く」を中心に学習します。形容詞、zu 不定詞、過去形、完了形、再帰表現、受動態、関係代名詞など、ドイツ語技能検定3級の出題範囲を学習します。
秋学期終了時にはグリムなど平易なドイツ語で書かれた文章を読めるようになっているはずです。

授業内容
第1回 前期の内容を復習
第2回 分離動詞
第3回 分離動詞と話法の助動詞
第4回 従属接続詞
第5回 再帰代名詞と再帰表現
第6回 zu 不定詞の用法
第7回 動詞の3基本形
第8回 現在完了形
第9回 過去形
第 10 回 形容詞の格語尾
第 11 回 受動態
第 12 回 受動態と比較表現
第 13 回 定関係代名詞と接続法
第 14 回 a:試験 b:正答解説

履修上の注意
授業は連続して休まないようにしましょう。宿題をやってこなかったり、寝ていたり、ただそこに座っているだけでは出席にはなりません。授業には積極的に参加してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

教科書
『ドイツ語、私の好きなことば』南はるつ 著 (同学社)2023 年

参考書
独和辞典

課題に対するフィードバックの方法
課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meiji を用いることもあります。

成績評価の方法
授業への貢献度 20%、小テスト 10%、試験 70%
3分の2以上の出席が期末試験を受験する条件です。
出席の条件をクリアしたうえで、小テスト、試験、授業への貢献度から総合的に評価します。
春学期に引き続きこの講座では、1年次に学習した文法事項を復習しながら、さらに「読む力」、「書く力」のレベルアップをはかります。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡB	**ドイツ語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
木村 千恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
概要:

授業内容
本授業は「ドイツ語ⅡA」に続き、初級文法(後半)を中心に基礎的なドイツ語を学ぶ。日課や意見、経験などに関する文の理解と表現を目指し、文法の仕組みを日常会話を通して学ぶ。練習問題や作文に取り組み、実際に使える運用力を養うとともに、ドイツ語圏の社会や文化への理解と関心をより深める。

履修上の注意
到達目標:

準備学習(予習・復習等)の内容
1.

教科書
短いドイツ語の文章を発音し、相手に伝えることができる。

参考書
2.

課題に対するフィードバックの方法
短いドイツ語の文章を聞き取り、理解することができる。

成績評価の方法
3.

その他
初級文法の知識をもとに、短いドイツ語の文章を読み、その意味を理解することができる。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡB	**ドイツ語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
小野間 亮子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の概要
初級文法の定着を図りつつ、辞書を使って平易なテクストが読める程度の力を養成する。
また、発音練習や作文を通じて基本的な語彙や表現を学ぶ。
履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・会話文の和訳を行い、その都度教員が確認する。
宿題を課した場合は次週の授業で解答を行う。
到達目標
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を使って平易なドイツ語のテクストを読むことができるようになる。

授業内容

第1回 Lektion 7 話法の助動詞・不定代名詞 man・副文
第2回 Lektion 7 得意なことについて話す
第3回 Lektion 8 動詞の三基本形・過去の表現・現在完了形
第4回 Lektion 8 過去の事柄について話す
第5回 Lektion 9 zu 不定詞句の用法・再帰代名詞・再帰動詞
第6回 Lektion 9 人を誘う
第7回 Lektion 10 形容詞の格変化・形容詞・副詞の比較表現
第8回 Lektion 10 服装、色について好みを言う
第9回 Lektion 11 関係代名詞・指示代名詞
第 10 回 Lektion 11 事柄について詳しく述べる
第 11 回 Lektion 12 受動態・接続法 II 式
第 12 回 Lektion 12 丁寧にお願いする
第 13 回 接続法 I 式
第 14 回 a 試験・b まとめ

履修上の注意

辞書を持参すること。
毎回の出席を心がけること。

準備学習(予習・復習等)の内容

各課に掲載されている例文および会話については授業前にわからない単語を調べ、教科書の付属音声で発音を確認すること。
授業後は学習内容を復習し、知識の定着につとめること。

教科書

『シュリット・フュア・シュリット 三訂版』今井田亜弓・前田織絵著 (三修社)2021 年

参考書

『必携ドイツ文法総まとめ』中島 悠爾 ・平尾 浩三 ・朝倉巧 著(白水社)2003 年

課題に対するフィードバックの方法

第 14 回のbモジュールで、試験の解説を行う。

成績評価の方法

平常点(予習状況・練習問題や発音練習への取り組みなど)40%、期末試験 60%を総合的に判断する。
なお評価の対象となるためには原則として授業実施回数の3分の2以上の出席を必要とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡB	**ドイツ語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 浩太	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では,1年間でひととおりの初級文法を習得することを目的とします。
ドイツ語の運用に必要な基本的なルールを一緒に勉強していきましょう。
よろしくお願いします。

授業内容

第1回、第2回 Lektion7
第3回 Lektion8
第4回、第5回 Lektion9
第6回、第7回 Lektion10
第8回、第9回 Lektion11
第 10 回、第 11 回 Lektion12
第 12 回 Lektion13
第 13 回 Lektion14
第 14 回 秋学期のまとめ
受講者の理解度などに応じて、
内容を変更する場合もあります。

履修上の注意

授業中の私語, 携帯電話、スマホの無断操作等, 授業の進行を妨げた者については聴講許可を取り消します。

準備学習(予習・復習等)の内容

独和辞典は各自で必ず用意して下さい。使用する辞典については特に指定しません。
指定した箇所の準備(予習)は、必ず行って下さい。

教科書

『プロムナード やさしいドイツ語文法【三訂版】』
萩原耕平・山崎泰孝著 (白水社)2024 年

参考書

橋本郁雄/伊藤眞『読んでわかるドイツ語』(同学社)
『アポロン独和辞典』(同学社)
(上記の書物はあくまで「参考」ですので、各自の好みに応じて用意してください。)

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、必要に応じて解説の機会を設ける。

成績評価の方法

定期試験(学期末に実施予定)70%, 平常点 30%
(平常点は授業中の受け答えにより評価します。)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡB	**ドイツ語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語文法の基礎を学びます。

初級ドイツ語文法を習得し，平易な文章を自力で読めるようになることが，この授業の目的です。外国語を学ぶということは，他者の論理を理解するということにほかなりません。日本語のそれとも英語のそれとも異なるドイツ語の論理(文法)の理解を通じて，他者の論理の多様性に具体的に触れ，みずからの思考・視野の幅を広げてゆくことを目指します。また，毎時間最初の 15 分程度を，耳の訓練(短い会話文を使った練習やドイツ語の歌を聴く等)に充てます。

授業内容

1. 形容詞・比較
2. 分離動詞
3. 再帰代名詞・再帰動詞
4. 話法の助動詞
5. zu 不定詞
6. 動詞の3基本形，過去基本形
7. 現在完了形
8. 現在完了形
9. 従属の接続詞
10. 受動態
11. 関係代名詞
12. 接続法Ⅰ式
13. 接続法Ⅱ式
14. 試験と解説

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の Dialog の部分を予習し、教科書の問題で復習をしてください。
ドイツ語圏やヨーロッパのニュースに関心を持ち、つねにチェックするよう心がけてください。

教科書

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[四訂版](上野 成利、本田 雅也 著)ISBN:9784560064450

参考書

授業中に提示します。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末テストと平常点(授業への参加)を総合的に評価します。(期末テスト 70%，平常点 30%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅡB	**ドイツ語ⅡB**	
担 当 者	開講期	開講地区
冨重 与志生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、ドイツ語の初級文法・読解・聴解・作文を参加者が確実に身につけることを目標とする。

授業内容

第一回授業でイントロダクションをおこない、辞書、学習方法等について講義する。ドイツ語ⅡB 授業は、ドイツ語ⅠB と一体で進めていく。したがって、試験もⅠB、ⅡB と個別にはおこなわず、いずれかの最終授業時に統一の試験をおこない、成績はⅠB、ⅡB に共通評価をおこなう。

したがって、第二回授業は、一回目がⅡB であれば、ⅠB 授業ということになる。そのようにして、教科書の後半部分の章を秋学期に終了させる。具体的に項目をあげるなら、

接続詞／所有代名詞・不定代名詞・疑問代名詞・形容詞の名詞的用法／分離動詞・不定詞の用法・分詞とその用法／形容詞と副詞の比較／指示代名詞・再帰代名詞・再帰動詞／関係代名詞／非人称動詞・受動態／話法について・命令法・接続法の形態／接続法の時称・接続法の用法(1)／接続法の用法(2)

これら一つ一つの章を、おおよそ二回の授業で終えるつもりである。

なお、予定より早目に教科書を終えたら、プリント等による追加テクストで学習することにする。

履修上の注意

辞書は必ず持参すること。またこの辞書は紙媒体の辞書にして欲しいと強く願っている。電子辞書や携帯の翻訳機能などを使うと、学生自身の脳に記憶されない傾向が強いためである。

授業には予習の上で参加すること。特に練習問題は事前にチャレンジしておかなければ、授業に来る意味がない。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は、次におこなわれる授業に対応する教科書の個所につき、音読、文法事項の理解、例文研究、練習問題の解答という点でおこなっておいて欲しい、

復習は、特に例文暗唱や新出語彙の記憶などにあてるとよい。

教科書

新訂 岩崎・平尾・初歩ドイツ文法(新正書法対応版)、同学社刊

参考書

特にない。

課題に対するフィードバックの方法

授業中にコメントする。

成績評価の方法

平常点 40 点、筆記試験成績 60 点の計 100 点満点で評価する。平常点とは、授業中に指名質問されたり、当てられた練習問題等をきちんとおこなったか否かによる評価であり、決して出席点ではない。

その他

特にない。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	**ドイツ語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
今村 武	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

(1)1年次の授業で修得したドイツ語文法の重要事項を復習しつつ、ドイツ語の総合的な運用力を上げるための授業です。授業では教科書のほか、プリント教材、DVD 資料、インターネット等も活用する予定です。
(2)テキストを通じて、ドイツ語圏の文化と歴史、さらにはヨーロッパ文化圏の文化と社会、歴史に対する興味を喚起して、より深い知識を身につけます。
(3)ドイツ語検定3級合格程度の実力養成を、具体的な到達目標とします。

授業内容

第1回目:a:授業の内容説明、一年次の学習項目の整理と復習を行います。時間的に不足する場合は、各回に多少の時間を設定して、復習を行います。b:Rotkäppchen のテキスト読解、小テストを行います。以下、各回の授業においては a において表記タイトルの作品を読み進めるとともに、b においては読解とともに文法の補足説明、小テストを行います。
第2回目:Rotkäppchen(2)
第3回目:Rotkäppchen(3)
第4回目:Rotkäppchen(4)
第5回目:Rotkäppchen(5)
第6回目:Rotkäppchen(6)
第7回目:a:ここまでの学習事項のまとめと解説。b:映像資料を通じた異文化解説と聞き取りの練習。
第8回目:Die Bremer Stadtmusikanten(1)
第9回目:Die Bremer Stadtmusikanten(2)
第 10 回目:Die Bremer Stadtmusikanten(3)
第 11 回目:Die Bremer Stadtmusikanten(4)
第 12 回目:Die Bremer Stadtmusikanten(5)
第 13 回目:a:学習事項のまとめと解説。b:映像資料を通じた異文化解説と聞き取りの練習。
第 14 回目:a:前期学習項目の理解度を試験形式で測ります。b:補足的な解説と講義。

履修上の注意

(1)学期を通して「授業の内容」に記載した要領で授業を進めていきます。進行具合はクラスの状況等により多少の変更もあり得ます。その場合は授業で周知します。
(2)疑問点がある場合は、授業時にその場でどしどし質問してください。
(3)授業開始の 30 分前を大学到着時刻の目安としてください。やむを得ない事情で遅刻した場合は、後ろのドアから静かに行ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・毎回テキストを読み進めますので、予習を行うことが大切です。予習の範囲、方法は、毎回指示します。自分のノートに独文和訳を行うことが基本となります。

教科書

三浦(編)『グリム童話2』郁文堂 ISBN 4-261-00327-9

参考書

たくさんのドイツ語参考書・問題集・独検対策参考書が出版されています。まずは自分で書店に出向いて手にとってみてください。選択に迷った場合はいつでも相談に応じます。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に前回の簡単な復習を行い、新しい事項に進みます。また、提出された小テストまたレポート等は原則として次回の授業時に返却しますので、各自において見直しを行なってください。質問等があれば、授業時はもちろん授業終了後に質問してください。

成績評価の方法

下記の要領で成績評価を行います。授業の7割以上に出席していることが、成績評価を開始する前提条件です。
小テスト等及び授業時の参加度等:70%
定期期末試験結果:30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	**ドイツ語ⅢA**	
担 当 者	開講期	開講地区
金子 祥之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》
「旅行」「グリム童話」「世界遺産」など、ドイツの現代文化をテーマとするテキストを読みながら、ドイツ語文法と読解の練習を行います。まとまった量のドイツ語を読むことでドイツ語の読み方を学び、単に日本語に訳すだけではなく、ドイツ語の言語表現の多様性を楽しむことができるようになることを目標とします。テキストを読むための基礎的知識である初級文法や単語の意味、発音のルールについては授業中に説明や復習を行いますので、ドイツ語が苦手な方でも大丈夫です。ドイツ語で書かれた文章を

授業内容

第1回:a: イントロダクション b: 基本文法の復習
第2回:読解演習
第3回:読解演習
第4回:読解演習
第5回:読解演習
第6回:読解演習
第7回:読解演習
第8回:読解演習
第9回:読解演習
第10回:読解演習
第11回:読解演習
第12回:読解演習
第13回:読解演習
第14回:まとめ

履修上の注意

辞書を一冊用意してください(電子辞書も可)。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容

入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。

教科書

『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化８章 プラス・エクストラ』(和泉雅人ほか著 三修社)

参考書

適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(30%)及び定期テスト評価(70%)

その他

連絡先:初回授業時に示します。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
正月 瑛	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業概要

ドイツ語テクストの読解を通じて、初級レベルから中級レベルへのステップアップを目標とする授業です。ことばの意味や文の構造、文法事項などをていねいに確認しながら、テクストが意味している内容を理解することがこの授業の基本です。授業ではドイツ語圏の文化、社会、文学(ことば)について書かれたテクストを扱い、ドイツ語読解能力の向上と同時に、ドイツ語圏への理解を深めることもねらいとしています。

到達目標

総合的なドイツ語能力向上を目標とします。ドイツ語で書かれたテクストを丹念に読解していくことで、ドイツ語能

授業内容

第1回:ガイダンス／受講上の注意(『Kapitel 01: Oma auf Zeit – Eine Unterstützung für moderne Familien』冒頭を題材に、授業内容や予習・復習に関するチュートリアルを行う)
第2回:Kapitel 01 : Oma auf Zeit – Eine Unterstützung für moderne Familien(1)
第3回:Kapitel 01 : Oma auf Zeit – Eine Unterstützung für moderne Familien(2)
第4回:Kapitel 01 : Oma auf Zeit – Eine Unterstützung für moderne Familien(3)
第5回:Kapitel 02 : Ein Dorf verschwindet – Die Katastrophe von Blatten(1)
第6回:Kapitel 02 : Ein Dorf verschwindet – Die Katastrophe von Blatten(2)
第7回:Kapitel 02 : Ein Dorf verschwindet – Die Katastrophe von Blatten(3)
第8回:Kapitel 03 : Wohnungsnot in Deutschland(1)
第9回:Kapitel 03 : Wohnungsnot in Deutschland(2)
第10回:Kapitel 03 : Wohnungsnot in Deutschland(3)
第11回:Kapitel 04 : Eine ganz kleine Nachtmusik – Die Entdeckung eines bisher unbekannten Mozart-Werkes(1)
第12回:Kapitel 04 : Eine ganz kleine Nachtmusik – Die Entdeckung eines bisher unbekannten Mozart-Werkes(2)
第13回:Kapitel 04 : Eine ganz kleine Nachtmusik – Die Entdeckung eines bisher unbekannten Mozart-Werkes(3)
第14回:期末試験

履修上の注意

見たことのないことばや文法事項ばかりで、はじめのうちはわからない箇所の連続になるとは思います。しかし、その「わからない」をひとつひとつていねいに解決してゆくのが言語上達へのいちばんの近道です。どんどん質問してください。

授業は原則として対面形式で行います。なお、履修者の人数や理解度などにあわせて授業を進めますので、シラバス通りにゆかないこともあります。

独和辞典はかならず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:中級ドイツ語の精読が基本であるため、指定された文章を読み、わからない単語や文法事項などを調べて授業に臨みましょう。粗訳程度に訳しておくとなおよいです。
復習:文章読解をつうじてこれまで学んだ文法事項もおさらいするので、学習した内容を教科書内「文法ノート」と照らしあわせておさらいしましょう。

教科書

書籍タイトル:DACH・トピックス 10 2026 年度版
著者:Diana Beier-Taguchi / 田中雅敏　　出版社:朝日出版社
出版年:2026 価格:1,900 円 ISBN:978-4-255-25494-4

参考書

授業内ないし Oh-h Meiji で適宜配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施します。

成績評価の方法

授業への参加度:50%　期末試験:50%
授業を3分の1以上欠席すると評価の対象にはなりません。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
宗宮 朋子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

初中級レベルのドイツ語の文法項目をドイツ語のテキスト読解を通して精密に確認していきます。
ドイツ語で書かれた様々なテキストを正確に文法解析し、読解できるようになることが目標です。

授業内容

[第1回] a:イントロダクション／b:テキスト読解(文法事項:動詞の現在人称変化)
[第2回] テキスト読解(文法事項:定冠詞)
[第3回] テキスト読解(文法事項:不定冠詞)
[第4回] テキスト読解(文法事項:名詞の複数形)
[第5回] テキスト読解(文法事項:不規則動詞)
[第6回] テキスト読解(文法事項:定冠詞類)
[第7回] テキスト読解(文法事項:不定冠詞類)
[第8回] テキスト読解(文法事項:並列接続詞)
[第9回] テキスト読解(文法事項:命令文)
[第 10 回] テキスト読解(文法事項:人称代名詞)
[第 11 回] テキスト読解(文法事項:前置詞)
[第 12 回] テキスト読解(文法事項:話法の助動詞)
[第 13 回] 春学期のまとめ
[第 14 回] a:試験／b:正答解説
※ 内容は履修者の理解度に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

授業ではドイツ語の発音確認やテキスト読解演習に積極的に取り組むこと。
授業の終わりに時間を取るので、分からないことは必ず質問すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業に参加、貢献する意志のある者は教室前方に着席すること。
出された宿題(テキスト読解、文法分析)は独和辞典や参考書を使って自力でやってくること。
文法項目や単語については自分で整理、暗記しておくこと。

教科書

ドイツ語で書かれたテキストのプリントを配布する。
1 年次のドイツ語クラスで使用した教科書を文法事項の確認で使用するので必ず持ってくること。
独和辞典も準備すること。

参考書

1 年次のドイツ語クラスで使用した教科書
独和辞典

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックを希望する人には直接対応します。

成績評価の方法

期末試験の結果 85%、平常点 15%をもとに算出する。
平常点は毎回の授業で「授業への貢献度」および「授業への参加度」が認められた者にのみ、その度合いに応じて加点する。
※ 教室に来て座っているだけの「出席」に対する加点は一切ない。
※ 成績評価の公平を期すため、期末試験を課題等で代替することは一切しない。

その他

授業開始時刻厳守です。
原則として授業開始後の教室への無断入退出禁止。
授業に取り組む姿勢が見られない場合(目に余る居眠り、教科書辞書不携帯等)は教室から退出を命じます。
学部事務室を通した正規の証明書類の提出がない学生への特別な配慮は一切しません。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
三根 靖久	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、一年生で修得したドイツ語文法を復習しつつ、人文系のドイツ語のテクストを読む力をさらに身につけて行くことを目的とします。教材として現代(ドイツ)社会に関する様々な題材を扱ったテクストを用意しますので、この授業が、狭義のドイツ語学習だけでなく、私たちが生きる現代社会について考えるきっかけとなれば幸いです。
目標:辞書の助けを借りながら、A1 レベルのドイツ語の文章を読むことができる。

授業内容

第 1 回:ドイツの地理
第 2 回:アルゴイのそり犬
第 3 回:形容詞・副詞の比較変化
第 4 回:ミュンヘン・オクトーバーフェスト
第 5 回:休暇にボランティアとして働く 1
第 6 回:休暇にボランティアとして働く 2
第 7 回:Da[r] + 前置詞
第 8 回:北フリージア諸島の冬のかがり火
第 9 回:不定代名詞
第 10 回:夏至
第 11 回:夏至 2
第 12 回:発展編
第 13 回:発展編 続き
第 14 回:総括

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布したテクストを授業中に精読することがあります。その際は単語を下調べして文章によく目を通してから受講してください。独力で理解できないことは悪いことではありません。ですが、自分が理解できないのはどこなのかが分からなければ、授業に出ても有意義な学びとはなりません。

教科書

なし。教材はこちらで用意する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う

成績評価の方法

授業参加:20%　中間試験:20%　期末試験:60%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、＜初級文法の復習＞・＜中級への橋渡し＞を目標に、文法的に少し難易度の高い部分を含む短めのテクストを読み進めてみたい。
2年生は、実際には初級文法(特に接続法など)が十分に定着していないことが多いので、文章の読解を行いはするが、初めのうちは文法の説明に時間を多く使い、慣れてきたら徐々に様々な種類の文章を読むことを中心とする授業に移行させてゆきたい。
この時期は、ドイツ語の学習において、目標とするレベルが個々人によって分かれる時期である。留学を目標に会話や実用的文章が読めるようになりたい人も

授業内容

第 1 回　一年次の復習－文法(1)
第 2 回　一年次の復習－文法(2)
第 3 回　文章読解－平易な説明的文章を用いて(1)
第 4 回　文章読解－平易な説明的文章を用いて(2)
第 5 回　文章読解－平易な小説を用いて(1)
第 6 回　文章読解－平易な小説を用いて(2)
第 7 回　文章読解－中程度の説明的文章を用いて(1)
第 8 回　文章読解－中程度の説明的文章を用いて(2)
第 9 回　文章読解－中程度の小説を用いて(1)
第 10 回　文章読解－中程度の小説を用いて(2)
第 11 回　文章読解－中程度の小説を用いて(3)
第 12 回　中級文法－ドイツ語検定問題を用いて(1)
第 13 回　中級文法－ドイツ語検定問題を用いて(2)
第 14 回　総括とテスト

履修上の注意

一年次の教科書を持参すること。
スマートフォンは辞書としては認められないので、紙の辞書か電子辞書を用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストは事前に提示するので、指示された箇所については毎回予習をして臨むこと。
終了した内容について小テストを実施するので復習をしておくこと。

教科書

テキストはオリジナルのものを使用する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に口頭で回答するが、必要に応じてメールは Oh-o!Meiji を通じて回答することも可能である。いずれにせよ、気軽にコミュニケーションが取れる体制は整える。

成績評価の方法

学期末に試験を行い、その成績を 90%。学期中に行う小テストや課題の提出状況、授業への取り組みの積極性から総合的に判断するのが 10%とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
正月 瑛	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業概要

ドイツ語テクストの読解を通じて、初級レベルから中級レベルへのステップアップを目標とする授業です。ことばの意味や文の構造、文法事項などをていねいに確認しながら、テクストが意味している内容を理解することがこの授業の基本です。授業ではドイツ語圏の文化、社会、文学(ことば)について書かれたテクストを扱い、ドイツ語読解能力の向上と同時に、ドイツ語圏への理解を深めることもねらいとしています。

到達目標

総合的なドイツ語能力向上を目標とします。ドイツ語で書かれたテクストを丹念に読解していくことで、ドイツ語能

授業内容

第1回:ガイダンス／受講上の注意(『Lektion 1 : Brot, Wurst, Döner Kebab』冒頭を題材に、授業内容や予習・復習に関するチュートリアルを行う)
第2回:Lektion 1 : Brot, Wurst, Döner Kebab(1)
第3回:Lektion 1 : Brot, Wurst, Döner Kebab(2)
第4回:Lektion 2 : Herr Böse und Herr Streit(1)
第5回:Lektion 2 : Herr Böse und Herr Streit(2)
第6回:Lektion 2 : Herr Böse und Herr Streit(3)
第7回:Lektion 3 : Berlin – Eine wunderbare Stadt(1)
第8回:Lektion 3 : Berlin – Eine wunderbare Stadt(2)
第9回:Lektion 3 : Berlin – Eine wunderbare Stadt(3)
第10回:Lektion 4 : Der süße Brei(1)
第11回:Lektion 4 : Der süße Brei(2)
第12回:Lektion 4 : Der süße Brei(3)
第13回:ドイツ語の新聞を読んでみる
第14回:期末試験

履修上の注意

見たことのないことばや文法事項ばかりで、はじめのうちはわからない箇所の連続になるとは思います。しかし、その「わからない」をひとつひとつていねいに解決してゆくのが言語上達へのいちばんの近道です。どんどん質問してください。

授業は原則として対面形式で行います。なお、履修者の人数や理解度などにあわせて授業を進めますので、シラバス通りにゆかないこともあります。

独和辞典はかならず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:中級ドイツ語の精読が基本であるため、指定された文章を読み、わからない単語や文法事項などを調べて授業に臨みましょう。粗訳程度に訳しておくとなおよいです。
復習:文章読解をつうじてこれまで学んだ文法事項もおさらいするので、学習した内容を教科書内「文法ノート」と照らしあわせておさらいしましょう。

教科書

書籍名:ドイツ語トライアングル ― やさしい中級テキスト9章
著者名:荻原耕平／畠山寛 出版社:同学社
出版年:2018 価格:2,000 円 ISBN:978-4-8102-0698-2

参考書

授業内ないし Oh-h Meiji で適宜配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施します。

成績評価の方法

授業への参加度:50% 期末試験:50%
授業を3分の1以上欠席すると評価の対象にはなりません。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢA	ドイツ語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業の目的は,ドイツ語文法の復習をしながら,ドイツ語で書かれたさまざまな種類の文章を正確に読む力と自分の考えをドイツ語で表現する力を身につけることです。

授業内容

授業の前半では,文法の復習をします。
授業の後半では,教科書のテクストの読解を行います。ドイツ語に特有の文の構造や表現を確認しながら,一語もとばさずにじっくりと精読してゆきます。
(1)授業の説明, Diktat/Bildbeschreibung
(2～14)文法の復習, テクスト講読

履修上の注意

毎回必ず独和辞典と１年次に使用した教科書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

後半で読むテクストに関しては十分な予習をしてくること。

教科書

André Klein (著) Learn German With Stories: Café in Berlin - 10 Short Stories For Beginners. CreateSpace Independent Publishing. ISBN: 978-1492399490

参考書

授業で適宜提示します。

課題に対するフィードバックの方法

課題は採点のうえ返却します。

成績評価の方法

期末テストと授業中の発表等による平常点を総合的に評価します(期末テスト 60%, 平常点 40%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
今村 武	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

(1)1年次の授業で修得したドイツ語文法の重要事項を復習しつつ、ドイツ語の総合的な運用力を上げるための授業です。授業では教科書のほか、プリント教材、DVD 資料、インターネット等も活用する予定です。
(2)ドイツ語圏の文化と歴史、さらにはヨーロッパ文化圏の文化と社会、歴史に対する興味を喚起して、より深い知識を身につけます。
(3)ドイツ語検定3級合格程度の実力養成を、具体的な到達目標とします。

授業内容

第1回目:a:授業の内容説明、一年次の学習項目の整理と復習を行います。時間的に不足する場合は、各回に多少の時間を設定して、復習を行います。b:Hänsel und Gretel のテキスト読解、小テストを行います。以下、各回の授業においては a において表記タイトルの作品を読み進めるとともに、b においては読解とともに文法の補足説明、小テストを行います。
第2回目:Hänsel und Gretel(1)
第3回目:Hänsel und Gretel(2)
第4回目:Hänsel und Gretel(3)
第5回目:Hänsel und Gretel(4)
第6回目:a:ここまでの学習事項のまとめと解説。b:映像資料を通じた異文化解説と聞き取りの練習。
第7回目:Hänsel und Gretel(5)
第8回目:Hänsel und Gretel(6)
第9回目:Hänsel und Gretel(7)
第 10 回目:Hänsel und Gretel(8)
第 11 回目:Hänsel und Gretel(9)
第 12 回目:グリム童話より短編を訳読(プリント資料配布)
第 13 回目:a:学習事項のまとめと解説。b:映像資料を通じた異文化解説と聞き取りの練習。
第 14 回目:a:前期学習項目の理解度を試験形式で測ります。b:補足的な解説と講義。

履修上の注意

(1)学期を通して「授業の内容」に記載した要領で授業を進めていきます。進行具合はクラスの状況等により多少の変更もあり得ます。その場合は授業で周知します。
(2)疑問点がある場合は、授業時にその場でどしどし質問してください。
(3)授業開始の 30 分前を大学到着時刻の目安としてください。やむを得ない事情で遅刻した場合は、後ろのドアから静かに行ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・毎回テキストを読み進めますので、予習を行うことが大切です。予習の範囲、方法は授業時に指示します。自分のノートに独文和訳を行うことが基本となります。

教科書

三浦(編)『グリム童話2』郁文堂

参考書

たくさんのドイツ語参考書・問題集・独検対策参考書が出版されています。まずは自分で書店に出向いて手にとってみてください。選択に迷った場合はいつでも相談に応じます。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に前回の簡単な復習を行い、新しい事項に進みます。また、提出された小テストまたレポート等は原則として次回の授業時に返却しますので、各自において見直しを行なってください。質問等があれば、授業時はもちろん授業終了後に質問してください。

成績評価の方法

下記の要領で成績評価を行います。授業の7割以上に出席していることが、成績評価を開始する前提条件です。
小テスト等及び授業時の回答回数等:70%
定期期末試験結果:30%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
金子 祥之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

《授業の達成目標及びテーマ》
春学期と同様に、ドイツ語で書かれたエッセイを読み、ドイツ語の読解力と表現力のさらなる向上をめざします。ドイツ語で書かれた文章を音読をしながら読みすすめ、ドイツ語表現を学びながら、ドイツ語圏の歴史や文化、抱えている様々な社会問題なども学んでいきたいと思います。
まとまった量のドイツ語を読み、基本文法を用いた作文ができることを目標とします。
《授業の概要》
ドイツ語で書かれた現代文化論を読みながら、ドイツ語文法の定着と読解力の向上を目指します。

授業内容

第1回:a: イントロダクション b: 基本文法の復習
第2回:読解演習
第3回:読解演習
第4回:読解演習
第5回:読解演習
第6回:読解演習
第7回:読解演習
第8回:読解演習
第9回:読解演習
第10回:読解演習
第11回:読解演習
第12回:読解演習
第13回:読解演習
第14回:まとめ

履修上の注意

辞書を一冊用意してください(電子辞書も可)。必要な文法や単語に関しては授業時に解説いたします。

準備学習(予習・復習等)の内容

入念に予習を行ってください。不明な部分に関しては放置せずに必ず質問するよう心掛けてください。

教科書

『ファウストとメフィストと学ぶドイツ文化 8 章 プラス・エクストラ』(和泉雅人ほか著 三修社)

参考書

適宜指示いたします。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への貢献度(30%)及び定期テスト評価(70%)

その他

連絡先:初回授業時に示します。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
正月 瑛	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業概要

春学期「ドイツ語ⅢA」にひきつづき、ドイツ語テクストの読解を通じて、初級レベルから中級レベルへのステップアップを目標とします。ことばの意味や文の構造、文法事項などをていねいに確認しながら、テクストが意味している内容を理解することがこの授業の基本です。授業ではドイツ語圏の文化、社会、文学(ことば)について書かれたテクストを扱い、ドイツ語読解能力の向上と同時に、ドイツ語圏への理解を深めることもねらいとしています。

到達目標

総合的なドイツ語能力向上を目標とします。ドイツ語で書かれたテクストを丹念に

授業内容

第1回:Kapitel 05 : Weniger Bier, mehr Gesundheit? – Alkoholkonsum in Deutschland(1)
第2回:Kapitel 05 : Weniger Bier, mehr Gesundheit? – Alkoholkonsum in Deutschland(2)
第3回:Kapitel 05 : Weniger Bier, mehr Gesundheit? – Alkoholkonsum in Deutschland(3)
第4回:Kapitel 06 : Amoklauf in Graz – Österreich unter Shock(1)
第5回:Kapitel 06 : Amoklauf in Graz – Österreich unter Shock(2)
第6回:Kapitel 06 : Amoklauf in Graz – Österreich unter Shock(3)
第7回:Kapitel 07 : Handyverbot an Schulen – Ein Thema, viele Meinungen(1)
第8回:Kapitel 07 : Handyverbot an Schulen – Ein Thema, viele Meinungen(2)
第9回:Kapitel 07 : Handyverbot an Schulen – Ein Thema, viele Meinungen(3)
第10回:Kapitel 08 : DACH auf der Expo 2025(1)
第11回:Kapitel 08 : DACH auf der Expo 2025(2)
第12回:Kapitel 08 : DACH auf der Expo 2025(3)
第13回:ドイツ語の小説を読んでみる
第14回:期末試験

履修上の注意

見たことのないことばや文法事項ばかりで、はじめのうちはわからない箇所の連続になるとは思います。しかし、その「わからない」をひとつひとつていねいに解決してゆくのが言語上達へのいちばんの近道です。どんどん質問してください。

授業は原則として対面形式で行います。なお、履修者の人数や理解度などにあわせて授業を進めますので、シラバス通りにゆかないこともあります。

独和辞典はかならず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:中級ドイツ語の精読が基本であるため、指定された文章を読み、わからない単語や文法事項などを調べて授業に臨みましょう。粗訳程度に訳しておくとなおよいです。

復習:文章読解をつうじてこれまで学んだ文法事項もおさらいするので、学習した内容を教科書内「文法ノート」と照らしあわせておさらいしましょう。

教科書

書籍タイトル:DACH・トピックス 10 2026 年度版
著者:Diana Beier-Taguchi / 田中雅敏　　出版社:朝日出版社
出版年:2026 価格:1,900 円 ISBN:978-4-255-25494-4

参考書

授業内ないし Oh-h Meiji で適宜配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施します。

成績評価の方法

授業への参加度:50%　期末試験:50%
授業を3分の1以上欠席すると評価の対象にはなりません。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
宗宮 朋子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

中級ドイツ語の文法事項をテキスト読解を通して精密に確認していきます。
中級レベルのドイツ語で書かれたテキストの正確な文法解析、読解ができるようになることが目標です。

授業内容

[第1回] テキスト読解(文法事項:形容詞の格変化)
[第2回] テキスト読解(文法事項:再帰動詞)
[第3回] テキスト読解(文法事項:es の用法)
[第4回] テキスト読解(文法事項:zu 不定詞)
[第5回] テキスト読解(文法事項, 比較級, 最上級)
[第6回] テキスト読解(文法事項:過去形)
[第7回] テキスト読解(文法事項, 従属接続詞)
[第8回] テキスト読解(文法事項:現在完了形, 過去完了形)
[第9回] テキスト読解(文法事項:受動文)
[第 10 回] テキスト読解(文法事項:分詞)
[第 11 回] テキスト読解(文法事項:関係代名詞)
[第 12 回] テキスト読解(文法事項:接続法1式)
[第 13 回] 秋学期のまとめ
[第 14 回] a:試験／b:正答解説
※ 内容は履修者の理解度に応じて変更する場合があります。

履修上の注意

授業ではドイツ語の発音確認やテキスト読解演習に積極的に取り組むこと。
授業の終わりに時間を取るので、分からないことは必ず質問すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

出された宿題(テキスト読解、文法解析)は辞書や参考書を使って自力でやってくること。
テキストに出てきた文法項目や単語等は各自で整理、暗記しておくこと。

教科書

ドイツ語で書かれたテキストのプリントを配布します。
1年次のドイツ語クラスで使用した教科書を文法の確認で使用するので必ず持ってくること。
独和辞典も準備すること。

参考書

1 年次のドイツ語クラスで使用した教科書
独和辞典

課題に対するフィードバックの方法

希望者には直接フィードバックします。

成績評価の方法

期末試験の結果 85%、平常点 15%をもとに算出する。
平常点は毎回の授業で「授業への貢献度」および「授業への参加度」が認められた者にのみ、その度合いに応じて加点する。
※ 教室に来て座っているだけの「出席」に対する加点は一切ありません。
※ 成績評価の公平を期すため、期末試験を課題等で代替することは一切しません。

その他

授業開始時刻厳守です。
授業開始後の教室への無断入退出は原則禁止。
授業に取り組む姿勢が見られない場合(目に余る居眠り、教科書辞書不携帯等)は教室から退出を命じます。
学部事務室を通した正規の証明書類の提出がない学生への特別な配慮は一切しません。

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
三根 靖久	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業は、一年生で修得したドイツ語文法を復習しつつ、人文系のドイツ語のテクストを読む力をさらに身につけて行くことを目的とします。教材として現代(ドイツ)社会に関する様々な題材を扱ったテクストを用意しますので、この授業が、狭義のドイツ語学習だけでなく、私たちが生きる現代社会について考えるきっかけとなれば幸いです。
目標:辞書の助けを借りながら、A2 から B1 レベルのドイツ語の文章を読むことができる。

授業内容

第 1 回:関係代名詞
第 2 回:ドイツの歴史概観
第 3 回:ドイツの歴史概観 続き
第 4 回:ハロウィーン
第 5 回:クリスマスの食事
第 6 回:冠飾句
第 7 回:二つのドイツ 1
第 8 回:二つのドイツ 2
第 9 回:ファスト・ファッション 1
第 10 回:ファスト・ファッション 2
第 11 回:ファスト・ファッション 3
第 12 回:発展編
第 13 回:発展編 続き
第 14 回:総括

履修上の注意

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に配布したテクストを授業中に精読することがあります。その際は単語を下調べして文章によく目を通してから受講してください。独力で理解できないことは悪いことではありません。ですが、自分が理解できないのはどこなのかが分からなければ、授業に出ても有意義な学びとはなりません。

教科書

なし。教材はこちらで用意する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

授業中に行う。

成績評価の方法

授業参加:20% 中間試験:20% 期末試験:60%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
福間 具子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、＜初級文法の復習＞・＜中級への橋渡し＞を目標に、文法的に少し難易度の高い部分を含む短めのテクストを読み進める。
春学期に引き続き、短めのテクストを読んで行くが、認容文や要求話法、心態詞など、中級文法に関しては分からない場合も出てくるだろうから、その点については文法中心の授業も適宜組み込んでいきたい。
2年次は、ドイツ語の学習において、目標とするレベルが個々人によって分かれる時期である。留学を目標に会話や実用的文章が読めるようになりたい人もいれば、文学作品をしっかり読める高度な文法を求める

授業内容

第 1 回 中級文法(1)
第 2 回 中級文法(2)
第 3 回 文章読解－中程度の説明的文章を用いて(1)
第 4 回 文章読解－中程度の説明的文章を用いて(2)
第 5 回 文章読解－中程度の小説を用いて(1)
第 6 回 文章読解－中程度の小説を用いて(2)
第 7 回 文章読解－会話文(1)
第 8 回 文章読解－会話文(2)
第 9 回 文章読解－中程度の小説を用いて(3)
第 10 回 文章読解－中程度の小説を用いて(4)
第 11 回 文章読解－中程度の小説を用いて(5)
第 12 回 中級文法－ドイツ語検定問題を用いて(1)
第 13 回 中級文法－ドイツ語検定問題を用いて(2)
第 14 回 総括とテスト

履修上の注意

一年次の教科書を持参すること。
スマートフォンは辞書としては認められないので、紙の辞書か電子辞書を用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

テキストは事前に提示するので、指示された箇所については毎回予習をして臨むこと。
終了した内容について小テストを実施するので復習をしておくこと。

教科書

テキストはオリジナルのものを使用する。

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

次回の授業時に口頭で回答するが、必要に応じてメールは Oh-o!Meiji を通じて回答することも可能である。いずれにせよ、気軽にコミュニケーションが取れる体制は整える。

成績評価の方法

学期末に試験を行い、その成績を 90%。学期中に行う小テストや課題の提出状況、授業への取り組みの積極性から総合的に判断するのが 10%とする。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
正月 瑛	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

授業概要

ドイツ語テクストの読解を通じて、初級レベルから中級レベルへのステップアップを目標とします。ことばの意味や文の構造、文法事項などをていねいに確認しながら、テクストが意味している内容を理解することがこの授業の基本です。授業ではドイツ語圏の文化、社会、文学(ことば)について書かれたテクストを扱い、ドイツ語読解能力の向上と同時に、ドイツ語圏への理解を深めることもねらいとしています。

到達目標

総合的なドイツ語能力向上を目標とします。ドイツ語で書かれたテクストを丹念に読解していくことで、ドイツ語能力を初

授業内容

第1回:Lektion 5 : Wiener Kaffeehauskultur(1)
第2回:Lektion 5 : Wiener Kaffeehauskultur(2)
第3回:Lektion 5 : Wiener Kaffeehauskultur(3)
第4回:Lektion 6 : Abschlussprüfung / Verdammt heiß hier unten!(1)
第5回:Lektion 6 : Abschlussprüfung / Verdammt heiß hier unten!(2)
第6回:Lektion 6 : Abschlussprüfung / Verdammt heiß hier unten!(3)
第7回:Lektion 7 : Kurze Geschichte der Sonntagsruhe(1)
第8回:Lektion 7 : Kurze Geschichte der Sonntagsruhe(2)
第9回:Lektion 7 : Kurze Geschichte der Sonntagsruhe(3)
第10回:Lektion 8 : Die Geschichte der Gastarbeiter / Die Menschen mit Migrationshintergrund (1)
第11回:Lektion 8 : Die Geschichte der Gastarbeiter / Die Menschen mit Migrationshintergrund (2)
第12回:Lektion 8 : Die Geschichte der Gastarbeiter / Die Menschen mit Migrationshintergrund (3)
第13回:ドイツ語の小説を読んでみる
第14回:期末試験

履修上の注意

見たことのないことばや文法事項ばかりで、はじめのうちはわからない箇所の連続になるとは思います。しかし、その「わからない」をひとつひとつていねいに解決してゆくのが言語上達へのいちばんの近道です。どんどん質問してください。

授業は原則として対面形式で行います。なお、履修者の人数や理解度などにあわせて授業を進めますので、シラバス通りにゆかないこともあります。

独和辞典はかならず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:中級ドイツ語の精読が基本であるため、指定された文章を読み、わからない単語や文法事項などを調べて授業に臨みましょう。粗訳程度に訳しておくとなおよいです。

復習:文章読解をつうじてこれまで学んだ文法事項もおさらいするので、学習した内容を教科書内「文法ノート」と照らしあわせておさらいしましょう。

教科書

書籍名:ドイツ語トライアングル ― やさしい中級テキスト9章
著者名:荻原耕平／畠山寛 出版社:同学社
出版年:2018 価格:2,000 円 ISBN:978-4-8102-0698-2

参考書

授業内ないし Oh-h Meiji で適宜配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施します。

成績評価の方法

授業への参加度:50% 期末試験:50%
授業を3分の1以上欠席すると評価の対象にはなりません。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語ⅢB	**ドイツ語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
岡本 和子	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

この授業の目的は,ドイツ語文法の復習をしながら,ドイツ語で書かれたさまざまな種類の文章を正確に読む力と自分の考えをドイツ語で表現する力を身につけることです。

授業内容

授業の前半では,文法の復習をします。

授業の後半では,教科書のテクストの読解を行います。ドイツ語に特有の文の構造や表現を確認しながら,一語もとばさずにじっくりと精読してゆきます。

(1)授業の説明, Diktat/Bildbeschreibung
(2～14)文法の復習, ディクテーション, 作文, テクスト講読

履修上の注意

毎回必ず独和辞典と１年次に使用した教科書を持参すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

後半で読むテクストに関しては十分な予習をしてくること。

教科書

André Klein (著) Learn German With Stories: Ferien in Frankfurt - 10 German Short Stories for Beginners. CreateSpace Independent Publishing. ISBN: 978-1494337612

参考書

授業で適宜提示します。

課題に対するフィードバックの方法

課題は採点のうえ返却します。

成績評価の方法

期末テストと授業中の発表等による平常点を総合的に評価します(期末テスト 60%, 平常点 40%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVA	ドイツ語IVA	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 竹彦	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この講座では、1年生のときに学習した文法事項を復習しながら、さらに表現の幅を高めることを目標にします。ここでいう表現の幅とは主に「読む力」、「書く力」のことです。読本テキストとしては、ドイツの地理・社会・文化について書かれた比較的読みやすいものを用意します。レベルはドイツ語技能検定3級相当です。

授業内容

第1回　　過去分詞と現在完了形
第2回 ge のつかない過去分詞と現在完了形
第3回 読本1-1
第4回 読本1-1
第5回 受動態
第6回 読本2- 1
第7回 読本2- 2
第8回 形容詞の格語尾 分詞の用法
第9回 読本3-1
第10回 読本3-1
第11回 前置詞
第12回 読本4- 1
第13回 読本4- 2
第14回 a:試験 b:正答解説

履修上の注意

文法事項を確認できるように1年次に使用した教科書を持参してください。
連続して休まないようにしましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

教科書

プリントを配布します。

参考書

和独辞書　1年生のときに使用した文法の教科書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meiji を用いることもあります。

成績評価の方法

授業への貢献度 40%、試験 60%
3分の2以上の出席が期末試験を受験する条件です。授業中に寝ている、宿題をやっていない、などの場合、出席と認めません。
出席の条件をクリアしたうえで、試験、授業への貢献度から総合的に評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVA	ドイツ語IVA	
担 当 者	開講期	開講地区
木村 千恵	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、初級文法の復習と中級文法の学習を通じて、ドイツ語のより高いコミュニケーション能力を身につけることを目的とする。自己紹介や買い物などの簡単な日常表現の理解と運用を目指し、練習問題や会話、読解、作文を通して実践力を養う。また、ドイツ語圏の社会や文化についても学び、言語の背景となる文脈への理解と関心を深める。

授業内容

到達目標:

履修上の注意

1.

準備学習(予習・復習等)の内容

ドイツ語で食事の注文、支払いができる。

教科書

2.

参考書

ドイツ語でホテルの予約, 比較ができる。

課題に対するフィードバックの方法

3.

成績評価の方法

ドイツ語で道案内、郵便の発送ができる。

その他

4.

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVA	ドイツ語IVA	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 浩太	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次に学んだドイツ語文法の基礎をもとに、ドイツ語のテキストを沢山読むことで、文法知識をより確実なものとし、辞書などを使用すればドイツ語の文章を読みこなしていける能力を身につける。
また精読の他に授業内で独作文も行います。
独作文に関しては、グループワークの形態で実施することもあります。

授業内容

第1回 イントロダクション、ドイツ語が話されいる国
第2回 テキストの精読と独作文
第3回 テキストの精読と独作文
第4回 テキストの精読と独作文
第5回 テキストの精読と独作文
第6回 テキストの精読と独作文
第7回 テキストの精読と独作文
第8回 テキストの精読と独作文
第9回 テキストの精読と独作文
第10回 テキストの精読と独作文
第11回 テキストの精読と独作文
第12回 テキストの精読と独作文
第13回 テキストの精読と独作文
第14回 春学期のまとめ

履修上の注意

授業中の私語, 携帯電話、スマホの無断操作等, 授業の進行を妨げた者については聴講許可を取り消します。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回きちんと予習して授業に臨み、授業に積極的に参加して下さい。
独和辞典は各自で必ず用意して下さい。使用する辞典については特に指定しません。

教科書

『レベルアップドイツ語－読解と表現－』
清野智昭 / Eva Wölbling
(同学社)2026 年
ISBN:978-4-8102-0634-0

参考書

独和辞典と、1年次に各自が使用した教科書または参考書。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、必要に応じて解説の機会を設ける。

成績評価の方法

定期試験 70%、平常点 30%
(平常点は授業中の受け答えにより評価します。)
欠席が3回以上になった場合、受講者名簿から削除されます。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVA	ドイツ語IVA	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語中級における読解、語彙, 表現の力を練磨する。その際、練習を繰り返すことをモットーとする。使用する教科書は、ドイツ人の視点から見て日本がどう見えるか、それは日本に住む我々の視点にはどう映るかという異文化コミュニケーションのとらえ方に親しむ目的で書かれたものである。授業では、教科書の味読や練習に加えて、随時プリントを配布して, 理解を助け、動画等を参照しつつドイツの文化や習慣、ドイツ人の発想を適宜概説する。
中級レベルのドイツ語の基礎(文法, 語彙, 表現)を確固たるものにすることが到達目標である。

授業内容

第1回:基本的な表現の復習(その1)
第2回:基本的な表現の復習(その2)
第3回:数詞(その1)
第4回:数詞(その2)
第5回:定冠詞類(その1)
第6回:定冠詞類(その2)
第7回:話法の助動詞など(その1)
第8回:話法の助動詞など(その2)
第9回:2格をとる前置詞, zu 不定詞(その1)
第10回:2格をとる前置詞, zu 不定詞(その2)
第11回:zu 不定詞, 使役動詞, 知覚動詞(その1)
第12回:zu 不定詞, 使役動詞, 知覚動詞(その2)
第13回:et. mit¨ zu tun haben, 不定代名詞(その1)
第14回 a:試験
b:正答解説

履修上の注意

各自が使用した初級ドイツ語文法の教科書(あるいは参考書)を持参すること。。また、詳しい説明をする初回の授業から出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を入念に読み、疑問点や質問を明確にしておくこと。復習として、教科書の該当箇所や配布プリントを読み直すこと。

教科書

高橋秀彰『ドイツ語エコー2＜中級編＞』(朝日出版社)2020 年

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji 上で課題の提示と講評を行う。ポータルを常時チェックのこと。

成績評価の方法

授業への参加度(ディスカッションや質疑応答等を含む)の平常点と期末テストを総合して評価する(平常点 40%、期末テスト 60%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVB	**ドイツ語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
石原 竹彦	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この講座では、1年生のときに学習した文法事項を復習しながら、さらに表現の幅を高めることを目標にします。ここでいう表現の幅とは主に「読む力」、「書く力」のことです。読本テキストとしては、ドイツの地理・社会・文化について書かれた比較的読みやすいものを用意します。レベルはドイツ語技能検定3級から2級相当です。

授業内容

第1回 ドイツ語の時制
第2回 現在分詞と過去分詞
第3回 まさざまな受動的表現 再帰表現
第4回 zu 不定詞 es の用法
第5回 ドイツ文学を読む カフカの短編1
第6回 ドイツ語で読む エッセー1
第7回 ドイツ文学を読む カフカの短編2
第8回 ドイツ語で読む エッセー2
第9回 ドイツ文学を読む カフカの短編3
第10回 ドイツ文学を読む カフカの短編4
第11回 ドイツ語で読む エッセー3
第12回 ドイツ文学を読む クリスマスの物語1
第13回 ドイツ文学を読む クリスマスの物語4
第14回 a:試験 b:正答解説

履修上の注意

文法事項を確認できるように1年次に使用した教科書を持参してください。
連続して休まないようにしましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

語学は予習と復習による反復学習がとても大切です。授業の前に、テキストにあらかじめ目を通し、どのようなことを学ぶのか確認しましょう。また毎回の授業で宿題を出しますので必ずやってきてください。

教科書

プリントを配布します。

参考書

和独辞書 1年生のときに使用した文法の教科書

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、原則授業中におこないますが、oho meiji を用いることもあります。

成績評価の方法

授業への貢献度 40%、試験 60%
3分の2以上の出席が期末試験を受験する条件です。授業中に寝ている、宿題をやっていない、などの場合、出席と認めません。
出席の条件をクリアしたうえで、試験、授業への貢献度から総合的に評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVB	**ドイツ語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
木村 千恵	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は前期に引き続き、中級の文法や表現を学び、自分の状況や意見を詳しく述べ、相手と簡単な応答ができるようになる。また辞書を使って、簡単な文章を書き、理解することができるようになる。また、ドイツ語圏の社会・文化・芸術等への理解をより深めることを目指す。

授業内容

到達目標:

履修上の注意

1.

準備学習(予習・復習等)の内容

ドイツ語で健康状態や身だしなみについて話すことができる。

教科書

2.

参考書

ドイツ語で贈り物について話すできる。

課題に対するフィードバックの方法

3.

成績評価の方法

ドイツ語で学校生活や職業について話すができる。

その他

4.

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVB	**ドイツ語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
大山 浩太	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次に学んだドイツ語文法の基礎をもとに、ドイツ語のテキストを沢山読むことで、文法知識をより確実なものとし、辞書などを使用すればドイツ語の文章を読みこなしていける能力を身につける。
また精読の他に授業内で独作文も行います。
独作文に関しては、グループワークの形態で実施することもあります。

授業内容

第1回 イントロダクション、夏休みの出来事の報告
第2回 テキストの精読と独作文
第3回 テキストの精読と独作文
第4回 テキストの精読と独作文
第5回 テキストの精読と独作文
第6回 テキストの精読と独作文
第7回 テキストの精読と独作文
第8回 テキストの精読と独作文
第9回 テキストの精読と独作文
第10回 テキストの精読と独作文
第11回 テキストの精読と独作文
第12回 テキストの精読と独作文
第13回 テキストの精読と独作文
第14回 秋学期のまとめ

履修上の注意

授業中の私語, 携帯電話、スマホの無断操作等, 授業の進行を妨げた者については聴講許可を取り消します。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回きちんと予習して授業に臨み、授業に積極的に参加して下さい。
独和辞典は各自で必ず用意して下さい。使用する辞典については特に指定しません。

教科書

『レベルアップドイツ語－読解と表現－』
清野智昭 / Eva Wölbling
(同学社)2026 年
ISBN:978-4-8102-0634-0

参考書

独和辞典と、1年次に各自が使用した教科書または参考書。

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、必要に応じて解説の機会を設ける。

成績評価の方法

定期試験 70%、平常点 30%
(平常点は授業中の受け答えにより評価します。)
欠席が3回以上になった場合、受講者名簿から削除されます。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN121N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ドイツ語IVB	**ドイツ語IVB**	
担 当 者	開講期	開講地区
渡辺 学	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ドイツ語中級における読解、語彙、表現の力を練磨する。その際、練習を繰り返すことをモットーとする。使用する教科書は、ドイツ人の視点から見て日本がどう見えるか、それは日本に住む我々の視点にはどう映るかという異文化コミュニケーションのとらえ方に親しむ目的で書かれたものである。授業では、教科書の味読や練習に加えて、随時プリントを配布して, 理解を助、, 動画等を参照しつつドイツの文化や習慣、ドイツ人の発想を適宜概説する。
中級レベルのドイツ語の基礎(文法、語彙、表現)を確固たるものにすることが到達目標である。

授業内容

第1回:et. mit ¯ zu tun haben, 不定代名詞
第2回:不定関係代名詞
第3回:話をつなぐ表現
第4回:関係代名詞
第5回:冠飾句
第6回:過去完了形, 未来完了形(その1)
第7回:過去完了形, 未来完了形(その2)
第8回:接続法1式、2式(その1)
第9回:接続法1式、2式(その1)
第10回:男女平等の表現(その1)
第11回:男女平等の表現(その2)
第12回:ドイツ語の視点, 日本語の視点(その1)
第13回:ドイツ語の視点, 日本語の視点(その1)
第14回:a. 試験
b. 正答解説

履修上の注意

各自が使用した初級ドイツ語文法の教科書(あるいは参考書)を持参すること。また、詳しい説明をする初回の授業から出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に教科書の該当箇所を入念に読み、疑問点や質問を明確にしておくこと。復習として、教科書の該当箇所や配布プリントを読み直すこと。

教科書

高橋秀彰『ドイツ語エコー2＜中級編＞』(朝日出版社)2020 年

参考書

特に定めない。

課題に対するフィードバックの方法

Oh-o! Meiji 上で課題の提示と講評を行う。ポータルを常時チェックのこと。

成績評価の方法

授業への参加度(ディスカッションや質疑応答等を含む)の平常点と期末テストを総合して評価する(平常点 40%、期末テスト 60%)。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN138N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩA	フランス語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
永倉　千夏子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈概要〉
フランス語の基本的な構造を学び、読む、書く、聞く、話すの基礎的運用を身につける。
〈到達目標〉
教科書の例文または同じレベルの文を聞き、読み、書き、応答できる。

授業内容

第1回:導入、アルファベ、発音と綴り字、基本的な挨拶、数詞1～10
第2回:＜第1課＞主語人称代名詞、第1群規則動詞
第3回:＜第1課続き＞否定文、数詞11～20、名前や住んでいるところを言う、＜第2課＞名詞の性数、冠詞
第4回:＜第2課続き＞提示の表現、「これは何ですか？」、国名と言語、好みを言う、＜第3課＞動詞 etre、
第5回:＜第3課続き＞国籍・身分・職業を表す名詞、身分を言う
第6回:＜第4課＞形容詞の性数一致と位置、人物や服装を描写する
第7回:中間まとめ試験、＜第5課＞avoir、否定の de
第8回:＜第5課続き＞中性代名詞 en、場所の前置詞、年齢や体調を話す、＜第6課＞所有形容詞、指示形容詞
第9回:＜第6課続き＞動詞 acheter、持ち物や服装を話す、＜第7課＞疑問文
第 10 回:＜第7課続き＞動詞 faire、月の名前、序数、＜第8課＞疑問形容詞
第 11 回:＜第8課続き＞時刻・天気・曜日、動詞 partir、finir、＜第9課＞動詞 aller,
第 12 回:＜第9課続き＞venir、定冠詞の縮約、中性代名詞 y、交通手段
第 13 回:＜第10課＞部分冠詞、動詞 prendre、命令文、強勢形、動詞 boire、飲み物、食べ物
第 14 回:a:定期試験
　　b:全体の振り返りと試験の解答解説
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業中の口頭、筆記での応答、演習への参加、課題提出が平常点となる。
基本的な解説は毎回、授業の前に音声入りパワーポイントなどでクラスウェブに提示される。
必ずダウンロードし予習をすること。
授業の後は、クラスウェブから課題を提出すること。
予習、授業、課題提出の際には辞書が必須である。
秋学期に初級フランス語ＩＢを履修のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

クラスウェブに提示されたパワーポイント、pdf などの授業資料をダウンロードし、視聴し、指示に従って例題に取り組む。
授業に参加後は、指示された課題を pdf ファイルでクラスウェブから提出する。
仏和辞典は必須である。

教科書

「ケスクセ？(改訂版)」伊勢・谷口・サラニョン著(白水社)

参考書

辞書は、次のもののうちいずれかまたは同等の電子版を必ず用意すること。(必ずしも最新版である必要はなく、古いものでも構わない)
プチ・ロワイヤル仏和辞典 第５版(旺文社)(小型版あり)
クラウン仏和辞典 第７版(三省堂)
ベーシッククラウン仏和・和仏辞典 小型版(三省堂)
ディコ仏和辞典[新装版](白水社)
プログレッシブ仏和辞典 第２版(小学館)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解答できなかったものはクラスウェブの「授業内容・資料」欄にアップされる。
質問・連絡等の宛先は、課題にメールアドレスが記載されている。

成績評価の方法

定期試験50%＋平常点50%
平常点は、毎週の課題提出、授業中の発表などからなる。

その他

クラウン、ル・ディコ、プチ・ロワイヤル、プログレッシヴなど仏和中辞典を用意すること。(各辞書の単語数など詳しい違いは初回授業資料に記載する)

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩA	フランス語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
恒石　知貞	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、フランス語初学者を対象に、フランス語の基礎を身につけることを目的とします。比較的ゆっくりとした進度で、日常のさまざまな場面を素材にした対話や練習問題に取り組みながら、四技能を総合的に高めていきます。とくに音声を重視し、聞き取り、音読・口頭練習を通して、フランス語の音、リズム、イントネーションと基本的な文のしくみに慣れることを目指します。
　到達目標は、DELF A1、実用フランス語検定５級～4 級相当のフランス語運用力を身につけること、すなわち、日常生活における基本的なフランス語を理解し、簡

授業内容

第１回 Introduction : PHONÉTIQUE
　　アルファベ、つづり字記号、発音とつづり
第２回 Leçon 1:挨拶(1)
　　不定冠詞／男性形と女性形／単数形と複数形、疑問文、Oui / Non(肯定文と否定文)
第３回 Leçon 1(続き・文法プリント演習)
第４回 Leçon 2:挨拶(2)
　　名詞・形容詞の男性形／女性形／単数形／複数形、動詞 être／主語人称代名詞、定冠詞／所属
第５回 Leçon 2(続き・文法プリント演習)
第６回 a)中間テスト 1;b)解説
第７回 Leçon 3:コミュニケーション、国／言語／国籍
　　動詞 avoir、il y a の表現(提示)と否定の de、定冠詞／指示形容詞、人称代名詞／強勢形
第８回 Leçon 3(続き・文法プリント演習)
第９回 Leçon 4:時間、丁寧な表現
　　所有形容詞、疑問形容詞／感嘆文、…もまた(～ない)、人称代名詞(続き)
第 10 回 Leçon 4(続き・文法プリント演習)
第 11 回 a)中間テスト 2;b)解説
第 12 回 Leçon 5:カレンダー、月名、曜日、序数
　　動詞 aller／前置詞 à ／縮約形(1)、動詞 venir／前置詞 de／縮約形(2)、近接未来
第 13 回 Leçon 5(続き・文法プリント演習)
第 14 回 a)期末テスト;b)解説

履修上の注意

1）この授業で使用する教科書は、4技能の土台となる、文法と発音を習得するべく、実践的にフランス語のルールを体得していくことを目的として構成されています。授業に出席し、「聞く、発音する、理解する、話す」プロセスを通して、フランス語を体得してください。
2）授業では辞書を使用し、問題演習を行います。毎回必ず辞書を持参してください。
3）問題演習の後は、一人ひとりが順に指名され、フランス語で回答を発表してもらいます。間違いを恐れず、できるだけ多く練習することが上達の鍵となります。
4）授業で扱えなかった問題は宿題としますが、それにとどまらず、日常的に少しでもフランス語に触れることで、学習効果はより高まります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1）予習は特に課しません。復習に力を入れてください。
2）復習として、問題演習や綴り・活用の確認に加え、とくに(音声を聞き)声に出して読むことを強くおすすめします。
3）試験に向けては、「語彙リストを作成して暗記する」「日本語からフランス語に訳す仏作文の練習を行う」など、主体的に学習に取り組んでください。

教科書

『Ａl'oreille！ア・ロレイユ！実践しながら身につける初級フランス語』セルジュ・ジュンタ、関美玲、朝日出版社

参考書

紙または電子版の辞書を必ず用意してください。初学者には紙をおすすめします。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で解説します。

成績評価の方法

授業への参加度(20%)、中間テスト 1(20%)、中間テスト 2(20%)、期末テスト(40%)

その他

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＡ	フランス語ＩＡ	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 弘崇	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

短い会話文を読みながらフランス語文法の基礎を学びます。フランス語のルールを覚えることが中心の講義ですが、フランス語の正確な発音ができるように音読の練習も行います。フランス語の読解の基礎と正確な発音を身につけ、仏検4級程度の語学レベルに到達することを目指します。

授業内容

第1回：イントロダクションとフランス語の読み方・表記、挨拶、基数詞 1～20
第2回：提示表現、不定冠詞・定冠詞、名詞の性数
第3回：不規則動詞« etre »、主語人称代名詞、定冠詞の縮約
第4回：不規則動詞« avoir »、疑問文、形容詞、強制形
第5回：否定文、名詞・形容詞の特殊形、基数詞 21～60
第6回：第１群規則動詞、指示形容詞、基数詞 61～100
第7回：第２群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞、疑問詞
第8回：不規則動詞« aller / venir / faire »、非人称構文
第9回：不規則動詞« prendre »、命令法、時間表現、序数
第 10 回：「フランスの学生生活」、前置詞
第 11 回：直接目的補語人称代名詞、比較級
第 12 回：間接目的補語人称代名詞、最上級
第 13 回：「パン、ワイン、チーズ」「キッシュのつくりかた」
第 14 回：「a:試験　b:正答解答」

履修上の注意

春学期、秋学期を通じての履修が望ましいです。

準備学習(予習・復習等)の内容

各課で「練習問題」が課されているのできちんと復習をした上で次回授業に臨むようにし、講義には教科書を必ず持参すること。また、必要に応じて適宜プリントを配布します。

教科書

『Amicalement @+　アミカルマン　プリュス』、澤田直、駿河台出版社

参考書

『でる順　仏検単語集　5級～2 級準備レベル』、久松健一、駿河台出版社

課題に対するフィードバックの方法

授業中に取り組む演習問題については同授業内で解説を行い、学期末テストについては Oh-o!Meiji 上に配布資料をアップロードしてフィードバックを行います。

成績評価の方法

出席3分の2以上で定期試験の受験資格を得る。平常点(出席、小テスト、発表)30%、定期試験 70%

その他

特にありません。

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＡ	フランス語ＩＡ	
担 当 者	開講期	開講地区
八木 淳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
フランス語の初級文法の前半つまり入門から過去形の一つである「複合過去」までの各事項を説明し，練習問題の演習を通して習熟度を高めて行きます。また，和訳問題を解いてもらい，応用力を養います。
《到達目標》
フランス語の文章読解や会話に必要な初級文法(前半)の習得を目ざします。単に文法規則を覚えるだけでなく，平易な文章が理解できるような読解力を身につけます。

授業内容

以下の項目に従い、まず、文法規則の説明をします。次に、練習問題を通して、理解を深めます。さらに、文章読解により、応用力を高めます。
第1回：名詞の性(男性名詞と女性名詞)、名詞の数(単数形と複数形)、名詞の特殊な女性形と複数形を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第2回：不定冠詞と提示表現を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第3回：主語人称代名詞と第二群規則動詞の現在形の活用を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第4回：所有形容詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第5回：形容詞の女性形と複数形を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第6回：否定文の作り方を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第7回：疑問代名詞と疑問副詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第8回：非人称構文と天候表現を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第9回：補語人称代名詞(直接目的補語)を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 10 回：所有代名詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 11 回：否定命令法を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 12 回：être を用いる直説法複合過去を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 13 回：代名動詞の複合過去を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 14 回：過去分詞の一致を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。春学期のまとめをします。

履修上の注意

フランス語の学習は、ほとんどの生徒にとってゼロからのスタートになると思います。授業は早い進度で進んで行きます。遅れぬよう、皆さんの積極的な学習を望みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

《予習》
授業時間の最後に、あらかじめ次の授業の予定をお知らせします。教科書の所定箇所をよく読み、学習する事項を把握をしておいてください。(予習時間1時間程度。)
《復習》
授業で終了した事項について、確認のためのプリントを適宜配布します。教科書とノートをよく読み、練習問題を解いておいてください。(復習時間1時間程度。)

教科書

『新システマティックフランス語文法』, 倉方秀憲著, 早美出版社。

参考書

『新フランス文法事典』、朝倉季雄著, 白水社。
『現代フランス広文典』、目黒士門著, 白水社。
『これならわかるフランス語文法』, 六鹿豊著, NHK 出版。
『コレクション・フランス語(3)：文法』, 田島宏編, 白水社。

課題に対するフィードバックの方法

習熟度を確認するため試験を合計 4 回実施しますが，各試験の後，同じ授業内で問題の詳しい解説および関連する文法事項の復習を行います。

成績評価の方法

中間テスト3回 60%、期末テスト 20%、授業への貢献度 20%とし、総合的に評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＡ	フランス語ＩＡ	
担 当 者	開講期	開講地区
藤井 宏尚	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語文法の基礎を学びながら、語彙も増やしていく。動詞を中心とした学習を通して、できるだけ多くの練習問題を解く。文法の説明のための簡単な文の訳から出発し、文と文の連なりであるより複雑な文章を読解する力をつけることをめざす。

授業内容

1.－2. 春学期導入とアルファベ
3.－4. 名詞の性数と冠詞
5.－6. 主語人称代名詞と動詞 etre/avoir
7.－8. 形容詞と第一群規則動詞
9.－10. 否定文と疑問文
11.－12. 指示形容詞と提示の表現
13.－14. 所有形容詞と疑問形容詞
15.－16. 動詞 aller/venir と前置詞
17.－18. 疑問代名詞と疑問副詞
19.－20. 比較級/最上級と第二群規則動詞
21.－22. 命令形と非人称表現
23.－24. 補語人称代名詞と強勢形
25.－26. 過去分詞と複合過去(1)
27.－28. 過去分詞と複合過去(2)

履修上の注意

基本的には受講者の自主性を重んじるので，積極的な態度で授業に臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

基本的には復習を中心に考える。問題演習、発音練習、動詞活用テスト等、さまざまな課題にしっかり取り組んでもらいたい。各課ごとに実施する復習テストを重視する。

教科書

「新システマティック・フランス語文法」(早美出版社)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

授業への参加度 20%＋課題提出 20%＋各課復習テスト 60%

その他

フランス語検定を受ける学生はフォローする。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＡ	フランス語ＩＡ	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 弘崇	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

短い会話文を読みながらフランス語文法の基礎を学びます。フランス語のルールを覚えることが中心の講義ですが、フランス語の正確な発音ができるように音読の練習も行います。フランス語の読解の基礎と正確な発音を身につけ、仏検4級程度の語学レベルに到達することを目指します。

授業内容

第1回:イントロダクションとフランス語の読み方・表記、挨拶、基数詞 1～20
第2回:提示表現、不定冠詞・定冠詞、名詞の性数
第3回:不規則動詞« etre »、主語人称代名詞、定冠詞の縮約
第4回:不規則動詞« avoir »、疑問文、形容詞、強制形
第5回:否定文、名詞・形容詞の特殊形、基数詞 21～60
第6回:第１群規則動詞、指示形容詞、基数詞 61～100
第7回:第２群規則動詞、所有形容詞、部分冠詞、疑問詞
第8回:不規則動詞« aller / venir / faire »、非人称構文
第9回:不規則動詞« prendre »、命令法、時間表現、序数
第 10 回:「フランスの学生生活」、前置詞
第 11 回:直接目的補語人称代名詞、比較級
第 12 回:間接目的補語人称代名詞、最上級
第 13 回:「パン、ワイン、チーズ」「キッシュのつくりかた」
第 14 回:「a:試験 b:正答解答」

履修上の注意

春学期、秋学期を通じての履修が望ましいです。

準備学習(予習・復習等)の内容

各課で「練習問題」が課されているのできちんと復習をした上で次回授業に臨むようにし、講義には教科書を必ず持参すること。また、必要に応じて適宜プリントを配布します。

教科書

『Amicalement @+ アミカルマン プリュス』、澤田直、駿河台出版社

参考書

『でる順 仏検単語集 5級～2 級準備レベル』、久松健一、駿河台出版社

課題に対するフィードバックの方法

授業中に取り組む演習問題については同授業内で解説を行い、学期末テストについては Oh-o!Meiji 上に配布資料をアップロードしてフィードバックを行います。

成績評価の方法

出席3分の2以上で定期試験の受験資格を得る。平常点(出席、小テスト、発表)30%、定期試験 70%

その他

特にありません。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩA	フランス語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美緒	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語を初めて学ぶ方を対象にした初級文法の授業です。1 年間を終えると、フランス語検定 4 級から 3 級レベルの文法が身につきます。いろいろな生活シーンで使える作文力も身につけましょう。

This is a class for beginners to learn basic grammar. You can finally approach the fourth to third level of the French language test. You will also gain compositi

授業内容

1 回または 2 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。文法事項の説明のあとに教科書の練習問題で確認をしてから、プリント等で定着をはかります。速度はようすを見ながら調整します。

We will advance 1 lesson per 1 or 2 classes. After the grammar explanation, check it while solving exercises. The pace of this class suit the members.

第1回 Leçon 0 「準備体操」発音とつづり字
第2回 Leçon 1 「冠詞」冠詞、動詞 être、動詞 avoir の人称変化
第3回 Leçon 2 「第一群規則動詞」-er 動詞、否定文、疑問文
第4回 Leçon 3 「第二群規則動詞」-ir 動詞、命令法、動詞 partir
第5回 Leçon 3 「疑問副詞」疑問文の種類と語順
第6回 Leçon 4 「不規則動詞-1」動詞 faire, prendre、否定の de
第7回 Leçon 5「形容詞」女性形・複数形、所有形容詞
第8回 Leçon 6「不規則動詞-2」動詞 aller, venir、近接未来・近接過去
第9回 Leçon 6「定冠詞の縮約」前置詞、場所の名称、国名
第 10 回 Leçon 7「比較級・最上級」
第 11 回 Leçon 7「疑問形容詞」助動詞 vouloir, pouvoir, devoir
第 12 回 Leçon 8「非人称構文」Il faut, Il fait 等
第 13 回 Leçon 8「目的補語人称代名詞」直接目的語・間接目的語
第 14 回 試験とまとめ 筆記試験

履修上の注意

文法の基礎をしっかり身に着ける授業です。小テストや練習問題で確認しながら進めましょう。わからないところはそのつど、授業時に確認しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

15～30 分程度で終わる、プリントの宿題が出ることがあります。

教科書

『文法と文化で学ぶ 基礎フランス語』近江屋 志穂 著(朝日出版社)

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブ上で添削、または添削した課題を教室で返却します。

成績評価の方法

成績評価:
平常点(授業への参加と発言)40%
授業内小テスト、課題 20%
学期末テスト(授業最終日に実施される筆記試験) 40%
試験方法:
・この授業は「期間前試験」を行う科目のため、学期末試験は「試験期間中」ではなく通常授業の最終日に授業時間内に行います。
・ 試験実施方法は今後事情により変更される場合もあります。その際は都度お知らせいたします。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩA	フランス語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美緒	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語初級で学ぶ文法事項をプリント等で確認しながら 1 年間で学習する授業です。一般クラスの授業の予復習や会話・講読クラスの解説も行う寺子屋的な雰囲気の中で個々に合わせた進度を目指します。最終的にはフランス語検定 4 級レベルのフランス語力を総合的に身につけることを目指します。

授業内容

1回の授業でひとつ文法事項を学習します。1 レッスンを1回から2回の授業で進む予定です。
1 回目:Leçon1,2 冠詞、提示の表現1、数字
2 回目:Leçon3 動詞 être と avoir、提示の表現2
3 回目:Leçon4 形容詞 1、国籍・職業・身分
4 回目:Leçon4 否定文
5 回目:Leçon5 -er 動詞、疑問文
6 回目:Leçon6 指示形容詞・所有形容詞
7 回目:Leçon6 -ir 動詞
8 回目:Lecon7 疑問形容詞、形容詞 2
9 回目:Leçon8 動詞 aller,venir、縮約、近接未来・近接過去
10 回目:Leçon8 中性代名詞 y(と en)
11 回目:Leçon9 疑問代名詞 qui,que
12 回目:Leçon9 疑問副詞、動詞 faire,prendre
13 回目:Leçon10 比較級・最上級、強勢形
14 回目:復習と期末試験

履修上の注意

解説した文法事項を練習問題を積み重ねることで身につける方式のため、毎回の授業中の作業が大切です。やむなく欠席した場合には、クラスウェブに上がるプリントを自身でよく練習しておきましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時にプリントを使って練習した内容を復習して次回の 5 題程度の確認プリントにそなえる。

教科書

『ラ・フォーレ』森繁著(朝日出版社)ISBN:978-4-255-35368-5 C1085

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブまたは教室で授業時に配布する練習問題は、添削したのち教室で返却します。

成績評価の方法

出席と積極な授業への参加 40%、期末試験と授業内の練習問題 60%で評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩA	フランス語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

この授業では、初級フランス語の習得が不十分な人たちを対象として、初級文法の前半程度を学習し、現在形の簡単な文章が読めるようになることを目指します。そして、フランスのテレビ・ニ

授業内容

各回の内容は、文法事項で示すと次のようになります。

第1回　アルファベの読み方、綴り字の読み方
第2回　名詞の性と数、不定冠詞
第3回　部分冠詞、定冠詞
第4回　Il y a などの慣用表現
第5回　主語人称代名詞、規則動詞(―er 動詞と―ir 動詞)
第6回　基本動詞の直説法現在
第7回　否定形、疑問文に対する答え、指示形容詞
第8回　形容詞の位置、形容詞の女性形、名詞の複数形・形容詞の複数形
第9回　形容詞の前の不定冠詞(複数) des→de、不規則動詞 aller, venir の直説法現在
第 10 回　冠詞の縮約(à+定冠詞, de+定冠詞)、形容詞の女性形
第 11 回　疑問形容詞、不規則動詞 faire, prendre mettre, attendre の直説法現在
第 12 回　命令形、所有形容詞、不規則動詞 partir, vouloir, pouvoir, devoir の直説法現在
第 13 回　形容詞・副詞の比較級・最上級
第 14 回　a 期末試験 / b 正答解説

履修上の注意

受講姿勢(問題演習に取り組む姿勢など)も重視するので、テストの苦手な人はその点で頑張りましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業で扱う課題文や練習問題を、繰り返し音読しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩB	フランス語ＩB	
担 当 者	開講期	開講地区
永倉 千夏子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈概要〉
フランス語の基本的な構造を学び、読む、書く、聞く、話すの基礎的運用を身につける。
〈到達目標〉
教科書の例文または同じレベルの文を聞き、読み、書き、応答できる。

授業内容

第1回:＜第 11 課＞近接未来、近接過去
第2回:＜第 11 課続き＞動詞 devoir, pouvoir, vouloir、今週末にすること／しなければならないこと／したいことを話す、数詞 70～
第3回:＜第 12 課＞助動詞 avoir の複合過去とその否定形
第4回:＜第 12 課続き＞助動詞 etre の複合過去とその否定形、最近したことを話す、生年・没年を言う
第5回:＜第 13 課＞代名動詞の直説法現在、1 日の生活を話す
第6回:＜第 13 課続き＞代名動詞の複合過去、先週末の生活を話す
第7回:中間まとめ試験、＜第 14 課＞動詞 connaitre、attendre、直接・間接の補語人称代名詞
第8回:＜第 14 課続き＞直接・間接の補語人称代名詞続き、動詞 dire、＜第 15 課＞半過去と複合過去
第9回:＜第 16 課＞動詞 savoir、関係代名詞、指示代名詞
第 10 回:＜第 17 課＞単純未来、未来のことを話す
第 11 回:＜第 18 課＞条件法現在、したいことを話す
第 12 回:＜第 19 課＞現在分詞、ジェロンディフ
第 13 回:＜第 20 課＞接続法現在、しなければならないことを話す
第 14 回:a:定期試験
b:全体の振り返りと試験の解答解説
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

授業中の口頭、筆記での応答、演習への参加、課題提出が平常点となる。
基本的な解説は毎回、授業の前にパワーポイントなどでクラスウェブに提示される。
必ずダウンロードし予習をすること。
授業の後は、クラスウェブから課題を提出すること。
予習、授業、課題提出の際には辞書が必須である。
春学期に初級フランス語ＩA を履修のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

クラスウェブに提示されたパワーポイント、pdf などの授業資料をダウンロードし、視聴し、指示に従って例題に取り組む。
授業に参加後は、指示された課題を pdf ファイルでクラスウェブから提出する。
仏和辞典は必須である。

教科書

「ケスクセ？(改訂版)」伊勢・谷口・サラニョン著(白水社)

参考書

辞書は、次のもののうちいずれかまたは同等の電子版を必ず用意すること。(必ずしも最新版である必要はなく、古いものでも構わない)
プチ・ロワイヤル仏和辞典 第 5 版(旺文社)(小型版あり)
クラウン仏和辞典 第 7 版(三省堂)
ベーシッククラウン仏和・和仏辞典 小型版(三省堂)
ディコ仏和辞典[新装版](白水社)
プログレッシブ仏和辞典 第 2 版(小学館)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解答できなかったものはクラスウェブの「授業内容・資料」欄にアップされる。
質問・連絡等の宛先は、課題にメールアドレスが記載されている。

成績評価の方法

定期試験50%＋平常点50%
平常点は、毎週の課題提出、授業中の発表などからなる。

その他

クラウン、ル・ディコ、プチ・ロワイヤル、プログレッシヴなど仏和中辞典を用意すること。(各辞書の単語数など詳しい違いは初回授業資料に記載する)

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
恒石 知貞	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、フランス語初学者を対象に、フランス語の基礎を身につけることを目的とします。比較的ゆっくりとした進度で、日常のさまざまな場面を素材にした対話や練習問題に取り組みながら、四技能を総合的に高めていきます。とくに音声を重視し、聞き取り、音読・口頭練習を通して、フランス語の音、リズム、イントネーションと基本的な文のしくみに慣れることを目指します。

到達目標は、DELF A1、実用フランス語検定５級～4 級相当のフランス語運用力を身につけること、すなわち、日常生活における基本的なフランス語を理解し、簡

授業内容

第１回 Leçon 6:尋ねる／提案する、…が好きですか？
部分冠詞、代名詞 en＋数量表現／質問に対する返答:「はい」「いいえ」
第２回 Leçon 6(続き・文法プリント演習)
第３回 Leçon 7:気象、フランスの四季
人称代名詞(直接目的補語と間接目的補語)、準助動詞(vouloir, pouvoir, devoir)、代名詞の位置、代名詞 y、命令形
第４回 Leçon 7(続き・文法プリント演習)
第５回 a)中間テスト 1;b)解説
第６回 Leçon 8:レストランにて
疑問代名詞／指示代名詞、助動詞 avoir をとる複合過去形、近接過去
第７回 Leçon 8(続き・文法プリント演習)
第８回 Leçon 9:交通手段
代名詞動詞、助動詞 être をとる複合過去形、代名動詞の複合過去形
第９回 Leçon 9(続き・文法プリント演習)
第10回 a)中間テスト 2;b)解説
第11回 Leçon 10:紹介、祝辞・賛辞、激励、歓喜
代名詞の命令形、関係代名詞 qui, que / 関係副詞 où、直接法半過去
第12回 Leçon 10(続き・演習)
第13回 総復習(文法プリント演習)
第14回 a)期末テスト;b)解説

履修上の注意

1）この授業で使用する教科書は、4技能の土台となる、文法と発音を習得するべく、実践的にフランス語のルールを体得していくことを目的として構成されています。授業に出席し、「聞く、発音する、理解する、話す」プロセスを通して、フランス語を体得してください。
2）授業では辞書を使用し、問題演習を行います。毎回必ず辞書を持参してください。
3）問題演習の後は、一人ひとりが順に指名され、フランス語で回答を発表してもらいます。間違いを恐れず、できるだけ多く練習することが上達の鍵となります。
4）授業で扱えなかった問題は宿題としますが、それにとどまらず、日常的に少しでもフランス語に触れることで、学習効果はより高まります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1）予習は特に課しません。復習に力を入れてください。
2）復習として、問題演習や綴り・活用の確認に加え、とくに(音声を聞き)声に出して読むことを強くおすすめします。
3）試験に向けては、「語彙リストを作成して暗記する」「日本語からフランス語に訳す仏作文の練習を行う」など、主体的に学習に取り組んでください。

教科書

『Ａl'oreille！ア・ロレイユ！実践しながら身につける初級フランス語』セルジュ・ジュンタ、関美玲、朝日出版社

参考書

紙または電子版の辞書を必ず用意してください。初学者には紙をおすすめします。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で解説します。

成績評価の方法

授業への参加度(20%)、中間テスト 1(20%)、中間テスト 2(20%)、期末テスト(40%)

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 弘崇	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

短い会話文を読みながらフランス語文法の基礎を学びます。フランス語のルールを覚えることが中心の講義ですが、フランス語の正確な発音ができるように音読の練習も行います。フランス語の読解の基礎と正確な発音を身につけ、仏検4級程度の語学レベルに到達することを目指します。

授業内容

第1回:春学期の復習
第2回:代名動詞
第3回:不規則動詞« pouvoir / vouloir / devoir »、疑問形容詞
第4回:複合過去形①、「ブルターニュ」
第5回:複合過去形②、否定の表現
第6回:半過去形、複合過去形と半過去形の使い分け
第7回:関係代名詞、強調構文、「アルザス」
第8回:受動態、接続詞« que »の用法
第9回:単純未来形、時間を表す表現、「世界におけるフランス語」
第10回:ジェロンディフ、感嘆文、中性代名詞« y / en »
第11回:比較級・最上級についての補足、「ブルターニュ地方の料理」
第12回:「フランス史における偉人」
第13回:条件法現在形、シチュエーションに応じた表現
第14回:「a:試験 b:正答解答」

履修上の注意

春学期、秋学期を通じての履修が望ましいです。

準備学習(予習・復習等)の内容

各課で「練習問題」が課されているのできちんと復習をした上で次回授業に臨むようにし、講義には教科書を必ず持参すること。また、必要に応じて適宜プリントを配布します。

教科書

『Amicalement @+ アミカルマン プリュス』、澤田直、駿河台出版社

参考書

『でる順 仏検単語集 5級～2 級準備レベル』、久松健一、駿河台出版社

課題に対するフィードバックの方法

授業中に取り組む演習問題については同授業内で解説を行い、学期末テストについては Oh-o!Meiji 上に配布資料をアップロードしてフィードバックを行います。

成績評価の方法

出席3分の2以上で定期試験の受験資格を得る。平常点(出席、小テスト、発表)30%、定期試験 70%

その他

特にありません。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
八木 淳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
フランス語の初級文法の後半つまり過去形の一つである「半過去」から「直接話法と間接話法」までの各事項を説明し，練習問題の演習を通して習熟度を高めて行きます。また，和訳問題を解いてもらい，応用力を養います。
《到達目標》
フランス語の文章読解や会話に必要な初級文法(後半)の習得を目ざします。単に文法規則を覚えるだけでなく，平易な文章が理解できるような読解力を身につけます。

授業内容

以下の項目に従い、まず、文法規則の説明をします。次に、練習問題を通して、理解を深めます。さらに、文章読解により、応用力を高めます。
第1回:半過去を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第2回:受動態を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第3回:4つの基本的な関係代名詞を習得します練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。。
第4回:形容詞と副詞の比較級と最上級を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第5回:中性代名詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第6回:単純未来を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第7回:直説法前未来を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第8回:過去分詞の形容詞的用法を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第9回:条件法過去を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 10 回:様々な不規則動詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 11 回:接続法過去を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 12 回:強調構文を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 13 回:直説法前過去を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 14 回:時制の一致を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。秋学期のまとめをします。

履修上の注意

フランス語の学習は、ほとんどの生徒にとってゼロからのスタートでしたが、秋学期からも、同じ気持ちで望みます。授業は早い進度で進んで行きます。遅れぬよう、皆さんの積極的な学習を望みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

《予習》
授業時間の最後に、あらかじめ次の授業の予定をお知らせします。教科書の所定箇所をよく読み、学習する事項を把握をしておいてください。(予習時間1時間程度。)
《復習》
授業で終了した事項について、確認のためのプリントを適宜配布します。教科書とノートをよく読み、練習問題を解いておいてください。(復習時間1時間程度。)

教科書

『新システマティックフランス語文法』, 倉方秀憲著, 早美出版社。

参考書

『新フランス文法事典』、朝倉季雄著, 白水社。
『現代フランス広文典』、目黒士門著, 白水社。
『これならわかるフランス語文法』, 六鹿豊著, NHK 出版。
『コレクション・フランス語(3):文法』, 田島宏編, 白水社。

課題に対するフィードバックの方法

習熟度を確認するため試験を合計 4 回実施しますが，各試験の後，同じ授業内で問題の詳しい解説および関連する文法事項の復習を行います。

成績評価の方法

中間テスト3回 60%、期末テスト 20%、授業への貢献度 20%とし、総合的に評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
藤井 宏尚	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語文法の基礎を学びながら、語彙も増やしていく。動詞を中心とした学習を通して、できるだけ多くの練習問題を解く。文法の説明のための簡単な文の訳から出発し、文と文の連なりであるより複雑な文章を読解する力をつけることをめざす。

授業内容

1.－2. 半過去
3.－4. 大過去
5.－6. 受動態
7.－8. 関係代名詞
9.－10. 比較級
11.－12. 最上級
13.－14. 中性代名詞
15.－16. 単純未来
17.－18. 前未来
19.－20. 現在分詞
21.－22. 条件法
23.－24. 接続法
25.－26. 前過去
27.－28. 話法

履修上の注意

基本的には受講者の自主性を重んじるので，積極的な態度で授業に臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

基本的には復習を中心に考える。問題演習、発音練習、動詞活用テスト等、さまざまな課題にしっかり取り組んでもらいたい。各課ごとに実施する復習テストを重視する。

教科書

「新システマティック・フランス語文法」(早美出版社)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

授業への参加度 20%＋課題提出 20%＋各課復習テスト 60%

その他

フランス語検定を受ける学生はフォローする。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 弘崇	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
短い会話文を読みながらフランス語文法の基礎を学びます。フランス語のルールを覚えることが中心の講義ですが、フランス語の正確な発音ができるように音読の練習も行います。フランス語の読解の基礎と正確な発音を身につけ、仏検4級程度の語学レベルに到達することを目指します。

授業内容
第1回:春学期の復習
第2回:代名動詞
第3回:不規則動詞« pouvoir / vouloir / devoir »、疑問形容詞
第4回:複合過去形①、「ブルターニュ」
第5回:複合過去形②、否定の表現
第6回:半過去形、複合過去形と半過去形の使い分け
第7回:関係代名詞、強調構文、「アルザス」
第8回:受動態、接続詞« que »の用法
第9回:単純未来形、時間を表す表現、「世界におけるフランス語」
第 10 回:ジェロンディフ、感嘆文、中性代名詞« y / en »
第 11 回:比較級・最上級についての補足、「ブルターニュ地方の料理」
第 12 回:「フランス史における偉人」
第 13 回:条件法現在形、シチュエーションに応じた表現
第 14 回:「a:試験　b:正答解答」

履修上の注意
春学期、秋学期を通じての履修が望ましいです。

準備学習(予習・復習等)の内容
各課で「練習問題」が課されているのできちんと復習をした上で次回授業に臨むようにし、講義には教科書を必ず持参すること。また、必要に応じて適宜プリントを配布します。

教科書
『Amicalement @+ アミカルマン プリュス』、澤田直、駿河台出版社

参考書
『でる順 仏検単語集 5級～2 級準備レベル』、久松健一、駿河台出版社

課題に対するフィードバックの方法
授業中に取り組む演習問題については同授業内で解説を行い、学期末テストについては Oh-o!Meiji 上に配布資料をアップロードしてフィードバックを行います。

成績評価の方法
出席3分の2以上で定期試験の受験資格を得る。平常点(出席、小テスト、発表)30%、定期試験 70%

その他
特にありません。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美緒	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
フランス語を初めて学ぶ方を対象にした初級文法の授業です。1 年間を終えると、フランス語検定 4 級から 3 級レベルの文法が身につきます。いろいろな生活シーンで使える作文力も身につけましょう。
This is a class for beginners to learn basic grammar. You can finally approach the fourth to third level of the French language test. You will also gain compositi

授業内容
1 回または 2 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。文法事項の説明のあとに教科書の練習問題で確認をしてから、プリント等で定着をはかります。速度はようすを見ながら調整します。
We will advance 1 lesson per 1 or 2 classes. After the grammar explanation, check it while solving exercises. The pace of this class suit the members.
第1回 Leçon 9「中性代名詞」y, en, le
第2回 Leçon 9 「疑問代名詞」疑問文の復習
第3回 Leçon 10 「複合過去-1」être, avoir の使い分け
第4回 Leçon 10「複合過去-2」疑問文、否定文、過去分詞の一致
第5回 Leçon 11 「関係代名詞」qui, que, sont, où
第6回 Leçon 11「強調構文」強勢形、指示代名詞
第7回 Leçon 12 「現在分詞・ジェロンディフ」受動態
第8回 Leçon 13 「代名動詞」倒置疑問、否定、
第9回 Leçon 14「代名動詞の複合過去」過去分詞の一致
第 10 回 Leçon 15「半過去」複合過去との比較
第 11 回 Leçon 15「単純未来」近接未来との比較
第 12 回 Appendice 2 「条件法」条件法現在・過去
第 13 回 Appendice 3「接続法」接続法現在・過去
第 14 回 試験とまとめ 筆記試験

履修上の注意
文法の基礎をしっかり身に着ける授業です。小テストや練習問題で確認しながら進めましょう。わからないところはその都度、授業時に確認しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容
15～30 分程度で終わる、プリントの宿題が出ることがあります。

教科書
『文法と文化で学ぶ 基礎フランス語』近江屋 志穂 著(朝日出版社)

参考書
特にありません。

課題に対するフィードバックの方法
クラスウェブ上で添削、または添削した課題を教室で返却します。

成績評価の方法
成績評価:
平常点(授業への参加と発言)40%
授業内小テスト、課題 20%
学期末テスト(授業最終日に実施される筆記試験) 40%
試験方法:
・この授業は「期間前試験」を行う科目のため、学期末試験は「試験期間中」ではなく通常授業の最終日に授業時間内に行います。
・ 試験実施方法は今後事情により変更される場合もあります。その際は都度お知らせいたします。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
中村 美緒	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語初級で学ぶ文法事項をプリント等で確認しながら１年間で学習する授業です。一般クラスの授業の予復習や会話・講読クラスの解説も行う寺子屋的な雰囲気の中で個々に合わせた進度を目指します。最終的にはフランス語検定４級レベルのフランス語力を総合的に身につけることを目指します。

授業内容

1回の授業でひとつ文法事項を学習します。1レッスンを1回から2回の授業で進む予定です。
1回目:Leçon11 命令法、動詞 devoir,mettre
2回目:Leçon11 非人称構文、中性代名詞 en(と y)
3回目:Leçon12 目的語になる代名詞
4回目:Leçon13 複合過去
5回目:Leçon14 代名動詞
6回目:Leçon15 関係代名詞、指示代名詞
7回目:Leçon16 半過去(と複合過去)
8回目:Leçon16 半過去(と複合過去)
9回目:Leçon17 受動態(と過去分詞の一致)
10回目:Leçon17 現在分詞とジェロンディフ
11回目:Leçon18 単純未来、中性代名詞 le
12回目:Leçon19 条件法
13回目:Leçon20 接続法
14回目:復習と期末試験

履修上の注意

解説した文法事項を練習問題を積み重ねることで身につける方式のため、毎回の授業中の作業が大切です。やむなく欠席した場合には、クラスウェブに上がるプリントを自身でよく練習しておきましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業時にプリントを使って練習した内容を復習して次回の５題程度の確認プリントにそなえる。

教科書

『ラ・フォーレ』森繁著(朝日出版社)ISBN:978-4-255-35368-5 C1085

参考書

特にありません。

課題に対するフィードバックの方法

クラスウェブまたは教室で授業時に配布する練習問題は、添削したのち教室で返却します。

成績評価の方法

出席と積極な授業への参加 40%、期末試験と授業内の練習問題 60%で評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ＩＢ	フランス語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。
外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。
この授業では、初級フランス語の習得が不十分な人たちを対象として、様々な時制の出てくる初級文法後半程度の知識を身につけ、時制の混ざった文章が読めるようになることを目指します。そ

授業内容

各回の内容は、文法事項で示すと次のようになります。
第1回 過去分詞、直説法複合過去(前)
第2回 過去分詞、直説法複合過去(後)
第3回 特殊な優等比較級・最上級、不規則動詞 voir, savoir, dire, recevoir の直説法現在
第4回 関係代名詞
第5回 疑問代名詞
第6回 人称代名詞、直接目的補語と過去分詞の一致
第7回 受動態
第8回 指示代名詞、強調構文
第9回 代名動詞
第 10 回 非人称構文
第 11 回 直説法単純未来
第 12 回 中性代名詞 le, en, y
第 13 回 直説法半過去
第 14 回 a 期末試験 / b 正答解説

履修上の注意

受講姿勢(問題演習に取り組む姿勢など)も重視するので、テストの苦手な人はその点で頑張りましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・授業で扱う課題文や練習問題を、繰り返し音読しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『ル・フランセ』斎藤昌三著(白水社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡA	フランス語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

この授業では、初級文法前半程度の知識を身につけ、現在形の簡単な文章が読めるようになることを目指します。そして、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活

授業内容

受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。

第1回　アルファベ、綴り字の読み方
第2回　主語人称代名詞、基本動詞の活用
第3回　国籍を表す形容詞
第4回　名詞と不定冠詞、指示代名詞 ce
第5回　形容詞の性数一致と位置
第6回　規則動詞の活用、定冠詞
第7回　疑問文
第8回　指示形容詞 ce、動詞 avoir の活用
第9回　否定文、動詞 aller と近接未来
第10回 疑問代名詞 que, qui
第11回 不規則動詞 faire, partir
第12回 所有形容詞、疑問形容詞
第13回 強勢形、指示代名詞 celui
第14回 a 期末試験 / b 正答解説

履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・次回の授業の読解個所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう(辞書を引いて、各自訳しておく)。
・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『パリ・ボルドー』藤田裕二著(朝日出版社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。なお、辞書の選び方は初回授業やクラスウェブで説明します。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(和訳の発表、受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡA	フランス語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
塩谷 優衣	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語文法の基礎を学びます。文法の練習問題に加えて、音読や口頭表現の練習、読解を行う場合があります。初級文法の基本を押さえ、確実に使いこなせるようになることが目標です。

授業内容

第1回 a. 授業概要の説明 b. 綴り字の読み方の基本
第2回 不定冠詞・定冠詞 名詞の性と数
第3回 主語人称代名詞 être 縮約
第4回 avoir 疑問文 形容詞 強勢形
第5回 否定文 否定の de
第6回 -er 動詞 指示形容詞
第7回 a. これまでの内容の復習小テスト b. 解説
第8回 -ir 動詞 所有形容詞 部分冠詞
第9回 aller venir faire
第 10 回　非人称主語
第 11 回　prendre 命令法 時間
第 12 回 人称代名詞(直接目的補語) 比較級
第 13 回　人称代名詞(間接目的補語) 最上級
第 14 回　a. 試験 b. 解説

履修上の注意

遅刻や欠席は絶対にしないでください。仏和辞書を毎回必ず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

小テストや課題の準備を毎回必ず行ってください。復習では授業で扱ったことを振り返るだけでなく、新出単語は辞書をひいて調べ、例文や練習問題文の意味を丁寧に確認するようにしてください。音声データを聞きながら音読し、発音の練習もしてください。

教科書

『アミカルマン〈プリュス〉』 澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

参考書

必要に応じて授業内容を補足するプリントを配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説するか、採点、添削したものを翌回の授業やクラスウェブ上で返却します。

成績評価の方法

平常点(授業内活動への参加、課題、小テスト)60%、試験40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡA	フランス語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
津田 峰子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

第一に、初学者には難所のひとつであるフランス語の音と綴りの関係を学び身に着け、いずれ平易な文章を自力で発音できるようにする。
次に、フランス語習得の要ともなる「動詞の活用」(主語代名詞による動詞の変化)に関しては、毎回小テストを実施し、一定の規則性の定着と暗記を徹底する。
また、基本的な文法事項(仏検5級・4級合格程度)は簡単な日常表現と合わせて理解し、辞書に親しみつつ、新しい語彙を増やしていくことを授業目標とする。

授業内容

毎回授業冒頭に、動詞活用小テスト(5分)、発音トレーニング(5分)を実施する。授業を補足するものとして、聞き取り、文法等の宿題プリント、動詞活用反復練習レポートを提出してもらう。
第1回;授業概要、動詞活用、フランス語の発音の特徴、アルファベ
第2回;綴り字と発音の関係、春学期で学ぶ文法概要
第3回;挨拶のしかた、名前、国籍、職業を言う
第4回;年齢を言う、家族を語る
第5回;年齢をたずねる、好きなものを語る
第6回;フランスの文化を知る
第7回;持ち物を言う
第8回友達について話す
第9回;尋ねる(文法中心)
第 10 回;尋ねる(会話)
第 11 回;近い未来、近い過去のことを語る(文法中心)
第 12 回;近い未来、近い過去のことを語る(会話)
第 13 回;時間・天候を言う(文法中心)
第 14 回;a:試験
b:夏休み宿題と秋学期第一回テストの説明

履修上の注意

1) 最低限の予習(単語調べ、付属 CD を聴くなど)、復習、宿題提出、小テスト参加を欠かさないこと。
2) 飲食、私語、携帯電話の使用等、授業の妨害になる行為は一切禁止。退出してもらう場合もある。
3) 積極的授業参加が認められない場合(準備学習の不足、小テスト不参加、宿題未提出、居眠りも含め)、欠席扱いとする。
★改善が認められない場合には、授業への出席をお断りする場合もある。
4) 講義中の入室、退室は原則として認めない。
5) テキストはもちろん、「(紙媒体の)中辞典」も必ず携帯すること。(「紙媒体の辞書」の恒常的な形態不備も減点、もしくは欠席扱いとする。)
フランス語に関する質問・相談・欠席事由届などは、授業後、 またはクラスウェブ上「教員とのメッセージ」で受け付ける。「クラスウェブに関して」
★クラスウェブ上の「授業日 1 回目前に行うアンケート(自己紹介も兼ねて)」に事前回答(必須)した上で、受講すること。
1)「授業お知らせ」「教員とのメッセージ」などの連絡に注意すること。
2)「クラスウェブ上での宿題提出」の際は、教員からの「フィードバックコメント」を必ず確認すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

1) 配布する発音トレーニング表を使い、フランス語の発音規則に慣れる努力をする。
2) 新しい言語の習得のため、意識的に紙媒体の辞書を引く。
3) 次回の授業に該当する範囲のテキストをノートに写し、日本語訳をつけておく。
4) 単語熟語ノートの作成等、段階的に語彙を増やしていく。
5) 聴き取りの宿題に対応できるよう、テキスト付属の音声を繰り返し聞き、声に出してみる。
6) 小テストの予習復習を通して、動詞活用を暗記する。

教科書

『新・東京一パリ初飛行』、藤田祐二、藤田知子、Sylvie Gilbert 著、(駿河台出版社)。
事前購入が望ましい。無理な場合でも、授業 2 回目以降、必ず持参できるようにしておくこと。

参考書

辞書は、電子辞書、簡易なポケット辞典でなく、必ず「紙媒体の中辞典(古書可)」を使用すること。
辞書の購入は、[初回ガイダンスでの説明を聞いた後]が望ましい。
推奨辞書;「ディコ仏和辞典」白水社 、「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)、「クラウン仏和辞典」(三省堂)
(注意点) ただし「ベーシッククラウン仏和・和仏辞典」は、2 年次まで使用することを考え推奨しない。
★購入した辞書の名称、出版社名は、クラスウェブ上の「アンケート」に届け出(回答必須)てもらうことになるので忘れないようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

実施した小テストや提出された宿題は、1 週間後の授業時に返却、必要に応じて解説する。

成績評価の方法

毎回実施する小テストや宿題の結果、テキスト担当の発表を含む授業参加態度(20%)、定期テストの結果 80%を合わせて評価する。
宿題未提出は一切認めない;「宿題等の未提出」は「受講の意志なし」として、以降の授業参加をお断りするので注意すること。テキストや辞書を繰り返し忘れる場合、また遅刻、居眠りは、減点対象「マイナス 5 点~10 点」、もしくは欠席扱いとなる。
★テキスト担当日の欠席は、「罹患証明可能な病欠以外」原則として認めない。病欠の可能性が出た時点で「教員とのメッセージ」を通し早めに連絡を取り、相談

その他

受講者には、積極的な授業参加はもちろんのこと、辞書を引く、付属の CD を聞き声に出して読む、繰り返し書く等、宿題、小テスト準備以外の自宅学習時間確保が必須であることを明記しておきたい。
クラスウェブにアップされる資料、アンケート、授業お知らせなどは必ず早めに確認し、不明な点等があれば、メッセージにて問い合わせてください。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡA	フランス語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
八木 淳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
フランス語の初級文法の前半つまり入門から過去形の一つである「複合過去」までの各事項を説明し, 練習問題の演習を通して習熟度を高めて行きます。また, 和訳問題を解いてもらい, 応用力を養います。
《到達目標》
フランス語の文章読解や会話に必要な初級文法(前半)の習得を目ざします。単に文法規則を覚えるだけでなく, 平易な文章が理解できるような読解力を身につけます。

授業内容

以下の項目に従い、まず、文法規則の説明をします。次に、練習問題を通して、理解を深めます。さらに、文章読解により、応用力を高めます。
第1回:フランス語の特徴と文法の要点、さらに学習の仕方を説明します。合わせて辞書や参考書などの紹介をします。
第2回:無音の h を説明した後、定冠詞を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第3回:主語人称代名詞と第一群規則動詞の現在形の活用を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第4回:部分冠詞を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第5回:指示形容詞と所有形容詞を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第6回:疑問文の作り方を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第7回:重要な不規則動詞の活用を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第8回:近接未来と近接過去を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第9回:疑問代名詞と疑問形容詞を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第 10 回:疑問副詞を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第 11 回:命令法を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第 12 回:過去分詞の作り方を説明した後、avoir を用いる直説法複合過去を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第 13 回:代名動詞を習得します。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。
第 14 回:複合過去の形、作り方をまとめます。練習問題を解いてもらい, 答え合わせと解説を行います。春学期に習得した文法事項をまとめます。

履修上の注意

フランス語の学習は、ほとんどの生徒にとってゼロからのスタートになると思います。授業は早い進度で進んで行きます。遅れぬよう、皆さんの積極的な学習を望みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

《予習》
授業時間の最後に、あらかじめ次の授業の予定をお知らせします。教科書の所定箇所をよく読み、学習する事項を把握をしておいてください。(予習時間1時間程度。)
《復習》
授業で終了した事項について、確認のためのプリントを適宜配布します。教科書とノートをよく読み、練習問題を解いておいてください。(復習時間1時間程度。)皆さんの積極的な学習を望みます。

教科書

『新システマティックフランス語文法』, 倉方秀憲著, 早美出版社。

参考書

『新フランス文法事典』、朝倉季雄著, 白水社。
『現代フランス広文典』、目黒士門著, 白水社。
『これならわかるフランス語文法』, 六鹿豊著, NHK 出版。
『コレクション・フランス語(3):文法』, 田島宏編, 白水社。

課題に対するフィードバックの方法

習熟度を確認するため試験を合計 4 回実施しますが, 各試験の後, 同じ授業内で問題の詳しい解説および関連する文法事項の復習を行います。

成績評価の方法

中間テスト3回 60%、期末テスト 20%、授業への貢献度 20%とし、総合的に評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡA	フランス語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
藤井 宏尚	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語文法の基礎を学びながら、語彙も増やしていく。動詞を中心とした学習を通して、できるだけ多くの練習問題を解く。文法の説明のための簡単な文の訳から出発し、文と文の連なりであるより複雑な文章を読解する力をつけることをめざす。

授業内容

1.－2. 春学期導入とアルファベ
3.－4. 名詞の性数と冠詞
5.－6. 主語人称代名詞と動詞 etre/avoir
7.－8. 形容詞と第一群規則動詞
9.－10. 否定文と疑問文
11.－12. 指示形容詞と提示の表現
13.－14. 所有形容詞と疑問形容詞
15.－16. 動詞 aller/venir と前置詞
17.－18. 疑問代名詞と疑問副詞
19.－20. 比較級/最上級と第二群規則動詞
21.－22. 命令形と非人称表現
23.－24. 補語人称代名詞と強勢形
25.－26. 過去分詞と複合過去(1)
27.－28. 過去分詞と複合過去(2)

履修上の注意

基本的には受講者の自主性を重んじるので，積極的な態度で授業に臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

基本的には復習を中心に考える。問題演習、発音練習、動詞活用テスト等、さまざまな課題にしっかり取り組んでもらいたい。各課ごとに実施する復習テストを重視する。

教科書

「新システマティック・フランス語文法」(早美出版社)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

最終授業日に期末試験を実施し、同日に解説の時間を設ける。

成績評価の方法

授業への参加度 20%＋課題提出 20%＋各課復習テスト 60%

その他

フランス語検定を受ける学生はフォローする。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡA	フランス語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
瀬川 愛美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

各課を通して、フランス語の文法規則や発音のルール、実用的な表現を学びます。学んだ文法知識を使って、短い文章の講読もします。
到達目標:
①フランス語の初級文法、発音、語彙が身についている。
②優しいフランス語の文章の講読ができる。

授業内容

第1回:Introduction／ Leçon 0 フランス語の発音と綴り字
第2回:Leçon 1 主語人称代名詞・être・形容詞
第3回:Leçon 1 Lecture／ Leçon 2 名詞と不定冠詞・指示代名詞・形容詞の性数一致と位置
第4回:Leçon 2 Lecture／ Leçon 3 -er 動詞・定冠詞・疑問文
第5回:Leçon 3 Lecture／ Révisions(Leçon 1-3)
第6回:Leçon 4 指示形容詞・avoir・否定文
第7回:Leçon 4 Lecture／ Leçon 5 aller と近接未来・疑問代名詞・faire と partir
第8回:Leçon 5 Lecture／ Leçon 6 所有形容詞・疑問形容詞
第9回:Leçon 6 Lecture／ Leçon 7 人称代名詞の強勢形・指示代名詞
第 10 回:Leçon 7 il y a ～と je voudrais ～の表現
第 11 回:Leçon 7 Lecture／ Révisions(Leçon 4-7)
第 12 回:Lecture
第 13 回:フランス映画鑑賞
第 14 回:a:まとめ、b:試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

紙の仏和辞典を持参してください。
授業には積極的に参加しましょう。質問やリクエストがあれば遠慮なくすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:新しい語句の発音や意味を辞書で調べる習慣をつけましょう。講読の文章は和訳をしてきましょう。
復習:音声を何度も聴いて、フランス語の音に慣れるようにしましょう。文法事項や語句・表現などを確認しておきましょう。

教科書

Paris-Bordeaux 朝日出版社

参考書

課題に対するフィードバックの方法

解説や講評等は、授業内もしくは Oh-o! Meiji 上で行う。

成績評価の方法

平常点 40%(授業への参加度、課題、小テスト)、試験 60%

その他

許可なく授業の録画、録音、撮影はできません。

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡA	フランス語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
小谷 奈津子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。

授業内容

[第1回]a: イントロダクション、b:アルファベ、あいさつ表現
[第2回]1課 名詞、冠詞、提示表現、国名、練習
[第3回]練習・Par coeur
[第4回]2課 主語人称代名詞、-er 動詞、曜日、数詞、練習
[第5回]練習・Par coeur
[第6回]3課 動詞 etre、形容詞、国籍、職業
[第7回]練習・Par coeur
[第8回]4課 動詞 avoir、否定文、疑問文
[第9回]練習・Par coeur
[第 10 回]5課 動詞 prendre／faire、指示形容詞、所有形容詞
[第 11 回]練習・Par coeur
[第 12 回]6課 動詞 aller／venir、近接未来／近接過去、疑問副詞
[第 13 回]練習・Par coeur
[第 14 回]a: 定期試験、b: まとめ

履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典を必ず持参すること。初回授業で案内します。スマートフォン・PC の利用不可。
音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。
授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。
以上の準備学習には毎週2時間は必要です。

教科書

『エスプラナード1』、久富、小谷、森著、(朝日出版社)

参考書

必要とあれば授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点(発表・課題提出・小テスト)60%、定期試験(筆記)40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡB	フランス語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。
外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。
春学期の後を受けて、この授業では、様々な時制の出てくる初級文法後半程度の知識を身につけ、時制の混ざった文章が読めるようになることを目指します。そして、フランスのテレビ・ニュー

授業内容

受講者の習熟度を見ながら進めますが、各回の内容を文法事項で示すと次のようになります。
第1回 il y a～と je voudrais～の表現、定冠詞の縮約
第2回 補語人称代名詞
第3回 代名動詞
第4回 中性代名詞 y、動詞 vouloir
第5回 非人称構文、命令形
第6回 感嘆文、部分冠詞
第7回 中性代名詞 en、数量の表現
第8回 比較級
第9回 直説法単純未来形
第10回 直接法複合過去形
第11回 直説法半過去形
第12回 条件法現在
第13回 接続法現在
第14回 a 期末試験 / b 正答解説

履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・次回の授業の読解個所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう(辞書を引いて、各自訳しておく)。
・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『パリ・ボルドー』藤田裕二著(朝日出版社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(和訳の発表、受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡB	フランス語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
塩谷 優衣	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
フランス語文法の基礎を学びます。文法の練習問題に加えて、音読や口頭表現の練習、読解を行う場合があります。初級文法の基本を押さえ、確実に使いこなせるようになることが目標です。

授業内容
第1回 春学期の復習
第2回 代名動詞
第3回 疑問形容詞
第4回 pouvoir vouloir devoir il faut
第5回 複合過去(avoir+過去分詞)
第6回 複合過去(etre+過去分詞)
第7回 a. これまでの内容の復習小テスト b. 解説
第8回 半過去 疑問代名詞 強調構文
第9回 受動態 接続詞 que
第 10 回 単純未来
第 11 回 ジェロンディフ 感嘆文 y en
第 12 回 条件法現在
第 13 回 接続法現在
第 14 回 a. 試験 b. 解説

履修上の注意
遅刻や欠席は絶対にしないでください。仏和辞書を毎回必ず持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容
小テストや課題の準備を毎回必ず行ってください。復習では授業で扱ったことを振り返るだけでなく、新出単語は辞書をひいて調べ、例文や練習問題文の意味を丁寧に確認するようにしてください。音声データを聞きながら音読し、発音の練習もしてください。

教科書
『アミカルマン〈プリュス〉』 澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 （駿河台出版社）

参考書
必要に応じて授業内容を補足するプリントを配布します。

課題に対するフィードバックの方法
授業内で解説するか、採点、添削したものを翌回の授業やクラスウェブ上で返却します。

成績評価の方法
平常点(授業内活動への参加、課題、小テスト)60%、試験40%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡB	フランス語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
津田 峰子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
第一に、初学者には難所のひとつであるフランス語の音と綴りの関係を学び身に着け、いずれ平易な文章を自力で発音できるようにする。
次に、フランス語習得の要ともなる「動詞の活用」（主語代名詞による動詞の変化)に関しては、毎回小テストを実施し、一定の規則性の定着と暗記を徹底する。
また、基本的な文法事項(仏検5級・4級合格程度)は簡単な日常表現と合わせて理解し、辞書に親しみつつ、新しい語彙を増やしていくことを授業目標とする。

授業内容
毎回授業冒頭に、動詞活用小テスト(5分)、発音トレーニング(5分)を実施する。授業を補足するものとして、聞き取り、文法等の宿題プリント、動詞活用反復練習レポートを提出してもらう。
第1回;夏休み宿題の解説、時間について、秋学期授業概要
第2回;数量を表す(文法中心)
第3回;数量を表す(会話)
第4回;紹介する(文法中心)
第5回;紹介する(会話)
第6回;一日を語る(文法中心)
第7回;一日を語る(会話)
第8回;頼む、命令する(文法・会話)
第9回;未来のことを語る(文法・会話)
第 10 回;過去のことを語る1〔複合過去〕(文法中心)
第 11 回;過去のことを語る1〔複合過去〕(会話)
第 12 回;過去のことを語る2〔半過去・大過去〕(文法中心)
第 13 回;過去のことを語る2〔半過去・大過去〕(会話)
第 14 回;a.試験
b.フランス語学習の意義

履修上の注意
1）最低限の予習(単語調べ、付属 CD を聴くなど)、復習、宿題提出、小テスト参加を欠かさないこと。
2）飲食、私語、携帯電話の使用等、授業の妨害になる行為は一切禁止。退出してもらう場合もある。
3）積極的授業参加が認められない場合(準備学習の不足、小テスト不参加、宿題未提出、居眠りも含め)、欠席扱いとする。
★改善が認められない場合には、授業への出席をお断りする場合もある。
4）講義中の入室、退室は原則として認めない。
5）テキストはもちろん、「(紙媒体の)中辞典」も必ず携帯すること。(「紙媒体の辞書」の恒常的な形態不備も減点、もしくは欠席扱いとする。)
フランス語に関する質問・相談・欠席事由届などは、授業後、 またはクラスウェブ上「教員とのメッセージ」で受け付ける。
「クラスウェブに関して」
1)「授業お知らせ」「教員とのメッセージ」などの連絡に注意すること。
2)「クラスウェブ上での宿題提出」の際は、教員からの「フィードバックコメント」を必ず確認すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
1）配布する発音トレーニング表を使い、フランス語の発音規則に慣れる努力をする。
2）新しい言語の習得のため、意識的に紙媒体の辞書を引く。
3）次回の授業に該当する範囲のテキストをノートに写し、日本語訳をつけておく。
4）単語熟語ノートの作成等、段階的に語彙を増やしていく。
5）聴き取りの宿題に対応できるよう、テキスト付属の音声を繰り返し聞き、声に出してみる。
6）小テストの予習復習を通して、動詞活用を暗記する。

教科書
『新・東京―パリ初飛行』、藤田祐二、藤田知子、Sylvie Gilbert 著、(駿河台出版社)。
必ず、事前に購入しておくこと。

参考書
辞書は、電子辞書、簡易なポケット辞典でなく、必ず紙媒体の中辞典(古書可)を使用すること。
ガイダンスでの説明を聞いた後に、辞書は購入すること。
推奨辞書;「ディコ仏和辞典」白水社 、「プチ・ロワイヤル仏和辞典」(旺文社)、「クラウン仏和辞典」(三省堂)
(注意点) ただし「ベーシッククラウン仏和・和仏辞典」は、2 年次まで使用することを考え推奨しない。

課題に対するフィードバックの方法
実施した小テストや提出された宿題は、1 週間後の授業時に返却、必要に応じて解説する。

成績評価の方法
毎回実施する小テストや宿題の結果、テキスト担当の発表を含む授業参加態度(20%)、定期テストの結果 80%を合わせて評価する。
宿題未提出は一切認めない;「宿題等の未提出」は「受講の意志なし」として、以降の授業参加をお断りするので注意すること。テキストや辞書を繰り返し忘れる場合、また遅刻、居眠りは、減点対象「マイナス 5 点～10 点」、もしくは欠席扱いとなる。
★テキスト担当日の欠席は、「罹患証明可能な病欠以外」原則として認めない。病欠の可能性が出た時点で「教員とのメッセージ」を通し早めに連絡を取り、相談する

その他
受講者には、積極的な授業参加だけでなく、辞書を引く、付属の音声を聞き声に出して読む、繰り返し書く等、自宅での学習時間確保が必須であることを明記しておきたい。

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡB	フランス語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
八木 淳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

《授業の概要》
フランス語の初級文法の後半つまり過去形の一つである「半過去」から「直接話法と間接話法」までの各事項を説明し，練習問題の演習を通して習熟度を高めて行きます。また，和訳問題を解いてもらい，応用力を養います。
《到達目標》
フランス語の文章読解や会話に必要な初級文法(後半)の習得を目ざします。単に文法規則を覚えるだけでなく，平易な文章が理解できるような読解力を身につけます。

授業内容

以下の項目に従い、まず、文法規則の説明をします。次に、練習問題を通して、理解を深めます。さらに、文章読解により、応用力を高めます。
第1回：大過去形を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第2回：第一群規則動詞の変則活用を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第3回：前置詞つきの関係代名詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第4回：特殊な比較級と最上級、および数量の比較級、最上級を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第5回：中性代名詞と人称代名詞の語順を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第6回：現在分詞とジェロンディフを習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第7回：条件法現在を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第8回：様々な仮定表現を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第9回：接続法現在を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 10 回：指示代名詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 11 回：直説法単純過去を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 12 回：直接話法と間接話法を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 13 回：知覚動詞と使役動詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。
第 14 回：複合疑問代名詞を習得します。練習問題を解いてもらい，答え合わせと解説を行います。秋学期のまとめをします。

履修上の注意

フランス語の学習は、ほとんどの生徒にとってゼロからのスタートでしたが、秋学期からも、同じ気持ちで望みます。授業は早い進度で進んで行きます。遅れぬよう、皆さんの積極的な学習を望みます。

準備学習(予習・復習等)の内容

《予習》
授業時間の最後に、あらかじめ次の授業の予定をお知らせします。教科書の所定箇所をよく読み、学習する事項を把握をしておいてください。(予習時間1時間程度。)
《復習》
授業で終了した事項について、確認のためのプリントを適宜配布します。教科書とノートをよく読み、練習問題を解いておいてください。(復習時間1時間程度。)

教科書

『新システマティックフランス語文法』，倉方秀憲著，早美出版社。

参考書

『新フランス文法事典』、朝倉季雄著，白水社。
『現代フランス広文典』、目黒士門著，白水社。
『これならわかるフランス語文法』，六鹿豊著，NHK 出版。
『コレクション・フランス語(3)：文法』，田島宏編，白水社。

課題に対するフィードバックの方法

習熟度を確認するため試験を合計 4 回実施しますが，各試験の後，同じ授業内で問題の詳しい解説および関連する文法事項の復習を行います。

成績評価の方法

中間テスト3回 60%、期末テスト 20%、授業への貢献度 20%とし、総合的に評価します。

その他

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡB	フランス語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
藤井 宏尚	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語文法の基礎を学びながら、語彙も増やしていく。動詞を中心とした学習を通して、できるだけ多くの練習問題を解く。文法の説明のための簡単な文の訳から出発し、文と文の連なりであるより複雑な文章を読解する力をつけることをめざす。

授業内容

1.－2. 半過去
3.－4. 大過去
5.－6. 受動態
7.－8. 関係代名詞
9.－10. 比較級
11.－12. 最上級
13.－14. 中性代名詞
15.－16. 単純未来
17.－18. 前未来
19.－20. 現在分詞
21.－22. 条件法
23.－24. 接続法
25.－26. 前過去
27.－28. 話法

履修上の注意

基本的には受講者の自主性を重んじるので，積極的な態度で授業に臨んでほしい。

準備学習(予習・復習等)の内容

基本的には復習を中心に考える。問題演習、発音練習、動詞活用テスト等、さまざまな課題にしっかり取り組んでもらいたい。各課ごとに実施する復習テストを重視する。

教科書

「新システマティック・フランス語文法」(早美出版社)

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

授業への参加度 20%＋課題提出 20%＋各課復習テスト 60%

その他

フランス語検定を受ける学生はフォローする。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡB	フランス語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
瀬川 愛美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

各課を通して、フランス語の文法規則や発音のルール、実用的な表現を学びます。学んだ文法知識を使って、短い文章の講読もします。

到達目標:

①フランス語の初級文法、発音、語彙が身についている。

②優しいフランス語の文章の講読ができる。

授業内容

第1回:Leçon 8 定冠詞の縮約・補語人称代名詞
第2回:Leçon 8 Lecture／ Leçon 9 代名動詞・中性代名詞・vouloir
第3回:Leçon 9 Lecture／ Leçon 10 非人称構文・命令形・感嘆文
第4回:Leçon 10 Lecture／ Révisions(Leçon 8-10)
第5回:Leçon 11 部分冠詞・中性代名詞・数量の表現
第6回:Leçon 11 Lecture／ Leçon 12 比較級・単純未来
第7回:Leçon 12 Lecture／ Leçon 13 複合過去・半過去
第8回:Leçon 13 Lecture／ Révisions(Leçon 11-13)
第9回:Leçon 14 条件法現在
第 10 回:Leçon 14 接続法現在
第 11 回:Leçon 14 Lecture
第 12 回:Lecture
第 13 回:フランス映画鑑賞
第 14 回:a:まとめ、b:試験
＊授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

紙の仏和辞典を持参してください。
授業には積極的に参加しましょう。質問やリクエストがあれば遠慮なくすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:新しい語句の発音や意味を辞書で調べる習慣をつけましょう。講読の文章は和訳をしてきましょう。
復習:音声を何度も聴いて、フランス語の音に慣れるようにしましょう。文法事項や語句・表現などを確認しておきましょう。

教科書

Paris-Bordeaux 朝日出版社

参考書

課題に対するフィードバックの方法

解説や講評等は、授業内もしくは Oh-o! Meiji 上で行う。

成績評価の方法

平常点 40%(授業への参加度、課題、小テスト)、試験 60%

その他

許可なく授業の録画、録音、撮影はできません。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅡB	フランス語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
小谷 奈津子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、初級文法と短い文章や会話表現を学びながら、言葉のしくみを理解していきます。仏和辞典を引いて語彙を調べられる、基本的な動詞が活用できる、フランス語の発音に慣れて日常的なフレーズが言えるようになることを目指します。実用フランス語検定 4 級に挑戦できるだけの力をつけていきます。言葉を通して、フランスの社会や文化にも関心を広げていきましょう。

授業内容

[第1回]春学期の復習
[第2回]7課 補語人称代名詞、疑問代名詞、疑問形容詞
[第3回]練習・Par coeur
[第4回]8課 比較級と最上級、命令形、花、動詞 attendre／voir
[第5回]練習・Par coeur
[第6回]9課 過去分詞、複合過去形、動詞 ecrire／lire
[第7回]練習・Par coeur
[第8回]10 課 代名動詞、代名動詞の複合過去、一日の時の表現
[第9回]練習・Par coeur
[第 10 回]11 課 半過去、中性代名詞
[第 11 回]練習・Par coeur
[第 12 回]12 課 関係代名詞、強調構文、動詞 pouvoir／vouloir
[第 13 回]練習・Par coeur
[第 14 回]a: 試験、b:まとめ

履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典を必ず持参すること。スマートフォン・PC の使用不可。
音読にも時間をとるので、間違いを恐れず声を出して積極的に参加しましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

事前に、教科書に指示されている音声ダウンロード URL から、前もって録音を聞いておきましょう。繰り返し何度も聞いているうちに、フランス語のリズムにも慣れていきます。単語は辞書をひいて調べておくこと。
授業の後で、その日学んだ文法事項や表現を復習してしっかり確認しましょう。覚えることが多いので、日々の積み重ねが重要です。
以上の準備学習に毎週2時間は必要です。

教科書

『エスプラナード1』、久富、小谷、森著、(朝日出版社)

参考書

必要とあれば授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点(発表・課題提出・小テスト)60%、定期試験(筆記)40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
永倉 千夏子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜概要＞
a モジュールでは、文法を復習し、より応用的な演習を行う。
b モジュールでは、『時事フランス語 2026 年度版』から現代フランスの社会、文化を取り上げた文章を読む。それについての設問に答える。必要な語彙、文法事項は適宜、補い、練習する。取り上げられた文化などについて、補足説明を行う。
＜到達目標＞
a モジュールでは、文法を復習し、より多様な場面でフランス語が使えるレベルを目指す。
b モジュールでは、紹介文程度の記事を読み、それについての設問に答えられるようにする。フランス語での設問にフランス語で

授業内容

第1回:a: イントロダクション～授業の進め方
　1年次に習った動詞の活用の確認テストと解答(第1群規則動詞、avoir, être, faire, prendre, aller, venir, vouloir, pouvoir の直説法現在)
　b : 第 1 章の文法 補語人称代名詞の復習と演習
第2回:a : 第 1 章の文法 補語人称代名詞の復習と演習(続き)
　b : 第1章 フランスの日本人サッカー選手たち
第3回:a : 代名動詞の復習と演習
　b : 第1章 フランスの日本人サッカー選手たち(続き)、第1章の設問
第4回:a : 第2章の文法 指示代名詞
　b : 第2章 フランス政局の激動
第5回:a : 助動詞 avoir の複合過去の復習と演習
　b : 第2章 フランス政局の激動(続き)、第2章の設問
第6回:a : 第3章の文法 ジェロンディフの復習と演習
　b : 第3章 アルザス地方の料理
第7回:a : 助動詞 etre の複合過去の復習と演習
　b : 第3章 アルザス地方の料理(続き)、第3章の設問
第8回:a : 代名動詞の複合過去の復習と演習
　b : 第4章 フランスの子供の課外活動
第9回:a : 単純未来の復習と演習
　b : 第4章 フランスの子供の課外活動(続き)、第4章の設問
第 10 回:a : 第5章の文法 半過去の復習と演習
　b : 第5章 ストリート・ニュージシャンたち
第 11 回:a : 大過去の復習と演習
　b : 第5章 ストリート・ニュージシャンたち(続き)、第5章の設問
第 12 回:a : 前未来の復習と演習
　b : 第6章 ミストラル AI フランス流のイノベーション
第 13 回:a : 動詞の時制の復習と演習
　b : 第6章 ミストラル AI フランス流のイノベーション(続き)、第6章の設問
第 14 回:a: 定期試験
b: 春学期の振り返りと定期試験の解答解説

履修上の注意

教科書の注、プリントの文法事項などは、あらかじめ読んでおくこと。
教科書本文は自分で訳してくること。
授業後は、指示された課題をクラスウェブから提出すること。
授業内での活動(音読、訳、設問への解答、グループ会話など)、および課題提出が平常点のポイントとなる。
教科書と辞書は必携。必要があれば1年次に使用した文法の教科書も参照することが望ましい。
秋学期にフランス語 IIIB を履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業資料は必ずクラスウェブからダウンロードし、視聴して、予習用課題に取り組んでおくこと。
授業後は、指定された課題をクラスウェブから提出すること。

教科書

『時事フランス語 2026 年度版』、Yojiro ISHII, Natsuo NOZAKI, Georges VEYSSIÈRE、朝日出版社、1900 円＋税

参考書

1年次で使用した仏和辞典

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解答できなかったものはクラスウェブの「授業内容・資料」欄にアップされる。
質問・連絡等の宛先は、課題にメールアドレスが記載されている。

成績評価の方法

定期試験50%＋平常点50%
平常点は、毎週の課題提出、授業中の発表などからなる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
恒石 知貞	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、一年次に学んだフランス語の基礎を、より確かなものにしていきます。日常のさまざまな場面を素材とした文法問題集を用い、四技能を総合的に高めます。
　豊富で多彩な形式の練習問題に取り組むことで、フランス語の仕組みや考え方、表現の特色を発見(あるいは再発見)し、それらを自分のものにしていきます。また、音読トレーニングを通して、正しい発音、リズム、イントネーションの習得を図ります。
　到達目標は、DELF A1～A2、実用フランス語検定 3 級～準 2 級相当のフランス語運用力の習得です。
すなわち、日常生

授業内容

第1回　CHAPITRE 1 動詞 être と avoir の直説法現在形 / CHAPITRE 2 名詞と冠詞(1)
第2回　CHAPITRE 3 直説法現在(1)
第3回　CHAPITRE 4 直説法現在(2)
第4回　中間テスト 1 / CHAPITRE 5 品質形容詞
第5回　CHAPITRE 6 直説法現在(3)
第6回　CHAPITRE 7 疑問文(1)
第7回　CHAPITRE 8 否定表現
第8回　CHAPITRE 9 名詞と冠詞(2)
第9回　CHAPITRE 10 指示形容詞と所有形容詞 / CHAPITRE 11 非人称構文の il と提示表現 c'est
第10回　中間テスト2 / CHAPITRE 12 部分冠詞と数量表現
第11回　CHAPITRE 13 場所を示す表現
第12回　CHAPITRE 14 時を示す表現
第13回　CHAPITRE 15 強勢形と補語人称代名詞
第14回　a 期末テスト / b 解説

履修上の注意

1) 授業に出席し、フランス語を読む・書く・聞く・発音することを通して、フランス語を体得してください。
2) 授業では辞書を使用し、問題演習を行います。毎回必ず辞書を持参してください。
3) 問題演習の後は、一人ひとりが順に指名され、フランス語で回答を発表してもらいます。間違いを恐れず、できるだけ多く練習することが上達の鍵となります。
4) 授業で扱えなかった問題は宿題としますが、それにとどまらず、日常的に少しでもフランス語に触れることで、学習効果はより高まります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1) この授業で使用する教科書は、さまざまな形式の問題演習に数多く取り組むことで、フランス語のルールを体得していくことを目的として構成されています。文法解説は簡潔であるため、必要があれば、一年次に使用した教科書などを参照し、文法事項を予習しておくなどの工夫をしてください。
2) 復習としては、問題演習や綴り・活用の確認に加え、とくに声に出して読むことを強くおすすめします。
3) 試験に向けては、「語彙リストを作成して暗記する」「日本語からフランス語に訳す仏作文の練習を行う」など、主体的に学習に取り組んでく

教科書

『EN CONTEXTE フランス語文法 A1+A2 初級文法を学ぶ・覚える・確認するための350問』アシェット・ジャポン

参考書

特に定めませんが、辞書や参考書など必要に応じて授業内で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で解説します。

成績評価の方法

授業への参加度(20%)、中間テスト 1(20%)、中間テスト 2(20%)、期末テスト(40%)

その他

履修者のレベルに応じて授業内容を変更することがあります。読解などの追加的な演習を行うこともあります。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 弘崇	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次で学んだフランス語文法の知識に基づいてテクスト講読を中心に行います。初級文法の基礎を復習しつつ、フランスのさまざまな時事問題について理解を深めます。フランスについての理解を深めるとともに日本を相対的に捉え直し、それらの違いについて簡潔なフランス語で表現できるようになることを目指します。

授業内容

第1回:イントロダクションと基礎文法の復習
第2回:フランスの日本人サッカー選手たち① [スポーツ]
第3回:フランスの日本人サッカー選手たち②
第4回:フランス政局の激動① [政治]
第5回:フランス政局の激動②
第6回:アルザス地方の料理① [ガストロノミー]
第7回:アルザス地方の料理②
第8回:フランスの子どもの課外活動① [社会]
第9回:フランスの子どもの課外活動②
第 10 回:ストリート・ミュージシャンたち① [音楽／文化]
第 11 回:ストリート・ミュージシャンたちト②
第 12 回:ベトナム, カンボジア, ラオスとフランス① [フランコフォニー]
第 13 回:ベトナム, カンボジア, ラオスとフランス②
第 14 回:「a:試験 b:正答解答」

履修上の注意

授業の進度はあくまでも目安なので、学習状況に応じて読む単元が前後する可能性があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読中心の講義ですが毎回訳読や文法演習問題を行うので、予習をして教科書と辞書は必ず持参すること。また、必要に応じて適宜プリントを配布します。

教科書

『Hirondelle 2026 / varietes francaises 時事フランス語 2026 年度版』、石井洋二郎、朝日出版社

参考書

授業中に適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に取り組む演習問題については同授業内で解説を行い、学期末テストについては試験終了後にフィードバックを行います。

成績評価の方法

出席3分の2以上で定期試験の受験資格を得る。平常点(出席、小テスト、発表)30%、定期試験 70%

その他

特にありません。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。
外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。
また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つです。習得すると可能性や世界が広がりますが、二年目の皆さんは、その魅力とともに、苦手な点やわかりづらい部分も感じていることでしょう。この授業では、初級を補強しつつ、中級への橋渡しを目指します。そして、フランスのテレビ・

授業内容

一年次の初級文法を復習しながら、より発展的な読解や会話を学びます。各回のテーマを文法事項で示すと、次の通りです。
第1回 受動態(文法)
第2回 受動態(会話・読解)
第3回 形容詞の最上級、関係代名詞 qui と que(文法)
第4回 形容詞の最上級、関係代名詞 qui と que(会話・読解)
第5回 関係代名詞 où と dont(文法)
第6回 関係代名詞 où と dont(会話・読解)
第7回 疑問代名詞 lequel、不定代名詞 on(文法)
第8回 疑問代名詞 lequel、不定代名詞 on(会話・読解)
第9回 条件法(文法)
第10回 条件法(会話・読解)
第11回 代名動詞の複合過去(文法)
第12回 代名動詞の複合過去(会話・読解)
第13回 半過去(文法)(会話・読解)
第14回 a 期末試験 / b 正答解説

履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・次回の授業の読解個所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう(辞書を引いて、各自訳しておく)。
・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『パリ-ブルゴーニュ』藤田裕二著(朝日出版社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(和訳の発表、受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 明美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

まずは初級文法の復習から始め、一年次で習得したフランス語の理解度をさらに高めつつ、フランスの地理、歴史、文化、生活などの知識をつける文章を読み進めてゆきます。今まで知らなかったフランスの様々な面に触れ、フランスへの興味を深めて欲しいと思います。フランス語の力を強化することはもちろん、新たに学んだフランスについて自分のことばで説明できるようになることも大切な目標です。

授業内容

第1回 初級フランス語の復習
第2回 初級フランス語の復習
第3回 初級フランス語の復習
第4回 ツール・ド・フランス
第5回 アルジェリア
第6回 ジュネーヴとローザンヌ
第7回 フランス映画を観る
第8回 理解度の確認
第9回 ラルース
第 10 回 収穫祭
第 11 回 カンヌ映画祭
第 12 回 PACS
第 13 回 カトリックとプロテスタント
第 14 回 理解度の確認

履修上の注意

毎回出される宿題は必ずやること。復習をすること。教室内でも自宅学習のときにも音読を欠かさないこと。音読と初級者の語学の理解度は必ず比例するので、一生懸命音読の能力を身につけてください。
欠席しないこと。選択した以上、積極的に授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は、次回の購読範囲を訳しておくこと。復習は授業内容の反芻と理解。課題は必ず行うこと。常に音読すること。

教科書

セレクション時事フランス語 2010-2020ー文化・社会ー 朝日出版社 ISBN978-4-255-35389-0 定価 2090 円

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

期末試験(60%)と授業態度(40%)で評価します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
中島 万紀子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

１年次でフランス語を履修したけれどもいまひとつ身に付いていないなあと感じる人でも、半開きだったフランス語への扉が全開になる授業を目指しています。
フランス語の文法を復習しながら重要な動詞のさまざまな時制を網羅し暗記し、真に使いこなすことができるようになることを目標としています。
文法を一度解説してもらったくらいではなかなか外国語を読んだり書いたり話したりはできるようにならないものです。やはり時間と手間を使って「慣れて」いく必要があります。集中してフランス語に触れ、発音し、書き、覚えることで、フランス語

授業内容

第 1回目 概要説明とアンケート。
第 2回目 第一群規則動詞の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 3回目 être、avoir の現在・複合過去・半過去・単純未来
第 4回目 第二群規則動詞の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 5回目 faire の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 6回目 prendre の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 7回目 aller の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 8回目 venir の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 9回目 partir、sortir の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第10回目 se lever の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第11回目 se coucher の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第12回目 se promener の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第13回目 apprendre の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第14回目 a. まとめ b.試験

履修上の注意

ノートを取りながら受講すること。
授業時間中に暗記してしまえるよう、発音練習ではしっかり声を出して発音すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習は毎回おこない、授業で学習した語彙や文章は毎回暗記すること。

教科書

特になし。受講者の実力に合わせて学習内容を決定します。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

教場で解説をおこないます。

成績評価の方法

授業への参加度が約 30%、中間テストと期末試験などの点数を約 70%とします。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、文法と発音を強化しながら多様なテーマの文章を読み解き、実践的なフランス語力の向上を目指します。フランス(語圏)の社会、文化、文学、芸術(絵画や演劇)など、幅広い知識も得られるよう、さまざまな種類のフランス語テクストを読み解き、初級文法を定着させるとともに、中級文法を習得していきます。
「読む・聞く・書く・話す」能力をバランスよく高めることを目指しますので、講読と文法の応用練習だけでなく音読やリスニングにも力を入れ、ときには会話文も扱って実践練習を行い、中級程度の実用フランス語力を総合的に身に

授業内容

授業は以下のように進める予定ですが、履修者の理解度や習得状況によって順番を入れ替えたり、多少変更したりする可能性があります。
第１回 授業全体の説明／初級文法の確認
第２回 フランスとスポーツ(複合過去と半過去の応用練習)
第３回 食と消費の問題(人称代名詞、強勢形)
第４回「平等」について(代名動詞)
第５回 学校と教育(中性代名詞)
第６回 テーブルマナーについて(関係代名詞)
第７回 バカンスについて(単純未来・命令法)
第８回 文法の応用練習／聞き取り練習
第９回 愛称について(大過去・条件法)
第10回 フランスと哲学(疑問詞)
第11回 家族の在り方について(現在分詞・ジェロンディフ)
第12回 環境政策(接続法)
第13回 これまでの復習
第14回 a. 試験 b. 解説
学期末のテストの他に、小テストも行います。テストでは、読解(黙読での理解)だけでなく発音も重視します。

履修上の注意

毎回、辞書と文法書(1 年次に使用した文法教科書)を持参してください。
また、毎回の予習、復習は十分に時間をとり、必ず行ってください。辞書を丁寧に引く習慣をつけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定された箇所の予習を必ずして授業に参加してください。
予習では、文章の訳だけでなく、文の構造と発音の確認もしてください。復習では語彙・文法・ 訳を再確認して知識を定着させるとともに、発音練習も心がけてください。

教科書

Liliane Lattanzio 澤田直 著『プレマン？文法を深めながら発見するフランス 14 章』(第2版) 三修社 2022
＊教科書以外に、必要に応じてプリント教材も配布します。

参考書

必要に応じて副教材を配布します。
毎回、辞書と文法書(1 年次に使用した文法教科書)を持参してください。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはクラスウェブ上で返却やフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加、小テスト、課題など)60%、試験 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
塩谷 優衣	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次に学んだフランス語の知識を再確認し、定着させます。文法の復習を中心に行いながら、語彙力やリスニング力も向上させることを目指します。受講生と協議したうえで、口頭表現の練習や読解を行う場合があります。

授業内容

第1回 a. 授業概要の説明 b. 文法事項定着度確認小テスト
第2回 不定冠詞・定冠詞 名詞の性と数
第3回 主語人称代名詞 etre 縮約
第4回 avoir 疑問文 形容詞 強勢形
第5回 否定文 否定の de
第6回 -er 動詞 指示形容詞
第7回 a. これまでの内容の復習小テスト b.解説
第8回 -ir 動詞 所有形容詞 部分冠詞
第9回 aller venir faire
第10回 非人称主語
第11回 prendre 命令法 時間
第12回 人称代名詞(直接目的補語) 比較級
第13回 人称代名詞(間接目的補語) 最上級
第14回 a. 試験 b. 復習

履修上の注意

遅刻や欠席は絶対にしないでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

小テストや課題の準備を毎回必ず行ってください。復習では辞書を引きながら単語の意味を丁寧に確認してください。

教科書

『アミカルマン〈プリュス〉』 澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

参考書

必要に応じて授業内容を補足するプリントを配布します。

課題に対するフィードバックの方法

採点、添削したものを翌回の授業かクラスウェブ上で返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への参加度、小テスト、課題)60%、試験40%

その他

科目ナンバー：		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
西村 美穂	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語の仕組みを復習しながら、やさしいフランス語の文章を音読する。フランス文化への理解も深めたい。

授業内容

① テクスト音読
② 文法確認
③ 仏会話・歌・詩などの聞きとり・音読
④ フランス語の暗記
［第1回］アルファベ 数字
［第2回］綴り字の読み方復習
［第3回］挨拶をする①
［第4回］挨拶をする②
［第5回］家族を紹介する①
［第6回］家族を紹介する②
［第7回］一日の生活について話す①
［第8回］一日の生活について話す②
［第9回］自分の住んでいる町を紹介する①
［第 10 回］自分の住んでいる町を紹介する②
［第 11 回］未来について話す①
［第 12 回］未来について話す②
［第 13 回］まとめ
［第 14 回］a. 試験(レポートまたは発表) b. 解説

履修上の注意

教室で指示する。

準備学習(予習・復習等)の内容

フランス語を聞き、声に出してみる。

教科書

プリント

参考書

教室で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題等は基本、Oh-o!Meiji システムを利用する。また最終授業日に試験(レポートまたは発表)を実施し、同日に解説を説明または公開する。

成績評価の方法

レポートまたは発表

その他

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢA	フランス語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
森 真太郎	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

一、二年生で身につけたフランス語の能力をもう一度確認し、しっかりした土台をつくるために努力していく。文法や会話の能力を向上させ、中級レベルの読む力、聴解能力、話す力に結びつけていきたい。授業中は、フランスの時事問題などの音声・動画も積極的に取り入れてゆく。このような学習を通じて、フランス文化や社会などについての知識を学びながら総合的なフランス語能力を涵養することを目指す。

授業内容

第1回 ： イントロダクション: 履修上の注意
第2回 ： 初歩の確認(1)
第3回 ： 初歩の確認(2)
第4回 ： 1 課の学習
第5回 ： 2 課の学習
第6回 ： 3 課の学習
第7回 ： 4 課の学習
第8回 ： 中間復習問題
第9回 ： 5 課
第 10 回 ： 6 課の学習
第 11 回 ： 7 課の学習
第 12 回 ： 総合的復習
第 14 回 ： a. まとめ, b. 試験
＊進行内容は学生と協議して決める。上記は一例に過ぎない。

履修上の注意

遅刻は2回で1回にカウントする。欠席が三回以上になった場合は、試験から減点が行われる。仏和辞典を必ず持ってくること。

準備学習(予習・復習等)の内容

とくに、構文把握と単語の定着に時間を注いで欲しい。

教科書

『マ・グラメール 4 訂版』白水社
＊必ず大学の書店を通じて買うこと。

参考書

授業中、随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点 30%(参加、レスポンス)、考査 70%(小テスト等も含む)
＊成績評価の方法については初回授業で詳しく伝える。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
永倉 千夏子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜概要＞
a モジュールでは、文法を復習し、より応用的な演習を行う。
b モジュールでは、『時事フランス語 2025 年度版』から現代フランスの社会、文化を取り上げた文章を読む。それについての設問に答える。必要な語彙、文法事項は適宜、補い、練習する。取り上げられた文化などについて、補足説明を行う。
＜到達目標＞
a モジュールでは、文法を復習し、より多様な場面でフランス語が使えるレベルを目指す。
b モジュールでは、紹介文程度の記事を読み、それについての設問に答えられるようにする。フランス語での設問にフランス語で

授業内容

第1回:a : 条件法現在の復習と演習
b : 第7章 ベトナム、カンボジア、ラオスとフランス
第2回:a : 条件法過去の復習と演習
b : 第7章 ベトナム、カンボジア、ラオスとフランス(続き)、第 7 章の設問
第3回:a : 第8章の文法 命令法
b : 第8章 パルクールシュップ 高等教育への進学プラットフォーム
第4回:a : 比較級・最上級の復習と演習
b : 第8章 パルクールシュップ 高等教育への進学プラットフォーム(続き)、第8章の設問
第5回:a : 第9章の文法 中性代名詞の復習と演習
b : 第9章 日本映画とカンヌ
第6回:a : 関係代名詞の復習と演習
b : 第9章 日本映画とカンヌ(続き)、第9章の設問
第7回:a : 直接話法と間接話法
b : 第10章 フランスの地方言語
第8回:a : 直接話法と間接話法の復習と演習(続き)
b : 第10章 フランスの地方言語(続き)、第10章の設問
第9回:a : 第11章の文法 受動態の復習と演習
b : 第11章 百獣の王だった熊
第 10 回:a : 接続法の復習と演習
b : 第11章 百獣の王だった熊(続き)、第11章の設問
第 11 回:a : 接続法の復習と演習(続き)
b : 第12章 バティックの職業教育
第 12 回:a : 第12章 バティックの職業教育(続き)、第12章の設問
b : 第13章 EU と農業協定、第13章の設問
第 13 回:a : b : 第14章 フロン・ド・メール、第14章の設問
第 14 回:a: 定期試験
b: 秋学期の振り返りと定期試験の解答解説

履修上の注意

教科書の注、プリントの文法事項などは、あらかじめ読んでおくこと。
教科書本文は自分で訳してくること。
授業後は、指示された課題をクラスウェブから提出すること。
授業内での活動(音読、訳、設問への解答、グループ会話など)、および課題提出が平常点のポイントとなる。
教科書と辞書は必携。必要があれば1年次に使用した文法の教科書も参照することが望ましい。
秋学期にフランス語 IIIB を履修することが望ましい。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業資料は必ずクラスウェブからダウンロードし、視聴して、予習用課題に取り組んでおくこと。
授業後は、指定された課題をクラスウェブから提出すること。

教科書

『時事フランス語 2026 年度版』、Yojiro ISHII, Natsuo NOZAKI, Georges VEYSSIÈRE、朝日出版社、1900 円+税

参考書

1年次で使用した仏和辞典

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解答できなかったものはクラスウェブの「授業内容・資料」欄にアップされる。
質問・連絡等の宛先は、課題にメールアドレスが記載されている。

成績評価の方法

定期試験50%+平常点50%
平常点は、毎週の課題提出、授業中の発表などからなる。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
恒石 知貞	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、一年次に学んだフランス語の基礎を、より確かなものにしていきます。日常のさまざまな場面を素材とした文法問題集を用い、四技能を総合的に高めます。
豊富で多彩な形式の練習問題に取り組むことで、フランス語の仕組みや考え方、表現の特色を発見(あるいは再発見)し、それらを自分のものにしていきます。また、音読練習を通して、正しい発音、リズム、イントネーションの習得を図ります。
到達目標は、DELF A1～A2、実用フランス語検定 3 級～準 2 級相当のフランス語運用力の習得です。
すなわち、日常生活におけ

授業内容

第1回 CHAPITRE 16 関係代名詞 qui, que
第2回 CHAPITRE 17 近接未来
第3回 CHAPITRE 18 複合過去
第4回 中間テスト 1 / CHAPITRE 19 過去時制(1)
第5回 CHAPITRE 20 過去時制(2)
第7回 CHAPITRE 21 未来時制
第8回 CHAPITRE 22 疑問文(2)
第9回 中間テスト2 / CHAPITRE 23 比較
第10回 CHAPITRE 24 さまざまな代名詞
第11回 CHAPITRE 25 命令法
第12回 プリント:条件法
第13回 プリント:接続法
第14回 a 期末テスト / b 解説
※ CHAPITRE 19 からは A2 レベルの内容です。

履修上の注意

1) 授業に出席し、フランス語を読む・書く・聞く・発音することを通して、フランス語を体得してください。
2) 授業では辞書を使用し、問題演習を行います。毎回必ず辞書を持参してください。
問題演習の後は、一人ひとりが順に指名され、フランス語で回答を発表してもらいます。間違いを恐れず、できるだけ多く練習することが上達の鍵となります。
3) 授業で扱えなかった問題は宿題としますが、それにとどまらず、日常的に少しでもフランス語に触れることで、学習効果はより高まります。

準備学習(予習・復習等)の内容

1) この授業で使用する教科書は、さまざまな形式の問題演習に数多く取り組むことで、フランス語のルールを体得していくことを目的として構成されています。文法解説は簡潔であるため、必要があれば、一年次に使用した教科書などを参照し、文法事項を予習しておくなどの工夫をしてください。
2) 復習としては、問題演習や綴り・活用の確認に加え、とくに声に出して読むことを強くおすすめします。
3) 試験に向けては、「語彙リストを作成して暗記する」「日本語からフランス語に訳す仏作文の練習を行う」など、主体的に学習に取り組んでく

教科書

『EN CONTEXTE フランス語文法 A1+A2 初級文法を学ぶ・覚える・確認するための350問』アシェット・ジャポン
(音声、別冊語彙集、活用表はアシェットの HP でダウンロードできます。)

参考書

特に定めませんが、辞書や参考書など必要に応じて授業内で紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

基本的に授業内で解説します。

成績評価の方法

授業への参加度(20%)、中間テスト 1(20%)、中間テスト 2(20%)、期末テスト(40%)

その他

履修者のレベルに応じて授業内容を変更することがあります。読解などの追加的な演習を行うこともあります。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
齋藤 弘崇	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

1年次で学んだフランス語文法の知識に基づいてテクスト講読を中心に行います。初級文法の基礎を復習しつつ、フランスのさまざまな時事問題について理解を深めます。フランスについての理解を深めるとともに日本を相対的に捉え直し、それらの違いについて簡潔なフランス語で表現できるようになることを目指します。

授業内容

第1回:イントロダクションと基礎文法の復習
第2回:パルクールシュップ ー高等教育への進学プラットフォーム① [教育]
第3回:パルクールシュップ ー高等教育への進学プラットフォーム②
第4回:日本映画とカンヌ① [映画/文化]
第5回:日本映画とカンヌ②
第6回:フランスの地方言語① [言語]
第7回:フランスの地方言語②
第8回:百獣の王だった熊① [歴史]
第9回:百獣の王だった熊②
第 10 回: EU と農業協定① [EU/経済]
第 11 回: EU と農業協定②
第 12 回:侵食が進むフランスの沿岸地帯① [環境]
第 13 回:侵食が進むフランスの沿岸地帯②
第 14 回:「a:試験 b:正答解答」

履修上の注意

授業の進度はあくまでも目安なので、学習状況に応じて読む単元が前後する可能性があります。

準備学習(予習・復習等)の内容

講読中心の講義ですが毎回訳読や文法演習問題を行うので、予習をして教科書と辞書は必ず持参すること。また、必要に応じて適宜プリントを配布します。

教科書

『Hirondelle 2026 / varietes francaises 時事フランス語 2026 年度版』、石井洋二郎、朝日出版社

参考書

授業中に適宜指示します。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に取り組む演習問題については同授業内で解説を行い、学期末テストについては試験終了後にフィードバックを行います。

成績評価の方法

出席3分の2以上で定期試験の受験資格を得る。平常点(出席、小テスト、発表)30%、定期試験 70%

その他

特にありません。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。
外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。
この授業では、春学期の後を受けて、引き続き初級を補強しつつ、中級フランス語の定着を目指します。そして、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端に

授業内容

一年次の初級文法を復習しながら、より発展的な読解や会話を学びます。各回のテーマを文法事項で示すと、次の通りです。
第1回 接続法現在(文法)
第2回 接続法現在(会話・読解)
第3回 位置を表す前置詞(句)(文法)
第4回 位置を表す前置詞(句)(会話・読解)
第5回 現在分詞とジェロンディフ(文法)
第6回 現在分詞とジェロンディフ(会話・読解)
第7回 副詞(文法)
第8回 副詞(会話・読解)
第9回 所有代名詞(文法)
第10回 所有代名詞(会話・読解)
第11回 間接話法、時制の一致(文法)
第12回 間接話法、時制の一致(会話・読解)
第13回 強調構文(文法)(会話・読解)
第14回 a 期末試験 / b 正答解説

履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・次回の授業の読解個所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう(辞書を引いて、各自訳しておく)。
・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『パリ-ブルゴーニュ』藤田裕二著(朝日出版社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(和訳の発表、受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 明美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

前期に引き続き、フランスの文化・社会を知るための文書講読を行います。
初級文法の知識を曖昧のまま放置しないこと、自分の言葉でフランスについて語れることを目標とします。

授業内容

第1回 文法の再復習
第2回 文法の再復習
第3回 バカロレア
第4回 政教分離
第5回 表現の自由
第6回 フランスの学費
第7回 理解度の確認
第8回 PACS
第9回 PACS
第10回 フランス映画鑑賞
第11回 EU 都市ストラスブール
第12回 移民危機
第13回 フランスの植民地
第14回 理解度の確認

履修上の注意

欠席・遅刻をしないこと。予習・復習・課題の遂行。音読。積極的な授業参加。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習は、次回の講読内容を訳しておく。復習は授業内容の理解と確認。課題は必ず行い、常に音読すること。

教科書

セレクション時事フランス語 2010-2020ー文化・社会ー 朝日出版社 2090 円

参考書

なし

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

試験 60% 授業態度 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
中島 万紀子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期の同一授業の続編です。
1 年次でフランス語を履修したけれどもいまひとつ身に付いていないなあと感じる人でも、半開きだったフランス語への扉が全開になる授業を目指しています。
フランス語の文法を復習しながら重要な動詞のさまざまな時制を網羅し暗記し、真に使いこなすことができるようになることを目標としています。
文法を一度解説してもらったくらいではなかなか外国語を読んだり書いたり話したりはできるようにならないものです。やはり時間と手間を使って「慣れて」いく必要があります。集中してフランス語に触れ、発音し

授業内容

第 1回目 概要説明とアンケート。
第 2回目 se promener の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 3回目 voir、boire の現在・複合過去・半過去・単純未来
第 4回目 mettre の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 5回目 pouvoir、vouloir の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 6回目 aimer だれだれ の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 7回目 envoyer à だれだれ の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 8回目 dire à だれだれ の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第 9回目 connaître、savoir que 主語＋動詞の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第10回目 devoir、lire、vivre の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第11回目 choisir、attendre、falloir、pleuvoir の現在・複合過去・半過去・単純未来、それぞれの否定形
第12回目 条件法現在、条件法過去
第13回目 接続法現在、接続法過去
第14回目 a. まとめ b.試験

履修上の注意

ノートを取りながら受講すること。
授業時間中に暗記してしまえるよう、発音練習ではしっかり声を出して発音すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習は毎回おこない、授業で学習した語彙や文章は毎回暗記すること。

教科書

特になし。受講者の実力に合わせて学習内容を決定します。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

教場で解説をおこないます。

成績評価の方法

授業への参加度が約 30%、中間テストと期末試験などの点数を約 70%とします。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
奥 香織	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、文法と発音を強化しながら多様なテーマの文章を読み解き、実践的なフランス語力の向上を目指します。フランス(語圏)の社会、文化、文学、芸術(絵画や演劇)など、幅広い知識も得られるよう、さまざまな種類のフランス語テクストを読み解き、初級文法を定着させるとともに、中級文法を習得していきます。
「読む・聞く・書く・話す」能力をバランスよく高めることを目指しますので、講読と文法の応用練習だけでなく音読やリスニングにも力を入れ、ときには会話文も扱って実践練習を行い、中級程度の実用フランス語力を総合的に身に

授業内容

授業は以下のように進める予定ですが、履修者の理解度や習得状況によって順番を入れ替えたり、多少変更したりする可能性があります。
第 1 回 春学期の復習
第 2 回 プリコラージュ(比較級・最上級)
第 3 回 バーゲンの歴史と現在(単純過去・前過去・知覚動詞)
第 4 回 ストライキ(過去分詞)
第 5 回 映画と映画館(直接話法・間接話法)
第 6 回 文法の応用練習／聞き取り練習
第 7 回 絵画を読む(1)ピカソ「泣く女」(復文の応用練習)
第 8 回 絵画を読む(2)ブッサン「アルカディアの牧人たち」(条件法などの応用練習)
第 9 回 小説を読む(1)アベ・プレヴォー『マノン・レスコー』抜粋(時制の応用練習)
第 10 回 小説を読む(2) A. エルノー『ある女』抜粋(時制の応用練習)
第 11 回 戯曲を読む E. ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』抜粋(1)韻文の対話体に親しむ
第 12 回 戯曲を読む E. ロスタン『シラノ・ド・ベルジュラック』抜粋(2)韻文の対話体に親しむ
第 13 回 これまでの復習
第 14 回 a. 試験 b. 解説
学期末のテストの他に、小テストも行います。テストでは、読解(黙読での理解)だけでなく発音も重視します。

履修上の注意

毎回、辞書と文法書(1 年次に使用した文法教科書)を持参してください。
また、毎回の予習、復習は十分に時間をとり、必ず行ってください。辞書を丁寧に引く習慣をつけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

指定された箇所の予習を必ずして授業に参加してください。
予習では、文章の訳だけでなく、文の構造と発音の確認もしてください。復習では語彙・文法・ 訳を再確認して知識を定着させるとともに、発音練習も心がけてください。

教科書

Liliane Lattanzio 澤田直 著『ブレマン？文法を深めながら発見するフランス 14 章』(第2版) 三修社 2022
＊ 教科書以外に、必要に応じてプリント教材も配布します。

参考書

必要に応じて副教材を配布します。
毎回、辞書と文法書(1 年次に使用した文法教科書)を持参してください。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはクラスウェブ上で返却やフィードバックを行います。

成績評価の方法

平常点(授業への意欲的な参加、小テスト、課題など)60%、試験 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
塩谷 優衣	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

1、2年次に学んだフランス語の知識を再確認し、定着させます。文法の復習を中心に行いながら、語彙力やリスニング力も向上させることを目指します。受講生と協議したうえで、口頭表現の練習や読解を行う場合があります。

授業内容

第1回 a. 授業概要の説明 b. 文法事項定着度確認小テスト
第2回 代名動詞
第3回 疑問形容詞
第4回 pouvoir vouloir devoir il faut
第5回 複合過去(avoir＋過去分詞)
第6回 複合過去(etre＋過去分詞)
第7回 a. これまでの内容の復習小テスト b.解説
第8回 半過去 関係代名詞 強調構文
第9回 受動態 接続詞 que
第 10 回 単純未来
第 11 回 ジェロンディフ 感嘆文 y en
第 12 回 条件法現在
第 13 回 接続法現在
第 14 回 a. 試験 b. 復習

履修上の注意

遅刻や欠席は絶対にしないでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

小テストや課題の準備を毎回必ず行ってください。復習では辞書を引きながら単語の意味を丁寧に確認してください。

教科書

『アミカルマン〈プリュス〉』 澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学 (駿河台出版社)

参考書

必要に応じて授業内容を補足するプリントを配布します。

課題に対するフィードバックの方法

採点、添削したものを翌回の授業かクラスウェブ上で返却します。

成績評価の方法

平常点(授業への参加度、小テスト、課題)60%、試験40%

その他

科目ナンバー：		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
西村 美穂	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

フランス語の仕組みを復習しながら、やさしいフランス語の文章を音読する。フランス文化への理解も深めたい。

授業内容

① テクスト音読
② 文法確認
③ 仏会話・歌・詩などの聞きとり・音読
④ フランス語の暗記
［第1回］ 復習
［第2回］ 過去について話す①
［第3回］ 過去について話す②
［第4回］ 過去について話す③
［第5回］ 過去について話す④
［第6回］ 状況を説明する①
［第7回］ 状況を説明する②
［第8回］ 比較する①
［第9回］ 比較する②
［第 10 回］ 反省を述べる①
［第 11 回］ 反省を述べる②
［第 12 回］ 願望を述べる①
［第 13 回］ 願望を述べる②
［第 14 回］ a. 試験(レポートまたは発表） b. 解説

履修上の注意

教室で指示する。

準備学習(予習・復習等)の内容

フランス語を聴き，声に出す。

教科書

プリント

参考書

教室で指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題等は基本、Oh-o!Meiji システムを利用する。また最終授業日に試験(レポートまたは発表)を実施し、同日に解説を説明または公開する。

成績評価の方法

レポートまたは発表

その他

科目ナンバー：(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅢB	フランス語ⅢB	
担 当 者	開講期	開講地区
森 真太郎	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

一、二年生で身につけたフランス語の能力をもう一度確認し、しっかりした土台をつくるために努力していく。文法や会話の能力を向上させ、中級レベルの読む力、聴解能力、話す力に結びつけていきたい。授業中は、フランスの時事問題などの音声・動画も積極的に取り入れてゆく。このような学習を通じて、フランス文化や社会などについての知識を学びながら総合的なフランス語能力を涵養することを目指す。

授業内容

第1回 ： イントロダクション: 履修上の注意
第2回 ： 教科書の前半のまとめ(1)
第3回 ： 教科書の前半のまとめ(2)
第4回 ： 9 課の学習
第5回 ： 10 課の学習
第6回 ： 11 課の学習
第7回 ： 12 課の学習
第8回 ： 中間復習問題
第9回 ： 13 課
第 10 回 ： 14 課の学習
第 11 回 ： 15 課の学習
第 12 回 ： 総合的復習
第 14 回 ： a. まとめ, b. 試験
＊進行内容は学生と協議して決める。上記は一例に過ぎない。

履修上の注意

遅刻は2回で1回にカウントする。欠席が三回以上になった場合は、試験から減点が行われる。仏和辞典を必ず持ってくること。

準備学習(予習・復習等)の内容

とくに、構文把握と単語の定着に時間を注いで欲しい。

教科書

『マ・グラメール 4 訂版』白水社
＊必ず大学の書店を通じて買うこと。

参考書

授業中、随時指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点30%(参加、レスポンス)、考査70%(小テスト等も含む)
＊成績評価の方法については初回授業で詳しく伝える。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣA	フランス語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。

また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つです。習得すると可能性や世界が広がりますが、二年目の皆さんは、その魅力とともに、苦手な点やわかりづらい部分も感じていることでしょう。この授業では、初級を補強しつつ、中級への橋渡しを目指します。そして、フランスのテレビ・

授業内容

一年次の初級文法を復習しながら、より発展的なフランス語を学びます。各回のテーマを読解内容や文法事項で示すと、次の通りです。

第1回　Texte 1　エムバペ、ジダン、プラティニ、コパ
第2回　文法　中性代名詞
第3回　Texte 2　シモーヌ・ヴェイユ
第4回　文法　直説法単純未来・直説法前未来
第5回　Texte 3　ジョセフィン・ベイカー
第6回　文法　直説法複合過去
第7回　Texte 4　マリー・キュリー
第8回　文法　条件法(1)
第9回　文法　条件法(2)
第10回　Texte 5　ウジェーヌ・プーベル
第11回　文法　接続法
第12回　Texte 6　ナポレオン
第13回　文法　非人称構文
第14回　a　期末試験　/ b　正答解説

履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・次回の授業の読解個所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう(辞書を引いて、各自訳しておく)。
・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『フランス史のなかの「偉人」たち』松田浩則、ガラベ・クリストフ著(朝日出版社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(和訳の発表、受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣA	フランス語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
増田 晴美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、1年次に習得した事項を復習・確認しながら、その発展・応用として、ある程度の長さのフランス語が訳せ、聴き取れ、また表現できることを目的とします。今日、様々な民族が共生・対立する世界情勢の中で、問題を発見し解決する柔軟な思考方法を獲得するには、「グローバル・ランゲージ＝英語」以外の言語が担う文化や表現形式を識ることが大切です。そのため、国際的な外交言語・作業言語であるフランス語の基本的な文法をさらに理解し、語彙や表現を増やし、読解力を広げる作業を行います。将来、多様な専門分野に進んでゆく皆さんに、

授業内容

[第1回] 知識の確認、さまざまな自己紹介(1)
[第2回] さまざまな自己紹介(2)
[第3回] 趣味について語る(1)
[第4回] 趣味について語る(2)
[第5回] フランスの食生活(1)
[第6回] フランスの食生活(2)
[第7回] 日本食のイメージ(1)
[第8回] 日本食のイメージ(2)
[第9回] ブルターニュについて(1)
[第 10 回] ブルターニュについて(2)
[第 11 回] パリや地方に住む(1)
[第 12 回] パリや地方に住む(2)
[第 13 回] まとめ(1)
[第 14 回] a:まとめ(2) b:筆記試験形式で理解度を確認

履修上の注意

・教科書は必ず用意すること。学期開始時に教科書チェックを行う。
・度重なる注意にも関わらず教科書を用意しない場合は単位「不可」とする。
・辞書は紙の辞書、電子辞書のどちらでも可。
・授業の進行を妨げるような講義途中の入室、退出、私語等を慎むこと。
場合によっては減点や単位「不可」の対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

・ふだんから、フランス発、あるいはヨーロッパ発の情報・ニュースに関心を持つようにするとよい。
・音声は web 上に用意されているので、時間があるときに耳慣らしに聴いてみるとよい。

教科書

『フランスの若者は「いま」』井上櫻子　他(朝日出版社)2016 年初版

参考書

特に指定なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に簡易な小テストを行った場合は、次の授業時に返却し、解説を行う。

成績評価の方法

授業と定期試験の総合評価とする(定期試験 40%、授業内の活動 60%)。
なお、定期試験の得点が 30%に満たない場合は、上の総合評価とは無関係に「不可」とする。

その他

授業内容は、進度や習熟度等、必要に応じて調整することがある。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣA	フランス語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
津田 峰子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

今も世界で愛読されている 19 世紀のフランス小説、ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』にある有名なエピソードのひとつを、易しく翻案化されたテキストを使って読み進めていきたい。想像力を駆使しつつも、辞書を引き語彙力を積極的に高めていくこと、読解に必要な文法事項(仏検4級合格程度)を理解し親しむこと、テキストを正しいフランス語で発音できるように、音と綴りの法則を身につけることを授業目標とする。

授業内容

第1回;ユゴーの解説
第2回;テキスト読解のためのポイント解説、複合過去の復習
第3回;<ミリエル司教(1)>形容詞
第4回;<ミリエル司教(2)>中性代名詞／条件法現在
第5回;<一日中歩き通しのその夜に(1)>半過去
第6回;<一日中歩き通しのその夜に(2)>推測表現／知覚動詞
第7回;<注意せよ(1)>衣服、体の部位に関する名詞／位置を表す前置詞
第8回;<注意せよ(2)>半過去と複合過去
第9回;<従う術を心得る(1)>代名動詞／強調構文
第 10 回;<従う術を心得る(2)>複合過去／条件法現在
第 11 回;<従う術を心得る(3)>単純未来／代名動詞の命令法
第 12 回;<従う術を心得る(4)>半過去
第 13 回;「複合過去宿題プリント」解説と「単語等のプレテスト」
第 14 回;a. 試験 b.夏休み宿題(「19 世紀長編小説読後感」提出)と秋学期1回目に行う復習テストの説明
「授業の進め方」
発音に関して) 発音トレーニング表を使い、音と綴りの法則を復習する。
読解に関して) テキストに関する註は、章ごとに先渡しする。毎回指名した数人に訳読を担当してもらうが、その際、辞書をよく読み、文章の構造を 正確に把握すること。日本語に訳しにくい部分は、訳文を創造するという翻訳の妙味も感じてほしいと考えている。
文法に関して) 読解に関する文法事項は毎回〔授業ノート〕というプリントで、訳読前に、練習問題を解きつつ、復習する。基本的な動詞活用は、暗記を徹底する。動詞活用、単語熟語テスト、文法確認テストは随時実施する。

履修上の注意

1) 最低限の準備学習、宿題提出、小テスト参加を欠かさないこと。
2) 飲食、私語、携帯電話の使用等、授業の妨害になる行為は一切禁止。
3) 積極的授業参加が全く認められない場合(準備学習の不足、宿題未提出、居眠り等も含め)、退席、もしくは欠席扱いとなる。またアップした資料等は、必ず閲覧すること。
4) また講義中の入室、退室は原則として認めない。
5) 授業には、テキストだけでなく、(紙媒体の)辞書も携帯すること。(「紙媒体の辞書」の恒常的な形態不備も減点、もしくは欠席扱いとする。)
フランス語に関する質問・相談・欠席事由届などは、授業後、またはクラスウェブ上にて受け付ける。
「クラスウェブに関して」
クラスウェブ上での資料アップ、連絡等も多いので、「授業お知らせ」「メッセージ」に注意すること。
「クラスウェブ上でのプリント提出」の際は、教員からの「フィードバックコメント」を必ず確認すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

1) 先渡しする註プリントを丁寧に読み、ポイントをテキスト、あるいはノートに書き込むこと。
2) 授業に該当する箇所のフランス語をノートに書き写し、私訳(担当者はクラスウェブに提出)を書いてくること。
3) 単語熟語プリント(授業内配布、クラスウェブにて毎週提出)を作成して、語彙の増強に努めること。「単語シート」は、毎週全員がクラスウェブに提出することとなる(必須)。
授業内に取り上げた文法事項は、1年生で使用したテキスト等を参照しながら復習し、基礎固めをしていくこと。
付属の音声を聴き、発音練習するこ

教科書

『レ・ミゼラブル』(Lecture facile シリーズ)、ヴィクトル・ユゴー、(アシェット社)。出来るだけ事前に購入しておくこと。

参考書

辞書は、簡易なポケット辞典,電子辞書でなく、紙媒体の中辞典を使用、必ず携帯すること。
紙媒体の中辞典であれば出版社は問わない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に実施した小テストや、提出された宿題は、1 週間後の授業時に返却、必要に応じて解説する。
「クラスウェブ上でのプリント、またはノート提出」の際は、教員からの「フィードバックコメント」を必ず確認すること。提出不備がある場合は、「授業お知らせ」「メッセージ」等で連絡するので、提出後は注意してください。

成績評価の方法

授業参加態度(予習、小テストの結果、宿題提出内容;ウェブ上での提出もあり)20%、定期テストの結果 80%を合わせて評価する。

宿題未提出は一切認めない。テキストや辞書を繰り返し忘れる場合、また理由のない遅刻、居眠りは、減点対象「マイナス 5 点～10 点」、もしくは欠席扱いとなる。クラスウェブにある資料を閲覧しない場合も、減点とする。
★授業参加態度等に継続的な問題があり、改善が見られない場合、授業出席をお断りする場合もある。
★テキスト訳担当日の欠席は、「罹患証明可能な病欠以外」原則として認めない。病

その他

受講者には、積極的な授業参加だけでなく、辞書を引く、付属の音声を聞き声に出して読む、文法事項を復習する等、自宅での学習時間確保が必須であることを明記しておきたい。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣA	フランス語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
小谷 奈津子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

比較的平易なフランス語のテキストを講読しながら,初級文法の確認をしていきます。またテキストの中に出てきた文をとりあげ、語彙を置き換えて練習し、使える表現を増やしていきます。テーマに沿って、フランス(フランス語圏)の多様な文化にも関心を抱き,異文化理解を深めます。
ある程度の分量のテキストを読みこなし、日常的な話題についてフランス語で表現できるようになることを目指します。実用フランス語検定 4 級・3 級に挑戦しましょう。

授業内容

フランスのブルターニュ地方についてのテキストの講読と会話・練習問題を行います。講読では文の構造や時制を丁寧に見ていきます。テーマによっては,映像や音楽を聴くこともあります。
第1回 イントロダクション・レンヌ駅で
第2回 会話・練習問題
第3回 リース広場
第4回 会話・練習問題
第5回 クレープリー
第6回 会話・練習問題
第7回 レンヌ大学
第8回 会話・練習問題
第9回 モン・サン・ミッシェル
第 10 回 会話・練習問題
第 11 回 シネマ(エリック・ロメール)
第 12 回 ケルト民族フェスティヴァル
第 13 回 会話・練習問題
第 14 回 a: 定期試験、b: まとめ

履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典(紙または電子辞書)を必ず持参すること。スマートフォン・PC の利用不可。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、次回の授業範囲に目を通し、知らない単語は辞書を引いて調べておく。動詞の時制なども確認しておくと、訳がとりやすくなります。
授業後は、もう一度その日に学んだテキストを読み直し、わからないことがないか点検し、あれば質問ができるようにしておく。教科書の音声録音も利用しましょう。
以上の準備学習に最低2時間は必要です。

教科書

『エスプラナード2』、小谷奈津子著、久富健監修、(朝日出版社)

参考書

必要に応じて授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で確認します。

成績評価の方法

平常点(課題提出・積極的な取り組み・発表)60%, 定期試験 40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣA	フランス語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 明美	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」は一年次で身につけたフランス語の基礎力をもとに、さらに講読の力をつけ、あわせて文章表現能力を育むのが目標です。また、フランス語圏の文化や現代事情などにも関心をもってもらえるように進行していきます。修了時にはフランス語検定3級程度の実力になっているはずです。

2年次では、この指定クラスによる「中級フランス語Ⅰ・Ⅱ」と、テーマ別に自由に選択できるテーマクラスでの「中級フランス語Ⅲ・Ⅳ」を履修することになります。

なお、初級文法の復習に加えて、毎回 DICTEE を行います。

授業内容

各担当教員が選んだ教材をもとに進行します。

講読の力をつけて、最終的には簡単な文章ならば独力で読めるようになることをめざしてください。

第1回 中級フランス語を学ぶにあたっての注意点と講読する本・著者の紹介
第2回 初級文法の復習
第3回 初級文法の復習2
第4回 教科書の講読と DICTEE
第5回 教科書の講読
第6回 教科書の講読と DICTEE
第7回 教科書の講読
第8回 教科書の講読と DCITEE
第9回 教科書の講読
第 10 回 教科書の講読と DCITEE
第 11 回 教科書の購読
第 12 回 教科書の講読と DCITEE
第 13 回 教科書の講読
第 14 回 a:試験 b:講義全体のまとめ

履修上の注意

DICTEE を行うので欠席しないでください。

また、辞書を使って丹念に購読していってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

次回の授業範囲について事前に教科書等で調べておくこと。

復習を欠かさぬこと。

教科書

著者 ERIK ORSENNA
タイトル LA GRAMMAIRE EST UNE CHANSON DOUCE
出版社 EDITION Stock LIBRAIRIE GENERALE FRANÇAISE

なお、仏和辞典の使い方に慣れるのも重要です。また、1年次では簡単な小辞典で済ませた人も、2年次では中辞典を購入すること。

参考書

適時、教員が指定します。

課題に対するフィードバックの方法

DITEE に関しては、次の回の授業で必ず確認を行います。

成績評価の方法

試験を受けるには講義の2／3以上の出席が必要です。

平常点(授業への参加度)、小テスト、定期試験等を担当教員が総合的に評価します。

定期試験の評価が最も重要です。

その他

2年次の修了時には、フランス語検定3級以上に合格が可能です。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣA	フランス語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
塩谷 優衣	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

テクストを訳読しながら初級文法を復習し知識を定着させ、語彙力を向上させることを目標とします。また訳読したテクストをもちいて書き取りと音読の練習も行います。文の構造をとらえながら正確に読み解くこと、フランス語から日本語に置きかえるだけでなく咀嚼すること、フランス語の音とつづりの関係を正確に把握できるようになることを目指します。

授業内容

第 1 回 a. 授業概要の説明 b. 文法事項の定着度確認小テスト
第 2 回 テクスト読解(1)
第 3 回 テクスト読解(2)
第 4 回 テクスト読解(3)
第 5 回 テクスト読解(4)
第 6 回 テクスト読解(5)
第 7 回 これまでの内容の確認小テスト
第 8 回 テクスト読解(6)
第 9 回 テクスト読解(7)
第 10 回 テクスト読解(8)
第 11 回 テクスト読解(9)
第 12 回 テクスト読解(10)
第 13 回 テクスト読解(11)
第 14 回 a. 試験 b. 解説

履修上の注意

毎回の予習、復習は十分に時間をとり、必ず行ってください。辞書を丁寧に引く習慣をつけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では訳だけでなく、文の構造もしっかり確認してください。復習では音声を聞きながら音読し、語彙・文法・ 訳を再確認して知識を定着させてください。

教科書

『La grammaire est une chanson douce』 Erik Orsenna (Editions Stock)

参考書

必要に応じて授業内容を補足する資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはクラスウェブ上で返却します。必要に応じてクラス全体で確認すべき点を共有します。

成績評価の方法

平常点(授業への参加、小テスト、課題)60%、試験 40%

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣB	フランス語ⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
宮川 慎也	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

。こうした価値観がフランス文化にはあふれています。

外国語を学ぶことは、他の国の人たちのものの見方、考え方を学ぶことでもあります。フランス語を学ぶことで、フランス人の価値観にも触れてみませんか。また、フランス語は、国連の諸活動やオリンピックなど、国際的な舞台で広く使用される言語の一つであり、習得すると可能性や世界が広がります。

この授業では、春学期の後を受けて、引き続き初級を補強しつつ、中級フランス語の定着を目指します。そして、フランスのテレビ・ニュースなども時々視聴し、フランスの文化・生活の一端に

授業内容

一年次の初級文法を復習しながら、より発展的なフランス語を学びます。各回のテーマを読解内容や文法事項で示すと、次の通りです。

第1回　Texte 7 オランプ・ド・グージュ
第2回　文法 指示代名詞・強調構文
第3回　Texte 8 トゥッサン・ルーヴェルチュール
第4回　文法 比較級・最上級
第5回　Texte 9 モリエール
第6回　文法 受動態・不定代名詞・不定形容詞
第7回　Texte 10　ベルナール・パリシー
第8回　文法 現在分詞・ジェロンディフ
第9回　Texte 11 フランソワ・ヴィヨン
第10回 文法 関係代名詞(1)
第11回 文法 関係代名詞(2)
第12回 Texte 12　ジャンヌ・ダルク
第13回 文法 目的語人称代名詞
第14回 a 期末試験 / b 正答解説

履修上の注意

読解に当たっては前回授業で指名した人に訳してもらうことがあるので、指名には積極的に応じて下さい。テストの苦手な人は、この発表や問題演習でがんばりましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

・次回の授業の読解個所は、できるだけ予習の上、授業に臨みましょう(辞書を引いて、各自訳しておく)。
・付属の音声を繰り返し聴いて耳を慣らし、また発音練習しましょう。
・動詞の活用はフランス語を習得するポイントの一つなので、よく復習しましょう。

教科書

『フランス史のなかの「偉人」たち』松田浩則、ガラベ・クリストフ著(朝日出版社)

参考書

仏和辞典は毎回持参しましょう。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内に正答解説を行い、また必要に応じて Oh-o! Meiji システムを活用して講評を行います。

成績評価の方法

試験…100%。ただし、平常点(和訳の発表、受講態度など)を、20%程度の範囲で加点・減点する場合もあります。
評価に際しては、文法力、語彙力などがポイントとなります。

その他

教員のメールアドレスを、「シラバスの補足」に記載します。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣB	フランス語ⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
増田 晴美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、1年次に習得した事項を復習・確認しながら、その発展・応用として、ある程度の長さのフランス語が訳せ、聴き取れ、また表現できることを目的とします。今日、様々な民族が共生・対立する世界情勢の中で、問題を発見し解決する柔軟な思考方法を獲得するには、「グローバル・ランゲージ＝英語」以外の言語が担う文化や表現形式を識ることが大切です。そのため、国際的な外交言語・作業言語であるフランス語の基本的な文法をさらに理解し、語彙や表現を増やし、読解力を広げる作業を行います。将来、多様な専門分野に進んでゆく皆さんに、

授業内容

[第1回] 春学期の復習、一日の出来事を語る(1)
[第2回] 一日の出来事を語る(2)
[第3回] 過去の出来事を語る(1)
[第4回] 過去の出来事を語る(2)
[第5回] 過去の出来事を語る(3)
[第6回] 過去の出来事を語る(4)
[第7回] 家族関係について(1)
[第8回] 家族関係について(2)
[第9回] 就職問題について(1)
[第 10 回] 就職問題について(2)
[第 11 回] 未来の予定や希望について(1)
[第 12 回] 未来の予定や希望について(2)
[第 13 回] まとめ(1)
[第 14 回] a:まとめ(2) b:筆記試験形式で理解度を確認

履修上の注意

・教科書は必ず用意すること。学期開始時に教科書チェックを行う。
・度重なる注意にも関わらず教科書を用意しない場合は単位「不可」とする。
・辞書は紙の辞書、電子辞書のどちらでも可。
・授業の進行を妨げるような講義途中の入室、退出、私語等を慎むこと。
場合によっては減点や単位「不可」の対象とする。

準備学習(予習・復習等)の内容

・ふだんから、フランス発、あるいはヨーロッパ発の情報・ニュースに関心を持つようにするとよい。
・音声は web 上に用意されているので、時間があるときに耳慣らしに聴いてみるとよい。

教科書

『フランスの若者は「いま」』井上櫻子 他(朝日出版社)2016 年初版

参考書

特に指定なし。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に簡易な小テストを行った場合は、次の授業時に返却し、解説を行う。

成績評価の方法

授業と定期試験の総合評価とする(定期試験 40%、授業内の活動 60%)。
なお、定期試験の得点が 30%に満たない場合は、上の総合評価とは無関係に「不可」とする。

その他

授業内容は、進度や習熟度等、必要に応じて調整することがある。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣB	フランス語ⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
津田 峰子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

今も世界で愛読されている 19 世紀のフランス小説、ヴィクトル・ユゴーの『レ・ミゼラブル』にある有名なエピソードのひとつを、易しく翻案化されたテキストを使って読み進めていきたい。想像力を駆使しつつも、辞書を引き語彙力を積極的に高めていくこと、読解に必要な文法事項(仏検4級合格程度)を理解し親しむこと、テキストを正しいフランス語で発音できるように、音と綴りの法則を身につけることを授業目標とする。

授業内容

第1回;数字1～100
第2回;フランス語時制のしくみ
第3回;＜男は服を着たまま眠り込む(1)＞時の副詞句
第4回;＜男は服を着たまま眠り込む(2)＞代名動詞／様態の副詞句
第5回;＜ジャン・ヴァルジャンとは何者か(1)＞ジェロンディフと分詞構文
第6回;＜ジャン・ヴァルジャンとは何者か(2)＞ジェロンディフ
第7回;＜ジャン・ヴァルジャンとは何者か(3)＞数字と受動態
第8回;＜男の心の中で何が起こったか？(1)＞接続法(その1)
第9回;＜男の心の中で何が起こったか？(2)＞接続法(その2)
第 10 回;＜男の心の中で何が起こったか？(3)＞比較級／最上級
第 11 回;＜許し(1)＞所有表現
第 12 回;＜許し(2)＞比較節
第 13 回;＜許し(3)＞受動態と代名動詞の複合過去
第 14 回;a.定期テスト
b.フランス語学習1年間の総括
「授業の進め方」
発音に関して) 発音トレーニング表を用い、音と綴りの法則を復習する。
読解に関して) テキストに関する註は、章ごとに先渡しする。毎回指名した数人に訳読を担当してもらうが、その際辞書をよく読み、文章の構造を正確に把握すること。日本語に訳しにくい部分は、訳文を創造するという翻訳の妙味も感じてほしいと考えている。
文法に関して) 読解に関係する文法事項は、毎回〔授業ノート〕というプリントで、訳読前に、練習問題を解きつつ、復習する。基本的な動詞活用に関しては、暗記を徹底する。動詞活用、単語熟語テスト、文法確認テストは、随時実施する。

履修上の注意

1) 最低限の準備学習、宿題提出、小テスト参加を欠かさないこと。
2) 飲食、私語、携帯電話の使用等、授業の妨害になる行為は一切禁止。
3) 積極的授業参加が全く認められない場合(準備学習の不足、宿題未提出、居眠り等も含め)、退席、もしくは欠席扱いとなる。クラスウェブにある資料等は必ず閲覧すること。
4) また講義中の入室、退室は原則として認めない。
5) 授業には、テキストだけでなく、(紙媒体の)辞書も携帯すること。(「紙媒体の辞書」の恒常的な形態不備も減点、もしくは欠席扱いとする。)
フランス語に関する質問・相談・欠席事由届などは、授業後、またはクラスウェブ上にて受け付ける。
「クラスウェブに関して」
クラスウェブ上での資料アップ、連絡等も多いので、「授業お知らせ」「メッセージ」に注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

1) 先渡しする註プリントを丁寧に読み、ポイントをテキスト、あるいはノートに書き込むこと。
2) 授業に該当する箇所のフランス語をノートに書き写し、私訳(担当者はクラスウェブに提出)を書いてくること。
3) 単語熟語プリント(授業内配布、クラスウェブにて毎週提出)を作成して、語彙の増強に努めること。「単語シート」は、毎週全員がクラスウェブに提出することとなる(必須)。
授業内に取り上げた文法事項は、1年生で使用したテキスト等を参照しながら復習し、基礎固めをしていくこと。
付属の音声を聴き、発音練習するこ

教科書

『レ・ミゼラブル』(Lecture facile シリーズ)、ヴィクトル・ユゴー、(アシェット社)。必ず、事前に購入しておくこと。

参考書

辞書は、簡易なポケット辞典、電子辞書でなく、紙媒体の中辞典を使用、必ず携帯すること。
紙媒体の中辞典であれば出版社は問わない。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に実施した小テストや、提出された宿題は、1 週間後の授業時に返却、必要に応じて解説する。
「クラスウェブ上でのプリント、またはノート提出」の際は、教員からの「フィードバックコメント」を必ず確認すること。提出不備がある場合は、「授業お知らせ」「メッセージ」で連絡するので、提出後は注意してください。

成績評価の方法

授業参加態度(予習、小テストの結果、宿題提出内容;ウェブ上での提出もあり)20%、定期テストの結果 80%を合わせて評価する。

宿題未提出は一切認めない。テキストや辞書を繰り返し忘れる場合、また理由のない遅刻、居眠りは、減点対象「マイナス 5 点～10 点」、もしくは欠席扱いとなる。クラスウェブにある資料を閲覧しない場合も、減点とする。
★授業参加態度等に継続的な問題があり、改善が見られない場合、授業出席をお断りする場合もある。
★テキスト訳担当日の欠席は、「罹患証明可能な病欠以外」原則として認めない。病

その他

受講者には、積極的な授業参加だけでなく、辞書を引く、付属の音声を聞き声に出して読む、文法事項を復習する等、自宅での学習時間確保が必須であることを明記しておきたい。

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語ⅣB	フランス語ⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
小谷 奈津子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

比較的平易なフランス語のテキストを講読しながら，初級文法の確認をしていきます。またテキストの中に出てきた文をとりあげ、語彙を置き換えて練習し、使える表現を増やしていきます。テーマに沿って、フランス(フランス語圏)の多様な文化にも関心を抱き，異文化理解を深めます。
ある程度の分量のテキストを読みこなし、日常的な話題についてフランス語で表現できるようになることを目指します。実用フランス語検定 4 級・3 級に挑戦しましょう。

授業内容

春学期に続き、フランスのブルターニュ地方についてのテキストの講読と会話・練習問題を行います。テーマによっては，映像や音楽など視聴覚資料も用います。
第1回 イントロダクション・巨石文化
第2回 会話・練習問題
第3回 ユエルゴアでの散歩
第4回 会話・練習問題
第5回 アーサー王伝説
第6回 会話・練習問題
第7回 地獄の入り口
第8回 会話・練習問題
第9回 詩(ジャック・プレヴェール)／絵画(ゴーギャン)
第 10 回 バラ色の花崗岩海岸
第 11 回 会話・練習問題
第 12 回 出産の季節
第 13 回 会話・練習問題
第 14 回 a: 試験、b: まとめ

履修上の注意

連絡はクラスウェブで行うので、毎回確認してください。
授業には仏和辞典(紙または電子辞典)を必ず持参すること。スマートフォン・PC の利用不可。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習としては、次回の授業範囲に目を通し、知らない単語は辞書を引いて調べておく。動詞の時制なども確認しておくと、訳がとりやすくなります。
授業後は、もう一度その日に学んだテキストを読み直し、わからないことがないか点検し、あれば質問ができるようにしておく。教科書の音声録音も利用しましょう。
以上の準備学習には最低2時間は必要です。

教科書

『エスプラナード2』、小谷奈津子著、久富健監修、(朝日出版社)

参考書

必要に応じて授業中に紹介します。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で確認します。

成績評価の方法

平常点(課題提出・積極的な取り組み・発表)60%，定期試験 40%で評価します。
教科書・辞書忘れは、平常点から減点します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語IVB	フランス語IVB	
担 当 者	開講期	開講地区
高橋 明美	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期に引き続き、さらに読解力を高めるための授業を行います。
日本で学生のために書かれた教科書ではなく、決して難しくなくとも、フランスで広く読まれている教科書を用いて、生きたフランス語に触れます。
また、DICTEE も行います。聞く力も養います。

授業内容

毎回、教科書の講読・DICTEE・文法の復習を行います。

履修上の注意

欠席しないでください。
辞書を丁寧にひいて、予習・復習を行ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

特に復習と宿題を怠らないでください。

教科書

春学期に引き続き、この教科書を用います。
著者 ERIK ORSENNA
タイトル LA GRAMMAIRE EST UNE CHANSON DOUCE
出版社 EDITION Stock LIBRAIRIE GENERALE FRANÇAISE

参考書

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

平常の態度・小テスト・期末テストを総合的に判断して評価します。このうち、期末テストの結果を特に重視します。

その他

科目ナンバー:(AL)LAN131N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
フランス語IVB	フランス語IVB	
担 当 者	開講期	開講地区
塩谷 優衣	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

「フランス語IVA」で扱ったテクストの続きを訳読しながら初級文法を復習し知識を定着させ、語彙力を向上させることを目標とします。また訳読したテクストをもちいて書き取りと音読の練習も行います。文の構造をとらえながら正確に読み解くこと、フランス語から日本語に置きかえるだけでなく咀嚼すること、フランス語の音とつづりの関係を正確に把握できるようになることを目指します。

授業内容

第1回 a. 授業概要の説明 b. 春学期の復習
第2回 テクスト読解(12)
第3回 テクスト読解(13)
第4回 テクスト読解(14)
第5回 テクスト読解(15)
第6回 テクスト読解(16)
第7回 これまでの内容の確認小テスト
第8回 テクスト読解(17)
第9回 テクスト読解(18)
第10回 テクスト読解(19)
第11回 テクスト読解(20)
第12回 テクスト読解(21)
第13回 テクスト読解(22)
第14回 a. 試験 b. 解説

履修上の注意

毎回の予習、復習は十分に時間をとり、必ず行ってください。辞書を丁寧に引く習慣をつけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習では訳だけでなく、文の構造もしっかり確認してください。復習では音声を聞きながら音読し、語彙・文法・ 訳を再確認して知識を定着させてください。

教科書

『La grammaire est une chanson douce』 Erik Orsenna (Editions Stock)

参考書

必要に応じて授業内容を補足する資料を配布します。

課題に対するフィードバックの方法

授業中またはクラスウェブ上で返却します。必要に応じてクラス全体で確認すべき点を共有します。

成績評価の方法

平常点(授業への参加、小テスト、課題)60%、試験 40%

その他

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ＩA	ロシア語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
小澤 裕之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

大学で初めてロシア語を学ぶ人のための授業です。ロシアのアニメーションやミュージックビデオ(MV)を楽しみながら、ロシア語の初歩を学習します。また、スタジオジブリの短篇アニメーションやロックバンド amazarashi の MV など、ロシアに関連する日本の映像作品も視聴します。
ロシア語のアルファベットと初歩的な単語を学び、多くのテキストや映像に触れることで、ロシア語の音と文字に慣れることが目標です。

授業内容

第１回 イントロダクション。ロシアとロシア語について。また授業の進め方について水先案内的な概説を行ないます。
第２回 文字と発音(1) ロシア語の文字の書き方、母音と子音
第３回 文字と発音(2) 子音の同化、母音の弱化、特殊な発音
第４回 第１課「わたしはカモメ」主語と述語、人称代名詞
第５回 第２課「うしろの正面だーれ」名詞の性別
第６回 第３課「このテクストがわかる？」(1)動詞の現在形その 1、所有代名詞
第７回 第４課「ロシア語を話す」(1)動詞の現在形その２
第８回 第４課「ロシア語を話す」(2)名詞の複数形、正書法
第９回 第５課「来た、見た、勝った」(1)動詞の過去形
第10回 第５課「来た、見た、勝った」(2)前置格
第11回 第６課「赤の広場とホワイトハウス」(1)形容詞
第12回 第６課「赤の広場とホワイトハウス」(2) 代名詞の前置格、быть の未来形
第13回 第７課『罪と罰』を読んだ？」(1)名詞と形容詞の対格
第14回 (a)試験 (b)正答解説

履修上の注意

なるべく辞書を用意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の例文を 10 回音読してください。また、定期的に小テスト・単語テストを実施しますので、各課の「単語ノート」を暗記しましょう。

教科書

長野俊一『ゼロから始めるロシア語』(三修社)

参考書

初級者向けの辞典としては、『博友社ロシア語辞典』が定番です。

課題に対するフィードバックの方法

小テストと期末試験は、実施後に解説します。

成績評価の方法

期末試験 50%、平常点(小テスト・授業態度)50%。

その他

受講生の理解度によって、授業進度は変わる可能性があります。

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ＩA	ロシア語ＩA	
担 当 者	開講期	開講地区
恩田 義徳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の概要
ロシア語を初めて学ぶ人を対象とします。はじめに文字の読み方・書き方を覚え、次に正しい発音を身につけます。
その後、教科書に従って短い文を音読しながら文法事項を学んでいきます。
また授業の合間に文化や街の様子など、ロシアそのものの紹介も取り入れる予定です。
到達目標
ロシア語の文字(キリル文字)を読んだり書いたりすることができるようになること、ロシア語を正しく発音できるようになることを目標とします。
また学んだ文法事項をしっかりと身につけ秋学期の授業へつなげるようにします。

授業内容

第１回 ガイダンス、自己紹介
第２回 第１課 文字と発音(1)
第３回 第２課 文字と発音(2)「これは劇場です。」
第４回 第３課 文字と発音(3)「これは日本ですか？」
第５回 第４課「これは何ですか？」
第６回 発音のまとめ
第７回 第５課「これは私の両親です。」
第８回 第６課「今、宿題をしています。」
第９回 第７課「どんな雑誌を読んでいるのですか？」
第10回 第８課「ロシア語が話せますか？」
第11回 第９課「モスクワに住んでいます。」
第12回 第10課「今日何をしましたか？」「明日は何をしますか？」
第13回 春学期のまとめ
第14回 a. 筆記体について b.試験
授業の内容は受講者の様子で多少前後することがあります。

履修上の注意

初回の授業で教科書等の説明を行いますので必ず出席してください。
また欠席する場合は事前に教員に連絡をしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。新しいことは授業中に学び、次の授業はその確認からはじめます。

教科書

プリント(電子データ)を配布します。

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を採点・訂正して返却します。

成績評価の方法

定期試験(50%)、授業への貢献度(50%)。
無断欠席が繰り返された場合、成績評価の対象としません。

その他

辞書はすぐに購入する必要はありません(ある程度文法が分からないと使うことができません)。辞書については授業の中で指示します。
電子辞書は学習の妨げになるので使用しないでください。
連絡先は以下のアドレスを使ってください。
なお件名は必ず「火１ロシア語 (要件)」としてください。
ondayoshinori[AT]gmail.com

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ＩＢ	ロシア語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
小澤 裕之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ロシア語 IA に続いて開講される授業です。ロシアのアニメーションやミュージックビデオを楽しみながら、ロシア語の初歩を学習します。また、ロシア人の制作した新海誠監督の模倣作など、日本文化が影響を与えたロシアの映像作品を視聴することで、ロシア語とロシア文化を逆照射し、知識を深めます。
ロシア語の基本的な文法事項を学び、いろいろなテキストや映像に触れることで、日常生活で使われるロシア語の簡単な文章を読めるようになることが目標です。

授業内容

第１回 春学期の復習。春学期に勉強した文法事項をおさらいします。
第２回 第８課「ここは禁煙です」(1)無人称文
第３回 第８課「ここは禁煙です」(2)形容詞の短語尾形
第４回 第９課「ターニャの誕生日」名詞・形容詞の生格
第５回 第 10 課「1 時にデート」(1)個数詞＋名詞の結合
第６回 第 10 課「1 時にデート」(2)移動の動詞
第７回 第 11 課「二人三脚、体のペア」(1)完了体と不完了体
第８回 第 12 課「明日の予定は？」(1)未来形
第９回 第 13 課「誰に電話したの？」名詞・形容詞の与格、順序数詞
第 10 回 第 14 課「大統領になる」(1)名詞・形容詞の造格
第 11 回 第 14 課「大統領になる」(2)関係代名詞その1
第 12 回 第 15 課「あの店はうまい」(1)不定人称文
第 13 回 第 15 課「あの店はうまい」(2)時の表現
第 14 回 (a)試験、(b)正答解説

履修上の注意

なるべく辞書を用意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の例文を 10 回音読してください。また、定期的に小テスト・単語テストを実施しますので、各課の「単語ノート」を暗記しましょう。

教科書

長野俊一『ゼロから始めるロシア語』(三修社)

参考書

初級者向けの辞典としては、『博友社ロシア語辞典』が定番です。

課題に対するフィードバックの方法

小テストと期末試験は、実施後に解説します。

成績評価の方法

期末試験 50%、平常点(小テスト・授業態度)50%。

その他

受講生の理解度によって、授業進度は変わる可能性があります。

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ＩＢ	ロシア語ＩＢ	
担 当 者	開講期	開講地区
恩田 義徳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期開講のロシア語 IA の続きとなります。
短文の音読をし、文法事項を学んでいきます。
また授業の合間に文化や街の様子など、ロシアそのものの紹介も取り入れる予定です。
到達目標
基礎的な文法事項を身につけることを目標とします。
また細かい発音上の注意やイントネーションに注意を払い、正しくロシア語が話せるようになることも心がけます。

授業内容

第１回 ガイダンス
第２回 春学期の復習
第３回 第 11 課「これはイワンの車です。」「イワンは車を持っています。」
第４回 第 12 課「私は本を読みます。」「私は本を読むのが好きです。」
第５回 第 13 課「どこへ行くのですか？」「大学へ行くところです。」
第６回 第 14 課「イワンに手紙を書きます。」
第７回 第 15 課「エフゲニー・オネーギンを読み終えました。」
第８回 第 16 課「ペンで手紙を書きます。」
第９回 第 17 課「ロシア語で話してください。」
第 10 回 第 18 課「これはあなたのためのプレゼントです。」
第 11 回 第 19 課「チケットを五枚持っています」
第 12 回 第 20 課「ロシア語を勉強しています。」
第 13 回 練習問題の答え合わせ、補遺
第 14 回 a. まとめ b.試験
授業の内容は授業の進み具合によって多少前後することが考えられます。

履修上の注意

春学期の授業の続きになります。秋学期から参加する場合、事前に教員に連絡を取り、教科書等の指示を受けてください。
欠席する際は事前に連絡をしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。

教科書

春学期と同じものと使用します。
(プリント／電子データでの配布を予定)

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を採点・訂正して返却します。

成績評価の方法

定期試験(50%)、授業への貢献度(50%)。
無断欠席が繰り返される場合、成績評価の対象としません。

その他

電子辞書は学習の妨げになるので使用しないでください。
連絡先は以下のアドレスを使ってください。なお件名は必ず「火１ロシア語 (要件)」としてください。
ondayoshinori[AT]gmail.com

科目ナンバー:(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅡA	ロシア語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
恩田 義徳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

授業の概要
ロシア語を初めて学ぶ人を対象とします。はじめに文字の読み方・書き方を覚え、次に正しい発音を身につけます。
その後、教科書に従って短い文を音読しながら文法事項を学んでいきます。
また授業の合間に文化や街の様子など、ロシアそのものの紹介も取り入れる予定です。
到達目標
ロシア語の文字(キリル文字)を読んだり書いたりすることができるようになること、ロシア語を正しく発音できるようになることを目標とします。
また学んだ文法事項をしっかりと身につけ秋学期の授業へつなげるようにします。

授業内容

第１回 ガイダンス、自己紹介
第２回 第１課 文字と発音(1)
第３回 第２課 文字と発音(2)「これは劇場です。」
第４回 第３課 文字と発音(3)「これは日本ですか？」
第５回 第４課「これは何ですか？」
第６回 発音のまとめ
第７回 第５課「これは私の両親です。」
第８回 第６課「今、宿題をしています。」
第９回 第７課「どんな雑誌を読んでいるのですか？」
第10回 第８課「ロシア語が話せますか？」
第11回 第９課「モスクワに住んでいます。」
第12回 第10課「今日何をしましたか？」「明日は何をしますか？」
第13回 春学期のまとめ
第14回 a. 筆記体について b.試験
授業の内容は受講者の様子で多少前後することがあります。

履修上の注意

初回の授業で教科書等の説明を行いますので必ず出席してください。
また欠席する場合は事前に教員に連絡をしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。新しいことは授業中に学び、次の授業はその確認からはじめます。

教科書

プリント(電子データ)を配布します。

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を採点・訂正して返却します。

成績評価の方法

定期試験(50%)、授業への貢献度(50%)。
無断欠席が繰り返された場合、成績評価の対象としません。

その他

辞書はすぐに購入する必要はありません(ある程度文法が分からないと使うことができません)。辞書については授業の中で指示します。
電子辞書は学習の妨げになるので使用しないでください。
連絡先は以下のアドレスを使ってください。
なお件名は必ず「木４ロシア語 (要件)」としてください。
ondayoshinori[AT]gmail.com

科目ナンバー:(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅡA	ロシア語ⅡA	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 春子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ロシア語は古典ギリシア語の嫡子であり、世界でもっとも美しい言語のひとつです。春学期の目標は、大きく分けて２つです。まず、キリル文字に慣れて、読めるようになる、活字体を書けるようになることです。ロシア語特有の美しい音声を、文字と発音、リズム・イントネーションの音声トレーニングを楽しみながら、丁寧に身につけます。日本語や英語とは違う音声もありますが、自分で発音できるようになることで、ロシア語学習に弾みがつきます。 ２番目は、初級文法と基本語彙を少しづつ、よく理解して習得することで

授業内容

第1回:a.「ロシア語をはじめよう」(教科書名)、言葉を「科学的に」学ぼう！
キリル文字の活字体、文字と発音(1)、あいさつの言葉
第2回: 文字と発音(2):母音字、子音字、基本文、 発音とリズム・イントネーション
第3回: 文字と発音(3):硬音と軟音、疑問文と否定文
第4回: 文字と発音(4):子音の同化、ミニ会話文、発音とリズム・イントネーション
第5回: ◎ 第１回～第４回の総合演習、テスト
名詞の性と数、複数形のつくり方
第6回: 人称代名詞、所有代名詞、疑問代名詞
第7回: 指示代名詞、形容詞の性・数変化(1)、動詞の第1変化、
第8回: 名詞の「格」、男性名詞、中性名詞の「対格」
第9回: ◎ 第５回～第８回の総合演習、テスト
第10回: 形容詞の性・数変化(2)、動詞の第２変化
第11回: 前置格と場所の表現、 動詞の過去形
第12回: 生格と所有の表現、否定生格
第13回: ◎ 第10回～第12回の総合演習、テスト
第14回:講義全体のふりかえり

履修上の注意

◎ 日頃の積み重ねによって、授業の到達目標は達成されます。気軽に、予習復習をする習慣をつけましょう。
◎ キリル文字の習得について。まずは、ロシア語教育で公式に認められている活字体(教科書、辞書で採用さ れて いる基本形)を丁寧に練習して、復習テストや演習でしっかり書けるようにしましょう。
ロシア語検定の正答にも有効な字体です。
◎ 効率よく快適に受講するために: クラスウェヴで「転送設定」をしてください。設定方法が分からない場合も、 サポートがあります。授業で説明します。
◎ 春学期後半からは、辞書の引き方、使い方と、その利点を指導します。
『博友社ロシア語辞典 改訂新版』木村彰一編など、いろいろな辞書があります。授業で説明します。
(下記、「参考書」欄も、参照のこと。)
電子辞書は、不可です。ロシア語検定にも対応できません。その購入は避けましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期は、まず、キリル文字の活字体、文字、単語の読み方(アクセントの位置に注意！)をしっかり身につけること。その後、基礎的な文法を少しづつ学んで行きます。習い始めの時期は、予習、復習に多少、時間がかかることがありますが、毎週1時間は確保すること。学習上の気づき、質問があったら、遠慮なく、授業で質問してください。復習については、付属の音声教材を活用して、自分が発音して記憶する、文字を書いて記憶する、など、授業外で自主的な学習も、楽しみながら実行してみましょう。

教科書

『ロシア語をはじめよう』(音声サイト、単語集ダウンロードあり)、西中村 浩、朝妻 恵理子著、朝日出版

参考書

初心者から使いやすい学習辞典として、
1)『博友社ロシア語辞典、改訂新版』、木村彰一編、博友社
2)『プログレッシブ ロシア語辞典』、 中澤英彦編、 小学館
1)は、初心者が、辞書を読みながらロシア語を丁寧に学べる仕様です。
「読んで学べる学習辞典」として、もっとも充実しています。簡略な和露辞典などが付いています。
2)は、価格が手ごろな小型辞書です。
上級者、専門家用としては、
3)『研究社 露和辞典』、東郷正延編、研究社
4)『岩波 ロシア語辞典』、 和久利誠一編、

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜、指示します。

成績評価の方法

◎ 授業への貢献度、レポートなど課題への積極的な取り組み:30 パーセント、
授業内の演習、テストの正答率:70パーセントです。
◎ 4回以上欠席の場合、成績評価の対象外となります。

その他

◎教科書、辞書ともに、２年次も継続して使用します。

科目ナンバー:(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅡB	ロシア語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
恩田 義徳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

春学期開講のロシア語 IA の続きとなります。
短文の音読をし、文法事項を学んでいきます。
また授業の合間に文化や街の様子など、ロシアそのものの紹介も取り入れる予定です。
到達目標
基礎的な文法事項を身につけることを目標とします。
また細かい発音上の注意やイントネーションに注意を払い、正しくロシア語が話せるようになることも心がけます。

授業内容

第 1 回 ガイダンス
第 2 回 春学期の復習
第 3 回 第 11 課「これはイワンの車です。」「イワンは車を持っています。」
第 4 回 第 12 課「私は本を読みます。」「私は本を読むのが好きです。」
第 5 回 第 13 課「どこへ行くのですか？」「大学へ行くところです。」
第 6 回 第 14 課「イワンに手紙を書きます。」
第 7 回 第 15 課「エフゲニー・オネーギンを読み終えました。」
第 8 回 第 16 課「ペンで手紙を書きます。」
第 9 回 第 17 課「ロシア語で話してください。」
第 10 回 第 18 課「これはあなたのためのプレゼントです。」
第 11 回 第 19 課「チケットを五枚持っています」
第 12 回 第 20 課「ロシア語を勉強しています。」
第 13 回 練習問題の答え合わせ、補遺
第 14 回 a. まとめ b.試験
授業の内容は授業の進み具合によって多少前後することが考えられます。

履修上の注意

春学期の授業の続きになります。秋学期から参加する場合、事前に教員に連絡を取り、教科書等の指示を受けてください。
欠席する際は事前に連絡をしてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習よりも復習に重点を置くよう心がけてください。

教科書

春学期と同じものと使用します。
(プリント／電子データでの配布を予定)

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を採点・訂正して返却します。

成績評価の方法

定期試験(50%)、授業への貢献度(50%)。
無断欠席が繰り返される場合、成績評価の対象としません。

その他

電子辞書は学習の妨げになるので使用しないでください。
連絡先は以下のアドレスを使ってください。なお件名は必ず「木 4 ロシア語 (要件)」としてください。
ondayoshinori[AT]gmail.com

科目ナンバー:(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅡB	ロシア語ⅡB	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 春子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

ロシア語で「読み、書き、話す」ための基礎的な文法事項を段階的に習得していきます。動詞や名詞、代名詞、形容詞のさまざまな形態、用法を学び、理解を深めます。秋学期は、文法学習の範囲が広がり、難しくなったと感じるかもしれませんが、新たな情報量は、春学期と同じくらいです。ロシア語の世界が少しずつ広がり、勉強の仕方にも慣れて、面白くなってくる時期です。音声トレーニングも、適宜、継続していきます。発音の基礎、基本単語、基礎文法をさまざまなアプローチで楽しく、しっかり身につけます。

授業内容

第1回:aのみ。イントロダクション
　　春学期のふり返りと、秋学期の学習について
第2回: 動詞の特殊変化、対格の用法
第3回: 運動・動作の目標表現、移動の動詞、不定人称文
第4回: 未来形、与格の用法、無人称文
第5回: ロシア語文献リサーチ基礎演習
第6回: ◎ 第２回～第４回の総合演習、テスト
第7回: 造格の用法、ＣＡ動詞
第8回: 動詞の第2特殊変化(1)、定動詞と不定動詞
第9回: 動詞の第2特殊変化(2)、前置詞の用法
第 10 回: ◎ 第７回～第8回の総合演習、テスト
第 11 回: 形容詞短語尾形とその用法
第 12 回: 名詞の複数格変化
第 13 回: ◎ 第９回～第 12 回の総合演習、テスト
第 14 回:講義全体のふりかえり

履修上の注意

◎ 対面授業(可能な場合)です。
◎キリル文字の習得について。まずは、ロシア語教育で公式に認められている活字体(教科書、辞書で 採用されているもの)を丁寧に、正確に書けるようにしましょう。ロシア語検定の正答にも有用な字体です。
筆記体は、受講生の希望により、適宜、指導しますが、必須ではありません。
◎ 春学期と同じく、予習、復習をすること。
◎授業、学習内容について、クラスウェヴの「オープンアンケート」からも、自由記述で連絡、質問ができます。
◎4回以上、欠席しないこと

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期よりも、文法関連の学習内容は増えますが、少なくとも毎週1時間は、教科書をじっくり読み込んで、
授業の予習、復習をすることで必ず、自信がつきます。毎回、理解度を確認するための課題を出します。
学習上の気づきや考察は、積極的に質問して、一緒に解決していきましょう。

教科書

『ロシア語をはじめよう』(音声サイト、単語集ダウンロードあり)、西中村 浩、朝妻 理恵子著、朝日出版

参考書

初心者にも使いやすい学習辞典として、
1.『博友社ロシア語辞典、改訂新版』、木村彰一編、博友社
2.『プログレッシブ ロシア語辞典』、中澤英彦編、小学館
1番は、「読んで学べる学習辞典」として、もっとも充実しています。簡略な和露辞典などが付いています。
2番は、価格が手ごろな小型辞書です。
その他、相談に応じます。

課題に対するフィードバックの方法

授業時に適宜、指示します。

成績評価の方法

◎ 授業への貢献度、レポートなど課題への積極的な取り組み:30 パーセント、
授業内の演習、テストの正答率:70パーセントです。
◎ 4回以上欠席の場合、成績評価単位認定の対象外となります。

その他

教科書、辞書ともに、2 年次に継続して使用します。

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅢA	ロシア語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
小澤 裕之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ロシア語ＩＢ／ⅡＢの後に開講される授業です。ロシアのアニメーションやミュージックビデオのほか、『葬送のフリーレン』や新海誠監督の映画など、日本のさまざまなアニメーションのロシア語版トレーラーや主題歌を視聴しながら、ロシア語の初級文法を一通り学びます。
いろいろなテキストや映像に触れることで、ロシア語の知識を定着させ、基礎的な読解力を養うことが目標です。

授業内容

第１回 イントロダクションと復習。今後の授業の進め方と、1 年時に勉強した文法事項をおさらいします。
第２回『1 年生のロシア語』第8課(1)、『ゼロから始めるロシア語』第８課　無人称文、「～できる」と「～しなければならない」
第３回『1 年生』第 9 課(1)、『ゼロ』第 10 課(1) 個数詞と名詞の結合
第４回『1 年生』第 9 課(2)、『ゼロ』第 10 課(2) 時・年齢・値段の表現
第５回『1 年生』第 10 課(1)、『ゼロ』16 課(1) 関係代名詞
第６回『1 年生』第 10 課(2)、『ゼロ』16 課(2)接頭辞のついた運動の動詞
第７回『1 年生』第 9 課、『ゼロ』第 19 課 比較級
第８回『1 年生』第 10 課、『ゼロ』第 20 課 最上級
第９回『ゼロ』第 21 課 接続法(仮定法)
第 10 回『ゼロ』第 22 課(1)副動詞
第 11 回『ゼロ』第 22 課(2)能動形動詞
第 12 回『ゼロ』第 23 課(1)被動形動詞
第 13 回『ゼロ』第 23 課(2)受動態
第 14 回 (a)試験、(b)正答解説

履修上の注意

去年まで杉里直人先生が担当されていた「ロシア語ＩA」と「ロシア語ＩB」を履修されていた方にも配慮し授業を行ないます。安心して出席してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

教科書の例文を 10 回音読してください。また、定期的に小テスト・単語テストを実施しますので、各課の「単語ノート」(新出単語)を暗記しましょう。

教科書

長野俊一『ゼロから始めるロシア語』(三修社)
戸部又方『1 年生のロシア語』(白水社)(すでに持っている方のみ)

参考書

初級者向けの辞典としては、『博友社ロシア語辞典』が定番です。

課題に対するフィードバックの方法

小テストと期末試験は、実施後に解説します。

成績評価の方法

期末試験 50%、平常点(小テスト・授業態度)50%。

その他

受講生の理解度によって、授業進度は変わる可能性があります。

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅢA	ロシア語ⅢA	
担 当 者	開講期	開講地区
中澤 朋子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、1 年次に使用していた教科書を使いながらひきつづきロシア語文法について学んでいきます。春学期は教科書に沿って文法事項の学習を継続していきましょう。
春学期が終わる頃には、ロシア語文法の基本的な構造が理解できていること、動詞の活用が正しく言えて、名詞類は適切なかたちに格変化させられることを目標とします。また、ロシア語をよどみなく読めるようにすることも目指します。

授業内容

授業内容は進捗状況により変更される場合があります。
第1回 ： イントロダクション, 既習事項のおさらい
第２回 ： 既習事項のおさらい
第３回 ： 人称代名詞、疑問代名詞の格変化(まとめ)
第４回 ： 注意すべき単数前置格
第５回 ： 形容詞の格変化
第６回 ： 動詞のアスペクト(体)①
第７回 ： 動詞のアスペクト(体)②
第８回 ： 注意すべき完了体・不完了体の用法
第９回 ： 定動詞・不定動詞とアスペクト(体)①
第 10 回 ： 定動詞・不定動詞とアスペクト(体)②
第 11 回 ： 命令法
第 12 回 ： 個数詞と順序数詞
第 13 回 ： 時間の表現、年と年齢の表現
第 14 回 ： 試験, ふりかえり

履修上の注意

ロシア語既習者が対象のクラスです。とはいえ、すでに学んだはずだけど忘れてしまったこと等があっても心配無用です。できるかぎり受講者のみなさんと対話しながら授業を進行していきたいと考えています。既習事項も思い出しながらゆっくり進めていきますので、理解できなかったことなどについてはどうぞ遠慮なく何でも質問してください。なお質問は可能なかぎり授業内でしていただければと思います。「わからない」を自覚することは語学上達の近道であり素晴らしいことですので、クラス全体で「わからない」を共有してロシア語文法の面白さを分かち合いながら、ロシア語学習をより愉しいものにしていきましょう。
春学期は、教科書の 1 課分の学習を終えたらその翌週には「まとめ」として終えた各課にあるテクストの音読テストをおこなっていきますので、そのつもりで授業に臨んでください。

準備学習(予習・復習等)の内容

一日 3 分でもいいので復習としてすでに学んだ課のロシア語テクストをまいにち音読してください。スラスラ読めるようになるまで音読することで、実際にロシア語を発話するときにパッと口をついてロシア語のフレーズを出せるようになります。たとえば日本語を第一言語とする私たちがロシア語をロシア語「らしく」発音できるようにするためにはどうすればいいか、そのコツもお伝えしていきますので、ぜひ実践してください。

教科書

西中村浩・朝妻恵里子著『ロシア語をはじめよう』(朝日出版社)
その他随時プリントを配布します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

試験後にその全体講評を Oh-o!Meiji で公開します。

成績評価の方法

試験 60%、平常点 40%

その他

みなさんの積極的な授業参加に期待します。

科目ナンバー:(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅢB	**ロシア語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
小澤 裕之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、簡単なロシア語で書かれたいくつかの短篇小説を皆で精読します。また、ときどき関連するロシア・アニメーションを視聴します。
短篇小説を皆で精読することで基本的な文法事項を定着させ、ロシアの文学作品をみずから読める力を身につけることが目標です。

授業内容

第１回 イントロダクションと復習。授業の進め方について。
第２回 「3 匹のくま」(1)
第３回 「3 匹のくま」(2)
第４回 アネクドート(1)
第５回 アネクドート(2)
第６回 「よろこび」(1)
第７回 「よろこび」(2)
第８回 「太った人とやせた人」(1)
第９回 「太った人とやせた人」(2)
第 10 回 「太った人とやせた人」(3)
第 11 回 「別荘で」(1)
第 12 回 「別荘で」(2)
第 13 回 「別荘で」(3)
第 14 回 (a)試験、(b)正答解説

履修上の注意

辞書を用意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

精読予定の文章を音読し、辞書を引いて訳してきてください。目安は 1-2 時間程度です。なお期末試験では、授業で講読した小説の文法・語彙の理解度を確認しますので、重要単語は暗記しましょう。

教科書

プリントを配布します。

参考書

初級者向けの辞典としては、『博友社ロシア語辞典』が定番です。

課題に対するフィードバックの方法

期末試験は、実施後に解説します。

成績評価の方法

期末試験 50%、平常点(授業態度)50%。

その他

受講生の関心や理解度によって、授業進度や講読作品は変わる可能性があります。

科目ナンバー:(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅢB	**ロシア語ⅢB**	
担 当 者	開講期	開講地区
中澤 朋子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

この授業では、1 年次および春学期に使用していた教科書を使いながら、ひきつづきロシア語文法について学んでいきます。秋学期は教科書のおしまいの方へと突入していきますのでさらに難しくなってきますが、教科書の学習の完了をめざしながら、ロシア語文法のすべての事項を知り理解していきましょう。春学期と同様に、各課にあるテクストの音読練習も継続しておこなっていきます。
秋学期が終わる頃には、すべての文法事項についてきちんと理解したうえで、簡単なロシア語の表現ならばそらで言えるようになることを目指します。換言するならば、中

授業内容

授業内容は受講者の興味・要望・習熟度に応じて変更される場合があります。
第1回 : イントロダクション、 既習事項のおさらい、形容詞・副詞の比較級 ①
第２回 : 形容詞・副詞の比較級 ②
第３回 : 形容詞・副詞の最上級
第４回 : 仮定法、接続詞 чтобы の用法
第５回 : 再帰代名詞 себя、1人称命令法
第６回 : 関係代名詞、関係副詞、不定代名詞と不定副詞
第７回 : 否定代名詞と否定副詞
第８回 : 形容分詞(1) ①
第９回 : 形容分詞(1) ②
第 10 回 : 受動の表現
第 11 回 : 形容分詞(2)
第 12 回 : 形容分詞(3)
第 13 回 : 副分詞
第 14 回 : 試験、ふりかえり

履修上の注意

ロシア語既習者が対象のクラスです。とはいえ、すでに学んだはずだけど忘れてしまったこと等があっても心配無用です。できるかぎり受講者のみなさんと対話しながら授業を進行していきたいと考えています。既習事項も思い出しながらゆっくり進めていきますので、理解できなかったことなどについてはどうぞ遠慮なく何でも質問してください。なお質問は可能なかぎり授業内でしていただければと思います。「わからない」を自覚することは語学上達の近道であり素晴らしいことですので、クラス全体で「わからない」を共有してロシア語文法の面白さを分かち合いながら、ロシア語学習をより愉しいものにしていきましょう。

準備学習(予習・復習等)の内容

春学期と同様に、一日 3 分でもいいので復習としてすでに学んだテクストをまいにち音読してください。スラスラ読めるようになるまで音読することで、実際にロシア語を発話するときにパッと口をついてロシア語のフレーズを出せるようになります。たとえば日本語を第一言語とする私たちがロシア語をロシア語「らしく」発音できるようにするためにはどうすればいいか、そのコツもお伝えしていきますので、ぜひ実践してください。

教科書

西中村浩・朝妻恵里子著『ロシア語をはじめよう』(朝日出版社)
その他随時プリントを配布します。

参考書

教室で指示します。

課題に対するフィードバックの方法

試験後にその全体講評を Oh-o!Meiji で公開します。

成績評価の方法

試験 60%、平常点 40%

その他

みなさんの積極的な授業参加を期待しています。

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅣA	ロシア語ⅣA	
担 当 者	開講期	開講地区
恩田 義徳	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要
ロシア語の基礎を学んだ人を対象とする授業です。
はじめに一年次の授業の復習をします。
その後は教科書に従い、短文の音読を通して、未習の文法事項を学びます。
また、辞書を使う練習も始めます。
達成目標
ロシア語の基礎的な文法を整理し、理解する。
短い文をなめらかに発音できるようにする。
辞書を使い、自分でロシア語が調べられるようにする。

授業内容

第1回 イントロ、授業の進め方の説明、発音の復習
第2回 一年時の復習
第3回 名前の尋ね方・答え方(1)
第4回 名前の尋ね方・答え方(2)
第5回 場所の表現(1)
第6回 場所の表現(2)
第7回 時間の表現(1)
第8回 目的語の表現
第9回 時間の表現(2)
第 10 回 理由の表現
第 11 回 比較級
第 12 回 最上級
第 13 回 移動の動詞
第 14 課 a.まとめ b.試験
授業内容は受講生の様子で多少変更することがあります。

履修上の注意

初級のロシア語を前提とする授業です。初回の授業が始まるまでに一年次の内容を復習しておいてください。
音読が多くなると思われますので、飲み物などは適宜持参してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

復習が中心の授業では練習問題等をあらかじめ解いてください。
教科書で新し事を学び始めたら、復習に力を入れてください。

教科書

授業中に配布(プリント・電子データ)します。

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を採点・訂正して返却します。

成績評価の方法

授業への参加態度(50%)
試験(50%)
無断欠席が繰り返される場合、成績評価の対象としません。

その他

電子辞典、スマホアプリは学習の妨げになるので使用しないでください。
辞書を持っていない人は指示があるまで購入しないでください。
連絡先は以下のアドレスを使ってください。
なお件名は必ず「木５ロシア語（要件）」としてください。
ondayoshinori[AT]gmail.com

科目ナンバー：(AL)LAN151N		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ロシア語ⅣB	ロシア語ⅣB	
担 当 者	開講期	開講地区
恩田 義徳	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

概要
春学期のロシア語 IVA の続きの授業となります。
春学期の復習をした後、教科書に従い、文法事項・ロシア語の表現を学びます。
達成目標
ロシア語の基礎的な文法を整理し、理解する。
自分自身のことについてロシア語で言えるようにする。
辞書を使い、自分でロシア語が調べられるようにする。

授業内容

第1回 ガイダンス
第2回 春学期の復習
第3回 接頭辞付き移動動詞
第4回 関係代名詞(1)
第5回 関係代名詞(2)
第6回 関係副詞(3)
第7回 副動詞(1)
第8回 副動詞(2)
第9回 形動詞(1)
第 10 回 形動詞(2)
第 11 回 形動詞(3)
第 12 回 受け身の表現
第 13 回 仮定法
第 14 課 a.まとめ b.試験
授業内容は学生の状況によって変更することがあります。

履修上の注意

春学期の続きになります。秋学期から参加する学生は事前に教員に連絡を取り内容・教材を確認してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習よりも復習に力を入れてください。

教科書

プリント(電子データ)を配布します。

参考書

授業中に指示します。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題を採点・訂正して返却します。

成績評価の方法

授業への参加度(50%)
試験(50%)
無断欠席が繰り返される場合、成績評価の対象としません。

その他

電子辞書・スマホアプリは学習の妨げになるので利用しないでください。
連絡先は以下のアドレスを使ってください。
なお件名は必ず「木５ロシア語（要件）」としてください。
ondayoshinori[AT]gmail.com

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 隆	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業の概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し、健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と、スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。<到達目標> 1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。3. 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

7施設を1～2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する 第1週: 授業概要・目的・内容の説明 ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定 第2～14 週: 以下の7施設を順に使用して、様々なスポーツを実施する ・フィットネスルーム(健康体力測定、機器利用講習など) ・メインホール(バスケットボール、フットサル、ディスクスポーツなど) ・サブホール(バドミントン、バレーボールなど) ・スポーツルーム B(自重エクササイズ、ストレッチ、ニュースポーツなど) ・スポーツルーム C(自重エクササイズ、ストレッチ、リラクゼーションなど) ・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など) ・クライミングウォール(クライミング体験など) ※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。 ・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。 ・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中に指示する。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。 ・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
平工 志穂	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, 身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し, 健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と, スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標>

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他学部・他専攻の受講生と積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施設を1～2週ずつ使用し, 健康増進エクササイズや, 様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後, 種目(クラス)を決定。

第2～14週:
以下の7施設を順に使用して, 様々なスポーツを実施する。
・フィットネスルーム(健康体力測定, 機器利用講習など)
・サブホール(バドミントン, ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
・スポーツルーム C(レクリエーションゲーム, ストレッチ, ヨガなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)
・グラウンド(ボールゲーム, フライングディスク, ウォーキングなど)
※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合, 希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり, 当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐古 隆之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標> 1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

<授業内容>

7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週 :ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。

第2～14 週:以下の7施設を2週ずつ使用する。

・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
・メインホール(バスケットボール、フライングディスクなど)。
・サブホール(バドミントン、バレーボールなど)。
・多目的ホールB(レクリエーションゲーム、AED 体験など)。
・多目的ホールC(パワーヨガ、ニュースポーツなど)。
・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標> 1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

<授業内容>

7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週 :ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。

第2～14 週:以下の7施設を2週ずつ使用する。

・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
・メインホール(バスケットボール、フットサルなど)。
・サブホール(バドミントン、バレーボールなど)。
・多目的ホールB(レクリエーションゲーム、AED 体験など)。
・多目的ホールC(パワーヨガ、ニュースポーツなど)。
・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 洋	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し、健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と、スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

7施設を1～2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後, 種目(クラス)を決定

第2～14 週:
以下の7施設を順に使用して、様々なスポーツを実施する
・フィットネスルーム(健康体力測定, 機器利用講習など)
・サブホール(バドミントン、ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
・スポーツルーム C(レクリエーション、ストレッチ、ヨガ、リラクゼーションなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)
・グラウンド(フライングディスク、ウォーキングなど)

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。
・この授業は身体を動かしてナンボ！という特性上、遅刻・欠席には厳しく対応していく。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
マックグラス ケリー	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

The purpose of the following course is to develop overall wellness though socialization and participation in variety of recreational activities. Enhance skills of English communication by actively following instructions and sharing of information orally.

授業内容

Week 1: Class Introduction and wellness survey
Week 2: Circuit training
Week 3: Circuit training
Week 4: Yoga
Week 5: Yoga
Week 6: Wall Climbing
Week 7: Wall Climbing
Week 8: Ultimate Frisbee
Week 9: Ultimate Frisbee
Week 10: Badminton
Week 11: Badminton
Week 12: Golf
Week 13: Golf
Week 14: Fitness Testing/Submit Report

履修上の注意

Students must complete and clear a medical examination.

準備学習(予習・復習等)の内容

a. Students must wear appropriate sportswear and non-marking sports shoes with RED shoe laces.
b. Students are required to attend at least two-thirds of the total number of classes in order to get a passing grade.
c. Arriving to class late three times is equivalent to one absence.

教科書

No textbook is required for this course. Students are responsible for any handouts provided.

参考書

None

課題に対するフィードバックの方法

Not applicable

成績評価の方法

Grading and Evaluation - Students will be assessed on class participation (60%) requiring a minimum two-thirds attendance, effort (20%), and submission of a written report (20%).

その他

Once

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

スポーツは,ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では,身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し,健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と,スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標>

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し,自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他学部・他専攻の受講生と積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施設を1~2週ずつ使用し,健康増進エクササイズや,様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後,種目(クラス)を決定。

第2~14週:
以下の7施設を順に使用して,様々なスポーツを実施する。
・フィットネスルーム(健康体力測定,機器利用講習など)
・サブホール(バドミントン,ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
・スポーツルーム C(レクリエーションゲーム,ストレッチ,ヨガなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)
・グラウンド(ボールゲーム,フライングディスク,ウォーキングなど)
※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合,希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり,当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の全体講評を授業終了時に毎回解説の時間を設ける。
・最終授業日にレポート等に対する解説の時間を設ける。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点),クラスメイトとの関わり方(20 点),期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 隆	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業の概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、スポーツ文化の理解と習得を目指し、ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり、さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。 <到達目標> 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる

授業内容

本授業では、グラウンドにおいて「フットサル」を行う。フットサルは、有酸素性と無酸素性の両方の運動特性を併せ持ち、持久力・筋力・スピード・敏捷性などの総合的な体力向上に加え、判断力や予測力などの認知機能の向上も期待できる。授業では、ウォーミングアップおよび各回テーマの練習を行った後、ゲームを行う。 ・第1週目:オリエンテーション ・第2週目:基本技術①(キック)、ゲーム ・第3週目:基本技術②(トラップ)、ゲーム ・第4週目:基本技術③(ドリブル)、ゲーム ・第5週目:基本技術④(フェイント)、ゲーム ・第6週目:基本技術⑤(パス)、ゲーム ・第7週目:基本技術⑥(シュート)、ゲーム ・第8週目:攻撃の個人戦術、ゲーム ・第9週目:守備の個人戦術、ゲーム ・第 10 週目:攻撃のグループ戦術、ゲーム ・第 11 週目:守備のグループ戦術、ゲーム ・第 12 週目:リーグ戦① ・第 13 週目:リーグ戦② ・第 14 週目:まとめ、レポート提出 ※授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。 ・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。 ・運動に適した服装を着用すること。屋外専用シューズを使用すること(スパイクは使用禁止、トレーニングシューズは使用可)。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。 ・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
平工 志穂	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他学部・他専攻の受講生と積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施設を1～2週ずつ使用し，健康増進エクササイズや，様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後，種目(クラス)を決定。

第2～14週:
以下の7施設を順に使用して，様々なスポーツを実施する。
・フィットネスルーム(健康体力測定，機器利用講習など)
・サブホール(バドミントン，ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
・スポーツルーム C(レクリエーションゲーム，ストレッチ，ヨガなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)
・グラウンド(ボールゲーム，フライングディスク，ウォーキングなど)
※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐古 隆之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞ 1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

＜授業内容＞

7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。
第1週　:ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。
第2～14 週:以下の7施設を2週ずつ使用する。
・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
・メインホール(バスケットボール、フライングディスクなど)。
・サブホール(バドミントン、バレーボールなど)。
・多目的ホールB(レクリエーションゲーム、AED 体験など)。
・多目的ホールC(パワーヨガ、ニュースポーツなど)。
・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標> 1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

<授業内容>

7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週 :ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。

第2～14 週:以下の7施設を2週ずつ使用する。

- ・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
- ・メインホール(バスケットボール、フットサルなど)。
- ・サブホール(バドミントン、バレーボールなど)。
- ・多目的ホールB(レクリエーションゲーム、AED 体験など)。
- ・多目的ホールC(パワーヨガ、ニュースポーツなど)。
- ・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
- ・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。

本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。

運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。

平常点(授業への取り組み姿勢、60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 洋	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し、健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と、スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標>

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

7施設を1～2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:

授業概要・目的・内容の説明

ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後，種目(クラス)を決定。

第2～14 週:

以下の7施設を順に使用して、様々なスポーツを実施する

- ・フィットネスルーム(健康体力測定、機器利用講習など)
- ・サブホール(バドミントン、ソフト・バレーなど)
- ・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
- ・スポーツルーム C(レクリエーション、ストレッチ、ヨガ、リラクゼーションなど)
- ・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
- ・クライミングウォール(クライミング体験など)
- ・グラウンド(フライングディスク、ウォーキングなど)

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

- ・第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
- ・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
- ・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。
- ・この授業は身体を動かしてナンボ！という特性上、遅刻・欠席には厳しく対応していく。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

- ・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
- ・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	**ウェルネススポーツA**	
担 当 者	開講期	開講地区
マックグラス ケリー	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
The purpose of the following course is to develop overall wellness though socialization and participation in variety of recreational activities. Enhance skills of English communication by actively following instructions and sharing of information orally.

授業内容
Week 1: Class Introduction and wellness survey
Week 2: Circuit training
Week 3: Circuit training
Week 4: Yoga
Week 5: Yoga
Week 6: Wall Climbing
Week 7: Wall Climbing
Week 8: Ultimate Frisbee
Week 9: Ultimate Frisbee
Week 10: Badminton
Week 11: Badminton
Week 12: Golf
Week 13: Golf
Week 14: Fitness Testing/Submit Report

履修上の注意
Students must complete and clear a medical examination.

準備学習(予習・復習等)の内容
a. Students must wear appropriate sportswear and non-marking sports shoes with RED shoe laces.
b. Students are required to attend at least two-thirds of the total number of classes in order to get a passing grade.
c. Arriving to class late three times is equivalent to one absence.

教科書
No textbook is required for this course. Students are responsible for any handouts provided.

参考書
None

課題に対するフィードバックの方法
Not applicable

成績評価の方法
Grading and Evaluation - Students will be assessed on class participation (60%) requiring a minimum two-thirds attendance, effort (20%), and submission of a written report (20%).

その他
Once

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	**ウェルネススポーツA**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	春学期	和泉

授業の概要・到達目標
＜授業の概要＞
スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞
1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他学部・他専攻の受講生と積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容
施設を1～2週ずつ使用し，健康増進エクササイズや，様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後，種目(クラス)を決定。

第2～14週:
以下の7施設を順に使用して，様々なスポーツを実施する。
・フィットネスルーム(健康体力測定，機器利用講習など)
・サブホール(バドミントン，ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
・スポーツルーム C(レクリエーションゲーム，ストレッチ，ヨガなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)
・グラウンド(ボールゲーム，フライングディスク，ウォーキングなど)
※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意
・第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
使用しない。必要に応じて資料を配布する。

教科書
使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書
必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法
・毎回の全体講評を授業終了時に毎回解説の時間を設ける。
・最終授業日にレポート等に対する解説の時間を設ける。

成績評価の方法
・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他
4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々なスポーツを通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

2週ごとに屋内体育施設を変更しながら授業を実施します。以下の利用施設は順番が異なる場合があります。

施設：和泉総合体育施設(メインホール、サブホール、スポーツルーム B,C,フィットネスルーム、クライミングウォール、ゴルフ場)

授業計画(予定)変更することがある

第1週　種目選択(秋学期開講7種目から1種目を選択、選択した種目の担当者が春学期も担当)
第2週　スポーツルームC：自己紹介、コミュニケーションゲーム1
第3週　スポーツルームC：自己紹介、コミュニケーションゲーム2
第4週　クライミングウォール：施設・安全な利用方法の説明、体験クライミング1
第5週　クライミングウォール：体験クライミング2(ボルダリング課題、オブザベーションの大切さ)
第6週　フィットネスルーム：フィットネステスト1
第7週　フィットネスルーム：フィットネステスト2、トレーニングマシン体験
第8週　スポーツルーム B：パワーヨガ体験、体幹トレーニング
第9週　スポーツルーム B：バランスボールトレーニング
第 10 週　サブホール：バドミントン1(シャトルを遠くに飛ばす、ダブルスゲームの進め方)
第 11 週　サブホール：バドミントン2(ダブルスゲームで遊ぶ)
第 12 週　ゴルフ練習場：パットパットゴルフ(練習＆ラウンド)、7番アイアンでティーショット
第 13 週　ゴルフ練習場：アプローチ大会、3番アイアンでティーショット
第 14 週　メインホール：3×3バスケットボール、半期まとめ。期末レポート提出。

履修上の注意

第1週目の授業を欠席した場合，希望種目を選択できないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習：2週ごとに変更する実技会場へのアクセスをあらかじめ確認しておくこと。
復習：授業で実施したエクササイズやスポーツのルールや方法について復習すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、課題提出翌週の授業にて全体的にフィードバックをする。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への出席状況と取り組み姿勢(38 点)，授業中の提出物(42 点)、期末レポート(1200 字以上、20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
体育館専用の靴(赤い紐を使う)で受講すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
今野 亮	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

7施設を1～2週ずつ使用し，健康増進エクササイズや，様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後，種目(クラス)を決定。

第2～14 週:
以下の7施設を順に使用して，様々なスポーツを実施する。
・フィットネスルーム(健康体力測定，機器利用講習など)
・サブホール(バドミントン，ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
・スポーツルーム C(レクリエーション，ストレッチ・ヨガ・リラクゼーションなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)
・グラウンド(ボールゲーム，フライングディスク，ウォーキングなど)

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や，次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
堀川 浩之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標> 1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

<授業内容>

7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々なニュースポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週 :ウェルネススポーツ B(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。

第2～14 週:以下の7施設を2週ずつ使用する。

・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
・メインホール(フットサル、フライングディスク)。
・サブホール(インディアカ、ソフトバレーボール)。
・多目的ホール B(レクリエーションゲームなど)。
・多目的ホール C(ユニカールなど)。
・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

<予習>授業終了時に次回の種目を伝えるので、インターネットで競技団体のホームページにアクセスしその種目の成り立ちやルールを確認しておくこと。またチームのパフォーマンスを向上させるための技能練習、チームメイトとのコミュニケーションの取り方など考えておく。

<復習>生涯スポーツとしてニュースポーツを生活に取り入れるために、授業で実施した種目がどのような形で中高年齢者やハンディキャップを持った人の体力向上に役立てられているのか、自分の出身あるいは住んでいる市町村について調べる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

オンデマンド授業等で課題が提示された場合は、その翌週以降の対面授業の際に解説をおこなう。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
アンケートの要望に従い次回授業の案内やレポートの指示等については様々な方法を用いて周知していく。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 仁志	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>

スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し、健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と、スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標>

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々なスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる

授業内容

2週ごとに屋内体育施設を変更しながら授業を実施します。以下の利用施設は順番が異なる場合があります。

施設:和泉総合体育施設(メインホール、サブホール、スポーツルーム B、C、フィットネスルーム、クライミングウォール、ゴルフ場)

授業計画(予定)変更することがある

○ 種目選択(秋学期開講7種目から1種目を選択、選択した種目の担当者が春学期も担当)
○スポーツルーム C:自己紹介、コミュニケーションゲーム1
○ スポーツルーム C:自己紹介、コミュニケーションゲーム2
○ クライミングウォール:施設・安全な利用方法の説明、体験クライミング1
○ クライミングウォール:体験クライミング2(ボルダリング課題、オブザベーションの大切さ)
○ フィットネスルーム:フィットネステスト1
○ フィットネスルーム:フィットネステスト2、トレーニングマシン体験
○ スポーツルーム B:パワーヨガ体験、体幹トレーニング
○ スポーツルーム B:バランスボールトレーニング
○ サブホール:バドミントン1(シャトルを遠くに飛ばす、ダブルスゲームの進め方)
○ サブホール:バドミントン2(ダブルスゲームで遊ぶ)
○ ゴルフ練習場:パットパットゴルフ(練習＆ラウンド)、7番アイアンでティーショット
○ ゴルフ練習場:アプローチ大会、3番アイアンでティーショット
○ メインホール:3×3バスケットボール、半期まとめ。期末レポート提出。

履修上の注意

第1週目の授業を欠席した場合、希望種目を選択できないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:2週ごとに変更する実技会場へのアクセスをあらかじめ確認しておくこと。
復習:授業で実施したエクササイズやスポーツのルールや方法について復習すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への出席状況と取り組み姿勢(38 点)、授業中の提出物(42 点)、期末レポート(1200 字以上、20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
体育館専用の靴(赤い紐を使う)で受講すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 大哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

スポーツは、健康的な生活を実現するための不可欠な要素です。身体的な活動は、心身の健康を保つだけでなく、生活の質を向上させる効果がある。本授業では、身体活動日常的な習慣として取り入れることの重要性に焦点を当てる。身体を動かすことは、心臓や筋肉の強化だけなく、ストレスの軽減や免疫力の向上にもつながる。さらにスポーツは豊かな文化を形成する活動でもある。スポーツ文化とは、スポーツを通じて楽しみ、充実した生活を送ることである。このスポーツ文化を育むには、スポーツが日常生活の一部として地域に根づいていることが欠かせない。様々なスポーツの魅力を探求することで、異なる文化圏での交流や多様性を尊重する姿勢も醸成される。またスポーツは人との繋がりやコミュニケーションを深める場でもある。チームスポーツでは協力やリーダーシップ、コミュニケーション能力等が養われる。

到達目標

① 週１回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる

② 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる

③ 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業内容

第１週:

授業概要・目的・内容の説明

ウェルネススポーツ B(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。

第 2～14 週

以下の施設を順に使用して、様々なスポーツを実施する。

・フィットネスルーム(健康体力測定、機器利用講習等)

・メインホール(バスケットボール、バレーボール、フライングディスク等)

・サブホール(バドミントン、ソフト・バレー等)

・スポーツルーム B(ニュースポーツ等)

・ゴルフ練習場(ゴルフ体験等)

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第１週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。

・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること

・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

・使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・必要に応じて授業中に指示する。

成績評価の方法

・評価を受けるためには 3 分の 2 以上の出席を必須とする。

・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとのかかわり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する

その他

・4 月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

7施設を1～2週ずつ使用し，健康増進エクササイズや，様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する

第1週:

授業概要・目的・内容の説明

ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後，種目(クラス)を決定

第2～14 週:

以下の7施設を順に使用して，様々なスポーツを実施する

・フィットネスルーム(健康体力測定，機器利用講習など)

・メインホール(ディスクスポーツ，3×3 など)

・サブホール(バドミントン，ソフト・バレーなど)

・スポーツルーム B(レクリエーションなど)

・スポーツルーム C(ストレッチ，ヨガ，リラクゼーションなど)

・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)

・クライミングウォール(クライミング体験など)

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。

・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。

・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。

・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
大嶽 真人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。
本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。
<到達目標>
1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。
2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。
3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

<授業内容>
7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。
第1週　:ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。
第2～14 週:以下の7施設を2週ずつ使用する。
・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
・メインホール(バスケットボール、フライングディスクなど)。
・サブホール(バドミントン、バレーボールなど)。
・多目的ホールB(レクリエーションゲーム、AED 体験など)。
・多目的ホールC(パワーヨガ、ニュースポーツなど)。
・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。
授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を摂取して参加すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習)として、次週の授業内容を確認し、そのスポーツ技術、運動方法について調べて授業に臨む。
また事後学習として、授業内容の復習と授業時における動きの情況について振り返り行う。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は実技科目であるため、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行います。
レポートの全体講評を授業時または Oh-o! Meiji にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、70 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(10 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
授業当日は，体育館入り口にあるインフォメーションボードを必ず確認すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標>
1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々なスポーツを通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

2週ごとに屋内体育施設を変更しながら授業を実施します。以下の利用施設は順番が異なる場合があります。

施設:和泉総合体育施設(メインホール、サブホール、スポーツルーム B,C,フィットネスルーム、クライミングウォール、ゴルフ場)

授業計画(予定)変更することがある
第1週 種目選択(秋学期開講7種目から1種目を選択、選択した種目の担当者が春学期も担当)
第2週 スポーツルーム C:自己紹介、コミュニケーションゲーム1
第3週 スポーツルーム C:自己紹介、コミュニケーションゲーム2
第4週 クライミングウォール:施設・安全な利用方法の説明、体験クライミング1
第5週 クライミングウォール:体験クライミング2(ボルダリング課題、オブザベーションの大切さ)
第6週 フィットネスルーム:フィットネステスト1
第7週 フィットネスルーム:フィットネステスト2、トレーニングマシン体験
第8週 スポーツルーム B:パワーヨガ体験、体幹トレーニング
第9週 スポーツルーム B:バランスボールトレーニング
第 10 週 サブホール:バドミントン1(シャトルを遠くに飛ばす、ダブルスゲームの進め方)
第 11 週 サブホール:バドミントン2(ダブルスゲームで遊ぶ)
第 12 週 ゴルフ練習場:パットパットゴルフ(練習＆ラウンド)、7番アイアンでティーショット
第 13 週 ゴルフ練習場:アプローチ大会、3番アイアンでティーショット
第 14 週 メインホール:3×3バスケットボール、半期まとめ。期末レポート提出。

履修上の注意

第1週目の授業を欠席した場合，希望種目を選択できないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:2週ごとに変更する実技会場へのアクセスをあらかじめ確認しておくこと。
復習:授業で実施したエクササイズやスポーツのルールや方法について復習すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、提出期限後の授業にて全体フィードバックをおこなう。個別フィードバックについては、レポートを課した場合はコメント欄におこなう。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への出席状況と取り組み姿勢(38 点)，授業中の提出物(42 点)、期末レポート(1200 字以上、20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
体育館専用の靴(赤い紐を使う)で受講すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
今野 亮	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

7施設を1～2週ずつ使用し，健康増進エクササイズや，様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後，種目(クラス)を決定。

第2～14 週:
以下の7施設を順に使用して，様々なスポーツを実施する。
・フィットネスルーム(健康体力測定，機器利用講習など)
・サブホール(バドミントン，ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(ニュースポーツなど)
・スポーツルーム C(レクリエーション，ストレッチ・ヨガ・リラクゼーションなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)
・グラウンド(ボールゲーム，フライングディスク，ウォーキングなど)

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や，次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
堀川 浩之	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞ 1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

＜授業内容＞

7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々なニュースポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。
第1週　:ウェルネススポーツ B(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。
第2～14 週:以下の7施設を2週ずつ使用する。
・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
・メインホール(フットサル、フライングディスク)。
・サブホール(インディアカ、ソフトバレーボール)。
・多目的ホール B(レクリエーションゲームなど)。
・多目的ホール C(ユニカールなど)。
・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞授業終了時に次回の種目を伝えるので、インターネットで競技団体のホームページにアクセスしその種目の成り立ちやルールを確認しておくこと。またチームのパフォーマンスを向上させるための技能練習、チームメイトとのコミュニケーションの取り方など考えておく。
＜復習＞生涯スポーツとしてニュースポーツを生活に取り入れるために、授業で実施した種目がどのような形で中高年齢者やハンディキャップを持った人の体力向上に役立てられているのか、自分の出身あるいは住んでいる市町村について調べる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

オンデマンド授業等で課題が提示された場合は、その翌週以降の対面授業の際に解説をおこなう。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
アンケートの要望に従い次回授業の案内やレポートの指示等については様々な方法を用いて周知していく。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 仁志	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し、健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と、スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。
<到達目標>
1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々なスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる

授業内容

2週ごとに屋内体育施設を変更しながら授業を実施します。以下の利用施設は順番が異なる場合があります。

施設:和泉総合体育施設(メインホール、サブホール、スポーツルーム B、C、フィットネスルーム、クライミングウォール、ゴルフ場)

授業計画(予定)変更することがある
○ 種目選択(秋学期開講7種目から1種目を選択、選択した種目の担当者が春学期も担当)
○スポーツルーム C:自己紹介、コミュニケーションゲーム1
○ スポーツルーム C:自己紹介、コミュニケーションゲーム2
○ クライミングウォール:施設・安全な利用方法の説明、体験クライミング1
○ クライミングウォール:体験クライミング2(ボルダリング課題、オブザベーションの大切さ)
○ フィットネスルーム:フィットネステスト1
○ フィットネスルーム:フィットネステスト2、トレーニングマシン体験
○ スポーツルーム B:パワーヨガ体験、体幹トレーニング
○ スポーツルーム B:バランスボールトレーニング
○ サブホール:バドミントン1(シャトルを遠くに飛ばす、ダブルスゲームの進め方)
○ サブホール:バドミントン2(ダブルスゲームで遊ぶ)
○ ゴルフ練習場:パットパットゴルフ(練習&ラウンド)、7番アイアンでティーショット
○ ゴルフ練習場:アプローチ大会、3番アイアンでティーショット
○ メインホール:3×3バスケットボール、半期まとめ。期末レポート提出。

履修上の注意

第1週目の授業を欠席した場合、希望種目を選択できないので注意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:2週ごとに変更する実技会場へのアクセスをあらかじめ確認しておくこと。
復習:授業で実施したエクササイズやスポーツのルールや方法について復習すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への出席状況と取り組み姿勢(38 点)、授業中の提出物(42 点)、期末レポート(1200 字以上、20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
体育館専用の靴(赤い紐を使う)で受講すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 大哉	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

スポーツは、健康的な生活を実現するための不可欠な要素です。身体的な活動は、心身の健康を保つだけでなく、生活の質を向上させる効果がある。本授業では、身体活動日常的な習慣として取り入れることの重要性に焦点を当てる。身体を動かすことは、心臓や筋肉の強化だけなく、ストレスの軽減や免疫力の向上にもつながる。さらにスポーツは豊かな文化を形成する活動でもある。スポーツ文化とは、スポーツを通じて楽しみ、充実した生活を送ることである。このスポーツ文化を育むには、スポーツが日常生活の一部として地域に根づいていることが欠かせない。様々なスポーツの魅力を探求することで、異なる文化圏での交流や多様性を尊重する姿勢も醸成される。またスポーツは人との繋がりやコミュニケーションを深める場でもある。チームスポーツでは協力やリーダーシップ、コミュニケーション能力等が養われる。
到達目標
① 週 1 回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる
② 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる
③ 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業内容

第 1 週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツ B(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。
第 2～14 週
以下の施設を順に使用して、様々なスポーツを実施する。
・フィットネスルーム(健康体力測定、機器利用講習等)
・メインホール(バスケットボール、バレーボール、フライングディスク等)
・サブホール(バドミントン、ソフト・バレー等)
・スポーツルーム B(ニュースポーツ等)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験等)
※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第 1 週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

・使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・必要に応じて授業中に指示する。

成績評価の方法

・評価を受けるためには 3 分の 2 以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとのかかわり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する

その他

・4 月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他専攻の受講生とも積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

7施設を1～2週ずつ使用し，健康増進エクササイズや，様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する

第1週:
授業概要・目的・内容の説明
ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後，種目(クラス)を決定

第2～14 週:
以下の7施設を順に使用して，様々なスポーツを実施する
・フィットネスルーム(健康体力測定，機器利用講習など)
・メインホール(ディスクスポーツ，3×3 など)
・サブホール(バドミントン，ソフト・バレーなど)
・スポーツルーム B(レクリエーションなど)
・スポーツルーム C(ストレッチ，ヨガ，リラクゼーションなど)
・ゴルフ練習場(ゴルフ体験など)
・クライミングウォール(クライミング体験など)

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
大嶽 真人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。
本授業では，身体運動の習慣化を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，身体運動を通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞

1. 週1回の様々な身体運動やコミュニケーションゲームに積極的に取り組むことができる。
2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。
3. 身体運動や他者とのコミュニケーションを日常生活に積極的に取り入れる姿勢をもつことができる。

授業内容

＜授業内容＞

7施設を2週ずつ使用し、健康増進エクササイズや、様々な軽スポーツおよびコミュニケーションスポーツを実施する。
第1週　：ウェルネススポーツB(秋学期)の種目を選択。人員調整後、種目(クラス)を決定。
第2～14 週：以下の7施設を2週ずつ使用する。
・フィットネスルーム(健康体力測定、フィットネスエクササイズ体験)。
・メインホール(バスケットボール、フライングディスクなど)。
・サブホール(バドミントン、バレーボールなど)。
・多目的ホールB(レクリエーションゲーム、AED 体験など)。
・多目的ホールC(パワーヨガ、ニュースポーツなど)。
・ゴルフ練習場(ゴルフ)。
・クライミングウォール(クライミング体験)

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。
授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を摂取して参加すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習)として、次週の授業内容を確認し、そのスポーツ技術、運動方法について調べて授業に臨む。
また事後学習として、授業内容の復習と授業時における動きの情況について振り返り行う。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は実技科目であるため、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行います。
レポートの全体講評を授業時または Oh-o! Meiji にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、70 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(10 点)から総合評価する。

その他

・4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
・授業当日は，体育館入り口にあるインフォメーションボードを必ず確認すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは,ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では,スポーツ文化の理解と習得を目指し,ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり,さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。
<到達目標>
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し,自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢,左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅,左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶,左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾,右攬雀尾
第7週:単鞭,雲手,単鞭
第8週:高探馬,右登脚,双峰貫耳
第9週:転身左登脚,左下勢独立
第 10 週:右下勢独立,左右穿梭
第 11 週:海底針,閃通臂
第 12 週:転身搬攔捶,如封似閉
第 13 週:十字手,収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点),クラスメイトとの関わり方(20 点),期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES141J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツA	ウェルネススポーツA	
担 当 者	開講期	開講地区
出井 章雅	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義ではマルチスポーツとして、卓球・テニピン・ボルダリングをオムニバス形式で実施します。あえて一つの種目に特化するのではなく、あらゆる種目を経験することにより自身が抱えるコーディネーション能力の重要性に気づくことができます。スポーツは「気づき」なのです。運動の楽しさはもちろんスポーツの競技特性を知ることで健康に対しての意識も変化してきます。特に大学生は生活習慣病にかかりやすい時期と言われています。だからこそあらゆる種目を通してコミュニティを広げて行きましょう。卓球ではシングルスやダブルスのゲームを中心にショットの向上を目指します。テニピンはバドミントンコートの大きさにテニス要素のネットやハンドラケットを用いて卓球のルールを基に展開していく。通常のテニスとは違い道具の扱いが簡素化された。ボルダリングでは、3m～5m 程の短い壁を2箇所用意しており、特殊なシューズを履き傾斜のある壁を登ることにより自身の身体の機能や体重移動の仕方などを実践します。エクササイズでは、バランスボールやストレッチマット、ストレッチポールを用いたエクササイズを実施します。まずストレッチマットで身体の柔軟性を確認し、バランスボールで体幹を意識するエクササイズ、ストレッチポールで姿勢の改善など心のリフレッシュに期待できます。
到達目標として、スポーツを通しての仲間づくり、より上達するための工夫など身体を動かすことにより健康に対しての意識を高めてほしいです。

授業内容

第 1 回 授業概要及び諸注意説明(マルチスポーツとは)
第 2 回 フォアハンド・バックハンドの基本 簡易ゲーム
第 3 回 サービスの基本 簡易ゲーム
第 4 回 コースの打ち分けと練習法 簡易ゲーム
第 5 回 シングルスの総当たりⅠ
第 6 回 シングルスの総当たりⅡ
第 7 回 ダブルスのチーム戦
第 8 回 テニピン ダブルス 基本動作と応用
第 9 回 テニピン シングルス 基本動作と応用
第 10 回 ボルタリングの基本(ホールドの持ち方、足の置き方、基本姿勢)
第 11 回 ボルタリングの実践Ⅰ(難易度の設定、ルート読み)
第 12 回 身体づくり運動Ⅰ(バランスボール・ストレッチマット・ストレッチポール)
第 13 回 身体づくり運動Ⅱ(バランスボール・ストレッチマット・ストレッチポール)
第 14 回 まとめ(3種目の中から課題を作成し実施する)

履修上の注意

1, 授業進行状況や履修人数に合わせて、内容を変更する場合があります。
2, 体育館シューズを準備すること。但し、ボルダリングの際は専用シューズを貸し出す。
3, 卓球のラケットは貸出用があるが、準備できる者は持参しても良い。
4, 運動に適した服装であること。
5, 単位修得にあたり実技科目な為、3 分の2以上の出席とする。※持病がある場合は要相談。

準備学習(予習・復習等)の内容

1, 体育実技科目な為、身体を動かせるように体調管理に留意すること。
2, 授業内でも説明するが、あらかじめシラバスを確認し競技の確認及び競技特性ルールを理解しておくこと。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布します。

参考書

松下浩二(2019)「レベルアップ卓球 科学・技術・練習で必ず上達！」西東社
佐川史佳(2015)「ボルダリング入門」山と渓谷社
ウイダートレーニングラボ(2011)「エクササイズ・バイブル」実業之日本社

課題に対するフィードバックの方法

授業の開始前に随時、フィードバックを実施します。

成績評価の方法

平常点(70%),技能点(20%),授業への取り組み(10%)

その他

感染対策として、消毒液の設置や三密を回避できる授業展開に努めてまいります。実技スペースは地下であるが、換気等は十分になされています。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 隆	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞ スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、スポーツ文化の理解と習得を目指し、ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり、さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。＜到達目標＞ 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる

授業内容

本授業では、グラウンドにおいて「フットサル」を行う。フットサルは、有酸素性と無酸素性の両方の運動特性を併せ持ち、持久力・筋力・スピード・敏捷性などの総合的な体力向上に加え、判断力や予測力などの認知機能の向上も期待できる。
授業では、ウォーミングアップおよび各回テーマの練習を行った後、ゲームを行う。・第1週目：オリエンテーション ・第2週目：基本技術①(キック)、ゲーム ・第3週目：基本技術②(トラップ)、ゲーム ・第4週目：基本技術③(ドリブル)、ゲーム ・第5週目：基本技術④(フェイント)、ゲーム ・第6週目：基本技術⑤(パス)、ゲーム ・第7週目：基本技術⑥(シュート)、ゲーム ・第8週目：攻撃の個人戦術、ゲーム ・第9週目：守備の個人戦術、ゲーム ・第10週目：攻撃のグループ戦術、ゲーム ・第11週目：守備のグループ戦術、ゲーム ・第12週目：リーグ戦① ・第13週目：リーグ戦② ・第14週目：まとめ、レポート提出 ※授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

・ウェルネススポーツA(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋外専用シューズを使用すること(スパイクは使用禁止、トレーニングシューズは使用可)。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。・授業の取り組み姿勢(60点)、クラスメイトとの関わり方(20点)、期末レポート(20点)から総合評価する。

その他

・4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
平工 志穂	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，スポーツ文化の理解と習得を目指し，スポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり，さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

＜到達目標＞
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. スポーツを通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では，スポーツルーム B にてレクリエーションスポーツをテーマにレクリエーション、ニュースポーツを体験する。また、グループワークでレクリエーションやスポーツの共創にもチャレンジする。
心身コンディショニングをテーマとしたエクササイズを体験する。

第1週目：授業概要の説明(授業の進め方，諸注意)，ストレッチ からだほぐし
第2～3週目：バランスボールワーク
第4～5週目：ボッチャ
第6～7週目：ドッジビー
第8～9週目：キンボール
第 10 週目：モルック
第 11～12 週目：レクリエーション グループワーク
第 13 週目：グループワークグループ別発表
第 14 週目：ウェルネススポーツまとめ、レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・ストレッチ性の高い運動に適した服装を着用すること(チノパン、デニム、スカートは不可)。
・シューズは、屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
佐古 隆之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標> 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

ウェルネススポーツAの第一週授業時に決定したスポーツ・種目を、歴史背景などを学びながら半期間実施する。
第1回:卓球のルール、特徴についての説明、基本的練習ー導入(ラケットの持ち方、基本的ルールの説明)
第2回:基本的練習ー導入(フォアハンド)の練習
第3回:基本的練習ー導入(バックハンド)の練習
第4回:基本的練習ー導入(ツッツキ)の練習、なおフォアハンド、バックハンド、ツッツキは以後の授業前半に繰り返し練習する
第5回:基本的練習ー発展(サービス)の練習
第6回:基本的練習ー発展(レシーブ)の練習
第7回:基本的練習ー発展(スマッシュ)の練習
第8回:応用的練習(シングルス)の試合(1)
第9回:応用的練習(シングルス)の試合(2)
第 10 回:応用的練習(ダブルス)の試合(1)
第 11 回:応用的練習(ダブルス)の試合(2)
第 12 回:応用的練習(団体戦)の試合(1)
第 13 回:応用的練習(団体戦)の試合(2)
第 14 回:まとめ

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。
<到達目標>
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢, 左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅, 左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶, 左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾, 右攬雀尾
第7週:単鞭, 雲手, 単鞭
第8週:高探馬, 右登脚, 双峰貫耳
第9週:転身左登脚, 左下勢独立
第 10 週:右下勢独立, 左右穿梭
第 11 週:海底針, 閃通臂
第 12 週:転身撇攬捶, 如封似閉
第 13 週:十字手, 収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 洋	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>

スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、スポーツ文化の理解と習得を目指し、ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり、さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標>

1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では, 生涯スポーツとしても人気のある「バドミントン」をサブホール(バドミントンコート6面)で行う。

・第1週目:授業概要の説明(授業の進め方、諸注意、グループ編成)
・第2週目:バドミントンの基本(グリップの握り方、ラケット・シャトルに慣れる)
・第3～4週目:バドミントンの基礎技術(クリア、スマッシュ、ドライブなど)の練習と簡易ゲーム
・第5～6週目:バドミントンの基礎技術(サーブ、サーブリターンなど)の練習と簡易ゲーム
・第7～8週目:バドミントンの基礎技術(ドロップ、ヘアピンなど)の練習と簡易ゲーム
・第9～10 週目:審判法とグループごとにゲーム練習
・第 11～13 週目:シングルスゲーム、ダブルスゲーム
・第 14 週目:まとめ、レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
・ストレッチ性の高い運動に適した服装を着用すること(チノパン、デニム、スカートは不可)。
・シューズを履く場合は、屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。
・この授業は身体を動かしてナンボ！という特性上、遅刻・欠席には厳しく対応していく。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
マックグラス ケリー	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Students will learn the basic guidelines for developing fitness through participation in activities that promote flexibility, strength and endurance. Build English communication skills by listening to, and giving instruction on training technique. Develop overall wellness by promoting an understanding of how positive lifestyle changes through exercise can enhance an individual's physical, mental and social well-being.

授業内容

Week 1: Fitness Test
Week 2: Strength and Aerobic Training
Week 3: Strength and Aerobic Training
Week 4: Strength and Aerobic Training
Week 5: Yoga – Pilates plus student training
Week 6: Yoga – Power plus student training
Week 7: Exercise Ball plus student training
Week 8: Exercise Ball plus student training
Week 9: Step Aerobics plus student training
Week 10: Step Aerobics plus student training
Week 11: Report Information - Strength and Aerobic Training
Week 12: Fitness Testing
Week 13: Strength and Aerobic Training
Week 14: Orientation for second year wellness classes - submit report

履修上の注意

Students must complete a medical examination.

準備学習(予習・復習等)の内容

Students are encouraged to do an additional 1-2 circuit training sessions (6-12 minutes) per week to promote strength and flexibility fitness.

Students must wear proper sportswear and indoor sport shoes with red laces.

教科書

No textbook is required for this course. Students are responsible for any handouts provided.

参考書

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

Not Applicable

成績評価の方法

Class Participation – 60% (2/3 attendance required)
Class Effort – 20%,
Report – 20%

その他

Once or twice a week outside of class time, students are encouraged to do a 30-minute session of activity that promotes flexibility, strength and/or endurance.

Students are required to review and be accountable for instructions to use the exercise bike, treadmill and weight machines.

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業の概要>

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

<到達目標>

1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他学部・他専攻の受講生と積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

ウェルネススポーツAの第一週授業時に決定したスポーツ・種目を、歴史背景、種目特性などを学びながら半期間実施する。
授業内容:授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。

履修上の注意

・春学期の第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・ルールを覚えること。
・試合などの映像を見ておくこと。

教科書

使用しない。必要に応じて指示する、または、資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の全体講評を授業終了時に毎回解説の時間を設ける。
・最終授業日にレポート等に対する解説の時間を設ける。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 隆	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業の概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、スポーツ文化の理解と習得を目指し、ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり、さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。 <到達目標> 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。 2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。 3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では、グラウンドにおいて「フットサル」を行う。フットサルは、有酸素性と無酸素性の両方の運動特性を併せ持ち、持久力・筋力・スピード・敏捷性などの総合的な体力向上に加え、判断力や予測力などの認知機能の向上も期待できる。授業では、ウォーミングアップおよび各回テーマの練習を行った後、ゲームを行う。・第1週目:オリエンテーション ・第2週目:基本技術①(キック)、ゲーム ・第3週目:基本技術②(トラップ)、ゲーム ・第4週目:基本技術③(ドリブル)、ゲーム ・第5週目:基本技術④(フェイント)、ゲーム ・第6週目:基本技術⑤(パス)、ゲーム ・第7週目:基本技術⑥(シュート)、ゲーム ・第8週目:攻撃の個人戦術、ゲーム ・第9週目:守備の個人戦術、ゲーム ・第10週目:攻撃のグループ戦術、ゲーム ・第11週目:守備のグループ戦術、ゲーム ・第12週目:リーグ戦① ・第13週目:リーグ戦② ・第14週目:まとめ、レポート提出 ※授業内容は必要に応じて変更することがある。

履修上の注意

・ウェルネススポーツA(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。・運動に適した服装を着用すること。屋外専用シューズを使用すること(スパイクは使用禁止、トレーニングシューズは使用可)。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。・授業の取り組み姿勢(60点)、クラスメイトとの関わり方(20点)、期末レポート(20点)から総合評価する。

その他

・4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
平工 志穂	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは,ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では,スポーツ文化の理解と習得を目指し,スポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり,さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標>
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. スポーツを通してスポーツ文化を理解し,自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では,スポーツルーム B にてレクリエーションスポーツをテーマにレクリエーション、ニュースポーツを体験する。また、グループワークでレクリエーションやスポーツの共創にもチャレンジする。
心身コンディショニングをテーマとしたエクササイズを体験する。

第1週目:授業概要の説明(授業の進め方,諸注意),ストレッチ からだほぐし
第2～3週目:バランスボールワーク
第4～5週目:ボッチャ
第6～7週目:ドッジビー
第8～9週目:キンボール
第 10 週目:モルック
第 11～12 週目:レクリエーション グループワーク
第 13 週目:グループワークグループ別発表
第 14 週目:ウェルネススポーツまとめ、レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合,希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり,当日の朝食を必ず摂取すること。
・ストレッチ性の高い運動に適した服装を着用すること(チノパン、デニム、スカートは不可)。
・シューズは、屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回,その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点),クラスメイトとの関わり方(20 点),期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
佐古 隆之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは,ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では,スポーツ文化の理解と習得を目指し,ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり,さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。
<到達目標> 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し,自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

ウェルネススポーツAの第一週授業時に決定したスポーツ・種目を、歴史背景などを学びながら半期間実施する。
第1回:卓球のルール、特徴についての説明、基本的練習ー導入(ラケットの持ち方、基本的ルールの説明)
第2回:基本的練習ー導入(フォアハンド)の練習
第3回:基本的練習ー導入(バックハンド)の練習
第4回:基本的練習ー導入(ツッツキ)の練習、なおフォアハンド、バックハンド、ツッツキは以後の授業前半に繰り返し練習する
第5回:基本的練習ー発展(サービス)の練習
第6回:基本的練習ー発展(レシーブ)の練習
第7回:基本的練習ー発展(スマッシュ)の練習
第8回:応用的練習(シングルス)の試合(1)
第9回:応用的練習(シングルス)の試合(2)
第 10 回:応用的練習(ダブルス)の試合(1)
第 11 回:応用的練習(ダブルス)の試合(2)
第 12 回:応用的練習(団体戦)の試合(1)
第 13 回:応用的練習(団体戦)の試合(2)
第 14 回:まとめ

履修上の注意

第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業内で実施したストレッチングや筋力トレーニングなどを自宅でも積極的に実施することを推奨する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回に、授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点),クラスメイトとの関わり方(20 点),期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，スポーツ文化の理解と習得を目指し，ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり，さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

＜到達目標＞

1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢, 左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅, 左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶, 左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾, 右攬雀尾
第7週:単鞭, 雲手, 単鞭
第8週:高探馬, 右登脚, 双峰貫耳
第9週:転身左登脚, 左下勢独立
第 10 週:右下勢独立, 左右穿梭
第 11 週:海底針, 閃通臂
第 12 週:転身搬攔捶, 如封似閉
第 13 週:十字手, 収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
佐藤 洋	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、スポーツ文化の理解と習得を目指し、ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり、さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

＜到達目標＞

1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では、生涯スポーツとしても人気のある「バドミントン」をサブホール(バドミントンコート6面)で行う。

・第1週目:授業概要の説明(授業の進め方、諸注意、グループ編成)
・第2週目:バドミントンの基本(グリップの握り方、ラケット・シャトルに慣れる)
・第3～4週目:バドミントンの基礎技術(クリア、スマッシュ、ドライブなど)の練習と簡易ゲーム
・第5～6週目:バドミントンの基礎技術(サーブ、サーブリターンなど)の練習と簡易ゲーム
・第7～8週目:バドミントンの基礎技術(ドロップ、ヘアピンなど)の練習と簡易ゲーム
・第9～10 週目:審判法とグループごとにゲーム練習
・第 11～13 週目:シングルスゲーム、ダブルスゲーム
・第 14 週目:まとめ、レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
・ストレッチ性の高い運動に適した服装を着用すること(チノパン、デニム、スカートは不可)。
・シューズを履く場合は、屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。
・この授業は身体を動かしてナンボ！という特性上、遅刻・欠席には厳しく対応していく。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
マックグラス ケリー	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
Students will learn the basic guidelines for developing fitness through participation in activities that promote flexibility, strength and endurance. Build English communication skills by listening to, and giving instruction on training technique. Develop overall wellness by promoting an understanding of how positive lifestyle changes through exercise can enhance an individual's physical, mental and social well-being.

授業内容
Week 1: Fitness Test
Week 2: Strength and Aerobic Training
Week 3: Strength and Aerobic Training
Week 4: Strength and Aerobic Training
Week 5: Yoga – Pilates plus student training
Week 6: Yoga – Power plus student training
Week 7: Exercise Ball plus student training
Week 8: Exercise Ball plus student training
Week 9: Step Aerobics plus student training
Week 10: Step Aerobics plus student training
Week 11: Report Information - Strength and Aerobic Training
Week 12: Fitness Testing
Week 13: Strength and Aerobic Training
Week 14: Orientation for second year wellness classes - submit report

履修上の注意
Students must complete a medical examination.

準備学習(予習・復習等)の内容
Students are encouraged to do an additional 1-2 circuit training sessions (6-12 minutes) per week to promote strength and flexibility fitness.

Students must wear proper sportswear and indoor sport shoes with red laces.

教科書
No textbook is required for this course. Students are responsible for any handouts provided.

参考書
Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法
Not Applicable

成績評価の方法
Class Participation – 60% (2/3 attendance required)
Class Effort – 20%,
Report – 20%

その他
Once or twice a week outside of class time, students are encouraged to do a 30-minute session of activity that promotes flexibility, strength and/or endurance.

Students are required to review and be accountable for instructions to use the exercise bike, treadmill and weight machines.

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
＜授業の概要＞
スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，身体運動の習慣化および様々なスポーツ文化の理解を目指し，健康増進運動や様々なスポーツに関する基礎的知識の習得と，スポーツを通してのコミュニケーション能力の向上をはかる。

＜到達目標＞
1. 週1回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる。
2. 様々な運動を通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. 他学部・他専攻の受講生と積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容
ウェルネススポーツAの第一週授業時に決定したスポーツ・種目を、歴史背景、種目特性などを学びながら半期間実施する。
授業内容：授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。

履修上の注意
・春学期の第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
・ルールを覚えること。
・試合などの映像を見ておくこと。

教科書
使用しない。必要に応じて指示する、または、資料を配布する。

参考書
必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法
・毎回の全体講評を授業終了時に毎回解説の時間を設ける。
・最終授業日にレポート等に対する解説の時間を設ける。

成績評価の方法
・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他
4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、スポーツ文化の理解と習得を目指し、ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり、さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標>
1. 週1回のクライミング実施を習慣化することができる。
2. クライミングについて理解し、授業中に自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施　設:和泉総合体育館西棟1階クライミングウォール(7 面:78, 90, 100, 110, 120, 130, 165 度壁)
人　員:30数名(受講者総数により前後する)

授業内容:以下を予定しているが、授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。
第1週:ログシート作成、講義1(安全対策、シューズの選び方)、体験ボルダリング
第2週:講義2(フットホールドへの足の置き方、ホールドの持ち方、三点支持)、ボルダリング練習1
第3週:講義3(ホールドの持ち替え方、ホールド上での足の踏み替え方)、ボルダリング練習2
第4週:講義4(課題のスタート・ゴール方法)、ボルダリング課題
第5週:講義5(オブザベーションの重要性)、ボルダリング課題
第6週:講義6(二点支持とスメアリング)、ボルダリング課題
第7週:講義7(ハイステップ)、ボルダリング課題
第8週:講義8(クロスムーヴ)、ボルダリング課題
第9週:講義9(レスト法)、ボルダリング課題
第 10 週:講義 10(ヒールフック)、ボルダリング課題
第 11 週:ボルダリング課題
第 12 週:ボルダリング課題
第 13 週:ボルダリング課題
第 14 週:ミボルダリングコンペ、レポート提出、まとめ。

講義内容についてはまとめてオンライン形式で実施する場合がある。

履修上の注意

ウェルネススポーツA(春学期)の初回授業を欠席した場合、ウェルネススポーツ B で受講したい種目を選択できない場合があるので注意すること。 本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取した上で受講すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:クライミングする際に知っておくと良いことについてあらかじめ調べておくこと。
復習:授業で習ったクライミングに関する安全知識、技術などについて授業後に確認すること。

教科書

使用しない。必要に応じて提示する。

参考書

必要に応じて授業中に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、提出期限後の授業にて全体フィードバックをおこなう。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢(28 点)および授業中の提出物(42 点)、クラスメートとの協力(10 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
今野 亮	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標>
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では, 生涯スポーツとしても人気のある「テニス」をテニスコートで行う。

・第1週目:授業概要の説明(授業の進め方, 諸注意, グループ編成)
・第2週目:テニスの基本(グリップの握り方, ラケット・ボールに慣れる)
・第3～4週目:テニスの基礎技術(フォアハンド, バックハンドなど)の練習と簡易ゲーム
・第5～6週目:テニスの基礎技術(サーブ, サーブリターンなど)の練習と簡易ゲーム
・第7～8週目:テニスの基礎技術(ボレー, スマッシュなど)の練習と簡易ゲーム
・第9～10 週目:審判法とグループごとにゲーム練習
・第 11～13 週目:シングルスゲーム, ダブルスゲーム
・第 14 週目:まとめ, レポート提出
※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合, 希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり, 当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や, 次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
堀川 浩之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは,ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では,スポーツ文化の理解と習得を目指し,ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり,さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標> 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し,自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

使用施設:ゴルフ練習場
第1講 a:イントロダクションを受け本授業の進め方、参加方法について理解する。
b:ゴルフクラブの握り方、構え方について説明を受け個人で練習を行う。パター練習を行う。
第2講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(ジャイロスイング)を行う。パター練習を行う。
第3講 パターゲームを行う。
第4講 アプローチ練習(構え方、距離感の作り方)を行う。
第5講 アプローチ練習(的あて)を行う。
第6講 アプローチ練習(サークル入れ)を行う。
第7講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(クロスハンドグリップ)を行う。
第8講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(ヘッドカバー等を使ってハーフスイング)を行う。
第9講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(スプリットグリップ)を行う。
第 10 講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(右足踏み込み)を行う。
第 11 講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(ハーフスイングからフルスイング)を行う。
第 12 講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(フルスイング)を行う。
第 13 講 ウッドを使ったスイング作りの練習(ジャイロスイング)を行う。ヘッドスピードを測定する
第 14 講 まとめ、2年次授業紹介、アンケート回答、レポート提出を行う。

履修上の注意

本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装、靴を着用すること。
事故防止のため打席使用に関する注意点を良く理解すること。
自分の手にあったサイズのゴルフグローブを購入しておくこと。
タオル、ハンカチなど脇に挟めるものを用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

<予習>場合によっては凶器となるクラブを使用するスポーツである。安全の確認などゴルフ規則に書かれているので、ゴルフ規則に目を通しておくこと。レポートはゴルフ規則から出題される。
<復習>ゴルフの試合がテレビなどで放映された場合は、積極的に視聴し授業内で実施した技能が試合でどのように活かされているかを確認すること。

教科書

参考書

2023 年度ゴルフ規則(日本ゴルフ協会)(https://www.jga.or.jp/rules/rule/)

課題に対するフィードバックの方法

オンデマンド授業等で課題が提示された場合は、その翌週以降の対面授業の際に解説をおこなう。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点),クラスメイトとの関わり方(20 点),期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
アンケートの要望に従い次回授業の案内やレポートの指示等については様々な方法を用いて周知していく。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 仁志	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

実施種目:フィットネス
フィットネスルーム内の様々なトレーニング機器を用いてトレーニングを実施する。
各個人が目標を設定し、目標達成のためのトレーニングプログラムを立案し、実践する。
最後にトレーニング効果について評価し、レポートにまとめる。
運動トレーニングの実践および安全で効果的なトレーニングプログラム作成のための知識と技術の習得を目指す。

授業内容

使用施設:和泉総合体育館ウェスト2階 フィットネスルーム
第1回:イントロダクション
第2回:体力測定(1)、トレーニング機器の取り扱い説明、機器の使用に慣れる
第3回:目標設定、プログラム作成、フリーウエイトトレーニングのフォーム解説
第4回:トレーニング強度の設定(10RM の測定など)
第5回:トレーニングの実践(1)
第6回:トレーニングの実践(2)
第7回:トレーニングの実践(3)
第8回:トレーニングの実践(4)
第9回:トレーニングの実践(5)
第 10 回:トレーニングの実践(6)
第 11 回:トレーニングの実践(7)
第 12 回:トレーニングの実践(8)
第 13 回:体力測定(2)、トレーニング効果の評価
第 14 回:レポート提出、まとめ

履修上の注意

1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まる。
2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けること。
4. 授業に必要なウエアや靴の準備をすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点(40%)、授業への取り組み(30%)、レポート(30%)の3項目を点数化し、その合計点で評価する。

その他

1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従うこと。
2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 大哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

スポーツは、健康的な生活や心身のバランスを実現する上で欠かせない要素である。本授業では、単なる身体活動としてのスポーツだけでなく、その豊かな文化や背景にも焦点を当て、参加者がスポーツの真の魅力を理解し、取り入れることを目指す。まずスポーツ文化の理解と習得に注力する。スポーツは単なる競技や運動だけでなく、それを取り巻く歴史や伝統、地域性等が重要な要素である。さらに、一つのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上にも注力を注ぐ。受講生は特定のスポーツに関する基本的なルールや戦術、技術を習得し、実践的なスキルを身につけることができる。これによってスポーツをより楽しむだけ得なく、安全に行うことができるようになる。そしてコミュニケーション能力の向上も重要な目標である。特にチームスポーツでは、リーダーシップや協力、コミュニケーションスキルの向上を通じて、受講生はチームワークを高め、よりよいスポーツ体験を享受できる。
この授業ではスポーツの技術やルールを学ぶだけでなく、その背景にある文化や社会的側面、コミュニケーション能力の向上も重視する。受講生が身体的、精神的に充実したウェルネスライフを築くために、スポーツを通じて様々な価値を享受し、豊かな経験を得ることができる。
到達目標
① 週１回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる
② １つのスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる
③ クラスメイトと積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業内容

本授業では、生涯スポーツとしても人気のある「バトミントン」をサブホールで行う。
第１週：授業概要の説明(授業の進め方、諸注意、グループ編成)
第２週：バドミントンの基本(グリップの握り方、ラケット、シャトルに慣れる)
第３週：バドミントンの基礎技術(クリア、スマッシュ、ドライブ等)の練習と簡易ゲームを行う
第４週：バドミントンの基礎技術(サービス、ドロップ等)とゲームの進め方
第５週：バドミントンの基礎技術(サーブリターン等)の練習と簡易ゲーム
第６週：バドミントンの基礎技術(カット、ロブ等)の練習と簡易ゲーム
第７週：バドミントンの基礎技術(ヘアピン等)の練習と簡易ゲーム
第8週：バドミントの基礎技術(まとめ・思ったところにシャトルコントロールできるようになる)
第９週：審判法(主審のコールの仕方)とグループごとにゲーム練習
第10回：審判法(スコアシートの記入方法)とグループごとにゲーム練習
第11回：シングルスゲームの進め方と実践
第12回：ダブルスゲームの進め方と実践
第13回：実技テスト
第14回：まとめ、レポート提出

履修上の注意

・第１週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

・使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・必要に応じて授業中に指示する。

成績評価の方法

・評価を受けるためには３分の２以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60点)、クラスメイトとのかかわり方(20点)、期末レポート(20点)から総合評価する

その他

・4 月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，スポーツ文化の理解と習得を目指し，ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり，さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

＜到達目標＞
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では，スポーツうルーム B にてニュースポーツを行い，さまざまな身体の動かし方を体験する。

第1週目：授業概要の説明(授業の進め方，諸注意，自己紹介など)
第2～13 週目：ニュースポーツ体験
・レクリエーションゲーム
・ドッチビー
・ブラインドサッカー
・ボッチャ
・インディアカ
・キンボール
・ダーツ
・フライングディスク 等
第 14 週目：まとめ，レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合，希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり，当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)，クラスメイトとの関わり方(20 点)，期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
大嶽 真人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ スポーツは，ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では，スポーツ文化の理解と習得を目指し，ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり，さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。
サッカーを楽しみたい、サッカーを始めたい、サッカーを学びたい、サッカーが上手くなりたい学生を対象に、世界中で愛されるサッカーに触れることを目的とする。
＜到達目標＞ 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し，自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

ウェルネススポーツAの第1週授業時に決定したスポーツ・種目を、歴史背景などを学びながら半期間実施する。
サッカーの基礎技術を習得すると同時に，ボールを保持している時とボールを保持していない時のサッカーの戦術、状況判断について理解する。様々なゲームを通じて競技特性を学び、受講者同士がコミュニケーション(メンバーシップ，リーダーシップ)を図り、チームワークとスポーツマンシップ、マナーを獲得する。

第 1 週～4 週:チームワークとコミュニケーション、ゲーム
第 5 週～7 週:個人技術と個人戦術とコミュニケーション、ゲーム
第 8 週～10 週:グループ戦術とゲーム
第 11 週～13 週:ゲーム
第 14 週:ゲーム、レポート提出

履修上の注意

春学期第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。
授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を摂取して参加すること。
運動に適した服装を着用すること。
屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習)として、次週の授業内容を確認し、その技術、戦術について理解を深め、授業に臨む。
また事後学習として、授業内容の復習と授業時における技術の獲得状況と動きの情況について振り返り行う。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は実技科目であるため、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行います。
レポートの全体講評を授業時または Oh-o! Meiji にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、70 点)，クラスメイトとの関わり方(15 点)，期末レポート(15 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
授業当日は，体育館入り口にあるインフォメーションボードを必ず確認すること。
雨天時は体育館へ移動し運動，あるいは教室等へ移動して講義を実施する。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ スポーツは、ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では、スポーツ文化の理解と習得を目指し、ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり、さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

＜到達目標＞
1. 週1回のクライミング実施を習慣化することができる。
2. クライミングについて理解し、授業中に自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施　設:和泉総合体育館西棟1階クライミングウォール(7 面:78, 90, 100, 110, 120, 130, 165 度壁)
人　員:30数名(受講者総数により前後する)

授業内容:以下を予定しているが、授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。
第1週:ログシート作成、講義1(安全対策、シューズの選び方)、体験ボルダリング
第2週:講義2(フットホールドへの足の置き方、ホールドの持ち方、三点支持)、ボルダリング練習1
第3週:講義3(ホールドの持ち替え方、ホールド上での足の踏み替え方)、ボルダリング練習2
第4週:講義4(課題のスタート・ゴール方法)、ボルダリング課題
第5週:講義5(オブザベーションの重要性)、ボルダリング課題
第6週:講義6(二点支持とスメアリング)、ボルダリング課題
第7週:講義7(ハイステップ)、ボルダリング課題
第8週:講義8(クロスムーヴ)、ボルダリング課題
第9週:講義9(レスト法)、ボルダリング課題
第 10 週:講義 10(ヒールフック)、ボルダリング課題
第 11 週:ボルダリング課題
第 12 週:ボルダリング課題
第 13 週:ボルダリング課題
第 14 週:ミボルダリングコンペ、レポート提出、まとめ。

講義内容についてはまとめてオンライン形式で実施する場合がある。

履修上の注意

ウェルネススポーツA(春学期)の初回授業を欠席した場合、ウェルネススポーツ B で受講したい種目を選択できない場合があるので注意すること。 本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取した上で受講すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:クライミングする際に知っておくと良いことについてあらかじめ調べておくこと。
復習:授業で習ったクライミングに関する安全知識、技術などについて授業後に確認すること。

教科書

使用しない。必要に応じて提示する。

参考書

必要に応じて授業中に提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合、提出期限後の授業にて全体フィードバックをおこなう。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢(28 点)および授業中の提出物(42 点)、クラスメートとの協力(10 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
今野 亮	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標>
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では, 生涯スポーツとしても人気のある「テニス」をテニスコートで行う。

・第1週目:授業概要の説明(授業の進め方, 諸注意, グループ編成)
・第2週目:テニスの基本(グリップの握り方, ラケット・ボールに慣れる)
・第3～4週目:テニスの基礎技術(フォアハンド, バックハンドなど)の練習と簡易ゲーム
・第5～6週目:テニスの基礎技術(サーブ, サーブリターンなど)の練習と簡易ゲーム
・第7～8週目:テニスの基礎技術(ボレー, スマッシュなど)の練習と簡易ゲーム
・第9～10 週目:審判法とグループごとにゲーム練習
・第 11～13 週目:シングルスゲーム, ダブルスゲーム
・第 14 週目:まとめ, レポート提出
※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合, 希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり, 当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や, 次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
堀川 浩之	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。
<到達目標> 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

使用施設:ゴルフ練習場
第1講 イントロダクションを受け本授業の進め方、参加方法について理解する。ゴルフクラブの握り方、構え方について説明を受け個人で練習を行う。パター練習を行う。
第2講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(ジャイロスイング)を行う。パター練習を行う。
第3講 パターゲームを行う。
第4講 アプローチ練習(構え方、距離感の作り方)を行う。
第5講 アプローチ練習(的あて)を行う。
第6講 アプローチ練習(サークル入れ)を行う。
第7講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(クロスハンドグリップ)を行う。
第8講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(ヘッドカバー等を使ってハーフスイング)を行う。
第9講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(スプリットグリップ)を行う。
第 10 講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(ハーフスイングからフルスイング)を行う。
第 11 講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(右足踏み込み)を行う。
第 12 講 7(8)アイアンを使ったスイング作りの練習(フルスイング)を行う。
第 13 講 ウッドを使ったスイング作りの練習(ジャイロスイング)を行う。
第 14 講 まとめ、2年次授業紹介、アンケート回答、レポート提出を行う。

履修上の注意

本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること。
運動に適した服装を着用すること。
事故防止のため打席使用に関する注意点を良く理解すること。
自分の手にあったサイズのゴルフグローブを用意すること。
タオル、ハンカチなど脇に挟めるものを用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

<予習>場合によっては凶器となるクラブを使用するスポーツである。安全の確認などゴルフ規則に書かれているので、ゴルフ規則に目を通しておくこと。レポートはゴルフ規則から出題される。
<復習>ゴルフの試合がテレビなどで放映された場合は、積極的に視聴し授業内で実施した技能が試合でどのように活かされているかを確認すること。

教科書

参考書

2023 年度ゴルフ規則(日本ゴルフ協会)(https://www.jga.or.jp/rules/rule/)

課題に対するフィードバックの方法

オンデマンド授業等で課題が提示された場合は、その翌週以降の対面授業の際に解説をおこなう。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
アンケートの要望に従い次回授業の案内やレポートの指示等については様々な方法を用いて周知していく。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
杉山 仁志	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

実施種目:フィットネス
フィットネスルーム内の様々なトレーニング機器を用いてトレーニングを実施する。
各個人が目標を設定し、目標達成のためのトレーニングプログラムを立案し、実践する。
最後にトレーニング効果について評価し、レポートにまとめる。
運動トレーニングの実践および安全で効果的なトレーニングプログラム作成のための知識と技術の習得を目指す。

授業内容

使用施設:和泉総合体育館ウェスト2階 フィットネスルーム
第1回:イントロダクション
第2回:体力測定(1)、トレーニング機器の取り扱い説明、機器の使用に慣れる
第3回:目標設定、プログラム作成、フリーウエイトトレーニングのフォーム解説
第4回:トレーニング強度の設定(10RM の測定など)
第5回:トレーニングの実践(1)
第6回:トレーニングの実践(2)
第7回:トレーニングの実践(3)
第8回:トレーニングの実践(4)
第9回:トレーニングの実践(5)
第 10 回:トレーニングの実践(6)
第 11 回:トレーニングの実践(7)
第 12 回:トレーニングの実践(8)
第 13 回:体力測定(2)、トレーニング効果の評価
第 14 回:レポート提出、まとめ

履修上の注意

1. 本授業の内容には実技だけではなく講義も含まる。
2. 単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となる。
3. 医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けること。
4. 授業に必要なウエアや靴の準備をすること。

準備学習(予習・復習等)の内容

1. 食事や睡眠など体調管理に気をつけること。

教科書

特になし。

参考書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で説明する。

成績評価の方法

平常点(40%)、授業への取り組み(30%)、レポート(30%)の3項目を点数化し、その合計点で評価する。

その他

1. 各種目に適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従うこと。
2. 受講にあたっては当該年度の健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
遠藤 大哉	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

スポーツは、健康的な生活や心身のバランスを実現する上で欠かせない要素である。本授業では、単なる身体活動としてのスポーツだけでなく、その豊かな文化や背景にも焦点を当て、参加者がスポーツの真の魅力を理解し、取り入れることを目指す。まずスポーツ文化の理解と習得に注力する。スポーツは単なる競技や運動だけでなく、それを取り巻く歴史や伝統、地域性等が重要な要素である。さらに、一つのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上にも注力を注ぐ。受講生は特定のスポーツに関する基本的なルールや戦術、技術を習得し、実践的なスキルを身につけることができる。これによってスポーツをより楽しむだけ得なく、安全に行うことができるようになる。そしてコミュニケーション能力の向上も重要な目標である。特にチームスポーツでは、リーダーシップや協力、コミュニケーションスキルの向上を通じて、受講生はチームワークを高め、よりよいスポーツ体験を享受できる。
この授業ではスポーツの技術やルールを学ぶだけでなく、その背景にある文化や社会的側面、コミュニケーション能力の向上も重視する。受講生が身体的、精神的に充実したウェルネスライフを築くために、スポーツを通じて様々な価値を享受し、豊かな経験を得ることができる。
到達目標
① 週１回の身体運動やスポーツ活動を習慣化することができる
② １つのスポーツを通してスポーツ文化を理解し、自ら積極的に取り組むことができる
③ クラスメイトと積極的にコミュニケーションを図ることができる

授業内容

本授業では、生涯スポーツとしても人気のある「バトミントン」をサブホールで行う。
第１週:授業概要の説明(授業の進め方、諸注意、グループ編成)
第２週:バドミントンの基本(グリップの握り方、ラケット、シャトルに慣れる)
第３週:バドミントンの基礎技術(クリア、スマッシュ、ドライブ等)の練習と簡易ゲームを行う
第４週:バドミントンの基礎技術(サービス、ドロップ等)とゲームの進め方
第５週:バドミントンの基礎技術(サーブリターン等)の練習と簡易ゲーム
第６週:バドミントンの基礎技術(カット、ロブ等)の練習と簡易ゲーム
第７週:バドミントンの基礎技術(ヘアピン等)の練習と簡易ゲーム
第8週:バドミントの基礎技術(まとめ・思ったところにシャトルコントロールできるようになる)
第９週:審判法(主審のコールの仕方)とグループごとにゲーム練習
第 10 回:審判法(スコアシートの記入方法)とグループごとにゲーム練習
第 11 回:シングルスゲームの進め方と実践
第 12 回:ダブルスゲームの進め方と実践
第 13 回:実技テスト
第 14 回:まとめ、レポート提出

履修上の注意

・第１週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を必ず摂取すること
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

・使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

課題に対するフィードバックの方法

・必要に応じて授業中に指示する。

成績評価の方法

・評価を受けるためには３分の２以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとのかかわり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する

その他

・4 月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>
スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動の基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標>
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業では, スポーツうルーム B にてニュースポーツを行い, さまざまな身体の動かし方を体験する。

第1週目:授業概要の説明(授業の進め方, 諸注意, 自己紹介など)
第2～13 週目:ニュースポーツ体験
・レクリエーションゲーム
・ドッチビー
・ブラインドサッカー
・ボッチャ
・インディアカ
・キンボール
・ダーツ
・フライングディスク 等
第 14 週目:まとめ, レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・ウェルネススポーツ A(春学期科目)の第1週の授業を欠席した場合, 希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は午前中に行われる体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり, 当日の朝食を必ず摂取すること。
・運動に適した服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業の取り組み姿勢(60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
大嶽 真人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要> スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。
サッカーを楽しみたい、サッカーを始めたい、サッカーを学びたい、サッカーが上手くなりたい学生を対象に、世界中で愛されるサッカーに触れることを目的とする。
<到達目標> 1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

ウェルネススポーツAの第1週授業時に決定したスポーツ・種目を、歴史背景などを学びながら半期間実施する。
サッカーの基礎技術を習得すると同時に, ボールを保持している時とボールを保持していない時のサッカーの戦術、状況判断について理解する。様々なゲームを通じて競技特性を学び、受講者同士がコミュニケーション(メンバーシップ, リーダーシップ)を図り、チームワークとスポーツマンシップ、マナーを獲得する。

第 1 週～4 週:チームワークとコミュニケーション、ゲーム
第 5 週～7 週:個人技術と個人戦術とコミュニケーション、ゲーム
第 8 週～10 週:グループ戦術とゲーム
第 11 週～13 週:ゲーム
第 14 週:ゲーム、レポート提出

履修上の注意

春学期第1週の授業を欠席した場合、希望種目を選択できなくなる場合があるので注意すること。
本授業は午前中に行われる体育実技である。
授業前日には睡眠を十分にとり、当日の朝食を摂取して参加すること。
運動に適した服装を着用すること。
屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

準備学習(予習)として、次週の授業内容を確認し、その技術、戦術について理解を深め、授業に臨む。
また事後学習として、授業内容の復習と授業時における技術の獲得状況と動きの情況について振り返り行う。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業は実技科目であるため、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行います。
レポートの全体講評を授業時または Oh-o! Meiji にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、70 点), クラスメイトとの関わり方(15 点), 期末レポート(15 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
授業当日は, 体育館入り口にあるインフォメーションボードを必ず確認すること。
雨天時は体育館へ移動し運動, あるいは教室等へ移動して講義を実施する。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>

スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。

<到達目標>

1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢, 左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅, 左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶, 左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾, 右攬雀尾
第7週:単鞭, 雲手, 単鞭
第8週:高探馬, 右登脚, 双峰貫耳
第9週:転身左登脚, 左下勢独立
第 10 週:右下勢独立, 左右穿梭
第 11 週:海底針, 閃通臂
第 12 週:転身撇攪捶, 如封似閉
第 13 週:十字手, 収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標
<授業概要>
スポーツは, ウェルネスライフを実現させるための重要な要素のひとつである。本授業では, スポーツ文化の理解と習得を目指し, ひとつのスポーツ活動を通して基礎知識と技能の向上をはかり, さらにコミュニケーション能力の向上も目指す。
<到達目標>
1. 週1回のスポーツ活動を習慣化することができる。
2. ひとつのスポーツを通してスポーツ文化を理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容
第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢, 左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅, 左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶, 左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾, 右攬雀尾
第7週:単鞭, 雲手, 単鞭
第8週:高探馬, 右登脚, 双峰貫耳
第9週:転身左登脚, 左下勢独立
第 10 週:右下勢独立, 左右穿梭
第 11 週:海底針, 閃通臂
第 12 週:転身撇攪捶, 如封似閉
第 13 週:十字手, 収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ

授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意
運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容
授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書
特になし。

参考書
特になし。

課題に対するフィードバックの方法
必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法
評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他
4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネススポーツB	ウェルネススポーツB	
担 当 者	開講期	開講地区
出井 章雅	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本講義ではマルチスポーツとして、卓球・テニピン・ボルダリングをオムニバス形式で実施します。あえて一つの種目に特化するのではなく、あらゆる種目を経験することにより自身が抱えるコーディネーション能力の重要性に気づくことができます。スポーツは「気づき」なのです。運動の楽しさはもちろんスポーツの競技特性を知ることで健康に対しての意識も変化してきます。特に大学生は生活習慣病にかかりやすい時期と言われています。だからこそあらゆる種目を通してコミュニティを広げて行きましょう。卓球ではシングルスやダブルスのゲームを中心にショットの向上を目指します。テニピンはバドミントンコートの大きさにテニス要素のネットやハンドラケットを用いて卓球のルールを基に展開していく。通常のテニスとは違い道具の扱いが簡素化された。ボルダリングでは、3m～5m 程の短い壁を2箇所用意しており、特殊なシューズを履き傾斜のある壁を登ることにより自身の身体の機能や体重移動の仕方などを実践します。エクササイズでは、バランスボールやストレッチマット、ストレッチポールを用いたエクササイズを実施します。まずストレッチマットで身体の柔軟性を確認し、バランスボールで体幹を意識するエクササイズ、ストレッチポールで姿勢の改善など心のリフレッシュに期待できます。

到達目標として、スポーツを通しての仲間づくり、より上達するための工夫など身体を動かすことにより健康に対しての意識を高めてほしいです。

授業内容

第１回 授業概要及び諸注意説明(マルチスポーツとは)
第２回 フォアハンド・バックハンドの基本 簡易ゲーム
第３回 サービスの基本 簡易ゲーム
第４回 コースの打ち分けと練習法 簡易ゲーム
第５回 シングルスの総当たりⅠ
第６回 シングルスの総当たりⅡ
第７回 ダブルスのチーム戦
第８回 テニピン ダブルス 基本動作と応用
第９回 テニピン シングルス 基本動作と応用
第10回 ボルタリングの基本(ホールドの持ち方、足の置き方、基本姿勢)
第11回 ボルタリングの実践Ⅰ(難易度の設定、ルート読み)
第12回 身体づくり運動Ⅰ(バランスボール・ストレッチマット・ストレッチポール)
第13回 身体づくり運動Ⅱ(バランスボール・ストレッチマット・ストレッチポール)
第14回 まとめ(3種目の中から課題を作成し実施する)

履修上の注意

1, 授業進行状況や履修人数に合わせて、内容を変更する場合があります。
2, 体育館シューズを準備すること。但し、ボルダリングの際は専用シューズを貸し出す。
3, 卓球のラケットは貸出用があるが、準備できる者は持参しても良い。
4, 運動に適した服装であること。
5, 単位修得にあたり実技科目な為、3 分の2以上の出席とする。※持病がある場合は要相談。

準備学習(予習・復習等)の内容

1, 体育実技科目な為、身体を動かせるように体調管理に留意すること。
2, 授業内でも説明するが、あらかじめシラバスを確認し競技の確認及び競技特性ルールを理解しておくこと。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布します。

参考書

松下浩二(2019)「レベルアップ卓球 科学・技術・練習で必ず上達！」西東社
佐川史佳(2015)「ボルダリング入門」山と渓谷社
ウイダートレーニングラボ(2011)「エクササイズ・バイブル」実業之日本社

課題に対するフィードバックの方法

授業の開始前に随時、フィードバックを実施します。

成績評価の方法

平常点(70%), 技能点(20%), 授業への取り組み(10%)

その他

感染対策として、消毒液の設置や三密を回避できる授業展開に努めてまいります。実技スペースは地下であるが、換気等は十分になされています。

科目ナンバー:(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 智子	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
ウェルネスとは, 充実した人生を送るために毎日の生活を見直し, 改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては, 健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は, ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境, 身体, 精神, 情緒, 価値観)について, 講義, グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。
＜到達目標＞
1. ウェルネスの概念を理解し, ウェルネスの各領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して, クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

第1週:授業概要説明, 自己紹介
第2週:ウェルネスとは, 人生観(精神)
第3週:生活習慣の見直し:体格(身体)
第4週:生活習慣の見直し:栄養・食生活(身体)
第5週:生活習慣の見直し:運動・身体活動・体力(身体)
第6週:生活習慣の見直し:休養・睡眠(身体)
第7週:社会的環境:社会環境と疾病予防(環境)
第8週:メンタルヘルス, ストレス(情緒)
第9週:メンタルヘルス, ストレス(情緒)
第 10 週:ストレスマネジメント, ストレスコーピング(情緒)
第 11 週:グループディスカッション・プレゼンテーション(価値)
第 12 週:グループディスカッション・プレゼンテーション(価値)
第 13 週:グループディスカッション・プレゼンテーション(価値)
第 14 週:まとめ, ウェルネスライフとは

履修上の注意

本授業は, グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので, 受身の姿勢ではなく, 積極的に授業に参加すること。
第1週の授業には, 必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で前週の課題やリアクションペーパーについて解説、評価する。

成績評価の方法

評価を受るためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢, 40 点), 授業中の提出物(30 点), 筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 直成	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。
＜到達目標＞
1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネス5領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

第1週:授業概要説明, 自己紹介
第2週:ウェルネスの基本概念
第3週:身体(健康の基盤と運動・フィジカルリテラシー)
第4週:身体(回復力と持続性)
第5週:身体(ヘルスツーリズム)
第6週:情緒(ポジティブ心理学とレジリエンスの育成)
第7週:情緒(メンタルトレーニング)
第8週:情緒(ストレス管理とマインドフルネス)
第9週:環境(自然と持続可能な未来)
第 10 週:環境(社会環境と生活)
第 11 週:精神(生きがい、自己実現)
第 12 週:価値(価値観トーナメント、モチベーション)
第 13 週:価値(豊かな人生設計とウェルビーイング)
第 14 週:まとめ, ウェルネスライフとは

履修上の注意

本授業は, グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので, 受身の姿勢ではなく, 積極的に授業に参加すること。
第1週の授業には, 必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。パワーポイント等にて教材を提示する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業・グループワークへの取り組み姿勢、20 点), 授業中の提出物(30 点), 学期末レポート(50 点)から総合評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 隆	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞
1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネスの各領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

＜授業方針＞
講義からウェルネスに関する知識を取得し、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを通して自らおよび他者から学ぶ。各論においては順番が入れ替わる場合もある。

＜授業計画＞
第1週:授業概要説明、自己紹介
第2週:ウェルネスの基本概念
第3週:生活習慣の見直し:身体活動・運動・座位行動(身体)
第4週:生活習慣の見直し:睡眠・休養・スクリーンタイム(身体)
第5週:生活習慣の見直し:食事・飲酒・喫煙(身体)
第6週:生活習慣の見直し:行動変容の理論と実践(身体)
第7週:メンタルヘルス、ストレス(情緒)
第8週:ストレスマネジメント(情緒・環境)
第9週:人間関係、コミュニケーション(情緒・環境)
第 10 週:社会環境・自然環境とウェルネス(環境)
第 11 週:生きがい、自己実現(精神)
第 12 週:価値観、認知バイアス(価値)
第 13 週:グループディスカッション、プレゼンテーション(精神・価値)
第 14 週:まとめ、ウェルネスライフとは、期末試験

履修上の注意

本授業は、グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。
第1週の授業には、必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回、その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題(小レポート等)に対しては、次の時間に講評する。
プレゼンテーションに対しては、発表後のフィードバックや、次回講義の冒頭に全体の講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、40 点)、授業中の提出物(30 点)、筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HES118M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
マックグラス　ケリー	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

Develop an understanding of the wellness concept and build lifestyle habits to increase happiness. Describe and discuss the elements that make up the dimensions of the wellness model. Build English communication skills. Research and present ways to promote wellness as a form of public health.

授業内容

Week 1: Introduction to the wellness dimensions and Mindfulness Training
Week 2: Mindfulness Training, SAPP Habits and mind mapping of the Physical Dimension
Week 3: Wellness – Discussion of the Physical Dimension
Week 4: Wellness – Mind mapping and discussion of the Social Dimension
Week 5: Wellness – Mind mapping and discussion of the Intellectual Dimension
Week 6: Wellness – Mind mapping and discussion of the Emotional Dimensions
Week 7: Wellness – Mind mapping and discussion of the Spiritual Dimension
Week 8: Wellness – Mind mapping and discussion of the Occupational Dimension
Week 9: Wellness – Mind mapping and discussion of the Financial Dimension
Week 10: Wellness – Mind mapping and discussion of the Environmental Dimension
Week 11: Review the the wellness dimensions and habits for happiness. Introduce guidelines for student reflection.
Week 12: Final Assessment Part 1 - Examination
Week 13: Discussion of public health promotion and wellness resources. Continue preparation of student reflection.
Week 14: Final Assessment Part 2 - Personal Wellness Reflection - Summation Assessment

履修上の注意

None

準備学習(予習・復習等)の内容

Students are required to complete weekly readings and mindful habits outside of class and complete assigned questions in the homework sheet.

教科書

No textbook is required.

参考書

Resources will be provided weekly as handouts in class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback is provided on a weekly basis for the homework sheets.

成績評価の方法

Class Participation & Discussion – 30%, Homework Assignments – 30%, Examination/Reflection – 40%

その他

not applicable

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦　康二	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞
1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネス5領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

授業構成：出欠確認、講義、ワークシート、グループワーク、プレゼンテーション、リアクションペーパー。

概要は以下の通り。
○講義：ウェルネス 5 領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について。各領域におけるキーワードは以下の通り。
・環境：環境と健康の関連性(持続可能な社会とウェルネス)、健康的な生活環境を整えるための工夫
・身体：栄養の基本知識とその実践方法、適切な運動の種類と生活習慣病予防
・精神：ライフプランの構築、情報過多時代における情報リテラシー(信頼できる情報の選択)
・情緒：ストレスマネジメント、人間関係の調整と自己理解
・価値：自己の価値観と人生の目的、個人の目標設定と評価

○ワークシート：毎回の授業テーマに関して、考えを文章にまとめる。

○グループワーク：数名のグループディスカッションをする。

○プレゼンテーション：与えられたテーマについて、個人もしくはグループ単位でプレゼンテーションを行う。

○リアクションペーパー：講義、グループワーク等を通して学んだことや自分の考えを文章にまとめる。

履修上の注意

本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・復習として、授業中で取り扱った内容を振り返り、まとめておくこと。

・次回の授業内容に関して、情報を集めておくこと。

・各内容について、授業中に指示する。

教科書

図書館の蔵書を検索する。
使用しない。パワーポイント等プレゼンテーションソフトにて教材を提示する。

参考書

図書館の蔵書を検索する。
必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回には、課題および授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには 3 分の 2 以上の出席を必須とする。
出席状況 70%(授業への取り組み姿勢 40%、授業中の提出物 30%)、課題レポート 30%として総合的に評価する。

その他

なし。

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>

ウェルネスとは，充実した人生を送るために毎日の生活を見直し，改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては，健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は，ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境，身体，精神，情緒，価値観)について，講義，グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

<到達目標>

1. ウェルネスの概念を理解し，ウェルネスの各領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して，クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

第1週:授業概要説明，自己紹介
第2週:ウェルネスとは，人生観，生きがい(精神・価値)
第3週:生活習慣の見直し:運動，食事，飲酒，喫煙，睡眠(身体)
第4週:生活習慣の見直し:運動，食事，飲酒，喫煙，睡眠(身体)
第5週:生活習慣の見直し:運動，食事，飲酒，喫煙，睡眠(身体)
第6週:行動変容の理論と実践(身体・価値)
第7週:メンタルヘルス，ストレス(情緒)
第8週:メンタルヘルス，ストレス(情緒)
第9週:ストレスマネジメント・コーピング(情緒・環境)
第 10 週:ストレスマネジメント・コーピング(情緒・環境)
第 11 週:社会的環境，アサーション(環境)
第 12 週:グループディスカッション・プレゼンテーション(精神・価値)
第 13 週:グループディスカッション・プレゼンテーション(精神・価値)
第 14 週:まとめ，ウェルネスライフとは，期末試験

履修上の注意

本授業は，グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので，受身の姿勢ではなく，積極的に授業に参加すること。
第1週の授業には，必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題(小レポート等)に対しては、次の時間に講評する。
プレゼンテーションに対しては、発表後のフィードバックや、次回講義の冒頭に全体の講評を行う。

成績評価の方法

評価を受るためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢，40 点)，授業中の提出物(30 点)，筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
森田 ゆい	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>

ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の 改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテー ションなどを通して理解していこうとするものである。

<到達目標>

1.ウェルネスの概念を理解し、ウェルネスの各領域について説明することができる。 2.グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

<授業内容>
第1週:授業概要説明、グループ分け、自己紹介
第2週:健康・ウェルネスの概念
第3週:心の健康(ストレスとは)
第4週:発育と発達
第5週:加齢
第6週:食事1
第7週:食事2
第8週:運動
第9週: ウェルネスとは
第 10 週:小テスト グループ発表準備
第 11 週:グループ発表1
第 12 週: グループ発表2
第 13 週:グループ発表3
第 14 週:グループ発表4 まとめ

履修上の注意

本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり、他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。
第 1 回の授業には必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際にお伝えします。

教科書

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

必要に応じて授業で案内致します。

課題に対するフィードバックの方法

提出物には原則的に翌週に総括をお伝えします。
プレゼンテーションには全員で評価を行い、その結果を公表します。

成績評価の方法

評価を受けるためには 3 分の 2 以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢 40 点)，授業中の提出物(15 点)，グループ発表の成果(15 点)，筆記試験(30 点)から総合評価す る。

その他

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
蛭間 栄介	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネス5領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

＜授業構成＞

・第1週:授業全体の概要説明・授業の約束事
・第2週:ウェルネス概念の発祥(米国のウェルネス)
・第3週:日本へのウェルネス概念の導入・普及・発展
・第4～第13週:アクティブ・ラーニング形式でのウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)の理解
・第 14 週:半期の総まとめと筆記試験

履修上の注意

本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞

National Wellness Institute 公式ウェブサイトから Definition of Wellness, Six Dimensions of Wellness,
Wellness Promotion Competency Model について調べておくこと。

National Wellness Institute の URL:https://nationalwellness.org/

＜復習＞

毎回の授業で実施したグループワークのテーマを再考すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

採点・評価をして、学生に返却する。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、40 点)，授業中の提出物(30 点)，筆記試験(30 点)から総合評価をする。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
三浦 康二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネス5領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

授業構成:出欠確認、講義、ワークシート、グループワーク、プレゼンテーション、リアクションペーパー。

概要は以下の通り。
○講義:ウェルネス 5 領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について。各領域におけるキーワードは以下の通り。
・環境:環境と健康の関連性(持続可能な社会とウェルネス)、健康的な生活環境を整えるための工夫
・身体:栄養の基本知識とその実践方法、適切な運動の種類と生活習慣病予防
・精神:ライフプランの構築、情報過多時代における情報リテラシー(信頼できる情報の選択)
・情緒:ストレスマネジメント、人間関係の調整と自己理解
・価値:自己の価値観と人生の目的、個人の目標設定と評価

○ワークシート:毎回の授業テーマに関して、考えを文章にまとめる。

○グループワーク:数名のグループディスカッションをする。

○プレゼンテーション:与えられたテーマについて、個人もしくはグループ単位でプレゼンテーションを行う。

○リアクションペーパー:講義、グループワーク等を通して学んだことや自分の考えを文章にまとめる。

履修上の注意

本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・復習として、授業中で取り扱った内容を振り返り、まとめておくこと。

・次回の授業内容に関して、情報を集めておくこと。

・各内容について、授業中に指示する。

教科書

図書館の蔵書を検索する。
使用しない。パワーポイント等プレゼンテーションソフトにて教材を提示する。

参考書

図書館の蔵書を検索する。
必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業最終回には、課題および授業全体に対する講評を行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには 3 分の 2 以上の出席を必須とする。
出席状況 70%(授業への取り組み姿勢 40%、授業中の提出物 30%)、課題レポート 30%として総合的に評価する。

その他

なし。

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
高村 直成	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネス5領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

第1週:授業概要説明, 自己紹介
第2週:ウェルネスの基本概念
第3週:身体(健康の基盤と運動・フィジカルリテラシー)
第4週:身体(回復力と持続性)
第5週:身体(ヘルスツーリズム)
第6週:情緒(ポジティブ心理学とレジリエンスの育成)
第7週:情緒(メンタルトレーニング)
第8週:情緒(ストレス管理とマインドフルネス)
第9週:環境(自然と持続可能な未来)
第 10 週:環境(社会環境と生活)
第 11 週:精神(生きがい、自己実現)
第 12 週:価値(価値観トーナメント、モチベーション)
第 13 週:価値(豊かな人生設計とウェルビーイング)
第 14 週:まとめ, ウェルネスライフとは

履修上の注意

本授業は, グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので, 受身の姿勢ではなく, 積極的に授業に参加すること。
第1週の授業には, 必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回, その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。パワーポイント等にて教材を提示する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業、グループワークへの取り組み姿勢、20 点), 授業中の提出物(30 点), 学期末レポート(50 点)から総合評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネス5(6)領域について説明することができる。
2. 自身の今後の人生について具体的に考え、発信することができる。
3. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

＜授業方針＞

講義からウェルネスに関する知識を取得し、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを通して自らおよび他者から学ぶ。

＜授業構成＞

○出欠確認
○W-up
○講義
○グループワーク、プレゼンテーション:数名のグループでテーマに沿ったディスカッションや発表をおこなう。
○プレゼンテーション:与えられたテーマについて、個人もしくはグループ単位でプレゼンテーションをおこなう。
○リアクションペーパー::講義やグループワーク等を通して学んだことや感想を提出する

＜授業計画＞

全14回における講義計画は以下の通り。各論においては順番が入れ替わる場合もある。

第1回:授業概要説明、グループワーク(自己紹介)
第 2回:全米におけるウェルネスの発祥と発展
第 3回:日本へのウェルネス概念の導入と発展
第 4回:寿命統計とウェルネス
第 5回:健康寿命とウェルネス
第 6回:ライフプランニングとウェルネス
第 7回:タイプ A 行動様式とウェルネス
第 8回:ストレスマネジメントとウェルネス
第 9回:肥満痩身とウェルネス
第 10 回:肥満・痩身とウェルネス
第 11 回:身体活動とウェルネス
第 12 回:環境とウェルネス
第 13 回:生きがいとウェルネス
第 14 回:半期全体のまとめ

履修上の注意

本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。専攻単位のクラス編成につき、本授業において専攻内コミュニケーションを積極的におこなってもらいたい。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞

National Wellness Institute 公式ウェブサイトから Definition of Wellness, Six Dimensions of Wellness,について調べておくこと。

National WEllness Institute の URL:
https://nationalwellness.org/

＜復習＞

毎回の授業で実施したグループワークのテーマを再考すること。

教科書

使用しない。パワーポイント等プレゼンテーションソフトにて教材を提示する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題提出後の授業にて全体的なフィードバックを行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、42 点), 授業中の提出物(28 点), 筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

なし

科目ナンバー:(AL)HES118M		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	**ウェルネスライフ論**	
担 当 者	開講期	開講地区
マックグラス ケリー	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

Develop an understanding of the wellness concept and build lifestyle habits to increase happiness. Describe and discuss the elements that make up the dimensions of the wellness model. Build English communication skills. Research and present ways to promote wellness as a form of public health.

授業内容

Week 1: Introduction to the wellness dimensions and Mindfulness Training
Week 2: Mindfulness Training, SAPP Habits and mind mapping of the Physical Dimension
Week 3: Wellness – Discussion of the Physical Dimension
Week 4: Wellness – Mind mapping and discussion of the Social Dimension
Week 5: Wellness – Mind mapping and discussion of the Intellectual Dimension
Week 6: Wellness – Mind mapping and discussion of the Emotional Dimensions
Week 7: Wellness – Mind mapping and discussion of the Spiritual Dimension
Week 8: Wellness – Mind mapping and discussion of the Occupational Dimension
Week 9: Wellness – Mind mapping and discussion of the Financial Dimension
Week 10: Wellness – Mind mapping and discussion of the Environmental Dimension
Week 11: Review the the wellness dimensions and habits for happiness. Introduce guidelines for student reflection.
Week 12: Final Assessment Part 1 - Examination
Week 13: Discussion of public health promotion and wellness resources. Continue preparation of student reflection.
Week 14: Final Assessment Part 2 - Personal Wellness Reflection - Summation Assessment

履修上の注意

None

準備学習(予習・復習等)の内容

Students are required to complete weekly readings and mindful habits outside of class and complete assigned questions in the homework sheet.

教科書

No textbook is required.

参考書

Resources will be provided weekly as handouts in class.

課題に対するフィードバックの方法

Feedback is provided on a weekly basis for the homework sheets.

成績評価の方法

Class Participation & Discussion – 30%, Homework Assignments – 30%, Examination/Reflection – 40%

その他

not applicable

科目ナンバー:(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	**ウェルネスライフ論**	
担 当 者	開講期	開講地区
内藤 隆	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

<授業概要>

授業内容

ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

履修上の注意

<到達目標>

準備学習(予習・復習等)の内容

1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネスの各領域について説明することができる。

教科書

2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

参考書

<授業方針>

課題に対するフィードバックの方法

講義からウェルネスに関する知識を取得し、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを通して自らおよび他者から学ぶ。各論においては順番が入れ替わる場合もある。

成績評価の方法

<授業計画>

その他

第1週:授業概要説明、自己紹介

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
蛭間 栄介	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞
1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネス5領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

・第1週:授業全体の概要説明・授業の約束事
・第2週:ウェルネス概念の発祥(米国のウェルネス)
・第3週:日本へのウェルネス概念の導入・普及・発展
・第4～第13週:アクティブ・ラーニング形式でのウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)の理解
・第 14 週:半期の総まとめと筆記試験

履修上の注意

本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞
National Wellness Institute 公式ウェブサイトから Definition of Wellness, Six Dimensions of Wellness,
Wellness Promotion Competency Model について調べておくこと。

National Wellness Institute の URL:https://nationalwellness.org/

＜復習＞
毎回の授業で実施したグループワークのテーマを再考すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

採点・評価をして、学生に返却する。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、40 点)，授業中の提出物(30 点)，筆記試験(30 点)から総合評価をする。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
森田 ゆい	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の 改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテー ションなどを通して理解していこうとするものである。
＜到達目標＞
1.ウェルネスの概念を理解し、ウェルネスの各領域について説明することができる。 2.グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

＜授業内容＞
第1週:授業概要説明、グループ分け、自己紹介
第2週:健康・ウェルネスの概念
第3週:心の健康(ストレスとは)
第4週:発育と発達
第5週:加齢
第6週:食事1
第7週:食事2
第8週:運動
第9週: ウェルネスとは
第 10 週:小テスト グループ発表準備
第 11 週:グループ発表1
第 12 週: グループ発表2
第 13 週:グループ発表3
第 14 週:グループ発表4 まとめ

履修上の注意

本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり、他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。
第 1 回の授業には必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業の際にお伝えします。

教科書

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書

必要に応じて授業で案内致します。

課題に対するフィードバックの方法

提出物には原則的に翌週に総括をお伝えします。
プレゼンテーションには全員で評価を行い、その結果を公表します。

成績評価の方法

評価を受けるためには 3 分の 2 以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢 40 点)，授業中の提出物(15 点)，グループ発表の成果(15 点)，筆記試験(30 点)から総合評価す る。

その他

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

ウェルネスとは，充実した人生を送るために毎日の生活を見直し，改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては，健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は，ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境，身体，精神，情緒，価値観)について，講義，グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し，ウェルネスの各領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して，クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

第1週：授業概要説明，自己紹介
第2週：ウェルネスとは，人生観，生きがい(精神・価値)
第3週：生活習慣の見直し：運動，食事，飲酒，喫煙，睡眠(身体)
第4週：生活習慣の見直し：運動，食事，飲酒，喫煙，睡眠(身体)
第5週：生活習慣の見直し：運動，食事，飲酒，喫煙，睡眠(身体)
第6週：行動変容の理論と実践(身体・価値)
第7週：メンタルヘルス，ストレス(情緒)
第8週：メンタルヘルス，ストレス(情緒)
第9週：ストレスマネジメント・コーピング(情緒・環境)
第 10 週：ストレスマネジメント・コーピング(情緒・環境)
第 11 週：社会的環境，アサーション(環境)
第 12 週：グループディスカッション・プレゼンテーション(精神・価値)
第 13 週：グループディスカッション・プレゼンテーション(精神・価値)
第 14 週：まとめ，ウェルネスライフとは，期末試験

履修上の注意

本授業は，グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので，受身の姿勢ではなく，積極的に授業に参加すること。
第1週の授業には，必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時の課題(小レポート等)に対しては、次の時間に講評する。
プレゼンテーションに対しては、発表後のフィードバックや、次回講義の冒頭に全体の講評を行う。

成績評価の方法

評価を受るためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢，40 点)，授業中の提出物(30 点)，筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
伊藤 智子	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

ウェルネスとは，充実した人生を送るために毎日の生活を見直し，改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては，健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は，ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネスの各領域(環境，身体，精神，情緒，価値観)について，講義，グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し，ウェルネスの各領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して，クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

第1週：授業概要説明，自己紹介
第2週：ウェルネスとは，人生観(精神)
第3週：生活習慣の見直し：体格(身体)
第4週：生活習慣の見直し：栄養・食生活(身体)
第5週：生活習慣の見直し：運動・身体活動・体力(身体)
第6週：生活習慣の見直し：休養・睡眠(身体)
第7週：社会的環境：社会環境と疾病予防(環境)
第8週：メンタルヘルス，ストレス(情緒)
第9週：メンタルヘルス，ストレス(情緒)
第 10 週：ストレスマネジメント，ストレスコーピング(情緒)
第 11 週：グループディスカッション・プレゼンテーション(価値)
第 12 週：グループディスカッション・プレゼンテーション(価値)
第 13 週：グループディスカッション・プレゼンテーション(価値)
第 14 週：まとめ，ウェルネスライフとは

履修上の注意

本授業は，グループワークにおいて自身の意見を発表したり他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので，受身の姿勢ではなく，積極的に授業に参加すること。
第1週の授業には，必ず出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

毎回，その都度予習・復習について案内する。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の冒頭で前週の課題やリアクションペーパーについて解説、評価する。

成績評価の方法

評価を受るためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢，40 点)，授業中の提出物(30 点)，筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネスの各領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

＜授業構成＞

講義、グループワーク、プレゼンテーション、ワークシートおよびリアクションペーパーの提出。概要は以下の通り。

○講義:ウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、各授業で1つのテーマを取り上げ、話題提供を行う。
○グループワーク:数名のグループディスカッションをする。
○プレゼンテーション:与えられたテーマについて、個人もしくはグループ単位でプレゼンテーションを行う。
○ワークシート:毎回の授業テーマに関して、考えを文章にまとめる。
○リアクションペーパー:講義、グループワーク等を通して学んだことや自分の考えを文章にまとめる。

＜授業内容＞

第1週:ウェルネスについての概要とイントロダクション
第2週:ウェルネスの各領域(5領域)について
第3週:身体とウェルネス(生活習慣の見直し:食事、栄養、運動)について
第4週:身体とウェルネス(身体の価値観)
第5週:身体とウェルネス(行動変容の理論と実践)
第6週:環境とウェルネス(環境問題、感染症)
第7週:精神とウェルネス(タイプ A 行動様式)
第8週:精神とウェルネス(メンタルヘルス)
第9週:情緒とウェルネス(ストレス)
第 10 週:情緒とウェルネス(ストレスマネジメント)
第 11 週:価値とウェルネス(生きがい、デスエデュケーション)
第 12 週:価値とウェルネス(ライフプランニング)
第 13 週:ウェルネスライフとは(グループ別プレゼンテーション)
第 14 週:まとめ

履修上の注意

・本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり、他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。
・現在の自分、これからの自分の健康・身体に関心をもって授業に取り組むこと。
・授業で学び、理解した内容を実生活にいかすよう心掛けること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・復習として、授業中で取り扱った内容を振り返り、まとめておくこと。
・指示された次回の授業内容に関して、情報を集め、考え等もまとめておくこと。

教科書

特に定めない。
パワーポイント等プレゼンテーションソフトにて教材を提示する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の全体講評を授業終了時に毎回解説の時間を設ける。
・最終授業日にプレゼンテーションやレポート等に対する解説の時間を設ける。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業への取り組み姿勢および授業中の提出物(60 点)、プレゼンテーション(10 点)、筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

なし

科目ナンバー：(AL)HES118J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
ウェルネスライフ論	ウェルネスライフ論	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞ ウェルネスとは、充実した人生を送るために毎日の生活を見直し、改善が必要と気づいた生活習慣の改善をしていこうという全人的健康観である。この概念に基づくライフスタイルにおいては、健康は充実した人生を送るための一要素とされている。本授業は、ウェルネスライフの実現に必要とされるウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、講義、グループワークやプレゼンテーションなどを通して理解していこうとするものである。

＜到達目標＞

1. ウェルネスの概念を理解し、ウェルネスの各領域について説明することができる。
2. グループワークやプレゼンテーションを通して、クラスメイトと積極的にコミュニケーションをとることができる。

授業内容

＜授業構成＞

講義、グループワーク、プレゼンテーション、ワークシートおよびリアクションペーパーの提出。概要は以下の通り。

○講義:ウェルネス5領域(環境、身体、精神、情緒、価値観)について、各授業で1つのテーマを取り上げ、話題提供を行う。
○グループワーク:数名のグループディスカッションをする。
○プレゼンテーション:与えられたテーマについて、個人もしくはグループ単位でプレゼンテーションを行う。
○ワークシート:毎回の授業テーマに関して、考えを文章にまとめる。
○リアクションペーパー:講義、グループワーク等を通して学んだことや自分の考えを文章にまとめる。

＜授業内容＞

第1週:ウェルネスについての概要とイントロダクション
第2週:ウェルネスの各領域(5領域)について
第3週:身体とウェルネス(生活習慣の見直し:食事、栄養、運動)について
第4週:身体とウェルネス(身体の価値観)
第5週:身体とウェルネス(行動変容の理論と実践)
第6週:環境とウェルネス(環境問題、感染症)
第7週:精神とウェルネス(タイプ A 行動様式)
第8週:精神とウェルネス(メンタルヘルス)
第9週:情緒とウェルネス(ストレス)
第 10 週:情緒とウェルネス(ストレスマネジメント)
第 11 週:価値とウェルネス(生きがい、デスエデュケーション)
第 12 週:価値とウェルネス(ライフプランニング)
第 13 週:ウェルネスライフとは(グループ別プレゼンテーション)
第 14 週:まとめ

履修上の注意

・本授業では、グループワークにおいて自身の意見を発表したり、他の受講生の意見を聞いたりする必要があるので、受身の姿勢ではなく、積極的に授業に参加すること。
・現在の自分、これからの自分の健康・身体に関心をもって授業に取り組むこと。
・授業で学び、理解した内容を実生活にいかすよう心掛けること。

準備学習(予習・復習等)の内容

・復習として、授業中で取り扱った内容を振り返り、まとめておくこと。
・指示された次回の授業内容に関して、情報を集め、考え等もまとめておくこと。

教科書

特に定めない。
パワーポイント等プレゼンテーションソフトにて教材を提示する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

・毎回の全体講評を授業終了時に毎回解説の時間を設ける。
・最終授業日にレポート等に対する解説の時間を設ける。

成績評価の方法

・評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
・授業への取り組み姿勢および授業中の提出物(60 点)、プレゼンテーション(10 点)、筆記試験(30 点)から総合評価する。

その他

なし

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ﾃﾆｽ中級]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ﾃﾆｽ中級]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 中級者とする。ここでの中級者とは, テニスの経験者で, 中学・高校・大学の体育の授業でテニスを行った程度の者やテニスを始めて間もない者から, 中学・高校・大学での部活動やテニススクール, サークル等での活動経験のある者・活動中の者とする。
基本的技術の確認をしながら技術の向上と, ゲームセンスの向上, ルール・マナー等の知識の獲得を到達目標とする。

※春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
※抽選になった場合は, 春学期・秋学期ともに希望する者を優先して, 履修者を決める。
※駿河台へ通学する人も履修可能である。

授業内容

春学期科目のこの授業では, おもにグランドストロークからサービスの練習を主とする。
実施場所:和泉キャンパステニスコート(ハードコート4面)
定員:20 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明(教室実施)
第2週 レベルチェック
第3週 グランドストローク練習①
第4週 グランドストローク練習②
第5週 グランドストローク練習③
第6週 グランドストローク練習④
第7週 グランドストローク練習⑤
第8週 サービス練習①
第9週 サービス練習②
第 10 週 サービスからのラリー
第 11 週 サービスおよびサービスリターン
第 12 週 ダブルスの試合についての説明
第 13 週 ダブルスの試合
第 14 週 総括および講義(ルール・マナーの確認等)

以上の授業計画は予定であるので, 天候・気象状況や受講生の習熟度等により変わることがある。また, 受講生のレベルによっても変更の場合がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
抽選になった場合は, 春学期・秋学期ともに希望する者を優先して, 履修者を決める。

テニスシューズを必ず準備すること。テニスシューズはハードコート用もしくはオールコート用のものとする。
テニスラケットは貸出用があるが, 準備できる者はマイラケット持参のこと。
服装は指定のものはないが運動にふさわしい服装に更衣の上, 参加のこと。

初回授業は教室実施であるので, 更衣および実技実施準備は不要である。実施教室は, Oh-o! Meiji にて案内を行う予定であるが, 案内を確認できない場合は, 初回授業当日, 和泉体育館玄関脇にあるインフォメーションボードを確認すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ!』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末には筆記試験を実施する。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), テスト(20%)の割合で成績評価をする。

その他

授業当日は, 体育館玄関前にあるインフォメーションボードを必ず確認をすること。
また, 雨天時は, 体育館へ移動し運動, あるいは, 教室等へ移動し講義を実施する。体育館玄関前にあるインフォメーションボードを確
認すること。
4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ﾃﾆｽ中級]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ﾃﾆｽ中級]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 中級者とする。ここでの中級者とは, テニスの経験者で, 中学・高校・大学の体育の授業でテニスを行った程度の者やテニスを始めて間もない者から, 中学・高校・大学での部活動やテニススクール, サークル等での活動経験のある者・活動中の者とする。
基本的技術の確認をしながら技術の向上と, ゲームセンスの向上, ルール・マナー等の知識の獲得を到達目標とする。

※秋学期科目ではあるが, 春学期はじめの履修登録となる。
※春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
※抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。
※駿河台へ通学する人も履修可能である。

授業内容

秋学期のこの授業では, おもにネットプレイの練習からダブルスのゲームを主とする。
実施場所:和泉キャンパステニスコート(ハードコート4面)
定員:20 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明
第2週 グランドストローク, サービス
第3週 サービス, グランドストロークラリー
第4週 ボレー練習①
第5週 ボレー練習②
第6週 ボレー練習③
第7週 オーバーヘッドショット練習①
第8週 オーバーヘッドショット練習②
第9週 ダブルスのゲームについての説明
第 10 週 ダブルス
第 11 週 ダブルス
第 12 週 ダブルス
第 13 週 ダブルス
第 14 週 総括および講義(テニスの楽しみ方等)

以上の授業計画は予定であるので, 天候・気象状況や受講生の習熟度等により変わることがある。また, 受講生のレベルによっても変更の場合がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。

テニスシューズを必ず準備すること。テニスシューズはハードコート用もしくはオールコート用のものとする。
テニスラケットは貸出用があるが, 準備できる者はマイラケット持参のこと。
服装は指定のものはないが運動にふさわしい服装に更衣の上, 参加のこと。

秋学期初回授業から実技を行うかどうかについては, 秋学期初回授業の事前に Oh-o! Meiji にて案内をする。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ!』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末には筆記試験を実施する。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), テスト(20%)の割合で成績評価をする。

その他

授業当日は, 体育館玄関前にあるインフォメーションボードを必ず確認をすること。
また, 雨天時は, 体育館へ移動し運動, あるいは, 教室等へ移動し講義を実施する。体育館玄関前にあるインフォメーションボードを確
認すること。
4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ﾃﾆｽ上級]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ﾃﾆｽ上級]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 上級者とする。ここでの上級者とは, しっかりとした打球でラリーが継続でき, 自分の狙ったところにコントロールできることを目安とする。また, 試合の経験があることを必須とする。
各自の持っている技術の向上, そして実戦で活かせるようになってもらうことを目的とする。

※春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
※抽選になった場合は, 春学期・秋学期ともに希望する者を優先して, 履修者を決める。

授業内容

春学期科目のこの授業では, おもにグランドストロークから, サービスの練習を主とする。

実施場所:和泉キャンパステニスコート(ハードコート4面)
定員:20 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明(教室実施)
第2週 レベルチェック
第3週 グランドストローク練習①
第4週 グランドストローク練習②
第5週 グランドストローク練習③
第6週 グランドストローク練習④
第7週 グランドストローク練習⑤
第8週 サービス練習①
第9週 サービス練習②
第 10 週 サービスリターン①
第 11 週 サービスリターン②
第 12 週 ゲーム1
第 13 週 ゲーム2
第 14 週 総括および講義(ルール・マナーの確認等)

以上の授業計画は予定であるので, 天候・気象状況や受講生の習熟度等により変わることがある。また, 受講生のレベルによっても変更の可能性がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。

テニスシューズを必ず準備すること。テニスシューズはハードコート用もしくはオールコート用のものとする。
テニスラケットは貸出用があるが, 準備できる者はマイラケット持参のこと。
服装は指定のものはないが運動にふさわしい服装に更衣の上, 参加のこと。

初回授業は教室実施であるので, 更衣および実技実施準備は不要である。実施教室は, Oh-o! Meiji にて案内を行う予定であるが, 案内を確認できない場合は, 初回授業当日, 和泉体育館玄関脇にあるインフォメーションボードを確認すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ!』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末には筆記試験を実施する。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), テスト(20%)の割合で成績評価をする。

その他

授業当日は, 体育館玄関前にあるインフォメーションボードを必ず確認をすること。
また, 雨天時は, 体育館へ移動し運動, あるいは, 教室等へ移動し講義を実施する。体育館玄関前にあるインフォメーションボードを確
認すること。
4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ﾌｯﾄｻﾙ]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ﾌｯﾄｻﾙ]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
大嶽 真人	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
本授業では, サッカー及びフットサルを通じて, 身体を動かすことの楽しさ, 面白さ, 難しさとともにできる喜びを体験する。また, サッカー及びフットサルの運動特性・ルール・マナー・安全管理を理解したうえで, 基本的な技術の反復から技術をゲームで応用して, 試合形式のゲームをチームメイトと楽しみ、生涯スポーツの実践について考えていく。
＜到達目標＞
1. サッカー及びフットサルに関する基礎知識を正しく理解し, 基本的技術を習得する。
2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションを図り, ゲームを運営することができる。

授業内容

本授業は, グラウンドで行う。
第1週目:授業概要の説明(授業の進め方, 諸注意, グループ編成, アイスブレイク)
第2週～5週目:フットサル(個人技術とグループ戦術)
第7週～10週目:サッカー(個人技術とグループ戦術)
第11週～14週目:サッカー(グループ戦術とチーム戦術)
第14週目:まとめ, レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・受講希望者は, 初回授業に必ず出席すること。
・初回授業を欠席した場合, 本授業を受講できなくなる場合があるので注意すること。
・運動に適した服装を着用, サッカーボール及びフットサルボールを蹴りやすいシューズを使用すること。
・授業の進行および安全管理の観点から、[u]原則として遅刻を厳禁[/u]とします。

準備学習(予習・復習等)の内容

・日頃から, 規則正しい生活習慣を心がけて授業に参加すること。
・事前にサッカー及びフットサルの技術や戦術、競技規則についての文献や資料, 映像などに目を通しておくこと
・健康スポーツ・生涯スポーツ・競技スポーツに関するトピックスについて関心を持つように努めること。
・授業中に配付する資料を理解するように努め, 不明な部分があれば自分で調べ、理解できない場合や解決しない場合は、次の授業で質問すること。

教科書

必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

・授業は実習科目であるため、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行います。
・その他として、Oh-o! Meiji を活用しフィードバックします。

成績評価の方法

・単位の取得には授業回数の3分の2以上の出席を必須とします。
・授業の取り組む姿勢(70 点), クラスメイトとの関わり(15 点), 期末レポート(15 点)から総合評価する.

その他

・4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
・授業当日は, 体育館入り口にあるインフォメーションボードを必ず確認すること。
・雨天時は体育館へ移動し運動, あるいは教室等へ移動して講義を実施する。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ﾃﾆｽ上級]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ﾃﾆｽ上級]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 上級者とする。ここでの上級者とは, しっかりとした打球でラリーが継続でき, 自分の狙ったところにコントロールできることを目安とする。また, 試合の経験があることを必須とする。
各自の持っている技術の向上, そして実戦で活かせるようになってもらうことを目的とする。

※秋学期科目ではあるが, 春学期はじめの履修登録となる。
※春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
※抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。
※駿河台へ通学する人も履修可能である。

授業内容

秋学期科目のこの授業では, おもにネットプレイの練習からダブルスのゲームを主とする。

実施場所:和泉キャンパステニスコート(ハードコート4面)
定員:20 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明
第2週 グランドストローク, サービス①
第3週 グランドストロークラリー, サービス②
第4週 ボレー練習①
第5週 ボレー練習②
第6週 ボレー練習③
第7週 ボレー練習④
第8週 オーバーヘッドショット練習①
第9週 オーバーヘッドショット練習②
第 10 週 ダブルス
第 11 週 ダブルス
第 12 週 ダブルス
第 13 週 ダブルス
第 14 週 総括および講義(テニスの楽しみ方等)

以上の授業計画は予定であるので, 天候・気象状況や受講生の習熟度等により変わることがある。また, 受講生のレベルによっても変更の可能性がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを強く勧める。
抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。

テニスシューズを必ず準備すること。テニスシューズはハードコート用もしくはオールコート用のものとする。
テニスラケットは貸出用があるが, 準備できる者はマイラケット持参のこと。
服装は指定のものはないが運動にふさわしい服装に更衣の上, 参加のこと。

秋学期初回授業から実技を行うかどうかについては, 秋学期初回授業の事前に Oh-o! Meiji にて案内をする。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ!』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末には筆記試験を実施する。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), テスト(20%)の割合で成績評価をする。

その他

授業当日は, 体育館玄関前にあるインフォメーションボードを必ず確認をすること。
また, 雨天時は, 体育館へ移動し運動, あるいは, 教室等へ移動し講義を実施する。体育館玄関前にあるインフォメーションボードを確
認すること。
4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[太極拳]・文開講	**生涯スポーツⅠ[太極拳]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、太極拳を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す、調心調息調身を行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくり、虚実バランス身体重心移動する動きを習得し、太極拳を生涯スポーツとして身に付ける。
週1回授業には、二つぐらい動作を習得する。

授業内容

第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢, 左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅, 左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶, 左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾, 右攬雀尾
第7週:単鞭, 雲手, 単鞭
第8週:高探馬, 右登脚, 双峰貫耳
第9週:転身左登脚, 左下勢独立
第 10 週:右下勢独立, 左右穿梭
第 11 週:海底針, 閃通臂
第 12 週:転身撇攬捶, 如封似閉
第 13 週:十字手, 収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ
授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

運動に適した運動服装を着用すること。屋内専用シューズ(赤紐を通したもの)を使用すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門編]・文開講	生涯スポーツⅠ[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門編]・文開講	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業は、高さ約4メートルのクライミング専用の壁を、特別な補助具を使用せずに手足で登り降りをするクライミング(以下、ボルダリング)というスポーツを行う初中級者対象の体育実技です。ボルダリングでは、つま先立ちで自分の体重を支えながら、腕、肩、背中の筋肉を使って壁にぶら下がったりするため、引き締まった足首や背中を作ることができるとされ、近年大変人気があるスポーツです。本授業では、ボルダリングの基礎知識の習得と技術の向上ともに、グループワークを通してのコミュニケーション能力の向上を目指します。

＜到達目標＞

1. 最低週1回の身体活動を習慣化できる。
2. ,ボルダリングに関する基礎知識と基礎技術を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施　設:和泉体育館1階クライミングウォール(7面:78, 90, 100, 110, 120, 135, 165 度壁)
定　員:24 名(予定)
授業内容:以下を予定しているが、授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。

第1週:ログシート作成、講義1(安全対策、シューズの選び方)、体験ボルダリング(A、B面)
第2週:講義2(フットホールドへの足の置き方、ホールドの持ち方、三点支持)、ボルダリング練習1(A、B面)
第3週:講義3(三点支持における身体の動かし方、ホールドの持ち替え方)、ボルダリング練習2(A、B、C面)
第4週:講義4(課題におけるスタート・ゴール方法)、ボルダリング課題(8級:A, B, C面)
第5週:講義5(オブザベーションの重要性)、ボルダリング課題(8級:A, B, C面)
第6週:講義6(二点支持とスメアリング)、ボルダリング課題(8級:A, B, C, D面)
第7週:講義7(ハイステップ)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第8週:講義8(ステミング)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第9週:講義9(レスト法)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第 10 週:講義 10(ヒールフック)、ボルダリング課題(6～7級:A, B, C, D面)
第 11 週:講義 11(クロスムーヴ)、ボルダリング課題(6～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 12 週:講義 12(デッドポイント)、ボルダリング課題(6～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 13 週:講義 13(スローパーホールドの持ち方)、ボルダリング課題(5～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 14 週:講義 14(ドロップニー)、ボルダリング課題(5～7級、長もの課題、A, B, C, D面)、まとめ

履修上の注意

○本授業は、和泉6学部相互乗り入れ科目である。
○受講希望者は、教務システムでの申込みとなる。受講希望者が定員を上回った場合は、抽選となる。日程は以下の通り。
・4/7(火)10:00～ 4/8(水)11:00 生涯スポーツ 生涯スポーツ(和泉)1回目 抽選受付 → 4/9(木)9:00 抽選結果公開
・4/11(土)10:00～4/13(月)11:00 生涯スポーツ(和泉)2回目 抽選受付 → 4/14(火)9:00 抽選結果公開
○詳細は、4 月 3 日開催の新入生総合ガイダンス時に配布される「選択体育科目履修案内」を参照のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞クライミングに必要な知識についてあらかかじめ調べること。
＜復習＞授業で学んだ知識や技術内容について確認すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を提示する。

参考書

応じて使用しない。必要に応じて資料を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、提出翌週に全体的にフィードバックする。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み状況(28 点)、クラスメイトとの協力(10 点)、授業中の提出物(42 点))および期末レポート(20 点)から総合的に評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｽﾄﾚｯﾁ&ﾖｶﾞ]・文開講	生涯スポーツⅠ[ｽﾄﾚｯﾁ&ﾖｶﾞ]・文開講	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

本授業では, 呼吸法, リラクゼーション, ストレッチ, ヨガなどを通じて, 身体の状態に意識を向けること, 心と身体の変化を感じること, 心身ともに健康に過ごしていくための術を学ぶ。また, 生涯スポーツについて考えていく。

＜到達目標＞

1. 呼吸法, リラクゼーション, ストレッチ, ヨガなどに関する基礎知識を正しく理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業は, スポーツルーム C(柔道)にて行う。

・第1週目:
　授業概要の説明(授業の進め方, 諸注意), 自己紹介
・第2～3週目:
　ストレッチ, セルフマッサージ
　呼吸法, 自律訓練法, 漸進的筋弛緩法
・第4～5週目:
　ヨガ体験
・第6～11 週目:
　ヨガ哲学, ヨガの呼吸法, ヨガの基本的なポーズや連続した動きの練習
・第 12～13 週目:
　グループ別発表・体験
・第 14 週目:
　まとめ, レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・受講希望者は, 初回授業に必ず出席すること。初回授業を欠席した場合, 本授業を受講できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり, 当日の昼食を授業のおおよそ 2 時間前までに摂取すること。
・ストレッチ性の高い運動に適した服装を着用すること(チノパン、デニム、スカートは不可)。
※ヨガマットは大学に準備されている。ただし自分のマットも使用可。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に説明した内容, 実践したことを理解するように努めること。また, 毎回その振り返りを行い, まとめ, 不明な部分があれば次の授業で質問すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
授業の取り組み姿勢(60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業は、高さ約4メートルのクライミング専用の壁を、特別な補助具を使用せずに手足で登り降りをするクライミング(以下、ボルダリング)というスポーツを行う初中級者対象の体育実技です。ボルダリングでは、つま先立ちで自分の体重を支えながら、腕、肩、背中の筋肉を使って壁にぶら下がったりするため、引き締まった足首や背中を作ることができるとされ、近年大変人気があるスポーツです。本授業では、ボルダリングの基礎知識の習得と技術の向上ともに、グループワークを通してのコミュニケーション能力の向上を目指します。

＜到達目標＞

1. 最低週1回の身体活動を習慣化できる。
2. .ボルダリングに関する基礎知識と基礎技術を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施　設:和泉体育館1階クライミングウォール(7面:78, 90, 100, 110, 120, 135, 165 度壁)
定　員:24 名(予定)
授業内容:以下を予定しているが、授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。

第1週:ログシート作成、講義1(安全対策、シューズの選び方)、体験ボルダリング(A、B面)
第2週:講義2(フットホールドへの足の置き方、ホールドの持ち方、三点支持)、ボルダリング練習1(A、B面)
第3週:講義3(三点支持における身体の動かし方、ホールドの持ち替え方)、ボルダリング練習2(A、B、C面)
第4週:講義4(課題におけるスタート・ゴール方法)、ボルダリング課題(8級:A, B, C面)
第5週:講義5(オブザベーションの重要性)、ボルダリング課題(8級:A, B, C面)
第6週:講義6(二点支持とスメアリング)、ボルダリング課題(8級:A, B, C, D面)
第7週:講義7(ハイステップ)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第8週:講義8(ステミング)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第9週:講義9(レスト法)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第 10 週:講義 10(ヒールフック)、ボルダリング課題(6～7級:A, B, C, D面)
第 11 週:講義 11(クロスムーヴ)、ボルダリング課題(6～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 12 週:講義 12(デッドポイント)、ボルダリング課題(6～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 13 週:講義 13(スローパーホールドの持ち方)、ボルダリング課題(5～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 14 週:講義 14(ドロップニ―)、ボルダリング課題(5～7級、長もの課題、A, B, C, D面)、まとめ

履修上の注意

○本授業は、和泉6学部相互乗り入れ科目である。
○受講希望者は、教務システムでの申込みとなる。受講希望者が定員を上回った場合は、抽選となる。日程は以下の通り。
・4/7(火)10:00～ 4/8(水)11:00 生涯スポーツ 生涯スポーツ(和泉)1回目 抽選受付 → 4/9(木)9:00 抽選結果公開
・4/11(土)10:00～4/13(月)11:00 生涯スポーツ(和泉)2回目 抽選受付 → 4/14(火)9:00 抽選結果公開
○詳細は、4 月 3 日開催の新入生総合ガイダンス時に配布される「選択体育科目履修案内」を参照のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞クライミングに必要な知識についてあらかじめ調べること。
＜復習＞授業で学んだ知識や技術内容について確認すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を提示する。

参考書

応じて使用しない。必要に応じて資料を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、提出翌週に全体的にフィードバックする。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み状況(28 点)、クラスメイトとの協力(10 点)、授業中の提出物(42 点))および期末レポート(20 点)から総合的に評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門編]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門編]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
水村 信二	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業の概要＞

本授業は、高さ約4メートルのクライミング専用の壁を、特別な補助具を使用せずに手足で登り降りをするクライミング(以下、ボルダリング)というスポーツを行う初中級者対象の体育実技です。ボルダリングでは、つま先立ちで自分の体重を支えながら、腕、肩、背中の筋肉を使って壁にぶら下がったりするため、引き締まった足首や背中を作ることができるとされ、近年大変人気があるスポーツです。本授業では、ボルダリングの基礎知識の習得と技術の向上ともに、グループワークを通してのコミュニケーション能力の向上を目指します。

＜到達目標＞

1. 最低週1回の身体活動を習慣化できる。
2. .ボルダリングに関する基礎知識と基礎技術を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。
3. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施　設:和泉体育館1階クライミングウォール(7面:78, 90, 100, 110, 120, 135, 165 度壁)
定　員:24 名(予定)
授業内容:以下を予定しているが、授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。

第1週:ログシート作成、講義1(安全対策、シューズの選び方)、体験ボルダリング(A、B面)
第2週:講義2(フットホールドへの足の置き方、ホールドの持ち方、三点支持)、ボルダリング練習1(A、B面)
第3週:講義3(三点支持における身体の動かし方、ホールドの持ち替え方)、ボルダリング練習2(A、B、C面)
第4週:講義4(課題におけるスタート・ゴール方法)、ボルダリング課題(8級:A, B, C面)
第5週:講義5(オブザベーションの重要性)、ボルダリング課題(8級:A, B, C面)
第6週:講義6(二点支持とスメアリング)、ボルダリング課題(8級:A, B, C, D面)
第7週:講義7(ハイステップ)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第8週:講義8(ステミング)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第9週:講義9(レスト法)、ボルダリング課題(7～8級:A, B, C, D面)
第 10 週:講義 10(ヒールフック)、ボルダリング課題(6～7級:A, B, C, D面)
第 11 週:講義 11(クロスムーヴ)、ボルダリング課題(6～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 12 週:講義 12(デッドポイント)、ボルダリング課題(6～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 13 週:講義 13(スローパーホールドの持ち方)、ボルダリング課題(5～7級、長もの初級、A, B, C, D面)
第 14 週:講義 14(ドロップニ―)、ボルダリング課題(5～7級、長もの課題、A, B, C, D面)、まとめ

履修上の注意

○本授業は、和泉6学部相互乗り入れ科目である。
○受講希望者は、教務システムでの申込みとなる。受講希望者が定員を上回った場合は、抽選となる。日程は以下の通り。
・4/7(火)10:00～ 4/8(水)11:00 生涯スポーツ 生涯スポーツ(和泉)1回目 抽選受付 → 4/9(木)9:00 抽選結果公開
・4/11(土)10:00～4/13(月)11:00 生涯スポーツ(和泉)2回目 抽選受付 → 4/14(火)9:00 抽選結果公開
○詳細は、4 月 3 日開催の新入生総合ガイダンス時に配布される「選択体育科目履修案内」を参照のこと。

準備学習(予習・復習等)の内容

＜予習＞クライミングに必要な知識についてあらかじめ調べること。
＜復習＞授業で学んだ知識や技術内容について確認すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を提示する。

参考書

応じて使用しない。必要に応じて資料を提示する。

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、提出翌週に全体的にフィードバックする。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み状況(28 点)、クラスメイトとの協力(10 点)、授業中の提出物(42 点))および期末レポート(20 点)から総合的に評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｽﾄﾚｯﾁ&ﾖｶﾞ]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ｽﾄﾚｯﾁ&ﾖｶﾞ]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
宮脇 梨奈	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

本授業では, 呼吸法, リラクゼーション, ストレッチ, ヨガなどを通じて, 身体の状態に意識を向けること, 心と身体の変化を感じること, 心身ともに健康に過ごしていくための術を学ぶ。また, 生涯スポーツについて考えていく。

＜到達目標＞

1. 呼吸法, リラクゼーション, ストレッチ, ヨガなどに関する基礎知識を正しく理解し, 自ら積極的に取り組むことができる。
2. クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

本授業は, スポーツルームC(柔道)にて行う。

・第1週目:
　授業概要の説明(授業の進め方, 諸注意), 自己紹介
・第2～3週目:
　ストレッチ, セルフマッサージ
　リラクゼーション(呼吸法, 自律訓練法, 漸進的筋弛緩法)
・第4～11 週目:
　さまざまなヨガ体験, 身体への気づきのワーク
　ヨガの呼吸法, ヨガの基本的なポーズや連続した動きの練習
・第 12～13 週目:
　グループ別発表・体験
・第 14 週目:
　まとめ, レポート提出

※授業内容は必要に応じて変更することがある

履修上の注意

・受講希望者は, 初回授業に必ず出席すること。初回授業を欠席した場合, 本授業を受講できなくなる場合があるので注意すること。
・本授業は体育実技である。授業前日には睡眠を十分にとり, 当日の昼食を授業のおおよそ 2 時間前までに摂取すること。
・ストレッチ性の高い運動に適した服装を着用すること(チノパン、デニム、スカートは不可)。
※ヨガマットは大学に準備されている。ただし自分のマットも使用可。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業中に説明した内容, 実践したことを理解するように努めること。また, 毎回その振り返りを行い, まとめ, 不明な部分があれば次の授業で質問すること。

教科書

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

参考書

必要に応じて授業中に指示する。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
授業の取り組み姿勢(60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
下田 学	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞

健全な身体をつくるために運動が必要なことは広く認識され、疾病予防や治療においても運動の効果が科学的に検証されてきています。そこで、身体を管理し、改善するためにも、運動について考える必要があります。また、スポーツに親しむことは、活動的な日常生活を送るためや健康の維持・増進のためにも有効です。しかし、定期的に運動を行うためには、運動の方法やライフスタイルを考える必要があります。実習を通して、スポーツの難しさや面白さを体験します。そして、生涯スポーツについて考えます。

＜到達目標＞

活動的な生活を実践する。
日常生活でスポーツをする。

授業内容

第 1 回:a のみ:ユニカール
第 2 回:ユニホック 1
第 3 回:ミニバスケットボール 1
第 4 回:インディアカ・ソフトバレーボール 1
第 5 回:ドッジビー・アルティメット
第 6 回:ユニホック 2
第 7 回:ミニバスケットボール 2
第 8 回:インディアカ・ソフトバレーボール 2
第 9 回:キンボール 1
第 10 回:ユニホック 3
第 11 回:ミニバスケットボール 3
第 12 回:インディアカ・ソフトバレーボール 3
第 13 回:キンボール 2
第 14 回:インディアカ・ソフトバレーボール 4
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

1 回目の授業は更衣不要です。
2 回目以降の授業に関しては以下の点に留意してください。
(1)スポーツ活動にふさわしいシューズとウェアを着用してください。
(2)授業の進行および安全管理の観点から、遅刻厳禁です。
(3)体調不良による欠席、遅刻、見学は成績に反映させます。開講期間中の体調管理に注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

雑誌、新聞、ニュースの健康に関連する記事を記録しておいてください。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説します。

成績評価の方法

開講日数の 2／3 以上に出席した者について、以下の配点により総合的に評価します。(a)平常点(運動への取り組み姿勢、課題達成度):60 点 (b)レポートの内容:40 点

その他

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｺﾞﾙﾌ]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ｺﾞﾙﾌ]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
大嶽 真人	春学期	和泉

授業の概要・到達目標

〈授業の概要〉
本授業では、ゴルフを題材に、人間形成や心身の健康を支える身体運動の意義を理解し、生涯にわたって運動を楽しみ続けるための基礎的な知識と実践力を身につけることを目標とします。
実技を通して身体の使い方やマナー、仲間とのコミュニケーションを学び、自分の体力やライフステージに応じて無理なく継続できる生涯スポーツとしてのゴルフの在り方を考えます。
ゴルフという生涯スポーツの特性を活かし、将来にわたって主体的に身体を動かし、健康で活力ある生活を支える運動習慣を形成することをねらいとします。
〈到達目標〉
1. ゴルフの競技特性を理解できる
2. ゴルフの基本的なマナーおよびルールを理解できる
3. マナーやルールを守り、スポーツ活動を実践できる
4. 基本技能を身につけ、積極的にゴルフに取り組むことができる
5. 簡易ゲームや練習を通して、協調性と公平性をもって活動できる

授業内容

使用施設:ゴルフレンジ
第1回:ガイダンス:授業の進め方、評価方法の説明
第2回:クラブの握り方(グリップ)・構え方(アドレス)の習得
第3回:パッティングと基礎動作
第4回:アプローチ技術の習得(構え方と距離感)
第5回:アプローチ技術の習得(的あてとサークル)
第6回:アプローチ技術の習得
第7回:アイアン(7I・6I)によるスウィング形成(クォータースウィングからハーフスウィング)
第8回:アイアン(7I・6I)によるスウィング形成(ハーフスウィングからスリークォータースウィング)
第9回:アイアン(7I・6I)によるスウィング形成(スリークォータースウィングからフルスウィング)
第 10 回:アイアン(7I・6I)によるスウィング形成(フルスウィング:1)
第 11 回:アイアン(7I・6I)によるスウィング形成(フルスウィング:2)
第 12 回:ドライバーによるスウィング形成(1)
第 13 回:ドライバーによるスウィング形成(2)
第 14 回:パターからアイアン、ドライバーの総合練習

履修上の注意

・本授業の内容には実技だけではなく講義も含まれています。
・単位修得にあたっては、授業実施回数の3分の2以上の出席が必要となります。
・医師により運動が禁止または制限されている学生は、第1回目の授業時に担当教員に申し出て、指示を受けてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

予習:場合によっては凶器となるクラブを使用するスポーツです。ゴルフのルールやマナーについて事前に調べて下さい。
復習:ゴルフのテレビ放映、映像を積極的に視聴し、授業内で実施した技能がいつ、どこで、どのように使用されているかを確認してください。

教科書

なし

参考書

2023 年度ゴルフ規則(日本ゴルフ協会)

課題に対するフィードバックの方法

授業は実技科目であるため、授業時の課題へのフィードバックはその時、その場で行います。
その他として、Oh-o! Meiji を活用しフィードバックします。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、他の学生との協調生等:70 点), 実技点(20 点), レポート(10 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
授業当日は, 体育館入り口にあるインフォメーションボードを必ず確認すること。
雨天時は体育館へ移動し運動, あるいは教室等へ移動して講義を実施する。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ﾆｭｰｽﾎﾟｰﾂ]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
下田 学	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

＜授業概要＞
健全な身体をつくるために運動が必要なことは広く認識され、疾病予防や治療においても運動の効果が科学的に検証されてきています。そこで、身体を管理し、改善するためにも、運動について考える必要があります。また、スポーツに親しむことは、活動的な日常生活を送るためや健康の維持・増進のためにも有効です。しかし、定期的に運動を行うためには、運動の方法やライフスタイルを考える必要があります。実習を通して、スポーツの難しさや面白さを体験します。そして、生涯スポーツについて考えます。
＜到達目標＞
活動的な生活を実践する。
日常生活でスポーツをする。

授業内容

第 1 回:a のみ:ユニカール
第 2 回:ユニホック 1
第 3 回:ミニバスケットボール 1
第 4 回:インディアカ・ソフトバレーボール 1
第 5 回:ドッジビー・アルティメット
第 6 回:ユニホック 2
第 7 回:ミニバスケットボール 2
第 8 回:インディアカ・ソフトバレーボール 2
第 9 回:キンボール 1
第 10 回:ユニホック 3
第 11 回:ミニバスケットボール 3
第 12 回:インディアカ・ソフトバレーボール 3
第 13 回:キンボール 2
第 14 回:インディアカ・ソフトバレーボール 4
※授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

1 回目の授業は更衣不要です。
2 回目以降の授業に関しては以下の点に留意してください。
(1)スポーツ活動にふさわしいシューズとウェアを着用してください。
(2)授業の進行および安全管理の観点から、遅刻厳禁です。
(3)体調不良による欠席、遅刻、見学は成績に反映させます。開講期間中の体調管理に注意してください。

準備学習(予習・復習等)の内容

雑誌、新聞、ニュースの健康に関連する記事を記録しておいてください。

教科書

使用しません。

参考書

使用しません。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に解説します。

成績評価の方法

開講日数の 2／3 以上に出席した者について、以下の配点により総合的に評価します。(a)平常点(運動への取り組み姿勢、課題達成度):60 点 (b)レポートの内容:40 点

その他

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、高さ約4メートルのクライミング専用の壁を、特別な補助具を使用せずに手足で登り降りをするクライミング(以下、ボルダリング)というスポーツを行う入門～初級者対象の体育実技です。近年、オリンピック競技にもなり、幅広い年齢層で行われるようになっています。
本授業では、ボルダリングの基礎知識の習得と技術の向上ともに、グループワークを通してのコミュニケーション能力の向上を目指しながら、生涯を通してスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。
＜到達目標＞
1.ボルダリングに関する基礎知識と基礎技術を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。2.クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施　設:和泉体育館1階クライミングウォール(7面: 78、90、98、110、120、135、165 度)
定　員:24 名。
授業内容:以下を予定しているが、授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。
第1週:ボルダリングの概論1(安全対策、シューズの選び方)、体験ボルダリング、ログシート作成
第2週:フットホールドへの足の置き方、ホールドの持ち方、三点支持、課題におけるスタート・ゴール方法(スラブ壁、垂壁、8級)
第3週:三点支持における身体の動かし方(ムーヴ練習)、ホールドの持ち替え方、課題(8級)
第4週:オブザベーションの重要性、課題(8～7級)
第5週:ボルダリング課題(8～7級)
第6週:二点支持とスメアリング、課題(8～7級)
第7週:ハイステップ、課題(8～7級)
第8週:ステミング、課題(8～7級)
第9週:レスト法、課題(8～7級)
第 10 週:ヒールフック、課題(8～6級)
第 11 週:クロスムーヴ、課題(8～6級)
第 12 週:課題作成とその課題挑戦
第 13 週:課題(8～6級)、長もの課題(初級)
第 14 週:課題(8～6級)、まとめ

履修上の注意

本授業は、和泉の学部相互乗り入れ科目である。受講希望者は、Oh-o! meiji システムのアンケート機能での申込みとなる。
受講希望者が定員を上回った場合は、抽選となる。詳細は、ガイダンス時に配布される「選択体育科目履修案内」を参照のこと。
準備適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

必要に応じて授業中に指示する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(和泉)[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門]・文開講	**生涯スポーツⅠ[ｸﾗｲﾐﾝｸﾞ入門]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
佐賀 典生	秋学期	和泉

授業の概要・到達目標

本授業は、高さ約4メートルのクライミング専用の壁を、特別な補助具を使用せずに手足で登り降りをするクライミング(以下、ボルダリング)というスポーツを行う入門～初級者対象の体育実技です。近年、オリンピック競技にもなり、幅広い年齢層で行われるようになっています。
本授業では、ボルダリングの基礎知識の習得と技術の向上ともに、グループワークを通してのコミュニケーション能力の向上を目指しながら、生涯を通してスポーツを楽しむ力を養うことを目標とします。
＜到達目標＞
1.ボルダリングに関する基礎知識と基礎技術を理解し、自ら積極的に取り組むことができる。2.クラスメイトと積極的にコミュニケーションをはかることができる。

授業内容

施　設:和泉体育館1階クライミングウォール(7面: 78、90、98、110、120、135、165 度)
定　員:24 名。
授業内容:以下を予定しているが、授業進行状況に合わせて内容や順序を変更することもある。
第1週:ボルダリングの概論1(安全対策、シューズの選び方)、体験ボルダリング、ログシート作成
第2週:フットホールドへの足の置き方、ホールドの持ち方、三点支持、課題におけるスタート・ゴール方法(スラブ壁、垂壁、8級)
第3週:三点支持における身体の動かし方(ムーヴ練習)、ホールドの持ち替え方、課題(8級)
第4週:オブザベーションの重要性、課題(8～7級)
第5週:ボルダリング課題(8～7級)
第6週:二点支持とスメアリング、課題(8～7級)
第7週:ハイステップ、課題(8～7級)
第8週:ステミング、課題(8～7級)
第9週:レスト法、課題(8～7級)
第 10 週:ヒールフック、課題(8～6級)
第 11 週:クロスムーヴ、課題(8～6級)
第 12 週:課題作成とその課題挑戦
第 13 週:課題(8～6級)、長もの課題(初級)
第 14 週:課題(8～6級)、まとめ

履修上の注意

本授業は、和泉の学部相互乗り入れ科目である。受講希望者は、Oh-o! meiji システムのアンケート機能での申込みとなる。
受講希望者が定員を上回った場合は、抽選となる。詳細は、ガイダンス時に配布される「選択体育科目履修案内」を参照のこと。
準備適切な服装や靴、またメガネの着用については担当教員の指示に従ってください。

準備学習(予習・復習等)の内容

必要に応じて授業中に指示する。

教科書

使用しない。

参考書

使用しない。

課題に対するフィードバックの方法

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
授業の取り組み姿勢(60 点)、クラスメイトとの関わり方(20 点)、期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 経験者とする。ここでの経験者とは, 中学・高校・大学の体育の授業でテニスを行った程度の者やテニスを始めて間もない者から, 中学・高校・大学での部活動やテニススクール, サークル等での活動経験のある者・活動中の者とする。

到達目標は, 各自の持っている技術の向上, そして, テニスが生涯スポーツとなることである。

授業内容

半期完結での進行となる。体育館内床張りで1面分での授業となるため, ラリー形式での練習や正式なゲームは行えないと思われる。基本的には, 球出し等による授業内容となるので, その点について了承の上, 履修をするように。

また, 外でテニスをすることを検討していくが, そのようになった場合には, テニスシューズが必要となるので, テニスシューズの準備も念頭に入れた上での履修を検討すること。外テニスの実施は, 春学期終盤の土曜日を想定しているが, 別日実施についても検討する。

実施場所:駿河台リバティタワー地下3Fスポーツホール(床張り)
定員:15 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明
第2週 グランドストローク練習
第3週 グランドストローク練習
第4週 グランドストローク練習
第5週 グランドストローク練習
第6週 グランドストローク練習
第7週 サービス練習
第8週 サービス練習
第9週 ネットプレイ練習
第 10 週 ネットプレイ練習
第 11 週 外テニス
第 12 週 外テニス
第 13 週 外テニス
第 14 週 外テニス

以上の授業計画は予定であるので, 受講生の習熟度・理解度等により変わることがある。また, 受講生のレベル, 予定によっても変更の可能性がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを勧める。
抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。

春学期初回授業時に, 春学期, 秋学期, それぞれの履修者を決めることになる。

授業内容にも記載したが, 体育館床張りのテニスコート(1面) で, 15 名定員にて実施をするので, 原則的にはドリル練習のみとなる予定である。この点については十分に理解した上での履修をすること。

体育館シューズ(室内用テニスシューズ)を必ず準備すること。テニスラケットは, 基本的にマイラケット持参が望ましい。

授業内容内でも記載したが, 外でテニスをすることも検討していくので, そうなった場合に, テニスシューズの準備も必要になるので, このことを念頭に入れた上での履修を検討すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ!』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末にはレポート課題を課す。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), 期末レポート(20%)の割合で成績評価をする。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

春学期初回授業にて秋学期履修者を含め, 履修者を決定する予定であるので, 履修希望者は初回授業に出席すること。更衣および実技実施の準備は不要。春学期初回授業の実施場所は, 駿河台リバティタワー地下3Fスポーツホールでの実施予定である。

しかし, 事前にオンラインにて履修登録受付を行う可能性もあるので, 履修の方法や初回授業実施場所等の詳細については, 4月のガイダンス期間に配布される資料および Oh-o Meiji の案内をよく参照すること。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業は、太極拳を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す、調心調息調身を行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくり、虚実バランス身体重心移動する動きを習得し、太極拳を生涯スポーツとして身に付ける。
週1回授業には、二つぐらい動作を習得する。

授業内容

第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢, 左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅, 左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶, 左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾, 右攬雀尾
第7週:単鞭, 雲手, 単鞭
第8週:高探馬, 右登脚, 双峰貫耳
第9週:転身左登脚, 左下勢独立
第 10 週:右下勢独立, 左右穿梭
第 11 週:海底針, 閃通臂
第 12 週:転身搬攔捶, 如封似閉
第 13 週:十字手, 収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ
授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

運動に適した運動服装および室内用運動靴を用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 経験者とする。ここでの経験者とは, 中学・高校・大学の体育の授業でテニスを行った程度の者やテニスを始めて間もない者から, 中学・高校・大学での部活動やテニススクール, サークル等での活動経験のある者・活動中の者とする。

到達目標は, 各自の持っている技術の向上, そして, テニスが生涯スポーツとなることである。

授業内容

半期完結での進行となる。体育館内床張りで1面分での授業となるため, ラリー形式での練習や正式なゲームは行えないと思われる。基本的には, 球出し等による授業内容となるので, その点について了承の上, 履修をするように。

また, 外でテニスをすることを検討していくが, そのようになった場合には, テニスシューズが必要となるので, テニスシューズの準備も念頭に入れた上での履修を検討すること。外テニスの実施は, 春学期終盤の土曜日を想定しているが, 別日実施についても検討する。

実施場所:駿河台リバティタワー地下3Fスポーツホール(床張り)
定員:15 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明
第2週 グランドストローク練習
第3週 グランドストローク練習
第4週 グランドストローク練習
第5週 グランドストローク練習
第6週 グランドストローク練習
第7週 サービス練習
第8週 サービス練習
第9週 ネットプレイ練習
第 10 週 ネットプレイ練習
第 11 週 外テニス
第 12 週 外テニス
第 13 週 外テニス
第 14 週 外テニス

以上の授業計画は予定であるので, 受講生の習熟度・理解度等により変わることがある。また, 受講生のレベル, 予定によっても変更の可能性がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを勧める。
抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。

春学期初回授業時に, 春学期, 秋学期, それぞれの履修者を決めることになる。

授業内容にも記載したが, 体育館床張りのテニスコート(1面) で, 15 名定員にて実施をするので, 原則的にはドリル練習のみとなる予定である。この点については十分に理解した上での履修をすること。
体育館シューズ(室内用テニスシューズ)を必ず準備すること。テニスラケットは, 基本的にマイラケット持参が望ましい。
授業内容内でも記載したが, 外でテニスをすることも検討していくので, そうなった場合に, テニスシューズの準備も必要になるので, このことを念頭に入れた上での履修を検討すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ！』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末にはレポート課題を課す。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), 期末レポート(20%)の割合で成績評価をする。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
春学期初回授業にて秋学期履修者を含め, 履修者を決定する予定であるので, 履修希望者は初回授業に出席すること。更衣および実技実施の準備は不要。春学期初回授業の実施場所は, 駿河台リバティタワー地下3Fスポーツホールでの実施予定である。
しかし, 事前にオンラインにて履修登録受付を行う可能性もあるので, 履修の方法や初回授業実施場所等の詳細については, 4月のガイダンス期間に配布される資料および Oh-o Meiji の案内をよく参照すること。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 経験者とする。ここでの経験者とは, 中学・高校・大学の体育の授業でテニスを行った程度の者やテニスを始めて間もない者から, 中学・高校・大学での部活動やテニススクール, サークル等での活動経験のある者・活動中の者とする。到達目標は, 各自の持っている技術の向上, そして, テニスが生涯スポーツとなることである。

授業内容

半期完結での進行となる。体育館内床張りで1面分での授業となるため, ラリー形式での練習や正式なゲームは行えないと思われる。基本的には, 球出し等による授業内容となるので, その点について了承の上, 履修をするように。

また, 外でテニスをすることを検討していくが, そのようになった場合には, テニスシューズが必要となるので, テニスシューズの準備も念頭に入れた上での履修を検討すること。外テニスの実施は, 秋学期終盤の土曜日を想定しているが, 別日実施についても検討する。

実施場所:駿河台リバティタワー地下3Fスポーツホール(床張り)
定員:15 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明
第2週 グランドストローク練習
第3週 グランドストローク練習
第4週 グランドストローク練習
第5週 グランドストローク練習
第6週 グランドストローク練習
第7週 サービス練習
第8週 サービス練習
第9週 ネットプレイ練習
第 10 週 ネットプレイ練習
第 11 週 外テニス
第 12 週 外テニス
第 13 週 外テニス
第 14 週 外テニス

以上の授業計画は予定であるので, 受講生の習熟度・理解度等により変わることがある。また, 受講生のレベル, 予定によっても変更の可能性がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを勧める。
抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。

本科目は, 秋学期科目であるが, 春学期同時限の初回授業にて履修者を決定する予定であるので, 履修希望者は春学期同時限初回授業に出席すること。春学期初回授業の実施場所は, 駿河台リバティタワー地下3階スポーツホールでの実施予定である。

しかし, 事前にオンラインにて履修登録受付を行う可能性もあるので, 履修の方法や春学期初回授業実施場所等の詳細については, 詳細は, 4月のガイダンス期間に配布される資料および Oh-o Meiji の案内を参照すること。

授業内容にも記載したが, 体育館床張りのテニスコート(1面) で, 15 名定員にて実施をするので, 原則的にはドリル練習のみとなる予定である。この点については十分に理解した上での履修をすること。

体育館シューズ(室内用テニスシューズ)を必ず準備すること。テニスラケットは貸出用があるが, 基本的にはマイラケット持参が望ましい。

授業内容内でも記載したが, 外でテニスをすることも検討していくので, そうなった場合に, テニスシューズの準備も必要になるので, このことを念頭に入れた上での履修を検討すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ！』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末にはレポート課題を課す。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), 期末レポート(20%)の割合で成績評価をする。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
本科目は, 秋学期科目であるが, 春学期同時限の初回授業にて履修者を決定する予定であるので, 履修希望者は春学期同時限初回授業に出席すること。春学期初回授業の実施場所は, 駿河台リバティタワー地下3階スポーツホールでの実施予定である。
しかし, 事前にオンラインにて履修登録受付を行う可能性もあるので, 履修の方法や春学期初回授業実施場所等の詳細については, 詳細は, 4月のガイダンス期間に配布される資料および Oh-o Meiji の案内を参照すること。
なお, 秋学期初回授業から実技を行うかどうかについては, 秋学期初回授業の事前に Oh-o! Meiji にて案内をする。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
劉 立凡	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業は、太極拳を通じて健康づくり、運動不足の解消、体力アップを目指す、調心調息調身を行い、一つ一つの基本動作からスムーズに流れるまでゆっくり、虚実バランス身体重心移動する動きを習得し、太極拳を生涯スポーツとして身に付ける。
週1回授業には、二つぐらい動作を習得する。通年で履修することも可能ですし、歓迎します。そうすることにより、太極拳の良さをより深く楽しめる。

授業内容

第1週:a のみ:イントロダクション
第2週:太極拳の基本トレーニング
第3週:太極拳の起勢, 左右野馬分そう
第4週:白鶴亮翅, 左右楼膝拗歩
第5週:手揮琵琶, 左右倒巻肱
第6週:左攬雀尾, 右攬雀尾
第7週:単鞭, 雲手, 単鞭
第8週:高探馬, 右登脚, 双峰貫耳
第9週:転身左登脚, 左下勢独立
第 10 週:右下勢独立, 左右穿梭
第 11 週:海底針, 閃通臂
第 12 週:転身撇攬捶, 如封似閉
第 13 週:十字手, 収勢
第 14 週:全体復習(グループごとの表演)まとめ
授業内容は必要に応じて変更することがあります。

履修上の注意

運動に適した運動服装および室内用運動靴を用意すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業で紹介した問題について文献等を調べておくこと。

教科書

特になし。

参考書

特になし。

課題に対するフィードバックの方法

必要に応じて授業中や、次回講義の冒頭にて行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席を必須とする。
平常点(授業への取り組み姿勢、60 点), クラスメイトとの関わり方(20 点), 期末レポート(20 点)から総合評価する。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

本授業では, 半期間テニスを行う。対象レベルは, 経験者とする。ここでの経験者とは, 中学・高校・大学の体育の授業でテニスを行った程度の者やテニスを始めて間もない者から, 中学・高校・大学での部活動やテニススクール, サークル等での活動経験のある者・活動中の者とする。
到達目標は, 各自の持っている技術の向上, そして, テニスが生涯スポーツとなることである。

授業内容

半期完結での進行となる。体育館内床張りで1面分での授業となるため, ラリー形式での練習や正式なゲームは行えないと思われる。基本的には, 球出し等による授業内容となるので, その点について了承の上, 履修をするように。
また, 外でテニスをすることを検討していくが, そのようになった場合には, テニスシューズが必要となるので, テニスシューズの準備も念頭に入れた上での履修を検討すること。外テニスの実施は, 秋学期終盤の土曜日を想定しているが, 別日実施についても検討する。
実施場所:駿河台リバティタワー地下3Fスポーツホール(床張り)
定員:15 名(定員を超えた場合は抽選を実施する)
授業計画
第1週 授業概要および諸注意説明
第2週 グランドストローク練習
第3週 グランドストローク練習
第4週 グランドストローク練習
第5週 グランドストローク練習
第6週 グランドストローク練習
第7週 サービス練習
第8週 サービス練習
第9週 ネットプレイ練習
第 10 週 ネットプレイ練習
第 11 週 外テニス
第 12 週 外テニス
第 13 週 外テニス
第 14 週 外テニス
以上の授業計画は予定であるので, 受講生の習熟度・理解度等により変わることがある。また, 受講生のレベル, 予定によっても変更の可能性がある。

履修上の注意

春学期・秋学期ともに履修することを勧める。
抽選になった場合は、春学期・秋学期ともに希望する者を優先して、履修者を決める。
本科目は, 秋学期科目であるが, 春学期同時限の初回授業にて履修者を決定する予定であるので, 履修希望者は春学期同時限初回授業に出席すること。春学期初回授業の実施場所は, 駿河台リバティタワー地下3階スポーツホールでの実施予定である。
しかし, 事前にオンラインにて履修登録受付を行う可能性もあるので, 履修の方法や春学期初回授業実施場所等の詳細については, 詳細は, 4月のガイダンス期間に配布される資料および Oh-o Meiji の案内を参照すること。
授業内容にも記載したが, 体育館床張りのテニスコート(1面) で, 15 名定員にて実施をするので, 原則的にはドリル練習のみとなる予定である。この点については十分に理解した上での履修をすること。
体育館シューズ(室内用テニスシューズ)を必ず準備すること。テニスラケットは貸出用があるが, 基本的にはマイラケット持参が望ましい。
授業内容内でも記載したが, 外でテニスをすることも検討していくので, そうなった場合に, テニスシューズの準備も必要になるので, このことを念頭に入れた上での履修を検討すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

本授業は実技科目である。授業前日には睡眠を十分にとり、当日の食事を必ず摂取すること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布する。

参考書

公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅰ』(大修館書店)2015, ISBN:9784469267853
公財)日本テニス協会『テニス指導教本Ⅱ』(大修館書店)2023, ISBN:9784469269512
公財)日本テニス協会『JTA TENNIS RULE BOOK 2026』(日本テニス協会)2026
松岡修造, 修造チャレンジスタッフ『世界にチャレンジ!』(ベースボール・マガジン社)2021, ISBN:978-4583113371
別府諸兄監訳『テニスパフォーマンスのための実践トレーニングガイド』(ナップ)2008, ISBN:978-4-931411-76-0
澁谷隆良『指導者のためのテニスの科学と応用』(ブックハウス HD)2010, ISBN:978-4-938335-51-9
ブラッド・ギルバート, スティーブ・ジェイミソン;宮城淳訳『ウイニング・アグリー』(日本文化出版)1997, ISBN:978-4-89084-022-2
ブラッド・ギルバート, ジェームズ・カプラン;高梨明美訳『ウイニング・アグリー2』(日本文化出版)2009, ISBN:978-4-89804-166-0

課題に対するフィードバックの方法

適宜授業内に行う。

成績評価の方法

評価を受けるためには3分の2以上の出席が必須である。また期末にはレポート課題を課す。
平常点(授業への取り組み姿勢, 50%), 授業の理解度及び向上度(30%), 期末レポート(20%)の割合で成績評価をする。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診すること。
本科目は, 秋学期科目であるが, 春学期同時限の初回授業にて履修者を決定する予定であるので, 履修希望者は春学期同時限初回授業に出席すること。春学期初回授業の実施場所は, 駿河台リバティタワー地下3階スポーツホールでの実施予定である。
しかし, 事前にオンラインにて履修登録受付を行う可能性もあるので, 履修の方法や春学期初回授業実施場所等の詳細については, 詳細は, 4月のガイダンス期間に配布される資料および Oh-o Meiji の案内を参照すること。
なお, 秋学期初回授業から実技を行うかどうかについては, 秋学期初回授業の事前に Oh-o! Meiji にて案内をする。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
出井 章雅	春学期	駿河台

授業の概要・到達目標

実施種目:卓球

卓球は、子どもから大人まで幅広く取り入れられているスポーツであり、性別問わず楽しめる生涯スポーツの一つとされています。「競技」としての卓球は運動量が多く、タフなスポーツですが、授業では「生涯スポーツ」として捉え、自己の体力や技術を知り、仲間とのコミュニケーションを図りながら卓球の楽しさを体感してもらいます。レベルに応じて個々の課題にも積極的に取り組んでいきます。また、体育実技においてあらゆる人と交流を深め人脈の拡大にも期待しています。

到達目標として、基本的打球技術の習得と対人スポーツという競技特性を理解し、生涯スポーツの観点から手軽に楽しめるスポーツとして今後の体力の維持増進のために取り組んでほしいと思います。また、競技ルールやマナーといった卓球独自の楽しさを理解してもらいます。

授業内容

第１回 オリエンテーション、授業目標の説明、自己紹介
第２回 器具・用具の説明、ラケッティング、コーディネーション、ミニゲーム
第３回 コーディネーション、フォアハンドとバックハンド、簡易ゲーム
第４回 フォアハンドドライブ、ロングの打ち方、簡易ゲーム
第５回 フォアハンドとバックハンドのショートの打ち方、簡易ゲーム
第６回 カットの打ち方と返球方法 簡易ゲーム
第７回 カット＆ドライブリターン 簡易ゲーム
第８回 サービス＆リターン サービスのコースの説明等 簡易ゲーム
第９回 シングルス総当たり戦Ⅰ 明大ルールを用いて
第10回 シングルス総当たり戦Ⅱ 明大ルールを用いて
第11回 シングルス総当たり戦Ⅲ 明大ルールを用いて
第12回 公式ルールを適用してのシングルス・ダブルス
第13回 公式ルールを適用しての団体戦(シングルス)
第14回 公式ルールを適用しての団体戦(ダブルス)

履修上の注意

1, 授業進行状況や履修人数に合わせて、内容を変更する場合があります。
2, 体育館シューズを準備すること。
3, 卓球のラケットは貸出用があるが、準備できる者は持参しても良い。
4, 運動に適した服装であること。
5, 単位修得にあたり実技科目な為、3 分の2以上の出席とする。※持病がある場合は要相談。

準備学習(予習・復習等)の内容

1, 体育実技科目な為、身体を動かせるように体調管理に留意すること。
2, 授業内でも説明するが、あらかじめシラバスを確認し競技特性ルールを理解しておくこと。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布します。

参考書

松下浩二(2019)「レベルアップ卓球 科学・技術・練習で必ず上達！」西東社

課題に対するフィードバックの方法

授業の開始前に随時、フィードバックを実施します。

成績評価の方法

平常点(70%), 技能点(20%), 授業への取り組み(10%)

その他

感染対策として、消毒液の設置や三密を回避できる授業展開に努めてまいります。実技スペースは地下であるが、換気等は十分になされています。

科目ナンバー:(AL)HES343J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(駿河台)	**生涯スポーツⅡ**	
担 当 者	開講期	開講地区
出井 章雅	秋学期	駿河台

授業の概要・到達目標

実施種目:卓球

卓球は、子どもから大人まで幅広く取り入れられているスポーツであり、性別問わず楽しめる生涯スポーツの一つとされています。「競技」としての卓球は運動量が多く、タフなスポーツですが、授業では「生涯スポーツ」として捉え、自己の体力や技術を知り、仲間とのコミュニケーションを図りながら卓球の楽しさを体感してもらいます。レベルに応じて個々の課題にも積極的に取り組んでいきます。また、体育実技においてあらゆる人と交流を深め人脈の拡大にも期待しています。

到達目標として、基本的打球技術の習得と対人スポーツという競技特性を理解し、生涯スポーツの観点から手軽に楽しめるスポーツとして今後の体力の維持増進のために取り組んでほしいと思います。また、競技ルールやマナーといった卓球独自の楽しさを理解してもらいます。

授業内容

第１回 オリエンテーション、授業目標の説明、自己紹介
第２回 器具・用具の説明、ラケッティング、コーディネーション、ミニゲーム
第３回 コーディネーション、フォアハンドとバックハンド、簡易ゲーム
第４回 フォアハンドドライブ、ロングの打ち方、簡易ゲーム
第５回 フォアハンドとバックハンドのショートの打ち方、簡易ゲーム
第６回 カットの打ち方と返球方法 簡易ゲーム
第７回 カット＆ドライブリターン 簡易ゲーム
第８回 サービス＆リターン サービスのコースの説明等 簡易ゲーム
第９回 シングルス総当たり戦Ⅰ 明大ルールを用いて
第10回 シングルス総当たり戦Ⅱ 明大ルールを用いて
第11回 シングルス総当たり戦Ⅲ 明大ルールを用いて
第12回 公式ルールを適用してのシングルス・ダブルス
第13回 公式ルールを適用しての団体戦(シングルス)
第14回 公式ルールを適用しての団体戦(ダブルス)

履修上の注意

1, 授業進行状況や履修人数に合わせて、内容を変更する場合があります。
2, 体育館シューズを準備すること。
3, 卓球のラケットは貸出用があるが、準備できる者は持参しても良い。
4, 運動に適した服装であること。
5, 単位修得にあたり実技科目な為、3 分の2以上の出席とする。※持病がある場合は要相談。

準備学習(予習・復習等)の内容

1, 体育実技科目な為、身体を動かせるように体調管理に留意すること。
2, 授業内でも説明するが、あらかじめシラバスを確認し競技特性ルールを理解しておくこと。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配布します。

参考書

松下浩二(2019)「レベルアップ卓球 科学・技術・練習で必ず上達！」西東社

課題に対するフィードバックの方法

授業の開始前に随時、フィードバックを実施します。

成績評価の方法

平常点(70%), 技能点(20%), 授業への取り組み(10%)

その他

感染対策として、消毒液の設置や三密を回避できる授業展開に努めてまいります。実技スペースは地下であるが、換気等は十分になされています。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2023 年度以前)	
生涯スポーツ(冬季集中)[ｽｷｰ旭川]・文開講	**生涯スポーツⅣ[ｽｷｰ旭川]・文開講**	
担 当 者	開講期	開講地区
田中 伸明	秋学期集中	その他

授業の概要・到達目標

スキーは生涯スポーツになり得ます。楽しいスポーツです。その楽しさは年齢を重ねても深みとともに続きます。本授業では、スキー指導者資格を有する教員を中心とした指導スタッフによる技術指導となりますので、一度も滑ったことのない人から上級者の人まで、それぞれのレベルに応じた指導が行われ、それぞれのペースでスキルアップを目指します。また、級別テスト(通称バッジテスト)といわれる全日本スキー連盟(SAJ)の検定を実施しますので、受検を希望する人は受検をすることができます。従来からスキー授業、スキー修学旅行、スキー教室といわれるものは、スキー場エリアに滞在するリゾート滞在型で行われてきているものですが、本授業は、北海道道北エリアの旭川駅周辺の街に滞在し、カムイスキーリンクス(予定)にてスキーをするといった都市滞在型スキー、アーバンスキーともいわれる実施形態によるスキー授業となります。本授業は、「未経験者から経験者までそのレベルに必要な板や身体の操作といった技術」、「より楽しくスキーをするため必要な知識」の習得を目指すことを目的として実施します。ある程度思い通りにスキーをコントロールすることができようになること、生涯スポーツへの導入、そしてウェルネスライフの一助となることを到達目標とします。本授業における具体的な目的は次の通りです。1. 身体を動かし運動不足を解消する 2. 安全で快適なスキーの実践能力の育成 2-1) 基礎体力の維持増進 2-2) 基本的な技術と知識の獲得 2-3) 冬の自然の中での活動を体験する 2-4) マナーの習得 3. 生涯スポーツへの導入 4. 集団生活を通した社会性の養成 5. 多くの人とコミュニケーションを図る 6. 文化に触れる 7. 計画的に行動する能力を高める

授業内容

スキーは、落下運動です。何もしなくても滑走することができます。しかし、何もしなければ加速していく一方です。そこで必要になってくるのがスピードのコントロールです。これは、板の操作、身体の操作によって行います。この操作をすることにより、スピードをコントロールでき、曲がりたいときに曲がる、止まりたいときに止まるといったことが可能になります。これらのことは、どのようなレベルのスキーヤーであっても求められるものです。本授業は、未経験者から初心者、初級者、中級者、そして上級者までを対象に行う予定です。レベル別に班編成を行い、それぞれに必要な技術を練習し、1 段階、2 段階、さらにはそれ以上、滑りをより洗練させていくことを目指します。また、期間中にスキー級別テスト(バッジテスト)を実施する予定ですので希望者は受検することができます。本授業は、良質なパウダースノーが期待できる北海道道北エリアにあるカムイスキーリンクス(北海道旭川市)での開催予定となります。なお、本授業は、定時授業ではなく集中授業であること、そして 8 学部合同授業であることから、Oh-o! Meiji クラスウェブ・グループを活用した授業準備・運営、となるため、Oh-o! Meiji の確認を定期的にかつ確実に行う必要があります。 ※本授業はアルペンスキーによる授業です。

授業実施概要

実施場所:カムイスキーリンクス(北海道旭川市神居町)の予定 宿泊:旭川市内ホテル
実施日:2027 年 1 月 4 日(月) ～ 7 日(木), 3 泊 4 日※での開催予定(2026/01/20 現在)
対象:未経験者から上級者まで 定員:50 名
指導者:スキー指導者資格を有する教員を中心とした教員(受講者 7 名につき 1 名の教員)
※1/4 朝に開講式の実施となるため前泊が必要となります

[b]★費用★[/b] 前年度(2025 年度)の実績です。
参加費登録料(1,180 円) 宿泊代(1 泊あたり 7,000～10,000 円程度)※
リフト券代(4 日間 8,800 円) 市内からスキー場への移動バス代(4 日間 14,000 円程度)
交通費(現地集合につき各自実費) レンタル代(希望者のみ、以下いずれも 4 日間料金)
例:スキー3 点セット:9,500 円程度、ウェア上下:6,500 円程度
ヘルメット・グローブ・ゴーグルセット:3,000 円程度など
以上これらの費用は、2025 年度の実績です。2026 年度の費用は 2026 年秋頃に明確になる予定です。
近年の物価高や料金値上げ等といった社会情勢の影響があるかもしれませんが、ひとまずの目安と考えてください。
安全上、スキーヘルメットおよびスノーゴーグルの着用が必須となります。

※宿泊について こちらで指定した旭川市内のビジネスホテル・シティホテルの中から、各自手配となります。したがって、従来のリゾート滞在型スキー授業・スキー教室等で多くみられる大人数部屋、雑魚寝、共同浴場、共同トイレ、共同洗面、ということではなく、より清潔感のあるトイレ・シャワー付き(ユニットバス)個室や複数人部屋の利用が可能となります。宿泊手配は、1 人 1 部屋での手配から、複数人で 1 部屋という手配も可能な形になります。複数人にて 1 部屋を希望する場合は、マッチングを行いますので、知り合いがいない場合でも問題ありません。この授業に参加すればあっという間に仲間が増えます。宿泊代は、1 部屋あたりの利用人数等により、1 人あたりの宿泊代が変わってくるものと思われます。宿泊各自手配についての案内は、履修登録後の 5 月から 6 月頃に Oh-o! Meiji クラスウェブにて配信する予定です。

★費用の納入について(日程は目安) ①参加費登録料(1,180 円):秋学期開始早々にキャンパス内証明書自動発行機にて②宿泊代:各自手配のためそれぞれ③リフト券代及びバス代、レンタル代(希望者のみ):授業用口座への振り込みとなる。振り込みは、履修登録後の 5 月頃に事前納入金として振り込み、11 月～12 月頃に残りの金額の振り込みという 2 段階での振り込みとなります。事前納入金は、15,000 円程度の予定です。この事前納入金が期限までに振り込まれない場合は、参加が認められないことになります。なお、やむを得ず参加取りやめとなった場合、この事前納入金は、①参加費登録料納付期限前であれば、振込手数料を差し引いた全額返金、①参加費登録料納付期限後であれば、バス代および振込手数料を差し引いた金額を返金することになります。バス代は、参加費登録料納付数にて、1人あたりのバス代が確定することになります。11～12 月頃の残りの金額とは、リフト券代、バス代、レンタル代(希望者のみ)の総額から、事前納入金を差し引いた金額です。

◆以下が授業全日程予定です◆

● 基本情報アンケート回答:2026 年 5 月頃 ● 事前納入金の振り込み:2026 年 5 月頃
● 宿泊各自手配:2026 年 5 月･6 月頃から ● 参加費(登録料)納付:2026 年 9 月中下旬頃(秋学期開始直後)
● 事前授業:2026 年 10 月中下旬から 11 月上中旬頃に学内にて開催 対面による開催、そしてオンラインによる事前授業後対応となる予定
● リフト券代･バス代･レンタル代(希望者のみ)の振込:2026 年 11 月～12 月頃 ● 現地集合･現地解散(現地とは旭川市内ホテルの予定)
● 現地日程 0 日目:ホテル入り 1 日目:朝集合そして開講式および講義、午前班分後講習、午後講習 2 日目:午前講習、午後講習 3 日目:午前講習、午後バッジテスト実施予定 4 日目:午前講習、閉講式。閉講式終了後、解散 ※現地では天候に大きく影響を受けるため、上記現地日程はあくまで予定です
● 事後レポートの提出 以上すべての期限内対応、参加が必須となります。(必要に応じて予定が追加されることもあります)基本情報アンケート回答、事前納入金の振込、宿泊各自手配、参加費(登録料)納付、事前授業、これらの案内も Oh-o! Meiji による案内となる予定です。

科目ナンバー：(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2024 年度以降)	
生涯スポーツ(冬季集中)[ｽｷｰ旭川]・文開講	**生涯スポーツ(冬季集中)[ｽｷｰ旭川]・文開講**	
担 当 者	担 当 者	担 当 者
田中 伸明	田中 伸明	田中 伸明

履修上の注意

本授業は、8学部(法･商･政経･文･経営･情コミ･国日･総数)合同授業です。履修希望者が、定員超過の場合は抽選となります。履修申込は、Oh-o Meiji アンケートにより行います。受付期間は、4/3(金)am10:00 ～ 4/4(土)am11:00、での実施予定です(2026/02 現在)。履修申込の詳細は学部からおよび Oh-o Meiji からの新年度案内にて確認をしてください。履修申込にあたっては、申込前に、旭川スキー授業案内動画を閲覧し、リアクションペーパーを提出してください。抽選となった場合には、旭川スキー授業動画案内を閲覧し、リアクションペーパーを提出した人を優先して当選とします。旭川スキー授業案内動画およびリアクションペーパーの提出は、Oh-o! Meiji クラスウェブ、旭川スキーに仮参加登録を行ったうえで閲覧、提出をすることができますので、仮参加登録を行うようにしてください。ただし、仮参加登録は、履修申込ではないので、履修申込は別途確実に行うようにしてください。旭川スキーのクラスウェブは、Oh-o! Meiji にログインの上、スキー(旭川)の授業検索を行ってください。履修申込にあたっては、自身のスケジュール調整、および参加費用の資金計画を十分に確認した上で履修申込を行ってください。履修確定後、5 月頃に基本情報アンケート期限内回答、事前納入金の振り込み、宿泊手配、9 月下旬頃に参加費(登録料)納付、そして、10 月中下旬から 11 月上旬頃に事前授業の実施、リフト券代･バス代･レンタル代(希望者のみ)の振込、となる予定です。基本情報アンケート回答及び事前納入金の振り込みの案内は 4 月下旬から 5 月上旬頃、宿泊手配に関する案内は 2026 年 5 月から 6 月頃、参加費(登録料)納付および事前授業の案内は、秋学期開始前後、それぞれ、Oh-o Meiji クラスウェブにより案内を行いますので、Oh-o! Meiji クラスウェブの確認を適宜行うようにしてください。リフト券代･バス代･レンタル代(希望者のみ)の振込の案内は事前授業時に行います。安全上、スキーヘルメットおよびスノーゴーグルの着用が必須となります。4 月に実施される学内健康診断を必ず受診してください(授業参加にあたり健康診断受診は必須)。特別な理由がない限り、履修登録後のキャンセル･参加取りやめは認められません。したがって自身のスケジュールについてはよく確認をした上で履修申込を行うようにしてください。なお、4 年生は、この科目を履修し単位取得することができるわけではありますが、この科目の認定単位は、卒業判定には含まれませんので、その点について注意をしてください。本授業は、Oh-o! Meiji を活用した授業準備や運営、となります。したがって、Oh-o! Meiji の定期的な確認、を怠ることがないようにしてください。

準備学習(予習･復習等)の内容

事前授業実施後は、現地までのアクセス情報や現地情報を調べておき、可能な限り、スキーの動画等を閲覧し、イメージを持っておくようにしてください。また、授業終了後は、改めてスキーに行き、授業を受けたことによる、自身の上達をより定着させることが望まれます。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付します。

参考書

公財)全日本スキー連盟「日本スキー教程」、株式会社芸文社、2024、ISBN:978-4-86396-937-7
公財)全日本スキー連盟「日本スキー教程 安全編」、株式会社芸文社、2024、ISBN:978-4-86396-938-4
公財)全日本スキー連盟「日本スキー教程」、スキージャーナル、2014、ISBN:978-4789912280

課題に対するフィードバックの方法

実技科目ですので、適宜授業時に行いますが、必要に応じて Oh-o! Meiji を利用します。

成績評価の方法

● 授業への取り組み姿勢:40% ･提出物提出等の各期限を守れるか ･事前授業の出席、事前講習後の提出物等 ･実習日誌･事後レポートなどの提出物 ･等々 ● 技能上達度:30% ● グループ行動状況:30%
以上から総合的に評価します。したがって、Oh-o! Meiji を確認し、指定された期間に行うべきことを期間内に行うことも重要なポイントとなります。評価を受けるに当たっては、基本情報アンケート期限内回答、事前納入金の期限内振り込み、期限内での宿泊手配、参加費(登録料)の期限内納付、10 月から 11 月頃に学内で実施する事前授業への出席および提出物の提出や回答、リフト券代･バス代･レンタル代(希望者のみ)の期限内振り込み、そして現地での 4 日間をあわせた全期間の出席が前提となります。したがって、参加費(登録料)の期限内納付が出来ていない人、様々な期限を守れない人、提出物の未提出、回答すべき事の未回答、事前授業を欠席した人は、現地授業への参加が認められないことになりますので十分に気をつけてください。

その他

これまでで既に記載をしたことでありますが、重要なことであるので、再度記載します。
● 4月に実施される学内健康診断を必ず受診してください(授業参加にあたり健康診断受診は必須)。
● Oh-o! Meiji の確認を定期的に行ってください。
● 特別な理由がない限り、履修登録後の参加取りやめは認められません。
● 事前納入金･参加費(登録料)納入期間内の納付、回答･提出等の期限内対応、事前授業への出席は必須となるので注意をしてください。
● 様々な定められた期限を必ず守るようにしてください。
● 4年生は、この科目を履修し、単位取得することができるわけですが、この科目の認定単位は、卒業判定には含まれませんので、その点について注意をしてください。

科目ナンバー:(AL)HES143J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2024 年度以降)	
生涯スポーツ(冬季集中)[ｽｷｰ裏磐梯]・文開講	**生涯スポーツ(冬季集中)[ｽｷｰ裏磐梯]・文開講**	
担 当 者	担 当 者	担 当 者
水村 信二	水村 信二	水村 信二

授業の概要・到達目標

裏磐梯グランデコスノーリゾートスキー場で、雪さえあればどんな所でも滑ってしまえるスキー技術の習得を目指します。雪質の良いこのスキー場では、緩急のロングコースをふんだんに楽しめます。また、林間コースで深雪も楽しめる穴場的なスキー場です。初心者コースも充実していますので, 初心者の受講を大歓迎します。この素敵なスキー場で、様々な雪面のコンディションに合わせたスキー技術・理論の修得を通し、生涯にわたってスキー文化を育むことができる基礎を学びましょう。また、合宿形式の生活を通して、学部を超えた受講生間のコミュニケーションを図り、一生の友達をつくってみませんか？

授業内容

授業内容
1. 期 間:2027年2月23日(火)～ 26日(金)の3泊4日
2. 実習場所: 福島県耶麻郡北塩原村桧原荒砂沢山 En Resort Grandeco ノーリゾート
3. 宿泊場所: En resort Grandeco ホテル(スキー場隣接、露天温泉つき)
https://resort.en-hotel.com/grandeco/hotel/ja/
4. 受講条件: スキー経験は問いません。初心者から上級者まで対応します。
5. 定 員: 42 名(受講希望者数が定員を上回った場合は抽選となります。履修の注意点を参照してください。
6. 指 導 者 : 指導者 6 名(受講生 7 名につき指導者1名)
7. 登 録 料 : 1,000 円を事前に大学に納入してもらいます。
8. 受講費用:
○交通費:現地集合につき各自負担。猪苗代駅から無料送迎(要予約)あり。
○宿泊費用:40,050 円/3 泊(2025 年度の金額)
・宿泊代:13,200 円/泊×3 泊=39,600 円(4 名 1 部屋の場合、夕食・朝食付き)
・入湯税: 150 円/泊×3 泊=450 円
○レンタル料
・スキーセット:8,000 円/4 日間(スキー、ストック、スキー靴の 3 点)
・ウェアセット:8,000 円/4 日間(ウエア上下、ニット帽、ゴーグル、グローブ)
○リフト代
・19～22 歳:6,000 円程度 ※キャンペーン継続の場合にかぎり, 19 ～22 歳は平日無料(2 日間のみ)
※ホテル宿泊者のリフト代は 3,000 円/日となる ※上記受講費用は全て 2025 年度実績です
9. 授業日程:
○事前授業:12 月上旬にキャンパス内で実施
○集中授業:2 月 23 日昼開始、2 月 26 日(金)昼終了
午前 午後 夜間
・1日目: ーーー 開講式, 班分け・講習 講義
・2日目: 班別講習 班別講習 講義
・3日目: 班別講習 班別講習 講義
・4日目:班別講習・閉講式・解散

履修上の注意

○現地授業形式
・8学部(法, 商, 政経, 文, 経営, 情コミ, 国日, 総数)合併授業です。
・ほぼオール明治の授業にて、他学部の受講生との交流を楽しんでください。
○受講費用
・登録料, 宿泊費, リフト代、交通費, レンタル料などはあくまでも前年度実績にもとづく予定金額となります。
・正確な金額につきましては、決定次第、「シラバスの補足」欄にて案内します。
○履修申し込み方法
・教務システムを使用して、以下の日程で履修申込みを受け付ける予定です。
・4/ 3(金)10:00～ 4/ 4(土)11:00 1回目 抽選受付 → 4/6(月)9:00 抽選結果公開
・4/ 7(火)10:00～ 4/ 8(水)11:00 2回目 抽選受付 → 4/9(木)9:00 抽選結果公開
○履修決定後の手続き
・10 ～ 11 月頃に登録料納付, 12 月頃に宿泊費納入と事前講習(受講が実習参加の必須条件)を控えています。
・Oh-o! Meiji の連絡に注意してください。
○備考
・受講が認められた場合, 特別な理由がない限り, 履修登録後のキャンセルは認めません。[/b]
・なお、この科目の単位認定は 2 月下旬となるので 4 年生の履修者は卒業判定に間に合いませんので4年生は注意してください。
・怪我や病気の際の対応については担当教員の指示に従ってください。
・事前納付金の内未納者納、事前授業欠席の場合は現地授業への参加が認められませんので十分に注意してください。
・履修者への連絡は、Oh-o! Meiji を利用します。Oh-o! Meiji の確認を習慣づけてください。

準備学習(予習・復習等)の内容

・事前授業を実施します。必ず出席してください。
・事前授業までに, スキー用具、スキーの安全対策、スキーの基本技術についてあらかじめ調べておいてください。
・集中授業期間中に実施される夜間講義後、各自で用具面, 安全面, 技術面について復習してください。
・事前の体調管理につとめてください。

教科書

なし

参考書

必要に応じて提示する

課題に対するフィードバックの方法

課題を課した場合は、レポートのコメント欄にてフィードバックする予定です。

成績評価の方法

平常点(授業への取り組み姿勢、グループ行動状況など、70%)、授業中の提出物(集中授業日誌など、15%)、レポート(15%)から総合的に評価します。

その他

4月に実施される学内健康診断を必ず受診してください。
特別な理由がない限り、履修登録後のキャンセルは認めないので、諸条件を考慮の上受講希望してください。
本授業の履修方法については, 新年度配布の履修関連資料で確認してください。

科目ナンバー:(AL)HES291J		
科目名(2024 年度以降)	科目名(2024 年度以降)	
生涯スポーツ論 I	**生涯スポーツ論 I**	
担 当 者	担 当 者	担 当 者
田中 伸明	田中 伸明	田中 伸明

授業の概要・到達目標

本授業では, 生涯スポーツについて講義を行う。半期の前半は講義形式, 後半はディスカッション・現場視察を行う。そして, まとめとして, 生涯スポーツが世の中でどのように実践されているのかについてプレゼンテーションを行うことにより, 生涯スポーツに対する理解をより深めることを到達目標とする。

授業内容

授業計画
第1週 授業概要説明, 履修にあたっての諸注意案内
第2週 生涯スポーツについて
第3週 競技スポーツとレクリエーションスポーツ1
第4週 競技スポーツとレクリエーションスポーツ2
第5週 スポーツの楽しみ方, 効用について
第6週 スポーツを取り巻く環境
第7週 生涯スポーツとしてのスポーツについてディスカッション
第8週 生涯スポーツの現場について
第9週 生涯スポーツ現場体験1
第 10 週 生涯スポーツ現場体験2
第 11 週 生涯スポーツ現場体験3
第 12 週 プレゼンテーション1
第 13 週 プレゼンテーション2
第 14 週 プレゼンテーション3, 総括

以上の授業計画は予定であるので, 履修人数や進行状況等により変更の場合がある。

履修上の注意

できるだけ第1週の初回授業には出席すること。

準備学習(予習・復習等)の内容

授業での内容を復習し, より掘り下げて考え直してみること。

教科書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

参考書

特になし。必要に応じて資料を配付する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で講評等を行うことを基本とする。

成績評価の方法

評価を受けるためには, 開講時間の3分の2以上の出席が必須である。
評価配分:授業への取り組み姿勢(40%), レポートを含む提出物(30%), プレゼンテーション(30%)

その他

特になし。